

IMS
15.1.0

メッセージおよびコード 第1巻:
DFS メッセージ
(2021-06-25 版)



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[1425 ページの『特記事項』](#)に記載されている情報をお読みください。

本書は、IMS 15 (プログラム番号 5635-A06)、IMS Database Value Unit Edition V15.01.00 (プログラム番号 5655-DS5)、IMS Transaction Manager Value Unit Edition V15.01.00 (プログラム番号 5655-TM4)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリソースおよびモディフィケーションに適用されます。

© Copyright International Business Machines Corporation 1974, 2020.

目次

この情報について.....	ix
前提知識.....	ix
新規および変更された情報の識別方法.....	ix
IMS 15 のアクセシビリティ機能.....	x
第 1 章 IMS 15 の新規、および変更または削除されたメッセージとコード.....	1
IMS 15 の新しいメッセージとコード.....	1
IMS 15 で変更されたメッセージとコード.....	3
IMS 15 で削除されたメッセージとコード.....	5
第 2 章 IMS 問題判別.....	11
第 3 章 DFS メッセージ.....	15
第 4 章 DFS メッセージ DFS000I - DFS050A.....	19
第 5 章 DFS メッセージ DFS051I - DFS100.....	41
第 6 章 DFS メッセージ DFS101 - DFS150.....	61
第 7 章 DFS メッセージ DFS151-DFS200.....	73
第 8 章 DFS メッセージ DFS201 - DFS250.....	83
第 9 章 DFS メッセージ DFS251 - DFS0300I.....	95
第 10 章 DFS メッセージ DFS301A - DFS350A.....	109
第 11 章 DFS メッセージ DFS351W - DFS400I.....	125
第 12 章 DFS メッセージ DFS401I - DFS0450I.....	139
第 13 章 DFS メッセージ DFS0451A - DFS0500I.....	161
第 14 章 DFS メッセージ DFS0501I - DFS550I.....	181
第 15 章 DFS メッセージ DFS551I - DFS600I.....	201
第 16 章 DFS メッセージ DFS601I - DFS650E.....	217
第 17 章 DFS メッセージ DFS0651W - DFS700I.....	237
第 18 章 DFS メッセージ DFS701I - DFS0750I.....	257
第 19 章 DFS メッセージ DFS0751I - DFS0800I.....	285
第 20 章 DFS メッセージ DFS0801I - DFS0850W.....	305

第 21 章 DFS メッセージ DFS0851W - DFS0900A.....	323
第 22 章 DFS メッセージ DFS0901A - DFS0950I.....	337
第 23 章 DFS メッセージ DFS0951I - DFS1000I.....	351
第 24 章 DFS メッセージ DFS1001I - DFS1050I.....	369
第 25 章 DFS メッセージ DFS1051I - DFS1100I.....	383
第 26 章 DFS メッセージ DFS1101I - DFS1150I.....	395
第 27 章 DFS メッセージ DFS1151I - DFS1200I.....	409
第 28 章 DFS メッセージ DFS1201I - DFS1250I.....	423
第 29 章 DFS メッセージ DFS1251I - DFS1300I.....	431
第 30 章 DFS メッセージ DFS1301I - DFS1350I.....	447
第 31 章 DFS メッセージ DFS1351I - DFS1400I.....	455
第 32 章 DFS メッセージ DFS1401I - DFS1450I.....	463
第 33 章 DFS メッセージ DFS1451I - DFS1500I.....	471
第 34 章 DFS メッセージ DFS1501I - DFS1550I.....	479
第 35 章 DFS メッセージ DFS1551I - DFS1600I.....	491
第 36 章 DFS メッセージ DFS1601I - DFS1650I.....	501
第 37 章 DFS メッセージ DFS1651I - DFS1700I.....	509
第 38 章 DFS メッセージ DFS1701I - DFS1750I.....	517
第 39 章 DFS メッセージ DFS1751I - DFS1800I.....	527
第 40 章 DFS メッセージ DFS1801I - DFS1850I.....	537
第 41 章 DFS メッセージ DFS1851I - DFS1900I.....	547
第 42 章 DFS メッセージ DFS1901I - DFS1950.....	561
第 43 章 DFS メッセージ DFS1951 - DFS2000I.....	577
第 44 章 DFS メッセージ DFS2001I - DFS2050.....	599
第 45 章 DFS メッセージ DFS2051I - DFS2100.....	611
第 46 章 DFS メッセージ DFS2101I - DFS2150I.....	627

第 47 章 DFS メッセージ DFS2151 - DFS2200I.....	643
第 48 章 DFS メッセージ DFS2201I - DFS2250I.....	657
第 49 章 DFS メッセージ DFS2251W - DFS2300I.....	667
第 50 章 DFS メッセージ DFS2301I - DFS2350I.....	679
第 51 章 DFS メッセージ DFS2351A - DFS2400I.....	691
第 52 章 DFS メッセージ DFS2401I - DFS2450I.....	703
第 53 章 DFS メッセージ DFS2451W - DFS2500I.....	717
第 54 章 DFS メッセージ DFS2501W - DFS2550I.....	733
第 55 章 DFS メッセージ DFS2551I - DFS2600A.....	747
第 56 章 DFS メッセージ DFS2601I - DFS2650A.....	759
第 57 章 DFS メッセージ DFS2651A - DFS2700A.....	771
第 58 章 DFS メッセージ DFS2701W - DFS2750A.....	781
第 59 章 DFS メッセージ DFS2751A - DFS2800I.....	791
第 60 章 DFS メッセージ DFS2801A - DFS2850E.....	799
第 61 章 DFS メッセージ DFS2851I - DFS2900I.....	813
第 62 章 DFS メッセージ DFS2901I - DFS2950A.....	821
第 63 章 DFS メッセージ DFS2951I - DFS3000I.....	827
第 64 章 DFS メッセージ DFS3001W - DFS3050A.....	841
第 65 章 DFS メッセージ DFS3051A - DFS3100I.....	853
第 66 章 DFS メッセージ DFS3101I - DFS3150.....	863
第 67 章 DFS メッセージ DFS3151 - DFS3200.....	879
第 68 章 DFS メッセージ DFS3201 - DFS3250.....	903
第 69 章 DFS メッセージ DFS3251W - DFS3300I.....	921
第 70 章 DFS メッセージ DFS3301W - DFS3350E.....	945
第 71 章 DFS メッセージ DFS3351E - DFS3400I.....	961
第 72 章 DFS メッセージ DFS3401I - DFS3450.....	977

第 73 章 DFS メッセージ DFS3451 - DFS3500W.....	997
第 74 章 DFS メッセージ DFS3501W - DFS3550I.....	1017
第 75 章 DFS メッセージ DFS3551E - DFS3600I.....	1027
第 76 章 DFS メッセージ DFS3601 - DFS3650I.....	1043
第 77 章 DFS メッセージ DFS3651I - DFS3700.....	1069
第 78 章 DFS メッセージ DFS3701I - DFS3750A.....	1083
第 79 章 DFS メッセージ DFS3751A - DFS3800.....	1107
第 80 章 DFS メッセージ DFS3801 - DFS3850A.....	1123
第 81 章 DFS メッセージ DFS3851I - DFS3900I.....	1135
第 82 章 DFS メッセージ DFS3901W - DFS3950A.....	1147
第 83 章 DFS メッセージ DFS3951 - DFS4000I.....	1165
第 84 章 DFS メッセージ DFS4001 - DFS4050A.....	1179
第 85 章 DFS メッセージ DFS4101A - DFS4150I.....	1183
第 86 章 DFS メッセージ DFS4151I - DFS4200I.....	1187
第 87 章 DFS メッセージ DFS4201I - DFS4250.....	1201
第 88 章 DFS メッセージ DFS4251 - DFS4300.....	1205
第 89 章 DFS メッセージ DFS4301E - DFS4350E.....	1219
第 90 章 DFS メッセージ DFS4351E - DFS4400E.....	1231
第 91 章 DFS メッセージ DFS4401E - DFS4450I.....	1243
第 92 章 DFS メッセージ、DFS4451I - DFS4500E.....	1263
第 93 章 DFS メッセージ DFS4501 - DFS4600I.....	1283
第 94 章 DFS メッセージ DFS4601E - DFS4650I.....	1307
第 95 章 DFS メッセージ DFS4651E - DFS4700.....	1323
第 96 章 DFS メッセージ DFS4701 - DFS4750.....	1333
第 97 章 DFS メッセージ DFS4751 - DFS4800.....	1345
第 98 章 DFS メッセージ DFS4801 - DFS4900.....	1355

第 99 章 DFS メッセージ DFS4901 - DFS5000.....	1369
第 100 章 DFS メッセージ DFS5001 - DFS5100.....	1373
第 101 章 DFS メッセージ DFS7001 - DFS7500.....	1379
第 102 章 DFSD メッセージ (DRD ユーティリティー).....	1385
第 103 章 DFSIX メッセージ (インストール検査プログラム・ダイアログ).....	1391
第 104 章 DFSI メッセージ (構文チェッカー).....	1415
第 105 章 DFSS メッセージ (IMS 異常終了検索および通知).....	1421
特記事項	1425
プログラミング・インターフェース情報.....	1426
商標.....	1426
製品資料に関するご使用条件.....	1427
IBM オンライン・プライバシー・ステートメント.....	1427
参考文献	1429

この情報について

この情報は、イムスによって生成される異常終了コード、メッセージ、状況コード、および戻りコードに関する参照情報を提供します。

この情報は、イムスによって生成される異常終了コード、メッセージ、状況コード、および戻りコードに関する参照情報を提供します。

ボリューム 1 は、DFS 接頭部を持つイムス メッセージの参照情報と、それに関連する戻りコードを提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者がイムスの問題を診断するのに役立つ診断情報も提供します。

ボリューム 2 は、イムス 基本プリミティブ環境 (BPE)、イムス 共通キュー・サーバー (CQS)、イムス 共通サービス層 (CSL)、データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能、イムス Connect; IBM® リソース・ロック・マネージャー (IRLM) などと関連付けられている、非 DFS 接頭部 イムス メッセージに関する参照情報を提供します。本書は、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者がイムスの問題を診断するのに役立つ診断参照情報を提供します。

ボリューム 3 は、分析、説明、考えられる原因、および APAR 処理命令を含む、すべてのイムス 異常終了 (異常終了) コードに関する参照情報を提供します。

ボリューム 4 は、イムス 基本プリミティブ環境 (BPE)、イムス 共通キュー・サーバー (CQS)、イムス 共通サービス層 (CSL)、データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能、イムス Connect; イブソリソース・ロック・マネージャー (IRLM) などの戻りコード、理由コード、機能コード、および状況コードを提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者がイムスの問題を診断するのに役立つ診断参照情報も提供します。

この情報は、IBM 資料の一部として使用できます。

前提知識

本書を使用する際には、IMS Database Manager (DB) または IMS Transaction Manager (TM) の知識が必要です。さらに、z/OS® および IMS の基本的概念やインストールされている IMS システムについて理解しており、プロジェクト計画に関する作業の一般的な知識を持っていることが必要です。

本書を使用する際には、IMS Database Manager (DB) または IMS Transaction Manager (TM) のいずれかの知識が必要となります。さらに、z/OS および IMS の基本的概念やインストールされている IMS システムについて理解しており、プロジェクト計画に関する作業の一般的な知識を持っていることが必要です。

本書の読者は、z/OS、そのシステム生成、および通信について、また、IMS で使用されるアクセス方式について理解しておく必要があります。関連資料は、『参考文献』にリストされています。

z/OS の詳細については、[IBM 資料](#) の「z/OS basic skills」トピックを参照してください。

IMS の基本概念を理解するには、「*An Introduction to IMS*」(IBM Press 出版)をお読みになると役立ちます。

IBM では、IMS の学習に役立つような講習会や自習講座を数多く提供しています。利用可能な講習の詳しいリストについては、[IBM Skills Gateway](#) にアクセスして、IMS を検索してください。

新規および変更された情報の識別方法

IMS ライブラリーの PDF 資料のほとんどの新規および変更された情報は、左マージン内の文字 (改訂マーカ) によって示されています。「リリース計画」、ならびに「*Program Directory*」および「*Licensed Program Specifications*」の第 1 版 (-00) には、改訂マーカは含まれていません。

改訂マーカは、以下の一般的な規則に従っています。

- 技術的な変更のみにマークが付けられています。形式上の変更や文法的な変更には、マークは付けられていません。

- 段落、構文図、リスト項目、操作手順、または図などの要素の一部が変更された場合、その要素の一部だけの変更であっても、要素全体に改訂マークが付けられています。
- トピックの変更が 50% を超えた場合には、そのトピック全体に改訂マークが付けられています (そのため、新規トピックではなくても、新規トピックのように見ることがあります)。

改訂マークは情報に加えられたすべての変更を示しているとは限りません。削除されたテキストとグラフィックスには、改訂マークでマークを付けることはできないためです。

IMS 15 のアクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるようにサポートします。

アクセシビリティ機能

以下のリストは、IMS 15 を含む z/OS 製品の主なアクセシビリティ機能を示しています。これらの機能は、以下をサポートしています。

- キーボードのみの操作。
- スクリーン・リーダー (読み上げソフトウェア) およびスクリーン拡大鏡によって通常使用されるインターフェース。
- 色、コントラスト、フォント・サイズなど表示属性のカスタマイズ。

キーボード・ナビゲーション

IMS 15 ISPF パネル機能には、キーボードまたはキーボード・ショートカット・キーを使用してアクセスできます。

TSO/E または ISPF を使用して IMS 15 ISPF パネルをナビゲートする詳細については、「z/OS TSO/E 入門」、「z/OS TSO/E ユーザーズ・ガイド」、および「z/OS 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド 第 1 巻」を参照してください。上記の資料には、キーボード・ショートカットまたはファンクション・キー (PF キー) の使用方法を含む、各インターフェースのナビゲート方法が記載されています。それぞれの資料では、PF キーのデフォルトの設定値とそれらの機能の変更方法についても説明しています。

関連のアクセシビリティ情報

IMS 15 のオンライン資料は、IBM 資料で参照できます。

IBM におけるアクセシビリティ

IBM のアクセシビリティに対する取り組みについて詳しくは、*IBM Human Ability and Accessibility Center* (www.ibm.com/able) を参照してください。

第 1 章 IMS 15 の新規、および変更または削除されたメッセージとコード

IMS 15 には、新規、および変更または削除されたメッセージとコードが多数あります。

IMS 15 の新しいメッセージとコード

IMS 15 には、以下にリストされている新しいメッセージが含まれています。

新しい CQS メッセージ

以下は新規メッセージです。

CQS0224E
CQS0249E

新しい CSL メッセージ

以下は新規メッセージです。

CSL2202E
CSL2505W
CSL4200W
CSL4201W
CSL4202W
CSL4203W

新しい DFS メッセージ

以下は新規メッセージです。

DFS686I
DFS0745E
DFS3253W
DFS3458
DFS3478
DFS4401E
DFS4550W
DFS4553W
DFS4555W
DFS4690I
DFS4691I
DFS4692E
DFS4723A
DFS4725I
DFS4787I
DFS4852E
DFS4861W
DFS4862W
DFS4863W
DFS4864W
DFS4865E

DFS4866E
DFS4867A
DFS4878I
DFS4879I
DFS4881I
DFS4888I
DFS4896I
DFS4897I
DFS4898E
DFS4899W
DFS4892E
DFS4930I
DFS4965E
DFS4896I
DFS4897I
DFS4898E
DFS5055I
DFS5386I
DFS7411I
DFS7412I
DFS7413I
DFS7419E
DFS7420E
DFS7421E
DFS7422E
DFS7423E
DFS7424E
DFS7431I
DFS7433E
DFS7435E
DFS7436E

新しい G メッセージ

以下は新規メッセージです。

G116
G117
G118
G119
G120
G121
G122

新しい FLD メッセージ

以下は新規メッセージです。

FLD760
FLD761
FLD763
FLD764
FLD765

FLD766
FLD767
FLD768
FLD769

新しい HWS メッセージ

以下は新規メッセージです。

HWSX0908W
HWSX0915W
HWSX0916W

新しい異常終了コード

以下の異常終了コードは新規コードです。

0133
0397
0421
0423
0424
0425
0426
512
1155

新しいコンポーネント・コード

以下のコンポーネント・コードは新規コードです。

IMS Connect 出口の戻りコードおよび理由コード

IMS 15 で変更されたメッセージとコード

このリリースでは、以下にリストされている、DSP メッセージが変更されています。

変更された BPE メッセージ

BPE 0042E

変更された CQS メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

CQS0035E

変更された DFS メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

DFS0413I
DFS0730I
DFS982I
DFS1769W
DFS1919I
DFS1934E
DFS2205I

DFS2385E
DFS2411I
DFS2679A
DFS2854A
DFS3177E
DFS3254I
DFS3377
DFS3398E
DFS3435A
DFS3498W
DFS3505E
DFS3551E
DFS3613I
DFS3649A
DFS3656
DFS4198E
DFS4427E
DFS4585W
DFS4593E
DFS4610E
DFS4615E
DFS554A
DFS3176E
DFS3438
DFS4332E
DFS3446
DFS4447E
DFS4830I
DFS4851E

変更された DSP メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

DSP0012I
DSP0141I

変更された HWS メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

HWSC0010I
HWSP1503E
HWSX0909E

変更された異常終了コード

以下の異常終了コードが変更されました。

U0021
U0070
U0071
U0073
U0166

U0711
0718
U0757
U1002
U1060
U1143

変更された AIB 戻りコードおよび理由コード

以下の状況コードが変更されました。

0110/0050

変更されたコンポーネント・コード

以下のコンポーネント・コードが変更されました。

BPESTART コード
OTMA C/I 戻りコード
OTMA 001A
IMS Connect 出口の戻りコードおよび理由コード
IMS TM Resource Adapter 戻りコードおよび理由コード

IMS 15 で削除されたメッセージとコード

以下のセクションにリストされているメッセージは、IMS 15 から削除されました。

このリリースでは、以下のメッセージが削除されました。

DFS2211I
G040
G043
G904
G042
G1205
G1212

削除された LGEN メッセージ

大規模システム定義 (LGEN) のサポートが除去されたことで、以下のメッセージが削除されました。

DFS3512I	G008
DFS3514I	G1211
DFS3516I	
DFS3518I	
DFS3520I	
DFS3522I	
DFS3524I	
DFS3526I	
DFS3528I	
DFS3530I	
DFS3532I	
DFS3534I	
DFS3536I	
DFS3538I	
DFS3540I	
DFS3546I	
DFS3548I	
DFS3550I	
DFS3552I	
DFS3554I	
DFS3556I	
DFS3558I	
DFS3559A	
DFS3560I	
DFS3562I	
DFS3564I	
DFS3566I	
DFS3567I	
DFS3568I	
DFS3569I	
DFS3570I	
DFS3572I	
DFS3574I	
DFS3577A	
DFS3593I	
DFS3599I	

削除された RSR メッセージ

リモート・サイト・リカバリー (RSR) のサポートが除去されたことで、以下のメッセージおよび異常終了が削除されました。これらのメッセージには、トランスポート・マネージャー・サブシステムおよびその他の RSR サービス (オンライン・フォワード・リカバリー、ログ・ルーター、DBRC サービス・グループなど) によって発行されたメッセージが含まれます。

異常終了	DFS2953I	DFS4030A
360	DFS2954I	DFS4031A
361	DFS2955W	DFS4032A
362	DFS2956I	DFS4033I
363	DFS2959I	DFS4034A
364	DFS2960A	DFS4034I
365	DFS2961I	DFS4035A
378	DFS2962I	DFS4036I
379	DFS2963A	DFS4037A
380	DFS2964I	DFS4039A
381	DFS2965A	DFS4041I
388	DFS2966A	DFS4042A
3090	DFS2967A	DFS4043A
3091	DFS2968A	DFS4044A
3399	DFS2969A	DFS4045A
DFS メッセージ (IMS)	DFS2980E	DFS4046A
DFS170	DFS2981E	DFS4047A
DFS176	DFS2982E	DFS4048I
DFS2903I	DFS2983E	DFS4049I
DFS2908I	DFS2984I	DFS4050A
DFS2909I	DFS2989I	DFS4051I
DFS2910I	DFS4010W	DFS4052A
DFS2911I	DFS4011I	DFS4053A
DFS2912I	DFS4012I	DFS4054A
DFS2913I	DFS4013W	DFS4055I
DFS2914I	DFS4014I	DFS4056I
DFS2915I	DFS4015I	DFS4057A
DFS2916W	DFS4016A	DFS4058A
DFS2917I	DFS4017A	DFS4060I
DFS2918A	DFS4018I	DFS4061A
DFS2922A	DFS4019I	DFS4062W
DFS2923I	DFS4020I	DFS4063I
DFS2924I	DFS4021I	DFS4064W
DFS2925I	DFS4022I	DFS4065A
DFS2926I	DFS4024I	DFS4066I
DFS2927I	DFS4025I	DFS4067A
DFS2928I	DFS4026I	DFS4068A
DFS2929A	DFS4027I	DFS4069A
DFS2931I	DFS4028I	DFS4070A
DFS2932I	DFS4029I	DFS4071I
DFS2933I		
DFS2935I		
DFS2936I		
DFS2937I		

	DSP メッセージ (DBRC)
DFS4072A	
DFS4073A	DFS4130I
DFS4074W	DFS4131A
DFS4075A	DFS4132A
DFS4076A	DFS4133A
DFS4077I	DFS4134I
DFS4078I	DFS4135I
DFS4079A	DFS4136I
DFS4085W	DFS4150I
DFS4086W	DFS4152A
DFS4087A	DFS4153W
DFS4088A	DSPM058I
DFS4089A	DSPM059I
DFS4090A	DSP1001I
DFS4091I	DSP1002I
DFS4092A	DSP1030I
DFS4094A	DSP1004I
DFS4095A	DSP1005I
DFS4096A	DSP1006I
DFS4097I	DSP1007I
DFS4098A	DSP1009I
DFS4099A	DSP1010I
DFS4100I	DSP1011I
DFS4101A	DSP1012I
DFS4102A	DSP1013I
DFS4103I	DSP1014I
DFS4104A	DSP1016I
DFS4105A	DSP1017I
DFS4106I	DSP1021I
DFS4107A	DSP1022I
DFS4108A	DSP1025I
DFS4109	DSP1027I
DFS4111I	DSP1028I
DFS4112A	DSP1029I
DFS4113I	DSP1030I
DFS4114A	DSP1032I
DFS4115I	DSP1035I
DFS4121I	DSP1036I
DFS4122A	DSP1037I
DFS4123I	DSP1038I
DFS4124I	DSP1042I
DFS4125I	DSP1043I
DFS4126I	DSP1044I
DFS4127A	

ELX メッセージ (TMS)		G メッセージ (SYSGEN)
ELX0001A	ELX0201W	
ELX0002A	ELX0202I	G1205
ELX0003A	ELX0203W	G1212
ELX0004A	ELX0204I	
ELX0005A	ELX0205I	
ELX0100A	ELX0209I	
ELX0101W	ELX0210A	
ELX0102W	ELX0211I	
ELX0103I	ELX0212A	
ELX0104A	ELX0213A	
ELX0105I	ELX600A	
ELX0106A	ELX1001E	
ELX0107I	ELX1002I	
ELX0108I	ELX1003W	
ELX0109I	ELX1004W	
ELX0111A	ELX1005W	
ELX0112I	ELX1010I	
ELX0113A	ELXC106I	
ELX0114I	ELXC109I	
ELX0115I	ELXC112A	
ELX0116A	ELXC160I	
ELX0118A	ELXC161I	
ELX0119I	ELXC162A	
ELX0120I	ELXC181I	
ELX0122I	ELXC315I	
ELX0128I		
ELX0129I		
ELX0130I		
ELX0150I		
ELX0170I		
ELX0171A		
ELX0181A		
ELX0183A		
ELX0184I		
ELX0185I		
ELX0187I		
ELX0188I		
ELX0189I		
ELX0200I		

第 2 章 IMS 問題判別

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

問題判別は、障害のあるモジュールまたはプログラムを特定し、示された問題の解決をユーザーまたは IBM のどちらかが担当するかを判別するための手順を使用して行われます。

本書内にリストされたメッセージおよびコードに、該当する場合は、問題判別情報が含まれています。ほとんどの場合、メッセージまたはコードの『問題判別』という見出しの後に、1つ以上の番号(例えば、「4、6」)が表示されています。これらの番号は、以下に示す、ユーザーが取る標準的な問題判別処置 リストの番号付き項目への相互参照です。

1. z/OS コンソールからコンソール・シートを保管します。
2. ジョブに関連する入力を保管します。
3. ジョブに関連する SYSOUT (システム出力) を保管します。
4. IMS 制御領域の障害時のストレージ・メモリー・ダンプを保管し、関連するすべてのメッセージ領域のメモリー・ダンプを保管します。(SYS1.DUMP が使用される場合は、それを印刷して保管します。)
5. IMS ログ印刷出力を保管します。
6. IMS マスター端末の印刷出力を保管します。
7. ローカルまたはリモート端末の印刷出力を保管します。
8. JCL リストを保管します。
9. ACB 生成の出力を保管します。
10. IMSGEN リストを保管します。
11. SYSABEND メモリー・ダンプを保管します。(SYS1.DUMP が使用される場合は、それを印刷して保管します。)
12. ユーザー修正の IMS モジュールのアセンブリー・リストを保管します。
13. バインド・マップを保管します。
14. LOG トレースを保管します。
15. 異常終了の直前に書き込まれたレコードで始まる IMS ログの印刷出力を保管します。
16. MFS 言語ユーティリティの実行の出力リストを保管します。
17. 次の問題に関連するデータを収集します。
 - a. バッチで実行している場合、システム・メモリー・ダンプ。
 - b. オンラインで実行している場合、ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード・タイプ X'FF' (疑似異常終了) を印刷します。これらのレコードを印刷するには、ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラムを使用します。OPTION PRINT 制御ステートメントで EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。
 - c. 障害のあった呼び出しの前後で、SNAP ステートメントを指定した DL/I テスト・プログラム (DFSDDLTO) を実行します。
 - d. 障害に関連した PSB および DBD のリストまたはステートメント (あるいは両方) を保管します。
 - e. ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード・タイプ X'FE' (プログラム分離トレース) のメモリー・ダンプを作成します。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラムを使用して、レコードを印刷します。ログを作成するときに、プログラム分離トレースを使用可能にする必要があります。OPTION PRINT 制御ステートメントで EXITR=DFSERA40 を指定する必要があります。
 - f. オンラインの場合、オンライン領域のログからのスナップ。
 - g. データベースのバックアウト、リカバリー、および再編成のアクティビティの履歴。
18. 関連する DBD のアセンブリー・リストを保管します。
19. 関連する PSB のアセンブリー・リストを保管します。
20. 障害時の関連データ・セットの VSAM カタログ項目のリストを保管します。

21. 将来の利用のために予約済み。
22. 将来の利用のために予約済み。
23. IBM に連絡して、ハードウェア・サポートを要求します。
24. IMS ログから 3270 診断エラー・ログ・レコード (レコード・タイプ X'67': サブレコード・タイプ X'03') のメモリー・ダンプを作成します。
25. IMS ログのコピーを実行します。
26. スクラッチパッド域の SPACCB フィールド、または CTBCCBPT フィールドから、関連する CCB を判別します。関連する (a) ソースと出力 CNT、および (b) 回線と PTERM (CTB) を判別します。
ログ・レコード 01、02、03、07、08、11、12、および 13 から、会話の状況を判別します。
 - a. メッセージは準備できたが、アプリケーションがスケジュールされませんでした。01 宛先は会話型 SMB です。
 - b. アプリケーションがスケジュールされ、08 レコードが生成されました。
 - c. アプリケーションが、会話型端末にセグメントを挿入しました。メッセージの宛先が CNT の場合、03 および 13 レコードが生成されます。
 - d. アプリケーションが、会話型プログラムにセグメントを挿入しました。SPA は、03 レコード内のメッセージの最初のセグメントです。
 - e. アプリケーションは正常に終了したか、または異常終了しました。07 レコードに、会話型アプリケーションの完了コードが入っています。DLRFLAG2 エリア (07 ログ・レコードの最終ワード) に、同期点情報が入っています。
 - f. 12 レコードは、会話が終了したことを示します。
 - g. コマンド **/EX1**、**/HOLD**、**/REL**、または **/START LINE** (PTERM なし) に対して生成された 02 レコードが、会話中の端末に影響を与えたかどうかを判別します。
 - h. IMS の再始動が会話に影響を与えますか? 詳しくは、再始動への入力ログおよび再始動からの出力ログを参照してください。
27. z/OS ハードコピー・メッセージ・ログ出力を保管します。
28. 通常操作中に、このシステムが接続されている他のシステム内で作動している z/OS および IRLM の状況を判別します。
29. 障害時に生成された IRLM アドレス・スペース・ダンプを保管します。
30. IRLM 障害の近辺の時間に障害のあった IMS オンラインまたはバッチのアドレス・スペースのメモリー・ダンプを保管します。IMS メモリー・ダンプに関連する IMS の問題判別手順に従ってください。IMS 障害は、IRLM 障害に関連している可能性があります。
31. IRLM 始動プロシージャ JCL のリストを保管します。
32. IRLM をインストールするために実行された IMSGEN のリストを保管します。
33. IRLM をインストールするために実行された VTAM® 定義のリストを保管します。
34. 障害時のアクティビティを示すために使用可能であれば、GTF トレース出力を保管します。
35. 問題を解決するためにさらに支援が必要であれば、次のマニュアルを参照してください。
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外メッセージ
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード
 - IMS Version 15 Diagnosis
 すべての入力が正確かどうかを調べ、すべてのメモリー・ダンプを分析します。
それでも問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。
36. 問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。
37. タイプ X'02' ログ・レコードのコピーを実行依頼します。

38. CCTL SNAP または SDUMP データ・セットを保管します。
39. DBRC RECON のリストを保管します。
40. SVC メモリー・ダンプを取得し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

第3章 DFS メッセージ

DFS メッセージは、プログラムの実行中に何らかのイベントまたは一連のイベントが発生した場合、それを示すために IMS によって発行されます。

DFS メッセージは、**DFSnnnnZ** の形式です。nnnn は 3 桁または 4 桁の数字で、文字 Z は接尾部コードを表します。メッセージは、nnnn の数値に従ってソートされています。

システム・コンソール向けのキー・コール・メッセージには、接尾部 **I** が付加されています。

メッセージによっては、IMS システム ID が付加されているものがありますが、これは、複数の IMS システムの稼働時に、メッセージを受信する IMS システムを識別するためです。

TIMESTAMP が COMM または IMSGEN マクロで指定されていると、次のメッセージではそれぞれ、メッセージ番号とテキストの間に時刻が挿入されます。DBCTL 環境では、時刻は挿入されません。

- DFS001 から DFS056
- DFS058 から DFS091
- DFS093 から DFS193
- DFS195 から DFS300
- DFS574 から DFS577
- DFS968
- DFS999
- DFS2000 から DFS2010
- DFS2013 から DFS2018
- DFS2020 から DFS2078
- DFS2100 から DFS2144
- DFS2151 から DFS2173
- DFS2231 から DFS2274
- DFS2290
- DFS2418
- DFS2460
- DFS2468
- DFS2476
- DFS2530 から DFS2538
- DFS2577
- DFS2610
- DFS2717
- DFS3101 から DFS3117
- DFS3200 から DFS3250
- DFS3411 から DFS3413
- DFS3420
- DFS3431
- DFS3438
- DFS3440 から DFS3442
- DFS3451 から DFS3454
- DFS3457

- DFS3460
- DFS3461
- DFS3470 から DFS3472
- DFS3656
- DFS3800

該当する場合は、それぞれのメッセージに添えて、次の情報が示してあります。

説明: メッセージはどのような意味をもつか、なぜ表示されるか、何が原因か、可変項目フィールドは何か、について記述しています。

システム処置: メッセージが出される原因となった条件の結果として何が起きているのか、システムは応答待ちかどうかについて記述しています。この情報が示されていない場合は、該当しないということです。

オペレーター、システム・プログラマー、プログラマー、またはユーザーの応答: 応答が必要な場合、誰が処置を実行し、どのような応答が適切か、およびそれらがシステムまたはプログラムに与える影響について記述しています。この情報が示されていない場合は、該当しないということです。

問題判別: 問題が再発したり、持続したりして、システム効率が影響を受ける場合、このセクションでは、熟練したハードウェアまたはプログラミングのサポート担当者が問題を診断するための十分なデータを入力するために、どのような処置を実行する必要があるかについて記述しています。この情報が示されていない場合は、該当しないということです。

問題判別では、[11 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』](#)に示された問題判別処置のリストを参照します。こうした一般的な処置の表は、診断技法を教えようというのではなく、問題が再発したら、どうすればよいかについて、オペレーターやプログラマーの方々に説明するものです。問題判別処置は、ハードウェアまたはプログラミングの問題を特定するのに役立つ、資格のあるサポート担当者が障害を診断して訂正するために使用できる基本的なプログラミング情報を提供します。

メッセージが機能「ff」を参照している場合は、次に示す 2 文字コードで表される、下記のユーティリティーのいずれか 1 つに該当します。

コード	意味
PO	事前再編成
CA	変更累積
IM	イメージ・コピー
RV	データベース・リカバリー
SU	HISAM 再編成アンロード
RU	副次索引アンロード
SR	HISAM 再編成再ロード
RR	副次索引再ロード
DU	HD 再編成アンロード
DR	HD 再編成再ロード
ZB	データベース ZAP
ZM	モジュール ZAP
SN	データベース・スキャン
PR	接頭部解決
PU	接頭部更新

重大度: 下の表は、MFS 言語ユーティリティー・プログラムの重大度コードに該当します。重大度コードは、メッセージの重大さを示すものです。

MFS 言語ユーティリティーのプリプロセッサ・フェーズで生じるメッセージでは、重大度コードは、それぞれのメッセージ番号の右に示されています。それ以外のフェーズで生じるメッセージでは、重大度コードはメッセージ・テキストには含まれていません。それぞれのメッセージに関連した特定の重大度コードについては、個々のメッセージ記述を参照してください。

重大度コード

意味

0

このメッセージは、単に通知メッセージに過ぎません。

4

重大度コード 4 が生じるのは、警告、マイナー・エラー、有効と思われるデフォルトが想定された場合です。有効ブロックが作成される可能性が高いと考えられます。

8

これは重大なエラーであり、デフォルトに疑問が生じたり、指定の無視を招く結果になります。無効ブロックが作成される可能性があります。

12

必須オペランドが省略されているか、示された指定間に矛盾があります。無効ブロックが作成される可能性が高いと考えられます。

16

言語変換は、機能限定で続行します。作成されたブロックが無効か、ブロックの作成が抑制されます。

20

言語変換は続行できず、即時に終了します。作成されたブロックは無効です。

あるジョブ・ステップ中に重大度が最も高いコードが MFS 言語ユーティリティー・プログラムによって出された場合は、完了コードとして、オペレーティング・システムに戻されます。

第4章 DFS メッセージ DFS000I - DFS050A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS000I *various*

説明

このメッセージ番号は、次の状態の場合に使用されません。

- IMS キューを通してシステム・コンソールに送信されるユーザー・メッセージの接頭部として、IMS メッセージ番号が付く場合。
- メッセージ ID が **/DISPLAY** 応答を表す場合。
- メッセージ番号が、システム・コンソールに切り替えられるメッセージを表す場合。
- 継続行が複数セグメントのメッセージにわたる場合。
- DBRC 領域の名前がオンラインで組み込まれる場合。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

モジュール

DFSCINB0、DFSDNSC0、DFSFD60

DFS001 **UNDETERMINED ERROR ON 3270.**
LINE x PTERM y

説明

モジュール DFSDN130 (リモート 3270)、または DFSDN140 (ローカル 3270) でエラーが検出されましたが、判別されていません。

システムの処置

回線は停止されています。ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを準備する) を使用して、書き込まれています。

オペレーターの応答:

(マスター端末) /START LINE x PTERM ALL コマンドを使用して、回線の再始動を試行できます。この障害が相変わらず起こる場合は、ログ・データ・セットを印刷して、エラーの原因を判別してください。

問題判別

1、5、6、36

モジュール

DFSDN130、DFSDN140

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS002I **MONITOR WILL NOT BE**
AVAILABLE-NOT SL TAPE

説明

データ通信モニター・プログラム・テープは、標準ラベルまたは標準ユーザー・ラベル付きのスクラッチ・テープである必要があります。

システムの処置

IMS は、モニター・プログラム・ロギングなしで処理を続行します。

オペレーターの応答:

データ通信モニター・プログラム・ロギングが必要な場合は、IMS を再始動する必要があります。

プログラマーの応答

データ通信モニター・プログラム・ロギングが必要な場合は、IMSMON DD ステートメントで標準ラベルまたは標準ユーザー・ラベルを必ず指定するようにしてください。

モジュール:

DFSXLGIO

DFS003I **xxx MODE COMPLETED.**

または

DUP MODE COMPLETED. nnnnn ERRORS.

説明

このメッセージは、どちらかの形式で出されますが、どちらの形式でも、ログ・リカバリー・ユーティリティが DUP、REP、または CLS 機能を正常に完了したことを示しています。nnnnn では、DUP 処理中に中間ログ・データ・セットに書き込まれたエラー・レコードの数が示されます。xxx では、CLS または REP モードを表しています。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティーが正常に終了します。

プログラマーの応答

CLS モードおよび REP モードの場合は、応答は必要ありません。

DUP モードの場合は、*nnnnn*=0 であれば、出力ログはエラー・フリーであり、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) として使用できます。*nnnnn*=1 であり、指定したのが *ERRC*=00000 であった場合は、入力ログでエラーが発生し、出力ログはエラー・ポイントで切り捨てられました。入力ログをエラー・ポイントでチェックして、出力ログが切り捨てられたのが正しいポイントであったか判断してください。そうでない場合は、ログ・リカバリー・ユーティリティーを REP モードで使用して、エラー・フリー OLDS を作成してください。

モジュール

DFSULG10

DFS0005A **REPLY "Y" IF THIS IS A REMOTE
DRRS SITE**

説明

共用される仮想記憶オプション (VSO) エリアのオープン処理中に、IMS が管理する二重構造サポートで、構造の DEALLOCATE PENDING CONNECTIVITY LOST 状況が検出されました。災害復旧リモート・サイト (DRRS) および実動サイトの両方で同一の CFRM ポリシーを使用する災害復旧用の DASD ミラーリング・ソリューションを採用している場合、**Y** と答えると、このシステムが災害復旧サイトの IMS と見なされます。エラー状況がバイパスされます。実動サイトと災害復旧サイト CF の両方を、SVSO 構造の設定リストに含めるようにしてください。

システムの処置

このシステムがリモート災害復旧サイトであることを指示した場合、IMS は、新規の構造を作成してそれに接続することにより、エリアのオープン処理を実行します。

このシステムがリモート災害復旧サイトではないことを指示した場合、エリアのオープン処理は終了し、メッセージ DFS3702I が理由コード 41 と共に出力されます。

システム・プログラマーの応答:

この IMS がリモート災害復旧サイトにある場合は、**Y** または **y** と答えてください。それ以外の応答は、この IMS が災害復旧サイトにあるのではないことを示します。

モジュール:

DBFVXAS0

DFS0006E **REQUESTED VERSION req_v_nmbr
AND CURRENT VERSION
cur_v_nmbr OF DEDB dedbname
ARE INCOMPATIBLE**

説明

アプリケーション・プログラムが、現行バージョン以外のバージョンの高速処理データベース (DEDB) へのアクセスを試みましたが、IMS が現行バージョン以外のデータベースへのアクセスに必要な内部ブロックを構築できません。これは、現行バージョンのデータベースに、データベースのバージョン管理でサポートされていない、データベース定義 (DBD) 内の変更が含まれているためです。

アプリケーション・プログラムは、そのプログラムが変更されない限り、またはサポートされない変更がそのデータベースから削除されない限り、以前のバージョンのデータベースにアクセスできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cur_v_nmbr

メッセージ・テキスト内に示される DEDB データベースの現行バージョンのバージョン番号。現行バージョンとは、DASD に保管されているデータベースの実際の物理構造が含まれたデータベースのバージョンです。現行バージョンのデータベースには、前のバージョンのデータベースとは互換性がない構造的な変更が含まれています。

req_v_nmbr

メッセージ・テキストに示される DEDB データベースの要求されたバージョンのバージョン番号。アプリケーション・プログラムは要求されたバージョンへのアクセスを試みましたが、IMS は、要求されたバージョンのデータベースで定義されたフォーマットでデータを返すことができません。これは、現行バージョンに互換性がない構造的な変更が含まれているためです。

考えられる原因: IMS がこのメッセージの前にコンソールに発行する 1 つ以上の DFS0123E メッセージで、互換性がない変更が示されています。

システムの処置:

データベースへのアクセスは失敗し、アプリケーション・プログラムは状況コードを受け取ります。

システム・プログラマーの応答

すべての DFS0123E メッセージの戻りコードを確認してください。DFS0123E の資料で戻りコードの意味を参照してください。

モジュール:

DBFVER10

関連概念

データベースのバージョン管理によってサポートされるデータベースの変更(データベース管理)

関連情報

65 ページの『DFS0123E』

DBD CHANGE UNSUPPORTED BY VERSIONING:
DB=dedbname RSN=rc SEG segmname variable
text

DFS0007I /STA MADSIO COMMAND
IGNORED. MADSLOT ALREADY
ACTIVE.

説明

/START MADSIO コマンドが出されましたが、そのとき MADSIO 機能はすでにアクティブでした。/START MADSIO コマンドを出して MADSLOT 機能を再開するのは、それが停止している場合です。

システムの処置

/START MADSIO コマンドは処理されませんでした。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DBFCST00

DFS0008I /STO MADSIO COMMAND
IGNORED. MADSLOT IS NOT
ACTIVE.

説明

/STOP MADSIO コマンドが出されましたが、MADSLOT はアクティブではありませんでした。

システムの処置

/STOP MADSIO コマンドは処理されませんでした。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DBFCST00

DFS009 timestamp COMMAND NOT
AUTHORIZED AS ENTERED FROM
OM API

説明

入力されたコマンドは、OM API からの入力が許可されていません。このコマンド許可は、DFSCGxxx CSL PROCLIB メンバーの CMDSEC= パラメーター (RACF® (または等価)、または DFSCCMD0、あるいはその両方) で指定されましたが、OM API のユーザー ID がこのコマンドを出すのを許可していません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

許可された USERID を使用して OM API からコマンドを再入力するか、現行 USERID の許可情報を更新して、OM API からコマンドを再入力してください。

モジュール

DFS0CM30

DFS0011W AREA=areaname DD=ddname
ALLOCATION FAILED

説明

指定された DD は、/START AREA コマンドで割り振れませんでした。指定された DD は、DD ステートメントで指定されておらず、ALLOCATE/DEALLOCATE パラメーター・リストでも指定されていません。

システムの処置

処理は続行されますが、指定された DD の割り振りは行われないままです。

プログラマーの応答

ALLOCATE/DEALLOCATE パラメーター・リストの DD を訂正し、/START AREA コマンドを再入力するか、UPDATE AREA START(ACCESS) コマンドを発行してください。

モジュール

DBFARDA0

DFS0012I SPOOL DATASET UNALLOCATION
ERROR - aaaaaaaa,bbbb,
ccccccc,dddd,eeee,ff,gggg,hhhh,ii.
.ii

説明

IAFP JES SPOOL データ・セットの割り振り解除中に、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

割り振り解除が失敗した IMS 従属領域のジョブ名。

bbbb

ジョブ **aaaaaaaa** に対応するジョブ番号

cccccccc

SPOOL データ・セットの DD 名

dddd

従属領域番号

eeee

SPOOL データ・セット割り振り解除処理からの戻りコード

ff

割り振り解除要求タイプ。可能な値としては、次のものがあります。

80

特殊要求なし

40

保留状況から除去

20

リモート宛先に送信

08

データ・セットを削除

gggg

動的割り振り解除エラー・コード

hhhh

動的割り振り解除エラー情報

ii..ii

44 バイトのデータ・セット名

このメッセージが戻されるのは、アプリケーション・プログラムが IAFP= オプション・パラメーターでデータ・セットに関する『メッセージ』を要求した場合のみです。

IMS 同期点またはスレッド終了の処理時に、参照されている印刷データ・セットが割り振り解除されませんでした。印刷データ・セットは、従属領域が終了するまで、従属領域に割り振られたままになっています。従属領域は、MVS がデータ・セットを割り振り解除できるように、できるだけ早く終了する必要があります。MVS オペレーターが、印刷データ・セットの適切な後処理を制御する必要がある場合もあります。割り振り解除エラーに関する詳細な情報については、メッセージ DFS0013E を参照してください。このエラーについての追加情報は、IMS システムのログであるログ・レコード・タイプ 67D0 でも入手できます。

システムの処置

処理は中断されず、続行されます。

プログラマーの応答

このメッセージの *ff* セクションを検討してください。*ff*=8 の場合は、データ・セットの削除を試みている最中に、割り振り解除障害が発生しています。従属領域が終了したら直ちにデータ・セットを削除してください。*ff* にそれ以外の値が入っている場合は、従属領域の終了後に、データ・セットを印刷してください。

問題判別

エラー・コードおよび情報コードについては、「z/OS *MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide*」(SA22-7608)を参照してください。

モジュール:

DFSIAFP0

関連資料

[z/OS: リソースの割り振り解除](#)

[z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈](#)

関連情報

22 ページの『DFS0013E』

IAFP SPOOL PROC. ERR. LTERM=cccccccc,
REGION=xxxx, OPERATION=xxx, R.C.=xxxx,
REASON CODE=xxxx

DFS0013E

IAFP SPOOL PROC. ERR.

LTERM=cccccccc, REGION=xxxx,
OPERATION=xxx, R.C.=xxxx,
REASON CODE=xxxx

説明

IMS または z/OS システム・エラーが、IAFP JES SPOOL データ・セットの処理中に発生しました。アプリケーションによって "Dest Name" として指定された操作、戻りコード、理由コード、および LTERM 名が表示されています。REGION は、エラーが発生した IMS 従属領域番号です。操作は、次のとおりです。

DYN

JES SPOOL データ・セットが動的に割り振られませんでした。

MEM

メモリーが IAFP 処理用として取得されました。これは、重大なシステム・エラーです。戻りコードの意味について、システム・プログラマーに相談してください。

OPN

JES SPOOL データ・セットが開かれませんでした。

OUT

動的に割り振られた JES SPOOL データ・セットの OUTPUT 記述子が作成されませんでした (SVC 109 障害)。

UNA

JES SPOOL データ・セットが動的に割り振り解除されませんでした。

WRT

JES SPOOL データ・セットが書き込まれませんでした。

BSAM WRT 操作では、LLZZ の値が llzz の値よりも 4 バイト 大きくない場合は、書き込みエラーが発生し、IMS スプール API インターフェースによって、このメッセージが出されます。ISRT 呼び出しの状況コードは AX です。

システムの処置

処理は中断されず、続行されます。

プログラマーの応答

IMS がエラーを検出したのは、IMS システム・サービスと z/OS システム・サービスのどちらかです。メッセージ・テキストを参照すれば、IMS と z/OS のどちらのサービスを使用中か分かります。このエラーについての追加情報は、IMS システムのログであるログ・レコード・タイプ 67D0 でも入手できます。

問題判別

戻りコードおよび理由コードについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」(SA22-7608) を参照してください。

モジュール:
DFSIAFP0

関連資料

[z/OS: リソースの割り振り解除](#)

[z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈](#)

DFS0014I	JES SPOOL D.S. REQUIRES cccccccc,JOBNAME=cccccccc, JOB#=aaaa,DDNAME=cccccccc, DATASET=aa..aa
-----------------	---

説明

アプリケーション・プログラムが IAFP= オプション・パラメーターでデータ・セットに関するメッセージを要求しました。IMS の再始動中に、IAFP JES SPOOL データ・セットの状況が不確実になり、そのとき、直前の IMS が終了しました。メッセージの保全性を確保するには、z/OS オペレーターがこのデータ・セットを、示されているとおりに処理する必要があります。示されているデータ・セットが検出できない可能性があります。

このメッセージは、問題を表していない可能性があり、IMS アプリケーションがデータ・セットに関する印刷の後処理を要求した場合にしか該当しません。

システムの処置

処理は中断されず、続行されます。

オペレーターの応答

次のいずれかの処置を実行します。

DELETION

示されている JES SPOOL データ・セットを削除します。

PRINTING

JES SPOOL ドライバーによる処理 (例えば、PSF) のために、示されている JES SPOOL データ・セットを割り振り解除します。

モジュール:
DFSIAFP0

DFS0015I	mmmm nn FAILED TO GET CONTROL BLOCK cccc
-----------------	---

説明

DBFCDRCO が WORK ストレージを取得できませんでした。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mmmm

モジュールの短縮名。

nn

メッセージが発行されたモジュール内の位置。

cccc

制御ブロック名。

短縮名は DRCO です。モジュール名は DBFCDRCO です。機能は、/DISPLAY RTCODE コマンドの処理です。

システムの処置

/DISPLAY RTCODE コマンドは打ち切られました。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール

DBFCDRCO

DFS0017I	無効なサービス呼び出しが FP コマンド ITASK に対して発行されました。
-----------------	--

説明

無効な呼び出しが発行されました。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答:

IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール

DBFCST00

DFS0019I DBRC UNAUTH REQUEST FAILED FOR DBD=*dbdname*, AREA=*areaname* RC=*xx*

説明

DBFARD30、DBFARD40、DBFMLCLO、DBFHDEPO、または DBFSTAPO が DBRC に対して UNAUTH 要求を発行しましたが、DBRC は 16 以下のゼロでない戻りコードを戻しました。

システムの処置

不成功を示す戻りコードが呼び出し側に渡されます。

ユーザーの処置

戻りコードの意味については、『許可取り消し呼び出しからの戻りコード』のトピックを参照してください。追加支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DBFARD30、DBFARD40、DBFMLCLO、DBFHDEPO、DBFSTAPO

関連資料

[DBRC 要求戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

[許可取り消し呼び出しからの戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS0020I DMAC HAS BAD POINTER TO DMCB, /DIS STATUS DB COMMAND REJECTED

または

NO DDIR WAS FOUND, /DIS STATUS DB COMMAND REJECTED

または

NO DMCB WAS FOUND NO FP DB IS AVAILABLE, /DIS STATUS DB COMMAND REJECTED

または

DMCB HAS BAD POINTER TO DDIR, /DIS STATUS DB COMMAND REJECTED

説明

/DIS STATUS DB コマンド処理中に制御ブロックの矛盾が検出されました。

システムの処置

非ゼロ戻りコードが呼び出し側に設定されます。**/DIS STATUS DB** コマンドは終了します。

ユーザーの処置

データベースに関する情報を収集し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DBFCDAO

DFS022I DYNAMIC BACKOUT WAS|NOT SUCCESSFUL FOR *jobname*

説明

このバッチ・ジョブのログは DASD にあり、実行パラメーター BKO=Y (動的バックアウト) が指定されました。ジョブは疑似異常終了し、IMS が動的バックアウトを呼び出しました。このメッセージでは、バックアウトが正常に行われたかどうかを示します。

システムの処置

バッチ・ジョブが異常終了します。

プログラマーの応答

動的バックアウトが正常に行われなかった場合は、バッチ・バックアウト・ユーティリティーを使用して、バックアウトを試行できます。

問題判別

1、2、8、11、36

モジュール

DFSDLA00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0023I COMMAND REJECTED. MADSIOT KEYWORD NOT FOUND IN DFSVSMxx.

説明

/START MADSIO または **/STOP MADSIO** コマンドが発行されましたが、MADS 入出力タイミング機能がこの IMS で使用可能になっていませんでした。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答

MADS 入出力タイミング機能を使用可能にするには、次のフォーマットを使用して、キーワード MADSLOT を DFSVSMxx PROCLIB メンバーで指定してください。

```
MADSLOT=(StructureName,IOTime)
```

ここで:

- *StructureName* は 16 文字です。
- *IOTime* は、メディア・マネージャーが入出力要求の状況に戻すタイム・スパンを指定する、3 桁の数値 (0 から 255) です。

MADSLOT 機能が使用可能になるのは、IMS のリサイクル後です。

モジュール:
DBFCST00

DFS024 **INVALID PASSWORD FORMAT**

説明

最後に入力されたパスワードのフォーマットは、次のいずれかの理由で無効でした。

- 左括弧または迂回文字が、入力データの最後の文字になっている。
- パスワードの長さが 8 文字を超えている。
- 右括弧または迂回文字がない。

システムの処置

IMS は、入力されたデータを無視します。

オペレーターの応答:
正しいパスワード・フォーマットを使用して、データを再入力してください。

モジュール:
DFSICIO0

DFS025 **UNABLE TO FIND INPUTTING
TERMINAL. LINE STOPPED. LINE x
PTERM y**

説明

示されている回線で入力を受信され、発信元端末が判別できませんでした。

システムの処置

回線は停止されています。ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを準備する) を使用して書き込まれました。

オペレーターの応答:
(マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。障害の原因 (ハードウェア誤動作の可能性、または端末が IMS に対して未定義) を判別してください。回線は、**/START LINE** コマンドを使用して再始動できます。

プログラマーの応答

障害の原因を判別してください。

問題判別

5、6、14、36

モジュール

DFSDN030

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS026 **UNABLE TO FIND INPUTTING
TERMINAL. LINE DEACTIVATED.
LINE x PTERM y**

説明

示されている回線で入力を受信されましたが、発信元端末または制御装置が判別できませんでした。

システムの処置

回線は非活動化されました。ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを準備する) を使用して書き込まれました。

オペレーターの応答:
(マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。IMS システムがシャットダウンされて再始動されるまでは、回線を再活動化できません。

プログラマーの応答

障害の原因を判別してください。

問題判別

14、36

モジュール

DFSFTRM0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS027 I/O ROUTINE ERROR

説明

装置モジュールが通信アナライザーと正しくインターフェースをとることができませんでした。装置依存のモジュール論理エラーが原因でした。

システムの処置

回線はシャットダウンされています。ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを準備する) を使用して書き込まれました。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。IMS 制御領域がシャットダウンされて再活動化されるまでは、回線を再活動化できません。

プログラマーの応答

障害の原因を判別してください。

問題判別

14、36

モジュール

DFSICIO0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS028 INVALID ATTENTION INPUT DETECTED

説明

受信された入力には処置が必要でしたが、DFSCFEPO (MFS ページング・プロセッサ) がこの入力を認識しませんでした。

システムの処置

入力は無視され、端末は作動不能になります。

プログラマーの応答

端末がプログラマブルの場合は、アテンションがホストに送信されるロジックをチェックしてください。端末がプログラマブルでない場合は、ハードウェア・エラーがあると考えられます。この問題が再発する場合は、DC トレースまたは GTF トレースを取ってください。

モジュール

DFSCFEPO

DFS029 DDM LOGIC ERROR DETECTED

説明

無効の要求が装置依存のモジュールから MFS 出力制御モジュール (DFSCFE00) に戻されました。装置依存モジュールがデータを要求したのが、EOM または EOD の発生後でした。

システムの処置

端末は作動不能になります。

プログラマーの応答

実際の端末と IMS での端末の定義の間に矛盾がないかどうかを確認してください。端末がプログラマブルの場合は、出力に論理エラーがないかについてもチェックしてください。

モジュール

DFSCFE00

DFS030I DBRC VERUOR REQUEST FAILED, RC=yy

または

DBRC REQUEST FAILED, REASON=xx, RC=yy

または

DBRC SIGNOFF REQUEST FAILED xx, RC=yy

または

DBRC SAVUOR REQUEST FAILED, RC=yy

または

DBRC UPDUOR REQUEST FAILED, RC=yy

説明

最初の形式のメッセージを出すのは、モジュール DFSDBAU0、DFSDDUI0、DFSLOC0、および DBFPIC0、2番目の形式のメッセージを出すのは、モジュール DFSPCC0 です。SAVUOR、UPDUOR、および VERUOR バージョンのメッセージを出すのは、DFSRBOI0 と DFSDBDR0 と DFSST500 のいずれかです。

特定の DBRC 要求は、理由コード xx の有無にかかわらず、失敗すると、戻りコード yy が表示されます。

理由コード yy によって示された障害の原因を判別するには、「IMS V15 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード」に記載されている DBRC 要求の戻りコード情報を参照してください。

次の理由コードには、xx 値が示してあります。

コード (16 進数)

意味

01

同期化プロセスまたは緊急時再始動バックアウト・プロセスが、DBRC に対してデータベース・バックアウト障害の通知を試みましたが、DBRC は、データベースが未登録であることを示していました。データベースが未登録である場合は、いずれのプロセスも DBRC に通知することはなく、この条件は生じません。

02

同期化プロセスまたは緊急時再始動バックアウト・プロセスが、DBRC に対してデータベース・バックアウト障害の通知を試みましたが、DBRC は、サブシステムにはデータベースを使用する許可がないことを示していました。この許可がない限り、データベースに対する変更は行えなかったため、この条件が生じるはずはありませんでした。

03

データベース許可呼び出しが DBRC に対してなされました。サブシステムが DBRC にサインオンしていなかったことを示す戻りコード X'0C' が、戻った時点で受信されました。IMS サブシステムの初期設定または DBRC にエラーがない限り、この条件が生じるはずはありませんでした。

05

サインオフ呼び出しが DBRC に対してなされましたが、IMS が終了しようとしている最中でした。戻りコードで、サブシステム・エントリーが検出されなかったということ、内部エラーが許可取り消しプ

ロセス中に検出されたということ、サブシステム・エントリーは検出されたが、異常終了したということ、リカバリー処理が開始されていたということのいずれかが示されていました。

06

DBRC がデータベースを許可取り消すために呼び出されましたが、DL/I クローズ 処理中でした。DBRC によって設定された戻りコードは、データベースが RECON データ・セットに未登録であることを示していました。許可取り消し呼び出しが出されるのは、データベースが DBRC に登録されている場合のみであるため、内部エラーが発生していません。

07

DBRC がデータベースを許可取り消すために呼び出されましたが、DL/I クローズ 処理中でした。DBRC によって設定された戻りコードは、サブシステムが RECON データ・セットに未登録であることを示していました。サブシステムが登録されたのは、データベースに対する許可が取得されたときであったため、内部エラーが発生しています。

08

DBRC がデータベースを許可取り消すために呼び出されましたが、DL/I クローズ 処理中でした。DBRC からの戻りコードは、サブシステムにはデータベースに対する許可がないことを示していました。データベースに対する許可を取得したのは、データベースが開かれる前であったため、この条件が生じるはずはありません。

DBRC がこのコードを戻し、しかもシステムの緊急時再始動が行われていない場合は、異常終了コード 3275 が出されます。緊急時再始動中に、/**ERESTART** コマンドが実行される前に HALDB マスターに対して /**DBRECOVERY** コマンドが出されると、この条件が存在する可能性があります。

09

DBRC がデータベースを許可取り消すために呼び出されましたが、DL/I クローズ 処理中でした。DBRC によって設定された戻りコードは、内部 DBRC エラーが発生したのは、許可プロセス中、またはその後であったこと、または許可取り消しプロセスでは、データベースに対する新しい許可状態を生じることができないことを示していました。さらに説明が必要な場合は、異常終了前に DBRC が出していたメッセージを参照してください。

0A

DBRC に対するデータベース・オープン呼び出しが出されましたが、DL/I オープン処理中でした。DBRC からの戻りコードは、処理中のデータベースが DBRC に未登録であることを示していました。データベースに対する許可が以前に DBRC から取得されていない限り、DBRC がオープン処理中に呼び出されることはないため、この状態が生じるはずはありません。

0B

データベース・オープン呼び出しの処理時に DBRC によって設定された戻りコードは、サブシステムが DBRC に未登録であることを示していました。DBRC が DL/I オープン処理中に呼び出されるのは、サブシステムが以前に、DBRC に登録される必要があった時点で、データベースに対する許可を取得していた場合のみであるため、この状態が生じるはずはありません。

0C

DBRC に対するデータベース・オープン呼び出しが出されましたが、DL/I オープン処理中でした。DBRC からの戻りコードは、サブシステムにはデータベースに対する許可がないことを示していました。DBRC に対するオープン呼び出しが出されるのは、DL/I オープン処理の開始前に、データベースに対する許可が取得されていた場合のみであるため、この状態が生じるはずはありません。

0D

DBRC に対するデータベース・オープン呼び出しが出されましたが、DL/I オープン処理中でした。DBRC からの戻りコードは、内部 DBRC エラーが検出されたことを示していました。

0E

データ・セットを再検査するための DBRC 呼び出しが失敗しました。

0F

DBRC が HSSP イメージ・コピー終了呼び出しを受信しましたが、イメージ・コピー終了中でした。DBRC 戻りコードは、示されているイメージ・コピー・レコードは検出されなかったことを示しています。そのイメージ・コピー・レコードは、HSSP イメージ・コピー開始呼び出しで作成される必要があります。

10

DBRC が HSSP イメージ・コピー終了呼び出しを受信しましたが、イメージ・コピー終了中でした。DBRC 戻りコードは、データベース/領域が RECON データ・セットに未登録であったことを示しています。HSSP イメージ・コピーが処理できるのは、登録済みデータベース/領域のみです。

20

DBRC が HSSP イメージ・コピー終了呼び出しを受信しましたが、イメージ・コピー終了中でした。DBRC 戻りコードは、このイメージ・コピー処理については、HSSP イメージ・コピー終了呼び出しがすでになされていたことを示しています。DBRC がこのコードを戻し、しかもシステムの緊急時再始動が行われていない場合は、異常終了コード 3275 が出されます。

30

DBRC が HSSP イメージ・コピー終了呼び出しを受信しましたが、イメージ・コピー終了中でした。DBRC 戻りコードは、内部 DBRC エラーが発生したことを示しています。

40

DBRC が HSSP イメージ・コピー終了呼び出しを受信しましたが、イメージ・コピー終了中でした。DBRC 戻りコードは、無効なパラメーターが検出されたことを示しています。

53

DBRC がデータベースに関する REORG レコードを作成するために呼び出されました。DBRC からの戻りコードは、要求の処理で問題があったことを示しています。RELOAD ユーティリティからの戻りコードの追加情報を調べ、障害の原因を判別するには、「IMS V15 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード」に記載されている DBRC 要求の戻りコード情報を参照してください。

54

DBRC がデータベースに関する REORG レコードを作成するために呼び出されました。戻りコード 'X'04' で、データベースが未登録であることが示されていました。

55

DBRC がデータベースに関する REORG レコードを作成するために呼び出されました。戻りコード 'X'08' で、RECON データ・セットの読み取り中に入出力エラーが発生したか、または再編成するデータ・セットの DD ステートメントが含まれていなかったことが示されていました。

56

DBRC への再編成通知呼び出しで、無効な区画再編成番号が渡されました。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 3275 が示されます。

プログラマーの応答

戻りコードを調べて、適切な処置を行ってください。

問題判別:

1、4、10、35

モジュール:

DFSDDUI0、DFSDLOC0、DFSPCCC0、DBFPIC0
関連資料

[DBRC 要求戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS031I

IRLM QUIT REQUEST FAILED,
RC=xx-yy

説明

IMS の正常終了中に、IRLM に対する終了要求が失敗しました。戻りコード xx および理由コード yy は、エラー条件を示しています。障害の原因を判別するには、QUIT 要求コードについて、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コードの情報を参照してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

問題の原因を確認し、必要であれば、/ERE を使用して IMS を再始動してください。

問題判別:

1、4、10、36

モジュール:

DFSPCCCO

関連資料

[IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS032I	DUPLICATE ENTRY ON IDENTIFY REQUEST, RESTART ABORTED
----------------	---

説明

識別要求が IRLM に対して出され、戻りコードで、その名前のエントリが存在することが示されていました。

システムの処置

再始動は打ち切られます。

オペレーターの応答

バックアウトの必要がない場合は、/ERE COLDSYS と入力して、IMS を再始動してください。

モジュール:

DFSRST00

DFS033I	DUPLICATE ENTRY ON SIGNON REQUEST, RESTART ABORTED
----------------	---

説明

サインオン要求が DBRC に対して出され、受信した戻りコードで、IMS システムに関する RECON データ・セットに、エントリがすでに存在することが示されていました。

システムの処置

再始動が打ち切られます。

オペレーターの応答

XRF 代替システムが開始されている場合は、/ERE BACKUP コマンドを入力し、そうでない場合は、/ERE OVERRIDE を入力してください。

モジュール

DFSRST00

DFS034I	DATA BASE AUTHORIZATION AND LOCKS RELEASED
----------------	---

説明

/ERE COLDSYS コマンドを使用して緊急 COLDSYS 開始が指定され、直前の IMS の実行から許可されていたデータベースおよびグローバル・ロックが解放されました。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

オフライン・リカバリーかバッチ、またはその両方のバックアウトを必ず行ってください。

モジュール:

DFSRST00

DFS035I	TYPE INITIALIZATION COMPLETE
----------------	-------------------------------------

説明

このメッセージは、初期設定プロセスが完了していることを示しています。このメッセージの発行後、プロセスはアプリケーション・プログラムにリンクします。

「TYPE」フィールドに BATCH と表示されているのは、DL/I バッチ環境について、初期設定プロセスが完了しているときです。「TYPE」フィールドに TMBATCH と表示されているのは、TM バッチ環境について、初期設定プロセスが完了しているときです。

システムの処置

実行が継続されます。

モジュール:
DFSPCC30

DFS036A **BATCH BACKOUT /NOT
REQUIRED/IS REQUIRED/ FOR
jobname**

説明

このメッセージは、バッチ・ジョブが異常終了し、更新がコミットされた後で、バッチ・バックアウトが必要かどうかを示しています。バッチ・バックアウトの必要がないのは、アプリケーション・プログラムが最後のチェックポイントの前ですべての更新を行ったか、バッチによる動的バックアウト (BKO=Y) が正常に実行された場合です。バッチ・バックアウトが必要なのは、アプリケーション・プログラムが最後のチェックポイントの後で更新を行った場合です。

システムの処置

バッチ・ジョブは終了しました。

プログラマーの応答

バッチ・バックアウトの必要がない場合は、プログラムを最後のチェックポイントまたはそれよりも早期のチェックポイントのどちらかから再始動する必要があります。早期のチェックポイントからジョブを再始動するオプションは、データ共用環境では使用不能です。

- 最後のチェックポイントからプログラムを再始動する場合は、XRST 呼び出しを使用してください。
- 早期のチェックポイントからプログラムを再始動する場合は、次のいずれか一方を実行してください。
 - プログラムが更新をまったく行っていない時点で生じた最初のチェックポイントに対して、バッチ・バックアウト・ユーティリティを実行してから、プログラムを再実行する。
 - プログラムが一部の更新を行った後で生じたチェックポイントの1つに対してバッチ・バックアウト・ユーティリティを実行してから、XRST 呼び出しを使用して、バッチ・バックアウト・ジョブで使用したチェックポイントでプログラムを再始動する。

バッチ・バックアウトの必要がある場合は、プログラムを最後のチェックポイントまたはそれよりも早期のチェックポイントのどちらかから再始動する必要があります。早期のチェックポイントからジョブを再始動するオプションは、データ共用環境では使用不能です。

- 最後のチェックポイントからプログラムを再始動する場合は、バッチ・バックアウト・ユーティリティを実行してから、XRST 呼び出しを使用してプログラムをしてください。

- 最後のチェックポイントよりも早期のチェックポイントからプログラムを再始動する場合は、次のいずれか一方を実行してください。

- プログラムが更新をまったく行っていない時点で生じた最初のチェックポイントに対して、バッチ・バックアウト・ユーティリティを実行してから、プログラムを再実行する。
- プログラムが一部の更新を行った後で生じたチェックポイントの1つに対してバッチ・バックアウト・ユーティリティを実行してから、XRST 呼び出しを使用して、バッチ・バックアウト・ジョブで使用したチェックポイントでプログラムを再始動する。

モジュール:
DFSPCC0、DFSFLST0

DFS036I **BATCH BACKOUT /NOT
REQUIRED/IS REQUIRED/ FOR
jobname**

説明

このメッセージは、異常終了するバッチ・ジョブに、バッチ・バックアウトが必要かどうかを示しています。バッチ・バックアウトが必要ないのは、アプリケーション・プログラムの異常終了の理由が、次のいずれかである場合です。

- データベースの更新がまったく行われなかった。
- ジョブにログがない。
- バッチによる動的バックアウトが正常に実行された。

バッチ・バックアウトが必要なのは、アプリケーション・プログラムがデータベースの更新を行うが、CHKPT チェックポイント呼び出しが行われない場合です。メッセージ DFS681I は出されません。

バッチ・バックアウトは、更新はまったく行われていないが、GET TYPE 呼び出しの結果、ポインター・セット修正が拡張されたジョブの場合も、必要になる可能性があります。

システムの処置

バッチ・ジョブは終了しました。

プログラマーの応答

バッチ・バックアウトが必要な場合は、バッチ・バックアウト・ユーティリティを実行してください。バックアウトを最初から再実行するか、または XRST を使用するか、についてはお客様またはアプリケーションによるオプションです。すなわち、バックアウトが正常に行われた後は、IMS の保全性の問題はありません。

モジュール:
DFSPCC0、DFSFLST0

関連情報

244 ページの『DFS681I』
CHKPT xxx PSB *psbname* JOB *jobname* ID
userckptid *yyy* *zzzzzz* [X'*nnnnnnnnnnnnnnnn*']

DFS037I **IRLM SPECIFIED, DBRC NOT ACTIVE**

説明

IMS のこの実行では、IRLM=Y は指定されていましたが、DBRC が IMSGEN で指定されていませんでした。JCL EXEC ステートメントでオーバーライドされた可能性があります。

システムの処置

IMS は異常終了し、IRLM 異常終了コード 0037 が示されます。

プログラマーの応答

DBRC が IMSGEN で指定されたか、または DBRC=N が EXEC ジョブ制御ステートメント・パラメーター・リストで指定されなかったか 確認してください。

問題判別:

8、10

モジュール:

DFSXLIC0、DFSRST00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS038I **PURGE REQUEST FAILURE, UNABLE TO RELEASE LOCKS**

説明

直前の実行以降このサブシステムによって保留されていたすべてのロックを解放するためのページ・コマンドが失敗しました。緊急時再始動またはバッチ・バックアウト実行の完了時に、すべてのロックを解放するために、ページ・コマンドが IRLM に対して出されます。ロックの解放を試みた結果、誤った戻りコードが出されることになりました。レジスター 15 に戻りコードが入っています。障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード情報で PURGE 要求コードを参照してください。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0038 が示されます。

プログラマーの応答

IRLM がアクティブであることを確認してください。

問題判別:

1、4、10、35

モジュール:

DFSPCCC0、DFSRST00

関連資料

[IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS039I **IMS WAITING FOR IRLM ARM READY.**

または

IRLM IDENTIFY REQUEST FAILED, RC=xx-yy

説明:

このメッセージは DFS039A に伴って出力されます。詳細な説明および処置については、そのメッセージの情報を参照してください。戻りコード *xx-yy* については、[戻りコードおよび理由コード](#) を参照してください。

関連情報

DFS039A

imsid ACTIVE, REPLY RETRY, CANCEL, OR DUMP.

DFS039A ***imsid* ACTIVE, REPLY RETRY, CANCEL, OR DUMP.**

または

xxxx NOT ACTIVE. REPLY RETRY, CANCEL, OR DUMP.

説明

このメッセージの後にメッセージ DFS039I が続いています。

IRLM に対する IDENTIFY 要求が失敗すると、メッセージ DFS039I がまず最初に出されます。戻りコード *xx* および理由コード *yy* で、エラー条件が示されます。戻りコード 00 または 04 が戻されるのは、IRLM が DL/I バッチ・ジョブに関するサブシステム情報を保持している場合です。**F IRLMPROC,STATUS** コマンドを使用して、情報を表示させてください。RC=00 または

RC=04 が検出された DL/I バッチ・ジョブについて、バッチ・バックアウトを実行してください。

メッセージ DFS039I に関する障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード情報の IDENTIFY 要求の説明を参照してください。このメッセージの後には、2 番目の DFS039I メッセージまたは DFS039A メッセージが続きます。

2 番目のバージョンの DFS039I が出される可能性があるのは、IMS および IRLM が z/OS 自動リスタート・マネージャー用に使用可能になっている場合です。このメッセージは、IRLM が自動リスタート・マネージャーに READY を送信するのを、IMS の再始動が WAITING 中であることを示しています。

DFS039A メッセージは WTOR です。最初の形式のメッセージが出されるのは、xxxx フィールドで指定されたファイル IRLM がアクティブでないことが、xx-yy フィールドで示されている 場合です。2 番目の形式のメッセージが出されるのは、IRLM に対して識別されている IMS ID がすでにアクティブである場合です。

システムの処置

IMS が自動リスタート・マネージャーに登録されていない場合で、IRLM がアクティブでないこと、またはこの IMS サブシステムが IRLM に対してすでに識別されていることが、xx-yy フィールドで示されている場合は、WTOR 形式のメッセージが出されます。他のエラー戻りコードおよび理由コードの場合、IMS は異常終了し、0039 が出されます。

IMS が自動リスタート・マネージャーによる再始動の過程にあり、IRLM がアクティブでないこと、またはこの IMS サブシステムが IRLM に対してすでに識別されていることが、xx-yy フィールドで示されている場合は、IRLM が直前の IMS の実行で自動リスタート・マネージャーに登録されたかどうか、IMS が判別します。IRLM が以前に自動リスタート・マネージャーに登録されている場合は、IMS は 2 番目の形式の DFS039I を出し、IRLM が作業の準備ができていることを、自動リスタート・マネージャーが認識するまで、WAIT します。他のエラー戻りコードおよび理由コードの場合、IMS は異常終了し、異常終了コード 0039 が示されます。

オペレーターの応答

メッセージが WTOR 形式の場合は、オペレーター処置が必要です。

xxxx フィールドで指定された IRLM がアクティブでない場合は、xxxx 名が正しいか確認してください。xxxx が正しい名前でない場合は、オペレーターは、WTOR に対して ABEND 応答した上で、正しい IRLMNM を指定して、IMS を再度開始できます。xxxx が正しい場合は、オペレーターは、IRLM がアクティブになるまで待った上で、WTOR に対して RETRY 応答できます。

IMS サブシステムがすでに IRLM に対して識別されている場合は、オペレーターは、現在 IRLM に対して識別

されているサブシステムの状況を調べる必要があります。IRLM に対する識別で遅延が必要になる可能性のある状態が、少なくとも 2 つあります。まず最初は、たまたまジョブ名が同じ複数の IMS バッチ・ジョブの実行依頼が生じる可能性のある場合です。最初のバッチ・ジョブが完了するのを待った上で、RETRY 応答すれば、次いで 2 番目のジョブが続くことができます。同じジョブがたまたま 2 回実行依頼されても、そのジョブが実行されるのは 1 回だけであり、ご使用のシステムがオペレーターに、CANCEL 応答によって 2 回目のジョブを終了させるよう要求するはずはです。

2 番目は、代替 CICS® XRF によるテークオーバーが行われるような一部の障害の結果、サブシステムがすでにアクティブであることを示す識別戻りコードが出される可能性のある場合です。この場合は、RETRY 応答の前に、IRLM を強制的に未確定状態に置き、次いで障害状態に置く IRLM 訂正処置が呼び出せます。

WTOR 応答とそれぞれの意味は、次のとおりです。

RETRY

この場合は、IMS が IRLM IDENTIFY を再試行することになります。状態が訂正されない場合は、メッセージ DFS039I および DFS039A が再度表示されます。

CANCEL

この場合は、IMS サブシステム初期設定が終了し、異常終了コード 0039 が出されますが、メモリー・ダンプが取られることはありません。IRLM がアクティブでないときに、OS オペレーターが **RECONNECT** コマンドで IMS を変更した場合、**CANCEL** と応答すると、IRLM の再接続処理だけが終了し、その結果、OS オペレーターは 08 コードを伴ったメッセージ DFS625I を受信します。

DUMP

この問題は、IMS サブシステムが 0039 で異常終了し、メモリー・ダンプが取られる原因となります。

問題判別:

1、4、10、35

モジュール:

DFSRST00、DFSPCCCO

関連タスク

[戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

31 ページの『DFS039I』

IMS WAITING FOR IRLM ARM READY.

0039 (メッセージおよびコード)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS040I

**UNABLE TO ACQUIRE COMMAND
LOCK, DATA SHARING
DISCONTINUED**

説明

IMS が、IRLM とのリンケージの確立後に、コマンド・ロックの獲得を試みました。コマンド・ロックは、共用 IMS サブシステム間での通信に使用され、データの共用時に必要です。

システムの処置

IMS は、データ共用なしで処理を続行します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 通信が共用 IRLM 間で再確立されていることを確認してください。データ共用が必要な場合は、IMS をいったんシャットダウンしてから再始動してください。

モジュール:

DFSRST00、DFSPCCCO

DFS041I DBRC SIGNON REQUEST RC=cc

説明

DBRC に対するサインオン要求が完了し、戻りコード cc が示されました。戻りコードの定義については、DBRC 要求の戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

戻りコードが重大エラーを示している場合、IMS は、異常終了コード 0041 で終了しますが、それ以外の場合は、実行が継続されます。

戻りコードが 16 および 24 の場合は、IMS が異常終了コード 0041 で終了する可能性があります。

戻りコード 8、12、20、28、32、および 41 の場合、IMS は異常終了コード 0041 で終了します。

プログラマーの応答

サインオン障害が発生する可能性があるのは、RECON データ・セットに存在するサブシステム ID を、サインオン要求で指定した場合です。RECON のサブシステム・レコードの更新に関する情報が必要な場合は、DBRC **CHANGE.SUBSYS** または **DELETE.SUBSYS** コマンドを参照してください。

戻りコード cc に応じて、以下のアクションを取ることができます。その他の戻りコードはすべて、システム・エラーの可能性を示します。ここにリストされていない戻りコードについては、DBRC 要求戻りコードの情報を参照してください。

8、12、16、20

この問題は、オンライン・システムのコールド・スタート中またはウォーム・スタート中、もしくはバッチ・システムの初期設定中に発生します。このコードは、このシステムのサブコード・システム ID と DBRC の間に競合があることを示しています。サブシステム ID とは、オンライン・システムの

IMSID、またはバッチ・システムのジョブ名です。このサブシステムのサブシステム ID を変更して、ジョブを再実行依頼するか、DBRC に既知のサブシステム・エントリーをリストして、重複が存在する理由を判別するか、いずれかを行ってください。

24

この問題は、緊急時再始動中またはバッチ・バックアウト中に、通知目的のために生じ、直前の実行は、異常終了を DBRC に通知しないまま失敗したことを示します。処置は必要ありません。

28

この問題はバッチ・バックアウト中に生じ、バッチ・バックアウトに提供されたログに関するサブシステム・エントリーが、DBRC には認知されていないことを示します。適切なログが使用されていることを確認してください。適切なログが使用されていれば、バッチ・バックアウトは不要であり、それ以上の処置は必要ありません。これはバッチ・バックアウト中に生じ、DBRC には、サブシステム・エントリーは認知されていないことを示します。バッチ・バックアウトは実行する必要がないと考えられ、処置は必要ありません。

32

この問題は緊急時再始動中またはバッチ・バックアウト中に生じ、変更が IRLM 名で行われていることを示します。元の実行で使用したのと同じ IRLM 名を指定して、ジョブを再実行してください。

41

この問題は DBRC へのサインオン中に生じ、サブプール 0 ストレージに対する 24 K IMODULE GETMAIN 要求が失敗したことを示します。異常終了レジスターのレジスター 8 に、IMODULE GETMAIN 障害からの戻りコードが入ります。詳しくは、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

96

サインオンしようとしているサブシステムは、許可されているリリースより以前のものです。RECON データ・セットの MINIMUM VERSION の値をチェックしてください。

問題判別:

1、4、10、35

モジュール:

DFSRST00、DFSPCCCO、DFSRCP00

関連資料

[DBRC 要求戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

[IMODULE 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS042I BACKOUT REQUIRED, DBRC
SIGNON FAILED**

説明

入力ログの処理後に、バックアウトが必要であると判別されました。このサブシステムに関するエントリーが存在しないこと、および直前のこのサブシステムの実行中は DBRC がアクティブであったことが DBRC へのサインオンで示されました。緊急時再始動の実行時には、同じ条件が確立されている必要があります。

システムの処置

クリティカル・エラーが発生すると、IMS は異常終了して、異常終了コード 0042 が示されます。

プログラマーの応答

DBRC が IMS のこの実行に関して指定されているか、または同じ RECON データ・セットが使用されていることを確認してください。

問題判別:

1、4、10、35

モジュール:

DFSRLP00

関連情報

[IMS 異常終了 0042](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS043I DBRC SIGNON REQUEST FOR
RECOVERY END FAILED, RC=cc**

説明

緊急時再始動またはバッチ・バックアウトのプロセスが完了すると、"recovery end" のサインオンが 出されて、リカバリー・プロセスが正常に完了したことを DBRC に通知します。ただし、要求は正常に実行されず、DBRC によって検出されたエラーが戻りコードで示されています。戻りコードの定義については、DBRC 要求の戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0043 が示されます。

プログラマーの応答

戻りコードをチェックし、適切な処置を取ってください。

問題判別:

1、4、10、35

モジュール:

DFSPCC00、DFSRST00

関連資料

[DBRC 要求戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[0043 \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS044I DBRC TURNED OFF FOR THIS
EXECUTION**

または

DBRC REQUIRED FOR THIS EXECUTION

説明

次の問題のいずれか 1 つが発生すると、DBRC REQUIRED FOR または TURNED OFF が表示されません。

- ユーティリティー・プログラムが、DBRC がない HALDB に対して実行を試みました。
- *DBRC REQUIRED FOR THIS EXECUTION*

インストール・システムのデフォルト・モジュール DFSIDEF0 で、DBRC=FORCE が指定されました。DBRC=N がこのステップの実行時パラメーターとして指定されました。

データベース・バックアウトが実行中で、DBRC がアクティブでなく、実行時パラメーター DBRC の IMS の直前の実行によってオーバーライドされませんでした。DBRC 使用されており、この実行 DBRC に指定されていません。前回の実行で使用された条件、つまり、DBRC の使用状況と同じ条件がデータベース・バックアウトに関するこの条件で使用される必要があります。ただし、DBRC が DBRC=N でオーバーライドされている場合は、その限りではありません。IRLM が前回の実行中にアクティブであった場合は、DBRC は、今回のデータベース・バックアウトの実行中、常にアクティブである必要があります。

- *DBRC TURNED OFF FOR THIS EXECUTION*

データベース・バックアウトが実行中です。DBRC=N がこの実行に関して定義され、前回の実行では DBRC はアクティブでした。処理は、通常 DBRC なしで続行されます。

システムの処置

DBRC REQUIRED FOR THIS EXECUTION が表示されるのは、ジョブが異常終了するときです。DBRC TURNED OFF THIS EXECUTION が表示されているときは、処理は正常に続行されています。この実行中、DBRC は使用されません。

プログラマーの応答

DBRC REQUIRED FOR THIS EXECUTION が表示されているときは、この実行では、DBRC が存在しているか確認してください。データベース・バックアウトでは、実行時パラメーター DBRC=N が指定できるのは、IRLM が前回の実行では存在していなかった場合です。

DBRC TURNED OFF FOR THIS EXECUTION が表示されるときは、処理は DBRC なしで続行されます。DBRC を再活動化する前に、DBRC が非アクティブであった間に今回のバックアウトの実行で作成された OLDS データ・セット (IMS ログ) に関する情報を、DBRC コマンド **NOTIFY.PRILOG** および **NOTIFY.SECLOG** で RECON に記録してください。

問題判別:

2、8

モジュール:

DBFUMINO、DFSRLP00、DFSBACKIO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS045I IRLM REQUIRED FOR THIS EXECUTION

説明

/ERE が緊急時再始動のために入力されたか、データベース・バックアウトが実行中で、IRLM はアクティブではありませんでした。前回の IMS の実行で IRLM を使用し、今回の実行では、IRLM は指定されませんでした。緊急時再始動およびデータベース・バックアウトの場合は、前回の IMS の実行で使用された条件と同じ条件が、今回の実行で存在することが必要です。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0045 が示されます。データベース・バックアウトが終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

今回の実行で IRLM が存在している、または適切な IRLM が指定されていたことを確認してください。IRLM= または IRLNM= パラメーターで同じ指定になる必要があります。

問題判別

2、8

モジュール

DFSBACKIO、DFSRLP00、DFSIRST00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS046A PROCESSING INTENT pppppppp FOR DATA BASE xxxxxxxx NOT COMPATIBLE WITH ACCESS zz. PSB=PSB name.

説明

指定された PSB に入っている DB-PCB の 1 つで参照されていた、指定されたデータベース xxxxxxxx は、PROCESSING INTENT pppppppp が、IMS オンライン・サブシステムに関するデータベース・ステートメントで定義された ACCESS パラメーター zz と互換性はありませんでした。PROCESSING INTENT、READ-GO、READ、UPDATE、または EXCL は、PSBGEN の PROCOPT 仕様から派生しています。IMS がオンライン・サブシステムである場合は、PSB 名だけがメッセージ・テキストに現れます。

システムの処置

バッチ領域 (DL/I または DBB 領域) は、異常終了 0046 で強制終了されます。従属領域は処理を続けますが、プログラムはデータベースにアクセスできません。データベースへのアクセスを試みると、プログラムが INIT 呼び出しを実行していれば、'BA' 状況コードが生じ、プログラムが INIT 呼び出しを実行していなければ、異常終了コード 3303 が生じる結果になります。データベースが高速機能 DEDB である場合、PSB は停止します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに、このメッセージを通知してください。

プログラマーの応答

次のいずれかの応答が必要です。

- マスター端末オペレーターに連絡を取って、データベースの ACCESS パラメーターを PROCESSING INTENT と互換性のあるレベルに変更してもらいます。
- PROCOPT オペランド仕様を、IMS オンライン・サブシステムに関するデータベース・ステートメントで定義された ACCESS パラメーターと互換性のあるレベルに変更する。まず ACBGEN を、次いでジョブを再実行してください。

問題判別

6、10、29

モジュール

DBFDBPV0、DFSDBAU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS047A **UNABLE TO OBTAIN
AUTHORIZATION FOR DATA BASE
xxxxxxx. REASON CODE = zz.
PSB= psbname.**

説明

IMS は、xxxxxxx によって示されたデータベースのデータベース許可を取得できませんでした。データベースは、PSB スケジューリング中に、psbname に収められた DB PCB のいずれかで現れます。IMS がオンライン制御領域である場合は、PSB 名だけがメッセージ・テキストに現れます。

コード (16 進数)

意味

01

要求された状態と現行許可状態 (RECON データ・セットを参照) に互換性がありません。データベースは、別のアクティブな、もしくは、異常終了した IMS サブシステムによって許可され、その許可状態は、現行許可要求と互換性がありません。

02

データベースが RECON データ・セットに登録されていません。

03

次のいずれかの理由により、データベースにそれ以上の許可を禁止するマークが付けられています。グローバル /DBRECOVERY、グローバル /STOP、UPDATE DB STOP、または CHANGE.DB(NOAUTH) コマンド。

04

データベースが許可されるのは、グローバル /DBDUMP または UPDATE DB STOP(UPDATES) コマンドのために、要求された状態が「READ」または「READ-GO」の場合だけです。

05

データベースに、イメージ・コピーが必要というマークが付けられています。

06

データベースに、リカバリーが必要というマークが付けられています。

07

データベースに、バックアウトが必要というマークが付けられています。データ共用環境では、LIST.DB コマンドを使用して、メッセージで指定されたデータベースに関して、バックアウトを必要とするサブシステムを判別できます。

08

ホスト内での共用の場合は、要求サブシステムは許可ホスト内にはありません。

09

1 つ以上のサブシステムにデータベースが以前から許可されている場合は、そのようなサブシステムは、アクティブであると想定されますが、IRLM にとって既知ではありません。IRLM=N または別の IRLM 名がサブシステムで指定されている可能性があります。

10

データベースは、以前からサブシステムに許可されています。

11

データベース使用互換性評価プロセス中に、無効なパラメーターが検出されています。RECON データ・セットのデータベース・レコードに誤りがある可能性があります。

12

無許可エラーのため、DBRC の現行許可状態は無効です。

13

許可要求の処理を試行中に、エラーが DBRC で発生しました。

14

許可変更要求の処理を試行中に、エラーが DBRC で発生しました。

15

データベースは、アクティブ IMS サブシステムにすでに許可されています。

16

エリアに、DEDB 初期設定ユーティリティーに関してリカバリーが必要というマークが付けられていません。

18

高速機能エリアは現在変更中です。

19

DBRC に渡されたデータベース・データ・セットのデータ・セット名が、RECON データ・セット内のデータ・セット名と一致しません。

20

データベース許可が失敗しました。データベースが DBRC に登録されていなかったためです。また、DBRC RECON データ・セットが FORCER を使用して初期設定されましたが、これにはすべてのデータベースが登録済みである必要があります。

このエラーは、RECON データ・セットと動的割り振りブロック (DFSMDA メンバー) 内のデータ・セット名の不一致の結果である可能性があります。

- 22 データベースは、現在別のサブシステムに許可されています。
- 31 HALDB の定義が変更されました。区画構造の再作成を行わないと、その区画に対する許可を付与することはできません。HALDB マスターが再作成を実行するために、OPEN キーワードを指定して / **START DB** コマンドを発行してください。
- 32 HALDB は、初期設定する必要があります。
- 33 HALDB マスターを許可しようとした。許可は、区画レベルでしか要求できません。
- 34 区画初期設定が、初期設定を必要としない区画に関して許可を要求しています。
- 35 ハイ・キーが定義されるまでは、DB 区画は許可できません。キーが必要なのは、HALDB マスターでは区画選択ルーチンを使用しないからです。
- 36 HALDB OLR 処理の間、イメージ・コピーは許可されません。
- 37 区画データベースの M-V DBDS へのロードは許可されていません。
- 38 オフライン再編成は、HALDB OLR がアクティブで HALDB OLR が IMS サブシステムによって所有されている場合は、許可されません。
- 39 HALDB 区画データベースはオンラインで再編成できます。このリリースの IMS は OLRCAP データベースに対してデータベース・ユーティリティを実行することはサポートしていません。
- 40 データベースに対して REORG INTENT = ON が設定されている場合、バッチ・ジョブは許可を与えることができません。データベースは現在再編成中です。オンライン・イメージ・コピーも許可に失敗します。
- 41 データベースが静止されているか、静止処理中です。
- 42 データベースは静止保留中ではなく、イメージ・コピーが許可を試行中です。

- 43 渡されたランダムマイザー名が、RECON に保管されているランダムマイザー名と異なっています。
- 80 指定された HALDB 区画の区画名テーブル DFSPNT が初期設定されていません。
- 81 指定された HALDB 区画のマスター DMB をロードしようとしているときにエラーが発生しました。
- 82 メッセージ・テキストに DATA BASE = xxxxxxxx で識別されている変更バージョンの HALDB 区画の DMB をロードしようとしているときにエラーが発生しました。メッセージ DFS047A の前にシステム・コンソールに出されるメッセージ DFS3547E に、DMB をロードできなかった理由に関する情報が含まれています。
- 83 IMS は、RECON データ・セットで ALTER IN PROGRESS の状況になっている HALDB 区画にアクセスするために必要な内部ブロックを構築できませんでした。そのため、その HALDB 区画に対する許可が失敗しました。この区画は、メッセージ・テキストに DATA BASE = xxxxxxxx で識別されています。メッセージ DFS047A の前にシステム・コンソールに出されるメッセージ DFS1849E に、内部ブロックを構築できなかった理由が示されています。

システムの処置

バッチ領域 (DL/I または DBB 領域) が終了し、異常終了コード 0047 が示されます。データベースは停止します。従属領域は処理を続けますが、プログラムはデータベースにアクセスできません。データベースへのアクセスを試みると、プログラムが **INIT** 呼び出しを実行していれば、BA 状況コードが生じ、プログラムが **INIT** 呼び出しを実行していなければ、異常終了コード 3303 が生じる結果になります。

理由コード 41 および 42 の場合、許可要求はリジェクトされます。

プログラマーの応答

理由コード 01 から 09 および 15 から 19 は、一時許可障害を示しますが、次のいずれかの処置で訂正できます。

- 現在許可されているサブシステムが終了するのを待つか、/DBRecovery **UPDATE DB STOP (ACCESS)** を入力して、現在許可されているサブシステムから、そのデータベースの許可を取り消してください。サブシステムが異常終了している場合は、バッチ・バックアウトまたは緊急時再始動が必要になる可能性があります。(RC 01、08、または 15)

- DBRC=C 使用中の場合は、正しいログがバッチ・バックアウト・ユーティリティーに対する入力になっているかどうかを検査してください。(RC 01)
- **/START DB**、または **UPDATE DB START(ACCESS)**、**/DBDUMP** または **UPDATE DB START(UPDATES)**、または **CHANGE.DB (auth)** コマンドを入力してください。(RC 03)
- **/START DB** または **UPDATE DB START(ACCESS)** コマンドを入力してください。(RC 04)
- 適切な IMS ユーティリティーを実行してください。(RC 05、06、または 07)
- データベースが現在許可されているホストで、この IMS サブシステムを実行してください。(RC 08)
- 失敗したサブシステムが緊急時再始動またはデータベース・バックアウトを完了するのを待ってください。(RC 09)
- DBRC コマンド **CHANGE.SUBSYS** を使用して、IMS サブシステムがアクティブではなくなっていることを示してください。(RC 15)
- DBRC **CHANGE.DBDS** コマンドを使用して、エリアにリカバリーが必要というマークを付けてください。(RC 16)
- DBRC **INIT.DBDS** コマンドを使用して、DBDS または DEDB エリアを DBRC に登録してください。(RC 18、19)
- DEDB 変更ユーティリティーが完了するまで待つか、あるいは DBRC **CHANGE.DB NOALTER** コマンドを使用して、DEDB 変更ユーティリティーがアクティブではなくなっていること示してください (RC 18)。RECON で「QUIESCE」状況が設定されている場合は、**CHANGE.DBDS NODBQUI** コマンドを使用して、静止状況をリセットしてください。
- ACBSHR=N 環境で、DEDB 変更ユーティリティーは IMS がダウンしている間にランダムマイザーを変更しました。
- RECON データ・セットをチェックして、正しい許可状態を判別してください。

理由コード 10 から 14 は、システム・エラーが発生していることを示しています。これらの問題が引き続き発生する場合は、IBM に連絡して、問題判別支援を要求してください。

理由コード 33 の場合は、データベースの DBDLIB レベルをチェックして、RECON レベルと一致しているかを確認してください。

理由コード 41 および 42 の場合、静止が終了するまで待つから、許可が失敗したジョブを再実行してください。データベースの状況を判別するには、**/DISPLAY DB QSC**、**/DISPLAY STATUS DB**、または **Query DB**、または **LIST.DB DBD(dbname)** を発行し、出力を調べます。イメージ・コピーが失敗した場合、静止が終了するまで待つか、QUIESCE HELD フラグがオンに設定さ

れるまで待ちます。静止が生じた場合、**UPD START(QUIESCE) OPTION(HOLD)** コマンド処理によって、QUIESCE HELD フラグをオンに設定することができます。

理由コード 82 の場合は、メッセージ DFS047A の前にシステム・コンソールに出されるメッセージ DFS3547E を参照してください。

理由コード 83 の場合は、メッセージ DFS047A の前にシステム・コンソールに出されるメッセージ DFS1849E を参照してください。

問題判別

35

モジュール:

DFSDBAU0

関連情報

545 ページの『DFS1849E』

変更は、オプション RS=スナック PST=プストノセグメント *segmname* によってサポートされていません。

1023 ページの『DFS3547E』

UNABLE TO LOAD ALTERED DEFINITIONS FOR DATABASE *db_name*, RSN=*rsn*

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0048I DBRC INITIALIZATION FAILED - RC = nn

説明

DBRC の初期設定が、次のいずれかの理由で失敗しました。

コード (10 進数)

意味

- 4 DFSRCWK に関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。
- 8 IMODULE LOAD が、IMS/DBRC 制御モジュール (CM) の 1 つに関して失敗しました。
- 12 データベース・リカバリー管理初期設定の最初のパス (INIT-0) が正常に行われませんでした。
- 16 データベース・リカバリー管理初期設定の 2 番目のパス (INIT-1) が正常に行われませんでした。
- 20 IMS DBRC 制御モジュールの 1 つに関して、高速保管取得が失敗しました。

24 IMS DBRC 制御モジュールの 1 つに関して、ITASK CREATE が失敗しました。

28 DFSRSMDO に関する IMODULE LOAD が失敗しました。

32 DFSRSMDO 呼び出しが失敗しました。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0048 が示されません。

プログラマーの応答

異常終了コード 0048 を参照してください。

問題判別

1、2、3、4、8、12

モジュール

DFSXRICO、DFSXRIDO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS049I	UNABLE TO OBTAIN STORAGE TO BUILD DATA BASE AUTHORIZATION REQUEST LIST. PSB yyyyyyyy STOPPED.
----------------	--

説明

データベース許可要求リストを作成するためにさらに大きい作業用ストレージ域の取得を試みている過程で、条件付き GETMAIN が出されました。ただし、この GETMAIN は失敗しました。この失敗の理由は、PSB yyyyyyyy に入っているデータベース PCB が多すぎるからか、JOB 始動 JCL で指定されている REGION サイズが小さいからか、どちらかです。

システムの処置

指定された PSB が停止しています。MPP の場合は、入力メッセージがメッセージ・キューに戻されます。BMP、IFP、DBB、または DLI 領域タイプの場合は、その領域が異常終了して、異常終了コード 0047 が示されます。

/START DB コマンドなどのコマンドの処理中は、プログラム仕様ブロック (PSB) が存在せず、異常終了コード 0047 は発行されません。未確定のリカバリー単位で

再始動中に障害が発生した場合は、異常終了コード 0484 が発行されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに、このメッセージを通知してください。

プログラマーの応答

次のいずれかの処置を取ってください。

- オンライン・サブシステムの場合は、IMS 制御領域始動 JCL の REGION パラメーターのサイズを増やす。バッチ・サブシステムの場合は、JOB 始動 JCL の REGION パラメーターのサイズを増やす。
- PSB を変更して、入るデータベース PCB の数を減らす。まず ACBGEN を、次いでジョブを再実行する。

問題判別:

6、10、19

モジュール:

DFSDBAUO

関連情報

[0047 \(メッセージおよびコード\)](#)

[0484 \(メッセージおよびコード\)](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS050A	SHARED ACCESS TO VSAM DATASET ddname NOT ALLOWED BY CATALOG
----------------	--

説明

データ・セット *ddname* が入っているデータベースの DL/I オープン処理で、SHR (3,3) がアクセス方式サービス・プログラムの DEFINE コマンドで指定されておらず、DISP=SHR がデータ・セットに関する DD ステートメントで指定されていないことが検出されました。SHR(3,3) および DISP=SHR は、以下が当てはまる場合は指定する必要があります。

- SHARELVL=2 または 3 が、INIT.DB または CHANGE.DB コマンドでデータベースに関して指定されている。
- ACCESS=RD または UP がシステム定義 DATA BASE マクロ・ステートメントまたは /START コマンドで、データベースに関して指定されている。

XRF 対応 IMS システムの場合は、データベースは SHR(3,3) である必要があります。メッセージ DFS0730I には、データベース名が含まれています。

データ共用環境に VSAM データ・セットの VSI がいない場合にも、このメッセージが発行されることがあります。

分析

DFS050A が最も一般的に発行されるのは、以下のいずれかが当てはまらない場合です。

- DEFINE CLUSTER の VSAM SHAREOPTIONS に (3 3) が指定されていない。
- JCL または DFSMDA ブロックで DISP が SHR ではない。

考えられる原因: データベース共有を使用するには、VSAM データベース・データ・セットを SHAREOPTIONS(3 3) で定義し、DISP=SHR を指定して割り振る必要があります。

システムの処置

メッセージ DFS0730I 理由コード I,33 が出されます。メッセージ DFS0730I の『システム処置』のセクションを参照してください。

プログラマーの応答

データベースへの共有アクセスが望ましい場合は、データ・セットに関して指定されている SHR オプションお

よび後処理を訂正してください。そうでない場合は、**CHANGE.DB** コマンドを使用して、データベースに関する SHARELVL 指定を 0 または 1 に変更できます。ACCESS=RO または EX が IMS システム定義用のデータベースについて指定されているか、あるいは **/START** コマンド上で指定されている場合、このエラーが発生することはありません。

問題判別:

2、6、8、10、20

モジュール:

DFS050A

関連情報

265 ページの『DFS0730I』

UNABLE TO OPEN OR CLOSE DATASET WITH DDNAME *DD* 名 FOR REASON *x*, *yy*, *z*
DATABASE データベース名 プログラム *ID*

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 5 章 DFS メッセージ DFS051I - DFS100

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS051I **hh.mm.ss RESTART IN PROGRESS**
LINE xxxx aa,bbbb,cc,dd,ee,
ff,gg,hh,iiii,jjjj

説明



重要: IMS では、BTAM 端末をサポートしていません。

回線番号で示されているリモート 3270 ネットワークのコンポーネントで、入出力エラーが発生しました。リモート 3270 装置依存のモジュールが、入出力エラーによる影響を受けた物理端末を再始動する試みとして、該当する物理端末に関して **/RSTART** コマンドを生成します。このエラーが引き続き発生する場合は、装置依存のモジュールは、指定された回数だけ **/RSTART** コマンドを試み、試行回数が限度に達すると、該当するコンポーネントに作動不能のマークを付けます。以下は、このメッセージに含まれているエラー情報についての説明です。

aa このフィールドには、ECB 完了コードが入っていません。

bbbb DECTYPE フィールドでは、障害を起こしている操作のタイプを示します。

cc DECTPCOD フィールドには、チャンネル・プログラムで最後に実行された CCW からのデータ通信 命令コードが示されています。

dd DECFLAGS フィールドには、BTAM から IMS に渡されたフラグ・バイトが入っています。このフィールドには、障害の原因についての情報が含まれている場合があります。

ee DECSSENSO フィールドには、CSW の状況が装置チェックを示している場合は、DECB からのセンス情報が入っています。

ff DECERRST は、DECB からのエラー状況フィールドです。

gg DECCSWST は、DECB からの CSW 状況フィールドです。

hh このフィールドには、装置依存のモジュール・コードが入っています。3270 装置依存のモジュールがデータ通信ネットワークのコンポーネントをシャ

ットダウンすると、装置依存のモジュールの理由コードが CLBTEMP1 フィールドに入り、装置依存のモジュールがそのコンポーネントをシャットダウンした理由を示します。

iiii

このフィールドには、BSCK 戻りコードが入っています。このコードは、BSC チェック・ルーチン (DFSBSCKO) から装置依存のモジュールに渡されます。BSC チェック・ルーチンは、入出力完了を分析し、DECB フィールドの内容に応じて、固有の戻りコードを装置依存のモジュールに渡します。

フィールド *iiii* に表示される機能コードおよび応答コードについては、この後で説明しています。

jjjj

このフィールドには、3270 装置からの SENSE/STATUS 情報が入っています (ただし、該当する場合)。SENSE/STATUS コードの説明については、「*IBM 3270 Information Display System*」を参照してください。

機能コードは、フィールド *iiii* の先頭の 2 文字を置き換えます。レジスター 0 で戻され、次のいずれかの意味を示します。

コード
意味

X'00'
未判別

X'01'
選択

X'02'
ポーリング

X'03'
データ読み取り

X'04'
データ書き込み

X'05'
予約済み

X'06'
予約済み

X'07'
予約済み

応答コードは、フィールド *iiii* の末尾の 2 文字を置き換えます。レジスター 15 で戻され、次のいずれかの意味を示します。

コード
意味

X'00'
エラーは検出されませんでした

X'01'
肯定応答待ち (WACK)

X'02'
競合

X'03'
否定応答 (NACK)

X'04'
伝送終了 (EOT)

X'05'
逆中断 (RV1)

X'06'
ポーリング・リストにエントリがありません

X'07'
否定応答

X'08'
応答なし

X'09'
ENQ で終了するブロック (または ENQ のみ)

X'10'
SOH%S メッセージ

X'11'
SOH%R メッセージ

X'12'
予約済み

X'13'
無効応答

X'14'
テキスト開始 - エンキュー (STX-ENQ) シーケンス

X'15'
テキスト一時遅延 (TTD)

X'16'
誤りの代替肯定応答

X'17'-X'31'
予約済み

X'32'
未判別エラー

X'33'
270X エラー

X'34'
回線エラー

X'35'-X'63'
予約済み

メッセージに含まれているエラー情報に加えて、装置依存のモジュールは X'6703' レコードでの障害発生時点からの IMS 制御ブロックのすべてを、IMS ログ・データ・セット上でログアウトします。

モジュール:
DFSC3270

DFS052 **CARD ENTRY INDICATED, NO
CARD DATA FOUND**

説明

3270 磁気カード・リーダーでハードウェア誤動作が起きました。読み取り操作が要求されたが、カード・データが TP バッファで受信されなかったことを、AID バイトが示していました。

システムの処置

入力は無視されます。

オペレーターの応答

カードを注意深く再挿入してください。問題が再発する場合は、端末トラブルシューティング手順を実行してください。

モジュール:
DFSCFE00

DFS053 **TERMINAL RESTARTED-PLEASE
REFORMAT SCREEN**

説明

入出力エラーの結果として、会話モードまたは排他モードであった端末が停止しましたが、現在は再始動しています。

システムの処置

システムは、通常の処理を続行します。

オペレーターの応答

端末が会話モードであった場合は、/HOLD コマンドの後に続けて /RELEASE コマンドを入力して、このメッセージの前に送信された最後のフォーマットで画面を再フォーマットしてください。

モジュール:
DFSDN130

DFS054 **INPUT NOT ALLOWED TILL
PRINTER IS AVAILABLE**

説明

3277 からの入力は、3284/3286 プリンターがコピー操作の処理でビジーである間は許可されません。

システムの処置

入力は無視されます。

オペレーターの応答:

(端末オペレーター) プリンターが使用可能になるまで待ってください。

モジュール:
DFSCFEPO

DFS055 **INCORRECT RESPONSE
REQUESTED**

説明

論理装置によって要求された応答が、システム定義でこのトランザクションに関して指定されている INQUIRY= パラメーターに合致しませんでした。

システムの処置

入力はリジェクトされます。

オペレーターの応答:
セッションを再開してください。

問題判別

この問題は、システム定義または論理装置内のインテリジェント・リモート・プログラムにおける、ユーザー・エラーと思われます。更新トランザクション、リカバリー可能照会トランザクション、およびメッセージ通信では、肯定応答を要求する必要があります。回復不能トランザクションでは、肯定応答は要求してもしなくてもかまいません。

モジュール:
DFSICIOO

DFS056 **COMMAND NOT VALID WITH MFS
OPTION 3**

説明

コマンドが入力され、メッセージ入力記述 (MID) にパラメーター OPT=3 がコーディングされていました。

システムの処置

コマンドは処理されません。

オペレーターの応答:
(リモート端末) このメッセージは、オプション 3 を使用しないデフォルト・ブロックを使用してフォーマットされたため、この時点でコマンドを再入力できます。

モジュール:
DFSICL30

DFS057I **REQUESTED BLOCK NOT
AVAILABLE: blockname RC =
reason**

説明

MFS が、出力メッセージの処理、または /FORMAT 要求の処理に必要な制御ブロックをフェッチできません。メッセージ内の *blockname* は、フェッチできなかったブロックを示し、MOD 名と DOF 名のどちらかです。DOF 名である場合は、名前の先頭の 2 バイトは、16 進数で印刷された装置タイプおよび装置機構です。これらの 2 バイトの解釈については、[フォーマット・ライブラリー・メンバーの選択 \(アプリケーション・プログラミング API\)](#) を参照してください。

理由コード *reason* は、発生した障害のタイプを示しています。

コード (16 進数) 意味

04

示されているブロック名が、アクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーで検出されませんでした。この理由コードが示されるのは、次の条件が原因である可能性があります。

- メッセージ出力記述子 (MOD) 名につづりの誤りがあるか、その MOD がアクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーに存在しない。
- 装置タイプおよび装置機構を示して、メッセージに示されている MOD の装置出力形式 (DOF) が、アクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーに存在しない。

08

アクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーに永続入出力エラーがあります。

0C

MOD または DOF、もしくはその両方に必要な主記憶域スペースが、メッセージ・フォーマット・バッファ・プールで現在使用可能な最大スペースよりも大きくなっています。あるいは、使用可能なフェッチ要求エレメント (FRE) がありませんでした。この戻りコードを出すのは、プリフェッチ・ルーチンのみであり、即時取り出しルーチンが出すことはありません。

14

MOD ブロックがフェッチされるはずでした。フェッチされたブロックは、MOD ではありませんでした。

18

フェッチされた MOD ブロックは、IMS のリリース 1.1.1 よりも前にコンパイルされていました。

1C

フェッチされた MOD と DOF が非互換でした (同時にコンパイルされていませんでした)。z/OS ユーティリティを使用して、アクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーを変更したことが、この問題の原因である可能性があります。

20

MOD または DOF に無効のフィールドが含まれています。この問題は、フォーマット・ライブラリーまたはテスト・フォーマット・ライブラリーに対する変更もしくは損傷が原因の可能性があります。

24

要求された MOD または DOF が大きすぎて、メッセージ・フォーマット・バッファ・プール (MFBP) では対応できません。MFBP を大きくする必要があります。システム・プログラマーに通知してください。

28

DOF と CIB の画面サイズに互換性がありません。この問題は、3270-AN 装置タイプの場合にのみ起こります。システム定義で定義された画面サイズが、装置特性テーブル DFSUDTOX にあるサイズと異なっていました。システム・プログラマーは、必ず正しい装置特性テーブルが使用されるようにする必要があります。

38

MOD を使用すると、HIOP ストレージ・プールが上書きされてしまうため、MOD は使用できません。

78

DOF を使用すると、HIOP ストレージ・プールが上書きされてしまうため、DOF は使用できません。

システムの処置

要求されたブロックが使用不能であったため、IMS は、「デフォルト・ブロック・エラー・メッセージ・フォーマット (DFSMD3)」を使用して、メッセージのフォーマットおよび送信を行ってから、メッセージをデキューしました。

この NODE/PTERM の場合に、TRACE がオンに設定されていると、X'67' レコードが「FERR」という ID で IMS ログに作成されます。

オペレーターの応答

(マスター端末) エラーを訂正するために、以下のアクションを取ってください。

理由コード **20** の場合:

ブロックをメッセージ・フォーマット内の他のブロックで置き換えるまで十分な時間を確保するために、MOD か DOF、またはその両方を使用するトランザクションの使用を停止してください。失敗したトランザクションを再試行してください。エラーが引き続き発生するのは、FORMAT または TFORMAT ライブラリー内でブロックが破棄されたか、エラーがブロック内にコンパイルされたか、MFS オンライン・モジュールの 1 つにエラーがある場合です。エラーが再発しない場合は、データがメッセージ・フォーマット・バッファ・プール内でオーバーレイされていたためです。いずれの場合も、X'67' ログ・レコードに役に立つ情報が入っています。

理由コード **38** および **78** の場合:

ブロックが置き換えられるようになるまで、MOD、DOF、またはその両方を使用するトランザクションの使用を停止してください。MOD または DOF、およびそのフォーマット・セットは、再コンパイルした上で、オンライン変更プロセスを使用して置き換える必要があります。無効のブロックが FORMAT ライブラリー内で破棄されたか、エラーがブロック内にコンパイルされたか、または MFS オンライン・モジュールの 1 つにエラーがあります。

2 つの X'67' ログ・レコードが IMS ログに書き込まれます。最初のレコードには、MTRP という ID が付き、上書きの可能性がある理由の診断に役立つ情報が入っています。2 番目のレコードには、FERR という ID が付き、MOD または DOF の使用不能が記録されています。

プログラマーの応答

以下の処置を取って、エラーを訂正してください。

理由コード **04** の場合:

- 以前のメッセージ入力記述 (MID) NXT= パラメータによって、または /FORMAT コマンドで、アプリケーション・プログラムから提供された MOD 名が正しくつづられているか、その MOD がアクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーに存在するか、確認してください。
- DOF が、エラー・メッセージを受信する端末の装置タイプおよび装置機構で、アクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーに存在するか確認してください。MOD が IGNORE オプションを指定する場合は、DOF は IGNORE 機構が指定されている必要があります。

理由コード **0C** の場合:

MFS ユーティリティを使用して、MOD と DOF を結合したサイズを判別してください。「HHH」パラメータを IMS 制御領域 EXEC ステートメントで使用して、メッセージ・フォーマット・バッファ・プールでフォーマット・ブロックに使用可能なスペースを増やしてください。

理由コード **14** および **1C** の場合:

MFS 言語ユーティリティを使用して、メッセージ送信元定義を再処理してください。

理由コード **18** の場合:

以前のバージョンからの MFS ライブラリーは使用できません。メッセージおよびフォーマットのソース定義はすべて、MFS 言語ユーティリティを使用して再コンパイルする必要があります。

問題判別:

5、14、16

モジュール:

DFSCFE00

関連資料

[フォーマット・ライブラリー・メンバーの選択 \(アプリケーション・プログラミング API\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS058I **CCC COMMAND COMPLETED**
EXCEPT KKK P01, P02, P03, P04,
P05, P06, P07, ...ETC.

または

CCC COMMAND IN PROGRESS

または

CCC COMMAND COMPLETED

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

CCC

長さが 3 文字以上のコマンド名

KKK

3 つ以上の変数からなるキーワード名

P0n

パラメーター名で、n=1 から 10。ほとんどのご使用のシステムでは、リソース名が 3 文字以上なので、少なくとも 3 文字と想定しています。

ETC

コマンドを入力する端末で、1 行の例外パラメーターを受信しました。例外がさらに続く場合は、この後に ETC が続きます。

EXCEPT 句では、処理されなかったパラメーターを示します。EXCEPT 句が使用されているときに起きる可能性があるエラーを理解するには、コマンドに関する情報を参照してください。

総称パラメーターの処理中に例外が検出されると、この総称パラメーターと一致する、エラーの特定リソース名が最大 10 個まで、圧縮コマンド・バッファの末尾に移されます。その上で、エラーというマークが付けられます。したがって、コマンドで処理できなかった、総称パラメーターと一致するリソースが 20 あっても、圧縮コマンド・バッファに移されて、エラーというマークが付けられるのは、そのうちの 10 だけです。10 という数が選択されて、ETC が DFS058 メッセージの末尾に表示されることを保証します。メッセージの表示行は最大 79 バイトであることが前提になっています。

システムの処置

システムは処理を続行します。

プログラマーの応答

現在のコマンドが正しいか検査してください。

モジュール:

DFSCLM00

DFS059I **TERMINAL status**

説明

ローカルまたはリモート端末の情報が、オペレーターに端末状況を通知します。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 状況情報に応じて必要な処置を取ってください。

モジュール:

DFSCLM00

DFS060 **nnn IS AN INVALID MESSAGE KEY**

説明

番号 (*nnn*) が、システム内の他のモジュールによってメッセージ生成プログラム・モジュールに渡されました。しかし、このメッセージ番号がメッセージ・テーブルで検出されませんでした。

もう 1 つの可能性として、ユーザー・メッセージ・テーブルのメッセージが 128 文字を超えていることが考えられます。

システム・プログラマーの応答:

ユーザー・メッセージ・テーブルのどのメッセージも 128 文字を超えていないことを確認してください。

問題判別:

1 または 6 または 7 および 36

モジュール:

DFSCLMR0

関連資料

[ユーザー・メッセージ・テーブル \(DFSCMTUO\) \(出口ルーチン\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0061I **INVALID CALL TO MESSAGE**
GENERATOR: reason

説明

reason の値には、以下のものがあります。

- 'CONSOLE CNT(WTOR) NOT FOUND.'

- 'ERROR HAPPENED ON REROUTE.'
- 'MSG NOT LOCKED INCORE FOR ICIO.'
- 'INCORRECT CALLER.'
- 'REMOTE DESTINATION IS NOT A CNT.'
- 'QUEUES ARE NOT AVAILABLE.'
- 'NEGATIVE MSG LENGTH.'
- 'INNER SEG LENGTH > TOTAL LENGTH.'
- 'INVALID MSG TYPE.'
- 'NONZERO RETURN CODE FROM ROUTER.'
- 'CQS ENQUEUE FAILS.'

IMS 内のモジュールがメッセージ生成プログラムを呼び出し、適切な呼び出しインターフェースを提供できませんでした。

システムの処置

IMS は、タイプ X'6701' ログ・レコードを使用して、エラー情報をログに記録します。

問題判別

1、6、または 7

モジュール

DFSCLMR0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

```
DFS0062W      LOAD FAILED FOR DRU EXIT
              XXXXXXXX
              TMEMBER=YYYYYYYYYYYYYYYYYY
```

説明

クライアント・ビッド要求またはパートナー作成要求で指定された OTMA 宛先解決 (DRU) 出口が、ロードできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

XXXXXXXX

DRU 出口の名前。

YYYYYYYYYYYYYYYYYY

トランザクション・メンバー (tmember) 名

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

このメッセージは、IMS マスター端末のみに表示されません。

システムの処置:

クライアント・ビッドまたはパートナー作成は、DRU 出口なしに続行します。

プログラマーの応答:

指定された DRU 出口が必要であることを確認してください。必要でない場合は、このメッセージを無視できます。DRU 出口が必要な場合は、クライアントを切断し、DRU 名が正しいこと、およびモジュールが IMS STEPLIB にあることを確認して問題を訂正してください。それから、クライアントを再接続してください。

DFS063I **RESTART COMMAND REQUIRED**

説明

再始動コマンドより前に、入力することはできません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) /ERESTART または /NRESTART コマンドのいずれかを入力してください。

モジュール:

DFSICIO0、DFSICL30

DFS064I **DESTINATION CAN NOT BE FOUND
OR CREATED, DEST=destination [I:
sss1/name1, D: sss2/name2]**

説明

入力の最初の 8 文字が、有効な トランザクション、論理端末名、またはコマンドとして認識できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

この情報が表示されるのは、エラーがリモート・システム (sss2) で検出されたときのみです。

宛先

検出も作成もできなかった宛先の名前。

以下の条件がすべて真である場合、このメッセージが出されることがあります。

- 端末が会話モードでも事前設定モードでもない。
- 端末に対する Global Physical Terminal Input 編集ルーチンが存在しなかった。
- MODname DFS.EDTN を指定した MFS バイパスが使用される。

これらの3つの条件がすべて真である場合、アテンション識別 (AID) バイトがデータ域の最初の項目になります。これは無効なトランザクション・コードとしてリジェクトされます。

以下の条件のいずれかが真である場合も、このメッセージが出されることがあります。

- メッセージ制御/エラー出口ルーチン (DFSCMUX0) が受信側システムでカスタマイズされて、誤った出口フラグを指定する。
- 出口フラグは正しいが、IMS が要求された処置を実行していたときに、IMS が代わりに関連デフォルト処置を実行した場合、エラーが検出された。

TP プロファイル (TPN) が削除された結果として CPIC/ APPC トランザクションが DFS064 で失敗する場合、メッセージには、検出されなかった TPName の先頭 8 文字のみが入っています。この情報を使用して、検出されなかったリソースを識別してください。

システムの処置

入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答

(ローカル/リモート端末) データを正しく再入力してください。MFS バイパスが使用されていなかった場合は、**/SET TRANSACTION** コマンドを使用して、事前設定モードを確立してください。それでもやはり障害が起こる場合は、システム・プログラマーに通知してください。

(マスター端末) システム・プログラマーに連絡してください。

このメッセージのオプションの部分が印刷される場合は、ブロックが同期されていないことをシステム・プログラマーに通知してください。

問題判別:

14

モジュール:

DFSICIOO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS065 **TRAN/LTERM STOPPED, T/L=name**
[I: sss1/name1, D: sss2/name2]

説明

/STOP コマンドは、宛先キューでキューイングを停止しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

この情報が表示されるのは、エラーがリモート・システム (sss2) で検出されたときのみです。

name

停止したトランザクションまたは LTERM の名前。

システムの処置

入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答

(ローカル/リモート端末) システム・プログラマーに連絡してください。トランザクションまたは論理端末を開始し、データを再入力してください。

このメッセージのオプションの部分が印刷される場合は、トランザクションまたは論理端末を開始してください。その後、宛先システムのマスター端末オペレーターおよびシステム・プログラマーに通知してください。

問題判別:

14

モジュール:

DFSICIOO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0066I **NOTIFY RESPONSE HAS COME**
BACK FROM *ims_id*

説明

IMS 高速機能には、IRLM 通知プロセスを使用してシスプレックス内のすべての共用 IMS サブシステムと通信する、シスプレックス通信プロトコルがあります。IMS は、すべての IMS サブシステムが IMS シスプレックス通信プロトコルに応答するまで、または通知を送信した IMS が通知をタイムアウトして要求された機能を終了するまで、待機します。この IMS は、シスプレックス通信メッセージを他のシスプレックス・メンバーに送信し、*ims_id* から応答が戻ってきました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

NOTIFY メッセージに対して正常に応答を返した、シスプレックス・メンバーの IMS ID。

システム・プログラマーの応答:

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx

エラーを検出した IMS モジュール:

コード

意味

00

不明のモジュールまたは DFSMSCEC リクエスト

01

DC コミュニケーション・マネージャー (DFSICIO0)

02

LU 6.2 受信 LU マネージャー (DFSRLM10)

03

OTMA 受信 LU マネージャー (DFSYTIB0)

04

DC 呼び出しハンドラー (DFSDLA30)

05

MSC アナライザー (DFSCMS00)

06

/FORMAT コマンド・プロセッサ (DFSICLK0)

08

IMS 終了 (DFSTRM00)

10

IMS 初期設定 (DFSIIINB0)

yy

エラーの理由:

コード

意味

02

出口がユーザー接頭部を 2 つ要求しました。

03

出口が内部接頭部を 2 つ要求しました。内部接頭部は、IMS 内部ツール用に予約済みです。

04

接頭部バッファ長が大きすぎました。

05

DFSPPOOL エラーが接頭部バッファ取得で発生しました。

06

出口戻りコードの値が負でした。

07

出口戻りコードの値が大きすぎました。

08

BCB 制御ブロックの取得中に DFSBCB エラーが発生しました。

09

誤りの SYSID が検出されました。

10

接頭部の挿入中にメッセージ・キュー・マネージャー・エラーが発生しました。

11

ゼロ以外の戻りコードが DFSICLR1 から受診されました。

12

メッセージ宛先が AVM/ISC リンクでは無効のタイプです。

13

宛先変更エラー。ユーザー出口は、MSLR2CHG、MSPR2CHG、または MSTR2CHG を設定することによって宛先名を別のトランザクションに変更するように、要求しました。MSLRDEST、MSPRDEST、または MSTRDEST での新しい宛先名はトランザクションの宛先ではありません。

14

宛先変更エラー。ユーザー出口は、MSLR2CHG、MSPR2CHG、または MSTR2CHG を設定することによって宛先名を別の LTERM に変更するように、要求しました。MSLRDEST、MSPRDEST、または MSTRDEST での新しい宛先名は LTERM の宛先ではありません。

15

DFSMSCEC 出口ルーティング・フラグがエラーです。

16

DFSUSRX インターフェース・エラーが発生しました。

17

宛先変更エラー。ユーザー出口は、MSTR2CHG、MSLR2CHG、または MSPR2CHG を設定することによって宛先名を変更するように、要求しました。MSTRDEST、MSLRDEST、または MSPRDEST で新しい宛先名が見つかりませんでした。

18

出口が入出力 PCB メッセージ宛先名を変更しました。

19

出口が入出力 PCB メッセージに関して転送を要求しました。

20

出口が宛先名をコマンド (例えば、/CMDVERB) に変更しました。

21

MSNAME のユーザー出口オーバーライドが無効でした。

22

ローカル共用キュー登録が、ローカル共用キューへのトランザクションの転送に関して失敗しました。

- 23** 出口が無効のリモート宛先にトランザクションをルーティングしました。
- 24** 出口が無効の MSC システム 識別番号 (例えば、SYSID) にメッセージを転送しました。
- 25** 出口が無効の MSNAME にメッセージをルーティングしました。
- 26** 出口がこのローカル IMS に中間メッセージをルーティングしましたが、ソース SYSID がこのローカル IMS では不明でした。
- 27** 出口がリモート IMS へのルーティングを指示しましたが、宛先 SYSID または MSNAME を設定しませんでした。
- 28** 出口がソース・システムへの再ルーティングを要求しましたが、MSC がシステムで定義されていなかったか、ソース SYSID が無効でした。
- 29** 出口が直接経路オーバーライドを要求しましたが、オーバーライドが正常に行われませんでした。
- 30** 出口がリモート IMS へのフロントエンド交換機メッセージに関して無効な再ルーティングを要求しました。
- 31** 出口が応答メッセージに関して転送を要求しました。
- 33** DFMSMSCSV がサポートされていないため、DFMSMCEO の初期設定が失敗しました。
- 34** DFMSMSCSV 長さが無効のため、DFMSMCEO の初期設定が失敗しました。
- 35** 文字ストリング VECTOR が存在していないため、DFMSMCEO の初期設定が失敗しました。
- 36** 出口が IMS に戻ったとき、ユーザー接頭部セグメント (MSCEUPR) が無効でした。
- 37** 出口が IMS に戻ったとき、内部接頭部セグメント (MSCEIPR) が無効でした。内部接頭部は、IMS 内部ツール用に予約済みです。
- 38** 出口が 512 バイトのユーザー作業域バッファをオーバーレイしました。
- 39** 出口が MSEB BCB ブロック名をオーバーレイしました。
- 40** 出口がパラメーター・リストをオーバーレイしました。
- コード 41 から 52 は、**/FORMAT** コマンドに適用されます。
- 41** 端末がフォーマットされるための CNT が検出されませんでした。
- 42** 指定された端末はリモート LTERM です。
- 43** 指定された端末は動的 MSNAME (LNB) です。
- 44** 予定された端末 (入力端末とは異なる) が MFS フォーマット済みではありません。
- 45** 予定された端末が回線応答モードです。
- 46** 予定された端末が TERMINAL 応答モードです。
- 47** 会話が予定された端末でアクティブでした (LTERM がコマンドで指定されたとき)。
- 48** 端末が入力専用モードです。
- 49** 端末が排他モードです (LTERM がコマンドで指定されたとき)。
- 50** キュー・マネージャーに対する呼び出しが put locate 呼び出しで失敗しました。
- 51** キュー・マネージャーに対する inset prefix 呼び出しが失敗しました。
- 52** メッセージをエンキューするための呼び出しが失敗しました。
- sss1/name1**
入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。
- sss2/name2**
処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置

/Format コマンドまたはメッセージ経路指定要求が取り消されます。

いずれかの出口がメッセージの再ルーティングを試みたか、IMS がメッセージのエンキューを試みた場合、ログ・レコード・タイプ X'67'、サブコード X'01' (ID=AER1 か ID=MSCE、またはその両方) がログに書き込まれます。エラーを記録するために、複数のレコードが書き込まれる場合もあります。これらのレコードには、エラーの検出時に IMS または ユーザー出口が使用する IMS 制御ブロックおよび保管域が含まれています。

オペレーターの応答:

(マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

次のいずれかの状態によってエラーが引き起こされた可能性があります。

- オペレーター・エラー。例えば、誤りのあるトランザクション・コードや LTERM 名が入力された可能性があります。
- ユーザー出口ルーティングが発生した。
- IMS 内部エラーが発生しました。

エラーが DFSMSCEO ユーザー出口によって引き起こされた場合は、ルーティング・オプションの説明について、「TM および MSC メッセージ経路指定および制御」ユーザー出口ルーチン (DFSMSCEO) (出口ルーチン) およびサンプル DFSMSCEO 出口のプロログを参照してください。

それ以外のすべての状態の場合は、メッセージ DFS070 に関する診断情報について、データ通信保守援助機能 (診断)を参照してください。RSN を確認し、原因の判別に関する説明に従ってください。追加情報が必要な場合は、6701 ログ・レコードを印刷します。

モジュール:

DFSCMS00、DFSDLA30、DFSICLK0、DFSICIO0、DFSIIINB0、DFSRLM10、DFSTRM00、DFSYTIB0

DFS071 SYSTEM DISCONNECT

説明

サインオンの試みが 5 回とも無効でした。

システムの処置

このメッセージは、交換端末オペレーターに IMS が回線を切断しようとしていることを通知します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 正しいサインオン・コマンドを確立してから、あらためてサインオンを試行してください。

モジュール:

DFSICA10、DFSICIO0

DFS072I UNABLE TO OUTPUT LINE x PTERM y

説明

メッセージに示されている IMS 回線および物理端末へのメッセージの書き込みを試みているとき、永続入力エラーが検出されました。

システムの処置

端末は PSTOPPED されています。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 誤動作が訂正された後で、**/START LINE x PTERM y** または **/RSTART LINE x PTERM y** コマンドを使用して、端末での操作を再開できます。

DFS074 QUEUE ERROR-MESSAGE CANCELED RSN=xyyy

説明

キュー・バッファーを獲得しようとした。ISRT locate、ISRT move、または位置変更呼び出しが発行されましたが、呼び出しでエラーが検出されたか、呼び出しを処理できませんでした。

共用キュー環境では、このメッセージは、挿入処理中の CQSPUT 処理の障害、CQS 構造障害、または CQS が使用不可であることを示す可能性があります。

理由コード RSN=xyyy はオプションであり、必ずしも含まれるとは限りません。理由コードが存在している場合は、次のいずれかの値です。

xx

エラーを検出した IMS モジュール:

01

/DIS CPLOG (DFSDCLP0)

02

通信アナライザー (DFSICIO0)

03

/DIS コントローラー (DFSICLD0)

04

/NRE, /ERE (DFSICL20)

05

/CQQUERY STATISTICS (DFSICQ20)

06

OTMA SYNC プロセッサ (DFSYTIB0)

yy

エラーの理由:

01

要求したサイズが 1 バイト未満です。例えば、LLZZ + 1 バイト以上。

02

QMGR または CQS ISRT エラーが発生しました。

03

キュー・バッファ位置変更エラーが発生しました。

04

ユーザー出口 DFSQSPC0 または IQCQMRI0 エラーが発生しました。IBM IMS Queue Control Facility for z/OS が使用されている場合、ノードおよびクライアントが使用しているキュー・バッファが多すぎるため、要求されたメッセージは取り消されました。

システムの処置

キュー・バッファは取り消されます。一部のエラーについて、タイプ 6701-AER1 および 67D0 レコードがログに記録されます。

OTMA の場合、メッセージ DFS1269E RC4011 も出され、X'67D0' トレース項目がログに書き込まれます。

システム・プログラマーの応答

このエラーは次のいずれかの理由で起きる可能性があります。

- IMS または CQS 内部エラーが発生しました。
- メッセージ・キューがいっぱいです。
- 共用キューの問題が検出されました。
- ユーザー・キュー・スペース通知ユーザー出口 (DFSQSPC0) またはこの出口を使用するツール (IMS キュー制御機能出口ツール (IQCQMRI0) など) が、キュー・バッファ要求をリジェクトしました。

応答は、次のように理由コード yy によって異なります。

01

要求されたサイズが 1 バイト未満です。

応答: この問題は、IMS 内部エラーです。6701 および 67D0 レコード (使用可能な場合) を印刷します。

02

QMGR ISRT または CQS エラー

応答: QMGR がゼロ以外の戻りコードを戻しました。IMS が共用キューを使用しない場合、この状態はローカル・キューの問題である可能性があります。共用キューを使用している場合は、これは CQS エラーであるかまたは共用キューに関する問題である可能性があります。6701 および 67D0 レコード (使用可能な場合) を印刷します。

03

キュー・バッファ位置変更エラー

応答: この問題は、IMS 内部エラーです。6701 および 67D0 レコード (使用可能な場合) を印刷します。

04

ノードおよびクライアントが使用するキュー・バッファが多すぎるため、ユーザー出口 DFSQSPC0 ま

または IMS キュー制御機能出口 IQCQMRI0 がメッセージの取り消しを要求しました。

応答: 呼び出し元が使用するキュー・バッファが多すぎたことを判別したため、ユーザー出口 DFSQSPC0 または IMS キュー制御機能出口 IQCQMRI0 は、出口 DFSPARM エリアで QSPCFLG2 = QSPCF2NO を設定しました。次に、QMGR は呼び出し元の DFSQMGR パラメーター域で QMGRO3NO フラグを設定し、ISRT を取り消して、キュー・バッファを解放しました。プールの使用量を判別するには、6701 レコード (使用可能な場合) を印刷します。その上で、詳細については、DFSQSPC0 出口、または IQCQMRI0 出口 (IMS キュー制御機能を使用している場合)、および /DIS POOL QBUF コマンドからのキュー使用を参照してください。

モジュール:

DFSICIO0、DFSICLD0、DFSICL20、DFSYTIB0、DFSDGS96

DFS075I

REQUESTED BLOCK NOT AVAILABLE: MID name

説明

メッセージ・フォーマット・サービス (MFS) が、入力メッセージの処理に必要な制御ブロックをフェッチできません。メッセージでは、要求された MID および DIF 対の MID 名を識別しています。MID または DIF に無効のフィールドが入っていますが、フォーマット・ライブラリーまたはテスト・フォーマット・ライブラリーに対する変更または損傷が原因と考えられます。

システムの処置

MFS は入力メッセージを無視します。

プログラマーの応答

この MID か DIF ブロック、またはその両方を必要とするトランザクションの使用を、これらのブロックがメッセージ・フォーマット・ライブラリー内にある別のブロックによって置き換えられるまで十分な時間を確保するために、停止してください。その上で、障害のあるトランザクションを再試行してください。エラーが引き続き発生するのは、フォーマット・ライブラリーまたはテスト・フォーマット・ライブラリー内でブロックが破棄されたか、エラーがブロック内にコンパイルされたか、MFS オンライン・モジュールの 1 つにエラーがある場合です。

モジュール:

DFSCFEIO

DFS076

MULTI-SEGMENT INPUT INVALID [I: sss1/name1, D: sss2/name2]

説明

バッファ付き端末装置が、入力の複数のセグメントの送信を試みましたが、この入力は一セグメント・トランザクションとして定義されていました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード

この情報が表示されるのは、エラーがリモート・システム (sss2) で検出されたときのみです。

システムの処置

メッセージは取り消されました。入力が MFS ユーティリティーで処理されたとすれば、入力メッセージは複数セグメントで定義されていました。

オペレーターの応答

メッセージを正確に再入力してください。

このメッセージのオプションの部分の部分が印刷される場合は、ブロックが同期されていないことをシステム・プログラマーに通知してください。

問題判別:

14

モジュール:

DFSCON00、DFSICIO0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS077 COMMAND INPUT EXCEEDS MAXIMUM LENGTH

説明

コマンドの最大長が、キュー・メッセージ・バッファに収まる長さとして定義されています。

システムの処置

入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) コマンドの長さを短縮して、再入力してください。この長さのコマンドが必要な場合は、メッセージ・バッファ・サイズを大きくして、システムを再定義できます。

モジュール:

DFSICIO0

DFS078 COMMAND INVALID AS SECOND SEGMENT

説明

このコマンドが入力されたとき、複数セグメント入力メッセージが処理中でした。

システムの処置

メッセージとコマンドの両方が取り消されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) メッセージとコマンドを別々に再入力してください。

モジュール:

DFSICIO0

DFS079 INPUT IGNORED-SYSTEM IN SHUTDOWN

説明

シャットダウン・チェックポイントが処理中であり、端末からの入力はすべて中断されています。

システムの処置

入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) システムが再始動してから、データを再入力してください。

モジュール:

DFSICIO0

DFS080 MESSAGE CANCELED BY INPUT EDIT ROUTINE

説明

ユーザー提供の編集ルーチンが最後の入力メッセージをリジェクトし、取り消しました。

システムの処置

入力されたメッセージは無視されます。

オペレーターの応答:

編集仕様に受け入れ可能なフォーマットでメッセージを再入力してください。

モジュール:

DFSICIO0

DFS081 TRACE EXIT COMMAND UNSUCCESSFUL RSN=xyyy

説明

/TRACE EXIT コマンドが誤って入力されたか、このコマンドがこの IMS システムでサポートされていないか、あるいはこの問題が IMS 内部エラーです。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx

エラーを検出した IMS モジュール:

01

トレース・コマンド・プロセッサ (DFSICLN5)

yy

エラーの理由:

01

トレース出口に関して指定されたキーワードが無効でした。

02

トレース出口コマンドに関して指定されたパラメーター・タイプが無効でした。

03

トレース出口コマンドに関して、パラメーター・タイプが指定されませんでした。

04

トレース出口コマンドに関して、複数のパラメーター・タイプが指定されました。

05

トレース出口 (DFSMSCEO) コマンドに関して、DFSMSCD 制御ブロックが欠落しています。

06

トレース出口コマンドに関して指定されたパラメーター・サブタイプが無効でした。

07

この環境に関しては、トレース出口がサポートされていません。

08

トレース開始コマンドに関して、必須出口がロードされていませんでした。

09

トレース開始コマンドに必要な出口がロードされていません。

10

システム・コマンド障害が起きました。

11

パラメーター長が無効でした。

システムの処置

コマンド全体が無視されたか、1つ以上のパラメーターが無視されました。

オペレーターの応答:

(マスター端末) コマンドの構文をチェックして、正しいか確認してください。適切なキーワードおよびパラメーターを使用して、コマンドを再発行してください。/

DISPLAY TRACE EXIT コマンドを発行して、コマンドのうちで正常に実行された部分を判別し、出口がインストールされているかどうかを判別してください。出口がインストールされていない場合は、すべての出口エントリ・ポイントの状況が表示出力で N/A になっています。問題が引き続き発生する場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

次のいずれかの状態によってエラーが引き起こされた可能性があります。

- オペレーター・エラー。例えば、入力された構文に誤りがあった可能性があります。
- ユーザー・ルーティング出口 (DFSMSCEO) 初期設定エラー
- IMS 内部エラー。

メッセージ DFS081 に関する診断情報については、「IMS Version 15 Diagnosis」で『DC-Data Communication Service Aids』の項を参照してください。RSN を参照し、原因の判別に関する説明に従ってください。追加情報が必要な場合は、6701 ログ・レコードを印刷する必要がある可能性もあります。

モジュール:

DFSICLN5

DFS082

ERROR READING QUEUE, QUEUE SHUTDOWN [I: sss1/name1, D: sss2/name2] [name RC = nn]

説明

論理端末キューからレコードの読み取りを試みているとき、回復不能入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード

この情報が表示されるのは、エラーがリモート・システム (sss2) で検出されたときのみです。

nn

キュー・マネージャー戻りコードの 10 進数値。表示される可能性があるキュー・マネージャー戻りコードは、次のとおりです。

04

宛先名に関して戻されたセグメントはありません。

08

宛先名に関してメッセージはもうキュー上ではありません。

12

宛先名は使用中です。

36

MSC 接頭部が存在しません。メッセージはデキューされています。

40

ISC 接頭部が存在しません。メッセージはデキューされています。

システムの処置

そのキューは停止されました。ログ・レコード・タイプ X'6701'、ID=MER1 が、IMS トレース機能 (IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを準備する) を使用して書き込まれました。

オペレーターの応答:

(マスター端末) このメッセージのオプションの部分が印刷される場合は、宛先システムの端末オペレーターおよびシステム・プログラマーとの間でリソースの再始動について調整してください。

システム・プログラマーの応答

メッセージがデキューされている場合は、MER1 レコードを調べて、デキューされたメッセージを判別してください。

モジュール:

DFSCM7A0、DFSCM7B0、DFSICIO0

DFS084 CONVERSATION IN PROCESS

説明

会話型プログラムが最後の入力メッセージにまだ応答していませんでした。会話は両方向交換です。このメッセージがページングされている場合は、応答が完了する前に、オペレーターが完全に表示し、削除する必要があります。

システムの処置

IMS が入力されたデータを廃棄します。端末がページ保護されていない場合は、最後に受け入れられた入力にアプリケーション・プログラムが応答します。

オペレーターの応答

プログラムからの応答を待ち、データを再入力するか、最後のページを削除して、データを再入力するか、/ EXIT して、会話を終了し、データを再入力してください。ページングが指定されている場合は、PA2 キーを押して、メッセージを削除する必要がある可能性もあります。

プログラマーの応答

画面保護が、端末オプションと MFS オプションのいずれかとして指定されています。これがこのトランザクションで必要かどうか判別してください。

モジュール:

DFSCON00、DFSICLHO

DFS085I CONVERSATION CANNOT BE CONTINUED: {NO PREVIOUS OUTPUT MESSAGE|STORAGE ERROR| SPA NOT FOUND IN OUTPUT MESSAGE|CQS ERROR OR CQS NOT AVAILABLE| SPA HAD BAD DATA OR FORMAT}

説明

IMS は、直前の出力メッセージから入力メッセージに関する SPA の取得を試みましたが、エラーが発生しました。メッセージに示されている次のエラーのため、会話型トランザクションはこの時点では継続できません。

• NO PREVIOUS OUTPUT MESSAGE

直前の会話型出力メッセージが見つかりませんでした。

• STORAGE ERROR

一時記憶域の獲得を試みているとき、エラーが発生しました。

• SPA NOT FOUND IN OUTPUT MESSAGE

SPA が直前の会話型出力メッセージで検出できませんでした。

• CQS ERROR OR CQS NOT AVAILABLE

共通キュー・サーバー (CQS) が使用不能であったか、CQS エラーが発生したか、いずれかです。

• SPA HAD BAD DATA OR FORMAT

IMS が SPA を内部パック・フォーマットからアンパック・フォーマットに変換しようと試みましたが、正常に変換できませんでした。

システムの処置

入力データは無視されます。

オペレーターの応答

該当する処置を取ってください。

• NO PREVIOUS OUTPUT MESSAGE

多くの場合、IMS はこの会話を続行できません。/ EXIT コマンドを使用して、会話を終了してください。OTMA ユーザーの場合、会話は IMS によって終了されます。

• STORAGE ERROR

ストレージ不足がなくなるまでしばらく待った後で、入力データを再入力してください。

• SPA NOT FOUND IN OUTPUT MESSAGE

多くの場合、IMSはこの会話を続行できません。 /EXIT コマンドを使用して、会話を終了してください。OTMA ユーザーの場合、会話は IMS によって終了されます。

• CQS ERROR OR CQS NOT AVAILABLE

CQS が使用可能になるまでしばらく待った後で、入力データを再入力してください。問題の原因が CQS エラーにある場合は、 /EXIT コマンドを使用して、会話を終了する必要がある可能性があります。OTMA ユーザーの場合、会話は IMS によって終了されます。

• SPA HAD BAD DATA OR FORMAT

IMS は、この会話を続行できなくなります。 /EXIT コマンドを使用して、会話を終了してください。

モジュール:

DFSCON00、DFSYTIB0

DFS086 CONVERSATION RESOURCES UNAVAILABLE

説明

同時会話の最大許容数 (65,535) を超えました。

システムの処置

会話は開始されません。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 誰かが完了し、再度試行するのを待ってください。この応答がしばしば生じる場合は、システム操作担当者に通知してください。

問題判別:

7

モジュール:

DFSCON00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS087 USER PTERM INPUT EDIT ERROR- INPUT IGNORED

説明

ユーザー物理端末入力編集出口ルーチンが、トランザクション・コードまたはパスワードの挿入を試み、しかも次のとおりでした。

• MFS バイパスがアクティブではなかった。

• 試行された挿入の合計サイズが 6 より小、または 22 より大であった。

システムの処置

ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (これによって IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップが提供される) を使用して書き込まれました。入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

ユーザー物理端末入力編集出口ルーチンの、エラーを訂正してください。

モジュール:

DFSICIO0

DFS0088I LSO INITIALIZATION FAILED - identifier

説明

identifier に示されている理由により、ローカル・ストレージ・オプションの初期設定が失敗しました。メッセージ DFS0088I で識別されているモジュールまたは制御ブロックが、エラーの発生時に処理中でした。

ID

理由

1. DFSKLSM

IMODULE GETMAIN が失敗しました。

2. DFSKLSMO または DFSKLSDO

IMODULE LOAD がこれらのモジュールのどちらかについて失敗しました。

3. DFSXMCTL

LSO に関して初期設定されませんでした。

4. SAP

LSO に関して割り当てられた SAP が不足していました。

システムの処置

このメッセージには、後に異常終了コード 0088 が続きます。

システム・プログラマーの応答

理由

処置

1.

IMS 制御領域サイズを大きくしてください。

2. JOB/STEPLIB DD ステートメントを訂正するか、LSO モジュールを正しいライブラリーにバインドしてください。
3. モジュール DFSMINIO を参照して、DFSXMCTL 問題を判別してください。IBM に連絡して、支援を要求してください。
4. モジュール DFSXLICO を参照して、SAP 問題を判別してください。IBM に連絡して、支援を要求してください。

問題判別:

1、2、3、4、8、12

モジュール:

DFSKLSIO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0089 OUTPUT EXCEEDS BUFFER SIZE
LTERM xxxxxxxx LINE yyy PTERM
zzz OUTPUT EXCEEDS BUFFER
SIZE LTERM xxxxxxxx NODE
yyyyyyyy

説明

MFS バイパスを使用しているアプリケーション・プログラムが送信を試みた出力メッセージが、システム定義時に TERMINAL マクロの OUTBUF パラメーターで指定された長さを上回っています。さらに、使用中のアクセス方式は、VTAM 非 SNA か、あるいは OPTIONS=NOXPAR を指定した別の IMS サポート端末です。OUTBUF 値は、端末(および VTAM とその NCP)で受け入れ可能な最大 RU サイズに等しく設定する必要があります。IMS は、アプリケーションによって挿入された、この値を超える出力メッセージを送信しないためです。

システムの処置

ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを準備する) を使用して、書き込まれています。DD6 によって回線バッファー (=OUTBUF) に移された最後のメッセージ・セグメントが正確に収まったのは、この回線バッファーの内容がすでに端末に送信されていた場合です。端末は作動不能になり、メッセージ DFS998I がマスター端末オペレーターに送信されません。

オペレーターの応答:

(マスター端末) メッセージ DFS998I の受信と同時に、LTERM の再割り当てが必要であり、そうしないと、メ

ッセージがデキューされます。そうすれば、端末を再始動できます。システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

次のいずれかの処置を取ってください。

- システム定義の TERMINAL マクロの OUTBUF 値を大きくする。
- 長さが OUTBUF 値より大きいメッセージは送信しないように、アプリケーション・プログラムに制約を加える。

モジュール:

DFSCD600、DFSCD610、DFSCD620

関連情報

367 ページの『DFS998I』

LINE xxx PTERM yyy IS INOPERABLE

DFS0090 USE OF MODNAME DFS.EDTN
REQUIRES TERMINAL INPUT EDIT
ROUTINE

説明

MFS BYPASS オプションが選択されており、MODNAME DFS.EDTN が使用されている場合、ユーザーは物理端末入力編集ルーチンを提供する必要があります。

システムの処置

入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

ユーザー物理端末入力編集ルーチンをシステム定義に組み込んでください。「IMS V15 出力ルーチン」のトピック『物理端末(入力)編集ルーチン』を参照してください。

モジュール

DFSICIOO

関連資料

物理端末(入力)編集ルーチン (DFSPIXT0) (出力ルーチン)

DFS091I UNABLE TO LOCATE X'42' LOG
RECORD

説明

バッチ・バックアウトが初期設定されているところでしたが、X'42' ログ・レコードが入力ログ・ボリューム上で検出されませんでした。

システムの処置

バッチ・バックアウトは終了します。

プログラマーの応答

このエラーが発生する可能性があるのは、データベース・バックアウトに提供された入力ボリュームが1つだけで、しかもそのボリュームには、X'42' ログ・レコードがまだ書き込まれていなかった場合です。最後の2つのボリュームを入力として指定して、データベース・バックアウトを再実行してください。複数のボリュームがすでに提供されていたか、作成されたボリュームが1つだけであった場合は、システム・エラーが発生しています。

問題判別:

1、4、5

モジュール:

DFSBCKIO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS092I IMS LOG TERMINATED

説明

この通知メッセージは、IMS システム・ログが終了したことを示します。

システムの処置

IMS は終了しました。

モジュール:

DFSFDLSO

DFS093 COMMAND NOT AUTHORIZED AS ENTERED WITH CRC FROM MCS OR E-MCS CONSOLE

説明

このコマンドは、MCS コンソールからは入力できません。このコマンド許可は、CMDMCS 実行パラメーター (RACF (またはそれと同等のもの) か DFSCCMD0、またはその両方) で指定され、コンソールのユーザー ID にコマンドを発行する許可を付与しませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) コマンドを許可コンソールから再入力するか、許可情報を更新して、コンソールからコマンドが入力できるようにしてください。

モジュール:

DFSICLPO

DFS094I THE COMMAND WAS UNABLE TO ACQUIRE A LATCH

説明

コマンドがラッチを取得しようとして失敗しました。例えば、コマンドは、MSC リソースの更新または MSC リソースへのアクセスを行うために DRSC ラッチを取得しようとして失敗しました。これは、内部エラーが原因と考えられます。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

ユーザーの処置

IMS ダンプを収集し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール:

DFSCML70、DFSICLG0、DFSICLN0、DFSICL60、DFSIC460

関連概念

IMS 診断情報の収集 (診断)

DFS0095I VSO1THLD n | VSO2THLD n | VSO3THLD n

説明

IMS の初期設定時に、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー内の <SECTION=FASTPATH> セクションで指定されているパラメーター VSO1THLD、VSO2THLD、または VSO3THLD の値を表示するために n が使用された場合に、このメッセージが発行されます。

VSO1THLD=

800 以下の制御インターバル (CI) を含む VSO 領域のキャストアウトしきい値時間を秒単位で指定します。有効な範囲は 1 から 300 です。デフォルト値は 300 です。

VSO2THLD=

801 から 3500 までの CI を含む VSO 領域のキャストアウトしきい値時間を秒単位で指定します。有効な値の範囲は、1 から 300 です。デフォルト値は 240 です。

VS03THLD=

3500 を超える CI を含む VSO 領域のキャストアウトしきい値時間を秒単位で指定します。有効な範囲は 1 から 300 です。デフォルト値は 180 です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DBFFATC1

DFS0096W DATA BASE BUFFERS PURGED, UPDATE INTENT, NOLOG SELECTED.

説明

バッチ IMS ジョブが IMS ログ・データ・セットなしで実行され、UPDATE INTENT を指定した PSB を使用中に異常終了しました。データベース・バッファはページされましたが、データベースにはまだ誤りがある可能性があります。

システムの処置

IMS (E)STAE は異常終了の処理を続行します。

プログラマーの応答

異常終了のタイプおよび異常終了プログラムについて問い合わせ、データベースにまだその健全性があるか判断してください。

モジュール

DFSFLST0

DFS097 LTERM/S LOCKED/STOPPED

説明

指定された LTERM がロックされていたか、または停止していました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) LTERM を始動またはアンロックするか、あるいは別の端末に対してサインオンするか、どちらかを行ってください。

モジュール:

DFSICA10

DFS098 PTERM LOCKED/STOPPED

説明

物理端末がロックされていたか、停止していたか、または作動不能でした。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) マスター端末オペレーターに、PTERM を開始またはアンロックさせてください。

モジュール:

DFSICA10

DFS099 MULTIPLE LINE PARAMETERS ARE INVALID

説明

1 台以上の物理端末を参照するコマンドは、1 回線しか指定できません。以下に例を示します。

- **PTERM ALL** が指定できるのは、単一回線に対してだけです。
- 属性別に回線を表示するときは、**PTERM ALL** を指定できません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール:

DFSICL10、DFSICL30、DFSIC440

DFS100 LINE KEYWORD NOT PRESENT

説明

PTERM キーワードが存在している場合は、LINE キーワードも必要です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール

DFSICL10

第 6 章 DFS メッセージ DFS101 - DFS150

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS101 MULTIPLE RESTART COMMANDS ARE INVALID

説明

/NRESTART または /ERESTART コマンドによってシステムが開始した後は、このコマンドは再度入力できません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 別の方法で再始動したい場合は、システムをシャットダウンした上で、あらためて立ち上げてください。

モジュール

DFSICL30

DFS102 PTERM KEYWORD NOT PRESENT

説明

キーワード PTERM は、キーワード LINE と一緒に使用する必要があります。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール:

DFSICL10、DFSICL80

DFS103 DATABASE/AREA KEYWORD NOT PRESENT

説明

DBDUMP では、キーワード DATABASE の後に続けて要求されたデータベース名を入力する必要があります。/DBRECOVERY では、キーワード DATABASE の後に続けて要求されたデータベース名を入力するか、キーワード AREA の後に続けて要求されたエリア名を入力する必要があります。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール

DFSICL20

DFS104 NO TEXT SUPPLIED, CANNOT BROADCAST

説明

/BROADCAST コマンドでは、ブロードキャストするデータをメッセージの 2 番目のセグメントとして入力する必要があります。何も入力されませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

コマンドを正しく再入力してください。

モジュール:

DFSICL30

DFS105I COMMAND VERB xxxxxxxxxxxx IS INCORRECT

説明

コマンド verb xxxxxxxxxxxx に誤りがあります。コマンド verb の最初の 3 文字は正しいのですが、コマンドはその後に誤りがあります。誤りのあるコマンド verb のうち最大 11 文字までが、エラー・メッセージに含まれています。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

最初の 3 文字だけを使用するか、コマンド verb 全体を正しくつづけて、再入力してください。

モジュール:

DFSICL30

DFS106 TRAN KEYWORD NOT PRESENT

説明

TERMINAL キーワードと一緒に使用できる唯一のキーワードは、TRAN です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール:

DFSICL80

DFS107 REQUIRED KEYWORD NOT PRESENT

説明

このコマンドの許容キーワードがいずれも示されていませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

稼働しているシステム (IMS DB/DC、DBCTL、または DCCTL) に有効なキーワードかどうかを確認してください。有効なキーワードを選択してから、コマンドを再入力してください。

モジュール

DFSICL70、DFSICA10、DFSICLE0、DFSICL60、DFSICLH0、DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICLQ0、DFSICLU0、DFSICL10、DFSICL20、DFSICL40、DFSICL60、DFSICL70、DFSICL80、DFSICL90、DFSICM00、DFSIDPK0、DFSIDP00

DFS108 COMMAND SYNTAX INVALID

説明

入力されたコマンドが、規定の構文規則に準拠していませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

つづりや区切り文字の誤りも含めて、構文エラーがないかチェックしてから、コマンドを正しく再入力してください。

モジュール:

DFSICL30、DFSICLN2、DFSICLN3、DFSICLN4

**DFS110I COMMAND KEYWORD
yyyyyyyyyyyyy INVALID FOR
imstype**

説明

キーワード yyyyyyyyyyyy は、IMS のこの *imstype* に関するコマンドではサポートされていません。無効のキーワードのうち最大 12 文字までがエラー・メッセージに含まれています。 *imstype* は、次のいずれかです。

ACTIVE
DBCTL
DCCTL
XRF ALTERNATE
NON-DBCTL
NON-DCCTL

アクティブ・サブシステムではサポートされないキーワードには、BACKUP (これがサポートされるのは、XRF ALTERNATE の場合のみ) があります。

DBCTL でサポートされないキーワードは、DC に関係しています。

DCCTL でサポートされないキーワードは、DB に関係しています。

XRF 代替システムでサポートされないキーワードには、XRF ALTERNATE を操作するコマンドで必須のキーワードを除けば、ほとんどのキーワードが含まれます。

NON-DBCTL でサポートされないキーワードは、DBCTL に関係しています。

NON-DCCTL でサポートされないキーワードは、DCCTL に関係しています。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

キーワードを確認し、コマンドを再度実行してください。

モジュール:

DFSICL30、DFSDGSA1、DFSDGSB0、DFSDGSD0、DFSDGSL0、DFSDGSL1、DFSDGSL2、DFSDGSL0、DFSDGSR0、DFSDGST0、DFSDGSU0

DFS111 TIMEOUT-RESEND MESSAGE

説明

メッセージの文字間には、ハードウェアがタイムアウトになり、そのメッセージを取り消すまでに、28 秒が許容されています。

システムの処置

メッセージは取り消されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 遅延が超過しないようにして、メッセージを再入力してください。

モジュール

DFSDN020、DFSDS010、DFSDS020、DFSDS040、DFSICL30

DFS112 **BLDQ KEYWORD NOT PRESENT**

説明

/ERESTART コマンドで、チェックポイント 0 の場合、または FORMAT キーワードが /ERESTART コマンドで示されている場合は、BLDQ キーワードが示されている必要があります。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

マスター端末オペレーターの応答: コマンドを正確に再入力してください。

モジュール

DFSICL20

DFS113 **LINE KEYWORD PARAMETER NOT PRESENT**

説明

LINE キーワードが示されていましたが、その後続くパラメーターがまったくありませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 正確に指定し、再入力してください。

モジュール

DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICL10、DFSICL50、DFSICL80、DFSIC440、DFSIDP60、DFSIDP70、DFSIDP80

DFS114 **LTERM KEYWORD PARAMETER NOT PRESENT**

説明

LTERM キーワードの後に続くパラメーターが何も指定されていませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

コマンドの構文を確認し、再入力してください。

モジュール

DFSICA10、DFSICLJ0、DFSICL80、DFSICL90、DFSICV10、DFSIC440、DFSIDP40、DFSIDP70

DFS115 **PTERM KEYWORD PARAMETER NOT PRESENT**

説明

PTERM キーワードの後に続くパラメーターが何も指定されていませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答:

コマンドを正しく再入力してください。

モジュール

DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICL10、DFSICL50、DFSICL80、DFSIC440、DFSIDP60、DFSIDP70、DFSIDP80

DFS116 **DATABASE|AREA KEYWORD PARAMETER NOT PRESENT**

説明

データベースまたはエリア・キーワードの後に続くパラメーターが何も指定されていませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

正しいコマンドを再入力してください。

モジュール

DBFC DAR0、DFSICL20、DFSICL80、DFSICL90、DFSIC430、DFSIDPJ0、DFSIDP50

DFS117 **PROGRAM KEYWORD PARAMETER
NOT PRESENT**

説明

PROGRAM キーワードの後にプログラムを指定するパラメーターが続いていませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答: コマンドを正確に再入力してください。

モジュール

DFSICL80、DFSICL90、DFSIC430、DFSIDP50

DFS118 **COMMAND IS INVALID FOR
NONSWITCHED TERMINAL**

説明

/IAM コマンドが無効です。

システムの処置

コマンドは無視されました。

モジュール:
DFSICLA0

DFS119 **LTERM IN USE, CANNOT PROCESS
COMMAND**

説明

LTERM は、メッセージがデキューされ、送信されているか、別のタスクによる使用のマークが付けられているか、いずれかです。この LTERM は、メッセージがデキューされて送信された後か、または他のタスクがその使用を終えた後まで、再割り当てすることができません。

TCO がアクティブの場合、このメッセージは TCO 論理端末 DFSTCFI を参照している可能性があります。

STM がアクティブである (STM=Y) 場合、このメッセージは、別のタスクによって RM リソース構造で LTERM が更新中であることを示している場合があります。端末を再割り当てできるのは、IMS が RM リソース構造から LTERM 情報を取得できるようになった後です。この場合、DFS4447 メッセージも出されます。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。コマンドが /**ASSIGN LTERM PRIMARY** であった場合は、1 次マスター端末割り当ては正常に行われた可能性があります。

オペレーターの応答:

コマンドを再入力してください。コマンドが引き続きこのエラー・メッセージを表示してリジェクトされる場合は、システム・プログラマーに即時に通知してください。

システム・プログラマーの応答

割り当て中の LTERM のノードに関して /CLS NODE XXX コマンドを入力してから、あらためて /ASSIGN コマンドを入力してください。

コマンドが正常に完了するかどうかを検証します。引き続き失敗する場合は、SVC メモリー・ダンプを作成し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:
DFSICL70

DFS120 **MESSAGE CANCELED, TEXT
SEGMENT DID NOT END IN EOB**

説明

ブロックの終わり (EOB) が存在することにより、入力されたデータの IMS エラー・チェックが有効になります。IMS は、EOB のないメッセージは受け入れません。データはすべて EOB で終了する必要があります。

システムの処置

メッセージは取り消されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) EOB を単独で入力して、複数セグメント・トランザクションを終了してください。

DFS121I **PARAMETER TOO LONG**

説明

パラメーターは、長さが 8 バイト以下に制限されています。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

有効な長さパラメーターを使用して、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DBFICL20、DFSICA10、DFSICL30、DFSICL60、
DFSICLN3、DFSICLN4

DFS122 **SPECIFIC PARAMETER MIXED
WITH ALL PARAMETER**

説明

ALL パラメーターが指定されている場合は、同じキーワードに関しては、他のパラメーターは組み込めません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

ALL パラメーターと一緒に指定したパラメーターがあれば、すべて除去してください。ALL パラメーターが正しく指定されている場合は、次の項目をチェックしてください。

- つづりの誤りがある、または無効のキーワード
- 稼働しているシステム (IMS DB/DC または DBCTL) では無効のキーワード

キーワードを訂正し、コマンドを再入力してください。

モジュール

DFSICL30、DFSICV10

DFS0123E DBD CHANGE UNSUPPORTED BY VERSIONING: DB=dedbname RSN=rc SEG segmname variable text

または

DBD CHANGE UNSUPPORTED BY VERSIONING: DB=dedbname RSN=rc SEG segmname FLD fld_name variable_text

説明

アプリケーション・プログラムが、現行バージョン以外のバージョンの高速処理データベース (DEDB) へのアクセスを試みましたが、IMS が現行バージョン以外のデータベースへのアクセスに必要な内部ブロックを構築できません。これは、現行バージョンのデータベースに、データベースのバージョン管理でサポートされていない、データベース定義 (DBD) 内の変更が含まれているためです。

アプリケーション・プログラムは、そのプログラムが変更されない限り、またはサポートされない変更がそのデータベースから削除されない限り、以前のバージョンのデータベースにアクセスできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dedbname

データベースのバージョン管理でサポートされない変更が含まれる DEDB の名前。

fld_name

サポートされない変更に関連したフィールドの名前。

rc

データベースのバージョン管理でサポートされない DBD の変更を識別する理由コード。サポートされない変更の追加情報については、以下の表で戻りコードを調べてください。

segmname

サポートされない変更に関連したセグメントの名前。

variable_text

データベースのバージョン管理でサポートされない変更の簡略説明。サポートされない変更の追加情報については、以下の表で戻りコードを調べてください。

表 1. DFS0123E の戻りコードと可変テキストの意味

R C	可変テキスト	意味
0 1	SEG segmname EXPECTED, FOUND SEG segmname INSTEAD	現行バージョンのデータベースのセグメントの配列が、要求されたバージョンのデータベースでの配列と一致しません。 現行バージョンのデータベースに以下のいずれかの変更が行われた場合に、セグメント配列の不一致が起こる可能性があります。 <ul style="list-style-type: none">• 予期されたセグメントが削除された• 予期されたセグメントの前にセグメントが挿入された• セグメントの配列が変更された IMS では、検証プロセスにおいて、予期されたセグメントが直前エラーによってスキップされた場合にもこのメッセージを発行する場合があります。 IMS は、予期されるセグメントではないことが判明した各セグメントに、このメッセージを発行します。
0 2	SEG segmname NEW	要求されたバージョンのデータベースのすべてのセグメントを検証した後に、追加のセグメントが現行バージョンのデータベースに含まれます。
0 3	SEG segmname NOT FOUND	要求されたバージョンのデータベースのセグメントが現行バージョンに見つかりませんでした。このセグメントが見つからなかった理由として、以下のいずれかが考えられます。 <ul style="list-style-type: none">• セグメントが名前変更された• セグメントが削除された• 別のセグメントの検索中にセグメントがスキップされた

表 1. DFS0123E の戻りコードと可変テキストの意味 (続き)		
R C	可変テキスト	意味
0 4	SEG <i>segmname</i> INSERTION RULE CHANGED	このセグメントへのデータ挿入方法を指定する規則が変更されました。
0 5	SEG <i>segmname</i> COMPRESSION EXIT CHANGED	セグメントの圧縮出口ルーチンが変更されました。
0 6	SEG <i>segmname</i> TYPE CHANGED	セグメントのタイプ (直接従属から順次従属) が変更されました。
0 7	SEG <i>segmname</i> SUBSET POINTER(S) CHANGED	サブセット・ポインターが変更されました。
0 8	SEG <i>segmname</i> MINIMUM LENGTH CHANGED	セグメントの最小長が拡大または縮小されました。このメッセージは、セグメントが可変長から固定長に変更される (またはその逆) の場合にも発行されます。
0 9	SEG <i>segmname</i> MAXIMUM LENGTH DECREASED	セグメントの長さが縮小されました。
1 0	SEG <i>segmname</i> DATA CAPTURE EXIT CHANGED	1 つ以上のデータ・キャプチャー出口ルーチンが変更されました。
1 1	FLD <i>fld_name</i> NOT FOUND	古いセグメントのフィールドが、現行バージョンのセグメントに見つかりませんでした。フィールドが削除されたか、前のエラーによってフィールドがスキップされたかのどちらかです。
1 2	FLD <i>fld_name</i> EXPECTED, FOUND FLD <i>fld_name</i> INSTEAD	古いセグメント・バージョンのフィールドとの一致を検索中、異なるフィールドが代わりに検出されました。このメッセージは、予期されたフィールドではないことが検出された各フィールドに対して発行されます。前のエラーのために予期されたフィールドがスキップされた場合、セグメント内の残りの各フィールドに対してメッセージが発行されます。
1 3	FLD <i>fld_name</i> OFFSET CHANGED	要求されたデータベースのフィールドのオフセットが、現行バージョンのデータベース内で変更されました。
1 4	FLD <i>fld_name</i> LENGTH CHANGED	要求されたデータベースのフィールドの長さが、現行バージョンのデータベース内で変更されました。
1 5	FLD <i>fld_name</i> TYPE CHANGED	フィールドで埋め込みのタイプが変更されました。
1 6	FLD <i>fld_name</i> SEQUENCING CHANGED	フィールドが順次から非順次へ (またはその逆) 変更されました。
1 7	FLD <i>fld_name</i> OVERLAPS FLD <i>fld_name</i>	現行バージョンのデータベースのフィールド定義は、要求されたデータベースのフィールド定義と互換性がありません。これは、現行バージョンのデータベースの複数の新規フィールドのオフセットおよび長さが、お互いにオーバーラップするためです。

表 1. DFS0123E の戻りコードと可変テキストの意味 (続き)		
R C	可変テキスト	意味
1 8	SEG <i>segmname</i> MAX LENGTH OF VAR LENGTH SEG INCREASED	可変長セグメントの長さが増加しました。
1 9	SEG <i>segmname</i> SECONDARY INDEX RELATIONSHIP CHANGED	セグメントが、副次索引に関与している状態から、副次索引に関与しない状態に変更されました。
2 0	SEG <i>segmname</i> REFERENCED BY SECONDARY INDEX, CHANGED	副次索引に関与するセグメントの長さが増加したか、新規フィールドが追加されました。
2 1	SEG <i>segmname</i> SDEP CHANGED	SDEP の長さが増加したか、新規フィールドが追加されました。

システムの処置

IMS は、以前のバージョンのデータベースへのアクセスを提供するために必要な内部ブロックを作成できません。データベースの最新バージョンにのみアクセスできます。

IMS は、他のサポートされない変更を引き続き確認します。

プログラマーの応答

データベース内の変更を保持する必要があるか、変更を解除する必要があるかを判別します。

データベース内の変更を保持する場合、既存のアプリケーション・プログラムは、新規データベース構造を使用するように変更されるまで、そのデータベースにアクセスできません。以前のバージョンのデータベースには、アクセスできません。

サポートされない変更をデータベースから削除する必要がある場合、そのデータベースを前のバージョンにリカバリーする必要があります。現行バージョンのデータベースを使用するアプリケーション・プログラムが、データベースを更新していた場合、その更新はすべて失われます。

現行バージョンのデータベースとアプリケーション・プログラムがアクセスを試みていたバージョンのバージョン番号は、メッセージ DFS0006E で示されます。メッセージ DFS0006E は、最後のメッセージまたは DFS0123E メッセージの後にのみ、コンソールに発行されます。

モジュール:

DBFVER10

関連概念

[データベースのバージョン管理 \(データベース管理\)](#)

関連情報

20 ページの『DFS0006E』

REQUESTED VERSION *req_v_nmbr* AND
CURRENT VERSION *cur_v_nmbr* OF DEDB
dedbname ARE INCOMPATIBLE

DFS124 **CANNOT ENQUEUE LTERM ON
LINE**

説明

キュー・モジュールが新規回線上の論理端末をエンキューできませんでした。

オペレーターの応答:

(マスター端末) システム・エラーであることを示しているため、システムをシャットダウンし、問題の分析に備えて、できるだけ早くダンプを取る必要があります。IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:
DFSICL70

DFS0126I **IMS CONNECTION WITH
APPC/MVS HAS BEEN STOPPED**

説明

/STOP APPC コマンドが入力されました。MVS™ との IMS APPC 接続が正常に停止します。APPC/MVS と IMS の間の接続が正常に停止した後、システムからこのメッセージが発行されます。IMS は、LU 6.2 装置からのトランザクションのスケジューリングを停止します。

システムの処置

IMS APPC/MVS LU 6.2 サービスなしで、処理を続行します。これらのサービスが使用不可になるのは、**/STA APPC** コマンドを入力した後です。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFS6ECT0

DFS127 **TOO MANY KEYWORDS**

説明

指定されたキーワードが多すぎました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答: コマンドのフォーマットを再チェックし、不要なキーワードを削除してください。

モジュール

DFSCML70、 DFSICA10、 DFSICLE0、 DFSICLG0、 DFSICLJ0、 DFSICLQ0、 DFSICLU0、 DFSICL10、 DFSICL20、 DFSICL60、 DFSICL70、 DFSICL80、 DFSICL90、 DFSICM00、 DFSIC430、 DFSIDP00、 DFSIDP30

DFS128 **TOO FEW KEYWORDS**

説明

このコマンドで指定されているキーワードが少なすぎました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答: コマンド・フォーマットをチェックし、コマンドを正しく再入力してください。

モジュール

DFSICLJ0、 DFSICLQ0、 DFSICL80

DFS129 **INPUT ERROR, ONLY KEYBOARD
BEING READ**

説明

コンポーネントからの読み取り中に、入力エラーが検出されました。**/RDR** ステートメントをキーボードから入力して、コンポーネントが再始動されるまでは、入力を受け入れられる唯一の装置がキーボードです。

システムの処置

入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 問題を訂正し、**/RDR** ステートメントを入力してください。

モジュール

DFSDN020

DFS130 **INVALID KEYWORD
COMBINATION**

説明

入力された1つ以上のキーワードが、指定されている別のキーワードと非互換でした。

システムの処置:

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

キーワードの組み合わせを訂正し、コマンドを入力し直してください。

モジュール:

DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICL20、DFSICL30、
DFSICL40、DFSICL60、DFSICL80、DFSIC430、
DFSIC470、DFSIDP00、DFSICLN1、DFSICLN2、
DFSICLN3、DFSICLN4

DFS131 PTERM IN/OUT NOT THE SAME

説明

マスター端末論理端末は、その出力物理端末がその入力物理端末としても割り当てられている必要があります。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

端末を正しく再割り当てしてください。

モジュール:

DFSICL70

**DFS132 ALL DATABASE|AREA
PARAMETERS ARE INVALID**

説明

このメッセージは、次のいずれかの理由で出されます。

- データベースまたはエリアの名前が無効である。
- パラメーターは有効であるが、処理に失敗した(例えば、データベース上で割り振りエラーが発生したなど)。
- 指定されたパラメーターは有効であったが、稼働している特定のタイプの IMS がそのパラメーターをサポートしていない。
- /START DB *partname* 中にこのメッセージを受け取り(ここで、*partname* は追加された HALDB 区画)、区画構造の再作成が実行されていない場合は、/START DB *haldbmst* OPEN を発行する(ここで、*haldbmst* は区画のマスター)。その後で、/START DB *partname* を発行するか、新規または再定義された区画のキー範囲のキーを呼び出します。この応答により、区画構造の再作成が実行され、区画が使用可能になります。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

IMS に対して定義されている正しいデータベースまたはエリアの名前を再入力してください。パラメーターが有効な場合は、他のエラー・メッセージについて訂正または調査し、コマンドを再入力してください。コマンドのキーワードまたはパラメーターが、稼働している IMS の種類に有効かどうかを確認してください。

モジュール:

DBFCAR0、DFSDBDR0、DFSICL20、DFSIC430、
DFSIDPJ0、DFSIDP50

DFS133 BLDQ MUST NOT BE PRESENT

説明

BLDQ キーワードは、コールド・スタートでは許可されていません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール

DFSICL20

**DFS134 SHUTDOWN CHECKPOINT NOT IN
PROGRESS, CANNOT PROCESS
COMMAND**

説明

次のいずれかの問題が発生しました。

- /DISPLAY SHUTDOWN 状況コマンドが入力されましたが、チェックポイント・コマンドが発行される前でした。
- /IDLE コマンド(NOSHUT キーワードの指定なし)が入力されましたが、チェックポイント・コマンドが発行される前でした。
- /IDLE NODE コマンドが入力されましたが、/STOP DC コマンド、または /CHE コマンドが発行される前でした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) /IDLE NODE の場合は、/STOP DC コマンド、または /CHE コマンドの発行後に、コマンドを再入力してください。それ以外のコマンドの場合は、チェックポイントの進行中よりも後で、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICLG0、DFSIDP90

DFS135 **INVALID COMMAND ATTRIBUTE
COMBINATION**

説明

指定した1つ以上のコマンド属性が、指定した別の属性と両立しませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

正しい属性の組み合わせを指定して、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSIDP50

DFS136I **COMMAND xxxxxxxxxx INVALID
FOR imstype**

説明

コマンド xxxxxxxxxx は、この IMS タイプ *imstype* ではサポートされていません。コマンド verb のうち最大 10 文字までが、エラー・メッセージに含まれています。*imstype* は、次のいずれかです。

- DBCTL - DBCTL でサポートされないコマンドは、DC に関係しています。
- DCCTL - でサポートされないコマンドは、DB に関係しています。
- XRF ALTERNATE - XRF 代替システムでサポートされないコマンドは、XRF ALTERNATE を操作するのに必要でないコマンドです。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

稼働している IMS の種類に有効なコマンドを検証し、コマンドを再度実行依頼してください。

モジュール:
DFSICL30

DFS137 **CANNOT PROCESS UPDATE
TRANSACTION FROM INQUIRY
TERMINAL**

説明

交換端末が照会のためにサインオンしました。論理端末名は、データベースの更新として定義されていたトランザクション・コードを処理できません。

システムの処置

メッセージは無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) このトランザクションに関して、サブプールまたはサブプール CNT のために再度サインオンしてください。

モジュール:
DFSICIO0

DFS138 **LINE NOT STARTED, CANNOT
PROCESS COMMAND**

説明

マスター端末を新しい回線またはノードに割り当てるためには、その回線が開始済みまたは作動可能状態である必要があります。

オペレーターの応答:

回線、またはノードを開始し、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICL70

DFS139 **PTERM OR COMPONENT IS NOT
OPERABLE**

説明

マスター端末を物理端末またはノードに割り当てるためには、その物理端末が開始済みまたは作動可能であるか、またはそのノードがセッション中である必要があります。

オペレーターの応答

(マスター端末) 物理端末および回線が開始済みで作動可能かどうかを確認してください。そうでない場合は、/RSTART LINE x または /RSTART LINE x または /RSTART LINE x PTERM y コマンドを出してください。端末またはそのコンポーネントが作動不能の場合は、作動可能になった時点で、コマンドを再入力してください。回線および端末が作動可能な場合は、再割り当てされる論理端末が、接続された作動可能なコンポーネントに割り当てられていることを確認してください。コンポーネントのある端末からコンポーネントのない端末に再割り当てするときは、ICOMPT と COMPT のどちらかのキーワードに value=1 を指定して、使用してください。

VTAM: 参照されているノードがセッション中かどうかを確認してください。その上で、割り当てコマンドを再入力してください。

モジュール

DFSICL70

DFS140I **CHECKPOINT IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS COMMAND**

説明

コマンドが入力されました。しかし、以前に入力されたコマンドからのチェックポイント、または自動システム・チェックポイントが進行中でした。

システムの処置:
コマンドは無視されます。

オペレーターの応答:
チェックポイント ID が表示されるのを待って、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DBFARDA0、DFSICL20、DFSICL40、DFSICLQ0

DFS141 **ERESTART IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS COMMAND**

説明

/ERESTART コマンドが現在処理されています。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:
他のコマンドを実行しようとする前に、このコマンドが完全に実行するまで待機してください。

モジュール:
DFSICL20、DFSICL30

DFS142 **NRESTART IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS COMMAND**

説明

コマンドを入力しましたが、/ NRESTART コマンドが処理中でした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:
(ローカル/リモート端末) システムに何らかの入力を試みる前に、このコマンドが完了するのを待ってください。

モジュール:

DFSDNSC0、DFSICL20、DFSICL30

DFS143 **PTERM/LTERM IN USE, CANNOT
PROCESS COMMAND**

説明

指定された端末は、別の端末により使用中です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:
別の端末にサインオンするか、後で再試行してください。

モジュール:
DFSICA10、DFSICL50

DFS145I **DATABASE IS EMPTY AFTER
RELOAD COMPLETED**

説明

HD 再ロード・ユーティリティーが、DFSUINPT データ・セットの読み取り中に論理的なファイルの終わりを検出しました。しかし、再ロードされているデータベースに挿入されるレコードは検出されませんでした。

システムの処置

処理は終了し、戻りコード4が示されます。

プログラマーの応答

適切なデータ・セットがHD再ロード・ユーティリティーに提供されたかどうか、検証してください。データ・セットは、指定されたデータベースに関するHDアンロード・ユーティリティーの以前の実行によって作成されました。

問題判別

2、3、8、35

モジュール

DFSURGL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS146 **TRAN KEYWORD PARAMETER NOT
PRESENT**

説明

トランザクション・キーワードに、トランザクションを指定するパラメーターがありません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール

DFSICL80、DFSICL90、DFSIC430、DFSIDP40

DFS147 **REQUIRED KEYWORD
PARAMETER NOT PRESENT**

説明

このコマンドで指定された1つ以上のキーワードにパラメーターがありませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール:

DFSCML70、DFSICLG0、DFSICLN0、DFSICLQ0、
DFSICL10、DFSICL70、DFSICM00、DFSICV10、
DFSIC460、DFSIDPC0、DFSIDPD0、DFSIDP30、
DFSIDP40

DFS148 **FORMAT KEYWORD PARAMETER
NOT PRESENT**

説明

FORMAT キーワードが入力されましたが、フォーマット設定するデータ・セットを指定するパラメーターが指定されていませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール:

DFSICL20

DFS150 **LINE KEYWORD PARAMETER IS
INVALID**

説明

指定された回線番号が無効であることが検出されました。非数値であるか、1より小さいか、またはシステム定義で指定された最大値より大きい値でした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール:

DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICL30、DFSICL50、
DFSICL70、DFSICL80、DFSIC440、DFSIDP60、
DFSIDP70、DFSIDP80

第7章 DFS メッセージ DFS151-DFS200

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS151 **LTERM KEYWORD PARAMETER IS
INVALID**

説明

指定された論理端末名は、システムに対して定義されていませんでした。

この IMS システムが、IMS Resource Manager を使用するシスプレックスの一部である場合は、その論理端末 (LTERM) 名がオンになって (活動して) いるか、別の IMS システムに所有されている可能性があります。その結果、たとえ LTERM 名がこのシステムに対して静的に定義されていても、この IMS 上でその名前を検出できません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

LTERM パラメーターを訂正して、コマンドを再入力します。

モジュール:

DFSICA10、DFSICLE0、DFSICLJ0、DFSICL70、
DFSICV10

DFS152 **PTERM KEYWORD PARAMETER IS
INVALID**

説明

指定された物理端末が数値以外か、または回線にその相対番号で指定された端末がありません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

定義されたとおりにシステムを確認し、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSICLJ0、DFSICL30、DFSICL50、DFSICL70、
DFSIDP80

DFS153 **DATABASE KEYWORD
PARAMETER IS INVALID**

説明

指定されたデータベースが、このシステム用として定義されているデータベースとして検出できませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) パラメーターを訂正し、コマンドを再入力してください。

DFS154I **COMMAND xxxxxxxxxxxx INVALID;
REQUIRES COMPONENT
component**

説明

コマンド xxxxxxxxxxxx は、指定されたコンポーネント *component* がなく、無効でした。コマンド verb のうち最大 10 文字までが、エラー・メッセージに含まれています。*component* は、次のコンポーネントのいずれかになります。

CQS
FAST PATH
MSC
VTAM

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

指定されたコンポーネントを備えた IMS を始動し、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSICL30、DFSDGSA1、DFSDGSR0

DFS155 **CHECKPOINT KEYWORD
PARAMETER IS INVALID**

説明

再始動コマンドの CHECKPOINT パラメーターとして、ゼロ以外のチェックポイント ID が指定されました。IMS が再始動のために使用する正しいチェックポイントを決定するので、オーバーライドとして受け入れられる 唯一の CHECKPOINT パラメーターは、ゼロのみです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

IMS を初めて開始する (以前にシャットダウンしたことがない) 場合、または IMS コールド・スタート時に取ったチェックポイントを使用して再始動したい場合は、次の処置のいずれかを講じてください。

- CHECKPOINT 0 を指定して、再始動コマンドを再発行する。
- CHECKPOINT キーワードを省略して、再始動コマンドを再発行する。

モジュール:
DFSICL20

DFS156 **TRAN KEYWORD PARAMETER IS INVALID**

説明

次のいずれかの理由で、TRAN キーワード・パラメーターが無効です。

- トランザクション・キーワードに指定された名前が、有効なトランザクション・コードではなかった。
- トランザクション・キーワードの後にパラメーターを許容しないコマンドであるのに、パラメーターが入力された。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

コマンドを正しく再入力してください。

モジュール:
DFSICLE0、DFSIC430、DFSIDP30

DFS157 **PRIORITY KEYWORD PARAMETER IS INVALID**

説明

トランザクションの優先順位は 0 から 14 の範囲である必要があります。したがって、それ以外のパラメーターはすべて無効です。BMP トランザクションの場合は、通常優先順位および限界優先順位を /ASSIGN コマンドで変更することはできません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

コマンドを訂正し、再入力してください。

モジュール:

DFSICL70

DFS158 **PARAMETER ALL IS NOT SUPPORTED IN THIS COMMAND**

説明

このメッセージが生成されるのは、次のいずれかの理由がある場合です。

- PTERM パラメーターが指定されている場合は、LINE ALL は指定できない。
- パラメーター ALL がこの形式のコマンドでサポートされていない。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 特定のパラメーターを指定してコマンドを再度入力してください。LINE ALL を指定してすべての回線にブロードキャストするには、PTERM キーワードを指定しないでコマンドを入力してください。他の /LOCK および /UNLOCK コマンド・フォーマットがないかチェックしてください。

モジュール:

DFSIDPD0、DFSIDP60、DFSICL10、DFSICL80、DFSICL90、DFSICLN2

ダフス 159 **フォーマット・キーワード・パラメーターが無効です**

説明

FORMAT キーワードに指定されたパラメーターが、システムによって認識されませんでした。

システムの処置

コマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) コマンド構文を確認し、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSICL20

DFS160 **MSDB PARAMETER INVALID WITH GLOBAL KEYWORD**

説明

予約済みパラメーター **MSDB** は、GLOBAL キーワードではサポートされていません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

キーワード GLOBAL を指定しないで、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICM40

DFS161 **LIMIT/PROCESS COUNT
KEYWORD PARAMETER IS
INVALID**

説明

限界カウントまたはプロセス・カウントは、ゼロより大で、65536 より小である必要があります。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:
コマンドを正しく再入力してください。

モジュール:
DFSICL70

DFS163 **KEYWORD IS INVALID**

説明

指定された 1 つ以上のキーワードが、入力されているコマンドに対して無効でした。あるいは、使用されたキーワードがシステム上に存在しないオプション・フィーチャー (VTAM または高速機能など) 用でした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:
(ローカル/リモート端末) コマンド・フォーマットを調べて、コマンドを再入力します。

モジュール:
DFSCML70、 DFSICA10、 DFSICLD0、 DFSICLE0、
DFSICLG0、 DFSICLJ0、 DFSICLNO、 DFSICLQ0、
DFSICLU0、 DFSICL10、 DFSICL20、 DFSICL40、
DFSICL60、 DFSICL70、 DFSICL90、 DFSICM00、
DFSICVA0、 DFSIC460、 DFSIDPK0、 DFSIDP00、
DFSIDP80、 DFSICLN1

DFS164 **FIRST KEYWORD IS INVALID**

説明

コマンドの最初のキーワードが、 /ASSIGN コマンドでは無効です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) フォーマットをチェックし、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSCML70、 DFSICL70

DFS165 **COMMAND VERB IS INVALID**

説明

コマンド verb が有効として認識できませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:
コマンドを訂正して再実行してください。

モジュール:
DFSICIO0、 DFSICLP0

DFS166I **CHECKPOINT ID NOT ON LOG RE-
ENTER RESTART COMMAND**

説明

IMS がこのメッセージを出すのは、次の理由がある場合です。

- OLDS/SLDS に指定したチェックポイントが含まれていなかったか、またはチェックポイントが無効であった。
- IMS が再始動チェックポイントを検索している。OLDS データ・セットが使用されていない場合は、PRIOLDS および SECOLDS レコードを RECON から除去する必要があります。アーカイブおよびエラー状況フラグでは、ログが再始動処理から除外されることはありません。

システムの処置

IMS は別の再始動コマンドを待ちます。

オペレーターの応答

再始動コマンド /NRE または /ERE を出し直してください。

モジュール:
DFSBCP0

DFS167 **INVALID RESTART FROM CHKPT
SPECIFIED. RE-ENTER RESTART
COMMAND**

説明

このメッセージが生成されるのは、オペレーターが次のいずれかの無効な組み合わせを要求したときです。

- 単純チェックポイントからの通常ウォーム・スタート
- FREEZE または SIMPLE チェックポイントからの BLDQ タイプの再始動
- PURGE または DUMPQ チェックポイントからの非 BLDQ タイプの再始動
- /ERE コマンドは CHKPT 0 を指定しているが、ログャーによって戻されたチェックポイントはコールド・スタート・チェックポイントではない。

システムの処置

IMS は、別の **RESTART** コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 正しいコマンドを入力するか、コールド・スタートを行ってください。コールド・スタートを行う場合は、IMS を再ロードする必要があります。直前の再始動コマンドで制御ブロックが変更された可能性があるからです。コールド・スタートは、制御ブロックが以前に使用されていないことが前提になります。

問題判別:

4、5

モジュール:

DFSRBCPO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS168I **CHECKPOINTED BLOCKS DO NOT MATCH LOADED BLOCKS. REASON CODE xxxx.**

説明:

メッセージ DFS0168I の説明を参照してください。

関連情報

[76 ページの『DFS0168I』](#)

CHECKPOINTED BLOCKS DO NOT MATCH LOADED BLOCKS. REASON CODE xxxx.

DFS0168I **CHECKPOINTED BLOCKS DO NOT MATCH LOADED BLOCKS. REASON CODE xxxx.**

説明

このメッセージが生成されるのは、指定されたチェックポイントが取られた時点以降に、IMS チェックポイントか、ロードされたブロックのどちらかを変更している場合です。理由コードの説明については、異常終了コード 0168 の項を参照してください。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0168 が示されません。

オペレーターの応答

(マスター端末) システムをコールド・スタートするか、チェックポイントを取るときに使用した中核を使用して IMS を再 IPL し、再度ウォーム・スタートを試みてください。

プログラマーの応答

異常終了コード 0168 の説明を参照してください。

問題判別

4、5

モジュール

DBFEROC0、DBFNRSO、DFSRLP00、DFSFDRI0

関連情報

[0168 \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS169I **INITIALIZATION IN PROGRESS, CANNOT PROCESS COMMAND**

説明

トラッキング・サブシステムのログ・ルーティング機能は、初期設定中で、コマンドに 応答できません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

後でコマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSIDPO0

DFS172 **MULTIPLE PHYSICAL PAGE INPUT MUST BE FROM SAME PARTITION**

説明

複数物理ページ入力処理中に、以前は入力区画ではなかった区画から、入力データが入力されました。入力メッセージが作成されませんでした。

システムの処置

進行中の出力メッセージがある場合は、メッセージ・キューに戻されます。入力データは無視されます。

オペレーターの応答:

進行中の出力メッセージがあった場合は、次のメッセージにその取得を要求してください。

問題判別:

16

モジュール:

DFSCFEIO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS173I	通常完了したジョブは、IRLM がアクティブであった場合にはバックアウトされないことがある
----------------	---

説明

データベース・バックアウトが実行中です。DBRC=C がこの実行に対して指定されましたが、IRLM は直前の実行でアクティブでした。

システムの処置

バックアウト・ジョブはゼロ以外の戻りコードで終了します。

モジュール:

DFSBCKIO

DFS174	AREA DATABASE DATAGROUP KEYWORD NOT PRESENT
---------------	--

説明

キーワード AREA、DATABASE、または DATAGROUP が /DBDUMP または /DBRECOVERY コマンドで示されていません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

コマンドを訂正し、再入力してください。

モジュール:

DFSICM40

デフス 175	DATABASE DATAGROUP キーワード・パラメーターがありません。
----------------	---

説明

データベース または データグループ キーワードの後にパラメーターがありませんでした。

システムの処置

コマンドは無視されます。

オペレーターの応答

コマンドを訂正し、再入力してください。

モジュール:

DFSICM40、DFSIC4C0

DFS177	DATA FOLLOWED EOB OR EOM. REENTER MESSAGE
---------------	--

説明

IBM 2740 モデル 2 バッファーでは、ブロックの終わり (EOB) またはメッセージ終結 (EOM) の後にデータを続けることはできません。オペレーターが、メッセージ全体を正しく再入力する必要があります。

システムの処置

メッセージは無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) メッセージを入力端末にルーティングバックしてください。

モジュール:

DFSDN040

DFS178I	INTERNAL ERROR, CANNOT PROCESS COMMAND
----------------	---

説明

DBRC が次のコマンドのいずれかに関して データベースまたはエリアの名前のリストを戻すために呼び出されたとき、内部エラーを検出しました。

- DBRECOVERY DATAGROUP
- START DATAGROUP
- STOP DATAGROUP

このメッセージは、下記のようなオンライン変更コマンドから生じる内部エラーに対しても出されます。

- /MODIFY ABORT
- TERMINATE OLC
- /MODIFY COMMIT
- INITIATE OLC PHASE(COMMIT)
- /MODIFY PREPARE
- INITIATE OLC PHASE(PREPARE)

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

モジュール:

DFSIC4C0、DFSICM30、DFSICM40、
DFSICV30、DFSICV80、DFSOLC10

DFS179 **TERMINATION IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS COMMAND.**

説明

IMS は終了します。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

モジュール:

DFSIDP00、DFSIC4A0、DFSIC4B0

DFS180 **NO ACTIVE CONVERSATION IN
PROCESS, CANNOT PROCESS
COMMAND**

説明

会話型コマンドが入力されましたが、端末またはユーザーにアクティブ会話がありませんでした。

システムの処置

コマンドは無視されました。

オペレーターの応答:

(マスター端末) ユーザーがページングに関する非自動削除を指定し、会話型応答をデキューしなかった場合は、/EXIT コマンドの入力の結果として、このメッセージが出る可能性があります。この場合は、システムが続行できるようにするには、疑問符文字 (?) を入力して、最後にページングされたメッセージをデキューしてください。

モジュール:

DFSICLH0

DFS181 **INVALID OR MISSING KEYWORD**

説明

必須キーワードが 1 つ以上指定されていなかったか、このコマンドでは無効のキーワードが指定されていました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

問題判別:

フォーマットを確認し、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSIC430、DFSIC460、DFSICLG0、DFSICLH0、
DFSICLQ0、DFSICLW0、DFSICLY0、DFSICL40、
DFSICL50、DFSICL60、DFSICM00、DFSICV10、
DFSIDPB0

DFS182I **INVALID OR MISSING
PARAMETER**

説明

指定されたキーワードの 1 つ以上でパラメーターが欠落していたか、キーワードの指定が無効であったか、いずれかです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

データ・グループに対するコマンドの実行中、またはデータ・グループに対するコマンドの入力後に、このメッセージを受信した場合は、DBRC コマンド **INIT.DBDSGRP GRPNAME(name) DBGRP(dbname)** を使用してそのグループを作成したことを確認してください。

オペレーターの応答:

コマンドを正しいフォーマットで再入力してください。

モジュール:

DFSCML70、DFSICLE0、DFSICLG0、DFSICLH0、
DFSICLJ0、DFSICLK0、DFSICLM0、DFSICLN0、
DFSICLQ0、DFSICLW0、DFSICLU0、DFSICLY0、
DFSICL10、DFSICL20、DFSICL50、DFSICL60、
DFSICL70、DFSICL90、DFSICM00、DFSICM40、
DFSICVA0、DFSIC410、DFSIC420、DFSIC430、
DFSIC450、DFSIC460、DFSIC470、DFSIC480、
DFSIDPLO、DFSIDP00、DFSIDP60、DFSIDP70、
DFSIDP80、DFSIDPB0、DFSIDPH0、DFSIDPI0、
DFSICLN1、DFSICLN2、DFSICLN3、DFSICLN4

DFS183I 会話 ID が **PTERM** または **USER** 上で非アクティブです。コマンドは処理されません。

説明

このコマンドの ID によって指定された会話が、指定された端末またはユーザーに割り当てられていませんでした。したがって、アクションは行われませんでした。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル / リモート端末) 端末またはユーザー指定の ID を訂正し、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSICLH0

DFS184 CONVERSATION IN USE. CANNOT PROCESS COMMAND

説明

次のいずれかの問題が発生しました。

- 会話メッセージが現在キュー内にある、メッセージ処理プログラムによる処理を待っています。
- 最後の出力メッセージが、再始動再同期が不完全なため、一時的に使用不能になっています。
- 「Use Manager LOCK」要求は、会話制御ブロック (CCB) が現在別のプロセスによって使用されているため、失敗しました。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

プログラムからの応答を待ってから、**/HOLD** または **/EXIT** コマンドを再入力してください。再始動再同期が未完了のために会話が使用中の場合、または CCB が別のプロセスで使用されている場合は、この条件が短時間だけ存在します。

モジュール:
DFSICLHO

DFS185 CONVERSATION NOT SCHEDULED, CANNOT PROCESS COMMAND

説明

会話はまだ開始の過程にあります。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

最初のメッセージが完了するのを待って、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICLHO

DFS186 CONVERSATION ID IS INVALID

説明

会話に関する ID として入力されたパラメーターが、長さ 4 文字でなかったか、このシステムでは無効の会話番号であったか、非アクティブ会話に関するものでした。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール:
DFSICLHO

デュプス 187 この **PTERM** 上で保留された会話は
ありません。コマンドを

説明

現行の端末についての会話は保留されていません。保留されていた場合は、**/リリース** または **/終了** コマンドを使用して、既に終了または解放されています。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。

モジュール:
DFSICLHO

DFS188 CONVERSATION IN PROCESS, CANNOT ACTIVATE ANOTHER

説明

端末上である時点でアクティブであることができる会話は、1つだけです。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

新規会話をアクティブにしたい場合は、現行会話の終了か保留かいずれかを行ってから、**/RELEASE** コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICLHO

DFS189 TERMINAL OR USER NOT STOPPED AND IDLE, CANNOT PROCESS COMMAND

説明

端末またはユーザーを停止またはアイドルにするか、あるいはその両方を行った後でなければ、そのコマンドを処理できません。

/DEQUEUE LINE、**LTERM**、**MSNAME**、または **NODE** コマンドの場合は、**PURGE/PURGE1** キーワードが指定されていたら、回線、MSC リンク、またはノードを停止またはアイドルにするか、あるいはその両方を行う必要があります。

PURGE/PURGE1 キーワードが指定された **/DEQUEUE LTERM** では、**STM=YES** オプションが指定された共用キュー環境で動的 **LTERM** に対してコマンドが発行された

場合、ユーザーを停止し、アイドルにする必要があります。

/DEQUEUE LUNAME の場合は、LU 6.2 宛先を停止する必要があります。

/DEQUEUE USER の場合は、PURGE/PURGE1 キーワードが指定されていたら、ユーザーを停止する必要があります。

/EXIT コマンドの場合は、回線またはノードを停止およびアイドルにして、会話がそのセグメントの入力中に終了することがないように、会話型ユーザーを保護する必要があります。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答

(ローカル/リモート端末) **/DEQUEUE LINE**、**/DEQUEUE LTERM**、**/DEQUEUE MSNAME**、および **/DEQUEUE NODE** の場合は、回線/ノード/リンクを停止し、アイドルにしてください。**/DEQUEUE LUNAME** の場合は、LU 6.2 宛先を停止してください。**/DEQUEUE USER** の場合は、ユーザーを停止してください。

PURGE/PURGE1 キーワードが指定された **/DEQUEUE LTERM** では、以下のステップを実行します。

1. **/STOP USER** コマンドを発行して、ユーザーを停止状況に設定します。
2. PURGE/PURGE1 キーワードを指定した **/DEQUEUE LTERM** コマンドを再度発行します。
3. **/STOP USER** コマンドの発行後、**/DEQUEUE LTERM(PURGE/PURGE1)** コマンドの再発行前に IMS チェックポイントがトリガーされたために、DFS189 メッセージでコマンドが再度失敗した場合は、ユーザーを再始動し、ステップ 1 から 2 を繰り返してください。

モジュール:

DFSICLH0、DFSICLJ0、DFSICL50

DFS190 **CANNOT OUTPUT PRINTER 1**

説明

指定された端末コンポーネントが入出力エラーを起こしています。

システムの処置

端末コンポーネントはシャットダウンされます。

オペレーターの応答:

問題を訂正し、出力を続けるための適切なコンポーネント再始動コマンドを入力してください。

モジュール:

DFSDN020、DFSDS020

デュフス 191 **プリンター 2 を出力できない**

説明

示された端末コンポーネントが入出力エラーを引き起こしました。

システムの処置

端末コンポーネントがシャットダウンされます。

オペレーターの応答:

問題を訂正し、適切なコンポーネント再始動コマンドを入力して出力を続行してください。

モジュール:

DFSDN020、DFSDS020

DFS192 **CANNOT OUTPUT PUNCH 1**

説明

指定された端末コンポーネントが入出力エラーを起こしています。

システムの処置

端末コンポーネントはシャットダウンされます。

オペレーターの応答:

問題を訂正し、正しいコンポーネント再始動コマンドを入力して出力を続けてください。

モジュール:

DFSDN020、DFSDS020

DFS193 **CANNOT OUTPUT PUNCH 2**

説明

指定された端末コンポーネントが入出力エラーを起こしています。

システムの処置

端末コンポーネントはシャットダウンされます。

オペレーターの応答:

問題を訂正し、正しいコンポーネント再始動コマンドを入力して出力を続けてください。

モジュール:

DFSDN020、DFSDS020

DFS194W **DATA BASE xxxxxxxx REFERENCED
BY PSB yyyyyyyy IS NOT
REGISTERED WITH DBRC.**

説明

指定された PSB で参照されている、指定されたデータベースは、DBRC に登録されていませんでした。IMS は、このデータベースを、ユーザーがサブシステム専用として指定した場合とまったく同じように取り扱いません。

システムの処置

PSB スケジューリングが続行されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに、このメッセージを通知してください。

プログラマーの応答

次のいずれかの処置を取ってください。

- データベース保全性保護がデータ共用環境で望ましい場合は、データベースを DBRC に登録してください。
- 登録が望ましくない場合は、現在複数のサブシステムにまたがってこのデータベースを更新しているアプリケーション・プログラムが存在しないことを確認してください。

モジュール:

DFSDBAU0

DFS195 UNABLE TO ACQUIRE BUFFER FOR LOOP TEST

説明

使用可能なバッファがないために、ループ・テスト操作を開始できませんでした。

システムの処置

コマンドは処理されません。

オペレーターの応答:

この状態が持続する場合は、システム操作担当者に連絡してください。

モジュール:

DFSICL50

DFS196 INPUT ONLY DEVICE, TEST/ LOOPTEST INVALID

説明

/TEST および /LOOPTEST コマンドは、入力専用端末からは入力できません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール:

DFSICL50

デュフス 197 会話は共用論理端末では許可されません。

説明

複数の物理端末が、端末に割り当てられた論理端末を使用していたか、または出力用に別の端末に割り当てられていました。会話型トランザクションは、このタイプの通信ネットワークから入力することはできません。

システムの処置

要求した会話は開始されません。

オペレーターの応答:

トランザクションが必要な場合は、マスター端末オペレーターに、この PTERM に非共用論理端末を割り当てるように要求してください。

モジュール:

ドゥフスコン

DFS198 SHUTDOWN IN PROCESS

説明

/DISPLAY SHUTDOWN STATUS コマンドが入力されたときは、シャットダウンがすでに進行中でした。シャットダウンが、進行中のメッセージがない時点に達し、アクティブの通信回線も物理端末もないときは、状況要求は無視されます。

システムの処置

シャットダウンが続行されます。

モジュール:

DFSIDP90

ドゥフス 200 IMS が切断されました XXX

説明

1050 交換通信回線で、PRINTER 1 に送ろうとしたときにエラーが発生しました。または、キーボードから読み取りを行おうとしました。3275 交換回線の場合は、訂正不能入出力エラーが発生した。

システムの処置

イムスが端末を切り離しました。回線が再始動された。必要に応じて再接続を試行することができます。

オペレーターの応答

(ローカル/リモート端末) 1050 の場合は、リモート端末のスイッチ設定を確認してください。3275 では、アクションは必要ありません。

モジュール

DFSDS020、DFSDS040、DFSDS050、DFSDS060

第 8 章 DFS メッセージ DFS201 - DFS250

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS201 INVALID LTERM CHAIN FOR
 FORMAT SPECIFIED**

説明

/ASSIGN コマンドで指定された LTERM は、複数物理端末 (LTERM) の入力 LTERM です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 望ましい結果を得るために適切なフォーマットを使用して、コマンドを再入力してください。

モジュール

DFSICL70

DFS202 2770/2265 PROCEDURAL ERROR.

説明

/TRACE SET ON または /TRACE SET OFF コマンドが入力されましたが、モニター・パラメーターが指定されていませんでした。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答:

(端末の入力) 端末をリセットし、操作を再試行してください。

モジュール:

DFSDN070

**DFS203 LOOPTEST NOT VALID FOR THIS
 LINE**

説明

/LOOPTEST コマンドが入力されましたが、交換回線またはリモート・プロセッサ回線、つまり、System/3 または System/7 でした。/LOOPTEST コマンドは、これらのタイプの回線では無効です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

モジュール

DFSICL50

**DFS204 INVALID LTERM ASSIGNMENT
 FOR 2770.**

説明

LTERM 割り当てが 2770 端末に関して行われましたが、無効でした。この端末では、コンポーネント LTERM が入力専用コンポーネント・スロットに割り当てられています。端末は停止しました。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 一時的な問題の迂回として、エラーの LTERM を再割り当てしてください。

プログラマーの応答

端末に関するシステム定義が正しく指定されていたか確認してください。

モジュール:

DFSDN090

**DFS205 STORAGE NOT AVAILABLE FOR
 BUILDING PARTITION CIBS**

説明

MFS は、区画 CIBS (通信インターフェース・ブロック・ストレージ) を作成するためのメッセージを受信しましたが、区画 CIBS を作成するためのストレージを獲得できませんでした。

システムの処置

LTERM に作動不能のマークが付けられ、問題を引き起こしたメッセージがメッセージ・キューに戻されました。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。LTERM の使用を続ける場合は、/START LTERM xxx コマンドを出す必要があります。メッセージは、/DEQUEUE LTERM P1 PURGE1 コマンドを使用して、メッセージ・キューから除去できます。

プログラマーの応答

システム・アクティビティーが低下し、使用可能なストレージが増えたら、出力メッセージを送信するか、IMS で使用可能な主記憶域を増やしてください。

モジュール:
DFSCFE00

DFS206 QBLK D/S LIMIT REACHED. MUST REBUILD.

説明

IMS.QBLKS システム・データ・セット上のシャットダウン域内で、レコードが割り振られました。

システムの処置

内部 **/CHE DUMPQ** コマンドが開始され、ほとんどの場合、システムはシャットダウンします。XRF 環境では、入出力許容データがある VSO 域がある場合は、**/CHE SNAPQ** が開始され、システムはシャットダウンしません。

オペレーターの応答

システムがシャットダウンした場合は、IMS.QBLKS システム・データ・セット用のスペース割り振りを増やし、メッセージの後に続く DUMPQ チェックポイントから再始動してください。2次割り振りは、通常、IMS キュー・データ・セットには適用されません。また、再始動時にこのデータ・セットをフォーマット設定する場合は、FORMAT パラメーターを使用する必要があることにも注意してください。

SNAPQ が発行されている場合は、システムは稼働し続けますが、キュー・データ・セット上のしきい値に近づきます。システムが異常終了する場合は、キュー・データ・セット割り振りを増やし、**/ERE BUILDQ** コマンドを使用して、SNAPQ チェックポイントからシステムを再始動してください。

モジュール:
DFSQMGR0

DFS207I SMSG D/S LIMIT REACHED. MUST REBUILD.

説明

IMS.SHMSG システム・データ・セット上のシャットダウン域内で、レコードが割り振られています。

システムの処置

内部 **/CHE DUMPQ** コマンドが開始され、ほとんどの場合は、システムがシャットダウンします。XRF 環境では、入出力許容データがある VSO 域がある場合は、**/CHE SNAPQ** が開始され、システムはシャットダウンしません。

オペレーターの応答

(z/OS システム) システムがシャットダウンした場合は、IMS.SHMSG システム・データ・セット用のスペース割り振りを増やし、メッセージの後に続く DUMPQ チェックポイントから再始動してください。2次割り振りは、通常、IMS キュー・データ・セットには適用されません。再始動時にこのデータ・セットを再フォーマット設定する場合は、FORMAT パラメーターを使用する必要があります。

SNAPQ が発行されている場合は、システムは稼働し続けますが、キュー・データ・セット上のしきい値に近づきます。システムが異常終了する場合は、キュー・データ・セット割り振りを増やし、**/ERE BUILDQ** コマンドを使用して、SNAPQ チェックポイントからシステムを再始動してください。

モジュール:
DFSQMGR0

関連概念

[メッセージ・キュー・データ・セット障害 \(オペレーションおよびオートメーション\)](#)

関連資料

[/NRESTART コマンド \(コマンド\)](#)

DFS208I LMSG D/S LIMIT REACHED. MUST REBUILD.

説明

IMS.LGMSG システム・データ・セット上のシャットダウン域内で、レコードが割り振られています。

システムの処置

内部 **/CHE DUMPQ** コマンドが開始され、ほとんどの場合は、システムがシャットダウンします。XRF 環境では、入出力許容データがある VSO 域がある場合は、**/CHE SNAPQ** が開始され、システムはシャットダウンしません。

オペレーターの応答

(z/OS システム・オペレーター) システムがシャットダウンした場合は、IMS.LGMSG システム・データ・セット用のスペース割り振りを増やし、メッセージの後に続く DUMPQ チェックポイントから再始動してください。2次割り振りは、通常、IMS キュー・データ・セットには適用されません。再始動時にこのデータ・セットを再フォーマット設定する場合は、FORMAT パラメーターを使用する必要があります。

SNAPQ が発行されている場合は、システムは稼働し続けますが、キュー・データ・セット上のしきい値に近づきます。システムが異常終了する場合は、キュー・データ・セット割り振りを増やし、**/ERE BUILDQ** コマンドを使用して、SNAPQ チェックポイントからシステムを再始動してください。

モジュール:

DFSQC010

関連概念

[メッセージ・キュー・データ・セット障害 \(オペレーションおよびオートメーション\)](#)

DFS209 STOP FOR DEPENDENT REGION IN PROGRESS, CANNOT PROCESS COMMAND.

説明

/STOP または **/PSTOP** コマンドは、現在処理中です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

コマンドを再入力してください。メッセージを受信したのが何回も試行した後である場合は、MVS の変更 (modify) (F) コマンドを使用して IMS システムを終了し、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別:

1、4、6、7、25

モジュール:

DFSIC470

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS210 LTERM MAY NOT BE REASSIGNED

説明

システム・コンソール LTERM および照会 LTERM が再割り当てできません。特定の物理端末に LTERM が 1 つしか割り当てられていない場合は、その LTERM は、物理端末が作動不能でない限り、再割り当てできません。LTERM は、それ独自の位置には再割り当てできません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 異なる LTERM 名を使用して、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSICL70

DFS211 INVALID REASSIGNMENT FOR NAMED LTERM

説明

次の試みがなされました。

- マスター端末を不適格な装置に割り当てる。
- 論理端末を分割することになりかねない、VTAM ノードに関する不適切な割り当てを行う。
- 状況データを保存するために作成されたノードまたはユーザーに関する不適切な割り当てを行う。
- 入力専用装置に出力を割り当てる。

マスター端末は、次のいずれにも割り当てできません。

- ユーザー
- 交換回線
- 入力専用端末
- 出力専用端末
- NTO 端末
- 不在 SLUTYPE1 端末
- LUTYPE6 ノード

VTAM ノードに関して論理端末を分割する割り当ては、許可されていません。コマンドのフォーマットは、次のとおりです。

```
/ASSIGN INPUT LTERM lterm1 TO NODE  
node1  
/ASSIGN OUTPUT LTERM lterm1 TO NODE  
node1  
/ASSIGN LTERM lterm1 TO LTERM lterm2 (こ  
こで、lterm1 または lterm2 は VTAM ノードに関  
連付けられています。)
```

状況データを保存するために作成されただけであり、ログオンもサインオンもなされていないノードまたはユーザーは、**/ASSIGN** コマンドでは使用できません。例えば、端末ログオンを見込んで、状況がトレースのノードを作成する **/TRACE SET ON NODE** コマンドは、**/ASSIGN** コマンドのノード・パラメーターとしては使用できません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) **/ASSIGN** コマンドを有効な形式で入力してください。

モジュール

DFSICL70

DFS211I INVALID REASSIGNMENT FOR NAMED LTERM

説明

メッセージ DFS211 を参照してください。

関連情報

[85 ページの『DFS211』](#)

DFS212 PTERM IN USE, CANNOT PROCESS**説明**

物理端末が会話型モードか、事前設定モードか、応答モードか、あるいはサインオン・サブプールです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 端末がフリーになるか、別の端末を使用するのを待ってください。

モジュール

DFSICLE0、DFSICL70

DFS213 COMMAND FORMAT IS INVALID FOR LTERM**説明**

/ASSIGN コマンド・フォーマットが無効であるか、LTERM 構造が特定の コマンド・オペランドで無効です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) コマンド構文を検証して、コマンドを再入力します。

モジュール

DFSICL70

DFS214 ASSIGNMENT TO SWITCHED LINES NOT ALLOWED**説明**

LTERM は、交換回線に割り当てできません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) LTERM を有効な回線に割り当ててください。

モジュール

DFSICL70

DFS215I**COMMAND INVALID ON THIS IMS SYSTEM****説明**

このコマンドを発行できるのは、コマンド・マスターとして指定された IMS システムだけです。ローカル IMS (MTO、ローカル・ユーザー端末、または AOI) から入力されたすべてのコマンドは、コマンド・マスターとして扱われます。Operations Manager (OM) TSO 単一制御点 (SPOC) から入力されたコマンドの場合は、そのコマンドを処理するために OM によって選択された IMS のうちの 1 つだけがコマンド・マスターとして扱われます。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

/OPNDST コマンドを OM TSO SPOC から入力し、ノードを特定の IMS に記録したい場合は、ROUTE(*imsid*) を指定してください。ROUTE(*imsid*) が指定されていない /OPNDST コマンドは、すべての IMS システムに送られますが、IMS によって処理されるのは、コマンド・マスターとして指定された IMS に送られたコマンドだけです。それ以外の IMS システムは、このメッセージを出します。

モジュール:

DFSICLQ0

DFS216**SYSTEM COMMAND FAILURE, NOTIFY SYSTEM PROGRAMMER****説明**

コマンド・プロセッサが、リカバリー不能のエラーと、コマンド・アクション・モジュールとの無効のインターフェースのどちらかを検出しました。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) メッセージが出る原因となったコマンドを判別して、システム・プログラマーに通知してください。

問題判別:

6、36

モジュール

DFSDBDR0、DFSDBG98、DFSICLC0、DFSICLG0、DFSICLH0、DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICLP0、DFSICLZ0、DFSICL40、DFSICL60、DFSIC410、DFSIC420、DFSIC430、DFSIC440、DFSIC450、

DFSIC460、DFSIC470、DFSIDP60、DFSIDPB0、
DFSIDPH0、DFSIDPK0、DFSICLN1、DFSICLN2

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS217 **7770-3 USER INPUT EDIT ERROR,
LINE STOPPED. LINE xxx PTERM
nnn**

説明

ユーザー・モジュール DFSI7770 が 7770 装置モジュールに渡した 情報に誤りがありました。

システムの処置

回線は停止し、処理は続行されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。回線は再始動しないでください。

モジュール

DFSDS030

DFS218 **7770-3 USER OUTPUT EDIT
ERROR, LINE STOPPED. LINE xxx
PTERM yyy**

説明

ユーザー・モジュール DFSO7770 が 7770 装置モジュールに渡した 情報に誤りがありました。

システムの処置

回線は停止し、IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーに通知してください。回線は再始動しないでください。

モジュール:

DFSDS030

DFS219 **7770-3 USER SIGN ON EDIT
ERROR, LINE STOPPED. LINE xxx
PTERM nnn**

説明

ユーザー・モジュール DFSS7770 は、7770 装置モジュールに正しくない情報を渡しました。

システムの処置

回線は停止し、IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。回線は再始動しないでください。

モジュール:

DFSDS030

DFS220 **NO MESSAGE IS AVAILABLE FOR
REPEAT.**

説明

7770 端末がメッセージの繰り返しを要求しました。以前に呼び出し元に送信されたメッセージがまったくなかったか、最後の出力メッセージの検索中に、READ/WRITE キュー・エラーが発生したかのどちらかです。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 通常の処理を続け、出力メッセージを受信するまでは、繰り返しは使用しないでください。

モジュール:

DFSDS030、DFSICIO0

DFS221 **7770-3 CONTROL UNIT HAS MAKE
BUSY SWITCH SET FOR LINE xxx
PTERM nnn**

説明

LINE xxx の 7770 制御装置の make-busy スイッチがオンになっています。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答:

交換機アクションが予定どおりである場合は、通常の処理を続けてください。このアクションを予定していない場合は、交換機を確実にオフにしてから、LINE および PTERM を START して続行してください。

モジュール:

DFSDS030

DFS222 **INVALID PAGE REQUEST**

説明

「request-for-new-page」エントリーのフォーマットが不適切または誤りです。

システムの処置

要求は無視されます。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答: メッセージ DFS223 を参照してください。

モジュール

DFSCFEPO、DFSPAGE0

関連情報

88 ページの『DFS223』
PAGE REQUESTED NOT CONTAINED IN
CURRENT MESSAGE

DFS223 **PAGE REQUESTED NOT
CONTAINED IN CURRENT
MESSAGE**

説明

ページを要求しましたが、このメッセージの最初のページの前か最後のページの後でした。

システムの処置

要求は無視されます。

オペレーターの応答

(ローカル/リモート端末)

- 装置が 2260 または 2265 の場合
 - このメッセージ内のページに対する要求を再入力するか、
 - 疑問符 (?) を入力してください。
- 装置が 3270 モニターか、3600 モニターか、または MFS DPM フォーマット設定機能を使用する リモート・プログラムである場合
 - 元のメッセージが、まだこの LTERM のキューにあります。
 - この物理端末に割り当てられている LTERM が 1 つだけである場合は、NEXTMSG 要求で (または、3270 または SLU2 装置で PA2 キーを押すと) 元のメッセージの最初の物理ページが得られます。
 - この物理端末に複数の LTERM が割り当てられている場合は、NEXTMSG 要求で (または、3270 または SLU2 装置で PA2 を押すと) この物理端末に割り当てられている次の LTERM に宛てられたメッセージの最初の物理ページが得られます。
 - PA2 キー以外の任意のキー (3270 または SLU2 装置の) を押すと、元のメッセージがまだキューにある間に、新しいメッセージが表示されます。
- 端末がプログラマブルの場合
 - システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

端末がプログラマブルの場合は、ロジックをチェックして、ページング要求がどのようにして IMS に送信されるか判別してください。

モジュール

DFSCFE00、DFSCFEPO、DFSPAGE0

DFS224 **MULTI-PAGE MESSAGE NOT IN
PROCESS, REQUEST IGNORED**

説明

ページング要求がなされましたが、そのとき表示されていたメッセージは、複数ページ・メッセージとしてフォーマットされていませんでした。したがって、要求は実行できません。

システムの処置:
要求は無視されます。

オペレーターの応答:
要求を再実行依頼します。

モジュール:
DFSCFEPO、DFSPAGE0

DFS225A **CTL REGION WAITING FOR DBRC
REGION (name) INIT**

説明

制御領域は、IMS Ready メッセージを発行する前に、必要であれば DBRC 領域が初期設定されるのを待ちます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name
DBRC 領域 JCL が含まれる、SYS1.PROCLIB 内のメンバーの名前。

システムの処置

制御領域は、DBRC 領域が初期設定するのを待ちます。

オペレーターの応答

z/OS コマンド D A,L を使用して、DBRC ジョブが存在しているかどうかを判別してください。存在している場合は、処置は必要ありません。DBRC は最終的にその初期設定を完了し、IMS Ready メッセージが出されます。DBRC JCL にエラーがあった場合は、訂正されたプロシージャーが z/OS コンソールから手動で開始されれば、制御領域を取り消す必要はありません。

プログラマーの応答

JCL エラーの場合は、DBRC 領域 JCL を訂正してください。

モジュール:
DFSXCIC0

**DFS0226A CTL REGION WAITING FOR CQS
(name) RESPONSE TO CONNECT
REQUEST - imsid**

説明

このメッセージは、IMS 制御領域が CQS CONNECT 要求を発行し、CQS からの応答を待っていることを示しています。

このメッセージは、次のシステムに関するメッセージ DFS810 の前に出されます。

- XRF 対応ではない
- XRF アクティブ・システムに関する IMS 再始動時
- XRF 代替システムに関する XRF テークオーバー時

IMS が CQS に接続した後で、CQS 領域が停止した場合は、CQS 領域が再度使用可能になった後で、IMS を CQS に再接続する必要があります。このメッセージは、再接続処理中にも出されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

CQS= パラメーターで指定する名前。これは、CQS 領域 JCL が含まれる SYS1.PROCLIB メンバーの名前と、CQS プロシージャを開始するのに使用する z/OS START コマンドが含まれるメンバーの名前のどちらでもかまいません。

imsid

IMS ID。

システムの処置

制御領域は、CQS 領域が CONNECT 要求に応答するのを待ちます。CQS 領域は、CQS が初期設定を完了し、CQS READY メッセージ CQS0020 を出すまでは、CONNECT 要求を完了できません。

オペレーターの応答

CQS が初期設定中の場合は、処置は必要ありません。CQS が CONNECT 処理を完了します。CQS が CQS 初期設定の一環として WTOR を発行した場合は、WTOR に応答して、CQS 初期設定が完了できるようにしてください。CQS アドレス・スペースが CONNECT 要求に応答する前に障害を起こした場合は、IMS 制御領域に通知され、処置は必要ありません。

モジュール

DFSSQ020

**DFS227A CTL REGION WAITING FOR DLS
REGION (name) INIT**

説明

制御領域は、IMS Ready メッセージを発行する前に、必要であれば DL/I 従属アドレス・スペースが初期設定されるのを待ちます。name は、DL/I 従属アドレス・スペース JCL が含まれる、SYS1.PROCLIB 内のメンバーの名前です。

システムの処置

制御領域は、DL/I 従属アドレス・スペースが初期設定するのを待ちます。

オペレーターの応答

z/OS コマンド **D A,L** を使用して、DL/I 従属アドレス・スペース・ジョブが存在しているかどうかを判別してください。存在している場合は、処置は必要ありません。DL/I 従属アドレス・スペースは最終的にその初期設定を完了し、IMS Ready メッセージが出されます。DL/I 従属アドレス・スペース JCL にエラーがあった場合は、訂正された DL/I 従属アドレス・スペース・プロシージャが z/OS コンソールから手動で開始されれば、制御領域を取り消す必要はありません。

DLISAS 領域が開始済みのように見える場合、実際には DLISAS は DBRC 領域が初期化されるのを待っている可能性があります。DBRC 領域の JCL エラーもチェックしてください。

プログラマーの応答

JCL エラーの場合は、DL/I 従属アドレス・スペース領域 JCL を訂正してください。

モジュール:

DFSXCIC0

**DFS228I DLS RECALL TCB INITIALIZATION
COMPLETE**

または

DLS REGION DYNAMIC ALLOCATION INITIALIZED

または

DLS REGION STORAGE COMPRESSION INITIALIZED

または

DLS REGION INITIALIZATION COMPLETE

説明

DL/I 従属アドレス・スペースにある、示されている機能の初期設定が正常に完了しました。

モジュール

DFSXBC60、DFSXDL10、DFSXDYAO

**DFS0229W CSA PSB POOL SIZE GT OR EQ TO
DLS PSB POOL SIZE**

説明

DL/I 従属アドレス・スペース・オプションが選択されました。IMS 初期設定により、CSA PSB プールのサイズが DL/I 従属アドレス・スペース・ローカル・ストレージ内の PSB プールのサイズ以上であったことが判別されました。

システムの処置

IMS の初期設定が続行されます。

オペレーターの応答

このメッセージを受信したことについて、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

2つの PSB プールのサイズは、制御領域 JCL では CSAPSB= および DLIPSB= パラメーターを使用して指定します。通常は、DL/I 従属アドレス・スペース PSB プールの方が CSA PSB プールよりもはるかに大きくする必要があります。

モジュール

DFSIIINSO

**DFS230 TRAN SPECIFIED WITH ABDUMP
OR TRAN KEYWORD IS NOT VALID**

説明

ABDUMP または TRAN キーワードを使用して指定されたトランザクション名が、有効なトランザクション名ではないか、または欠落していました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

有効なトランザクション名を使用して、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSIC470

DFS231

**ONLY ONE REGION MAY BE
SPECIFIED WITH ABDUMP, TRAN,
CANCEL, AOITOKEN, OR SYNC**

説明

ABDUMP、TRAN、CANCEL、AOITOKEN、または SYNC キーワードが指定されている **/STOP REGION** または **/PSTOP REGION** コマンドで、複数の領域 ID を指定しました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

領域 ID を 1 つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSIC470

DFS232

**CLASS PARAMETER IS MISSING
OR INVALID**

説明

CLASS キーワードを使用して、コマンドが発行されました。クラス・キーワードに続くパラメーターは、以下のいずれかです。

- 無効なクラス番号
- 指定なし

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 正しい CLASS パラメーターを指定して、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSICL70、DFSIC430

DFS233

**UNABLE TO PERFORM TEST, NO
LOGICAL TERMINAL ASSIGNED.**

説明

テキストが、TEST モードの端末から入力されました。この端末には LTERM が割り当てられていないので、テストは実行できません。

システムの処置

入力されたデータは無視されます。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答: 端末に LTERM を **/ASSIGN** するか、**/END** を入力して、端末をテスト・モードから外してください。

モジュール

DFSIC100、DFSCFE00、DFSCFE00、DFSPAGE0

DFS234 INVALID RETURN FROM PAGING

説明

入力メッセージの処理中に、ページング・プロセッサが呼び出しモジュール内の無効のロケーションに戻りました。

システムの処置

入力は無視されます。

プログラマーの応答

この問題は、IMS 論理エラーです。IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

モジュール:
DFSCFEI0

DFS235 SYSIN DATA STREAM CLOSED

説明

SYSIN データ・ストリームが読み取られました。

モジュール:
DFSDN150

DFS236 TERMINAL IS NOT RECEIVING A MESSAGE.

説明

/DEQUEUE コマンドが受信されましたが、メッセージを受信していない端末に関するものでした。LTERM が指定されていた場合は、PTERM が受信している可能性があります。LTERM は受信していませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 適切な PTERM か LTERM、またはその両方のパラメーターが指定されたかどうか、および端末がメッセージを受信していたかどうかを検証してください。LINE が停止し、アイドルになっている場合は、PURGE キーワードを使用して、すべてのメッセージをデキューできます。

モジュール:
DFSICLJ0

DFS237 DUPLICATE KEYWORDS ARE INVALID.

説明

コマンドで使用できるのは、各キーワードのいずれか 1 つのみです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

正しいコマンドを再入力してください。

モジュール

DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICVA

DFS238 LTERM NOT ASSIGNED TO LINE/PTERM

説明

コマンドで指定された LTERM は、指定されている LINE および PTERM に割り当てられていませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

適切な LINE/PTERM/LTERM の組み合わせを識別し、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICLJ0

DFS239 NO PARAMETER ALLOWED WITH PURGE OR PURGE1.

説明

PURGE では、指定された端末に関するすべてのメッセージがデキューされることを要求し、PURGE1 では、指定された論理端末に関するトップ・メッセージがデキューされることを要求します。パラメーターは使用できません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) コマンドを適切なフォーマットで再入力してください。

モジュール

DFSICLJ0

DFS240 UNABLE TO COMPLETE DEQUEUE PURGE/PURGE1

説明

コマンドが、次のいずれかの理由でリジェクトされました。

- OTMA がクライアントに出力メッセージを送信している。OTMA では、クライアントから ACK または NAK による確認を受信するまでは、デキュー処理を実行できません。
- 指定された端末とアプリケーション・プログラムの間に、IMS 会話が存在する。
- メッセージをデキューする過程で、エラーが検出された。DFSQMGRO が戻したコードが 0 または 8 以外でした。
- LU 6.2 装置の場合は、LU 6.2 会話が進行中である。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

IMS 会話が存在する場合は、**/EXIT** コマンドを使用して IMS 会話を終了し、メッセージをデキューしてください。LU 6.2 装置の場合は、装置を停止し、**VTAM V NET, INACT** コマンドを使用して、LU 6.2 会話を終了してください。

IMS 会話が存在しない場合、または LU 6.2 サポートまたは OTMA サポートが使用されていない場合は、IMS システム・プログラマーに通知してください。

デキュー処理のために TPIPE が停止される前に、OTMA クライアントが IMS に ACK または NAK メッセージを必ず送信するようにしてください。ACK または NACK が OTMA クライアントで送信できない場合は、**/STOP OTMA** コマンドを出し、メッセージをデキューしてください。

問題判別:

5、6、7、36

モジュール:

DFSICLJO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS241 **EXCLUSIVE CMD INVALID FOR INPUT TERMINAL**

説明

LINE/PTERM パラメーターを指定した **/EXCLUSIVE** コマンドが適用できるのは、PTERM が入力能力のない端末を記述しているときのみです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

適切な端末タイプおよびパラメーターが使用されていることを確認して、コマンドを再発行してください。

モジュール:

DFSICL50

DFS242 **AUDITOR'S KEY REQUIRED**

説明

2980 モデル 4 端末では、メッセージを受信するために監査員キーの挿入を必要とする出力メッセージが存在します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 監査員キーを挿入し、疑問符 (?) を入力してください。その後、IMS がメッセージの送信を試みます。

モジュール:

DFSDN110

DFS243 **TRANSACTION BUSY-REENTER COMMAND**

説明

現在スケジュールされているトランザクションを指定するオペランドを使用して、**/ASSIGN** コマンドが出されました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

少し時間が経過してから、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSICL70

DFS244 **COMMAND INVALID FROM INPUTTING TERMINAL**

説明

/FORMAT コマンドが入力されていますが、MFS がサポートしていない端末からです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答 (マスター端末)

必要なアクションはありません。

/FORMAT コマンドは、MFS でサポートされていない端末から入力してはなりません。

モジュール

DFSICLK0

DFS245	UNABLE TO FETCH ERROR DEFAULT BLOCK-TEST MODE RESET
---------------	--

説明

MFS テスト・モード中に、出力メッセージの MFS ブロックのフェッチを試みているとき、エラーが発生しました。IMS エラー・デフォルト・ブロック DFSM03 および DFSDF2 のフェッチを試みているときにも、エラーが発生しました。

システムの処置

この端末に関して、MFS テスト・モードがリセットされています。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 次のメッセージに対する要求があると、その結果として、IMS がプロダクション・ライブラリーから MFS ブロックのフェッチを試みます。

プログラマーの応答

障害の説明については、メッセージ DFS271 を参照してください。フォーマット・ブロックが現在、テスト・ライブラリーに追加されている最中である場合は、入出力エラーを招く可能性があります。追加が完了してから、再試行してください。

問題判別

ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01'、ID'FERR' には、診断情報が含まれますが、これが作成されるのは、障害時に **/TRACE** が PTERM に関してオンに設定されている場合です。

モジュール:

DFSCFE00

関連情報

100 ページの『DFS271』

UNABLE TO LOAD ERROR MESSAGE OUTPUT
DESCRIPTION

DFS246	SPACE EXCEEDED-TEST MODE RESET
---------------	---

説明

MFS テスト・モード中に、テスト・フォーマット・ブロックに必要なスペースを超えました。MFS TEST フォーマット・ブロックは、CIOP プールの 16MB 境界の下にロードされます。このメッセージが出されるのは、CIOP プールが 16MB 境界の下でストレージ不足の場合です。

システムの処置

この端末に関して、MFS テスト・モードがリセットされています。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 別の回線の端末も MFS テスト・モードである場合は、端末がアクティブであるか、MFS テスト・モードでないときは、再試行が正常に行われる可能性があります。他に MFS テスト・モードの端末がない場合は、ブロックは定義されている最大スペースを超え、MFS テスト・モードでは使用不能です。さらに、CIOP プールの 16MB 境界の下のストレージの使用を減らせます。

問題判別

ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01'、ID'FERR' には、診断情報が含まれますが、これが作成されるのは、障害時に **/TRACE** が PTERM に関してオンに設定されている場合です。

モジュール

DFSCFE00、DFSCFE10

DFS247	FIELD LENGTH ERROR-INPUT IGNORED
---------------	---

説明

フィールドに関してデータが受信されましたが、表示されているフォーマットの場合に有効なデータ量を超えています。推定原因は、端末オペレーターが CLEAR キーを押したとき、端末が出力受信保護されていなかったことです。

システムの処置

入力データは無視されました。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 直前の出力の受信前に最後に行ったオペレーター処置が、クリアでもなく、電源を切って電源オンするシーケンスでもなかった場合は、ハードウェアまたはソフトウェアの障害である可能性があることを、システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:

DFSCFE00

**DFS248 MID AND DIF ARE
 INCOMPATIBLE-INPUT IGNORED**

説明

アクティブ・フォーマット・データ・セットの MID および DIF が、MFS 言語ユーティリティーによって同時に処理されませんでした。それらは、オンライン編集で使用不能でした。

システムの処置

入力は無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 入力 MSG および FMT を再コンパイルしてください。FMT に、適切な装置タイプおよびフィーチャーに関する DEV ステートメントが組み込まれるようにしてください。また、フェーズ 4 出力がオンライン・フォーマット・データ・セットに挿入されるようにしてください。

モジュール:
DFSCFEIO

DFS249 NO INPUT MESSAGE CREATED

説明

このメッセージが出されるのは、次の場合です。

- 入力データの編集の結果、データのない、システムによって無視されるメッセージになったか、
- 非 3270 装置からの単一セグメント・メッセージが、メッセージ・セグメントの終わりが '*' で取り消されたとき。
- 次のいずれかの理由で、送信エラーが APPC (LU 6.2 会話) で発生したとき。
 - IMS パートナーがデータのないデータ・セグメント (NULL セグメント) を送信した。
 - ユーザー編集出口が、着信メッセージ・セグメントの処理中に、戻りコード 8 (delete all) を出した。
 - ユーザー編集出口が、着信メッセージ・セグメントの処理中に、すべてのセグメントに関して、戻りコード 4 (delete current) を出した。

- IMS パートナーが、IMS 会話型トランザクションの反復時に、データを送信しないで受信コマンドを出した。

システムの処置

入力データは無視され、システムは 処理を続行します。

オペレーターの応答:

このフォーマットの必須入力データすべてを入力してください。必須の入力データすべてが入力されていた場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答:

APPC に関して送信エラーが発生したとき、メッセージが出された場合は、エラーのタイプを判別してください。受諾不能の応答であった場合は、エラーを訂正してください。

モジュール:
DFSCFEIO、DFSICIOO

**DFS250 INTERVENTION REQUIRED, LINE x
 PTERM y**

説明

リモート・テレプロセシング制御装置に 接続されている装置で、要介入状態が検出されました。

システムの処置

システムは、READY 指示を待ちます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 装置を作動可能にすると、操作が再開します。進行中の出力メッセージがあれば、すべて再始動します。進行中の入力があれば、いずれも再入力する必要があります。

モジュール:
DFSDN130

第9章 DFS メッセージ DFS251 - DFS0300I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS251 REMOTE CONTROL UNIT INOPERABLE [LINE x PTERM y]

説明:
情報と処置については、DFS251I を参照してください。

関連情報

DFS251I

hh.mm.ss CONTROL UNIT INOPERABLE LINE x
PTERM y-z aa,bbbb,cc,dd,ee,ff,gg,hh, iii,jjj

DFS251I hh.mm.ss CONTROL UNIT INOPERABLE LINE x PTERM y-z aa,bbbb,cc,dd,ee,ff,gg,hh, iii,jjj

説明

1つ以上の装置のリモート制御装置が作動不能になっています。障害が起こっている端末装置に関連したすべての端末は、停止しています。回線エラーおよびTCUエラーについては、z/OS システム・エラー・メッセージ IEA000I を、3270 装置エラーについては、IMS エラー・メッセージ DFS973I を、それぞれ参照してください。



重要: IMS では、BTAM 端末をサポートしていません。

次の説明は、リモート 3270 装置に該当します。

コード 意味

y-z
このフィールドでは、制御装置に接続されている範囲の PTERM を示します。

aa
このフィールドには、ECB 完了コードが入っています。

bbbb
DECTYPE フィールドでは、障害を起こしている操作のタイプを示します。

cc
DECTPCOD フィールドには、チャンネル・プログラムで最後に実行された CCW からのデータ通信命令コードが示されます。

dd
DECFLAGS フィールドには、BTAM から IMS に渡されたフラグ・バイトが入っています。このフィールドには、障害の原因についての情報が含まれている場合があります。

ee
DECSENSO フィールドには、CSW の状況が装置チェックを示している場合は、DECB からのセンス情報が入っています。

ff
DECERRST は、DECB からのエラー状況フィールドです。

gg
DECCSWST は、DECB からの CSW 状況フィールドです。

hh
このフィールドには、装置依存のモジュール・コードが入っています。3270 装置依存のモジュールがデータ通信ネットワークのコンポーネントをシャットダウンすると、装置依存のモジュールがコンポーネントをシャットダウンした理由を、装置依存のモジュールの理由コードが示します。装置依存のモジュール・コードについては、後で説明します。

iiii
このフィールドには、BSCK 戻りコードが入っています。このコードは、BSC チェック・ルーチン (DFSBSCKO) から装置依存のモジュールに渡されます。BSC チェック・ルーチンは、入出力完了を分析し、DECB フィールドの内容に応じて、固有の戻りコードを装置依存のモジュールに渡します。

注: BSCK 戻りコード X'0108' が、リモート制御装置からの選択タイムアウトのために設定されます。ポートが存在しない場合は、使用不能 PTERMS は組み込まない /START コマンドを発行する必要があります。

jjj
このフィールドには、3270 装置からの SENSE/STATUS 情報が入っています (ただし、該当する場合)。SENSE/STATUS コードの説明については、「IBM 3270 Information Display System」を参照してください。

装置依存のモジュール・コード (フィールド hh) には、それぞれ次の意味があります。

コード (10 進数) 意味

01
受信したデータがテキスト開始/ヘッダー開始 (STX/SOH) で開始しなかったか、伝送終了ブロック (ETB) またはテキスト終了 (ETX) で終了しませんでした。

- 02** 3270 から受信したアテンション識別 (AID) 文字が無効でした。
- 03** 次のいずれかが発生しました。
- Start/stop (S/S) READ が実行されましたが、受信されたのは S/S メッセージ以外のデータでした。
 - S/S READ で読み取られたバイト数が 9 バイト未満でした。
 - S/S メッセージで STX 文字が正しい場所にありませんでした。
 - S/S メッセージにある装置アドレスが通信端末ブロック (CTB) にある装置アドレスと一致しません。
- 04** DFSBCKO から CLBTEMP5 で渡された戻りコードが無効でした。
- 05** 受信した S/S の組み合わせが無効でした。
- 06** コピー操作に関連した S/S が受信されました。しかし、進行中のコピー操作がなかったか、コピー操作でエラーが発生し、装置依存のモジュールが無効の DECTYPE またはデータ・ストリームを検出しました。
- 07** 3275 ビデオ・モニターからの割り込み要求の受信が無効でした。
- 08** 装置終了 S/S メッセージが受信されましたが、装置依存のモジュールが READ セットアップも READ 割り込み論理でもありません。
- 09** 読み取られたバイト数が 5 バイト未満でした。
- 10** データ・ストリームにある装置アドレスが、この制御装置または回線上の装置では無効です。
- 11** 一時エラーに対する試行回数を使い尽くされました。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 誤動作を訂正し、LINE x PTERM y に関するリモート制御装置に関連したすべての端末を再始動してください。進行中の操作があれば、いずれも再始動してください。

問題判別:

1、6、23、24

モジュール:

DFSC3270 (DFS251I)、DFSDN030、DFSDN130 (DFS251)

関連資料

z/OS: IEA000I

関連情報

358 ページの『DFS973I』

LINE xxx, PTERM yyy, aaa, {G|S}, tttt, ssss, conditions

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS252 ATTEMPT TO OUTPUT DETECTED
 BUSY CONDITION**

説明

リモート 3271/3275 または 3275 ダイアル制御装置に接続されている装置で、使用中状態が検出されています。使用中状態は、検出された時点では正常と見なされず、通常は、画面が無保護時に端末で試みられる操作の結果です。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 進行中の出力メッセージがあれば、このエラー・メッセージの後ですべて送信されず、無保護画面での端末操作の実行は控えてください。

モジュール:

DFSDN130、DFSDS060

DFS253 TCU INOPERABLE LINE x PTERM y

説明

説明と処置については、メッセージ DFS253I を参照してください。

関連情報

DFS253I

hh.mm.ss TCU INOPERABLE LINE x PTERM y-z
aa,bbbb,cc,dd, ee,ff,gg,hh,iii,jjjj

**DFS253I hh.mm.ss TCU INOPERABLE LINE
 x PTERM y-z aa,bbbb,cc,dd,
 ee,ff,gg,hh,iii,jjjj**

説明

LINE x PTERM y に関する 270X が作動不能です。回線上のすべての PTERM に作動不能のマークが付けられ、回線はアイドル状態に置かれています。回線エラーおよび TCU エラーについては、z/OS システム・エラー・メッセージ IEA000I を、3270 装置エラーについては、IMS エラー・メッセージ DFS973I を、それぞれ参照してください。



重要: このメッセージの DFS253I 形式が出されるのは、リモート 3270 回線の場合のみです。



重要: IMS では、BTAM 端末をサポートしていません。

次の説明は、リモート 3270 回線に該当します。

**コード
意味**

y-z

このフィールドでは、回線に接続されている範囲の PTERM を示します。

aa

このフィールドには、ECB 完了コードが入っています。

bbbb

DECTYPE フィールドでは、障害を起こしている操作のタイプを示します。

cc

DECTPCOD フィールドには、チャンネル・プログラムで最後に実行された CCW からのデータ通信命令コードが示されます。

dd

DECFLAGS フィールドには、BTAM から IMS に渡されたフラグ・バイトが入っています。このフィールドには、障害の原因についての情報が含まれている場合があります。

ee

DECSSENSO フィールドには、CSW の状況が装置チェックを示している場合は、DECB からのセンス情報が入っています。

ff

DECERRST は、DECB からのエラー状況フィールドです。

gg

DECCSWST は、DECB からの CSW 状況フィールドです。

hh

このフィールドには、装置依存のモジュール・コードが入っています。3270 装置依存のモジュールがデータ通信ネットワークのコンポーネントをシャットダウンすると、装置依存のモジュールの理由コードが CLBTEMP1 フィールドに入り、装置依存のモジュールがそのコンポーネントをシャットダウンした理由を示します。

iii

このフィールドには、BSCK 戻りコードが入っています。このコードは、BSC チェック・ルーチン (DFSBSCKO) から装置依存のモジュールに渡されず、BSC チェック・ルーチンは、入出力完了を分析し、DECB フィールドの内容に応じて、固有の戻りコードを装置依存のモジュールに渡します。

jjj

このフィールドには、3270 装置からの SENSE/STATUS 情報が入っています (ただし、該当する場合)。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 誤動作を訂正し、/START または /RSTART LINE x PTERM ALL コマンドを出してください。

問題判別:

1、6、23、24

モジュール:

DFSC3270 (DFS253I)、DFSDN130 (DFS253)

関連資料

[z/OS: IEA000I](#)

[z/OS: 例外条件およびセンス情報](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS254

BUFFER SIZE INCREASED

説明

3270 ローカル回線グループ用のバッファー・サイズが十分ではなかったため、入力メッセージが収まりませんでした。その後のすべてのメッセージに対しては、バッファー・サイズが 300 バイト 増やされています。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

このメッセージが繰り返される場合は、3270 ローカル回線に関する IMS システム定義時に指定された BUFSIZE パラメーターの値を大きくするか、端末で入力されるデータの量を減らしてください。

モジュール:

DFSDN140

DFS255

COPY NOT ALLOWED

説明

プリンターへのビデオ・モニターのコピー要求が出されています。しかし、モニターのバッファーは、プログラム・アクションでロックされていました。

オペレーターの応答:

モニターのロックが意図されたものである場合は、現行モニターのコピーは不可能です。現行モニターのコピーが必須である場合は、ご使用のシステムの 3270 端末メッセージ・フォーマットの開発担当責任者に連絡してください。

モジュール:

DFSDN130

DFS256

PRINTER FOR COPY NOT CURRENTLY AVAILABLE

説明

3270 端末上でコピー操作が要求されましたが、その時に印刷装置が使用できませんでした。あるいは、介入要求が 3275 のプリンター・コンポーネントによって戻されました。

オペレーターの応答

指定された 端末からのコピー操作に使用できるプリンターの候補を表す PTERM を、マスター端末オペレーターに開始させてください。3275 装置のプリンター・コンポーネントに要介入状態が存在する場合は、プリンターを作動可能にしてください。

問題判別

端末を含む回線に関して、/DISPLAY LINE x PTERM ALL を行ってください。

問題判別:

4、36

モジュール:

DFSDN130、DFSDS060

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS257	ERROR OCCURRED DURING LAST TRANSMISSION.
---------------	---

説明

3270 端末への最後の入力または出力の伝送中に、入力エラーまたは出力エラーが発生しました。

オペレーターの応答:

最後の入力メッセージを再入力するか、該当するキーを押して、最後のメッセージが再送されるようにしてください。

問題判別:

1、6、23

モジュール:

DFSDN130、DFSDS060

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS258	UNABLE TO LOCATE MESSAGE DESCRIPTION-INPUT IGNORED
---------------	---

説明

メッセージ入力記述子ブロックまたは装置入力形式ブロックのフェッチを試みている最中に、入出力エラー

が発生したか、ブロックがアクティブ・フォーマット・データ・セットになかったか、フェッチされたブロックがメッセージ入力記述子ブロックではなかったか、いずれかです。

システムの処置

入力データは無視されました。

オペレーターの応答:

画面を消去し、/FORMAT コマンドを入力してください。IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール:

DFSCFEIO

DFS259	NO MATCHING STATION CTB.
---------------	---------------------------------

説明

IMS リモート・ステーション・サポートに問題が発生しました。ポーリング・リストのアドレスと一致するステーション通信端末装置ブロック (CTB) が検出できませんでした。通信は終了しました。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:

DFSCRSS0

DFS260	PERMANENT TRANSMISSION ERROR LINK x
---------------	--

または

PERMANENT TRANSMISSION ERROR LINE x PTERM y

説明

メッセージによって識別されているリモート・ステーション、または識別されているリンク上にある別の IMS システムとの通信中に、永続伝送エラーが発生しました。

注: このメッセージの LINK x 部分は、複数システム結合に関係しています。

システムの処置

IMS はリンク上のデータ・トラフィックを停止します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 問題を修正したら、/START LINE x PTERM y または /RSTART LINK x コマンドを使用して、通信を再開してください。

プログラマーの応答

入出力エラーの原因を判別してください。

モジュール:

DFSCRST0、DFSCS7T0

DFS261 **INVALID DATA FLAGS LINE x**
 PTERM y

説明

IMS リモート・ステーション・サポートがエラーを検出しました。データ・ブロック内のフラグに矛盾がありました。つまり、メッセージの進行中に、最初のセグメントが示されました。通信は終了しました。

オペレーターの応答:

IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:

DFSCRSV0

DFS262 **MESSAGE STARTED DURING**
 SHUTDOWN. LINE x PTERM y

説明

IMS リモート・ステーション・サポート。IMS が、即時シャットダウン要求を送信したか、シャットダウン要求またはシャットダウン完了のいずれかを受信しました。その後、メッセージの最初のセグメントを受信しました。通信は終了しました。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:

DFSCRSV0

DFS263 **INVALID TERMINAL IDENTIFIER**
 IN DATA BLOCK LINE x PTERM y

説明

IMS リモート・ステーション・サポートで、IMS システム定義に定義されていない端末 ID が、受信したデータ・ブロックに入っていました。通信は終了しました。

オペレーターの応答:

IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール

DFSCRSV

DFS264 **INVALID TERMINAL ID IN STATUS**
 CHANGE SEGMENT LINE x PTERM
 y

説明

IMS リモート・ステーション・サポート。IMS システム定義に対して定義されていない端末 ID が、受信した状況変更セグメントに入っていました。通信は終了しました。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:

DFSCRSX0

DFS265 **INVALID TERMINAL ID IN I/O**
 SYNCH SEGMENT LINE x PTERM y

説明

IMS リモート・ステーション・サポートで、IMS システム定義に定義されていない端末 ID が、受信した入出力同期セグメントに入っていました。通信は終了しました。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:

DFSCR2Y0

DFS266 **OUTPUT NOT IN PROGRESS LINE x**
 PTERM y

説明

IMS リモート・ステーション・サポートで、進行中の出力メッセージがない、またはシステム・メッセージ (Q3 出力) が進行中である端末を指定するエラー・メッセージが受信されました。通信は終了しました。

オペレーターの応答:

IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:

DFSCR2Z0

DFS267 **INVALID TERMINAL IDENTIFIER**
 IN ERROR MESSAGE LINE x
 PTERM y

説明

IMS リモート・ステーション・サポートで、IMS システム定義に対して定義されていない端末 ID が、受信したエラー・メッセージに入っていました。通信は終了しました。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答:

端末 ID を訂正してください。

モジュール:
DFSCR2Z0

**DFS268 INVALID BLOCK FORMAT LINE x
 PTERM y**

説明

IMS リモート・ステーション・サポート。次のいずれかの問題が発生しました。

- ブロック内の最初の 2 文字が DA でも SY でもない。
- 入力ブロック変換ルーチンで、受信したブロックを伝送コードから EBCDIC へ変換不能であった。
- 長さが入力ブロックの終了を超えていた。

リモート・ステーションとの通信は終了します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:

DFSCRSU0、DFSCRSV0、DFSCS7U0

**DFS269 SHOULD NOT OCCUR TYPE ERROR
 ON LINK x**

または

SHOULD NOT OCCUR TYPE ERROR ON LINE x

説明

IMS リモート・ステーション・サポートがエラーを検出しました。このエラーは、次の問題のいずれかによって起こることがあります。

- ハードウェアの誤動作
- z/OS システム定義に対する無効な指定
- インテリジェント・リモート・ステーションに常駐するプログラムのプログラミング論理エラー

注: このメッセージの LINK x 部分は、複数システム結合フィーチャー・システムに関係しています。

システムの処置

IMS は、回線またはリンクを停止します。

オペレーターの応答

(マスター端末) 問題を修正したら、**/START LINE x** または **/RSTART LINK x** コマンドを使用して、通信を再開してください。

モジュール:

DFSCMS70

**DFS270 PARTITIONED FORMAT SENT TO:
 [NODE nodename|LINE x PTERM
 y]**

説明

MFS は、区画記述子ブロック (PDB) を指定した装置出力形式 (DOF) を使用してメッセージをフォーマット設定するよう指示されましたが、メッセージが送信された先が SLU2 端末ではありませんでした。

システムの処置

LTERM に作動不能のマークが付けられ、問題を引き起こしたメッセージがメッセージ・キューに戻されました。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーは、メッセージを SLU2 端末に送信し、正しい装置出力形式 (DOF) を使用する必要があります。LTERM の使用を続ける場合は、**/START LTERM xxx** コマンドを出す必要があります。このメッセージは、**/DEQUEUE LTERM P1 PURGE1** コマンドを使用して、メッセージ・キューから除去できます。

プログラマーの応答

メッセージを SLU2 端末に送信してください。

問題判別

診断情報が含まれているログ・レコード X'67' (サブレコード X'01'、ID'FERR') は自動的に作成されます。

モジュール:

DFSCFE00

重大度:

ありません。

**DFS271 UNABLE TO LOAD ERROR
 MESSAGE OUTPUT DESCRIPTION**

説明

システムは、エラー・メッセージ出力記述をロード不能でした。

システムの処置

IMS デフォルト・メッセージ出力記述またはそれに関連する装置出力形式のブロック・フェッチが失敗しました。要求されたメッセージ出力記述または装置出力形式に関しても、フェッチは失敗しました。LTERM に QERROR 状態で作動不能のマークが付けられ、問題を引き起こしたメッセージがメッセージ・キューに戻されました。このメッセージは、関与した LTERM がマス

ター端末である場合、z/OS システム・コンソールへ送信されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。MTO は、IMS デフォルト・メッセージ出力記述および装置出力形式がフォーマット・ライブラリーにあり、入出力エラーが発生していないか確認する必要があります。LTERM の使用を続ける場合は、/START LTERM xxx コマンドを出す必要があります。このメッセージは、/DEQUEUE コマンドを使用して、メッセージ・キューから除去できます。

プログラマーの応答

ブロック・フェッチ・エラーを起こす可能性のある原因については、メッセージ DFS057I の説明を参照してください。

問題判別

診断情報が含まれているログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01'、ID'FERR' は自動的に作成されます。

モジュール:
DFSCFE00

関連情報

43 ページの『DFS057I』

REQUESTED BLOCK NOT AVAILABLE:
blockname RC = reason

DFS272 **FORMAT BLOCK LEVEL ERROR-
INPUT IGNORED**

説明

入力を処理するためにフェッチされた DIF ブロックが、メッセージのフォーマットに使用された MID ブロック、または装置のフォーマットに使用された DOF ブロックと同じレベルではありませんでした。MFS テスト・モードでは、端末への最後の出力以降に、新しいフォーマット・ブロックがテスト・ライブラリーに追加されています。MFS テスト・モードでない場合は、端末への最後の出力以降に、/MODIFY または INITIATE OLC コマンドによるフォーマット・データ・セットの切り替えで、フォーマット・ブロックが変更されています。

システムの処置

入力データは無視されました。

オペレーターの応答

画面をフォーマットし、入力を再入力してください。最後の出力がオペレーターによって論理的にページングされた場合でも、使用可能であることに変わりはないので、次のメッセージを要求してください。最後の出力メッセージが完全に(全ページ)送信されなかった場合でも、使用可能であることに変わりはないので、次のメッセージを要求してください。

モジュール:
DFSCFE10

DFS273 **QUEUE ERROR ON MESSAGE
DELETION**

説明

進行中のメッセージの削除を試みている最中に、エラーが発生しました。入出力エラーがメッセージ・キュー・データ・セットで発生しているか、内部論理エラーが発生しているか、どちらかです。

システムの処置

入力データは無視されました。

オペレーターの応答:

IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール:
DFSCFE00

DFS274 **LOAD MODULE DATASET NOT
OPEN LINE x PTERM y**

説明

System/7 がロード・モジュール要求を発行しましたが、ロード・モジュール・データ・セットが開けませんでした。通信は終了しました。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール:
DFSCS7B0

DFS275 **BUFFER TOO SMALL FOR IPL
REQUEST LINE x PTERM y**

説明

System/7 が IMS からの IPL シーケンスを要求し、回線用に指定された入力バッファの大きさが不十分です。

システムの処置

通信は終了します。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール:
DFSCS7B0

**DFS276 TRANS ERROR DURING LOAD
 MODULE TRANSMISSION LINE x
 PTERM y**

説明

System/7 にロード・モジュールを伝送している最中に、永続伝送エラーが発生しました。

システムの処置

通信は終了します。

オペレーターの応答:

必要に応じて、システムの IPL を実行します。IMS マスター端末から **/START line x pterm y** コマンドを使用して通信を開始してください。System/7 にロード要求を再発行させてください。

モジュール:
DFSCS7B0

**DFS277 I/O ERROR ON THE SYSTEM/7
 LOAD MODULE DATASET LINE x
 PTERM y**

説明

System/7 ロード要求を処理している最中に、入出力エラーがロード・モジュール・データ・セットで発生しました。

システムの処置

通信は終了します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール:
DFSCS7B0

**DFS278 MODULE REQUESTED BY
 SYSTEM/7 DOES NOT EXIST LINE x
 PTERM y**

説明

System/7 がロードを要求したモジュールが、ロード・モジュール・データ・セットで検出されませんでした。

システムの処置

通信は終了します。

オペレーターの応答:

IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール:
DFSCS7B0

**DFS279 LEVEL KEYWORD IS MISSING OR
 HAS INVALID PARAMETER**

説明

LEVEL キーワードはコマンドで必須であるが、入力されなかったか、パラメーターが複数指定されたか、または 1 から 4 の範囲の数値が指定されていません。

オペレーターの応答

フォーマットを訂正し、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICLN0

**DFS280 SET KEYWORD IS MISSING OR
 HAS INVALID PARAMETER**

説明

入力されたコマンドには SET キーワードが必要ですが、提供されませんでした。キーワードにパラメーターが複数指定されていたか、パラメーターが ON または OFF ではありませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

エラーを訂正し、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICLN0、DFSICLN4

**DFS281 MODULE KEYWORD IS MISSING
 OR HAS INVALID PARAMETER**

説明

入力されたコマンドにはモジュール・キーワードが必要ですが、提供されていないか、指定された DDM, MFS、または ALL 以外のパラメーターがあります。

オペレーターの応答

エラーを訂正し、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICLN0

DFS282 TEST MFS NOT OPERATIVE

説明

MFS TEST 機能がシステム定義に含まれていなかったか、テスト・フォーマット・データ・セットを IMS の初期設定時に開くことができませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

問題判別:

16、36

モジュール:

DFSICL50

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS283	TEST MFS NOT SUPPORTED FOR THIS TERMINAL
---------------	---

説明

TEST MFS が非 MFS 端末用として 指定されました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) コマンドを訂正し、正確に再入力してください。

モジュール:

DFSICL50

DFS284	CANNOT START TEST MFS MODE WITH MESSAGE IN PROGRESS
---------------	--

説明

メッセージの処理中は、状況は変更できません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

端末がアクティブでないとき、または停止しているときに、コマンドを再発行してください。

モジュール:

DFSICL50

DFS285	CANNOT STOP TEST MFS MODE WITH MESSAGE IN PROGRESS
---------------	---

説明

メッセージの処理中は、状況は変更できません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) 端末がアクティブでないとき、または停止しているときに、コマンドを再発行してください。

モジュール:

DFSICL50

DFS286	SECURITY VIOLATION LINE x PTERM y
---------------	--

または

SECURITY VIOLATION NODE *nodename*[USER *username*]

または

SECURITY VIOLATION USERID *userid* PROGRAM *programname*

説明:

このメッセージは DFS286I に関連しています。詳細な説明および処置については、そのメッセージを参照してください。

関連情報

[DFS286I](#)

SECURITY VIOLATION USERID *userid*
PROGRAM *programname*

DFS286I	SECURITY VIOLATION USERID <i>userid</i> PROGRAM <i>programname</i>
----------------	---

または

SECURITY VIOLATION LINE x PTERM y

または

SECURITY VIOLATION USERID *userid*

説明

ユーザーがマスター端末で通知を要求したとき、セキュリティ・エラーのしきい値カウントに達していました。このしきい値に達したのは、次のいずれかの場合です。

- LINE x PTERM y
- NODE *nodename* (USER *username*)
- USERID *userid* PROGRAM *programname*

IMS が NODE *nodename* を使用して USER *username* を発行するのは、端末へのサインオンに **/SIGN** コマンドが使用された場合です。IMS が USERID *userid* PROGRAM *programname* を発行するのは、アプリケーション・プログラムが ICMD 呼び出しを発行し、そのためにセキュリティ・エラーが発生した場合です。USERID *userid* は、ICMD 呼び出しを発行したプログラムを呼び出したユーザーのユーザー ID です。ユーザー ID は、プログラムが実行中であった領域のタイプ、および Get Unique (GU) 呼び出しが行われたかどうかに応じて、次のようになります。

領域タイプ	GU の実行	ユーザー ID
BMP	N/A	BMP JCL USER
DBT	N/A	PAPL で渡されるセキュリティ・トークン
IFP	NO	プログラム名
IFP	YES	ユーザー ID (端末サインオンの場合) またはトランザクションが 発行された LTERM 名
MPP	NO	プログラム名
MPP	YES	ユーザー ID (端末サインオンの場合) またはトランザクションが 発行された LTERM 名
BMP	NO	BMP JCL USER
BMP	YES	ユーザー ID (端末サインオンの場合) またはトランザクションが 発行された LTERM 名

システム定義を使用して IMS に対して定義されているリソースの場合、セキュリティしきい値は、COMM、IMSGEN、または SECURITY マクロで SECCNT キーワードを使用して定義されます。動的リソースの場合は、SECCNT パラメーターがゼロでなければ、常にしきい値 1 が使用されます。しきい値に達する可能性は、DL/I CMD 呼び出しの発行を試みる 無許可トランザクションにも起因し、この場合は、かわりのあるトランザクション・コードが識別されます。

システムの処置

処置は、マスター端末オペレーターが決定します。

このユーザー ID は、スケジュールしようとしているリソースに対する許可を持っていることを確認してください。

オペレーターの応答:

(マスター端末) ご使用のセキュリティー手順で指示されている通りに処理してください。

モジュール:

DFSCMD30、DFSICLZ0、DFSICIO0

関連情報

DFS286

SECURITY VIOLATION LINE x PTERM y

DFS0287A **THERE IS NO SECONDARY INDEX TO PROCESS. DO NOT USE MIGRATX.**

説明

MIGRATX=YES が指定されましたが、マイグレーションしようとしているデータベースに副次索引がありません。

システムの処置

HD 再編成アンロード・ユーティリティー・ジョブは、戻りコード 16 で終了しました。

ユーザーの処置:

副次索引のないデータベースをマイグレーションしようとしている場合は、SYSIN 制御カードに MIGRATX=YES を指定しないでください。

モジュール:

DFSURGU0

DFS0288E **HISAM REORG UTILITIES CANNOT BE USED FOR FAST PATH SECONDARY INDEX DATABASE, XXXXXXXX**

説明

HISAM 再編成アンロード・ユーティリティーまたは再ロード・ユーティリティー (DFSURULO または DFSURRLO) への入力として、高速機能副次索引データベース (FPSI DB) を指定することはサポートされません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

XXXXXXXX

高速機能副次索引データベースの名前。

システムの処置

バッチ・ジョブは、IMS 異常終了 0288 で異常終了します。

プログラマーの応答

適切なユーティリティーを使用して、高速機能副次索引データベースを再編成またはリカバリーします。FPSI DB を再編成するには、IDCAMS REPRO が有効です。FPSI DB をリカバリーするには、IMS リカバリー・ユー

ティリティーである DFSURDB0、または IMS ベンダーによる索引ビルダー・ツールのいずれかを使用します。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

0288 (メッセージおよびコード)

DFS289 **INVALID VALUE FOR SEGNO/
SEGSIZE SPECIFIED**

説明

以前に入力されたコマンドには、SEGNO または SEGSIZE キーワードがあり、無効なパラメーターが指定されていました。このパラメーターは、キーワードの直後に続きます。SEGNO および SEGSIZE の有効な値は、0 から 65,535 (両端を含む) の範囲です。

システムの処置

コマンドは処理されません。別のコマンド、メッセージ通信、または トランザクションが入力できます。

オペレーターの応答:

(端末の入力) SEGNO または SEGSIZE パラメーターとして指定される正しい値を判別し、コマンドを再入力してください。

問題判別

入力したコマンドと、得られた応答のコピーを手元に用意し、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

モジュール:

DFSICL70

DFS290 **NO MESSAGES AVAILABLE FOR
OUTPUT**

説明

IMS MFS メッセージ先送り保護 (Message Advance Protect)、または VTAM 受信準備済み標識を IMS が受信し、使用可能なメッセージがなかったか、端末が出力不能の特殊な状況にあります。

システムの処置

MFS の場合は、端末がビデオ装置であれば、ページ保護状況に置かれます。VTAM 受信準備済み標識で、出力が静止されていない場合は、ビデオ・コンポーネントがあれば、無保護状況に置かれたままです。

オペレーターの応答:

メッセージが予期されている場合は、短時間待って、要求を再入力し、次のメッセージ要求を入力して待つか、適切なコマンドを入力して、特殊状況条件が存在していれば、それを解放するか、どちらかを行ってください。

プログラマーの応答

/DISPLAY NODE コマンドを使用して、メッセージがキューに入れられているかどうか、および端末が、CONVERSATION や EXCLUSIVE などといった特殊状況にあるかどうかについて、判別してください。

問題判別:

1、5、6、7、14

モジュール:

DFSCFEPO、DFSCVFCO、DFSCVFZO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS291 **INPUT MUST BEGIN FROM FIRST
PHYSICAL PAGE**

説明

入力データが入力されましたが、複数物理ページ入力指定された DPAGE の最初の物理ページ以外からでした。入力メッセージが作成されていませんでした。

システムの処置

出力メッセージが進行中の場合は、メッセージ・キューに戻されます。入力データは無視されます。

オペレーターの応答:

進行中の出力メッセージがあった場合は、次のメッセージにその取得を要求してください。複数物理ページの入力手順についての情報を参照してください。

問題判別:

16

モジュール:

DFSCFEIO

関連概念

複数物理ページの入力 (オペレーションおよびオートメッセージ)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS292I **INVALID RANGE SPECIFICATION**

説明

このメッセージが出る可能性のある原因は、次のとおりです。

- 範囲パラメーターが指定されたが、範囲パラメーターをサポートしないキーワードが使用されている。
- 範囲指定の 2 番目のメンバーが最初のメンバーより大きい値でなかった。

- ・ 指定されたノードの1つがシステム内がない。
- ・ 指定されたノードが両方とも動的である。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

コマンドを正しく再入力してください。

範囲指定が適用されるのは、キーワード LINE、LINK、NODE、および PTERM のみです。NODE キーワードに関する範囲指定が適用されるのは、静的ノードのみです。範囲指定のメンバーは両方とも存在する必要があり、システム定義を通して定義されている必要があります。

動的端末またはユーザーの場合は、総称パラメーター・サポートが範囲指定に代わります。総称パラメーターには、1つ以上の特殊文字*または'が含まれます。アスタリスクは、少なくとも1文字でアスタリスクを置き換えることができ、有効なリソース名が作成されることを示します。例えば、**/DISPLAY NODE *SLU6***では、文字ストリング SLU6 が含まれるノードが表示されます。

モジュール:
DFSICL30

DFS0293 INVALID ID CARD READER INPUT

説明

オペレーター識別カード読取機構からの入力が無効でした。入力データを終了するための "EOR" 文字も "EOI" 文字も検出されなかったか、LRC チェックに失敗しました。

システムの処置

進行中の入力メッセージがあれば、いずれも廃棄されません。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 操作を再試行してください。エラーが引き続き発生する場合は、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

1. すべてのカード・データが入るだけの十分な大きさがあるフィールドに、エントリーが行われるようにしてください。
2. 使用されているカードと 3270 ハードウェアが正しく機能しているか確認してください。

問題判別

/TRACE および DFSERA10 を使用して、IMS が受信した端末入力データの印刷出力を入手してください。データ・フォーマットについては、「*IBM 3270 Information Display System*」を参照してください。

モジュール

DFSCFE10、DFSCFE00

DFS294 ID CARD READER USE ALLOWED ONLY ONCE PER MESSAGE

説明

複数物理ページ入力メッセージの作成時に、3270 オペレーター ID カード読取装置が使用できるのは1回だけです。

システムの処置

進行中の入力メッセージがあれば、いずれも廃棄されません。

オペレーターの応答:

ID カード読取装置を1回だけ使用して、メッセージを再入力してください。

問題判別:

16

モジュール:

DFSCFE00、DFSCFE10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS295 IMMEDIATE PEN DETECT LITERAL ALLOWED ONLY ONCE PER MESSAGE

説明

3270 即時ペン検出が混合モードで、または入力リテラルを作成するために使用できるのは、1つのメッセージにつき1回だけです。

システムの処置

進行中の入力メッセージがあれば、いずれも廃棄されません。

オペレーターの応答:

即時ペン検出機能を1回だけ使用して、メッセージを再入力してください。

問題判別:

MFS

モジュール:
DFSCFE00

DFS296 **PROGRAM FUNCTION KEY
LITERAL ALLOWED ONLY ONCE
PER MESSAGE**

説明

複数物理ページ入力メッセージの作成時に、プログラム・ファンクション・キーを使用して、リテラル値を作成できるのは1回だけです。オペレーター制御用として定義されているキーは、複数回使用できます。

システムの処置

進行中の入力メッセージがあれば、いずれも廃棄されます。

オペレーターの応答:

正しいプログラム・ファンクション・キーを使用して、入力メッセージを再入力してください。

問題判別:

16

モジュール:
DFSCFE00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS297 **MULTIPLE PHYSICAL PAGE INPUT
IS NOT IN PROGRESS**

説明

オペレーターが複数物理ページ入力の終了要求 (ENDMPPI) を入力しましたが、複数物理ページ入力メッセージの作成中ではありませんでした。

システムの処置

入力データは廃棄されます。

オペレーターの応答:

適切な手順を使用して、入力を再入力してください。

問題判別:

16

モジュール:
DFSCFE10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS298 **INPUT MESSAGE CANCELED BY
SEGMENT EDIT EXIT**

説明

ユーザー提供 MFS セグメント編集出口ルーチンが、DPM-B による入力メッセージの取り消しまたはエコーを要求しました。

取り消しの理由が、入力が無効で、アプリケーションに応じて異なるのか、配布プレゼンテーション管理 B (DPM-B) が入力メッセージのエコーを要求しているのか、いずれかです。エコーされたメッセージは、DPM-B ではサポートされません。

システムの処置

進行中の入力メッセージは削除されます。

オペレーターの応答:

出口ルーチンに必要な方法で、メッセージを入力してください。

プログラマーの応答

ユーザー提供の出口ルーチンの操作が正しいか検証してください。端末入力データは、/TRACE 機能の使用によって調べられます。

モジュール:
DFSCFE10

DFS299 **SEGMENT EDIT EXIT FAILURE-
NOTIFY SYSTEMS PROGRAMMER**

説明

ユーザー提供 MFS セグメント編集出口ルーチンが、許容最大値を超えてセグメント・サイズを大きくしたか、無効の戻りコードを戻したか、どちらかです。編集ルーチン障害のため、システム 保全性が損なわれる可能性があります。

システムの処置

進行中の入力メッセージは削除されます。

オペレーターの応答:

このメッセージが表示される前に入力された内容を記録して、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

セグメント編集出口ルーチンを訂正し、IMS 中核内で置き換えてください。ユーザー提供の出口ルーチンの操作が正しいか検証してください。端末入力データは、/TRACE 機能の使用によって調べられます。

モジュール:
DFSCFE10

DFS0300I **OUTPUT DATA SET SPECIFIED BY
DDNAME ddname WAS NOT
SUCCESSFULLY CLOSED**

説明

データベース・イメージ・コピー 2 (DFSUDMT0) ユーティリティー処理中に、*ddnameddname* で指示された出力データ・セットに対して、データ・セット・クローズが異常終了したか、またはデータ・セット・クローズが (DFSMSDss により) 試行されませんでした。したがって、このデータ・セットは、イメージ・コピーとして使用できません。

システムの処置

エラーが検出されなかった別の出力コピー (1 次または 2 次) がある場合、イメージ・コピー処理は入力 DBDS

に対して継続します。それ以外の場合、DBDS についての処理は失敗し、メッセージ DFS3144A が発行されます。

オペレーターの応答

別のイメージ・コピー 2 ジョブをサブミットして、イメージ・コピー処理が失敗した DBDS をコピーします。

モジュール:
DFSUDUI1

第 10 章 DFS メッセージ DFS301A - DFS350A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS301A **UNABLE TO OPEN DDNAME-
ddname**

説明

発行ユーティリティー・プログラムが、メッセージに示されている *ddname* を使用して、DCB をオープンできませんでした。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

実行に必須とされている必要な DD ステートメントがすべて提供されているか確認してください。欠落している JCL ステートメントがあれば、すべて訂正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、18、20、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中にこのメッセージが生成された場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=301 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。このステップでは、SYSUDUMP DD ステートメントを指定する必要があります。

モジュール

DFSPIRPO、DFSUCMNO、DFSUCP40、DFSUC150、DFSUC350、DFSUDMPO、DFSURDBO、DFSURGL0、DFSURGU0、DFSURRLO、DFSURULO、DFSUTR20、DFSUTR30

関連情報

0302 (メッセージおよびコード)

DFS302A **INVALID OR MISSING FUNCTION
ff SPECIFIED ON REQUEST nnnn**

説明

制御機能コードが無効または欠落しているユーティリティー制御ステートメントが検出されました。*ff* が省略されているか、存在する場合は、有効な 2 文字コードではありませんでした。有効なコードについては、ユーティリティー制御機能に関する情報を参照してください。*nnnn* は制御要求番号です。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

実行されているユーティリティー・プログラムに応じて、制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=302 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。このステップでは、SYSUDUMP DD ステートメントを指定する必要があります。PSB プールの方が CSA PSB プールよりもはるかに大きくする必要があります。

モジュール:

DFSUCP40

関連資料

[DFSUCF00 ユーティリティーの制御ステートメント \(データベース・ユーティリティー\)](#)

DFS0303I **xxxx <DYNAMIC BLOCK>**

または

**THE FOLLOWING BLOCKS WILL BE <DYNAMICALLY
FIXED | ALLOCATED IN DREF STORAGE>:**

説明

ブロック用のストレージが取得されると、DDNAME=PROCLIB で記述されているデータ・セットの DFSFIXnn メンバーで指定されている動的 BLOCKS がページ固定されます。DDNAME=PROCLIB で記述されているデータ・セットの DFSDRFnn メンバーで指定されているブロックが DREF ストレージ・サブプール内で割り振られます。xxxx は、ページ固定される、または DREF ストレージ内で割り振られる、ブロックの IMS 名です。

システムの処置

IMS の初期設定が続行されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSXFIX0

**DFS304A DBD NAME NOT SPECIFIED FOR
FUNCTION *ff* ON REQUEST *nnnn***

説明

ユーティリティ・プログラムが、DBD 名フィールドがブランクの制御ステートメントを検出しました。
nnnn は制御要求 番号です。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正して、DBD 名を組み込み、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=304 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。このステップでは、SYSUDUMP DD ステートメントを指定する必要があります。

モジュール:
DFSUCP40

関連情報

[0302 \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS305A DBD/PSB LIBRARY DOES NOT
CONTAIN DBD/PSB *dbdname***

説明

ユーティリティ・プログラムが、ユーティリティ制御ステートメントに名前が指定されている DBD/PSB を検出できませんでした。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

ユーティリティ制御ステートメントと DBD/PSB ライブラリーを指定する DD ステートメントのどちらかを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、18、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=305 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。このステップでは、SYSUDUMP DD ステートメントを指定する必要があります。

モジュール:

DFSUCMNO、DFSUCP40、DFSUCUM0、DFSURULO

関連情報

[IMS 異常終了 0302](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS306A DBD *dbdname* DOES NOT
CONTAIN DDNAME FOR
FUNCTION *ff***

説明

ユーティリティ・プログラムが、制御ステートメントで指定されている DD 名を、示されている DBD *dbdname* で見つけようと試みました。この試みは失敗しました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

エラーの制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=306 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCCT0、DFSUCP40、DFSUCUM0、DFSUDMP0、DFSURDBO

関連情報

[0302 \(メッセージおよびコード\)](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS307A NO DDNAME SPECIFIED FOR DATA
BASE *dbdname* FOR FUNCTION *ff***

説明

ユーティリティ・プログラムが検出した制御ステートメントには、DD 名が必要でしたが、これが含まれていませんでした。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=307 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSPRSDI、DFSUCP40

関連情報

[IMS 異常終了 0302](#)

**DFS308A NO OUTPUT DDNAME SPECIFIED
FOR FUNCTION *ff* ON REQUEST
*nnnn***

説明

ユーティリティ・プログラムが検出した制御要求では、制御ステートメントで出力データ・セット DDNAME の指定を必要としていましたが、これが示されていませんでした。*nnnn* は制御要求番号です。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

制御要求を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=308 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS309A CONTROL STATEMENT ERROR-
INVALID/MISSING KEYWORD
*keyword***

説明

制御プログラムが、必須キーワードの欠落を検出したか、キーワードを識別できなかったか、どちらかです。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=309 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS310A INPUT RECORD IMAGE FOR
dddddddddddd IS IN ERROR AND
FOLLOWS THIS MESSAGE**

説明

ユーティリティ・プログラムが、制御ステートメントにエラーがあることを検出した後で、このメッセージを出します。メッセージ・テキストで、エラーのステータス

トメントを識別しています。ddddddddddにより、カスタマイズされたメッセージを生成するために現在実行中のユーティリティーが、固有のデータを識別します。このメッセージが出される可能性があるのは、次の状態の場合です。

- DFSURGSO の実行時に、データベースをスキャンする必要がなかった。
- OLIC の実行時に、入力制御ステートメントで指定された DBD 名が OLIC PSB、または PSB 指定の LANG=PL/I の DB PCB で検出されなかった。OLIC は LANG=ASSEM を必要とします。
- トラック・リカバリー・オプションが索引 KSDS に関して指定された。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=310 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。このステップで SYSUDUMP DD ステートメントを指定してください。

モジュール:

DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUCUM0、DFSUDMP0、DFSUICP0、DFSURDB0、DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURG10、DFSURRL0、DFSURULO、DSPLRC10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS311A	RESTART WAS NOT SPECIFIED AND NO DFSYSIN DATASET EXISTS
----------------	--

説明

ユーティリティー制御機能が、制御ステートメントを見つけれなくて、その処理を決定できませんでした。DFSYSIN データ・セットと "start" パラメーターのどちらかが必要です。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=311 制御ステートメントを使用して、ジョブを実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS312A	DDNAME ddname DOES NOT CONTAIN A VALID IMAGE OR REORGANIZED COPY FOR FUNCTION RV
----------------	---

説明

データベース・リカバリー・ユーティリティーに、DDNAME ddname で定義された入力データ・セットが示されましたが、そのヘッダー・レコードが正しいフォーマットではありませんでした。このタイプのエラーは、イメージ・コピー・ヘッダー・レコードのフォーマットが、現在サポートされているリリースの IMS のフォーマットと一致しないときに発生する場合があります。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

入力が正しかったか確認するか、入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=312 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSURDB0

関連情報

0302 (メッセージおよびコード)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS313A **HD UNLOAD CANNOT BE USED TO
UNLOAD INDEX DATABASE -
dbdname**

説明

階層直接 (HD) 再編成ユーティリティは、索引データベースのアンロードまたは再ロードには使用できません。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

索引データベースを再編成する場合は、階層順次 (HS) アンロード/再ロード・ユーティリティを使用する必要があります。

モジュール

DFSUFGU0

DFS314I **TRAP KEYWORD HAS INVALID
PARAMETER**

説明

/TRACE SET ON TRAP コマンドが発行されましたが、TRAP キーワード・パラメーターが欠落していたか、無効でした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) コマンド・フォーマットを調べて、訂正したコマンドを再入力してください。

モジュール

DFSICLN0

DFS315A **DEVTYPE MACRO FAILED ON
DDNAME *ddname* FOR FUNCTION
*ff***

説明

ユーティリティ・プログラムが、入力装置または出力装置についての情報を入手するために、SVC 24

(DEVTYPE) を発行しました。戻りコードで、この試みが正常に行われなかったことが示されました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

システム操作担当者にこれを報告してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=315 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP40、DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURGU0、DFSURG10、DFSURUL0

関連情報

0302 (メッセージおよびコード)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS316A **DBD *dbdname* CONTAINS AN
UNKNOWN ORGANIZATION CODE
cc**

説明

指定された DBD *dbdname* に有効なデータベース編成コードが含まれていませんでした。値 *cc* が問題のコードです。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

指定された DBD が IMS DBD であったかどうかを確認してください。矛盾があれば訂正し、ジョブを再実行してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=316 制御ステートメントを

使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP40、DFSUDMP0、DFSURDB0、DFSURGU0

関連情報

0302 (メッセージおよびコード)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS317W **HEADER RECORD FOR DDNAME**
ddname NOT FOUND ON DDNAME
ddname FOR FUNCTION ff

説明

ユーティリティ *ff* プログラムに入力データ・セットが提供されましたが、正常な DBD 用であり、必要な正常データ・セット用ではありませんでした。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=317 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS318A **RECORDS FROM DDNAME ddname**
ARE LARGER THAN DDNAME
ddname SUPPORTS.

説明

ユーティリティ・プログラムに出力装置が指定されましたが、その最大レコード長が入力レコード長より小でした。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

指定された DD ステートメント装置タイプを入力レコード長を処理できる装置に変更し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=318 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS319A **DDNAME ddname HAD A**
PERMANENT I/O ERROR FOR
FUNCTION ff

説明

ユーティリティ・プログラムが、指定されたデータ・セットにリカバリー不能入出力エラーがあることを検出しました。

システムの処置

エラーが発生したのが出力ボリュームで、複数の出力コピーが指定されていた場合は、プログラムはエラーで終了します。データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) の場合は、イメージ・コピー処理が失敗したデータベース・データ・セットを識別するために、理由コードが OE のメッセージ DFS3144A も出されます。イメージ・コピー処理が完了していないデータベース・データ・セットが他にない場合は、ユーティリティが終了します。

問題判別:

2、3、8、17g、36

モジュール:

DFSBCKIO、DFSUCP40、DFSUDMP0、DFSUDMT0、DFSURGU0、DFSURULO

関連情報

874 ページの『DFS3144A』

IMAGE COPY PROCESSING FAILED FOR DB/
AREA *dbname* DDN *ddname*, REASON = *nn*

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS320I **DDNAME *ddname* IS STOPPED
BUT DDNAME *ddname* CONTINUES**

説明

ユーティリティ・プログラムが、出力ボリュームに入出力エラーがあることを検出しました。コピーが2つ指定されました。プログラムは、良好な代替コピーから続行します。

システムの処置

処理は、1つの出力コピーのみを続行します。

プログラマーの応答

ダンプされたデータ・セットのコピーが1つ作成されます。コピーが2つ必要な場合は、出力装置および出力ボリュームが正常に使用できる状態であることを確認して、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

2、3、8

モジュール:

DFSUCP40、DFSUDMP0、DFSURGU0、DFSURULO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS321W **FUNCTION *ff* EXPERIENCED AN
ERROR AND MUST BE RESTARTED**

説明

ユーティリティ・プログラムが、要求された操作の正常終了を禁じるエラーを検出しました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

このメッセージよりも前に気付いたエラーがあればすべて訂正して、失敗した要求を再実行してください。ユーティリティ制御機能の下で実行していた場合は、エ

ラーを訂正し、JCL の PARM= を変更して、RESTART が
必要であることを示すか、

FUNCTION=OP,REQUEST=RESTART を指定して、制御
ステートメントを DFSYSIN データ・セットに追加して
ください。ユーティリティによっては、その実行内で
再始動できないものもあります。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で
実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の
FUNCTION=OP,MSGNUM=321 制御ステートメントを
使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP
DD ステートメントをこのステップで指定してくださ
い。

モジュール:

DFSUDMP0

関連資料

[ユーティリティ制御機能 \(DFSUCF00\) \(データ
ベース・ユーティリティ\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS322W **FUNCTION *ff* WAS NOT SUPPLIED
AN IMAGE COPY INPUT**

説明

ユーティリティ *ff* が、イメージ・コピー入力データ・
セットが DD DUMMY として指定されているのを検出
しました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

入力が必要なかった場合は、処置は必要ありません。
そうでない場合は、入力データを訂正し、ジョブを再実
行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36

また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であっ
た場合は、DFSYSIN データ・セット内の
FUNCTION=OP,MSGNUM=322 制御ステートメントを
使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP
DD ステートメントをこのステップで指定してくださ
い。

モジュール

DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS323W FUNCTION *ff* WAS NOT SUPPLIED
 A CHANGE ACCUMULATION INPUT**

説明

ユーティリティー・プログラムが、累積変更入力データ・セットが DD DUMMY として指定されているのを検出しました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

入力が必要なかった場合は、処置は必要ありません。そうでない場合は、入力データを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=323 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS324W FUNCTION *ff* WAS NOT SUPPLIED
 AN INPUT LOG FILE**

説明

ユーティリティー・プログラムが、ログ入力データが DD DUMMY として指定されているのを検出しました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

入力が必要なかった場合は、処置は必要ありません。そうでない場合は、入力データを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=324 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS325A PURGE DATE ON DDNAME *ddname*
 IS LATER THAN DATE ON DDNAME
 ddname FOR FUNCTION *ff***

説明

累積変更入力データ・セットが作成されたとき指定されたパーズ日付が、イメージ・コピー入力データ・セットが作成された日付より後であることを、ユーティリティーが検出しました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

対象日付間に変更レコードが作成され、データベース保全性のために必要な場合は、累積変更入力を再作成し、リカバリー・ジョブを再度実行依頼する必要があります。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=325 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS326A **DDNAME *ddname* INPUT IGNORED
DUE TO PURGE DATE ON DDNAME
*ddname***

説明

累積変更入力データ・セットの作成日がイメージ・ダンプ・データ・セットの作成日より前になっていることを、データベース・リカバリー・ユーティリティー・プログラムが検出しました。すべてのレコードがすでにダンプ上にあるため、累積変更入力データ・セットは使用されていません。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=326 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP40、DFSUDMP0、DFSURDB0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS327W **NO RECORDS ON DDNAME
ddname FOR RECOVERED
DATASET**

説明

ユーティリティー・プログラムが、入力データ・セット *ddname* をスキャンして、リカバリーされるデータ・セットに適用されるレコードを検索しましたが、まったく検出されませんでした。

プログラマーの応答

入力データ・セットが正しかったか確認してください。正しくなかった場合は、JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=327 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS328A **DDNAME *ddname* REQUIRED BUT
WAS NOT SUPPLIED FOR
FUNCTION *ff***

説明

ユーティリティー・プログラムが、必須データ・セット *ddname* が指定されていないことを検出しました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

必要な DD ステートメントを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=328 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP40

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS329A **HEADER RECORD ON DDNAME
ddname IS NOT CONSISTENT
WITH *ddname/dbpcb* FOR
FUNCTION *ff***

説明

データ・セット記述が DBD 記述と一致しない入力データ・セット・ヘッダー・レコード、または示されている他の入力データ・セットのヘッダー・レコードを、ユーティリティ・プログラムが検出しました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

すべての入力正しいか確認し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=329 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP40、DFSURDBO

関連情報

[IMS 異常終了 0302](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS330A	DDNAME <i>ddname</i> IS OUT OF SEQUENCE FOR FUNCTION <i>ff</i> REASON=<i>r</i>
----------------	---

説明

ユーティリティ・プログラムが、相対ブロック番号が最後のレコード更新より低い値である OSAM/ESDS を、データ・セット *ddname* 内で検出しました。理由コードとその意味は、次のとおりです。

コード

説明

- 1 ESDS または OSAM RBN キー・シーケンス・エラーが発生しました。
- 2 KSDS キー・シーケンス・エラーが発生しました。
- 3 ログ日付の順序が狂っています (昇順ではありません)。

4

変更累積レコード内の日時が、マージされるログ・レコード内の日付より後になっています。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

入力ファイルがエラーです。これを再作成し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=330 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSURDBO

関連情報

[IMS 異常終了 0302](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS331A	DDNAME <i>ddname</i> IS AN EMPTY DATASET BUT SHOULD NOT BE
----------------	---

説明

ユーティリティ・プログラムがデータ・セットの読み取りを試みましたが、即時ファイルの終わり条件に至りました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

適切なデータ・セットが提供されたことを確認してください。エラーがあれば訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=331 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCP40

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS332A OSAM RECORD FROM DDNAME
ddname HAS RBN nnnnnnnn AND
IS BEYOND THE CURRENT END OF
THE DATASET**

説明

データベース・リカバリー・ユーティリティーが、累積変更またはログ入力データ・セット (*ddname*) で、データ・セットの終わりの後の次のブロックの RBN 値よりも大きい RBN 値が入った、OSAM レコードを検出しました。これは、正常な操作の下では決して存在するはずのない条件です。その理由は、データ・セットの終わりの後では、挿入は常に次の順次 RBN 値を使用するからです。この原因として最も可能性が高いと思われるのは、適用可能 ログ・データ・セットがこの実行にも累積実行にも組み込まれていなかったということです。もう 1 つの可能性としては、HISAM 再編成アンロードが実行され、対応する再ロードは実行されず、アンロード・テープがリカバリー・プログラムへの入力として使用されたことが考えられます。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

指定されたすべての入力が正しいか確認し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別

2、3、5、6、8、12、14、17g、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=332 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報

[0302 \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS333A

**KEY ID ON DDNAME ddname DOES
NOT EXIST IN DDNAME ddname
DATASET**

説明

リカバリー・プログラムが KSDS データ・セットに関する変更累積またはシステム・ログ・レコードを検出しましたが、キーがリカバリーされたデータ・セットに存在しません。これは、指定された入力は正しくなかったことを示しています。正常な操作では、変更累積またはシステム・ログにあるレコードがレコード全体として完全でない場合は、データベース・データ・セットまたはイメージ・コピーに必ず存在していることを必要とします。このメッセージが出されるについては、基本的な理由が 2 つあります。これらのデータベース・エラーは、通常、間違ったイメージ・コピーを使用したことが原因で起こるか、変更累積中にログ・データ・セットが脱落したために発生します。

- 変更累積またはシステム・ログ・レコードが部分更新 (ゼロより大きいオフセットで示される) です。このレコードは、データベース・レコードが存在しないため、処理できません。
- 変更累積レコードに、データベース・レコード内の 2 つの別々の区域に関する変更が入っています。このレコードは、データベース・レコードが存在しないため、処理できません。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

すべての入力データ・セットが正しいか確認し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=333 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報

[0302 \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS334I DDNAME *ddname* DATASET MAY BE SCRATCHED

説明

ユーティリティー制御機能が、指定された *ddname* について、RESTART で必要ではなく、他の使用のために解放できると判別しています。

プログラマーの応答

この判別が正しいか検証し、通常の手順でデータ・セットを処理してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=334 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCPA0、DFSUCP60

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS335A DDNAME *ddname* DATASET MUST BE KEPT IF RESTART IS TO BE USED

説明

ユーティリティー制御機能の判別によると、DFSYSIN データ・セットで要求されている機能を完了するためには、*ddname* が特定されたデータ・セットの指定が必要です。

システムの処置:
処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

指定されたデータ・セットを後続の RESTART に備えて、保持しておいてください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=335 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP

DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCP00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS336I WTOR REPLY REQUESTS TERMINATION, RESTART MESSAGE WILL BE WRITTEN

説明

オペレーターがユーティリティー制御機能に応答し、プログラムを終了する必要があると指定しました。

システムの処置

RESTART の実行が可能になるように、適切なメッセージが書き込まれます。

プログラマーの応答

RESTART に対応できるように JCL を変更し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=336 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCPA0、DFSUCP60

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS337A BUFFER POOL TOO SMALL FOR FUNCTION *ff*

説明

ユーティリティー・プログラムがバッファ・プール・スペースを要求しましたが、使用可能なバッファ・プール・スペースがありませんでした。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

バッファ・プール仕様を増やし、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=337 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUDMP0、DFSURDB0、DFSURGL0、DFSURGU0、DFSURRL0、DFSURUL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS338A DATASET DDNAME *ddname* IS TOO SMALL FOR FUNCTION *ff*

説明

ユーティリティー・プログラムがデータ・セット *ddname* にレコードを追加しようと試みましたが、使用可能なエクステントはすべて使用されており使用不可能でした。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

データ・セットが HISAM 編成の場合は、スペース割り振りを増やしてください。データ・セットが HD 編成の場合は、入力データが正しかったか確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=338 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUDMP0、DFSURDB0、DFSURGL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS339I FUNCTION *ff* HAS COMPLETED {NORMALLY|ABNORMALLY} {*rc=nn*|*x* NO. OF UPDATES=*nnnnnnnn*}

説明

ユーティリティー・プログラムが処理を完了しました。ユーティリティー処理によっては、戻りコードが印刷されない場合もあります。英字 *x* は、ソート・フェーズを示し、ユーティリティー処理に応じて表示されます。個々のユーティリティー・プログラムの戻りコードは、ユーティリティーに関する情報と共に記載されています。

FUNCTION PU の場合は、NO. OF UPDATES=*nnnnnnnn* 句が組み込まれています。ただし、*nnnnnnnn* は、接頭部解決ユーティリティー (Prefix Resolution utility) によって生成された入力 DFSURWF3 データ・セット上のレコードのカウントです。このカウントは、データとデータベースの構成の組み合わせによっては、同じユーティリティーの実行でも、UCF の下と非 UCF の下とで異なる場合があります。

問題判別

2、3、8、18、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=339 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。このステップで SYSUDUMP DD ステートメントを指定してください。

モジュール

DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUCUM0、DFSUDMP0、DFSURDB0、DFSURGL0、DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURG10、DFSURPR0、DFSURRL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS340I DATABASE *dbdname* HAS BEEN SUCCESSFULLY {UNLOADED|LOADED|RECOVERED} BY FUNCTION *ff* [DATASET *ddname*]

説明

記述されている機能は完了しています。DATASET *ddname* の印刷は、実行されるユーティリティーによります。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の

FUNCTION=OP,MSGNUM=340 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGL0、DFSURGS0、DFSURGU0、DFSURRLO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS341A CATASTROPHIC ERROR
 OCCURRED IN DL/I DURING
 FUNCTION *ff***

説明

ユーティリティー・プログラムが、処理されているデータ・セットに対して DL/I が操作を実行することを要求しました。PST 戻りコード (PSTRTCDE) により、タスクが実行できない理由が示されます。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

IMS システムおよびすべての制御ステートメントが有効であることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=341 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUDMP0、DFSURDB0、DFSURGL0、DFSURGU0、DFSURRLO、DFSURULO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS342I RESTART NOT REQUESTED,
 NORMAL PROCESSING BEGINS**

説明

このメッセージは、ユーティリティー制御機能に関する正常始動を示します。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGU0

**DFS343W DDNAME *ddname* WAS SPECIFIED
 AS DD DUMMY OR WAS OMITTED
 FOR FUNCTION *ff***

説明

記述されている *ddname* に、エラーの可能性があるとしてフラグが立てられました。*ff* は、機能の名前を示します。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

JCL が正しいか検証してください。正しくない場合は、訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36

また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=343 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS344W DDNAME FOR *output* COPY WAS|
 WAS NOT SUPPLIED, *n* COPY
 REQUESTED FOR FUNCTION *ff***

説明

ユーティリティー・プログラムが制御ステートメントによって、出力データ・セットのコピー *n* 部の作成を指図されましたが、*ddname* が指定されていました (または、指定されていませんでした)。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

要求されたコピーが1部の場合は、2番目のコピーのDD名を制御ステートメントから除去してください。要求されたコピーが2部の場合は、制御ステートメントに2番目のDD名を追加してください。要求されたコピーが1部で、DD名が指定されていない場合は、これを指定して、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内のFUNCTION=OP,MSGNUM=344 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP40、DFSURGU0、DFSURUL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS345I	RESTART REQUESTED, RESTART PROCESSING BEGINS
----------------	---

説明

このメッセージは、PARM= または DFSYSIN データ・セット内のFUNCTION=OP,REQUEST=RESTART 制御ステートメントがRESTARTを要求しているときに、ユーティリティー制御機能についての始動を示します。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGU0

DFS346A	NO ALTERNATE UNIT AVAILABLE FOR DDNAME <i>ddname</i> FOR FUNCTION <i>ff</i>
----------------	--

説明

ユーティリティー・プログラムが出力データ・セットで永続入出力エラーを検出しましたが、使用可能な代替出力装置がありませんでした。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

コピーが2部要求されていた場合は、入出力エラーのため、1部はすでに終了していました。この実行では有効な出力はありません。したがって、出力装置および出

力ボリュームに関する作業指示が適切であることを確認して、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、23、36

また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内のFUNCTION=OP,MSGNUM=346 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS347I	CONTROL DATASET BUILT ON DDNAME <i>ddname</i>
----------------	--

説明

ユーティリティー制御機能は、制御データ・セットを構成して、それをデータ・セット *ddname* に書き込んでいます。このデータ・セットが必須なのは、RESTART が必要な場合です。

プログラマーの応答

ユーティリティー制御機能の処理が正常終了した時点で、このデータ・セットはスクラッチできます。再始動できる条件が検出されたら、このデータ・セットをDFSOCDS DD データ・セットとして指定する必要があります。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGU0

DFS348A	UNEXPECTED RETURN STATUS <i>ss</i> ON CALL FROM FUNCTION <i>ff</i>
----------------	---

説明

ユーティリティー・プログラムが、DL/I 呼び出し後に、予期しない戻り状況を検出しました。*ss* が、受信された実際の状況で置き換えられます。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=348 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGL0、DFSURGU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS349I

**ALL FUNCTION TYPE *ff* REQUESTS
COMPLETED**

説明

ユーティリティー制御機能が、示されているタイプの要求すべての処理を完了しました。このメッセージは、この処理に対して追加のクロスチェックを提供します。このタイプの処理を要求しなかった場合でも発行され、すべての機能が試みられたか検証できます。

プログラマーの応答

すべてのメッセージについて充足が得られれば、それ以上の処置は必要ありません。すべての機能が完了しなかった場合、DFSYSIN データ・セット制御ステートメントを変更して、完了しなかった機能を要求し、ジョブを再実行依頼してください。RESTART は指定しないでください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGU0

DFS350A

**DATABASE *dbname* CONTAINS NO
DATASETS**

説明

ユーティリティー・プログラムが、データ・セット・グループがまったく含まれていない DBD を検出しました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

このデータベースを定義している DBD をチェックしてください。1 次データ・セット名が必要です。エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=350 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのデータ・セットで指定してください。

モジュール

DFSUCCT0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 11 章 DFS メッセージ DFS351W - DFS400I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS351W DFSYSIN DATA SCANNED FOR OPTION REQUESTS ONLY

説明

ユーティリティー制御機能が再始動しました。古い制御データ・セットで、使用される機能が定義されているため、新規 DFSYSIN データ・セットが処理されるのは、FUNCTION=OP タイプの制御要求の場合です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

処理は、本当に再始動の必要があったか検証してください。その必要があった場合は、それ以上の処置は必要ありません。その必要がなかった場合は、JCL を訂正して、RESTART に対する要求を除去し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=351 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS352I DFSYSIN DATA OPTIONS HAVE BEEN SUPPLEMENTED WITH DEFAULTS

説明

ユーティリティー制御機能によって、デフォルトによる DFSYSIN データ・セット要求が増えています。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGU0

DFS353A CONTROL DATASET IS INVALID OR CONTAINS CONFLICTING REQUESTS

説明

制御データ・セットを使用不能にするエラーが、ユーティリティー制御機能によって検出されています。前のメッセージにこの条件が生じる理由が定義されています。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行依頼してください。RESTART を指示しないでください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=353 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS354I NO ERRORS DETECTED. DATA BASE RELOAD SUCCESSFUL.

説明

HD 再編成再ロード・ユーティリティーが、データベースを正常に再ロードしました。

モジュール:

DFSURGL0

DFS355I ERRORS DETECTED. DATA BASE RELOAD UNSUCCESSFUL.

説明

前のメッセージで記述されていたエラーにより、データベースの正常な再ロードが妨げられています。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSURGL0

DFS356A **HEADER RECORD NOT FOUND ON
DDNAME *ddname* FOR FUNCTION
*ff***

説明

入力データ・セット *ddname* がこの機能では無効のデータ・セットであることを、ユーティリティー・プログラムが検出しました。入力ファイルのヘッダー・レコードが、要求された処理では、無効であったか、フォーマットに誤りがありました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

入力が正しかったか確認してください。正しかった場合は、この入力ファイルに誤りがあり、再作成する必要があります。ファイルを訂正したら、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=356 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSUC350、DFSURDB0

関連情報

0302 (メッセージおよびコード)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS357A **RESTART FAILURE-DFSOCDS IS
NOT READABLE**

説明

ユーティリティー制御機能が RESTART の実行を試みていたときに、エラーが発生して、古い制御データ・セットの正常な読み取りができませんでした。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

正しいデータ・セットが提供されたことを確認してください。データ・セットを別の装置に移動し(入出力エラーの場合)、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=357 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURUL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS358A **INVALID SEGMENT CODE ss
FOUND IN DATABASE *dbdname*
DDNAME *ddname* ON FUNCTION *ff***

説明

ユーティリティー・プログラムが、物理セグメント・コードがゼロ、または関連 DBD *dbdname* データ・セット *ddname* 内で最も値の大きいセグメント・コードよりも大きい、セグメントを検出しました。このセグメント・コードが *ss* を置き換えます。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

指定されている DBD がデータベースを正確に記述しているか確認してください。データベースのデータ保水性に疑問がある場合は、問題のデータベースに対してデータベース・リカバリー・ユーティリティー・プログラムを実行し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=358 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCP40、DFSURULO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS359A RESTART FAILURE-FUNCTION *ff*
 NOT FOUND IN DFSOCDS**

説明

ユーティリティ制御機能が、機能の RESTART を実行しようとしていたところ、機能 *ff* は、制御データ・セットで必須として示されていませんでした。このエラーは、通常の処理では起こりません。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

適切な制御データ・セットが DFSOCDS DD ステートメントで指定されていることを確認してください。適切なジャーナル・データ・セットが DFSOJRNLD DD ステートメントで指定されていることを確認してください。RESTART が必要であることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=359 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURULO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS360I ERROR-ID CARD ERROR
 ENCOUNTERED**

説明

変更累積ユーティリティが、ID の制御コードが無効の制御ステートメントを検出しました。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSUCCTO

**DFS361A DFSNCDS IS NOT READABLE,
 RESTART NOT POSSIBLE, RE-RUN
 JOB FROM BEGINNING**

説明

ユーティリティ制御機能が DFSNCDS ファイルに対して新規制御データ・セットの書き込みまたは読み取りを試みていたとき、エラーが検出されました。このエラーは、本質として物理装置指向の場合も論理の場合もあります。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

行われている処理が RESTART の場合は、DFSNCDS データ・セットが適切に割り振られていたか検証してください。処理が RESTART ではなかった場合は、エラーの原因はユーザー提供の制御ステートメント情報にあったと考えられ、前のメッセージにこのエラーが反映されます。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=361 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS362I *function* HAS TERMINATED WITH
 RETURN CODE *nn***

説明

現在実行中のユーティリティが終了し、戻りコード *nn* を渡します。

プログラマーの応答

戻りコードがゼロであれば、それ以上の処置は必要ありません。戻りコードがゼロ以外の場合は、エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=362 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCMNO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS363A **{*ALL|*OTHER} SPECIFIED MORE THAN ONCE FOR FUNCTION CA**

説明

示されているパラメーターが複数回指定されました。DB0 ステートメントが使用されている場合は、DB1*ALL ステートメントも使用することはできません。*OTHER パラメーターを指定できる DB ステートメントは1つだけです。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=363 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCCT0、DFSUCP40、DFSUCUM0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS364W **DDNAME *ddname* SPECIFIED MORE THAN ONCE**

説明

制御ステートメントが、複数の制御ステートメントで dbdname/ddname の組み合わせを指定しています。

システムの処置

処理は続行され、重複制御ステートメントは無視されます。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=364 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCUM0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS365A **{DDNAME|DBNAME} TABLE HAS OVERFLOWED**

説明

ユーティリティー・プログラムが、指定された数を超える DD 名および DB 名を検出し、メモリー内テーブルの予想サイズを超えました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

ID 制御ステートメントが提供された場合は、DD 名および DB 名の最大指定を大きくしてください。そうでない場合は、正しい変更を使用して指定し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=365 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCUM0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS366A REQUEST *nnnn* IS A DUPLICATE
FUNCTION REQUEST OF REQUEST
nnnn AND IS AN ERROR**

説明

ユーティリティー制御機能が重複する要求を検出しました。2つの入力制御要求番号が、*nnnn* の値に取って代わります。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

要求の1つを除去し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内のFUNCTION=OP,MSGNUM=366 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCUM0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS367I UTILITY CONTROL FACILITY
RUNNING, ENTER REQUESTS AS
NEEDED**

説明

ユーティリティー制御機能が初期設定を完了し、要求された機能の実行準備をしています。このメッセージは WTOR メッセージでもあり、オペレーター・コンソールに表示されるので、実行プログラムとの通信が可能になります。

プログラマーの応答

特殊な終了または状況情報が必要でない限り、処置は必要ありません。

モジュール:
DFSUCP40、DFSUCUM0

**DFS368I ERLG RECORD ENCOUNTERED
FOR DATABASE *dbdname* DATASET
ddname ON VOLUME *vol. ser.* FOR
FUNCTION CA**

説明

変更累積ユーティリティーが、入力ファイルでエラー・ログ・レコード (ERLG) を検出しました。トラック・リカバリーを検討してもよいと考えられます。

オペレーターの応答

コンソール・オペレーターは、ジョブの実行依頼者にこの問題を報告する必要があります。

プログラマーの応答

データベース管理担当者に通知して、データベース管理担当者が、この変更累積データについて使用すべきデータベース・リカバリーのタイプを判別できるようにしてください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内のFUNCTION=OP,MSGNUM=368 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUCUM0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS369I {FUNCTION IS *ff* [FOR DATABASE
dbdname] [DATASET *ddname*]}
INVALID REPLY}**

説明

このメッセージは、ユーティリティー制御機能 WTOR への応答に対応して出されます。無効の応答がなされた場合は、2番目のメッセージが出されます。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール:
DFSUCUM0

**DFS370W REQUEST *nnnn* IS NOT REQUIRED
AND IS IGNORED**

説明

DB スキャン、接頭部解決、または接頭部更新の制御要求が指定されましたが、それが必要ではないときでした。処理は続行されます。

システムの処置

処理は続行されます。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=370 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCP40

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS371A A RECORD KEY LENGTH *nnn* IS
LONGER THAN SPECIFIED FOR
FUNCTION CA**

説明

入力レコードが検出されていますが、キー長さ *nnn* が ID 制御ステートメントで指定された長さよりも長い場合、ID ステートメントが指定されていなかった場合であれば、10 バイトより長いキーが検出されました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

正しいキー長さ指定を使用して、ID 制御ステートメントを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=371 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCCT0、DFSUCUM0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS372A DBD *dbdname* CONTAINS A
BLANK DDNAME**

説明

テキストに指定されている DBD *dbdname* は、基本 ddname がブランクです。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

このエラーは、指定されている DBD が論理 DBD であることを示しています。制御ステートメント指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=372 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCMN0、DFSUCP40

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS373A DDNAME DFSUCUM0 IS NOT A
VALID OLD CHANGE
ACCUMULATION DATASET**

説明

正しいフォーマットのヘッダー・レコードを持たない、古い累積データ・セットが提供されました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の

FUNCTION=OP,MSGNUM=373 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUC350

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS374W WARNING-NO CHANGE RECORDS
 FOUND ON LOG(S)**

説明

提供されたログ入力に、ログ・レコード・コードが X'50' のレコードがまったく含まれていなかったか、ページ日付より前のレコードばかりであったか、どちらかです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

すべての入力正しいか確認してください。そうでない場合は、入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。さらに、次のようにしてください。

- ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=374 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行する。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。
- メッセージ DSP0281I を受信したため、変更累積を実行している場合は、RECON を更新して、変更実績が実行されたことを示す。

モジュール:

DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUCUM0

関連情報

[DSP0281I \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS375A DFSOJRNL IS NOT CONSISTENT,
 RESTART NOT POSSIBLE**

説明

入力された古いジャーナル・データ・セットが正しくないか、関連 DFSOCDS データ・セットの場合は適切でないことを、ユーティリティ制御機能が判別しました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

適切な入力ファイルが提供され、RESTART が行われるのを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=375 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS376A AN APPARENT SORT SEQUENCE
 ERROR HAS BEEN DETECTED**

説明

EXIT 35 でレコードが受信されていますが、最後に受信されたレコードより順序が低いものです。これは、内部システム・エラーです。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=376 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCMN0、DFSUCP40

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS377A CHECKPOINT INPUT INVALID ON
DDNAME *ddname* FOR FUNCTION
*ff***

説明

ユーティリティー・プログラムに再始動データ・セットが提供されましたが、適切なフォーマットではありませんでした。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

RESTART が必須ではなかった場合は、DD ステートメント DFSURSRT を除去してください。RESTART が必須であった場合は、DD ステートメントが正しいことを確認し、ジョブを再実行依頼してください。DD ステートメントが正しかった場合は、チェックポイント・データ・セットが破棄されていて、使用できないためです。ジョブを始めから RESTART してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=377 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS378I CHECKPOINT RESTART
SUCCESSFULLY POSITIONED FOR
FUNCTION *ff***

説明

ユーティリティー制御機能が、入力ファイル、出力ファイル、およびデータベース・ファイルを正常に位置指定しています。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=378 制御ステートメントを

使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS379I ERRORS DETECTED-CHECKPOINT
RESTART UNSUCCESSFUL**

説明

チェックポイント・リスタートの試みが正常に行われませんでした。前のメッセージに記述されていた条件が原因です。

プログラマーの応答

検出されたエラーが訂正可能であれば、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。それ以外の場合は、ジョブを始めから再始動してください。

モジュール:

DFSURGU0

**DFS380A UNABLE TO POSITION DATABASE
dbdname FOR FUNCTION *ff***

説明

データベース *dbdname* の位置指定を試みているとき、ユーティリティー・プログラムがチェックポイント・セグメントを見つけられませんでした。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

DD ステートメントがすべて正しく、データベースが元のアンロードと RESTART の試みの間で変更されていないか確認してください。訂正が行える場合は、ジョブを再実行依頼してください。それ以外の場合は、ジョブを始めから再始動してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=380 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS381I **CHKPNTnnnn, {*****|vol1},
 {*****|vol2}, segname**

説明

システムは、HD 再編成アンロード・ユーティリティー・プログラムによってチェックポイントが取られるたびに、このメッセージをコンソールに書き込みます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnn

1 から 9999 の範囲の 10 進値で、チェックポイントが取られるごとに 1 ずつ増分する。

vol1

現行の 1 次出力ボリューム通し番号、または 1 次出力ボリュームが使用中でないことを示すアスタリスク。

vol2

現行の 2 次出力ボリューム通し番号、または 2 次出力ボリュームが使用中でないことを示すアスタリスク。

segname

チェックポイントが取られた時点で検索中のセグメントの名前。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSURGU0

DFS382A **DBD dbdname IS NOT A VALID
 DBD FOR THIS FUNCTION ff**

説明

制御ステートメントで指定された DBD *dbdname* が、DBD をロードするために使用されました。DBD を調べた時点で、DBD が有効な IMS DBD ではないか、HALDB であり、ユーティリティーが HALDB をサポートしていないことが分かりました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正するか、制御ステートメントが正しい場合は、DBD を有効な IMS DBD で置き換えてください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=382 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURUL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS383A **INPUT RECORDS ARE NOT IN
 SEQUENCE FROM DDNAME
 ddname FOR FUNCTION ff**

説明

ルート・セグメントのシーケンス・フィールド(キー)が、処理された直前のルート・セグメントのそれに等しいか、それよりも小さいことが検出されています。

システムの処置

実行は終了されます。

プログラマーの応答

異常終了 0359 が出され、ストレージ・ダンプが作成されたのは、異常終了オプションが指定され、SYSUDUMP または SYSABEND DD ステートメントが指定されていた場合です。異常終了への入り口にあるレジスター 11 が現行キーのアドレスで、レジスター 9 が直前のキーのアドレスです。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=383 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCP40、DFSURUL0

関連情報

0359 (メッセージおよびコード)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS384A PROCESSING OF LAST UCF
REQUEST COMPLETED-RESTART
NOT ALLOWED**

説明

ユーティリティー制御機能は、すべての要求を正常に完了しています。正常な完了が達成されたので、RESTART は使用できません。

システムの処置

処理は続行されます。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=384 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCP40

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS385A WORK AREA EXCEEDED IN FIELD
name FOR REQUEST nnnn**

説明

ユーティリティー制御機能が DFSYSIN データ・セットからの要求を処理していたとき、DFSUCP70 作業域のフィールド *name* がオーバーフローしました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

制御要求 *nnnn* で指定されたパラメーターが多すぎました。1つの制御要求に実行させてエラーになったのと同じ機能を、複数の制御要求に実行させてください。この処置により、テーブル要件の全長は短縮されますが、それでも必要な機能は実行されます。ジョブを再実行依頼し、RESTART は実行しないでください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=385 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCP40

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS386A A PREMATURE EOF WAS
ENCOUNTERED ON DDNAME
ddname**

説明

ユーティリティー・プログラムが入力ファイルを読み取っているとき、ファイルの終わりに達しました。この条件が予想されていた正確な時刻ではなかったため、エラーになります。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

データ・セットが完全であることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=386 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCP40、DFSURULO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS387I ERROR-NO VALID RECORDS ON
INPUT DATASET**

説明

HD 再編成再ロード・プログラムへの入力データ・セットに、アンロードされた有効なデータベース・レコードが含まれていませんでした。戻りコードは 16 です。

プログラマーの応答

無効の入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。HD アンロードが正常に行われ、アンロードされたデータ・セットが有効であることを確認してください。ジョブを再実行依頼する前に、アンロード・プログラムを再実行して、再ロード用の入力を再作成する必要があります。

モジュール:
DFSURGL0

DFS388A DDNAME *ddname* DID NOT HAVE A STATISTICS RECORD FOR FUNCTION *ff*

説明

ユーティリティー・プログラムは、入力ファイル *ddname* を処理中に、統計レコードの検出を予想していました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

"NSTAT" が HISAM アンロードで指定されていた場合は、OPTIONS=(NSTAT) を HISAM 再ロード用の SYSIN データ・セットで指定してください。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=388 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS389W PROCESSING FOR THE {FOLLOWING | PRECEDING} REQUEST HAS TERMINATED {ABNORMALLY | NORMALLY}

説明

この通知メッセージは、要求がどのように完了したかをユーザーに知らせるために出されます。

システムの処置

処理は、このメッセージに示されているように、正常または異常終了します。

プログラマーの応答

異常終了が生じた場合は、このメッセージより前に印刷されているエラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。正常終了が行われた場合は、それ以上処置は必要ありません。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=389 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール

DFSUCP40、DFSURGL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS390A DDNAME *ddname*HAS AN INVALID LOGICAL RECORD FOR FUNCTION *ff*

説明

発行プログラムが次のいずれかのエラーを検出しました。

- 入力レコードが有効なタイプではない。有効なタイプには 00 (論理親)、10 (論理子)、60 (ダミー)、および 80 (チェックポイント) があります。
- タイプ 00 またはタイプ 10 の処理時に、無効の論理記述が DBD に存在する。
- 作業ファイル・データ・セットの入力処理中に、セグメント記述子ブロック (SDB) で検出されなかったセグメントが含まれるファイル・レコードが検出された。

上記のうち最初の 2 つの場合は、無効の条件が生起すると、そのつど作業ファイル・レコードが印刷されます。3 番目の場合は、作業ファイル・レコードが印刷されるのは 1 回だけで、ジョブが終了します。この作業ファイル・レコードは、DFSURWF3 DD ステートメントで指

定されたデータ・セットからのものです。レコードは、16進法で印刷され、EBCDIC変換付きです。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

完全なログ・データ・セット・ファイルが入力として指定されているか確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内のFUNCTION=OP,MSGNUM=390 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCMN0、DFSUCP40

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS391I *This message is variable*

説明

ユーティリティーが汎用メッセージを印刷する必要がある場合は、いつでもこのメッセージが使用されます。警告やエラー・メッセージでこの番号が使用されることはありません。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内のFUNCTION=OP,MSGNUM=391 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUARCO、DFSUARPO、DFSUCCTO、DFSUCP40、DFSUDMPO、DFSUCIPO、DFSURDBO、DFSURRLO、DFSULG20、DFSUPNTO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS392A **DUPLICATE NAMES name
SPECIFIED ON CONTROL
REQUEST FOR FUNCTION ff**

説明

制御ステートメントに重複データ定義名 (DD 名) が含まれています。この条件によってシステム異常終了 0013 が起こったことが考えられます。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

エラーの制御要求に出力プリンターでフラグが立てられました。エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内のFUNCTION=OP,MSGNUM=392 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUDMPO

関連情報

[0013 \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS393A **BLDL FAILED FOR MODULE
cccccccc**

説明

メッセージにリストされているモジュール cccccccc は、BLDL マクロが PDS ディレクトリーで STEPLIB、JOBLIB、SYS1.LINKLIB を検索したとき、検出されませんでした。

システムの処置

このユーティリティーに関しては、処理が停止します。

プログラマーの応答

JCL で正しいライブラリーが指定されているか、このモジュールがプログラム・ライブラリーのいずれかにあるか、検証してください。ジョブを再実行してください。

問題判別

1、2、3、4、8、12、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN デー

タ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=393 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCF00、DFSURDB0

関連資料

[z/OS: BLDL の完了コード](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS394A AN RBA SEQUENCE ERROR
OCCURRED FOR FUNCTION ff**

説明

ユーティリティー・プログラムが ESDS を読み取り中で、戻されたレコードの相対バイト・アドレス (RBA) が前のものより高くありませんでした。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

データベースがエラーです。データ・セットのリカバリーが必要です。データベース・リカバリー・ユーティリティーを使用してこのリカバリーを実行してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=394 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUDMP0、DFSURDB0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS395I BACKOUT COMPLETE FOR PSB
psbname [TO CHKPT chkptid] [FOR
REGION regid]**

説明

データベース・バックアウト・ユーティリティーが要求されたデータベース・バックアウトを正常に完了しま

した。CHKPT オプションが SYSIN データ・ファイルで指定された場合は、TO CHKPT *chkptid* でバックアウトが完了したチェックポイントを識別し、FOR REGION *regid* で PSB が実行中であった領域を識別しています。(デフォルト =01)

オペレーターの応答:

再始動処置を要求する必要がある場合は、チェックポイント番号とボリューム通し番号を記録してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSBACK0、DFSRDBC0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS396I SYSTEM ERROR DURING
BACKOUT OF DATA BASE dbname
PROGRAM psbname**

説明

データベース・バックアウト・ユーティリティーが、指定されたデータベースに関するデータ管理ブロック・ディレクトリー・エントリーを見つけれませんでした。

プログラマーの応答

この問題は、バックアウトに使用された PSB が元の実行以降に変更されていることを示しています。EXEC ステートメントで要求された PSB をチェックして、名前および PSB が正しいか確認してください。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSBACK0、DFSRDBC0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS397I BACKOUT UNABLE TO OPEN DATA
BASE dbname PROGRAM psbname**

説明

データベース・バックアウト・ユーティリティーが、指定されたデータベースを開けませんでした。

プログラマーの応答

DD ステートメントが存在していることを確認し、データ・セットを正しく識別してください。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSBACK0、DFSRDBC0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS398I **I/O ERROR DURING BACKOUT IN
DATA BASE *dbname* PROGRAM
*name***

説明

データベース・バックアウト・ユーティリティーが、指定されたデータベースに対してバックアウトを試みている最中に、入出力エラーを検出しました。

プログラマーの応答

エラーのデータベースに対してデータベース・リカバリ・ユーティリティーを実行してください。このバックアウト試行の出力も含めて、すべてのログ・データ・セットを使用しています。その上で、バックアウト・ジョブを再実行してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSBACK0、DFSRDBC0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS399I **BUFFER POOL TOO SMALL FOR
BACKOUT OF DATA BASE *dbname*
PROGRAM *psbname***

説明

データベース・バックアウト・ユーティリティーの実行を試みていた際に、データベース・バッファ・プール

が小さすぎて、指定されたデータベースに対応し切れませんでした。

プログラマーの応答

EXEC ステートメントでデータベース・バッファ・プール・サイズを大きくし、ジョブを再実行してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSBACK0、DFSRDBC0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS400I **BATCH BACKOUT UNABLE TO
OPEN THE INPUT LOG *ddname***

説明

バッチ・バックアウト・ユーティリティー (データベース・ユーティリティー) が、*ddname* IMSLOGR または IMSLOGRx で指定されているログ・データ・セットを開けませんでした。

システムの処置

バッチ・バックアウト・ユーティリティー DFSBBO00 は終了し、戻りコード X'14' が示されます。

プログラマーの応答

DD ステートメントをチェックし、エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール

DFSBACK0、DFSBACKIO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 12 章 DFS メッセージ DFS401I - DFS0450I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS401I DBRC CALL FAILURE - RETURN
CODE = xx - CALL = yyyyyy**

説明

バッチ・バックアウト・ユーティリティーが DBRC から予期しない戻りコードを受信しました。yyyyyy が DBRC に対してなされた呼び出しであり、xx が DBRC からの戻りコードです。

システムの処置

メッセージで識別されている呼び出しが SAVUOR、LOGSET、または VERUOR であれば、バッチ・バックアウト・ジョブは終了しました。呼び出しが UPDUOR、INIT、または EOJ の場合は、バッチ・バックアウト・ユーティリティーが実行されていた PSB に関連したデータベースから、必要な変更は正常にバックアウトされています。

プログラマーの応答

メッセージで識別されている呼び出しが SAVUOR、LOGSET、VERUOR、または UPDUOR の場合は、IBM に連絡して、問題判別支援を要求してください。

呼び出しが INIT または EOJ の場合は、次の戻りコードのいずれかを参照してください。

コード (16 進数)

説明

08

バックアウトの実行対象にされた IMS サブシステムには、バックアウトされる変更を含んでいる 1 つ以上のデータベースの使用権限が与えられていませんでした。

以前のエラーによって、データベース許可の消失が生じていた可能性があります。以前のエラーがあれば、その原因を判別してください。以前のエラーがない場合は、DBRC EOJ 呼び出しが失敗していて、RECON データ・セットが更新を必要としている可能性があります。

2C

内部 DBRC エラーが発生しました。DBRC が RECON データ・セットにアクセスできませんでした。RECON データ・セットに関する該当の DD ステートメントが使用可能であることを確認してください。

30

DBRC に渡されたパラメーターが無効でした。RECON データ・セットは、手動で更新する必要があります。

あります。IBM に連絡して、問題判別支援を要求してください。

問題判別:

1、2、20、25

モジュール:

DFSBACK0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0401I DBRC CALL FAILURE - RETURN
CODE = xx - CALL = yyyyyy**

説明:

DFS401I を参照してください。

関連情報

139 ページの『DFS401I』

DBRC CALL FAILURE - RETURN CODE = xx -
CALL = yyyyyy

**DFS0402 DATABASE dbname NOT STARTED
DUE TO RECOVERY NEEDED.**

説明

/START DB コマンドの処理中、システムが、データベース dbname に据え置きバックアウトが必要であることを検出しました。DBRC を使用するこのバックアウトの検証(バックアウトがバッチ・バックアウト・ユーティリティーで行われなかったか確認するため)によって、データベースには最初に順方向リカバリーが必要であることが検出されました。この条件は、リモート・テークオーバー後の最初のアクティブ開始時に発生します。シャドーイングが行われたデータベースは、テークオーバー時点でトラッキング・システムに対して許可されていませんでしたが、アクティブのコピーはテークオーバー前に更新されました。

システムの処置

データベースは開始されず、バックアウトは行われません。

ユーザーの処置

データベースの順方向リカバリーを行ってから、開始コマンドを再発行してください。

モジュール:

DFSDBDRO

DFS0403W **IMS xxxxxxxxxx CALL TO MVS ARM
FAILED - RETURN CODE=
nn,REASON CODE=nnnn.**

説明

z/OS 自動再始動マネージャー (ARM) の呼び出しが失敗しました。メッセージ・テキストには、呼び出しのタイプが xxxxxxxx で表され、戻りコードおよび理由コードが含まれています。xxxxxxx の値は、次のとおりです。

REGISTER

z/OS ARM に登録する。

READY

IMS が作業の受け入れ準備ができていることを z/OS ARM に通知する。

ASSOCIATE

これが XRF 代替領域または高速 DB リカバリー領域であることを z/OS ARM に通知する。

UNKNOWN

不明の要求値が DFSARM00 に渡された。

システムの処置

IMS は戻りコードを無視し、実行を継続します。

プログラマーの応答

障害の理由を判別するには、IXCARM の戻りコードおよび理由コードを確認してください。その後、問題を修正してください。

モジュール:

DFSARM00

関連資料

z/OS: IXCARM の戻りコードおよび理由コード

DFS0404W **INCONSISTENT ACBLIB
SPECIFICATION - IMSACBx -
CODE=yyy-zzz**

説明

DL/I 従属アドレス・スペース・オプションが選択されました。IMS プロシージャでの ACBLIB 指定が、DL/I 従属アドレス・スペース・プロシージャでの対応する指定と一致しません。メッセージでは、エラーの DDNAME が IMSACBA と IMSACBB のどちらかであることを示しています。yyy は、次のように定義されています。

コード

説明

001

DDNAME に関して指定されたデータ・セットの数が同じではありませんでした。zzz は該当しません。

002

データ・セットの数は同じでした。ただし、データ・セットの名前およびボリューム通し番号が一致していませんでした。zzz では、エラーのデータ・セット指定を識別します。例えば、zzz が 002 の場合は、IMSACBx に関して指定された 2 番目のデータ・セットが、両方のプロシージャで同じではないことを示しています。

003

IMSACBx は非アクティブ ACBLIB を表しています。この DDNAME は、一方のプロシージャでは定義されていましたが、他方では定義されていませんでした。オンライン変更機能を使用する場合は、非アクティブ ACBLIB が両方のプロシージャで定義されている必要があります。zzz は、指定が欠落しているプロシージャを識別します。IMS プロシージャの場合は 001、DL/I 従属アドレス・スペース・プロシージャの場合は 002 です。

004

IMSACBA または IMSACBB の DD ステートメントが欠落しています。zzz は次の場合があります。

001 - IMS プロシージャから欠落している DD ステートメント

002 - DL/I SAS プロシージャから欠落している DD ステートメント

システムの処置

yyy が 1 または 2 であるのは、DL/I 従属アドレス・スペースが異常終了して、0023 が示され、それが原因で、制御アドレス・スペースが異常終了して、0150 が示されている場合です。yyy が 3 であれば、初期設定が続いています。

yyy が 004 である場合、IMS は異常終了コード 0023 で異常終了します。

プログラマーの応答

yyy が 1 または 2 の場合は、示されている DDNAME に関する指定を訂正してください。指定されているデータ・セットおよびその連結順序が、IMS と DL/I の両アドレス・スペース・プロシージャで同じである必要があります。yyy が 3 の場合は、オンライン変更機能を使用する予定であれば、制御領域を取り消して、非アクティブ ACBLIB に関して欠落している指定を行ってください。

yyy が 004 の場合は、示されている DDNAME に関する指定を訂正してください。

モジュール:

DFSSDLC0

DFS0406A **AN ERROR OCCURRED DURING
AUTHORIZATION PROCESSING
FOR DATABASE xxxxxxxx. RETURN
CODE = yy. PSB=zzzzzzzz**

説明

IMS は、指定の PSB に収められた DB PCB の 1 つに示されている、指定されたデータベースに関して、データベース許可を取得できませんでした。オンライン・アプリケーションからの呼び出しで障害が発生した場合、メッセージ・テキストには PSB 名のみが表示されます。

戻りコード (16 進数) *yy* には、次の値と意味があります。

コード (10 進数) 意味

01

HALDB 区画の許可時に、区画が割り振り済みであり、許可されないことが検出されました。許可を実行する前に区画を割り振り解除する必要がありますが、割り振り解除に失敗しました。割り振り解除失敗のメッセージ DFS2503W を見て、失敗した理由を調べて、必要な変更を行ってください。その後でジョブを再実行してください。

システムの処置

アプリケーションは、プログラムが INIT STATUS GROUPA 呼び出しを実行した場合は、BA 状況コードのいずれかで終了します。プログラムが INIT 呼び出しを実行しなかった場合は、アプリケーションは異常終了コード 3303 で異常終了します。

プログラマーの応答

戻りコードに応じて適切な処置を取ってください。

問題判別: 35

モジュール: DFSDBAU0

関連情報

DFS2503W
DYNAMIC *action_type* FAILED
FOR DATA SET NAME
xxxxxxxx.xxxxxxxxx.xxxxxxxxx
DATABASE NAME *dbdname* REASON CODE
yyyyy

3303 (メッセージおよびコード)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0407I REGION TOO SMALL

説明

モジュール DFSILTA0 が十分なストレージを取得できなかったため、キュー項目を作成できませんでした。

システムの処置

DFSILTA0 は異常終了し、異常終了コード 0407 が示されます。

プログラマーの応答

領域を大きくしてジョブを再実行するか、EXEC ステートメントで ST= パラメーターをコーディングして、処理時間を短縮してください。

モジュール: DFSILTA0

関連情報

0407 (メッセージおよびコード)

DFS0408I INVALID 'ST' PARAMETER.

説明

EXEC ステートメントに無効な ST パラメーターがありました。

システムの処置

ログ・トランザクション分析プログラム DFSILTA0 が異常終了し、異常終了コード 0415 が示されます。

プログラマーの応答

EXEC ステートメントのパラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

ログ・トランザクション分析ユーティリティで、EXEC ステートメントのパラメーターのフォーマットを確認してください。

モジュール: DFSILTA0

関連情報

IMS 異常終了 0415

DFS0409I INVALID 'OUT' PARAMETER.

説明

EXEC ステートメントに無効な OUT パラメーターがありました。

システムの処置

ログ・トランザクション分析プログラム DFSILTA0 が異常終了し、異常終了コード 0415 が示されます。

プログラマーの応答

EXEC ステートメントのパラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

ログ・トランザクション分析ユーティリティーで、EXEC ステートメントのパラメーターのフォーマットを確認してください。

モジュール:

DFSILTA0

関連情報

[IMS 異常終了 0415](#)

DFS0410I END OF FILE ON LOG DATASET

説明

入力ログ・データ・セットのファイルの終わりに達しました。

システムの処置

ログ・トランザクション分析プログラム DFSILTA0 が正常に終了します。

モジュール:

DFSILTA0

DFS0411I DDNAME OPEN FAILED.

説明

メッセージの中で DD 名が定義されているデータ・セットで、OPEN が失敗しました。レジスター 11 がデータ・セットの DCB を指しています。

システムの処置

DFSILTA0 は異常終了し、異常終了コード 0411 が示されます。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

DCB および DD ステートメントをチェックしてください。

モジュール:

DFSILTA0

関連情報

[IMS 異常終了 0411](#)

DFS0412I MISSING 08 RECORD

説明

ログ・トランザクション分析プログラム DFSILTA0 が、終了レコード (X'07') を以前のスケジュール・レコード (X'08') に接続できませんでした。

システムの処置

DFSILTA0 は処理を続行します。X'08' レコード・アプリケーション・プログラム・スケジュールに関連したトランザクションがあれば、いずれも無視されます。

問題判別:

この問題は、IMS エラーと考えられます。1、2、3、8、25、36

モジュール:

DFSILTA0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0413I INCORRECT LOG DATASET
 xxxxxxxx - DISCARDED RC=zz**

説明

ログ・データ・セットに関する DD ステートメント xxxxxxxx の指定に誤りがありました。エラーの原因は、次のいずれかです。

- DD DUMMY または DSN=NULLFILE が指定された。
- ログ記録モードが単一であるため、指定された 2 次ログ・データ・セットが使用されない。
- OLDS DD 名に関する必須 1 次または 2 次パートナーが指定されなかった。ログ記録モードが重複であり、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) は、対 (1 次と 2 次) で指定する必要があります。
- バッチ・プログラムに関して、DD ステートメントの指定に誤りがあった。
- オンライン・プログラムに関して、DUAL ログ記録モードが要求されていなかった。1 次 OLDS に関する割り振りは正常に行われましたが、2 次 OLDS に関する割り振りが失敗しました。
- DD 名で先行書き込みデータ・セット (WADS) を指定する際に、属性の指定が誤っていた。

理由コード zz には、次の値と意味があります。

コード (10 進数)

意味

04

次のいずれかの理由で、DDNAME=xxxxxxx に関して、割り振りが失敗しました。

- DFSMDA メンバーは検出されず、DD ステートメントが JCL ストリームで検出されませんでした。

- メッセージ DFS2503W も受信された場合は、割り振り失敗の理由について、DFS2503W を参照してください。

- 08** OLDS/WADS 装置が DASD ではありませんでした。
- 12** DEVTYPE が DDNAME=xxxxxxx に関して失敗しました。
- 16** DDNAME=xxxxxxx が DD DUMMY または DSN=NULLFILE として指定されました。
- 20** RDJFCB が DDNAME=xxxxxxx に関して失敗しました。
- 28** OBTAIN が、DDNAME=xxxxxxx で定義されたデータ・セットに関して失敗しました。
- 32** OLDS ブロック・サイズが 2K の倍数ではありませんでした。
- 36** 重複 OLDS が指定され、2 次 OLDS ブロック・サイズ (DFSOLSnn) が 1 次 OLDS ブロック・サイズ (DFSOLPnn) と異なっていました。
- 40** OLDS ブロック・サイズが、正常に割り振られた最大の OLDS ブロック・サイズ (DFSOLPnn,DFSOLSnn) より小でした。
- 44** WADS 装置タイプが不整合 (特殊) でした。
- 48** OLDS ブロック・サイズがトラック容量より大でした。
- 52** BUFSTOR=64 が OLDSDEF ステートメントに指定されましたが、この OLDS は拡張フォーマット・データ・セットではありませんでした。
- 56** WADS が 5 トラックより小さくなっています。
- 60** IMS ロガーは、**CONNECT (OPEN)** コマンドを使用して WADS に接続したときに、DFSMS Media Manager からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。このエラーの最も一般的な理由は、WADS が VSAM データ・セットではないことです。
- 64** WADS CI サイズが 4 KB ではありませんでした。

システムの処置

DD エラー・ステートメントは廃棄され、システム初期設定は続行されます。DUAL が要求され、エラーが

OLDS 対に存在する場合は、OLDS 対は廃棄されます。システム初期設定が続行されます。

プログラマーの応答

DD ステートメントをチェックし、エラーがあれば、すべて訂正して、次のシステム初期設定時には、データ・セットが使用可能になるようにしてください。

問題判別:

1、3、8、11、36

モジュール:

DFSFDLS0、DFSXLGI0

関連情報

733 ページの『DFS2503W』
DYNAMIC action_type FAILED
FOR DATA SET NAME
xxxxxxx.xxxxxxx.xxxxxxx
DATABASE NAME dbdname REASON CODE
yyyyy

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0414I CONTINUING WITH ALTERNATE LOG

説明

または

PERMANENT I/O ERROR ON ddname - DURING LOG zzzz xx

説明

このメッセージは、どちらかの形式で出される可能性があります。最初の形式の場合は、DD 名で指定されたログ・データ・セットで、永続入出力エラーが発生したことを示しています。ログ・データ・セットは、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) と先行書き込みデータ・セット (WADS) と バッチ・システム・ログ・データ・セット (SLDS) のいずれかです。zzzz の値は、WRITE または READ です。

2 番目の形式では、システムが代替ログ・データ・セットから続けることを示しています。

WRITE エラーの場合は、xx は、無効の DECB 通知コードで、ECB (ECBCC) の最初のバイトに含まれています。WRITE エラーで xx 値がない場合は、ログ・データ・セット CLOSE エラーが EOV 処理時に発生したことを示しています。

READ エラーの場合は、xx は OSAM エラー戻りコードです。

xx の値と意味は、次のとおりです。

コード (16 進数) 説明

- 01 DD ステートメントが欠落しています。
- 02 連結データ・セット。
- 03 DASD データ・セットに関して指定されたボリュームよりも装置の数が少なくなっています。
- 04 JCL が指定した DSORG タイプが、OSAM で許可されていません。
- 05 データ・セットの DSCB が検出されません。
- 06 最初のボリューム DSCB が指定した DSORG タイプが、OSAM で許可されていません。
- 07 DCB ブロック・サイズが、JFCB/DCB マージ後の DSCB ブロック・サイズに等しくありません。
- 08 DCB LRECL サイズが、JFCB/DCB マージ後の DSCB LRECL サイズに等しくありません。
- 09 LRECL サイズもブロック・サイズも DSCB、DCB、または JCL で 指定されていませんでした。
- 0A 指定されたブロック・サイズが LRECL より小です。
- 0B 指定されたブロック・サイズが、指定された装置のトラック・サイズを 超えています。
- 0C 以前の OPEN または EOVS が失敗しました。
- 0D VIO が OSAM でサポートされていません。データ・セットは VIO 装置に 割り振られています。
- 0E 磁気テープ装置はサポートされていません。データ・セットは磁気テープ装置に 割り振られています。
- 0F 何らかの内部エラーが OSAM DEB サブルーチンで発生しました。DCBWRK1 がエラー・コードを示します。
- 10 ブロック・サイズがトラック・サイズより大です。

IOS によってエラーが検出された場合は、メッセージ・テキストに入出力完了コードも含まれていることがあります。詳しくは、[z/OS: IOSB マッピング](#)の IOSCOD フィールドを参照してください。

ハードウェア・エラーが発生した場合は、このメッセージより前に発行された z/OS IOS000I メッセージを参照してください。

システムの処置

IMS はスペア WADS (DFSWADS n , $n=0,1,\dots,9$) (ただし、使用可能な場合) から実行を継続します。そのような WADS が存在しない場合、IMS は、ログ先行書き込みプロトコル (LWA) の保存を確保するために、ログ・バッファを切り捨てることで、低下モードでログインを続けます。

他の WRITE エラーの場合は、次のいずれかが発生します。

OLDS

2 つ以上の OLDS が残っている場合、IMS は実行を継続します。残っている OLDS が 1 つだけの場合は、内部 CHECKPOINT FREEZE が実行されます。OLDS が残っていない場合、IMS は異常終了し、異常終了コード 0616 が示されます。

SLDS

重複ロギングが有効で、代替 SLDS が存在する場合、IMS は実行を継続します。代替 SLDS が使用不可の場合、IMS は異常終了し、異常終了コード 0616 が示されます。

オペレーターの応答

エラーが OLDS で発生し、重複ロギングが使用されていない場合、またはエラーが重複 OLDS ログの両方のコピーで発生した場合は、エラーの OLDS をクローズするために、ログ・リカバリー・ユーティリティを実行してください。

関連するハードウェア・エラーがない無効な DECB 通知コードの場合は、SLIP を設定して次回にメッセージが発生したときにメモリー・ダンプを収集し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

割り振り装置に使用できるパスがないことを示すエラー IOS002A が検出され、さらに入出力要求を伴う CLOSE 処理が開始されると、CLOSE がハングした状態で表示されることがあります。UCB に対して **V OFFLINE** を出してください。

モジュール:

DFSFDLSO

関連資料

[z/OS: IOS000I](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0616](#)

DFS0415W

**PARTITIONED DATABASE INIT /
TERM | START EXCEPTION
CONDITION - FUNC= ffffffff,
DBNAME= dddddddd, PARTNAME=
pppppppp, REASON= rr**

説明

HALDB 構造の INIT、TERM、または START 処理中に、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ffffff

エラーが検出された INIT、TERM、または START 機能を指定するキーワード。ffffff は、次のいずれかです。

SYS DDIR

HALDB DDIR 構造のシステム 初期設定

SYS DMB

HALDB DMB 構造のシステム 初期設定

SEL DMB

選択された HALDB DMB 構造のシステム 初期設定

PART DB

HALDB (DDIR および DMB 構造) の初期設定

RBLD PDB

HALDB 名前テーブルの再初期設定

PART DB

HALDB 構造の終了

PART DDIR

区分 DB DDIR 構造のコマンド初期設定

PART DMB

区分 DB DMB 構造のコマンド初期設定

dddddddd

エラーが検出したデータベースを識別します。

pppppppp

エラーが検出された dddddddd 内の区画を識別します。エラーがデータベース全般に関係している場合は、区画名は N/A として 指定されます。

rr

理由コードでエラーの原因を識別します。

理由コード

意味

01

機能コードが無効

02

XPARTW ストレージの割り振り不能

03

データベース DDIR が検出されない

04

データベースが区分として定義されていない

05

HALDB が初期設定されていない。マスター HALDB はオフラインである。データベースが初期化されていないか、または /DBRECOVERY コマンドでオフラインになっている可能性がある。/DIS DB または QRY DB NAME()

SHOW(ALL) を使用して、データベースの状況を表示する。

06

ストレージ・スタック域の割り振り不能

07

無効のデータベース編成

08

データベース編成が不整合

09

無効の STR 変更状態

10

区画リスト・ストレージの割り振り不能

11

DFSPNT ストレージの割り振り不能

12

区画 DDIR の割り振り不能

13

区画 DMB の割り振り不能

14

区画 DCB の割り振り不能

15

ACB の割り振り不能

16

DBRC 名前リストの割り振り不能

17

区画固有ストレージの割り振り不能

18

PHIDAM 索引 ACB の割り振り不能

19

データベース・ディレクトリー拡張ブロックのストレージを取得できませんでした。

20

選択出口のロード不能

21

選択出口が再入可能でリンクされていない

22

選択出口を見つけられない

30

DFSPTX ストレージの割り振り不能

31

DFSPTK ストレージの割り振り不能

32

DFSPDA ストレージの割り振り不能

40

区画データベース DDIR が非アクティブでない

41

区画 DDIR が非アクティブでない

43

区画データベース DMB が初期設定されていない

- 44 重複データベース名 DDIR が検出された
- 45 dfsdt150 のロード不能
- 46 最大の 32,767 データ管理ブロック (DMB) を超えた
- 50 HALDB が検出されない
- 51 区分構造が不要
- 60 区画データベース DDIR リストが検出されない
- 61 区分データ・セットの割り振り解除不能
- 70 DXPXDLIL ストレージの割り振り不能
- 71 DBRC 照会エラー
- 72 DBRC によって戻された区画データなし
- 73 ターゲット区画データは DBRC によって検出されなかった
- 74 DBRC がアクティブでない
- 75 指定された未登録 HALDB はカタログ・データベースではない。HALDB 構造が作成されておらず、HALDB は使用可能でない
- 76 DFSHDBSC データ・セットには、指定された HALDB の構造に関する情報は含まれていない
- 77 未登録データベース構造の作成中にエラーが発生した
- 83 Resource Manager (RM) 照会中にエラーが発生した。新たに追加された区画のグローバル状況が適用されなかった
- 90 警告、区画は再作成から除外された。
- 91 作業用ストレージを取得できないため、区画の DDIR ブロックを DDIR チェーンからデキューできない。
- 92 区画の DDIR ブロックは使用されなくなり、DDIR チェーンから削除されている。

- 93 オンライン変更によって HALDB マスターが削除されたため、区画は削除された。
- 99 1 つ以上のデータベースに関してエラーが検出された。

システムの処置

区画構造処理は終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

システム・プログラマーの応答

メッセージ・テキストに入れて戻される理由コード *rr* で示されている障害の原因を判別してください。適切な措置を講じて、理由コードの説明に応じて問題を訂正してください。

問題判別:

1、3、6、11、36、40

モジュール:

DFSPSM10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

[0880 \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS0416I INITIALIZATION FAILED-(E)STAE ERROR

説明

IMS 初期設定で、IMS (E)STAE 環境を確立できませんでした。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0071 が示されます。

モジュール:

DFSXCIC0、DFSXLGI0

関連情報

[IMS 異常終了 0071](#)

DFS417I PAGE FREE FAILED.

説明

STAE 出口処理中に、モジュール DFSFCST0 がページ固定リストに含まれているページの解放を試みましたが、正常に行えませんでした。ページ・フリー・リスト・アドレスは、SCD のラベル SCDFIX にあります。

システムの処置

メッセージが発行された後で、STAE 出口処理は続行されます。

問題判別

1、4、5、6、8、11、36

モジュール

DFSFCST0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS418A PSB IS NOT AUTHORIZED FOR ON-LINE IMAGE COPY

説明

このメッセージが出るのは、OLIC=YES オプションが PSBGEN マクロで指定されていないのに、ユーザーが指定した PSB が生成された場合です。

システムの処置

ユーティリティーは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答

PSB を訂正するか、またはオプションを適切に指定した PSB を使用するか、どちらかを行ってください。

モジュール:
DFSUICPO

DFS0420A DBD dbdname STOPPED --- PREVIOUS WRITE ERROR DETECTED.

説明

再始動処理が、以前に書き込みエラーを被ったデータベースを検出しました。データベースをリカバリーした場合は、**/DBR DB dbdname**、**UPDATE DB NAME(name) STOP(ACCESS)**¹、**/START DB**、または **UPDATE DB START(ACCESS)** コマンドを発行してください。このデータベースをリカバリーしていなかった場合は、データベースの再始動前にリカバリーしておく必要があります。そうしないと、データ安全性が失われる恐れがあります。

¹ これらのコマンドは、OPTION(FEOV) を指定した場合以外、チェックポイントを自動的に発行しません。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。データベースが再始動の前にリカバリーされている場合は、**/DBR** コマンドと **/START DB** コマンド、または **UPDATE DB NAME(dbdname)**

STOP(ACCESS) と **UPDATE DB NAME(dbdname)**

START(ACCESS) でデータベースを開始してください。リカバリーが行われていない場合は、データベースを開始する前に、リカバリーが実行されるまで待ってください。

プログラマーの応答

IMS が再始動する前に、データベース・リカバリーを実施してください。データベースが再始動前にリカバリーされているか確認してください。

問題判別:

1、6、25

モジュール:

DFSRST00、DFSSDL40

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS421I UNABLE TO OPEN SYSPRINT DATASET, JOB TERMINATED.

説明

SYSPRINT データ・セットに関する DD ステートメントが、SYSOUT 印刷ユーティリティーに示されませんでした。このメッセージは、z/OS プログラマー向け書き込み機能を使用して印刷されます (戻りコード = 8)。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSUPRT0

DFS422I I/O ERROR WRITING SYSPRINT DATASET, JOB TERMINATED.

説明

SYSOUT 印刷ユーティリティーが SYSPRINT データ・セットに書き込んでいる最中に、永続入出力エラーが発生しました。このメッセージは、z/OS プログラマー向け書き込み機能を使用して印刷されます (戻りコード = 0C)。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSUPRTO

DFS423I *jobname, stepname, dev addr, DA, ddname, GET, status, disk addr, QSAM*

説明

印刷ユーティリティ DFSUPRTO でスプール SYSOUT データ・セットを処理している最中に、入出力エラーが発生しました。データ・セットはクローズされ、処理は次から続行しました。

このメッセージ内の情報は、SYNADAF z/OS マクロから入手したものです。DFSUPRTO を実行するバッチ環境では、メッセージのフィールドおよびその意味は、それぞれ次のとおりです。

jobname

JOB JCL ステートメントのラベル

stepname

EXEC JCL ステートメントのラベル

dev addr

データ・セットが常駐する装置のハードウェア・アドレス

DA

直接アクセス

ddname

データ・セットに関する DD JCL ステートメントのラベル

GET

エラーが検出された QSAM 操作

status

エラーの説明

disk addr

実際のトラック・アドレスとブロック番号。フォーマットは、16 進形式の BBCCHHR (2 バイトの 2 進数、2 バイトのシリンダー番号、2 バイトのヘッドまたはトラックの番号、トラック上の 1 バイトのレコード番号) です。

QSAM

ユーティリティで 使用される待機順次アクセス方式

プログラマーの応答

必要な場合は、さらに使用する前に、障害が起こっているデータ・セットを再割り振りするか、代替トラックを割り当ててください。

モジュール:
DFSUPRTO

関連資料

z/OS: SYNADAF - SYNAD 分析機能 (BDAM、BISAM、BPAM、BSAM、EXCP、QISAM、および QSAM) の実行

DFS424I **NO SPOOL DATASETS TO BE PRINTED.**

説明

スプール SYSOUT 印刷ユーティリティが実行されましたが、DD 名が SPOOLnnn の形式ではありませんでした。ジョブは終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSUPRTO

DFS425I **INVALID SPOOL DATASET FORMAT.**

説明

非初期設定スプール・データ・セットか、DD 名形式が SPOOLnnn の非スプール・データ・セットか、または状況レコード書き込み中のオンライン・システム障害か、いずれかが原因で、印刷ユーティリティ・プログラムがスプール・データ・セットの印刷をリジェクトしました。

プログラマーの応答

さらに実行を継続するために印刷プログラムをサブミットする前に、このデータ・セットを使用して、IMS オンライン制御システムの再初期設定を実行しておく必要があります。

モジュール

DFSUPRTO

DFS0426I **PHYSICAL I/O ERROR IN STEP
stepname prcstpnm**

説明

ステップ名が *prcstpnm* のステップ *stepname* プロシージャで 使用されているデータベースで、物理入力または出力のエラーが発生しました。エラーの種別を示すメッセージ DFS0451I (または、DFS0451A) が出されました。さらに、このステップが異常終了します。このステップに関する PSB の IOEROPN パラメーターが、異常終了コード 0451 を出すように要求しましたが、ステップは何か別の理由で異常終了しました。異常終了コード 0451 は出されませんでした。

プログラマーの応答

該当する処置を取って、入出力エラーの原因となった条件および異常終了条件を訂正してください。

問題判別:

1、2、3、4、35

モジュール:

DFSDVBHO

関連情報

161 ページの『DFS0451I』

modname, dbdname, ddname, i/o error, decb field

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0427I LOGICAL ERROR ON *ddname*,
ERROR CODE *Vxx* or *Iyy*.**

説明

VSAM データベースの処理中に、論理エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

論理エラーが発生したデータ・セットの DD 名

xx

エラーであった要求に対して、VSAM が RPL フィールドバック・フィールドに入れた、16 進数の論理エラー戻りコード。VSAM 論理エラー戻りコードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

yy

IMS バッファ・ハンドラー論理エラー。

Vxx

予期しない論理エラーが VSAM によって戻されました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了して、疑似異常終了コード 0427 が示され、IMS は処理を続行します。ただし、DUMP=YES が DL/I バッファ・オプション・ステートメントで指定されていた場合は、アプリケーションは異常終了して、IMS の標準的な異常終了コード 0427 が示され、制御領域は異常終了します。

Iyy

DFSDVSMO で予期しない条件が発生しました。

04

カップリング・ファシリティ・サービスの使用によるバッファ妥当性検査のテスト中に、無効のローカル・ベクトル索引が検出されました。

08

カップリング・ファシリティ・サービスの使用によるバッファ妥当性検査のテスト中に、予期しない戻りコードが VSAM から戻されました。

システムの処置: バッファ・ハンドラーがアプリケーション・プログラムを終了させ、異常終了コード 0427 が示されます。

ある PCB には PROCOPT=L が含まれ、別の PCB には PROCOPT=I (または GIRD または A) が含まれるプログラム仕様ブロック (PSB) がある場合、結果は予測不能です。このメッセージが発行される可能性があります。

0427 異常終了コードの項も参照してください。

問題判別:

1、4、35

モジュール:

DFSDVSMO

関連情報

IMS 異常終了 0427

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0428I PSB SPECIFIED IN EXECUTE
PARMS DOES NOT MATCH PSB ON
LOG DATASET.**

説明

バッチ・バックアウト・ジョブの EXEC パラメーターで指定された PSB が、バッチ・バックアウトに示されたログ・データ・セットの中の更新 (タイプ X'50') レコード上の PSB と一致しませんでした。

このエラーが発生するのは、IRLM がデータ共用のために使用されているバッチ・ジョブのバックアウト中です。EXEC パラメーターで指定された PSB に誤りがあった場合は、バッチ・バックアウトによって、失敗したバッチ・ジョブに関して、すべての IRLM ロックが解放されれば、このチェックでデータ安全性のエクスポージャーが防止されます。

システムの処置

バッチ・バックアウトが終了します。

プログラマーの応答

EXEC パラメーターで指定された PSB が、バックアウトされるバッチ・ジョブで指定された PSB と一致することを確認してください。

モジュール:

DFSBACKIO

**DFS0429I VSAM {GENCB|MODCB} ERROR,
RETURN CODE X'yy'.****説明**

DL/I VSAM プールの初期設定で、VSAM GENCB または MODCB マクロを発行し、VSAM から戻されたエラー条件を検出しました。X'yy' が VSAM から戻された、レジスター 15 の 16 進数戻りコードです。

システムの処置

異常終了コード 0430 が出て、ステップは終了します。

プログラマーの応答

VSAM GENCB および MODCB からの戻りコードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

問題判別:

1、2、3、4、35

モジュール:

DFSDVBIO

関連資料

[z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0430](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0430I UNABLE TO INITIALIZE DL/I
BUFFERING SERVICES, REASON
CODE xx****説明**

DL/I バッファリング・サービス機能が初期設定 出来ません。変数 xx が障害の理由であり、次の値のいずれかになります。

理由コード: 01

DL/I または DBB 領域では、PSB に VSAM データベースの PCB が 1 つ以上含まれていました。ただし、DL/I バッファ・プール・パラメーター・データ・セット (DFSVSAMP) は指定されていませんでした。

プログラマーの応答: ジョブ・ステップ用の VSAM バッファ・サブプールを記述するために、DL/I バッファ・プール・パラメーター・データ・セットを指定してください。

理由コード: 02

DL/I がバッファ・プール制御ステートメント・データ・セットを OPEN できませんでした。バッチ領域の場合は、このデータ・セットは DDNAME

DFSVSAMP で定義されています。オンライン領域の場合は、このデータ・セットは DDNAME PROCLIB で定義されています。

プログラマーの応答: DD ステートメントが領域タイプに応じて正しいか確認してください。さらに、オンライン領域の場合は、パラメーター VSPEC で指定された値が、DFSVSMMxx のメンバー名、および PROCLIB に存在するメンバー名を完成する有効な接尾部であることを確認してください。VSPEC が指定されていない場合は、メンバー名 DFSVSM00 が使用されます。

理由コード: 03

DLI または DBB 領域では、PSB に VSAM データベースの PCB が 1 つ以上含まれていましたが、有効なサブプール定義ステートメントが検出されませんでした。メッセージ DFS0434I か DFS0435I、またはその両方が発行されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0434I または DFS0435I を参照してください。

理由コード: 04

DLI または DBB 領域では、PSB に VSAM データベースの PCB が 1 つ以上含まれていましたが、サブプール定義ステートメントが検出されませんでした。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを調べ、必要に応じて訂正してください。

理由コード: 05

DL/I バッファ・プール・パラメーター・データ・セットの読み取り中に、入出力エラーが検出されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0436I を参照してください。

理由コード: 06

VSAM 共用リソース・プールの作成を試みている最中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS0432I が示されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0432I を参照してください。

理由コード: 07

DL/I モジュールのロードを試みている最中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS0438I が示されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0438I を参照してください。

理由コード: 08

VSAM SHOWCB マクロの発行中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS0429I が示されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0429I を参照してください。

理由コード: 09

DL/I バッファ・ハンドラー・プール用の主記憶域の取得を試みている最中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS0431I が示されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0431I を参照してください。

理由コード: 10

VSAM GENCB マクロの発行中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS0429I が示されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0429I を参照してください。

理由コード: 11

特定のサブプールまたは共用プール ID テーブルに関する DBD ステートメントの処理中、または特定の共用プール ID テーブルに関する POOLID ステートメントの処理中に、GETMAIN 障害が起きました。

プログラマーの応答: 領域サイズ・パラメーターを大きくして、IMS を再実行してください。

理由コード: 12

DD 名オープン・テーブル用の主記憶域の取得を試みている最中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS0441I が示されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0441I を参照してください。

理由コード: 13

互換性のない制御ステートメントの組み合わせが、DFSVSAMP データ・セットで検出されました。IOBF= ステートメントでは、OSAM バッファ・プールの定義および割り振りを要求していましたが、OSAMOP IOSCB=NO ステートメントでは、OSAM リソースがバッチ環境で使用されないよう要求していません。

プログラマーの応答: OSAM データベースにアプリケーションでアクセスしてよいかどうか判別してください。該当する制御ステートメントを使用してください。

理由コード: 14

ハイパースペース (Hiperspace) バッファリングが、サイズが 4 KB より小さいサブプールに対して指定されているか、拡張ストレージの大きさが不十分で指定されたサブプール・サイズに対応できないため、使用不能であるか、どちらかです。

プログラマーの応答: バッファ・サイズが 4 KB より小さいバッファに対する Hiperspace バッファリング指定は、すべて除去してください。拡張ストレージの問題については、「z/OS MVS 初期設定およびチューニングガイド」(SA88-8563) を参照してください。

理由コード: 15

VSAM サブプール定義の VSRBF キーワードが、最初の POOLID ステートメントより前で検出されまし

た。POOLID ステートメントを使用して、VSAM ローカル共用リソース・プールを 1 つ以上定義するときは、各 VSAM ローカル共用リソース・プールごとの VSRBF サブプール定義ステートメントは、それが関係する POOLID ステートメントの後に続く必要があります。

プログラマーの応答: メンバー DFSVSMxx に関する情報を検討してください。制御カードを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

理由コード: 16

CFNAMES 制御ステートメントで指定されたカップリング・ファシリティ構造名が重複しています。メッセージ DFS3385I も、このエラーを定義するために出されます。

プログラマーの応答: メンバー DFSVSMxx に関する情報を検討してください。CFNAMES 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

理由コード: 17

すべてのキーワード (CFIRLM、CFOSAM、および CFVSAM) を CFNAMES 制御ステートメントで指定する必要があります。メッセージ DFS3388I も、このエラーを定義するために出されます。

プログラマーの応答: メンバー DFSVSMxx に関する情報を検討してください。CFNAMES 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

理由コード: 18

エラーが CFNAMES 制御ステートメントで検出されました。メッセージ DFS0437I も、このエラーをさらに定義するために出されます。

プログラマーの応答: メンバー DFSVSMxx に関する情報を検討してください。CFNAMES 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

理由コード: 19

説明: バッチ環境では、IRLM は使用されますが、DBRC は使用されません。

プログラマーの応答: DBRC が IMS システム定義で指定されたかどうか、または DBRC=N が実行 JCL の EXEC ステートメントで指定されなかったことを確認してください。

理由コード: 21

ブロック直列化ラッチ・テーブル用の主記憶域の取得を試みている最中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS3287E が発行されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS3287E を参照してください。

システムの処置

IMS は終了し、異常終了コード 0430 が示されます。

問題判別:

1、2、3、4、35

モジュール:

DFS0431I, DFS0432I, DFS0433I, DFS0434I, DFS0435I, DFS0436I, DFS0437I, DFS0438I, DFS0441I

関連情報

IMS 異常終了 0430

934 ページの『DFS3287E』

STORAGE NOT AVAILABLE FOR BLOCK
SERIALIZATION TABLE, RETURN CODE X'xx'

150 ページの『DFS0429I』

VSAM {GENCIB|MODCB} ERROR, RETURN CODE
X'yy'.

152 ページの『DFS0431I』

STORAGE NOT AVAILABLE FOR VSAM BUFFER
POOL, RETURN CODE *nn*

152 ページの『DFS0432I』

VSAM SHARED RESOURCE POOL CANNOT BE
BUILT, RETURN CODE X'yy', POOL ID *xxxx*, *zzzzz*

153 ページの『DFS0433I』

NUMBER OF BUFFERS FOR SUBPOOL SIZE
nnnnn CHANGED TO *mmm*

153 ページの『DFS0434I』

BUFFER SIZE OR KEYWORD INVALID ON CARD
nnn

153 ページの『DFS0435I』

NUMBER OF BUFFERS INVALID ON CARD *n*

153 ページの『DFS0436I』

I/O ERROR ON CONTROL CARD DATASET

154 ページの『DFS0437I』

CARD *nnn*, ERROR IN PARAMETER *mmm*

154 ページの『DFS0438I』

UNABLE TO LOAD MODULE *m*, return code X'nn'

155 ページの『DFS0441I』

STORAGE NOT AVAILABLE FOR OPEN TABLE,
RETURN CODE X'yy'

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0431I **STORAGE NOT AVAILABLE FOR
VSAM BUFFER POOL, RETURN
CODE *nn***

説明

DL/I VSAM バッファ・プール用としての GETMAIN ス
トレージを試みている最中に、エラーが検出されまし
た。*nn* は、IMODULE GETMAIN マクロからの戻りコー
ドです。これらの戻りコードについての説明は、
IMODULE 戻りコードに関する情報を参照してくださ
い。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0430 が示されま
す。

プログラマーの応答

使用可能なストレージが不足している場合は、IMS で使
用できる主記憶域を増やしてください。LSO (ローカ
ル・ストレージ・オプション) が DL/I SAS 領域用として
選択されている場合は、DL/I 領域用のサブプール 251
(low private storage) では、DL/I バッファ・プール用
として大きさが十分ではありません。DL/I 始動 JCL の
領域パラメーターの値を大きくしてください。LSO=N
(別の DL/I アドレス・スペースなし) が選択されている
場合は、十分なサブプール 231 が使用可能ではありま
せん。制御領域 JCL の領域パラメーターの値を大きく
してください。

問題判別:

1、2、3、4、18、35

モジュール:

DFS0431I

関連資料

IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報

IMS 異常終了 0430

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0432I **VSAM SHARED RESOURCE POOL
CANNOT BE BUILT, RETURN CODE
X'yy', POOL ID *xxxx*, *zzzzz***

説明

IMS が VSAM 共用リソース・プールを作成するために、
VSAM BLDVRP マクロを発行しました。VSAM は、エ
ラー条件を検出し、プールを作成しませんでした。変
数 *yy* は、VSAM によって戻された 16 進数のエラー・コ
ードです。複数の共用リソース・プールが要求された場
合は、POOL ID *xxxx* がエラーの特定の共用リソース・
プールを示します。*zzzzz* は共用リソース・プール・タ
イプで、INDEX と DATA のどちらかです。

システムの処置

エラーになっている共用リソース・プールが、要求され
た唯一の、またはデフォルトの共用リソース・プールで
ある場合、IMS は異常終了します。異常終了コード
0430 が出されます。それ以外の場合、IMS はデフォ
ルトの共用リソース・プールにデータ・セットを再割り当
てします。

プログラマーの応答

VSAM BLDVRP マクロからの戻りコードについての詳細な説明は、*z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets* を参照してください。

モジュール:

DFSDVBI0

関連資料

[z/OS: BLDVRP 戻りコード](#)

関連情報

IMS 異常終了 0430

DFS0433I	NUMBER OF BUFFERS FOR SUBPOOL SIZE <i>nnnn</i> CHANGED TO <i>mmm</i>
-----------------	---

説明

VSAM または OSAM サブプール・サイズに関して指定されたバッファの数 *nnnn* が、必要最小数より小であったか、最大許容数より大でした。

システムの処置

システムは *mmm* 個のバッファをサブプール内に作成しました。

プログラマーの応答

バッファの数については、[VSAM および OSAM サブプールの指定 \(システム定義\)](#) を参照してください。

問題判別:

1、2、3、36

モジュール:

DFSDVBI0

関連概念

[VSAM および OSAM サブプールの指定 \(システム定義\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0434I	BUFFER SIZE OR KEYWORD INVALID ON CARD <i>nnn</i>
-----------------	--

説明

バッファ・プール・パラメーター・データ・セットの *n* 番目のステートメントが、無効なバッファ・サイズまたは無効なキーワードを指定しました。バッファ・サイズは 512、1024、2048、4096、または 32768 を最大とする 4096 の倍数であることが必要です。

システムの処置

ステートメントはバイパスされます。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、36

モジュール:

DFSDVBI0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0435I	NUMBER OF BUFFERS INVALID ON CARD <i>n</i>
-----------------	---

説明

バッファ・プール・パラメーター・データ・セットの *nth* ステートメントで指定されたバッファの数が無効であったか、指定された値が数値ではありませんでした。

システムの処置

VSAM が使用される (しかも、値が数値でない) 場合は、ステートメントはバイパスされます。OSAM の場合は、残りのパラメーターすべてでデフォルトが取られます。パラメーターが数値の場合は、メッセージ DFS0433I を参照してください。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、必要な場合は、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、36

モジュール:

DFSDVBI0

関連情報

153 ページの『DFS0433I』

NUMBER OF BUFFERS FOR SUBPOOL SIZE *nnnn* CHANGED TO *mmm*

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0436I	I/O ERROR ON CONTROL CARD DATASET
-----------------	--

説明

モジュール DFSCVBIO がバッファ・プール・パラメータ・データ・セット (DFSVSAMP) の読み取りを試み、入出力エラーを検出しました。

システムの処置

領域タイプ DBB または DLI では、VSAM を使用するデータベースが PSB で指定されていた場合は、異常終了コード 0430 が出されました。それ以外のすべての場合は、処理が DL/I VSAM バッファ・プールなしで続行されます。

プログラマーの応答

DFSVSAMP に関する DD ステートメントが正しいか確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

2、3、4、18、19

モジュール:

DFSDVBIO

関連情報

[IMS 異常終了 0430](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0437I **CARD nnn, ERROR IN PARAMETER
mmm**

説明

バッファ・プール・パラメータ・データ・セットの *n*th ステートメントは、*m*th パラメータにエラーがあります。オンライン・システムでは、このエラーが発生するのは、システム定義に DBD が含まれていない場合です。バッチ・ジョブでは、このエラーが発生するのは、使用されている PSB 内で DBD が生成されない場合です。次のステートメントでパラメータが無効の場合も、このエラーが発生する可能性があります。

CFNAMES

IOBF

DBD

OPTIONS

VSBRF または VSAM バッファ・プール定義

RESVPOOL

LOCKTIME

FFROLR

システムの処置

パラメータは無視され、処理は続行されます。

バッファ・プール・パラメータ・データ・セットで、データベース・パラメータが A から J、L、また

は X のデータ・セット番号付きで HALDB に指定されているが、データベースが NON HALDB である場合に、システムはこのメッセージを発行します。割り振りは発生しません。その後にデータベースが HALDB に変換された場合は、この項目のための割り振りが、データベースの始動と同時に (IMS のリサイクルなしで) 有効になります。同じことが、データ・セット番号 1 で HALDB から NON HALDB へ変換を行っているときに発生します。

プログラマーの応答

パラメータは無視されています。制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。パラメータのフォーマットについては、IMS システム定義の説明を参照してください。

問題判別:

2、3、18、19

モジュール:

DFSDVBIO、DFSTRA00、DFSRDB30

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0438I **UNABLE TO LOAD MODULE m,
return code X'nn'**

説明

モジュール名が *m* のモジュールのロードを試みている最中に、エラーが検出されました。X'nn' は、IMODULE LOAD マクロからの 16 進数戻りコードです。これらのコードについての説明は、IMODULE 戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0430 が示されます。

プログラマーの応答

エラーを起こさずにアクセスできるライブラリーにあるモジュールを指定してください。

問題判別:

1、2、3、35

モジュール:

DFSDVBIO

関連資料

[IMODULE 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0430](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0439I **WARNING, VSAM SUBPOOLS
WITH EQUAL LENGTH BUFFERS
HAVE BEEN DEFINED, POOL ID
xxxx**

説明

複数の VSAM サブプール定義ステートメントで同じバッファ・サイズを指定しています。複数の共用リソース・プールが要求された場合は、POOL ID xxxx がエラーの特定の共用リソース・プールを示します。

システムの処置

バッファの数の合計を指定して、サブプールが作成されます。

プログラマーの応答

別々のサブプールを作成する意図であった場合は、サブプール定義ステートメントを訂正して、異なるバッファ・サイズを指定してください。

問題判別:

2、3、18、19

モジュール:

DFSDVBIO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0440A **GSR POOL ALREADY EXISTS,
REPLY 'LOCAL' 'DELETE' OR
'ABEND'**

説明

IMS が VSAM グローバル共用リソース・プールを作成するために、VSAM BLDVRP マクロを発行しました。戻りコード 4 が戻されたら、GSR プールが存在することを示しているため、システム・オペレーターは応答する必要があります。

システムの処置

IMS はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答

次のいずれかの応答を使用します。

LOCAL

別の IMS システムが GSR を使用して実行中であり、初期設定を続行したい場合に使用します。この

オプションでは、IMS のこの実行にローカル共用リソース (LSR) プールを使用する結果になります。

DELETE

ほかに現時点で実行中の IMS システムは存在せず、グローバル共用リソース (GSR) プールを使用したい場合に指定します。このオプションでは、現行 GSR プールが削除され、新しい GSR プールがこの実行のために作成される結果になります。

注: 現行 IMS システム GSR プールを使用して実行中にこのオプションを選択すると、プールは削除されます。結果は予測不能です。

ABEND

別の IMS システムが GSR を使用して実行中であり、LSR を使用してこのシステムを実行したくない場合、または別のシステムが GSR を使用して実行中か分からず初期設定を終了したい場合に、指定します。このオプションでは、メッセージ DFS0432I の後に続いて、異常終了コード 0430 が示される結果になります。

問題判別:

1、2、3、4、35

モジュール:

DFSDVBIO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0441I **STORAGE NOT AVAILABLE FOR
OPEN TABLE, RETURN CODE X'yy'**

説明

オープン・テーブル用としての GETMAIN ストレージを試みている最中に、エラーが検出されました。yy' は、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。これらのコードについての説明は、IMODULE 戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0430 が示されません。

プログラマーの応答

使用可能なストレージが不足している場合は、IMS で使用できる主記憶域を増やしてください。

問題判別:

1、2、3、4、18、22

モジュール:

DFSDVBIO

関連資料

[IMODULE 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

IMS 異常終了 0430

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0442A VSAM RDF/CIDF BAD
DBD=dbdname DD=ddname

説明

VSAM 制御インターバルを書き込む前に、レコード定義フィールド (RDF) および制御インターバル定義フィールド (CIDF) が検査され、それらが無効であるか、IMS に必要なレコード・フォーマットと整合しないことが分かりました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

データベース・リカバリー手順を使用して、エラーのデータベースを再構成してください。

問題判別:

4、5、9、11、18、20

モジュール:

DFSDVSMO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0443I dbname IS REGISTERED AS NON-RECOVERABLE

説明:

詳細情報および処置については、メッセージ DFS0443W を参照してください。

関連情報

DFS0443W

dbname IS INCONSISTENT WITH OTHER DBS IN THE DBNET

DFS0443W dbname IS INCONSISTENT WITH OTHER DBS IN THE DBNET

説明

識別されているデータベースが DBRC に回復不能として登録されると、スケジューリングによりこのメッセージが最初の形式で出されます。

識別されているデータベースが回復不能として登録され、関連データベースがリカバリー可能として登録されると、スケジューリングではこのメッセージを 2 番目

の形式で出します。関連データベースはすべてがリカバリー可能か回復不能のいずれかにします。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

これは通知メッセージです。

モジュール:

DFSDBLN0

DFS0444 MESSAGE LENGTH EXCEEDS FAST PATH BUFFER LENGTH - INPUT IGNORED

説明

端末オペレーターが入力した高速機能 メッセージ・セグメントが長すぎて、急送メッセージ処理バッファ (EMHB) に収まりませんでした。EMHB は、TERMINAL マクロの FPBUFLN キーワードで定義されています。

システムの処置

トランザクション・メッセージは廃棄されます。

オペレーターの応答

トランザクション・メッセージのフォーマットを訂正してから、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DBFSUIX0

DFS0445I WARNING - INVALID VSAM SHARED RESOURCE POOL DEFINITION, POOLID xxxx, REASON CODE yy

説明

VSAM 共用リソース・プールに関する定義が無効です。xxxx ではプール ID を、yy では次の理由コードのいずれかを、それぞれ識別しています。

理由コード: 01

同じ VSAM 共用リソース・プール内にはデータ・サブプールがない索引サブプールの定義を試みているため、エラーが検出されました。IMS が特定の共用リソース・プールを作成することはできません。

プログラマーの応答: 次のジョブの実行の前に、制御ステートメントを訂正してください。

理由コード: 02

VSAM 共用リソース・プールの最大数を超過しています。限度に達した後で検出された POOLID ステータス

トメント (および、対応する VSRBF ステートメント) があっても、すべて無視されます。警告メッセージが出されるのは、最初に限度を超えた有効な POOLID ステートメントの場合のみです。

プログラマーの応答: 限度を超える VSAM POOLID サブプール定義ステートメントは、結合または除去してください。

理由コード: 03

POOLID サブプール定義ステートメントの処理中に、無効のプール ID が検出されました。IMS は POOLID ステートメント、およびその共用リソース・プール内のサブプールを定義するすべての VSRBF ステートメントを無視します。警告メッセージに表示されるのは、無効のプール ID の最初の 4 文字のみです。POOLID ステートメントの説明については、[VSAM バッファァー・プールの定義 \(システム定義\)](#)を参照してください。

理由コード: 04

POOLID サブプール定義ステートメントの処理中にコーディングされた POOLID ステートメントで、重複プール ID が使用されました。IMS は、プール ID が重複している POOLID ステートメントを無視します。IMS は、その共用リソース・プールのサブプールを定義している VSRBF ステートメントもすべて無視します。

プログラマーの応答: 次のジョブの実行の前に、制御ステートメントを訂正してください。

理由コード: 05

POOLID サブプール定義ステートメントの処理中に、無効なパラメーターが検出されました。IMS は、特定の POOLID ステートメントの残りを無視し、残っているパラメーターのデフォルト値を使用します。POOLID ステートメントの説明については、[VSAM バッファァー・プールの定義 \(システム定義\)](#)を参照してください。

理由コード: 06

POOLID サブプール定義ステートメントの処理中に、エラーが検出されました。POOLID サブプール定義ステートメントの VSAM 共用リソース・プール ID (デフォルトのプール以外の共用リソース・プールの場合は、有効なバッファァー・プール DBD ステートメントのいずれでも参照されませんでした。VSAM 共用リソース・プールは、作成されましたが、使用されませんでした。POOLID ステートメントの説明については、[VSAM バッファァー・プールの定義 \(システム定義\)](#)を参照してください。

理由コード: 07

サブプールが含まれていない VSAM 共用リソース・プールの定義を試みていて、エラーが検出されました。POOLID サブプール定義ステートメントの後には、VSRBF サブプール定義ステートメントではなく、別の POOLID ステートメントが続いています。VSAM 共用リソース・プールに定義済みサブプールがない場合は、無視されます。POOLID ステートメ

ントの説明については、[VSAM バッファァー・プールの定義 \(システム定義\)](#)を参照してください。

理由コード: 08

RESVPOOL ステートメントを使用して予約された共用プールの数を考慮すると、VSAM 共用リソース・プールの最大数を超過しています。通常、許容される共用プールの最大数は、次のとおりです。

15

バッチ環境またはユーティリティー環境の場合

16

DC 環境または DBCTL 環境の場合

限度に達した後で検出された POOLID ステートメント (および、対応する VSRBF ステートメント) があっても、すべて無視されます。警告メッセージが出されるのは、最初に限度を超えた有効な POOLID ステートメントの場合のみです。

IMS バッファァー・プールの初期設定が続行されません。

プログラマーの応答: 限度を超える VSAM POOLID サブプール定義ステートメントは、結合または除去してください。

理由コード: 20

高速機能応答モードの端末が、高速機能に対応していない IMS システムにログオンしようとした。

モジュール:

DBFSUIX0、DFSRDB30

DFS0446I	WARNING - VSAM SHARED RESOURCE POOLID xxxxx ON DBD STATEMENT IN ERROR
-----------------	--

説明

DBD ステートメントの処理中に、エラーが検出されました。DBD ステートメントの VSAM 共用リソース・プール ID が、有効な POOLID サブプール定義ステートメントのいずれでの ID にも一致しません。

システムの処置

IMS は、デフォルトの共用リソース・プールにデータ・セットを再割り当てします。

プログラマーの応答

次のジョブの実行の前に、制御ステートメントを訂正してください。

モジュール:

DFSRDB30

DFS0447I	NUMBER OF BUFFERS FOR VSAM SUBPOOL SIZE nnnnnn CHANGED TO mmm, POOL ID xxxxx
-----------------	---

説明

VSAM サブプール・サイズに関して指定されたバッファラーの数 *nnnnn* が、必要最小数より小か、32767 より大のいずれかでした。複数の共用リソース・プールが要求された場合は、POOL ID *xxxx* がエラーの共用リソース・プールを示します。

システムの処置

mmm 個のバッファラーがサブプール内に作成されました。

プログラマーの応答

バッファラー・プール仕様の説明については、IMS システム定義の説明を参照してください。

モジュール:
DFSDVBIO

DFS0448I	VSAM HIPERSPACE BUFFERING INVALID UNAVAIL FAILED FOR SUBPOOL SIZE <i>nnnnn</i>, POOL ID <i>xxxx</i>
-----------------	--

説明

VSAM ハイパースペース・バッファリングは、サイズが 4 K バイトより小さいサブプールに対して指定されたときは無効です。VSAM ハイパースペース・バッファリングが示されているサブプール・サイズでは無効なのは、拡張ストレージのサイズが不十分なためであり、ハイパースペース・バッファラーはデフォルトであったか、またはオプションとして指定されました。

VSAM ハイパースペース・バッファリングが示されているサブプール・サイズで失敗したのは、拡張ストレージのサイズが不十分なためであり、ハイパースペース・バッファラーが必須として指定されました。

複数の共用リソース・プールが要求された場合は、POOL ID *xxxx* がエラーの共用リソース・プールを示します。

システムの処置

INVALID または FAILED の場合、IMS 初期設定は異常終了し、異常終了コード 0430 が示されます。

UNAVAIL の場合、IMS の初期設定は、示されている VSAM サブプール用のハイパースペース・バッファリングなしで続行されます。

プログラマーの応答

バッファラー・サイズが 4K バイトより小さいバッファラーに対するハイパースペース・バッファリング指定は、すべて除去してください。

十分な拡張ストレージが存在し、このメッセージにストレージが使用不能であることが示されている場合は、PWSS=(*min,max*) に関する IPS ステートメントの z/OS SRM の値を大きくすることを試みてください。「z/OS MVS 初期設定およびチューニングガイド」(SA88-8563) を参照してください。

モジュール:
DFSDVBIO

DFS0448W	VSAM HIPERSPACE SIZE SPECIFIED EXCEEDS THE 2GB LIMIT, POOL ID <i>xxxx</i>.
-----------------	---

説明

ハイパースペース・プール・サイズが 2 GB の制限を超えました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx

ローカル共用リソース (LSR) VSAM バッファラー・プール ID

システムの処置

ハイパースペース・プール・サイズのデフォルトの制限は 2 GB です。

プログラマーの応答

バッファラーの指定を確認します。

モジュール:
DFSDVBIO

DFS449A	VOLUME..... IS INCORRECT FOR RESTART-MOUNT VOLUME.....
----------------	---

説明

再始動処理中に、イメージ・データ・セットの継続用としてマウントされたボリュームが間違っていることを、ユーティリティーが検出しました。

システムの処置

ユーティリティーは、データ・セットをクローズして、間違っているボリュームを強制的にデマウントさせてから、データ・セットを開きます。正しいボリュームがマウントされるまで、ユーティリティーはこれを続けます。

オペレーターの応答

ボリューム通し番号が JCL またはカタログに特に示されていない場合は、メッセージの後半部に示されているボリュームをマウントしてください。ボリュームが記述されている場合は、ユーティリティーが必要として

いるボリュームが最終的にマウントされるまで、z/OS が受け入れる ボリュームをマウントし続けてください。

モジュール:
DFSUICPO

DFS0450I **DFSDDLE0 dbdname STOPPED-
LOGICAL ERROR**
DDNAME=ddname VSAM ERROR
CODE=nn

説明

モジュールが、DDNAME データ・セットにあるデータベース定義名で読み取りまたは書き込みエラーを検出しました。このメッセージは、VSAM が (レジスター 15 で) 戻りコード 8 をモジュール DFSDDLE0 から VSAM

PUT に戻したことを示しています。RPL からの論理エラー・コードも、論理エラーをさらに定義するために印刷されます。

システムの処置

処理は続行されます。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSDDLE0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 13 章 DFS メッセージ DFS0451A - DFS0500I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0451A *modname, dbdname, ddname, i/o error, decb field*

説明

このメッセージは DFS0451I に関連しています。詳細な説明および処置については、そのメッセージを参照してください。

関連情報

DFS0451I

modname, dbdname, ddname, i/o error, decb field

DFS0451I *modname, dbdname, ddname, i/o error, decb field*

または

hhmms, variable text

説明

このメッセージは、いずれかの形式で出されます。入出力操作中に READ エラーまたは WRITE エラーが発生しました。

モジュール *modname* が、入出力操作中、または データベース *ddname* 内の識別されている *dbdname* に関して、書き込みエラー・キュー・エレメント (WEQE) を処理している最中に、エラーを検出しました。変数 *i/o error* では、READ エラーかどうか、WEQE が検出されているかどうか、状況コードがアプリケーション・プログラムに戻されるかどうかを示します。WRITE エラーの場合は、状況コードが戻されることはありません。

アクセス方式が VSAM の場合、このメッセージの前に、接頭部 DFS0451I *hhmms* が付いた、26 から 125 バイトの長さの VSAM 物理エラー・メッセージが表示されます。このメッセージのフォーマットと内容については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

アクセス方式が OSAM の場合は、*decb field* は、入出力操作で使用される DECB からのフィールド DECBSTAT であり、その後にエラーの説明が続きます。DECB 状況コード (DECBSTAT) 定義については、メッセージ DFS0762I を参照してください。

PSB の生成時に IOEROPN=(n,WTOR) パラメーターが指定されている場合、およびシステムがバッチ (DLI または DBB) の場合は、オペレーターが異常終了または継

続を指定できます。このオプションは、要処置メッセージの場合にバッチでのみ、指定されます。

値は、次のように定義されます。

modname

次のいずれかのモジュールがメッセージを発行しました。

DFSDVSMO

DFSDBH00

DFSDDL00

dbdname

データベース名

ddname

DD 名

i/o error

READ または WRITE エラーが入出力処理中に発生したこと、または WEQE (書き込みエラー・キュー・エレメント) が検出されたことを示します。WRITE エラーが発生し、サブシステムにデータのコピーがないときは、いつでもそのブロックに関して、WEQE が作成されます。

アプリケーションが WEQE のあるブロック内のデータを要求する場合は、このメッセージが生成され、状況コードがアプリケーション・プログラムに渡されて戻ります。データベース・リカバリーが実行された後で、そのデータベース用の WEQE がすべて解放されます。WRITE エラー (データ共用環境または非データ共用環境) が生じているサブシステム内の WEQE にフラグが立てられて、そのサブシステム内のそのブロックに関して、エラー・フリー READ 操作が可能になります。データ共用環境では、WRITE エラーが生じているサブシステム以外のサブシステムで実行されているアプリケーションが、示されているデータベース・ブロック内のセグメントを要求した場合は、このメッセージが生成され、状況コードがアプリケーション・プログラムに渡されて戻ります。READ がブロックに関して発行されることはありません。ブロックが間違っていたからです。データベース・リカバリーが実行された後で、そのデータベース用の WEQE がすべて解放されます。非データ共用環境では、データベースがクローズされ、リカバリーしないで再使用された (例えば、/DBD ではなく /DBR) 場合は、このフラグが除去され、そのブロックに関する READ 要求がそれ以降に行われると、このメッセージが出される結果になります。

decb field

DECB フィールドは、DECBSTAT または DECBEXC で示されます。

hhmss、variable text バージョンの場合:

入出力操作中に READ エラーまたは WRITE エラーが発生しました。この形式のメッセージは VSAM エラーの場合に出されます。hhmss はタイム・スタンプで、variable text は VSAM からの可変テキストです。

VSAM エラー IEQE は、キー順データ・セット (KSDS) 入出力許容拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) の存在を示し、EEQE によって指し示されたレコードへのアクセスを防ぎます。

システムの処置

要処置メッセージの場合は、DL/I はオペレーターが応答するのを待ってから続行します。オペレーターの応答に ABEND が伴う場合は、アプリケーション・プログラムが終了して、疑似異常終了コード 0451 が示され、IMS は処理を続行します。ただし、DUMP=YES が DL/I バッファ・オプション・ステートメントで指定されていた場合は、アプリケーションは異常終了して、標準的な異常終了コード 0451 が示されます。オペレーターの応答が CONT であれば、IMS は処理を続行します。

通知メッセージの場合は、処理は続行されます。

IOEROPN=(451,WTOR) の場合は、DFS0451A メッセージに対するオペレーターの応答が CONT の場合でも、IMS は終了して、異常終了コード 0451 が示されます。

オペレーターの応答

(システム) 要処置メッセージの場合は、ABEND と応答して、異常終了コード 0451 を行わせるか、CONT と応答して、IMS に処理を続けさせてください。通知メッセージの場合は、処置は必要ありません。

(マスター端末) データベースのリカバリーを担当する責任を担うサポート要員に連絡してください。

システム・プログラマーの応答

このメッセージの形式がどちらでも、永続 READ エラーまたは WRITE エラーの場合、データベースをリカバリーしてください。ただし、発生するのが WRITE エラーのみの場合は、データベースはオンライン・システムで引き続き使用できるので、リカバリーは都合のよい時点まで延期できます。アプリケーション・パフォーマンスに影響が生じたり、READ エラーが発生したりする場合は、データベースはリカバリーする必要があります。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、35

モジュール:

DFSDBH40、DFSDDLE0、DFSDVSM0

関連資料

[z/OS: RPLERRCD 理由コード](#)

関連情報

288 ページの『DFS0762I』

OSAM (TAPE | DASD) (READ | WRITE) ERROR - FUNC=aa STATUS=bb, cc, dddd, eeee, ffff

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0452I

DUP-CLOSE NO LONGER
SUPPORTED -- USE DUP AND REP
THEN RERUN CLS MODE

または

CONTROL CARD INPUT NOT PRESENT

または

ERROR IN CONTROL CARD FORMAT

説明

制御ステートメント入力欠落していたか、制御ステートメントがエラーであったか、どちらかです。エラーの制御ステートメントが SYSPRINT データ・セットで印刷されます。

プログラマーの応答

制御ステートメント、または訂正した制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSULG10

DFS0453I

UNABLE TO OPEN xxx

説明

データ・セット (xxx) が正常に開けませんでした。xxx は、データ・セットの記述名に DD 名を加えたもので構成されています。

xxx の値は、次のとおりです。

CARD INPUT ddname
PRINT OUTPUT ddname
INPUT OLDS ddname
INPUT SLDS ddname
OUTPUT LOG ddname
NEXT OLDS ddname

システムの処置

このエラーが発生したのが重複 WADS または重複 Next の場合は、OLDS 処理は、代替データ・セットを使用して続行されます。それ以外の場合は、ログ・リカバリー・ユーティリティーが 処理を終了します。

プログラマーの応答

ログ・リカバリー・ユーティリティーが失敗した場合は、DD ステートメントが存在し、正しく指定されているか確認してください。ハードウェア障害が示された場合は、代替装置を指定して、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFSULG10、DFSULG20

**DFS0454I UNSUCCESSFUL ALTERNATE LOG
 DATASET POSITION---REASON x**

説明

ログ・リカバリー・ユーティリティーに対して、重複入力ログが指定されました。入力ログの一方を読み取っている最中に、エラーが検出されました。

理由コード x の値は 2 または 3 です。

コード (16 進数)
意味

02

重複 SLDS 入力が指定されました。2 つの SLDS が同じブロックのデータから開始することはありませんでした。DFSULG20 処理は、両方の入力ログとも終了していますが、両方のログに共通のデータのブロックが正常に読み取られることはありませんでした。

03

重複入力ログが指定されました。DFSULG10 は、入力が有効かどうか判断するために、それぞれのログから最初のブロックを読み取ろうとしました。OLDS の場合は、ブロックの最初の対が読み取り可能で、同一である必要があります。SLDS の場合は、ブロックの最初の対が読み取り可能である必要があります。SLDS ブロックが同一でない場合は、ログ・シーケンス番号の高い方 (最初のログ・レコードの) が保管されます。その入力ログ (および、対応する出力ログ) の処理は、ログ・シーケンス番号の高い方が他の残りの入力ログで検出されるまで中断されます。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティーが 処理を終了し、メモリー・ダンプが取られます。

プログラマーの応答

理由コード 02 の場合は、エラー・ブロック・リストおよび入力ログを調べてください。マッチング・ブロックが読み取られなかった理由を判別してください。(マッチング・ブロックは、エラー・ブロックであるか、入力ログで欠落しているか、いずれかです) ブロックがエラーである場合は、z/OS システム・ユーティリティーを使用して、ブロックを訂正してください。ブロックが欠落している場合は、すべての SLDS ボリュームを入力として指定してください。その上で、ユーティリティーを再実行してください。

理由コード 03 の場合は、z/OS システム・ユーティリティーを使用して、入力ログを調べてください。エラーを訂正し、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:

DFSULG10、DFSULG20

**DFS0455I I/O ERROR ON xxx DURING mmm
 OPERATION**

説明

ログ・リカバリー・ユーティリティー DFSULTRO が、モード *mmm* での処理中に、データ・セット *xxx* で入出力エラーを検出しました。*mmm* の値は、CLS、DUP、または REP です。*xxx* は、データ・セットの記述名に DD 名を加えたもので構成されています。

xxx の値は、次のとおりです。

INPUT OLDS *ddname*
INPUT SLDS *ddname*
OUTPUT LOG *ddname*
NEXT OLDS *ddname*

システムの処置

入出力エラーが発生したのが二重データ・セットの場合は、処理は代替データ・セットを使用して続行されます。それ以外の場合は、ログ・リカバリー・ユーティリティーが 処理を終了します。

プログラマーの応答

ログ・リカバリー・ユーティリティーが失敗した場合 (つまり、戻りコード = 8 の場合) は、次のいずれかを行ってください。

- エラーが発生したのが一時ログ・データ・セットで、REP モード、入力 OLDS、次の OLDS のいずれかであった場合は、DUP モードを実行して、データ・セットをクローズまたはリカバリーする。
- エラーが発生したのが中間ログ・データ・セットで、DUP モード時または出力ログ中であった場合は、ジョブを再実行し、別のドライブまたはボリュームを指定する。

モジュール:

DFS0456I ERROR ID'S ON STATEMENT AND INTERIM LOG DO NOT MATCH**説明**

次のいずれかの問題が発生しました。

- REP モード操作に対する入力制御ステートメントの順序が狂っていた。
- シーケンス番号が間違っていた。
- 制御ステートメントが欠落していた。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティーが処理を終了します。

プログラマーの応答

次のことを行ってください。

1. 制御ステートメントが DUP モードでの実行で作成された印刷出力と一致しているか 検証する。
2. ジョブを訂正して、再実行依頼する。
3. 適切な中間ログ・データ・セットが使用されたことを確認する。

モジュール:
DFSULG10

DFS0457I CONTROL CARD SPECIFIED 'B' RECORD---NO 'B' RECORD ON INTERIM LOG**説明**

SYSIN 入力には、データの置換が行われるのは、示されているシーケンス番号の B レコードであると 指定されて いました。A レコードは検出されましたが、対応する B レコードは存在していませんでした。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティーが処理を終了します。

プログラマーの応答

以下の処置を行ってください。

- 直前の DUP 実行の印刷出力をチェックして、B レコードが作成されていたか 確認する。
- 適切な中間ログ・データ・セットが使用されたことを 確認する。

モジュール:
DFSULG10

DFS0458I CONTROL CARD OUT OF SEQUENCE**説明**

制御カードの順序が狂っています。

プログラマーの応答

制御カードを適切な順序にして、ジョブを 再実行依頼 してください。

モジュール:
DFSULG10

DFS0459I EOF ON INTERIM LOG WITH CONTROL CARD YET TO PROCESS**説明**

制御ステートメントが、中間ログ・データ・セットにな いレコードに関してサブミットされました。残りの未 処理制御ステートメントが SYSPRINT データ・セット で印刷されます。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティーが処理を終了しま す。

プログラマーの応答

余分の制御ステートメントが有効かどうか判別して ください。これが有効でないとすれば、中間ログ・デー タ・セットのボリュームがジョブから省略されていた 場合が考えられます。

モジュール:
DFSULG10

DFS0460I REPLACEMENT DATA WILL NOT FIT IN RECORD**説明**

オフセットに REP ステートメントで指定されたデータ の長さを加えると、示されているブロックに収まりま せん。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティーが処理を終了しま す。

プログラマーの応答

直前の DUP 実行の印刷出力をチェックして、適切なオ フセットおよび長さを判別してください。制御ステー トメントを訂正し、ジョブを 再実行してください。

モジュール

DFSULG10

**DFS0461I USER HAS SPECIFIED 'REP' IN
 BOTH A AND B RECORDS**

説明

示されているシーケンス番号の場合は、データは A レコードでも B レコードでも置き換えられます。ただし、両方のレコードで置き換えることはできません。

プログラマーの応答

A レコードと B レコードのいずれかで "REP" を指定して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール

DFSULG10

**DFS0462 NOBUILDQ KEYWORD MUST NOT
 BE PRESENT**

説明

NOBUILDQ キーワードが使用できるのは、/NRE コマンドに FORMAT キーワードを組み込んで使用して、IMS をウォーム・スタートするときのみです。(BUILDQ キーワードが /ERE コマンドで有効な場合でも、NOBUILDQ は無効です。) /NRE および /ERE コマンドの構文の説明については、「IMS V15 コマンド 第 1 巻: IMS コマンド A-M」を参照してください。

モジュール

DFSICL20

関連資料

[/NRESTART コマンド \(コマンド\)](#)

[/ERESTART コマンド \(コマンド\)](#)

**DFS0463I BUILDQ OR NOBUILDQ KEYWORD
 REQUIRED**

説明

IMS のウォーム・スタートのために、/NRE FORMAT コマンドを入力しましたが、BUILDQ または NOBUILDQ キーワードを指定しませんでした。FORMAT キーワードで示されたデータ・セットをフォーマット設定した後で、キューを構築するのであれば、BUILDQ を、キューを再構築しないでデータ・セットをフォーマット設定するのであれば、NOBUILDQ を、それぞれ指定する必要があります。

コマンド /NRE FORMAT SP および /NRE FORMAT ALL の場合は、NOBUILDQ は無効であり、BUILDQ を指定する必要があります。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

モジュール

DFSICL20

**DFS0464A THE SECONDARY INDEX
 INDICATOR IS NOT ON IN THE
 DBD FOR MEMBER (*dbdname*)**

説明

このメッセージより前に印刷されている制御ステートメント・イメージには、指定された *dbdname* は副次索引であると示されていますが、副次索引フラグは DBD メンバーにはありません。

システムの処置

ユーティリティがユーティリティ 制御機能 (UCF) の下で実行されているのではなく、OPTIONS=ABEND が選択されていない場合は、実行は次の制御ステートメント・イメージへ続きます。ステップは終了し、戻りコード 8 が示されます。OPTIONS=ABEND カードが指定されている場合は、ユーティリティは、ユーザー異常終了により終了します。

ユーティリティが UCF の下で実行されている場合は、処理は停止し、実行は終了して、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答

制御ステートメント・イメージが正しく指定されているか検証し、メッセージで出力されているデータベース名がソース DBD にあるかチェックしてください。該当する訂正を施したら、ジョブを再実行してください。

モジュール

DFSURUL0

**DFS0465I PSB *psbname* IS INCORRECT FOR
 DBD *dbdname*, PSB STOPPED.**

説明

指定された PSB に、高速機能 (MSDB または DEDB) DMB を参照する DL/I PCB ステートメントがありません。

システムの処置

PSB は停止します。

プログラマーの応答

エラーの PSB を訂正し、ACBGEN を再実行し、プログラムを再実行してください。

モジュール

DFSDBLP0、DFSXRBL0

DFS0466I NO xxxxxxxx DD CARD SPECIFIED

説明

ユーティリティー・プログラムが検出した制御ステートメントで必要とされている xxxxxxxx は、指定されていない DD 名です。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティーが処理を終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントまたは JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS467I xxxxxxxx DDDUMMY CARD SPECIFIED

説明

ユーティリティー・プログラムが検出した制御ステートメントで必要とされていた DD 名 xxxxxxxx は、DD DUMMY です。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティーが処理を終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントまたは JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS468 INCORRECT VTAM LEVEL - RNR DISABLED

説明

迅速ネットワーク再接続 (RNR) は、VTAM 4.4 以上で実行する必要があります。VTAM が正しいレベルでない場合、RNR は使用不可です。

システムの処置

IMS は正常な実行を継続します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS469 ALL SESSION RECONNECTS HAVE BEEN INITIATED

説明

IMS 迅速ネットワーク再接続 (Rapid Network Reconnect) オプションのためのセッション再接続がすべてスケジュールされています。セッション再接続機能は、通常の IMS 処理とは非同期で実行され、再接続障害があれば、すべて MTO に通知されます。

システムの処置

IMS は正常な実行を継続します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS470 RAPID NETWORK RECONNECT STARTING

説明

IMS が迅速ネットワーク再接続 (Rapid Network Reconnect) プロセスを開始します。

システムの処置

IMS は正常な実行を継続します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSVTP00

DFS0471I IMS CANNOT LOCATE NODE xxxxxxxx DURING RAPID NETWORK PROCESS

説明

セッション再接続プロセス中に、すべてのセッションがリカバリーを保留していることを、VTAM が IMS に通知します。個々のセッションをそれぞれ復元するために、IMS はそれに対応する制御ブロックを見つける必要があります。しかし、ノード xxxxxxxx の制御ブロックが見つかりませんでした。

システムの処置

IMS は正常な実行を継続します。

オペレーターの応答:

セッションは、必要に応じて、通常のセッション開始手順を使用して再始動できます。

問題判別:

1、5、6、12、14

モジュール:

DFSIDC00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0472I RNR FUNCTION DISABLED FOR
 IMS/ESA EXECUTION WITH XRF**

説明

RNR オプションが、XRF を使用して生成された IMS システムに対して、IMS 実行パラメーターとして指定されました。

システムの処置

IMS の実行は、RNR 機能を使用不可にして継続します。

オペレーターの応答

(マスター端末) RNR を使用不可にして、実行を継続してください。RNR の使用には、XRF を組み込まない (IMSCTRL マクロ・ステートメントで HSB=NO を指定) 新しい IMS システム定義が必要です。

問題判別:

2、6、1

モジュール:

DFSIIIDCO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS473 PROTECTED DATA FIELD ALTERED
 - INPUT IGNORED**

説明

メッセージ・フォーマット・サービス (MFS) は、保護フィールドの内容が、3270 装置または SLU2 装置の入力とは異なっていることを検出しています。装置に送信された保護フィールドの内容が、受信した内容と異なります。

システムの処置

システムは入力を無視し、ID が MFSP の X'6701' ログ・レコードを作成します。

出力宛先

3270 装置または SLU2 装置。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

プログラマーの応答

装置がセキュリティーで保護され、正常に動作しているかどうかを確認してください。

問題判別:

3、5、16、23、24、36

モジュール:

DFSCFE00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0474W RAPID NETWORK RECONNECT
 FAILED INQUIRE/RESTORE
 RC=nn, FDB2=mm**

説明

迅速ネットワーク再接続 (Rapid Network Reconnect) 中に VTAM **INQUIRE** コマンドまたは **RESTORE** コマンドが発行され、VTAM が誤ったコードを戻しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nn

VTAM から受信した戻りコード。

mm

VTAM が戻した FDB2。

VTAM によって戻される情報、および可能な処置については、「z/OS Communications Server SNA メッセージ」(SC88-9052) および「z/OS Communications Server: SNA Programming」(SC31-8829) を参照してください。

システムの処置

IMS が高速ネットワーク再接続 (Rapid Network Reconnect) を終了します。

オペレーターの応答:

セッションは、必要に応じて、通常のセッション開始手順を使用して再始動できます。

問題判別:

1、5、6、12、14

モジュール:

DFSIDC00

関連資料

[z/OS: RPL 戻りコード \(RTNCD、FDB2\) の組み合わせ](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0475I POSITION FAILURE DURING
REPOSITIONING ON FILENAME,
EXPECTED xxxxxxxx, FOUND
yyyyyyyyy**

または

**GETMAIN FAILURE DURING REPOSITIONING ON
FILENAME, RETURN CODE RETCODE**

または

**BSP FAILURE DURING REPOSITIONING ON
FILENAME, RETURN CODE RETCODE, REASON CODE
REACODE**

または

**READ FAILURE DURING REPOSITIONING ON
FILENAME, POST CODE POSTCODE**

または

**WRITE FAILURE DURING REPOSITIONING ON
FILENAME, POST CODE POSTCODE**

説明

このメッセージは、メッセージ DFS0414I の後に続きます。重複ロギングを使用している一方の OLDS での入出力エラーの後で、IMS は、対を成している もう一方の OLDS に書き込まれたデータのバックアウトを試みます。このために、IMS はファイル内の位置の再確立を試みます。この位置変更プロセス中は、さまざまなエラーが発生する可能性があります。このメッセージは、それぞれの形式ごとに特定の位置変更エラーを示します。IMS がこのメッセージの最初の形式を発行するのは、一時読み取り/書き込みバッファを取得する

ための IMODULE GETMAIN 呼び出しが失敗したときです。呼び出しからの戻りコードで次の条件が示されます。

コード

説明

4

ストレージが未割り振り

8

パラメーター・エラー

38

呼び出し元が SRB または XM モード

IMS がこのメッセージの 2 番目の形式を発行するのは、BSP (BACKSPACE) 要求が失敗したときです。戻りコードと理由コードについての説明は、*z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets* を参照してください。IMS がこのメッセージの 3 番目と 4 番目の形式を発行するのは、BSAM 読み取りまたは書き込み要求が失敗したときです。通知コードの説明については、「*MVS/DFP V3R3 Customization*」(SC26-4560) を参照してください。この資料では、これらの通知コードは ECB の状況標識と呼ばれています。IMS がこのメッセージの 5 番目の形式を発行するのは、OLDS での IMS 自体の位置変更を行い、その点にあるブロックに予想されたシーケンス番号がないことを検出したときです。予想されたシーケンス番号が xxxxxxxx です。検出されたシーケンス番号が yyyyyyyy です。

システムの処置

IMS は処理を続け、OLDS を切り替えます。

プログラマーの応答

データのブロックによっては、新旧の OLDS 対で重複する可能性がある場合があるので、ログ・リカバリー・ユーティリティを実行して、余分なブロックを除去し、OLDS をクローズしてください。(これが行われていない場合は、DBRC は OLDS をアーカイブしません)DFSOLP、DFSOLS、DFSNOLP、および DFSNOLS DD ステートメントを使用して、ユーティリティを CLS モードで実行してください。したがって、DFSWADSn DD ステートメントは使用しないでください。DFSOLP および DFSOLS DD ステートメントでは、入出力エラーが発生した OLDS 対を参照する必要があります。DFSNOLP および DFSNOLS DD ステートメントでは、IMS が次の入出力エラーを切り替えた先の OLDS 対を参照する必要があります。

モジュール:

DFSFDLBO、DFSFDLSO

関連資料

[z/OS: BSP の完了コード](#)

関連情報

[143 ページの『DFS0414I』](#)

DFS0476A **SPOOL DATASET ABEND --**
DDNAME = xxxxxxxx

説明

OPEN、CLOSE、またはEOV処理中に永続入出力エラーが発生し、IMS DCB 異常終了出口が制御を受け取りました。メッセージ・テキストの中で、xxxxxxxは、異常終了時点で処理中であったDD名です。z/OSもこの異常終了を記述するメッセージを出します。z/OS コンソール・ログに、このDD名に関連したこのメッセージが含まれます。

システムの処置

IMSは、異常終了を無視し、使用可能な次のデータ・セットに切り替えます。

プログラマーの応答

使用可能なスプール・データ・セットがあるか確認してください。使用可能なスプール・データ・セットがない場合は、スプール印刷ユーティリティをスケジュールして、スプール・データ・セットをアンロードしてください。さらに、XRF環境では、テークオーバーを出し、新規スプール・データ・セットを割り振ることを検討してください。使用可能なスプール・データ・セットがない場合、IMSは、スプール LTERM 宛のすべてのメッセージをメッセージ・キューに入れます。この問題は、異常終了コード 0758 に至る可能性があります。

モジュール:

DFSDN155

関連情報

IMS 異常終了 0758

DFS0477A **INVALID CLOCK SETTING.**
EXCESSIVE UTC OFFSET. RESET
CLOCK AND REPLY C FOR
CONTINUE OR A FOR ABORT.

説明

UTC オフセットは、-11:00 から +14:00 時間の範囲内である必要があります。値がこの範囲から外れています。オペレーターが **SET CLOCK** コマンドでエラーを犯したものと考えられます。

このメッセージは WTOR メッセージであり、オペレーターが応答するまで、システム初期設定は中断されます。オペレーターが応答した後も、クロック設定がまだ無効の場合は、IMSがこのメッセージを再発行する可能性があります。

システムの処置

オペレーターが C で応答した場合は、IMS の初期設定が続行されます。オペレーターが A で応答した場合、IMS は異常終了し、異常終了コード 0525、サブコード 03 が示されます。

オペレーターの応答

SET CLOCK コマンドによってエラーを訂正できる場合は、このメッセージに回答する前に、**SET CLOCK** コマンドを入力してください。IPL なしにエラーを訂正できない場合は、打ち切りオプション (A) を入力して、IMS が正しくシャットダウンされるようにしてください。

モジュール:

DFSTIME0

関連情報

IMS 異常終了 0525

DFS0478A **INVALID CLOCK SETTING.**
EXCESSIVE UTC OFFSET. RESET
CLOCK IMMEDIATELY.

説明

UTC オフセットは、-11:00 から +14:00 時間の範囲内である必要があります。値がこの範囲から外れています。オペレーターが **SET CLOCK** コマンドでエラーを犯したものと考えられます。このメッセージは強調表示されることで、オペレーターが即時に処置を行うよう指示しています。

システムの処置

このメッセージは、クロックが訂正されるまで、強調表示されたままになっています。

オペレーターの応答

正しいクロック設定または現地時間値を指定して、**SET CLOCK** コマンドを入力してください。

システムは引き続きトランザクションを処理しますが、保管タイム・スタンプの現在の現地時間への変換は不能です。クロックを有効な現地時間に合わせて訂正すると、このメッセージが出るようになった原因が除かれ、強調表示されていたメッセージが画面から除去されます。

正しい現地時間を入力しても、問題が訂正されない場合は、TOD クロックに無効の UTC 値が入っているに違いありません。TOD クロックで正しい UTC 値を設定するには、IPL が必要になる場合があります。

モジュール:

DFSTIME0

DFS0479A **ISSUE UNQUALIFIED GN FAILED =
XX**

説明

xx は、エラーに関する DL/I 状況コードを示します。

システムの処置

処理は停止します。

プログラマーの応答

DL/I 状況コードで示されている JCL エラーを訂正してください。DL/I 状況コード情報を参照してください。

モジュール:
DFSMAID0

関連資料

[DL/I 状況コード \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS480E **REQUESTED MODULE NOT FOUND,
NAME=module_name**

説明

永続 JVM 従属領域環境内での実行中に、モジュール *module_name* をロードできませんでした。このメッセージは、S806 異常終了を示すメッセージ DFS554A の前に発行されます。

システムの処置

アプリケーションは終了します。

システム・プログラマーの応答:

そのモジュールが従属領域の STEPLIB または同等の連結内で正しく指定されていることを確認し、システムがそのモジュールを見つけてロードできるようにしてください。

モジュール:
DFSPCC20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0481A **CANNOT ALLOCATE STORAGE -
GETMAIN**

説明

ストレージの取得を試みている最中に、エラーが発生しました。

システムの処置

処理は停止します。ストレージが割り振られていません。

システム・プログラマーの応答

始動 JCL で領域サイズを大きくしてください。

モジュール:
DFSMAID0

DFS0482A **PARTITION SIZE SELECTION TOO
SMALL**

説明

HALDB 区画の選択サイズが小さすぎました。

システムの処置

処理は停止します。

システム・プログラマーの応答

HALDB 区画の選択のサイズを大きくしてください。

モジュール:
DFSMAID0

DFS0483A **HD UNLOAD ENCOUNTERED AN
ERROR OPENING THE SYSIN
DATASET**

説明

SYSIN DD カードで記述されているデータ・セットが開けませんでした。

システムの処置

処理は一時停止します。

ユーザーの処置

SYSIN DD カードで参照されているデータ・セットを訂正してください。

モジュール:
DFSURGUO

DFS0484A **THE FOLLOWING DATASETS FOR
DATA BASE *dbname* ARE NOT
REGISTERED TO DBRC:
*ddname1 ddnamen***

説明

データベース *dbname* の DL/I オープン処理が失敗しました。データベースは登録されていても、リストされ

ているオープン・データ・セットが RECON データ・セット内で登録されていないからです。

システムの処置

メッセージ DFS0730I が理由コード I,35 を伴って出されました。メッセージ DFS0730I に関するシステムの処置を参照してください。

プログラマーの応答

DBRC **INIT,DBDS** コマンドを使用して、データ・セットを RECON データ・セット内で登録して、リカバリー関連情報が実行中に記録されるようにしてください。

問題判別:

1、6

モジュール:

DFSDDUI0

関連情報

265 ページの『DFS0730I』

UNABLE TO OPEN OR CLOSE DATASET WITH DDNAME *DD* 名 FOR REASON *x*, *yy*, *z*
DATABASE データベース名 プログラム *ID*

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0485W RECOVERY DATA FOR [DATA BASE *dbdname*|AREA *areaname*]
MISSING FROM THE RECON DATASET**

説明

データベース *dbdname* またはエリア *areaname* に関するリカバリー情報が、RECON データ・セットから欠落している可能性があります。データベースまたはエリアが、DBRC による更新のために開かれて、実行中に生成されたログ・データ・セットが RECON データ・セットに記録されます。データベースまたはエリアへの更新 ACCESS が可能であった以前の実行では、DBRC は使用されませんでした。したがって、明示的処置が取られない限り、有効なリカバリー JCL の生成に必要な、以前の実行からのログ・データ・セットのレコードが、RECON データ・セットに含まれることはありません。

以前の実行からのログ・データ・セットが RECON に明示的に追加された場合は、RECON がリカバリー情報を記録するために再度使用されることが、このメッセージで確認されます。DBRC を使用しなかった最後のデータベースまたはエリアの更新以降に、イメージ・コピーが RECON に記録された場合、および以前の実行からのログ・データ・セットが RECON に記録されなかった場合は、DBRC を使用しない更新以前のイメージ・コピーからのリカバリーは無効であることが、このメッセージで示されます。

システムの処置

実行を継続します。データベース内の DBRC 使用標識 (DUI) が、現在リカバリー情報を記録している RECON データ・セットの識別によって更新されます。

プログラマーの応答

次の処置のいずれかが取れます。

- 該当する DBRC コマンドを使用して RECON データ・セットを手動で更新し、リカバリーまたは変更累積のための入力として必要なログがすべて、必ず記録されるようにしてください。
- RECON データ・セット内のデータベース (またはエリア) のイメージ・コピーを取って記録し、新しいリカバリーの基本にしてください。

DBRC を使用しない更新処理のためにこのデータベースまたはエリアを最初に開いた実行で、メッセージ DFS0486W が出されました。

モジュール:

DFSDDUI0、DBFMOPCO

**DFS0486W THE RECON DATASET WILL NOT
BE UPDATED FOR [DATA BASE
dbdname|AREA *areaname*]**

説明

データベース *dbdname* またはエリア *areaname* が、DBRC 制御を使用しない更新処理のために開かれようとしていました。データベースまたはエリアへの更新 ACCESS が可能であった直前の実行時には、DBRC が確かに使用されていましたが、現行実行時に生成されるログ・データ・セットが RECON データ・セットに自動的に記録されることはありません。明示的処置が取られない限り、有効なデータベース・リカバリー・ユーティリティー 処理のために JCL を生成するのに必要なデータが、RECON データ・セットに含まれることはありません。

重要: このメッセージが発行されるための条件は、常にユーザーの直接管理下にある必要があります。

指定されたデータベースまたはエリアが、DBRC を使用し、データベースまたはブロック・レベルのデータ共用を実行しているサブシステムによって、同時並行的に更新されている場合は、直接 DBRC 制御を使用しないで実行が継続されるようにすると、データベースまたはエリアの健全性およびリカバリー可能性が損なわれる恐れがあります。

システムの処置

実行を継続します。データベース内の DBRC 使用標識 (DUI) が更新されて、このデータベースまたはエリアが DBRC を使用しないで更新されるのが反映されます。

プログラマーの応答

次の処置のいずれかが取れます。

- RECON データ・セットを手動で更新する場合に使用する該当の DBRC コマンドを使用して、リカバリーのための、または変更累積のための入力として必要なログ・データ・セットがすべて、必ず記録されるようにしてください。
- RECON データ・セット内のデータベースまたはエリアのイメージ・コピーを取って記録し、新しいリカバリーの基本にしてください。

このデータベースまたはエリアにアクセスするすべてのサブシステムの JCL を変更して、それらのサブシステムすべてが同じ RECON データ・セットおよび DBRC を使用するようにしてください。

モジュール:

DFSDDUI0、DBFMOPCO

DFS0487W THE RECON DATASET USED FOR [DATA BASE dbdname|AREA areaname] HAS CHANGED

説明

データベース *dbdname* またはエリア *areaname* が、更新処理のために開かれています。これは、データベースまたはエリアの更新ログを記録するために使用されている RECON データ・セットに、データベースまたはエリアの最新リカバリー生成データが含まれない可能性があることを警告するメッセージです。使用されている RECON データ・セットは、直前の実行時にデータベースまたはエリアに関するログを記録するために使用された RECON データ・セットではない可能性があることが、データベースまたはエリアの DL/I (または高速機能) オープン処理によって検出されました。したがって、データベースまたはエリアのリカバリー処理ユーティリティ用の正しい JCL を生成するために必要なデータが、RECON データ・セットには含まれていない可能性があります。

重要: エリアが更新または排他的アクセス意図によって以前に開かれたことがなかった場合は、RECON データ・セットがたとえ変更されていない場合でも、このメッセージが表示される可能性があります。

システムの処置

実行を継続します。データベース内の DBRC 使用標識 (DUI) が、現在リカバリー情報を記録している RECON データ・セットの識別によって更新されます。

プログラマーの応答

データベースまたはエリアが複数の RECON データ・セットに登録されている場合は、この実行で正しい RECON データ・セットが使用されているか確認してください。該当する DBRC コマンドを使用して RECON

データ・セットを手動で更新し、リカバリーまたは変更累積のための入力として必要なログがすべて記録されるようにするか、もしくは、データベースまたはエリアのイメージ・コピーが取られ、RECON データ・セットに記録されて、新しいリカバリーの基本になるようにしてください。

モジュール:

DFSDDUI0、DBFMOPCO

DFS0488I DBR | DBD | STA | STO COMMAND COMPLETED. DATAGROUP (groupname)

または

DBR | DBD | STA | STO | LOCK | UNLOCK COMMAND COMPLETED. DBN=database_name RC=nn.

または

DBR | DBD | STA | STO | VUN COMMAND COMPLETED. DBN | AREA | ADS=database_name | area_name | adsname RC=nn

または

UNLOCK COMMAND COMPLETED. RC=nn

または

DBR | DBD | STA | STO COMMAND COMPLETED. KEYWORD ALL

説明

/DBRECOVERY、/DBDUMP、/START、または /STOP コマンド処理が完了しました。戻りコードがゼロの場合は、指定されたデータベースが正常に処理されたことを示しています。ADS 指定が有効なのは、**/STOP** コマンドの場合のみです。そのエリアは、**/DBRECOVERY、/START、および /STOP** コマンド専用です。戻りコードがゼロ以外の場合は、処理中に予期しないエラーが検出されたことを示しています。

データ・グループに全機能データベースと高速機能データベースの両方が含まれている場合、高速機能エリアが正常に開始しなかったことを示すメッセージが表示される前に、コマンド完了メッセージが表示されることがあります。

/VUNLOAD コマンドがエリア xxxxxxxx に関する処理を完了しました。DFS0488I が出されるのは、**/VUNLOAD** コマンドが失敗したエリアに関する場合のみで、その場合は、理由コードも示されます。理由コードでは、コマンドの結果が示されています。最終的な DFS0488I メッセージが出されて、コマンドが完了したことを示します。

このメッセージの 2 番目の形式では、戻りコード nn の値は 00、04、または 20 になります。

このメッセージの 3 番目と 4 番目の形式は、操作が正常に行われた場合の個別メッセージの数が極端になるのを避けるために発行されます。

キーワード ALL が指定されているときは、エラーのあるデータベース名、エリア名、または ADS 名ごとに DFS0488I が 1 回ずつ出され、その後続けて最終的な DFS0488I DBR|DBD|STA|STO|VUN COMMAND COMPLETED メッセージが表示されます。DFS0488I は、データベース名、エリア名、または ADS 名ごとに、戻りコード 00 を伴って出されることはありません。RC=00 は、コマンドが成功したことを示します。

このメッセージは、OM API から発行された **LOCK** コマンドについてのみ受信されます。

戻りコード (10 進数) 意味

01 要求された状態と現行許可状態 (RECON データ・セットを参照) に互換性がありません。データベースは、別のアクティブな、もしくは、異常終了した IMS サブシステムによって許可され、その許可状態は、現行許可要求と互換性がありません。

02 グローバル・コマンドは、すべてのデータ共有パートナーと同期できたわけではありませんでした。コマンドは、このメッセージを受信したサブシステムに対しては完了しましたが、パートナーに問い合わせたコマンドが正常に完了したかどうかを判断する必要があります。

03 次のいずれかの理由により、データベースにそれ以上の許可を禁止するマークが付けられています。グローバル **/DBRRECOVERY**、グローバル **/STO**、または **DBRC CHANGE . DB (NOAUTH)** コマンド。

04 データベースのクローズ時に、エラーが発生しました。理由コードの詳細な説明については、メッセージ DFS730I を参照してください。

モジュール DFSMDA00 も、動的な割り振りまたは割り振り解除が失敗した場合に戻りコード 4 を発行する場合があります。このコードは、別の IMS モジュールと IMS 動的割り振りモジュール DFSMDA00 の間にインターフェース問題があることを示しています。このコードによって、

DFSMDA00 メンバーに欠落または誤りのあることを示すこともできます。

/VUNLOAD コマンドの場合は、指定されたエリアがデータ・スペースにもカップリング・ファシリティ構造にも検出されなかったことを示します。エリア名が正しいことを検証してください。 **/DISPLAY FPVIRTUAL** コマンドを発行して、データ・スペースまたはカップリング・ファシリティ構造にあるエリアを検索してください。

このメッセージの 2 番目の形式の場合、この戻りコードは、**/UNLOCK SYSTEM** コマンドが部分的にしか正常に実行されなかったことを示しています。少なくとも許容ブロックまたは CI の 1 つは、ページできませんでした。後で再度 **/UNLOCK SYSTEM** コマンドを入力してください。

戻りコード 04 では、グローバル **/DBD** コマンドのため、データベースが許可されるのは、要求状態が "READ" または "READ-GO" の場合のみであることを意味している可能性もあります。

05 データベースに、イメージ・コピーが必要というマークが付けられています。

06 データベースに、リカバリーが必要というマークが付けられています。

07 データベースに、バックアウトが必要というマークが付けられています。

08 動的割り振りが失敗しました (DFSMDA00 から)。このコードは、IMS 動的割り振りモジュール (DFSMDA00) が、MVS 動的割り振りからゼロ以外の戻りコードを受信したことを示しています。

/VUNLOAD、**/STOP AREA GLOBAL**、**/DBRECOVERY AREA GLOBAL**、または **/STOP ADS** コマンドの場合は、カップリング・ファシリティ構造内のエリアについて VUNLOAD ロックを取得しようとして失敗しました。**/VUNLOAD**、**/STOP AREA GLOBAL**、**/DBRECOVERY AREA GLOBAL**、または **/STOP ADS** コマンドは終了します。VUNLOAD、STOP、または DBR 処理は行われません。

09 許可変更処理中に、IRLM は 1 つ以上のサブシステムを識別できませんでした。IRLM=N または別の IRLM 名がサブシステムで指定されている可能性があります。

11 データベース使用互換性に関する評価プロセス中に、無効なパラメーターが検出されました。RECON データ・セット内のデータベース・レコードが無効の可能性もあります。

12

DFSMDA00 から使用できるストレージがないために、動的な割り振りまたは割り振り解除が失敗しました。

戻りコード 12 は、許可取り消しエラーのために DBRC の現行許可状態が無効であることを意味している可能性もあります。

14

次のいずれかの条件が生じている可能性があるため、指定されたデータベースが開始できません。

- DBRC は、すでに他の IMS サブシステムの他の READ アクセス・ユーザーにデータベースへのアクセスを許可しています。前回発行された **/DBDUMP** コマンドのために、他のサブシステム用に付与された許可レベルが、現行サブシステム用の本来の許可レベルと互換性がありません。したがって、現行サブシステムに関しては、元の許可レベルは復元できません。
- 変更されたデータベース許可レベルが、**/STA DB ACCESS** コマンドによって要求されています。ACCESS パラメーターの変更を求める要求は失敗しました。その理由は、データベースが他の IMS サブシステム内で現在保持されている許可レベルと互換性がないためです。

戻りコード 14 は、許可変更要求の処理を試行中に、エラーが DBRC で発生したことを意味している可能性もあります。

15

/DBRECOVERY AREA コマンドの重複 AREA エントリは無視されました。このエリアは、DBRC によってすでに許可取り消しされました。

16

システム・エラーのため、動的割り振りまたは割り振り解除は失敗しました。理由コードの詳細な説明については、メッセージ DFS2498I を参照してください。

20

/UNLOCK SYSTEM コマンドの場合は、次のいずれかの条件が生じました。

- ページの対象となる EEQE がありませんでした。
- **/UNLOCK** コマンドが、XRF に非対応の IMS システムで入力されました。
- **/UNLOCK** コマンドがアクティブ・システムで入力されましたが、これが以前の代替システムではありませんでした。このコマンドが入力できるのは、代替システムのみです。
- **/UNLOCK** コマンドが代替システムで入力されましたが、代替システムが XRF テークオーバーを完了する前でした。このコマンドは、以下の 1 つ以上のイベントが発生した後に、代替システムでのみ入力する必要があります。

- 障害を起こしたアクティブ・システムが終了した。
- 障害を起こしたアクティブ・システムを収容しているプロセッサがリセットされた。
- アクティブ・システム上の入出力防止が完了した。

21

次のいずれかが発生しました。

- **/START AREA** または **/VUNLOAD AREA** コマンドの処理時に、VLOCK 要求を付与できません。エリアに STOPPED のマークが付けられています。共用 IMS システムの 1 つが保存 VLOCK を排他的に保持しています。
- **/VUNLOAD AREA** コマンドまたは **/START AREA** コマンド処理中に、IMS 共用パートナーが、DASD 上の DEDB エリア制御ブロック (DMAC) とストレージ内の DMAC の間で、VSO オプションの不整合を検出しました。エリアに STOPPED のマークが付けられています。

/START AREA コマンドを発行して不整合を訂正してください。

- **/VUNLOAD** コマンドまたは **/START AREA** コマンド処理中に、IMS 共用パートナーが、DASD 上の DMAC とストレージ内の DMAC の間で VSO オプションの不整合を検出しました。AREA は停止されます。**/START AREA** コマンドを発行して不整合を訂正してください。
- **/START AREA** コマンド処理中に、障害のある持続接続を以前の障害を起こしたシステムから削除するために、**IXLFORCE** コマンドが発行されます。**IXLFORCE** コマンドは、障害を起こした持続接続を削除できませんでした。この場合、以下のメッセージが生成されます。

- DFS2783A UNABLE TO DELETE FAILED-PERSISTENT CONNECTION TO STR:
SSSSSSSSSSSSSSSS REASON=RRRR

- DFS0488I STA COMMAND COMPLETED.
AREA=XXXXXXXX RC=21

24

ALL キーワードを指定したコマンドは、高速機能 MSDB に関しては処理されません。**/START DB ALL** アクセスが入力された場合は、モジュール DFSDBDR0 に MSDB は組み込まれません。

28

次の条件のため、指定されたデータベースは開始できません。

- **/START DB ACCESS** コマンドにより、高速処理データベース (DEDB) へのデータベース許可レベルの変更要求が出されました。参照されている DEDB が領域により使用中であるため、DEDB に対する許可レベルの変更は行えません。

- DEDB アクセス意図を変更するには、ターゲット DEDB にアクセスできるすべての PSB のスケジューリングを停止する必要があります。このコードでは、WFI トランザクションに関連した PSB が現在スケジュールされている領域を停止し、非 WFI トランザクション用のトランザクションまたは PSB を停止することが必要となる場合があります。

31

/START AREA コマンドが失敗しました。エリアに DBRC RECON データ・セット内で recovery-needed というマークが付いているか、エリアに関して使用可能なエリア・データ・セットがないことが、DBRC RECON で示されているからです。

34

/START DB ACCESS コマンドが発行されたため、データベース許可変更要求が IMS から DBRC に対して出されました。DBRC から戻された、エンコードされたデータベース状態が値ゼロに設定されました。

35

データベースに関して、バックアウト・エラーが発生しました。**/DBRECOVERY** コマンドが発行され、バッチ・バックアウトが実行されるまでは、データベースに関する **/START** コマンドは無効です。

37

次のいずれかのイベントが発生しました。

- データベースに関して、書き込みエラーが発生しました。発行されているコマンドは、**/DBRECOVERY** コマンドが発行されるまでは無効です。
- 共用 VSO 域に関するオープン処理中に、新しいデータ・スペースに対する要求が出されました。メッセージ DFS0488I の前に出されたメッセージ DFS2444I を参照してください。

38

/START DB コマンドが実行されませんでした。IMS XRF テークオーバーの間、データベースが拡張中であり、入出力防止がまだ完了していなかったからです。入出力防止が完了したことを IMS が認識するまでは、データベースを開始できません。

39

ACCESS=RO または RD を指定する **/START DB** コマンドは、データベースに関して、未完了の再始動可能バックアウトが存在している間は無効です。未完了のバックアウトを再実行するには、IMS がデータベースに対する更新アクセスまたは排他的アクセスができる必要があります。指定されたデータベースについては、コマンドは処理されません。

41

エリアがカップリング・ファシリティーにロードされていません。このコードによってエリアへのアクセスが妨げられることはありませんが、このコー

ドより前にメッセージ DFS2819A が出されている場合は除きます。

42

区画構造マネージャーにエラーがあるため、指定された HALDB 区画を **/START DB** コマンドに対する応答として処理することができません。関連する DFS0415W メッセージがないかどうか、システム・コンソールを調べてください。

43

データベースに 1 つ以上の未確定 EEQE が存在し、IMS PROCLIB データ・セットの DFSVSMxx メンバーで NODBR キーワードが指定されているため、指定されたデータベースを **/DBRECOVERY** コマンドに対する応答として処理することができません。

44

/STOP ADS コマンドが入力されたとき、指定された DD 名の ADS はすでに停止していました。この **/STOP ADS** コマンドは無視されます。

45

/DBR、**/DBD**、**/STA**、または **/STO** コマンドが、QUIESCED であるか、QUIESCE が進行中の指定データベースまたは HALDB 区画に対して発行されました。QUIESCE が解除された後、コマンドを再試行してください。静止が保留状態である場合、**UPDATE DB STOP (QUIESCE)** コマンドを使用し解除してください。

50

/DBRECOVERY、**/START**、または **/STOP** コマンドが、AREAGROUP または DBGROUP を指定して出されました。ただし、AREAGROUP には、指定されたデータベースが含まれ、DBGROUP には、指定されたエリアが含まれていました。AREAGROUP におけるデータベース、または DBGROUP におけるエリアに関しては、コマンドは処理されません。

高速機能をサポートするよう定義されたシステムで、キーワード「MSDB」が **/START**、**/STOP**、または **/DBRECOVERY** コマンドで入力されました。(MSDB は、**/DBDUMP** で使用できます。) このキーワードは無視され、コマンドの残りの部分は処理されます。

52

/DBRECOVERY または **/START** コマンドがデータベースに関して入力されましたが、このデータベースは、HSM からの再呼び出しが行われている最中でした。コマンド・プロセスはこの時点では実行されません。データベースが再呼び出しされた後に、**/DBRECOVERY** コマンドを再度入力する必要があります。**/START** コマンドは、再呼び出しの完了後、自動的に実行されます。

54

IMS によって割り振られた ADS の数と DBRC に認識されている ADS の数の間に矛盾があります。矛盾を訂正してから、**/DBRECOVERY** または **/STOP** コ

マンドを再発行して、データ・セットの割り振りを解除してください。

- 55 FF DB または FP エリアが現在リカバリー中であるため、コマンドは失敗しました。
- 56 指定されたデータベースまたは HALDB 区画をオープンしようとしているときに、エラーが発生しました。システム・コンソールをチェックして、メッセージ DFS0730I で失敗の理由を判別してください。
- 57 指定されたデータベースは HALDB マスターであり、OPEN キーワードには無効です。ただし、必要な場合、コマンドで 1 つだけ HALDB マスターが指定されている場合に限り、区画構造の再作成が試行されます。コマンドに複数のデータベース名がリストされている場合には、再作成は試行されません。
- 58 指定された HALDB 区画を、/DBDUMP、/DBRECOVERY、/START、または /STOP コマンドに応じて処理できません。この区画は、アクティブ HALDB OLR が使用中です。コマンドは、メッセージに名前が示された HALDB 区画に対しては処理されません。ただし、コマンドで指定されている他のデータベース または HALDB 区画に対する処理は続行されます。
- 60 コマンドは、エリアがオンライン変更によって削除されたために失敗しました。
- 62 指定されたデータベースがディレクトリーの初期設定に失敗したか、DBB または PSB プール・スペースにブロックを収容するだけの大きさがなかったかのどちらかです。このデータベースに言及したメッセージがないか、システム・コンソールを調べてください。
- 70 指定されたデータベースまたは HALDB 区画が、許可に失敗しました。許可の失敗に関連したメッセージがないか、システム・コンソールを調べてください。許可の失敗に関連するメッセージが見つからない場合には、指定されたデータベースまたは HALDB マスターの状況を確認します。
- 71 HALDB マスターに対して /DBRECOVERY コマンドが出されていたので、指定された HALDB 区画に対して OPEN キーワード処理を続けることができませんでした。HALDB マスターを開始し、コマンドを再発行して HALDB 区画を開始してください。区画が削除され、区画構造の再作成が行われた場合にも、この状態になることがあります。区画構造の再作成は、/START DB haldbmst OPEN コマンドまたは UPD DB NAME(haldbmst) START(ACCESS)
- OPTION(OPEN) コマンドを発行するか(ここで、haldbmst は区画のマスター)、または区画のキー範囲内のキーに対して修飾付き GU 呼び出しを出す方法で行えます。区画が存在するか、削除されたかを調べるには、LIST.RECON コマンドを使用します。
- 72 指定された HALDB 区画に対する区画 DBM 構築が失敗しました。システム・コンソールでメッセージ DFS0415W の有無を調べ、失敗の理由を判別してください。
- 73 指定されたデータベースまたは HALDB 区画に対する DMB 構築処理が失敗しました。システム・コンソールをチェックして、DFS0561 または DFS0592I メッセージで失敗の理由を判別してください。
- 74 データ管理ブロック・プール (DMB プール) が小さすぎて、必要なデータ管理ブロックの全部は収まらないため、指名されているデータベースまたは HALDB 区画に対する DMB 構築処理が失敗しました。該当するパラメーターを変更して、プールのサイズを大きくし、システムを再始動してください。メッセージ DFS0992I も出される可能性があります。
- 75 指定されたデータベースまたは HALDB 区画に対する DMB 構築処理が失敗しました。指名されたデータベースまたは HALDB 区画用の DMB ブロックをロードしようとしたときに、IMS が DMB プール不足を検出しました。DMB プールのサイズは、アクティブに使用される DMB のすべてを収容するだけの大きさがなければなりません。該当するパラメーターを変更して、プールのサイズを大きくし、システムを再始動してください。
- 76 指定されたデータベースまたは HALDB 区画に対する DMB 構築処理が失敗しました。システム・コンソールをチェックして、メッセージ DFS0564I で失敗の理由を判別してください。
- 77 指定されたデータベースまたは HALDB 区画に対する DMB 構築処理が失敗しました。予期しない戻りコードが受信されました。関連するメッセージがないかどうかシステム・コンソールを調べ、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。
- 79 まだ Restart Parallel Database Open によって処理中のデータベースに対して、コマンドを発行しました。そのプロセスが完了するまで待って、再度コマンドを試行してください。
- 80 指定された DEDB データベースが、非 FP システムで開始できませんでした。

- 81 このメッセージは、読み取りが許可されたデータベース内のエリアについて、ユーザーが **/VUN** コマンドを発行したために生成されました。**/VUN** コマンドは、データベースについての更新許可を持つ IMS サブシステムで入力する必要があります。
- 82 **/DBR**、**/STO** または **/VUN area** コマンドが、静止したエリアに対して発行されました。**UPDATE AREA STOP(QUIESCE)** コマンドを発行して静止を停止し、コマンドを再発行してください。
- 83 **/UNLOCK** コマンドの場合、共通サービス域 (CSA) 不足のために、内部データベースの開始 (**/STA**) コマンドが失敗しました。テキスト **IEQE FOUND** を含むメッセージ **DFS0451I** を受信したデータベースごとに、手動で **/STA DB** コマンドを発行してください。
- 84 データベースの **/START**、**/STOP**、**/DBR**、または **/DBD** コマンドは、リソースが IMS 変更リストからのインポート中であるか、変更リストからのインポートが失敗したために処理できませんでした。リソースは、正常にインポートされるまでタイプ 1 コマンドによって処理することができません。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

問題判別:

6、11

モジュール:

DBFARD10、DBFARD40、DBFARDA0、DFSDBDR0、DFSRDSH0、DBFCVUN0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0489I **DATA BASE *database name* IS
CHANGED TO INQUIRY ONLY
STATUS**

説明

要イメージ・コピー・フラグが DBRC RECON データ・セットに設定されているため、メッセージ内で指定されたデータベースは、INQUIRY ONLY 状況に変更されます。オンライン・イメージ・コピー・ユーティリティがデータベースをコピーするようにスケジュールされているときは、オンライン・イメージ・コピーが実行できるようにするために、データベース許可レベルは、読み取りレベルに変更する必要があります。オンライン・イメージ・コピー・ユーティリティが、IMS サブ

システムに代わって、読み取りレベルの許可を要求しています。

システムの処置

IMS 処理は、オンライン・イメージ・コピーから続行します。ただし、データベースには、照会専用としての使用のマークが付けられます。

オペレーターの応答

オンライン IMS サブシステム用の更新許可レベルまたは排他的許可レベルが必要な場合は、オンライン・イメージ・コピー・ユーティリティの完了後に、**/START DB** または **UPDATE DB START(ACCESS)** コマンドを入力してください。

問題判別:

4、6

モジュール:

DFSDBAU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0490I **HD UNLOAD OF PARTITIONED
DATA BASES IS NOT SUPPORTED
FOR UCF**

説明

HALDB の HD アンロードは、ユーティリティ制御機能 (UCF) ではサポートされません。

システムの処置

実行は一時停止し、戻りコードが 16 に設定されます。

モジュール:

DFSURGU0

DFS0491A **ERROR IN DFSCTL DATASET**

説明

DFSCTL データ・セット内のステートメントにエラーが含まれていました。このメッセージの後に続くメッセージで誤りのある行が表示され、エラーが記述されます。このメッセージでは、可能な場合は、エラーの影響を受けている領域が表示されます。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

後続のメッセージに基づいて、エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPCAA0、DBFPHI00、DBFPHI10、DBFPHI20、DBFPHI30

DFS0492I *line in error*

説明

このメッセージでは、DFSCTL データ・セット内で誤りのある行が表示されています。このメッセージの後にメッセージがさらに1つ以上続いて、追加情報が提供されます。このメッセージでは、可能な場合は、エラーの影響を受けている領域が表示されます。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

このメッセージおよび次に続くメッセージの情報に基づいて、エラーを訂正してください。

モジュール:

DBFPCAA0、DBFPHI00、DBFPHI10、DBFPHI20、DBFPHI30

DFS0493I **INVALID CHARACTERS IN
DATABASE NAME**

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントの中のデータベース名に無効な文字が含まれていました。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPCAA0

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)

line in error

DFS0494I **NO DATABASE NAME GIVEN**

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントでデータベース名が指定されていませんでした。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPCAA0

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)

line in error

DFS0495I **NO PCB LABEL GIVEN**

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントに PCB ラベルが欠落していました。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPCAA0

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)

line in error

DFS0496A **PARTITION SELECTION FOR DATA
BASE DATASET FAILED**

説明

ジョブ・パラメーター・カードで指定されたデータベースに属する区画または区画の範囲のデータベース・セグメントをアンロードする準備をしている最中に、HDUNLOAD が IMS 区画選択からエラーを検出しました。

システムの処置

処理は一時停止し、戻りコード 16 が示されます。

ユーザーの処置

ジョブ・パラメーター・カードでのデータベース入力为正しいか検証してください。NUMBER= を使用して SYSIN で区画の範囲を指定した (例えば、PARTITION=PART2,NUMBER=5) 場合は、範囲値を訂正するか、追加の区画を定義して RECON を訂正する必要があります。区画選択出力ルーチンを調べて、有効範囲内の区画名を識別してください。

区画が欠落している場合は、「区画定義ユーティリティ (Partition Definition utility)」の TSO パネルを使用して区画を定義し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSURGU0

DFS0497I INVALID CHARACTERS IN PCB LABEL

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントの中の PCB ラベルに、無効な文字が含まれていました。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:
DBFPCAA0

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)
line in error

DFS0498I INVALID DATABASE NAME LENGTH

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントの中のデータベース名の長さが無効でした。名前は長さが 1 から 8 文字の範囲である必要があります。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:
DBFPCAA0

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)

line in error

DFS0499I INVALID PCB LABEL LENGTH

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントの中の PCB ラベルの長さが無効でした。PCB ラベルは長さが 1 から 8 文字の範囲である必要があります。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:
DBFPCAA0

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)
line in error

DFS0500I DANGLING COMMA ON END OF STATEMENT

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントがコンマで終わっています。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:
DBFPCAA0

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)
line in error

第 14 章 DFS メッセージ DFS0501I - DFS550I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0501I IC OPTION SPECIFIED FOR NON PROCOPT H PCB x. RGN n

説明

PCB x がイメージ・コピー (IC) オプションを指定していますが、処理オプション H (PROCOPT=H) が指定されていません。IC オプションが有効なのは、PROCOPT H PCB の場合のみです。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

この PCB に関する IC オプションを除去するか、PROCOPT H を指定するか、いずれかを行って、PSBGEN を再実行してください。

モジュール:
DBFCPY00

DFS0502I MULTIPLE DATABASE NAMES GIVEN

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントに DATABASE= (または DB=) キーワードが 2 つ含まれています。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:
DBFPCAA0

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)
line in error

DFS0503I DATABASE x NOT FOUND IN SYSTEM. RGN n

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントで DATABASE= (または DB=) キーワードが指定しているデータベースは、存在しません。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:
DBFPHI00

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)
line in error

DFS0504A NO PCB FOUND WITH LABEL x FOR DATA BASE y. RGN n

説明

データベース y のラベル x の PCB が検出されませんでした。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:
DBFCPY00

DFS0505I MULTIPLE PCB LABELS GIVEN

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントに PCB= キーワードが 2 つ含まれています。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPCAA0

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)

line in error

**DFS0506I SUBSET POINTER IS NOT VALID
FOR SENSEG *segmentname* IN PCB
dbdname IN PSB *psbname***

説明

SSPTR サブセット・ポインターは、SENSEG ステートメントで指定されていますが、対応する SEGM ステートメントでは定義されていません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

segmentname

無効のサブセット・ポインターが含まれている SENSEG

dbdname

SSPTR サブセット・ポインターが定義されていない DBD の SEGM *segmentname*

psbname

無効のステートメントが含まれている PSB

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

次のいずれかの処置を取ってください。

- アプリケーション・プログラムがサブセット・ポインターを使用しない場合は、このメッセージは無視してください。
- PSB の SENSEG ステートメントから SSPTR サブセット・ポインターを除去してください。次に PSBGEN を再実行してから、PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、ACB ユーティリティーを再実行してください。
- DBD の SEGM ステートメントに SSPTR サブセット・ポインターを追加してください。次に DBDGEN を再実行してから、PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、ACB ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:

DBFUDLB0

**DFS0507I PRIMARY MASTER LOGICAL
TERMINAL IS NOT DEFINED**

説明

IMS の初期設定で、1 次マスター論理端末 (PMTO) がシステム内で定義されていないことが検出されました。

システムの処置

IMS の初期設定は、異常終了コード 3477 で終了します。

システム・プログラマーの応答

システム定義の中で PMTO が正しく指定されていることを確認してください。

モジュール:

DFSAINB0

関連情報

[IMS 異常終了 3477](#)

**DFS0508I ADJACENT COMMAS IN
STATEMENT. RGN *n***

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントにコンマが隣接して (,,) 含まれています。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPCAA0、DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)

line in error

DFS0509A PARTITION SELECTION FAILED

説明

オンライン変更コピーのために HALDB 区画にアクセスしているとき、論理エラーが検出されました。

システムの処置

ユーティリティーは戻りコード 08 で終了します。

システム・プログラマーの応答

コピーされている区画 DBDS のリスト・ヒストリーを調べて、原因を判別してください。

モジュール:

DFSUICP0

**DFS0510E THE SETI STATEMENT IS INVALID.
RGN *n***

説明

メッセージ DFS0491A または後続のメッセージに示されているステートメントに、無効なプログラム仕様ブロック (PSB) 名が含まれていました。n は領域 ID 番号です。

BMP アプリケーションの DFSCTL データ・セット内の「索引の保守をオフに設定」(SETI) ステートメントでの PSB=psbname が、BMP アプリケーションで参照される高速副次索引データベースの索引保守を抑止するために使用されています。しかし、SETI ステートメントで PSB= パラメーターにエラーがありました。

次のいずれかのエラーが発生しました。

- SETI ステートメントの PSB = パラメーターの PSB 名が、BMP アプリケーションの PSB 名と一致しない。
- PSB = パラメーターが SETI ステートメントから省略されている。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPCAA0、DBFINTE0

関連情報

177 ページの『DFS0491A』
ERROR IN DFSCTL DATASET

DFS0511I **DUPLICATE OPTIONS FOR DB=x
AREA=y. RGN n**

説明

エリアは、メッセージ DFS0492I に示されている SETO ステートメントで、暗黙的または明示的のいずれかにより 2 回指定されています。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPHI10

関連情報

178 ページの『DFS0492I』
line in error

DFS0512I **UNRECOGNIZED KEYWORD. RGN
n**

説明

メッセージ DFS0492I に示されている SETO ステートメントに、無効なキーワードが含まれています。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報

178 ページの『DFS0492I』
line in error

DFS0513I **NO PARAMETERS SPECIFIED ON x
KEYWORD. RGN n**

説明

メッセージ DFS0492I に示されている SETO ステートメントの IC= (または NOIC=) キーワードの後に続くパラメーター・リストがありませんでした。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報

178 ページの『DFS0492I』
line in error

DFS0514I **UNRECOGNIZED TEXT AFTER
ENDING PAREN ON x KEYWORD.
RGN n**

説明

IMS が IC= (または NOIC=) キーワード・パラメーター・リストと 次のコンマの間のテキスト (例えば、IC=(AREA1)bad,) を認識しませんでした。メッセージ DFS0492I に、エラーが含まれている SETO ステートメントが示されています。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール

DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)
line in error

DFS0515I **INVALID AREA NAME LENGTH.**
 RGN *n*

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントの中のエリア名の長さが無効です。エリア名は長さが 1 から 8 文字の範囲である必要があります。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPHI30

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)
line in error

DFS0516I **INVALID CHARACTERS IN AREA**
 NAME. RGN *n*

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントの中のエリア名に無効な文字が含まれていました。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPHI30

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)
line in error

DFS0517I **AREA *x* NOT FOUND IN DATA BASE**
 y*. RGN *n

説明

エリア *x* がデータベース *y* で定義されていませんでした。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPHI30

DFS0518I **INVALID DASH SEPARATOR. RGN**
 n

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントで、3 つ以上のエリア名がダッシュで区切られていました (例えば、IC=(A1-A2-A3))。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報

[178 ページの『DFS0492I』](#)
line in error

DFS0519I **AREAS *x* AND *y* ARE IN THE**
 WRONG ORDER. RGN *n*

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントで、エリア範囲の開始点および終了点であるエリア *x* と *y* の順序が間違っていました。エリアは、DBDGEN 順に指定する必要があります。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報

178 ページの『DFS0492I』

line in error

DFS0520I **TERMINATION ITASK WAITS DUE
TO LONG BUSY FAST PATH ADS
AREA=areaname DDN=ddname**

説明

シャットダウン処理時に、1つ以上の高速機能 ADS がロング・ビジー条件下にあると、IMS が判別しました。シャットダウン処理を続ける前に、ロング・ビジー・リカバリーが完了する 必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

長時間使用中 ADS が属しているエリアの名前

ddname

RECON データ・セットに登録されている長時間使用中 ADS のデータ記述名

システムの処置

高速機能ロング・ビジー ADS がリカバリーを完了した後で、終了 ITASK が通知されます。IMS シャットダウン処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFTERM0

DFS0521I **UNMATCHING PARENTHESIS.
RGN n**

説明

メッセージ DFS0492I に示されているステートメントに含まれている小括弧の数は、右小括弧よりも左小括弧の方が多くなっていました。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報

178 ページの『DFS0492I』

line in error

DFS0522I **AREA x SPECIFIED TWICE IN
AREA LISTS. RGN n**

説明

メッセージ DFS0492I に示されている SETR ステートメントのエリア・リストに、このエリア名が 2 回含まれていました。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPHI20

関連情報

178 ページの『DFS0492I』

line in error

DFS0523I **UNRECOGNIZED TEXT AT END OF
AREA LIST. RGN n**

説明

IC= キーワードに関するエリア・リストの末尾のテキストが無効でした。エリア・リストの末尾で有効に使用できるのは、1ABEND、2ABEND、または CONTINUE (およびこれらの同義語) のみです。

システムの処置

領域は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPHI10

DFS524I **DFSZDI00-GSAM INIT.
AUTHORIZATION DENIED**

説明

IMS AUTH マクロは、モジュール DFSZDI40 が許可ライブラリーにないことを示す、ゼロ以外のコードを戻しました。

システムの処置

領域は終了し、異常終了コード 0657 が示され、メモリー・ダンプが取られます。

オペレーターの応答:

ジョブを再実行してください。この状態が持続する場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

IMS ライブラリーの状況を検査してください。

モジュール:

DFSZDI40

関連情報

[IMS 異常終了 0657](#)

**DFS0525A A PROCOPT H PCB WAS
SPECIFIED TO AN xxx REGION.
PCB x IN PSB y. RGN n**

説明

PSB *y* の PCB *x* で処理オプション H が指定されましたが、領域は IFP、MPP、メッセージ・ドリブン BMP、WFI BMP、または CCTL スレッドです。さらに、この領域の JCL には、//DFSCTL データ・セットの SETO ステートメントの一部も含まれています。HSSP (PROCOPT=H) を使用するプログラムが実行できるのは、BMP 領域のみです。

システムの処置

IFP、MPP、メッセージ・ドリブン BMP、または WFI BMP の場合は、領域は終了し、異常終了コード 1060 が示されます。DBCTL スレッドの場合は、1060 異常終了コードが CCTL に戻されて、スケジュール障害を示します。

プログラマーの応答

IFP、MPP、メッセージ・ドリブン BMP、WFI BMP、または DBCTL スレッドでは、処理オプション H を使用する PCB が含まれる PSB はスケジュールできません。処理オプションを訂正してください。

モジュール:

DBFCPY00

関連情報

[IMS 異常終了 1060](#)

**DFS0526A AN INCONSISTENCY EXISTS
BETWEEN THE PSB AND THE
DEDB'S DBD. PCB x IN PSB y. RGN
n**

説明

DBD は、DBDLIB で変更され、ACBGEN が PSB を作成するために使用されました。DBD は ACBLIB 内で置き換えられなかったことを示す警告メッセージが ACBGEN 中に出されました。

システムの処置

異常終了コード 1013 が CCTL に戻されて、スケジュール要求の失敗を示します。

プログラマーの応答

ACBGEN ユーティリティを再実行して、PSB と DBD の間の不整合を訂正してください。

モジュール:

DBFCPY00

関連情報

[IMS 異常終了 1013](#)

**DFS0527A A GETMAIN FAILED TO OBTAIN
SEGMENT WORKAREAS IN SP231
ECSA. ECSA NEEDS TO BE FREED
UP.**

説明

IMS は、要求されたストレージを取得できませんでした。

システムの処置

異常終了コード 1061 が CCTL に戻されて、スケジュール要求の失敗を示します。

プログラマーの応答

ECSA ストレージを解放し、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DBFCPY00、DBFCPY20

関連情報

[IMS 異常終了 1061](#)

**DFS0528I PSTOP/STOP CMD FOR RGN nnnn
WAITING IN QSN EXIT. CODE = x**

説明

DFSQSPC0 (IBM IMS Queue Control Facility for z/OS バージョンのキュー・スペース通知出口) によって、従属領域が待ち状態に置かれました。この待ち状態は、IMS キュー使用がユーザー限度またはデフォルト限度を超えたことに応じて生じました。従属領域が待ち状態にある間、この領域に対して /STOP または /PSTOP コマンドが入力されました。この状態のアプリケーション・プログラムまたは領域を終了する場合は、次のいずれかの方法を使用してください。

- QCF TSO/ISPF インターフェースを使用する。
- /STOP REGION *x* ABDUMP *tranname* コマンドを入力して、アプリケーション・プログラムを終了してか

ら、**/STOP REGION x** コマンドを入力して、領域を終了する。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnn

待ち状態に置かれた従属領域

x

理由コード。次のいずれかの値を取ります。

1

従属領域が終了し、異常終了コード 0408 が出ることを示します。**/STOP REGION x ABDUMP tranname** コマンドが出された場合は、この異常終了は正常です。

2

領域がキュー・スペース通知出口内で待ち状態ではなくなったこと、またはコマンドが発行された時点では、その状態で認識されなかったことを示します。

3

/STOP または **/PSTOP** コマンド (DFSSTOP) を処理するためのスペースの獲得に失敗したことを示します。このエラーが生じることがあってはなりません。

システムの処置

ありません。

オペレーターの応答

戻りコードに応じて、次のように該当する処置を取ってください。

1

/DISPLAY ACTIVE REGION コマンドを入力してください。表示される状況が WAIT-QSN の場合は、**/STOP REGION x ABDUMP tranname** コマンドを入力して、アプリケーション・プログラムを終了してから、**/STOP REGION x** コマンドを入力してください。特定の領域に関して、理由コード 1 が引き続き受信される場合は、システム・プログラマーに問題を報告してください。

2

/DISPLAY ACTIVE REGION コマンドを入力してください。表示される状況が WAIT-QSN の場合は、**/STOP REGION x ABDUMP tranname** コマンドを入力して、アプリケーション・プログラムを終了してから、**/STOP REGION x** コマンドを入力してください。**/DISPLAY** コマンドにより WAIT-QSN の表示が続いているとき、メッセージ DFS0528I があらためて出され、理由コード 1 が示された場合は、システム・プログラマーに問題を報告してください。

3

システム・プログラマーに問題を報告してください。

システム・プログラマーの応答

理由コード 1 が引き続き表示されていたり、理由コード 3 が示されたりする場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を要求してください。

モジュール:

DFSSTOPO

関連情報

IMS 異常終了 0408

DFS529E	AN INVALID VALUE IS SPECIFIED ON THE JVM EXEC PARAMETER
----------------	--

説明

EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM= リスト内の定位置 JVM パラメーターに無効値が指定されたため、従属領域を初期設定できません。

システムの処置

この従属領域は異常終了します。

オペレーターの応答

EXEC ジョブ制御ステートメントの JVM パラメーターに指定された値を訂正し、ジョブを再実行してください。

JVM パラメーターの有効な値は 64 または 31 です。

問題判別:

2、8

モジュール:

DSFRRA40

DFS0530I	DFSZDC00 I/O ERROR DBDNAME=dbdname DDNAME=ddname GBCRTNCD=xxxx
-----------------	---

説明

ページまたはチェックポイント操作時に、GSAM コントローラーがバッファー書き出しエラーを検出しました。

xxxx は、16 進数の 2 バイト・フィールド GBCRTNCD です。GBCRTNCD フィールド・ビットの定義については、GB DSECT を参照してください。

システムの処置

GSAM が終了し、異常終了コード 0271 が示されます。

プログラマーの応答

データ・リカバリー手順を使用して、エラーのデータ・セットを再構成してください。

モジュール:
DFSZDC00

関連情報

IMS 異常終了 0271

**DFS0531I IMAGE COPY DATASET OPEN
FAILED**

または

**REASON CODE=01 AREA=*areaname* REGID=*regid*
DEVICE TYPE NOT SUPPORTED. DD=*ddname*
DSN=*dsname***

または

**REASON CODE=02 AREA=*areaname* REGID=*regid*
MAXIMUM PICS ALREADY EXIST**

または

**REASON CODE=03 AREA=*areaname* REGID=*regid*
AREA IS NOT REGISTERED IN DBRC**

または

**REASON CODE=04 AREA=*areaname* REGID=*regid*
INVALID PARAMETER FOUND IN DBRC**

または

**REASON CODE=05 AREA=*areaname* REGID=*regid*
INTERNAL DBRC ERROR**

または

**REASON CODE=06 AREA=*areaname* REGID=*regid*
DBRC DID NOT HAVE ENOUGH IDS(S)**

または

**REASON CODE=07 AREA=*areaname* REGID=*regid*
NO IDS(S) COULD BE USED**

または

**REASON CODE=08 AREA=*areaname* REGID=*regid*
AREA DOES NOT HAVE REUSE ATTRIBUTE**

または

**REASON CODE=09 AREA=*areaname* REGID=*regid*
HSSP IC ALREADY IN PROCESS**

または

**REASON CODE=10 AREA=*areaname* REGID=*regid*
DUPLICATE DDNAME FOUND DD=*ddname*
DSN=*dsname***

または

**REASON CODE=11 AREA=*areaname* REGID=*regid*
SPACE FOR IDSC(S) UNAVAILABLE DD=*ddname*
DSN=*dsname***

または

**REASON CODE=13 AREA=*areaname* REGID=*regid*
QSAM OPEN CIC XFP TCB RETRY DD=*ddname*
DSN=*dsname***

または

**REASON CODE=14 AREA=*areaname* REGID=*regid*
GETMAIN FAILED - DBRC BLKS**

または

**REASON CODE=15 AREA=*areaname* REGID=*regid*
QSAM OPEN FAILED DD=*ddname* DSN=*dsname***

または

**REASON CODE=16 AREA=*areaname* REGID=*regid*
GETMAIN FAILED FOR HSSP IC BLOCKS AND
BUFFER**

または

**REASON CODE=17 AREA=areaname REGID=regid
ALLOC FAILED DDNAME NOT FOUND IN TIOT
DD=ddname DSN=dsname**

または

**REASON CODE=18 AREA=areaname REGID=regid
EEQE EXISTS WITHOUT A BUFFER**

または

**REASON CODE=19 AREA=areaname REGID=regid
AREA IS NONRECOVERABLE**

または

**REASON CODE=20 AREA=areaname REGID=regid
RDJFCB/MODCB ERROR DD=ddname DSN=dsname**

または

**REASON CODE=31 AREA=areaname REGID=regid
ALLOCATED SPACE NOT ENOUGH**

説明

HSSP イメージ・コピー・オープン処理が、イメージ・コピー・データ・セット (IDS) または イメージ・コピー・セットアップで失敗しました。2 番目の DFS0531I メッセージに理由コード、およびエラーの要旨が示されます。

システムの処置

IDS オープン障害が次の理由コードのいずれかが示す理由で発生したときに、HSSP イメージ・コピー処理が終了しました: 02、03、04、05、06、07、08、09、12、16、および 18

IDS オープン障害が次のいずれかの理由コードで示される理由で生じると、HSSP イメージ・コピー処理は終了する可能性があります: 01、10、11、13、17、20、31。イメージ・コピー・プロセスが終了するかどうかは、指定したイメージ・コピー・オプションによります。

理由コードが 19 の場合は、HSSP/IC ジョブがユーザー異常終了 1062 で失敗します。

どの IDS オープン障害理由コードの場合も、HSSP 処理がイメージ・コピーの有無にかかわらず継続できるか、または終了するかは、指定した HSSP イメージ・コピー・オプションによります。指定できる有効なオプション

ンには、CONTINUE、1ABEND、2ABEND、および IC=0,1,2 があります。

プログラマーの応答

受信した理由コードに応じて、次のように該当する処置を取ってください。

コード
処置

01

該当する VSAM カタログまたは JCL DD ステートメントをチェックして、指定された IDS 用としてディスク装置が指定されているかどうか判別してください。動的割り振りが行われている場合は、動的割り振りパラメーター・リストをチェックして、指定された IDS 用として指定されている装置タイプを検索してください。ディスク以外の装置が指定されていた場合は、装置タイプをディスク装置に変更してから、ジョブを再実行してください。

02

競合が解決したらすぐにプログラムを再実行してください。有効なイメージ・コピーを作成します。

03

欠落しているリソース記述を DBRC に追加し、プログラムを再実行してください。

04、05

これらのコードは、内部システム問題を示しています。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

06、07、08

欠落しているリソース記述を DBRC に追加し、プログラムを再実行してください。

09

CHANGE . IC コマンドを出して、直前の HSSP IC プロセス (部分的または完全な HSSP IC データ・セットの作成) を終了させてください。

10

メッセージで識別されている DD 名は、IMS サブシステムに存在します。つまり、IDS がすでに開かれているか、DD 名に誤りがあるか、どちらかであることを意味します。IDS がすでにオープンしている場合は、その DD 名に関する DD ステートメントを削除してください。DD 名は間違っていたが、IMS サブシステム内の別の DD 名と一致した場合は、入力 DD 名を訂正して、ジョブを再実行してください。

11

共通サービス域 (CSA/ECSA) が低使用のときは、ジョブを再実行してください。

12

ユーザーが処置を決定します。(可能な処置の 1 つとして、エリアをリカバリーして、ジョブを再実行することが考えられます。)

- 13 順次アクセス方式 OPEN が異常終了する可能性があります。順次アクセス方式メッセージで推奨されている処置を取ってください。
- 14 共通サービス域 (CSA/ECSA) が低使用のときは、ジョブを再実行してください。
- 15 順次アクセス方式 OPEN で、順次アクセス方式メッセージに戻りコードが表示されます。
- 16 共通サービス域 (CSA/ECSA) が低使用のときは、ジョブを再実行してください。

コード
説明

- 17 DD ステートメントが指定されている場合は、DD 名が正しいか確認してください。DD ステートメントが欠落している場合は、DD ステートメントを指定してください。動的割り振りが失敗した場合は、メッセージ DFS2502W または DFS2503W で推奨されている処置を取ってください。その後でジョブを再実行します。

コード
説明

- 18 ユーザーが処置を決定します。(可能な処置の 1 つとして、共用システムが所有している EEQE がこのエリアに関してパージされた後で、ジョブを再実行することが考えられます)

コード
説明

- 19 HSSP イメージ・コピー (HSSP/IC) が回復不能 DEDB に対して要求されました。回復不能 DEDB に対してはファジー・イメージ・コピーは許可されません。

次のいずれかの処置を取ってください。

- HSSP/IC 指定から回復不能 DEDB エリアを除去してください。
- イメージ・コピー・ユーティリティまたはイメージ・コピー 2 ユーティリティを実行して、非ファジー・イメージ・コピーを作成してください。

コード
説明

- 20 物理データ・セットを削除し、再定義してください。その後でジョブを再実行します。

- 31 指定されたイメージ・コピー・データ・セットを削除し、少なくともエリア・データ・セットと同じス

ペースを指定して、再定義してください。その後でジョブを再実行します。

問題判別:

1、2、3、8、40

モジュール:

DBFPICE0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0532I IMAGE COPY FAILED FOR AREA=areaname[IMAGE COPY ITASK CREATE FAILED | IMAGE COPY ITASK ABORTED DURING INITIALIZATION | EEQE EXISTS WITHOUT BUFFER]

または

IMAGE COPY PROCESS (STARTED|TERMINATED) FOR AREA=areaname REGID=regid, RC=((0|4)|8.) DSN1=dsname1

または

IMAGE COPY PROCESS (STARTED|TERMINATED) FOR AREA=areaname REGID=regid, RC=((0|4)|8.) DSN1=dsname1 | DSN2=dsname2

または

IMAGE COPY STARTED FOR AREA=areaname

説明

HSSP イメージ・コピー・セットアップが完了し、イメージ・コピーは開始したか、終了したか、失敗したかのいずれかです。

戻りコードでは、以下で説明しているように、どの処置が取られてかを示しています。

コード
説明

00 イメージ・コピーは、識別されている DSN で正常に開始しました。

04 イメージ・コピー・データ・セットを開こうとしているとき、エラーが発生しました。イメージ・コピー処理は、ユーザー・イメージ・コピー仕様に従っ

て、残りのデータ・セット(メッセージで識別されている)から続行します。メッセージ DFS0531I がこのメッセージより先に表示されて、IDS オープン障害の原因について説明しています。

08

イメージ・コピー・データ・セットを開こうとしているとき、またはイメージ・コピー・セットアップ中に、エラーが発生しました。イメージ・コピー・プロセスは終了します。メッセージ DFS0531I がこのメッセージより先に表示されて、イメージ・コピーのセットアップ障害またはオープン障害の原因について説明しています。

注: このメッセージの 2 番目の形式が出される場合は、DFS0532I メッセージの 2 つの形式の間に他のメッセージが表示される可能性があります。

このメッセージの IMAGE COPY FAILED 形式が表示された場合は、処置は後に続くテキストによって異なります。

- IMAGE COPY ITASK CREATE FAILED は、イメージ・コピー ITASK の動的作成時に、障害が発生したことを示します。
- IMAGE COPY ITASK ABORTED DURING INITIALIZATION は、イメージ・コピー ITASK が打ち切られたことを示します。メッセージ DFS0531I を参照してください。
- EQE EXISTS FOR SAME RBA FOR ALL ADS(S) は、イメージ・コピーが不可能であることを示します。
- EEQE EXISTS WITHOUT BUFFER は、データがイメージ・コピーには使用不可であることを示します。

システムの処置

イメージ・コピー・プロセスは、続くか終了するかいずれかです。

プログラマーの応答

メッセージの情報に基づいて適切な処置を取ってください。

モジュール:
DBFPICSO

DFS0533E	SETO WITH IC= AND SETU WITH FPBP64U=Y ARE MUTUALLY EXCLUSIVE PARAMETERS
-----------------	--

説明

HSSP ジョブに、IC= が指定された SETO 制御ステートメントと、FPBP64U=Y が指定された SETU 制御ステートメントが含まれていました。それらは同時に指定できないパラメーターです。64 ビット・ユーティリティ

ー専用バッファ・プールを HSSP イメージ・コピー処理で使用することはできません。

システムの処置

HSSP ジョブは異常終了コード 1060 (U1060) で終了します。

プログラマーの応答

SETO ステートメントから IC= オプションを削除するか、あるいは SETU ステートメントを削除してください。それから、HSSP ジョブを再実行依頼します。

モジュール:
DBFPHI10

DFS0534I	FPBP64U=Y WAS SPECIFIED ON THE SETU STATEMENT
-----------------	--

説明

HSSP ジョブに、FPBP64U=Y が指定された SETU 制御ステートメントが含まれていました。HSSP ジョブは 64 ビット・ユーティリティ専用バッファ・プールを割り振り、使用します。

システムの処置

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFPHI00

DFS0535A	xxxx DISC PROCESS ATTEMPTED AREA α
-----------------	---

または

**RGN=r, xxxx CONN PROCESS ATTEMPTED AREA α ,
PCB LABEL z**

説明:

詳細な説明および処置については、DFS0535I の情報を参照してください。

関連情報

DFS0535I

RC=01, yyyy ALREADY RUNNING

DFS0535I	RC=01, yyyy ALREADY RUNNING
-----------------	------------------------------------

または

RC=03, AREA LOCK FAILED

または

RC=04, AREA IS STOPPED

または

RC=05, AREA FAILED TO OPEN

または

RC=06, 2ND CI UPDATE AND/OR NOTIFY FAILED

または

RC=07, UOW LOCK MODE INITIATION FAILED

または

RC=08, INSUFFICIENT STORAGE FOR AREA PRIVATE BUFFER POOL. STORAGE REQUESTED=nnnnnnnK. STR MGR RC=xxx

または

RC=09, PRIVATE BUFFER POOL ALREADY EXISTS *sysid*

または

RC 10, COULD NOT GET AN AWE *sysid*

または

RC 11, INVALID REQUEST SENT TO DBFPAPB0 *sysid*

または

RC=12, AREA IS IN A QUIESCE STATE *sysid*

説明

あるプロセスが試みられましたが、メッセージにリストされている理由により、完了できませんでした。

- RGN=r, *xxxx* CONN PROCESS ATTEMPTED AREA *a*, PCB LABEL *z*

プロセス *xxxx* は開始されませんでした。プロセス *xxxx* は、次のいずれでもありえます。

HSRE

高速再編成ユーティリティ

HSSP

高速順次処理

PREL

VSO プリロード・プロセス

領域 *r* は、影響を受けた領域を示します。

- *xxxx* DISC PROCESS ATTEMPTED AREA *a*

プロセス *xxxx* は切断できませんでした。プロセス *xxxx* は、次のいずれでもありえます。

HSRE

高速再編成ユーティリティ

HSSP

高速順次処理

PREL

VSO プリロード・プロセス

- RC=01, *yyyy* ALREADY RUNNING

プロセス *yyyy* は、エリアでアクティブであり、エリアから切断されていません。プロセス *yyyy* は、次のいずれでもありえます。

DA00

DEDB 変更ユーティリティ

HSRE

高速再編成ユーティリティ

HSSP

高速順次処理

MDLO

DEDB 順次従属削除ユーティリティ

MMHO

DEDB エリア・データ・セット比較ユーティリティ

MRIO

DEDB エリア・データ・セット作成ユーティリティ

MSCO

DEDB 順次従属スキャン・ユーティリティ

PREL

VSO プリロード・プロセス

- RC=03, AREA LOCK FAILED

プロセス *xxxx* は、エリアに関するエリア・ロックの獲得に失敗しました。

• RC=04, AREA IS STOPPED

プロセス *xxxx* は、停止されたエリアでは実行できません。

• RC=05, AREA FAILED TO OPEN

エリア *a* を開く試みが失敗しました。

• RC=06, 2ND CI UPDATE AND/OR NOTIFY FAILED

IRLM 通知が失敗したか、2 番目の CI 更新にエラーがあったため、プロセス *xxxx* は失敗しました。

• RC=07, UOW LOCK MODE INITIATION FAILED

UOW ロッキング・モードへの遷移が正常に行われませんでした。共用サブシステムへの通知プロセスでの障害が原因と考えられます。

• RC=08, INSUFFICIENT STORAGE FOR AREA PRIVATE BUFFER POOL. STORAGE REQUESTED=*nnnnnnn*K. STR MGR RC=*xxxx*.

専用バッファ・プールの作成不能。十分なストレージが利用不能でした。メッセージの中で、*nnnnnnn* は、要求された 1014 バイト分のストレージの数であり、*xxx* は、IMS ストレージ・マネージャーによって設定された戻りコードです。

• RC=09, PRIVATE BUFFER POOL ALREADY EXISTS *sysid*

プロセス *xxxx* がエリア専用バッファ・プールの作成を要求しましたが、バッファ・プールはすでに存在しています。

• RC 10, COULD NOT GET AN AWE *sysid*

AWE 制御ブロックに対する要求が *xxxx* の処理に失敗しました。

• RC 11, INVALID REQUEST SENT TO DBFPAPBO *sysid*

呼び出しモジュールが DBFPAPBO に渡した要求コードが無効でした。

• RC=12, AREA IS IN A QUIESCE STATE *sysid*

このプロセスは静止されたエリアでは実行できません。

システムの処置

このメッセージのさまざまな形式について、システムが取る処置がリストされます。

• RGN=*r*, *xxxx* CONN PROCESS ATTEMPTED AREA *a*, PCB LABEL *z*

プロセス *xxxx* は終了します。

• *xxxx* DISC PROCESS ATTEMPTED AREA *a*

プロセス *xxxx* は、切断しないで終了します。

• RC=12, AREA IS IN A QUIESCE STATE *sysid*
ユーティリティーは終了します。

システム・プログラマーの応答

このメッセージのさまざまな形式について、取るべき処置がリストされます。

• RGN=*r*, *xxxx* CONN PROCESS ATTEMPTED AREA *a*, PCB LABEL *z*

付随する DFS0535I メッセージを参照してください。

• *xxxx* DISC PROCESS ATTEMPTED AREA *a*

付随する DFS0535I メッセージを参照してください。

• RC=01, *yyyy* ALREADY RUNNING

プロセス *yyyy* が完了した時点で、ユーティリティーまたはプロセスを再度実行してください。このメッセージは、前のプロセスが正常に完了しなかった場合にも出される可能性があります。その場合は、エリアで要求されたプロセスが実行できるようにするために、**/STOP** と **/START** のコマンド対を発行してください。このメッセージがデータ共用環境で受信された場合は、すべての共用サブシステムに対して **/STOP** と **/START** のコマンド対を発行してください。

• RC=03, AREA LOCK FAILED

ロック障害の原因を判別し、問題を訂正してください。エリア・ロック障害のため、切断が完了しなかった場合は、他のプロセスが実行できるようにするために、**/STOP** と **/START** のコマンド対を発行する必要があります。

• RC=04, AREA IS STOPPED

/START コマンドを出して、エリアを開始してください。

• RC=05, AREA FAILED TO OPEN

メッセージ DFS3702I を参照して、オープンが失敗した理由を判別してください。

• RC=06, 2ND CI UPDATE AND/OR NOTIFY FAILED

詳しくは付随するメッセージを調べてください。

• RC=07, UOW LOCK MODE INITIATION FAILED

障害のあるコンポーネントを訂正して、再実行してください。

• RC=08, INSUFFICIENT STORAGE FOR AREA PRIVATE BUFFER POOL

ストレージが使用可能なとき、プロセス *xxxx* を再度実行してください。

- RC=09, PRIVATE BUFFER POOL ALREADY EXIST *sysid*

これは、ソフトウェアに論理エラーがあることを示しています。プロセス *xxxx* を再度実行してください。引き続きエラーが発生する場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

- RC=10, COULD NOT GET AN AWE *sysid*

ストレージが使用可能なとき、プロセス *xxxx* を再度実行してください。

- RC=11, INVALID REQUEST SENT TO DBFPAPB0 *sysid*

これは、ソフトウェアに論理エラーがあることを示しています。プロセス *xxxx* を再度実行してください。引き続きエラーが発生する場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

- RC=12, AREA IS IN A QUIESCE STATE *sysid*

UPDATE AREA STOP(QUIESCE) コマンドを発行して静止を停止し、指定されたユーティリティを再実行してください。

プログラマーの応答

HSSP ジョブを再始動する前に、HSSP プロセスまたはユーティリティがエリアでアクティブでないことを確認してください。

モジュール:

DBFPMSG0、DBFPSET0、DBFUHDR0

DFS536A LAST CONVERSATION MESSAGE
UNAVAILABLE - reason

説明

/RELEASE コマンドが、メッセージ・テキストの *reason* で示す以下のいずれかの理由により、IMS 会話に関する最後の出力メッセージの検索に失敗しました。

STORAGE UNAVAILABLE
RESTART RESYNC INCOMPLETE
QUEUE ERROR

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

これらのエラーはすべてが、一時的である可能性が大です。障害を引き起こした原因が解消されるまでしばらく待ってから、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSICLHO

DFS0537I AREA=areaname DD=ddname,
DSN=dsname CLOSED, IC FAILED

または

AREA=areaname DD=ddname, DSN=dsname OPEN|
CLOSED

または

AREA=areaname DD=ddname, DSN=dsname CLS
RETRY FP TCB

説明

HSSP イメージ・コピーがイメージ・コピー・データ・セットを正常にオープンまたはクローズしました。

エラーの後でデータ・セットがクローズされる場合は、IC FAILED 形式のメッセージが表示されます。CLS RETRY FP TCB は、イメージ・コピーがクローズされ、障害があることを示します。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFMPCLO、DBFICSQ0、DBFPICT0、DBFPIOSO

DFS0538I I/O ERROR *qsam_info*

説明

SYNADAF ACSMETH=QSAM マクロが QSAM から情報を収集しました。*qsam_info* には、メッセージの内容を説明するシステム・メッセージ番号が含まれています。

システムの処置

IMS は、データ・セットに関する処理を停止します。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、必要に応じてコマンドを再発行してください。

モジュール:

DBFICSQ0

DFS0539A HD RELOAD IS UNABLE TO PROCESS THE UNLOAD FILE DUE TO INVALID STAT RECORD

説明

HD アンロード・データ・セット内の統計レコードが、HD 再ロード・ユーティリティーによって認識できません。

システムの処置

HD 再ロード・ユーティリティーは異常終了コード 0355 で終了します。

プログラマーの応答

HD アンロード・データ・セットおよび HD 再ロード・ジョブ出力を保管します。その上で、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSURGL0

関連情報

[IMS 異常終了 0355](#)

DFS0540I xxxxx PROGRAM=*program name*, CKPTID=*checkpointid*, REGID=*regionid*, DAY=*ddd*, TIME=*hhmmssthmiju*+0000

説明

拡張(または、シンボリック)チェックポイント、または拡張リスタート(XRST)要求が処理されました。メッセージ・テキストで xxxxx は、以下のいずれかの値になります。

EXTENDED CHECKPOINT

拡張(または、シンボリック)チェックポイントが完了しました。X'18' のログ・レコードが記録されました。メッセージ DFS0540I および DFS0542I が出ないように抑止するには、NOMSG540 を CKPTID=EXEC パラメーターで指定してください。また、メッセージ DFS681I が出ないように抑止する場合は、NOMSGS を指定してください。

XRST IN PROGRESS

拡張再始動呼び出し(BMP アプリケーションの場合は XRST、JBP アプリケーションの場合は IMSTransaction.getTransaction().restart) が処理されました。X'18' のレコードはログにあります。

XRST CKPT NOT IN OLDS

BMP および JBP アプリケーションが XRST を要求しました。OLDS には、もはや前回のシンボリック・チェックポイントの X'18' レコードは入っていません。

XRST LAST CKPT ID IS

BMP が、チェックポイント ID 値を指定して、XRST を要求しました。指定された値は、BMP の最後のチェックポイントとして IMS が記録した値と同じではありません。IMS によって記録された最後のチェックポイント ID がメッセージで表示されています。

表示されている日時は、チェックポイントが取られた万国標準時(UTC)時刻です。

システムの処置

最初の 2 つの場合は、処理は正常に続行されます。最後の 2 つの場合は、BMP ジョブに IMSLOGR DD データ・セットが含まれるかどうかで、処置が異なります。データ・セットが存在している場合は、XRST のログ入力として使用されます。存在しない場合は、BMP は終了し、異常終了コード 0102 が示されます。

プログラマーの応答

プログラムが異常終了 0102 で終了したときは、XRST チェックポイント ID が入っているログ・データ・セットおよびボリュームを判別してください。このログ・データ・セットおよびボリュームを指定して、IMSLOGR DD ステートメントを JCL に追加してください。BMP チェックポイント ID EXEC パラメーターを、必要なチェックポイント ID と等しくなるように設定し、ジョブを再実行依頼してください。

IMS が *XRST CKPT NOT IN OLDS* と *XRST LAST CKPT ID IS* のいずれかのメッセージを出し、プログラムが異常終了 0102 で終了した後で、IMS に認識されている最後のユーザー・チェックポイントから再始動できます。LAST を XRST シンボリック・チェックポイント ID 値として指定して、BMP ジョブを再実行依頼してください。

XRSTCKPT NOT IN OLDS メッセージの場合は、ジョブの再実行依頼時に、LAST を XRST チェックポイント ID として指定できます。

モジュール:

DFSZSC00、DFSDLA00

関連情報

[IMS 異常終了 0102](#)

DFS541 INVALID OR MISSING OPTION PARM

説明

/ERE コマンドで、キーワード **OPTION** が入力されました。このキーワードの後に無効なパラメーターが続いているか、またはパラメーターがありません。

システムの処置

/ERE コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

/ERE コマンドから **OPTION** パラメーターを除去するか、またはこのキーワードに SYNCPLX パラメーターを追加してください。

モジュール:
DFSICL20

DFS0542I *EXTENDED CHECKPOINT*
DAY=ddd, TIME=HHMMSSTHMIJU
+0000

説明

拡張チェックポイントが処理されました。このメッセージは、メッセージ DFS0540I の後に続きます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddd

年間通算日

HHMMSSTHMIJU+0000

チェックポイントが取られた 万国標準時 (UTC) 時刻

メッセージ DFS0540I が抑止された場合は、このメッセージは抑止されます。発行メッセージ DFS0542I だけを抑止するには、NOMSG542 を CKPTID=EXEC パラメーターでコーディングしてください。メッセージ DFS681I も抑止したい場合は、N0681542 をコーディングしてください。メッセージ DFS681、DS0540I、および DFS0542I を抑止したい場合は、NOMSGS をコーディングしてください。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSZSC00

関連情報

195 ページの『DFS0540I』
xxxxx PROGRAM=program name,
CKPTID=checkpointid, REGID=regionid,
DAY=ddd, TIME=hhmmssthmiju+0000

DFS0543I MADS I/O TIMING RECOVERY
STARTED FOR AREA=AAAAAAA
DDN=DDDDDDDD

説明

このメッセージは、長時間使用中エリアのリカバリー・プロセスが始まっていることを示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

AAAAAAA

リカバリーが開始された長時間使用中エリアの名前

DDDDDDDD

長時間使用中エリアのデータ記述名

システムの処置

このシステムがメッセージ DFS1558I を受信するのは、エリア・データ・セット (ADS) に関する MADS 入出力タイミング・リカバリーが終了したときです。

システム・プログラマーの応答:

モジュール:
DBFMLBRO

DFS0546I LONG BUSY ADS CLOSED.
AREA=xxxxxxx, ADS=yyyyyyyy,
UNIT=nnnn

説明

長時間の使用状態が、最大 CI 限度 (1 エリアにつき 1000 CI) を超えるのに十分な長期間、継続しました。これが発生した場合、MADSIOT 機能は内部 **STOP ADS** コマンドを発行します。この STOP ADS プロセスは、XFP TCB の下でメディア・マネージャー DISCONNECT 機能呼び出し、DASD が依然として長時間の使用状態にある場合、DISCONNECT 機能は長時間の使用状態が解除されるか IOTIMING に到達するまでの間、中断状態になります。

その中断状態の間、すべての ITASK は、XFP TCB の下での OTHREAD、CHKPT、および FP コマンドも含め、サービスを受けることができません。その影響を少なくするため、このメッセージを自動化操作プログラムで使用して、長時間の入出力装置のオフラインを強制することができます。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

モジュール:
DBFARD20

DFS0548A RRS NOT ACTIVE BUT RRS=Y
SPECIFIED - REPLY: RETRY,
CONTINUE OR CANCEL

説明

IMS は、RRS がアクティブでないことを示す、CRGSEIF (出口の設定) 呼び出しから CRG_EM_STATE_ERROR 戻りコードを受け取りました。

システムの処置

システムは、このメッセージに対する応答を待ちます。

オペレーターの応答

RRS を開始し、メッセージに対して RETRY を応答します。IMS に対して作成された自動的な非同期接続を使用して、RRS を後で開始する場合は CONTINUE と応答します。今回の IMS 実行で RRS が必要ない場合は、CANCEL と応答します。

バッチ環境では、CONTINUE 応答は CANCEL と同じです。

モジュール:

DFSRRSIO、DFSRRSBO

DFS0548E	ERROR BUILDING RESOURCE CLEANUP ENVIRONMENT, RC=rc - details
-----------------	---

説明

IMS が、IMS 初期設定中にリソース・クリーンアップおよびオンライン・ダンプ・フォーマット設定環境を確立しようとしているときにエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

失敗したサービスからの戻りコード。

details

検出したエラーのタイプに関する 1 行の説明。

DFS0458E メッセージの *details* 部分は検出したエラーを詳しく説明しており、次のいずれかの値になります。

ERROR OBTAINING GRMB STORAGE

IMS は、GRMB (グローバル・リソース・マネージャー・ブロック) に必要なストレージを入手できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS STORAGE OBTAIN マクロからの戻りコードです。

ERROR OBTAINING XSSCT STORAGE

IMS は、XSSCT (IMS 31 ビット拡張 SSCT) に必要なストレージを入手できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS STORAGE OBTAIN マクロからの戻りコードです。

ERROR OBTAINING DFSMRC20 STORAGE

IMS は、モジュール DFSMRC20 を直接ロードするためのストレージを入手できませんでした。

メッセージ内の *rc* は、z/OS STORAGE OBTAIN マクロからの戻りコードです。

BPESVC FUNC=INIT ERROR

BPESVC FUNC=INIT 処理中にエラーが発生しました。メッセージ内の *rc* は、BPESVC マクロからの戻りコードです。

ERROR ISSUING BLDL FOR DFSMRC20

モジュール DFSMRC20 のための BLDL マクロ呼び出しを発行中にエラーが起きました。メッセージ内の *rc* は、z/OS BLDL マクロからの戻りコードです。

ERROR LOADING DFSMRC20

IMS は、モジュール DFSMRC20 をロードできませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS LOAD マクロからの戻りコードです。

ERROR LOADING DFSRTM00

IMS は、モジュール DFSRTM00 をロードできませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS LOAD マクロからの戻りコードです。

ERROR ADDING ADDRSPC RESMGR

IMS は、システムにアドレス・スペース・リソース・マネージャーを動的に追加できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS RESMGR マクロからの戻りコードです。

ERROR ADDING TASK RESMGR

IMS は、システムにタスク・リソース・マネージャーを動的に追加できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS RESMGR マクロからの戻りコードです。

AN ABEND OCCURRED

IMS リソース・クリーンアップ環境の構築中に異常終了が発生しました。メッセージ内の *rc* は異常終了コードです。

UNABLE TO ESTABLISH ESTAE

IMS は、リソース・クリーンアップ環境の初期設定を保護するための ESTAE リカバリー・ルーチンを確立できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS ESTAEX マクロからの戻りコードです。

ENQ FAILED ON SYSZDFS DFSGRMB

IMS は、リソース「SYSZDFS DFSGRMB」についての排他的 ENQ を入手できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS ENQ マクロからの戻りコードです。

ERROR OBTAINING DFSMRC00 STORAGE

IMS は、モジュール DFSMRC00 を直接ロードするためのストレージを入手できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS STORAGE OBTAIN マクロからの戻りコードです。

ERROR ISSUING BLDL FOR DFSMRC00

モジュール DFSMRC00 のための BLDL マクロ呼び出しを発行中にエラーが起きました。メッセージ内の *rc* は、z/OS BLDL マクロからの戻りコードです。

ERROR LOADING DFSMRC00

IMS は、モジュール DFSMRC00 をロードできませんでした。メッセージ内の rc は、z/OS LOAD マクロからの戻りコードです。

UNKNOWN ERROR

IMS Resource Manager のクリーンアップ初期設定中に予期しないエラーが発生しました。

ERROR OBTAINING DFSAFMX0 STORAGE

IMS は、モジュール DFSAFMX0 を直接ロードするためのストレージを入手できませんでした。メッセージ内の rc は、z/OS STORAGE OBTAIN マクロからの戻りコードです。IMS 初期設定は続行されますが、IMS のオンライン・ダンプ・フォーマット設定は使用できません。

ERROR ISSUING BLDL FOR DFSAFMX0

モジュール DFSAFMX0 のための BLDL マクロ呼び出しを発行中にエラーが起きました。メッセージ内の rc は、z/OS BLDL マクロからの戻りコードです。IMS 初期設定は続行されますが、IMS のオンライン・ダンプ・フォーマット設定は使用できません。

ERROR LOADING DFSAFMX0

IMS は、モジュール DFSAFMX0 をロードできませんでした。メッセージ内の rc は、z/OS LOAD マクロからの戻りコードです。IMS 初期設定は続行されますが、IMS のオンライン・ダンプ・フォーマット設定は使用できません。

DFSAPMX0 IEFSSI ADD FAILED

IMS は、IMS で SNAP、SYSABEND、および SYSUDUMP のダンプ・フォーマット設定を実行できるようにするために、サブシステムを動的に z/OS に追加することができませんでした。メッセージ内の rc の上位 2 バイトは、z/OS IEFSSI REQUEST=ADD マクロからの戻りコードです。メッセージ内の rc の下位 2 バイトは、IEFSSI からの理由コードです。IMS 初期設定は続行されますが、IMS のオンライン・ダンプ・フォーマット設定は使用できません。

DFSAPMX0 IEFSSI ACTIVATE FAILED

IMS は、IMS が SNAP、SYSABEND、および SYSUDUMP のダンプ・フォーマット設定を実行できるようにするために、サブシステムを動的に z/OS に対して活動化することができませんでした。メッセージ内の rc の上位 2 バイトは、z/OS IEFSSI REQUEST=ACTIVATE マクロからの戻りコードです。メッセージ内の rc の下位 2 バイトは、IEFSSI からの理由コードです。IMS 初期設定は続行されますが、IMS のオンライン・ダンプ・フォーマット設定は使用できません。

DFSAPMX0 IEFSSVT CREATE FAILED

IMS は、IMS で SNAP、SYSABEND、および SYSUDUMP のダンプ・フォーマット設定を実行できるようにするために、IMS が追加したサブシステムのサブシステム・ベクトル・テーブル

を作成することができませんでした。メッセージ内の rc の上位 2 バイトは、z/OS IEFSSVT REQUEST=CREATE マクロからの戻りコードです。メッセージ内の rc の下位 2 バイトは、IEFSSVT からの理由コードです。IMS 初期設定は続行されますが、IMS のオンライン・ダンプ・フォーマット設定は使用できません。

DFSAPMX0 IEFSSVT EXCHANGE FAILED

IMS は、DFSAPMX0 サブシステム・ベクトル・テーブル・エントリを、前にインストールされたコピーよりも新しい DFSAPMX0 のコピーを指すように更新することができませんでした。メッセージ内の rc の上位 2 バイトは、z/OS IEFSSVT REQUEST=EXCHANGE マクロからの戻りコードです。メッセージ内の rc の下位 2 バイトは、IEFSSVT からの理由コードです。IMS の初期設定が続行されます。前にインストールされた DFSAPMX0 のコピーが、IMS オンライン・ダンプ・フォーマット設定の出口として使用されます。

システムの処置

オンライン・ダンプ・フォーマッター出口 DFSAPMX0 の初期設定中のエラーの場合、エラーを検出したモジュール DFSRTMIO は、呼び出し元にゼロの戻りコードを返します。IMS は実行を継続しますが、IMS オンライン・ダンプ・フォーマット設定は、IMS のこのインスタンスでは使用できない可能性があります。

その他のすべてのエラーの場合、エラーを検出したモジュール DFSRTMIO は、呼び出し元にゼロ以外の戻りコードを返します。

システム・プログラマーの応答

このメッセージの中で記述されているエラーの原因が環境条件(例えば、ストレージの不足や IMS.SDFSRESL からのモジュールの欠落など)にある場合は、示された問題を訂正してアドレス・スペースを再始動してください。それ以外の場合は、ダンプおよび SYSLOG 情報を保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:
DFSRTMIO

関連資料

[BPESVC コード \(メッセージおよびコード\)](#)

[z/OS: STORAGE OBTAIN の戻りコードおよび理由コード](#)

[z/OS: BLDL の完了コード](#)

[z/OS: LOAD の戻りコードおよび理由コード](#)

[z/OS: ADD 機能からの戻りコード \(RESMGR\)](#)

[z/OS: ESTAEX の戻りコードおよび理由コード](#)

[z/OS: ENQ の戻りコードおよび理由コード](#)

[z/OS: IEFSSI の戻りコードおよび理由コード](#)

[z/OS: IEFSSVT の戻りコードおよび理由コード](#)

DFS549I ESAF SIGNON ACEE ENABLED**説明**

この永続 Java 仮想マシン (JVM) 従属領域の IMS PROCLIB データ・セットの DFSJVMEV メンバーで ESAF_SIGNON_ACEE=YES が指定されました。

出力宛先

システム・コンソール

モジュール:

DFSPCC20, DFSPCJM0, DFSPCJB0

関連資料

DFSJVMEV (JVM 環境設定メンバー) (システム定義)

**DFS550I DFSNDMIO {SUCCEEDED|FAILED}
 REGION=rrrrr JOBNAME=jjjjjj
 STEPNAME=ssssssss
 TRANSACTION=ttttttt
 PSB=pppppppp
 SSYSID=wwwww[FAILURE
 CODE=xxx RETURN CODE=yyy]
 N/A] [DESTINATION=ddddddd
 DSYSID=zzzzz|N/A] timestamp**

説明

トランザクション *ttttttt* の処理中に、PSB *pppppppp* に関連したアプリケーション・プログラムが異常終了しました。廃棄不能メッセージ・ユーザー出口インターフェース (DFSNDMIO) が、トランザクション *ttttttt* に関連した入力メッセージ宛先 *ddddddd* への再キューイングを正常に行ったか、失敗したかいずれかでした。

DFSNDMIO が正常に行った場合は、DESTINATION および DSYSID= 情報が表示されます。FAILURE CODE 情報および RETURN CODE 情報が表示されることはありません。

DFSNDMIO が失敗した場合は、FAILURE CODE および RETURN CODE 情報が表示されます。DESTINATION および DSYSID 情報が表示されるのは、一部の障害コードの場合のみです。DESTINATION および DSYSID 情報が表示される場合は、FAILURE CODE 情報および RETURN CODE 情報の後に続きます。

このメッセージの SUCCEEDED バージョンの後には、常にメッセージ DFS554A が続き、DFS555I も続く場合があります。SUCCEEDED バージョンが出されるのは、廃棄不能メッセージ・ユーザー出口 DFSNDMX0 から戻りコード 16 を受信した後で、DFSNDMIO がトランザクション *ttttttt* に関連した入力メッセージを宛先 *ddddddd* に正常にキューイングした場合のみです。

メッセージ・フィールドの意味は、それぞれ次のとおりです。

rrrrr

領域 ID

jjjjjj

ジョブ名 (ブランクで埋め込み)

ssssssss

ステップ名 (ブランクで埋め込み)

ttttttt

PSB *pppppppp* に関連したアプリケーションが、異常終了したとき処理中であった トランザクション

pppppppp

異常終了したアプリケーション・プログラムに関連した PSB

wwwww

トランザクション *ttttttt* に関連し、処理中の入力メッセージが 発信された元のシステムのシステム ID (ソース・システム ID)

xxx

次のいずれかの障害コードが表示されるのは、メッセージの FAILED バージョンのみです。

001

キュー・マネージャーは、トランザクション *ttttttt* に関連した入力メッセージを 入手できませんでした。

002

NDM SPA バッファ用ストレージの取得 不能 (IMODULE GETSTOR 障害) です。

003

メッセージ・セグメント・バッファ用ストレージの取得 不能 (IMODULE GETSTOR 障害) です。

004

入力メッセージがありません。

005

OTMA FINDDEST が失敗しました。

006

システム探索サービスが失敗しました (DFSSL 障害)。

007

FINDDEST が失敗しました (DFSNDST 障害)。

008

LUM が APPC メッセージ接頭部の構築に失敗しました。

009

キュー・マネージャーがメッセージの挿入に失敗しました。

010

追加の挿入はこの UOW によって許可されていません。

011

廃棄不能メッセージ・ユーザー出口が、再キューイング用に無効な宛先トランザクションを指定しました。

012

メッセージがその永続宛先に再キューイングされませんでした (DFSICLR2 障害)。

013

NDM インターフェース・ブロック用ストレージの取得 不能 (IMODULE GETSTOR 障害) です。

014

USRX インターフェース・ブロック用ストレージの取得 不能 (IMODULE GETSTOR 障害) です。

015

廃棄不能メッセージ・ユーザー出口が開始されませんでした (DFSUSRX 障害)。

016

再キューイング用として指定された宛先がゼロまたはブランクです (廃棄不能メッセージ・ユーザー出口からの戻りコード 16)。

017

メッセージ・レコード・バッファ用ストレージの取得 不能 (IMODULE GETSTOR 障害) です。

018

単一セグメント・メッセージ・バッファ用ストレージの取得 不能 (IMODULE GETSTOR 障害) です。

019

IMS が入力メッセージをトランザクションに再キューイングすることを、廃棄不能メッセージ・ユーザー出口が要求しました。ただし、次のいずれかの条件が存在します。

- 入力メッセージ・セグメントのいずれか 1 つが、宛先トランザクションの許容セグメント長さを 超えている。
- 入力メッセージ・セグメントの総数が、宛先トランザクションの許容セグメント数を 超えている。

yyy

失敗した IMS サービスの戻りコード、また xxx が 004、010、011、016、または 019 の場合は、N/A。このフィールドが表示されるのは、FAILED バージョンのメッセージの場合のみです。

dddddddd

廃棄不能メッセージ・ユーザー出口が入力メッセージの再キューイングを要求した宛先 (戻りコード 16)。このフィールドは、SUCCEEDED バージョンのこのメッセージの場合は必ず表示され、FAILED バージョンのこのメッセージの場合は時々表示されます。

zzzzz

宛先システム ID - トランザクション *ttttttt* に関連し、処理中の入力メッセージが送信された (SUCCEEDED バージョン)、または送信されるはずであった (FAILED バージョン) 先のシステムのシス

テム ID、また xxx = 005、006、または 007 の場合は、N/A。このフィールドは、SUCCEEDED バージョンのこのメッセージの場合は必ず表示され、FAILED バージョンのこのメッセージの場合は時々表示されます。

システムの処置

このメッセージが SUCCEEDED バージョンの場合は、トランザクション *ttttttt* に関連した入力メッセージは宛先 *ddddddd* に再キューイングされてから、トランザクション *ttttttt* から削除されます。このメッセージが FAILED バージョンの場合は、アプリケーション異常終了が 3303、2478、0777、または 2479 の場合を除いて、トランザクション *ttttttt* に関連した入力メッセージはシステムから削除されます。

オペレーターの応答:

このメッセージが SUCCEEDED バージョンの場合は、このメッセージに後に続いて必ず IMS マスター端末に表示されるメッセージ DFS555I および DFS554A を参照してください。該当する担当者にアプリケーション・プログラム異常終了について知らせてください。このメッセージが FAILED バージョンの場合は、障害コード xxx を参照して、DFSNDMIO が失敗した理由を 判別してください。

プログラマーの応答:

アプリケーション・プログラム異常終了の原因を 訂正してください。

問題判別:

1、4、5、6

モジュール:

DFSNDMIO

関連情報

[201 ページの『DFS554A』](#)

jobname.region.stepname. prog PSBname(x) transaction-code

sys-completion-code user-completion-code PSB SMB

LTERM:|LUNAME:|RTKN=token

REASON=reason originating terminal

[204 ページの『DFS555I』](#)

TRAN *ttttttt* ABEND (SYSID sss);

REASON=reason; MSG IN PROCESS: xxxx (UP TO 78 BYTES OF DATA) *time-stamp*

[IMS 異常終了 0777](#)

[IMS 異常終了 2478](#)

[IMS 異常終了 2479](#)

[IMS 異常終了 3303](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 15 章 DFS メッセージ DFS551I - DFS600I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS551I {IFP | MESSAGE | BATCH | JMP | JBP} REGION xxxxxxxx STARTED.
ID=yyyyy TIME=zzzz
CLASSES=xxx,xxx,xxx,xxx

説明

従属処理領域が開始しました。考えられる従属処理領域として次のものがあります。

- バッチ
- 高速機能 (Fast Path)
- JVM バッチ
- JVM メッセージ
- メッセージ
- DMU

DMU (データベース・メタデータ更新) 領域は、最初の DDL ステートメントの実行依頼時に作成され、DDL 処理に関連するすべての DL/I 呼び出しはその、DMU 領域内で処理されます。

xxxxxxx はジョブ名で、yyyyy は PST 番号で、zzzz は開始された時刻 (hhmm) で、それぞれ置き換えられています。

ID フィールドは、領域を識別し、/STOP REGION コマンドで使用されます。

システムの処置

メッセージ、BMP、JMP、または JBP 領域は、指定されたクラスのトランザクションの処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSSMIC0,DFS3MIC0

DFS552I {IFP | MESSAGE | BATCH | JMP | JBP} REGION xxxxxxxx STOPPED.
ID=yyyyy TIME=zzzz

説明

従属処理領域が停止しました。考えられる従属処理領域として次のものがあります。

- バッチ
- 高速機能 (Fast Path)

- JVM バッチ
- JVM メッセージ
- メッセージ
- DMU

DMU (データベース・メタデータ更新) 領域は、最初の DDL ステートメントの実行依頼時に作成され、コミット DDL の処理後に終了します。

xxxxxxx はジョブ名で、yyyyy は PST 番号で、zzzz は停止された時刻 (hhmm) で、それぞれ置き換えられています。

システムの処置

メッセージまたは BMP 領域は終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSSDA10, DFSSDA20, DFS3DL10

DFS553I JOBNAME STEPNAME UNKNOWN
CALL FUNCTION CODE

説明

IMS 制御プログラムが、従属領域でのプログラムのスケジュールを要求を受信しました。要求のタイプは識別できません。

システムの処置

呼び出し機能は無視され、処理は続行されます。

問題判別:

1、5、6、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS554A jobname.region.stepname. prog
PSBname(x) transaction-code
sys-completion-code user-
completion-code PSB SMB
LTERM:|LUNAME:|RTKN=token
REASON=reason originating
terminal

説明

prog PSBname で示された IMS アプリケーションで、それぞれ *sys-completion-code* または *user-completion-code* で示されたシステム異常終了またはユーザー異常終了が発生しました。

このメッセージに関する情報が、示されているとおりに印刷されます。このメッセージは、複数行になることがあります。

プログラム PSB 名は、(x) で示される以下の領域タイプのいずれかと関連付けられています。

- 0 IMS プログラム・コントローラー
- 1 MPP 領域
- 2 BMP 領域
- 3 コーディネーター制御 (CCTL) スレッド
- 4 IFP 領域
- 5 JMP 領域 (JMP region)
- 6 JBP 領域 (JBP region)
- 7 Application Execution Region (AER) 領域。例えば、AER で実行されている ODBM アプリケーション。

DBCTL/CCTL スレッドの場合は、ワード NOPSBAVL がメッセージ・テキストの PSBNAME として表示される可能性があります。この条件は、スレッドの初期確立のために、サインオン・スレッド作成呼び出しが CCTL を使用して DBCTL に対して行われたことを示しています。ただし、PSB をスケジュールするために呼び出しがなされる前に、スレッドは停止されました。PSB をスケジュールするために呼び出しがなされるまでは、PSB の名前は DBCTL には不明です。

(x)

ジョブ名に関連した領域タイプを示します。

- MPP 領域の場合は、x = 1
- BMP 領域の場合は、x = 2
- DBCTL 領域の場合は、x = 3
- IFP 領域の場合は、x = 4
- JMP 領域の場合は、x = 5
- JBP 領域の場合は、x = 6
- AER 領域の場合は、x = 7。

CCTL スレッドが終了した原因は、次のいずれかです。

- CCTL アプリケーションの異常終了または疑似異常終了
- CCTL 異常終了

- スレッドがまだアクティブの間に、CCTL による DBCTL へのその接続の終了要求

SMB は、トランザクションが停止されたことを示し、SMB がないときは、トランザクションは停止されなかったことを示します。PSB は、プログラムが停止されたことを示し、PSB がないときは、プログラムは停止されなかったことを示します。LTERM または LUNAME は端末の名前です。LUNAME 情報が遷移中でない場合、LTERM の代わりに LUNAME が表示されるのは、発信元端末が LU6.2 または OTMA のときです。LUNAME 情報が遷移中の場合は、UNKNOWN が表示されます。

DBCTL/CCTL スレッドの場合は、このメッセージでリカバリー・トークンが表示されます。このトークンの最初の 8 バイトは EBCDIC で、文字として表示され、2 番目の 8 バイトは 16 進形式で表示されます。ただし、DBCTL が PSB のスケジューリング中に障害を検出した (例えば、異常終了 0428、0437、0456、0457、および 0458) 場合は、リカバリー・トークンはゼロばかりで表示されます。これは、未スケジュール PSB のリカバリーは必要ないことを示しています。

DBCTL を例外として、ユーザー完了コードが U428 の場合は、PSB 名はブランクになります。PSB が検出されなかったからです。

ユーザー完了コードが 0448、0452、0456、または 0458 の場合は、トランザクション・コード、および停止された SMB 名はブランクになります。

ユーザー完了コードが 0464 の場合は、SYS はシステム完了コードを表すのではなく、応答 SVC からのエラー戻りコードを表しています。これらの戻りコードは、次のとおりです。

コード 説明

- 001 シミュレートされた領域終了または応答再帰
- 002 従属領域 TCB のアドレスが無効です。
- 003 従属タスクが終了します (TCBFLGS1 が設定されている)。
- 004 従属タスクが終了します (TCBFLGS5 が設定されている)。
- 005 従属タスクに RCPARMS がありません。
- 006 PSTID が RCID と一致しません。
- 009 従属領域が z/OS によって取り消されたと思われる。

REASON=*reason* は、異常終了理由コードがある場合にのみ表示されます。メッセージは、スレッド作成処理中に出されるか、従属領域環境コントローラー・モジュール

ル(例えば、DFSECP10)によって出されます。*reason* は、次の形式です。

異常終了 0711 の場合

REASON=xxxxyyyy。ここで、xxxx は、z/OS リカバリー・リソース管理サービス (RRMS) または z/OS UNIX システム・サービスからの戻りコードで、yyyy は異常終了 0711 理由コードです。

異常終了 0129 の場合

REASON=xxxxyyyy。ここで、xxxx は SAF 戻りコードで、yyyy は RACF または同等の戻りコードです。

異常終了 0128 の場合

REASON=xxxxxxxx。ここで、xxxxxxxx は、APPC 関連付けサービス (ATBASOC) からの戻りコードです。

異常終了 0109 の場合

REASON=xxxxxxxx。ここで xxxxxxxx は、APPC/OTMA 同期共有キューからの戻りコードです。

異常終了 0425 の場合

DFS554A メッセージの **REASON=xxxxxxxx** は、ランタイム・プログラム・リソースまたはランタイム・データベース・リソースを作成できなかった理由を示す理由コードまたは完了コードを識別します。理由コードまたは完了コードの説明については、DFSCMDRR を参照してください。

異常終了 0426 の場合

DFS554A メッセージの **REASON=xxxxxxxx** は、ランタイム・プログラム・リソースまたはランタイム・データベース・リソースを作成できなかった理由を示す理由コードまたは完了コードを識別します。理由コードまたは完了コードの説明については、DFSCMDRR を参照してください。

システムの処置

このメッセージはメッセージ DFS555I の後に続く場合があります。アプリケーション・プログラムが異常終了する原因となったトランザクション入力メッセージが使用可能な場合は、入力メッセージの最初の 79 バイトがメッセージ DFS555I によって印刷されます。トランザクションが『使用可能』と見なされるのは、アプリケーションによるプロセス中の入力メッセージがメッセージ・キューにある場合です。例外は以下のとおりです。

- アプリケーションが GU 呼び出しを実行していない場合。したがって、このメッセージが異常終了の原因になることはありません。
- スケジュール変更が可能な異常終了(例えば、PI ロックアウト)が発生した場合。ただし、廃棄不能メッセージ・ユーザー出口が IMS に入力メッセージの廃棄を指示した場合を除きます。
- このメッセージより先にメッセージ DFS550I の SUCCEEDED バージョンが出ている場合。

上記の例外の場合は、メッセージを再度実行できます。

アプリケーション・キューから最後のメッセージが除去された後で、アプリケーション・プログラムが異常終了した場合は、トランザクションは使用不能で、メッセージ DFS554A のみが印刷されます。

新しいメッセージ領域の初期設定中に前の領域が取り消されたことを IMS 制御領域が判別できる場合は、このメッセージのジョブ名フィールドとステップ名フィールドに「REGION CANCELED」というワードが入ります。*region* は、新規従属領域の ID です。

永続 JVM 従属領域内でシステム異常終了 806 が発生した場合、メッセージ DFS480E の後にこのメッセージが発行される場合があります。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 該当する担当者にアプリケーション・プログラム異常終了について知らせてください。異常終了 0448、0452、0456、0458 を参照してください。IMS マスター端末でこのメッセージより先に表示されている可能性のあるメッセージ DFS550I を参照してください。

プログラマーの応答

アプリケーション・プログラム異常終了の原因を訂正してください。

問題判別:

4、5、6、8、10、18、19

モジュール:

DFSFXC30、DFSDSC00

関連情報

199 ページの『DFS550I』

```
DFSNDMIO {SUCCEEDED|FAILED} REGION=rrrrr
JOBNAME=jjjjjjj STEPNAM=sssssss
TRANSACTION=ttttttt PSB=ppppppppp
SSYSID=wwwww[FAILURE CODE=xxx RETURN
CODE=yyy|N/A] [DESTINATION=ddddddd
DSYSID=zzzzz|N/A] timestamp
```

[IMS 異常終了 0109](#)

[IMS 異常終了 0128](#)

[IMS 異常終了 0129](#)

[IMS 異常終了 0448](#)

[IMS 異常終了 0452](#)

[IMS 異常終了 0456](#)

[IMS 異常終了 0458](#)

[IMS 異常終了 0711](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS555A

SUBSYSTEM xxxx OASN
yyyyyyyyyyyyyyyyy STATUS
COMMIT|ABORT

説明

このメッセージ DFS555I への追加は、IMS 同期点ポイント処理モジュールによって生成されます。このメッセージの目的は、オペレーターに十分な情報を提供して、外部サブシステム・リソースを適切に管理できるようにすることにあります。xxxx はサブシステム名を表し、y 値はスレッドのリカバリー ID の一部である発信アプリケーション・シーケンス番号 (OASN) を表します。

システムの処置

IMS は、コミット・コーディネーターとして機能し、メッセージに示されているとおりに、スレッドの管理を試みます。条件によって IMS がこれを実行できない場合は、システム・プログラマーが該当する外部サブシステム・コマンドを使用して行うことができます。システム・プログラマーが該当するコマンドを実行したら IMS に通知しなければなりません。

オペレーターの応答

システム・プログラマーにメッセージで表示されているこのセグメントについて通知してください。

システム・プログラマーの応答

IMS と外部サブシステムの間スレッド状況の不整合が訂正される必要があります。/CHANGE コマンドを使用すると、IMS 状況を訂正できます。外部サブシステムは、スレッドのうちその半分に関して、同じような機能を用意する必要があります。

モジュール:

DFSFXC30、DFSFXC40

関連情報

199 ページの『DFS550I』

```
DFSNDMIO {SUCCEEDED|FAILED} REGION=rrrrr
JOBNAME=jjjjjjj STEPNAME=sssssss
TRANSACTION=ttttttt PSB=ppppppppp
SSYSID=wwwww[FAILURE CODE=xxx RETURN
CODE=yyy|N/A] [DESTINATION=ddddddd
DSYSID=zzzzz|N/A] timestamp
```

DFS555I **TRAN ttttttt ABEND (SYSID sss);**
REASON=reason; MSG IN
PROCESS: xxxx (UP TO 78 BYTES
OF DATA) time-stamp

説明

トランザクション ttttttt (マルチシステム環境のシステム sss 内) の処理中に、アプリケーション・プログラム異常終了が起きました。変数 xxxx は、処理される入力トランザクションの最大 78 文字で置き換えられます。入力トランザクション・データの後にタイム・スタンプが続きます。

入力トランザクションが欠落している場合は、次のメッセージが表示されます: QMGR RC NE 0, MSG. NOT AVAIL.

REASON=reason は、異常終了理由コードがある場合にのみ表示されます。メッセージは、スレッド作成処理中に出されるか、従属領域環境コントローラー・モジュール (例えば、DFSECP10) によって出されます。reason は、次の形式です。

異常終了 0109 の場合

REASON=xxxxxxx。ここで xxxxxxxx は、APPC/OTMA 同期共用キューからの戻りコードです。

異常終了 0119 の場合

REASON=00000008 は、タイムアウトの問題があることを示しています。

REASON=00000012、APPC 装置または OTMA クライアントは、同期点処理を打ち切るように IMS に明示的に指示しました。

異常終了 0128 の場合

REASON=xxxxxxx。ここで、xxxxxxx は、APPC 関連付けサービス (ATBASOC) の戻りコードです。

異常終了 0129 の場合

REASON=xxxxyyyy。ここで、xxxx は SAF 戻りコードで、yyyy は RACF または同等の戻りコードです。

異常終了 0711 の場合

REASON=xxxxyyyy。ここで、xxxx は障害を起こした RRMS サービスの戻りコードで、yyyy は異常終了 0711 の理由コードです。

システムの処置

このメッセージで識別されている入力トランザクションは、システムから削除されますが、このメッセージより先にメッセージ DFS550I の SUCCEEDED バージョンが出ている場合は、その限りではありません。

オペレーターの応答

(端末オペレーター) この複数セグメント・メッセージがメッセージ形式サービスを使用して、SYSMSG フィールドを指定して定様式画面を送信する場合は、一度に送信されるセグメントは 1 つだけです。残りのセグメントを検索する場合は、PA1 を押してください。

(マスター端末) IMS マスター端末で必ずこのエラー・メッセージの後に続いて表示されるメッセージ DFS554A を参照してください。IMS マスター端末でこのメッセージより先に表示されている可能性のあるメッセージ DFS550I を参照してください。

プログラマーの応答

アプリケーション・プログラム異常終了の原因を訂正してください。

問題判別:

4、5、6、8、10、18、19

モジュール:
DFSFXC40

関連情報

[IMS 異常終了 0109](#)

[IMS 異常終了 0119](#)

[IMS 異常終了 0128](#)

[IMS 異常終了 0129](#)

[IMS 異常終了 0711](#)

[199 ページの『DFS550I』](#)

```
DFSNDMIO {SUCCEEDED|FAILED} REGION=rrrrr  
JOBNAME=jjjjjj STEPNAME=sssssss  
TRANSACTION=ttttttt PSB=pppppppp  
SSYSID=wwwww[FAILURE CODE=xxx RETURN  
CODE=yyy|N/A] [DESTINATION=ddddddd  
DSYSID=zzzzz|N/A] timestamp
```

[201 ページの『DFS554A』](#)

```
jobname.region.stepname. prog PSBname(x)  
transaction-code  
sys-completion-code user-completion-code PSB  
SMB  
LTERM:|LUNAME:|RTKN=token  
REASON=reason originating terminal
```

[203 ページの『DFS555A』](#)

```
SUBSYSTEM xxxx OASN yyyyyyyyyyyyyyy  
STATUS COMMIT|ABORT
```

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0556I COMMAND REJECTED; DBCTL
 THREAD IS ACTIVE**

説明

/STOP REGION または **/STOP THREAD** コマンドを入力しましたが、データベース制御 (DBCTL) サブシステム・スレッドがアクティブでした。(例えば、DBCTL スレッドは PSB がスケジュールされています。)

システムの処置

コマンドは無視され、スレッドは処理を続行します。

プログラマーの応答

指定した領域 ID が正しかったかどうか判別するか、またはコマンドの ABDUMP 形式を使用してください。

問題判別:

5

モジュール:

DFSDSTP0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0557I STOP REGION NOT VALID-REGION
 nn IS BMP.**

説明

/STOP REGION コマンドが入力されましたが、従属領域では BMP が処理中です。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。IMS および、*nn*
で識別されている 従属領域は実行を継続します。

プログラマーの応答

正しい領域 ID が使用されていたかどうか判別するか、
または **/STOP REGION** コマンドの ABDUMP 形式を使用してください。

問題判別:

5

モジュール:

DFSSTOPO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0558I TRAN xxxxxxxx NOT SCHEDULED

説明

/STOP REGION ABDUMP または **/PSTOP REGION x
TRAN y** コマンドが入力されましたが、トランザクシ
ョン xxxxxxxx は、指定されている 領域ではスケジュー
ルされていません。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。IMS および、*nn*
で識別されている 従属領域は実行を継続します。

プログラマーの応答

正しい領域 ID が使用されていたかどうか判別するか、
または未スケジュール領域用の **/STOP REGION** コマ
ンドを使用してください。

問題判別:

5

モジュール:

DFSSTOPO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0559I ABEND ALREADY SCHEDULED FOR REGION nn, TRAN xxxxxxxx

説明

/STOP REGION コマンドで指定された領域またはアプリケーションが異常終了の過程にあります。

プログラマーの応答

従属領域が終了しない場合は、最後の手段として、ユーザーが従属領域を取り消す可能性があります。この処置は、IMS システム全体の異常終了の原因となる恐れがあります。

モジュール:
DFSSTOP0

DFS560I PROC OPTION L OR LS SPECIFIED FOR PSB psbname

説明

指定された PSB 内の 1 つ以上の PCB で、L または LS が処理オプションとして指定されています。これが有効なのは、バッチ領域のみです。

システムの処置

この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

エラーの PSB を訂正し、アプリケーション制御ブロック 保守ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFSDBLM0、DFSXRBL0

DFS561A ERROR READING ACBLIB, {PSB=psbname|DMB=dmbname}

説明

指定された PSB またはデータ管理ブロックをアプリケーション制御ブロック・ライブラリーから読み取っている最中に、入出力エラーが発生しました。PSB またはデータ管理ブロックは停止されています。影響を受けたブロックを読み取る試みは続けられず、そのブロックを使用するプログラムはスケジュールされません。データ・セットが 2 次エクステンツに拡張される原因となる、ACBLIB の連結に動的 PSB が追加される場合、その PSB は、ACBLIB がクローズされた後で IMS によって再オープンされるまで、オンライン・システムで使用できません。

オンライン変更プロシージャがこのメッセージを出す場合があります。ACBLIB データ・セットに対する読み取りエラーの場合、オンライン変更プロセスは終了します。

システムの処置

従属領域は異常終了します。

オンライン変更プロシージャ中にこのメッセージを受け取った場合、オンライン変更は終了します。

プログラマーの応答

影響を受けたブロックを再び使用できるようにするには、ACBLIB オンライン変更 (**/MODIFY PREPARE ACBLIB** および **/MODIFY COMMIT**) を行うかシステムをシャットダウンし、エラー状態を訂正してシステムを再始動します。

TERM OLC または **/MODIFY ABORT** コマンドを発行することによって、オンライン変更プロシージャを完了する必要があります。

問題判別

始動時にメッセージ DFS825I が出される場合は、DRD が使用可能である場合に、アクティブな ACBLIB 内に少なくとも 1 つの DBD が作成されていることを確認してください。

モジュール:
DFSDBLR0、DFSXRBL0、DBFOLC01

DFS561E GETMAIN FAILED FOR QSAVE AREA, ACB LOAD/READ TERMINATED

説明

ACBLIB ロードまたは読み取り処理中に、16 MB 境界の下の QSAVE 領域で GETMAIN 障害が発生しました。

システムの処置

ACBLIB ロード/読み取りは終了します。

プログラマーの応答

CSA の使用率が高いアプリケーション・プログラムを調べて、可能であればそれを取り消してください。

モジュール:
DFSDBLR0

DFS562I INVALID CORE SIZE REQUIRED FOR {PSB psbname|DMB dmbname}

説明

名前が示されているブロックは、PSB またはデータ管理プール内で使用可能なスペースよりも大きいスペースを必要としていました。この状態は、影響を受けたプールでは大きさが不十分で、最大のブロックに対応できないことを示しています。

システムの処置

この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答

プール・サイズをもっと大きく指定して、システムを再始動してください。

モジュール:
DFSDBLD0

DFS563I **PSB *psbname* REQUIRES
UNKNOWN DMB *dmbname*, PSB
STOPPED**

説明

システムは、データ管理ブロック (DMB) *dmbname* を見つけることができませんでした。

- 指定された PSB が参照しているデータ管理ブロックは、システム定義時に指定されていませんでした。IFP DEDB オンライン・ユーティリティー・プログラムを実行中の場合は、PARM フィールドの 2 番目の定位置オペランドで指定されているデータ管理ブロック名が、DEDB として定義されていませんでした。

DEDB オンライン・ユーティリティーが開始されている場合は、EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 2 番目の定位置オペランドで指定された、指定されたデータ管理ブロックが、DBDGEN で DEDB として定義されていません。

- 指定された PSB は常駐 PSB であり、IMS はこの PSB をスケジュールしようとしています。この PSB が参照しているデータ管理ブロック番号は、データベースのデータ管理ブロック番号と一致していません。IMS 初期設定時にロードされた常駐 PSB のコピーは、もう使用できません。

プログラマーの応答

PSB とシステム定義のどちらかを訂正してください。DEDB オンライン・ユーティリティーの場合は、以下のいずれかの処置を行ってください。

- EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 2 番目の定位置オペランドのデータベース名を訂正し、ジョブを再実行依頼する。
- 指定されたデータベース名を DEDB として再定義し、IMS 制御領域を次回始動したときに ACBGEN を再実行し、ジョブを再実行依頼する。

常駐 PSB は、IMS を再始動することによってのみ再ロードできます。

モジュール:
DFSDBLIO、DFSXRBL0、DFSDBLMO

DFS564I **DMB *dmbname1* REFERENCES
UNKNOWN DMB *dmbname2*, DMB
STOPPED**

説明

最初のデータ管理ブロックに 2 番目のデータ管理ブロックへの参照が含まれています。2 番目のデータ管理ブロックは、システム定義時に指定されていませんでした。

システムの処置

BMP 領域は異常終了 0458 により終了します。バッチ DBB 領域が異常終了 0821 で終了します。メッセージが IMS 初期設定中に 出された場合は、実行は継続されますが、最初のデータ管理ブロックに使用不能のマークが付きます。

プログラマーの応答

データ管理ブロックまたはシステム定義を訂正してください。

モジュール:
DFSDBLD0、DFSXRBL0

関連情報

[IMS 異常終了 0458](#)

[IMS 異常終了 0821](#)

DFS0565I **cccc COMMAND NOT PROCESSED
DB=xxxxxxx IN USE BY
PSB=*psbname*, REG=*region-
number***

説明

指定された DL/I データベース xxxxxxxx が、 /**DBDUMP**、/**DBRECOVERY**、または /**START** コマンドに対する応答として処理できません。アクティブ・バッチ・メッセージ処理プログラムによってまだ使用中です。

region-number は、プログラムがデータベース xxxxxxxx を使用している領域の番号です。

このメッセージで示されている MPP 領域が発生したために、オンライン変更と、MPP によって使用されているデータベースに対する **DBR** または **STA** コマンド、および **ICMD** または **CMD** 呼び出しを発行する MPP で実行中のアプリケーションとの間の、潜在的なデッドロック状態が中断されることがあります。

システムの処置

コマンドは、メッセージに指定されたデータベースに関して処理されませんが、コマンドで指定されているデータベースが他にあれば、それに関しては処理が続行されます。

NOFEOV キーワードが /DBR または /DBD で指定されていない場合は、新しいログ・ボリュームがマウントされます。

/DBD または /DBR が入力される場合は、単純チェックポイントが取られます。

オペレーターの応答

プログラムが終了するのを待ち、/DBDUMP、/DBRECOVERY、または /START コマンドを再発行してください。

問題判別:

4、6

モジュール:

DFSDBDRO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0566I PSTOP OR STOP NOT VALID FOR
 TRAN xxxxxxxxxx**

説明

/PSTOP REGION TRAN または /STOP REGION TRAN コマンドが、WFI (入力待ち) タイプでも高速機能専用タイプでもないトランザクションに対して入力されました。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

モジュール:

DFSSTOPO

**DFS0567I PSB POOL TOO SMALL-PSB
 nnnnnnnn STOPPED.**

説明

初期設定中に、十分なスペースが使用可能にならなかったため、示されている PSB の意図リストをロードできませんでした。

システムの処置

PSB に使用不能のマークが付けられ、これを使用するトランザクションはスケジュールされません。正常な実行が継続されます。

プログラマーの応答

次回の IMS 実行時には、PSB プールのサイズを大きくしてください。

モジュール:

DFSXRBL0

**DFS0568I CANCEL INVALID FOR REGION xx;
 NO PRIOR STOP REGION ABDUMP
 COMMAND**

説明

/STOP REGION CANCEL コマンドが領域 xx に関して入力されました。しかし、このコマンドは、その前に /STOP REGION ABDUMP コマンドが出されていないければ無効です。

オペレーターの応答:

この領域に関して /STOP REGION ABDUMP コマンドを発行してください。/STOP REGION ABDUMP コマンドでは問題が訂正されない場合は、/STOP REGION CANCEL コマンドを発行してください。

モジュール:

DFSSTOPO

**DFS0569I PSTOP OR STOP COMPLETE FOR
 REGION nnnnttttxxxxxxxx**

説明

/PSTOP または /STOP コマンドが、示されている領域およびトランザクションに関して正常に完了しました。QC 状況コードが、領域で処理中の入力待ち (WFI) アプリケーション・プログラムに戻されます。待ちオプションを指定して GMSG 呼び出しを実行した AO アプリケーションが、AOI トークン上のメッセージを待っている可能性があります。AOI トークン待ちのアプリケーションが戻りコード X'00000004' および AIB 理由コード X'0000004C' を受信します。アプリケーションが同期コールアウト ICAL 呼び出しを発行した場合、ICAL 呼び出しからの応答を待っている可能性があります。同期コールアウト応答待ちのアプリケーションが AIB 戻りコード X'00000100' および AIB 理由コード X'00000104' を受信します。

nnnn

コマンドで入力された領域番号。

tttt

AOIT、TRAN、または SYNC。AOIT は、後に続く名前が AOI トークン名であることを意味します。TRAN は、後に続く名前がトランザクション名であることを意味します。SYNC は、後に続く名前が TPIPE 名であることを意味します。

xxxxxxxx

コマンドで入力された AOI トークン名、トランザクション名、または TPIPE 名。

システムの処置

tttt が AOIT である場合は、領域は AOI トークンを待たなくなります。tttt が SYNC である場合は、領域は同期コールアウト応答を待たなくなります。それ以外の場合は、示されている領域はまだスケジュールで使用可能です。

入力待ち (WFI) トランザクションに対してスケジュールされた バッチ・メッセージ処理領域 (BMP) が QC 状況コード (追加のメッセージなし) を戻すのは、/PSTOP REGION、/DBD、/DBR、または /START コマンドの場合のみです。

モジュール:
DFSSTOPO

DFS0570I **INVALID SECONDARY LIST TYPE
WAS FOUND IN DBD dbdname**

説明

内部システム・エラーが発生しました。SYSUDUMP または SYSABEND DD ステートメントが指定されていた場合は、メモリー・ダンプが取られています。

システムの処置

異常終了 0947 が実行されます。

プログラマーの応答

指定された DBD を参照するすべての PSB を制御ステートメント・リストから除去し、プログラムを再実行してください。

モジュール:
DFSUAMBO

関連情報

[IMS 異常終了 0947](#)

DFS0571E **I/O ERROR ATTEMPTING TO STOW
IN ACBLIB DIRECTORY**

説明

モジュール DFSUAMBO 内の OS STOW マクロの実行中に、入出力エラーが発生しました。

プログラマーの応答

入出力エラーに至った条件を訂正し、プログラムを再実行してください。ACBLIB エラーからのリカバリーの詳細については、「IMS V15 オペレーションおよびオートメーション」の IMS 障害からのリカバリーの説明を参照してください。

モジュール:
DFSUAMBO

DFS0572A **THE ACBLIB DIRECTORY IS FULL.
INCREASE DIRECTORY SIZE AND
RERUN.**

説明

IMS.ACBLIB 区分データ・セットで割り振られたディレクトリー・スペースが不十分です。

プログラマーの応答

DELETE 機能を使用して、ACBLIB から未使用の PSB および DBD を削除するか、ディレクトリー割り振りを増やした新しいデータ・セットに現行 ACBLIB の内容をコピーするか、いずれかを行ってください。

モジュール:
DFSUAMBO

DFS0573E **I/O ERROR DURING BLDL ON
ACBLIB DIRECTORY**

説明

モジュール DFSUAMBO 内の OS BLDL (ビルド・ライブラリー・ディレクトリー・リスト) マクロの実行中に、入出力エラーが発生しました。

プログラマーの応答

入出力エラーに至った条件を訂正し、プログラムを再実行してください。ACBLIB エラーからのリカバリーの詳細については、「IMS V15 オペレーションおよびオートメーション」の IMS 障害からのリカバリーの説明を参照してください。

モジュール:
DFSUAMBO

関連資料

[z/OS: BLDL の完了コード](#)

DFS574 **UNEXPECTED DATA RECEIVED-
INPUT IGNORED**

説明

MFS が 3270 装置からフィールドを受信しましたが、装置入力記述子で定義されていないものでした。IMS システム定義時に行われた装置の画面サイズの定義に誤りがあったか、ハードウェア誤動作が生じたことが考えられるか、いずれかです。

システムの処置

入力は取り消されます。

オペレーターの応答:

入力を再試行してください。引き続きエラーが発生する場合は、IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

プログラマーの応答

この装置に関する IMS システム 定義で 使用された TYPE または TERMINAL マクロの SIZE キーワードの行 および列の指定が正しいかチェックして確認してください。この指定が正しく行われている場合は、/TRACE コマンドを使用して、IMS が受信した端末入力データの印刷出力を入手してください。DIF の印刷出力を入手し、バッファ・アドレスを比較して、ハードウェア・エラー が起こったかどうか判別してください。

問題判別:

3、5、16、17、23、36

モジュール:

DFSCFE00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS575 SPA ERROR-CONVERSATION
TERMINATED**

説明

IMS が、無効なプログラム間通信を検出しました。アプリケーション・プログラムが試みていたのは、次のいずれかのアクションであったため、無効です。

- LTERM 名への切り替え
- 高速機能専用トランザクションへの切り替え
- 未定義トランザクションへの切り替え

システムの処置

IMS はトランザクションを停止します。

オペレーターの応答

マスター端末オペレーターに知らせてください。

プログラマーの応答

アプリケーション・プログラムを変更して、記述されている不整合が生じないようにしてください。

モジュール:

DFSCMS00

**DFS576I EXIT COMPLETED, TRANSACTION
DISCARDED**

説明

/EXIT 処理によって、トランザクションがこのシステムで 使用可能なことが分かり、廃棄できました。

システムの処置

会話は終了します。

モジュール:

DFSICLHO

**DFS577I EXIT COMPLETED, TRANSACTION
STILL ACTIVE**

説明

/EXIT コマンド処理によって、トランザクションがリモート・システムにあるか、すでに処理のためにスケジュールされていることが判明しました。コマンド処理が完了し、会話は終了しますが、会話型トランザクションは引き続き実行されます。会話型応答が受信されると、会話型異常終了出口 (DFSCONE0) が呼び出され、応答メッセージが応答端末へのキューに入れられます。

システムの処置

会話は終了します。

モジュール:

DFSICLHO

**DFS0578I READ SUCCESSFUL FOR DDNAME
xxxxxxxxx MEMBER yyyyyyyyy**

説明

DDNAME xxxxxxxx データ・セットからメンバー yyyyyyyyy が正常に読み取られました。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

モジュール:

DFSXRPS0、DFSIILD0、DFSDFN10、DFSDFN20

**DFS0579W FIND FAILED FOR DDNAME
xxxxxxxxx MEMBER=yyyyyyyyy
RC=zz**

説明

DDNAME xxxxxxxx データ・セットのメンバー yyyyyyyyy に関して、FIND が失敗しました。この問題のために、IMS が初期設定に必要な情報を獲得できなくなる可能性があります。記述子メンバーが使用不能の場合は、MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーに関して、このメッセージが受信されます。

16 進戻りコード zz は、次の値を取ります。

コード (16 進数)

説明

04

名前が検出されない

システムの処置

そのメンバーが IMS に必要な場合、IMS は異常終了 0015 で終了する可能性があります。IMS が異常終了 1012 で終了するのは、メンバーが DBFMSDBn の場合です。MFS DCT ユーティリティーは終了し、戻りコード 4 が示されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS が異常終了しない場合は、メンバー yyyyyyyy がご使用のシステムで必要かどうか判断してください。MFS DCT ユーティリティーの場合は、DDNAME xxxxxxxx は必須です。

プログラマーの応答

必須メンバーの場合は、正しい接尾部が指定され、メンバー yyyyyyyy が有効であるか確認してください。RC=08 の場合は、エラーを伴わずにアクセスできるデータ・セットにメンバーを入れてください。

問題判別:

1、3、6、8

モジュール:

DFSXRPS0、DFSILD0、DFSPMBR0、DFSUTB00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0580E **UNABLE TO OPEN DCB-
DDNAME=ddname**

説明

メッセージで *ddname* によって示されるデータ制御ブロック (DCB) をオープンできませんでした。

システムの処置

ACBGEN ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答

JCL をチェックし、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSUACB0

DFS0581E **I/O ERROR ON *unit address, device
type, ddname, operation, error
type, bbcchhr, access method***

説明

メッセージ・テキストで示されている装置で永続入出力エラーが発生しました。

システムの処置

ACBGEN ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答

エラー条件を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSUACB0

DFS0582E **PERMANENT I/O ERROR DURING
BLDL ON REQUESTED DBDS IN
ACBLIB**

説明

ACBLIB のディレクトリーの検索を試みている最中に、BPAM が永続入出力エラーを検出しました。BPAM は、**BUILD** または **DELETE** 制御ステートメントで要求された 1 つ以上のデータベース記述 (DBD) のエントリーを検出しようと試みていました。

システムの処置

ACBGEN ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答

PSB=ALL オプションを指定して ACBLIB を再作成するか、使用可能なら、バックアップ・コピーを使用して、ACBLIB を復元してください。ACBLIB エラーからのリカバリーの詳細については、「IMS V15 オペレーションおよびオートメーション」の IMS 障害からのリカバリーの説明を参照してください。

モジュール:

DFSUACB0

関連概念

[その他のシステム・データ・セット障害 \(オペレーションおよびオートメーション\)](#)

関連資料

[z/OS: BLDL の完了コード](#)

DFS0583E **PERMANENT I/O ERROR WHILE
TRYING TO DELETE DBD|
PSB=*name* FROM ACBLIB USING
STOW WITH DELETE OPTION.**

説明

プログラム仕様ブロック (PSB) またはデータベース記述 (DBD) が、特定の **DELETE** 要求の結果とし、または

要求されたブロックが作成できなかったため、ACBLIB から削除されることになりました。この削除中に、永続エラーが発生しました。

システムの処置

ACBGEN ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

PSB=ALL オプションを指定して ACBLIB を再作成するか、バックアップ・コピーが使用可能なら、ACBLIB を復元してください。ACBLIB エラーからのリカバリーの詳細については、「その他のシステム・データ・セット障害 (オペレーションおよびオートメーション)」の IMS 障害からのリカバリーの説明を参照してください。

モジュール:
DFSUACB0

**DFS0584E ERROR DURING PRE|POST-
 COMPRESS**

説明

IEBCOPY ユーティリティが、ACBLIB の圧縮を試みた後で、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。

システムの処置

ACBGEN ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

IEBCOPY エラー・メッセージで示されているようなエラー条件を訂正してください。

モジュール:
DFSUACB0

**DFS0585E UTILITY TERMINATED DUE TO
 ERROR**

説明

すべての機能が完了しないうちに、以前のメッセージで示されていたエラーが原因で、プログラムが終了しました。戻りコードは 16 です。

システムの処置

ACBGEN ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:
DFSUACB0

**DFS0586I {PSB *psbname*|DBD *dbdname*}
 REQUESTED IN A {BUILD|DELETE
 OPERATION} {NOT FOUND IN
 ACBLIB|IS A PSB}-REQUEST
 IGNORED.**

説明

ビルド・エラーは、示されている PSB または DBD に関連があり、その PSB または DBD はビルドまたは削除操作で要求されたものでした。

- メッセージが NOT FOUND IN ACBLIB である場合は、PSB または DBD が ACBLIB データ・セット内に存在しません。
- メッセージが IS A PSB である場合は、このメンバーのディレクトリー・エントリーは PSB です。

ACB 保守ユーティリティ SYSIN 入力制御ステートメントには、先入れ先出し (FIFO) はありません。BUILD PSB= パラメーターと BUILD DBD= パラメーターが同一のアプリケーション制御ブロック (ACB) 生成ジョブの SYSIN 制御ステートメントで指定されている場合、DBD= オペランドは、ブロック・ビルダー・ユーティリティ・プログラムに渡されます。メッセージ DFS0586I は、SYSIN 制御ステートメントのどこに DBD= オペランドが指定されているかにかかわらず、まだ DBD が ACBLIB データ・セットにない場合に発行されます。

システムの処置

この要求は無視されます。処理は続行されますが、戻りコードは 8 です。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:
DFSUACB0

**DFS0587I ERROR BUILDING PSB=*psbname*-
 IT WILL BE DELETED FROM
 ACBLIB**

説明

ブロック・ビルダーが、示されている PSB の処理後に、ゼロ以外の完了コードを戻しました。PSB は ACBLIB から削除され、処理が続行されて、戻りコードが 8 に設定されます。このメッセージよりも先にメッセージ DFS0921I が出ている場合は、示されている PSB が DBD であるため、ACBLIB から削除されるメンバーはありません。

プログラマーの応答

エラー・メッセージで示されているメンバーがあれば、すべて訂正し、この PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSUACB0

関連情報

[342 ページの『DFS0921I』](#)

PSB *psbname* IS NOT A PSB

**DFS0588I CONTROL CARD SYNTAX ERROR-
{INVALID LABEL|OP CODE|BLK
TYPE|OPERAND|OPTION|
FORMAT| CONTINUATION}
<'symbol'>**

説明

詳しくは、メッセージ DFS0588I を参照してください。

関連情報

[213 ページの『DFS0588I』](#)

CONTROL CARD SYNTAX ERROR- {INVALID LABEL|OP CODE|BLK TYPE|OPERAND|OPTION|FORMAT| CONTINUATION} <'symbol'>

**DFS0588I CONTROL CARD SYNTAX ERROR-
{INVALID LABEL|OP CODE|BLK
TYPE|OPERAND|OPTION|
FORMAT| CONTINUATION}
<'symbol'>**

説明

制御ステートメント構文エラーが検出されました。残りのステートメントはスキャンされますが、処理は試行されません。引用符に囲まれているシンボルが、エラーを引き起こしたシンボルまたは区切り文字です。FORMAT が示されているのは、ステートメントが完了する前に、ステートメントの論理終了に達した場合です。CONTINUATION が示されているのは、無効の継続が検出された場合です。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSUACB0

**DFS0589I PROCESSING COMPLETED FOR
PSB *psbname*. PCB=*xxxxxx*,
PSB=*xxxxxx*, WORKAREA=*xxxxxx*,
TOTAL SIZE=*xxxxxx***

説明

示されている PSB に関するブロックが正常に作成され、ACBLIB に書き込まれました。領域間コピー用の必須バッファ・サイズが示されています。[IMS プロシージャのパラメーターの説明 \(システム定義\)](#)で、IMSBATCH プロシージャの DIRCA パラメーターに関する説明を参照してください。PCB は、MSG または BMP 領域で必要な作業域サイズです。PSB は、PSB プールで必要な固定 PSB ブロックのサイズです。WORKAREA は、PSB で必要なさまざまな作業域のサイズであり、PSB 作業プール (PSBW プール) から取得します。さまざまな作業域のそれぞれのサイズについては、メッセージ DFS0593I を参照してください。WORKAREA は ACBGEN 時のサイズを示します。これは作業域の最小サイズです。スケジューリング時に、このサイズは増やせます。サイズが長メッセージ・キュー・バッファに変更される場合は、大幅な増加が行えます。TOTAL SIZE は、ACBGEN 時の所要 PSB プール・サイズと PSB 作業プール・サイズを結合したサイズです。EPCB 用として使用される FP 作業域は、上記の WORKAREA には含まれていません。

モジュール:

DFSUACB0

関連情報

[214 ページの『DFS0593I』](#)

PSB-*psbname* WORKAREA BREAKOUT.
NDX=*xxxx*, XIO=*xxxx*, IOA=*xxxxxx*, SEG=*xxxxxx*,
SSA=*xxxxxx*

**DFS0590I END OF ACBLIB MAINTENANCE.
HIGHEST CONDITION CODE WAS
*code***

説明

ACB 保守ユーティリティは、要求された操作を完了しました。実行中に検出された最も値の大きい条件コードが示されます。

モジュール:

DFSUACB0

**DFS0591I MAX PCB SIZE=*xxxxxx*, MAX PSB
SIZE=*xxxxxx*, MAX WORKAREA
SIZE=*xxxxxx*, MAX TOTAL
SIZE=*xxxxxx***

説明

この実行の結果として動作の対象となった PSB には、示されている領域間コピー・バッファ要件が最大値として必要です。[IMS プロシージャのパラメーターの説明 \(システム定義\)](#)で、IMSBATCH プロシージャの DIRCA パラメーターに関する説明を参照してください。個々のサイズは、メッセージ DFS0589I に示されています。

モジュール:

DFSUACB0

関連情報

213 ページの『DFS0589I』
PROCESSING COMPLETED FOR PSB *psbname*.
PCB=xxxxxxx, PSB=xxxxxxx, WORKAREA=xxxxxxx,
TOTAL SIZE=xxxxxxx

DFS592I **EMBEDDED EOF FOUND IN ACBLIB**
 {DMB|PSB} name

説明

示されている PSB またはデータ管理ブロックには、メンバー内に ファイル終わりがあります。

システムの処置

PSB またはデータ管理ブロックは停止します。

プログラマーの応答

連結ライブラリーが IMSACB に関して指定されている場合は、ブロック・サイズが最も大きいライブラリーが最初に指定されているか 検証してください。オンライン・システムと共用されているライブラリーに対して、ACBGEN が実行されている場合は、COMPRESS オプションが指定されていないことを確認してください。上記のエラーのいずれも発生していない場合は、エラー・メッセージで示されている、ACBLIB 内のメンバーを再作成して、エラー条件を訂正する必要があります。

モジュール:

DFSDBLR0、DFSXRBL0

DFS0593I **PSB-*psbname* WORKAREA**
 BREAKOUT. NDX=xxxx, XIO=xxxx,
 IOA=xxxxxxx, SEG=xxxxx,
 SSA=xxxxxx

説明

示されている PSB 用の合計作業域がそのコンポーネントに分割されます。NDX は、DL/I ACTION モジュール用として必要な 作業域です。XIO は、索引保守によって使用される作業域です。IOA は、従属領域との間で相互にコピーされるデータを入れるために使用されるエリアです。このサイズは、PSB 上で指定可能です。SEG は、圧縮可能セグメント操作のために必要なエリアです。SSA は、従属領域からコピーされた SSA を入れるために必要なエリアです。この値は、PSB 上で指定可能です。

モジュール:

DFSUACB0

DFS594I **MFS TEST FACILITY NOT**
 AVAILABLE-xxxxx

説明

初期設定で、MFS TEST ライブラリー用の DCB が開けませんでした。MFS TEST が使用不可でした。xxxxx が NOFND の場合は、DD ステートメントは検出されませんでした。xxxxx が DUMMY の場合は、DD DUMMY が指定されました。xxxxx が NOOPN の場合は、OPEN は失敗しました。

プログラマーの応答

xxxxx=NOFND または DUMMY の場合は、次回の IMS 実行に備えて JCL を訂正してください。xxxxx=NOOPN の場合は、OPEN 障害を記述する z/OS メッセージが出される可能性があります。z/OS メッセージを受け取った場合は、詳細について「z/OS MVS システム・メッセージ 第 1 巻」(SA88-8597) を参照してください。

モジュール:

DFSIIINBO

DFS595I **REGION SIZE TOO SMALL FOR**
 DFSUTR20 REPORT

説明

EXECUTE ステートメントの領域パラメーターで指定された仮想記憶域の量が不十分だったため、モニター報告書印刷ユーティリティの入力フェーズ中に生成されたサマリー表が保持されませんでした。

プログラマーの応答

領域を広げてジョブに割り当て、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFSUTR20、DFSUTR30

DFS0596W **READ FAILED FOR DDNAME**
 xxxxxxx MEMBER= yyyyyyyy

:
variable text

説明

DDNAME xxxxxxxx データ・セットのメンバー yyyyyyyy に関して、READ が失敗しました。この問題は、IMS が初期設定に必要な情報を獲得できなくなる可能性があります。

DDNAME xxxxxxxx データ・セットが無効で、処理のために使用できません。この問題は、IMS が初期設定に必要な情報を獲得できなくなる可能性があります。このメッセージに先立って、メッセージ DFS0596W である READ FAILED が出され、試みられた READ に関するメンバー名が示されます。

メッセージ内の項目は以下のとおりです。

プログラマーの応答

分析制御データ・セット内のステートメントを調べて、訂正してください。

モジュール:

DFSUTR20、DFSUTR30

DFS600I **NUMBER EXCEEDS 8 DIGITS**

説明

配布再定義ステートメント内の番号が 8 桁を超えています。

システムの処置

処理は終了します。暗黙指定されている配布 ID については、再定義は無視されます。

プログラマーの応答

配布再定義ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFSUTR20、DFSUTR30

第 16 章 DFS メッセージ DFS601I - DFS650E

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS601I NONNUMERIC DIGIT IN NUMERIC FIELD

説明

配布再定義ステートメントの数値フィールドに非数値文字が表示されました。

システムの処置

処理を続行します。暗黙指定されている配布 ID については、再定義は無視されます。

プログラマーの応答

再定義ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFSUTR20、DFSUTR30

DFS602I INVALID DISTRIBUTION IDENTIFIER

説明

無効の配布 ID が分析制御データ・セットの中のステートメントにあるのが表示されました。

システムの処置

処理を続行します。エラーのステートメントは実行時に無視されます。

プログラマーの応答

配布再定義ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFSUTR20、DFSUTR30

**DFS603I IMS DLS CLEANUP (type) status FOR task
jobname.stepname.procstepname
RC=xx**

説明:

詳細情報および処置については、DFS603W を参照してください。

関連情報

[DFS603W](#)

IMS DLS FAILURE (xx) FOR task id

DFS603W IMS DLS FAILURE (xx) FOR task id

説明

IMS DL/I 従属アドレス・スペース (DLS) リソース・クリーンアップ処理 (SSI ルーチン) によって、メッセージ DFS603 は 2 つの形式、つまり、警告と情報の 2 つの形式が生成されます。

警告メッセージ DFS603W は、クリーンアップ処理中にリカバリー可能障害が生じると、そのつど表示されます。このメッセージでは、障害が検出された時点で実行中の機能を示す、障害コード xx が示されます。DLS リソース・クリーンアップ処理は、終了プロセスにおける次の機能から再開されます。

通知メッセージ DFS603I は、クリーンアップの終了時のジョブ・ステップ TCB に関して 1 回と、サブタスクの下における ESTAE 障害ごとにそれぞれ 1 回ずつ生成されます。ESTAE 障害が起こるのは、SDWA が存在していないか、再試行が不可能なときです。すべての TCB がエラーを伴わずに完了すれば、通知メッセージでは、COMPLETE の状況が戻りコード 0 を伴って表示され、それ以外の場合は、サブタスク・エラー記録が不可能な例外的障害の場合を除いて、状況は FAILED で、戻りコード X'FF' が示されます。(戻りコード X'FF' の意味については、このメッセージについて後で説明する 16 進戻りコードを参照してください。)

要確認: ESTAE が入力され、再試行が可能になると、SDWA が SYS1.LOGREC に書き込まれます。エントリーに含まれるのは、ジョブ名、終了する IMS のリリースとレベル、および障害コードです。以下の表は、メッセージ・テキストを示します。

キーワード	値	意味
type	EOM EOT ESTAE	メモリーの終わり (End of Memory)、タスクの終わり (End of Task)、ESTAE 障害。再試行不能。
status	COMPLETE FAILED	IMS DLS リソース・クリーンアップが正常に完了。IMS DLS リソース・クリーンアップがクリーンアップ中に障害を少なくとも 1 つ検出。
task	ST JS	サブタスク・ジョブ・ステップ・タスク
id	jobname ID=imsid	タスクの終わり (End of Task) 障害、メモリーの終わり (End of Memory) 障害

戻りコード xx は、DLS リソース・クリーンアップ処理の結果を示します。戻りコード X'00' は、DLS リソ

ス・クリーンアップが正常に完了したことを示します。戻りコード値が X'30' から X'58' の場合は、タスクの終わり (End of Task) 終了時の障害を表します。戻りコード値が X'C0' から X'D8' の場合は、メモリーの終わり (End of Memory) 終了時の障害を表します。戻りコードの値と意味は、それぞれ次のとおりです。

コード (16 進数)

意味

- 00** クリーンアップが正常に完了しました。
- 01** GETMAIN が作業域に関して失敗しました。最小クリーンアップ処理が実行されます。
- 02** SSCD イメージと SCD アドレスのいずれか一方、またはその両方の取得を試みている 最中の障害。実行されるクリーンアップは、DLS REAL SSCT の NULL 化のみです。
- 03** クリーンアップ処理中に障害が発生するか、またはオペレーター取り消しが行われて、ESTAE をリカバー不能障害に駆り立てる原因になります。簡略クリーンアップが試みられます。ESTAE は、障害メッセージ用のストレージを取得 不能です。処理は終了します。
- 04** ESTAE が確立できませんでした。最小クリーンアップ処理が実行されます。
- 08** SSCD イメージまたは SCD アドレスの取得を試みている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 0C** DLS DUMP SSCT を探している最中か、SSCD イメージまたは SCD アドレスの取得を試みている最中の障害。実行されるクリーンアップは、DLS REAL SSCT の NULL 化のみです。
- 10** IMS DLS REAL SSCT を NULL に設定しようとしている最中の障害。処理は終了します。
- 30** DLS 制御ビットを更新している最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 34** 仮想記憶間テーブルを切断している最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 38** 終了 TCB によって取得された固定ストレージのページ解放を試みている 最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 3C** タスクに関する全サブプール削除機能の実行中の障害。処理は次の機能から再開されます。

- 50** IMS DLS REAL SSCT を NULL に設定しようとしている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 54** 制御領域のポストを試みている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 58** IMS DLS DUMP SSCT を NULL に設定しようとしている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- D0** IMS DLS REAL SSCT を NULL に設定しようとしている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- D4** 制御領域のポストを試みている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- D8** IMS DLS DUMP SSCT を NULL に設定しようとしている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- FC** DLS クリーンアップ処理がオペレーターによって取り消されました。異常終了 X'x22' が ESTAE によってインターセプトされ、処理の再試行は一切許されません。簡略された形式のクリーンアップ処理が ESTAE ルーチンによって実行されます。
- FF** DLS クリーンアップ処理は完了しましたが、クリーンアップ中に障害が 1 つ以上 発生しました。

システムの処置

タスクの終わり (End of Task) 終了の場合に戻りコードが X'00' であれば、DLS リソース・クリーンアップ処理は正常に完了した場合です。メモリーの終わり (End of Memory) 終了の場合に戻りコードが X'00' であれば、クリーンアップ処理は正常に完了しましたが、それがタスク非関連機能のみに限定されます。戻りコードが X'FF' の場合は、障害が 1 つ以上発生し、そうした障害に関連するクリーンアップ処理は完了しなかった可能性があります。

問題判別:

1、11、36

モジュール:

DFSDRCL0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0604W

**DCBRECFCM IS NOT FIXED BLOCK
FOR DDNAME xxxxxxxx**

説明

DDNAME xxxxxxxx データ・セット・レコード・フォーマットが無効です。レコード・フォーマットは固定または固定ブロックである必要があります。このメッセージが IMS 初期設定時に受信された場合は、IMS は初期設定に必要な情報を獲得できない可能性があります。このメッセージが MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーから受信された場合は、記述子メンバーが使用不能です。

システムの処置

IMS 初期設定は異常終了し、DDNAME PROCLIB に関する異常終了コード 0010 が示されます。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーは、戻りコード 12 で終了します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS が異常終了しない場合は、DDNAME xxxxxxxx DD ステートメントがご使用のシステムで必要かどうか判断してください。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーの場合は、DDNAME xxxxxxxx は必須です。

プログラマーの応答

DDNAME xxxxxxxx データ・セットが RECFM=F または RECFM=FB であるか確認してください。

問題判別:

1、3、6、8

モジュール:

DFSXRPS0、DFSIILD0、DFSUTB00、DFSPMBR0

関連情報

[IMS 異常終了 0010](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0605W

**DCBBLKSIZE IS NOT VALID FOR
DDNAME xxxxxxxx**

説明

DDNAME xxxxxxxx データ・セット・ブロック・サイズが無効でした。このメッセージが IMS 初期設定時に受信された場合は、この問題のために IMS が初期設定に必要な情報を獲得できない可能性があります。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーがこのメッセージを出した場合は、記述子メンバーが使用不能です。

システムの処置

IMS 初期設定は異常終了し、DDNAME PROCLIB に関する異常終了コード 0012 が示されます。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーは、戻りコード 12 で終了します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS が異常終了しない場合は、DDNAME xxxxxxxx DD ステートメントがご使用のシステムで必要かどうか判断してください。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーの場合は、DDNAME xxxxxxxx は必須です。

プログラマーの応答

DDNAME xxxxxxxx データ・セット・ブロック・サイズが 80 の倍数であるか確認してください。

問題判別:

1、3、6、8

モジュール:

DFSPMBR0、DFSXRPS0、DFSIILD0、DFSUTB00

関連情報

[IMS 異常終了 0012](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0606I

**MINIMUM CORE OF 16K BYTES
WAS NOT AVAILABLE FOR
SUMMARY TABLE.**

説明

累積データを収容するテーブル用としてストレージを取得する初期 GETMAIN が、失敗しました。

システムの処置

プログラムは終了し、報告書を伴わずに戻ります。

プログラマーの応答

領域サイズを大きくし、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSUTR20、DFSUTR30

DFS607I

**UNEXPECTED CONTINUATION
CARD RECEIVED.**

説明

少なくとも最初の 1 文字がブランク文字であるステートメントが分析制御データ・セットにあることが表示されました。これは継続ステートメントですが、継続を示す配布再定義ステートメントがその前にありません。次行に継続する場合は、最後のオペランドの後にコンマが必要です。

システムの処置

処理を続行します。エラーのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答

このステートメントが継続ステートメントでない場合は、ステートメントを訂正してください。継続ステートメントの場合は、後で実行するために以前に定義した配布再定義ステートメントで継続の指定をしてください。

モジュール:
DFSUTR20、DFSUTR30

DFS0608W **NULL ENTRY FOR DDNAME**
 xxxxxxx MEMBER = yyyyyyy

説明

DDNAME xxxxxxx データ・セットのメンバー yyyyyyy が空でした。

システムの処置

そのメンバーが IMS に必要な場合、IMS は異常終了 0015 で終了する可能性があります。

オペレーターの応答

(マスター端末) IMS が異常終了しない場合は、メンバー yyyyyyy がご使用のシステムで必要かどうか判断してください。

プログラマーの応答

正しいメンバー接尾部が指定され、メンバー yyyyyyy に有効なデータが入っているか確認してください。

問題判別:
1、3、6、8

モジュール:
DFSXRPS0、DFSPMBR0

関連情報

[IMS 異常終了 0015](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS609I **EXPECTED CONTINUATION CARD**
 NOT RECEIVED.

説明

配布再定義ステートメントの最後のオペランドの末尾がコンマであるため、次行に継続するものと見なされました。しかし、次のステートメント・イメージが継続行ではありませんでした。

システムの処置

処理を続行します。暗黙指定されている配布 ID については、再定義は無視されます。

プログラマーの応答

必要場合は、欠落している継続ステートメントを指定してください。継続しない場合は、配布再定義ステートメントを訂正して、最後のオペランドをブランクにしてください。

モジュール:
DFSUTR20、DFSUTR30

DFS0610W **GETMAIN FAILED FOR TABLE =**
 zzzzzzzz

説明

テーブル zzzzzzzz が作成できませんでした。この問題は、IMS が初期設定に必要な情報を獲得できなくなる可能性があります。

システムの処置

テーブル zzzzzzzz が IMS で必要とされる場合は、IMS は異常終了 0008 で終了する可能性があります。IMS が異常終了 1012 で終了するのは、メンバーが DBFMSDBn の場合です。

オペレーターの応答:
領域サイズを増やして、IMS を再試行します。

プログラマーの応答

領域のサイズを妥当性検査してください。

問題判別:
1、3、6、8

モジュール:
DFSXRPS0、DFSPMBR0

関連情報

[IMS 異常終了 0008](#)

[IMS 異常終了 1012](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS611I **EXPECTED CONTINUATION CARD**
 NOT RECEIVED AT ANALYSIS
 EODAD.

説明

配布再定義ステートメントの最後のオペランドの末尾がコンマであるため、次行に継続するものと見なされました。しかし、継続ステートメント・イメージを取得できないまま、分析制御データ・セットの終わりに達しました。

システムの処置

処理を続行します。暗黙指定されている配布 ID については、再定義は無視されます。

プログラマーの応答

必要な場合は、欠落している継続ステートメントを指定してください。継続しない場合は、配布再定義ステートメントを訂正して、最後のオペランドをブランクにしてください。

モジュール:
DFSUTR20、DFSUTR30

DFS0612I **IMS LOGIC ERROR. R14=xx**
 R15=yy

説明

IMS がエラーを検出しました。xx 値 (16 進数) は、呼び出し先ルーチンからの戻りコードを表し、呼び出し先ルーチンがエラーを検出したときだけ表示されます。それ以外の場合は、xx フィールドには 00 が入っています。yy 値 (16 進数) は、エラーの理由を示します。

xx yy
意味

00 10

データベース DDIR または高速機能 DMAC は検出されず、EEQE CREATE 呼び出しで渡されませんでした。モジュール DFSTOPRO が戻りコード X'10' を出します。

00 11

EEQE が EEQE DELETE に関して検出されませんでした。モジュール DFSTOPRO が戻りコード X'11' を出します。

00 12

バッファ長が EEQE CREATE で指定されませんでした。この問題は後で EEQE COPY 呼び出しが行われるまで、発見されない場合があります。モジュール DFSTOPRO が戻りコード X'12' を出します。

xx 14

バッチ・バックアウト処理中に、EEQE タイプを変更するために、DBRC が呼び出されました。DBRC が、後でこのメッセージで説明するゼロ以外の戻りコードを戻しました。モジュール DFSTOPRO が戻りコード X'14' を出します。

00 15

XRF テークオーバー時の入出力許容 EEQE CREATE が、EEQE を検出しましたが、この IMS が所有していない、したがって、この IMS では許容できない無効の EEQE でした。モジュール DFSTOPRO が戻りコード X'15' を出します。

00 1F

EEQE COPY 要求が EEQE を検出しましたが、所有されていないか、ユーザー・タイプか、いずれかの

EEQE でした。この IMS には、バッファ・プールにブロック・インターバルや制御インターバルがあってはなりません。モジュール DFSTOPRO が戻りコード X'1F' を出します。

nn 22

データベース・クローズ時または入出力許容 PURGE 処理時の入出力再試行が、バッファ・ハンドラー・ルーチンからゼロ以外の戻りコードを受信しました。nn 値は、バッファ・ハンドラーからの 16 進戻りコードです。追加情報については、戻りコードおよび機能コードの情報を参照してください。モジュール DFSTOBHO が戻りコード X'22' を出します。

00 31

バッファ・イメージが入っている X'26' または X'4026' ログ・レコードが検出されましたが、対応する EEQE が検出されませんでした。EEQE は、以前の X'25' または X'4025' EEQE ログ・レコードから作成されます。モジュール DFSTORS0 が戻りコード X'31' を出します。

00 32

処理対象の X'25' または X'4025' EEQE ログ・レコードが、EEQE に示されているデータベースに関して、DDIR を検出できませんでした。モジュール DFSTORS0 が戻りコード X'32' を出します。

xx 41

XRF テークオーバー時に作成された入出力許容 EEQE が DBRC から 16 進戻りコード xx を受信しました。DBRC 戻りコードについては、後でこのメッセージで説明します。モジュール DFSTODIO が戻りコード X'41' を出します。

xx 42

EEQE の削除中に、戻りコード xx が DBRC から戻されました。DBRC 戻りコードについては、後でこのメッセージで説明します。モジュール DFSTODIO が戻りコード X'42' を出します。

xx 43

EEQE の追加時に、戻りコード xx が DBRC から戻されました。DBRC 戻りコードについては、後でこのメッセージで説明します。モジュール DFSTODIO が戻りコード X'43' を出します。

DBRC 戻りコード

XX フィールドに入っている DBRC 16 進戻りコードには次の値があり、その意味はそれぞれ次のとおりです。

xx
意味

04

DBDS にはすでに EEQE があります。

08

データベースが RECON データ・セットに登録されていません。

0C

DBDS が RECON データ・セットに登録されていません。

10

サブシステムが RECON データ・セットに登録されていません。

14

サブシステムにはデータベースを使用する許可がありません。

18

DBDS には EEQE がありません。

1C

パラメーターの EEQE 変更がすべては満たされませんでした。

20

データベースの EEQE 限度に到達しました。

2C

内部 DBRC エラー

30

無効なパラメーターが検出されました。

システムの処置

この通知メッセージは、マスター端末オペレーターおよび z/OS コンソールに送信されます。異常終了コード 0602 より先に出ます。

モジュール:

DFSTOBH0、DFSTODI0、DFSTOPR0、DFSTORS0

関連資料

[外部サブシステム・サポートに関連する戻りコードと機能コード\(メッセージおよびコード\)](#)

DFS0613I

**CTL|DBC RGN U113 DUE TO Sxxx
Uyyyy DURING DL/I CALL IN MPP|
CCTL zzzzzzzz**

説明

従属領域 TCB の下、またはコーディネーター制御 (CCTL) 用の DRA スレッド TCB の下での並列 DL/I 呼び出しにおける DL/I 呼び出しの処理中に、異常終了が発生しました。この問題は、IMS 制御領域の異常終了を必要とする重大な障害の原因でした。

xxx

システム異常終了コード。このコードは、ユーザー異常終了であれば S000 です。

yyyy

ユーザー異常終了コード。このコードは、システム異常終了であれば 0000 です。

zzzzzzzz

異常終了する従属領域のジョブ名、または CCTL のジョブ名

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

異常終了コード 0113 を参照してください。

問題判別:

1、4、6、14、36

モジュール:

DFSPCC20、DFSASK00

関連情報

[IMS 異常終了 0113](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0614I

**I/O RETRY SUCCESSFUL. DATA
BASE dbname DDNAME ddname
RBN/RBA nnnnnnnn**

説明

再読み取り/再書き込みがデータベース・クローズ時に行われたとき、データベース *dbname* 内のブロック番号または RBA *nnnnnnnn* に関する入出力エラー・ブロックまたは制御インターバル (CI) が、直接アクセス・ストレージ・デバイス (DASD) に対して正常に再書き込みまたは再読み取りされました。DD ステートメントは *dbname* によって識別されています。入出力エラーは訂正されました。

システムの処置

この通知メッセージは、入出力再書き込みまたは再読み取りが正常に行われたとき、マスター端末および z/OS コンソールに送信されます。他のブロック・レベル共用サブシステムには、入出力エラーのレコードを除去するよう、IRLM NOTIFY を使用して通知されます。DBRC には、データベース・データ・セット (DBDS) レコードからの入出力エラー RBN/RBA の除去を指示されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

入出力エラーは訂正されました。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

入出力エラーは訂正されました。

モジュール:

DFSTOBH0

DFS0615I ALL I/O ERRORS SUCCESSFULLY
CORRECTED FOR DATA BASE
dbname

説明

データベース *dbname* に関するすべての入出力エラー・ブロックまたは制御インターバルは正常に再試行されました。このメッセージは、以前の入出力エラーが訂正され、データベースのリカバリーは必要がないことを示しています。IMS は、データベース・クローズ時に入出力エラーの書き込みまたは読み取りの再試行を試みます。

システムの処置

この通知メッセージは、マスター端末および z/OS コンソールに送信されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

データベースをリカバリーする必要はありません。

モジュール:
DFSTOCL0

DFS616I SYSTEM LOG DATASET NOT
CLOSED- LOG WRITE ERROR

または

**SYSTEM LOG DATASET NOT CLOSED- LOG WRITE
ERROR. LAST LOG SEQ NUMBER =xxxxxxx**

または

OLDS BUFFER PURGE FAILED

または

**OLDS BUFFER PURGE FAILED. LAST LOG SEQ
NUMBER =xxxxxxx**

または

OLDS BUFFERS SUCCESSFULLY PURGED

説明

永続入出力エラーが最後に残っている IMS ログ・データ・セットで発生しました。重複ロギングが IMS バッチで有効な場合は、エラーが発生するのは、ログ・データ・セットが両方とも損傷した場合です。IMS オンラインの場合は、エラーが発生するのは、最後に残っている OLDS に永続入出力エラーがあるか、スペースが不十分でチェックポイント凍結が完了できないときです。このメッセージには 5 つの形式があります。

最初の形式が出されるのは、永続入出力エラーが最後に残っている IMS ログ・データ・セットで発生した場合です。IMS バッチ領域が、バッチ・ログ (SLDS) を正常にクローズすることなく異常終了し、IMS が、バッチ SLDS に書き込まれている最後のログ・レコード・シーケンス番号を見つけられなかった場合も、この最初の形式が出されます。最後のログ・レコード・シーケンス番号がメッセージに含まれないのは、次の場合です。

- IMS オンライン・システムが実行中のとき。
- 異常終了時に、ブロックがログに書き込まれない場合。
- 無効のブロック番号がログ・バッファーで検出されている場合。

2 番目の形式が出されるのは、IMS バッチ領域が、バッチ・ログ (SLDS) を正常にクローズすることなく異常終了し、バッチ・ログに書き込まれている最後のログ・レコード・シーケンス番号がログ・バッファーにあるときです。

このメッセージの 3 番目の形式が出されるのは、IMS オンライン・システムが、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) を正常にクローズすることなく異常終了し、IMS が、OLDS に書き込まれている最後のログ・レコード・シーケンス番号を見つけられなかった場合です。最後のログ・レコード・シーケンス番号がメッセージに含まれないのは、次の場合です。

- OLDS バッファー・ページ ESTAE ルーチン (DFSFDLFO) が制御を受け取ったとき、OLDS が開かれていない場合。
- DFSFDLFO がそのメッセージ領域に関する GETMAIN 要求に失敗した場合。
- DFSFDLFO が、すべての OLDS バッファー内の OLDS に書き込まれている最後のログ・シーケンス番号を見つけられなかった場合。

4 番目の形式が出されるのは、IMS オンライン・システムが、OLDS を正常にクローズすることなく異常終了し、OLDS に書き込まれている最後のログ・レコード・シーケンス番号がログ・バッファーにあるときです。

5 番目の形式が出されるのは、IMS オンライン・システムが OLDS バッファー・ページ ESTAE 中に、OLDS バッファーすべてを正常にページすることなく異常終了した場合です。

システムの処置

このメッセージの最初の2つの形式の場合、IMSは異常終了します。それ以外の場合、IMSは処理を続行します。

プログラマーの応答

最初の2つの形式の場合、新しいログ・データ・セットを割り振り、入出力エラーを起こしたログ・データ・セットと置き換えます。ログ・リカバリー・ユーティリティを使用して、WRITE または CLOSE エラーがないログ・データ・セットを作成する必要がある可能性があります。十分な数のログ・データ・セットが使用可能な場合は、IMSを緊急時再始動して処理を続けてください。そうでない場合、処置は必要ありません。

モジュール:
DFSFDLS0、DFSFDLGO

DFS0617I	RDS BUFFERS HAVE BEEN SUCCESSFULLY PURGED.
-----------------	---

説明

IMSの正常な終了処理またはSTAE終了処理時に、再始動データ・セット(RDS)バッファが正常にページされました。チェックポイント・テーブルに書き込まれています。

システムの処置

IMSはその終了プロセスを続行します。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSRDS00

DFS0618A	A RESTART OF A NON-ABNORMALLY TERMINATED SYSTEM MUST SPECIFY EMERGENCY BACKUP OR OVERRIDE.
-----------------	---

説明

DBRCが異常終了としてフラグを立てなかったIMSシステムを再始動する試みが失敗しました。この問題が最も一般的に発生するのは、電源障害の後や、XRF対応環境での代替システムの再始動時ですが、それ以外の状態でも起こる可能性があります。

システムの処置

IMSは再始動を終了し、オペレーターが別の再始動コマンドを入力するのを待ちます。

オペレーターの応答

同じサブシステム名をもち、現在アクティブのIMSシステムがないか確認してください。以前のCTL領域の障害後もまだアクティブの可能性があるDBRCおよびDLISAS領域がないかチェックしてください。DBRCまたはDLISAS領域が、対応するCTL領域なしで、まだアクティブの場合は、処理の前にそれらを取り消してください。

同じサブシステム名をもち、現在アクティブのIMSシステムがない場合は、**/ERE OVERRIDE** コマンドを出してください。XRF環境では、**/ERE BACKUP** コマンドを出してください。

モジュール:
DFSRST00

DFS0619I	JOBNAME.STEPNAME. PROCSTEPNAME MADE NON-SWAPPABLE
-----------------	--

説明

指定されたジョブ・ステップは、IMS SVCのIMSのスワップ不可サービス呼び出しを使用して(DFSV4200)、スワップ不能にされています。このメッセージは、情報目的のみで表示されます。

システムの処置

要求された呼び出し元はスワップ不能にされます。

モジュール:
DFSV4200

DFS0620I	RESTART DATASET CLOSED
-----------------	-------------------------------

説明

再始動データ・セットは正常にクローズされました。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール:
DFSFDPLO

DFS621W	IMS type LEVEL (level) INCOMPATIBLE WITH REGION
----------------	--

説明

IMSIMS領域のリリース・レベルがメッセージを発行するモジュールのインストール済みリリース・レベルと互換性がありません。モジュールが必要な機能を実行できない可能性があります。以下の表は、メッセージの意味を示しています。

表 3. DFS621W キーワードの意味		
キーワー ド	値	意味
type	RTM	IMS リソース終了マネージャー (DFSRTM00) がアセンブルされているリリース・レベルが、終了 IMS 領域よりも古いリリース・レベルです。DFSRTM00 は、必要なリソース・クリーンアップを実行できない可能性があります。
	SVC	IMS SVC (DFSVC200) がアセンブルされているリリース・レベルが、初期設定 IMS 領域と互換性がありません。この IMS 領域に関する SVC 機能が失敗したか、または予期しない結果をもたらしています。
level	nnn	メッセージを発行する IMS モジュールのリリース・レベル

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

正しいレベルの DFSVC200 または DFSRTM00 をインストールしてください。

モジュール:

FSMRCL2、DFSRTM00、DFSVC200

DFS0622I **job.step.proc-KEY 0-7 NOT ALLOWED FOR DLI, DEP OR UTILITY RGN**

説明

DL/I、DEP、またはユーティリティー領域に対して保護キー 0 から 7 を指定しました。z/OS では、0 から 7 の範囲の保護キーの下で実行できるのは、オンライン制御領域のみです。

システムの処置

IMS は、このメッセージを出した領域に関して、異常終了コード 0622 を出します。

プログラマーの応答

異常終了コード 0622 を参照してください。

モジュール:

DFSRR00

関連情報

異常終了 0622

DFS623I **job.step.proc-KEY 0-7 REQUIRED FOR ONLINE CONTROL REGION**

説明

IMS が z/OS でオンライン制御領域の初期設定を試みましたが、8 から 15 の範囲の保護キーが使用されました。保護キーは 0 から 7 の範囲である必要があります。

システムの処置

IMS は、このメッセージを出した領域に関して、異常終了コード 0623 を出します。

プログラマーの応答

異常終了コード 0623 の情報を参照してください。

モジュール:

DFSRR00

関連情報

異常終了 0623

DFS624I **COMMAND VERB/OPTION NOT SUPPORTED (y)**

説明

IMS でサポートされていないコマンド verb またはオプションが、オペレーティング・システム **MODIFY** コマンド・インターフェース、または外部サブシステムによって入力されました。値 y は、最大 12 バイトまでコマンド verb またはオプション入力データを表します。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

MODIFY コマンドがオペレーターによって入力された場合は、コマンドにスペル・エラーまたはフォーマット・エラーがないかチェックしてください。コマンドを訂正し、再実行します。

プログラマーの応答

コマンド構文が正しいかを確認します。

モジュール:

DFSFCTT0

DFS625I **IRLM RECONNECT COMMAND FAILED, CODE - nn**

説明

OS オペレーターが、RECONNECT を指定して、IMS に対する OS **MODIFY** コマンドを入力し、IMS は IRLM **RECONNECT** コマンドが完了できませんでした。

nn の値は、次のいずれかのコードで示されます。

コード (10 進数)

意味

04

IRLM が IRLM 障害に関して、IMS 状況出口制御を示しませんでした。つまり、IMS のこの実行中は、IRLM がまったく使用されていないか、IMS-IRLM 間接続がまだアクティブであるか、どちらかを意味します。再接続の試み中は、次のことを心得ててください。

- データベースを使用する意図がある従属領域は、いずれもスレッド終了処理を完了する必要があります。
- そのような従属領域で終了しないものがあると、IMS が IRLM 障害からのクリーンアップに必要なステップを完了できません。
- 領域切断処理がすべて完了するまでは、IMS は IRLM に再接続したり、終了したりできません。
- 切断処理のさまざまな段階 (例えば、アプリケーションでの タイマー表示待ちや WTOR への応答待ちなど) にある領域を異常終了する必要があります。

08

IMS が再度 IRLM にサインオンできなかったため、オペレーターがメッセージ DFS039A に対して CANCEL を応答しました。

12

IRLM 障害時にアクティブであったため、IRLM 再接続コマンドを実行できなかったデータベースに対して、アプリケーションがまだスケジュールされたままであることを、IMS が検出しました。

システムの処置

処理は、IRLM を使用せずに続行されます。

モジュール:

DFSFCCT0、DFSRRDSDH0

DFS626I	IRLM RECONNECT COMMAND SUCCESSFUL
----------------	--

説明

OS オペレーターが、RECONNECT を指定して、IMS に対する OS **MODIFY** コマンドを入力し、IMS は、再始動された IRLM に正常に再接続されました。このメッセージは、マスター端末オペレーターと OS オペレーターの両方に送信され、再接続が行われたことを知らせます。これで、マスター端末オペレーターは停止していたデータベースを必要に応じて開始できます。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール:

DFSRRDSDH0

DFS627I	IMS RTM CLEANUP (type) status FOR task jobname.stepname.procstepname RC=xxx
----------------	--

説明:

詳細情報および処置については、メッセージ DFS627W を参照してください。

関連情報

DFS627W
IMS RTM FAILURE (xxx) FOR task id

DFS627W	IMS RTM FAILURE (xxx) FOR task id
----------------	--

説明

IMS リソース終了マネージャー (RTM) によって、メッセージ DFS627I には 2 つの形式、つまり、警告と情報の 2 つの形式が生成されます。

警告メッセージ DFS627W は、RTM 処理中にリカバリ可能障害が生じたり、RTM によって呼び出されたルーチンからゼロ以外の戻りコードが受信されると、そのつど表示されます。このメッセージでは、障害が検出された時点で実行中の機能を示す、障害コード xxx が示されます。RTM は、終了プロセスにおける次の機能から処理を再開します。

通知メッセージ DFS627I は、クリーンアップの終了時のジョブ・ステップ TCB に関して 1 回と、サブタスクの下における ESTAE 障害ごとにそれぞれ 1 回ずつ生成されます。ESTAE 障害が起こるのは、SDWA が存在していないか、再試行が不可能なときです。すべての TCB がエラーを伴わずに完了すれば、通知メッセージでは、COMPLETE の状況が戻りコード X'00' を伴って表示され、それ以外の場合は、状況は FAILED で、戻りコード X'FF' が示されます。(戻りコード X'FF' の意味については、このメッセージについて後で説明する 16 進戻りコードを参照してください。)

要確認: ESTAE が入力され、再試行が可能になると、SDWA が SYS1.LOGREC に書き込まれます。エントリーに含まれるのは、ジョブ名、終了する IMS のリリースとレベル、および障害コードです。

以下の表は、メッセージ・テキストを示します。

キーワード	値	意味
type	EOM EOT ESTAE	メモリーの終わり (End of Memory)、タスクの終わり (End of Task)、ESTAE 障害。再試行不能。
status	COMPLETE FAILED	IMS が正常に完了。IMS がクリーンアップ中に障害を少なくとも 1 つ検出。
task	ST JS	サブタスク・ジョブ・ステップ・タスク

表 4. DFS627W メッセージ・テキスト (続き)		
キーワード	値	意味
id	jobname ID=imsid	タスクの終わり (End of Task) 障害、 メモリーの終わり (End of Memory) 障害

戻りコード xxx は、リソース・クリーンアップ処理の結果を示します。戻りコード値 X'00' から X'FF' は、DFSRTM00 によって生成されます。値が X'04' から X'78' の場合は、タスクの終わり (End of Task) 終了時の障害を表します。値が X'C8' から X'EC' の場合は、メモリーの終わり (End of Memory) 終了時の障害を表します。他の値が DFSRTM00 によって生成された場合は、いずれかのタイプの終了に該当します。値が X'100' 以上の戻りコードは、DFSMRC20 によって生成されます。戻りコードの値と意味は、それぞれ次のとおりです。

コード (16 進数) 意味

- 00** クリーンアップが正常に完了しました。
- 01** GETMAIN が作業域に関して失敗しました。最小クリーンアップ処理が実行されます。
- 04** ESTAE が確立できませんでした。最小クリーンアップ処理が実行されます。
- 08** 未使用
- 0C** TCB 妥当性検査時に TCB テーブルをスキャンしている最中の障害。処理は次の機能から再開されません。
- 10** 可用性マネージャー切断処理を実行している最中の障害 (XRF 環境の場合のみ)。処理は次の機能から再開されます。
- 14** 可用性マネージャー切断処理中に、ストレージが保管域用として要求されたとき、RTM が GETMAIN からゼロ以外の戻りコードを受信しました (XRF または高速データベース・リカバリー 環境の場合のみ)。処理は次の機能から再開されます。
- 18** IMS サブシステム間インターフェース終了処理を実行している最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 1C** メモリー間ウィンドウ・ヘッダーを切断している最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 20** TCB DEB チェーンをスキャンしている最中の障害。処理はチェーン上の次の DEB から続行されます。

- 24** チャンネル間装置に関して HALT 入出力または静止機能を実行している最中の障害。処理はチェーン上の次の DEB から続行されます。
- 28** OSAM データ・セットをクローズしている最中の障害。処理はチェーン上の次の DEB から続行されません。
- 2C** OS データ・セットをクローズしている最中の障害。処理はチェーン上の次の DEB から続行されます。
- 30** 処理中の障害、または IMS リソース・ロック・マネージャー終了機能からのゼロ以外の戻りコードの受信。処理は次の機能から再開されます。
- 34** OSAM 短期入出力ページのページ解放中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 38** 仮想記憶間テーブルを切断している最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 3C** RGPparms 用 CSA ストレージを解放している最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 40** 処理中の障害、または SVC 終了および CSA クリーンアップ・ルーチンからのゼロ以外の戻りコードの受信。処理は SVC ディレクトリー・クリーンアップから再開されます。
- 44** 処理中の障害、または SVC ディレクトリー・クリーンアップ・ルーチンからのゼロ以外の戻りコードの受信。処理は次の機能から再開されます。
- 48** IMS ENF listen 出口を削除する ENFREQ DELETE 呼び出しを実行中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 4C** カップリング・ファシリティ構造からの切断を行う IXLDISC 呼び出しを実行中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 50** IMS ARM ENF listen 出口のために ENFREQ DELETE 呼び出しを実行中に障害が発生しました。処理は次の機能から再開されます。
- 54** オープンされた高速機能 DEDB 領域のためにメディア・マネージャーが制御ブロックのクリーンアップを実行中に障害が発生しました。処理は次の機能から再開されます。

- 58** 高速機能 64 ビット・バッファ・クリーンアップの実行中に障害が発生しました。処理は次の機能から再開されます。
- 59-5B** 未使用
- 5C** ロガー・クリーンアップの実行中に障害が発生しました。処理は次の機能から再開されます。
- 5D-67** 未使用
- 68** バッチ IRLM PC クリーンアップ。
- 70** IMS DUMP SSCT を NULL に設定しようとしているときに障害が発生しました。処理は次の機能から再開されます。
- 74** IMS サブタスクに関する全サブプール削除機能の実行中の傷害。処理は次の機能から再開されます。
- C8** RTM が SVC ディレクトリ・クリーンアップ・ルーチンからゼロ以外の戻りコードを受信。処理は次の機能から再開されます。
- CC** RTM が IRLM 終了機能からゼロ以外の戻りコードを受信。処理は次の機能から再開されます。
- D0** DFSRTM00 へ制御をルーティングする試みで障害。DFSMRC20 の ESTAE が異常終了をインターセプトし、簡略クリーンアップを試みます。
- EC** IMS DUMP SSCT を NULL に設定しようとしているときに障害が発生しました。処理は次の機能から再開されます。
- F0** DL/I 従属アドレス・スペースが、領域に関するリソース・クリーンアップを正常に実行できないで終了する可能性。このことが起こった場合は、DLS 領域が終了した後で、DLS SSCT が残される可能性があります、それによって、マスター・スケジューラ・ブロードキャスト 機能に異常終了が生じる恐れがあります。DLS 領域を使用して実行する場合に、一部の異常終了の発生を防止する試みで、制御領域ジョブ・ステップ TCB がクリーンアップ処理中に DLS SSCT を検索します。いずれかの SSCT が検出されれば、SSCT クリーンアップが試みられます。DLS SSCT のクリーンアップが正常に行われた場合は、メッセージ DFS627W IMS RTM FAILURE (F0) FOR DLS が発行されます。クリーンアップが失敗した場合は、標準形式の警告メッセージが 出されま す。処理は次の機能から再開されます。
- FC** オペレーターによるリソース・クリーンアップ処理の取り消し。異常終了 X'x22' が ESTAE によってインターセプトされ、処理の再試行は一切許されま せん。簡略された形式のクリーンアップ処理が ESTAE ルーチンによって実行されます。
- FF** リソース・クリーンアップ処理は完了しましたが、クリーンアップ中に障害が 1 つ以上 発生しました。メッセージ DFS627W に障害の理由が 説明されて います。
- 100** IMS TCB に代わって処理している最中に、DUMP SSCT が無効であることを、DFSMRC20 が 判別しま した。終了 TCB に関しては、クリーンアップは 一 切試みられません。
- 104** ESTAE が確立できませんでした。制御は DFSRTM00 に渡されません。唯一試みられたの は、DUMP SSCT を NULL に設定する処理のみです。
- 108** DFSRTM00 アドレスが SSCT でゼロです。簡略ク リーンアップが 試みられます。
- 10C** DFSRTM00 へ制御をルーティングする試みで障害。DFSMRC20 の ESTAE が異常終了をインターセプト し、簡略クリーンアップを試みます。
- 110** 直前のジョブ・ステップまたはメモリー終了ク リーンアップが試みられましたが、失敗しました。DFSMRC20 は IMS DUMP SSCT をヌルにリセット し、z/OS に戻ります。一部の IMS リソースがク リーンアップされていない可能性があります。
- 114** DFSMRC20 が、アクティブな IMS SSCT をもつアド レス・スペース内の非 IMS ジョブ・ステップ TCB のために呼び出されました。これは、通常、直前の IMS リソース・クリーンアップが失敗したか、または IMS ジョブ・ステップ TCB 終了の制御を DFSMRC20 が受け取らなかった結果です。DFSMRC20 は IMS DUMP SSCT をヌルにリセット し、z/OS に戻ります。一部の IMS リソースがク リーンアップされていない可能性があります。
- 118** モジュール DFSRTM00 で IMS ジョブ・ステップ TCB が最終終了に入った後、DFSMRC20 がタスク終 了のために呼び出されました。ジョブ・ステップ・ タスクはまだアクティブです。この状態はエラー ではありません。ただし、このコードは、診断のた めにこのイベントをトレースするために内部的に 使用されます。

システムの処置

タスクの終わり (End of Task) 終了の場合に戻りコードが X'00' であれば、IMS 領域に関するリソース・クリーンアップ処理が正常に完了した場合は、メモリの終わり (End of Memory) 終了の場合に戻りコードが X'00' であれば、クリーンアップ処理は正常に完了しましたが、それがタスク非関連機能のみに限定されます。戻りコードが X'FF' の場合は、障害が 1 つ以上発生し、そうした障害に関連するクリーンアップ処理は完了しなかった可能性があります。

問題判別:

1、11、36

モジュール:

DFSRTM00、DFSMRC20

関連情報

226 ページの『DFS627I』

IMS RTM CLEANUP (type) status FOR task
jobname.stepname.procstepname RC=xxx

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS628I	ABNORMAL TERMINATION SCHEDULED
----------------	---

説明

z/OS システム・コンソール・オペレーターが **MODIFY IMS.DUMP** コマンドを入力して、IMS 領域を異常終了させました。

システムの処置

IMS 領域は異常終了し、メモリー・ダンプが取られません。

モジュール:

DFSFCTT0

DFS629I	IMS ttt TCB <action> IMS SYS sss uuuuuuuuIMS ttt TCB <action> IMS SYS sss uuuuuuuu
----------------	--

または

IMS BATCH REGION ABEND - IMS|SYS uuuu

または

PSW AT ERROR = hhhhhhhh hhhhhhhh

または

MODID = cccccccc EPA = aaaaaaaaa

または

IMS DBC REGION ABEND

説明

IMS オンラインの場合は、このメッセージは最初の形式が出され、3 番目および 4 番目の形式が出されることもあります。IMS バッチの場合は、2 番目の形式が出され、3 番目の形式が出されることもあります。

データベース制御 (DBCTL) サブシステムの場合は、DBCTL または z/OS オペレーターが **MODIFY** コマンドを出して、DBCTL 領域を停止すると、5 番目の形式が出されます。

メッセージ・テキストで、各変数の意味は以下のとおりです。

ttt

IMS TCB タイプ名

action

処置は IMS 制御領域が終了する場合は ABEND で、メモリー・ダンプが従属領域に関して生成される場合は DUMP です。

sss

システム異常終了コード (使用可能な場合)

uuuu

ユーザー異常終了コード (使用可能な場合) またはシステム異常終了コード

vvvv

障害が起こっている IMS アドレス・スペースまたは外部サブシステム

DLS

障害が DL/I アドレス・スペースの TCB の場合

IES

障害が外部サブシステムの IMS サポート・コードの場合

ESC

障害が障害の起こっている外部サブシステムに関する IMS サポート・コードではなかった場合

U0027

元の異常終了コード

値なし

障害が IMS CTL アドレス・スペースの場合

hh..hh

16 進 PSW の内容

ccccccc

エラーの発生時に実行中のモジュール

aaaaaaaa

モジュール・エントリー・ポイントの16進アドレス

システムの処置

IMS TCB 障害によっては、IMS システムが終了する場合があります。それ以外の IMS TCB 障害 (例えば、動的割り振り障害、高速機能従属領域障害、ストレージ圧縮障害、一部の DBRC 障害など) の場合は、IMS は処理を続行します。IMS 外部サブシステム障害の場合は、外部サブシステム・タスクが終了します。

オペレーターの応答

外部サブシステム・タスクが終了した場合は、**/START SUBSYS** コマンドを使用して、そのタスクを再始動してください。

プログラマーの応答

問題の原因を判別するには、次のものも含めて、診断出力を調べてください。

- IMS 外部サブシステムまたは DBRC で作成されるスピンオフ・ダンプ
- 動的割り振りによって作成されるソフトウェア LOGREC エントリー
- 高速機能従属領域で作成される高速機能従属領域ダンプ

モジュール:

DFSFDMPO、DFSFLSTO

DFS630I WAITING FOR IRLM INITIAL STATE.

説明

IRLM は、すべての現行サブシステムが識別され、それぞれのデータベースが再検証され、バックアウトが処理されるのを待つ初期 WAIT 状態にあります。このメッセージは、WAIT 状態以前に、OS オペレーターおよびマスター端末オペレーターに送信されます。

システムの処置

短時間待った後で、処理は続行されます。

オペレーターの応答

待ち時間が極端になった場合は、IRLM に接続されているサブシステムすべてを検討し、遅延を起こしている原因を判別する必要がある可能性があります。このサブシステム (IMS) が DFS630I メッセージを出したとは考えられません。

モジュール

DFSSDLB0

DFS631I DBRC ADDRESS SPACE TERMINATION UNPREDICTABLE DUE TO CONTROL REGION ABNORMAL TERMINATION

説明

IMS と DBRC の間の接続が完了する前に、IMS 制御領域が終了した可能性があります。この場合、DBRC アドレス・スペースは異常終了するときもあれば、まったく終了しないときもあります。

DBRC アドレス・スペースが異常終了した後に、IMS 制御領域が終了した可能性もあります。

システムの処置

DBRC は異常終了する場合もあり、そうでない場合もあります。

オペレーターの応答

DBRC が終了しない場合は、コンソールを使用して DBRC を終了する必要があります。

モジュール

DFSFSTM0

DFS632I job.step.proc-EXCESSIVE NUMBER OF PARAMETERS IN PARM FIELD

説明

EXEC ステートメントの PARM フィールドに入っていた定位置パラメーターが多すぎます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSRRRA20

DFS0633I DBRC PARAMETER SPECIFIED VALID ONLY FOR BATCH BACKOUT

説明

DBRC=C が指定されましたが、プログラム名は DFSBBO00 ではありませんでした。DBRC=C パラメーターを使用して指定できる唯一の有効なプログラムは、バッチ・バックアウトのみです。

システムの処置

IMS ジョブは異常終了し、異常終了コード 0633 が示されます。

プログラマーの応答

DBRC パラメーターと MBR パラメーター間の矛盾を訂正してください。

モジュール:

DFSRRA00

関連情報

IMS 異常終了 0633

DFS634I *job.step.proc*-BLANK
ENCOUNTERED AS FIRST CHAR
OF PARAM VALUE

説明

EXEC ステートメントの PARM フィールドの定位置パラメーターに、1 つ以上の先行ブランクが含まれていません。

システムの処置

システムは異常終了します。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSRRA00

DFS635 **COMMAND BUFFER TOO LARGE:
CANNOT PROCESS COMMAND.**

説明

入力されたコマンドでは、X'FFFF' (65,535) バイトを超えるバッファ長が必要でした。X'FFFF' は /**DISPLAY** コマンドの場合の限度であり、その他のすべてのコマンドの場合は X'7FFF' (32,767) バイトが限度です。エラーのコマンドには、ALL パラメーターを指定した NODE キーワードが含まれていたと考えられます。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

指定された範囲の複数のコマンドとしてコマンドを再入力することによって、ストレージ要件を減らしてください。/DISPLAY コマンドの場合は、指定できるパラメーターの数は概略 5500 であり、その他のすべての

コマンドの場合は、2500 です。システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール:

DFSICL30

DFS636I *job.step.proc*-LAST FIXED LENGTH
PARAM VALUE TOO SHORT

説明

EXEC ステートメントの PARM フィールドの最後の固定長パラメーター値が短すぎました。

システムの処置

システムは異常終了します。

プログラマーの応答

先行する値に誤っているものがないか検証してください。エラーがあれば訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSRRA20

DFS0637W **xxxx REQUEST NOT SATISFIED
DUE TO POOL EXPANSION LIMIT**

説明

IMS ストレージ・プール xxxx のストレージに対する 1 つ以上の要求に応じられませんでした。要求に応じるには、プール・サイズが拡張上限を超えることとなります。上限は実行パラメーターで指定されています。

システムの処置

IMS ストレージ・プール・マネージャーがストレージを待つことを、呼び出し元が指定した場合は、呼び出し元は、要求に応じられる十分なストレージがストレージ・プールに戻されるまで待つか、または呼び出し元が最大圧縮サイクル数を待ち終えるまで待ちます。要求に応じられない場合は、ゼロ以外の戻りコードが呼び出し元に戻されます。

プログラマーの応答

このメッセージが同じストレージ・プールに関して繰り返し出される場合は、それらのプールの拡張上限を引き上げてください。

モジュール:

DFSSTAT0

DFS638I *job.step.proc*-COMMA FOUND
WITHIN EXTENT OF FIXED
LENGTH PARAM

説明

コンマが固定長フィールドのエクステント内で検出されました。

システムの処置

システムは異常終了します。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSRR00

DFS639W **INVALID STG POOL DEF FOR (xxxx)**
 (*) parm

説明

IMS.PROCLIB メンバー DFSSPMnn に、パラメーターが無効のストレージ・プール定義ステートメントが入っています。許容パラメーターは、プール名とバッファ定義です。

parm が FPL=zzzz を示している場合は、プール名が無効です。IMS ストレージ・プール zzzz が定義されていません。

parm が (a, b, c, d) を示している場合は、バッファ定義がプール xxxx に関して無効です。次のリストにバッファ定義サブパラメーターが定義してあります。

- a** バッファ・サイズを固有の 1 から 5 桁の数値で定義します。許容範囲は 8 から 65536 です。バッファ・サイズは、丸めて最も近い 8 の倍数に切り上げます。
- b** 1 次ストレージ割り振りのバッファの数を定義します。値は、2 から 65535 の範囲の 1 から 5 桁の数値である必要があります。
- c** 2 次ストレージ割り振りのバッファの数を定義します。値は、2 から 65535 の範囲の 1 から 5 桁の数値である必要があります。
- d** 1 次ストレージ割り振りが IMS 初期設定中に取得されるかどうか定義します。許容値は Y と N です。Y が指定されている場合は、1 次ストレージ割り振りは初期設定中に取得されます。N が指定されている場合は、1 次ストレージ割り振りは、バッファ要求に応じるために必要になるまで、取得されることはありません。

DFS639W メッセージは、無効なパラメーターが生起すると、そのつど 1 回ずつ出されます。

システムの処置

プール名パラメーターが無効の場合は、ストレージ・マネージャーは、そのプールに関する定義は無視しながら、残りのパラメーターの妥当性検査を続行します。

バッファ定義パラメーターが無効の場合は、そのパラメーターは解釈されるか無視されるか、いずれかです。

サブパラメーター **a** の値が許容最大値 65536 を超える場合は、値 65536 が使用されます。サブパラメーター **b** または "c" の値が許容最大値 65535 を超える場合は、値 65535 が使用されます。サブパラメーター **d** が無効の場合は、1 次ストレージ割り振りが取得されるのは、処理のために必要なときであって、IMS 初期設定中ではありません。

サブパラメーター **a** の値がゼロ、または前に定義した値である場合は、バッファ定義は無視されます。最大 32 の定義が 1 つのプールに関して許容されます。* が PARM の前にくるのは、最大数を超え、PARM が妥当性検査されていない場合です。これは無視されます。

プログラマーの応答

無効のステートメントを訂正してください。

モジュール:
DFSXSPM0

DFS640I **job.step.proc-REQUIRED**
 PARAMETER OMITTED FROM
 PARM FIELD

説明

EXEC ステートメントの PARM フィールドの最初の 3 文字で指定されている実行の必要パラメーターが省略されました。

システムの処置

システムは異常終了します。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSRR00

DFS641I **jobname.jobstep-INCORRECT**
 REGION PARAMETER IN EXEC
 STATEMENT

説明

データベース・リカバリー・ユーティリティユーティリティ DFSURDBO が実行された領域タイプが無効です。// EXEC PARM フィールドの最初のサブパラメーターで指定される バッチ領域は、UDR である必要があります。

システムの処置

IMS は、このメッセージを出した領域に関して、異常終了コード 0641 を出します。

プログラマーの応答

異常終了コード 0641 を参照してください。

関連情報

[IMS 異常終了 0641](#)

DFS642I *job.step.proc*-PARAM EXCEEDS
MAX ALLOWABLE LENGTH

説明

パラメーター値 (例えば、DL/I 実行でのプログラム名など) が許容される最大長を超えました。

システムの処置

システムは異常終了します。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSRR00

DFS643I *job.step.proc*-NON-NUMERIC
VALUE SPECIFIED FOR NUMERIC
PARAMETER IN PARM FIELD

説明

すべての数値パラメーターが調べられます。非数値の値が数値パラメーターに指定されている場合は、このメッセージがコンソール・オペレーターに送信されます。

システムの処置

このメッセージを出す IMS 領域は、異常終了 0643 で終了します。

プログラマーの応答

JCL の EXEC ステートメント・パラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼します。

問題判別:

1、2、3、4

モジュール:
DFSRR00

関連情報

[IMS 異常終了 0643](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS644I *job.step.proc*-INTERNAL
DESTINATION LIST IS INVALID

説明

システム・エラーが発生しました。

システムの処置

システムは異常終了します。

オペレーターの応答:

(z/OS システム・オペレーター) このエラーについては、IMS システム操作の担当者に問い合わせてください。

問題判別

1、2、3、4、36。また、現場で使用されている DFSRR00 のアセンブリー・リストを入手してください。

モジュール:

DFSRR20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS645W PRIMARY xxxx STORAGE
EXCEEDED POOL EXPANSION
LIMIT

説明

xxxx ストレージ・プールの初期設定中に、示されている 1 次バッファ割り振りの累積サイズが、指定されている拡張上限を超えました。このメッセージは、バッファ用のストレージの取得を試みる前に出されます。指定されている拡張限界値が、指定されている 1 次バッファ・サイズすべての割り振りに必要なストレージの合計より小さい場合は、このメッセージが出されます。1 次ストレージはプールに割り振られていません。ストレージ・ブロックが必要に応じて割り振られます。プール内のすべてのブロックが圧縮可能です。

システムの処置

IMS 初期設定は正常に続行されます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

プールに関するデフォルトの拡張上限が、EXEC パラメーターまたは DFSPBxxx メンバーを使用してオーバー

ライドされた可能性があります。デフォルトの1次および2次ストレージ・プール割り振りは、IMS.PROCLIBメンバー DFSSPMxx のストレージ・プール定義ステートメントによってオーバーライドする必要がある可能性があります。ストレージ・プール定義で適切なサイズの1次ブロックを指定しているか、累積1次ストレージ割り振り指定が指定されている上限を超えていないか確認してください。

モジュール:
DFSSPM30

DFS646I **job.step.proc-SPIE OPTION IN
PARM FIELD INVALID**

説明

パラメーター・フィールドに無効な SPIE オプションが検出されました。パラメーター・フィールドの SPIE オプションは、0 か 1 である必要があります。

システムの処置

異常終了 0646 が出されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSRRRA00
 関連情報
 IMS 異常終了 0646

DFS0647W **READ OF PSB *psbname* OR INTENT
LIST FOR PSB RECEIVED INVALID
DATA. PSB STOPPED.**

説明

ディレクトリー・エントリー・リストを生成するために BLDL が PSB に関して行われ、TTR に対して発行された読み取りが BLDL マクロによって戻されました。読み取りの完了後、結果が無効でした。問題は、次のいずれかの原因によって発生した可能性があります。

- DOPT PSB の場合は、圧縮と読み取りが同時に行われた。
- 非常駐 PSB の場合は、IMS システムが起動した後で圧縮が行われた。

オペレーターの応答

次のいずれかの処置を取ってください。

- DOPT PSB の場合は、圧縮が完了してから、PSB を開始します。その上で、ジョブをスケジュール変更してください。
- 非常駐 PSB の場合は、オンライン変更は圧縮の完了後に行う必要があります。

DFS648I **job.step.proc-VALIDITY CHECK
OPTION IN PARM FIELD INVALID**

説明

PARM フィールドの妥当性検査オプションの指定に誤りがありました。

システムの処置

異常終了 0648 が出されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSRRRA20
 関連情報
 IMS 異常終了 0648

DFS0649W **PSB *psbname* INSUFFICIENT
FREE STORAGE BELOW 16 MEG.
REQUIRED = xxxxxxxx
AVAILABLE=yyyyyyyy**

説明

ACB 生成機能が *psbname* 用の PSB ブロックの作成を試みましたが、PSB 生成サイズは、16 MB 境界の下に xxxxxxxx バイトのストレージを必要としながら、使用可能であったのは yyyyyyyy バイトだけでした。

システムの処置

PSB は ACBLIB から削除され、戻りコード 8 が設定されます。ACBGEN は次の PSB から続行されます。

プログラマーの応答

SENSEG ステートメントまたは PCB ステートメント、あるいはその両方の数を減らして、PSB を再設計してください。

モジュール:
DFSUAMBO

DFS650E **NON-LE COMPLIANT PROGRAM IN
PERSISTENT JVM ENVIRONMENT,
NAME=*program_name***

説明

永続 JVM 従属領域環境で言語処理環境 (LE) に準拠していないプログラムをロードして実行しようとした。永続 JVM 従属領域環境で実行されるプログラムはすべて、LE 準拠でなければなりません。

システムの処置

アプリケーションを終了するために異常終了 U0101-05 (理由コード 5) が発行されます。

プログラマーの応答

プログラムを訂正して LE 準拠にします。プログラムに、有効な LE 項目プロログが入っていませんでした。プログラムが現行の LE 対応コンパイラーでコンパイルされたことを確認してください。

モジュール:

DFSPCC20

関連概念

[z/OS: 言語環境プログラムによるアプリケーションの作成](#)

[z/OS: 言語環境プログラムで実行するためのアプリケーションの準備](#)

第 17 章 DFS メッセージ DFS0651W - DFS700I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS0651W ERROR XX READING DBD PSB INT
 yyyyyyyy FROM ACBLIB.**

説明

PSB、DBD、または、ACBLIB から読み取られた意図リストの妥当性検査によって、エラーが示されました。エラーのあるブロックは使用されません。

yyyyyyyy フィールドに、妥当性検査エラーが検出された PSB、DBD、または意図リストの名前が示されています。xx フィールドには、検出された妥当性検査エラーが次のように示されます。

xx 妥当性検査エラー

01 読み取りが DMB yyyyyyyy を戻したはずです。読み取られたデータの妥当性検査によって、読み取られたのが DMB ではないことが示されました。

02 読み取りが PSB yyyyyyyy を戻したはずです。読み取られたデータの妥当性検査によって、読み取られたデータが予想された PSB ではないことが示されました。

03 読み取られた PSB が、初期設定時に ACBLIB PDS ディレクトリーから取得された PSB サイズと整合性がありません。

05 PSB yyyyyyyy に関する意図リストの読み取りがゼロ・バイトばかりでした。

06 PSB yyyyyyyy に関するリスト自体内に保管された意図リストの長さが無効です。

07 PSB yyyyyyyy に関して読み取られた意図リストの長さが、IMS 初期設定時に ACBLIB PDS ディレクトリーから取得された意図リストの長さとの整合性がありません。

08 PSB yyyyyyyy に関する意図リストに無効のオフセットが含まれています。

09 PSB に関する意図リストに DMB A は組み込まれていましたが、DMB B が組み込まれていませんでした。DMB B は、副次索引と論理関係のいずれかによって DMB A に関連付けられ、意図リストに組み込まれている必要があります。したがって、PSB は

その DBD と整合性がありません。ACBGEN ユーティリティを実行して、この不整合を解消する必要があります。

10 DSG DMB オフセットが意図リスト長さと整合性がありません。このオフセットは、PSB 意図リストから DDIR アドレスを検索するのに使用されます。DSG DMB オフセットがゼロ、負、または意図リスト長さより大きい場合、DDIR アドレスが検索できませんでした。この不整合を解消するためには、ACBGEN が必要です。

11 PSB yyyyyyyy に関して作成されたデータ・セット・グループが、関連 DBD で定義されているデータ・セット・グループと整合性がありません。この矛盾を解消するためには、ACBGEN を実行して DBD を再作成してください。これは、PSB が参照している DBD が、ACBLIB 内になかった場合にも発生します。

12 この PSB が最後に再作成されたときのタイム・スタンプが読み取りで戻されませんでした。タイム・スタンプは、この PSB とその DMB 間の整合性の検証に使用されました。タイム・スタンプは ACBGEN ユーティリティによって生成され、PSB の終わりに保管されました。ACBGEN ユーティリティを再度実行して PSB を再作成する必要があります。

13 PSB 意図リストで参照される 1 つ以上の DMB には構造の変更があり、再作成されました。PSB は再作成されていないため、その DBD との整合性がありません。ACBGEN ユーティリティを再度実行して、不整合を解決する必要があります。

14 PSB 意図リストで参照される DMB は、メンバー・オンライン変更によってコミット中です。この PSB を使用するプログラムをスケジュールできません。

15 PSB ディレクトリー内の PSB サイズは、ACB オンライン変更時に ACBLIB PDS ディレクトリーから取得されたサイズと整合性がありません。

上記のエラーの理由としては、次の場合が考えられます。

- アクティブ ACBLIB が IMS による使用中に圧縮された。
- LLA (ライブラリー・ルックアサイド機能) が不適切に使用された。例えば、LLA が非アクティブ ACBLIB に

関して使用され、非アクティブ ACBLIB へのステージング・ライブラリーのコピーの後に続けて、常駐ディレクトリーが更新されませんでした。そこで、/

MODIFY COMMIT または **INITIATE OLC**

PHASE(COMMIT) コマンドが、メモリー内に残されている ACBLIB 用の PDS ディレクトリーのバックレベル・コピーを使って、非アクティブからアクティブに切り替えました。ACBLIB データ・セットに関しては、LLA は決して使用しないようにすることを、ぜひともお勧めします。

- PSB が、/MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT) コマンドより前に、非アクティブとアクティブの両方の ACBLIB にコピーされた。これが行われた場合は、アクティブと非アクティブの日付の比較が等しくなり、PSB が変更されなかったことを示唆します。したがって、PSB ディレクトリーに保持されている PSB サイズをリフレッシュしないで、新しい PSB を読み取ることとなります。
- 論理関係のあるデータベースに関する重複データベース定義がある。NAMECHK=NO が IMSCTRL マクロで指定されたため、同じ DDIR のコピーが 2 つ生成され、最初の DDIR には有効な DMB アドレスが入っていますが、2 番目にはゼロばかりの DMB アドレスが入っています。PSB 意図リストでは、最初と 2 番目の DDIR のどちらも指す可能性があります。このエラー・メッセージが出るのは、2 番目の DDIR の無効の DMB アドレスを指している場合です。

システムの処置

エラーが DMB で発生した場合は、その DMB に誤りのマークが付きます。この DMB を使用するプログラムはスケジュールされません。オンライン変更を使用してこの DMB を置き換えない限り、この条件は訂正できません。このエラーが PSB または意図リストで発生した場合は、PSB に誤りのマークが付きますが、DOPT PSB である場合は別で、停止されます。この PSB を使用するプログラムはスケジュールされません。PSB が DOPT PSB である場合は、ACBLIB の PSB を置き換えることで、条件を訂正できます。PSB が DOPT PSB でない場合は、オンライン変更を使用して PSB を置き換える以外の方法では訂正できません。

PSB が DOPT PSB ではなく、検証エラー・コードが 15 の場合には、アクティブおよび非アクティブな ACBLIB の連結両方に同じ ACBLIB データ・セットを指定しない方法でのみ、このエラー状態を修正できます。その結果、ACB オンライン変更は機能しなくなります。

モジュール:

DFSXRBL0、DFSDBLD0、DFSDBLI0、DFSDBLP0

DFS652I *job.step.proc-PARM FIELD OMITTED*

説明

すべての IMS 実行ステートメントには PARM フィールドが含まれる必要があります。

システムの処置

異常終了コード 0652 が出されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSRRRA20

関連情報

[IMS 異常終了 0652](#)

DFS0653I **PROTECTED CONVERSATION PROCESSING WITH RRS ENABLED**

説明

IMS がリソース・リカバリー・サブシステム (RRS/MVS) と共に初期設定され、保護会話作業に参加する準備ができています。

システムの処置

処理は続行されます。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSRRSIO

DFS654I *job.step.proc-PARM FIELD TOO SHORT*

説明

EXEC ステートメントで指定されている PARM フィールドの長さが 3 文字より小でした。

システムの処置

異常終了コード 0654 が出されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSRRRA00

関連情報

[IMS 異常終了 0654](#)

DFS655I CTL RGN U780 RC=xxxx DUE TO
Syyy Uzzzz WHILE HOLDING A
LATCH IN MPP nnnnnnn

説明

IMS ラッチを保留している最中に、異常終了が発生し、これが原因で IMS 制御領域の異常終了を必要とするような重大な障害が起きました。

xxxx

異常終了 0780 の戻りコードを表します。個々の戻りコードの説明については、異常終了 0780 の情報を参照してください。

yyy

従属領域のシステム異常終了の異常終了コードを表します。(異常終了がユーザー異常終了である場合は、システム・コードは S000 で表されます)

zzzz

従属領域のユーザー異常終了の異常終了コードを表します。(異常終了がシステム異常終了である場合は、システム・コードは 0000 で表されます。)

nnnnnnn

終了する従属領域のジョブ名

モジュール:

DFSASK00

関連情報

[IMS 異常終了 0780](#)

DFS656I *job.step.proc*-PROTECT KEY
OPTION INVALID IN PARM FIELD

説明

オンライン制御プログラム (CTL) の EXEC ステートメントで指定されている値が無効でした。有効な値は 0 と 1 のみです。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、IMS START コマンドを再発行してください。

モジュール:

DFSRR20

DFS0657I IMS rrr ABEND Uaaaa
MODULE=mmmmmmmm
LABEL=lllllll R14=xxxxxxxx

説明

GSAM 初期設定プロセスでエラーを検出しました。変数フィールドは、次のように定義されています。

IMS rrr

IMS リリース・レベル

Uaaaa

IMS 異常終了コード

MODULE=

エラーを検出したモジュール

LABEL=

エラーが検出された固有のラベル。この値は、エラー理由コードに対応しています。IMS 異常終了コードについての情報を参照してください。

R14=

(エラーを発見したモジュールへの) BAL 戻り レジスター

システムの処置

プログラムは異常終了し、aaaa として識別されている異常終了コードが示されます。

オペレーターの応答

エラーの原因を判別し、問題を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFSZDI00

関連概念

[IMS 異常終了コード \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS658I *job.step.proc*-PROGRAM NAME
PARAMETER OMITTED FROM
PARM FIELD

説明

プログラム名パラメーターが PARM フィールドから省略されました。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSRR20

DFS0659I CTL RGN U780 RC=xxxx BECAUSE
CCTL yyyyyyyy WAS TERMINATED
WHILE DBCTL THREAD HELD
LATCH

説明

DBCTL スレッドが IMS 回復不能ラッチを保留している最中に、CCTL が終了しました。この問題は、IMS 制御領域の異常終了を必要とする重大な障害の原因でした。

xxxx

ラッチ・リカバリーで失敗した試みからの戻りコードを表します。戻りコードの説明については、IMS 異常終了 0780 の情報を参照してください。

yyyyyyyy

終了した CCTL 領域のジョブ名

モジュール:

DFSSDA30

関連情報

IMS 異常終了 0780

DFS660I *job.step.proc*-PARM FIELD
OMITTED FROM EXEC STATEMENT

説明

すべての IMS 実行ステートメントには、PARM フィールドが含まれる必要があります。

プログラマーの応答

PARM フィールドに関する情報を参照してください。

モジュール:

DFSRR00

関連概念

IMS 実行パラメーターの指定 (システム定義)

関連資料

IMS プロシージャのパラメーターの説明 (システム定義)

DFS0661I **CANNOT PROCESS /START
REGION COMMAND:
MEMBER=member_name JOB
NAME=job_name RC=X'xxxxxxxx'**

説明

示されているメンバー名およびジョブ名を使用した /**START REGION** コマンドが、次のいずれかの理由で失敗しました。

04

JOB ステートメントが PROCLIB メンバーから欠落しています。

08

不完全なステートメントが検出されました。

0C

IMSID パラメーターを EXEC ステートメントに追加できません。

10

パラメーター・フィールドの継続に誤りがあります。

14

EXEC ステートメントにパラメーターがありません。

18

PROCLIB が開けません。

1C

データ・セット・レコード・フォーマットが誤りです。

20

データ・セット・ブロック・サイズが誤りです。

24

PROCLIB メンバーが検出できません。インストリーム・プロシージャが総称 /**START REGION** コマンドでサポートされていません。

28

PROCLIB メンバーの最初のステートメントが JOB ステートメントではありません。

2C

プロシージャ・ステートメントが無効です。インストリーム・プロシージャが総称 /**START REGION** コマンドでサポートされていません。

30

EXEC ステートメントが欠落しています。

プログラマーの応答

メンバー名およびジョブ名が正しいか検証してください。また、示されているメンバーの JCL ステートメントもチェックしてください。必要な訂正を施し、コマンドを再発行してください。

モジュール:

DFSPMBRO

DFS662I *job.step.proc*-FIRST POSITIONAL
PARAM IN PARM FIELD IS
INVALID

説明

PARM フィールドの最初の定位置パラメーターが無効でした。

システムの処置

異常終了コード 0662 が出されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSRR00

関連情報

IMS 異常終了 0662

DFS0663I (*Message text varies for DFS0663I,
DFS0664W, and DFS0665E*)

説明

DFS0665E の説明を参照してください。

関連情報

DFS0665E

(Message text varies for DFS0663I, DFS0664W, and DFS0665E)

DFS0664W (Message text varies for DFS0663I, DFS0664W, and DFS0665E)

説明

DFS0665E の説明を参照してください。

関連情報

DFS0665E

(Message text varies for DFS0663I, DFS0664W, and DFS0665E)

DFS0665E (Message text varies for DFS0663I, DFS0664W, and DFS0665E)

説明

高速機能トレース・ルーチンがメッセージ DFS0663I、DFS0664W、および DFS0665E を出します。問題を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。受信したメッセージ番号とテキストのコピーを保管してください。

モジュール:

DBFTRAK0 (DFS0663I)、DBFTRAK0 (DFS0664W) および DFS0665E)

DFS0666I AREA xxxxxxxx COULD NOT BE PROCESSED DUE TO LOCK FAILURE

説明

xxxxxxx は、以下のいずれかの理由のため処理できませんでした。

- AREA LOCK が失敗したため、/START、/STOP、/DBR AREA、または /STOP ADS コマンドが処理できませんでした。
- AREA LOCK を保持している別のサブシステムが故障しているため、/STOP または /DBR AREA GLOBAL コマンドがリジェクトされました。

システムの処置

コマンド処理は終了します。

プログラマーの応答

2 番目の問題の場合は、GLOBAL キーワードではなく、LOCAL キーワードを使用してください。

モジュール:

DBFARDA0

DFS667I NON-REENTRANT MODULES HAVE BEEN PRELOADED

説明

プログラム・モジュール・プリロード機能によって、指定された再入不可プログラム・モジュールが領域/区画にロードされました。

モジュール:

DFSPCC20

DFS0668I PROCLIB BLKSIZE NOT MULTIPLE OF 80.

説明

IMS PROCLIB データ・セット・ブロック・サイズが 80 の倍数以外であることが、IMS 初期設定プロセスによって検出されました。論理レコード長は 80 である必要があります。

システムの処置

モジュールはプリロードされませんでした。初期設定が続行されます。

プログラマーの応答

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別

IMS PROCLIB の LISTCTLG および LISTVTOC を保管してください。

モジュール:

DFSRR00

DFS0669I PROCLIB RECFM NOT 'F' OR 'FB'

説明

IMS PROCLIB データ・セット・レコード・フォーマットが「固定」でも「固定ブロック」でもないことが、IMS 初期設定プロセスによって検出されました。

システムの処置

モジュールはプリロードされませんでした。初期設定が続行されます。

プログラマーの応答

IMS システム・プログラマーに連絡してください。IMS PROCLIB が使用可能であるためには、「F」または「FB」である必要があります。

問題判別

IMS PROCLIB コンソール・ログの LISTCTLG および LISTVTOC を保管してください。

モジュール:
DFSRRA00

DFS670I *job.step.proc*-MODULES HAVE
BEEN PRELOADED

説明

プログラム・モジュール・プリロード機能により、指定されたプログラム・モジュールが初期設定時に領域/区画にロードされました。

モジュール:
DFSPLDRO

DFS671I *job.step.proc* - FOR THIS
EXECUTION, DBRC IS SET TO
FORCE FORCE | YES | NO

説明

すべてのパラメーター処理の完了後、最終的な DBRC パラメーター設定が FORCE、YES、または NO でした。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSRRA70、DFSRRA80

DFS0671W MEMBER DFSIDEF0 NOT FOUND -
REQUIRED FOR INITIALIZATION

説明

IMS 初期設定に必要なメンバー DFSIDEF0 をロードできませんでした。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0015 が示されます。

プログラマーの応答

DFSIDEF0 モジュールは、構文チェッカーによって構築されます。

モジュール:
DFSRRA00

関連情報

[IMS 異常終了 0015](#)

DFS672I *job.step.proc* - MODULE DFSIDEF0
CONTAINS UNEXPECTED DATA

説明

オプションのデフォルト・モジュール DFSIDEF0 が正常にロードされましたが、内容の検証で予期しないデータが検出されました。

システムの処置

この IMS の実行には、初期デフォルトとして DBRC=YES が設定されます。

プログラマーの応答

DFSIDEF0 が正しくビルドされているかどうかを検証してください。

モジュール:
DFSRRA70、DFSRRA80

DFS0673E EPCB BUFFER REQUEST EXCEEDS
POOL SIZE. JOBNAME=*job_name*
REQ-SIZE=*X'req_size'*

説明

IMS は EPCB バッファーを取得しようとして、指定された長さが EPCB プール・サイズよりも大きいものでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

job_name
EPCB バッファーに対するストレージ要求を発行した従属領域ジョブの名前

req_size
要求された EPCB バッファーの長さ (16 進数)

システムの処置

従属領域は異常終了します。

オペレーターの応答

次の IMS 始動時にさらに大きい EPCB プール・サイズを指定するか、または従属領域の EPCB サイズ要件を小さくします。

モジュール:
DBFDBPV0

関連情報

[IMS 異常終了 0709](#)

DFS674I **job.step.proc-PROCLIB MEMBER
CONTAINS BLANK RECORD**

説明

IMS 初期設定プロセスは、IMS PROCLIB の指定されたメンバーの読み取り中に、無効なレコードを検出しました。最初の 71 文字が空白でした。

システムの処置

仮想取り出し (VF) のためにモジュールはプリロードまたは識別されずに、初期設定が実行されます。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

メッセージで *job.step.proc* によって示されたメンバーをチェックして、それが有効かどうかを確認してください。

モジュール:
DFSPLPPO

DFS675I **job.step.proc-PROCLIB MEMBER
DELIMITER NOT FOUND**

説明

IMS 初期設定プロセスで、IMS PROCLIB の指定されたメンバーからレコードをスキャン中に、以下のいずれか以外の文字を検出しました。

- ブランク - モジュールのリストを終了するために使用される
- コンマ - モジュール名の間で使用される
- \$#@ - 国別文字
- ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ - 英字
- 0123456789 - 数字

システムの処置

仮想取り出し (VF) のためにモジュールはプリロードまたは識別されずに、初期設定が実行されます。

モジュール:
DFSHLINO、DFSPLPPO

DFS676I **job.step.proc-NO MODULES HAVE
BEEN PRELOADED**

説明

プリロードに指定されたモジュールに適格モジュールがありませんでした。

システムの処置

モジュールはプリロードされませんでした。初期設定は続行されます。

オペレーターの応答

ご使用のシステムの IMS システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

プリロード機能が正しく使用されているかどうかを判断するには、システム定義の説明を参照してください。

問題判別:

1、8、36

モジュール:

DFSPLDRO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS677I **PERMANENT I/O ERROR ON JOB/
LINK/SVCLIB FOR FOLLOWING
MODULES:**

説明

モジュール・プリロードが、PDS ディレクトリーで STEPLIB、JOBLIB、SYS1.LINKLIB、または SYS1.SVCLIB をスキャンしているとき、入出力エラーを検出しました。このディレクトリーでのスキャンの対象になっていたモジュールがこのメッセージの後にリストされています。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0718 が示されません。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

プログラマーの応答

これが永続条件であると決まった場合は、PDS リカバリー手順どおりに行ってください。

問題判別:

1、4、8、36

モジュール:

DFSPLPPO

関連情報

[IMS 異常終了 0718](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS678I BLDL FAILED FOR FOLLOWING
 MODULES:**

説明

リストされているモジュールは、モジュール・プリロードが PDS ディレクトリーを スキャンしたとき検出されませんでした: STEPLIB、JOBLIB、SYS1.LINKLIB、または SYS1.SVCLIB

システムの処置

初期設定が続行されます。モジュールが LINKPACK になかった場合は、806 システム異常終了が生じます。

オペレーターの応答

806 システム異常終了が発生した場合は、ご使用のシステムの IMS システム・プログラマーに、ストレージ・メモリー・ダンプおよび z/OS コンソール印刷出力を提出してください。

プログラマーの応答

806 システム異常終了が生じた場合は、PDS を調べて損傷がないかチェックしてください。

問題判別:

1、4、36

モジュール:

DFSPLDR0、DFSPLPPO

関連資料

[z/OS: BLDL の完了コード](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS679I FOLLOWING MODULES NOT
 LOADED: *module_names***

説明

モジュール・プリロードは、リストされているモジュールのロードを試みましたが、z/OS に障害が起きたか、IMS モジュール・マネージャー (DFSMODU0) がロード要求をリジェクトしました。それぞれのモジュール名の後に戻りコードが続きます。IMODULE LOAD 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。

十分なストレージが使用不能な場合も、このメッセージが出される可能性があります。

システムの処置

モジュールのいずれかが IMS で必要とされる場合は、異常終了 0718 が後に続きます。モジュールのすべてがオプションの場合は、初期設定が 続行されます。

オペレーターの応答

ご使用のシステムの IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

JOB/STEPLIB PDS メンバー属性をチェックしてください。DASD パックにもたらされる可能性のある物理的損傷を避けたい場合は、ロードされなかったモジュールを再度バインドできます。

十分なストレージが使用可能でない場合は、必要に応じて、SQA、CSA、または領域サイズを大きくしてください。

問題判別:

1、4、36

モジュール:

DFSPLDR0

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0718](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS680I USING CHKPT *yyddd/hhmmss*

説明

システムが緊急または正常再始動用として、このチェックポイントを選択しました。

システムの処置

通常の処理が続けられます。

モジュール:

DFSBCPO

**DFS681I CHKPT *xxx* PSB *psbname* JOB
 jobname ID *userckptid* *yyy* *zzzzzz*
 [*X'nnnnnnnnnnnnnnnn'*]**

説明

IMS バッチまたはバッチ・メッセージ処理 (BMP) ジョブが CHKPT チェックポイント呼び出しを発行しました。バッチ・ジョブの場合は、xxx は DLI、yyy は SER、zzzzzz は出力ログの現行ボリューム通し番号で

す。BMP の場合は、xxx は BMP、yyy は DDN、zzzzzz は現行出力オンライン・ログ・データ・セット OLDS の DD 名です。

いずれの場合も、メッセージ・テキストの各項目は、次のとおりです。

- *psbname* は、チェックポイント呼び出しを実行した PSB の名前です。
- *userckptid* は、アプリケーション・プログラムによって指定された 8 バイトのチェックポイント ID 値です。
- *nnnnnnnnnnnnnnnn* が表示された場合は、チェックポイント ID の 16 進値の EBCDIC 表記です。

このメッセージが出ないように抑止するには、CKPTID=EXEC パラメーターで NOMSG681 をコーディングしてください。また、メッセージ DFS0540I および DFS0542I が出ないように抑止するには、NOMSGS をコーディングしてください。メッセージ DFS681I および DFS0542I だけを抑止したい場合は、NO681542 をコーディングしてください。

注：ほとんどの場合、チェックポイント ID は印刷可能汎用文字データで構成されます。チェックポイント ID が印刷可能汎用文字データで構成されている場合は、チェックポイント ID の 16 進値の EBCDIC 表記は表示されません。16 進値の EBCDIC 表記が表示される場合は、再始動目的のためにバイナリーに変換する必要があります。

システムの処置

通常の処理が続けられます。

モジュール:

DFSRDBL0、DFSRBLB0

DFS682I **BATCH-MSG PROGRAM *pgmname*
JOB *jobname* MAY BE RESTARTED
FROM CHKPT ID *id-value*
[X'*nnnnnnnnnnnnnnnn*']**

説明

次のいずれかが発生しました。

- IMS がチェックポイント **FREEZE** コマンドを処理中で、リストされているバッチ・メッセージ処理プログラムが、示されているチェックポイント ID 値を使用して、CHKP 呼び出しを行った。
- 緊急時再始動処理時に、リストされているバッチ・メッセージ処理プログラムがシステム障害発生時点で処理中だった。示されている CHKPT-ID は、出された最後の CHKP 呼び出しでした。CHKP 呼び出しが出された時点で存在していた状況を反映するために、すべてのデータベースおよびメッセージ・キューが復元されています。

注：このメッセージが緊急時再始動時に出力された場合は、*jobname* と *psbname* は同じです。

- 示されている CHKPT-ID は、リストされているバッチ・メッセージ処理プログラムの異常終了前に出された最後の CHKP 呼び出しでした。CHKP 呼び出しが出された時点で存在していた状況を反映するために、すべてのデータベースおよびメッセージ・キューが復元されています。

注：ほとんどの場合、チェックポイント ID は印刷可能汎用文字データで構成されます。チェックポイント ID が印刷可能汎用文字データで構成されている場合は、チェックポイント ID の 16 進値の EBCDIC 表記は表示されません。EBCDIC 16 進値 *nnnnnnnnnnnnnnnn* が表示される場合は、再始動目的のためにバイナリー値に変換する必要があります。

システムの処置

通常の処理が続けられます。

オペレーターの応答

(マスター端末) 次のいずれかの処置を取ってください。

- バッチ・メッセージ処理プログラムがメッセージ・キューからメッセージを読み取り、再始動ルーチンを必要としない場合は、プログラムを通常の方法で開始してください。
- バッチ・メッセージ処理プログラムがキューからメッセージを読み取らないか、再始動ルーチンを必要とする場合は、プログラムをリストされているチェックポイント ID から再始動してください。

問題判別

4、再始動に使用されているログ・データ・セット、または現行 IMS システム・ログ (再始動が進行中でない場合)。

モジュール:

DFSRBLB0、DFSRBOI0、DFSRDBL0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS683I ***nnnnn* DFS681I MESSAGES
SKIPPED FOR BMP=*PSBNAME*
JOB=*JOBNAME***

説明

このメッセージが出されるのは、バッチ/BMP 領域ごとに多数 *nnnnn* の DFS681I メッセージが省略されたときです。ユーザーは、バッチ/BMP 領域内で毎秒出される DFS681I メッセージの最大数を指定できます。これは、DFSVMxx メンバー内の OPTION,ISSUE681= ステートメントで行われます。これらのメッセージの一部

が結果として省略されると、DFS683I によって省略された数が示されます。

システムの処置

通常の処理が続けられます。

オペレーターの応答

多数の DFS681I メッセージが 1 つの BMP 領域に関してスキップされる場合は、アプリケーションがループしている可能性があります。ご使用のシステムの IMS システム・プログラマーに連絡してください。

モジュール

DFSRDBLO

関連情報

244 ページの『DFS681I』
CHKPT xxx PSB *psbname* JOB *jobname* ID
userckptid *yyy* *zzzzz* [X'*nnnnnnnnnnnnnnnnnn*']

DFS684I ***job.step.proc*-CTL PROGRAM NOT EXECUTED, SVC INITIALIZATION FAILED**

説明

IMS タイプ 2 SVC 初期設定が失敗しました。障害の理由として、次のものが考えられます。

- すでに実行中のものと同じ IMSID の IMS 制御領域の 2 番目のコピーを開始する試みがなされた。同じ IMSID を使用した、以前の IMS の実行で IMS の SVC の終了が失敗した場合も、これが起こる可能性があります。
- IMS SDFSRESL が許可されていないか、IMS SVC モジュールが無許可ライブラリーからロードされようとした。
- 領域サイズが小さすぎる。
- 使用可能な CSA が不十分である。

異常終了コード 0684 とメッセージ DFS686W が、このメッセージに伴います。

システムの処置

異常終了コード 0684 を出した領域は異常終了します。

プログラマーの応答

次のいずれかを実行してください。

- 重複した IMSID 状態を訂正し、ジョブを再実行する。
- IMS SDFSRESL が許可されていることを確認するか、IMS SVC モジュールが入っている許可ライブラリーを指す DFSRESLB DD ステートメントを組み込む。

- 領域サイズを大きくする。
- 追加 CSA を割り振り、システムの IPL を行う。

追加情報については、異常終了コード 0684 とメッセージ DFS686W を参照してください。

モジュール:

DFSRRRA00

関連情報

異常終了 0684

DFS686W

IMS *jobname* *imsid* INIT/TERM (*nn*) FAILURE
RC=*xxxxyyzz*

DFS0685I **WRITE TO INTERNAL READER FAILED: DDNAME=*data_set_name* MEMBER=*member_name* JOB NAME=*job_name***

説明

示されているメンバーの内部読み取りプログラムへの書き込みが失敗しました。

プログラマーの応答

内部読み取りプログラムが出したメッセージがあれば、それをチェックしてください。メンバー、データ・セット、およびジョブ名が正しいか検証してください。必要な訂正を施し、コマンドを再発行してください。

モジュール:

DFSPMBRO

DFS686W **IMS *jobname* *imsid* INIT/TERM (*nn*) FAILURE RC=*xxxxyyzz***

説明

SVC 初期設定または終了の障害が処理中に発生しました。*jobname* および *imsid* が IMS システムを識別しています。*imsid* フィールドが N/A であるのは、*imsid* がメッセージの発行時に使用不能であった場合です。機能コード *nn* は、エラー発生時に処理中の SVC 初期設定または終了の機能を示しています。機能コードの値として表示される可能性があるものは、次のとおりです。

コード
機能

- 01** INITSVC、SVC 初期設定
- 02** INITDEP、従属領域初期設定
- 03** 予約済み
- 04** TERMSVC、SVC 終了

- 05** TERMDEP、従属領域終了
- 06** 予約済み
- 07** INITSCD、IMS SVC ベクトル・テーブルの SCD の初期設定
- 08** KILLSVC、SVC ディレクトリー・エントリーをクリア
- 09** INITBAT、バッチ領域初期設定

戻りコード xxxxyyzz は、障害のタイプおよび障害が発生した場所を示しています。

xxxx
 ゼロ以外の場合、xxxx は、SVC によって呼び出されたサービスからの戻りコードです。IMODULE および IMSAUTH の障害については、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。

yy
 メッセージを発行したモジュール。

03=DFSVC200
 05=DFSVCI00

zz
 発生した障害のタイプを示す、SVC モジュールからの戻りコード。

DFSVC200 障害に関する yyzz の値は、次のとおりです。

- 301** GETMAIN が DFSVCI00 パラメーター・リストに関して失敗しました。
- 302** 無効な機能。
- 303** SVC ディレクトリー・ブロックがゼロ、または領域に関するディレクトリー・エントリーが見つかりません。
- 304** 呼び出し元の領域タイプが要求では無効です。
- 305** ベクトル・テーブル・アドレスがゼロです。
- 306** SVC リリースに IMS リリースとの互換性がありません。
- 307** SVC 番号が SSCD/SCD で無効です。
- 308** GETMAIN が DCB 作業域に関して失敗しました。
- 309** SSCD コピーが失敗しました。

30A
 SVC 番号が、SVC の妥当性検査後、SSCD で変更されました。

30B
 SCD アドレスがゼロです。

30C
 RMPL アドレスがゼロです。

30D
 許可された機能に対する無許可の呼び出し元。

30E
 無効な SCDRGTYYP 値。

30F
 オンライン IMS 呼び出し元がシステム・キー内にありません。

DFSVCI00 障害に関する yyzz の値は、次のとおりです。

- 501** 無効な機能。
- 502** 無効の呼び出し元
- 503** 重複 IMSID
- 505** GETMAIN が SVC ディレクトリー・ブロックに関して失敗しました。
- 506** GETMAIN が SVC ベクトル・テーブルに関して失敗しました。
- 507** IMSAUTH BLDSSCT が失敗しました。
- 508** DLS/LSO テーブルに関する IMODULE LOAD が失敗しました。
- 509** IMS SVC ルーチンの IMODULE LOAD が失敗しました。
 バッチ IMS の場合、このルーチンは DFSAOS70、DFSV4200、DFSV4300、または DFSV4400 のいずれかです。
 これらのモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
 オンライン IMS の場合、このルーチンは DFSAOS70、DFSASK00、DFSBCK00、DFSICSC0、DFSUICC0、DFSV4100、DFSV4200、DFSV4300、DFSV4400、または DFSVES00 のいずれかです。
 これらのモジュールが IMS SDFSRESL データ・セット内にあることを確認してください。

- 50A**
DFSAOSF0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 50B**
DFSISI00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。
- 50C**
GETMAIN が SSVT に関して失敗しました。
- 50D**
呼び出し元が無効の SVC 番号を使用しています。
- 50E**
キー 7 SCD に関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。
- 50F**
IMSAUTH SSCTSCD が失敗しました。
- 510**
DFSSTM00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 511**
DFSKPXT0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 512**
DFSTOPR0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 513**
CBT ヘッダーに関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。
- 514**
DFSBC000 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 515**
DFSCBT10 ブロックの初期設定不能です。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 516**
CBTE ブロックの初期設定不能です。
- 517**
DFSSPF00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 518**
DFSLMGRO に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 519**
GETMAIN が DFSSTM00 作業域に関して失敗しました。
- 51A**
SRBC IPAGE の取得不能です。
- 51B**
呼び出し元が渡した SSCD ブロック内の SSCD の目印が無効です。
- 51C**
DFSLRH00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 51D**
モジュールが IMS リリースと互換性のないレベルでアセンブルされました。
- 51E**
バッチ領域初期設定が失敗しました。同じアドレス・スペース内の 2 つの IMS イメージが同じ IMS ID を使用しています。
- 51F**
バッチ領域初期設定が失敗しました。同じ TSO アドレス・スペース内に 2 つの IMS イメージがあります。
- 520**
バッチ領域初期設定が失敗しました。同じアドレス・スペース内の 2 つの IMS イメージが、同じ TCB を使用しています。
- 521**
従属領域初期設定が失敗しました。同じアドレス・スペースに 2 つの IMS イメージがあり、同じ IMS ID で、一方のイメージは従属領域ではありません。
- 522**
従属領域初期設定が失敗しました。2 つの IMS イメージが同じアドレス・スペースにあり、同じ IMS ID で、両方とも従属領域ですが、TCB が異なります。(これは、制御領域が起動するのを待ち、SVC INIT 再試行論理をやり通す従属領域ではありません。)
- 523**
従属領域初期設定が失敗しました。同じアドレス・スペースに 2 つの IMS イメージがあり、一方のイメージは制御領域です。
- 524**
従属領域初期設定が失敗しました。同じ TSO アドレス・スペース内に 2 つの IMS イメージがあります。
- 525**
従属領域初期設定が失敗しました。同じ非 TSO アドレス・スペースに 2 つの IMS イメージがあり、それらは制御領域ではありませんが、同じ TCB です。
- 526**
DFSDCFR0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。

527

DFSDXES0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。

528

DFSDMAW0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。

529

キー 7 CFB に関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。

52A

DFSDCF00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。

52B

DFSRRSBO に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。

52C

モジュール DFSRTMIO をロードできません。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。

52D

IMS 用のリソース・クリーンアップ環境を確立できません。

52E

IMS は、z/Architecture® モードで実行されていないマシンで開始されました。IMS を実行するには、z/Architecture モードであることが必要です。

52F

IMS は、64 ビット仮想ストレージ・サービスをサポートしない z/OS リリースで開始されました。IMS を実行するには、64 ビット・ストレージ・サービスが必要です。

530

IMODULE サービスの初期設定が失敗しました。失敗についての詳細は、先行する DFS4342E メッセージを参照してください。メッセージ内の xxxx は、IMODULE サービス初期設定モジュール DFSMODX0 からの戻りコードです。

531

IMS が、サポートされないプロセッサ・タイプで開始されました。IMS 15 以降では、System z10® プロセッサ (マシン・タイプ 2097) 以上が必要です。サポートされるプロセッサの詳しいリストについては、「IMS V15 リリース計画」を参照してください。

532

INITBAT 呼び出しが二重で行われました。バッチ SVC 初期設定で DFSVCI00 が呼び出されましたが、バッチ初期設定が既に行われていました。

533

バッチ SVC 初期設定で DFSVCI00 が呼び出されましたが、領域タイプはそれがバッチ IMS 領域であることを示していませんでした。

534

DFSMDA00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。

535

ダイレクト・ロード・サブルーチンで、BLDL の GETMAIN が失敗しました。

536

BLDL は、ダイレクト・ロード・サブルーチンで要求されたモジュールを見つけられませんでした。

537

モジュール・ダイレクト・ロード用の STORAGE OBTAIN が失敗しました。

538

LOAD はストレージへのモジュールのロードに失敗しました。

539

PGSER PROTECT モジュールの DFSISIO0 が失敗しました。

システムの処置

SVC 初期設定または終了の処理が終了しました。SVC モジュールは戻りコードを呼び出し元に渡し、呼び出し元は IMS 異常終了を発行する場合があります。

プログラマーの応答

障害の原因を判別し、問題を訂正してください。IMODULE LOAD に関する IMS バッチ・ジョブの DFSVCI00 エラーの場合、ロードされるモジュールは APF 許可ライブラリーから取得されたものでなければなりません。バッチ・ジョブで DFSRESLB DD ステートメントを使用している場合は、の『Specifying the DFSRESLB DD statement in IMS batch procedures』にリストされているモジュールがすべて DFSRESLB に含まれていること、および DFSRESLB DD 連結内のすべてのデータ・セットが APF 許可されていることを確認してください。

問題判別:

1、11、36

モジュール:

DFSVCI00、DFSV200

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

[プロセッサ要件 \(リリース計画\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS687I **DBRC INDICATES DBD=x WITHIN
PSB=y WITH TOKEN=z WAS
BACKED OUT, RIS HAS BEEN
PURGED.**

説明

IMS がリカバリー可能な未確定構造 (RIS) を構築しようとしているときに、PSB=y 内のデータベース x がトークン z によって識別されているリカバリー単位の下で変更され、バッチ・バックアウトを通じてバックアウトされたことを、DBRC が IMS に通知しました。オンライン領域は、変更されたデータが未確定状態にあると見なしました。

システムの処置

オンライン・システムは、識別されているデータベースを停止しますが、リカバリー可能な未確定構造をデータのために構築することはありません。

プログラマーの応答

データのバックアウトが意図されていた場合は、 / **START DB** または **UPDATE DB START (ACCESS)** コマンドを使用すると、データベースが使用可能になります。しかし、データのバックアウトが意図されていなかった場合や、複数の Resource Manager が関わっている場合は、未確定データの解決のために調査する必要があります。

モジュール:
DFSDRISO

DFS688I **job.step.proc-CANCELED BY
OPERATOR. CTL PGM NOT ACTIVE
hh.mm.ss**

説明

制御領域がアクティブではありませんでした。この状態は、従属領域パラメーター分析によって判別されました。ジョブ・ステップは次の理由で取り消されました。

- 取り消しオプション (OPT=C) が従属領域 EXEC ステートメントで指定された。
- オペレーターがエラー・メッセージ DFS690A に対する応答として、CANCEL または C を入力した。

モジュール:
DFSRR00

関連情報

250 ページの『DFS690A』
CTL xxxx NOT ACTIVE, REPLY 'WAIT' OR
'CANCEL' - yyyyyyyy

DFS689I **job.step.proc--DBRC/DLS REGION
CANCELED HH.MM.SS**

説明

DBRC と DL/I のいずれかの従属アドレス・スペース領域が、その関連制御領域に正常に接続できませんでした。制御領域が異常終了した可能性が大了。

システムの処置

示されている領域は異常終了 0689 で終了します。

プログラマーの応答

異常終了コード 0689 を参照してください。

モジュール:
DFSRR00
関連情報
異常終了 0689

DFS690A **CTL xxxx NOT ACTIVE, REPLY
'WAIT' OR 'CANCEL' - yyyyyyyy**

または

**job.step.proc-CTL PGM NOT ACTIVE, REPLY 'WAIT'
OR 'CANCEL' OR 'alt-id'**

説明

このメッセージには 2 つの形式があります。データベース制御 (DBCTL) サブシステム環境で、コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが識別を試みた先の IMS 制御プログラムが、アクティブではありませんでした。非アクティブ IMS 制御プログラムは xxxx で、識別する CCTL は yyyyyyyy です。

このメッセージの 2 番目の形式の場合、従属領域が実行を開始したとき、IMS 制御またはデータベース制御 (DBCTL) 領域がアクティブではありませんでした。

システムの処置

WAIT を入力した場合は、従属領域は待ち、CANCEL を入力した場合は、従属領域は終了します。このどちらも指定しなかった場合は、従属領域では応答を、識別を試みる先となる代替制御領域の名前として使用します。

WAIT を入力した場合は、CCTL は、識別を再度試みる前に待ちます。CANCEL を入力した場合は、現行初期設定トランザクションが終了します。

ddddddddd

エラーを検出しているデータ・セットのデータ定義名 (ddname)。

システムの処置

ゼロ以外の戻りコードが OSAM の呼び出し元に渡されます。要求された機能 (OPEN、CLOSE、または EOV) に応じて、呼び出し元は、追加のエラー・メッセージを表示するか、またはエラーを無視して処理を続行することができます。

プログラマーの応答

このメッセージの目的は、無視可能異常終了条件が生じた事実を記録することにあります。異常終了は、例えば、名前変更または削除されたデータ・セットをクローズしている最中は、予測または許可される場合があります。この異常終了が、VTOC を処理中かファイル・マークをデータ・セットに書き込み中の入出力エラーの結果である場合は、データ・セットのタイプ (データベース、IMS システム・データ・セット、またはログ・データ・セット) によって、従うべきリカバリー処理が決まります。

問題判別:

1、2、27

モジュール:

DFSAOSFO

関連資料

[z/OS: システム完了コード](#)

**DFS0696I COMMAND REJECTED, UNABLE TO
 GET STORAGE**

説明

コマンド・モジュールがストレージの取得を試みましたが、使用したパラメーターが無効でした。ストレージ・マネージャーがストレージ要求をリジェクトしました。コマンドは処理できません。この問題は内部エラーであり、システム・プログラマーによる処置が必要です。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

コマンドが失敗した時点で、ストレージ・マネージャー・トレースがアクティブである場合は、ストレージ要求の失敗に関連したトレース・ログ・レコードを検索してください。

コマンドが失敗した時点でストレージ・マネージャー・トレースがアクティブでなかった場合は、**/TRACE SET ON TABLE STRG** コマンドを使用してトレースをオンにしてください。コマンドを再入力してください。コマンドが再度失敗した場合は、関連ストレージ・マネージャー・トレース・ログ・レコードで必要な情報を検索してください。

モジュール:

DFSICA20、DFSICLI0、DFSICLM0、DFSICL60、DFSICL90、DFSICV40、DFSIC410、DFSIC460

**DFS697I IMODULE FAILED REG15=xx IN
 DFSDINB0 FOR EPLOC=yyyyyyyyy**

説明

IMODULE LOAD または IMODULE GETMAIN が、データベース制御 (DBCTL) サブシステム初期設定 (DFSDINB0) 中に失敗しました。レジスター 15 に、IMODULE ルーチン (DFSMODU0) からの戻りコードが入ります。戻りコードの意味については、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。フィールド yyyyyyyy は、エラーが発生した DFSDINB0 内ロケーションです。

システムの処置

DBCTL 専用システムの場合、IMS は IMODULE LOAD の障害については異常終了 0718 を発行し、IMODULE GETMAIN の障害については異常終了 0580 を発行します。

オンライン DBCTL システムの場合、オンライン・システムは実行を継続し、IMS はコーディネーター制御 (CCTL) サブシステムに DBCTL 初期設定が失敗したことを知らせます。

プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡して、問題の診断について支援を受けてください。

モジュール:

DFSDINB0

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0580](#)

[IMS 異常終了 0718](#)

**DFS0698W PROTECTED CONVERSATION
 PROCESSING NOT ENABLED - RRS
 IS NOT AVAILABLE**

説明

IMS は、z/OS システムの z/OS リソース・リカバリー・サービス (RRS) で初期設定を試みましたが、RRS がアクティブではありません。

システムの処置

処理は続行されます。

ユーザーの処置

保護会話処理を使用したい場合は、RRS をアクティブにしてください。IMS と RRS は自動的に接続し、再始動を調整して実行します。そこで、保護会話処理が使用可能になります。

モジュール:
DFSRRSIO

**DFS06 PROTECTED
98W CONVERSATION
PROCESSING
NOT ENABLED -
UNABLE TO
BUILD VECTOR
TABLE OF RRMS
SERVICES**

**NOT ENABLED -
UNABLE TO
REGISTER AS A
RESOURCE
MANAGER
RC=XXXXXXXX**

説明

IMS は、Resource Manager として RRMS 登録サービスに登録できませんでした。戻りコード xxxxxxxx は、CRGGRM サービスからです。

説明

IMS は、SYSQ.CSSLIB からの RRMS サービスの内部ベクトル・テーブルを作成できませんでした。

システムの処置

保護会話処理は、この IMS のインスタンスについて使用不可にされ、再始動処理が続行されます。

ユーザーの処置

IMS との保護会話を使用したい場合は、SYSQ.CSSLIB に RRMS サービス・スタブ (CRG、CTX、および ATR モジュール) が含まれていることを確認してください。その後、IMS を再始動します。

モジュール:
DFSRRSIO

**DFS06 PROTECTED
98W CONVERSATION
PROCESSING**

システムの処置

保護会話処理は、この IMS のインスタンスについて使用不可にされ、再始動処理が続行されます。

ユーザーの処置

保護会話処理を使用したい場合は、IMS を再始動してください。

モジュール:
DFSRRSIO

関連資料

z/OS:
Resource Manager
(CRGGRM、
CRG4GRM) の登録

**DFS06 PROTECTED
98W CONVERSATION
PROCESSING**

**NOT ENABLED
DUE TO ABEND
WXXXX REASON
CODE= yyyyyyyy
RRS
RC=zzzzzzzz**

説明

IMS が、再始動中または z/OS リソース・リカバリー・サービス との再同期処理中に異常終了しました。

W

S (システム異常終了) または U (ユーザー異常終了)

XXXX

異常終了コード。システム異常終了コードは 16 進数で、ユーザー異常終了コードは 10 進数です。

YYYYYYYY

異常終了理由コード (該当する場合)

ZZZZZZZZ

RRS サービスからの戻りコード (該当する場合)

システムの処置

保護会話処理は、この IMS のインスタンスについて使用不可にされ、再始動処理が続行されます。

ユーザーの処置

保護会話処理を使用したい場合は、IMS を再始動してください。

モジュール:
DFSRRSIO

**DFS06 PROTECTED
98W CONVERSATION
PROCESSING
NOT ENABLED -
NOT
SUPPORTED IN
LSO=Y
ENVIRONMENT**

説明

ローカル・ストレージ・オプション環境では z/OS リソース・リカバリー・サービス サポートを提供できません。

システムの処置

処理は RRS なしで続行されます。

ユーザーの処置

RRS 接続が必要な場合は、LSO=S を指定する必要があります。

モジュール:
DFSIRSTO

**DFS06 PROTECTED
98W CONVERSATION
PROCESSING
NOT ENABLED -
OPERATOR
DECISION**

説明

オペレーターは DFS0548A メッセージに対して CANCEL で応答します。

システムの処置

システムは z/OS リソース・リカバリー・サービス なしで続行します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSRRSIO

関連情報

196 ページの
『DFS0548A』
RRS NOT ACTIVE
BUT RRS=Y
SPECIFIED -
REPLY: RETRY,

CONTINUE OR
CANCEL

**DFS06 PROTECTED
98W CONVERSATION
PROCESSING
NOT ENABLED -
PREVIOUS
ACTIVE IMS
HAS NOT
TERMINATED**

説明

RRS=Y が指定されているため、IMS は z/OS リソース・リカバリー・サービスで出口を設定しようと試みました。この IMS がすでに RRS で出口を設定したことを示す戻りコードが受信されました。これは、以前のアクティブまたは古い XRF アクティブが終了していない場合に起こります。

システムの処置

システムは、重大度を示すためにこのメッセージを強調表示し、他の処理とは非同期で、出口を設定しようと繰り返し試みます。

オペレーターの応答

たとえ手動の処置が必要でも、以前のアクティブが終了していることを確認します。

モジュール:
DFSRRSIO

**DFS06 PROTECTED
98W CONVERSATION
PROCESSING
NOT ENABLED -**

**DFS0699I RESYNC (COMMIT|ABORT)
COMPLETE FOR PSB xxxxxxxx,
PRTKN=yyyyyyyy,
TOKEN=zzzzzzzz, RRS-
URID=xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
xxxxx**

**PREVIOUS RRS
SYSTEM HAS
NOT
TERMINATED**

説明

IMS は、ATRIBRS (再始動開始) 呼び出しから ATR_RESTART_WRONG_SYSTEM 戻りコードを受信しました。このコードは、IMS が誤ったシステム上で再始動中であることを示しています。これは、IMS が別のシステム上で開始されようとしているか、XRF 代替システムがトークンオーバーを行おうとしている事例です。z/OS リソース・リカバリー・サービスは、解決すべき作業が存在する場合、Resource Manager が以前と同じシステム上で再始動されることを必要とします。ただし、以前のシステム上で RRS が非アクティブである場合は除きます。

システムの処置

IMS は RRS なしで処理を続行しますが、RRS を使用した再始動を繰り返し試みます。

オペレーターの応答

たとえ手動の処置が必要でも、以前のアクティブが終了していることを確認します。

モジュール:
DFSRRSIO

説明

フェーズ 2 COMMIT または ABORT プロセスが、疑似トークン yyyyyyyy および PSB xxxxxxxx によって識別されている未確定作業単位 (UOW) に関して完了しました。IMS リカバリー・トークンは zzzzzzzz です。UOW が保護会話の一部であった場合は、z/OS リソース・リカバリー・サービス (RRS) リカバリー単位インタレスト・トークン xxxxxxxx も指定されます。

モジュール:
DFSDRIDO

**DFS700I INVALID CONTROL CARD FORMAT.
SUBCODE=xxxx**

説明

このメッセージより前に印刷された制御ステートメントにエラーがあります。

システムの処置

制御ステートメントは無視され、標準的なデフォルトが使用されます。

プログラマーの応答

これはユーザー・エラーです。制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。以下のサブコード xxxx リストを参照して、エラーを判別してください。

コード
メッセージのサブコード

- 0001** 制御ステートメントの 10 桁目が無効
- 0002** SKIP キーワードに値がない
- 0003** SKIP が 2 回指定されている
- 0004** SKIP 値が長すぎる
- 0005** SKIP 値が無効
- 0006** STOPAFT キーワードに値がない
- 0007** STOPAFT が 2 回指定されている
- 0008** STOPAFT 値が範囲外
- 0009** STOPAFT 右括弧が欠落
- 0010** STOPAFT コンマが欠落

0011
STOPAFT 値が長すぎる

0012
STOPAFT 値が無効

0013
DDNAME キーワードに値がない

0014
DDNAME が 2 回指定されている

0015
DDNAME 値が長すぎる

0016
DDNOUT キーワードに値がない

0017
DDNOUT が 2 回指定されている

0018
DDNOUT 値が長すぎる

0019
16 桁目に無効のキーワード

0020
未使用

0021
未使用

0022
未使用

0023
D= キーワードに値がない

0024
K= キーワードに値がない

0025
H= キーワードに値がない

0026
O= キーワードに値がない

0027
未使用

モジュール:
DFSERA10

第 18 章 DFS メッセージ DFS701I - DFS0750I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS701I INVALID CARD TYPE.

説明

ステートメントの 1 桁目に CONTROL、OPTION、*、または END が入っていません。

システムの処置

ステートメントは印刷され、無視されます。処理は続行されます。

プログラマーの応答

ステートメントを訂正するか、入力データから除去して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSERA10

DFS702I INVALID OPTION CARD OR PRIOR ERROR. SUBCODE=xxxx

説明

メッセージ・テキストで xxxx によって示される OPTION ステートメントがエラーであるか、以前のエラーが原因でこのステートメントが無視されました。

プログラマーの応答

オプション・ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。以下のサブコード・リストを参照して、エラーを判別してください。

xxxx

メッセージのサブコード

0001

キーワードは 10 桁目が無効

0002

オプション・ステートメントに無効のキーワード

0003

V= キーワードに値がない

0004

VALUE= キーワードに値がない

0005

同じオプションに SYM= & VALUE= キーワード

0006

VALUE= が 2 回指定されている

0007

VALUE= & にシンボル名がない

0008

VALUE= &symbol、シンボル名 > 8

0009

FLDTYP キーワードに値がない

0010

FLDTYP が 2 回指定されている

0011

FLDTYP が無効

0012

COND= キーワードが 2 回指定されている

0013

COND= キーワードに値がない

0014

COND=T に Y または N がない

0015

COND= のブランクまたはコンマが欠落

0016

FLDLLEN が COND=T と一緒に使用されている

0017

COND= 値が無効

0018

FLDLLEN キーワードに値がない

0019

FLDLLEN が 2 回指定されている

0020

FLDLLEN 値が長すぎる

0021

FLDLLEN 値が無効

0022

FLDLLEN 値が範囲外

0023

OFFSET= キーワードに値がない

0024

OFFSET= が 2 回指定されている

0025

OFFSET= 値が長すぎる

0026

OFFSET= 値が無効

0027

OFFSET= 値が範囲外

0028

未使用

0029

SYM= キーワードに値がない

- 0030**
SYM= 先頭文字が '&' ではない
- 0031**
SYM= が 2 回指定されている
- 0032**
SYM=& にシンボル名がない
- 0033**
SYM=&symbol、シンボル名 > 8
- 0034**
STOPAFT= キーワードに値がない
- 0035**
STOPAFT= が 2 回指定されている
- 0036**
STOPAFT= 値が長すぎる
- 0037**
STOPAFT= 値が無効
- 0038**
STOPAFT= 値が範囲外
- 0039**
STARTAF= キーワードに値がない
- 0040**
STARTAF= が 2 回指定されている
- 0041**
STARTAF= 値が長すぎる
- 0042**
STARTAF= 値が無効
- 0043**
STARTAF= 値が範囲外
- 0044**
STOPAFT= が COND=E なしで使用されている
- 0045**
STARTAF= が COND=E なしで使用されている
- 0046**
C= 値が無効
- 0047**
EXITR= キーワードに値がない
- 0048**
EXITR= が 2 回指定されている
- 0049**
EXITR= 値が長すぎる
- 0050**
未使用
- 0051**
未使用
- 0052**
未使用
- 0053**
未使用
- 0054**
DDNAME= キーワードに値がない
- 0055**
DDNAME= が 2 回指定されている
- 0056**
DDNAME= 値が長すぎる
- 0057**
PRTSYS= キーワードに値がない
- 0058**
PRTSYS= が 2 回指定されている
- 0059**
PRTSYS= にオプション COPY がない
- 0060**
PRTSYS= 値が無効
- 0061**
H= キーワードに値がない
- 0062**
B= キーワードに値がない
- 0063**
O= キーワードに値がない
- 0064**
L= キーワードに値がない
- 0065**
C= キーワードに値がない
- 0066**
T= キーワードに値がない
- 0067**
E= キーワードに値がない
- 0068**
未使用
- 0069**
D= キーワードに値がない
- 0070**
P= キーワードに値がない
- 0071**
PARM パラメーターが複数回指定されている
- 0072**
PARM パラメーターが指定されていない
- 0073**
PARM リストのフォーマット・エラー (左括弧の欠落)
- 0074**
PARM リストのフォーマット・エラー (長さが 3 より小)
- 0075**
PARM リストのフォーマット・エラー (長さが 258 より大)
- 0076**
PARM リストのフォーマット・エラー (右括弧の欠落)

0077

FLDLEN または FLDTYP が指定されましたが、VALUE が指定されていません。

モジュール:
DFSERA10

DFS703I NORMAL END OF JOB.

説明

プログラムは終了していますが、制御不能エラーはありません。エラー・メッセージは印刷された可能性があります。異常終了条件は起こりませんでした。

プログラマーの応答

すべてのオプションが正常に完了したか検証してください。

モジュール:
DFSERA10

DFS704I NO OPTION CARDS SUPPLIED.

説明

このメッセージは、次のいずれかの理由で出されました。

- OPTION ステートメントが省略されました。
- エラーのため、すべてのオプションが無視されました。

システムの処置

テスト・シーケンスが無視されました。

プログラマーの応答

OPTION ステートメントが省略されていた場合は、必要に応じて OPTION カードを組み込んでください。

それ以外の場合は、前に SYSOUT 印刷で指摘されたエラーを訂正してください。

モジュール:
DFSERA10

DFS705I UNABLE TO OPEN INPUT FILE.

説明

最後の制御ステートメントに関連したデータ・セットの OPEN が失敗しました。

システムの処置

エラー・メッセージが印刷され、処理は次の入力ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

JCL が正しか検証し、データ・セットで標準ラベルが使用されていない場合は、DCB パラメーターが指定されているか検証して、ジョブを再実行してください。

モジュール:
DFSERA10

DFS706I ELEMENT LIST ERROR.

説明

RC=04 であるのは、DFSERA10 が重複シンボルを検出したか、VALUE= オプションで指定されたシンボルが検出されなかった場合です。そのシンボルが入っている VALUE= ステートメントより前で、SYM= ステートメントを指定する必要があります。

システムの処置

処理は終了し、次のテスト・シーケンスが構成されません。

プログラマーの応答

以前のエラーが印刷されていた場合は、それらを訂正して、ジョブを再実行してください。

問題判別

エラーが引き続き発生する場合は、2、4、36 を参照してください。

モジュール:
DFSERA10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS707I END OF FILE ON INPUT.

説明

入力ファイルが EOF に達しました。現行テスト・シーケンスは終了します。

モジュール:
DFSERA10

DFS708I OPTION COMPLETE.

説明

現行テスト・シーケンスは終了します。

システムの処置

処理は次のシーケンスに続きます。

モジュール:
DFSERA10

DFS709I UNABLE TO OPEN OUTPUT FILE.

説明

最後の制御ステートメントに関連したデータ・セットのOPENが失敗しました。

システムの処置

エラー・メッセージが印刷され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

JCLが正しく検証し、データ・セットで標準ラベルが使用されていない場合は、DCBパラメーターが指定されているか検証して、ジョブを再実行してください。

モジュール:
DFSERA10

DFS710A UCF TERMINATING DUE TO STOP REQUEST

説明

ユーティリティー制御機能の下で処理中に、システム・オペレーターが「処理の停止」を要求したか、制御機能はその制御ステートメントにEXEC=STOPを含めました。

システムの処置

処理は停止し、戻りコード4が次のステップに渡されます。

プログラマーの応答

処理がさらに必要な場合は、ユーティリティー制御機能の下での再始動に対応できるようにJCLを変更し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

1、2、8、11、36。また、DFSYSINデータ・セット内のFUNCTION=OP,MSGNUM=710制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DDステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCF00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMSメッセージおよびコードの問題判別は、IBMによって確立された手順を使用して行われます。

DFS711W

**VERIFY FAILED FOR module/
database csect/data set ON
REQUEST nnnn FOR FUNCTION ff**

説明

ZAP機能(ff)の処理中に、データの検査が失敗しました。moduleとcsect、またはdatabaseとdata setが識別されています。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

入力制御ステートメント・データを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

1、2、8、11、36。また、DFSYSINデータ・セット内のFUNCTION=OP,MSGNUM=711制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DDステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSUCF00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMSメッセージおよびコードの問題判別は、IBMによって確立された手順を使用して行われます。

DFS0712A

**xxxxx KEYWORD REPEATED-MAY
BE SPECIFIED ONLY ONCE**

説明

モジュールDFSPIRPOへの制御ステートメントのキーワードが複数回指定されていました。

システムの処置

さらにエラーがないか制御ステートメントがスキャンされ、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントがキーワードを1回だけ指定するように訂正してください。

モジュール:
DFSPIRPO

DFS0713A

DATE INVALID

説明

無効の DATE パラメーターが指定されました。原因となる可能性があるのは、次の場合です。

- 日付が MM/DD の形式ではなかった。ただし、MM は 1 から 12 の範囲の 1 桁または 2 桁の数値であり、DD は 1 から 31 の範囲の 1 桁または 2 桁の数字です。
- 指定された日付 (DD) が、対応する月 (MM) にとっては大きすぎる。

システムの処置

プログラムは終了します。

プログラマーの応答

DFSPIRPO 制御ステートメントの DATE パラメーターを訂正してください。

モジュール:
DFSPIRPO

DFS0714A **xxxxx PARAMETER DOES NOT END WITH COMMA OR SPACE**

説明

モジュール DFSPIRPO に対する制御ステートメントのパラメーターがコンマまたはスペースで終わっていませんでした。

システムの処置

プログラムは終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正してください。

モジュール:
DFSPIRPO

DFS0715A **STOP TIME SPECIFIED PRECEDES START OF TRACING**

説明

モジュール DFSPIRPO に対する制御ステートメントの DATE オペランドが、PI トレースの開始より前の日付を指定していました。STOP パラメーターに指定された時分 (HHMM) を、指定されている日付と組み合わせると、トレース開始の日付の 00:00:00 より前になります。このメッセージは、制御ステートメント・スキャンが完了した後で出されます。

システムの処置

プログラムは終了します。

プログラマーの応答

DATE オペランドまたは STOP パラメーターが省略されている制御ステートメントを訂正するか、停止時刻が PI トレースの開始より後になるように、これらのオペランドやパラメーターを指定してください。

モジュール:
DFSPIRPO

DFS0716A **PRINT MUST BE SPECIFIED BEFORE ANY KEYWORDS**

説明

モジュール DFSPIRPO への制御ステートメントで、PRINT 以外のキーワードが最初に指定されました。

システムの処置

さらにエラーがないか制御ステートメントがスキャンされ、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントが PRINT を最初のキーワードとして指定するように訂正してください。

モジュール:
DFSPIRPO

DFS0717A **STOP TIME SPECIFIED PRECEDES START TIME SPECIFIED**

説明

STOP パラメーターの方が START パラメーターより時刻が早くなっていました。このメッセージは、制御ステートメント・スキャンが完了した後で出されます。

システムの処置

プログラムは終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントが停止時刻を開始時刻より後に指定するように訂正してください。

モジュール:
DFSPIRPO

DFS0718W **BLANK OR NO CONTROL CARD SPECIFIED-IGNORED**

説明

SYSIN DD ステートメントが組み込まれましたが、入力データ・セットに空白行が含まれていたか、またはデータ・セットが空 (レコードなし) でした。

システムの処置

報告書には、ログ・データ・セットの開始から終了までのレコードが組み込まれます。制御ステートメント処理は迂回されます。

プログラマーの応答

時間枠が必要な場合は、有効な制御ステートメントを指定してください。制御ステートメントが必要でない場合は、SYSIN DD ステートメントは省略する必要があります。

モジュール:
DFSPIRPO

DFS0719I **X'4006' CHECKPOINT RECORD
NOT FOUND ON THE INPUT LOG**

説明

X'4006' チェックポイント・ログ・レコードは、たとえ PI トレース・ログ・レコードがあっても、それよりも前に処理する必要があります。X'4006' ログ・レコードが検出されなかったため、報告書は生成されませんでした。LOGTAPE DD ステートメントでログ・データ・セットの一部しか指定しなかったときは、X'4006' ログ・レコードが失われる可能性があります。

システムの処置

IMS プログラム分離トレース報告書ユーティリティ DFSPIRPO は終了します。

プログラマーの応答

すべてのボリュームを正しい順序で組み込んだ、正しい SLDS を LOGTAPE DD ステートメントで指定してください。

問題判別:

3、5、8、36

モジュール:
DFSPIRPO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0720A **xxxxx TIME INVALID**

説明

開始または停止の時刻が、時間については 00 から 99 の範囲の 2 桁の数字で、分数については 00 から 59 の範囲の 2 桁の数字で指定されていませんでした。

システムの処置

さらにエラーがないか制御ステートメントがスキャンされ、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントの開始または停止の時刻を訂正してください。

モジュール:
DFSPIRPO

DFS0721A **INVALID KEYWORD IN DFSPIRPO
CONTROL CARD**

説明

モジュール DFSPIRPO への制御ステートメントに PRINT=、START=、STOP=、または DATE= 以外のオペランドが含まれていました。

システムの処置

プログラムは終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSPIRPO

DFS0722I **NO TRANSACTION HAD TO WAIT
FOR AN ENQUEUE DURING THE
TIME PERIOD**

説明

時間枠の間、エンキューを待つ必要があったトランザクションはなく、報告書は生成されませんでした。

システムの処置

プログラムは正常完了に達します。

プログラマーの応答

これは正常な条件である可能性があります。制御ステートメントが組み込まれていた場合は、時間枠が正しかったか確認してください。

モジュール:
DFSPIRPO

DFS0723A **REGION SIZE TOO SMALL FOR
PROGRAM DFSPIRPO**

説明

プログラム DFSPIRPO に関して指定された領域サイズの大きさが不足で、共通作業域、入力ログ・バッファ、およびデータ管理ブロック・リストが収まりませんでした。

システムの処置

プログラムは終了します。

プログラマーの応答

領域サイズを大きくし、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSPIRPO

DFS0724A NO TRACE RECORDS ON LOG DATASET FOR THE TIME PERIOD

説明

プログラム分離 (PI) トレース・ログ・レコードが、指定された時間枠の間、ログ・データ・セットで検出されませんでした。この問題が発生した原因は、次のとおりです。

- PI トレースがこの時間枠の間、有効でなかった。
- IMS システムが、この時間枠の間、休止しており、トレースを必要とするアクティビティーが生じなかった。
- IMS プログラム分離トレース報告書ユーティリティー用の制御ステートメントで指定された時間枠が、ログ DD ステートメントで指定されたログ・データ・セットに対応する時間枠にオーバーラップしませんでした。

システムの処置

報告書は生成されず、プログラムは正常に完了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントで指定された時間枠が、指定されているログ・データ・セットに対応するか確認してください。コンソール・レコードをチェックして、時間枠の間、PI トレースがアクティブであったかどうか判別してください。PI トレースがアクティブであった場合は、システムが休止していたか、チェックして確認してください。

問題判別:
3、5、8、36

モジュール:
DFSPIRPO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0725I INITIATE|UPDATE|TERMINATE OLREORG COMMAND FOR DB dbnamexx COMPLETE. CC= nn

説明

/INITIATE、/UPDATE、または /TERMINATE OLREORG コマンド処理が完了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbnamexx

コマンドで入力された HALDB 区画名です。

nn

完了コードです。

ゼロの完了コードは、コマンドは正常に処理されたことを示しています。メッセージ DFS2970I は、OLR 初期設定が完了した後、HALDB OLR が開始されたことを示すために発行されます。ゼロ以外の完了コードは、コマンドの処理中に予期しないエラーが検出されたことを示しています。

完了コード

意味

0

REQUEST SUCCESSFUL

10

RESOURCE NAME INVALID

14

RESOURCE NOT A PARTITION NAME

1C

RESOURCE IS A PARTITION SECONDARY INDEX

20

INIT OLREORG ISSUED, OLR IS ALREADY IN PROGRESS

24

NO OLREORG IS IN PROGRESS

28

NO DMB LOADED - DB を参照する PSB をスケジュールする必要があります。

AE

DYNAMIC ALLOCATION ERROR

C1

OLREORG DDIR MISSING

C3

OLREORG PARTITION STOPPED、または LOCKED、または DBDUMPED

C4

OLREORG PARTITION BEING RECOVERED

- C5** OLREORG PARTITION ACCESS NOT UPDATE/
EXCLUSIVE
- C6** OLREORG SCHEDULING FAILED - 必要なブロッ
ク/PSB の作成に失敗したか、または区画選択に失
敗しました。
- C7** OLREORG PARTITION NOT AUTHORIZED - HALDB
マスターの状況を確認してください。
- C8** OLREORG MASTER STOPPED、または LOCKED、ま
たは DBDUMPED
- C9** OLREORG MASTER ACCESS NOT UPDATE または
EXCLUSIVE
- CA** OLREORG SET OWNERSHIP FAILED
- CB** PARTITION NOT IN SPECIFIED STATUS
- CC** OLR は、すでに区画用にアクティブです。
- CE** EEQE が存在するので、HALDB OLR は区画内のすべ
てのデータにはアクセスできません。
- DA** DATABASE BEING RECALLED FROM HSM

システムの処置

IMS は処理を続行します。

問題判別:

6、11

モジュール:

DFSORC10、DFSORP50

関連情報

828 ページの『DFS2970I』
OLR STARTED | RESUMED FOR
NAME=partname MASTER=mastername
PST=pstnumber

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0726A CONTROL CARD ERROR-
PROCESSING TERMINATED**

説明

モジュール DFSPIRPO への制御ステートメントに、前
のメッセージで示されていたエラーが 1 つ以上含まれ
ているか、またはデータが入力されたのが、制御ステ
ートメントの 71 桁目を超えました。

システムの処置

プログラムは終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼し
てください。

モジュール:
DFSPIRPO

**DFS0727A DATE/TIME SPECIFIED NOT
WITHIN 12 DAYS OF DATE PI
TRACE STARTED**

説明

次のいずれかの問題が発生しました。

- PI トレースが開始された日付よりも 13 日以上前ま
たは後の日付を、DATE オペランドで指定しました。
- START オペランドと DATE オペランドを組み合わせ
ると、開始時刻が PI トレースの開始日付 から 12 日
を超える結果になりました。

システムの処置

プログラムは終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントが有効な日付または開始時刻を指
定するように訂正してください。

モジュール:
DFSPIRPO

**DFS0728W DATE SPECIFIED PRECEDES DATE
TRACING STARTED**

説明

指定された日付が、PI トレースの開始日付よりも前
でした。IMS が 2 日以上にわたってアクティブであった
場合、PI トレースは、IMS が開始された最初の日より
後に開始された可能性があります。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

指定された日付が意図どおりであったのかどうか判別
してください。

モジュール:
DFSPIRPO

**DFS0729I UNABLE TO OBTAIN WORK AREA
FOR DL/I OPEN/CLOSE
PROCESSING**

説明

DL/I データベースのオープンまたはクローズを試みているとき、OPEN/CLOSE 処理に必要な作業域用の主記憶域スペースが使用不可であることが検出されました。

システムの処置

DL/I 呼び出しの処理は終了し、状況コード AI が PCB で戻されます。さらに、IMODULE ルーチンからのエラー・コードが PSTRTCDE に保管されます。

プログラマーの応答

このステップのアドレス・スペースを広くして、作業域が得られるようにしてください。

問題判別:

1、2、3、17b、36

モジュール:

DFSDLOC0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0730I UNABLE TO OPEN OR CLOSE
DATASET WITH DDNAME DD 名
FOR REASON x、yy、z DATABASE
データベース名 プログラム ID**

説明

IMS がデータベースを開いたり閉じたりしようとしたときにエラーが発生しました。DD 名は、エラーが発生したデータ・セットの DD ステートメント名です。x、yy は、メジャーおよびマイナーの理由コードを表します。データ・セット DD 名は、DBD データベース名の一部です。IMS がデータベース プログラム ID をオープンしようとしたときにエラーが発生した場合は、メッセージにエラーが含まれています。スケジューラー・メッセージ・ブロック (SMB) が存在する場合、プログラム ID はトランザクション・コード (TRN) を表します。SMB が存在しない場合、プログラム ID は PSB 名を表します。

以下の情報は、さまざまなメジャー・コードおよびマイナー理由コードの説明、プログラマー応答、および問題判別コードを提供します。

コード

説明

A、yy -

OSAM データ・セットをオープンしようとししました。OSAM OPEN ルーチンがエラー指示を戻しました。yy - は、レジスター 15 に戻される 16 進エラー・コードです。

コード (16 進数)

意味

00

通常の状態。

04

DCB は既にオープンまたはクローズされています。

08

DCB はすでにオープンされています。

0C

DECBTYPЕ が無効です。

10

IMS SVC で障害が発生しました。DCBWRK1 が理由を示します。

z 値 (16 進数)

意味

01

内部エラー。メディア・マネージャー呼び出しが失敗しました。

02

内部エラー。呼び出し側の MMCLP が無効です。

03

内部エラー。DCB はすでにオープンしている。

04

内部エラー。OSAM OPEN ではありません。

05

DUMMY として既にオープンされています。

06

DCB に問題がありました。

07

内部エラー。呼び出し元が DD 名を渡しませんでした。

08

内部エラー。呼び出し側が MMP アドレスにゼロを渡しました。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください **プログラマー応答:**

14

OSAM OPEN ルーチンが、ファイル・マーク、フォーマット設定、またはファイル・マークの書き込みをスキャンしているときに、入出力エ

ラーが発生しました。詳しくは、DECBSTAT を参照してください。

18 無効な RBN が計算されました。RBN が 0 であるか、またはデータ・セットの最大 RBN より大きくなっています。

1C データ・セットの TCLOSE 処理中にエラーが発生しました。DCBWRK1 が理由を示します。

20 IMODULE を使用してストレージを獲得中にエラーが発生しました

24 データ・セットの EOV 処理中にエラーが発生しました。

28 OSAMOP IOSCB=NO が制御ステートメント・データ・セットに指定されています。この値により、BATCH 初期設定は OSAM 入出力ブロックの割り振りをバイパスし、OSAM アクセス方式を使用できませんでした。

- は、モジュール DFSAOSF0 によるフィールド名 DCBWRK1 の最後のバイト (バイト番号 4) で戻された 16 進エラー・サブコードです。メッセージのこのサブフィールドは、理由コード A、10 を含むメッセージに対してのみ使用されます。

- の値 (16 進数) 意味

01 DD ステートメントが欠落しているか、または動的に割り振られたデータ・セットの場合、データ・セットはまだ割り振られていません。

02 このデータ・セットは連結データ・セットです。

03 DASD データ・セットに指定されたボリューム数が、ボリュームよりも少なくなっています。

04 JCL は、OSAM で許可されない DSORG タイプを指定しました。

05 データ・セットの DSCB が見つかりませんでした。

06 最初のボリューム DSCB が、OSAM で許可されない DSORG タイプを指定しました。

07 DCB ブロック・サイズが、ジョブ・ファイル制御ブロック /DCB マージ後の DSCB ブロック・サイズに等しくありません。

08 DCB LRECL サイズが、ジョブ・ファイル制御ブロックまたはデータ制御ブロック (DCB) のマージ後の DSCB LRECL サイズに等しくありません。

09 DSCB、DCB、または JCL では、LRECL もブロック・サイズも指定されませんでした。

0A 指定されたブロック・サイズが LRECL を下回っています。

0B 指定されたブロック・サイズが、指定された装置のトラック・サイズを超えている

0C 前の OPEN または EOV が失敗しました。

0D VIO が OSAM でサポートされていないデータ・セットは VIO 装置に割り振られています。

0E テープ装置はサポートされません。このデータ・セットは、磁気テープ装置に割り振られません。

0F OSAM DEB サブルーチンで内部エラーが発生しました。DCBWRK1 はエラー・コードを示します。

01 ブロック・サイズがトラック・サイズより大きくなっています。

02 DEB の長さが、許可されている最大長より大きい。エクステントが多すぎます。この状態は、DFS0842I メッセージ REASON=5 が同じジョブまたは別のジョブによって以前に発行された結果である可能性があります。

10 IEFDDSRV が機能の実行に失敗しました。

11 割り振られた装置の数が矛盾している。

12 ジョブ・ファイル制御ブロック (JFCB) の再読み取りが失敗しました。

13 ユーザー記述域 (UDA) SSI インターフェース・エラー。

14 DCM は既に DD ダミーとしてオープンされています。

15 これは OSAM オープン呼び出しではありません。

16 DCB はすでにモフによってオープンされている

17 無効なパラメーターです。

18 ジョブ・ファイル制御ブロック (JFCB) の読み取りエラー。

19 異常終了のないオープン障害。

1A OSAM データ・セットの最初のボリュームで DSCB を取得中にエラーが発生しました。

1B OSAM データ・セットのすべてのボリュームの拡張を構成中にエラーが発生しました。OSAMDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 8 になっています。

1C OSAM 入出力ルーチンの検索またはロードでのエラー。

1D キャプチャーされた UCB の解放エラー。

1E 現行のボリューム DSCB TTR からディスク・アドレス MCCHHR への不正な変換が発生しました。

99 DCB 異常終了出口が入力された。メッセージ DFS0695I も表示されます。エラーの説明については、そのメッセージを参照してください。

プログラマー応答: 指定されたメジャーおよびマイナー理由コードを使用して、JCL エラーを訂正してください。

B,10 バッファーを無効化するための IDAXVIM FUNC=CALLXVI 呼び出しで、ゼロ以外の戻りコード (RC) が受信されました。メジャー RC は X'04' で、マイナー RC は X'10' です。これは、呼び出しが正しくないことを意味し、所有権の解放に失敗しました。

xx IDAXVIM からの戻りコード。

08 ユーザーの AREA にルームがありません。

12 VSAM 構造エラー。

オペレーターの応答: アクションは必要ありません。

システム・プログラマーの応答: 診断情報を保存します。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

B,40 カップリング・ファシリティ (CF) 環境エラーが発生しました。

プログラマー応答: DFSERA10 イムスを使用し、イムスログから X'67FD' レコードを選択することにより、正確なエラーを判別してください。このレコードには、理由コード RSNC=xxxxxxx を持つ REQUEST=IXLCCACHE マクロが含まれています。数字ストリング xxxxxxxx の最後の 4 桁は、真のエラー・コードを表しています。例えば、理由コードが RSNC=0C170C19 の場合は、理由コード 0C19 を参照してください。理由コードの説明については *z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書* を参照してください

B、yy - DL/I OPEN/CLOSE が、サービスをバッファリングするために DL/I バッファ・ハンドラーを呼び出しました。バッファ・ハンドラーがエラー標識付きで戻されました。yy- は、バッファ・ハンドラーによって PSTRTCDE に戻された 16 進値です。

プログラマー応答: バッファ・ハンドラー戻りコードについては、イムスの戻りコードおよび機能コードの情報を参照してください。

C、yy - VSAM CLOSE によってエラーが検出されました。yy- は、VSAM ACB からの 16 進エラー・フィールドです。

プログラマー応答: VSAM CLOSE エラー・コードの説明を参照してください。

E、yy - DL/I OPEN/CLOSE が VSAM ERASE マクロを出しましたが、VSAM から戻されたエラー条件を検出しました。物理 (I/O) エラーが発生した場合は、エラーの性質を示すメッセージ DFS0731I または DFS0451I が出力され、yy- は、レジスター 15 に VSAM から戻された 16 進値です。それ以外の場合、yy- は VSAM から戻された 16 進論理エラー・コードです。

プログラマー応答: VSAM 論理エラー戻りコードおよび物理エラー戻りコードの説明を参照してください。

G、yy - DL/I OPEN/CLOSE が VSAM GET マクロを出しましたが、VSAM から戻されたエラー条件を検出しました。物理 (I/O) エラーが発生した場合は、エラーの性質を示すメッセージ DFS0731I または DFS0451I が出力され、yy- は、レジスター 15 に VSAM から戻された 16 進値です。それ以外の場合、yy- は VSAM から戻された 16 進論理エラー・コードです。

プログラマー応答: VSAM 論理エラー戻りコードおよび物理エラー戻りコードの説明を参照してください。

I,01

DBD からの相対キー位置が、VSAM に対して定義された相対キー位置と同じではありません。

プログラマー応答: VSAM に指定された相対キー位置を訂正してください。VSAM に対して定義される正しい相対キー位置は、DBD 生成からの出力リストで提供されます。

I,02

DBD からのキーの長さが、VSAM に対して定義されたキーの長さと同じではありません。

プログラマー応答: VSAM に指定されたキー長を訂正してください。VSAM に対して定義される正しいキーの長さは、DBD 生成からの出力リストで提供されます。

I,03

オープンされているデータ・セットの OSAM データベース・パーティションのレコード・サイズまたはブロック・サイズが、データベース内で最も長いセグメントを収容するのに十分な大きさではなく、イムス オーバーヘッドを必要としています。

プログラマー応答: VSAM に指定したレコード・サイズを訂正してください。OSAM データベース・パーティションの場合、ブロック・サイズを訂正してください。VSAM に対して定義する正しいレコード・サイズは、DBD 生成からの出力リストで提供されます。

私、04

オープンされている HD VSAM ESDS のレコード・サイズが、CI サイズより 7 バイト少なく、VSAM に対して定義されていませんでした。HD VSAM ESDS データ・セットのレコード・サイズは、CI サイズより 7 バイト小さい値でなければなりません。

プログラマー応答: レコード・サイズが CI サイズより 7 バイト小さくなるように、VSAM データ・セットを再定義してください。

I,05

ロードのためにオープンされている HS VSAM KSDS または ESDS のレコード・サイズが、2 の倍数になっていません。VSAM HS データ・セットのレコード・サイズは偶数でなければなりません。

プログラマー応答: VSAM に指定したレコード・サイズを訂正してください。

I,06

HSAM VSAM データ・セットをオープンすると、ブロック・サイズが LRECL より小さくなるのが検出されました。ブロック・サイズは、LRECL と等しいか、またはそれより大きくなければなりません。

プログラマー応答: VSAM に指定したブロック・サイズを訂正してください。

I,07

HS VSAM データベースが、KSDS レコード・サイズよりも短い ESDS レコード・サイズを使用して定義されています。

プログラマー応答: VSAM 定義を変更して、ESDS レコード・サイズが KSDS レコード・サイズ以上になるようにしてください。

I,08,

DD ステートメントがない VSAM データ・セット、または動的に割り振られたデータ・セットのデータ・セットをオープンしようとしたが、そのデータ・セットはまだ割り振られていません。このメッセージは、オープンされたデータ・セットに関連する DD 名を示します。

プログラマー応答: ジョブの JCL および DBD を検査して、DD ステートメントの要件を判別してください。

システム・オペレーターの応答: データベースの更新の開始(アクセス) または /START DB コマンド を使用して、割り振りの再試行を行います。

I,09

VSAM または OSAM DCB をオープンしようとしたが、DD 名はすでにオープン・テーブル内にありました。これは、データ・セットが現在、データ管理ブロックの下でオープンされており、2 つ目のデータ管理ブロックの下でそれをオープンしようとしたことを示します。これは、同じ DD 名を参照する DBD が 2 つあることが原因で発生します。2 つの DBD が同じ DD 名を参照することは

プログラマー応答: 同じ DD 名を参照している 2 つの DBD を見つけて、1 つを削除します。正しい DBD を参照するように PSB を変更してから、PSB 生成ユーティリティを実行してください。

I,10

VSAM ACB をオープンしようとしたが、DD 名はすでにオープン・テーブル内にありました。これは、データ・セットが現在データ管理ブロックの下でオープンされており、2 つ目のデータ管理ブロックの下でそれをオープンしようとしたことを示します。これは、同じ DD 名を参照する DBD が 2 つあることが原因で発生します。2 つの DBD が同じ DD 名を参照することは

プログラマー応答: 同じ DD 名を参照する 2 つの DBD を見つけて、1 つを除去します。正しい DBD を参照するように PSB を変更してから、PSB 生成ユーティリティを実行してください。

I,11

ISAM DCB または ISAM DCB に関連付けられている OSAM DCB をオープンしようとした。イムスは、ISAM を含む組み合わせをサポートしません。

このコードは、現行 DCB に DCBE が欠落しているため、HSAM データベースのロード処理中にも発行されることがあります。

プログラマー応答: HISAM または HIDAM 構造体の索引データベースを、サポートされている VSAM 編成に変換します。

I,12

指定された VSAM 共用リソース・プール内で VSAM ACB をオープンしようとした。十分な大きさのサブプールが共用リソース・プール内にありません。イムスは、デフォルトの VSAM 共用リソース・プールを使用して、VSAM ACB のオープンを再試行します。

プログラマー応答: このデータ・セットの VSAM 共用リソース・プールの VSRBF サブプール定義ステートメントを確認してください。このデータ・セットおよび KSDS 索引用に十分な大きさのサブプール・バッファ・サイズを定義してください。

I,13

システムは、追加の DD 名オープン・テーブルに対する GETMAIN 要求を満たすことができませんでした。このエラーは、DCB のオープン中に発生しました。

プログラマー応答: このステップのアドレス・スペースを大きくしてください。

I,14

システムは、追加の DD 名オープン・テーブルに対する GETMAIN 要求を満たすことができませんでした。このエラーは、ACB のオープン中に発生しました。

プログラマー応答: このステップのアドレス・スペースを大きくしてください。

I,15

HSAM または OSAM データ・セットの OPEN 処理中に、エラーが検出されました。イムスがデータベースに対する DBRC 許可を取得しようとしたときに、データ・セットが割り振られていませんでした。エラーの詳細な説明については、戻りコード I, 16 を参照してください。

プログラマー応答: データ・セットの動的割り振りが誤っているか、または非互換の割り振りプログラムまたは製品がある場合は、/DBR コマンドを使用してデータベースの割り振りを解除してください。動的割り振りの指定、またはプログラムまたはプロダクトを訂正してから、データベースに **データベースの更新の開始(アクセス)** または / **開始** を入力してください。

I,16

VSAM データ・セットの OPEN 処理中に、エラーが検出されました。イムスがデータベースに対する DBRC 許可を取得しようとしたときに、データ・セットが割り振られていませんでした。その後、デー

タ・セットがオープンされたときに割り振られました。これは、以下のいずれかの理由で発生します。

- データ・セットの動的割り振り指定が正しくありません。データ・セットの DFSMDA TYPE=DATASET ステートメントが、別のデータベースの DFSMDA TYPE=DATABASE ステートメント内に含まれていた。例えば、HIDAM データベースの索引の DFSMDA TYPE=DATASET ステートメントは、HIDAM データベースのデータ部分の DFSMDA TYPE=DATABASE ステートメント内に含まれています。
- データ・セットの動的割り振り指定が正しくありません。前のメッセージ DFS2499W は、データベースに対する割り振り要求が無効であることを示しています。例えば、データベースの MDA メンバーには 2 つのデータ・セットが指定されています。この JCL には、いずれかのデータ・セットの DD ステートメントが含まれていますが、MDA メンバーに含まれるすべてのデータ・セットは含まれていません。
- 割り振りは、非互換の割り振りプログラムまたは製品によって実行されました。この製品は、データベースの許可後、データベースのオープン前にデータベースを割り振ったものです。

プログラマー応答: データ・セットの動的割り振りが誤っていることが原因で、エラーが発生した場合は、

1. /DBR コマンドを入力して、データベースを割り振り解除します。
2. 動的割り振りの指定を訂正してください。
3. データベースの **データベースの更新の開始(アクセス)** または / **開始** を入力します。

エラーが非互換の割り振りプログラムまたはプロダクトによって引き起こされた場合:

1. /DBR コマンドを入力して、データベースを割り振り解除します。
2. プログラムまたはプロダクトを訂正してください。
3. データベースの **データベースの更新の開始(アクセス)** または / **開始** を入力します。

私、20 歳

システムは、順次モードのためにオープンされている KSDS のレコード・サイズに対する GETMAIN 要求を満たすことができません。

プログラマー応答: このステップのアドレス・スペースを大きくしてください。

I,21

システムは、HSAM データベースのブロック・サイズに対する GETMAIN 要求を満たすことができません。

プログラマー応答: このステップのアドレス・スペースを大きくしてください。

私は 22 歳

システムは、ロード処理用にオープンされている ESDS データ・セットの最初の CI の書き込みに使用する制御インターバル・サイズの GETMAIN 要求を満たすことができません。

プログラマー応答: このステップのアドレス・スペースを大きくしてください。

I,23

システムは、オープンされている ESDS データ・セットのレコード・サイズに対する GETMAIN 要求を満たすことができません。このエリアは、データ・セットの終了 RBA が CA 境界上にない場合に、現行の CA をフォーマット設定するために使用されません。

プログラマー応答: このステップのアドレス・スペースを大きくしてください。

I,25

システムは、一時作業バッファに使用される KSDS のレコード・サイズに対する GETMAIN 要求を満たすことができません。

プログラマー応答: このステップのアドレス・スペースを大きくしてください。

I,26

システムは、データベースに含まれているすべてのデータ・セットの DD 名を入れるための、エリアの GETMAIN 要求を満たすことができません。DBRC に登録されているデータベースのオープン時の更新処理中に、DD 名のリストを作成するための一時作業域が必要です。

プログラマー応答: このステップのアドレス・スペースを大きくしてください。

I,30

処理オプション L を持つ PCB に関連付けられた VSAM データ・セットをオープンしようとしたのですが、そのデータ・セットは空ではありません。

プログラマー応答: 古いデータ・セットがスクラッチされる場合は、VSAM AMS プログラムを使用して削除してください。データ・セットがスクラッチされない場合は、処理オプションが L 以外の PCB を使用してください。

I,31

PCB に関連付けられた VSAM データ・セットをオープンしようとしたのですが、その PCB には L 以外の処理オプションがあり、データ・セットは空です。

プログラマー応答: 処理オプション L を指定した PCB を使用して、データベースの初期ロードを実行します。JCL の開発時には、以下の手順を使用します。

1. KSDS データ・セットを削除または定義します。

2. DFSPRECO ジョブを実行して、間接リスト項目 (ILE) および 1 次索引データ・セットを再作成します。

注: 270 ページの『2』の中でジョブを取り消す場合は、270 ページの『1』から始まるジョブ全体を再実行してください。270 ページの『2』では再始動しないでください。

I,32

VSAM KSDS データ・セットをオープンしようとしたときに、索引 VSI の合計長と、データ VSI と イムス NCB のサイズを加えた合計長が、10 進数の 255 (長さフィールドを含む) より大きくなっていることが判別されました。この値は、メッセージ域の長さとして通知中に IRLM に渡され、IRLM の制約のために、10 進数 256 (長さフィールドを含む) より小さくしなければなりません。

プログラマー応答: Check the define cluster for key ranges. 各キー範囲は、索引 VSI のサイズを 32 バイトずつ増やします。イムスは、VSAM キー範囲を使用またはサポートしません。

私、33 歳

DL/I オープン処理は、共用アクセスがデータ・セットに対して許可されるが、アクセス方式サービス DEFINE で指定された SHR オプションは、データ共用に適していないと判断した。メッセージ DFS050A が発行されました。障害の詳細については、メッセージ DFS050A を参照してください。

プログラマー応答: メッセージ DFS050A を参照してください。

34 歳

VSAM KSDS データ・セットをオープンしようとしたときに、索引コンポーネントまたはデータ・コンポーネントのいずれかがオープンされなかった。

プログラマー応答: オープンされる DD ステートメントに指定されたデータ・セット名が、クラスタのコンポーネントの 1 つのデータ・セット名ではなく、VSAM クラスタのデータ・セット名であることを確認してください。

I,35

データベースのオープン時の更新処理中に、データベースに含まれているすべてのデータ・セットが DBRC に登録されていないと判断されました。メッセージ DFS0484A が発行され、登録されていないデータ・セットがリストされました。

プログラマー応答: メッセージ DFS0484A を参照してください。

I,36

VSAM KSDS データ・セットをオープンしようとしたときに、KSDS は EXTENDED ADDRESSABILITY 属性を持つ SMS データ・セットであると判別されましたが、イムスはサポートしていません。データ・セットが JCL で DD DUMMY として定義されて

いる場合、拡張アドレス可能性テストは完了できず、このサブコードが生成されます。

プログラマー応答: データ・セットは、EXTENDED ADDRESSABILITY を指定したデータ・クラスを使用して割り振られました。このデータ・セットは、IMS が使用するデータ・セットには使用できません。データ・セットは、EXTENDED ADDRESSABILITY を指定しないデータ・クラスを使用して割り振られていなければなりません。

DD DUMMY の場合は、データ・セット名を訂正するか、必要に応じてそれを除去してから、再度ジョブを実行して、拡張アドレス可能性検査を続行できるようにしてください。

I,37

VSAM ESDS データ・セットをオープンしようとしたときに、ESDS が EXTENDED ADDRESSABILITY 属性を持つ SMS データ・セットであると判別されました。この属性は IMS ではサポートされていません。データ・セットが JCL で DD DUMMY として定義されている場合、拡張アドレス可能性テストは完了できず、このサブコードが生成されます。

プログラマー応答: データ・セットは、EXTENDED ADDRESSABILITY を指定したデータ・クラスを使用して割り振られました。このデータ・セットは、IMS が使用するデータ・セットには使用できません。データ・セットは、EXTENDED ADDRESSABILITY を指定しないデータ・クラスを使用して割り振られていなければなりません。

DD DUMMY の場合は、データ・セット名を訂正するか、必要に応じてそれを除去してから、再度ジョブを実行して、拡張アドレス可能性検査を続行できるようにしてください。

I,38

VSAM データ・セットをオープンしようとしたときに、データ・セットが COMPACTION 属性を持つ SMS 拡張フォーマット・データ・セットであると判別されました。このデータ・セットは、IMS ではサポートされません。

プログラマー応答: データ・セットは、COMPACTION 属性を指定したデータ・クラスを使用して割り振られました。このデータ・クラスは、IMS が使用するデータ・セットでは許可されません。COMPACTION を指定しないデータ・クラスを使用してデータ・セットを割り振る必要があります。

I,47

VSAM データ・セットをオープンしようとしたときに、データ・セットが Hiperbatch によってキャッシュされたことが判別されました。IMS は Hiperbatch をサポートしていません。

プログラマー応答: データ・セットは、Hiperbatch によってキャッシュに入れることができるようにするために、RACF DLFCLASS プロファイルを持つ

ていなければなりません。データ・セットを DLFCLASS から除去するか、または別のデータ・セット名を使用してください。

I,50

次のいずれかのエラーが発生しました。

- オープンされているデータ・セットに関連した制御インターバルを収容するのに十分な大きさのバッファが VSAM バッファ・サブプールにありません。
- DFSVSAMP DD ステートメントが欠落しています。
- OSAM バッファ・プールが、関連ブロックを収容するのに十分な大きさのバッファを持っていない

プログラマー応答: ステップを再実行しますが、この時点では、制御インターバル・ブロックを収容するのに十分な大きさのバッファ・サブプールを指定してください。

I,51

IMS は、そのデータ・セットの最初の CI の ESDS 内の最後に使用されたレコードの RBA を保持します。DL/I OPEN 時に、この RBA がデータ・セットの最後の CI に含まれていなかったことが検出されました。

I,52

ランダム化ルーチン、2 次索引データベース保守出口ルーチン、またはセグメント編集 / 圧縮出口ルーチンのロードまたは削除中に、IMS の IMODULE 機能が失敗しました。

プログラマー応答: メッセージ DFS0733I が出力され、障害の原因を示しています。メッセージ DFS0733I を参照。

私、53 歳

HSAM データ・セットがオープンに失敗しました。

プログラマー応答: この障害の考えられる理由については、DL/I 状況コード情報の AI 状況コードの説明を参照してください。

I,54

HSAM データ・セットがオープンに失敗しました。

プログラマー応答: この障害の考えられる理由については、DL/I 状況コード情報の AI 状況コードの説明を参照してください。

問題判別のために、問題のボリュームの VTOC リストを保管してください。

私、55 歳

前に VERIFY の実行中に失敗したデータ・セットをオープンしようとして失敗しました。データ・セットをオープンまたはクローズできませんでした。

I,56

HSAM データベースを OPEN する試みが行われました。データ・セットの DCB BLKSIZE は、JCL ま

たはボリューム上のラベルのいずれかによって提供されませんでした。その結果、ブロック・サイズは0になります。

プログラマー応答: ジョブの JCL が正しいこと、およびデータベースがロードされていることを確認してください。

問題判別のために、問題のボリュームの VTOC リストを保管してください。

I,57、Z

HISAM または非固有 2 次索引 ESDS データ・セットに対して VSAM オープンおよび検査が行われた後、拡張エラー・キュー・エレメント・ブロック (EEQE) が存在していたため、データ・セットの終わりが調整されました。VSAM が VSI 情報を調整できるように、VSAM SVC 109 が発行されました。SVC は、レジスター 15 にゼロ以外の戻りコードを戻しました。メッセージ内のサブコード Z は、レジスター 15 に戻される 16 進エラー・サブコードです。

コード

説明

第 1・58

初期設定エラーが、セグメント編集/圧縮出口ルーチンによって検出されました。

プログラマー応答: メッセージ DFS0749I が発行され、障害の原因を示しています。メッセージ DFS0749I を参照してください。

コード

説明

I,60

VSAM データ・セットの CI サイズが、DL/I がサポートする最大 CI サイズ (30720) を超える CI サイズを持っている。

プログラマー応答: 30720 以下の CI サイズを使用して、AMS 定義を再実行します。

私、61

VSAM または OSAM データ・セットをオープンしようとしたときに、ロックを獲得できませんでした。

この問題を判別するには、異常終了コード 3303 を参照

I,62

間接リスト・データ・セット (ILDS) 内の相対キー位置がゼロではありません。

プログラマー応答: 間接リスト・データ・セット (ILDS) の VSAM クラスター定義で、相対キー位置を ZERO として定義します。

私、63 は

間接リスト・データ・セット (ILDS) 内のレコード長が正しくありません。

プログラマー応答: 間接リスト・データ・セット (ILDS) の VSAM クラスター定義で、レコード長を 50 として定義します。

I,64

間接リスト・データ・セット (ILDS) 内のキーの長さが正しくありません。

プログラマー応答: 間接リスト・データ・セット (ILDS) の VSAM クラスター定義で、キーの長さを 9 として定義します。

私、65 歳

データ・セット内の区画 ID が、オープンされている区画 ID と一致していません。

プログラマー応答: データ・セットの名前を訂正して、パーティション ID に一致するようにしてください。

I,66

データベースが区画に変更されてから、PSB の ACBGEN が実行されていません。

プログラマー応答: ACBGEN を実行します。STATUSAI はアプリケーションに戻されます。これを使用すると、アプリケーションが使用している PSB と、PSB が生成される ACB が検索されます。また、ジョブの JCL を参照して、そのジョブが実行されている ACB ライブラリーを判別することもできます。

I,67

フリー・スペースが ESDS データベースのデータ・クラスターに定義されています。ESDS データベースにフリー・スペースを定義することは許可されていません。

プログラマー応答: データ・クラスター定義からフリー・スペースを除去します。

私、68 歳

VSAM 出力データ・セットの最初の CI がフォーマット設定されているときに、初期 OLR 処理中にエラーが検出されました。

プログラマー応答: 出力データ・セットをスクラッチし、再割り振りします。

私、70

PSB の生成時に、PCB の SENSEG ステートメントの INDICES パラメーターに無効な索引が定義されています。

プログラマー応答: 問題の PCB の SENSEG ステートメントの INDICES パラメーターに指定されている INDEX 名を訂正してください。

私、71 歳

OSAM データ・セットのクローズ処理中に、エラーが検出されました。入出力エラーが検出されました。メッセージの中のサブコード z は、モジュール DFSAOSF0 によってフィールド名 DCBWRK1 の最

後のバイト (バイト番号 4) で戻された 16 進エラー・サブコードです。

線形データ・セットを使用する OSAM の場合、DFSASFSM からのサブコードには異なる意味があります。線形データ・セットを使用する OSAM の Z 値については、サブコードのセットを参照してください。

Z 値(16 進数)

意味

01

ボリューム・エクステントのクローズ処理中にエラーが発生しました OSPLIT サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 に 4 となっています。

02

OSAM データ拡張ブロック (DEB) を モフ DEB に変換中にエラーが発生しました。OSDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 に 4 です。

03

DCB は既にクローズ中です。

04

DEB/DCB 検証チェックが失敗しました。

05

ボリューム・エクステントのクローズ処理中にエラーが発生しました OSPLIT サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 8 になっています。

06

OSAM データ拡張ブロック (DEB) を モフ DEB に変換中にエラーが発生しました。OSDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 8 になっています。

07

DCB 拡張域の解放エラー。

99

DCB 異常終了出口が入力された。メッセージ DFS0695I も表示されます。エラーの説明については、そのメッセージを参照してください。

プログラマー応答: 入出力エラーの前に出されたメッセージ (おそらく DFS0762I および DFS0451I) を確認してください。障害を訂正してください。

I,72

OSAM データ・セットのクローズ処理中に、エラーが検出されました。入出力エラーが検出されました。

プログラマー応答: 入出力エラーの前に出されたメッセージ (おそらく DFS0762I および DFS0451I) を確認してください。その後で、障害を訂正してください。

O、yy -

VSAM OPEN がエラーを検出しました。yy - は、VSAM ACB からの 16 進エラー・フィールドです。

プログラマー応答: yy - DC で、データベースが VSAM KSDS として編成されている場合は、リストキャット コマンドを実行して、VSAM カタログから報告書を入手してください。バッチ・ジョブ用の DFSVSAMP データ・セットに定義されているインストール・バッファ・プール、またはオンライン・システムの DFSVSMxx メンバーで、索引コンポーネント・データ・セットの CISIZE を確認します。インストール・システムで指定された CI が、少なくとも LISTCAT からの CISIZE と同じ大きさであることを確認してください。

VSAM OPEN エラー・コードの説明を参照してください。

P、yy -

DL/I OPEN/CLOSE が VSAM PUT マクロを出しましたが、VSAM からエラー条件が戻されました。物理 (I/O) エラーが発生した場合は、エラーの性質を示すメッセージ DFS0731I または DFS0451I が出力され、yy - は、レジスター 15 に VSAM から戻された 16 進値です。それ以外の場合、yy - は VSAM から戻された 16 進論理エラー・コードです。

プログラマー応答: VSAM 論理エラー戻りコードおよび物理エラー戻りコードの説明を参照してください。

R、01

インストール・システムのセキュリティー製品で、イムスが必要なレベルの DD 名の VSAM データ・セットにアクセスできなかったため、データベース データベース名を開くことができませんでした。特定の原因またはエラーは、データベース名および DD 名のメッセージ DFS0735I-R01 に記述されています。

プログラマー応答: 判別については、メッセージを DFS0735I してください。

R、02

イムスが DD 名のデータ・セット関連ブロック (DSAB) にアクセスできなかったため、データベース データベース名をオープンできませんでした。特定の原因またはエラーについては、データベース名および DD 名のメッセージ DFS0735I-R02 に記載されています。

プログラマー応答: 判別については、メッセージを DFS0735I してください。

R、03

DFP カタログ管理が、VSAM データ・セットのカタログへのアクセス中にエラーを検出したため、データベース データベース名を開くことができませんでした。特定の原因またはエラーについては、データベース名および DD 名のメッセージ DFS0735I-R03 に記載されています。

プログラマー応答: 判別については、メッセージを DFS0735I してください。

S、yy-

DL/I OPEN/CLOSE が VSAM SHOWCB マクロを出しましたが、エラー状態を示すゼロ以外の戻りコードが戻されました。yy- は、VSAM によってレジスタ 0 に戻された 16 進値で、エラーの性質を示します。

プログラマー応答: VSAM 論理エラー戻りコードおよび物理エラー戻りコードの説明を参照してください。

V、yy-

DL/I OPEN/CLOSE が VSAM VERIFY マクロを出しましたが、VSAM からエラー状態が戻されました。物理 (I/O) エラーが発生した場合は、エラーの性質を示すメッセージ DFS0731I または DFS0451I が出され、yy- は、レジスタ 15 に VSAM から戻された 16 進値です。それ以外の場合、yy- は VSAM から戻された 16 進論理エラー・コードです。

プログラマー応答: VSAM 論理エラー戻りコードおよび物理エラー戻りコードの説明を参照してください。

システムの処置

イムスはエラー・メッセージを出します。

DL/I 呼び出しの処理は終了し、状況コード AI が PCB に戻されます。さらに、メッセージからの DD 名はセグメント名に保管されます。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別:

1, 3, 8, 17b, 17d, 18, 20, 36

モジュール:

DFSDLOC0

関連概念

[IMS バッファ・プール \(システム定義\)](#)

関連資料

[IMS 戻りコードおよび機能コード \(メッセージおよびコード\)](#)

[DL/I 状況コード \(メッセージおよびコード\)](#)

[z/OS: RPLERRCD 理由コード](#)

[z/OS: CLOSE の戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[39 ページの『DFS050A』](#)

SHARED ACCESS TO VSAM DATASET *ddname*
NOT ALLOWED BY CATALOG

[161 ページの『DFS0451I』](#)

modname, dbdname, ddname, i/o error, decb field

[170 ページの『DFS0484A』](#)

THE FOLLOWING DATASETS FOR DATA BASE *dbdname* ARE NOT REGISTERED TO DBRC:
ddname1 ddnamen

[251 ページの『DFS0695I』](#)

OSAM (OPEN|CLOSE|EOV)

INTERCEPT, ABEND=*sss-rc*, DDN=*dddddddd*

[275 ページの『DFS0733I』](#)

IMODULE ERROR *xx* {LOADING | DELETING}

{RANDOMIZING | INDEX EXIT | COMPRESSION EXIT} MODULE *moduname*

[276 ページの『DFS0735I』](#)

SAF ACCESS FAILED-*Rnn dbdname-ddname*

RETURN CODE=*nnn*. REASON CODE=*nnnn*.

module-name.

[284 ページの『DFS0749I』](#)

COMPRESSION EXIT ROUTINE *nnnnnnnn*

INITIALIZATION ERROR - *Uaaaa* REASON

rrrrrrrr

[288 ページの『DFS0762I』](#)

OSAM (TAPE | DASD) (READ | WRITE) ERROR -

FUNC=*aa* STATUS=*bb, cc, dddd, eeee, ffff*

IMS 異常終了 3303

AI (メッセージおよびコード)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0731I (VSAM メッセージ・バイト 26 から始まる VSAM 物理エラー・メッセージ。)

説明

VSAM オープンまたはクローズを実行している最中に、物理入出力エラーが発生しました。この障害の詳細を説明するために、メッセージ DFS0730I が出されています。

システムの処置

メッセージ DFS0730I を参照してください。

プログラマーの応答

VSAM 物理エラー・メッセージについては、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。必要であれば、IMS リカバリー・ユーティリティを使用して、データベースをリカバリーしてください。

問題判別:

1, 17b, 18, 20, 23

モジュール:

DFSDLOC0

関連資料

z/OS: 理由コード (物理エラー)

関連情報

265 ページの『DFS0730I』

UNABLE TO OPEN OR CLOSE DATASET WITH DDNAME *DD* 名 FOR REASON *x*, *yy*, *z*
DATABASE データベース名 プログラム *ID*

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0732I **WARNING MULTIPLE VSAM ACBS
OPEN FOR DATASET WITH DD
CARD xxxxxxxx**

説明

VSAM オープン・マクロからの戻りコードで、オープンが完了したことが示されましたが、示されているデータ・セットに関しては、オープンしている ACB がすでに 1 つ以上ありました。VSAM DEFINE ユーティリティの SHR オプションを使用すると、ユーザーは、データ・セットが共用できる範囲を制御できるようになります。DEFINE によって、現行データ・セットが共用できるようになっています。

システムの処置

IMS システムはエラーを無視し、処理を続行します。

プログラマーの応答

IMS データベースは、複数のバッチ領域またはバッチおよびオンライン領域で決して共用しないでください。エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSDLOC0

DFS0733I **IMODULE ERROR *xx* {LOADING |
DELETING} {RANDOMIZING |
INDEX EXIT | COMPRESSION
EXIT} MODULE *moduname***

または

**IMODULE ERROR *xx* {LOADING | DELETING}
{RANDOMIZING | INDEX EXIT | COMPRESSION
EXIT} MODULE *moduname* FOR DATABASE
*dedbname***

または

**IMODULE ERROR *xx* {LOADING | DELETING}
{RANDOMIZING | INDEX EXIT | COMPRESSION**

**EXIT | SPARSE EXIT | PARTITION EXIT} MODULE
moduname FOR DATABASE *dedbname***

説明

IMS の IMODULE 機能は、以下のいずれかの出口ルーチンのロードまたは削除を試みたときにエラーを検出しました。

- ランダム化ルーチン
- 副次索引出口ルーチン
- 編集出口ルーチンまたは圧縮出口ルーチン
- 高速副次索引を持つ DEDB データベースに関する、スパース出口ルーチンまたは区画出口ルーチン

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx

IMODULE からの 16 進戻りコード。

moduname

出口ルーチンの名前

IMODULE 戻りコードの説明は、「IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)」を参照。

高速機能データベース圧縮出口ロード・エラーの場合、または高速機能副次索引スパース出口または区画出口ロード・エラーの場合、DEDB データベース名 (*dedbname*) がメッセージ・テキストに表示されます。この場合、付随するメッセージ DFS0730I はありません。

システムの処置

メッセージ DFS0730I 理由コード **I,52** が出されます。出口ルーチンをロードする試みが失敗した場合は、データベース (メッセージ DFS0730I に指定された) は停止します。メッセージ DFS0730I に関するシステムの処置の説明を参照してください。

プログラマーの応答

エラーを起こさずにアクセスできるライブラリーにあるモジュールを指定してください。

問題判別:

1、2、3、17b、36

モジュール:

DFSDLOC0、DBFMSIU0、DBFOLC02、DFSDOCA0

関連資料

IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報

265 ページの『DFS0730I』

UNABLE TO OPEN OR CLOSE DATASET WITH DDNAME *DD* 名 FOR REASON *x*, *yy*, *z*
DATABASE データベース名 プログラム *ID*

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0734I UNABLE TO MERGE LOG DATASETS

説明

ログ・マージ・ユーティリティ DFSLTMG0 への入力ログ・データ・セットの1つに入出力エラーがありました。

システムの処置

プログラムは終了し、10 進戻りコード 12 が示されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別

オペレーティング・システム・メッセージを参照してください。

モジュール:
DFSLTMG0

**DFS0735I SAF ACCESS FAILED-Rnn
 dbdname-ddname RETURN
 CODE=nnn. REASON CODE=nnnn.
 module-name.**

説明

VSAM またはメディア・マネージャー・データ・セットに関する アクセス許可プロセスがエラーを検出して、失敗しました。Rnn が、この障害の IMS 理由コードです。dbdname-ddname は、チェックされるデータ・セットの DBD またはメディア・マネージャー・エリア名および DD 名です。RC=nnn REASON CODE=nnnn は、この障害に関連した 戻りコードと理由コードです。module-name は、失敗したモジュールの名前です。

理由コードは、発生した障害のタイプを示しています。

コード (nnn)
意味

R01

データベース dbdname をオープンできませんでした。その理由は、IMS が、必要なレベルでの dbdname-ddname 用データ・セットへのアクセスを許可されなかったからです。

R02

データベース dbdname をオープンできませんでした。IMS が ddname 用のデータ・セット・アソシエーション・ブロック (DSAB) へのアクセスを許可されなかったからです。ddname を使用して発行さ

れた z/OS マクロ GETDSAB からのエラー戻りコードを参照してください。

R03

データベース dbdname がオープンできませんでした。DFP カタログ管理機能がデータ・セットに関するカタログにアクセスしていて、エラーを検出したからです。エラーを検出したカタログ管理モジュールが module-name です。

システムの処置

データ・セットが開きません。

プログラマーの応答

応答は、理由コードに応じて異なります。

理由コード R01 の場合:

セキュリティ・プロダクト・メッセージだけでなく、戻りコードおよび理由コードもチェックしてください。

理由コード R02 の場合:

GETDSAB マクロの戻りコードおよび理由コードに関する文書を「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference Vol 2」(SA22-7610) で確認してください。

理由コード R03 の場合

カタログ管理メッセージ IDC3009I に関する戻りコードおよび理由コードについての文書を、「z/OS MVS システム・メッセージ 第 6 巻」(SA88-8602) で確認してください。

問題判別

理由コード R01 の場合:

IDC3009I メッセージおよびセキュリティ・プロダクト文書を参照してください。

理由コード R02 の場合:

GETDSAB の文書を参照してください。

理由コード R03 の場合:

IDC3009I メッセージを参照してください。

モジュール:

DFSDRACO

関連資料

[z/OS: GETDSAB の戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[z/OS: IDC3009I](#)

**DFS736 PARM SYNCPLEX INVALID ON NRE
 COMMAND**

説明

/NRE コマンドで、パラメーター SYNCPLEX を指定して、キーワード **OPTION** が入力されました。この組み合

わせは無効です。SYNCPLEX パラメーターは、/ERE コマンドでのみ有効です。

システムの処置

/NRE コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

/NRE コマンドから **OPTION SYNCPLEX** を除去してください。

モジュール:
DFSICL20

**DFS0737A DBRC SHOWS NO AVAILABLE
OLDS. REPLY 'RETRY' OR 'ABEND'.**

説明

テークオーバー時または緊急時再始動時に、IMS が使用可能な OLDS への切り替えを試みたとき、最後の OLDS に WADS データと最終的なアカウンティング・レコード用の十分なスペースがありませんでした。DBRC が使用可能 OLDS のいずれも使用可能ではないと判別すると、このメッセージが出されます。

システムの処置

このメッセージを出した後で、IMS は「ABEND」以外に応答がないかどうか、OLDS 可用性スキャンを再試行します。

プログラマーの応答

RECON データ・セットから該当する PRIOLDS レコードのリストを入手してください。使用不可としてリストされている OLDS があれば、それをすべて使用可能にするように試み、特に、アーカイブする必要がある OLDS があれば、それをすべてアーカイブしてください。IMS に対し、OLDS 可用性が変更されたときは必ずこの切り替えを再試行するよう指示できます。問題が訂正できない場合は、ABEND と応答した上で、OLDS を増やして、緊急時再始動を試みてください。

モジュール:
DFSFDLNO

**DFS0738I tt...tt DDNAME=dddddddd
LOGSEQ=nnnnnnnn**

説明

エラーが発生し、IMS の再始動中に OLDS が終了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dddddddd

エラーが検出された時点で処理中であったデータ・セットの DD 名。dddddddd は、空白でかまいません。

nnnnnnnn

最後に処理されたログ・シーケンス番号。nnnnnnnn は、空白でかまいません。

tt...tt

理由ストリング。以下のいずれかのストリングになります。

OPEN ERROR FOR IMS LOG

データ・セットを開けませんでした。

READ ERROR ON IMS LOG

読み取りエラー

LOG SEQ ERROR ON IMS LOG

次の順次ブロックまたはログ・レコードが検出されませんでした。

MISSING BLOCK ON IMS LOG

次の順次ログ物理ブロックは検出されませんでした。したが、それよりもシーケンスが上位のログ物理ブロックが検出されました。

TRKCALC FAILED FOR IMS LOG

TRKCALC マクロが失敗しました。

LOGIC ERROR

論理エラーが検出されました。

LOG TERMINATION FAILED FOR IMS LOG

ログは適切に終了できませんでした。

VERIFY ERROR FOR IMS LOG

WADS は、OLDS が使用されたときに使用されたものではありませんでした。

MISSING RECORDS IN WADS

WADS レコードのシーケンスは、あるべき数よりも少ないレコード数でした。

システムの処置

問題が生じたデータ・セットに対して二重特性が指定されていた (例えば、二重 WADS または二重 OLDS) 場合は、IMS を続行できます。それ以外の場合、IMS はメッセージ DFS0738X を発行し、異常終了 0005 で終了します。

プログラマーの応答

ログ・リカバリー・ユーティリティを使用して OLDS を終了してから、IMS を再始動してください。

問題判別

1、5、8、11、36

OLDS および WADS データ・セットのコピーを保管してください。また、DBRC RECON データ・セットもリストしてください。

モジュール:

DFSFDLM0、DFSFDLN0、DFSFDLPO、DFSFDLRO、DFSFDLTO

関連情報

278 ページの『DFS0738X』

ERROR TERMINATING OLDS RC=xx dddddddd
nnnnnnn

IMS 異常終了 0005

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0738X ERROR TERMINATING OLDS
RC=xx dddddddd nnnnnn**

説明

IMS の再始動時に、OLDS を終了しようとしてエラーが
起きたので、再始動を進めることができません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

dddddddd

エラーが検出された時点で処理中であったデータ・
セットの DD 名。dddddddd は、ブランクで かま
いません。

nnnnnnn

最後に処理されたログ・シーケンス番号。nnnnnnn
は、ブランクで かまいません。

xx

16 進エラー・コード。レジスター 14 に、エラーを
検出した ルーチンのアドレスが入っています。レ
ジスター 15 にエラー・コードが入っています。

**コード (16 進数)
意味**

01

最後に使用された WADS を見つけようとして
いて、WADS が開けませんでした。

02

WADS は、OLDS が使用されたときに使用され
たものではありませんでした。

05

WADS は、OLDS が使用されたときに使用され
たものではありませんでした。

06

最後の IMS 障害時の WADS が使用不可でし
た。最後に使用された WADS を見つけよう
としていたとき、エラーが発生しました。

07

最後に使用された WADS を見つけようとして
いたとき、TRKCALC マクロが失敗しました。

09

OLDS ブロックの再構築中の OLDS ブロック・シ
ーケンス・エラー (次の 順次ブロックは検出さ

れませんでした、それよりもシーケンスが上
位のブロックが WADS 内で検出されました)。
OLDS の中段で読み取りエラーが発生した可能
性があります。

0B

OLDS ブロックの再構築時に、WADS セグメン
ト TOD が昇順ではありません。

0C

再構築 OLDS ブロックで無効の BDW が検出さ
れました。

0D

再構築 OLDS ブロックで無効の RDW が検出さ
れました。

0E

X'FFXX' という RDW が再構築 OLDS ブロッ
クで検出されましたが、これは WADS の 最後
のブロックではありませんでした。

0F

再構築 OLDS ブロックでログ・レコード・シー
ケンス・エラーが検出されました。

10

OLDS ブロックの再構築時の WADS での読み取
りエラー

11

OLDS ブロックを再構築している最中に、WADS
で EOF が検出されました。

12

OLDS を再構築している最中に、無効のセグメン
ト ID (セグメント・カウントが大きすぎる) が
検出されました。

13

OLDS ブロックを再構築している最中に、装置エ
ラー (セグメントが連続する WADS レコードに
書き込まれなかった) が検出されました。

WADS レコードのシーケンスは、あるべき数よ
りも少ないレコード数でした。

14

論理エラーがモジュール DFSFDLW0 で検出さ
れました。

1C

OLDS 終了プロセスが失敗しました。エラーの
原因を示すメッセージ DFS0738I が、このメ
ッセージよりも前に出されている可能性があります。

20

再使用可能 OLDS が使用不可です。WADS から
OLDS をコピーしているとき、IMS が OLDS を
検出できませんでした。すべての OLDS にエラ
ーか未アーカイブか、どちらかのマークが付け
られています。

21

現行 OLDS 上のスペースが不十分で、WADS データがすべては収まらない上、OPEN または再使用可能 OLDS が使用不能です。

22

論理エラーがモジュール DFSFDLU0 で検出されました。

システムの処置

IMS は異常終了 0005 で終了します。

プログラマーの応答

ログ・リカバリー・ユーティリティーを使用して OLDS を終了してから、IMS を再始動してください。

問題判別

1、5、8、11、36

OLDS および WADS データ・セットのコピーを保管してください。また、DBRC RECON データ・セットもリストしてください。

モジュール:

DFSFDLM0、DFSFDLN0、DFSFDLP0、DFSFDLR0

関連情報

277 ページの『DFS0738I』

tt...tt DDNAME=dddddddd LOGSEQ=nnnnnnnn

IMS 異常終了 0005

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0739I *tt...tt DDNAME=dddddddd*
 LOGSEQ=nnnnnnnn

説明

IMS 再始動時にログ・データ・セットにアクセスしている最中に、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dddddddd

エラーが検出された時点で最後に処理されたデータ・セットの DD 名。dddddddd は、空白でかまいません。

nnnnnnnn

最後に処理されたログ・シーケンス番号。nnnnnnnn は、空白でかまいません。

tt..tt

エラーの理由を示すストリング。この変数は、以下のいずれかのストリングです。

OPEN ERROR FOR IMS LOG

データ・セットを開けませんでした。

CLOSE ERROR FOR IMS LOG

データ・セットを適切に閉じられませんでした。

READ ERROR ON IMS LOG

読み取りエラー

WRITE ERROR ON IMS LOG

WADS のフォーマット設定中に、書き込みエラーが発生しました。

LOG SEQ ERROR ON IMS LOG

次の順次ブロックまたはログ・レコードが検出されませんでした。

MISSING BLOCK ON IMS LOG

次の順次ログ物理ブロックは検出されませんでした。したが、それよりもシーケンスが上位のログ物理ブロックが検出されました。

TRKCALC FAILED FOR IMS LOG

TRKCALC マクロが失敗しました。

LOGIC ERROR

論理エラーが検出されました。

UNABLE TO ALLOCATE IMS LOG

動的割り振りが失敗したか、DD ステートメントが欠落しているか、または OPEN が失敗しました。

SEQUENCE ERROR - BOTH OLDS

重複ロギングで、読み取りエラーが両方の OLDS で発生しました。

READ ERROR - BOTH OLDS

重複ロギングで、読み取りエラーが両方の OLDS で発生しました。

XRF-ALT OR FDR GOT AN SLDS

XRF 複合システムで、代替(バックアップ)システムが SLDS を割り振ったか、次に割り振られるログが SLDS であると判別したか、いずれかです。

高速データベース・リカバリー環境で、高速データベース・リカバリー領域が SLDS を割り振ったか、次に割り振られるログが SLDS であると判別したか、いずれかです。

WAITING FOR RESERVE - OLDS

XRF 複合システムで、テークオーバーが要求されましたが、代替システムが 現行 OLDS を予約できません。

WAITING FOR RESERVE - WADS

XRF 複合システムで、テークオーバーが要求されましたが、代替システムが 現行 WADS を予約できません。

DFSFDLVO RRTT TABLE ERROR

読み取り遷移テーブル再始動エラーが検出されました。

REREAD LAST GOOD BLK FAIL

通常のエラー・リカバリー中に、最後の正常な OLDS ブロックを再読み取りする試みが失敗しました。

システムの処置

IMS は処理を続ける (代替入力ログ・データ・セットが使用可能な場合) か、または DFS0739X を出し、異常終了 0175 で終了します。

XRF 複合システム内で、IMS 代替システムがエラーを検出し、そのエラーからのリカバリーが不可能でした。IMS はメッセージ DFS0739X を出し、異常終了 0176 で終了します。

高速データベース・リカバリー環境では、IMS システムはメッセージ DFS0739X を発行し、異常終了 0176 で終了します。

オペレーターの応答

このエラーが高速データベース・リカバリー領域の初期設定時に発生した場合は、アクティブ IMS システム内で単純チェックポイントを取り、必ず OLDS 内に再始動可能なチェックポイントがあるのを確認してから、高速データベース・リカバリー領域を再始動してください。

問題判別

1、5、8、11、35

OLDS および WADS データ・セットのコピーを保管してください。また、DBRC RECON データ・セットもリストしてください。

モジュール:

DFSFDLRO、DFSFDLMO、DFSFDLNO、DFSFDLPO、DFSFDLTO

関連情報

280 ページの『DFS0739X』

ERROR READING IMS LOG RC=xx dddddddd
nnnnnnn

IMS 異常終了 0175

IMS 異常終了 0176

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0739X	ERROR READING IMS LOG RC=xx ddddddd nnnnnn
-----------------	---

説明

エラーが検出されたため、再始動は進められません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddddddd

エラーが検出された時点で処理中であったデータ・セットの DD 名。ddddddd は、ブランクでかまいません。

nnnnnnn

最後に処理されたログ・シーケンス番号。nnnnnnn は、ブランクでかまいません。

xx

16 進エラー・コード。レジスター 14 に、エラーを検出した ルーチンのアドレスが入っています。レジスター 15 にエラー・コードが入っています。

コード (16 進数)

意味

15

データ・セットを開けませんでした。

16

データ・セットを適切に閉じられませんでした。

17

読み取りエラー

18

最後の正常なブロックの再読み取りが失敗しました。

19

OLDS ブロック・シーケンス・エラー

1A

次の順次ログ・レコードが検出されませんでした。

1B

TRKCALC マクロが失敗しました。

1C

最新の OLDS が終了できませんでした。

1D

ログ・データ・セットの割り振りが失敗しました。動的割り振りが失敗したか、DD ステートメントが欠落しているか、または OPEN が失敗しました。レジスター 15 の左半分に DFSMDA 戻りコードが入っています。

1E

次のログ・データ・セットのレコードが RECON データ・セットに検出されなかったか、次の OLDS に無効のマークが付けられています。

1F

最新のログ・データ・セットのレコードが RECON データ・セットに検出されなかったか、次の OLDS に無効のマークが付けられています。

20

再使用可能 OLDS が使用不可です。

21

DBRC からのエラー戻りコード。レジスター 15 の左半分に DBRC 戻りコードが入っていません。

22

論理エラーが検出されました。

23

読み取り遷移テーブル再始動が失敗しました。

24 両方の OLDS (重複ロギング) でシーケンス・エラーが発生しました。

25 両方の OLDS (重複ロギング) で読み取りエラーが発生しました。

26 XRF 複合システムで、代替システムが SLDS を割り振ったか、次に割り振られるログが SLDS であると判別したか、いずれかです。高速データベース・リカバリー環境で、高速データベース・リカバリー領域が SLDS を割り振ったか、次に割り振られるログが SLDS であると判別したか、いずれかです。

システムの処置

IMS は異常終了 0175 で終了します。XRF 複合システム内で、IMS 代替システムは異常終了 0176 で終了します。

高速データベース・リカバリー環境では、高速データベース・リカバリー領域が異常終了 0176 で終了します。

オペレーターの応答

このエラーが高速データベース・リカバリー領域 初期設定時に発生した場合は、アクティブ・システム内で単純チェックポイントを取り、高速データベース・リカバリー領域を再始動する前に、再始動可能チェックポイントが OLDS にあるか確認してください。

問題判別

1、5、8、11、35

OLDS および WADS データ・セットのコピーを保管してください。また、DBRC RECON データ・セットもリストしてください。

モジュール:

DFSFDLM0、DFSFDLN0、DFSFDLP0、DFSFDLR0

関連情報

[IMS 異常終了 0175](#)

[IMS 異常終了 0176](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0740I	DBRC SAYS NO BACKOUTS NEEDED FOR DB xxxxxxxx
-----------------	---

説明

NOBACKOUT キーワードを指定せずに /START DB コマンドを発行すると、DBRC が IMS にバックアウトが必要であると通知する可能性があります。しかし、IMS オンライン・システム側は、まだバックアウトが必要であ

ると見なしている場合があります。この状態が生じるのは、バッチ・バックアウトがすでに正常に実行されているときです。

システムの処置

IMS は処理を続行します。バックアウト・データをトラッキングするために、オンライン IMS システムによって維持されている制御ブロックは、オペレーターが NOBACKOUT を指定した場合と同様に解放されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSDBDR0

DFS0741I	DATA COMPRESSION ERROR, UNCOMPRESSED DATA WILL BE WRITTEN TO DD DFSUCUMN DATASET
-----------------	---

説明

変更累積処理中にデータ圧縮処理を実行している最中に、エラーが検出されました。

システムの処置

処理は続行されます。拡張データは新しい変更累積データ・セットに書き込まれます。

モジュール:

DFSURIO0

DFS0742I	WHILE EXPANDING DATA ERROR FOUND
-----------------	---

説明

変更累積処理またはデータベース・リカバリー処理中にデータ展開処理を実行している最中に、エラーが検出されました。

システムの処置

処理は終了し、変更累積に関しては戻りコード 8 が、データベース・リカバリーに関しては戻りコード 16 が示されます。

プログラマーの応答

ジョブ出力およびジョブ入力を保管してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSURIO0

DFS0743I	RRS HOLDS AN INDOUBT UOR FOR WHICH IMS HAS NO DATA:
-----------------	--

URID=xxxxxxxxxx,
TOKEN=yyyyyyyyyy

説明

IMS 再始動時に、RRS が、IMS に既知でない一部の未確定リカバリー単位 (UOR) を保持していました。おそらく IMS コールド・スタートの結果として、この状態になりました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

XXXXXXXXXX

RRS リカバリー単位 ID。

YYYYYYYYYY

IMS リカバリー・トークン

システムの処置

処理は続行されます。

ユーザーの処置

RRS URID と IMS リカバリー・トークンが提供されます。RRS ISPF パネルおよび IMS ログを使用して、可能なバッチ・リカバリーの範囲を判別してください。

モジュール:
DFSRRSIO

DFS0744A **IMS HOLDS AN INDOUBT UOR FOR WHICH RRS HAS NO DATA: URID=xxxxxxxxxx, TOKEN=yyyyyyyyyy**

説明

IMS は再始動時に、IMS リカバリー・トークンおよび RRS リカバリー単位 ID によって識別されているように、未確定リカバリー単位 (UOR) を保持していることを判別しました。しかし、z/OS リソース・リカバリー・サービスは、固定されたログ・データが使用不可であることを示しました。未確定 UOR の解決には、このデータが必要でした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

XXXXXXXXXX

RRS URID

YYYYYYYYYY

IMS リカバリー・トークン

システムの処置

IMS は、未確定 UOR ごとにリカバリー可能な未確定構造 (RIS) を構築し、/CHA UOR コマンドによる解決を待ちます。UOR が解決されるか、またはコールド・スタ

ートが行われるまで、RIS は維持されます。コールド・スタートは推奨できません。

ユーザーの処置

/CHA コマンドを発行して、未確定 UOR を解決してください。

モジュール:
DFSDRISO

DFS0745E **RRS HOLDS AN aaaaaaaa UOR FOR IMS STATE: bbbbbbbb, URID=xxxxxxxxxx, TOKEN=yyyyyyyyyy**

説明

IMS またはリソース・リカバリー・サービス (RRS) でのエラーのため、リカバリー単位 (UOR) について、IMS で最後に記録された状態と RRS で最後に記録された状態に互換性がありません。以下の表に、このメッセージを引き起こす可能性がある、互換性のない UOR 状態を示します。

表 5. 起こり得る互換性のない UOR 状態

RRS の状態	IMS の状態
INDOUBT	INFLIGHT
INDOUBT	PHASE 2
INCOMMIT	INFLIGHT

モジュール DFSRRSIO は、IMS と RRS の間で UOR 同期を実行し、UOR の非互換状態が検出された場合にこの DFS0745E メッセージを出します。UOR 同期コード・パスは、IMS と RRS が相互に通信を確立または再確立する必要があるときは常に駆動されます。

IMS 緊急時再始動 (/ERE) 時に IMS が UOR の非互換状態を検出した場合、IMS は緊急時再始動処理を続行します。未解決の UOR がある場合、このメッセージに示されている情報を使用して手動で解決できることがあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

RRS の観点からのリカバリー単位 (UOR) の状態。値は、INCOMMIT または INDOUBT です。

bbbbbbbb

IMS の観点からのリカバリー単位 (UOR) の状態。値は、INFLIGHT または PHASE 2 です。

XXXXXXXXXX

RRS リカバリー単位 ID (URID)。

YYYYYYYYYY

IMS リカバリー・トークン。

システムの処置:
処理を続行します。

出力宛先

MTO およびシステム・コンソール。

ユーザーの処置

メッセージに示されている RRS URID および IMS リカバリー・トークンを使用して RRS ISPF パネルを調べてください。また、IMS DISPLAY UOR コマンドを使用して UOR の状態および考えられる処置を判別してください。

問題が続く場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、RRS トレース、IMS ログ、および RRS ISPF パネル出力を提示してください。

モジュール:
DFSRRSIO

DFS0746I	UOR IS ONE OF MULTIPLE UORS IN A SINGLE IMS COMMIT SCOPE - ALL UORS IN THIS SCOPE WILL BE RESOLVED
-----------------	---

説明

/CHA コマンドで識別されているリカバリー単位 (UOR) は、複数の IMS UOR がかかわる保護会話の一部でした。UOR によって行われたデータベース変更は、前の UOR に依存している可能性があるため、変更は単一同期点で、しかも、処置がバックアウトの場合は、適正な順序で、解決される必要があります。

システムの処置

同期点のフェーズ 2 は、かかわっているすべての UOR に関して行われます。処理は続行する

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSIRSTO

DFS0747I	CHANGE ACCUM DATASET IS MARKED INCOMPLETE
-----------------	--

説明

IMS データベース・リカバリー・ユーティリティは、入力された変更累積 (CA) データ・セットが不完全であることを検出しました。データベース・データ・セットのリカバリーに必要なログ・データ・セット変更がすべて含まれているわけではありません。

システムの処置

データベース・リカバリー・ユーティリティが処理を終了します。

プログラマーの応答

必要なログ入力を提供する変更累積ユーティリティを実行してから、あらためてデータベース・リカバリー・ユーティリティを実行してください。

モジュール:
DFSURDBO

DFS0748I	UNEXPECTED CHANGE ACCUM RECORD ENCOUNTERED - XXXXXXXXXX
-----------------	--

説明

変更累積 (CA) データ・セットを読み取るユーティリティが、入力 CA データ・セットが欠落しているか、または不完全であることを検出しました。明細レコードまたは予備レコードに関するすべてのデータが 1 つの明細レコードまたは予備レコードに収まらないときは、変更累積ユーティリティは、その明細レコードまたは予備レコードを分割します。メッセージは、次のいずれかの理由で出されます。

- 分割明細レコードの 1 つが欠落している。
- 分割予備レコードの 1 つが欠落している。
- 明細レコードには予備レコードがあるというマークが付けられているが、変更累積ユーティリティは、その明細レコードの予備レコードをまったく受信しなかった。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

XXXXXXXXXX

レコードを持つデータベースの名前

システムの処置

CA データ・セットを読み取るユーティリティが処理を終了します。

システム・プログラマーの応答

CA データ・セットを読み取るユーティリティにすべての CA ボリュームを提供した上で、そのユーティリティを再実行してください。

問題判別:

2、3

モジュール:
DFSUC350

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0749I COMPRESSION EXIT ROUTINE
nnnnnnnn INITIALIZATION
ERROR - Uaaaa REASON rrrrrrr**

説明

初期設定エラーがセグメント編集/圧縮出口ルーチンによって検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnn

出口ルーチンの名前

Uaaaa

出口ルーチンによって生成された IMS ユーザー異常終了コード。

rrrrrrrr

エラーが検出された固有のラベル。このラベルは、エラー理由コードに対応しています。各コードの説明については、該当する異常終了コードを参照してください。

システムの処置

メッセージ DFS0730I が、理由コード I,58 を伴って出されます。メッセージ DFS0730I に示されたデータベースは、停止されます。追加情報については、メッセージ DFS0730I を参照してください。

プログラマーの応答

エラーの原因を判別し、問題を訂正してください。

モジュール:

DFSDOCA0

関連情報

265 ページの『DFS0730I』

UNABLE TO OPEN OR CLOSE DATASET WITH DDNAME *DD* 名 FOR REASON *x*, *yy*, *z*
DATABASE データベース名 プログラム *ID*

DFS0750I

**ERROR WITH rrr PGFIX, RETURN
CODE = x**

説明

ストレージの固定化を試みているとき、オペレーティング・システム からゼロ以外の戻りコードが受信されました。ページ固定は、DDNAME=PROCLIB によって記述されているデータ・セットの DFSFIXnn メンバーで指定されたパラメーターに対する 応答でした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rrr

ストレージが固定化された領域。制御領域の場合は「CTL」、DL/I 従属アドレス・スペース領域の場合は「DLS」を示します。

x

ページ固定エラー戻りコードであり、次のように定義されます。

- 04 1 つ以上のエントリーが固定化できなかった。
- 08 使用可能なページ数が不十分で、要求に応じられなかった。
- 0C リスト・フォーマットが無効である。
- 10 パラメーター・リスト・ポインターが無効である。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

問題判別:

36

モジュール:

DFSIFIX0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 19 章 DFS メッセージ DFS0751I - DFS0800I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0751I **IMS NOT RUNNING IN A VIRTUAL REGION**

説明

IMS 制御領域が、z/OS システム内で VIRTUAL=VIRTUAL 領域として実行されていません。

システムの処置

IMS は VIRTUAL=REAL 環境で実行を継続します。

オペレーターの応答:

REAL として実行を継続するか、またはチェックポイントのシャットダウンによって IMS を終了し、必要であれば VIRTUAL=VIRTUAL 領域で IMS 制御領域を再実行します。

モジュール:
DFSIFIX0

DFS0752I **UNEXPECTED CHANGE ACCUM TIME ENCOUNTERED - DB xxxxxxxx DSID yyy**

説明

変更累積 (CA) は、タイム・スタンプが直前の明細レコードのタイム・スタンプよりも早い予備レコードを検出しました。xxxxxxx の値が、レコードのデータベース名です。yyy の値が、レコードのデータ・セット ID です。

システムの処置

CA ユーティリティで処理が続行されます。

システム・プログラマーの応答

メッセージ DFS0772I で識別されているデータベースおよびデータ・セット ID すべての、イメージ・コピーを取ってください。

モジュール:
DFSUC350

関連情報

292 ページの『DFS0772I』

KSDS EXTENDING AT TAKEOVER - DBD
dddddddd, PROGRAM pppppppp NOT BACKED
OUT

DFS0753A **MISSING SPILL RECORD AFTER A 5220 DETAIL RECORD - DB xxxxxxxx DSID yyy**

説明

5220 明細レコードが処理された後で、変更累積 (CA) が、5240 予備レコードが欠落していることを検出しました。xxxxxxx の値が、レコードのデータベース名です。yyy の値が、レコードのデータ・セット ID です。

システムの処置

CA ユーティリティは処理を終了します。

システム・プログラマーの応答

RECON、DBDLIB、CA ジョブ、CA データ・セット、および、すべてのログを保管してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別:
2、3

モジュール:
DFSUC350

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0754I **CADS INVALID FOR COEXISTENCE - ddname dsid**

説明

IMS 第 9 版の DB リカバリー・プロセスまたは変更累積 (CA) プロセスへ提供された CADS が、共存情報をファイルに保管する IMS ユーティリティによって作成されたものではありませんでした。変更累積は、入力としてこの CADS を受け取ることができません。

システムの処置

この DBDS に対する処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

指定された DBD データ・セットに関する CA データ・セットをすべて無効にしてください。変更データのソ

ースとしてログ入力だけを使用して、処理を再実行してください。

モジュール:
DFSURIO0

DFS0755I **FORMAT ERROR IN PROCLIB**
 MEMBER=DFSFIXnn|DFSDRFnn

説明

DDNAME=PROCLIB によって定義されたデータ・セットのメンバー DFSFIXnn または DFSDRFnn で指定されたパラメーターで、フォーマットのエラーが検出されました。

システムの処置

IMS は継続しますが、制御プログラムおよびモジュール・プリロードの部分の DREF ストレージにおけるページの固定化および割り振りは行われません。

オペレーターの応答:

(マスター端末) DREF ストレージ内の固定化または割り振りされた部分なしで IMS の実行を継続するか、またはチェックポイントのシャットダウンを行い、DFSFIXnn または DFSDRFnn の訂正後に再実行します。

プログラマーの応答

DFSDRFnn の DFSFIXnn または DREF パラメーターの FIX パラメーターのフォーマットを訂正してください。

問題判別

DFSFIXnn メンバーについての説明は、[IMS PROCLIB データ・セットの DFSFIXnn メンバー \(システム定義\)](#) を参照してください。DFSDRFnn メンバーについての説明は、[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDRFnn メンバー \(システム定義\)](#) を参照してください。

モジュール:
DFSIFIX0

DFS0756I **INVALID WORD IN DFSFIXnn|**
 DFSDRFnn xxx

説明

DDNAME=PROCLIB によって定義されたデータ・セットのメンバー DFSFIXnn または DFSDRFnn で指定されたワード xxx が無効です。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

オペレーターの応答

(マスター端末) DREF ストレージ内の固定化または割り振りされた部分なしで IMS の実行を継続するか、またはチェックポイントのシャットダウンを行い、DFSFIXnn または DFSDRFnn の訂正後に再実行します。

プログラマーの応答

DFSFIXnn または DFSDRFnn メンバーにある無効のワードを訂正してください。

問題判別

DFSFIXnn メンバーについての説明は、[IMS PROCLIB データ・セットの DFSFIXnn メンバー \(システム定義\)](#) を参照してください。DFSDRFnn メンバーについての説明は、[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDRFnn メンバー \(システム定義\)](#) を参照してください。

モジュール:
DFSIFIX0

DFS0757I **FIX COMPLETE: NO FIXING**
 REQUESTED

説明

IMS PROCLIB データ・セットの DFSFIXnn メンバーは、2 回のパスで処理されます。このメッセージは、それぞれのパス中に、2 つの状態で出される可能性があります。1 つ目は、データ・セット DDNAME=PROCLIB のメンバー DFSFIXnn が、このパスに対してストレージの固定化を要求していなかった場合です。2 つ目は、そのメンバーに含まれているのが、すべてブランクか、すべて無効なパラメーターか、いずれかである場合です。無効なパラメーターの場合は、先行する DFS0755I メッセージを探してください。ページの固定化が 1 回のパス中に成功したかどうかを判別するには、DFS0759I メッセージを探してください。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) ページの固定化が予想どおりに処理された場合は、処置は必要ありません。問題が検出された場合は、ページの固定部分なしで IMS の実行を継続するか、あるいはチェックポイントのシャットダウンを行い、DFSFIXnn が修正された後で IMS を再始動します。

プログラマーの応答

ページの固定化が予想どおりに処理されなかった場合は、DFSFIXnn 内のパラメーターを修正して、IMS を再始動します。

問題判別

DFSFIXnn メンバーの説明を参照してください。

モジュール:

DFSIFIX0

関連資料

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSFIXnn メンバー \(システム定義\)](#)

関連情報

286 ページの『DFS0755I』
FORMAT ERROR IN PROCLIB
MEMBER=DFSFIXnn/DFSDFRnn

287 ページの『DFS0759I』
THE FOLLOWING VIRTUAL ADDRESSES HAVE
BEEN FIXED IN rrr xxxxxxxx yyyyyyyy-zzzzzzzz

DFS0758I **FIX FAILURE: MORE THAN 62
AREAS TO BE FIXED**

説明

DDNAME=PROCLIB であるデータ・セットのメンバー DFSFIXnn のパラメーターで記述されているように、ストレージを FIX するためには、62 を超えるエリアが固定化される必要があります。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 固定部分なしに IMS の実行を継続するか、またはチェックポイントのシャットダウンを行い、DFSFIXnn の訂正後に再実行します。

プログラマーの応答

固定化されるエリアを減らすか結合し、メンバー DFSFIXnn を訂正してください。

問題判別

DFSFIXnn メンバーについての説明は、[IMS PROCLIB データ・セットの DFSFIXnn メンバー \(システム定義\)](#) を参照してください。

モジュール:

DFSIFIX0

DFS0759I **THE FOLLOWING VIRTUAL
ADDRESSES HAVE BEEN FIXED IN
rrr xxxxxxxx yyyyyyyy-zzzzzzzz**

説明

仮想アドレス範囲 (yyyyyyyy-zzzzzzzz) は、DDNAME=PROCLIB によって記述されているデータ・セ

ットの DFSFIXnn メンバーで指定されたパラメーターに対する応答として、固定化されています。

rrr は、ストレージが固定化された領域を識別し、次のように表します。

制御領域の場合、CTL

DL/I 従属アドレス・スペース領域の場合、DLS

xxxxxxx は、固定化されたエリアの IMS 名です。

注: ページ固定化されている高速機能ブロックの場合は、In rrr は表示されません。高速機能ブロックは、制御領域 (CTL) でページ固定化されます。

システム内のすべての DEDB ブロックの合計サイズが 1 MB を超えている場合、IMS は始動時に複数の DFS0759I メッセージを表示します。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

モジュール:

DFSIFIX0

DFS0760I **THE FOLLOWING FIX/DREF
OPERANDS WERE NOT FIXED IN/
ALLOCATED IN DREF IN rrr:
xxxxxxx**

説明

示されているオペランドは、rrr で示されている領域の DREF ストレージで固定化も割り振りもされていません。変数 rrr は、制御領域を表す CTL と DL/I 従属アドレス・スペースを表す DLS のいずれかです。プールまたはブロックの名前が誤って指定されているか、指定されたモジュールが領域 rrr にロードされていないか、いずれかです。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

プール名かブロック名が意図されていた場合は、IMS プロシージャ・ライブラリー (DDNAME=PROCLIB) 内のメンバー DFSFIXnn または DFSDFRnn を更新して、指定を訂正してください。モジュールをページ固定化する要求の場合は、DL/I アドレス・スペースが選択されているのであれば、モジュールは一方の領域にあり、もう一方の領域にはないため、このメッセージは正常である可能性があります。

問題判別

DFSFIXnn メンバーについての説明は、[IMS PROCLIB データ・セットの DFSFIXnn メンバー \(システム定義\)](#) を参照してください。DFSDFRnn メンバーについての

説明は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDRFnn メンバー (システム定義) を参照してください。

モジュール:
DFSIFIX0

DFS0761I **SPACE NOT AVAILABLE FOR
<PGFIX|DREF> PARAMETER LIST**

説明

DDNAME=PROCLIB によって記述されているデータ・セットのメンバー DFSFIXnn または DFSDRFnn で指定されているパラメーターに対する応答として、PAGE FIX または DREF パラメーター・リストを作成するためのストレージが、IMS 制御領域に存在しません。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

オペレーターの応答

(マスター端末) DREF ストレージ内の固定化または割り振りされた部分なしで IMS の実行を継続するか、またはチェックポイントのシャットダウンを行い、領域サイズの変更後に再実行します。

プログラマーの応答

IMS 制御領域のサイズを 1 ページに相当するサイズだけ大きくしてください。

モジュール:
DFSIFIX0

DFS0762I **OSAM (TAPE | DASD) (READ |
WRITE) ERROR - FUNC=aa
STATUS=bb, cc, dddd, eeee, ffff**

説明

OSAM 入出力エラーが検出されました。それぞれに DFS0762I という番号が付けられた 2 行または 3 行のメッセージが生成されます。

- 1 行目では、(1) 入出力操作の宛先はテープか直接アクセス装置か、(2) 入出力操作は READ か WRITE か、(3) OSAM 操作タイプ、(4) 操作の終了状況を示します。
- 2 行目では、(1) 4 文字の UNIT 名、(2) 障害を起こしたチャンネル・コマンド・ワード、(3) 装置が直接アクセス装置の場合は、入出力操作に関連した完全なディスク・アドレス、および (4) OSAM 入出力制御ブロックが記録された IMS ログ・レコード・タイプが示されます。

注: 入出力操作が開始されなかった場合は、2 行目は表示されません。

- 3 行目では、エラーが見つかったデータ・セットの名前を示します。

変数フィールドは、次のように定義されています。

FUNC=aa

OSAM 操作タイプ - 次のように定義されています。

- 01 読み取り専用 OSAM ブロック
- 02 予約済み
- 03 複数の OSAM バッファの読み取り

*

- 04 ファイル・マークのスキャン
- 05 予約済み
- 06 予約済み

*

- 07 STAE
- 08 特定の OSAM ブロックの書き込み
- 09 予約済み

*

- 0A キュー・バッファの書き込み

*

- 0B 順次ブロックの書き込み

*

- 0C 論理シリンダーのフォーマット

*

- 0D ファイル・マークの書き込み
- 0E 予約済み

*

- 0F エクステンツのフォーマット

*

- 10 EOVS 後 REDRIVE

*

- 11 DDR SWAP 後 REDRIVE

*

- 12 エラーのテープ RRQ のポスト
- 13 論理シリンダーの仮想フォーマット

(* は内部機能を示す)

STATUS=bb

操作完了のポストに使用される IOSB/IOB 完了コード

cc

DECB 状況コード (DECBSTAT) は、次のように定義されています。

- 01 未定義命令コード
- 02 DCB がオープンしていない
- 03 IDAL 変換エラー
- 04 チャンネル・プログラム保護エラー
- 05 長さの誤りエラー (誤り DCBBUFL)
- 06 永続入出力 ERROR

- 07 DCB が DD ダミーとして指定された
- 08 RBN 変換エラー
- 09 RBN がデータ・セットの現行データの終わりを超えている
- 0A ファイルの終わりに達している
- 0B 呼び出し元に呼び出しタイプの使用許可がない
- 0C チャンネル・プログラム作業域の取得不能
- 0D データ・セットにブロックを追加するスペースがない
- 0E 関連するチェーン・ブロック入出力エラー
- 0F 予約済み
- 10 OSAM 入出力ストレージ・プールからの IOSB の割り振り不能
- 11 DEB/DCB 妥当性検査エラー
- 12 入出力が妨げられている
- 13 キュー書き込みエラー (バッファ接頭部に状況が含まれている)
- 14 直前のエラーのためにバッファが無視した
- 15 チューニングされた読み取りエラー (バッファ接頭部に状況が含まれている)
- 16 予約済み
- 17 無効なブロック/バッファ・カウント
- 18 バッファ接頭部のチューニングの順序が正しくない
- 19 テープ入出力エラー - DDR SWAP を試行
- 1A 読み取り専用データ・セットに対して書き込みが試みられた
- 1B IOS または付加でのプログラム・チェックまたはマシン・チェックのため、入出力要求が異常終了
- 1C チャンネル・プログラム・チェック
- 1D レコードが検出されない
- 1E DCB がすでにクローズしている
- 1F ページ固定化ルーチンからの戻りコードがゼロ以外
- 20 チャンネル・プログラム変換エラー

dddd

CSW の装置状況およびチャンネル状況

eeee

障害のある CCW の残余バイト・カウント

ffff

CSW の装置状況が装置チェックを示している場合は、最初の 2 つのセンス・バイト。装置チェックが示されていない場合は、ピリオド (.) が表示されません。

要確認: 入出力操作が開始されなかった場合は、文字ストリング I/O NOT STARTED が表示され、状況バイト、残余バイト・カウント、および最初の 2 つのセンス・バイトは表示されません。

UNIT=gggg

装置に関連した 4 文字装置名

FAILING CCW=

hh 命令コード

ii フラグ

jjjj バイト・カウント

注: CCW アドレスが無効である、つまり、使用した場合は、プログラム・チェックの原因になると判別された場合は、選択された CCW フィールドではなく、文字ストリング UNKNOWN が表示されます。対をなすコマンドでデータ/IDAL アドレスが存在しないことを示します。

IOSEEK=kkk..k

フォーム MBBCCHHR の全ディスク・アドレス。このフィールドが表示されるのは、直接アクセス装置の場合のみです。

LOG=llll

OSAM 入出力制御ブロックが記録された IMS ログ・レコード・タイプ。

6201

X'6201' レコードのみがログに記録されました。

6202

X'6201' と X'6202' の両方のレコードがログに記録されました。

6203

3 つのタイプのレコードがすべてログに記録されました。

GERR

X'6201' および X'6202' レコードはログに記録されましたが、X'6203' レコードをログに記録する試みは、GETMAIN エラーのため失敗しました。

LERR

X'6201' および X'6202' レコードはログに記録されましたが、X'6203' レコードをログに記録する試みは、ロギング・エラーのため失敗しました。

システムの処置

処理を続行します。入出力エラーがユーザー・データベースにかかわる場合は、メッセージ DFS0451I が後に続きます。そのメッセージの説明を参照してください。

オペレーターの応答:

/START DATABASE コマンドを発行して、エラーが解決されたかどうかを確認してください。

モジュール:

DFSAOS80

関連情報

[161 ページの『DFS0451I』](#)

modname, dbdname, ddname, i/o error, decb field

**DFS0763I STOP ABDUMP REJECTED FOR
THREAD *nnnn*; SINGLE PHASE
SYNC POINT IN PROGRESS**

説明

アクティブのデータベース制御 (DBCTL) サブシステム・スレッドの単一フェーズ同期点処理が進行中に、/ **STOP REGION *nnnn* ABDUMP** を入力しました。

システムの処置

コマンドは無視され、スレッドは同期点処理を続行します。

モジュール:
DFSDSTP0

**DFS0764A PAGE FIX FOR EXCPVR-REQUIRED
AREAS FAILED. REPLY 'RETRY' OR
'EXCP'.**

説明

IMS システムが、EXCPVR オプション用のストレージ域の PAGE FIX を試みました。オペレーティング・システムは、要求に応じることができませんでした。オペレーターは、PAGE FIX を再試行してもよいし、EXCPVR オプションを取り消す EXCP を応答してもかまいません。

システムの処置

IMS はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

(z/OS システム) オペレーターは、EXCP を応答して EXCPVR オプションを取り消すか、固定化可能ストレージを使用可能にして RETRY を応答することができます。固定化可能ストレージは、オペレーティング・システム内の他のジョブを停止することで使用可能にできます。オペレーティング・システム内の一般アクティビティを削減しても、固定化可能ストレージを使用可能にできます。

モジュール:
DFSXI0B0

**DFS0765I STORAGE NOT AVAILABLE FOR
NODE INTERPRET TABLE**

説明

サブプール 251 からのノード解釈テーブル用のストレージの獲得を試みている最中に、エラーが検出されました。この問題が解決されて、IMS が再始動されるまで、IMS は XRF 複合システムと通信できません。

ノード解釈テーブルは、VTAM MSC リンク、および XRF 複合システムと通信する ISC セッションの総称および実際ノード名の解決に使用されます。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

IMS で使用可能な主記憶域を増やしてください。

モジュール:
DFSCINB0

**DFS0766I PAGE FIX FOR STORAGE MGMT
CONTROL BLOCKS FAILED**

説明

ストレージ管理のための制御ブロックのページ固定化の試みが失敗しました。

システムの処置

システムは処理を続けますが、パフォーマンス低下の可能性がありま。

オペレーターの応答:

固定部分なしに IMS の実行を継続するか、または、チェックポイントをシャットダウンしてより多くの実ストレージが使用可能なときに再実行するか、いずれかです。

プログラマーの応答

必ず、IMS 制御プログラムが次の実行時に今回より多くの実ストレージを使用できるようにしてください。

**DFS0767I OTMA MESSAGE FLOOD
CONDITION HAS BEEN RELIEVED
FOR MEMBER YYYYYYYY**

説明

IMS システムは、入力キュー内のアクティブ入力メッセージ数を減らすために、OTMA 入力メッセージを処理しました。メンバーからの入力メッセージは、最大アクティブ入力メッセージ数の 50% 以下に達しました。

システムの処置

IMS は、メンバーからの OTMA メッセージの処理を続行します。

プログラマーの応答

このメッセージは、OTMA メッセージあふれ条件が改善されたことをプログラマーに通知します。

モジュール:
DFSYFD00

**DFS0768I AN INVALID BSAM FORMATTED
RECORD WAS DETECTED IN
DDNAME=xxxxxxxx. IT HAS BEEN
CLOSED**

説明

データセット DDNAME=xxxxxxxx 内のレコードが、可変長レコードに関する BSAM フォーマット設定規則に違反しました。

システムの処置

AF 状況コードがデータベース PCB に戻されます。GSAM 制御ブロック、および無効のレコードが含まれているバッファが IMSERR または SYSPRINT データ・セットに書き込まれます。GSAM を再初期設定しないで、別の呼び出しがこのデータ・セットに対して行われた場合は、異常終了コード 0272 が出力されます。

プログラマーの応答

プログラムを終了し、データ・セットを訂正してください。

問題判別:

1、2、3、8、18、19、35

モジュール:
DFSZD210

関連情報

[IMS 異常終了 0272](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0769I ttt SELECTIVE DISPATCHING - rrrr

説明

リソース不足のため、最後のチェックポイント以降、選択ディスパッチングが有効でした。ttt は、選択ディスパッチングが有効であった TCB を示します。rrrr は、不足があったリソースを示します。

リソース不足は、一般に、次の TCB の下におけるアクティビティのボリュームが異常に高いことによってもたらされます。

TCB

選択ディスパッチングの考えられる原因

CTL

- 通信アクティビティのボリュームが高い。
- 端末ネットワークのサイズに合うように定義されている SAP の数が不十分である。

- 破壊的なイベントが原因で、通信処理が中断され、キュー内待機の通信作業のあふれがもたらされた。
- IMS 内部の問題。

ALM

- LU 6.2 通信アクティビティのボリュームが高い。
- 破壊的なイベントが原因で、LU 6.2 通信が中断され、キュー内待機の LU 6.2 作業のあふれがもたらされた。
- 割り振られた LU 6.2 会話を期間を延長して、維持するために、アプリケーション・プログラムがコーディングされた。
- IMS 内部の問題。

OIM

- OTMA で大量の OTMA CM1 または CM0 入力ランザクションが発生した。
- OTMA クライアントに定義されている事前割り振り SAP の数が不十分である。
- IMS が再始動されたか、OTMA が停止されて再始動されたため、OTMA 通信が中断された。
- OTMA クライアント・アプリケーションが、CM1 セッションを長期間保持するようにコーディングされている。
- IMS で、共通リソースの長時間待ち、ログへの入出力の長時間待ち、またはラッチの待機などの内部問題が発生した。

IMS TCB が選択ディスパッチング中であるときは、リソースが再度使用可能になるまでの間、優先作業単位 (例えば、MTO 端末) とすでにリソースを保留している作業単位だけを処理できます。一部の端末ユーザーの場合は、これで応答時間の質的低下を生じる可能性があります。

SAP リソースは、供給不足のときは、選択ディスパッチングの原因になる可能性があります。SAP は、IMS 作業単位、通信要求 (端末)、および LU 6.2 要求を処理する場合に必要な IMS 内部制御ブロックです。使用可能な SAP の供給が低下すると、IMS は、追加の SAP を最大量まで割り振ろうと試みます。使用可能な SAP がなくなって作業単位を処理できなくなると、IMS は SAP の選択ディスパッチングを呼び出します。これが行われると、別の作業単位が終了して、その SAP が解放されたときにのみ、IMS 作業単位を処理できます。こうなると、IMS システムのパフォーマンスの低下が生じる可能性があります。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答

このメッセージは、リソース不足の可能性を示しています。このメッセージが表示される頻度が高くなったり、このメッセージに伴ってパフォーマンスの低下が生じたりする場合は、システム・プログラマーに知らせる必要があります。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、必ずしも IMS に問題があることを示しているとは限りません。選択ディスパッチングは、正当な理由があって生じる可能性があります (例えば、IMS チェックポイント時であったり、通信アクティビティーにおけるクイック・ピークによるなど)。このメッセージが表示される頻度が高くなったり、このメッセージに伴って、端末応答時間の質的低下などのような IMS パフォーマンス問題が生じる場合は、追加の分析を推奨します。

選択ディスパッチングの TCB が CTL である場合は、IMS 始動 JCL または DFSPBxxx メンバーの SAV= パラメーターを変更することで、使用可能な動的 SAP の数を増やせます。

選択ディスパッチングの TCB が ALM の場合は、LU 6.2 会話の割り振り解除を長期にわたって行わない、アプリケーション・プログラム問題である可能性があります。これが起こる可能性があるのは、アプリケーション・プログラムが CONFIRM に対する即時 LU 6.2 応答を受信しないときです。

TCB が OIM の場合、選択ディスパッチングは OTMA に適用され、選択ディスパッチングを使用した理由は、一時的なものだった可能性があります。OTMA の選択ディスパッチングを避けるには、DFSYDTx PROCLIB メンバー内の OTMA クライアント記述子に DSAP パラメーターおよび DSAPMAX パラメーターを指定して、IMS を再始動することによって、事前割り振り SAP の数と、IMS が動的に割り振ることができる SAP の最大数を調整することができます。

ディスパッチャー統計ログ・レコード (タイプ X'45' サブコード X'0F') が、それぞれのチェックポイントで書き込まれます。これらのログ・レコードを印刷し、選択ディスパッチング問題に関して分析する必要があります。追加の統計レコード (タイプ X'45') が、高いストレージ・プール使用率を示す上で役立つ場合があります。選択ディスパッチングに関する問題報告書には、問題が発生したチェックポイント・インターバルが含まれる IMS ログのコピー、およびそれらのチェックポイントに関する X'45' レコードの印刷コピーを含める必要があります。

問題判別:

5、6、23、34

モジュール:

DFSSTATO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0770W NO FP CONTROL BLOCKS ARE ABOVE 16 MB

説明

高速機能制御ブロック・モジュール (DBFCNT0) が、ストレージ不足のため、ECSA で割り振られませんでした。

システムの処置

IMS は、CSA からストレージを取得して、処理を続行します。

プログラマーの応答

z/OS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:
DBFIFIX0

DFS0771I IMS LOGGING IS NOT IN EFFECT.

説明

拡張、またはシンボリック、チェックポイント呼び出しが出されていて、IEFRDER DD ステートメントが欠落しているか、DD DUMMY として定義されているため、IMS LOGGING は有効ではありません。

システムの処置

IEFRDER DD が DD DUMMY として定義されている場合は、メッセージだけが出力され、処理は続行されます。IEFRDER DD ステートメントが欠落している場合は、呼び出しの処理は続行されますが、STATUSNL は IOPCB で戻されます。

プログラマーの応答

ロギングがこのジョブのために必要な場合は、JCL に IEFRDER DD ステートメントを追加してください。

モジュール:
DFSPR000、DFSZSC00

DFS0772I KSDS EXTENDING AT TAKEOVER - DBD dddddddd, PROGRAM pppppppp NOT BACKED OUT

説明

テークオーバー時に、障害を起こしたアクティブ IMS システムによって VSAM KSDS が拡張されようとしていました。変数 dddddddd はデータベースを示し、pppppppp はバックアウトが行われなかったプログラムを示しています。

障害のあるアクティブ・システムのワークロードを引き継ぐ IMS 代替システムには、障害のある、または劣化したアクティブ・システムがデータの終わりを変更しようとしている方法や場所は分かりません。このため、IMS は、障害のあるアクティブ・システムが終了するまで、このデータベースを安全に使用できません。

システムの処置

このデータベースのバックアウトが据え置かれて、データベースは停止します。データベースが停止すると、メッセージ DFS2012I または DFS0773I のどちらかが出されます。

プログラマーの応答

障害のあるアクティブ・システムが終了してしまうと、データベースを再度安全に開始できます。バックアウトされるデータベース変更が含まれているログがすでにアーカイブされている場合は、このメッセージで識別されている PSB のバッチ・バックアウトを実行する必要があります。その後、**/START DB** コマンドの NOBKO パラメーターを使用してデータベースを開始するか、**UPDATE DB START(ACCESS) OPTION(NOBACKOUT)** を発行してください。

モジュール:
DFSRBOIO

関連情報

293 ページの『DFS0773I』
DATA BASE - dddddddd STOPPED.

601 ページの『DFS2012I』
GLOBALLY SHARED DATA BASE|AREA -
dbdname|areaname STOPPED.

DFS0773I DATA BASE - dddddddd STOPPED.

説明

テークオーバー時に、障害を起こしたアクティブ IMS システムによって非ブロック・レベル共用データベースが拡張されようとしていました。変数 dddddddd は、データベースを示します。

障害のあるアクティブ IMS システムのワークロードを引き継ぐ IMS 代替システムには、障害のある、または劣化したアクティブ・システムがデータの終わりを変更しようとしている方法や場所は分かりません。このため、IMS は、障害のあるアクティブ・システムが終了するまで、このデータベースを安全に使用できません。

システムの処置

障害のあるアクティブ・システムが終了するまで、このデータベースは停止しています。新しい IMS アクティブ・システムが入出力防止の完了を認識するまで、**/START DB** または **UPDATE DB START(ACCESS)** コマンドを入力することはできません。

プログラマーの応答

障害のあるアクティブ IMS が終了すると、データベースを安全に開始できます。

モジュール:
DFSHDCL0

**DFS0774I (CCCCFFSS) AREA=AREANAME
DD=DDNAME, AREA CLOSED,
MUST COMPLETE TOSSED, CI-
RBA=NNNNNNNNN, SEVERE
ERROR**

説明

クローズされたエリアに書き込む試みがなされました。この状態はシステム・エラーを示します。

システムの処置

WRITE MUST COMPLETE DMHR は無視され、従属領域が終了します。

システム・プログラマーの応答

IBM サービスに連絡してください。

**DFS0775I COMMAND REJECTED; TCO IS NOT
ACTIVE**

説明

/TRACE SET ON|OFF TCO コマンドを入力しましたが、時間制御操作がアクティブではありません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

コマンドを入力する前に、時間制御操作を開始してください。

モジュール:
DFSICLNO

**DFS0776A AMP PARAMETER INVALID FOR
OSAM DATASET- DDNAME
XXXXXXXX**

説明

OSAM データ・セットに関する DD ステートメントに、OSAM では無効なパラメーター AMP が含まれていました。

システムの処置

戻りコード 16 が設定され、処理は停止します。

プログラマーの応答

OSAM データ・セットに関する DD ステートメントから AMP パラメーターを除去し、ジョブを再実行してください。

モジュール:
DFSURDBO

**DFS0777 LU=xxxxxxxx EXCEEDS ALLOWED
QUEUE SPACE -- MESSAGE
CANCELLED**

説明

キュー・マネージャーからバッファーを獲得しようとして、要求されたサイズが、その LU の許容スペースを超えていました。変数 xxxxxxxx は入力 LU 名です。LU 名がネットワーク修飾名である場合は、この名前には最大 17 バイトの長さを使用できます。許容スペースは、ユーザー出口 DFSQSPCO を使用して、ご使用のシステムによって制御されるスペースの量です。

システムの処置

メッセージは取り消されます。

プログラマーの応答

メッセージのサイズをチェックしてください。

モジュール:
DFSRLM10

**DFS0778I xxxxxxxx ERROR eeeeeee
MERGING SIDTABLE FROM MSC
SUBSYSTEM yyyyyyyy, ACTION =
zzzzzzzz**

または

**xxxxxxxx MSC SUBSYSTEM yyyyyyyy HAS JOINED/
LEFT THE SHARED QUEUES GROUP, ACTION =
zzzzzzzz**

または

**xxxxxxxx ERROR eeeeeee SENDING/RECEIVING
SIDTABLE TO/FROM MSC SUBSYSTEM yyyyyyyy,
ACTION = zzzzzzzz**

説明

このメッセージが生成されるのは、複数システム 通信 (MSC) フィーチャーが共用キュー・グループ (SQG) 環境

でサポートされ、次のいずれかのイベントが生じたときです。

- IMS サブシステムが共用キュー・グループに結合、またはそこから離脱した。
- IMS サブシステムの結合または離脱の処理中に、別の IMS との間で MSC システム 識別テーブル (SIDTABLE) を送信または受信している最中に、エラーが検出された。
- 共用キュー・グループに結合している別の IMS から受信した SIDTABLE のマージ中に、エラーが検出された。
- IMS サブシステムが共用キュー・グループに結合したとき、以前の SIDTABLES のマージから作成された残余 SIDTABLE ストレージ域が解放されているところであった。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

可変

意味

xxxxxxxx

メッセージを発行、またはエラーを削除したシステムの IMSID

yyyyyyyy

SQG と結合または SQG から離れた、あるいは SIDTABLE の送信先または受信元であった、あるいはマージされている SIDTABLE の送信元であった、他の IMS の IMSID。

zzzzzzzz

アクション・コード:

ACCEPTED

結合/離脱イベントが受け入れられました。

IGNORED

エラーは無視されました。別の IMS から SIDTABLE を受信する場合は、受信したテーブルは現行テーブルとマージされません。別の IMS へ SIDTABLE を送信する場合、テーブルが他の IMS に到着して処理されることはありません。SIDTABLE のマージの場合は、受信されたテーブル内の 1 つ以上の SYSIDS が無視されます。

eeeeeeee

エラーを検出した MSC 共用キュー初期設定ルーチンによって生成されたエラー・コード

ルーチン 説明

FREEAWSI

受信 SID テーブル・ストレージの解放でのエラー

FREEEND

終了処理でストレージの解放でのエラー

FREEOSID

マージ後古い SID テーブル・ストレージの解放でのエラー

FREEXCFS

XCF によって獲得されたストレージの解放でのエラー

FUNCHIGH

機能値が高すぎる

FUNCZERO

機能が指定されていない

GETAWSID

AWE/SID テーブル・ストレージの取得でのエラー

GETHLNB

LNB ストレージの取得でのエラー

GETNSID

新規 SID テーブル用としてのストレージまたはブロックの取得でのエラー

INITSID

SID テーブルの初期設定でのエラー

INVAWECB

AWE の ECB が無効

システムの処置

IMS は処理を続行します。イベントがエラーであった場合は、タイプ 6701-MNZE ログ・レコードが IMS オンライン・ログ・データ・セットに書き込まれました。IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

エラーが示された場合は、結合、離脱、またはマージのイベントは完全には処理されない可能性があります。エラーを訂正し、影響を受けた IMS サブシステムをシャットダウンし、再びバックアップ (例えば、離脱および結合) してください。エラーが示されていない場合は、このメッセージは通知に過ぎません。

プログラマーの応答

イベントがエラーであった場合は、MSC 構成のエラー、または IMS サブシステムまたは MS XCGF 機能でのシステム・エラーである可能性が最も大です。問題判別中に書き留めておいた文書を収集し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別

このメッセージを記録し、そのほかにメッセージ内で IMSIDS によって識別されている共用キュー・グループ内の両方の IMS サブシステムからの DFS0778 メッセージがあれば、それも記録してください。DFSERA10 ログ印刷ユーティリティーを使用して、両方の IMS サブシステムからのオンライン・ログ・データ・セットか

ら 6701-MNZE ログ・レコードを印刷してください。他の IMS サブシステムが共用キュー・グループに結合したり、そこから離脱したりする前に、できるだけ早く、z/OS DUMP コマンドを使用して、両方の IMS サブシステムのコンソール・メモリー・ダンプを取ってください。メモリー・ダンプは、診断のために必要になる場合に備えて保管しておいてください。

モジュール:

DFSMNZ00

DFS0779E

KEYWORD *keyword* OMITTED

または

ERROR FOR PROCLIB MEMBER *member_name*,
JOBNAME=*job_name*

または

STRUCTURE NAMES FOR EMHQ AND MSGQ SHOULD
BE UNIQUE - STRUCTURE NAME=*structure_name*

説明

IMS 初期設定で、DFSSQxxx PROCLIB メンバー、または DFSDFxxx PROCLIB メンバーの SHARED_QUEUES セクションのどちらかを処理中にエラーが検出されました。複数のエラーが検出される場合、複数の DFS0779E メッセージが発行される場合があります。このメッセージの発行後、IMS は異常終了コード 0071 を出して終了します。

member_name

構文解析されていた 1 つ以上の PROCLIB メンバーの名前。DFSSQxxx と DFSDFxxx の両方で共用キュー・パラメーターがコーディングされている場合、両方のメンバーがリストされます。

job_name

該当する場合、IMS 制御領域ジョブ名。

structure_name

メッセージ・キューと EMH キュー構造の両方に対して指定された構造名。

keyword

検出されなかった必須キーワードの名前。

システムの処置

IMS 初期設定は終了し、異常終了コード 0071 が示されます。

システム・プログラマーの応答

DFSSQxxx IMS.PROCLIB メンバー、または DFSDfxxx IMS.PROCLIB メンバー内の SHARED_QUEUES セクションのどちらかで、共用キュー・パラメーターを訂正し、IMS を再始動します。共用キュー・パラメーターは、これらのロケーションの両方で指定できます。DFSSQxxx で指定されるパラメーターは、DFSDfxxx で指定されるパラメーターをオーバーライドします。

モジュール:

DFSSQ012

関連情報

[IMS 異常終了 0071](#)

DFS0780I EOD WAS ENCOUNTERED WHILE REPOSITIONING DDNAME=xxxxxxxxx DURING XRST.

説明

拡張再始動操作時に、GSAM 非 DASD データ・セットを位置変更している最中に、データの終わりが検出されました。

システムの処置

GSAM は異常終了 0102 で終了します。

プログラマーの応答

再始動に使用されるタイプ「18」ログ・レコードを印刷して、問題判別に役立ててください。

問題判別:

1、4、5、8

モジュール:

DFSZD210

関連情報

[IMS 異常終了 0102](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0781I ABEND cccc IN mmmm...

説明

変数 cccc は、4 桁のユーザー異常終了または疑似異常終了、もしくは 3 桁のシステム異常終了を識別し、mmmm は、異常終了モジュールに関する CHANGEID 情報です。この情報は、CHANGEID マクロのコーディングに応じて変わります。基本的には、CHANGEID 情報には、モジュール名、アセンブリー日時、最新適用 APAR 番号、および適用 APAR すべてを識別する可変文字ストリングが含まれます。

このメッセージは、トランザクション再試行が試みられるかどうかに関係なく、すべての異常終了に関して出されます。それが出される時点は、次のとおりです。

1. 初期障害の発生時点で、潜在的に行われる可能性のあるトランザクション再試行の前
2. トランザクションを再試行し、結果的に失敗に終わった場合、失敗した再試行の後に障害が再発した時点

注: トランザクション再試行時点で発生する障害は、たとえ例外的な事例であるとしても、元の障害と同じものではない場合があります。

システムの処置

トランザクション再試行が試みられた場合でも、システムは引き続き異常終了し、通常メモリー・ダンプやログ・テープへのエントリーの提供、および診断情報の収集が行われます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

診断情報を保管してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DBFTCMT9

DFS0782I NO INFO ABOUT ABENDING MODULE - R12 NOT POINTING CHANGEID

説明

レジスター 12 が CHANGEID 情報を指さない場合は、DFS0781I、ABEND ccc IN mmmm ではなく、このメッセージが出されます。

IBM 以外の IMS アプリケーション・プログラムが異常終了した場合、このメッセージは JES2 ログへ送られる可能性があります。CHANGEID 情報が予想されるのは、IBM、IMS モジュールの場合だけです。

システムの処置

トランザクション再試行が試みられた場合でも、システムは引き続き異常終了し、通常メモリー・ダンプやログ・テープへのエントリーの提供、および診断情報の収集が行われます。

オペレーターの応答 (マスター端末)

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

これがIMS ユーザー異常終了またはシステム異常終了である場合は、すべての診断情報を保管してください。その後、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題判別について支援を要求してください。

これがアプリケーション異常終了である場合は、ご使用のシステムでのアプリケーション・プログラム異常終了を処理する手順を参照してください。

モジュール:
DBFTCMT9

**DFS0783I NO INFORMATION ABOUT
ABENDING MODULE - SDWA NOT
AVAILABLE**

説明

ESTAE プロセスでシステム診断作業域 (SDWA) を取得できない場合は、DFS0781I, ABEND cccc IN mmmm ではなく、このメッセージが出されます。

システムの処置

トランザクション再試行が試みられた場合でも、システムは引き続き異常終了し、通常のメモリー・ダンプやログ・テープへのエントリーの提供、および診断情報の収集が行われます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

診断情報を保管してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:
DBFTCMT9

**DFS0784I TRAN tttttttt TO BE RETRIED-MSG
nnnnn TERM xxxxxxxx jjjjjj**

説明

このメッセージが出されるのは、障害のあるトランザクションに再試行 (異なる従属領域で行われる可能性がある) 適格性があるときです。変数 *tttttttt* はトランザクション・コードを示し、*nnnnn* は障害のあるトランザクションに関連した入力シーケンス番号を示し、*xxxxxxx* は障害のあるトランザクションに関連したメッセージの発信元端末を示します。変数 *jjjjjj* は、トランザクションが失敗した従属領域のジョブ名を示します。

システムの処置

システムがトランザクションを再試行します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFTCMT9

**DFS0785I TRAN tttttttt NOW IN RETRY -MSG
nnnnn TERM xxxxxxxx jjjjjj**

説明

このメッセージが出されるのは、トランザクション再試行が進行中であるときです。変数 *tttttttt* はトランザクション・コードを示し、*nnnnn* は障害のあるトランザクションに関連した入力シーケンス番号を示し、*xxxxxxx* は障害のあるトランザクションに関連したメッセージの発信元端末を示します。変数 *jjjjjj* は、トランザクションが再試行される従属領域のジョブ名を示します。

システムの処置

システムが、再試行されるトランザクションの処理を開始し、再試行中に問題分析を容易にするための追加診断情報 (詳細トレース情報) を作成します。

この診断情報は、再試行されたトランザクションの完了 (正常であったか、正常ではなかったかに関係なく) の直後に、使用可能になります。診断情報は、トランザクションが再試行された従属領域の JOB ステートメントの MSGCLASS パラメーターで指定された SYSOUT クラスを使用して、SYSOUT データ・セットにルーティングされます。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーに追加診断情報の収集を要請してください。

システム・プログラマーの応答

追加診断情報を収集してください。

モジュール:
DBFTCMT9

**DFS0786I A SECOND ABEND OCCURRED
DURING TRANSACTION RETRY**

説明

このメッセージは、トランザクション再試行が正常に行われなかった後で、メッセージ DFS0781I, ABEND cccc IN mmmm の後に続けて出されます。

注: トランザクション再試行が、元の障害と同じ異常終了で失敗した場合は、この情報は 2 回提供されます。つまり、1 回目は障害の発生時であり、2 回目は、トランザクション再試行が障害を再生した時点です。

システムの処置

トランザクション再試行の実行過程にある間に、システムは再度異常終了しました。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

診断情報を保管してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:
DBFTCMT9

DFS0787I	TRANSACTION RETRY WAS ATTEMPTED AND COMPLETED SUCCESSFULLY
-----------------	---

説明

このメッセージは、トランザクション再試行が正常に行われた後で、再試行トランザクションの同期プロセスへの入り口で出されます。

システムの処置

同期処理は、再試行されたトランザクションに関して継続します。

この場合は、システムは、トランザクションを停止しないで、メッセージ DFS554A に示されている処置をオーバーライドします。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

診断情報を保管してください。エラーが再発する場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

モジュール:
DBFTCMT9

関連情報

201 ページの『DFS554A』
jobname.region.stepname. prog PSBname(x)
transaction-code
sys-completion-code user-completion-code PSB
SMB
LTERM:|LUNAME:|RTKN=token
REASON=reason originating terminal

DFS0788I	DYNAMIC ALLOCATION FOR TRACE DATASET FAILED - REASON CODE nnnn
-----------------	---

説明

このメッセージが出されるのは、動的割り振りがトレース・データ・セットに関して失敗した場合です。理由コード *nnnn* の説明は、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」(SA22-7608) を参照してください。

システムの処置

システムは、トレースなしでトランザクション再試行を続け、次のアプリケーション・プログラム呼び出し時点で、必要なリソースの獲得を試みます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFTCMT9

関連資料

z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解
釈

DFS0789I	GETMAIN FAILED TO DYNAMICALLY ALLOCATE TRACE DATASET
-----------------	---

説明

これは単なる通知メッセージです。

システムの処置

システムは、トレースなしでトランザクション再試行を続け、次のアプリケーション・プログラム呼び出し時点で、必要なリソースの獲得を試みます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFTCMT9

DFS0790I	OPEN FAILED FOR DYNAMICALLY ALLOCATED TRACE DATASET
-----------------	--

説明

これは単なる通知メッセージです。

システムの処置

システムは、トレースなしでトランザクション再試行を続け、次のアプリケーション・プログラム呼び出し時点で、必要なリソースの獲得を試みます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

マスター端末オペレーターの応答

処置は必要ありません。

モジュール

DBFTCMT9

DFS0791A	PROCESSING OF HSSP HIC/PIC BY DB RECOVERY TERMINATED ABNORMALLY FOR AREA=xxxxxxx DD=yyyyyyyy REASON CODE=zz
-----------------	--

説明

このメッセージが出されるのは、データベース・リカバリー・ユーティリティの実行中に、HSSP イメージ・コピー (HIC) または HSSP 部分イメージ・コピー (PIC) にかかわるエラーが発生したときです。データベース・リカバリー・ユーティリティが失敗しました。次の理由コードが、問題の原因を示しています。

理由コード

説明

- 10** エリア xxxxxxxx DD yyyyyyyy に関する DD ステートメントが JCL に欠落していた。
- 20** ユーティリティで DDNAME yyyyyyyy の DCB を開けなかった。
- 30** VSAM SHOWCB が失敗した。
- 40** VSAM MODCB が失敗した。
- 50** 2 番目の CI の日付/タイム・スタンプが HIC/PIC タイム・スタンプと一致しないか、2 番目の CI が、データ・セットがイメージ・コピー・データ・セットでないことを示しているか、どちらかである。
- 60** PIC タイム・スタンプが日時順になっていない。
- 70** 日付/タイム・スタンプが、入力 HIC/PIC データ・セットのいずれに関しても、ログ・レコード内のスタンプと一致しない。

プログラマーの応答

理由コード 10 の場合は、すべての必須 DD ステートメントが指定されているか確認してください。

理由コード 20 の場合は、オープン・エラーの原因を判別するためにメモリー・ダンプを使用してください (考えられる失敗の原因については「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください)。

理由コード 30 および 40 の場合は、IBM 担当員に連絡してください。

理由コード 50 の場合は、使用されているすべての HIC/PIC データ・セットが有効であるか確認してください。

理由コード 60 の場合は、SYSIN に含まれている PIC タイム・スタンプが日付/時刻順になっているか確認してください。

理由コード 70 の場合は、SYSIN に必要な HIC/PIC タイム・スタンプがすべて含まれているか確認してください。

問題判別

2、3、4、8、20、36、および RECON データ・セットのすべてのリスト

モジュール:

DBFUHICO

関連資料

[z/OS: OPEN -- プログラムとデータの接続 \(BDAM、VSAM への BISAM インターフェース、BPAM、BSAM、VSAM への QISAM インターフェース、および QSAM\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0792A	DATABASE TARGET VSAM DATASET MUST BE EMPTY PRIOR TO RUNNING RECOVERY
-----------------	---

説明

データベース・リカバリー・ユーティリティを実行するときは、DDNAME で VSAM データ・セットを指定していて、障害が以前のユーティリティの実行中に発生したことがある場合は、VSAM データ・セットを削除して、再定義する必要がある可能性があります。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

ターゲット・データ・セットとして出力のために開かれる VSAM データ・セットを削除し、再定義してください。

DFS0793I THE TOTAL OTMA SEND-THEN-COMMIT(CM1) CONTROL BLOCKS (TIB) HAS DECREASED BELOW nnn

または

THE FLOOD CONDITION OF TOTAL OTMA INPUT MESSAGES (TIB) WAS RELIEVED

説明:

このメッセージは、OTMA メッセージあふれ条件の間に発行され、あふれ条件での状況を示します。すべての OTMA クライアントからの未完了の OTMA コミット・モード 1 (CM1) メッセージの総数は減少しています。

システムの処置:

処理を続行します。OK 状況の OTMA プロトコル・メッセージが、すべての OTMA クライアントに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

グローバル OTMA メッセージあふれ条件が解決されました。ただし、個々の OTMA メンバーは、あふれ条件になる可能性があります。

モジュール:

DFSYFD00

DFS794I APPLICATION NOT PERMITTED TO REASSIGN LTERM IT IS USING

説明

/ASSIGN コマンドはリジェクトされました。AOI プログラムには、アプリケーションで使用している LTERM を再割り当てすることが許可されていないからです。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。コマンドが **/ASSIGN LTERM PRIMARY** であった場合は、1 次マスター端末割り当ては正常に行われた可能性があります。

プログラマーの応答

AOI アプリケーション・プログラムを再設計して、すでに使用している LTERM を再割り当てする **/ASSIGN** コマンドを出すことがないようにします。再設計された AOI プログラム内の LTERM は、次のいずれかであることはできません。

- AOI トランザクションを発信した LTERM
- アプリケーションがメッセージを挿入している 宛先 LTERM
- アプリケーションがメッセージを挿入している 代替 宛先 LTERM

モジュール:

DFSICL70

DFS795I RESOURCE ACCESS FAILURE; NOTIFY SYSTEM PROGRAMMER

説明

コマンドはリジェクトされました。コマンド・プロセスが、リソースへのアクセスを試みている最中に、システム・エラーを検出したからです。リソースの使用またはロック要求によって、予期しない戻りコードが出される結果になりました。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。コマンドが **/ASSIGN LTERM PRIMARY** であった場合は、1 次マスター端末割り当ては正常に行われた可能性があります。

オペレーターの応答:

(マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答:

『IMS 問題判別』というタイトルのトピックを参照してください。

問題判別:

1、6、36、41

モジュール:

DFSICL70

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0796A IS NOT A VALID HALDB MASTER OR PARTITION DATABASE, REASON=nn

説明

次のいずれかのエラーが検出されました。

コード (16 進数)

意味

- 01** 指定された DBD が DBDLIB 内にありませんでした。
- 02** 指定された DBD は DBDLIB 内にありましたが、HALDB DBD ではありません。

03

指定された HALDB DBD は RECON 内に存在しません。

04

指定された HALDB 区画は RECON 内に存在しません。

システムの処置

他の HALDB マスター・データベースまたは区画を処理する必要がある場合は、処理が続行され、戻りコードが 8 に設定されます。

ユーザーの処置

理由コードで示されたエラー条件を確認し、訂正してください。

モジュール:

DFSUPNTO、DFSUPNT1

DFS0796I Reason Code = rc message

説明

rc で示されているエラーが発生し、モジュール DFSUPNTO によって発行された message が付随します。それぞれの理由コードごとに固有の説明と応答があります。次の理由コードとメッセージを参照して、エラーのタイプと適切な処置の識別を進めてください。

REASON = 01 DATABASE OR PARTITION NOT FOUND IN RECON - &DBNAME

指定された DBD である &DBNAME が RECON 内に存在しません。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。メッセージと理由コードで示されたエラー条件を確認し、訂正してください。

REASON = 02 DATABASE IS NOT A HALDB DBD OR PARTITION - &DBNAME

指定された DBD である &DBNAME が RECON 内で HALDB として定義されていません。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: メッセージと理由コードで示されたエラー条件を確認し、訂正してください。

REASON = 03 DATABASE NOT FOUND IN DBDLIB - &DBNAME

指定された DBD である &DBNAME は、RECON 内で HALDB として定義されていますが、DBDLIB 内ではありませんでした。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: メッセージと理由コードで示されたエラー条件を確認し、訂正してください。

REASON = 04 INITALL NOT ALLOWED FOR PARTITION - &DBNAME

SYSIN ステートメントで HALDB マスター名 &DBNAME の区画である区画名が指定されていますが、それは別の SYSIN ステートメントでも指定されており、競合しています。

システムの処置: 処理は一時停止します。

ユーザーの応答: HALDB のすべての区画を初期設定 (INITALL) したい場合は、競合する区画名を指定した各ステートメントを除去します。あるいは、DFS0VRDS データ・セットから INITALL ステートメントを除去し、特定の区画を無条件に初期設定します。RECON 内に存在する、PINIT=YES (区画の初期設定が必要) として記録された追加区画を初期設定する必要がない場合は、HALDB マスター名を除去します。

モジュール:

DFSUPNTO

DFS0797E The database PCB control blocks were incorrectly built for HALDB master database

説明

指定された HALDB マスター・データベース用の PCB 制御ブロックの妥当性検査が失敗しました。これは IMS 内部エラーです。

システムの処置

処理は一時停止します。

オペレーターの応答:

IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、この問題を報告してください。

モジュール:

DFSUPNTO、DFSUPNT1

**DFS0798I eee PROCESSING COMPLETE FOR
jjjjjjj RC=0000
RSN=00000000 ASCB=aaaaaaaa
ASID=dddd
TRC=ttttttttttttttzzzzzzzz**

説明

IMS 従属領域のメモリーの終わり (EOM) イベントが検出され、処理されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

eee

SSI 呼び出しタイプ: EOM (メモリーの終わり) または EOT (タスクの終了)

jjjjjjj

従属領域ジョブ名

aaaaaaaa

従属領域 ASCB (アドレス・スペース制御ブロック)

dddd

従属領域 ASID (アドレス・スペース ID)

tttttttttttttt

トレース・ストリング (IDTEOMTR または IDTEOTTR)

zzzzzzzz

IDT エントリーのアドレス

システムの処置:

EOM 処理の結果がメッセージに表示されます。領域は終了し、クリーンアップ処理が正常に実行され、領域の IDT および VTD 項目が消去されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSBCK00、DFSISIO0、DFSVCIO0

関連資料

[DFS0798I \(メッセージおよびコード\) からのメモリー・コードの終わり](#)

関連情報

302 ページの『DFS0798W』

eee PROCESSING COMPLETE FOR jiiijiii RC=rrrr
RSN=ssssssss ASCB=aaaaaaaa ASID=dddd
TRC=tttttttttttttt:zzzzzzzz

DFS0798W

eee PROCESSING COMPLETE FOR
jiiijiii RC=rrrr
RSN=ssssssss ASCB=aaaaaaaa
ASID=dddd
TRC=tttttttttttttt:zzzzzzzz

説明

IMS 従属領域のメモリーの終わり (EOM) イベントが検出され、処理されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

eee

SSI 呼び出しタイプ: EOM (メモリーの終わり) または EOT (タスクの終了)

rrrr

戻りコード

ssssssss

理由コード

jiiijiii

従属領域ジョブ名

aaaaaaaa

従属領域 ASCB (アドレス・スペース制御ブロック)

dddd

従属領域 ASID (アドレス・スペース ID)

tttttttttttttt

トレース・ストリング (IDTEOMTR または IDTEOTTR)

zzzzzzzz

IDT エントリーのアドレス

システムの処置:

EOM 処理の結果がメッセージに表示されます。

システム・プログラマーの応答:

IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

モジュール:

DFSBCK00、DFSISIO0、DFSVCIO0

関連情報

301 ページの『DFS0798I』

eee PROCESSING COMPLETE FOR jiiijiii

RC=0000

RSN=00000000 ASCB=aaaaaaaa ASID=dddd

TRC=tttttttttttttt:zzzzzzzz

DFS0799E

**rgntype REGION jobname BEING
TERMINATED AT CONTROL
REGION END OF MEMORY**

説明

従属アドレス・スペース (DL/I または DBRC) が適切にシャットダウンされる前に、制御領域アドレス・スペースが終了しました。IMS はこの条件を検出し、残っている領域を異常終了させて、ユーザー異常終了コード 0150 を示します。これは異常な条件であり、**FORCE** コマンドが制御アドレス・スペースに対して出されたり、制御アドレス・スペースがリソース・クリーンアップを完了しないで終了したりしたときに生じる可能性があります。このメッセージを受信した場合は、共通ストレージなど、一部の IMS 割り振りリソースが、前の IMS インスタンスから解放されていない可能性があることに注意してください。この条件が生じた場合は、z/OS システムの IPL を行って、それらのリソースのリカバリーまたは解放が必要になることもあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rgntype

異常終了する領域のアドレス・スペース・タイプで、DL/I と DBRC のどちらか

jobname

異常終了する DL/I または DBRC 領域のジョブ名

システムの処置

IMS は、示されているアドレス・スペースの異常終了をスケジュールします。アドレス・スペースは異常終了コード 0150 を伴って終了します。

オペレーターの応答

IMS を再始動する前に、*rgntype* で示されている DL/I または DBRC アドレス・スペースを必ず終了させてください。領域が終了しない場合は、コンソールから領域の取り消しを試みてください。このメッセージは、IMS リソース・クリーンアップがスキップされたか、または部分的にしか完了していない可能性があることを示しています。これは、**FORCE** コマンドが IMS 制御領域に対して出された場合に起こりえます。このメッセージを受信したときは、ストレージ不足やその他のリソース関連問題が検出される場合があり、そのために z/OS システムの IPL が必要になることもあります。

問題判別:

27

モジュール:

DFSRSMRO

関連情報

[IMS 異常終了 0150](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0800I AWAITING NOTIFICATION FROM
 SUBSYS xxxxxxxx**

説明

IMS が、xxxxxxx で指定されたサブシステムへの接続を試みました。示されているサブシステムがアクティブでなかったか、接続の試みに応答できなかったか、いずれかであったため、接続は失敗しました。示されているサブシステムによって、通知メッセージがキューに入れられました。そのサブシステムは、アクティブ

になって接続できるときに、内部 **MODIFY** コマンド (通知メッセージ) を IMS に対して発行し、そこで接続プロセスが再試行されます。

システムの処置

示されているサブシステム用としてアタッチされた IMS サブタスク TCB は、内部 **MODIFY** コマンドが接続プロセスを再試行するのを待ちます。内部 **MODIFY** コマンドが発行されるまで、xxxxxxx に対する **/STA Subsys** は機能せず、DFS058I メッセージが **CCC COMMAND COMPLETED EXCEPT xxxxxxxx** テキストと一緒に発行されます。

プログラマーの応答

指定されたサブシステムを再始動して、内部 **MODIFY** コマンドを発行してください。そのとき、接続処理が再試行されます。

このエラーは、**MODIFY** コマンドを発行しようとしているサブシステムにコマンドを発行する権限がない場合に、発生する可能性があります。z/OS システム・ログ (SYSLOG) でセキュリティー・エラーを確認して、これが問題の原因であるかどうか判別します。これが原因である場合は、問題を訂正してから、指定されたサブシステムを再始動してください。

モジュール:

DFSESI30

関連情報

[45 ページの『DFS058I』](#)

CCC COMMAND COMPLETED EXCEPT KKK P01, P02, P03, P04, P05, P06, P07, ...ETC.

第 20 章 DFS メッセージ DFS0801I - DFS0850W

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS0801I SUBSYSTEM CONNECTION FOR
 xxxxxxx COMPLETE**

説明

IMS は、SSM メンバーでサブシステム 接続に関して定義された外部サブシステム xxxxxxxx に正常に接続しました。

システムの処置

サブシステム間接続が IMS と示されているサブシステムの間には存在します。

モジュール:
DFSESI30

**DFS0802I CANCEL COMMAND REJECTED BY
 IMS, USE /STOP REGION
 COMMAND TO STOP IMS
 DEPENDENT REGION,
 JOBNAME=zzzzzzzz**

説明

IMS は、異常終了 0113 の可能性を避けるために、その従属領域に関するすべての CANCEL コマンドをインターセプトします。zzzzzzzz は、問題を検出したジョブ名です。

システムの処置

コマンドは無視されます。

オペレーターの応答:
IMS 従属領域を停止したい場合は、IMS に対する適正な /STOP REGION コマンドを入力してください。

モジュール:
DFSISI00

**DFS0803A NO STATS RECORDS FOUND AT
 END OF INPUT**

説明

HISAM 再ロード・モジュールは、HISAM アンロードからの入力の終了時に、統計レコードを検出ませんでした。このメッセージは、統計報告書と共に 出されて、診断目的で入力から累積された統計を示します。

システムの処置

異常終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答

この問題は、マルチボリューム・セットの入力の最初のボリュームの使用に原因がある可能性があり、このために、入力の終了時に再ロード・モジュールが、統計レコードではなくデータを検出する結果になっています。

異常終了したアンロードからの入力によっても、この状態が生じる可能性があります。

問題判別:

2、3、8、18、36

モジュール:
DFSURRLO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS0804I CANCEL COMMAND REJECTED BY
 IMS, /MODIFY COMMIT COMMAND
 IN PROGRESS, JOBNAME =
 xxxxxxx**

説明

IMS では、/MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE (COMMIT) コマンドの進行中に、CCTL または ODBA 接続アドレス・スペースを取り消すことはできません。

システムの処置

コマンドは無視されます。

オペレーターの応答 (マスター端末)

/MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE (COMMIT) の完了後に、CANCEL コマンドを再発行してください。

モジュール:
DFSISI00

**DFS0805I CANCEL COMMAND REJECTED BY
 IMS. JOBNAME=nnnnnnnn HAS
 ACTIVE ODBA THREADS. ODBA
 ID=iiiiiii**

説明

IMS は、IMS に接続されているアドレス・スペースをターゲットとするすべての CANCEL コマンドをインターセプトします。アクティブ ODBA スレッドがあるため、コマンドはリジェクトされます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnn

ジョブまたはタスク名

iiiiiii

/DIS CCTL ALL コマンドによって戻された、IMS に対する ODBA ID。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。CANCEL コマンドが出された後は、IMS への接続が終了するまで、新しいスレッドをターゲット・アドレス・スペースから開始することはできません。

オペレーターの応答

アクティブ・スレッドが完了できるようにしてから、CANCEL コマンドを再発行してください。

モジュール:
DFSIS100

**DFS0806I NO DBCTL MULTI-SEGMENT
COMMAND BUFFERS AVAILABLE**

説明

データベース制御 (DBCTL) 環境では、一度に最大 8 つのコンソールから複数セグメント・コマンド処理を実行できます。このメッセージが表示されるのは、8 つのコンソールが現在複数セグメント処理状態にあるときです。

システムの処置

コマンド・セグメントは無視されます。

プログラマーの応答

後でもう一度試行してください。繰り返し試みても失敗する場合は、他のコンソールが複数セグメント・コマンド・モードにありながら、それを認識していない可能性があります。このような他のコンソールの 1 つからコマンド認識文字 (CRC) を入力してください。

モジュール:
DFSIS120

**DFS0807I DBCTL MULTI-SEGMENT
COMMAND BUFFER OVERFLOW**

説明

DBCTL 環境では、複数セグメント・コマンドは、最大 241 文字の長さでできます。この文字数には、最初のセグメントの先行コマンド認識文字 (CRC) は含まれますが、それ以外のセグメントの CRC は含まれません。コンソールから入力されたセグメントは内部的に連結されます。コマンドの連結セグメントが最大で 241 文字を超えると、このメッセージが表示されます。

システムの処置

コマンドが最大長を超える原因となったセグメントは廃棄されます。それよりも前のセグメントは、すべて内部的に連結されたままになります。

プログラマーの応答

最終セグメントを短くして入力することで、進行中のコマンドを終了してください。コンソールで単一の CRC を入力すれば、有効な最終セグメントになります。

モジュール:
DFSIS120

**DFS0808W IMS region region-id (in IMS back-
end aaaaaaaa) has been in wait-
syncpoint/wait-RRS status for
OTMA client yyyyyyyy and tpipe
zzzzzzzz for xx minutes.**

説明

メッセージで示された領域は、xx 分間、wait-syncpoint 状態でした。メッセージ内の情報は次のとおりです。

aaaaaaa
IMS 名

yyyyyyy
OTMA クライアント名

zzzzzzzz
トランザクション・パイプ名

xx
領域が待ち状態であった時間 (分数)

システムの処置

必要な ACK または NAK 応答が受信されるまで、または待機を停止するための IMS コマンドが発行されるまで、IMS 領域は wait-syncpoint 状態のままです。

プログラマーの応答

OTMA クライアント・アプリケーションを調べて、必要な ACK または NAK が IMS OTMA に送信されない理由を見つけます。

モジュール:
DFSYMEMO

DFS0809E **IMS region region-id (in IMS back-end aaaaaaaa) has timed out for OTMA client yyyyyyyy tpipe xxxxxxxx for nn seconds.**

説明

OTMA は、CM1 メッセージについて従属領域で実行されているトランザクションのタイムアウトを検出しました。メッセージ内の情報は次のとおりです。

aaaaaaaa

IMS 名

yyyyyyyy

OTMA クライアント名

xxxxxxx

トランザクション・パイプ名

nn

領域が待ち状態であった時間 (秒数)

システムの処置

MPP 領域の場合、IMS はトランザクションを異常終了させ、異常終了 0119 を発行します。

IFP 領域の場合、処置は、共用キュー環境によって異なります。

- 共用キューがないか、または共用キューはあるものの、ローカル・トランザクション (IMS の処理で開始する) の処理中である場合、異常終了は発行されません。IMS は更新をバックアウトし、割り振り解除異常フローをエンド・クライアントに送信します。
- 共用キュー環境で作動し、バックエンドとして処理する (メッセージの発信元は処理中の IMS ではない) IFP 領域の場合、異常終了 0119 が発行されます。

プログラマーの応答

OTMA クライアント・アプリケーションを調べて、必要な ACK または NAK が IMS OTMA に送信されない理由を判別します。

モジュール:

DFSYMEMO

関連情報

IMS 異常終了 0119

DFS810A **IMS (DCCTL) READY yyyyddd/hhmmss jobname.stepname**

説明

IMS 初期設定が正常に完了しました。適切な /NRESTART または /ERESTART コマンドを入力して、必要な再始動処理が何かを IMS に知らせる必要があります。メッセージに (DCCTL) が表示されているときは、DCCTL 環境が初期設定されています。

システムの処置

/ERESTART または /NRESTART コマンドを待ちます。

オペレーターの応答

(マスター端末) /ERESTART または /NRESTART コマンドを入力してください。

モジュール:

DFSCINB0

DFS0811A **UNABLE TO OBTAIN GGG GIGABYTES OF 64-BIT STORAGE FOR THE ACB POOL. REASON=xxxx**

説明

ACBIN64 パラメーターを指定して、ACB メンバーの 64 ビット・ストレージ・プールを作成しました。ストレージ要求のサイズは GGG ギガバイトです。IMS 制御領域の初期設定で、この 64 ビット・ストレージ・プールの取得を試みましたが、xxxx に示す理由によりストレージを使用できませんでした。

システムの処置

IMS 初期設定は、64 ビット・ストレージに ACB メンバーがない状態で続行されます。

オペレーターの応答

理由コードについては、以下の z/OS の資料で説明されています。

z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書第 2 巻 (IARR2V-XCTLX) (SA88-8669)

z/OS MVS Authorized Assembler Services Reference LLA-SDU (SA22-7611)

理由コードに応じて、適切な対応を判別してください。使用可能なストレージが不足していたことを理由コードが示している場合、使用可能な 64 ビット・ストレージの量を確認し、要求される量を調整してください。

問題判別:

1、3、4、5、36

関連資料

z/OS: IARST64 64 ビット・ストレージ・サービス

z/OS: IARST64 の戻りコードおよび理由コード

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS812I **PERMANENT I/O ERROR ON JOBLIB/LPALIB**

オペレーターの応答:

(マスター端末) 応答は大文字でも小文字でもかまいません。応答が POST であれば、回線が使用不能としてポストされ、応答が RETRY であれば操作が再試行されま

モジュール:

DFSII030、DFSXCIC0、DFSXLGI0

DFS817A **NOP ISSUED TO 7770-3 LINE *aaa*.
CONTROL IS NOT OPERATIONAL.
REPLY 'POST' OR 'RETRY'.**

説明

回線アドレスが *aaa* の 7770 制御装置がオフラインです。

システムの処置

応答を待ちます。

オペレーターの応答:

応答は大文字でも小文字でもかまいません。応答が POST であれば、回線が使用不能としてポストされます。操作が再試行される必要がある場合は、RETRY を応答する前に、制御装置をオンラインにしてください。応答が RETRY であれば、操作は再試行されます。

モジュール:

DFSII030

DFS818A **NOP ISSUED TO 7770-3 LINE *aaa*.
RESULT WAS I/O ERROR
cccc,ss,ee,ii. REPLY 'POST' OR
'RETRY'.**

説明

入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

コード

意味

aaa

回線制御装置アドレス

cccc

CSW 状況

ss

センス状況

ee

DECBC DECERRST フィールド

ii

IOB IOBINCAM フィールド

システムの処置

応答を待ちます。

オペレーターの応答:

応答は大文字でも小文字でもかまいません。応答が POST であれば、回線が使用不能としてポストされ、応答が RETRY であれば操作が再試行されます。

モジュール:

DFSII030

DFS819I **YOUR REPLY TO THE LAST
MESSAGE WAS INVALID. PLEASE
TRY AGAIN**

説明

オペレーターがメッセージ DFS816A、DFS817A、DFS818A のいずれか 1 つに対して行った応答が無効でした。

オペレーターの応答:

上記の該当するメッセージが再発行されるのを待った上で、応答を再試行してください。

モジュール:

DFSII030

関連情報

308 ページの『DFS816A』

NOP ISSUED TO 7770-3 LINE *aaa*. REQUEST DID NOT COMPLETE IN 15 SECONDS. REPLY 'POST' OR 'RETRY'.

309 ページの『DFS817A』

NOP ISSUED TO 7770-3 LINE *aaa*. CONTROL IS NOT OPERATIONAL. REPLY 'POST' OR 'RETRY'.

309 ページの『DFS818A』

NOP ISSUED TO 7770-3 LINE *aaa*. RESULT WAS I/O ERROR *cccc,ss,ee,ii*. REPLY 'POST' OR 'RETRY'.

DFS0820W **PARTITION INITIALIZATION
ERROR ENCOUNTERED FOR
MASTER DATABASE *mdbname*, DLI
STATUS CODE= *dlistatus***

説明

区分データ・セットのすべての初期設定を妨げるエラーが検出されました。

システムの処置

処理を続行します。戻りコードは 4 に設定されています。

ユーザーの処置

DBDGEN にエラーがないかチェックしてください。
HALDB マスター区分データ・セットのすべてが正しく定義されているか検証してください。

モジュール:
DFSURPRO

**DFS821I NO DATA BASE DIRECTORIES
DEFINED**

説明

システム定義時に、データベースがシステムに対して定義されませんでした。したがって、データベース・ディレクトリーの初期設定は必要ありません。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール:
DFSIINDO

**DFS822I NO ALLOCATION FOR DDN
'IMSACBx' IN (CTL|DLS) ADDRESS
SPACE.**

説明

ACBLIB データ・セットは、IMS の始動に使用される JCL で定義する必要があります。ACBLIB の定義に使用される DDNAME は、IMSACBA および IMSACBB です。x は、A と B のいずれかで、欠落している JCL DD ステートメントを示します。DLS がこのメッセージに含まれているのは、エラーが DL/I 従属アドレス・スペースで検出された場合です。DL/I 従属アドレス・スペース環境では、制御領域と JCL の両方で ACBLIB を定義する必要があります。

システムの処置

IMS は、異常終了 0071 または 0821 で終了します。

プログラマーの応答

JCL を確認して、IMS システム定義情報に応じた適切な割り振りを確保してください。

モジュール:
DFSRDB30

関連情報

[IMS 異常終了 0071](#)

[IMS 異常終了 0821](#)

**DFS823I UNABLE TO OPEN DDN 'IMSACBx'
IN (CTL|DLS) ADDRESS SPACE.**

説明

永続出力エラーが OPEN 時に発生した可能性があります。アクティブであるのが IMSACBA か IMSACBB かに応じて、x=A または B になります。DLS がこのメッセージに含まれているのは、エラーが DL/I 従属アドレス・スペースで発生した場合です。

システムの処置

IMS は、異常終了 0071 または 0821 で終了します。

プログラマーの応答

DD 名 IMSACBx が適切に割り振られ、IMS システム定義時に指定されたデータ・セットが存在するか確認してください。x=A または B です。

問題判別

JCL を確認して、IMS システム定義情報に応じた適切な割り振りを確保してください。

モジュール:
DFSBIND0、DFSIINDO

関連情報

[IMS 異常終了 0071](#)

[IMS 異常終了 00821](#)

**DFS824I DFS824I PDS DIRECTORY READ
ERROR DDN 'IMSACB ' RC= xx
RSN=yy**

説明

DD 名 IMSACBx に関して PDS ディレクトリーの読み取りを試みている間に、入出力エラーが発生していました。BLDL マクロへの呼び出しからの戻りコードは、xx として表示され、理由コードは yy です。

システムの処置

IMS は、異常終了 0071 または 0821 で終了します。

プログラマーの応答

JCL を確認して、IMS システム定義情報に応じた適切な割り振りを確保してください。

問題判別

メッセージ DFS823I を参照してください。

モジュール:
DFSBIND0、DFSRDB30

関連資料

[z/OS: BLDL の完了コード](#)

関連情報

310 ページの『DFS823I』
UNABLE TO OPEN DDN 'IMSACBx' IN (CTL|DLS)
ADDRESS SPACE.

IMS 異常終了 0071
IMS 異常終了 0821

DFS825I **BLDL FAILED FOR ALL DEFINED
DATA BASE DIRECTORIES**

説明

IMS システム定義時に名前が指定されたデータベースの有効なディレクトリー・エントリーを、DD 名 IMSACB に割り振られているデータ・セットで検出できませんでした。

システムの処置

動的リソース定義 (DRD) が使用可能でない場合、IMS は異常終了コード 0071 により終了します。DRD が使用可能である場合、IMS は再始動を続行しますが、プログラム (PDIR) は処理しません。

オペレーターの応答

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

定義されているシステムの少なくとも 1 つの DBDGEN が実行され、DD 名 IMSACB によって定義されている ACBLIB データ・セット内にあるか確認してください。DBD が IMSACB ライブラリーにある場合、IMSACB ライブラリーが IMS 実行ライブラリーと同じ IMS レベルで作成されていることを確認してください。

問題判別

メッセージ DFS826I に、ディレクトリー・エントリーが無効であった可能性のある理由のリストが含まれています。

モジュール:
DFSRDB30

関連資料

z/OS: BLDL の完了コード

関連情報

311 ページの『DFS826I』
BLDL FAILED FOR FOLLOWING DBDs:
IMS 異常終了 0071

DFS826I **BLDL FAILED FOR FOLLOWING
DBDs:**

または

xxx DBD ERRORS SENT TO JOB LOG

または

xxx DBD ERRORS SUPPRESSED

説明

ACBLIB で検出されなかったり、要件に適合しなかった DBD 名がリストされるのに応じて、このメッセージの最初の形式が繰り返されます。それぞれの名前の後に理由が続いています。

名前

意味

NOFND

検出されませんでした。

NOTPS

DBD が IMS システム定義時に PSB として定義されました。

NOBUF

バッファ・サイズがゼロでした。

ALIAS

エイリアス名は使用できません。

NOTDM

PSB が IMS システム定義時にデータ管理ブロックとして定義されました。

NOTCP

互換性がありません。

指定されたデータベースまたは PSB を使用するプログラムもランザクションも、IMS による実行のためにスケジュールされることはありません。

このメッセージの 2 番目の形式で、xxx は DBD エラーの数です。

DFSDFxxx PROCLIB メンバーで MSG0826=SUPPBLDL を指定した場合、IMS はこのメッセージの 3 番目の形式を発行します。DFS826I メッセージは、ジョブ・ログには送信されません。

システムの処置

CTX と CTL のいずれかのタイプの IMS 領域で実行の場合は、IMS は実行を継続します。DBB タイプの IMS 領域での実行の場合は、IMS は異常終了して、異常終了コード 0821 が示されます。

プログラマーの応答

このメッセージが最初の形式の場合は、処置は必要ありません。指定されたデータベースまたは PSB を使用するプログラムもトランザクションも、IMS による実行のためにスケジュールされることはありません。NOTCP の場合は、ACBGEN が行われる必要があります。

このメッセージが 2 番目の形式の場合は、すべての DFS826I メッセージに関する ジョブ・ログを参照してください。

問題判別

IMS システム定義の説明を参照してください。

モジュール:

DFSBIND0、DFSIIND0

関連情報

[IMS 異常終了 0821](#)

DFS827I	DYNAMIC PSB <i>psbname</i> BLDL FAILED-aaaaa
----------------	---

説明

メッセージで *psbname* によって示されている PSB の BLDL が、メッセージ・テキストの aaaaa を置き換える、次のいずれかのコードで示される理由で失敗しました。

名前

意味

IOERR

ディレクトリーの読み取りでの入出力エラー

NOFND

メンバーが検出されませんでした。

CONCT

メンバーが最初の連結内にあります。

ALIAS

メンバーが別名です。

NOTPS

メンバーが実際に PSB ではありません。

NOBUF

使用可能なバッファ・サイズがありませんでした。

NOTCP

互換性がありません。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

指定されたデータベースまたは PSB を使用するプログラムもトランザクションも、IMS による実行のためにスケジュールされることはありません。

問題判別

IMS システム定義の説明を参照してください。

モジュール:

DFSDBLIO

DFS828I	WARNING: xxxx POOL NOT CREATED
----------------	---

説明

xxxx という名前のプールは作成されませんでした。EXEC ステートメントの IMS システム定義値とオーバーライド値の両方が、指定されたプールについてはゼロであるからです。

システムの処置

IMS は初期設定を続けますが、IMS 実行中、指定されたプールが存在することはありません。

プログラマーの応答

指定されたプールが、IMS システムの構成に必要でないことを確認してください。

問題判別:

1、8、10

モジュール:

DFSDOBIO、DFSIINSO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS829I	NO PROGRAM DIRECTORIES DEFINED
----------------	---

説明

システム定義時に、システムに対して定義されたプログラムはありませんでした。したがって、プログラム・ディレクトリーの初期設定は必要ありませんでした。また、データベース・ディレクトリーの初期設定も行われません。

問題判別

システム定義ステージ 2 出力をチェックしてください。

モジュール:

DFSIIND0

DFS830I **BLDL FAILED FOR FOLLOWING
PSBs;**

または

xxx PSB ERRORS SENT TO JOB LOG

または

xxx PSB ERRORS SUPPRESSED

説明

ACBLIB で検出されなかったり、要件に適合しなかった PSB 名がリストされるのに応じて、このメッセージの最初の形式が繰り返されます。それぞれの名前の後に理由が続いています。メッセージ DFS826I を参照してください。

このメッセージが 2 番目の形式の場合は、検出された PSB エラーが 10 を超えています。xxx が検出された PSB エラーの数です。

システムの処置

CTX と CTL のいずれかのタイプの IMS 領域で実行の場合は、IMS は実行を継続します。DBB タイプの IMS 領域での実行の場合は、IMS は終了し、異常終了コード 0821 が示されます。

プログラマーの応答

このメッセージの最初の形式では、指定された PSB を使用するプログラムまたはトランザクションは、IMS による実行のためにスケジュールされないことに注意してください。

このメッセージが 2 番目の形式の場合は、すべての DFS830I メッセージに関するジョブ・ログを参照してください。

DFSDFxxx PROCLIB メンバーで MSG0830=SUPPBLDL を指定した場合、IMS はこのメッセージの 3 番目の形式を発行します。DFS830I メッセージは、ジョブ・ログには送信されません。

モジュール:

DFSBIND0、DFSIIND0

関連資料

[z/OS: BLDL の完了コード](#)

関連情報

[311 ページの『DFS826I』](#)

BLDL FAILED FOR FOLLOWING DBDs:

DFS831I **BLDL FAILED FOR ALL DEFINED
PROGRAM DIRECTORIES**

説明

IMS システム定義時に定義されたプログラムの有効なディレクトリー・エントリーが、DD 名 IMSACB に割り振られている ACBLIB データ・セットで検出されませんでした。

初期設定中に、IMS システム定義時に定義されたか CICS プログラム・ディレクトリー (PDIR) で定義された PSB がロードされ、それらの妥当性が検査されます。有効な PSB が少なくとも 1 つは、ACBLIB で検出される必要があります。PSB がまったく検出されなかったり、有効な PSB がまったく検出されなかった場合は、メッセージ DFS831I が出力されます。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0071 が示されません。

オペレーターの応答

(マスター端末) 実行されようとしていたメッセージ領域がなかったか確認してください。これがあった場合は、IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

プログラマーの応答

割り振りが適正か、JCL をチェックしてください。さらに、非 DOPT PSB の PSBGEN が少なくとも 1 つは実行され、PSB が DD 名 IMSACB で定義された ACBLIB データ・セット内に置かれているか確認してください。

モジュール:

DFS831I

関連情報

[IMS 異常終了 0071](#)

DFS0832I **ABEND Uwwwww REASON CODE
xxxx yyyy PARTITION | DATABASE
ZZZZZZZZ**

説明

IMS 異常終了の原因となった問題のデバッグを支援するために、このメッセージを使用します。このメッセージは、モジュール DFSDLA00 または DFSFDMP0 によって異常終了条件が検出されたときに発行されます。この条件が発生した原因としては、次のいずれかが考えられます。

- 区画の選択または妥当性検査でのゼロ以外の戻りコード。

- モジュール DFSDLR00、DFSDDLE0、DFSDXMT0、DFSDDL00、DFSRBOI0、DFSFXC50、または DFSRCHB0 によって設定された疑似異常終了。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

wwwww

疑似異常終了コード。

xxxx

次のいずれかです。

- HALDB 異常終了の理由コード。非 HALDB 異常終了の場合は N/A。
- 以下のいずれかの IMS 異常終了が検出されました。

0776
0880
3303
3498

これらの異常終了の場合、理由コードは yyyy で、これは HALDB の処理中に検出された問題に関連するコードです。

yyyy

xxxx (異常終了) が上記のいずれでもない場合、yyyy の値は N/A です。そうでない場合は、次のいずれかの理由コードです。

4001

これ以上の区画は定義されていない

4014

HALDB は、DFSDFxxx PROCLIB メンバーでは非登録と定義されていますが、RECON データ・セットに登録されていることが判明しました。

4020

DB 許可エラー (データが使用不能)

4025

DB アンロード処置エラー

4026

DB 初期設定処置エラー

4032

マイグレーション済みデータ・セットであるために区画は利用不可。

4059

アクセス・レベルが意図レベルと互換性がない

8001

ターゲット区画に初期設定が必要

8010

ターゲット区画が検出されない

8011

区画への無効なキーが検出されました。

8031

オープン DMB 障害

8051

ユーザー区画の選択が失敗

C001

非区画 DB アクセス

C002

区画がアクティブでない

C003

区画が停止した

C004

区画構造が終了している

C005

区画構造が初期設定されていない

C006

区画の構造再作成が失敗

C009

ILDS DSG が提供されていない

C010

構造状況が異常

C030

許可理由コードが無効

C031

区画オープン・エラー

C040

区画 DDIR が無効

C041

区画セット操作が無効

C042

PSETE ストレージの割り振り不能

C043

区画セットの選択処置が無効

C050

ユーザー選択出口が呼び出されなかった

C060

機能コードが無効

C070

バッファ・ハンドラーのバイト位置指定が失敗

C071

バッファ・ハンドラーのキーによる位置指定が失敗

C072

間接リスト・データ・セット (ILDS) に突き合わせて処理中にエラーが発生

C073

バッファ・ハンドラーの変更マークが失敗

C074

バッファ・ハンドラーのバイト位置指定および変更マークが失敗

C075

IRLM ルート・ロック要求 (GRID) が失敗

C076

BCB ストレージを取得する要求 (BCBGET) が失敗

C077

OLR カーソルのリフレッシュ 要求が失敗

PARTITION | DATABASE

HALDB の場合は PARTITION。HALDB 以外の場合は DATABASE。

ZZZZZZZZ

次のいずれかの DBD 名。

- HALDB 区画 (HALDB partition)
- HALDB マスター (HALDB master)
- 非 HALDB データベース

または NOTAPPLI (DBD が使用可能でない場合)

システムの処置

アプリケーション・プログラムは終了しました。

プログラマーの応答

アプリケーションが終了する原因になった状態を訂正してください。

モジュール:

DFSDLA00、DFSFDMP0

DFS833I

**INSUFFICIENT (CTL PRIVATE|
COMMON SYSTEM) MEMORY FOR
RESIDENT INTENT LISTS**

説明

ストレージが不十分で、意図リストを常駐にできませんでした。要求されたストレージは、領域内のスペースと共通システム域 (CSA) 内のスペースのいずれかでした。後者の場合は、DL/I 従属アドレス・スペースが選択されているという含意があります。

システムの処置

意図リストは常駐にされていません。

プログラマーの応答

メッセージに「private」と指定されている場合は、IMS 領域サイズを大きくしてください。

モジュール:

DFSIIIND0

DFS834I

**INSUFFICIENT (COMMON
SYSTEM|DLS PRIVATE) MEMORY
FOR RESIDENT PSBS**

説明

ストレージが不十分で、PSB を常駐にできませんでした。要求されたストレージは、共通システム域 (CSA) と DL/I 従属アドレス・スペース専用メモリー (DLS) のいずれかでした。

システムの処置

PSB は常駐にされていません。

プログラマーの応答

スペースが取得されるエリアでのスペースを広げるか、常駐にする PSB の数を減らすか、いずれかにしてください。

モジュール:

DFSIIIND0

DFS835I

**INSUFFICIENT (COMMON
SYSTEM|DLS PRIVATE) MEMORY
FOR RESIDENT DMBS**

説明

ストレージが不十分で、示されているデータ管理ブロックを常駐にできませんでした。要求されたストレージは、共通システム域 (CSA) と DL/I 従属アドレス・スペース専用メモリー (DLS) のいずれかでした。

システムの処置

どのデータ管理ブロックも常駐にされませんでした。

プログラマーの応答

スペースが取得されるエリアでのスペースを広げるか、常駐にするデータ管理ブロックの数を減らすか、いずれかにしてください。

モジュール:

DFSIIIND0

DFS836I

**THE FOLLOWING SHARED DMBS
NOT FOUND IN THE LIBRARY**

説明

データベース・ディレクトリーの初期設定中に、1つ以上の共用索引データ管理ブロックのエントリーが ACBLIB で見つかりませんでした。影響を受けたエントリーは、ヘッダーの後にリストされています。

システムの処置

リストされているデータベースは、すべて永続的に停止され、初期設定が 続行されます。

オペレーターの応答:

IMS システム・プログラマーに状態を通知してください。

プログラマーの応答

IMS ACB ユーティリティを使用して、ACBLIB 内にある影響を受けたエントリーを再構成してください。

モジュール:
DFSIINDO

DFS837I **SHARED INDEX NOT DEFINED**
 DMB dbdname

説明

指定されたデータベースは、ACBLIB 内の 共用索引 DMB の一部でしたが、IMSGEN プロセス中に IMS システムに対して定義されていませんでした。

システムの処置

共用索引グループを形成するデータベースすべてが永続的に停止され、初期設定は続行されます。

オペレーターの応答:
IMS システム・プログラマーに状態を通知してください。

プログラマーの応答

ACBLIB にある影響を受けたエントリーを訂正してください。

モジュール:
DFSIINDO

DFS838I **I/O ERROR READING SHARED**
 INDEX LIST FOR DMB dbdname

説明

指定されたデータベースは共用索引でした。ACBLIB から索引リストを読み取ろうと試みている最中に、永続入出力エラーが発生しました。

システムの処置

影響を受けたデータベースが永続的に停止され、初期設定は続行されます。

オペレーターの応答:
システム・プログラマーに状態を通知してください。

プログラマーの応答

入出力エラーを引き起こす条件を訂正してください。

問題判別

入出力エラーの原因に関する情報がないか、システム・コンソールかログ・レコード、またはその両方を調べてください。

モジュール:
DFSBIND0、DFSIINDO

DFS0839I **DATA BASE BUFFER POOL NOT**
 PURGED

説明

次の理由により、異常終了後、データベース・バッファはページされませんでした。

- 異常終了時に DL/I がアクティブだった。
- STAE 作業域が指定されていなかった。
- PSB には更新意図があったが、ログが DD であった。
- バッファ・ハンドラーがページ呼び出しに対して示した戻りコードに誤りがあった。
- 保管域に関する GETMAIN が失敗した。
- バッファ・ハンドラーがストレージになかった。

システムの処置

IMS が異常終了します。

モジュール:
DFSFLST0

DFS0840I **INDEX ERROR (dbdname) (status**
 code) (first 45 bytes of key)

説明

エラー条件が索引保守機能によって検出されました。メッセージには、*dbdname*、*status code*、およびキーの最初の 45 バイトが示されています。状況コードは、NE、NI、NO、BLANK のいずれかです。

コード
意味

NE

索引レコードを削除する試みがなされましたが、レコードが存在しませんでした。副次索引がデータベースとして処理され、一部の副次索引入力削除された場合は、これは有効な条件である可能性があります。ソース・セグメントが削除され、その索引入力が存在していない場合は、NE 状況コードが結果になります。DFS0840I メッセージが送信されるのは情報目的ですが、これが有効な条件である可能性があるため、BLANK 状況コードがアプリケーション・プログラムに戻されます。DL/I 状況コード情報の中の NE 状況コードの説明を参照してください。

DFSVSMxx PROCLIB メンバーの OPTIONS ステートメントで ISSUE840=NO を指定することによって、DFS0840I メッセージを抑制できます。

NI

データ・セットが開けなかったか、固有の副次索引に重複セグメントがあったか、いずれかです。データ・セットが開けなかった場合は、このメッセージの前に DFS0730I メッセージが出され、このメッセージの後で 0826 疑似異常終了または実異常終了が生じます。このメッセージの前に DFS0730I メッセージが出ていない場合は、副次索引に重複セグメントがあります。呼び出しに関する以前の変更のバックアウトが可能であれば、このメッセージは抑制されます。アプリケーション・プログラムに戻されるのは、NI 状況だけです。呼び出しに関する他の変更のバックアウトが不可能な場合、または DFSVSMxx メンバーの OPTIONS ステートメントで ISSUE840=YES が指定されている場合は、このメッセージが表示され、0828 疑似異常終了または実異常終了が続きます。追加情報については、記載の DL/I 状況コード情報の中の NI 状況コードの説明を参照してください。

呼び出しに関する以前の更新のバックアウトをサポートしないのは、次の条件です。

- 実行環境がバッチで、JCL EXEC ステートメントの PARM フィールドで BKO=YES を指定した DASD ログを使用していない場合です。

NO

入出力エラーが検出されました。このメッセージには、エラーを記述する VSAM エラー・メッセージが先行しているはずですが、データベース・リカバリが必要な場合があります。NO 状況がアプリケーション・プログラムに戻されます。呼び出しに関する以前の変更のバックアウトが可能 (下記の詳細を参照) であれば、このメッセージは抑制されます。呼び出しに関する以前の変更のバックアウトが不可能な場合は、このメッセージが表示され、0826 疑似異常終了または実異常終了が続きます。DL/I 状況コード情報の中の NO 状況コードの説明を参照してください。

BLANK

予期しない戻りコードが、バッファー・ハンドラーに対する呼び出しから受信されました。この場合は、このメッセージの後に 0825 0826 または 0829 疑似異常終了または実異常終了が続くはずですが、

システムの処置

上記のとおりです。

プログラマーの応答

状況コード記述または異常終了の説明を参照してください。

問題判別:

4、36

モジュール:

DFSDXMT0

関連資料

[DL/I 状況コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[265 ページの『DFS0730I』](#)

UNABLE TO OPEN OR CLOSE DATASET WITH DDNAME *DD* 名 FOR REASON *x*, *yy*, *z*
DATABASE データベース名 プログラム *ID*

[IMS 異常終了 0825](#)

[IMS 異常終了 0826](#)

[IMS 異常終了 0829](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0841I

**SAF INTERFACE ERROR. SAF
RC=*nn*, RACROUTE=*racf-function*,
RETURN=(*yy*,*zzz*)**

説明

RACROUTE 呼び出しが、初期設定処理中に、SAF インターフェースから障害戻りコード (RC=*nn*) を受信しました。障害のある RACROUTE 機能が *racf-function* でした。セキュリティー・プロダクト戻りコードが *yy* で、理由コードが *zzz* です。

システムの処置

エラーが制御領域で発生した場合、IMS 初期設定は異常終了 0071 で終了します。エラーが DLISAS 領域で発生した場合は、IMS 初期設定は異常終了 0029 で終了します。

プログラマーの応答

これが RACF のインストールに関する問題である場合は、「z/OS Security Server RACROUTE マクロ解説書」(SA88-8621) で、*racf-function* の戻りコードと理由コードを分析してください。

オンライン IMS システムに対するすべての RACF 検査をバイパスするには、「z/OS MVS 初期設定およびチューニング 解説書」(SA88-8564) で説明されているように、DFSMVRC0 の z/OS プログラム特性テーブルを変更してください。

問題判別:

1、3、4、6

モジュール:

DFSXRAC0

関連資料

[z/OS: RACROUTE の戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

IMS 異常終了 0029

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0842I OSAM DATASET CANNOT BE EXTENDED, REASON=X, Z, データベース名 DD 名, DS 名

説明

OSAM は、名前付きデータ・セットを拡張できませんでした。番号が DFS0842I の 2 行のメッセージが発行されます。最初の行は、データ・セットが拡張可能でない理由を示します。また、データベース名も含まれています。2 行目には、DD 名と DS 名が含まれています。

メッセージ・テキストの中で、

X

エラー条件を識別する理由コード。

Z

16 進数のエラー・サブコード

データベース名

データベース名

DD 名

データ定義名

DS 名

データ・セット名

以下の理由コードの 1 つ (X) は、エラー条件を識別します。説明の最初のワードは、エラーが検出されたラベルの名前です。説明の最初のワードは、エラーが検出されたラベルの名前です。条件 1、2、および 3 は、データ・セットが別のサブシステム上で拡張されたときに、データ共用環境でのみ発生します。エラーのあるサブシステムは、同様の拡張機能を実行できませんでした。

X の理由コード

エラー状態

1

LCREAT10: 疑似データ・セット拡張が失敗しました。

2

DSXT0350: 新規エクステントのボリューム通し番号が、拡張サブシステムによってブロードキャストされるボリューム通し番号と一致しません。

3

DSXT0360: データ・セットに対する OSAM TCLOSE 機能の処理中にエラーが発生しました。TCLOSE は、新しいエクステント情報を獲得するためのデータ・セットのクローズと再オープンです。

4

未使用。

5

LCREAT30: OSAM ボリュームの終わりルーチンを使用して、データ・セットに別のエクステントを割り振ろうとしましたが、失敗しました。データ・セットを拡張できませんでした。

6

LCREAT40: 要求されたブロックのためのバッファを取得しようとしたが、失敗しました。この問題は、同じバッファ・セットを共用するいずれかの OSAM データ・セットの入出力エラーが原因で発生した可能性があります。

7

LCREAT70: 論理シリンダーのフォーマット操作中に入出力エラーを受信しました。

以下のサブコード (Z) は、DFS AOSF0 および DFS AOS10 によって検出されたエラー条件を示します。Z サブコードは DCBWRK1+3 で戻され、理由コード 5 に関連するエラー条件を識別するために使用されます。

Z サブコード (16 進) - モジュール DFS AOSF0 によって設定されます。

意味

01

使用不可のマークが付いたデータ制御ブロック (DCB)。

02

DCB は DD ダミー・データ・セットです。

03

DCB がオープンしていない。

04

データ拡張ブロック (DEB) が最大サイズに達しました。

05

データ・セットが拡張不能であるか、2 次割り振りが許可されていない。

06

不十分なボリューム。

07

現在のボリューム・エクステントの検索中にエラーが発生しました。OSPLIT サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 に 4 となっています。

08

OSAM データ拡張ブロック (DEB) をモフ DEB に変換中にエラーが発生しました。OSDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 4 になっています。

09

OSAM DEB の構成中にエラーが発生しました。OSAMDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 4 になっています。

0A

DEB/DCB 検証チェックが失敗しました。

0B

この呼び出しは、EOV 呼び出し要求の場合ではありません。

0C

現在のボリューム拡張の検索中にエラーが発生しました。OSPLIT サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 8 になります。

0D

OSAM データ拡張ブロック (DEB) をモフ DEB に変換中にエラーが発生しました。OSDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 8 になっています。

0E

OSAM DEB の構成中にエラーが発生しました。OSAMDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 8 になっています。

0F

キャプチャーされたユニット制御ブロック (UCB) の解放エラー。

Z サブコード (16 進) - モジュール DFSAOS10 によって設定されます。

意味

20

ボリュームの終わり (EOV) はすでに保留状態になっています。

21

入出力エラーが発生した

22

DCB は DD ダミー・データ・セットでした。これは DFSAOS10 によって検出されました。

23

DCB がオープンされなかった。これは DFSAOS10 によって検出されました。

24

新規エクステンツの獲得中にエラー

システムの処置

条件 1、2、または 3 の場合、アプリケーション・プログラムは、異常終了コード 0842 で疑似異常終了します。その他の条件の場合は、処理が続行され、メッセージ DFS0845I が続く場合が

オペレーターの応答:

(マスター端末) Notify the イムス system programmer or database administrator of the condition.

プログラマーの応答

次のアクションを実行します。

- データ・セット拡張エラー 1、2、または 3 がデータ共用環境で発生する場合は、データベースのすべてのボリュームがサブシステム間で共用されていること、およびすべてのボリュームへのパスが存在することを確認してください。
- データ・セット拡張エラー 5 が発生した場合は、データベースを再編成するか、より大きなスペース・パラメーターを使用してデータベースをリカバリーすることによって、追加スペースを追加するか、DASD エクステンツ数を減らしてください。拡張エラー 5 の後、OSAM データ・セットが OSAM でサポートされるエクステンツの最大数を超過しているために OSAM データ・セットを開くことができない場合は、データ・セットをオープンするときに中間ユーティリティー・ステップが必要となる可能性があり、システムが未使用のエクステンツを解放することができます。例えば、RELEASE を指定した ADDRSSU ジョブ、またはダミー入力データ・セットを持つ IEBGENER などのコピー・ユーティリティー、および OSAM データ・セットを出力として使用し、DISP=MOD および SPACE=(三十,(1 次、2 次)、RLSE) を指定するとします。拡張について詳しくは、[アクセス方式としての OSAM の使用 \(データベース管理\)](#) を参照してください。
- 入出力エラーが検出された場合は、メッセージ DFS0451I または DFS0451A に定義されている処置に従ってください。

問題判別:

3, 4, 5, 17

モジュール:

DFSDBH40 および DFSDBH4M

関連情報

[161 ページの『DFS0451I』](#)

modname, dbdname, ddname, i/o error, decb field

[161 ページの『DFS0451A』](#)

modname, dbdname, ddname, i/o error, decb field

[IMS 異常終了 0842](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0843I

dbname MAXIMUM NUMBER OF BYTES REACHED, DDNAME=ddname

説明

HDAM、HIDAM、PHDAM、または PHIDAM データベースのデータ・セット・グループが、最大容量に達しました。

非 HALDB データベースの場合、データ・セットの最大サイズは次のとおりです。

- データ・セットが VSAM の場合は 4 GB。
- データ・セットが OSAM の場合、奇数長のブロック・サイズを持つデータ・セットでは 4 GB、偶数長のブロック・サイズを持つデータ・セットでは 8 GB。

フルワードの場合、最大絶対数は 4,294,967,295 バイト (4 GB) です。偶数ブロック・サイズを持つ非 HALDB OSAM データベースでは、フルワード内で可能なストレージが倍の 8,589,834,591 バイト (8 GB) になります。

HALDB データベース区画の場合、データ・セットの最大サイズは次のとおりです。

- データ・セットが VSAM の場合は 4 GB。
- データ・セットが OSAM の場合は、4 GB または 8 GB。

システムの処置

ビットマップを調べることにより、スペースを取得する試みがなされました。検索はデータ・セットの終了から始まり、開始に至るまで機能します。これが正常に行われない場合は、メッセージ DFS0844I が出力され、トランザクションは疑似異常終了 0844 で終了します。

プログラマーの応答

スペースを統合して再利用するようにデータベースを再編成します。これがうまくいかない場合は、以下のアクションのいずれかを実行することを検討してください。

- HALDB データベースの場合、区画を 2 つ以上の区画に分割することを検討してください。
- VSAM データ・セットまたは 4 GB OSAM データ・セットを使用する HALDB データベースの場合は、8 GB OSAM データ・セットを使用することを検討してください。

8 GB OSAM データ・セットを使用するには、HALDB データベースを、8 GB OSAM データ・セットをサポートするものとして DBRC に登録する必要があります。8 GB OSAM データ・セットを使用する HALDB データベースは、HALDB オンライン再編成 (OLR) 機能では再編成できません。

- 非 HALDB データベースの場合、データベースを HALDB に変換します。
- VSAM データ・セットを使用する非 HALDB データベースの場合は、偶数ブロック・サイズを持つ OSAM データ・セットを使用するようにデータベースを変更します。
- 複数データ・セット・グループを使用します。

モジュール:
DFSGGSP0

関連情報

320 ページの『DFS0844I』

modulename dbname DATASET FULL,
DDNAME=ddname

IMS 異常終了 0844

DFS0844I

modulename dbname DATASET
FULL, DDNAME=ddname

説明

指定されたデータベース・データ・セットには、さらにデータを入れるスペースはなく、疑似異常終了 0844 に先行して、このメッセージが出力されます。次のいずれかが発生しました。

- 使用可能なスペースがなかったため、指定されたデータ・セットに新しいレコードを挿入する試みが失敗しました。
- DD DSNAME=NULLFILE または DD DUMMY として定義されていたデータ・セットに対して、挿入呼び出しが発行されました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは、疑似異常終了コード 0844 で終了しました。HISAM または索引データベースの場合は、データベースは停止されます。

オペレーターの応答

HISAM または索引データベースの場合は、/START コマンドを出して、データベースを再始動する必要があります。

(マスター端末) IMS システム・プログラマーかデータベース管理者に、この状態を通知してください。

プログラマーの応答

疑似異常終了 0844 の後の非コミット変更のバックアウトによって、データベースが整合性のある使用可能な状態に復元されます。ただし、挿入で同じ条件が起きる可能性があります。オフライン時に (/DBR コマンドを使用して)、より大きいスペース割り振りにデータベースをコピーする必要があります。次に、/START コマンドを使用して、そのデータベースをオンライン領域で使用可能にします。

問題判別:

3、4、5、17

モジュール

DFSDVSM0、DFSDDL0

関連情報

IMS 異常終了 0844

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0845I **dbname DATASET LIMIT
REACHED, DDNAME=ddname**

説明

HDAM、HIDAM、PHDAM、または PHIDAM データベースに別のブロックを作成する試みが失敗しました。追加のエクステントが割り振れなかったか、追加のブロックを作成している最中に、入出力エラーが検出されたからです。

システムの処置

データベースに使用可能なスペースを検出するために、ビットマップが検索されます。スペースが検出されれば、それが使用され、処理は続行されます。スペースが検出されなかった場合は、メッセージ DFS0844I が出力されます。

オペレーターの応答:

IMS システム・プログラマーに状態を通知してください。

プログラマーの応答

追加のエクステントが割り振れない場合は、追加のボリュームの追加またはデータベースの再編成ができません。入出力エラーが検出され、ビットマップ検索を使用して十分なスペースが検出された場合は、それ以上の入出力エラーを避けるために、データベースを別の物理ロケーションにマイグレーションしてください。

モジュール:

DFSGGSP0

関連情報

320 ページの『DFS0844I』
modulename dbname DATASET FULL,
DDNAME=ddname

DFS846I **CONTROL CARD ERROR, {NAME
EXCEEDS 8 BYTES|EXCESSIVE
PARAMETERS|MISSING PAREN|
SETS OF PARAMETERS > 100|BAD
TIME CARD|I/O INVALID}**

説明

制御ステートメントがエラーでした。

システムの処置

DFSIST40 が異常終了します。

プログラマーの応答

示されているエラーがないか、制御ステートメントをチェックしてください。エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSIST40

DFS847I **UNRECOGNIZED CONTROL CARD
BYPASSED**

説明

制御ステートメントに無効なキーワードが含まれていました。他の制御ステートメントが処理され、ジョブは続行されます。

システムの処置

DFSIST40 は実行を継続します。

プログラマーの応答

制御ステートメントをチェックしてください。エラーを訂正し、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFSIST40

DFS848I **CONTROL CARD ERROR, NO
OUTPUT SELECTED**

説明

制御ステートメントの選択基準に適合するメッセージがありませんでした。

システムの処置

DFSIST40 は正常に終了します。

プログラマーの応答

JCL および制御ステートメントをチェックし、出力があったか判別してください。エラーを訂正し、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFSIST40

DFS849I **NO OUTPUT DATASETS
REQUESTED, EOJ**

説明

IMSLOG0 も IMSLOGP も指定されなかったことが、統計プログラムによって検出されました。

システムの処置

DFSIST40 は終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSIST40

DFS0850W	PARTITIONED DATABASE STRUCTURE INITIALIZATION ERROR ENCOUNTERED FOR DATABASE <i>mdbname</i>
-----------------	--

説明

データベース構造初期設定が、*mdbname* で識別されているデータベースに関して失敗しました。詳しくは、付随するメッセージ DFS0415W があれば、それを参照してください。

システムの処置

処理を続行します。戻りコードは 4 に設定されています。

ユーザーの処置

RECON データ・セットおよび DFSVSAMP DD カードが正しいか、JCL をチェックしてください。エラーを訂正してから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSURPRO

関連情報

144 ページの『DFS0415W』

PARTITIONED DATABASE INIT / TERM / START
EXCEPTION CONDITION - FUNC= ffffffff,
DBNAME= dddddddd, PARTNAME= pppppppp,
REASON= rr

第 21 章 DFS メッセージ DFS0851W - DFS0900A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0851W **PARTITIONED DATABASE
STRUCTURE TERMINATION
ERROR ENCOUNTERED FOR DATA
BASE *mdbname***

説明

区画構造マネージャーが、*mdbname* で識別されているデータベースに関するデータベース構造を終了できませんでした。詳しくは、付随するメッセージ DFS0415W があれば、それを参照してください。

システムの処置

処理を続行します。戻りコードは 4 に設定されています。

モジュール:
DFSURPRO

関連情報

144 ページの『DFS0415W』

PARTITIONED DATABASE INIT / TERM / START
EXCEPTION CONDITION - FUNC= *fffffff*,
DBNAME= *dddddddd*, PARTNAME= *pppppppp*,
REASON= *rr*

DFS852W **REPLACE IGNORED DUE TO
FAILURE OF VERIFY**

説明

この REP 操作より前の VERIFY 操作が正しく比較されず、この REP が無視される原因になりました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

VERIFY に関する入力制御ステートメント・データを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

1、2、8、11、35。また、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=852 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCF00、DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURG10、
DFSURPRO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS853A **MISSING/INVALID KEYWORD
keyword FOR FUNCTION *ff***

説明

制御プログラムが、必須であった *keyword* が欠落しているのを検出しました。

システムの処置

このユーティリティーに関しては、処理が停止します。

プログラマーの応答

必須のキーワードおよびデータを指定して、ジョブを再実行依頼してください。ユーティリティー制御機能の再始動は、実行しないでください。

問題判別

1、2、8、11、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=853 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCF00、DFSURGP0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS854A **CONTROL STATEMENT ERROR-
INVALID/MISSING VALUE FOR
KEYWORD *keyword***

説明

制御プログラムが、*keyword* の値が欠落しているのを検出したか、*keyword* に指定されている値が無効であると判別しました。

システムの処置

このユーティリティーに関しては、処理が停止します。

プログラマーの応答

データを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

1、2、8、11、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=854 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUCF00、DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURPR0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS855I	PRECEDING CARDS WERE USED TO FORM REQUEST nnnn
----------------	---

説明

このメッセージの直前にリストされている制御メッセージは、ユーティリティー制御機能の単一要求の形成に使用されました。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール:

DFSUCF00、DFSURGP0、DFSURG10

DFS856A	UNABLE TO BUILD CONTROL BLOCKS FOR DATA BASE <i>dbdname</i> FOR FUNCTION <i>ff</i>
----------------	---

説明

発行プログラムが、指定されたデータベースの制御ブロックの構成を要求しました。要求は正常に完了しませんでした。

システムの処置

ジョブは終了します。

プログラマーの応答

指定されたデータベースに関して、有効な DBD が存在するか確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=856 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURPR0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS857I	MISSING OR INVALID CONTROL DATASET
----------------	---

説明

発行プログラムが、データベース事前再編成ユーティリティー (DFSURPR0) で生成された入力制御データ・セットの読み取りを試みました。次のいずれかの状態が発生しました。

- 制御データ・セットが指定されなかった。
- 識別されている制御データ・セットが、制御データ・セットの最初のブロックに存在していなかった。
- 制御データ・セットに、制御データ・セットの最初のブロックに示されている数のブロックが含まれていなかった。

プログラマーの応答

有効な制御データ・セットが発行プログラムに提供されているか確認してください。必要な場合は、データベース事前再編成ユーティリティーを再実行してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURG10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS858A	BUFFER HANDLER RETURNED AN ERROR CODE OF <i>cc</i> FOR FUNCTION <i>ff</i>
----------------	--

説明

発行プログラムが、バッファ・ハンドラーからゼロ以外の戻りコードを受信しました。この戻りコードの意味は、PSTRTCDE のラベルが付いているフィールドの

PST DSECT に示されています。バッファー・ハンドラーの戻りコードについては、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。

システムの処置

処理は終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

戻りコードで指摘されているエラーがあれば、それを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=858 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSURGP0、DFSURGS0

関連資料

[外部サブシステム・サポートに関連する戻りコードと機能コード\(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS859A **DL/I RETURNED AN ERROR CODE
OF return code FOR FUNCTION ff**

説明

発行プログラムが、DL/I 呼び出し後に、予期しない戻りコードを受信しました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

戻りコードで示されているエラーがあれば、それを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=859 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSURGP0、DFSURGS0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS860A **DUPLICATE INDEX ENTRY followed
by one or more lines containing
input record in hexadecimal and
EBCDIC format**

説明

入力レコードに指定された索引フィールドに関しては、重複エントリーが定義されていなかったのに、重複索引エントリーの作成を試みた入力作業ファイルからの入力レコードを、発行プログラムが検出しました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

索引関係を再定義して、索引違反が除去されるようになるか、重複エントリーの作成が試みられる原因になったデータベース・レコードを変更するか、いずれかを行ってください。次に、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURGP0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS861I **number input-control-card**

説明

発行プログラムが、そのために指定されている入力制御ステートメントを表示しています。生成される可能性がある後続のエラー・メッセージによる参照のために、番号が順次割り当てられています。

プログラマーの応答

表示されている情報が入力された情報と整合しているか検証してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURPRO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS862I **DBS=databasename,
segmentname**

説明

このメッセージは、データベース・スキャン・ユーティリティ (DFSURGS0) によってスキャンされるセグメントのリストを示すために、複数回出される場合があります。OPTIONS=(PUNCH) 制御ステートメントがメッセージを発行するプログラムに示されると、このメッセージの文字 DBS で始まっている部分が SYSPUNCH に書き込まれます。

プログラマーの応答

このメッセージで示されるスキャン・リストによって示されているデータベースのそれぞれに関して、データベース・スキャン・ユーティリティ (DFSURGS0) が実行される必要があります。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURPRO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS863I **DUPLICATE NAME ON INPUT
CONTROL CARD, number**

説明

発行プログラムが、先行入力制御ステートメント (番号で示されている) に表示されていたデータベース名を検出しました。

プログラマーの応答

メッセージに先行している入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURPRO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS864W

**DBR AND/OR DBIL CONTROL
REQUESTS MISSING FOR
FUNCTION ff**

説明

発行プログラムが、SYSIN (ユーティリティ制御機能の DFSYSIN) からの制御ステートメントすべてを読み取り、解釈しました。制御データ・セットの分析後、再編成も初期ロードも要求されなかったことが検出されました。これは、ユーティリティ制御機能の下では可能ですが、データベース事前再編成ユーティリティ (DFSURPRO) の実行時にはエラーです。

システムの処置

UCF の下での実行の場合は、処理は続行されますが、そうでない場合は、処理は終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

ユーティリティ制御機能の下での実行の場合は、これが正しい操作であるか確認してください。正しくない場合、またはデータベース事前再編成ユーティリティを実行している場合は、必須制御ステートメントを指定し、ジョブを再実行依頼してください。再始動は試みないでください。出力が正しい場合は、それ以上の処置は必要ありません。

モジュール:

DFSURGS0、DFSURPRO

DFS865I

**UNABLE TO CONSTRUCT A
CONTROL LIST ENTRY FOR
FUNCTION database-name1
segment-name1 database-name2
segment-name2**

説明

発行プログラムが、示されているデータベース名とセグメント名の間には存在すると定義された論理関係に関する制御リスト項目の構成を試みましたが、定義は、DL/I で使用可能な制御ブロック内で検証されませんでした。

プログラマーの応答

示されている論理関係を定義するために、有効な DBD が使用可能であるか確認してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURPRO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS866I **NORMAL PROGRAM
TERMINATION *number***

説明

発行プログラムは正常に終了しました。 *number* が表示されている場合は、発行プログラムによって処理された入力作業データ・セット・レコードの数です。

問題判別:

1、 2、 3、 5、 8、 11、 17a、 17d、 17g、 20、 36

モジュール:

DFSURGP0、 DFSURGS0、 DFSURG10、 DFSURPR0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS867I **UTILITY CHECKPOINT, *pgm-name*
*chkpt-# volume-serial***

説明

発行プログラムが、ユーザーによって指定されたインターバルの 1 つでチェックポイントを完了しました。メッセージを発行するプログラムの名前、およびチェックポイント番号は既知です。チェックポイント・レコードが書き込まれたボリューム通し番号も表示されています。

オペレーターの応答:

再始動処置を要求する必要がある場合は、チェックポイント番号とボリューム通し番号を記録してください。

問題判別:

1、 2、 3、 5、 8、 11、 17a、 17d、 17g、 20、 36

モジュール:

DFSURGP0、 DFSURGS0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS868I **(INPUT|OUTPUT) VOLUMES:
*volser1, volser2, etc..***

説明

このメッセージは、発行プログラムの INPUT/OUTPUT 作業データ・セットを入れるために使用するボリュームのボリューム通し番号を表示するために、1 回以上出されます。

問題判別

2、 3、 8、 36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=868 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSURGS0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS869A **SEGMENT *segment-name* WAS
NOT FOUND IN THE CONTROL
BLOCKS FOR FUNCTION *ff***

説明

発行プログラムが、指定されたセグメント用の制御ブロックを見つけられませんでした。このセグメントは、入力制御ステートメントと入力制御データ・セットのいずれかにリストされていました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

提供された入力制御ステートメントか制御データ・セット、またはその両方について、有効な DBD が使用可能であることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、 3、 8、 36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=869 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSURGS0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS871E ***error_type* ERROR ENCOUNTERED
LOADING ILDS WITH
DDNAME=*ddname* RC= *nnnnnnnn*
REASON= *yyyyyyyy***

説明

HALDB へのマイグレーション時に、*ddname* で識別されている ILDS に関する ILDS データ・セット処理中に、モジュール DFSURITO がエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

error_type

検出されたエラーの記述。起こりうるエラーのタイプは、次のとおりです。

ABEND
DSPSERV
FREEMAIN
GETMAIN
LOAD
SORT
VSAM

ddname

エラーを検出した ILDS。

nnnnnnnn

エラーが検出された時点で、レジスター 15 で検出された戻りコード。 *error_type* が ABEND であれば、このフィールドが異常終了コードになります。

yyyyyyyy

理由コード。エラー・タイプが ABEND であれば、RC はブランクになります。

システムの処置

処理は戻りコード 8 で終了します。影響を受けた ILDS には RECON で Recovery Needed のマークが付けられます。

プログラマーの応答

ILDS/INDEX 再作成ユーティリティ (DFSPREC0) を実行して、*ddname* で識別されている ILDS を再作成してください。

問題判別:

2、3、8、36。UCF の場合は有効なメッセージではありません。

モジュール:

DFSURGLO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS872I

DATA BASE NOT SCANNED,
database-name

説明

指定されたデータベースは、スキャンされませんでした。DFS873I がこのメッセージより前に発行されました。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURGS0

関連情報

328 ページの『DFS873I』

SEGMENT NOT SCANNED, *database-name*
segment-name

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS873I

SEGMENT NOT SCANNED,
database-name segment-name

説明

指定されたセグメントに関する制御ブロックのチェック時に、発行プログラムが次のエラーのうち 1 つ以上を検出しました。

1. 指定されたセグメントが、指定されたデータベースの制御ブロックで検出されなかった。
2. 指定されたセグメントが、初期にロードまたは再編成されるとして制御データ・セットにリストされているデータベース内のセグメントのいずれとの間のいずれの論理関係にも参加していない。

プログラマーの応答

提供された制御ステートメントか制御データ・セット、またはその両方について、有効な DBD が使用可能であることを確認してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURGS0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS874I

FUNCTION REQUEST
(STATISTICS|STATUS) DEFAULTS
FOLLOWED BY AN *

説明

ユーティリティ制御機能によって、この実行で使用されるデフォルトと共に、要求されたすべての機能のり

ストが作成されています。このメッセージの後に、メッセージ DFS875I および DFS876I が続きます。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=874 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSURGP0、DFSURGS0

関連情報

329 ページの『DFS875I』

FUNCTION *functional utility name* REQUESTED BY FUNCTION=*ff* ON REQUEST *nnnn*

329 ページの『DFS876I』

*keyword=value * keyword=value * etc..*

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS875I	FUNCTION <i>functional utility name</i> REQUESTED BY FUNCTION=<i>ff</i> ON REQUEST <i>nnnn</i>
----------------	---

説明

指定されたユーティリティーが、キーワード FUNCTION=*ff* を指定した制御要求による実行のために要求され、*nnnn* が制御ステートメント要求シーケンスでした。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=875 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSURGP0、DFSURGS0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS876I	<i>keyword=value * keyword=value * etc..</i>
----------------	---

説明

このメッセージは、要求またはデフォルトのキーワード、およびユーティリティー制御機能の要求された機能

それぞれの値のリストを表示するために、1 回以上出されます。

重要: このメッセージに関するデフォルトは、FUNCTION=OP ステートメント または UCF からのみに限られます。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=876 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSURG10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS877A	DUPLICATE RECORD FOR LOGICAL PARENT (<i>followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format</i>)
----------------	---

説明

発行プログラムが検出したタイプ 00 入力作業データ・セット・レコードは、以前の入力作業データ・セット・レコードの場合と同じ論理親/論理子のオカレンスでした。論理子および論理親セグメントの1つの連結について存在できるタイプ 00 レコードは1つだけです。この条件は、データベース初期ロード再編成、またはスキンの複数回実行によって生成された作業データ・セットを、発行プログラムへの入力として提供することによって生じる可能性があります。

プログラマーの応答

接頭部解決の結果は無効です。DFSURWF1 レコードに誤りがある原因を判別してください。これらのレコードは、接頭部解決 DFSURG10、または IMS DSECTS モジュール DFSADSCT のアSEMBリーからの DFSURWF1 DSECT を使用して分析する必要があります。DBIL が PREREORG で使用される場合は、論理親連結キーはオフセット X'19' から始まります。DBR が PREREORG で使用される場合は、LPARENT の古いアドレスもオフセット X'19' から始まります。このセグメントの RBA アドレスは、DFSURWF1 レコードのオフセット X'0C' にあります。

現在初期ロード、再編成、またはスキャンされているデータベースからの作業データ・セットのみが、発行プログラムへの入力として提供されているか確認してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURG10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS878W CAUTION-NO LOGICAL CHILD RECORD FOUND FOR THE LOGICAL PARENT RECORD (followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)

説明

発行プログラムは、表示されているタイプ 00 入力作業データ・セットに関して、1 つ以上のタイプ 10 レコードの検出を予想していました。タイプ 00 レコードは、論理親に関して生成されます。タイプ 10 レコードは、その論理子のそれぞれごとに生成されます。この条件は、現在初期ロード、再編成、またはスキャンされているデータベースによって生成された作業データ・セットが、発行プログラムへの入力としてすべては提供されないことによって生じる可能性があります。それぞれの論理親ごとに論理子が実際に生じる必要はないため、このメッセージは注意として出されます。

このメッセージが出される場合は、接頭部解決は無効である可能性があります。ユーザーが論理親に属する論理子のロードまたは再ロードを意図した場合も、接頭部解決は無効になります。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

すべての作業データ・セットが入力として提供されているか確認してください。DFSURWF1 レコードの説明については、DFS877A を参照してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURG10

関連情報

DFS877A

DUPLICATE RECORD FOR LOGICAL PARENT (followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS879A NO LOGICAL PARENT RECORD FOUND FOR LOGICAL CHILD RECORD (followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)

説明

発行プログラムは、表示されているタイプ 10、20、または 30 入力作業データ・セットに関して、タイプ 00 レコードの検出を予想していました。タイプ 00 レコードは、論理親に関して生成されます。タイプ 10 レコードは、その論理子のそれぞれごとに生成されます。タイプ 20 およびタイプ 30 レコードは、それぞれの論理子の論理兄弟順方向および逆方向ポインターに関して、それぞれ生成されます。

プログラマーの応答

メッセージ DFS877A の場合と同じ処置

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURG10

関連情報

[329 ページの『DFS877A』](#)

DUPLICATE RECORD FOR LOGICAL PARENT (followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS880A NO LOGICAL CHILD RECORD FOUND FOR LOGICAL TWIN RECORD (followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)

説明

発行プログラムは、表示されているタイプ 20 または 30 入力作業データ・セットに関して、タイプ 10 レコードの検出を予想していました。タイプ 10、20、および 30 レコードは、メッセージ DFS879A の説明に示されているように生成されます。

プログラマーの応答

DFS877A の場合と同じ処置

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURG10

関連情報

329 ページの『DFS877A』

DUPLICATE RECORD FOR LOGICAL PARENT
(followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)

330 ページの『DFS879A』

NO LOGICAL PARENT RECORD FOUND FOR LOGICAL CHILD RECORD (followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS881I **DUPLICATE RECORD FOR LOGICAL CHILD (followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)**

説明

発行プログラムが検出した入力 作業データ・セットは、以前の入力作業データ・セット・レコードの場合と同じ論理子のオカレンスでした。論理子のオカレンスでは、存在できるタイプ 10 レコードは 1 つだけです。

プログラマーの応答

メッセージ DFS877A の場合と同じ処置

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURG10

関連情報

329 ページの『DFS877A』

DUPLICATE RECORD FOR LOGICAL PARENT
(followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS882I **ABNORMAL PROGRAM TERMINATION, number**

説明

発行プログラムが、その操作中に、1 つ以上のエラー条件を検出しました。番号は、最後に検出されたエラーが発生した SORT プログラム・フェーズを示しています。このメッセージが出されるのは、戻りコードが 5 よりも大、または SORT プログラムからの戻りコードまたは異常終了コードを伴う、別のコードが表示された場合です。このメッセージでは、空の作業ファイルに入力を示している可能性もあります。(詳しくは、「IMS

V15 データベース・ユーティリティー」で『データベース再編成/ロード処理』のトピックのデータベース・スキャン・ユーティリティーに関する説明を参照してください。) このメッセージが出される場合は、接頭部解決は無効である可能性があります。影響を受けたデータベースは、使用されることがあってはなりません。

プログラマーの応答

エラー (戻りコードとエラー・メッセージのいずれか) の原因を判別し、適切な処置を取ってください。z/OS SORT/MERGE によって出された戻りコードは、接頭部解決プログラムによって z/OS に戻されます。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURG10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS883A **ISAM KEY NOT FOUND IN DATABASE FOR FUNCTION PU record**

説明:

接頭部更新機能が ISAM データ・セットの接頭部更新情報を読み取ろうとしましたが、一致するキーが検出されませんでした。エラーのあるレコード (record) がメッセージの後に続いて表示されます。

システムの処置:

接頭部更新機能の戻りコードは RC08 に設定されています。

ユーザーの処置:

メッセージに表示されたレコードが ISAM データ・セット内に存在するかどうか判別します。レコードを訂正します。

モジュール:

DFSURGP0

DFS884I **DEVTYPE FAILURE**

説明

発行プログラムが入力または出力装置についての情報を取得するために、DEVTYPE マクロを発行しました。戻りコードが、この試みが正常に行われなかったことを示しています。

オペレーターの応答:

この問題をシステム・サポート担当者に報告してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURGP0、DFSURGS0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS885I CAUTION-LIMIT CHECK FAILURE,
database-name1, segment-name1
database-name2 segment-name2**

説明

発行元プログラムが、名前付きデータベース名とセグメント名によって示された、連結された論理子と論理親セグメントについての限度検査で障害を検出しました。実行された限度検査については、「IMS V15 データベース・ユーティリティー」の『データベース接頭部解決ユーティリティー』のトピックに説明があります。このメッセージは注意のみを目的としています。発行プログラムでは、限度検査の計算で最悪の場合を想定するからです。

プログラマーの応答

限度検査障害の原因を判別してください。限度検査のコンポーネントに省略できるものがない場合は、(1) 更新プログラムによる論理親または論理子、あるいはその両方のロード、または (2) 限度検査コンポーネントの 1 つ以上が省略できるようにするための、影響を受けたセグメントの再定義を検討してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURPRO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS886I NO DATA IN SYSIN DATASET

説明

SYSIN DD ステートメントが指定されましたが、そのデータ・セットが空でした。このステップは終了し、戻りコード 16 がレジスター 15 で渡されます。

プログラマーの応答

このデータ・セットのデータを提供し、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFSURUL0

**DFS0887A THE LOAD FOR DFSMDA MEMBER
mmmmmmmm FAILED.
REASON=xxxx**

説明

このメッセージは、オンライン変更ライブラリーの切り替え処理時または制御領域の初期設定時に生成される可能性があります。

オンライン変更ライブラリーの切り替え処理中に、PREPARE フェーズでは、非アクティブな ACBLIB の DFSMDA メンバーのロードを試行します。そのロードは失敗しました。ロード失敗の理由は、xxxx に示されています。メンバー名 IMSACBA または IMSACBB が mmmmmmmmm に表示されます。

制御領域の初期設定時に、IMS は、アクティブな ACBLIB の DFSMDA メンバーのロードを試行します。そのロードは失敗しました。ロード失敗の理由は、xxxx に示されています。

メッセージ・テキストで渡される可能性がある理由コードは、以下のとおりです。

0001

無効な MDA メンバー

0002

STEPLIB からのメンバーの読み取りエラー

0003

IMSDALIB からのメンバーの読み取りエラー

0004

IMODULE GETMAIN の失敗

0005

IMSDALIB からのロード・エラー

0006

STEPLIB からのロード・エラー

0007

この理由コードの意味は、次の 2 つのうちのいずれかです。

- STEPLIB または IMSDALIB でメンバーが見つからない
- IMSDALIB の OPEN 処理がタイムアウトになった

システムの処置

制御領域の初期設定時にこのイベントが発生した場合、IMS は異常終了し、ユーザー異常終了コード 0071 が出されます。オンライン変更ライブラリーの切り替え (INIT OLC PHASE (PREPARE)) 中にこの問題が発生した場合は、完了コード 180 が SPOC に返されます。メッセージ・テキストは DFSMDA MEMBER LOAD FAILED です。

システム・プログラマーの応答:

対応は、理由コードによって決まります。DFSMDA メンバーが見つからないことを理由コードが示している場合は、そのメンバーを追加し、プロセスを再始動します。

モジュール:

DFSDSSM0

DFS888I NO DATA BASE RECORDS FOUND FOR PSB *psbname* (AFTER CHECKPOINT *checkpoint id*) (FOR REGION *region id*)

説明

指定されたログ・データ・セットに、示されている PSB に関するデータベース・ログ・レコードが含まれていませんでした。

入力ログがオンライン IMS サブシステムによって作成された場合、このメッセージは、バッチ・バックアウト・ユーティリティーによるバックアウトの要件に適合する UOR が検出されなかったことを意味します。制御ステートメントがバッチ・バックアウトに入力されない場合は、ユーティリティーがバックアウトするのは、実行ステートメントの PSB に関する据え置きバックアウトのみになります。

バックアウトされているアプリケーションがバッチ・ジョブである場合、失敗したバッチ・ジョブによってオープンされたが正常にクローズされなかったデータベース・データ・セットは、バックアウトを必要とするログ・レコードがない場合でも、バッチ・バックアウト・ユーティリティーによって再オープンされてからクローズされます。

テキスト AFTER CHECKPOINT*checkpoint-id* が表示されるのはログがチェックポイントを使用するバッチ・ジョブからで、チェックポイント・レコード(タイプ 41) が正しい PSB に関して検出された場合のみです。チェックポイントがメッセージに表示されていれば、常に最後の *checkpoint-id* が検出されています。SYSIN データ・セットで CHKPT ステートメントを指定した場合、および、メッセージに示されているチェックポイントがユーザーのチェックポイントと異なる場合は、次のいずれかが発生します。

- IRLM が更新中に使用された。
- 別のタイプ 41 レコードが、ユーザーが指定したレコードの後に存在し、ユーザーの *checkpoint-id* とデータ・セットの終わりの間には、タイプ 5X レコードが存在しない。

プログラマーの応答

入力ログ・データ・セットをチェックして、正しいログ・データ・セットがユーティリティーに提供されているか確認してください。このメッセージが高頻度で表示される場合は、間違ったジョブまたは間違った時間枠からのログの使用に原因があります。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSBACK0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS889I MULTIPLE LOGICAL CHILD RECORDS/LP NO LT PTRS SPECIFIED (followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)

説明

発行プログラムは、論理親レコードに関する 2 番目の論理子レコードを検出しましたが、論理子セグメント・タイプに関して、論理兄弟ポインターが指定されませんでした。戻りコード 8 がソート出口 35 から DFSURG10 に渡されます。異常終了メッセージ DFS339I も出されます。

プログラマーの応答

ユーザーは、この条件が指定どおりであるか確認し、訂正を行い、接頭部解決ユーティリティーを再実行する必要があります。考えられる訂正方法には、複数の LC が同一の LP をポイントしたり、新しい DBDGEN に LT ポインターを LC セグメントに組み込ませたりする原因となった、入力データの除去があります。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURG10

関連情報

121 ページの『DFS339I』

```
FUNCTION ff HAS COMPLETED {NORMALLY|  
ABNORMALLY}{rc=nn|x NO. OF  
UPDATES=nnnnnnnnn}
```

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS890I BLKSIZE NOT SUPPLIED OR IS TOO SMALL FOR INPUT LOG *ddname*

説明

示されている入力ログ DD ステートメントには、DCB BLKSIZE パラメーターが指定されていませんでした。このフィールドは DSCB から入手できませんでした。

システムの処置

データベース・バックアウト・ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答

BLKSIZE 値を DD ステートメントで指定し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSBACK0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS891A DDNAME NOT FOUND OR DEVTYPE ERROR

説明

OPEN マクロまたは DEVTYPE マクロが、DD 名が FORMATA または FORMATB のアクティブ・フォーマット・データ・セットに関して発行されたか、または DEVTYPE マクロが無効の AREA アドレスを使用して発行されました。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0889 または異常終了コード 0890 が示されます。

プログラマーの応答

正しい DD ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFSIIINFO、DFSIIINGO

関連情報

[IMS 異常終了 0889](#)

[IMS 異常終了 0890](#)

DFS892A NOT ENOUGH STORAGE AVAILABLE IN MFBP

説明

メッセージ・フォーマット・バッファ・プール (MFBP) で使用可能なストレージが不十分であったので、プールの初期設定を完了できませんでした。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0892 が示されます。

プログラマーの応答

MFBP のストレージを広げて、ジョブを再実行してください。EXEC ステートメントの FBP シンボリック・パラメーターが、プールで使用可能なストレージの量を制御します。

モジュール:

DFSIIINFO、DFSIIINGO

関連情報

[IMS 異常終了 0892](#)

DFS893A I/O ERROR READING \$IMSDIR OR THE DIRECTORY {-nnn}

説明

メッセージ・フォーマット・ブロック・プールの初期設定時に、アクティブ FORMAT ライブラリーに関して FIND、POINT、または READ マクロを発行している最中に、入出力エラーが発生しました。原因は PDS ディレクトリーでのエラーにあると考えられます。アクティブ FORMAT ライブラリーに連結データ・セットがある場合は、nnn は、エラーが発生した連結データ・セットを示しています。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0893 または異常終了コード 0894 が示されます。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:

DFSIIINFO、DFSIIINGO

関連情報

[IMS 異常終了 0893](#)

[IMS 異常終了 0894](#)

DFS894I INVALID RECORD ERROR nn ON INPUT LOG DD ddname

説明

次のいずれかのエラー (subcode=nn) が、バッチ入力ログで発生しました。

サブコード

意味

01

可変長レコードが読み取られましたが、フィールド長がゼロでした。

02

スパン・レコードが検出されました。

03

ブロックの終わりがバッファの終わりに等しくありません。

04

次のレコードがバッファの終わりを越えた先にあります。

システムの処置

データベース・バックアウト・ユーティリティー DFSBBO00 が正常に終了しないで、戻りコード RC36 (X'24') が示されます。ABENDMSG 制御ステートメントが指定された場合は、異常終了コード 0507 が出されます。

プログラマーの応答

このエラーが出るのは、バッチ入力ログの場合だけです。この条件は、不適正なクローズが行われたログ・データ・セットを入力として使用したことによって生じる可能性があります。DFSULTRO を実行してログをクローズし、ジョブを再実行してください。引き続きエラーが生じる場合は、ログ・データ・セットは、バッチ・バックアウト・ユーティリティーや順方向リカバリ・ユーティリティーでは 現在使用不能です。データベース・リカバリ・オプションについて、システム・プログラマーに連絡してください。

モジュール:

DFSBACK0

関連情報

[IMS 異常終了 0507](#)

DFS895I **LTERM name STOPPED DUE TO
CODE XXX**

説明

IMS リモート・ステーション・サポートがエラーを検出しました。メッセージに指定された論理端末が、リモート・ステーションへのメッセージの伝送の後に続いたエラー・メッセージの受信によって停止しました。

オペレーターの応答:

IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:

DFSCR2Z0

DFS896A **UNEXPECTED RECORD
ENCOUNTERED - SEQUENCE
ERROR nn on DDNAME ddname**

説明

入力ログの順方向読み取り時に、バッチ・バックアウトがログ・レコードに対してコンテキスト・チェックを実行します。コンテキスト・チェックが失敗し、これ

によって、識別されている DD 名のログ・データ・セットの順番が間違っていることが暗黙に示されます。

次のサブコード nn はエラーを示します。

サブコード

意味

03

バッチ・ログの順方向読み取り時に、ある TYPE5X レコードがそれよりも前に処理されたレコードよりも日時の値が低いことが検出されました。

04

バッチ・ログの順方向読み取り時に、ある TYPE06 レコードが現在保管されているレコードに比べて、タイム・スタンプの値が小さいことが検出されました。

システムの処置

データベース・バックアウト・ユーティリティー DFSBBO00 が正常に終了しないで、戻りコード RC40 (X'28') が示されました。ABENDMSG 制御ステートメントが指定された場合は、異常終了コード 0507 が出されます。

プログラマーの応答

必要なログ・データ・セットのすべてを作成された順序で指定して、バックアウトを再実行してください。ログのすべてが正しい順序で指定されていた場合は、ログ入力と異常終了コード 0507 を保管してください。その後、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

モジュール:

DFSBACK0

関連情報

[IMS 異常終了 0507](#)

DFS0897A **STRUCTURE structure_name IS IN
TRANSITION. IT IS UNAVAILABLE
TO AREA area_name**

説明

構造への接続を試みているときに、IMS は構造の状況をチェックするために **IXCQUERY** コマンドを発行しました。IMS は、戻りコード QUASTRCFTRAN を受け取りました。これは、その構造が遷移状態にあったことを示しています。構造は、カップリング・ファシリティに割り振り中であったか、カップリング・ファシリティから削除中であったかのいずれかです。

システムの処置

エリアがカップリング・ファシリティにロードされていません。

オペレーターの応答:

コマンド D XCF, STRUCTURE, STRNAME= を使用して、構造がカップリング・ファシリティーに割り振り中であるか、カップリング・ファシリティーから削除中であるかを確認します。構造が割り振られた後で、**STOP AREA** コマンドに続いて **START AREA** コマンドを発行し、構造に接続します。

モジュール:
DBFVXAS0

DFS898A **INVALID OPTION STATEMENT IN
SYSIN - RECORD NUMBER nn**

説明

バッチ・バックアウトで、制御ステートメントが認識されていない SYSIN データ・セット・レコードが検出されました。nn が、SYSIN データ・セット内の無効の制御ステートメントのレコード番号を示しています。

システムの処置

バックアウトが試みられる前に、ジョブが終了し、条件コード 72 が示されます。

プログラマーの応答

示されている制御ステートメントを訂正または除去し、バッチ・バックアウトを再実行してください。

モジュール:
DFSBACK0

関連資料

バッチ・バックアウト・ユーティリティ
(DFSBB00) (データベース・ユーティリティ)

DFS899A **RELOAD COMPLETED, BUT DBRC
FUNC=nnnnnnnn HAS
TERMINATED WITH RC=xx**

説明

DBRC (DFSBRISC ID=REN) に対する再編成呼び出しの前にデータベース RELOAD が実行されました。RELOAD は完了し、メッセージ DFS339I に戻りコード 00 または 04 が示されます。DBRC 呼び出し機能 (DFSBRISC FUNC=nnnnnnnn) が失敗して、戻りコードがこのメッセージに示されています。

システムの処置

処理は続行され、ステップが終了し、条件コード 04 が示されます。

プログラマーの応答

メッセージ DFS339I の戻りコードが 00 であれば、RELOAD は正常に行われました。DFS339I の戻りコードが 04 であるのは、前に警告メッセージが出されていた場合です。いずれの場合も、RECON データ・セットに不整合がある可能性があります。再編成されたデータベースについて RECON を調べ、発行されている DBRC DSP メッセージに 応答してください。

モジュール:
DFSURGL0

関連情報

121 ページの『DFS339I』

FUNCTION ff HAS COMPLETED {NORMALLY|
ABNORMALLY}{rc=nn|x NO. OF
UPDATES=nnnnnnnn}

DFS0900A **INVALID COMBINATION OF DBIL
AND DBR OR DBS FOR DBDS lp/
dbdname AND lc/dbdname FOR
FUNCTION PO**

説明

事前再編成ユーティリティ (DFSURPRO) により、論理親が含まれるデータベースが初期ロード (DBIL=) 中であり、論理子データベースが再編成またはスキャン (DBR= または DBS=) 中であることが発見されました。論理子 DBDname が指定されなかった場合は、その論理子データベースに関しては、機能 (DBS=) が指定されているものと想定されます。

システムの処置

モジュール DFSURPRO が、出力制御データ・セットが無効であることを示す条件コード 8 を戻し、残りの制御ステートメントの処理を続行します。

プログラマーの応答

制御データ・セットは無効であり、使用された場合は、既存の論理子と初期ロードが行われている論理親の間の論理ポインターが正しく解決されません。論理親が初期ロードされる場合は、論理子も必ず初期ロードされるようにしてください。

モジュール:
DFSURPRO

第 22 章 DFS メッセージ DFS0901A - DFS0950I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0901A JJJJJJJJ - QCF/QSN WAIT QUEUE HAS WAITER

説明

DFSQSPC0 (IBM IMS Queue Control Facility for z/OS バージョンのキュー・スペース通知出口) によって、従属領域が待ち状態に置かれました。この待ち状態は、IMS キュー使用がユーザー限度またはデフォルト限度を超えたことに応じて生じました。待ち状態の結果として、待ちキューが空から待機要求に移り、このメッセージが出されました。

メッセージ・テキストの中で、JJJJJJJJ は IMS ジョブ名を示します。

システムの処置

プロセスは待ち状態に置かれ、次のいずれかです。

- 入力装置
- MSC リンク
- 領域 (MPP、BMP、高速機能、または CPIC)
- 端末
- APPC
- OTMA

オペレーターの応答

「IMS Queue Control Facility TSO/ISPF」パネルで、『Queue Space Notification (QSN)』オプションを選択し、QSN ウェイターをリストしてから、適切な処置を取ってください。

モジュール:
DFSQMRE0

DFS0901W RETURN CODE 4 FROM HDAM RANDOMIZER, SEGMENTS DROPPED

説明

セグメントの挿入中に、HDRELOAD ユーティリティが、HDAM ランダマイザーから戻りコード 4 を受信した結果として、FM 状況コードを受信しました。FM 状況コードについて詳しくは、DL/I 状況コード情報を参照してください。

システムの処置

セグメント名がジョブ出力に印刷され、改行して、その後、セグメント・データが続きます。このプロセスがすべての従属セグメントに関して繰り返されます。ドロップされたセグメントの数 (ドロップ・カウント) が 10,000 を超えた場合は、メッセージ DFS0902W が出力され、HDRELOAD がユーザー異常終了コード 0355 を出します。ドロップ・カウントが 10,000 未満の場合、HDRELOAD はセグメントの挿入を続け、完了した時点でユーザー異常終了 0355 を出します。

プログラマーの応答

HDAM ランダマイザーからの戻りコード 4 の原因を判別し、問題を訂正してください。HDRELOAD を再度実行するか、セグメントを手動で挿入してください。部分的にロードされたデータ・セットを保持する必要がある場合 (ドロップされたセグメントを必要としないか、それらのセグメントを手動で挿入した場合) は、DBRC の **NOTIFY.REORG** コマンドを使用して、再編成アクティビティを RECON に記録してください。

重要: メッセージ DFS0902A が出力されたのが、ドロップ・カウントが 10,000 というしきい値を超えた結果である場合は、部分的にロードされたデータ・セットの使用を試みないでください。その代わりに、正しいランダマイザーを使用して、HDRELOAD を再度実行してください。

モジュール:

DFSURGL0

関連資料

[DL/I 状況コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

337 ページの『DFS0902A』

RELOAD TERMINATED - TOO MANY SEGMENTS DROPPED

DFS0902A RELOAD TERMINATED - TOO MANY SEGMENTS DROPPED

説明

HDAM ランダマイザー障害が原因で戻りコード 4 が出力されたため、HDRELOAD ユーティリティが FM 状況コードを受信しました。その結果、ドロップされたセグメントの数 (ドロップ・カウント) が 10,000 というしきい値を超えました。FM 状況コードについて詳しくは、DL/I 状況コード情報を参照してください。

システムの処置

HDRELOAD が異常終了 0355 で終了します。

プログラマーの応答

ランダムマイザー・モジュールを修正するか、別のランダムマイザー・モジュールに交換してください。

モジュール:

DFSURGLO

関連資料

[DL/I 状況コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

IMS 異常終了 0355

DFS0903W	PARTITION SELECTION ERROR STATUS=FM, SEGMENTS DROPPED
-----------------	--

説明

セグメントの挿入中に、HDRELOAD ユーティリティが、HALDB 区画選択障害のため、HALDB 区画選択出口ルーチンから FM 状況コードを受信しました。FM 状況コードについて詳しくは、DL/I 状況コード情報を参照してください。

システムの処置

セグメント名がジョブ出力に印刷され、改行して、その後にはセグメント・データが続きます。このプロセスがすべての従属セグメントに関して繰り返されます。ドロップされたセグメントの数 (ドロップ・カウント) が 10,000 を超えた場合は、メッセージ DFS0902A が出力され、HDRELOAD がユーザー異常終了コード 0355 を出します。ドロップ・カウントが 10,000 より小さい場合は、HDRELOAD はセグメントの挿入を続け、RC=08 で完了します。

プログラマーの応答

区画選択エラーの原因を判別し、エラーを訂正してください。最も一般的な原因は、次の場合です。

- 最後の区画に関して指定されたハイ・キー範囲に誤りがある。
- ユーザー作成区画選択出口がキーをリジェクトする。

HDRELOAD を再度実行するか、セグメントを手動で挿入してください。部分的にロードされたデータ・セットを保持する必要がある場合 (ドロップされたセグメントを必要としないか、それらのセグメントを手動で挿入した場合は)、データ・セットのイメージ・コピーを作成してください。不完全なデータ・セットは使用可能です。

モジュール:

DFSURGLO

関連資料

[DL/I 状況コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

337 ページの『DFS0902A』

RELOAD TERMINATED - TOO MANY SEGMENTS
DROPPED

IMS 異常終了 0355

DFS0904I	SINGLE ADS AREA aaaaaaaa CLOSED DUE TO READ ERRORS. NO MISSING UPDATES.
-----------------	--

説明

エリア・データ・セット (ADS) 内の単一エリアで、10 個を超える読み取りエラーが検出されました。このデータ・セットに対して更新は行われていないため、DASD 内の現行の ADS のデータは失われていません。

システムの処置

AREA は停止されます。

プログラマーの応答

エリアが複数の IMS システム間で共有されている場合は、すべての IMS システム上でメッセージ DFS0904I を確認してください。DASD を復元せずに修復できる場合、ADS はそのまま使用可能です。

DASD を復元する必要がある場合は、ADS 上のデータが古くなる可能性があります。最新の正常なイメージ・コピーとログ・レコードを使用して、エリアをリカバリーしてください。

モジュール:

DBFMPCL0

DFS0905E	INSUFFICIENT STORAGE FOR PSB psbname
-----------------	---

説明

アプリケーション制御ブロック (ACB) ユーティリティが、十分なストレージ・スペースがなかったため、メッセージ・テキストで特定されたプログラム仕様ブロック (PSB) の制御ブロックを作成できませんでした。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0905 が出力されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、戻りコード 8 で終了します。

プログラマーの応答

領域または区画のサイズを大きくして、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0905](#)

DFS0906I **INVALID PROCOPT FOR SENSEG**
senseg name IN PSB psbname

説明

指定された PSB 内の指定された SENSEG ステートメントに無効の PROCOPT が指定されています。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0906 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PSB を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0906](#)

DFS0907I **PSB psbname REFERENCES**
LOGICAL DBD dbdname FOR LOAD

説明

指定された PSB に、PROCOPT が L で、指定された 論理 DBD を参照する PCB ステートメントがあります。データベースのロードに使用できるのは、物理 DBD のみです。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0907 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PSB または DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0907](#)

DFS0908I **PSB psbname IS NOT A VALID PSB**

説明

示されている PSB は、IMS が認識できるフォーマットになっていませんでした。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0908 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

IMS PSBGEN を使用して PSB を作成し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0908](#)

DFS0909I **DBD dbdname IS NOT A VALID**
DBD

説明

dbdname 示されたデータベース記述 (DBD) は、IMS が認識できるフォーマットになっていませんでした。あるいは、DBDLIB バインド名と DBD のアSEMBLされた名前が異なっています。

DBD はそれ自体が有効な場合がありますが、別のデータベースから 1 次索引または副次索引として無効な方法で参照されています。

システムの処置

オンライン領域またはバッチが実行中であった場合は、異常終了コード 0909 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

IMS DBDGEN を使用して DBD を作成し、プログラムを再実行してください。DBD が主記憶データベース (MSDB)、または高速処理データベース (DEDB) を定義している場合は、IMS システムに高速機能サポートが含まれる必要があります。

関連する PSB の各データベース・プログラム連絡ブロック (DB PCB) を介して、データ名を選び出します。次に、PTR=INDX が指定されていて、このエラー・メッセージで示されたデータベース名を参照している LCHILD ステートメントを、その DBD ソースで検索します。エラーを訂正してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0909](#)

DFS0910I INTERNAL PROG LOGIC ERROR PROCESSING PSB-*psbname*

説明

示されている PSB を処理しているとき、内部プログラミング・エラーが検出されました。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0910 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PSB を処理リストから除去し、プログラムを再実行してください。関連する PSB および DBD を使用可能にしてから、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0910](#)

DFS0911I ENQ LIST LENGTH ERROR FOR PSB *psbname*

説明

指定された PSB に関して、処理オプション意図リストの長さの計算に誤りがあります。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0911 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

この問題は、内部プログラム・ロジック・エラーです。PSB を除去し、プログラムを再実行してください。

問題判別:

19、35

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0911](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0912I PSB *psbname* REFERENCES SEGM *segmname* IN DBD *dbdname*. SEGM NOT FOUND.

説明

指定された PSB が、指定された DBD 内の指定された SEGM を参照しました。指定された SEGM は、指定された DBD 内に存在しません。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0912 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PSB または DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0912](#)

DFS0913I DBD *dbdname* CONTAINS INVALID ACCESS METHOD

説明

指定された DBD に無効または不明のアクセス方式が含まれていました。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0913 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0913](#)

DFS0914I THE PCB FOR DATABASE - *dbdname* HAS PARTITIONED AND NON PARTITIONED DATABASES SPECIFIED

説明

このメッセージが ACBGEN プロセス中に出る可能性があるのは、PCB によって参照されたデータベースが、論理関係または副次索引によって、1 つ以上のデータベ

ースに関連付けられていて、しかも関連データベースのすべてが同じタイプではない場合です。データベースは、すべてが区画データベースか、すべてが非区画データベースである必要があります。

メッセージ・テキストの中で、*dbname* は論理データベースを参照している場合があります。論理データベースの名前を使用して、タイプ・ミスマッチが生じている参照先物理データベースを判別してください。

システムの処置

ACBGEN は失敗し、条件コード 08 が示されます。

プログラマーの応答

エラーのデータベースを訂正して、論理関係にあるデータベースのすべてが、すべて区分とすべて非区分のいずれかになるようにしてください。プログラムを再実行してください。

モジュール:
DFSDLB70

**DFS0915I INDEX DBD-*dbname*-HAS
INCORRECT SEQ FIELD LENGTH.
LENGTH SHOULD BE-*xxx* BYTES.**

説明

指定された INDEX DBD に指定されているシーケンス・フィールド長が、索引フィールド長に等しくありません。正しい長さがメッセージに示されています。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0915 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

エラーの DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0915](#)

**DFS0916I NON-UNIQUE OR NO SEQ FIELD
SPECIFIED FOR DBD-*dbname***

説明

指定された DBD には、ルート・セグメントに関してシーケンス・フィールドが指定されている必要があります。シーケンス・フィールドが指定されていなかったか、またはフィールドが非固有として指定されていました。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0916 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0916](#)

**DFS0917I DBD *dbname* REFERENCES SEGM
segmname IN DBD *dbname*.
SEGM DOES NOT EXIST.**

説明

最初の DBD が、2 番目の DBD で指定された SEGM を参照しています。この SEGM は 2 番目の DBD には存在しません。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0917 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

一方または両方の DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0917](#)

**DFS0918I UNABLE TO LOCATE PHYSICAL
PARENT. PSB *psbname* SENSEG
*senseg name***

説明

指定された PSB に、指定されたセグメントに関する SENSEG ステートメントが含まれていました。SENSEG ステートメントが、論理子セグメントをセグメント連結の最初の部分として参照していました。連結の 2 番目の部分、論理子の論理または物理親に有効な物理親がありませんでした。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0918 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

エラーを起こした PSB か DBD、またはその両方を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

IMS 異常終了 0918

DFS0919I PSB-*psbname*-PCB-*pcbname* - KEYLEN SPECIFICATION TOO SMALL. KEYLEN は *xxxxx* BYTES」でなければなりません。

説明

指定された PSB 内の名前付き PCB に、最長の完全連結キーを保持するには小さすぎる KEYLEN パラメーターが含まれていました。正しい長さが示されています。

高速機能副次索引を使用して PSB に対して PROCSEQD オペランドを指定して PCB を定義する場合は、KEYLEN パラメーターの値が、機密セグメントの階層パスまたは 2 次データ構造の最も長い連結キーの、最も長い物理連結キーの大きい方であることを確認してください。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合、異常終了コード 0919 が出されます。ACB 保守ユーティリティが実行されていた場合、ACBGEN 処理は続行されます。

プログラマーの応答

PSB を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DBFUDLBO、DFSDLBLO

関連情報

IMS 異常終了コード 0919

DFS0920I PSB *psbname* REFERENCES DBD *dbdname* WITH CONFLICTING PROCOPTS

説明

名前が示されている PSB に、PROCOPT が L で、名前が示されている DBD への参照が少なくとも 1 つ、PROCOPT が L 以外の同じ DBD への追加参照が少なくとも 1 つ含まれていました。参照は、PCB ステートメントの場合のように、直接的である可能性もあり、論理関係または索引関係を通して別の DBD を参照する DBD の場合のように、間接的である可能性もあります。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0920 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PSB か 1 つ以上の DBD、またはその両方を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

IMS 異常終了 0920

DFS0921I PSB *psbname* IS NOT A PSB

説明

指定された PSB がロードされました。調べた結果、PSB が有効な PSB ではなかったことが判明しました。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0921 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

JCL か制御ステートメント、またはその両方を調べてください。エラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

IMS 異常終了 0921

DFS0922I DBD *dbdname* IS NOT A DBD

説明

指定された DBD がロードされました。調べた結果、この DBD が有効な DBD ではなかったことが判明しました。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0922 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

JCL か制御ステートメント、またはその両方を調べてください。エラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0922](#)

DFS0923I **LC SEGM-segname-IN DBD-
dbdname-DATA LENGTH TOO
SMALL. LENGTH SHOULD BE-xxxxx
BYTES.**

説明

示されている DBD 内の示されている論理子セグメントでの BYTES 指定が、その論理親の完全連結キーよりも短い長さになっていました。最小許容長さがメッセージに示されています。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0923 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0923](#)

DFS0924I **INDEX SEGMENT IN DBD-
dbdname-TOO SHORT. LENGTH
SHOULD BE-xxxxx BYTES.**

説明

指定された INDEX DBD のルート・セグメントのデータ長が、必要な索引データを保持するには小さ過ぎます。最小許容長さがメッセージに示されています。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0924 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

エラーの DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0924](#)

DFS0925I **SEGM segname IN DBD dbdname
HAS A SEQ FIELD IN VIRTUAL
LPCK AREA**

説明

指定された論理子セグメントに定義されているシーケンス・フィールドが、論理子内の論理親の連結キー域内にあり、そのキーが VIRTUAL として 指定されていました。キーは、物理兄弟シーケンス・フィールドの一部として使用される場合は、PHYSICAL として 指定されている必要があります。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0925 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

エラーの DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0925](#)

DFS0926I **INVALID ALT PROC SEQ
SPECIFIED FOR SENSEG-segname
IN PCB-pcbname IN PSB-psbname**

説明

示されている PSB 内の示されている PCB に代替処理シーケンスが指定されていました。示されている副次索引は、指定されている SENSEG では無効です。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0926 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PSB か DBD、またはその両方を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0926](#)

DFS0927I **INDEX DBD dbdname INDEXES
NON-EXISTENT FIELD IN DBD
dbdname**

説明

指定された INDEX DBD は、INDEXED DBD 内の存在しない索引フィールドを指定しました。

PSB が、高速機能副次索引データベースにアクセスするための高速機能副次索引 PCB のみを別個のデータベースとして含んでいる場合、その PSB に、関連する DEDB PCB を組む込む必要があります。最小限の DEDB PCB には、関連する DEDB データベースのルート・セグメントに関する SENSEG ステートメントが必要です。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0927 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

エラーの DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

PSB が、高速機能副次索引データベースにアクセスするための高速機能副次索引 PCB のみを別個のデータベースとして含んでいる場合、同じ PSB に、関連する DEDB PCB を組み込んでください。最小限の DEDB PCB には、関連する DEDB データベースのルート・セグメントに関する SENSEG ステートメントが必要です。エラーの PSB を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

IMS 異常終了 0927

DFS0928I INDEX DBD *dbname* INDEXES A FIELD WHICH IS NOT A SEQ FIELD

説明

指定された INDEX DBD は有効なフィールドを索引付けしていますが、そのフィールドはシーケンス・フィールドではありませんでした。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0928 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

エラーの DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

異常終了 0928

**DFS0929I BLDL FAILED FOR MEMBER --
*member name***

説明

指定されたメンバーに関して、BLDL が出されました。このメンバーは DBD または PSB ライブラリーで検出されませんでした。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0929 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

該当するライブラリーのエラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

IMS 異常終了 0929

**DFS0930I INVALID SEGMENT PAIRING FOR
SEGM *segname* IN DBD *dbname***

説明

指定された DBD に含まれている LCHILD ステートメントが、指定された SEGM を PAIR=*operand* で参照していました。しかし、その SEGM は見付からなかったか、またはその SEGM は仮想セグメントであり、そのソース・セグメントに PTR=PAIRED オペランドが含まれています。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0930 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDLBLO

**DFS0931I INVALID INDEX RELATIONSHIP
BETWEEN INDEX DBD *dbname*
AND INDEXED DBD *dbname* IN
PSB *psbname***

説明

指定された INDEXED DBD は、指定された INDEX DBD と索引関係がありました。INDEX DBD には INDEXED

DBD に対して同様な関係がなかった (例えば、INDEX DBD がシンボル・ポインター PTR=SYMB を指定し、INDEXED DBD が直接ポインター PTR=INDX を指定する) か、指定された PSB で参照されている別の DBD にも INDEX DBD と 索引関係があったか、いずれかです。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0931 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

該当する PSB か DBD、またはその両方を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDBLLO

関連情報

[IMS 異常終了 0931](#)

DFS0932I	INDEX DBD <i>dbdname</i> HAS NO SEQ FIELD
-----------------	--

説明

指定された INDEX DBD には、索引セグメントに関してシーケンス・フィールドが 定義されていません。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0932 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

INDEX DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDBLLO

関連情報

[IMS 異常終了 0932](#)

DFS0933I	INVALID INDICES=(<i>index name</i>) SPECIFIED FOR PSB-<i>psbname</i>
-----------------	---

説明

示されている PSB に含まれていた INDICES オペランドが無効でした。INDICES オペランドの示されている値は、関連 SENSEG ステートメントに関する有効な 索引名ではありませんでした。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0933 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

エラーの PSB または DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFSDBLLO

関連情報

[IMS 異常終了 0933](#)

DFS0934I	PSB <i>psbname</i> REFERENCED SEGM <i>segmname</i> IN DBD <i>dbdname</i>. SEGM HAS INVALID POINTERS
-----------------	--

説明

指定された PSB は、指定された DBD 内の指定された論理子 SEGM を参照しました。論理子には、物理的に保管される論理親の連結キーが必要であるが、VIRTUAL が指定されていたか、または指定された DBD 内で LP セグメントを見つけることができませんでした。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0934 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

該当する DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDBLLO

関連情報

[IMS 異常終了 0934](#)

DFS0935I	INVALID LOGICAL STRUCTURE FOR SEGM <i>segmname</i> IN DBD <i>dbdname</i>, PSB <i>psbname</i>
-----------------	---

説明

指定された PSB が、SENSEG ステートメントで、指定された DBD を参照していました。しかし、このセグメント定義内の論理構造または関係が無効でした。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0935 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

指定された DBD、または PSB によって参照されている論理 DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0935](#)

DFS0936I **SEGM *segmname* IN PSB *psbname*
SPECIFIED LOAD FOR VIRTUAL
SEGMENT**

説明

指定された SEGM が、指定された PSB 内で PROCOPT に L または LS を使用して参照されました。しかし、SEGM は仮想セグメントであり、そのためロードできません。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0936 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

PSB を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0936](#)

DFS0937I **MISSING PARENS ON SOURCE
OPERAND-*segname* DBDNAME-
*dbdname***

説明

指定された DBD が、指定されたセグメントを仮想セグメントとして指定しました。SEGM ステートメントの SOURCE オペランドに複数の SOURCE オペランドが含まれていました。おそらく、SOURCE オペランドの一对の括弧が欠落していることが原因です。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0937 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

DBD を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0937](#)

DFS0938I **DELETE PROCESSING COMPLETE
FOR {DBD|PSB} *membername***

説明

指定された PSB または DBD が、ユーザー要求によって IMS.ACBLIB から削除されました。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0938 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

モジュール:

DFSUACB0、DFSUAMBO

関連情報

[IMS 異常終了 0938](#)

DFS0939I **INVALID PARMS SPECIFIED IN
PARM FIELD**

説明

指定されている EXEC ステートメント・パラメーターが無効または不整合でした。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0939 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

EXEC ステートメントの PARM フィールドを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSUACB0

関連情報

[IMS 異常終了 0939](#)

DFS0940I **{PSB | DBD} (*psbname* | *dbdname*)
HAS BEEN {ADDED | REPLACED}
IN LIBRARY. {PSB SIZE|DMB}
SIZE = *xxxxxx* BYTES**

説明

指定された PSB または DBD が、ACB ライブラリー内で変更されています。存在していなかった場合は、追加されています。存在していた場合は、置き換えられています。メンバーのサイズは、示されているとおりです。

モジュール:
DFSUACB0、DFSUAMBO

DFS0941I PSB XXXXXXXX IF USING DL/I SUBORDINATE ADDRESS SPACE, CSA SIZE = xxxxxx, SAS SIZE = yyyyyy

説明

PSB XXXXXXXX が ACBLIB に挿入されたか、置き換えられています。DL/I 従属アドレス・スペースを使用する場合は、PSB は、CSA に xxxxxx バイトのスペース、DL/I 従属アドレス・スペース専用 yyyyyy バイトのスペースを必要とします。PSB が常駐として定義されている場合は、常駐 CSA PSB および DL/I PSB スペースが初期設定時に計算および取得されます。常駐でない場合は、スペースはそれぞれの PSB プールから、その PSB の最初の使用時に取得されます。

このメッセージの CSA サイズと SAS サイズの合計が、メッセージ DFS0940I で示されている PSB サイズと必ずしも同じになるわけではありません。メッセージ DFS0940I の PSB サイズには、意図リストのサイズも含まれています。CSA PSB および SAS PSB のサイズには、意図リストのサイズは含まれません。

モジュール:
DFSUAMBO

関連情報

346 ページの『DFS0940I』
{PSB | DBD} (psbname | dbdname) HAS BEEN {ADDED | REPLACED} IN LIBRARY. {PSB SIZE | DMB} SIZE = xxxxxx BYTES

DFS0942I IF USING DL/I SUBORDINATE ADDRESS SPACE, MAX CSA = wwwwww MAX SAS = xxxxxx AVERAGE CSA = yyyyyy AVERAGE SAS = zzzzzz

説明

DL/I 従属アドレス・スペースを使用する場合は、wwwwww が最大の CSA スペース所要量であり、xxxxxx は、この ACBGEN による処理の対象となる単一の PSB の場合に、最大の DL/I 専用スペース所要量です。ACBGEN で処理されるすべての PSB に関して、yyyyyy が平均 CSA スペース所要量で、zzzzzz が平均 DL/I 専用スペース所要量です。平均 CSA と平均 SAS の比率によって、2 つの PSB プールの相対サイズを判別する場合の何らかの基礎が得られます。ただし、この ACBGEN では処理されない PSB が他にあり、プール内に PSB の度数分布があるため、理想的な比率は異なります。

モジュール:
DFSUACB0

DFS0943I PSB PsbName REQUIRES A MINIMUM OF xxxxxxxx AND A MAXIMUM OF xxxxxxxx BYTES OF STORAGE IN THE EPCB POOL

または

PSB PsbName REQUIRES A MIN OF xxxxxxxx AND A MAX OF xxxxxxxx BYTES OF STORAGE IN EPCB POOL IF USING FAST PATH

説明

このメッセージは、PSB が EPCB プール内で必要とするストレージの量を説明します。

このメッセージの最初の形式は、IMS バージョン 10 および IMS バージョン 11 でのみ、使用されます。

EPCB プールのサイズを変更しようとしています。**PROCOPT=H** を指定した各 PCB には、高速順次処理 (HSSP) で使用するために EPCB プール内に追加ストレージが必要です。HSSP で必要な追加ストレージの正確なサイズを計算するのに必要な情報が、このメッセージの作成時に使用不可でした。HSSP センシティブ PCB ごとに取得される追加の HSSP 作業域ストレージの最小量と最大量があります。この追加 HSSP 作業域ストレージは、EPCB プールで PSB が必要とするストレージの最小量と最大量を提示するために使用されます。

PSB が EPCB プールで必要とするストレージの MAXIMUM 量には、PSB 内の各 IOPCB および ALTPCB が含まれています。

システム・プログラマーの応答

必要な最大 EPCB サイズを使用します。これは、HSSP 作業域が、PSB に必要なスペースに対応する十分な大きさでないためです。

モジュール:
DBFUAMAO

DFS0944W BUILD FOR dbdname FAILED. A REQUIRED DBD WAS NOT IN DBDLIB

説明

BUILD DBD=dbdname 制御ステートメントを使用して DMB を作成するために、明示的 ACB 生成要求がなされましたが、必要な DBD が DBDLIB にありませんでした。欠落している DBD は、指定された DBD と論理的に関連した DBD のいずれかである可能性があります。このメッセージの前に、DFS0929I メッセージが欠落している DBD に関して出されています。

システムの処置

DBD が置換または追加されることはなく、戻りコード 8 が設定されます。

プログラマーの応答

欠落している DBD を DBDLIB に追加し、ACB 生成を実行してください。

モジュール:
DFSUACB0

関連情報

344 ページの『DFS0929I』
BLDL FAILED FOR MEMBER -- member name

DFS0945I PSB-psbname-PCB-pcbname HAS NO SENSITIVE SEGMENTS.

説明

指定された PSB 内の指定されたデータベース PCB には、PSBGEN 時に SENSEG ステートメントが定義されていません。PSBGEN は無効でした。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0938 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PSB ソース・ステートメントを訂正し、PSBGEN を再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

IMS 異常終了 0938

DFS0946I INDEX DBD-dbdname INDEXES A SYSTEM RELATED FIELD

説明

示されている INDEX DBD に、/CK を先頭の 3 文字とするフィールド名を指定する INDEX= オペランドが含まれていました。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0939 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO
関連情報

IMS 異常終了 0939

DFS0947I DBD dbdname BUILD DID NOT FORCE PSB REBUILDS.

説明

データベース *dbdname* が BUILD DBD= ステートメントで指定されましたが、参照 PSB の再作成を必要とするエリアで未変更でした。これらの PSB が自動的に再作成されることはありません。(BUILD DBD= ステートメントに明示的にリストされている PSB すべてが再作成されます。) PSB 選択再作成は、高速機能 MSDB には適用されません。

システムの処置

DBD は ACBLIB 内で置き換えられますが、参照 PSB は変更されません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSUAMBO

DFS0948I SEGM-segname-IN DBD-dbdname-IS VARIABLE LENGTH. PHYSICAL PAIR OF SEGMENT IS FIXED LENGTH.

説明

示されている DBD 内の示されているセグメントは、可変長の物理対論理子でした。対の相手は固定長でした。物理対のセグメントは、同じ長さ属性を持っていないとばなりません。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0941 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

エラーの DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO
関連情報

IMS 異常終了 0941

**DFS0949I INDEX DBD-*dbdname*-INDEXES
ITSELF**

**NO CORRESPONDING
REFERENCE.**

説明

示されている INDEX DBD に含まれている LCHILD ステートメントに、この索引データベースの名前と同じデータベース名が、索引付きデータベースの名前として含まれていました。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0942 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0942](#)

**DFS0950I LOGICAL CHILD OR LOGICAL
PARENT IN DBD *dbdname*
REFERENCES SEGM *segment*
name. REFERENCED SEGM HAS**

説明

次のような無効な論理関係が存在します。

- 論理子が、示されているデータベース内の指定されたセグメントを参照し、指定された論理親には、LCHILD ステートメントがありません。
- 論理親が、指定されたデータベース内の論理子セグメントを参照し、論理子には、論理親に関する参照がありません。
- 論理 DBD には、指定されたセグメントへの参照が SOURCE= オペランドになく、このオペランドではその対応する論理子または論理親を参照しています。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0943 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0943](#)

第 23 章 DFS メッセージ DFS0951I - DFS1000I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0951I **SEGM segment name IS
PHYSICALLY PAIRED. ITS PAIR
DOES NOT HAVE EQUAL
INTERSECTION DATA LENGTH.**

説明

参照されたセグメントが、物理対です。2つの交差データ長が等しくないか(固定長セグメントの場合)、または2つの対セグメントについて最大交差データ長が等しくありません。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0957 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が 続行されます。

プログラマーの応答

DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、35

モジュール:

DFS0951I

関連情報

[IMS 異常終了 0957](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0952I **INVALID PROCOPT SPECIFIED
FOR PRIMARY INDEX DBD
nnnnnnnn**

説明

1 次索引 DBD と副次索引 DBD のいずれかを参照する PCB に関して 無効な処理オプションが指定されました。1 次索引 DBD を参照する PCB の場合は、有効な処理オプションは G または GOx のみです。副次索引 DBD を参照する PCB の場合は、このメッセージが戻されるのは、PCB 処理オプションが L または LS の場合です。副次索引 DBD の場合は、処理オプション I も無効ですが、I が指定されると、処理オプションが変更されて I を除外し、警告メッセージ DFS2438W が送信されます。

システムの処置

バッチ 'DLI' 領域でブロックの作成中にこの条件が発生すると、異常終了コード 0958 が出されます。ACBGEN が行われている最中にこの条件が発生した場合は、ACBGEN は継続し、PSB に関して取られたアクションがエラーであることを示す、追加のメッセージが示されます。

プログラマーの応答

PSB が 1 次索引または副次索引 DBD を参照しないように変更するか、PCB の処理オプションを索引 DBD に関する有効な処理オプションに変更してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、35

モジュール:

DFS0951I

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0953I **LOGICAL CHILD IN DATA BASE
xxxxxxxx HAS A L/P PTR
SPECIFIED.LOGICAL PARENT IS
IN HISAM ORG.**

説明

データベース xxxxxxxx の論理子 SEGM ステートメントにエラーが存在します。HISAM 編成のデータベースに対して、直接ポインターを指定することはできません。PTR=LP は間違った指定です。指定するのは、PTR= のみにしてください。

システムの処置

DL/I の下で実行中の場合、IMS は異常終了し、異常終了コード 0959 が示されます。

プログラマーの応答

論理子の SEGM ステートメントを訂正して、LP 指定を除去します。その代わりに PTR= を指定し、DBD を再アセンブルしてください。ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFS0951I

関連情報

[IMS 異常終了 0959](#)

**DFS0954I LOGICAL PARENT IN DATA BASE
xxxxxxx HAS AN L/C
POINTER.THE REFERENCE L/C IS
IN HISAM ORG.**

説明

データベース xxxxxxx の LCHILD ステートメントにエラーが存在します。PTR=SNGL と PTR=DBLE のいずれかを指定しています。これはどちらを指定しても誤りです。HISAM 編成のデータベースに対して、直接ポインターを指定することはできません。

システムの処置

DL/I の下で実行中の場合、IMS は異常終了し、異常終了コード 0960 が示されます。

プログラマーの応答

LCHILD ステートメントを訂正し、DBD を再アセンブルしてから、ジョブを再実行します。

モジュール

DFSDBLLO

**DFS0955I DBD xxxxxxx IS A SHARED INDEX
WITH MORE THAN ONE XDFLD
CONSTANT OF THE SAME VALUE
SPECIFIED**

説明

共用索引を指す DBD の XDFLD ステートメントにエラーが存在します。同じ値の XDFLD 定数を複数指定しています。共用索引に関する各 XDFLD ステートメントは、それぞれに固有の CONST= 指定が必要です。

システムの処置

DL/I の下で実行中の場合、IMS は異常終了し、異常終了コード 0961 が示されます。

プログラマーの応答

エラーのある XDFLD ステートメントを訂正し、DBD を再アセンブルしてから、ジョブを再実行します。

モジュール:

DFSDBLLO

関連情報

[IMS 異常終了 0961](#)

**DFS0956I PSB *psbname* CONTAINS AN
HIERARCHIC SEQUENCE ERROR
AT SENSEG *segname***

説明

指定された PSB 内の SENSEG ステートメントが階層シーケンス (上から下、左から右) で指定されませんでした。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0962 が出されます。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

SENSEG ステートメントの順序を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFSDBLLO

関連情報

[IMS 異常終了 0962](#)

**DFS0957W PSB *psbname* IS TOO LARGE FOR
ACBGEN.SIZE=xxxxxxx
MAXIMUM=04194240**

説明

PSB *psbname* が IMS での許容サイズを超えたと、ACBGEN が判別しました。生成 PSB サイズが xxxxxxx です。最大許容 PSB サイズは 4,194,240 バイトです。

システムの処置

PSB は ACBLIB から削除され、戻りコード 8 が設定されます。ACBGEN は次の PSB から続行されます。

プログラマーの応答

SENSEG ステートメントおよび PCB ステートメントの数を減らして、PSB を再設計してください。

モジュール:

DFSUAMBO

DFS958I CHKPT NOT FOUND ON LOG

説明

チェックポイント ID が CHKPT ステートメントにより、データベース・バックアウト・プロセスの停止点として指定されましたが、対応するバッチ・チェックポイント・レコードがログで検出されませんでした。バックアウトは実行されません。

プログラマーの応答

正しい ID が指定され、正しいログ・データ・セットがマウントされているか確認してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSBACK0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS959I **CHKPT NOT WITHIN LAST
SCHEDULE OF PGM**

説明

CHKPT ステートメントで指定されたバッチ・チェックポイント・レコードは、ログで見つかりましたが、プログラムの後続のスケジューリングが同じログ・ボリュームで検出されました。バックアウトは実行されません。

プログラマーの応答

プログラムの最新スケジューリング時に行われたデータベース変更のみをバックアウトする必要があります。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSBACK0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0960I **WARNING DBD-*dbname*-NOT
REPLACED IN LIBRARY**

説明

指定された DBD が BUILD PSB= 要求の結果として処理されましたが、この DBD は ACBLIB に存在していました。BUILD DBD= が指定された場合は、PSB は、要求された DBD および指定された DBD を参照しました。指定された DBD は再作成されませんでした。

システムの処置

IMS は処理を続けますが、戻りコード 4 を生成します。

プログラマーの応答

指定された DBD が ACBLIB での置換を必要とする場合は、この DBD は、BUILD DBD= 制御ステートメントを使用して処理する必要があります。

問題判別:

2、4、17d、18、19

モジュール:

DFSUAMBO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS961W **MULTIPLE OCCURRENCES OF
LOGICAL TWIN SEQ FIELD
DETECTED. FIELD DEFINED AS
UNIQUE.**

説明

論理子のあるデータベースが、固有の論理兄弟シーケンス・フィールドにすでに非固有の論理兄弟シーケンス・フィールドがロードされていることを示しました。

システムの処置

IMS は処理を続行します。接頭部更新ユーティリティー (DFSURGP0) が、非固有の論理兄弟レコードに論理パス上で削除されたというマークを付けます。削除規則は無視されます。

プログラマーの応答

影響を受けたセグメントを削除し、後続の更新実行時に、訂正されたシーケンス・フィールドをそれに再挿入してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール:

DFSURG10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0962I **DBD *dbname* NOT PROCESSED.**

説明

BUILD DBD= 制御ステートメントが指定された DBD の処理を要求しましたが、その DBD を参照する PSB が PSBLIB 内に見つかりません。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

正しい DBD 名が指定されていること、および DBD を参照する PSB が PSBLIB にあることを確認してください。

モジュール:
DFSUACB0

DFS0963W	PURGE DATE CONFLICTS WITH INPUT ACCUM DATA FROM DD <i>ddname</i> DATA BASE <i>database name</i> FOR FUNCTION CA.
-----------------	---

説明

古い変更累積データ・セット・ヘッダー・レコードに、作成日時が含まれています。指定されたページ日付が作成日時より前です。入力ログ・データ・セットに古い変更累積データベースより前に作成されたレコードが含まれている場合は、リカバリーでは使用できないエクストラ・レコードが累積されています。

システムの処置

IMS は処理を続けますが、戻りコード 4 を生成します。

プログラマーの応答

指定されたデータベースの、古い変更累積データベースより前に作成されたレコードが、入力ログ・データ・セットに含まれていないか確認してください。

問題判別:
2、3、8、36

モジュール:
DFSUC350

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS964I	INVALID PROCOPT SPECIFIED FOR PCB=<i>pcbname</i>, IN PSB=<i>psbname</i>
----------------	--

説明

指定された PCB に PROCOPT H が含まれていましたが、DBD が DEDB ではありません。PROCOPT H が有効なのは、DEDB の場合のみです。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0996 が出されます。ACBGEN ユーティリティー が実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

PSB を訂正し、再度プログラムを実行してください。

モジュール:
DFSDLBLO

関連情報

[IMS 異常終了 0996](#)

DFS965A	DBD LRECL OR BLKSIZE DIFFERS FROM IMAGE HEADER
----------------	---

説明

リカバリー・ユーティリティーが、データ・セット論理レコードとリカバリーの対象であるデータ・セットに関するブロック・サイズを比較し、DBD 値と入力イメージ・コピー・ヘッダー・レコードの中の値の間の差、または CINV および LRECL (VSAM に対して定義されている) と入力イメージ・コピー・ヘッダー・レコードの中の値の間の違いを検出しました。

システムの処置

ABEND 制御ステートメントが指定されている場合は、異常終了コード 0302 が出されます。そうでない場合は、処理は続行され、戻りコード 8 が生成されます。

プログラマーの応答

DBD には、データ・セット論理レコード、および同じデータ・セットのヘッダー値とは異なるブロック・サイズが含まれています。DBD 名および DD 名が正しく、DBD が変更されなかったか検証してください。出力が事前割り振り VSAM データ・セットである場合は、VSAM に対して定義された CINV および LRECL の値が DBD 値に合致するか確認してください。

問題判別

2、3、8、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=965 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:
DFSURDB0

関連情報

[IMS 異常終了 0302](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS966W RECOVERY OF ROOT ONLY VSAM
ESDS HISAM DATA BASE *ddname*
NOT REQUIRED**

説明

以下のいずれかの条件が存在しています。

- ルート専用 VSAM HISAM データベースの ESDS へのアクセスを試みました。このデータ・セットは、IMS によって使用されず、処理に必要ありません。イメージ・コピーやリカバリーはできません。
- 示されている DD 名は、このデータベースには属していません。

システムの処置

ユーティリティーは正常に完了し、ESDS のイメージ・コピーや ESDS データ・セットのリカバリーを伴いません。

オペレーターの応答:

また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=966 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

プログラマーの応答

上記の条件 1 が関与しない場合は、DD 名がこの DBD に属し、そのスペルが正しいか確認してください。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

2、3、8、36

モジュール:

DFSRCP00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS967I WARNING-EMPTY DATASET-
DDNAME-*ddname***

説明

イメージ・コピー・ユーティリティーが、示されているデータ・セットが空であることを検出しました。

システムの処置

ユーティリティーは処理を完了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答

空のデータ・セット条件が無効の場合は、すべての入力 が正しいか確認して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSUDMPO

**DFS968I DBD=*dbname* WITHIN
PSB=*psbname* SUCCESSFULLY
BACKED OUT**

説明

このメッセージは、指定されたデータベースに関して正 常に行われたバックアウトを識別しています。

モジュール:

DFSRBOIO

**DFS969I ERROR LOADING PSB *xxxxxxxx*
FOR BACKOUT**

説明

バックアウトを必要とする PSB に関して、DL/I ブロッ クがロードできませんでした。理由としては、プール・ スペースが十分ではなかったか、入出力エラー(メッセ ージ DFS561 が発行された)、あるいは、IMS 初期設定 中にエラーが発生した(該当するメッセージが発行され た)が考えられます。

システムの処置

バックアウトは行われません。バックアウトが必要な プログラムおよびデータベースは停止されます。処理 は続行されます。

オペレーターの応答

PSB およびデータベースを開始する前に、バッチ・バッ クアウト・ユーティリティーを指定された PSB に関し て実行してください。

問題判別

1、5、8、11。および、/CHECKPOINT FREEZE ABDUMP でメモリー・ダンプが取られます。

モジュール:

DFSRBOIO

関連情報

206 ページの『DFS561E』

GETMAIN FAILED FOR QSAVE AREA, ACB
LOAD/READ TERMINATED

206 ページの『DFS561A』
ERROR READING ACBLIB, {PSB=*psbname* |
DMB=*dmbname*}

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS970I (UNEXPECTED STATUS| OPNDST/
OPNSESS FAILED| CLSDST/
TRMSESS FAILED| GENCB/MODCB
ERROR| FORCED CLEANUP DONE|
SESSION FAILURE), NODE *node
name*, USER/*user name* | N/A,
(UNDEFN | SETLOG | SIMLOG |
OPNDST | OPNSEC | CLSDST |
SEND|RECEIV | TRMSES | RQR |
RESTSR | INQUIR|SESSNC |
*****), RC=, FDB2=, LOSTERM=|
NSEXIT=| UNBIND=, SENSE=,
REASON=

説明

以下でこのメッセージの機能およびコマンドについて説明します。

機能: 障害の発生時に実行されていた機能を示します。

UNEXPECTED STATUS

RPL の RC, FDB2、および RPLREQ フィールドに無効の組み合わせがあった (つまり、SEND 操作が完了し、SEND に関して戻される戻りコードが無効であった) か、または LOSTERM EXIT がスケジュールされました。

OPNDST/OPNSESS

OPNDST/OPNSESS 処理中に障害が起きました。

CLSDST/TRMSESS

CLSDST/TRMSESS 処理中に障害が起きました。

GENCB/MODCB ERROR

OPNDST または CLSDST に関して RPL または NIB のセットアップを試みている最中に、障害が起きました。

FORCED CLEANUP DONE

解決の入出力のあるハング・ノードを解放するクリーンアップ RU で NSEXIT をシミュレートするために、/CLS FORCE コマンドが発行されました。RC、FDB2、および RPLREQ は、入出力が未解決の RPL からです。

SESSION FAILED

ノード接続が終了しました。

コマンド: 障害の発生時に実行されていたコマンドのタイプを示します。

UNDEFN

RPL は RPLREQ フィールドに未定義の値がありません。

SETLOG

SETLOGON コマンドの間に障害が起きました。

SIMLOG

SIMLOGON コマンドの間に障害が起きました。

OPNDST|OPNSEC

OPNDST または OPNSEC コマンドの間に障害が起きました。

CLSDST|TRMSESS

CLSDST または TRMSESS コマンドの間に障害が起きました。

SEND

SEND コマンドの間に障害が起きました。

RECEIV

RECEIVE コマンドの間に障害が起きました。

RESETSR

RESETSR コマンドの間に障害が起きました。

INQUIR

BIND パラメーターの照会を試みていて、障害が起きました。

SESSNC

SESSIONC コマンドの間に障害が起きました。

RQR

無効な VTAM RQR コマンドが、このノードの IMS によって受信されました。

進行中の操作がなく、LOSTERM に 16 進値が入っている場合は、正常です。

エラー・データ:

- RPLRTNCD フィールドに RC= 値
- RPLFDB2 フィールドに FDB2= 値
- VTAM によって IMS LOSTERM または NSEXIT 出口に渡された LOSTERM=|NSEXIT= 値。
 - X'0C' - LOSTERM
 - X'29' - NSPE クリーンアップ RU
 - X'20' - NSPE 通知 RU
 - X'B0' - アンバインド受信
 - X'00' - LOSTERM も SPE もない
- VTAM によって IMS SCIP 出口に渡された UNBIND= アンバインド・コード。
- VTAM、DEVICE、または NSEXIT から渡された SENSE= センス・コード。
- NSEXIT または UNBIND によって生成された REASON= 理由コード

VTAM 標識とセンス値の詳細については、「z/OS Communications Server SNA Programming」(SC31-8829)を参照してください。

システムの処置

ACF/VTAM はセッションを終了しましたが、IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答:
(マスター端末) 問題の診断後、セッションの開始を試行してください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

モジュール:

DFSCM7A0、DFSCVCS0、DFSCVHA0、DFSDN280

関連資料

[z/OS: 例外条件およびセンス情報](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS971I (I/O ERR|INT REQ) NODE node name, ssbytes, error description

説明

IBM 3270 装置に対する入出力操作が異常終了しました。ssbytes は、VTAM によって IMS へ渡された、RPL からの 3270 センス/状況バイトです。エラー記述フィールド VTAM 標識は、次のとおりです。

PATH

リカバリー可能パス・エラーが発生しました。

CPM

リカバリー不能エラーが発生しました。

STATE

ノードによるブラケット標識の使用でエラーが発生しました。

FI

機能インタープリター・エラーが発生しました。

RR

要求リジェクト・エラーが発生しました。

エラー記述フィールド・センス/状況標識は、次のとおりです。

DB

装置使用中

US

装置指定

DE

装置終了

TC

伝送チェック

CR

コマンド・リジェクト

IR

要介入

EC

装置チェック

DC

データ・チェック

CC

制御チェック

OC

操作チェック

ヒント: VTAM 標識および、3270 センスまたは状況標識の詳細については、「z/OS Communications Server SNA Programming」(SC31-8829)を参照してください。

システムの処置

要介入条件の場合を除いて、ノードを CLSDST してください。要介入処理では、ノード(端末)が作動可能になった後、操作は正常に続行されます。

オペレーターの応答:

ノードの OPNDST を試み、可能な場合は操作を続行してください。操作が不可能な場合は、『問題判別』を参照してください。要介入処理の場合は、ノードを作動可能にすれば、処理は正常に続くはずですが、IMS Transaction Manager の障害のトレースを入手してください。

問題判別:

14、23、36

モジュール:

DFSCVE00

関連資料

[z/OS: 例外条件およびセンス情報](#)

[z/OS: 制御要求および標識の要約](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS972A *IMS (DCCTL) AWAITING MORE INPUT*

説明

複数セグメント・メッセージがシステム・コンソールから開始されました。メッセージを完了するには、さらにデータが必要です。(DCCTL) がメッセージに表示されているのは、DCCTL 環境にある場合です。

システムの処置

処理は続行されますが、ITASK は入力を待ちます。

オペレーターの応答:

必須セグメントを入力し、最後のセグメントはピリオドで終わるようにしてください。

モジュール:

DFSDNSCO

DFS973I **LINE xxx, PTERM yyy, aaa, {G|S},
tttt, ssss, conditions**

説明

IMS 回線 xxx、物理端末 (PTERM) yyy である、オンライン回線 aaa 上のリモート 3271/3275 が、装置終了 (X'C240') 以外の情報が入っている、センス状況メッセージを IMS に送信しました。このメッセージは、S または G で表される IMS からの特定または一括ポーリングに対する応答として送信されました。3270 によって送信された端末アドレスは、tttt で表されているフィールドに表示され、センス/状況バイトはフィールド ssss に表示されます。センス/状況バイトは条件域で解釈および印刷されます。解釈には次の意味があります。

バイト

意味

DB

装置使用中

US

装置指定

DE

装置終了

TC

伝送チェック

CR

コマンド・リジェクト

IR

要介入

EC

装置チェック

DC

データ・チェック

CC

制御チェック

OC

操作チェック

オペレーターの応答:

3270 端末に関して、メッセージ DFS072I、DFS251I、または DFS0253 も受信される場合は、このメッセージの情報を IBM 担当員に提示する必要があります。

問題判別:

1、6、14、23

モジュール:

DFSC3270

関連情報

51 ページの『DFS072I』

UNABLE TO OUTPUT LINE x PTERM y

95 ページの『DFS251I』

hh.mm.ss CONTROL UNIT INOPERABLE LINE x
PTERM y-z aa,bbbb,cc,dd,ee,ff,gg,hh, iii,jjjj

96 ページの『DFS253』

TCU INOPERABLE LINE x PTERM y

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS0974I

**SEGMENT xxxxxxxx IN DATABASE
yyyyyyyyy HAS AN INVALID DELETE
RULE FOR SEGMENT DATA USER
EXITS**

説明

データベース yyyyyyyy のセグメント xxxxxxxx に、DBD/SEGM ステートメントで EXIT= として定義されている出口ではサポートされない削除規則があります。

システムの処置

処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答

EXIT= 定義を訂正してください。

問題判別:

2、3、8、および 19

モジュール:

DFSDLB00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS975W

**NON-RECOVERABLE
DBD=xxxxxxx WITHIN
PSB=yyyyyyyyy STOPPED DUE TO
UNKNOWN BACKOUT STATUS**

説明

IMS が、アプリケーション yyyyyyyy で変更されたデータベースのバックアウトを必要とする状態を検出しました。バックアウトは完了できませんでした。データベース xxxxxxxx は停止されます。これはリカバリー不能データベースであるため、IMS がさらにそのバックアウトを試みることはありません。許容条件に復元されるまでは、開始してはなりません。

システムの処置

データベース xxxxxxxx は停止されます。

システム・プログラマーの応答

データベースを復元してください。

モジュール:

DFSRBOIO、DFSRBLBO

DFS976I *nnn* MESSAGES(S) PURGED, *x*
PURGED MSG(S) REROUTED, DEQ
CMD SUPPRESSED BY MESSAGE
CONTROL ERROR EXIT

または

nnn MESSAGE(S) PURGED, *x* PURGED MSG(S)
REROUTED

または

nnn MESSAGES(S) PURGED, DEQ CMD SUPPRESSED
BY MESSAGE CONTROL ERROR EXIT

説明

NODE、LTERM、および MSNAME に関する /DEQUEUE コマンドによって、それぞれのメッセージの処理より前に、メッセージ制御/エラー出口の起動が行われます。PURGE キーワードを指定した /DEQUEUE コマンドが原因で、(*nnn*) 数のメッセージがメッセージ・キューからパージされました。高速機能メッセージがパージされている場合は、表示されているパージされたメッセージのカウン트에含まれています。

ユーザー出口は、キューからのメッセージのパージと、別の宛先へのその転送を要求します。変数 *x* が、パージされ、転送されたメッセージの数です。

システムの処置

コマンドは正常に完了しました。

オペレーターの応答

(マスター端末) メッセージ制御/エラー出口が、受信側システムでカスタマイズされて、誤った出口フラグを指定しているか、あるいは出口フラグは正しいが、IMS が要求された処置を実行していて、関連デフォルトの実行中にエラーが検出された場合に、このメッセージが出ます。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

メッセージ制御/エラー出口 DFSCMUX0 からデフォルトのアクションを検索してください。送信エラー、受信エラー、および DEQ コマンドに関する X'6701' CMEI レコードの強制ログ・エントリである、メッセージ制御/エラー出口インターフェース・ブロック MSNB の MSNBMSG 領域で、エラー記述を探してください。出口フラグ、または転送のための宛先 (該当する場合) を訂正してください。

問題判別:

14

モジュール:

DFSICLJO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS976I *nnn* MESSAGES(S) PURGED, *x*
PURGED MSG(S) REROUTED, DEQ
CMD SUPPRESSED BY MESSAGE
CONTROL ERROR EXIT

または

nnn MESSAGE(S) PURGED, *x* PURGED MSG(S)
REROUTED

または

nnn MESSAGES(S) PURGED, DEQ CMD SUPPRESSED
BY MESSAGE CONTROL ERROR EXIT

説明

NODE、LTERM、および MSNAME に関する /DEQUEUE コマンドによって、それぞれのメッセージの処理より前に、メッセージ制御/エラー出口の起動が行われます。PURGE キーワードを指定した /DEQUEUE コマンドが原因で、(*nnn*) 数のメッセージがメッセージ・キューからパージされました。高速機能メッセージがパージされている場合は、表示されているパージされたメッセージのカウン트에含まれています。

ユーザー出口は、キューからのメッセージのパージと、別の宛先へのその転送を要求します。変数 *x* が、パージされ、転送されたメッセージの数です。

システムの処置

コマンドは正常に完了しました。

オペレーターの応答

(マスター端末)メッセージ制御/エラー出口が、受信側システムでカスタマイズされて、誤った出口フラグを指定しているか、あるいは出口フラグは正しいが、IMSが要求された処置を実行していて、関連デフォルトの実行中にエラーが検出された場合に、このメッセージが出ます。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

メッセージ制御/エラー出口 DFSCMUXO からデフォルトのアクションを検索してください。送信エラー、受信エラー、および DEQ コマンドに関する X'6701' CMEI レコードの強制ログ・エントリーである、メッセージ制御/エラー出口インターフェース・ブロック MSNB の MSNBMSG 領域で、エラー記述を探してください。出口フラグ、または転送のための宛先 (該当する場合) を訂正してください。

問題判別:

14

モジュール:

DFSICLJ0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS977I

INOP/NA: n n n n

説明

2770 端末がコンポーネント・エラーを認識し、コンポーネントに作動不能のマークを付けました。エラーが処理された後で、メッセージを受信できる使用可能なプリンターまたは 2265 コンポーネントがある場合は、このメッセージは 2770 端末で印刷されます。このメッセージには、現行端末状態が記述されています。作動不能または接続されていないコンポーネント・スロットは、すべてスロット番号 (N) がメッセージに表示されています。

オペレーターの応答

端末でエラー条件を訂正し、システムによって処理されたデータを検査してください。その上で、適切なコンポーネントの再始動コマンドを発行してください。

モジュール:

DFSDN090

DFS978I

PLEASE RESEND LAST LINE

説明

最後のセグメントを読み取っていて、入出力エラーが発生しました。

説明:

最後のセグメントを再入力するか、必要に応じて、/ CANCEL コマンドを使用して、以前のすべてのセグメントを取り消してください。

問題判別:

1、6、23

モジュール:

DFSCLM00、DFS050

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS979I

BATCH MESSAGE PROGRAM

psbname WAS ACTIVE AT TIME OF FAILURE

説明

psbname で示されているバッチ・メッセージ・プログラムが、緊急時再始動を必要とする障害の発生時にアクティブであったと、緊急時再始動によって判別されました。

このメッセージは、他の処理中のバックアウト・プロセス中の障害から発生する可能性もあります。

システムの処置

再始動による - プログラムおよび関連データベースが停止されます。メッセージ DFS981I がこのメッセージに付随して出され、停止されたデータベースを識別します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 緊急時再始動用に入力されたものと同一テープを使用して、説明されているようにバッチ・バックアウト・ユーティリティ DFSBBO00 を実行してください。その上で、プログラムおよびデータベースを開始し、バッチ・メッセージ・プログラムを再実行してください。

問題判別:

4、5

モジュール:

DFSRBLB0、DFSRBOIO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS980I

hh:mm:ss BACKOUT PROCESSING
HAS ENDED FOR PSB psbname

説明

指定された PSB に関して、データベース・バックアウト機能が終了しています。この状態が生じる可能性があるのは、プログラム分離によるオンライン実行中の動的バックアウト、または緊急時再始動時です。

バックアウトにかかわっている PSB 内の各データベースごとに、それぞれメッセージ DFS968I または DFS981I がこのメッセージより前に出ます。

システムの処置

通常の処理が続けられます。

モジュール:

DFSRBOIO

関連情報

355 ページの『DFS968I』

DBD=*dbname* WITHIN PSB=*psbname*
SUCCESSFULLY BACKED OUT

361 ページの『DFS981I』

DBD=*dbname* WITHIN PSB=*psbname*
STOPPED DUE TO (BACKOUT FAILURE|ERE
NOBMP START|COLDBASE START|REMOTE
TAKEOVER)

DFS981I DBD=*dbname* WITHIN
PSB=*psbname* STOPPED DUE TO
(BACKOUT FAILURE|ERE NOBMP
START|COLDBASE START|REMOTE
TAKEOVER)

説明

このメッセージは、示されている理由で停止したデータベースを示します。

プログラマーの応答

すべての場合に、このデータベースのバックアウトを行う必要があります。BACKOUT FAILURE および ERE NOBMP START が理由である場合は、/START DB コマンドまたは UPDATE DB START(ACCESS) コマンドを入力してバックアウトを行うことができます。理由が COLDBASE START の場合は、バッチ・バックアウトをご検討ください。REMOTE TAKEOVER の場合は、順方向リカバリーとそれに続くバッチ・バックアウトが必要です。

モジュール:

DFSRBOIO、DFSRBLBO

DFS982I I/O ERROR READING BACKOUT
QUEUE, BSN=*bbbbbbbb* RC=*rr*

または

**I/O ERROR READING BACKOUT QUEUE COVERING
SYSTEM CHKPT=*yyddd/hhmmss* BSN=*bbbbbbbb*
RC=*rr***

説明

最初のメッセージは、バッチでしか出されません。2 番目のメッセージは、このメッセージのオンライン (TM および DBCTL) 形式です。*yyddd/hhmmss* は、バックアウトされるリカバリー単位の開始前に生じた最後のシステム・チェックポイント ID です。ログの読み取りでエラーが発生しました。入出力エラーが発生した場合は、メッセージ DFS0414I が出されるはずですが、

DBRC がアクティブの場合は、データベースがリカバリーしたら、通知する必要があります。DBRC が非アクティブの場合は、リカバリーが必要でなくなっても、このメッセージが再度出される可能性があります。バッチ・バックアウトが実行されると、DBRC に自動的に通知されます。

このメッセージは、問題が発生して、バックアウトするのに過剰な数のレコードがあり、バックアウトに必要な一部のレコードがすでにアーカイブされていた場合にも出される可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

bbbbbbbb

ログ・ブロック・シーケンス番号を示します。

rr

ログの戻りコードを示します。

システムの処置

IMS 処理は続行されますが、バックアウトは失敗します。

このメッセージが最初の形式の場合は、X'67FF' ログ・レコードを IMS ログに取り込みます。

このメッセージが 2 番目の形式の場合は、監視プログラム呼び出し (SVC) ダンプを取得します。

モジュール:

DFSRBOIO

DFS983I I/O ERROR IN DATA BASE
xxxxxxxx, PROGRAM *xxxxxxxx*
DURING BACKOUT.

説明

示されているデータベースおよびプログラムに関して不完全なトランザクションをバックアウトするために、緊急時再始動または動的バックアウトが試みられてい

る最中に、入出力エラーが発生しました。このデータベースは停止され、残りのデータベースに対しては、処理の続行が許されます。

このメッセージは、データベース名の代わりに PURGE が表示されて、出される可能性があります。この場合は、このバックアウトのために使用されたバッファをページするための呼び出しが失敗していることを示しています。そこで、データベース保全性を保護し、データベースおよび PSB に対するトランザクションすべてのバックアウトを確保するために、バッチ・バックアウトを実行する必要があります。

システムの処置

データベースは停止され、通常の処理が続行されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) リカバリーおよびバックアウトが完了したら、ユーザーは、該当するマスター端末コマンドを使用して、データベースおよびプログラムを開始する必要があります。

プログラマーの応答

データベースに対してデータベース・リカバリー・ユーティリティを実行してください。リカバリーが完了したら、エラー・メッセージに示されているプログラム、および緊急時再始動への入力として使用されたものと同じテープを指定して、データベース・バックアウト・ユーティリティを実行する必要があります。このエラー・メッセージのあとでバッチ・バックアウト・ユーティリティを実行すると、PSB xxxxxxxx に関してはバックアウトが存在しないことを示す、メッセージ DFS888I がバッチ・バックアウトから戻される結果になる可能性があります。正しい入力テープが使用されていれば、直前の緊急時再始動または動的バックアウトが、データベース/プログラム名に関する不完全なトランザクションについて、入出力エラーが起きる前に正常にバックアウトしたことを DFS888I によって示します。

問題判別:

1、5、8、11

モジュール:

DFSRBOIO

関連資料

[リカバリー・ユーティリティ \(データベース・ユーティリティ\)](#)

関連情報

333 ページの『DFS888I』

NO DATA BASE RECORDS FOUND FOR PSB
psbname (AFTER CHECKPOINT *checkpoint id*)
(FOR REGION *region id*)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS984I

UNABLE TO OPEN DATA BASE
xxxxxxx, PROGRAM xxxxxxx FOR
BACKOUT.

説明

緊急時再始動では、バックアウト処理のためにデータ・セットを開けませんでした。

システムの処置

データベースおよびプログラムは停止され、通常の処理が続行されます。

オペレーターの応答

(マスター端末) データベース・リカバリーまたはバックアウト、あるいはその両方が完了した後、ユーザーは、該当するマスター端末コマンドを使用して、データベースおよびプログラムを開始する必要があります。

プログラマーの応答

かかわっているデータベースについて DD ステートメントをチェックし、オンラインであるか確認してください。JCL が正しい場合は、緊急時再始動を促した障害によって、データベースが損傷している可能性があります。該当する場合は、メッセージ DFS983I に関するプログラマーの応答のとおりにしてください。該当しない場合は、エラー・メッセージに示されているプログラム、および緊急時再始動への入力として使用されたものと同じテープを指定して、データベース・バックアウト・ユーティリティを実行してください。

問題判別:

1、5、8

モジュール:

DFSRBOIO

関連資料

[データベース・リカバリー・ユーティリティ \(DFSURDBO\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS985I

SYSTEM ERROR DURING
BACKOUT FOR DB=dddddddd,
PGM=pppppppp, LOG
SEQ=yyyyyyyy, RC=zzzzzzzz

説明

データベース dddddddd およびプログラム ppppppppp に関して不完全なトランザクションをバックアウトするために、緊急時再始動または動的バックアウトが試みられている最中に、エラーが発生しました。フィール

ド yyyyyyyy は、処理されるデータベース変更ログ・レコードの 16 進シーケンス番号です。フィールド zzzzzzzz は、バックアウト中に生じた可能性のある疑似異常終了コードと値 4 と値 10 のいずれかです。値が 4 または 10 の場合は、疑似異常終了以外のエラーが発生したことを示します。

システムの処置

データベースおよびプログラムは停止され、処理は続行されます。タイプ X'67FF' 疑似異常終了がログ・データ・セットに書き込まれます。

オペレーターの応答

(マスター端末) 最初の事例の場合であれば、IMS を最初期設定してから、緊急時再始動を再試行してください。2 番目の事例の場合であれば、データベース・リカバリまたはバックアウト、あるいはその両方が完了した後で、該当するマスター端末オペレーターによって、データベースおよびプログラムを開始してください。

プログラマーの応答

次の 2 つの事例が問題の判別および解決に役立つはずですが。

- RC=00000004 が /ERE 処理中に受信される場合は、バックアウトされるデータベースに関して、データ管理ブロック (DMB) ディレクトリー・エントリーが検出されていなかった可能性があります。システムの再始動に使用される IMS 中核が、元のシステム障害の発生時に使用中であったものと同じであることを確認してください。これが問題の場合は、正しい中核を指定して IMS ジョブを再始動し、その後、緊急時再始動を再実行してください。
- RC=00000010 が受信される場合は、最も可能性の高い理由として、CSRCE SRV マクロの発行時に、レジスター 3 に負の値が入っていたという場合が考えられます。
- RC=Uxxxx (xxxx は、/ERE または動的バックアウト中に生じた疑似異常終了コード)、または RC=00000004 で、最初の事例が問題ではない場合は、ログ・データ・セット上のタイプ X'67FF' 異常終了レコードが、問題の原因を判別するために必要です。プログラム pppppppp、および緊急時再始動への入力として使用されたログと動的バックアウト時に使用中であったログのどちらかを指定して、データベース・バックアウト・ユーティリティーを実行してください。

問題判別:

1、5、8、17b

モジュール:

DFSRBOIO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS986A

**CANNOT OPEN SYSTEM DATASET-
DD NAME-nnnnnnnn, RC=xx**

説明

DD ステートメントが欠落していたか、データ・セットのフォーマットが必要です。フォーマット設定を伴う再始動時に、nnnnnnnn で示されているデータ・セットで入出力エラーが発生した可能性もあります。戻りコード xx は、次のように定義されています。

コード (16 進数)

意味

00

これは正常な状態です。

04

DCB はすでに開かれているか、クローズされていません。

08

DCB はすでに開いています。

0C

DECBTYP E は無効です。

10

IMS SVC で障害が発生しました。DCBWRK1 が理由を示します。エラー・サブコードについては、メッセージ DFS0730I を参照してください。

14

OSAM OPEN ルーチンがファイル・マークのスキャン、フォーマット設定、またはファイル・マークの書き込みを行っている最中に、入出力エラーが発生しました。追加情報については、DECSTAT を参照してください。

18

無効の RBN が計算されました。RBN は、ゼロであるか、データ・セットの最大 RBN より大であるか、いずれかです。複数データ・セットが短または長メッセージ・キューに関して定義されているときは、複数データ・セットのスペース指定に誤りがあるためにエラーが生じた可能性があります。インストール情報で、IMS.QBLKS、IMS.SHMSG/1-9、および IMS.LGMSG/1-9 についてのトピックと、「IMS V15 システム管理」で、メッセージ・キュー・データ・セットの割り振りについてのトピックを参照してください。

24

データ・セットに関する EO V 処理中に、エラーが発生しました。

28

キュー・マネージャーのシステム・データ・セットを開いている最中に、無効の DD 名が検出されました。

システムの処置

IMS は、別の再始動コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答

(マスター端末) BLDQ および FORMAT キーワードを使用し、必要に応じて再始動コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答

参照先データ・セットに関して DD ステートメントが存在するか確認し、DISP=OLD であれば、そのデータ・セットはシステムで 使用可能です。

問題判別:

1、8、11

モジュール:

DFSQDOC0

関連情報

DFS0730I

CANNOT OPEN SYSTEM DATASET-DD NAME-
nnnnnnnn, RC=xx

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS987I	ERROR READING SLDS DURING BACKOUT WITHIN PSB=XXXXXXXXX DUE TO NON- RECOVERABLE DB
----------------	--

説明

IMS は、動的バックアウトでの SLDS 読み取り中に、リカバリー不能データベースのアーカイブ・ログ・レコードを検出しました。これはバックアウトに使用できないレコードであるため、IMS はそれ以上バックアウトを試行しません。バックアウトは完了できませんでした。データベースが許容条件に復元されるまでは、バックアウトを再開しないでください。

バックアウトに関与する PSB 内の各データベースごとに、このメッセージの後にメッセージ DFS981I または DFS975W が出されます。

システムの処置

データベースは停止します。IMS 処理は続行されますが、バックアウトは失敗します。

プログラマーの応答

リカバリー不能データベースの場合、データベースを復元してください。リカバリー可能データベースの場合

は、バッチ・バックアウト・ユーティリティーを実行してください。

モジュール:

DFSRBOIO

関連情報

DFS975W

NON-RECOVERABLE DBD=xxxxxxxx WITHIN
PSB=yyyyyyy STOPPED DUE TO UNKNOWN
BACKOUT STATUS

DFS981I

DBD=dbdname WITHIN PSB=psbname
STOPPED DUE TO (BACKOUT FAILURE|ERE
NOBMP START|COLDBASE START|REMOTE
TAKEOVER)

DFS0988I	GLOBAL rsrcstat STATUS UPDATE REQUEST FOR rsrcstype COMPLETE
-----------------	---

説明

タイプ 1 グローバル・コマンドが発行され、データベースまたは DEDB 状況がリソース・マネージャー (RM) で更新されました。一部のリソース、すべてのリソース、またはリソースなしに対する要求が正常に完了することができます。一部のリソースまたはすべてのリソースに対する要求が失敗する場合、このメッセージの前にメッセージ DFS3308I が先行します。DFS3308E メッセージには、RM 戻りコードと理由コードが含まれ、状況が更新されなかったデータベースまたは DEDB エリアを識別します。QRY DB STATUS(GLOBAL) コマンドを発行すると、RM 内のリソースの状況を検証できます。

rsrcstat

次の表に示されているように、リソースの状況を示します。

表 6. リソースの状況	
rsrcstat	意味
STA	リソースはグローバルに開始されます。
STOACC	リソースはグローバルにアクセスが停止され、オフラインです。
STOPPED	リソースはグローバルに停止されます。
STOSCHD	リソースはグローバルに停止されます。
STOUPDS	リソースはグローバルに更新が停止されます。

rsrcstype

リソース・タイプをデータベースまたは DEDB エリアのいずれかとして特定します。

システムの処置

IMS はコマンドの処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSIUS10

関連情報

948 ページの『DFS3308E』

csstype REQUEST ERROR, *macroname*

RC=xxnnnnnn RSN=ssssssss

DFS989I **IMS (DBCTL) READY (CRC=x)**

説明

データベース制御 (DBCTL) サブシステムは、コマンド入力の準備ができています。そのコマンド認識文字 (CRC) が x です。

オペレーターの応答

該当する再始動コマンドを入力してください。

モジュール:

DFSXCICO

DFS990I **LAST number CARDS NOT PROCESSED**

説明

2770 端末がエラーを認識し、データ・ストリームを廃棄しました。number は、処理されなかったカードの数です。

オペレーターの応答

(端末オペレーターの入力) エラーのカードを訂正し、その点からジョブを再実行してください。

モジュール:

DFSDN050、DFSDN090

DFS991I **IMS SHUTDOWN**

説明

システムがシャットダウンされると、このメッセージがすべてのアクティブ・ターミナルに送信されます。

モジュール:

DFSICIO0

DFS992I **DMB POOL TOO SMALL, UNABLE TO SCHEDULE PSB *psbname***

説明

データ管理ブロック・プールが小さすぎて、必要なデータ管理ブロックがすべては収まらないため、指定された PSB はスケジュールできません。

プログラマーの応答

該当するパラメーターを変更して、プールのサイズを大きくし、システムを再始動してください。

モジュール:

DFSDPDM0

DFS993I **(CSA PSB|DLS PSB|PSBW) POOL TOO SMALL, UNABLE TO SCHEDULE PSB *PSBNAME*.**

説明

次のいずれかの問題が発生しました。

- 指定された PSB は大きすぎて、示されている (CSA|DLS) PSB プールに収まらないため、スケジュールできません。DL/I 従属アドレス・スペース・オプションが選択されていない場合は、PSB 全体が CSA PSB プールにあります。DL/I 従属アドレス・スペースが選択されている場合は、PSB は一部が CSA PSB プールに、一部が DLS PSB プールにあります。
- この PSB で必要とされる作業域が大きすぎて、PSBW プールに収まりません。

システムの処置

PSB は停止します。

プログラマーの応答

次のいずれかの処置を取ってください。

- 最初の問題の場合は、次の情報を使用してください。非 DL/I 従属アドレス・スペース 環境用の PSB プールのサイズは、制御領域 JCL で PSB= パラメーターを使用して指定されます。DL/I 従属アドレス・スペース環境では、CSAPSB= および DLIPSB= が、DL/I 従属アドレス・スペース・ローカル・ストレージ内の CSA PSB プールおよび 2 番目の PSB プールのサイズです。PSB *psbname* に関する ACBGEN ユーティリティーの出力によって、これらのプールで必要なスペースの量が示されます。
- 2 番目の問題の場合は、次の情報を使用してください。PSBW プールのサイズは、制御領域 JCL で PSBW= パラメーターを介して指定されます。PSB *psbname* (WORKAREA=) に関する ACB 保守ユーティリティーの出力によって、PSBW プールで必要とされるスペースの量が示されます。

モジュール:

DFSDPDM0

DFS994I *CHKPT yyddd/hhmmss*ctype

または

rtype START COMPLETED

または

IMS SHUTDOWN COMPLETED

または

IMS SHUTDOWN (DBCTL) COMPLETED

または

IMS SHUTDOWN (DCCTL) COMPLETED

または

STATISTICS CHECKPOINT COMMAND COMPLETED

または

XRF TAKEOVER COMPLETED**説明**

次のいずれかの結果として、チェックポイントが IMS システム・ログに書き込まれました。

- 再始動コマンド
- **/CHECKPOINT** コマンド
- **/DBRECOVERY** コマンド
- **/DBDUMP** コマンド
- IMS システム・ロガーによる自動開始
- 代替 IMS システムによって完了した XRF のテークオーバー

再始動が完了すると、再始動タイプが示されます。IMS の終了時に、シャットダウン完了メッセージが出されます。yyddd/hhmmss、ctype、および rtype の値は、次のとおりです。

- yyddd/hhmmss は、チェックポイントを識別するタイム・スタンプです。

- ctype は、チェックポイント・タイプです。可能な値としては、*SIMPLE*、*FREEZE*、*DUMPQ**、*SNAPQ**、および *PURGE** があります。
- rtype は、再始動タイプです。指定できる値は、次のとおりです。

COLD
WARM
EMERGENCY
BUILDQ WARM
BUILDQ EMERGENCY
COLDBASE EMERGENCY
COLDBASE *BUILDQ* EMERGENCY
COLDCOMM EMERGENCY
COLDSYS EMERGENCY

システムの処置

チェックポイント・タイプに応じて、正常な処理が続くか、IMS が終了します。

IMS SHUTDOWN (DBCTL) COMPLETED 形式のメッセージの場合は、DBCTL が終了します。IMS SHUTDOWN (DCCTL) COMPLETED 形式のメッセージの場合は、DCCTL が終了します。

STATISTICS CHECKPOINT COMMAND COMPLETED 形式のメッセージの場合は、IMS パフォーマンス統計レコードがシステム・ログに書き込まれます。このチェックポイントは再始動チェックポイントではありません。

XRF TAKEOVER COMPLETED 形式のメッセージの場合は、リカバリー機能の一部はまだアクティブである可能性があります。この場合は、リカバリー処理と競合しない新規トランザクションは、リカバリー処理と並行して実行できます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSRCPO0、DFSRST00、DFSTERM0

DFS0995A RECALL FAILED - DFHSM NOT ACTIVE - REPLY: RETRY, OR CANCEL (CANCEL DISABLES RECALL FUNCTION)**説明**

RECALL 要求が、DFHSM がアクティブでなかったことを示す戻りコードを受信しました。

システムの処置

IMS は、メッセージに対する応答を待ちます。

オペレーターの応答

次のいずれかの応答を入力します。

RETRY

IMS からの別の再呼び出し要求を起動します。

CANCEL

IMS 制御領域実行の残りに関して、再呼び出し機能を使用不可にします。

モジュール:
DFSDYA00

DFS996I IMS (DCCTL) READY

説明

環境が DCCTL である場合は、(DCCTL) がメッセージに表示されます。環境が TM/DB である場合は、(DCCTL) はメッセージに表示されません。このメッセージは、システム・コンソールに WTOR として表示されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) ユーザーがシステム・コンソールを通してデータを入力したいときに、このメッセージに回答してください。

モジュール:
DFSDNSCO

DFS997I MORE SEGMENTS REQUIRED

説明

IBM 2740-2 型端末から、部分複数セグメント・メッセージが入力されました。

システムの処置

処置は、ローカル/リモート端末オペレーターが決定します。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末) メッセージを完了するか、または取り消してください。

モジュール:
DFSDN040

DFS998I LINE xxx PTERM yyy IS INOPERABLE

または

VTAM NODE xxxxxxxx IS INOPERABLE

または

VTAM RC xx FEEDBACK yy REASON zz

説明



重要: IMS では、BTAM 端末をサポートしていません。

このメッセージは、次の形式です。

このメッセージの最初の形式の場合:

LINE xxx PTERM yyy で入出力エラーが発生しました。

2 番目の形式の場合:

NODE xxxxxxxx で入出力エラーが発生しました。

3 番目の形式の場合:

VTAM がエラーを検出しました。VTAM RPL 制御ブロック内で提供される RC、FEEDBACK、および REASON コードの説明については、「z/OS Communications Server SNA Programming」(SC31-8829) および「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」(SC31-8791) を参照してください。

システムの処置

最初の形式と 2 番目の形式の場合: PTERM に PSTOPPED および作動不能のマークが付けられ、処理は続行されます。

3 番目の形式の場合: この問題は、リカバリー不能な VTAM エラーです。IMS は、VTAM とのすべての通信を停止し、したがって、IMS に関連したすべてのノードを停止します。IMS がシャットダウンされて再始動されるまで、通信を続行できません。

オペレーターの応答

最初の形式の場合: **/RSTART LINE x PTERM y** コマンドを入力してください。

2 番目の形式の場合: **/RSTART NODE xx** コマンドを入力してください。

モジュール:

DFSICIO0、DFSCIOB0、DFSCMBP0

関連資料

[z/OS: RPL - 要求パラメーター・リストの作成](#)

[z/OS: VTAM マクロ命令の戻りコード](#)

DFS999I HELD CONVERSATION ID IS xxxx

説明

このメッセージは、**/HOLD** コマンドに対する応答です。

オペレーターの応答:

示されている識別番号 (ID) を使用して、会話を終了 **/EXIT** または再開 **(/RELEASE)** する必要があります。

モジュール:
DFSICLHO

DFS1000I **IMSrrr ABEND Uaaaa**
MODULE=xxxxxxx
LABEL=xxxxxxx R14=xxxxxxx
(DLA=xxxxxxx)

説明

処理エラーが拡張チェックポイント・モジュール (DFSZSC00)、拡張再始動ポジショナー (DFSZSR00、DFSZDC00) または GSAM BSAM I/O MODULE (DFSZDC00) によって検出されました。OLDS または IMSLOGR データ・セットとの間でのシンボリック・チェックポイントの読み取りまたは書き込みの試みが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

IMS rrr
IMS リリース・レベル。

Uaaaa
IMS ユーザー異常終了コード。

MODULE=
異常終了を出したモジュール。

LABEL=
異常終了が出された固有ラベル。このラベルは、エラー理由コードに対応しています。各コードの説

明については、該当する異常終了コードを参照してください。各コードの説明については、該当する異常終了コードを参照してください。

R14=
(エラーを発見したモジュールへの) BAL 戻りレジスター

DLA=
(異常終了を出したモジュールへの) BAL 戻りレジスター。

システムの処置

プログラムは異常終了し、*Uaaaa* として識別されている異常終了コードが示されます。

オペレーターの応答

エラーの原因を判別し、問題を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:
DFSZSR00、DFSZDC00

関連概念

[IMS 異常終了コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0102](#)

第 24 章 DFS メッセージ DFS1001I - DFS1050I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1001I **INVALID ALLOCATION FOR
SYSTEM DATA SET- DD NAME -
NNNNNNNN, RC=xx**

説明

キュー・マネージャー・データ・セットの DD ステートメントを処理している最中に、システム・データ・セットに関する無効の割り振りが検出されました。

理由コードとその意味は、次のとおりです。

理由コード (16 進数)

説明

04

DEVTYPE マクロから戻された DD 名情報に、DD ステートメントが欠落していることが示されています。

08

DEVTYPE マクロから戻された DD 名情報に、DUMMY のパラメーターが示されています。

0C

DEVTYPE マクロから戻された DD 名情報に、SYSIN/SYSOUT 割り振りが示されています。

システムの処置

メッセージに示されている、システム・データ・セットの DD 名 NNNNNNNN が、IMS の現在の実行中に使用されることはありません。

オペレーターの応答

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

参照されているシステム・データ・セットが必要な場合は、JCL またはシステム・データ・セット割り振り、あるいはその両方を訂正してください。

モジュール

DFSII00、DFSQDOC0

DFS1002A **IXLFORCE REQUEST TIMEOUT FOR
STRUCTURE=xxx, CONNAME=yyy**

説明

古い IMS で持続している障害のある接続は、まだアクティブであるため、新しいアクティブ IMS でそれを削除できません。

システムの処置

IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

障害のある IMS と同じ IMS ID を使用して、新規の代替 IMS が再始動されると、持続している障害のある接続はアクティブに変更されます。代替 XRF が再始動できないか、新しい IMS ID が古い IMS ID と同じでない場合は、古い IMS の終了後、次の XCF コマンドを使用して、接続を削除してください。

```
SETXCF FORCE, CONNECTION, STRNAME=xxx, CONNAME=yyy
```

DFS1003I **LERUNOPT OVERRIDES
INITIALIZED FROM *imsid*
RC=rrrrrrr, RSN=sssssss**

説明

LERUNOPTS が初期設定されたことを示します。メッセージに句 FROM *imsid* が示されている場合は、ランタイム・オプションが別の IMS から初期設定されたことを表します。*imsid* は、どの IMS から情報を受け取ったかを示します。RC は処理の戻りコードです。RSN は処理の理由コードです。

次の表は、DFS1003I の戻りコードと理由コードを示しています。

戻りコード	理由コード	意味
0	0	LERUNOPTS は正常に初期設定されており、処理は通常どおり続行されます。

表 7. DFS1003I の戻りコードと理由コード (続き)		
戻りコード	理由コード	意味
X'02000014'	X'5000'	IMS が LERUNOPTS の過程でストレージ障害を検出しました。LE ランタイム・パラメーターは初期設定されません。LE パラメーター・オーバーライド処理は使用不可となり、処理が通常どおり続行されます。

システムの処置

戻りコードおよび理由コードにより異なります。

プログラマーの応答

ストレージ障害がある場合は、ECSA ストレージをもっと多く割り振ってください。

モジュール

DFSLEP10

DFS1004I	LE PARAMETER OVERRIDE PROCESSING <i>state</i>
----------	--

説明

システムに対する LE パラメーター・オーバーライド処理の変更を示します。state は、ENABLED (オーバーライドが許されることを示す) か、または DISABLED (オーバーライドが許されないことを示す) です。

注: LERUNOPTS を使用可能または使用不可にしたい場合は、PROCLIB の DFSCGxxx メンバーにキーワード LEOPT=Y または N を使用してください。

次の表は、DFS1004I の戻りコードと理由コードを示しています。

表 8. DFS1004I の戻りコードと理由コード		
戻りコード	理由コード	意味
0	0	LERUNOPTS は正常に初期設定されており、処理は通常どおり続行されます。
X'02000014'	X'5000'	IMS が LERUNOPTS の過程でストレージ障害を検出しました。LE ランタイム・パラメーターは初

表 8. DFS1004I の戻りコードと理由コード (続き)		
戻りコード	理由コード	意味
		期設定されません。LE パラメーター・オーバーライド処理は使用不可となり、処理が通常どおり続行されます。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSLEP00、DFSLEP10

DFS1005E	DFSFEBJ0 ERROR. INCORRECT ROUTING TABLE. LTERM=nnnnnnnn MESSAGE TEXT=xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
-----------------	--

説明

出口ルーチン DFSFEBJ0 が、フロントエンド切り替えメッセージに対する応答を処理しました。メッセージ・テキストに示されているシステム識別が、ユーザー・ルーティング・テーブルのエントリーと一致しません。LTERM nnnnnnnn が、FES 応答メッセージの送信元でした。このエラー・メッセージには、入力メッセージの最初の 20 バイトが表示されています。

システムの処置

応答メッセージは廃棄されます。

システム・プログラマーの応答

ルーティング・テーブルをチェックし、無効または欠落エントリーを訂正してください。テーブルが正しい場合は、表示されているメッセージ・テキストを確認し、誤ったルーティング情報の送信元を特定してください。

モジュール

DFSCIOB0

DFS1006E	DFSFEBJ0 ERROR. INVALID FEIB FIELD. LTERM=nnnnnnnn RC=x DATA=yyyyyyyy MESSAGE TEXT=zzzzzzzzzzzzzzzzzzzz
-----------------	--

説明

出口ルーチン DFSFEBJ0 が、フロントエンド切り替えメッセージを処理しました。出口ルーチンによってフロントエンド・インターフェース・ブロックで指定されるフィールドが無効か、または欠落しています。LTERM nnnnnnnn が、メッセージの送信元でした。フィールド yyyyyyyy に無効な情報が入っています。または、データが欠落している場合は、'--NONE--'が入っています。フィールド zz...zz には、メッセージの最初の 20 バイトが表示されています(ただし、該当する場合)。理由コード x には、次のいずれかの意味があります。

コード

意味

- 0 新規宛先が欠落しているか、または無効です。出口ルーチンが終了して、RC=4 または RC=8 が出された可能性があります。
- 1 終了して、RC=4 が示されるのは、タイムアウトが ERP 名なしで指定されている場合です。
- 2 終了して、RC=4 が示されるのは、タイムアウトがメッセージ番号なしで指定されている場合です。
- 3 終了して、RC=8 が示されるのは、元の入力端末の LTERM 名が欠落しているか、または無効の場合です。
- 4 終了して、RC=8 が示されるのは、遅延応答の宛先が欠落しているか、または無効の場合です。このメッセージに関する元の入力端末については、すでにタイムアウトになっています。
- 5 終了して、RC=4 が示されるのは、ERP に関して指定されたトランザクション・コードが無効であった場合です。タイムアウト処理は行えません。メッセージ・テキストがこの理由コードを伴って表示されることはありません。
- 6 終了して、RC=4 が示されるのは、タイムアウト処理に関して指定されたユーザー・メッセージ番号が無効であった場合です。タイムアウト処理は行えません。メッセージ・テキストがこの理由コードを伴って表示されることはありません。

システムの処置

システムの処置は、理由コードに応じて異なります。

コード

意味

- 0 メッセージは廃棄されます。メッセージが ISC セッションからの入力で、出口ルーチンが FEIBERP

フィールドに有効なエラー・トランザクションを指定した場合は、このエラー・トランザクションがスケジュールされます。タイマー機能が指定された場合は、元の入力端末は解放されますが、それ以外の場合は、元の入力端末はハングします。

- 1, 2 入力メッセージは廃棄されます。
- 3 応答メッセージは廃棄されます。出口ルーチンが FEIBERP フィールドに有効なエラー・トランザクションを指定した場合は、このエラー・トランザクションがスケジュールされます。タイムアウト機能が入力時に指定された場合は、端末は応答モードから解放され、それ以外の場合は、端末はハングします。
- 4 応答メッセージは廃棄されます。出口ルーチンが FEIBERP フィールドに有効なエラー・トランザクションを指定した場合は、このエラー・トランザクションがスケジュールされます。
- 5,6 元の入力端末は、このメッセージによって、応答モードから解放されます。

システム・プログラマーの応答

表示されている情報をチェックし、誤っているデータのソースを判別してください。

モジュール

DFSCIOB0

DFS1007E	DFSFEBJ0 ERROR. INVALID RC IN REG.15. LTERM=nnnnnnnn
-----------------	---

説明

フロントエンド切り替え出口ルーチン DFSFEBJ0 が指定した戻りコードが無効でした。LTERM nnnnnnnn は、FES メッセージの送信元でした。

システム・プログラマーの応答

出口ルーチンを訂正してください。

モジュール

DFSCIOB0

DFS1008I	PSB psbname REFERENCES PHIDAM DBD dbdname FOR LOAD MULTIPLE TIMES
-----------------	--

説明

指定された PSB に、PROCOPT が L または LS の、指定された PHIDAM DBD への明示的参照が複数含まれています。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 09067 が出されます。ACBGEN ユーティリティー が実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

PSB を訂正し、再度プログラムを実行してください。

モジュール

DFSDLBLO

DFS1009I *name* HAS BEEN REPLACED

説明

name で識別されているブロックは、MFS 言語 ユーティリティーのフェーズ 2 で、フォーマット・ライブラリー内で置き換えられています。

注：*name* は、置き換えの対象になるブロックの解釈済み記述です。*name* の解釈済み記述には、次のものが含まれます。

- FMT/MSG ラベル
- ブロック・タイプ: DOF、DIF、または MSG
- ブロックのサイズ (16 進数)
- FMT の場合: 装置タイプ、3270 または 3270P の場合は装置モデル、16 進装置機構、EBCDIC 解釈済み装置機構、3270-An の場合は装置画面サイズ、DPM-An または DPM-Bn の場合はバージョン ID
- 示されているブロックが作成された日時

システムの処置

処理は正常に続行されます。

モジュール

DFSUTLNO

DFS1010I *name* HAS BEEN DELETED -
 ddname

説明

name で識別されているブロックは、MFS 言語 ユーティリティーのフェーズ 2 で、DD ステートメントのシンボル名 (*ddname*) によってフォーマット・ライブラリーから削除されました。

注：*name* は、削除の対象になるブロックの解釈済み記述です。*name* の解釈済み記述には、次のものが含まれます。

- FMT/MSG ラベル
- ブロック・タイプ: DOF、DIF、または MSG
- FMT の場合: 装置タイプ、3270 または 3270P の場合は装置モデル、16 進装置機構、EBCDIC 解釈済み装置機構、3270-An の場合は装置画面サイズ、DPM-An または DPM-Bn の場合はバージョン ID

システムの処置

- 重大度 4 の場合は、処理は正常に続行されます。
- 重大度 20 の場合は、MFS 言語 ユーティリティーのフェーズ 2 が終了します。

プログラマーの応答

重大度 20 の場合は、次いで *\$\$IMSDIR* が削除されています。*\$\$IMSDIR* を再作成する場合は、MFS サービス・ユーティリティー 索引機能を使用してください。

モジュール

DFSUTL40、DFSUTLNO

重大度

- 4 - 「*name*」は削除されました。
- 20 - 入出力エラーまたはディレクトリーの読み取り中の予期しない EOF の結果として、特殊索引ディレクトリー *\$\$IMSDIR* が削除されています。

DFS1011I *name* {ADDED|HAS BEEN ADDED -
 ddname}

説明

name で識別されているブロックは、MFS 言語 ユーティリティーのフェーズ 2 で、フォーマット・ライブラリーに追加されています。*ddname* が表示されるのは、追加されたブロックが *\$\$IMSDIR* 索引で、更新されたデータ・セットを示すときです。

注：*name* は、追加の対象になるブロックの解釈済み記述です。*name* の解釈済み記述には、次のものが含まれます。

- FMT/MSG ラベル
- ブロック・タイプ: DOF、DIF、または MSG
- ブロックのサイズ (16 進数)
- FMT の場合: 装置タイプ、3270 または 3270P の場合は装置モデル、16 進装置機構、EBCDIC 解釈済み装置機構、3270-An の場合は装置画面サイズ、DPM-An または DPM-Bn の場合はバージョン ID
- 示されているブロックが作成された日時

システムの処置

処理は正常に続行されます。

モジュール

DFSUTL40、DFSUTLN0

重大度

0

**DFS1012I name STOW ERROR OCCURRED
 FOR BLOCK - ddname**

説明

(*name*) で示されているブロックに関する STOW 操作が、結果的にエラーになりました。この STOW エラーは、MFS 言語ユーティリティのフェーズ 2 の DD ステートメントのシンボル名 (*ddname*) で識別されているデータ・セットで発生しました。*ddname* がメッセージに表示されていない場合は、エラーが発生したのは、シンボル名 "FORMAT" で識別されているデータ・セットです。

注：*name* は、エラーが発生したブロックの解釈済み記述です。*name* の解釈済み記述には、次のものが含まれます。

- FMT/MSG ラベル
- ブロック・タイプ: DOF、DIF、または MSG
- FMT の場合: 装置タイプ、3270 または 3270P の場合は装置モデル、16 進装置機構、EBCDIC 解釈済み装置機構

システムの処置

MFS 言語ユーティリティのフェーズ 2 が異常終了し、IMS 異常終了コード 3007 が示されます。

問題判別

2、8、16

モジュール

DFSUTLN0、DFSUTL40

重大度

20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS1013I EXECUTION TERMINATED BEFORE
 COMPLETION - ddname**

説明

このメッセージは、フォーマット・ライブラリーでの入出力エラーの後で、MFS 言語ユーティリティ・フェーズ 2 プロセッサによって出されます。入出力エラーが発生したのは、DD ステートメントでシンボル名 (*ddname*) によって識別されているデータ・セットです。*ddname* がメッセージに表示されていない場合は、エラーが発生したのは、シンボル名 "FORMAT" で識別されているデータ・セットです。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティのフェーズ 2 が終了し、最も番号が大きい戻りコード 20 が z/OS に渡されます。

プログラマーの応答

入出力エラー問題を訂正し、ジョブを再実行してください。SEQBLKS データ・セットが磁気テープ・ドライブに割り振られ、テープが保管されていた場合は、そのテープを入力として、フェーズ 2 のみを再実行すれば済みます。ただし、2 回の実行の間に他の MFS 言語ユーティリティが実行されていない場合で、その場合のみに限られます。バッチ・ユーティリティの実行のみを使用して、SEQBLKS データ・セットが作成された場合は、MFSBTCH2 ルーチンを再実行する必要があります。

問題判別

2、8、16

モジュール

DFSUTL40、DFSUTLN0

重大度

20

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS1014I INDEX MAINTENANCE BYPASSED
 - ddname**

説明

常駐ディレクトリー (\$\$IMSDIR) が、識別されている *ddname* に関連したデータ・セットに存在しないか、または、NOUPDATE オプションを使用することで \$IMSDIR が更新されることがないように、ユーザーが要

求しました。 *ddname* がメッセージに表示されていなければ、そのディレクトリーが検出されなかったか、DD 名 FORMAT で識別されているデータ・セット内で更新されませんでした。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

モジュール

DFSUTL40、DFSUTLN0

重大度

4

DFS1015I **INDEX MAINTENANCE COMPLETE**
 - *ddname*

説明

MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 の間に、DD ステートメントでシンボル名 ("*ddname*") によって識別され、常駐ディレクトリー (*\$\$IMSDIR*) に索引エントリーがあったデータ・セットから、メンバーが削除されました。*\$\$IMSDIR* のエントリーは削除され、*\$IMSDIR* は更新されました。フォーマット・データ・セットに追加されたメンバーに関しては、エントリーが *\$\$IMSDIR* ディレクトリーに追加されませんでした。*ddname* がメッセージに表示されていなければ、エラー・ディレクトリー更新が行われたのは、シンボル名 "FORMAT" で識別されているデータ・セットです。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答

MFS サービス・ユーティリティー INDEX 機能を使用して、アクティブ・フォーマット・ライブラリーに追加されたメンバーに関して、*\$\$IMSDIR* ディレクトリーにエントリーを追加してください。

モジュール

DFSUTL40、DFSUTLN0

重大度

0

DFS1016I **label FMT**

説明

このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティー・プログラムに外部的にサブミットされた

FMT ステートメントの位置を反映します。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール

DFSUTLW0

重大度

0

DFS1017I **label DEV (PDB=*pdbname*)**

説明

このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティー・プログラムに外部的にサブミットされた DEV ステートメントの位置を反映します。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサがラベルを生成します。こうして生成されたラベルはエラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。PDB キーワードが DEV ステートメントで指定されている場合は、*pdbname* は、区画記述子ブロック (PDB) の外部定義名です。

モジュール

DFSUTLW0

重大度

0

DFS1018I **label DIV**

説明

このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティー・プログラムに外部的にサブミットされた DIV ステートメントの位置を反映します。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール

DFSUTLW0

重大度

0

DFS1019I *label DPAGE (PD=pd)***説明**

このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティ・プログラムに外部的にサブミットされた DPAGE ステートメントの位置を示します。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。PD キーワードが DPAGE ステートメントで指定されている場合は、*pd* は、区画記述子 (PD) の外部定義名です。

モジュール

DFSUTLW0

重大度

0

DFS1020I *label PPAGE*

または

label DFLD**説明**

label を使用して、MFS 言語ユーティリティに外部的にサブミットされた、または MFS 言語ユーティリティによって内部的に生成された DFLD または PPAGE ステートメントの位置を反映します。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール:

DFSUTLW0

重大度:

0

DFS1021I *label MSG***説明**

このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティ・プログラムに外部的にサブミットされた MSG ステートメントの位置を反映します。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能

性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール:

DFSUTLW0

重大度:

0

DFS1022I *label LPAGE***説明**

このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティ・プログラムに外部的にサブミットされた LPAGE ステートメントの位置を反映します。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール:

DFSUTLW0

重大度:

0

DFS1023I *label PASSWORD*

または

label SEG**説明**

label を使用して、MFS 言語ユーティリティに外部的にサブミットされた、または MFS 言語ユーティリティ (SEG ステートメント) によって内部的に生成された SEG または PASSWORD ステートメントの位置を反映します。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール:

DFSUTLW0

重大度:

0

DFS1024I *label MFLD***説明**

このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティ・プログラムに外部的にサブミットされた MFLD ステートメントの位置を反映します。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label*

が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール:
DFSUTLW0

重大度:
0

DFS1025I *label* ** UNKNOWN STATEMENT
 TYPE **

説明

フォーマット言語ユーティリティー・プログラムによって検出された不明のステートメント・タイプの位置を反映するために使用されます。*label* は 6 桁の 16 進数で、エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを内部で固有に定義する場合に使用されます。この問題は、内部論理エラーと考えられます。

システムの処置

処理は、次の FMT または MSG 定義から続行されます。

問題判別:
2、8、12、16、36

モジュール:
DFSUTLW0

重大度:
16

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1026I *name* MESSAGE DESCRIPTOR
 STRUCTURE:

説明

このメッセージは、入力または出力メッセージ記述子を定義する、外部的にサブミットされたステートメントのリストの開始を定義するのに使用されます。*name* は、MSG ステートメントで指定された 1 から 8 文字の英数字からなる名前です。

重大度:
0

DFS1027I *name* FORMAT DESCRIPTOR
 STRUCTURE:

説明

このメッセージは、装置形式記述子を定義する、外部的にサブミットされたステートメントのリストの開始を定義するのに使用されます。*name* は、FMT ステ

ートメントで指定された 1 から 6 文字の英数字からなる名前です。

重大度:
0

DFS1028I END OF DESCRIPTOR STRUCTURE

説明

このメッセージは、メッセージ・フォーマット記述子、または区画記述子ブロック (PDB) 記述子を定義する、外部的にサブミットされたステートメントのリストを区切るのに使用されます。

重大度:
0

DFS1029I PARTITION DESCRIPTOR BLOCK
 STRUCTURE:

説明

このメッセージでは、フォーマット・セット内で使用される区画記述子ブロック (PDB)、およびそれらの関連区画記述子 (PD) のリストの開始を識別します。

重大度:
0

DFS1030I *name* REPLACES A DUPLICATED
 NAMED BLOCK.

説明

「name」の解釈済み記述には、次のものが含まれます。

- FMT/MSG ラベル
- ブロック・タイプ: DOF、DIF、または MSG
- FMT の場合: 装置タイプ、3270 または 3270P の場合は装置モデル、16 進装置機構、EBCDIC 解釈済み装置機構

name で識別されているブロックがフォーマット・ライブラリー内で、MOD/MID の場合は名前が同じブロックにより、フェーズ 2 の処理で DOF/DIF の場合は名前、装置タイプ、および機構が同じブロックにより、置き換えられました。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

重大度

4

DFS1031I *name* UNABLE TO STOW,
 DIRECTORY BLOCK IS FULL.

説明

区分データ・セット・ディレクトリーが、フォーマット・ライブラリーに関してはいっぱいになっています。この条件が検出されたのは、*name* で識別されているブロックに関して STOW を試みているときでした。

注：*name* は、ブロック名の 解釈済み記述です。

「*name*」の解釈済み記述には、次のものが含まれます。

- FMT/MSG ラベル
- ブロック・タイプ: DOF、DIF、または MSG
- FMT の場合: 装置タイプ、3270 または 3270P の場合は装置モデル、16 進装置機構、EBCDIC 解釈済み装置機構

システムの処置

MFS 言語ユーティリティのフェーズ 2 が異常終了し、IMS 異常終了コード 3007 が示されます。

プログラマーの応答

フォーマット・ライブラリーは、保管 (IEHMOVE/IEBCOPY)、スクラッチ、もっと大きいディレクトリー・スペースの使用による再割り振り、および格納が必要です。これが完了したら、ジョブを再実行してください。

重大度

20

DFS1032I *name* PERMANENT I/O ERROR
 OCCURRED ON STOW - *ddname*

説明

name で識別されているブロックに関する STOW 操作によりディレクトリーの更新を試みている最中に、永続入出力エラーが DD ステートメントでシンボル名 (*ddname*) によって識別されているデータ・セットの PDS ディレクトリーで発生しました。*ddname* がメッセージに表示されていない場合は、エラーが発生したのは、シンボル名 "FORMAT" で識別されているデータ・セットです。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティのフェーズ 2 が異常終了し、IMS 異常終了コード 3007 が示されます。

プログラマーの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

重大度

20

DFS1033I **INVALID DIRECTORY BLOCK
READ, EXECUTION TERMINATE -
*ddname***

説明

DD ステートメントでシンボル名 (*ddname*) によって識別されているデータ・セット用のディレクトリー・ブロックは、長さが 256 バイトより大です。「*ddname*」がメッセージに表示されていない場合は、エラーが発生したのは、シンボル名 "FORMAT" で識別されているデータ・セットです。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティのフェーズ 2 が異常終了し、IMS 異常終了コード 3006 が示されます。

プログラマーの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

重大度

20

DFS1034I *label* PDB (SYSMSG=*pd*)

説明

このメッセージでは、区画記述子ブロック (PDB) の開始を識別します。*label* は、PDB の外部的に定義された名前です。SYSMSG キーワードが存在している場合は、*pd* は、システム・メッセージを受信するように定義された区画記述子 (PD) の外部的に定義された名前です。

重大度

0

DFS1035I **UTILITY TERMINATED FOR
REFERAL LIBRARY ERROR.
RETURN CODE=*return-code*.**

説明

MFS フェーズ 1 プロセッサが、IMS REFERAL ライブラリーに永続入出力エラーがあることを検出しています。メッセージに表示されている戻りコード *return-code* が、発生した障害のタイプを示しています。

コード
意味

1

OPEN が正常に行われなかった。

- 2 ディレクトリー検索での永続入出力エラー
- 3 リカバリー不能入出力エラーで、SYNAD 出口が取られた。
- 4 入力の予期しない終了で、EODAD 出口が取られた。

システムの処置

MFS 言語ユーティリティのフェーズ 1 が終了し、最も番号が大きい戻りコード 20 が z/OS に渡されます。

プログラマーの応答

ステップ 1 プリプロセッサによって検出されたエラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

重大度:
20

DFS1036I *label* PD PID=*nn*

説明

このメッセージでは、区画記述子ブロック (PDB) 内で定義された区画記述子 (PD) を識別しています。*label* は、PD の外部的に定義された名前です。*nn* は、この PD によって使用される区画の識別子 (ID) です。

重大度

0

DFS1037I LPAGE/DPAGE SYMBOL TABLE
LIST FOR *name* SET.

説明

これは、'name' のラベルが付いた FMT 記述に関する LPAGE/DPAGE シンボル・テーブル・リストとして、後続出力を識別するために生成された、通知ヘッダ行です。メッセージ DFS1039I も参照してください。

重大度

0

関連情報

[DFS1039I](#)
fieldname use assign [ATTR] [PASSWORD]
[CURSOR] [EXTEND] [DPN] [RDPN] [PRN]
[RPRN] [FMT] [MSG] [****]

DFS1038I FIELD NAME SYMBOL TABLE LIST
FOR *name* FMT SET.

説明

これは、*name* のラベルが付いた FMT 記述で定義されたすべてのフィールド名に関するシンボル・テーブル・リストとして、後続出力を識別するために生成された、通知ヘッダ行です。メッセージ DFS1039I も参照してください。

重大度

0

関連情報

[DFS1039I](#)
fieldname use assign [ATTR] [PASSWORD]
[CURSOR] [EXTEND] [DPN] [RDPN] [PRN]
[RPRN] [FMT] [MSG] [****]

DFS1039I *fieldname use assign* [ATTR]
[PASSWORD] [CURSOR] [EXTEND]
[DPN] [RDPN] [PRN] [RPRN] [FMT]
[MSG] [****]

説明

このメッセージは、シンボル・テーブル・エントリーに関連した属性を表示するのに使用します。指定された DPAGE または LPAGE SOR=*name* に関するシンボル・テーブル・エントリーである可能性があります。指定された DFLD または MFLD *dfldname* に関するエントリーでもありえます。処理される特定のシンボル・テーブルは、出力にある以前のメッセージで識別されます。次のリストは、メッセージの定義を示しています。

名前

意味

fieldname

ユーザーの定義によるシンボル名

用途

特定の名前の出現回数 (10 進数)

assign

ブロック間識別のためにシンボルに割り振られた 10 進値

[ATTR]

フィールドに、フォーマット・セットの少なくとも 1 つの出力メッセージによって提供された動的属性情報が入っています。

[PASSWORD]

FMT に関する PASSWORD 定義の内部エントリー

[CURSOR]

このフィールドは、動的カーソル位置を設定したり、入力時にカーソル位置情報を受信したりする場合に使用します。

[EXTEND]

フィールドに、フォーマット・セットの少なくとも 1 つの出力メッセージによって提供された動的拡張属性情報が入っています。

[DPN]*

このフィールド名は、DIV ステートメントの宛先プロセス名パラメーターで参照されています。

[RDPN]*

このフィールド名は、DIV ステートメントの戻り宛先プロセス名パラメーターで参照されています。

[PRN]*

このフィールド名は、DIV ステートメントの 1 次リソース名パラメーターで参照されています。

[RPRN]*

このフィールド名は、DIV ステートメントの戻り 1 次リソース名パラメーターで参照されています。

***注:** 同じフィールド名が、上記の最後の 4 つのパラメーターのうちの複数のパラメーターで参照できますが、それらのパラメーターは、FORMAT 定義の異なる DIV セクションに現れる必要があります。そうでない場合は、エラー・メッセージ DFS1160I が出されることとなります。

[FMT]

このフィールドが FMT 記述子内で定義されています。

[MSG]

このフィールドが MSG 記述子内で参照されています。

[**]**

潜在的なエラーの可能性を示します。フィールドが FMT 記述内で定義されず、しかも MSG 記述子内で参照されていないか、フィールドが FMT 記述内で定義され、しかも MSG 記述子内で参照されなかったか、いずれかです。

プログラマーの応答

[****] で識別されているように、フィールドがエラーであることが検出された場合は、定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

メッセージ内にアスタリスクがなければ、0 であり、メッセージ内にアスタリスクが 4 つあれば、4 です。

DFS1040I	DEVICE MAPPING FOR FMT=name DEVICE=identification DPAGE=dp PHYSICAL PAGE=pp PDB=pdbname PD= pdname PID=nn
-----------------	--

説明

このヘッダーは、ユーザーがフォーマット、装置、装置ページ、および物理ページに関して定義した装置イメージ・マップを識別します。このメッセージの後に続くイメージは、次の規則に準拠します。

- 無保護の、指定されたフィールドは、下線文字でマークが付けられているイメージ内にロケーションがあります。
- 保護されている、指定されたフィールドは、コロン文字でマークが付けられているイメージ内にロケーションがあります。
- イメージ内のリテラルは、定義されているロケーションに移されて表示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

FMT ステートメント上のラベル

identification

DEVICE=type (type は、DEV TYPE= オペランドでコーディングされたパラメーター) および TYPE=name (name は、DIV TYPE= オペランドでコーディングされた OUTPUT、INPUT、INOUT のいずれか) から成っています。

dp

DIV 内の DPAGE 番号

pp

DPAGE 内の物理ページ番号

pdbname

この装置で使用される区画記述子ブロック (PDB) の名前、またはこの DPAGE で使用される区画記述子 (PD) の名前

nn

この DPAGE によって使用される区画の ID

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

重大度:

0

DFS1041**ABNORMAL TERMINATION -
STATUS CODE DHxx**

説明

コマンド・レベル・インターフェースが、プログラミング・エラーが原因で生じた条件を検出したか、DL/I がコマンド・レベル・インターフェースにプログラミング・エラー以外のエラーを示す状況コードを戻しました。DH は、DL/I バッチでの HLPI の使用を示します。xx 値は DL/I、またはコマンド・レベル・インターフェース状況コードです。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 1041 が示されません。

プログラマーの応答

状況コードの説明については、「IMS V15 アプリケーション・プログラミング」および DL/I 状況コード情報を参照してください。

問題判別:

4、11、19、およびマクロ DFSHLPDS のリストを入手します。

関連資料

[DL/I 状況コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[1041 \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1042I **label DPAGE PD NAME CANNOT BE FOUND**

説明

DPAGE ステートメントの PD キーワードで指定された区画記述子 (PD) が、REFERAL ライブラリーで検出されませんでした。label は、PD ステートメントを参照する DPAGE ステートメントの名前です。

システムの処置

戻りコード 12 が設定され、処理は次の DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

DPAGE ステートメントの PD キーワードで名前が指定されている PD が、REFERAL ライブラリーで定義されているか確認してください。

問題判別:

2、8、16

重大度:

12

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1043I **THE DEV STATEMENT SPECIFIES PDB= , BUT THIS DPAGE STATEMENT DOES NOT SPECIFY PD=. THIS COMBINATION IS INCOMPATIBLE.**

説明

PDB キーワードは DEV ステートメントに存在していましたが、PD キーワードがこの DPAGE ステートメントで検出されませんでした。DEV ステートメントが PDB

キーワードを指定するときは、いつでも区分化およびスクロールが選択されています。そこで、各 DPAGE ステートメントでは、DEV ステートメントで参照されている区画記述子ブロック (PDB) 定義内の区画記述子 (PD) ステートメントの 1 つを参照する必要があります。

システムの処置

戻りコード 12 が設定され、DPAGE ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答

それぞれの DPAGE ステートメントで PD キーワードをコーディングするか、DEV ステートメントの PDB キーワードを除去してください。

重大度:

12

DFS1044I **label DEV PDB NAME CANNOT BE FOUND**

説明

DEV ステートメントの PDB キーワードで指定された区画記述子ブロック (PDB) が、REFERAL ライブラリーで検出されませんでした。label は、PDB を参照する DEV ステートメントの名前です。

システムの処置

戻りコード 12 が設定され、処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

DEV ステートメントの PDB パラメーターで名前が指定されている PDB が、REFERAL ライブラリーで定義されているか確認してください。

問題判別:

2、8、16

重大度:

12

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1045W **label BACKOUT NOT PERFORMED FOR NON-RECOVERABLE DBD=**

説明

バックアウト処理中に、リカバリー不能データベースが検出されました。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS1046E I/O BUFFER GETMAIN FAILED

説明:

BSAM ブロックを読み取るために 32K 入出力バッファを要求するための GETMAIN への呼び出しが失敗しました。

システムの処置:

ユーティリティは、戻りコード RC=36 で終了します。

ユーザーの処置:

SPOOL 0 内に十分なストレージがあること、およびその他のジョブが割り振るストレージが多すぎないことを確認してください。

モジュール:

DFSURDDO

DFS1047I label SYMSMG=DFLD LABEL NOT DEFINED IN EVERY PHYSICAL PAGE [name IN DPAGE].

説明

SYMSMG (システム・メッセージ) の DFLD ラベルは、すべての物理ページのそれぞれごとに定義する必要があります。DPAGE が定義されている場合は、メッセージの *name IN DPAGE* 部分が印刷されます。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、内部名がプリプロセッサによって生成されます。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

2、8、16

重大度:

12

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1048I name DATE=mm/dd/yy TIME=hh.mm.ss CREATED.

説明

name には、FMT または MSG ラベル、ブロックのタイプ - DOF、DIF、または MSG、ブロックのサイズおよび 16 進数機構、装置タイプ、モデル (3270 または 3270P の場合)、および EBCDIC 解釈済み機構が含まれます。このメッセージでは、ブロックを識別し、ブロックが SEQBLKS データ・セットで作成されると、ユーザーに通知します。DATE には、月 (*mm*)、日 (*dd*)、および年 (*yy*) が含まれます。TIME には、時 (*hh*)、分 (*mm*)、および秒 (*ss*) が含まれます。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

重大度:

0

DFS1049I name DATE=mm/dd/yy TIME=hh.mm.ss NOT CREATED.

説明

name には、FMT または MSG ラベル、記述のタイプ FMT または MSG が含まれます。指定されたブロックは、1 つ以上の先行メッセージによって示された作成時間中に 1 つ以上のエラーが検出されたため、オンライン処理用としては作成されませんでした。DATE および TIME が、ブロックが処理されていた時を示します。DATE には、月 (*mm*)、日 (*dd*)、および年 (*yy*) が含まれます。TIME には、時 (*hh*)、分 (*mm*)、および秒 (*ss*) が含まれます。

システムの処置

処理は、次の DEV,FMT セット、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

エラーの FMT または MSG を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

2、8、16

重大度:

12

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1050I name DATE=mm/dd/yy TIME=hh.mm.ss NOT ADDED.

説明

name には、FMT または MSG ラベル、ブロックのタイプ - DOF、DIF、または MSG、ブロックのサイズおよび機能 (16 進数)、装置タイプ、モデル (3270 または 3270P の場合)、および EBCDIC 解釈済み機構が含まれます。ブロックがバッチ・ユーティリティー 実行によって作成され、重複ブロックが SEQBLKS データ・セットで検出された時点で、このメッセージが書き込まれます。このメッセージは、以前に作成された重複ブロックが、オンライン・ライブラリーに追加されることは

ないことをユーザーに知らせるものです。DATE には、月 (*mm*)、日 (*dd*)、および年 (*yy*) が含まれます。TIME には、時 (*hh*)、分 (*mm*)、および秒 (*ss*) が含まれます。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

重大度:

4

第 25 章 DFS メッセージ DFS1051I - DFS1100I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1051I *name* DATE=*mm|dd|yy*
 TIME=*hh.mm.ss* IGNORED.

説明

name には、FMT または MSG ラベル、ブロックのタイプ FMT または MSG が含まれます。指定されたブロックで、MFSBTCH1 バッチ・ユーティリティー実行中に作成時エラーがあり、オンライン処理用として作成できませんでした。このメッセージは、ブロックがオンライン・ライブラリーに追加されることはなく、オンライン・ライブラリーに重複ブロックが存在した場合は、削除されることを示します。DATE には、月 (*mm*)、日 (*dd*)、および年 (*yy*) が含まれます。TIME には、時 (*hh*)、分 (*mm*)、および秒 (*ss*) が含まれます。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答

後で MFSBTCH1 ユーティリティーの実行を通して訂正するのでなければ、MSG または FMT 定義を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

重大度:
8

DFS1052I *label* TABLE NOT FOUND.

説明

DFLD OPCTL= オペランドで参照されているオペレーター制御テーブル名が、REFERAL ライブラリーで検出されませんでした。*label* は、TABLE マクロで外部的に定義された名前です。

システムの処置

処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から正常に続行されます。

プログラマーの応答

エラーの TABLE を定義し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:
2、8、16

重大度:
12

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1053I *label* TABLE HAS NO ENTRIES.

説明

DFLD マクロで参照されているオペレーター制御テーブル名に IF エントリーがありません。*label* は、TABLE ステートメントで外部的に定義された名前です。

システムの処置

処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

エラーの TABLE を再定義し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:
2、8、16

重大度:
12

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1054I *label* DEVICE LINES TOO SMALL
 FOR PDB REQUIREMENTS

説明

装置に関して定義された縦線 (行) の数が不十分で、区画記述子ブロック (PDB) の画面の縦の長さ要件を満たせません。*label* は、PDB を必要とする DEV ステートメントの名前です。

システムの処置

戻りコード 12 が設定され、処理は次の DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

DEV ステートメントの TYPE キーワードで使用されている 3270 シンボル名 (3270-An) で指定されている画

画面サイズに誤りがある可能性があります。あるいは、DEV ステートメントの PDB キーワードで使用されている PDB にエラーがある可能性があります。エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

2、8、16

重大度:

12

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1055I **label DEVICE COLUMNS TOO SMALL FOR PDB REQUIREMENTS**

説明

装置の水平線 (列) の数が不十分で、区画記述子ブロック (PDB) の画面の幅要件を満たしません。label は、PDB を必要とする DEV ステートメントの名前です。

システムの処置

戻りコード 12 が設定され、処理は次の DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

DEV ステートメントの TYPE キーワードで使用されている 3270 シンボル名 (3270-An) で指定されている画面サイズに誤りがある可能性があります。あるいは、DEV ステートメントの PDB キーワードで使用されている PDB にエラーがある可能性があります。エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

2、8、16

重大度:

12

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1056I **label ** WARNING ** DEVICE SCREEN SIZE AND PDB SCREEN REQUIREMENTS CANNOT BE VERIFIED.**

説明

label は、区画記述子ブロック (PDB) を指定する DEV ステートメントの名前です。PDB によって使用される区画の CELLSIZE 仕様は、00 x 00 です。PDB 仕様は 3270 シンボル名 (3270-An) で定義されている画面サ

イズに収まるか、言語ユーティリティーでは検証できません。

システムの処置

戻りコード 4 が設定され、処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答

3270 シンボル名 (3270-An) によって画面サイズが、指定されている PDB に見合う十分な大きさに指定されているか検証してください。

重大度:

4

DFS1058E **REASON = xxx - reason_text**

説明

モジュール DFSTOCL0、DFSDVBH0、DFSNOTB0、DFSDVSM0、または DFSFXC50 で、予期しない条件が検出されました。この問題は、IMS システム・エラーです。

次の表は、メッセージ内の理由コード xxx と、理由テキスト reason_text を示しています。

表 9. DFS1058E の理由コード	
理由コード	理由テキスト
010	NON-VSAM BQEL - BUFFER NOT WRITTEN, CANNOT FREE BQEL
015	WRITE ERROR - BUFFER NOT WRITTEN, CANNOT FREE BQEL
020	NON-VSAM BQEL - BUFFER NOT WRITTEN, CANNOT FREE BQEL
025	WRITE ERROR - BUFFER NOT WRITTEN, CANNOT FREE BQEL
030	RPLI ACTIVE ON ENTRY TO DFSDVSM0
031	VSI UPDATE FAILED
032	BAD RETURN CODE ON SVC 109
033	NOT AN IMS RPLI
034	WRITE ERRORS ON EVERY BUFFER IN THE SUBPOOL
035	CI RDF/CIDF ARE BAD
036	CI CONTROL INFORMATION IS BAD
037	RPL NOT AN IMS RPL
040	NON-VSAM BQEL - BUFFER NOT WRITTEN, CANNOT FREE BQEL
045	WRITE ERROR - BUFFER NOT WRITTEN, CANNOT FREE BQEL

システムの処置

メッセージが発行された後、IMS が異常終了して IMS 異常終了コード 0845 が出力され、メモリー・ダンプが取られます。

システム・プログラマーの応答

理由コードおよびテキストを使用して、問題の原因を判別します。

レジスター 1 の値を確認し、IMS 異常終了コード 0845 の分析情報を参照することもできます。

モジュール:

DFSDVSM0、DFSDVBH0、DFSTOCL0、DFSFXC50

関連情報

[IMS 異常終了 0845](#)

DFS1060I *name* BUFFER SIZE=*size*

説明

このメッセージでは、ユーザーにこの出力または入力メッセージに関する最大バッファ・スペース所要量を知らせます。出力メッセージとして、*name* には、FMT ラベルが含まれ、*size* には、3270 モニターに関するライン・バッファ・サイズ (10 進数)、または他のすべての装置タイプに関する作業バッファ・サイズ (10 進数) が含まれます。入力メッセージとしては、「*name*」には、MSG ラベルが含まれ、*size* には、作業バッファ・サイズ (10 進数) が含まれます。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

システム・プログラマーの応答

MFS 定様式メッセージに関する入出力プール・サイズ要件の計算に、この値を使用してください。

DFS1061I **NO STORAGE AVAILABLE FOR**
CDE=xxxxxxxx PGM=yyyyyyyy
JOB=zzzzzzzz

説明

順次バッファリング (SB) では、CDE ID が xxxxxxxx の制御ブロック用として仮想記憶域を獲得できませんでした。

システムの処置

SB の使用が限定されているか、不可能です。

ユーザーの処置

LSO=N の IMS DB/DC の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振り、LSO が N と等しくない IMS DB/DC、または IMS バッチの場合は、専用ストレージの量を増やして割り振ってください。DFSSBSCD、DFSSBPSS、および DFSSBCAR の場合は、専用ストレージの量を増やして割り振ってください。

DFS1062I **- CODE=x, NOT SUFFICIENT SBH**
BUFFER STORAGE FOR
PSB=aaaaaaaa; PCB=bbbbbbbb;
DDN=cccccccc

説明

IMS では、PSB aaaaaaaaa の PCB/データ・セットの対 bbbbbbbb/ccccccc に関して、SB バッファ用の仮想記憶域を割り振れませんでした。

- CODE=1 の場合は、IMS が IMS.PROCLIB のメンバー DFSVSMxx で指定された MAXSB ストレージ限度を超えたため、障害が発生しました (IMS オンラインの場合)。IMS が割り振りを試みていたストレージの量については、メッセージ DFS1063I を参照してください。
- CODE=2 の場合は、IMS が z/OS に要求したストレージを獲得できなかったため、障害が発生しました。

システムの処置

システムの処置は、以下の CODE の値によって決まります。

- CODE=1 の場合は、IMS は、リストされている PCB/データ・セットの対に関して順次バッファリング (SB) を活動化する前に、別のオンライン・アプリケーションが SB ハンドラー・バッファ・ストレージを解放するまで待ちます。
- CODE=2 の場合は、IMS がリストされている PCB/データ・セットの対に関して順次バッファリングを活動化することはありません。

ユーザーの処置

応答は、以下の CODE の値によって決まります。

- CODE=1 の場合は、MAXSB ストレージ限度を上げてください (該当する場合)。
- CODE=2 の場合は、CSA ストレージ (LSO=N の IMS DB/DC の場合)、または専用ストレージ (LSO≠N の IMS DB/DC、IMS バッチ、および DBCTL の場合) の量を増やして割り振ってください。

DFS1063I **- REQUESTED STORAGE=**
xx,xxx,xxx; AVAILABLE STORAGE=
xx,xxx,xxx

説明

このメッセージは、IMS が割り振りを試みていたストレージの量を示し、メッセージ DFS1062I に付随して出されます。割り振り失敗の説明については、そのメッセージを参照してください。

関連情報

385 ページの『DFS1062I』

- CODE=x, NOT SUFFICIENT SBH BUFFER
STORAGE FOR PSB=aaaaaaaa;
PCB=bbbbbbbb; DDN=cccccccc

**DFS1064I - GETIOSB NOT SUCCESSFUL FOR
 PSB=xxxxxxxx**

説明

IMS が PSB xxxxxxxx に関して IOSB 制御ブロックを割り振れませんでした。

システムの処置

順次バッファリング (SB) では、一部の PCB または一部のデータベース・データ・セット、あるいはその両方については、オーバーラップ順次読み取りを使用しません。

ユーザーの処置

LSO=N の IMS DB/DC の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振り、LSO≠N の IMS DB/DC、IMS バッチ、または DBCTL の場合は、専用ストレージの量を増やして割り振ってください。

**DFS1065A - UNABLE TO WRITE SBH IMAGE-
 CAPTURE TO IMS LOG**

説明

IMS は、要求された SB ハンドラー・イメージ・キャプチャー・レコードを IMS ログ・データ・セットに書き込めませんでした。データ・セットが開いていなかったからです。

システムの処置

IMS は、順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャー・レコードを IMS ログ・データ・セットに書き込みません。

ユーザーの処置

IMS ログ・データ・セットを定義している DD ステートメントが存在し、しかも正しいか確認してください。

**DFS1066I -xx //DFSCTL CONTROL-
 STATEMENT ERROR: aaaaaaa**

説明

順次バッファリング (SB) 制御ステートメントにエラーが含まれています。サブコード xx は、エラーのタイプごとに固有であり、aaaaaaa はサブコードごとの記述です。

次にサブコードおよび記述のリストを挙げてあります。

コード (xx)

記述 (aaaaaaa)

01

PARAMETER VALUE IS NOT NUMERIC

02

"=" IS MISSING IN KEYWORD PARAMETER

03

INVALID STATEMENT-TYPE IN //DFSCTL

04

INVALID PARAMETER VALUE

05

PARAMETER VALUE IS TOO LONG

06

INVALID KEYWORD

07

STOP= KEYWORD NOT HIGHER THAN START=

08

SBPARM STATEMENT HAS NO KEYWORD
PARAMETERS

10

EXTRANEIOUS COMMA (,)

システムの処置

IMS は、エラーが含まれている SB 制御ステートメントを廃棄します。エラーについて詳しくは、付随して出される可能性のあるエラー・メッセージ (DFS1067I、DFS1068I、DFS1069I) を参照してください。

ユーザーの処置

発行されているエラー・メッセージを基にして、SB 制御ステートメントのエラーを訂正してください。

**DFS1067I ERROR IS IN THIS KEYWORD
 PARAMETER: parameter**

説明

順次バッファリング (SB) 制御ステートメントにエラーが含まれています。IMS は、このエラーを記述したメッセージ DFS1066I を以前に出しています。

システムの処置

IMS は、エラーが含まれている SB 制御ステートメントを廃棄します。

ユーザーの処置

メッセージ DFS1066I に示されている情報に基づいて、エラーを訂正してください。

関連情報

386 ページの『DFS1066I』

-xx //DFSCTL CONTROL-STATEMENT ERROR:
aaaaaaa

DFS1068I **ERROR IS IN CARD(S) LISTED
BELOW**

説明

順次バッファリング (SB) 制御ステートメントにエラーが含まれています。IMS は、エラーのタイプを記述したメッセージ DFS1066I を最初に出します。次にこのメッセージを出し、誤りのある制御ステートメントの内容をリストしたメッセージ DFS1069I を最後に出します。

システムの処置

IMS は、エラーが含まれている制御ステートメントを廃棄します。

ユーザーの処置

メッセージ DFS1066I に示されている情報に基づいて、エラーを訂正してください。

関連情報

386 ページの『DFS1066I』

-xx //DFSCTL CONTROL-STATEMENT ERROR:
aaaaaaa

DFS1069I *records/lines in error*

説明

このメッセージには、順次バッファリング (SB) 制御ステートメントの、エラーが含まれているレコードまたは行がリストされています。IMS は、このエラーを記述したメッセージ DFS1066I を以前に出しています。

システムの処置

IMS は、エラーが含まれている SB 制御ステートメントを廃棄します。

ユーザーの処置

メッセージ DFS1066I に示されている情報に基づいて、エラーを訂正してください。

関連情報

DFS1066I

-xx //DFSCTL CONTROL-STATEMENT ERROR:
aaaaaaa

DFS1070I **SB-COMPARE-OPTION DETECTED
A MISMATCH FOR PSB=xxxxxxx**

説明

説明と処置については、メッセージ DFS1070W を参照してください。

関連情報

DFS1070W

SB-COMPARE-OPTION DETECTED A MISMATCH
FOR PSB=xxxxxxx

DFS1070W **SB-COMPARE-OPTION DETECTED
A MISMATCH FOR PSB=xxxxxxx**

説明

順次バッファリング (SB) COMPARE オプションが、SB バッファ・ハンドラーが OSAM バッファ・ハンドラーに戻った場合、DASD に保管されているブロックの内容と一致しないことを検出しました。

この不一致が IMS エラーであることを示すメッセージ DFS1070I が非データ共用環境で出されます。

この不一致は正当である可能性があることを示すメッセージ DFS1070W がデータ共用環境で出されます。

システムの処置

IMS が問題判別のためにスナップ・ダンプを作成します。

非データ共用環境では、IMS は疑似異常終了コード 0152 を発行します。

ユーザーの処置

問題判別に備えて、すべての SNAP 出力を保管してください。

DFS1071I **INVALID DATA SET ATTRIBUTES
FOR //DFSCTL**

説明

//DFSCTL データ・セットに無効のデータ・セット属性があります。

システムの処置

IMS は、開始バッチ、またはオンライン従属領域を異常終了させます。

ユーザーの処置

次のことを確認して、エラーを訂正してください。

- データ・セットは順次ファイルと、区分データ・セット (PDS) の既存のメンバーのいずれかである。
- レコード・フォーマットは F、FB、または FBS である。
- レコード・サイズは 80 である。

**DFS1072I PAGE-FIXING FAILED FOR
PSB=aaaaaaaa; PCB=bbbbbbbb;
DDN=cccccccc**

説明

IMS は、順次バッファリング (SB) バッファ用、または制御ブロック用のストレージの、ページ固定化ができませんでした。原因はおそらく、実ストレージが使用不可であったからです。

IMS は、PSB aaaaaaaaa の PCB/データ・セットの対 bbbbbbbb/cccccccc の順次バッファリングの開始を試みている最中に、このページの固定化を試みました。

システムの処置

IMS では、PSB aaaaaaaaa の PCB/データ・セットの対 bbbbbbbb/cccccccc に関して、SB を使用しません。

ユーザーの処置

順次バッファリングに対して割り振られるバッファ・スペースが多すぎないか判別してください。

**DFS1073I LCE ALLOCATION FAILED FOR
PSB=aaaaaaaa ;PCB=bbbbbbbb ;D
DN=cccccccc**

説明

IMS は、このサブシステムに追加のローカル・キャッシュ・エントリ (LCE) を割り振れませんでした。1200 という順次バッファリング・バッファ・セット (12000 バッファ) の限度を超えました。IMS は、PSB aaaaaaaaa の PCB/データ・セットの対 bbbbbbbb/cccccccc の順次バッファリングの開始を試みている最中に、LCE の割り振りを試みました。

システムの処置

IMS では、PSB aaaaaaaaa の PCB/データ・セットの対 bbbbbbbb/cccccccc に関して順次バッファリングは使用しません。

ユーザーの処置

順次バッファリングに対して割り振られるバッファが多すぎないか判別してください。

モジュール:
DFSSBEVO

**DFS1075A NO STORAGE AVAILABLE FOR
DFSSBSCD**

説明

IMS は、システム目録ディレクトリー (SCD) への順次バッファリング (SB) 拡張用の仮想記憶域の獲得ができませんでした。

システムの処置

IMS が異常終了します。

ユーザーの処置

IMS バッチの場合は、専用ストレージの量を増やして割り振り、IMS DB/DC または DBCTL の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振ってください。

**DFS1076A xxxxxxxx CAN NOT BE LOADED,
RC=nn**

説明

IMODULE マクロが、モジュール xxxxxxxx をロードできませんでした。IMODULE 戻りコード nn の説明については、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

IMS が異常終了コード 0153 を発行します。

ユーザーの処置

IMODULE マクロから戻されたコードに基づいて、エラーを訂正してください。

関連資料

[IMODULE 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0153](#)

**DFS1077A ERROR ON SBONLINE CONTROL
CARD: bbbbbbbbbbbb**

説明

IMS.PROCLIB のメンバー DFSVSMxx の SBONLINE 制御ステートメントにエラーがあります (IMS オンラインの場合)。変数 bbbbbbbbbbbb は、エラーのタイプを記述しています。エラーは、次のいずれかである可能性があります。

- SBONLINE の後にブランクまたはコンマが続いていない。
- MAXSB 以外のパラメーターが指定されている。

- MAXSB パラメーター値が数値でないか、その後にブランクが少なくとも1つ続いていない。

システムの処置

IMS は、順次バッファリング (SB) を使用しますが、誤りのある SBONLINE 制御ステートメントで指定されたパラメーターについては、すべて無視します。

ユーザーの処置

SBONLINE 制御ステートメントのエラーを訂正してください。

DFS1078I (text of I/O error message)

説明

//DFSSTAT DD ステートメントを処理している最中に、IMS が入出力エラーを検出しました。このメッセージには、z/OS SYNADAF マクロで用意されている標準入出力エラー・メッセージのテキストが含まれます。

システムの処置

IMS は、//DFSSTAT データ・セットへの情報の書き込みを停止します。

ユーザーの処置

このメッセージの内容に基づいて、エラーを訂正してください。

関連資料

[z/OS: SYNADAF エラーの説明](#)

DFS1079A **INSUFFICIENT STORAGE TO PROCESS //DFSCTL CONTROL STATEMENTS**

説明

IMS が十分な仮想記憶域を獲得できなかったため、//DFSCTL DD ステートメントで定義されたデータ・セットに保管されている制御ステートメントを処理できませんでした。

システムの処置

IMS は、制御ステートメントの一部または全部を無視します。

ユーザーの処置

IMS バッチまたは DBCTL の場合は、専用ストレージの量を増やして割り振り、IMS DB/DC の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振ってください。

DFS1080A **INVALID region type**

説明

順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が無効な領域タイプで実行されました。//EXEC PARM フィールドの最初のサブパラメーターで指定されるバッチ領域タイプは、DLI、DBB、または ULU である必要があります。

システムの処置

IMS は、テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

領域タイプを訂正してください。

DFS1081A **SB ENVIRONMENT NOT SET-UP: DFSSBHD0 CAN NOT EXECUTE**

説明

IMS は、順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) を実行するために該当する環境のセットアップができませんでした。このメッセージは、エラーが発生した理由を記述した他のメッセージの後に続けて表示されます。

ユーザーの処置

IMS によって送信された他のエラー・メッセージを基にして、エラーを訂正してください。

DFS1082A **SYSPRINT COULD NOT BE OPENED**

説明

順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が、//SYSPRINT データ・セットを開けませんでした。このメッセージは、エラーが発生した理由を記述した z/OS メッセージの後に続けて表示されます。

システムの処置

IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

テスト・プログラムのデータ・セットを定義している //SYSPRINT DD ステートメントが存在し、しかも正しいか確認してください。z/OS によって発行されたメッセージも参照してください。

DFS1083A **SYSIN COULD NOT BE OPENED**

説明

順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が、//SYSIN データ・セットを開けません。

でした。このメッセージは、エラーが発生した理由を記述した z/OS メッセージの後に続けて表示されます。

システムの処置

IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

テスト・プログラムのデータ・セットを定義している //SYSIN DD ステートメントが存在し、しかも正しいか確認してください。z/OS によって発行されたメッセージも参照してください。

DFS1084A SYSUT1 COULD NOT BE OPENED

説明

順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が、SB イメージ・キャプチャー・ログ・レコードが含まれている //SYSUT1 データ・セットを開けませんでした。このメッセージは、エラーが発生した理由を記述した z/OS メッセージの後に続けて表示されます。

システムの処置

IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

テスト・プログラムのデータ・セットを定義している //SYSUT1 DD ステートメントが存在し、しかも正しいか確認してください。z/OS によって発行されたメッセージも参照してください。

DFS1085A RECORD FORMAT OF SYSUT1 IS NOT VARIABLE

説明

順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャー・ログ・レコードが含まれているデータ・セットのレコード・フォーマットが、可変長ではありません。

システムの処置

IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

データ・セットのレコード・フォーマットを可変長に変更してください。

DFS1086A PSB HAS NO DB-PCB: DFSSBHD0 CAN NOT EXECUTE

説明

順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) に関して JCL で指定された PSB に、データベース PCB がありません。

SB テスト・プログラムは、SB イメージ・キャプチャー・レコードを生成したアプリケーション用として使用されたものと同じ PSB および DBD を使用して、実行する必要があります。

システムの処置

IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

SB イメージ・キャプチャー・レコードを生成したアプリケーション用として使用されたものと同じ PSB および DBD を使用して、SB テスト・プログラムを実行してください。

DFS1087A INVALID PCB-NUMBER IN IMAGE CAPTURE RECORD

説明

順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャー・ログ・レコード内の相対データベース PCB 番号が、SB テスト・プログラム (DFSSBHD0) の実行に使用された PSB のデータベース PCB のいずれにも一致しません。

システムの処置

IMS は、メッセージ DFS1096I を発行し、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

イメージ・キャプチャー・レコードの作成に使用された PSB が、SB テスト・プログラムの実行に使用された PSB と同じであるか確認してください。

関連情報

392 ページの『DFS1096I』
IC RECORD FOR: PCB-NBR=nnnn,
DBD=aaaaaaaa, DSG-NBR=mmmm,
DDN=bbbbbbbb

DFS1088A DBD-NAMES OF PSB AND IN IMAGE-CAPTURE RECORDS ARE NOT IDENTICAL

説明

SB イメージ・キャプチャー・ログ・レコード内の DBD 名が、SB テスト・プログラム (DFSSBHD0) の実行に使用された PSB のデータベース PCB の DBD 名と一致しません。

システムの処置

IMS は、メッセージ DFS1096I および DFS1097I を発行し、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

イメージ・キャプチャー・レコードの作成に使用された PSB が、SB テスト・プログラムの実行に使用された PSB と同じであるか確認してください。

関連情報

392 ページの『DFS1096I』
IC RECORD FOR: PCB-NBR=nnnn,
DBD=aaaaaaaa, DSG-NBR=mmmm,
DDN=bbbbbbbb

393 ページの『DFS1097I』
DBD NAME ACCORDING TO PSB: aaaaaaaa

**DFS1089A INVALID DSG-NUMBER IN IMAGE
 CAPTURE RECORD**

説明

順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャー・ログ・レコード内の相対データベース DSG 番号が、SB テスト・プログラム (DFSSBHD0) の実行に使用された DSG 制御ブロックのいずれにも一致しません。

システムの処置

IMS は、メッセージ DFS1096I を発行し、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

イメージ・キャプチャー・レコードの作成に使用された PSB および DBD が、SB テスト・プログラムの実行に使用されたものと同じであるか確認してください。

関連情報

392 ページの『DFS1096I』
IC RECORD FOR: PCB-NBR=nnnn,
DBD=aaaaaaaa, DSG-NBR=mmmm,
DDN=bbbbbbbb

**DFS1090A DATA SET HAS BEEN CONVERTED
 TO VSAM.**

説明

順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャーの後で、OSAM データベース・データ・セットが VSAM データベース・データ・セットに変更されました。SB は、VSAM データベース・データ・セットをサポートしません。

システムの処置

IMS は、メッセージ DFS1096I を発行し、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

関連情報

392 ページの『DFS1096I』
IC RECORD FOR: PCB-NBR=nnnn,
DBD=aaaaaaaa, DSG-NBR=mmmm,
DDN=bbbbbbbb

**DFS1091W LOAD-PROCOPT FOR
 DBD=xxxxxxx, DB DATA SETS
 CANNOT BE OPENED.**

説明

DBD xxxxxxxx を参照する PCB にロード処理オプションがありますが、これは順次バッファリング (SB) テスト・プログラムでサポートされていません。

システムの処置

ほとんどの場合に、テスト・プログラムは、PCB で参照されているデータベース・データ・セットを開くこともなく、ロード処理オプションのある PCB で参照されているデータベース・データ・セットに関して、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードを処理することもあります。プログラム終了時に、テスト・プログラムがメッセージ DFS2346W を発行する可能性があります。

ユーザーの処置

DFS2346W メッセージがプログラム終了時に // SYSPRINT データ・セットに書き込まれるかどうか、チェックして確認してください。書き込まれる場合は、SB テスト・プログラムによるイメージ・キャプチャー・ログ・レコードの再処理は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードを生成したアプリケーションの処理と一致しないことに留意してください。メッセージ DFS2346W が出されなかった場合は、このメッセージ (DFS1091W) は無視してください。

関連情報

688 ページの『DFS2346W』
NBR OF SELECTED RECORDS SKIPPED
BECAUSE DB DATA SETS ARE NOT OPEN:
nnnnnnnn

**DFS1092A DD-NAMES IN PSB/DBD AND IN
 IMAGE CAPTURE RECORDS ARE
 NOT IDENTICAL**

説明

順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャー・ログ・レコード内の DD 名は、SB テスト・プログラムの実行に使用された PSB によって参照されている DBD 内の DD 名には一致しません。

システムの処置

IMS は、メッセージ DFS1096I および DFS1098I を発行し、テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

イメージ・キャプチャー・レコードの作成に使用された PSB、DBD、および DBD DD 名が、SB テスト・プログラムの実行に使用されたものと同じであるか確認してください。

関連情報

392 ページの『DFS1096I』
IC RECORD FOR: PCB-NBR=nnnn,
DBD=aaaaaaaa, DSG-NBR=mmmm,
DDN=bbbbbbbb

393 ページの『DFS1098I』
DDNAME ACCORDING TO DBD: aaaaaaaaa

**DFS1093A INVALID SUBRECORD-TYPE IN
 IMAGE CAPTURE RECORD**

説明

順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャー・ログ・レコードには、サブレコード・タイプ・フィールドに無効のコードが含まれています。

システムの処置

IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

SB テスト・プログラムに関する //SYSUT1 データ・セットに、SB イメージ・キャプチャー・ログ・レコードが含まれているか確認してください。

**DFS1094W PREMATURE END-OF-FILE ON
 SYSUT1**

説明

順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が、アプリケーションのイメージ・キャプチャー・レコードをすべて処理しないうちに、//SYSUT1 データ・セットの終わりに達しました。

システムの処置

SB テスト・プログラムは、//SYSUT1 のファイルの終わりで正常に終了します。

ユーザーの処置

//SYSUT1 データ・セットに、必要なイメージ・キャプチャー・レコードすべてが入っていることを確認してください。SB テスト・プログラムにイメージ・キャプチャー・レコードの一部だけを処理させたかった場合は、正しいイメージ・キャプチャー・レコードが処理されたことを確認してください。

**DFS1095A APPLICATION-START RECORD
 NOT FOUND**

説明

順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) は、//SYSUT1 データ・セットでアプリケーションの開始を記述したイメージ・キャプチャー・レコードを検出できませんでした。

システムの処置

IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

次の点を確認してください。

- //SYSUT1 データ・セットに、必要なイメージ・キャプチャー・レコードすべてが含まれているか。
- SB テスト・プログラムは、イメージ・キャプチャー・レコードを作成したアプリケーション用として使用されたものと同じ PSB を使用して実行されているか。
- イメージ・キャプチャー・オプションは、イメージ・キャプチャー・レコードを作成すると想定されていたアプリケーション用として正常に活動化されたか。
- SB テスト・プログラムに関する SELECT 制御ステートメントでの指定が正しいか (このステートメントを使用して、アプリケーションの特定の実行のイメージ・キャプチャー・レコードを選択した場合)。

**DFS1096I IC RECORD FOR: PCB-NBR=nnnn,
 DBD=aaaaaaaa, DSG-
 NBR=mmmm, DDN=bbbbbbbb**

説明

順次バッファリング (SB) テスト・プログラムが、イメージ・キャプチャー・レコードに関連したエラーを検出しました。

このメッセージには、相対 PCB 番号、DBD 名 (PCB マクロでコーディングされている)、DSG 番号、およびこのレコードの DD 名が示されています。最初のデータ

ベース PCB および DSG は、相対番号が 1 です。場合によっては、PCB 番号、DSG 番号、および DBD 名のフィールドは、初期設定されないことがあります。例えば、アプリケーション・プログラムに対して定義されていない内部 PCB に関して、DL/I が入出力操作を実行する場合です。

システムの処置

IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

SB テスト・プログラムが検出したエラーのタイプの説明について、前に出されている IMS メッセージを参照し、それに従ってエラーを訂正してください。

DFS1097I	DBD NAME ACCORDING TO PSB: aaaaaaaa
-----------------	---

説明

イメージ・キャプチャー・レコードに保管された DBD 名が、データベース PCB に保管されている DBD 名と一致しません。このメッセージには、SB テスト・プログラムを実行するのに使用されたデータベース PCB に保管されている DBD 名 (PCB マクロでコーディングされた) が示されています。IMS は、前にメッセージ DFS1088A および DFS1096I を出して、追加の情報を提供しました。

システムの処置

IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

メッセージ DFS1088A および DFS1096I を基にして、エラーを訂正してください。

関連情報

390 ページの『DFS1088A』
DBD-NAMES OF PSB AND IN IMAGE-CAPTURE RECORDS ARE NOT IDENTICAL

392 ページの『DFS1096I』
IC RECORD FOR: PCB-NBR=nnnn,
DBD=aaaaaaaa, DSG-NBR=mmmm,
DDN=bbbbbbbb

DFS1098I	DDNAME ACCORDING TO DBD: aaaaaaaa
-----------------	---

説明

イメージ・キャプチャー・レコードに保管された DD 名が、DMB/DBD の IMS AMP 制御ブロックに保管されている DD 名と一致しません。このメッセージには、SB テスト・プログラムを実行するのに使用された DBD の

IMS AMP 制御ブロックに保管されている DD 名 (DATASET マクロでコーディングされた) が示されています。

IMS は、前にメッセージ DFS1092A および DFS1096I を出して、追加の情報を提供しました。

システムの処置

IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

メッセージ DFS1092A および DFS1096I を基にして、エラーを訂正してください。

関連情報

391 ページの『DFS1092A』
DD-NAMES IN PSB/DBD AND IN IMAGE CAPTURE RECORDS ARE NOT IDENTICAL

392 ページの『DFS1096I』
IC RECORD FOR: PCB-NBR=nnnn,
DBD=aaaaaaaa, DSG-NBR=mmmm,
DDN=bbbbbbbb

DFS1099A	DDNAME NOT FOUND IN ANY DBD
-----------------	------------------------------------

説明

順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が、PSB によって参照されているいずれの DBD のイメージ・キャプチャー・レコードに保管されている DD 名も検出できませんでした。

システムの処置

IMS は、メッセージ DFS1096I を発行し、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

イメージ・キャプチャー用として使用された PSB/DBD が、SB テスト・プログラムの実行に使用されたものと同じであるか確認して、エラーを訂正してください。

関連情報

392 ページの『DFS1096I』
IC RECORD FOR: PCB-NBR=nnnn,
DBD=aaaaaaaa, DSG-NBR=mmmm,
DDN=bbbbbbbb

DFS1100I	nnnnnn IS AN INVALID MESSAGE KEY.
-----------------	--

説明

内部論理エラーが発生しています。フォーマット・ユーティリティは、そのメッセージ・テーブルに存在しないメッセージの発行を試みています。nnnnnn は、そ

のメッセージのメッセージ・キーです。原因は、ユーザーによる変更にあると推定されます。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答

障害が起こった理由は、MFS 言語ユーティリティーへのユーザーによる変更以外にあるかどうか判別してください

問題判別:

2、8、16、36

重大度:

4

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 26 章 DFS メッセージ DFS1101I - DFS1150I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1101I **label FORMAT BLOCK HAS NO DEVICES.**

説明

フォーマット・ブロックが定義されましたが、これに関しては、DEV ステートメントが定義されませんでした。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1026I も参照してください。

システムの処置

処理は、次の FMT または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット定義を訂正し、MFS 言語ユーティリティを再実行してください。

重大度:
12

関連情報

376 ページの『DFS1027I』
name FORMAT DESCRIPTOR STRUCTURE:

DFS1102I **GENERATION TERMINATED FOR FORMAT SET.**

説明

ユーザー・フォーマット定義に、以前にエラー・メッセージで説明されていたエラーがありました。フォーマット定義、および関連メッセージ定義が以後の処理から削除されます。

システムの処置

処理は次の FMT セットから続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット定義を訂正し、MFS 言語ユーティリティを再実行してください。

重大度:
12

DFS1103I **label OUTPUT MESSAGE HAS NO SEGMENTS.**

説明

セグメントがまったく定義されていない出力メッセージ記述が検出されました。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1026I も参照してください。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ記述を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度:
12

関連情報

376 ページの『DFS1026I』
name MESSAGE DESCRIPTOR STRUCTURE:

DFS1104I **label INPUT MESSAGE HAS NO SEGMENTS.**

説明

入力メッセージにセグメントがないため、ブロックは削除されます。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1026I も参照してください。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度:
12

関連情報

376 ページの『DFS1026I』
name MESSAGE DESCRIPTOR STRUCTURE:

DFS1105I **label LPAGE HAS NO SEGMENTS.**

説明

出力メッセージ記述が、SEG または MFLD ステートメントが後に続かない LPAGE を定義しています。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1022I も参照してください。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度:
12

関連情報

375 ページの『DFS1022I』
label LPAGE

DFS1106I **label LPAGE DOES NOT HAVE
DPAGE name.**

説明

必須 SOR= dpagename パラメーターが LPAGE ステートメントに欠落しています。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度:
12

関連情報

375 ページの『DFS1022I』
label LPAGE

DFS1107I **label LPAGE REQUIRED LITERAL
MISSING IN COND=.**

説明

label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。このメッセージが発行されるのは、COND= パラメ

ーターが指定されていないか、LPAGE ステートメントで必須のリテラルが欠落しているか、またはその両方である場合です。メッセージ DFS1022I も参照してください。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度:
12

関連情報

375 ページの『DFS1022I』
label LPAGE

DFS1108I **label SEGMENT HAS NO FIELDS.**

説明

入力セグメントにそれに関するフィールドが定義されていません。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1023I も参照してください。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度:
12

関連情報

375 ページの『DFS1023I』
label PASSWORD

DFS1109I **MESSAGE HAS EXCEEDED
ALLOWABLE LENGTH.**

説明

入力メッセージが、最大許容長さ 32,767 バイトを超えています。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度:
12

DFS1110I **label WARNING SEGMENT HAS NO FIELDS. SEGMENT WILL BE SKIPPED BY ONLINE PROCESSING.**

説明

出力セグメントにそれに関するフィールドが定義されていません。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1023I も参照してください。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

4

DFS1111I **label MSG/LPAGE HAS NO SEGMENTS WITH FIELDS.**

説明

label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。MSG または LPAGE セグメントにフィールドが定義されていません。メッセージ DFS1022I も参照してください。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

12

DFS1112I **label LPAGE COND= PARAMETER SPECIFIED AN MFLD LABEL THAT CANNOT BE FOUND OR MFLD CONTAINS A LITERAL**

説明

CON *label* フィールドで参照される MFLD ラベルは、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1022I も参照してください。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

12

関連情報

[DFS1022I](#)
label LPAGE

DFS1113I **label DUPLICATE MFLD HAS BEEN DELETED.**

説明

この MSG 記述ですでに参照されている定義フィールド名 (*dflname*) を使用するメッセージ・フィールド (MFLD) 定義が検出されています。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1024I も参照してください。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度:

12

関連情報

375 ページの『[DFS1024I](#)』
label MFLD

DFS1114I **label DEVICE HAS NO DIVISIONS**

説明

それぞれの DEV ステートメントごとに、DIV ステートメントを1つずつ定義する必要があります。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1017I も参照してください。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

12

DFS1115I **label DIV STATEMENTS ARE INVALID.**

説明

このメッセージは、次のいずれが発生した場合にも出されます。

- DEV TYPE=3270、3270P、3600、36DS、36FP、36JP、または 36PB が指定され、上記の DEV ステートメントの後に複数の DIV ステートメントが続いている。
- DEV TYPE=274X で、上記の DEV ステートメントの後に3つ以上の DIV ステートメントが続いている。
- DEV TYPE=274X で、上記の DEV ステートメントの後に2つの DIV TYPE=INPUT と2つの DIV TYPE=OUTPUT のいずれかが続いている。

label は、エラーの DEV ステートメントの ID です。メッセージ DFS1017I も参照してください。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

重大度

12

関連情報

374 ページの『DFS1017I』
label DEV (PDB=pdbname)

DFS1116I **label FORMAT HAD TERMINATING DEVICE ERROR.**

説明

フォーマット設定装置エラーが発生し、そのためにブロックの作成が妨げられると、このメッセージが印刷されます。このメッセージの前に、終了装置エラーを記述した1つ以上のエラー・メッセージが表示されます。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1016I も参照してください。

システムの処置

処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

12

関連情報

374 ページの『DFS1016I』
label FMT

DFS1117I **label DEVICE DOES NOT DEFINE ALL DPAGE DESCRIPTIONS.**

説明

このメッセージは、次の場合に印刷されます。

- MSG 記述の LPAGE が、SOR= パラメーターで関連 FMT 記述で定義されていない「dpagename」を参照する。
- FMT 記述に、幾つかの DEV ステートメントが含まれ、それぞれの DEV ステートメントごとに、DPAGE ステートメントに個別のラベルが含まれていない。

label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1017I も参照してください。

システムの処置

処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

12

関連情報

374 ページの『DFS1017I』
label DEV (PDB=*pdbname*)

DFS1118I ***label* DPAGE ALREADY DEFINED
THIS DEVICE.**

説明

重複 DPAGE ラベルが、この DEV ステートメントに関して検出されています。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1019I も参照してください。

システムの処置

処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

12

関連情報

375 ページの『DFS1019I』
label DPAGE (PD=*pd*)

DFS1119I ***label* DUPLICATE FIELD WITHIN
DEVICE PAGE.**

説明

重複 DFLD ラベルが、装置に関する同じ物理ページで検出されています。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1019I も参照してください。

システムの処置

処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

12

関連情報

375 ページの『DFS1019I』
label DPAGE (PD=*pd*)

DFS1120I ***label* DFLD OVERLAPS WITH
FOLLOWING FIELD:**

説明

DFLD に関して指定された POS= パラメーターが、列指定か行指定、またはその両方で別の DFLD とオーバーラップしています。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。

システムの処置

処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度:

12

関連情報

375 ページの『DFS1020I』
label PPAGE

DFS1121I ***label* DFLD OVERLAPS WITH
PREVIOUS FIELD.**

説明

DFLD に関して指定された POS= パラメーターが、列指定か行指定、またはその両方で別のフィールドとオーバーラップしています。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1020I も参照してください。

システムの処置

処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

12

関連情報

375 ページの『DFS1020I』
label PPAGE

DFS1122I *label* DFLD HAS INVALID START
ORIGIN WITHIN PAGE.

説明

開始位置起点は、3270 の場合の (1,2) より小とそれ以外の装置の場合の (1,1) より小のいずれかです。SCS1 の場合は、開始行位置が DEV ステートメントの VTAB= キーワードで指定されている上部マージン値より小の可能性がります。ステートメント *label* の名前は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。

システムの処置

処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度:
12

関連情報

399 ページの『DFS1120I』
label DFLD OVERLAPS WITH FOLLOWING
FIELD:

DFS1123I *label* DFLD EXCEEDS DEVICE
BOTTOM MARGIN/PAGE
CAPABILITIES

説明

DFLD ステートメント POS= 指定が VTAB= キーワード、または装置ページ (PAGE=) での下部マージン指定内に収まりません。ステートメント *label* の名前は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1020I も参照してください。

システムの処置

処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

12

関連情報

375 ページの『DFS1020I』
label PPAGE

DFS1124I *label* DFLD EXCEEDS DEVICE LINE
SIZE.

説明

真の DFLD に関して定義されたリテラルが、装置行サイズを超えています。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。詳しくは、メッセージ DFS1020I を参照してください。

システムの処置

処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

12

関連情報

DFS1020I
label PPAGE

DFS1125I *label* *** WARNING *** DFLD
WILL CAUSE COPY BUFFER LOCK
ON REMOTE 3270s.

説明

label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。示されている DFLD ステートメントが原因で、表示イメージがリモート 3270 での COPY に関してロックされます。つまり、表示はコピーできません。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答

コピー・ロックが望ましくない場合は、フィールド定義を再定義して、フィールドがバッファの最初の位置 (POS=(1,2)) から始まらないようにするか、ALPHA および PROT (保護) 属性を備えないようにしてください。

重大度

4

DFS1126I *label* DPAGE HAS NO DFLD STATEMENTS.

説明

ID、ラベルで表されている DPAGE ステートメントに、DFLD ステートメントが定義されていません。FMT 記述子内のそれぞれの DPAGE ごとに、DFLD が少なくとも 1 つずつ定義されている必要があります。

システムの処置

処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

定義エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

重大度

12

DFS1127I *label* NXT= MESSAGE DOES NOT USE SAME FORMAT OR IS NOT DEFINED.

説明

label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。特定の特定が以前に、DFS1021I または DFS1022I メッセージで同じ番号で識別されていました。MSG または LPAGE ステートメントに、NXT=msgname パラメーターが含まれています。3270 の場合は、参照されている入力メッセージ記述で、処理される出力メッセージと同じソース FMT 記述を使用していません。SOR= パラメーターで指定されているフォーマット名が同じではありません。

次の条件が原因で、このメッセージが生成される可能性があります。

- 参照されている名前が、入力メッセージメッセージ記述の名前ではなく、出力メッセージ記述の名前である。

- 入力メッセージ記述が IMS.REFERAL ライブラリーに存在しない。
- 入力メッセージ記述が、MSG ステートメントの SOR= オペランドで、出力メッセージ記述とは異なる FMT 名を指定している。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

参照されている入力メッセージ記述に関する定義がこの実行で示されている場合は、定義を訂正し、ジョブを再実行してください。参照されている入力メッセージが IMS.REFERAL ライブラリーにすでに存在する場合は、RELATE 機能を使用して MFS サービス・ユーティリティー・プログラムを実行して、エラーの入力メッセージ記述の状況を判別してください。参照されている入力メッセージ記述に関する定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

12

DFS1128I *label* LPAGE PROMPT=DFLDNAME IS DUPLICATE.

説明

LPAGE ステートメントで参照されている DFLD ラベルは、LPAGE 内で固有である必要があります。*label* は、LPAGE ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、内部名がプリプロセッサによって生成されます。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

エラーのメッセージのソース・ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、8、16

重大度

12

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1129I **label MSG DOES NOT DEFINE ALL DPAGE DESCRIPTIONS.**

説明

INPUT MSG LPAGE ステートメントは、対応する FMT の DPAGE 記述をすべては参照していません。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、8、16

重大度

12

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1131I **label PASSWORD HAS NO FIELDS.**

説明

入力メッセージ PASSWORD セグメントに、それに関するフィールドが定義されていません。*label* は、ステートメントに関して内部的に定義された名前です。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

PASSWORD セグメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、8、16

重大度

12

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1130I **label LPAGE ALREADY DEFINED DPAGE.**

説明

入力メッセージ LPAGE ステートメントが同じ DPAGE を複数回参照しています。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

重複参照を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、8、16

重大度

12

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

DFS1132I **label PASSWORD HAS EXCEEDED ALLOWABLE LENGTH.**

説明

パスワード長さが最大許容長さ 8 バイトを超えました。*label* は、ステートメントを一意的に識別する、内部的に生成された名前です。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

PASSWORD セグメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、8、16

重大度

12

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1133I *label* MFLD LENGTH INCORRECT
WHEN ATTR= YES AND/OR *nn*
SPECIFIED

説明

指定されている MFLD 長さが、示されている数の属性に少なくとも 1 バイトのデータを加えたものを包含するのに必要な長さより小です。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

データの最大長に、ATTR=YES が指定されている場合は、2 バイトを加え、ATTR=*nn* が指定されている場合は、*nn* バイトの 2 倍を加えた長さに等しい MFLD 長さを指定してください。次に、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1134I *label* LPAGE PROMPT=DFLDNAME
NOT DEFINED THIS FMT

説明

PROMPT= パラメーターで指定されている *dflname* が、対応するフォーマットで定義されていません。

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、8、16

重大度

12

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1135I *label* WARNING: INPUT FROM
DUPLICATE DFLD WILL BE
IGNORED.

説明

MULT=YES が DPAGE に関して定義され、重複 DFLD が DPAGE で検出されます。これは警告診断です - 重複 DFLD は、オンライン処理で無視されます。*label* は、DFLD ステートメントで外部的に定義された名前です。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

問題判別

2、8、16

重大度

4

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1136I *label* DPAGE COND=
SPECIFICATION MISSING

説明

最後に定義された、または入力専用の DPAGE ステートメントを除くすべての入力 DPAGE ステートメントで、COND= 指定が必要です。*label* は、DPAGE ステートメントで外部的に定義されたラベルですが、外部ラベルが省略されている場合は、内部ラベルです。

システムの処置

処理は次の DIV、DEV、または FMT ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

DPAGE 定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

12

DFS1137I *label* FILL=NULL INVALID WHEN
GRAPHIC=NO SPECIFIED.

説明

FILL=NULL のメッセージ・フィールド (MFLD) が、GRAPHIC=NO を指定した SEG ステートメントで定義されました。入力メッセージ制御ブロックは作成されません。メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

label

MFLD ステートメントで生成された 外部または内部ラベル

システムの処置

処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

GRAPHIC=NO が指定されている SEG ステートメントで FILL=NULL の MFLD を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、4、8、12、16

重大度:

12

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1138I **label DFLD MUST NOT BE USED AS LABEL WITHIN THIS DEV/DIV**

説明

DEV ステートメントの PFK=、PEN=、または CARD= パラメーター、または DIV ステートメントの DPN=、PRN=、RPRN=、または RDPN パラメーターで指定されている dflname が、この DEV/DIV 内の DFLD ステートメントでラベルとしても使用されます。

システムの処置

処理は次の DIV、DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

DFLD ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

1、2、3、4、8、12、16

重大度

12

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1139I

label keyword= PARAMETER INVALID FOR THIS DIV TYPE AND WILL BE IGNORED.

説明

この警告診断が出されるのは、DEV タイプが 274X、SCS1、SCS2、または DPM の場合です。DIV TYPE=INPUT であれば、無効のキーワード DSCA、PAGE、または FORMS が指定された場合です。DIV TYPE=INPUT で、DEV タイプが SCS1 であれば、無効のキーワード HTAB、VTAB、または VT が指定された場合です。DIV TYPE=OUTPUT であれば、無効のキーワード FTAB、LDEL、CARD (SCS1 の場合)、または MODE (DPM-Bn を除く) が指定された場合です。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

重大度

8

DFS1140I **name FMT DOES NOT DEFINE DEVICE OUTPUT DESCRIPTION FOR OUTPUT MESSAGE DESCRIPTION. FMT NOT PROCESSED.**

説明

name は、FMT ステートメントで定義された外部ラベルです。FMT セットは互換性がありませんでした - 装置入力記述、(つまり、DIV TYPE=INPUT) は、MSG SOR= パラメーターによって TYPE=OUTPUT の MSG 記述に関連付けられます。このメッセージの後に、1 つ以上の DFS1144I エラー・メッセージが続き、さらに 1 つ以上の DFS1145I エラー・メッセージが続く可能性もあります。少なくとも戻りコード 12 が、MFS 言語ユーティリティーのステップ 1 を実行することによって z/OS に渡されます。

システムの処置

処理は次の FMT または MSG 定義から正常に続行されます。

プログラマーの応答

MSG 定義または FMT 定義、あるいはその両方を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

2、8、16、36

重大度:

12

関連情報

405 ページの『DFS1141I』

name FMT DOES NOT DEFINE DEVICE INPUT DESCRIPTION FOR INPUT MESSAGE DESCRIPTION. FMT NOT PROCESSED.

406 ページの『DFS1145I』

name INPUT MESSAGE NOT PROCESSED.

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1141I

***name* FMT DOES NOT DEFINE DEVICE INPUT DESCRIPTION FOR INPUT MESSAGE DESCRIPTION. FMT NOT PROCESSED.**

説明

name FMT は、FMT ステートメントで定義された外部ラベルです。FMT セットは互換性がありませんでした - 装置出力記述、(つまり、DIV TYPE=OUTPUT) は、SOR= パラメーターによって TYPE=INPUT の MSG 記述に関連付けられます。このメッセージの後に、1つ以上の DFS1145I エラー・メッセージが続き、さらに1つ以上の DFS1144I エラー・メッセージが続く可能性もあります。少なくとも戻りコード 12 が、MFS 言語ユーティリティのステップ 1 を実行することによって z/OS に渡されます。

システムの処置

処理は次の FMT または MSG 定義から正常に続行されます。

プログラマーの応答

MSG 定義または FMT 定義、あるいはその両方を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

2、8、16、36

重大度:

12

関連情報

406 ページの『DFS1144I』

name OUTPUT MESSAGE NOT PROCESSED.

406 ページの『DFS1145I』

name INPUT MESSAGE NOT PROCESSED.

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1142I

WARNING: NO OUTPUT MESSAGE DESCRIPTION FOR DEVICE OUTPUT DESCRIPTION IN *name* FMT.

説明

name は、FMT ステートメントで定義された外部ラベルです。装置出力記述 (つまり、DIV TYPE=OUTPUT または DIV TYPE=INOUT) に、TYPE=OUTPUT の MSG 記述が SOR= パラメーターによって関連付けられていません。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答

このエラーでは、オンライン・フォーマット・ライブラリーに望ましくないブロックが生成される可能性があります。MSG 出力記述が必要な場合は、それを定義し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、8、16、36

重大度

4

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1143I

WARNING: NO INPUT MESSAGE DESCRIPTION FOR DEVICE INPUT DESCRIPTION IN *name* FMT.

説明

name は、FMT ステートメントで定義された外部ラベルです。装置入力記述 (つまり、DIV TYPE=INPUT または DIV TYPE=INOUT) に、TYPE=INPUT の MSG 記述が SOR= パラメーターによって関連付けられていません。このエラーでは、オンライン・フォーマット・ライブラリーに望ましくないブロックが生成される可能性があります。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

問題判別

2、8、16、36

重大度

4

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1144I *name* OUTPUT MESSAGE NOT PROCESSED.

説明

name は、MSG ステートメントで定義された 外部ラベルです。このエラー・メッセージは、DFS1140I エラー・メッセージの結果として印刷されます。また、FMT セットが処理されないとき、DFS1141I エラー・メッセージの結果としても印刷されます。

システムの処置

処理は次の FMT セットから 正常に続行されます。

プログラマーの応答

MSG 定義または FMT 定義、あるいはその両方を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、8、16、36

重大度

12

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1145I *name* INPUT MESSAGE NOT PROCESSED.

説明

name は、MSG ステートメントで定義された 外部ラベルです。このエラー・メッセージは、DFS1141I エラー・メッセージの結果として印刷されます。また、FMT セットが処理されないとき、DFS1140I エラー・メッセージの結果としても印刷されます。

システムの処置

処理は次の FMT セットから 正常に続行されます。

プログラマーの応答

MSG 定義または FMT 定義、あるいはその両方を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、8、16、36

重大度

12

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1146I **BAD COMPLETION CODE RECEIVED FROM IEBCOPY SUBTASK ON COMPRESS OF DDNAME=FORMAT. EXECUTION TERMINATED.**

説明

z/OS イメージ・コピー・ユーティリティ・プログラム (IEBCOPY) が、リカバリーが可能な場合がある条件を示すことも、リカバリー不能エラーを示すこともある 戻りコードを発行します。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

以前に受信されている IEBCOPY メッセージ、および関連 IEBCOPY プログラム・メッセージ文書を使用して、問題を判別してください。

問題判別:

2、8、16、36

重大度:

20

関連資料

z/OS: IEBCOPY (ライブラリー・コピー) プログラム

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1147I **label WARNING: DEV VT=/VTAB= IS INVALID WITH PAGE 'FLOAT' OPTION. VT=/VTAB= PARAMETER WILL BE IGNORED.**

説明

VT= または VTAB= パラメーター、および PAGE FLOAT オプションが同じ DEV ステートメントで指定されました。VT= または VTAB= 指定は無視されます。フィー

ルド *label* は、DEV ステートメントで外部的または内部的に生成されたラベルです。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答

VT= または VTAB= オプションが望ましい場合は、PAGE オプションを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別

2、8、16

重大度

8

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1148I

**label WARNING: DPAGE
FILL=NONE OR NULL IS INVALID
WITH HTAB 'ONLINE' OR
'OFFLINE'. HTAB OPTION RESET
TO SET.**

説明

FILL=NULL または FILL=NONE の DPAGE が、HTAB OFFLINE または ONLINE オプションを指定した DEV ステートメントで指定されました。OFFLINE または ONLINE オプションは、SET にリセットされます。フィールド *label* は、DPAGE ステートメントで外部的または内部的に生成されたラベルです。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答

HTAB OFFLINE または ONLINE オプションが望ましい場合は、DPAGE 充てん文字指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、8、16

重大度

8

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1149I

**label DPAGE HAS EXCEEDED
ALLOWABLE LENGTH.**

説明

現在処理中の DPAGE 定義 MFS バッファ設計限度の 32767 バイトを超えています。作業バッファには、DPAGE 全体に関するリテラル、データ・フィールド、および制御文字が入っています。フィールド *label* は、DPAGE ステートメントで指定された名前です。DPAGE が外部的に定義されなかった場合は、*label* が DIV ステートメントの名前です。

システムの処置

処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

DPAGE 定義は、現行形式では処理できません。DPAGE 定義を複数 DPAGE として再定義し、再実行依頼してください。

問題判別

2、8、16

重大度

12

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1150I

**label WARNING: POTENTIAL
ERROR IF THE CURSOR POSITION
ON INPUT IS 63 (HEX'3F'). THE
SEGMENT IN WHICH THIS MFLD
EXISTS WILL HAVE ALL THE NULL
CHARACTERS (HEX '3F')
REMOVED, INCLUDING THE
CURSOR POSITION.**

説明

詳しくは、「IMS V15 アプリケーション・プログラミング API」の『メッセージ・フォーマット設定機能』というタイトルのトピックを参照してください。

重大度:

4

第 27 章 DFS メッセージ DFS1151I - DFS1200I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1151I *label* **WARNING: HEADER MAY NOT FIT WITHIN A RECORD.**

説明

ユーティリティーで計算されたメッセージ出力ヘッダー最大サイズが、DIV ステートメントで HDRCTL=VARIABLE の場合に指定された RCDCTL= 値を超えています。フィールド *label* は、DIV ステートメントでの OPTIONS= 指定で決定された FMT/DPAGE/PPAGE ステートメントで 外部的に定義された名前であるか、または *label* が内部的に生成された ステートメント・ラベルです。

システムの処置

処理はこのステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

リモート・プログラムに送信されるメッセージ出力ヘッダーが、レコードに収まるか検証してください。収まらない場合は、もっと大きいレコード・サイズを定義するか、もっと小さいヘッダーを作成し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1152I *label* **HEADER WILL NOT FIT WITHIN A RECORD.**

説明

ユーティリティーで計算されたメッセージ出力ヘッダー・サイズが、DIV ステートメントで HDRCTL=FIXED の場合に指定された RCDCTL= 値を超えています。フィールド *label* は、DIV ステートメントでの OPTIONS= 指定で決定された FMT/DPAGE/PPAGE ステートメントで 外部的に定義された名前であるか、または *label* が内部的に生成された ステートメント・ラベルです。

システムの処置

処理は次の DIV、DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

もっと大きいレコード・サイズを定義するか、DIV ステートメントの HDRCTL= パラメーターで VARIABLE パラメーターを指定してください。ジョブを再実行依頼してください。

DFS1153I *label* **WARNING: PPAGE CONTAINS NO DATA.**

説明

DFLD ステートメントが含まれていない PPAGE ステートメントが、DIV ステートメントで指定されている OPTIONS=PPAGE に関して 検出されました。これによって、MFS はメッセージ出力ヘッダーのみ (データ・フィールドがない) を生成して、それを唯一の伝送として リモート・プログラムに送信し、コンポーネントは保護されることとなります。その上で、データを受信するために、ページング 要求が IMS に送信される必要があります。フィールド *label* は、ユーザー提供の、または PPAGE ステートメントで内部的に生成されたラベルです。

システムの処置

処理はこのステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

リモート・プログラムでは、望ましいのはメッセージ出力ヘッダー機能のみなのか検証してください。

DFS1154I *label* **PPAGE CONTAINS NO DATA. PPAGE IGNORED.**

説明

DFLD ステートメントが含まれていない PPAGE ステートメントが検出されました。DEV TYPE=DPM-An または DPM-Bn、および DIV OPTIONS=MSG または DPAGE の場合は、この PPAGE は新しいレコードを開始し、それ以外の効果をリモート・プログラムにもたらすことはありません。DEV TYPE=DPM-Bn および DIV OPTIONS=(PPAGE,NODNM) の場合は、この PPAGE ステートメントによって、リモート・プログラムで意味のある情報が得られる結果になることはありません。フィールド *label* は、ユーザー提供の、または PPAGE ステートメントで内部的に生成されたラベルです。

システムの処置

PPAGE ステートメントは無視されます。処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

PPAGE ステートメントは、除去することが望ましければ、入力ストリームから除去し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1155I **label THE RESULTING DIF/DOF
BLOCK HAS EXCEEDED THE
DESIGN LIMITS.**

説明

現在作成中の DIF/DOF ブロックが、ブロックに関する設計限度 32767 バイトを超えています。

システムの処置

処理は次の DIV、DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

DPAGE または DFLD ステートメント、あるいはその両方のステートメントの数を少なく定義して、DIF/DOF を小さくする必要があります。ジョブを再実行依頼してください。

重大度

16

DFS1156I **label WARNING: DUPLICATE SCA
FIELD IN DPAGE.**

説明

SCA フィールドは、DPAGE ステートメントで 1 つだけ定義する必要があります。フィールド *label* は、ユーザー提供の、またはこの SCA オプションを指定した DFLD ステートメントで内部的に生成されたラベルです。

システムの処置

処理は現行ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

DPAGE 内の重複 SCA 情報が望ましくない場合は、この DPAGE ステートメントの重複 SCA フィールドを除去し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1157I **label NO. OF PPAGES EXCEEDS
MAXIMUM.**

説明

OPTIONS=PPAGE を DIV ステートメントで指定して、この DPAGE で定義した PPAGE ステートメントの数が

設計限度の 256 ページを超えています。フィールド *label* は、ユーザー提供の、または PPAGE ステートメントで内部的に生成されたラベルです。

システムの処置

処理は次の DIV、DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

この DPAGE の PPAGE ステートメントの数を最大値より小に減らすか、現行 DPAGE を複数の DPAGE ステートメントで定義し、ジョブを再実行依頼してください。

重大度

16

DFS1158I **label IMSSYSTEM MESSAGE
DEFINED INCORRECTLY**

説明

IMS システム・メッセージ DFS057I が含まれる MFLD リテラルの定義に誤りがあります。リテラルの長さが 62 より大であり、したがって、MFS によるシステム情報のシステム・メッセージへの挿入が妨げられるか、システム・メッセージが含まれる MFLD がデフォルトの MOD DFSM03 にありません。フィールド *label* は、MFLD ステートメントで外部的または内部的に生成されたラベルです。

システムの処置

処理は、次の FMT または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

MFLD 長さが 62 以下になるように変更するか、ユーザー提供の MOD からシステム・メッセージ・リテラルを除去してください。

DFS1159I **label A MESSAGE CONTAINING AN
IMS SYSTEM MESSAGE MAY NOT
DEFINE OTHER LITERALS.**

説明

このメッセージは、DFSM03 メッセージ、IMS MFS エラー・デフォルト・ブロックに関して発行されます。このメッセージでは、1 つのリテラル、つまり、IMS システム・メッセージのみを定義する必要があります。それ以外のリテラル定義は許可されません。フィールド *label* は、MFLD ステートメントで外部的または内部的に生成されたラベルです。

システムの処置

処理は、次の FMT または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

IMS システム・メッセージ以外のすべての MFLD リテラルを MSG ブロック から除去してください。ジョブを再実行してください。

DFS1160I *name* DFLDNAME SPECIFIED FOR MORE THAN ONE OF THE DPN, PRN, RDPN, AND RPRN PARAMETERS

説明

DIV ステートメントのパラメーター DPN=、PRN=、RDPN、および RPRN= のうちの複数で、*dflldname* (名前) が指定されました。これらのパラメーターのそれぞれごとに、*dflldname* が指定される場合は、固有である必要があります。

システムの処置

重複パラメーターすべてに関して、指定が無視され、処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答

矛盾するパラメーターに関して *dflldname* を再定義し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

2、8、16

重大度:
8

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1161I *label* DPAGE LABEL IS REQUIRED

説明

OPTIONS=DNM が DIV ステートメントで指定されている場合は、それぞれの入力 DPAGE ステートメントごとに、ラベルを定義する必要があります。*label* は、MFS プリプロセッサで生成された内部ラベルです。

システムの処置

処理は次の DIV、DEV、FMT、または MSG ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

DPAGE 定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度

12

DFS1162I *label* WARNING: ATTR=*nn* SPECIFIED FOR DFLDNAME WHICH HAD NO EATTR= SPECIFICATION

説明

拡張属性 (EATTR= を使用) が指定されていない *dflldname* (*label*) に関して、拡張属性バイトを動的に変更する要求が行われました。他のフォーマットまたは将来のフォーマットには、拡張属性を備えたこの *dflldname* が含まれることを予想して、この要求に応じます。IMS では、(2x*nn*) 追加バイトが IMS アプリケーション・プログラムによって指定可能な属性変更バイトとして使用される、この MFLD に関する LTH= 指定に組み込まれていると、まだ想定しています。

システムの処置

処理は現行ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

ATTR=*nn* 指定が実際に望ましいか、EATTR= パラメーターが DFLD ステートメントから不注意で省略されなかったか検証してください。

問題判別

2、8、16

重大度

4

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1163I *label* WARNING: ATTR=YES AND/OR *nn* SPECIFIED ON MFLD STATEMENT, BUT NOT ON CORRESPONDING DFLD STATEMENT

説明

DPM-An または DPM-Bn について、MFLD ステートメントで ATTR=YES か *nn*、またはその両方を指定することにより、IMS アプリケーション・プログラムからリモー

ト・プログラムまたはサブシステムに属性データを渡すよう要求が出されました。しかし、対応する DFLD ステートメントでは、ATTR=YES か nn、またはその両方が指定されませんでした。他のフォーマットまたは将来のフォーマットには、属性を備えたこの dfllname が含まれることを予想して、この要求に応じます。IMS では、ATTR=YES の場合は 2 つの追加バイト、ATTR=nn の場合は、(2xnn) 追加バイトが IMS アプリケーション・プログラムによって指定可能な属性変更バイトとして使用される、この MFLD に関する LTH= 指定に組み込まれていると、まだ想定しています。

システムの処置

処理は現行ステートメントから続行されます。

システム・プログラマーの応答

MFLD ステートメントでの ATTR=YES か nn、またはその両方の指定が本当に必要なのか、あるいは、ATTR=YES か ATTR=nn、またはその両方の指定が DFLD ステートメントから不注意に省略されなかったかを検証してください。

問題判別

2、10、16

重大度

4

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1164 **label WARNING: SPANNED EGCS
FIELD MAY BE INCORRECTLY
SPLIT**

説明

EGCS フィールド (*label*) が複数行にまたがっています。このフィールドには、各行に偶数の文字が含まれている必要があります。行幅 (WIDTH=) およびフィールドの開始位置 (POS=) が、各行に収まるデータの量を決定する要因になります。

システムの処置

処理は現行ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

各行に偶数文字が入るように、フィールドが定義されている場合は、この警告メッセージは無視してください。1 つ以上の行に奇数の文字が入るように、フィールドが

定義されている場合は、定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別

2、8、16

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1165W **DUPLICATE RDDS ENTRIES WERE
FOUND FOR resource_type
resource_name**

説明

リソース定義データ・セット (RDDS) データ・セットに、示されたリソースの複数の項目が入っていました。この状態は、**EXPORT DEFN OPTION(APPEND)** コマンドの対象であった非システム RDDS で発生する場合があります。複数のリソース項目がある場合、最新の項目は、RDDS 内の定義がインポートされるときに使用される項目です。resource_type に可能な値は次のとおりです。

DB
DBDESC
PGM
PGMDESC
RTC
RTCDESC
TRAN
TRANDESC

システムの処置

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は処理を続行します。このユーティリティは、戻りコード 4 で正常に終了します。

プログラマーの応答

同一リソースに対して複数の定義が予測されなかった場合、**EXPORT DEFN OPTION(OVERWRITE)** コマンドを使用して、新しい定義セットを RDDS にエクスポートすることを検討してください。

モジュール:
DFSURDD0

DFS1166I **RC=08 MFLD LITERAL
INCONSISTENT WITH DFLD
SPECIFICATION**

説明

DBCS/EBCDIC 混合フィールド・リテラルは、MFLD ステートメントで指定されましたが、対応する DFLD ステートメントでは指定されませんでした。

システムの処置

MFS が MOD/MID および DOF/DIF ブロックを作成することはありません。

プログラマーの応答

DBCS/EBCDIC 混合フィールド・リテラルを両方のステートメントで定義するか、DBCS/EBCDIC 混合フィールド・リテラル指定を MFLD ステートメントから除去するか、いずれかを行ってから、ジョブを再実行してください。

DFS1167I RC=04 label DFLD HAS NO SPACE AT RIGHT SIDE FOR FIELD OUTLINING

説明

DFLD ステートメントで右フィールド枠取りが指定されていますが、右枠を印刷するスペースがありません。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

このフィールドに関してフィールド枠取りが必要な場合は、フィールド枠取り指定を変更してから、ジョブを再実行してください。

DFS1168I RC=04 label DFLD HAS NO SPACE AT LEFT SIDE FOR FIELD OUTLINING

説明

DFLD ステートメントで左フィールド枠取りが指定されていますが、左枠を印刷するスペースがありません。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

このフィールドに関してフィールド枠取りが必要な場合は、フィールド枠取り指定を変更してから、ジョブを再実行してください。

DFS1169I ABEND U0780 RC=yy CAUSED BY ABEND IN ASID=xxxx,

**JOBNAME=jjjjjjj/UNKNOWN
WHILE HOLDING LATCH AT
ADDRESS=aaaaaaaa**

説明

従属領域がラッチを保留している最中に異常終了し、それが原因で IMS 制御領域が異常終了 0780 で終了しました。

yy

異常終了 0780 の戻りコードです。

xxxx

障害が起こっているアドレス・スペース ID (ASID) を示します。

jjjjjjj/UNKNOWN

障害が起こっているアドレス・スペースのジョブ名、またはジョブ名が判別できないときは文字ストリング UNKNOW のいずれかになります。

aaaaaaaa

ラッチ・ヘッダーのアドレスです。このアドレスは、異常終了 0780 メモリー・ダンプで見つかりません。ヘッダーの前の EBCDIC 文字ストリングがラッチを識別しています。

システムの処置

異常終了コード 0780 が IMS 制御領域で出され、IMS 従属領域のすべてが完了コード 002 で異常終了します。

プログラマーの応答

メッセージ DFS1169I で識別されている従属領域に関する異常終了 002 ダンプを見つけて、元の異常終了を分離および訂正してください。

関連情報

[IMS 異常終了 0780](#)

**DFS1170I ccccccc HDC DICTIONARY
CREATED IN DD HCDCOUT FILE**

説明

このメッセージは、ハードウェア・データ圧縮ディクショナリー (HDCD) ユーティリティー・プログラムが正常に完了して、戻りコード 0 が示されたことを示します。値 ccccccc は、HDCD ユーティリティーにパラメータとして渡されたディクショナリー名です。

システムの処置

HDCD ユーティリティーは正常に終了しています。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

ありません。

DFS1171W **cccccccc HDC DICTIONARY NOT
CREATED, BECAUSE POTENTIAL
STORAGE SAVINGS WILL NOT BE
REALIZED.**

説明

このメッセージでは、HDCD ユーティリティ・プログラムは正常に完了しましたが、ディクショナリー・オブジェクト・ファイルは作成せず、戻りコード 4 で終了したことを示します。値 cccccccc は、HDCD ユーティリティにパラメーターとして渡されたディクショナリー名です。

システムの処置

HDCD ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されました。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

ありません。

DFS1172E **cccccccc HDC DICTIONARY NOT
CREATED, BECAUSE SOURCE DATA
DOES NOT MATCH EXPANDED
DATA. THE FIRST 10 MISMATCHED
RECORDS WILL BE PRINTED
BEFORE COMPRESSION
STATISTICS**

説明

このメッセージは、HDCD ユーティリティ・プログラムが不一致のソースと拡張データを検出していることを示します。ユーティリティ・プログラムは、ディクショナリー・オブジェクト・ファイルを作成せず、戻りコード 8 で終了しました。HDCD ユーティリティにパラメーターとして渡されたディクショナリー名は、cccccccc で示されています。

システムの処置

HDCD ユーティリティは終了し、戻りコード 8 が示されました。

オペレーターの応答

処置は必要ありません。

システム・プログラマーの応答:
DBA に連絡してください。

問題判別

ありません。

DFS1173W **HDC DICTIONARY NOT CREATED,
BECAUSE MVS CSRCMPSC
SERVICE IS NOT INSTALLED.**

説明

このメッセージは、z/OS 圧縮/展開サービス CSRCMPSC がインストールされていないことが、HDCD ユーティリティ・プログラムで検出されていることを示します。HDC ディクショナリーは作成できません。

システムの処置

HDCD ユーティリティは終了しています。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答:
必要に応じて、z/OS CSRCMPSC をインストールし、HDCD ユーティリティを再実行してください。

問題判別:

ありません。

DFS1174E **HDC DICTIONARY NOT CREATED,
BECAUSE MVS CSRCMPSC
SERVICE HAD A LOGIC ERROR.**

説明

このメッセージは、z/OS 圧縮/展開サービス (CSRCMPSC) マクロを使用している最中に、HDCD ユーティリティ・プログラムが論理エラーを検出したことを示しています。HDC ディクショナリーは作成されませんでした。

システムの処置

HDCD ユーティリティは終了しています。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答:
IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

DFS1175I **MADS I/O TIMING PROCESSING
ERROR FOR AREA areaname
DDN=ddname RC=xx**

説明

IMS が MADS 入出力タイミグ中にエラーを検出しました。理由コードで障害の原因が示されます。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

ロング・ビジー ADS が属するエリアの名前

ddname

RECON データ・セットに登録されている長時間使用中 ADS のデータ記述名

xx

理由コード:

X'10'

MADS 入出力タイミグは、緊急時再始動の先までは続行されません。

システムの処置

ロング・ビジー ADS は、緊急時再始動時に停止されます。識別されているエリアは、エリアがブロック・レベルで共用されている場合は停止されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS1176E **THE program FAILED TO START
BPE LIMITED FUNCTION
SERVICES, RC=xxxxxxxx**

説明

BPE 限定機能サービス (LFS) を開始しようとして、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

プログラム

次のいずれかの値です。

RDDS EXTRACTION UTILITY
GLOBAL ONLINE CHANGE UTILITY
DFS3UCDO

xxxxxxxx

BPESTART FUNC=STARTLFS 機能からの戻りコード

システムの処置

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDDO) は、RC=56 で異常終了します。

プログラマーの応答

BPE LFS を開始できなかった理由について詳しくは、BPE0042E メッセージを参照してください。

モジュール:

DFSURDDO、DFSUOLCO

関連情報

[BPE0042E \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS1177E **THE RDDS EXTRACTION UTILITY
FAILED TO OPEN THE ddname
DATA SET, OPEN RC=rc**

説明

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDDO) は、必要なデータ・セットの1つをオープンできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

オープン・エラーを検出したデータ・セット。
ddname に可能な値は、SYSPRINT、SYSOUT および RDDSdsn です。

rc

オープン要求からの戻りコード。

システムの処置

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDDO) は、次のいずれかの戻りコードで異常終了します。

- RC=8 - SYSPRINT データ・セットをオープンしようとしてエラーが発生しました
- RC=12 - SYSOUT データ・セットをオープンしようとしてエラーが発生しました
- RC=40 - RDDS データ・セットをオープンしようとしてエラーが発生しました

プログラマーの応答

データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認してください。

モジュール:

DFSURDDO

DFS1178I **THE RDDS EXTRACTION UTILITY
IS PROCESSING RDDS dsname**

説明

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDDO) は、RDDSDD DD ステートメントで定義されたリソース定義データ・セット (RDDS) の読み取り中です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dsname

読み取り中のリソース定義データ・セットの名前

システムの処置

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDDO) は処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSURDDO

DFS1179E	THE RDDS EXTRACTION UTILITY FAILED TO OBTAIN A 64-BIT BUFFER, SIZE=<i>strgsize</i>, IARV64 RC=<i>rc</i>
-----------------	--

説明

内部バッファ用 64 ビット・ストレージを取得しようとして、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

strgsize

要求されたストレージの量

rc

64 ビット仮想記憶域割り振り (IARV64) 要求から戻された戻りコード

システムの処置

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDDO) は、RC=28 で異常終了します。

プログラマーの応答:

EXEC または JOB ステートメントのいずれかの MEMLIMIT パラメーターが 12 GB 以上に設定されていることを確認してください。

モジュール:
DFSURDDO

DFS1180E	THE RDDS EXTRACTION UTILITY FAILED TO OBTAIN STORAGE, SIZE=<i>strgsize</i>, GETMAIN RC=<i>rc</i>
-----------------	---

説明

ストレージの取得を試みている最中に、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

strgsize

要求されたストレージの量

rc

MVS GETMAIN 要求から戻された戻りコード

システムの処置

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDDO) は、RC=24 で異常終了します。

プログラマーの応答:

MVS GETMAIN 要求からの戻りコードを調べて、障害の原因を判別してください。

モジュール:
DFSURDDO

DFS1181E	AN ERROR OCCURRED TRYING TO READ THE SYSIN DATA SET, BPERDPDS RC=<i>rc</i>
-----------------	---

説明

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDDO) は、SYSIN データ・セット内の入力パラメーターの読み取りを試行中にエラーを検出しました。BPERDPDS マクロは SYSIN データ・セットを開き、読み取ります。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

BPERDPDS 要求から戻された戻りコード

システムの処置

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDDO) は、RC=16 で異常終了します。

プログラマーの応答:

SYSIN DD ステートメントが正しく定義されていることを確認してください。

モジュール:
DFSURDDO

関連資料

[BPERDPDS コード \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS1182E	AN ERROR OCCURRED TRYING TO PARSE THE SYSIN DATA, BPEPARSE RC=<i>rc</i>
-----------------	--

説明

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDDO) は、SYSIN データ・セット内のデータの構文解析を試行中にエラーを

検出しました。BPEPARSE マクロは SYSIN データを構文解析します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

BPEPARSE 要求から戻された戻りコード

システムの処置

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDDO) は、RC=20 で異常終了します。

プログラマーの応答:

SYSIN データ・セット内で OUTPUT パラメーターが正しくコーディングされていることを確認してください。

モジュール:

DFSURDDO

DFS1183E	AN ERROR OCCURRED TRYING TO PROCESS THE RDDSDSN DD STATEMENT, RSNTTEXT=<i>rsntext</i>
-----------------	--

説明

RDDSDSN DD ステートメントの処理を試みているときに、エラーが発生しました。rsntext は、エラーの理由を示しています。rsntext に可能な値は次のとおりです。

RDJFCB REQUEST FAILED TO RETURN DSNAME MULTIPLE RDDS DATA SETS DEFINED

システムの処置

DFSURDDO は、次のいずれかの戻りコードで異常終了します。

- RC=32 - RDJFCB 要求は、RDDS データ・セットの DS 名を戻すことができませんでした
- RC=36 - RDDSDSN DD ステートメントに対して、複数のデータ・セットが指定されました

プログラマーの応答:

RDDSDSN DD ステートメントが正しくコーディングされること、および連結データ・セットを含んでいないことを確認してください。

モジュール:

DFSURDDO

DFS1184E	AN ERROR OCCURRED TRYING TO READ THE RDDS, GET RC=<i>rc</i>
-----------------	--

説明

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDDO) は、RDDSDSN DD ステートメントで指定された RDDS の読み取りを試行中にエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

GET マクロからの戻りコード

システムの処置

RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDDO) は、RC=44 で異常終了します。

プログラマーの応答:

RDDS が置かれている装置を調べます。永続装置エラーが検出されない場合、ユーティリティを再度実行してください。

モジュール:

DFSURDDO

DFS1185E	THE RDDS DOES NOT CONTAIN VALID DATA, RSNTTEXT=<i>rsntext</i>
-----------------	--

説明

RDDSDSN DD ステートメントで指定される RDDS が、RDDS でないか、正常なエクスポートからのデータを含んでいません。メッセージ・テキストの rsntext は、エラーの理由を示しています。rsntext に可能な値は次のとおりです。

**DATA SET IS NOT AN RDDS
DATA IS NOT FROM A SUCCESSFUL EXPORT**

システムの処置

DFSURDDO は、次のいずれかの戻りコードで異常終了します。

- RC=48 - RDDSDSN DD ステートメントで指定されたデータ・セットが RDDS ではありません
- RC=52 - RDDSDSN DD ステートメントで指定された RDDS に、正常なエクスポートからのデータが入っていません

プログラマーの応答:

有効なデータを含む RDDS を指すように、RDDSDSN DD ステートメントを更新してください。

モジュール:

DFSURDDO

DFS1186W	THERE ARE NO TRANSACTIONS DEFINED FOR APPLICATION <i>applname</i>
-----------------	--

説明

アプリケーションに対して定義されているトランザクションがありません。アプリケーションが BMP タイプの領域で実行されず、そのアプリケーションが IFP でない場合、アプリケーションをスケジュールするには、アプリケーションに対してトランザクションが定義され

ていなければなりません。メッセージ・テキスト内の *applname* は、トランザクションが定義されていないアプリケーションの名前です。

システムの処置:

処理を続行します。完了後、DFSURDDO は戻りコード 4 で戻ります。

プログラマーの応答:

RDDS 内のデータが壊れている可能性があります。アプリケーションにトランザクションを定義する必要がある場合、正常なエクスポートからのデータを含む RDDS に対して、ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFSURDDO

DFS1187W **THERE ARE NO ROUTE CODES
DEFINED FOR FAST PATH
EXCLUSIVE APPLICATION
*applname***

説明

高速機能専用アプリケーションに対して RDDS で定義されている宛先コードがありません。*applname* は、宛先コードが定義されていないアプリケーションの名前です。

システムの処置:

処理を続行します。完了後、DFSURDDO は戻りコード 4 で戻ります。

プログラマーの応答:

RDDS 内のデータが壊れている可能性があります。正常なエクスポートからのデータを含む RDDS に対して、ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFSURDDO

DFS1188E **HALDB *yyyy* CALL FAILED RC=*cccc*
RS=*ssss***

説明

HALDB の処理中に、HALDB の 1 つ以上の区画を初期設定するための呼び出しが失敗しました。異常終了 0881 が発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

yyyy

HALDB 呼び出し。次のいずれかの場合があります。

- PINT - HALDB の 1 つ以上の区画を初期設定するための呼び出しが失敗しました
- UNLD - HALDB のすべての X'FF' キーを挿入する呼び出しが失敗しました

cccc

戻りコード。次のいずれかです。

- 0004 - 使用不可のデータが検出されました
- 0008 - 環境エラーが検出されました
- 0012 - 論理エラーが発生しました
- 0016 - 疑似異常終了がすでに設定されていました

ssss

理由コード。これらのコードについては、メッセージ DFS0832I を参照してください。

システムの処置:

現在のアプリケーションが異常終了 0881 で終了します。

ユーザーの処置

エラーの原因については、この HALDB の区画に関連した直前のエラー・メッセージを探してください。このメッセージ内の戻りコードと理由コードを使用して、問題を訂正してください。

DBRC=Y を指定して IMS カタログをロードしているときにメッセージ DFS1188E HALDB PINT CALL FAILED RC=0004 RS=4026 を受け取った場合、IMS カタログ・データベースが RECON データ・セット内に登録されているにもかかわらず、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーに UNREGCATLG=パラメーターが指定されているかどうかを確認してください。この問題を修正するには、UNREGCATLG=パラメーターを削除するか、DBRC=N を指定してください。

問題判別:

- 1、2、3、4、8、17a-f、35、40

関連情報

DFS0832I

ABEND Uwwwww REASON CODE xxxx yyyy
PARTITION | DATABASE zzzzzzzz

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1189I

INCONSISTENT LOCAL CONTROL BLOCKS USED FOR RM UPDATE

説明

Resource Manager (RM) 更新で、呼び出しで渡された所有者名と異なる所有者制御ブロック名を持つ LTERM が検出されました。この状態は、RM にあるものと一致しないローカル・ブロックのセットが原因で生じることがあります。通常、この環境でのローカル・ブロックは状況を持たず、次の単純チェックポイントで削除されます。失敗したコマンドは、ローカル・ブロックが削除された後に機能するはずですが。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

2、3分待ってから、コマンドを再試行してください。

モジュール:

DFSIC450

DFS1190I **REGION nnnn NOT WAITING ON
yyyyyyyy xxxxxxxx**

説明

/PSTOP AOITOKEN コマンドまたは **/PSTOP REGION SYNC** コマンドが入力されましたが、領域が、指定された AOI トークンまたは ICAL 応答を待機していませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnn

コマンドで入力された領域番号。

yyyyyyyy

AOITOKEN または SYNC のいずれかです。

AOITOKEN は、後に続く名前が AOI トークン名であることを意味します。SYNC は、後に続く名前が TPIPE 名 (同期コールアウト要求の場合) またはトランザクション名 (同期プログラム間通信要求の場合) であることを意味します。

xxxxxxx

コマンドで入力された AOI トークン名、TPIPE 名、またはトランザクション名。

システムの処置

コマンドは処理されません。

オペレーターの応答

/PSTOP REGION コマンドで、領域番号、AOI トークン名、または TPIPE 名が誤って指定されました。正しい値でコマンドを再入力してください。

yyyyyyyy が AOITOKEN である場合、**/DISPLAY ACTIVE** コマンドを使用して、領域が待ちオプションを指定した MSGG 呼び出しを発行し、メッセージを待っているか検証できます。**/DISPLAY AOITOKEN** コマンドを使用して、待ち領域に関連している AOI トークンを判別できます。

yyyyyyyy が SYNTPIPE である場合、**/DISPLAY ACTIVE** コマンドを使用して、領域が ICAL 呼び出しを発行し、同期コールアウト応答を待っているか検証できます。領域が同期コールアウト応答を待っている

(WAIT-CALLOUT) 場合、表示領域継続行に TPIPE 名が表示されます。

モジュール:

DFSSTOPO

DFS1191I **AOITOKEN KEYWORD
PARAMETER NOT FOUND**

説明

/DEQUEUE AOITOKEN コマンドが入力されましたが、AOITOKEN キーワードで指定されたパラメーターが検出されなかったか、または誤りでした。

システムの処置

コマンドは処理されません。

オペレーターの応答

AOI トークン名の指定に誤りがあった場合は、正しい名前を使用してコマンドを再入力してください。**/DISPLAY AOITOKEN** を使用して、デキューできるメッセージがある AOI トークンを検出できます。

DFS1192I **NO MESSAGES TO DEQUEUE ON
AOITOKEN PARAMETER
SPECIFIED**

説明

/DEQUEUE AOITOKEN コマンドが入力されましたが、示されている AOI トークンにデキューされるメッセージがありませんでした。

システムの処置

コマンドは処理されません。

オペレーターの応答

AOITOKEN 名の指定に誤りがあった場合は、正しいコマンド名を使用してコマンドを再入力してください。**/DISPLAY AOITOKEN** を使用して、デキューできるメッセージがある AOI トークンを検出できます。

DFS1193I **cccc CMD FAILED FOR REGION
nnnn tttt xxxxxxxx sssssss
RC=rrrrrrrr**

説明

/PSTOP または **/STOP** コマンドが処理されたとき、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccc

PSTOP または STOP のいずれか。

nnnnn

コマンドで入力された領域番号。

tttt

AOIT、TRAN、または SYNC。AOIT は、後に続く名前が AOI トークン名であることを意味します。TRAN は、後に続く名前がトランザクション名であることを意味します。SYNC は、後に続く名前が TPIPE 名であることを意味します。

xxxxxxxx

コマンドに入力された AOI トークン名、トランザクション名、または TPIPE 名。

sssssss

コマンドの処理中に失敗したサービス。

rrrrrrrr

失敗したサービス要求からの戻りコード。

システムの処置

コマンドは処理されません。

オペレーターの応答

サービス障害は、一時的な問題である可能性があります。コマンドの再入力を試みてください。条件が引き続き生じる場合は、内部 IMS システム・エラーが存在する可能性があります。

問題判別:

1、6、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS1194I LOGGING TO SECONDARY
 MASTER ERROR - CODE = x**

説明

IMS は、メッセージまたは コマンド・セグメントを 2 次マスター端末に対してロギングしているとき、次のいずれかのエラーを検出しました。

コード
意味

- 1 要求を処理しているキュー・マネージャーがゼロ以外のコードを戻しました。
- 2 CIOP プールに対するストレージの要求に応じられませんでした。
- 3 2 次マスター端末のロギングしている最中に、内部エラーが検出されました。

4

CBTS ラッチが、コマンド処理中、予期しないブロック・タイプに関して 保留されました。

5

HIOP に対する LSMB 制御ブロックに関するストレージの要求に応じられませんでした。

システムの処置

LSM0 のラベルが付けられている 6701 トレース・レコードが、コード 5 が戻されるときを除いて、IMS ログに書き込まれます。すべての場合に、このメッセージまたはコマンド・セグメントに関して、2 次マスター端末へのロギングがさらに行われることはありません。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS1195I /ASSIGN FAILED. OWNERS IN
 DIFFERENT IMSs**

説明

割り当てられる送信元リソースは、宛先リソースと異なる IMS にあって、両方のリソースがそれぞれの IMS システムに所有されていました。このエラーは、IMS がシスプレックス環境で IMS Resource Manager を使用しているときにだけ発生する可能性があります。送信元リソースと宛先リソースは、次の条件の 1 つに合致しなければなりません。

- 送信元リソースと宛先リソースが同じ IMS システムにある。
- リソースの少なくとも 1 つは Resource Manager に認知されていて、IMS に所有されていない。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

両方のリソースが同じ IMS にあるか、またはリソースの少なくとも 1 つが Resource Manager に認知されていて、IMS に所有されていないことを確認してください。リソースの問題が解決されたら、/ASSIGN コマンドを再発行してください。

モジュール:
DFSICL70

**DFS1196I /ASSIGN FAILED. SAVE KEYWORD
 REQUIRED IF USER DOES NOT
 EXIST WITH RM**

説明

この IMS システムが、IMS Resource Manager を使用するシスプレックスの一部であり、宛先ユーザーが存在しない場合は、**/ASSIGN** コマンドがリジェクトされます。また、ユーザーが即時に削除され、割り当てが未完成なものになる可能性があります。**/ASSIGN** コマンドを **SAVE** キーワードとともに発行すれば、**NOSAVE** キーワードをもつ別の **/ASSIGN** コマンドが発行されるまで、割り当てはそのユーザーに対して持続します。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

SAVE キーワードをもつ **/ASSIGN** コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICL70

DFS1198I	CONVERSATION UNUSABLE. COMMAND/TRANSACTION INPUT REJECTED
-----------------	--

説明

このエラーは次のいずれかの理由で起きました。

- IMS 会話を継続するために、会話型入力データが入力されました。そのコマンドが発行されたときの端末の状態によって、会話が継続できません。その状態は、最初の IMS が失敗したあと異なる IMS で会話が継続される場合は、一時的なものかもしれません。
- 実施されていた IMS 会話に対して **/RELEASE** コマンドが入力されました。そのコマンドが発行されたときの端末の状態によって、会話が継続できません。その状態は、最初の IMS が失敗したあと異なる IMS システムで会話が解放される場合は、一時的なものかもしれません。
- IMS 会話を継続するために、会話型入力データが入力されました。しかし、会話型トランザクションは存在しません。この状態は、IMS リソース・マネージャーを使用するシスプレックス環境で発生する可能性があります。引き続き IMS 会話中に端末がログオフするか、ユーザーがサインオフし、その後、トランザクションが適切に定義されていない別の IMS システムにログオンまたはサインオンする場合、会話は継続できません。また、会話型トランザクションがオンライン変更によって削除される場合も、会話は継続できません。

端末に関するこの種の問題は、IMS がシスプレックス環境で IMS Resource Manager を使用しているときにだけ発生します。

システムの処置

トランザクション入力または **/RELEASE** コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

少し待ってから、入力を再入力してください。この状態が継続する場合は、**/EXIT** コマンドを出して、端末をクリアし、会話を削除する必要があります。

モジュール:
DFSCON00、DFSICLH0

DFS1199I	/CHANGE FAILED. SAVE KEYWORD REQUIRED IF USER DOES NOT EXIST WITH RM
-----------------	---

説明

この IMS システムが、IMS Resource Manager を使用するシスプレックスの一部であり、**/CHANGE USER AUTOLOGON** コマンドに指定されたユーザーが存在しない場合は、**SAVE** キーワードが指定されていない限り、**/CHANGE** コマンドはリジェクトされます。**SAVE** キーワードは、**NOSAVE** キーワードが指定された別の **/CHANGE** コマンドがこのユーザーに使用されるまで、自動ログオン情報を持続することを指定します。**SAVE** キーワードがなく、その他の重要な状況もない場合は、ユーザーが即時に削除され、**/CHANGE** コマンドが無効になる可能性があります。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

SAVE キーワードを指定した **/CHANGE** コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICL60

DFS1200I	MESSAGE/FORMAT SERVICE UTILITY DATE=mm/dd/yy TIME=hh.mm.ss PAGE nnnn
-----------------	---

説明

これは、MFS ユーティリティ・プログラムからの **SYSPRINT** 出力に関するタイトルまたはヘッダー行を示します。

第 28 章 DFS メッセージ DFS1201I - DFS1250I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS1201I UNABLE TO OPEN {SYSIN|
 SYSPUNCH|DCTIN|DEFLT}**

説明

SYSIN、SYSPUNCH、DCTIN、または DEFLT DD ステートメントの DCB が開けません。DD ステートメントの欠落が原因である可能性が最も大です。

システムの処置

MFS サービス・ユーティリティー処理は、欠落している SYSIN DD ステートメントから続行されます。データ・セットのいずれも開けないとき、MFS DCT ユーティリティーが終了し、戻りコード 12 が示されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1202I UNABLE TO OPEN SYSPRINT

説明

SYSPRINT DD ステートメントの DCB が開けません。DD ステートメントの欠落が原因である可能性が最も大です。

システムの処置

MFS サービス・ユーティリティー処理が続行されます。MFS DCT ユーティリティーは、戻りコード 12 で終了します。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1203I STATEMENT LABEL IS TOO LONG.

説明

制御ステートメント・ラベルの長さが 8 文字を超えました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1204I STATEMENT HAS NO OPERATOR.

説明

演算子が含まれていないステートメントが検出されました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

入力ストリームに空白・ステートメントがあることが、最大の原因と推定されます。

**DFS1205I OPERATOR LENGTH OR POSITION
 ERROR.**

説明

演算子が 8 文字を超えているか、演算子終了文字が 71 列目にある制御ステートメントが検出されました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1206I COLUMNS 1 THROUGH -15 ARE
 NOT BLANK ON CONTINUATION.**

説明

継続ステートメントの 1 から 15 桁目は、空白である必要があります。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1207I COL 16 BLANK WHERE
 CONTINUED OPERAND EXPECTED.**

説明

後続のステートメントに継続されるオペランドは、16列目から再開する必要があります。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1208I STATEMENT HAS UNIDENTIFIABLE OPERATOR.

説明

制御ステートメント演算子が無効です。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1209I PROCESSING TERMINATED BY EOD ON SYSIN.

説明

正常なユーティリティ終了が行われています。

システムの処置

ジョブまたはステップは正常に終了します。

DFS1210I ACTION RTN FOR STATEMENT HAS UNRESOLVED ADDRESS

説明

有効なステートメント・タイプが検出されています。ただし、ステートメント・タイプに関する処理モジュールに、未解決のアドレス定数があります。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

すべての必須アクション・モジュールの正しいバインダー入力を確保してください。

問題判別:
13

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBMによって確立された手順を使用して行われます。

DFS1211I 1ST POSITIONAL PARAMETER IS UNIDENTIFIABLE.

説明

最初の定位置パラメーターにつづりの誤りがあると推定されます。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1212I STATEMENT HAS UNIDENTIFIABLE KEYWORD.

説明

この制御ステートメントに関して、無効のキーワードが検出されました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1213I INTERNAL SCAN LOGIC ERROR, SNAP ID=127 TAKEN.

説明

内部スキャン論理エラーが発生しました。スナップ・メモリー・ダンプが SYSSNAP DD ステートメントに取られています。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

問題判別後、障害の原因になっているステートメントを目視スキャンし、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:
1、2、3、4、8、13、24、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS1214I POSITIONAL PARAMETER IS
 INVALID.**

説明

定位置パラメーターにつづりの誤りがあると推定されます。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1215I EXPECTED KEYWORD NOT
 RECEIVED.**

説明

キーワードが予測されましたが、検出されませんでした。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1216I DELIMITER LENGTH ERROR.

説明

区切り文字が予測された場所で、長さが 1 以外の項目が検出されました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

必要な区切り文字を挿入し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1217I MISSING = AFTER KEYWORD.

説明

等号がキーワードの後に必要です。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

= を挿入し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1218I UNEXPECTED STATEMENT END
 ENCOUNTERED.**

説明

続きの情報が必要であったか、予測されていた場所で、制御ステートメント・オペランドが終了しました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

オペランドを完了し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1220I EXPECTED KEY PARAMETER NOT
 RECEIVED.**

説明

パラメーターが受信されなかったキーワードが検出されました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

望ましいパラメーターを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1221I MSG=,TBL= OR PDB= PARAMETER
 TOO LONG.**

説明

MSG、TBL、または PDB パラメーターが 8 文字を超えています。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1222I MSG=, TBL= OR PDB= PARAMETER
 IS INVALID.**

説明

MSG、TBL、PDB パラメーターのいずれかに 無効文字があるか、TBL=ALL または PDB=ALL が SCRATCH 要求に対して 指定されました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

パラメーターに無効文字が含まれている場合は、パラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。TBL=ALL または PDB=ALL が指定された場合は、スクラッチされる TBL または PDB 名にパラメーターを変更し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1223I FMT= PARAMETER IS INVALID.

説明

FMT= パラメーターが無効文字を含んでいるか、最大長 6 文字を超えています。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1224I KEYWORD PARAMETER
 DELIMITER IS INVALID.**

説明

ブランクまたはコンマ以外の文字が、制御ステートメントのパラメーターの後に続いていました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

適切に区切り、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1225I DEV= PARAMETER IS INVALID.

説明

DEV= 指定が不明です。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

適正な DEV= キーワードを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1226I DIV= PARAMETER IS INVALID.

説明

DIV= 指定が不明です。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

適正な DIV= キーワードを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1227I MDL= PARAMETER IS INVALID.

説明

MDL= 指定が不明です。

システムの処置

処理は次のステートメントから再開します。

プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1228I MISSING RIGHT PAREN ')' IN
 SUBLIST.**

説明

右括弧の欠落がサブリストで発生しました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1229I MUTUALLY EXCLUSIVE
 FEAT=PARAMETERS AND/OR
 DEV=PARAMETERS.**

説明

矛盾するパラメーター仕様が指定されています。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を除去し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1230I FEAT= PARAMETER IS INVALID.

説明

FEAT= 指定が不明です。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1231I MUTUALLY EXCLUSIVE KEYWORD
 FOUND.**

説明

制御ステートメントの複数のキーワードが、一緒には使用できないものです。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

競合を除去し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1232I FORMAT LIBRARY CONTAINS NO
 MEMBERS.**

説明

アクティブ・フォーマット・ライブラリーにメンバーが含まれていません。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1233I FORMAT LIBRARY FETCH ERROR
 ON \$\$\$IMSDIR.**

説明

アクティブ・フォーマット・ライブラリーから特殊索引ディレクトリー \$\$\$IMSDIR への読み取りを試みている最中に、エラーが発生しました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

入出力エラー条件の原因を判別した後で、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1234I REQUESTED BLOCK DOES NOT
 EXIST IN \$\$\$IMSDIR.**

説明

FMT/MSG 記述子に関する削除要求が正常に行われませんでした。要求された記述子が \$\$\$IMSDIR にありません。

システムの処置

削除した場合は、処理は次のステートメントから続行されます。スクラッチの場合は、スクラッチ処理から続行してください。

プログラマーの応答

削除した場合は、正しい記述子を指定してください。ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1235I REQUEST IGNORED, \$\$\$IMSDIR IS
 FULL.**

説明

特殊索引ディレクトリー \$\$\$IMSDIR には最大許容数のエントリーが入っているため、INDEX 要求は無視されました。

システムの処置

処理は次のアクションから続行されます。

プログラマーの応答

該当する場合は、\$\$\$IMSDIR エントリーを削除してから、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1236I REQUEST IGNORED, \$\$\$IMSDIR IS
 EMPTY.**

説明

特殊 INDEX ディレクトリー \$\$IMSDIR にエントリーが入っていません。要求されたアクションは実行できませんでした。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

DFS1237I	REQUESTED MSG DOES NOT EXIST IN FORMAT LIBRARY.
-----------------	--

説明

MSG 記述子に関して要求されたアクションには、記述子の存在が必要です。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ名を再度指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1238	UNABLE TO COMPLETE INDEX ALL REQUEST
----------------	---

説明

フォーマット・ライブラリー上のメンバー数と既存の特殊索引ディレクトリー \$\$IMSDIR にあるエントリー数の間に不一致があるため、全索引付け要求は完了しませんでした。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

/DELETE ALL を入力して、既存の特殊索引ディレクトリー \$\$IMSDIR を削除してから、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1239I	ERROR OCCURRED ON WRITE FOR \$\$IMSDIR
-----------------	---

説明

MFS 言語ユーティリティーの終了処理中に、INDEX ディレクトリーの最終バージョンをアクティブ・フォーマット・ライブラリーに WRITE および STOW しようとして試みているとき、エラーが発生しました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

入出力エラーの原因を判別した後で、入出力エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1240I	INVALID COMMENT DELIMITER-POSSIBLE MISPUNCHED STATEMENT.
-----------------	---

説明

制御ステートメント上のコメントは、2 文字のシーケンス /* から始める必要があります。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1241I	END OF LIST FUNCTION.
-----------------	------------------------------

説明

LIST 機能が正常終了しました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

DFS1242I	INSUFFICIENT STORAGE AVAILABLE FOR INDEX.
-----------------	--

説明

実ストレージ・リソースが不十分なため、特殊索引ディレクトリー \$\$IMSDIR が処理のためにストレージにフェッチできません。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

操作に合わせて領域サイズを大きくするか、または定位置パラメーター INDEX を指定するか、あるいはその両方を行ってください。

DFS1243I	INTERNAL FETCH ERROR, SNAP ID=126 TAKEN.
-----------------	---

説明

内部論理エラーがブロック・サービス・モジュール DFSUTSQ0 で発生しています。スナップ・メモリー・ダンプが SYSSNAP データ・セットに対して取られています。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

問題判別後、障害の原因になっているステートメントを目視スキャンし、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、4、8、13、24、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1244I NO OTHER KEYWORDS MAY BE SPECIFIED WITH FMT= WHEN ACTION IS AGAINST THE REFERAL LIBRARY.

説明

REFERAL ライブラリーに対するアクションを実行中であるときは、FMT= と一緒に他のキーワードは指定できません。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

余分な DEV、DIV、MDL、または FEAT の各キーワードを削除し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1245I REQUIRED KEYWORD NOT PRESENT.

説明

FMT キーワードを指定しないで、SCRATCH FORMAT は要求できません。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット名または ALL を指定してください。訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1246I INTERNAL INDEX/DELETE LOGIC ERROR. SNAP ID=125 TAKEN.

説明

内部論理エラーが、INDEX/DELETE アクション・モジュール DFSUTSGO の DIRMAINT サブルーチンで発生しています。スナップ・メモリー・ダンプが SYSSNAP DD ステートメント・データ・セットに対して取られています。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

問題判別後、障害の原因になっているステートメントを目視スキャンし、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、4、8、13、24、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1247I MEMBER= name RECEIVED RETURN CODE= nnnn FROM STOW WITH DELETE OPERATION.

説明

名前が *name* のメンバーに関して要求されたスクラッチ・アクションが、ホスト・システム **STOW** 機能から戻りコード *nnnn* を受信しました。*nnnn* は、受信された 16 進戻りコードです。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

戻された *nnnn* 値の解釈については、ホスト・システムの **STOW** 機能の戻りコードを参照してください。

関連資料

[z/OS: STOW の完了コード](#)

DFS1248I REQUESTED FMT DOES NOT EXIST IN FORMAT LIBRARY.

説明

フォーマット (FMT) 制御ブロック記述子に関して要求されたアクションは、正常に行われていません。要求された記述子が FORMAT ライブラリーにありません。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

正しいフォーマット名を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1249I REQUESTED MSG DOES NOT
 EXIST IN REFERAL LIBRARY.**

説明

REFERAL ライブラリー・メンバーに関する SCRATCH 要求が、次のいずれかの理由で実行されませんでした。

- メンバーが MFS ユーティリティ・プログラム DFSUTSO0 にとって不明である。
- スクラッチされるメンバーが、実際は FMT または TBL 記述である。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

正しいメッセージ名を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1250I REQUESTED FMT DOES NOT EXIST
 IN REFERAL LIBRARY.**

説明

REFERAL ライブラリー・メンバーに関する SCRATCH 要求が、次のいずれかの理由で正常に行われませんでした。

- メンバーが MFS ユーティリティ・プログラム DFSUTSO0 にとって不明である。
- スクラッチされるメンバーが、実際は MSG または TBL 記述である。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

正しいフォーマット名を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

第 29 章 DFS メッセージ DFS1251I - DFS1300I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1251I **REQUESTED TBL DOES NOT EXIST
IN REFERAL LIB.**

説明

REFERAL ライブラリー・メンバーに関するスクラッチ要求が、次のいずれかの理由で正常に行われませんでした。

- メンバーが MFS ユーティリティーにとって不明である。
- スクラッチされるメンバーが、実際は FMT または MSG 記述である。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

REFERAL リストをチェックしてエラーを訂正し、TBL を再度指定してから、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1252I **I/O ERROR ON REFERAL, SNAP
ID=124 TAKEN.**

説明

入出力エラーが REFERAL ライブラリーで発生しています。スナップ・ダンプが SYSSNAP DD データ・セットに対して取られています。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

入出力エラーの原因を判別し、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1253I **LIBRARY CONTENTS ARE
INVALID, SNAP ID=124 TAKEN.**

説明

REFERAL ライブラリー PDS の内容に誤りがあります。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

問題判別

ソース、障害が起こっている実行からのリスト、REFERAL のリスト PDS

DFS1254I **REQUESTED PDB DOES NOT EXIST
IN REFERAL LIBRARY**

説明

REFERAL ライブラリーの区画記述子ブロック (PDB) メンバーに関する SCRATCH 要求は、そのメンバーが検出されなかったため、実行されませんでした。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

PDB 名を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1255I **THE PARAMETER {DCTSUF=|
DSCTSUF=|DSCMSUF=|
DEVCHAR=}x SPECIFIED IN THE
EXEC STATEMENT IS {WRONG
LENGTH|INVALID|DUPLICATE}**

説明

装置特性テーブルまたは記述子メンバー名 (DFSUDT0x、DFS D SCTx、または DFS D SCMx) を完成するための付加として、EXEC ステートメントで指定されている接尾部 'x' に、有効なメンバー名の生成を許さない文字が含まれています。

システムの処置

実行を継続します。装置特性テーブル・メンバー名は、後続の MFS サービス・ユーティリティー制御ステートメントで特に指定されない限り、デフォルトで DFSUDT00 になります。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーが終了し、戻りコード 4 が示されます。記述子メンバー名は、デフォルトで DFS D SCT0 または DFS D SCM0 になります。

プログラマーの応答

生成された出力に不満がある場合は、EXEC ステートメント・パラメーター・フィールドで有効な接尾部を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1256I THE PARAMETER DEVCHAR=*x*
SPECIFIED IN THE CONTROL
STATEMENT IS {WRONG LENGTH|
INVALID}**

説明

装置特性テーブル・メンバー名 (DFSUDT0*x*) を完成するための付加として、制御ステートメントで指定されている接尾部「*x*」に、有効なメンバー名の生成を許可しない文字が含まれていました。

システムの処置

この制御ステートメントは無視され、実行は後に続いている制御ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

制御ステートメントに正しい接尾部を入力し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1257I BLDL ERROR, RETURN CODE=*xx*

説明

ゼロ以外の戻りコードが装置特性テーブル・メンバーに関する BLDL から戻されました。メンバー名が DFSUDT0*x* で、*x* は、MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーに関する DCTSUF= キーワード、および MFS サービス・ユーティリティーに関する DEVCHAR= キーワードと共に指定されます。デフォルトの名前は DFSUDT00 です。

システムの処置

MFS サービス・ユーティリティーの場合は、この制御ステートメントは無視され、実行は後に続いている制御ステートメントから続行されます。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーは、戻りコード 12 で終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントまたは EXEC ステートメントのキーワードに正しい接尾部を入力し、ジョブを再実行依頼してください。

関連資料

[z/OS: BLDL の完了コード](#)

**DFS1258I SYMBOLIC NAME 3270-Ann IS
INVALID**

説明

DEV= パラメーターで指定されているシンボル名 3270-Ann が無効です。3270-A に付加されている番

号 *nn* が「1 から 15」の範囲内になかったか、*nn* の長さが 1 より小、または 2 より大でした。

システムの処置

この制御ステートメントは無視され、実行は後に続いている制御ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

制御ステートメントでの指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1259I nnnn IS AN INVALID KEY NUMBER

説明

メッセージ生成プログラム・モジュール DFSUTSCO が、キーが *nnnn* のメッセージを生成する要求を受信しています。要求されたメッセージは、既知のメッセージ・テーブルには存在しません。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

問題判別後、障害の原因になっているステートメントを目視スキャンし、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

1、2、3、4、8、12、13、36

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS1260I UNABLE TO OPEN FORMAT
LIBRARY**

説明

FORMAT DD ステートメントの DCB の 1 つが開けませんでした。

システムの処置

処理は次のユーティリティー制御ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

FORMAT に関する DD ステートメントが組み込まれ、正しく指定されているか確認してください。ジョブを再実行依頼してください。

DFS1261I **UNABLE TO OPEN REFERAL
LIBRARY**

説明

REFIN DD ステートメントの DCB の 1 つが開けません
でした。

システムの処置

処理は次のユーティリティー制御ステートメントから
続行されます。

プログラマーの応答

REFIN に関する DD ステートメントが組み込まれ、正しく
指定されているか確認してください。ジョブを再実行
依頼してください。

DFS1262I **MESSAGE FORMAT SERVICE DCT
UTILITY DATE=mm/dd/
yyTIME=hh.mm.ss PAGE nnnn**

説明

このメッセージは、MFS 装置特性 テーブル (DCT) ユー
ティリティー・プログラムからの SYSPRINT 出力デー
タ・セットのタイトルまたはヘッダー行です。このメ
ッセージが書き込まれるのは、エラーがユーティリティー
の最初のステップで検出されたときのみです。この
メッセージの後に、エラー・メッセージが続きます。

DFS1263X **FIND FAILED FOR DESCRIPTOR
MEMBER xxxxxxxx RETURN CODE=
X'yyyyyyyy'**

説明

PROCLIB データ・セットからの記述子メンバー
xxxxxxx に関して、FIND が失敗しました。メンバー名
は、DFSDSCMa (DSCMSUF= パラメーターで a が指定さ
れている場合) と、DFSDSCTb (DSCTSUF= パラメーター
b が指定されている場合) のいずれかです。

システムの処置

MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーは、戻りコ
ード 12 で終了します。

プログラマーの応答

MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーが指定され
た記述子メンバーを、DD 名が PROCLIB のデータ・セ
ットで見つけられなかった理由を判別してください。

DFS1264W **DEVCHAR SUFFIX xx TRUNCATED
TO FIRST CHARACTER**

説明

EXEC ステートメントの DEVCHAR= パラメーターで複
数の文字が指定されました。メッセージに表示される
のは、指定された最初の 2 文字のみです。

システムの処置

先頭文字のみが、装置特性テーブル名の 1 文字接尾部と
して使用されます。MFS 装置特性テーブル・ユーティ
リティーが終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答

EXEC ステートメントの DEVCHAR= パラメーターに関
して、有効な単一英数字接尾部を指定してください。
それから、ジョブを再実行してください。

DFS1265I **IMS CONNECT CALL TO THE MVS
WORKLOAD MANAGER FAILED,
RETURN CODE= nn, REASON
CODE=nnnn.**

説明

IMS が接続を試みたとき、z/OS ワークロード管理サー
ビスがゼロ以外の戻りコードを戻しました。

システムの処置

IMS は初期設定を続けますが、z/OS ワークロード管理
サービスには参加しません。

プログラマーの応答

戻りコードおよび理由コードの説明については、z/OS
の資料を参照してください。

関連情報

[z/OS: ワークロード管理サービスの概要](#)

[z/OS: IWMCONN - ワークロード管理への接続](#)

DFS1266 **INCORRECT SPECIFICATION OF
LU NAME**

説明

コマンドでのネットワーク修飾 LU 名の指定に誤りが
あります。ネットワーク修飾 LU 名は、最大長が 17 バ
イトで、8 バイトを最大とするネットワーク ID と、8
バイトを最大とする LU 名をピリオドで区切り、それを
単一引用符で囲んだ構成で、例えば、
'networkid.luname' のようになります。ネットワーク
修飾 LU 名は、コマンドに入力するときは、単一引用符
で囲む必要があり、ブランクを含むことはできません。

コマンドが、次のいずれかの理由でリジェクトされま
した。

- ネットワーク ID と LU 名 の間にピリオドが欠落している。
- ネットワーク ID または LU 名 のフィールドの長さが 8 バイトより大きい。
- 右単一引用符が欠落している。
- 単一引用符間のどこかにブランクがある。
- ネットワーク ID と LU 名 のどちらかのフィールドにパラメーター ALL が指定されていた。
- ネットワーク修飾 LU 名に無効文字が検出された。
- .

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

ネットワーク修飾 LU 名を正しいフォーマットで使用して、コマンドを再入力してください。

DFS1267 **PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS**

説明

コマンドで指定されたパラメーターに無効文字が含まれています。パラメーターに使用できる有効な文字としては、英数字、つまり 'A' から 'Z'、'a' から 'z'、'0' から '9'、3 つの国別文字、つまり '#', '\$', '@', および 2 つの総称文字、つまり '%' と '*' があります。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

有効な文字を使用して、コマンドを再入力してください。

DFS1268 **NO TPIPES ASSOCIATED WITH TMEMBER**

説明

コマンドでは TMEMBER、TPIPE、および ALL キーワードを指定しましたが、指定されているトランザクションに関連した OTMA T パイプがありません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

モジュール:

DFSYC490、DFSYPD0、DFSICLN3

DFS1269E 「内部障害 イムス」、「理由コード =xyyy」を参照して

説明

イムスで内部エラーが発生しました。理由コード xyyy のリストについては、以下の表を参照してください。

メッセージ・テキストの中で、

xx

エラーが発生したモジュールを識別する 10 進数。

yy -

内部理由コード。

yy - が 98 または 99 の場合は、どのモジュールでもエラーが発生する可能性があります。例えば、理由コード = 4698 はモジュール DFSYRST0 で発生し、理由コード = 2898 はモジュール DFSYGRX0 で発生します。

表 10. DFS1269E 理由コード			
xx	yy	モジュール	解説
	-		
xx	98	ドフスプール	DFSYMGAT マクロを使用して、変数のためのストレージの獲得に失敗しました。
xx	99	ドフスプール	DFSYMARL マクロを使用して、変数のストレージを解放できませんでした。
16	01	DFSYSO0	Release_Prefix_and_Syn_Blocks - 接頭部バッファの解放中にエラーが発生しました。
16	02	DFSYSO0	Release_Prefix_and_Syn_Blocks - LUMP ストレージの解放中にエラーが発生しました。
16	03	DFSYSO0	Rel_Sync_AWE_Stg - 同期 AWE ストレージの解放中にエラーが発生しました。
16	04	DFSYSO0	Delete_Sync_AWE_from_YQAB - チェーン内の同期 AWE がありません。
16	05	DFSYSO0	Delete_Sync_AWE_from_YQAB - コールアウト・チェーンから AWE を削除中にエラーが発生しました。
16	06	DFSYSO0	Process_Request_Data - LUMP ストレージの解放エラーです。
19		DFSYLUS0	オトマ・ファスト
20		DFSYST00	OTMA ストレージ・マネージャー
21		DFSYRR00	OTMA DEST 再経路セットアップ・ルーチン
22		ドフサイオ 00	オットマ入出力セットアップルーチン
23		DFSYCM20	OTMA コマンド・プロセッサ
24		DFSYPD40 (核)	OTMA /DIS TRAN または QUERY TRAN
25		DFSYCLH0	オトマ/トラサービス
26		ドッシラクセ 0	オトマセキュリティ
27		DFSYMGX0	OTMA XCF メッセージ出口
28		DFSYGRX0	OTMA XCF グループ出口

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)			
xx	yy	モジュール	解説
29		DFSYXMO0	OTMA 接続メンバーの OIM TCB
30		DFSYC480	オットマの X フェース (ジョイント / 終了) を停止します。
31	01	DFSYFNDO	FIND_LEGACY - DFSFNDDST からの不明の戻りコード
31	02	DFSYFNDO	GET_PRRPIX - DFSPPOOL が、指定された IMS/VS ストレージ・プールからバッファを取得できませんでした。
31	03	DFSYFNDO	PROCESS_YPRX - OTMAYPRX、ユーザー出口ルーチンがまだ定義されていないか、BCB からインターフェース・ブロックを取得できません。
31	04	DFSYFNDO	PROCESS_YDRU - DFSYDRUX、ユーザー出口ルーチンがまだ定義されていないか、BCB からインターフェース・ブロックを取得できません。
31	05	DFSYFNDO	BUILD_OUPUT - ユーザー接頭部の長さがエラーです。
32	01	DFSYFD00	入力 PARM - YDSTTY が正しくありません。
32	02	DFSYFD00	TPIPE - YDSTFUNC の入力 PARM が正しくありません。
32	03	DFSYFD00	YQAB - YDSTFUNC の入力 PARM が正しくありません。
32	04	DFSYFD00	TTIB - YDSTFUNC のための BAD INPUT PARM。
32	05	DFSYFD00	BUILD_TPIPE - DFSBCB GET が失敗しました。
32	06	DFSYFD00	BUILD_TPIPE - TPIPE DFSCIR ITASK が失敗しました。
32	07	DFSYFD00	DELETE_TPIPE - TPIPE DFSCIR DTASK が失敗しました。
32	08	DFSYFD00	DELETE_TPIPE - DFSBCB RELEASE が失敗しました。
32	09	DFSYFD00	RELEASE_YTIB - YTIB が見つかりませんでした。
32	10	DFSYFD00	RTIB - YDSTFUNC の入力パラメーターが正しくありません。
32	11	DFSYFD00	FIND_YTIB - YRTIB の作成に失敗しました。
32	12	DFSYFD00	FIND_YTIB - YTIB ストレージ・プールの取得に失敗しました。
32	13	DFSYFD00	DELETE_TPIPE - DFSBCB REL TPIPE の照会アンカー・ブロック (QAB) が失敗しました。
32	14	DFSYFD00	Release_Msceb - ユーザー接頭部のリリースが失敗しました。
32	15	DFSYFD00	Release_Msceb - ユーザー接頭部のリリースが失敗しました。
32	16	DFSYFD00	Release_Msceb - MSCEB のリリースが失敗しました。

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)			
xx	yy	モジュール	解説
32	17	DFSYFD00	Delete_Tpipe - QAB 保留キュー ITASK のリリースが失敗しました。
32	18	DFSYFD00	Delete_Tpipe - 保留キュー QAB ストレージのリリースが失敗しました。
32	19	DFSYFD00	Delete_Tpipe - QAB ITASK のリリースが失敗しました。
32	20	DFSYFD00	Find_Tpipe - 保留キューの解放が失敗しました。
32	21	DFSYFD00	Find_Tpipe - ITASK のリリースが失敗しました。
32	22	DFSYFD00	Move_Ytib_Chain - YTIB ストレージのリリースが失敗しました。
32	23	DFSYFD00	Move_Ytib_チェーン - YTIB ITASK の削除が失敗しました。
32	25	DFSYFD00	BUILD_YQAB - YQAB 作成が失敗しました。
32	26	DFSYFD00	DFSYPSIO の DYNP ストレージの取得に失敗しました。
32	27	DFSYFD00	DFSYPSIO の DYNP ストレージを解放できませんでした。
33		DFSYFD10	OTMA 制御ブロック・プロセッサ
34	23	DFSYMOMO	NOTIFY_ONE_MEMBER - DFSBCB の取得に失敗しました。
34	24	DFSYMOMO	PROCESS_AWES - 無効な AWOFUNC 関数が要求されました。
34	25	DFSYMOMO	CHECK_SECURITY - セキュリティーが無効です。
34	26	DFSYMOMO	CHECK_SECURITY - RACHECK システムが失敗しました。
34	27	DFSYMOMO	CHECK_SECURITY - RACINIT が失敗しました。
34	30	DFSYMOMO	Do_oic_notify - Get Unique 通知時にエラーが発生しました。
34	31	DFSYMOMO	Do_oic_notify - FINDDEST 通知でエラーが発生しました。
34	32	DFSYMOMO	DRU 出口のロードが失敗しました。
35	03	DFSYMOMO	Check_Security - Tpipe RACINIT の再開が失敗しました。
35	04	DFSYMOMO	Check_Security - Tpipe の再開は許可されていません。
35	24	DFSYMOMO	DO_MEM_PHASE3 - OTMA がフェーズ 3 で作動不能状態になっています。
35	25	DFSYMOMO	ARE_QAB_READY - すべての QAB がシャットダウンの準備ができていません。
35	26	DFSYMOMO	ARE_TIBS_READY - すべての TIBs がシャットダウンの準備ができていません。

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)			
xx	yy	モジュール	解説
35	27	DFSYMEM0	PERFORM_ON_TIB - TIB をポストできません。
35	28	DFSYMEM0	PERFORM_ON_QAB - 照会アンカー・ブロック (QAB) をポストできません。
35	29	DFSYMEM0	PROCESS_AWES - 無効な AWOFUNC 関数が要求されました。
35	30	DFSYMEM0	FREE_AWE - サポートされない AWE タイプです。
35	31	DFSYMEM0	Activate_Resume_Tpipe - システムは、照会アンカー・ブロック (QAB) をポストできませんでした。
35	32	DFSYMEM0	DO_MEM_RSM_TPIPE - システムは、スーパーメンバーの QAB をポストできませんでした。
35	33	DFSYMEM0	OTMA は、 T パイプの再開 呼び出し用の T パイプの作成または検出に失敗しました。この問題の原因は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 入力 tpipe 名が誤っているため、OTMA が T パイプを作成できないようになっています。 OTMA は、T パイプの再開 呼び出しのための T パイプを作成するためにストレージを使い尽くしました。
35	34	DFSYMEM0	RelStgBuf - OTMA は、DL/I ICAL 呼び出しの応答メッセージのストレージを解放できませんでした。
35	35	DFSYMEM0	DO_MEM_RSM_TPIPE - 通信回線ブロック (CLB) ポインターが無効です。
35	36	DFSYMEM0	DO_MEM_RSM_MHQUE - 通信回線ブロック (CLB) ポインターが無効です。
35	41	DFSYMEM0	Are_TIBs_Ready - トランザクション・インスタンス・ブロック (TIB) をポストできません。
35	42	DFSYMEM0	DO_MEM_RSM_TPIPE - 照会アンカー・ブロック (QAB) をポストできません。
35	43	DFSYMEM0	Are_TIBs_Ready - QAB をポストできません。
35	44	DFSYMEM0	Do_mem_rep_resync - QAB をポストできません。
35	45	DFSYMEM0	Do_mem_rep_resync - QAB をポストできません。
35	46	DFSYMEM0	DO_MEM_RSM_TPIPE - QAB をポストできません。
35	47	DFSYMEM0	Queue_Resume_T パイプ - QAB をポストできません。
35	48	DFSYMEM0	Do_Mem_Del_Resume_Tp - QAB をポストできません。
35	49	DFSYMEM0	OTMA は、 T パイプの再開 呼び出しのためのスーパーメンバー TPIPE の保留キューを初期化できませんでした。

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)			
xx	yy	モジュール	解説
36		DFSYIMIO	OTMA は新しい MBR のストレージを取得している。
37	28	DFSYPSIO	PROCESS_AWE - サポートされない AWE 機能タイプです。
37	29	DFSYPSIO	FREE_AWE - サポートされない AWE タイプです。
37	30	DFSYPSIO	状態データなし。
38		ドフシピス	TPIPE 出力 AWE SERV DFSYP スー
39		DFSYSNDO	OTMA XCF インターフェイス
40	01	DFSYTIB0	Normal_Cleanup - リリース TIB が失敗しました。
40	02	DFSYTIB0	Find_Dest: トランザクション・コードの宛先が見つかりません。
40	03	DFSYTIB0	セキュリティのチェック - RACINIT が失敗しました。
40	04	DFSYTIB0	チェック・セキュリティ - RACHECK 検査済み TranCode/コマンド Verb が失敗しました。
40	05	DFSYTIB0	予約済み。
40	06	DFSYTIB0	エンキュー - メッセージ・ルーター DFSICLRO が宛先にメッセージをエンキューしましたが、失敗しました。
40	07	DFSYTIB0	Process_Input - バッファ・プール取得に失敗しました。
40	08	DFSYTIB0	Normal_Cleanup - 割り振られていた受信バッファまたはコマンド・バッファを解放できません。
40	09	DFSYTIB0	Process_Input - DFSQMGR がメッセージ接頭部を更新し、そのメッセージがリカバリー不能で再始動可能でないことを示しますが、失敗しました。
40	10	DFSYTIB0	予約済み。
40	11	DFSYTIB0	Inser_One_Segment - QMGR がセグメントを挿入しましたが、失敗しました。
40	12	DFSYTIB0	Process_cmd: DFSYCMD0 コマンドにエラーがあります。
40	13	DFSYTIB0	予約済み。
40	14	DFSYTIB0	Handle_Error - 保留中の QMGR がキャンセルされましたが、失敗しました。
40	15	DFSYTIB0	予約済み。
40	16	DFSYTIB0	予約済み。
40	17	DFSYTIB0	Process_FastPath - 高速機能トランザクションでエラーが発生しました。
40	18	DFSYTIB0	予約済み。
40	19	DFSYTIB0	Conv_Trans - 会話型トランザクションではありません。

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)			
xx	yy	モジュール	解説
40	20	DFSYTIBO	Update_Msg_Prefix - DFSQMGR 内での Non_Fastpath トランザクションの内部エラーです。
40	21	DFSYTIBO	Update_Msg_Prefix - DFSQMGR 内での Non_Fastpath トランザクションの応答 Mod エラー。
40	22	DFSYTIBO	Free_Awe - サポートされない AWE タイプ
40	23	DFSYTIBO	Find_Dest - OTMA クライアントから無効なコマンドがあります。DFS1285E を参照してください。
40	24	DFSYTIBO	Find_Dest - トランザクションは現在使用できません。DFS3470 を参照。
40	25	DFSYTIBO	Find_Dest - SMB トラン/LTERM は停止されました。DFS065 を参照。
40	26	DFSYTIBO	Find_Dest - 無効なトランザクションが CPIC です。DFS1286E を参照してください。
40	27	DFSYTIBO	Find_Dest - リモート宛先 (RCNT) が無効です。DFS1287E を参照してください。
40	28	DFSYTIBO	Find_Dest - 無効な CNT 名が指定されています。DFS1288E を参照してください。
40	29	DFSYTIBO	Find_Dest - SMB が見つかりません。DFS064 システムを参照。
40	30	DFSYTIBO	Check_Security - セキュリティーが無効です。DFS1292E を参照してください。
40	31	DFSYTIBO	Conv_TRAN - システム・エラーが要求されました。
40	32	DFSYTIBO	Process_FastPath - システム・エラー・メッセージ。
40	33	DFSYTIBO	Process_FastPath - ユーザー・エラー・メッセージ。
40	34	DFSYTIBO	セグメントを挿入する - 単一セグメント・メッセージ。DFS1290E を参照。
40	35	DFSYTIBO	エンキュー - すべてのメッセージが廃棄された。DFS249 を参照。
40	36	DFSYTIBO	Insert_One_Segment - スル・セグメントが送信されました。ダフス 249 を参照。
40	37	DFSYTIBO	Insert_One_Segment - キュー・オーバーフローを挿入できませんでした。
40	38	DFSYTIBO	Find_Dest - イムス 会話型トランザクションまたは高速機能トランザクションの CMO を不許可にします。DFS1291E を参照。
40	39	DFSYTIBO	Process_commit - エラー・メッセージなしで会話を終了しています。
40	40	DFSYTIBO	Find_Dest - DFSMSCEO 端末経路指定の入り口点が、リモート・システムに

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)			
xx	yy	モジュール	解説
			メッセージを転送することを要求しましたが、失敗しました。DFS064 システムを参照。
40	41	DFSYTIBO	Find_Dest - DFSMSCEO 端末経路指定の入り口点が、リモート・システムにメッセージを転送することを要求しましたが、失敗しました。デフス 070 を参照。
40	42	DFSYTIBO	Check_Seq_Num - Resynch のリカバリー可能シーケンス番号の妥当性検査を行います。セグメント番号で失敗しました。
40	43	DFSYTIBO	Check_Seq_Num - Resynch のリカバリー可能シーケンス番号の妥当性検査を行います。Nack で失敗しました。
40	48	DFSYTIBO	無効なメッセージが DFSYPSIO から受信されました。
40	51	DFSYTIBO	AWE 制御ブロックを持たない入力メッセージを処理するときに、無効な AWE 機能コードが指定されました。
40	54	DFSYTIBO	キュー・マネージャーの接頭部を挿入しようとしたが、失敗しました。
40	58	DFSYTIBO	バックエンド イムス から送信された無効な APPC/OTMA 共用キュー接頭部データが、フロントエンド イムス内で検出されました。
40	60	DFSYTIBO	Go_DFSYIO00 - イムスは、OTMAIOED ユーザー出口を呼び出すための LUMP ストレージの取得に失敗しました。
40	61	DFSYTIBO	エンキュー - イムスが LUMP ストレージの解放に失敗しました。
40	63	DFSYTIBO	Process_Input - バッファ・プール取得に失敗しました。
40	64	DFSYTIBO	Process_Output - 共用キューの非同期作業エレメント (AWE) の解放中にエラーが発生しました。
40	65	DFSYTIBO	Msg_Back_Queue - 非同期作業エレメントの解放 (AWE) が失敗しました。
40	66	DFSYTIBO	Msg_Back_Queue - エラーになっている会話型トランザクション。
40	67	DFSYTIBO	Msg_Back_Queue - エラーになっている会話型トランザクション。
40	68	DFSYTIBO	Msg_Back_Queue - 非同期作業エレメントの解放 (AWE) が失敗しました。
40	69	DFSYTIBO	Conv_Tran - 会話型トランザクションにエラーがあります。
40	71	DFSYTIBO	Conv_Tran - 会話型トランザクションにエラーがあります。
40	72	DFSYTIBO	Go_DFSYIO00 - イムスは、OTMAIOED ユーザー出口を呼び出すための LUMP ストレージの取得に失敗しました。

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)			
xx	yy	モジュール	解説
40	74	DFSYTIB0	Go_DFSYIO00 - イムスは LUMP ストレージを解放できませんでした。
40	75	DFSYTIB0	Normal_Cleanup - イムスは LUMP ストレージの解放に失敗しました。
40	76	DFSYTIB0	Setup_Security - イムス ラクトール TOKENMAP 用の LUMP ストレージの取得に失敗しました。
40	77	DFSYTIB0	Setup_Security - イムスは LUMP ストレージの解放に失敗しました。
41	08	DFSYQAB0	Get_First_Segment - DFSQMGR がセグメント障害を取得します。
41	28	DFSYQAB0	Check_System_Status - メンバーは送信をクリアしていません。
41	29	DFSYQAB0	Edit_N_Send - セグメントはキャンセルされました。
41	30	DFSYQAB0	Move_Segment_Into_Buf - セグメント長の LLZZ が最大サイズを超えています。
41	50	DFSYQAB0	Check_System_Status - システムのシャットダウンが進行中です。
41	51	DFSYQAB0	Check_System_Status - XCF グループが使用可能になっていません。
41	52	DFSYQAB0	Check_System_Status - Qab/Pipe 制御ブロックが停止されていません。
41	53	DFSYQAB0	「事前に送信」チェック - 作業の場合は YQAB をクリアできません。
41	54	DFSYQAB0	Get_First_Segment - DFSQMGR は最初のセグメントを取得できません。
41	55	DFSYQAB0	予約済み。
41	56	DFSYQAB0	Get_First_Segment - APPC トランザクションに接頭部がありません。
41	57	DFSYQAB0	Get_Storage - DFSPool 割り振り済みストレージの障害。
41	58	DFSYQAB0	Dispose_Msg - メッセージが送信された後、メッセージを再度ウォッシュします。
41	59	DFSYQAB0	フリー・ストレージ - DFSPool 障害を使用して、ストレージを解放しました。
41	60	DFSYQAB0	Check_System_Status - RESYNC フラグがオンになっています。
41	61	DFSYQAB0	Proc_Sync_Callout_Msg - AWE 処理エラーを同期しています。
41	62	DFSYQAB0	Proc_Sync_Callout_Msg - AWE の不明状態を同期しています。
41	80	DFSYQAB0	Reroute_Msg - メッセージ保留キューの YQAB を見つけることができません。
41	81	DFSYQAB0	Reroute_Msg - メッセージを転送できません。

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)			
xx	yy	モジュール	解説
41	82	DFSYQAB0	Reroute_Msg - メッセージ・ルーター CLR1 からの戻りコードが正しくありません。
42	04	DFSYLUS0	Send_Service - 同期出力を送信しますが、YQAB インジケーターがオンになっています。
42	08	DFSYLUS0	Send_Service - DFSYSLM0 は XCF 送信を発行しますが、失敗しました。
42	29	DFSYLUS0	Send_Deallocate - DFSYFMTE が対応する入力メンバーを検出できません。
42	30	DFSYLUS0	Do_Invalid_Service - 正しくないアドレス可能度またはパラメーター域。
42	31	DFSYLUS0	Chng_Service - DFSYFND0 は DFSDLA30 に戻る必要がありますが、これは DFSDLA30 に戻されません。
42	32	DFSYLUS0	Find_QAB - OTMA メッセージ接頭語に QAB が見つかりません。
42	33	DFSYLUS0	Find_RTIB - OTMA メッセージ接頭語に RTIB が見つかりません。
42	34	DFSYLUS0	Find_TIB - OTMA メッセージ接頭語で TIB を検出できません。
42	35	DFSYLUS0	GetQabTib_Service - OTMA が、YTIB/YQAB アドレスを持つ CLB に戻るが、DLAMSGIN が OTMA メッセージ接頭部を指していない。
42	36	DFSYLUS0	Copypf_Service - OTMA で OTMA メッセージ接頭部をコピーする場合、DLAMSGIN は OTMA メッセージ接頭部を指していますが、LUMBLK で TIB を見つけることができません。
42	37	DFSYLUS0	Copypf_Service - OTMA で OTMA メッセージ接頭部をコピーする場合、DLAMSGIN は OTMA メッセージ接頭部を指していますが、LUMBLK_Ptr はゼロです。
42	38	DFSYLUS0	Get_OTMA_Prefix - DFSPool は、OTM 接頭部のストレージを取得できません。
42	39	DFSYLUS0	TibInfo_Service - OTMA が YTIB に情報を戻すと、LUMBLK_Ptr は YTIB を指していますが、LTERM のアドレス (DLALTRMA) はゼロです。
42	40	DFSYLUS0	Inqy_Service - OTMA は、OTMA 接頭部または YQAB/YTIB から戻された情報ではありません。
42	43	DFSYLUS0	Sync_Output - 同期 AWE ストレージの取得に失敗しました。
42	45	DFSYLUS0	Sync_Output - 同期 AWE ストレージの解放に失敗しました。
42	48	DFSYLUS0	Send_Deal_to_FE - 同期 AWE ストレージの取得に失敗しました。
42	49	DFSYLUS0	Send_DFS_Msg_To_FE - 同期 AWE ストレージの取得に失敗しました。

DESTINATION NAME=*destination* IS CPIC AND NOT ALLOWED FROM AN OTMA MEMBER

443 ページの『DFS1287E』

DESTINATION NAME=*destination* IS RCNT AND NOT ALLOWED FROM AN OTMA MEMBER

443 ページの『DFS1288E』

DESTINATION NAME=*destination* IS CNT AND NOT ALLOWED FROM AN OTMA MEMBER

444 ページの『DFS1291E』

DESTINATION NAME=*destination* HAS AN INVALID COMMIT MODE

1000 ページの『DFS3470』

TRANSACTION CURRENTLY NOT AVAILABLE FOR USE (I:*sss1/name1*, D:*sss2/name2*)

DFS1270I **MADS I/O TIMING STRUCTURE
CONNECT SUCCESSFUL**

説明

IMS が MADS 入出力タイミングに関して 構造を正常に割り振りました。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS1271E **IMPROPER MADS I/O PARAMETER
SPECIFIED RSN=*rc***

説明

無効の MADS I/O タイミング・パラメーターが検出されました。メッセージ・テキストで、*rc* は次のいずれかです。

コード (10 進数)

意味

- 1 MADS 入出力構造の長さが 16 バイトより大きい。
- 2 3 バイトを超える文字が入出力時間に指定されている。
- 3 無効文字が構造名で検出された。
- 4 無効文字が入出力時間で検出された。
- 5 256 秒を超える秒数が入出力時間に書き込まれた。

システムの処置

IMS は異常終了し、ユーザー異常終了コード 0076 が示されました。

モジュール

DFSTRA00

DFS1271I **MADS I/O TIMING STRUCTURE
WAS DISCONNECTED. RSN=XX**

説明

IMS は、次の理由でリスト構造を切断しました。

コード (10 進数)

意味

01

構造障害

02

リンク・エラーが検出された。

DFS1272I **NO ENTRY UNDER IMSID=cccccccc
FOUND, LONG BUSY TKO ENDED**

説明

XCF EVENT 出口が、cccccccc で識別されている IMSID が終了したという通知を受信しました。モジュール DBFMLBIO がリスト構造をチェックしましたが、ロング・ビジー ADS が検出されませんでした。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DBFMLBIO

DFS1273I **USER SPECIFIED DBFMLBX0 IS
USED FOR HASHING MODULE**

説明

このメッセージは、長時間使用中 (long busy) のロジックでユーザー・ハッシュ・モジュール DBFMLBX0 を使用することを示します。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS1277W LUMx POOL STORAGE SHORTAGE.

説明

LUMP または LUMC ストレージ・プールに残っているフリー・ストレージは 5 MB を下回っています。メッセージ・テキスト内の x は、P または C のいずれかです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答:

次回の IMS の再始動時に、LUMP または LUMC プール制限の値を大きくして指定してください。

DFS1278E LUMx POOL LIMIT REACHED, ALL APPC INPUT WILL BE REJECTED.

説明

LUMP または LUMC ストレージ・プールのフリー・ストレージは 1 MB を下回っています。メッセージ・テキスト内の x は、P または C のいずれかです。

システムの処置

IMS は、APPC/MVS に対して、プールのストレージが 5 MB を超えるまですべての拡張プログラム間通信機能 (APPC) 入力をリジェクトするように指示します。既に処理中の APPC 入力は続行できます。

プログラマーの応答:

トランザクションの実行を妨げる、停止したリソースがあるかどうかを確認してください。どのクライアントでも、IMS がトランザクションであふれることがないようにしてください。LUMP または LUMC プール制限の値を大きくして指定することを検討してください。

DFS1279I APPC INPUT PROCESSING RESUMED.

説明

LUMP または LUMC ストレージの不足が解消され、拡張プログラム間通信機能 (APPC) からの新規の入力が許可されます。

システムの処置

IMS は、すべての APPC 入力を受け入れるように APPC/MVS に指示します。処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

LUMP または LUMC ストレージ不足が再び発生した場合は、DFS1278E の情報に含まれる応答ステップに従ってください。

関連情報

441 ページの『DFS1278E』

LUMx POOL LIMIT REACHED, ALL APPC INPUT WILL BE REJECTED.

DFS1280E INVALID RESPONSE MESSAGE FROM MEMBER=client

説明

OTMA クライアントが無効の応答メッセージを IMS に送信しました。client は 16 バイトのクライアント名です。

システムの処置

OTMA 応答メッセージは無視されます。

プログラマーの応答

OTMA 応答メッセージが ACK と NACK のいずれかのメッセージであるか確認してください。

モジュール

DFSYMEMO

DFS1281E (N)ACK ON NON-EXISTING TPIPE=tpipe FROM MEMBER=member

説明

OTMA クライアントが、存在しないトランザクション・パイプに関して、応答メッセージを IMS に送信しました。tpipe は、8 バイトのトランザクション・パイプ名です。member は、16 バイトのクライアント名です。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置

OTMA 応答メッセージは無視されます。

プログラマーの応答

クライアントに関連した OTMA トランザクション・パイプが OTMA 応答メッセージを待っているか確認してください。

モジュール

DFSYMEMO

DFS1282E **UNABLE TO CREATE OR USE
TPIPE=*tpipe* FOR
MEMBER=*member***

説明

OTMA クライアントが IMS に既存の Tpipe の使用、または新しい Tpipe の作成を要求しました。次の 2 つのエラーのいずれかが発生しました。

- IMS が新しい Tpipe を作成するためのストレージを割り振れなかった。
- OTMA メッセージ制御情報接頭部の処理フラグの同期化 Tpipe フラグが、既存の Tpipe に関して、誤ってオンまたはオフに設定された。

入力または出力 OTMA メッセージに関して、Tpipe が作成された後では、後続の入力または出力 OTMA メッセージに関して、Tpipe の同期化 Tpipe 設定は変更できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tpipe

8 バイトのトランザクション・パイプ名を識別します。

member

16 バイトのクライアント名を識別します。

システムの処置

IMS は、NACK メッセージで元の OTMA メッセージに応答します。

プログラマーの応答

IMS システムに使用可能なストレージが十分にあるか確認してください。また、OTMA メッセージ制御情報接頭部の処理フラグの同期化 Tpipe フラグもチェックしてください。

モジュール

DFSYMEMO

DFS1283E **(N)ACK ON NON-EXISTING BLOCK
IN TPIPE=*tpipe* MEMBER=*member*
TOKEN=*token***

説明

OTMA が、既存のトランザクション・パイプに関して、応答メッセージを IMS に送信しましたが、制御ブロックが存在しませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tpipe

8 バイトのトランザクション・パイプ名

member

16 バイトのクライアント名

token

32 バイトのサーバー・トークン

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置

OTMA クライアントからのメッセージは無視されません。ID=YPSI または ID=YNAK が指定された X'6701' エラー・レコードが IMS OLDS に記録されます。

プログラマーの応答

クライアントに関連した OTMA トランザクション・パイプが OTMA 応答メッセージを待っており、その OTMA メッセージ内の IMS トークンが有効であることを確認してください。

モジュール:

DFSYPSIO

DFS1284E **(N)ACK ON NON-WAITING BLOCK
IN TPIPE=*tpipe* MEMBER=*member*
TOKEN=*token***

説明

OTMA クライアントは、メッセージを待機しないトランザクション・パイプ (Tパイプ) について、確認応答 (ACK または NAK) を IMS に送信しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tpipe

8 バイトのトランザクション・パイプ名

member

16 バイトのクライアント名

token

32 バイトのサーバー・トークン

クライアントが誤った Tパイプ名を指定したか、IMS OTMA の待機がすでにタイムアウトになった可能性があります。Tパイプは保留状態になった可能性があります。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置

OTMA クライアントからのメッセージは無視されません。ID=YNAK を持つ X'6701' エラー・レコードが IMS OLDS に記録されます。

プログラマーの応答

クライアントに関連した OTMA トランザクション・パイプが OTMA 応答メッセージを待っており、その OTMA メッセージ内の IMS トークンが有効であることを確認してください。

モジュール:
DFSYPPIO

DFS1285E **COMMAND INVALID FROM AN
OTMA CLIENT**

説明

コマンドは、OTMA クライアントから入力できませんでした。コマンドが入力できるのは、IMS 端末からのみです。

システムの処置

IMS コマンドは無視されます。

プログラマーの応答

正しいコマンドが入力されたか判別してください。そうであれば、別の IMS、XCF、または VTAM コマンドでは望ましい結果が得られる可能性があります。

モジュール

DFSYTIB0

DFS1286E **DESTINATION NAME=*destination*
IS CPIC AND NOT ALLOWED FROM
AN OTMA MEMBER**

説明

示されている宛先は、CPI Communications ドリブン・トランザクションであり、OTMA クライアントから処理のために受け入れできません。

システムの処置

IMS は、OTMA クライアントに NACK メッセージを送信します。元のメッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答

OTMA クライアントが CPI Communications ドリブン・トランザクションに関してメッセージを出していないことを確認してください。

モジュール

DFSYTIB0

DFS1287E **DESTINATION NAME=*destination*
IS RCNT AND NOT ALLOWED
FROM AN OTMA MEMBER**

説明

示されている宛先は、RCNT であり、OTMA クライアントから処理のために受け入れできません。

システムの処置

IMS は、OTMA クライアントに NACK メッセージを送信します。元のメッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答

OTMA が RCNT 名に関してメッセージを出すことはないか確認してください。

モジュール

DFSYTIB0

DFS1288E **DESTINATION NAME=*destination*
IS CNT AND NOT ALLOWED FROM
AN OTMA MEMBER**

説明

示されている宛先は、CNT であり、OTMA クライアントから処理のために受け入れできません。

システムの処置

IMS は、OTMA クライアントに NACK メッセージを送信します。元のメッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答

OTMA クライアントが CNT 名に関してメッセージを出すことはないか確認してください。

モジュール

DFSYTIB0

DFS1290E **DESTINATION NAME=*destination*
IS SINGLE SEGMENT, TPIPE=*tpipe***

説明

示されている宛先で受け入れできるのは、単一セグメント・メッセージのみです。複数セグメントが検出されたため、メッセージは廃棄されます。*tpipe* は、8 バイトのトランザクション・パイプ名です。

システムの処置

OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。

プログラマーの応答

OTMA メッセージにセグメントが 1 つしかないか 確認してください。

モジュール

DFSYTIB0

**DFS1291E DESTINATION NAME=*destination*
HAS AN INVALID COMMIT MODE**

説明

示されている宛先名に無効のコミット・モードがありました。通常、トランザクションは IMS 高速機能トランザクションか、IMS 会話型トランザクションであり、Commit-then-Send コミット・モードを使用する、OTMA クライアントに関するメッセージをキューに入れることはできません。

システムの処置

OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。

プログラマーの応答

OTMA メッセージが適正なコミット・モード、通常は、Send-then-Commit コミット・モードを使用するか確認してください。

モジュール

DFSYTIB0

DFS1292E SECURITY VIOLATION

説明

IMS は、OTMA トランザクションまたはコマンドがセキュリティ検査に失敗したため、それをリジェクトしました。

システムの処置

OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。

プログラマーの応答

OTMA メッセージ接頭部のセキュリティ・データ・セクションを調べて、ユーザー・トークン、ユーザー ID、またはグループ名が指定されていて、有効であったか確認してください。例えば、ユーザー・トークンにゼロなどのような無効の値が含まれている場合は、メッセージが出されません。

モジュール

DFSYTIB0

**DFS1293E DESTINATION NAME=*destination*
IS IN DOWN LEVEL IMS**

説明

示されている宛先名は、IMS リモート・トランザクション名で、これが無効です。原因としては、宛先の IMS サブシステムが OTMA トランザクションを受け入れることができないことが考えられます。

システムの処置

OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。

プログラマーの応答

宛先の IMS サブシステムがバージョン 5 以上であることを確認してください。

モジュール

DFSYLUS0

**DFS1294E OTMA OUTPUT SEGMENT SIZE
EXCEEDED, MESSAGE
DISCARDED, MEMBER=*member*,
TPIPE=*tpipe***

説明

メッセージ・セグメント長さが限度の 32,764 バイトを超えました。*tpipe* は、8 バイトのトランザクション・パイプ名です。*member* は、16 バイトのクライアント名です。

システムの処置

OTMA メッセージは取り消されます。

プログラマーの応答

OTMA メッセージのセグメント・サイズをチェックしてください。

モジュール

DFSYSLM0

**DFS1295E DESTINATION NAME=*destination*
IS A REMOTE TRANSACTION
WHICH IS AN INVALID
DESTINATION FOR A PROTECTED
CONVERSATION**

説明

OTMA クライアントまたは LU 6.2 装置が、リモート IMS トランザクションとの保護会話の確立を試みました。

システムの処置

OTMA の場合は、OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。LU 6.2 の場合は、IMS が ATBCMTP_TP_NOT_AVAIL_NO_RETRY との会話を割り振り解除し、このメッセージを LU 6.2 装置に送り返します。

プログラマーの応答

ローカル IMS トランザクションとの保護会話を確立してください。

モジュール

DFSYTIB0、DFSRLM10

DFS1296E **DESTINATION NAME=*destination*
IS NOT A TRANSACTION AND IS
AN INVALID DESTINATION FOR A
PROTECTED CONVERSATION**

説明

OTMA クライアントまたは LU 6.2 装置が、IMS トランザクションではない宛先との保護会話の確立を試みしました。

システムの処置

OTMA の場合は、OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。LU 6.2 の場合は、IMS が ATBCMTP_TP_NOT_AVAIL_NO_RETRY との会話を割り振り解除し、このメッセージを LU 6.2 装置に送り返します。

プログラマーの応答

ローカル IMS トランザクションとの保護会話を確立してください。

モジュール

DFSYTIB0、DFSRLM10

DFS1297E **OTMA TRANSACTION
COMPLETED. OUTPUT SEGMENT
SIZE EXCEEDED FOR
TRANS=*trancode*,
MEMBER=*member*, TPIPE=*tpipe***

説明

OTMA Commit-then-Send 出力メッセージ・セグメント長さが限度の 32K (32,767) バイトを超えました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

member

16 バイトのクライアント名

tpipe

8 バイトのトランザクション・パイプ名

trancode

8 バイトの元の入力トランザクション名

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置

OTMA Commit-then-Send 出力メッセージは取り消されます。ただし、データベース更新があれば、いずれもコミットされます。

プログラマーの応答

OTMA Commit-then-Send 出力メッセージのセグメント・サイズが限度の 32,767 バイトを超えないか確認してください。必要な場合は、セグメント・サイズを縮小してください。

モジュール

DFSYQAB0

DFS1298E **DESTINATION NAME=*destination*
IS A DYNAMIC TRAN AND NOT
ALLOWED FROM AN OTMA
MEMBER**

説明

OTMA クライアントが、共用キュー環境で動的トランザクションの実行を試みしました。これは OTMA では許容されていません。

システムの処置

OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。

プログラマーの応答

そのトランザクションが定義されている IMS システムで、トランザクションを入力してください。

モジュール

DFSYTIB0

DFS1299W **FPBP64=Y IN DFDFDxxx IS NOT
ACCEPTED BY DCCTL**

説明

データ通信制御 (DCCTL) の DFSDFxxx メンバーで FPBP64=Y が指定されました。ただし、DCCTL は FPBP64=Y を受け入れません。

メッセージ・テキスト内の xxx が、DFSDF 接尾部です。

システムの処置

DCCTL は正常に再始動し、古い FP バッファ・セットアップを使用します。

プログラマーの応答

DFSDFxxx メンバーの仕様を訂正します。

モジュール:
DBFFATC1

**DFS1300I SC=08 INVALID STATEMENT OR
 STATEMENT SEQUENCE**

説明

このステートメント・タイプは、正しくないシーケンスで出現しています。システムは、演算子が FMT/

FMTEND、MSG/MSGEND、TABLE/TABLEEND、または END であると予期していました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

適正なステートメントを挿入し、ジョブを再実行してください。

第 30 章 DFS メッセージ DFS1301I - DFS1350I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1301I **SC=04 MISSING END STATEMENT.
EOD RECEIVED**

説明

SYSIN のデータの終わり (EOD) が想定されましたが、END ステートメントが検出されませんでした。

システムの処置

END ステートメントが指定されているものと見なされて、ジョブの終了 (EOJ) 処理が行われます。

プログラマーの応答

入力すべてが処理されているか確認してください。

DFS1302I **SC=04 IMPLEMENTATION
RESTRICTION, (parm-name)
PARAMETER IGNORED**

説明

計画目的で組み込まれたパラメーター NO/REDEF または NO/TEST が指定されたため、無視されます。

システムの処置

処理は次の PARM フィールド、または入手された SYSIN レコードから続行されます。

プログラマーの応答

パラメーター REDEFINE/TEST は指定しないでください。

DFS1303I **SC=08 INVALID STATEMENT
LABEL/OPERATOR START
SEQUENCE**

説明

受信したソース項目が LABEL/OPERATOR 構文要件に適合していません。いずれか一方が必須です。

システムの処置

処理は入力ステートメントの次の項目から続行されます。

プログラマーの応答

エラーのあるソースを調べた上で、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1304I **SC=08 OPERATOR TOO LONG.
STATEMENT SKIPPED**

説明

出現順序では LABEL/OPERATOR である必要があります。ただし、ソース項目は 8 文字より大であり、いずれにしても適格ではありません。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーのあるソースを調べた上で、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1305I **SC=08 INVALID CHARACTER
DELETED**

説明

検出された文字が、英数字、国別文字、算術演算子、句読点のいずれでもありませんでした。

システムの処置

処理は、入力バッファー内の次の文字から再開されません。

プログラマーの応答

エラーのあるソースを調べた上で、エラーを訂正し、再度入力を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1306I **SC=08 END OF STATEMENT
DURING STRING COLLECTION
PROCESSING**

説明

文字の集合を項目取得プロセッサでの処理に備えて準備している最中に、ステートメントの終わり条件が検出されました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーのあるソースを調べた上で、エラーを訂正し、再度入力を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1307I SC=08 END OF FILE DURING
STRING COLLECTION
PROCESSING**

説明

文字の集合を項目取得プロセッサでの処理に備えて準備している最中に、ファイルの終わり条件が検出されました。

システムの処置

処理は適切なデータの終わり (EOD) ルーチンから続行されます。

プログラマーの応答

エラーのあるソースを訂正するか、問題のある SYSLIB ソースを再作成し、ジョブを再実行してください。

**DFS1308I SC=08 ALPHANUMERIC ITEM
OVERFLOW ON SCAN**

説明

英数字項目の長さが 255 バイトを超えました。

システムの処置

処理は次のソース項目から続行されます。

プログラマーの応答

エラーのあるソースを調べた上で、再度項目を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1309I SC=08 NUMERIC ITEM OVERFLOW
ON SCAN**

説明

数値項目の長さが 255 バイトを超えました。

システムの処置

処理は次のソース文字から続行されます。

プログラマーの応答

エラーのあるソースを調べた上で、再度項目を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1310I SC=08 alphanumeric ITEM
OVERFLOW ON SCAN**

説明

英数字項目の長さが 255 バイトを超えました。

システムの処置

処理は次のソース項目から続行されます。

プログラマーの応答

エラーのあるソースを調べた上で、再度項目を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1311I SC=08 STRING ITEM OVERFLOW
ON SCAN**

説明

文字ストリングの長さが 255 バイトを超えました。

システムの処置

処理は次のソース文字から続行されます。

プログラマーの応答

エラーのあるソースを調べた上で、ストリングを再度指定し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1312I SC=08 INVALID LABEL START
CHARACTER. \$ SUBSTITUTED**

説明

LABEL が英字または国別文字以外の文字で始まっています。

システムの処置

処理は次のソース文字から続行されます。

プログラマーの応答

英字/国別文字を先頭文字として使用するラベルを再度指定し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1313I SC=08 INVALID CHARACTER IN
LABEL. \$ SUBSTITUTED**

説明

LABEL に、英数字でも国別文字でもない文字が含まれていました。

システムの処置

処理は次のソース文字から続行されます。

プログラマーの応答

問題のある文字を除去または訂正した上で、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1314I **SC=08 INVALID OPERATOR START CHARACTER. \$ SUBSTITUTED**

説明

出現の順序では OPERATOR である必要がありましたが、現在の項目は先頭文字が英字以外の文字です。

システムの処置

処理は次のソース文字から続行されます。

プログラマーの応答

プリプロセッサ OPERATORS は、すべてが英字ストリングです。演算子を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1315I **SC=08 INVALID OPERATOR CHARACTER. \$ SUBSTITUTED**

説明

出現の順序では OPERATOR である必要がありますが、現在の項目には英字以外の文字が含まれています。

システムの処置

処理は次のソース文字から続行されます。

プログラマーの応答

プリプロセッサ OPERATORS は、すべてが英字ストリングです。演算子を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1316I **SC=08 INVALID OPERAND START CHARACTER. \$ SUBSTITUTED**

説明

OPERAND が、引用符または英字以外の文字で始まっています。

システムの処置

処理は次のソース文字から続行されます。

プログラマーの応答

エラーのある OPERAND を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1317I **SC=08 INVALID CHARACTER IN OPERAND. \$ SUBSTITUTED**

説明

OPERAND に無効文字が含まれていました。

システムの処置

処理は次のソース文字から続行されます。

プログラマーの応答

エラーのある OPERAND を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1318I **SC=08 COLS 1-15 NOT BLANK ON CONTINUATION**

説明

継続ステートメントの 1 から 15 列目がブランクではありません。

システムの処置

処理は次の非継続ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

エラーのある継続ステートメントの 1 から 15 列目をブランクのままにして訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1319I **SC=08 EXPECTED CONTINUATION NOT RECEIVED**

説明

直前のソース・ステートメントに後続のステートメントへの継続が指示されていましたが、後に継続ステートメントが続いていませんでした。

システムの処置

処理は、継続が指定されていない場合と同様に続行されます。

プログラマーの応答

継続ステートメントを指定するか、継続標識を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1320I **SC=08 COLUMN 16 BLANK ON CONTINUATION**

説明

継続ステートメントは、16 列目から始まる 必要がありません。

システムの処置

処理は、このステートメントがコメントである場合と同様に続行されます。

プログラマーの応答

16 列目の継続データの先頭文字を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1321I SC=04 INVALID CHARACTER X'hh' IN STRING

説明

無効文字がリテラル・ストリングで 検出されました。X'hh' は、無効文字の 16 進 表記です。

システムの処置

処理は次のソース文字から続行されます。この文字は生成リテラルに組み込まれています - 装置および文字によっては、フォーマット設定に悪影響を及ぼす可能性があります。

プログラマーの応答

リテラルに正しい内容が含まれているか検証してください。文字によっては、ALPHA ステートメントを使用して、このメッセージを除去できる場合があります。無効文字を省略または変更し、ジョブを再実行してください。

DFS1322I SC=08 EXCESSIVE LABEL LENGTH

説明

LABEL は長さが 8 文字を超えることはできません。

システムの処置

切り捨てが行われ、処理は次のソース文字から続行されます。

プログラマーの応答

示されているラベルを 8 文字以下に短縮し、ジョブを再実行してください。

DFS1323I SC=08 NO OPERATOR FOUND

説明

オペランドの出現の順序では、OPERATOR が次に現れる必要がありますが、検出されませんでした。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

入力を再度指定して有効な OPERATOR を組み込み、ジョブを再実行してください。

DFS1324I SC=08 CONTINUED OPERATOR INVALID SYNTAX

説明

OPERATOR は連続し、単一のステートメントにある必要があります。

システムの処置

処理は、このステートメントがコメントである場合と同様に続行されます。

プログラマーの応答

継続要件に従って入力を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1325I SC=08 MISSING OPERAND. CONTINUED COMMENTS ASSUMED

説明

OPERAND が欠落しています。

システムの処置

処理は、このステートメントがコメントである場合と同様に続行されます。

プログラマーの応答

欠落しているオペランドを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1326I SC=04 EXCESSIVE LABEL LENGTH. FIRST 8 CHARACTERS USED

説明

LABEL は長さが 8 文字を超えることはできません。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

示されているラベルを 8 文字以下に短縮し、ジョブを再実行してください。

DFS1327I SC=08 NO OPERATOR FOUND

説明

OPERATOR がこのステートメントで検出されませんでした。OPERATOR は必須です。

システムの処置

処理は、このステートメントがコメントである場合と同様に続行されます。

プログラマーの応答

必要な OPERATOR を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1328I SC=08 EXPECTED STRING CONTINUATION NOT RECEIVED

説明

リテラル・ストリングの継続が指示されていましたが、検出されませんでした。

システムの処置

処理は、このステートメントがコメントである場合と同様に続行されます。

プログラマーの応答

継続要件に従って入力を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1329I SC=04 END OF FILE DETECTED WHERE CONTINUATION CARD WAS EXPECTED

説明

継続ステートメントが予期されていたときに、ファイルの終わり条件がセンスされました。

システムの処置

処理は該当する EOD ルーチンから続行されます。

プログラマーの応答

エラーのあるソースを訂正するか、問題のある SYSLIB ソースを再作成し、ジョブを再実行してください。

DFS1330I SC=20 I/O ERROR. INPUT PROCESSING TERMINATED

説明

SYSIN または SYSLIB で入出力エラーが発生しました。このメッセージの前に、特定タイプのエラーを示す z/OS メッセージが出されています。

システムの処置

プリプロセッサは、強制ジョブ終了 (EOJ) で終了します。

プログラマーの応答

入出力エラーの原因を判別し、エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1331I SC=08 TEXT SUBSTITUTION BUFFER FULL, TEXT LOST

説明

テキスト置換バッファ・サイズ (4096 バイト) を超えています。さらにエントリーを作成することはできません。

システムの処置

現行テキストはスタックされません。処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

不必要または冗長な EQU (equate) を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1332I SC=04 POSITION MARKER

説明

位置マーカーが、エラーの時点で現行ソース・ポインタを示しています。

システムの処置

さらにエラー分析の処理が続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ DFS1334I を参照してください。

関連情報

452 ページの『DFS1334I』
SC=04 EXPECTED: any operand(s)

DFS1333I SC=04 REC'D: 'any operand'

説明

「any operand」が問題のある OPERAND です。

システムの処置

さらにエラー分析の処理が続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ DFS1334I を参照してください。

関連情報

452 ページの『DFS1334I』

SC=04 EXPECTED: *any operand(s)*

DFS1334I **SC=04 EXPECTED: *any operand(s)***

説明

このキーワードで使用できる有効なオペランドがリストされています。

システムの処置

さらにエラー分析の処理が続行されます。

プログラマーの応答

リストされている有効なオプションから 1 つ以上を選択し、選択したオプションを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1335I **SC=08 REC'D ITEM DELETED**

説明

メッセージ DFS1333I によって示されていた項目が削除され、想定は行われません。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

適正な OPERAND を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1336I **SC=08 ITEM PREVIOUS TO REC'D
ITEM DELETED**

説明

プリプロセッサが直前の項目を削除して、矛盾を解消することを必要とするエラー条件が存在します。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

適正な OPERAND を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1337I **SC=04 FOLLOWING ASSUMED: *any operand***

説明

プリプロセッサは、有効であれば、*any operand* で指定されたオペランドを想定します。

システムの処置

処理は次のソース項目から続行されます。

プログラマーの応答

望ましくない想定が行われた場合は、DFS1334I を参照してください。

関連情報

DFS1334I

SC=04 EXPECTED: *any operand(s)*

DFS1338I **SC=08 NULL OPERAND RECEIVED
FOR ALPHA STATEMENT**

説明

ALPHA ステートメントで OPERAND がまったく指定されていません。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

望ましいオペランドを追加し、ジョブを再実行してください。

DFS1339I **SC=08 INVALID CHARACTER IN
ALPHA STRING IGNORED**

説明

番号または区切り文字として予約されている文字を、英字として使用しようと試みました。

システムの処置

その文字は無視され、処理は次の英字ストリング文字から続行されます。

プログラマーの応答

対象となっている照合シーケンスが正しければ、何も必要ありませんが、そうでない場合は、照合シーケンスを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1340I SC=04 EQUATE LENGTH TRUNCATED TO 256 MAX

説明

単一の EQU 文字ストリングが 256 バイトを超え、切り捨てられました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

EQUate ストリングを小さい論理コンポーネントに分割し、ジョブを再実行してください。

DFS1341I SC=08 NO LABEL PROVIDED FOR EQUATE PROCESSOR

説明

EQU がラベルなしで検出され、したがって、参照できません。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

ラベルを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1342I SC=08 LABEL IS TOO LONG FOR EQUATE

説明

LABEL の長さは 8 バイトを超えないようにします。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

LABEL および参照を 8 文字以下に変更し、ジョブを再実行してください。

DFS1343I SC=08 NO RIGHT PART VALUE PROVIDED FOR EQUATE

説明

equate ストリングが入力されませんでした。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

LABEL と等価にされる値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1344I SC=04 TITLE LENGTH EXCEEDS nnn CHARACTERS. FIRST kkk USED

説明

TITLE リテラルが最大文字数 kkk を超え、最初の nnn 文字まで切り捨てられました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

リテラルを再度指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1345I SC=04 NULL TITLE OPERAND. PREVIOUS TITLE REMAINS IN EFFECT

説明

TITLE リテラルが指定されていませんでした。ステートメントは無視されました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

TITLE にリテラルを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1346I SC=08 LPAGE SEQUENCE ERROR. NO 1ST LPAGE

説明

複数の LPAGE が含まれる MSG の最初の LPAGE が指定される必要があります。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

LPAGE ステートメントをソースに追加し、ジョブを再実行してください。

DFS1347I SC=04 MSGEND STATEMENT ASSUMED

説明

ステートメント出現順序では、MSGEND ステートメントである必要があります。まったく検出されなかったので、1つが想定されます。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

MSGEND ステートメントを挿入し、ジョブを再実行してください。

DFS1348I SC=04 SEG STATEMENT ASSUMED

説明

ステートメント出現順序では、SEG ステートメントである必要があります。まったく検出されなかったので、1つが想定されます。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

SEG ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1349I SC=08 MFLD STATEMENT ASSUMED

説明

ステートメント出現順序では、MFLD ステートメントである必要があります。まったく検出されなかったので、1つが想定されます。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

MFLD ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1350I SC=08 'nnnn' IS AN INVALID MESSAGE NUMBER

説明

メッセージ番号がメッセージ・プロセッサ (DFSUPAKO) に示されましたが、そのメッセージ番号がメッセージ・テーブル (DFSUPALO) で検出できませんでした。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

問題判別後、障害の原因になっているステートメントを目視スキャンし、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、4、8、12、13、36

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 31 章 DFS メッセージ DFS1351I - DFS1400I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1351I **SC=08 MAXIMUM RESCAN
SUBSTITUTION COUNT
EXCEEDED. SUBSTITUTION NOT
PERFORMED**

説明

ステートメントが最大 RESCAN 置換カウントを超えました。RESCAN は、ループを避けるために、デフォルトでは 5 です。

システムの処置

置換は終了します。処理は次のステートメントから再開します。

プログラマーの応答

必要な結果を得るために、RESCAN ステートメントでもっと大きい数値を指定してください。

DFS1352I **SC=08 SCAN ABORTED DUE TO
SEVERE SYNTAX ERROR,
CONTINUING WITH NEXT
STATEMENT**

説明

現行ステートメント・エラーが解決されませんでした。ステートメントは廃棄されました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ番号 DFS1332I から DFS1337I のサポート・メッセージを使用して、エラーのあるオペランドを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1353I **SC=04 RESCAN COUNT EXCEEDS 5
SIGNIFICANT DIGITS. DEFAULT
COUNT OF 5 USED**

説明

有効数字 5 桁以下が RESCAN カウントとして受け入れ可能であるため、5 に設定されました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

RESCAN 指定を訂正し、有効数字 5 桁を超えないようにしてください。ジョブを再実行してください。

DFS1354I **SC=04 RESCAN COUNT EXCEEDS
32767. COUNT SET TO 32767**

説明

RESCAN カウントが 32767 を超えていたため、デフォルトの 32767 に設定されました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

RESCAN 指定数を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1355I **SC=04 NUMBER FOR SPACE
EXCEEDS 15 SIGNIFICANT
DIGITS. THE PAGE WILL BE
EJECTED**

説明

SPACE カウントが有効数字 15 桁を超えました。ページ替えが発生しました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

SPACE カウントを再度指定し、有効数字 15 桁を超えないようにしてください。ジョブを再実行してください。

DFS1356I **SC=12 FMTNAME AS LABEL
REQUIRED. FMT USED**

説明

それぞれの FMT ステートメントごとに LABEL が必要であり、このフォーマットには FMT のラベルが付けられています。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

該当するラベルを付けて FMT を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1357I SC=08 FMTNAME EXCEEDS 6 CHARACTERS. FIRST 6 USED

説明

フォーマット名の長さは 6 文字以下でなければなりません。名前は最初の 6 文字で切り捨てられました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

適切なフォーマット名を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1358I SC=08 DEV STATEMENT ASSUMED

説明

FMT ステートメントの後に DEV ステートメントが続いていませんでした。したがって、続いているものと想定されています。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

適切な DEV を挿入し、ジョブを再実行してください。

DFS1359I SC=04 FMTEND STATEMENT ASSUMED

説明

フォーマット・ブロックは FMTEND ステートメントで終わる必要があります。まったく検出されなかったため、1 つが想定されています。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

FMTEND ステートメントを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1360I SC=04 DIV STATEMENT ASSUMED

説明

DEV ステートメントの直後に DIV ステートメントが続いていませんでした。「3270=INOUT, 3600=INPUT, ALL OTHERS=OUTPUT」のように続いているものと想定されています。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

必要な結果を得るため、あるいは文書化目的のために、DIV ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1361I SC=08 DPAGE SEQUENCE ERROR. NO 1ST DPAGE

説明

複数の DPAGE が含まれる FMT の最初の DPAGE を指定する必要があります。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

DPAGE ステートメントをソース入力に追加し、ジョブを再実行してください。

DFS1362I SC=08 DFLD STATEMENT ASSUMED

説明

ステートメント出現順序では、DFLD ステートメントが入力として必要です。何も検出されなかったため、DFLD ステートメントがあるものと想定されました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

必要な DFLD ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1363I SC=08 POS=(lll,ccc,ppp) REQUIRED FOR RECORD MODE

説明

DFLD POS= キーワードのストリーム・モード形式が指定されたのは、MODE=RECORD のときでした。形式 POS=(lll,ccc,ppp) が必要です。デフォルトのレコード・モード POS= キーワードが使用されます (行 =1、列 = 左マージン +1、ページ =1)。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV ステートメントの MODE= キーワード、または DFLD ステートメントの POS= キーワードを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1364I SC=04 ENDDO STATEMENT ASSUMED

説明

ステートメント出現順序では、ENDDO ステートメントである必要があります。何も検出されなかったため、ENDDO ステートメントがあるものと想定されました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

ENDDO ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1365I SC=08 DFLD POS= KEYWORD DOES NOT ALLOW SPACE FOR SIMULATED ATTRIBUTE

説明

POS= キーワードで 1 行目および列位置を左マージンとして指定しています。フィールドに先行し、属性バイトとして使用可能なバイトがありませんでした。したがって、ATTR=YES は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DFLD ステートメントの POS= キーワードまたは ATTR= キーワードを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1366I SC=08 PS VALUE INVALID, X'00' USED

説明

PS として示された値は、単一文字または 16 進文字 2 文字ではなく、X'40' から X'FE' の範囲にもありませんでした。

システムの処置

デフォルト値 X'00' が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

PS 値を単一文字 または X'40' から X'FE' の範囲の 16 進文字 2 文字と、PX'00' のいずれかとして指定してください。ジョブを再実行してください。

DFS1367I SC=08 TABLENAME AS LABEL REQUIRED. 'TEMPTABL USED'

説明

それぞれの TABLE ステートメントにラベルが必要です。ラベルが検出されなかったため、TABLE ステートメントにラベルが割り当てられました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

必要なラベルを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1368I SC=04 TABLENAME TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明

TABLE ステートメント・ラベルが 8 文字を超えています。最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

該当するラベルを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1369I SC=08 IF STATEMENT ASSUMED AS: 'NOFUNC'

説明

IF ステートメントが少なくとも 1 つ TABLE に必要であり、指定されているとして想定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

該当するステートメントを指定するか、TABLE を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1370I **SC=04 TABLEND STATEMENT ASSUMED**

説明

ステートメント出現順序では、TABLEND である必要があります。何も検出されなかったため、TABLEND ステートメントがあるものと想定されました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

必要に応じて TABLEND ステートメントを挿入し、ジョブを再実行してください。

DFS1371I **SC=08 MSG NAME AS LABEL REQUIRED**

説明

それぞれの MSG ステートメントにラベル付けが必要です。ラベルは、検出されなかったため、生成されました。形式は、MSG がソース・ステートメント番号に連結されています。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

適切なラベルを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1372I **SC=04 MSG NAME TOO LONG. TRUNCATED TO 8 BYTES**

説明

MSG ステートメント・ラベルが 8 バイトを超えていたため、最初の 8 バイトが使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

ラベルを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1373I **SC=08 SOR=FORMATNAME, FORMATNAME MISSING**

説明

SOR= 指定が NULL だったため、フォーマット名は使用されませんでした。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

該当するフォーマット名を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1374I **SC=04 SOR=FORMATNAME, FORMATNAME EXCEEDS 6 CHARACTERS. FIRST 6 USED**

説明

SOR= フォーマット名が 6 文字を超えているため、最初の 6 文字が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

フォーマット名を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1375I **SC=08 NXT=MSGNAME, MSGNAME LTH=0. NONE USED**

説明

NXT= 指定が NULL だったため、メッセージ名は使用されませんでした。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

該当するメッセージ名を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1376I **SC=04 NXT=MSGNAME, MSGNAME EXCEEDS 8 BYTES. TRUNCATED TO 8 BYTES**

説明

NXT= メッセージ名が 8 バイトを超えているため、最初の 8 バイトが使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

該当するメッセージ名を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1377I SC=04 FILL=C'!' , TRUNCATED TO 1 CHARACTER

説明

FILL= リテラルが長さ 1 文字を超えているため、最初の文字が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

リテラルを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1378I SC=04 FILL=C'!' CHARACTER NOT SUPPLIED

説明

FILL= 指定が NULL だったため、ブランクに設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

該当する充てん文字を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1379I SC=04 DUPLICATE TYPE= KEYWORDS INVALID

説明

単一の MSG ステートメントでは TYPE= 指定は、1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

多重 TYPE= 指定を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1380I SC=04 DUPLICATE SOR= KEYWORDS INVALID

説明

単一の MSG ステートメントでは SOR= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のソース項目から続行されます。

プログラマーの応答

複数の SOR= 指定を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1381I SC=04 DUPLICATE OPT= KEYWORDS INVALID

説明

単一の MSG ステートメントでは OPT= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数の OPT= 指定を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1382I SC=04 DUPLICATE NXT= KEYWORDS INVALID

説明

単一の MSG ステートメントでは NXT= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数の NXT= 指定を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1383I SC=04 DUPLICATE PAGE= KEYWORDS INVALID

説明

単一の MSG ステートメントでは PAGE= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数の PAGE= 指定を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1384I SC=04 DUPLICATE FILL= KEYWORDS INVALID

説明

単一の MSG ステートメントでは FILL= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数の FILL= 指定を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1385I SC=04 SOR= FMTNAME NOT SPECIFIED. '\$\$FMT' USED

説明

SOR= 指定は、この MSG では指定されませんでした。\$\$FMT がフォーマット名として使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

必要なフォーマット名を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1386I SC=08 FILL= SPECIFICATION INVALID FOR TYPE=INPUT

説明

FILL= 指定は、TYPE=INPUT の MSG ステートメントで指定されました。ただし、これが有効なのは、TYPE=OUTPUT の MSG ステートメントおよび DPAGE ステートメントの場合のみです。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1387I SC=08 PAGE= SPECIFICATION INVALID FOR TYPE=INPUT

説明

PAGE= 指定は、TYPE=INPUT の MSG ステートメントで指定されました。ただし、これが有効なのは、TYPE=OUTPUT の MSG ステートメントの場合のみです。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1388I SC=04 DUPLICATE SOR= SPECIFICATION INVALID

説明

単一の LPAGE ステートメントでは SOR= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

SOR= 指定を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1389I SC=08 SOR=DPAGENAME, DPAGENAME OMITTED

説明

SOR= 指定は NULL であるため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

SOR= に値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1390I SC=04 SOR=DPAGENAME, DPAGENAME EXCEEDS 8

CHARACTERS. TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明

SOR= dpagename が 8 文字を超えています。最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましい dpagename を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1391I	SC=04 COMPARE OFFSET EXCEEDS 5 SIGNIFICANT DIGITS, LAST 5 DIGITS USED
-----------------	--

説明

COND= オフセット・パラメーターが 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましいオフセットを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1392I	SC=04 COMPARE OFFSET EXCEEDS 32767. VALUE ALTERED TO 32767
-----------------	---

説明

COND= オフセット・パラメーター値が 32767 を超えているため、32767 に設定されています。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましい値を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1393I	SC=08 COMPARE OFFSET DIGIT COUNT IS ZERO. VALUE OF ZERO USED
-----------------	---

説明

COND= オフセット・パラメーターが NULL であるため、ゼロに設定されています。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましいオフセット値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1394I	SC=04 MULTIPLE COND= KEYWORDS INVALID
-----------------	--

説明

単一の LPAGE または DPAGE ステートメントでは COND= 指定は、1 つしか許容されないもので、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1395I	SC=04 COND= COMPARE LOCATION NAME LENGTH EXCEEDS 8 CHARACTERS. TRUNCATED TO 8 CHARACTERS
-----------------	---

説明

COND= フィールド名が 8 文字を超えています。最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましいフィールド名を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1396I	SC=08 COND= COMPARE LOCATION NAME LENGTH IS ZERO. NAME SPECIFICATION IGNORED
-----------------	---

説明

COND= フィールド名パラメーターは NULL であり、無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましいフィールド名を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1397I **SC=08 EXIT= SPECIFICATION
INVALID WITH 'LITERAL'
PARAMETER. SPECIFICATION
IGNORED.**

説明

LITERAL パラメーターが指定されているときは、EXIT= は使用できません。EXIT= は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1398 **INPUT SELECTION ERROR**

説明

このメッセージが表示されるのは、次のいずれかの分析入力選択が正しく入力されなかったときです。

- MAX=
- KR=
- NBR=

システムの処置

システムはユーティリティを 終了します。

ユーザーの処置

正しい分析オプションを入力してください。

モジュール

DFSMAID0

DFS1399I **SC=08 COND= COMPARE. LITERAL
LENGTH IS ZERO. '' USED FOR
LITERAL**

説明

LPAGE ステートメントの COND= 指定のリテラルが省略されました。単一のブランクがリテラルとして使用されます。

システムの処置

処理は次のソース項目から続行されます。

プログラマーの応答

望ましいリテラルを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1400I **SC=04 PROMPT= FIELDNAME
EXCEEDS 8 CHARACTERS.
TRUNCATED TO 8 CHARACTERS**

説明

PROMPT= *fieldname* が 8 文字を超えています。最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な *fieldname* を再度指定して、ジョブを再実行してください。

第 32 章 DFS メッセージ DFS1401I - DFS1450I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1401I **SC=08 PROMPT= FIELDNAME
LENGTH IS ZERO. SPECIFICATION
IGNORED**

説明

PROMPT= 指定は NULL だったので、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な PROMPT= *fieldname* ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1402I **SC=04 DUPLICATE PROMPT=
KEYWORDS INVALID**

説明

単一の LPAGE ステートメントでは PROMPT= 指定は、1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1403I **SC=04 PROMPT= LITERAL
SPECIFICATION CONTAINS NO
TEXT. MSG.NXT=MSGNAME USED**

説明

PROMPT= リテラルが NULL だったため、MSG/NXT= 指定が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効なリテラルを指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1404I **SC=04 NXT= MSGNAME EXCEEDS
8 CHARACTERS. TRUNCATED TO 8
CHARACTERS**

説明

NXT メッセージ名が 8 文字を超えたため、最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効なメッセージ名を指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1405I **SC=04 NXT= MSGNAME TEXT
LENGTH IS ZERO.
MSG.NEXT=MSGNAME USED**

説明

NXT= 指定が NULL だったため、MSG/NXT= メッセージ名が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効なメッセージ名を指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1406I **SC=04 DUPLICATE NXT=
KEYWORDS INVALID**

説明

単一の LPAGE ステートメントでは NXT= 指定は、1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1407 **TEMPORARY IRLM FAILURE;
UNABLE TO PROCESS GLOBAL
COMMAND**

説明

コマンド・プロセッサが、グローバル・コマンドの処理を試みていて、IRLM に問題を検出しました。この条件は一時的である可能性があります。

システムの処置

コマンドはローカルで処理されます。

プログラマーの応答

IRLM がアクティブであるか確認した上で、グローバル・コマンドを再入力してください。コマンドがローカルで処理されない場合は、問題判別に進んでください。

問題判別:

36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1408I **SC=08 EXIT= SPECIFICATION
INCOMPATIBLE WITH
MSG.TYPE=OUTPUT**

説明

EXIT= 指定は、メッセージ・タイプ出力と矛盾するため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

SEG/MSG ステートメントの矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1409I **SC=08 EXIT= EXITNUM EXCEEDS
3 SIGNIFICANT DIGITS. LAST 3
DIGITS USED**

説明

EXIT= 値パラメーターが 3 桁を超えていたため、末尾の 3 桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な値を指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1410I **SC=08 EXIT= EXITNUM VALUE
EXCEEDS 127. 127 USED**

説明

EXIT= *value* パラメーターが 127 を超えています。値は 127 に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な値を EXIT= に指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1411I **SC=08 EXIT= EXITVECT EXCEEDS
3 SIGNIFICANT DIGITS. LAST 3
DIGITS USED**

説明

EXIT= *vector* 指定が 3 桁を超えているため、末尾の 3 桁が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な値を EXIT= *vector* に指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1412I **SC=08 EXIT= EXITVECT VALUE
EXCEEDS 255. 255 USED**

説明

EXIT= *vector* 指定が 255 を超えたため、値が 255 に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な値を EXIT= パラメーターに指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1413I **SC=08 EXIT= EXITNUM HAS NO
DIGITS. VALUE OF ZERO USED**

説明

EXIT= *value* 指定が NULL です。値がゼロに設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

適切な値を EXIT= に指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1414I SC=08 EXIT= EXITVECT HAS NO DIGITS. VALUE OF ZERO USED

説明

EXIT= *vector* 指定が NULL です。ゼロに設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

適切なベクトルを EXIT= に指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1415I SC=04 DUPLICATE EXIT= KEYWORDS INVALID

説明

単一の SEG ステートメントでは EXIT= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1416I SC=04 DUPLICATE GRAPHIC= KEYWORDS INVALID

説明

単一の SEG ステートメントでは GRAPHIC= 指定は、1 つしか許容されません。2 番目の指定は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1417I SC=04 MFLD LABEL LENGTH EXCEEDS 8 CHARACTERS. TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明

メッセージ・フィールド (MFLD) ステートメント・ラベルが 8 文字を超えています。先頭の 8 文字が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効なラベルを再度指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1418I SC=08 DO COUNT EXCEEDS 2 SIGNIFICANT DIGITS. LAST 2 DIGITS USED

説明

DO カウントが 2 桁を超えているため、末尾の 2 桁が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

適切なカウントを使用して DO を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1419I SC=08 DO COUNT HAS NO DIGITS. VALUE OF 1 ASSUMED

説明

DO ステートメントでカウントを指定しませんでした。1 が想定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

適切なカウントを使用して DO を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1420I **SC=04 DFLDNAME EXCEEDS 8
CHARACTERS. TRUNCATED TO 8
CHARACTERS**

説明

この MFLD ステートメントで指定された装置フィールド名 (dfldname) が 8 文字を超えていたため、最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な dfldname を再度指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1421I **SC=08 DFLDNAME HAS NO
CHARACTERS. NO NAME USED**

説明

装置フィールド名 (dfldname) パラメーターは NULL だったため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な MFLD パラメーターを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1422I **SC=04 LITERAL CONTAINS NO
CHARACTERS. ' ' USED**

説明

この MFLD または DFLD ステートメントでは、定位置リテラル・パラメーターは NULL であるため、ブランクが指定されているものと想定されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効なリテラルまたは MFLD/DFLD パラメーターを指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1423I **SC=04 MULTIPLE LTH=
KEYWORDS INVALID**

説明

システムは複数の LTH= 指定を検出しました。単一の MFLD ステートメントでは、許容される LTH= 指定は 1 つのみです。2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

指定を 1 つ選択し、ジョブを再実行してください。

DFS1424I **SC=04 MULTIPLE JUST=
KEYWORDS INVALID**

説明

システムは複数の JUST= 指定を検出しました。単一の MFLD ステートメントでは JUST= 指定は、1 つしか許容されません。2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

指定を 1 つ選択し、ジョブを再実行してください。

DFS1425I **SC=04 MULTIPLE FILL=
KEYWORDS INVALID**

説明

システムは複数の FILL= 指定を検出しました。単一の MFLD ステートメントまたは DPAGE ステートメントでは、FILL= 指定は 1 つしか許容されません。2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

指定を 1 つ選択し、ジョブを再実行してください。

DFS1426I **SC=04 MULTIPLE ATTR=
KEYWORDS INVALID**

説明

システムは複数の ATTR= 指定を検出しました。単一の MFLD ステートメントでは ATTR= 指定は、1 つしか許容されません。2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

指定を1つ選択し、ジョブを再実行してください。

**DFS1427I SC=04 MULTIPLE EXIT=
KEYWORDS INVALID**

説明

システムは複数の EXIT= 指定を検出しました。単一の MFLD ステートメントでは EXIT= 指定は1つしか許容されないため、2番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

指定を1つ選択し、ジョブを再実行してください。

**DFS1428I SC=08 LTH=nn, nn EXCEEDS 4
SIGNIFICANT DIGITS. LAST 4
DIGITS USED**

説明

LTH= 長さパラメーターが4桁を超えていたため、末尾の4桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な値を再度指定して、ジョブを再実行してください。

**DFS1429I SC=08 LTH=nn, nn'S VALUE
EXCEEDS 8000. 8000 USED**

説明

LTH= 長さ値が8000を超えていたため、8000に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な値を指定して、ジョブを再実行してください。

**DFS1430I SC=08 LTH=nn, nn HAS NO
DIGITS. VALUE OF 1 USED**

説明

LTH= 長さ指定が NULL だったため、1に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

長さを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1431I SC=08 LTH=(pp,nn), pp EXCEEDS 4
SIGNIFICANT DIGITS. LAST 4
DIGITS USED**

説明

LTH= 位置指定が4桁を超えていたため、末尾の4桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

該当する位置パラメーターを再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1432I SC=08 LTH=(pp,nn), pp'S VALUE
EXCEEDS 8000. 8000 USED**

説明

LTH= 位置値が8000を超えていたため、8000に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な値を再度指定して、ジョブを再実行してください。

**DFS1433I SC=08 LTH=(pp,nn), pp HAS NO
DIGITS. VALUE OF 2 USED**

説明

LTH= 位置パラメーターが NULL だったため、2に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

該当する位置値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1434I SC=08 LTH=(pp,nn), nn EXCEEDS 4 SIGNIFICANT DIGITS. LAST 4 DIGITS USED

説明

LTH= 長さ指定が 4 桁を超えていたため、末尾の 4 桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

長さを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1435I SC=08 LTH=(pp,nn), nn'S VALUE EXCEEDS 8000. 8000 USED

説明

LTH= 長さ値が 8000 を超えていたため、8000 に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

値を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1436I SC=08 LTH=(pp,nn), nn HAS NO DIGITS. VALUE OF 1 USED

説明

LTH= 長さパラメーターが NULL だったため、1 に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

該当する値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1437I SC=08 FILL='C', LITERAL LENGTH IS ZERO. BLANK USED

説明

FILL= リテラル指定が NULL だったため、ブランクが使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

該当するリテラルを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1438I SC=04 FILL='C', LITERAL LENGTH EXCEEDS 1 CHARACTER. FIRST CHARACTER USED

説明

FILL= リテラル指定が 1 文字を超えていたため、最初の文字が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

リテラルを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1439I SC=04 FILL='X'hh', hh EXCEEDS 2 CHARACTERS. FIRST 2 CHARACTERS USED

説明

FILL= 16 進数ストリングが 16 進文字で長さ 2 文字を超えていたため、最初の 2 文字が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

16 進数ストリングを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1440I SC=04 FILL='X'hh', hh HAS NO CHARACTERS. FILL='X'40' USED

説明

FILL= 16 進数ストリング指定が NULL であるため、ブランクが使用されています。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましい 16 進数ストリングを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1441I **SC=08 EXIT=(EXNUM,EXVEC),
EXNUM EXCEEDS 3 SIGNIFICANT
DIGITS. LAST 3 DIGITS USED**

説明

EXIT= 数値が 3 桁を超えているため、末尾の 3 桁が使用されています。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましい値を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1442I **SC=08 EXIT=(EXNUM,EXVEC),
EXNUM'S VALUE EXCEEDS 127.
VALUE OF 127 USED**

説明

EXIT= 数値パラメーターが 127 を超えているため、127 に設定されています。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましい値を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1443I **SC=08 EXIT=(EXNUM,EXVEC),
EXNUM HAS NO DIGITS. VALUE OF
ZERO USED**

説明

EXIT= 数値パラメーターが NULL であるため、ゼロに設定されています。

システムの処置

処理は次のソース項目から続行されます。

プログラマーの応答

望ましいパラメーターを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1444I **SC=08 EXIT=(EXNUM,EXVEC),
EXVEC EXCEEDS 3 SIGNIFICANT
DIGITS. LAST 3 DIGITS USED**

説明

EXIT= ベクトル指定が 3 桁を超えているため、末尾の 3 桁が使用されています。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましい値を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1445I **SC=08 EXIT=(EXNUM,EXVEC),
EXVEC'S VALUE EXCEEDS 255.
VALUE OF 255 USED**

説明

EXIT= ベクトル・パラメーターが 255 を超えているため、255 に設定されています。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましい値を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1446I **SC=08 EXIT=(EXNUM,EXVEC),
EXVEC HAS NO DIGITS. VALUE OF
ZERO USED**

説明

EXIT= ベクトル・パラメーター指定が NULL であるため、ゼロに設定されています。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましい値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1447I **SC=08 COND= SPECIFICATION
INVALID FOR MSG.TYPE=INPUT.
SPECIFICATION IGNORED**

説明

COND= 指定が MSG.TYPE=INPUT と矛盾しているため、COND= は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

MSG/LPAGE の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1448I	SC=08 PROMPT= SPECIFICATION INVALID FOR MSG.TYPE=INPUT. SPECIFICATION IGNORED
-----------------	--

説明

PROMPT= 指定が MSG.TYPE=INPUT と矛盾しているため、PROMPT= は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

MSG/LPAGE の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1449I	SC=08 PASSWORD INVALID FOR MSG.TYPE=OUTPUT. STATEMENT TREATED AS SEG STATEMENT
-----------------	---

説明

PASSWORD ステートメントが MSG.TYPE=OUTPUT と矛盾しているため、PASSWORD は無視されます。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

PASSWORD/MSG の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1450I	SC=08 ONLY 1ST MFLD UNDER LAST PASSWORD STATEMENT USED WHEN MSG.OPT=3 SPECIFIED
-----------------	--

説明

MSG/OPT=3 指定の場合は、パスワードとして使用できるのは、PASSWORD ステートメントの後に続く最初の MFLD のみです。追加の MFLD ステートメントは無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

MSG/PASSWORD の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

第 33 章 DFS メッセージ DFS1451I - DFS1500I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1451I **SC=08 POSITIONAL PARAMETER 1
REQUIRES DFLDNAME FOR
LITERAL WHEN
MSG.TYPE=OUTPUT SPECIFIED**

説明

MSG.TYPE=OUTPUT のときは、最初の MFLD パラメーターは、リテラルの装置フィールド名 (dfldname) である必要があります。パラメーターは無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

該当するリテラルの dfldname を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1452I **SC=08 LTH=(pp,nn) INVALID FOR
MSG.TYPE=OUTPUT. pp VALUE
IGNORED**

説明

MFLD LTH=pp 指定は、MSG.TYPE=OUTPUT と矛盾しているため、無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

MSG/MFLD の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1453I **SC=08 FILL= SPECIFICATION
INVALID FOR MSG.TYPE=OUTPUT.
SPECIFICATION IGNORED**

説明

FILL= 指定は、MSG.TYPE=OUTPUT と矛盾していたため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

MSG/MFLD の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1454I **SC=08 EXIT= SPECIFICATION
INVALID FOR MSG.TYPE=OUTPUT.
SPECIFICATION IGNORED**

説明

EXIT= 指定は、MSG.TYPE=OUTPUT と矛盾していたため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

MSG/MFLD の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1455I **SC=08 keyword= SPECIFICATION
INVALID FOR SCA FIELD.
SPECIFICATION IGNORED**

説明

SCA 指定は、MFLD ステートメントでの ATTR= または JUST= 指定を妨げました。それらは無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

必要でない指定を省略して、MFLD ステートメントを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1456I **SC=08 keyword= SPECIFICATION
INVALID FOR SYSTEM LITERAL
FIELD. SPECIFICATION IGNORED**

説明

システム・リテラル指定は、MFLD ステートメントでの ATTR= または JUST= 指定を妨げました。keyword= 指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

必要でない指定を省略して、MFLD ステートメントを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1457I **SC=08 LTH= SPECIFICATION
INVALID FOR SYSTEM LITERAL
FIELD. SPECIFICATION IGNORED**

説明

システム・リテラル指定が MFLD ステートメントでの LTH= 指定を排除したため、LTH= は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1458I **SC=08 SYSTEM LITERAL FIELD
INVALID FOR MSG.TYPE=INPUT.
NULL FIELD CREATED**

説明

システム・リテラル指定は、MSG.TYPE と矛盾していたため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

MFLD/MSG の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1459I **SC=08 SCA FIELD INVALID FOR
MSG.TYPE=INPUT. NULL FIELD
CREATED**

説明

SCA 指定は、MSG.TYPE=INPUT と矛盾していたため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

MFLD/MSG の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1460I **SC=08 LTH= SPECIFICATION
REQUIRED. VALUE OF 1 ASSUMED**

説明

この MFLD の場合は、LTH= 指定は必須です。何も指定されていないので、LTH= は 1 に設定されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましい LTH= を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1461I **SC=04 MULTIPLE TYPE=
KEYWORDS INVALID**

説明

単一の DIV または DEV ステートメントで複数の TYPE= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

DFS1462I **SC=04 MULTIPLE FEAT=
KEYWORDS INVALID**

説明

単一の DEV ステートメントで複数の FEAT= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

FEAT= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1463I **SC=04 MULTIPLE PEN=
KEYWORDS INVALID**

説明

単一の DEV ステートメントで複数の PEN= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

PEN= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1464I SC=04 MULTIPLE PFK= KEYWORDS INVALID

説明

単一の DEV ステートメントで複数の PFK= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

PFK= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1465I SC=04 MULTIPLE CARD= KEYWORDS INVALID

説明

単一の DEV ステートメントで複数の CARD= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

CARD= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1466I SC=04 MULTIPLE DSCA= KEYWORDS INVALID

説明

単一の DEV ステートメントで複数の DSCA= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DSCA= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1467I SC=04 MULTIPLE MODE= KEYWORDS INVALID

説明

単一の DEV ステートメントで複数の MODE= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

MODE= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1468I SC=04 MULTIPLE FTAB= KEYWORDS INVALID

説明

単一の DEV ステートメントで複数の FTAB= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

FTAB= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1469I SC=04 MULTIPLE LDEL= KEYWORDS INVALID

説明

単一の DEV ステートメントで複数の LDEL= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

LDEL= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1470I SC=04 MULTIPLE PAGE= KEYWORDS INVALID

説明

単一の DEV ステートメントで複数の PAGE= 指定がなされたため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

PAGE= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1471I SC=04 MULTIPLE FORMS=
KEYWORDS INVALID**

説明

単一の DEV ステートメントで複数の FORMS= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

FORMS= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1472I SC=04 MULTIPLE SYSMMSG=
KEYWORDS INVALID**

説明

単一の DEV ステートメントで複数の SYSMMSG= 指定がなされたため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

SYSMMSG= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1473I SC=08 TYPE=OUTPUT INVALID
FOR DEV TYPE=3600**

説明

3600 装置タイプは入力専用です。

システムの処置

処理は次のソース項目から続行されます。

プログラマーの応答

DIV または DEV が適切な結果を反映するように訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1474I SC=08 TYPE=INOUT INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明

INOUT 装置タイプは 3270 のみです。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DIV または DEV を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1475I SC=08 TYPE=INPUT INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明

36XX は出力専用装置タイプです。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DIV または DEV を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1476I SC=04 MBRNAME EXCEEDS 8
CHARACTERS. TRUNCATED TO 8
CHARACTERS**

説明

COPY メンバー名が 8 文字を超えていましたが、これは許容されないため、切り捨てられました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

必要な場合は、メンバー名を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1477I SC=08 MBRNAME CONTAINS NO
CHARACTERS. STATEMENT
IGNORED**

説明

COPY ステートメントにメンバー名が指定されませんでした。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

COPY ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1478I SC=08 RECURSIVE NESTED COPY OPERATIONS INVALID

説明

メンバーの COPY は、現在はネストされたコピーの一部であり、無効でした。

システムの処置

処理は続行され、COPY ステートメントは無視されません。

プログラマーの応答

コピーされるメンバーが、以前にコピーされたライブラリーを参照していないことを確認してください。エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1479I SC=08 MBRNAME REQUESTED NOT PRESENT IN SYSLIB

説明

この名前のメンバーは、現在指し示されている SYSLIB では検出できませんでした。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

SYSLIB DD ステートメントのメンバー名または PDS を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1480I SC=12 PERMANENT I/O ERROR IN SYSLIB DIRECTORY

説明

永続エラー条件が SYSLIB PDS ディレクトリーで検出されました。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

SYSLIB PDS ディレクトリーを再作成し、ジョブを再実行してください。

DFS1481I SC=12 SYSLIB DCB NOT OPENED. COPY IGNORED

説明

SYSLIB が指定されていなかったため、COPY は無視されます。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

SYSLIB を指定するか、COPY を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1482I SC=08 SOR=DPAGENAME REQUIRED

説明

SOR= 指定がこの LPAGE に関しては指定されなかったため、SOR= は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

SOR= DPAGE を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1483I SC=08 DO LINE INCREMENT EXCEEDS 2 DIGITS. LAST 2 DIGITS USED

説明

DO 行増分パラメーターが 2 桁を超えていたため、末尾の 2 桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

適切な行増分を使用して DO を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1484I SC=08 DO LINE INCREMENT CONTAINS NO DIGITS. VALUE OF 1 USED

説明

DO 行増分パラメーターが NULL だったため、1 が指定されているものと想定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

適切な行増分を使用して DO を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1485I	SC=08 DO COLUMN INCREMENT EXCEEDS 3 DIGITS. LAST 3 DIGITS USED
-----------------	---

説明

DO 列増分パラメーターが 3 桁を超えていたため、末尾の 3 桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

必要な列増分を使用して DO を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1486I	SC=08 DO COLUMN INCREMENT CONTAINS NO DIGITS. 'MAX' USED
-----------------	---

説明

DO 列増分パラメーターが NULL だったため、MAX が指定されているものと想定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

必要な列増分を使用して DO を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1487I	SC=04 NUMBER OF USER DEFINED FTAB CHARACTERS EXCEEDS MAXIMUM FOR SPECIFIED DEVICE TYPE
-----------------	---

説明

ユーザー定義と事前定義の指定 FTAB 文字の合計が許容最大値を超えていました。これは 8 である必要があります。装置タイプを表す事前定義 FTAB 文字には、

274X=HT,NL,LF; SCS1=HT,NL,LF,VT;
SCS2=HT,NL,LF,VT,CR があります。

システムの処置

ユーザー定義の FTAB 文字ストリングが切り捨てられます。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

制限内で適切な FTAB リテラルを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1488I	SC=04 FTAB='LITERAL', LITERAL HAS NO CHARACTERS. DEFAULT FTABS USED FOR APPLICABLE DEVICES
-----------------	---

説明

FTAB リテラル指定が NULL でした。事前定義 FTAB 文字が装置に関して定義されている場合は、それらが使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

適切な FTAB= リテラルを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1489I	SC=04mmmmmm 弾が SEVERITY CODE=ss によって書き込まれていません。
-----------------	--

説明

メンバー mmmmmm 弾が REFERAL ライブラリーに書き込まれませんでした。理由は、メンバーの最高の重大度コードが、EXEC パラメーター STOPRC で指定された値と等しいか、それより大きいからです。前のメッセージは、メンバーのエラーおよびそれぞれの重大度コードを示します。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

示されたエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1490I	SC=08 SOR=, DPAGE 名リストが MSG.TYPE=OUTPUT の場合は無効です。使用される名
-----------------	--

説明

SOR= の指定が MSG.TYPE=OUTPUT; と矛盾していました。これは無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

MSG/LPAGE の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1491I	SC=04 LINECNT=nnn, nnn EXCEEDS 3 DIGITS. LAST 3 DIGITS USED
-----------------	--

説明

LINECNT= パラメーターが 999 を超えていました。末尾の 3 桁が、LINECNT として使用されました。

システムの処置

処理は次の PARM フィールドから続行されます。

プログラマーの応答

PARM ステートメントの LINECNT= パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1492I	SC=04 LINECNT=nnn, nnn HAS NO DIGITS. VALUE OF 55 USED
-----------------	---

説明

LINECNT= パラメーターが数字ではなかったため、ページ当たり行数は 55 に設定されました。

システムの処置

処理は次の PARM フィールドから続行されます。

プログラマーの応答

PARM ステートメントの LINECNT= パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1493I	SC=04 LINECNT=nnn, nnn IS LESS THAN 25. VALUE OF 55 USED
-----------------	---

説明

LINECNT= パラメーターが 25 より小さかったため、ページ当たり行数が 55 に設定されました。

システムの処置

処理は次の PARM フィールドから続行されます。

プログラマーの応答

PARM ステートメントの LINECNT= パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1494I	SC=04 STOPRC=nnn, nnn EXCEEDS 3 DIGITS. LAST 3 DIGITS USED
-----------------	---

説明

STOPRC パラメーターが 999 を超えていたため、末尾の 3 桁が STOPRC として使用されました。

システムの処置

処理は次の PARM フィールドから続行されます。

プログラマーの応答

PARM ステートメントの STOPRC= パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1495I	SC=04 STOPRC=nnn, nnn HAS NO DIGITS. 使用される 8 の値
-----------------	--

説明

STOPRC= パラメーターが数値ではありませんでした。STOPRC は 8 に設定されました。

システムの処置

次の PARM フィールドから処理を続行します。

プログラマーの応答

STOPRC= パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1496I	SC=04 複数のカーソル= キーワード が無効
-----------------	-------------------------------------

説明

単一の DPAGE ステートメントでは CURSOR= 指定は 1 つしか使用できません。2 番目の指定は無視されました。

プログラマーの応答

指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1497I	SC=04 複数の SELECT= キーワード が無効
-----------------	--

説明

単一の DPAGE ステートメントでは SELECT= 指定を 1 つしか使用できません。2 番目の指定は無視されました。

プログラマーの応答

指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1498I SC=04 MULTIPLE ORIGIN=
KEYWORDS INVALID**

説明

単一の DPAGE ステートメントでは ORIGIN= 指定は、1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

プログラマーの応答

指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1499I SC=04 MULTIPLE MULT=
KEYWORDS INVALID**

説明

単一の DPAGE ステートメントでは MULT= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

プログラマーの応答

指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1500I SC=08 PDB STATEMENT NAME
REQUIRES A LABEL**

説明

それぞれの区画記述子ブロック (PDB) ステートメントごとに、ラベルが必要です。DEV ステートメントは、このラベルによって PDB を参照します。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PDB ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答

PDB ステートメントのラベルを指定してください。

重大度:
8

第 34 章 DFS メッセージ DFS1501I - DFS1550I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1501I **SC=08 PDB STATEMENT NAME
EXCEEDS 8 CHARACTERS**

説明

区画記述子ブロック (PDB) ステートメントのラベルが 8 文字を超えていました。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PDB ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PDB ステートメントの有効なラベルを指定してください。

重大度:
8

DFS1502I **SC=12 NO PD STATEMENTS
SPECIFIED**

説明

それぞれの区画記述子ブロック (PDB) ステートメントには、その後に少なくとも 1 つの区画記述子 (PD) ステートメントが続く必要があります。

システムの処置

戻りコード 12 が設定され、PDB 定義が 続行されます。

プログラマーの応答

PDBEND ステートメントより前に、PD ステートメントを少なくとも 1 つ 定義してください。

重大度:
12

DFS1503I **SC=08 PDBEND STATEMENT HAS
BEEN ASSUMED**

説明

区画記述子ブロック (PDB) ステートメントを終了させる必要がある、PDBEND ステートメントが検出されませんでした。指定されているものと想定されています。

システムの処置

処理は次のソース項目から 続行されます。

プログラマーの応答

PDB を終了させるための PDBEND ステートメントを指定してください。

重大度:
8

DFS1504 **SC=12 KEYWORD 'LUSIZE=' IS
REQUIRED ON THE PDB
STATEMENT BUT WAS NOT
SPECIFIED**

説明

区画記述子ブロック (PDB) ステートメントに、必須の LUSIZE キーワードが存在していませんでした。LUSIZE キーワードでは、表示窓の妥当性検査に使用される画面サイズを示します。

システムの処置

戻りコード 12 が設定され、PDB ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PDB ステートメントで LUSIZE キーワードを指定してください。

重大度:
12

DFS1505I **SC=04 PD NAME SPECIFIED ON
SYSMSG= TOO LONG, IS
TRUNCATED TO 8 CHARACTERS**

説明

区画記述子ブロック (PDB) ステートメントの SYSMSG キーワードに関して指定された区画記述子 (PD) 名が 8 文字を超えていたため、最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置

戻りコード 4 が設定され、PDB ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PDB ステートメントの SYSMMSG キーワードに関して有効な PD 名を指定してください。

問題判別:
2、8、16

重大度:
4

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1506I SC=08 SYSMMSG= KEYWORD DOES NOT SPECIFY A NAME

説明

区画記述子ブロック (PDB) ステートメントに、SYSMMSG キーワードは存在していましたが、その後に必須の区画記述子 (PD) 名が続いていませんでした。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PDB ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

SYSMMSG キーワードに関して有効な PD 名を指定してください。

重大度:
8

DFS1507I SC=04 PDB NAME SPECIFIED ON PDB= IS TOO LONG, 1ST 8 CHARACTERS USED

説明

DEV ステートメントの PDB キーワードにある区画記述子ブロック (PDB) 名が 8 文字を超えていたため、最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置

戻りコード 4 が設定され、処理はこの定義に対して 続行されます。

プログラマーの応答

PDB オペランドで指定されている名前を訂正してください。

問題判別:
2、8、16

重大度:

4

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1508I SC=08 PDB= NAME HAS NO CHARACTERS

説明

DEV ステートメントの PDB キーワードでは、区画記述子ブロック (PDB) の名前が必須ですが、名前が指定されていませんでした。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、処理は次の定義から 続行されます。

プログラマーの応答

DEV ステートメントの PDB キーワードで名前を指定してください。

問題判別:
2、8、16

重大度:
8

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1509W PSB/DBD name DELETE NOT ALLOWED

説明:

カタログ PSB または DBD リソース (DFSCP000、DFSCD000、および DFSCX000) のいずれかが、ステージング ACBLIB 内に存在しません。カタログが使用可能である間は、IMS オンライン・システムからカタログ・リソースを削除することはできません。

システムの処置:

オンライン変更準備フェーズは取り消されます。

システム・プログラマーの応答:

ステージング ACBLIB に対して、PSB=DFSCP000 BUILD を使用して ACBGEN を実行します。その後で、**MODIFY PREPARE ACBLIB** コマンドまたは **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドを再発行します。

DFS1510I SC=08 VALUE IN LUSIZE= TOO LONG, IS TRUNCATED TO 4 DIGITS

説明

区画記述子ブロック (PDB) ステートメントの LUSIZE 値が 4 桁を超えています。値は切り捨てられて 4 桁になります。

システムの処置

戻りコード 4 が設定され、PDB ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PDB ステートメントで LUSIZE 値を指定してください。

重大度:
4

DFS1511I	SC=08 NO VALUE WAS SPECIFIED IN LUSIZE= ON PDB STATEMENT FOR WIDTH AND/OR DEPTH OF DISPLAY
-----------------	---

説明

表示画面のサイズを記述するために区画記述子ブロック (PDB) ステートメントの LUSIZE キーワードに指定される値のセットが、無効だったか欠落していました。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、(PDB) ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

LUSIZE キーワードで有効な値のセットを指定してください。

重大度:
8

DFS1512E	AN ALIAS CATALOG DATABASE NAME <i>dbname</i> IS CODED IN THE PSB INSTEAD OF ITS STANDARD NAME
-----------------	--

説明

ACB 生成処理は、PSB 内のカタログ・データベースまたは副次索引で別名が使用されていたために、エラーを検出しました。IMS は自動的に PCB の別名変換を行うため、別名は使用できません。

システムの処置

この PSB の BUILD PSB ジョブは失敗します。

システム・プログラマーの応答

ご使用の PCB 内のカタログ・データベース名および副次索引名で、接頭部 DFSC を使用してください。

DFS1513I	SC=12 PD STATEMENT NAME REQUIRES A LABEL
-----------------	---

説明

各区画記述子 (PD) ステートメントにはそれぞれラベルが必要ですが、ラベルがまったく検出されませんでした。DPAGE ステートメントの PD キーワードでは、このラベルによって PD ステートメントを参照します。

システムの処置

この PD のラベルが生成され、PD ステートメントの処理が 続行されます。さらにエラーが検出された場合は、この生成されたラベルが PS ステートメントを参照するのに 使用されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントのラベルを指定してください。

問題判別:
2、8、16

重大度:
12

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1514I	SC=04 PD STATEMENT NAME IS TOO LONG, AND HAS BEEN TRUNCATED TO 8 DIGITS
-----------------	--

説明

区画記述子 (PD) ステートメントのラベルが 8 文字を超えています。最初の 8 文字が 使用されます。

システムの処置

戻りコード 4 が設定され、PD ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントの有効なラベルを指定してください。

重大度:
4

DFS1515I	SC=12 KEYWORD 'PID=' IS REQUIRED ON THE PD
-----------------	---

STATEMENT BUT WAS NOT SPECIFIED.

説明

区画を識別する、必須の PID キーワードが、区画記述子 (PD) ステートメントで 指定されませんでした。

システムの処置

戻りコード 12 が設定され、PD ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで PID キーワードを指定してください。

重大度:
12

DFS1516I SC=12 KEYWORD 'VIEWPORT=' IS REQUIRED ON THE PD STATEMENT BUT WAS NOT SPECIFIED

説明

VIEWPORT キーワードは、各区画記述子 (PD) ステートメントでそれぞれ必須ですが、指定されませんでした。VIEWPORT キーワードでは、ビューポート・サイズを示します。

システムの処置

戻りコード 12 が設定され、PD ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで VIEWPORT キーワードを指定してください。

重大度:
12

ドゥフス 1517I SC=12 キーワード「VIEWLOC=」は、PD ステートメントには必須ですが、指定されませんでした。

説明

VIEWLOC キーワードは、各区画記述子 (PD) ステートメントでは必須ですが、指定されていませんでした。VIEWLOC キーワードは、画面上のビューポートの位置を示します。

システムの処置

戻りコード 12 が設定され、PD ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで VIEWLOC キーワードを指定してください。

重大度:
12

DFS1518I SC=04 PDNAME SPECIFIED ON PD= IS TOO LONG, 1ST 8 CHARACTERS USED

説明

DPAGE ステートメントの PD キーワードで指定されている 区画記述子 (PD) 名が 8 文字を超えています。最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置

戻りコード 4 が設定され、DPAGE ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

DPAGE ステートメントの PD キーワードで有効な PD 名を指定してください。

重大度:
4

DFS1519I SC=08 PD= NAME HAS NO CHARACTERS

説明

PD キーワードが DPAGE ステートメントで検出されましたが、区画記述子 (PD) 名が指定されていませんでした。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、DPAGE ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

DPAGE ステートメントの PD キーワードで有効な PD 名を指定してください。

重大度:
8

DFS1520I SC=04 PDNAME SPECIFIED ON ACTVPID= TOO LONG, 1ST 8 CHARACTERS USED

説明

DPAGE ステートメントの ACTVPID キーワードで指定されている 区画記述子 (PD) 名が 8 文字を超えています。最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置

戻りコード 4 が設定され、DPAGE ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

DPAGE ステートメントの PD キーワードで有効な PD 名を指定してください。

重大度:
4

DFS1521I **SC=08 ACTVPID= NAME HAS NO CHARACTERS**

説明

ACTVPID キーワードが DPAGE ステートメントで検出されましたが、名前が指定されていませんでした。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、DPAGE ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

DPAGE ステートメントの ACTVPID キーワードで有効な名前を指定してください。

重大度:
8

DFS1522I **PDB 定義内の 2 つ以上の PD ステートメントに指定された SC=08 重複する PID 番号**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントに、この区画記述子ブロック (PDB) 定義内の直前の PD ステートメントで指定された PID 番号があります。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PDB 定義内の各 PD ステートメントに固有の PID 番号を指定します。

重大度:

8

DFS1523I **SC=08 表示スペースの値を超えました。5 桁に切り捨てられました。**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの PRESPEC キーワードに指定された値が 5 桁を超えていました。最初の 5 桁が使用されました。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで有効な PRESPEC 値を指定してください。

重大度:
8

DFS1524I **SC=08 NULL PRESENTATION SPACE VALUE IGNORED**

説明

PRESPEC キーワードは区画記述子 (PD) ステートメントで検出されましたが、表示値が指定されていませんでした。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PRESPEC キーワードに有効な値を指定するか、PRESPEC キーワードの指定を省略し、VIEWPORT 値のデフォルトを使用してください。

重大度:
8

DFS1525I **SC=08 ビューポート行の値を超えました。5 桁に切り捨てられました。**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWPORT 行数の値が 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントの VIEWPORT キーワードに有効な値を指定してください。

重大度:
8

DFS1526I **SC=08 VIEWPORT ROWS NULL
VALUE IGNORED**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWPORT キーワードで行数値が指定されていませんでした。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで VIEWPORT キーワードの有効な行数値を指定してください。

重大度:
8

DFS1527I **SC=08 PID VALUE EXCEEDED,
TRUNCATED TO 2 DIGITS**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの PID キーワードで指定された値が 2 桁を超えています。最初の 2 桁が使用されます。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PID キーワードの有効な値を指定してください。

重大度:
8

DFS1528I **SC=08 VIEWPORT ROWS VALUE IS
ZERO**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWPORT キーワードでの行数値は、ゼロより大である必要があります。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

VIEWPORT キーワードの有効な行数値を指定してください。

重大度:
8

DFS1529I **SC=08 VIEWPORT COLS VALUE
EXCEEDED, TRUNCATED TO 5
DIGITS**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWPORT キーワードで指定された COLS 値が 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで VIEWPORT キーワードの有効な COLS 値を指定してください。

重大度:
8

DFS1530I **SC=08 ビュー・ポート・カラーのヌ
ル値が無効です。**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWPORT キーワードに コルス の値が指定されていませんでした。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントの VIEWPORT キーワードに有効な COLS 値を指定してください。

問題判別:
2, 8, 16

重大度:
8

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1531I **SC=08 PID** ヌル値が無効です。

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの PID キーワードに値が指定されませんでした。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントの PID キーワードに値 0 から 15 を指定してください。

重大度:
8

DFS1532I **SC=08 VIEWPORT COLS VALUE IS ZERO**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWPORT キーワードでの COLS の値は、ゼロより大である必要があります。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで VIEWPORT キーワードの有効な COLS 値を指定してください。

重大度:
8

DFS1533I **SC=08 VIEWLOC ROWS= VALUE EXCEEDED, TRUNCATED TO 5 DIGITS**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWLOC キーワードで指定された行数が 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで VIEWLOC キーワードの有効な行数値を指定してください。

重大度:
8

DFS1534I **SC=08 VIEWLOC ROWS NULL VALUE IS INVALID**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWLOC キーワードで行数値が指定されていませんでした。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

この PD ステートメントが受け入れられる前に、ビューポートのロケーションに関して、有効な行数値を指定してください。

重大度:
8

DFS1535I **SC=08 SCROLLI= ROWS VALUE IS GREATER THAN THE NUMBER OF ROWS IN THE PRESENTATION SPACE**

説明

区画記述子 (PD) ステートメント SCROLLI 値が、表示スペースの行数より大でした。スクロールは、表示スペースを超えて拡張を試みました。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、処理は次の定義から継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで有効な SCROLLI 値を指定してください。

問題判別:
2、8、16

重大度:
8

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1536I **SC=08 VIEWLOC COLS= VALUE
EXCEEDED, TRUNCATED TO 5
DIGITS**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWLOC キーワードで指定された COLS 値が 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで VIEWLOC キーワードの有効な COLS 値を指定してください。

重大度:
8

DFS1537I **SC=08 VIEWLOC COLS** ヌル値は無視されます

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWLOC キーワードに COLS の値が指定されていませんでした。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

ビューポートの場所については、VIEWPORT キーワードに有効な COLS 値を指定してください。

重大度:
8

ドップス 1538I **SC=04** 表示スペースが指定されましたが、ビューポートのサイズがビューポート・サイズにリセットされました。行数が少なくなっています。

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの PRESPACE 行の値は、VIEWPORT 行数の値よりも小さくすることはできません。

システムの処置

PRESPACE 行の値は、デフォルトで VIEWPORT 行の値に設定されます。戻りコード 4 が設定され、処理は次の定義から続行されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで有効な PRESPACE 行の値を指定するか、またはデフォルトを受け入れます。

問題判別:
2, 8, 16

重大度:
4

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1539I **SC=08 INVALID PID NUMBER
SPECIFIED, MUST BE FROM 0 TO
15**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの PID キーワードで指定された数値が無効でした。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントの PID キーワードで 0 から 15 までの範囲の値を指定してください。

重大度:
8

DFS1540I **SC=08 WINDOWOF ROWS VALUE
EXCEEDED, TRUNCATED TO 5
DIGITS**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの WINDOWOF キーワードで指定された値が 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで WINDOWOF キーワードの有効な値を指定してください。

重大度:
8

DFS1541I SC=04 WINDOWOF= KEYWORD HAS NO VALUE SPECIFIED

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの WINDOWOF キーワードで値が指定されていませんでした。ゼロという値が想定されました。

システムの処置

ハードウェアがデフォルトを提供します。戻りコード 4 が設定され、PD ステートメントの処理が 続行されません。

プログラマーの応答

WINDOWOF キーワードに値を指定してください。

重大度:
4

DFS1542I SC=12 THE CELLSIZE WIDTH OR HEIGHT WAS SPECIFIED AS ZERO, BUT NOT BOTH. THIS COMBINATION IS INVALID. BOTH SET TO ZERO.

説明

CELLSIZE の幅と CELLSIZE の高さのいずれかがゼロとして指定された場合は、両方ともゼロとして指定する必要があります。そうでない場合は、CELLSIZE の幅も高さも両方とも、デフォルトでゼロになります。

システムの処置

戻りコード 12 が設定され、区画記述子 (PD) ステートメントの処理が 続行されません。

プログラマーの応答

値またはゼロを CELLSIZE の幅および高さに 指定してください。

重大度:
12

DFS1543I SC=08 CELLSIZE HORIZONTAL VALUE EXCEEDED

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの CELLSIZE キーワードで 指定されている水平 (文字幅) 値が、最大許容値 12 を超えています。2 桁を超える値が指定されていた場合は、最初の 2 桁のみが 使用されました。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントの CELLSIZE キーワードで有効な水平 (文字幅) 値を 指定してください。

重大度:
8

DFS1544I SC=04 CELLSIZE WIDTH NULL VALUE, A DEFAULT IS SET

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの CELLSIZE キーワードで 水平 (文字幅) 値が指定されていませんでした。この値はデフォルトで 6 ピクセルになります。

システムの処置

戻りコード 4 が設定され、PD ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントの CELLSIZE キーワードで水平 (文字幅) 値を 指定してください。

重大度:
4

DFS1545I SC=08 CELLSIZE VERTICAL SIZE EXCEEDED, TRUNCATED TO 2 DIGITS

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの CELLSIZE キーワードで 指定された垂直 (高さ) 値が 2 桁を超えています。最初の 2 桁が 使用されます。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が 続行されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで CELLSIZE キーワードの有効な垂直 (高さ) 値を指定してください。

重大度:
8

**DFS1546I SC=04 CELLSIZE VERTICAL SIZE
NULL VALUE, A DEFAULT IS SET**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの CELLSIZE キーワードで垂直 (高さ) 値が指定されていませんでした。この値はデフォルトで 12 ピクセルになりました。

システムの処置

戻りコード 4 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントの CELLSIZE キーワードで垂直 (高さ) 値を指定してください。

重大度:
4

**DFS1547I SC=08 SCROLLI ROWS VALUE
EXCEEDED, TRUNCATED TO 5
DIGITS**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの SCROLLI キーワードで指定されている値が 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで SCROLLI キーワードの有効な値を指定してください。

重大度:
8

**DFS1548I SC=04 SCROLLI ROWS NULL
VALUE IS IGNORED**

説明

区画記述子 (PD) ステートメントの SCROLLI キーワードで行数値が指定されていませんでした。

システムの処置

ゼロという値が設定され、これによって、ハードウェアではデフォルトになります。戻りコード 4 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで SCROLLI キーワードで行数値を指定してください。

重大度:
4

**DFS1549I SC=04 THE OFFSET + THE DEPTH
OF THE WINDOW FOR PD
STATEMENT (pdname) DOES NOT
FIT WITHIN THE PARTITION.
OFFSET SET TO 00.**

説明

WINDOWOF 値が区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWPORT 行数値に加算され、表示スペースの行数より大きくなりました。これでは、ビューポート・ウィンドウが表示スペースを超えて拡張することになります。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答

PD ステートメントで WINDOWOF キーワードの有効な値を指定してください。この値は、0 から表示スペースの行総数の範囲である必要があります。

問題判別:
2、8、16

重大度:
4

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS1550I SC=04 PRESENTATION SPACE
WIDTH IS NOT EQUAL TO THE
VIEWPORT
WIDTH.PRESENTATION SPACE
WIDTH IS RESET TO THE
VIEWPORT WIDTH.**

説明

表示スペースの幅に対して無効な値が検出されました。値を指定する場合は、ビューポートの幅に等しくする必要があります。

システムの処置

戻りコード 4 が設定され、処理は次の定義から続行されます。

プログラマーの応答

区画記述子 (PD) ステートメントで表示スペースの幅に関して有効な指定を行うか、デフォルトを受け入れてください。

問題判別:

2、8、16

重大度:

4

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 35 章 DFS メッセージ DFS1551I - DFS1600I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1551I **SC=08 MORE THAN 16
PARTITIONS HAVE BEEN
SPECIFIED FOR PDB (pdname).
ONLY 16 PD STATEMENTS ARE
ALLOWED WITHIN A PDB.**

説明

区画記述子ブロック (PDB) 内の区画記述子 (PD) ステートメントの数は、16 を超えてはなりません。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、処理は次の定義から続行されます。

プログラマーの応答

それぞれの PDB ステートメントで定義される PD ステートメントの数が 16 以下であるか確認してください。

問題判別:

2、8、16

重大度:

8

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1552A **MADS I/O TIMING STRUCTURE
ALLOCATION FAILURE, RC=rrrr,
RSN=ssss**

説明

始動時に、IMS がカップリング・ファシリティ内で長時間使用中許容の構造を割り振ることができませんでした。戻りコード rrrr および ssss の説明については、IXLCONN 戻りコードおよび理由コードの情報を参照してください。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

問題を訂正し、IMS を再始動してください。MADS 入出力タイミグ機能が必須でない場合は、MADSIOT 指定

を DFSVSMxx PROCLIB メンバーから削除し、IMS を再始動してください。

関連資料

[z/OS: IXLCONN の戻りコードおよび理由コード](#)

DFS1553I **MADS I/O TIMING INITIATED FOR
AREA areaname DDN=ddname**

説明

ADS が MADS 入出力タイミグ条件として処理されました。物理読み取りまたは書き込みは、IMS によって使用禁止されていました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

ロング・ビジー ADS が属するエリアの名前

ddname

RECON データ・セットに登録されている長時間使用中 ADS のデータ記述名

システムの処置

IMS がこの ADS を内部的に停止します。

プログラマーの応答

MADS 入出力タイミグ条件が終了したら、作成ユーティリティを実行して、新しい ADS を作成してください。

DFS1554E **MADS I/O TIMING INITIATION
FAILED FOR AREA areaname
DDN=ddname RC=xx**

説明

IMS は、この ADS で MADS 入出力タイミグ条件を検出しましたが、MADS 入出力タイミグの開始に失敗しました。xx で示されている理由コードで、障害の原因が示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

ロング・ビジー ADS が属するエリアの名前

ddname

RECON データ・セットに登録されている長時間使用中 ADS のデータ記述名

xx

障害の原因を示す理由コード。理由コードは、次のいずれかの値を取ります。

コード
意味

01

AREA にはすでに MADS 入出力タイミグ ADS があります。

02

エラーが 2 回目の CI 更新時に発生しました。

03

この IMS は別のリスト構造に接続されていません。

システムの処置

IMS がこの ADS を内部的に停止します。

システム・プログラマーの応答

MADS 入出力タイミグ条件が終了したら、作成ユーティリティを実行して、新しい ADS を作成してください。

モジュール:
DBFMLBIO

**DFS1555E MADS I/O TIMING PROCESSING
ERROR FOR AREA areaname
DDN=ddname RC=xx**

説明

IMS が MADS 入出力タイミグ中にエラーを検出しました。理由コードで障害の原因が示されます。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

ロング・ビジー ADS が属するエリアの名前

ddname

RECON データ・セットに登録されている長時間使用中 ADS のデータ記述名

xx

次のいずれかの理由を示します。

理由コード (16 進数)

意味

01

この AREA にある更新済み CI の数が 1000 を超えているか、MADSIOT 構造エントリが限度の 1000 に達しました。

02

AREA の許容数が 63 を超えました。

03

MADS 入出力タイミグが 60 秒以内に終了しませんでした。

04

MADS 入出力タイミグ条件がリカバリー時に検出されました。

05

読み取りエラーがリカバリー時に発生しました。

06

書き込みエラーがリカバリー時に発生しました。

07

ロック障害がリカバリー時に発生しました。

08

論理エラーがリカバリー時に発生しました。

09

シャットダウンが MADS 入出力タイミグ中に開始されました。

0A

読み取りエラーが MADS 入出力タイミグ ADS で検出されました。

0B

MADS 入出力タイミグ所有者が構造内で検出されませんでした。

0C

DMHR バッファがリカバリー用として取得されませんでした。

0D

ADS がリカバリーの開始時に、データ共用機能によって停止されました。

0E

DBRC がゼロ以外の戻りコードを戻しました。DBRC は ADS に停止済みのマークを付けなかった可能性があります。

0F

IRLM がゼロ以外の戻りコードを戻しました。ADS 停止要求がデータ共用機能に送信されませんでした。

11

据え置かれていた 2 番目の CI リフレッシュが、2 番目の CI エラーのため失敗しました。

13

ダミー読み取りでロング・ビジー・エラーを受信しました。ADS はクローズします。

14

ロング・ビジー・リカバリーでロング・ビジー・エラーを受信したか、2 番目の CI 入出力でロング・ビジー・エラーを受信しました。ADS はクローズします。

システムの処置

IMS がこの ADS を内部的に停止します。

プログラマーの応答

問題を訂正し、作成ユーティリティを実行して、新しいADSを作成してください。

DFS1556E **MADS I/O TIMING ISLLIST
REQUEST FAILED FOR AREA
areaname RC=rrrr RSN=ssss**

説明

IMS がロング・ビジー構造の処理を試みたとき、エラーが発生しました。

areaname は、ロング・ビジー ADS が属するエリアの名前です。イベント・コードおよび *rrrr* の説明については、IXLLIST 戻りコードおよび理由コードの情報を参照してください。理由コードの最初の 2 バイト *rrrr* は、以下のいずれかのコードになります。

X'1001'

戻りコードが 8 より大きい場合は、ロング・ビジー所有者を要求 (WRITE) します。

X'1002'

戻りコードが X'C' (DBFMLBIO CF_UPDT) に等しい場合は、ロング・ビジー・エントリーを要求 (WRITE) します。

X'1003'

戻りコードが X'C' (DBFMLBIO CF_UPDT) より大きい場合は、ロング・ビジー・エントリーを要求 (WRITE) します。

X'1004'

理由コードが 0 または

```
IXLRSNCODESTATUSUNKNOWN
```

(DBFMLBIO LONG_BUSY_TKO) に等しくない場合は、新規所有者 ID を要求 (WRITE) します。

X'1005'

複数エントリー事例で、理由コードが 0 または

```
IXLRSNCODESTATUSUNKNOWN
```

(DBFMLBIO LONG_BUSY_TKO) に等しくない場合は、新規所有者 ID を要求 (WRITE) します。

X'3001'

最初のリスト・ヘッダーのロック、ゼロ以外の戻りコード (DBFMLBRO RECOVERY_PHASE1)

X'3002'

最初のリスト・ヘッダーに対するロックのリセット、ゼロ以外の戻りコード (DBFMLBRO RECOVERY_PHASE1)

X'3003'

DELETE_LIST 要求でゼロ以外の戻りコードを受信しました。DELETE または DELETE_ENTRYLIST は、

```
RSN=IXLRSNTIMEOUT
```

(DBFMLBRO RECOVERY_PHASE3) のときに再試行されます。

X'3004'

所有者エントリーの削除要求でゼロ以外の戻りコード (DBFMLBRO RECOVERY_PHASE3) を受信しました。

X'3005'

READ_LIST 要求でゼロ以外の戻りコードを受信しました。この要求は、

```
RSN=IXLRSNTIMEOUT
```

(DBFMLBRO RECOVERY_PHASE3) のときに再試行されます。

X'1nnn' 理由コードの場合、このメッセージは DBFMLBIO によって発行されます。X'3nnn' 理由コードの場合、DBFMLBRO によって発行されます。

システムの処置

IMS MADS 入出力タイミング中に、IMS がこの ADS を内部的に停止します。

プログラマーの応答

ADS が停止した場合は、作成ユーティリティを実行して、新しい ADS を作成してください。

モジュール:

DBFMLBIO、DBFMLBRO

DFS1558I **MADS I/O TIMING ENDED FOR
AREA areaname DDN=ddname**

説明

MADS I/O タイミングが正常に終了しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

ロング・ビジー ADS が属するエリアの名前

ddname

RECON データ・セットに登録されている長時間使用中 ADS のデータ記述名

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS1559I **MADS I/O TIMING STRUCTURE
REBUILD INITIATED, RSN=rr**

説明

ロング・ビジュー構造再作成が開始されました。rrは、再作成が開始された原因を示し、以下のコードのいずれかになります。

理由コード

説明

- 01 カップリング・ファシリティーでエラーが発生しました。
- 02 リンク・エラーが検出されました。
- 03 オペレーターが再作成コマンドを入力しました。

システムの処置

MADS 入出力タイミング機能は、再作成の進行中は中断されます。再作成が正常に完了すると、MADS 入出力タイミング機能は正常に続行されます。再作成が失敗した場合は、MADS 入出力タイミング機能は使用不可になります。

オペレーターの応答

再作成が正常に完了するか確認してください。再作成中に問題が生じた場合は、システム・プログラマーに通知してください。再作成が失敗した場合は、システム・プログラマーに連絡して理由を判別してください。

DFS1560I SC=08 THE PDNAME SPECIFIED ON THE SYMSMSG= KEYWORD ON THE PDB STATEMENT DOES NOT EXIST IN THE PD STATEMENTS WITHIN THIS PDB.

説明

SYMSMSG キーワードで指定されている区画記述子 (PD) ステートメント名が、この区画記述子ブロック (PDB) 定義内のいずれの区画記述子 (PD) ステートメントでも、ラベル (名前) として検出されませんでした。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答

SYMSMSG キーワードの PD ステートメント名が、PD ステートメントでの名前に対応するか確認してください。

重大度:
8

DFS1561I SC=08 THE VIEWPORT POSITION AND WIDTH FOR PD STATEMENT

(pdname) DOES NOT FIT ON THE SCREEN SPECIFIED BY THE PDB

説明

このビューポートに必要な画面の幅が、区画記述子ブロック (PDB) ステートメントでの LUSIZE 幅指定を超えています。このエラーが発生するのは、画面の左からのビューポートのオフセットにビューポートの列の数 (幅) を加えて計算した PELS または COLS の数が、LUSIZE キーワードで指定された PELS または COLS の数より大きいときです。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、区画記述子 (PD) ステートメントの妥当性検査が続行されます。

プログラマーの応答

ビューポートの寸法およびオフセット (画面上のロケーション) が LUSIZE 値を超えていないか確認してください。

重大度:
8

DFS1562I SC=08 THE VIEWPORT POSITION AND DEPTH FOR PD STATEMENT (pdname) DOES NOT FIT ON THE SCREEN SPECIFIED BY THE PDB

説明

このビューポートに必要な画面の縦の長さの合計が、区画記述子ブロック (PDB) ステートメントの LUSIZE キーワードで指定されている縦の長さを超えています。このエラーが発生するのは、画面の上部からのビューポートのオフセットにビューポートの行の数 (縦の長さ) を加えて計算した PELS または COLS の数が、LUSIZE キーワードで指定された PELS または COLS の数より大きいときです。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、区画記述子 (PD) ステートメントの妥当性検査が続行されます。

プログラマーの応答

ビューポートの寸法およびオフセット (画面上のロケーション) が LUSIZE 値を超えていないか確認してください。

重大度:
8

DFS1563I SC=08 THE AREA ON THE DISPLAY SPECIFIED FOR THE VIEWPORTS

ON PD STATEMENTS (*pdname* and *pdname*) OVERLAP.

説明

指定された区画記述子 (PD) ステートメントでのビューポートのサイズおよびロケーションの指定が原因で、VIEWPORTS がオーバーラップしました。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの妥当性検査が続行されます。

プログラマーの応答

指定された PD ステートメントでのビューポートのサイズおよびロケーションの指定を訂正して、オーバーラップしないようにしてください。

重大度:
8

DFS1564I	SC=08 DUPLICATE PD NAME (<i>pdname</i>) DETECTED ON THE PD STATEMENTS WITHIN THIS PDB
-----------------	--

説明

区画記述子ブロック (PDB) 定義内で、重複区画記述子 (PD) ステートメント名が使用されてはなりません。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答

PDB 定義内の各 PD ステートメントごとに、それぞれ固有の名前があるか確認してください。

重大度:
8

DFS1565I	SC=04 WARNING - PD STATEMENT (<i>pdname</i>) CANNOT BE CHECKED FOR OVERLAP WITH OTHER VIEWPORTS DUE TO CELLSIZE = ZERO
-----------------	---

説明

示されたビューポートは、他の VIEWPORTS とオーバーラップする可能性があります。VIEWPORTS は、画面上の他の VIEWPORTS とオーバーラップする可能性があるかチェックされます。ただし、CELLSIZE がゼロとして指定されているときは、ビューポート・サイズは不明であり、他の VIEWPORTS のサイズと比較できません。

システムの処置

戻りコード 4 が設定され、区画記述子 (PD) ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

重大度:
4

DFS1566I	SC=12 PDB DOES NOT SPECIFY LUDEFN=PELS, BUT VARIABLE CELL SIZES EXIST IN PD STATEMENTS. THIS IS INVALID.
-----------------	---

説明

LUDEFN=PELS が指定されている場合を除いて、区画記述子ブロック (PDB) 内のすべての区画記述子 (PD) ステートメントは、セル・サイズが同じである必要があります。異なるセル・サイズが少なくとも 2 つ 検出されました。

システムの処置

戻りコード 12 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答

ビューポート・オフセットをピクセル単位で指定するか、セル・サイズがすべての PD ステートメントで同じになるようにするか、いずれかを行ってください。

重大度:
12

DFS1567I	MADS I/O TIMING STRUCTURE REBUILD COMPLETED
-----------------	--

説明

多重エリア・データ・セット (MADS) 入出力タイミング用構造再作成が正常に完了しました。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS1568E	MADS I/O TIMING STRUCTURE REBUILD FAILED, RSN=<i>rr</i>
-----------------	--

説明

IMS システムの 1 つが多重エリア・データ・セット (MADS) 入出力タイミング用構造再作成への参加に失敗しました。理由コードで障害の原因が示されます。

コード 説明

- 01** この IMS は構造に接続しましたが、別の IMS が構造への接続に失敗しました。
- 02** この IMS が構造に接続できません。

システムの処置

MADS 入出力タイミング機能が使用不可になります。

プログラマーの応答

問題を訂正し、IMS (ただし、メッセージを出した IMS ではない) から **/START MADSIOT** コマンドを出して、MADS 入出力タイミングを再始動してください。問題が訂正できない場合は、エラーを生じた IMS を停止し、**/START MADSIOT** コマンドを出してください。

DFS1569I **DEV** ステートメントでは、**SC=08 PDB=** が指定されましたが、**DPAGE** ステートメントには **PD=** が指定されていません。

説明

パーティショニングを使用する場合は、DEV ステートメントで PDB キーワードを指定しなければならず、DPAGE ステートメントで PD キーワードを指定する必要があります。

システムの処置

処理は次の DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

パーティショニングを使用する場合は、DEV ステートメントに PDB キーワードを指定し、DPAGE ステートメントで PD キーワードを指定します。それ以外の場合は、これらのステートメントから両方のキーワードを除去してから、ジョブを

問題判別:
2, 8, 16

重大度:
8

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1570I **SC=08 PD= WAS SPECIFIED ON THE DPAGE STATEMENT, BUT PDB= IS NOT SPECIFIED ON THE DEV STATEMENT**

説明

区分化が使用される場合は、DEV ステートメントで PDB キーワードを指定し、DPAGE ステートメントで PD キーワードを指定する必要があります。

システムの処置

処理は次の DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

区分化が使用される場合は、PDB キーワードを DEV ステートメントで指定し、PD キーワードを DPAGE ステートメントで指定してください。それ以外の場合は、これらのステートメントから両方のキーワードを除去し、ジョブを再実行してください。

問題判別:
2, 8, 16

重大度:
8

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1571I **SC=08 ACTVPID= WAS SPECIFIED ON THE DPAGE STATEMENT, BUT PDB= IS NOT SPECIFIED ON THE DEV STATEMENT.**

説明

ACTVPID キーワードが DPAGE ステートメントで指定できるのは、PDB キーワードが DEV ステートメントで指定される時のみです。

システムの処置

処理は次の DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

区分化が使用される場合は、PDB キーワードを DEV ステートメントで指定してください。それ以外の場合は、ACTVPID キーワードを DPAGE ステートメントから除去し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

2、8、16

重大度:

8

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1572I **DEV** ステートメントには、**SC=08 PDB=** が指定されていますが、**DPAGE** ステートメントがありません。少なくとも **1** つの **DPAGE** がなければなりません。

説明

PDB キーワードは、少なくとも 1 つの DPAGE ステートメントが定義されている場合に限り、DEV ステートメント上で指定できます。

システムの処置

戻りコード 8 が設定され、処理は次の DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

区分化が使用されている場合は、PDB キーワードが DEV ステートメントに指定されていることを確認し、DPAGE ステートメントを少なくとも 1 つ定義し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

2、8、16

重大度:

8

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1573I **SC=04 THE PRESENTATION SPACE VALUE EXCEEDS 32767. VALUE ALTERED TO 32767.**

説明

行数または列数の指定が 32767 を超えています。値は 32767 に設定されています。

システムの処置

処理は次の DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答

行数および列数の指定が 32767 を超えていないか確認し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

2、8、16

重大度:

4

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1586I **SC=04 MIXED DATA FIELD SPANNING LINES MIGHT RESULT IN DATA TRUNCATION**

説明

DBCS/EBCDIC 混合フィールドの DBCS データが偶数境界から始まり、次の行に継続するときは、MFS は最後の文字を空白で置き換え、最後の文字を次の行の始めに印刷します。その結果、それぞれの行で印刷位置が 1 つ失われ、それぞれの行から文字が 1 字切り捨てられます。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要な場合は、DBCS/EBCDIC 混合フィールドを 2 つのフィールドに分割し、ジョブを再実行してください。

DFS1587I **偶数列に指定された SC=04 EGCS フィールド**

説明

これは警告メッセージです。偶数列に EGCS フィールドが指定されました。一部の装置では、拡張図形文字セット・データを奇数列に指定する必要があります。行の最初の列は列 1 です。

システムの処置

POS 指定は未変更のまま受け入れられ、処理は続行されます

プログラマーの応答

この指定に誤りがある場合は、POS キーワードの列指定を訂正し、必要に応じてジョブを再実行してください。フォーマットが イブン 5550 ファミリー用に設計されている場合は、このメッセージを無視できます。

**DFS1588I SC=04 SO/SI CREATION
SUPERCEDED EGCS FIELD**

説明

MIX または MIXS が EGCS'hh' と一緒に指定されました。MIX または MIXS の値の方が EGCS'hh' 値に優先します。

システムの処置

IMS は EGCS 値を無視し、装置デフォルトを使用します。

プログラマーの応答

DFLD ステートメントで EGCS または DBCS/EBCDIC 混合フィールドを定義する場合は、キーワードを訂正し、ジョブを再実行するか、装置デフォルト値を受け入れるか、いずれかを行ってください。

**DFS1589I SC=04 OUTL'hh', BOX, RIGHT,
LEFT, OVER, UNDER EXCLUSIVE**

説明

DFLD ステートメントで指定されているフィールド枠取りキーワードは、相互排他的で同時に使用できませんでした。

システムの処置

MFS は、最初に指定されているフィールド枠取り機能を使用します。

プログラマーの応答

デフォルトを使用したくない場合は、フィールド枠取り指定を訂正してから、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

**DFS1590I SC=04 OUTL VALUE SHOULD BE
X'00' to X'0F', X'00' ASSUMED.**

説明

OUTL'hh' キーワードで指定されているフィールド枠取り値が、X'00' と X'0F' の間の数値ではありませんでした。

システムの処置

MFS は、デフォルト値 X'00' を使用します。

プログラマーの応答

デフォルト値を使用したくない場合は、フィールド枠取り指定を訂正し、必要であればジョブを再実行してください。

**DFS1591I SC=08 SO CONTROL CHARACTER
IS OPEN**

説明

DBCS/EBCDIC 混合フィールド・リテラルに、対でない SO 制御文字が含まれていました。

システムの処置

MFS が MOD/MID または DOF/DIF ブロックを作成することはありません。

プログラマーの応答

DBCS/EBCDIC 混合フィールドを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1592I SC=08 THERE IS A REDUNDANT
TRAILING SI CHARACTER**

説明

DBCS/EBCDIC 混合フィールド・リテラルで右 SI 制御文字が重複していました。

システムの処置

MFS が MOD/MID または DOF/DIF ブロックを作成することはありません。

プログラマーの応答

DBCS/EBCDIC 混合フィールドを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1593I SC=08 FIELD OUTLINING INVALID
FOR 3270P DEVICE TYPE**

説明

DFLD ステートメントでフィールド枠取りが 3270P に関して指定されましたが、装置タイプ 3270P では無効でした。

システムの処置

MFS はフィールド枠取り指定を無視します。

プログラマーの応答

装置タイプを訂正するか、フィールド枠取り指定を DFLD ステートメントから除去し、その上でジョブを再実行してください。

**DFS1594I SC=08 MIX, MIXD, MIXS, MIX'nn',
MIXS'nn' ARE EXCLUSIVE**

説明

MIX、MIXD、MIXS、MIX'nn'、および MIXS'nn' は、相互排他的で同時には使用できないキーワードですが、そのうちの複数のキーワードが DFLD ステートメントで指定されました。

システムの処置

MFS が DOF/DIF ブロックを作成することはありません。

プログラマーの応答

これらのキーワードのいずれか 1 つのみを DFLD ステートメントで指定してから、ジョブを再実行してください。

DFS1595I	SC=04 MIX/MIXS'nn' の最大値は 31 、デフォルト・セットは次のようになっています xx
-----------------	--

説明

MIX/MIXS'nn' で指定された値 キーワードが最大値 31 を超えました。xx がデフォルトとして使用されます。

システムの処置

処理は続行する

プログラマーの応答

デフォルトの MIX/MIXS'nn' 値では不十分な場合は、値を訂正してから、必要な場合はジョブを再実行してください。

DFS1596I	SC=04 デフォルトの計算が MIX/MIXS に対して xx れました。
-----------------	---

説明

MFS は、MIX/MIXS のデフォルト値を xx として計算しました。

システムの処置

処理は続行する

プログラマーの応答

デフォルトの MIX/MIXS'nn' 値では不十分な場合は、値を訂正してから、必要な場合はジョブを再実行してください。

DFS1597I	SC=04 MIXD INVALID FOR MIXED MODE LITERAL FOR SCS1
-----------------	---

説明

DFLD ステートメントで DBCS/EBCDIC 混合リテラル・フィールドに関して指定された MIXD キーワードは、SCS1 プリンターの場合は無効でした。

システムの処置

MFS はキーワード MIXD を無視し、処理を続行します。

プログラマーの応答

装置タイプまたはキーワードを訂正してから、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

DFS1598I	SC=04 MIXS and MIX/MIXS WITH 'nn' VALID ONLY FOR TYPE=SCS1
-----------------	---

説明

MIXS または MIX/MIXS'nn' が、SCS1 プリンター以外の装置に関して指定されましたが、これが有効なのは、SCS1 プリンターの場合のみです。

システムの処置

MFS は無効のキーワードを無視し、処理を続行します。

プログラマーの応答

MIXS または MIX/MIXS'nn' 指定を DFLD ステートメントから除去してから、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

DFS1599I	SC=08 MIXED MODE LITERAL CONTAINS DBCS STRING WITH ODD LENGTH
-----------------	--

説明

奇数長の DBCS データが DBCS/EBCDIC 混合フィールド/リテラルで指定されましたが、DBCS データは偶数長である必要があります。

プログラマーの応答

MFS が MOD/MID ブロックおよび DOF/DIF ブロックを作成することはありません。

プログラマーの応答

DBCS/EBCDIC 混合フィールドを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1600I	SC=08 PFK= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE
-----------------	---

説明

この装置タイプに関するプログラム・ファンクション・キー指定は無効であるため、無視されました。

プログラマーの応答

DEV または PFK= を訂正し、ジョブを再実行してください。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

第 36 章 DFS メッセージ DFS1601I - DFS1650I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1601I **SC=08 PEN= INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明

PEN= 指定が装置タイプと矛盾していたため、この
PEN= 指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV を訂正するか、PEN= を除去し、ジョブを再実行し
てください。

DFS1602I **SC=08 CARD= INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明

CARD= 指定が装置タイプと矛盾していたため、CARD=
指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV を訂正するか、CARD= を除去し、ジョブを再実行
してください。

DFS1603I **SC=08 FTAB= INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明

FTAB= 指定が装置タイプと矛盾していたため、FTAB=
指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV を訂正するか、FTAB= を除去し、ジョブを再実行
してください。

DFS1604I **SC=08 LDEL= INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明

LDEL= 指定が装置タイプと矛盾していたため、LDEL=
指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV を訂正するか、LDEL= を除去し、ジョブを再実行
してください。

DFS1605I **SC=08 DSCA= INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明

DSCA= 指定が装置タイプと矛盾していたため、DSCA=
指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV を訂正するか、DSCA= を除去し、ジョブを再実行
してください。

DFS1606I **SC=08 MODE= INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明

MODE= 指定が装置タイプと矛盾していたため、MODE=
指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV を訂正するか、MODE= を除去し、ジョブを再実行
してください。

DFS1607I **SC=08 PAGE= INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明

PAGE= 指定が装置タイプと矛盾していたため、PAGE= 指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV を訂正するか、PAGE= を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1608I SC=08 FORMS= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明

FORMS= 指定が装置タイプと矛盾していたため、この FORMS= 指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV を訂正するか、FORMS= を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1609I SC=08 SYMSG= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明

SYMSG= 指定が装置タイプと矛盾していたため、SYMSG= 指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV を訂正するか、SYMSG= を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1610I SC=08 FEAT=IGNORE IS THE ONLY ALLOWABLE SPECIFICATION FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明

この装置タイプでは、FEAT= 指定が可能なのは IGNORE のみであるため、IGNORE が指定されているものと想定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾するステートメントを調べ、エラーを訂正し、ジョブを実行してください。

DFS1611I SC=08 FEAT=VALUE(S) SPECIFIED INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明

FEAT= 指定が装置タイプと矛盾していたため、FEAT= 指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV を訂正するか、FEAT= を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1612I SC=08 PAGE=EJECT PARAMETER(S) INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明

PAGE= 指定が装置タイプと矛盾していたため、PAGE= 指定は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV を訂正するか、PAGE= を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1613I SC=08 FEAT=PFK FORCED FOR PFK= SPECIFICATION

説明

PFK= が指定されましたが FEAT=PFK が指定されなかったため、FEAT=PFK が想定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1614I SC=08 FEAT=PEN FORCED FOR
PEN= SPECIFICATION**

説明

PEN= が指定されましたが FEAT=PEN が指定されなかったため、FEAT=PEN が想定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1615I SC=08 FEAT=CARD FORCED FOR
CARD= SPECIFICATION**

説明

CARD= が指定されましたが FEAT=CARD が指定されなかったため、FEAT=CARD が想定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1616I SC=08 FEAT=PARAMETERS ARE
MUTUALLY EXCLUSIVE**

説明

示されているフィーチャーは共存できないため、出現順に受け入れられました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

必要なフィーチャーを選択し、ジョブを再実行してください。

**DFS1617I SC=04 PEN=FIELDNAME,
FIELDNAME TRUNCATED TO 8
CHARACTERS**

説明

PEN= フィールド名が 8 文字を超えているため、最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

フィールド名を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1618I SC=08 PEN=FIELDNAME,
FIELDNAME HAS NO CHARACTERS**

説明

フィールド名は PEN= 指定に入力されなかったため、無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

フィールド名を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1619I SC=04 PFK=(FIELDNAME,
FIELDNAME TRUNCATED TO 8
CHARACTERS**

説明

PFK= フィールド名が 8 文字を超えているため、最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

フィールド名を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1620I SC=08 PFK=(FIELDNAME,
FIELDNAME HAS NO CHARACTERS**

説明

フィールド名は PFK= 指定に入力されていなかったため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

フィールド名を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1621I SC=04 CARD=FIELDNAME,
FIELDNAME TRUNCATED TO 8
CHARACTERS**

説明

CARD= フィールド名が 8 文字を超えているため、最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

フィールド名を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1622I SC=08 CARD=FIELDNAME,
FIELDNAME HAS NO CHARACTERS**

説明

フィールド名は CARD 指定に入力されていないため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

フィールド名を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1623I SC=04 DSCA=X 'HEXSTRING',
HEXSTRING TRUNCATED TO 4 HEX
DIGITS**

説明

DSCA= スtringが 16 進数 4 桁より大きかったため、最初の 16 進数 4 桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DSCA= スtringを 16 進数 4 桁に制限し、ジョブを再実行してください。

**DFS1624I SC=08 DSCA=X 'HEXSTRING',
HEXSTRING HAS NO
CHARACTERS. X'0000' USED**

説明

DSCA=X 指定にスtringが指定されなかったため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DSCA= を訂正して、ジョブを再実行してください。

**DFS1625I SC=04 DSCA=nnnn, nnnn
TRUNCATED TO LAST 15 DIGITS**

説明

DSCA= integer が 15 桁を超えていたため、末尾の 15 桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DSCA= integer を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1626I SC=04 DSCA=nnnn, nnnn HAS NO
DIGITS. DSCA=0 USED**

説明

DSCA= 指定に桁数がなかったため、ゼロに設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DSCA= integer を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1627I スキャン = 04 用紙 = 「リテラル」が
16 文字を超えています。最初に使用
される 16 文字**

説明

指定された FORMS= リテラルの長さが 16 文字を超えています。最初の 16 文字が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

FORMS= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1628I SC=04 PAGE=nnnn EXCEEDS 255.
255 USED.**

説明

PAGE= *value* が許容限度 255 行を 超えています。
255 行という値が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV ステートメントの PAGE= *value* を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1629I SC=04 PAGE=nnnn, nnnn
TRUNCATED TO 4 DIGITS**

説明

PAGE= *value* が 4 桁を超えていたため、末尾の 4 桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

PAGE= *value* を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1630I SC=04 PAGE=(nnnn, nnnn HAS NO
DIGITS. PAGE=55 USED**

説明

DEV ステートメントの PAGE= 指定での行数が NULL だったため、55 が使用されました。

システムの処置

処理は次のソース項目から続行されます。

プログラマーの応答

55 以外の行数にしたい場合は、指定を訂正してから、ジョブを再実行してください。

**DFS1631I SC=04 FORMS='LITERAL', LITERAL
HAS NO CHARACTERS. 4 BLANKS
USED**

説明

FORMS= *literal* リテラルが NULL だったので、4 つのブランクが使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

FORMS= *literal* を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1632I SC=04 SYMSG=FIELDNAME,
FIELDNAME TRUNCATED TO 8
CHARACTERS**

説明

SYMSG= フィールド名が 8 文字を超えたため、最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

SYMSG= フィールド名を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1633I SC=08 SYMSG=FIELDNAME,
FIELDNAME HAS NO CHARACTERS**

説明

SYMSG= はフィールド名を指定していなかったため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

SYMSG= フィールド名を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1634I SC=08 CURSOR=((LINENO,
LINENO HAS NO DIGITS. VALUE
OF 1 USED**

説明

CURSOR= 指定の行数パラメーターがブランク (NULL) だったため、1 という値が指定されているものと想定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1635I **SC=08 CURSOR=((LINENO,
LINENO EXCEEDS 3 DIGITS. LAST
3 USED**

説明

CURSOR= 指定の行数パラメーターが3桁を超えているため、切り捨てられます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1636I **SC=08 CURSOR=((LINENO,
LINENO VALUE EXCEEDS
PHYSICAL PAGE LIMITS FOR
SPECIFIED DEVICE. LIMIT VALUE
USED**

説明

CURSOR= 指定の行数パラメーターが装置制限を超えていました。装置タイプの行数最大値が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

CURSOR= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1637I **SC=08 CURSOR=((LINENO,COLNO,
COLNO HAS NO DIGITS. VALUE OF
2 USED**

説明

CURSOR= の列数パラメーターに桁数がなかったため、値2が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1638I **SC=08 CURSOR=((LINENO,COLNO,
COLNO EXCEEDS 3 DIGITS. LAST 3
DIGITS USED**

説明

CURSOR= 指定の列数パラメーターが3桁を超えているため、切り捨てられます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1639I **SC=08 CURSOR=((LINENO,COLNO,
COLNO EXCEEDS DEVICE
CAPACITY. DEVICE CAPACITY
LIMIT USED**

説明

CURSOR= 指定の列数パラメーターが装置制限を超えています。装置タイプの列数最大値が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

CURSOR= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1640I **SC=08 CURSOR=((LINENO,COLNO,
FIELDNAME, FIELDNAME HAS NO
CHARACTERS. FIELDNAME
IGNORED**

説明

CURSOR= 指定のフィールド名パラメーターはNULLであり、無視されます。

システムの処置

処理は次のソース項目から続行されます。

プログラマーの応答

望ましい場合は、フィールド名を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1641I **SC=08 CURSOR=((LINENO,
COLNO, FIELDNAME, FIELDNAME,
TRUNCATED TO 8 CHARACTERS**

説明

CURSOR= 指定のフィールド名パラメーターが8桁を超えているため、切り捨てられます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

フィールド名を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1642I SC=08 COND=(OFFSET, OFFSET HAS NO DIGITS. VALUE OF 0 USED

説明

COND= 指定のオフセット値に桁数がないので、ゼロに設定されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1643I SC=08 COND=(OFFSET, OFFSET TRUNCATED TO LAST 5 DIGITS

説明

COND= 指定のオフセット値が5桁を超えているため、切り捨てられます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

値を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1644I SC=08 COND=(OFFSET, OPER, 'LITERAL', LITERAL HAS NO CHARACTERS. SINGLE BLANK USED

説明

COND= 指定のリテラル・パラメーターが NULL であるため、ブランクが使用されています。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましいリテラルを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1645I SC=08 CURSOR= SPECIFICATION INVALID FOR DEVICE TYPE SPECIFIED

説明

CURSOR= 指定は、装置タイプ指定と矛盾するので、無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1646I SC=08 COND= SPECIFICATION INVALID FOR DEVICE TYPE SPECIFIED

説明

COND= 指定は、装置タイプ指定と矛盾するので、無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1647I SC=08 SELECT= SPECIFICATION INVALID FOR DEVICE TYPE SPECIFIED

説明

SELECT= 指定は、装置タイプ指定と矛盾するので、無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1648I SC=08 ORIGIN= SPECIFICATION INVALID FOR DEVICE TYPE SPECIFIED

説明

ORIGIN= 指定は、装置タイプ指定と矛盾するので、無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1649I **SC=08 MULT= SPECIFICATION
INVALID FOR DEVICE TYPE
SPECIFIED**

説明

MULT= 指定は、指定された装置タイプと矛盾していたため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1650I **SC=08 FILL= SPECIFICATION
INVALID FOR DEVICE OR DIVTYPE
SPECIFIED**

説明

FILL= 指定は、指定された装置タイプまたは DIVTYPE と矛盾していました。FILL= は、DIV=INPUT または DEVTYP=3600 の場合は許可されないため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

第 37 章 DFS メッセージ DFS1651I - DFS1700I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1651I **SC=04 MULTIPLE POS=
KEYWORDS INVALID**

説明

DFLD ステートメントでは POS= パラメーターは 1 つしか許容されないため、2 番目のパラメーターは無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

POS= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1652I **SC=04 MULTIPLE LTH=
KEYWORDS INVALID**

説明

DFLD ステートメントでは LTH= パラメーターは 1 つしか許容されないため、2 番目のパラメーターは無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

LTH= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1653I **SC=04 複数の ATTR= キーワードが
無効**

説明

DFLD ステートメントでは ATTR= パラメーターは 1 つしか許容されません。2 番目のパラメーターは無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

ATTR= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1654I **SC=04 MULTIPLE PEN=
KEYWORDS INVALID**

説明

DFLD ステートメントでは PEN= パラメーターは 1 つしか許容されないため、2 番目のパラメーターは無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

PEN= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1655I **SC=04 MULTIPLE OPCTL=
KEYWORDS INVALID**

説明

DFLD ステートメントでは OPCTL= パラメーターは 1 つしか許容されないため、2 番目のパラメーターは無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

OPCTL= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1656I **SC=08 POS=(///, /// TRUNCATED TO
LAST 3 DIGITS**

説明

POS=/// 指定が 3 桁を超えていたため、末尾の 3 桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

POS= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1657I **SC=08 EATTR=(parm1,param2),
PARMS CONTAIN MUTUALLY
EXCLUSIVE SPECIFICATIONS**

説明

EATTR = 指定内に、矛盾するパラメーターがありました。

システムの処置

属性は受け入れられ、その出現順に設定されます。2番目のパラメーター (*parm2*) は受け入れられませんでした。処理は次のパラメーターから続行されます。

プログラマーの応答

必要な属性を選択して、ジョブを再実行してください。

DFS1658I	SC=08 POS=(<i>lll</i>, <i>lll</i> HAS NO DIGITS. VALUE OF 1 USED
-----------------	---

説明

POS=*lll* パラメーターに桁数がないので、1に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1659I	SC=08 POS=(<i>lll</i>,<i>ccc</i>, <i>ccc</i> TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS
-----------------	--

説明

POS= 列番号が3桁を超えていたため、末尾の3桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

必要な列を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1660I	SC=08 POS=(<i>lll</i>,<i>ccc</i> <i>ccc</i> OUTSIDE DEFINED LINE BOUNDARIES FOR DEVICE. <i>ccc</i> ADJUSTED TO LINE
-----------------	--

説明

POS= 列番号は、装置に関する定義済み行境界の外側にあります。行境界の左にくる値は、装置左マージン値+1にリセットされます。行境界の右にくる値は、装置右マージン値 (DEV TYPE=3270P または 274X の場合は、-1) にリセットされます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

POS= キーワードを再指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1661I	SC=08 POS=(<i>lll</i>,<i>ccc</i> <i>ccc</i> HAS NO DIGITS. DEVICE LEFT MARGIN VALUE +1 IS USED
-----------------	---

説明

POS= 列番号に桁数がなかったため、指定されている装置の左マージン値+1に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

POS= キーワードを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1662I	SC=08 POS=(<i>lll</i>,<i>ccc</i>,<i>ppp</i>, <i>ppp</i> TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS
-----------------	---

説明

POS= ページ番号が3桁を超えていたため、末尾の3桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

必要なページ番号を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1663I	SC=08 POS=(<i>lll</i>,<i>ccc</i>,<i>ppp</i>, <i>ppp</i> HAS NO DIGITS. VALUE OF 1 USED
-----------------	---

説明

POS= ページ番号に桁数がないので、1に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

必要なページ番号を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1664I SC=08 POS=nnn, nnn TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明

POS= 番号が 3 桁を超えていたため、末尾の 3 桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1665I SC=08 POS=nnn, nnn HAS NO DIGITS. LEFT MARGIN VALUE USED

説明

POS= 番号に桁数がありませんでした。装置の左マージン値に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1666I SC=08 LTH=nnnn, nnnn TRUNCATED TO LAST 4 DIGITS

説明

LTH= 指定が 4 桁を超えていたため、末尾の 4 桁が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

長さを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1667I SC=08 LTH=nnn, nnn HAS NO DIGITS. VALUE OF 1 USED

説明

LTH= 指定に桁数がないので、1 に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

長さを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1668I SC=08 ATTR=(parms), PARS CONTAINS MUTUALLY EXCLUSIVE SPECIFICATIONS

説明

ATTR= 指定内に、矛盾するパラメーターがありました。属性は受け入れられ、その出現順に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

属性を訂正して、ジョブを再実行してください。

DFS1669I SC=08 PEN='LITERAL', LITERAL HAS NO CHARACTERS. ' ' USED

説明

PEN= *literal* が NULL だったため、ブランクに設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

リテラルを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1670I SC=04 OPCTL=TABLENAME, TABLENAME TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明

OPCTL= *tablename* が 8 文字を超えていたため、最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

tablename 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1671I SC=08 OPCTL=TABLENAME, TABLENAME HAS NO CHARACTERS. OPCTL FUNCTION NEGATED

説明

OPCTL= *tablename* が NULL だったため、OPCTL= は無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

必要なテーブル名を入力し、ジョブを再実行してください。

DFS1672I	SC=08 POS=(<i>lll</i>,<i>ccc</i>, <i>ccc</i> DEFAULTED TO DEVICE LEFT MARGIN VALUE +1
-----------------	--

説明

MODE=RECORD が指定されて POS= 列番号が指定されなかった場合、POS= 列は左マージン値 +1 に設定されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1673I	SC=08 POS=<i>nnn</i> REQUIRED FOR STREAM MODE
-----------------	--

説明

DFLD POS= キーワードのレコード・モード形式が示されたのは、MODE=STREAM のときです。形式 POS=*nnn* が必須です。次に使用可能なストリーム位置、または左マージン値が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV ステートメントの MODE= キーワード、または DFLD ステートメントの POS= キーワードを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1674I	SC=08 LTH=<i>nnn</i> OMITTED. DEFAULTED TO LTH=1
-----------------	---

説明

この DFLD に LTH= パラメーターが指定されていないため、1 に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

LTH= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1675I	SC=08 DFLD MUST HAVE DFLDNAME/LITERAL/SCA OR PASSWORD
-----------------	--

説明

次の DFLDNAME/LITERAL/SCA または PASSWORD の一方が、DFLD ステートメントに関して指定される必要があります。

システムの処置

DFLD ITB の固定名は、TEMPNAME に設定されます。

プログラマーの応答

DFLDNAME/LITERAL/SCA または PASSWORD 指定を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1676I	SC=08 LITERAL SPECIFICATION INCOMPATIBLE WITH DFLDNAME
-----------------	---

説明

リテラル・タイプ DFLD ステートメントにラベルが付けられていない可能性があります。

システムの処置

リテラルは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

ラベルまたはリテラルを DFLD ステートメントから除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1677I	SC=08 PASSWORD SPECIFICATION INCOMPATIBLE WITH DFLDNAME
-----------------	--

説明

DFLD ステートメントは、パスワード入力用に予約されていますが、ラベルが付けられていない可能性があります。

システムの処置

ラベルは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

パスワード指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1678I SC=08 keyword=operand INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明

指定されたキーワードのオペランドは、DEV ステートメントの TYPE= オペランドで指定されている装置タイプに関しては使用できません。

システムの処置

キーワード・オペランドは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

オペランドを除去するか、DEV TYPE= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1679I SC=08 ATTR=(parms) INVALID FOR THIS DEVICE

説明

ATTR=(parms) が有効なのは、3270 ディスプレイ 装置タイプの場合のみであり、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV/DFLD 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1680I SC=08 PEN= SPECIFICATION INVALID FOR THIS DEVICE

説明

PEN= 指定は、この装置タイプに関しては無効であり、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV/DFLD 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1681I SC=08 PASSWORD INVALID FOR THIS DEV DIV TYPE

説明

PASSWORD パラメーターは、指定された DEV/DIV の組み合わせと矛盾していたため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

PASSWORD の矛盾を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1682I SC=08 OPCTL= INVALID FOR THIS DEV DIV TYPE

説明

OPCTL= パラメーターは、指定された DEV/DIV の組み合わせと矛盾していたため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

OPCTL= の矛盾を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1683I SC=08 ATTR= INVALID FOR DEV DIV TYPE

説明

ATTR= パラメーターは、指定された DEV/DIV の組み合わせと矛盾していたため、無視されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

ATTR= の矛盾を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1684I SC=08 LITERAL INVALID FOR THIS DEV DIV TYPE

説明

DFLD リテラル指定は、指定された DEV/DIV の組み合わせと矛盾していました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

リテラルの矛盾を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1685I SC=04 DSCA=NUMBER, NUMBER EXCEEDS 65535. 0 USED

説明

DSCA=*integer* が 65535 を超えていたため、ゼロに設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DSCA= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1686I SC=04 BRANCH TO LABEL, TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明

IF ステートメント・ラベルは、8 文字を超えることはできないため、切り捨てられました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

ブランチ先ラベル (branch to label) を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1687I SC=08 BRANCH TO LABEL HAS NO CHARACTERS. 'NOFUNC' USED

説明

IF ステートメントのブランチ先ラベル (branch to label) が NULL だったため、NOFUNC に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

ブランチ先ラベル (branch to label) を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1688I SC=04 COMPARAND LITERAL TRUNCATED TO 255 CHARACTERS

説明

被比較数リテラルが 255 文字を超えているため、最初の 255 文字が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

リテラルを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1689I SC=08 COMPARAND LITERAL HAS NO TEXT '' USED.

説明

指定された被比較数リテラルが NULL だったため、ブランク 1 文字に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

リテラルを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1690I SC=08 LENGTH COMPARAND TRUNCATED TO 3 DIGITS

説明

長さ被比較数が 3 桁を超えているため、末尾の 3 桁が使用されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

長さを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1691I SC=08 LENGTH COMPARAND HAS NO DIGITS. VALUE OF 1 USED

説明

長さ被比較数パラメーターが NULL だったため、1 に設定されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

長さを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1692I **SC=08 POS=(///, /// DEFAULTED TO 1**

説明

MODE=RECORD の場合は POS=/// が 1 に設定され、POS= パラメーターが指定されていません。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1693I **SC=16 PERMANENT I/O ERROR UPDATING REFERAL LIBRARY. CONTINUING WITH SYNTAX CHECK ONLY**

説明

IMS が REFERAL データ・セットを開けなかったか、IMS REFERAL ライブラリーにブロックを書き込んでいる最中に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置

IMS REFERAL ライブラリーへのすべての書き込みが抑止されます。処理は構文検査のみに限って続行されます。

プログラマーの応答

DD ステートメントが存在し、その指定が正しいか確認してください。ハードウェア障害が示されている場合は、ジョブを再実行してください。

DFS1694I **SC=16 INSUFFICIENT DIRECTORY SPACE FOR UPDATE OF REFERAL LIBRARY.CONTINUING WITH SYNTAX CHECK ONLY**

説明

エラーが発生したとき、REFERAL ディレクトリーにはスペースが残されていませんでした。ブロックは追加したり、置き換えたりできませんでした。

システムの処置

処理は構文検査のみに限って続行されます。

プログラマーの応答

スペースの量を増やして指定してください。IMS REFERAL ライブラリーを再作成し、ジョブを再実行してください。

DFS1695I **SC=20 PERMANENT I/O ERROR WRITING SYSTEXT DATA SET**

説明

フォーマット制御ステートメントかメッセージ制御ステートメント、またはその両方を発行した結果、SYSTEXT データ・セットで永続入出力エラーが生じました。

システムの処置

処理は強制 EOF から続行されます。

プログラマーの応答

DD ステートメントが存在し、その指定が正しいか確認してください。ハードウェア障害が示されている場合は、ジョブを再実行してください。

DFS1696I **SC=04 MESSAGE 'mmmmmmmm' REASSIGNED TO FORMAT 'fffff'**

説明

メッセージが以前のフォーマット・セットから取り外され、新規フォーマット・セットにチェーニングされました。

システムの処置

処理は前と同様に続行されます。

プログラマーの応答

新規 SOR=name が有効であるか確認してください。

DFS1697I **SC=12 REDEFINITION OF BLOCK 'bbbbbbbb' ATTEMPTED, REFERAL UPDATE ABORTED**

説明

bbbbbbbb という名前のブロックが IMS REFERAL ライブラリーに存在しますが、その名前とタイプが対応しません。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

誤りである可能性のあるブロック名を訂正するか、有効な場合は、古いブロックをスクラッチしてから、ソース・ステートメントを再実行してください。

DFS1698I **SC=16 I/O ERROR WHILE PROCESSING DIRECTORY OF**

REFERAL LIBRARY. CONTINUING WITH SYNTAX CHECK ONLY

説明

IMS が REFERAL データ・セットを開いて、ディレクトリー・エントリーを処理できなかったか、ディレクトリー・ブロックを読みとっている最中に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置

IMS REFERAL ライブラリーにかかわる処理すべてが抑止され、処理は構文検査のみに限って続行されます。

プログラマーの応答

入出力エラーの種別を判別し、それを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1699I	SC=16 REFERAL LIBRARY DIRECTORY CONTENTS INVALID. CONTINUING WITH SYNTAX CHECK ONLY
-----------------	--

説明

IMS が、IMS REFERAL ライブラリーのディレクトリーを処理している最中に、無効のディレクトリー・エントリーを検出しました。

システムの処置

IMS REFERAL ライブラリーにかかわる処理すべてが抑止され、処理は構文検査のみに限って続行されます。

プログラマーの応答

問題判別を実行する前に、適正な DD ステートメントが有効なライブラリーに存在しているか確認してください。

問題判別

MFS サービス・ユーティリティー RELATE 機能を実行し、11、16 を組み込んでください。

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1700I	SC=08 NO SEARCH TARGET LABEL EXISTS FOR IF STATEMENT WITH THE FOLLOWING LABEL: label
-----------------	---

説明

このテーブル内の条件付き処理に指定されているラベルが無効でした。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

適正な条件チェーニングに必要なラベルに訂正し、ジョブを再実行してください。

第 38 章 DFS メッセージ DFS1701I - DFS1750I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1701I **SC=04 FORMAT ffffff HAS NO MESSAGES AND REQUIRES FURTHER COMPILATION**

説明

FORMAT SET が不完全で、有効なメッセージ・ブロックが検出されませんでした。

システムの処置

FMT ブロックは、referral (委託) ライブラリーに保管されます。処理は次の FMT セット (ただし、ある場合) から続行されます。プリプロセッサ・フェーズの終了時に有効な FMT セットが少なくとも 1 つあれば、制御権はフェーズ 1 に付与され、それがない場合は、制御権は z/OS に戻されます。

プログラマーの応答

有効な入力および出力メッセージ・ブロックを指定し、FORMAT SET を再実行してください。

DFS1702I **SC=04 MESSAGE mmmmmmmm HAS NO FORMAT AND REQUIRES FURTHER COMPILATION**

説明

FORMAT SET が不完全で、有効なフォーマット・ブロックが検出されませんでした。

システムの処置

メッセージ・ブロックは、referral (委託) ライブラリーに保管されます。処理は次の FMT セット (ただし、ある場合) から続行されます。プリプロセッサ・フェーズの終了時に有効な FMT セットが少なくとも 1 つあれば、制御権はフェーズ 1 に付与され、それがない場合は、制御権は z/OS に戻されます。

プログラマーの応答

フォーマット・ブロックを指定し、FORMAT SET を再実行してください。

DFS1703I **SC=08 FILL=PT INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE C' ' USED**

説明

DPAGE FILL=PT が有効なのは、3270 ビデオ装置の場合のみであり、それ以外の場合は、すべて無効であり、ブランクが指定されているものと想定されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV/DPAGE を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1704I **SC=04 IF LABEL TRUNCATED TO 8 CHARACTERS**

説明

IF ステートメントが検出されましたが、そのラベルが 8 文字を超えていたため、最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

ラベルおよび参照を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1705I **SC=08 DO COUNT OF 0. VALUE OF 1 ASSUMED**

説明

カウントが MFLD または DFLD DO ステートメントから省略されていたので、カウント 1 が使用されました。

システムの処置

処理は次のソース項目から続行されます。

プログラマーの応答

カウントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1706I **SC=08 ATTR=operand INVALID IF LITERAL SPECIFIED ON MFLD STATEMENT**

説明

フィールド内の属性バイトの使用が、そのフィールドに関するリテラルの指定と矛盾していました。
ATTR=operand 指定が無視されました。

システムの処置

処理は次のソース項目から続行されます。

プログラマーの応答

MFLD ステートメントを訂正し、必要でない指定は省略します。その後でジョブを再実行します。

DFS1707I SC=08 LTH=nnnn, nnnn EXCEEDS 8000. 8000 USED

説明

DFLD フィールド長が最大値 8000 を超えました。
8000 が使用されました。

プログラマーの応答

長さを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1708I SC=04 STATEMENT LABEL TOO LONG

説明

ステートメント・ラベルが 8 文字を超えています。この時点では、処置は取られませんでした。特定の使用のラベルがさらに診断できます。

プログラマーの応答

必要な場合は、ラベルを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1709I SC=04 NO FTAB CHARACTERS DEFINED FOR 3600 DEVICE

説明

3600 装置に事前定義 FTAB 文字がなく、ユーザー FTAB 文字は指定されませんでした。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

フィールド・タブ文字を指定したい場合は指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1710A AREA areaname TRIED TO CONNECT TO STR: structure_name

**WRITE ERROR EEQE RBA 0
FOUND- RECOVERY NEEDED.**

説明

新しい構造がこのエリアに接続されようとしていました。RBA 0 での書き込みエラー EEQE によって示されているとおり、接続された最後の構造上に入出力許容データがありました。これらのデータは失われ、エリアをリカバリーする必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

接続されようとしているエリアの名前

structure_name

新しい構造の名前。

システムの処置

新しい構造から切断した後、エリアは停止されて「要リカバリー」のマークが付けられます。

プログラマーの応答

エリア・データ・セット (ADS) が使用不可とマークされていることを確認します。

データベース・リカバリー・ユーティリティーを実行して、失われたデータをリカバリーし、EEQE を削除します。

DFS1711I SC=16 DISP=SHR INVALID FOR DDNAME=REFOUT. CONTINUING WITH SYNTAX CHECK ONLY

説明

IMS REFERAL が変更されるはずでしたが、DISP=SHR または DD DUMMY が指定されたか、REFOUT に関する DD ステートメントが欠落していたか、いずれかです。

システムの処置

MFS ユーティリティー・プリプロセッサ・フェーズが、構文エラーの入力スキャンを続行します。IMS REFERAL ライブラリーに記述が保管されていません。入力スキャンが終了すると、プリプロセッサは z/OS に戻ります。

プログラマーの応答

エラーの DD ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1712I SC=04 MEMBER=mmmmmmmm NOT WRITTEN DUE TO INVALID REFERAL DATA SET

説明

以前の IMS REFERAL ライブラリー・エラーのせいで、IMS REFERAL ライブラリーにかかわるすべての処理が抑止される結果になりました。示されているメンバーに有効な構文がないかについてのみ、チェックがなされました。

システムの処置

処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

IMS REFERAL ライブラリー・エラーの原因を判別し、ソースに構文エラーがないかチェックし、ジョブを再実行してください。

DFS1713I	SC=16 BAD COMPLETION CODE FROM IEBCOPY SUBTASK COMPRESSION OF DDNAME=REFOUT.CONTINUING WITH SYNTAX CHECK ONLY
-----------------	--

説明

IMS REFERAL ライブラリーの圧縮が要求されたとき、予期しない完了コードが IEBCOPY から受信されました。

システムの処置

MFS ユーティリティ・プリプロセッサ・フェーズが、構文エラーがないか入力をスキャンし続行します。IMS REFERAL ライブラリーに記述が保管されていません。入力スキャンが終了すると、プリプロセッサは z/OS に戻り、このフェーズに関する最も番号の大きい戻りコードが示されます。

プログラマーの応答:

3、8、12、16、36

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1714I	SC=04 MULTIPLE SET/ONLINE/OFFLINE SPECIFICATIONS IN HTAB= KEYWORD INVALID
-----------------	--

説明

SET、ONLINE、または OFFLINE が単一の HTAB= キーワードで複数回指定されました。

システムの処置

最初の SET、ONLINE、または OFFLINE 指定が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1715I	SC=04 MULTIPLE LEFT MARGIN SPECIFICATIONS IN HTAB= KEYWORD INVALID
-----------------	---

説明

左マージン値が単一の HTAB= キーワードで複数回指定されました。

システムの処置

最初の左マージン値が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1716I	SC=04 MULTIPLE HT= SPECIFICATIONS IN HTAB= KEYWORDS INVALID
-----------------	--

説明

HT= 指定 (タブ・ストップ値) が単一の HTAB= キーワードで複数回指定されました。

システムの処置

最初の HT= 指定が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1717I	SC=04 DSCA= KEYWORD HAS NO MEANING AND IS IGNORED
-----------------	--

説明

現在は、DSCA 指定の装置機能で、指定されている装置タイプに関して定義されているものではありません。

システムの処置

DSCA= キーワードは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DSCA= キーワードを除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1718I SC=16 NO MEMBERS WRITTEN TO REFERAL LIBRARY. COMPILATION TERMINATES WITH CURRENT PHASE

説明

IMS REFERAL ライブラリーがコンパイル・プロセスの次のフェーズでの入力になるので、現行フェーズ (プリプロセッサ) が IMS REFERAL ライブラリーを変更しない場合は、次のフェーズは実行されません。

システムの処置

ユーティリティのプリプロセッサ・フェーズの終了の後に続いて、制御権が z/OS に戻されます。

プログラマーの応答

プリプロセッサ・エラー・メッセージ、および EXEC パラメーター STOPRC の値を調べて、メンバーが IMS REFERAL ライブラリーに書き込まれなかった理由を判別し、その上で、ジョブを再実行してください。

DFS1719I SC=08 NO VALID HORIZONTAL TAB STOPS SPECIFIED. HT= SPECIFICATION IGNORED

説明

HTAB= キーワードの HT= 指定が指定されましたが、タブ・ストップ値が省略されたか、またはすべて無効でした。

システムの処置

HT= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な水平タブ・ストップ値を使用して HT= 指定を再指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1720I SC=04 複数のバインド= キーワードが無効

説明

複数の BOUND= キーワードが、単一の DO ステートメントでは無効です。

システムの処置

最初の BOUND= 指定が使用され、複数の指定が無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1721I SC=04 MULTIPLE SUF= KEYWORDS INVALID

説明

単一の DO ステートメントでは、複数の SUF= キーワードは無効です。

システムの処置

最初の SUF= 指定が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1722I SC=04 SUF=nn、NN EXCEEDS 2 DIGITS。最後に使用された 2 桁

説明

DO ステートメントで指定された接尾部の値が 2 桁を超えています。

システムの処置

指定された接尾部値の最後の 2 桁が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

接尾部の値を 2 桁以下で訂正してください。

DFS1723I SC=04 SUF=nn、nn HAS NO DIGITS。使用された 01 の値

説明

接尾部の値がヌルでした。

システムの処置

接尾部の値 01 が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な接尾部値を指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1724I **SC=04 DO** ステートメントの接尾部は、最大桁数を超過しています。カウントは調整済み

説明

指定された接尾部の値は、カウントによって指定された回数を増やすと、2 桁より大きい接尾部の値が生成される結果になります。

システムの処置

生成される最大の接尾部が 2 桁の場合、カウントは減少し、処理は続行されます。

プログラマーの応答

初期接尾部の値またはカウントを調整し、ジョブを再実行してください。

DFS1725I **SC=04 BLANKS SPECIFIED AS LINE DELETE CHARACTERS**

説明

LDEL パラメーターでブランク文字 2 文字が指定されました。この状態で行を有効にするために、行末の 2 文字が強制的に非ブランク文字とされます。

システムの処置

パラメーターは指定されているとおりに処理されます。

プログラマーの応答

LDEL 指定が有効であるか確認してください。

DFS1726I **SC=04 VERTICAL TABBING MAY NOT BE VALID IF EJECT (BGNPP) OR EJECT (BGNMSG) NOT SPECIFIED**

説明

垂直タブには、改ページによる新しいページの開始に関連する意味があるのみです。PAGE= パラメーターによって、新しいメッセージと物理ページのいずれかで改ページが強制されるのでなければ、垂直タブは無効で

ある可能性があります。その代わりに、すべてのプログラムで EJECT (ENDMSG) を指定してもかまいません。

システムの処置

ステートメントは指定されているとおりに処理されます。

プログラマーの応答

垂直タブ・ストップによってページが正しく位置指定されるか検証してください。

DFS1727I **MADS I/O TIMING FUNCTION RESUMED SUCCESSFULLY**

説明

/START MADSIOT コマンドは正常に完了しました。すべての IMS システムがロング・ビジー許容サポートを再開しました。

システムの処置

ロング・ビジー許容サポートが活動化されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS1728E **START MADSIOT COMMAND FAILED. RSN=rr**

説明

/START MADSIOT コマンドが失敗しました。IMS の 1 つが MADS I/O タイミング構造に参加できなかったからです。理由コード *rr* に、失敗の理由が次のように示されています。

理由コード
意味

01

この IMS は構造に接続しましたが、別の IMS が構造への接続に失敗しました。

02

この IMS が構造に接続できません。

システムの処置

MADS 入出力タイミングはまだ使用不可になっていません。

プログラマーの応答

問題を訂正し、IMS (ただし、メッセージを出した IMS ではない) から /START MADSIOT コマンドを再発行して、MADS 入出力タイミングを再始動してください。

問題が訂正できない場合は、エラーを生じた IMS を停止し、/START MADSIOT コマンドを再発行してください。

DFS1729I **AREA CLOSE FOR AREA areaname
REJECTED DUE TO MADS I/O
TIMING**

説明

IMS は MADS 入出力タイミング・モード、または MADS 入出力タイミング・リカバリー・モードであり、次のいずれかのコマンドが入力されました。

/STOP AREA
/STOP ADS
/DBRECOVERY DB
/DBRECOVERY AREA
/VUNLOAD

areaname は、コマンド発行の対象となったエリアの名前です。

システムの処置

IMS は、エリアに対して発行されたコマンドをリジェクトしました。

オペレーターの応答

リカバリーが完了するまで待ってから、コマンドを再発行してください。

DFS1730I **SC=04 STACK IDENTIFIER
EXCEEDS 8 CHARACTERS.
TRUNCATED TO 8 CHARACTERS**

説明

STACK または UNSTACK ステートメントで指定された ID は、長さが 8 文字以下である必要があります。

システムの処置

スタック ID は切り捨てられて 8 文字になり、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

スタック ID を訂正し、対応する STACK または UNSTACK ステートメントをチェックし、ジョブを再実行してください。

DFS1731I **SC=04 スタック ID に文字がありません。使用されるブランク**

説明

プリプロセッサ・エラー・リカバリー・プログラムが、スタック ID のヌル ID を想定しています。

システムの処置

名前のないスタックを示す 8 個のブランクのスタック ID が使用されます。

プログラマーの応答

STACK/UNSTACK ステートメントの構文を妥当性検査し、ジョブを再実行してください。

DFS1732I **SC=08 UNEXPECTED 'STACK OFF'
STATEMENT IGNORED**

説明

スタッキングが進行中でないとき、STACK OFF ステートメントが検出されました。

システムの処置

STACK OFF ステートメントは無視され、処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

STACK ON と STACK OFF ステートメントは平衡で、STACK ステートメントはネストされていないか確認してください。

DFS1733I **SC=08 NESTED 'STACK ON'
STATEMENT IGNORED**

説明

STACK ON ステートメントが検出されましたが、スタッキングが別の STACK ON ステートメントに関して進行中でした。ネストされたスタッキングは許容されていません。

システムの処置

ネストされた STACK ON ステートメントは無視され、スタッキングは直前の STACK ON ステートメントに関して続行されます。

プログラマーの応答

ネストされたスタッキングが必要でなくなるように、プログラムのソース・ステートメントを再配列し、ジョブを再実行してください。

DFS1734I **SC=08 DUPLICATE STACK
IDENTIFIER. PREVIOUS STACK
DELETED; CURRENT STACK IN
EFFECT**

説明

現在実ストレージに存在するスタックの ID を指定している STACK ON ステートメントが検出されました。

システムの処置

現在実ストレージに存在するスタックは削除され、検出された STACK ON ステートメントに関して、スタッキングが開始されます。

プログラマーの応答

現在実ストレージに存在するすべてのスタックに固有 ID を指定してください。

DFS1735I **SC=08 'UNSTACK' STATEMENT CANNOT BE STACKED. 'UNSTACK' STATEMENT IGNORED**

説明

UNSTACK ステートメントが検出されましたが、スタッキングが進行中でした。ネストされたスタッキングは許容されていません。

システムの処置

UNSTACK ステートメントは無視され、スタッキングは現行 STACK ON ステートメントに関して続行されません。

プログラマーの応答

ネストされたスタッキングが必要でなくなるように、プログラムのソース・ステートメントを再配列し、ジョブを再実行してください。

DFS1736I **SC=08 STACK NOT FOUND FOR IDENTIFIER SPECIFIED IN 'UNSTACK' STATEMENT. 'UNSTACK' STATEMENT IGNORED**

説明

UNSTACK ステートメントが、現在は実ストレージになくなっていたスタックを識別しました。

システムの処置

UNSTACK ステートメントは無視され、処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

スタック ID のつづりを妥当性検査するか、スタック ID が同じ以前の UNSTACK ステートメントで KEEP オプションを指定してください。

DFS1737I **SC=08 STACK REQUESTED IN 'UNSTACK' STATEMENT IS EMPTY. 'UNSTACK' STATEMENT IGNORED**

説明

スタックの作成を試みっていますが、そのスタックに関するレコードが示されていません。

システムの処置

UNSTACK ステートメントは無視され、処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

UNSTACK ステートメントで参照されるスタックには、ステートメントが少なくとも 1 つ 組み込まれているか確認してください。

DFS1738I **SC=08 MISSING 'STACK OFF' STATEMENT. EOD RECEIVED**

説明

入力ストリーム・ソースの終了が検出される前に、STACK ON ステートメントに関して、対応する STACK OFF ステートメントが検出されませんでした。

システムの処置

STACK OFF ステートメントが指定されているものと想定され、終了処理が続行されます。

プログラマーの応答

最後のスタックが必要かどうか判別し、望ましい場合は、ジョブを再実行してください。

DFS1739I **SC=04 STACK 'cccccc' は削除されません。**

説明

プリプロセッサが終了したときにまだ実ストレージ内にあったスタックはすべて削除されます。

システムの処置

終了処理は続行します。

プログラマーの応答

終了処理の前にすべてのスタックが確実に削除されるようにするには、各スタックの最後の UNSTACK ステートメントに KEEP オプションを指定しないでください。

DFS1740I **SC=08 DEV 仕様が設計限界を超えています**

説明

このパラメーターを処理すると、DEV 制御ブロック (DEVITB) が最大設計サイズを超えることがあります。この状態は通常、PF キーに長いリテラルを多数指定する場合にのみ発生します。ただし、このチェックは、FORMS リテラル、FTABS、水平タブ (HT)、垂直タブ (VT)、およびすべての PF キー仕様に対して行われます。1 つの DEV ステートメント内でこれらのパラメーターを組み合わせて指定すると、4064 から DEVITB の基本サイズ (約 100 バイト) を引いた値を超えることはできません。

システムの処置

メッセージが発行される原因となったキーワードの処理は停止し、次のキーワードを使用します。

プログラマーの応答

リテラルの数と長さを減らすか、水平および垂直タブの許容最大数 (あるいはその両方) を指定してください。ジョブを再実行します。

DFS1741I SC=04 MULTIPLE WIDTH= KEYWORDS INVALID

説明

単一の DEV ステートメントでは、複数の WIDTH= キーワードは無効です。

システムの処置

最初の WIDTH= 指定が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1742I SC=04 MULTIPLE HTAB= KEYWORDS INVALID

説明

単一の DEV ステートメントでは、複数の HTAB= キーワードは無効です。

システムの処置

最初の HTAB= 指定が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1743I SC=04 複数の VT= キーワードが無効

説明

1 つの DEV ステートメントで、複数の VT= キーワードが無効です。

システムの処置

最初の VT= 指定が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1744I SC=04 WIDTH=nnn; nnn TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明

WIDTH= キーワードで指定された幅が 3 桁を超えています。

システムの処置

幅の末尾の 3 桁が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

3 桁以下の幅を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1745I SC=04 WIDTH=nnn; nnn HAS NO DIGITS. 使用するデフォルト値

説明

幅= キーワードで指定された幅がヌルでした。

システムの処置

指定された装置タイプのデフォルト幅が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

適切な幅を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1746I SC=04 LEFT MARGIN VALUE OF HTAB= KEYWORD TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明

HTAB= キーワードで指定されている左マージン値が 3 桁を超えています。

システムの処置

左マージン値の末尾の3桁が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

3桁以下の左マージン値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1747I **SC=04 LEFT MARGIN VALUE OF HTAB= KEYWORD HAS NO DIGITS. VALUE OF 1 IS USED**

説明

HTAB= キーワードで指定されている左マージン値が NULL でした。

システムの処置

左マージン値1が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

適切な左マージンを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1748I **SC=04 HORIZONTAL TAB STOP VALUE TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS**

説明

HTAB= キーワードの HT= 指定のタブ値が3桁を超えています。

システムの処置

タブ・ストップの末尾の3桁が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

3桁以下のタブ・ストップ値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1749I **SC=08 ヌル水平タブ停止値は無視されます**

説明

HTAB= キーワードの HT= 指定で、ヌルの水平タブ停止位置値が検出されました。エラー・リカバリー手順で、数字 (\$I\$) のないタブ停止値が想定されました。

システムの処置

ヌルの水平タブ停止は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

HTAB= キーワードの構文が有効であることを確認し、ジョブを再実行してください。

DFS1750I **SC=04 VERTICAL TAB STOP VALUE TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS**

説明

VT= キーワードのタブ・ストップ値が3桁を超えています。

システムの処置

タブ・ストップの末尾の3桁が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

3桁以下のタブ・ストップ値を指定し、ジョブを再実行してください。

第 39 章 DFS メッセージ DFS1751I - DFS1800I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1751I SC=08 NULL VERTICAL TAB STOP VALUE IGNORED

説明

NULL の垂直タブ・ストップ値が、VT= キーワードで検出されました。エラー・リカバリー手順では、桁数がない (\$I\$) タブ・ストップを想定できます。

システムの処置

NULL の垂直タブ・ストップは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

VT= キーワードの構文が有効であるか確認し、ジョブを再実行してください。

DFS1752I SC=08 サブ= 値は無効です。 X'3F' が使用されます。

説明

サブスクリプション= に指定された値が、単一文字または 2 桁の 16 進文字ではありません

システムの処置

省略時の値 X'3F' が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

SUB= 値は、単一文字または 2 つの有効な 16 進文字のいずれかとして指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1753I SC=08 WIDTH= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明

WIDTH= 指定が、指定されている装置タイプと矛盾していました。

システムの処置

WIDTH= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV ステートメントを訂正するか、WIDTH= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

ドゥフス 1754I SC=08 HTAB= 指定された装置タイプの場合は無効です

説明

HTAB= 指定が、指定された装置タイプと矛盾していました。

システムの処置

HTAB= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV ステートメントを訂正するか、または HTAB= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1755I SC=08 VT= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明

VT= 指定が、指定されている装置タイプと矛盾していました。

システムの処置

VT= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV ステートメントを訂正するか、VT= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1756I SC=04 WIDTH=nnn; nnn EXCEEDS MAXIMUM VALUE. DEFAULT VALUE USED

説明

WIDTH= キーワードで指定された幅が、許容最大値 255 (DEV.TYPE=SCS2 の場合は 249) を超えていました。

システムの処置

指定された装置タイプのデフォルトの幅が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

最大値以下の幅を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1757I SC=08 NO LEFT MARGIN OR TAB STOP VALUES. HTAB= SPECIFICATION IGNORED

説明

HTAB= キーワードに左マージンまたはタブ・ストップの指定がありませんでした。

システムの処置

HTAB= キーワードは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

HTAB= キーワードで左マージンまたはタブ・ストップ、あるいはその両方を指定するか、HTAB= キーワードを除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1758I SC=08 LEFT MARGIN VALUE GREATER THAN PAGE WIDTH. VALUE OF 1 USED

説明

HTAB= キーワードで指定された左マージン値が、指定された装置タイプの定義済みページ幅より大でした。

システムの処置

左マージン値は1に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

左マージンまたはページ幅の値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1759I SC=08 無効な水平タブ停止は無視されます。

説明

HTAB= キーワードの HT= 指定で、無効な水平タブ停止値の1つ以上が検出されました。タブ停止値は、ページの左マージン以上で、ページの右マージン以下でなければなりません。

システムの処置

無効なタブ停止位置は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

無効なタブ停止値を除去するか、左マージンまたは右マージン値を変更するか、あるいはその両方を実行して、ジョブを再実行してください。

DFS1760I SC=04 重複した水平タブ停止位置が無視されました

説明

HTAB= キーワードの HT= 指定内のタブ停止値は、異なるものでなければなりません。

システムの処置

タブ停止値の繰り返しが続けられる場合は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

タブ停止値を特殊として指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1761I SC=08 NUMBER OF HORIZONTAL TAB STOPS EXCEEDS MAXIMUM

説明

無効および重複値が無視された後のタブ・ストップ値の数が、許容最大値10を超えています。

システムの処置

昇順にソートして、最初の10の有効タブ・ストップが使用されます。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

HT= 指定でタブ・ストップ値の数を10以下にして、HTAB= キーワードを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1762I SC=08 NO VALID VERTICAL TAB STOPS SPECIFIED. VT= SPECIFICATION IGNORED

説明

VT= キーワードが指定されましたが、タブ・ストップ値が省略されたか、またはすべて無効でした。

システムの処置

VT= キーワードは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な垂直タブ・ストップ値を使用して VT= キーワードを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1763I SC=08 無効な垂直タブ停止は無視されます

説明

1 つ以上の無効な垂直タブ停止値が VT= キーワードで検出されました。タブ停止値は 1 ページ以上で、1 ページあたりの印刷行数以下でなければならず、255 の値を超えないようにする必要があります。

システムの処置

無効なタブ停止位置は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

無効なタブ停止値を除去するか、またはページ当たりの印刷行数を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1764I SC=04 重複した垂直タブ停止が無視されました

説明

VT= キーワードのタブ停止値は、異なるものでなければなりません。

システムの処置

タブ停止値の繰り返しが繰り返される場合は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

タブ停止値を特殊として指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1765I SC=04 NUMBER OF VERTICAL TAB STOPS EXCEEDS MAXIMUM

説明

無効および重複値が無視された後のタブ・ストップ値の数が、許容最大値 11 を超えています。

システムの処置

昇順にソートして、最初の 11 の有効タブ・ストップが使用されます。処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答

タブ・ストップ値の数を 11 以下にして VT= キーワードを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1766I SC=04 POS=(lll,ccc,ppp), ppp NOT VALID FOR DIV TYPE=INPUT

説明

入力 DFLD の POS= キーワードでページ値を指定しましたが、無効でした。

システムの処置

ページ値は 0 に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DFLD ステートメントの POS= キーワードを指定し、ジョブを再実行してください。

ドゥフス 1767I SC=04 妥当性検査属性は無視

説明

妥当性検査属性 (VDFLD、VMFILL、または VMFLD) は、PROT 属性が指定されているか、または (リテラルが指定されたため) 指定されたかのいずれかであるため、無視されます。妥当性検査属性が保護属性と互換性はありません。

システムの処置

検証属性は無視され、処理は続行されます。

プログラマーの応答

保護または妥当性検査属性を除去することによって競合を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1768I SC=08 の値が無効です。デフォルト値が想定されます。

説明

A value of 0 was specified for line (lll), column (ccc), page (pp), PAGE, WIDTH, LTH, or MFLD offset (pp).

システムの処置

ほとんどの場合、値 1 は、DEV ステートメントに *lm* が指定されている場合、左マージン値が *ccc* の場合と見な

されます。PAGE=55 が想定されます。SCS1 および SCS2 には、それぞれ 132 と 80 の WIDTH が想定されます。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

0 指定のオペランドを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1769W は PSB *psbname* エラー *xx* ATTACH に失敗しました。

説明

PSB *psbname* を使用するアプリケーション・プログラムは、最初の DL/I 呼び出しをカタログ・データベースに対して実行しました。PSB は、カタログ・データベースを参照する DBPCB を持っていなかったため、イムスはカタログ PCB を動的に接続しようとした。この試みは、以下のいずれかの理由で失敗しました。

- 01 IRLM が定義されているが、アクティブでない
- 02 IRLM が定義されているが到達不能である
- 03 PSB または PSBW プール・スペースが不足しています。
- 04 カatalog PSB または DBD リソースは、オンライン変更操作によってコミットされています。
- 05 カatalog PSB が不良のマークが付けられているか、使用可能でないか、またはカatalog・データベースが停止しているため、カatalog PSB はスケジュールされていません。
- 06 カatalog・データベースに対して /DBD コマンドまたは /DBR コマンドが進行中であるため、カatalog・データベースは使用できません。

システムの処置

状況コード NA がアプリケーション・プログラムに戻されます。

システム・プログラマーの応答

エラー・コード 01 および 02 の場合は、ご使用のイムス環境で IRLM の可用性を確認してください。エラー・コード 03 の場合は、PSB または PSBW ストレージ・プール・スペースを増やします。エラー・コード 04 の場合は、オンライン変更操作が完了するまで待つてから、DL/I 呼び出しを再発行してください。エラー・コード 05 の場合は、カatalog PSB が ACBGEN を正常に完了し、カatalog・データベースが開始されていることを確認してください。エラー・コード 06 の場合

は、DBD または DBR コマンドが処理を完了するまで待つてから、カatalog・データベースが使用可能であることを確認してください。

モジュール:
DFSDBLM0

DFS1770I SC=16 NO FORMAT SET WRITTEN TO REFERAL LIBRARY. COMPILATION TERMINATES WITH CURRENT PHASE

説明

このプリプロセッサ・コンパイルでは、フォーマット・セットが作成も更新もされませんでした。

システムの処置

有効なブロックが作成されることはないはずなので、フェーズ 1 がプリプロセッサ・コンパイルで呼び出されることはありません。コンパイルは終了します。

プログラマーの応答

FMT ステートメントと 1 つ以上の MSG ステートメントから成る、有効なフォーマット・セットを作成してください。ジョブを再実行してください。

ドゥフス 1771I SC=08 のリテラルまたは制御機能の数が装置機能を超えています。最大数 仮定

説明

DEV ステートメントに指定されたリテラルまたは制御機能の最大数を超えています。

システムの処置

PFK= オペランドに 36 を超えるリテラルまたは制御機能が指定されている場合は、最初の 36 個が使用されます。イムスは次のオペランドを使用し続けます。

プログラマーの応答

構文を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1772I SC=08 DIV TYPE=INPUT に許可される PPAGE ステートメントは 1 つだけです。

説明

1 つの DIV TYPE=INPUT に複数の PPAGE ステートメントが指定されました。

システムの処置

この PPAGE ステートメントは無視され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

入力ストリームから PPAGE ステートメントを除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1773I **SC=04 PPAGE ステートメントが想定される**

説明

DIV OPTIONS=MSG/DPAGE および TYPE=INPUT の指定された DEV.TYPE について、PPAGE ステートメントが想定されていました。

システムの処置

PPAGE ステートメントが想定され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

入力ストリーム内のこの時点で PPAGE ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1774I **SC=08 PPAGE STATEMENT HAS NO LABEL FOR OPTIONS=PPAGE. DIAGNOSTIC LABEL USED**

説明

DIV OPTIONS=PPAGE の場合は、分かりやすい名前がリモート・プログラムに送信されるように、PPAGE ステートメントにユーザー提供ラベルが必要です。

システムの処置

リモート・プログラムに名前が示されていない場合は、診断ラベルがフォーマット名として送信されます。PPAGE ステートメント処理が続行されます。

プログラマーの応答

PPAGE ステートメントでラベルを指定し、ジョブを再実行します。

DFS1775I **SC=08 PPAGE STATEMENT INVALID FOR DEVICE TYPE. PPAGE STATEMENT IGNORED**

説明

PPAGE ステートメントは、指定されている DEV.TYPE の場合は無効でした。

システムの処置

PPAGE ステートメントは無視され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

PPAGE ステートメントを入力ストリームから除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1776I **SC=04 FEAT= TRUNCATED TO LAST 2 DIGITS**

説明

2桁を超える桁数が DEV ステートメント FEAT=*number* で指定されました。

システムの処置

FEAT=*number* 指定は切り捨てられて、左端の2桁になります。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

FEAT=*number* の桁数が2桁を超えないように指定してください。ジョブを再実行してください。

DFS1777I **SC=08 NULL FEAT =*number* ; 1 IS ASSUMED**

説明

NULL FEAT=*number* 指定が、DEV ステートメントで指定されました。1と10の間のフィーチャー番号を指定する必要があります。

システムの処置

FEAT=1 が指定されているものと想定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な FEAT=*number* を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1778I **SC=08 FEAT= INVALID. 1 ASSUMED**

説明

DEV ステートメントでの FEAT=*number* 指定は、1より大か等しく、10より小か等しくする必要があります。指定されている数値がこの範囲にありません。

システムの処置

FEAT=1 が指定されているものと想定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な FEAT=*number* を再指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1779I SC=12 MESSAGE LABEL AND SOR= NAME CANNOT BE IDENTICAL. REFERRAL UPDATE ABORTED

説明

MSG ステートメントのラベルと SOR= キーワードのフォーマット名が同じだったため、有効なディレクトリ・エントリーは作成できません。

システムの処置

MSG ブロックが IMS REFERAL に書き込まれることはなく、処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

MSG ラベルと SOR= フォーマット名パラメーターのいずれかを名前変更して、名前が必ず異なるようにしてください。ジョブを再実行してください。

DFS1780I SC=08 POS=*nnn*. *nnn* IS LESS THAN 1 OR LEFT MARGIN

説明

DFLD ステートメントの POS= オペランドが 0 として指定されているか、または左マージンより小です。いずれの場合も、DFLD の位置は左マージン列の左方になります。

システムの処置

ユーザー定義の左マージンが、DFLD の位置として想定されます。ユーザー定義の左マージンが指定されていなかった場合は、位置 1 が指定されているものと想定されます。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

望ましい位置番号を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1781I SC=04 RCD STATEMENT CANNOT OCCUR IN THIS SEQUENCE IN THE INPUT STREAM.RCD STATEMENT IGNORED

説明

RCD ステートメントが現れるのは、PPAGE、DO、または DFLD ステートメントの後で、DPAGE ステートメントの有効範囲内に限られます。

システムの処置

RCD ステートメントは無視され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

RCD ステートメントを入力ストリームのこの点から除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1782I SC=08 OPTIONS='option' INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明

DEV ステートメントの TYPE= オペランドで指定されている装置タイプ、または装置タイプと DIV TYPE= オペランドの組み合わせの場合は、*option* は使用できません。

システムの処置

メッセージに示されているオプションは無視され、処理はこのステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

DEV TYPE= (または DIV TYPE=) 指定を訂正するか、このオプションを除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1783 SC=08 '*cccccccc*' INVALID FOR DIV TYPE=OUTPUT

説明

Options=/RDPN 指定が有効なのは、この装置タイプの DIV TYPE=INPUT の場合だけです。

システムの処置

Options=/RDPN 指定がリセットされ、コンパイルが続行されます。

プログラマーの応答

options=/RDPN パラメーターを DIV ステートメントから除去するか、DIV TYPE= 入力に変更してください。変更を行った後で、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1784I SC=08 PPAGE STATEMENT ASSUMED. DIAGNOSTIC LABEL OF ASSUMED PPAGE USED

説明

DIV OPTIONS=PPAGE および TYPE=OUTPUT の場合は、指定されている DEV.TYPE に関して、PPAGE ステートメントが指定されているものと想定されました。想定されている PPAGE の診断ラベルが、フォーマット名としてリモート・プログラムに送信されます。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

入力ストリームのこの点でラベルが有効な PPAGE ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1785I	SC=04 RCD STATEMENT INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE. RCD STATEMENT IGNORED
-----------------	---

説明

RCD ステートメントは、指定されている DEV.TYPE の場合は無効です。

システムの処置

RCD ステートメントは無視され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

RCD ステートメントを入力ストリームのこの点から除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1786I	SC=08 行の増分または位置の増分は、装置タイプには無効です。無視される
-----------------	--

説明

DO ステートメント上で、行または位置の増分が、指定された DEV.TYPE に対して無効でした。

システムの処置

DEV.TYPE 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

行または列の増分を DO ステートメントから除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1787I	SC=08 最大または列数の増分が装置タイプでは無効です。無視される
-----------------	---

説明

DO ステートメントで、列の増分または MAX が、指定された DEV.TYPE に対して無効でした。

システムの処置

DEV.TYPE 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

列の増分または MAX を DO ステートメントから除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1788I	SC=08 バウンド= キーワードは装置タイプには無効です。無視される
-----------------	--

説明

DO ステートメントで、指定された DEV.TYPE に対してバインド済み= キーワードが無効でした。

システムの処置

DEV.TYPE 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

BOUND= キーワードを DO ステートメントから除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1789I	SC=04 MULTIPLE RCD STATEMENTS WITH NO INTERVENING DFLD STATEMENTS.LAST RCD STATEMENT IGNORED
-----------------	---

説明

複数の RCD ステートメントが入力ストリームで連続して現れました。

システムの処置

最後の RCD ステートメントは無視され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

RCD ステートメントを入力ストリームから除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1790I	SC=08 ATTR= SPECIFICATION INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE
-----------------	--

説明

DFLD ステートメントでは、ATTR=YES または NO のみが有効であり、指定された装置タイプの場合は、ATTR=Yes および ATTR=No のみが有効です。

システムの処置

ATTR= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DFLD ステートメントの ATTR= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1791I SC=08 DPAGE STATEMENT HAS NO LABEL FOR OPTIONS=DPAGE. DIAGNOSTIC LABEL USED

説明

DIV OPTIONS=DPAGE の場合は、リモート・プログラムに分かりやすいフォーマット名が送信されるように、DPAGE ステートメントにはユーザー提供のラベルが必要です。何も提供されていない場合は、診断ラベルがフォーマット名として送信されます。

システムの処置

DPAGE ステートメント処理が続行されます。

プログラマーの応答

DPAGE ステートメントでラベルを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1792I SC=08 DPAGE STATEMENT REQUIRED FOR DIV OPTIONS=DPAGE AND TYPE=OUTPUT

説明

指定されている DEV.TYPE および DIV ステートメントに、OPTIONS=DPAGE および TYPE=OUTPUT が指定されている場合は、DPAGE ステートメントが指定される必要があります。FMT ステートメントのラベルが、フォーマット名としてリモート・プログラムに送信されます。

システムの処置

処理は現行ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

入力ストリームのこの点でラベルが有効な DPAGE ステートメントを指定してください。

ドゥフス 1793I SC=08 SCA オプションが装置タイプに対して無効。無視された SCA オプション

説明

DFLD ステートメントで、指定された DEV.TYPE に対して SCA オプションが無効です。

システムの処置

SCA オプションは無視され、このオペランドを使用して処理が続行されます。

プログラマーの応答

DFLD から SCA オプションを除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1794I SC=08 LTH=VALUE IS NOT 2 FOR SCA OPTION. LTH= SPECIFICATION DEFAULTED TO 2

説明

SCA オプションには、DFLD ステートメントで 2 以外の LTH= 値が指定されていました。

システムの処置

LTH=2 が指定されているものと想定され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DFLD ステートメントで LTH= 指定を 2 に訂正し、ジョブを再実行するか、LTH= 指定を省略し、ジョブを再実行してください。

DFS1795I SC=08 LABEL AND SCA OPTION NOT COMPATIBLE. SCA OPTION IGNORED

説明

ラベル付き DFLD ステートメントは、SCA 出力用として予約できません。

システムの処置

SCA オプションは無視され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DFLD ステートメントのラベルまたは SCA オプションを除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1796I **SC=08 LTH=VALUE** が、パスワード
に対して無効な 8 を超えています。
LTH= 8 と見なされる

説明

LTH= オペランドに指定された値が、DFLD ステートメントの PASSWORD オプションに対して 8 を超えています。

システムの処置

LTH=8 が想定され、このオペランドを使用して処理が
続行されます。

プログラマーの応答

LTH=8 を指定するか、または DFLD ステートメントに
LTH= オペランドを省略して、ジョブを再実行してくだ
さい。

DFS1797I **SC=08 SCA OPTION INVALID FOR**
DIV TYPE=INPUT. SCA OPTION
IGNORED

説明

SCA オプションは、DIV TYPE=INPUT の DFLD では無
効です。

システムの処置

SCA オプションは無視され、処理はこのオペランドから
続行されます。

プログラマーの応答

SCA オプションを DFLD から除去し、ジョブを再実行
してください。

DFS1798I **SC=04 オプション=キーワードの複**
数のセ出口/ノード出口仕様が無効
です。

説明

DIV ステートメント OPTIONS= 指定で複数の SEGEXIT
または NOSEGEXIT オプションが指定されました。

システムの処置

指定された最初の SEGEXIT または NOSEGEXIT オプシ
ョンが使用され、このオペランドを使用して処理が続行
されます。

プログラマーの応答

OPTIONS= 指定から複数の SEGEXIT オプションまた
は NOSEGEXIT オプションを除去して、ジョブを再実行
してください。

DFS1799I **SC=08 FLDEXIT/NOFLDEXIT/**
SEGEXIT/ NOSEGEXIT
PARAMETERS INVALID ON
OPTIONS= KEYWORD FOR DIV
TYPE=OUTPUT

説明

オプション FLDEXIT、NOFLDEXIT、SEGEXIT、
NOSEGEXIT は、DIV ステートメントの DIV
TYPE=OUTPUT に関する OPTIONS キーワードでは無
効です。

システムの処置

これらのオプションは無視され、処理はこのオペランド
から続行されます。

プログラマーの応答

FLDEXIT、NOFLDEXIT、SEGEXIT、または NOSEGEXIT
を OPTIONS キーワードから除去するか、DIV TYPE を
INPUT に変更してください。ジョブを再実行してくだ
さい。

DFS1800I **SC=08 ATTR=operand**
INCOMPATIBLE WITH SCA
OPTION. OPERAND IGNORED

説明

ATTR=YES または ATTR=*nn* は、SCA オプションも指定
されるときは、DFLD ステートメントで指定してはなり
ません。

システムの処置

ATTR=YES または ATTR=*nn* 指定は無視され、処理は次
のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

ATTR=YES または ATTR=*nn* を DFLD ステートメントか
ら除去し、ジョブを再実行してください。

第 40 章 DFS メッセージ DFS1801I - DFS1850I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1801I **SC=16 NO DFLDS DEFINED IN THIS DPAGE. FMT MEMBER NOT WRITTEN TO REFERAL**

説明

指定されている DEV.TYPE および DIV TYPE=OUTPUT の場合は、この DPAGE で DFLD を少なくとも 1 つ定義する必要があります。重大度コード 16 で、この FMT メンバーは REFERAL に強制的に書き込まれなくなります。

システムの処置

処理は次のステートメントから続行され、この FMT の残りの構文専用チェックが行われます。

プログラマーの応答

この DPAGE で DFLD を少なくとも 1 つ定義し、ジョブを再実行してください。

DFS1802I **SC=08 FIELD LENGTH CANNOT EXCEED DIV RCDCTL VALUE. LENGTH SPECIFICATION DEFAULTED TO RCDCTL VALUE**

説明

このメッセージが出されるのは、RCDCTL=NOSPAN が指定され、指定された DFLD での LTH= 指定が DIV RCDCTL= 値を超えている 場合です。このメッセージは、リテラル DFLD 長さが DIV RCDCTL= 値を超えている 場合にも出されます。

システムの処置

RCDCTL 値が DFLD 長さとして想定され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DFLD LTH= 指定と DIV RCDCTL= 指定のいずれかを変更して、フィールド長が RCDCTL 値より小か等しくなるようにしてください。ジョブを再実行してください。

DFS1803I **SC=04 POS= SPECIFICATION IGNORED FOR DEVICE TYPE**

説明

POS= 指定は、指定されている DEV.TYPE の DFLD で指定できません。

システムの処置

POS= 指定は無視され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DFLD ステートメントから POS= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1804I **SC=08 LDEL=X'HEXSTRING', HEXSTRING TRUNCATED TO FIRST 4 HEX CHARACTERS**

説明

4 文字を超える 16 進文字が LDEL= で指定されました。16 進数ストリングは切り捨てられて、左端の 16 進文字 4 文字になります。

システムの処置

処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV ステートメントの LDEL= 指定で 16 進文字 4 文字を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1805I **SC=04 LDEL=X'HEXSTRING', HEX DIGITS OF X'0000' SPECIFIED**

説明

行削除文字 X'0000' は、セグメントの最後のフィールドに EBCDIC NULL (X'00') が含まれていると、気付かずにセグメントが削除されてしまう原因になります。

システムの処置

処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

行削除文字 '0000' が EBCDIC NULL と競合しないか検証してください。

DFS1806I **SC=08 LDEL=X'HEXSTRING', NULL
HEX STRING SPECIFIED. DEVICE
TYPE DEFAULT USED**

説明

DEV ステートメントで、LDEL= に NULL 16 進数ストリングがあります。

システムの処置

DEV.TYPE 行削除デフォルトが指定されているものと想定されます。装置タイプのデフォルトについては、DEV ステートメント情報を参照してください。処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な LDEL= 指定を指定し、ジョブを再実行してください。

関連資料

[DEV ステートメント \(システム・ユーティリティ
一\)](#)

DFS1807I **SC=08 タイプ-c 整数 (FIRST 2) へ
の切り捨てが行われました。**

説明

DEV ステートメントの DPM-An、DPM-Bn、または 3270-An of the DEV ステートメントが 2 桁を超えました。

システムの処置

最初の 2 桁が使用され、このオペランド値を使用して処理が続行されます。

プログラマーの応答

TYPE= オペランドに有効な数値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1808I **SC=08 NULL NUMBER FOLLOWED
type. type-identifier ASSUMED**

説明

TYPE= オペランドのシンボリック装置 *type* の後に、番号が指定されていませんでした。

システムの処置

装置タイプ ID が指定されているものと想定され、処理はこのオペランドから続行されます。想定できる装置タイプは、DPM-A1、DPM-B1、または 3270-A1 です。

プログラマーの応答

TYPE= オペランドで有効な番号を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1809I **SC=08 INVALID INTEGER
SPECIFIED IN type DEVICE TYPE.
type-identifier ASSUMED**

説明

装置タイプ ID は、DEV ステートメントの TYPE= オペランドの一部として、1 から 15 の範囲の 1 桁または 2 桁の番号として指定する必要があります。

システムの処置

装置タイプ ID が指定されているものと想定され、処理はこのオペランドから続行されます。想定できる装置タイプは、DPM-A1、DPM-B1、または 3270-A1 です。

プログラマーの応答

DEV TYPE= オペランドで有効な整数を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1810I **SC=08 FTAB=X'HEXSTRING' TOO
LONG. HEX STRING TRUNCATED
TO FIRST 16 DIGITS**

説明

FTAB=X'HEXSTRING' 指定で 16 桁を超える 16 進数が検出されました。

システムの処置

16 進数ストリングは切り捨てられて、最初の 16 進数字 16 桁になります。処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

16 進数ストリング FTAB 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1811I **SC=08 'HEXSTRING' に奇数が含ま
れています。数字の。右側に 0 が
埋め込まれた最後のバイト**

説明

指定内で奇数の 16 進数字が検出されました。最後の 16 進数字は、文字を完了するために 16 進数のゼロが埋め込まれます。

システムの処置

処理はこのオペランドから続行されます

プログラマーの応答

16 進数ストリング指定に偶数の 16 進数字を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1812I **SC=04 FTAB=X'HEXSTRING', HEX
DIGIT OF X'00' MAY BE
INCOMPATIBLE WITH DIV
NULL=DELETE**

説明

DIV NULL=DELETE を指定すると、FTAB 文字に達するまで、フィールド内の末尾 EBCDIC NULL (X'00') の除去が生じます。FTAB 文字 X'00' は、FTAB として処理されたわけではありませんが、EBCDIC NULL として削除されます。

システムの処置

処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DIV NULL=DELETE が指定されている場合は、DIV NULL=DELETE 指定を変更するか、X'00' を FTAB 文字の 16 進数字として定義しないでください。ジョブを再実行してください。

DFS1813I **SC=04 MULTIPLE FLDEXIT/
NOFLDEXIT SPECIFICATIONS IN
OPTIONS= KEYWORD INVALID**

説明

複数の FLDEXIT または NOFLDEXIT オプションが DIV ステートメントの OPTIONS= で指定されました。

システムの処置

最初に指定された FLDEXIT または NOFLDEXIT オプションが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数の FLDEXIT または NOFLDEXIT オプションを OPTIONS= 指定から除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1814I **SC=08 USER FTAB CHARACTERS
REQUIRED FOR MIX OR ALL. NONE
DEFINED.FORCE ASSUMED**

説明

MIX または ALL オプションの入力データ編集では、ユーザー定義の FTAB 文字が必要です。FTAB 文字が定義されていませんでした。

システムの処置

FORCE が想定されます。処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

FTAB 文字を指定するか、MIX または ALL オプションを FORCE に変更してください。ジョブを再実行してください。

DFS1815I **SC=08 LDEL='LITERAL' LENGTH
NOT EQUAL 2. DEVICE TYPE
DEFAULT USED**

説明

行削除文字が 3 文字以上 LDEL= で指定されました。

システムの処置

LDEL= オペランドは無視され、装置タイプのデフォルトが使用されます。処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

行削除文字 2 文字を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1816I **SC=04 MULTIPLE NULL=
KEYWORDS INVALID**

説明

複数の NULL= キーワードが DIV ステートメントでコーディングされました。

システムの処置

最初の指定が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数の NULL= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1817I **SC=04 MULTIPLE OPTIONS=
KEYWORDS INVALID**

説明

複数の OPTIONS= キーワードが DIV ステートメントでコーディングされました。

システムの処置

最初の指定が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数の OPTIONS= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1818I **SC=04 MULTIPLE HDRCTL=
KEYWORDS INVALID**

説明

複数の HDRCTL= キーワードが DIV ステートメントでコーディングされました。

システムの処置

最初の指定が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数の HDRCTL= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1819I **SC=04 MULTIPLE keyword=
KEYWORDS INVALID**

説明

同じキーワードが複数回同じステートメントで指定されました。

システムの処置

最初の指定が使用され、処理はこのステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

キーワードおよびそのオペランドを1回だけ指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1820I **SC=04 RCDCTL キーワードの複数の
スパン/ノスパン仕様が無効です。**

説明

同じ RCDCTL= 指定で複数の SPAN オプションまたは NOSPAN オプションが検出されました。

システムの処置

指定された最初の SPAN オプションまたは NOSPAN オプションが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数の SPAN オプションまたは NOSPAN オプションを除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1821I **SC=04 MULTIPLE NUMBERS IN
RCDCTL SPECIFICATION INVALID**

説明

複数のレコード・サイズ数値が RCDCTL= で指定されました。

システムの処置

最初のレコード限度が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数のレコード・サイズ数値を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1822I **SC=08 RCDCTL NUMBER
TRUNCATED. LAST 5 DIGITS USED**

説明

数値レコード・サイズが DIV ステートメント RCDCTL= 指定の5桁を超えています。

システムの処置

末尾の5桁が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

5桁以下のレコード・サイズを指定してください。ジョブを再実行してください。

DFS1823I **SC=08 NULL RCDCTL NUMBER.
256 USED**

説明

レコード・サイズ数値 NULL が DIV ステートメント RCDCTL= で指定されました。

システムの処置

レコード・サイズ 256 が指定されているものと想定され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効なレコード・サイズを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1824I **SC=08 RCDCTL NUMBER OF 0
INVALID. 256 USED**

説明

レコード・サイズ数値ゼロが DIV ステートメント RCDCTL= で指定されました。レコード・サイズは、1 と 32000 の間である 必要があります。

システムの処置

デフォルトのレコード・サイズ 256 が指定されているものと想定され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

RCDCTL= 指定で有効なレコード・サイズを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1825I	SC=08 RCDCTL 番号が 32000 を超えています。 256 使用済み
-----------------	---

説明

32000 より大きいレコード・サイズが DIV ステートメント RCDCTL= 指定に指定されました。レコード・サイズは 1 から 32000 の間でなければなりません。

システムの処置

デフォルトのレコード・サイズ 256 が想定され、このオペランドを使用して処理が続行されます。

プログラマーの応答

RCDCTL= 指定に有効なレコード・サイズを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1826I	SC=04 MULTIPLE FIXED/ VARIABLE SPECIFICATIONS IN HDRCTL= KEYWORD INVALID
-----------------	---

説明

複数の FIXED または VARIABLE オプションが DIV ステートメントの HDRCTL= で指定されました。

システムの処置

最初に指定された FIXED または VARIABLE オプションが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数の FIXED または VARIABLE オプションを HDRCTL= 指定から除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1827I	SC=04 MULTIPLE HDRCTL NUMBER SPECIFICATIONS INVALID
-----------------	--

説明

HDRCTL= キーワードの場合は、数値長さの指定 1 つのみが有効です。

システムの処置

最初の数値長さの指定が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

HDRCTL= 指定で数値長さを 1 つ指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1828I	SC=08 HDRCTL NUMBER TRUNCATED. LAST 2 DIGITS USED
-----------------	--

説明

HDRCTL= 指定の長さパラメーターが 2 桁を超えました。

システムの処置

末尾の 2 桁のみが使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

長さ指定を省略するか、必要な HDRCTL= *length* を指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1829I	SC=08 NULL HDRCTL NUMBER. DEFAULT ASSUMED
-----------------	--

説明

HDRCTL= に NULL が指定されました。

システムの処置

デフォルトの 7 が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

長さ指定を省略するか、適切な HDRCTL= *numeric length* を指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1830I	SC=04 MULTIPLE SIM/NOSIM2 SPECIFICATIONS IN OPTIONS= KEYWORD INVALID
-----------------	---

説明

SIM または NOSIM2 が単一の OPTIONS= キーワードで複数回指定されました。

システムの処置

最初の SIM または NOSIM2 指定が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

複数の SIM または NOSIM2 指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1831A **SC=04 MULTIPLE operand/
operand SPECIFICATIONS IN
OPTIONS= KEYWORD INVALID**

説明

矛盾するオペランドが OPTIONS= キーワードで指定されました。

システムの処置

ユーザーが指定した第 1 オペランドが使用され、処理は続行されます。

プログラマーの応答

DNM か NODNM、または MSG、あるいはその両方、DPAGE または PPAGE を選択することにより、競合しているオペランドを解決してください。

DFS1832I **SC=08 RCDCTL= INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明

RCDCTL= が有効なのは、DEV ステートメントで TYPE= DPM-A1 から DPM-A10 の場合のみです。

システムの処置

RCDCTL= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV.TYPE= ステートメントを訂正するか、RCDCTL= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1833I **SC=08 HDRCTL= INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明

HDRCTL= が有効なのは、DEV ステートメントで TYPE= DPM-A1 から DPM-A10 の場合のみです。

システムの処置

HDRCTL= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV.TYPE= ステートメントを訂正するか、HDRCTL= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1834I **SC=08 keyword= INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明

このキーワードは、DEV ステートメントの TYPE= オペランドで指定されている装置タイプに関しては使用できません。

システムの処置

キーワード指定は無視され、処理は残りのキーワードから続行されます。

プログラマーの応答

DEV TYPE= 指定を訂正するか、このキーワードを除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1835I **SC=08 NULL= INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明

DIV ステートメントの NULL= 指定が有効なのは、DEV TYPE=DPM-A1 から DPM-A10 の場合のみです。

システムの処置

NULL= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DEV.TYPE= 指定を訂正するか、NULL= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1836I **SC=08 MSG/DPAGE/PPAGE
PARAMETERS INVALID ON
OPTIONS= KEYWORD FOR DIV
TYPE=INPUT**

説明

DIV TYPE=INPUT の場合は、オプション MSG/DPAGE/PPAGE は、OPTIONS= キーワードでは無効です。

システムの処置

これらのオプションは無視され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

MSG/DPAGE/PPAGE パラメーターを OPTIONS= キーワードから除去するか、DIV TYPE を OUTPUT に変更してください。ジョブを再実行してください。

DFS1837I **SC=08 RCDCTL= INVALID FOR DEV MODE=STREAM. RCDCTL= IGNORED**

説明

DIV ステートメントの RCDCTL= 指定が DEV.MODE=STREAM と矛盾していました。

システムの処置

RCDCTL 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

RCDCTL= または DEV.MODE=STREAM の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1838I **SC=08 SPAN PARAMETER INVALID ON RCDCTL= KEYWORD FOR DIV TYPE=INPUT**

説明

RCDCTL= キーワードに関する SPAN 指定が有効なのは、DIV TYPE=OUTPUT の場合のみです。

システムの処置

SPAN パラメーターは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

SPAN または DIV TYPE=INPUT の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1839I **SC=08 キーワード= DIV TYPE=INPUT の場合は無効です。**

説明

このキーワードは、TYPE=INPUT の DIV ステートメントでは無効です。

システムの処置

キーワードは無視され、残りのキーワードを使用して処理が続行されます。

プログラマーの応答

無効なキーワードをステートメントから除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1840I **SC=08 HDRCTL NUMBER INVALID. DEFAULT ASSUMED**

説明

HDRCTL= 指定の長さパラメーターが 7 から (RCDCTL 長さ - 1) の範囲にありませんでした。

システムの処置

値 7 が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な HDRCTL 長さパラメーターを指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1841I **SC=08 NULL= INVALID FOR DIV TYPE=OUTPUT. NULL= IGNORED**

説明

NULL= 指定が有効なのは、DIV TYPE=INPUT の場合のみです。

システムの処置

DIV TYPE=OUTPUT に関して使用されたときは、NULL= 指定は無視されます。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

NULL= または DIV TYPE=OUTPUT の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1842I **SC=08 device-type IDENTIFIER DOES NOT BEGIN WITH A VALID CHARACTER. type=A1 ASSUMED**

説明

DEV ステートメントの TYPE=キーワードで指定された装置タイプ ID の先頭文字に誤りがありました。

システムの処置

DPM-A1 または 3270-A1 が装置タイプとして使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

必要な ID を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1843I **SC=08 LDEL=X'HEXSTRING', 16 進数**
文字ストリングの長さが 4 ではありません。
右側に 0 が埋め込まれた
HEXSTRING

説明

LDEL= ストリングが 16 進数の 4 桁未満でした。

システムの処置

ストリングの右側には、4 桁の 16 進数字の長さがゼロで埋め込まれます。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

LDEL= ストリングを 4 桁の 16 進数字に展開し、ジョブを再実行してください。

DFS1844I **SC=08 FTAB=X'HEXSTRING', 16 進数**
ストリングがヌルです。適用可能な
デバイスに使用されるデフォルトの
タブ

説明

ヌル 16 進数ストリングが DEV ステートメント FTAB= 指定で指定されました。デフォルトの FTAB を持つ装置タイプのリストについては、"MFS 言語ユーティリティー (DFSUPAA0)" のトピックを参照してください。

システムの処置

適用可能な装置には、FTAB が想定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

有効な FTAB 指定を指定して、ジョブを再実行してください。

関連資料

[MFS 言語ユーティリティー \(DFSUPAA0\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS1845I **SC=04 RCD STATEMENT IS**
INVALID FOR DEV
MODE=STREAM. RCD STATEMENT
IGNORED

説明

RCD ステートメントは、STREAM モードでは指定できません。

システムの処置

RCD ステートメントは無視され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答

RCD ステートメントを入力ストリームから除去するか、RECORD モードを指定してください。ジョブを再実行してください。

DFS1846I **SC=08 HEXSTRING CONTAINS**
INVALID HEX DIGIT. HEX DIGIT
X'O' ASSUMED

説明

16 進数字であると定義されているストリングに、A から F または 0 から 9 以外の文字が含まれていました。

システムの処置

無効文字はゼロに置換され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

無効の 16 進文字をストリング上で検索し、有効な値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1847I **SC=08 SIM/NOSIM2 パラメーター**
は、DIV TYPE=INPUT のオプション
= キーワードでは無効です。

説明

オプション SIM/NOSIM2 は、DIV TYPE=INPUT の DIV ステートメント OPTIONS= キーワードでは無効です。

システムの処置

SIM/NOSIM2 オプションは無視され、処理はこのオペランドを使用して続行されます。

プログラマーの応答

OPTIONS キーワードから SIM または NOSIM2 パラメーターを除去するか、あるいは DIV TYPE を OUTPUT に変更してください。ジョブを再実行します。

DFS1848I **SC=08 DSCA=X'HEXSTRING', 16 進数**
ストリングが 4 桁の 16 進数で
はありません。ストリングの右側に
0 が埋め込まれます

説明

DSCA= キーワードの指定された 16 進数が 4 桁未満であった。この指定には、16 進ゼロの右側に 4 桁の 16 進数字の長さが埋め込まれます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

DSCA= オペランドに 4 桁の 16 進数字を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1849E 変更は、オプション **RS=スナック**
PST=プストノ セグメント
segmname によってサポートされてい
ません。

又は

変更は、オプション **RS=スナック** セグメント=**プストノ** セグメント **segmname** によってサポートされていません。フィールド **fld_name**

説明

データベース定義 (DBD) には、**OLREORG** を開始し**ます** コマンドの ALTER オプションを使用してオンライン・データベースに適用できないデータベース構造に対する変更が含まれています。

メッセージ・テキストの中で、

プストノ

プログラム仕様テーブル (PST) 番号。ゼロを基準とします。

スナック

ALTER オプションによってサポートされていない DBD 変更を識別する理由コード。各コードの説明については、以下の理由コードのリストを参照してください。

segmname

サポートされない変更が含まれているセグメントの名前。

fld_name

サポートされない変更が含まれているフィールドの名前。

理由コード

サポート対象外

1

データベースのアクセス方式が変更されます。例えば、オンライン・データベースによって使用され

るアクセス方式は PHDAM ですが、新しい DBD は PHIDAM を指定しています。

2

ランダムイザーが変わりました

3

出口ルーチンが変更された。

4

変更されたセグメントの数。

5

変更されたデータベース・データ・セット・グループの数。

6

論理子または論理親セグメントの長さが増えたり減ったりしました。

7

変更されたセグメント・レベル。

8

セグメント接頭部が変更された

9

セグメントは固定長から可変長に変更されたか、またはその逆に変更されました。

10

挿入規則が変更された。

11

削除規則が変更された。

12

セグメント・コードが変わった。

13

変更された連結キーの長さ。

14

論理関係が追加または変更されました。例えば、副次索引のソース・セグメントを変更することは、HALDB 変更機能によってサポートされていません。

15

セグメントの長さが減少しました。これにより、既存のフィールドが削除されました。

16

フィールドが削除されたか、別のセグメントに移動されたか、その名前が変更されました。

17

フィールドのキーの長さが増えたり減ったりしました。

18

フィールド長が増えたり減ったりされた。

19

FIELD ステートメントの TYPE キーワードの値が増えたり減ったりしました。

20

セグメント内の既存のフィールド間に新しいフィールドが追加されました。ALTER オプションを使

用すると、既存のフィールドの後にのみ、新規フィールドをセグメントに追加できます。

21 セグメントの親が変更されました。

22 セグメントの長さが減少しました。

システムの処置

ALTER 操作は終了します。

システム・プログラマーの応答

ALTER オプションを使用して、理由コードで示された変更を適用することはできません。

サポートされていない変更が必要な場合は、データベースをオフラインにし、アンロードおよび再ロードすることによって、データベースに適用できます。

サポートされていない変更が必要でなく、ALTER オプションを使用して他の変更をデータベースに適用し続ける必要がある場合は、サポートされていない変更をデータベース定義から除去し、DBD および ACB ライブラリー・メンバーを再生成して、**OLREORG オプションの開始 (変更)** コマンドを再発行してください。

モジュール:

DFS5DBB0

関連タスク

オンライン HALDB データベースの定義の変更 (データベース管理)

関連資料

INITIATE OLREORG コマンド (コマンド)

DFS1850I

SC=04 NULL DEVCHAR SUFFIX.
DEVCHAR TABLE DFSUDT00 USED

説明

EXEC ステートメントの DEVCHAR= パラメーターで接尾部が指定されていませんでした。

システムの処置

ロードされる装置特性テーブルの名前は DFSUDT00 です。

プログラマーの応答

EXEC ステートメントの DEVCHAR= パラメーターに有効な単一の英数字接尾部を指定し、ジョブを再実行してください。

第 41 章 DFS メッセージ DFS1851I - DFS1900I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1851I SC=04 DEVCHAR SUFFIX 'サフィックス' は最初の文字に対して切り捨てられました

説明

EXEC ステートメントの DEVCHAR= パラメーターに、複数の文字が指定されています。メッセージには、存在していた文字の最大 8 文字が表示されます。

システムの処置

最初の文字だけが、装置特性テーブル名の 1 文字の接尾部として使用されます。

プログラマーの応答

EXEC ステートメントの DEVCHAR= パラメーターに有効な単一英数字の接尾部を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1852W カタログ PSB DFSCP000 がスケジュールされていません。エラー・コード =xx

説明

イムスは、カタログ PSB DFSCP000 用のアプリケーション制御ブロックの作成に失敗したため、PSB をスケジュールできなくなりました。

エラー・コード

解説

- 1 PSB DFSCP000 に対する BLDL マクロ呼び出しが失敗したか、または DFSCP000 メンバーがアクティブ ACB ライブラリーに存在しません。
- 2 アクティブな ACB ライブラリー内に DFSCP000 メンバーが存在していますが、アクティブ・メンバーが PSB ではありません。
- 3 PSB DFSCP000 メンバーのアクティブ・バージョンは、このバージョンのイムスと互換性がありません。
- 4 PSB DFSCP000 の意図リストを、イムスの初期設定中に ACB ライブラリーから読み取ることができませんでした。

- 5 イムスの初期設定中にプログラムまたはデータベース・ディレクトリー・ブロックを作成できなかったため、カタログ制御ブロックを作成できません。
- 8 ストレージを取得できなかったため、カタログ・アプリケーション制御ブロックを作成できませんでした。
- 9 オンライン変更がコミットされた後、PSB DFSCP000 の意図リストを ACB ライブラリーから読み取ることができませんでした。
- 10 オンライン変更のコミット・フェーズ中にストレージを取得できなかったため、カタログ・アプリケーション制御ブロックを作成できません。
- 11 オンライン変更のコミット・フェーズ中にプログラムまたはデータベース・ディレクトリー・ブロックを作成できなかったため、カタログ・アプリケーション制御ブロックを作成することができません。
- 12 イムスは、オンライン変更のコミット・フェーズ中に DFSXRBB0 モジュールのロードに失敗しました。
- 13 オンライン変更プロセスが DMB DFSCD000 または DFSCX000 を常駐させることに失敗しました。
- 14 オンライン変更処理は、PSB DFSCP000 の意図リストを常駐させることに失敗しました。
- 15 オンライン変更プロセスは、PSB DFSCP000 を常駐させることに失敗しました。

システムの処置:

カタログ PSB DFSCP000 をスケジュールできません。アプリケーション・プログラムが、DFSCAT00 に対して DLI 呼び出しを発行した場合、カタログ PCB は、必要な DFSCP000 の動的接続に失敗し、U0253 異常終了になります。アプリケーションが DFSCP000 を直接スケジュールしようとする、U0456 異常終了が発生します。

システム・プログラマーの応答:

エラー・コード 1、2、3、4、5、9、13、14、および 15 の場合は、BUILD PSB=DFSCP000 を使用して ACBGEN を実行します。他のエラー・コードの場合は、根本的なエラーを解決してください。

**DFS1853I ACBSHR = Y, SET USING CSL
ACBSHR VALUE**

または

ACBSHR = N, SET USING CSL ACBSHR VALUE

または

ACBSHR = Y, SET USING CSL DEFAULT VALUE

または

ACBSHR = Y, SET AS THE DEFAULT VALUE

説明

IMS 初期化中に Common Service Layer (CSL) が使用された場合、このメッセージはソースおよび ACBSHR 値を表示します。

IMS の初期化中に CSL が使用されなかった場合、<SECTION=FASTPATH>: ACBSHR = Y, SET AS THE DEFAULT VALUE に対して、デフォルト ACBSHR 値として ACBSHR=Y が設定されると以下のメッセージが発行されます。

システムの処置

処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFFATC1

**DFS1854I SC=08 VERSID LENGTH INVALID,
X'hhhh' USED**

説明

バージョン ID の 16 進指定が、16 進文字 4 文字より小と大のいずれかでした。

システムの処置

メッセージの X'hhhh' 部分に表示されている 16 進文字 4 文字がバージョン ID として使用されます。指定されているのが 16 進文字 4 文字を超えている場合は、指定されている最初の 4 文字が使用されます。指定されているのが 4 文字未満の場合は、値は長さが 4 文字になるまで右にゼロが埋め込まれます。

プログラマーの応答

16 進文字を正確に 4 文字使用して、バージョン ID 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1855I SC=08 VERSID の長さが無効です。
'cc' が使用されます。**

説明

バージョン ID の仕様が 2 文字より小かより大きくなっていました。

システムの処置

メッセージに示されている 2 文字 (cc) は、バージョン ID に使用されます。2 文字より小さい文字を指定すると、空白が追加されます。2 文字を超える文字が指定されると、最初の 2 文字が使用されます。

プログラマーの応答

正確に 2 文字を使用してバージョン ID の指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1856I SC=04 PF KEY NUMBER
'nnnnnnnn' IS NOT A VALID
INTEGER. SUBPARAMETER
IGNORED**

説明

指定されている PF キー番号が、1 から 36 の範囲の番号ではありませんでした。

システムの処置

この無効の PF キー番号とそのオペランドは無視されます。処理は、このサブパラメーターなしで続行されません。

プログラマーの応答

1 から 36 の範囲の PF キー番号を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1857I SC=04 PF キー番号 'nn' は重複して
いる番号であり、無視されます。**

説明

このサブパラメーターの PF キー番号は、前に指定されています。

システムの処置

最初の指定が使用され、このサブパラメーターを使用して処理が続行されます。

プログラマーの応答

重複した指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1858I **SC=08 DEVCHAR テーブル・
DFSUDT0x が見つかりませんでした。
DF:00 に使用されるもの**

説明

メッセージに示されているメンバーが、IMS.SDFSRESL で検出されませんでした。

システムの処置

DFSUDT00 の検索が試行され、処理が続行されます。

プログラマーの応答

IMS.SDFSRESL 内のメンバーと一致する装置特性テーブル接尾部を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1859I **SC=08 DEVCHAR TABLE
DFSUDT00 NOT FOUND. NO TABLE
LOADED**

説明

装置特性テーブル DFSUDT00 が IMS.SDFSRESL で検出されませんでした。

システムの処置

システムはメッセージ DFS1861I を出し、IBM 3270 モデル 2 装置タイプを想定し、処理を続行します。

プログラマーの応答

DEV ステートメントのシンボリック装置タイプ 3270-An を使用する前に、IMS.SDFSRESL 内の望ましいメンバーを識別する装置特性テーブル接尾部を指定してください。

関連情報

549 ページの『DFS1861I』
SC=08 DEVCHAR TABLE NOT LOADED. 3270
ASSUMED

DFS1860I **SC=08 永続的な I/O エラー。
DEVCHAR 表に対する SDFSRESL デ
ィレクトリーの読み取りエラーで
す。使用可能なテーブルなし**

説明

BLDL マクロが戻りコード 08 を戻しました。これは、システムがディレクトリーを検索しようとしたときに、永続入出力エラーが検出されたことを示します。

システムの処置

システムは、メッセージ DFS1861I を出し、3270 モデル 2 装置タイプを想定し、処理を続行します。

問題判別:

1, 2, 3, 16, 23

関連資料

[z/OS: BLDL の完了コード](#)

関連情報

549 ページの『DFS1861I』

SC=08 DEVCHAR TABLE NOT LOADED. 3270
ASSUMED

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1861I **SC=08 DEVCHAR TABLE NOT
LOADED. 3270 ASSUMED**

説明

装置特性テーブルがロードされませんでした。このメッセージの前に、エラー・メッセージ DFS1859I または DFS1860I が出されているはずです。

システムの処置

3270 モデル 2 装置タイプが想定され、処理は続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ DFS1859I または DFS1860I の原因を訂正し、ジョブを再実行してください。

関連情報

549 ページの『DFS1859I』
SC=08 DEVCHAR TABLE DFSUDT00 NOT
FOUND. NO TABLE LOADED

549 ページの『DFS1860I』

SC=08 永続的な I/O エラー。DEVCHAR 表に対する SDFSRESL ディレクトリーの読み取りエラーです。使用可能なテーブルなし

DFS1862I **SC=08 3270-An DEVICE TYPE NOT
FOUND IN THE DEVCHAR TABLE.
3270 ASSUMED**

説明

メッセージに示されている装置タイプのシンボル名が、ロードされた装置特性テーブルで検出されませんでした。

システムの処置

3270 モデル 2 装置タイプが想定され、処理は続行されます。

プログラマーの応答

正しい接尾部付き装置特性テーブルが使用されたか、およびシステム定義で使用されているシンボル名が、DEV ステートメントで使用された名前と同じであるか確認してください。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1863I SC=04 DEVICE FEATURES SPECIFIED NOT FOUND IN DEVCHAR TABLE

説明

ロードされた装置特性テーブルに、DEV ステートメントの FEAT= オペランドで指定された機構と同じ、DEV ステートメントの TYPE= キーワードで指定されたシンボル名に関するエントリがありませんでした。

システムの処置

システムでは、装置特性テーブル・エントリで検出された機構ではなく、DEV ステートメントで指定されているか、指定されていると想定されている機構を使用します。

プログラマーの応答

このシンボリック装置タイプおよび機構のフォーマットは、一致する定義済み装置および機構がないため、オンライン・システムで参照されることはありません。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1864I SC=04 RCDCTL=SPAN IS INVALID FOR DPM-Bn

説明

TYPE=DPM-Bn が DEV ステートメントで指定されているときは、RCDCTL=SPAN は使用できません。

システムの処置

SPAN 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

SPAN 指定を NOSPAN に変更し、RCDCTL= オペランドから除去するか、装置タイプ指定を変更し、ジョブを再実行してください。

DFS1865I SC=08 PPAGE OPTION INVALID ON OPTIONS= KEYWORD FOR DIV TYPE=INPUT

説明

DIV TYPE=INPUT の場合は、オプション PPAGE は、OPTIONS= キーワードでは無効です。

システムの処置

PPAGE オプションは無視され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

PPAGE を OPTIONS= キーワードから除去するか、DIV TYPE を OUTPUT に変更してください。ジョブを再実行してください。

DFS1866I SC=04 RDPN=DFLDNAME TRUNCATED TO 'cccccccc'

説明

戻り宛先プロセス名 (dfldname) が 8 文字より大きでした。

システムの処置

dfldname の最初の 8 文字のみが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

dfldname を 8 文字以下で指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1867I SC=08 名称= 'LITERAL' は DIV TYPE=INPUT の場合は無効です。

説明

DIV TYPE=INPUT が指定されている場合は、宛先プロセス名 (DPN) または 1 次リソース名 (PRN) リテラルのいずれかが無効でした。

システムの処置

リテラル指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

リテラル指定を除去するか、DIV TYPE を OUTPUT に変更してください。

DFS1868I SC=04 DPN='LITERAL' が 'cccccccc' に切り捨てられました。

説明

宛先プロセス名リテラルが 8 文字を超えていました。

システムの処置

リテラルの最初の 8 文字だけが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

8 文字を超えないリテラルを指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1869I	SC=04 DPN=DFLDNAME TRUNCATED TO 'cccccccc'
-----------------	---

Explanation

The destination process name (dfldname) was greater than 8 characters.

System action

Only the first 8 characters of the dfldname are used, and processing continues with this operand.

Programmer response

Provide a dfldname with no more than 8 characters, and rerun the job.

DFS1870I	SC=04 PRN='LITERAL' TRUNCATED TO 'cccccccc'
-----------------	--

説明

1 次リソース名 (PRN) リテラルが 8 文字より大でした。

システムの処置

リテラルの最初の 8 文字のみが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

リテラルを 8 文字以下で指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1871I	SC=04 PRN=DFLDNAME TRUNCATED TO 'cccccccc'
-----------------	---

説明

1 次リソース名 (dfldname) が 8 文字より大でした。

システムの処置

dfldname の最初の 8 文字のみが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

dfldname を 8 文字以下で指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1872I	SC=04 RPRN='LITERAL' TRUNCATED TO 'cccccccc'
-----------------	---

説明

戻り 1 次リソース名 (RPRN) リテラルが 8 文字より大でした。

システムの処置

リテラルの最初の 8 文字のみが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

リテラルを 8 文字以下で指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1873I	SC=04 RPRN=DFLDNAME は 'cccccccc' に切り捨てられました。
-----------------	---

説明

戻り 1 次リソース名 (dfldname) リテラルが 8 文字を超えていました。

システムの処置

dfldname の最初の 8 文字だけが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

dfldname を 8 文字以下の文字で指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1874I	SC=08 name='LITERAL', NOT SPECIFIED OR ZERO LENGTH '' USED
-----------------	---

説明

宛先プロセス名 (DPN)、1 次リソース名 (PRN)、または戻り 1 次リソース名 (RPRN) リテラルが NULL でした。

システムの処置

単一ブランクがリテラルとして使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

該当するリテラルを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1875I	SC=08 name=DFLDNAME, DFLDNAME HAS NO CHARACTERS AND IS IGNORED
-----------------	---

説明

宛先プロセス名 (DPN)、1 次リソース名 (PRN)、または戻り 1 次リソース名 (RPRN) dflename 指定が NULL 値でした。

システムの処置

dflename 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

該当する dflename を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1876I	SC=08 OFTAB の長さが無効です。 X'hh' USED
-----------------	---

説明

出力フィールド・タブ分離文字が、長さが 2 桁の 16 進文字では

システムの処置

2 桁を超える 16 進文字を指定すると、指定された最初の 2 つの 16 進文字が使用され、処理はオペランドから続行されます。16 進文字が指定されていない場合は、X'00' が使用されます。

プログラマーの応答

出力フィールド・タブ分離文字にちょうど 2 桁の 16 進文字を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1877I	SC=08 OFTAB の長さが無効です。 C が使用されました。
-----------------	--

説明

出力フィールド・タブ分離文字が 1 文字ではありません。

システムの処置

有効な文字が指定されていない場合は、コンマが使用されます。複数の文字が指定されている場合は、最初に指定された文字が使用されます。

プログラマーの応答

出力フィールドのタブ区切り文字として正確に 1 文字を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1878I	SC=08 OFTAB CHARACTER X'hh' INVALID, SPECIFICATION IGNORED
-----------------	---

説明

X'hh' と C'c' のいずれかとして指定された出力フィールド・タブ分離文字は、X'3F' にも空白文字にもなり得ません。

システムの処置

指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

出力フィールド・タブ分離文字として、有効な文字を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1879I	SC=04 キーワード= 指定は無視され ます。
-----------------	-------------------------------------

説明

指定されたキーワードは他の指定と競合していたため、無視されます。

システムの処置

処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

その他のパラメーターが正しい場合は、このキーワードを除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1880I	SC=08 EGCS LITERAL STRING INVALID
-----------------	--

説明

拡張図形文字セット (EGCS) リテラルとして表現されたリテラルが、通常のリテラルとして指定されました。MFS 設計では、この機能に EGCS リテラルは使用できません。

システムの処置

EGCS リテラルは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

リテラルを非 EGCS リテラルとして指定し、ジョブを再実行してください。

問題判別

該当しません

DFS1881I SC=04 EGCS LITERAL CONTAINS AN ODD NUMBER OF BYTES

説明

この警告メッセージは、装置によっては、拡張図形文字セット (EGCS) データが偶数バイトであることが必要などを示しています。

システムの処置

EGCS リテラルは未変更のまま受け入れられ、処理は続行されます。

プログラマーの応答

EGCS リテラルに正しいバイト数が含まれているか確認し、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

DFS1882I SC=08 ATTR=*nn* VALUE INVALID, 1 USED

説明

動的に変更可能な拡張属性の数として指定された値が、1 から 4 の範囲にありませんでした。

システムの処置

値 1 が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

1 から 4 の範囲の数として拡張属性値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1883I SC=04 PS VALUE IGNORED

説明

装置タイプ SCS1 の場合は、拡張図形文字セット (EGCS) 属性にプログラム式シンボル値が使用されることはありません。

システムの処置

MFS は EGCS が指定されているものと想定し、プログラム式シンボル値を無視し、処理を続行します。

プログラマーの応答

プログラム式シンボル値のない EGCS として EGCS 属性を指定し、ジョブを再実行してください。

問題判別

該当しません

DFS1884I SC=08 PS の指定は、EGCS リテラルでは無効、EGCS'F8' が使用されません。

説明

プログラム式シンボル属性 PX'hh' または PC'c' が、拡張図形文字セット (EGCS) リテラルとともに指定されています。EGCS 属性が予期されていました。SCS1 装置タイプの場合、'F8' は制御ブロック内には存在しません。

システムの処置

3270 装置の場合、拡張属性は EGCS'F8' に変更されません。SCS1 装置タイプの場合、拡張属性は EGCS に変更されます。処理は続行する

プログラマーの応答

拡張属性を EGCS'hh' として (EGCS の場合は SCS1 の場合) 指定するか、またはリテラルを非 EGCS リテラルとして指定し、ジョブを再実行してください。

問題判別

適用外

DFS1885I SC=08 EGCS EXTENDED ATTRIBUTE IGNORED

説明

拡張属性 EGCS'hh' または EGCS が、非 EGCS リテラルと共に指定されました。

システムの処置

EGCS 拡張属性は無視されます。プログラム式シンボル値があればすべてリセットされ、処理は続行されません。

プログラマーの応答

プログラム式シンボル属性を PX'hh' または PC'c' として指定するか、リテラル指定を EGCS リテラルに変更し、ジョブを再実行してください。

DFS1886I SVC メッセージ

説明

次の通知 SVC メッセージ が 1 つ以上 出される可能性 があります。

DYNAMIC UPDATE OF IMS TYPE 2 SVC = STARTED

ユーティリティは IMS タイプ 2 SVC の更新を開始しました。応答も処置も必要ありません。

IMS TYPE 2 SVC NUMBER = xxx

ユーティリティは、DFSRESLB DD カードによって指し示されたデータ・セット内で、IMS タイプ 2 SVC の番号を識別しました。この番号をメモし、システム管理者が予想していた番号に対応しているか確認してください。応答も処置も必要ありません。

IMS TYPE 2 SVC DYNAMIC UPDATE = SUCCESSFUL

ユーティリティは、新しい IMS タイプ 2 SVC モジュールを指し示すために、MVS SVC テーブル内の項目を正常に変更しました。応答も処置も必要ありません。

DYNAMIC UPDATE OF DBRC TYPE 4 SVC = STARTED

ユーティリティは、DBRC タイプ 4 SVC の更新を開始しました。応答も処置も必要ありません。

DBRC TYPE 4 SVC NUMBER =xxx

ユーティリティは、DFSRESLB DD カードによって指し示されたデータ・セット内で、DBRC タイプ 4 SVC の番号を識別しました。この番号をメモし、システム管理者が予想していた番号に対応しているか確認してください。応答も処置も必要ありません。

DBRC TYPE 4 SVC DYNAMIC UPDATE = SUCCESSFUL

ユーティリティは、新しい DBRC タイプ 4 SVC モジュールを指し示すために、MVS SVC テーブル内の項目を正常に変更しました。応答も処置も必要ありません。

DFS1886E SVC メッセージ

説明

次の 1 つ以上のエラー SVC メッセージが発行される場合があります。

IMS TYPE 2 SVC DYNAMIC UPDATE = FAILED - RC xx

ユーティリティは IMS タイプ 2 SVC の更新中に障害を起こしました。エラーによっては、このメッセージに別の DFS1886E エラー・メッセージまたは DFS1886A オペレーター処置メッセージが付随する場合があります。理由コード xx は、次のいずれかです。

理由コード

説明

4

DFSRESLB ライブラリーのオープンに失敗しました。

8

DFSRESLB ライブラリーが APF 許可されていません。

12

DFSRESLB ライブラリーにモジュール DFSVC000 が含まれていません。

16

DFSRESLB ライブラリーにモジュール IGCxxx が含まれていません。ここで xxx は IMS タイプ 2 SVC 番号です。

20

「DFS1886A MVS SVC TABLE ENTRY = EMPTY」メッセージの場合、WTOR への応答が「NO」でした。

24

「DFS1886A MVS SVC TABLE ENTRY = ACTIVE SVC THAT IS NOT AN IMS SVC」メッセージの場合、WTOR への応答が「NO」でした。

28

「DFS1886A MVS SVC TABLE ENTRY = IMS SVC AT HIGHER RELEASE THAN RESLIB SVC」メッセージの場合、WTOR への応答が「NO」でした。

32

現在、IMS RESLIB で指定された SVC 番号を使用しているアクティブな IMS が存在します。

36

MVS SVC テーブル更新サービスからのゼロ以外の戻りコード (z/OS 戻りコードについては WTO を参照してください)。

56

SVCTYPE = 入力パラメーターに無効な値が指定されました。

DBRC TYPE 4 SVC DYNAMIC UPDATE = FAILED - RC = xx

ユーティリティは、DBRC タイプ 4 SVC の更新中に障害を起こしました。エラーによっては、このメッセージに別の DFS1886E エラー・メッセージまたは DFS1886A オペレーター処置メッセージが付随する場合があります。理由コード xx は、次のいずれかです。

理由コード

説明

4

DFSRESLB ライブラリーのオープンに失敗しました。

8

DSRESLB ライブラリーが APF 許可されていません。

20

「DFS1886A MVS SVC TABLE ENTRY = EMPTY」メッセージの場合、WTOR への応答が「NO」でした。

- 36** MVS SVC テーブル更新サービスからのゼロ以外の戻りコード (z/OS 戻りコードについては WTO を参照してください)。
- 40** DFSRESLB ライブラリーにモジュール DSPSVC00 が含まれていません。
- 44** DFSRESLB ライブラリーにモジュール IGC00xxx が含まれていません。ここで、xxx は DBRC タイプ 4 SVC の符号付き 10 進 SVC 番号です。
- 48** 「DFS1886A MVS SVC TABLE ENTRY = ACTIVE SVC THAT IS NOT A DBRC SVC」メッセージの場合、WTOR への応答が「NO」でした。
- 52** 「DFS1886A MVS SVC TABLE ENTRY = DBRC SVC AT HIGHER RELEASE THAN RESLIB SVC」メッセージの場合、WTOR への応答が「NO」でした。
- 56** SVCTYPE = 入力パラメーターに無効な値が指定されました。

DATA SET OPEN FAILED - SEE DFSRESLB DD CARD

DFSRESLB DD カードによって指し示されているデータ・セットを開いていて、問題が発生しました。ユーティリティーは RC=0004 で終了します。そのデータ・セットの問題を解決し、ユーティリティー・ジョブを再実行依頼してください。

DATA SET APF AUTHORIZATION FAILED - SEE DFSRESLB DD CARD

DFSRESLB DD カードで指定された RESLIB は APF 許可されていません。ユーティリティーは RC=0008 で終了します。ユーティリティーを正しく実行するためには、RESLIB が APF 許可されている必要があります。DFSRESLB DD カードが正しいデータ・セットを指し示しており、それらのデータ・セットが APF 許可されていることを確認してください。

MODULE DFSVC000 NOT FOUND - SEE DFSRESLB DD CARD

2次 SCD (DFSVC000) を見つけることができません。ユーティリティーは RC=0012 で終了します。IMS RESLIB には SSCD が入っています。DFSRESLB DD カードが正しいデータ・セットを指し示していることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

MODULE xxxxxxxx NOT FOUND - SEE DFSRESLB DD CARD

xxxxxxx は、更新される SVC モジュールの名前です。IMS タイプ 2 SVC を更新する場合、モジュール名は IGCxxx で、xxx は IMS タイプ 2 SVC 番号です。DBRC タイプ 4 SVC を更新する場合、モジュール名

は IGC00xxx で、xxx は DBRC タイプ 4 SVC の符号付き 10 進 SVC 番号です。ユーティリティーは RC=0016 または RC=0044 で終了します。IMS RESLIB データ・セットには、SVC モジュールが入っている必要があります。DFSRESLB DD カードが正しいデータ・セットを指し示していることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

MVS SVC TABLE ENTRY WAS EMPTY - WTOR REPLY WAS NO

SVC の MVS SVC テーブル・エントリーが空です。このメッセージの前に DFS1886A メッセージが発行されており、オペレーターは、それに「NO」を応答しました。エントリーが空であることをオペレーターが予測していなかった場合、この応答は正しいと推定されます。ユーティリティーは RC=0020 で終了します。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認し、ジョブを再実行依頼してください。これは異常な状態です。ただし、この SVC エントリーが空であることを予期している場合は除きます。この状態が発生した場合は、システム管理者に相談することもできます。

MVS SVC TABLE CONTAINS AN ACTIVE SVC THAT IS NOT AN IMS SVC

MVS SVC テーブル・エントリーに、IMS SVC ではないアクティブ SVC が入っています。ユーティリティーは、何をすべきかを判断できるよう、WTOR メッセージを発行します。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定してあることと、前回の「DFS1886I IMS TYPE 2 SVC NUMBER = xxx」メッセージまたは「DFS1886I DBRC TYPE 4 SVC NUMBER = xxx」メッセージで戻された SVC 番号が正しいことを確認してください。続行を望まない場合は、WTOR メッセージに「NO」を応答してください。続行する場合は、WTOR メッセージに「YES」を応答してください。システム管理者に問い合わせて、正しい処置の取り方を判別してください。

IMS RELEASE LEVELS INCONSISTENT - RESLIB SVC IS AT A LOWER LEVEL THAN CURRENT SVC

MVS SVC テーブル・エントリーは、IMS RESLIB データ・セット内にあるバージョンより新しいバージョンの SVC を指し示しています。ユーティリティーは、何をすべきかを判断できるよう、WTOR メッセージを発行します。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認してください。続行を望まない場合は、WTOR メッセージに「NO」を応答してください。続行する場合は、WTOR メッセージに「YES」を応答してください。システム管理者に問い合わせて、正しい処置の取り方を判別してください。

THERE IS CURRENTLY AN ACTIVE IMS USING THE SAME SVC NUMBER

1つ以上の IMS 制御領域が現在タイプ 2 SVC を実行および参照中です。ユーティリティーは RC=0032 で終了します。現在アクティブ IMS 制御領域を停止するようにスケジュールできるまで待

つ必要があります。その時点で、ジョブを再実行依頼してください。

MVS SVC TABLE UPDATE SERVICES FAILED - RC=xx

MVS SVC 更新サービス (SVCUPDTE) からゼロ以外の戻りコードが戻されました。xxは戻りコードです。戻りコードの説明については、SVCUPDTE マクロを参照してください。

MODULE DSPSVC00 NOT FOUND - SEE DFSRESLB DD CARD

DBRC タイプ 4 SVC 番号が入っているモジュール DSPSVC00 を見つけることができませんでした。ユーティリティは RC=0040 で終了します。IMS RESLIB にモジュール DSPSVC00 が入っています。DFSRESLB DD カードが正しいデータ・セットを指し示していることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

MVS SVC TABLE CONTAINS AN ACTIVE SVC THAT IS NOT A DBRC SVC

MVS SVC テーブル・エントリーに、DBRC SVC ではないアクティブ SVC が入っています。ユーティリティは、何をすべきかを判断できるよう、WTOR メッセージを発行します。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定してあることと、前回の「DFS1886I DBRC TYPE 4 SVC NUMBER = xxx」メッセージで戻された SVC 番号が正しいことを確認してください。続行を望まない場合は、WTOR メッセージに「NO」を応答してください。続行する場合は、WTOR メッセージに「YES」を応答してください。システム管理者に問い合わせ、正しい処置の取り方を判別してください。

INVALID VALUE SPECIFIED FOR SVCTYPE= INPUT PARAMETER

SVCTYPE = 入力パラメーターに無効な値が指定されました。ユーティリティは RC=0056 で終了します。入力パラメーターの問題を解決し、ユーティリティ・ジョブを再実行依頼してください。

関連情報

553 ページの『DFS1886I』
SVC メッセージ

556 ページの『DFS1886A』
SVC メッセージ

DFS1886A SVC メッセージ

説明

次の1つ以上の SVC メッセージが発行される場合があります。オペレーターは、以下に記載の処置を取る必要があります。

MVS SVC TABLE ENTRY = EMPTY - DO YOU WISH TO CONTINUE? (YES or NO)

これは異常な状態です。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認してください。この状態が発生した場合は、システム管理者に相談することもできます。WTOR メッセージに応答する

には、z/OS オペレーター・コンソールから REPLY *xx,yyy* と入力してください。ただし、パラメーターは以下のとおりです。

xx
WTOR 番号。

yyy
文字ストリングの YES または NO。

NO
ユーティリティは RC=0020 で異常終了します。

YES
ユーティリティは続行され、空のエントリーを使用します。

MVS SVC TABLE ENTRY = ACTIVE SVC THAT IS NOT AN IMS SVC - DO YOU WISH TO CONTINUE? (YES OR NO)

MVS SVC テーブル・エントリーに、IMS SVC ではないアクティブ SVC が入っています。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認してください。WTOR メッセージに回答するには、z/OS オペレーター・コンソールから REPLY *xx,yyy* と入力してください。ただし、パラメーターは以下のとおりです。

xx
WTOR 番号。

yyy
文字ストリングの YES または NO。

NO
ユーティリティは RC=0024 で異常終了します。

YES
ユーティリティは続行され、MVS SVC テーブル・エントリーを再利用します。

これは異常な状態です。必要なくなった SVC エントリーを再利用することを予期している場合以外、「NO」を応答してください。正しい処置の方法について、システム管理者に連絡してください。

MVS SVC TABLE ENTRY = IMS SVC AT HIGHER RELEASE THAN RESLIB SVC - DO YOU WISH TO CONTINUE? (YES OR NO)

MVS SVC テーブル・エントリーは、IMS RESLIB データ・セット内にあるバージョンより新しいバージョンの SVC を指し示しています。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認してください。続行を望まない場合は、WTOR メッセージに NO を応答してください。続行する場合は、WTOR メッセージに YES を応答してください。システム管理者に問い合わせ、正しい処置の取り方を判別してください。

WTOR メッセージに回答するには、z/OS オペレーター・コンソールから REPLY *xx,yyy* と入力してく

ださい。ただし、パラメーターは以下のとおりです。

xx
WTOR 番号。

yyy
文字ストリングの YES または NO。

NO
ユーティリティは RC=0028 で異常終了します。

YES
ユーティリティは続行され、古いバージョンの SVC を使用します。

MVS SVC TABLE ENTRY = ACTIVE SVC THAT IS NOT A DBRC SVC - DO YOU WISH TO CONTINUE? (YES OR NO)

MVS SVC テーブル・エンタリーに、DBRC SVC ではないアクティブ SVC が入っています。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認してください。WTOR メッセージに応答するには、z/OS オペレーター・コンソールから REPLY *xxx,yyy* と入力してください。ただし、パラメーターは以下のとおりです。

xx
WTOR 番号。

yyy
文字ストリングの YES または NO。

NO
ユーティリティは RC=0048 で異常終了します。

YES
ユーティリティは続行され、MVS SVC テーブル・エンタリーを再利用します。

これは異常な状態です。必要なくなった SVC エンタリーを再利用することを予期している場合以外、「NO」を応答してください。正しい処置の方法について、システム管理者に連絡してください。

MVS SVC TABLE ENTRY = DBRC SVC AT HIGHER RELEASE THAN RESLIB SVC - DO YOU WISH TO CONTINUE? (YES OR NO)

MVS SVC テーブル・エンタリーは、IMS RESLIB データ・セット内にあるバージョンより新しいバージョンの DBRC SVC を指し示しています。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認してください。続行を望まない場合は、WTOR メッセージに NO を応答してください。続行する場合は、WTOR メッセージに YES を応答してください。システム管理者に問い合わせて、正しい処置の取り方を判別してください。

WTOR メッセージに応答するには、z/OS オペレーター・コンソールから REPLY *xxx,yyy* と入力してください。ただし、パラメーターは以下のとおりです。

xx
WTOR 番号。

yyy
文字ストリングの YES または NO。

NO
ユーティリティは RC=0052 で異常終了します。

YES
ユーティリティは続行され、古いバージョンの SVC を使用します。

DFS1887I **SC=04 DPAGE 塗りつぶし = は EGCS 属性と競合しています**

説明

DPAGE ステートメントの FILL= 指定が原因で、データを含まない EGCS フィールドの端末からエラー指示が発生しました。

システムの処置

処理は続行する

プログラマーの応答

この DFLD には必ず何らかのデータがマップされていることを確認してください。あるいは、DPAGE ステートメントに FILL= PT または NULL を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1888I **SC=04 EGCS フィールドの長さが偶数でない**

説明

一部の装置では、拡張図形文字セット (EGCS) データを偶数バイトにする必要があります。

システムの処置

フィールドの長さは現在として受け入れられ、処理は続行されます。

プログラマーの応答

フィールド長が正しく指定されていること、または EGCS リテラルに正しいバイト数が含まれていることを確認して、ジョブを再実行してください。

DFS1889I **SC=08 EGCS VALUE INVALID, EGCS'F8' USED**

説明

拡張図形文字セット (EGCS) 属性に関して指定されているプログラム式シンボル値が X'hh' として指定され

ておらず、値が X'00' でもなく、X'40' から X'FE' の範囲にもありません。

システムの処置

EGCS'F8' のデフォルト値が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

EGCS 属性を EGCS、EGCS'00' EGCS'hh' として指定してください。なお、'hh' は有効な値 (通常は 'F8') です。ジョブを再実行してください。

DFS1890I SC=08 LINE DENSITY SPECIFICATION IS GREATER THAN 72

説明

SLDI/SLDP に指定されている値が 72 より大でした。

システムの処置

SLDI/SLDP がリセットされ、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

1 から 72 の範囲で SLDI/SLDP の値を指定し、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS1891I SC=08 LINE DENSITY SPECIFICATION EQUAL TO ZERO

説明

SLDI/SLDP に指定されている値がゼロに等しい値でした。

システムの処置

SLDI/SLDP がリセットされ、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

1 から 72 の範囲で SLDI/SLDP の値を指定し、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS1892I SC=04 LINE DENSITY SPECIFICATION IS INVALID BETWEEN DO AND ENDDO

説明

SLDI/SLDP 指定は、DO ステートメントと ENDDO ステートメントの間の DFLD ステートメントでは無効でした。

システムの処置

SLDI/SLDP がリセットされ、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

SLDI/SLDP 指定を DD と ENDDO の間の DFLD ステートメントから除去してください。行密度が必要な場合は、DEV ステートメント、または DD ステートメントの前の DFLD ステートメントを使用する必要があります。

重大度:
4

ドゥフス 1893I SC=08 指定された上部マージンが 1 より小さくなっています

説明

V タブ= キーワードの上部マージンに指定された値が 1 より小さくなっていました。

システムの処置

上部マージンは 1 に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

VTAB= キーワードの上部マージンの値を 1 以上の値に変更し、下部マージンの値より 2 小さい値を変更してください。ジョブを再実行します。

重大度:
8

DFS1894I SC=08 TOP MARGIN IS GREATER THAN 253

説明

VTAB= キーワードで上部マージンに指定された値が 253 より大でした。

システムの処置

上部マージンが 1 に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

VTAB= キーワードの上部マージンの値を 1 から 253 の範囲の値に変更し、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS1895I SC=08 BOTTOM MARGIN IS LESS THAN 3.

説明

VTAB= キーワードで下部マージンに指定された値が 3 より小でした。

システムの処置

下部マージンが PAGE= キーワードの ページ当たり行数に設定され、処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答

VTAB= キーワードの下部マージンの値を 3 から 255 の範囲の値に変更し、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS1896I SC=08 BOTTOM MARGIN IS GREATER THAN PAGE=

説明

VTAB= キーワードで下部マージンに指定された値が、PAGE= キーワードで指定されているページ当たり行数より大でした。下部マージンは、上部マージンより 2 だけ大で、PAGE= 以下である必要があります。

システムの処置

下部マージンが PAGE= 値に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

下部マージン値または PAGE= 値を変更して、下部マージンが PAGE= 値以下になるようにしてください。ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS1897I SC=08 VTAB= 指定され、ページ当たりの行数が 3 より小さい。

説明

VTAB= が指定されたのは、PAGE= キーワードのページ指定あたりの行数が 3 より小さい値である場合です。

システムの処置

下部マージンは、PAGE= 指定のページ当たりの最大行数に設定され、処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答

VTAB= キーワードの下部マージンの値を 3 から 255 までの値に変更し、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS1898I SC=08 下部マージンが最大垂直タブ・ストップ数より小さい。

説明

下部マージンが、指定された最大垂直タブ (VT) より小さくなっていました。

システムの処置

(VT) はゼロに設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

下部マージンが最大 VT= 指定以上になるように、VTAB= キーワードまたは VT= (,,) 値の中の下部マージン値を変更してください。下部マージンが指定されていない場合は、PAGE= ページ当たりの行数の値を変更する必要がある場合があります。

重大度:
8

DFS1899I SC=08 TOP MARGIN IS EQUAL TO OR GREATER THAN LOWEST NONZERO VERTICAL TAB STOP

説明

上部マージンが、ゼロ以外の最低 (VT) での指定と等しいか、それよりも大でした。

システムの処置

(VT) がゼロに設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

VTAB= キーワードの上部マージン値、または VT= 指定を変更して、上部マージンがゼロ以外のすべての VT= 指定より小さくなるようにしてください。

重大度:
8

DFS1900I

SC=08 DUPLICATE VERTICAL TAB
STOP(S) SET TO ZERO

説明

VT= キーワードのタブ・ストップ値は異なっているか、VTAB= が指定されている場合は、ゼロである必要があります。

システムの処置

繰り返し出現するタブ・ストップ値はゼロに設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

ゼロ以外の垂直タブは固有である必要があります。重複するゼロ以外の垂直タブを、上部マージンと下部マージンの間の固有値に変更し、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

第 42 章 DFS メッセージ DFS1901I - DFS1950

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1901I **SC=08 TOP MARGIN IS NOT TWO
LESS THAN BOTTOM MARGIN**

説明

VTAB= キーワードで指定されている上部マージンが、下部マージンより 2 だけ小ではありませんでした。

システムの処置

上部マージンが 1 に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

VTAB= キーワードで上部マージンまたは下部マージンを変更して、上部マージン + 1 が下部マージンより小になるようにしてください。

重大度:
8

DFS1902I **SC=08 WIDTH SPECIFIED IN
FEAT= AND WIDTH= INVALID**

説明

DEV ステートメントの FEAT= キーワードと WIDTH= キーワードの両方で、幅の値の指定が無効です。

システムの処置

WIDTH= キーワードは無視されます。

プログラマーの応答

DEV ステートメントは、以下のいずれかの値による有効な指定に訂正する必要があります。

- FEAT=120、126、または 132 で、WIDTH= は指定しない
- FEAT=1 から 10、WIDTH=nnn

その後でジョブを再実行します。

重大度:
8

DFS1903I **SC=08 (キーワード=,keyword=) キーワードは MUTUALLY EXCLUSIVE になっています。**

説明

DEV ステートメントに指定された 2 つの識別キーワードは、相互に排他的です。

システムの処置

最初のキーワードが受け入れられ、2 番目のキーワードは無視されます。処理は次のキーワードから続行されます。

プログラマーの応答

識別された 2 つのキーワードのうちの 1 つだけを再指定して、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS1904I **SC=04 (keyword=) SPECIFIED
WITH NULL VALUE**

説明

表示されているキーワードは、値なしで指定されました。

システムの処置

示されたキーワードは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

識別されているキーワードを指定し、ジョブを再実行してください。

重大度:
4

DFS1905I **SC=08 (SLDI/SLDP=) nn
TRUNCATED TO LAST 2 DIGITS**

説明

SLDI= または SLDP= キーワードで指定された値は、長さが 2 桁より大です。

システムの処置

行密度設定 (SLD) 指定の末尾の 2 桁が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

1 桁または 2 桁の SLD 値を再指定し、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS1906I SC=08 VTAB= TOP MARGIN VALUE TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明

DEV ステートメントの VTAB= 上部マージン値が 3 桁を超えていました。

システムの処置

上部マージン値の末尾の 3 桁が使用されます。左端の何桁かが切り捨てられ、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答

識別されているキーワードを再指定し、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS1907I SC=04 NULL TOP MARGIN VALUE WILL BE SET TO 1, THE DEFAULT VALUE

説明

VTAB= が上部マージンの指定なしで指定され、デフォルト値の 1 が使用されます。

システムの処置

上部マージン値は 1 に設定され、処理は続行されます。

プログラマーの応答

上部マージン値を再指定し、ジョブを再実行してください。

重大度:
4

DFS1908I SC=08 VTAB= BOTTOM MARGIN VALUE TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明

下部マージン値が 3 桁を超えていました。

システムの処置

下部マージン値が末尾の 3 桁に設定され、処理は続行されます。

プログラマーの応答

下部マージン値が 3 桁を超えないように指定し、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS1909I SC=04 NULL BOTTOM MARGIN VALUE WILL BE SET TO MAXIMUM PAGE VALUE

説明

VTAB= が下部マージン値なしで指定されました。

システムの処置

下部マージンが PAGE= 指定の ページあたり最大行数に設定されています。

プログラマーの応答

VTAB= 上部マージン値を再指定し、ジョブを再実行してください。

問題判別

ありません。

重大度:
4

DFS1910I SC=08 WIDTH= FEAT= IGNORE = 無視するか、または FEAT= が指定されていない場合は、指定

説明

FEAT= IGNORE が指定されたか、FEAT= が指定されていないときに、WIDTH= が指定されました。

システムの処置

WIDTH= 値は無視されます。デフォルトの幅 120 が使用され、処理は続行されます。

プログラマーの応答

有効な組み合わせの WIDTH= 値と FEAT= 値を指定して DEV ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS1911I SC=08 VERTICAL TAB STOP EXCEEDS PAGE LENGTH. TAB STOP SET TO ZERO

説明

DEV ステートメント VT= 指定がページ長さを超えていました。この指定は PAGE= 指定以下である必要があります。

システムの処置

指定されている値がゼロにリセットされ、処理は続行されます。

プログラマーの応答

エラーの垂直タブ・ストップを指定し、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS1912I SC=08 VTAB= BOTTOM MARGIN VALUE EXCEEDS 255, THE MAXIMUM PAGE= VALUE

説明

DEV ステートメント VTAB= 指定は、下部マージン値が 255 より大です。

システムの処置

下部マージンが PAGE= 指定の ページあたり最大行数にリセットされ、処理は続行されます。

プログラマーの応答

下部マージン値を変更し、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS1913I * FPBP64aa = b の場合は、デフォルト値として設定されます *

説明

DFSDFXXX メンバーに、<SECTION=FASTPATH> (イムス 高速機能 64 ビット・バッファ・マネージャーを使用可能にする) で高速機能パラメーター FPBP64=Y が含まれている場合、イムスはこのメッセージを出すことがあります。

メッセージ・テキストの中で、

aa

特定の機能。有効な値は、FPBP64、FPBP64M、FPBP64C、FPBP64D、FPBP64E、FPBP64E、

FPBP64SR、FPBP64MIN、SDEPEXP、SDEPFREQ、または SDEPTEXE です。

b

以下の値のいずれか。

- Y
- N
- FPBP64M のストレージ・サイズ
- SDEPEXP の最大経過時間 (分)
- SDEPFREQ の検査の間隔 (分)
- SDEPTIME の時刻

このメッセージは、DFSDFxxx メンバーに指定されていない場合に、デフォルト・パラメーターをエコー出力します。

このメッセージには複数行が含まれている 指定されたすべての高速機能パラメーターが、後続の DFS1913I メッセージに表示されます。このメッセージの出力は、以下の例のようになります。

```
DFS1913I * FPBP64C = Y、デフォルト値 * SYS3
DFS1913I * FPBP64D = Yとして設定されます。デフォルト
値 * SYS3 DFS1913I * SDEPAUTO = Nとして設定されま
す。デフォルト値 * IMS1 DFS1913I * SDEPEXP = 00120
分、デフォルト * IMS1 DFS1913I * SDEPFREQ = 01440
分に設定され、デフォルト値 * IMS1 DFS1913I * SDEPTIME
= 2300 がデフォルト値 * IMS1 として設定されます。
```

システムの処置:
処理は続行する

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFFATC1

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクション \(システム定義 \)](#)

DFS1914I INQUIRE ERROR NODE x RTNFBK y SENSE z

説明

NODE x に関するログオン時のセッション・パラメーターに関する INQUIRE が失敗しました。試行されたセッション開始が終了しました。VTAM が、センス情報 (z) を失敗の理由として、戻りコードおよびフィードバック (y) を出しました。

システムの処置

システムは続行します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに問い合わせてください。

プログラマーの応答

NODE x のモード・テーブルの BIND パラメーターで正しいかを調べ、VTAM 戻りコードおよびセンス情報でリカバリー処置が行われるかを調べてください。NODE x に関するセッションの開始を再度試みてください。

問題判別:

1、5、6、12、14、2

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1915I UNSUPPORTED SCIP EXIT/VTAM ERROR

説明

VTAM が、無効のコマンドまたは無効なパラメーター・リストを使用して、IMS SCIP 出口を駆動します。

システムの処置

IMS は、SCIP 出口に VTAM が入ることをリジェクトし、エラー・コードを伴って VTAM に戻りました。IMS は続行されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

VTAM 定義にある可能性のある不整合を調べて、訂正してください。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1916I hh:mm:ss ATTEMPT TO START SECONDARY SESSION BUT WAS PRIMARY NODE xxx ims-id

説明

NODE xxx とのセッションを 2 次側ハーフセッションとして開始する試みの結果、エラーが発生し、試行が終了しました。1 次ハーフセッションとして開始された、NODE xxx との直前のセッションは、異常終了しました。

システムの処置

IMS が、2 次側としてセッションを開始する試みをリジェクトしました。IMS は続行されます。

オペレーターの応答:

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

セッション開始プロセスを調べ、直前のセッションの失敗の原因を判別してください。プロシーチャーを訂正し、セッション開始を再度試みてください。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1917I INVALID CID

説明

VTAM が無効の制御インターバル定義 (CID) を使用したか、または IMS 制御ブロック内の CID がオーバーレイしていました。セッションの開始のための NODE 名が検出されませんでした。

システムの処置

IMS は、IMS 出口の 1 つに VTAM が入ることをリジェクトし、エラー・コードを伴って VTAM に戻りました。IMS は続行されます。

オペレーターの応答:

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

VTAM に操作問題があるかどうか判別してください。可能な場合は、IMS CLB 制御ブロックのスナップ・メモリー・ダンプを作成して、そのいずれかにオーバーレイしているものがあるかどうか判別してください。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1918A DFSURDBO CANNOT PROCESS CONCATENATED INPUT DATA SETS FOR DD DFSUCUM

説明

リカバリー・ユーティリティー DFSURDB0 のアーキテクチャーでは、DFSUCUM DD ステートメントを使用して連結ファイルを入力として使用することはできません。

システムの処置

このメッセージが出された後で、処理は、戻りコード 8 を出して終了します。

プログラマーの応答

ユーティリティーに関する個々のジョブを、それぞれデータ・セット 1 つだけを DFSUCUM DD 入力としてサブミットしてください。

```
DFS1919I      * IMSFP DFSDFxxx PARAMETERS
                FROM <SECTION=FASTPATH>*
```

```
:
* aa = b      *
```

説明

IMS は、DFSDFxxx メンバーが <SECTION=FASTPATH> に高速機能パラメーターを含んでいるときに、このメッセージを出します。

このメッセージは複数行です。指定されたすべての高速機能パラメーターは、後続する DFS1919I メッセージ (複数) に表示されます。

Common Service Layer (CSL) が使用されない場合、メッセージには <SECTION=FASTPATH> の ACBSHR 値 (Y または N) も示されます。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

aa

特定の機能。有効な値は、FPBP64、FPBP64M、FPBP64C、FPBP64E、FPBP64D、FPBP64SR、FPBP64MIN、FPBP6HOFF、ACBSHR、SDEPAUTO、SDEPEXP、SDEPFREQ、または SDEPTIME です。

b

次のいずれかの値です。

- Y
- N
- FPBP64M のストレージ・サイズ
- SDEPAUTO についての N、T、または F
- SDEPEXP の最大存続期間
- SDEPFREQ の確認間隔の分数
- SDEPTIME の時刻

このメッセージの出力は、以下の例のようになります。

```
DFS1919I *      DEF_NBA =
```

```
nnnn
DFS1919I *      DEF_OBA =
nnnn
* SYS3
* SYS3
```

```
DFS1919I * IMSFP DFSDFSLS PARAMETERS FROM
<SECTION=FASTPATH>* SYS3
DFS1919I *      FPBP64 =
Y
* SYS3
DFS1919I *      FPBP64M =
06400000
* SYS3
DFS1919I *      ACBSHR =
Y
* SYS3
DFS1919I *      SDEPAUTO =
T
* SYS3
DFS1919I *      SDEPEXP = 25530
MINUTES
* SYS3
DFS1919I *      SDEPTIME =
1030
* SYS3
```

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFFATC1

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクション \(システム定義\)](#)

```
DFS1920I      PARAMETER VALUE INVALID,
                xxxxxxxx=yyyyyyyyzzzzz
```

説明

無効なパラメーターが見つかりました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

パラメーター・キーワード (最初の 8 文字)

yyyyyyyy

パラメーター値 (最初の 8 文字)

zzzzz

このパラメーター値が無効のため、初期設定中に異常終了 0083 が生じる場合は、ABEND

IMS 実行パラメーターは、JCL で指定するか、あるいは DFSFPBxxx メンバーまたは DFSDCxxx メンバーで指定できます。JCL 指定のパラメーターが、DFSFPBxxx または DFSDCxxx で指定されたパラメーターをいずれもオーバーライドして、結果的に最終実行パラメーターになります。メッセージ DFS1920I が出る結果になるのは、最終パラメーターの値がシステム定義要件に適合しないときです。

一部のパラメーターでは、このエラーのため、すべての最終パラメーターの評価後に、異常終了 0083 が生じ

る結果になる場合があります。値 zzzzz=ABEND で、リカバリー不能エラーのパラメーターを識別します。

システムの処置

ABEND が少なくとも 1 つの DFS1920I メッセージで表示されると、結果的にユーザー異常終了 0083 が生じます。異常終了が生じない場合は、DFS1920I で識別されているすべてのパラメーターは、そのデフォルト値を受信します。

プログラマーの応答

システムでデフォルト値を使用して操作を続ける必要があるか判断してください。その必要がなければ、IMS をシャットダウンし、訂正された値を使用して、システムを再実行してください。

モジュール:

DFSIIIDCO

関連情報

IMS 異常終了 0083

DFS1921I **PARAMETER KEYWORD INVALID,**
xxxxxxxxx=yyyyyyyy

説明

無効なキーワードが見つかりました。メッセージ・テキストで、変数とそのそれぞれの意味は、次のとおりです。

xxxxxxxxx

パラメーター・キーワード (最初の 8 文字)

yyyyyyyy

パラメーター値 (最初の 8 文字)

IMS 実行パラメーターが、JCL によって、または DFSPBxxx および DFSDCxxx メンバーを使用して指定できます。DFSPBxxx、DFSDCxxx、または JCL で指定されたパラメーターに無効のキーワードがあると、その結果として、メッセージ DFS1921I が出ます。例えば、キーワードが無効になるのは、つづりの誤りである場合もあれば、開始される IMS 制御領域のタイプには無効である場合もあります。

DFSPBxxx メンバーが、レコードの 80 列すべてを使用している可能性があります。パラメーター名が 1 列目から開始している場合は、73 から 80 列目にはシーケンス番号が入らないようにしてください。

システムの処置

システムは続行します。

プログラマーの応答

正しく指定されていなかった、そして無視されたパラメーターの使用後、システムが操作を続ける必要がある

か判断してください。必要な場合は、IMS をシャットダウンし、エラーのパラメーターを訂正してください。

DFS1922I **GSAM OPEN OF DD xxxxxx FAILED,**
REASON CODE=reason

説明

GSAM データ・セット xxxxxx を開く試みが、次のいずれかの理由で失敗しました。

X'20'

MVS OPEN 呼び出しが失敗した。

X'24'

特定の連結データ・セットに対する OPEN 呼び出しが失敗した。連結内で欠落データ・セットがある可能性が大きい。

X'28'

データ・セットの DSCB の OBTAIN が失敗した。データ・セットが適切に割り振られているか確認してください。

X'2C'

連結データ・セットの DSCB の OBTAIN が失敗した。データ・セットが適切に割り振られているか確認してください。

X'30'

固定データ・セットのブロック・サイズがゼロ。データ・セットが適切に割り振られているか確認してください。

X'34'

固定データ・セットの論理レコード長がゼロ。データ・セットが適切に割り振られているか確認してください。

X'38'

固定データ・セットのブロック・サイズが、論理レコード長の倍数ではない。ブロック・サイズが論理レコード長の倍数になるように、ブロック・サイズまたは論理レコード長を変更してください。

X'3C'

ダミー・データ・セットに対する以前の呼び出しがエラーを検出した。データ・セットは開けません。

X'40'

ストライプ・データ・セットを開く試みがなされたが、DFSMS リリース・レベルが DFSMS 1.2.0 以降ではない。

X'44'

ボリューム番号が JFCBNVOL に存在しない。

X'48'

UCB の現行ボリューム通し番号が JFCBVOLS と一致しない。

問題判別:

1、3、17a、18

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS1924 KEYWORD RESOURCE NOT
 DEFINED**

説明

キーワード・リソースが IMS システムに関して定義されていないとき、特定のリソースを要求するコマンドが入力されました。

オペレーターの応答

コマンドを訂正してください。

プログラマーの応答

IMS 生成のシステムに対してキーワード・リソースをチェックして、リソースがインストールされているか判別してください。

**DFS1925 CONVERSATION RESOURCE NOT
 DEFINED**

説明

IMS システムで定義されていない会話リソースからの情報を要求するコマンドが入力されました。

オペレーターの応答

コマンドを訂正してください。

プログラマーの応答

TRANSACT および SPAREA マクロ定義に会話リソースがあるかチェックしてください。

**DFS1927 UNABLE TO PROCESS SHARED
 EMH DUE TO LTERM
 REGISTRATION FAILURE**

説明

共用 EMH (急送メッセージ・ハンドラー) を使用して入力メッセージを処理している最中に、高速機能が CQS への LTERM インタレストの登録を試みました。しかし、その LTERM 登録は失敗しました。

システムの処置

メッセージは無視されます。

プログラマーの応答

これは一時的な問題です。問題が持続して発生する場合は、X'67D0'、サブタイプ X'DOOD' ログ・レコードを

印刷して、登録の失敗に関する戻りコードおよび理由コードを識別してください。

モジュール:
DBFHIELO

**DFS1928 DBRC RETURNED A ZERO LENGTH
 MESSAGE, CANNOT PROCESS
 COMMAND**

説明

/RMxxxxxx コマンド・プロセッサによってサブミットされた DBRC 要求が、長さゼロのメッセージを戻しました。

システムの処置

/RMxxxxxx コマンドはリジェクトされます。IMS はこのメッセージを出し、実行を継続します。

プログラマーの応答

DBRC 障害の理由を判別してください。この条件の原因を説明する DSP メッセージについては、z/OS マスター・コンソール (SYSLOG) を参照してください。

問題判別:

1、6、36、40、41

モジュール:
DFSICLWO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS1929I IMS SYSTEM PARAMETERS
 init_activ FOR THIS V nn.n crt
 EXECUTION:
 * parameter ***

説明

IMS がこれらのメッセージを出すのは、IMS 制御領域の初期設定が完了したとき、および IMS 制御領域の再始動が完了したときです。IMS 初期設定が完了すると、DFSPBxxx からのアクティブな初期 IMS システム・パラメーター、および EXEC パラメーターが、このメッセージに表示されます。初期設定後に表示される IMS システム・パラメーターは、オンライン実行時に使用される実際の値を反映しない可能性があります。しかし、IMS 再始動の完了後に DFS1929I が発行される場合、オンライン実行時に使用される実際の値を表示します。

IMS 制御領域の初期設定の完了時に発行されるメッセージ・ヘッダーには、キーワード INITIAL が入っています。IMS 再始動の完了時に発行されるメッセージ・ヘッダーには、キーワード ACTIVE が入っています。

高速機能がアクティブでない (FP=N) 場合、高速機能パラメーターは抑止されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

init_activ

次のいずれかです。

INITIAL (初期設定中にメッセージが発行される場合)

ACTIVE (再始動中にメッセージが発行される場合)

nn.n

IMS バージョン番号 (10.1 など)

crt

制御領域のタイプ (DBDC、DBCTL、DCCTL、FDBR など)

メッセージ・テキストでは、parameters は IMS システム・パラメーターです。メッセージ DFS1929I の例は次のとおりです。

```
DFS1929I * IMS SYSTEM PARAMETERS ACTIVE FOR
THIS V10.1 DBDC EXECUTION:
DFS1929I *   ALOT       =
1440
DFS1929I *   AOIP       =
2147483647
DFS1929I *   AOIS       =
N
DFS1929I *   AOI1       =
DFS1929I *   APPC       =
N
DFS1929I *   APPCSE     =
F
DFS1929I *   APPLID1    =
DFS1929I *   APPLID2    =
DFS1929I *   APPLID3    =
APPL7
.
.
DFS1929I *   TCORACF    =
N
DFS1929I *   SVSODR     =
NONE
DFS1929I *   TRACK      =
NO
DFS1929I *   TRN        =
DFS1929I *   TSR        =
L
DFS1929I *   UHTS       =
256
DFS1929I *   USERVAR    =
IMS1
DFS1929I *   VAUT       =
1
DFS1929I *   VSPEC      =
91
DFS1929I *   WADS       =
S
DFS1929I *   WKAP       =
40960
DFS1929I *   YEAR4      =
N
```

システムの処置

処理は続行されます。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSSDSPO

```
DFS1930I      INVALID COMMAND DETECTED IN
PROCLIB MEMBER xxxxxxxx.
RESTART PROCEEDS.
```

説明

IMS 制御領域初期設定中に、メンバー xxxxxxxx の 1 から 5 桁目に START 以外の文字が含まれていました。メンバー xxxxxxxx は、制御領域始動パラメーターの &DLINM または &DBRCNM のいずれかです。このメッセージは、メッセージ DFS0578I の後に続きます。

システムの処置

メンバーは廃棄されます。制御領域は、必要に応じてプロシージャー &DLINM または &DBRCNM の MVS START コマンドで、DBRC と DLISAS のいずれかの開始を試みます。

オペレーターの応答

制御領域の PROCLIB 連結にあるライブラリーが正しくセットアップされているか、システム・プログラマーに検証を依頼してください。

関連情報

[210 ページの『DFS0578I』](#)

```
READ SUCCESSFUL FOR DDNAME xxxxxxxx
MEMBER yyyyyyyy
```

```
DFS1931I      SESSION RECOVERY IN
PROGRESS NODE x USER z,
UNBIND CODE WAS yy
```

説明

VTAM がセッションを終了し、UNBIND コード yy が示されました。NODE x、USER z に関して、自動セッション再始動が試みられています。

システムの処置

システムは続行します。

オペレーターの応答:

このメッセージが NODE x に関して頻繁に表示されるのでない限り、処置は必要ありませんが、頻繁に表示される場合は、UNBIND コードを調べて、可能性のあるネットワーク・エラーを訂正する必要があるかどうか、ま

たは異なるモード・テーブル・エントリーおよび COS リストを使用してセッション開始を行う必要があるかどうか判別してください。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS1932 CONVERSATION IN PROGRESS -
 CANNOT PROCESS COMMAND.**

説明

会話型トランザクションの進行中に、**/DISPLAY、/RDISPLAY、**または**/FORMAT** コマンドが入力されました。これらのコマンドで生成される待機出力は、端末またはノードが会話モードにある間は、送信できません。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

会話は、コマンドが受け入れられる前に、アプリケーションまたは端末オペレーター (**/EXIT**) によって終了する必要があります。

**DFS1933I REGION INITIALIZATION
 TERMINATED - THIS ADDRESS
 SPACE CURRENTLY HAS AN
 ACTIVE IMS IMAGE**

説明

IMS 領域初期設定が、アドレス・スペース での 2 番目の IMS イメージの開始に関する要求をリジェクトしました。IMS イメージは、BMP、MPP、IFP、DBB、または DLI 領域として定義されます。

システムの処置

2 番目の IMS イメージに関する z/OS ジョブは終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。最初の IMS イメージは、影響を受けることなく、実行を継続します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

このメッセージの目的は、IMS の体系的制約 (アドレス・スペースに IMS イメージが 1 つのみ) をシステム・プログラマーに通知することにあります。2 番目のイメージをサブミットした担当者に連絡し、これが現在

はサポートされていないフィーチャーであることを知らせてください。

問題判別

ありません。これは IMS の体系的制約の 1 つです。

**DFS1934E モジュールのロードに失敗 モジ
 ール名 エラー CODE=xxxxxxxx.**

説明

イムス がモジュールをロードするために IMODULE LOAD マクロを出しましたが、ロードが失敗しました。

メッセージ・テキストの中で、

モジュール

ロードを発行したモジュール

モジュール名

ロードできなかったモジュールの名前

XXXXXXXX

戻されたエラー・コード

システムの処置

イムス 処理を続行します

出力宛先

システム・コンソール

システム・プログラマーの応答

IMODULE 戻りコード情報を参照してください。問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSLOAD0、DFSDFN00、DFSAINBO

関連資料

IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

**DFS1935E UNABLE TO TERMINATE
 FUNCTIONS FOR CQS
 COMMUNICATION -
 FUNCTION=failing_function,
 RETURN CODE=xxxxxxxx, REASON
 CODE=yyyyyyyy**

または

**UNABLE TO TERMINATE FUNCTIONS FOR CQS
COMMUNICATION - FUNCTION=CQSDISC
STRUCTURE=cccc, COMPCODE=zzzzzzzz**

または

**UNABLE TO TERMINATE FUNCTIONS FOR CQS
COMMUNICATION - FUNCTION=CQSDISC
STRUCTURE=cccc, COMPCODE=ZZZZZZZZ
STRUCTURE=cccc, COMPCODE=ZZZZZZZZ**

**RETURN CODE=xxxxxxxx, REASON
CODE=yyyyyyyyy**

説明

IMS が、CQS 通信に必要な機能の終了を試みている最中に、エラーを検出しました。

最初の形式のメッセージが出されるのは、完了コードが戻されない場合です。

2 番目の形式のメッセージが出されるのは、機能が CQSDISC であるか、1 つの構造のみ (MSGQ または EMHQ) がエラーであるか、ゼロ以外の完了コードが戻された場合です。

3 番目の形式のメッセージが出されるのは、機能が CQSDISC であるか、MSGQ と EMHQ の両構造がエラーであるか、ゼロ以外の完了コードが出された場合です。

failing_function

失敗した機能要求:

CQSDISC

1 つ以上のカップリング・ファシリティ構造への IMS 接続を終了する要求が失敗しました。

CQSDEREG

CQS からの IMS 登録抹消要求が失敗しました。

xxxxxxxx

障害が起こっている機能からの戻りコード。

yyyyyyyy

障害が起こっている機能からの理由コード。

cccc

MSGQ または EMHQ

ZZZZZZZZ

CQSCONN 要求からの完了コード。

システムの処置

IMS 処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

戻りコードおよび理由コードは、IBM サポート担当員のみ提供されます。問題を IBM ソフトウェア・サポートに報告してください。

モジュール:

DFSSQ040

関連概念

[CQS クライアント要求 \(システム・プログラミング API\)](#)

**DFS1936E UNABLE TO IDENTIFY THE IMS
CONTROL REGION TO CQS AS A
CLIENT -
FUNCTION=failing_function,**

または

**UNABLE TO IDENTIFY THE IMS CONTROL REGION
TO CQS AS A CLIENT - FUNCTION=CQSCONN,
STRUCTURE=cccc, COMPCODE=ZZZZZZZZ**

または

**UNABLE TO IDENTIFY THE IMS CONTROL REGION
TO CQS AS A CLIENT - FUNCTION=CQSCONN,
STRUCTURE=cccc, COMPCODE=ZZZZZZZZ
STRUCTURE=cccc, COMPCODE=ZZZZZZZZ**

説明

カップリング・ファシリティ上の共用キューを使用するクライアントとして、IMS 制御領域を CQS に対して識別しようと試みている最中に、エラーが発生しました。

最初の形式のメッセージが出されるのは、完了コードが戻されない場合です。

2 番目の形式のメッセージが出されるのは、機能が CQSCONN であるか、1 つの構造のみ (MSGQ または EMHQ) がエラーであるか、ゼロ以外の完了コードが戻された場合です。

3 番目の形式のメッセージが出されるのは、機能が CQSCONN であるか、MSGQ と EMHQ の両構造がエラーであるか、ゼロ以外の完了コードが出された場合です。

failing_function

失敗した機能要求:

IMODULE GETMAIN

作業域を取得する要求が失敗しました。

IMODULE LOAD

モジュールをロードする要求が失敗しました。

CQSREG

IMS を CQS に対して登録する要求が失敗しました。

CQSCONN

1 つ以上のカップリング・ファシリティ構造に IMS を接続する要求が失敗しました。

CQS MSGQ STR ATR

MSGQ 構造の WAITRBLD 値が正しくありません。

CQS EMHQ STR ATR

EMHQ 構造の WAITRBLD 値が正しくありません。

JOIN XCF GROUP

XCF 結合データ・セットに関して指定された MAXGROUP 値が小さすぎます。

XXXXXXXX

障害が起こっている機能からの戻りコード。

- IMODULE GETMAIN または IMODULE LOAD の戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。
- CQSREG および CQSCONN 戻りコードの説明については、[CQSREG 要求 \(システム・プログラミング API\)](#) および [CQSCONN 要求 \(システム・プログラミング API\)](#) を参照してください。
- CQS MSGQ STR ATR または CQS EMHQ STR ATR 戻りコードの説明については、理由コード yyyyyyyy を参照してください。これらの機能に関する理由コードと戻りコードは同じです。

yyyyyyyy

障害が起こっている機能からの理由コード:

- 障害が起こっている機能が IMODULE GETMAIN の場合、理由コードは次のいずれかです。

X'00001002'

DFSSQM 割り振りが失敗しました。

X'00001004'

SQ1 AWE 割り振りが失敗しました。

X'00001005'

SQ2 AWE 割り振りが失敗しました。

- 障害が起こっている機能が IMODULE LOAD の場合、理由コードは次のとおりです。

X'00001006'

DFSSQ010 ロードが失敗しました。

- 障害が起こっている機能が CQSREG のときは、CQSREG マクロからの理由コードです。
- 障害が起こっている機能が CQSCONN のときは、CQSCONN マクロからの理由コードです。
- 障害が起こっている機能が CQS MSGQ STR ATR の場合、理由コードは次のとおりです。

X'00000106'

MSGQ 構造の WAITRBLD 値に誤りがあります。このエラーが発生したときは、構造を強制クローズし、再作成してからでないと、IMS が立ち上がらない可能性があります。

- 障害が起こっている機能が CQS EMHQ STR ATR の場合、理由コードは次のとおりです。

X'00000107'

EMHQ 構造の WAITRBLD 値に誤りがあります。このエラーが発生したときは、構造を強制クローズし、再作成してからでないと、IMS が立ち上がらない可能性があります。

- 障害が起こっている機能が JOIN XCF GROUP の場合、理由コードは次のとおりです。

X'00000000'

XCF 結合データ・セットに関して指定された MAXGROUP 値が小さすぎます。このエラーが発生したときは、MAXGROUP キーワードで指定されている値を大きくする必要がある可能性があります。

cccc

MSGQ または EMHQ

zzzzzzzz

CQSCONN 要求からの完了コード。

システムの処置

IMS 初期設定は終了し、異常終了コード 0071 が示されます。

システム・プログラマーの応答

MSGQ または EMHQ 構造の WAITRBLD 値に誤りがある場合は、CQS を通して構造に接続されるアドレス・スペースを判別してください。IBM 以外の制御領域クライアントすべてを切断してください。IMS 制御領域がシプレックス内の構造への初期接続を行うように、IMS を再始動してください。それから、IMS 以外のクライアントを再接続してください。

他のすべての機能に関する戻りコードおよび理由コードは、IBM サポート担当員のみを提供されます。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSSQ020

関連資料

[CQSREG 要求 \(システム・プログラミング API\)](#)

[CQSCONN 要求 \(システム・プログラミング API\)](#)

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0071](#)

DF51937I

USER EXIT DFSxxxx0 LOADED

説明

メッセージ内で指定されたセキュリティー出口ルーチンがロードされています。RACF もアクティブな場合、RACF は出口ルーチンの前に呼び出されます。xxxx0 は、DFSCSGNO、DFSCTRNO、または DFSCTSEO のいずれかです。

システムの処置

どの出口ルーチンがロードされるかによって、サインオンまたはトランザクション・セキュリティーのための出口ルーチンが呼び出されます。

問題判別

1、6、37、およびログ・レコード・タイプ X'67D0' のコピー

モジュール:
DFSSQI00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1940I **RECORDS SKIPPED FOR DBD =**
xxxxxxx DDN= xxxxxxx FROM
TIME = yyddhhmmsst TO TIME =
yyddhhmmsst COUNT =
ccccccccc

説明

データベース・リカバリー・ユーティリティーの入力ログには、データベース変更レコードが、そのデータベース・セットに対する更新がタイム・スタンプ・リカバリーによって無効にされた期間、組み込まれています。ユーティリティーは、その変更レコードを無視します。FROM TIME は、こうしてスキップされたレコードの最も早期のものからのタイム・スタンプです。TO TIME は、スキップされたレコードの最新のものからのタイム・スタンプです。COUNT は、この範囲でスキップされたレコードの総数です。

システムの処置

処理は続行されます。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSURDBO

DFS1941I **STOPPED PROCESSING LOG**
WHEN TIME = yyddhhmmsst
ENCOUNTERED

説明

データベース・リカバリー・ユーティリティーは、リカバリーが行われる時点の先でデータベース変更レコードを検出すると、入力ログの読み取りを停止しました。メッセージに示されている TIME は、ユーティリティーが使用しなかった最初のデータベース変更レコードからのタイム・スタンプです。これは、部分リカバリーでは正常です。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール:
DFSURDBO

DFS1942 **DATA COMMUNICATIONS**
QMGR/CQS READ ERROR LINK xx

説明

データ通信 QMGR または CQS 読み取り (GU/GN) プロセス中に、エラーが検出されました。

システムの処置

MSC リンクに関するメッセージの処理中にエラーが発生した場合は、宛先 (例えば、MSNAME または REMOTE TRANSACTION) は停止され、6701-MER1 レコードがログ・データ・セットに書き込まれます。

MSC /MSVERIFY コマンドの処理中にエラーが発生した場合は、コマンドは強制終了され、6701-CMT1 /CMT2 /CMT3 /CMT4 レコードがログ・データ・セットに書き込まれます。

システム定義端末の場合は、通信 (例えば、VTAM セッション) が終了します。

ETO 端末の場合は、ユーザーはサインオフします。エラーに関係のある情報が含まれる、X'67D0' ログ・レコードが作成されます。

/DEQUEUE コマンドの場合は、コマンドがリジェクトされます。メッセージはデキューされませんでした。

システム・コンソールの場合は、端末が停止されます。

オペレーターの応答

セッションを再確立するか、プログラマーの応答で説明されているようにサインオンしてください。エラーが訂正されたら、/DISPLAY STATUS MSNAME および /DISPLAY TRANSACTION または QUERY TRAN コマンドを発行して、停止された宛先を判別してください。宛先に STOPPED、QERROR が表示されます。/START コマンドを使用して、宛先を開始してください。

/MSVERIFY コマンドの処理中にエラーが発生した場合は、MSVERIFY コマンドを再発行してください。

このメッセージが /DEQUEUE コマンドの結果である場合は、CQS または構造が再度使用可能になった時点で、/DEQUEUE コマンドを再入力してください。

停止された端末がシステム・コンソールである場合は、後続の IMS コマンドを発行することで、停止状況がリセットされます。

プログラマーの応答

DFSERA10 プログラムを使用して 6701 レコードを印刷することで、エラーを分離できます。問題が訂正されたら、セッションを再確立するか、または、必要に応

じて Node x、IMS /OPNDST コマンド、または DFS3649A サインオン・メッセージに対する応答によって、サインオンしてください。

問題判別:

1、5、6、12、14、15、36

モジュール:

DFSICIO0、DFSICLJO

関連情報

1062 ページの『DFS3649A』

/SIGN COMMAND REQUIRED.

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1943

**CQS OUTPUT QUEUE
REGISTRATION ERROR**

説明

端末ログオンまたはユーザー・サインオンに関連した、1つ以上の出力メッセージ・キュー (LTERM) にインタレストを登録するためのログオンまたはサインオン CQS INFORM 中に、エラーが発生しました。

システムの処置

システム定義端末の場合は、通信 (例えば、VTAM セッション) が終了します。ETO 端末の場合は、ユーザーはサインオフします。エラーに関係のある情報が含まれる、X'67D0' ログ・レコードが作成されます。

オペレーターの応答:

セッションを再確立するか、プログラマーの応答で説明されているようにサインオンしてください。

プログラマーの応答

問題が訂正されたら、セッションを再確立するか、または、必要に応じて Node x、IMS /OPNDST コマンド、または DFS3649A サインオン・メッセージに対する応答によって、サインオンしてください。

問題判別:

1、5、6、12、14、15、36

モジュール:

DFSCMS00

関連情報

1062 ページの『DFS3649A』

/SIGN COMMAND REQUIRED.

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1944E

**APPC OUTPUT SEGMENT SIZE
EXCEEDED, MESSAGE DISCARDED**

**FOR LU=nnnnnnnn, TPN=name,
SIDE=name, TRANCODE=xxxxxxx**

説明

指定されたトランザクションが、32767 より大きい出力メッセージ・セグメントを LU6.2 宛先に挿入しました。LU6.2 装置への最大出力メッセージ・セグメントは 32767 です。

システムの処置

出力メッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答

指定されたトランザクションが、長さ 32767 以下のメッセージ・セグメントを挿入するように変更してください。TRANSACT マクロ SEGSIZE パラメーターを 32767 に変更してください。

DFS1945

**DATA COMMUNICATIONS
QMGR/CQS WRITE ERROR LINK xx**

説明

データ通信 QMGR または CQS WRITE (PUT/ISRT) プロセス中に、エラーが検出されました。

システムの処置

メッセージが MSC リンクで受信される場合、メッセージは取り消され、6701 ID = MSSx (x = 1、2、3) レコードがログに書き込まれ、パートナー IMS システムに通知されます。パートナー・システムは、メッセージ DFS2140 DESTINATION name STOPPED, REASON CODE 1945 を発行します。ここで、name は、MSC 送信パスの MSNAME です。このメッセージは、送信側 IMS システムのメッセージ・キューに戻されます。

/MSVERIFY コマンドが処理中であった場合は、キューに送信される情報は廃棄され、6701-AER1 レコードがログ・データ・セットに書き込まれます。

メッセージがメッセージ制御エラー出口 DFSCMUX0 によって経路指定されていた場合は、転送されたメッセージは取り消され、6701 ID = AER1 レコードがログ・データ・セットに書き込まれます。

オペレーターの応答:

問題を訂正したら、/START コマンドを使用して、宛先 (例えば、MSNAME または REMOTE TRANSACTION) を開始してください。/MSVERIFY コマンドの処理中にエラーが発生した場合は、そのコマンドを再発行してください。

プログラマーの応答

DFSERA10 プログラムを使用して 6701 レコードを印刷することで、エラーを分離できます。

問題判別

引き続きエラーが発生する場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

エラーが MSC リンクで検出された場合、以下の CLBTEMP フィールドが 6701 MSS1 レコードの LLB ブロックで設定されます。

- CLBTEMP2 = QMGR Put-move 呼び出しからの R15 戻りコード +8
- CLBTEMP3 = メッセージ・キー = x'00000799' = 10 進数 1945
- CLBTEMP4 = モジュール ID、つまり C'CMS0' = DFSCMS00

モジュール:

DFSCMS00、DFSCMLA0、DFSCMLB0、DFSCM4L0、DFSCMSY0、DFSCMEI0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1946W	IMS CRC OF 'x' ALREADY EXISTS WITHIN SYSTEM OR SYSPLEX
-----------------	---

説明

「x」の IMS コマンド認識文字は、システムまたはシスプレックスの登録有効範囲内で固有のものではありません。この文字は、別のシステムによって登録済みです。

システムの処置

IMS システムは処理を継続します。

プログラマーの応答

CRC= 実行パラメーターを使用して、次回の IMS の実行で異なる CRC を指定できます。

モジュール:

DFSXSTM0

DFS1947I	LOCKED MESSAGES EXISTED DURING CQS DISCONNECT
-----------------	--

説明

IMS はこのメッセージを IMS のシャットダウン中に 出します。次の場合は、これは正常な条件です。

- IMS 会話型メッセージ (会話がまだ終了していない場合) が終了する。
- 応答モード・メッセージが終了する。こうなるのは、応答モード・メッセージは送信されているが、肯定応答がまだ受信されなかったときです。
- ISC、SLU P および FINANCE 装置に関するメッセージが存在する。

IMS では、再始動するまで、これらのメッセージをこの IMS に保存する必要があります。これらのメッセージにアクセスできるのは、この IMS システムからのみです。

IMS がコールド・スタートの場合は、IMS は、ロックされたメッセージを コールド・キューに移します。

システムの処置

IMS の処理は継続します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS1948	CQS READ FOUND ANOTHER SYSTEMS MESSAGE NODE x USER y
----------------	---

説明

共用キュー機能へのスケジュールによる読み込み時に、シスプレックス内の別の IMS システムに属していた高速機能応答メッセージを、IMS が識別しました。

同じ LTERM 名を共用キュー・シスプレックス内の複数のシステムで使用するときは、すべての高速機能応答メッセージは、発信元端末があるシステムで処理する必要があります。つまり、高速機能応答モード操作が、1つの IMS システムで進行中であるときは、同時であれ順次であれ、同じ LTERM 名を別の IMS システムにある端末で使用することはできないことを意味します。

これは、共用キュー環境での高速機能に関する IMS Transaction Manager 制限の 1 つです。

システムの処置

IMS は、6701-AER1 診断レコードをログに書き込み、共用メッセージ・キュー・サポートによって、シスプレックスでメッセージが再度全般的に使用可能になるようにします。ETO セッションの場合は、USER y に関するサインオンが失敗しました。非 ETO の場合は、NODE x との間で確立されたセッションが終了します。

オペレーターの応答

USER y のサインオン、または NODE x のログオンをさらに試みると、高速機能応答モードがリセットされるか、メッセージが共用キュー機能からデキューされるまでは、このエラー条件が繰り返されます。発信元端末で

メッセージを受信し、高速機能応答モードを終了させる可能性があります。

問題判別:

1、6、10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1949	KEYWORD INVALID - SHARED EMH QUEUES NOT ENABLED
----------------	--

説明

共用 EMH キューのない IMS システムでは EMHQ キーワードは無効であるため、コマンドが処理されませんでした。

システムの処置

IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

共用 EMH キューが使用可能になっている IMS システムでコマンドを再発行してください。

モジュール:

DFSIDP00

DFS1950	DESTINATION HAS NO OUTPUT QUEUED
----------------	---

説明

/ALLOCATE コマンドが入力されましたが、LU 6.2 宛先には送信する出力がありません。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。

第 43 章 DFS メッセージ DFS1951 - DFS2000I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

ドゥフス 1951 記述子キーワード・パラメーターが無効です

説明

指定された記述子パラメーターは、LU 6.2 記述子ではなく、無効でした。

システムの処置

入力したコマンドは無視されます。

プログラマーの応答

意図したパラメーターを使用してコマンドを再入力してください

ダフス 1952 宛先が見つからない

説明

指定された宛先が無効でした。

システムの処置

入力したコマンドは無視されます。

プログラマーの応答

有効な宛先を指定して、コマンドを再入力してください。

DFS1953 **COMMAND NOT APPLICABLE**

説明

入力されたコマンドは、システムの現在の状態には適用外でした。このメッセージは、次のいずれかの理由で出されます。

- LUNAME/TPNAME で作動するコマンドが入力され、現行 IMS システムは APPC をサポートする z/OS で稼働していません。
- 入力されたのは、すでに IMS が置かれている状態に IMS を置くためのコマンドでした。したがって、このコマンドには効果はありません。
- DFSAPPC メッセージ通信サービスが、APPC をサポートする z/OS で稼働していない IMS システムで入力されました。
- APPC タイムアウト値を変更するためのコマンドが入力されましたが、現行の z/OS リリースは APPC タイムアウトをサポートしていません。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSICLN2

DFS1954 **NO TPNAMES ASSOCIATED WITH LUNAME**

説明

入力されたコマンドが、ALL パラメーターを使用する LUNAME および TPNOME キーワードを指定しましたが、指定された LUNAME に関連付けられた非同期出力メッセージはありませんでした。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。

DFS1955I **APPC CONVERSATION ALLOCATION FAILURE. RC=nn, LU=name, TPN=name [, SIDE=name] or LU=xxxxxxxxx STOPPED**

説明

このメッセージが出されるのは、非同期応答を送信している最中に、TP_NOT_AVAILABLE 以外の障害が発生した場合です。LU STOPPED 形式のメッセージでは、LU の入力が STOPPED 状態で行われていることを示しています。このメッセージ内の戻りコードは 16 進値として表示されます。LU 名がネットワーク修飾名である場合は、この名前に最大 17 バイトの長さが使用できます。

システムの処置

システム操作は正常に続行されます。このエラー・メッセージは、マスター端末オペレーターに送信されず。LU STOPPED 形式のメッセージの場合は、メッセージは着信装置に送信され、会話はリジェクトされて、理由コード TP_NOT_AVAILABLE_RETRY が示されます。

プログラマーの応答

LU STOPPED メッセージが表示されている場合は、オペレーターは、メッセージに示されている LU NAME に関して、**/START LU xxxxxxxx INPUT** を発行できます。

モジュール:

DFSALM00

関連資料

[z/OS: APPC/MVS - 戻りコードおよび理由コードの説明](#)

DFS1956E REQTEXT

説明

この複数フォーマット・メッセージでは、IMS TP_PROFILE 構文 エラー (例えば、TRANCODE、CLASS AND MAXRGN IS OMITTED など) を識別します。また、INVALID LTERM NAME など、LU 6.2 記述子も 識別します。

次のリストには、さまざまなフォーマットの TP_PROFILE が示してあります。

- DFS1956E TRANCODE, CLASS AND MAXRGN IS OMITTED
- DFS1956E KEYWORD IS MISSING, TOO LONG OR INVALID KEYWORD:
- DFS1956E MISSING "=" AFTER KEYWORD
- DFS1956E VALUE MISSING OR TOO LONG
- DFS1956E DUPLICATE OR INVALID TRANCODE:
- DFS1956E INVALID CLASS, IT MUST BE BETWEEN 1 AND 255:
- DFS1956E INVALID MAXRGN, IT MUST BE BETWEEN 0 AND 255:
- DFS1956E DUPLICATE OR INVALID CLASS
- DFS1956E DUPLICATE OR INVALID MAXRGN
- DFS1956E DUPLICATE CPUTIME
- DFS1956E INVALID CPUTIME, IT MUST BE BETWEEN 0 AND 1440

次のリストには、さまざまなフォーマットの LU 6.2 記述子が示してあります。

- DFS1956E SYNTAX ERR ON PREVIOUS CARD IN CHAIN, SKIP THIS
- DFS1956E SYNTAX ERROR ON CARD *card number*
- DFS1956E SYNTAX ERROR FOR DESCRIPTOR = *lterm name* DUPLICATE OUTBND KEYWORD

接頭部の後に次のように続きます。

- CAN NOT CONTINUE IF COL(71) IS BLANK
- FIRST COLUMN MUST BE EITHER "U" OR "*"
- SECOND COLUMN MUST BE BLANK

- LTERM NAME NOT GIVEN
- LTERM NAME LONGER THAN 8 CHAR
- INVALID LTERM NAME
- DIFFERENT LTERM NAME ON CONTINUED CARD
- THE CONTINUED DATA MUST BEGIN IN COLUMN 12
- ILLEGAL KEYWORD
- SIDE MUST BE 1 TO 8 CHARACTER LONG
- INVALID CHARACTER IN SIDENAME
- DUPLICATE SIDE KEYWORD
- LUNAME MUST BE 1 TO 17 CHARACTERS LONG
- LUNAME MUST BEGIN WITH A-Z OR @,\$,#
- DUPLICATE LUNAME KEYWORD
- INVALID CHARACTER IN LUNAME
- TPNAME MUST BE 1 TO 64 CHARACTER LONG
- DUPLICATE TPNAME KEYWORD
- INVALID CHARACTER IN TPNAME
- MODE MUST BE 1 TO 8 CHARACTER LONG
- MODE MUST BEGIN WITH A-Z OR @,\$,#
- INVALID CHARACTER IN MODE
- DUPLICATE MODE KEYWORD
- SYNCLEVEL MUST BE 1 CHARACTER LONG
- INVALID SYNCLEVEL VALUE
- DUPLICATE SYNCLEVEL KEYWORD
- CONVTYPE MUST BE 1 CHARACTER LONG
- INVALID CONVTYPE VALUE
- DUPLICATE CONVTYPE KEYWORD
- DESCRIPTOR ENTRY ALREADY EXISTS

システムの処置

このエラー・メッセージは、システム・コンソールに送信されます。

プログラマーの応答

このメッセージで識別されているエラーを訂正してください。

DFS1957E DFSAPPC ERROR: description

説明

DFSAPPC メッセージ要求を処理している最中に、入力パラメーター・エラーが検出されました。記述フィールドは、該当するエラー・タイプで置き換えられています。発生する可能性のあるエラー・タイプには、次のものがあります。

- MISSING '('
- MISSING '=' AFTER KEYWORD

INVALID OR DUPLICATE KEYWORD
INVALID LTERM NAME
INVALID LU NAME
INVALID MODE NAME
INVALID TP NAME
INVALID SIDE NAME
INVALID CONVERSATION TYPE
INVALID SYNC LEVEL
MISSING OR INVALID VALUE AFTER KEYWORD
LTERM AND OTHER KEYWORDS ARE MUTUALLY EXCLUSIVE
THE PARAMETER LENGTH IS TOO LONG
NO MESSAGE TEXT AFTER ')'
NO USERID OR USER IS NOT SIGNED ON
DESTINATION NOT FOUND

システムの処置

システムは処理を続行します。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、DFSAPPC を再試行してください。

DFS1958I	IMS CONNECTION TO APPC/MVS COMPLETE, LUNAME= nnnnnnnn.
-----------------	---

説明

APPC/MVS と IMS の間の接続が確立されました。APPC/MVS が IMS のローカル ACB を開きました。APPC/MVS LU 6.2 サービスが IMS で使用可能です。LU 名がネットワーク修飾名である場合は、この名前に最大 17 バイトの長さが使用できます。

システムの処置

IMS は、メッセージを LU 6.2 装置から受信し、APPC/MVS サービスを使用して、メッセージを LU 6.2 装置に送信します。

DFS1959E	SEVERE IMS INTERNAL FAILURE, REASON CODE=xyyy
-----------------	--

説明

このメッセージは、IMS 内部エラーを識別します。

システムの処置

システムは処理を続行します。

プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、メッセージに示されている理由コード xyyy、および LUMI トレース出力を報告してください。また、このメッセージや他の

APPC/IMS 診断援助機能について詳しくは、IMS 診断情報も参照してください。

関連資料

[DFS1959E メッセージ情報 \(診断\)](#)

DFS1960I	IMS HAS REQUESTED A CONNECTION WITH APPC/MVS
-----------------	---

説明

IMS が APPC/MVS に接続するための APPC/MVS verb ATBIDEN を発行しました。

システムの処置

IMS APPC/MVS LU 6.2 サービスなしで、処理を続行します。APPC/MVS が IMS LOCAL LU 6.2 ACB が開かれたことを示す、IMS XCF 出口を駆動するまでは、サービスは利用不能です。

DFS1961W	IMS CONNECTION WITH APPC/MVS HAS FAILED
-----------------	--

説明

APPC/MVS 接続の開始または維持を試みている最中に、障害が起きました。

システムの処置

IMS は、APPC を使用可能にしないで、処理を続行します。

プログラマーの応答

このメッセージよりも前に出されている可能性のある、DFS1965E メッセージ、およびシステム・コンソール上の VTAM または APPC/MVS メッセージをすべて分析することによって、障害の理由を判別してください。/ **START APPC** コマンドを使用して、APPC を再始動してください。

関連概念

[APPC/IMS 診断エイド \(診断\)](#)

関連情報

581 ページの『DFS1965E』
APPC/MVS CALL FAILURE,
FUNCTION=aaaaaaaa, REASON CODE=xyyy,
RETURN CODE=xxxxxxx, LUNAME=nnnnnnnn

DFS1962	COMMAND INVALID FROM AN LU 6.2 DEVICE
----------------	--

説明

コマンドは、LU 6.2 装置からは入力できません。このコマンドが有効なのは、それ以外の IMS 端末タイプから出される場合のみです。

システムの処置

IMS コマンドは無視されます。

オペレーターの応答

入力された IMS コマンドは、LU 6.2 装置にとっては意味がありません。このコマンドを使用する理由を判別してください。別の IMS コマンドが適用できる可能性があります。また、必要とするアクション用に APPC/MVS または VTAM コマンドが存在する場合があります。

DFS1963W XRF PARAMETERS MISSING OR INVALID IN MVS APPCPM MEMBER

説明

このメッセージが出されるのは、USERVAR または ALTLU パラメーターが、APPCPM メンバーで欠落しているか、無効であるからです。APPCPM メンバーは、APPC サブシステムの始動時に、オプションを指定するために z/OS によって使用されます。z/OS も、要求されたときは、USERVAR および ALTLU 名を IMS に渡します。

プログラマーの応答

USERVAR および ALTLU パラメーターが有効であるか、APPCPM メンバーを チェックしてください。

DFS1964E DESTINATION TMEMBER NAME=nnnnnnnn NOT ACCESSIBLE, REASON CODE=xx, TPIPE NAME=yyyyyyyy

または

DESTINATION NAME=nnnnnnnn NOT ACCESSIBLE, REASON CODE=xx, LUNAME=yyyyyyyy

説明

示されている宛先は、LU 6.2 装置からの処理のために受け入れられないので、廃棄されます。LU 名がネットワーク修飾名である場合は、この名前に最大 17 バイトの長さが使用できます。理由コードとその意味は、次のとおりです。

コード (10 進数)

説明

01

LUNAME= からリクエスターによって指定された宛先名は、IMS MSC 宛先に関するものです。このタイプの宛先は、APPC に対する MSC サポートがある

IMS システム にはない、LU 6.2 アプリケーション・プログラムからのメッセージをキューイングする場合は無効です。

02

LUNAME= からリクエスターによって指定された宛先名は、ローカル LTERM に関するものです。このタイプのメッセージ通信機能は、LU 6.2 アプリケーション・プログラムからはサポートされません。

03

LUNAME= からリクエスターによって指定された宛先名は、IMS 高速機能トランザクション、または IMS 応答モード・トランザクションに関するものです。このタイプのトランザクションは、非同期要求 (ALLOCATE、SEND_DATA、DEALLOCATE) による LU 6.2 装置からのメッセージをキューイングする場合は無効です。

04

LUNAME= からリクエスターによって指定された宛先名が受け入れられるのは、単一セグメントだけです。複数のセグメントがリクエスターから検出されたため、入力は廃棄されます (ALLOCATE、SEND_DATA、SEND_DATA)。

05

LUNAME= からリクエスターによって指定された宛先名は、受け入れられない IMS リモート・トランザクション名です。宛先 IMS が APPC トランザクションを受け入れられないことが、原因である可能性があります。

06

最初の形式のメッセージが出された場合、メッセージがこのシステムから発信され、このシステムには出力メッセージを受信するためのベース LU 名がないため、LUNAME= および DESTINATION NAME= から指定された、または DESTINATION NAME= から指定された、メッセージ制御/エラー出口の転送宛先名にはアクセスできません。

2 番目の形式メッセージが出されるのは、TMEMBER NAME= および TPIPE NAME= で指定された、メッセージ制御/エラー出口に関する転送宛先名が受け入れられない 場合です。

07

共用キュー環境では、LUNAME= からリクエスターによって指定された宛先名は、動的 (非 CPIC および非 MSC リモート) トランザクションに関するものです。APPC 入力トランザクションは、トランザクションに入ったのと同じローカル IMS で実行される必要があるため、これは許容されません。動的トランザクションは、共用キュー・グループ内の他の IMS システムでしか実行されないトランザクションを表します。

09

ロールバック (ROLB) 再試行数を超過しました。システムはトランザクションを処理できません。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置

転送要求は無視され、関連したデフォルトのアクションが実行されます。デフォルトのアクションについては、DFSCMUX0 を参照してください。

プログラマーの応答

それぞれの理由コードごとに、該当する処置を取ってください。

コード (10 進数) 処置

- 01 MSC 定義のトランザクションの使用を試みないでください。
- 02 メッセージ通信サポートに関する DFSAPPC 機能を使用してください。
- 03 同期プロセス (ALLOCATE、SEND_DATA、RECEIVE_AND_WAIT) を使用してください。
- 04 複数のセグメントがリクエスターから検出されたため、入力は廃棄されます (ALLOCATE、SEND_DATA)。
- 05 宛先 IMS がバージョン 5.1 のシステム・プロダクト・レベルにあるか検証してください。
- 07 トランザクションがローカルで定義されている、共用キュー・グループの IMS システムを判別し、これらのシステムのいずれかで トランザクションに入ってください。

**DFS1965E APPC/MVS CALL FAILURE,
FUNCTION=aaaaaaaa, REASON
CODE=xyyy, RETURN
CODE=xxxxxxx,
LUNAME=nnnnnnnn**

説明

APPC/MVS に対する呼び出しに予期しない戻りコードがありました。呼び出し aaaaaaaaa が出され、その結果が APPC/MVS からの戻りコード xxxxxxxx でした。

戻りコードが負 (例えば、-1) の場合は、APPC/MVS が制御権を受け取る前に、呼び出しの処理でエラーが発生したことを示します。これらの負の戻りコード値は、IMS によって設定されます。表示される可能性のある値は、次のとおりです。

-1 呼び出しが使用不可 (z/OS エントリー・ポイントが定義されていません。APPC/MVS をサポートしないレベル (例えば、SP 4.1 以前) の z/OS でのバインド・エラーが原因と推定されます)

-2 呼び出しが不明 (IMS のインストールに誤りがあった結果、2 つの別の IMS リリースから モジュールを実行することになったのが原因と推定されます)

この戻りコードの正の値の意味については、[z/OS: APPC/MVS 割り振りキュー・サービスを参照してください](#)。予測された条件を表すエラー戻りコードは、IMS で処理され、このメッセージが出される結果になることはありません。このメッセージが生成されるのは、何らかのシステム・コンポーネントでの異常条件を表す可能性がある、予期しない結果が検出されたときです。

理由コード変数 xx は、コードに関連したモジュールを識別する 10 進数です。「*IMS Version 15 Diagnosis*」の APPC/IMS 診断援助機能を参照してください。変数 yy は内部理由コードです。

IBM サポートに連絡する場合は、メッセージに示されているモジュール番号と理由コード、および LU マネージャー・トレースからの出力 (ただし、要求された場合) を提供できるように準備してください。

LU 名がネットワーク修飾名である場合は、この名前に最大 17 バイトの長さが使用できます。

プログラマーの応答

エラーを判別し、障害のあるコンポーネントが IMS、APPC/MVS、VTAM のいずれであるか判別してください。IMS が正しいレベルの APPC/MVS を使用して稼働しているかチェックしてください。

問題判別

付随している APPC/MVS および VTAM エラー・メッセージがあるかチェックしてください。このメッセージに付随する場合があるソフトウェア障害レコードがあるか、SYS1.LOGREC データ・セットをチェックしてください。

関連概念

[APPC/IMS 診断エイド \(診断\)](#)

関連資料

[DFS1965E APPC/MVS 呼び出し障害 \(診断\)](#)

[z/OS: APPC/MVS - 戻りコードおよび理由コードの説明](#)

**DFS1966 IMS CONVERSATIONAL TRAN
ENDED. INPUT DISCARDED**

説明

リモート LU 6.2 アプリケーション・プログラムが、入力 (SEND_DATA, DEALLOCATE) を保留して、IMS 定義の会話型トランザクションとの LU 6.2 の会話を終了しました。

システムの処置

システムは処理を続行します。保留入力は廃棄され、IMS 会話型トランザクションは終了し、LU 6.2 会話は割り振り解除されます。

プログラマーの応答

リモート・アプリケーション・プログラムが、LU 6.2 会話の割り振り解除前に応答を受信するように訂正してください。

DFS1967 MESSAGE SEGMENT BUFFER OVERLAY

説明

EDIT EXIT ルーチンは、メッセージ内容を変更でき、メッセージ長を最大で 256 バイトだけ長くできます。最大メッセージ長が 32,764 バイトを超えることはできません。メッセージ長がこの限度を超えた場合、またはメッセージが 256 バイトを超えるバイト数だけ長くされた場合は、メッセージは切り捨てられます。

システムの処置

メッセージは切り捨てられます。

プログラマーの応答

編集出口ルーチンを訂正して、メッセージが 256 バイトを超えるバイト数だけ長くなることはないようにしてください。

DFS1968 APPC IS NOT SUPPORTED FOR THE SPECIFIED MVSLEVEL

説明

IMSCTRL IMS システム定義マクロの中で指定された z/OS レベルは、APPC を使用するための正しい z/OS レベルを提供しません。

システムの処置

要求は無視され、IMS は機能を続行します。

プログラマーの応答

IMS JCL が APPC=Y を指定しないか、IMS コマンドが LU 6.2 の機能を指定しないか確認してください。

DFS1969W LU 6.2 DESCRIPTOR=xxxxxxx NOT FOUND DURING MVS XRF RESTART

説明

指定された記述子名は、チェックポイント・レコードで検出されましたが、記述子を表す記述子ブロックが検出されませんでした。

システムの処置

要求は無視され、IMS は機能を続行します。

プログラマーの応答

IMS システムで使用されている DFS62DTx メンバーをチェックし、指定された記述子に関する情報が定義されていないか検証してください。

DFS1970 IMS SHUTTING DOWN- TRANSACTION DISCARDED

説明

このメッセージは、IMS との間で同期 LU 6.2 または OTMA 会話を確立しているパートナー LU に送信されます。IMS /CHE シャットダウン・コマンドが入力されました。このメッセージは、IMS のシャットダウンをパートナー・アプリケーションに知らせます。

システムの処置

LU 6.2 または OTMA 会話は終了します。IMS はシャットダウン処理から継続します。

モジュール:
DFS6ECT0、DFSYTIB0

DFS1971I CQCHKPT SYSTEM COMMAND REJECTED FOR STRUCTURE= structurename; THE STRUCTURE NAME IS INVALID

または

CQCHKPT SHAREDQ COMMAND REJECTED FOR STRUCTURE= structurename; THE STRUCTURE NAME IS INVALID

説明

メッセージに指定された構造が有効な構造名ではないため、コマンドは処理されませんでした。

システムの処置

IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

有効な構造名を使用して、コマンドを再発行してください。

モジュール:
DFSSQCP0

DFS1972I CQCHKPT SYSTEM COMPLETE FOR STRUCTURE= *structurename*

または

CQCHKPT SHAREDQ COMPLETE FOR STRUCTURE= *structurename*

説明

/CQCHKPT SHAREDQ または **/CQCHKPT SYSTEM** コマンドが、メッセージに指定された構造に関して完了しました。

システムの処置

IMS の処理は継続します。

モジュール:
DFSSQCP0

DFS1973I CQCHKPT SYSTEM REQUEST REJECTED FOR REASON CODE=*reasoncode*

または

CQCHKPT SHAREDQ REQUEST REJECTED FOR REASON CODE=*reasoncode*

説明

/CQCHKPT SHAREDQ または **/CQCHKPT SYSTEM** コマンドがリジェクトされました。理由コード (*reasoncode*) は、次のとおりです。

理由コード
説明

- 1 CQS シャットダウン保留
- 2 CQS アドレス・スペースがない

- 3 CQS 登録トークンが無効
- 4 機能が無効
- 5 カウントが無効
- 6 リスト・アドレスが無効

システムの処置

IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

モジュール:
DFSSQCP0

DFS1974I CQCHKPT SYSTEM REQUEST REJECTED FOR STRUCTURE= *structurename*, REASON CODE=*reasoncode*

または

CQCHKPT SHAREDQ REQUEST REJECTED FOR STRUCTURE= *structurename*, REASON CODE=*reasoncode*

説明

/CQCHKPT SHAREDQ または **/CQCHKPT SYSTEM** コマンドが、メッセージに指定された構造に関して失敗しました。この失敗の理由コード (*reasoncode*) は、次のとおりです。

理由コード
説明

- 1 チェックポイントが構造に関してすでに進行中
- 2 CQS 再始動が進行中
- 3 接続トークンが無効
- 4 CQSRSYNC がこの構造では必須
- 5 CQS 内部エラーが発生
- 6 再試行が失敗

システムの処置

IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

理由コード 1 および 2 の場合は、イベントが完了したら、コマンドを再発行してください。

それ以外の理由コードはすべて、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール:
DFSSQCP0

DFS1975	COMMAND REJECTED AS CQS IS NOT AVAILABLE
----------------	---

説明

CQS アドレス・スペースが使用不可のため、コマンドが処理されませんでした。

システムの処置

IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

CQS が使用可能になったら、コマンドを再発行してください。

モジュール:
DFSICM30、DFSICQ20、DFSIDP40

DFS1976	KEYWORD INVALID - SHARED QUEUES NOT ENABLED
----------------	--

説明

共用キューがない IMS システムでは、このキーワードは無効のため、コマンドが処理されませんでした。

システムの処置

IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

共用キューが使用可能になっている IMS システムで、コマンドを再発行してください。

モジュール:
DFSIDPRO、DFSIDP00

DFS1977	COMMAND REJECTED DUE TO CQS ERROR
----------------	--

説明

IMS が CQS からエラー戻りコードを受信したため、コマンドは処理されませんでした。

システムの処置

IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

コマンドを再発行してください。同じメッセージを再び受信した場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:
DFSICQ20、DFSIDP40

DFS1978I	REQUEST FOR STORAGE FAILED DURING CQCHKPT COMMAND PROCESSING, REASON CODE=reasoncode
-----------------	---

説明

/CQCHKPT SHAREDQ または **/CQCHKPT SYSTEM** コマンド処理が終了しました。IMS が HIOP ストレージを獲得できなかったため、コマンドを処理したり、コマンドの結果についてメッセージを発行したりできなかったからです。理由は次のとおりです。

- 1
メッセージ DFS1971I を出せなくて、無効の構造を報告できない。
- 2
/CQSCHKPT コマンドの処理に必要なストレージの取得ができない。
- 3
メッセージ DFS1972I が出せないため、**/CQSCHKPT** コマンドがすべての構造に関して正常に実行されなかったことを報告できない。
- 4
メッセージ DFS1973I を出せなくて、パラメーター・エラーを報告できない。
- 5
メッセージ DFS1972I が出せないため、**/CQSCHKPT** コマンドが一部の構造に関して正常に実行されなかったことを報告できない。
- 6
メッセージ DFS1974I が出せないため、**/CQSCHKPT** コマンドがある構造に関して正常に実行されなかったことを報告できない。
- 7
メッセージ DFS1973I を出せなくて、環境エラーを報告できない。

システムの処置

IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

コマンドを再発行してください。

モジュール:
DFSSQCP0

関連情報

583 ページの『DFS1972I』
CQCHKPT SYSTEM COMPLETE FOR
STRUCTURE= *structurename*

583 ページの『DFS1973I』
CQCHKPT SYSTEM REQUEST REJECTED FOR
REASON CODE=*reasoncode*

583 ページの『DFS1974I』
CQCHKPT SYSTEM REQUEST REJECTED FOR
STRUCTURE= *structurename*, REASON
CODE=*reasoncode*

DFS1979I **CHECKPOINT REQUEST
REJECTED, CQS IS NOT
AVAILABLE**

説明

CQS アドレス・スペースが使用不可のため、要求が処理されませんでした。

システムの処置

IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

CQS が使用可能になったら、コマンドを再発行してください。

モジュール:
DFSRCP00

DFS1980 **TRANSACTION NOT STOPPED,
CANNOT PROCESS COMMAND**

説明

/DEQ コマンドは、トランザクションが停止されていなかったため、リジェクトされました。

システムの処置

コマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答

/STOP TRAN または UPDATE TRAN STOP(Q,SCHD) コマンドを発行してから、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICLJ0

DFS1981 **COMMAND REJECTED DUE TO CQS
ERROR OR CQS UNAVAILABLE**

説明

コマンドが処理されなかったのは、共通キュー・サーバー (CQS) アドレス・スペースが使用不可だったためか、IMS が CQS からエラー戻りコードを受信したためです。

システムの処置

IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

CQS が使用可能になったら、コマンドを再発行してください。CQS が使用可能で、同じメッセージを再度受信した場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:
DFSICLZ0

DFS1982I **Reason Code = *rcmessage***

説明

索引/ILDS 再作成ユーティリティー処理中に、*rc* で示されているエラーが発生し、モジュール DFSPRECO によって発行されたメッセージが付随します。それぞれの理由コードごとに固有の説明と応答があります。

次の理由コード (*rc*) を参照して、エラーのタイプと適切な処置の識別を進めてください。

Reason Code = 05 Error processing SYSIN data set

説明: DFSPRECO 入力カードを処理している最中に、エラーが検出されました。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: 入力キーワードおよびパラメーターが正しいか検証してください。キーワードおよびパラメーターは、位置に依存します。

Reason Code = 10 Recovery type specified in DFSPRECO control card is invalid

説明: 制御カードで指定されたリカバリー・タイプが、3つの許容タイプ、つまり INDEX、ILE、BOTH のいずれでもありませんでした。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: リカバリー・タイプが正しいか検証し、ジョブを再実行してください。入力制御カードのキーワードおよびパラメーターは、位置に依存します。

Reason Code = 20 DDIR for partition specified in DFSPRECO control card could not be found

説明: ブロック・ビルダーから戻された DDIR のリストに、制御カードで指定された区画に関する DDIR が組み込まれていませんでした。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: 実行カードの DBDNAME、および制御カードの区画名が正しいか検証してから、ジョブを再実行してください。

Reason Code = 30 DB org. for partition specified in DFSPRECO control card not supported in partitioning.

説明: 指定されている区画は、PHDAM または PHIDAM データベース用ではありませんでした。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: 制御カードで指定された区画名が正しいか検証してから、ジョブを再実行してください。

Reason Code = 40 Partition Select call failed

説明: リカバリー対象区画をスケジュールするための呼び出しが失敗しました。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: 制御カードで指定された区画が HALDB 用であることを検証してください。

Reason Code = 50 The partition processed but no root segments were found.

説明: 指定された区画は、INDEX リカバリーのために処理されましたが、ルート・セグメントが検出されませんでした。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: これは異常条件です。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

Reason Code = 60 DFSPRECO control card specified ILE recovery and no ILEs were required for this partition

説明: ILE 再作成要求で、エントリーは ILE データ・セットに挿入されない結果になりました。

システムの処置: ジョブは完了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答: この状態が生じるのは、この区画に関して、論理関係が存在しない場合です。この区画に論理関係がないか検証してください。

Reason Code = 70 During ILE processing, the GETMAIN for a segment I/O area failed

説明: ILE 再作成を完了するためには、セグメント入出力域が内部 GN 処理のために必要です。GETMAIN に対応できるスペースが利用不能のとき、結果的にこのエラーが生じます。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: バッチ・ジョブに備えて領域サイズを広げた上で、バッチ・ジョブを実行してください。

Reason Code = 80 ILE processing terminated prior to reaching the end of the database

説明: ILE 再作成中に、GN 呼び出しが予期しない戻りコードを伴って戻されました。予想戻りコードは、GA、GB、GK、またはブランクです。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: 予期しない戻りコードであった理由を判別し、ジョブを再実行してください。DL/I 状況コードについては、DL/I 状況コード情報を参照してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

Reason Code = 90 Unable to perform INDEX/ILE rebuild processing - DBRC not available

説明: DBRC が使用不可です。INDEX/ILE 再作成には、DBRC が再作成処理中アクティブである必要があります。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: DBRC=Y が EXEC カードで指定されているか確認してから、ジョブを再実行してください。

Reason Code = A0 Index/ILD rebuild request not honored - database specified NOT a HIDAM database

説明: INDEX 再作成要求中に、PHIDAM データベースに関する区画ではないことが、DDIR によって判別されました。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: ジョブ・パラメーターの DBD を PHIDAM である HALDB に変更してから、ジョブを再実行してください。

Reason Code = B0 Index rebuild was requested for a DBD that is not a HALDB DBD.

説明: INDEX 再作成要求中に、HALDB データベースに関する区画ではないことが、DDIR によって判別されました。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: ジョブ・パラメーターの DBD を HALDB DBD に変更してから、ジョブを再実行してください。

Reason Code = C0 Index rebuild was requested using a PSB with a DBPCB that does not map to the Master DBD specified on the JOB PARM card.

説明: INDEX 再作成要求中に、HALDB データベースに関する区画ではないことが、DDIR によって判別されました。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: ジョブ・パラメーターの DBD を、SYSIN カード上の区画入力が含まれるマスター・データベースである HALDB DBD に変更してから、ジョブを再実行してください。

Reason Code = D0 OPEN/CLOSE failure - refer to preceding DFS0730I message

説明: OPEN または CLOSE 障害が発生しました。データ・セットの名前については、先行する DFS0730I メッセージを参照してください。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: DFS0730I で特定された問題を訂正し、ジョブを再度実行してください。

Reason Code = D4 OPEN/CLOSE failure refer to preceding DFS0730I message

説明: OPEN または CLOSE 障害が発生しました。データ・セットの名前については、先行する DFS0730I メッセージを参照してください。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: DFS0730I で特定された問題を訂正し、ジョブを再度実行してください。

Reason Code = E0 PSTBYTNM POINTS TO FREE SPACE - TWIN BACKWARD POINTER IS BROKEN

説明: 索引再作成要求中に、フリー・スペースを指している兄弟逆方向ポインターが検出されました。

システムの処置: ジョブは終了します。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- バッチ・バックアウトを実行して、不完全なセグメントを訂正してください。
- Pointer Checker を実行して、失敗したポインターを訂正してから、索引作成を再度実行してください。

REASON CODE = E1 PSTBYTNM POINTS TO FREE SPACE - TWIN FORWARD POINTER IS BROKEN

説明: 索引再作成要求中に、フリー・スペースを指している兄弟順方向ポインターが検出されました。

システムの処置: ジョブは終了します。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- バッチ・バックアウトを実行して、不完全なセグメントを訂正してください。
- Pointer Checker を実行して、失敗したポインターを訂正してから、索引作成を再度実行してください。

REASON CODE = E2 TWIN BACKWARD POINTER DOES NOT POINT TO THE PREVIOUS ROOT SEGMENT

説明: 索引再作成要求中に、以前にスキャンされたルート・セグメントを指していない兄弟逆方向チェーンをスキャンしている時に兄弟順方向ポインターが検出されました。

システムの処置: ジョブは終了します。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- バッチ・バックアウトを実行して、不完全なセグメントを訂正してください。
- Pointer Checker を実行して、失敗したポインターを訂正してから、索引作成を再度実行してください。

REASON CODE = E3 TWIN FORWARD POINTER DOES NOT POINT TO THE PREVIOUS ROOT SEGMENT

説明: 索引再作成要求中に、以前にスキャンされたルート・セグメントを指していない兄弟順方向ポインターが、兄弟順方向チェーンをスキャンしている時に検出されました。

システムの処置: ジョブは終了します。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- バッチ・バックアウトを実行して、不完全なセグメントを訂正してください。
- Pointer Checker を実行して、失敗したポインターを訂正してから、索引作成を再度実行してください。

Reason Code = E4 DL/I GN processing returned an unexpected status code &statcode

説明: DL/I が、エラーを示す状況コードを戻しました。通常、他のシステム・メッセージはジョブ出力の中に現れます。状況コードは、DL/I 状況コード情報で確認できます。

システムの処置: ジョブ・ステップは終了します。

プログラマーの応答: 状況コードおよびその他の関連するメッセージによって示された状態を訂正してください。

**REASON CODE = F0 GETMAIN ERROR
ENCOUNTERED 1LOADING ILDS WITH
DDNAME=ddname. GETMAIN RC=nnnnnnnn
REASON= yyyyyyyy**

説明: モジュール DFSURITO は、メッセージ・テキストで識別される ILDS を再作成中にストレージの割り振りでエラーを検出しました。このエラーは、HALDB 索引/ILDS 再作成ユーティリティー 1(DFSPRECO) が、フリー・スペース・オプションの使用によって ILDS をロード中に発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

エラーを検出した ILDS。

nnnnnnnn

エラーの発生時にレジスター 15 の戻りコード。異常終了が発生した場合、これは異常終了コードになります。

yyyyyyyy

理由コード。異常終了が発生した場合、理由コードはブランクになります。

システム処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。DBRC は、RECON データ・セットで Recovery Needed のフラグを ILDS に立てます。

プログラマーの応答: 指摘された問題を訂正するか、SYSIN ステートメントを変更して、接尾部文字 F を BOTHF パラメーターか ILEF パラメーターのどちらかから除去することによってフリー・スペース・オプションを省略し、DFSPRECO ユーティリティーを再度実行してください。

モジュール: DFSPRECO

**REASON CODE = F1 FREEMAIN ERROR
ENCOUNTERED LOADING ILDS WITH
DDNAME=ddname. FREEMAIN RC= nnnnnnnn
REASON= yyyyyyyy**

説明: モジュール DFSURITO は、メッセージ・テキストで識別される ILDS を再作成中に、以前に割り振られたストレージの解放でエラーを検出しました。このエラーは、HALDB 索引/ILDS 再作成ユーティリティー (DFSPRECO) が、フリー・スペース・オプションの使用によって ILDS をロード中に発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

エラーを検出した ILDS。

nnnnnnnn

エラーの発生時にレジスター 15 の戻りコード。異常終了が発生した場合、これは異常終了コードになります。

yyyyyyyy

理由コード。異常終了が発生した場合、理由コードはブランクになります。

システム処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。DBRC は、RECON データ・セットで Recovery Needed のフラグを ILDS に立てます。

プログラマーの応答: 指摘された問題を訂正するか、SYSIN ステートメントを変更して、接尾部文字 F を BOTHF パラメーターか ILEF パラメーターのどちらかから除去することによってフリー・スペース・オプションを省略し、DFSPRECO ユーティリティーを再度実行してください。

モジュール: DFSPRECO

**REASON CODE = F2 VSAM ERROR ENCOUNTERED
LOADING ILDS WITH DDNAME=ddname. VSAM RC=
nnnnnnnn REASON= yyyyyyyy**

説明: モジュール DFSURITO は、メッセージ・テキストで識別される ILDS を再作成中に VSAM エラーを検出しました。このエラーは、HALDB 索引/ILDS 再作成ユーティリティー (DFSPRECO) が、フリー・スペース・オプションの使用によって ILDS をロード中に発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

エラーが発生したときにロードされていた ILDS。

nnnnnnnn

エラーの発生時にレジスター 15 の戻りコード。異常終了が発生した場合、これは異常終了コードになります。

yyyyyyyy

理由コード。異常終了が発生した場合、理由コードはブランクになります。

システム処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。ILDS が使用可能でない場合、DBRC は、RECON データ・セットで Recovery Needed のフラグを ILDS に立てます。

プログラマーの応答: 指摘された問題を訂正するか、SYSIN ステートメントを変更して、接尾部文字 F を BOTHF パラメーターか ILEF パラメーターのどちらかから除去することによってフリー・スペース・オプションを省略し、DFSPRECO ユーティリティーを再度実行してください。

モジュール: DFSPRECO

**REASON CODE = F3 LOAD ERROR ENCOUNTERED
LOADING MODULE *module name*. LOAD RC=
nnnnnnnn REASON= yyyyyyyy**

説明: モジュール DFSURITO は、メッセージ・テキストで識別される ILDS を再作成中に、メッセージ・テキストで識別されるモジュールのロードでエラーを検出しました。このエラーは、HALDB 索引/ILDS 再作成ユーティリティ (DFSPRECO) が、フリー・スペース・オプションの使用によって ILDS をロード中に発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnn

エラーの発生時にレジスター 15 の戻りコード。異常終了が発生した場合、これは異常終了コードになります。

yyyyyyyy

理由コード。異常終了が発生した場合、理由コードはブランクになります。

システム 処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。DBRC は、RECON データ・セットで Recovery Needed のフラグを ILDS に立てます。

プログラマーの応答: 指摘された問題を訂正するか、SYSIN ステートメントを変更して、接尾部文字 F を BOTHF パラメーターか ILEF パラメーターのどちらかから除去することによってフリー・スペース・オプションを省略し、DFSPRECO ユティリティを再度実行してください。

モジュール: DFSPRECO

**REASON CODE = F4 INTERNAL SORT ERROR
ENCOUNTERED SORTING ILES, INTERNAL SORT
RC= nnnnnnnn REASON= yyyyyyyy**

説明: モジュール DFSURITO は、フリー・スペース・オプションを使用して HALDB 索引/ILDS 再作成ユーティリティ (DFSPRECO) によって ILDS にロードされる前に間接リスト項目 (ILE) のソート中に、内部ソート・エラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnn

エラーの発生時にレジスター 15 の戻りコード。異常終了が発生した場合、これは異常終了コードになります。

yyyyyyyy

理由コード。異常終了が発生した場合、理由コードはブランクになります。

システム 処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。DBRC は、RECON データ・セットで Recovery Needed のフラグを ILDS に立てます。

プログラマー 応答: エラーを文書化して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。SYSIN ス

テートメントを変更して、接尾部文字 F を BOTHF パラメーターか ILEF パラメーターのどちらかから除去することによってフリー・スペース・オプションを省略し、DFSPRECO ユティリティを再度実行してください。

モジュール: DFSPRECO

**REASON CODE = F5 DSPSERV ERROR
ENCOUNTERED, DSPSERV RC= nnnnnnnn REASON=
yyyyyyyy**

説明: モジュール DFSURITO は、HALDB 索引/ILDS 再作成ユーティリティ (DFSPRECO) がフリー・スペース・オプションを使用して ILDS を再作成中に、DSPSERV データ・スペース・エラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnn

エラーの発生時にレジスター 15 の戻りコード。異常終了が発生した場合、これは異常終了コードになります。

yyyyyyyy

理由コード。異常終了が発生した場合、理由コードはブランクになります。

システム 処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。DBRC は、RECON データ・セットで Recovery Needed のフラグを ILDS に立てます。

プログラマーの応答: 指摘されたエラーを訂正するか、SYSIN ステートメントを変更して、接尾部文字 F を BOTHF パラメーターか ILEF パラメーターのどちらかから除去することによってフリー・スペース・オプションを省略し、DFSPRECO ユティリティを再度実行してください。DFSPRECO ユティリティには、フリー・スペース・オプションの使用時に実行するために、それぞれ 2 ギガバイトの 4 つのデータ・スペースが必要です。システム管理者に連絡して、DFSPRECO ユティリティが十分なストレージを割り振ることができるようにしてください。さらに、フリー・スペース・オプションの使用時に、DFSPRECO ユティリティが必要とするページングをページング・サブシステムが十分に処理できることも確認してください。

モジュール: DFSPRECO

関連資料

[DL/I 状況コード \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS1983W	APPC/IMS OUTBOUND LU XXXXXXXX NOT DEFINED
-----------------	--

説明

アウトバウンド LU が IMS に対して定義されていましたが、それは APPC/IMS スケジュール LU の 1 つでないので活動化できませんでした。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFS6ECT0

DFS1985I	APPC/IMS OUTBOUND LU xxxxxxx ACTIVE
-----------------	--

説明

アウトバウンド論理装置 (LU) が IMS に識別されました。メッセージ・テキスト内の xxxxxxx が、識別された LU です。

システムの処置

xxxxxxx で指定された LU がアウトバウンド会話に使用されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFS6ECT0

デュフス 1986	キー範囲が長すぎます。切り捨てられます
------------------	----------------------------

説明

このメッセージは、データベース内のキー値よりも長い 1 つ以上の KEYRANGE 値を入力した場合に表示されません。

システムの処置

DFSMAID0 ユーティリティは、KEYRANGE を適切なサイズに切り捨てています。処理は続行する

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSMAID0

DFS1987I	理由コード = リターン・コード メッセージ・テキスト
-----------------	--

説明

次のユーティリティのいずれかを 実行中にエラーが発生しました。

- ACB 生成およびカタログ・データ取り込みユーティリティ (DFS3UACB)
- HALDB 区画データ・セット初期設定ユーティリティ (DFSUPNT0)

エラーの説明およびエラーに対する考えられる解決策については、以下のリストにあるエラー・メッセージの戻りコードを見つけてください。

理由 = 01 SYSPRINT DD ステートメントがスタンドアロンの実行に必要

説明: このユーティリティ JCL に SYSPRINT DD ステートメントが含まれていないため、イムス プログラム・コントローラー・モジュール DFSRRC00 はユーティリティを開始しませんでした。SYSPRINT データ・セットは必須です。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザー応答: メッセージおよび理由コードに示されているエラー状態を確認し、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0、DFS3UACB。

理由 = 02 の SYSPRINT DD ダミーは、スタンドアロン実行には許可されません。

説明: イムス プログラム・コントローラー・モジュール DFSRRC00 は、SYSPRINT データ・セットではなく、ユーティリティ JCL に SYSPRINT DD DUMMY が指定されているため、このユーティリティを開始しませんでした。SYSPRINT データ・セットは必須です。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザー応答: メッセージおよび理由コードに示されているエラー状態を確認し、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0、DFS3UACB。

理由 = 03 SYSPRINT データ・セットのオープン中にエラーが発生しました

説明: ユーティリティは、SYSPRINT データ・セットのオープン中にエラーを検出しました。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザー応答: ジョブ・ログ内のシステム・メッセージを調べて、エラーの原因を判別し、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0、DFS3UACB。

理由 = 04 GETMAIN エラーが発生しました。

説明: ストレージの取得中にユーティリティでエラーが発生しました。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 16 に設定されます。

ユーザー応答: ジョブの領域サイズを大きくするか、SYSIN ステートメントの数を減らしてください。

モジュール: DFSUPNT0、DFS3UACB。

理由 = モジュール & のモジュール名 ロード中にエラーが発生しました。

説明: モジュール & のモジュール名のロード中にユーティリティーがエラーを検出しました。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 12 に設定されます。

ユーザー応答: 指定されたモジュールを、このジョブ・ステップの LOADLIB 連結内に配置します。

モジュール: DFSUPNT0、DFS3UACB。

理由 = 06 DBRC の初期化がフェーズ 1 で失敗しました

説明: DBRC のフェーズ 1 初期設定中にユーティリティーがエラーを検出しました。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザー応答: ジョブ・ログで追加メッセージを調べて、エラーの原因を判別し、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0、DFS3UACB。

理由 = フェーズ 2 で、DBRC の初期化が失敗しました

説明: DFSUPNT0 は、DBRC のフェーズ 2 初期設定中にエラーを検出しました。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは内部 DBRC エラー・コードに設定されます。

ユーザー応答: に連絡してください IBM ソフトウェア・サポート

モジュール: DFSUPNT0。

理由 = 08 DFSOVRDS データ・セットのオープン中にエラーが発生しました

説明: DFSUPNT0 が、DFSOVRDS DD ステートメントで指定されたデータ・セットのオープン中にエラーを検出しました。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザー応答: エラーに関する追加情報がないかジョブ・ログを調べて、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

理由 = 09 DFSRESLB データ・セットのオープン中にエラーが発生しました。

説明: DFSUPNT0 が、DFSRESLB DD ステートメントによって指定されたデータ・セットのオープン中にエラーを検出しました。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザー応答: エラーに関する追加情報がないかジョブ・ログを調べて、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

理由 = 10 イムス 内部エラー - DYNAMIC PSB が中断されました。

説明: DFSUPNT1 または DFSUPNT2 が、イムスによって渡されたパラメーター・リスト内の PCB 制御ブロックを検出し、無効としました。このエラーは、DFSUPNT0 に戻されます。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 16 に設定されます。

ユーザー応答: に連絡してください IBM ソフトウェア・サポート

モジュール: DFSUPNT1、DFSUPNT2。

理由 = 11 DL/I PINT 呼び出しが予期されていない状況コード = & の状況コードを予期しています。

説明: DFSUPNT0、DFSUPNT1、または DFSUPNT2 が、内部 DL/I PINT 呼び出しのためにイムスから戻された無効な状況コード (& の状況コード) を検出しました。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザー応答: エラーに関する追加情報がないかジョブ・ログを調べて、訂正してください。問題を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSUPNT0、DFSUPNT1、DFSUPNT2。

理由 = 12 エステートが、DFSRRCOO の接続による異常終了を検出しました。

説明: ESTAE ルーチンは、接続された イムス システムの異常終了のため、ユーティリティー用に駆動されました。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 32 に設定されます。

ユーザー応答: エラーに関する追加情報がないかジョブ・ログを調べて、訂正してください。問題を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSUPNT0、DFS3UACB。

理由 = 13 は、DFSUPNT0 スタンドアロンを実行するために SYSIN DD カードが必要です。

説明: DFSUPNT0 は、イムス プログラム・コントローラー・モジュール DFSRRCOO によって開始されませんでした。SYSIN データ・セットが必要ですが、SYSIN DD ステートメントが JCL 内に見つかりませんでした。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザー応答: メッセージおよび理由コードに示されているエラー状態を確認し、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

理由 = 14 SYSIN DD ダミーはスタンドアロンの実行では許可されません。

説明: DFSUPNT0 は、イムス プログラム・コントローラー・モジュール DFSRRC00 によって開始されませんでした。SYSIN データ・セットが必要ですが、SYSIN DD DUMMY ステートメントが JCL 内で検出されました。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザー応答: メッセージおよび理由コードに示されているエラー状態を確認し、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

理由 = 15 の SYSIN ステートメントが見つかりません

説明: DFSUPNT0 は、イムス プログラム・コントローラー・モジュール DFSRRC00 によって開始されませんでした。SYSIN データ・セットが空です。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザー応答: メッセージおよび理由コードに示されているエラー状態を確認し、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

理由 = 16 SYSIN データ・セットのオープンでエラーが発生しました

説明: DFSUPNT0 が、SYSIN データ・セットのオープン中にエラーを検出しました。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 16 に設定されます。

ユーザー応答: ジョブ・ログで追加メッセージを確認し、エラー条件を訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

理由 = 19 DFSOVRDS DD カードに無効な入力が含まれています

説明: DFSOVRDS DD カードでは、DD DUMMY または INITALL を含む文字ストリングのみを使用することができます。その他の入力は無効です。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザー応答: DFSOVRDS DD カードに有効な入力ストリングを入力してください。

モジュール: DFSUPNT0。

理由 = 20 パーティション選択が失敗しました

説明: 区画を初期化する前に、その区画に空のマークを付けるために DFSPSEL が呼び出されました。この呼び出しは失敗しました。区画の初期化を完了できませんでした。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 16 に設定されます。

ユーザー応答: エラーに関する追加情報がないかジョブ・ログを調べて、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

理由 = nn 予期しないエラー - 初期状態の論理エラーが発生しました

説明: ユーティリティーが予期しない論理エラーを検出しました。

システム・アクション: 処理は停止し、戻りコードは 99 に設定されます。理由コードは、イムス サポート担当者のみを意味します。

ユーザー応答: に連絡してください IBM ソフトウェア・サポート

モジュール: DFSUPNT0、DFS3UACB。

モジュール:

DFS3UACB、DFSUPNT0、DFSUPNT1、DFSUPNT2

DFS1988W	OTMA input messages from member yyyyyyyy have reached xx % of the maximum active input message limit zzzz
-----------------	--

説明

OTMA は、メンバーからの各アクティブ入力メッセージを追跡するために、内部でトランザクション・インスタンス・ブロック (TIB) を作成します。OTMA 記述子、クライアント・ビッド・プロトコル・メッセージ、または **/START TMEMBER INPUT** コマンドによって、最大数の TIB を指定できます。メンバー yyyyyyyy からのアクティブまたはキューに入れられた入力メッセージが、zzzz で示された限界の xx % に達しています。このメッセージは、TIB 限界の 80%、およびそれ以降 5% ごとに発行されます。OTMA メッセージあふれ条件が存在する可能性があります。

現在の限界を表示するには、**/DISPLAY TMEMBER** コマンドを発行してください。

システムの処置

IMS OTMA は、少ないストレージで新規入力メッセージの処理を続行します。

プログラマーの応答

従属領域が入力メッセージを処理するためにアクティブであるかどうか、リモート・トランザクションは入出力 PCB に挿入しているかどうか、および OTMA クライアントが IMS メッセージあふれを起こしているかどうかを判別してください。メッセージあふれ条件の発生を防止するために、OTMA クライアントを制御または停止することが必要な場合があります。OTMA トランザクションを実行するために、IMS 領域が開始済みである

ことを確認してください。/DISPLAY TMEMBER TPIPE コマンドを使用して、入力メッセージ数を表示できます。必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール:
DFSYFD00

DFS1989E メンバー yyyyyyyy からの OTMA 入力メッセージが、アクティブ入力メッセージの最大限度に達しました
zzzz

説明

メンバー yyyyyyyy に対して OTMA メッセージあふれ条件が存在する。入力メッセージが、zzzz によって示されるデフォルトまたはクライアント指定のトランザクション・インスタンス・ブロック (TIB) の制限に達しました。

システムの処置

イムス OTMA は、フリー TIBs が使用可能になるまで、メンバーからの新規入力メッセージをすべてリジェクトします。

プログラマーの応答

以下を判別します。

- 入力トランザクションが従属領域によって処理されるかどうか
- リモート・トランザクションが入出力 PCB に挿入されるかどうか
- OTMA クライアントが イムス をフラッドングするかどうか

洪水条件を回避するために、OTMA クライアントを制御または停止する必要がある場合があります。イムス領域が、OTMA トランザクションを実行するように開始されていることを確認します。支援が必要な場合は、イムス システム・プログラマーに連絡する必要があります。また、/ TMEMBER TPIPE を表示 コマンドを使用して、入力メッセージ・カウントを表示することもできます。

モジュール:
DFSYFD00

DFS1990I {LQB|RCNT} 制御ブロックの初期化が失敗しました。

説明

モジュール DFSCLC ミリ秒、DFSCLS ミリ秒、DFSCLR ミリ秒、または DFSCCLIDs 内で CNT/SPQB/RCNT 制御ブロックを初期設定しようとしているときに、重大なエラーが発生しました。LQB 制御ブロックには、CNT および SPQB 制御ブロックが含まれています。以下のモジ

ュールは、対応する制御ブロックと、システム ID テーブル (SID) とともに表示されます。

モジュール
制御ブロックまたはテーブル

DFSCLC ミリ秒
クント

DFSCLS ミリ秒
スパーブ

「**DFSCLR** ミリ秒
ルッケント

DFSCCLIDs
シド

変数メートルはモジュール名を完了し、0 から 9 または A から F までの値を持っています。変数 s は中核接尾部を表します。正しい中核接尾部および IMS.SDFSRESL 名について、実行 JCL とシステム定義の間の整合性を確認してください。

システムの処置

イムス は異常終了 0016 で終了します

プログラマーの応答

システム定義と実行 JCL の間の不整合を訂正してください。

問題判別:
6, 10, 35

モジュール:
DFSIIINU0

関連情報

[IMS 異常終了 0016](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1991I {LOAD|LOCATE} ERROR FOR LQB/
RCNT CONTROL BLOCKS
(*modulename*), RC=xx.

説明

可変 *modulename* に置き換わる、モジュール DFSCLCms、DFSCLSms、DFSCLRms、または DFSCCLIDs に関して、IMSIMODULE LOAD または LOCATE が失敗しました。それぞれのモジュールには、次のリストに示すように、制御ブロックまたはシステム ID テーブル (SID) が含まれます。LQB 制御ブロックに CNT および SPQB 制御ブロックが組み込まれます。

Module
制御ブロックまたはテーブル

DFSCLCms
CNT

DFSCLSms
SPQB

DFSCLRms
RCNT

DFSCOLIDs
SID

変数 *m* は、モジュール名を完結する値で、0 から 9 または A から F の 値になります。変数 *s* は、中核接尾部を表します。

戻りコード (xx) でエラーの種別を示します。IMODULE 戻りコードの説明については、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

IMS は異常終了 0016 で終了します。

プログラマーの応答

戻りコードで示されているエラー条件を訂正してください。

問題判別:
6、10、35

モジュール:
DFSIIINUO

関連資料

IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報

IMS 異常終了 0016

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1992I **GETMAIN ERROR FOR UNIQUE
VTAM HASH TABLE RC=rc**

または

**GETMAIN ERROR FOR {CNT/LNB/RCNT|SPQB}
BLOCKS {HASH TABLE|BIT MAP} RC=rc**

説明

最初の形式のメッセージが表示されるのは、システムが固有の VTAM ハッシュ・テーブル用としてストレージのブロックの獲得を試み、GETMAIN ルーチンから失敗戻りコードを受信したときです。VTAM ハッシュ・テーブルは、静的サインオン・ユーザー ID に関するものです。

2 番目の形式のメッセージが表示されるのは、IMS が初期設定時に、示されている ハッシュ・テーブル用のス

トレージの取得に失敗したときです。失敗した GETMAIN によって戻りコードが渡されます。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0016 が示されます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答

最初の形式のメッセージの場合は、ストレージ条件を訂正してください。2 番目の形式のメッセージの場合は、動的リソースが必要であれば、使用可能なストレージを IMS 制御領域に広げてください。

問題判別:

1、6

関連情報

IMS 異常終了 0016

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1993X **GETMAIN ERROR FOR {LGND|
USRD} BLOCKS HASH TABLE,
RC=nn**

または

**GETMAIN ERROR LOADING DYNAMIC TERMINAL
DESCRIPTORS, RC=nn**

説明

3 つあるハッシュ・テーブルの 1 つ用、作業域用、または一時制御ブロックに関するデフォルトのログオンおよびユーザー記述子用として、ストレージの取得を試みていて、IMS 初期設定が正常に行われませんでした。

最初の形式のメッセージが表示されるのは、ストレージがハッシュ・テーブル用として使用不可のときであり、2 番目の形式が表示されるのは、ストレージが作業域用または記述子用として使用不可のときです。ログオン記述子ハッシュ・テーブルに関する障害であった場合は、LGND が表示されます。ユーザー記述子ハッシュ・テーブル、または LTERM 記述子ハッシュ・テーブルに関する障害であった場合は、USRD が表示されます。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0016 が示されま
す。

オペレーターの応答

システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答

動的リソースが必要な場合は、IMS 制御領域に使用可能
なストレージを増加してください。

問題判別:

1、6

関連情報

[IMS 異常終了 0016](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS1994I UNRESOLVED CQSPUT FROM
UOWE(S) DURING xxx.
QNAME=nnnnnnnnnnnnnnnn
UOWSTCK=ssssssssssssssss
TIME=jjj, hh.mm.ss**

説明

この通知メッセージは、IMS のチェックポイント中、ま
たは IMS のシャットダウン中に出されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

xxx

このメッセージが発行された時刻を示します。

CHECKPOINT

このメッセージが単純チェックポイント時に出
されるのは、CQSPUT が UOWE クリーンアップ
中に失敗した場合です。

SHUTDOWN

このメッセージが通常の IMS シャットダウン
中に出されるのは、UOWE が CQSPUT 要求によ
って生じた場合です。

nnnnnnnnnnnnnnnn

最も古い未解決の CQSPUT UOW の宛先キュー。宛
先キュー名にすべて印刷可能な EBCDIC 文字が含
まれている場合、QNAME は、この印刷可能キュー
名を含む 8 バイト値です。宛先キュー名に印刷不
能文字が含まれている場合、QNAME は、16 進数の
キュー名を含む 16 バイト値です。

ssssssssssssssss

タイプ 01/03 ログ・レコードの UOW ストア・クロ
ック・トークン MSGPROTK。この値は、メッセー
ジがキュー・マネージャーに挿入された時刻に対応
しています。

jjj, hh.mm.ss

jjj, hh.mm.ss 形式に変換された、UOWSTCK からの
ストア・クロック値。ここで、jjj はユリウス日付、
hh.mm.ss は時刻です。

システムの処置

IMS は、チェックポイントまたはシャットダウン処理か
ら続行されます。

オペレーターの応答

このメッセージが通常シャットダウン中に出された場
合は、ウォーム・スタートで IMS を再始動してくださ
い。ウォーム・リスタートが使用されない場合は、メ
ッセージが失われる可能性があります。IMS のコールド
・リスタートが必要な場合は、シャットダウンの前
に、単純チェックポイントを取ってください。

IMS のコールド・リスタートが必要で、このメッセー
ジが単純チェックポイント中に出されている場合は、
UOWE を処理する問題が解決されるまで、IMS をシャ
ットダウンしないようにしてください。例えば、CF オ
ーバーフロー全条件がまだ存在している場合は、チェ
ックポイント処理で問題が解決しない可能性があります
。

IMS は、システム・ログ・データ・セット (SLDS) から
メッセージを検索して、失敗した CQSPUT を試行する
必要がある場合があります。SLDS が使用不可である場
合、IMS は単純チェックポイント後に DFS1994I を発
行する可能性があります。SLDS を使用してこの状態を
解決して、メッセージを検索し、メッセージ・キュー構
造に PUT できるようにする必要があります。

DFS1995E explanation

説明

このメッセージは、メッセージ DFS1965E の後に続い
て出され、直前の DFS1965E メッセージの戻りコード
と理由コードについて説明します。DFS1995E には、
APPC/MVS エラー抽出サービスによって提供されたよ
うに、接頭部 ATB で始まる APPC/MVS エラー・メッセ
ージが入っています。

関連資料

[z/OS: Error Extract が返すエラー情報のタイプ](#)

関連情報

DFS1965E

APPC/MVS CALL FAILURE,
FUNCTION=aaaaaaaa, REASON CODE=xyyy,
RETURN CODE=xxxxxxx, LUNAME=nnnnnnnn

**DFS1996I GETMAIN ERROR FOR VTAM
TERMINAL CONTROL BLOCKS
<HASH TABLE|DREF STORAGE>,
RC=xx**

説明

IMS は、次のいずれかで IMS 制御領域拡張専用域内に十分なストレージが獲得できませんでした。

- VTCB ハッシュ・テーブルを作成するためのサブプール 0
- VTAM 制御ブロック (VTCB) をロードするためのサブプール 214

IMODULE GETMAIN 戻りコード xx の説明については、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

IMS は 0016 で終了します。

プログラマーの応答

使用可能なストレージが増えたら、IMS を再始動してください。

関連資料

[IMODULE 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0016](#)

DFS1997I INCOMPATIBLE COMPONENT OF ACF/VTAM INSTALLED

説明

VTAM OPEN ACB 処理からのコンポーネント ID 情報により、ACF/VTAM コンポーネントに IMS のレベルとの互換性がないことが示されました。IMS が MVS/370 用に生成されている場合は、ACF/VTAM の MVS/370 コンポーネントが必要であり、IMS が MVS 用に生成されている場合は、ACF/VTAM の MVS コンポーネントが必要です。

システムの処置

IMS が VTAM CLOSE ACB を発行して、VTAM 通信を不可能にします。

オペレーターの応答:

ACF/VTAM の間違ったコンポーネントがアクティブである場合は、まず最初に ACF/VTAM を終了し、次に正しいコンポーネントを初期設定してください。ACF/VTAM の正しいコンポーネントがアクティブになったら、/START DC コマンドを出してください。

プログラマーの応答

使用している ACF/VTAM コンポーネントで実行するように、IMS を再定義するか、IMS レベルと一致する ACF/VTAM コンポーネントをインストールするか、いずれかを行ってください。

問題判別:

6、10、36

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1998I VTAM TERMINAL CONTROL BLOCK INITIALIZATION FAILED

説明

モジュール DFSCLVyx に含まれている VTAM 端末制御ブロックの初期設定を試みている最中に、エラーが発生しました。ただし、次のとおりです。

y is a value from 0 to 9.

x は、IMS 中核の接尾部です。

実行 JCL が中核接尾部および SDFSRESL に関して、システム定義との間で整合性がない可能性があります。

システムの処置

IMS は異常終了 0016 で終了します。

プログラマーの応答

実行 JCL とシステム定義の間の不整合を訂正してください。

問題判別:

6、10、35

関連情報

[IMS 異常終了 0016](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS1999I {LOAD|LOCATE|BLDL} ERROR FOR VTAM TERMINAL CONTROL BLOCKS (modulename), RC=xx

説明

BLDL、または IMS IMODULE LOAD または LOCATE が、サブプール 251 のモジュール DFSCLVyx に関して失敗しました。

y is a value from 0 to 9 or A to F.

x is the IMS nucleus suffix.

DFSCLVyx に、VTAM セッション用の IMS 端末制御ブロックの一部または全部が、MSC/VTAM リンク用のものを除いて含まれています。IMODULE 戻りコード xx の説明については、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0016 が示されません。

プログラマーの応答

IMODULE 戻りコードを基にして、エラーを訂正してください。

問題判別:

6、10、35

関連資料

[IMODULE 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0016](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2000I OPNDST ACQUIRE FAILED NODE x.
 SUBPOOL zzzzzzzz SENSE= yyyy**

説明

OPNDST が ACQUIRE オプションを指定して、VTAM ノード x に関して出されました。OPNDST は正常に行われませんでした。変数 zzzzzzzz はサブプール名であり、サブプールがない場合は、N/A になります。

システムの処置

IMS 操作は、端末なしで続行されます。

オペレーターの応答

(マスター端末) /OPNDST コマンド、または VTAM の 'VARY NET, ID=, LOGON=' コマンドを使用して、ノードを IMS にログオンしてください。

問題判別

VTAM D NET コマンドを使用して、ノードが IMS への割り振りで利用不能な理由を判別してください。

第 44 章 DFS メッセージ DFS2001I - DFS2050

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2001I OPNDST ACCEPT が失敗しました。
ノード x。
ユーザー zzzzzzzzzz SENSE=yyyy -
||RCFBK=xxxx

説明

IMS は、ACCEPT オプションを指定して ヴタム OPNDST を出そうとしましたが、失敗しました。 ヴタム は、以前に、IMS が OPNDST に使用可能であることを通知していました。

メッセージ・テキストの中で、

zzzzzzzzzz

The user name or N/A if there is no user

yyyy -

この値は ヴタム センス・コードです。

xxxx

この値は、VTAM 戻りコードおよびフィードバック (RCFBK=) が指定されている場合は、

システムの処置

IMS 操作はノードなしで続行します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) Determine why ヴタム refused the OPNDST by using the ヴタム D ネット command; then try again.

DFS2002I OPNDST RESTORE FAILED NODE x.
SUBPOOL zzzzzzzz SENSE=yyyy

説明

IMS が RESTORE オプションを指定して、VTAM OPNDST の発行を試みましたが、正常に行われませんでした。端末が OPNDST で使用可能なことを、VTAM が前に IMS に知らせました。yyyy 値は VTAM SENSE CODE、zzzzzzzz はサブプール名ですが、サブプールがない場合は、N になります。

システムの処置

IMS 操作は、ノードなしで続行されます。

マスター端末オペレーターの応答: VTAM が OPNDST をリジェクトした理由を、VTAM D NET コマンドを使用して判別してから、再試行してください。

DFS2003 CLSDST FAILED NODE x.

説明

IMS が NODE x に関して VTAM CLSDST の発行を試みましたが、正常に行われませんでした。そのノードが非活動化されていて、使用可能でなくなっています。

システムの処置

ノード x が非活動化されていて、使用可能でなくなっています。

問題判別

CLSDST が失敗した理由を判別してください。必要な場合は、VTAM 問題判別を実行してください。

DFS2004 PERMANENT ERROR-CLSDST
REQUIRED NODE x.

説明

指定された端末を、IMS が CLSDST する必要があることを、VTAM が RPL 通知と IMS LOSTERM 出口のスケジューリングのいずれかによって、IMS に通知しました。

システムの処置

IMS がそのノードに関して CLSDST を発行します。

DFS2005 PERMANENT ERROR-CLSDST
ISSUED NODE x.

説明

入力を受信した後で、VTAM または端末が、ノード x に関する入力バッファ内で IMS に送信した AID バイトが間違っているか、欠落していると、装置依存モジュール (DDM) が判別しています。

システムの処置

IMS が VTAM CLSDST を発行し、それ以上の操作を実行しません。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 該当する場合は、エラーの原因を訂正し、/OPNDST コマンドを使用して、端末を IMS に再接続してください。

DFS2006 PERMANENT ERROR-NO CLSDST
ALLOWED NODE x.

説明

永続エラーが発生しています。VTAM の戻りコードまたは LOSTERM 値で、CLSDST が使用できないことが示されています。

システムの処置

IMS 処理は、端末なしで続行されます。ノードが非活性化されて、IMS による操作はこれ以上不可能になります。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 該当する場合は、エラーを訂正し、IMS を再始動してください。

**DFS2007 OPNDST PROCESSOR FAILURE
 NODE x.**

説明

モジュール DFSCVCLO が予期しない戻りコードを検出しました - OPNDST 命令の FDB2 値。OPNDST が正常に行われませんでした。

システムの処置

IMS が端末を活動停止中の状態にします。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 別の /OPNDST、VTAM VARY NET、または LOGON コマンドが試行できます。

問題判別

IMS トレースをオンにし、問題を再現してください。

**DFS2008 INPUT IGNORED-ERROR
 MESSAGE CANCELED**

説明

これはオペレーター・エラーにより生じます。IMS が直前の入力操作に関するエラー・メッセージの送信を試みていたとき、端末入力が試みられました。

BISYNC 3270 VTAM 装置の場合は、長さがその端末に関して定義されている長さよりも長い入力を、オペレーターが入力した可能性があります。

システムの処置

入力は無視されます。端末は将来の使用では使用可能です。

オペレーターの応答:

直前の入力に対する応答を待たずにデータを入力することがないようにしてください。

問題判別

ノードに関して IMS トレースをオンにし、問題を再現してください。

入力されたデータが長すぎた場合は、COMM マクロで指定された RECEIVE ANY バッファ・サイズが、入力されているデータの長さを処理できる十分な大きさであるか検証してください。

DFS2009 INPUT IGNORED

説明

オペレーター・エラー、または 3270 モニターからの、IMS でサポートされていない入力が原因で生じます。

入力が無効の場合は、MFS バイパスが使用されていないとき、IMS が端末からトリガー・フィールド入力を受信しています。トリガー・フィールドは、MFS ではサポートされていないので、トリガー・フィールド入力が IMS で受け入れられるのは、MFS バイパス機能が端末から受信された入力に対して使用されている場合のみです。

BISYNC 3270 VTAM 装置の場合は、長さがその端末に関して定義されている長さよりも長い入力を、オペレーターが入力した可能性があります。

システムの処置

無効のトリガー・フィールドの場合は、入力は廃棄され、端末のと通信は正常に続行されます。エラー・レコードが、障害の発生時に、IMS ログ・データ・セットに書き込まれます。

オペレーターの応答:

トリガー・フィールドが定義されていないフォーマットで、画面が再フォーマットされる必要があるか、入ったトランザクションが IMS の MFS バイパス機能を使用するトランザクションである必要があります。

問題判別

画面を再フォーマット設定することも、別のトランザクションを入力することも可能でない場合は、システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

入力されたデータが長すぎる場合は、COMM マクロで指定された RECEIVE ANY バッファ・サイズが、入力されているデータの長さを処理できる十分な大きさであるか検証してください。

DFS2010 VTAM NOT SUPPORTED

説明

NODE キーワードがコマンドで入力されましたが、VTAM が現行システムに組み込まれていません。

システムの処置

コマンドは処理されません。

オペレーターの応答

(端末) コマンドを正しく入力してください。

問題判別

36; また、VTAM ノードが IMS システム 定義中に組み込まれる場合は、**/DIS NODE ALL** を実行し、出力を保管してください。

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2011I IRLM FAILURE - IMS QUIESCING

説明

ロック・マネージャー状況出口が制御権が付与され、IRLM が終了中であることを検出します。このイベントが原因で、すべてのデータベースの使用が中止されます。

システムの処置

IMS が現在スケジュールされているトランザクションすべてを疑似異常終了させ、異常終了コード 3303 が示されます。データ共有に参加している全機能データベース (共有レベル 1、2、または 3)、およびブロック・レベルでのデータ共有に参加している高速機能データベース (共有レベル 1、2、または 3) はクローズされます。それらの許可が中止されます。さらにトランザクションをスケジューリングすることは、高速機能を除いて、すべて禁止されます。高速機能トランザクションを入力する 端末はすべて、IRLM が再始動し、IMS がそれに再接続するまで待ちます。

データベースを使用する意図がある従属領域は、いずれもスレッド終了処理を完了する必要があります。つまり、そのような従属領域で終了しないものがあると、IMS が IRLM 障害からのクリーンアップに必要な処置を完了できません。そのような領域切断手順がすべて行われるまでは、IMS は IRLM に再接続したり、終了したりできません。入力 (WFI) トランザクションが QC 状況コードを付与され、疑似異常終了し、次のデータベース呼び出しで U3303 が示されるのを待ってください。IRLM 障害の時点で、現在実行中のアプリケーション・プログラムが BA、BB、または FH 状況コードを受信できる、タイミング関連条件があります。

プログラマーの応答

IRLM を再始動し、システム・コンソール・オペレーターに、RECONNECT を指定して IMS を変更させてください。

い。**/CHECKPOINT FREEZE** を発行して IMS を終了させる以外には、他に許容される応答はありません。

IRLM が再始動され、IMS がそれに再接続したら、この障害のため停止されていたすべてのデータベースを開始してください。また、BMP 領域も再始動の必要がある場合もあります。

問題判別:

1, 17

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2012I	GLOBALLY SHARED DATA BASE AREA - dbdname areaname STOPPED.
-----------------	--

または

SHARING DATA BASE(S) STOPPED BECAUSE DATA SHARING DISCONTINUED

説明

上記の 2 つのメッセージのうちいずれかが生成されません。最初のメッセージでは、データ共有が中止されたため停止した共有データベースをリストします。

2 番目のメッセージは、複数の IRLM でグローバルに共有され、IRLM が IRLM FAILED または COMM FAILED 状態に入っている、それぞれのデータベースまたはエリアごとに生成されます。データベース保全性を保証できないときは、IMS システムによって他の IRLM 上でグローバルに共有および許可されているデータベースまたはエリアが、内部 **/DBR** または **/STOP** コマンドを使用して停止され、現在これらのデータベースまたはエリアを使用しているすべてのアプリケーションが異常終了 3303 で疑似異常終了します。

システムの処置

IMS の実行は継続されます。

プログラマーの応答

メッセージ DFS2011I に示されているように 処置が取られたら、このメッセージにリストされているデータベースを、**/START** コマンドを使用して開始して、これらのデータベースに関するトランザクションのスケジュール、またはエリアのオープンができるようにする必要があります。

関連情報

[601 ページの『DFS2011I』](#)

DFS2013 **NUMBER OF RECORDS IN QBLKS
DATA SET HAS EXCEEDED UPPER
THRESHOLD**

説明

IMS が、警告メッセージ DFS2013 が出される前に、QBLKS データ・セットに割り当てできるレコードの数に上限しきい値を確立しています。このしきい値は、自動シャットダウンが開始される前に割り当て可能なレコードの最大数に占める あるパーセンテージです。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

キュー使用を減らして、シャットダウンの起こる可能性を避けることをお勧めします。この処置の効果を判別するには、**/DIS POOL** コマンドによって表示される使用パーセンテージを調べてください。QBLKS データ・セットに割り当てられているレコードの数が、IMS によって確立されている下限しきい値より下に落ちると、メッセージ DFS2016 が出されます。

DFS2014 **NUMBER OF RECORDS IN SMSGQ
DATA SET HAS EXCEEDED UPPER
THRESHOLD**

説明

IMS が、この警告メッセージを出す前に、SMSGQ データ・セットに割り当てできるレコード数に上限しきい値を設定しています。このしきい値は、自動シャットダウンが開始される前に割り当て可能なレコードの最大数に占める あるパーセンテージです。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

キュー使用を減らして、シャットダウンの起こる可能性を避けることをお勧めします。この処置の効果を判別するには、**/DIS POOL** コマンドによって表示される使用パーセンテージを調べてください。SMSGQ データ・セットに割り当てられているレコードの数が、IMS によって確立されている下限しきい値より下に落ちると、メッセージ DFS2017 が出されます。

関連情報

602 ページの『DFS2017』

NUMBER OF RECORDS IN SMSGQ DATA SET IS
NOW BELOW LOWER THRESHOLD

DFS2015 **NUMBER OF RECORDS IN LMSGQ
DATA SET HAS EXCEEDED UPPER
THRESHOLD**

説明

IMS が、警告メッセージ DFS2015 が出される前に、LMSGQ データ・セットに割り当てできるレコードの数に上限しきい値を確立しています。このしきい値は、自動シャットダウンが開始される前に割り当て可能なレコードの最大数に占める あるパーセンテージです。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

キュー使用を減らして、シャットダウンの起こる可能性を避けることをお勧めします。この処置の効果を判別するには、**/DIS POOL** コマンドによって表示される使用パーセンテージを調べてください。LMSGQ データ・セットに割り当てられているレコードの数が、IMS によって確立されている下限しきい値より下に落ちると、メッセージ DFS2018 が出されます。

DFS2016 **NUMBER OF RECORDS IN QBLKS
DATA SET IS NOW BELOW LOWER
THRESHOLD**

説明

IMS が、QBLKS データ・セットに割り当てられたレコードの数が、上限しきい値を超した後で通過する必要がある、下限しきい値を確立しています。この下限しきい値を通過すると、このメッセージが出る結果になります。このしきい値は、自動シャットダウンが開始される前に割り当て可能なレコードの最大数に占める あるパーセンテージです。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

キュー使用を減らす処置は中止できます。

DFS2017 **NUMBER OF RECORDS IN SMSGQ
DATA SET IS NOW BELOW LOWER
THRESHOLD**

説明

IMS が、SMSGQ データ・セットに割り当てられたレコードの数が、上限しきい値を超した後で通過する必要がある、下限しきい値を確立しています。この下限しきい値を通過すると、このメッセージが出る結果になります。このしきい値は、自動シャットダウンが開始され

る前に割り当て可能なレコードの最大数に占めるあるパーセンテージです。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

キュー使用を減らす処置は中止できません。

DFS2018	NUMBER OF RECORDS IN LMSGQ DATA SET IS NOW BELOW LOWER THRESHOLD
----------------	---

説明

IMS が、LMSGQ データ・セットに割り当てられたレコードの数が、上限しきい値を超した後で通過する必要がある、下限しきい値を確立しています。この下限しきい値を通過すると、このメッセージが出る結果になります。このしきい値は、自動シャットダウンが開始される前に割り当て可能なレコードの最大数に占めるあるパーセンテージです。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

キュー使用を減らす処置は中止できません。

DFS2020	VTAM STORAGE ALLOCATION FAILURE RTNCD=8.
----------------	---

説明

SETLOGON マクロからの VTAM 戻りコードにストレージ割り振りの失敗が示されていました。

システムの処置

IMS システムは継続し、START DC は失敗しました。

プログラマーの応答

SETLOGON マクロの VTAM エラーをチェックしてください。

DFS2021	VTAM INACTIVE TO THIS APPLICATION RTNCD=10 FDB2=D.
----------------	---

説明

SETLOGON マクロからの VTAM 戻りコードに、VTAM がこのアプリケーションに対しては非アクティブであることが示されていました。

システムの処置

IMS システムは継続し、START DC は失敗しました。

プログラマーの応答

SETLOGON マクロの VTAM エラーをチェックしてください。

DFS2022	VTAM ABEND CONDITION OCCURRED ON THE USER TCB RTNCD=10 FDB2=E.
----------------	---

説明

SETLOGON マクロからの VTAM 戻りコードに、ユーザー異常終了条件の発生が示されていました。

システムの処置

IMS システムは継続し、START DC は失敗しました。

プログラマーの応答

SETLOGON マクロの VTAM エラーをチェックしてください。

DFS2023	NON-VTAM REQUEST RTNCD=14 FDB2=0.
----------------	--

説明

SETLOGON マクロからの VTAM 戻りコードに、非 VTAM 要求が出されたことが示されていました。

システムの処置

IMS システムは継続し、START DC は失敗しました。

プログラマーの応答

SETLOGON マクロの VTAM エラーをチェックしてください。

DFS2024	VTAM CONTROL BLOCK INVALID RTNCD=14 FDB2=10.
----------------	---

説明

SETLOGON マクロからの VTAM 戻りコードに、VTAM 制御ブロックが無効であることが示されていました。

システムの処置

IMS システムは継続し、START DC は失敗しました。

プログラマーの応答

SETLOGON マクロの VTAM エラーをチェックしてください。

DFS2025 **VTAM CID INVALID RTNCD=14**
FDB2=13.

説明

SETLOGON マクロからの VTAM 戻りコードは、VTAM CID が無効であることを示していました。

システムの処置

IMS システムは継続し、START DC は失敗しました。

プログラマーの応答

SETLOGON マクロの VTAM エラーをチェックしてください。

DFS2026 年 **メインプール (WKAP) で使用可能な**
ストレージが不足しているコマンド
を処理できません

説明

メイン・プールに十分なストレージがないため、コマンドは処理されませんでした。

重要: WKAP をシステム定義時に指定することはできません。システム定義は 5000 の値を設定します。イムス プロシージャまたは IMS.PROCLIB の DFSPBxxx メンバーの WKAP= オペランドによって、実行時に値をオーバーライドすることができます。

システムの処置

コマンドは無視されます。

プログラマーの応答

以下のいずれかのアクションを行います。

- ・イムスの開始に使用される JCL 内の WKAP パラメーターを使用して、メイン・プールのサイズを大きくしてください。
- ・この問題は一時的な状態になる可能性があるため、後でコマンドを再入力してください。
- ・コマンドを複数のコマンドとして再入力して、ストレージ要件を削減します。

DFS2027I **UNABLE TO OPEN VTAM ACB**
REG15=xx ACBERFLG=yyy.

説明

OPEN ACB が試みられたとき、エラー・コードが戻されました。xx は、レジスター 15 の OPEN 戻りコードであり、yyy は、VTAM によって戻された ACB です。ACBERFLG 値 yyy は、10 進数として表示されます。

重要: マルチノード持続セッション (MNPS) を使用している場合、このメッセージは APPLID ACB のみを指しています。

システムの処置

IMS は、ACB が開かれない状態で継続します。

プログラマーの応答

エラー・コードの詳しい説明については、「z/OS Communications Server SNA Programming」および「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」を参照してください。

関連資料

[z/OS: OPEN - 1 つ以上の ACB のオープン](#)

[z/OS: オープン・マクロ命令エラー・フィールド](#)

ダフス 2028 **モニター・キーワード・パラメータ**
が欠落

説明

オンに設定されたトレース または **/ トレース・セツト・オフ** コマンドが入力されましたが、モニター・パラメーターを指定しませんでした。

システムの処置

コマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

正しいパラメーターを指定して、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICLN4

DFS2029 **MONITOR UNAVAILABLE.**

説明

モニターが使用できません。モニター・ログ作業域が正常に初期設定されませんでした。

IMSMON DD ステートメントが欠落しているか、LOAD モジュール DFSIMNTO または DFSMNTR0 が適正なライブラリー内で使用不可であるか、いずれかです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

モニターが正常に初期設定されたら、コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答

モニターが正常に初期設定されているか確認してください。

モジュール:
DFSICLN4

DFS2030 MONITOR ALREADY ACTIVE.

説明

/TRACE SET ON モニター・コマンドが入力されたとき、モニターはすでにアクティブでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

/TRACE SET ON MONITOR コマンドを繰り返す前に、/TRACE SET OFF MONITOR コマンドを使用してください。

モジュール:
DFSICLN4

**DFS2031 INVALID MONITOR KEYWORD
 PARAMETER.**

説明

/TRACE SET ON MONITOR コマンドが入力されましたが、モニター・キーワードのパラメーターが無効です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

有効なパラメーターを使用して、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICLN4

DFS2032 MONITOR NOT ACTIVE.

説明

/TRACE SET OFF MONITOR コマンドが入力されたとき、モニターがアクティブではありませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

モニターがオンになっていないときは、/TRACE SET OFF MONITOR コマンドは使用しないでください。

モジュール:

DFSICLN4

**DFS2033 PARLIM NOT DEFINED FOR THIS
 TRANSACTION.**

説明

PARLIM キーワードがコマンドで使用されましたが、その時点では、PARLIM オプションは、指定されたトランザクションに関して定義されていませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

リモート端末オペレーターの応答: コマンドを訂正し、再入力してください。

DFS2034 INVALID PARLIM NUMBER.

説明

PARLIM キーワードに対して入力されたパラメーターが、0 から 65535 の範囲ではありませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

リモート端末オペレーターの応答: コマンドを訂正し、再入力してください。

**DFS2035 UNABLE TO ASSIGN SPECIFIED
 LTERM TO A PTERM DEFINED
 MSGDEL=SYSINFO**

説明

LTERM はメッセージがシステム・キューで待機中です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

端末オペレーターの応答: LTERM は、指定されている PTERM に割り振り可能か確認してください。

**DFS2036 UNABLE TO ASSIGN SPECIFIED
 LTERM TO A PTERM DEFINED
 MSGDEL=NONIOPCB**

説明

LTERM はメッセージがシステムまたはアプリケーション出力キューで待機中です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

LTERM は、指定されている PTERM に割り振り可能か確認してください。

DFS2037 START DC HAS NOT BEEN COMPLETED

説明

/START DC コマンドが完了してからでないと、/OPNDST または /CLSDST は実行できません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

/START DC コマンドを入力した上で、再試行してください。

DFS2038 BUFFER POOL TOO SMALL FOR COMMAND

または

INSUFFICIENT STORAGE AVAILABLE TO PROCESS COMMAND

説明

最初の形式のメッセージが出されるのは、ストレージが不十分のため、コマンドが処理されなかったときです。

/TRACE SET ON MONITOR コマンドに関連した内部テーブルを収容するために使用可能な CSA/ECSA が不十分な場合も、このメッセージの最初の形式が生成される可能性があります。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

これは一時的条件で、後でコマンドを再入力することで解決できる可能性があります。これが失敗した場合は、コマンドを複数のコマンドとして再入力することで、ストレージ要件の削減を試みるか、それが不可能な場合は、システム・プログラマーに通知してください。

このメッセージが生成されたのが、/TRACE SET ON MONITOR コマンドを実行した結果である場合は、使用可能な CSA/ECSA を大きくしてください。

モジュール:

DFSICLN4

DFS2039I INSUFFICIENT STORAGE TO PROCESS GLOBAL STATUS UPDATE

説明

Operations Manager (OM) API から発行されなかった DB または AREA GLOBAL コマンド後、グローバル状況更新の処理にストレージを使用できません。

システムの処置

このコマンドは、メッセージが送信された先の各 IMS によって処理されます。グローバル状況は更新されません。

プログラマーの応答

この状態は一時的なものである可能性があり、コマンドの再実行によって解決される場合があります。コマンドの再実行が失敗する場合、このコマンドを複数のコマンドとして再入力することで、ストレージ要件を減らしてください。これが可能でない場合は、システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:

DBFARD10、DBFARD40、DFSDBDR0

DFS2040 DEVICE DEPENDENT LOGIC ERROR NODE x (USER y)

説明

VTAM 入出力要求の装置依存処理中に、論理エラーが検出されました。この問題の原因として推定されるのは、次の場合です。

- VTAM VTAM エラーが発生した。
- ハードウェア誤動作が生じた。
- NODE x のプログラムでプログラム・ロジック・エラーが発生した (プログラマブル装置のみ)。
- IMS システム定義に対する指定が無効。
- 装置からの予期しない VTAM システム・センス。
- RQR 処理中に CLEAR 要求で時間切れになった。

システムの処置

NODE x または USER y との間で確立されていたセッションが終了しました。関係のある情報が入っている IMS ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

プログラマーの応答

問題が訂正されると、セッションは NODE x、USER y、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別:

1、5、6、12、14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2041 A PERMANENT ERROR ENCOUNTERED NODE x

説明

VTAM SEND/RECEIVE で戻された SENSE 情報で、NODE x が作動不能であることが示されました。この問題の原因として推定されるのは、次の場合です。

- VTAM 論理装置状況が受信されたか、**SEND** コマンドに対する例外応答が **SENSE** コマンドで受信され、永続エラー (NODE x で設定) であることを示している。
- メジャーまたはマイナー SENSE フィールドがサポートされていないか、ユーザー SENSE で 4 より大きいコンポーネント ID が示されていた。
- ハードウェアの誤動作。

システムの処置

NODE x に関して確立されていたセッションが終了しました。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS ログ・レコードが生成されました。

プログラマーの応答

問題が訂正されると、セッションは NODE x、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別:

1、5、6、11、14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2042 BAD VTAM RESPONSE, INDICATOR OR DATA [FMH | QEC | RELQ | QC | RSHUT | SHUTD | SHUTC | LUS (SENSE=xxxxxxx)| RTR | SIG (SENSE=xxxxxxx)| BID | SBI | BIS | UNDEF] NODE x (USER y)

説明

次のように、無効またはサポートされていない要求が受信されました。

FMH

FM ヘッダー・パラメーター・エラー

QEC

SNA QEC (quiesce-end-of-chain) コマンド

QC

静止完了

RELQ

SNA 解放静止コマンド

RSHUT

SNA 要求シャットダウン・コマンド

SHUTD

SNA シャットダウン・コマンド

SHUTC

シャットダウン・コンプリート・コマンド

LUS

SNA LUSTATUS コマンドか、それに関連したセンス・コード (xxxxxxx)、またはその両方

RTR

SNA 受信準備済みコマンド

SIG

SNA シグナル・コマンドか、それに関連したセンス・コード (xxxxxxx)、またはその両方

BID

SNA BID コマンド

SBI

SNA 停止ブラケット開始コマンド

BIS

SNA ブラケット開始停止コマンド

UNDEF

未定義の SNA コマンド・コードが受信された。

この問題の原因として可能なのは、次の場合です。

- VTAM VTAM エラーが発生した。
- ハードウェア誤動作が生じた。
- NODE x のプログラムでプログラム・ロジック・エラーが発生した (プログラマブル装置 およびリモート・サブシステムのみ)。
- IMS システム定義に対する指定が無効。

システムの処置

セッションは終了します。関係のある追加情報が入っている IMS ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

問題が訂正されると、セッションは NODE x、USER y、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別:

1、5、6、12、14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2043 DATA CHAINING ERROR ENCOUNTERED NODE *x*

説明

IMS 出力編集中、または NODE *x* の VTAM Receive Any で、適正でないデータ・チェーニング・シーケンスが検出されました。この問題の原因として推定されるのは、次の場合です。

- VTAM VTAM エラーが発生した。
- ハードウェア誤動作が生じた。NODE *x* のプログラムでプログラム・ロジック・エラーが発生した (プログラマブル装置のみ)。
- IMS 出力メッセージが複数セグメントであるか、チェーン出力サポートのない装置の出力バッファ・サイズより大であるか、いずれか。

システムの処置

NODE *x* セッションは終了しました。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS ログ・レコードが生成されました。

オペレーターの応答

プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答

問題が訂正されると、セッションは NODE *x*、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別:

1、5、6、12

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2044 UNSUPPORTED RESPONSE WAS REQUESTED NODE *x* (USER *y*)

Explanation

An unsupported response was requested on a VTAM receive. The probable causes of this error are:

- A hardware malfunction occurred.
- A program logic error in the program at NODE *x* occurred (programmable devices only).

System action

The NODE *x* or USER *y* session is terminated. An IMS Log Record (X'67') with an ID of CVCT containing pertinent information was produced.

Operator response

Same as Programmer response.

Programmer response

When the problem is corrected, the session can be reestablished by a NODE *x*, USER *y*, or an IMS /OPNDST command.

Problem determination:

1, 5, 6, 12, 14

Related information

“IMS 問題判別” on page 11

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

デュフス 2045 インバウンド・シーケンス・エラー が検出されました。ノード *x* 検出され ません (USER *y*)

説明

VTAM 同期要求で受信されたシーケンス番号が、連続していませんでした。つまり、直前の VTAM 同期入力要求より 1 つ大きい値です。このエラーの考えられる原因は、次のとおりです。

- VTAM エラーが発生しました。
- ハードウェアの誤動作が発生しました。
- リモート・ノードの制御プログラム内でエラーが起きました。

システムの処置

NODE *x* または USER *y* で確立されたセッションは終了します。関連情報を含む IMS ログ・レコードが、CVCT の ID を使用して作成されました。

オペレーターの応答

プログラマー応答と同じ。

プログラマーの応答

問題が訂正されると、NODE *x*、USER *y*、または IMS /OPNDST コマンドによってセッションを再確立することができます。

問題判別:

1, 5, 6, 12, 14

プログラマーの応答

問題が訂正されると、セッションは NODE x、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別:

1、5、6、12、14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2049I	PARALLEL SESSION NAME ERROR <i>name1 name2 NODE x USER y ID z</i>
-----------------	---

説明

リモート・サブシステムから受信された折衝バインド応答の 並列セッション名を変更する試みを、IMS が検出しました。バインドで送信された名前は、メッセージ・テキスト内のユーザー名および ID で識別されています。戻された値は、メッセージ内の *name1* および *name2* の値で識別されています。ユーザー名および ID が *name1* および *name2* に対応します。

システムの処置

セッションを開始する試みはリジェクトされます。関係のある情報が入っている IMS ログ・レコード (X'67') が、CVCT という ID で提供されました。

オペレーターの応答:

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

エラーは、端末オペレーターによって入力された初期セッション情報、IMS またはリモート・サブシステム、あるいはその両方の中のシステム定義情報にある可能性があります。問題が訂正されると、セッションは NODE x、USER y、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2050	RESYNCHRONIZATION REJECTED NODE x (USER y)
----------------	---

説明

NODE x または USER y が、セッション再同期中に、IMS シーケンス番号、あるいは NODE x または USER y のシーケンス番号の IMS コピーの、いずれかをリジェクトしました。VTAM 設定/テスト・シーケンス番号 コマンドで、IMS 番号と NODE x または USER y の番号の IMS コピーのいずれかに、無効の指示が戻されたことが、このエラーの原因と推定されます。

システムの処置

NODE x または USER y セッションは終了します。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が生成されました。

オペレーターの応答:

(端末オペレーターの入力) プログラムが訂正されると、セッションは NODE x、USER y、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

プログラマーの応答

CVCT ログ・レコードを検討して、この再同期障害の原因を判別してください。競合のソースが訂正されたら、セッションを再確立してください。両側からセッション・コールドを再獲得し、FORCSESS オプションを使用して、IMS 端末またはリンクを定義する必要がある可能性があります。

問題判別:

1、5、6、12、14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 45 章 DFS メッセージ DFS2051I - DFS2100

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS2051 RESYNCH FAILED DUE TO VTAM
 RC NODE x (USER y).**

説明

VTAM 戻りコードがゼロ以外であったため、または VTAM 設定/テスト または データ・トラフィック 開始標識の送信中のフィードバックのため、再同期が失敗しました。このエラーの原因として推定されるのは、次の場合です。

- ハードウェア誤動作が生じた。
- NODE x のプログラム (プログラマブル装置のみ)、または NODE x の制御プログラムが、VTAM 設定/テスト・シーケンス番号または開始データ・トラフィック標識に例外応答を送信した。

システムの処置

確立されているセッションが強制終了され、関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、CVCT という ID で作成されました。

オペレーターの応答:

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

問題が訂正されると、セッションは NODE x、USER y、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別:

1、5、6、12、14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2052 UNSUPPORTED RESPONSE TO
 RESYNCHRONIZATION NODE x**

説明

セッション再同期中に、NODE x は IMS シーケンス番号、または NODE x のシーケンス番号の IMS コピーのいずれかに対して、サポートされない応答を戻しました。VTAM 設定/テスト・シーケンス番号コマンドに対するサポートされていない要求が受信されたか、テスト否定応答が IMS シーケンス番号での設定オプションに対する応答として受信されたことが、このエラーの原因と推定されます。

システムの処置

NODE x セッションは終了します。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が生成されました。

オペレーターの応答:

(端末オペレーターの入力) 問題が訂正されると、セッションは NODE x、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

プログラマーの応答

問題が訂正されると、セッションは NODE x、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。NODE x で問題を訂正できない場合、セッションが NODE x を使用できるようになる前に IMS /NRE が必要です。

問題判別:

1、5、6、12

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2053 UNRESOLVED REFERENCE TO
 REQUIRED USER EDIT NODE x.**

説明

必須ユーザー編集ルーチンへの未解決の参照が検出されました。

システムの処置

NODE x に関して確立を試みているセッションが終了します。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS トレース・ログ・レコード (X'677') が生成されません。

プログラマーの応答

IMS 中核を正しいユーザー編集ルーチンで再バインドする必要があります。

問題判別:

1、5、6、12、14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2054 SESSION TERMINATION FORCED
 NODE x.**

説明

終了に対する再帰的要求のため、セッションの強制的な終了が行われました。IMS /**STOP NODE x** コマンドか /**CLSDST** コマンドの結果として、または 3614 ユーザー編集ルーチンから受信した VTAM の要求リカバリーかシャットダウン要求の標識の結果として、元の要求が 3614 ユーザー編集ルーチンを使用して出されました。

次のいずれかの状態がこのエラーの原因と推定されます。

- ハードウェア誤動作が生じた。
- 終了がエントリー・ベクトル 20 によって、3614 ユーザー編集ルーチンに対して要求された後の戻りコード 8 (入出力取り消し) の適正でない使用のため、ループが 3614 ユーザー出口ルーチンと IMS の間で生じました。
- 3614 ユーザー編集ルーチンからエントリー・ベクトル 20 によって終了が要求された後は、入力は戻りコード 0、4、または 8 によってキューに入れられました。出力メッセージがユーザー・メッセージ処理プログラムによって生成されることはありませんでした。

システムの処置

NODE x との間で確立されていたセッションが終了します。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

プログラマーの応答

問題が訂正されると、セッションは NODE x、または IMS /**OPNDST** コマンドで再確立できます。

問題判別:

1、5、6、12、14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**デフス 2055 セッションがユーザー EDIT
 ROUTINE NODE x によって終了しま
 した。**

説明

ユーザー編集ルーチンからの戻りベクトルが、NODE x に対してセッション終了が要求されたことを示しています。

システムの処置

NODE x セッションは終了します。関連情報が含まれている CVCT の ID を持つ イムス ログ・レコードが作成されました。

オペレーターの応答:

プログラマー応答と同じ

プログラマーの応答

問題がある場合は、その問題が修正されると、NODE x または イムス /**OPNDST** コマンドによってセッションを再確立することができます。

問題判別:

1, 5, 6, 12

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**デフス 2056 入力セグメントが最大長を超えてい
 る。**

説明

入力ブロック化ルーチンが、2 つ以上の要求単位にまたがる入力メッセージ・セグメントを検出しました (3770/3767 に改行または用紙送り文字が検出されなかったか、または SLUTYPE1 でデロック文字が検出されなかった)。

システムの処置

入力メッセージは取り消され、エラーのあるメッセージ・セグメントが入っている イムス ログ・データ・セットにレコードが書き込まれます。

オペレーターの応答:

正しいフォーマットが使用されていることを確認して、メッセージを再入力してください。

問題判別:

7, 36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**デフス 2057 入力セグメント内に非ブロック化文
 字が見つかりません。**

説明

3770 カード読取装置コンポーネントから入力を受け取りましたが、非ブロック化文字を検出せずに入力データの終わりにスキャンされました。入力データ内のすべてのカードの後に IRS 文字を指定する必要があります。

システムの処置

エラーのある入力メッセージが取り消され、エラーのある入力メッセージを含むレコードが IMS ログ・データ・セットに書き込まれ、セッションは終了します。

オペレーターの応答:

ノードに対して /OPNDST コマンドを発行し、失敗した入力メッセージを再試行してください。この障害が解決しない場合は、問題判別に従ってください。

問題判別:

5, 6, 23

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2058**COMPONENT ID IN ERROR.**

説明

入力は受信されました。しかし、機能管理ヘッダー (FMH) のコンポーネント ID が無効であったか、入力コンポーネントがシステム定義で端末マクロに定義されていなかったか、または、IMS が例外応答要求機能をサポートしない装置によって例外応答が要求されました。

システムの処置

エラーの入力メッセージが含まれているレコードが IMS ログ・データ・セットに書き込まれ、セッションは終了します。

オペレーターの応答:

失敗した入力メッセージを再試行してください。引き続きエラーが発生する場合は、問題判別を実行してください。

プログラマーの応答

入力装置が IMS に対して適正に定義されているか確認してください。

問題判別:

5, 7, 36

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2059**FMH DID NOT INDICATE BODS OR EODS.**

説明

3770 からの入力データ・ストリームの機能管理ヘッダーに、データ・セットの先頭も末尾も示されていませんでした。

システムの処置

エラーの要求単位が含まれているレコードが IMS ログ・データ・セットに書き込まれ、セッションは終了します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 引き続きエラーが発生する場合は、問題判別を実行してください。

問題判別:

5, 6, 7, 36

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2060**IPL REQUEST INVALID ON S/7
BSC CONTENTION LINE xxx
PTERM yyy.**

説明

2 進同期 (BSC) コンテンション回線に接続されているシステム /7 が IMS に IPL 要求を送信しました。

システムの処置

IMS は、送信用システム /7 を非活動化します。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

システム /7 プログラムを訂正するか、システム /7 接続を変更してください。

DFS2061I**NODE NOT AVAILABLE FOR
OPNDST NODE x (USER y).**

説明

NODE x または USER y に対する IMS /OPNDST コマンドのために発行された VTAM SIMLOGON で、使用不可条件が戻されました。この条件の説明については、「VTAM For MVS/ESA, VM/ESA, VSE/ESA Programming」(SC31-6496) および「VTAM Messages and Codes」(SC31-6418) を参照してください。

システムの処置

NODE x または USER y とのセッションを確立する試みは終了しています。(1) 関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。(2) IDC0 がアクティブの場合は、IDCO トレース・テーブル・エントリーが作成されます (既存以外の動的端末の場合)。

オペレーターの応答:

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

問題が訂正されると、セッション開始は、IMS /OPNDST コマンドを使用して、あらためて試行できます。セッションは、NODE x または USER y によっても要求または開始できます。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連資料

[データ通信保守援助機能 \(診断\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2062I MODENAME UNKNOWN TO VTAM
NODE x (USER y).**

説明

NODE x または USER y に関する IMS /OPNDST コマンドが原因で発行された VTAM SIMLOGON に対して、不明モード名条件が戻されました。間違ったモード名が IMS /OPNDST コマンドで指定されたか、モード・テーブル・エントリーが指定された名前を使用して VTAM に対して定義されなかったか、いずれかです。

システムの処置

NODE x または USER y とのセッションを確立する試みは終了しています。(1) 関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。(2) IDC0 がアクティブの場合は、IDCO トレース・テーブル・エントリーが作成されます (既存以外の動的端末の場合)。

プログラマーの応答

問題が訂正されると、セッション開始は、IMS /OPNDST コマンドを使用して、あらためて試行できます。セッションは、NODE x または USER y によっても要求または開始できます。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2063I SESSION TERMINATION
COMPLETE NODE x (USER y).**

説明

セッション終了が NODE x または USER y に関して発生しました。終了は、IMS 端末またはノードにより、セキュリティに応じて、NODE x または USER y により、VTAM/SNA コマンドを使用して、あるいは、VTAM ネットワーク・オペレーター・コマンドにより、要求された可能性があります。異常条件が原因の終了であった場合は、このメッセージの前に、特定の条件に関するエラー・メッセージが、IMS マスター端末オペレーター向けにエンキューされています。

システムの処置

NODE x または USER y とのセッションは終了しています。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されているのは、異常条件が原因で終了した場合です。

オペレーターの応答:

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

NODE x または USER y に関するセッションが終了したのは、NODE x または USER y の要求で IMS コマンドによるか、または異常条件によります。セッションは、未解決の問題が訂正された後で、IMS /OPNDST コマンドを使用して、NODE x または USER y によって再確立できます。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2064I SESSION INITIATION COMPLETE
NODE x (USER y).**

説明

セッション開始が NODE x または USER y に関して完了しています。セッション開始は、IMS /OPNDST、VTAM ネットワーク・オペレーター、あるいは NODE x または USER y VTAM/SNA コマンドの結果でした。

システムの処置

セッション開始は、NODE *x* または USER *y* に対して完了します。使用可能な出力はすべて送信され、それ以外の場合は IMS は入力を待ちます。

オペレーターの応答:

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

通常のセッション開始後の NODE *x* または USER *y* にとって適切な処置をすべて継続してください。

**DFS2065I RESYNCHRONIZATION NOT
 POSSIBLE NODE *x* (USER *y*).**

説明

NODE *x* または USER *y* との直前のセッション終了に基づくメッセージ再同期が必要でした。しかし、共用キューからの初回取り出し呼び出しが失敗しました。

システムの処置

NODE *x* または USER *y* とのセッションを確立する試みは終了しています。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答:

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

NODE *x* または USER *y* を適切な再始動点に再初期設定するか、IMS /CHANGE コマンドによって、IMS 再同期システム定義オプションをオーバーライドしてください。

問題が訂正またはオーバーライドされると、セッション開始は、NODE *x* または USER *y* に関して IMS /OPNDST コマンドを使用して、再試行できます。セッションも、NODE *x* または USER *y* によって要求もしくは開始できます。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2066I BAD BIND PARM (DISP A, VALUE
 B) NODE *x* (USER *y*).**

説明

VTAM/SNA BIND コマンドの受信時、または LOGMODE テーブルまたは USERDATA からのバインド・パラメー

ターの検出時 (INQUIRE 後) に、IMS が無効であるか、サポートされていないか、または矛盾するパラメーターを1つ以上検出しました。これらのパラメーターは、NODE *x* に関して指定されている IMS システム定義オプション、または USER *y* に関して指定されている ETO 記述子オプションとも、矛盾している可能性があります。

DISP A は、BIND RU の先頭からの変位です。VALUE B は、エラーのあるデータです。DISP A も VALUE B も 16 進数です。

システムの処置

VTAM/SNA BIND コマンドを使用して、NODE *x* または USER *y* とのセッションを確立する試みは、リジェクトされました。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答:

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

問題が訂正されると、セッション開始は、NODE *x* または USER *y* に関して IMS /OPNDST コマンドを使用して、あらためて試行できます。セッションは、NODE *x* または USER *y* によって要求または開始することもできます。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2067I BEGIN-END BRACKET ERROR
 NODE *x* (USER *y*).**

説明

IMS が出力メッセージの処理中にエラーを検出しました。送信されるメッセージには開始ブラケットは示されていますが、ノードは「NOBB」(出力ブラケットを開始できない) シャットダウン状態です。要求されたメッセージは送信できませんでした。

「NOBB」シャットダウン状態は、対称シャットダウンを要求する OHS、または /QUIESCE NODE *x* (USER *y*) コマンドの結果です。

システムの処置

セッション終了が NODE *x* または USER *y* に関して強制されました。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答:
プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

追加の入力または出力が必要な場合は、セッションを再始動して、シャットダウン状態をリセットできます。セッション開始は、NODE *x* または USER *y* に関して IMS /OPNDST コマンドを使用して、あらためて試行できます。セッションも、NODE *x* または USER *y* によって要求または開始できます。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2068 INPUT DATA FM HDR PARAMETER INVALID, UNSUPPORTED, OR NOT AVAILABLE

説明

入力データ機能管理 (FM) ヘッダーに、無効であるか、サポートされていないか、使用不能であるパラメーターが含まれていました。このメッセージと一緒に送信される出力 ERP FM ヘッダーに、特定のパラメーターを分離するための追加のセンス情報が含まれている場合があります。

システムの処置

NODE *x* とのセッションで、入力エラーが検出されていますが、セッションは終了しませんでした。このメッセージが送信されるのは、入力メッセージをリジェクトするためです。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答:
プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

必要に応じて、入出力操作から続けてください。FM ヘッダーの問題が訂正されると、入力メッセージは再送できます。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2069 END-BRACKET NOT SUPPORTED ON IMS INPUT SYNCHRONOUS MESSAGES.

説明

ブラケット終了が入力 IMS 応答モードまたは会話型トランザクション、IMS コマンド、または入力メッセージで、IMS 「テスト・モード」中に受信されました。

システムの処置

NODE *x* とのセッションで、入力エラーが検出されています。セッションは終了され、メッセージ DFS2069 がキューに残されます。このメッセージが送信されるのは、入力メッセージをリジェクトするためです。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が作成されました。

オペレーターの応答:
プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

エラーを訂正せずにセッションを続行するには、メッセージ DFS2069 をデキューしてから、セッションを再始動します。

セッションを再始動する前にエラーを訂正するには、以下の1つ以上の処置を行います。

- ISC TERMINAL マクロの定義を変更して、非同期処理を許可するための COMPT1=MULT を指定し、入力メッセージからブラケット終了を除去します。
- エラー発生時に IMS がテスト・モードだった場合は、/EXIT コマンドを使用してテスト・モードを終了します。
- TRANSACT マクロの MSGTYPE= パラメーターの値を RESPONSE から NONRESPONSE に変更します。MSGTYPE= パラメーターに NONRESPONSE の値を指定すると、セッションが非同期に変更され、ブラケット終了が許可されます。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2070 MESSAGE TERMINATION FORCED FOLLOWING INPUT SNA CANCEL OF MFS PAGE.

説明

A VTAM/SNA CANCEL コマンドが受信されましたが、MFS 複数ページ入力メッセージ中の送信側検出エラーの後に続いて、SUBSEQUENT VTAM/SNA LUSTATUS

(メッセージ終了)が受信されることはありませんでした。IMSでは、単一ページが取り消された場合は、入力メッセージが終了する必要があります。

システムの処置

NODE *x* とのセッションで、入力エラーが検出されていますが、セッションは終了していません。このメッセージが送信されるのは、MFS 複数ページ入力メッセージを強制的に終了させるためです。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答:
プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

必要に応じて、入出力操作から続けてください。VTAM/SNA **CANCEL** コマンドが出される原因となった問題が訂正された後で、メッセージは IMS に再送できます。

問題判別:
1、5、6、12、14、25

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2071I **EXPECTED ERP MESSAGE NOT RECEIVED NODE *x* (USER *y*).**

説明

VTAM/SNA 例外応答が受信されましたが、この例外応答の理由を説明する後続の ERP メッセージがありません。

システムの処置

NODE *x* または USER *y* とのセッションで、入力エラーが検出され、セッションが終了します。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答:
プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

他のセッションでのシステム論理が訂正されると、セッション開始は、NODE *x* または USER *y* に関して IMS /OPNDST コマンドを使用して、再試行できます。セッションは、NODE *x* または USER *y* によって要求または開始することもできます。

問題判別:
1、5、6、12、14、25

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2072I **LUNAME *username* (LTERM) FMH6|**
7 --- *text* ---.

説明

SNA FMH6 または FMH7 フォーマットで定義されている、システム通知メッセージまたはシステム・エラー・メッセージが、ユーザー名によって識別される LU6 セッションを通して IMS によって受信された、「OTHER」システム (LUNAME) による非同期条件を検出しました。FM ヘッダーの後に続くテキストに、「OTHER」システムによって検出された非同期条件が記述されています。

システムの処置

正常な入出力が LU6 セッション中続きます。

オペレーターの応答

プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答

メッセージ・テキストで必要とされている適切な処置を取ってください。

問題判別:
1、5、6、12、14、25

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2073I **NODE *nodename* SUBPOOL**
***username* (*ltermname*) SOURCE**
(*srcclterm*) *fmh7 message_text*.

説明

「OTHER」システム (LUNAME) からのエラー・メッセージが、ユーザー名によって識別される LU6 セッションで送信された出力に対する応答として、IMS によって受信されました。エラーのあるメッセージが入っている出力キューは、ユーザー名 LTERM 名によって識別されています。入力メッセージ発信元は、ソース LTERM 名によって識別されています。TYPE 7 FM ヘッダーの後に続くテキストに、エラー条件が記述されています。

システムの処置

このメッセージが使用されるのは、IMS マスター端末オペレーター、またはメッセージ送信元端末オペレーターに対して、エラー条件を報告するためです。

IMS マスター端末オペレーターへのエラー報告後、LU6 セッションは終了します。エラーのある出力メッセージは、後で再送信するためにキューに送られます。

ソース端末オペレーター (LU6 メッセージ通信の場合、あるいは ERPKPSES=Y で ERP センス・コードが X'0846xxxx' の場合) へのエラー条件の報告時には、エラーのある出力メッセージはデキューされ、セッションは終了しません。

オペレーターの応答

プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答

メッセージ・テキストで必要とされている適切な処置を取ってください。「OTHER」システム、または IMS / OPNDST コマンドによって、セッションはエラー条件の訂正後に再始動できます。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2074I SESSION ENDED; PURGE DURING QUIESCE NODE x (USER y).

説明

デッドロック条件が、/CHE PURGE QUIESCE の結果として生じています。指定されたノードまたはユーザーのページのため、静止論理が完了できません。

システムの処置:

エラー状態の場合と同様、ノードまたはユーザーはクローズされます (セッションは終了)。

オペレーターの応答:

シャットダウン状況を表示して、セッションが終了したことを確認してください。

DFS2075 INVALID QNAME IN QMODEL FMH.

説明

IMS によって受信された QMODEL FMH (TYPE 6) の QNAME フィールドに、プロセスに関して ATTACH FMH の DQN と一致しない、または使用可能な出力に関して有効な QNAME と一致しない名前が含まれています。

システムの処置

セッションで、入力 QMODEL FMH エラーが検出されていますが、セッションは終了しませんでした。このメッセージが送信されるのは、送信ハーフセッションを通知するためです。

オペレーターの応答

プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答

必要に応じて、入出力操作から継続を試みてください。FMH が再送できるのは、QNAME の問題が訂正されてからですが、FMH は、QNAME を指定しないで再送できます。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2076 INVALID QORG PARAMETER IN QMODEL FMH.

説明

IMS が受信した QMODEL FMH (TYPE 6) の QORG フィールドに入っている QORG 値が、X'02' より大きいか、IMS によって送信された QXFR FMH の QORG と一致しないか、または受信したタイプの QMODEL FMH に対しては無効です。

システムの処置

セッションで、入力 QMODEL FMH エラーが検出されていますが、セッションは終了しませんでした。このメッセージが送信されるのは、送信ハーフセッションを通知するためです。

オペレーターの応答:

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

必要に応じて、入出力操作から継続を試みてください。QORG の問題が訂正されてから、FMH をリセットするか、QORG を X'00' に設定できます。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2077I DATA IS LONGER THAN BUFFER
NODE x (USER y).**

説明

バッファへのデータの移動を試みている最中に、エラーが検出されました。受信されたセグメントが、IMS システム定義で指定されている SEGSIZE より大きかったか、VLVB ブロック・カウントが残っているバッファ・サイズより大きかったか、いずれかです。

システムの処置

ノードまたはユーザーに関するセッションは終了します。ブロック化されるはずであったデータは失われました。

オペレーターの応答:

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

バッファ・サイズを再定義して、IMS システムを再生成するか、出力用として生成されたデータが定義済みバッファよりも長くないことを確認してください。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2078I OUTPUT REJECTED SENSE
xxxxxxx LTERM yyyyyyy. OUTPUT
REJECTED SENSE xxxxxxxx LTERM
yyyyyyy Node zzzzzzzz**

説明

PTERM に送信されようとしているメッセージ内の無効の文字を示す応答が受信されました。または、端末がメッセージを正しく受信するように構成されていません。例えば、装置バッファの範囲外のアドレスが、データ・ストリームに含まれていました。装置から受信したセンス情報がメッセージのセンス・フィールドに含まれています。プログラム式シンボルが含まれている装置の場合は、プログラム式シンボル・バッファが適切にロードされていないと、出力はリジェクトされます。

システムの処置

メッセージが含まれているレコードが IMS ログ・データ・セットに書き込まれます。メッセージは、IMS メッセージ・キューに戻されます。メッセージが応答モ

ードで送信されていない限り、PTERM との通信が続行されます。次に、端末が切断されて、このメッセージが MTO に送信されます。

オペレーターの応答

(マスター端末) このメッセージの後に、DFS998I メッセージが続きます。端末を応答モードから外し (/STOP)、次いで /START)、そして再始動 (/OPN) させます。

(端末) メッセージが、IMS メッセージ・キューからデキューされる必要があるか、LTERM が、出力を受け入れ可能な端末に再割り当てされる必要があります。プログラム式シンボルが含まれている装置の場合、可能な訂正処置としては、プログラム・シンボル・バッファを装置で正しくロードした上でメッセージを再送することです。

関連情報

[367 ページの『DFS998I』](#)

LINE xxx PTERM yyy IS INOPERABLE

**DFS2079I INVALID APPLICATION OUTPUT
LTERM xxxxxxxx LINE yyy PTERM
zzz. INVALID APPLICATION
OUTPUT LTERM xxxxxxxx NODE
yyyyyyy**

説明

サポートされていないコマンド・コードが、MFS バイパスを使用するアプリケーション出力で検出されました。

システムの処置

ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (これによって IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップが提供される) を使用して書き込まれました。かかわりのある端末は作動不能になります。DFS998I メッセージが MTO に送信されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) LTERM を再割り当てするか、メッセージをデキューする必要があります。システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

アプリケーション・プログラムが有効なコマンド・コードを使用するように訂正してください。

関連情報

[367 ページの『DFS998I』](#)

LINE xxx PTERM yyy IS INOPERABLE

**DFS2080I CONVER TRANSACTION INPUT
NOT RECEIVED NODE x (USER y).**

説明

会話型モード中に、間違っセッション・プロトコルが受信されました。この問題は、会話型出力応答メッセージがデキューされる結果になりました。メッセージには、IMS 会話を継続するための有効な理由が示されていませんでした。エラーが原因の無効のセッション・プロトコルで、次のいずれかの条件が示されていました。

1. 会話型出力メッセージに対する応答として、方向が変更された LUSTATUS または CHASE
2. 会話型出力メッセージに対する例外応答センス・コード X'0864'
3. 会話型出力メッセージに対する FMH 7 センス・コード X'0864'

システムの処置

NODE x (USER y) セッションは終了しました。関係のある情報が入っている IMS ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

問題が訂正されると、セッションは NODE x、USER y、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別:

- 1、5、6、12、14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2081I	UNABLE TO RESYNC SESSION FP TRANCODE=nnnnnnnn NODE=xxxxxxxx.
-----------------	---

または

TEMPORARILY UNABLE TO RESYNCH SESSION NODE x (USER y).

または

UNABLE TO RESYNC SESSION TRANCODE=nnnnnnnn NODE=xxxxxxxx

説明

IMS は、次の間、一時的に再同期 不能です。

- セッション開始試行 この条件が生じるのは、セッションの初期設定または再同期を試行している間、応答モード・トランザクションがまだ処理中であるときです。
- RQR 処理 CLEAR 要求が失敗しました。

システムの処置

セッションを開始または再同期する試みは失敗します。

オペレーターの応答

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

応答モード・トランザクションが完了して、出力応答メッセージを作成できるようにしてください。その上で、NODE x (USER y) から、または IMS /OPNDST コマンドで、セッションを再確立してください。/DISPLAY コマンドを使用すると、応答モードの応答が出力で使用可能になる時点を判別できます。

問題判別:

- 1、5、6、12、14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2082	RESPONSE MODE TRANSACTION TERMINATED WITHOUT REPLY.
----------------	--

説明

応答モードのアプリケーションが正常に終了し、出力応答メッセージが端末に戻されることはありませんでした。

OTMA 送信後コミット (CM1) または APPC 同期入力メッセージは、IMS アプリケーションが IOPCB に対する応答を受け取らなかった場合、または別のトランザクションへメッセージ通信を行う場合に、DFS2082 メッセージを受信します。

OTMA コミット後送信 (CM0) 入力メッセージが状態データ接頭部に TMAMHRSP フラグを指定されているときに、アプリケーションが IOPCB に応答しないか、または別のトランザクションへのメッセージ通信を完了した場合、IMS は DFS2082 メッセージを出します。このメッセージは、送信元の入力トランザクションに対して出されます。DFS2082 は、交換先のトランザクションに対して出されることはありません。

システムの処置

この IMS メッセージがアプリケーション出力の代わり
に送信されて、端末が応答モードでハングしないよう
防止します。

プログラマーの応答

IMS との通信を継続し、トランザクション論理が適切な
応答を挿入するように訂正してください。

端末オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照し
てください。

問題判別:

1、5、6、12、14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2083I	NODE <i>nodename</i> SUBPOOL <i>username (ltermname)</i> SOURCE (<i>srclterm</i>) <i>fmh7 message_text</i>.
-----------------	--

説明

「OTHER」システム (LUNAME) からのエラー・メッセ
ージが、ユーザー名によって識別される LU6 セッショ
ンを通して、IMS によって受信されました。エラーのある
メッセージが入っている出力キューは、ユーザー名
LTERM 名によって識別されています。入力メッセージ
発信元は、ソース LTERM 名によって識別されていま
す。FM ヘッダー TYPE 7 の後に続くテキストに、エラ
ー条件が記述されています。

システムの処置

このメッセージが使用されるのは、IMS マスター端末
オペレーターに、リカバリー可能エラー条件を報告す
るためです。FMH7 センス・コード、エラーを招く IMS
のタイプ、および使用されている FMH7 LU6 プロトコ
ルに応じて、現行出力メッセージが廃棄されるか、再
送されます。LU6 セッションは終了しません。詳しく
は、DFS2072I および DFS2073I を参照してください。

オペレーターの応答:

プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答

メッセージ・テキストで必要とされている適切な処置を
取ってください。

問題判別:

1、5、6、12、14、25

DFS2084	INVALID RETURN FROM SIMEXIT, EXIT DISABLED.
----------------	--

説明

DFSSIMLO 出口ルーチンが、戻りコード 8 で、制御権
を IMS に戻した時点で、レジスター 1 によって指し示
されているエリアでトランザクション名を示さなかつ
たか、示されているトランザクション名が無効です。

システムの処置

DFSSIMLO 処理が IMS によって迂回され、戻りコード
0 が想定されます。

オペレーターの応答

通常の入出力アクティビティを続けてください。

DFS2085I	HH:MM:SS SESSION TERMINATED, NODE=xxxxxxx, USER=yyyyyyyyy, SIGN ON FAILURE RC=zzz.
-----------------	---

説明

示されている理由コードのため、サインオンがリジェク
トされました。この理由コードは、メッセージ
DFS3649A で記述されています。

システムの処置

サインオンは無視されます。セッションは終了し、メ
ッセージ DFS2085I が現行 MTO に送信されます。

オペレーターの応答

問題の診断後、サインオンを試みてください。

問題判別:

1、5、6、12、14

関連情報

1062 ページの『DFS3649A』
/SIGN COMMAND REQUIRED.

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2086	/TRACE SET OFF FOR MONITOR IN PROGRESS, CANNOT PROCESS COMMAND
----------------	---

説明

/TRACE SET ON MONITOR コマンドが入力されまし
たが、前の /TRACE SET OFF MONITOR コマンドが完
了していませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答

コマンドが自動化プログラムで入力される場合は、プログラムを変更して、**/TRACE SET OFF MONITOR** コマンドと **/TRACE SET ON MONITOR** コマンドの間の時間を延ばしてください。

モジュール:
DFSICLN4

DFS2087	CANNOT TURN OFF TIMEOUT TRACE DURING SHUTDOWN, COMMAND IGNORED
----------------	---

説明

/TRACE SET OFF TIMEOUT コマンドが入力されましたが、IMS がシャットダウン中でした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

このコマンドは、シャットダウン中に入力しないでください。

モジュール:
DFSICLN0

DFS2088I	APPC/OTMA SMQ ENABLEMENT INACTIVE. REASON = xxx.
-----------------	---

説明

APPC/OTMA Shared Message Queue Enablement が非アクティブです。

理由コードは xxx です。理由コードを以下の表に示します。

表 11. DFS2088I に考えられる理由コード	
コード	意味
004	これは、非共用キュー環境です。
016	RRS がアクティブではありません。
020	メンバーがグループに参加しましたが、APPC/OTMA Shared Message Queue Enablement をサポートできません。
024	別のメンバーが、APPC/OTMA Shared Message Queue Enablement のサポートを除去しました。
028	IMS RRS から切断されました。

表 11. DFS2088I に考えられる理由コード (続き)

コード	意味
032	DFSDCxxx メンバーで AOS=N が指定されました。
036	RRS=N が始動パラメーターとして指定されました。
040	DFSDCxxx PROCLIB メンバーで AOS = が指定されているシステムが、12.1 より低い MINVERS レベルの IMSplex に参加しました。標準トランザクションに XCF 通信を使用する APPC/OTMA Shared Message Queue Enablement は、非アクティブです。標準トランザクションとは、同期レベルが NONE または CONFIRM であるトランザクションです。

システムの処置

IMS は、すべての APPC/OTMA メッセージをフロントエンド・システムに強制的に送信します。

オペレーターの応答

APPC/OTMA Shared Message Queue Enablement のすべての要件が満たされていることを確認してください。

DFS2089I	APPC/OTMA SMQ ENABLEMENT ACTIVE.
-----------------	---

または

[RRS IS USED | XCF IS USED. | XCF AND RRS ARE USED].

説明

同期 APPC/OTMA に対する共用メッセージ・キュー・サポートがアクティブです。

メッセージの 2 行目の値は、次のようになります。

RRS IS USED

RRS はアクティブであり、NONE、CONFIRM、および SYNCPT の同期レベルを持つトランザクションに対する同期点 (sync point) マネージャーです。

XCF IS USED

XCF 通信が使用されており、NONE および CONFIRM の同期レベルを持つトランザクションに対する同期点 (sync point) マネージャーは IMS です。

RRS AND XCF ARE USED

RRSはアクティブであり、SYNCPTの同期レベルを持つトランザクションのみに対する同期点(sync point)マネージャーです。XCF通信が使用されており、NONEおよびCONFIRMの同期レベルを持つトランザクションに対する同期点(sync point)マネージャーはIMSです。

システムの処置

IMSは、IMSplex内のすべてのメンバーがAPPC/OTMAメッセージを処理できるようにします。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS2090I	IMS TIMER SERVICE STIMERM SET CANCEL FAILED, RC=xxx.
-----------------	---

説明

IMS タイマー・サービスがz/OSに、STIMERMの設定または取り消し要求を出しました。z/OSがレジスター15でゼロ以外の戻りコードを戻しました。

システムの処置

タイマー・サービスはシャットダウンされます。タイマー・サービスに関する要求が、ゼロ以外の戻りコードを受信します。IMSが異常終了することはありません。

オペレーターの応答:

(マスター端末)メッセージからの戻りコードをメモし、システム・プログラマーに通知してください。

問題判別

1、4(タイマー障害が原因で、IMSの別の部分が異常終了する場合)、6

関連資料

[z/OS: STIMERM マクロの戻りコード](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMSメッセージおよびコードの問題判別は、IBMによって確立された手順を使用して行われます。

DFS2091I	IMS TIMER SERVICE SHUTDOWN COMPLETED.
-----------------	--

説明

IMS タイマー・サービスがシャットダウンし、タイマー要求を処理しなくなっています。このメッセージは、通常、IMS シャットダウン中に 出されます。また、STIMERM SET または CANCEL が失敗した場合は、メッセージ DFS2090I の後でも 出されます。

システムの処置

タイマー・サービスは、IMS ではもう使用不能になりました。

オペレーターの応答:

IMS シャットダウン中にこのメッセージを受信した場合、応答は必要ありません。STIMERM SET または CANCEL が失敗した場合は、メッセージ DFS2090I を参照してください。

関連情報

[623 ページの『DFS2090I』](#)

IMS TIMER SERVICE STIMERM SET|CANCEL FAILED, RC=xxx.

DFS2092I	INITIALIZATION FAILED FOR TIMEOUT PROCESSOR RC=n.
-----------------	--

説明

IMS VTAM I/O タイムアウト・プロセッサ (DFSASLTO) が、ASLTI ITASK、または IMS VTAM 入出力タイムアウト検出機能によって必要とされるタイマー・テーブル用の、ストレージを取得できませんでした。

戻りコードとその意味は、次のとおりです。

コード (16 進数)

意味

- 01** フロントおよび交換初期設定のための時間 AWE の取得不能
- 02** フロントおよび交換初期設定のための 2 番目の時間 AWE の取得不能
- 03** タイマー・テーブル初期設定のためのクイック保管域の取得不能
- 04** AS1T ITASK 用ストレージの取得不能
- 05** AS1T ITASK の作成不能
- 06** AS1T ITASK 初期設定のための AWE の取得不能
- 07** タイマー・テーブル用ストレージの取得不能
- 08** メイン・タイマー用時間 AWE の取得不能

システムの処置

IMS 初期設定は続行されますが、VTAM 入出力タイムアウト検出機能は使用不能です。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

タイムアウト機能が必要な場合は、IMS 制御領域のサイズを大きくした上で、IMS を再始動してください。

DFS2093 TIMEOUT TRACE FACILITY NOT AVAILABLE, COMMAND IGNORED.

説明

/TRA SET TIMEOUT コマンドを入力しましたが、ASLTI ITASK が IMS 初期設定中に失敗したため、IMS VTAM 入出力タイムアウト検出機能が使用不能でした。/DIS TIMEOVER コマンドを入力し、この機能が活性化されなかった場合も、このメッセージが出されません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

/DIS TIMEOVER コマンドを入力した後で、このメッセージを受信した場合は、必要に応じて /TRA SET TIMEOUT コマンドを出してください。/TRA SET TIMEOUT コマンドを入力した後で、このメッセージを受信した場合は、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

この機能が使用不可の場合は、メッセージ DFS2092I を参照してください。

モジュール:

DFSICLN0

関連情報

623 ページの『DFS2092I』

INITIALIZATION FAILED FOR TIMEOUT PROCESSOR RC=*n*.

DFS2094I NODE *nodename* USER *username* TIMED OUT AT *hh:mm* SENSE=*xxxx*.

または

NODE *nodename* TIMED OUT AT *hh:mm* SENSE=*xxxx*.

説明

VTAM 入出力検出機能を活性化する場合に使用された /TRA SET TIMEOUT コマンドで指定された時間よりも長い時間にわたって、このノードは出力応答が未解決です。2 番目の形式のメッセージが出されるのは、

ISC ノードの場合です。VTAM センス情報が使用可能であれば、このメッセージに組み込まれます。

システムの処置

/TRA SET TIMEOUT コマンドで指定された内容に応じて、処置が決まります。

- MSG が指定された場合は、ノードは、タイムアウト・ノード・チェーン上に置かれ、応答を待ち続けます。
- AUTO が指定された場合、IMS は VTAM VARY NET,INACT コマンドに続いて VTAM VARY NET,ACT コマンドをノードに発行します。ノードが非共用として定義され、まだ作動可能の場合は、ノードに関して OPNDST が出されます。メッセージ DFS2095I および DFS2096I がこのメッセージの後に続きます。
- AUTO が指定され、これが ISC ノードの場合は、ノードはタイムアウト・ノード・チェーン上に置かれ、応答を待ち続けます。自動再始動は実行されません。

オペレーターの応答:

(マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

- MSG が指定された場合は、IMS /IDLE コマンドと /ACT コマンドを発行して、ノードが VTAM V NET,INACT および V NET,ACT を行うようにしてください。そうすれば、ノードを再始動できます。
- AUTO が指定され、このメッセージが ISC ノードに関して出された場合は、MSG について、前の応答を参照してください。
- AUTO が指定され、このメッセージが非 ISC ノードに関して出された場合は、ノードの IMS /DISPLAY を行って、再指導されたか確認してください。

要確認: VTAM TIMEOUT 入出力機能が、IMS シャットダウン中に自動的に開始されます。1 分および 'AUTO' に設定されます。トレース・コマンドが /TRACE TIMEOUT 1 AUTO ならば、効果的です。VTAM TIME 入出力機能は、IMS 初期設定中にも自動的に開始されます。

関連情報

624 ページの『DFS2095I』

V NET,INACT PERFORMED FOR NODE *nodename*.

625 ページの『DFS2096I』

V NET,ACT PERFORMED FOR NODE *nodename*.

DFS2095I V NET,INACT PERFORMED FOR NODE *nodename*.

説明

IMS が、次のいずれかの理由で、VTAM 'VARY NET,INACT' コマンドを出しています。

- IMS VTAM 入出力 I/O 検出機能が、タイムアウトになっている VTAM ノードを検出し、それを自動的に非活動化している。このメッセージの前にメッセージ DFS2094I が、後にメッセージ DFS2096I が、それぞれ出されます。
- IMS TM シャットダウン処理が、完了していない動的端末に関する未解決の SIMLOGON を検出し、そのノードを自動的に非活動化しています。このメッセージの後に、メッセージ DFS2096I が続きます。

関連情報

624 ページの『DFS2094I』

NODE *nodename* USER *username* TIMED OUT
AT *hh:mm* SENSE=xxxx.

625 ページの『DFS2096I』

V NET,ACT PERFORMED FOR NODE *nodename*.

DFS2096I **V NET,ACT PERFORMED FOR NODE
nodename.**

説明

IMS が、次のいずれかの理由で、VTAM 'VARY NET,ACT' コマンドを出しています。

- IMS VTAM 入出力 I/O 検出機能が、タイムアウトになっている VTAM ノードを検出し、それを自動的に再活動化している。IMS がこのメッセージを出すときは、その前にメッセージ DFS2094I および DFS2095I が出されています。
- IMS TM シャットダウン処理が、完了していない動的端末に関する未解決の SIMLOGON を検出し、そのノードを自動的に再活動化しています。このメッセージの前に、メッセージ DFS2095I が出されています。

関連情報

624 ページの『DFS2094I』

NODE *nodename* USER *username* TIMED OUT
AT *hh:mm* SENSE=xxxx.

624 ページの『DFS2095I』

V NET,INACT PERFORMED FOR NODE
nodename.

DFS2097I **DBDGEN REQUIRED FOR
DATABASE *nnnnnnnn* TO SET
DATXEXIT INDICATOR**

説明

DATXEXIT=YES フラグをオフにして、データベースに関する最初の DL/I 呼び出しを処理している最中に、DL/I 呼び出しアナライザーがユーザー・データ変換出口を呼び出しました。しかし、SRCHFLAG が X'FF' (ユ

ーザー出口がこのデータベースで必要であったことを示す) に設定されずに、戻されました。DL/I 呼び出しアナライザーが DATXEXIT=YES フラグを動的にオンにし、このデータベースに関するトランザクションの処理を続けますが、DATXEXIT=YES を指定した DBDGEN が、このデータベースに関して実行される必要があるという警告メッセージをユーザーに出します。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

DBDGEN がこのデータベースに必要なことを、データベース管理者に通知する必要があります。

DFS2098 **ERROR TRANSMITTING INPUT -
RESEND INPUT DATA.**

説明

ネットワーク端末オプション (NTO) が、入力データの伝送中に、ネットワーク制御プログラム (NCP) からの一時ハードウェア・エラーを検出しました。NTO がセンス・コード X'0827' を IMS に送信して、受信されたデータが誤りで、再送が必要であることを示しました。

システムの処置

NTO はセンス・コード X'0827' を処理し、メッセージ DFS2098 を入力端末に送信しました。メッセージがマルチチェーニングされていた場合は、NTO が直前のチェーンを取り消しました。

オペレーターの応答:

最後に入力されたメッセージを再度送信してください。

DFS2099 **DATA EXCEEDS RECANY RU SIZE
NODE *x*.**

説明

VTAM から受信されたデータ長が、RECEIVE ANY バッファのサイズよりも大です。

システムの処置

セッションは終了します。関係のある情報が入っている、IMS トレース・ログ・レコード (X'6701' ID=CVCT) が生成されました。

プログラマーの応答

X'6701' ID=CVCT ログ・レコードに RPL が含まれています。RPLLEN は RPLBUFL より大です。RPLBUFL は、COMM マクロの RECANY=(number,size) パラメーターで定義されている RECEIVE ANY バッファ・サイズです。

問題判別:

5、6、14、25

関連情報11 ページの『[IMS 問題判別](#)』IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。**システムの処置**

入力を取り消されます。

オペレーターの応答:メッセージ入力記述および装置入力形式に従って、メッ
セージを再入力してください。

**DFS2100 END OF MESSAGE BEFORE END OF
DATA-INPUT IGNORED.****説明**データの末尾に達する前に、MFS がメッセージの終わ
りに達しました。

第 46 章 DFS メッセージ DFS2101I - DFS2150I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2101I DEACTIVATING NODE xxxxxxxx.

説明

IMS がセッションを物理的に整然と終了できませんでした (CLSDST)。論理的に終了させることが必要です。この問題の原因として考えられるのは、次の場合です。

1. コンソール・オペレーターが VTAM を取り消した。
2. VTAM が異常終了した。
3. VTAM ストレージ不足条件のため、CLSDST が 25 回失敗した。

システムの処置

非活動化標識が、ノードを表す IMS 制御ブロックでオンになっています。

プログラマーの応答

上記の理由のうちのどれが原因で問題が生じたか判別し、訂正処置を取ってください。ノードの復帰には、IMS を停止し (/STOP DC-/CHExxxx)、あらためて立ち上げてください。

**DFS2102 POSITIVE RESPONSE NOT
REQUESTED FOR RECOVERABLE
MESSAGE.**

説明

リカバリー可能メッセージが 3600 または 3790 端末から受信されましたが、肯定応答に対する要求を伴っていません。

システムの処置

メッセージは取り消されます。

プログラマーの応答

3600 または 3790 プログラムを訂正するか、必要な場合は、IMS システム定義でのトランザクションの定義を訂正してください。

**DFS2103 NODE KEYWORD PARAMETER
MISSING.**

説明

NODE キーワードが入力されましたが、どのノードか、あるいは全部か、指定されていませんでした。

システムの処置

IMS システムは継続し、コマンドは無視されます。

オペレーターの応答

操作の対象となるノードを指定して、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICLNO

**DFS2104 INVALID NODE NAME -NODE
nodename**

または

INVALID NODE NAME.

説明

示されているノード名がシステムで検出されなかったか、非 ISC ノードを IMS 2 次 LU にする試みがなされました。

最初の形式のメッセージがコマンド・プロセッサによって出されるのは、コマンドが未定義ノードを参照している場合です。

2 番目の形式のメッセージが LOGON または SCIP 出口によって出されるのは、次のどちらかの状態が生じた場合です。

- セッション開始要求が未定義ノードを参照している。
- ISC セッション要求が非 ISC ノードを参照している。

システムの処置

コマンドは無視され、LOGON/REQSESS はリジェクトされます。

オペレーターの応答:

(端末オペレーター) コマンドが原因でメッセージが出された場合は、有効なノード名を使用してコマンドを再入力してください。

モジュール:
DFSICLNO

DFS2105 NO NODE DEFINED IN SYSTEM.

説明

NODE キーワードを指定しコマンドが入力されましたが、ノードが定義されていません。

システムの処置

コマンドは無視され、処理は続行されます。

オペレーターの応答:

コマンドを訂正し、再発行してください。

DFS2106 UNKNOWN TERMINAL TRIED TO CONNECT ON LINE x PTERM y.

説明

ID 検査が必要な回線で、ID リストでは許可されていない 3275 ダイヤル端末が、IMS への接続を試みました。

システムの処置

接続は切断されます。回線は再始動し、接続の試行を待ちます。

プログラマーの応答

状況によって保証されているときは、ログ印刷ユーティリティ (DFSERA10) を、レコード・タイプ =X'69' で使用して、問題を生じている端末 ID、およびそれらがアクセスした回線をリストしてください。

DFS2107 NODE NOT PHYSICALLY DISCONNECTED, CANNOT PROCESS COMMAND.

説明

/EXIT コマンドがリモート端末ノードに関して発行されましたが、このノードは現在物理的に切断されていません。

システムの処置:

コマンドは処理されません。

オペレーターの応答:

リモート・ノードが切断されたら、コマンドを再試行してください。

DFS2108 INVALID COMMAND FROM NON-VTAM TERMINAL.

説明

A /RCLSDST コマンドが入力されましたが、VTAM ノードではない端末からでした。

システムの処置:

コマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

コマンドを訂正し、再試行してください。

DFS2109 VTAM ACB NOT OPEN.

説明

入力されたコマンドには、VTAM ACB が開かれている必要があります。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

/START DC を発行し、再試行してください。

DFS2110A NON-QUICK VTAM SHUTDOWN REQUESTED.

説明

VTAM オペレーターが VTAM にシャットダウンを指示しています。VTAM は TPEND 出口を介して、このことを IMS に通知しています。

説明

VTAM ACB を CLOSE する試みがなされ、戻りコード X'xx' が受信されました。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

マスター端末オペレーターの応答: 次のいずれかの処置が取れます。

- 処理を続ける必要がない場合は、/CLSDST コマンドを入力して、アクティブ・ノードをすべて切断する。
- /CHECKPOINT コマンドを入力して、IMS をクローズする。
- 処理を続ける必要がある場合は、メッセージを無視する。
- /STOP DC して、ACB をクローズする。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

DFS2111I VTAM ACB CLOSED.

説明

VTAM ACB がクローズされました。IMS は VTAM から切断されています。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

**DFS2112I UNABLE TO CLOSE VTAM ACB,
REG 15=rc, ACBERFLG=xx.**

説明

/STOP DC コマンドを使用して、または IMSIMS TPEND 出口ルーチンを駆動する VTAM によって、VTAM ACB を CLOSE する試みが行われました。試みが失敗し、戻りコード rc がレジスター 15 に入り、ACB エラー・フラグが xx で示されているように設定されました。

システムの処置

IMS は、内部的に VTAM ACB にクローズのマークを付け、その VTAM インターフェースなしで、処理を続行します。

プログラマーの応答

示されている情報 (戻りコードとエラー・フラグ) を使用して、CLOSE が失敗した理由を究明してください。CLOSE マクロの説明、および戻りコードとエラー・フラグの説明については、「VTAM V4R3 for MVS/ESA Programming」(SC31-6496) を参照してください。「VTAM Messages and Codes」(SC31-6493) に追加情報が記載されています。

**DFS2113 NO DPAGE CONDITION WAS MET-
INPUT IGNORED.**

説明

条件付き DPAGE は、条件が満たせず、無条件 DPAGE は指定されていませんでした。OPTIONS=DNM の場合は、すべての DPAGES が条件付きです。

システムの処置

入力は取り消されます。

オペレーターの応答:

正しい入力内容を再入力してください。問題が引き続き発生する場合は、プログラマーに要請して、そのメッセージに関して装置入力形式を分析してください。

**DFS2114 OUTPUT ERROR LINE xxx PTERM
xxx {, DO NOT REDIAL PTERM}.**

説明

出力メッセージを端末に書き込んでいる最中に、永続出力エラーが発生しました。

システムの処置

現行セッションは終了します。次のセッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

オペレーターの応答:

(マスター端末) エラー・メッセージで特に指示されていない限り、セッションを繰り返してください。そうでなければ、次の必須端末をダイヤル呼び出ししてください。

問題判別

23、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2115 PTERM DISC LINE xxx PTERM xxx
{[SEQ NO xxxxx [SEGM ID
xxxxxxxxx]], DO NOT REDIAL
PTERM}.**

説明

端末が入力または出力中に、切断シーケンスを出しました。

システムの処置

現行セッションは終了します。次のセッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

オペレーターの応答:

(マスター端末) リモート端末で問題を訂正してからでないと、現行セッションは再確立できません。

問題判別

入力中に、エラーの時点でのメッセージ・セグメントは、シーケンス番号によって、またオプションでは、8 文字 ID によって、識別されます。入力と出力の両方について、終了状況がリモート端末の画面に表示されています。

**DFS2116 OUTPUT COMPLETE LINE xxx
PTERM xxx.**

説明

準備できた出力メッセージすべてが端末に正常に書き込まれています。出力メッセージがセッション中に書き込まれない場合は、このメッセージが出されることはありません。

システムの処置

現行セッションは完了します。次のセッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

**DFS2117 INPUT COMPLETE LINE xxx PTERM
xxx.**

説明

入力メッセージが端末から正常に読み取られていません。読み取る入力メッセージがない場合は、このメッセージが出されることはありません。

システムの処置

現行セッションは、出力フェーズから続行されます。出力メッセージがない場合は、セッションは完了で、次のセッションがオペレーター接続に備えて開始されます。

DFS2118 DIAL REMOTE TERMINAL LINE xxx PTERM xxx.

説明

セッションが回線開始コマンドの後で、または前のセッションに続いて、開始されています。

システムの処置

端末が物理的に接続され、使用可能制御装置がポストされるまで、セッションは待ちます。

マスター端末オペレーターの応答: 必須端末をダイヤル呼び出しして、トーンが聞こえたら、モデムの DATA を押してください。すべてのセッションが完了したら、**STOP** コマンドを発行した上で、モデムの DATA を押すと、セッションが終了し、回線は活動停止中の状態になります。

DFS2120 SET COMMAND ERROR LINE xxx PTERM xxx.

説明

内部的に作成された /SET コマンドが、IMS により無効としてリジェクトされました。

システムの処置

現行セッションは終了します。次のセッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 問題が引き続き発生する場合は、出口ルーチンが訂正されるまで、さらにセッションを開始することがないようにしてください。

プログラマーの応答

ユーザー・サインオン出口が有効な IMS 名を作成するように訂正してください。

問題判別

/TRACE (レベル 3) を使用してセッションを繰り返し、エラーの設定コマンドを示すログ・データ・セットを印刷してください。

DFS2121 USER EXIT REQUESTED DISC LINE xxx PTERM xxx.

説明

ユーザー・サインオン出口が、端末の切断を要求して戻りコードを渡しました。

システムの処置

現行セッションは終了します。次のセッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

プログラマーの応答

ユーザー・サインオン出口要求が有効であるかチェックして判別してください。これが無効の場合は、訂正処置をとってください。

マスター端末オペレーターの応答: 必須端末をダイヤル呼び出ししてください。

問題判別

6、24

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2122 INPUT ERROR LINE xxx PTERM xxx [SEQ NO xxxxx [SEGM ID xxxxxxxx]].

説明

端末から入力メッセージを読み取っている最中に、永続入力エラーが発生しました。

システムの処置

現行セッションは終了します。次のセッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

マスター端末オペレーターの応答: セッションを繰り返してください。エラーが引き続き発生する場合は、リモート端末で手操作による介入が必要になる可能性があります。

問題判別

エラーの時点での入力メッセージ・セグメントは、シーケンス番号によって、またオプションでは、8 文字 ID によって、識別されます。終了状況がリモート端末の画面に表示されています。

DFS2123 STATUS MSG x LINE xxx PTERM xxx {[SEQ NO xxx [SEGM ID]}

xxxxxxx], DO NOT REDIAL
PTERM}.

説明

エラーがリモート端末で検出されました。1文字状況メッセージが端末から読み取られ、エラー・メッセージに挿入されました。

システムの処置

現行セッションは終了します。次のセッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

オペレーターの応答:

(マスター端末) エラー・メッセージで特に指示されたり、手操作による介入なしでは問題がリカバリー不能である旨が、状況メッセージに示されていない限り、セッションを繰り返してください。それ以外の場合は、必須端末をダイヤル呼び出ししてください。

問題判別

入力中に、エラーの時点でのメッセージ・セグメントは、シーケンス番号によって、またオプションでは、8文字IDによって、識別されます。入力と出力の両方について、終了状況がリモート端末の画面に表示されています。エラー・メッセージの3741状況メッセージ文字をチェックしてください。

DFS2124 OUTPUT NOT COMPLETE.

説明

キュー内のメッセージがすべては送信されないうちに、ユーザーが回線停止を発行し、端末を切断しました。

システムの処置

システムは処理を続行します。

オペレーターの応答

通常の端末操作を進めてください。

**DFS2125 LOGICAL TERMINAL BECAME
TRANS I: sss1/name1, D: sss2/
name2**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答

入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。

プログラマーの応答

エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別:

14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2126 TRANS BECAME LOGICAL
TERMINAL I: sss1/name1, D: sss2/
name3**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答

入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。

問題判別:

14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2127 SPA IN MSG FOR NON-CONV
TRANS I: sss1/name1, D: sss2/
name2**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM
名。name1 は、非会話型として定義されています。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM また
は TRAN コード。name2 は、会話型として定義さ
れています。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エ
ラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステ
ムから除去します。

オペレーターの応答

入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセ
ージに、エラーであったメッセージのタイプが示されて
います。このメッセージに関して、2つのシステム定義
指定を比較し、エラーの方を訂正してください。

プログラマーの応答

エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別:

14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2128 NO SPA IN MSG FOR CONV TRANS
I: sss1/name1, D: sss2/name2**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM
名。name1 は、非会話型として定義されています。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM また
は TRAN コード。name2 は、会話型として定義さ
れています。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エ
ラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステ
ムから除去します。

オペレーターの応答

入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセ
ージに、エラーであったメッセージのタイプが示されて
います。このメッセージに関して、2つのシステム定義
指定を比較し、エラーの方を訂正してください。

プログラマーの応答

エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別:

14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2129 MSG IS RECOV BUT DEST IS NOT I:
sss1/name1, D: sss2/name2**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM
名。name1 は、リカバリー可能として定義されて
います。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM また
は TRAN コード。name2 は、リカバリー不能とし
て定義されています。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エ
ラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステ
ムから除去します。

オペレーターの応答

入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセ
ージに、エラーであったメッセージのタイプが示されて
います。このメッセージに関して、2つのシステム定義
指定を比較し、エラーの方を訂正してください。

プログラマーの応答

エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別:

14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2130 MSG IS NOT RECOV BUT DEST IS I:
sss1/name1, D: sss2/name2**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。name1 は、リカバリー可能として定義されています。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。name2 は、リカバリー不能として定義されています。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答

入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。

プログラマーの応答

エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別:

14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2131 DEST OF A RESPONSE IS A TRANS
I: sss1/name1, D: sss2/name2**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置

IMS は、レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答

入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。

プログラマーの応答

エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別:

14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2132 INPUT LOGICAL TERMINAL NOT
FOUND I: sss1/name1, D: sss2/
name2**

説明

このシステムが受信したメッセージは、入力に対する応答です。入力の発信元はこのシステムの LTERM であるが、その LTERM を検出できないか、システム・エラーであるか、または sss1 の定義が変更されています。name1 が sss1 に定義されていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

発信元 LTERM 名 (X'64' レコードにある) をシステム定義に照らしてチェックして、応答の受信前に、システムが再定義されたかどうか判別してください。発信元 LTERM 名が存在していた場合は、CNT が破棄されている可能性があります。

問題判別:

14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2133 RESPONSE PTERM NOT INPUT
PTERM I: sss1/name1, D: sss2/
name2**

説明

アプリケーション・プログラムが、SAMETRM=YES を指定して、代替応答 PCB にメッセージを挿入しました。ただし、論理端末 name2 が、name1 と同じ物理端末を指していません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答

入力およびマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、かかわりのある論理端末が示されています。論理/物理端末間割り当てをチェックしてください。正しいければ、応答を生成したアプリケーション・プログラムをチェックしてください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

必要なら、エラーのあるシステム定義アプリケーション・プログラムを訂正してください。必要なら、論理/物理端末間割り当てを訂正してください。

問題判別:

14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2134 INVALID SYSID DETECTED LINK x

または

**INVALID SYSID DETECTED I: sss1/name1,
D: sss2/name2**

説明

このメッセージの最初の形式が出される結果になるのは、sss2 が無効であることが、受信側 IMS によって検出されたときです。sss2 は、エラーが発生しているシステムでは定義されていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

このメッセージの 2 番目の形式が出される結果になるのは、送信元 SYSID または宛先 SYSID、あるいは両方の SYSID が無効であることが、送信側 IMS によって検出されたときです。この状態が生じるのは、バージョン 6 の IMS システムと、255 より大きい SYSID を認識しない、6 より前のバージョンの IMS システムとの間の通信時です。エラーとして、次のものが考えられます。

- 発信元 SYSID が 256 より小さいメッセージ宛先の SYSID が 255 より大きい。
- 発信元 SYSID が 255 より大きいメッセージ宛先の SYSID が 256 より小さい。
- メッセージの発信元と宛先 SYSID が両方とも 255 より大きい。

発信元および宛先 SYSID は、MSNB の MSNBOSID および MSNBDSID フィールドに入っています。リンク番号が x です。

上記のエラーのいずれが発生した場合でも、メッセージ制御/エラー出口ルーチンが制御権を受け取ります。出口ルーチンがデフォルトのアクションを要求する場合は、エラーに関連した DFS2134 メッセージが出されません。

メッセージ制御/エラー出口ルーチンが、送信側または受信側システムでカスタマイズ されて、誤った出口フラグを指定したり、出口フラグは正しいが、IMS が要求された 処置を実行しているとき、および関連するデフォルトのアクションが実行されているとき、エラーが検出された場合も、このメッセージが出される可能性があります。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ X'64' を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

システム・プログラマーの応答

エラーの検索および訂正は、次の処置を必要に応じて実行して行ってください。

- システム定義の TRANSACT、LTERM、MSNAME 定義での SYSID エラーを訂正する。
- メッセージ制御/エラー出口ルーチン DFSCMUX0 からデフォルトのアクションを 決定する。
- 該当する場合は、メッセージ制御/エラー出口ルーチンの出口フラグ、または転送の宛先を 訂正する。

問題判別:

14

モジュール:

DFSCMS00、DFSCMEI0、DFSCMUX0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2135 INVALID PARTNER ID LINK xxx.

説明

マスター端末オペレーターが複数システム・サポート・リンクの開始を試みましたが、2 つのシステムのパートナー ID が一致しませんでした。

システムの処置

IMS はリンクを停止します。

オペレーターの応答

/DISPLAY ASSIGNMENT コマンドを使用して、論理リンクおよび物理リンク割り当てを表示させてください。論理/物理リンク間割り当てにエラーがあれば、訂正してください。エラーがない場合は、無効のパートナー ID が検出されたことを、システム・プログラマーに連絡してください。また、物理リンクに関して使用されている DD ステートメントも 検証してください。

プログラマーの応答

エラーであれば、システム定義を訂正してください。

**DFS2136 REQUIRED RESTART RESPONSE
NOT RECEIVED LINK xx.**

説明

この問題は、システム・エラーです。IMS が複数システム・サポート接続の他方のパートナーに再始動要求を送信しましたが、再始動応答が受信されませんでした。

システムの処置

IMS はリンクを停止します。

オペレーターの応答

接続の両側で IMS トレースを開始し、再試行してください。必要な再始動応答が受信されなかったことを、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

IMS トレースによって、該当するリンクが接続されていたか 検証してください。

問題判別

14 (両方のシステムの場合)、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2137 MSG IS INQ BUT DEST MAY
UPDATE I: sss1/name1, D: sss2/
name2**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。name1 は、照会トランザクションとして 定義されています。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。name2 は、更新トランザクションとして定義されています。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答

入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。

プログラマーの応答

エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別:

14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2138 INVALID BUFFER SIZE LINK xxx.

説明

マスター端末オペレーターが複数システム・サポート・リンクの開始を試みました。ただし、システム定義のバッファ・サイズが等しくなかったため、リンクは開始しませんでした。メッセージに示されているリンクに割り当てられているパートナーは、伝送バッファ・サイズが、示されているリンクと異なっています。

システムの処置

IMS はリンクを停止します。

プログラマーの応答

リンクの定義を訂正してください。

DFS2140 DESTINATION *name* STOPPED, REASON CODE *xxx*.

説明

IMS が、パートナーの要求時にメッセージで識別された宛先を停止しました。理由コード *xxx* は、ブロックから読み取られたのに、処理されなかった IMS メッセージの番号です。

システムの処置

IMS は、示されているブロックを停止します。番号が REASON CODE として示されているエラー・メッセージが、パートナー・システムのマスター端末に送信されます。

オペレーターの応答

MSNAME を再開し、システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

理由コード *xxx* が 2146 である場合、パートナー IMS システムが INVALID DATA BLOCK エラーを検出しました。リンクの両側でメッセージが破棄され、送信側パス MSNAME が停止されました。

理由コード 1945 の場合、受信側 IMS システムが、メッセージをメッセージ・キューに書き込み中に、QMGR/CQS 書き込みエラーを検出しました。メッセージはメッセージ・キューに戻され、再び送信される (MSNAME パスが再開される場合) か、オペレーターによってキューから除去されます。

すべての DFS2140 エラーの場合、両側にタイプ 6701 ID=MSS*x* (*x*=1、2、または 3) ログ・レコードが記録されます。詳しくは、メッセージ DFS1945、DFS2146、または理由コードに相当するすべてのメッセージ・キーを参照してください。

問題判別

引き続きエラーが発生する場合は、システム・プログラマーに連絡してください。エラーが MSC リンクで検出された場合、以下の CLBTEMP フィールドが 6701 MSS1 レコードの LLB ブロックで設定されます。

- CLBTEMP1 = DFS2140 メッセージの理由コード
- CLBTEMP3 = メッセージ・キー = x'0000085C' = 10 進数 2140
- CLBTEMP4 = モジュール ID。すなわち、C'CMSI' = DFSCMSIO または C'CMSP' = DFSCMSPO
- CLBTEMP5 = 該当する場合、エラーを検出したモジュールにオフセットされる R5 または R14 BALR

関連情報

574 ページの『DFS1945』

DATA COMMUNICATIONS QMGR/CQS WRITE ERROR LINK *xx*

638 ページの『DFS2146』

INVALID DATA BLOCK RECEIVED LINK *xx*.

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2141 INPUT SYSID NOT DEFINED I: sss1/*name1*, D: sss2/*name2*

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。この情報がメッセージに表示されるのは、sss1 および name1 がシステム定義に定義されていない場合です。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

SYSID sss1 が定義されておらず、無効です。SYSGEN を訂正してください。

プログラマーの応答:

エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別:

14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2142

**MSNAME xxxxxxxx STOPPED LINK
yyy.**

説明

メッセージが論理リンク yyy で受信されましたが、MSNAME xxxxxxxx が停止されていました。

システムの処置

システムはメッセージをリジェクトし、メッセージ DFS2140 REASON CODE 2142 で送信側システムに通知します。

オペレーターの応答

論理リンク (/START MSNAME xxxxxxxx) を再始動してください。引き続きエラーが発生する場合は、両方のシステムでリンクを PSTOP し (/PSTOP LINK yyy)、両方のシステムで MSNAMES を開始した (/START MSNAME xxxxxxxx) 上で、再度両方のリンクで再始動する (/RSTART LINK yyy) 必要がある可能性があります。

DFS2143

**INCONSISTENT SPA LENGTH I:
sss1/name1, D: sss2/name2**

説明

sss2 は、sss1 とは異なるサイズの SPA で定義されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーにこのエラーを通知し、SPA サイズを訂正してください。

システム・プログラマーの応答

2 つのシステム定義を比較して、SPA サイズに誤りがある方を判別してください。エラーのあるシステム定義を訂正してください。

問題判別

14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2144

**CTC TRANSMISSION LENGTH
ERROR; LINK STOPPED. LINK nnn.**

説明

データ伝送エラーがリンク nnn で検出されました。リンク nnn は、チャンネル間アダプターに割り当てられています。X'FF' データの終わりマーカーが受信されませんでした。

入出力エラーであれば、z/OS エラー・メッセージ IEA000I がシステム・コンソールに表示されます。それ以外であれば、論理エラーと推定されます。

システムの処置

リンク *nnn* は停止されます。レコード ID が MSS1 および MSS2 の 2 つの X'67' トレース・レコードがログに記録されます。

オペレーターの応答

(マスター端末) リンクを再始動してください。問題が引き続き発生する場合は、バックアップ・リンクが使用可能なら、それを使用してください。

問題判別

タイプ X'67' ログ・レコードが作成され、関係のあるブロックがすべて含まれています。

関連資料

z/OS: IEA000I

**DFS2145 MESSAGE LOST DURING LINK
 RESTART LINK xxx.**

説明

リンクの同期中に、他のシステムがまだ受信していないメッセージを 1 つ以上、このシステムが逸失したことを、IMS が検出しました。このシステムでの DEQ カウントと他のシステムでの受信カウントとの差が、失われたメッセージのカウントになります。

システムの処置

IMS は、タイプ X'6701' ログ・レコードを使用して、エラー情報をログに記録します。リンクは、PSTOP により停止されます。再始動ブロックが更新されるので、後続の再始動リンクは作動しますが、メッセージは失われたままです。

オペレーターの応答

両方の IMS システムが正しく再始動されたか検査してください。(間違ったチェックポイントからのコールド・スタートまたはコールド・リスタートが原因になる可能性があります。) リンクをあらためて再始動してください。リンクは再始動するはずですが、メッセージは失われたままです。

プログラマーの応答

両方のシステムからのログ・データ・セットを分析して、メッセージが失われた理由を判別する必要があります。IMS ウォーム・スタートに続いてエラーが発生した場合は、再始動ログ・データ・セットも分析する必要があります。(タイプ 40、66、および X'6701' のレコードを印刷することが必要になります。)

問題判別

36. 両方のシステムからのマスター端末出力および IMS ログ・データ・セットを、文書として組み込んでください。IMS がウォーム・スタートであった場合は、再始動ログも組み込んでください。

**DFS2146 INVALID DATA BLOCK RECEIVED
 LINK xx.**

説明

リンク *xx* で受信されたデータ・ブロックが、検査時に、無効なデータまたは失われたデータが含まれていることが検出されたか、会話型ルーチンが会話型メッセージの処理を試みている最中に、エラーを検出しました。

システムの処置

データ・ブロックはリジェクトされます。データ・ブロックが再同期、再始動、またはシャットダウン・メッセージの場合は、リンクは停止しています。データ・ブロックがユーザー・メッセージまたはシステム・メッセージの場合は、送信側 IMS でメッセージは破棄(デキュー)されました。また、関連した送信側 MSNAME パスが送信側 IMS で停止され、メッセージ DFS2140 が理由コード 2146 と一緒に、送信側 IMS で発行されました。両側でタイプ 6701 ID = MSS*x* (*x* = 1、2、または 3) ログ・レコードが書き込まれます。

オペレーターの応答:

(マスター端末): パートナー・システムの論理リンクを表示 (/DIS MSNAME) して、リンクが停止されたか確認してください。パートナーが停止されなかったのは、エラーがリカバリーされた場合です。停止された場合は、リンクを再始動 (/START MSNAME) してください。

システム・プログラマーの応答

タイプ 6701 のログ・レコードを印刷し、エラーを分析します。

問題判別

引き続きエラーが発生する場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

以下の CLBTEMP フィールドが、6701 MSS1 レコードの LLB ブロックで設定されます。

- CLBTEMP1 = これが会話型エラーである場合、疑似異常終了コード。CLBTEMP4 は、会話型エラーの場合は CONM または CON2 です。
- CLBTEMP2 = 戻りコード (該当する場合)
- CLBTEMP3 = メッセージ・キー = x'00000862' = 10 進数 2146
- CLBTEMP4 = モジュール ID。すなわち、C'CONM' = DFSCONM0、C'CON2' = DFSCON20、C'CMSV' = DFSCMSV0、または C'CMSZ' = DFSCMSZ0。

- ・該当する場合、エラーを検出したモジュールにオフセットされる R5 または R14 BALR

DFS2147I ACB CLOSE PENDING ON MASTER TERMINALS.

説明

/STOP DC コマンドが入力されましたが、VTAM ACB がクローズされるまでは完了できません。ACB は、すべての VTAM ノード・セッションが終了するまでは閉じることができません。このメッセージが出されるのは、マスター端末または 2 次マスター端末、あるいはその両方のみが、残っているアクティブ・ノードであることを、オペレーターに知らせるためです。

オペレーターの応答

/CLSDST NODE または **/IDLE NODE** コマンドを出して、ノードをクローズしてください。これで、VTAM ACB をクローズし、**/STOP DC** 処理を完了することができます。メッセージ DFS2111I に正常な VTAM ACB クローズが示されます。

DFS2148I HH:MM:SS QERR=aabb REMOTE MSG xxxx FROM SYSID=yy.

説明

機能 aa を要求している最中に、キュー・エラーが発生しました。キュー・マネージャーが戻りコード bb を出し、SYSID yy がコマンド xxxx を発行しました。

システムの処置

メッセージはデキューされ、制御権はディスパッチャーに戻されます。関係のある制御ブロックの SNAP を提供する X'6701' レコードがログに書き込まれます。

オペレーターの応答

有効なコマンドを入力してください。

システム・プログラマーの応答

正しい応答については、問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2149 PARTNER IMS IN SAME SHARED QUEUES GROUP - RESTART ABORTED LINK xxx

説明

マスター端末オペレーターが複数システム結合機能 (MSC) リンクの開始を試み、パートナー IMS が同じ共用キュー・グループ (SQG) にあります。同じ SQG 内の IMS システム間 MSC リンク・トラフィックは、サポートされません。

システムの処置

IMS はリンクを停止します。

オペレーターの応答:

リンクは再始動されません。IMS またはパートナー IMS が非共用キュー・モード、または別の共用キュー・グループで立ち上げられるときなどのように、リンクがバックアップ目的を意図していない場合は、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

IMS システムの 1 つから共用キュー指定 (例えば、SHAREDQ= 始動パラメーター) を除去するか、IMS システムの 1 つを別の SQG に入れてください。

DFS2150A hh:mm:ss CTC IO ERR PC=xx REASON=xx OP=xx LINK nnnn STOPPED.

説明:

説明と処置については、DFS2150I を参照してください。

関連情報

DFS2150I

MTM I/O ERR PC=xxxxxxxx LINK=xxxx.

DFS2150I MTM I/O ERR PC=xxxxxxxx LINK=xxxx.

または

CTC ERR RC=xx LINK=xxxx.

または

hh:mm:ss CTC IO ERR PC=xx REASON=xx OP=xx LINK nnnn RSTARTED.

または

MTM ERR RC=xx LINK=xxxx.

説明

入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

RC

戻りコード

PC

通知コード

REASON

関連するチャンネル間理由コード

LINK

リンク番号

OP

試行された CTC 操作

hh:mm:ss

時刻

メッセージ DFS2150I...LINK nnnn RSTARTED が出されるのは、リンクが停止されてから、IMS によって再始動された場合です。メッセージ DFS2150A...LINK nnnn STOPPED が出されるのは、IMS がリンクの再始動を試みたが、それが不能であった場合です。

次のチャンネル間操作が該当します。

操作

コード (16 進数)

意味

04

WRITE: バッファ書き込み

08

ACK: 入力確認

0C

WRACK: バッファ書き込みおよび入力確認

10

STARTUP: 接続確立

14

SHACK: 入力確認および接続シャットダウン

18

SHUTDOWN: 接続シャットダウン

1C

READ: 入力読み取り

表示される可能性のあるチャンネル間戻りコードと、その意味は次のとおりです。

戻り

コード (16 進数)

意味

04

論理エラー: IOSB は ACK または WRACK でビジーではない。

08

論理エラー: ACK または WRACK が出され、確認するためのメッセージは受信されない。

10

論理エラー: STARTUP 時に、DECWAREA、DECWLNG、DECAREA、または DECLNGTH に無効の値がある。

14

推定入出力エラー: アテンション割り込み時。

18

ページング・エラー: STARTUP 時。

1C

論理エラー: STARTUP 時のモジュール DFSCMC50 内。

20

論理エラー: STARTUP が発行されたが、リンクはすでに接続されている。

24

論理エラー: SHUTDOWN が発行されたが、リンクはすでにシャットダウンされている。

28

SHUTDOWN 中に、入出力エラーまたは異常条件が検出され、SHUTDOWN は正常に実行された。

以下の表は出される可能性がある通知コードと関連理由コード、およびその意味です。

通知理由コード	コード (16 進数)	意味
7F	any	入出力がエラーなしで完了
7F	04	始動: リンクが書き込みで 使用可能
7F	08	始動: メッセージが受信された
7F	0C	メッセージが受信された
7F	10	シャットダウンが受信された
7F	1C	確認通知が受信された
7F	20	データ付き確認通知が受信された
41	any	入出力エラーが検出された
41	01	アダプターでのコマンドの判別 試行中のエラー
41	02	アダプターで無効の コマンド
41	03	メッセージ読み取りでのエラー

次の実ストレージ間接続戻りコードが該当します。

戻り

コード (16 進数)

意味

- 12** ウィンドウが開いていないか、検出されない。
- 16** ウィンドウが 2 つの他のシステムに割り振られている。
- 20** 無効の入力
- 24** IEAMSCHD が失敗した。パートナーは終了しました。
- 28** バッファ・ロック障害
- 32** バッファ長が等しくない。
- 36** 呼び出し元が許可されていない。
- 40** 主記憶域間アクセス・ルーチンが別の OS に関して定義されている。
- 44** ウィンドウ・キュー・ヘッダー・ブロックが誤り、または初期設定されていない。
- 48** GET または GETMAIN 障害
- 52** PGFIX または PGFREE エラー

次の実ストレージ間接続通知コードおよび意味が該当します。

通知コード
意味

41RD

読み取りエラー: パートナーがすでに読み取り中

41CLS

読み取りまたは書き込みエラー: パートナーが操作中でクローズ。パートナーの異常終了が原因の可能性が最大と推定されます。

41BUF

読み取りまたは書き込みエラー: 入出力バッファ・ロック障害

オペレーターの応答

CTC メッセージ DFS2150A の場合は、バックアップ・リンクが使用可能であれば、それを割り当ててください。MTM または CTC DFS2150I の場合は、リンクが再始動されていないときは、リンクの再始動を試みてください。

問題判別

CTC は入出力エラーでなければ、論理エラーと推定されます。入出力エラーであれば、z/OS エラー・メッセージ IEA000I がシステム・コンソールに表示されます。

MTM は、実ストレージ間アクセス方式論理エラーと推定されます。

タイプ X'67' ログ・レコードが生成され、関係のあるブロックがすべて含まれています。

関連資料

[z/OS: IEA000I](#)

関連情報

DFS2150A

hh:mm:ss CTC IO ERR PC=xx REASON=xx
OP=xx LINK nnnn STOPPED.

第 47 章 DFS メッセージ DFS2151 - DFS2200I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS2151 CURRENT MSPLINK NOT STOPPED
 AND IDLE.**

説明

現在 MSPLINK に割り当てられているリンクが、停止して活動停止中ではありません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

(端末オペレーター) /PSTOP コマンドを出して、指定されている MSPLINK に現在割り当てられているリンクを停止してください。

**DFS2152 MSPLINK KEYWORD PARAMETER
 INVALID.**

説明

入力された MSPLINK パラメーターは、システムで定義されていません。

システムの処置:
コマンドは無視されます。

オペレーターの応答:
有効な MSPLINK 名を使用して、コマンドを再入力してください。

**DFS2153 MSNAME KEYWORD PARAMETER
 INVALID [RSN=xyyy].**

説明

入力された MSNAME は、システムで定義されていません。

xx
IMS MODULE THAT DETECTED THE ERROR

01
MSVERIFY COMMAND (DFSCMLA0)

yy
REASON FOR THE ERROR

01
指定された MSNAME がシステムで定義されていません。

02

指定された MSNAME のリモート SYSID として定義された SYSID が、共用キュー (SQ) グループ内のローカル SYSID にオーバーライドされました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

- yy=01 の場合は、MSNAME を訂正し、コマンドを再入力してください。
- yy=02 の場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答:

指定された MSNAME のリモート SYSID が、SQ グループ内の別の IMS システムでローカル SYSID としても定義されているかどうかを確認してください。

モジュール:
DFSCMLA0、DFCML70、DFSICLJ0

**DFS2154 SYSID KEYWORD PARAMETER
 INVALID [RSN=xyyy].**

説明

入力された SYSID は、リモート SYSID で定義されていません。

xx
IMS MODULE THAT DETECTED THE ERROR

01
MSVERIFY COMMAND (DFSCMLA0)

yy
REASON FOR THE ERROR

01
指定された SYSID が無効です。

02
リモート SYSID として定義された指定の SYSID が、共用キュー (SQ) グループ内のローカル SYSID にオーバーライドされました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターへの応答

- yy=01 の場合は、有効な SYSID を指定してコマンドを再入力してください。
- yy=02 の場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーへの応答:

指定された SYSID が、SQ グループ内の別の IMS システムでローカル SYSID としても定義されているかどうかを確認してください。

モジュール:

DFSCMLA0、DFCML70

DFS2155 INVALID LINK NUMBER.

説明

指定されたリンク番号は、定義されている複数システム IMS システムでは無効でした。

システムの処置

コマンドは完了しません。

オペレーターへの応答:

正しいリンク番号を使用して、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSICLN0

DFS2156 MSNAME/SYSID IN USE, UNABLE TO ASSIGN.

説明

このリンク間メッセージがあてられた先のシステムが、メッセージの受信を確認しませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターへの応答

パートナー・マスター端末オペレーターと同期を取った後で、MSPLINK への /MSASSIGN リンクを使用してください。

DFS2157 ORIGINATING LOGICAL LINK NOT STOPPED AND IDLE.

説明

MSNAME または SYSID が割り当てられているリンクが、停止して活動停止中ではありません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターへの応答

MSNAME/SYSID が現在割り当てられているリンクに対して、/PSTOP コマンドを発行してください。

DFS2158 COMMAND INVALID FOR TERMINAL TYPE.

説明

入力されたコマンドが、コマンドによって指定または暗黙指定された端末では無効です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。IMS は処理を続行します。

**DFS2159I hh:mm:ss UNDEF REMOTE MSG
 xxxx FROM SYSID=yy.**

説明

SYSID yy からのリモート・コマンド xxxx が無効です。

システムの処置

メッセージはデキューされ、制御権はディスパッチャーに戻されます。関係のある制御ブロックの SNAP を提供する X'6701' レコードがログに書き込まれます。

オペレーターへの応答

有効なコマンドを入力してください。

システム・プログラマーへの応答

正しい応答については、問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2160I LINK nnn STARTED BY PARTNER
 XX NODE nodename.**

説明

リンク nnn がリモート・パートナー・システムの要求で開始されました。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

該当しません。

DFS2161I LINK xxx STOPPED BY PARTNER.

説明

リンク xxx が、これに接続されている他のシステムの要求で停止されました。この他のシステムがシャットダウン中である可能性があります。そうでなければ、マスター端末オペレーターが **/PSTOP LINK** コマンドを入力した可能性があります。

システムの処置

出力メッセージがこのリンク上でキューに入れられていますが、送信されるものではありません。

オペレーターの応答

(マスター端末) **/RSTART LINK** コマンドを発行して、リンクを作動状態に戻してください。メッセージ転送が始まる前に、他方のシステムのマスター端末オペレーターが同じことを実行する必要があります。

**DFS2162 TERMINAL IN RESPONSE MODE-
ENTER PA1 or PA2 THEN AWAIT
REPLY.**

説明

この端末は応答モードですが、その理由は、強制端末応答モードで作動するように定義されているからか、トランザクションの端末応答タイプが入力されたからか、いずれかです。

システムの処置

IMS が入力されたデータを廃棄します。端末がページ保護されていない場合は、アプリケーション・プログラムが最後に受け入れられた入力に 応答します。

オペレーターの応答

PA1 または PA2 を押せば、ページ保護はオーバーライドできます。応答を受信しない場合は、マスター端末オ

ペレーターに連絡して、オペレーターに、ノードに対する **/STOP**、**/START** コマンドを発行させるか、動的端末の場合は、ユーザーに対する **/STOP**、**/START** コマンドを発行させてください。

プログラマーの応答

画面保護が、端末オプションと MFS オプションのいずれかとして指定されています。これがこのトランザクションで必要かどうか判別してください。

**DFS2163 MSG IS UPDATE, DEST IS INQ
ONLY I: sss1/name1, D: sss2/
name2**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。name1 は、照会専用として定義されています。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。name2 は、更新として定義されています。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ '64' を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答

(マスター端末) 入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

エラーのシステム定義を訂正してください。

**DFS2164 MSG IS SNGL SEG, DEST IS MULTI
D: sss1/name1, I: sss2/name2**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。name1 は、単一セグメントとして定義されています。

システムの処置

IMS は、レコード・タイプ 64 を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

システム・プログラマーの応答

エラーを起こしたセキュリティー・エラーを訂正してください。リモート・システムの DFSDCxxx PROCLIB メンバー内の MSCSEC=パラメーターを調べてください。また、リモート・システムのユーザー出口 DFSMSCEO のリンク受信ロジックにより、実行されたセキュリティー検査のタイプが判別されることを確認してください。X'64F1' および X'64F2' のログ・レコードと DFS2166 エラー・メッセージに含まれている情報を使用して、セキュリティー許可検査が失敗した理由を判別してください。

ID=CMEA を持つ X'6701' ログ・レコードが記録されます。CLBTEMP5 には、DFSCAUTO からの戻りコード (RC) が含まれ、CLBTEMP3 には、失敗した要求からの RC またはゼロが含まれます。これらの戻りコードは次の表に示されています。

RC	ラベル	説明
4	CAUTRMSC	RACF 障害が発生しました。MSNAME の ACEE を取得できませんでした。 CLBTEMP3 = RACF RC
8	RACFERR	RACROUTE の障害。 CLBTEMP3 = RACF RC。
C	CAUT044	TRANAUTH が指定されましたが、RACF が定義されませんでした。
10	TESTE010	DFSCRTN0 からエラーが戻されました。 CLBTEMP3 = DFSCRTN0 RC。
14	GETRACWE	GETRACW ルーチンが、ストレージを取得できませんでした。 CLBTEMP3 = BCB RC。
18	CAUTRINT	CAUTRINT ルーチンが、ストレージを取得できませんでした。 CLBTEMP3 = BCB RC。

問題判別:

14

モジュール:

DFSCMS00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2167

**FAST PATH MSG REJECTED BY
MSC I: sss1/name1, D: sss2/
name2**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。name2 は、排他的高速機能トランザクションに関して定義されています。複数システム結合機能では、排他的高速機能トランザクションをサポートしません。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ '64' を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答

入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別

14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2168I

**CONNECTION ESTABLISHED ON
LINK xxx [CONT].**

説明

/RSTART LINK または自動リンク再始動コマンドにより、リンク xxx 上に複数システム結合機能を備えた2つのIMSシステム間の接続が確立され、リンク xxx 経由で伝送するためにキューに入れられていたメッセージが送信されます。CONT で、リンク (BSC のみ) が連続モードで稼働していることを示しています。(/RST リンク・コマンドを参照してください。) メッセージはマスター端末で受信されます。

システムの処置

システムは処理を続行します。

DFS2169I DISCONNECTION COMPLETED ON LINK xxx.

説明

複数システム結合機能を提供した2つのIMSシステムが、**/PSTOP LINK** コマンドによって切断されています。このメッセージが生成されるのは、この2つのシステム間のリンクが切断されているときです。メッセージはマスター端末で受信されます。

システムの処置

出力メッセージがこのリンク上でキューに入れられていますが、送信されるものではありません。

マスター端末オペレーターの応答: **/RSTART LINK** コマンドを発行して、リンクを作動状態に戻してください。メッセージ転送が始まる前に、他方のシステムのマスター端末オペレーターが同じことを実行する必要があります。

DFS2170I MESSAGE QUEUED FOR xxxxxxxx

説明

メッセージがトランザクション xxxxxxxx に関してキューに入れられ、このトランザクションは現在スケジュールを停止されています。メッセージはキューに入れられて、処理の目的で使用可能です。トランザクションがすでにスケジュールされ、入力を待っている (TRANSACTION マクロでパラメーター = WFI) 場合は、このメッセージは処理されます。

システムの処置

このメッセージが送信されるのは1回だけで、最初のメッセージが停止されたトランザクションでキューに入れられる場合だけです。

マスター端末オペレーターの応答: **/START** コマンドを使用して、トランザクションを開始してください。

DFS2171I NO RESPONSE. CONVERSATION ENDED.

説明

同期点プロセッサが、会話型プログラムは、メッセージを IOPCB、ALT CONVERSATION PGM PCB、または ALTRESP PCB に挿入しなかったことを検出しました。

システムの処置

会話を終了した後で、システムは入力端末にエラー・メッセージ DFS2171I を発行します。

オペレーターの応答:

会話中の端末は、異なる入力データを使用して、会話に再入できます。

プログラマーの応答

入力メッセージをアプリケーション・プログラム・ログブックに照らしてチェックしてください。SPAが挿入された後、またはGU呼び出しが正常に行われた後で、メッセージが挿入されなかった理由を判別してください。

問題判別

26

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2172 VERSION-ID IN FMH DOESN'T MATCH VERSION-ID IN DIF -- INPUT IGNORED.

説明

FMH で示されているバージョン識別が、DIF 制御ブロックで生成されたバージョン識別と一致しません。

システムの処置

入力データは無視されます。

プログラマーの応答

リモート・プログラムが正しいバージョン識別を示すように訂正し、ゼロばかりから成るバージョン識別を示すか、バージョン識別を送信しないでください。

DFS2173 UNEXPECTED EOD RECEIVED-TEST MODE RESET.

説明

MFS テスト・モードにあるときに、予期しないデータ終了 (EOD) 標識を受信しました。

システムの処置

この端末に関して、MFS テスト・モードがリセットされています。

オペレーターの応答:

問題が解決しない場合には、IMS システム・プログラマーに通知してください。

問題判別

ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01'、ID 'FERR' には、診断情報が含まれますが、これが作成されるのは、障害時に **/TRACE** が物理端末に関してオンに設定されている場合です。

DFS2174 **TRAN CODE FROM LINK EXIT IS
NON-LOCAL I: sss1/name1, D:
sss2/name2**

説明

リンク出口によって更新されているトランザクション・コードは、sss2でローカル・トランザクションとして定義されていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ '64' を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

MSC リンク出口ルーチンとシステム定義のいずれかのエラーを訂正してください。

問題判別

14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2175 **MESSAGE CANCELED BY ROUTING
EXIT RSN=xyyy ROUTINE I:sss1/
name1, D:sss2/name2.**

説明

DFSMSCE0 出口の端末経路指定エントリー・ポイントまたはリンク受信経路指定エントリー・ポイントのいずれかが、このメッセージを取り消し(リジェクト)しました。

sss/name がメッセージに表示されている場合、メッセージは、リモート・システムでリンク受信経路指定エントリー・ポイントによって取り消されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx

エラーを検出した IMS モジュール:

01

DC 通信マネージャー (DFSICIO0 - 端末経路指定)

02

MSC アナライザー (DFSCMS00 - リンク受信経路指定)

yy

エラーの理由が 01 です。xx=01 の場合、メッセージは DFSMSCE0 端末経路指定エントリー・ポイントによって取り消されました。xx=02 の場合、メッセージは DFSMSCE0 リンク受信経路指定エントリー・ポイントによって取り消されました。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置

xx=02 の場合は、IMS が取り消されたメッセージをログに記録し(ログ・レコード・タイプ '64' を使用)、メッセージをシステムから除去します。xx=01 の場合は、IMS がメッセージをシステムから除去します。

システム・プログラマーの応答

DFSMSCE0 出口のどのエントリー・ポイントがメッセージを取り消したかを判別してください。ユーザー出口を参照して、出口がメッセージを取り消した理由を判別してください。メッセージを取り消したのがリンク受信経路指定エントリー・ポイントであった場合は、MSC リンク・トレースを使用して、さらに多くの情報を収集してください (/TRACE SET ON LINK x MODULE ALL LEVEL 3)。メッセージを取り消したのが端末経路指定エントリー・ポイントであった場合は、出口トレースを使用して、さらに多くの情報を収集してください (/TRACE SET ON EXIT DFSMSCE0 ALL または TRBT|TRVT|TR62| TROT|LRTR|LRLT|LRDI|LRIN)。UPDATE MSLINK NAME(linkname)

START(TRACE) を使用することもできます。これらのトレースおよびルーティング・エラーの診断について詳しくは、IMS 診断情報を参照してください。

注: タイプ 2 コマンド UPDATE MSLINK NAME(linkname) START(TRACE) は、前回 /TRACE SET (ON) LINK コマンドが発行されたときに使用されたのと同じレベルとモジュール設定を使用します。/TRACE SET (ON) LINK コマンドが前回のコールド・スタート以降に発行されていない場合、このコマンドは

デフォルトで MODULE=ALL および LEVEL=4 になります。

モジュール

DFSCMS00、DFSICIO0、DFSMSCEO

DFS2176 **RESPONSE LTERM NOT LOCAL**
LTERM I: sss1/name1, D: sss2/
name2

説明

応答モードのアプリケーション・プログラムが、応答の宛先を変更し、変更可能な代替応答 PCB にメッセージを挿入しました。しかし、name2 は入力システムのローカル CNT ではありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置

IMS は、ログ・レコード・タイプ '64' を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答

入力およびマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、かかわりのある論理端末が示されています。応答モードの入力端末に関する要件を検証してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

エラーのアプリケーション・プログラムを訂正してください。入力端末が応答モードのときは、メッセージ応答は入力システムに向かう必要があります。

問題判別

14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2177I **LOAD ERROR FOR USER EXIT**
DFSDBUX1

説明

ユーザーは、DBDGEN 時に DATXEXIT=YES を指定しましたが、APF 許可ライブラリーへの DFSDBUX1 のリンク・エディットに失敗しました。実行時に、出口を必要とする DBD を処理していて、DFSDLA00 が、出口はロードできないと判別し、ロード・エラー・メッセージを出しました。ユーザーが DATXEXIT=YES を指定し、ユーザー出口が、DBD には出口が必要ないと判別したため、SRCHFLAG を X'FF' に設定した場合も、このメッセージが出される結果になります。

システムの処置

このメッセージが出ると、出口を必要とするデータベースは停止され、トランザクションが U0885 疑似異常終了コードを受信します。

プログラマーの応答

ユーザー出口 (DFSDBUX1) がアプリケーションに必要な場合は、DFSDBUX1 が APF 許可ライブラリーにバインドされるようにして、アプリケーションを再始動する前に、IMS を再始動してください。

上記の 2 番目のオプションが該当する場合は、DATXEXIT=YES を DBDGEN から除去するか、ユーザー出口が SRCHFLAG を X'FF' に設定しないように変更するか、いずれかを行ってください。

問題判別

41

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2178I **VTAM HAS BEEN CANCELED.**

説明

システム・コンソール・オペレーターが VTAM を取り消し、VTAM は異常終了しました。

システムの処置

IMS はすべてのアクティブ・ノードを非活動化し、必要に応じて、クリーンアップを実行します。

マスター端末オペレーターの応答: VTAM が再始動したら、/START DC を入力して、VTAM への接続を確立し、ノードを開始してください。

DFS2179I **QUICK VTAM SHUTDOWN**
REQUESTED.

説明

この通知メッセージは、システム・コンソール・オペレーターがVTAMを終了しようとしているという事実について、マスター端末オペレーターに対して警報を出すものです。このメッセージは、**HALT NET, QUICK** コマンドまたは**VARY NET, INACT** コマンドに対して発行されます。

システムの処置

IMS がすべてのアクティブ・セッションを終了し、ノードを活動停止中の状態にします。この時点で、IMS VTAM ACB はクローズされます。

DFS2180I **AUTOMATED OPERATOR USER**
 EXIT ERROR-CODE=x.

説明

IMS が自動化操作プログラム (AO) 出口ルーチンで、x で示されるエラー条件を検出しました。

次のコードが AO 出口ルーチン DFSAOUE0 に関して発行されます。

コード (10 進数) 意味

- 1 ユーザー出口宛先名が無効でした。その名前の TRAN/LTERM はありません。このメッセージ/コマンドでは、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。
- 2 出口ルーチンに代わって要求を処理するキュー・マネージャーが、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。このメッセージ/コマンドに関して、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。
- 3 レジスター 15 の戻りコードが無効です。このメッセージ/コマンドに関して、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。
- 4 ストレージに対する複数の要求があります。このメッセージ/コマンドに関して、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。
- 5 ストレージに対する出口ルーチン要求に応じられませんでした。要求が不当に大きいか、CIOP バッファ・プールを大きくする必要はあるか、いずれかです。
- 6 AO がエラーを検出しました。標準 AO ログ・レコードが作成され、進行中のメッセージに関する出口ルーチン処理は終了します。

7

出口ルーチンは、AO が代替宛先にセグメントを挿入することを要求しましたが、レジスター 1 がゼロであるか、UEHB を指しているか、いずれかです。このメッセージ/コマンドに関して、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。

以下のコードが AOIE タイプの出口ルーチン (DFS AOIE00 を含む) に関して発行されます。

8

CBTS ラッチが、コマンド処理中、予期しないブロック・タイプに関して 保留されました。AOI 出口によって代替宛先に挿入またはエンキューされたセグメントがあれば、いずれも取り消されます。このコマンドに関して、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。

9

HIOP ストレージに対する要求が失敗しました。AOI 出口によって代替宛先に挿入またはエンキューされたセグメントがあれば、いずれも取り消されます。このコマンドに関して、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。

10

出口ルーチンは、コマンドまたはコマンド応答セグメントに関する無効の応答コードを伴って戻りました。

コマンド処理は正常に続行されますが、このコマンドに関する後続のコマンド応答セグメントについては、出口ルーチン呼び出されることはありません。

11

出口ルーチンは、IMS がメッセージを AOIE タイプの出口ルーチンに渡すことを要求しましたが、そのようなルーチンが存在しません。

メッセージ処理は正常に続行されますが、このメッセージに関する後続のメッセージ・セグメントについては、出口ルーチン呼び出されることはありません。

12

出口ルーチンは、メッセージ・セグメントに関する無効の応答コードを伴って戻りました。

メッセージ処理は正常に続行されますが、このメッセージに関する後続のメッセージ・セグメントについては、出口ルーチン呼び出されることはありません。

13

出口ルーチンは、有効な戻りコードの範囲から外れた戻りコードを伴って戻りました。戻りコードは 0 (出口がメッセージまたはコマンドを処理する) に変更され、メッセージまたはコマンドに関する処理は続行されます。

14

出口ルーチンは、IMS によって内部的に入力されたか、DL/I ICMD 呼び出しによって入力されたか、いずれかで入力されたコマンドに関して、0 以外の応答コードで戻りました。

コマンドに関する処理は正常に進行します。IMS によって内部的に入力されたか、DL/I ICMD 呼び出しによって入力されたか、いずれかで入力されたコマンドに関するコマンド応答メッセージについて、出口ルーチンが呼び出されることはありません。

20

AO ユーザー出口インターフェースがエラーを検出しました。AO トレース・ログ・レコード X'6701' が生成され、進行中のコマンドに関する出口ルーチン処理は進行します。

21

AO ユーザー出口インターフェースがエラーを検出しました。AO トレース・ログ・レコード X'6701' が生成され、進行中のメッセージに関する出口ルーチン処理は進行します。

22

AO ユーザー出口インターフェースがエラーを検出しました。AO トレース・ログ・レコード X'6701' が生成され、進行中のメッセージまたはコマンドに関する出口ルーチン処理は終了します。

システムの処置

DFSAOUE0 のエラーの場合、IMS がラベル AOI の付いたトレース・レコードをシステム・ログに書き込みます。AOIE タイプの出口ルーチンでのエラーの場合、IMS は、ラベル AOIT の付いたトレース・レコードを、X'6701' ログ・レコードが生成されることを指定するコードに関するシステム・ログに書き込みます。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

モジュール

DFSAOUE0、AOIE タイプの出口ルーチン (DFSAOE00 を含む)

**DFS2182 USER NOT AUTHORIZED TO
 RELEASE CONVERSATION.**

説明

前に **/SIGN** コマンドで入力されたユーザー ID には許可されていない会話型トランザクションを解放する (**/REL**) 試みがなされました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

ご使用のユーザー ID に対して許可されている会話型 ID を指定して、**/REL** コマンドを再入力してください。

**DFS2183 INVALID EXIT FLAG SPECIFIED
 FOR GIVEN ENTRY FLAG BY
 MESSAGE CONTROL/ERROR EXIT.**

説明

メッセージ制御/エラー出口ルーチンによって設定された出口フラグが無効です。IMS には、要求されたアクションが実行できません。

システムの処置

IMS は以下の処理を実行します。

- 出口フラグは無視し、要求されたアクションは実行しない。
- 出口ルーチンの呼び出し時に部分的に処理されていたメッセージは廃棄する。
- 受信エラーが原因で、出口ルーチンを呼び出すことになった場合は、メッセージを X'64' トレース・レコードのログに記録する。
- 出口ルーチンを呼び出す前と呼び出した後で、インターフェース・ブロックの内容を、X'6701' トレース・レコードのログに記録する。

システム・プログラマーの応答

X'64' および X'6701' レコードにある情報を使用して、エラーを訂正してください。要求された場合は、メッセージを再送してください。

問題判別:

1、5、6、14

関連資料

[有効なフラグとデフォルトのアクション \(出口ルーチン\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2184 MESSAGE DISCARDED BY
 MESSAGE CONTROL/ERROR EXIT.**

説明

メッセージ制御/エラー出口ルーチンによって設定された出口フラグに、IMS に対するメッセージの廃棄要求が示されています。

システムの処置

IMS は以下の処理を実行します。

- 出口ルーチンが呼び出される前に部分的に処理されていたメッセージは廃棄する。
- 受信エラーが原因で、出口ルーチンを呼び出すことになった場合は、メッセージを X'64' トレース・レコードのログに記録する。
- 出口ルーチンを呼び出す前と呼び出した後で、インターフェース・ブロックの内容を、X'6701' トレース・レコードのログに記録する。

オペレーターの応答

メッセージ DFS2184 が出されたことを、システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

廃棄されたメッセージによってデータベースに影響が生じないか確認してください。

問題判別:

1、5、6、14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2185I DEQUEUE COMMAND
SUPPRESSED BY MESSAGE
CONTROL/ERROR EXIT.**

説明

メッセージ制御/エラー出口ルーチンによって設定された出口フラグに、IMS に対する **DEQUEUE** コマンドの抑止要求が示されています。

システムの処置

DEQUEUE コマンドは無視されます。

**DFS2186 INSUFFICIENT STORAGE TO
RESTART LINK link x.**

説明

HIOP のストレージが不十分で、リンクに関連したメッセージ制御/エラー出口インターフェース・ブロックを割り振れないため、リンクが再始動されませんでした。

システムの処置

リンクは再始動されません。

プログラマーの応答

次のいずれかを実行してください。

- 後でもう一度試行してください。この問題は一時的条件である可能性があります。
- IMS を起動する場合に使用する JCL の HIOP パラメーターを使用して、HIOP の上限を上げる。

**DFS2187 REROUTE FAILED,
DESTINATION=xxxxxx, REASON
CODE=n**

説明

IMS がメッセージ転送中に、次のいずれかのエラー条件を検出しました。

コード (10 進数)

意味

- 0** 転送には無効の宛先
- 1** 転送宛先が検出されなかった。
- 2** 会話型メッセージは非会話型宛先に転送できない。
- 3** 非会話型メッセージは会話型宛先に転送できない。
- 4** 転送されたメッセージの構築中のエラー
- 5** メッセージ通信は会話型宛先に転送できない。
- 6** 転送されたメッセージの構築中の LU 6.2 接頭部のコピー時のエラー

システムの処置

メッセージは転送されません。関連したデフォルトのアクションが実行されます。

/DEQ コマンドが入力され、IMS がメッセージをデキューする前に、転送が失敗した場合は、メッセージはキューに残ります。

IMS がメッセージをデキューした後で、転送が失敗した場合は、デフォルトのアクションが実行され、メッセージはデキューされています。

STOPPED 宛先がメッセージを転送する先としてメッセージ制御/エラー出口ルーチンによって指定される場合は、宛先名は、**LTERM** の後に **LTERM** 名が続くか、**TRAN** の後にトランザクション名が続くか、いずれかになります。

システム・プログラマーの応答

メッセージ制御/エラー出口 (DFSCMUX0) のデフォルトのアクションをチェックしてください。該当する場合は、適切な宛先をユーザー出口で指定してください。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答: 宛先が停止された場合は、/START コマンドを入力して、宛先を開始してください。そうすれば、次のメッセージは正常に転送できます。

DFS2191 **UNABLE TO PROCESS SHARED
EMH DUE TO GLOBAL STORAGE
SHORTAGE**

説明

共用 EMH (急送メッセージ・ハンドラー) を使用して入力メッセージを処理している最中に、高速機能が次の内部制御ブロック用として、ECSA からグローバル・ストレージを取得できませんでした。

UOW テーブル

システムの処置

メッセージは無視されます。

プログラマーの応答

次の IMS 再始動時に ECSA ストレージを大きくしてください。

モジュール:
DBFHIELO

DFS2192 **UNABLE TO PROCESS SHARED
EMH DUE TO PRIVATE STORAGE
SHORTAGE**

説明

共用 EMH (急送メッセージ・ハンドラー) を使用して入力メッセージを処理している最中に、高速機能が次の内部制御ブロック用の拡張専用ストレージを取得できませんでした。

FPWP

システムの処置

メッセージは無視されます。

プログラマーの応答

次の IMS 再始動時に領域サイズを大きくしてください。

モジュール:
DBFHIELO

DFS2193I **SHARED EMH PROCESSING
FAILED: RC=nn PROCESSING
IMSID=xxxxxxxx**

説明

IFP 領域が、共用急送メッセージ・ハンドラー・キュー (EMHQ) から検索された入力メッセージを処理できませんでした。メッセージが入力端末に送信され、入力メッセージは共用 EMHQ から削除されます。IMSID は、処理 IMS サブシステムの IMS ID です。XRF システムでは、IMSID は処理 IMS サブシステムの RSENAME です。トランザクションが処理 IMS サブシステムで定義されていないことが、理由である可能性があります。戻りコードは、次のいずれかです。

- 01** トランザクション・コードが定義されていない。
- 02** トランザクション・コードが無効。
- 03** 入力メッセージが大きすぎる。
- 04** トランザクションが処理 IMS で停止される。
- 05** 入力端末名が無効で、処理 IMS サブシステムが入力 LTERM を見つけられない。

システムの処置

入力メッセージは廃棄されます。

モジュール:
DBFHGU10

DFS2194 **SHARED EMHQ NOT AVAILABLE**

説明

共用急送メッセージ・ハンドラー (EMH) キューが一時的に使用不能で、共用 EMH 処理が実行できませんでした。

システムの処置

入力メッセージはリジェクトされます。

モジュール:
DBFHIELO

DFS2195I **INPUT MESSAGE DISCARDED DUE
TO REBUILD**

説明

入力メッセージが、処理のために急送メッセージ・ハンドラー・キュー (EMHQ) に置かれました。IMS がメッセージを処理する前に、EMHQ を再作成するために、リカバリー再作成が行われました。リカバリー再作成プロセスの結果として、入力メッセージが失われました。

システムの処置

入力メッセージは廃棄されます。

モジュール:
DBFSEQS0

DFS2195W INPUT MESSAGE DISCARDED DUE TO REBUILD WHILE IMS IS DOWN. TERMINAL xxxxxxxx MIGHT REMAIN LOCKED

説明

クライアント・キューにある入力メッセージは、カップリング・ファシリティが再作成され、IMS の緊急時再始動が実行されたため、廃棄されました。フロントエンド IMS の次回再始動まで、入力端末 xxxxxxxx はロックされたままになります。

システムの処置

入力メッセージは廃棄されます。

モジュール:
DBFHCSO

DFS2196 UNABLE TO PROCESS SHARED EMH DUE TO RRS ERROR

説明

共用 EMH (急送メッセージ・ハンドラー) を使用して入力メッセージを処理している最中に、高速機能が RRS エラーを検出しました。

システムの処置

メッセージは無視されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFHIELO

DFS2198E THE PROCSEQD OPERAND IS INVALID FOR A DEDB DATABASE WITH NO SECONDARY INDEX DEFINED FOR PCB pcbname IN PSB psbname

説明

DEDB データベースの PCB ステートメントは PROCSEQD オペランドを指定していますが、DEDB データベースの DBD には副次索引が定義されていません。

システムの処置

アプリケーション制御ブロック (ACB) 保守ユーティリティーは、PSB の処理を終了します。PSB は ACB ライブラリーから削除されます。ユーティリティーの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答

1. PCB ステートメントの PROCSEQD オペランドを除去する。
2. PSB 生成ユーティリティー (PSBGEN) を再度実行する。
3. PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、ACB 保守ユーティリティーを実行する。

モジュール

DFSDLB00

DFS2199E THE PROCSEQD OPERAND IS INVALID FOR A FULL FUNCTION DATABASE FOR PCB pcbname IN PSB psbname

説明

全機能データベースの PCB ステートメントは、PROCSEQD オペランドを指定しています。しかし、PROCSEQD オペランドは、定義済みの副次索引を持つ DEDB データベースに対してのみ有効です。

システムの処置

アプリケーション制御ブロック (ACB) 保守ユーティリティーは、PSB の処理を終了します。PSB は ACB ライブラリーから削除されます。ユーティリティーの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答

1. 全機能副次索引を使用できるように、PROCSEQD オペランドを PROCSEQD オペランドに変更する。
2. PSBGEN ユーティリティーを再び実行する。
3. PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、ACB 保守ユーティリティーを実行する。

モジュール

DFSDLB00

DFS2200I LOAD FAILED FOR DFSMNTB0.

説明

システムは、モニター・モジュール DFSMNTB0 をロードできませんでした。

システムの処置

IMS バッチ・ジョブは、モニター・ロギングなしで続行されます。

プログラマーの応答

DFSMNTB0 がシステムへのロードで使用可能か確認してください。

問題判別

DFSMNTB0 の JOBLIB および STEPLIB を確認してください。

第 48 章 DFS メッセージ DFS2201I - DFS2250I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2201I PGFIX ERROR FOR IMSMON.

または

OPEN ERROR FOR IMSMON.

説明

IMS は、OPEN または PGFIX におけるエラーのため、モニター・ログをオープンできませんでした。

システムの処置

IMS は、モニター・ロギングなしで続行されます。

DFS2202I PERMANENT I/O ERROR ON IMSMON.

説明

ロガーがモニター・ログ (DD 名 IMSMON) への書き込みを試みました。しかし、永続入出力エラーが発生したか、または、モニター・データ・セットに割り振られたすべてのスペースが使用されていたか、いずれかでした。

システムの処置

IMS モニター・ロギングは停止されます。

プログラマーの応答

IMS モニターは、いずれかの条件下で再始動する必要があります。IMS を再始動する必要がある場合があります。

永続入出力エラーが発生した場合は、IMSMON データ・セットをスクラッチおよび再割り振りしてください。IMS 始動ジョブで IMSMON DD ステートメントを使用して、モニター・データ・セットが割り振られた場合は、IMS を再始動してください。データ・セットが動的に割り振られている場合は、IMS を再始動する必要はありません。

データ・セットがスペース不足になった場合は、DFSUTR20 を使用して現行内容を報告し、モニターを再始動できます。データ・セットの割り振り方式に関係なく、IMS は再始動の必要はありません。

DFS2203I LOG INITIALIZATION FAILED - TRANSLATE ERROR.

説明

仮想制御領域を使用していて、ログ作業域に関する 仮想アドレスから実アドレスへの変換で、エラーが発生しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

問題判別:

36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2204I LOG INITIALIZATION FAILED - PAGE FIX ERROR.

説明

仮想制御領域を使用していて、ログ作業域のページ固定でエラーが発生しました。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2205I LOG INITIALIZATION FAILED - zzzz.

説明

ログと DC モニターのいずれかが初期設定に失敗しました。zzzz は問題の原因を識別するために役立ち、以下のストリングのいずれかになります。

INSUFFICIENT VIRTUAL STORAGE

ログまたは DC WebSphere® Business Monitor ストレージに関する GETMAIN が失敗しました。

MODULE xxxxxxxx, NOT LOADED

オンライン IMS で、DC WebSphere Business Monitor モジュールをロードする試みが失敗しました。バッチ環境で、ログ・モジュールをロードする試みが失敗しました。いずれの場合も、xxxxxxx がロードできなかったモジュールの名前です。

DEVTYPE/RDJFCB/TRKCALC ERROR

z/OS サービス DEVTYPE、RDJFCB、または TRKCALC がゼロ以外の戻りコードを戻しました。異常終了メモリー・ダンプを調べて、失敗したサービス、およびエラーの理由を判別する必要があります。

INVALID DEVICE

オンライン IMS の場合は、OLDS または WADS が非 DASD 装置に割り振られるか、同じ DASD 装置タイプに WADS がすべては割り振られません。バッチ環境の場合は、ログが磁気テープ装置に割り振られ、標準ラベルは指定されません。

NOT ENOUGH WADS OR OLDS

オンライン IMS に関して、WADS は指定されないか、2 つ以下の OLDS が指定されます。

LOG DATA SET REQUIRED

データベースの更新が必要であると宣言したバッチ・ジョブです。ログ DD ステートメントが存在していないか、ログ DD ステートメントで DD DUMMY データ・セットを指定し、DBRC がアクティブであるか、いずれかです。

LOG BLKSIZE INVALID (MIN yyyyy)

オンライン IMS の場合は、ログ・データ・セット・ブロック・サイズが 2048 の倍数でないか、ブロック・サイズの大きさが不十分で、IMS によって作成された最大ログ・レコードを処理できないか、いずれかです。yyyyy が必要な最小ログ・ブロック・サイズです。

BLKSIZE PARAMETER IS INVALID

DFSDFxxx PROCLIB メンバーの OLDSDEF ステートメントの **BLKSIZE=** パラメーターが無効でした。BLKSIZE は、6144 から 30,720 の間の 2048 の倍数の値を指定する必要があります。

LOGGER SECTION NOT FOUND IN DFSDFxxx

指定された DFSDFxxx PROCLIB メンバー内に、必要な LOGGER セクションがありませんでした。xxx は、指定された接尾部です。

REQUIRED DFSDFxxx MEMBER WAS NOT SPECIFIED

IMS の始動には DFSDFxxx メンバーが必要です。少なくとも、このメンバーに LOGGER セクションが含まれていなければなりません。

システムの処置

INSUFFICIENT VIRTUAL STORAGE の場合は、ログの初期設定中にこの状態が生じると、IMS は異常終了し、異常終了コード 0070 が示されます。この状態が DC モニターの初期設定中に生じた場合は、IMS はメッセージ DFS2206I を送信し、処理を続行します。

MODULE xxxxxxxx, NOT LOADED の場合は、この状態が DC WebSphere Business Monitor の初期設定中に生じると、IMS はメッセージ DFS2206I を送信し、処理を続行します。この状態がバッチ環境でログ初期設定中に生じた場合は、IMS は異常終了し、異常終了コード 0071 が示されます。

DEVTYPE/RDJFCB/TRKCALC ERROR の場合は、DEVTYPE または TRKCALC エラーが発生すると、IMS は異常終了し、異常終了コード 0072 が示されます。RDJFCB エラーが発生した場合は、IMS は異常終了コード 0074 で終了します。

INVALID DEVICE の場合は、IMS は異常終了し、異常終了コード 0075 が示されます。

NOT ENOUGH WADS OR OLDS, LOG DATA SET REQUIRED, LOG BLKSIZE INVALID (MIN yyyyy) および BLKSIZE PARAMETER INVALID の場合は、IMS は異常終了し、異常終了コード 0073 が示されます。

プログラマーの応答

zzzz 値 DEVTYPE/RDJFCB/TRKCALC ERROR の場合は、メモリー・ダンプを分析して、障害の原因を判別する必要があります。zzzz 値がそれ以外のすべての場合は、次のことを確認してください。

- すべての必須ログ DD ステートメントが存在している。
- ログ DD ステートメントが、IMS 要件に適合する装置およびデータ・セット属性を指定している。
- 十分な仮想記憶域とすべての必須ロード・モジュールが使用可能である。

問題判別:

1、3、8、11、35

関連情報

[658 ページの『DFS2206I』](#)

DC MONITOR LOGGING NOT AVAILABLE.

[IMS 異常終了 0070](#)

[IMS 異常終了 0073](#)

[IMS 異常終了 0075](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2206I

DC MONITOR LOGGING NOT AVAILABLE.

説明

モニター・ログの初期設定中に、エラーが発生しました。

システムの処置

IMS は、モニター・プログラム・ロギングなしで 処理を続行します。

プログラマーの応答

DC モニター・ロギングを行いたい場合は、IMSMON データ・セットが正しく割り振られていることを確認してください。

DFS2207I **IMS LOG(S) BLOCKSIZE=xxxxx,
 BUFNO=yyyy**

説明

ログ・データ・セットの DCB パラメーターは、BLKSIZE=xxxxx、xxxxx-4、および BUFNO=yyyy です。すべての OLDS が、表示されている DCB 属性を備えて、事前割り振りされるものと想定されます。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

DFS2208I **xxxx LOGGING IN EFFECT ON IMS
 zzzz.**

説明

xxxx の値は、SINGLE と DUAL のいずれかです。zzzz の値は、LOG と WRITE AHEAD DATA SET のいずれかです。用意されている実行パラメーターおよび DD ステートメントから、IMS は、ログ・データ・セット (OLDS またはバッチ SLDS)、または先行書き込みデータ・セット (WADS) に関する単一または重複ロギングを確立します。

システムの処置:

IMS は、単一または重複ロギングから 処理を続行します。

オペレーターの応答:

ロギング・モードが求めるものと異なっている場合は、ログ・データ・セットに関する実行パラメーターまたは DD ステートメント、あるいはその両方を訂正し、IMS を再始動してください。DD= ステートメントの指定に誤りがあった場合は、メッセージ DFS0413I が表示される可能性があります。

関連情報

142 ページの『DFS0413I』

INCORRECT LOG DATASET xxxxxxxx -
DISCARDED RC=zz

DFS2209I **MONITOR INITIALIZATION
 ERROR-REASON x.**

説明

モニターの初期設定中に問題が発生しました。x は次のいずれかの理由コードになります。

コード (10 進数)

意味

- 00** 無効の初期設定要求コード
- 01** モニターはすでにアクティブ
- 04** 論理ログのオープン障害
- 05** 物理ログのオープン障害

システムの処置

すべての理由コードの場合に、IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

理由コードが 02 または 04 の場合は、現行 IMS セッションの期間中、モニターを再始動できません。理由コードが 05 の場合は、発生したオープン障害によっては、モニターを再始動できる可能性もあります。

理由コードが 02 の場合は、IMS 制御領域のサイズを大きくしてください。

DFS2210I **MONITOR TERMINATION ERROR-
 REASON x {RC=yyyy}**

説明

モニターがエラーを検出しました。次の理由コードと意味が該当します。

コード 意味

- 02** 論理ロガー FEOV 障害。RC=yyyy が表示されるのは、理由コード 02 の場合だけで、IMS 論理ロガー戻りコードが含まれています。

システムの処置

すべての理由コードの場合に、IMS は処理を続け、モニターは停止されます。

プログラマーの応答

モニターの再始動を試みてかまいません。

DFS2212I **DC MONITOR STARTED.**

説明

DC モニターが活動化されます。

システムの処置

システムは以前どおりに処理を続行します。

DFS2213I DC MONITOR STOPPED - (TIME INTERVAL ELAPSED)

説明

DC モニターが終了します。モニターの開始に使用されたコマンドに、INTERVAL パラメーターが組み込まれていた場合は、メッセージに Time Interval Elapsed が組み込まれ、時間が経過すると、システムが内部的にモニターを終了したことを示します。

システムの処置

システムは処理を続行します。

DFS2214I ERROR-NO VALID RECORDS ON INPUT DATA SET.

説明

入力データ・セットに互換性がないか、データ・セットにレコードがありません。

システムの処置

システムは処理を続行します。

プログラマーの応答

適正なデータ・セットを使用して、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2215A MONITOR INACTIVE, MODIFY TO START MONITOR.

説明

DB モニターが非アクティブで、プロンプトでコマンドがモニターを開始することを促しています。

システムの処置

IMS は、モニターが非アクティブのままで続行します。

オペレーターの応答:

モニターを開始するときは、「**MODIFY jobname, START**」を入力してください。

DFS2216A MONITOR ACTIVE, MODIFY TO STOP MONITOR.

説明

DB モニターがアクティブで、プロンプトでコマンドがモニターを停止することを促しています。

システムの処置

IMS は、モニターがアクティブのままで続行します。

オペレーターの応答:

モニターを停止したいときは、**MODIFY jobname, STOP**、または **MODIFY jobname, STOPEOV** を入力してください。

DFS2217I UNABLE TO OPEN MONLOG, MONITOR UNAVAILABLE.

説明

IMS DB モニター・データ・セットに関して、オープンが失敗しました。

システムの処置

バッチ実行の期間中、モニターは使用不能にされています。IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

IMSMON DD ステートメントを訂正してください。

DFS2218I MONITOR MODIFY SPECIFICATION INCORRECT.

説明

前に入力された **MODIFY** コマンドが、**STOP**、**START**、または **STOPEOV** ではありませんでした。

システムの処置

オペレーターは、プロンプトで **MODIFY** コマンドの再入力促されます。

オペレーターの応答:

キーワード **STOP**、**START**、または **STOPEOV** を必要に応じて指定した **MODIFY** コマンドを使用して、入力してください。

DFS2219I I/O ERROR ON MONITOR LOG, MONITOR TERMINATED.

説明

モニター・ログ・データ・セットの書き込み中に、永続入出力エラーが発生しました。

システムの処置

モニターは異常終了の無視を試みます。これが正常に行われれば、モニターはバッチ実行の残りの間、非アクティブであり、IMS は処理を続行します。モニターが異常終了を無視できない場合は、IMS は異常終了しません。

問題判別:

36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2220I INVALID FILE PARAMETER. NO
 REPORTS PRINTED.**

説明

DFSUTR30、DB モニター報告書印刷プログラムに関する制御ステートメントの FILE パラメーターが、1 桁または 2 桁の 10 進数ではありませんでした。

システムの処置

システムは処理を続行します。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2221I MONITOR UNABLE TO WRITE
 OUTPUT.**

説明

DB モニターが出力レコードを書き込めません。// IMSMON DD ステートメントが欠落しているか、または DUMMY ステートメントです。また、処理オプションが GET 機能であるため、IMS ログは非アクティブです。

システムの処置

バッチ実行は継続され、モニターは使用不能です。

プログラマーの応答

//IMSMON DD ステートメントを IMS プロシージャーに組み込み、ジョブを再実行してください。

問題判別

更新が行われないバッチ実行で、モニター出力が望ましい場合は、非 DUMMY //IMSMON DD ステートメントが IMS プロシージャーに組み込まれる必要があります。

**DFS2225E IMS ABEND SEARCH AND
 NOTIFICATION FAILED**

説明

IMS 異常終了検索および通知機能が、正常に完了できませんでした。このメッセージは、障害の内容を記述する追加メッセージに関連付けられています。

システムの処置

処理は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

指摘された問題を訂正してください。ISPF を使用して IMS 異常終了検索および通知機能を呼び出した場合は、ジョブを再生成し、再実行依頼してください。

モジュール:

DFSIASNP

DFS2226E FAILED xxxxxxxx ALLOCATION

説明

IMS 異常終了検索および通知処理時に、示された内部コンポーネントのストレージに対する GETMAIN が失敗しました。xxxxxxx は、次のいずれかの内部コンポーネントを示します。

URLS_ARRAY
PARM_ARRAY
RCPTTO_ARRAY
PROCPARM_ARRAY
DFS2226E

システムの処置

処理は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

ISPF を使用して IMS 異常終了検索および通知機能を呼び出した場合は、ジョブを再生成し、再実行依頼してください。この問題が続く場合、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して、支援を受けてください。

モジュール:

DFSIASNP

**DFS2227E OPEN FAILURE ON xxxxxxxx DATA
 SET**

説明

xxxxxxx で示された DD ステートメントに関連したデータ・セットを、IMS 異常終了検索および通知処理時にオープンできませんでした。xxxxxxx は、次のいずれかの DD ステートメントです。

SYSPRINT
SYSUT1
SYSUT2
CONTROL
INPARMS
URLS

システムの処置

処理は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

DD ステートメントまたは関連したデータ・セットで問題の内容を判別し、問題を訂正してください。ISPF を使用して IMS 異常終了検索および通知機能呼び出した場合は、ジョブを再生成し、再実行依頼してください。

モジュール

DFSIASNP

DFS2228E	INVALID NUMERIC ENCOUNTERED
-----------------	--

説明

IMS 異常終了検索および通知機能によって、制御ステートメントで非数値の文字が検出されました。数字が期待されました。

システムの処置

処理は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

エラーになった制御ステートメントを訂正します。ISPF を使用して IMS 異常終了検索および通知機能呼び出した場合は、ジョブを再生成し、再実行依頼してください。

モジュール

DFSIASNP

DFS2229E	MAXIMUM NUMBER OF STATEMENTS FOR URL ADDRESS EXCEEDED
-----------------	--

説明

URLS データ・セットにおいて、URLS DD ステートメントで識別されたデータ・セット内の URL アドレスに、5 行以上が関連付けられていました。

システムの処置

処理は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

4 行以内に収まるように、URL アドレスを再フォーマットしてください。ISPF を使用して IMS 異常終了検索および通知機能呼び出した場合は、ジョブを再生成し、再実行依頼してください。

モジュール

DFSIASNP

DFS2231	HEXADECIMAL PARAMETER LONGER THAN 16 CHARACTERS.
----------------	---

説明

XKEY パラメーターが入力されましたが、16 文字を超える文字数が含まれていました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

有効なパラメーターを使用し、データを再入力してください。

DFS2232	INVALID HEXADECIMAL PARAMETER.
----------------	---

説明

XKEY パラメーターで使用できる有効な文字は、A から F と 0 から 9 のみです。

システムの処置

コマンドは無視されます。IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答:

有効なパラメーターを使用し、データを再入力してください。

DFS2233	ASSIGNMENT REDUNDANT.
----------------	------------------------------

説明

ユーザーが指定したリソースは、すでにユーザーに割り当てられています。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

DFS2234I MSVERIFY COMMAND IN
PROGRESS FOR LOCAL SYSID(S)
P1, P2, P3...Pn. yyddd/hhmmss.

説明

P1, P2, P3...Pn は、入力システムで定義されている ローカル SYSID 番号です。yyddd/hhmmss は、タイム・スタンプです。このタイム・スタンプは、このコマンドに関するすべてのメッセージで同じです。

システムの処置

処理中のコマンドを検証してください。

DFS2235I SYSID nnnnnn IS DEFINED AS
LOCAL IN BOTH SYSTEMS. yyddd/
hhmmss

説明

リソースが、両方のシステムでローカルとして 定義されました。yyddd/hhmmss は、タイム・スタンプです。

システムの処置

システムは、コマンドの処理を続行します。最後のリソースが検証されると、コマンドは終了します。

DFS2236I MSVERIFY COMMAND IN
PROGRESS FOR REMOTE SYSID(S)
P1, P2, P3...Pn. yyddd/hhmmss

説明

P1, P2, P3...Pn は、リモート・システムでローカルとして 定義されている SYSID 番号です。yyddd/hhmmss は、タイム・スタンプです。このタイム・スタンプは、このコマンドに関するメッセージで同じです。

システムの処置

システムは、コマンドの処理を続行します。

DFS2237I MSVERIFY COMPLETED FOR
SYSID Pn. yyddd/hhmmss

説明

このメッセージの前に、指定されている SYSID Pn に競合があればそれに関する警告メッセージが出されています。このメッセージは、DFS2234I に示されている SYSID ごとに、受信されるはずですが、DFS2234I に示されている少なくとも 1 つの SYSID に関して、このメッセージが受信されない場合は、メッセージのルーティングに問題がある可能性があります。yyddd/hhmmss は、タイム・スタンプです。

システムの処置

システムは、コマンドの処理を続行します。

DFS2238I DFSUTR30 INPUT FILE NOT FROM
IMS n.n BATCH SYSTEM

または

**DFSUTR20 INPUT FILE NOT FROM IM n.n ONLINE
SYSTEM.**

説明

IMS モニター報告書ユーティリティへの入力として使用されるファイルである、オンライン、報告書用の DFSUTR20 と、バッチ・モニター報告書用の DFSUTR30 のいずれかが、受け入れ不能でした。メッセージは、次のいずれかの理由で出されました。

- 入力を生成する IMS システムのリリース・レベルが、使用されている報告書ユーティリティのリリース・レベルと一致しない。
- バッチ入力ファイルが DFSUTR20 に提供されたか、オンライン入力ファイルが DFSUTR30 に提供された。

システムの処置

報告書ユーティリティが終了します。報告書は作成されません。

プログラマーの応答

入力ファイルと報告書ユーティリティのリリース・レベルが一致するか、該当する報告書ユーティリティが入力ファイル用として使用されているか確認してください。

DFS2239 TOO MANY ADS PARAMETERS

説明

このコマンドに関して入力された ADS パラメーターが多すぎました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

ADS パラメーターを 1 つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

DFS2240 TOO MANY MSNAME
PARAMETERS.

説明

このコマンドに関して入力された MSNAME パラメーターが多すぎました。入力できるのは1つのみです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

MSNAME パラメーターを1つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

DFS2241I nnnnnn IS DEFINED AS REMOTE TRANSACTION IN BOTH SYSTEMS.

説明

リソースが両方のシステムでリモート・トランザクションとして定義されています。

システムの処置

システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

DFS2224I TRANSACTION ON A BACK-END SYSTEM ABENDED

説明

APPC または OTMA が発生させた、共用キュー環境内のバックエンド IMS システムで実行中のトランザクションが異常終了しました。トランザクションはバックアウトされています。

プログラマーの応答

バックエンド・システム上での異常終了の理由を分析します。このメッセージは、次の理由で生成されます。

- アプリケーション・プログラムがプログラム・エラーのために異常終了した。
- バックエンド IMS システムが異常終了した。
- フロントエンドまたはバックエンド IMS システムの RRS が非アクティブになった。
- バックエンドのオペレーティング・システムが異常終了した。

モジュール

DFSAOSW0、DFSYLUS0

DFS2242I nnnnnn IS NOT DEFINED AS LTERM IN BOTH SYSTEMS.

説明

リソースが一方のシステムでは、リモート LTERM として定義され、パートナー・システムでは、LTERM として定義されていません。

システムの処置

システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

DFS2243I nnnnnn IS NOT DEFINED AS TRANSACTION IN BOTH SYSTEMS.

説明

リソースが一方のシステムでは、リモート・トランザクションとして定義され、パートナー・システムでは、トランザクションとして定義されていません。

システムの処置

システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

DFS2244 TOO MANY SYSID PARAMETERS.

説明

このコマンド用に指定された SYSID パラメーターの数が多すぎました。指定できるのは1つだけです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

SYSID パラメーターを1つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

DFS2245I MULTISEGMENT TRANSACTION FLAG FOR nnnnnn NOT CONSISTENT.

説明

リソース *nnnnnn* に関して、複数セグメント・トランザクション・フラグが、ローカルまたはリモートのいずれか一方のシステムではオンで、他方のシステムではオフです。

システムの処置

システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

**DFS2246I NONINQUIRY ONLY FLAG FOR
nnnnnn NOT CONSISTENT.**

説明

リソース *nnnnnn* に関して、非照会専用フラグが、リモートまたはローカルのいずれか一方のシステムではオンで、他方のシステムではオフです。

システムの処置

システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

**DFS2247I CONVERSATIONAL FLAG FOR
nnnnnn NOT CONSISTENT.**

説明

リソース *nnnnnn* に関して、会話型 SMB フラグが、ローカルまたはリモートのいずれか一方のシステムではオンで、他方のシステムではオフです。

システムの処置

システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

**DFS2248I NONRECOVERABLE FLAG FOR
nnnnnn NOT CONSISTENT.**

説明

リソース *nnnnnn* に関して、リカバリー不能トランザクション・フラグが、ローカルまたはリモートのいずれか

一方のシステムではオンで、他方のシステムではオフです。

システムの処置

システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

**DFS2249I FIXED LENGTH SPA FLAG FOR
nnnnnn IS NOT CONSISTENT.**

説明

リソース *nnnnnn* に関して、固定長 SPA フラグが、一方のシステム (ローカルまたはリモート) ではオンで、他方のシステムではオフです。

システムの処置

システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

**DFS2250I THE SPA LENGTH FOR nnnnnn IS
NOT THE SAME.**

説明

リソース *nnnnnn* の場合に、ローカル・システムとリモート・システムでの SPA の長さが同じではありません。

システムの処置

システムはコマンドの処理を続行します。これが最後に検証されるリソースである場合は、コマンドは終了します。

第 49 章 DFS メッセージ DFS2251W - DFS2300I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS2251W INPUT FILE INCOMPLETE,
REPORT MAY BE INVALID.**

説明

DFSUTR20 への入力として使用された IMSMON ファイルが不完全です。理由として可能な場合は、次のとおりです。

- オンライン・モニター・レコードのキャプチャーに使用された IMS モニター・データ・セット (IMSMON DD ステートメント) の大きさが十分でなかった可能性がある。データ・セット・サイズ を大きくしてください。
- IMS モニターが正常な方法で終了しなかった (例えば、IMS 異常終了) し、IMSMON へのロギングが一時停止した。
- IMSMON ファイルがマルチボリュームに常駐し、すべての VOLSERS が入力ジョブ・ストリームで連結しているわけではない。
- DB モニターで生成された IMSMON ファイル (バッチ IMS) が、DFSUTR20 への入力として使用されている。正しいユーティリティーは DFSUTR30 です。

システムの処置

DFSUTR20 は要求された報告書すべての生成を試みますが、値が無効である可能性があります。バッファープール統計報告書を欠いていることが、IMSMON ファイルが不完全であることを明白に示しています。

DFS2252 LINK NOT STOPPED AND IDLE.

説明

/MSASSIGN コマンドを実行できません。関与するリンクの 1 つが、停止されてアイドル状態になっていません。

システムの処置

コマンドは実行されません。

オペレーターの応答

/PSTOP コマンドをビジー・リンクに発行してください。

DFS2253 MSVERIFY COMMAND ABORTED.

説明

指定されている SYSID の MSNAME が、パートナー・システムに戻りリンクがないため、/MSVERIFY コマンドが実行できません。メッセージは、パートナー・システムで印刷されます。

システムの処置

コマンドは実行されません。

オペレーターの応答

異なる MSNAME またはリモート SYSID を指定して、コマンドを再入力してください。

**DFS2254 COMPONENT COMMAND NOT
VALID FOR THIS TERMINAL.**

説明

/COMPT または /RCOMPT コマンドが入力されましたが、端末がコンポーネントをサポートしていません。

システムの処置

コマンドは実行されません。

DFS2255 INVALID COMPONENT NUMBER.

説明

1、2、3、または 4 以外のコンポーネント・パラメーターが入力されました。

システムの処置

コマンドは実行されません。

オペレーターの応答

コマンドを再入力してください。

DFS2256 COMPONENT NOT ATTACHED.

説明

/COMPT または /RCOMPT コマンドで指定されているコンポーネント番号が、このシステムに関して定義されていません。

システムの処置

コマンドは実行されません。

オペレーターの応答

正しいコマンドを再入力してください。

DFS2257 **COMPONENT SPECIFIED NOT DEFINED.**

説明

/COMPT または /RCOMPT コマンドで指定されているコンポーネントが、このシステムで定義されていません。

システムの処置

コマンドは実行されません。

オペレーターの応答

コマンドを正しく再入力してください。

DFS2258 **NO LINKS DEFINED IN SYSTEM.**

説明

LINK キーワードが、コマンドの一部として入力されましたが、システムに関して定義されているリンクがありませんでした。

システムの処置

コマンドは実行されません。

オペレーターの応答

正しいコマンドを再入力してください。

DFS2259 **TOO MANY LINK PARAMETERS.**

説明

複数のリンク・パラメーターが /MSASSIGN コマンドで指定されました

システムの処置

コマンドは実行されません。

オペレーターの応答

リンク・パラメーターを1つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

DFS2260 **TOO MANY MSPLINK PARAMETERS.**

説明

複数の MSPLINK パラメーターが /MSASSIGN コマンドで指定されました

システムの処置

コマンドは実行されません。

オペレーターの応答

MSPLINK パラメーターを1つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

DFS2261 **NODE IS NOT IN SESSION**

説明

VTAM ノードが現在セッション中でないため、コマンドは実行されません。

システムの処置

コマンドは実行されません。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS ホスト・コマンドまたはホスト・システム・コマンドを使用してセッションを開始し、必要に応じてコマンドを再発行してください。

DFS2262 **TOO MANY DATABASE PARAMETERS**

説明

このコマンド用に入力されたデータベース・パラメーターの数が多すぎます。入力できるのは1つだけです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

データベース・パラメーターを1つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

モジュール

DFSORC10

DFS2263I **UNABLE TO OPEN MNPS ACB
REG15=xx ACBERFLG=yyy**

説明

MNPS 環境で MNPS ACB についての OPEN を試み、エラー・コードが戻されました。xx は、レジスター 15 の OPEN 戻りコードであり、yyy は、VTAM によって戻さ

れた ACB です。xx 値と yyy 値は、どちらも 10 進数で表示されます。

システムの処置

IMS は、MNPS ACB が開かれない状態で継続します。このメッセージが XRF テークオーバー時に発行された場合は、セッションの永続性が失われ、VTAM クラス 1 セッションを復元できません。

システム・プログラマーの応答

エラー・コードの詳しい説明については、「z/OS Communications Server: SNA メッセージ」、「z/OS Communications Server: SNA Programming」、および「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」を参照してください。

モジュール

DFSHCI00、DFSIC460

関連資料

[z/OS: OPEN - 1 つ以上の ACB のオープン](#)

DFS2264I	IMS NOT ACCEPTING LOGONS - NODE xxxxxxxx
-----------------	---

説明

示されているノードに関して LOGON が要求されたとき、IMS が次のいずれかの状態でした。

- **/STOP DC** が進行中であった。
- **/START DC** がコンプライトでなかった。
- IMS が receive-any バッファーになかった。

システムの処置

要求は無視されます。

オペレーターの応答

要求が無視される原因になた状態を上記の中から検索した上で、適切な処置を取ってください。

DFS2265I	SETLOGON FAILED RTNCD=xx FDB2=yy
-----------------	---

説明

MNPS 環境で XRF システム・テークオーバー時に、SETLOGON マクロについての VTAM 戻りコードが受信されました。xx 値と yy 値は、どちらも 16 進数で表示されます。

システムの処置

IMS は処理を続行し、START DC は失敗します。セッションの永続性は失われ、VTAM クラス 1 セッションを復元できません。

オペレーターの応答

SETLOGON が失敗した理由を判別してください。/**START DC** を発行して、START DC プロセスを完了してください。

プログラマーの応答

エラー・コードの詳しい説明については、「z/OS Communications Server: SNA メッセージ」、「z/OS Communications Server: SNA Programming」、および「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」を参照してください。

モジュール:

DFSHCI00

関連資料

[z/OS: SETLOGON - セッションを確立するためのアプリケーション・プログラムの機能の変更](#)

[z/OS: RPL 戻りコード \(RTNCD、FDB2\) の組み合わせ](#)

DFS2266I	MULTINODE PERSISTENT SESSION TAKEOVER STARTED
-----------------	--

説明

XRF テークオーバー処理時に、IMS がマルチノード持続セッション・テークオーバー・プロセスを開始しました。

システムの処置

IMS は正常な実行を継続します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSVTPO0

DFS2267I	ALL MULTINODE PERSISTENT SESSION TAKEOVERS HAVE BEEN INITIATED
-----------------	---

説明

XRF テークオーバー処理でマルチノード持続セッションを使用中に、すべての持続セッション・テークオーバーがスケジュールされました。セッション・テークオーバー機能は、通常の IMS 処理とは非同期に実行されます。

システムの処置

IMS は正常な実行を継続します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSVTPO0

DFS2268I	MULTINODE PERSISTENT SESSION TAKEOVER FAILED, INQUIRE RESTORE RTNCD= xx FDB2=yy
-----------------	--

説明

XRF テークオーバー処理でマルチノード持続セッション (MNPS) を使用中に、VTAM **INQUIRE** または **OPNDST RESTORE** コマンドが VTAM からエラー戻りコードを受け取りました。xx 値と yy 値は、どちらも 16 進数で表示されます。

システムの処置

IMS は通常の処理を続行しますが、MNPS セッション・リカバリーを終了します。セッションの永続性は失われ、VTAM クラス 1 セッションを復元できません。

オペレーターの応答

通常のセッション開始手順を使用して、VTAM セッションを必要に応じて再始動できます。エラーのタイプによっては、**/STOP DC** および **/START DC** を使用して MNPS ACB のクローズと再オープンを行わざるをえない場合もあります。

システム・プログラマーの応答

エラー・コードの詳しい説明については、「z/OS Communications Server: SNA メッセージ」、「z/OS Communications Server: SNA Programming」、および「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」を参照してください。

モジュール:

DFSVTPO0

関連資料

[z/OS: SETLOGON - セッションを確立するためのアプリケーション・プログラムの機能の変更](#)

[z/OS: OPNDST - セッションの確立 \(PLU として稼働するアプリケーション\) またはセッションのリカバリー](#)

[z/OS: RPL 戻りコード \(RTNCD、FDB2\) の組み合わせ](#)

DFS2269I	IMS CANNOT LOCATE NODE nodename DURING MULTINODE PERSISTENT SESSION TAKEOVER
-----------------	---

説明

持続セッション・テークオーバー・プロセスで、VTAM が、すべてのセッションがリカバリーを保留していることを IMS に通知しました。個々のセッションをそれぞれ復元するために、IMS はそれに対応する制御ブロックを見つける必要があります。制御ブロックが見つけれられない場合は、MTO に対して DFS2269I が出されません。

システムの処置

IMS は通常の実行を継続しますが、端末の永続性は復元されません。

オペレーターの応答

通常のセッション開始手順を使用して、端末を必要に応じて再始動できます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSVTPO0

DFS2270	FORCE KEYWORD IS INVALID, LINK NOT VTAM
----------------	--

または

FORCE KEYWORD IS INVALID, LINK NOT VTAM OR TCP/IP

説明

/PSTOP LINK FORCE コマンドが入力されましたが、リンク・タイプが VTAM または TCP/IP ではありません。

システムの処置

コマンドは実行されません。

マスター端末オペレーターの応答: リンクが CTC リンクである場合は、**/PSTOP LINK OPTION(FORCE)** コマンドの代わりにユーザーが **/PSTOP LINK PURGE** コマンドを発行できます。それ以外の場合は、正しいリンク番号を指定しているか確認してから、リンクを1つだけ指定してコマンドを再発行してください。

DFS2271I **FAST PATH EXCLUSIVE
TRANSACTION FLAG FOR nnnnnn
NOT CONSISTENT.**

説明

リソース nnnnnn の場合に、高速機能専用トランザクション・フラグが、一方のシステム (リモートまたはローカル) ではオンで、他方のシステムではオフです。

システムの処置

システムはコマンドの処理を続行します。これが最後に検証されるリソースである場合は、コマンドは終了します。

DFS2272 **PURGE OR FORCE KEYWORD
INVALID, ONLY ONE LINK
ALLOWED.**

説明

/PSTOP LINK コマンドの **PURGE** キーワードが指定できるのは、一時点では1つの物理チャンネル間 (CTC) リンクの場合だけです。

複数のリンク (LINK ALL または LINK P1...Pn) が **/PSTOP LINK** コマンドで指定されました。FORCE キーワードが指定できるのは、一時点では1つの、以下の物理リンクに対してのみです。

VTAM
TCP/IP

システムの処置

コマンドは実行されません。

オペレーターの応答

次のいずれかを実行してください。

- CTC、TCP/IP、または VTAM リンクを1つだけ指定して、コマンドを再入力する。
- PURGE または FORCE キーワードを省略する。

DFS2273 **PURGE KEYWORD REJECTED,
CURRENT STATUS OF LINK IS
NORMAL.**

説明

/PSTOP LINK P1 PURGE コマンドがリジェクトされましたが、PURGE が必要ないからです。リンクが停止されていないか、停止されて活動停止中になる過程にあります。

システムの処置

コマンドは実行されません。

マスター端末オペレーターの応答: PURGE キーワードを指定しないで、**/PSTOP** コマンドを再入力してください。

DFS2274 **MSC FEATURE NOT DEFINED**

説明

MSNAME、MSPLINK、または SYSID キーワードがコマンドで入力されましたが、MSC フィーチャーは現行システムに組み込まれていません。

システムの処置

コマンドは処理されません。

端末オペレーターの応答: コマンドを正しく再入力してください。

DFS2275I **SORT FAILED-INCREASE REGION
SIZE**

説明

SORT プログラムで使用可能なストレージが不十分です。

システムの処置

DFSISTS0 が終了し、GETMAIN マクロから戻りコードが出されます。

オペレーターの応答:
(システム・コンソール) 領域サイズを大きくしてください。

問題判別

SORT プログラム・エラー・メッセージを参照してください。

DFS2276I **INVALID PARM FIELD-DEFAULTS
USED.**

説明

ユーティリティ・プログラム (DFSISTS0) が無効なパラメーターを検出しました。

システムの処置

DFSISTS0 は続行されます。

オペレーターの応答:

(システム・コンソール) JCL をチェックしてください。デフォルトが望ましくない場合は、ジョブを取り消し、パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

関連資料

[統計分析ユーティリティ \(DFSISTS0\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

**DFS2277I LOGIN IS NULL DATA SET.
PROGRAM TERMINATES**

説明

DFSISTS0 ユーティリティが、LOGIN DD データ・セットは NULL データ・セットであるか、タイプが X'01' または X'03' のメッセージ・レコードが含まれていないか、どちらかであると判別しました。

システムの処置

ユーティリティは終了し、戻りコード 0 が示され、レコードは生成されません。

**DFS2278I UTILITY ENDS WITH: SYSTEM LOG
AT hh.mm.ss.th, yyddd**

または

**START RECOVERY WITH: SYSTEM LOG AT
hh.mm.ss.th, yyddd**

説明

このメッセージは両形式とも、オンライン・イメージ・コピー・ユーティリティによって出されます。

このメッセージの最初の形式では、このデータベース・データ・セット・イメージ・コピーに先立って取られた最後の IMS チェックポイントのタイム・スタンプが表示されます。このタイム・スタンプ値は、変更累積ユーティリティに対する「ページ日時」指定として使用できます。

このメッセージの 2 番目の形式では、このデータベース・データ・セット・イメージ・コピーの完了目に取りられた最後の IMS チェックポイントのタイム・スタンプが表示されます。

この 2 つのタイム・スタンプ値は、オンライン・イメージ・コピー・ユーティリティのこの実行中に作成されたログ・レコードが含まれる、システム・ログ・データ・セット (SLDS) を選択するのに使用できます。

システムの処置

処理は続行されます。

**DFS2279I MONITOR TERMINATING-BAD
TIME VALUE**

説明

DC モニターが、STORE CLOCK 命令 (STCK) を使用して時間値の取得を試み、戻りコードによって判別されている次の 2 つの受諾不能状態のいずれかを検出しました。戻りコード 2: エラー状態のクロック、または 3: クロックが停止、または作動不能。

システムの処置

IMS は処理を続けますが、DC モニターは、トレースに関して終了します。

プログラマーの応答

時刻機構が DC モニターで受け入れ可能な 2 つの有効な状態のいずれかであるか確認してください。モニターで受け入れ可能な 2 つの状態の結果は、条件コード 0 または 1 になり、これはそれぞれクロック設定および稼働と、クロック非設定および稼働になります。

**DFS2280I MONITOR TERMINATING-
MONITOR LOG ERROR**

説明

ロガーが DC モニター・ログへの書き込みを試みていたとき、エラーが検出されました。

システムの処置

IMS は処理を続けますが、DC モニター・トレースは終了します。

プログラマーの応答

入出力エラーが DC モニター・データ・セットで発生したか、ログ・データ・セットに関して割り振られたすべてのスペースが使用されているか、いずれかです。すべての割り振りスペースが使用されている場合は、モニター報告書印刷ユーティリティ (DFSUTR20) が実行でき、DC モニターを再始動できます。

問題判別

1、3、8

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2281I UPPER THRESHOLD REACHED
 FOR xxxxx.**

説明

LGMSG と SHMSG のいずれかに関する装置相対レコード番号 (DRRN) 使用中カウント (xxxxx によって示される) が、高しきい値カウントより大でした。

システムの処置

共用キューから検索されたすべてのメッセージは、低しきい値が得られるまで待ちます。

プログラマーの応答

DRRN カウントが非常に高かった理由を判別してください。問題域には、高トランザクション・カウントで、SMTO または BMP キューに入れられたメッセージの数が組み込まれる可能性があります。

モジュール:
DFSQC020

**DFS2282I LOWER THRESHOLD REACHED
 FOR xxxxx.**

説明

LGMSG と SHMSG のいずれかに関する装置相対レコード番号 (DRRN) 使用中カウント (xxxxx によって示される) が、高しきい値カウントに達した後、低しきい値カウントより小でした。

システムの処置

上限しきい値に達してから待っていたすべてのメッセージは、処理を続行します。

モジュール:
DFSQC020

**DFS2283I RESYNC UNIT OF RECOVERY IS IN
 DOUBT STATUS=COLD/UN
 RTKN=ccccccccXXXXXXXXXXXXXXXXXX
 PTKN=yyyyyyyy**

説明

表示されているリカバリー・トークンの場合、IMS が要求タイプ **UNknown** または **COLDstart** を、再同期プロセス中に受信しました。再同期プロセスは、再始動後、接続サブシステム間の未確定リカバリー単位を解決します。未確定リカバリー単位とは、同期点の準備フェーズは完了していますが、最終アクション (ABORT または COMMIT) を受信していない作業単位 (UOW) のことです。このメッセージが出されるのは、トランザク

ション管理サブシステムに未確定リカバリー単位の知識がないか、コーディネーター・コントローラーがコールド・スタートしたか、いずれかのときです。リカバリー・トークンの最初の部分 (cccccccc) は、CCTL ID です。フィールド yyyyyyyy は疑似トークンです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

DISPLAY コマンドを使用して、再同期化処理中に解決されなかったリカバリー単位を表示してください。未解決のリカバリー単位ごとに必要とされる最終アクション (ABORT または COMMIT) を判別してください。IMS コマンド /CHANGE CCTL nnnn PRTKN xxxx ABORT を使用して、ほとんどの場合の UOR を解決してください。あるいは、COMMIT コマンドも出せます。

**DFS2285I DURING MULTINODE PERSISTENT
 PROCESS, nodename WAS
 REVERTED TO CLASS 2**

説明

持続セッション・テークオーバー・プロセスで、VTAM がクラス 1 端末のセッション永続性 CV29 を失い、IMS はセッション永続性をクラス 2 に戻しました。

システムの処置

IMS は正常な実行を継続します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSVTPO0

**DFS2286I CLASS 1 TERMINALS BEING
 REVERTED TO CLASS 2 DURING
 MULTINODE PERSISTENT
 PROCESS**

説明

持続セッション・テークオーバー・プロセスで、VTAM がクラス 1 端末のセッション永続性を失い、IMS はセッション永続性をクラス 2 に戻します。クラス 2 に戻されるクラス 1 端末のノード名を記録するために、診断ログ・レコード X'6710' が書き込まれます。

システムの処置

IMS は通常の実行を継続しますが、クラス 1 端末の永続性は復元されません。

オペレーターの応答

通常のセッション開始手順を使用して、端末を必要に応じて再始動できます。

システム・プログラマーの応答

X'6710' ログ・レコードを見つけて、再始動を必要とする端末を識別してください。

モジュール

DFSVTPO0

DFS2287I	CLASS 2 AND 3 TERMINALS NOT BEING FOUND DURING MULTINODE PERSISTENT PROCESS
-----------------	--

説明

持続セッション・テークオーバー・プロセスで、VTAM が IMS に、クラス 2 および 3 端末の復元を保留しているセッションを通知しましたが、IMS は、対応する制御ブロックを見つけてセッションを復元することができません。

制御ブロックが見つからなかったクラス 2 および 3 端末のノード名を記録するために、診断ログ・レコード X'6710' が書き込まれます。

システムの処置

IMS は通常のインプリメンテーションを続行しますが、クラス 2 端末の永続性は復元されません。

オペレーターの応答

通常のセッション開始手順を使用して、端末を必要に応じて再始動できます。

システム・プログラマーの応答

X'6710' ログ・レコードを見つけて、再始動を必要とする端末を識別してください。

モジュール

DFSVTPO0

DFS2288W	IMS CHECKPOINT PROCESSING IS BEING DELAYED.
-----------------	--

説明

IMS チェックポイントが処理を完了しないうちに、チェックポイント・タイマー値の有効期限が切れました。

システムの処置

システムは稼働し続けます。

オペレーターの応答

通常のセッション開始手順を使用して、端末を必要に応じて再始動できます。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、チェックポイントを遅らせる何らかの処理を求めるオペレーターに対する警告です。このメッセージが検出される場合、オペレーターは何らかの処置を取って、チェックポイントが迅速に完了するようにする必要があります。

モジュール:

DFSRCPO0

DFS2290	INPUT MESSAGE CANNOT BE CREATED SINCE NO OUTPUT MESSAGE IN PROGRESS.
----------------	---

説明

複数物理ページ入力が指定された DPAGE の最初の物理ページから入力データが入力されたとき、出力メッセージが進行中ではありませんでした。出力メッセージは、以前のオペレーター処置 NXTMSG または NXTMSGP によってデキューされていました。

システムの処置

入力データは無視されます。

オペレーターの応答:

複数物理ページ入力メッセージを作成するための現行フォーマットに関する /FOR コマンド、単一物理ページ入力メッセージを作成するための異なるフォーマットに関する /FOR コマンドを発行するか、画面をクリアし、データを入力してください。

問題判別

16

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2291I	Multi-line message with variable values
-----------------	--

説明

ロック要求が IRLM によってタイムアウトにされて、IMS 異常終了 3310 が出されました。このメッセージは、終了に関する追加の情報を提供します。

変数値を示す DS2291I が、複数行にわたって以下のフォーマットで発行されます。

- DFS2291I LOCKNAME=*resource_name*
- DFS2291I DBNAME=*db_name*
LOCKFUNC=*lock_function*
- DFS2291I BLOCKER PST=*PST_id* TRAN=*tran_name*
PSB=*PSB_name* TYPE=*region_type*
- DFS2291I BLOCKER TRANELAPSED TIME=*hr:mn:sc*
IMSID=*imsid*
- DFS2291I BLOCKER RECOVERY
TOKEN=*recovery_token*
- DFS2291I WAITERxx PST=*PST_number*
TRAN=*tran_name* PSB=*PSB_name*
TYPE=*region_type*
- DFS2291I WAITERxx TRANELAPSED TIME=*hr:mn:sc*
- DFS2291I WAITERxx RECOVERY
TOKEN=*recovery_token*
- DFS2291I WAITERxx PST=*PST_number*
TRAN=*tran_name* PSB=*PSB_name*
TYPE=*region_type*
- DFS2291I VICTIM TRANELAPSED TIME=*hr:mn:sc*
IMSID=*imsid*
- DFS2291I VICTIM RECOVERY
TOKEN=*recovery_token*
- DFS2291I TRANSACTION RETRY. DIAGNOSTIC
MESSAGE HAS REACHED MAXIMUM COUNT

メッセージの最終行「DFS2291I TRANSACTION RETRY. DIAGNOSTIC MESSAGE HAS REACHED MAXIMUM COUNT」は、同一のトランザクションが 5 回再試行された後にのみ、出されます。このメッセージを受け取った後はもう、同一のトランザクションの再試行に関してメッセージ DFS2291I のインスタンスがさらに出されることはありません。

BLOCKER

ロックのための長時間待ちがタイムアウトした時点で、*resource_name* によって示されるロック・リソースを保持していたトランザクションを示します。

WAITER

長時間ロック出口が駆動された時点で、*resource_name* によって示される同じロック・リソースに対して待機していたトランザクションを示します。

VICTIM

IRLM がタイムアウトにしたトランザクションを示します。このトランザクションは、異常終了コード

3310 で異常終了するか、あるいは IRLM ロック要求の LOCKTIME 値を超えたために状況コード BD を受け取ります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resource_name

IMS がリソースのロックを獲得するために使用する、11 文字から 13 文字の ID。*resource_name* には、トランザクションがロックを要求しているリソースの、データ管理ブロック (DMB) 番号、データ制御ブロック (DCB) 番号、または相対バイト・アドレス (RBA) が含まれます。

db_name

IRLM がロックの認可を要求されているデータベースの名前。

lock_function

ロック要求機能。

PST_id

トランザクションを示す固有のタスク ID。ID は、以下のいずれかのオプションを参照します。

number

トランザクションを識別する固有のタスク番号。

SYS

システムの ITASK ロック所有者。

IDT

残留リカバリー・エレメント (RRE) または未確定ロック所有者。

PST_number

トランザクションを識別する固有のタスク番号。

tran_name

トランザクション名。

PSB_name

トランザクションが使用する PSB 名。

region_type

トランザクションを処理する IMS 領域のタイプ。

hr:mn:sc

時、分、秒での経過時間。この値は、トランザクションの開始時刻 (PSTSPPTIM から取られる) と、このトランザクションの IRLM 長時間ロック・データを収集するために出口が呼び出された時刻の間の値です。

imsid

IMS ID。

recovery_token

IMS ID、スケジューリング時に割り当てられた 4 バイトの起点アプリケーション・シーケンス番号、および各コミット・プロセスで増分される 4 バイトのカウントが入っている、16 バイトのストリング。バッチ・アプリケーションの場合、16 バイトのストリングには、8 バイトのジョブ名と 8 バイトのストア・クロック値が入っています。

バッチ・ジョブの場合、短形式メッセージ DFS2291I が 出されます。IEFRDER DD ステートメントが指定された場合、このメッセージの複数行形式がログ・タイプ X'67D0' サブタイプ 1B レコードに使用されます。

異常終了 3310 後に再試行中のトランザクションについては、メッセージ DFS2291I は最大数である 5 回、出されます。最大メッセージ・カウントに達すると、メッセージ・テキストは「TRANSACTION RETRY. DIAGNOSTIC MESSAGE HAS REACHED MAXIMUM COUNT」が使用されます。

システムの処置:

従属領域は異常終了します。トランザクションは廃棄され、トランザクションおよび PGM は停止されず、メモリー・ダンプは作成されません。

システム・プログラマーの応答

保護メッセージの場合を除き、廃棄不能メッセージ・ユーザー出口 (NDMX) を使用して、トランザクションを再実行するかどうかを判別します。

ブロッカー (ロックを保持しているアプリケーション) またはピクティム (ロックを待機しているアプリケーション) のいずれかを強制終了してください。ロックを保持しているアプリケーションまたはロックを待機しているアプリケーションを強制終了するには、このメッセージ内にあるブロッカー情報を使用します。ピクティム以外にも複数のアプリケーションがロックを待機している場合、ブロッカーを強制終了すると、IRLM は、待機していた次のアプリケーションに対してロックを認可することになるため、必ずしもピクティムがロックを認可されるとは限らない可能性があります。

問題判別

このメッセージは、ロックを保持しているトランザクションだけでなく、ロックを待機中のトランザクションについても、情報を提供します。

モジュール:

DFSLMGRO

関連情報

IMS 異常終了 3310

DFS2292E	PTR=SYMB IS NOT SPECIFIED ON THE LCHILD STATEMENT FOR DBD <i>dbdname</i>
-----------------	---

説明

基本 DEDB データベースの HISAM 副次索引データベースまたは SHISAM 副次索引データベースを定義するための LCHILD ステートメントが、メッセージ内の DBD *dbdname* で示された PTR=SYMB を指定していません。PTR=SYMB は、高速機能副次索引データベースに対する唯一有効なポインター・オプションです。

システムの処置

ACB 保守ユーティリティは、DBD の処理を停止します。基本 DEDB データベースおよびその副次索引データベースは、ACB ライブラリーから削除されます。ACB 保守ユーティリティの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

システム・プログラマーの応答

1. DBD に関する LCHILD ステートメントの PTR=SYMB を変更する。
2. DBDGEN ユーティリティを再び実行する。
3. DBD に関する BUILD ステートメントを使用して、ACB 保守ユーティリティを実行する。

モジュール

DBFUDLBO

DFS2293E	HISAM AND SHISAM INDEXES ARE IN SAME PARTITON GROUP FOR DBD <i>dbdname</i>
-----------------	---

説明

LCHILD ステートメントは、メッセージ内の DBD *dbdname* で示されている、同一のユーザー・データ区画グループ内の HISAM 副次索引データベースおよび SHISAM 副次索引データベースを指定します。ユーザー・データ区画グループは、すべて HISAM 副次索引区画データベースで、またはすべて SHISAM 副次索引区画データベースで、構成する必要があります。

システムの処置

ACB 保守ユーティリティは、DBD の処理を停止します。基本 DEDB データベースおよびその副次索引データベースは、ACB ライブラリーから削除されます。ACB 保守ユーティリティの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答

1. DBD の LCHILD ステートメントの NAME オペランドで、ユーザー・データ区画グループに入っているのがすべて HISAM 副次索引データベースになるように、またはすべて SHISAM 副次索引データベースになるように、変更する。
2. DBDGEN ユーティリティを再び実行する。
3. DBD に関する BUILD ステートメントを使用して、ACB 保守ユーティリティを実行する。

モジュール

DBFUDLBO

DFS2294E **UNIQUE AND NON-UNIQUE KEY
HISAM INDEXES ARE IN SAME
PARTITION GROUP FOR DBD
dbdname**

説明

LCHILD ステートメントは、メッセージ内の DBD *dbdname* で示されている、同一のユーザー・データ区画グループ内の固有キー HISAM 副次索引データベースおよび非固有キー HISAM 副次索引データベースを指定します。ユーザー・データ区画グループは、すべて固有キー HISAM 副次索引区画データベースで、またはすべて非固有キー HISAM 副次索引区画データベースで、構成する必要があります。

システムの処置

ACB 保守ユーティリティは、DBD の処理を停止します。基本 DEDB データベースおよびその副次索引データベースは、ACB ライブラリーから削除されます。ACB 保守ユーティリティの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答

1. DBD の LCHILD ステートメントの NAME オペランドで、ユーザー・データ区画グループに入っているのがすべて固有キー HISAM 副次索引データベースになるように、またはすべて非固有キー HISAM 副次索引データベースになるように、変更する。
2. DBDGEN ユーティリティを再び実行する。
3. DBD に関する BUILD ステートメントを使用して、ACB 保守ユーティリティを実行する。

モジュール

DBFUDLBO

DFS2295E **SOME SENSEG STATEMENT IS
INVALID FOR FAST PATH
SECONDARY INDEX dbdname FOR
PCB pcbname IN PSB psbname**

説明

PSB *psbname* の PCB *pcbname* に関する高速機能副次索引 *dbdname* に対して、1 つ以上の SENSEG ステートメントは無効です。ターゲット・セグメントがルート・セグメントでない場合、セグメントのサブセットにのみアクセス可能です。

システムの処置

ACB 保守ユーティリティは、PSB の処理を停止します。PSB は ACB ライブラリーから削除されます。ACB

保守ユーティリティの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答

ターゲット・セグメントがルート・セグメントでない場合は、SENSEG ステートメントの規則を使用して適切な訂正を行って、PSBGEN ユーティリティを再度実行し、PSB に関する BUILD ステートメントを使用して ACBGEN ユーティリティを実行してください。

以下の規則を使用して、無効な SENSEG ステートメントを訂正してください。

- ターゲット・セグメントがルート・セグメントでない場合、以下のとおりです。
 - ルート・セグメントからターゲット・セグメントまで、すべての直接の親セグメントは、データベース構造の物理的な順序で指定しなければならない。
 - ターゲット・セグメントの直接の親セグメントはアクセス可能。ターゲット・セグメントの直接の親セグメントを戻したくない場合は、直接の親セグメントの SENSEG ステートメントで PROCOPT=K オペランドを指定します。
 - ターゲット・セグメントの子セグメントはアクセス可能。ターゲット・セグメントの子セグメントにアクセスしたい場合は、その子セグメントに関して SENSEG ステートメントを指定します。
 - ターゲット・セグメントの直接の親セグメントでないセグメント、またはターゲット・セグメントの子セグメントでないセグメントには、アクセスできない。これらのアクセスできないセグメントは、SENSEG ステートメントを指定することはできません。
- ターゲット・セグメントがルート・セグメントである場合、ターゲット・セグメントの下のすべてのセグメントにアクセス可能。

モジュール

DBFUDLBO

DFS2296A **INCORRECT INPUT LOG DD
SPECIFICATION**

説明

次のいずれかが発生しました。

- 入力ログに関して、DD DUMMY が指定された。
- 複数の DD ステートメントが指定されたが、正しい DD 名または順序、あるいはその両方が指定されなかった。

システムの処置

データベース・バックアウト・ユーティリティー
DFSBB000 が終了し、戻りコード X'3C' が示されます。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS2297 **PURGE KEYWORD IS INVALID,
LINK NOT CTC**

説明

/PSTOP LINK PURGE コマンドが入力されましたが、
リンクがチャンネル間リンクではありません。

システムの処置

コマンドは実行されません。

マスター端末オペレーターの応答: 1 つのチャンネル間リ
ンクのみを使用して、コマンドを再入力してください。

DFS2298A **NEED MORE LOG DATA SETS FOR
BACKOUT OF PSB *psbname***

説明

バックアウトする必要があるジョブは、バッチ・バック
アウトへの入力として提供されたログ・データ・セッ
ト・シリーズ内に同期点がありません。バッチ・バック
アウトは、以前のログ・データ・セットを、このメッ
セージが出されることになった実行で使用されたロ
グ・データ・セットと共に組み込んで、再実行する必要
があります。

システムの処置

バックアウトが試みられる前に、ジョブが終了し、条件
コード 64 が示されます。

プログラマーの応答

バッチ・バックアウトを再実行し、以前のログ・デー
タ・セットを、この実行で使用したログ・データ・セ
ットと共に組み込んでください。

DFS2299A **OPEN MNPS ACB WAS NOT
SUCCESSFUL REG15=*xx***

**ACBERFLG= *yyy*, REPLY RETRY OR
CANCEL**

説明

MNPS XRF テークオーバー時に MNPS ACB のオープン
を 3 回試みて失敗した後、代替 IMS システムは WTOR
を発行し、オペレーターからの応答を待ちます。xx は、
レジスター 15 内の OPEN 戻りコードで、yyy は VTAM
が戻した ACB エラー・フィールドです。これらの値は
10 進数として表示されます。RETRY を応答すると、代
替 IMS は、必要であればさらに 3 回、ACB をオープン
しようとします。CANCEL を応答すると、代替システム
は ACB のオープンの試みを停止し、テークオーバー・
プロセスを再開します。RETRY または CANCEL 以外の
応答は無効であり、WTOR が再発行されます。

システムの処置

IMS は、オペレーターからの応答を待ちます。

オペレーターの応答

問題を訂正し、WTOR に応答してください。

システム・プログラマーの応答

エラー・コードの詳しい説明については、「z/OS
Communications Server: SNA メッセージ」、「z/OS
Communications Server: SNA Programming」、および
「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」を参
照してください。

モジュール

DFSHCI00

DFS2300I **IMS-MS VERIFICATION UTILITY-
RUN *aaaaaaaa mm/dd/yy*
*hh:mm:ss***

説明

aaaaaaaa が曜日、*mm/dd/yy* が日付、*hh:mm:ss* が時
刻です。

システムの処置

入力妥当性検査が続行されます。

第 50 章 DFS メッセージ DFS2301I - DFS2350I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2301I **INPUT xxx...**

説明

xxx... は、SYSIN データ・セットから読み込まれた入力ステートメントです。

システムの処置

入力妥当性検査が続行されます。

DFS2302I **SYSTEM MODULES**

説明

このメッセージはヘッダーです。モジュール名のリストについては、DFS2303I を参照してください。

システムの処置

入力妥当性検査が続行されます。

関連情報

DFS2303I
aaaaaaaa

DFS2303I **aaaaaaaa**

説明

aaaaaaaa は、有効な入力から作成されたモジュール名です。

システムの処置

入力妥当性検査が続行されます。

プログラマーの応答

これらの名前が検査されるモジュールであるか、確認してください。

DFS2304X **xxx-CONTAINS A NON-NUMERIC CHARACTER**

説明

xxx に数字以外の文字が含まれていました。有効な接尾部は 1 から 255 です。

システムの処置

入力データの妥当性検査は完了します。入力データが無効のため、さらに処理が行われることはありません。

プログラマーの応答

入力データは 1 から 255 の範囲の数値である必要があります。無効の入力データを訂正し、プログラムを再実行してください。

DFS2305X **aaaa-MORE THAN THREE DIGITS**

説明

入力データ aaaa に 3 桁を超える数字が含まれていました。

システムの処置

入力データの妥当性検査は完了します。入力データが無効のため、さらに処理が行われることはありません。

プログラマーの応答

入力データは 1 から 255 の範囲の数値で、1 から 3 桁の数で表される必要があります。

DFS2306X **aaa-IS NOT IN THE RANGE FROM 1 TO 255**

説明

入力データ aaa が 1 より小か、255 より大でした。これは 1 から 255 の数値である必要があります。

システムの処置

入力データの妥当性検査は完了します。入力データが無効のため、さらに処理が行われることはありません。

プログラマーの応答

無効の入力データを訂正し、プログラムを再実行してください。

DFS2307X **aaa-IS A DUPLICATE SUFFIX**

説明

入力データ aaa は、入力データとしてすでに指定されました。入力接尾部が表示できるのは、それぞれのプログラム実行ごとに 1 回のみです。

システムの処置

入力データの妥当性検査は完了します。入力データが無効のため、さらに処理が行われることはありません。

プログラマーの応答

無効の入力データを訂正し、プログラムを再実行してください。

DFS2308X AT LEAST TWO SYSTEMS MUST BE SPECIFIED

説明

入力データが提供されていないか、入力に含まれている有効な接尾部エントリーが2つのみであったか、ブランクが検出されました。最初のブランクが検出された時点で、ステートメントでの入力処理は終了します。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

複数の有効な接尾部が指定されたか、入力データに埋め込まれたブランクがないか、1桁目がブランクではないか確認してください。プログラムを再実行してください。

DFS2309X PERMANENT I/O ERROR READING DIRECTORY

説明

BLDL マクロ呼び出しの結果、戻りコード 8 が表示されました。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

BLDL マクロ完了コードについての情報を参照してください。

関連資料

[z/OS: BLDL の完了コード](#)

DFS2310X MODULE-DFSMSaaa-NOT FOUND

説明

BLDL がディレクトリーを検索しましたが、モジュール DFSMSaaa は検出されませんでした。aaa は、モジュール名の変数部分を表します。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

正しいライブラリーにアクセスしているか、入力データが処理される正しい接尾部を指定しているか、モジュール DFSMSaaa がライブラリーにあるか判別してください。

DFS2311X PARTNER ID aa DEFINED MORE THAN TWICE AND IGNORED

説明

ID aa が3つ以上のシステムで、論理リンクで定義されています。

システムの処置

論理リンクは、エラーであるとして示され、検査処理で参照される場合は、定義されていない場合と同様に処理されます。検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

DFS2312I を参照してください。論理リンクが後続の検査処理に組み込まれる前に、この条件を訂正してください。

関連情報

[680 ページの『DFS2312I』](#)

aa IN LOGICAL LINK bbb DEFINED IN DFSMSccc

DFS2312I aa IN LOGICAL LINK bbb DEFINED IN DFSMSccc

説明

パートナー ID が参照できるのは、2つのシステムのみですが、3つ以上のシステムで表示されるものが検出されました。aa は2文字パートナー ID です。bbb は、パートナー ID が定義されている論理リンク番号です。ccc は、パートナー ID - 論理リンク番号 - が定義されているモジュール接尾部です。DFS2311X を参照してください。これらのメッセージのうち少なくとも3つが、このパートナー ID を定義しているそれぞれのシステムごとに1つずつ印刷されます。

システムの処置

検査は続行されますが、この論理リンク番号は後続の検査処理には組み込まれないままです。

プログラマーの応答

正しい2つの参照を判別し、残りは変更してください。

関連情報

680 ページの『DFS2311X』
PARTNER ID *aa* DEFINED MORE THAN TWICE
AND IGNORED

DFS2313X **INCONSISTENT ATTRIBUTES IN
MSPLINKS ASSOCIATED WITH
PARTNER ID *aa***

説明

物理リンクは、パートナー ID *aa* に関して 2 つのシステムの論理リンク定義で定義されましたが、物理リンクの属性に互換性がありません。DFS2314I に非互換性がリストされています。

システムの処置

検査が続行されます。

プログラマーの応答

詳しくは、DFS2314I を参照してください。

関連情報

681 ページの『DFS2314I』
DFSMS*aaa* LOGICAL LINK *bbb* MSPLINK
cccccccc DEFINED TYPE=*ddd*,
BUFSIZE=*eeeeeeeeeeeeeeee*

DFS2314I **DFSMS*aaa* LOGICAL LINK *bbb*
MSPLINK ccccccc DEFINED
TYPE=*ddd*,
BUFSIZE=*eeeeeeeeeeeeeeee***

説明

DFSMS*aaa* はシステム・モジュール名であり、その *bbb* が論理リンク番号です。論理リンクに割り当てられた物理リンクの属性の 1 つは、互換性がありません。

aaa

システム・モジュール接尾部

bbb

論理リンク番号

cc...cc

物理リンク名

ddd

物理リンク・タイプで、次のいずれか

BSC

BISYNC を意味する

MTM

主記憶域間を意味する

CTC

チャンネル間を意味する

VTAM

同期データ・リンク制御 (SDLC) 通信を意味する

eeee

バッファ・サイズ

ff...ff

物理リンク・タイプが BSC または VVTAM の場合のみ表示

TYPE=BSC

CONTROL=YES または CONTROL=NO (BSC システムの 1 つでは CONTROL=YES を、1 つでは CONTROL=NO を指定する必要がある)

TYPE=VTAM

SESSION=*nnn* (*nnn* は、この MSC/VTAM リンクで許容される並列セッションの最大数)

システムの処置

検査が続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ DFS2313X を参照し、システムの無効の属性を訂正してください。

関連情報

DFS2313X
INCONSISTENT ATTRIBUTES IN MSPLINKS
ASSOCIATED WITH PARTNER ID *aa*

DFS2315I **DFSMS*aaa* LOGICAL LINK *bbb* ID
cc NOT ASSIGNED MSPLINK
CORRESPONDING TO *ddddddd*
IN DFSMS*eee***

説明

DFSMS*aaa* はシステム・モジュール名であり、その *bbb* が論理リンク番号です。このリンクは、物理リンクが割り当てられていません。DFSMS*eee* のパートナー ID *cc* との対応する論理リンクは、物理リンク *ddddddd* が割り当てられています。

システムの処置

検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

物理リンクがシステム定義または実行時に割り当てられるのか判断してください。定義時に割り当てられるのであれば、プログラムを訂正して再実行してください。実行時に割り当てられるのであれば、この物理リンク・エラー・メッセージは無視してください。

DFS2316W **DFSMS*aaa* MSPLINK *bbbbbbb*
NODENAME ccccccc DOES NOT**

**MATCH APPLID dddddddd IN
DFSMSeee**

説明

MSVERIFY 制御ブロック・モジュール DFSMSaaa において、MSPLINK マクロで VTAM ノード名 (NAME=ccccccc) を使用して定義された物理リンク bbbbbbbb が、パートナー MSVERIFY 制御ブロック・モジュール DFSMSeee の COMM マクロで定義されている APPLID=ddddddd と一致しません。

IMS システムとそのパートナーの VTAM APPLID が一致しないか、システム定義中に静的に指定された (例えば、APPLID=NONE は COMM マクロで指定) か、いずれかです。IMS 実行時に解決される VTAM アプリケーション・プログラム名が一致する (例えば、IMSA の VTAM APPLID が、パートナー・ノード名に一致する) 場合は、これはエラーではありません。VTAM アプリケーション・プログラムの命名規則の詳細については、VTAM の資料を参照してください。

システムの処置

検査が続行されます。

プログラマーの応答

APPLID 名が VTAM 命名規則に準拠しているか検証してください。準拠していない場合は、必要な変更を行い、検査プログラムを再実行してください。

問題判別:
ありません。

**DFS2317X PARTNER ID aa IN LOGICAL LINK
bbb WITHIN DFSMSccc IS NOT
DEFINED IN A SECOND SYSTEM**

説明

パートナー ID は、2つのシステムで参照される必要があります。aa は 2 文字パートナー ID です。bbb は、パートナー ID が定義されている論理リンク番号です。ccc は、パートナー ID - 論理リンク番号 - が定義されているモジュール接尾部です。

システムの処置

このパスに未コンプライトとしてフラグが立てられ、検査が続行されます。

プログラマーの応答

未完成のシステム定義を判別してください。プログラムを訂正して再実行してください。

**DFS2318X SYSID sysid HAS AN INVALID
LOOP**

説明

sysid は、無効のパスが検出されている SYSID テーブルにある、3 文字 SYSID です。DFS2319I にエラーの追加説明があります。

システムの処置

検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

SYSID aaa については、DFS2319I を参照してください。

関連情報

682 ページの『DFS2319I』

DFSMSaaa MSNAME bbbbbbbb PARTNER ID cc
LOGICAL LINK ddd INVOLVED IN LOOP

**DFS2319I DFSMSaaa MSNAME bbbbbbbb
PARTNER ID cc LOGICAL LINK ddd
INVOLVED IN LOOP**

説明

aaa はモジュール接尾部です。bbbbbbb は MSNAME で、cc は PARTNER ID です。ddd は、このシステムの SYSID の論理リンク番号です。ループでは、論理リンク・パスがローカル SYSID に向けないで、それ自体に対してループを逆に定義したことを意味します。

システムの処置

このパスに無効としてフラグが立てられ、検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

これらのメッセージは複数発行され、それぞれが別のシステムの SYSID パスを記述しています。MSNAME が間違った SYSID を参照していないか、MSNAME が間違った論理リンク番号に接続されていないか、論理リンク定義が間違ったパートナー ID を使用していないか判別してください。

プログラムを訂正し再実行してください。

**DFS2320X DFSMSaaa SYSID sysid IS NOT
DEFINED**

説明

aaa はモジュール接尾部名で、sysid は 4 桁の SYSID です。システム DFSMSaaa で参照されている SYSID は、MSNAME 定義では指定されていません。この DFSMSaaa システムへのパスの確立によって、参照しているシステムにエラーがあるか、MSNAME 定義が SYSID sysid を正しく参照していないため、この

DFSMSaaa システム定義が正しくないか、いずれかです。

システムの処置

検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

エラーのあるシステムを判別し、エラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

**DFS2322I TRANSACTION DEQUEUED BY
 OPERATOR**

説明

トランザクションの実行前にトランザクションをデキューするために、**/DEQ** または **QUE TRAN** **OPTION(DEQxxx)** コマンドを使用しました。

システムの処置

APPC または OTMA 会話は割り振り解除されました。

ユーザーの処置:
トランザクションを再実行依頼してください。

**DFS2323X NO LOCAL DEFINED FOR SYSID
 sysid**

説明

検査対象の複数システム合計構成内で、4 桁の SYSID *sysid* は、ローカル SYSID が定義されておらず、別のシステムによって参照されています。

システムの処置

検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

ローカル SYSID はどこで定義されるべきか判別し、それに応じて MSNAME を定義するか、この SYSID はいずれのシステムでも参照しないようにしてください。プログラムを再実行してください。

**DFS2324X MORE THAN ONE LOCAL DEFINED
 FOR SYSID sysid**

説明

sysid は、スキャン対象の 4 桁の SYSID です。複数システム合計構成に関するこの SYSID のスキャンで、この SYSID がローカルとして定義されている複数のシステムを、ユーティリティが検出しました。

システムの処置

検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

複数システム合計構成を検討してください。その SYSID の場合にどこがローカルであるべきかを判別し、このメッセージの後に続く DFS2325I で参照されているシステムを再定義してください。

エラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

関連情報

683 ページの『DFS2325I』
LOCAL DEFINED FOR DFSMSaaa

DFS2325I LOCAL DEFINED FOR DFSMSaaa

説明

aaa は、ローカル・システムが定義されている接尾部です。このメッセージは DFS2324X とともに表示されます。

システムの処置

検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

DFS2324X を参照してください。

関連情報

DFS2324X
MORE THAN ONE LOCAL DEFINED FOR SYSID
sysid

**DFS2326X DFSMSaaa SYSID sysid-MSNAME
 cccccccc HAS NO PATH TO LOCAL
 SYSID THROUGH DFSMSddd**

説明

aaa はシステム・モジュールの接尾部です。*sysid* は、4 桁の SYSID です。*cccccccc* は、MSNAME です。システム DFSMSaaa が SYSID *sysid* で、DFSMSddd を通してローカル・システムへのパスを提供するのを妨げた以前のエラーを、IMS が検出しました。

システムの処置

検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

以前のメッセージが、SYSID *sysid* を参照し、エラーの原因になったと推定されます。または、SYSID *sysid* に割り当てられた論理リンクのパートナー ID にエラー

がありました。SYSID *sysid* に関して以前のエラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

dddddddd MAY BE A DYNAMIC RESOURCE

DFS2327I DFSMSaaa SYSID *sysid* OR MSNAME ccccccc SHOULD NOT BE ASSIGNED TO LOGICAL LINK *ddd*

説明

aaa はシステム・モジュール接尾部です。*sysid* は、4桁のSYSIDです。*ccccccc* は、MSNAMEです。*ddd* は、論理リンク番号です。SYSID *sysid* またはMSNAME *ccccccc* を論理リンク *ddd* に割り当てると、ローカルSYSIDへの無効のパスが生じる原因になります。このメッセージが出されるのは、PARM=ALLが実行ステートメントで指定されている場合のみです。

システムの処置

検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

示されている割り当ては行わないでください。

DFS2330I DFSMSaaa SYSID *sysid* ccccc dddddddd NOT VERIFIED

説明

aaa はシステム・モジュール接尾部です。*sysid* は、4桁のSYSIDです。*cccc* は、TRANSまたはLTERMのいずれかです。*ddddddd* は、TRANS/LTERM名です。前に判別されたエラー状態が原因で、このTRANS/LTERMは検証されませんでした。DFS2323XメッセージまたはDFS2324Xメッセージが、SYSIDに関して表示されました。

システムの処置

検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

DFS2323XまたはDFS2324Xで参照されている元の問題を訂正してください。プログラムを再実行してください。

関連情報

683 ページの『DFS2323X』
NO LOCAL DEFINED FOR SYSID *sysid*

683 ページの『DFS2324X』
MORE THAN ONE LOCAL DEFINED FOR SYSID *sysid*

DFS2331X DFSMSaaa SYSID *sysid* ccccc dddddddd IS NOT DEFINED WITHIN DFSMSee LTERM

説明

リモートTRANSまたはLTERMは、SYSID *sysid* がローカルとして定義されているDFSMSeeでは検出できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sysid

4桁のSYSID

cccc

TRANSまたはLTERM

ddddddd

TRANSまたはLTERM名

定義されていないリソースがLTERMの場合、リソースはリモート・システムで動的に作成できます。これは手動で検査する必要があります。

システムの処置

検査処理が続行されます。

システム・プログラマーの応答

このメッセージが出るのは、次の場合です。

- TRANSまたはLTERMが間違ったリモートSYSIDを参照している。
- TRANSまたはLTERMが、示されているシステムで定義されていない。
- LTERMが、示されているシステムでリモートとして定義されている。
- LTERMがリモート・システムで動的に作成されたりソースである。

LTERMが意図して動的に作成されたりソースである場合は、このメッセージは無視できます。そうでない場合は、LTERMが動的に作成された理由を判別し、エラーの条件を訂正し、プログラムを再実行してください。

問題判別

1、6、10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMSメッセージおよびコードの問題判別は、IBMによって確立された手順を使用して行われます。

DFS2332X SYSID *sysid* TRANS bbbbbbbb HAS INCOMPATIBLE ATTRIBUTES BETWEEN SYSTEMS

説明

変数 *sysid* は、トランザクション *bbbbbbbb* によって参照される、4 桁のリモート SYSID です。このメッセージの後に DFS2333I メッセージが続き、2 つのシステムのトランザクションの属性が表示されます。

システムの処置

トランザクション記述メッセージが両方のシステムに関して表示され、検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

DFS2333I については、その説明を参照してください。

関連情報

685 ページの『DFS2333I』
DFSMSaaa *bbbbbb*,MSGTYPE=*ccccccc*,
INQUIRY=*ddd,eeeeeee,ffffff,ggggg*

DFS2333I	DFSMSaaa bbbbbb,MSGTYPE=ccccccc, INQUIRY=ddd,eeeeeee, ffffff,ggggg
-----------------	---

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaa

システム・モジュール接尾部。

bbbbbb

REMOTE または LOCAL のいずれか。

cccccc

SNGLSEG または MULTSEG。

ddd

YES または NO。

eeeeeee

RECOVER または NORECOV。

ffffff

FPATH=YES または SPA=*nnn*。ここで *nnn* は SPA サイズ。

ggggg

SPA-FIXED のタイプ、またはブランク。

システムの処置

検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

属性に誤りのあるシステムを判別し、それを訂正してください。プログラムを再実行してください。

DFS2334X	DFSMSaaa SYSID <i>sysid</i> ccccc ddddddd HAS NO RETURN PATH TO DFSMSeee
-----------------	---

説明

eee は、システム・モジュール接尾部で、その *cccc* (*ddddddd* という名前の TRANS または LTERM) は 4 桁の SYSID *sysid* をリターン・パスとして定義しています。SYSID *sysid* は未定義、またはローカルとして定義されます。

システムの処置

検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

SYSID *sysid* は、システム DFSMSaaa でリモートとして定義する必要があるのか、または DFSMSeee (TRANS または LTERM *ddddddd*) がリターン・パスに関して間違った SYSID を定義したのか判別してください。システムを訂正し、プログラムを再実行してください。

DFS2335I	DFSMSaaa SYSID <i>sysid</i> ccccc ddddddd RETURN PATH TO DFSMSeee NOT VERIFIED
-----------------	---

説明

aaa は処理システム・モジュール接尾部です。*sysid* は 4 桁の戻り SYSID です。*cccc* は、TRANS または LTERM のいずれかです。*ddddddd* は、TRANS/LTERM 名です。*eee* は発信元システム・モジュール接尾部です。前に判別されたエラー状態が原因で、この TRANS/LTERM リターン・パスは検証されませんでした。DFS2324X メッセージが SYSID *sysid* に関して表示されます。

システムの処置

検査処理が続行されます。

プログラマーの応答

DFS2324X で参照されている元の問題を訂正してください。プログラムを再実行してください。

関連情報

683 ページの『DFS2324X』
MORE THAN ONE LOCAL DEFINED FOR SYSID
sysid

DFS2336A	INSUFFICIENT STORAGE TO ACQUIRE SBPSS CONTROL BLOCK
-----------------	--

説明

IMS が CSA (共通ストレージ域) から十分なストレージを獲得できなかったため、IMS オンライン環境で順次バッファリング (SB) で使用される制御ブロック SBPSS を作成できませんでした。

システムの処置

IMS オンライン・システムでは、順次バッファリングはもう使用できなくなりました。

ユーザーの処置

IMS 用の仮想記憶域を増やしてください。

DFS2337A INSUFFICIENT STORAGE TO ACQUIRE PST EXTENSION FOR SEQUENTIAL BUFFERING

説明

IMS が、順次バッファリング用として使用される拡張 PST を獲得できませんでした。

システムの処置

IMS オンライン・システムでは、順次バッファリングはもう使用できなくなりました。

ユーザーの処置

LSO=N の IMS DB/DC の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振り、LSO=≠N の IMS DB/DC、IMS バッチ、または DBCTL の場合は、専用ストレージの量を増やして割り振ってください。

DFS2338I xxxxxxxx CAN NOT BE LOADED, RC=nn

説明

IMODULE マクロが、モジュール xxxxxxxx をロードできませんでした。IMODULE 戻りコード nn の説明については、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

IMS では、順次バッファリングは使用できません。

ユーザーの処置

IMODULE マクロから戻されたコードに基づいて、エラーを訂正してください。

関連資料

[IMODULE 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS2339I SEQUENTIAL BUFFERING UNABLE TO ISSUE ERROR MESSAGE

説明

順次バッファリングが、エラー・メッセージの発行に使用される作業域を獲得できませんでした。

システムの処置

IMS では、送信するはずであったメッセージではなく、このメッセージを送信します。

ユーザーの処置

IMS 用の仮想記憶域を増やして割り振ってください。

DFS2340I CONTROL CARDS IN //DFSCTL CONTAIN ERRORS, JOBNAME=xxxxxxx

説明

JOB xxxxxxxx に関する //DFSCTL データ・セットの順次バッファリング (SB) 制御ステートメントに、エラーが 1 つ以上含まれていました。エラーについて記述している DFS メッセージが、z/OS コンソールだけでなく、ジョブの JES ログにも以前に書き込まれました。

システムの処置

DFS メッセージは、ジョブの JES ログおよび z/OS コンソールに対して書き込まれました。

ユーザーの処置

ジョブの JES ログおよび z/OS コンソールに対して書き込まれた DFS メッセージを参照してください。

DFS2341I SPARSE|PARTITION EXIT exitname FOR DEDB dedbname IS LOADED|DELETED

説明

スパース・ルーチンまたは区画選択ルーチンは、削除されたかまたは再ロードされたか、いずれかです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

exitname

削除または再ロードされた出口ルーチンの名前

dedbname

DEDB の名前

システムの処置:
処理を続行します。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFMSIU0

DFS2342E **IMS ver.rel REQUIRES facility**

説明

IMS が、使用不可であったシステム機能を必要としていたため、IMS アドレス・スペースを開始できませんでした。IMS の始動を妨げる機能には、ハードウェア (特定のハードウェア・レベルまたは機能がないものを含む)、およびソフトウェア (必要なソフトウェア・コンポーネントがインストールされていないか、正しいレベルでないものを含む) が含まれる場合があります。

メッセージ内の情報は次のとおりです。

ver.rel

IMS バージョンとリリース・レベル。

facility

IMS が必要とした機能で、使用不可であったもの。facility の値は、次のいずれかです。

Z/ARCHITECTURE MODE

IMS は、z/Architecture モードで稼働しているプロセッサ上でのみ実行できます。ESA およびそれ以下はサポートされなくなりました。z/Architecture モードで z/OS システムを再 IPL するか、z/Architecture モードで稼働している別のマシンに、IMS アドレス・スペースを移動する必要があります。

64-BIT VIRTUAL SUPPORT

64 ビット仮想ストレージをサポートする z/OS リリースのみで IMS 以上を実行できます。このメッセージを受け取る場合、64 ビット仮想ストレージを許可しない、サポートされていない z/OS レベルで IMS を実行しています。ご使用の z/OS を、現行リリースの IMS に対する最小レベルにアップグレードする必要があります。

SYSTEM Z10 OR HIGHER

IMS 15 以降は、System z10 プロセッサ (マシン・タイプ 2097) 以上でのみ実行できます。サポートされるプロセッサの詳しいリストについては、「IMS V15 リリース計画」を参照してください。

システムの処置

IMS は異常終了 0684 で終了し、アドレス・スペースは開始しません。

システム・プログラマーの応答

示された機能を、IMS を実行するマシンで使用可能にするか、示された機能を持つ別のマシンで IMS を実行します。

モジュール:

DFSVCIO0

関連資料

[プロセッサ要件 \(リリース計画\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0684](#)

DFS2343A **- //SYSIN CONTROL CARDS
CONTAINS ERROR(S)**

説明

//SYSIN データ・セットの SB テスト・プログラム 制御ステートメントに、エラーが 1 つ以上含まれていました。

誤りのある制御ステートメントのリストの直後に、//SYSPRINT データ・セットの詳細なエラー記述が表示されます。

システムの処置

IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置

//SYSPRINT データ・セットで誤りのある制御ステートメントそれぞれがリストされた後に表示されているエラー記述を基にして、エラーを訂正してください。

DFS2344I **NBR OF SELECTED IMAGE-
CAPTURE RECORDS FROM
SYSUT1= nnnnnnnn**

説明

nnnnnnnn には、順次バッファリング (SB) テスト・プログラムが処理するために選択した イメージ・キャプチャー・レコードの数が示されています。このレコード数には、処理できないイメージ・キャプチャー・レコードの数を含まず。

DFS2345W **NBR OF SELECTED RECORDS
SKIPPED WITH BLOCK-NBR
OUTSIDE OF DB DATA SET:
nnnnnnnn**

説明

順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) では、//SYSUT1 データ・セットのイメージ・キャプチャー・レコードによっては処理されなかったものもありますが、これはイメージ・キャプチャー・レコードの相対ブロック番号がデータベース・データ・セットの実限度の範囲外であったためです。

このエラーが発生する可能性があるのは、次の条件がすべて生じている場合のみです。

- ・データベースが元のイメージ・キャプチャーとテスト・プログラムの実行の間に再編成された。
- ・データベース再編成によって、データベース・データ・セット内のブロックの数が減少した。
- ・DBIO YES 制御ステートメントが //SYSIN データ・セットで指定された。

システムの処置

これらのイメージ・キャプチャー・レコードは、相対ブロック番号が実際のデータベース・データ・セット限度から外れているので、SB テスト・プログラムで処理されません。

ユーザーの処置

SB テスト・プログラムによるイメージ・キャプチャー・レコードの再処理は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードを生成したアプリケーションの処理と一致しないこととなります。DBIO YES 制御ステートメントなしの SB テスト・プログラムの実行を調べてください。

**DFS2346W NBR OF SELECTED RECORDS
SKIPPED BECAUSE DB DATA SETS
ARE NOT OPEN: nnnnnnnn**

説明

順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) では、//SYSUT1 データ・セットのイメージ・キャプチャー・レコードによっては処理されなかったものもありますが、これは IMS が、示されているデータベース・データ・セットの一部を開けなかったためです。

通常このメッセージの前に出される z/OS または IMS、あるいはその両方のメッセージに、データベース・データ・セットが開けなかった理由の詳細が記述されています。

システムの処置

これらのイメージ・キャプチャー・レコードは、開かれていないデータ・セットに属しているため、SB テスト・プログラムで処理されることはありません。

ユーザーの処置

SB テスト・プログラムによるイメージ・キャプチャー・レコードの再処理は、イメージ・キャプチャー・レコードを生成したアプリケーションの処理と一致しません。

前に発行された IMS または z/OS メッセージ、あるいはその両方のメッセージに基づいてエラーを訂正してください。データベース・データ・セットおよび //DFSVSAMP 指定に必要なすべての DD ステートメントが存在し、それらが正しいことを確認してください。

DFS2347A INITIALIZATION ERROR

説明

IMS が、IMS 初期設定時に一部の小さい作業域用として十分な仮想記憶域を獲得できませんでした。

システムの処置

IMS が異常終了します。

ユーザーの処置

IMS 用の専用ストレージを広げて割り振ってください。

**DFS2348W INTERFACE ERROR BETWEEN
DFSSBIO0 AND OSAM FOR
PSB=xxxxxxxx, DDN=yyyyyyyy**

説明

IMS が、DFSSBIO0 モジュールと OSAM アクセス方式の間でインターフェース・エラーを検出しました。この問題は IMS エラーです。

システムの処置

IMS がスナップ・ダンプを作成し、現行アプリケーションに関して順次バッファリング (SB) の使用を非活性化します。バッチ領域で実行中のアプリケーションの場合は、異常終了します。

ユーザーの処置

IMS 用の仮想記憶域を増やして割り振ってください。

**DFS2349W LENGTH OF NEXT AREA MIGHT BE
INCORRECT**

説明

IMS ダンプ・フォーマット設定モジュールが、不当に長いエリアをフォーマット設定するために要求されました。

システムの処置

IMS ダンプ・フォーマット設定モジュールでフォーマット設定するのは、可能な場合でも、要求されたエリアの先頭のみです。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

**DFS2350I SNAP-WORKAREA CAN NOT BE
GETMAINED**

説明

IMS モジュール DFSSBSN0 は、順次バッファリング (SB) 制御ブロックまたはエリアを SNAP するための作業域を 獲得できませんでした。

システムの処置

IMS は、アプリケーションを異常終了させます。

ユーザーの処置

LSO=N の IMS DB/DC の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振り、LSO≠N の IMS DB/DC、IMS バッチ、または DBCTL の場合は、専用ストレージの量を増やして割り振ってください。

第 51 章 DFS メッセージ DFS2351A - DFS2400I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2351A **SB NOT OPERATIONAL:
SOFTWARE PROBLEMS PREVENT
USAGE OF SB**

説明

IMS ソフトウェア問題のため、IMS 実行時の順次バッファリング (SB) の使用ができません。z/OS か MTO、またはその両方のコンソールへの以前のメッセージに、ソフトウェア問題のタイプが記述されています。

システムの処置

IMS が現行 IMS 実行の残りの間に、SB を使用することはありません。

ユーザーの処置

IMS から以前に出されているエラー・メッセージを基にして、問題を訂正してください。

DFS2352W **SOME SB CONTROL BLOCKS
COULD NOT BE GETMAINED**

説明

IMS ソフトウェア問題のため、一部の順次バッファリング (SB) 制御ブロックの正常な **GETMAIN** が妨げられました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムには、順次バッファリングによる利点は部分的にしか、またはまったく得られません。

ユーザーの処置

該当する場合は、IMS 用仮想記憶域を広げて割り振ってください。以前に出されているメッセージに、**GETMAIN** によって獲得されなかったストレージが示されています。

DFS2353W **SOME SB BUFFERS COULD NOT BE
GETMAINED**

説明

IMS ソフトウェア問題のため、一部の順次バッファリング (SB) バッファの正常な **GETMAIN** が妨げられました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムには、順次バッファリングによる利点は部分的にしか、またはまったく得られません。

ユーザーの処置

LSO=N の IMS DB/DC の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振り、LSO=N の IMS DB/DC、IMS バッチ、または DBCTL の場合は、専用ストレージの量を増やして割り振ってください。

DFS2354W **MAXSB= LIMIT EXCEEDED**

説明

IMS が IMS.PROCLIB のメンバー DFSVSMxx (IMS オンラインの場合)、または //DFSVSAMP データ・セット (バッチの場合) で指定された **MAXSB** ストレージ限度を超えました。**MAXSB** 限度では、IMS が順次バッファリング (SB) バッファ用として割り振れるストレージの最大量を指定します。

システムの処置

アプリケーション・プログラムでは、SB による利点は部分的にしか、またはまったく得られません。

ユーザーの処置

MAXSB 限度を上げてください (該当する場合)。

DFS2355W **SOME SB BUFFERS OR BLOCKS
COULD NOT BE PAGE-FIXED**

説明

IMS は、順次バッファリング (SB) バッファまたは制御ブロックのページ固定化ができませんでした。実ストレージが利用不能であったからです。

システムの処置

アプリケーション・プログラムでは、SB による利点は部分的にしか、またはまったく得られません。

ユーザーの処置

SB に割り振られているバッファ・スペースが大きすぎる場合は、この量を減らしてください (該当する場合)。

DFS2356W IOSB OR ITASK BLOCKS COULD NOT BE ACQUIRED**説明**

順次バッファリング (SB) では、OSAM IOSB または ITASK 関連制御ブロックが十分に獲得できなかったの
で、オーバーラップ入出力の最大量に対応し切れませ
んでした。

システムの処置

アプリケーション・プログラムまたはユーティリティー
に関する オーバーラップ SB 入出力の量は限定されま
す。

ユーザーの処置

メッセージ DFS2342I が以前に 出された場合は、IMS
バッチ JCL プロシージャラーを開始するとき、IOB パラ
メーターにもっと大きい値を使用することを検討して
ください。

DFS2357W OPEN FOR DBD=xxxxxxx NOT SUCCESSFUL**説明**

IMS は、DBD xxxxxxxx に関してデータベース PCB を 開
けませんでした。

システムの処置

順次バッファリング (SB) テスト・プログラム
(DFSSBHD0) は、実行し続けます。開かれなかったデー
タベース PCB が、//SYSUT1 データ・セットのイメー
ジ・キャプチャー・レコードに関連している場合は、
SB テスト・プログラムはレコードを処理せず、ジョ
ブ・ステップの終了時に未処理レコードの数をメッセ
ージ DFS2346W で出力します。

ユーザーの処置

メッセージ DFS2346W がジョブ・ステップの終了時に
印刷される場合は、OPEN 問題に関連するメッセージを
基にして、エラーを訂正してください。それ以外の場
合は、このメッセージを無視してください。

関連情報

688 ページの『DFS2346W』
NBR OF SELECTED RECORDS SKIPPED
BECAUSE DB DATA SETS ARE NOT OPEN:
nnnnnnnn

DFS2358I NO STORAGE AVAILABLE FOR DFSERA20 - WORKAREA**説明**

DFSERA20 動的作業域に関する GETMAIN が、必要スペ
ースの獲得に失敗しました。

システムの処置

DFSERA20 の呼び出し元に戻され、IMS でスナップ・
メモリー・ダンプを取ることはありません。

ユーザーの処置

アドレス・スペースを大きくして、必要な作業域を取得
してください。

DFS2359I - DFSCIR NOT SUCCESSFUL FOR PSB=xxxxxxx, ERROR CODE=yyy**説明**

IMS は、PSB xxxxxxxx に関するオーバーラップ順次入
出力の ITASK を初期設定できませんでした。DFSCIR
マクロがレジスター 15 で、エラー・コード yyy を戻し
ました。

システムの処置

順次バッファリング (SB) では、一部の PCB またはデー
タベース・データ・セット、あるいはその両方について
は、オーバーラップ順次読み取りを使用しません。

ユーザーの処置

IBM ソフトウェア・サポート に連絡して、問題を判別
するための支援を受けてください。

DFS2360I XCF GROUP JOINED SUCCESSFULLY.**説明**

IMS は OTMA XCF グループに正常に 結合しています。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール:
DFSYJL00

DFS2361I XCF GROUP CLOSED SUCCESSFULLY.**説明**

IMS は正常に OTMA XCF グループから 離れました。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール:
DFSYJL00

**DFS2362I XCF GROUP JOIN FAILURE.
ALREADY JOINED.**

説明

IMS がすでに OTMA XCF グループのメンバーである場合は、そのグループには結合できません。

システムの処置

元の XCF グループを使用して、処理は続行されます。

プログラマーの応答

/START OTMA コマンドをチェックし、必要な場合は、再発行してください。

モジュール:
DFSYJL00

**DFS2363I XCF GROUP CANNOT BE JOINED.
NOT APF AUTHORIZED.**

説明

IMS は APF 許可されていなかったため、OTMA XCF グループに結合できませんでした。

システムの処置

処理は、OTMA を使用不可にして続行されます。

システム・プログラマーの応答

IMS は APF 許可されます。

モジュール:
DFSYJL00

**DFS2364E RC=rc REASON=reason XCF JOIN
FAILURE.**

説明

IMS が OTMA XCF グループに結合できないのは、示されている 4 バイトの XCF 戻りコードおよび理由コード (IXCJOIN からの) のためです。

システムの処置

処理は、OTMA を使用不可にして続行されます。

プログラマーの応答

戻りコードと理由コードの意味を確認して、エラーを修正してください。

モジュール:

DFSYJL00

関連資料

[z/OS: IXCJOIN の戻りコードおよび理由コード](#)

**DFS2365I CANNOT LEAVE XCF GROUP. NOT
JOINED.**

説明

IMS が OTMA XCF グループのメンバーでない場合は、そのグループからは離脱できません。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

/STOP OTMA コマンドをチェックし、必要な場合は、再発行してください。

モジュール:
DFSYJL00

**DFS2366E PARTITION SPECIFIED IN
PROCSEQD OPERAND IS NOT THE
FIRST PARTITION FOR PCB
pcbname IN PSB psbname**

説明

高速機能 HISAM または SHISAM 副次索引データベースのためにユーザー区画化が要求されています。しかし、PCB ステートメントの PROCSEQD で指定されたユーザー区画データベースは、基本 DEDB データベース DBD 上で LCHILD ステートメントの NAME オペランドに定義されているとおりの、ユーザー区画グループ内で最初のユーザー区画ではありません。

システムの処置

ACB 保守ユーティリティーは、PSB の処理を停止します。メッセージで示されている基本 PSB は、ACB ライブラリーから削除されます。ACB 保守ユーティリティーの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答

1. PCB ステートメントの PROCSEQD オペランドを変更して、ユーザー区画グループ内の最初のユーザー区画データベースを指定するように変更する。
2. PSBGEN ユティリティーを再び実行する。
3. PSB に関して ACB 保守ユーティリティーを実行する。

モジュール:
DBFUDLBO

DFS2367E DFS2367E PSELOPT OPERAND IS SPECIFIED BUT USER PARTITIONING IS NOT REQUESTED FOR PCB *pcbname* IN PSB *psbname*

説明

高速機能 HISAM 副次索引データベースまたは高速機能 SHISAM 副次索引データベース用に、ユーザー区画化が要求されていません。1つの副次索引データベースのみが、基本 DEDB データベース DBD の LCHILD ステートメント上で NAME オペランドに指定されています。しかし、区画選択オプション (PSELOPT) オペランドが、基本 DEDB データベースの PCB ステートメントで指定されています。

システムの処置

ACB 保守ユーティリティは、PSB の処理を停止します。メッセージで示されている基本 PSB は、ACB ライブラリーから削除されます。ACB 保守ユーティリティの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答

1. PCB ステートメントの PSELOPT オペランドを除去する。
2. PSB 生成ユーティリティを再度実行する。
3. PSB に関して ACB 保守ユーティリティを実行する。

モジュール:
DBFUDLB0

DFS2368I OIC TCB INITIALIZATION COMPLETE

説明

OTMA サーバー・タスク制御ブロック (TCB) が初期設定され、OTMA サーバーは処理の準備ができています。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール:
DFSYCTL0

DFS2369I OIM TCB INITIALIZATION COMPLETE

説明

OTMA クライアント・タスク制御ブロック (TCB) が初期設定され、OTMA クライアントは処理の準備ができています。

TMEMBER ごとに1つの OIM TCB があります。OTMA ワークロードで必要になると、IMS セッション中に新しい TCB が初期設定されます。このプロセスが起きるたびに、このメッセージが出されます。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール:
DFSYIM00

DFS2370I INVALID RETURN CODE *rc* FROM USER EXIT *exitname*

説明

ユーザー出口ルーチンが無効の戻りコードを戻しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc
2 バイトの戻りコード。

exitname
8 バイトのユーザー出口ルーチン名。ルーチンは、通常 DFSYPRX0 または DFSYDRU0 です。

プログラマーの応答

出口ルーチンを訂正してください。

モジュール:
DFSYFND0

DFS2371I OTMA DRU OVERRIDE LIMIT REACHED

説明

DFSYDRU0 出口ルーチンでオーバーライド限度に達し、ルーチンはメッセージの転送先となる新規クライアントの指定を試みましたが、新規クライアントを指定できるのは、DFSYDRU0 出口1つのみです。

プログラマーの応答

DFSYDRU0 出口ルーチン、特に、クライアント・オーバーライド論理を訂正してください。

モジュール:
DFSYFND0

DFS2372I INVALID MEMBER NAME SET BY DFSYPRX0

説明

OTMAYPRX ユーザー出口ルーチンが OTMA トランザクションを指定しましたが、OTMA クライアント名を指定しませんでした。このメッセージが出されるのは、ト

ランザクションが非 OTMA 送信元から入力されているときのみです。

プログラマーの応答

OTMAYPRX ユーザー出口、特に、クライアント・オーバーライド論理を訂正してください。

モジュール:
DFSYFNDO

DFS2373I **OTMA DRU OVERRIDE TO INVALID TMEMBER**

説明

DFSYDRU0 ユーザー出口ルーチンが新規クライアントの使用を要求しました。しかし、指定されたクライアント名が規定されていなかったか、出口が呼び出されることになった現行クライアントと同じ名前であったか、いずれかです。

プログラマーの応答

DFSYDRU0 出口ルーチン、特に、クライアント・オーバーライド論理を訂正してください。

モジュール:
DFSYFNDO

DFS2374W **OTMA GROUP NAME HAS CHANGED FROM *oldname* TO *newname*.**

説明

ウォーム再始動または緊急時再始動中に、IMS が XCF グループ *newname* に、OTMA 処理のために参加しようとしていました。しかし、このグループは、再始動ログ・レコードに含まれているグループ名 *oldname* とは異なっていました。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

プログラマーの応答

始動プロシージャに指定されているグループ名 *newname* が正しいか確認してください。

モジュール:
DFSYSRST0

DFS2375W **IMS HAS CHANGED ITS OTMA MEMBER NAME FROM *oldname* TO *newname*.**

説明

ウォーム再始動または緊急時再始動中に、IMS が OTMA クライアント *newname* に接続しますが、これが再始動

ログ・レコードに含まれているクライアント名 *oldname* とは異なっていました。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

プログラマーの応答

クライアント名 *newname* が、IMS に接続するすべての OTMA クライアントで既知であるか確認してください。

モジュール:
DFSYSRST0

DFS2376W **IMS OTMA MEMBER NAME *name* IS THE SAME AS A PREVIOUSLY ACTIVE CLIENT.**

説明

ウォーム再始動または緊急時再始動中、IMS OTMA クライアント名 *name* は、既存の OTMA クライアントの名前と同じでした。そのクライアントは、IMS にもう接続できなくなっています。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

プログラマーの応答

IMS OTMA クライアント名 *name* が正しいか確認してください。

モジュール:
DFSYSRST0

DFS2377A **SYSIN: end-of-file.**

説明

HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティー (DFSMAIDO) の SYSIN 制御ステートメントが見つかりませんでした。

システムの処置

ユーティリティーの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

SYSIN 制御ステートメントを JCL に追加して、ユーティリティーを再実行します。

モジュール:
DFSMAID1

DFS2378A **Error parsing SYSIN.**

説明

HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティー (DFSMAIDO) の SYSIN 制御ステートメントが正しくあ

りませんでした。パラメーター間で空白が欠落していないか、または KR= フィールドの直後に C' または X' が欠落していないかどうかを確認してください。

システムの処置

ユーティリティの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

SYSIN 制御ステートメントのエラーを訂正し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFSMAID1

DFS2379A **A single ' found in a character string.**

説明

HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティ (DFSMAID0) の SYSIN 制御ステートメントで、KR= フィールドの文字ストリング内に単一引用符が入っていました。例えば KR=C'ZZZZZ' ではなく KR=C'ZZZ'ZZ' でした。

システムの処置

ユーティリティの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

文字ストリング内の単一引用符を除去し、ユーティリティを再実行します。

モジュール:
DFSMAID1

DFS2380A **Unsorted keys in SYSIN.**

説明

HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティ (DFSMAID0) の SYSIN 制御ステートメントに、昇順でないキー範囲が含まれていました。

例えば、ユーザーは、KR=C'J00400' の後に、KR=C'J00200' をコーディングしました。

システムの処置

ユーティリティの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

キー範囲のフィールドを昇順にリストし、ユーティリティを再実行します。

モジュール:
DFSMAID1

DFS2381A **CTDLI ('GSCD') returned status xx.**

説明

GSCD システム・サービス呼び出しを使用した DLI マクロへの C 言語プログラムが、xx という状況コードを戻しました。

システムの処置

ユーティリティの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

受け取った xx 状況コードの説明を参照してください。問題が解消されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:
DFSMAID1

関連資料

[EXEC DLI コマンド \(アプリケーション・プログラミング API\)](#)

DFS2382I **THE NUMBER OF OTMA TYPE D DESCRIPTORS IS NOW BELOW THE MAXIMUM OF nnn**

説明

OTMA 宛先 (タイプ D) 記述子の数が最大値になりましたが、現在は最大よりも小さくなっています。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

nnn

OTMA 宛先記述子の最大許容数は 510 です。

プログラマーの応答

OTMA 宛先 (タイプ D) 記述子は、**CREATE OTMADESC** コマンドによってもう一度追加できます。

モジュール:
DFSYCMRO

DFS2383E **ENCOUNTERED DATABASE RECORDS LARGER THAN 16M. PLEASE USE SAMPLING AND RERUN THE UTILITY.**

説明

HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティ (DFSMAID0) が、16MB を超えるデータベース・レコードを検出しました。サンプリングを使用する必要があります。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、RC = 103 が示されます。

システム・プログラマーの応答

SYSIN 制御ステートメントに SAMPLE=xxx を追加し、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:
DFSMAID0

DFS2384W THE NUMBER OF OTMA TYPE *t* DESCRIPTORS IN MEMBER *member* HAS REACHED THE MAXIMUM OF *nnn*

または

THE NUMBER OF OTMA TYPE *t* DESCRIPTORS HAS REACHED THE MAXIMUM OF *nnn*

説明

OTMA DFSYDTx PROCLIB メンバーに定義されている OTMA type-*t* 記述子の数が、type-*t* 記述子の最大許容数に達しました。

t

記述子タイプ (D または M)。

タイプ D 記述子は、OTMA 宛先記述子です。タイプ M 記述子は、OTMA クライアント記述子、および DFSOTMA 記述子 (定義されている場合) です。

member

その記述子が入っている、IMS.PROCLIB データ・セット内の OTMA DFSYDTx メンバーの名前。

nnn

t で示される記述子タイプの記述子の最大許容数。

このメッセージの 2 番目の形式は、**CREATE OTMADESC** コマンドを使用して記述子を追加した結果、最大値に達した場合に、表示されます。

プログラマーの応答

記述子の最大許容数を増やすか、1 つ以上の既存の記述子を削除しない限り、リストされているタイプの記述子をこれ以上追加することはできません。代わりに、既存の記述子定義を変更して、新しいクライアントまたは宛先を参照するようにすることは可能です。

クライアント (タイプ M) 記述子の最大数は、DFSOTMA 記述子の MDESCMAX パラメーターで定義されます。デフォルトは、255 です。

宛先 (タイプ D) 記述子の最大数は、DFSOTMA 記述子の DDESCMAX パラメーターで定義されます。デフォルトは、510 です。

ALTPCB 宛先の宛先記述子の場合、新しい記述子を入れるために最大許容数を増やすことができず、かつ既存の宛先記述子の削除や変更もできない場合は、OTMA 宛先解決出口ルーチン (OTMAYPRX) および OTMA ユーザー・データ・フォーマット設定出口ルーチン (DFSYDRU0) で定義をコーディングすることができます。

モジュール:
DFSYIDC0、DFSYCMR0

DFS2385E SYNTAX ERROR FOR DESCRIPTOR = *descriptor* *errortext*

説明

OTMA 記述子構文解析エラーが発生しました。詳しくは、LU 6.2 記述子構文解析エラーに関する DFS1956E メッセージを参照してください。*descriptor* は、16 バイトの記述子名です。*errortext* は、次の値のいずれかです。

- DDESCMAX MUST BE 1 TO 4 CHARACTERS LONG
- DDESCMAX ONLY VALID ON DFSOTMA
- DRU COULD NOT BE LOADED
- DRU MUST BE 1 TO 8 CHARACTERS LONG
- DSAP MUST BE 1 TO 3 CHARACTERS LONG
- DSAPMAX MUST BE 1 TO 3 CHARACTERS LONG
- DUPLICATE DDESCMAX KEYWORD
- DUPLICATE DESCRIPTOR NAME FOUND
- DUPLICATE DRU KEYWORD
- DUPLICATE DSAP KEYWORD
- DUPLICATE DSAPMAX KEYWORD
- DUPLICATE EXIT KEYWORD
- DUPLICATE LIMITRTP KEYWORD
- DUPLICATE LITETP KEYWORD
- DUPLICATE LOGSTR KEYWORD
- DUPLICATE MDESCMAX KEYWORD
- DUPLICATE MULTIRTP KEYWORD
- DUPLICATE RMTSEC KEYWORD
- DUPLICATE SYNTIMER KEYWORD
- DUPLICATE WLMLTRM KEYWORD
- EXIT MUST BE YES OR NO
- ILLEGAL KEYWORD
- INVALID MEMBER NAME
- LIMITRTP MUST BE 1 TO 4 CHARACTERS LONG
- LITETP ONLY VALID ON DFSOTMA
- LITETP MUST BE YES OR NO
- LOGSTR MUST BE YES OR NO
- MDESCMAX MUST BE 1 TO 4 CHARACTERS LONG

- MDESCMAX ONLY VALID ON DFSOTMA
- MEMBER NAME LONGER THAN 16 CHAR
- MEMBER NAME NOT GIVEN OR BEGINS AFTER COLUMN 3
- MULTIRTP MUST BE YES OR NO
- NO PARAMETER GIVEN FOR THIS KEYWORD
- NON-NUMERIC CHARACTERS WERE FOUND IN THE LIMITRTP PARAMETER
- NON-NUMERIC CHARACTERS WERE FOUND IN THE SYNTIMER PARAMETER
- NON-NUMERIC FOUND IN DDESCMAX PARAMETER
- NON-NUMERIC FOUND IN DSAP PARAMETER
- NON-NUMERIC FOUND IN DSAPMAX PARAMETER
- NON-NUMERIC FOUND IN MDESCMAX PARAMETER
- RMTSEC MUST BE 1 CHARACTER LONG
- RMTSEC MUST BE N, C, OR F
- RMTSEC ONLY VALID FOR TYPE=IMSCON
 - SECOND COLUMN MUST BE BLANK
 - SYNTIMER MUST BE 1 TO 6 CHARACTERS LONG
 - UNRECOGNIZED CHARACTERS FOUND DURING KEYWORD SEARCH
- WLMLTRM MUST BE YES OR NO
- WLMLTRM ONLY VALID FOR DFSOTMA
- WLMLTRM ONLY VALID FOR TYPE M DESCRIPTOR

プログラマーの応答

errortext に説明されているように、問題を訂正してください。

モジュール:
DFSYIDCO

関連情報

581 ページの『DFS1965E』
APPC/MVS CALL FAILURE,
FUNCTION=aaaaaaaa, REASON CODE=xyyy,
RETURN CODE=xxxxxxxx, LUNAME=nnnnnnnn

DFS2386I **OTMA IS CONNECTING TO THE**
 MEMBER xxxxxxxxxxxxxxxx

説明

IMS OTMA が、XCF メンバー名 xxxxxxxxxxxxxxxx のメンバーから接続要求を受信しました。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置

OTMA は、OTMA メンバー・ブロックを接続要求で初期設定することにより接続を行い、確認メッセージ (ACK) をその OTMA メンバーに送信します。

プログラマーの応答

IMS 自動化操作プログラム・インターフェース (AOI) 出口は、特定のメンバーが IMS OTMA に接続しているかどうかを識別するために、このメッセージを検出できません。

モジュール:
DFSYMOMO

DFS2387X **UNABLE TO OPEN SYSOUT DATA**
 SETS

説明

SYSOUT データ・セットを開こうと試みていて、OPEN エラーが発生しました。

システムの処置

複数システム検査ユーティリティーは 終了します。

プログラマーの応答

OPEN 障害を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS2388X **UNABLE TO OPEN SYSIN DATA SET**

説明

SYSIN データ・セットを開こうと試みている最中に、OPEN エラーが発生しました。

システムの処置

複数システム検査ユーティリティーは 終了します。

プログラマーの応答

SYSIN DD ステートメントをチェックしてください。
OPEN 障害を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS2389I **XCF SEND RC=xxxxxxxx**
 REASON=yyyyyyyyy,

説明

OTMA が MVS/XCF IXCMMSGO を呼び出して、送信を出しましたが、送信は失敗しました。

プログラマーの応答

戻りコードと理由コードの意味を確認してください。

問題判別:

モジュール:
DFSYSNDO

関連資料

[z/OS: IXCMMSGO の戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

```
DFS2390I      FP TRAN tttttttt SEND FAIL.
                TPIPE=pppppppp
                Member=mmmmmmmmmmmmmmmm
                mmm MSG:xxxxxxx
```

説明

アプリケーション・プログラム送信が失敗したか、トランザクション *ttttttt* の処理中に、OTMA クライアントから NACK メッセージを受信しました。MSG xxxxxxxx には、処理対象の出力メッセージのうち 最大 40 文字が含まれます。

システムの処置

このメッセージで識別されている出力トランザクションは、IMS システムから除去されます。

プログラマーの応答

送信が失敗した、またはクライアントから NACK メッセージを受信した、原因を訂正してください。

問題判別

5

モジュール

DFSYSLMO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

```
DFS2391I      MESSAGE DEQUEUE FAILED
                DURING RESYNCH FOR TMEMBER
                = xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx TPIPE =
                xxxxxxxx
```

説明

再同期中に出力された IMS キュー・マネージャー・デキュー呼び出しが失敗しました。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置

NACK X'0026' メッセージが生成され、Tpipe に関する再同期が停止されます。

プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題を判別するための支援を受けてください。

モジュール

DFSYQAB0

```
DFS2392I      COMMAND NOT ALLOWED
                DURING RESYNCH
```

説明

OTMA 再同期の進行中に **/DEQUEUE** コマンドが発行されると、このメッセージが出されます。

システムの処置

コマンドは実行されません。

モジュール

DFSYCLJ0

```
DFS2393I      SRVRESYNCH REJECTED BY
                TMEMBER=xxxxxxxxxxxxxxxxxx
```

説明

OTMA クライアントが、OTMA 再同期に関して IMS が発行した SRVresynch コマンドをリジェクトしました。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置

OTMA 再同期は停止します。

プログラマーの応答

必要があれば、クライアントの再同期論理をチェックしてください。

モジュール

DFSYSMEMO

```
DFS2394I      CLBID RECEIVED FOR
                TMEMBER=xxxxxxxxxxxxxxxxxx
                WITH SYNCHRONIZED TPIPES
```

説明

IMS がクライアント・ビッド要求を受信しましたが、IMS には、クライアントとの再同期が必要な同期 Tpipe があります。

システムの処置

クライアント・ビッド要求処理が続行されます。

プログラマーの応答

クライアントが OTMA 再同期をサポートしている場合は、CBresynch コマンドの発行をお勧めします。

モジュール

DFSVMOM0

DFS2395I **XCF MESSAGE EXIT HAS
UNEXPECTED RESPONSE**

説明

このメッセージが出されるのは、予想外にも、IMS がクライアントから応答メッセージを受信したときです。

システムの処置

メッセージはリジェクトされます。

プログラマーの応答

メッセージ接頭部の応答ビット (TMAMCRSP) をオフにし、メッセージを再実行依頼してください。

モジュール

DFSVMGX0

DFS2396I **RESET SEQUENCE NUMBER
FAILED DURING RESYNCH FOR
TMEMBER = xxxxxxxxxxxxxxxx
TPIPE = xxxxxxxx**

説明

再同期中にリカバリー可能シーケンス番号のリセットのために発行された、IMS キュー・マネージャー呼び出しが失敗しました。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置

NACK X'0027' メッセージが生成され、Tpipe に関する再同期が停止されます。

プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題を判別するための支援を受けてください。

モジュール

DFSYQAB0

DFS2397E **Error in writing record statistics to
dataspace.**

説明

統計をデータ・スペース・ストレージに書き込み中に、HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティー (DFSMAIDO) がエラーを検出しました。ユーティリティーからの戻りコードは、障害が発生したかどうかを示します。

戻りコード (16 進数)
意味

00

正常

08

エラーが検出されました。

システムの処置

エラーが発生した場合、ユーティリティーの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

エラーが発生した場合、ユーティリティーの内部戻りコードをチェックしてください。ユーティリティーとその戻りコードについては、HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティー (DFSMAIDO) についての情報を参照してください。

モジュール:

DFSMAID1

関連資料

[HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリ
ティー \(DFSMAIDO\) \(データベース・ユーティリ
ティー\)](#)

DFS2398W **OSAM SERVICES ARE
UNAVAILABLE**

説明

パラメーター IOSCB=NO が、バッチ環境で OSAMOP ステートメントで指定されています。これによって、初期設定で OSAM アクセス方式の使用が迂回されます。

システムの処置

処理は、OSAM サービスなしで続行されます。OSAM サービスが必要な場合は、後続の OPEN データ・セット・エラーの結果が異常終了になります。

プログラマーの応答

OSAM サービスを必要としないバッチまたは CICS アプリケーションの場合にしか、IOSCB=NO パラメーターが指定されていないか確認してください。

DFS2399I JOB TERMINATED-RETURN CODE
aa

説明

ユーティリティが終了しています。aa は戻りコードです。00 は情報 (I) メッセージのみを示し、12 は、1 つ以上のエラーが検出され、エラーが訂正された後で、プログラムをあらためて実行する必要があることを示します。

システムの処置

ジョブは終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS2400I ERROR WHILE ATTEMPTING TO
FORMAT THE ccc...ccc

説明

メモリー・ダンプ・フォーマット設定中、制御ブロックまたはデータ域のフォーマット設定を試みている最中に、エラーが検出されました。フィールド ccc...ccc は、最大 16 バイトで、フォーマットされている制御ブロックまたはデータ域を示します。

オンライン環境において、メモリー・ダンプ・ストレージは、IMS メモリー・ダンプ・フォーマッター内にあります。

メモリー・ダンプ・フォーマッターのユーザーは、IMS の異常終了の元の原因によって、メモリー・ダンプ・フォーマッターがプログラム・チェックを行うことになり、可能性があることに留意する必要があります。

メモリー・ダンプ・フォーマッターでよく発生する障害の一部として、次のような場合があります。

- 保管域およびそのリンケージの使用が無効。メモリー・ダンプ・フォーマッターでは、レジスター 13 は常に保管域を指すものと想定しています。保管域の順方向および逆方向ポインターは有効です。BALR 14,15 は、標準的な呼び出し規約として使用されず。

- IMS 制御ブロック・アドレスが無効。メモリー・ダンプ・フォーマッターでは、制御ブロックを指すすべてのアドレスが有効であると想定しています。メモリー・ダンプ・フォーマッターがアドレスを妥当性検査することはありません。
- IMS 制御ブロックの内容が無効。メモリー・ダンプ・フォーマッターでは、IMS 制御ブロックの内容はすべてが有効であると想定しています。

システムの処置

ほとんどのエラーで、このメッセージの直後に診断メモリー・ダンプが続きます。この診断メモリー・ダンプは、次のもので構成されています。

- SDWA の内容。これには PSW、完了コード、モジュール ID、レジスター、および SDWA エリアのメモリー・ダンプが含まれます。
- 命令域。これには、障害のある命令の前と後の 128 バイトのデータ (合計 256 バイト) が含まれます。
- 通信域。これは、IMS メモリー・ダンプ・フォーマッターがフォーマット設定モジュール間の相互通信のために使用する制御ブロックです。
- 保管域。これは、メモリー・ダンプ・フォーマッターが使用する保管域セットのメモリー・ダンプです。
- メモリー・ダンプ・フォーマッター・モジュールのベクトル・テーブル。
- ダンプ・フォーマッターのストレージ・バッファー・ヘッダーおよび接頭部 (オフライン・フォーマット設定のみ)。
- ダンプ・オプション要求ブロック・ストレージ (オフライン・フォーマット設定のみ)。

エラーの診断メモリー・ダンプの後、メモリー・ダンプ・フォーマッターは、要求された次の IMS 制御ブロックのフォーマット設定を続行します。

次のいずれかの形式の ccc...ccc を受け取ると、診断メモリー・ダンプは抑止されます。

'PSB' (および、メモリー・ダンプに DL/I ストレージがない)
'AUTO OPTION PROC' (および、デバッグが要求されなかった)
'ABND DIAG. AREA'
'SA - EP ADDRESS'
'SAP'
'ECB PREFIX'
'SAVE AREA'
'REGISTER AREA'
'SA - INV FWD PTR'
'QUEUE BUFFERS'
'UEHB'
'LATCH LIST'
'ECB STORAGE'
'XMCI BLOCK'

'USE LIST (CULE)'

ユーザーの処置

IMS メモリー・ダンプ・フォーマッターで失敗しても、元の問題の診断に役立つ情報が出力で提供されることもあります。メモリー・ダンプ・フォーマッター出力によって十分な情報が得られない場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

診断メモリー・ダンプを使用して、問題の原因を判別してください。診断メモリー・ダンプが抑止されている場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

第 52 章 DFS メッセージ DFS2401I - DFS2450I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2401I **UNABLE TO OPEN IMSUDUMP
DATA SET**

説明

STAE 出口ルーチンが、定様式ダンプ機能処理のためにデータ・セットを開こうと試みましたが、正常に行われませんでした。

システムの処置

STAE 出口ルーチンはその処理から続行されます。ただし、定様式メモリー・ダンプは得られません。

プログラマーの応答

IMSUDUMP DD ステートメントが正しく指定されたか確認してください。

DFS2402I *jobname, stepname, unit addr,
device type, ddname, op code, error
description*

説明

定様式ダンプ機能が IMSUDUMP データ・セットへの書き込みを試み、入出力エラーが発生しました。

システムの処置

定様式メモリー・ダンプ処理が中止されます。

問題判別

メッセージ・テキストからエラー条件を判別してください。

DFS2403I **DYNAMIC UNALLOCATE RC=rc
ERROR**

または

DYNAMIC ALLOCATE INFORMATION CODE=xxxx

説明

IMS が SYSABEND または SYSUDUMP データ・セットに関して、**ALLOCATE** または **UNALLOCATE** コマンドを発行しました。ゼロ以外の戻りコードとゼロ以外の

情報コードのいずれかが、SVC 99 によって戻されました。

RC=04、エラー・コード =0254 が SVC 99 によって戻されるのは、現在使用不能のリソースに対して条件付き ENQUEUE を要求した場合です。ログに関するマウントが保留中に、IMS **MODIFY** コマンドを出したりすると、この戻りコードおよびエラー・コードが出る理由の 1 つになります。

システムの処置

IMS は実行を継続します (異常終了処理中である場合もあります)。

プログラマーの応答

z/OS システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別:

1、4、36

関連資料

z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2404A **AN ERROR WAS ENCOUNTERED
WHEN ACCESSING THE
COUPLING FACILITY STRUCTURE
xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx RSN yyyy**

説明

バッチ・ジョブで、構造名 xxxxxxxxxxxxxxxx のカップリング・ファシリティ構造に対して、読み取りおよび登録操作または書き込み操作のためにアクセスしようとしているときに、エラーが検出されました。

以下のリストで理由コードと推奨処置について説明します。

コード (16 進数)

意味

238

データ転送を伴わない読み取りおよび登録操作中に、カップリング・ファシリティに対する接続が失われました。追加の接続エラー・メッセージについては、システム・コンソールを参照してください

い。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

239

データ転送を伴わない読み取りおよび登録操作中に、カップリング・ファシリティ構造の障害が発生しました。追加の構成障害メッセージについては、システム・コンソールを参照してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

241

読み取りおよび登録操作は、データ転送をせずにページされました。コネクタが失敗した理由を判別してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

242

接続の消失、構造障害、データ転送なしの操作ページ以外の理由で、読み取りおよび登録操作が失敗しました。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

243

データ転送を伴う読み取りおよび登録操作中に、構造がいっぱいになりました。追加のエラー・メッセージについては、システム・コンソールを参照してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

244

構造がいっぱいになったこと以外の理由で、データ転送を伴う読み取りおよび登録操作が失敗しました。追加のエラー・メッセージについては、システム・コンソールを参照してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

245

書き込み操作中に、構造がいっぱいになりました。追加のエラー・メッセージについては、システム・コンソールを参照してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

246

構造がいっぱいになったこと以外の理由による環境エラーのために、書き込み操作が失敗しました。追加のエラー・メッセージについては、システム・コンソールを参照してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

247

相互無効化の操作は、環境エラーのために失敗しました。追加のエラー・メッセージについては、システム・コンソールを参照してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

システムの処置

バッチ・アプリケーション・プログラムは、カップリング・ファシリティが処理を継続できるようになるまで待機します。システム・ログには、カップリング・ファシリティ操作障害について考えられる説明が含まれています。

システム・プログラマーの応答

バッチ・アプリケーションが処理を続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

問題判別:

1、2、3、6

モジュール:

DFSMDAWO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2406I

**THE HALDB PARTITION
SELECTION EXIT ROUTINE *rname*
FOR THE HALDB master name IS
*status***

説明

HALDB 区画選択出口ルーチンがストレージ内になく、HALDB 区画 DMB が正常に割り振られている場合は、状況 LOADED が表示されます。既存のコピーがストレージ内にあり、HALDB 区画 DMB が正常に割り振られている場合は、状況 SHARED が表示されます。

IMS が正常に出口ルーチンを削除した後、ストレージ内にこれ以上コピーがない場合は、状況 GONE が表示されます。出口ルーチンは再入可能であり、他のデータベースによってまだ参照されるため、削除された後も出口ルーチンのコピーがストレージに残る場合があります。この場合、状況 SHARED が表示されます。

以下のコマンドは、区画選択出口ルーチンをロードできません。

- /START DB HALDBpartition OPEN
- UPDATE DB NAME(HALDBpartition) START(ACCESS) OPTION(OPEN)

以下のコマンドは、区画選択出口ルーチンを削除できません。

- UPDATE DB NAME(HALDBmaster) STOP(ACCESS)
- UPDATE DB NAME(HALDBmaster) STOP(UPDATES)
- /DBR DB HALDBmaster
- /DBD DB HALDBmaster

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSPSM10

DFS2407W **INVALID IMS OTMA OUTPUT
PURGE AND REROUTE OPTIONS
SPECIFIED**

説明

IMS OTMA は、OTMA メッセージ接頭部に CM0 出力オプションの TMAMPCMO と CM0 出力転送オプションの TMAMHRRQ の両方が指定されていることを検出しました。

システムの処置

OTMA 出力メッセージに対しては、CM0 出力ページも CM0 出力転送も実行されません。IMS OTMA はデフォルトのアクションを取って、出力を入力 TPIPE の非同期メッセージ保留キューに保管します。

プログラマーの応答

IMS OTMA のクライアントに、IMS へ送信した OTMA メッセージ接頭部を調べるよう依頼してください。OTMA 状態データ接頭部には、TMAMPCMO オプションまたは TMAMHRRQ オプションのどちらか 1 つだけを設定できます。

モジュール:
DFSYPIS0、DFSQAB0

DFS2408I **UNABLE TO LOAD/LCT/FIX OSAM
DRIVER/APPENDAGE OSAM INIT
FAILED FUNC REQ=xx R/C=yyyy**

説明

OSAM 入出力ドライバー・モジュール (DFSAOS70) をロードあるいは見つけることができなかったか、入り口点が間違っていました。FUNC REQ=xx および R/C=yyyy 値の説明については、メッセージ DFS2411I を参照してください。

システムの処置

初期設定が異常終了 0071 で終了し、レジスター 15 に戻りコード 8 が入ります。

プログラマーの応答

DFSAOS70 モジュールが、エントリー・ポイント DFSAOS70 で、SDFSRESL にあるか確認して上で、IMS を再始動してください。

問題判別:
1、2、8、10

関連情報

706 ページの『DFS2411I』

CANNOT OBTAIN IOB/IOSB-IOMA POOL-OSAM
INIT FAILED FUNC REQ=xx R/C=yyyy

IMS 異常終了 0071

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2409I **CANNOT OBTAIN FIX LISTS -
OSAM INIT FAILED FUNC REQ=xx
R/C=yyyy**

説明

OSAM 入出力初期設定用のストレージを割り振る試みが失敗しました。FUNC REQ=xx 値および R/C=yyyy 値の説明については、メッセージ DFS2411I を参照してください。

システムの処置

初期設定は異常終了 0071 で終了します。レジスター 15 に戻りコード 12 が入ります。

プログラマーの応答

IMS 制御領域 REGION のサイズを大きくし、IMS を再始動してください。

関連情報

DFS2411I

CANNOT OBTAIN IOB/IOSB-IOMA POOL-OSAM
INIT FAILED FUNC REQ=xx R/C=yyyy

IMS 異常終了 0071

DFS2410I **DATA TRANSLATION EXCEPTION
OCCURRED-OSAM INIT FAILED
FUNC REQ=xx R/C=yyyy**

説明

固定仮想記憶域アドレスを変換する試みの結果が、エラーになりました。FUNC REQ=xx 値および R/C=yyyy 値の説明については、メッセージ DFS2411I を参照してください。

システムの処置

初期設定は異常終了 0071 で終了します。レジスター 15 に戻りコード 16 が入ります。

問題判別:

1、4、8、35

関連情報

DFS2411I

CANNOT OBTAIN IOB/IOSB-IOMA POOL-OSAM
INIT FAILED FUNC REQ=xx R/C=yyyy

IMS 異常終了 0071

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2411I CANNOT OBTAIN IOB/IOSB-IOMA
POOL-OSAM INIT FAILED FUNC
REQ=xx R/C=yyyy**

説明

OSAM 入出力プール用のストレージを割り振る試みが正常に行われませんでした。オンライン環境では、ストレージは CSA から要求されます。バッチ環境では、ストレージは CSA と専用ストレージのいずれかから要求されます。FUNC REQ=xx および R/C=yyyy コードについては、次に説明してあります。R/C=yyyy が IMODULE 戻りコードまたは IMSAUTH 戻りコードである場合、これらのコードの説明については、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

xx

説明

02

OSAM 入出力モジュール (DFSAS70) を見つけることが不能。R/C=yyyy は IMODULE 戻りコードです。

03

OSAM 入出力モジュールのエントリ・ポイントが無効。R/C=4

04

ストレージを取得できない。R/C=yyyy は IMODULE 戻りコードです。

05

OSAM I/O モジュール (DFSAS70) のページ固定不能。R/C=yyyy は IMSAUTH 戻りコードです。

06

入出力プール用ストレージの取得不能。R/C=yyyy は IMODULE 戻りコードです。

07

ストレージの解放不能。R/C=yyyy は IMODULE 戻りコードです。

0A

入出力プールのページ固定不能。R/C=yyyy は IMSAUTH 戻りコードです。

0B

キー 7 QCB 用のストレージを取得できない。R/C=yyyy は IMODULE 戻りコードです。

0C

IOSB または OSWA ブロックの CBTE を検出できない。R/C=yyyy は DFSCBTS 戻りコードです。

0D

IPAGE をフォーマットできない。R/C=yyyy は、DFSASOFO IOFORM ルーチンからの戻りコードです。

17

無効な入出力プールのストレージを取得しようとした。

システムの処置

初期設定処理が異常終了 0071 で終了し、IMODULE サービスが戻りコードをレジスター 15 に入れます。

オペレーターの応答:

該当する場合は、CSA サイズを大きくしてください。

プログラマーの応答:

制御領域サイズを大きくし、その上で IMS を再始動してください。

関連資料

[IMODULE 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

IMS 異常終了 0071

**DFS2412I INSUFFICIENT STORAGE TO
OBTAIN OSAM BUFFER
INITIALIZATION WORK AREA-
OSAM INITIALIZATION FAILED**

説明

作業域スペースに関して、IMODULE GETMAIN が失敗しました。OSAM バッファ・プールの初期設定は続行できません。

システムの処置

IMS が異常終了します。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

GETMAIN が正常に行われるように、十分な仮想記憶域の存在を確保してください。

問題判別:

1、2、4、8

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2413I WARNING - OSAM SUBPOOL
DEFINITION LIMIT HAS BEEN
EXCEEDED**

説明

OSAM サブプールの最大数を超過しました。250 の一意的に定義されたサブプールが使用できます。限度に達した後で IOBF ステートメントが検出されても、それはすべて無視されます。

システムの処置

IMS の初期設定が続行されます。

プログラマーの応答

限度を超える OSAM サブプール定義ステートメントは、結合または除去してください。

問題判別:

1、2、27

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2414I	WARNING-UNABLE TO FIX OSAM BUFFERS AS REQUESTED
-----------------	--

説明

使用可能な読み取りページの数不十分であったため、IMS は要求されたバッファをページ固定できませんでした。

システムの処置

IMS は、サブプールのヘッダーおよび接頭部のみの固定化を試みます。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

プールの割り振りをチェックしてください。

問題判別:

1、2、4、8

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2415I	WARNING-UNABLE TO FIX OSAM SUBPOOLS AS REQUESTED
-----------------	---

説明

使用可能な実ページの数不十分であったため、IMS はサブプールのヘッダーおよび接頭部を固定化できませんでした。

システムの処置

サブプールのヘッダーにも接頭部にもページ固定されるものはありません。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

プール割り振りをチェックしてください。

問題判別:

1、2、4、8

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2416I	ENTRY POINT TO DFSDOBIO INVALID
-----------------	--

説明

モジュール DFSDVBI0 がモジュール DFSDOBIO を呼び出しましたが、エントリー機能コードが無効でした。

システムの処置

OSAM 初期設定が継続できませんので、システムは異常終了します。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答:

この問題は、IMS システムの問題です。

問題判別:

4、36

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2418	OUTPUT FROM NON- RECOVERABLE TRANSACTION(S) HAS BEEN DISCARDED
----------------	---

説明

モジュール DFSQFIX0 が、リカバリー不能として定義されたトランザクションからの出力として生成されたメッセージを 1 つ以上、メッセージ・キューから除去しました。

システムの処置

メッセージの除去に由来する制御ブロックの変更が、IMS ログに書き込まれています。処理は正常に続行されます。

**DFS2419A UNABLE TO ROUTE DL/I CALL
TRACE OUTPUT TO IMS LOG**

説明

DL/I CALL TRACE 用のログ出力は指定されましたが、トレースの開始時に、IMS ログ・データ・セットが開かれていませんでした。

プログラマーの応答

IMS ログ・データ・セットを定義している DD ステートメントが存在し、しかも正しいか確認してください。

**DFS2420I UNABLE TO OPEN FOR DDaaaaaa
INSUFFICIENT STORAGE**

説明

DL/I CALL TRACE ルーチンが順次データ・セットを開くことを許可する GETMAIN が、失敗しました。

プログラマーの応答

領域サイズを大きくして、ジョブを再実行してください。

**DFS2421I UNABLE TO OPEN FOR
DDCARD=aaaaaa**

説明

DLITRACE 制御ステートメントで指定されている DD ステートメントに関するオープンが失敗しました。

プログラマーの応答

指定されている DD ステートメントが存在し、正しいか確認してください。

**DFS2422I DL/I TRACE TERMINATED-NO
OUTPUT DATA SET PROVIDED**

説明

DLITRACE は要求されましたが、出力装置が用意されていなかったか、開けませんでした。

システムの処置

DL/I CALL TRACE は終了しますが、アプリケーション・プログラムは取り消されません。

プログラマーの応答

ジョブを再実行し、要求された出力装置が適切に定義されているか確認してください。

**DFS2423I INVALID HEX CHARACTER AT
OFFSET aa-DEFAULT VALUE USED**

説明

示されているオフセットで、数値として無効な 16 進数字が検出されました。

システムの処置

キーワードのデフォルト値が使用され、処理は続行されます。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正してください。

DFS2424I INVALID KEYWORD AT OFFSET aa

説明

示されているオフセットで、無効のキーワードが DLITRACE 制御ステートメントで検出されました。

システムの処置

示されているキーワードは迂回され、処理は続行されます。

プログラマーの応答

DLITRACE 制御ステートメント・キーワードを訂正してください。

**DFS2425I INVALID SOURCE FOR SEGM-
nnnnnnnn-IN DBD-nnnnnnnn-
SOURCE DBD-nnnnnnnn**

説明

論理データベース内のセグメントが、そのソースとして別の論理データベース内のセグメントを指定していました。メッセージに、誤りのあるステートメント、セグメント名、および間違ったソース論理データベース名が含まれている論理データベースが示されています。

システムの処置

バッチ DL/I を実行していた場合、システムは異常終了 0986 を出します。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0986](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2426I INDEX DBD-*nnnnnnnn* LCHILD FOR SEGM-*nnnnnnnn* IN DBD-*nnnnnnnn* SHOULD REFERENCE-*nnnnnnnn*

説明

指定された索引データベースにある、示されているセグメントに関する論理子ステートメントが指定している、索引付きデータベース・セグメントのセグメント名に誤りがあります。指定されている索引付きデータベースで参照される必要がある、セグメント名が示されています。

システムの処置

バッチ DL/I を実行している場合、システムは異常終了 0987 を出します。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0987](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2427I INDEX DBD-*nnnnnnnn* DOES NOT CONTAIN SEGM-*nnnnnnnn* REFERENCED BY LCHILD FOR SEGM-*nnnnnnnn* IN DBD-*nnnnnnnn*

説明

示されている索引 DBD に、指定されているセグメントが含まれていません。索引付き DBD の、指定されているセグメントに関する索引 LCHILD ステートメントが、存在しないセグメントを参照しています。

システムの処置

バッチ DL/I を実行している場合、システムは異常終了 0988 を出します。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0988](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2428I THE INDEX DBD *dbdname1* IS REFERENCED BY TWO INDEXED SEGMENTS IN DBD *dbdname2* AND *dbdname3*

説明

索引関係の解決で、1つの索引が複数の索引先セグメント LCHILD ステートメントで参照されていました。この状態は無効です。

システムの処置

バッチ DL/I を実行している場合、システムは異常終了 0989 を出します。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

索引先セグメント LCHILD ステートメントごとに、それぞれ UNIQUE 索引を指定してください。

関連情報

[IMS 異常終了 0989](#)

DFS2429I SEGMENTS *segname1* AND *segname2* IN DBD *dbdname* ARE ACCESSED OUT OF HIERARCHIC ORDER IN THIS PSB

説明

兄弟セグメントが論理 DBD または PSB で参照された順序にエラーがあります。PTR=HIER をもつ親に従属する、または HISAM DBD にある兄弟セグメントは、物理 DBD で確立されている順序と同じ順序で参照される必要があります。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中だった場合、システムは異常終了コード 0990 を出します。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

論理 DBD または PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

関連情報

IMS 異常終了 0990

DFS2430I **INVALID SOURCE=
SPECIFICATION FOR SEGMENT-
segname IN DBD-dbdname**

説明

論理子/目標親連結が無効であることが検出されました。SOURCE= 指定では、存在しない 2 つのセグメント間の論理関係を暗黙指定します。理由として、次のものが考えられます。

1. 最初に参照されたセグメントが論理子セグメントではない。
2. 2 番目のセグメントが最初のセグメントの論理親として定義されていない。
3. 最初のセグメントが、2 番目のセグメントの論理子として定義されていない。
4. 指定されたセグメントのソース・セグメントが論理親を定義していない。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中だった場合、システムは異常終了コード 0991 を出します。ACBGEN 処理が継続されません。

プログラマーの応答

SOURCE= 指定、またはかかわりのある物理 DBD を訂正してください。

関連情報

IMS 異常終了 0991

DFS2431I **DBD1 dbdname1 REFERENCES
DBD2 dbdname2 AS AN INDEX
INVALIDLY**

説明

DBD が、別の DBD の LCHILD ステートメントで索引 DBD として参照されました。参照された DBD が ACCESS=INDEX としてコーディングされていなかったため、参照は無効です。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中だった場合、システムは異常終了コード 0992 を出します。ACBGEN 処理が継続されません。

プログラマーの応答

DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

関連情報

IMS 異常終了 0992

DFS2432I **PSB-psbname-REFERENCES
FIELD-fldname-IN SEGM-
segname-IN DBD-dbdname. FIELD
NOT FOUND**

説明

SENFELD ステートメントで無効なフィールド名が参照されました。指定されたフィールド名は、DBDGEN 処理中に、セグメントに関して定義される必要意があります。意図されたフィールドが含まれているセグメントは、論理 DBDGEN 中にキー・センシティブとして定義できません。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中だった場合、システムは異常終了コード 0993 を出します。ACBGEN 処理が継続されません。

プログラマーの応答

PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

18、19

関連情報

IMS 異常終了 0993

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2433I **PSB-psbname-CONTAINS
DESTRUCTIVE OVERLAP IN SEGM-
segname-IN DBD-dbdname**

説明

PSBGEN で指定されたフィールド・マッピングにより、破壊的なオーバーラップが発生しました。複数のフィールドが同じロケーションに移されようとしていました。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中だった場合は、異常終了コード 0994 が出されます。ACBGEN 処理が継続されません。

プログラマーの応答

PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

18、19

関連情報

IMS 異常終了 0994

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2434I **SEGM-segname-IN DBD-dbdname-
IN PSB-psbname-NOT SENSITIVE
TO KEY FIELD**

説明

ロードまたは挿入センシティブティは、PSB のセグメントに関して指定されましたが、シーケンス・フィールドに対するセンシティブティが指定されませんでした。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中だった場合は、異常終了コード 0995 が出されます。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

18、19

関連情報

[IMS 異常終了 0995](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2435I **FIELD SENSITIVITY INVALID FOR
LOGICAL CHILD WITH PROCOPT=I
or L; PSB-psbname-,PCB-
dbdname-,SEGM-segname**

説明

フィールド・レベル・センシティブティが、PROCOPT=I または L で、指定された論理子セグメントに関して指定されました。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中だった場合は、異常終了コード 0996 が出されます。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

関連情報

[IMS 異常終了 0096](#)

DFS2436I **INTERNAL PROCESSING LIMIT
EXCEEDED FOR PSB=psbname,and
PCB=pcbname**

説明

指定された PCB に含まれている論理関係が原因で、内部処理限度を超えることになるため、必要な PSB 制御ブロックが作成できません。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中だった場合は、異常終了コード 0997 が出されます。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

PSB または DBD、あるいはその両方を変更して、LOGICAL CHILD/LOGICAL PARENT 連結を参照する、PCB 内の SENSEG ステートメントの数を減らしてください。PSBGEN を再実行してから、ジョブを RE-EXECUTE してください。

問題判別:

18、19

関連情報

[IMS 異常終了 0997](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2437I **INVALID LOGICAL TWIN
SEQUENCE FIELD *fieldname* IN
DBD *dbdname* FOR LOGICAL
CHILD SEGMENT *segment name* IN
DBD *dbdname***

説明

参照先セグメントは仮想対になっています。指定された論理兄弟シーケンス・フィールドは、指定された実論理子セグメント内には含めません。

システムの処置

バッチ DL/I が実行中だった場合は、異常終了コード 0998 が出されます。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

DBD を訂正してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、35

関連情報

[IMS 異常終了 0998](#)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2438W **INVALID PROCOPT IN PCB FOR
DBD *dbdname* CHANGED TO
EXCLUDE INSERT SENSITIVITY**

説明

このメッセージは、別のデータベースとして処理されることになっていた索引データベースがあれば、それに関して指定されて処理オプションが無効であったことを示しています。BLOCK BUILDER モジュールによって PROCOPT が変更されて、挿入センシティブティが除去され、処理が続きます。

システムの処置

IMS は、PCB の処理オプションを変更して処理を続行します。

プログラマーの応答

処理オプションを変更して、A または I を除去すれば、警告メッセージは避けられます。PCB をチェックしてください。

DFS2439W	PROCOPT FOR SEGMENT segname1 OF HSAM DBD dbdname CHANGED TO ALLOW ONLY G, P, K, OR L PROCOPT
-----------------	---

説明

このメッセージは、DL/I が、PCB で指定されている PROCOPTS を、HSAM に関する許容オプションに適合するように改訂していることを示します。

システムの処置

このメッセージが出された後、処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答

該当する PCB または SENSEG ステートメントの PROCOPT オプションを、将来の実行に備えて改訂してください。

DFS2440W	INVALID PROCOPT FOR SEGMENT segname IN DBD dbdname CHANGED TO EXCLUDE DELETE AND INSERT SENSITIVITY
-----------------	--

説明

代替処理シーケンスが指定されると、ユーザーは、索引ターゲット・セグメント (代替ルート・セグメント) やその逆親のいずれも挿入または削除できません。これらのセグメントの 1 つに関する PCB または SENSEG ステートメントの処理オプションがこの規則に違反し、オプションが SDB 内で変更されて、処理制限が反映されています。

システムの処置

PSB が高速機能副次索引を参照しているためにこのメッセージが発行された場合、ACB 保守ユーティリティーは戻りコード 8 で終了します。エラーのある PSB は、このメッセージの後に発行される DFS0587I メッセージによって識別されます。PSB は ACB ライブラリーから削除されます。

PSB が全機能副次索引を参照しているためにこのメッセージが発行された場合、ACB 保守ユーティリティーは戻りコード 4 を設定し、残りの入力の処理を続行します。

プログラマーの応答

PCB を改訂して、処理オプション・フィールドに対するオプションの挿入または削除を行ってください。

DFS2441W	SYMB POINTER FROM L/C SEGM- segname IN DBD-dbdname TO L/P SEGM-segname IN DBD-dbdname IS NON-UNIQUE
-----------------	--

説明

論理子セグメントでは、論理親に対して記号ポインティングを使用しますが、論理親へのパス上のセグメントによっては、キーが欠落しているか、固有キーでない場合があります。

システムの処置

処理は続行されますが、論理子セグメントから論理親へのアクセスで問題が生じる可能性があります。

プログラマーの応答

論理親セグメントへの (論理セグメントを含める) パス上の各セグメントごとに、それぞれ固有のキーを指定するか、論理子/論理親パスが使用される場合は、論理子セグメントに関する論理親ポインターを指定してください。

DFS2442E	DBFUCDBO MSDB-TO-DEDB CONVERSION UTILITY ERROR, REASON CODE=nn
-----------------	---

説明

MSDB/DEDB 間変換ユーティリティーを実行している最中に、エラーが発生しました。理由コードは、発生した障害のタイプを示しています。

コード (10 進数)

メッセージ・サブテキスト

01

SYSIN ストリーム内の TYPE= ステートメントが欠落しているか無効です。

- 02** SYSIN ストリーム内のデータベース・ステートメントが欠落しているか無効です。
- 03** MACBLIB は、入力制御ステートメントで指定された MSDB が MSDB でないことを示しています。
- 04** 入力制御ステートメントで指定された MSDB は端末関連でなく、端末関連キーがありません。
- 05** DACBLIB は、入力制御ステートメントで指定された DEDB が DEDB でないことを示しています。
- 06** 指定された MSDB= メンバーが MACBLIB で検出されませんでした。
- 07** 指定された DEDB= メンバーが DACBLIB で検出されませんでした。
- 08** ランダマイザー・モジュールのロードでのエラー

システムの処置

ユーティリティは終了します。

システム・プログラマーの応答

以下の処置を取って、エラーを訂正してください。

コード (10 進数) 意味または処置

- 01** TYPE= パラメーターに指定された値が CONVERT または FALLBACK ではないか、TYPE= パラメーターが、SYSIN から読み取られた最初の入力ステートメントで検出されなかった。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。
- 02** MSDB= と DEDB= のいずれかのパラメーターに指定された値のコーディングに誤りがあった。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。
- 03** DMCB は、MSDB= パラメーターのデータベース・タイプが MSDB でないことを示している。間違った ACBLIB が指定されたか、MSDB 名に誤りがあったか、いずれか。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。
- 04** 変換されるのは端末関連 MSDB のみに限られる。それ以外のタイプはすべてリジェクトされる。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

- 05** DMCB は、DEDB= パラメーターのデータベース・タイプが DEDB でないことを示している。間違った ACBLIB が指定されたか、DEDB 名に誤りがあったか、検出されなかったかいずれか。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。
- 06** 指定された MSDB メンバーが検出されなかった。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。
- 07** 指定された DEDB メンバーが検出されなかった。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。
- 08** ランダマイザーが IMS.SDFSRESL で検出されなかったか、ランダム化モジュールをロードしている最中に、入出力エラーが発生した。ランダマイザー名を検証し、ジョブを再実行してください。

モジュール

DBFUCDBO

DFS2443I UNABLE TO OBTAIN VSO CONTROL BLOCK

説明

エリア・オープンまたはシステム 初期設定中に、VSO 制御ブロックに関する要求が失敗しました。

システムの処置

データ・スペースは取得できません。IMS システムの初期設定は、VSO なしで続行されます。エリア・オープンは失敗します。

システム・プログラマーの応答

ECSA 使用が低下したら、ジョブを再実行依頼してください。メッセージ DFS3702I を参照してください。

モジュール

DBFVIDS0

関連情報

[1083 ページの『DFS3702I』](#)
AREA/ADS OPEN FAILED
REASON CODE=*nn message subtext*

DFS2444I DSPSERV FAILED. RC=*rc* RSN =*rrr*

説明

新しいデータ・スペースに関する要求が出されましたが、この要求は失敗しました。この状態は、IMS 初期

設定中でもエリア・オープン中でも、起こる可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

DSPSERV マクロからの戻りコード

rrr

z/OS マクロ DSPSERV に関する rrrrrr 理由コード。

システムの処置

データ・スペースは獲得されません。IMS システムの初期設定は、VSO なしで続行されます。エリア・オープンが失敗します。このメッセージの後に DFS2446I と DFS3702I (理由コード 37) のいずれかが続きます。

システム・プログラマーの応答

DSPSERV マクロの戻りコードおよび理由コードを確認してください。このメッセージがエリア・オープン中に出力された場合は、メッセージ DFS3702I を参照してください。

モジュール:

DBFVIDSO

関連資料

[z/OS: DSPSERV の戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

714 ページの『DFS2446I』

DATA SPACE NOT ACQUIRED. VIRTUAL STORAGE OPTION NOT ACTIVATED. rr

1083 ページの『DFS3702I』

AREA/ADS OPEN FAILED

REASON CODE=nn message subtext

DFS2445I **ALESERV FAILED. RC=nn.**

説明

データ・スペースへのアクセス許可が要求されましたが、この要求は失敗しました。IMS 初期設定中でもエリア・オープン中でも、起こりえます。戻りコード nn は、ALESERV マクロからの戻りコードです。

システムの処置

データ・スペースは獲得されませんでした。IMS システムの初期設定は、VSO なしで続行されます。エリア・オープンが失敗します。この後に DFS2446I と DFS3702I (理由コード 38) のいずれかが続きます。

システム・プログラマーの応答

「MVS/ESA System Programming Library: Application Development Macro Reference」(GC28-1822) を参照してください。

モジュール

DBFVIDSO

DFS2446I **DATA SPACE NOT ACQUIRED.
VIRTUAL STORAGE OPTION NOT
ACTIVATED. rr**

説明

制御領域初期設定時にデータ・スペースの取得を試みている最中に、エラーが発生しました。rr は理由コードです。

理由コード

説明

35

VSO 制御ブロック障害。メッセージ DFS2443I を参照してください。

37

データ・スペースに関する DSPSERV 要求が失敗。メッセージ DFS2444I を参照してください。

38

データ・スペースに関する ALESERV 要求が失敗。メッセージ DFS2445I を参照してください。

39

VSO 制御ブロック障害。メッセージ DFS2443I を参照してください。

システムの処置

制御領域の初期設定は、データ・スペースが獲得されないうまま完了します。

モジュール

DBFINI20

DFS2447I **AREA=aaaaaaaa UNABLE TO
OBTAIN VSO CONTROL BLOCK
RC=rc**

説明

VSO 制御ブロックに関する内部要求が失敗しました。このエラーが発生する可能性があるのは、VSO エリアのオープン中、または VSO エリアの緊急時再始動ログ・レコード処理中です。

システムの処置

エリア・オープン中に障害が発生すれば、オープンが失敗し、このメッセージの後に、メッセージ DFS3702I が出力されます。緊急時再始動中に障害が発生し、エリアが制御ブロックなしでは再始動できない場合は、エリアは停止し、「要リカバリー」のマークが付けられます。

システム・プログラマーの応答

障害がエリア・オープン時に発生した場合は、CSA 使用が低下したら、ジョブを再実行してください。

障害が緊急時再始動時に発生し、エリアに「要リカバリー」のマークが付けられた場合は、データベース・リカバリー・ユーティリティを使用して、エリアをリカバリーしてください。

モジュール

DBFVSOP0

DFS2448I **VSO AREA aaaaaaaaa- ERE
STORAGE REQUEST FAILED**

説明

このメッセージが出されるのは、ローカル緊急時再始動時で、トラッキングまたはテークオーバー中に、XRF 代替システムによって出されるか、または VSO として定義されている、エリア aaaaaaaaa に関するログ・レコードを処理するために必要なストレージを、システムが取得できない場合は、高速データベース・リカバリー領域によって出されます。緊急時再始動、XRF 代替システム、または高速データベース・リカバリー領域では、障害が発生した後、ストレージなしではエリアをリカバリーできない場合があります。このような場合は、エリアは停止され、「要リカバリー」のマークが付けられます。

システムの処置

エリア aaaaaaaaa の場合を除いて、再始動は正常に続行されます。再始動ログ処理の終了時に、エリアに REDO 処理を必要とする CI (つまり、障害発生の前に DASD に書き込まれた可能性がない更新済み CI) がある場合は、エリアは停止され、「要リカバリー」のマークが付けられます。

オペレーターの応答

エリアが「要リカバリー」になっている場合は、データベース・リカバリー・ユーティリティを使用してください。

モジュール

DBFVSOP0

DFS2449I **UNABLE TO SET UP ERE DATA
SPACE. REQ=cccccc RC=rc
RSN=xxxx**

説明

このメッセージが出されるのは、ローカル緊急時再始動時で、トラッキングまたはテークオーバー中に、XRF

代替システムによって出されるか、または VSO エリアに関するログ・レコードを処理するために必要なデータ・スペースを、システムが取得またはセットアップできない場合は、高速データベース・リカバリー領域によって出されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccc

次のいずれかの値

AUTH

新規データ・スペースの許可に関する要求が失敗した。

CBLK

制御ブロック用ストレージに関する要求が失敗した。

CREATE

新しいデータ・スペースの作成に関する要求が失敗した。

PAGEFIX

VSO ERE DATASPACE 内の PAGEFIX ストレージへの要求が、DSPSERV の失敗を受け取りました。

rc

要求からの戻りコード

xxxx

CREATE または PAGEFIX コマンドが DSPSERV マクロ・エラーを受け取った場合は、16 進の理由コードが表示されます。これらのコードは、DSPSERV マクロによって定義されています。

システムの処置

再始動が続行されます。再始動ログ処理の終了時に、エリアに REDO 処理を必要とする制御インターバル (CI) (つまり、障害発生の前に DASD に書き込まれた可能性がない更新済み CI) がある場合は、エリアは停止され、recovery needed のマークが付けられます。

オペレーターの応答

エリアに recovery needed のマークが付いている場合は、データベース・リカバリー・ユーティリティを使用してください。

モジュール:

DBFNRST0

関連資料

z/OS: DSPSERV - データ・スペースの作成、削除、および制御

z/OS: DSPSERV の戻りコードおよび理由コード

DFS2450I **UNABLE TO ACQUIRE STORAGE
FOR ENQ/DEQ BLOCKS,
REASON=n**

説明

モジュール DFSFXC10 が、制御ブロックをキューに入れるためのストレージ・ブロックを獲得できませんでした。理由コード *n* が、次のとおり詳細を示します。

コード (10 進数)

意味

0

ブロックが要求されたが、最初のブロックではない。PIMAX パラメーターで指定されたストレージの量が使い尽くされたわけではありませんが、別のストレージ・ブロックに関する GETMAIN は正常に行われませんでした。障害が発生したのが、最後のブロックを取得する試みであった場合は、このメッセージの後にメッセージ DFS2451W が付随します。

8

最初の ENQ/DEQ ブロック用として使用可能なストレージがない。標準的な異常終了が生じます。

システムの処置

要求が最初のブロックに関するものであった場合は、システムは異常終了し、異常終了コード 0775 が示されます。それ以外のブロックの場合は、タスクは疑似異常終了し、異常終了コード 0775 が示されます。

システム・プログラマーの応答

コード

応答

0 & 8

IMS LSO=N

CSA サイズを大きくしてください。

IMS LSO=Y または X

制御領域ローカル・ストレージ・サイズを大きくしてください。

IMS LSO=S

システムが高速機能を使用している場合は、ECSA サイズを増やしてください。システムが高速機能を使用していない場合は、DLI/SAS 領域のローカル・ストレージ・サイズを増やしてください。

障害の発生時に更新を実行していた BMP が 1 つ以上ある場合は、それらの BMP にチェックポイントを発行させます。すでに発行している場合は、さらに高頻度でチェックポイントを発行させます。

関連情報

717 ページの『DFS2451W』

THE LAST BLOCK OF ENQ/DEQ STORAGE IS
BEING ACQUIRED

IMS 異常終了 0775

第 53 章 DFS メッセージ DFS2451W - DFS2500I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2451W THE LAST BLOCK OF ENQ/DEQ STORAGE IS BEING ACQUIRED

説明

DB/DC 環境ではメンバー DFSPBIMS の、DBCTL 環境ではメンバー DFSPBDBC の、PIMAX パラメーターで指定されている、最後の許容ストレージ・ブロックが取得されようとしています。ENQ/DEQ ストレージ要件によって、結果的に別のブロックが要求されることになる場合は、タスクは疑似異常終了で終了します。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

ENQ/DEQ ストレージを必要とするアクティビティの再評価を行って、ENQ/DEQ ストレージ不足のために、重要なアプリケーションが終了することがないようにしてください。

DFS2452I AREA aaaaaaaaa IS TOO LARGE FOR VSO

説明

仮想記憶オプション (VSO) がエリア aaaaaaaaa に関して要求されましたが、エリアが VSO に許容されている最大サイズを超えています。最大許容サイズは、2 ギガバイト (2 147 483 648 バイト) から、z/OS および IMS で使用される分のストレージを引いたものです。

データ・スペース内のエリアとして必要なスペースの量は、次のとおりです (次の 4 KB 単位に丸めた値にします)。

(CI サイズ) × (UOW ごとの CI の数)
× ((ルート・アドレス可能部分の UOW の数)

+ (独立オーバーフロー部分の UOW の数))

DBDGEN AREA ステートメントのパラメーターで表すと、次のようになります (次の 4 KB に丸めた値にします)。

(SIZE= パラメーターの値)
× (UOW=number1 パラメーターの値)
× (ROOT=number2 パラメーターの値)

データ・スペース内でエリア (複数の場合もある) 用として使用可能なスペースの 実際量は、2 ギガバイト (それぞれが 4 KB のブロックが 524,288 ブロック) から z/OS によって予約されている量 (0 から 4 KB) を引き、さらに IMS 高速機能によって予約されている量 (約 100 KB) を引いた量です。/DISPLAY FPV コマンドを使用して、特定のエリアの実際のストレージ使用量を計算できます。

システムの処置

エリアは DASD モードとしてオープンされます。

モジュール:
DBFVSOP0

DFS2453A DATASPACE UOW CANNOT BE PINNED FOR I/O

説明

高速機能が、VSO および PRELOAD オプションを使用して定義されているエリアをデータ・スペースにロードするプロセスを開始しています。データ・スペース内でストレージのページ固定を試みている最中に、エラーが発生しました。

システムの処置

プリロード・プロセスは、プリロード・プロセスを完了しないで終了します。

オペレーターの応答

この問題は、実ストレージ不足の問題である可能性があります。実ストレージ問題が解決された後、/START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START (ACCESS) コマンドを発行して、プリロード・プロセスを開始してください。

モジュール:
DBFVSPL0

DFS2453I PRELOAD PROCESSING xxxxxxxx FOR aaaaaaa STR1=strname1; STR2=strname2

または

PRELOAD PROCESSING STARTED FOR: aaaaaaaa

または

**PRELOAD PROCESSING COMPLETED FOR:
aaaaaaaa**

または

**PRELOAD PROCESSING ABORTED, UTILITY ACTIVE:
aaaaaaaa**

または

**IMAGE COPY ITASK STARTED|COMPLETED|
ABORTED FOR: aaaaaaaaa**

または

**IMAGE COPY ITASK ABORTED FOR: aaaaaaaaa[IMS
SHUTDOWN | IMAGE COPY ERR | ABORT AT INIT]**

説明

高速機能は、VSO および PRELOAD オプションを使用して定義されているエリア aaaaaaaaa を、データ・スペースにロードするプロセスを開始または完了しました。

このメッセージの 3 番目の形式 PRELOAD PROCESSING ABORTED, UTILITY ACTIVE: aaaaaaaaa が出されるのは、VSO および PRELOAD として定義されている エリア aaaaaaaaa に関する /START AREA コマンドが出された後では、HSSP またはユーティリティーがエリアで現在 アクティブであるため、高速機能がデータ・スペースへのそのエリアのロードを開始できなかった場合です。

このメッセージの 4 番目の形式 IMAGE COPY ITASK STARTED|COMPLETED|ABORTED FOR: aaaaaaaaa が出されるのは、HSSP と別のプロセスのいずれかがエリア aaaaaaaaa に関するイメージ・コピー ITASK を動的に作成した場合です。イメージ・コピー ITASK がこのメッセージを出すのは、開始、完了、または打ち切りのときです。

このメッセージの IMAGE COPY ITASK ABORTED 形式の場合は、次のいずれかのストリングが付加されます。

- IMS SHUTDOWN は、IMS がシャットダウンされようとしていることを意味します。
- IMAGE COPY ERR は、エラーがイメージ・コピー中に発生し、そのためにイメージ・コピーおよび ITASK の終了が生じたことを意味します。

- ABORT AT INIT は、エラーがイメージ・コピー・データ・セットの初期設定中に発生し、イメージ・コピーが不可能であることを意味します。メッセージ DFS0531I または関係のある DBRC メッセージを参照してください。

このメッセージの 6 番目の形式では、エリア aaaaaaaaa に関するプリロード処理の状況を報告しています。状況 xxxxxxxx は、STARTED、ABORTED、または COMPLETED のいずれかになります。STR1 および STR2 は、z/OS システム間拡張サービス (XES) 構造名です。

システムの処置

処理は続行されます。

このメッセージの 3 番目の形式の場合は、プリロード・プロセスは打ち切られます。

このメッセージの 4 番目と 6 番目の形式の場合は、示されている処置が取られました。

オペレーターの応答

このメッセージの 3 番目の形式の場合は、HSSP またはユーティリティーが完了したら、/START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START (ACCESS) コマンドを再発行してください。

このメッセージの 4 番目の形式の場合は、処置は必要ありません。

このメッセージの 6 番目の形式の場合は、エリアに関するプリロード・プロセスが打ち切られたら、傷害の理由を訂正してください。その後、/START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START (ACCESS) コマンドを発行して、プリロード・プロセスを開始してください。

モジュール:

DBFVSPLO、DBFPTICO、DBFVXPLO

関連情報

188 ページの『DFS0531I』

IMAGE COPY DATASET OPEN FAILED

DFS2454I

**PRELOAD SEVERE ERROR FOR:
aaaaaaaa RC=rc**

説明

高速機能が、VSO および PRELOAD オプションを使用して定義されるエリアをデータ・スペースにロードするプロセスを開始しています。戻りコード rc に、エラー・メッセージが出る理由が示されています。

PIN

データ・スペース内でストレージのページ固定を試みている最中のエラー

LOCK

UOW ロックの取得を試みていて発生したエラー

SHTD

IMS シャットダウン

システムの処置

プリロードは終了しますが、完了はしていません。

オペレーターの応答

実ストレージ不足と考えられる問題が発生しています。実ストレージ問題が解決された後、**/START AREA** コマンドまたは **UPDATE AREA START (ACCESS)** コマンドを発行して、プリロード・プロセスを開始してください。

モジュール:
DBFVSPL0

DFS2455A	CANNOT RUN COMPARE UTILITY FOR AREA IN VIRTUAL STORAGE, AREA=aaaaaaaa
-----------------	--

説明

現在仮想記憶域にあるエリアに関して、DEDB ADS 比較ユーティリティーが要求されました。

システムの処置

ユーティリティー要求は失敗して、戻りコード 12 が示され、メッセージ DFS2662A が出されます。

オペレーターの応答

/VUNLOAD コマンドを発行して、エリアを仮想記憶域から除去し、ユーティリティー・ジョブを再実行依頼してください。ユーティリティーが完了した後、**/START AREA** コマンドまたは **UPDATE AREA START (ACCESS)** コマンドを発行することにより、エリアを仮想ストレージへ戻すことができます。

モジュール:
DBFUMRTO

DFS2456I	AREA aaaaaaaaa UNEXPECTED POINTER VALUE DURING VSO CLOSE
-----------------	---

説明

非壊滅的内部論理エラーが発生しています。VSO エリア aaaaaaaaa のクローズ中に、制御ブロックに間違ったポインター値が含まれていることが検出され、エリアに関して割り振られたデータ・スペースの該当部分を割り振り解除したはずのコードを迂回する必要があります。割り振り解除の迂回は、データ保全性に関する問題にはなりません。ただし、データ・スペースの該当部分は、次の再始動まで使用不能になる可能性があります。データ・スペースの割り振り解除がスキッ

プされた場合は、**/DIS FPV** コマンドを実行すると、そのエリアがクローズされた後でも、データ・スペース内にあるとして表示される可能性があります。

システムの処置

エリア・クローズ処理が続行されます。

オペレーターの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:
DBFVSCLO

DFS2457I	DUE TO A STORAGE SHORTAGE, NOT ALL AREAS WILL BE PREOPENED OR PRELOADED, RETRY LATER
-----------------	---

説明

オープン前またはプリロード処理中に、ストレージ不足が生じ、オープン前またはプリロード処理が試行されませんでした。

システムの処置

IMS は、プリロード処理もオープン前処理も行わず、処理を続行します。

オペレーターの応答

/DIS FPV コマンドを使用して、オープン前もプリロードもされなかったエリアを識別してください。システム・ストレージが使用可能になった時点で、**/START AREA** コマンドまたは **UPDATE AREA START (ACCESS)** コマンドを発行してください。メッセージ DFS2446I が、IMS システム初期設定に関して、このメッセージの後に続けて表示されます。

モジュール:
DBFVTSKO

DFS2458A	VSO AREA aaaaaaaaa- ERE SEVERE ERROR
-----------------	---

説明

仮想記憶オプション (VSO) エリアとして定義される、エリア aaaaaaaaa に関する緊急時再始動、XRF テークオーバー、または高速データベース・リカバリーのリカバリー・フェーズ中に内部エラーが発生しました。

このメッセージに加えて、診断情報も出力されます。このエラーでは IMS が異常終了することはありませんが、情報のフォーマットは、異常終了 1026 からの出力と同じです。

このメッセージ、および付随する診断情報は、最大3回まで出されます。メッセージ DFS2485I は、緊急時再始動の終了時に出力され、エラー条件が検出された回数の総数を示します。

システムの処置

エリア aaaaaaaaa は停止され、「要リカバリー」のマークが付けられます。

オペレーターの応答

データベース・リカバリー・ユーティリティを使用し、エリアをリカバリーしてください。

モジュール:

DBFERS21

関連情報

[IMS 異常終了 1026](#)

DFS2459I	DUE TO A STORAGE SHORTAGE, PARDLI WILL NOT BE IN EFFECT FOR THIS REGION.
-----------------	---

説明

PARDLI セットアップ処理中に、ストレージ不足が生じ、PARDLI オプションがこの領域に関しては活動化されませんでした。

システムの処置

IMS システムは、PARDLI なしで処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

ジョブで領域サイズを大きくして、再実行してください。

DFS2460	ONLY ONE PSB NAME ALLOWED
----------------	----------------------------------

説明

PSB キーワードの後に続けて、複数の名前が入力されました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

(ローカル/リモート端末) 1 つの PSB 名だけを使用し、コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFSICLNO

DFS2461	INVALID ENTRY FLAG-CALL NOT TRACED
----------------	---

説明

入力時に、DL/I CALL TRACE には、これがトレース・パスか比較パスか判別できませんでした。

システムの処置

処理は続行されます。

DFS2462	START VALUE EXCEEDS STOP VALUE-STOP DEFAULT USED
----------------	---

説明

DLITRACE 制御ステートメントの開始値が停止値より大です。デフォルトの停止値が使用されます。

プログラマーの応答

示されている値を訂正してください。

DFS2463	NEGATIVE VALUE ON INPUT AT OFFSET aa
----------------	---

説明

示されているオフセットでの値が負の値です。

システムの処置

パラメーターのデフォルト値が使用され、処理は続行されます。

プログラマーの応答

示されているパラメーターを訂正してください。

DFS2464	OUTPUT ERROR, DL/I CALL TRACE IS TERMINATED
----------------	--

説明

レコードを書き込んでいる最中に、入出力エラーが検出されました。

システムの処置

出力が順次データ・セットにルーティングされた場合は、データ・セットはクローズされ、トレースは終了されます。アプリケーション・プログラムは、正常に完了するまで実行できます。

プログラマーの応答

ジョブを再実行してください。

DFS2466I	AUTHORIZATION RACLIST FAILED, RACROUTE = aa, bb, cc, dd RACLIST = ee, ff, gg, hh REASON = ii, jj, kk, ll. RACROUTE
-----------------	---

**REQUEST=LIST FAILED,
CLASS=xxxx, RC=xx. RACF OR
ROUTER EXIT RC=xx, REASON
CODE=xx.**

説明

このメッセージの最初の形式が出されるのは、許可機能に関連した4つのクラスのうち少なくとも1つに関して、初期設定処理中に、ゼロ以外の戻りコードが検出された場合です。変数には、それぞれ次の意味があります。

- aa** DATABASE クラスに関する RACROUTE 戻りコード
- bb** SEGMENT クラスに関する RACROUTE 戻りコード
- cc** FIELD クラスに関する RACROUTE 戻りコード
- dd** OTHER クラスに関する RACROUTE 戻りコード
- ee** DATABASE クラスに関する RACLIST 戻りコード
- ff** SEGMENT クラスに関する RACLIST 戻りコード
- gg** FIELD クラスに関する RACLIST 戻りコード
- hh** OTHER クラスに関する RACLIST 戻りコード
- ii** DATABASE クラスに関する RACLIST 理由コード
- jj** SEGMENT クラスに関する RACLIST 理由コード
- kk** FIELD クラスに関する RACLIST 理由コード
- ll** OTHER クラスに関する RACLIST 理由コード

このメッセージの2番目の形式が生成されるのは、IMSがRACF定義リソースに関してストレージ内プロファイルの作成を試みていて、障害がRACROUTE、RACLIST、またはROUTER EXIT処理で発生したときです。障害が起こっているリソースのクラスが明示され、RACROUTEルーチンからの戻りコードも示されます。RACFまたはROUTER EXITからの戻りコードおよび理由コード(該当する場合)も示されます。

システムの処置

このメッセージの最初の形式では、IMS再始動が続行されます。

このメッセージの2番目の形式では、IMSの再始動が続行され、トランザクション、コマンド、PSB、またはLTERMについてのRACF許可機能は使用不可になります。

オペレーターの応答:

このメッセージの2番目の形式では、RACROUTE、RACLIST、およびROUTER EXITルーチンからの戻りコードと理由コードの詳しい説明について、「MVS/XA SPL Macros and Facilities Manual Volume 2」を参照してください。

**DFS2466W RACROUTE REQUEST=LIST
FAILED, CLASS=xxxxxxxx, RC=xx.
RACF OR ROUTER EXIT RC=xx,
REASON CODE=xx.**

説明

IMSがRACF定義のリソースに関してIMSストレージ内プロファイルの作成を試みている最中に、障害がRACROUTE、RACLIST、またはROUTER出口処理で起こりました。メッセージに次の内容が表示されます。

- 障害のあるリソースのクラス
- RACROUTEマクロからの戻りコード
- RACFまたはROUTER出口からの戻りコードおよび理由コード(該当する場合)

システムの処置

IMS再始動が続行されます。RACFトランザクション許可機能は使用不可になります。

このメッセージの2番目の形式では、IMSの再始動が続行され、トランザクション、コマンド、PSB、またはLTERMについてのRACF許可機能は使用不可になります。

オペレーターの応答:

(マスター端末) RACROUTE、RACLIST、およびROUTER出口処理の戻りコードと理由コードの詳しい説明については、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」を参照してください。

**DFS2467I /SIGN COMMAND REJECTED
[reason]**

説明

/SIGNコマンドが、示されている理由のためリジェクトされました。考えられる理由コードとその意味については、メッセージDFS3649Aの説明を参照してください。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

示されている理由を基にして、コマンドを正しく入力してください。

関連情報

1062 ページの『DFS3649A』
/SIGN COMMAND REQUIRED.

DFS2469W TRANSACTION REJECTED reason

説明

このメッセージが、トランザクションを入力する端末に送信されるのは、トランザクションがセキュリティー検査に失敗したと、RACF が判別した ときです。トランザクションがリジェクトされる理由は、次のとおりです。

TRANS NOT AUTH; RC=08

ユーザーが、RACF によってこのトランザクション・コードに対する許可を付与されていない。

SIGNON REQUIRED

トランザクションは RACF 保護されていて、ユーザーはサインオンしていない。

RACF NOT ACTIVE; RC=12

BY RACF EXIT; RC=16

RACF 出口が示した戻りコードが無効であった。

INSTALL ERROR; RC=20

RACF がインストールされていないか、間違っただレベルの RACF がインストールされている。

RACF POE ERROR; RC=24

RACF プロファイルに条件付きアクセス・リストがあり、セキュリティー・トークンの POE (port-of-entry) フィールドはブランクで埋められ、POE (port-of-entry) クラスはアクティブである。

RACF DS DELETED; RC=28

リソース・クラスが RACROUTE REQUEST=LIST GLOBAL=YES によって選択されたが、RACF データ・スペースは削除された。

NO PASSWORD; RC=36

ユーザー検査が必要であるが、パスワードが提示されていない。

WRONG PASSWORD; RC=40

ユーザー検査がパスワードで失敗した。

USERID REVOKED; RC=44

ユーザー ID が取り消されたため、ユーザー検査が失敗しました。

注：RC = は、10 進数値を表します。

ユーザー作成 IMS 出口ルーチンによって、追加のコードを提供できます。

システムの処置

入力されたトランザクションは無視されます。

オペレーターの応答:

正しいパスワードを使用してトランザクションを再入力するか、セキュリティーに違反しない別のトランザクションを入力してください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

ありません。

モジュール

DFSCIOB0、DFSICIO0、DFSICLE0

DFS2470 /SIGN COMMAND REQUIRED

説明

このメッセージがトランザクション または /RELEASE コマンドを入力する端末に送信されるのは、以前の有効なサインオンがなされていないときです。

システムの処置

トランザクションまたは /RELEASE コマンドは無視されます。

オペレーターの応答

(ローカル/リモート端末オペレーター) 有効なサインオンを行ってから、トランザクションまたは /RELEASE コマンドを入力してください。

問題判別:

ありません。

DFS2471 DUPLICATE CONTROL CARD OR KEYWORD FOR DLITRACE

説明

DLITRACE 制御ステートメントを処理している最中に、次のいずれかの条件が生じました。

- この入力ストリーム内に複数の DLITRACE 制御ステートメントがある。
- 1つのキーワードが制御ステートメント内で複数回使用された。

システムの処置

- 使用された DL/I CALL TRACE オプションが、入力ストリーム内の最初の DLITRACE 制御ステートメントで設定されたものでした。
- 検出された最初のキーワードで指定された値が、DL/I CALL TRACE に関して設定された値です。以降のキーワードの使用は監視されます。

プログラマーの応答

使用された DL/I CALL TRACE オプションが正しいオプションであったか確認し、重複パラメーターは必ず除去してください。

**DFS2472 INVALID AWE DETECTED AND
 LOGGED**

説明

無効の非同期作業エレメント (AWE) が、処理 IMS モジュールによって検出されました。無効のエレメントという場合は、矛盾するパラメーター、欠落しているアドレス、またはその他の多くのものが意味される可能性があります。つまり、プロセッサの要件に応じてまったく異なります。このメッセージには、IMS ログ・データ・セットの X'67' FB ログ・レコードが付随しています。このログ・レコードには、無効の AWE を検出したプロセッサが示されています。このメッセージで示されるエラーは、IMS または出口ルーチンの論理エラーである可能性があります。

システムの処置

このメッセージが出され、無効の AWE およびオプションのプロセッサ作業域が含まれる X'67' FB ログ・レコードがログに記録されます。ログ・レコードは、デバッグを目的とするものです。

オペレーターの応答

このメッセージを受信したことについて、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

デバッグに備えて、ログ・レコード情報を保管してください。

問題判別:

36

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2473I ERROR; RPLREQ=xx, R0=xx,
 R15=xx,NODE nodename,CLSDST
 SCHED**

説明

次のいずれかの条件が存在します。

1. IMS が VTAM EXECRPL マクロを発行し、VTAM から未認識戻りコードを受信した。
2. VTAM のストレージ不足により、VTAM 要求 (EXECRPL を使用) が 25 回失敗した。IMS がノー

ドの CLSDST を試みます。R0 は X'08' で、R15 は X'04' です。

3. セッションはすでに終了しているため、VTAM は SEND 要求 (RPLREQ= 22) をリジェクトする。R0 は X'14' で、R15 は X'04' です。IMS が出力メッセージ処理を開始した後で、VTAM が NSEXIT または LOSTERM を駆動した場合、DFS970I の代わりにこのメッセージが出されます。

RPLREQ コード、およびその他のコードは 16 進数です。

システムの処置

ノードはクローズされているか、非活動化されているか、いずれかです。ノードが非活動化されている場合は、DFS2101I がマスター端末に表示されます。関係のある情報を含む、ID が AER2 の IMS ログ・レコード (X'67') が生成されました。

プログラマーの応答

問題条件のうちいずれが生じているのか判別する上で、メッセージの内容が役立ちます。

問題判別:

36

関連情報

[356 ページの『DFS970I』](#)

(UNEXPECTED STATUS| OPNDST/OPNCESS
FAILED| CLSDST/TRMSESS FAILED| GENCB/
MODCB ERROR| FORCED CLEANUP DONE|
SESSION FAILURE), NODE *node name*, USER/
user name| N/A, (UNDEFN | SETLOG | SIMLOG |
OPNDST | OPNSEC | CLSDST | SEND|RECEIV |
TRMSES | RQR | RESTSR | INQUIR|SESSNC |
*****), RC=,FDB2=, LOSTERM=|NSEXIT=|
UNBIND=, SENSE=, REASON=

[627 ページの『DFS2101I』](#)

DEACTIVATING NODE xxxxxxxx.

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2474I RECEIVE ANYS EXHAUSTED, REG
 0=xx, CLOSING VTAM ACB**

説明

VTAM がストレージ不足のため、IMS がネットワークからデータを受信できません。VTAM RECEIVE マクロが発行されると、そのつどストレージ不足戻りコードが示される結果になっています。

システムの処置

IMS はその VTAM ネットワークとの通信ができなくなっているため、VTAM ネットワークの正常シャットダウンが生じる原因になります。

オペレーターの応答:
(マスター端末) **/START DC** コマンドを使用して VTAM ネットワークを再始動してください。

プログラマーの応答

該当する VTAM バッファ・プールのサイズを大きくしてください。

問題判別

ストレージ不足になっている VTAM バッファ・プールを判別し、それを拡大してください。

DFS2475 **/STOP DC COMMAND IN PROGRESS, CANNOT PROCESS COMMAND**

説明

前の **/STOP DC** コマンドがまだ完了していないため、**/START DC** コマンドが使用できません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:
(マスター端末) **/DISPLAY ACTIVE** コマンドを使用して、VTAM ネットワークの状態を判別してください。VTAM ACB がクローズされたら、コマンドを再入力してください。

DFS2476 **EXTENDED SECURITY FUNCTION NOT ALREADY DEFINED**

説明

USER、TRANAUTH、CMDAUTH、または CMDAUTHE キーワードが **/NRE** または **/ERE COLDSYS** コマンドで無効なのは、システム定義および EXEC パラメーターで拡張セキュリティーが要求されなかったときです。

拡張セキュリティーは、初期設定 EXEC パラメーター RCF=A|Y|T|C|S で指定できます。

システムの処置

コマンドは無視されます。IMS は別の再始動コマンドを待ちます。

オペレーターの応答:
(マスター端末) コマンドを正確に再入力してください。IMS プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

DFS2477 **/RCL COMMAND REJECTED-
TERMINAL IN CONVERSATION**

説明

/RCL コマンドがリジェクトされました。**/RCL** コマンドが入力された端末は、現在アクティブな会話中です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

/EXIT を入力して会話を終了させるか、**HOLD** を入力して、サインオフ越しに会話を保留した上で、**/RCL** コマンドを再入力してください。

DFS2478I **MIGRATED RESOURCE xxxxxxxx
HAS BEEN RECALLED**

説明

xxxxxxx によって指定されている、データベース名とエリア名のいずれかに関する再呼び出しが完了しています。

システムの処置

システムが内部 **/START DB** または **/START AREA** コマンドを発行して、リソースを割り振ります。

DFS2479W **ISAM ACCESS METHOD IS NO
LONGER SUPPORTED. DBD-
dbdname MUST BE CORRECTED
FOR IT TO BE USABLE**

説明

このメッセージにリストされているデータベースでは、処理のために ISAM アクセス方式を必要としています。ISAM は、IMS バージョン 10 以降では使用不可です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

データベースを有効なアクセス方式に変換してください。

DFS2480I **BATCH DYNAMIC ALLOCATION
DISABLED**

説明

IMS が DFSVSAMP データ・セットで、文字ストリング NODYNALLOC のカード・イメージを検出しました。このカード・イメージにより、バッチ IMS での動的割り振りが使用不可になります。

このジョブでは、いずれのデータベースも動的割り振りに参加できません。DD カード・イメージがジョブ・ステップに組み込まれていない限り、これらのデータベースへの参照は失敗します。

プログラマーの応答

動的割り振りが必要でない場合は、処置は必要ありません。動的割り振りが必要な場合は、DFSVSAMP データ・セットの NODYNALLOC 制御カード・イメージを削除し、ジョブを再実行してください。

DFS2481I DATA BASE RECOVERY CONTROL FEATURE NOT OPERABLE

説明

データベース・リカバリー管理機能にアクセスするために必要なモジュールの位置指定中に、BLDL マクロがエラーを検出しました。

システムの処置

異常終了コード 2481 が出力されます。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。データベース・リカバリー管理機能がインストールされている場合は、位置指定エラーの原因を判別してください。データベース・ログ・データ・セットまたはユーティリティ情報にアクセスできなかったため、それらを RECON データ・セットに入力する必要がある場合があります。

問題判別:

1、2、3、8

関連情報

[IMS 異常終了 2481](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2482I DBRC LOG xxxx EXIT FAILED (yy)

説明

IMS ロガーがサブミットした DBRC 要求が正常に行われませんでした。呼び出された特定のタイプの DBRC 出口が xxxx で示されています。xxxx は次のいずれかの値です。

OPEN

CLOSE
SWITCH
STATUS
ARCHIVE
EOV
SYNAD
LOGREC

xxxx が EOV または SYNAD を示しているときは、戻りコード X'00' または X'04' によって、正常に行われたことが示されるか、戻りコード X'12' によって、正常に行われなかったことが示されるか、いずれかです。

DBRC 戻りコードは、メッセージには yy (16 進数) として表示されます。DBRC 要求の戻りコード情報を参照してください。

xxxx が OPEN を示し、yy が RC(4) を示していて、前に障害が発生した IMS システムをコールド・スタートしようとしている場合、適切な手順は IMS の緊急時再始動を行うことです。緊急時再始動に失敗したために IMS をコールド・スタートする場合は、NOTIFY.PRILOG コマンドおよび CHANGE.SUBSYS コマンドを使用して、それ以前の IMS インスタンスのログ・ストリームをクローズし、サブシステム・レコードをクリーンアップする必要があります。また、IMS をコールド・スタートする前に、全機能データベースのバッチ・バックアウトや、何らかの方法での高速機能 DEDB の順方向リカバリーなど、必要なステップを完了しておく必要があります。(ただし、IMS が異常終了したときに FDBR がアクティブであり、それによってリカバリー処理が正常に完了した場合は、バッチ・バックアウトと DEDB 順方向リカバリーは不要です。)

メッセージ DFS4168I は、FDBR がリカバリー処理を正常に完了したことを示します。FDBR リカバリー処理中に DFS0693I メッセージを受け取り、未確定作業単位に対して未確定構造解決が作成されたことが示された場合、コールド・スタートは可能ですが、コミット・コーディネーター側 (例えば、CICS や RRS) からのコマンドを使用して未確定作業単位を手動で解決する必要があります。

DB2® や IBM MQ などの ESS 処理では、IMS がコミット・コーディネーターです。そのため、通常は未確定状態を示すメッセージを FDBR から受け取ることはありません。IMS はサンプル出口 DFSFIDNO を提供し、この出口により、各未確定 ESS 作業単位の推奨リカバリー処置を含む DFS3722I メッセージが発行されます。未確定 UOW (作業単位) は、ESS 参加サブシステムでも表示されます。IMS コールド・スタート時に、適切な参加サブシステム・コマンドを使用してこれらの未確定 UOW を解決する必要があります。

IMS は、未確定作業単位の FDBR リカバリー処理中に、拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) を作成し、DBRC に登録する場合があります。これらの EEQE は、未確定の IMS データベース・リソースが他のデータ共用 IMS サブシステムによってアクセスされないよう保護します。IMS をコールド・スタートする場合は、未確

定 EEQE を手動で処理する必要があります。DEDB の場合は、DBRC コマンドを使用してこうした EEQE を削除しても問題ありません。DEDB はコミット処理前に更新されないためです。全機能データベースでは、未確定 EEQE を含むデータベースでのデータベース・リカバリーの実行が必要になる場合があります。

システムの処置

ARCHIVE 出口が失敗すると、IMS はこのメッセージを出し、実行を継続します。その他の DBRC 出口のいずれかからのエラー戻りコードの場合は、IMS が異常終了コード 0071 を出す結果になります。

プログラマーの応答

DBRC 出口障害の理由を判別するには、分析が必要です。この条件の原因を説明する DSP メッセージについては、z/OS マスター・コンソール (SYSLOG) を参照してください。

この問題がアーカイブ出口障害である場合は、通常の IMS シャットダウンの後で、緊急時再始動 (/ERE) が発行されたかどうか判別してください。そうであった場合は、緊急時再始動処理によってサブミットされた自動アーカイブ・ジョブが失敗し、このメッセージは無視できます。

問題判別:

1、3、8、11、35

関連資料

[DBRC 要求戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0071](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2483A DBRC INITIALIZATION ERROR

説明

INIT 呼び出しが、データベース・リカバリー管理 (DBRC) モジュール DSPFLT00 に対してなされました。戻りコードは、出口での重大なエラー条件を示す 12 でした。

システムの処置

IMS 制御領域は異常終了します。

DFS2484I JOBNAME=nnnnnnnn GENERATED BY LOG AUTOMATIC ARCHIVING

説明

自動ログ保存がアクティブです。DBRC が、ログ保存ユーティリティの実行に備えて JCL を生成していま

す。nnnnnnnn が、DBRC が生成しているジョブの名前です。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

ログ保存ジョブがオンライン IMS システムと並行して実行される場合は、z/OS イニシエーターがログ保存ジョブの処理で使用可能であるか確認してください。

DFS2485I FP ERE TOTAL ALTERATION COUNT ERRORS = n

説明

このメッセージは、その前に 1 から 3 インスタンスのメッセージ DFS2458A が出されているため、DFS2458A で記述されているエラー条件が生じた回数の総数 n を示します。

システムの処置

ありません。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFERST0

関連情報

[719 ページの『DFS2458A』](#)

VSO AREA aaaaaaaaa- ERE SEVERE ERROR

DFS2486I FP ERE TOTAL VSO LOG ERRORS = n

説明

このメッセージは、その前に 1 から 3 インスタンスのメッセージ DFS2489I が出されているため、DFS2458A で記述されているエラー条件が生じた回数の総数 n を示します。

システムの処置

ありません。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFERST0

関連情報

[719 ページの『DFS2458A』](#)

VSO AREA aaaaaaaaa- ERE SEVERE ERROR

727 ページの『DFS2489I』

ERE VSO LOG RECORD ERROR

DFS2487I **UNABLE TO COMPLETE REDO
DURING XRF TKO - AREA
aaaaaaaa- RSN cccc**

説明

XRF テークオーバー時に、DEDB REDO 処理に次のものが組み込まれます。

- 再始動サブシステムには送信されなかった可能性がある 共用サブシステムからの変更をピックアップするために、すべてのブロック・レベル 共用域に関する 2 番目の CI のリフレッシュ。
- ユーティリティまたは HSSP のクリーンアップが テークオーバー時に行われた場合の、共用サブシステムへの通知。

このメッセージには、REDO 処理がエリア aaaaaaaaa に関してこれらのタスクを実行できなかったことが示されています。cccc が理由を示し、次のいずれかの値になります。

ER2L

REDO が必要なロックを取得できなかった。

ER2R

REDO が 2 番目の CI を正常にリフレッシュできなかった。

ER2U

REDO が、ユーティリティまたは HSSP のクリーンアップがテークオーバー時に行われたことを、共用サブシステムに正常に通知できなかった。この条件が生じる可能性がある原因は、入出力エラーと通知プロセスでの問題のいずれかにあります。

このメッセージが出される時点では、エリア aaaaaaaaa は他のすべての REDO 処理を正常に完了しています。メッセージで示されている問題は、エリアをクローズし、次のアクセス時に通常のエリア・オープン処理を通して行えるようにすれば、解決する可能性があります。したがって、エリアに「要リカバリー」のマークを付ける必要はなく、通知エラーの場合を除いて、共用サブシステムによるエリアへのアクセスを禁止する必要はありません。

システムの処置

共用サブシステムへの通知中にエラーが発生した場合は、共用サブシステムにエリアの停止を指示する通知が行われます。エリアが再始動サブシステムに対してクローズされ、メッセージ **DFS3705I** が出されます。エリアが次に開かれたとき、エラーが再発する場合は、エリアは停止され、「要リカバリー」のマークが付けられます。

システム・プログラマーの応答

REDO 処理がユーティリティまたは HSSP のクリーンアップを完了できなかった場合は、エリアが再始動サブシステムに対して再オープン (または、共用サブシステムに対して開始および再オープン) されてからでないと、ユーティリティまたは HSSP は、エリアに関して開始できません。

モジュール:

DBFERS20

関連情報

1087 ページの『DFS3705I』

AREA=areaname DD=ddname CLOSED

DFS2488A **VSO AREA aaaaaaaaa- ERE SEVERE
ERROR**

説明

再始動ログ処理で、仮想記憶オプション (VSO) エリアとして定義される、エリア aaaaaaaaa に対してなされる更新のトラッキングのために必要なストレージが取得できませんでした。

システムの処置

エリア aaaaaaaaa は停止され、「要リカバリー」のマークが付けられます。

システム・プログラマーの応答

データベース・リカバリー・ユーティリティを使用して、エリアをリカバリーしてください。

モジュール:

DBFERSY1

DFS2489I **ERE VSO LOG RECORD ERROR**

説明

再始動ログ処理で、再始動システムに既知のいずれのエリアにも一致しない VSO DEDB エリア・ログ・レコードが検出されました。この問題が生じるのは、緊急時再始動、XRF トラッキング、XRF テークオーバー、または高速データベース・リカバリー処理のときです。

ログ・レコードには、VSO DEDB エリア名およびタイム・スタンプが含まれている必要があります。ログ・レコードの存在は、ログ時点以前にコミットされたエリア更新が、障害の前に DASD に書き込まれたことを意味します。このログ・レコードを基にして、再始動ログ処理では、DASD に書き込まれた更新を無視できますが、有効なエリア名がない場合は、どの更新を無視し、どの更新を処理するかは判別できません。

ほとんどの場合に、パフォーマンスが低下する可能性はあっても、再始動ではこのエラーは許容できます。後続のログ・レコードで問題を訂正できる (つまり、エリ

アに関して、DASD に書き込まれた更新を示せる)が、それができない場合は、再始動で追加の REDO 処理を行います。

この問題が再発するのは、IMS 再始動がリソースを使い尽くして、VSO エリア更新のトラッキングができない場合である可能性があります。この場合は、影響を受けているエリアはいずれも停止され、「要リカバリー」のマークが付けられます。

このメッセージに加えて、診断情報も出力されます。このエラーでは IMS が終了することはありませんが、情報のフォーマットは、異常終了 1026 からの出力と同じです。

このメッセージおよび付随する診断情報は、最大 3 回まで出されます。メッセージ DFS2686I は、緊急時再始動の終了時に出され、エラー条件が検出された回数の総数を示します。

システムの処置

再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答

XRF テークオーバーのローカル緊急時再始動中は、処置は必要ありません。問題が XRF トラッキング中に発生する場合は、XRF 代替を再始動して、リソース不足および性能低下を緩和してください。

問題判別

1、5、11、および再始動後に再開されたシステムのメモリー・ダンプが、完了します。

モジュール:

DBFERSYO

関連情報

[1026 \(メッセージおよびコード\)](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2490A	UNLOCK SYSTEM COMMAND REQUIRED BEFORE SHUTDOWN.
-----------------	--

説明

XRF テークオーバー後は、IMS **/UNLOCK SYSTEM** コマンドと z/OS Availability Manager (AVM) **UNLOCK** コマンドのいずれかを入力して、入出力許容データをページしてからでないと、IMS はシャットダウンできません。

システムの処置

シャットダウン・コマンドはリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答

IMS **/UNLOCK SYSTEM** コマンドと AVM **UNLOCK** コマンドのいずれかを入力してください。

モジュール:

DFSICM30

DFS2491I	A DIVIDE EXCEPTION HAS OCCURRED-NEXT LINE OF DATA MAY BE IN ERROR
-----------------	--

説明

2 つのフィールドを分割している最中に除算例外 (ABEND0C9 または ABEND0CB) が起こりました。このメッセージの理由は、通常、以下のとおりです。

1. 除算に使用されているフィールドの一方が、入力テープの処理が不完全であったか、入力テープが不完全であったか、いずれかのため不完全である場合。
2. DC モニターがアクティブであった時間が長すぎたため、それが原因で被除数フィールドが大きくなりすぎて、商および剰余が割り当てられた作業域に収まらなかった場合。

システムの処置

処理は正常に続行されます。

DFS2492I	AREA aaaaaaaaa HAS IOT EEQE - CANNOT ACTIVATE VSO
-----------------	--

説明

/START AREA がエリア aaaaaaaaa に関して入力されました。コマンドの入力時点では、仮想記憶オプション (VSO) は、このエリアに関してはアクティブでありませんでしたでしたが、エリアは DBRC に対して VSO として定義されました。通常は、**/START AREA** コマンドによって、エリアはデータ・スペースに置かれる (VSO を活動化する) のですが、エリア aaaaaaaaa には XRF テークオーバーによる入出力許容 EEQE が 1 つ以上あります。したがって、EEQE がページされてからでないと、このエリアに関して VSO を活動化することは不可能です。

システムの処置

VSO はこのエリアに関して活動化されません。

オペレーターの応答

IMS **/UNLOCK SYSTEM** コマンドと AVM **UNLOCK** コマンドのいずれかを入力して、入出力許容 EEQE をページしてください。その後、**/START AREA** コマンドまたは **UPDATE AREA START (ACCESS)** コマンドを再入力してください。

モジュール:

DFS2493W A CENTRAL/EXPANDED STORAGE SHORTAGE EXISTS. VSO WILL BE ACTIVATED FOR areaname. BLOCKS REQ/AVAIL rrrrrr/aaaaaa

説明

高速処理データベース (DEDB) エリアは、仮想記憶オプション (VSO) エリアとして定義されました。エリアを開いている最中に、使用可能な中央ストレージ および拡張ストレージの量が不十分で、エリアのサイズに対応できないと、IMS が判別しました。通常の VSO 処理は、このエリアで可能です。

システムの処置

仮想記憶オプションを使用して、エリアが開かれます。

オペレーターの応答

この警告メッセージは、VSO ストレージ不足の潜在的な可能性があることを示します。メッセージに示されているエリアの場合は、VSO ストレージが不十分で、エリア全体は収まりません。アクセスされた CI が VSO にロードされますが、ページングなどのストレージ制約の問題が存在する可能性があります。制約のあるストレージがご使用の環境で問題となる場合は、/VUN コマンドを発行して、VSO からエリアを除去できます。/START AREA コマンドを再発行するか、UPDATE AREA START (ACCESS) コマンドを発行することにより、いつでも、エリアに関する VSO 処理を再活動化できます。

モジュール:
DBFVSOP0

DFS2494I DFHSM RECALL DSN=data setname- RC=xxx

説明

マイグレーション済み data setname に関する RECALL 要求が、ゼロ以外の戻りコード xxx を受信しました。戻りコードについては、「DFHSM User's Guide」および「DFHSM Messages」を参照してください。DFHSM からの適切なメッセージも発行できます。このメッセージが出されるのは、再呼び出しが 3 回試みられた後に限られます。

システムの処置

IMS は、マイグレーション済みリソースを検索する試みがそれ以上行われるのを停止します。

オペレーターの応答

受け取った戻りコードに基づいて、適切な処置については、「DFHSM User's Guide」および「DFHSM Messages」を参照してください。これらの資料で推奨されている処置を実行した後、/START DB、UPDATE DB START (ACCESS) /START AREA、UPDATE AREA START (ACCESS) のいずれかのコマンドを発行し、IMS が再呼び出しを再試行できるようにします。

DFS2495I RESOURCE name NOT ALLOCATED - MIGRATED AND BEING RECALLED

説明

システムは、name によって識別されている、高速機能エリア または DL/I データベースの動的割り振りを試み、エリア・データ・セットとデータベース内データ・セットの 1 つのいずれかが、補助ストレージにマイグレーションされるのを検出しました。

システムの処置

割り振りプロセスは強制終了し、割り振りの内部呼び出し元にゼロ以外の戻りコードが示されます。補助ストレージからデータ・セットを非動的に再呼び出しする試みがなされました。

DFS2497W ICH408I MESSAGES ARE SUPPRESSED FOR REGION YYYYYYYY FOR TRAN ZZZZZZZ BY RAS SECURITY

説明

IMS RAS セキュリティにより、追加の ICH408I メッセージは抑制されています。これは、指定された従属領域の指定されたトランザクションに RACF 定義エラーがあるためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

YYYYYYYY
従属領域名

ZZZZZZZZ
トランザクション名

システムの処置

IMS RAS セキュリティにより、トランザクションおよび従属領域に関する追加の ICH408I メッセージは抑制されます。トランザクションは、まだメッセージ・キューにあり、他の適格な従属領域または IMSplex 内の他の IMS システムによって処理される可能性があります。処理は続行されます。

プログラマーの応答

トランザクションを処理するための領域アクセス権限を付与することが適切かどうか判断します。適切である場合、トランザクションを処理するための領域アクセス権限を付与し、適切な RACF 定義を更新します。それ以外の場合は、トランザクションを領域から移動させてください。

問題判別:

1、5、6、27、35、36

モジュール:

DFSSCHRO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2498W **IMS SYSTEM ERROR DURING
function_type FOR DATABASE |
DATASET REASON x**

説明

function_type 処理中にシステム・エラーが発生しました。

function_type は、次のいずれかです。

- ALLOCATE
- DEALLOCATE

次のいずれかの理由で、エラーが発生しました。

コード (16 進数)

説明

- 01** 無効の AWE が動的割り振りルーチンに渡された。
- 02** データベースの索引を停止しないで、データベースを割り振り解除する 試みがなされた。
- 03** データベースに関する DDIR が NOTINIT 状況にあることが検出された。
- 04** スケジュール・ビットがオンになっているとき、データベースを割り振り解除する 試みがなされた。
- 05** データベースの DCB の 1 つがまだ開いているとき、データベースを割り振り解除する 試みがなされた。
- 06** データベースに関するデータ管理ブロック (DMB) がロードできなかった。

07

データベースを割り振り解除する試みがなされたが、そのデータ・セットの 1 つの DDNAME が TIOT で検出されなかった。

08

データベースのデータ・セットが IMS でサポートされない装置に常駐している。

システムの処置

要求は終了します。

プログラマーの応答

支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別:

3、8、9、20

モジュール:

DFSMDA00

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2499W **INVALID function_type REQUEST
FOR DATABASE | DATASET FOR
REASON x**

説明

function_type は、次のいずれかです。

- ALLOCATE
- DEALLOCATE

識別されている機能が、次のいずれかの理由で無効でした。

コード (16 進数)

意味

- 01** DFSMDA 動的割り振りメンバーが SDFSRESL に存在していなかったか、無効であった。
- 02** データベースのデータ・セットの全部ではないが、一部が JCL によって割り振られた。データベース全体は、JCL によるか、または DFSMDA メンバーによって割り振る必要があるが、その両方によって割り振ることはできません。混合割り振りは無効です。
- 03** データ・セットに関する SIOT で、IMS で割り振り解除できない SYSOUT データ・セットを示す。

04

データ・セットに関する SIOT で、IMS で割り振り解除できない VIO データ・セットを示す。

05

データベースを割り振り解除する試みがなされたが、データ・セットの 1 つに関するジョブ・ファイル制御ブロック (JFCB) で、ボリュームのないことが示された。

06

ステージング IMSACB DD ステートメントの連結は許されません。

システムの処置

要求は終了します。

プログラマーの応答

条件を訂正して、将来の要求を正常に処理できるようにしてください。

モジュール:

DFSMDA00

DFS2500I

```
DATABASE|DATASET xxxxxxxx  
{DSN=yyyyyyyy} SUCCESSFULLY  
action_type
```

説明

識別されている機能に関する処理が、データベース名またはデータ・セット名に関して完了しました。なお、xxxxxxx がデータベース名またはデータ・セット名です。ここで、xxxxxxx は名前です。モニター・データ・セットまたはアーカイブ・ログ (SLDS) の割り振りの場合、データ・セット名 (yyyyyyyy) も提供されます。

action_type は次のいずれかです。

- ALLOCATED
- DEALLOCATED

モジュール:
DFSMDA00

第 54 章 DFS メッセージ DFS2501W - DFS2550I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS2501W INSUFFICIENT VIRTUAL STORAGE
AVAILABLE FOR ALLOCATION/
DEALLOCATION FOR RESOURCE
xxxxxxx IN PROCESS y**

説明

使用可能な仮想記憶域が不十分で、y で示されるプロセス中にリソースの割り振りまたは割り振り解除が完了できませんでした。

この問題が生じる可能性があるのは、IMS 制御領域または DLISAS 領域です。このエラーの追加情報については、z/OS システム異常終了 878 および 80A の説明を参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

要求されたアクション用の仮想記憶域が不十分であったリソース。

y

プロセス。

コード y

割り振りプロセス

1

作業域の GETMAIN が失敗しました (バッチのみ)

2

一時パラメーター・リストの GETMAIN が失敗しました (JCL で割り振られたデータベースの割り振り解除)

3

BLDB が IMSDALIB で失敗しました

4

BLDB が STEPLIB で失敗しました

5

DFSMDA メンバーのストレージの GETMAIN が失敗しました。

使用可能な仮想記憶域が不十分で、データベースの割り振りまたは割り振り解除が完了できませんでした。この問題が生じる可能性があるのは、IMS 制御領域または DLISAS 領域です。このエラーの追加情報については、z/OS システム異常終了 878 および 80A の説明を参照してください。

システムの処置

システム処理は続行されます。

プログラマーの応答

IMS 制御領域または DLISAS 領域の専用ストレージ使用量の評価を行って、未使用ストレージが割り振られようとしていないか、プロセスがストレージの獲得でループしていないか確認してください。このメッセージが引き続き発生する場合は、SDATA=(CSA,PSA,RGN,SQA,SUM,TRT) を指定した MVS DUMP コマンドを使用して、IMS CTL 領域および DLISAS 領域のコンソール・メモリー・ダンプを作成してから、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DFSMDA00

関連資料

[z/OS: システム・コード 878](#)

[z/OS: システム・コード 80A](#)

**DFS2502W INSTALLATION EXIT PREVENTS
DYNAMIC ALLOCATION|
DEALLOCATION**

説明

IMS ユーザーに動的割り振り要求に関するインストール・システム出口ルーチンがあり、これが IMS によるデータベースの動的割り振りまたは割り振り解除を妨げています。

システムの処置

要求は無視されます。

プログラマーの応答

インストール・システム出口ルーチンが、IMS 制御領域からのすべての要求を許容するように変更してください。

**DFS2503W DYNAMIC action_type FAILED
FOR DATA SET NAME
XXXXXXXX.XXXXXXXXX.XXXXXXXXX
DATABASE NAME dbdname
REASON CODE yyyyy**

説明

識別されている機能に関する処理が、dbdname および xxxxxxxx で表されているデータベース名およびデータ・セット名に関して失敗しました。WITHIN PSB psbname という句が追加されるのは、PSB が割り振り

の試行時点で既知の場合のみです。DATABASE NAME *dbdname* という句がメッセージで発行されるのは、データ・セットが IMS データベースである場合のみです。データ・セットの機能が失敗した場合は、DDNAME および DATA SET xxxxxxxx を示す簡易書式のメッセージが代わりに発行されます。

action_type は次のいずれかです。

- ALLOCATION
- DEALLOCATION

システムの処置

処理が要求に関しては終了します。

高速機能 DEDB の多重エリア・データ・セット (MADS) の 1 つのエリア・データ・セット (ADS) が割り振りに失敗した場合は、そのエリアは停止され、ADS の状況が RECON データ・セット内で変更されることはありません。この失敗が緊急時再始動時に発生した場合は、その ADS は使用不能状況に設定され、他の ADS はリカバリーされます。

プログラマーの応答

ほとんどの場合、理由コードの記述で、要求を再試行する前に取る必要のある処置が識別されています。エラーを訂正し、要求を再試行してください。

モジュール:
DFSMDA00

関連資料

[z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈](#)

DFS2504I	ERROR PROCESSING <i>variable text</i>: SPECIFIED AREA NAMES DO NOT MATCH
-----------------	---

説明

メッセージ・テキストの *variable text* は、ACB の IMS 管理が使用可能かどうかに応じて、以下のいずれかのターゲットを示します。

ACBLIB

パラメーター・リストのエリア名が ACBLIB に存在しないか、パラメーター・リストでの名前順序が、DBD データ・セット・ステートメントの場合と同じではありませんでした。

この形式のメッセージ・テキストがデフォルトです。

CATALOG

パラメーター・リストのエリア名が IMS カタログに存在しないか、パラメーター・リストでのエリア名の順序が、データベース定義ステートメントの場合と同じではありませんでした。

IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) で ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、この形式のメッセージ・テキストが発行されます。

システムの処置

ユーティリティは終了し、戻りコード 08 が示されます。

プログラマーの応答

パラメーター・リストにある名前、または名前順序を訂正してください。

問題判別

パラメーター・リストで提供されているエリア名を、データベース定義ステートメントでの名前および順序と比較してください。

関連資料

[IMS カタログ定義出口ルーチン \(DFS3CDX0\) \(出口ルーチン\)](#)

DFS2505I	ERROR PROCESSING <i>variable text</i>: OPEN ERROR
-----------------	--

説明

メッセージ・テキストの *variable text* は、ACB の IMS 管理が使用可能かどうかに応じて、以下のいずれかのターゲットを示します。

ACBLIB

プログラム DBFUMINO が、指定された ACBLIB データ・セットをオープンできませんでした。

この形式のメッセージ・テキストがデフォルトです。

CATALOG

プログラム DBFUMINO が、指定された IMS カタログ・ディレクトリー・データ・セットをオープンできませんでした。

IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) で ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、この形式のメッセージ・テキストが発行されます。

システムの処置

ユーティリティは終了し、戻りコード 08 が示されます。

プログラマーの応答

この問題は、通常、JCL エラーの結果です。そうであれば、JCL を訂正し、ジョブを再実行してください。

IMS カタログに対してこのメッセージが発行された場合は、カタログ・ディレクトリーを作成し、データを追加するために行ったステップを再確認してください。

問題判別:

3、9、20

関連資料

[IMS カタログ定義出口ルーチン \(DFS3CDX0\) \(出口ルーチン\)](#)

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2506I ERROR OPENING CONTROL FILE

説明

プログラム DBFUMINO が、指定された制御ファイルを開くことができませんでした。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、戻りコード 04 が示されません。

プログラマーの応答

DD ステートメントが存在していて、その指定が正しいことを確認してください。ハードウェア障害が示されている場合は、問題を訂正して、ジョブを再実行してください。

DFS2507I ERROR PROCESSING DATA SET INFO: {MACRO=MODCB | SHOWCB | RDJFCB}, R15=xxx [R0=]

説明

データ・セット情報を処理している最中に、プログラム DBFUMINO がエラーを検出しました。MODCB、SHOWCB、または RDJFCB マクロが正常に完了しませんでした。R15 でのマクロからの戻りコードが示され、MODCB または SHOWCB の戻りコードが 4 の場合は、R0 で理由コードが出されます。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、戻りコード 12 が示されません。

プログラマーの応答

VSAM 戻りコードおよび理由コードの説明を参照してください。ユーザー・エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

3、8、20

関連資料

[z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2508I ERROR PROCESSING *variable text*: INCORRECT MEMBER TYPE SPECIFIED

説明

メッセージ・テキストの *variable text* は、ACB の IMS 管理が使用可能かどうかに応じて、以下のいずれかのターゲットを示します。

ACBLIB

プログラム DBFUMINO が、ACBLIB で指定されているメンバーについて、DEDB DBD ではないと判別しました。

この形式のメッセージ・テキストがデフォルトです。

CATALOG

プログラム DBFUMINO が、IMS カタログで指定されているメンバーについて、DEDB DBD ではないと判別しました。

IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) で ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、この形式のメッセージ・テキストが発行されます。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、戻りコード 08 が示されません。

プログラマーの応答

ACBLIB または IMS カタログにある正しいメンバーを指定してください。

関連資料

[IMS カタログ定義出口ルーチン \(DFS3CDX0\) \(出口ルーチン\)](#)

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS2509I DEFINED (CI SIZE | RECSIZE) IN CATALOG NOT CONSISTENT WITH DBD SIZE PARM

説明

カタログにある定義済みコントロール・インターバル (CI) サイズ または LRECL サイズに、DBD サイズ・パラメーターとの整合性がありませんでした。

システムの処置

ユーティリティは終了し、戻りコード 12 が示されま
す。

プログラマーの応答

DBD またはカタログの CI サイズまたは LRECL サイズ
を変更して、等しくなるようにしてください。

**DFS2510I INSUFFICIENT SPACE DEFINED
 FOR AREA=areaname DD=ddname**

説明

ddname で示されているデータ・セット用として割り振
られているスペースが不十分で、DBD に定義されてい
るデータベース・エリアが収まりません。

システムの処置

使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

DBD を変更することで、ddname で示されたデータ・
セットの ADS に必要なスペースを小さくしてくださ
い。代替の方法として、VSAM 定義を変更すること
で、ddname で示されたデータ・セットの ADS 用と
して割り振られるスペースを大きくしてください。
areaname に複数のデータ・セットがある場合は、他の
データ・セットについても、十分なスペースが定義さ
れているか確認してください。

**DFS2511I CONTROL BLOCK MANIPULATION
 ERROR DURING FORMAT
 PROCESSING**

説明

制御ブロック操作マクロの実行時に、エラーが発生し
ました。

システムの処置

ユーティリティは終了し、戻りコード 12 が示されま
す。

プログラマーの応答

DEDB エリアに関する DD ステートメントがすべて正
しいか、確認してください。

問題判別:

3、8、20、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2512I AREA=areaname DD=ddname
 (OPEN|CLOSE) ERROR**

説明

データ・セットの OPEN または CLOSE 処理中に、エラ
ーが発生しました。

システムの処置

使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

エリアに関する DD ステートメントが正しいか確認し
てください。

問題判別:

3、8、20

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2513I AREA=areaname DD=ddname
 WRITE ERROR**

説明

フォーマット制御インターバル (CI) 書き込み中に、入
出力書き込みエラーが発生しました。

システムの処置

使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

ハードウェア・エラーの可能性があるエラーが発生した
ので、別の DASD 装置上に DEDB データ・セットのた
めのスペースを割り振る必要がある可能性があります。
す。

また、このエラーは、DEDB エリアの最大サイズである
4 GB を超える ADS を割り振ろうとした結果である可
能性もあります。

DBDGEN からの UOW、ROOT、および SIZE の各パラメ
ーターを確認してください。4 GB を超えるサイズの
DEDB エリアを割り振らないでください。

VSAM CLUSTER の初期サイズが 4 GB を超えていない
ことを確認してください。

問題判別:

3、8、20、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2514I SYSPRINT OPEN ERROR

説明

プログラム DBFUMINO が SYSPRINT データを正常に開けませんでした。

システムの処置

ユーティリティは終了し、戻りコード 20 が示されます。

プログラマーの応答

この問題は、おそらく、JCL エラーが原因と考えられます。JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2515I SYSPRINT WRITE ERROR

説明

プログラム DBFUMINO が SYSPRINT データ・セットへの書き込みを試み、入出力エラーが発生しました。

システムの処置

ユーティリティは終了し、戻りコード 20 が示されます。

問題判別:

3、8、20、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2516I INVALID PARM SPECIFIED IN PARM FIELD-MORE THAN 2048 PARMS SPECIFIED

説明

2048 を超える AREA= ユーティリティ制御ステートメントが、DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMINO) の CONTROL DD ステートメントで示されました。

システムの処置

ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2517I I/O ERROR READING CONTROL FILE

説明

ユーティリティ・プログラム DBFUMINO が入出力エラーを検出しました。

システムの処置

ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されません。

プログラマーの応答

ハードウェア・エラーが修正されたら、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2518I INVALID PARM SPECIFIED IN PARM FIELD-INVALID CHARACTER IN PARM

説明

DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMINO) が、ユーティリティ制御ステートメントで無効文字を検出しました。AREA= 制御ステートメントの後に続く名前は、長さが 1 から 8 文字で、英数字 (A から Z、0 から 9) または特殊文字「\$」、「#」、および「@」で構成する必要があります。

システムの処置

ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答

無効文字を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2519I ERROR PROCESSING *variable text*: READ ERROR

説明

メッセージ・テキストの *variable text* は、ACB の IMS 管理が使用可能かどうかに応じて、以下のいずれかのターゲットを示します。

ACBLIB

入出力エラーが発生したか、ACBLIB から読み取られたブロックに DMCB が、そして DMAC がすべては、含まれていませんでした。

この形式のメッセージ・テキストがデフォルトです。

CATALOG

入出力エラーが発生したか、IMS カタログから読み取られたブロックに DMCB が、そして DMAC がすべては、含まれていませんでした。

IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) で ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、この形式のメッセージ・テキストが発行されます。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、戻りコード 20 が示されません。

プログラマーの応答

ACBLIB または IMS カタログに関する JCL が正しいか、ACBGEN が正しいか確認してください。

問題判別:

3、8、9、20

関連資料

[IMS カタログ定義出口ルーチン \(DFS3CDX0\) \(出口ルーチン\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2520I **MULTI-POSITIONING CANNOT BE SPECIFIED FOR A MSDB. - PCB dbdname IN PSB psbname.**

説明

MSDB DBD に関する PCB が多重位置指定 (POS=M) を指定していました。このオプションは MSDB では無効です。

システムの処置

IMS は PCB の処理を続けますが、PSB 内の残りの PCB を処理することはありません。PSB は ACBLIB から除去されます。通常の実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答

PCB ステートメントの PCB= パラメーターを訂正し、PSBGEN を再実行し、この PSB に関して BUILD ステートメントを使用して、ACBGEN を再実行してください。

DFS2521I **INVALID SENSEG-sensegname SPECIFIED IN PCB-dbdname IN PSB-psbname**

説明

示されている PSB の指定されたセンシティブ・セグメントが、示されている DBDGEN で定義されていません。

システムの処置

IMS は PCB の処理を続行し、その PSB 内の残りの PCB は処理しません。PSB は ACBLIB から削除されます。通常の実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答

示されている PCB および PSB の SENSEG ステートメントの SENSEG 名を訂正または除去してください。次に PSBGEN を再実行し、この PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、プログラムを再実行してください。

問題判別:

18、19

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2522I **INVALID PROCOPT SPECIFIED FOR SENSEG-senseg name IN PCB-dbdname IN PSB-psbname**

説明

指定されたセンシティブ・セグメントは、示されている PCB および PSB で無効のオプションが指定されています。

システムの処置

IMS は PCB の処理を続行し、その PSB 内の残りの PCB は処理しません。PSB は ACBLIB から削除されます。通常の実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答

示されている PCB および PSB の SENSEG ステートメントのエラー処理オプションを訂正してください。次に PSBGEN を再実行し、この PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、プログラムを再実行してください。

問題判別:

18、19

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2523I **INVALID SENSEG HIERARCHICAL
STRUCTURE SPECIFIED IN PCB-
dbdname IN PSB-psbname**

説明

指定された PCB 内の 1 つ以上のセンシティブ・セグメントで、示されている PSB に無効のセンシティブ・セグメント・レベル指定があります。有効なセンシティブ・セグメント・レベルは以下のとおりです。

- MSDB アクセスは 1 です。
- DEDB アクセスは 2 です。

システムの処置

IMS は PCB の処理を続行し、その PSB 内の残りの PCB は処理しません。PSB は ACBLIB から削除されます。通常の実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答

示されている PCB および PSB の SENSEG ステートメントの PARENT パラメーターを訂正してください。次に PSBGEN を再実行し、この PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、プログラムを再実行してください。

問題判別:
19

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2524I **AREA=areaname, DD=ddname,
READ ERROR.EEQE ALREADY
EXISTS, CI-RBA=nnnnnnnn**

説明

入出力許容拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) が制御インターバル (CI) nnnnnnnn に関して存在し、入出力防止が有効であるため、READ ANY 要求がリジェクトされました。

システムの処置

状況コード AO がアプリケーション・プログラムに戻されます。データがこの呼び出しですすでに変更されている場合、アプリケーション・プログラムは、IRLM 異常終了 3303 で終了します。INIT 呼び出しが出された場合は、状況コード BA が戻される可能性があります。

プログラマーの応答

アプリケーション・プログラムが異常終了 3303 で終了する場合は、該当する応答について、異常終了コード 3303 に関するオペレーターの応答の最後の段落を参照してください。

関連情報

IMS 異常終了 3303

DFS2525I **FAST PATH DATA BASE DEFINED
IN A NON-FP SYSTEM: dbname**

説明:

このメッセージについては、DFS2525W を参照してください。

関連情報

739 ページの『DFS2525W』

FAST PATH TRANSACTION *trannname* IS NOT
CREATED IN A NON-FP SYSTEM *system*

DFS2525W **FAST PATH TRANSACTION
trannname IS NOT CREATED IN A
NON-FP SYSTEM *system***

説明:

トランザクション *trannname* が、高速機能専用または高速機能利用可能として定義されますが、この IMS は高速機能対応ではありませんでした (FP=N)。トランザクション *trannname* は作成されません。高速機能データベース *dbname* が、高速機能対応でない (FP=N) IMS システムに定義されています。データベース *dbname* は作成されません。

システムの処置

正常な実行が継続されます。トランザクション *trannname* は作成されませんでした。

プログラマーの応答

データベースの場合、高速機能データベースへのアクセスが要求されない限り、処置は必要ありません。高速機能を使用可能にし、FP=Y を実行パラメーターとして定義して、IMS システムをコールド・スタートする必要があります。

トランザクションの場合、高速機能トランザクションを使用する必要がなければ、処置は必要ありません。トランザクションを使用するには、高速機能を使用可能にして (実行パラメーターとして FP=Y を定義して) IMS システムをコールド・スタートする必要があります。自動エクスポートが使用可能であり、システム・リソース定義のエクスポートが行われた場合、高速機能リソース定義は RDDS にはありません。高速機能リソースを復元するには、次のいずれかを行うことができます。

1. FP=Y を実行パラメーターとして指定し、
AUTOIMPORT=MODBLKS を DFSDFxxx PROCLIB メンバーの DYNAMIC_RESOURCES セクションで指定

して、IMS をコールド・スタートします。MODBLKS データ・セットで定義された高速機能リソースは、コールド・スタート時に作成されます。動的に作成されたリソースで、MODBLKS データ・セット内にはないリソースは失われます。

2. FP=Y を実行パラメーターとして指定し、AUTOIMPORT=RDDS を DFSDFxxx PROCLIB メンバーの DYNAMIC_RESOURCES セクションで指定して、IMS をコールド・スタートします。**CREATE** コマンドを発行して、必要な高速機能リソースを作成します。

問題判別:

10、18

関連情報

739 ページの『DFS2525I』

FAST PATH DATA BASE DEFINED IN A NON-FP SYSTEM: *dbname*

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2526I **DATA SET NOT EMPTY FOR
AREA=*areaname* DD=*ddname***

説明

空ではない DEDB データ・セットをフォーマット設定する試みがなされました。

システムの処置

使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

該当する VSAM オプションを使用して、データ・セットを SCRATCH、DELETE、ALLOCATE、および DEFINE し、初期設定ユーティリティを再実行してください。

問題判別:

1、3、8、18、20

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2527I **NUMBER OF FAST PATH DATA
BASE BUFFERS TO BE PAGE-
FIXED EXCEEDS LIMIT.**

説明

領域初期設定中に、ページ固定を行う高速機能データベース・バッファの数が、現在使用可能なバッファの合計数を超えました。

システムの処置

PSB は初期設定されず、領域は異常終了し、異常終了コード 1006 が示されます。DBCTL 環境では、障害のある PSB がスレッドである場合は、戻りコードは CCTL に渡されて戻ります。異常終了コードが DBCTL 領域から出されることはありません。

オペレーターの応答:

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

BMP、MPP、および IFP の場合は、次の IMS 実行時に、IMS 制御領域ジョブ・ステップ EXEC PARM で DBBF パラメーターの値を大きくし、ジョブ・ステップ EXEC PARM で NBA または OBA パラメーターの値を小さくするか、高速機能バッファを使用している領域が終了するのを待ち、ジョブを再実行してください。DBCTL 環境でのスレッドの場合は、DFSFRP の CNBA パラメーターの値を大きくするか、FPBUF または FPBOF パラメーターの値を小さくするか、高速機能バッファを使用している、スケジュールされたバッファが終了するのを待って、ジョブを再実行してください。

問題判別:

8、10、11

関連情報

IMS 異常終了 1006

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2528A **DUPLICATE AREA NAME-*area*
name FOUND IN DEDB-*database*
name1-AND-*database* name2**

説明

IMS システムで定義された、指定された DEDB DBD で、重複エリア名が検出されました。DBDGEN の AREA ステートメントの 1 つの DD1 オペランドで定義されたエリア名が、別の DEDB DBDGEN で定義されているか、DEDB DBDGEN 内で定義されています。

システムの処置

このメッセージが、/MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドの後に受信された場合は、そのコマンドが強制終了されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) このエラーが /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドの後に発生した場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

エラーが初期設定中に発生した場合は、エラーの DBD を訂正し、あらためてアプリケーション制御ブロック保守ユーティリティを実行し、ジョブを再実行してください。

エラーが /MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE (COMMIT) コマンドの後に発生した場合は、エラーの DBD を訂正し、再度アプリケーション制御ブロック保守ユーティリティを実行し、オンライン変更ユーティリティを実行してください。

問題判別:

1、4、18

モジュール:

DBFINI20、DBFOLC02

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2529I NO FAST PATH REGION IS ACTIVE.

説明

高速機能入力メッセージがロードおよび平衡化グループのキューに入れられました。しかし、メッセージを処理するようにスケジュールされていた最後の領域が終了していました。この時点で入力メッセージを処理するために使用できる高速機能領域はないことが、端末ユーザーに通知されます。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

(マスター端末) 指定された高速機能領域を再始動してください。

(端末) 高速機能領域が再始動されていることを確認した上で、入力メッセージを再入力してください。

問題判別:

1、6、7、11

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2530 FAST PATH EXCLUSIVE TRANSACTION FROM NON-FP TERMINAL

説明

高速機能専用トランザクション向けのメッセージが、高速機能メッセージ・バッファがシステム定義時に定義されていなかった端末、またはマスター端末から受信されました。

システムの処置

メッセージは無視されます。

プログラマーの応答

高速機能サポートが必要なすべての端末に関して、高速機能メッセージ・バッファを指定して、システムを再生成してください。

問題判別:

7、14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2531 MESSAGE ROUTED TO UNDEFINED TRANSACTION CODE

説明

高速機能ユーザー入力出口が、トランザクション識別を引数として使用して、宛先コード・テーブルを検索するために、高速機能を送信しました。プログラム DBFHIELO がテーブルを検索しましたが、等しい比較は検出されませんでした。

システムの処置

メッセージは無視されます。

プログラマーの応答

トランザクション・コードを宛先コード・テーブルに追加するか、正しいルーティング情報が得られるように、ユーザー入力出口を訂正してください。

問題判別:

7、14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2532 MESSAGE ROUTED TO UNDEFINED ROUTING CODE

説明

高速機能ユーザー入力出口が、その出口が提供した宛先コードを使用して、宛先コード・テーブルを検索する

ために、高速機能を送信しました。プログラム DBFHIELO がテーブルを検索しましたが、等しい比較は検出されませんでした。

システムの処置

メッセージは無視されます。

プログラマーの応答

正しい宛先コードが生成されている場合は、その宛先コードを宛先コード・テーブルに追加してください。そうでない場合は、ユーザー入力出口を使用して、正しい宛先コードを生成してください。

問題判別:

7、14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2533

ROUTING CODE NOT ACTIVE

説明

この宛先コードに関しては、メッセージ処理プログラムがスケジュールされませんでした。マスター端末オペレーターが、メッセージ処理プログラムをスケジュールしてからでないと、高速機能はその宛先に関するメッセージを受け入れることはできません。

システムの処置

メッセージは無視されます。

オペレーターの応答:

宛先コードがアクティブでないことを、マスター端末オペレーターに通知してください。

問題判別:

7、14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2534

TRANSACTION CODE NOT ACTIVE

説明

このトランザクションを表す宛先コード・テーブル・エントリーに関しては、メッセージ処理プログラムがスケジュールされませんでした。メッセージ処理プログラムが少なくとも1つ、マスター端末オペレーターによって開始されてからでないと、高速機能を使用してメッセージをこの宛先にスケジュールできません。

システムの処置

メッセージは無視されます。

オペレーターの応答:

トランザクション・コードがアクティブでないことを、マスター端末オペレーターに通知してください。

問題判別:

7、14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2535

**FUNCTION NOT AVAILABLE TO
INQUIRY ONLY TERMINAL**

説明

宛先コード・テーブル・エントリーは、IMS システム定義で更新として定義され、入力端末は、照会専用として定義されました。

システムの処置

メッセージは無視されます。

オペレーターの応答:

更新端末からトランザクションを再入力してください。

DFS2536

**FAST PATH EXCLUSIVE TRAN
ROUTED TO IMS**

説明

高速機能ユーザー入力出口が、高速機能専用トランザクションにあてられたメッセージをスケジュールのために IMS に戻すよう、高速機能に指図しました。

システムの処置

メッセージは無視されます。

プログラマーの応答

ユーザー入力出口が高速機能専用トランザクションを高速機能にルーティングするように、訂正してください。

問題判別:

7、14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2537

**INVALID KEYWORD-FAST PATH
NOT INSTALLED**

説明

高速機能キーワード MSDBLOAD が /NRESTART コマンドで入力されましたが、高速機能がインストールされていませんでした。

システムの処置

/NRESTART コマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 高速機能キーワードを指定しないでコマンドを再入力してください。

**DFS2538 MSDBLOAD KEYWORD INVALID IN
ERESTART COMMAND**

説明

無効のキーワード MSDBLOAD が /ERESTART コマンドで入力されました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

高速機能キーワード MSDBLOAD を指定せずに、コマンドを再入力します。

**DFS2539I OPEN ERROR ON INPUT DATA SET,
NO MSDBS LOADED**

説明

主記憶データベース (MSDB) 入力データ・セットを正常に開くことができませんでした。この問題については以下の原因が考えられます。

- DD ステートメントが欠落している。z/OS がこの問題を示すメッセージを印刷します。
- JCL に誤りがある。
- ハードウェア・エラーが存在する。そのような問題がある場合、システムは異常終了します。

システムの処置

DD ステートメントが欠落している場合は、IMS は続行されますが、MSDB はロードされません。JCL に誤りがある場合は、結果は予測不能です。

プログラマーの応答

DD ステートメントが正しく、指定が正しいか確認してください。IMS をシャットダウンし、MSDBLOAD を使用して、システムを再始動してください。ハードウェア障害が示されている場合は、ジョブを再実行してください。

**DFS2540I DBDNAME *dbdname* SEQUENCE
ERROR, NO MSDBS LOADED**

説明

MSDB 入力データ・セットのデータベース名が昇順になっていませんでした。

システムの処置

IMS は処理を続けますが、MSDB はロードされません。

プログラマーの応答

入力データ・セットをソートし、すべての MSDB を再ロードしてください。

**DFS2541I SEGMENT LENGTH ERROR IN
MSDB *dbdname***

説明

この MSDB の入力セグメント長さが、指定されている長さに等しくありませんでした。

システムの処置

セグメントは無視され、MSDB は停止されます。

プログラマーの応答

MSDB 保守ユーティリティを実行して、入力を訂正してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

重要: 操作の便宜上、MSDB は開始できますが、フィールドが無効のセグメントは使用不能で、状況 GE または GB が出されます。これらのセグメントは、MSDB データ・セットが訂正され、MSDB が再ロードされてからでないと、変更したり置き換えたり、削除したりすることはできません。

**DFS2542I KEY SEQUENCE ERROR IN MSDB
*dbdname***

説明

MSDB 内のセグメントが昇順キーの順序になっていませんでした。

システムの処置

セグメントは無視され、MSDB は停止されます。

プログラマーの応答

入力データ・セットをソートし、すべての MSDB を再ロードしてください。

**DFS2543I INSUFFICIENT SPACE FOR MSDB
 dbdname**

説明

MSDB PROCLIB メンバーで定義されているセグメントの数より多い入力セグメントがありました。

システムの処置

超過セグメントは無視され、この MSDB は停止されません。

プログラマーの応答

MSDB 保守ユーティリティー出力でこの MSDB 内のセグメントの数をチェックし、それに応じて PROCLIB メンバーを更新してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

**DFS2544I MSDB dbdname CONTAINS
 INVALID DATA**

説明

ロード・プロセス中に、モジュール DBFDBILO がこの MSDB で無効のパック・データを検出しました。

システムの処置

データが無効のセグメントにフラグが立てられ、MSDB は停止されます。

プログラマーの応答

MSDB 保守ユーティリティーを実行して、この MSDB に関する入力を訂正してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

**DFS2545I INVALID MSDB TYPE IN INPUT,
 MSDB dbdname**

説明

MSDB タイプが無効でした。MSDB は端末関連ではありませんでした。すなわち、端末キー付きであってもなくても非端末関連でした。

システムの処置

この MSDB のすべてのセグメントが無視されます。MSDB は停止されます。

プログラマーの応答

この MSDB のすべてのセグメントを訂正し、すべての MSDB を再ロードしてください。

**DFS2546I INVALID KEY LENGTH IN MSDB
 dbdname**

説明

MSDB タイプが端末関連または端末キーに関連した非端末の場合は、このセグメントのキー長さは、LTERM 名の長さ (8 文字) に等しくする必要があります。

システムの処置

セグメントは無視され、MSDB は停止されます。

プログラマーの応答

入力を訂正し、すべての MSDB を再ロードしてください。

**DFS2547I KEY (LTERM) xxxxxxxx NOT FOUND
 IN SYSTEM**

説明

LTERM 名がキーとして使用されましたが、この IMS システム内では見つかりませんでした。

システムの処置

セグメントは無視され、MSDB は停止されます。

プログラマーの応答

MSDB 保守ユーティリティーを実行して入力を訂正するか、この LTERM 名を使用して IMS を再定義してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

**DFS2548I ERRORS IN MSDB dbdname, MSDB
 STOPPED**

説明

モジュール DBFDBILO が MSDB のロードを試み、エラーを検出しました。さらに情報が必要な場合は、メッセージ DFS2541I、DFS2542I、DFS2543I、DFS2544I、DFS2545I、DFS2546I、DFS2547I、および DFS2550I を参照してください。

システムの処置

MSDB は停止されます。

プログラマーの応答

参照されているメッセージに記述されているエラーすべてを訂正してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

関連情報

743 ページの『DFS2541I』

SEGMENT LENGTH ERROR IN MSDB *dbname*

743 ページの『DFS2542I』

KEY SEQUENCE ERROR IN MSDB *dbname*

744 ページの『DFS2543I』

INSUFFICIENT SPACE FOR MSDB *dbname*

744 ページの『DFS2544I』

MSDB *dbname* CONTAINS INVALID DATA

744 ページの『DFS2545I』

INVALID MSDB TYPE IN INPUT, MSDB
dbname

744 ページの『DFS2546I』

INVALID KEY LENGTH IN MSDB *dbname*

744 ページの『DFS2547I』

KEY (LTERM) xxxxxxxx NOT FOUND IN SYSTEM

745 ページの『DFS2550I』

TYPES DO NOT MATCH IN MSDB *dbname*

DFS2549I **I/O ERROR ON INPUT DATA SET,
NO MSDBS LOADED**

説明

入出力の問題が検出されました。このメッセージの前に、メッセージ DFS2552I が出されています。

システムの処置

MSDB ロード・プロセスは停止されます。

プログラマーの応答

メッセージ DFS2552I の情報を確認してください。別の装置からロードを試行するか、入力データ・セットを再作成してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

関連情報

747 ページの『DFS2552I』

SYNAD error message buffer

DFS2550I **TYPES DO NOT MATCH IN MSDB
*dbname***

説明

入力データ・セットの MSDB タイプと、DBD で指定されているタイプの間に矛盾が検出されました。

システムの処置

セグメントは無視され、データベースは停止されます。

プログラマーの応答

入力データ・セットを訂正し、DBDGEN を再実行してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

第 55 章 DFS メッセージ DFS2551I - DFS2600A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2551I MSDB *dbname* IS EMPTY

説明

dbname で識別される主記憶データベース (MSDB) は、MSDB PROCLIB メンバーで指定されましたが、モジュール DBFDBILO はデータ・セットで入力を検出しませんでした。

プログラマーの応答

MSDB が動的の場合は、挿入コマンド (ISRT) を使用して、データベースをロードできます。

DFS2552I SYNAD error message buffer

説明

このメッセージには、MVS SYNAD エラー・メッセージ・バッファが含まれています。詳しくは、「*Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP*」を参照してください。

このメッセージの後に、メッセージ DFS2549I が続きます。

システムの処置

MSDB ロード・プロセスは停止されます。

プログラマーの応答

別の装置からロードを試行するか、入力データ・セットを再作成してください。

関連情報

745 ページの『DFS2549I』

I/O ERROR ON INPUT DATA SET, NO MSDBS LOADED

DFS2553I DBDNAME *dbname* NOT FOUND IN SYSTEM

説明

プログラム DBFDBILO が、入力データ・セット内でデータベース名 *dbname* を検出しました。ただし、その名前は MSDB PROCLIB メンバーに定義されていないか、プログラム DBFINTEO が検出した PCB はシステム内で検出できなかった DBD を参照するものであるかのいずれかです。

システムの処置

セグメントは無視されます。2 番目の事例の場合は、PSB か DBD、またはその両方を置き換えてください。

プログラマーの応答

PROCLIB メンバーを訂正します。すべての MSDB を再ロードしてください。

DFS2554I MSDB *dbname* LOADED

説明

このメッセージでは、このデータベースがエラーを起こさずにロードされたことを検証しています。

DFS2555I NO SUFFIX FOR MSDB MEMBER DEFINED.

説明

MSDB メンバーに関して、IMS 始動プロシージャに接尾部が定義されていませんでした。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

現行 IMS システムでは MSDB が必要ないか確認してください。システムで MSDB を必要とする場合は、IMS を停止し、始動プロシージャを更新またはオーバーライドしてください。

DFS2558I THE INTENT LIST LENGTH EXCEEDS LIMIT IN PSB *psbname*.

説明

psbname によって特定される PSB に大量の DBPCB があり、それが原因で、意図リストの長さが 64K の限度を超えています。

システムの処置

ACBGEN ユーティリティーはこのエラーのため終了しました。

プログラマーの応答

PSB の DBPCB 数を減らし、PSBGEN および ACBGEN を再実行してください。

モジュール:
DFSUAMBO

DFS2559A GETMAIN FAILED.

説明

IMS 制御領域にストレージが不十分で、作業域を構築できませんでした。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 1012 が示されま

プログラマーの応答

IMS 制御領域のサイズを 4096 バイトだけ大きくしてください。

関連情報

[IMS 異常終了 1012](#)

DFS2560I WAITING FOR THE OLCSTAT DATA SET

説明

グローバル・オンライン変更が OLCSTAT データ・セットを割り振りました。このバッチ・ジョブは、グローバル・オンライン変更が OLCSTAT を割り振り解除するまで待機しています。

システムの処置

グローバル・オンライン変更が OLCSTAT データ・セットを割り振り解除したときに処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSBINDO

DFS2561A FORMAT ERROR IN COMMAND FROM DBFMSDBn ENCOUNTERED IN POSITIONxx

説明

モジュール DBFINI10 が、ddname=PROCLIB データ・セットのメンバー DBFMSDBn でフォーマット・エラーを検出しました。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 1012 が示されま

プログラマーの応答

DBFMSDBn の MSDB パラメーターのフォーマットを訂正し、ジョブを再実行してください。

関連情報

[IMS 異常終了 1012](#)

DFS2562A DUPLICATE DBD NAME SPECIFIED

説明

重複 DBD 名が DBFMSDBn の MSDB ロード決定メンバーで指定されました。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 1012 が示されま

プログラマーの応答

PROCLIB メンバー DBFMSDBn で定義されている DBD 名をチェックおよび訂正してください。

関連情報

[IMS 異常終了 1012](#)

DFS2563I NO MSDBS FOUND-MSDBLOAD IGNORED

説明

次のいずれかの問題が発生しました。

- 高速機能キーワード MSDBLOAD が /NRESTART コマンドで入力されたが、PROCLIB メンバーが IMS プロシージャーで定義されなかった。
- DBD が MSDB に関する ACBLIB に存在しない。

メッセージ DFS2706A または DFS0579W が、このメッセージの前に出されています。

システムの処置

MSDBLOAD キーワードは無視されます。

プログラマーの応答

MSDB を使用したい場合は、次のようにしてください。

- MSDB メンバーを PROCLIB に追加する。
- MSDB 用の DBD が ACBLIB 内に存在することを確認する。

- IMS プロシーチャーを変更する。

関連情報

210 ページの『DFS0579W』
FIND FAILED FOR DDNAME xxxxxxxx
MEMBER=yyyyyyyy RC=zz

782 ページの『DFS2706A』
MSDB xxxxxxxx {NOT SPECIFIED AT SYSGEN|
HAS NO DBD GENERATED IN ACBLIB|NOT
DEFINED AS A MSDB AT DBDGEN}.

DFS2564I **ERROR IN OBTAINING DEVICE
TABLE, DDNAME *ddname*,
RC=*return code***

説明

MVS DEVTYPE マクロが発行されたとき、プログラム DBFDBTC0 がエラーを検出しました。

コード
意味

04
間違った DD 名が存在する。

08
無効のエリア・アドレスがある。

システムの処置

このエラーがコールド・スタート時に発生した場合は、MSDB CHKPT/DUMP データはフォーマットされません。このエラーが緊急時再始動または正常再始動で発生した場合は、MSDB イメージ・コピーがロードされません。

プログラマーの応答

戻りコードが 04 であった場合は、DD 名をチェックおよび訂正してください。

問題判別:
4、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2565I **BLOCK LENGTH EXCEEDS TRACK
CAPACITY, DDNAME=*ddname***

説明

DCB で指定されたブロック長が、この装置タイプのトラック容量を超えています。このエラーは、DCB のブロック・サイズが変更された場合に起こることがあります。

システムの処置

メッセージ DFS2564I を参照してください。

プログラマーの応答

メッセージ DFS2564I を参照してください。

関連情報

DFS2564I
ERROR IN OBTAINING DEVICE TABLE,
DDNAME *ddname*, RC=*return code*

DFS2566I **BUFFER LENGTH IS ZERO,
DDNAME=*ddname***

説明

この DCB のバッファ長がゼロに変更されました。

システムの処置

メッセージ DFS2564I を参照してください。

プログラマーの応答

メッセージ DFS2564I を参照してください。

関連情報

DFS2564I
ERROR IN OBTAINING DEVICE TABLE,
DDNAME *ddname*, RC=*return code*

DFS2567I **DUMMY/INCORRECT ALLOCATION
FOR DDNAME *ddname*-DATA SET
CANNOT BE USED**

説明

DD ステートメントがダミー割り振り、または SYSIN/
SYSOUT データ・セットを参照しています。

システムの処置

メッセージ DFS2564I を参照してください。

プログラマーの応答

DD ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報

DFS2564I
ERROR IN OBTAINING DEVICE TABLE,
DDNAME *ddname*, RC=*return code*

DFS2568I ***ddname* IS NOT ON DIRECT
ACCESS STORAGE DEVICE**

説明

この DD ステートメントによって指し示されている UCBTYPE が、直接アクセス・ストレージ・デバイスを示していませんでした。

システムの処置

メッセージ DFS2564I を参照してください。

プログラマーの応答

DD ステートメントおよび割り振りを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報

[DFS2564I](#)

ERROR IN OBTAINING DEVICE TABLE,
DDNAME *ddname*, RC=*return code*

DFS2569I **AREA=*areaname* DD=*ddname*
CONNECT|EXTEND ERROR**

または

AREA=*areaname* DD=*ddname* SAF ACCESS DENIED

説明

モジュール DBFMMIT0 が、*ddname* に関連するデータ・セットを接続することや開くことができませんでした。VSAM エラー・メッセージ IEC161I が、このメッセージの前に出されました。

システムの処置

DEDB 作成ユーティリティーのために、ADS を開く要求がなされると、このユーティリティーは次の ADS を開こうとします。次の ADS が使用可能でない場合は、DEDB 作成ユーティリティーは終了し、指定されたエリアが処理を続行します。DEDB 作成ユーティリティー以外のために、ADS を開く要求がなされた場合は、メッセージ DFS3702I および DFS2574I が、このメッセージの後で出されます。指定されたエリアは終了し、停止のマークが付けられます。

プログラマーの応答

VSAM エラー・メッセージ IEC161I をチェックし、エラーを訂正し、該当する再始動プロシージャどおりにしてください。該当する再始動手順を選択する場合は、このメッセージの後に続いて出されるメッセージ DFS3702I および DFS2574I のプログラマーの応答をチェックしてください。

関連資料

[IEC161I](#) に関する情報:

関連情報

752 ページの『DFS2574I』

AREA=aaaaaaaa CLOSED|STOPPED,
(RECOVERY NEEDED, RSN=*nn*)

1083 ページの『DFS3702I』

AREA/ADS OPEN FAILED

REASON CODE=*nn message subtext*

DFS2570I **AREA=*areaname* DD=*ddname*
DISCONNECT ERROR**

説明

モジュール DBFMMIT0 が、示されている DD 名に関連したデータ・セットを切断(クローズ)できませんでした。VSAM エラー・メッセージ IEC251I が、このメッセージの前に出されました。

システムの処置

データ・セットに関しては、クローズ処理は停止されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

VSAM エラー・メッセージ IEC251I をチェックしてから、VSAM アクセス方式サービス・プログラムを実行して、指定された ADS が使用可能か判断してください。指定された ADS が使用不能の場合は、DEDB 作成ユーティリティーまたは データベース・リカバリー・ユーティリティーを実行してください。

関連資料

[z/OS: IEC251I](#)

DFS2571I **(*ccccffss*) AREA=*areaname*
DD=*ddname*, READ ERROR, CI-
RBA=*nnnnnnnn*, REMAINING
EQE=*nn*, EEQE=*nnnn***

説明

制御インターバル (CI) RBA *nnnnnnnn* で、読み取りエラーがデータ・セットで生じました。エラー・キュー・エレメント (EQE=*nn*) が、データ・セット内の連続する読み取りエラーの数を表します。読み取りエラーの EQE の最大数は EQE=03 です。単一のエリア・データ・セット (SADS) で、そのエリアの書き込みエラーに EEQE が存在する場合、メッセージに EEQE=*nnnn* も表示されます。拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE=*nnnn*) は、そのエリアの既存の書き込みエラー

の数を表します。変数 *ccccffss* は、問題判別に使用されるメディア・マネージャー・エラーの戻りコードを表します。

システムの処置

指定されたエリアで他のデータ・セットを読み取らなかった場合は、システムが他のデータ・セットからの読み取りを試行します。そうでない場合は、状況コード AO がアプリケーション・プログラムに戻されます。永続入出力エラー (メディア・マネージャー・エラー戻りコード X'0020FF10' で示される) が発生していない場合は、メディア・マネージャー FRR ルーチンまたは高速機能入出力エラー・ルーチンによって、MVS SDUMP を SYS1.DUMP データ・セットに取ることができます。

オペレーターの応答

読み取りエラーが引き続き発生する場合は、このエリアに対して DEDB 作成ユーティリティまたは データベース・リカバリー・ユーティリティを実行してください。

問題判別

1、6、11、20。問題判別が有効なのは、メディア・マネージャー・エラー戻りコードが X'0020FF10' でないときです。

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2572I	(ccccffss) AREA=areaname DD=ddname, WRITE ERROR, CI- RBA=nnnnnnnn, REMAINING EQE=nn, EEQE=nnnn
-----------------	---

説明

制御インターバル (CI) RBA=nnnnnnnn で、書き込みエラーがデータ・セットで生じました。エラー・キュー・エレメント (EQE=nn) が、データ・セット内の書き込みエラーの数を表します。書き込みエラーの EQE の最大数は EQE=10 です。単一エリア・データ・セット (SADS) の場合、メッセージに EEQE=nnnn も表示されます。拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE=nnnn) は、そのエリアの既存の書き込みエラーの数を表します。変数 *ccccffss* は、問題判別に使用されるメディア・マネージャー・エラーの戻りコードを表します。

エラー戻りコード X'40CF4040' は、カップリング・ファシリティ構造での書き込みエラーを示します。メッセージ DFS2830I がこの戻りコードより前に出されます。

システムの処置

システムが、多重エリア・データ・セット (MADS) のエラー・キュー・エレメント (EQE) を生成すると、エラー・データ・セット上の CI は非活動化されます。システムは単一エリア・データ・セット (SADS) の拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) を作成し、エラーを起こした CI は、書き込みエラーを検出したシステム用の入出力許容 (IOT) バッファ内にあります。永続入出力エラー (メディア・マネージャー・エラー戻りコード X'0020FF10' で示される) が発生していない場合は、メディア・マネージャー FRR ルーチンまたは高速機能入出力エラー・ルーチンによって、z/OS SDUMP を SYS1.DUMP データ・セットに取ることができます。

オペレーターの応答

この制御インターバルが重大な CI である場合は、このエリアに関して、DEDB 作成ユーティリティまたは データベース・リカバリー・ユーティリティを実行して、/START コマンドでエリアを再始動してください。

問題判別

1、6、11、20。問題判別は、メディア・マネージャー・エラー戻りコードが X'0020FF10' でない場合に有効です。

関連情報

804 ページの『DFS2830I』

CF READERROR, RBA rrrrrrrr, AREA
areaname,STR strname RC=xxxxxxxx
RSN=yyyyyyyy

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2573I	AREA=areaname, DD=ddname, READ ERROR.CI-RBA=nnnnnnnn
-----------------	---

説明

制御インターバル (CI) RBA nnnnnnnn で、読み取りエラーがデータ・セットで生じました。このデータ・セットの場合は、EQE が存在します。

システムの処置

状況コード AO がアプリケーション・プログラムに戻されます。

オペレーターの応答

読み取りエラーが引き続き発生する場合は、このエリアに対して DEDB 作成ユーティリティまたは データベース・リカバリー・ユーティリティを実行してください。

**DFS2574I AREA=aaaaaaaa CLOSED|
STOPPED, (RECOVERY NEEDED,
RSN=nn)**

説明

指定されたエリアがエリア・オープン障害、重大な入出力エラー、/STOP コマンド、または /DBRECOVERY コマンドによって終了する場合は、指定されたエリアに停止のマークが付けられます。DBRC からの戻りコードに 要リカバリー状況が示された場合は、その状況がメッセージに追加されます。このメッセージが緊急時再始動中に送られる場合は、たとえ指定されたエリアが DBRC に登録されていなくても、要リカバリー状況は常にメッセージに追加されます。次に問題が生じる理由 (RSN=) を示します。

- 00** メッセージで使用できない理由コード。このコードはデフォルトです。
- 01** 緊急時再始動時に、VSO エリア aaaaaaaaa に重大エラーが生じた。
- 02** 緊急時再始動時に、VSO エリア aaaaaaaaa に重大エラーが生じた。
- 03** 緊急時再始動ではエリア aaaaaaaaa を処理できなかった。障害に先立って、重大エラーがこのエリアで発生していたからです。
- 04** /ERE COLDBASE コマンドの後で、エリア aaaaaaaaa をリカバリーする必要がある。
- 05** エリア・オープンが緊急時再始動中に失敗した。
- 06** 緊急時再始動時に、VSO エリア aaaaaaaaa に重大エラーが生じた。
- 07** 緊急時再始動時に、エリア aaaaaaaaa に読み取りエラーが生じた。
- 08** 緊急時再始動時に、エリア aaaaaaaaa に書き込みエラーが生じた。
- 09** ストレージ要求が失敗したため、VSO エリア aaaaaaaaa が XRF テークオーバー越しにリカバリーできなかった。
- 10** 緊急時再始動または XRF テークオーバーのどちらかで、リカバリー不能 DEDB エリアに対する DASD 書き込みが完了できなかったと判別されました。そのエリアは、イメージ・コピーから復元する必要があります。

- 12** エリア専用バッファ・プールとして必要なストレージが不十分であったため、緊急時再始動ではエリア aaaaaaaaa を処理できなかった。
- 13** /ERE または XRF TAKEOVER プロセスのなかで、AREA に関する VSO オプションに不整合が検出された。AREA は停止されます。メッセージ DFS2574I が、理由コード 13 を伴って出されます。/START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START (ACCESS) コマンドを発行して、不整合を訂正してください。
- 14** エリアは、SVSODR オプションの 1 つにより、停止され、必要なリカバリーとしてマーク付けられます。これらのオプションは、SVSO エリアの緊急時再始動処理の際に有効になります。
- 15** 緊急時再始動で、SVSO 専用バッファ・プール内の不整合のために、エリア aaaaaaaaa を処理できませんでした。先行するメッセージ DFS2835I によって不整合が識別されています。

システムの処置

指定されたエリアに関しては、処理が終了します。メッセージが、NOPFA オプションを含む /DBR コマンドに対するものでない限り、データベースまたはエリアに対して Prohibit Authorization フラグがセットされます。

オペレーターの応答

メッセージ DFS3712A またはメッセージ DFS3713A がこのメッセージより前に出されている場合は、VSAM エラーがあれば、エリアを再始動する前にすべて訂正してから、必要な場合は、リカバリーを実行してください。

エリアが要リカバリーとして示されている場合は、エリアを再始動する前に、データベース・リカバリー・ユーティリティを使用して、エリアをリカバリーしてください。

拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) がまだ存在するためにエリアが要リカバリー状況である場合は、LIST.DBDS コマンドを発行して EQERBA を検出してください。EQERBA が NULL の書き込みエラー EEQE が存在するのは、カップリング・ファシリティとの IMS 接続が失われたため、CASTOUT が失敗したかめ作成された場合です。エリアには一時的要リカバリーのマークが付けられます。接続が再確立され、CAST が正常に行われれば、状況はリセットされます。NULL の EQERBA 以外が検出された場合は、/UNLOCK SYSTEM コマンドを使用して、エリアをリカバリーしてください。

モジュール:

DBFERST0、DBFE2CI0、DBFMOPC0、DBFMLCLO

関連情報

805 ページの『DFS2835I』

ERROR IN VSPEC DEDB STMT: *statement_text*
REASON= *reason_text*

1093 ページの『DFS3712A』

(*ccccffss*) AREA=*areaname* DD=*ddname* READ
ERROR, CI-RBA=*nnnnnnnn* SEVERE ERROR

1093 ページの『DFS3713A』

(*ccccffss*) AREA=*areaname* DD=*ddname* WRITE
ERROR, CI-RBA=*nnnnnnnn* SEVERE ERROR

DFS2575I **PROCSEQ IS INVALID FOR DEDB
PCB *dbdname* IN PSB *psbname***

説明

メッセージ内の *dbdname* で識別される DEDB DBD の PCB で、PROCSEQ が指定されました。このオプションは、DEDB に対しては無効です。

システムの処置

IMS は PCB の処理を続行し、その PSB 内の残りの PCB は処理しません。PSB は ACBLIB から除去されます。通常の実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されません。

プログラマーの応答

PCB ステートメントの PROCSEQ パラメーターを訂正して PSBGEN ユーティリティーを再実行し、この PSB の BUILD ステートメントを使用して ACBGEN を実行してください。

DFS2576A **MEMBER=*xxxxxxx* IS EMPTY**

説明

ddname=PROCLIB によって指定されているプロシージャ・ライブラリーで、メンバー DBFMSDBn を検出しましたが、そのメンバーは空(すべてブランクばかり)でした。IMS 制御領域 EXEC ステートメントの MSDB パラメーターを使用して、DBFMSDBn で接尾部を指定します。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 1012 が示されます。

プログラマーの応答

プロシージャ・ライブラリーでメンバー DBFMSDBn の MSDB を正しく定義するか、IMS 制御領域 EXEC ステートメントの接尾部を訂正してください。

関連情報

IMS 異常終了 1012

DFS2577 **INELIGIBLE MESSAGE TO FP
EXCLUSIVE TRAN ID**

説明

メッセージが複数セグメントです。高速機能でサポートするのは、単一セグメント・メッセージのみです。

システムの処置

メッセージは無視されます。

オペレーターの応答:

正しいフォーマットでメッセージを再入力してください。

DFS2578I ***ddname* OPEN ERROR**

説明

プログラム DBFDBFM0 が、このデータ・セットに関して、DCB を開けませんでした。原因となる可能性があるのは、次の場合です。

- DD ステートメントが欠落している。
- JCL に誤りがある。
- ハードウェア・エラーが存在する。

システムの処置

MSDB チェックポイント・データ・セットが開けない場合は、1つの MSDB チェックポイントのみが使用されています。両方のデータ・セットが開けない場合は、MSDB チェックポイントが取られていません。メモリー・ダンプ・データ・セットが開けない場合は、MSDB の DUMP 機能が取り消されます。

プログラマーの応答

DD ステートメントが存在していて、その指定が正しいことを確認してください。ハードウェア障害が示されている場合は、ジョブを再実行してください。

DFS2579I ***xxxxx* TRACKS ALLOCATED FOR
ddname, BUT *yyyyy* REQUIRED**

説明

割り振られた直接アクセス・ストレージ・デバイスのスペースが不十分であったため、示されているデータ・セットに MSDB チェックポイントまたはメモリー・ダンプが収まりませんでした。

システムの処置

MSDB チェックポイントはまったく使用しないか、1つ使用するだけにしないと、メモリー・ダンプ機能が抑制されます。

プログラマーの応答

示されているデータ・セットに関する割り振りを訂正しIMSをコールド・スタートしてください。

DFS2580I **SYNAD error message buffer**

説明

このメッセージには、MVS SYNAD エラー・メッセージ・バッファが含まれています。

システムの処置

メッセージ DFS2579I を参照してください。

プログラマーの応答

別の装置から試行するか、別の直接アクセス・ストレージ・デバイス上でデータ・セットを再割り振りしてください。

関連情報

[DFS2579I](#)

xxxxx TRACKS ALLOCATED FOR *ddname*, BUT
yyyyy REQUIRED

DFS2581I ***ddname* FORMATTED**

説明

このメッセージでは、示されているデータ・セットがエラーを起こさずにフォーマットされたことを検証しています。

DFS2582I **ERROR IN MSDB DUMP DATA SET,
DUMP FACILITY CANCELED**

説明

プログラム DBFDBFM0 が、MSDB メモリー・ダンプ・データ・セットでエラーを検出しました。メモリー・ダンプ機能が取り消されます。

システムの処置

このメッセージの前に出されたメッセージを参照してください。

プログラマーの応答

このメッセージの前に出されたメッセージを参照してください。

DFS2584I **ERRORS IN MSDB CHKPT DATA
SETS, NO MSDB CHKPT WILL BE
TAKEN**

説明

プログラム DBFDBFM0 が、MSDB チェックポイント・データ・セットでエラーを検出したので、MSDB チェックポイントは取られませんでした。

システムの処置

このメッセージの前に出されたメッセージを参照してください。

プログラマーの応答

このメッセージの前に出されたメッセージを参照してください。

DFS2585I **NO MSDBS FOUND-FORMATting
IGNORED**

説明

次のいずれかの問題が発生しました。

- プログラム DBFDBFM0 が **/NRESTART** コマンドの高速機能キーワード **MSDBLOAD** を要求したが、**PROCLIB** メンバーが **IMS** で定義されなかった。
- **DBD** が **MSDB** に関する **ACBLIB** に存在しない。

メッセージ DFS2706A または DFS0579W が、このメッセージの前に出されています。

システムの処置

データ・セットはフォーマットされません。

プログラマーの応答

MSDB を使用したい場合は、MSDB 用の **DBD** が **ACBLIB** 内に存在することを確認するか、**IMS** 始動プロシージャを変更するか、またはその両方を行ってください。

関連情報

[210 ページの『DFS0579W』](#)

FIND FAILED FOR DDNAME xxxxxxxx
MEMBER=yyyyyyyy RC=zz

[782 ページの『DFS2706A』](#)

MSDB xxxxxxxx {NOT SPECIFIED AT SYSGEN}
HAS NO DBD GENERATED IN ACBLIB|NOT
DEFINED AS A MSDB AT DBDGEN}.

DFS2586I **ALLOCATION FOR *ddname* DOES
NOT START ON CYLINDER
BOUNDARY**

説明

ddname=bb に関する割り振りがシリンダー境界から開始されません。

システムの処置

データ・セットは使用されません。

プログラマーの応答

SPACE=(CYL,(xx),,CONTIG) を使用して、このデータ・セット用のスペースを再割り振りしてください。

DFS2588W **FP WAS DEFINED AS KEYWORD,
BUT FP IS NOT INSTALLED**

説明

高速機能 (FP) が IMS 修正リストでキーワードとして定義されましたが、高速機能はインストールされていません。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

IMS PROCLIB の DFSFIXnn メンバーをチェックおよび訂正してください。

DFS2589I **ddname OPEN ERROR**

説明

プログラム DBFDBDL0 が、このデータ・セットに関して、DCB を開けませんでした。原因となる可能性があるのは、次の場合です。

- DD ステートメントが欠落している。
- JCL に誤りがある。
- ハードウェア・エラーが存在する。

システムの処置

MSDB イメージ・コピーはロードされません。

プログラマーの応答

DD ステートメントがあり、その指定が正しいか確認してください。ハードウェア障害が示されている場合は、別の装置を使用して、ジョブを再実行してください。

DFS2590I **INVALID CHECKPOINT ID FOUND
IN ddname**

説明

MSDB イメージ・コピー制御レコードのチェックポイント識別が、システムが再始動された元の識別と同じではありませんでした。原因として考えられるのは、間違ったチェックポイントが入力されたことや、DD ステートメントが間違ったデータ・セットを指していることです。

システムの処置

MSDB イメージ・コピーはロードされません。

プログラマーの応答

適正なチェックポイント識別を使用して IMS を再始動するか、JCL を訂正してください。

DFS2591I **NO MSDB HEADERS FOUND,
IMAGE COPY LOAD IGNORED**

説明

主記憶データベース (MSDB) のあるシステムのチェックポイントからの MSDB がないまま、IMS が再始動されました。

システムの処置

MSDB イメージ・コピーはロードされません。

プログラマーの応答

MSDB が使用される場合は、IMS 始動プロシーチャーを変更してください。

DFS2592I **NO MSDBS LOADED DUE TO
PREVIOUS ERROR(S)**

説明

プログラム DBFDBDL0 が以前のエラーを検出し、MSDB はロードされませんでした。

システムの処置

ありません。

プログラマーの応答

このメッセージの前に出されたメッセージを参照してください。

DFS2593I **INVALID MSDB HEADER dbdname**

説明

シャットダウンと再始動の間にシステムに加えられた変更が原因で、エラーが発生しました。DBD dbdname

は、ACBLIB に一致しない MSDB チェックポイントの最初の DBD を示します。

システムの処置

MSDB イメージ・コピーはロードされず、MSDB は使用できません。

プログラマーの応答

データベース名、セグメント長さ、またはデータ域の長さをチェック および訂正してください。メッセージに示されている DBD に他の変更が加えられなかったか確認してください。また、ACBLIB が変更されていないかについても、確認してください。変更されている場合は、コールド・スタートでシステムを再始動してください。

DFS2594I NO CONTROL RECORD FOUND IN ddname RC=XX

説明

プログラム DBFDBDLO が、データ・セットから MSDB イメージ・コピーのロードを試みました。しかし、それは失敗しました。戻りコード XX により、以下の問題が特定されます。

コード
意味

01 データ・セットに MSDB チェックポイントが含まれていないか、チェックポイントが不完全であった。

02 アクティブ・システムがチェックポイントを取っている場合は、代替システムで 同じ MSDB チェックポイント・データ・セットは使用できない。この状態は一時的なものです。

システムの処置

システムは、次のように戻りコードに基づく処置を行います。

01 MSDB イメージ・コピーはロードされず、MSDB は使用できない。

02 システムは、MSDB データ・セットが正常に読み取れるまで、3 秒ごとにその再読み取りを行う。

プログラマーの応答

戻りコードに応じて、次のように処置を取ってください。

01 JCL が正しいか確認してください。正しくない場合は、可能であれば、別のチェックポイント・デー

タ・セットから IMS を再始動し、そうでなければ、MSDB リカバリー・ユーティリティを実行して、新しい初期ロード・データ・セットを作成し、MSDBLOAD を使用してシステムを再始動してください。

02

システムがチェックポイント・データ・セットを再読み取りします。メッセージ RC=02 が 1 回しか出ない場合は、応答の必要はありません。メッセージ RC=02 が複数回出される場合は、アクティブ IMS の状況をチェックしてください。アクティブ IMS がダウンしている場合、またはアクティブ IMS 内の MSDB チェックポイント・データ・セットで入出力エラーが発生した場合は、**/STOP BACKUP** コマンドを入力して、代替 IMS を停止してください。

DFS2595I MSDB IMAGE COPY LOADED FROM CHKPT DATA SET ddname

説明

このメッセージでは、MSDB イメージ・コピーがチェックポイント・データ・セット *ddnamebb* からロードされたことを検証しています。

DFS2596I I/O ERROR IN ddname,cc,co,stat,sens,cchhr

説明

プログラム DBFDBDLO が MSDB チェックポイント・データ・セットの読み取りを試み、入出力エラーが発生しました。メッセージ・テキストでは、次の情報が提供されます。

cc ECB 完了コード

co エラーの原因となった CCW のコマンド・コード

stat 状況情報

sens センス・バイト

cchhr エラーが発生したディスク・アドレス

システムの処置

IMS はロード・プロセスを停止し、MSDB は使用できません。

プログラマーの応答

以下のステップを試してください。

1. 別の装置からロードを試みてください。

2. MSDB リカバリー・ユーティリティーを使用して、初期ロード・データ・セットを作成し、MSDBLOAD を使用してシステムを再始動してください。

**DFS2597I INVALID MSDB POOL LENGTH IN
 ddname, IMAGE COPY IGNORED**

説明

プログラム DBFDBDLO が、MSDB チェックポイント・データ・セット 制御レコードと ESCD で指定されている、固定またはページング可能 主記憶データベース (MSDB) プールの長さに違いがあることを 検出しました。MSDB は、MSDB チェックポイント・データ・セットからロードされません。

システムの処置

処理は続行されますが、緊急時再始動時は例外で、IMS は異常終了 0168 で終了します。

プログラマーの応答

MSDB 定義が IMS シャットダウンと再始動の間で 変更されなかったか、確認してください。

関連情報

[IMS 異常終了 0168](#)

**DFS2598I (ccccffss) AREA=areaname
 DD=ddname UNEXPECTED MEDIA
 MANAGER MMCALL ERROR**

説明

メディア・マネージャーで無効の制御ブロックが使用されたため、予期しないメディア・マネージャー MMCALL エラーが発生しました。変数 *ccccffss* は、問題判別に使用されるメディア・マネージャー・エラーの戻りコードを表します。

システムの処置

入出力読み取り要求からのエラーは、物理読み取り入出力からのエラーと同様に処理されます。IMS ブロックは、障害のある CI にさらにアクセスし、CI-RBA をエリアの 2 番目の CI に記録します。データ・セットはオープン状態のままですが、エラー・ログ (タイプ X'24') は生成されません。エラーが更新に関する入出力要求の結果であった場合は、このエリアで使用可能な唯一のデータ・セットである場合は、IMS はデータ・セットをクローズし、エリアを停止します。MVS SDUMP が問題判別のために、SYS1.DUMP データ・セットに取られます。

オペレーターの応答

データ・セットはクローズされるが、エリアが停止されない場合は、DEDB エリア・データ・セット作成ユーテ

ィリティーを実行して、データ・セットをリカバリーしてください。エリアが停止される場合は、データベース・リカバリー・ユーティリティーを使用して、エリアをリカバリーしてください。

システム・プログラマーの応答

引き続きエラーが発生する場合やデータ・セットが必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、追加の分析を依頼してください。

プログラマーの応答

障害のある CI へのアクセスが試みられると、アプリケーション・プログラムが状況コード AO を受信します。CI にアクセスできるのは、データベース・リカバリー・ユーティリティー、または DEDB エリア・データ・セット作成ユーティリティーが実行された後です。

問題判別:

1、6、11、20

関連資料

[z/OS: メディア・マネージャーの戻りコード](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2599I BLDL FAILED FOR RAND. MODULE
 XXXXXXXXX DEFINED IN DMCB
 XXXXXXXXX**

説明

プログラム DBFINI24 は、データベース生成時に DEDB マスター制御ブロック (DMCB) に関して定義されたランダム化モジュール (XXXXXXXXX で特定される) を検出できませんでした。

システムの処置

IMS は実行を継続します。ただし、定義済み DMCB は、現在の IMS システムでは使用不能です。この DEDB へのアクセスの結果は、状況コード FH になります。

プログラマーの応答

この問題を訂正するために、以下のステップを実行してください。

1. 欠落しているランダム化モジュールを、RMODE の正しい BIND 時刻指定をして検索対象ライブラリーの 1 つにインストールする。
2. **/STO DB** または **UPDATE DB STOP (ACCESS)** コマンドを DEDB に対して発行する。

3. ランダマイザーを再ロードするために、**/START DB**
または **UPDATE DB START (ACCESS)** コマンドを
DEDB に対して発行する。

DFS2600A **OPEN ERROR FOR DEDB UTILITY,**
 DB xxxxxxxx

説明

SYSIN または SYSPRINT のオープン・エラーが発生しました。

システムの処置

ユーティリティーは停止されます。

オペレーターの応答:

問題の訂正方法については、このメッセージの前に発行されている OS/VS データ管理エラー・メッセージを参照してください。

第 56 章 DFS メッセージ DFS2601I - DFS2650A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2601I **DEDB UTILITY xxxxxxxx STARTED,**
DB xxxx AREA xxxx

説明

DEDB ユーティリティーが、指定されたデータベースおよびエリアで正常に開始されました。

DFS2602I **DEDB UTILITY xxxxxxxx ENDED,**
DB xxxx AREA xxxx

説明

DEDB ユーティリティーが、指定されたデータベースおよびエリアで処理を完了しました。

DFS2603A **SYSPRINT ERROR FOR DEDB**
UTILITY

説明

入出力エラーが、メッセージ DFS2604A に示されているように、ユーティリティーのシステム出力で発生しました。

システムの処置

ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答

このメッセージよりも前に出されている z/OS データ管理エラー・メッセージに従って、エラーを訂正してください。

関連情報

759 ページの『DFS2604A』
DB xxxx AREA xxxx

DFS2604A **DB xxxx AREA xxxx**

説明

このメッセージで、メッセージ DFS2603A で参照されている入出力エラーが発生したデータベースおよびエリアが特定されます。

システムの処置

ユーティリティーは終了します。

関連情報

759 ページの『DFS2603A』

SYSPRINT ERROR FOR DEDB UTILITY

DFS2605I **AREA=areaname DD=ddname,**
ERROR IN RBA OF CI READ, CI-
RBA=xxxxxxxx

説明

VSAM 読み取りから戻された、バッファ内の相対バイト・アドレス (RBA) が、要求された RBA に等しくありません。

システムの処置

バッファは戻され、高速処理データベース (DEDB) は使用可能のままになります。

プログラマーの応答

エリアで制御インターバル (CI) の RBA フィールドに有効なデータがないか、チェックしてください。アンロードまたは再ロード操作中に、エラーが発生した可能性があります。

DFS2606I **ERROR IN CIDF OF CI READ**

説明

VSAM 読み取りから戻された、バッファ内の制御インターバル定義フィールド (CIDF) に、このエリアのレコード・サイズの制御インターバル (CI) が示されていませんでした。

システムの処置

バッファは戻され、高速処理データベース (DEDB) は使用可能のままになります。

プログラマーの応答

エリアで CI の CIDF フィールドに有効なデータがないか、チェックしてください。アンロードまたは再ロード操作中に、エラーが発生した可能性があります。

DFS2607I **SYSDIN I/O ERROR FOR DEDB**
UTILITY

説明

DEDB ユーティリティーを実行している最中に、入出力エラーが SYSDIN データ・セットで発生しました。

システムの処置

ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答

適切な処置を取ってエラーを訂正した上で、ユーティリティーを再実行してください。

DFS2608W MSDBS NOT AVAILABLE - NO MSDBCPX DATA SET NAMES FOUND IN CHECKPOINT

説明

主記憶データベース (MSDB) が使用できませんでした。IMS ウォーム・リスタートまたは緊急時再始動処理時に、1つ以上の MSDB データベース定義がチェックポイント・ログ・レコードで検出されました。しかし、このチェックポイント・ログ・レコードには、再始動時に IMS が MSDB をロードする元の MSDB チェックポイント・データ・セット (MSDBCPX) の名前が含まれていませんでした。

IMS の直前の実行の再始動で、MSDB がロードされませんでした。MSDB データベース・ランタイム・リソース定義は、**CREATE DB** または **IMPORT DEFN DEFN** コマンドからのオンライン変更または動的リソース定義によって後で追加されました。MSDB ランタイム・リソース定義は、システム・チェックポイント時にチェックポイント・ログ・レコードに含まれましたが、直前の IMS 実行時にロードされた MSDB データベースがなかったため、IMS システム・チェックポイント時に MSDB チェックポイント・データ・セット (MSDBCPX) に MSDB が書き込まれませんでした。

システムの処置

IMS は処理を続けますが、MSDB データベースは使用不可です。

プログラマーの応答

MSDB データベースを使用可能にするには、MSDBLOAD キーワードを指定して IMS をコールド・スタートまたはウォーム・リスタートしてください。これにより、MSDBINIT データ・セットから MSDB データベースがロードされます。MSDBINIT データ・セットには、新たに作成されたすべての MSDB リソースの MSDB データベースが含まれている必要があります。

モジュール:
DBFINI21

DFS2609 CONTROL BLOCK ERRORS. CONVERSATION TERMINATED.

説明

ウォームまたは緊急時再始動時に、IMS 会話に関連した IMS 制御ブロックが妥当性検査されます。そこでエラーが検出されたので、IMS が、影響を受けた会話を終了させました。

無効の制御ブロックのため、1つ以上の IMS 会話が終了しました。IMS は、診断情報が含まれている X'3C' ログ・レコードを書き込みます。

システムの処置

再始動処理が続行されます。

問題判別:

1、5、25、26、36

モジュール:

DFSCFIX0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2610 MSG-Q ERRORS FOUND/ CORRECTED. MSG MAY BE LOST.

説明

モジュール DFSQFIX0 が、無効データを検出したか、メッセージ・キューに入っているメッセージと制御ブロックの間の不整合を検出したか、あるいはその両方を検出し、キューを有効にしました。このプロセスが原因で、一部のメッセージまたは会話、あるいはその両方が失われた可能性があります。

システムの処置

無効のデータ、訂正後の制御ブロック、およびパージされたメッセージがあればそれも、IMS ログに書き込まれました。処理は訂正後のキューから続行されます。

問題判別:

1、5、25、26、36 (会話がかわっている場合)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2611I COMMAND NAME NOT FOUND

説明

プログラムが DEDB ユーティリティー・コマンド名を探索しました。入力行にコマンド名がなかったか、プログラムがその有効コマンド名テーブルで名前を検出できませんでした。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ入力に訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2612I **OPERAND DATA LEFT OVER**

説明

プログラムは、このコマンドに関して予測したすべてのオペランドを処理しましたが、入力行にはまださらにオペランド・データがありました。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ入力に訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2613I **UNABLE TO INTERPRET OPERAND**

説明

オペランド・フィールドが省略されたか、示されていたが、このコマンドでの有効な選択項目のいずれとしても認識されませんでした。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ入力に訂正してください。その上で、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2614I **UNUSABLE NAME**

説明

プログラムが、オペレーティング・システムで使用される名前をスキャンしました。プログラムが検出した名前は、次のいずれかの理由で使用が不可能でした。

- 名前が 8 文字を超えていた。
- 先頭文字が英字ではなかった。
- 先頭以外の文字に、英数字でないものがあった。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ入力に訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2615I **UNABLE TO CONVERT
SEQUENTIAL DEPENDENT
ADDRESS**

説明

プログラムは、X"16 進数字" の形式による 16 進順次従属アドレスを想定していました。X または左引用符が欠落していました。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ入力に訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2616I **UNABLE TO RECOGNIZE
KEYWORD**

説明

プログラムは、後に等号が続くキーワードを探索しました。次のいずれかの問題が発生しました。

- キーワードが欠落していた。
- キーワードが、このコマンドのキーワード・テーブルになかった。
- 等号が欠落していた。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ 入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2617I UNABLE TO FIND STARTING QUOTE

説明

プログラムは、引用符で囲まれたストリングを検出できませんでした。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ 入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2618I UNABLE TO SCAN FIELD VALUE

説明

プログラムは、形式が C"文字"、X"16 進数"、または P"10 進数" の値指定を検索しました。先頭文字が C でも X でも P でもなかったか、2 番目の文字が引用符ではありませんでした。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ 入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2619I UNABLE TO SCAN FULLWORD VALUE

説明

プログラムが 32 ビット値のスキャンを試みました。フィールドが省略されていたか、フィールドの先頭文字 X に続く引用符がありませんでした。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ 入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2620I UNABLE TO FIND ENDING QUOTE

説明

プログラムは、引用符で開始された値をスキャンし、それが引用符で終わると予想しました。しかし、オペランド・フィールドの終わりが最初に検出されました。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ 入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2621I VALUE IS TOO LARGE

説明

プログラムが検出した入力の文字数が多すぎたか、この値を保管するために確保されていたスペースに収まると評価されていたビット数が多すぎました。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ 入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

**DFS2622I CHARACTER NOT RECOGNIZED AS
HEXADECIMAL DIGIT****説明**

プログラムが認識するのは、16進数字としての10進数字0から9と英大文字AからFです。それ以外の文字が16進数フィールドの一部として検出されました。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ入力訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

**DFS2623I CHARACTER NOT RECOGNIZED AS
DECIMAL DIGIT****説明**

プログラムは10進数値をスキャンしましたが、文字の1つが10進数字ではありませんでした。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ入力訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

**DFS2624I UNABLE TO HANDLE FIELD OF
LENGTH ZERO****説明**

入力に、X''またはC''などのように、引用符の間に何も入っていない指定が含まれています。プログラムでは、X'3'などのように、少なくとも1文字のデータが必要です。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ入力訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2625I COMMA OR BLANK IS EXPECTED.**説明**

プログラムがオペランド・フィールドの終わりに達し、ここでは、ブランクまたはコンマの検出が想定されています。コンマがあれば、別のオペランドの存在を示します。エラーは直前のオペランド、または区切り文字にある可能性があります。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ入力訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

**DFS2626I THIS SPECIFICATION CANNOT BE
CHANGED****説明**

ユーティリティ・タイプがすでに指定された後で、プログラムは **TYPE** コマンドを検出しました。プログラムではユーティリティを変更できません。DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに **ERRORACTION** コマンドでユーザーによって指定されているように行われません。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティ入力訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

**DFS2627I ERROR IN INITIALIZING XCI
RANDOMIZER, rrrrrrrr, FOR
DEDB=ddddddd, RETURN
CODE=xxxx, REASON
CODE=yyyyyyyy****説明**

拡張呼び出しインターフェース (XCI) ランダマイザー・ルーチンに対する初期設定呼び出し中に、エラーが検出されました。戻りコードと理由コードは両方とも、ユーザーの初期設定ルーチンについての限定的なものです。

システムの処置

ランダムマイザーは、ストレージから削除されます。

プログラマーの応答

初期設定ルーチンを訂正し、DEDB について、/START DB または UPDATE DB START (ACCESS) コマンドを再発行してください。

モジュール:

BFDBACO、DBFINI24、DBFMSIUO

**DFS2628I ERROR IN TERMINATING XCI
RANDOMIZER, rrrrrrrr, FOR
DEDB=ddddddd, RETURN
CODE=xxxx, REASON
CODE=yyyyyyyyy**

説明

拡張呼び出しインターフェース (XCI) ランダムマイザー・ルーチンに対する終了呼び出し中に、エラーが検出されました。戻りコードと理由コードは両方とも、ユーザーの終了ルーチンについての限定的なものです。

システムの処置

ランダムマイザーは、ストレージから削除されます。

プログラマーの応答

DEDB に対する後続の /DBR DB または UPDATE DB STOP (ACCESS) コマンドの終了ルーチンを訂正してください。

モジュール:

DBFARD30、DBFMSIUO

**DFS2629A DELETE: INVALID SDEP CI PACI
COUNT**

説明

V5COMP キーワードを指定して実行中のデータベース削除ユーティリティーが 事前割り振り SDEP CI (PACI) カウントに達していますが、これは、現行 CI の論理的削除の試行時には予想外の ことです。この場合、DFS2630I が発行されない可能性があります。

- QUITCI がデータベース・スキャン・ユーティリティーで使用された場合は、最高水準点 (HWM) 所有パートナーに対して現行 CI をできるだけ拡張し、新規 PACI セットを作成するための SDEP 挿入がそのパートナーに対してそれ以上行われないようにする、STOP 値を指定して、DELETE ユーティリティーが以前に実行されたことを、このメッセージは示しています。
- QUITCI がデータベース・スキャン・ユーティリティーで使用されなかった場合、このメッセージが示すの

は、以前に DELETE ユーティリティーが STOP 値を指定して実行されており、その STOP 値は、HWM 非所有パートナー上で、新規 PACI セットを作成するための SDEP 挿入が起こらないまま可能な限り現行 CI を拡張するものだった、ということです。

システムの処置

ユーティリティーは終了します。STATUS UL がメッセージ DFS2662A とともに発行されます。

プログラマーの応答

ユーティリティー 操作を完了するには、次のいずれか一方の処置を取ってください。

- データベース・スキャン・ユーティリティーを使用して、IMS パートナーにその現行および事前割り振り CI を、DELETE ユーティリティーの 実行に先立って解放させる。
- DELETE ユーティリティーを 再度実行する前に、SDEP が挿入されるまで待つ。

モジュール:

DBFCSTSO

関連情報

[773 ページの『DFS2662A』](#)

UTILITY NOT EXECUTED AS REQUESTED

**DFS2630I DELETE: V5COMP MOVED OFF
CURRENT CI**

説明

V5COMP キーワードを指定し、現行 CI より大きい STOP 値を使用して 実行中のデータベース削除ユーティリティーが、既存の現行 CI を論理的に削除し、新規 CI を 確立しています。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFCSTSO

**DFS2631A PARTNER CURRENT CI NOT LESS
THAN HWM FOR AREA = areaname**

説明

発生不可 (must-not-occur) 条件がデータ共用パートナーによって 検出されました。QUITCI に対する SDEP ユーティリティー機能が、このメッセージを発行する

IMS によって実行されることはなく、STATUS UL が SDEP ユーティリティによって発行されます。

システムの処置

ユーティリティはこのエリアに関して終了します。

オペレーターの応答

この問題がユーザー・エラーでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

プログラマーの応答

SDEP ユーティリティ制御ステートメントを確認し、コマンドを再実行してください。

問題判別:

3、8、25、36

モジュール:

DBFCSTSO

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2632A STOPRBA VALUE LESS THAN SDEP
LOGICAL BEGIN FOR AREA =
 areaname**

説明

V5COMP を使用する順次従属 (SDEP) ユーティリティの STOPRBA パラメーターの指定 RBA 値が、SDEP 論理開始 CI RBA より小さくなりました。問題を検出した IMS がこのメッセージを発行し、STATUS UL は SDEP ユーティリティによって発行されます。

システムの処置

ユーティリティはこのエリアに関して終了します。このメッセージには、STATUS UL およびメッセージ DFS2662A が付随します。

プログラマーの応答

STOPRBA がないか、SDEP ユーティリティ制御ステートメントをチェックしてください。

モジュール:

DBFCSTSO

関連情報

[773 ページの『DFS2662A』](#)

UTILITY NOT EXECUTED AS REQUESTED

**DFS2632I REDO SKIPPED FOR DB dbname
 AREA areaname AREA NOT FOUND
 IN ACBLIB**

説明

再始動でこのエリアに対するデータベース更新を検出しましたが、それらの更新は再実行を必要とするので、妥当性を検証できませんでした。エリアが OLC によって削除されたことを示す後続のログ TYPE5926 レコードまたは TYPE5927 レコードは存在しません。この状態が発生するのは、指定されたチェックポイントが取られた後に、ユーザーが IMS ブロック構造を変更した場合です。

このメッセージで指定されたエリアには、DBRC でリカバリーが必要というマークが付けられます。

システムの処置

入出力が再実行され、再始動が続行されます。

プログラマーの応答

指定されたチェックポイントが取られた後に IMS ブロック構造を変更したユーザーによって引き起こされたデータ保全性問題が存在しないことを確認してください。

モジュール:

DBFERS10

**DFS2633I DMAC SYNCHRONIZATION
 REJECTED FOR AREA=areaname**

説明

DMAC オフセットが無効であったため、DMAC 同期がリジェクトされました。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFCSTSO、DBFDMAC、DBFNCBSO

**DFS2634I AREA=areaname HWM CI OWNED,
 SDEP HARDENED LOCALLY**

説明

SDEP SCAN/DELETE が実行された場合、共用者は更新バッファを固定する必要があります。SDEP SCAN/DELETE が SYSIN 内に QUITCI を持ち、共用者が HWM CI を所有しておらず、HWM CI の RBA が現行 CI のそれ

よりも大きい場合、このメッセージは共用者上に書き込まれます。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS2635I **AREA=areaname HWM CI**
 Hardened Remotely

説明

SCAN または DELETE ユーティリティが、HWM 非所有パートナー上で実行されたときに発行されます。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS2636I **AREA=areaname PARTNER QCI**
 FREE LOCKS

説明

このメッセージが書き込まれるのは、FP ユーティリティの入出力要求が、事前割り振り CI に対する CI ロックを検出した場合です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS2637I **DEFAULT DELETE WITH V5COMP**
 FREES PARTNER QCI LOCKS
 DELETE + V5COMP + SHARED
 AREA: FORCED QCI

説明

V5COMP が指定された SDEP 削除ユーティリティに STOP 値が示されませんでした。したがって、デフォルトの停止が停止点になっており、すべてのパートナーで、その事前割り振りおよび現行 SDEP CI が論理的に削除されています。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFUMDLO、DBFUMRTO

DFS2638I **THERE ARE NO CIS TO DELETE**

説明

プログラム DBFUMDLO (SDEP 削除ユーティリティ) が、削除するエリアで順次従属 (SDEP) セグメントを検出できませんでした。セグメントがバッファーに存在する可能性があります。DASD に書き込まれていない場合は、セグメントは削除処理の対象になりません。

システムの処置

削除ユーティリティは正常に処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS2639I **SDEP CI LOCKED, CI xxxxxxxx**
 SKIPPED

説明

プログラム DBFUMRIO、エリア・データ・セット作成ユーティリティが、現在ロックされ、使用不能な CI へのアクセスを試みました。データがコミットされると、CI は両方のエリア・データ・セットに書き込まれます。

システムの処置

エリア・データ・セット作成ユーティリティは正常に処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS2640A **I/O ERROR IN ddname OUTPUT**
 DATA SET

説明

プログラム DBFUMCLO がこのスキャン・ユーティリティ・データ・セット用の DCB のクローズを試み、エラーが発生しました。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

オペレーターの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答

エラーの原因を判別するために、このメッセージよりも前に出された z/OS アクセス方式 エラー・メッセージをチェックしてください。

モジュール:

DBFUMCLO、DBFUMMSO

DFS2641A UTILITY ERROR

説明

DEDB ユーティリティがスペースの解放を試みましたが、要求はリジェクトされました。

システムの処置

ユーティリティはこのエリアに関して終了します。

オペレーターの応答:

この問題がユーザー・エラーでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

プログラマーの応答

削除ユーティリティの出口ルーチンがユーティリティを活動化したかチェックしてください。

DFS2642I NUMBER OF CI'S FOR SEQUENTIAL DEPENDENT SEGMENTS xxxxxxxx

説明

このメッセージには、使用中のエリアに関する順次従属セグメント用として割り振られたスペースが示されています。

DFS2643I NUMBER OF CI'S USED BY SEQUENTIAL DEPENDENT SEGMENTS xxxxxxxx

または

DELETE STOPPED PREMATURELY ON CI OWNED BY PARTNER *id*

説明

このメッセージには 2 つの形式があります。

最初の形式のメッセージでは、メッセージ・テキストにリストされている、順次従属セグメントによって使用される制御インターバル (CI) の数が示されます。

2 番目の形式のメッセージが出されるのは、DEDB 順次従属削除ユーティリティが、最大でユーザー指定 CI RBA、またはデフォルトの CI RBA を削除しない場合のみです。

識別されている IMS 共用パートナーが SDEP CI を保留しているため、DEDB 順次従属削除ユーティリティは停止しました。この状態は、以下の場合に発生します。

- パートナー IMS 障害によって、その緊急時再始動用として CI が保存される。
- パートナー IMS が、削除ユーティリティによって検出された事前割り振り CI を埋める速度で、SDEP セグメントをエリアに挿入していない。
- 異常終了後、プログラムまたはトランザクションが停止される。

システムの処置

ユーティリティの処理は停止します。

システム・プログラマーの応答

パートナーが CI を保留している理由を判別してください。/DISPLAY AREA または QUERY AREA コマンドを発行して、1 パートナーに関する SDEP CI 使用状況を表示してください。IMS パートナーがリソース (例えば、ログ・データ・セット、プログラムをスケジューリングするのに使用するリソース、DBRC 要求、またはロック) を待っている可能性があります。IMS パートナーが実行中のハードウェアおよびオペレーティング・システムに制約があるか、容量が不十分であるため、共用グループの残り歩調を合わせられない可能性があります。

保留されている CI の後に続く CI が削除ユーティリティで使用できるようにするには、次のいずれかの処置を取ってください。

- データベース・スキャンまたは削除ユーティリティの QUITCI オプションを使用して、CI を所有している IMS パートナーに CI を解放させる。

この CI に SDEP セグメントが含まれている場合は、QUITCI オプションの使用後、DELETE ユーティリティを実行する前に、それらの SDEP セグメントをすべて SCAN ユーティリティで検索し、出力ファイルに入れる。



重要: CI が削除された後は、そこに含まれていたデータへのアクセスは不能です。

- パートナーが CI を解放し、再度削除ユーティリティーを実行するのを待つ

**DFS2644I NUMBER OF CI'S NOT USED BY
SEQUENTIAL DEPENDENT
SEGMENTS xxxxxxxx**

説明

このメッセージでは、メッセージ・テキストに リストされている順次従属セグメントで使用されない制御インターバル (CI) の数を印刷します。

**DFS2645I UTILITY STOP CI RBA xxxxxxxx
yyyyyyyy**

または

UTILITY STOP SEG TS *clock value*

または

UTILITY STOP USED CI xxxxxxxx yyyyyyyy

または

UTILITY STOP *io/ci#* xxxxxxxx yyyyyyyy

または

UTILITY STOP SEGEND xxxxxxxx yyyyyyyy

説明

順次従属ユーティリティーが、タイム・スタンプ xxxxxxxx yyyyyyyy で処理を停止しました。ユーティリティーが処理を停止した理由は、次のいずれかによります。

SCAN

- UTILITY STOP CI RBA がサイクル・カウント、および SCAN が停止した制御インターバル (CI) 境界である。
- UTILITY STOP SEG TS が、SCAN 停止に関連したタイム・スタンプである。
- UTILITY STOP SEGEND が、サイクル・カウント、および SCAN によって読み取られた最後の SDEP (非ダミー) データ・セグメントの RBA である。
- UTILITY STOP USED CI が、サイクル・カウント、および SCAN がフルとマークされていないとして検出した CI 境界である。QUITCI が指定されて

いない場合は、SCAN がこの CI を越えて進むことはありません。

- UTILITY STOP *io/ci#* が、実行された入出力操作の数および処理された CI の数である。

DELETE

- UTILITY STOP CE RBA がサイクル・カウント、および DELETE が停止した CI 境界である。
- UTILITY STOP SEG TS が、DELETE 停止時刻に 3 マイクロ秒を加えた時刻に関連したタイム・スタンプである。
- UTILITY STOP *io/ci#* が、実行された入出力操作の数および処理された CI の数である。

システムの処置

ユーティリティーは正常に完了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFUMPRO

**DFS2646A OPEN ERROR FOR *ddname*
OUTPUT DATA SET**

説明

プログラム DBFUMOP0 がこのスキャン・ユーティリティー・データ・セット用の DCB のオープンを試み、エラーが発生しました。原因となる可能性があるのは、次の場合です。

- DD ステートメントが欠落している。
- JCL に誤りがある。
- ハードウェア・エラーが存在する。
- SCANCOPY について SYSOUT が指定された。

システムの処置

ユーティリティーは終了します。

オペレーターの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答

エラーの原因を判別するために、このメッセージよりも前に出された z/OS アクセス方式 エラー・メッセージをチェックしてください。

モジュール:
DBFUMOP0、DBFUMMS0

DFS2647I **SEGMENTS EXPANDED WITH**
exitname EXIT: nnnnnnnn

システムの処置

出口による通常、展開、圧縮セグメントの実行

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFUMSCO

DFS2648A **PAGE FIX NOT POSSIBLE**

説明

CSA で十分なスペースが使用可能でなかったため、プログラム DBFUMOP0 がページ固定できませんでした。

システムの処置

ユーティリティーは現行エリアに関して終了します。

システム・プログラマーの応答:

システムでの CSA 要件が低くなった時点で、ジョブを再実行してください。

DFS2649I **NUMBER OF SEGMENTS SCANNED**
IN areaname = nnnnnnnn

説明

順次従属スキャン・ユーティリティーが、メッセージに示されている SDEP セグメントの数 (nnnnnnnn) を検索しました。

システムの処置

ユーティリティーは正常に完了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFUMSCO

DFS2650A **AREA xxxxxxxx DOES NOT EXIST**

説明

指定したエリア名は、データベース内に存在しません。

システムの処置

ユーティリティーは、このエリアに関しては呼び出されません。

プログラマーの応答

パラメーター・ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

第 57 章 DFS メッセージ DFS2651A - DFS2700A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS2651A OTHER UTILITY ACTIVE IN AREA
aaaaaaaa**

説明

別のユーティリティ HSSP、または VSO プリロードが同じエリアに関してアクティブであったため、プログラム DBFUMRTO は開始できませんでした。

システムの処置:

ユーティリティは、このエリアに関しては呼び出されませんでした。

オペレーターの応答

他のユーティリティ HSSP、または VSO プリロードがエリアの処理を終了したら、このユーティリティを実行してください。以前のユーティリティが正常に完了しなかった場合も、このメッセージが出される可能性があります。この状態が発生した場合は、**/STOP AREA** または **UPDATE AREA STOP(SCHD)** コマンド、および **/START AREA** または **UPDATE AREA START(ACCESS)** コマンドを、そのエリアについて発行し、要求されたユーティリティが実行されるようにします。

モジュール:
DBFUMRTO

**DFS2652A REORGANIZATION HAS TO BE
RESTARTED IN AREA xxxxxxxx**

説明

再編成ユーティリティがこのエリアで異常終了しました。

システムの処置

ユーティリティは、このエリアに関しては呼び出されません。

プログラマーの応答

再編成ユーティリティを実行してください。

**DFS2653I UTILITY IN AREA=areaname
PREVIOUSLY ABNORMALLY
TERMINATED**

または

**UTILITY IN AREA=areaname STILL ACTIVE DURING
SHUTDOWN**

説明

このメッセージの最初の形式では、以前に実行された Scan、Delete、Compare、または Create ユーティリティが、指定されたエリアで異常終了したことを示します。この形式のメッセージは、通知のみが目的です。

このメッセージの 2 番目の形式では、HSREORG または HSSP がシャットダウン中、エリアに関してアクティブであることを示します。シャットダウンは、ユーティリティが終了するのを待ちます。シャットダウンが完了すれば、メッセージには通知の目的しかありません。シャットダウンが完了しない場合は、ユーティリティはエリアに関して異常終了しましたが、クリーンアップを完了するために、ユーティリティが実行されることはありませんでした。

システムの処置

最初の形式のメッセージの場合は、使用されている高速機能ユーティリティは、次のエリアでの実行を続けます。

プログラマーの応答

2 番目の形式のメッセージを受信し、シャットダウンが完了しなかった場合は、IMS を取り消し、緊急時再始動を実行してください。

**DFS2654A CHANGE OF UTILITY FOR THIS
AREA**

説明

異なるエリアでの実行が 1 つのユーティリティ・タイプのみを使用して行われる必要があります。

システムの処置

ユーティリティは、このエリアに関しては呼び出されません。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS2655A OPEN FAILED FOR
 AREA=areaname**

説明

高速機能基本モジュール・ユーティリティ
DBFUMRT0 が実行されている最中に、指定されたエ
リアでオープン・エラーが発生しました。

システムの処置:

高速機能基本モジュール・ユーティリティは、指定
されたエリアに関して停止されます。

システム・プログラマーの応答:

メッセージ DFS3702I をチェックして、エラーの理由
を見つけてください。エラーを訂正したら、ジョブを
再実行してください。

関連情報

1083 ページの『DFS3702I』
AREA/ADS OPEN FAILED
REASON CODE=*nn message subtext*

DFS2656A INVALID DISCONNECT CALL

説明

プログラム DBFUMRT0 がエリアの切断を試みまし
たが、接続されていなかったエリアです。

プログラマーの応答

エラーが以前に発生しました。そのエラーを訂正し、
ジョブを再実行してください。

**DFS2657I UTILITY EXECUTED AS
 REQUESTED**

または

**UTILITY EXECUTED AS REQUESTED VSPEC
SDEPQCI STATEMENT FORCED QUITCI**

説明

このメッセージでは、ユーティリティの実行中に、エ
ラーが検出されなかったか検証します。

DFS2658A WRONG PROGRAM NAME

説明

無効なパラメーターが TYPE マクロで使用されました。

システムの処置

ユーティリティは、このエリアに関しては呼び出され
ません。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS2659A *xx* UNEXPECTED RETURN CODE,
 *yy***

説明

高速機能基本モジュール・ユーティリティ
(DBFUMRT0) が位置付け ('POS') 呼び出しを行い、非ブ
ランクの状況コード (*xx*) を受け取りました。メッセ
ジ・テキストで、*yy* は高速機能状況コードです。

このメッセージを受け取る可能性があるのは、SDEP ス
キャンまたは削除ユーティリティを実行したものの、
両立しない組み合わせのパラメーターがあるか、SDEP
SCAN/DELETE カードが欠落している場合です。例え
ば、STARTROOT が定義されているにもかかわらず、
STOPROOT が指定されなかったか、または STOPSEQ が
指定され、V5COMP が指定されなかった場合です。

システムの処置

このユーティリティは、要求されたエリアに対して呼
び出されません。

プログラマーの応答

位置付け状況コードの説明をチェックしてください。
エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

関連資料

高速機能ユーティリティの状況コードおよび
理由コード(メッセージおよびコード)

**DFS2660A ROOT SEGMENT HAS NO
 SEQUENTIAL DEPENDENT
 SEGMENTS**

説明

IMS は、処理限界を判別できませんでした。

システムの処置

ユーティリティは、このエリアに関しては呼び出され
ません。

プログラマーの応答

順次セグメントがあるルート・セグメントのみを使用し
て、パラメーター入力を訂正してください。

**DFS2661A INVALID VALIDATION CALL, CODE
 XX**

説明

IMS 高速機能が、使用する高速機能ユーティリティー・プログラムに対する入力パラメーターの妥当性検査を試みて、エラーを検出しました。以前のエラー(コードは印刷されなかった)か、既存の処理限界に関するパラメーター・エラーがありました。

システムの処置

使用する高速機能ユーティリティーが、このエリアで呼び出されていません。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2662A UTILITY NOT EXECUTED AS
 REQUESTED**

説明

エラーにより、ユーティリティーは実行できませんでした。

プログラマーの応答

環境エラーを修正して、ジョブを再実行依頼し、LIST.RECON で ADS の状況を確認してください。

- ・シャドー ADS がアクティブ ADS に変更されていない場合は、環境エラーを修正して、ジョブを再実行依頼してください。
- ・シャドー ADS がアクティブ ADS に変更されている場合は、再実行するのは不可能です。
- ・新しいアクティブ ADS がすべて使用不可になっている場合は、USEAREA オプションを使用して、シャドー・イメージ・コピー・データ・セットから ADS をリカバリーしてください。

**DFS2663A SYSIN RECORD SIZE EXCEEDS
 MAXIMUM LIMIT OR RECORD
 FORMAT NOT ALLOWED**

説明

指定したレコード・サイズが 最大限度 120 を超えていたか、指定したレコード・フォーマットが無効でした。

システムの処置

ユーティリティーは、このエリアに関しては開始されません。

プログラマーの応答

SYSIN DD ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS2664A UNIT OF WORK NUMBER NOT
 WITHIN LIMITS OR LOGICAL
 ORDER**

説明

再編成ユーティリティーに関する作業単位限度を指定するパラメーターに、次のいずれかのエラーがありました。

- ・上限が下限より低かった。
- ・DBD における限度にエリア記述との整合性がなかった。
- ・複数の STARTUOW または STOPUOW が 1 つの要求内で指定された。

システムの処置

ユーティリティーは、このエリアに関しては呼び出されません。

プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS2665I UTILITY SKIPPED IN AREA
 XXXXXXXXX DUE TO RESTART
 REQUEST**

説明

再始動要求を理由に、このエリアのスキップを要求しました。

システムの処置

ユーティリティーは、このエリアに関しては呼び出されません。

**DFS2666A WRITE ERROR ON SCANIDT DATA
 SET**

または

WRITE ERROR ON SCANCOPY DATA SET

説明

プログラム DBFUMSCO がスキャン・データ・セットに書き込めませんでした。

システムの処置

スキャン・ユーティリティーは停止されます。

オペレーターの応答:

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

プログラマーの応答

エラーの原因を判別するために、このメッセージよりも前に出された z/OS データ管理エラー・メッセージを確認してください。

**DFS2667A xx STATUS FROM I/O PROCESS IN
 AREA**

説明

高速機能ユーティリティーがデータベースの処理中に、状況コード xx で定義されている状態を検出しました。

システムの処置

ユーティリティーはこのエリアに関して停止されます。

オペレーターの応答

このメッセージよりも前に出されている z/OS データ管理エラー・メッセージに従って、適切な処置をとってください。詳しくは、高速機能ユーティリティーの状況コード、および z/OS データ管理エラー・メッセージ (このメッセージの前に出された場合) を参照してください。

関連資料

高速機能ユーティリティーの状況コードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

**DFS2668A OUTPUT TOO LONG FOR SCAN
 BUFFER**

説明

ユーザーに戻されたメッセージが長すぎました。

システムの処置

ユーティリティーはこのエリアに関して停止されます。

プログラマーの応答

出口ルーチンを訂正してください。

**DFS2669A GET AREA LOCK FAILED,
 AREA=areaname**

説明:

DBFUMRT0 からのエリア接続呼び出しを処理している最中に、エリア・ロック要求が失敗しました。STATUSUL が設定されます。

システムの処置:

ユーティリティーは終了し、メッセージ DFS2662A が出されます。

プログラマーの応答:

エラーの原因を判別し、ユーティリティーを再実行してください。

関連情報

773 ページの『DFS2662A』
UTILITY NOT EXECUTED AS REQUESTED

**DFS2670I DATA BASE NAME dbname
 SPECIFIED FOR FAST PATH DEDB
 UTILITY IS INVALID**

説明

高速機能 (IFP) 領域が初期設定されませんでした。第 3 定位置オペランドの PSB 名が DBFFPU0 として指定され、EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの第 2 定位置オペランドのデータベース名が、IMS システム定義で DEDB として定義されていないからです。

システムの処置

従属領域が異常終了し、異常終了コード 0458 が示されます。

プログラマーの応答

データベース名を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

8、9、10、17d

関連情報

IMS 異常終了 0458

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2671I UNABLE TO UPDATE UTILITY
 CONTROL DATA: AREA xxxxxxxx,
 UOW nnnnnnn**

説明

DEDB 直接再編成ユーティリティー DBFUMDR0 が、リソースの所有権の解放も独立オーバーフロー制御インターバルのカウントの更新もしませんでした。作業単位番号およびそのエリア名が示されています。

システムの処置

DEDB 直接再編成ユーティリティーが終了し、戻りコード 8 が示されます。データベースは使用可能です。

プログラマーの応答

ユーティリティを再始動してください。

**DFS2672A (LOG|CHNG) REQUEST FAILED:
AREA xxxxxxxx, UOW nnnnnnn**

説明

DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 が、示されている内部要求に応じられませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

エリア名

nnnnnnn

影響を受けた作業単位の番号

LOG 要求が作成フェーズの終了時に、"copy phase reached" 標識をログに記録するためになされます。CHNG 要求がコピー・フェーズの終了時に、"copy phase" 標識をリセットするためになされます。

システムの処置

ユーティリティは終了し、戻りコード 24 が示されます。データベースは使用不能です。

プログラマーの応答

障害のある作業単位からユーティリティを再始動してください。

**DFS2673I UTILITY STOPPED AFTER AREA
xxxxxxx, UOW nnnnnnn**

説明

DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 が、オペレーターの要求で停止されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

エリア名

nnnnnnn

最後に再編成された作業単位

システムの処置

DEDB 直接再編成ユーティリティが終了し、戻りコード 4 が示されます。データベースは使用可能です。

プログラマーの応答

必要な場合、次の作業単位からユーティリティを再始動してください。

**DFS2674A I/O ERROR OCCURRED WHEN
ATTEMPTING TO WRITE TO
AREA=areaname UOW=nnnnnnnn
IN (BUILD|COPY) PHASE**

説明

エリアおよび作業単位 (UOW) nnnnnnnn に対する書き込みを試みていて、DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 が入出力エラーを検出しました。

メッセージ・テキストにある BUILD が示すのは、このメッセージが DEDB 直接再編成ユーティリティの作成フェーズ中に発行されたことです。再編成された UOW への書き込み中にエラーが発生しました。エリアはまだ使用可能ですが、すべてのデータ・セットには、各データ・セットの再編成された作業単位 (UOW) 内の相対バイト・アドレス (RBA) が同じである、未書き込みの制御インターバル (CI) があります。

メッセージ・テキストにある COPY が示すのは、このメッセージが DEDB 直接再編成ユーティリティのコピー・フェーズ中に発行されたことです。元の UOW への書き込み中にエラーが発生しました。DEDB 直接再編成ユーティリティは、元の UOW に関して、その操作を続行します。

システムの処置

BUILD フェーズに関しては、ユーティリティは終了します。ユーザーはエリアを停止し、後でリカバリーできます。COPY フェーズに関しては、ユーティリティはその操作を続行します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

ユーザーは、エリアを停止した後に、エリアをリカバリーできます。

**DFS2675A I/O ERROR OCCURRED WHEN
ATTEMPTING TO READ FROM
AREA=areaname UOW=nnnnnnnn
IN (BUILD|COPY) PHASE**

説明

DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 が、エリアおよび作業単位 nnnnnnnn からの読み取りを試みていて、入出力エラーを検出しました。

メッセージ・テキストにある BUILD が示すのは、このメッセージが DEDB 直接再編成ユーティリティの BUILD フェーズ中に発行されたことです。元の UOW からの読み取り中にエラーが発生しました。エリアはまだ使用可能ですが、すべてのデータ・セットには、各データ・セットの元の UOW 内の相対バイト・アドレス (RBA) が同じである、読み取り不能の制御インターバルがあります。

メッセージ・テキストにある COPY が示すのは、このメッセージが DEDB 直接再編成ユーティリティの COPY フェーズ中に発行されたことです。再編成された UOW からの読み取り中にエラーが発生しました。システムはエリアを停止し、エリアを要リカバリー状況に設定します。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

オペレーターの応答

BUILD フェーズでは、エリアを停止してから、後でリカバリーできます。正常にリカバリーが終わったら、ジョブを再実行依頼してください。COPY フェーズでは、即時にエリアをリカバリーする必要があります。

DFS2676A	UNABLE TO GET CONTROL OF A RESOURCE FOR AREA xxxxxxxx, UOW nnnnnnn
-----------------	---

説明

DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 が、独立オーバーフロー制御 CI の排他制御を取得できませんでした。

システムの処置:

ユーティリティは終了し、戻りコード 24 が示されます。

プログラマーの応答

障害のある作業単位からユーティリティを再始動してください。

/STOP AREA または **UPDATE AREA STOP(SCHD)** に続けて **/START AREA** または **UPDATE AREA START(ACCESS)** を発行してから、ユーティリティを再始動してください。**/STOP AREA**、**UPDATE AREA STOP(SCHD)**、**/START AREA**、または **UPDATE AREA START(ACCESS)** を発行しなかった場合は、ユーティリティが再始動されると、メッセージ DFS2651A が表示される可能性があります。

関連情報

771 ページの『DFS2651A』
OTHER UTILITY ACTIVE IN AREA aaaaaaaa

DFS2677A	UNABLE TO FREE CONTROL OF A RESOURCE FOR AREA xxxxxxxx, UOW nnnnnnn
-----------------	--

説明

DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 が、独立オーバーフロー・スペースの割り振りまたは割り振り

解除を試みたものの、独立オーバーフロー制御 CI の排他制御を解放できませんでした。

システムの処置

ユーティリティは終了し、戻りコード 24 が示されます。データベースは使用不能です。

プログラマーの応答

障害のある作業単位からユーティリティを再始動してください。

DFS2678I	UNABLE TO ALLOCATE SUFFICIENT OVERFLOW SPACE FOR AREA xxxxxxxx, UOW nnnnnnn
-----------------	--

説明

DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 は、使用可能なスペースがなかったため、独立オーバーフロー・スペースを参照されている作業単位用として割り振られませんでした。作業単位は再編成されません。

システムの処置

参照されている作業単位に対してユーティリティが割り振った独立オーバーフロー・スペースがあれば、すべて解放されます。ユーティリティは、次の作業単位から処理を続行します。

プログラマーの応答

他の作業単位の再編成により十分な独立オーバーフロー・スペースが解放された場合は、ユーティリティを再実行することにより、参照されている作業単位を再編成してください。

DFS2679A	TYPE AND/OR AREA NOT SPECIFIED
-----------------	---------------------------------------

説明

または

TYPE AND/OR AREA、**ADDAREA**、**ALTERAREA**、**REPLRAND**、**ALTERDB** NOT SPECIFIED

説明

以下の必須値が 1 つ以上指定されなかったか無効でした。

- ・パラメーター・タイプ (AREA または ALTER)。ALTER タイプが指定された場合、DEDB 変更ユーティリティ・パラメーター (ALTERDB、ADDAREA、

ALTERAREA、REPLRAND) も指定する必要があります。

- DEDB 名。

システムの処置

ユーティリティーは、このエリアに関しては活動化されません。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMMS0

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティー \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティー\)](#)

DFS2680I SYNAD error message buffer

説明

このメッセージには、MVS SYNAD エラー・メッセージ・バッファーが含まれています。

システムの処置

MSDB チェックポイントの制御レコードが読み取れない場合は、高速機能は使用不能になります。

プログラマーの応答

別の装置から試行するか、別の直接アクセス・ストレージ・デバイスにデータ・セットをコピーしてください。

関連資料

[z/OS: SYNADAF エラーの説明](#)

DFS2681I ddname OPEN ERROR

説明

プログラム DBFNRS0 が、このデータ・セットに関して、DCB を開けませんでした。原因となる可能性があるのは、次の場合です。

- DD ステートメントが欠落している。
- JCL に誤りがある。
- ハードウェア・エラーが存在する。

システムの処置

システムは、2 番目の MSDB データ・セットを開こうと試みます。2 番目のデータ・セットが開けなかった場合は、高速機能は使用不能になります。

プログラマーの応答

DD ステートメントがあり、その指定が正しいことを確認してください。ハードウェア障害が示されている場合は、別の装置を使用して、ジョブを再実行してください。

DFS2682W MSDBS NOT LOADED DUE TO PREVIOUS ERROR(S)

説明

プログラム DBFNRS0 が有効な MSDB チェックポイント 制御レコードを検出できなかったか、メッセージ DFS2780A および DFS2781A に示されているような他のエラーが以前に発生していたか、いずれかです。

システムの処置

高速機能は使用不能になります。

プログラマーの応答

IMS が MSDB の指定なしでコールド・スタートしたのか 解明してください。そうであれば、次のウォーム・スタート時に **/NRE MSDBLOAD** コマンドを発行して、MSDBINIT データ・セットから MSDB をロードしてください。

関連情報

[795 ページの『DFS2780A』](#)
CONFLICT WITH PRIOR DATA= KEYWORD.

[795 ページの『DFS2781A』](#)
DATA= KEYWORD EXPECTED.

DFS2683I PRELOAD AREA area_name STR: structure_name ALTER SUCCESSFUL

説明

高速機能共用仮想記憶オプション (VSO) 領域のプリロード中に、現在の構造体割り振りの大きさがルート・アドレス可能域 (RAA) 部分を保持するのに十分ではありませんでした。IMS は IXLALTER を発行して、構造のサイズを増やします。IXLALTER 呼び出しは正常に終了しました。

システムの処置

通常の処理が続けられます。

オペレーターの応答

この領域に対する IXLALTER 呼び出しを避けるには、CFRM ポリシー内の構造体の INITSIZE を増やします。

モジュール:
DBFVXAS0

DFS2684A **PRELOAD AREA area_nameSTR:
structure_name ALTER FAILED.
RETURN CODE=xxxx REASON
CODE=yyyy**

説明

高速機能共用仮想記憶オプション (VSO) 領域のプリロード中に、現在の構造体割り振りの大きさがルート・アドレス可能域 (RAA) 部分を保持するのに十分ではありませんでした。IMS は IXLALTER を発行して、構造のサイズを増やします。ただし、この IXLALTER 呼び出しは失敗しました。メッセージ・テキストで、xxxx は IXLALTER 戻りコードで、yyyy は理由コードです。

システムの処置

エリアは停止しました。IMS は構造体から切断されました。

オペレーターの応答

CFRM ポリシー内の構造体の INITSIZE を増やすか、または領域の PRELOAD 指定を削除します。

モジュール:

DBFVXAS0

関連資料

[z/OS: IXLALTER の戻りコードおよび理由コード](#)

DFS2685I **SDEP DISCREPANCY DURING
RESTART AREA xxxxxxxx - AREA
STOPPED**

説明

緊急時再始動中に、再始動ログ処理によって、エリア xxxxxxxx の順次従属に関連するログ・レコードに問題が検出されました。特に、ログ・レコードの欠落が原因で、再始動ログ処理が、1つ以上のコミット済み SDEP 更新に関して、正しいバッファーを判別できませんでした。

システムの処置

エリア xxxxxxxx は停止されます。エリアが DBRC に登録されている場合は、要リカバリーのマークが付けられます。

プログラマーの応答

データベース・リカバリー・ユーティリティを使用し、エリアをリカバリーしてください。

DFS2686I **DDNAME EOF ON OPEN ERROR**

説明

プログラム DBFNRS20 が、ファイル DDNAME が空であることを検出しました。データ・セットが再定義された可能性があります。

システムの処置

システムはこのデータ・セットをクローズし、次の MSDB データ・セットを開こうと試みます。MSDB データ・セットがすべて開けなかったり、空である場合は、高速機能は使用不能になります。

プログラマーの応答

空の MSDB データ・セットをフォーマット設定するか、有効な MSDB データ・セットからコピーしてください。

DFS2687A **GETMAIN FAILED, AREA =
AREANAME**

説明

DBFUMRTO からのエリア接続呼び出しを処理している最中に、IMODULE GETMAIN 要求が失敗しました。

システムの処置

ユーティリティは終了し、このメッセージが出されます。

プログラマーの応答

エラーの原因を判別し、ユーティリティを再実行してください。

DFS2688I **SDEP SCAN UTILITY FOUND RBA
xxxxxxx INDOUBT**

説明

DEDB 順次従属スキャン・ユーティリティが、処理するよう要求されたセグメントの範囲で未確定セグメントを検出しました。

システムの処置

ユーティリティは続行されます。

モジュール:

DBFUMSCO、DBFUMMSO

DFS2689I **UTILITY START TIME xxxxxxxx
yyyyyyy**

説明

順次従属ユーティリティが、タイム・スタンプ xxxxxxxx yyyyyyy で処理を開始しました。

システムの処置

ユーティリティは正常に開始します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFUMSCO

DFS2690I OPEN FAILED DDNAME=xxxxxxx

説明

DBFDBDZO ユーティリティが、示されているデータベースを開けませんでした。

システムの処置

ユーティリティは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答

必要な変更を行って、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2691A LOG DATA SET IS INVALID, TERMINATE. CURRENT CHKPT ID=xxxxxxx, PROCESSING CHKPT ID=xxxxxxx

説明

次のいずれかの問題が発生しました。

- ログ・データ・セット・チェックポイント ID が昇順になっていなかった。
- 主記憶域データベース (MSDB) または拡張通信ノード・テーブル (ECNT) 定義が、MSDBCP1/CP2/DMP データ・セットでの定義と一致しなかった。

チェックポイント ID が印刷されます。ID が同じでないのは、MSDB または ECNT 定義での不一致か、チェックポイント ID の順序が狂っているか、いずれかの場合です。2 番目のチェックポイント ID がエラーのあるものです。

注: ECNT 定義は、IMS システム定義での TERMINAL マクロの結果です。

システムの処置

ユーティリティは戻りコード 4 で終了します。データベースは使用可能ではありません。

プログラマーの応答

ログ・データ・セットが正しい順序で指定されているか、すべて MSDB および TERMINAL 定義が同一の IMS

セッションからのログ・データ・セットであるか、確認してください。

DFS2692I CKPT/DUMP DATA SET NOT VALID DDNAME=xxxxxxx

説明

チェックポイント・データがユーティリティに関して指定されましたが、2 つのチェックポイント・データ・セットのいずれも有効ではありませんでした。IMS 始動障害が原因と推定されます。

システムの処置

ユーティリティは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答

IMS を再始動して、有効なチェックポイント・データ・セットを入手する必要があります。

DFS2693I INVALID DBDNAME SUPPLIED. DBDNAME=xxxxxxx.

説明

DBD 名 xxxxxxx が制御入力としてユーティリティにサブミットされましたが、1 次入力ファイル (チェックポイントまたはダンプ) にこの名前の MSDB はありません。

システムの処置

ユーティリティは、出力ファイルを作成しないで終了します。

プログラマーの応答

制御入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2694I O/P LRECL INSUFFICIENT TO HOLD RECORD

説明

JCL で指定した論理レコード長が小さすぎて、ユーティリティ出力データ・セットが収まりませんでした。DD 名は MSDBINIT です。

システムの処置

ユーティリティは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2696I MSDB NAME EXCEEDS 8 BYTES

説明

制御ステートメントの MSDB 名が長すぎました。ステートメントは、このメッセージの直前に印刷されます。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2698I INVALID CONTINUATION SYNTAX

説明

制御ステートメントの 72 桁目に文字が入る必要がありますが、空白が入っていました。あるいは、継続ステートメントの最初の 15 桁に文字が入っていますが、空白である必要があります。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2699I LOG END OF FILE BEFORE IMS
 START CKPT RCD**

説明

ユーティリティーが、ログ・データ・セットで IMS チェックポイントの開始をスキャンしました。チェックポイントが検出されないうちに、ファイルの終わり条件が生じました。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答

代替ログを使用して、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2700A MORE THAN 255 MSDBS DEFINED

説明

IMS 内で可能な主記憶データベース (MSDB) の数を超えました。指定できる MSDB の最大数は 255 です。

システムの処置

IMS は異常終了 1012 で終了します。

プログラマーの応答

IMS PROCLIB にある MSDB メンバー DBFMSDBn の MSDB の数を減らしてください。

関連情報

[IMS 異常終了 1012](#)

第 58 章 DFS メッセージ DFS2701W - DFS2750A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS2701W ERROR ENCOUNTERED DURING
SHARED VSO AREA PRELOAD**

説明

高速機能共用仮想記憶オプション (VSO) のプリロード処理時に、1つ以上の共用 VSO エリアがロードできませんでした。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

オペレーターの応答:

エラー・メッセージを使用して、障害が起きた共用 VSO エリアを特定し、修正処置を取ってください。メッセージ DFS2453I または DFS3702I がこのメッセージとともに出力され、障害が起きた共用 VSO と問題の特定に役立ちます。

モジュール:

DBFVXPLO

関連情報

717 ページの『DFS2453I』
PRELOAD PROCESSING xxxxxxxx FOR aaaaaa
STR1=strname1; STR2=strname2

1083 ページの『DFS3702I』

AREA/ADS OPEN FAILED
REASON CODE=nn message subtext

**DFS2702A GETMAIN FAILED. INSUFFICIENT
STORAGE FOR DMCB/DMAC
AND/OR BHDR BLOCKS.**

説明

IMS 制御領域に、一時 DMCB/DMAC または BHDR ブロック、あるいはその両方を構築できる十分な大きさのストレージが収まりませんでした。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 1011 が示されません。

プログラマーの応答

IMS 制御領域サイズを大きくしてください。

関連情報

IMS 異常終了 1011

**DFS2703A GETMAIN FAILED. INSUFFICIENT
STORAGE FOR FP CONTROL
BLOCKS.**

説明

CSA または ECSA に高速機能制御ブロックのすべてをロードおよび構築するのに十分な大きさのストレージがありませんでした。高速データベース・リカバリー (FDBR) 領域の場合、ECSA にストレージの不足があるのは、FPBUFF=ECSA が DFSFDRxx メンバーで指定される場合のみです。それ以外の場合、ストレージの不足は、FDBR 領域の専用ストレージにあります。FPBUFF=LOCAL または FPBUFF は DFSFDRxx メンバーで指定されませんでした。

システムの処置

IMS は異常終了コード 1011 で終了します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) CSA または ECSA を増やした後、IMS を再始動してください。FDBR 領域の場合、拡張専用域を使用して FP 制御ブロックを割り振った場合は領域サイズを増やしてください。その後、FDBR を再始動します。

プログラマーの応答

MVS システム・プログラマーに相談してください。必要に応じて、CSA または ECSA のサイズを増やします。FDBR 領域で異常終了が発生した場合、ストレージの不足は ECSA または FDBR 拡張専用域にある可能性があります。IMS.PROCLIB の DFSFDRxx メンバー内のオプションの FPBUFF パラメーターを検査します。FDBR 領域の専用ストレージが問題である場合、FDBR REGION サイズを増やす必要があります。

モジュール:

DBFOLC02、DBFINI21、DBFINI23、DBFINI24、
DBFINI25、DBFINI26、DBFINI27

関連情報

IMS 異常終了 1011

DFS2704A BSIZ NOT SPECIFIED

説明

使用中の DEDB または MSDB はありますが、データ・バッファ・サイズが指定されていません。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 1011 が示されま
す。

プログラマーの応答

IMS プロシージャの BSIZ パラメーターを更新する
か、IMS 起動時にパラメーターをオーバーライドして
ください。MSDB も DEDB も使用中でない場合は、
MSDB の接尾部は定義できず、いかなる DEDB の場合
も、DBD が IMS ACBLIB にはありえません。

関連情報

[IMS 異常終了 1011](#)

DFS2705A DBBF NOT SPECIFIED

説明

使用中の DEDB または MSDB はありますが、データ・
バッファに番号が指定されていません。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 1011 が示されま
す。

プログラマーの応答

IMS プロシージャの DBBF パラメーターを更新する
か、IMIMS 起動時にそれをオーバーライドしてくださ
い。

関連情報

[IMS 異常終了 1011](#)

DFS2705W DBBF NOT SPECIFIED

または

**DBBF SPECIFICATION INVALID, DBBF=10 IS
ASSUMED**

説明

10 未満の DBBF 値を指定しました。その値は高速機
能を使用するには適切ではありません。IMS は DBBF
値を 10 に変更しました。

システムの処置

通常の処理が続けられます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFINI20

**DFS2706A MSDB xxxxxxxx {NOT SPECIFIED
AT SYSGEN|HAS NO DBD
GENERATED IN ACBLIB|NOT
DEFINED AS A MSDB AT DBDGEN}.**

説明

次のいずれかが発生しました。

- MSDB 名は DBFMSDBn メンバーに指定されている
が、システム定義で DATABASE パラメーターでは定
義されなかった。
- ACBGEN が MSDB に関して行われていない。
- DBFMSDB で指定されている名前エントリーが、
DBDGEN で MSDB として定義されていない。

システムの処置

IMS は実行を継続しますが、指定された MSDB には、
上記の最初の 2 つの場合は、アクセス不能のマークが
付けられます。

指定されたエントリーが DBDGEN で MSDB として定
義されていない場合は、そのエントリーは無視されま
す。

プログラマーの応答

IMS システム定義、または MSDB ロード決定メンバー
DBFMSDBn をチェックおよび訂正してください。

**DFS2707W INVALID OTHR VALUE SPECIFIED.
SYSDEF VALUE USED.**

説明

OTHR パラメーターは指定されましたが、1 から制御領
域プロシージャの MAXPST パラメーターの値の 10
進数値としてではありませんでした。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

IMS プロシージャの OTHR 値を訂正してください。

**DFS2708W NUMBER OF DATA BUFFERS
EXCEEDED THE MAXIMUM
ALLOWED FOR THE SPECIFIED
BSIZ. DBBF HAS BEEN ADJUSTED.**

説明

IMS 始動プロシージャの DBBF パラメーターが、
BSIZ に基づく最大値を超えました。DBBF は、以下の

表で指定されているとおりに、指定された BSIZ の最大許容値に合わせて調整されます。

BSIZ (バッファ・サイズ)	最大バッファ数
512	1,800,000
1,024	1,200,000
2,048	780,000
4,096	440,000
8,192	230,000
12,288	160,000
16,384	130,000
20,480	100,000
24,576	80,000
28,672	70,000

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

IMS プロシージャの DBBF 値を訂正してください。

DFS2709W UNABLE TO INITIALIZE ANY DEDB AS SPECIFIED.

説明

以前のエラーのため、DEDB (または MSDB) が初期設定されませんでした。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

DEDB (または MSDB) が必要な場合は、IMS をシャットダウンし、以前のエラー・メッセージで示されているエラーを訂正して、IMS を再始動してください。

DFS2710W DBFX GREATER THAN DBBF, OR DBFX LESS THAN 10. DBFX=10 IS ASSUMED.

説明

領域始動時にページ固定されたデータ・バッファの数が、使用可能なデータ・バッファの数を超えました。あるいは、ページ固定されたデータ・バッファが 10 未満に指定され、データ・バッファの数が 0 を超えていました。DBFX 値は 10 に設定されます。さらに、使

用可能なデータ・バッファの数が 10 未満の場合、DBBF=10 とみなされます。

システムの処置

IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答

IMS プロシージャの DBFX パラメーターを訂正してください。

DFS2711A BSIZ VALUE WRONG

説明

IMS 始動プロシージャで指定された BSIZ 値が無効です。データ・バッファ・サイズ (BSIZ) は、BSIZ 値が 512、1024、または 2048 でない限り、4 KB の倍数である必要があります。最大 BSIZ 値は 28,672 です。

システムの処置

IMS は異常終了コード 1011 で終了します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS を再始動してください。

プログラマーの応答

IMS プロシージャの BSIZ パラメーター値を訂正してください。

関連情報

[IMS 異常終了 1011](#)

**DFS2712I MODULE NAME: module_name
commentary_from_the_module
ABEND SUBCODE: hex_subcode
register_dump
dump_of_storage_area AREA
NAME: area_name**

説明

このメッセージは、異常終了コード 1026 に付随するもので、いくつかの状況についてデバッグ・データを提供します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module_name

このフィールドには、問題を検出して DBFDEBUG 要求を出したモジュールの名前が入ります。

commentary_from_the_module

この注釈には、通常、問題の種別が記述されます。

hex_subcode

表示されている場合、このサブコードにより、プログラムが異常終了する原因となったエラーのタイ

プが特定されます。サブコードの説明については、異常終了情報を参照してください。

register_dump

このメモリー・ダンプには、デバッグ要求を出したモジュールのレジスターが入ります。

dump_of_storage_area

このメモリー・ダンプは、論理不整合に関連した制御ブロックについて記述します。

area_name

異常条件検出時に処理されていたエリアの名前。

システムの処置

処理が続くか、異常終了 1026 が生じます。

問題判別

高速機能領域メモリー・ダンプの制御ブロックの直前に、該当する EBCDIC 目印があります。セキュリティ上の理由で、バッファ・データは通常、メモリー・ダンプには表示されません。メモリー・ダンプで印刷されたバッファ・データの診断コピーが必要な場合は、SUPERZAP を使用して、MAYBE と呼ばれるフラグをその通常値 X'FF' からモジュール DBFACDIO の X'00' にリセットしてください。

さらに、レジスター内容および DBFDEBUG 要求を出したモジュールのリストを使用して、問題診断ができます。

異常終了 1026 の情報には、詳細な診断情報が含まれています。

関連情報

異常終了 1026

DFS2713I *ddname* OPEN ERROR

説明

プログラム DBFDBDPO が、このデータ・セットに関して、DCB を開けませんでした。原因となる可能性があるのは、次の場合です。

- DD ステートメントが欠落している。
- JCL に誤りがある。
- ハードウェア・エラーが存在する。

システムの処置

MSDB チェックポイントやメモリー・ダンプは作成されません。

プログラマーの応答

DD ステートメントが存在し、その指定が正しいか確認してください。ハードウェア・エラーが示されている場

合は、別の装置を使用して、ジョブを再実行してください。

DFS2714I *xxxxx* TRACKS ALLOCATED FOR
ddname, BUT *yyyyy* REQUIRED

説明

割り振られた直接アクセス・ストレージ・デバイスのスペースが不十分であったため、この MSDB チェックポイントまたはメモリー・ダンプ・データ・セットが収まりませんでした。

システムの処置

チェックポイントやメモリー・ダンプは作成されません。

プログラマーの応答

データ・セットを再割り振りし、IMS をコールド・スタートしてください。

DFS2715I NO MSDBS FOUND-MSDB DUMP
IGNORED

説明

メモリー・ダンプ要求が /DBDUMP コマンドで入力されましたが、システムは、MSDB なしで開始されていました。

システムの処置

MSDB メモリー・ダンプは無視されます。

DFS2717 MSDB CHKPT IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS COMMAND

説明

以前に入力されたコマンドからの MSDB チェックポイント、または自動システム・チェックポイントが現在プロセス中です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) メッセージ DFS2719I が表示されるのを待ち、コマンドを再入力してください。

関連情報

785 ページの『DFS2719I』

MSDB CHECKPOINT WRITTEN TO *ddname*

DFS2718I ERRORS IN MSDB CHKPT DATA
SET, NO SYSTEM/MSDB CHKPT
TAKEN

説明

プログラム DBFDBDP0 が、主記憶データベース (MSDB) チェックポイント・データ・セットでエラーを検出したので、MSDB チェックポイントは取られません。

システムの処置

要求された場合のシャットダウン・チェックポイントを除けば、さらにチェックポイント (システムおよび MSDB) が取られることはありません。MSDB チェックポイントがシャットダウン・チェックポイントの一部として取られることはありません。

オペレーターへの応答

IMS 再始動後に、初期チェックポイントの MSDB チェックポイント・データ・セットの 1 つで、書き込みエラーが発生し、再始動チェックポイントが OLDS に書き込まれる場合、MSDB は緊急時再始動でリカバリーできません。再始動時にこの問題が生じた場合は、アクション A を実行し、それ以外の場合は、次のアクションのいずれを実行してもかまいません。

A. 緊急時再始動アクションによるリカバリー:

1. **MODIFY IMS, STOP** コマンドを発行して、IMS を強制的に終了してください。
2. 障害のある MSDB チェックポイント・データ・セットをスクラッチし、新しいデータ・セットを再割り振りしてください。
3. 有効な MSDB チェックポイント・データ・セットを新規に割り振られたデータ・セットにコピーしてください。
4. 最後の有効なシステム・チェックポイントから、システムを緊急時再始動してください。

B. ウォーム・スタート・アクションによるリカバリー:

1. IMS をシャットダウンしてください。メッセージ DFS2762A の表示が予測されます。
2. メッセージ DFS2762A に記載されている処置のとおりに行ってください。

関連情報

793 ページの『DFS2762A』
SYSTEM SHUTDOWN-MSDB RECOVERY
REQUIRED

DFS2719I **MSDB CHECKPOINT WRITTEN TO**
 ddname

説明

MSDB チェックポイントが *ddname* に書き込まれました。

DFS2720I **I/O ERROR IN**
 ddname,cc,co,stat,sens,cchhr

説明

プログラム DBFDBDP0 が MSDB チェックポイントへの書き込みを試み、入出力エラーが発生しました。メッセージ・テキストでは、次の情報が提供されます。

フィールド
内容

cc

ECB 完了コード

co

エラーが発生した CCW のコマンド・コード

stat

状況情報

sens

センス・バイト

cchhr

エラーが発生したディスク・アドレス

メッセージ DFS2718I も 出されます。

システムの処置

MSDB チェックポイントは停止されます。

プログラマーへの応答

IMS をシャットダウンし、最後の有効なシステム・チェックポイントから、システムを緊急時再始動してください。

関連情報

DFS2718I
ERRORS IN MSDB CHKPT DATA SET, NO
SYSTEM/MSDB CHKPT TAKEN

DFS2721I **MSDBS SUCCESSFULLY DUMPED**

説明

このメッセージは、MSDB が正常にダンプされたことを検証しています。

DFS2722I **ERROR IN MSDB DUMP-NO DUMP**
 TAKEN

説明

プログラム DBFDBDP0 が、MSDB メモリー・ダンプでエラーを検出しました。

システムの処置

メモリー・ダンプは終了し、さらにメモリー・ダンプが作成されることはありません。

プログラマーの応答

別の装置を試行するか、別の直接アクセス・ストレージ・デバイスにデータ・セットをコピーしてください。

新規アクティブ IMS システムが、このメッセージを XRF 環境で受信した場合は、IMS 代替システムに関して、/ERE コマンドの FORMAT キーワードに「MD」オプションを入力しなかった可能性があります。

**DFS2723I UNABLE TO OPEN DD=LOGTAPE.
 ANALYSIS TERMINATED.**

説明

テープまたは DASD に常駐する 入力ログ・データ・セットを開いている最中に、永続入出力エラーが発生した可能性があります。

システムの処置

IMS 高速機能ログ分析ユーティリティ DBFULTA0 は終了します。

プログラマーの応答

LOGTAPE ddname が適切に割り振られているか確認してください。

**DFS2724I MORE THAN 100 TRANSACTION
 CODES SPECIFIED FOR
 EXCEPTIONAL TRANSIT TIME.
 EXCESS IGNORED.**

説明

トランザクション・コードに関する例外通過時間を指定するステートメントが、100 を超えて SYSIN データ・セットから読み取られました。許容されている指定ステートメントの最大数は 100 です。

システムの処置

実行は継続され、過剰な通過時間指定は無視されます。

プログラマーの応答

過剰な通過時間指定ステートメントを SYSIN データ・セットから除去して、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2725I UNABLE TO OBTAIN ADDITIONAL
 VIRTUAL STORAGE. ANALYSIS
 TERMINATED.**

説明

使用可能であった仮想記憶域を超える仮想記憶域が、ジョブで必要とされました。

システムの処置

モジュール DBFULTA0 は早期に終了し、障害の発生時までに作成された 要約報告書があれば表示されます。

プログラマーの応答

仮想記憶域スペースをもっと多く割り振り、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2726I PARAMETER CARD FORMAT
 INCORRECT, VALUE NOT USED.**

説明

SYSIN データのパラメーター・ステートメントのフォーマットに誤りがあります。

システムの処置

ステートメントはスキップされ、データは使用されず、処理は続行されます。

プログラマーの応答

パラメーター・ステートメントのフォーマットを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。モジュール DBFULTA0 に使用する必要があるフォーマットの説明を参照してください。

関連資料

高速機能ログ分析ユーティリティ
(DBFULTA0) (システム・ユーティリティ)

**DFS2727I LOG BUFFER CONTROL RECORD
 NOT FOUND ON INPUT LOG.
 ANALYSIS TERMINATED.**

説明

IMS 高速機能ログ分析ユーティリティ DBFULTA0 が、LOGTAPE ddname で指定されているデータ・セットで IMS ログ・バッファ制御レコードを検出できませんでした。

システムの処置

実行は終了します。

プログラマーの応答

LOGTAPE ddname が正しく割り振られているか確認してください。

**DFS2728I UNABLE TO OPEN DD=SYSUT1(2).
 ANALYSIS TERMINATED.**

説明

DD 名 SYSUT1 または SYSUT2 を指定した 定義ステートメントが JCL に組み込まれましたが、いずれかまたは両方のデータ・セットが正常に開けませんでした。

システムの処置

実行は終了します。

プログラマーの応答

ddname SYSUT1(2) が適切に割り振られているか 確認してください。

DFS2729I PERMANENT I/O ERROR READING LOG DATA SET. ANALYSIS TERMINATED.

説明

モジュール DBFULTAO がログ・レコードの読み取りを試み、アクセス方式がログ・データ・セット DCB に指定されている SYNAD アドレスに制御を戻し、ログ・データ・セットに訂正不能入出力エラーがあることを示しています。

システムの処置

分析が早期に終了し、エラーの発生時点までに累積された結果の表示が伴います。

問題判別

詳細について、付随している IEA または IEC メッセージを チェックしてください。

DFS2730A UNABLE TO LOAD FP INPUT ROUTING EXIT: DBFHAGUO

説明

IMS システム 初期設定中に、高速機能初期設定で必須高速機能入カルーティング出口 DBFHAGUO をロードできませんでした。

システムの処置

このメッセージを出した後に、IMS 高速機能初期設定は異常終了し、ユーザー異常終了 1011 が示されます。

システム・プログラマーの応答

1. デフォルトまたはユーザー作成バージョンの DBFHAGUO が IMS.SDFSRESL STEPLIB 連結にあるか確認してください。
2. IMS を再始動してください。

関連情報

[IMS 異常終了 1011](#)

DFS2732E SVSO CASTOUT PROCESS FAILED DUE TO TIMEOUT. AREA=xxxxxxx

説明

このメッセージが生成されるのは、SVSO エリアの CASTOUT がタイムアウトになったときです。再試行の最大数を使い切りました。

システムの処置

エリア xxxxxxxx は停止され、要リカバリーのマークが付けられます。

システム・プログラマーの応答

データベース・リカバリー・ユーティリティーを使用して、エリアをリカバリーしてください。

モジュール:
DBFVXOCO

DFS2731I MSDB xxxxxxxxxx STARTED

説明

この通知メッセージは、MSDB xxxxxxxxxx (ここで、xxxxxxx は CHECKPOINT か DUMP のいずれか) が開始したことを警告するものです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFDBDPO

DFS2733I OPEN FAILED. DDNAME=xxxxxxx

説明

不完全な DD ステートメントがあったか、DD ステートメントが欠落していました。

システムの処置

処理を続行します。ただし、データ・セットの読み取りまたは書き込みの試みがなされた場合は、異常終了の可能性が高くなります。

プログラマーの応答

DD ステートメントをチェックし、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2735A MORE THAN ONE RUN CARD

説明

複数の実行カードが示されましたが、有効なカードは1つだけです。

システムの処置

メッセージ DFS2740A が表示されるまでは、プログラム DBFDBMA0 の処理は続行されます。

プログラマーの応答

余分の実行カードを除去し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報

788 ページの『DFS2740A』
ERRORS IN CONTROL FILE. TERMINATE

DFS2736A INVALID ACTION CARD

説明

リストされているステートメントに構文エラーがありました。

システムの処置

メッセージ DFS2740A が表示されるまでは、プログラム DBFDBMA0 の処理は続行されます。

プログラマーの応答

ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報

788 ページの『DFS2740A』
ERRORS IN CONTROL FILE. TERMINATE

DFS2737A NO RUN CARD

説明

実行カードが示されませんでした。

システムの処置

メッセージ DFS2740A が表示されるまでは、プログラム DBFDBMA0 の処理は続行されます。

プログラマーの応答

実行カードを挿入し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報

788 ページの『DFS2740A』
ERRORS IN CONTROL FILE. TERMINATE

DFS2738A NO ACTION CARDS

説明

プログラム DBFDBMA0 では、アクション・カードを少なくとも1つ必要としますが、まったく提供されませんでした。

システムの処置

メッセージ DFS2740A が表示されるまでは、プログラムは処理を続行します。

プログラマーの応答

それぞれの MSDB ごとに、アクション・ステートメント1つを提供し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報

788 ページの『DFS2740A』
ERRORS IN CONTROL FILE. TERMINATE

DFS2739A DUPLICATE ACTION CARDS

説明

重複するアクション・カードが提供されましたが、許容されるのは、1つの MSDB につき1つだけです。

システムの処置

メッセージ DFS2740A が表示されるまでは、プログラム DBFDBMA0 の処理は続行されます。

プログラマーの応答

ファイルを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報

788 ページの『DFS2740A』
ERRORS IN CONTROL FILE. TERMINATE

DFS2740A ERRORS IN CONTROL FILE. TERMINATE

説明

このメッセージの前に、必ず1つ以上の詳細メッセージが出されます。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

制御ファイルのエラーを訂正してください。ジョブを再実行依頼してください。

DFS2741A CHANGE RECORD SYNTAX ERROR

説明

ステートメント・イメージ変更ファイルの最後にリストされているレコードに構文エラーがありました。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

変更ファイルを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2742A CHANGE RECORD DATA INVALID OR TOO LONG

説明

示されている変更レコードに、無効のデータが含まれていました。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2743I READING THE OLCSTAT MDA MEMBER

説明

OLCSTAT DD ステートメントはバッチ JCL でコーディングされましたが、システムがデータ・セットにアクセスできません。MDA メンバーが存在する場合、それを読み取ろうという試行が行われていました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSBIND0

DFS2744E MESSAGE(S) MAY HAVE BEEN LOST DURING IMS/CQS RESYNC

説明

チェックポイント処理時または IMS/CQS 再同期処理時に、1 つ以上の CQSPUT が実行されませんでした。IMS が CQSPUT の状況を判別できなかったか (前の CQSPUT が正常に実行されていなかった可能性があります)、CQSPUT のメッセージの再作成中にエラーが発生したかのいずれかです。未解決の CQSPUT ごとに 1 つのタイプ 67D00F 診断レコードがログに記録されます。これは IMS 内部エラーです。プログラマーの応答で説明されているように、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

システムの処置

CQSPUT は実行されず、メッセージはローカル側でクリーンアップされました。

プログラマーの応答

オプション EXITR=DFSERA30 を指定したユーティリティ DFSERA10 を使用して、IMS メッセージを受信したシステムの IMS ログから、タイプ 67D0 および 3F ログ・レコードをすべてプルしてください。すべての IMS ログを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題を報告してください。

問題判別

タイプ 67D00F 診断レコードをチェックして、CQSPUT の状況を調べてください。67D00F レコードのヘッダーに、エラーを起こした機能とその説明が含まれているはずですが。

モジュール:
DFSQURS0

DFS2745A MSDB TO BE INSERTED ALREADY EXISTS. DBD=name

説明

アクション・ステートメントでは、MSDB の挿入が要求されましたが、直前のロード・イメージ・ファイルに同じ名前の MSDB が含まれています。MSDB の置き換えが意図されたアクションであった可能性があります。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2746A MSDB TO BE DELETED REPLACED OR MODIFIED DOES NOT EXIST. DBD=name

説明

アクション・ステートメントでは DELETE、REPLACE、または MODIFY が指定されましたが、MSDB の直前のロード・イメージ・ファイルには、そのような MSDB はありません。MSDB の挿入が意図されたアクションであった可能性があります。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2747A ERRORS DETECTED IN CHANGE FILE. TERMINATE

説明

このメッセージの前に、必ず 1 つ以上の詳細メッセージが出されます。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

変更ファイルのエラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2748A NO CHANGE RECORDS DBD=name

説明

アクション・ステートメントでは INSERT または REPLACE が示されましたが、メッセージに指定されたデータベースに関するセグメント・データを提供する変更レコードがありませんでした。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

変更レコードは、主記憶データベース (MSDB) によって順次提供される必要があります。それぞれの MSDB 内では、変更レコードはキーによって提供される必要があります。入力を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

DFS2749A NO CHANGE RECORDS FOR MODIFY. DBD=name

説明

アクション・ステートメントでは MODIFY が指定されましたが、この MSDB に関して変更レコードは提供されませんでした。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2750A ATTEMPT TO MODIFY NONEXISTENT MSDB. DBD=name.

説明

MODIFY 変更レコードでキーが指定されていますが、そのキーは MSDB の直前のロード・イメージ・コピーに存在しません。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

第 59 章 DFS メッセージ DFS2751A - DFS2800I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2751A **NO ACTION CARD. DBD=name**

説明

名前が指定されている MSDB に関して、変更レコードが提供されましたが、関連 ACTION ステートメントが欠落していました。

システムの処置

メッセージ DFS2747A が出されるまでは処理が続き、それから、MSDB 保守ユーティリティーが終了します。

プログラマーの応答

MSDB に関して、ACTION ステートメントを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報

790 ページの『DFS2747A』
ERRORS DETECTED IN CHANGE FILE.
TERMINATE

DFS2752A **UNKNOWN FIELD NAME.**

説明

最後にリストされているカード・イメージ変更ファイル・ステートメントに、不明のフィールド名が含まれていました。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2753I **nnnn MSDBS COPIED**

説明

このサマリー・メッセージは、MSDB のカウントが、手を加えられることなく、そのままロード・イメージ・データ・セット MSDBINIT(0) から MSDBINIT(+1) にコピーされたことを示します。

DFS2754I **nnnn MSDBS REPLACED**

説明

このサマリー・メッセージでは、置き換えられた MSDB の数を示します。

DFS2755I **nnnn MSDBS DELETED**

説明

このサマリー・メッセージでは、削除された MSDB の数を示します。

DFS2756I **nnnn MSDBS MODIFIED**

説明

このサマリー・メッセージでは、変更された MSDB の数を示します。

DFS2757E **QUEUE MANAGER DETECTED AN
ERROR - UOWID:
SSSSSSSTTTTTTTTTTTTTTTTT**

説明

IMS 内部エラーがキュー・マネージャーによって検出されました。1つ以上のタイプ 67D0 診断レコードがログに記録されました。このエラー・メッセージは、可能な場合、キュー・マネージャー異常終了 0757 の代わりに使用されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

SSSSSSSS

発信 IMS の SMQ NAME

TTTTTTTTTTTTTTTT

発信 UOW トークンの 16 進バイト 8 バイトを表す。

システムの処置

キュー・マネージャーは該当するクリーンアップを実行し、処理を続行します。

プログラマーの応答

IMS メッセージが受信されたシステムに関して、オプション EXITR=DFSERA30 を指定した、IMS ユーティリティー DFSERA10 を使用して、IMS ログからすべてのタイプ 67D0 ログ・レコードをプルしてください。すべての IMS ログを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、問題を報告してください。

問題判別

メッセージからの UOW トークンが一致する、タイプ 67D00A 診断レコードに、エラー条件が記述され、診断情報が含まれています。

DFS2758I STARTING QFIX PROCESSING

**:
QFIX - PROCESSING cccc**

または

**QFIX - PROCESSING cccc.QFIX ddd.d%
COMPLETED.**

説明

このメッセージは、QFIX の現在の処理状況に関する情報を提供します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc

現行ブロック・タイプ。ブロック・タイプは、次の順序で処理されます。

SMB
CNT
APPC
OTMA
RRE
MSC
CCB
BITMAP

ddd.d

QFIX の開始以降に処理されたメッセージ・キュー・レコードのパーセンテージ。「QFIX ddd.d% COMPLETED.」のバージョンは、BITMAP を除くすべての cccc のタイプで生成されます。

システムの処置

QFIX の開始時に、メッセージが生成されます。追加のメッセージは、約 10 分ごとに生成されます。これらのメッセージには、QFIX が処理中の現行ブロック・タイプ、および処理済みのメッセージ・キュー・レコードのパーセンテージが記録されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS2759I INVALID SYNTAX. DBN=
EXPECTED**

説明

MSDB DUMP/RECOVERY ユーティリティが処理した制御ステートメントに DBN= 以外の値が含まれていました。

システムの処置

プログラム DBFDBDR0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2760I INVALID SYNTAX. BLANK
FOLLOWING DBN=(**

説明

制御ファイルで指定されている MSDB 名のリストの先頭文字が空白でした。これは英字である必要があります。

システムの処置

ユーティリティは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2761W ERROR IN MSDB CHKPT - NO IMS
CHKPT TAKEN - SHUT DOWN
SYSTEM**

説明

プログラム DBFDBDP0 が、主記憶データベース (MSDB) チェックポイント・データ・セットでエラーを検出し、MSDB チェックポイントは取られませんでした。システムがリカバリーするためには、シャットダウンする必要があります。

システムの処置

要求したシャットダウン・チェックポイントがあればそれを除いて、システム・チェックポイントも MSDB チェックポイントも取られません。MSDB チェックポイントがシャットダウン・チェックポイントの一部として取られることはありません。

オペレーターの応答

(マスター端末) IMS 再始動後の初期チェックポイント中に、MSDB チェックポイント・データ・セットで、書き込みエラーが発生し、再始動チェックポイントが OLDS に書き込まれる場合は、ウォーム・スタート・リカバリーを実行してください。そうでない場合は、ウ

ウォーム・スタート・リカバリーと緊急時再始動リカバリーのいずれかを実行してください。

ウォーム・スタート・リカバリー:

1. IMS をシャットダウンしてください。
2. メッセージ DFS2762A が出されます。メッセージ DFS2762A に記載されている処置のとおりにしてください。

緊急時再始動リカバリー:

1. **MODIFY IMS, STOP** コマンドを発行して、IMS を強制的に終了してください。
2. 障害のある MSDB チェックポイント・データ・セットをスクラッチし、新しいデータ・セットを再割り振りしてください。
3. 有効な MSDB チェックポイント・データ・セットを新規に割り振られたデータ・セットにコピーしてください。
4. 最後の有効なシステム・チェックポイントから、システムを緊急時再始動してください。

関連情報

793 ページの『DFS2762A』
SYSTEM SHUTDOWN-MSDB RECOVERY
REQUIRED

**DFS2762A SYSTEM SHUTDOWN-MSDB
 RECOVERY REQUIRED**

説明

メッセージ DFS2718I または DFS2761W が出された後で、マスター端末オペレーターが IMS のシャットダウンを要求しました。

システムの処置

MSDB チェックポイントは取らないで、シャットダウン・チェックポイントが取られます。

オペレーターの応答 (マスター端末)

1. ログ保存ユーティリティ (DFSUARCO) を実行してください。
2. MSDB DUMP RECOVERY ユーティリティ (DBFDBDR0) を実行して、有効な MSDB チェックポイント・データ・セット、および最後の有効なシステム・チェックポイント以降の MSDB 変更が含まれている SLDS から、MSDB をリカバリーしてください。
3. 障害のある MSDB チェックポイント・データ・セットを廃棄し、新しいデータ・セットを再割り振りしてください。
4. MSDBLOAD キーワードを使用して、IMS をウォーム・スタートしてください。

関連情報

784 ページの『DFS2718I』
ERRORS IN MSDB CHKPT DATA SET, NO
SYSTEM/MSDB CHKPT TAKEN

792 ページの『DFS2761W』
ERROR IN MSDB CHKPT - NO IMS CHKPT
TAKEN - SHUT DOWN SYSTEM

**DFS2763I REQUIRED CHECKPOINT RECORD
 NOT FOUND ON LOG**

説明

高速機能再始動モジュールが、どのチェックポイントから MSDB を再始動するか判別するために、MSDB チェックポイント・データ・セットから制御レコードを読み取りましたが、選択したチェックポイントが IMS ログで検出されませんでした。

システムの処置

IMS は、高速機能なしで続行されます。

プログラマーの応答

MSDB データ・セット上のチェックポイントに一致する、または、それより前のチェックポイントであって、再始動を行うチェックポイントを選択し、最新のチェックポイントまでのすべてのログ・データ・セットを指定してください。

**DFS2764W MSDB ARITHMETIC OVERFLOW
 MSDB=xxxxxxxx FIELD=xxxxxxxx
 KEY=xxxxxxxx**

説明

メッセージ・テキストに示されているデータベースで、算術オーバーフローが 生じました。

システムの処置

オーバーフローが呼び出し時に検出されるように、入力メッセージが再処理されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

データベース生成を訂正して、セグメント・タイプに合う適切なフィールド・サイズを用意してください。

**DFS2765W OUT OF SPACE IN DATA SET
 DATABASE=xxxxxxxx
 AREA=yyyyyyyy ss RM: tttt**

説明

メッセージに示されている DEDB エリアが、エリアの順次従属部分のスペースを使い尽くしました。エリアへの順次従属をさらに追加することは不可能です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

XXXXXXXXXX

スペースを使い尽くしたエリアが含まれる DEDB

YYYYYYYYY

スペースを使い尽くしたエリア

SS

DL/I 呼び出し状況コード。これらのコードについては、DL/I 状況コード情報を参照してください。

TTTT

発行された DL/I 状況コードのタイプ。このメッセージでの有効なタイプは、次のとおりです。

ISRT

SDEP 挿入アクティビティーのために SDEP CI の事前割り振りを試みているとき、メッセージがモジュール DBFMSRTO によって出されました。

SDEP

同期点時に SDEP を処理しているとき、メッセージがモジュール DBFSYN10 によって出されました。

順次従属スペース管理について詳しくは、「IMS V15 データベース管理」を参照してください。

システムの処置

条件が呼び出し時に検出されるように、入力メッセージが再処理されます。

オペレーターの応答:

IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

データベース内で必要がなくなったデータを判別し、削除ユーティリティーを実行して、使用可能なスペースをオンライン・システム用として再利用してください。

モジュール:

DBFMSRTO、DBFSYN10

関連資料

DL/I 状況コード (メッセージおよびコード)

DFS2766I

PROCESS FAILED

説明

アプリケーション・プログラムが異常終了しています。この一般メッセージには、マスター端末に向けて障害の理由を詳述する多数のメッセージの 1 つが伴います。

システムの処置

入力メッセージは廃棄されます。

オペレーターの応答:

IMS データベース管理者またはシステム・プログラマー、あるいはその両方に連絡してください。

DFS2767I

AREA=XXXXXXXXX DEDB AREA FULL

説明

スペース管理モジュールが、エリアのルート部分に ISRT 要求に見合う十分なスペースを検出できませんでした。

注: このメッセージは、マスター端末オペレーターに送信されます。

システムの処置

IFP または MPP の場合は、ISRT を要求するトランザクションが取り消され、要求が発信された従属領域はダウンするが、しきい値に達しなかった場合は、従属領域は元どおりに立ち上がります。領域が BMP の場合は、正常に完了しますが、ISRT 呼び出しに関して STATUSFS を受信します。

DFS2768W

FAST PATH RESTART ERROR-FP UNAVAILABLE

説明

モジュール DBFNRSO が、高速機能再始動時にエラーを検出しました。

システムの処置

IMS は、高速機能なしで続行されます。

プログラマーの応答

IMS キューのすべてが処理され、メッセージのすべてが宛先に送信されたら、システムをコールド・スタートしてください。

DFS2769I

INVALID SYNTAX. DELIMITER EXPECTED BEFORE 72

説明

ユーティリティーが、制御ファイルに MSDB 名の終わりを示すブランクまたはコマがないか、スキャンしているところでした。区切り文字が検出されないうちに、72 桁目に達しました。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2770I **FAST PATH DBD dbdname
IGNORED**

説明

データベース・バックアウトのための初期設定で、高速機能 DBD を検出しました。すべての高速機能 DBD が無視されます。

システムの処置

処理は続行され、高速機能 DBD を迂回します。

DFS2771 **APDB KEYWORD HAS INVALID
PARAMETER**

説明

このキーワードでは無効なパラメーターを入力しました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 有効なパラメーターを使用して、コマンドおよびキーワードを再入力してください。

モジュール:

DFSICL30、DFSICLN4

DFS2772 **REGION KEYWORD HAS INVALID
PARAMETER**

説明

このキーワードでは無効なパラメーターを入力しました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

有効なパラメーターを使用して、コマンドおよびキーワードを再入力してください。

モジュール:

DFSICL30、DFSICLN4

DFS2773 **INTERVAL KEYWORD HAS
INVALID PARAMETER**

説明

このキーワードでは無効なパラメーターを入力しました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

有効なパラメーターを使用して、コマンドおよびキーワードを再入力してください。

モジュール:

DFSICL30、DFSICLN4

DFS2779I **INVALID MSDB (or DEDB)
APPLICATION CONTROL BLOCKS-
XXXXXXXXX WERE FOUND IN ACBLIB**

説明

ACBLIB にある、指定された高速機能 MSDB または DEDB アプリケーション 制御ブロックに、システムの現行レベルと互換性がありません。ブロックは、現行レベルに引き上げられるまでは使用不能です。

システムの処置

IMS は実行を継続し、指定された MSDB または DEDB にアクセス不能のマークが付けられます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答:

BUILD DBD=xxxxxxxxx 制御ステートメントを使用して、ACBGEN を再実行してください。

DFS2780A **CONFLICT WITH PRIOR DATA=
KEYWORD.**

説明

カード・イメージ変更ファイルに、先行する関連 FIELD= がなく、同じキーに関する別の DATA= に続いている DATA= が含まれています。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2781A **DATA= KEYWORD EXPECTED.**

説明

FIELD= キーワードの後に DATA= キーワードが続いていなかったか、KEY= の後に DATA= が続いていませんでした。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2782A INCORRECT DATA LENGTH

説明

DATA= キーワードの後に、DBD 指定のフィールドまたはセグメントの長さとは整合しない文字ストリングが続いていました。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2783A UNABLE TO DELETE FAILED-
PERSISTENT CONNECTION TO
STR: *Structure_Name*
REASON=xxxx**

説明

IMS が /VUNLOAD コマンドを処理した後で、DBFXVUN0 が IXLFORCE マクロ呼び出しを発行して、共用 VSO 構造への障害永続接続を削除します。このメッセージが出されるのは、IXLFORCE 呼び出しが失敗して、戻りコードが 4 より大きい番号のときです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

障害永続接続が存在するか判別し、それを手動で削除してください。

モジュール:
DBFXVUN0

DFS2785A INVALID CONTINUATION CARD

説明

継続ステートメントの最初の 15 桁までに非空白文字が含まれていました。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2786A DBDNAME=xxxxxxxx NOT IN
ACBLIB**

説明

アクション・ステートメントで指定された DBD 名が、システムには不明でした。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2787A I/O ERROR IN BLDL. ACBLIB

説明

プログラム DBFDBMA0 が ACBLIB に対して BLDL マクロの処理を試み、入出力エラーが発生しました。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

ACBLIB を復元または再作成し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2788I nnnn MSDBS INSERTED

説明

このサマリー・メッセージには、挿入された MSDB のカウントが含まれています。

システムの処置

実行が継続されます。

DFS2789A CHANGE FILE SEQUENCE ERROR

説明

変更ファイルの1つにある DBD 名、または DBD 内のキーの順序が違ってきます。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2790A SAME RECORD APPEARS IN BOTH CHANGE DATA SETS.

説明

両方の変更データ・セットに、同じ MSDB の同じキーが含まれていました。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2791A INVALID HEX DATA

説明

DATA= キーワードに、無効の 16 進データが含まれていました。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2792A KEY= KEYWORD EXPECTED AFTER DBN=

説明

カード変更データ・セットに、直後に KEY= キーワードが続いていない DBN= キーワードが含まれていました。

システムの処置

プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2793I NEW STARTUP PROC MEMBER. NAME=XXXXXXXX

説明

このメッセージは、新規 STARTUP PROCEDURE MEMBER エントリーのリストのヘッダーです。これは情報目的に過ぎません。

DFS2794I MSDB DUMP/RECOV UTIL NORMAL TERMINATION

説明

このメッセージでは、ユーティリティーが正常に実行されていることを確認しています。

システムの処置

ユーティリティーは正常に終了します。

DFS2795I WRONG LOG VOLUME WAS MOUNTED. TERMINATE. CKPT REQUIRED=XXXXXXXX, FIRST ID FOUND=XXXXXXXX

説明

マウントされているログ・データ・セットでの最初のチェックポイント識別が、必須チェックポイントより後になっていました。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答

直前のログ・データ・セット、およびそれ以降のすべてのデータ・セットを使用して、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2796I REQUIRED CKPT ID=XXXXXXXX, NOT IN LOG

説明

必須チェックポイントが検出されないうちに、ファイルの終わり条件が生じました。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答

代替ログ・データ・セットを使用して、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2797I NO APPLICABLE UPDATES IN LOG

説明

ユーティリティーが復元された元のチェックポイント以降、MSDB 更新は実行されませんでした。

システムの処置

通常のユーティリティー処理が続行されます。

DFS2798I MSDBINIT DATA SET IS EMPTY

説明

MSDB メモリー・ダンプ・リカバリー・ユーティリティーからの1次出力が、新しいMSDBINIT データ・セットです。このデータ・セットは、コールド・スタートまたはウォーム・スタート時に、MSDBLOAD オプションを使用して、MSDB をロードする場合に使用します。新規MSDBINIT データ・セットには、MSDB レコードは含まれていません。

システムの処置

ユーティリティーは正常に終了します。

プログラマーの応答

MSDBINIT データ・セットが空であるか検証してください。

DFS2799I INVAL OPER. MUST BE UNLOAD, UNLOADCP, RECOVERY, OR RECOVCP

説明

制御データ・セットの最初のワードが UNLOAD、UNLOADCP、RECOVERY、または RECOVCP ではありませんでした。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2800I **CHANGE ACCUMULATION FOR DATA BASE dbname DCB NAME/NUMBER [ddname] n

説明

データベース変更レコードが、データベース・データ・セットに関して累積されています。DCB 名が表示されるのは、累積がデータベース・データ・セットによって行われた場合のみです。*n* は、次のようにデータ・セット番号を示します。

- 1** 基本データ・セット
- 2** オーバーフロー・データ・セット
- 0** KSDS の VSAM シーケンス・セット。

値 *n* は、*ddname* に対応するデータ・セット・グループの相対番号です。*n=0* の場合は、データ・セットは VSAM KSDS の索引です。*n=0* レコードが使用されるのは、データベース・リカバリーのトラック・リカバリー・オプションの場合のみです。

第 60 章 DFS メッセージ DFS2801A - DFS2850E

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2801A **ERROR RETURN CODE *nn* IN
RESPONSE TO A DL/I REQUEST *dd*
ON DDNAME *ddname* FOR
FUNCTION *ff***

説明

発行プログラムがデータベース・データ・セットに対して読み取りまたは書き込みを試みました。PST DSECT 戻りコードは、ラベル PSTFNCTN および PSTRTCDE で検出されます。PST DSECT 戻りコードの意味については、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。

プログラマーの応答

問題を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

2、3、8、36

関連資料

外部サブシステム・サポートに関連する戻りコードと機能コード (メッセージおよびコード)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2802A **ERROR FEEDBACK = *nnnnnn* IN
RESPONSE TO A VSAM (PUT|GET|
VERIFY|POINT) REQUEST ON
DDNAME *ddname* FOR FUNCTION
(IM|RV), R15=*xx***

説明

発行プログラムがデータベース・データ・セットに対して読み取りまたは書き込みを試みたとき、エラーが発生しました。IMS 機能 (イメージ・コピー用の IM、およびリカバリー用の RV) をサポートする VSAM 要求は、メッセージ・テキストに示されています。

プログラマーの応答

問題を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

関連資料

z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

DFS2803I **RECORD COUNT=*nnnn* FOR
ddname [NET DECREASE|NET
INCREASE|ERLG RECORDS]**

説明

レコード・カウントで、示されているデータ・セット/エリアに関して処理された論理レコードの数を示します。すべての入力ログおよび変更累積データ・セットの処理後、データベース・リカバリー・ユーティリティ (DFSURDBO) が、最後のイメージ・コピー以降の KSDS データ・セットのサイズの純増減を示します。

変更累積ユーティリティ (DFSUCMNO) は、指定されたデータ・セットに関して検出された IMS 入出力エラー・ログ・レコード (ERLG レコード) の総数を示します。

データベース・イメージ・コピー・ユーティリティ (DFSUDMPO) では、DEDB を処理するときの DDNAME ではなく、AREA を示します。

DFS2804A **HEADER RECORD ON DDNAME
ddname IS NOT CONSISTENT
WITH *cccc* FOR FUNCTION *ff***

説明

入力データ・セットのヘッダー・レコードには、データベース編成、作成日時、およびページ日時情報が含まれています。

この情報は、変更データ (変更累積またはログ) およびダンプ・データ・セットと整合しない場合があります。あるいは、変更データ・ヘッダーが DBPCB と合致しないか、またはメモリー・ダンプ・データ・セット・ヘッダーが DBPCB と合致しません。

プログラマーの応答

ヘッダー・レコードを調べれば、必要な訂正処置が示される可能性があります。メモリー・ダンプは最新でなかったり、無効のページ日時を指定して作成されたりで、再作成が必要です。

問題判別:

2、3、8、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2805A **RECORD RBN *nnnnnnnn* IS
INVALID**

説明

EOFに1ブロックを加えたものよりも大きいRBNが検出されました。実行中は、リカバリーによって現行EOFがトラッキングされます。この現行EOFが、最後に書き込まれたブロックです。それぞれのイメージ・コピー、変更累積、またはログ・レコードがEOFに突き合わせされます。入力レコードがEOFに1ブロックを加えた大きさを超えることはできません。ただし、ブロックがスキップされている場合は別ですが、これは許容されていません。

このメッセージが表示される原因になる2番目の状態としては、HISAMアンロードを実行して、再ロードは実行せず、アンロード・ファイルおよび後続のログ・データ・セットをリカバリーのための入力として使用する場合があります。

このメッセージが表示されるについては、3番目となる原因があります。データ・セットに埋め込みEOFがある場合は、最初のEOFが検出されると、イメージ・コピーは停止します。2つのEOF間にあるデータベース・レコードに関しては、レコードがログ・データ・セットに存在する可能性があります。こうなる可能性が最も高いのは、同じデータベースに対して、2つのIMS制御領域を同時に実行した場合です。リカバリーまたは再編成中に、データ・セットをスクラッチして再割り振りすることに失敗すると、埋め込みEOFを生じさせる可能性があります。

プログラマーの応答

提供された入力がすべて正しいか確認してください。

脱落ログ・データ・セットがないかチェックしてください。これがこのメッセージが出る最も一般的な原因です。脱落ログ・データ・セットがあれば、すべて変更累積またはリカバリーのためのログ入力に提供してください。

2番目の状態が生じた場合は、以前のアンロードまたはイメージ・コピー、およびその時点以降に作成されたログ・データ・セットを提供してください。

3番目の状態が生じた場合は、システム・プログラマーに通知して、解決を要請してください。この問題には推奨解決策がありません。

すべての入力がチェックされたら、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

2、3、4、8、17g、36

関連情報

11ページの『IMS問題判別』

IMSメッセージおよびコードの問題判別は、IBMによって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2806A SYSIN CONTROL CARD NOT
 SUPPLIED**

説明

制御ステートメントが必要ですが、SYSIN データ・セットから入手できませんでした。このメッセージがデータベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティから出された場合は、おそらく、グループ・ステートメントの後に少なくとも1つのDBDS Select ステートメントが続いていなかったことを示します。

プログラマーの応答

少なくとも1つの制御ステートメントを組み込み、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSUDMPO、DFSUDMT0

**DFS2807I PURGE DATE-TIME
 SPECIFIED=timestamp**

説明

SYSIN 制御ステートメントで指定された日時がここで繰り返されています。

**DFS2808I RECOVER TRACK CCHH=cccchhhh,
 VOLSER=volser**

説明

データベース・データ・セット・リカバリー・ユーティリティ (DFSURDB0) のトラック・リカバリー・オプションが、指定されたトラックに関して開始されました。

**DFS2809I ATLAS CALL RC=rc FOR TRACK
 CCHH=cccchhhh, VOLSER=volser**

説明

ATLAS の戻りコードの意味については、「Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP」(SC26-4506)を参照してください。

**DFS2810I TRACK UPDATE WAS
 UNSUCCESSFUL FOR CI
 RBA=aaaaaaaa, CCHH=cccchhhh,
 VOLSER=volser-REASON r(f)**

説明

データベース・データ・セット・リカバリー・ユーティリティのトラック・リカバリー・オプションが、次にリストされている理由で正常に実行されませんでした。

コード (16 進数)

意味

44

ERLG の CCHHR がデータ・スペース・エクステントにない。

48 ERLG の RBA がターゲット・データ・セット・エクステントにない。

4C エラー戻りコードが ATLAS から受信された。

50 エラー戻りコードが、GET/GETIY 要求後、VSAM から受信された (f は VSAM フィードバックを示す)。

54 エラー戻りコードが、PUT/PUTIY 要求後、VSAM から受信された (f は VSAM フィードバックを示す)。

58 HISAM アンロードが ISDS をリカバリーするための入力として使用されて依頼、CI RBA=00 が更新されなかった。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

可能な場合は、問題を訂正し、トラック・リカバリーを再実行してください。問題が訂正できない場合は、データ・セット全体をリカバリーする必要があります。

**DFS2811A TRACK RECOVERY TERMINATED
ABNORMALLY, REASON r(f)**

説明

メッセージの中で、*r* は理由コードを示し、*(f)* が表示されている場合は、VSAM フィードバック・コードです。理由コードの値とその意味は、次のとおりです。

コード (16 進数)
意味

04 ターゲット・データ・セット用として ACB を開けない。メッセージ IEC161I を参照して、エラーの原因を判別してください。

08 VSAM 索引の読み取り中にエラーが検出された。(f) は VSAM フィードバック・コードです。

0C タイプ X'24' エラー・ログ・レコードの制御インターバル (CI) RBA が、VSAM 索引で検出できない。

14 無効の要求。トラック・リカバリー呼び出し中に渡されたパラメーター・リストで、要求値が識別されていませんでした。

18 呼び出し元によって渡されたレコードが、制御インターバルに収まらなかった。

1C ターゲット・データ・セット用として、ボリュームがマウントされていない。

20 データ・スペース用として DCB が開けない。

システムの処置

プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答

エラーが訂正可能であれば、そのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。エラーが訂正できない場合は、データベースをリカバリーしてください。理由コード X'14' または X'18' が示された場合は、ABEND 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。

問題判別:

2、3、4、8、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS2812I IMAGE COPY INPUT CREATED BY
ONLINE IMAGE COPY FOR
FUNCTION RV**

説明

リカバリー・ユーティリティへの入力として使用されたイメージ・コピー・データ・セットは、オンライン・イメージ・コピー・ユーティリティで作成されました。

**DFS2813I nnnnnnnn RECORDS WITH DATE-
TIME,SEQUENCE NUMBER
yydddhhmmsst; seqno WERE
IGNORED ON DDNAME dddddddd**

説明

DDNAME=DFSUCUM の場合は、日時がイメージ・コピー日時より小の変更累積レコードは無視され、DDNAME=DFSULOG の場合は、日時がイメージ・コピー日時より小のログ・レコード、または日時、シーケンス番号が最も大きい変更累積レコードは無視されました。

システムの処置

リカバリー・ユーティリティは終了し、警告エラー・コードが戻されます。

プログラマーの応答

リカバリーのための入力を調べて、メッセージが出された理由を判別してください。イメージ・コピーがオンライン・システム操作中(途中)で取られた場合は、レコードはリカバリー中にドロップされることが予想されます。そうでない場合は、このメッセージはユーザー・エラーを示していると推定されます。入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2814A TRACK RECOVERY REQUESTED
BUT NOT POSSIBLE**

説明

入力変更累積データ・セットにトラック・リカバリーに必要なエラー・ログ・レコードが含まれていないので、トラック・リカバリーは不可能です。

システムの処置

ジョブ・ステップが異常終了します。

プログラマーの応答

変更累積入力が、リカバリー対象のデータベース・データ・セットに関するエラー・ログ・レコードが含まれている、ログ・データ・セット用の正しい累積であるか、確認してください。変更累積が実行されていない場合は、それを実行する必要があります。必要な訂正を行い、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別

ジョブを再実行し、最初の制御ステートメントを ABEND 制御ステートメントにしてください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

また、変更累積データ・セットのコピー、および変更累積データ・セットを作成するために使用したログのコピーも提供してください。

DFS2815A VSAM KSDS NOT SUPPORTED

説明

VSAM KSDS の並行イメージ・コピーが作成できません。

システムの処置

イメージ・コピー・ユーティリティがこのイメージ・コピーを終了し、次の制御ステートメントを読み取ります。

プログラマーの応答

EXEC ステートメント PARM= フィールドで CIC を指定しないで、イメージ・コピー・ユーティリティを再実行してください。このイメージ・コピーは、オフラインで、他のアドレス・スペースまたはジョブ、あるいはその両方から割り振り解除されているデータベースに対してのみ実行する必要があります。

**DFS2816A ISAM ACCESS METHOD NOT
SUPPORTED**

説明

ISAM データ・セットのイメージ・コピーが作成できません。

システムの処置

イメージ・コピー・ユーティリティがこのイメージ・コピーを終了し、次の制御ステートメントを読み取ります。

プログラマーの応答

「IMS V15 システム定義」を参照してください。

DFS2817A CIC ATTEMPTED WITHOUT DBRC

説明

並行イメージ・コピーは、DBRC を使用しないで作成することはできません。

システムの処置

イメージ・コピー・ユーティリティは、アクションを実行せずに終了します。DBRC が必要です。

プログラマーの応答

DBRC を使用するか、EXEC ステートメントの PARM= フィールドで CIC を指定しないで、イメージ・コピー・ユーティリティを再実行してください。

**DFS2818I UPDATES MADE USING PSB
psbname TO UPDATE DATABASE
dbname ARE IN DOUBT
THE UNIT OF RECOVERY FOR
RECOVERY TOKEN
aaaaaaaaxxxxxxxxxxxxxxxx IS IN
DOUBT**

説明

このメッセージの最初の形式では、ログにある一部のリカバリー・トークンには、データベース・リカバリー・ユーティリティの実行中未確定であったものがあり

ました。印刷可能フォーマットの 16 バイト・リカバリ
ー・トークンを次のリストに示してあります。

aaaaaaaa

リカバリー・トークンの 8 バイト文字部分

XXXXXXXXXXXXXXXXXX

リカバリー・トークンの 8 バイト 16 進数部分

高速機能リカバリー単位は、データベース・リカバリ
ー・ユーティリティのこの実行中に解決されません
でした。

このメッセージの 2 番目の形式では、*psbname* は、特
定のリカバリー・トークンに関連した PSB の名前です。
dbname は、リカバリー・トークンのために PSB によ
って更新されたすべてのデータベースの DBD 名です。

複数回発生したメッセージの 2 番目の形式が含まれて
いるリストが出される場合があります。このリストに
は幾つかの UOR トークンが含まれていますが、これら
のトークンは、データベース・リカバリー・プロセスに
はかかわりありませんが、これらのトークンに関す
る限り入力ログが不完全であるため、生成されるもの
です。

システムの処置

データベース・リカバリー・ユーティリティは完了
し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答

このメッセージが無視できるのは、リカバリーの対象で
はないデータベースに関して出されている場合です。
それ以外の場合は、未確定データをできるだけ早く解決
する必要があります。

DFS2819A	AREA <i>areaname</i> CONNECT TO STR: <i>strname</i> FAILED. DUPLICATE STRUCTURE NAME FOUND.
-----------------	--

説明

VSO エリアの同一構造名が、カップリング・ファシリ
ティーですでに定義されました。

システムの処置

エリアに関するオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答

エリアに固有の構造名を指定してください。

モジュール:
DBFVSOP0

DFS2821I	PRELOAD COMPLETED FOR ALL SHARED VSO AREAS
-----------------	---

説明

すべての共用 VSO エリアに関するプリロード・プロセ
スが完了しています。

システムの処置

ありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFVXPLO

DFS2822I	AREA <i>areaname</i> CONNECT TO STR: <i>strname</i> SUCCESSFUL
-----------------	---

説明

エリア *areaname* は、キャッシュ構造 *strname* に正常
に接続されました。

モジュール:
DBFVXCS0

DFS2823I	AREA <i>areaname</i> DISCONNECT FROM STR: <i>strname</i> SUCCESSFUL
-----------------	--

説明

エリア *areaname* は、キャッシュ構造 *strname* から正
常に切断されました。

モジュール:
DBFVXCS0

DFS2824A	AREA <i>areaname</i> CONNECT TO STR: <i>strname</i> FAILED. 4K BLKS REQUIRED=<i>xxxxx</i>, ALLOCATED=<i>yyyyy</i>.
-----------------	---

説明

実キャッシュ構造サイズが、必要な実構造サイズより
小さく作成されました。必要なサイズは、*xxxx* で示さ
れ、割り振られたサイズは、*yyyy* で示され、いずれも
16 進数で表示されています。

システムの処置

エリアに関するオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答

新しいカップリング・ファシリティーを指定するか、構
造サイズを正しく指定してください。構造サイズを決
定する公式は、「PR/SM Planning Guide」(GA22-7236
または GA22-7123)に記載されています。

DFS2825A **AREA areaname CONNECT TO STR: strname FAILED. VECTOR LENGTH REQUESTED=xxxxx, ALLOCATED=yyyyy.**

説明

実ベクトル長さが、必要な長さより小さく作成されました。

システムの処置

エリアに関するオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

DFS2826A **AREA areaname CONNECT TO STR: strname FAILED. INTERNAL PARAMETER ERROR. XES RC=xxxx.**

説明

z/OS システム間拡張サービス (XES) 内部エラーが発生しました。XES 戻りコードは xxxx です。

システムの処置

エリアに関するオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

DFS2827A **AREA areaname CONNECT TO STR: strname FAILED. INTERNAL XES ERROR. CONDIAGO=xxxxxxxxx, CONDIAG1=yyyyyyyyy, CONDIAG2=zzzzzzzz.**

説明

内部 z/OS システム間拡張サービス (XES) エラーが発生しました。メッセージに XES 診断情報が示されています。

システムの処置

エリアに関するオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:
DBFVXCS0

DFS2828A **AREA areaname DISCONNECT FROM STR: strname FAILED.INTERNAL XES ERROR. XES RC=xxxx.**

説明

内部 z/OS システム間拡張サービス (XES) エラーが発生しました。XES 戻りコードは xxxx です。XES 戻りコードと理由コードは、IXLDISC マクロ内に記録されています。

システムの処置

AREA は停止されます。

システム・プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール

DBFVXCS0

関連資料

[z/OS: IXLDISC の戻りコードおよび理由コード](#)

DFS2829I **AREA areaname CONNECT TO CF FAILED; INCONSISTENT STRUCTURE SIZES**

説明

エリアは、VSO、NOPRELOAD オプションを使用して定義されます。二重構造が定義されます。構造サイズは、2つの構造間の不整合を防ぐために、同じである必要があります。

システムの処置

エリアに関するオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答

2つの構造に同じサイズを割り振ってください。

モジュール:
DBFVXCS0

DFS2830I **CF READERROR, RBA rrrrrrrr, AREA areaname,STR strname RC=xxxxxxxx RSN=yyyyyyyyy**

または

CF WRITEERROR, RBA rrrrrrrr, AREA areaname,STR strname RC=xxxxxxxx RSN=yyyyyyyyy

説明

カップリング・ファシリティに対する制御インターバル (CI) の読み取りまたは書き込みが失敗しました。内部 z/OS システム間拡張サービス (XES) エラーが発生しました。戻りコードおよび理由コードに XES 診断情報が示されています。これらの戻りコードと理由コードは、IXLCACHE マクロ内に記録されています。

システムの処置

単一キャッシュ構造が定義されている場合は、DASD から、複数構造が定義されている場合は、その他の構造から、高速機能がエリアの処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DBFVSOW0、DBFMSRB0

関連資料

[z/OS: IXLCACHE マクロ \(読み取り用\) の戻りコードおよび理由コード](#)

[z/OS: IXLCACHE マクロ \(書き込み用\) の戻りコードおよび理由コード](#)

DFS2831I **POOLNAME XXXXXXXX; BUFFER SHORTAGE.POOL EXPANDED BEYOND MAX**

説明

XXXXXXXX で示されているバッファ・プールで、バッファ不足が起っています。バッファ・プールは、指定されている限度を超えて、2 次量だけ拡張されます。

オペレーターの応答

/DIS POOL FPDB コマンドを使用して、専用プール使用量を表示させてください。

DFS2832I **CANNOT ADD/CHANGE dedbname-CI SIZE OF areaname EXCEEDS BSIZ**

説明

エリア *areaname* を DEDB *dedbname* に追加する試みが失敗しました。エリアの制御インターバル (CI) サイズが、IMS オンライン制御領域の高速機能バッファ・サイズ (BSIZ) を超えています。

システムの処置

/MODIFY PREPARE または **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドが失敗します。

プログラマーの応答

追加されるエリアの CI サイズを縮小してください。

モジュール:

DBFOLC01

DFS2833I **CANNOT ADD DEDB dedbname-FAST PATH NOT INSTALLED**

説明

高速機能がインストールされていない IMS システムに高速処理データベース (DEDB) を追加する試みがなされました。

システムの処置

/MODIFY PREPARE または **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドが失敗します。

プログラマーの応答

システム定義から DEDB を除去するか、高速機能をインストールしてください。

モジュール:

DFSRMDM0

DFS2834I **PSB psbname HAS BEEN RESCHEDULED BECAUSE OF ONLINE CHANGE**

説明

IMS 高速機能プログラム (IFP) またはメッセージ処理プログラム (MPP) が、オンライン変更を使用して変更された高速処理データベース (DEDB) の更新を試みました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムが疑似異常終了で終了し、PSB がスケジュール変更されます。

モジュール:

DBFIRCIO

DFS2835I **ERROR IN VSPEC DEDB STMT: statement_text REASON= reason_text**

または

ERROR IN VSPEC DEDB STMT: POOLNAME text; text; SPECIFICATION ERROR

または

**ERROR IN VSPEC SDEPQCI STMT: *statement_text*
REASON= *reason_text***

説明

DEDB または SDEPQCI VSPEC ステートメント *text* に誤りがあります。メッセージには、エラーのプール数が最大 2 つというテキストが表示されていますが、エラーのプールは、このメッセージに含まれているよりも多い可能性があります。

statement_text が含まれているタイプのメッセージの場合、*statement_text* は、部分的なエラー・ステートメントを示します。*reason_text* は、エラーの説明を提供します。

システムの処置

IMS は、エラーのあるバッファ・プールを使用せずに、あるいはエラーのある DEDB または SDEPQCI ステートメントを考慮せずに、処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

IMS を停止し、VSPEC メンバーを訂正して、再始動してください。

モジュール:

DBFVSOP0、DBFPVTS0、DBFDVBI0

**DFS2837I CANNOT ADD DEDB *dedbname*-
 OTHREADS NOT INITIALIZED**

説明

DEDB を使用して初期設定されなかった IMS システムに高速処理データベース (DEDB) を追加する試みがなされました。出力スレッド (OTHREADS) は初期設定されず、追加された DEDB に対する入出力は不可能です。

システムの処置

/MODIFY PREPARE または **INITIATE OLC
PHASE(PREPARE)** 処理が停止します。

プログラマーの応答

IMS システムに対して DEDB を定義し、IMS を再始動してください。

モジュール:

DFSRRDM0

**DFS2838I RANDOMIZER *name* FOR
 dedbname IS DELETED AND *status***

または

**RANDOMIZER *name* FOR *dedbname*/FFdatabase/
HALDBpartition IS DELETED AND *status***

説明

IMS がデータベース・ランダムマイザーを正常に削除して、ストレージ内にコピーがなくなっている場合は、状況 GONE が表示されます。ランダムマイザーが再入可能で、削除後にストレージにコピーが検出された場合は、状況 SHARED が表示されます。

次のコマンドにより、ランダムマイザーを削除できます。

- **/DBR DB *dbname***
- **/DBR DB FFdatabase**
- **/STO DB FFdatabase**
- **/STA DB FFdatabase**
- **UPDATE DB NAME(*dedbname*) STOP (ACCESS)**
- **UPDATE DB NAME(FFdatabase) STOP (ACCESS)**
- **UPDATE DB NAME(FFdatabase) STOP (UPDATES)**
- **UPDATE DB NAME(FFdatabase) START (ACCESS)**

システムの処置:

状況が GONE であるとき、ランダムマイザーは、ストレージから物理的に削除されています。状況が SHARED であるとき、ランダムマイザーは、ストレージから削除されていません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFDBAC0、DBFOLC02、DBFARD30、DBFERDB0、
DBFMSIU0、DFSDOCA0

**DFS2839I ERROR TRYING TO GETMAIN
 STORAGE FOR DMCBS**

説明

/MODIFY PREPARE および **INITIATE OLC
PHASE(PREPARE)** コマンドが、高速処理データベース (DEDB) を追加または変更するのに十分な共通サービス域 (CSA) または拡張共通サービス域 (ECSA) ストレージを取得できませんでした。

システムの処置

/MODIFY PREPARE または **INITIATE OLC
PHASE(PREPARE)** コマンドが失敗します。

プログラマーの応答

IMS を停止し、CSA または ECSA のサイズを大きくしてください。

モジュール:
DBFOLC01

DFS2840W **ERROR IN LOADING RANDOMIZER**
name FOR DEDB dedbname, RC=zz

説明

ランダムマイザー *name* がロードできません。

システムの処置

コマンド (/MODIFY PREPARE、INITIATE OLC PHASE(PREPARE)、/START DB、または UPDATE DB START(ACCESS)) は、ランダムマイザーをロードしないで続行します。この高速処理データベース (DEDB) に対する後続の DL/I 呼び出しが FH 状況コードを受信します。IMS の IMODULE 機能からの 16 進戻りコード *zz* については、IMODULE 戻りコード情報で説明しています。

プログラマーの応答

戻りコードが 0 の場合は、ランダムマイザー・モジュールは再入可能ではありませんでした。バインド済み JCL を再実行して、ランダムマイザー・モジュールを再入可能にしてください。

また、次の検証も行ってください。

- ランダムマイザーが IMS システムに正しくリンクされたか。
- DEDB が、ランダムマイザー名を使用して正しく定義されたか。

エラーがあればすべて訂正し、UPDATE DB START(ACCESS) または /START DB コマンドを出して、ランダムマイザーを再ロードしてください。

モジュール:

DBFDBACO、DBFINI24、DBFERDB0、DBFMSIU0

関連資料

IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

DFS2841A **ERROR TRYING TO GETMAIN**
STORAGE FOR LTERM KEYWORD

説明

/MODIFY コマンドの LTERM キーワードに関して、ストレージの割り振りを試みている最中に、GETMAIN が失敗しました。

システムの処置

The /MODIFY PREPARE コマンドは終了されます。

オペレーターの応答

CSA サイズを大きくしたら、IMS を再始動してください。または、ある程度の共通ストレージ域 (CSA) を解放したら、/MODIFY PREPARE コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答

z/OS システム・プログラマーに相談してください。CSA を使用しているリソースを判別し、ある程度の CSA を使用できるように開放することを試みてください。IPL を実行して、CSA を増やす必要があります。

モジュール:
DBFOLC01

DFS2842I **RANDOMIZER name FOR**
dedbname IS LOADED/SHARED

または

**RANDOMIZER name FOR dedbname/FFdatabase/
HALDBpartition IS LOADED/SHARED**

説明

ランダムマイザーがストレージ内になく、IMS によって正常にロードされた場合は、状況 LOADED が表示されます。既存のコピーがストレージ内で検出され、同じコマンドが入力された場合、状況 SHARED が表示されます。

次のコマンドにより、ランダムマイザーをロードできません。

- /START DB *dedbname*
- /START DB *FFdatabase* OPEN
- /START DB *HALDBpartition* OPEN
- UPDATE DB NAME(*dedbname*) START(ACCESS)
- UPDATE DB NAME(*FFdatabase*) START(ACCESS) OPTION(OPEN)
- UPDATE DB NAME(*HALDBpartition*) START(ACCESS) OPTION(OPEN)
- INIT OLREORG NAME(*partname*)
- /INIT OLREORG NAME(*partname*)

システムの処置:

状況 LOADED では、ランダムマイザーは、ストレージに物理的にロードされています。状況 SHARED では、ランダムマイザーは、ストレージに論理的にロードされています。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFDBACO、DBFERDBO、DBFMSIUO、DFSDOCAO

DFS2843 DATASET service FAILED FOR ds_type

DSN=dsn

SYNAD BUFFER FOLLOWS: dev#,devtype,DD name,operation,error description,block number,access method

オペレーターの応答

このメッセージについては、DFS2843E を参照してください。

関連情報

808 ページの『DFS2843E』

DATASET service FAILED FOR ds_type,

RC=rrrrrrrr /ssssssss

DSN=dsn

SYNAD BUFFER FOLLOWS: dev#,devtype,DD

name,operation,,block number,access method

DFS2843E DATASET service FAILED FOR ds_type, RC=rrrrrrrr /ssssssss DSN=dsn SYNAD BUFFER FOLLOWS: dev#,devtype,DD name,operation,,block number,access method

説明

データ・セットの障害が発生しました。

SYNAD BUFFER FOLLOWS で始まる、このメッセージの 3 行目は、BSAM データ・セット・アクセス方式により渡される場合にのみ表示されます。この行が表示されるとき、それは SYNAD バッファの内容を含み、装置番号、装置タイプ、DD 名、試行された操作、エラーの説明、ブロック番号、およびアクセス方式 (BSAM) を示します。SYNAD バッファのマッピングおよび意味については、SYNADAF マクロの説明を参照してください。BSAM は、エラーに応じて、SYNAD バッファを戻す場合もあり、戻さない場合もあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

service

失敗したサービス。次のいずれかです。

OPEN

CLOSE

READ

WRITE

ds_type

DFSCGxxx PROCLIB メンバーに指定されているオンライン変更データ・セットを識別します。

rrrrrrrr

MVS/DFP サービスからの戻りコード。この戻りコードは、SYNAD バッファが表示されている場合には表示されません。

ssssssss

MVS/DFP サービスからの理由コード。この理由コードは、SYNAD バッファが表示されている場合には表示されません。

dsn

データ・セットの名前。

OM コマンドがこのエラーを検出した場合は、このメッセージが非送信請求メッセージとして OM 出力出口に送信されます。

IMS の初期設定または IMS の再始動でこのエラーが検出された場合は、このメッセージがシステム・コンソールに送信されます。

ユーティリティーがこのエラーを検出した場合は、このメッセージがユーティリティーのジョブ・ログに送信されます。

システムの処置

システムの処置は、エラーを検出した IMS 機能に応じて次のように異なります。

- IMS の初期設定は、異常終了コード 2800、サブコード X'0002' または X'0003' を示して失敗します。
- IMS の再始動は、異常終了コード 2801、サブコード X'0002' または X'0003' を示して失敗します。
- IMS オンライン変更コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

データ・セットの問題を訂正して、IMS の初期設定、IMS の再始動、またはオンライン変更コマンドを再試行してください。

DFS2843 メッセージの *error description* に、テキスト WRNG.LEN.RECORD が含まれている場合、OLCSTAT データ・セットが正しく割り振られていない可能性があります。ファイルの終わり (EOF) マークを付けて OLCSTAT データ・セットを割り振ったことを確認してください。IEFBR14 を使用して OLCSTAT データ・セットを割り振った場合、このデータ・セットには EOF マークがなく、読み取りできません。この問題を訂正するには、EOF マークを付けて OLCSTAT データ・セットを割り振る必要があります。ISPF ユーティリティーの IEBGENER または ALLOCATE 機能を使用すると、OLCSTAT データ・セットを割り振ることができます。

モジュール:

DFSIIOC0、DFSIOQ040、DFSOLC00、DFSROLCO

関連資料

[z/OS: SYNADAF エラーの説明](#)

関連情報

808 ページの『DFS2843』

DATASET service FAILED FOR *ds_type*

**DFS2844E DATASET *ds_type* CONTENTS
 INVALID ERROR=*errortext***

説明

データ・セットの内容が正しくありません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ds_type

DFSCGxxx PROCLIB メンバーに指定されているオンライン変更データ・セットを識別します。

errortext

エラーの説明。下記の値のいずれかです。

用語

意味

NOT INIT

OLCSTAT データ・セットが初期設定されません。

INVALID ENVIRONMENT

この環境の場合、OLCSTAT データ・セットは無効です。IMS は RMENV=N で定義されており、これは、OLCSTAT データ・セットを共用できないことを意味しています。1 つ以上の IMS メンバー名が、そのデータ・セット内で定義されています。

OLC ユーティリティーの DFSUOLCO を使用して、OLCSTAT データ・セットを訂正してください。

INVALID HDR LEN

OLCSTAT データ・セット・ヘッダーの長さが無効です。ヘッダーの長さはゼロ以外でなければならず、OLCSTAT データ・セットの最大サイズを超えてはなりません。

INVALID OLCINP

OLCSTAT データ・セットのロック・ワードが無効です。

ACBLIB SUFFIX

ACBLIB 接尾部が無効です。接尾部は、A または B でなければなりません。

FMTLIB SUFFIX

FMTLIB 接尾部が無効です。接尾部は、A または B でなければなりません。

MODBLKS SUFFIX

MODBLKS 接尾部が無効です。接尾部は、A または B でなければなりません。

OM コマンドがこのエラーを検出した場合は、このメッセージが非送信請求メッセージとして OM 出力出口に送信されます。

IMS の初期設定または IMS の再始動でこのエラーが検出された場合は、このメッセージがシステム・コンソールに送信されます。

ユーティリティーがこのエラーを検出した場合は、このメッセージがユーティリティーのジョブ・ログに送信されます。

システムの処置

システムの処置は、エラーを検出した IMS 機能に応じて次のように異なります。

- IMS の初期設定は、異常終了コード 2800、サブコード X'0007' を示して異常終了します。
- IMS の再始動は、異常終了コード 2901、サブコード X'0007' を示して異常終了します。
- オンライン変更コマンドは失敗します。

システム・プログラマーの応答

グローバル・オンライン変更ユーティリティー (DFSUOLCO) を実行して、OLCSTAT データ・セットを初期設定してください。それから、IMS の初期設定、IMS の再始動、またはオンライン変更コマンドを再試行してください。

モジュール:

DFSIIOC0、DFSIOQ040、DFSOLC00、DFSROLCO

**DFS2845A *rsrctdesc* *rsrctype* DEFINITION
 INCONSISTENT, ENTER
 CONTINUE OR CANCEL**

説明

IMS の初期設定で、この IMS システムで定義されたリソースが、IMSplex 内の IMS システムによって定義されたリソースと不整合であることが判別されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsrctdesc

記述タイプ。これは DATASET です。

rsrctype

リソース・タイプ。これは次のいずれかです。

ACBLIB
FMTLIB
MODBLKS

システムの処置

IMS は、メッセージに対する返信を待ちます。

オペレーターの応答

次のいずれかの応答を入力します。

CONTINUE

この IMS で整合性を検査された 1 つ以上のリソースが、IMSpIex の他の IMS システムで定義されたリソースと一致しない場合でも、IMS の初期設定を続行します。

CANCEL

IMS の初期設定を取り消します。IMS 初期設定は異常終了 2800、サブコード X'0008' を示して終了します。

このメッセージは、システム・コンソールに送信されません。

システム・プログラマーの応答

すべての IMS システムが同じリソース定義を使用するようにするか、DFSCGxxx NORSCC= パラメーターを使用してリソースの整合性検査を使用不可にします。

モジュール:
DFSCSL40

関連情報

[IMS 異常終了 2800](#)

DFS2846E *rsrctdesc rsrctype* DEFINITION
INCONSISTENT

説明

IMS の初期設定で、他の IMS システムによって定義されたリソースが、IMSpIex 内の IMS によって定義されたリソースと整合しないことが判別されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsrctdesc

リソースの記述。それは DATASET です。

rsrctype

リソース・タイプ。それは OLCSTAT です。

このメッセージは、システム・コンソールに送信されません。

システムの処置

IMS の初期設定は、異常終了コード 2800、サブコード X'0009' を示して失敗します。

プログラマーの応答

応答の詳細については、異常終了 2800 を参照してください。

モジュール:
DFSCSL40

関連情報

[IMS 異常終了 2800](#)

DFS2847I **MODIFY COMMAND REJECTED -
GLOBAL ONLINE CHANGE
ENABLED**

説明

ローカル・オンライン変更のために使用した **/MODIFY** コマンドが、グローバル・オンライン変更が使用可能になっているためにリジェクトされました。グローバル・オンライン変更は、DFSCGxxx PROCLIB メンバーのキーワード OLC=GLOBAL を使用して使用可能にされています。

このメッセージは、**/MODIFY** コマンドを入力した端末へ送信されます。

システムの処置

/MODIFY オンライン変更コマンドはリジェクトされません。

オペレーターの応答

INITIATE OLC コマンドを出して、グローバル・オンライン変更を開始してください。

モジュール:
DFSICV10

DFS2848E **DYN service FAILED for ds_type,
RC=rrrrrrrr/ssssssss
DSN=dsn**

説明

動的割り振り障害が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

service

失敗したサービス。それは ALLOC または UNALLOC です。

ds_type

DFSCGxxx PROCLIB メンバーに指定されているオンライン変更データ・セット。それは OLCSTAT です。

rrrrrrrr

動的割り振りサービスからの戻りコード

ssssssss

動的割り振りサービスからの理由コード

dsn

最大 44 文字までのデータ・セット名

OM コマンドがこのエラーを検出した場合は、このメッセージが非送信請求メッセージとして OM 出力出口に

送信されます。IMS の初期設定または IMS の再始動でこのエラーが検出された場合は、このメッセージがシステム・コンソールに送信されます。ユーティリティーがこのエラーを検出した場合は、このメッセージがユーティリティーのジョブ・ログに送信されます。

システムの処置

システムの処置は、エラーを検出した IMS 機能に応じて次のように異なります。

- IMS の初期設定は、異常終了コード 2800、サブコード X'0001' または X'0003' を示して失敗します。
- IMS の再始動は、異常終了コード 2801、サブコード X'0001' を示して失敗します。
- IMS オンライン変更コマンドは失敗します。

システム・プログラマーの応答

動的割り振りの問題を訂正して、IMS の初期設定、IMS の再始動、またはオンライン変更コマンドを再実行してください。

モジュール:

DFSIIOC0, DFSIQ040, DFSROLC0

関連情報

[IMS 異常終了 2800](#)

[IMS 異常終了 2801](#)

DFS2849A **AREA areaname CONNECT TO STR: strname FAILED. CASTOUT CLASS REQUESTED=xxxxx, ALLOCATED=yyyyy**

説明

最大キャストアウト・クラス番号が、構造とコネクタの間で整合していません。割り振られた値は、最初のコネクターからの構造の値です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

失敗したエリア

strname

エリアが接続を試みた先の構造

xxxxx

要求されたキャストアウト・クラス値

yyyyy

最初のコネクターから構造に割り振られたキャストアウト・クラス値

システムの処置

エリアは開きません。

システム・プログラマーの応答

構造を表示させ、再始動前にすべての接続を削除してください。

モジュール:

DBFVXCS0

DFS2850E **COLDSTART REQUIRED DUE TO GLOBAL ONLINE CHANGE**

説明

この IMS システムのウォーム・スタートまたは緊急時再始動の試みが失敗しました。この IMS がダウンしていた間にグローバル・オンライン変更が行われたためです。この IMS は、以下の場合にはコールド・スタートが必要です。

- この IMS が、複数のグローバル・オンライン変更の間ダウンしていた。
- この IMS が、最後のグローバル・オンライン変更の間ダウンしていて、この IMS の再始動タイプが、実行された最後のグローバル・オンライン変更と矛盾している。

このメッセージは、**/NRE** または **/ERE** などの再始動コマンドに対する応答で、システム・コンソールに送信されます。

システムの処置

IMS は、異常終了コード 2801、サブコード 12 を示して異常終了します。

オペレーターの応答

IMS を再び開始させ、コールド・スタート・コマンド (**/NRE CHECKPOINT 0**) を入力するか、または最後のオンライン変更タイプと矛盾しない再始動コマンドを入力してください。

次の表には、オンライン変更の間ダウンしていた IMS に許可される IMS 再始動のタイプと、IMS がダウンしていた間に実行されたオンライン変更タイプが示されています。

表 14. DFS2850E の場合のオンライン変更のタイプと再始動のタイプ	
オンライン変更のタイプ	許可される再始動コマンド
ACBLIB	/NRE CHECKPOINT 0 /ERE COLDBASE
ALL	/NRE CHECKPOINT 0

表 14. DFS2850E の場合のオンライン変更のタイプ
と再始動のタイプ (続き)

オンライン変更のタイプ 許可される再始動コマンド
タイプ

FORMAT	/NRE CHECKPOINT 0
	/NRE
	/ERE
	/ERE COLDCOMM
	/ERE COLDBASE

表 14. DFS2850E の場合のオンライン変更のタイプ
と再始動のタイプ (続き)

オンライン変更のタイプ 許可される再始動コマンド
タイプ

MODBLKS	/NRE CHECKPOINT 0
---------	-------------------

モジュール:
DFSOLCS0
関連情報
IMS 異常終了 2801

第 61 章 DFS メッセージ DFS2851I - DFS2900I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2851I **AREA areaname (ASSOCIATE TO|
DISASSOCIATE FROM) STR
structure name SUCCESSFUL**

説明

エリアへの処置は正常に実行されました。

ASSOCIATE TO

エリア *areaname* が、多重エリア構造 *structure name* を使用して開始されました。この構造用に XES 接続が存在するので、エリアに必要なのはアソシエーションだけです。

DISASSOCIATE FROM

エリア *areaname* が、多重エリア構造 *structure name* を使用して停止されました。

システムの処置

VSO 処理は、そのエリアについて開始されるか停止されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

(ASSOCIATE TO の場合) DBFVXAS0

(DISASSOCIATE FROM の場合) DBFVXCS0

DFS2852I **AREA areaname ASSOCIATE TO
STR structure name FAILED. STR
CISIZE=xx, AREA CISIZE=yy**

説明

エリアの CI サイズ (*yy*) が、構造内にあるその他のエリアの CI サイズ (*xx*) と異なっているため、エリアへのアソシエーションが失敗しました。

システムの処置

エリアのオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答

エリアの DBRC 登録で、構造名をそのエリアと同じ CI サイズを持つ構造に変更してください。

モジュール:
DBFVXAS0

DFS2853A **A NEW STRUCTURE WAS CREATED
FOR AREA AAAAAAAA. REPLY 'C'
TO CONTINUE OR 'R' TO RECOVER.**

説明

このメッセージは、ユーザーが WTOR という SVSODR 開始オプションを指定したために生成されます。このオプションはリモート・サイトで使用され、これによりユーザーには、SVSO エリアに「リカバリーが必要」とマーク付けすることを必要とするか否かについてのオプションが用意されます。ユーザーにオプションが提供されるのは、緊急時再始動時または緊急時再始動後の最初のエリア・オープン時に SVSO エリア用の新規構造体を作成する場合、および SVSODR=WTOR が指定されている場合です。

システムの処置

オプション C を選択した場合、IMS は指定されたエリアをオープンし、新しい構造体に接続します。すると、そのエリアに対して、通常の処理が再開します。オプション R を選択した場合、指定されたエリアは停止され、「リカバリーが必要」とマーク付けされます。

プログラマーの応答

C を応答して、エリアについて通常の処理を続けます。エリアにリカバリーが必要というマークを付ける場合は、R を応答します。

モジュール:
DBFVXCS0

DFS2854A **jobname, stepname, region,
reason-FAILED SECURITY CHECK**

説明

このメッセージは、セキュリティー違反が生じたことを IMS マスター端末オペレーターに通知します。セキュリティー違反を試みたユーザーの *jobname* および *stepname* が示されます。reason は、次のリストに示されている理由コードを示します。

コード (16 進数)
意味

040
GETMAIN 呼び出しが失敗した。

080
RAS 処理用のストレージ (RACW) の取得不能。

084

IMS リソースが、SAF (RACF) 検査について、この従属領域用に許可されていない。

088

IMS リソースが、リソース・アクセス・セキュリティー・ユーザー出口 (RASE) 検査について、この従属領域用に許可されていない。

08C

RAS セキュリティー許可処理中に、入力トランザクション名を検出できなかったか、または従属領域の ACEE を作成するための IMS RACROUTE REQUEST=VERIFY, ENVIR=CREATE が RACF によってリジェクトされました。APPL=IMSID にアクセスする従属領域のユーザー ID のセキュリティー問題が、この問題の原因である可能性があります。

090

従属領域の ACEE を作成するための IMS RACROUTE REQUEST=VERIF, ENVIR=CREATE が RACF によってリジェクトされました。

114

宛先検索ルーチン (DFSICLFO) が、SYMBOLIC 出力トランザクション・コードまたは論理端末名を検出できなかった。

システムの処置

従属領域は、異常終了 0437 で異常終了します。

プログラマーの応答

従属領域ユーザー ID には、使用しようとしている IMS リソース (トランザクション、PSB、および LTERM) へのアクセスが許可されていることを確認してください。

モジュール:

DFSASKQ0、DFSDASPO

関連情報

[IMS 異常終了 0437](#)

DFS2855A

APSB SECURITY CHECK FAILED FOR *odbaidid* USERID=uuuuuuuu PSB=pppppppp SAF RC=xx RACROUTE=AUTH RC(yyyy,zzzz)

説明

USERID は、ODBA アプリケーションからの、指定された PSB に関する SAF セキュリティー検査に失敗しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbaidid

IMS に接続されている ODBA アドレス・スペースの ID

uuuuuuuu

APSB 要求に関連したユーザー ID

pppppppp

APSB 要求で名前が指定された PSB

xx

SAF 戻りコード

yyyy

RACF または同等の戻りコード

zzzz

RACF または同等の理由コード

システムの処置

APSB 要求は失敗します。呼び出しは、疑似異常終了 0438 で終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSDASPO

関連情報

[IMS 異常終了 0438](#)

DFS2855I

OLCSTAT DATASET LOCKED FOR GLOBAL ONLINE CHANGE

説明

OLCSTAT データ・セットがグローバル・オンライン変更のためにロック状態であるため、DBBBATCH 領域は失敗しました。

システムの処置

DBBBATCH 領域は、0821 異常終了で終了しました。

ユーザーの処置

グローバル・オンライン変更が完了してから、DBBBATCH 領域を再度実行します。

関連情報

[IMS 異常終了 0821](#)

DFS2856W

DFSCGXXX OLC=*olctype* ONLINE CHANGE TYPE MISMATCH

説明

IMS 再始動、XRF 代替トラッキング、DBCTL ウォーム・スタンバイ緊急時再始動、または FDR 領域トラッキング中に、オンライン変更タイプの不一致が検出されました。この IMS が再始動の元になっているチェックポイント・ログ・レコードはオンライン変更タイプ (ローカルまたはグローバル) を使用して定義されていますが、そ

のオンライン変更タイプが、IMS の初期設定に使用された DFSCGxxx PROCLIB メンバーの OLC= パラメーターによって定義されているオンライン変更タイプと一致しません。

オンライン変更タイプを変更して、IMS ウォーム・スタートまたは緊急時再始動の全体にわたってグローバル・オンライン変更を使用可能または使用不可にする予定であった場合を除き、この状態は重大なエラーである可能性があります。

重要: グローバル・オンライン変更を使用可能にするとき、またはローカル・オンライン変更へフォールバックするときは、IMS のコールド・スタートを実行します。緊急時再始動またはウォーム・スタート全体でオンライン変更タイプを変更しないでください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

olctype

この IMS の DFSCGxxx PROCLIB メンバーに定義されているオンライン変更タイプ。

LOCAL

ローカル・オンライン変更は、この IMS で使用可能にされます。グローバル・オンライン変更は、アクティブな IMS で使用可能にされます。

GLOBAL

グローバル・オンライン変更は、この IMS で使用可能にされます。ローカル・オンライン変更は、アクティブな IMS で使用可能にされます。

システムの処置

IMS は処理を続行します。IMS は、この不一致によるエラーを検出すると異常終了する場合があります。

システム・プログラマーの応答

この不一致があっても IMS が異常終了せず、しかも、IMS 緊急時再始動、IMS ウォーム・スタート、XRF 代替システム、DBCTL ウォーム・スタンバイ、または FDBR 領域全体でオンライン変更タイプを変更する予定がなかった場合は、IMS、XRF 代替、DBCTL ウォーム・スタンバイ、または FDBR 領域をシャットダウンし、DFSCGxxx PROCLIB メンバーの OLC= パラメーターを変更してアクティブな IMS と一致させてから、IMS、XRF 代替、DBCTL ウォーム・スタンバイ、または FDBR 領域バックアップを再度立ち上げます。

DFS2857E **DIAGNOSE COMMAND INTERNAL ERROR - MOD=name, RSN=nnnn**

説明

/DIAGNOSE コマンドの処理中に、リカバリー不能な内部エラーが検出されました。このメッセージは、内部に根本原因がある重大なエラー状態が検出されれば、コード内のどの時点にあっても発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

メッセージを発行したモジュールの名前。

nnnn

理由コード。各内部エラーには固有の理由コードがあります。一般に、理由コードは *xyyy* という形式をとります。ここで、*xx* は発行したモジュールの名前の最後の 2 文字で、*yy* は 2 文字の順序番号です。順序番号は、モジュールごとに 01 から始まり、そのモジュール内で検出されたエラーを識別します。例外は SNAP リソース・モジュールによって発行される特定の共通メッセージで、それらのメッセージには、*ZZyy* という形式が使用されます。

システムの処置

指定された /DIAGNOSE コマンドが完了しません。

システム・プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSDGSA0、DFSDGSP0、DFSDGSZ5、DFSDGS82、DFSDGSA1、DFSDGSR0、DFSDGSZ6、DFSDGS84、DFSDGSB0、DFSDGSS0、DFSDGSZ7、DFSDGS9A、DFSDGSD0、DFSDGST0、DFSDGSZ8、DFSDGS9C、DFSDGSL0、DFSDGSU0、DFSDGSZ9、DFSDGS92、DFSDGSL1、DFSDGSZ0、DFSDGS00、DFSDGS94、DFSDGSL2、DFSDGSZ1、DFSDGS10、DFSDGS96、DFSDGSM0、DFSDGSZ2、DFSDGS20、DFSDGS98、DFSDGSM1、DFSDGSZ3、DFSDGS40、DFSDGSN0、DFSDGSZ4、DFSDGS80

DFS2858E **DIAGNOSE COMMAND SEVERE ERROR-reason text**

説明

このメッセージは、/DIAGNOSE コマンドの処理中に、リカバリー不能な外部エラーが検出されたことを示します。このメッセージは、外部に根本原因がある重大なエラー状態が検出されれば、コード内のどの時点にあっても発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason text

検出された特定のエラーを識別します。reason text は、次のいずれかになります。

BCB AWE GET FAILED RC=rc

/DIAGNOSE SNAP コマンドが、

OPTION(SYSOUT) を指定して発行されました。このコマンドは、SNAP 結果を DGS AWE プロセッサにエンキューするための AWE を獲得できませんでした。BCB AWE GET 呼び出しから

の失敗戻りコードが、メッセージ・テキスト内の rc に取り込まれます。コマンドは失敗し、SYSOUT データ・セットに出力が書き込まれません。これは一時的なストレージ制約の問題であるか、IMS がもっと重大なストレージの問題を検出している可能性があります。この他にストレージの問題が明らかになっていない場合は、コマンドを再発行してください。コマンドが再度失敗し、他にストレージの問題が明らかになっていない場合は、IBM ソフトウェア・サポート にお問い合わせください。

BLOCK STORAGE NOT AVAILABLE

/DIAGNOSE SNAP BLOCK() コマンドが発行されましたが、要求された 1 次ブロックが使用不可能でした。

COPY BUFFER FREESTOR FAILED

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行され、コピー・バッファに診断情報が取り込まれましたが、そのコピー・バッファの FREESTOR 呼び出しが失敗しました。

COPY FAILED: DESTRUCTIVE OVERLAP

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行され、診断情報が検出され、ストレージ・コピー・ルーチンに対する呼び出しが事実上許容コピー障害なしに行われ、ストレージとコピー・バッファとの間に有害なオーバーラップがあるためにコピーが失敗しました。

COPY FAILED: INVALID STORAGE KEY

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行され、診断情報が検出され、ストレージ・コピー・ルーチンに対する呼び出しが事実上許容コピー障害なしに行われ、無効なストレージ・キーのためコピーが失敗しました。

COPY FAILED: STORAGE UNAVAILABLE

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行され、診断情報が検出され、ストレージ・コピー・ルーチンに対する呼び出しが事実上許容コピー障害なしに行われ、無効なアドレスのためコピーが失敗しました。

DGSS BUFFER FREESTOR FAILED

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行され、DGSS ストレージ・テーブルが割り振られましたが、その DGSS ストレージ・テーブルの FREESTOR 呼び出しが失敗しました。

ENQUEUE AWE FAILED RC=rc

/DIAGNOSE SNAP コマンドが、OPTION(SYSOUT) を指定して発行されました。このコマンドは、SNAP 結果を DGS AWE プロセッサにエンキューできませんでした。エンキュー・プロセスからの失敗戻りコードが、メッセージ・テキスト内の rc に取り込まれます。コマンドは失敗し、SYSOUT データ・セットに出力が書き込まれません。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

NUCLEUS ADDR TABLE NOT AVAILABLE

/DIAGNOSE SNAP MODULE() コマンドが発行されましたが、DIAGNOSE コマンドの中核モジュール・アドレス・テーブル (Nucleus Module Address Table) が使用不可能でした。

STORAGE COPY FAILED

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行され、診断情報が検出され、ストレージ・コピー・ルーチンに対する呼び出しが事実上許容コピー障害なしに行われ、コピーが失敗しました。

TRACE FACILITY START FAILED

/DIAGNOSE SNAP コマンドが、OPTION(TRACE) を選択して実行されましたが、DIAG トレース・テーブルに対してトレース機能を開始するための内部呼び出しが失敗しました。

システムの処置

指定された **/DIAGNOSE** コマンドが完了しません。

システム・プログラマーの応答:

IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DFSDGSA0、DFSDGSP0、DFSDGSZ5、DFSDGS82、DFSDGSA1、DFSDGSR0、DFSDGSZ6、DFSDGS84、DFSDGSB0、DFSDGSS0、DFSDGSZ7、DFSDGS9A、DFSDGSD0、DFSDGST0、DFSDGSZ8、DFSDGS9C、DFSDGSL0、DFSDGSU0、DFSDGSZ9、DFSDGS92、DFSDGSL1、DFSDGSZ0、DFSDGS00、DFSDGS94、DFSDGSL2、DFSDGSZ1、DFSDGS10、DFSDGS96、DFSDGSM0、DFSDGSZ2、DFSDGS20、DFSDGS98、DFSDGSM1、DFSDGSZ3、DFSDGS40、DFSDGSN0、DFSDGSZ4、DFSDGS80

DFS2859I

DIAGNOSE COMMAND

UNSUCCESSFUL - *reason text*

説明

致命的でないエラーが発生したため、**/DIAGNOSE** コマンドが正常に完了しませんでした。このメッセージは、致命的でなく、重大でないエラー状態が検出されれば、コード内のどの時点にあっても発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason text

検出された特定のエラーを識別します。

AOS=N WAS SPECIFIED

/DIAGNOSE SET AOSLOG() コマンドが発行されましたが、このコマンドでの AOS ロギングは、IMS 始動パラメーターによって禁止されました。

block UNAVAILABLE

block 制御ブロックが使用不可または未定義であったのに、**/DIAGNOSE SNAP BLOCK**(*block*) コマンドが発行されました。

CLASS INVALID WITH OUTPUT OPTION

/DIAGNOSE SNAP コマンドが CLASS() パラメーターを指定して発行されましたが、出力 OPTION() パラメーターが SYSOUT ではありませんでした。CLASS() オプションは OPTION(SYSOUT) でのみ有効です。OPTION(SYSOUT) を使用するか、CLASS() を削除するようにコマンドを変更してから、コマンドを再発行してください。

CLASS(class) INVALID

/DIAGNOSE SNAP コマンドが CLASS() パラメーターを指定して発行されましたが、無効なクラスが指定されました。クラスの有効値は A から Z と 0 から 9 です。クラスを有効な値のいずれかに変更して、コマンドを再発行してください。

FORMAT INVALID WITH OPT(OLDS)

/DIAGNOSE SNAP コマンドが、OPTION(OLDS) および FORMAT キーワードを指定して発行されました。FORMAT キーワードは、OPTION(OLDS) を指定すると無効です。

FORMAT INVALID WITH OPT(TRACE)

/DIAGNOSE SNAP コマンドが、OPTION(TRACE) および FORMAT キーワードを指定して発行されました。FORMAT キーワードは、OPTION(TRACE) を指定すると無効です。

INVALID ADDRESS VALUE SPECIFIED

/DIAGNOSE SNAP コマンドが ADDRESS(*address*) を指定して発行されましたが、ここで指定された *address* が、許可されるアドレスの最大値 X'7FFFFFFF' を超えていました。

INVALID LENGTH VALUE SPECIFIED

/DIAGNOSE SNAP コマンドが ADDRESS(*address*) LENGTH(*length*) を指定して発行されましたが、ここで指定された *length* が、許可される長さの最大値 ($address + length \leq X'7FFFFFFF'$ で与えられる) を超えていました。

INVALID LIMIT(limit) MAX=maximum

/DIAGNOSE SNAP コマンドが LIMIT() パラメーターを指定して発行されましたが、限界値が、指定された OPTION() の範囲外でした。出力オプションを OPTION(DISPLAY) から OPTION(SYSOUT) に変更するか、限界をメッセージ・テキスト内の最大値以下に変更してから、コマンドを再発行してください。OPTION(DISPLAY) および OPTION(SYSOUT) を指定した LIMIT() の有効範囲について詳しくは、LIMIT() パラメーターの説明を参照してください。

INVALID OLR resource SHOW OPTION

/DIAGNOSE SNAP コマンドが、無効なブロック名が指定されている OLR 領域に対して発行されました。OLR 領域には、VTD、ASCB、ASSB、DPDIR、IWALE、LESEP、DRAT、および IDT というブロックが使用不可であるため、無効です。

INVALID resource SHOW OPTION

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行されましたが、コマンドに含まれる SHOW オプションのキーワードまたはブロック名が、指定されたリソース・タイプについて無効でした。

LIMIT INVALID WITH OPT(OLDS)

LIMIT INVALID WITH OPTION(OLDS)

/DIAGNOSE SNAP コマンドが OPTION(OLDS) を選択して発行されましたが、LIMIT(*linecount*) が指定されていました。LIMIT パラメーターは、OPTION(OLDS) を選択すると無効です。

LIMIT INVALID WITH OPT(TRACE)

LIMIT INVALID WITH OPTION(TRACE)

/DIAGNOSE SNAP コマンドが OPTION(TRACE) を選択して発行されましたが、LIMIT(*linecount*) が指定されていました。LIMIT パラメーターは、OPTION(TRACE) を選択すると無効です。

NO VALID BLOCKS FOR resource

指定されたリソースおよび SHOW() オプションに対して、有効なブロックが検出されませんでした。正しいリソースが指定されていること、およびそのリソースに有効な SHOW() オプションが指定されていることを確認してください。

resource(parameter) NOT FOUND

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行されましたが、コマンドには、指定リソース・タイプのパラメーターが見つかりませんでした。

RM(ONLY) INVALID, RM UNAVAILABLE

/DIAGNOSE SNAP コマンドが RM(ONLY) パラメーターを指定して発行されましたが、Resource Manager が使用不可です。RM() パラメーターを変更するか除去して、コマンドを再発行してください。

SNAP RESOURCE NOT FOUND

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行されましたが、コマンドには、指定リソース・タイプのパラメーターが見つかりませんでした。

SNAP RESOURCE NOT SPECIFIED

/DIAGNOSE SNAP コマンドは、SNAP リソース・タイプが指定されないまま発行されました。

UNABLE TO GET DIAG TRACE TABLE

DIAG トレース・テーブルが使用不可能であったのに、**/DIAGNOSE SNAP** コマンドが OPTION(TRACE) を選択して発行されました。

システムの処置

指定された /DIAGNOSE コマンドが完了しません。

オペレーターの応答

コマンド・テキストを確認し、すべてのエラーを訂正して、コマンドを再実行してください。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSDGSA0、DFSDGSP0、DFSDGSZ5、DFSDGS82、
DFSDGSA1、DFSDGSR0、DFSDGSZ6、DFSDGS84、
DFSDGSB0、DFSDGSS0、DFSDGSZ7、DFSDGS9A、
DFSDGSD0、DFSDGST0、DFSDGSZ8、DFSDGS9C、
DFSDGSL0、DFSDGSU0、DFSDGSZ9、DFSDGS92、
DFSDGSL1、DFSDGSZ0、DFSDGS00、DFSDGS94、
DFSDGSL2、DFSDGSZ1、DFSDGS10、DFSDGS96、
DFSDGSM0、DFSDGSZ2、DFSDGS20、DFSDGS98、
DFSDGSM1、DFSDGSZ3、DFSDGS40、DFSDGSN0、
DFSDGSZ4、DFSDGS80、DFSDGS90

DFS2860W **EXTERNAL TRACE DATA SET
LOGGING NOT AVAILABLE -
REASON - N.**

説明

IMS が外部トレース・データ・セットを使用できません。Nで次のいずれかの理由を示します。

- ・制御領域 24 ビット専用ストレージで、出力バッファ用のストレージが使用不能である。
- ・出力データ・セットのブロック・サイズが 4008 バイトより小である。
- ・外部トレース・データ・セットが残されていない。このメッセージより前に、通常は、エラー条件を報告する別のメッセージが出されます。

システムの処置

IMS 外部トレースが開始されますが、エラー・クリーンアップが正常に完了すれば、永続的に使用不可なわけではありません。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

DFS2861W **TAPE/DISK DYNAMIC
ALLOCATION FAILED FOR
EXTERNAL TRACE DATA SET
XXXXXXXX.**

説明

xxxxxxxx としてリストされている DD 名に関して、動的割り振りが失敗しました。DFSMDBA メンバーがデータ・セットおよびその存在場所を正確に記述しているか検証してください。

システムの処置

ディスク・データ・セットが使用されている場合は、IMS は、トレース・テーブルを残りのデータ・セットにログとして記録することを試みます。外部トレース用として、ディスクやテープが残されていない場合、IMS はオペレーターに対して、トレース・テーブルを OLDS にログとして記録する許可を要求します。詳しくは DFS2867A を参照してください。

関連情報

819 ページの『DFS2867A』

EXTERNAL TRACE NOT USABLE, REPLY "Y" TO
USE OLDS, "N" TO TRACE INCORE

DFS2862W **OPEN/CLOSE ERROR ON
EXTERNAL TRACE DATA SET
XXXXXXXX.**

説明

リストされているデータ・セットに関して、オープンまたはクローズが失敗しました。このメッセージの前に、システム・エラー・メッセージが出されているはずでず。

システムの処置

ディスク・データ・セットが使用されている場合は、IMS は、残りのディスクを使用し続けようとしています。それ以上ディスクを使用できないか、テープが使用されている場合、IMS はオペレーターに対して、IMS トレース・テーブルを OLDS にログとして記録する許可を要求します。障害のあるデータ・セットがクローズおよび割り振り解除できない場合は、IMS が再始動されるまでは、障害のあるデータ・セットは使用不能です。IMS トレース・テーブルを OLDS にログする方法について詳しくは、DFS2867A を参照してください。

関連情報

819 ページの『DFS2867A』

EXTERNAL TRACE NOT USABLE, REPLY "Y" TO
USE OLDS, "N" TO TRACE INCORE

DFS2863I **LOGGING IMS TRACE TABLES TO
EXTERNAL TRACE DISK/TAPE
DATA SET.**

説明

このメッセージは、IMS が IMS トレース・テーブルをログ記録するのは、外部トレース・データ・セットで

あり、オンライン・ログ (OLDS) ではないことを通知するものです。

DFS2864I **EXTERNAL TRACE DATA SET**
XXXXXXXX FULL - SWITCHING TO
YYYYYYYY.

説明

ディスク・データ・セット xxxxxxxx がいっぱいなので、IMS はデータ・セット yyyyyyyy に切り替えます。

プログラマーの応答

いっぱいになったデータ・セットのデータが必要な場合は、別のデータ・セットにコピーするか、印刷する必要があります。データ・セット yyyyyyyy がいっぱいになり次第、IMS は、元のデータ・セット xxxxxxxx に切り替えます。

DFS2865I **OVERWRITING EXTERNAL TRACE**
DATA SET xxxxxxxx

説明

使用可能なディスク・データ・セットは1つだけで、それがいっぱいです。IMS はそれをクローズし、再オープンします。現在データ・セットにデータがある場合は、データはすべて失われます。

DFS2866W **PERMANENT WRITE ERROR ON**
EXTERNAL TRACE DATA SET
XXXXXXXX.

説明

リストされているデータ・セットで、永続書き込みエラーが生じています。このメッセージを受信する前に、オペレーティング・システム・エラーが示されているはずで

システムの処置

ディスク・データ・セットが使用されている場合は、IMS は、残りのディスクに切り替えて、続行します。使用可能なディスクがない場合、またはテープが使用されている場合は、IMS は外部トレース機能の使用を停止します。IMS トレース・テーブルを OLDS に書き込むかどうか、オペレーターに尋ねてきます。データ・セットがクローズおよび割り振り解除できない場合は、IMS が再始動されるまでは、障害のあるデータ・セットは使用不能です。

DFS2867A **EXTERNAL TRACE NOT USABLE,**
REPLY "Y" TO USE OLDS, "N" TO
TRACE INCORE

説明

次のいずれかの理由で、IMS は外部トレース・データ・セットを使用できません。

- 外部トレース動的割り振りメンバーが検出されなかったか、検出されたメンバーの動的割り振りが失敗した。
- 出力データ・セットのブロック・サイズが 4008 バイトより小である。
- オープン、クローズ、または書き込みエラーによって、外部トレース・サービスの終了が強制された。

このメッセージの前に、通常、外部トレースが使用不能な理由を説明する、他の IMS 外部トレース・エラー・メッセージが出されます。

オペレーターの応答

IMS トレース・テーブルが OLDS のログに記録されるようにする場合は、「Y」で応答してください。OLDS ロギングが外部の場合は、すべてのトレース・ロギングが停止するまで、OLDS へのトレースが続行されます。IMS トレースをメモリー内のみに留めるには、「N」で応答してください。トレースがその後 LOG オプションで開始される場合は、外部トレース初期設定が再度試みられます。

DFS2868W **INVALID BLOCKSIZE SPECIFIED**
FOR EXTERNAL TRACE DATA SET
nnnnnnnn

説明

以下のいずれかの状態が発生しました。

- 外部トレース・ディスク・データ・セットの一方のブロック・サイズが、もう一方のデータ・セットより小さいブロック・サイズです。
- 2つの外部トレース・ディスク・データ・セットのブロック・サイズが、最小サイズより小さいブロック・サイズです。

両方の外部トレース・データ・セットには、4020 以上の同じブロック・サイズが必要です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnn

ブロック・サイズにエラーがある外部トレース・データ・セットの DD 名。

システムの処置

IMS は、エラーのある外部トレース・データ・セットを使用しません。両方のデータ・セットにエラーがある場合、メッセージ DFS2867A が出されます。IMS ログにトレース表を送信するか、それらをストレージ内に保持できます。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

**DFS2869W EXTERNAL TRACE TCB NOT
AVAILABLE - TRACING TO OLDS**

説明

/TRACE SET ON TABLE cc OPTION LOG コマンドが入力されましたが、外部トレース・タスク制御ブロック (TCB) は使用不可能です。

オペレーターの応答

OLDS トレースを行いたくない場合は、LOG オプションを選択せずに TRACE コマンドを再発行してください。

**DFS2870W ABEND WHILE WRITING TO
EXTERNAL TRACE DATASET
ddname**

説明

いずれかの外部トレース・データ・セットへ書き込み中に異常終了が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

異常終了の発生の対象となったデータ・セットの DD。

システムの処置

DFSTRA40 は DCB をリフレッシュし、他の外部トレース・データ・セットへ切り替え、まだ CHECK が済んでいなかったバッファを再書き込みします。同じデータ・セットに再び異常終了が発生し、正常に書き込めなかった場合、そのデータ・セットには使用不能のマーク

が付けられ、システムは、メッセージ DFS2866W の説明にある処置を実行します。

システム・プログラマーの応答

DFSTRA40 が異常終了からリカバリーした後でデータ・セットが使用可能になった場合には、何もする必要はありません。再び異常終了が発生した場合は、データ・セットに使用不能のマークが付けられます。データ・セットの割り振り解除が正常に実行された場合は、外部トレースをいったん停止して再始動することにより、データ・セットを再利用できます。

モジュール:

DFSTRA40

関連情報

819 ページの『DFS2866W』

PERMANENT WRITE ERROR ON EXTERNAL
TRACE DATA SET xxxxxxxx.

**DFS2900I LOG EOF BEFORE REQUIRED
CKPT=xxxxxxx FOUND**

説明

ユーティリティが、チェックポイント・データ・セットで示されているチェックポイント識別について、ログ・データ・セットをスキャンしました。ファイルの終わり条件が介在しました。

システムの処置

ユーティリティは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答

代替ログ・データ・セットを使用して、ジョブを再実行依頼してください。

第 62 章 DFS メッセージ DFS2901I - DFS2950A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2901I **I-O ERROR. SYNADAF MSG
FOLLOWS:**

説明

表示されている DD 名に関連するデータ・セットに関して、SYNAD 出口が取られました。

システムの処置

ユーティリティは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答

特定のデータ・セットに関する通常のリカバリー手順が実行されたら、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2902I **AUTOMATIC SYSTEM
CHECKPOINT INITIATED**

説明

XRF テークオーバーの 2 分後までに、チェックポイントが取られなければ、その時点で、このメッセージが送信されます。メッセージは、IMS MTO コンソールと z/OS コンソールの両方に送信されます。チェックポイントが通常開始されるのは、最後の端末が新しいアクティブ IMS に切り替えられたときです。新しいアクティブ IMS は、チェックポイントの完了までは再始動不能です。このメッセージは、端末切り替えエラーを示し、1 つ以上の端末が切り替えられなかったか、切り替えられたとしてカウントされていないことを示します。

システムの処置

IMS がチェックポイントを取ります。

プログラマーの応答

1 つ以上の端末が切り替えられたとしてカウントされなかったため、IMS 論理エラー、VTAM 論理エラー、またはタイミング条件がテークオーバー時に発生しました。すべてのログを収集し、可能な場合は、新しいアクティブ IMS のコンソール・メモリー・ダンプを取り、問題の診断に必要なその他のすべてのデータを保管してください。

DFS2904A **ATTEMPT TO CHANGE SEQUENCE
FIELD**

説明

MSDB 保守カード変更ファイルに、シーケンス・フィールドを指定する FIELD= キーワードがあります。

システムの処置

このメッセージを発行後、ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

入力を訂正し、ユーティリティ実行を再実行依頼してください。シーケンス・フィールドは変更できません。

DFS2905I **RECOVERY FROM
CHECKPOINT=yyddd/hhmmss**

説明

MSDB ダンプ/リカバリー・ユーティリティが、示されているチェックポイントから、IMS ログ・データ・セットの処理を開始しました。

システムの処置

ユーティリティは、示されているチェックポイントの後に続くログ・データ・セットで検出された MSDB ログ・レコードを処理することによって続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS2906I **UPDATES APPLIED TO SYNC
POINT=yyddd/hhmmss**

説明

MSDB ダンプ/リカバリー・ユーティリティが、IMS ログ・データ・セットの処理を完了しました。ユーティリティによって読み取られた最後の高速機能同期点ログ・レコードは、示されている日時に作成されました。

システムの処置

ユーティリティは処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS2907A LOG DATA SET MISSING OR
INVALID, TERMINATE. LAST SYNC
POINT PROCESSED=xxxxx/xxxxx

説明

主記憶データベース (MSDB) リカバリー中に、ログ・シ
ーケンスに切れ目が検出されました。ログ・データ・セ
ットが欠落しているか、無効です。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、戻りコード 4 が示されま
す。

プログラマーの応答

すべてのログ・データ・セットが指定され、正しい順序
であるか確認してください。

DFS2930I INITIALIZATION FAILURE -
mmmmmmmm,xxxx,yyyyyyyy,zzzz
zzzz- ccccc

説明

IMS 初期設定が、モジュール mmmmmmmmm に関して
失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

xxxx

障害理由コード (異常終了時にレジスター 15 でも
検出される)。

yyyyyyyy

要求されたサービスからの障害戻りコード。

zzzzzzzz

要求されたサービスからの障害サブコード (該当す
る場合)。

cccccc

エラーの追加説明が記載されているオプションの
テキスト。

次のリストでは、メッセージ DFS2930I の理由コードお
よびそれに関連して要求されるサービスについて説明
します。

理由コード (要求されるサービス)

説明

0001 (DFSXDBIO)

IMS システム制御ブロック (IMS SCD) をメンバー
DFSBLK0x および DFSFXCOx にロードできない。

0002 (IMSAUTH)

この IMS イメージが SSCT にその SCD アドレスを
アンカーするのを許可できない。

0003 (DFSVCIO)

この IMS イメージの SCD アドレスで SVC ベクト
ル・テーブル初期設定を実行できない。

0004 (MVS ESTAE)

IMS ジョブ・ステップ TCB に関して、ESTAE ルー
チンを確立できない。

0005 (DFSII10)

IMS ロード・リストで指定されているモジュールを
プリロードできない。

0006 (DFSXCB00)

IMS DFSBCB ストレージ管理サービスに関して、初
期設定が失敗した。

0007 (DFSMINIO)

IMS ディスパッチャー・サービスに関して、初期設
定が失敗した。

0008 (DFSCDSP)

IMS ジョブ・ステップ TCB のための IMS ディスパ
ッチャー・サービス制御ブロックを構築できない。

0009 (DFSCIR)

共通システム・サービス ITASK、DFSCSS00 を作成
できない (IMODULE GETMAIN と LOAD のいずれか
が失敗)。

000A (DFSCIR)

共通制御サービス ITASK、DFSCNS00 を作成でき
ない (IMODULE GETMAIN と LOAD のいずれかが失
敗)。

000B (DFSCIR)

マスター・サービス (z/OS ルーチン) ITASK を作成
できない (IMODULE GETMAIN と LOAD のいずれか
が失敗)。

000C (DFSCIR)

ストレージ管理圧縮サービス ITASK、DFSSTC00 を
作成できない (IMODULE GETMAIN と LOAD のい
ずれかが失敗)。

000D (DFSCIR)

ラッチ管理リカバリー ITASK、DFSCLM20 を作成
できない (IMODULE GETMAIN と LOAD のいずれ
かが失敗)。

000E (DFSCIR)

使用管理リカバリー ITASK、DFSUSE20 を作成で
きない (IMODULE GETMAIN と LOAD のいずれか
が失敗)。

000F (IMSAUTH)

SSVT アドレスを SSCT を保管できない。

0010 (DFSSCPIO)

システム制御プログラム (SCP) および関連 IMS 制
御ブロックを初期設定できない。次の理由コード
が示される可能性があります。

00000001

IMODULE GETMAIN が IMS システム制御プロ
グラム・ブロック (SCP) に関して失敗しまし
た。zzzzzzzz に IMODULE GETMAIN からの戻
りコードが含まれています。

00000002

LOAD が TSO 環境モジュール IKJTSOEV に関して失敗しました。zzzzzzzz に MVS LOAD からの戻りコードが含まれています。

TSO 環境サービスをサポートするレベルの z/OS で実行しているか確認してください。

00000003

TSO 環境サービス初期設定が失敗しました。zzzzzzzz に TSO 環境サービスからの戻りコードが含まれています。

00000004

BPESTART は、BPE 限定機能サービスを開始できませんでした。zzzzzzzz に BPESTART からの戻りコードが含まれています。

00000005

z/OS TCBTOKEN サービスが失敗しました。zzzzzzzz に TCBTOKEN からの戻りコードが含まれています。

0011 (DFSDREF0)

IMS PROCLIB データ・セットの DFSDRFxx メンバーを処理できません。

0012 (DFXRMLM0)

IRLM を初期設定できません。

0013 (DFSSTKIO)

IMS スタック・ストレージ・マネージャーを初期設定できません。次の理由コードが示される可能性があります。

00000001

IMODULE GETMAIN が、メイン・スタック・ストレージ制御ブロック (SCDSTK) に関して失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE GETMAIN からの戻りコードが含まれています。

00000002

IMODULE LOAD が、メッセージ・サービス・モジュール (DFSMSGCO および DFSMSGFO) に関して失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

0014 (DFSMSGIO)

IMS メッセージ・サービスを初期設定できません。次の理由コードが示される可能性があります。

00000001

IMODULE GETMAIN が、メッセージ・サービス制御ブロック (MSCB) に関して失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE GETMAIN からの戻りコードが含まれています。

00000002

IMODULE LOAD が、メッセージ・サービス・モジュール (DFSMSGCO および DFSMSGFO) に関して失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

00000003

IMODULE LOAD が、メッセージ・サービス・テキスト・モジュール (DFSMSGTX) に関して失敗

しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

0016 (DFSSQ000)

共用キューを初期設定できません。障害のある機能を識別するエラー・コードとして表示される可能性のあるものは、次のとおりです。

X'1001'

作業域割り振りが失敗しました。

X'1004'

SQ1 AWE 割り振りが失敗しました。

X'1005'

SQ2 AWE 割り振りが失敗しました。

X'1008'

DFSXRPS 読み取りが失敗しました。

X'100A'

CQSREG 要求が失敗しました。

X'100B'

共用キュー・モジュールのロードが失敗しました。

X'100C'

XCF グループの結合が失敗しました。

0017 (DFSRSMDO)

Resource Manager の初期設定を実行できません。次の理由コードが示される可能性があります。

00000004

LOAD が IMS Resource Manager モジュール DFSRSMR0 に関して失敗しました。zzzzzzzz に MVS LOAD からの戻りコードが含まれています。

00000008

STORAGE OBTAIN が IMS Resource Manager パラメーター・リスト・ブロック (IRMP) に関して失敗しました。zzzzzzzz に STORAGE OBTAIN からの戻りコードが含まれています。

0000000C

RESMGR ADD が IMS Resource Manager DFSRSMR0 に関して失敗しました。zzzzzzzz に RESMGR ADD からの戻りコードが含まれています。

00000010

DFSRSMDO に領域 ID コードが渡されましたが、これが無効でした。

0018 (DFSCSL00)

Common Service Layer および 関連 IMS 制御ブロックを初期設定できない。異常終了ルーチンに入る時点でのレジスターでは、レジスター 3 に DFSCSL00 戻りコードが含まれており、レジスター 4 には障害の発生した機能戻りコードが含まれています。障害のある機能を識別するエラー・コードとして表示される可能性のあるものは、次のとおりです。

X'1004'
DFSCSLA についての IMODULE GETMAIN が失敗しました。

X'1008'
DFSCSL10 についての IMODULE LOAD が失敗しました。

X'100C'
CSL モジュールのプリロードについての DFSLOADL が失敗しました。

X'1010'
AWE についての DFSBCB GET が SLO TCB DFSFMOD0 の接続に失敗しました。

X'1014'
DFSSQPP ENQ が、SLO TCB 用の接続に失敗しました。

X'1018'
AWE についての DFSBCB GET が SL1 TCB DFSFMOD0 の接続に失敗しました。

X'101C'
DFSSQPP ENQ が、SL1 TCB 用の接続に失敗しました。

X'2nnnn'
DFSCSL10 からの戻りコード。

X'2004'
構文解析エラー。DFS3305E メッセージが発行されます。

X'2008'
PROCLIB メンバーの読み取りエラー。

X'200C'
パラメーター妥当性検査エラー。

0020 (IMODULE GETMAIN)
ストレージを取得できない。

0021 (IMODULE LOAD)
モジュールをロードできません。

0022 (IMODULE DELETE)
モジュールを削除できません。

0023 (DFSBCB GET)
制御ブロックを取得できません。

0024 (DFSBCB REL)
制御ブロックを解放できません。

0025 (DFSXSTM0)
理由コードには次のものがあります。

00000001
DB フィーチャーに関する LM 証明書なし

00000002
TM フィーチャーに関する LM 証明書なし

00000003
フィーチャーに関する LM 証明書なし

0026 (DFSIMPL0)
IMS モジュールをプリロードできませんでした。
理由コードには次のものがあります。

00000004
作業域割り振りが失敗しました。

00000008
EPB ブロックの割り振りが失敗しました。

0000000C
モジュールのロードが失敗しました。

0027 (DFSDFN00)

動的リソース定義の環境、または診断と統計を初期化できません。yyyyyyyy および zzzzzzzz として戻された追加の理由コードには、次のものがあります。

X'1008'
リソース処理モジュールについて、IMODULE LOAD が失敗しました。理由コードは、IMODULE LOAD からの戻りコードです。

X'100C'
システムは、DFSDFGA 制御ブロック用のストレージを取得できませんでした。理由コードは、IMODULE GETSTOR からの戻りコードです。

X'1010'
システムは、DFSRDDA 制御ブロック用のストレージを取得できませんでした。理由コードは、IMODULE GETSTOR からの戻りコードです。

X'2008'
IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの DYNAMIC_RESOURCES セクションを構文解析中にエラーが発生しました。理由コードは、BPEPARSE からの戻りコードです。

X'200C'
システムは、BPEPARSE 文法のコピー用のストレージを取得できませんでした。理由コードは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。

X'2010'
システムは、BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できませんでした。理由コードは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。

X'2014'
システムは、RDDSDSN= パラメーターで定義されたデータ・セット名用のストレージを取得できませんでした。理由コードは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。

X'2018'
IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの DIAGNOSTICS_STATISTICS セクションを構文解析中にエラーが検出されました。理由コードは、BPEPARSE からの戻りコードです。

X'201C'
システムは IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの DIAGNOSTICS_STATISTICS セクションを構文解析するために、BPEPARSE 文法のコピー用のストレージを取得できませんでした。理由コー

ドは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。

X'2020'

システムは IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFXxx メンバーの DIAGNOSTICS_STATISTICS セクションを構文解析するために、BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できませんでした。理由コードは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。

X'2024'

DFSDFXxx PROCLIB メンバーの REPOSITORY セクションの構文解析エラー。理由コードは、BPEPARSE からの戻りコードです。

X'2028'

DFSDFXxx PROCLIB メンバーの REPOSITORY セクションを構文解析するための BPEPARSE 文法のコピー用のストレージを取得できません。理由コードは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。

X'202C'

DFSDFXxx PROCLIB メンバーの REPOSITORY セクションを構文解析するための BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できません。理由コードは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。

X'2030'

IMS は、トレース・サービス・モジュールをロードできません。メッセージ DFS4561E に、該当のモジュールの名前と、IMODULE サービスから戻された理由コードが含まれています。

X'2034'

トレース・サービスの初期化から不明な戻りコードを受け取りました。

X'2104'

AUTOIMPORT=(RDDS) または AUTOEXPORT=(RDDS) が設定されたときに、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFXxx メンバーの RDDSdsn= パラメーターで 2 つ未満の RDDSdsn を指定しました。

X'2108'

IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFXxx メンバーで AUTOIMPORT=REPO を指定しましたが、REPOSITORY セクションが指定されていないか、または IMSRSC リポジトリに REPOSITORY= ステートメントが指定されていませんでした。

X'210C'

IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFXxx メンバーで AUTOIMPORT=REPO および RMENV=N を指定しました。RMENV=N が指定されているため、IMS は RM サービスを使用して IMSRSC リポジトリにアクセスできません。

0028 (DFSDFS40)

DFSDFXxx PROCLIB メンバーを読み取れません。次の理由コードが示される可能性があります。

00000104

DFSDFA 制御ブロックの IMODULE GETSTOR が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE GETSTOR からの戻りコードが含まれています。

00000114

DFSDFXxx PROCLIB メンバーを読み取れません。zzzzzzzz に BPERDPDS からの戻りコードが含まれています。

0029 (DFSUSRXI)

IMS ユーザー出口サービスを初期設定できません。次の理由コードが示される可能性があります。

00000004

AWE 制御ブロックの DFSBCB GET が失敗しました。zzzzzzzz に DFSBCB GET からの戻りコードが含まれています。

00000008

UXDT 制御ブロックの IMODULE GETMAIN が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE GETMAIN からの戻りコードが含まれています。

0000000C

DFSUSRX0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

00000104

CSVT 制御ブロックの IMODULE GETMAIN が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE GETMAIN からの戻りコードが含まれています。

00000108

DFSCSIE0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

0000010C

呼び出し可能サービス・モジュール (DFSCSF10、DFSCSF20、または DFSCSF30) の IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

00000180

DFSDFN20 の IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

0000018C

DFSUSX00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

00000190

DFSUSX10 の IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

00000194

USXC ブロックの DFSBCB GET が失敗しました。zzzzzzzz に DFSBCB GET からの戻りコードが含まれています。

00000198

USXC ブロックの DFSBCB REL が失敗しました。zzzzzzzz に DFSBCB REL からの戻りコードが含まれています。

0000019C

パラメーター・リスト・ストレージの IMODULE GETMAIN が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE GETMAIN からの戻りコードが含まれています。

000001A0

DFSUSX90 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

このメッセージが表示されたときの対応について詳しくは、異常終了コード 0070、0071、0077、0081、0315、および 0718 を参照してください。

システムの処置

IMS はメモリー・ダンプ付きで終了します。

オペレーターの応答

モジュール名および戻りコードを基にして、初期設定障害の原因を判別してください。問題が訂正されたら、IMS ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSXSTM0

関連資料

[z/OS: LOAD の戻りコードおよび理由コード](#)

[z/OS: ADD 機能からの戻りコード \(RESMGR\)](#)

関連情報

[異常終了 0070](#)

[異常終了 0071](#)

[異常終了 0077](#)

[異常終了 0081](#)

[異常終了 0315](#)

[異常終了 0718](#)

DFS2950A

**A CHECKPOINT REQUIRED TO
SATISFY RESTART IS NOT
AVAILABLE ON SYSTEM LOG**

説明

アクティブまたはトラッカーのサブシステムを開始する試みがなされましたが、要求に応じるために必要なチェックポイント (通常は、コールド・スタート・チェックポイント) がシステム・ログにありません。このような状態は、PRILOG レコードが RECON から、またはリモート・テークオーバー・シナリオから削除されたことが理由で起こり得ます。

システムの処置

再始動は終了し、システムは別の再始動コマンドを待ちます。

プログラマーの応答

必要に応じて、別の再始動コマンドを発行してください。

モジュール:
DFSRBCP0

第 63 章 DFS メッセージ DFS2951I - DFS3000I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2957W OLCSTAT DATA SET DYNAMIC ALLOCATION ENCOUNTERED AN ERROR; RETRYING THE ALLOCATION

説明

この IMS システムのウォーム・スタートまたは緊急時再始動の試みが、OLCSTAT データ・セットの動的割り振り時に待ち状態です。この待ち状態が発生するのは、OLCSTAT データ・セットが別のユーザーによって保持されているためです。IMS システムは、データ・セットの動的割り振りを再試行し、次のいずれかが発生するまで試行し続けます。

- OLCSTAT データ・セットが他のユーザーによって使用中でなくなる
- 最大再試行回数に達した

システムの処置

OLCSTAT データ・セットが、それを保持していたユーザーによって解放されると、処理が続行します。

最大試行回数に達すると、IMS は異常終了コード 2801、サブコード 1 で異常終了し、メッセージ DFS2848E が出されます。

オペレーターの応答:

IMS が異常終了コード 2801、サブコード 1 で終了する場合、OLCSTAT データ・セットを保持しているユーザーを判別してください。そのデータ・セットを解放し、IMS を再び始動してください。

モジュール

DFSOLCS0

関連情報

810 ページの『DFS2848E』

```
DYN service FAILED for ds_type, RC=rrrrrrrr/
ssssssss
DSN=dsn
```

異常終了 2801

DFS2958A AN ONLINE CHANGE IN PROGRESS WAS DETECTED DURING TAKEOVER, ACTION IS REQUIRED TO COMPLETE THE OLC

説明

このメッセージが発行されるのは、XRF テークオーバー時に OLCSTAT がロックされるか、またはアクセス不能の場合です。XRF テークオーバーは完了しますが、ユーザー処置セクションにリストされている処置をテークオーバーの終わりに取る必要があります。OLCSTAT データ・セットがテークオーバー中にアクセス可能ではなく、進行中のオンライン変更のコミットがなかった場合、XRF テークオーバーは続行することを許可されます。しかし、新規 XRF アクティブは古い XRF アクティブの IMSID を自身の IMSID に置換できませんでした。

MODBLKS、FMTLIB または ACBLIB オンライン変更がテークオーバー時に進行中である場合、新しいアクティブ・サブシステムが OLCSTAT と同期しないことを判別すると、テークオーバーの終わりに内部オンライン変更が実行されます。システムは、この内部オンライン変更の X'70' ログ・レコードを書き込みます。

ACBMBR オンライン変更がテークオーバー時に進行中である場合、新しいアクティブ・サブシステムが OLCSTAT と同期しないことを判別すると、テークオーバーの終わりに作業単位 (UOW) がコミットされます。DFS3497I メッセージが UOW の状況と一緒に発行されます。X'7004' および X'7005' ログ・レコードが書き込まれます。

システムの処置

処理は続行されます。

ユーザーの処置

テークオーバーの完了後、以下の処置を実行してください。

1. **QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(ALL)** または **QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS)** コマンドを発行し、IMSplex 内の IMS システムの状況をメモします。
2. **QUERY MEMBER TYPE(IMS)** が、IMSplex 内の 1 つ以上の IMS システムが次の状況であることを示す場合は、以下のようになります。
 - オンライン変更状態でない
 - OLCPREPC 状況
 - OLCCMT1C 状態であり、OLCSTAT が更新されない

TERMINATE OLC コマンドを発行して、IMSplex 内のオンライン変更をクリーンアップします。別の **INIT OLC PHASE(COMMIT)** コマンドを使用してオンライン変更を完了しようとすると、失敗します。

これは、新しいアクティブ・サブシステムがオンライン変更状態でないからです。

3. **QUERY MEMBER TYPE(IMS)** が、IMSplex 内の 1 つ以上の IMS システムが次の状況であることを示す場合は、以下のようにします。

- OLCCMT1C および OLCSTAT の OLC COMMIT 状態が更新される
- OLCCMT2C 状態

別の **INITIATE OLC PHASE(COMMIT)** コマンドを発行して、IMSplex 内のオンライン変更を完了します。このコマンドを、OLCCMT1C または OLCCMT2C 状況のある IMS に経路指定します。

INITIATE OLC PHASE(COMMIT) を新しいアクティブ・サブシステムに経路指定すると、失敗します。これは、新しいアクティブ・サブシステムがオンライン変更状態でないからです。

TERMINATE OLC コマンドを発行して OLC を終了する場合、失敗します。これは、オンライン変更がコミットされ、OLCSTAT が更新されるからです。

4. **QUERY OLC LIBRARY(OLCSTAT)**

SHOW(MBRLIST) コマンドで、メンバー・リストに古い XRF アクティブの IMSID が表示されるが、新しい XRF アクティブの IMSID は表示されない場合、古い XRF アクティブ IMSID を OLCSTAT データ・セットから削除し、新しい XRF アクティブ IMS ID を OLCSTAT データ・セットに追加しなければなりません。この変更は、次の **INIT OLC**

PHASE(PREPARE) コマンドを実行する前に行う必要があります。グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLCO) を実行して、新規 XRF アクティブの IMSID を追加してください。ACBMBR オンライン変更を使用している場合は、DFSUOLCO を実行して古い IMSID を削除します。グローバル・オンライン変更を使用している場合は、DFSUOLCO を実行して古い IMS ID を削除するか、または **INIT**

OLC PHASE(PREPARE) コマンドで **OPTION(FRCABND)** を指定します。

モジュール:
DFSOLCS0

DFS2970I	OLR STARTED RESUMED FOR NAME=<i>partname</i> MASTER=<i>mastername</i> PST=<i>pstnumber</i>
-----------------	---

説明

指定された区画について、HALDB オンライン再編成が開始されるか再開されました。メッセージ・テキストは、マスター (*mastername*) の名前およびプログラム仕様ブロック番号 (*pstnumber*) を示します。

重要: RECON で OLREORG 所有権が確立されたエクストントまで、タイプ 1 またはタイプ 2 の **INIT**

OLREORG コマンドが処理された後に、このメッセージが発行されました。オンライン再編成カーソルがアクティブの場合は RESUMED が示されます。そうでない場合は、STARTED が示されます。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

モジュール:
DFSORP00

DFS2971W	OLR INITIALIZATION RESUMPTION FAILED FOR NAME=<i>partname</i> MASTER=<i>mastername</i> PST=<i>pstnumber</i> RC=<i>xx</i> RS=<i>yy</i>
-----------------	---

または

**OLR TERMINATED FOR NAME=*partname*
MASTER=*mastername* PST=*pstnumber* RC=*xx* RS=*yy***

または

**DFS2971W OLR WILL NOT BE RESUMED FOR
NAME=*partname* MASTER=*mastername*
PST=*pstnumber* RC=*xx* RS=*yy***

説明

このメッセージの最初の形式: 戻りコードと理由コードによって示されている理由から、HALDB オンライン再編成は、OLR を開始または再開するための OLR 初期設定プロセスを完了しませんでした。

このメッセージの 2 番目の形式: 戻りコードと理由コードによって示されている理由から、OLR は、すべてのレコードが入力からデータ・セットの出力セットへコピーされる前に終了しました。

メッセージ・テキストは、マスター (*mastername*) の名前、プログラム仕様ブロック番号 (*pstnumber*)、および理由コードを示します。終了の正確な原因については、以下の表の戻りコードと理由コードを参照してください。

表 15. DFS2971W の戻りコードと理由コード		
戻りコード (16 進数)	理由コード (10 進数)	説明
04 (モジュール: DFSOR P00)	04	ISWITCH からの予期しない戻りコード。
	08	QSAV についての DFSBCB GET が失敗しました。
	12	DFSCWU の作業単位作成が失敗しました。
	16	IMS が COLDSYS、COLDBASE、または COLD START を使用して再始動されました。
	20	再始動許可が失敗しました。
	24	XRF テークオーバー中のエラーによる据え置き停止またはクローズ。
	28	LCRE エンキューが失敗しました。
	32	所有権設定呼び出しが失敗しました。考えられる原因は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 区画データベースに対して OLR を実行できない。 区画データベースに REORG INTENT フラグがオンに設定されている。区画が再編成中です。
	36	FFR0LR=D が指定されたため、OLR が終了しました。
	40	LSO=Y 環境は無効です。
08 (モジュール: DFSOR P00 または DFSOR P10)	01	OLR 作業域に対する GETMAIN が失敗しました。モジュール DFSORP10 により出力される。
	02	OLR PSB のスケジューリングが失敗しました。モジュール DFSORP10 により出力される。
	03	出力データ・セットの作成または妥当性検査が失敗しました。モジュール DFSORP10 により出力される。
	04	QSAV に対する DFSBCB GET が失敗しました。モジュール DFSORP10 により出力される。
	05	タイマー ITASK の作成が失敗しました。モジュール DFSORP10 により出力される。
	06	バックアウトが失敗したためにデータベースがエラーを起こしてい

表 15. DFS2971W の戻りコードと理由コード (続き)		
戻りコード (16 進数)	理由コード (10 進数)	説明
		ます。モジュール DFSORP10 により出力される。
	17	別のコマンドが進行中です。モジュール DFSORP00 によって発行されます。
	C6	OLR スケジューリングが失敗しました。モジュール DFSORP00 によって発行されます。
	1ED	必要な内部 HALDB 制御ブロックが初期設定されなかったか、アクセス不能です。モジュール DFSORP00 によって発行されます。
	1EE	残っている変更対象のすべての区画が 1 つ以上の IMS システムによって所有されているため、この IMS システムで変更処理を再開できません。モジュール DFSORP00 によって発行されます。
	8031	区画のオープン・エラー。モジュール DFSORP10 により出力される。
0C (モジュール: DFSOR P10)		区画の選択が失敗しました。
	8031	区画のオープン・エラー。
	C030	許可の失敗。
	Cxxx	他の区画の選択の失敗。
10 (モジュール: DFSOR P10)	nnnn	区画選択中の疑似異常終了 (10 進値)。nnnn の値は、発行元のモジュールによって返された異常終了コードです。異常終了の原因について詳しくは、IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード) を参照してください。

表 15. DFS2971W の戻りコードと理由コード (続き)		
戻りコード (16 進数)	理由コード (10 進数)	説明
14 (モジュール: DFSOR P10. DFSOR P20 で 検出されたエラーに 関する)	01	オプションなしで /TERMINATE OLREORG コマンドが開始されました。
	02	PHDAM についてのバッファ・ハンドラー呼び出しが失敗しました。
	03	PHIDAM についてのバッファ・ハンドラー呼び出しが失敗しました。
	04	カーソル更新中の GBIDP ロックの失敗。
	05	カーソル更新中の GZIDP ロックの失敗。
	06	カーソル更新中のバッファ・ハンドラーの失敗。
	07	カーソル更新中の通知の失敗。
0A	1 次索引データベースでキー順データ・セット (KSDS) の挿入時に重複キーが検出されました。	
18 (モジュール: DFSOR P10. DFSOR P20 で 検出されたエラーに 関する)	nnnn	DFSORP20 の処理中の疑似異常終了 (10 進値)。nnnn の値は、発行元のモジュールによって返された異常終了コードです。異常終了の原因については、 <u>IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)</u> を参照してください。
1C (モジュール: DFSOR P10. DFSOR P30 で 検出されたエラーに 関する)	nnnn	バックアウトの失敗。nnnn の値は、発行元のモジュールによって返された異常終了コードです。異常終了の原因については、 <u>IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)</u> を参照してください。
	02	FORCE オプションを指定した /TERMINATE OLREORG コマンドで OLR が終了しました。
	03	すべてが X'FF' のキーが検出されたか、チェーン保守中のエラー。
	04	ABORT 付きで OLR 終了が開始されました。
20 (モジュール:	nnnn	DFSORP30 の処理中の疑似異常終了 (10 進値)。nnnn の値は、発行元のモジュールによって返された異

表 15. DFS2971W の戻りコードと理由コード (続き)		
戻りコード (16 進数)	理由コード (10 進数)	説明
DFSOR P10. DFSOR P30 で 検出されたエラーに 関する)		常終了コードです。異常終了の原因については詳しくは、 <u>IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)</u> を参照してください。
	24 (モジュール: DFSOR P10. DFSOR P30 で 検出されたエラーに 関する)	状況コード (status code)
28 (モジュール: DFSOR P10. DFSOR P30 で 検出されたエラーに 関する)	28	LCRE エンキューが失敗しました。
	28	nnnn
28 (モジュール: DFSOR P10、 DFSOR CA0)	04	指定された区画の OLR は、高速データベース・リカバリー処理のため、障害を起こしたサブシステムの再始動中に自動的に再開されません。

重要: PST=00000 は、従属領域 PST の下で実行中でない場合、例えば、高速データベース・リカバリー処理中、または ITASK 作成前の OLR 初期設定中に、DFS2971W メッセージが出されたことを示します。

システムの処置

このメッセージの最初の形式: 新しいオンライン再編成を開始しようとした **INITIATE OLREORG** コマンドの場合、カーソル・アクティブ状況は RECON に記録されません。その場合、区画内のデータベース・レコード

は、コマンドが入力される前に使用されていたデータ・セットのオリジナル・セット内に引き続き格納されています。

RECON 内にすでにカーソル・アクティブ状況が記録されていたオンライン再編成が、自動的に、またはコマンドによって再開された場合:

- カーソル・アクティブ状況は、引き続き有効です。
- 区画内のデータベース・レコードは、引き続き 2 セットのデータ・セット内に格納されており、区画を継続して使用するためには、それらの両方のデータ・セットが必要です。
- 追加のデータベース・レコードは入力からデータ・セットの出力セットへコピーされませんでした。

このメッセージの 2 番目の形式: 区画のカーソル・アクティブ状況は、すでに RECON 内に記録されており、区画内のデータベース・レコードは、引き続き 2 セットのデータ・セット内に格納されており、区画を継続して使用するためには、それらの両方のデータ・セットが必要です。

システム・プログラマーの応答

問題が訂正された後、**INITIATE OLREORG** コマンドで HALDB オンライン再編成を開始または再開するか、さもなければ、オフライン再編成を実行してください。

問題判別:

1、6、27

モジュール:

DFSORP00、DFSORP10 (DFSORP20、DFSORP30 で検出されたエラーの場合)

関連概念

[IMS 異常終了コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS2972E OLR PSB BUILD FAILED. reason

説明

IMS は、オンライン再編成用に内部 PSB を構築中でした。そのプロセスで、*reason* によって示されるエラーが検出され、それは次のいずれかです。

- DATA BASE IS NOT A PARTITION
- MASTER IS NOT PARTITIONED
- GETMAIN FAILED FOR PSB
- DMB LOAD FAILED
- HALDB STRUCTURE NOT ACTIVE

システムの処置

オンライン再編成は放棄され、完了必須 状況は RECON 内に記録されません。

プログラマーの応答

DMB LOAD FAILED の場合は、ACBLIB に、HALDB マスターの名前が付いた DMB が含まれていることを確認してください。

GETMAIN FAILED FOR PSB の場合は、ストレージに制約がある可能性があるため、後でオンライン再編成を実行してください。

HALDB STRUCTURE NOT ACTIVE の場合、オンライン再編成 (OLR) が IMS /ERE の実行中に再開されるのであれば、再始動時に使用される ACBLIB が、終了前に IMS によって使用されていたものと同じ ACBLIB であることを確認してください。

その他のエラーは、IMS エラーである可能性が高いため、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DFSOPSB0

**DFS2973W NO RESPONSE FROM SHARING
IMS AFTER ONLINE REORG.
PART=partname**

説明

HALDB オンライン再編成は、指定された HALDB 区画のコピー・フェーズを完了し、非アクティブ・データ・セットは削除される必要があります。OPTION(DEL) が **INITIATE OLREORG** コマンドで指定されたか、後続の **UPDATE OLREORG** コマンドで指定されたので、データ・セットの削除が試みられました。ただし、データ・セットの削除が試みられる前に、すべての共用 IMS システムに通知が出されました。すべての共用 IMS システムは、もはやそれらのデータ・セットを使用していないことを示す必要があります。それらのシステムの 1 つ以上が、3 回の要求の後にも応答しませんでした。

システムの処置

IMS は、すでに RECON 内の区画のカーソル・アクティブ状況をリセットしており、その区画内のデータベース・レコードは、現時点では、それらのデータ・セットのコピー先となった単一セットのデータ・セット内に格納されています。処理を完了するために、IMS は非アクティブ・データ・セットを削除しようと試み、それは、共用 IMS システムの一部が応答しなかった場合でも同様です。データ・セットの削除中に結果としてエラーが起きる可能性があるのは、一部のジョブ、例えば IMS バッチ・ジョブなどがデータ・セットの割り振りを行い、応答の許容時間内に応答できなかった場合です。この状態が発生した場合は、1 つ以上の非アクティブ・

データ・セットは削除されませんが、オンライン再編成は完了します。

システム・プログラマーの応答

MVS システム・コンソール・ログを調べて、エラー・メッセージに、HALDB オンライン再編成からのいずれかの非アクティブ・データ・セットが削除されなかったことが示されていないかどうかを判別してください。それらのデータ・セットは、もはや使用されなくなったら削除してください。

モジュール:
DFSORP40

```
DFS2974I      OLR COMPLETED FOR
                NAME=partname
                MASTER=mastername PST=
                pstnumber
```

説明

指定された HALDB 区画について、HALDB オンライン再編成が完了しました。メッセージ・テキストは、マスター (mastername) の名前およびプログラム仕様ブック番号 (pstnumber) を示します。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

モジュール:
DFSORP10

```
DFS2990E      macro MACRO, RETURN=X'
                returncode',
                [ REASON=X'reasoncode', ],
                PART=partname DSN=dsname
```

説明

IMS は、まず、次のいずれかの一部として、HALDB 区画 partname 用のデータ・セット dsname に関する情報を収集するマクロ命令を開始しました。

- HALDB 区画 partname について HALDB OLR を開始する。

このマクロ命令は、レジスター 15 の戻りコード値が returncode、レジスター 0 の値が reasoncode で完了しました。これらの値は、IMS によって予期されていませんでした。

システムの処置

このエラーが HALDB OLR の開始中に発生した場合、HALDB OLR は開始されず、区画は元のアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) とともに、アクセス可能のままになります。

最初の 2 つの場合、1 つ以上の出力データ・セットがすでに自動的に作成されている可能性があります。

プログラマーの応答

メッセージ内に示されたマクロに基づいて、以下の表の該当する資料を参照してエラーの原因を判別し、推奨される処置を実行してください。

表 16. マクロ情報が記載されている資料	
マクロ	資料
DEVTYPE	「z/OS DFSMSdfp Advanced Services」(SD88-6462) の『z/OS: DEVTYPE マクロの仕様』
GETDSAB	「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference Vol 2」(SA22-7610) の『z/OS: GETDSAB - DSAB チェーンへのアクセス』
LOCATE	「z/OS DFSMSdfp Advanced Services」(SD88-6462) の『z/OS: LOCATE からの戻りコード』
OBTAIN	「z/OS DFSMSdfp Advanced Services」(SD88-6462) の『z/OS: OBTAIN を使用した VTOC からの DSCB の読み取り』
SWAREQ	「z/OS MVS Programming Authorized Assembler Services Guide」(SA22-7608) の『z/OS: SWAREQ マクロ』
TRKCALC	「z/OS DFSMSdfp Advanced Services」(SD88-6462) の『z/OS: TRKCALC マクロの仕様』

INITIATE OLREORG コマンドの処理中にエラーが検出された場合は、区画 partname コマンドを発行してください。

モジュール:
DFSORA00, DFSORA10

```
DFS2991E      UNACCEPTABLE DATA SET,
                REASON CODE reasoncode.
                PART=partname DSN=dsname
```

説明

HALDB 区画 partname 用にデータ・セット dsname を作成するかどうかを判別中に、IMS は、次のいずれかを検出しました。

- 同じ名前のデータ・セット。しかし、その既存のデータ・セットの特定の特性が原因で、意図する目的にそのデータ・セットを使用できませんでした。
- その名前で既存のデータ・セットが存在すべきときに存在しませんでした。

ケース 1:

HALDB 区画 *partname* の HALDB オンライン再編成を開始中に、IMS は、再編成の出力として使用する必要があるデータ・セットが、次のいずれかであることを検出しました。

- 該当するデータ・セットとして使用できるタイプではなかった。
- 対応する入力データ・セットの特性と一致しない特定の特性を備えていた
- 存在しなかった

ケース 2:

IMS Catalog Populate ユーティリティは、IMS カタログのロード中に、HALDB 区画 *partname* 用に使用される必要があるデータ・セットが次のいずれかであることを検出しました。

- 該当するデータ・セットとして使用できるタイプではなかった。
- IMS カタログの DBD の要件と一致しない特定の特性を備えていた。

上記のいずれの場合でも、*reasoncode* は特定の問題の理由コードです。

次の表は、可能な理由コードの定義を示しています。

この表の「環境」列は、そのエラーが検出されたのが、以下の 1 つ以上のアクティビティの開始時であるかどうかを示しています。

- HALDB オンライン再編成
- ALTER オプションを指定した HALDB オンライン再編成
- IMS カタログのロード

理由コード	環境	前から存在するデータ・セットについて検出されたエラー
1	すべて	データ・セットが DASD データ・セットではありません。
2	すべて	データ・セットは VSAM データ・セットですが、データベースは OSAM を使用するように定義されています。
3	すべて	データ・セットは、PDS であるか、PDSE であるか、または PDS か PDSE のメンバーです。
4	トラッキング、再編成	データ・セットは VSAM ESDS ではありませんが、データベースは VSAM を使用するように定義されています。
5	すべて	VSAM データ・セットが REUSE 属性を備えていません。
6	再編成	VSAM データ・セットのレコード長が、対応する入力データ・セットのそれと異なります。
7	再編成	VSAM データ・セットの制御インターバル・サイズが、対応する入力データ・セットのそれと異なります。
8	再編成	VSAM ESDS データ・セットの制御インターバル・サイズが、対応する入力データ・セットのそれと異なります。

理由コード	環境	前から存在するデータ・セットについて検出されたエラー
9	再編成	データ・セットが VSAM KSDS ではありません。PHIDAM の 1 次索引データベースは、VSAM KSDS であることが必要です。
10	再編成	PHIDAM データベースの 1 次索引データ・セット (KSDS) が、対応する入力データ・セットと異なるキー・オフセットまたはキー長で定義されています。
11	トラッキング	VSAM データ・セットのレコード長が、アクティブ・サイトでトラッキングされた出力データ・セットのそれと異なります。
12	トラッキング	VSAM データ・セットの制御インターバル・サイズが、アクティブ・サイトでトラッキングされた出力データ・セットのそれと異なります。
13	トラッキング	PHIDAM データベースの 1 次索引データ・セット (KSDS) が、アクティブ・サイトでトラッキングされた出力データ・セットと異なるキー・オフセットまたはキー長で定義されています。
15	IMS カタログのロード	VSAM KSDS のレコード長は、IMS カタログを定義する DBD が要求するものとは異なります。
17	IMS カタログのロード	VSAM KSDS は、カタログを定義する DBD が要求するものとは異なるキー・オフセットまたはキー長で定義されています。
18	すべて	次のいずれかを行います。 <ul style="list-style-type: none"> • そのデータ・セットはカタログされていますが、カタログ・エントリが参照しているボリューム上に存在しません。 または <ul style="list-style-type: none"> • そのデータ・セットは、VOLUME パラメータを持つ DD ステートメントで割り振られましたが、参照されたボリューム上に存在しませんでした。
19	すべて	そのデータ・セットは DD ステートメントで割り振られましたが、DSNAME パラメータ内のデータ・セット名は、この区画のデータ・セットについて定義された命名規則に従っていません。
20	トラッキング、再編成	出力データ・セットは存在しませんが、対応する入力データ・セットは複数のボリューム上にあり、SMS 管理データ・セットではありません。
22	すべて	HSM マイグレーション済みデータ・セットの再呼び出し後に、このデータ・セットに関連した予期しない条件が発生しました。この条件の原因はおそらく内部エラーです。
23	ALTER オプションを指定した再編成	VSAM データ・セットの制御インターバル・サイズが、RECON データ・セットの区画レコードの ALTER BLOCK SIZE フィールドでデータ・セットに指定されたサイズと異なります。
24	ALTER オプションを指定した再編成	データ・セットのブロックまたは制御インターバル・サイズが、このデータ・セットに保管できる最大のデータベース・セグメントを十分に保持できる大きさではありません。

システムの処置

このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されませんが、区画は元のアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) とともに、アクセス可能で残ります。

このエラーが IMS カタログをロードしているときに起こった場合は、カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、IMS Catalog Populate ユーティリティーは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、出力データ・セットのうち 1 つ以上が、すでに自動的に作成されている可能性があります。

プログラマーの応答

ケース 1:

HALDB オンライン再編成を再始動する前に、次のいずれかを実行します。

- 既存の出力データ・セットを削除することにより、IMS が出力データ・セットを自動的に作成できるようにします。IMS がデータ・セットを作成する場合、データ・セットのサイズと配置は、IMS、MVS、および DFSMS/MVS によって、さらに、ストレージ管理者が定義したパラメーターによっても、自動的に決定されます。したがって、データ・セットのサイズと配置を精密に制御する必要がある場合は、IMS にデータ・セットを作成させないでください。
- 再編成の出力として受け入れ可能なデータ・セットを作成します。OSAM 定義データベースの場合、データベース・セグメント用の出力データ・セット (A から J まで、または M から V までのデータ・セットのいずれか 1 つ) が、必ず次のものであるようにしてください。
 - DASD データ・セットである
 - VSAM データ・セットでない
 - PDS でなく、PDSE でもなく、PDS や PDSE のメンバーでもない

VSAM 定義データベースの場合、データベース・セグメント用の出力データ・セット (A から J まで、または M から V までのデータ・セットのいずれか 1 つ) が、必ず次の特性を備えるようにしてください。

- VSAM 入力順データ・セット (ESDS)
- REUSE 属性
- 入力データ・セットと同じ固定長のレコード長
- 入力データ・セットと同じ制御インターバル・サイズ。

PHIDAM データベースの場合は、1 次索引用の出力データ・セット (X または Y データ・セット) が、必ず次の特性を備えるようにしてください。

- VSAM キー順データ・セット (KSDS)
- 対応する入力データ・セットと同じキー・オフセット、キー長およびレコード長。
- REUSE 属性

その後、**INITIATE OLREORG** コマンドを再発行し、区画 *partname* について、HALDB オンライン再編成を開始します。

ケース 2:

IMS Catalog Populate ユーティリティーを再実行して IMS カタログをロードする前に、次のいずれかを実行します。

- 既存の出力データ・セットを削除することにより、IMS が出力データ・セットを自動的に作成できるようにします。IMS がデータ・セットを作成する場合、データ・セットのサイズと配置は、IMS、MVS、および DFSMS/MVS によって、さらに、カタログをアクティブにする DFSDFxxx メンバーのパラメーターによって、またさらに、ストレージ管理者が定義したパラメーターによっても、自動的に決定されます。したがって、データ・セットのサイズと配置を精密に制御する必要がある場合は、IMS Catalog Populate ユーティリティーにデータ・セットを作成させないでください。
- カタログ用のデータ・セットとしての条件に合ったデータ・セットを作成します。データベース・セグメント用のデータ・セット (A から J までのデータ・セットのいずれか 1 つ) が、必ず次のものであるようにしてください。

- DASD データ・セットである
- VSAM データ・セットでない
- PDS でなく、PDSE でもなく、PDS や PDSE のメンバーでもない

1 次索引、ILE データ・セット、または副次索引用であるデータ・セットが、必ず次の特性を備えるようにしてください。

- VSAM キー順データ・セット (KSDS)。
- IMS カタログの DBD が要求するキー・オフセット、キー長およびレコード長。
- これらの要件は、上記のとおりです。REUSE 属性。

その後、IMS Catalog Populate ユーティリティーを再実行して、カタログをロードしてください。

モジュール:
DFSORA00

DFS2992E

```
CSI RETURN CODE=4, [ { CATALOG  
ERROR, | DATA SET ERROR, } ]  
CATALOG MANAGEMENT RETURN  
CODE=cmreturncode REASON  
CODE=cmreasoncode  
MODULE=cmmoduleid  
PART=partname DSN=dsname
```

または

**CSI RETURN CODE=csireturncode [REASON
CODE=csireasoncode] PART=partname
DSN=dsname**

説明

IMS は、次のいずれかの一部として、HALDB 区画 *partname* 用のデータ・セット *dsname* に関する情報を収集するために、内部でカタログ検索インターフェース (CSI) を呼び出しました。

- その区画について、HALDB オンライン再編成を開始する。
- IMS カタログのロード

CSI は、メッセージ・テキストの中に示されている CSI 戻りコード値で完了しました。これらの CSI 戻りコードに関する情報は、「z/OS DFSMS カタログ管理」(SC88-8978) に記載されています。

このメッセージの最初の形式の場合 (CSI 戻りコードが 4 のとき) は、カタログ管理エラーが検出されました。その場合、*cmreasoncode*、*cmreturncode*、および *cmmoduleid* は、それぞれ、カタログ管理の理由コード、戻りコード、および 2 文字のモジュール ID です。このカタログ管理エラー情報については、「z/OS MVS システム・メッセージ 第 6 巻」(SA88-8602) のメッセージ IDC3009I の項に説明があります。

このメッセージの 2 番目の形式の場合 (CSI 戻りコード *csireturncode* が 4 以外のとき) は、CSI エラーが検出されました。CSI 戻りコード 8 の場合、*csireasoncode* は CSI 理由コードです。この CSI エラー情報については、「z/OS DFSMS カタログ管理」に説明があります。

これらの値は、IMS によって予期されていませんでした。

システムの処置

このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されませんが、区画は元のアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) とともに、アクセス可能で残ります。

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) で IMS カタログをロードしているときにエラーが起こった場合、IMS カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、自動的に作成されていたはずのデータ・セットのうち 1 つ以上が、すでに作成されていた可能性があります。

プログラマーの応答

CSI 戻りコードの値に基づいて、「z/OS DFSMS カタログ管理」を参照し、エラーの原因を判別して、推奨される処置を実行してください。

その後、INITIATE OLREORG コマンドの処理中にエラーが検出されていた場合は、区画 *partname* について、コマンドを再発行してください。

DFS3PU00 ユーティリティで IMS カタログをロードしているときにエラーが発生した場合は、このユーティリティを再実行してください。

モジュール:

DFSORA80

関連資料

[z/OS: 汎用レジスタ 15 の CSI 戻りコード](#)

[z/OS: CSI 戻りコード 4 および 8](#)

関連情報

[z/OS: IDC3009I](#)

DFS2993E	NON-DASD DATA SET. DEVICE CLASS=X'devclass' PART=partname DSN=dsname
-----------------	---

説明

HALDB 区画 *partname* のデータ・セットの 1 つであるデータ・セット *dsname* は、DASD データ・セットではありません。このデータ・セットは、HALDB オンライン再編成によって使用されていたか、または IMS カタログをロードするために IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) によって使用されていました。(内部で実行された DEVTYPE マクロ命令が報告した装置クラスは *devclass* (16 進数) であり、X'20' ではありません。) これは、データベースの一部としての使用に整合しません。

システムの処置

このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されません。

Catalog Populate ユーティリティを実行しているときにエラーが起こった場合、カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、このユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、必要なデータ・セットのうち 1 つ以上が、すでに作成されている可能性があります。

プログラマーの応答

データ・セット *dsname* を、HALDB に使用できる DASD データ・セットを参照するように変更してください。

修正が完了したら、エラー時に実行されていた HALDB オンライン再編成または DFS3PU00 ユーティリティを、再始動または再実行してください。

モジュール:

DFSORA00

DFS2994E	IDCAMS RETURN CODE <i>returncode</i> CREATING AN ONLINE REORG
-----------------	--

**OUTPUT DATA SET.
PART=*partname* DSN=*dsname***

説明

IMS が、以下のいずれかの操作の一部として、HALDB 区画 *partname* 用の VSAM データ・セット *dsname* を作成しようとした。

- その区画について、HALDB オンライン再編成を開始する。
- IMS カタログをロードする。

アクセス方式サービス・プログラム (IDCAMS) は、戻りコード *returncode* を戻しました。

システムの処置

IDCAMS によって生成されたメッセージがあれば、それがこのメッセージに先立って表示されています。

戻りコード 4 の場合、データ・セットの作成は完了したと想定されます。その場合、以下に述べる処置はどれも適用されず、処理が続行されます。

このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されませんが、区画は元のアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) とともに、アクセス可能で残ります。

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) で IMS カタログをロードしているときにエラーが起こった場合、IMS カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、このユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、データ・セットが自動的に作成されることになっていた場合、そのようなデータ・セットのうち 1 つ以上が作成されている可能性があります。

プログラマーの応答

「z/OS MVS システム・メッセージ 第 6 巻 (GOS - IEA)」(SA88-8602) を参照してエラーの原因を判別し、推奨されている処置を実行してください。

その後、**INITIATE OLREORG** コマンドの処理中にエラーが検出されていた場合は、区画 *partname* について、コマンドを再発行してください。

DFS3PU00 ユーティリティで IMS カタログをロードしているときにエラーが発生した場合は、エラーが修正された後に、このユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFSORA20

**DFS2995E IDCAMS RETURN CODE *returncode*
 DELETING AN ONLINE REORG**

**INPUT DATA SET. PART=*partname*
DSN=*dsname***

説明

IMS が、以下のいずれかの操作の一部として、HALDB 区画 *partname* 用の VSAM 入力データ・セット *dsname* を削除しようとした。

- その区画について、HALDB オンライン再編成を完了する。

アクセス方式サービス・プログラム (IDCAMS) は、戻りコード *returncode* を戻しました。

システムの処置

IDCAMS によって生成されたメッセージがあれば、それがこのメッセージに先立って表示されています。

再編成は、依然として正常に完了したと考えられ、この時点で、区画 *partname* 用に単一の新しいアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) が存在します。

プログラマーの応答

「z/OS MVS システム・メッセージ 第 6 巻 (GOS-IEA)」を参照してエラーの原因を判別し、推奨されている処置があれば実行してください。その後、データ・セットがまだ削除されていなければ、削除してください。

モジュール:
DFSORA20

**DFS2996E NOT ENOUGH DASD SPACE.
 ERROR REASON=X's99errorcode'
 [SMS REASON=s99ersn]
 BLOCKS=*blocks* BLKSIZE=*blksize*
 VOLUMES=*volcount*
 { UNIT=SYSALLDA | STORAGE
 CLASS=*storageclassname* }
 PART=*partname* DSN=*dsname***

説明

IMS が、以下のいずれかの操作の一部として、HALDB 区画 *partname* 用の OSAM データ・セット *dsname* を作成しようとした。

- その区画について、HALDB OLR を開始する。
- IMS カタログをロードする。

この目的に使用され、内部で実行された DYNALLOC マクロ命令 (SVC 99) は、DASD スペースまたは DASD ボリュームの制約のためにデータ・セットを作成できなかったことを報告しました。要求されたスペースは *blocks* 個のブロックで、それぞれのブロック・サイズは *blksize* です。 *volcount* 個のボリュームが要求されました。

メッセージ・テキストの中にグループ名 (SYSALLDA) を示すテキストが表示された場合は、対応する入力データ・セットが SMS 管理データ・セットではなかったために、非 SMS 管理データ・セットを作成しようとした。ストレージ・クラスを示すテキストが表示された場合は、対応する入力データ・セットが SMS 管理データ・セットで、ストレージ・クラス *storageclassname* を使用して作成されていたために、そのストレージ・クラスを使用して SMS 管理データ・セットを作成しようとした。

再編成が開始されようとしていた場合、これらのスペース割り振り値は対応する入力データ・セットから得られたものです。

このエラーの詳細については、「*z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide*」(SA22-7608)を参照してください。値 *s99errorcode* は、DYNALLOC マクロ命令 (SVC 99) が戻りコード 4 で失敗したときに提供されるエラー理由コード (SVC 99 要求ブロック内のフィールド S99ERROR) の 16 進値です。SMS の場合、*s99ersn* は SMS 理由コード (SVC 99 要求ブロック拡張内のフィールド S99ERSN) です。SMS 理由コードは、エラーを記述する IGD メッセージのメッセージ番号に対応します。IGD メッセージの詳細については、「*z/OS MVS システム・メッセージ 第 8 巻 (IEF - IGD)*」(SA88-8604)を参照してください。

システムの処置

このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されませんが、区画は元のアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) とともに、アクセス可能で残ります。

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) で IMS カタログをロードしているときにエラーが起こった場合、カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、このユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、データ・セットが自動的に作成されることになっていた場合、エラーが起こる前に 1 つ以上のデータ・セットが作成されている可能性があります。

プログラマーの応答

要求したスペース (サイズが *blksize* である *blocks* 個のブロック) が、出力データ・セットに必要なかどうかを判断してください。場合によっては、このスペース割り振り要求には、入力データ・セット用の 2 次割り振りによって獲得されるスペースが含まれていた可能性があり、再編成するデータベースには不要な場合があります。その場合は、次のいずれかを実行してください。

- グループ名 SYSALLDA (非 SMS 管理の場合) によって参照されるか、ストレージ・クラス *storageclassname*

(SMS 管理の場合) によって参照されるボリューム上に、十分な DASD スペースが存在することを、場合によっては不要なデータ・セットを消去することによって確認します。1 次割り振り量 (サイズが *blksize* である *blocks* 個のブロック) が、単一ボリューム上にある合計 5 つ以下のエクステントで利用可能である必要があります。SMS 管理の場合、ストレージ・クラス定義に GUARANTEED SPACE 属性が含まれていると、1 次割り振り量は、それぞれのボリューム上で使用可能でなければならず、また、それぞれのボリューム上に割り振られます。

- この出力データ・セットをユーザー自身が作成し、カタログします。その場合は、必要なスペース量を自由に選択して予約することができ、ボリューム数も制御できます。OSAM データ・セットの割り振り方法とマルチボリューム・データ・セットを事前に割り振る技法については、「*OSAM データ・セットの割り振り (データベース管理)*」を参照してください。

その後、INITIATE OLREORG コマンドの処理中にエラーが検出されていた場合は、区画 *partname* について、コマンドを再発行してください。

IMS カタログをロードするために DFS3PU00 ユーティリティを実行しているときにエラーが発生した場合は、このユーティリティを再実行してください。

モジュール:

DFSORA20

関連資料

[z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈](#)

[z/OS: IGD メッセージ](#)

DFS2997E DATA SET ALLOCATED TO ANOTHER JOB AND CANNOT BE CREATED. PART=*partname* DSN=*dsname*

説明

IMS が、以下のいずれかの操作の一部として、HALDB 区画 *partname* 用の OSAM データ・セット *dsname* を作成しようとした。

- その区画について、HALDB OLR を開始する。
- IMS カタログをロードする。

データ・セットを作成するには、JCL を通じて DD ステートメントで DISP=NEW が指定された場合とまったく同じように、そのデータ・セットが割り振られている必要があります。しかし、同じ名前のデータ・セットがすでに別のジョブで使用されていたために、割り振りが失敗しました。

システムの処置

このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されませんが、区画は元のアクティブ・セットのデ

ータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) とともに、アクセス可能で残ります。

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) で IMS カタログをロードしているときにエラーが起こった場合、IMS カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、エラーが起こる前に、そのほかのデータ・セットが作成されている可能性があります。

プログラマーの応答

他のジョブが *dsname* という名前のデータ・セットを使用中でないことを確認してください。これは、そのデータ・セットがカタログされていない場合でも同様です。また、そのデータ・セットが、再編成の出力や IMS カタログ・データ・セットと同じデータ・セットになるように意図されていない場合でも同様です。

その後、**INITIATE OLREORG** コマンドの処理中にエラーが検出されていた場合は、区画 *partname* について、コマンドを再発行してください。

DFS3PU00 ユーティリティで IMS カタログをロードしているときにエラーが発生した場合は、このユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFSORA20

DFS2998E [DATA SET CREATION ERROR. | UNALLOCATION FAILURE.]
RETURN=returncode [{ INFO. REASON=X's99infocode' | ERROR REASON=X's99errorcode' }] [SMS REASON=s99ersn]
BLOCKS=blocks **BLKSIZE=blksize**
VOLUMES=volcount
{ **UNIT=SYSALLDA** | **STORAGE CLASS=storageclassname** }
PART=partname **DSN=dsname**

説明

IMS が、以下のいずれかの操作の一部として、HALDB 区画 *partname* 用の OSAM データ・セット *dsname* を作成しようとした。

- その区画について、HALDB OLR を開始する。
- IMS カタログのロード

メッセージ・テキストに示されているように、内部で実行された DYNALLOC マクロ命令 (SVC 99) が、次の 2 つの問題のどちらかを報告しました。

1. データ・セットを作成できなかった。
2. 正常に作成されたばかりのデータ・セットを、IMS ジョブから割り振り解除できなかった。

要求されたスペースは *blocks* 個のブロックで、それぞれのブロック・サイズは *blksize* です。 *volcount* 個のボリュームが要求されました。

メッセージ・テキストの中にグループ名 (SYSALLDA) を示すテキストが表示された場合は、非 SMS 管理データ・セットの作成が試みられました。ストレージ・クラスを示すテキストが表示された場合は、ストレージ・クラス *storageclassname* を使用して SMS 管理データ・セットの作成が試みられました。

HALDB オンライン再編成中にこのエラーが起こった場合、SMS 管理データ・セットと非 SMS 管理データ・セットのいずれを作成するかを選択は、対応する入力データ・セットに基づきます。

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) で IMS カタログをロードしているときにこのエラーが発生した場合は、SMS 管理データ・セットと非 SMS 管理データ・セットのいずれを作成するかを選択は、IMS カタログを活動化する DFSDFxxx メンバーにおける STORCLAS パラメーターの有無に基づきます。

再編成が開始されようとしていた場合、これらのスペース割り振り値は対応する入力データ・セットの値から得られたものです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

returncode

DYNALLOC マクロ命令 (SVC 99) によって提供されたレジスター 15 戻りコードの 10 進値です。

s99infocode

情報理由コード (SVC 99 要求ブロック内のフィールド S99INFO) の 16 進値です。

s99errorcode

エラー理由コード (SVC 99 要求ブロック内のフィールド S99ERROR) の 16 進値です。

s99ersn

SMS の場合は、SMS 理由コード (SVC 要求ブロック拡張内のフィールド S99ERSN) です。SMS 理由コードは、エラーを記述する IGD メッセージのメッセージ番号に対応します。

システムの処置

このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されませんが、区画は元のアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) とともに、アクセス可能で残ります。

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) で IMS カタログをロードしているときにエラーが起こった場合、IMS カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、エラーが起こる前に、そのほかのデータ・セットが作成されている可能性があります。

プログラマーの応答

returncode、*s99info*、*s99errorcode*、および *s99ersn* の意味を適宜判別してください。推奨処置があれば実行し、エラーを訂正してください。

その後、**INITIATE OLREORG** コマンドの処理中にエラーが検出されていた場合は、区画 *partname* について、コマンドを再発行してください。

DFS3PU00 ユーティリティーで IMS カタログをロードしているときにエラーが発生した場合は、このユーティリティーを再実行してください。

モジュール:

DFSORA20

関連資料

[z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈](#)

DFS3000I	SUCCESSFUL COMPLETION OF DB REORG
-----------------	--

説明

データベース部分再編成が正常に完了しています。

システムの処置

処理は正常に終了しました。

第 64 章 DFS メッセージ DFS3001W - DFS3050A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS3001W INVALID FORMAT. STATEMENT
DID NOT BEGIN BEFORE COLUMN
17**

説明

ステートメントが 1 から 16 桁目から開始されていませんでした。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その後で、ステップが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3002W INVALID KEYWORD IN
PRECEDING STATEMENT COLUMN
= nn**

説明

nn 桁目から開始されているキーワードは、無効です。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その後で、ステップが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3003W ILLEGAL CONTINUATION

説明

入力ストリングの終了文字がコンマで、72 桁目にブランクが検出されたか、終了文字がコンマではなく、72 桁目に非ブランクが検出されたか、いずれかです。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3004A FROMAREA INVALID FOR HIDAM
OR KEYRANGE INVALID FOR
HDAM**

説明

FROMAREA が指定できるのは、HDAM の場合のみで、KEYRANGE が指定できるのは、HIDAM の場合のみです。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3005A REQUIRED KEYWORD MISSING,
KEYWORD = keyword**

説明

示されている必須キーワードが欠落しています。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3006A INVALID KEYWORD FOR THIS
STEP ON PRECEDING STATEMENT,
KEYWORD = keyword**

説明

示されているキーワードは、このステップでは無効です。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3007I **SORT CORE SIZE NOT SPECIFIED
ON THE EXEC PARMS, SORT MAIN
STORAGE SIZE IS DEFAULTED TO
CORE=MAX**

説明

DFSUCUM0 ユーティリティーまたは DFSURG10 ユーティリティーの EXEC ステートメントでソート・コア・サイズのパラメーターを指定できませんでした。デフォルトの CORE=MAX が使用されます。

システムの処置

処理を続行します。デフォルトのソート・コア値サイズが使用されます。

モジュール

DFSUCMN0、DFSURG10

DFS3008W **KEYWORD PREVIOUSLY
SPECIFIED, KEYWORD = keyword**

説明

示されているキーワードは、以前に別の入力ステートメントで指定されており、このタイプのキーワードは 1 つしか使用が許されません。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3009W **FROMAREA AND KEYRANGE ARE
MUTUALLY EXCLUSIVE
KEYWORDS**

説明

FROMAREA と KEYRANGE が両方とも指定されています。FROMAREA が使用できるのは、HDAM データベ

スの場合のみであり、KEYRANGE を使用してもかまわないのは、HIDAM データベースの場合のみです。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3010W **INVALID OPERAND IN
PRECEDING STATEMENT FOR
KEYWORD = keyword, COLUMN =
nn**

説明

直前の検出に示されていたキーワードに関して、無効のオペランドが検出されました。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3011W **MORE THAN 10 RANGES
SPECIFIED**

説明

10 を超える KEYRANGE または FROMAREA は、使用できません。それぞれの FROMAREA または KEYRANGE の後で、10 を超える TOAREA は使用できません。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3012W **DBDLIB DOES NOT CONTAIN
dbdname**

説明

指定された DBD は、DBDLIB に含まれていません。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3013W DBD *dbdname* DOES NOT HAVE HD ACCESS METHOD

説明

指定された DBD は、HDAM または HIDAM データベースではありません。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3014W DATA SET GROUP(S) SPECIFIED ON INPUT STATEMENTS DO NOT MATCH DBD *dbdname* DSGs

説明

TOAREA 入力ステートメントで使用されているデータ・セット・グループは、DBD で検出されているものと同じではありません。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3015A INTERNAL ERROR IN DFSPRDBD

説明

モジュール DFSPRDBD が、さらに処理を続けることができないエラーを検出しました。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3016A LCHILD ENTRY DOES NOT EXIST IN DBD *dbdname* FOR *segment-name*

説明

1 次データベースの論理子の関連データベースで、LCHTAB エントリーが検出されませんでした。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3017A MORE THAN 49 RELATED DATA BASES

説明

49 という関連データベース数の限度を超えています。データベース部分再編成がこの再編成では使用できません。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3018A MORE THAN 500 SEGMENTS
PARTICIPATING IN
REORGANIZATION**

説明

再編成に参加するセグメント数が 500 という限度を超えています。データベース部分再編成がこの再編成では使用できません。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3019 INSUFFICIENT STORAGE
AVAILABLE IN HIOP**

説明

通信入出力プールで 16 メガバイト境界線 (HIOP) より上にあるストレージが不十分のため、コマンドが処理できませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

この状態は、後でコマンドを再入力することで解決できるような、一時的な状態である可能性があります。これが失敗した場合は、システム・プログラマーに通知してください。

モジュール:

DFSICLN2

関連情報

IMS 異常終了 0310

**DFS3020 UNABLE TO OBTAIN AN AWE
FROM DFSBCB**

説明

非同期作業エレメント (AWE) が IMS BCB サービスから取得できなかったため、コマンドが処理されませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

この問題は一時的条件で、後でコマンドを再入力することで解決できる可能性があります。この試みが失敗した場合は、システム・プログラマーに通知してください。

**DFS3021W DIRECT ADDRESS POINTERS IN
RELATED HISAM DATABASE
dbdname NOT ALLOWED**

説明

関連 HISAM データベースに、1 次データベースを指す直接アドレス・ポインターがあります。データベース部分再編成は、この再編成を行うのには使用できません。

システムの処置

ステップは終了します。

**DFS3022W SYNCPOINT PHASE 1 FAILED DUE
TO FAILURE IN OBTAINING SPACE
FOR 5612 LOG RECORD.**

説明

プログラム DBFSYN10 が高速機能処理モジュール (DBFSLOG0) から戻りコード 16 (RC=16) を受け取りました。ストレージ・マネージャー・サービス・マクロ DFSBCB を使用して 5612 ログ・レコードの制御ブロックを取得できませんでした。

システムの処置:

処理を続行します。

プログラマーの応答:

共通サービス域 (CSA) ストレージ割り振りを増やしてください。

**DFS3023A MORE THAN 500 SCAN AND
RELOAD ACTIONS REQUIRED FOR
POINTER RESOLUTION**

説明

論理的に関連したセグメント・ポインター解決のためのスキャンおよび再ロード・アクションの回数が 500 と

いう限度を超えています。データベース部分再編成がこの再編成では使用できません。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別:

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3024W RAS SECURITY HAS SUPPRESSED
NNNNNNNN ICH408I MESSAGES
FOR REGION YYYYYYYY**

説明

RAS セキュリティーにより、複数の ICH408I メッセージが抑制されました。これは、指定された従属領域に RACF 定義エラーがあるためです。このメッセージは、RAS セキュリティーが従属領域に関する ICH408I メッセージの抑制をまだ行っていること、および抑制された ICH408I メッセージの数をユーザーに知らせるために発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

NNNNNNNN

抑制された ICH408I の数

YYYYYYY

従属領域名

システムの処置:

無許可のトランザクションはメッセージ・キューに残り、他の適格な従属領域または IMSplex 内の他の IMS システムによって処理される可能性があります。処理は続行されます。

プログラマーの応答:

先行する DFS2497W メッセージを見つけます。このメッセージで、指定された領域に対する無許可のトランザクションが指定されています。問題を解決するには、DFS2497W に関する情報に示される対応に従ってください。

問題判別:

1、5、6、27、35、36

モジュール:

DFSSCHRO

関連情報

[729 ページの『DFS2497W』](#)

ICH408I MESSAGES ARE SUPPRESSED FOR REGION YYYYYYYY FOR TRAN ZZZZZZZZ BY RAS SECURITY

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3025A INTERNAL ERROR IN DFSPRABC

説明

モジュール DFSPRABC が、さらに処理を続けることができないエラーを検出しています。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別:

2、3、8、17a、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3026A DFSPRCOM DATA SET CANNOT BE
OPENED**

説明

通信データ・セット DDNAME DFSPRCOM に関して、オープンが失敗しました。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

通信データ・セットが存在し、このステップに関する DD ステートメントに組み込まれているか確認してください。

問題判別:

2、3、8、17a、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3027I NO PSB GENERATED FOR THIS
EXECUTION OF PARTIAL
REORGANIZATION**

説明

PSB パラメーターは入力に組み込まれていませんでした。このパラメーターのデフォルトでは、PSB 生成はありません。

システムの処置

PSB がこの実行に関して生成されることはありません。

プログラマーの応答

PSB が必要な場合は、PSB=psbname を指定して、ステップ 1 を再実行してください。

DFS3028A UNSUCCESSFUL OPEN OF *ddname* DATA SET

説明

システムは、メッセージ・テキストで *ddname* によって示されているデータ・セットを開くことができませんでした。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。このデータ・セットに関する DD ステートメントが組み込まれ、指定が正しいか確認してください。

関連情報

IMS 異常終了 0310

DFS3029A UNSUCCESSFUL WRITE TO *ddname* DATA SET

説明

指定されたデータ・セットに書き込みエラーがありました。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別:

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

IMS 異常終了 0310

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3030A UNSUCCESSFUL READ FROM *ddname* DATA SET

説明

指定されたデータ・セットに読み取りエラーがありました。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別

2、3、8、17c、18、19、35

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3031A UNSUCCESSFUL CLOSE OF *ddname* DATA SET

説明

指定されたデータ・セットがクローズできませんでした。

システムの処置

処理は続行されます。

問題判別

2、3、8、17c、18、19、35

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3032A INTERNAL ERROR IN DFSPRWFM

説明

モジュール DFSPRWFM が、さらに処理を続けることができないエラーを検出しました。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

変更を元に戻すために IMS バックアウト機能を実行します。

問題判別

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3033A	DBDS DO NOT MATCH, STEP 1 DBD=<i>dbdname</i>, STEP 2 DBD=<i>dbdname</i>
-----------------	--

説明

ステップ 2 の入力で指定した DBD が、ステップ 1 で指定した DBD と同じではありません。

システムの処置

指定エラーのため、PSBGEN は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3034A	PREMATURE END OF FILE ON COMMUNICATIONS DATA SET
-----------------	---

説明

通信データ・セット (DFSPRCOM) でステップ 1 からステップ 2 に渡されるレコードが、ステップ 2 ですべては読み取られないうちに、ファイルの終わりに達しました。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

ステップ 1 を再実行して、通信データ・セットを再作成してください。

問題判別

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3035A	STEP 1 HAS TERMINATED AFTER PHASE <i>phase-name</i>
-----------------	--

説明

メッセージ・テキストに示されているフェーズで、さらに処理を続けることができないエラーが検出されました。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3036W	UNSUCCESSFUL COMPLETION OF PARTIAL DATA BASE REORGANIZATION
-----------------	--

説明

データベース部分再編成の正常な完了を妨げるエラーが発生しました。

システムの処置

処理は終了します。

問題判別

2、3、8、17a、18、19、36

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3037A	STATUS CODE <i>cc</i> RETURNED FROM DL/I CALL ON RESTART ATTEMPT
-----------------	---

説明

エラー状況コード '*cc*' が、再始動呼び出しで DL/I によって戻されました。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

ありません。

関連情報

IMS 異常終了 0310

**DFS3038A CHECKPOINT *nnn* NOT
SUCCESSFULLY TAKEN; RESTART
NOT POSSIBLE**

説明

メッセージ・テキストで *nnn* によって示されているチェックポイントが正常終了しませんでした。したがって、再始動は不可能です。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

データベースを復旧して、データベース部分再編成を最初からやり直す必要があります。

問題判別

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

IMS 異常終了 0310

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3039A INSUFFICIENT REGION SIZE

説明

使用可能なストレージが不十分であったため、ステップ 2 でその制御ブロックを作成できませんでした。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード U0310 が示されます。

プログラマーの応答

領域サイズを大きくして、ステップ 2 を再実行してください。

問題判別

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

IMS 異常終了 0310

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3040A INVALID PCB LIST-TOO [SHORT]
LONG]**

説明

PSB は、含まれている PCB が少なすぎたか、または多すぎたため、データベース部分再編成のこの実行で使用できませんでした。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

PSB のエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別

PSB がデータベース部分再編成 (PDBR) のステップ 1 から生成された場合は、2、3、8、17a、18、19、35 を行ってください。

関連情報

IMS 異常終了 0310

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3041W TOAREA *rbn-number* TO *rbn-*
number FOR DSG *data set-group-*
name EXTENDS BEYOND
CURRENT END OF DATA BASE**

説明

示されている TOAREA が、データベースの現在の終わりを超えています。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3042A RELOAD COUNT NOT EQUAL TO UNLOAD COUNT FOR ALL SEGMENTS

説明

ロードされたセグメントの数が、アンロードされたセグメントの数に等しくありません。詳しい情報については、範囲再ロード統計を参照してください。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別:

2、3、5、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3043A NO PRIME INDEX ENTRY IN DBD FOR *ddname*

説明

ddname で識別される HIDAM データベースについて、1 次索引データ・セットがありません。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別:

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3044A RBA IN PRIME INDEX NOT EQUAL TO RBA OF UNLOADED SEGMENT

説明

1 次索引の相対バイト・アドレス (RBA) が、アンロードされたセグメントの相対バイト・アドレス (RBA) と一致しませんでした。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別:

2、3、5、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3045W FROM AREA *rba-number* TO *rba-number* NOT IN ROOT ADDRESSABLE AREA

説明

示されている FROMAREA が、ルート・アドレス可能域にすべては含まれていませんでした。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3046W NO DATABASE RECORDS IN FROMAREA/KEYRANGE STARTING AT *rba-number/key-value*

説明

示されている範囲では、レコードは検出されませんでした。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3047A SORT xx FAILEDIMS メッセージ

説明

誤った戻りコードが、データベース部分再編成ソートから戻されました。xx は、問題が発生した SORT STEP を示します。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト機能を使用して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 での変更を取り消してください。

問題判別:

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3048A END OF DBT WITHOUT IMR
MATCH**

説明

索引保守レコードに基づくと、特定のデータベースがデータベース・テーブルで検出されませんでした。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト機能を使用して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 での変更を取り消してください。

問題判別:

2、3、8、17a、18、19

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3049A UNEXPECTED EOF ON WF4

説明

作業ファイル 4 に関して、ファイルの終わり条件が生じましたが、現在処理中の IMS 索引保守レコードと一致する B 索引作業レコードを見つけようとしている最中でした。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS データベース・バックアウト・ユーティリティを使用して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 での変更を取り消してください。

問題判別:

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3050A INVALID RECORD TYPE xx IN DWR

説明

メッセージ・テキストで xx によって示されている無効なレコード・タイプが含まれた、データ作業レコードが検出されました。このレコード・タイプは、システムに対して定義されていません。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト機能を使用して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 での変更を取り消してください。

問題判別:

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

第 65 章 DFS メッセージ DFS3051A - DFS3100I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3051A NO DMB FOR DATABASE *ddname*

説明

データ管理ブロックがディレクトリー (DDIR) で検出されませんでした。この問題は IMS 内部エラーです。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別:

2、3、5、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3052A PERMANENT READ ERROR FOR SEGMENT AT RBA *rba-number*

説明

示されている相対バイト・アドレス (RBA) について、永続読み取りエラーが発生しました。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト機能を使用して、PDBR のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別:

2、3、5、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3053A INVALID RETURN FROM DL/I CALL *function, dbdname, procopt, segment-name, level*

説明

bb、GA、または GK 以外の戻りコードが DL/I GU 呼び出しから戻されました。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト機能を使用して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別:

2、3、5、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3054A INTERNAL ERROR IN MODULE DFSPRIMS

説明

モジュール DFSPRIMS が、さらに処理を続けることができないエラーを検出しています。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別:

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3055A INVALID PHYSICAL TWIN CHAIN

説明

無効の物理兄弟チェーンが、HIDAM ルートのアンロードで検出されました。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別:

2、3、5、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3056I STATUS CODE cc RETURNED FROM
DL/I CALL ON CHECKPOINT
ATTEMPT**

説明

状況コード cc が DL/I チェックポイント呼び出しで戻されました。

システムの処置

処理は続行されます。

**DFS3057I ATTEMPT TO WRITE TO DPRWF6
FAILED; CHECKPOINT 'nnn' NOT
TAKEN**

説明

書き込みエラーが、チェックポイント nnn を書き込んでいて発生しました。再始動は、必要な場合でも不可能です。

システムの処置

処理は続行されます。

**DFS3058A STATUS CODE cc RETURNED FROM
DL/I ON OPEN ATTEMPT**

説明

索引保守ファイルでのオープン・エラーが発生しました。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト・ユーティリティーを実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別:

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3059A INVALID RECORD TYPE xx IN XWR

説明

システムに対して定義されていないレコード・タイプ・コードが含まれた、索引作業レコードが検出されました。

システムの処置

ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答

IMS バックアウト・ユーティリティーを実行して、PDBR のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別:

2、3、8、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0310](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3060I UNRESOLVED IN DOUBT IN
AREA=xxxxxxx, COMMAND
REJECTED**

説明

DEDB エリアをオフラインで送信するコマンド (例えば、/STOP AREA、UPDATE AREA STOP(SCHD)、/DBR AREA または UPDATE AREA STOP(ACCESS) など) が、エリア xxxxxxxx に関して入力されました。このエリアには、未解決の未確定データがあります。データ保全性を保護するために、コマンドはリジェクトされます。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

未確定データを解決し、コマンドを再発行してください。

DFS3061I **VSO AREA aaaaaaaaa HAS I/O
TOLERATED CI, COMMAND
REJECTED**

説明

エリア aaaaaaaaa は VSO エリアであり、XRF テークオーバーからの 入出力許容データがあります。エリアをオフラインで取るコマンド (例えば、**/STOP AREA**、**/DBR AREA**、**UPDATE AREA STOP (ACCESS)**、または **/VUNLOAD AREA**) が、エリアに関して入力され、コマンドは、データ保全性を保護するためにリジェクトされました。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

IMS **/UNLOCK SYSTEM** コマンドと **AVM UNLOCK** コマンドのいずれかを入力して、入出力許容 **EEQE** をページしてください。その後、コマンドを再入力してください。

モジュール:
DBFARDCO

DFS3062I **PRELOAD ACTIVE IN
AREA=areaname, COMMAND
REJECTED**

説明

PRELOAD がアクティブなのは、エリア *areaname* の場合であり、コマンドは、異常終了を避けるためにリジェクトされました。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

コマンドを再発行してください。

DFS3063A **DYNAMIC UNALLOCATION FAILED
FOR DD ddname**

説明

データベース・リカバリー中に、データベース・リカバリー・ユーティリティは、*ddname* で特定されるターゲット・データ・セットを割り振り解除できませんでした。

システムの処置

データベース・リカバリー・ユーティリティは異常終了し、ユーザー・コード 0302 が示されます。レジスター 15 に、割り振り解除障害に関する DYNALLOC エラー理由コードが入っています。

プログラマーの応答

イメージ・コピー・データ・セットが正しかったか確認してください。正しくなかった場合は、JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSURTO0

関連資料

[z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0302](#)

DFS3064A **DYNAMIC ALLOCATION FAILED
FOR DD ddname**

説明

参照されている DD 名に関して、動的割り振りが失敗しました。

システムの処置

このデータ・セットを必要とする処理は一時停止します。

プログラマーの応答

データ・セットが存在し、現在のカタログ構造に収容されていることを確認します。

モジュール:

DFSURTO0、DFSUDMPO、DFSUDMT0

DFS3065I **UTILITY ACTIVE IN
AREA=areaname, COMMAND
PENDING UTILITY TERMINATION**

説明

高速機能ユーティリティはこのエリアに関してアクティブです。ユーティリティの入出力時に、状況 FH、または AO が発行され、コマンドが処理されます。ユーティリティは、完了前に終了します。

システムの処置

/DBR または /STOP コマンドは処理されますが、コマンドの実行前に、ユーティリティーのクリーンアップおよび切断が発生します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFARDA0

DFS3067A **IMS xxxxxxxx WAITING FOR SYNCHRONIZATION WITH OTHER FAILED IMS SYSTEMS. REPLY "OK" TO CONTINUE**

説明

このメッセージは、OPTION SYNCPLEX キーワードとパラメーターが入力された場合、IMS 緊急時再始動時に生成されます。

システムの処置

IMS システムは、通常の処理を開始する前に、応答を待ちます。

プログラマーの応答

障害が起きた IMS システムがすべて再始動済みで WTOR を待っている場合は、WTOR に対して OK を応答してください。

モジュール:
DFSRST00

DFS3069I **MINIMUM VALUE SUBSTITUTED FOR LOW/HIGH BLOCK NUMBER**

説明

SURVEYOR TOAREA 処理に関する低位または高位ブロック番号が、最小値 2 より小でした。

システムの処置

低位/高位ブロック番号は、最小値 2 を取ります。

DFS3070A **UNSUCCESSFUL OPEN OF ddname DATA SET**

説明

システムが、メッセージに示されたデータ・セットを開くことができませんでした。

システムの処置

処理は異常終了 0311 で終了します。

プログラマーの応答

DD ステートメントが存在し、指定が正しいか確認してください。訂正を行い、ジョブを再実行してください。

関連情報

[0311 \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS3071A **DBDNAME IN DBPCB DOES NOT MATCH DBDNAME ENTERED**

説明

入力ステートメントからの DBNAME と PCB のいずれかが誤りです。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

入力ステートメントを訂正してください。

DFS3072I **NO KEY IS DEFINED IN THE DBD FOR THE ROOT SEGMENT OF THIS DATABASE**

説明

DBD は無効です。

システムの処置

処理は異常終了 0311 で終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0311](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3073I **INTERNAL ERROR IN DFSPRSUR**

説明

モジュール DFSPRSUR が、さらに処理を続けることができないエラーを検出しています。

システムの処置

処理は異常終了 0311 で終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0311](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3074A	INVALID RETURN FROM OLIC WHILE PROCESSING AN INITIALIZE DSG CALL
-----------------	---

説明

データベースのオープンおよび初期設定でエラーがあったか、PCB の OLIC パラメーターが設定されなかったか、いずれかです。

システムの処置

処理は異常終了 0311 で終了します。

プログラマーの応答

PSB および DD ステートメントで指定された OLIC=YES が、調査対象データベースに関して存在しているか確認してください。訂正を行い、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0311](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3075I	INVALID STATUS CODE FROM DL/I function CALL-STATUS = <i>status</i> <i>code</i>
-----------------	---

説明

DL/I 呼び出しから戻された戻りコードが無効でした。

システムの処置

処理は異常終了 0311 で終了します。

プログラマーの応答

IMS システムおよびすべての制御ステートメントが有効であることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0311](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3076W	FROMAREA INVALID FOR HIDAM OR KEYRANGE INVALID FOR HDAM
-----------------	--

説明

FROMAREA が指定できるのは、HDAM の場合のみで、KEYRANGE が指定できるのは、HIDAM の場合のみです。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3077A	LOW BLOCK NUMBER FOR DSG <i>ddname</i> IS NOT WITHIN THE DATA SET GROUP
-----------------	--

説明

TOAREA 処理に関して指定された低位ブロック番号が、DSG の現在の終わりよりも先でした。

システムの処置

エラー・パラメーターを迂回した後、処理は続行されません。

プログラマーの応答

低位ブロック番号が DSG 内に入るように下げ、ジョブを再実行してください。

DFS3078I	INVALID RETURN CODE FROM OLIC WHILE PROCESSING A BLOCK LOCATE CALL
-----------------	---

説明

ゼロ以外の戻りコードが、オンライン・イメージ・コピー・ブロック探索呼び出しから戻されました。

システムの処置

SURVEYOR は異常終了し、異常終了コード 0311 が示されます。

問題判別:

2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0311](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3079I INVALID RETURN CODE FROM
 OLIC WHILE PROCESSING A GET
 RBA CALL**

説明

ゼロ以外の戻りコードが、オンライン・イメージ・コピー GET RBA 呼び出しから戻されました。

システムの処置

SURVEYOR は異常終了し、異常終了コード 0311 が示されます。

問題判別:

2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0311](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3080I INVALID RETURN CODE FROM
 BUFFER HANDLER WHILE
 PROCESSING A LOCATE BLOCK
 CALL**

説明

ゼロ以外の戻りコードが、バッファ・ハンドラー・ブロック探索呼び出しから戻されました。

システムの処置

SURVEYOR は異常終了し、異常終了コード 0311 が示されます。

問題判別:

2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3081W STATEMENT DOES NOT BEGIN
 BEFORE COL 17**

説明

ステートメントが 1 から 16 桁目から開始されていませんでした。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3082W UNKNOWN KEYWORD *keyword*

説明

示されている制御ステートメントに関して、キーワードが認識されませんでした。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3083W INVALID SYNTAX *error description*

説明

構文エラーがユーザー制御ステートメントで検出されています。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3084W INCOMPLETE STATEMENT

説明

直前の制御ステートメントが不完全でした。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3085W ILLEGAL CONTINUATION

説明

入力ストリングの終了文字がコンマで、72 桁目にブランクが検出されたか、終了文字がコンマではなく、72 桁目に非ブランクが検出されたか、いずれかです。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3086W KEYWORD PREVIOUSLY
SPECIFIED KEYWORD: keyword**

説明

示されているキーワードは、以前に別の入力ステートメントで指定されており、このタイプのキーワードは 1 つしか使用が許されません。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3087W INVALID OPERAND

説明

直前の検出に示されていたキーワードに関して、無効のオペランドが検出されました。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3088W MISSING KEYWORD: keyword

説明

示されているキーワードが欠落しています。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3089W FROMAREA, KEYRANGE, AND
TOAREA ARE MUTUALLY
EXCLUSIVE**

説明

メッセージに表示されている 2 つのキーワード・タイプが指定されました。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3090W MORE THAN THE MAXIMUM OF 10
TOAREAS SPECIFIED**

説明

10 個以内の TOAREA を指定できます。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3091W DBDLIB DOES NOT CONTAIN
dbdname**

説明

DBDLIB 内で、*dbdname* で特定されるデータベースの DBD が検出されませんでした。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントまたは DBDLIB のエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3092W DBD *dbdname* DOES NOT HAVE HD
ACCESS METHOD**

説明

dbdname で特定される DBD が、HDAM または HIDAM データベースではありません。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3093W DATA SET GROUPS(S) SPECIFIED
ON INPUT STATEMENTS DO NOT
MATCH DBD *dbdname***

説明

TOAREA 入力ステートメントで使用されているデータ・セット・グループは、DBD で検出されているものと同じではありません。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3094W FROMAREA *low block number* TO
high block number NOT IN ROOT
ADDRESSABLE AREA**

説明

指定された FROMAREA 範囲がこのデータベースのルート・アドレス可能域内にありません。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3095W NO RECORDS IN RANGE

説明

ユーザー制御ステートメントで指定された範囲では、レコードは検出されませんでした。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3096A INVALID RETURN CODE FROM SVC

説明

エラー条件が SVC 処理によって検出されました。

システムの処置

SURVEYOR は異常終了し、異常終了コード 0311 が示されます。

問題判別:

2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0311](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3097W INPUT KEY LENGTH DOES NOT
MATCH DATA BASE KEY LENGTH**

説明

KEYRANGE に関して指定されているキーの長さが、DBD キー長さと同じではありません。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3098A SURVEYOR IS UNABLE TO LOCATE RECORD AT BEGINNING OF RANGE AND/OR PARTITION BOUNDARY

説明

FROMAREA 範囲または区画の最初のキーが見つかりません。調査ユーティリティの実行中に、範囲/区画境界で有意の削除または挿入アクティビティが生じていたか、データベース・エラーがあるか、いずれかです。

システムの処置

処理は、ユーザー異常終了 0311 で終了します。

プログラマーの応答

範囲/区画境界に対する有意の挿入/削除アクティビティとデータベース・ポインター・エラーの、いずれの可能性があるのかチェックしてください。問題が解決されたら、ジョブを再実行してください。

問題判別:

2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報

[IMS 異常終了 0311](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3099W LOW KEY/RBN IS GREATER THAN HIGH KEY/RBN

説明

入力された低位キー番号または低位ブロック番号が、FROMAREA、KEYRANGE、または TOAREA ステートメントで入力されたハイ・キー番号または高位ブロック番号より大です。

システムの処置

すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答

制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3100I UNABLE TO START SESSION, NODE *nodename* IN FP INPUT MODE

または

UNABLE TO START SESSION, USER OR NODE IN FP INPUT MODE

説明

セッション開始要求がリジェクトされました。最初の形式のメッセージは、参照されるユーザーまたはノードが高速機能入力モードになっている場合に、/OPNDST コマンド・プロセッサによって出されます。このユーザーまたはノードは、セッションを開始するには使用できません。

2 番目の形式のメッセージは、セッション開始要求で高速機能入力モードのノードを参照する場合に、LOGON または SCIP 出口によって出されます。参照されるユーザーまたはノードには、RCVYFP = NO が指定されており、高速機能入力がローカル・モードになっています。メッセージ・テキストの *nodename* は、高速機能入力モードになっているノードの名前を識別します。

システムの処置

コマンドが無視されるか、LOGON または SCIP 要求がリジェクトされます。

オペレーターの応答

/DISPLAY USER または /DISPLAY NODE コマンドを使用して、ユーザーまたはノードの状況を判別してください。

モジュール:

DFSICLQ0、DFSCNXA0

第 66 章 DFS メッセージ DFS3101I - DFS3150

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3101I **MAXIMUM SESSIONS REACHED -
NODE *nodename***

または

MAXIMUM SESSIONS REACHED

説明

最初の形式のメッセージは、**/OPNDST** コマンド・プロセッサによって出されます。2 番目の形式のメッセージは、LOGON または SCIP 出口によって出されます。使用可能な並列セッションすべてが使用中であるか、単一セッション装置がまだアクティブであるか、いずれかです。この条件が生じる可能性があるのは、ハーフセッションが割り振られるか、停止されるか、活動停止中ではない場合です。**/OPN** コマンドが入力された場合は、**OPTION=NOPNDST** が **TERMINAL** マクロで指定された場合も、この条件が生じる可能性があります。

システムの処置

コマンドが実行されないか、LOGON/REQSESS が否認されます。

オペレーターの応答

セッションが使用可能になるまで待つて、コマンドを再入力してください。

単一セッション装置での問題が解決しない場合には、端末が、内部セッション・クリーンアップの問題の結果として IMS 内でハングしている可能性があります。

VTAM VARY INACT および **/CLSDST NODE FORCE** の実行後も端末がハングしている場合は、コンソールのメモリー・ダンプを作成して IBM ソフトウェア・サポートに問題を報告してください。このメッセージの多くの端末について受信される場合、重大なシステムの待機、ハング、またはループ問題を示します。その場合、システムを停止する前に、コンソールのメモリー・ダンプを取ってください。

DFS3102I **UNABLE TO ASSIGN, MSGDEL
OPTIONS DO NOT MATCH**

説明

このメッセージは、**/ASSIGN** コマンド・プロセッサによって出されます。**/ASSIGN** コマンドで参照され

ているユーザー名に関する MSGDEL オプションが一致しません。

システムの処置

コマンドは実行されません。

オペレーターの応答

有効な値を使用して、コマンドを再入力してください。

DFS3103 **USER IS NOT ALLOCATED**

説明

指定されたユーザーが割り振られていないか、指定された動的端末にユーザーが割り振られていません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

ユーザーの処置

ユーザーのサインオン後に、コマンドを試みてください。

DFS3104 **USER ALLOCATED TO SESSION**

説明

指定されたユーザーは、現在「ノード・セッション」に割り振られているか、**/OPNDST** コマンドによる割り振りの処理中です。したがって、**/ASSIGN** または **/STOP** コマンドは、割り振られたユーザーについては無効です。**/DEQUEUE LTERM P1 PURGE** は、デキューが生じかねないので、この時点では使用を許されません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

/ASSIGN または **/STOP** の場合は、セッションが終了するのを待つてから、コマンドを再入力してください。**/DEQUEUE LTERM P1 PURGE** の場合は、ユーザーは割り振りプロセスにありました。ユーザーが割り振られると、ノード・ハーフセッションが停止されるか、活動停止中 (例えば、**/STOP NODE USER** の使用) であれば、**/DEQUEUE LTERM P1 PURGE** コマンドが受け入れられます。

DFS3105I USER HAS NO LTERMS

説明:

詳細情報および処置については、メッセージ DFS3105 を参照してください。

関連情報

DFS3105

SUBPOOL HAS NO LTERMS - NODE *nodename*
SUBPOOL *sbplname*

**DFS3105 SUBPOOL HAS NO LTERMS - NODE
 nodename SUBPOOL *sbplname***

説明

セッション開始要求がリジェクトされました。

最初の形式のメッセージは、**/OPNDST** コマンド・プロセッサによって出されます。コマンドで指定された最初のユーザーに現在割り当てられている論理端末がない場合に、これが発行されます。

2 番目の形式のメッセージが LOGON または SCIP 出口によって出されるのは、ISC セッション開始要求でノードおよびサブプールが参照され、参照されたサブプールに LTERM がまったく関連付けられていない場合です。

システムの処置

コマンドが無視されるか、LOGON/REQSESS 要求が否認されます。

DFS3106I USER KEYWORD IS INVALID

説明

USER キーワードが、入力されているコマンドに対して無効または不適切です。

この IMS システムが、IMS Resource Manager を使用するシプレックスの一部である場合は、ユーザーがオンになって (活動して) いるか、別の IMS システムに所有されている可能性があります。その場合は、たとえそのユーザーがこのシステムに静的に定義されていても、この IMS ではユーザーを見つけられなくなります。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

USER キーワードの使用制限に留意して、コマンドの有効な構文および制限を確認してください。

モジュール:
DFSICLN0

**DFS3107I USER NOT AVAILABLE, IN USE
 BY /ASSIGN OR /DEQUEUE**

説明

セッション開始要求がリジェクトされました。

詳しい説明および処置については、DFS3107 を参照してください。

関連情報

DFS3107

USER NOT AVAILABLE, IN USE BY /ASSIGN OR /
DEQUEUE

**DFS3107 USER NOT AVAILABLE, IN USE
 BY /ASSIGN OR /DEQUEUE**

または

**USER NOT AVAILABLE - NODE *nodename* USER
*username***

説明

セッション開始要求がリジェクトされました。

最初の形式のメッセージは、**/ASSIGN** コマンドによる割り当て、または **/DEQUEUE LTERM P1 PURGE** によるデキューにかかわったユーザー名を参照する、**/OPNDST** コマンド・プロセッサによって出されます。

2 番目の形式のメッセージが LOGON または SCIP 出口によって出されるのは、ISC セッション開始要求で使用不能ユーザーが参照されている場合です。

ユーザーが使用不能なのは、STOPPED になっていたり、**/ASSIGN**、**/DEQUEUE**、または **/SIGN** コマンドによって現在参照されていたり、現在使用中である場合です。

システムの処置

コマンドが無視されるか、LOGON/REQSESS 要求が否認されます。

オペレーターの応答

/DIS USER コマンドを入力して、ユーザーの状況を判別してください。ユーザーが is STOPPED になっている場合は、**/START USER** コマンドを発行してください (該当する場合)。ユーザーが **/ASSIGN**、**/DEQUEUE**、または **/SIGN** コマンドの対象になっている場合は、このコマンドが完了するのを待ってから、**/OPN** コマンドを再入力してください。

**DFS3108I USER KEYWORD PARAMETER IS
 INVALID OR MISSING**

説明

USER キーワード・パラメーターが、欠落していたか、有効な名前ではなかったか、無効のコンテキストで使用されていました。名前は有効な可能性があります、入力された別のユーザー名、またはユーザーが割り振られていないノード名と共に使用されている名前と重複している可能性があります。

この IMS システムが、IMS Resource Manager を使用するシスプレックスの一部である場合は、ユーザーがオンになって (活動して) いるか、別の IMS システムに所有されている可能性があります。その場合は、たとえその名前がこのシステムに静的に定義されていても、この IMS では名前を見つけれなくなりません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターへの応答

コマンドの構文および制限を確認してください。 / **DISPLAY ASMT** コマンドを使用して、ユーザーの現行割り当てを書き留めてください。

モジュール:
DFSICLN0

DFS3109 INVALID NODE TYPE

説明

入力されたコマンドの形式が、コマンドで指定されているノード・タイプの場合は適用できません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターへの応答

コマンドの許容フォーマットおよび制限を確認して、コマンドを再実行してください。

DFS3110I INVALID KEYWORD SEQUENCE

説明

コマンド・エディター (DFSICL30) が、NODE キーワードが USER キーワードおよびそのパラメーターの後に続いて入力されたコマンドを検出しました。これらのキーワードが両方とも使用される場合は、ユーザーがノードの後で指定される必要があります。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターへの応答

キーワードを正しい順序で使用して、コマンドを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSICLN2、DFSICLN3、DFSICLN4

**DFS3111I UNABLE TO START SESSION -
 NODE *nodename* STOPPED**

または

**UNABLE TO START SESSION -USER OR NODE
STOPPED**

説明

セッション開始要求がリジェクトされました。

最初の形式のメッセージを出すのは、参照されているユーザーまたはノードが STOPPED になっている場合は、 /**OPNDST** コマンド・プロセッサです。ユーザーまたはノードを参照して、セッションを開始することはできません。

2 番目の形式のメッセージが LOGON または SCIP 出口によって出されるのは、セッション開始要求で STOPPED ノードを参照する場合です。

システムの処置

コマンドが無視されるか、LOGON/REQSESS 要求が否認されます。

オペレーターへの応答

/**DISPLAY USER** および /**DISPLAY NODE** コマンドを使用して、ユーザーおよびノードの状況を判別してください。

**DFS3112I USER NOT AVAILABLE, CANNOT
 PROCESS COMMAND**

説明

指定されたユーザー名はすでに割り振られ、別のノードとのセッション中であるか、指定されたノードに割り振られています。ハーフセッション修飾子がこのコマンドの ID= キーワードで指定されているものとは異なっています。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

/DISPLAY ASMT USER コマンドを使用して、ユーザー名が割り振られているかどうかと、そのユーザー名が割り振られているノード名を判別してください。ユーザー名が **/OPNDST** コマンドで指定されているノード名と同じ名前に割り振られている場合は、正しいハーフセッション修飾子 (ID=) を使用して、コマンドを再入力してください。ユーザー名が、**/OPNDST** コマンドで指定されているノード名とは異なる名前に割り振られている場合は、ユーザー名が使用可能になるまで待つか、**/STOP USER** コマンドを入力して、現在の割り振り済みセッションの終了時に、割り振りがさらに行われないようにしてください。

DFS3113I SESSION ALREADY ACTIVE

説明

コマンドの NODE および USER パラメーターが、すでに確立されているか、または確立の過程にある LUTYPE6 セッションを指定します。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

/DISPLAY NODE USER コマンドを使用して、セッションの状態を判別してください。

**DFS3114I MULTIPLE NODE PARAMETERS
ARE INVALID**

説明

総称ノード名 ALL、またはノード名の範囲が、コマンドの NODE キーワードに指定された場合は、USER キーワードも FORCE キーワードも指定できません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

コマンドの構文を訂正し、再実行します。

**DFS3115I NODE IN USE, CANNOT PROCESS
COMMAND**

説明

/ASSIGN が、次の理由で失敗しました。

1. USER を逆に VTAMPOOL に **/ASSIGN** しようとしているとき、指定されたユーザー名が割り振られているハーフセッション・ノードが、会話型モード、

事前設定モード、または応答モードでセッション中であるか、あるいはハーフセッション・ノードが停止しておらず、活動停止中ではない。

2. LTERM またはユーザー名を別の (ターゲット) USER に **/ASSIGN** しようとしているとき、指定されたターゲット USER が割り振られているハーフセッション・ノードがセッション中であり、活動停止中ではない。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

障害に対して、次のように応答してください。

1. 上述した最初の障害の場合は、**/STOP NODE P1 USER P2** コマンドを発行して、ハーフセッションを停止してください。**/DISPLAY NODE USER** コマンドを使用して、ハーフセッション・ノードが停止され、使用されていない状態かを検証し、元の **/ASSIGN** コマンドを再入力してください。ハーフセッション・ノードが会話型モード、事前設定モード、または応答モードの場合は、**/START NODE P1 USER P2** コマンドを (**/STOP** の後で) 発行して、こうした特殊モードをクリアした上で、別の **/STOP** を発行してください。
2. 上記の 2 番目の障害の場合は、ターゲット USER が割り振られているハーフセッションに関して、**/STOP NODE P1 USER P2** コマンドを発行してください。**/DISPLAY NODE USER** コマンドを使用して、ハーフセッション・ノードが活動停止中であり、セッション中ではないか検証し、元の **/ASSIGN** コマンドを再入力してください。

**DFS3116I USER AND TERMINAL MSGDEL
OPTIONS DO NOT MATCH**

説明

/OPNDST NODE USER を試みているとき、ユーザー名および端末メッセージ削除オプションが一致しません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

適切なメッセージ削除オプションを使用してユーザー名を選択し、**/OPNDST** コマンドを再入力してください。

**DFS3117 SESSION NOT ACTIVE, CANNOT
DEQUEUE**

説明

/DEQUEUE コマンドが、PURGE キーワードを指定しないで入力されましたが、指定されたノード名およびユーザー名(さらに、使用されている場合は、LTERM)、または指定された LTERM にかかわりのあったセッションは、アクティブではありませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

PURGE キーワードを使用する必要があるかどうか判別してください。/DISPLAY NODE P1 または /DISPLAY ASSIGNMENT LTERM P1 コマンドを使用して、アクティブであるセッションを判別できます。

DFS3118 **MESSAGE CANNOT BE PROCESSED SYNCHRONOUSLY**

説明

メッセージは同期処理できません。次のいずれかのモードに従う必要があります。

- テスト・モード
- コマンド
- 会話型トランザクション
- 応答モード

システムの処置

セッションは終了します。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS ログ・レコードが生成されました。

システム・プログラマーの応答

宛先タイプを上記のいずれかに変更するか、ATTACH を非同期形式に変更するか、いずれかを行ってください。

問題判別

1、5、6、14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3119I **NO USERS ARE ALLOCATED TO NODE**

説明

コマンドで NODE キーワード、および ALL パラメーターを指定した USER キーワードを指定しましたが、指定されたノードに現在割り振られているユーザー名がないか、または指定されたノードがシステム内にありません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

DFS3120I **MSC IN SYSTEM BUT DFSCMR00 NOT AVAILABLE**

説明

IMS 再始動中は、MSC 制御ブロックを復元するために、モジュール DFSCRM00 が必要ですが、それが利用不能です。

システムの処置

このメッセージの後に IMS 3120 異常終了が続きます。

プログラマーの応答

DFSCMR00 が DFSRST00 ロード・モジュールにリンクされているかどうかを確認します。

関連情報

[IMS 異常終了 3120](#)

DFS3121A **LOGICAL COPY COMPLETE FOR GROUP|DB/AREA *groupname* | *dbname* - n OF m DATA SETS FAILED**

説明

DFS3121I の説明を参照してください。

関連情報

[DFS3121I](#)

COPIED DB/AREA *dbname* DDN *ddname* DSN *dsname*

DFS3121I **COPIED DB/AREA *dbname* DDN *ddname* DSN *dsname***

説明

このメッセージは、識別されているグループ、データベース、またはエリアに含まれるデータベース・データ・セットに対するイメージ・コピー処理が論理的に完了したときに、データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティー (DFSUDMT0) によって出されます。ユーティリティーへの入力としてグループ名が指定されていた場合は、メッセージでそのグループが識別されます。

それ以外の場合は、データ・セットがコピーされている各データベースまたはエリアごとに、DFS3121A メッセージが 1 つずつ出されます。

n イメージ・コピー処理が失敗したデータ・セットの数

m ユーティリティーの今回の実行でコピーされるデータ・セットの総数

DFS3121I メッセージは、イメージ・コピーが現在論理的に完了している個々のデータベース・データ・セットを識別します。

システムの処置

ユーティリティーは処理を続行します。イメージ・コピーが物理的に完了したときに、それらのイメージ・コピーが RECON データ・セットに記録されます。

プログラマーの応答

排他的 (X) オプションを指定してユーティリティーを実行するために、/DBD または /DBR コマンドで、データ・グループ、データベース、またはエリアについて更新処理を停止した場合は、この時点で /START DATAGROUP、UPDATE DATAGRP START(Access)、/START DB、UPDATE DB START(Access)、/START AREA、UPDATE AREA START(Access) のいずれかのコマンドを発行することにより、更新処理を再開できます。

モジュール

DFSUDUI1

関連情報

867 ページの『DFS3121A』

LOGICAL COPY COMPLETE FOR GROUP|DB/
AREA *groupname* | *dbname* - *n* OF *m* DATA SETS
FAILED

DFS3122A	LOGICAL COPY FAILED FOR DB/ AREA <i>dbname</i> DDN <i>ddname</i> DSN <i>dsname</i>
-----------------	---

説明

指定されたデータ・セットの並行コピー・セッションを初期設定する試みが正常に行われなかったことを、DFSMSdss がデータベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティー (DFSUDMT0) に通知しました。この障害の詳細については、DFSMSdss によって発行された ADR734I メッセージおよびその他の ADRnnn メッセージを参照してください。

システムの処置

メッセージに指定されたデータベース・データ・セットに対するイメージ・コピー処理は、失敗します。イメージ・コピー処理が完了していないデータベース・データ・セットが他にない場合は、ユーティリティーが終了します。

オペレーターの応答

DFSMSdss によって発行された ADRnnn メッセージを参照して、問題の訂正方法を判別してください。ADR メッセージの説明については、「z/OS MVS システム・メッセージ 第 1 巻」(SA88-8597) を参照してください。

データ・セットが並行コピー機能をサポートするハードウェア上にない場合、または並行コピーを使用するつもりがない場合は、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティー (DFSUDMP0) を使用して、イメージ・コピーを作成してください。

モジュール:

DFSUDUI1

関連資料

z/OS: ADR734I

DFS3124A	DBRC IS REQUIRED TO EXECUTE THIS UTILITY
-----------------	---

説明

データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティー (DFSUDMT0) を実行するには、DBRC が存在している必要がありますが、この実行では、DBRC=Y が指定されていませんでした。

システムの処置

ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答

実行パラメーターで DBRC=Y を指定し、ジョブを再実行してください。

モジュール

DFSUDMT0

DFS3125A	PRIMER SAMPLE TEST, REPLY CONT, LOOP, ABEND OR CANCEL JOB
-----------------	--

説明

このメッセージは、サンプル・プログラム DFS0AER によって出されます。バッチまたはオンライン・トランザクションを使用して、ユーザーがリカバリー・テストの同期に関して、オペレーターの介入を要求しました。

要応答 z/OS オペレーター宛メッセージ (WTOR) が使用されます。このアクションにより、リカバリー手順をテストするために、アプリケーション・プログラムまたはシステム、あるいはその両方を強制的に終了するための環境が得られます。

システムの処置

ありません。

オペレーターの応答

ユーザーによる要求に従ってください。続ける場合は CONT、異常終了させる場合は ABEND、プログラム・ループを生じさせる場合は LOOP でそれぞれ応答するか、または z/OS CANCEL コマンドを使用してジョブを取り消してください。

**DFS3126W RDS DATA SET REFORMAT
REQUIRED DURING NEXT
RESTART**

説明

書き込みエラーが、チェックポイント中に再始動データ・セット (RDS) で発生しました。RDS データ・セットは、次の再始動で必要な情報を保管する場合を除けば、オンライン実行時には必要ないため、操作は続行されます。ただし、次の再始動では、ディスク・ログにアクセスして、システムを再始動するための情報を取得します。この時点で、RDS データ・セットの再フォーマットを行う必要があります。

システムの処置

操作は続行されますが、システムは RDS データ・セットへのデータのロギングを停止します。システムは、命令が出されれば、シャットダウン正常にします。

プログラマーの応答

再始動データ・セットの割り振りを確認してください。RDS の割り振り量は、RDS1 コンポーネント BCPT、RRE、SIDX、および LCRE 用に予約された少なくとも 90 のブロックを入れるのに十分な大きさでなければなりません。

システムの次回の再始動時に、再始動コマンドで FORMAT RS を指定して、RDS データ・セットを再フォーマットしてください。この問題が引き続き生じる場合は、RDS のスクラッチ、再割り振り、および再フォーマットをご検討ください。

**DFS3127I READ|WRITE ERROR OCCURRED
ON THE RESTART DATA SET xxxxxx**

説明

再始動データ・セット (RDS) の読み取りまたは書き込みを試みているとき、または IMS チェックポイント中またはチェックポイント後にエラーが発生しました。

変数 xxxxxx の値は、次のいずれかです。

IMSRDS

エラーは、IMSRDS DD ステートメントで定義されているデータ・セットで発生しました。

IMSRDS2

エラーは、IMSRDS2 DD ステートメントで定義されているデータ・セットで発生しました。

システムの処置

読み取りエラーが発生した場合は、IMS は再始動を終了します。書き込みエラーが発生した場合は、IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

再始動データ・セットの割り振りを確認してください。RDS の割り振り量は、RDS1 コンポーネント BCPT、RRE、SIDX、および LCRE 用に予約された少なくとも 90 のブロックを入れるのに十分な大きさでなければなりません。

読み取りエラーの場合は RDS を削除および再割り振りしてから、FORMAT RS を指定して、再始動を再試行してください。

高速データベース・リカバリー領域での読み取りエラーの場合は、アクティブ IMS を終了し、RDS をスクラッチおよび再割り振りし、FORMAT RS を指定して、IMS を再始動してください。その上で、高速データベース・リカバリー領域を開始してください。

書き込みエラーが引き続き発生する場合は、IMS を終了し、RDS をスクラッチおよび再割り振りし、FORMAT RS を指定して、IMS を再始動してください。XRF 環境での該当するリカバリー・アクションについては、「IMS V15 システム管理」を参照してください。

**DFS3128A OPEN FAILED ON RESTART DATA
SET, xxxxxxxx.**

説明

OSAM は、再始動データ・セットを開けませんでした。変数 xxxxxxxx の値は、次のいずれかです。

IMSRDS

エラーは、IMSRDS DD ステートメントで定義されているデータ・セットで発生しました。

IMSRDS2

エラーは、IMSRDS2 DD ステートメントで定義されているデータ・セットで発生しました。

IMSRDS2 NOT DEFINED

IMSRDS2 DD ステートメントが無効であるか、欠落しています。

システムの処置

XRF 代替システムが開始されている場合は、RC=1 を伴う異常終了 U0970 が生じます。このメッセージが高速データベース・リカバリー領域によって出される場合は、異常終了 0574 が生じます。それ以外の IMS 開始はいずれも終了し、IMS は別の /START コマンドを待ちます。

オペレーターの応答

(マスター端末) 該当する処置については、プログラマー応答を参照してください。

プログラマーの応答

問題がシステム・ハードウェアまたはソフトウェアにはない (例えば、JCL がエラー、またはデータ・セットがフォーマットされていない) 場合は、再始動データ・セットを再割り振りする必要があります。後続の IMS で再始動データ・セットをフォーマット設定する必要があります。XRF および高速データベース・リカバリー環境では、アクティブ・システムでしか再始動データ・セットはフォーマットできません。

問題判別

1、2、3、4、35

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3129I RUNNING IN SHARED QUEUES
ENVIRONMENT - BUILDQ
PARAMETER IGNORED**

説明

オンライン・システムが、BUILDQ パラメーターを組み込んだコマンドを使用して開始されようとしています。システムは共用キュー環境で稼働中です。BUILDQ パラメーターは、共用キュー環境では意味がありません。

システムの処置

BUILDQ パラメーターは無視され、再始動処理が続行されます。

モジュール

DFSRBCP0

**DFS3130I ABEND 970 SCHEDULED RC=01
YYY**

または

ABEND 970 SCHEDULED RC=xx

説明

最初の形式のメッセージが出されるのは、IMS 異常終了 0970 がスケジュールされたときです。レジスター 10 の内容がフィールド xx に表示されます。2 番目の形式が出されるのは、異常終了 0970 がスケジュールされたときで、レジスター 10 に 01 が入ります。フィールド yyy には、AWE 戻りコードが入りますが、これについては、0970 に関する項に記載されています。

システムの処置

システムは異常終了し、異常終了コード 0970 が示されます。

関連情報

[IMS 異常終了 0970](#)

**DFS3131A A COLD START OR EMERGENCY
RESTART REQUIRED**

説明

正常再始動コマンドが実行依頼されましたが、シャットダウン・チェックポイント・コマンド後に、システムが終了しなかったか、またはシステムがコールド・スタートしたことはありませんでした。発信モジュールは DFSRBCP0 です。

システムの処置

IMS は別の再始動コマンドを待ちます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 適切なパラメーターを指定して、コールド・スタート・コマンドと緊急時再始動コマンドのいずれかを入力してください。

モジュール:

DFSRBCP0

**DFS3132A CANNOT BUILDQ. SHUTDOWN
WAS FREEZE.**

説明

BUILDQ に関する正常再始動コマンド・パラメーターが指定されましたが、システムは、メッセージ・キューのメモリー・ダンプによって終了しませんでした。発信モジュールは DFSRBCP0 です。

システムの処置

IMS は別の再始動コマンドを待ちます。

マスター端末オペレーターの応答: 適切なパラメーターを指定して、再始動コマンドを入力してください。

DFS3133 FATAL DFSMS ERROR DURING RESTORE PROCESSING

説明

データ・セットの DFSMS 復元が失敗しました。

システムの処置

システムは異常終了し、異常終了コード 0225 が示されます。

プログラマーの応答

障害の原因を判別するには、DFSMS ADRnnnn メッセージの項を参照してください。

モジュール:
DFSURDB0

関連資料

[z/OS: ADR メッセージ](#)

関連情報

IMS 異常終了 0225

DFS3134W GSAM PCB (NUM=nnn) IS NOT DECODED IN PSB psb_name

説明

Library ユーティリティ (DFS3LU00) または Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が GSAM PCB を ACB 形式からデコードできませんでした。

psb_name

PSB タイプの ACB メンバー名。

nnn

GSAM PCB 番号。

システムの処置

ユーティリティは処理を続行します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3135A KSDS DEFINITION DOES NOT ALLOW IMAGE COPY

CONCURRENT WITH UPDATE ACCESS

または

KSDS DEFINITION DOES NOT ALLOW IMAGE COPY ONLINE FAST REPLICATION WITH UPDATE ACCESS

説明

データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) に提供された制御ステートメントが、並行コピーまたは高速複製を使用して KSDS データ・セットのイメージ・コピーを取ろうとしました。データ・セットへの更新アクセスは許可されています (58 桁目に S が指定されたか、デフォルトになっていました)。ただし、DEFINE CLUSTER 属性 BWO(TYPEIMS) が KSDS に関して指定されませんでした。

システムの処置

イメージ・コピー処理が失敗したデータベース・データ・セットを識別するために、理由コードが 0C のメッセージ DFS3144A も出されます。イメージ・コピー処理が完了していないデータベース・データ・セットが他にない場合は、ユーティリティが終了します。

システム・プログラマーの応答

KSDS に関する制御ステートメントで指定されたオプションを検討してください。更新または高速複製との並行イメージ・コピー処理ができるようにする必要がある場合は、アクセス方式サービス・プログラム (IDCAMS) の ALTER コマンドを使用して、データ・セットに対して BWO(TYPEIMS) を指定する必要があることを、データベース管理者に通知してください。「DFSMS/MVS Access Method Services for ICF」(SC26-4906) を参照してください。

モジュール

DFSUDUI1

関連情報

874 ページの『DFS3144A』

IMAGE COPY PROCESSING FAILED FOR DB/
AREA dbname DDN ddname, REASON = nn

DFS3136I NORMAL RESTART IN PROCESS

説明

IMS では、正常再始動が自動再始動オプションの下で必要であると判別しています。

説明

DFS3141I の説明を参照してください。

関連情報

873 ページの『DFS3141I』

COPIED DB/AREA *dbname* DDN *ddname* DSN
dsname

DFS3141I **COPIED DB/AREA *dbname* DDN
ddname DSN *dsname***

説明

DFS3141A メッセージは、識別されているグループ、データベース、またはエリアに入っているデータベース・データ・セットに対するイメージ・コピー処理が物理的に完了したときに、データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) によって出されます。ユーティリティへの入力としてグループ名が指定されていた場合は、*groupname* がそのグループを識別します。それ以外の場合は、データ・セットがコピーされた各データベースまたはエリアごとに、DFS3141A メッセージが 1 つずつ出されます。

DFS3141I メッセージは、正常にコピーされた個々のデータベース・データ・セットを識別します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

groupname

グループ名制御ステートメントに指定された名前。コピーされるすべてのデータベース・データ・セットのイメージ・コピーは、物理的に完了しています。

dbname

イメージ・コピーが物理的に完了しているデータベースまたはエリアの名前

n

イメージ・コピー処理が失敗したデータ・セットの数

m

ユーティリティの今回の実行でコピーされるデータ・セットの総数

ddname

コピーされたデータ・セットの DD 名またはエリア名

dsname

コピーされたデータ・セット

システムの処置

グループ、データベース、またはエリアのイメージ・コピーがすべて RECON に記録されました。他に処理中のデータ・セットがある場合は、ユーティリティは処理を続行します。

プログラマーの応答

排他的 (X) オプションを指定してユーティリティを実行するために、/DBD または /DBR コマンドで、データ・グループ、データベース、またはエリアについて更新処理を停止した場合は、/START DATAGROUP、UPDATE DATAGRP START (ACCESS)、/START DATABASE、UPDATE DB START (ACCESS)、/START AREA、または UPDATE AREA START (ACCESS) のいずれかのコマンドを発行することにより、更新処理を再開できます。

モジュール

DFSUDUI1

関連情報

872 ページの『DFS3141A』

PHYSICAL COPY COMPLETE FOR GROUP|DB/
AREA *groupname*|*dbname* - *n* OF *m* DATA SETS
FAILED

DFS3142I **DFSMSDSS MESSAGE ADR974I
WAS ISSUED FOR DB *dbname* DDN
ddname DSN *dsname***

説明

データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) は、DFSMSDSS が ADR974I メッセージを作成していることを通知されると、システム・コンソールに対してこのメッセージを発行します。

システムの処置

ユーティリティは処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

ADR974I メッセージの説明については、「z/OS MVS システム・メッセージ 第 1 巻」(SA88-8597) を参照してください。識別されたデータ・セットが問題ないことを検証する必要があります。

モジュール:

DFSUDUI1

関連資料

[z/OS: ADR974I](#)

DFS3143A **SAME DATASET ("S")
SPECIFICATION ERROR.**

説明

データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティに対して提供されたユーティリティ制御ステートメントに、次のどちらかの構文エラーがあります。

- 255 を超えるデータベース・データ・セットを、同じ出力データ・セットにコピーするように指定しています。最大は 255 です。
- **Same Data Set (S)** オプションが指定されていますが、出力データ・セットを指定する制御ステートメントが前にありません。

システムの処置

ユーティリティは終了し、戻りコード 16 が示されます。

システム・プログラマーの応答

ユーティリティを再実行する前に、ユーティリティ制御ステートメントを訂正してください。Same Data Set オプションを指定する最初の制御ステートメントの前には、出力 DD 名を指定する制御ステートメントがなければなりません。同じ出力データ・セットにコピーするデータベース・データ・セットの数が 255 を超えないように指定してください。

問題判別

2、3

モジュール:
DFSUDMT0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3144A IMAGE COPY PROCESSING
FAILED FOR DB/AREA *dbname*
DDN *ddname*, REASON = *nn***

説明

データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティが、指定されたデータベース・データ・セットまたはエリアのイメージ・コピーを作成できませんでした。

(*nn*) は、以下の理由コードのいずれかです。

理由コード

意味

01

DBRC AUTH 要求が失敗しました。

データベース許可を求める DBRC への要求が失敗しました。

02

DBRC INIT 要求が失敗しました。

イメージ・コピー処理を求める DBRC への INIT 要求が失敗しました。同時に出されていた DSP メッセージを参照してください。

03

入力 DD ステートメントが欠落しています。

データベース・データ・セットに対する DD ステートメントが提供されませんでした。

04

出力 DD ステートメントが欠落しています。

イメージ・コピー出力データ・セットに対する DD ステートメントが提供されませんでした。

05

エリア・データ・セットがエラー・キュー・エレメント (EQE) を持っています。

EQE は、識別されたエリアのすべてのエリア・データ・セットに関してあります。同時に出されていた DFS3726A メッセージを参照してください。

06

DFSMSdss DUMP 初期設定が失敗しました。

DFSMSdss は、このデータベース・データ・セットに対するダンプ・コマンドのメモリー・ダンプ・タスクをスケジュールしませんでした。ダンプ・コマンドに関して出された DFSMSdss ADR メッセージを参照してください。

07

イメージ・コピー・データ・セットに対する VOLSER がありません。

DFSMSdss は、ユーティリティに対して、データベース・データ・セットが正常に完了したことを通知しましたが、その出力データ・セットのボリューム通し番号を、ダンプ処理のときに DFSMSdss から受け取りませんでした。

08

イメージ・コピー・データ・セットに対する VOLSER が無効です。

DFSMSdss から受け取った出力ボリューム通し番号が無効です。サブコード 4 が付いた異常終了 U0225 が出されました。異常終了の説明を参照してください。

09

高速機能エラーが検出されました。

高速機能イメージ・コピー・モジュールが、イメージ・コピー処理で予期しない戻りコードを設定しました。高速機能エリアに関して出されたエラー・メッセージを参照してください。

0A

更新アクセスと並行して KSDS をコピーする試みが失敗しました。

ファジー KSDS イメージ・コピーのための並行コピー・セッションが、正常に初期設定されませんでした。同時に出されていた DFS3145A メッセージを参照してください。

0B データベース/エリアが DBRC に登録されていません。

識別されたデータベースまたはエリアが DBRC に登録されていません。

0C BWO(TYPEIMS) が KSDS に対して指定されていませんでした。

KSDS データ・セットのファジー・イメージ・コピーが要求されましたが、KSDS に対して BWO(TYPEIMS) が定義されていません。同時に出されていた DFS3135A メッセージを参照してください。

0D DBRC EOD 要求が失敗しました。

イメージ・コピー処理を求める DBRC への EOD 要求が失敗しました。同時に出されていた DSP メッセージを参照してください。

0E イメージ・コピー・データ・セットに入出力エラーがありました。

最後の、または唯一のイメージ・コピー出力データ・セットに入出力エラーが起きました。

0F DFSMSdss DUMP 処理が失敗しました。

DFSMSdss からのデータ・セット完了通知は、データ・セットが正常にダンプされなかったことを示しています。DFSMSdss ADR メッセージを参照して、失敗の原因を判別してください。

10 動的割り振りエラー。

データベース・データ・セットの動的割り振りが失敗しました。

11 許可取り消しが失敗しました。

データベースまたはエリアの許可を取り消す DBRC への要求が、失敗しました。

12 UIM 異常終了か、または予期しない DFSMSdss 処理

DFSMSdss ダンプ・コマンド処理のときのユーザー対話モジュール (UIM)(DFSUDUI1) で異常終了が起ったか、データ・セット完了通知に UIM を作動させずにダンプ・コマンド処理が終了しました。異常終了がなかった場合は、このダンプ・コマンドに関する DFSMSdss ADR メッセージをチェックしてください。

このコードは、DFSMS サーバーが QUIESCE モードになるときに出される可能性があります。シャットダウンしない DFSMS サーバーを構成することに

よって、このような状況でこのコードを抑止することができます。

13 出力データ・セットが正常にクローズされませんでした。

クローズが正常に行われなかったか、または 1 次または 2 次イメージ・コピー・データ・セットに対して試行されませんでした。データ・セットについて、DFS0300I メッセージが発行されました。データ・セットが正常にクローズされなかったため、このデータ・セットを使用できない可能性があります。RECON に記録する有効なイメージ・コピーがないため DBDS についてのイメージ・コピー処理は失敗します。

14 システムは、コピーの候補であるボリュームのリストを作成しました。ただし、DFSMSdss 高速複製の要件を満たすボリュームはリストで見つかりませんでした。

システムの処置

コピーされるデータベース・データ・セットで完了していないものが他にある場合は、ユーティリティは処理を続行します。ユーティリティの今回の実行の戻りコードは、8 以上です。

理由コード 14 の場合、ユーティリティ処理は戻りコード 16 で終了します。

システム・プログラマーの応答

指摘された問題を訂正して、データベース・データ・セットをコピーするために別のデータベース・イメージ・コピー 2 ジョブを実行依頼してください。理由コードが 07、08、および 12 (異常終了を伴う) の場合、問題を解決できなければ、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール:

DFSUDMT0、DFSUDUI1、DFSUDMT1

関連情報

[107 ページの『DFS0300I』](#)

OUTPUT DATA SET SPECIFIED BY DDNAME
ddname WAS NOT SUCCESSFULLY CLOSED

[876 ページの『DFS3145A』](#)

ATTEMPT TO COPY KSDS CONCURRENT WITH
UPDATE ACCESS FAILED

[1097 ページの『DFS3726A』](#)

FPE AREA IMAGE COPY TERMINATED
ABNORMALLY FOR AREA=areaname REASON
CODE=nn

[IMS 異常終了 0225](#)

**DFS3145A ATTEMPT TO COPY KSDS
CONCURRENT WITH UPDATE
ACCESS FAILED**

説明

データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) に提供された制御ステートメントは、KSDS データ・セットを更新アクセスと並行してコピーすることを指定していました (58 桁目に S が指定されたか、デフォルトになっていました)。しかし、データ・セットに対する現行更新アクティビティーのため、データ・セットのコピーに必要な並行コピー・セッションは、正常に初期設定されませんでした。KSDS が、コピーされる唯一のデータ・セットであった場合は、このユーティリティは、DFSMSdss ダンプ操作を数回試みてからこのメッセージを出します。

システムの処置

イメージ・コピー処理が失敗したデータベース・データ・セットを識別するために、理由コードが 0A のメッセージ DFS3144A も出されます。イメージ・コピー処理が完了していないデータベース・データ・セットがない場合は、ユーティリティが終了します。

オペレーターの応答

検出された条件は一時的である可能性があります。適当な時間が経過してから、KSDS のイメージ・コピー処理を再試行してください。

モジュール

DFSUDUI1

関連情報

874 ページの『DFS3144A』
IMAGE COPY PROCESSING FAILED FOR DB/
AREA *dbname* DDN *ddname*, REASON = *nn*

**DFS3146A READJFCB FAILED FOR DD
*ddname***

説明

識別されている DD 名に関して、一致する DD ステートメントが JCL にないため、データベース・リカバリー・ユーティリティ (DFSURDB0) は、高速機能エリア・データ・セットのリカバリー処理を続けられません。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

オペレーターの応答

LIST.ADS コマンドを使用して、ADDN/ADSN ペアの現行リストを取得し、それに応じて JCL を変更してください。

モジュール

DFSURT00

**DFS3147A ATTEMPT TO READ THE CATALOG
FAILED FOR DBDS *dbdsname***

説明

このデータ・セットに関連付けられているボリューム通し番号を判別するために、示されている *dbdsname* のカタログ項目を読み取るうとしましたが、カタログを読み取る試行は失敗しました。

システムの処置

処理は終了します。ユーティリティの戻りコードは 16 です。

システム・プログラマーの応答

データ・セットがカタログされていることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール

DFSURFR0

**DFS3148A DATABASE *dbname* IS NOT
REGISTERED WITH DBRC**

説明

データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) は、DBRC に登録されていないため、指定されたデータベースまたはエリアを処理できません。JCL で指定された *dbname* が無効である場合にも、DBRC は「未登録」標識を戻します。それが RECON と一致しないためです。

システムの処置

イメージ・コピー処理が失敗したデータベース・データ・セットを識別するために、理由コードが 0B の DFS3144A メッセージも出されます。イメージ・コピー処理が完了していないデータベース・データ・セットがない場合は、ユーティリティが終了します。

オペレーターの応答

適切なコマンド (例えば、**INIT.DB**) を使用して、イメージ・コピー処理を再試行する前にデータベースまたはエリアを登録するか、あるいはデータベース・イメー

ジ・コピー・ユーティリティ (DFSUDMP0) を使用して、イメージ・コピーを作成してください。

モジュール

DFSUDMT0

関連情報

874 ページの『DFS3144A』
IMAGE COPY PROCESSING FAILED FOR DB/
AREA *dbname* DDN *ddname*, REASON = *nn*

DFS3149A	DFSUDMT0 CANNOT BE RUN IN STAND-ALONE MODE
-----------------	---

説明

領域コントローラー (DFSRR00) を使用して、データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) を実行する必要があります。

システムの処置

データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) は、異常終了します。

オペレーターの応答

ユーティリティ・ジョブに関して適切なパラメーターを使用して、PGM=DFSRR00 を実行するように、EXEC ステートメントを変更し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール

DFSUDMT0

DFS3150	UNABLE TO LOCATE/FREE RESTART COMMAND BUFFER
----------------	---

説明

IMS 再始動が、コマンドを再処理する前に、タイプ X'02' ログ・レコード・セグメントを再始動コマンド・バッファ内に累積して、圧縮コマンドを再作成します。IMS がタイプ X'02' ログ・レコードの累積中に、必要な再始動コマンド・バッファを見つけられなかったか、または再始動処理の完了時に、バッファを解放できませんでした。

システムの処置

再始動によって、ログに記録されたコマンドが再処理されないか、再始動コマンド・バッファが解放されないか、いずれかです。

オペレーターの応答

このエラーが発生したことを、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

取るべき処置を判断するには、次にリストした番号について、『IMS 問題判別』のトピックを参照してください。

問題判別

6、36、37

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 67 章 DFS メッセージ DFS3151 - DFS3200

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS3151 UNABLE TO OBTAIN STORAGE FOR
RESTART COMMAND BUFFER**

説明

IMS 再始動が、タイプ X'02' ログ・レコード・セグメントを再始動コマンド・バッファ内に累積して、圧縮コマンドを再作成します。再始動では、このバッファ用として WKAP (MAIN) プールからストレージを取得できませんでした。

システムの処置

再始動時に再処理されるはずのコマンドは無視されません。

オペレーターの応答

コマンド **/DIS POOL MAIN** を入力し、コンソール・リストを応答と共に保管し、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

取るべき処置を判断するには、次にリストした番号について、『IMS 問題判別』のトピックを参照してください。

問題判別

6、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3152 CONDENSED COMMAND BUFFER
TOO SMALL FOR COMMAND**

説明

圧縮コマンドを作成している最中に、IMS は、バッファが小さすぎて、コマンド入力が取まらないことを発見しました。これは、圧縮コマンド・バッファ用として必要なストレージの量の計算を IMS が間違えたことによって生じた、内部 IMS エラーです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

このエラー・メッセージが出る原因となったコマンドを書き留めて、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

取るべき処置を判断するには、次にリストした番号について、『IMS 問題判別』を参照してください。

問題判別

6、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3153 CONDENSED COMMAND BUFFER
EXCEEDS LIMIT**

説明

ALL パラメーターまたは包括的パラメーターの拡張が、圧縮コマンド・バッファが許容最大値を超える原因となりました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

コマンドを複数のコマンドとして再入力してください。例えば、**/DISPLAY LINE ALL** を 2 つのコマンド **/DISPLAY LINE 1-1000** および **/DISPLAY LINE 1001-2000** として再入力してください。

**DFS3154E CONDENSED BUFFER FOR
COMMAND xxx REMAINS AT THE
END OF RESTART**

説明

IMS 再始動が、タイプ X'02' ログ・レコードを再始動コマンド・バッファ内に累積して、圧縮コマンドを再作成します。コマンドが再処理された後で、再始動バッファは解放されます。再始動が終了すると、コマンド xxx 用の再始動コマンド・バッファが残って、ログに

コマンドで必要なタイプ X'02' ログ・レコード・セグメントがすべては入らなかったことを示しました。

システムの処置

コマンド xxx は再始動中には再処理されません。

オペレーターの応答

このエラーが発生したことを、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

取るべき処置を判断するには、次にリストした番号について、『IMS 問題判別』を参照してください。

問題判別

6、35、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3155A	AREA DATA SET NOT FOUND ADSN= dsname AREA NAME= areaname DDNAME= ddname REASON= rc
-----------------	---

説明

データベース・リカバリー・ユーティリティー (DFSURDB0) では、メッセージで識別されているエリア・データ・セット (ADS) をリカバリーできませんでした。16 進数の理由コードは次のとおりです。

8

入力データ・セットからのデータ・セット名は、RECON の ADS リストに見つかりましたが、エリア・データ・セットが事前割り振りされていませんでした。

システムの処置

実行は終了し、エラー・コードが示されます。

オペレーターの応答

理由コード 4 の場合は、DBRC コマンド **INIT.ADS** を使用して、データ・セット名を ADS リストに追加してください。その上で、あらためて **GENJCL.RECOV** コマンドを実行してください。

理由コード 8 の場合は、IDCAMS を使用してデータ・セットを割り振り、あらためて **GENJCL.RECOV** コマンドを実行してください。

モジュール

DFSURUI0

DFS3156I	RESTORING ADDN= ddname ADSN= dsname FROM INPUT COPY DATA SET
-----------------	---

説明

データベース・リカバリー・ユーティリティーは、メッセージに示されている ADDN および ADSN をターゲット・データ・セットとして使用しました。入力コピー・データ・セットからのこの ADDN および ADSN は、リカバリー対象の DEDB ADS に関して、RECON データ・セットの ADS リストと一致します。これらは JCL の ADDN および ADSN とは異なっている可能性があります。その理由は、メッセージに指定されたデータ・セットは、ADSN が事前割り振りされていたかどうか判別するために、ICF カタログを検索することによって、検出されたからです。指定された ADDN および ADSN は、データ・セット・リカバリー・ユーティリティーが正常に完了すると、使用可能として RECON データ・セットに記録されます。

システムの処置

データベース・リカバリー・ユーティリティーが続行されます。

モジュール

DFSURUI0

DFS3157A	IMAGE COPY FOR AREA areaname NOT FOUND ON INPUT DATA SET
-----------------	---

説明

データベース・リカバリー・ユーティリティー (DFSURDB0) では、示されているエリアをリカバリーできませんでした。そのエリアのイメージ・コピーが入力データ・セットで検出されなかったからです。

システムの処置

ユーティリティーは終了します。

オペレーターの応答

エリアで多重エリア・データ・セット (MADS) が使用されていて、しかもイメージ・コピー・データ・セットにコピーされたエリア・データ・セット (ADS) がもう RECON では定義されなくなっている場合は、ユーティリティーを再実行する前に、その ADS を再定義し、それを RECON の ADS リストに追加してください。それ以外の場合は、正しいイメージ・コピー・データ・セットを指定して、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール

DFSURUIO

DFS3158A **INVALID IMAGE COPY CONTROL STATEMENT SYNTAX, REASON=nn**

説明

データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) の制御ステートメントが無効です。このメッセージは、メッセージ DFS310A および DFS391E の後に続きます。制御ステートメントは、次のいずれかの理由で無効です。

コード 説明

01

全機能の非 HALDB データベースに対する無効な組み合わせの複製オプションが検出されたか、HALDB 区画は同じイメージ・コピー・オプション (DFSMS 高速複製または DFSMS 並行コピー) を使用する必要があります。

02

DFSMS 高速複製は同じデータ・セット・オプションをサポートしません。

03

SET PATCH 制御ステートメントに構文エラーが含まれていました。

04

無効な数のコピーが指定されました。

05

HLQ 仕様ステートメントで位置 3 (低位修飾子のタイム・スタンプ指定) に対して無効な値が指定されました。

07

HLQ 仕様ステートメントの高位修飾子も DBDS SELECT ステートメントの OUTPUT ddname も指定されませんでした。

08

GROUP ステートメントを最初のステートメントとして指定する必要がありますが、2 番目以降のステートメントとして指定されました。

09

生成された出力データ・セット名が 44 文字を超えたか、無効な修飾子を含んでいました。

10

HLQ 仕様ステートメントの 4 から 29 桁目で指定された出力データ・セット名の高位修飾子 (HLQ) にエラーがあります。このエラーは次のいずれかの原因の結果である可能性があります。

- 出力データ・セット名の高位修飾子が、データ・セットの高位修飾子として構文的に正しくありませんでした。

- HLQ 仕様ステートメントの 3 桁目で Y を指定して出力データ・セット名にタイム・スタンプを付加することを指示しました。ただし、出力データ・セット名の全長が 44 文字を超えています。

11

DBDS select ステートメントの 63 桁目で H を指定して、イメージ・コピー・データ・セットの高位修飾子が後続の HLQ 仕様ステートメントで指定されることを示しました。しかし、このステートメントは、DBDS select ステートメントの直後に続きませんでした。

システムの処置

制御ステートメント処理は、ユーティリティ戻りコード 16 で終了します。

システム・プログラマーの応答

問題を訂正して、データベース・データ・セットをコピーするために別のデータベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ・ジョブを実行依頼してください。

モジュール:
DFSUDMT1

DFS3160I **IMS CMD=xxxxxxxxxxxxxxxxxx**

説明

通知メッセージが IMS アダプター (REXX 版) によって出されるのは、IMSRXTRC レベルが 0 より大のときです。実行される環境コマンドを表示します。最大 65 のコマンド文字が示されます。

システムの処置

ありません。

DFS3161I **eeeeeeee Call=xxxx RC=yyyy Reason=zzzz[Status="xx"]**

説明

通知メッセージが IMS アダプター (REXX 版) によって出されるのは、IMSRXTRC レベルが 0 より大のときです。eeeeeeee 環境 (ただし、eeeeeeee は REXXTDLI と REXXIMS のいずれか) から最後の状況を示します。eeeeeeee 値は、REXXTDLI または REXXIMS になります。

システムの処置

ありません。

DFS3162E **Parm=xx Invalid on eeeeeee Command "yyyyyyyy"**

説明

IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中に構文エラーが発生しました。無効なパラメーターが eeeeeeee 環境コマンドで指定されました。xx 値はエラーのパラメーターを表し、1 はコマンドの後の最初のパラメーターです。例えば、PCB パラメーターが無効である場合は、xx 値は、DL/I 呼び出しの場合に 1 となります。

eeeeeeee 値は、REXXTDLI と REXXIMS のいずれかです。メッセージ・テキストで、yyyyyyyy は発行された IMS コマンドを示します。

システムの処置

環境コマンドは実行されませんが、EXEC 実行は継続され、コマンドから戻りコード -5 が示されます。

プログラマーの応答

パラメーターを検証し、アプリケーションを訂正してください。

DFS3163E **Excess Parameters on eeeeeeee Command "xxxxxxx"**

説明

IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中の構文エラーです。eeeeeeee 環境コマンドで指定されたパラメーターの数が無効です。eeeeeeee 値は、REXXTDLI と REXXIMS のいずれかになります。

システムの処置

処理は行われません。EXEC 実行は継続され、呼び出し/コマンドから戻りコード -8 が示されます。

プログラマーの応答

IMS アダプター (REXX 版) 参照資料を使用してパラメーターを検証し、アプリケーションを訂正してください。

DFS3164E **Unknown eeeeeeee Command: xxxxxxxx**

説明

IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中に構文エラーが検出されました。コマンド xxxxxxxx が、言語処理環境 eeeeeeee で認識されませんでした。認識されない場合の原因として考えられるのは、次のようなことです。

- このコマンドは、REXXTDLI ではなく REXXIMS に対して発行される必要がある。
- このコマンドは、z/OS 環境に対して発行される必要がある。

- このコマンドのつづりに誤りがあった。

メッセージ・テキストで、eeeeeeee は次のいずれかの値になります。

REXXTDLI
REXXIMS

システムの処置

処理は行われません。EXEC 実行は継続され、呼び出し/コマンドから戻りコード -3 が示されます。

プログラマーの応答

認識されないコマンドを発行したアプリケーション EXEC を訂正してください。

DFS3165E **Invalid Parameter to Function REXXIMS**

説明

IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中に構文エラーが発生しました。REXXIMS 機能呼び出しで、無効な機能パラメーターが渡されました。

システムの処置

無効の機能呼び出しが REXX インタープリターに送信され、そこでそれに応じて条件が処理されます。

プログラマーの応答

REXXIMS 機能呼び出しの使用を検証してください。問題が解決しない場合は、次のコマンドを入力して戻りコード 0 を取得することにより、IMS アダプター (REXX 版) 環境にあることを確認してください。

```
Address MVS 'SUBCOM REXXIMS'
```

DFS3166I **Var-f:vvvv= (llll):xxxx**

説明

通知メッセージが IMS アダプター (REXX 版) によって出されるのは、IMSRXTRC レベルが、設定/ドロップでは 1 より大で、IMSRXTRC がフェッチでは 2 より大のときです。REXXTDLI または REXXIMS による REXX 変数操作を示します。機能 F は、フェッチ、保管、またはドロップで、それぞれ f、s、または d です。変数名の最初の 12 文字が vvvv フィールドに示されます。LLLL 値は、内容の長さです。最大で最初の 40 文字が xxxx フィールドに示されます。F=d (ドロップ) の場合は、llll フィールド および xxxx フィールドは表示されません。変数が初期設定されなかった場合、および MAPPUT で指定された場合は、変数は "スキップ" され、その形式のメッセージが出されます。

システムの処置

ありません。

DFS3167E **Var:vvvvvvvvvvvv Too Long,
Max=yyy**

説明

IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中に構文エラーが発生しました。変数/パラメーターの長さが、変数 vvvvvvvvvvvv に関して無効です。最大許容長さは yyy です。

システムの処置

変数操作は打ち切られます。EXEC 実行は継続され、呼び出し/コマンドから戻りコード -7 が示されます。

プログラマーの応答

先に出ているメッセージによるか、REXX トレースをオンにして、障害のある回線を判別してください。

```
TRACE "R"
```

なお、上記は診断のためです。

DFS3168E **EXECCOMM VAR=vvvvvvvvvvvv
RCODE=xxxxxxx**

説明

IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中に構文エラーが発生しました。これは、IRXEXCOM インターフェースを使用して REXX 変数を操作中に発生した予期しないエラーです。

システムの処置

変数操作は打ち切られます。EXEC 実行は継続され、呼び出し/コマンドから戻りコード -6 が示されます。

システム・プログラマーの応答

問題を解決できない場合は、「TSO/E REXX/MVS Reference」に記載されている IRXSUBCM の戻りコードを検索してください。

プログラマーの応答

変数 vvvvvvvvvvvv が適正な REXX 変数であるか検証してください。割り当てられる値が 32K を超えないか検証してください。

DFS3169E **Invalid Token Name: xxxxxxxx**

説明

IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中に構文エラーが発生しました。トークン名を指定している、STORAGE タイプ・ステートメントの EXEC または DL/I 呼び出しでのエラー。トークン名が無効なのは、長さが 1 文字より小、または 16 文字より大の場合です。

システムの処置

変数操作は打ち切られます。EXEC 実行は継続され、呼び出し/コマンドから戻りコード -9 が示されます。

プログラマーの応答

トークン名を訂正してください。

DFS3170E **Invalid Map Definition: xxxxxxxx at
offset yyy**

説明

IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中のデータ・マッピング・エラーです。メッセージに示されている yyy オフセットでの実定義変数のマップ xxxxxxxx に関する MAPDEF ステートメントの EXEC のエラーです。

システムの処置

変数操作は打ち切られます。EXEC 実行は継続され、呼び出し/コマンドから戻りコード -10 が示されます。

プログラマーの応答

マッピング入力を調べ、アプリケーション・エラーを訂正してください。yyy 値は、元のマップ定義ストリングの文字オフセットです。

DFS3171E **Invalid Map Name: xxxxxxxx**

説明

IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中のデータ・マッピング・エラーです。MAP タイプ・ステートメントの EXEC、またはマップ名を指定している DL/I 呼び出しのエラーです。マップ名が無効なのは、長さが 1 文字より小、または 16 文字より大の場合です。

システムの処置

変数操作は打ち切られます。EXEC 実行は継続され、呼び出し/コマンドから戻りコード -10 が示されます。

プログラマーの応答

マップ名を訂正してください。

DFS3172I Invalid MAPGET Var: xxxx Map: yyyyyyy

説明

IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中のデータ・マッピング・エラーです。マップ yyyyyyy の変数 xxxx をデコード/抽出している最中に、MAPGET ステートメントの EXEC、または DL/I "GET" 呼び出しでエラーが発生しました。一般的な原因としては、定義されたマップがマップへの入力セグメントより大である場合や、パック 10 進数またはゾーン 10 進数のデータ変換エラーなどがあります。

システムの処置

プログラムは続行されます。障害のある変数の値はドロップされます (詳しくは、「IMS V15 アプリケーション・プログラミング API」を参照してください)。

プログラマーの応答

アプリケーションを訂正し、マッピング定義 (MAPDEF) を検証してください。

DFS3173E Invalid MAPPUT Var: xxxxxxxx Map: yyyyyyy

説明

IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中のデータ・マッピング・エラーです。MAPPUT ステートメントの EXEC、またはマップ xxxxxxxx の DL/I "PUT" 呼び出しパッキング/連結変数 yyyy でのエラーが発生しました。一般的な原因としては、マップ・データが、圧縮時に、出力セグメント/バッファより大きい場合があります。

システムの処置

変数操作は打ち切られ、EXEC 実行は継続され、呼び出し/コマンドから 戻りコード -10 が示されます。

プログラマーの応答

アプリケーションを訂正し、変数のつづりが正しいか検証してください。

DFS3174A INVALID DATABASE RECOVERY UTILITY CONTROL STATEMENT SYNTAX, REASON=nn

説明

データベース・リカバリー・ユーティリティ (DFSURDB0) の制御ステートメントが次の理由で無効です。

01

データベース・リカバリー・ユーティリティはデータベース・データ・セット名を DBRC から検索する必要がありますが、DBRC がアクティブではありません。

システムの処置

制御ステートメント処理は終了し、ユーティリティ戻りコード 8 が示されます。

システム・プログラマーの応答

問題を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFS3175E AN MSC CSLSCMSG REQUEST FAILED, active_process, RETCODE = rc, RSNCODE = rsn, LOSTSESS = cause, MODULE =m, LINK = nnn, linkname

説明

TCP/IP 物理リンクに割り当てられている MSC 論理リンク用のサービスを求める CSLSCMSG 要求に回答して、SCI が MSC にゼロ以外の戻りコードまたは理由コードを返しました。論理リンクはシャットダウンされています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった MSC 処理。可能な値は、以下のとおりです。

RESTART

SCI がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンクの再始動についての通知を試行していた。

SENDMSG

SCI がエラーを検出したとき、MSC は、リモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンク経由での MSC メッセージの送信を試行していた。

SHUTDOWN

SCI がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、論理リンクがシャットダウンされる場所であるという通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な MSC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause

セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。

可能な値には、次のものがあります。

FORCESTOP

/PSTOP LINK FORCE または **UPDATE MSLINK STOP(COMM) OPTION(FORCE)** コマンドが、オペレーターによって発行された。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE

IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

IMS とローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

IMS とローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスが、シャットダウンされた。

linkname

影響を受けた MSC 論理リンクの名前。

nnn

影響を受けた MSC 論理リンクの番号。

rc

SCI が発行した CSLSCMSG 戻りコード。

rsn

SCI が発行した CSLSCMSG 理由コード。

考えられる原因: このメッセージの原因は、SCI 戻りコードおよび理由コードによって特定され、さらには、場合によっては、メッセージ・テキスト内の LOSTSESS フィールドに表示される値によっても特定されます。

システムの処置

MSC リンク・セッションは終了します。IMS は 6701-MSS1、MSS2、および MSS3 レコードをログに記録します。

リモート IMS システムとの接続状況によっては、IMS は、リモート IMS システムへの通知を試行することもあります。通知が成功した場合、リモート IMS システムは、論理リンクを終了させて PSTOPPED IDLE ERE 状態に置き、リモート・サイト側でメッセージ DFS2169I DISCONNECTION COMPLETED ON LINK *xxxx* を発行します。

通知が失敗して、リンクがリモート・サイトで IDLE ACTIVE 状態のままである場合は、**/PSTOP LINK xxx** または **UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE)** を発行してリンクを終了させなければならない場合があります。

リモート・システムへの通知が成功しなくても、ローカル IMS Connect への通知は成功する場合があります。この場合、ローカル IMS Connect は、関連したソケットをクリーンアップします。

システム・プログラマーの応答

リモート IMS システムが論理リンクの終了を通知されなかった場合、リモート・サイト側で **/PSTOP LINK x FORCE** または **UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE)** を発行しなければならない場合があります。

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。ローカルまたはリモートいずれかの IMSplex ネットワークに問題がある可能性があります。CSLSCMSG 要求についての戻りコードおよび理由コードを調べてください。そのほかに、SCI、IMS Connect、または TCP/IP からの、診断に役立つ可能性のあるメッセージがないか確認してください。IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

エラーの原因を訂正した後に、リンクを再始動してください。

モジュール

Module	説明
DFSTCERO	DFSxxxx メッセージ・インターフェース
DFSTCPE0	CSLSCMSG 要求の実行
DFSTCP20	通知受信ハンドラー
DFSTCRC0	通知コードの検証
DFSTC1A0	出力送信コントローラー
DFSTC1B0	出力送信バッファー・セットアップ
DFSTC2A0	送信完了の処理
DFSTC3A0	入力受信コントローラー
DFSTC4A0	受信完了の処理
DFSTC7A0	ルーターの再起動およびシャットダウン
DFSTC7B0	再始動プロセッサ
DFSTC7C0	シャットダウン・プロセッサ
DFSTC7D0	シャットダウン終結処理

Module	説明
DFSCMSG0	帯域幅に基づく出力編集
DFSCMSP0	帯域幅に基づく入力エラー・メッセージ・プロセッサ
DFSCMSR0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSU0	帯域幅に基づく出力バッファ・ヘッダー・ビルダー
DFSCMSX0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSZ0	帯域幅に基づく入力メッセージ・プロセッサ
DFSCMS00	MSC アナライザ

関連資料

CSLSCMSG: メッセージ送信要求 (システム・プログラミング API)

DFS3176E IMS CONNECT ERROR MESSAGE RECEIVED, active_process, RETCODE = rc, RSNCODE = rsn, LOSTSESS = cause, MODULE = m, LINK = nnn, linkname

説明

IMS Connect が、MSC からの要求またはメッセージの処理中にエラーを検出し、IMS にゼロ以外の戻りコードまたは理由コードを戻しました。エラーは、ローカル IMS Connect インスタンス、またはリモート IMS Connect インスタンスによっても検出された可能性があります。エラー・メッセージは、要求またはメッセージを発行したローカル IMS システムに戻されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった MSC 処理。可能な値は、以下のとおりです。

RESTART

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンクの再始動についての通知を試行していた。

SENDMSG

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、リモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンク経由での MSC メッセージの送信を試行していた。

SHUTDOWN

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、論理リンクがシャットダウンされる場所であるという通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な MSC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause

セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。可能な値には、次のものがあります。

FORCESTO

/PSTOP LINK FORCE または **UPDATE MSLINK STOP(COMM) OPTION(FORCE)** コマンドが、オペレーターによって発行された。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE

IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスがシャットダウンされた。

STOPCLNT

ローカル IMS Connect インスタンスとリモート IMS Connect インスタンスの間の受信ソケットが終了した。

以下に、考えられる原因をいくつかリストします。

- IMS Connect の **STOPCLNT** コマンドまたはそれと同等のタイプ 2 **UPDATE** コマンドが発行された。
- リモート IMS Connect の IMSplex エンティティ、MSC エンティティ、または RMTIMSCON エンティティが停止した。
- リモート IMS Connect が終了した。

- ・ リモート IMS が終了した。

STOPIP

ローカル IMS Connect インスタンスと IMSplex の間の通信が停止した。これは、IMS Connect の **STOPIP** コマンドまたはそれと同等のタイプ 2 **UPDATE** コマンドによって発生します。

STOPLINK

ローカル IMS Connect インスタンス内の MSC 論理リンクが停止した。これは、IMS Connect の **STOPLINK** コマンドまたはそれと同等のタイプ 2 **UPDATE** コマンドによって発生します。

STOPMSC

ローカル IMS Connect インスタンス内の MSC 物理リンクが停止した。これは、IMS Connect の **STOPMSC** コマンドまたはそれと同等のタイプ 2 **UPDATE** コマンドによって発生します。

STOPRMT

ローカル IMS Connect インスタンスとリモート IMS Connect インスタンスの間の通信が停止した。これは、IMS Connect の **STOPRMT** コマンドまたはそれと同等のタイプ 2 **UPDATE** コマンドによって発生します。

linkname

影響を受けた MSC 論理リンクの名前。

nnn

影響を受けた MSC 論理リンクの番号。

rc

IMS Connect が発行した戻りコード。このメッセージに関連する IMS Connect 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。これらに加え、そのほかの IMS Connect 戻りコードおよび理由コードが、HWSHRR マクロで説明されています。

rsn

IMS Connect が発行した理由コード。このメッセージに関連する IMS Connect 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

考えられる原因: このメッセージの原因は、戻りコード、理由コード、および LOSTSESS の値を検討することで判別できます。

表 18. メッセージ DFS3176E についての IMS Connect 戻りコードおよび理由コード		
戻りコード	理由コード	意味
X'0C000018'	X'00006000'	IMS からの受信が失敗しました。
	X'00006004'	リンクが見つかりません。
	X'00006008'	再始動するリンクがもう再始動されています。
	X'0000600C'	送信ソケットの取得に失敗しました。
	X'00006010'	CSLSCMSG 要求で無効なディレクティブが受信されました。

表 18. メッセージ DFS3176E についての IMS Connect 戻りコードおよび理由コード (続き)		
戻りコード	理由コード	意味
	X'00006014'	IMS Connect が、リンク・ブロックの取得に失敗しました。
	X'00006018'	ローカル IMS Connect が、無効なリンク再始動要求を検出しました。
	X'0000601C'	ローカル IMS Connect が MSC から切断されているため、IMS Connect は、リンクを再始動できませんでした。
	X'00006020'	MSC がアクティブでないため、ローカル IMS Connect は、リンクを再始動できませんでした。
	X'00006024'	再始動要求に含まれているローカル IMS システムの IMS ID が無効なので、ローカル IMS Connect は、リンクを再始動できませんでした。
	X'00006028'	ローカル IMS Connect が、無効なリンク・シャットダウン要求を検出しました。
	X'0000602C'	ローカル IMS Connect が MSC から切断されているため、IMS Connect は、リンクをシャットダウンできませんでした。
	X'00006030'	MSC がアクティブでないため、ローカル IMS Connect は、リンクをシャットダウンできませんでした。
	X'00006034'	シャットダウン要求に含まれているローカル IMS システムの IMS ID が無効なので、ローカル IMS Connect は、リンクを再始動できませんでした。
	X'00006038'	ローカル IMS Connect インスタンスは、MSC から無効なメッセージを受け取りました。
	X'0000603C'	ローカル MSC が切断されているため、IMS Connect は、リモート MSC からのメッセージを処理できません。
	X'00006040'	ローカル MSC がアクティブでないため、IMS Connect は、リモート MSC からのメッセージを処理できません。
	X'00006044'	メッセージに含まれている IMS ID が無効なので、IMS Connect は、リモート MSC からのメッセージを処理できません。

表 18. メッセージ DFS3176E についての IMS Connect 戻りコードおよび理由コード (続き)

戻りコード	理由コード	意味
	X'00006048'	論理リンクを開始しようとしたが、IMS システムの DFSDCxxx PROCLIB メンバー内の GENIMSID パラメーターの値は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバー内の MSC 構成ステートメントにある GENIMSID パラメーターの値と一致しません。始動要求はリジェクトされます。この問題を解決するには、それら 2 つの GENIMSID 値を一致させてください。
	X'0000604C'	TCP/IP 総称リソースを使用可能にする GENIMSID パラメーターが指定されていない IMS システムから論理リンクを開始しようとしたが、IMS Connect の論理リンクに関する MSC 定義では、TCP/IP 総称リソースのための GENIMSID パラメーターが指定されています。IMS Connect は、リンク再始動要求をリジェクトしました。 この問題は、次のいずれかの方法で解決できます。 <ul style="list-style-type: none"> IMS では、その IMS システムの DFSDCxxx メンバーで GENIMSID パラメーターを指定して、IMS を再始動してから、リンクを再始動してください。 IMS Connect では、IMS Connect 構成メンバーの MSC ステートメントから GENIMSID パラメーターの指定を削除して、IMS Connect を再始動してから、リンクを再始動してください。
	X'00006050'	TCP/IP 総称リソース・グループ内で、IMS システムから、ある論理リンクを開始しようとしたが、その TCP/IP 総称リソース・グループ内では、同じ物理リンクを使用する 1 つ以上の論理リンクが、すでに別の IMS システムとのアフィニティーがあります。IMS Connect は、始動要求をリジェクトしました。 問題を解決するには、TCP/IP 総称リソース・グループ内でその IMS システムから、アフィニティーがある論理リンクを再始動するか、別の IMS システム上の論理リンクを終了し、IMS Connect が既存のアフィニティーを解消した後に、その IMS システムからリンクを再始動してください。
	X'00006054'	IMS システムから IMS Connect に対し、リモート IMS システムからのリンク再始動要求を受け付ける場所であると通知されましたが、TCP/IP 総称リソース・グループ内の別の IMS システムが、すでにそのリンク要求を受け付けています。IMS Connect は、この IMS

表 18. メッセージ DFS3176E についての IMS Connect 戻りコードおよび理由コード (続き)

戻りコード	理由コード	意味
		システムからの受け付け通知をリジェクトしました。これはエラーではありません。
	X'00006058'	指定されたリンクが見つからないため、ローカル IMS Connect は、そのリンクをシャットダウンできませんでした。IMS Connect HWSF3355E メッセージがないか確認してください。
	X'0000605C'	TCP/IP 総称リソースを使用可能にする GENIMSID パラメーターが指定されている IMS システムから論理リンクを開始しようとしたが、IMS Connect の論理リンクに関する MSC 定義では、TCP/IP 総称リソースのための GENIMSID パラメーターが指定されていません。IMS Connect は、リンク再始動要求をリジェクトしました。 この問題は、次のいずれかの方法で解決できます。 <ul style="list-style-type: none"> IMS では、その IMS システムの DFSDCxxx メンバーで GENIMSID パラメーターの指定を削除して、IMS を再始動してから、リンクを再始動してください。 IMS Connect では、IMS Connect 構成メンバーの MSC ステートメント内に GENIMSID パラメーターを指定して、IMS Connect を再始動してから、リンクを再始動してください。
	X'00006100'	リモート IMS Connect への送信が失敗しました。
	X'00006200'	受信が、リモート IMS Connect インスタンスからの TCP/IP 読み取りで失敗しました。
	X'00006204'	データ・ストアへの送信が失敗しました。これは、おそらく内部エラーです。
	X'00006300'	IMS への送信が失敗しました。リモート IMS システムが使用不可であると考えられます。
	X'00006400'	MSC リンクが、ローカル IMS Connect インスタンスにおいて STOPLINK コマンドにより停止されました。
	X'00006404'	MSC 通信が、ローカル IMS Connect インスタンスにおいて STOPMSC コマンドにより停止されました。
	X'00006408'	リモート IMS Connect インスタンスへの接続に関する通信が、ローカル IMS Connect において STOPRMT コマンドにより停止されました。

表 18. メッセージ DFS3176E についての IMS Connect 戻りコードおよび理由コード (続き)

戻りコード	理由コード	意味
	X'0000640C'	ローカル IMSplex との通信が、ローカル IMS Connect において STOPIP コマンドにより停止されました。
	X'00006410'	IMS Connect のシャットダウン。

システムの処置

MSC リンク接続は終了し、PSTOPPED IDLE ERE 状態に置かれています。IMS 6701-MSS1、MSS2、および MSS3 タイプのレコードを書き込みます。

リモート IMS システムとの接続状況によっては、IMS は、リモート IMS システムへの通知を試行することもあります。通知が成功した場合、リモート IMS システムは、論理リンクを終了させて PSTOPPED IDLE ERE 状態に置き、リモート・サイト側でメッセージ DFS2169I DISCONNECTION COMPLETED ON LINK *xxx* を発行します。

通知が失敗して、リンクがリモート・サイトで IDLE ACTIVE 状態のままである場合は、**/PSTOP LINK xxx** または **UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE)** を発行してリンクを終了させなければならない場合があります。

リモート・システムへの通知が成功しなくても、ローカル IMS Connect への通知は成功する場合があります。この場合、ローカル IMS Connect は、関連したソケットをクリーンアップします。

出力宛先

- z/OS システム・コンソールおよびマスター端末。

システム・プログラマーの応答

リモート IMS システムが論理リンクの終了について通知を受けられなかった場合、リモート・サイト側で **/PSTOP LINK xxx FORCE** または **UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE)** を発行しなければならない場合があります。

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。ローカルまたはリモートいずれかの IMSplex ネットワークに問題がある可能性があります。そのほかに、SCI、IMS Connect インスタンス、または TCP/IP からの、診断に役立つ可能性のあるメッセージがないか確認してください。IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

エラーの原因を訂正した後に、リンクを再始動してください。

モジュール

Module	説明
DFSTCERO	DFSxxxx メッセージ・インターフェース
DFSTCPE0	CSLSMSG 要求の実行
DFSTCP20	通知受信ハンドラー
DFSTCRC0	通知コードの検証
DFSTC1A0	出力送信コントローラー
DFSTC1B0	出力送信バッファー・セットアップ
DFSTC2A0	送信完了の処理
DFSTC3A0	入力受信コントローラー
DFSTC4A0	受信完了の処理
DFSTC7A0	ルーターの再起動およびシャットダウン
DFSTC7B0	再始動プロセッサ
DFSTC7C0	シャットダウン・プロセッサ
DFSTC7D0	シャットダウン終結処理
DFSCMSG0	帯域幅に基づく出力編集
DFSCMSP0	帯域幅に基づく入力エラー・メッセージ・プロセッサ
DFSCMSR0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSU0	帯域幅に基づく出力バッファー・ヘッダー・ビルダー
DFSCMSX0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSZ0	帯域幅に基づく入力メッセージ・プロセッサ
DFSCMS00	MSC アナライザー

関連資料

HWS メッセージ (IMS Connect) (メッセージおよびコード)

関連情報

648 ページの『DFS2169I』

DISCONNECTION COMPLETED ON LINK *xxx*.

HWSF3355E (メッセージおよびコード)

DFS3177E	MSC DETECTED AN ERROR, active_process, RETCODE = rc, RSNCODE = rsn, LOSTSESS = cause, MODULE =m, LINK = nnn, linkname
-----------------	--

説明

MSC の TCP/IP 装置依存モジュール (DDM) が、メッセージ・テキストに示されている MSC 論理リンクに関連付けられたメッセージまたは要求の処理中にエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった MSC 処理。可能な値は、以下のとおりです。

RESTART

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンクの再始動についての通知を試行していた。

SENDMSG

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、リモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンク経由での MSC メッセージの送信を試行していた。

SHUTDOWN

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、リンクがシャットダウンされるところであるという通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な MSC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause

セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。

可能な値には、次のものがあります。

FORCESTO

/PSTOP LINK FORCE または **UPDATE MSLINK STOP(COMM) OPTION(FORCE)** コマンドが、オペレーターによって発行された。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE

IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスが、シャットダウンされた。

linkname

影響を受けた MSC 論理リンクの名前。

nnn

影響を受けた MSC 論理リンクの番号。

rc

MSC DDM が発行した戻りコード。このメッセージに関連する MSC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

rsn

MSC DDM が発行した理由コード。このメッセージに関連する MSC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

考えられる原因: 考えられる原因は、メッセージ・テキストに含まれる理由コードおよび戻りコードによって示されます。

メッセージ DFS3177E での IMS MSC DDM 戻りコードおよび理由コード

次の戻りコードおよび理由コードは、IMS.SDFSMAC データ・セット内の DFSMSCWA マクロの SCIWORK DSECT にもリストされています。

戻りコード	理由コード	意味
DFSPPOOL RC	X'00000004'	DFSPPOOL ストレージ取得エラー
DFSPPOOL RC	X'00000008'	DFSPPOOL ストレージ解放エラー
CELL POOL RC	X'0000000C'	セル・プール (CPOOL) 取得エラー
CELL POOL RC	X'00000000'	セル・プール (CPOOL) 解放エラー
	X'00000004'	無効な通知コードまたは通知条件の検出
	X'00000008'	無効な AWE の検出
	X'00000001C'	無効な MSC ディレクティブ (DFSMSDIR) の検出
	X'000000020'	無効なバッファ・ヘッダー制御ブロック (BUFMSHDR) の検出
	X'000000024'	無効なメッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の検出
	X'000000028'	パートナー IMS からの即時シャットダウン要求の受信
	X'00000002C'	無効または予期しない MSC リンク (MSLINK) 状況の検出

戻りコード	理由コード	意味
	X'0000003 0'	予期しないブラケット開始停止 (BIS) メッセージの受信
	X'0000003 4'	予期しないエラー・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'0000003 8'	無効な再始動メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'0000003 C'	無効なシャットダウン・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'0000004 0'	内部ルーチンからの予期しない戻りコードの受け取り
	X'0000004 4'	SCIWORK エリアのエラー
	X'0000004 8'	キュー・エラーの検出 (CTB5QERR セット)
	X'0000004 C'	キュー・バッファのチェーニング・エラーの検出
	X'0000005 0'	AWE チェーニング・エラーの検出
	X'0000005 4'	出力編集エラー
	X'0000005 8'	入力編集エラー
QMGR RC	X'0000005 C'	メッセージ・キュー・マネージャーからの予期しない戻りコード
	X'0000006 0'	DFSMGPL マクロ・エラー、メッセージ接頭語不良
	X'0000006 4'	無効な応答 MSCB (BUFMSCB) の受信
	X'0000006 8'	無効な内部条件の検出
	X'0000006 C'	内部制御ブロック・エラー
	X'0000007 0'	SCI/ICON 異常終了、/ PSTOP LINK FORCE コマンド、または UPDATE MSLINK STOP(COMM) OPTION(FORCE) コマンドに対して、SCI 通知出

戻りコード	理由コード	意味
		口ルーチンが通知するセッション欠落エラー
	X'0000007 4'	CSL が初期設定でないため CSLSCMSG 要求が発行不可能。IMS の始動プロシージャ上の CSLG = パラメーターを調べてください。CSLG=000 が最低限必要です。
	X'0000007 8'	CSLSCMSG 要求の失敗。要求に対して、SCI から非ゼロ戻りコードが戻されます。
	X'000000F C'	未判別エラー
	X'0000007 C'	(RSNOLLB) LXB が SCI MSG 出口 DFSSXINO によって通知されたが、LXBTCCLBP フィールドがゼロ。
	X'0000008 0'	(RSN_BUFFER) CSLSCBFR RELEASE 要求で SCI バッファを解放できませんでした。RETCODE コードおよび RSNCODE コードについて詳しくは、CSLSRR マクロを参照してください。MSPLINK 関連エラーの場合は、RETCODE コードと RSNCODE コードが LXB ブロックの LXBRET フィールドと LXBRSN フィールドに保管されます。MSLINK 関連エラーの場合は、RETCODE コードと RSNCODE コードが LLB ブロックの CLBTEMP4 フィールドと CLBTEMP5 フィールドに保管されます。これらの制御ブロックは、6701-MSS1 ログ・レコードに記録されます。
	X'0000008 4'	(RSN_NOMSC) メッセージ入力ルーチン DFSSXINO が MSC TCP/IP メッセージを受け取りましたが、MSC が定義されていませんでした。

戻りコード	理由コード	意味
	X'0000008 8'	(RSN_NOLLBS) メッセージ入力ルーチン DFSSXIN0 が MSC TCPIP メッセージを受け取りましたが、MSC LLB が定義されていませんでした。
	X'0000008 C'	(RSN_NOLXBS) メッセージ入力ルーチン DFSSXIN0 が MSC TCPIP メッセージを受け取りましたが、ターゲット・リンクに、セッションを開始するために使用できる LXB がありませんでした。
	X'0000009 0'	(RSN_NOTCPIP) メッセージ入力ルーチン DFSSXIN0 が MSC TCPIP メッセージを受け取りましたが、ターゲット・リンクが TCPIP タイプではありませんでした。例えば、このエラーはターゲット・リンクが MSPLINK タイプに割り当てられている場合に発生します。
	X'0000009 4'	(RSN_NOLCB) LLB が MSPLINK LCB 制御ブロックに割り当てられませんでした。
	X'0000009 C'	(RSN_NOPRTNR) メッセージ入力ルーチン DFSSXIN0 が MSC TCPIP メッセージを受け取りましたが、指定されたパートナー ID にターゲット・リンクが見つかりませんでした。

戻りコード	理由コード	意味
DFSPPOOL RC	X'0000000 4'	DFSPPOOL ストレージ取得エラー
DFSPPOOL RC	X'0000000 8'	DFSPPOOL ストレージ解放エラー
CELL POOL RC	X'0000000 C'	セル・プール (CPOOL) 取得エラー
CELL POOL RC	X'0000001 0'	セル・プール (CPOOL) 解放エラー
	X'0000001 4'	無効な通知コードまたは通知条件の検出

戻りコード	理由コード	意味
	X'0000001 8'	無効な AWE の検出
	X'0000001 C'	無効な MSC ディレクティブ (DFSMSDIR) の検出
	X'0000002 0'	無効なバッファ・ヘッダー制御ブロック (BUFMSHDR) の検出
	X'0000002 4'	無効なメッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の検出
	X'0000002 8'	パートナー IMS からの即時シャットダウン要求の受信
	X'0000002 C'	無効または予期しない MSC リンク (MSLINK) 状況の検出
	X'0000003 0'	予期しないブラケット開始停止 (BIS) メッセージの受信
	X'0000003 4'	予期しないエラー・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'0000003 8'	無効な再始動メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'0000003 C'	無効なシャットダウン・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'0000004 0'	内部ルーチンからの予期しない戻りコードの受け取り
	X'0000004 4'	SCIWORK エリアのエラー
	X'0000004 8'	キュー・エラーの検出 (CTB5QERR セット)
	X'0000004 C'	キュー・バッファのチェーニング・エラーの検出
	X'0000005 0'	AWE チェーニング・エラーの検出
	X'0000005 4'	出力編集エラー
	X'0000005 8'	入力編集エラー

戻りコード	理由コード	意味
QMGR RC	X'0000005 C'	メッセージ・キュー・マネージャーからの予期しない戻りコード
	X'0000006 0'	DFSMGPL マクロ・エラー、メッセージ接頭語不良
	X'0000006 4'	無効な応答 MSCB (BUFMSCB) の受信
	X'0000006 8'	無効な内部条件の検出
	X'0000006 C'	内部制御ブロック・エラー
	X'0000007 0'	SCI/ICON 異常終了、/ PSTOP LINK FORCE コマンド、または UPDATE MSLINK STOP(COMM) OPTION(FORCE) コマンドに対して、SCI 通知出口ルーチンが通知するセッション欠落エラー
	X'0000007 4'	CSL が初期設定でないため CSLSCMSG 要求が発行不可能。IMS の始動プロシージャ上の CSLG = パラメータを調べてください。CSLG=000 が最低限必要です。
	X'0000007 8'	CSLSCMSG 要求の失敗。要求に対して、SCI から非ゼロ戻りコードが戻されます。
	X'000000F C'	未判別エラー
	X'0000007 C'	(RSNOLLB) LXB が SCI MSG 出口 DFSSXINO によって通知されたが、LXBTCLBP フィールドがゼロ。
	X'0000008 0'	(RSN_BUFFER) CSLSCBFR RELEASE 要求で SCI バッファを解放できませんでした。RETCODE コードおよび RSNCODE コードについて詳しくは、CSLSRR マクロを参照してください。MSPLINK 関連エラーの場合は、RETCODE コードと RSNCODE コード

戻りコード	理由コード	意味
		が LXB ブロックの LXBRET フィールドと LXBRSN フィールドに保管されます。MSLINK 関連エラーの場合は、RETCODE コードと RSNCODE コードが LLB ブロックの CLBTEMP4 フィールドと CLBTEMP5 フィールドに保管されます。これらの制御ブロックは、6701-MSS1 ログ・レコードに記録されます。
	X'0000008 4'	(RSN_NOMSC) メッセージ入力ルーチン DFSSXINO が MSC TCPIP メッセージを受け取りましたが、MSC が定義されていませんでした。
	X'0000008 8'	(RSN_NOLLBS) メッセージ入力ルーチン DFSSXINO が MSC TCPIP メッセージを受け取りましたが、MSC LLB が定義されていませんでした。
	X'0000008 C'	(RSN_NOLXBS) メッセージ入力ルーチン DFSSXINO が MSC TCPIP メッセージを受け取りましたが、ターゲット・リンクに、セッションを開始するために使用できる LXB がありませんでした。
	X'0000009 0'	(RSN_NOTCPIP) メッセージ入力ルーチン DFSSXINO が MSC TCPIP メッセージを受け取りましたが、ターゲット・リンクが TCPIP タイプではありませんでした。例えば、このエラーはターゲット・リンクが MSPLINK タイプに割り当てられている場合に発生します。
	X'0000009 4'	(RSN_NOLCB) LLB が MSPLINK LCB 制御ブロックに割り当てられませんでした。

システムの処置

MSC リンク接続は終了し、PSTOPPED IDLE ERE 状態に置かれています。IMS は、タイプ 6701-MSS1、MSS2、および MSS3 のレコードをログに記録します。

IMS が、リモート IMS システムへの通知を試みます。通知が成功した場合、リモート IMS システムは、論理リンクを終了させて PSTOPPED IDLE ERE 状態に置き、リモート・サイト側でメッセージ DFS2169I DISCONNECTION COMPLETED ON LINK *xxx* を発行します。

通知が失敗して、リンクがリモート・サイトで IDLE ACTIVE 状態のままである場合は、**/PSTOP LINK xxx** または **UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE)** を発行してリンクを終了させなければならない場合があります。

出力宛先:

z/OS システム・コンソールおよび IMS マスター端末。

システム・プログラマーの応答

リモート IMS システムが論理リンクの終了について通知を受けられなかった場合、リモート・サイト側で **/PSTOP LINK x FORCE** または **UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE)** を発行しなければならない場合があります。

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。メッセージ・テキストで特定されるモジュールは、エラーの発生した場所です。そのほかに、SCI、IMS Connect、または TCP/IP からの、診断に役立つメッセージがないか確認してください。IMS ログから X'6701' エラー・レコードを収集してください。

エラーの原因を訂正した後に、リンクを再始動してください。

モジュール

Module	説明
DFSTCERO	DFSxxxx メッセージ・インターフェース
DFSTCPEO	CSLSCMSG 要求の実行
DFSTCP20	通知受信ハンドラー
DFSTCRCO	通知コードの検証
DFSTC1A0	出力送信コントローラー
DFSTC1B0	出力送信バッファ・セットアップ
DFSTC2A0	送信完了の処理
DFSTC3A0	入力受信コントローラー

Module	説明
DFSTC4A0	受信完了の処理
DFSTC7A0	ルーターの再起動およびシャットダウン
DFSTC7B0	再始動プロセッサ
DFSTC7C0	シャットダウン・プロセッサ
DFSTC7D0	シャットダウン終結処理
DFSCMSG0	帯域幅に基づく出力編集
DFSCMSP0	帯域幅に基づく入力エラー・メッセージ・プロセッサ
DFSCMSR0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSU0	帯域幅に基づく出力バッファ・ヘッダー・ビルダー
DFSCMSX0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSZ0	帯域幅に基づく入力メッセージ・プロセッサ
DFSCMS00	MSC アナライザー

DFS3178E

MSC DETECTED AN INTERNAL LOGIC ERROR, active_process, RETCODE = rc, RSNCODE = rsn, LOSTSESS = cause, MODULE = m, LINK = nnn, linkname

説明

MSC の装置依存モジュール (DDM) が、内部論理エラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった MSC 処理。可能な値は、以下のとおりです。

RESTART

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンクの再始動についての通知を試行していた。

SENDMSG

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、リモート IMS システムに向けて、メッセー

ジ・テキストで特定される論理リンク経由での MSC メッセージの送信を試行していた。

SHUTDOWN

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、論理リンクがシャットダウンされる場所であるという通知を試行していた。

TCPOST

装置依存のルーチン・ポスト・ハンドラー (DFSTCP20) が、CSL SCI 入力メッセージ出口ルーチン (DFSSXIN0) から受け取ったメッセージのポストを処理していたが、メッセージの対象である論理リンクの判別ができなかった、または CSLSCBFR バッファ解放要求でエラーが発生した。

UNKNOWN

識別不能な MSC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause

セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。

可能な値には、次のものがあります。

FORCESTO

/PSTOP LINK FORCE または **UPDATE MSLINK STOP(COMM) OPTION(FORCE)** コマンドが、オペレーターによって発行された。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE

IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスがシャットダウンされた。

linkname

影響を受けた MSC 論理リンクの名前。

nnn

影響を受けた MSC 論理リンクの番号。

rc

MSC DDM が発行した戻りコード。このメッセージに関連する MSC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

rsn

MSC DDM が発行した理由コード。このメッセージに関連する MSC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

考えられる原因: 考えられる原因は、メッセージ・テキストに含まれる理由コードおよび戻りコードによって示されます。

メッセージ DFS3178E での、IMS MSC 機器依存モジュールの戻りコードおよび理由コード

次の戻りコードおよび理由コードは、IMS.SDFSMAC データ・セット内の DFSMSCWA マクロの SCIWORK DSECT にもリストされています。

戻りコード	理由コード	意味
DFSPPOOL RC	X'00000004 '	DFSPPOOL ストレージ取得エラー
DFSPPOOL RC	X'00000008 '	DFSPPOOL ストレージ解放エラー
CELL POOL RC	X'0000000C '	セル・プール (CPOOL) 取得エラー
CELL POOL RC	X'00000010 '	セル・プール (CPOOL) 解放エラー
	X'00000014 '	無効な通知コードまたは通知条件の検出
	X'00000018 '	無効な AWE の検出
	X'0000001C '	無効な MSC ディレクティブ (DFSMSDIR) の検出
	X'00000020 '	無効なバッファ・ヘッダー制御ブロック (BUFMSHDR) の検出
	X'00000024 '	無効なメッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の検出
	X'00000028 '	パートナー IMS からの即時シャットダウン要求の受信
	X'0000002C '	無効または予期しない MSC リンク (MSLINK) 状況の検出
	X'00000030 '	予期しないブラケット開始停止 (BIS) メッセージの受信

戻りコード	理由コード	意味
	X'00000034 '	予期しないエラー・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'00000038 '	無効な再始動メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'0000003C '	無効なシャットダウン・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'00000040 '	内部ルーチンからの予期しない戻りコードの受け取り
	X'00000044 '	SCIWORK エリアのエラー
	X'00000048 '	キュー・エラーの検出 (CTB5QERR セット)
	X'0000004C '	キュー・バッファのチェーニング・エラーの検出
	X'00000050 '	AWE チェーニング・エラーの検出
	X'00000054 '	出力編集エラー
	X'00000058 '	入力編集エラー
QMGR RC	X'0000005C '	メッセージ・キュー・マネージャーからの予期しない戻りコード
	X'00000060 '	DFSMGPL マクロ・エラー、メッセージ接頭語不良
	X'00000064 '	無効な応答 MSCB (BUFMSCB) の受信
	X'00000068 '	無効な内部条件の検出
	X'0000006C '	内部制御ブロック・エラー
	X'0000007C '	LXB (リンク拡張ブロック) が SCI MSG 出口 DFSSXINO によって通知されたが、LXBTCLBP がゼロ。この問題が発生してはなりません。
	X'000000FC '	未判別エラー

戻りコード	理由コード	意味
	X'00000098 '	先に IMS が SCI との登録を解除した後に AWE が検出されました。

システムの処置

MSC リンク接続は終了されます。IMS は、タイプ 6701-MSS1、MSS2、および MSS3 のレコードをログに記録します。

IMS が、リモート IMS システムへの通知を試みます。通知が成功した場合、リモート IMS システムは、論理リンクを終了させて PSTOPPED IDLE ERE 状態に置き、リモート・サイト側でメッセージ DFS2169I DISCONNECTION COMPLETED ON LINK *xxxx* を発行します。

通知が失敗して、リンクがリモート・サイトで IDLE ACTIVE 状態のままである場合は、**/PSTOP LINK xxx** または **UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE)** を発行してリンクを終了させなければならない場合があります。

システム・プログラマーの応答

リモート IMS システムが論理リンクの終了について通知を受けられなかった場合、リモート・サイト側で **/PSTOP LINK x FORCE** または **UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE)** を発行しなければならない場合があります。

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。メッセージ・テキストで特定されるモジュールは、エラーの発生した場所です。そのほかに、SCI、IMS Connect、または TCP/IP からの、診断に役立つメッセージがないか確認してください。IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

DFS3178E は、内部論理エラーの場合に発行されます。問題が解消されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

エラーの原因を訂正した後に、リンクを再始動してください。

モジュール

Module	説明
DFSTCERO	DFSxxxx メッセージ・インターフェース
DFSTCPE0	CSLSCMSG 要求の実行
DFSTCP20	通知受信ハンドラー
DFSTCRC0	通知コードの検証

Module	説明
DFSTC1A0	出力送信コントローラー
DFSTC1B0	出力送信バッファー・セットアップ
DFSTC2A0	送信完了の処理
DFSTC3A0	入力受信コントローラー
DFSTC4A0	受信完了の処理
DFSTC7A0	ルーターの再起動およびシャットダウン
DFSTC7B0	再始動プロセッサ
DFSTC7C0	シャットダウン・プロセッサ
DFSTC7D0	シャットダウン終結処理
DFSCMSG0	帯域幅に基づく出力編集
DFSCMSP0	帯域幅に基づく入力エラー・メッセージ・プロセッサ
DFSCMSR0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSU0	帯域幅に基づく出力バッファー・ヘッダー・ビルダー
DFSCMSX0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSZ0	帯域幅に基づく入力メッセージ・プロセッサ
DFSCMS00	MSC アナライザー

DFS3179I **TTTTTPP=(AAAAAAAAA:SSSS-LLLL)=XXXXXXXX=CCCCCCCC**

説明

通知メッセージが IMS アダプター (REXX 版) によって出されるのは、IMSRXTRC レベルが 7 より大のときです。標準 IMS 言語インターフェースとの間で、AIBTDLI または ASMTDLI 呼び出しで受け渡しされるパラメーター・リストを示します。

- **TTTT** はトレースのタイプであり、"Entry" は、DL/I 呼び出しの前にトレースされたときで、"Exit" は、DL/I 呼び出しの後でトレースされたときです。
- **PP** はパラメーター番号であり、番号 1 は実 DL/I 呼び出しです。
- **AAAAAAAA** は、パラメーターのアドレスです。
- **SSSS** は、パラメーター・バッファーのサイズです。
- **LLLL** は、パラメーターの想定長さです。

- **XXXXXXXX** は、16 進数パラメーターの最初の 8 バイトです。
- **CCCCCCCC** は、EBCDIC パラメーターの最初の 64 バイトです。

システムの処置

ありません。

DFS3180I **INQY ENVIRON Region=rrrrrrrr
Number=nnnn PGM=pppppppp**

説明

通知メッセージが IMS アダプター (REXX 版) によって出されるのは、IMSRXTRC レベルが 0 より大のときです。このメッセージは、EXEC が実行される環境を記述します。

システムの処置

処理は続行されます。

DFS3181I **DFSREXX Starting and Building
Environment**

説明

IMS REXX 環境を示す通知メッセージが、IMS 従属またはバッチ領域に関して作成されているのは、REXX トランザクションが開始しているためです。

システムの処置

処理は続行されます。

DFS3182I **REXX EXEC: xxxxxxxx
COMPLETED, RC=yyyyyyyy**

説明

通知メッセージが IMS アダプター (REXX 版) によって出されるのは、IMSRXTRC レベルが 0 より大のときです。スケジュールされた EXEC が終了した戻りコードを示します。

システムの処置

処理は続行されます。

DFS3183E **EXEC: xxxxxxxx NOT FOUND**

説明

IMS アダプター (REXX 版) によって実行される EXEC が、使用可能なデータ・セットで検出されませんでした。xxxxxxx で示される EXEC 名は、IMS スケジュールのプログラム名か、あるいはユーザー出力ルーチン

(DFSREXXU)によってオーバーライドされているかのいずれかです。

システムの処置

EXEC 実行は行われません。

プログラマーの応答

従属領域の SYSEXEC DD に、EXEC に関する正しい連結が組み込まれているか検証してください。

DFS3184I NO EXEC NAME SELECTED TO EXECUTE

説明

通知メッセージが IMS アダプター (REXX 版)によって出されるのは、IMSRXTRC レベルが 0 より大のときです。実行する EXEC 名はまったく指定されていません。EXEC 名は、デフォルトではプログラム名ですが、IMS アダプター (REXX 版) ユーザー出口ルーチン (DFSREXXU) によってオーバーライドされました。

システムの処置

EXEC 実行は行われません。

システム・プログラマーの応答

予想外である場合は、ユーザー出口ルーチン DFSREXXU を検査してください。詳細については、「IMS V15 アプリケーション・プログラミング API」を参照してください。

DFS3185I LARGE BLOCK INTERFACE DETECTED, IT WILL BE USED FOR DDNAME

説明

イメージ・コピー・ユーティリティーは、イメージ・コピー出力データ・セットが、大規模ブロック・インターフェースをサポートする装置上にあることを判別しました。ただし、明示的なブロック・サイズが指定されませんでした。

システムの処置

イメージ・コピー・ユーティリティーは、システムが判別したブロック・サイズで大規模ブロック・インターフェースを使用し、イメージ・コピーを書き込みます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSUDMPO

DFS3187I RACF NOT ACTIVE FOR RESUME TPIPE CLASS=RIMS RC=XX. RACF EXIT RC=YY REASON CODE=ZZ.

説明

IMS が RACF 定義リソースについてストレージ内プロファイルの作成を試みている最中に、RACROUTE 出口処理で障害が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

XX

RACROUTE マクロからの戻りコード

YY

RACF 出口からの戻りコード

ZZ

RACF 出口からの理由コード

システムの処置

IMS の再始動は継続します。RACF OTMA RESUME TPIPE 許可は無効になっています。

オペレーターの応答:

(マスター端末) この問題に関する情報については、RACROUTE 戻りコードおよび理由コードを参照してください。

関連資料

[z/OS: RACROUTE の戻りコードおよび理由コード](#)

[z/OS: RACROUTE STAT の戻りコードおよび理由コード](#)

DFS3189W RDS BLOCK ALLOCATION INSUFFICIENT FOR: type

説明

再始動データ・セットにおいて、追加のリカバリー可能な情報をログに記録するために内部で割り振られて確保されているブロックの数が、不足していました。

1 つ以上の定義を動的に変更するために、**UPDATE POOL TYPE (DBAS)** コマンドが発行されました。コマンドは正常に発行されましたが、システムは、緊急時再始動の間ずっと保持されることになっている再始動データ・セット内で、この情報をログに記録できませんでした。このメッセージには、*type* としてログに記録されなかった次のタイプの情報のうち、1 つ以上がリストされます。

ODBP

OSAM サブプールの定義

ODBD

OSAM データベースの定義

VDBP

VSAM サブプールの定義

VDBD

VSAM データベースの定義

システムの処置

IMS は、正常に処理を続行します。

オペレーターの応答

メッセージにリストされたタイプの情報は、緊急時再始動をしている間は保持されません。以前に加えた変更を残したい場合は、**UPDATE POOL TYPE(DBAS)** コマンドを発行することができます。

問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DFS3190E **CALL xxxx RC=yyyy REASON=zzzz
STATUS="SS"**

説明

予期しない状況が、IMS アダプター (REXX 版) 内部 DL/I 呼び出し (**INQY ENVIRON** または **INQY FIND** など) から戻されました。

システムの処置

EXEC または DL/I 呼び出しの実行が終了されます。

プログラマーの応答

最後に実行された REXXTDLI 呼び出しで渡されたパラメーターを検証してください。原因としては、無効な PCBNAME が考えられます。

DFS3191E **INVALID CALL TO DFSREXX1,
ENV=xxxxxxx**

説明

IMS アダプター (REXX 版) の実行中に、問題が発生しました。DFSREXX1 に対する直接呼び出しが無効です。ENV=NotInit の場合は、DFSREXX1 が正しくバインドされなかったことが原因と推定されます (REUS が必要)。あるいは、DFSREXX1 はアプリケーションに別名割り当てまたはコピーされていて、DFSREXX0 はアプリケーションに取って代わったスタブでした。

システムの処置

EXEC 実行は行われません。

システム・プログラマーの応答

REXX インストール済み環境を検証してください。問題が再発する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DFS3192E **IRXINOUT ERROR DD=xxxxxxx,
RC=yyyyy**

説明

問題があり、IMS アダプター (REXX 版) から DD xxxxxxxx への WRITE ができませんでした。

システムの処置

EXEC 実行は行われません。

プログラマーの応答

IMS 領域の DD 定義を検証してください。

DFS3193E **ERROR LOADING MODULE
xxxxxxx RC=yyyyyyyyy**

説明

モジュール xxxxxxxx が、IBM アダプター (REXX 版) についてロードすることができませんでした。

システムの処置

EXEC 実行は行われません。

システム・プログラマーの応答

REXX インストール済み環境を検証してください。問題が続く場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DFS3194E **ERROR EXECUTING IRXINIT,
RC=xxxxxxx**

説明

システムは、IBM アダプター (REXX 版) について REXX 環境を構築できませんでした。

システムの処置

EXEC 実行は行われません。

システム・プログラマーの応答

REXX インストール済み環境を検証してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、メッセージ・テキストおよび戻りコードを伝えてください。

DFS3195E ERROR EXECUTING IRXSUBCM
ADD: xxxxxxxx RC=yyyyyyyy

説明

システムは、IBM アダプター (REXX 版) について、指定された REXX サブコマンド環境を追加できませんでした。

システムの処置

EXEC 実行は行われません。

システム・プログラマーの応答

REXX インストール済み環境を検証してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DFS3196E ERROR LOADING INTERFACE
MODULE DFSREXX1

説明

システムは、IMS アダプター (REXX 版) モジュール (DFSREXX1) のロードができませんでした。

システムの処置

EXEC 実行は行われません。

プログラマーの応答

IMS モジュール DFSREXX1 が、REXX が稼働している従属領域へアクセス可能なライブラリーにあるか、検証してください。STEPLIB を検証してください。

DFS3197I HALDB ALTER STARTED FOR
NAME=*mastername* PARTITION
NUMBER=*nnnn*

または

HALDB ALTER RESUMED FOR NAME=*mastername*
PARTITION NUMBER=*nnnn*

または

HALDB ALTER ACTIVE FOR NAME=*mastername*
PARTITION NUMBER=*nnnn*

説明

ALTER オプションが指定された **INITIATE OLREORG** コマンドに応答して、この IMS システムは、メッセー

ジ・テキストの *nnnn* の位置に示されている数のパーティションの ALTER 処理を開始または再開しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mastername

変更されている HALDB マスター・データベースの名前。

nnnn

メッセージに HALDB ALTER STARTED と示されている場合、*nnnn* は、HALDB データベース内のパーティションの総数を示しています。

メッセージに HALDB ALTER ACTIVE と示されている場合、*nnnn* は、HALDB データベース内のパーティションの総数を示しています。

メッセージに HALDB ALTER RESUMED と示されている場合、*nnnn* は、変更処理が完了していないパーティションの総数を示しています。

このメッセージのいずれのバージョンの場合も、*nnnn* には、使用不可のパーティションは含まれていません。使用不可のパーティションは変更されません。

システムの処置

IMS は、メッセージ・テキストに示されている数のパーティションの変更を続行します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSORP00

関連タスク

オンライン HALDB データベースの定義の変更
(データベース管理)

DFS3198I HALDB ALTER COMPLETED FOR
NAME=*mastername* PARTITION
NUMBER=*nnnn* STARTED=*ssss*
COMPLETED=*cccc*

または

HALDB ALTER ENDED FOR NAME=*mastername*
PARTITION NUMBER=*nnnn* STARTED=*ssss*
COMPLETED=*cccc*

説明

IMS システムは、変更処理を終了しました。

メッセージ・テキストに **HALDB ALTER ENDED** が示されている場合、IMS システムは、開始した 1 つ以上のパーティションの変更を終了しなかったか、HALDB データベース内の 1 つ以上のパーティションが別の IMS システムによって変更されました。メッセージ・テキストで、COMPLETED= の値は、PARTITION NUMBER= の値より小さくなっています。

HALDB ALTER ENDED メッセージの考えられる原因には以下のものがあります。

- 1 つ以上のパーティションに対する変更処理が完了する前に、**TERMINATE OLREORG** コマンドが発行されました。
- 1 つ以上のパーティションの変更処理中にエラーが発生しました。
- データ共用環境で、HALDB データベース内の 1 つ以上のパーティションが別の IMS システムによって変更されました。

メッセージ・テキストに **HALDB ALTER COMPLETED** が示されている場合、HALDB データベース内のすべてのパーティションに対する変更処理が正常に完了しました。メッセージ・テキストで、COMPLETED= と PARTITION NUMBER= の値は等しくなっています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mastername

変更されている HALDB マスター・データベースの名前。

nnnn

示されている HALDB データベースに含まれているパーティションの総数を示します。

ssss

この IMS システムが変更しようとしたパーティションの数を示します。ssss と cccc の両方が 0 である場合、この IMS システムは、データ共用環境のどのパーティションも変更しませんでした。

cccc

この IMS システムが正常に変更したパーティションの数を示します。ssss と cccc の両方が 0 である場合、この IMS システムは、データ共用環境のどのパーティションも変更しませんでした。

システムの処置

HALDB ALTER ENDED の場合、IMS システムは変更処理を終了します。1 つ以上のパーティションの変更処理が中断されたために HALDB ALTER ENDED メッセージが発行された場合、変更処理は未完了です。

データ共用環境で HALDB ALTER ENDED メッセージが発行され、STARTED と COMPLETED の値が等しい場合、この IMS システムは、開始したすべてのパーティションを完了しました。STARTED および COMPLETED の値が PARTITION NUMBER の値より小さい場合、他の IMS

システムが HALDB データベース内の他のパーティションを変更しています。

HALDB ALTER COMPLETE の場合、HALDB データベース内のすべてのパーティションが正常に変更されました。

システム・プログラマーの応答

HALDB ALTER ENDED の場合、この IMS がデータベース内のすべてのパーティションを変更したわけではない理由を判別してください。いずれかのパーティションの変更処理が中断された場合、このメッセージより前に出されたメッセージを調べて、中断の理由を判別してください。問題を解決した後、OPTION(ALTER) を指定して **INITIATE OLREORG** コマンドを発行し、変更プロセスを再開します。

1 つ以上のパーティションが別の IMS システムによって変更されたために HALDB ALTER ENDED メッセージが発行された場合、他の IMS システムが変更処理を完了しているかどうかを確認します。完了している場合は、オンライン変更を実行できます。

HALDB ALTER COMPLETE の場合、オンライン変更を実行できます。

モジュール:

DFSORP00

関連タスク

[オンライン HALDB データベースの定義の変更 \(データベース管理\)](#)

DFS3199E INTERNAL ERROR xxxxx

説明

内部エラーが、IBM アダプター (REXX 版) で発生しました。結果は判別できません。

システムの処置

EXEC 実行は行われません。

システム・プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、メッセージ・テキストを提出してください。

DFS3200 MSPLINK NOT STOPPED

説明

/MSASSIGN LINK コマンドを処理するために、指定されている MSPLINK を停止する必要があります。

システムの処置

コマンドは実行されません。処理は正常に続行されません。

オペレーターの応答

/PSTOP MSPLINK または **UPDATE MSPLINK NAME(msplinkname) STOP** コマンドを使用して、物理リンクを一時的に停止してください。その上で、**/MSASSIGN** コマンドを再入力してください。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:
ありません。

第 68 章 DFS メッセージ DFS3201 - DFS3250

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3201 **MAXIMUM SESSIONS REACHED**
LINK nnn

説明

ローカル・システム用として指定されている MSPLINK に関して、並列セッションの最大数に達しました。

メッセージ DFS3213I、理由コード =32 も参照してください。

システムの処置

コマンドは実行されません。処理は正常に続行されます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

さらに多くのセッションが保証される場合は、IMS システム定義または一時的 JCL 変更が適切な可能性があります。

問題判別:

ありません。

関連情報

DFS3213I
REMOTE INITIATED LINK START FAILED,
REASON CODE=nn. PARTNER ID xx. INITIATOR
IS NODE *nodename*.

DFS3202 **BIND REJECTED DUE TO**
INCOMPATIBLE BUFFER/RU SIZE
LINK nnn

説明

パートナー・システムがバインドをリジェクトしています。その出力バッファ・サイズが現行システムの入力バッファ・サイズを超えているか、その入力バッファ・サイズが現行システムの出力バッファ・サイズより小さいからです。

メッセージ DFS3213I、理由コード =20 も参照してください。

システムの処置

IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

IMS システム定義が適切です。

問題判別:

10

関連情報

DFS3213I
REMOTE INITIATED LINK START FAILED,
REASON CODE=nn. PARTNER ID xx. INITIATOR
IS NODE *nodename*.

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3203 **BIND REJECTED DUE TO INVALID**
SESSION PARAMETERS LINK nnn

説明

パートナー・システムがバインドをリジェクトしています。それが折衝可能 BIND であり、MSC/VTAM では折衝不能タイプのバインドが必要であるからです。

メッセージ DFS3213I、理由コード =24 も参照してください。

システムの処置

IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答

この問題は、一時的エラーと考えられます。現行システムまたはパートナー・システムからリンクを再始動することにより再試行してください。

システム・プログラマーの応答

バインドの VTAM トレース

問題判別:

36

関連情報

DFS3213I

REMOTE INITIATED LINK START FAILED,
REASON CODE=*nn*. PARTNER ID *xx*. INITIATOR
IS NODE *nodename*.

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3204 LINK TYPE NOT VTAM OR TCP/IP

説明

/CHANGE コマンドで指定したリンクが、TCP/IP タイプ
でも VTAM タイプでもありませんでした。

システムの処置

/CHANGE コマンドは実行されません。処理は正常に
続行されます。

オペレーターの応答

正しいリンクを入力してください。

**DFS3206 REMOTE LOGICAL LINK NOT
ASSIGNED LINK *nnn***

説明

バインドで指定されているパートナー ID で識別してい
る論理リンクが、リモート IMS で異なる物理リンクに
属しています。

メッセージ DFS3213I、理由コード 04 および 08 も参
照してください。

システムの処置

IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答

リモート IMS で /DISPLAY ASMT コマンドを使用し
て、論理物理間リンク割り当てを表示させ、エラーであ
れば、/MSASSIGN MSLINK または UPDATE MSLINK
コマンドを使用して訂正してください。システム・プ
ログラマーにこの問題を通知します。

システム・プログラマーの応答

IMS システム定義が適切であるのは、sysdef が誤りで
ある場合です。

問題判別:

10

関連情報

[DFS3213I](#)

REMOTE INITIATED LINK START FAILED,
REASON CODE=*nn*. PARTNER ID *xx*. INITIATOR
IS NODE *nodename*.

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3207 REMOTE LINK HAS REACHED THE
MAX NO. OF ALLOWABLE
SESSIONS LINK *nnn***

説明

この物理リンクに関して、リモート IMS で許容されて
いるアクティブ・セッションの最大数に達しました。

メッセージ DFS3213I、理由コード 12 も参照してくだ
さい。

システムの処置

IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答

さらに多くのセッションが保証される場合は、リモー
ト・サイトのシステム・プログラマーに通知してくだ
さい。

システム・プログラマーの応答

さらに多くのセッションが保証される場合は、IMS シス
テム定義または一時的 JCL 変更が適切です。

問題判別:

8、10

関連情報

[DFS3213I](#)

REMOTE INITIATED LINK START FAILED,
REASON CODE=*nn*. PARTNER ID *xx*. INITIATOR
IS NODE *nodename*.

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3208 REMOTE PHYSICAL LINK IS
PSTOPPED LINK *nnn***

説明

リモート IMS でリモート端末オペレーターが UPDATE
MSPLINK STOP または /PSTOP MSPLINK コマンドを
入力したので、物理リンクが PSTOPPED されています。

メッセージ DFS3213I、理由コード 16 も参照してくだ
さい。

システムの処置

IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答

(マスター端末) PSTOPPED 状況が保証されていない場合は、/RSTART MSPLINK または UPDATE MSPLINK START コマンドをリモート・サイトで使用してください。

関連情報

DFS3213I
REMOTE INITIATED LINK START FAILED,
REASON CODE=*nn*. PARTNER ID *xx*. INITIATOR
IS NODE *nodename*.

DFS3209 **MULTI-RU ERP OR SYSMMSG
RECEIVED LINK *nnnn***

説明

単独チェーン・メッセージではない、エラー・リカバリー手順 (ERP) メッセージまたは SYSMMSG が、指定されたリンクで受信されました。

システムの処置

示されているリンク ID に関する MSC およびすべてのリンク・セッションが終了します。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別:

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3210I **AREAS RESTART DURING IRLM
RECONNECT HAS COMPLETED**

説明

IRLM 再接続時に、再始動または再オープン・プロセスの、再始動部分が完了しました。再オープン・プロセスが開始されました。

システムの処置

エリア再始動/再オープン・プロセスが続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3211I **MISMATCH RESYNCH CONDITION.
THIS SYSTEM IS PRIMARY|
SECONDARY STSN: *aabbxxxxxyyyy*
RESP: *ccddwwwzzzz* LINK *nnn***

説明

パートナー間の STSN 交換でコールド/ウォーム・ミスマッチ、または示されている時点での非論理的条件が示されました。このメッセージは、通常、ローカルとリモートの両方のマスター端末に表示されます。ただし、場合によっては、非論理的状態をラップアラウンド状態と区別できるのが片側だけであり、したがって、このメッセージがその片側のマスター端末でしか表示されないことがあります。次の値は、16 進値です。

aa

1 次側のアウトバウンド・アクション・コード

bb

1 次側のインバウンド・アクション・コード

xxxx

1 次側のアウトバウンド・シーケンス番号

yyyy

1 次側のインバウンド・シーケンス番号

cc

2 次側のアウトバウンド・アクション・コード

dd

2 次側のインバウンド・アクション・コード

www

2 次側のアウトバウンド・シーケンス番号

zzzz

2 次側のインバウンド・シーケンス番号

システムの処置

これは単なる通知メッセージです。処理は正常に続行されます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別:

1、5、6、15

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3212I **MISMATCH RESYNCH CONDITION ACCEPTABLE|UNACCEPTABLE TO PRIMARY|SECONDARY LINK nnn**

説明

FORCSESS/SYNCSSESS MSLINK マクロ・パラメーターおよびリカバリー論理によって、DFS3211I メッセージで示されているミスマッチのために、その後続のセッション開始が進む場合も進まない場合もあると判別されました。

システムの処置

IMS は、メッセージによって示されているように、セッションの開始を許可しない場合があります。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。開始処理が進行せず、同期が重要でない場合は、ローカル・システムかリモート・システム、または両方のシステムで最初に **/CHANGE** または **UPDATE MSLINK** コマンドを発行することにより、開始を強制できます。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別:

1、5、6、15

関連情報

DFS3211I

MISMATCH RESYNCH CONDITION. THIS SYSTEM IS PRIMARY|SECONDARY STSN: aabbxxxxxyyyy RESP: ccddwwwwzzzz LINK nnn

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3213I **REMOTE INITIATED LINK START FAILED, REASON CODE=nn. PARTNER ID xx. INITIATOR IS NODE nodename.**

説明

ノード (*nodename*) およびパートナー ID (*xx*) で識別されているリモート IMS システムが、リンクの開始を試み、次の理由コード (*nn*) の理由で失敗しました。

コード

理由

04

示されているパートナー ID がこのシステムに存在しないか、**NODENAME = nodename** の論理リンクを検出できなかった。

08

示されているパートナー ID は、このシステムの別の物理リンクの下にあるか、存在しているが、物理リンクに未割り当てである。

12

関連ローカル物理リンクに関して、セッションの最大数に達している。

16

関連ローカル物理リンクは **PSTOPPED** されている。

20

要求されたリンクに関して指定されたバッファ・サイズが、パートナーの場合と互換性がない。

24

受信されたバインド・パラメーターが無効である。

28

1 次と 2 次の LU 間に極性のミスマッチがある。コールドで起動した側が最後のセッション障害時に 2 次側でした。あるいは、両側がともにウォームで起動した場合は、少なくとも一方は間違っただけの後で再始動しました。

32

示されているパートナー ID は、すでにセッション中である。

36

極性のミスマッチ。両側がともに 2 次 LU 状況を要求しています。

システムの処置

IMS がリンクの開始を妨げます。処理は正常に続行されます。

オペレーターの応答

QUERY MSLINK または **/DISPLAY LINK** コマンドを使用して、リンク (複数の場合もある) の状況を判別してください。理由コードに応じて、次のように続けてください。

コード

応答

04

システム・プログラマーに通知してください。

08

/DISPLAY ASMT を使用して、論理物理リンク間割り当てを表示させ、エラーである場合は、**/MSASSIGN LINK** または **UPDATE MSLINK** を使用して訂正してください。システム・プログラマーに通知してください。

- 12 システム・プログラマーに通知してください。
- 16 セッションが保証されている場合は、このシステムからリンクを再始動してください。
- 20 システム・プログラマーに通知してください。
- 24 システム・プログラマーに通知してください。いずれかのシステムから再試行してください。
- 28 パートナーをウォーム・リスタート (/ERE) で再始動するか、両側をコールド・リスタートするか、こちら側からリンクを再始動するか、正しいチェックポイントの後に続けて再始動してください。
- 32 /PSTOP を使用してリンクを停止するか、VARY NET INACT APPLID を使用して、前のセッションを終了します。新しいセッションを確立します。
- 36 両側がともに適正なチェックポイントからしどうしたか検証してください。この問題が発生する可能性があるのは、両側がともにウォーム・スタートした場合のみです。この問題を回避するには、片側をウォーム 1 次に設定するか、コールド状況に設定するか、いずれかにする必要があります。

システム・プログラマーの応答

次のように、理由コードに応じて異なります。

コード
応答

- 04 IMS システム定義が必要です。
- 08 IMS システム定義が必要な場合があります。
- 12 さらに多くのセッションが保証される場合は、IMS システム定義または一時的 JCL 変更が必要である可能性があります。
- 16 該当しません
- 20 IMS システム定義が必要です。
- 24 バインドの VTAM トレースを取ってください。
- 28 ありません。
- 32 リンクがセッション状況にあって、保証されていない場合は、メモリー・ダンプを作成してください。IMS リンク・トレースおよび VTAM トレースを実行

して、リンクがセッション状況のままになっている理由を判別する必要がある場合もあります。

- 36 リンクがセッション状況にあって、保証されていない場合は、メモリー・ダンプを作成してください。IMS リンク・トレースおよび VTAM トレースを実行して、両方のリンクがともに 2 次側状況を要求している理由を判別する必要がある場合もあります。

問題判別:

8、10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3214

COMMAND COMPLETED WITH EXCEPTIONS

説明

トランザクションの 1 つまたは幾つかでは、次のすべてには応じられませんでした。

1. トランザクションが停止する。
2. このトランザクション・コードに関しては、メッセージはキューに入らない。
3. ローカル APPLCTN が SYSDEF で定義される。

システムの処置

コマンドは、上記のトランザクションを除くすべてに関して完了します。

オペレーターの応答

QUERY TRAN SHOW(ALL) または /DIS TRAN ALL コマンドを使用して、再割り当てされなかったトランザクション、それらのうち停止されなかったもの、またはメッセージがキューに入れられているものを判別します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

ありません。

DFS3215W

QMGR DISCARDED NON-RECOVERABLE MESSAGE(S) DUE TO CQSPUT COMMIT FAILURE

説明

1 つ以上のリカバリー不能なメッセージが、正常にコミットされませんでした。そのようなメッセージは廃棄されました。IMS DFS3215W メッセージは、廃棄されたメッセージの数に関係なく、チェックポイント間隔ごとに一度だけ出されます。廃棄される各メッセージに

ついて、1 セットのタイプ 67D00A 診断レコードがログに記録されます。

システムの処置

メッセージは、ローカル IMS から削除されます。共有キュー上のステージング・キューに入れられたメッセージのすべての部分が削除されます。ステージング・キューからの削除が失敗した場合、次のチェックポイントで再試行されることになります。

プログラマーの応答

DFS3215W メッセージが予想されるのは、例えば、IMS メッセージ・キュー基本構造またはオーバーフロー構造が満杯になり、キューまたは構造にこれ以上メッセージが入れられないような、特定の場合です。このような場合、構造のサイズを大きくすること、(ランナウェイ・メッセージの場合は) 構造に含まれている多数のメッセージのソースを停止することにより、構造満杯の問題を修正してください。

DFS3215W メッセージの原因が不可解な場合、DFS3215W メッセージより 2 つ前のチェックポイントから DFS3215W の次のチェックポイントまでの IMS ログを保管し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して問題を報告してください。

問題判別:

タイプ 67D00A 診断レコードを確認して、CQSPUT 要求の状況を判別してください。67D00A レコードのヘッダーに、エラーを起こした機能とその説明が含まれているはずですが。

モジュール:

DFSQXF00

**DFS3216A STRUCTURE *structure_name* IS
 BEING DELETED. IT WILL BE
 REMOVED FROM AREA *area_name***

説明

構造への接続を試みているときに、IMS は構造の状況をチェックするために **IXCQUERY** コマンドを発行しました。IMS は、構造が削除中であることを示す戻りコード **QUASTRCFHOLD** を受け取りました。

システムの処置:

エリアがカップリング・ファシリティーにロードされていません。

オペレーターの応答:

この構造の削除が正しい場合は、カップリング・ファシリティー・ポリシーから構造を除去してください。そうでない場合は、構造を再度割り振り、**STOP AREA** コマンドの後に **START AREA** コマンドを続けて発行して構造に接続してください。

モジュール:

DBFVXAS0

DFS3217

**POLARITY MISMATCH ON
SESSION RESTART**

説明

このメッセージは、コールド・スタートであった IMS システムの マスター端末に表示されます。以前に 1 次パートナーであったのがウォーム・パートナーであるからです。セッション再始動には、このシステムが適切に再始動される (**/ERE**) か、**/RSTART** コマンドをウォーム・パートナー上で入力する必要があります。また、両側がともにウォーム・スタートであった可能性もあり、その場合は、少なくとも片側は、間違ったチェックポイントの後で再始動しました。

メッセージ DFS3213I、および理由コード 28 と 36 も参照してください。

システムの処置

IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答

上記の説明を参照してください。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

ありません。

関連情報

906 ページの『DFS3213I』
REMOTE INITIATED LINK START FAILED,
REASON CODE=*nn*. PARTNER ID *xx*. INITIATOR
IS NODE *nodename*.

DFS3218

**INVALID RESTART MESSAGE OR
RESTART RESPONSE MESSAGE
RECEIVED RSN=*xyyy*, LINK *link#***

説明

MSC リンクが再始動されました。再始動メッセージの交換中に、無効または予期しないメッセージが検出されたか、再始動メッセージの値がパートナー IMS システム間の非互換 MSC リンク定義を示しました。

メッセージ内の項目は以下のとおりです。

xx

モジュールを識別します。

01

DFSCM7D0 (VTAM 再始動ルーチン)

02

DFSCMSW0 (CTC または MTM 再始動ルーチン)

03

DFSCM7A0 (VTAM 再始動ルーチン)

04 DFSCM7B0 (VTAM 再始動ルーチン)

05 DFSTC7B0 (TCP/IP 再始動ルーチン)

yy

理由コード。

01 パートナー IMS リリースがゼロであるか、または無効です。一般的に、MSC は 2 つ下までのバージョンまたは 2 つ上までのバージョンをサポートします。例えば、バージョン 10 はバージョン 8 と 9、および 2 つ上までのバージョンをサポートします。パートナーがサポートされるリリースであることを確認してください。リリースがサポートされる場合、この問題は IMS 内部エラーです。

02 パートナー IMS は、拡張接頭部をサポートしません。拡張接頭部サポートは、IMS バージョン 5 で導入され、IMS バージョン 8 以上に接続する場合は必要です。パートナーがサポートされるリリースであることを確認してください。リリースがサポートされる場合、この問題は IMS 内部エラーです。

03 パートナー IMS ID が無効です。リンクの両側で、2 文字のパートナー ID が同じでなければなりません。

04 無効な再始動メッセージが検出されました。おそらく、再始動メッセージ ID が無効です。この問題は IMS 内部エラーです。

05 帯域幅が非互換です。パートナー IMS システムは、両方とも BANDWIDTH (OFF) または BANDWIDTH (ON) でなければなりません。

06 無効な FMH5 です。MSC VTAM の場合、再始動メッセージは FMH5 ブロックによって進められる必要があります。この問題は IMS 内部エラーです。

07 FMH5 に、無効な DPN フィールドが含まれていました。MSC VTAM の場合、FMH5 ブロックに DFSCMS00 がなければなりません。この問題は IMS 内部エラーです。

08 バッファースizeが等しくありません。リンクの両側で、MSLINK バッファースizeが同じでなければなりません。

09 QMGR によって使用されている QMBA または QLST ブロックの帯域幅再始動中にストレージを取得しようとしてエラーが発生しました。この問題は、おそらくストレージ不足のエラーです。そうでない場合、これは IMS 内部エラーです。

の問題は、おそらくストレージ不足のエラーです。そうでない場合、これは IMS 内部エラーです。

10 V10 VTAM リンクでバッファの再作成中にエラーが発生し、VTAM 制御ブロックはバージョン 8 またはバージョン 9 のパートナーと非互換でした。この問題は、おそらく IMS 内部エラーです。

11 TCP/IP 総称リソース・グループの総称 IMS ID を指定している MSC TCP/IP 物理リンク上で、論理リンクを始動しようとした。ただし、並行する論理リンクが、既にアクティブであるか、IMS システムの IMS ID を指定している別の物理リンク上で ERE 状況になっているかのいずれかです。同じ IMS システムへのすべての物理リンクでは、ある TCP/IP 総称リソース・グループの同じ総称 IMS ID か、その IMS システムの IMS ID を指定する必要があります。

12 IMS システムの IMS ID を指定している MSC TCP/IP 物理リンク上で、論理リンクを始動しようとした。ただし、並行する論理リンクが、既にアクティブであるか、TCP/IP 総称リソース・グループの総称 IMS ID を指定している別の物理リンク上で ERE 状況になっているかのいずれかです。同じ IMS システムへのすべての物理リンクでは、ある TCP/IP 総称リソース・グループの同じ総称 IMS ID か、その IMS システムの IMS ID を指定する必要があります。

13 TCP/IP 総称リソース・グループの総称 IMS ID を指定している MSC TCP/IP 物理リンク上で、論理リンクを始動しようとした。ただし、IMS システムには、アクティブな物理リンクであって、競合する IMS ID 値を指定しているものがあります。同じ IMS システムへのすべての物理リンクでは、ある TCP/IP 総称リソース・グループの同じ総称 IMS ID か、その IMS システムの IMS ID を指定する必要があります。この問題は、内部論理エラーです。

14 IMS システムの IMS ID を指定している MSC TCP/IP 物理リンク上で、論理リンクを始動しようとした。ただし、IMS システムには、アクティブな物理リンクであって、競合する IMS ID 値を指定しているものがあります。同じ IMS システムへのすべての物理リンクでは、ある TCP/IP 総称リソース・グループの同じ総称 IMS ID か、その IMS システムの IMS ID を指定する必要があります。この問題は、内部論理エラーです。

15 TCP/IP 総称リソース・グループの総称 IMS ID を指定している MSC TCP/IP 物理リンク上で、

論理リンクを始動しようとした。ただし、ローカル IMS システムまたはリモート IMS システムでの物理リンクについて、STOGENLGN 状況が設定されています。

- 16** MSC TCP/IP 物理リンク上で、論理リンクを始動しようとした。ただし、ローカル IMS システムまたはリモート IMS システムでの物理リンクについて、STOLGN 状況が設定されています。
- 17** IMS DFSDCxxx PROCLIB メンバーの GENIMSID= パラメーターの値と、IMS Connect PROCLIB メンバーの GENIMSID= パラメーターの値が、同じではありません。MSC TCP/IP リンクに適用されます。
- 18** IMS DFSDCxxx PROCLIB メンバーの GENIMSID= パラメーターが指定されていますが、IMS Connect HWSCFGxx PROCLIB メンバーの GENIMSID= パラメーターの値が空白ではありません。
- 19** リモート・パートナー IMS システムが、IMS ID を使用して、TCP/IP 総称リソース・グループ内の IMS システムにログオンしようとした。TCP/IP 総称リソース・グループ内の IMS システムにログオンするには、リモート IMS システムは、参加 IMS システムそれぞれの DFSDCxxx PROCLIB メンバーの GENIMSID パラメーターで指定されているとおりに、TCP/IP 総称リソース・グループの総称 IMS ID を使用する必要があります。
- 20** parmlib メンバー DFSDCxxx の GENIMSID は、実サブシステム ID (IMSID) または XRF サービス名 (RSENAME) のいずれかと同じ値です。これらは異なる必要があります。
- 21** リモート IMS から XRF 代替 IMS への再始動メッセージが受け取られました。再始動は DFS3218 RSN=0521 でリジェクトされました。このイベントは、GENIMSID を使用する XRF 環境では正常な条件です。内部でエラー条件が発行され、IMS Connect がこの再始動をリジェクトするよう知らせます。アクティブ IMS への再始動メッセージが受理されます。このメッセージは、MTO 対しては発行されません。

link#

リンクを識別します。

システムの処置

IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答

考えられる原因および処置については、理由コードを参照してください。DFS3218 理由コードは、マクロ DFSKEYRC で説明されています。

リンクのそれぞれの側で **QUERY MSLINK**、**/DISPLAY LINK**、または **/DISPLAY LINK OPTION BUFSIZE** コマンドを使用して、リンクに互換性があるかどうか判断します。エラーの原因が非互換のリンク・パラメーターである場合、**UPDATE MSLINK** または **/UPDATE MSLINK** コマンドを使用して、互換性のあるパラメーターを設定します。引き続きエラーが発生する場合は、システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

エラーの原因がリンクのこちら側とそのパートナーの間の非互換リンク・オプションでない場合、あるいは非互換性を判別できないか、**UPDATE MSLINK** コマンドを使用して訂正できない場合、エラー発生時に作成された 6701 MSSx ログ・レコードを分析してください。

タイプ 6701-MSSx (x=1、2、3、および 4) ログ・レコードを印刷するには、以下の制御カードを使用して DFSERA10 ログ印刷ユーティリティを使用します。

```
CONTROL CNTL
OPTION PRINT 0=5,V=6701,L=2,C=M,E=DFSER30
OPTION PRINT 0=9,V=MSS,L=3,T=C,C=E,E=DFSER30
```

TCP/IP 総称リソースの使用に関連したエラーがある場合は、必ず、IMS システムへのすべての MSC TCP/IP 物理リンクで、TCP/IP 総称リソースの IMSID、または IMS システムの IMS ID が指定されているようにしてください。始動しようとしているリンクで TCP/IP 総称リソースが使用される場合は、リンクを、TCP/IP 総称リソース・グループ内の別の IMS システムに向かわせるよう試行してください。

次のリンク状況のいずれかに関連したエラーがある場合には、**START(LOGON)** または **START(GENLOGON)** キーワードを使用して、**/RSTART LINK** コマンドまたは **UPDATE MSPLINK** コマンドを発行します。

- PSTOPPED
- PSTOPGEN
- STOLGN
- STOGENLGN

タイプ 1 の **/PSTOP MSPLINK** コマンドは、DFSDCxxx PROCLIB メンバーの GENIMSID パラメーターの指定に依存して、適切な停止状況 (PSTOPPED か PSTOPGEN のいずれか) を設定します。状況が ACTIVE である場合には PSTOPGEN が設定され、DISABLED である場合には PSTOPPED が設定されます。この状況は、**/DISPLAY ASMT MSPLINK** または **QUERY MSPLINK NAME(msplink_name) SHOW(STATUS)** コマンドによって表示することができます。

問題判別:

1、5、6、7、17b

モジュール:

DFSCMSW0、DFSCM7D0、DFSCM7A0、DFSCM7B0、DFSTC7B0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3220I RECEIVED ERROR RETURN CODE.
REQ CODE=xx, REG 0=yy, REG
15=zz, LINK=nnn, CLSDST
SCHEDULED.**

説明

次の 2 つの条件のうちいずれかが存在します。

1. RPL 要求が失敗した。
2. VTAM のストレージ不足により、VTAM 要求 (EXECRPL を使用) が 25 回失敗した。IMS が MSC/VTAM リンクを終了します。REG15 は X'04'、REG0 は X'08' です。

次の情報が示されます。

コード 意味

xx
10 進要求コード

yy
IMS に制御権が戻された時点で VTAM によってレジスター 0 に置かれる 値 (10 進数)

zz
IMS に制御権が戻された時点で VTAM によってレジスター 15 に置かれる 値 (10 進数)

nnn
要求が失敗した MSC/VTAM リンク ID

システムの処置

示されているリンクに関する MSC/VTAM リンク・セッションが終了します。関係のある情報を含む、ID が MSSx (x=1、2、または 3) の IMS ログ・レコード (X'67') が書き込まれました。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

この戻りコードの原因については、「VTAM V4R3 for MVS/ESA Programming」および「VTAM Messages and Codes」を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3221 SHOULD NOT OCCUR TYPE LOGIC
ERROR LINK nnn**

説明

非論理的条件が、MSC/VTAM 装置従属モジュールによって、示されているリンク *nnn* に関して検出されました。

システムの処置

示されているリンクに関する MSC/VTAM リンク・セッションが終了します。関係のある情報を含む、ID が MSSx (x=1、2、または 3) の IMS ログ・レコード (X'67') が書き込まれました。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3222I UNEXPECTED STATUS|FORCE
CLEANUP DONE | LINK=nnn,
UNDEFN | SIMLOG | OPNDST |
CLSDST | SESSNC | RECEIV |
SEND | RESTR | RQSESS | OPNSEC
| TRMSESS | ***** , RC=xx,
FDB2=yy, LOSTERM | NSEXIT |
UNBIND= zz, SENSE=wwww**

説明

UNEXPECTED STATUS がメッセージに表示されている場合は、RPL 要求 (不明の場合は ***** を含む、大括弧内の値の 1 つによって示される) の結果が、VTAM からの予想外の戻り状況となりました。

FORCE CLEANUP DONE がメッセージに表示されている場合は、RPL 要求 (不明の場合は ***** を含む、大括弧内の値の 1 つによって示される) が **/PSTOP LINK FORCE** コマンドによって取り消され、また、NSEXIT イベントが IMS によってシミュレートされて、それが原因でリンクが PSTOPPED および IDLE になりました。

メッセージには、次の情報が含まれています。

コード
意味

nnn

条件が生じた MSC/VTAM リンク ID

xx

RPL の RPLRTNCD フィールドの 16 進値

yy

RPL の RPLFDB2 フィールドの 16 進値

zz

16 進 IMS LOSTERM/NSEXIT/UNBIND 標識 (zz 値の説明については、メッセージ DFS970I を参照してください。)

wwwww

RPL の RPLSSNSI フィールドの 16 進値

システムの処置

MSC/VTAM セッションは、指定されているリンクに関して終了します。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

コードの意味についての説明は、「*VTAM Messages and Codes*」(SC31-6493)を参照してください。

問題判別:

1、5、6、7、17b

関連情報

[356 ページの『DFS970I』](#)

(UNEXPECTED STATUS| OPNDST/OPNSESS FAILED| CLSDST/TRMSESS FAILED| GENCB/ MODCB ERROR| FORCED CLEANUP DONE| SESSION FAILURE), NODE *node name*, USER/*user name*| N/A, (UNDEFN | SETLOG | SIMLOG | OPNDST | OPNSESS | CLSDST | SEND|RECEIV | TRMSES | RQR | RESTSR | INQUIR|SESSNC | *****), RC=,FDB2=, LOSTERM=|NSEXIT=| UNBIND=, SENSE=, REASON=

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3223

**INVALID EXCP RESPONSE
RECEIVED LINK *nnn***

説明

指定された MSC/VTAM リンク *nnn* で例外応答を受信しましたが、0846 タイプの例外応答ではありませんでした。

システムの処置

MSC/VTAM リンク・セッションは、示されているリンク ID に関して終了します。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3224

**EXCP RESPONSE RECEIVED FOR
WRONG RU NUMBER LINK *nnn***

説明

RU 番号が無効のため、0846 例外応答が、示されているリンク *nnn* で受信されました。

システムの処置

リンク・セッションは、示されている MSC/VTAM リンク ID に関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3225

**UNEXPECTED RRN RESPONSE
RECEIVED LINK*nnn***

説明

予期しない VTAM RRN 応答が、示されているリンク *nnn* で受信されました。

システムの処置

リンク・セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3226 CHAINING ERROR ON DATA
RECEIVED LINK *nnn***

説明

SNA チェーニング・エラーが、示されているリンク *nnn* で受信された RU で検出されました。

システムの処置

セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3227 RU SEQUENCE ERROR ON DATA
RECEIVED LINK *nnn***

説明

SNA シーケンス・エラーが、示されているリンク *nnn* で受信された RU で検出されました。

システムの処置

セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3228 BRACKETS ERROR ON DATA
RECEIVED LINK *nnn***

説明

SNA 大括弧エラーが、示されているリンク *nnn* で受信された RU で検出されています。

システムの処置

セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3229 UNEXPECTED FMH ON DATA
RECEIVED LINK *nnn***

説明

FMH 付き RU が、示されている MSC/VTAM リンク *nnn* で受信されましたが、FMH が予期されていないときでした。

システムの処置

セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3230 EXPECTED FMH7 NOT RECEIVED LINK *nnn*

説明

示されている MSC/VTAM リンク *nnn* で予測されていたのは、選択受信側 ERP メッセージでしたが、それとは別のものが受信されました。

システムの処置

セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3231 INVALID FMH5 RECEIVED LINK *nnn*

説明

無効の FMH タイプ 5 付き RU が、示されている MSC/VTAM リンク *nnn* で受信されました。

システムの処置

セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3232 EXPECTED FMH5 NOT RECEIVED LINK *nnn*

説明

予想されていた FMH タイプ 5 が、示されているリンク *nnn* で受信された RU で生じませんでした。

システムの処置

セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3237 UNEXPECTED FME RESPONSE
 RECEIVED LINK *nnn***

説明

予期しない SNA FME 応答が、示されている MSC/VTAM リンク *nnn* で生じました。

システムの処置

セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3238 INVALID/UNEXPECTED
 INFORMATION RECEIVED LINK
 *nnn***

説明

SNA コマンドまたは LU が受信されましたが、MSC/VTAM でサポートされていないものです。

システムの処置

セッションは、示されているリンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3239 CLSDST/TERMSS ISSUED LINK
 *nnn***

説明

VTAM CLSDST または TERMSESS が、示されている MSC/VTAM リンク *nnn* で、オペレーター要求と以前に検出されたエラー状態のいずれかの結果として発行されています。

システムの処置

セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

ありません。

**DFS3240 DATA RECEIVED EXCEEDS
 ALLOCATED INPUT BUFFER LINK
 *nnn***

説明

示されている MSC/VTAM リンク *nnn* で受信されたデータが、入力バッファー割り振りを超えました。

システムの処置

セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別:

1、5、6、7、17b

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3241	DATA FRAME COUNT DOES NOT AGREE WITH RPL BYTES-RECEIVED COUNT LINK <i>nnn</i>
----------------	--

説明

MSC データ・フレーム・カウント (MSC RU の先頭の 2 バイト) が、示されている MSC/VTAM リンク *nnn* に関して、RECEIVE RPL の VTAM によって示されている値に合致しません。

システムの処置

セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別

1、5、6、7、17b

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3242I	PARTNER SHUTTING DOWN LINK <i>nnn</i>
-----------------	--

説明

リンク・パートナーに送信された最後のメッセージがリジェクトされましたが、そのメッセージが到着したのが、パートナーがシャットダウンをちょうど始めたところであったためです。

システムの処置

メッセージは、現行システムによってキューに戻されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

ありません。

DFS3243I	PARTNER SHUTTING LINK DOWN LINK <i>nnn</i>
-----------------	---

説明

リンク・パートナーに送信された最後のメッセージがリジェクトされましたが、そのメッセージが到着したのが、パートナーがリンク・シャットダウンをちょうど始めたところであったためです。

システムの処置

メッセージは、現行システムによってキューに戻されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

ありません。

DFS3244I	PARTNER NOT ACCEPTING INPUT LINK <i>nnn</i>
-----------------	--

説明

リンク・パートナーに送信された最後のメッセージがリジェクトされました。このリンク上で入力がかこれ以上受け付けられなくなるようなエラー条件を、パートナーが検出したためです。

システムの処置

メッセージは、現行システムによってキューに戻されます。

オペレーターの応答

エラーの原因について、パートナーのシステム・オペレーターに連絡してください。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

問題判別:

ありません。

DFS3245 **INVALID RESPONSE TYPE
REQUESTED BY RU RECEIVED
LINK nnn**

説明

受信された RU が、誤ったタイプの SNA 応答を要求して、MSC/VTAM プロトコルに違反しています。

システムの処置

セッションは、示されているリンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別:

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3246 **INVALID CD INDICATOR SET ON
RU RECEIVED LINK nnn**

説明

受信された RU に、MSC/VTAM プロトコルに違反して、CD 標識があります。

システムの処置

セッションは、示されているリンクに関して終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別:

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3247I **UNEXPECTED FME AND RRN
RESPONSE RECEIVED ON LINK
nnnn**

説明

予期しない SNA FME に RRN を加えた応答が、示されている VTAM リンクで受信されました。

システムの処置

示されているリンク ID に関する MSC およびすべてのリンク・セッションが終了します。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

問題判別を参照してください。

問題判別:

1、5、6、7、17b

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3248W **A LONG DELAY IN LOG
SURVEILLANCE**

説明:

XRF アクティブ IMS でロギング・アクティビティが中断されている時間が、IMS PROCLIB データ・セットの DFSHSBxx メンバーの LOG= パラメーターに指定されている限度より長くなっています。

システムの処置:

IMS は正常に処理を続行します。

オペレーターの応答:

XRF アクティブ IMS システムを調べてロギング・アクティビティが長時間にわたって中断されている理由を判別し、異常条件が存在する場合には訂正します。

モジュール:

DFSHTK00

DFS3249W **A LONG DELAY IN LINK
SURVEILLANCE**

説明:

アクティブ IMS で XRF LINK 監視が中断されている時間が、IMS PROCLIB データ・セットの DFSHSBxx メンバーの LNK= パラメーターに指定されている限度より長くなっています。

システムの処置:

IMS は正常に処理を続行します。

オペレーターの応答:

XRF アクティブ IMS システムを調べて XRF ISC LINK 監視が長時間にわたって中断されている理由を判別し、異常条件が存在する場合には訂正します。

モジュール:
DFSHTK00

DFS3250	COMMAND NOT ENTERED FROM MASTER TERMINAL OR SYSTEM CONSOLE
----------------	---

説明

制限付きバージョンの **/LOCK** または **/UNLOCK** コマンドが、リモート端末から入力されましたが、これが許されるのは、マスター端末またはシステム・コンソール

からの場合のみです。キーワード DB、PROG、または TRAN を指定した **/LOCK** コマンド、およびキーワード DB、PROG、TRAN、または SYSTEM を指定した **/UNLOCK** コマンドが入力できるのは、マスター端末またはシステム・コンソールからのみに限られます。

システムの処置

/LOCK または **/UNLOCK** コマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

(ローカル/リモート端末オペレーター) コマンドをシステム・コンソールまたはマスター端末で再入力してください。

第 69 章 DFS メッセージ DFS3251W - DFS3300I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS3251W A LONG DELAY IN RDS
 SURVEILLANCE**

説明:

アクティブ IMS で XRF RDS (再始動データ・セット) 監視が中断されている時間が、IMS PROCLIB データ・セットの DFSHSBxx メンバーの LNK= パラメーターに指定されている限度より長くなっています。

システムの処置:

IMS は正常に処理を続行します。

オペレーターの応答:

XRF アクティブ IMS システムを調べて RDS 監視が長時間にわたって中断されている理由を判別し、異常条件が存在する場合には訂正します。

モジュール:

DFSHTK00

**DFS3252I DATA EXISTS ON yyy LOG THAT
 DOES NOT EXIST ON zzz LOG.**

説明

CLS モードでログ・リカバリー・ユーティリティーを処理中に、DFSULG20 は、一方の入力ログにデータが存在するものの、もう一方のログには存在しないことを検出しました。また、WADS からログ・レコードをコピーするために DFSFDLW0 が呼び出されたときに、すべてのレコードはすでにいずれかの入力ログに存在しました。このシナリオが生じるのは、例えば、いずれかの OLDS に書き込みエラーがある場合です。これは必ずしもエラー状態であるとは限りません。ログ保存ユーティリティーもこの不整合を検出し、すべてのデータがある OLDS から SLDS または RLDS を作成するからです。

どちらの場所にどちらが適切に応じて、メッセージ・テキストの yyy と zzz の値は PRIMARY と SECONDARY であるか、またはその逆の場合があります。

システムの処置

ユーティリティーはエラー・ブロック (書き込みエラーが検出された場合、ファイル終了マーカーである可能性があります) をダンプし、CLS モードで処理を続行します。どちらの OLDS にも、DBRC のエラーであるとしてフラグが立てられることはありません。

ユーザーの処置

応答は必要ありません。1 つの OLDS に、想定されているすべてのデータが入っているわけではないことを認識するように、このメッセージは通知として出されます。ログ・リカバリー・ユーティリティーを実行する前

に、書き込みエラーなどの問題が OLDS で検出されたことがすでに分かっていた可能性があります。

問題判別:

一方の OLDS にあり、もう一方の OLDS がないブロックを判別するには、IMS Problem Investigator for z/OS または DFSERA10 などのツールを使用して、タイプ 4800 ログ・レコードを調べることができます。ブロックごとに 1 つのタイプ 4800 ログ・レコードがあり、ブロック・シーケンス番号などのフィールドが含まれています。

**DFS3253W WADS PROCESSING WARNING.
 FUNCTION = XX. REASON = YY.**

説明

データ機能記憶管理サブシステム (DFSMS) は、WADS をオープンすると、ジョブ・ログ内に IEC メッセージを書き込みます。DFS3253W メッセージは、ジョブ・ログ内の IEC メッセージがそれ以上の処置を必要としないことを示します。

以下の表に、関数 XX および対応する理由 YY の考えられる値をリストします。

関数 XX	理由 YY	説明
04 (OPEN)	ACBERFLG の内容	<p>WADS のオープン時に通知メッセージが生成されました。ACBERFLG について詳しくは、z/OS: VSAM マクロ命令の OPEN 戻りコードと理由コードを参照してください。</p> <p>XX = 04 である場合の ACBERFLG の最も一般的な理由コードは x'74' です。これは、データ・セットが正しくクローズされなかったことを示しています。これは、例えば、IMS の異常終了時に WADS をクローズできなかったために、IMS の異常終了後にログ・リカバリー・ユーティリティー (DFSULTR0) が実行される場合に発生します。</p>

システムの処置

IMS は正常に処理を続行します。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

問題判別:
ありません。

モジュール:
DFSFDLW0

関連資料

[z/OS: VSAM マクロ命令の OPEN 戻りコードと理由コード](#)

DFS3254I **BUFSTOR FORCED TO 31 BECAUSE
BLKSIZE NOT A MULTIPLE OF 4K**

説明

OLDS のログ・バッファー用に 64 ビットのアドレス可能ストレージを取得する前に、IMS は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの OLDSDEF ステートメントに定義された BLKSIZE パラメーターの値を検査します。IMS は、BLKSIZE パラメーター値が 4096 の倍数でない場合に、このメッセージを出します。

システムの処置

IMS は、OLDSDEF ステートメントで 64 ビットのアドレス可能ストレージを指定する BUFSTOR=64 というパラメーターをオーバーライドして、ログ・バッファー用に 31 ビットのアドレス可能ストレージを取得して、処理を続行します。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

BLKSIZE に指定された値が 4096 の倍数でない限り、IMS は、必ず、OLDS ログ・バッファー用に 31 ビットのアドレス可能ストレージを取得します。OLDS ログ・バッファー用に 64 ビットのアドレス可能ストレージを使用する場合は、BLKSIZE パラメーターに指定された値が 4096 の倍数であることを確認してください。

モジュール:

DFSRSLO

DFS3255I **MAXSESS TOO LARGE FOR MSC/
VTAM LINK nnn, DEFAULTING TO
676**

説明

システム定義時に定義された MAXSESS フィールドと NLXB JCL パラメーターの合計が、示されている nnn MSC/VTAM リンクに関して、676 を超えています。許容最大 MAXSESS は 676 です。

システムの処置

関連 LCB の MAXSESS フィールドが 676 に設定され、処理は続行されます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

このリンクに関するシステム定義の MAXSESS フィールドをチェックし、IMS 制御領域 JCL の NLXB パラメーターをチェックしてください。

DFS3256I **OPEN FAILED ON ddname -
DURING ONLINE LOG READ (xx)**

または

OPEN/ALLOCATION FAILED ON *ddname*

または

OPEN FAILED ON *ddname* - DD CARD SPECIFICATION ERROR

説明

ddname で指定されたログ・データ・セットがロギングのために開けなかったか、割り振りができませんでした。DD ステートメントが正しく指定されなかったため、もしくは事前割り振りデータ・セットに矛盾する DCB 属性があったためです。

このメッセージの最初の形式が該当するのは、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) と 先行書き込みデータ・セット (WADS) のいずれかに関する、ログ書き込み操作の場合です。

このメッセージの 2 番目の形式が出されるのは、次の条件に該当する場合です。

- ブロック・サイズ (BLKSIZE) にメッセージ DFS2207I で表示された値とは異なるものがある、OLDS が開かれたとき。
- 十分なスペースが割り振られていない先行書き込みデータ・セット (WADS) が開かれたとき。
- RECFM が VB ではないとき。
- 拡張フォーマットの OLDS が検出されましたが、このリリースの IMS では、拡張フォーマットの OLDS は使用できません。

このメッセージの 3 番目の形式が表示されるのは、ログ読み取り操作で必要な OSAM DCB で、GETMAIN ストレージが利用不能のときです。また、OSAM OPEN 機能が失敗したときも出されます。GETMAIN ストレージが利用不能のときは、*xx* に *x'FF'* という値が入ります。OSAM OPEN 機能が失敗したときは、OSAM OPEN 機能によって戻された戻りコードの値が *xx* になります。

システムの処置

WADS を開いている最中にエラーが発生し、1 つ以上の WADS がまだ使用可能な場合、IMS は処理を続行します。使用可能な WADS がないときは、メッセージ DFS3262I が出され、IMS は処理を続行します。

OLDS を開いている最中にエラーが発生し、3 つ以上の OLDS がまだ使用可能な場合、IMS は処理を続行します。使用可能な OLDS が 2 つ以下のときは、メッセージ DFS3260I が出されます。メッセージ DFS3260I に関するシステムの処置を参照してください。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

関連情報

659 ページの『DFS2207I』

IMS LOG(S) BLOCKSIZE=xxxxx, BUFNO=yyyy

924 ページの『DFS3260I』

ONLINE LOG DATA SET SHORTAGE - NEED ANOTHER DATA SET

925 ページの『DFS3262E』

NO DATA SET AVAILABLE FOR LOG WRITE AHEAD

DFS3257I ONLINE LOG NOW OPENED ON *ddname*

または

ONLINE LOG NOW SWITCHED - FROM *ddname1* TO *ddname2*

または

ONLINE LOG CLOSED ON *ddname*

または

OLDS|WADS DEALLOCATED ON *ddname*

説明

このメッセージの最初の形式が表示されるのは、IMS 再始動が行われ、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) が使用できる準備ができています。

このメッセージの 2 番目の形式は、OLDS (*ddname1*) がいっぱいになったり、EOV が強制されたり、OLDS (*ddname1*) に入出力エラーが生じてクローズしたりすると、そのつど出されることとなります。さらにロギングを行う場合は、次の OLDS (*ddname2*) が開かれます。XRF テークオーバー時には、このメッセージの 2 番目の形式が表示されます。*ddname1* は、テークオーバーが要求されると、WADS から終了される OLDS です。

このメッセージの 3 番目の形式が表示されるのは、通常シャットダウンがスケジュールされ、OLDS がクローズされたときです。

このメッセージの 4 番目の形式がマスター端末で発行されるのは、いくつかの OLDS が **/STOP** コマンドまたは入出力エラーにより強制的に停止されるときです。ログ・データ・セットはオンライン・データベース・バックアウト用としてもう必要がなくなり、将来使用される可能性の高いリストから除去されます。この OLDS は、制御アドレス・スペースから動的に割り振り解除されます。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

自動アーカイブが指定されていない場合は、OLDS 状況を表示させて、アーカイブ・ジョブをサブミットする必要があるかどうか判断してください。

メッセージの 4 番目の形式が表示されたときは、示されている OLDS は修復の準備ができています。OLDS がアーカイブされてしまえば、データ・セットはスクラッチして、別のボリュームに再割り振りできます。そうすれば、**/START OLDS** コマンドを入力して、OLDS をオンライン IMS に再接続できます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3258A LAST ONLINE LOG DATA SET IS
 BEING USED - NEED ARCHIVE**

または

**SYSTEM WAITING FOR AN ONLINE LOG DATA SET -
NEED ARCHIVE**

説明

このメッセージの最初の形式が送信されるのは、アーカイブされていない最後のオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) が使用されていたことを、IMS™ が検出したときです。その他の OLDS は、まだアーカイブされていないか、停止されているため、すべてが出力操作で再使用できるわけではありません。

このメッセージの 2 番目の形式が送信されるのは、停止されていない OLDS すべてがアーカイブを必要とするときです。この 2 番目の形式のメッセージは、状態がアーカイブの完了によって解決されるまで、5 分間隔で繰り返されます。

システムの処置

最初の形式のメッセージの場合は、IMS は処理を続行します。IMS 2 番目の形式のメッセージの場合は、一部の OLDS が使用可能になるまで、IMS は待ち状態です。

オペレーターの応答:

アーカイブ・ジョブが現在実行中でない場合は、アーカイブ・ジョブをサブミットして、OLDS を解放してください。z/OS 環境でも、**/START OLDS** コマンドを使用して、新しいデータ・セットが追加できるのは、使用可能なログ・バッファがある場合のみです。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3259I ONLINE LOG DATA SET NOT YET
 ARCHIVED FOR ddname**

説明

ddname で識別されているオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) は、通常なら、アーカイブされていて、再使用の準備ができています。しかし、アーカイブされていなかったのです。

システムの処置

IMS は別の使用可能 OLDS を使用し、処理を続行します。

システム・オペレーターの応答: 示されているログ・データ・セットに関するアーカイブ・ジョブが実行されていない場合は、アーカイブ・ジョブをサブミットしてください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3260I ONLINE LOG DATA SET SHORTAGE
 - NEED ANOTHER DATA SET**

説明

入出力エラーまたは **/STOP OLDS** コマンドのため、IMS によって使用できるオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) で使用可能なものは、2 つ以下です。

システムの処置

OLDS が 2 つ残っている場合は、IMS は処理を続行します。1 つしかない場合は、IMS は **/CHE FREEZE** を開始します。

オペレーターの応答

/DISPLAY OLDS コマンドを使用して、すべての OLDS の状況を表示することができます。残っているいるデ

ータ・セットが2つあるときは、次のいずれの応答も許容されます。

- 応答なしで、IMS は処理を続ける。
- z/OS 環境では、**/START OLDS** コマンドを使用して、追加の OLDS を活動化することができます。
- チェックポイント・コマンドを使用して、IMS シャットダウンを開始できる。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3261I WRITE AHEAD DATA SET NOW ON
 ddname**

説明

ログ先書き機能が、*ddname* で識別されているデータ・セットを現在使用しています。IMS 実行中は、WADS 入出力エラー・メッセージの後に続いて、このメッセージが出る場合があります。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3262E NO DATA SET AVAILABLE FOR LOG
 WRITE AHEAD**

説明

WAD が小さすぎるか、WADS に対する OPEN または書き込みでエラーが発生したか、いずれかであって、使用可能な WADS がもうなくなっています。

システムの処置

IMS は処理を続行します。ただし、ログ先行書き込みサポートのため、オンライン・ログ・バッファが切り捨てられることになるため、システム・パフォーマンスは低下する可能性があります。

システム・オペレーターの応答: 応答はまったく必要ありません。チェックポイント・コマンドを使用して、IMS をシャットダウンできます。IMS の次回 再始動後に、WADS に対する書き込みが再試行されます。

プログラマーの応答

新しい WAD を割り振ってください。

**DFS3263I ARCHIVE UTILITY ENDED
 UNSUCCESSFULLY (rrrrrrrr)**

または

ARCHIVE UTILITY ENDED SUCCESSFULLY

または

ARCHIVE UTILITY ENDED SUCCESSFULLY (rrrrrrrr)

説明

ログ保存ユーティリティが終了しました、正常に終了したか、終了したが正常にはなかったか、いずれかです。終了した理由については、プログラマーの応答が必要な事例に示してあります。*rrrrrrrr* の値は、次のとおりです。

- SUCCESSFULLY - (BUT NOT ALL OLDS WERE ARCHIVED)
- UNSUCCESSFULLY - (OPEN ERROR) (DBRC VERIFICATION FAILED: INPUT LOG(S), SSID OR RECON(S) ARE INVALID)
- (EXEC PARAMETER ERROR)
- (CONTROL STATEMENT ERROR)
- (DATA SET SPECIFICATION ERROR)
- (ERROR IN SINGLE INPUT LOG)
- (DUPLICATE ERROR IN DUAL INPUT LOG)
- (OUTPUT DATA SET I/O ERROR)
- (OUT-OF-SPACE IN OUTPUT DATA SET)
- (UNSUCCESSFUL EXCHANGE BETWEEN DUAL INPUT DATA SETS)
- (USER EXIT ROUTINE ERROR)
- (DEVICE TYPE ERROR)
- (OUTPUT DATA SET BLOCK/TRACK SIZE IS TOO SMALL)
- (DBRC MODULE NOT FOUND)
- (NON-ZERO RETURN CODE FROM ISITMGD)

システムの処置

ログ保存ユーティリティが SUCCESSFULLY に終了し、戻りコードが 0 で、理由コードが付随していないのは、SYSPRINT 出力メッセージで識別されているすべてのオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) がアーカイブされた場合です。ユーティリティは正常に終了しました。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティ DFSULTR0 が、異常終了 3265 で終了します。

**DFS3266I CONTROL STATEMENT ERROR
rrrrrr**

説明

制御ステートメントにエラーが含まれています。rrrrrr でエラーのタイプを記述し、エラーのタイプに応じて、rrrrrr の値の 1 つが表示されます。rrrrrr の値は、次のとおりです。

(NO OPERATION CODE)
(INVALID OPERATION CODE OR PARAMETER)
(NO DDNOUT1 OR DDNAME LENGTH ERROR IN COPY)
(INVALID SPECIFICATION IN NOLOG)
(NO NAME OR NAME LENGTH ERROR IN EXIT)
(NO NOLOG AND NO FEOV IN SLDS)
('MUST BE WRITTEN' LOG IN NOLOG)
(CONCATENATION ERROR)
(DUPLICATE SPECIFICATION)
(PARENTHESIS ERROR)
(INVALID OFFSET SPECIFICATION)
(INVALID FLDLEN SPECIFICATION)
(INVALID FLDTYP SPECIFICATION)
(INVALID COND SPECIFICATION)
(INVALID VALUE SPECIFICATION)
(INVALID FEOV SPECIFICATION)
(INVALID DBRECOV SPECIFICATION)
(INVALID DDNAME SPECIFIED IN COPY STATEMENT)

システムの処置

ログ保存ユーティリティは終了し、戻りコードが表示されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3267I USER EXIT ROUTINE *entryname*
FAILED AT *zzzz* EXIT RC=*xx***

説明

zzzz の値は、INITIALIZATION、PROCESSING、または TERMINATION です。出口ルーチンがログ保存ユーテ

ィリティに戻され、2 進ゼロ以外の戻りコードが表示されます。xx は、指定された (エントリー・ポイント) 出口ルーチンによって戻される 10 進戻りコード値です。

システムの処置

ログ保存ユーティリティ処理は終了します。

オペレーターの応答

ありません。

プログラマーの応答

出口ルーチンの処理の機能が必要な応答です。

DFS3268I DD CARD ERROR - rrrr

説明

ログ・リカバリー・ユーティリティの処理中に、データ・セット指定エラーが検出されました。rrrr は、エラー理由の記述です。rrrr の値は、次のとおりです。

- NO OUTPUT LOG IS SPECIFIED
- NO INPUT LOG IS SPECIFIED
- BOTH OLDS AND SLDS ARE SPECIFIED
- INPUT LOG DEVICE TYPE ERROR
- OUTPUT LOG DEVICE TYPE ERROR
- PRIMARY AND SECONDARY SLDS HAVE DIFFERENT BLOCK SIZE
- NO PRIMARY NEXT OLDS IS SPECIFIED
- BOTH WADS AND NEXT OLDS ARE SPECIFIED
- INCORRECT NEXT OLDS IS SPECIFIED
- WADS IS SPECIFIED, BUT NO WADS WAS AVAILABLE AT TIME OF LAST OLDS WRITE
- WADS IN USE AT TIME OF LAST OLDS WRITE NOT SPECIFIED
- DUP OR REP MODE AND PRIOR OLDS ARE SPECIFIED
- OLDS INPUT IS REQUIRED
- NO PRIMARY INPUT IS SPECIFIED
- WADS OR NEXT OLDS SPECIFIED WITH DUP/REP MODE
- OUTPUT LOG SHOULD NOT BE SPECIFIED
- PRIOR OLDS NEEDED BUT NOT SPECIFIED
- CLS FAILS - PRIOR OLDS INVALID
- CLS FAILS - PRIOR OLDS POSITIONING FAILED
- INVALID INPUT DATA SET ATTRIBUTES ON *dsname*

dsname は、無効の属性があった入力を記述する 変数です。例として、DFSOLP、DFSOLS、IEFRDER、IEFRDER2 などがあります。

- PSB MODE REQUIRES IEFRDER INPUT DD CARD

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティーは失敗です。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3269I TRACK SIZE OF *xxxx dsname* IS TOO SMALL, OLDS BLKSIZE= *yyyy*

または

BLOCK SIZE OF *xxxx dsname* IS TOO SMALL, OLDS BLKSIZE=*yyyy*

説明

指定された出力データ・セットのブロックまたはトラックのサイズが小さすぎて、入力データ・セットからコピーする必要があるログ・レコードが収まりません。値 *xxxx* は、システム・ログ・データ・セット (SLDS)、ユーザー・データ・セット (USER)、またはリカバリー・ログ・データ・セット (RLDS) です。値 *yyyy* は、入力データ・セットのブロック・サイズです。

システムの処置

ログ保存ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答

このエラーが検出されたデータ・セットに関して表示されている OLDS ブロック・サイズに等しいブロック・サイズを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS3270I INVALID INPUT LOG IS SPECIFIED

説明

入力ログの DBRC 検査が失敗しました。入力ログが既に閉じられている可能性があるか、あるいは DBRC が、指定された入力ログの RECON レコードを検出できません。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティー DFSULTRO は失敗しました。

プログラマーの応答

SYSPRINT に DBRC エラー・メッセージが含まれているはずですが、メッセージ DSP0311I の説明を参照してください。正しい IMSID が EXEC パラメーターで指定されたか、正しいデータ・セット名が入力ログ DD ステートメントで指定されたか、検証してください。指定された IMSID または入力ログが間違っている場合は、JCL を訂正し、ジョブを再実行してください。

関連情報

[DSP0311I \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS3271I zzzzzz = LOG DATA DOES NOT SATISFY LSN KEYWORD

または

zzzzzz = REQUIRED LOG DATA NOT FOUND

または

zzzzzz = LOG DATA EXISTS BEYOND EXPECTED CLOSE POINT

説明

このメッセージの最初の形式では、*zzzzzz* 値は REQUIRED LOG DATA NOT FOUND ですが、ログ・リカバリー・ユーティリティーが 次のいずれかの条件を検出していることを示しています。

- NOWADS が指定されている。
DFSWADS*n* DD カードが、まだ実行 JCL 内に存在する場合があります。
- NEXT OLDS および CLS が指定された。
入力 OLDS に正常に書き込まれた最後のブロックが見つかっています。そのブロック・シーケンス番号は、NEXT OLDS の最初のブロックのブロック・シーケンス番号より小さい番号ではありませんでした。
- NEXT OLDS および DUP が指定された。
ERRC 値またはファイルの終わりに対応するブロックが入力 OLDS で検出されています。そのブロック・シーケンス番号は、NEXT OLDS の最初のブロックのブロック・シーケンス番号より小さい番号ではありませんでした。
- WADS が指定されている。

最初のエラーが CLS モードで、または DUP モードの ERRC 数のエラーで検出されましたが、入力 OLDS は、そのブロック・シーケンス番号が WADS の最初のブロックよりも小さい番号になるように位置指定されませんでした。

CLS モードのファイルの終わり検査で、OLDS の最後の正しいブロックを正常に再読み取りできませんでした。

このメッセージの 2 番目の形式では、zzzzzz 値が LOG DATA EXISTS BEYOND EXPECTED CLOSE POINT ですが、ログ・リカバリー・ユーティリティーが次の条件を検出していることが示されています。

- 入力データは SLDS

ERRC 数のエラーが入力 SLDS で検出されましたが、SLDS には、タイム・スタンプ値がそれよりも新しい追加ブロックが含まれています。つまり、SLDS が正しく位置指定されていないので、クローズができないことを示しています。

- CLS モード

最初のエラーは CLS モードで検出されましたが、ファイルの終わり検査で、タイム・スタンプ値がそれよりも新しい追加ブロックが検出されました。

このメッセージの 3 番目の形式では、zzzzzz 値は LOG DATA DOES NOT SATISFY LSN KEYWORD ですが、CLS または DUP モードで読み取られた最後のログ・シーケンス番号が、LSN キーワードに関して指定されている値より小さいことが示されています。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティー DFSULTRO が終了しますが、正常な終了ではありません。REQUIRED LOG DATA NOT FOUND およびデータの終わりが検出された事例では、異常終了コード U3271 が出されます。

プログラマーの応答

CLS モードが指定された場合は、エラー件数がゼロ以外の DUP モードに変更してください。DUP モードが指定された場合は、エラー件数の値を大きくして、ジョブを再実行してください。NOWADS が指定されていた場合は、DFSWADSn DD カードが存在しないようにし、存在する場合は、そのジョブを除去して再実行してください。

DFS3272I **OLDS ERROR. ACTIVE PSB
MESSAGES NOT GENERATED.**

または

**X'47' LOG RECORD NOT FOUND. RECOVERY
REQUIREMENTS NOT GENERATED.**

または

**X'47' LOG RECORD NOT FOUND. ACTIVE PSB
MESSAGES NOT GENERATED.**

説明:

このメッセージは DFS3272E に関連しています。詳しい説明および処置については、そのメッセージに関する情報を参照してください。

関連情報

DFS3272E

INTERNAL ERROR DURING LOG RECOVERY

DFS3272E **INTERNAL ERROR DURING LOG
RECOVERY**

説明

先行書き込みデータ・セット WADS が、ログ・リカバリー・ユーティリティーへの入力として指定されました。ログ・リカバリー・ユーティリティーでは、処理されたログ・データからのアクティブ PSB を判別できませんでした。

このメッセージの最初および 2 番目の形式が出されるのは、チェックポイント時点で書き込まれたアクティブ PST ログ・レコード X'47' が、入力 (オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) および WADS) で検出されなかったときです。

X'47' レコードに、すべてのアクティブ PSB のリストが含まれ、PSB 報告書が完全であるか確認することが要求されます。

このメッセージの 3 番目の形式が出されるのは、OLDS エラーが検出されたときです。つまり、ログ・レコードが欠落し、したがって、アクティブ PSB の分析が正しく実行できないことを意味します。

このメッセージの 4 番目の形式が出されるのは、ログ・リカバリー・ユーティリティー処理中に、内部エラーが発生したときです。

システムの処置

これが PSB モードでのログ・リカバリー・ユーティリティーの "再実行" でない場合は、OLDS クローズ・プロセスは完了します。それ以外の場合は、ログ・リカバリー・ユーティリティーが単に終了します。

プログラマーの応答

このメッセージの最初の 2 つの形式を受信し、アクティブ PSB 情報が必要な場合は、次のことを行ってください。

- 直前および現行 OLDS を入力の連結データ・セットとして指定して、ジョブを CLS モードで再実行する。
- DBRC 処理が迂回されるように、PSBLIST=YES および DBRC=NO を EXEC パラメーターとして指定する。

このメッセージの 3 番目の形式の場合は、直前および現行 OLDS が正しい順序で連結されたか確認してください。

い。OLDS が正しく指定されている場合は、ログ・リカバリー・ユーティリティーを DUP モードで使用して、有効な OLDS を作成してください。

このメッセージの 4 番目の形式を受信した場合は、IEFRDER DD ステートメントの ログ・レコード連結をチェックしてください。ログ・レコード・シーケンス・エラーが発生した可能性があります。

**DFS3273I UNABLE TO PROCESS xxx
 COMMAND FOR ddname, REASON
 CODE nn**

説明

/START OLDS、**/START WADS**、**/STOP OLDS**、**/STOP WADS**、または **/SWITCH WADS** コマンドが処理できませんでした。xxx の値は、**/START**、**/STOP**、または **/SWI** で、処理できなかったコマンドを示します。理由コード nn は 16 進数です。

/START コマンドが失敗した場合は、次のいずれかの理由コードが示されます。

コード (16 進数)

意味

04

OLDS または WADS が動的に割り振りできませんでした。指定された OLDS または WADS の DFSMDA メンバーが存在しないか、動的割り振り要求が失敗したか、いずれかです。

08

指定された OLDS がすでにこの IMS に割り振られ、書き込みエラーが検出されたか、OLDS または WADS が装置タイプ・エラーを検出したか、WADS が DD DUMMY として割り振られたか、これらのエラーのいずれかが発生しました。

0C

指定された WADS がこの IMS にすでに割り振られているか、または OLDS DSET テーブルがいっぱいです。

10

WADS 装置タイプが、DLOG 初期設定時に確立された WADS 装置タイプと同じではありません。

14

指定された WADS のフォーマットを試みている最中に、永続入出力エラーが発生しました。

/STOP コマンドが失敗した場合は、次のいずれかの理由コードが示されます。

コード (16 進数)

意味

04

指定された OLDS または WADS は現在使用中であり、停止できません。

08

この IMS で現在使用可能な OLDS は、2 つ未満です。このコマンドが実行された場合は、内部チェックポイント凍結シャットダウンが生じる結果になります。

0C

指定された OLDS または WADS は、現在この IMS に対して定義されていません。

/SWI コマンドが失敗した場合は、次のいずれかの理由コードが示されます。

コード (16 進数)

意味

01

WADS が不十分で切り替えできません。予備 WADS は少なくとも 1 つ必要であり、IMS が二重 WADS を使用して実行している場合は、予備 WADS が 2 つ必要です。

02

IMS は現在 WADS を使用していません。WADS が開始されてからでないと、切り替えコマンドは意味がありません。

03

予備 WADS を開いていて、障害が起きました。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

現在使用可能な OLDS が 2 つに達しない場合は、**/START OLDS** コマンドを使用して、追加の OLDS を開始してから、**/STOP OLDS** コマンドを再試行することが可能です。現行の OLDS を停止する必要がある場合は、まず、次の OLDS に切り替えさせるコマンド (**/DBR** など) を使用して、現行の OLDS を閉じる必要があります。

/START OLDS 障害の場合は、システム・プログラマーに通知してください。

問題判別

1、3、8、11、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3274I DBRC LOG xxxx EXIT FAILED (yy)

説明

IMS ログ保存ユーティリティーまたはログ・リカバリー・ユーティリティーによって実行依頼された DBRC 要

求が正常に行われなかったか、RECON データ・セットに対するアクセスまたは更新の要求が失敗したかのいずれかです。呼び出された特定のタイプの DBRC 出口が xxxx で示されています。xxxx の値は、次のいずれかです。

ARCHIVE INIT
ARCHIVE COMPLETE
RECOVERY INIT
RECOVERY OPEN
RECOVERY EOV
RECOVERY CLOSE

DBRC 戻りコード値は、メッセージには yy (16 進数) として表示されます。この値を 10 進数に変換して、DBRC 要求の戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

ログ保存ユーティリティまたはログ・リカバリー・ユーティリティが、異常終了コード 3274 を出します。

プログラマーの応答

間違った RECON データ・セットが識別されていたり、RECON 1 および RECON 2 DD ステートメントが欠落していたりする場合は、それらを訂正してください。それ以外の場合は、DBRC 出口障害の理由を判別するには、分析が必要です。

問題判別

1、2、3、8、11、36

関連資料

[DBRC 要求戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3275I EXEC PARAMETER ERROR

説明

EXEC パラメーターの指定に誤りがあるか、EXEC パラメーター、DD ステートメント、および制御ステートメントの指定された組み合わせが無効であるか、いずれかです。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティが失敗しました。

プログラマーの応答

パラメーターを訂正して、ジョブを再実行してください。ログ・リカバリー・ユーティリティの EXEC パラメーターについては、「IMS V15 システム・ユーティリティ」および「IMS V15 オペレーションおよびオートメーション」の説明を参照してください。

DFS3276I PRIMARY OR SECONDARY OLDS HAS BAD CONTENTS

説明

1 次入力 OLDS の内容が、2 次 OLDS とは異なっています。1 次または 2 次 OLDS は、書き込みエラーを検出し、再使用されなかったのに大して、他のデータ・セットは再使用されましたが、正常にクローズされませんでした。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティが失敗しました。

プログラマーの応答

内容に誤りがある、OLDS に関する DD ステートメントを除去し、他の OLDS を 1 次入力ログとして指定した上で、ジョブを再実行してください。

DFS3277I END OF PRIMARY EXTENT DURING OLDS WRITE OPERATION

説明

WADS 付き OLDS に関する DUP モードまたは CLS モードが指定されました。十分な余地がなくて、WADS からのログ・ブロック、出力ログ (DUP モード) または入力ログ (CLS モード) の 1 次エクステンツ内のアカウント・ログ・レコード (X'06') を書き込めませんでした。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティが失敗しました。

プログラマーの応答

CLS モードが指定された場合は、DUP モードに変更し、十分なスペースがある出力ログを指定してください。DUP モードが指定された場合は、出力ログ用のスペースを大きくして指定し、ジョブを再実行してください。

DFS3278A DATA ERROR nn IN INPUT LOG DD ddname

説明

バッチ・ログ入力を読み取っている最中に、バッチ・バックアウトが次のいずれかのコード *nn* のエラーを検出しました。

コード 意味

02

DASD ログの逆方向処理中に、バッチ・バックアウトが、フィールド長内のデータを解釈できなかった。

03

DASD ログの逆方向処理中に、最後のトラックを超えて処理する試みがなされた。ログは適切にクローズできません。

05

順方向読み取り中に読み取られた最後のログ・レコードのログ・レコード・シーケンス BCKSEQNR 番号が、IMS バッチ・ログ入力データ・セットに関する逆方向読み取り中に読み取られた最初のレコードのログ・シーケンス番号 (BCKSEQNR) と一致しない。このエラーの原因は、IMSLOGR DD ステートメントでの JCL エラーである可能性があります。

システムの処置

データベース・バックアウト・ユーティリティ・DFSBB000 が正常には終了しないで、戻りコード RC=68 (X'44') が示されます。ABENDMSG 制御ステートメントが指定された場合は、異常終了コード U507 が出されます。

プログラマーの応答

ログ入力が適切にクローズされない可能性があります。ログが適切にクローズされるか検証し、バックアウト・ジョブを再実行してください。ログが適切にクローズされる場合は、ログ入力および異常終了コード U0507 のダンプを保持してください。その上で、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3279I **INCOMPLETE DEDB LOG CHAIN
MAY REMAIN IN PREVIOUS LOG
DATA SET**

説明

ログ・リカバリー・ユーティリティが正常に終了しました。"同期点コンプリート" ログ・レコード (X'5937' または X'37') が検出されなかったため、不完全な DEDB が、直前のログ・データ・セット (OLDS または SLDS) 内のログ・レコード・チェーンに残っている可能性があります。

システムの処置

ログ・リカバリー・ユーティリティが終了し、戻りコード X'04' が示されます。

プログラマーの応答

直前のログが OLDS である場合は、ジョブを CLS モードで再実行し、直前の OLDS を現行 OLDS の連結データ・セットとして組み込んでください。また、PSBLIST=YES および DBRC=NO を EXEC パラメーターとして指定してください。

直前の OLDS が SLDS にすでにアーカイブされていた場合は、ログ・リカバリー・ユーティリティを DUP モードで実行し、SLDS を入力データ・セットとして指定してください。また、PSBLIST=YES および DBRC=YES を EXEC パラメーターとして指定してください。

注: コールド・スタート以降に使用された唯一の OLDS が、クローズされた OLDS である場合は、このメッセージを無視してください。

DFS3280W **REORG# updated for partition
yyyyyyy**

説明

IMS は、yyyyyyy で識別される HALDB 区画の RECON データ・セットの再編成番号と比較した際に、データ・セット内の再編成番号の方が小さいことを検出しました。データ・セットは更新されました。

システムの処置

IMS は、RECON データ・セットからの再編成番号を使用して、区分データ・セットを更新しました。

システム・プログラマーの応答

間接リスト項目 (ILE) がデータ・セットと同じ再編成番号を使用して作成された場合は、間接リスト・データ・セット (ILDS) を再作成する必要があります。

モジュール

DFSDDUI0

DFS3281A **CONTROL STATEMENT NOT VALID
FOR INPUT LOG: statement -
logtype**

説明

SYSIN データ・セットに含まれている制御ステートメントが、入力ログのタイプと互換性がありません。このメッセージは、制御ステートメントと入力ログ・タイプを識別しています。

システムの処置

バックアウトが始まる前に、ジョブは終了します。

プログラマーの応答

識別されている制御ステートメントを除去して、ジョブを再実行依頼してください。バッチ・バックアウト・ユーティリティの制御ステートメントの説明を参照してください。

関連資料

[バッチ・バックアウト・ユーティリティ \(DFSBB00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS3282W REORG# needs update for partition yyyyyy

説明

IMS は、指定された HALDB 区画の RECON 内の再編成番号と比較した際に、データ・セット内の再編成番号の方が小さいことを検出しました。区画データ・セットは入力専用でオープンされているため、正しい再編成番号を使用してデータ・セットを更新できません。IMS は、区画データ・セットがオープンされている場合、このメッセージを出します。

システムの処置

IMS は内部制御ブロックの再編成番号を更新しますが、データ・セットが更新用にオープンされるまでは、データ・セットには小さい再編成番号が入ったままです。

システム・プログラマーの応答

区画アクセスを変更して、データ・セット上の再編成番号を更新できるようにしてください。ILE がデータ・セットと同じ再編成番号を使用して作成された場合は、ILDS を再作成する必要があります。

モジュール

DFSDDUI0

DFS3283A BACKOUT INCOMPLETE FOR PSB psbname DATABASES dbname1 dbname2...

説明

バッチ・バックアウトが、DATABASE 制御ステートメントを使用して複数ステップで実行されているときは、最後のステップの場合を除いて、このメッセージは通常応答です。メッセージに示されている *dbnames* は、DATABASE 制御ステートメントで指定されているすべてのデータベースです。COLDSTART ステートメントが DATABASE ステートメントと一緒に使用される場合は、ワード ALL が *dbnames* の代わりに表示されます。

システムの処置

入力ログ・データ・セット・シリーズで検出された、指定された PSB に関して識別されているデータベースに対する更新は、すべてバッチ・バックアウトでバックアウトされました。条件コード 88 が戻されます。

プログラマーの応答

ログ・データ・セットの直前のセットに対して、バッチ・バックアウトを実行することで、バックアウトを続けてください。同じ DATABASE 制御ステートメントを使用してください。

DFS3284A INCOMPATIBLE CONTROL STATEMENTS: s1 - s2

説明

SYSIN データ・セットには、s1 と s2 の 2 つの制御ステートメントが含まれていますが、これらは一緒には使用できません。

システムの処置

バックアウトが始まる前に、ジョブは終了します。

プログラマーの応答

不適切な制御ステートメントを除去して、ジョブを再実行依頼してください。すべての制御ステートメントの説明については、「IMS V15 データベース・ユーティリティ」を参照してください。

DFS3285E AN INTERNAL ERROR OCCURRED DURING BATCH BACKOUT. DIAG1=XX; DIAG2=YY.

説明

バッチ・バックアウト中に内部処理エラーが発生しました。

次の表に、DIAG1 フィールドと DIAG2 フィールドの意味を示します。

表 19. DFS3285E メッセージ・テキスト		
DIAG1	DIAG2	意味
01	IMSLOGR または IMSLOGxx のデータ・セットの OBTAIN マクロからの 16 進戻りコード。	戻りコードの説明については、「DFSMSdfp 拡張サービス」を参照してください。

システムの処置:

データベース・バックアウト・ユーティリティ DFSBB00 が正常には終了しないで、戻りコード RC=100 (X'64') が示されます。ABENDMSG 制御ステ

ートメントが指定された場合は、異常終了コード 0507 が出力されます。

システム・プログラマーの応答:

上記の DIAG1 値および DIAG2 値からエラーの原因を判別できる場合は、エラーを修正して、ユーティリティを再実行します。判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

関連資料

[z/OS: OBTAIN を使用した VTOC からの DSCB の読み取り](#)

[バッチ・バックアウト・ユーティリティ \(DFSBB00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

関連情報

[0507 \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS3286W REORG# NOT FOUND FOR PARTITION yyyyyy

説明

新規レコードが区画に移動された場合、再ロード時に HALDB 区画の再編成番号を判別できません。1 次データ・セットおよび RECON からの再編成番号は、判別できないか、ヌルです。

IMS が再ロード中に正しい再編成番号を判別できない場合、再編成番号がこの区画に対して誤って設定されている可能性があります。再編成番号が誤っていると、論理関係または副次索引のターゲット、あるいは両方に関するセグメントの間接ポインタの解決時に障害が起こる可能性があります。この障害により、IMS は無効なポインタに従い、データ保全性の障害を引き起こす可能性があります。

システムの処置

再編成番号は、その区画にロードされた最初のレコードの再編成番号を使用してデータ・セットに設定されました。

システム・プログラマーの応答

このデータベースにいずれの論理関係または副次索引データベースもない場合、処置は不要です。

データベースに論理関係または副次索引ターゲットがある場合は、再編成番号が逆行したかどうか判別してください。番号が逆行したかどうか判別するには、以下のステップに従います。

1. 再ロード後の区画で最初のレコードのキーを判別します。
2. 再ロード前の最初のレコードの区画の再編成番号を判別します。
3. 再ロード後の最初のレコードの区画の再編成番号を判別します。

再ロード後の再編成番号が再ロード前の再編成番号より小か等しい場合、データ保全性の障害が発生する可能性があります。データ保全性の障害を防止するには、以下のステップを実行します。

1. 区画境界での変更を逆にして、区画をその元の区画に復元します。
2. 再編成番号の検証機能を使用可能にします。これは、DBRC **CHANGE.RECON REORGV** コマンドを使用して実行できます。
3. 区画を更新するか、HD アンロード・ユーティリティを実行することによって、RECON の再編成番号を設定します。
4. 区画境界の変更を再実行します。



重要: 再編成番号の妥当性検査を使用可能にできない場合、1 次データベース・データ・セットがスクラッチおよび再割り振りされていないか、区画が空に最初期設定されてからになっていない限り、IMS が再ロード中の再編成番号の逆行を防止することができます。

モジュール:
DFSPSELO

DFS3287E STORAGE NOT AVAILABLE FOR BLOCK SERIALIZATION TABLE, RETURN CODE X'xx'

説明

ブロック逐次化ラッチ・テーブル用にストレージの GETMAIN を試行しているときに、エラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx

IMODULE GETMAIN からの戻りコード。これらのコードの説明については、IMODULE 戻りコードを参照してください。

システムの処置:

IMS は異常終了し、異常終了コード 0430 が示されます。

システム・プログラマーの応答:

使用可能なストレージが不足している場合は、IMS で使用できる主記憶域を増やしてください。

問題判別:

1、2、3、4、18、22

モジュール:

DFSDVBIO

関連資料

[IMODULE 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3288I **INPUT LOG RECORD LENGTH
ERROR - SEQ NUMBER = nnnnnnnn
INPUT LOG SEQUENCE NUMBER
ERROR - SEQ NUMBER = nnnnnnnn
INPUT LOG CONTAINS RECORD
GAPS - SEQ NUMBER = nnnnnnnn**

説明

ログ・リカバリー・ユーティリティー (DFSULTRO) が PSB モードで実行中に、入力ログ (IEFRDER) でエラーが検出されました。

システムの処置

最初のバージョンのメッセージが出されるのは、レコード長が最小レコード長より短いログ・レコードが読み取られたときです。SEQ NUMBER 値は、最後に読み取られた有効なレコードのログ・レコード・シーケンス番号です。ユーティリティー処理は終了します。

2 番目のバージョンのメッセージが出されるのは、シーケンス番号が前のレコード・シーケンス番号より小さいログ・レコードが読み取られたときです。SEQ NUMBER 値は、最後に読み取られた有効なレコードのログ・レコード・シーケンス番号です。ユーティリティー処理は終了します。

3 番目のバージョンのメッセージが出されるのは、シーケンス番号が前のレコードのシーケンス番号より 2 以上大きいログ・レコードが読み取られたときです。つまり、ログ・レコードにギャップがあることを意味します。SEQ NUMBER 値は、最後に読み取られた有効なレコードのログ・レコード・シーケンス番号です。ユーティリティーは処理を続けますが、入力データにギャップがあるため、出力報告書は不完全になる可能性があります。

オペレーターの応答

このメッセージは、通知目的で出されます。連結ログ入力を使用される場合は、ログが作成された順序になっているか検証してください。OLDS と SLDS が混合している場合は、ログ・レコード内容にオーバーラップがあってはなりません。入力が RLDS であるか、OLDS に書き込まれたレコードがすべては含まれていない他のログである場合は、3 番目のバージョンのメッセージが受信される可能性が大です。この場合は、代わりに OLDS または SLDS が使用される必要があります。

DFS3289A **LOG RECORD SEQUENCE ERROR
IN INPUT LOG-nnnnnnnn
mmmmmmmm dddddddd**

説明

DDNAME dddddddd に関連した入力ログ・データ・セットを読み取っている最中に、バッチ・バックアウトが、順序が狂っているログ・レコードを検出しました。シーケンス番号が nnnnnnnn であるログ・レコードが予想されていました。シーケンス番号が mmmmmmmm のログ・レコードが、その代わりに検出されました。このエラーが生じる原因になりうるのは、次のいずれかの場合です。

- ログ・データ・セットが、JCL 内で正しい順序になっていない。
- ログ・データ・セットに無効のデータがある。
- ユーザー作成プログラムによってログが変更された。

システムの処置

バックアウトがまったく試みられないうちに、バッチ・バックアウトが終了し、条件コード 108 が示されます。

プログラマーの応答

JCL 内のログ・データ・セットの順序が正しいか検証してください。順序が正しい場合は、ログ・リカバリー・ユーティリティーの DUP モードを使用して、メッセージで識別されているログ・データを訂正した上で、ジョブを再実行してください。

入力ログにバッチ・バックアウトに必要なレコードのすべてが正しい順序で含まれていると確信できる場合は、BYPASS SEQVER ステートメントを使用して、シーケンス検査をスキップしてかまいません。

DFS3290I **NO PENDING BACKOUT FITS
CRITERIA - RSN= r1[,r2[,r3[,
r4[,r5[,r6]]]]]**

説明

バッチ・バックアウト・ユーティリティーのこの実行に関する要件に適合する RECON バックアウト・レコードのリカバリー単位 (UOR) がありません。メッセージに付加されている理由コードで、バックアウトが実行されない理由が示されます。理由コードとその意味は、次のとおりです。

コード (10 進数) 意味

- 0** このサブシステムに関して、保留中のバックアウトがない。
- 1** UOR はすでにバックアウトされている。
- 2** UOR が、バッチ・バックアウト EXEC ステートメントで名前が指定されている PSB 用ではない。

- 3 UOR が未確定である。コールド・スタートが行われ
ておらず、COLDSTART ステートメントが使用され
なかった。
- 4 UOR が進行中ではなく、ACTIVE ステートメントが
使用された。
- 5 UOR が未確定である。いずれの制御ステートメン
トでも再始動が暗黙指定されていない。再始動は
完全ではありません。
- 6 UOR が進行中、または未確定である。最新ログ・デ
ータが入力に含まれていません。

システムの処置

バッチ・バックアウト・ユーティリティーは、バックア
ウトをまったく実行しないで終了します。

プログラマーの応答

実行される必要があったのに未解決のバックアウトが
ある場合は、説明にリストしてある理由コードから問
題を判別し、JCL を訂正し、バッチ・バックアウトを
再実行してください。

DFS3291I **UORS IDENTIFIED TO DBRC - IN-
FLIGHTS=nnn, IN-DOUBTS=mmm**

説明

バッチ・バックアウトによって、入力ログの終了時に進
行中または未確定であった UORS のリストが DBRC に
付与されています。進行中が nnn あり、未確定が mmm
ありました。コールド・スタートが行われる場合は、
必要なバックアウトが実行されるまで、登録済みデー
タベースを保護するために、この情報が使用されます。
未確定がある場合は、バッチ・バックアウトでは適切
に解決されないため、コールド・スタートを行わない
ようにする必要があります。

システムの処置

RECON バックアウト・レコードが、バッチ・バックア
ウトによって DBRC に提供された情報から、作成また
は変更されています。バッチ・バックアウト実行の結
果とは関係なく、情報は RECON に残っています。

DFS3292I **RESTART IN PROGRESS
CONFLICTS WITH BBO CONTROL
STATEMENT - ssssssss**

説明

制御ステートメント ssssssss が、バッチ・バックア
ウトにバックアウトの実行を指示しますが、バックア
ウトを実行する再始動が進行中です。

システムの処置

バッチ・バックアウトは、バックアウトをまったく試み
ることなく終了します。

プログラマーの応答

再始動が失敗した場合は、バッチ・バックアウトを再実
行する前に、その出力ログをクローズしてください。

DFS3293W **PERFORMED BACKOUT NOT
NEEDED**

説明

バッチ・バックアウトは正常に完了しました。バッチ・
バックアウトが、DBRC に完了したバックアウトを知ら
せました。RECON バックアウト・レコード内の情報に
よれば、UORS の 1 つに関しては、バックアウトされた
データベースのうち少なくとも 1 つは、バックアウト
する必要がありませんでした。BYPASS LOGVER 制御
ステートメントが使用されなかった場合は、このこと
は、バッチ・バックアウトの実行中に、RECON バック
アウトが異なるプロセスによって変更されたことを意
味します。

システムの処置

バッチ・バックアウト・ユーティリティーが実行された
PSB に関連したデータベースから、必要な変更が正常
にバックアウトされています。

DFS3294A **LOG VERIFICATION FAILURE nn-
rrrrrrrr[DSN= DSNEExamined],
VOL=VOLSERExamined]]
EXPECTED= [DSNEExpected |
VOLSERExpected]**

説明

DBRC からの情報を使用して、バッチ・バックアウト・
ユーティリティーが、JCL で指定されているログ・デ
ータ・セットは、要求されたバックアウトの実行には
適切でないと判別しました。一般理由 rrrrrrrrrr および
サブコード nn がメッセージに示されています。サブ
コードはそれぞれ、バッチ・バックアウト・モジュール
での特定のテストに関連付けられています。サブコー
ド 20 から 40 で特定のエラーを識別します。

メッセージに示されている変数とそのそれぞれの意味
は、次のとおりです。

nn
バッチ・バックアウト・モジュールでの特定のテス
トを識別するサブコード

rrrrrrrrrr
問題の一般的な記述

表示される可能性のある値は、次のとおりです。

- DATA SET NOT FOUND IN RECON

- CONTINUITY
- LATER DATA SET OR VOLUME NEEDED
- DATA SET NOT CLOSED.
- LOG INCLUDES RESTART

DSNExamined

問題の検出時に調べる DD ステートメントの DSN で、1 から 44 文字から成る。問題はこの DD ステートメントか、その前の DD ステートメントに存在します。

VOLSERExamined

問題の検出時に調べる VOLSER。問題はこの VOLSER か、その前の VOLSER に存在します。

DSNExpected

問題の検出時に予測された DD ステートメントの DSN で、1 から 44 文字から成る。

VOLSERExpected

問題の検出時に予測された VOLSER

それぞれのサブコードごとに、最も可能性の高い問題について以下で説明します。

注: サブコードが 20 より小さい場合は、次のいずれもが問題となります。

- ログ・データ・セットが DBRC に対して識別されなかった (IMS 以外の手段で作成された)。
- ログ・データ・セットが RECON データ・セットから除去された。
- DSNAME または VOLSER が無効であるか、JCL 内で順序が狂っている。
- ログ・データ・セットまたは VOLSER がスキップされた。

コード (16 進数)

意味

- 01** 最初のログ・データ・セットが、IMS 以外の手段で作成された。
- 02** *DSNExpected* が予測されていたのに、検出されたのは *DSNExamined* であった。
- 03** *VOLSERExpected* が予測されていたのに、検出されたのは *VOLSERExamined* であった。
- 10** 指定されたのはコンプリート・データ・セットであったが、そうではなく、直前のログ・データ・セットの次の VOLSER が指定される必要があった。
- 11** 直前のログ・データ・セットの最後の VOLSER がスキップされた。
- 12** 無効の VOLSER が指定されたか、繰り返されたか。

13

VOLSERExpected が予測されていたのに、検出されたのは *VOLSERExamined* であった。

14

DD ステートメント *DSNExamined* で指定されたログ・データ・セットより前にあるべきログ・データ・セットが、入力から欠落している。

20

バッチからの入力ログである。VOLSER が終了時に欠落します。

21

バックアウトが再始動に関連している。VOLSER が終了時に欠落します。

22

バッチ・ジョブからの入力ログであり、そのジョブ名に関する最新のログが DBRC 情報で示されている。このコードは、バッチ・ジョブの複数回の実行からログが指定されたことも意味しています。

23

バックアウトが再始動に関連していることが、制御ステートメントで示されている。再始動より前の最後のログ・データ・セットは、入力に組み込まれません。

30

DD ステートメント *DSNExamined* で指定されたログ・データ・セットがクローズされていない。

40

最初のデータ・セット以外を入力ログ・データ・セットの 1 つに正常な再始動が組み込まれている。バッチ・バックアウトは、再始動の両側からのログ・データを、ログ検査時の 1 回の実行では処理できません。

システムの処置

バッチ・バックアウトは、バックアウトをまったく実行せずに終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、バッチ・バックアウトを再実行してください。

DFS3295A

**READ BACKWARD NOT ALLOWED
FOR BACK OUT FROM IMS
CHECKPOINT**

説明

READBACK オプションを指定して、バッチ・バックアウトが実行中です。IMS チェックポイントで、バッチ・バックアウトが UOR を検出し、そのバックアウトを試みました。ただし、バッチ・バックアウトでは、その UOR に関する元のログ・レコードは検出されませんでした。

バッチ・バックアウトでは、読み取りバックアウト技法を使用して、システム・チェックポイントの情報からのバックアウトは実行できません。バッチ・バックアウトは、バックアウトを実行せずに終了します。

プログラマーの応答

次のいずれかを行ってください。

- READBACK ステートメントを SYSIN データ・セットから除去する。バッチ・バックアウトは、変更を仮想記憶域にバッファリングすることで、バックアウトを実行します。
- バッチ・バックアウトへの入力で、バックアウトを必要とするアプリケーションの実行時にアクティブであった、ログ・データ・セットを組み込む。

DFS3296A DBRC=C REQUIRES BYPASS LOGVER

説明

DBRC を使用して正常に完了したジョブをバックアウトする試みで、DBRC=C を使用しました。ジョブは正常に完了したので、データベースを変更したのは、後続のジョブであった可能性があります。ユーザーが提供したログは、このサブシステムで最後に使用されたログではない可能性があります、ログ検査は失敗します。バッチ・バックアウト・ユーティリティー および DBRC では、ユーザーが提供したログが正しいか検証できず、ジョブの完了後に変更された場合は、データベースが損傷するのを防げません。

システムの処置

バッチ・バックアウトは、バックアウトをまったく実行せずに終了します。

プログラマーの応答

DBRC=C を使用してバッチ・バックアウト・ユーティリティーを実行する前に、バックアウトするデータベースが他のプログラムによって変更されていないか、確認する必要があります。他のジョブでデータベースが変更されていないことが確信でき、なおかつやはりこの完了ジョブをバックアウトしたいと考える場合は、BYPASS LOGVER ユーティリティー制御ステートメントを SYSIN データ・セットに組み込む必要があります。他の必要な条件すべてに適合すれば、バッチ・バックアウトは完了ジョブをバックアウトします。

モジュール

DFSBACK0

DFS3298E CICS IPIC ERROR DURING ISC TCP/IP SESSION INITIATION RC=ipicrc TEXT=cics_rs_code USER=isc_user

説明

IBM CICS Transaction Server for z/OS との ISC TCP/IP セッションの開始時に、IMS は、IP 相互接続 (IPIC) 例外エラーを示す機能交換応答 (タイプ X'02') を受け取りました。セッション開始は失敗しました。

「TEXT」フィールドに、エラー・メッセージの意味を簡単に説明するテキストが入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ipicrc

CICS によって返された 2 バイトの応答コード。

以下のリストで考えられる応答コードについて説明します。

02

例外

03

災害イベント

04

メッセージは CICS には無効です

05

カーネル・エラー

06

CICS はエラーをページしました

cics_rs_code

CICS がエラーのために IMS に返した理由コードを簡単に説明する最大 12 文字のテキスト。返される可能性のある *cics_rs_code* の値の説明については、次の表を参照してください。

isc_user

セッション開始要求に関連付けられているユーザー名。

次の表に、「TEXT」フィールドに表示される可能性がある理由コードを示します。

表 20. DFS3298E によって表示される可能性がある CICS 理由コードの説明			
サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
APPLID		X'06'	<p>CICS が受信した機能交換メッセージで、<i>server_applid</i> またはその高位修飾子が CICS サブシステムの APPLID および高位修飾子と一致していません。</p> <p>このエラーの原因として最も考えられるのは、ISC ステートメントの CICSAPPL キーワードの値がリモート CICS サブシステムの APPLID と一致していないことです。</p> <p>IMS.PROCLIB データ・セットの IMS Connect 構成メンバーの ISC ステートメントで CICSAPPL キーワードの値を修正してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_INVALID_APPLID</p>
AUTOINST ALL		X'01'	<p>CICS 自動インストール機能は、CICS サブシステム内に必要な IPCONN リソースを作成できませんでした。</p> <p>自動インストール機能は、新規 IPCONN リソースの名前が、既存の IPCONN リソースの名前と同じ場合に失敗する可能性があります。</p> <p>自動インストール機能によって作成される IPCONN リソースの名前は IMS セッション開始要求 (/OPNDST NODE コマンドなど) で指定されるユーザー ID から生成されるため、別のユーザー ID を指定してセッションの開始を試行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: AUTOINSTALL_FAILED</p>
CAPEXRAC E		X'15'	<p>機能交換の競合。IMS と CICS の間のセッションが IMS と CICS によって同時に開始されたため、2 つの機能交換要求の間で競合状態が生じました。IMS /OPNDST コマンドの実行を再試行してください。</p> <p>IMS または CICS のいずれかからセッションの開始を再試行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: CAPEX_RACE</p>
DFHxxxxx			<p>API 会話エラー。</p> <p>DFHxxxxx は、IMS Connect に返された CICS API エラー・メッセージです。ここで xxxxx は番号、DFH は CICS メッセージ接頭語です。</p> <p>このエラーはおそらく内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p>
HTTPRQST	X'400'		<p>HTTP プロトコルまたは TCP/IP サーバーによって定義され、構文が誤った形式であるために要求がサ</p>

表 20. DFS3298E によって表示される可能性がある CICS 理由コードの説明 (続き)			
サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
			<p>ーバーによって解釈されなかったことを示します。</p> <p>セッション開始要求はおそらく無効であり、受信側のサブシステムが認識できませんでした。</p> <p>セッションを開始しているサブシステムで ISC TCP/IP セッション開始要求が正しく構成されていることを確認してください。</p> <p>問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。</p>
HTTPERR		X'0B'	<p>コールバック接続に関連する機能交換応答に、エラーを示す HTTP 状況コードが含まれていました。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_HTTP_ERROR</p>
IPCONNN O		X'13'	<p>IPCONN リソースがありません。</p> <p>CICS TCPIP SERVICE リソースに対して接続を獲得または解放しようとしたが、TCPIP SERVICE リソースに関連する IPCONN リソースがありません。</p> <p>エラーの原因は、CICS サブシステム内の不適切な TCPIP SERVICE または IPCONN リソース定義である可能性があります。リソース定義のエラーがあればすべて訂正して、セッションの開始を再試行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: NO_IPCONN</p>
IPCONNN OTFND		X'04'	<p>IPCONN が見つからない。</p> <p>CICS サブシステムとの接続を獲得または解放する試みが行われましたが、必要な IPCONN リソースが現在存在していないか、見つかりません。</p> <p>CICS 理由テキスト: IPCONN_NOT_FOUND</p>
IPCONNO NEWAY		X'14'	<p>ISC TCP/IP セッションには、両方向接続が必要ですが、CICS IPCONN リソースは、片方向接続を使用するように定義されています。</p> <p>CICS IPCONN リソース定義を訂正します。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_ONE_WAY_IPCONN</p>

表 20. DFS3298E によって表示される可能性がある CICS 理由コードの説明 (続き)			
サービス・ コード	HTTP 状況コ ード	IPIC 理由コ ード	意味
IPCONNST ATE		X'02'	<p>IPCONN 状態が無効。 ISCO ACQUIRE_CONNECTION が発 行されましたが、CICS IPCONN リソ ースが適切な状態ではないため失 敗しました。</p> <p>IPCONN リソースの状態は INSERVICE および RELEASED でな ければなりません。</p> <p>セッションの開始を再度試みてく ださい。問題が引き続き発生する 場合は、CICS システム管理者に 連 絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: INVALID_IPCONN_STATE</p>
OPENERR		X'0D'	<p>オープン・セッションのエラーで す。</p> <p>IMS は、IMS Connect を使用して CICS との ISC TCP/IP セッションを 開始しようとしたのですが、IMS と CICS サブシステム間の機能交換が 失敗しました。</p> <p>以下のシナリオは、このエラーが発 生する可能性がある状況の例です。</p> <ul style="list-style-type: none"> IMS Connect ポートが停止して います。 CICS DFHCSD データ・セットの IPCONN リソース定義の PORT キーワードで指定された値が、 IMS Connect HWSCFGxx PROCLIB メンバーの TCPIP ステ ートメントの CICSPORT キーワ ードの ID サブパラメーターで指 定された値と一致していません。 <p>このエラーの原因として考えられ るのは、構成または定義の問題で す。</p> <p>IMS、IMS Connect、および CICS PROCLIB メンバーおよびリソース がすべて正しく定義されているこ とを確認してください。定義ステ ートメントにエラーがあれば訂正 してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: SESSION_OPEN_FAILED</p>
PARTNERS TATE		X'03'	<p>パートナー状態が無効です。</p> <p>CICS は、無効な状態にある IPCONN リソースの機能交換要求を受け取 りました。</p> <p>IPCONN リソースの状態は INSERVICE であることが必要です が、まだ獲得されていません。</p> <p>セッションの開始を再度試みてく ださい。問題が引き続き発生する 場合は、CICS システム管理者に 連 絡してください。</p>

表 20. DFS3298E によって表示される可能性がある CICS 理由コードの説明 (続き)			
サービス・ コード	HTTP 状況コ ード	IPIC 理由コ ード	意味
			<p>CICS 理由テキスト: INVALID_PARTNER_STATE</p>
RECOVERR		X'08'	<p>機能交換リカバリー・エラー。</p> <p>CICS はサポートされない <i>isce_preferred_recovery</i> 値を含む機 能交換要求を受け取り、フォールバ ック先として一致する <i>isce_supported_protocols</i> フラグが 設定されていません。</p> <p>このエラーはおそらく内部エラー です。IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_BAD_RECOV</p>
RESPBAD		X'09'	<p>CICS IPIC 応答が不適切です。</p> <p>CICS が受け取ったコールバック機 能交換応答には、不適切な応答と理 由コードが含まれています。</p> <p>CICS IPCONN リソース定義の PORT 属性で定義されたポートが、 IMS Connect PROCLIB 構成メンバ ーの TCPIP ステートメントの CICSPORT キーワードの ID サブパ ラメーターで IMS Connect にも定 義されていない場合に、このエラー が機能交換中に発生する可能性が あります。</p> <p>IMS、IMS Connect、および CICS PROCLIB メンバーおよびリソース がすべて正しく定義されているこ とを確認してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCR_BAD_RESPONSE</p>
RESPERR		X'0A'	<p>機能交換応答エラー。</p> <p>コールバック機能交換応答が無効 なことが判明しました。</p> <p>このエラーは、IMS、IMS Connect、 または CICS のいずれかの内部エラ ーです。IBM ソフトウェア・サポ ートに連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCR_ERROR</p>

表 20. DFS3298E によって表示される可能性がある CICS 理由コードの説明 (続き)			
サービス・ コード	HTTP 状況コ ード	IPIC 理由コ ード	意味
RESPTIME OUT		X'0C'	<p>機能交換応答がタイムアウトになりました。</p> <p>機能交換要求への応答を、指定されたタイムアウト期間内に受け取りませんでした。</p> <p>システム・プロファイル DFHCICSC で CICS IPIC 要求タイムアウト値 (RTIMOUT) を増やしてください。</p> <p>RTIMOUT 値は <i>mmss</i> 形式です。ここで、<i>mm</i> は分、<i>ss</i> は秒です。例えば、タイムアウト値を 1 分に変更するには、ALTER PROFILE (DFHCICSx) GROUP (IMSISICIP) RTIMOUT (0100) と指定します。</p> <p>タイムアウト値を表示または更新するには、CICS トランザクション CEDA を使用します。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCR_TIMED_OUT</p>
RQSTERR		X'05'	<p>機能交換要求エラー。</p> <p>機能交換要求は無効なことが判明し、パートナー CICS サブシステムにリジェクトされました。IMS または IMS Connect がセッションを開始するために誤った機能交換要求メッセージを作成しました。</p> <p>IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト:</p>
RQSTTIME OUT		X'07'	<p>CICS IPIC 要求がタイムアウトになりました。</p> <p>IPCONN リソースに対する接続を初期設定するために TCPIP SERVICE トランザクション (デフォルトで CISS) が接続されましたが、トランザクション・プロファイルで定義されているタイムアウト期間内に機能交換要求を受け取りませんでした。</p> <p>システム・プロファイル DFHCICSC で CICS IPIC 要求タイムアウト値 (RTIMOUT) を増やしてください。</p> <p>RTIMOUT 値は <i>mmss</i> 形式です。ここで、<i>mm</i> は分、<i>ss</i> は秒です。例えば、タイムアウト値を 1 分に変更するには、ALTER PROFILE (DFHCICSC) GROUP (IMSISICIP) RTIMOUT (0100) と指定します。</p> <p>タイムアウト値を表示または更新するには、CICS トランザクション CEDA を使用します。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_TIMED_OUT</p>

表 20. DFS3298E によって表示される可能性がある CICS 理由コードの説明 (続き)			
サービス・ コード	HTTP 状況コ ード	IPIC 理由コ ード	意味
SECURITY		X'16'	<p>セキュリティ・エラー。呼び出し元のセキュリティ資格情報が、パートナー・システムに受け入れられません。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCR_SECURITY_VIOLATION</p>
SHUTDOWN N		X'0E'	<p>CICS がシャットダウンされています。</p> <p>IPCONN リソースを獲得または初期設定するために DFHISCO に対して呼び出しが行われましたが、呼び出しが完了する前に CICS がシャットダウンしました。</p> <p>CICS がアクティブであることを確認してください。CICS がアクティブになっていない場合は、開始してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: SHUTDOWN</p>
SOCKETER R		X'18'	<p>クライアント・ソケット・エラー クライアント接続はクローズされています。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCR_CLIENT_CONNECTION_CLOSED</p>
SOCKETSE CERR		X'19'	<p>2 次ソケット・エラー。2 次ソケットを取得しようとしたときにエラーが発生しました。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCR_SEC SOCK_ERROR</p>
SRVCCLOS ED		X'0F'	<p>TCP/IP サービスが使用不可です。接続を得ようとする試みは、TCP/IP サポートが使用不可のために失敗しました。</p> <p>TCP/IP サービスを開始してから、ISC TCP/IP セッションの開始を再試行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIP_CLOSED</p>
SRVCMISM ATCH		X'10'	<p>TCPIP SERVICE ミスマッチ。</p> <p>TCPIP SERVICE とは異なる TCPIP SERVICE を使用するように定義されている IPCONN リソースに対する機能交換要求を受け取りました。</p> <p>このエラーは、CICS TCPIP SERVICE と IPCONN のリソース定義に定義されているポートが一致しない場合に発生する可能性があります。</p> <p>IMS、IMS Connect、および CICS PROCLIB メンバーおよびリソースがすべて正しく定義されていることを確認してください。エラーがあれば訂正します。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIP_SERVICE_MISMATCH</p>

サービス・ コード	HTTP 状況コ ード	IPIC 理由コ ード	意味
SRVCNOTF OUND		X'11'	<p>IPCONN リソースに参照される TCPIP SERVICE リソースが CICS サブシステムで見つかりませんでした。</p> <p>IPCONN リソース定義内で参照されている TCPIP SERVICE リソースがインストールされていないか、削除されたために、CICS は接続を獲得または解放できませんでした。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。TCPIP SERVICE リソースを再インストールして開くことが必要な場合があります。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIP SERVICE_NOT_FOUND</p>
SRVCNOTO PEN		X'12'	<p>CICS サブシステムの TCPIP SERVICE リソースがオープンされていません。</p> <p>CICS サブシステムは、IPCONN リソースの接続を獲得しようとしたが、IPCONN リソース定義で指定されている TCPIP SERVICE がオープンされていません。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIP SERVICE_NOT_OPEN</p>
SRVCUNAV AIL	X'503'		<p>HTTP プロトコルまたは z/OS TCP/IP サーバーにより定義され、過負荷または保守のためのサービス停止が理由で TCP/IP サーバーが一時的に使用不可であることを示します。</p> <p>TCP/IP サーバーがアクティブであることを確認してください。 TCP/IP サーバーがアクティブになっていない場合は、開始してください。</p>
SRVRERR	X'500'		<p>HTTP プロトコルまたは z/OS TCP/IP サーバーによって定義され、TCP/IP サーバーで予期しない状態が検出されたために、要求を実行できなかったことを示しています。</p> <p>Hypertext Transfer Protocol -- HTTP/1.1</p>
UNKNOWN		X'63'	<p>不明なエラー。このエラーはおそらく内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p>

システムの処置:

CICS との ISC TCP/IP セッションを開始しようとしたが、失敗しました。IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

DFS3298E メッセージに含まれていた CICS 応答コードおよび理由コードの説明を参照してください。コードと、エラーを修正するために実行できる処置について詳しくは、CICS サポート担当員にお問い合わせください。

以下のエレメントが正しく構成されていることを確認します。

- IMS の ISC 端末。ETO ログオン記述子または TYPE、TERMINAL、および SUBPOOL などのステージ 1 システム定義マクロを使用します。
- IMS Connect の ISC リンク。ISC および RMTIMSCON ステートメントを使用します。
- CICS の TCPIP SERVICE および IPCONN ステートメント。

モジュール:

DFSIPICO

関連タスク

[TCP/IP の ISC サポート \(コミュニケーションおよびコネクション\)](#)

関連資料

[QUERY IMSCON TYPE\(PORT\) コマンド \(コマンド\)](#)

[CICS: ISMF - ISC IP メッセージ形式](#)

DFS3299I

**FPBP64M INCREASED FROM
xxxxxxx TO yyyyyyyy DUE TO
SYSTEM REQUIREMENTS
RSN=rrrrrrrr**

説明

IMS は、システムが計算した FPBP64M の値が最小範囲より下であることを検出し、FPBP64M を増やしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

FPBP64M の初期値

yyyyyyyy

FPBP64M の新しい値

rrrrrrrr

サービスで使用

システムの処置

IMS は FPBP64M の新しい値を計算して FPBP64M に適用しました。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFBPN61

DFS3300I **aaaa IGNORED, FPBP64
PARAMETER USED**

説明

高速機能 64 ビット・バッファ・マネージャ (FPBP64=Y) と、現行バッファの高速機能マネージャ (DBBF、DBFX、BSIZ) の両方が指定されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaa

無視されるパラメータ: DBBF、DBFX、および BSIZ。

システムの処置:

高速機能 64 ビット・バッファ・マネージャが使用され、DBBF、DBFX、および BSIZ は無視されます。

オペレーターの応答

高速機能 64 ビット・バッファ・マネージャを使用する場合は、処置は必要ありません。現行のバッファ・マネージャを使用する場合は、FPBP64=Y を DFSDFxxx メンバーから削除し、IMS をコールド・スタートします。

モジュール:
DBFINI20

第 70 章 DFS メッセージ DFS3301W - DFS3350E

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3301W AN INVALID REQUEST WAS MADE TO DELETE A SUBPOOL

説明

静止されておらず、論理的に削除されていないサブプールまたはエクステントを削除する内部要求が行われました。この問題は、内部システム・エラーです。

システムの処置

IMS は削除要求を無視しました。

プログラマーの応答

IMS サブシステムのメモリー・ダンプをとり、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、具体的な問題を判断する支援を受けてください。

DFS3303I PSB *psbname* PCB *pcbname* DBD *dbdnamexxxx* JOBNAME *jobname* RGN *nnn*

説明

このメッセージが疑似異常終了 3303 の前に表示されるのは、PSB *psbname* を使用してスケジュールされたアプリケーション・プログラムが、データベース PCB *pcbname* に対して、互換性のない DL/I 呼び出しを試みたときです。PSB の DL/I スケジューリング中は、データベース *dbdname* には条件 *xxxx* がありました。このデータベースに対する DL/I 呼び出しは、条件しだいで、部分的または全的に制限されます。

このメッセージが表示されるのは、プログラムがスケジュールされ、プログラムによって DL/I INIT STATUS 呼び出しが発行されていない時点では使用不能であった、データベース内のデータへの、DL/I によるアクセスの試みが原因の 3303 異常終了の前だけです。

xxxx は、次のいずれかです。

CF FAIL

カップリング・ファシリティ障害が発生しました。リカバリーが行われ、データ共用が再開されるまでは、データベースにアクセスできません。

INVDBVER

アプリケーション・プログラムによって発行された PCB または INIT VERSION 呼び出しで、全機能データベースの無効なバージョン番号が指定されました。指定されるデータベース・バージョン番号は、IMS システムでアクティブである 現行データベースのバージョン番号と等しいか、それより小さい番

号でなければなりません。また、データベースのバージョン管理が使用不可である場合、PCB でデータベース・バージョンを指定できません。データベースのバージョン管理を使用可能にするには、DFSDFxxx PROCLIB メンバーのデータベース・セクションで DBVERSION=Y を指定します。

INVDBCHG

全機能データベースの現行のデータベース構造に、データベースのバージョン管理でサポートされない変更が含まれています。データベースの以前のバージョンは現行バージョンと互換性がないので、アクセスできません。データベースのバージョン管理でサポートされる変更は次のとおりです。

- セグメントのサイズの拡張
- 既存フィールドに変更を加えることなく、新規フィールドの追加

LOCKED

識別されているデータベースは、/LOCK コマンドを使用してセキュリティー・ロックされていました。

NOACCESS

データベース ACCESS は "RO" に設定され、PCB 処理意図 (PROCOPT) は "GO" より大でした。ACCESS "RO" で許されるのは、保全性を伴わないデータベース読み取りのみであるため、保全性を暗黙指定する処理インテントは無効です。

NOCATALG

IMS カタログが使用不可です。データベースのバージョン管理には IMS カタログが必要です。

NO DBRC

PCB *pcbname* は HALDB を参照していますが、このバッチ・ジョブについて、DBRC の使用が抑止されていました。

NODELETE

このデータベースへの DL/I DLET 呼び出しが、スケジュールリング時に許容されなかったのは、制限付きまたは使用不能のデータベースが論理関係、または副次索引にかかわっていたためです。削除呼び出しを処理できないのは、呼び出しには、使用不可になっているか、更新用に使用不可になっている、論理的に関連するデータベースまたは副次索引データベースの更新が必要である場合があるためです。

NOTAUTHD

DL/I スケジューリング時点では、データベースが DBRC によって許可されなかったか、許可できませんでした。メッセージ DFS047A が出されました。DL/I がこのデータベースに対する呼び出しを一切許可しません。

NOUPDATE

識別されているデータベースに関するデータベース ACCESS が RD であったか、/DBD コマンドがデータベースに関して発行されたか、いずれかです。データベース ACCESS が RD である (明示的でも、/DBD コマンドゆえに暗黙的でも) ときは、DL/I 呼び出し (ISRT、REPL、または DLET など) は使用できません。ISRT、REPL、または DLET 呼び出しで更新される必要がある可能性のある、論理的関連または副次索引データベースへのアクセスが使用不能または制限付きであることによっても、この条件が生じる可能性があります。

NOSTORAG

現行バージョン以外の、全機能データベースのバージョンに対する要求を満たすのに必要な内部ブロックを構築中に、ストレージ・エラーが発生しました。

NOVERFND

要求されたバージョンの全機能データベースを IMS カタログで検出できません。

PARTUNAV

dbdname によって示されている HALDB データベース内の区画を参照する試みがなされましたが、使用不能の区画でした。

STOPPED

識別されているデータベースに対して、/STOP または /DBR コマンドが発行されました。データベースが停止されているときは、DL/I はデータベース・アクセスを許しません。

SYSTEM

IMS システムが、一時的にデータベースを使用不能にしました。理由として可能性がある場合の 1 つに、XRF テークオーバーが生じ、データベースを再検査する必要がある場合があります。

システムの処置

OS jobname および領域番号によって識別されている IMS オンライン従属領域が異常終了します。

BMP の場合、領域が異常終了 3303 で終了します。MPP の場合、データベースは停止しますが、領域は終了しません。

処理されるメッセージが中断キューに置かれますが、SERIAL=YES オプションが TRANSACT マクロで指定されていた場合は例外です。この場合は、トランザクションが停止されます。メッセージが中断キューに初めて置かれたときは、そのトランザクションに関するカウンターが 1 だけ増分されます。

オペレーターの応答

(マスター端末) データベース条件を訂正した上で、データベースを開始してください。

中断キューをドレーンし、開始されたデータベースへのアクセスが許可されているプログラムによって処理さ

れる、トランザクションに関する USTOPPED 状況をリセットするには、/START DATABASE または UPDATE DB START (ACCESS) コマンドを発行してください。

開始済みトランザクションに関して中断キューをドレーンし、USTOPPED 状況をリセットする場合は、/START TRAN または UPDATE TRAN START (SUSPEND) コマンドを発行してください。

すべてのトランザクションに関して中断キューをドレーンするには、/DEQ SUSPEND コマンドを発行してください。

中断キューの働きについて詳しくは、「IMS V15 システム管理」を参照してください。

関連資料

[INIT 呼び出し \(アプリケーション・プログラミング API\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 3303](#)

DFS3304I **IRLM LOCK REQUEST REJECTED.**
PSB=psb_name DBD=dbd_name
JOBNAME=job_name RGN=nnn
SUBSYSTEM=subsystem

説明

この通知メッセージが疑似異常終了コード 3303 の前に表示されるのは、アプリケーション・プログラムが、IRLM によって保持ロックの取得を試みたときです。メッセージ・テキストにある変数は、次のとおりです。

psb_name

失敗した呼び出しを発行した PSB の名前

dbd_name

保持ロックがあるデータベースの名前

job_name

3303 異常終了を受信した z/OS ジョブの名前

nnn

3303 異常終了コードを受信する PST の番号 (10 進数)

subsystem

ロックを保持する IMS サブシステムの名前

システムの処置

システムの処置については、異常終了 3303 の説明を参照してください。

モジュール:

DFSLRH00

関連情報

[IMS 異常終了 3303](#)

DFS3305E **DEFINITION ERROR IN PROCLIB**
MEMBER name

STMNT (nnn),
'XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX'
(YYYYYYYYYY)

説明

1つ以上のエラーが外部サブシステム定義の処理中に検出された場合に、このメッセージが出されます。それぞれの定義エラーごとに、メッセージが出され、エラーのステートメントおよびエラーのテキストが指摘されます。PROCLIB メンバー内の個々のエラーごとに、STMNT エラー・メッセージが1つずつ出されます。単一ステートメントの複数のエラーは、複数のメッセージを生成します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

処理中であった PROCLIB メンバーの名前を示します。

nnn

メンバー内のステートメント番号

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

エラーのテキスト。

YYYYYYYYYY

理由コード。以下のいずれかの値になります。

OMITTED

必要パラメーターが定義から省略されていました。定義は無効でした。

IGNORED

適応されないパラメーターが定義に指定されていました。このパラメーターは無視され、処理は続行されます。

INVALID

エラー・テキストは、ステートメント内の無効のデータを表しています。文字ストリング KEYWORD がエラー・テキストに先行している場合は、パラメーターの値が無効です。その他の場合は、エラー・テキストは、定義の一部として解釈できないデータを表しています。定義は無効でした。

DUPLICATE

パラメーターの特定の値が、複数の定義で指定されていました。定義は、無効として扱われ、無視されました。

システムの処置

IMS 初期設定は 0071 異常終了で終了します。

プログラマーの応答

PROCLIB メンバー定義を訂正して、IMS 初期設定を再試行してください。

モジュール:

DFSCSL10

関連情報

IMS 異常終了 0071

DFS3306A

CTL REGION WAITING FOR *csltype*

説明

このオペレーター宛メッセージ (WTO) は、以下のいずれかの問題が検出されたことを示します。

- IMS (最初の登録で SCI、OM または RM が使用不可であるとき)。
- IMS オンライン処理 (IMSplex に作動可能な RM、OM、または SCI システムがないとき。例えば、すべての RM、OM、または SCI が終了したか、静止したとき)

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

csltype

CSL タイプ。SCI、OM または RM のいずれかです。

システムの処置

IMS は処理を続行します。ただし、CSL アドレス・スペースを必要とする、アクティブでない機能は使用可能になりません。次のリストに、例をいくつか示します。

- タイプ 2 コマンドは OM が再始動されるまで使用可能になりません。
- IMS リポジトリへのアクセスは、RM が再始動されるまで実行できません。
- SCI が再始動されるまで CSL サービスは使用可能になりません。

プログラマーの応答

使用可能でなかった CSL を開始します。IMS 初期設定中に CSL を開始したくない場合は、IMS を取り消す必要があります。

モジュール:

DFSCSL20、DFSCSL30、DFSCSL40、DFSSNTF0

DFS3307E

OM CMD REG ERROR, VERB

=vvvvvvvvvvvvvvvv

KEYWORD=kkkkkkkkkkkkkkkk

CC=cccccccc

説明

このオペレーター宛メッセージ (WTO) は、オペレーション・マネージャー (OM) コマンド登録が失敗したときに IMS 制御領域によって出される WTO メッセージです。失敗したコマンドとキーワードの組み合わせごとに、DFS3307E メッセージが1つずつ出されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

vvvvvvvvvvvvvvvv

OM で登録されたコマンド

kkkkkkkkkkkkkkkk

OM で登録されたキーワード

cccccccc

コマンドおよびキーワード登録の完了コード。
cccccccc の値は、CSLORR マクロで定義されています。

システムの処置

IMS は、リスト内の残りのコマンドの登録を試みます。試みが失敗するごとに DFS3307E メッセージが出力されます。すべての試みが完了した後、DFS3308E メッセージが表示され、IMS は異常終了します。

プログラマーの応答

状態が一時的である場合は、失敗した処理を再試行してください。

モジュール:

DFSCSL30

関連情報

DFS3308E

csltype REQUEST ERROR, macroname

RC=xxnnnnnn RSN=ssssssss

DFS3308E **csltype REQUEST ERROR,**
macroname RC=xxnnnnnn
RSN=ssssssss

説明

このメッセージは、IMS 処理が、CSL サービス要求から予期しない戻りコードまたは理由コード、あるいはその両方を受け取ったときに出力されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

csltype

CSL タイプは、CQS、OM、RM、または SCI です。

macroname

失敗したサービス・マクロの名前

xx

エラーに関連した IMSplex コンポーネントを示します。

00

IMS サブシステム (DB/DC、DBCTL、DCCTL)

01

SCI (構造化呼び出しインターフェース)

02

OM (オペレーション・マネージャー)

03

RM (リソース・マネージャー)

nnnnnnn

サービスからの戻りコード

ssssssss

macroname で特定されるサービスからの理由コード。サービス・マクロの理由コードと戻りコードについては、「IMS V15 システム・プログラミング API」を参照してください。

重要: CSLTYPE が SCI 以外を表示して、戻りコード (xx) が X'01' の場合、CSLSRR マクロを調べて理由の意味を確認してください。多くの OM および RM 要求の結果、SCI 戻りコードおよび理由コードが出力される可能性があります。

システムの処置

このエラーが IMS 初期設定の過程で発生した場合は、システムが 3308 で異常終了する可能性があります。それ以外の場合は、現行処理がリジェクトされ、オンライン処理が継続されます。新規の OM アドレス・スペースが IMSplex に結合した場合、IMS がそれに登録した場合、およびコマンド登録呼び出しの 1 つが失敗した場合にも、異常終了が起る可能性があります。

オペレーターの応答

状態が一時的である場合は、失敗した処理を再試行してください。

モジュール:

DFSCSL20、DFSCSL30、DFSCSL40、DFSOLC30、DFSRMCL0、DFSRMD00、DFSRMFD0、DFSRMIU0、DFSRMSR0、DFSSLGF0、DFSSLON0

DFS3311I **DFS3311I USER EXIT, XXXXXXXX,**
WAS NOT FOUND

説明

データ・キャプチャー出口ルーチン XXXXXXXX が DBDGEN で指定されましたが、この名前のロード・モジュールが検出されませんでした。

システムの処置

ジョブは、異常終了 3314 で終了されます。

プログラマーの応答

ロード・モジュールが検出されなかった理由を判別し、エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

1、2、3、8

関連情報

IMS 異常終了 3314

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3312A DBRC PROCESSING FAILED - REASON = nn.

説明

DBRC 要求が、次のいずれかの理由で失敗しました。

コード 意味

- 04** DBRC サインオン要求が正常に行われなかった。
- 08** BLDL が IMS/DBRC モジュールの 1 つ、DSPCRTR0 に関して失敗しました。
- 12** データベース・リカバリー管理初期設定の最初のパス (INIT-0) が正常に行われませんでした。
- 16** データベース・リカバリー管理初期設定の最初のパス (INIT-0) が正常に行われませんでした。
- 20** DBRC サインオフ要求が正常に行われなかった。

システムの処置

このメッセージには、後に異常終了コード 3312 が続きます。

プログラマーの応答

異常終了 3312 に関する情報を参照してください。

問題判別

- 1、2、3、4、8、12

関連情報

[IMS 異常終了 3312](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3313I xxxxxxxx USER EXIT HAS TERMINATED

説明

出口を DBD ステートメントで定義して、セグメントを更新するアプリケーション・プログラムのため、出口 xxxxxxxx が変更済みデータの処理中に異常終了しました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムが終了しました。

オペレーターの応答

出口が終了する原因となった状態を訂正してください。

問題判別:

- 2、3、8、および出口ルーチンのリスト

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3314W RETURN CODE xxx, REASON CODE yyy FROM EXIT zzzzzzzz IN REGION n

説明

領域 *n* の出口 zzzzzzzz が、IMS に xxx 戻りコードおよび yyy 理由コードを戻したので、戻りコードを基にして例外処理が行われます。

データ・キャプチャー出口ごとに発行できる DFS3314W メッセージは 6 個に制限されています。この制限は、IMS PROCLIB データ・セット (オンラインの場合) または DFSVSAMP DD データ・セット (バッチの場合) の DFSVSMxx メンバーに ALL3314W 制御ステートメントを指定することで除去できます。

プログラマーの応答

出口が戻りコードを戻す原因となった状態を訂正してください。

問題判別:

- 2、3、8、および出口ルーチンのリスト

関連資料

[発行される DFS3314W メッセージの数に関する制限の除去 \(システム定義\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3315 ACCESS INVALID FOR GLOBAL COMMAND

説明

キーワード ACCESS は、グローバル・コマンドでは無効でした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

コマンドを訂正し、再入力してください。

**DFS3315W xxxxxxxx USER EXIT HAS
 TERMINATED**

説明

出口を DBD ステートメントで定義して、セグメントを更新するアプリケーション・プログラムのため、出口 xxxxxxxx が変更済みデータの処理中に終了しました。

システムの処置

アプリケーション・プログラムが終了しました。

プログラマーの応答

出口が終了する原因となった状態を訂正してください。

問題判別:

2、3、8、および出口ルーチンのリスト

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3316 DATABASE|AREA ALL INVALID
 FOR GLOBAL COMMANDS**

説明

グローバル・コマンドでは、DATABASE または AREA ALL をサポートしません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

コマンドを訂正し、再入力してください。

**DFS3317I ACCESS INVALID FOR FAST PATH
 MSDB dbname**

説明

データベース・アクセスは、高速機能主記憶データベース (MSDB) に関しては変更できません。

システムの処置

指定されたデータベースは、コマンドから除去され、残りのデータベースがある場合は、それが処理されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3318I FAST PATH MSDB dbname NOT
 SUPPORTED BY GBL COMMANDS**

説明

高速機能主記憶データベース (MSDB) は、グローバル・コマンドでサポートされていません。

システムの処置

指定されたデータベースは、コマンドから除去され、残りのデータベースがある場合は、それが処理されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS3319 IRLM NOT ACTIVE.

説明

グローバル・コマンドまたは **/DEQ SUSPEND** が入力される場合は、IRLM がシステムでアクティブである必要があります。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

グローバル・コマンドまたは **/DEQ SUSPEND** を入力する前に、IRLM がアクティブであることを確認してください。

**DFS3320I DBRC INDICATES DATA BASE|
 AREA xxxxxxxx NEEDS BACKOUT/
 RECOVERY**

説明

指定されたデータベースまたはエリアがリカバリーされてからでないと、データベースまたはエリアに対して、コマンドは処理できません。

システムの処置

指定されたデータベースまたはエリアは、コマンドから除去され、残りのデータベースまたはエリアがある場合は、それが処理されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS3321I DBRC INDICATES DATA BASE x IS AUTHORIZED BY AT LEAST ONE BATCH SUBSYSTEM.

説明

データベース x の使用を許可されているバッチ・サブシステムが、少なくとも 1 つありました。

システムの処置

指定されたデータベースは、ローカルかつグローバルに (SCOPE = GLOBAL の場合) 処理されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS3322 DBRC NOT ACTIVE.

説明

/RMx コマンドが入力されましたが、DBRC が存在していません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

リカバリー管理コマンド (/RMx) を入力するのは、DBRC が存在しているときのみに行ってください。

DFS3323E TRANSACTION REQUEST WAS DISCARDED BY BACKEND IMS xxxxxxxx DUE TO MAX TPIPE CONDITION

説明

以下の説明は、非高速機能トランザクションにのみ適用されます。

IMS 共用キューのバックエンド IMS が、アプリケーション GU 時に OTMA フロントエンドによって開始されたトランザクションで T パイプあふれ状態を検出しました。OTMA クライアント記述子で指定される限度は、OTMA クライアントまたは DFSOTMA の MAXTP 限度の場合があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

XXXXXXXX

共用キューのバックエンド IMS の IMS ID。

このメッセージが発行されるのは、フロントエンドとバックエンドの両方の IMS システムに MAXTP の機能拡張の APAR PM71035 が適用されている場合だけです。

システムの処置:

IMS 共用キューのバックエンド・システムは、このトランザクションを停止せずに破棄します。この DFS3323E メッセージは、OTMA クライアントのフロントエンド IMS に送信されます。

プログラマーの応答:

/DISPLAY OTMA コマンドを発行して、使用中の TPIPE の合計数である TPCNT 値と、OTMA クライアント記述子で指定されている TPIPE 限度である MAXTP 値を表示します。IMS /CHECKPOINT コマンドを 3 回発行して、T パイプのクリーンアップを強制実行し、システム内のアイドル状態の T パイプを削除できます。

モジュール:

DFSYLUS0、DFSDLA30

DFS3324I TRAN tttttttt SUSPENDED

説明

IRLM 疑似異常終了 3303 が発生したため、トランザクション tttttttt によって処理中の入力メッセージは、中断キューに置かれました。3303 に関する説明に、異常終了の理由となる可能性のある場合がリストしてあります。異常終了 3303 が発生すると、このメッセージがメッセージ DFS554A と共に 出されます。ただし、DFS3324I が出されるのは、この入力メッセージが初めて中断キューに置かれたときだけであることを承知しておいてください。

アプリケーション・プログラムに疑似異常終了が起これば、領域に関して次に適用されるトランザクションがスケジュールされます。

システムの処置

疑似異常終了 3303 が発生したときに処理中の入力メッセージは、中断キューに置かれます。この特定の入力メッセージが初めて中断キューに置かれる場合であれば、そのトランザクションに関するカウンターが 1 だけ増分されます。それぞれのメッセージが正常に処理されるごとに、このカウンターは 2 だけ減分されます。カウンターが 10 を超えると、トランザクションは停止します。

中断キューにあるメッセージが、このトランザクション・タイプ用の通常キューに転送されると、入力メッセージがあらためて処理のためにスケジュールされます。この状態は、次のいずれかの状況で発生します。

1. このトランザクション・タイプに関する /START TRAN または UPDATE TRAN START(SUSPEND) が発行される。
2. このトランザクション・タイプの処理中にアクセスできるデータベースに関して、/START DATABASE または UPDATE DB START(ACCESS) が発行される。

すべてのトランザクションに関する中断キューに入っているメッセージは、**/DEQ SUSPEND** コマンドによって通常キューに転送されます。

オペレーターの応答

(マスター端末オペレーター) 発信元端末が会話型モード、排他モード、または応答モードにあった場合は、端末オペレーターに障害のある条件を通知してください。**/EXIT** コマンドを入力して、端末を解放するか、障害のあるサブシステムがそのリカバリーを完了し、中断メッセージのスケジュール変更が可能になるまで待ってください。

(端末オペレーター) 操作のモードが会話の場合は、マスター端末オペレーターがオペレーターに通知します。**/EXIT** コマンドを入力して、端末を解放するか、中断メッセージがスケジュール変更できるまで待ってください。

関連情報

201 ページの『DFS554A』
jobname.region.stepname. prog PSBname(x)
transaction-code
sys-completion-code user-completion-code PSB
SMB
LTERM:|LUNAME:|RTKN=*token*
REASON=*reason originating terminal*
IMS 異常終了 3303

DFS3325I DBRC INDICATES AREA xxxxxxxx IS NOT ELIGIBLE FOR LCL CMD

または

DBRC INDICATES DB xxxxxxxx IS NOT ELIGIBLE FOR LCL CMD

説明

名前の示されているデータベースまたはエリアに、PREVENT FURTHER AUTHORIZATION フラグが設定されていることを、DBRC が示しています。グローバル **/START DB** コマンドまたは **/START AREA** コマンドが発行されるまで、この状態が続きます。

システムの処置

コマンドは、指定されたエリアに関しては無視されます。

オペレーターの応答

グローバル **/START DB** コマンドまたは **/START AREA** コマンドを入力する必要があることを、データベース管理者に通知してください。

DFS3326I TEMPORARY IRLM FAILURE, UNABLE TO PROCESS GLOBAL COMMAND

説明:

IRLM が、GLOBAL コマンドの処理中に一時的な問題を検出しました。

システムの処置

コマンドは、ローカル・サブシステムで処理されていますが、受信側サブシステムには送信されていません。

オペレーターの応答

グローバル・コマンドを発行するか、それぞれの共用サブシステムでコマンドを発行してください。

問題判別:

36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3327 MORE THAN 29 DB or 27 AREA NAMES NOT SUPPORTED BY GLOBAL COMMANDS

説明

グローバル・コマンドで指定できるのは、最大 29 個のデータベース名または最大 27 個のエリア名です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

入力されたコマンドを訂正し、それを再入力してください。

DFS3328I GLOBAL cmd COMMAND seqno IN PROGRESS

説明

seqno は、処置を開始したグローバル・コマンドにこのメッセージを結び付ける場合に使用する 順次番号です。

システムの処置

システムは処理を続行します。

DFS3329I **CHECKPOINT IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS GLOBAL
COMMAND *seqno***

説明

以前に入力されたコマンドからのチェックポイント、または自動システム・チェックポイントが現在進行中です。*Seqno* は、処置を開始したグローバル・コマンドのシーケンス番号です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 現在のチェックポイントが完了したら、コマンドを再入力してください。

DFS3330I **ERESTART IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS GLOBAL
COMMAND *seqno***

説明

再始動コマンドが現在処理されています。*seqno* は、処置を開始したグローバル・コマンドの順次番号です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

マスター端末オペレーターの応答: **/ERE** コマンドが完了するのを待ち、コマンドを再入力してください。

DFS3331I **DBDUMP ALREADY IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS GLOBAL
COMMAND *seqno***

説明

以前に入力された **/DBDUMP** コマンドが、まだ完了していません。*Seqno* は、処置を開始したグローバル・コマンドのシーケンス番号です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) ダンプ・コマンドが完了するのを待ち、コマンドを再入力してください。

DFS3332I **DBRECOVERY ALREADY IN
PROGRESS, CANNOT PROCESS
GLOBAL COMMAND *seqno***

説明

前に入力されたデータベース・リカバリー・コマンドが、まだ完了していません。*Seqno* は、処置を開始したグローバル・コマンドの順次番号です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

マスター端末オペレーターの応答: データベース・リカバリー・コマンドが完了するのを待ち、コマンドを再入力してください。

DFS3333I **MSDB CHKPT IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS GLOBAL
COMMAND *seqno***

説明

DFS2717I に等価のグローバル・コマンドです。以前に入力されたコマンドからの MSDB チェックポイント、または自動システム・チェックポイントが現在進行中です。*Seqno* は、処置を開始したグローバル・コマンドのシーケンス番号です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) チェックポイントが完了するのを待ち、コマンドを再入力してください。

DFS3334I **hh:mm:ss GLOBAL *cmd* COMMAND
seqno INITIATED BY
SUBSYSTEM=*ssid* FOR THE
FOLLOWING DATA BASES|AREA|
ADS(s)**

説明

示されているグローバル・コマンドは、別のサブシステムから開始され、このサブシステムで処理されています。次で *cmd*、*seqno*、および *ssid* を定義します。

キーワード

意味

cmd

処理中のコマンド

seqno

このサブシステムによって発行されたコマンドに対する応答で使用される、このコマンドに割り振られた順次番号

ssid

グローバル・コマンドを発行した指示サブシステムのサブシステム ID

システムの処置

IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS3335A LOG INPUT IS NOT IN SEQUENCE FOR FUNCTION CA; REASON CODE=r

説明

ログ入力 が CA 機能に関して順序どおりではありません。戻りコード *r* の値は、次のいずれかです。

01

変更累積ユーティリティの 使用によるログ・データ・セットの作成中に、エラーが発生した。DB 共用リリースの IMS システムと、DB 共用より前の IMS システムの両方からのログ入力がありました。

02

変更累積データ・セットの作成中に、エラーが発生した。DB 共用リリースの IMS システムと、データ共用より前の IMS システムの両方からのログ入力がありました。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

ログ入力の正しい順序を判別し、ログ入力 が正しい順序になるように、JCL を訂正してください。

問題判別

2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP, MSGNNN=3335 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。DFSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

DFSUSNAP DD ステートメントが指定されると、診断情報がそのデータ・セットにダンプ・フォーマットで書き込まれて、エラーのログ・レコードを見つけるのに役立ちます。情報は次の 4 つの部分にダンプされます。

1. 部分ログ・レコード・データ。直前のログ・レコードの末尾の 4 バイトの後に続けて、エラー・ログ・レコードの 246 バイトが含まれます。
2. ログ・レコード・シーケンス番号データ。エラー・ログ・レコードに関するデータの末尾の 8 バイトが含まれます。
3. UCSTAT テーブル・エントリ。ログ・シーケンス検査を実行する場合に、モジュール DFSUC150 によ

って使用される UCSTAT テーブル・エントリ・データ全体が含まれます。

4. DFSULOG JFCB 情報。処理される DFSULOG データ・セットに関する JFCB データが含まれます。この情報を使用して、データ・セット名およびボリューム通し番号を判別してください。

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3336I SUSPEND QUEUE DRAINED

説明

中断されたトランザクションが、中断キューから除去されて、元のトランザクション・キューに再エンキューされています。

システムの処置

中断されたトランザクションはこれで処理対象として適格になります。

問題判別

ありません。

DFS3337W DBRC IS NOT ACTIVE, BUT WAS ACTIVE WHEN THE INPUT LOG WAS CREATED.

説明

発行ユーティリティ・プログラムが、入力ログ・データ・セットが作成された時点で、DBRC がアクティブであったことを示す X'42' ログ・レコードからの指示を発見しました。ただし、DBRC は、このユーティリティ・プログラム実行時にはアクティブではありませんでした。

システムの処置

処理は正常に続行されますが、ユーティリティ実行について、DBRC に通知はなされません。

プログラマーの応答

ユーティリティの実行中、DBRC がアクティブである必要があったかどうか検証してください。DBRC 通知が必要である場合は、DBRC コマンドを使用して、RECON データ・セット・レコードを手動で更新して、最新ログ情報が反映されるようにしてください。

DFS3338A OLIC AUTHORIZATION FAILURE - nnnncccc ALREADY AUTHORIZED

説明

このエラーが発生するのは、再始動がデータ・セット・コピーに関して要求され、示されているサブシステム名が DBRC にサインオンされていないときです。また、再始動が要求されていないで、示されているサブシステム名が DBRC にすでにサインオンされているときも、このエラーが発生する可能性があります。名前 `nnnncccc` は、グローバル・データ管理ブロック番号、DCB 番号、およびオンライン・イメージ・コピーの接続先であるオンライン IMS サブシステムに関する IMSID を表します。

システムの処置

実行した結果、エラーで終了します。

プログラマーの応答

再始動が要求されなかった場合は、再始動を指定して、オンライン・イメージ・コピーが再実行される必要があります。再始動が指定された場合は、再始動を指定しないで、オンライン・イメージ・コピーが再実行される必要があります。チェックポイント・リスタート機能が使用されていない場合は、DBRC コマンド

CHANGE.SUBSYS を発行して、名前 `nnnncccc` に関して異常サインオフを実行し、オンライン・イメージ・コピーを再実行して、完全なデータ・セットをあらためてコピーする必要があります。

**DFS3339A DATABASE AUTHORIZATION
FAILURE. CODE - n**

説明

コード *n* で、許可障害に関する理由を識別します。

コード (16 進数)

意味

4

IMS オンライン・サブシステムが、コピー対象データベースに関するデータベース許可を取得できませんでした。データベースに関して **/DBR** コマンドを発行した場合は、**/START** コマンドを発行して、それがオンライン・システムで使用可能であるか確認してください。

8

オンライン・イメージ・コピーに関する許可が失敗しました。オンライン・イメージ・コピーが接続されているオンライン IMS サブシステム以外の、別の IMS サブシステム (バッチまたはオンライン) に、コピー対象データベースに関する更新許可があります。

C

データベースがリカバリー可能ではないため、オンライン・イメージ・コピー許可は失敗しました。

システムの処置

実行した結果、エラーで終了します。

プログラマーの応答

オンライン・イメージ・コピーが接続されている オンライン IMS サブシステムが、更新機能に関して許可されている唯一のサブシステムである必要があります。このエラーでは、また、別のオンライン IMS サブシステムに接続された別のオンライン・イメージ・コピーに、データベース内のこのデータ・セットのコピーを作成する許可が現在あることも示されます。データベースが HALDB 区画であり、マスター・データベースが割り振り解除されている場合は、許可が区画レベルで付与される前に、データベースが開始されている必要があります。

モジュール

DFSUICPO

**DFS3340I DFS3340I - IRLM VERIFY
REQUEST FAILED. RC=xxx,yyy**

説明

データベース許可処理中に、データベースを更新または読み取りintentで使用する許可が以前に与えられたサブシステムを検査するために、IRLM が呼び出されました。IRLM からの戻りコードがゼロ以外であったため、IRLM 検査要求は失敗しました。戻りコード `xxx` は IRLM 戻りコードを表し、戻りコード `yyy` は IRLM フィードバック・サブコードを表します。XXX=012 および YYY='zz' の場合は、検査要求に関するサブシステム・エントリーの数が、現在サポートされている最大容量を超えていることを示す値です。

システムの処置

IMS サブシステムは、オンライン中続きますが、スケジュールされたアプリケーションは終了します。バッチまたはユーティリティーの場合は、サブシステムは終了し、理由コード 09 を伴うメッセージ DFS047A を受信します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) IMS システム・プログラマーに、このメッセージを通知してください。

関連情報

36 ページの『DFS047A』

UNABLE TO OBTAIN AUTHORIZATION FOR
DATA BASE xxxxxxxx. REASON CODE = zz. PSB=
psbname.

**DFS3341I DATA BASE dbname IS USING
DATA SETS NOT REGISTERED
WITH DBRC**

説明

メッセージ内の *dbname* で示された DDNAME または DSNAME が DBRC に渡されましたが、DBRC に登録されている名前と一致しませんでした。IMS が DBRC によるデータベースの使用を許可すると、最初のデータベース・データ・セットの DDNAME および DSNAME が DBRC に渡されます。DBRC は、データベースに関して登録されている名前と、これらの名前を比較します。

システムの処置

IMS は、データベースが DBRC にまったく登録されていない場合と同様に処理します (つまり、このデータベースに関しては、DBRC 許可保護はまったく提供されません)。つまり、このデータベースに関しては、データベース・レベルまたはブロック・レベルのデータ共有が行えないことを意味します。

プログラマーの応答

DBRC RECON に登録されたものと一致しないデータ・セットを使用したい場合は、処置は何も必要ありません。正しいデータベース・データ・セットを使用する意図である場合は、始動 JCL または動的割り振りメンバー、あるいは DBRC 登録を訂正してください。

**DFS3342I AREA areaname IS NOT
REGISTERED WITH DBRC.
INVALID FOR GLOBAL CMND**

説明

DBRC に登録されなかったエリアを登録するために、グローバル・コマンドが発行されました。グローバル・コマンドが許容されるのは、エリアが DBRC に登録される場合のみであり、そうでない場合は、コマンドは無効と見なされます。

システムの処置

IMS はコマンドを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答

指定されたエリアが DBRC に登録される必要があるかどうか、データベース管理者に尋ねてください。エリアが登録されない場合は、正しいコマンドを入力してください。

**DFS3343E CANNOT PROCESS DFSTCF LOAD
COMMAND, REASON=xx**

説明

IMS が **DFSTCF LOAD** コマンドを処理できませんでした。理由コードで、IMS がこのコマンドを処理できなかった理由を説明します。

理由コード

意味

- 01** キュー・モジュールが新規回線またはノード上の TCO 論理端末 DFSTCFI をエンキューできなかった。
- 02** TCO 論理端末 DFSTCFI でメッセージがデキューされていた、または送信されていた。終了するまで、再割り当てできません。
- 03** **DFSTCF LOAD OUTPUT** コマンドで指定された LTERM に関連付けられる物理端末と、TCO LTERM DFSTCFI が割り当てられる物理端末のいずれかが、会話モード、事前設定モード、または応答モードか、サインオン・サブプールにあった。
- 04** **DFSTCF LOAD OUTPUT** コマンドで指定された LTERM に関連付けられる物理端末か、TCO LTERM DFSTCFI が割り当てられる物理端末が、交換回線であった。
- 05** TCO LTERM DFSTCFI が、PTERM 定義 MSGDEL=SYSINFO に割り当てできない。例えば、TCO LTERM DFSTCFI は、メッセージがシステム・キューに入れられています。
- 06** TCO LTERM DFSTCFI が、PTERM 定義 MSGDEL=NONIOPCB に割り当てできない。例えば、TCO LTERM DFSTCFI は、メッセージがシステム・アプリケーション出力キューに入れられています。
- 07** 別のスクリプト・メンバーに関する要求がすでに進行中であった。

システムの処置

DFSTCF LOAD コマンドは、処理されません。IMS は続行されます。

プログラマーの応答

受け取った下記理由コードに対応する処置を取ってください。

理由コード

処置

- 01** このコードはシステム・エラーを表します。システムをシャットダウンし、問題の分析のために、できるだけ早くメモリー・ダンプを作成してください。IMS システム・プログラマーに通知してください。
- 02** 現行メッセージが完了したら、**DFSTCF LOAD** コマンドを再入力するか、**OUTPUT** オプションを指定し

ないで、**DFSTCF LOAD** コマンドを再入力してください。

03 端末が解放されるのを待つか、別の LTERM 名を使用して、**DFSTCF LOAD** コマンドを再入力してください。

04 有効な回線に関連付けられる LTERM を指定して、**DFSTCF LOAD** を再入力してください。

05 別の LTERM 名を使用して、**DFSTCF LOAD** コマンドを再入力してください。

06 別の LTERM 名を使用して、**DFSTCF LOAD** コマンドを再入力してください。

07 **DFSTCF LOAD** コマンドを再入力してください。

DFS3344E **DFSTCF LOAD CONTAINS INVALID CHARACTER IN FIELD x**

説明

DFSTCF LOAD コマンドに誤りがあります。FIELD x で識別しているキーワードまたはパラメーターが無効です。

DFSTCF LOAD コマンドの形式は、次のとおりです。

```
DFSTCF LOAD XXXXXXXX (OUTPUT YYYYYYYY) (CONT ZZ)
```

x (FIELD x) の値は、次のいずれかになります。

01 最初の定位置キーワードが DFSTCF ではない。

02 2 番目の定位置キーワードが LOAD ではない。

03 3 番目の定位置パラメーターが指定されなかった。
3 番目の定位置パラメーター xxxxxxxx は、1 から 8 文字のスクリプト名です。

04 4 番目の (オプション) 定位置キーワードが OUTPUT ではない。

05 5 番目の定位置パラメーターが指定されなかったか、8 文字より大きい。yyyyyyyy は、1 から 8 文字の LTERM 名です。

06 6 番目の (オプション) 定位置キーワードが CONT ではない。

07 7 番目の定位置パラメーターが指定されなかったか、2 桁より大きい数値である。zz は、1 から 99 の数値です。

システムの処置

DFSTCF LOAD コマンドは無視されます。処理は続行されます。

オペレーターの応答

DFSTCF LOAD コマンドを訂正し、再実行依頼してください。

DFS3345E **DFSTCF DOES NOT CONTAIN MEMBER name**

説明

DD ステートメントで指定されたデータ・セットに、メッセージで識別されているタイム・テーブル・メンバーが含まれていませんでした。

システムの処置

Time-Controlled Operations (TCO) 検査ユーティリティーが実行中であった場合は、そのユーティリティーは終了します。IMS オンラインが実行中であった場合は、**DFSTCF LOAD** コマンドは失敗しますが、IMS 処理は続行されます。

プログラマーの応答

タイム・テーブル・メンバーが正しく指定されているか、タイム・テーブル・メンバーが、DFSTCF DD ステートメントで指定されたデータ・セットにあるか、検証してください。ユーティリティーを再実行するか、**DFSTCF LOAD** コマンドを再発行してください。

DFS3346E **TCO EXIT RECEIVED STATUS CODE status code**

説明

Time-Controlled Operations (TCO) 言語インターフェース・ルーチンが、TCO 出口ルーチンに状況コードを戻しました。

システムの処置

TCO メッセージは処理されませんでした。TCO は次の時刻要求を処理します。

DFS3347A **CHANGE ACCUM PROCESSING IN DFSUCMNO FAILED - REASON = n.**

説明

以下のいずれかの理由により、モジュール DFSUCMNO でエラーが検出されたため、変更累積要求は失敗しました。

コード (16 進数)
意味

- 1 SYSIN 制御カードでエラーが検出されました。
- 2 DBRC 初期設定が失敗しました。
- 3 DFSUC150 でのログ処理が失敗しました。

システムの処置

処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答

理由コード 1 の場合は、SYSIN 制御カードのエラーを訂正し、ユーティリティを再実行してください。

理由コード 2 の場合、ジョブ出力で DBRC メッセージ DSP0351I を見つけて、追加情報を入手してください。RECON データ・セットと JCL に不整合がないか調べてください。その後、ユーティリティを再実行してください。

理由コード 3 の場合は、すべての入力ログが正しいことを確認してから、ユーティリティを再実行してください。

モジュール

DFSUCMN0

関連情報

[DSP0351I \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS3348E UNABLE TO ESTABLISH ESTAE
Created by ActiveSystems
12/24/96 Entity not defined. TCO
UNAVAILABLE

説明

Time-Controlled Operations (TCO) ESTAE ルーチンが確立されませんでした。

システムの処置

TCO は終了しますが、IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

ESTAE ルーチンが正しくバインドされたか、十分なストレージが使用可能か確認してください。

DFS3349I UNABLE TO INITIALIZE TIME
CONTROL OPTION, REASON=....

説明

IMS が Time-Controlled Operations (TCO) を初期設定できませんでした。理由コードに、TCO の初期設定が失敗した理由が示されています。

理由コード 意味

OPEN

データ・セットの OPEN 不能

CTT

TCO 用の通信端末テーブル (CTT) の検出不能

CTB

TCO 用の通信端末ブロック (CTB) の検出不能

GETO

サブプール 0 からのストレージの獲得不能

GETC

サブプール 231 からのストレージの獲得不能

NODD

DFSTCF DD カードが存在しない

CIRL

TCO CLB 用の ITASK の作成不能

LOAD

ユーザー出口 DFSTCNT0 のロード不能

システムの処置

TCO は初期設定されません。IMS の処理は継続します。

プログラマーの応答

受信した理由コードを基にして、次のいずれかの処置を取ってください。

理由コード 処置

OPEN

DFSTCF DD ステートメントで TCO に関して正しいデータ・セットが指定されているか、あるいはデータ・セットが存在しているか検証してください。

CTT

IMS 中核のリンクをチェックして、TCO 装置依存のモジュールが組み込まれていたか確認してください。

CTB

IMS システム定義をチェックして、端末ブロックが偶発的に削除されたのか判別してください。

GETO

十分なストレージが使用不可である場合は、制御領域のサイズを大きくしてください。

GETC

十分なストレージが使用不可である場合は、制御領域のサイズを大きくしてください。

NODD

通知目的専用。現時点で TCO を使用する場合は、IMS を停止した上で再始動して、DFSTCF DD カードを組み込んでください。

CIRL

ITASK の作成が正常に行われられない理由を判別し、IMS を実行してください。

LOAD

DFSTCNT0 がシステムにあるかチェックしてください。

**DFS3350E TCO ABNORMALLY TERMINATED,
 SEE DUMP**

説明

障害が Time-Controlled Operations (TCO) 出口ルーチン・モジュールで発生しました。

システムの処置

IMS スピンオフ・メモリー・ダンプ機能が TCO 環境を SNAP します。そこで、TCO はオペレーターが **DFSTCF LOAD** コマンドを発行するのを待ちます。IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

同じタイム・テーブル・メンバーまたは異なるタイム・テーブル・メンバーを再ロードするために、**DFSTCF LOAD** コマンドの発行を試みてください。

プログラマーの応答

TCO 環境のスナップ・ダンプを使用して、問題の原因を判別してください。

第 71 章 DFS メッセージ DFS3351E - DFS3400I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3351E **TCO ABNORMALLY TERMINATED,
SYSTEM ABEND, SEE DUMP**

説明

システム異常終了によって、Time-Controlled Operations (TCO) が終了しました。

システムの処置

IMS スピンオフ・メモリー・ダンプ機能が TCO 環境を SNAP し、TCO は終了します。

プログラマーの応答

TCO 環境のスナップ・ダンプを使用して、問題の原因を判別してください。

DFS3352E **INCOMPLETE MESSAGE
ENCOUNTERED, SEQUENCE
NUMBER=nnnnnnnn**

説明

メッセージ・セットを処理している最中に、Time-Controlled Operations (TCO) または TCO 検査ユーティリティーが、継続セグメントまたはメッセージが予想されていたときに、時刻スケジュール要求を検出しました。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置

TCO または TCO 検査ユーティリティーがメッセージ・セット全体を廃棄し、処理は続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ・セットのエラーを訂正してください。メッセージに遊離継続文字がないか、セグメントまたはメッセージが省略されていないかチェックしてください。

DFS3353E **INVALID CONTINUATION
CHARACTER, SEQUENCE
NUMBER=nnnnnnnn**

説明

Time-Controlled Operations (TCO) または TCO 検査ユーティリティーが、メッセージ・セット・ステートメントの 72 桁目にブランク (メッセージの終わり)、S (メッ

セージの終わり)、または X (セグメント継続) 以外の文字を検出しました、シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置

TCO または TCO 検査ユーティリティーがメッセージ・セットを廃棄し、処理は続行されます。

プログラマーの応答

メッセージ・セット・ステートメントの 72 桁目のエラーを訂正してください。

DFS3354E **TOO MANY SEGMENT
CONTINUATIONS, SEQUENCE
NUMBER=nnnnnnnn**

説明

単一セグメント (710 文字) に継続できるのは、10 セグメントのみです。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置

Time-Controlled Operations (TCO) または TCO 検査ユーティリティーがメッセージ・セットを廃棄し、処理は続行されます。

プログラマーの応答

最大を超えることがないように、必要な数のステートメントを削除してください。

DFS3355E **I/O ERROR READING DFSTCF
script-member name**

説明

DFSTCF DD ステートメントで指定されているデータ・セットを読み取っている最中に、入出力エラーが発生しました。エラーの発生時に Time-Controlled Operations (TCO) が処理していたタイム・テーブル・メンバーの名前が、メッセージで識別されています。

システムの処置

タイム・テーブル・メンバーの処理は終了します。TCO では、処理したのがリストの一部であった可能性があります。可能な場合は、リストの残りを処理します。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、タイム・テーブル・メンバーを再ロードするか、別のタイム・テーブル・メンバーをロードしてください。

DFS3356E **END TIME PRIOR TO START TIME,
SEQUENCE NUMBER=nnnnnnnn**

説明

スケジューリングを停止する時刻 (21 ~ 24 桁目) が、スケジューリングを開始する時刻 (7 ~ 10 桁目) より早くなっていました。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置

Time-Controlled Operations (TCO) または TCO 検査ユーティリティが時刻スケジュール要求をリジェクトし、処理は続行されます。

プログラマーの応答

時刻スケジュール要求エラーを訂正してください。次の点を確認してください。

- 開始時刻が終了時刻より早い。
- 開始時刻が 7 から 10 桁目で、終了時刻が 21 から 24 桁目である。

その上で、このタイム・テーブル・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティを再実行してください。

DFS3357E **RESIDENT INDICATOR
INCORRECT, SEQUENCE
NUMBER=nnnnnnnn**

説明

時刻スケジュール要求の 31 桁目の常駐標識は、空白 (常駐出口ルーチン) と D (動的ロード) のいずれかである必要があります。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置

TCO が時刻スケジュール要求をリジェクトし、処理は続行されます。

プログラマーの応答

時刻スケジュール要求を訂正してください。次の点を確認してください。

- 常駐標識が有効である。
- 常駐標識が 31 桁目に指定されている。

このタイム・テーブル・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティを再実行してください。

DFS3358E **DISPATCH INDICATOR
INCORRECT, SEQUENCE
NUMBER=nnnnnnnn**

説明

時刻スケジュール要求の 32 桁目に指定できる有効なコードは、空白 (毎日同時刻にスケジュール)、O (最初の日にスケジュールして削除)、または S (始動時にスケジュール) のみです。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置

Time-Controlled Operations (TCO) または TCO 検査ユーティリティが時刻スケジュール要求をリジェクトし、処理は続行されます。

プログラマーの応答

時刻スケジュール要求エラーを訂正してください。次の点を確認してください。

- ディスパッチ標識が 32 桁目である。
- ディスパッチ標識が有効である。

このライブラリー・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティを再実行してください。

DFS3359E **MESSAGE SET INDICATED, NO
MESSAGE FOUND SEQUENCE
NUMBER=nnnnnnnn**

説明

時刻スケジュール要求では、以前のメッセージ・セットを指定 (56 から 59 桁目に ****) しましたが、メッセージ・セットが提供されていませんでした。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置

Time-Controlled Operations (TCO) または TCO 検査ユーティリティが時刻スケジュール要求をリジェクトし、処理は続行されます。

プログラマーの応答

欠落しているメッセージ・セットを追加するか、時刻スケジュール要求を削除してください。このライブラリー・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティを再実行してください。

DFS3360E **USER EXIT xxxxxxxx REQUESTED
NOT FOUND, SEQUENCE
NUMBER=nnnnnnnn**

説明

IMS.SDFSRESL に、時刻スケジュール要求の 12 から 19 桁目で指定されている出口ルーチン xxxxxxxx が含まれていませんでした。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置

Time-Controlled Operations (TCO) が時刻スケジュール要求をリジェクトし、処理は続行されます。

プログラマーの応答

名前のスペルか位置調整、またはその両方を確認してください。名前が 8 文字未満の場合は、左寄せして、ブランクで埋め込む必要があります。このタイム・テーブル・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティを再実行してください。

DFS3361E INSUFFICIENT VIRTUAL STORAGE FOR TABLES

説明

Time-Controlled Operations (TCO) が十分なストレージを獲得できなかったため、メッセージ・テーブルまたは要求テーブルが作成できませんでした。

システムの処置

Time-Controlled Operations (TCO) がタイム・テーブル・メンバー・ロードを終了し、ストレージすべてを解放します。

プログラマーの応答

ストレージを広げて指定した上で、ジョブを再始動してください。TCO 検査ユーティリティによって生成された要約報告書を参照して、特定のタイムテーブル・メンバーに必要なストレージの量を判別してください。

DFS3362E TIME tttt SPECIFIED IS INVALID, SEQUENCE NUMBER=nnnnnnnn

説明

時刻スケジュール要求の時刻フィールドの 1 つ (7 から 10、21 から 24、または 26 から 29 桁目) に、ブランクも 0001 から 2359 の範囲の値も入っていませんでした。tttt は、無効の時刻を特定します。シーケンス番号 nnnnnnnn で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置

Time-Controlled Operations (TCO) または TCO 検査ユーティリティが時刻スケジュール要求をリジェクトし、処理は続行されます。

プログラマーの応答

時刻が有効で、正しい桁範囲に指定されているか確認してください。有効値は、HH が 00 から 23、MM が 00 から 59 です。このタイム・テーブル・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティを再実行してください。

DFS3363E UNABLE TO OPEN SYSIN

説明

TCO 検査ユーティリティが、SYSIN 入力データ・セットを開けませんでした。

システムの処置

TCO 検査ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

SYSIN DD ステートメントが存在しているか、存在している場合は、SYSIN データ・セットが存在するか、確認してください。このタイム・テーブル・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティを再実行してください。

DFS3364E UNABLE TO OPEN SYSPRINT

説明

TCO 検査ユーティリティが、SYSPRINT 出力データ・セットを開けませんでした。

システムの処置

TCO 検査ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

SYSPRINT DD ステートメントが存在しているか、SYSOUT クラスが有効であるか、確認してください。このタイム・テーブル・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティを再実行してください。

DFS3365I TCO MESSAGE MODULE REQUIRES MAINTENANCE

説明

Time-Controlled Operations (TCO) がユーティリティがメッセージを表示できませんでした。

システムの処置

システムは、TCO が表示できなかったメッセージに記述されている処置を実行します。

プログラマーの応答

TCO メッセージ・モジュールを再度バインドしてください。

**DFS3366E NO TIMER ELEMENT FOUND.
SCRIPT WILL NEVER BE
EXECUTED. MEMBER *name***

説明

TCO スクリプトに関する処理は完了しましたが、タイマー・エレメントが指定されていませんでした。スクリプトでは、*TIME ステートメントが組み込まれている必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

スクリプト・メンバーの名前。

システムの処置

TCO または TCO 検査ユーティリティーがスクリプトを廃棄し、処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要な *TIME ステートメントを TCO スクリプト・メンバーに追加して、エラーを訂正してください。

**DFS3367E TIMER ELEMENT NOT FOUND
FOLLOWING THE LAST MESSAGE
ELEMENT, SEQUENCE
NUMBER=*nnnnnnnn***

説明

TCO スクリプトの最後のステートメントが *TIME ステートメントではありませんでした。最後のメッセージ・エレメントが、処理に備えてスケジュールされません。

システムの処置

TCO または TCO 検査ユーティリティーが最後のメッセージ・ステートメントを廃棄し、処理は続行されます。

プログラマーの応答

*TIME ステートメントの位置に誤りがないか検証して、エラーを訂正してください。*TIME ステートメントを、TCO スクリプトの最後のステートメントとして追加してください。

**DFS3368E ERROR PROCESSING RDDS,
RC=*rc*, RDDSDSN =*dsname***

説明

システムで、リソース定義データ・セット (RDDS) にアクセスしようとしてエラーが発生しました。

コード

説明

4

RDDS からデータを読み取ろうとして、エラーが発生しました。

8

RDDS にデータを書き込もうとして、エラーが発生しました。

12

RDDS を割り振ろうとして、エラーが発生しました。

16

RDDS を開こうとして、エラーが発生しました。

20

RDDS は別の IMS によって所有されています。

24

RDDS RECFM が可変ブロック (VB) ではありません。

28

RDDS BLKSIZE 値が無効です。次のいずれかの条件が存在します。

- RDDS BLKSIZE が 32 760 より大です。
- RDDS BLKSIZE が 4096 より小です。

システムの処置

自動インポートが進行中で、DFSDFxxx PROCLIB メンバーで RDDSERR=ABORT を指定した場合、IMS は終了して 3368 異常終了を示します。

RDDSERR=NOIMPORT を指定した場合、IMS は、どのリソース定義または記述子定義もインポートせずに、ワールド・スタート処理を続行します。IMS は、RDDS のランタイム・リソース定義または記述子定義を使用せずに開始します。

自動エクスポートが進行中の場合、自動エクスポート・プロセスは異常終了します。

プログラマーの応答

戻りコード 4、8、12、および 16 は、オープンまたはクローズのエラー、動的割り振り、またはメッセージで示されている RDDS との間の読み取りおよび書き込みを示します。IOS または動的割り振りからサポート・メッセージを探して、エラー条件をさらに明確にして修正してください。

戻りコード 20 は、別の IMS システムがこの RDDS を要求したことを示します。エラーを報告しているシステムで DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーの RDDSDSN=パラメーターからこの RDDS を除去します。

戻りコード 24 は、可変ブロック以外の LRECL を使用して RDDS が割り振られたことを示します。RECFM=VB を指定して RDDS を再割り振りすることによって、この状態を修正してください。

戻りコード 28 は、32 760 より大きいか 4096 より小さいブロック・サイズを使用して RDDS が割り振られたことを示します。4096 から 32 760 の範囲内の BLKSIZE を指定して RDDS を再割り振りしてください。すべての RDDS が同じ BLKSIZE で割り振られない場合、自動エクスポート中のパフォーマンスに影響が及びます。すべての RDDS に対して BLKSIZE=32760 を使用することをお勧めします。

また、必要な処置については、異常終了 3368 に関する情報を参照してください。

モジュール:

DFSRDD00

関連情報

IMS 異常終了 3368

DFS3369I RDDS INITIALIZATION COMPLETED

説明:

リソース定義データ・セット (RDDS) の初期設定処理が完了しました。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSRDD10

DFS3370E NO SYSTEM RESOURCE DEFINITION DATA SETS AVAILABLE FOR AUTOMATIC EXPORT

説明:

自動エクスポート処理に使用できる有効なシステム・リソース定義データ・セットがありませんでした。このメッセージは強調表示され、リソース定義データ・セットが使用可能になるまで強調表示されたままになります。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。自動エクスポート・プロセスは、1 つ以上のシステム・リソース定義データ・セットが修正されるまで使用不可になります。

プログラマーの応答:

このメッセージの前に出された DFS3368E メッセージを参照して、データ・セットが使用不可である理由を判別してください。障害のあるデータ・セットが使用可能であることを確認します。

モジュール:

DFSRDD00

関連情報

DFS3368E

ERROR PROCESSING RDDS, RC=rc, RDDSDSN=
=dsname

DFS3371I SUCCESSFUL AUTO EXPORT TO RDDSDSN=dsname TIME=timestamp-UTC

説明:

自動エクスポートは正常に完了しました。dsname は、リソース定義および記述子定義のエクスポート先となったシステム・リソース定義データ・セット (RDDS) の名前を示します。timestamp は、最新の RDDS を示すために使用される UTC 時刻値を示します。この値は、RDDS ヘッダー・レコードに配置されます。ISPF または同様の読み取りユーティリティを使用して RDDS データ・セットの値を表示できます。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSXP000

DFS3372E AUTOMATIC EXPORT FAILED, RC=rc

説明

自動エクスポートが失敗しました。rc は、失敗の理由を示します。戻りコード rc 値は、次のとおりです。

コード

説明

4

リソース定義データ・セット (RDDS) にアクセスしようとして、入出力エラーが発生しました。

8

使用可能な RDDS データ・セットはありません。

12

64 ビット・バッファの取得を試みているとき、エラーが発生しました。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答:

失敗の原因を判別するために、このメッセージより前に出された DFS3368E メッセージを参照してください。

モジュール:

DFSXP000

関連情報

DFS3368E

ERROR PROCESSING RDDS, RC=*rc*, RDDSDSN=*dsname*

**DFS3373I AUTOMATIC EXPORT IS ENABLED
 TO *target***

説明

自動エクスポート処理が *target* に対して使用可能になっています。ここで、*target* には次のものを使用できません。

RDDS

MODBLKS リソース定義および記述子定義は、チェックポイント時点で自動的にシステム・リソース定義データ・セット (RDDS) にエクスポートされます。

REPOSITORY

(コマンドまたは自動エクスポートを使用して) 最後に正常に実行されたエクスポート以降に新たに作成または変更された MODBLKS リソース定義および記述子定義がチェックポイント時点で自動的に IMSRSC リポジトリにエクスポートされることを示します。

AUTOEXPORT=AUTO が定義されており、IMSRSC リポジトリと RDDS の両方を使用して IMS が使用可能になっている場合、DFS3373I メッセージが 2 回発行されます。*target*=RDDS に関して 1 回と、*target*=REPOSITORY に関して 1 回です。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSDFN10

関連概念

[動的リソース定義環境の保守 \(システム定義\)](#)

[RDDS への MODBLKS リソース定義および記述子定義のエクスポート \(システム定義\)](#)

[IMSRSC リポジトリへの MODBLKS リソース定義および記述子定義のエクスポート \(システム定義\)](#)

**DFS3374W AUTOMATIC EXPORT IS DISABLED
 RC=*rc***

説明

自動エクスポート処理が使用不可になっています。*rc* は、自動エクスポートが使用不可になった理由を示します。考えられる理由は次のとおりです。

コード

説明

4

AUTOEXPORT=NO が指定されました。

8

AUTOEXPORT=AUTO が指定されましたが、RDDS が定義されていないため、IMSRSC リポジトリは使用不可です。

12

DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーが定義されていません。

16

DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーの DYNAMIC_RESOURCE セクションが定義されていません。

20

デフォルトで AUTOEXPORT=AUTO が使用され、AUTOEXPORT=AUTO パラメーターが指定されなかったために、IMS は IMSRSC リポジトリに対して自動的にエクスポートできません。

24

AUTOEXPORT=REPO が指定されましたが、IMSRSC リポジトリが使用不可です。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

自動エクスポート処理を使用しない場合は、処置はありません。

自動エクスポート処理を使用する場合は、戻りコードを使用して DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーの指定エラーを識別して訂正してください。

モジュール:

DFSDFN10、DFS RDD10

**DFS3375 UNABLE TO ACQUIRE STORAGE IN
 SUBPOOL 0 FOR MODIFY
 COMMAND**

説明

/MODIFY または INITIATE OLC コマンド・プロセッサが、専用領域でストレージの取得に失敗しました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

専用領域でアクティビティが減り、使用可能なストレージが増えたら、コマンドを再入力してください。問題がしばしば生じる場合は、専用領域の使用可能なストレージを増やしてください。

**DFS3376 UNABLE TO ACQUIRE STORAGE IN
 THE WORK AREA POOL FOR
 MODIFY**

説明

/MODIFY または **INITIATE OLC** コマンド・プロセッサが、作業域プール (WKAP) でストレージの取得に失敗しました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

WKAP で使用可能なスペースが増えたら、コマンドを再入力してください。

**DFS3377 INSUFFICIENT STORAGE
 AVAILABLE IN CIOP**

説明

コマンド・プロセッサが、通信入出力プール (CIOP) でストレージの取得に失敗しました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

CIOP で使用可能なスペースが増えたら、コマンドを再入力してください。

**DFS3378W BLDL FAILED FOR xxxxxxxx DURING
 ONLINE CHANGE**

説明

/MODIFY または **INITIATE OLC** コマンドを処理している最中に、IMS がディレクトリー・エントリー・リストの作成でエラーを検出しました。エラーは、ACBLIB xxxxxxxx に関して発生しました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

オンライン IMS システムで 現在使用中の ACBLIB でエラーが発生した場合は、そのオンライン・システムでエラーが再発する可能性があります。非アクティブ ACBLIB についてエラーが発生した場合は、その ACBLIB を再作成してください。

**DFS3379E DFSTCF LOAD CONTAINS INVALID
 OUTPUT LTERM**

説明

DFSTCF LOAD コマンドの LTERM が、IMS によって認識されません。

システムの処置

IMS はコマンドを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答

LTERM 名をチェックし、コマンドを再発行してください。

**DFS3380 TCO INACTIVE, CANNOT LOAD/
 PROCESS SCRIPTS**

説明

LTERM DFSTCF へのメッセージ通信が出されました。メッセージ通信は、TCO スクリプトをロードするための **DFSTCF LOAD** コマンドであった可能性があります。TCO が現在はアクティブではなく、要求を処理できません。

LTERM DFSTCF の使用は、TCO 機能に制限されています。DFSTCF に切り替えられたメッセージがあれば、いずれも TCO スクリプトをロードする要求であると想定されます。

システムの処置

メッセージ通信は無視され、IMS は続行されます。

プログラマーの応答

TCO スクリプトのロードおよび処理を行いたい場合は、IMS を停止してください。その後、IMS を再起動し、//DFSTCF DD カードを組み込んで、TCO 機能を活性化してください。

**DFS3381E CF INITIALIZATION FAILED,
 DATA=aa bbbbbbbb ccccccc
 ddeeffgg**

説明

カップリング・ファシリティ・サービス機能は初期設定されませんでした。メッセージの DATA 部分で、障害の理由が識別されています。

aa

どこでエラーが検出されたかを識別する場所コードです。aa は、次のいずれかの値になります。

**コード (16 進数)
意味**

10

OSAM 構造に接続している最中

- 20**
順次バッファリングのために OSAM 構造に接続している最中
- 30**
VSAM 構造への接続中
- 40**
データ共用リソース・プール用として接続データを VSAM に渡している 最中
- 50**
索引共用リソース・プール用として接続データを VSAM に渡している 最中

bbbbbbbb

最後に開始されたサービスからの戻りコード。このコードの値については、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584)を参照してください。

ccccccc

対応する理由コード。このコードの値については、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584)を参照してください。

ddeeffgg

対応するフラグ・バイト。

dd は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

意味

- 80**
無効の機能が要求された。
- 40**
OSAM 構造への接続が失敗した。
- 20**
OSAM 構造への接続時に戻された OSAM バッファが少なすぎた。
- 10**
VSAM 構造への接続が失敗した。
- 08**
データ共用リソース・プール用として接続データを VSAM に渡す試みが失敗した。
- 04**
索引共用リソース・プール用として接続データを VSAM に渡す試みが失敗した。
- 02**
OSAM 構造からの切断が失敗した。
- 01**
VSAM 構造からの切断が失敗した。

ee は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

意味

- 80**
ダミー PST が、カップリング・ファシリティ・サービスの初期設定または実行中に 取得された。

- 40**
OSAM 構造への接続が正常に行われた。
- 20**
OSAM 構造からの切断が正常に行われた。
- 10**
VSAM 構造への接続が正常に行われた。
- 08**
VSAM 構造からの切断が正常に行われた。

ff は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

意味

- 80**
カップリング・ファシリティ・サービス初期設定が失敗したため、データ共用を停止する要求が受信された。

gg は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

意味

- 80**
OSAM バッファに関する読み取り後登録操作が失敗した。
- 20**
OSAM バッファに関するバッファ無効化が失敗した。

システムの処置

メッセージ DFS3384I に関するシステムの処置を参照してください。

プログラマーの応答

aa が 10、20、または 30 の場合は、障害の原因を識別するエラー戻りコードおよび理由コードについて、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584)を参照してください。*aa* が 40 または 50 の場合は、障害の原因を識別するエラー戻りコードについて、該当する DFSMS の資料を参照してください。

問題判別:

1、2、3、36

関連情報

970 ページの『DFS3384I』

DATA SHARING STOPPED

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3382I

CF INITIALIZATION COMPLETE

説明

カップリング・ファシリティ・サービス機能は正常に初期設定されました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3383E **STOP DATA SHARING FAILED,**
DATA=aa bbbbbbbb ccccccc
ddeeffgg

説明

カップリング・ファシリティの VSAM または OSAM 構造、あるいはその両方から切断する試みが失敗しました。メッセージの DATA 部分で、障害の理由が定義されています。

aa

場所コード。これにより、エラーが検出された場所が特定される。aa は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

意味

60

OSAM 構造からの切断が失敗した。

70

VSAM 構造からの切断が失敗した。

bbbbbbbb

最後に開始されたサービスからの戻りコード。このコードの値については、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584)を参照してください。

ccccccc

対応する理由コード。このコードの値については、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584)を参照してください。

ddeeffgg

対応するフラグ・バイト。

dd は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

意味

80

無効の機能が要求された。

40

OSAM 構造への接続が失敗した。

20

OSAM 構造への接続時に戻された OSAM バッファが少なすぎた。

10

VSAM 構造への接続が失敗した。

08

データ共用リソース・プール用として接続データを VSAM に渡す試みが失敗した。

04

索引共用リソース・プール用として接続データを VSAM に渡す試みが失敗した。

02

OSAM 構造からの切断が失敗した。

01

VSAM 構造からの切断が失敗した。

ee は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

意味

80

ダミー PST が、カップリング・ファシリティ・サービスの初期設定または実行中に取得された。

40

OSAM 構造への接続が正常に行われた。

20

OSAM 構造からの切断が正常に行われた。

10

VSAM 構造への接続が正常に行われた。

08

VSAM 構造からの切断が正常に行われた。

ff は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

意味

80

カップリング・ファシリティ・サービス初期設定が失敗したため、データ共用を停止する要求が受信された。

gg は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

意味

80

OSAM バッファに関する読み取り後登録操作が失敗した。

20

OSAM バッファに関するバッファ無効化が失敗した。

システムの処置

カップリング・ファシリティから切断する IMS の試みは失敗しても、データ共用は正常に停止されました。

プログラマーの応答

障害の原因を識別するエラー戻りコードおよび理由コードについては、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584)を参照してください。

問題判別:

1、2、3、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3384I DATA SHARING STOPPED

説明

データ共有は正常に停止されました。データ共有が停止するのは、次の状況の場合です。

- カップリング・ファシリティへの接続の逸失
- カップリング・ファシリティの再作成の失敗
- カップリング・ファシリティの初期設定の失敗

システムの処置

OSAM または接続が VSAM 構造に関して失われたか否かに関係なく、この両構造が CFNAMES 制御ステートメントで指定された場合は、データ共有は両構造に関して停止され、両構造への接続が失われます。指定されたのが一方の構造のみであった場合は、もう一方の構造は、通知プロトコルを使用してデータ共有を継続できます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3385I DUPLICATE CF STRUCTURE NAME SPECIFIED

説明

CFNAMES 制御ステートメントで指定されたカップリング・ファシリティ構造名が重複しています。IRLM、OSAM、および VSAM 構造を指定するときは、構造名がすべて異なっている必要があります。

システムの処置

IMS は終了し、異常終了コード 0430 が示されます。

プログラマーの応答

CFNAMES 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、36

関連情報

IMS 異常終了 0430

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3386I OSAM CF CACHING RATIO = ddd:eeer

説明

カップリング・ファシリティ構造が OSAM に関して定義されました。ddd および eee に関して指定された値は、カップリング・ファシリティ・ディレクトリー/エレメント間比率を表します。ディレクトリー/エレメント間比率がアクティブなのは、発行 IMS の場合です。これらの値は、OSAM 構造を構成するために使用される場合もあります。カップリング・ファシリティに接続する最初の IMS の場合にアクティブの比率値によって、ディレクトリー/エレメント間比率が確立されます。同じ構造に接続する他の IMS 領域では、以前に構成された構造を使用します。

r で表される値は、アクティブなのがデフォルトの比率か、外部指定比率かを示します。r は、次の値のいずれかになります。

1

CFNAMES ステートメントの CFOSAM= キーワードがディレクトリー/エレメント間比率を指定しなかった。IMS がデフォルトの比率 999:1 を示します。

2

ディレクトリー/エレメント間比率が CFOSAM= キーワードによって指定され、アクティブである。

3

ディレクトリー/エレメント間比率が CFOSAM= キーワードによって指定されたが、定義している比率が間違っていて、使用できない。エレメント値をディレクトリー値で割った結果が、最大数である 16 エレメントを超えてはなりません。外部指定比率ではなく、IMS が提供した比率が使用されます。

4

CFOSAM= キーワードで指定された、ディレクトリー/エレメント間比率のエレメント部分がゼロである。結果の比率は 1:0 になります。この比率では、OSAM 構造がディレクトリー専用処理の構成になります。したがって、データ・キャッシングで使用可能なデータ・エレメントはありません。

システムの処置

IMS 初期設定処理は続行されます。指定された比率がアクティブなのは、発行 IMS の場合です。

プログラマーの応答

応答は必要ありませんが、OSAM 構造を構成する場合に使用されたディレクトリー/エレメント間比率が、ユーザーが必要とする比率ではない場合は別です。この場合は、CFNAMES ステートメントでディレクトリーおよびエレメントの値を指定または変更し、IMS シスプレックスを再始動してください。

**DFS3387I DUPLICATE xxxxxx KEYWORD
 SPECIFIED FOR CFNAMES**

説明

CFNAMES 制御ステートメントのキーワード (CFIRLM、CFOSAM、または CFVSAM) が複数回指定されました。これらのキーワードは、それぞれ 1 回しか指定できません。

システムの処置

重複キーワードは無視され、ステートメントの残りは迂回されます。

プログラマーの応答

IMS システム定義の説明でメンバー DFSVSMxx の項を参照してください。CFNAMES 制御ステートメントを検査し、必要な場合は、適切な変更を行ってください。

問題判別:

1、2、3、36

関連資料

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSVSMxx メンバー \(システム定義\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3388I ALL CF KEYWORDS ARE
 REQUIRED ON CFNAMES CARD**

説明

すべてのキーワード (CFIRLM、CFOSAM、および CFVSAM) を CFNAMES 制御ステートメントで指定する必要があります。それぞれの構造は使用されない場合でも、すべてのキーワードが指定される必要があります。

システムの処置

IMS は 0430 で終了します。

プログラマーの応答

CFNAMES 制御ステートメントを修正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別:

1、2、3、36

関連情報

[IMS 異常終了 0430](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3389I MISMATCH - xxxx yyyyyyyyyyy
 zzzzzzzzzzzzzzzzz ++
 wwwwwwwwwwwwwwwwwww**

説明

IRLM に対する IDENTIFY 要求が失敗しました。IRLM が、次のものの間の不一致を検出しました。

- 使用していたカップリング・ファシリティ構造名と IDENTIFY 要求で指定されているカップリング・ファシリティ構造名
- 使用していた DBRC RECON タイム・スタンプと IDENTIFY 要求で指定されている DBRC RECON タイム・スタンプ

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx

次のいずれかの値

OSAM
VSAM
IRLM
MADSIOT

yyyyyyyyyy

次のいずれかの値

CFNAME++

カップリング・ファシリティ構造名の不一致を示す。

DBRC RECON

DBRC RECON タイム・スタンプの不一致を示す。

MADSIOFUNC

MADSIOT 機能指定の不一致を示す。

zzzzzzzzzzzzzzzz

CFNAMES 制御ステートメントで指定された構造名、または、DBRC RECON タイム・スタンプにかかわる不一致であった場合は、ブランク。

wwwwwwwwwwwwwwww

IRLM で使用中の構造名、または、DBRC RECON タイム・スタンプにかかわる不一致であった場合は、ブランク。

システムの処置

IMS は異常終了 0039 で終了します。

プログラマーの応答

カップリング・ファシリティを共用しているすべての IMS サブシステムが、使用されていた OSAM、VSAM、または IRLM 構造のいずれに関しても、IRLM に対して同じ名前を指定しているか検証してください。すべての共用サブシステムも同じ RECON データ・セットを使用する必要があります。

問題判別:

1、4、10、35

関連情報

IMS 異常終了 0039

DFS3390I NO CF CONNECTION EXISTS. /ERE BACKUP NOT ALLOWED.

説明

XRF 代替サブシステムで入力された /ERE コマンドがリジェクトされました。その理由は、コマンドの処理時には、カップリング・ファシリティへの接続が存在しなかったからです。

システムの処置

カップリング・ファシリティへの接続が確立されるまでは、/ERE BACKUP コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

カップリング・ファシリティ接続が確立されたら、/ERE BACKUP コマンドを再実行してください。

問題判別

1、36

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3391I CFNAMES SPECIFIED BUT IRLM IS NOT USED

説明

CFNAMES 制御ステートメントが IMS.PROCLIB の DFSVSMxx メンバー、または DD 名が DFSVSAMP のデータ・セットで指定されましたが、IRLM がこの実行のために存在していません。

システム・プログラマーの応答

IRLM がこの実行中で使用されているか確認してください。

IMS ユーティリティには、IRLM を必要としないものもあり、そのような場合は、このメッセージは無視できます。

モジュール

DFSTRA00、DFSXRLM0

DFS3392W DL/I CF DATA CACHING INOPERATIVE FOR NNNNNNNNNNNNNNNNN

説明

NNNNNNNNNNNNNNNN という名前の OSAM 構造の場合は、データ・キャッシングが使用不可になっています。この状態が生じたのは、CF 構造に接続した IMS が最初に非キャッシング環境を確立したためです。

システムの処置

IMS は、DL/I データ・キャッシングなしで実行を継続します。

システム・プログラマーの応答

バッチであれ、オンラインであれ、IMS データ共用サブシステムはすべて、OSAM DL/I データ・キャッシング (ODC) を使用するときは、同じ構造およびキャッシング・オプション (CO) を使用するか、確認してください。これらのオプションは、オンラインの場合は、DFSVSMxx PROCLIB メンバーで、バッチの場合は、DFSVSAMP DD カードで、CFNAMES および IOBF ステートメントを使用して定義されます。

複数の IMS サブシステム全般にわたって構造の保全性を確保することに失敗すると、データ保全性およびパフォーマンスの問題が生じる結果になる恐れがあります。

すべての IMS サブシステムが IMS バージョン 6.10 以降を使用して稼働している場合は、IMS では、最初に接続した IMS によって定義された特性をもつ構造の使用を試みます。後続の IMS では、接続中に構造にキャッシングの対象となるデータ・エレメントがないことを検出すると、その固有の ODC を作動不能にらしめます。

IMS バージョン 6.10 のサブシステムが、IMS バージョン 5.10 のサブシステムと一緒に稼働している場合は、バージョンが古い方の IMS を最初に構造に接続する必要があります。ODC が導入されたのは IMS バージョン 6.10 以降であり、IMS バージョン 5.10 ではキャッシュ・データにアクセスできません。異なる IMS サブシステムで、DFSVSMxx/DFSVSAMP の IOBF ステートメントの異なるコピーを使用した場合も、結果的にデータ保全性の問題が生じる恐れがあります。

問題判別

1、ならびに IMS 共用サブシステムすべてに関するすべての DFSVSMxx または DFSVSAMP ステートメントのコピーを保管してください。

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3394W OSAM/VSAM CF STRUCTURE
NAME IS SPECIFIED WITH NO
IOBF/VSRBF**

説明

DFSVSAMP または DFSVSMxx で、OSAM、VSAM、またはその両方の構造名が指定されましたが、IOBF ステートメント、VSRBF ステートメント、またはその両方がそれぞれありませんでした。

システムの処置

オンライン環境では、CFNAMES ステートメントに OSAM 構造名が存在する場合は、IXLCONN マクロにバッファの数を渡すために、IOBF ステートメントが必要です。ただし、バッチでは、IMS がバッファ数をデフォルトで 4 つにしているため、IOBF ステートメントは必要ありません。VSAM の場合は、CFNAMES ステートメントに VSAM 構造名が存在するので、IXLCONN マクロにバッファの数を渡すために、VSRBF ステートメントが常に必要です。

プログラマーの応答

DFSVSAMP または DFSVSMxx の CFNAMES ステートメント、および対応する IOBF ステートメント、VSRBF ステートメント、またはその両方を検討してください。

モジュール

DFSMDAWO

**DFS3395I AUTOMATIC IMPORT STARTED
FROM xxxxxxxxxxxxxxxx**

説明

自動インポートが開始されました。xxxxxxxxxxxx の有効値は次のとおりです。

MODBLKS

リソース定義が MODBLKS データ・セットからインポートされることを示します。

RDDSDSN=dsname

リソース定義および記述子定義がリソース定義データ・セット (RDDSDSN) からインポートされることを示します。メッセージ・テキストの dsname は、RDDSDSN の名前を示します。

REPOSITORY REPOTYPE=repotype

REPONAME=reponame

リソース・マネージャー (RM) が IMSRSC リポジトリに接続されていること、およびリソース定義がリポジトリからインポートされる予定であることを示します。repotype はリポジトリ・タイプを示し、reponame はリポジトリ名を示します。repotype の有効な値は、IMSRSC のみです。

自動インポートがリポジトリからのもので、リポジトリが空の場合、IMS は、DFS4405W メッセージおよび別の DFS3395I メッセージを出して、リソース定義のインポート元 (MODBLKS または RDDSDSN) を示します。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSIP000、DFSIP300、DFSRRSCO

**DFS3396I AUTOMATIC IMPORT COMPLETED,
RC=rc**

説明

自動インポートが完了しました。rc で示される戻りコードは次のとおりです。

コード

説明

0

すべてのリソース定義および記述子定義が正常にインポートされました。

4

すべてのリソース定義および記述子定義がインポートされましたが、1 つ以上のリソースまたは記述子を完全に初期設定できませんでした。DFSDFxxx PROCLIB メンバーで IMPORTERR=CONTINUE が指定されました。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSIRIMPO

**DFS3397E AUTOMATIC IMPORT FAILED,
RC=rc**

説明

自動インポートが失敗しました。rc は、失敗の理由を示します。戻りコード値は次のとおりです。

コード 説明

- 4** リソース定義データ・セット (RDDS) にアクセスしようとして、入出力エラーが発生しました。
- 8** 64 ビット・バッファの取得を試みているとき、エラーが発生しました。
- 12** 定義した RDDS のいずれにもエクスポートされたデータが入っていません。
- 32** IMSRSC リポジトリからリソース定義を読み取ろうとしたときにエラーが発生しました。
- 40** すべてのリソース定義および記述子定義がインポートされましたが、定義のエラーが原因で、1 つ以上のリソースまたは記述子を初期設定できませんでした。DFSDFxxx PROCLIB メンバーで IMPORTERR=ABORT が指定されました。
- 44** これらの理由のいずれかのために、IMSRSC リポジトリから、リソースがまったくインポートされませんでした。
- リポジトリが空で、AUTOIMPORT=REPO が指定された。IMS コールド・スタートは、リソースがインポートされないまま継続します。
 - IMSRSC リポジトリから読み取られたリソース定義の処理中にエラーが起こった。
- IMPORTERR= の指定に基づいて処置が行われま

す。

システムの処置

システム・リソース定義データ・セットにアクセスしようとしてエラーが発生し、DFSDFxxx PROCLIB メンバーで RDDSER=ABORT を指定した場合は、IMS は終了して 3368 異常終了を示します。

IMS がリソース定義または記述子定義のエラーを検出して、DFSDFxxx PROCLIB メンバーで IMPORTERR=ABORT を指定した場合、IMS は終了して 3397 異常終了を示します。

IMSRSC リポジトリからリソース定義を読み取ろうとしたときにエラーが発生した場合、エラーの詳細については、このメッセージの前に出された DFS4401E メッセージを参照してください。DFSDFxxx PROCLIB メンバーで REPOERR=ABORT を指定していた場合、IMS は終了して 3368 異常終了を示します。

プログラマーの応答

入出力エラーの原因を特定するには、このメッセージの前に出された DFS3368E メッセージを確認してください。いずれの RDDS にもエクスポートされたデータが

入っていない場合、自動エクスポートが使用可能になっています。定義のエラーが原因で初期設定できなかったリソースを特定するには、このメッセージの前に出されたすべての DFS3423E メッセージを確認してください。

リポジトリ・エラーの原因を特定するには、このメッセージの前に出された DFS4401E メッセージを確認してください。

モジュール:

DFSIP000、DFSRIMP0、DFSIP300

関連情報

964 ページの『DFS3368E』

ERROR PROCESSING RDDS, RC=rc, RDDSDSN=dsname

984 ページの『DFS3423E』

RESOURCE ERROR TYPE=resourcetype
SERVICE=servicename FUNC=function
RC=returncode NAME=resourcenam
MODULE=modulename

1243 ページの『DFS4401E』

RM requestname ERROR, RC=rc RSN=rsn
ERRORTXT=errortxt

IMS 異常終了 3368

DFS3398E

**LOAD FAILED FOR TRANSACTION
INPUT EDIT ROUTINE xxxxxxxx,
RC=rc**

説明

1 つ以上のトランザクション用に定義された入力編集ルーチンをロードできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

ルーチンの名前を示します。

rc

IMODULE LOAD 呼び出し (DFSMODU0) からの戻りコードです。これらの戻りコードについては、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

入力編集ルーチンで定義されたトランザクションは、NOTINIT 状況の場合、キューイングおよびスケジューリングのために停止されます。自動インポートが進行中で、DFSDFxxx PROCLIB メンバーで IMPORTERR=ABORT が指定された場合、自動インポート・プロセスは終了され、IMS は終了して 3397 異常終了を示します。

自動インポートが進行中で、IMPORTERR=CONTINUE が指定された場合、IMS はコールド・スタート処理を続行します。

出力宛先

システム・コンソール

プログラマーの応答:

トランザクションの入力編集ルーチンが IMS.SDFSRESL 連結データ・セットの 1 つに存在することを確認してください。ロード障害の原因を識別して修正した後、**UPDATE TRAN START(Q,SCHD)** コマンドを発行してキューイングおよびスケジューリングのためにトランザクションを開始できます。IMS は、編集ルーチン・モジュールのロードを試行します。モジュールが正常にロードされた場合、NOTINIT 状況はリセットされ、トランザクションがキューイングおよびスケジューリングのために開始されます。

モジュール:

DFSIP000、DFSRR20、DFSRRSC0

関連資料

IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

**DFS3399I AUTOMATIC IMPORT IS ENABLED
FROM xxxxxxxx**

説明

自動インポート処理が使用可能になっています。xxxxxxx は、リソース定義および記述子定義のインポート元のデータ・ソースを示します。xxxxxxx は次のいずれかの値です。

MODBLKS
RDDS
REPOSITORY

AUTOIMPORT=AUTO が、IMSRSC リポジトリーに関する REPOSITORY セクションおよび REPOSITORY= ステートメントとともに、DFSDFxxx PROCLIB メンバーで指定されている場合、IMS 初期設定の間には DFS3399I メッセージは出されませんが、それは、IMS がリポジトリーに接続したかどうか、またはリポジトリーが IMS 用のリソース定義を保管したかどうかについて、まだ判別されていないためです。

コールド・スタートの間には、IMS は、DFS3399I および DFS3395I メッセージを出して、コールド・スタートのためにリソース定義が読み取られる場所を示します。DFS3395I は、リポジトリー、MODBLKS または RDDS から自動インポートが可能かどうかを示します。自動インポートがリポジトリーからのもので、リポジトリーが空の場合、IMS は、DFS4405W メッセージおよび別の DFS3395I メッセージを出して、リソース定義のインポート元 (MODBLKS または RDDS) を示します。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSRRDD10、DFSDFN10、DFSDFN00、DFSIP300

**DFS3400I RETURN CODE rrrr FROM
RACROUTE MACRO FUNCTION
ffffff FOR CLASS ccccccc**

または

**RACLIST FAILED, AUTHORIZATION RACROUTE
RETURN CODES aa, bb, cc, dd RACLIST RETURN
CODES ee, ff, gg, hh RACLIST REASON CODES ii, jj,
kk, ll.**

説明

オンライン変更準備処理中に、許可機能に関連した 4 つのクラスのうち少なくとも 1 つに関して、ゼロ以外の戻りコードが検出されました。このメッセージは、準備プロセスの障害を示すものではありません。コードには、それぞれ次の意味があります。

コード 説明

aa DATABASE クラスに関する RACROUTE 戻りコード
bb SEGMENT クラスに関する RACROUTE 戻りコード
cc FIELD クラスに関する RACROUTE 戻りコード
dd OTHER クラスに関する RACROUTE 戻りコード
ee DATABASE クラスに関する RACLIST 戻りコード
ff SEGMENT クラスに関する RACLIST 戻りコード
gg FIELD クラスに関する RACLIST 戻りコード
hh OTHER クラスに関する RACLIST 戻りコード

コード 説明

ii DATABASE クラスに関する RACLIST 理由コード

コード 説明

jj SEGMENT クラスに関する RACLIST 理由コード

- kk FIELD クラスに関する RACLIST 理由コード
- ll OTHER クラスに関する RACLIST 理由コード

システムの処置

オンライン変更準備処理が続行されます。

第 72 章 DFS メッセージ DFS3401I - DFS3450

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3401I RACF NOT AVAILABLE

説明

/MODIFY PREPARE コマンドが RACF または ALL を指定し、RACF プロダクトは現在 IMS でアクティブではありませんでした。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

DFS3402W NO bbbbb IN THE INACTIVE LIBRARY

説明

制御ブロックが、**/MODIFY PREPARE** または **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** 処理中に、非アクティブ・ライブラリーから欠落していました。

フィールド *bbbbbb* は、ACBLIB からの DMB、または MODBLKS からの DDIR など、特定の IMS 制御ブロック・タイプです。

システムの処置

/MODIFY PREPARE または **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** 処理が終了します。

プログラマーの応答

オンライン変更ユーティリティーを使用して、データベース定義をライブラリーに組み込んでください。ライブラリーが APF 許可されているか確認してください。IMS では、IMS DB/TM システム用に ACBLIB に少なくとも 1 つの DMB が必要です。

DFS3403W AUTOMATIC IMPORT IS DISABLED, RC=rc

説明

自動インポート処理が使用不可になっています。*rc* は、自動インポートが使用不可になった理由を示します。考えられる理由は次のとおりです。

コード 説明

- 4 AUTOIMPORT=NO が指定されました。

8

AUTOIMPORT=AUTO を指定しましたが、リソース定義データ・セット (RDDS) を定義しておらず、MODBLKS データ・セットが存在しません。IMS が IMSRSC リポジトリーで定義されている場合、リポジトリーが空です。

12

複数の RDDS が定義されていますが、RDDS が空で、MODBLKS データ・セットが存在しません。

16

RDDS 初期設定中に RDDS エラーが発生して、RDDS からの自動インポートが行われなくなっています。メッセージ DFS3368 は、RDDS および関連するエラーを示します。

DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーの Dynamic_Resources セクションに AUTOIMPORT=RDDS または AUTOIMPORT=AUTO を指定し、IMS がコールド・スタートされた場合 (**/NRE CHKPT 0** または **/ERE COLDSYS**)、DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーの Dynamic_Resources セクションの RDDSER= パラメーターに指定された値により、IMS のとる処置が決まります。

RDDSER=NOIMPORT を指定する場合、IMS は、保管されたリソースをインポートせずにコールド・スタートで再始動します。

RDDSER=ABORT を使用する場合、IMS は異常終了して RC=4 で IMS 異常終了 3368 を示します。

システムの処置:
IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

自動インポート処理を使用しない場合は、処置は必要ありません。

自動インポート処理を使用する場合は、戻りコード *rc* を使用して自動インポートが使用不可になった理由を識別してください。必要な場合、DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーの指定エラーを修正してください。リソース定義データ・セット (RDDS) にエクスポートされたデータが含まれることが予想される場合、自動エクスポートが使用可能になっていることを確認します。MODBLKS データ・セットから定義をインポートする予定の場合、MODBLKS DD ステートメントが IMS 制御領域 JCL に存在することを確認します。

関連情報

964 ページの『DFS3368E』

ERROR PROCESSING RDDSD, RC=*rc*, RDDSDSN=*dsname*

異常終了 3368

DFS3404I EXPORT COMMAND COMPLETE FOR *xxxx*, DSN=*dsname*

説明

EXPORT コマンドが完了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx

指定されたすべてのリソース定義および記述子定義に対して **EXPORT** コマンドが完了したかどうかを示します。xxxx は、ALL、SOME、または NONE です。

dsname

リソース定義および記述子定義のエクスポート先となったリソース定義データ・セット (RDDSD) の名前を示します。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

指定したすべてのリソース定義および記述子定義に対して **EXPORT** コマンドが正常に完了しなかった場合、エラーの原因を判別して、**EXPORT** コマンドを再発行します。

モジュール:

DFSXP100

DFS3405I IMPORT COMMAND COMPLETE FOR *xxxx*, DSN=*dsname*

説明

IMPORT コマンドが完了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx

指定されたすべてのリソース定義および記述子定義に対して **IMPORT** コマンドが完了したかどうかを示します。xxxx は、ALL、SOME、または NONE です。

dsname

リソース定義および記述子定義のインポート元となったリソース定義データ・セット (RDDSD) の名前を示します。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

指定したすべてのリソース定義および記述子定義に対して **IMPORT** コマンドが正常に完了しなかった場合、エラーの原因を判別して、**IMPORT** コマンドを再発行します。

モジュール:

DFSIP100

DFS3406I *cmd* COMMAND COMPLETE FOR ALL, REPOTYPE=*reptype*, REPONAME=*reponame*

説明

メッセージ中の *cmd* で特定されるコマンドが完了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cmd

処理されるコマンド *verb* を示す。*cmd* は、**DELETE**、**EXPORT**、または **IMPORT** のいずれかになります。

reponame

リソース定義を処理する場所である IMSRSC リポジトリの名前 (44 バイト) を示す。

- **DELETE** の場合、この名前は、保管されたリソース定義が削除されるリポジトリを示す。
- **EXPORT** の場合、この名前は、ランタイム・リソース定義のエクスポート先のリポジトリを示す。
- **IMPORT** の場合、この名前は、保管されたリソース定義のインポート元のリポジトリを示す。

reptype

リポジトリの接続先である RM のタイプ (8 バイト) を示します。サポートされる値は IMSRSC のみです。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSIP100、DFSXP100、DFSDEL00

DFS3407E *cmd* COMMAND COMPLETE FOR NONE, REQUEST=*rqstname*

**RC=retcode, RSN=rsncode,
ERRORTEXT=errtext,
MBR=mbr, REPOTYPE=reptype,
REPONAME=reponame**

または

**cmd COMMAND COMPLETE FOR var1,
REPOTYPE=reptype, REPONAME=reponame**

説明

指定されたコマンドがエラーで終了しました。エラーの原因が RM 要求エラーである場合にのみ、*rqstname*、*retcode*、*rsncode*、*errtext*、および *mbr* の値が戻されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cmd

処理されるコマンド *verb* を示す。cmd は、**DELETE**、**EXPORT**、**IMPORT**、または **QUERY** のいずれかになります。

var1

SOME または NONE になる。

reponame

リソース定義を処理する場所である IMSRSC リポジトリの名前 (44 バイト) を示す。

- **DELETE** の場合、この名前は、保管されたリソース定義が削除されるリポジトリ名を示す。
- **EXPORT** の場合、この名前は、ランタイム・リソース定義のエクスポート先のリポジトリ名を示す。
- **IMPORT** の場合、この名前は、保管されたリソース定義のインポート元のリポジトリ名を示す。
- **QUERY** の場合、この名前は、保管されたリソース定義が照会された元のリポジトリ名を示す。

reptype

リポジトリ・タイプを示します。reptype の有効な値は IMSRSC です。

rqstname

成功しなかった RM 要求を示す。rqstname は、次のいずれかになります。

- **DELETE** コマンドの場合、CSLRPDEL
- **EXPORT** コマンドの場合、CSLRPUPD
- **IMPORT** or **QUERY** コマンドの場合、CSLRPQRY

retcode

RM 要求の戻りコードを示します。戻りコードの説明については、CSLRRR または CSLSRR マクロを参照してください。

rsncode

RM 要求の理由コードを示します。理由コードの説明については、CSLRRR または CSLSRR マクロを参照してください。

errtext

リポジトリ要求からのエラー・テキストを示します。エラー・テキストは、ヌルまたは 6 単語のテキストです。

mbr

エラーのある要求のタイプを示します。値は LST または RSC のいずれかです。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

要求が失敗した理由を判別します。エラーが解決された後、コマンドを再試行してください。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

DFS3409I

**AUTOIMPORT=AUTO
DETERMINATION IS DEFERRED**

説明

AUTOIMPORT=AUTO が、IMSRSC リポジトリに関する REPOSITORY セクションおよび REPOSITORY= ステートメントとともに、DFSDFxxx メンバーで指定されている場合、IMS 初期設定の間には DFS3399I メッセージは出されません。IMS 初期設定の間には、DFS3399I の代わりに DFS3409I メッセージが出されますが、それは、IMS がリポジトリに接続したかどうか、またはリポジトリが IMS 用のリソース定義を保管したかどうかについて、まだ判別されていないためです。

コールド・スタートの間には、IMS は、DFS3399I および DFS3395I メッセージを出して、コールド・スタートのためにリソース定義が読み取られる場所を示します。DFS3395I メッセージは、リポジトリ、MODBLKS または RDDS から自動インポートが可能であるかどうかを示します。リポジトリからの自動インポートが可能で、リポジトリが空の場合、IMS は、DFS4405W メッセージおよび別の DFS3395I メッセージを出して、リソース定義のインポート元 (MODBLKS または RDDS) を示します。

システム・プログラマーの応答

IMS 初期設定時に DFS3399I メッセージが出されそうな自動化プログラムがあれば、すべて変更します。

モジュール:

DFSRRDD10

関連情報

973 ページの『DFS3395I』
AUTOMATIC IMPORT STARTED FROM
XXXXXXXXXXXXXXXXXX

975 ページの『DFS3399I』
AUTOMATIC IMPORT IS ENABLED FROM
XXXXXXXXXX

DFS3410I DATA SETS USED ARE DDNAME
acblib-name format-name
'MODBLKS-name' (time/date
stamps if they exist)

説明

示されている *ddnames* は、IMS オンライン処理で使用されるものです。時刻/日付スタンプが存在する場合は、正常に実行された最後の **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** または **/MODIFY PREPARE** と、**INITIATE OLC PHASE(COMMIT)** または **/MODIFY COMMIT** コマンドが出された日時を示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

acblib-name

IMS JCL 内のアクティブ IMSACB DD。これは、アクティブな ACBLIB ライブラリーを識別します。*acblib-name* ddname は、IMSACBA または IMSACBB です。

注：DFSDFxxx PROCLIB メンバーに ACBMGMT=CATALOG を指定することによってこの IMS システムで ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、ACB ライブラリー DD 名を無視してください。ACB を管理する IMS システムでは、いずれのライブラリーに対しても IMSACBA および IMSACBN の DD 名を使用しません。

format-name

IMS JCL 内のアクティブ FORMAT DD。これは、アクティブな MFS フォーマット・ライブラリーを識別します。*format-name* は FORMATA と FORMATB のどちらかです。このシステムが DBCTL の場合、*format-name* はブランクです。

modblks-name

IMS JCL 内のアクティブ MODBLKS DD。これは、アクティブな MODBLKS ライブラリーを識別します。*modblks-name* は、MODBLKSA と MODBLKSB のどちらかです。

modblks-name は、ブランクでかまいません。*modblks-name* がブランクの場合、IMS JCL で MODBLKS DD は定義されません。MODBLKS DD ステートメントは、動的リソース定義が使用可能になっている場合はオプションです。

システムの処置

IMS の処理は継続します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS3411X UNABLE TO OPEN THE MODSTAT
DATA SET

説明

IMS が、DD 名が MODSTAT のデータ・セットを開こうとしていて、エラーを検出しました。MODSTAT DD ステートメントが存在しないか、オペレーティング・システムがオープン処理中に入出力エラーを検出しました。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 3411 が示されます。

プログラマーの応答

欠落している DD ステートメントの指定、または INITMOD プロシーチャーの使用による、MODSTAT DD ステートメントで参照されているデータ・セットの作成、あるいはその両方を行い、IMS を実行してください。INITMOD プロシーチャーについては、IMS システム定義の説明を参照してください。

関連情報

IMS 異常終了 3411

DFS3412 ERROR READING MODSTAT DATA
SET

説明:

MODSTAT データ・セットを読み取ろうとしているときに、入出力エラーが検出されました。

システムの処置:

IMS は異常終了し、異常終了コード 3412 が示されます。

プログラマーの応答

最後の正常な DFS3410I、または DFS3499I メッセージに示されている DD 名を指定した INITMOD プロシーチャーを使用して、MODSTAT データ・セットを再構成し、IMS を実行してください。INITMOD プロシーチャーの説明については、IMS システム定義の説明を参照してください。XRF 環境での適切なリカバリー処置については、拡張リカバリー機能に関する情報を参照してください。このメッセージが高速データベース・リカバリー領域によって出される場合は、アクティブな IMS を終了し、MODSTAT データ・セットを再構成してください。その後、IMS を再始動し、高速データベース・リカバリー領域を再開します。

関連概念

拡張回復機能の概要 (システム管理)

関連情報

[IMS 異常終了 3412](#)

DFS3413X INVALID CONTENTS IN THE MODSTAT DATA SET

説明

MODSTAT データ・セットに無効のデータが含まれています。

MODSTAT データ・セットは、以下のフィールドを、示された順序で含んでいる必要があります。

```
modifyid,MODBLKSx,IMSACBx,FORMATx
```

値は、組み込みブランクを使用せずに、コンマで区切る必要があります。

modifyid

MODSTAT の ID 番号であり、制限なしの可変長です。通常、このフィールドは 1 に初期設定されます。

MODBLKSx

アクティブ MODBLKS データ・セット (IMS システム定義出力が入っている IMS.MODBLKSA または IMS.MODBLKSB データ・セット) の DD 名。通常、このフィールドは MODBLKSA に初期設定されます。MODBLKS データ・セットを定義しない IMS システムでも MODBLKSx フィールドを定義する必要があります。

IMSACBx

データ・セット接尾部 x に指定できる値は、A および B です。

FORMATx

データ・セット接尾部 x に指定できる値は、A および B です。通常このフィールドは FORMATA に初期設定されます。FORMAT ライブラリーを使用しない IMS DBCTL 環境でも FORMATx フィールドを定義する必要があります。

注: これらのフィールドについて詳しくは、[IMS.MODSTAT データ・セットの初期設定 \(システム・ユーティリティー\)](#) を参照してください。

オンライン変更が 1 つ以上正常にコミットされると、これらのフィールドの後にオンライン変更準備タイム・スタンプおよびオンライン変更コミット・タイム・スタンプ (形式は YYYYDDD HHMMSS *offset*) が続きます。タイム・スタンプ内の項目は以下のとおりです。

- YYYY - 年
- DDD - ユリウス日
- HH - 時間
- MM - 分
- SS - 秒

- *offset* - 形式が -xx:xx または +xx:xx の UTC 時間のオフセット

注: 該当する場合、これらのタイム・スタンプは、IMS の再始動が失敗しないよう、正しい形式になっていなければなりません。

次の例は、有効な MODSTAT データ・セットの値を示しています。

```
108,MODBLKSA,IMSACBA,FORMATA 2016099  
191653 -07:00 2016100 041751 -07:00
```

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 3413 が示されず。

プログラマーの応答

MODSTAT データ・セットの内容を調べて、*modifyid*、オンライン変更フィールド、およびタイム・スタンプが正しい形式であることを確認してください。

MODSTAT データ・セット内の変更 ID 番号またはオンライン変更フィールドにエラーがあるためにこのメッセージが発行された場合は、**INITMOD** プロシージャを使用してエラーを訂正し、再試行してください。

MODSTAT データ・セット内のタイム・スタンプにエラーがあるためにこのメッセージが発行された場合は、タイム・シェアリング・オプション (TSO) を使用してエラーを訂正し、再試行してください。

それ以外の場合は、最後に正常に発行された DFS3410I メッセージまたは DFS3499I メッセージに示されている DD 名を指定した **INITMOD** プロシージャを使用して、MODSTAT データ・セットを再構成し、IMS を実行してください。

関連資料

[IMS.MODSTAT データ・セットの初期設定 \(システム・ユーティリティー\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 3413](#)

[DFS3410I \(メッセージおよびコード\)](#)

[DFS3499I \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS3414X NOT ENOUGH STORAGE TO INITIALIZE

説明

IMS がストレージを割り振れませんでした。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 3414 が示されず。

プログラマーの応答

領域で使用可能なストレージの量を増やし、IMS を実行してください。

関連情報

[IMS 異常終了 3414](#)

**DFS3415X LIBRARY xxxxxxxx IN USE BY
ANOTHER OS/VS TASK**

説明

DD 名 xxxxxxxx に関連したライブラリーは、別の OS/VS タスクによって常に使用中であったため、使用できませんでした。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 3415 が示されま

プログラマーの応答

他のタスクがライブラリーを解放するまで待ち、IMS を実行してください。

関連情報

[IMS 異常終了 3415](#)

**DFS3416X OPEN FAILED FOR LIBRARY
xxxxxxx**

説明

DD 名 xxxxxxxx に関連したライブラリーが、IMS 初期設定時に開けませんでした。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 3416 が示されま

プログラマーの応答

オープンに失敗した理由を判別した上で、IMS を実行してください。

関連情報

[IMS 異常終了 3416](#)

**DFS3417E CICS IPIC ERROR ON ACTIVE ISC
TCP/IP SESSION
SENSE=sensecode
TEXT=cicsmsgnm**

説明

アクティブな ISC TCP/IP セッションでの IMS と IBM CICS Transaction Server for z/OS の間のメッセージ通信時に、IMS は、CICS から IP 相互接続 (IPIC) 会話エラー (IS7) を受け取りました。

センス・コードは、エラーのタイプを示しています。CICS がエラー・メッセージ ID を IMS に渡した場合、メッセージ ID は TEXT フィールドに表示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cicsmsgnm

CICS が IMS に返した場合の CICS エラー・メッセージ番号を含む 9 文字のフィールド。このテキストは、CICS ジョブ・ログに発行された CICS エラー・メッセージです。

sensecode

エラーの性質を示す 4 バイトのコード。これらのコードは、CICS によって発行されます。

080F0983

アクセスがリジェクトされました。

080F6051

セキュリティが無効です。

08240000

無効になった会話 ID。タスクは CICS でバックアウトされました。

08390000

トランザクションの接続がリジェクトされました。IMS システムは静止しています。

084C0000

トランザクションの接続がリジェクトされました。トランザクションは認識されていますが、CICS で使用不可に設定されました。

08640001

ミラー・トランザクションが CICS で異常終了しました。

1008600B

CICS システム・エラー。

10086021

トランザクションの接続がリジェクトされました。トランザクションは、CICS に認識されていません。

システムの処置

センス・コード 08640001 の場合、IMS は出力メッセージをデキューします。セッションはアクティブなままになります。

その他すべてのセンス・コードの場合、IMS は、出力メッセージをメッセージ・キューに戻してセッションを終了します。

IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

IMS が出力メッセージをメッセージ・キューに戻してセッションを終了する場合、セッションの再確立を試行する前に、問題の原因を判別して訂正し、同じエラーの再発を防止してください。

センス・コードについて詳しくは、CICS の資料を参照するか、CICS 管理者に連絡してください。CICS の資料で CICS エラー・メッセージを調べてください。

モジュール:

DFSIPICO

関連タスク

[TCP/IP の ISC サポート \(コミュニケーションおよびコネクション\)](#)

関連資料

[QUERY IMSCON TYPE\(PORT\) コマンド \(コマンド\)](#)

[CICS: ISMF - ISC IP メッセージ形式](#)

[CICS メッセージ](#)

DFS3418X	UNABLE TO DELETE MODULE xxxxxxx
-----------------	--

説明

モジュール xxxxxxxx をアクティブ MODBLKSA(B) データ・セットから削除できませんでした。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

これは、多くの場合、IMS 内部エラーです。

問題判別:

35

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3419X	UNABLE TO LOAD MODULE xxxxxxx RC=xx
-----------------	--

説明

モジュール xxxxxxxx がアクティブ MODBLKSA(B) データ・セットで検出されなかったか、またはデータ・セットが APF 許可されていませんでした。あるいは、このメッセージが、IMS 制御領域に使用可能な仮想記憶域が十分になかったことを示している場合もあります。IMODULE LOAD 戻りコードについての説明は、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 3419 が示されません。

プログラマーの応答

モジュールが欠落している理由を判別し、IMSIMS を実行してください。アクティブ MODBLKSA(B) データ・セットが APF 許可されているかどうかを確認します。

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 3419](#)

DFS3420X	RESIDUAL MESSAGES EXIST FOR DELETED TRANSACTIONS
-----------------	---

説明

IMS が、存在しないトランザクションに関する既存のメッセージを検出しました。トランザクション定義が、IMS システム・ログで示されているメッセージ・アクティビティーと一致しません。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 3420 が示されません。

プログラマーの応答

ログ・データ・セットが、MODBLKS データ・セットでの定義と矛盾しています。初期設定時に MODBLKS からロードされた SMB ブロックが、直前の IMS 実行時に最後にアクティブであったものと同じではありません。この状態が生じる可能性があるのは、アクティブ MODBLKS データ・セットの DD 名を誤って指定して MODSTAT データ・セットが再構成された場合です。この状態は、IMS がアクティブでないときに MODBLKS データ・セットの内容を変更した場合にも、生じる可能性があります。最後の IMS 実行時に使用中であった MODBLKS のコピーと同じコピーを使用し、memory dumpq によって取られた最後のチェックポイントからの /ERE を使用して IMS を再始動してください。

関連情報

[IMS 異常終了 3420](#)

DFS3421X	UNABLE TO FIND xxxx CONTROL BLOCK NAMED yyyyyyyy.
-----------------	--

説明

このメッセージは、IMS コールド・スタート時に PDIR が存在しないか、RCTE が存在しないために PDIR または RCTE が見つからない場合に出されます。xxxx は制

御ブロック・タイプで、PDIR または RCTE です。
yyyyyyy は、内部リソース制御ブロックのハッシュ・
テーブルが空であることを示すために DFSHSHT に設
定されます。

これらのブロックは、MODBLKS からロードするか、リ
ソース定義データ・セット (RDDS) からの自動インポ
ートを使用してロードできます。

システムの処置

IMS はメッセージ DFS3421X に続いて異常終了コード
3421 を出します。IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

動的リソース定義 (DRD) が使用可能でない場合は、
IMS.MODBLKSx に正しい制御ブロック・モジュール
DFSSMBOx、DFSPDIRx、DFSDDIRx、および DFSRCTEx
が含まれているか確認してください。上記の確認で問
題が特定できない場合は、IBM ソフトウェア・サポー
トに連絡して、支援を依頼してください。

DRD が使用可能で、リソース定義がコールド・スター
ト時に IMS.MODBLKSx データ・セットからインポート
されている場合、IMS.MODBLKSx に正しい制御ブロッ
ク・モジュール DFSSMBOx、DFSPDIRx、DFSDDIRx、
および DFSRCTEx が含まれているか確認してくださ
い。リソース定義がコールド・スタート時に RDDS から
インポートされている場合、正しい RDDS が使用されて
いること、および RDDS に完全なリソース定義セットが
あることを確認してください。上記の確認で問題が特
定できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連
絡して、支援を依頼してください。

問題判別:

36

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3422X INSUFFICIENT STORAGE FOR
 resource_type CONTROL BLOCKS.**

説明

IMS は、必須サブプールに十分なストレージを獲得でき
ませんでした。サブプール 231 (共通 CSA/ECSA) は、ほ
とんどのリソースに使用されますが、一部のリソースで
はサブプール 0 またはサブプール 251 が使用されま
す。これらのブロックは、MODBLKS から IPAGE にロ
ードされた制御ブロックのグループ、または動的に作成
された個別リソースの可能性がります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

resource_type

リソース・タイプは次のいずれかです。

DBBD

データベース記述子。

DDIR。

データベース。

HSMB

ハッシュ SMB。SMB ハッシュ・テーブルが満杯
です。ハッシュ・テーブル・スロットがフリー・
プール・スロットも含めて十分でないため、SMB
をハッシュ・テーブルに追加できません。

PDIR

プログラム。

PGMD

プログラム記述子。

RCNT

リモート lterm ブロック。

RSCX

リソース拡張ブロック。

RTCD

宛先コード記述子。

RTCE

宛先コード。

SMB

トランザクション・リソース。

TRND

トランザクション記述子。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 3422 が示されま
す。

システム・プログラマーの応答

RCNT および RSCX を除くすべてのリソース・タイプ
で、サブプール 231 のストレージ量を増やします。

リソース・タイプが RSCX の場合、サブプール 0 のスト
レージ量を増やします。

リソース・タイプが RCNT の場合、サブプール 251 の
ストレージ量を増やします。

問題判別:

36

モジュール:

DBFRRT00、DFSCPDM0、DFSINM0、DFSRDB00、
DFSRMC00、DFSRPG00、DFSRT00

関連情報

[IMS 異常終了 3422](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3423E RESOURCE ERROR
 TYPE=resource_type**

SERVICE=*servicename*
FUNC=*function* **RC=***returncode*
NAME=*resourcename*
MODULE=*modulename*

説明

IMS が、リソース制御ブロックの初期設定中にエラーを検出しました。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

resourcetype

リソース・タイプは次のいずれかです。

- **DBBD** – データベース記述子
- **DDIR** – データベース
- **LLB** - 複数システム結合機能 (MSC) 論理リンク制御ブロック
- **LNB** - MSC 論理リンク・パス (msname) 制御ブロック
- **MSCL** – MSC 論理リンク制御ブロック
- **MSCP** - MSC 物理リンク制御ブロック
- **PDIR** – プログラム
- **PGMD** – プログラム記述子
- **RCNT** – リモート論理端末
- **RSCX** – リソース拡張ブロック
- **RTCD** – 宛先コード記述子
- **RTCE** – 宛先コード
- **SMB** – トランザクション
- **TRND** – トランザクション記述子

servicename

エラーが発生したサービスの名前。DFSBCB 以外のサービスは、IMS の内部サービスです。

function

エラーが発生したサービス機能の名前。

returncode

サービスの戻りコード。 *servicename* が DFSBCB の場合は、DFSBCB 戻りコードを参照してください。

resourcename

エラーが発生したリソースの名前。

modulename

エラーが発生したモジュールの名前。

システムの処置

場合によっては、IMS は異常終了し、異常終了コード 3423 が示されます。それ以外の場合は、IMS はリソースを使用せずに処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

MODBLKS データ・セットが、適切な IMS リリース・レベルで生成されているかどうかを確認してください。以前の IMS リリース・レベルで生成された MODBLKS データ・セットを参照する IMS を始動しようとする場合、その不整合は、通常、DFS3423E メッセージが出される結果になります。

MODBLKS データ・セットが同じ IMS リリース・レベルで生成されている場合は、SYSLOG および IMS メモリー・ダンプをコピーした上で、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を依頼してください。また、*servicename*、*function*、*returncode*、およびメッセージにある他の情報を保管してください。

モジュール:

DBFNRST0、DBFRRT00、DFSIP300、DFSRDB00、DFSRPG00、DFSRTR00

関連資料

[DFSBCB 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 3423](#)

DFS3424I	DFSINSX0 CREATE <i>resourcetype</i> ERROR RC= <i>returncode</i> RSN= <i>reasoncode</i> CC= <i>completioncode</i> NAME= <i>resourcename</i>
-----------------	---

説明

DFSINSX0 ユーザー出口がプログラムを動的に作成しようとしたか、トランザクションが失敗しました。この失敗の原因は、無効な属性または属性の組み合わせです。属性エラーの例は次のとおりです。

- トランザクションに無効なプログラム名が付けられています。
- 高速機能トランザクションが非応答モードとして定義されています。
- 高速機能として定義されなかったトランザクションが高速機能プログラムを参照しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resourcetype

リソース・タイプは次のいずれかです。

PGM - アプリケーション・プログラム
TRAN - トランザクション

returncode

CREATE コマンドの戻りコード。**CREATE PGM** コマンドまたは **CREATE TRAN** コマンドの戻りコードと理由コードの表を参照してください。

reasoncode

CREATE コマンドの理由コード。

completioncode

CREATE コマンドの完了コード (該当する場合)。

resourcename

エラーが発生したプログラムまたはトランザクションのリソース名。

システムの処置

プログラムまたはトランザクションの作成は失敗します。IMS は、メッセージ DFS064I を発行して、宛先が検出されなかったか、作成されなかったことを示します。

システム・プログラマーの応答

DFSINSX0 ユーザー出口のエラーを訂正します。DFS3424I メッセージは、エラーの判別に必要な診断情報を提供します。

モジュール:

DFSPGS00、DFSTRS00

関連資料

[CREATE PGM コマンド \(コマンド\)](#)

[CREATE TRAN コマンド \(コマンド\)](#)

DFS3425I	PLEXPARM INIT VALUE rrrrrrrr=vvvvvvvv OVERRIDDEN WITH GLOBAL PLEXPARM VALUE rrrrrrrr=vvvvvvvv
-----------------	--

説明

リソース *rrrrrrrr* の PLEXPARM 値が、グローバル Plex Parm エントリーの値と一致しませんでした。グローバル Plex Parm エントリーの値が使用されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rrrrrrrr

PLEXPARM 値がグローバル Plex Parm エントリーの値で指定変更されるグローバル Plex Parm。

vvvvvvvv

グローバル Plex Parm の値。

システムの処置

指定されたリソースに対してグローバル Plex Parm エントリーの値が使用されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

指定されたリソースの値が IMSplex に望ましい値と一致しない場合、**UPD IMS SET** コマンドを使用して、グローバル Plex Parm 値を変更してください。

モジュール:

DFSGPM00

DFS3426A	CTL REGION WAITING COMPLETION OF RM PROCESS pppppppp
-----------------	---

説明

IMS 制御領域の初期設定が、IMS によって開始された Resource Manager (RM) プロセス *pppppppp* が完了するのを待機しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pppppppp

IMS 初期設定が待機している、IMS によって開始された RM プロセス。指定できる値は、次のとおりです。

UPDIMS

IMS は、**UPD IMS** コマンドが進行中であることを検出しました。

システムの処置

プロセスが完了するまで、または IMSplex にアクティブな IMS が他になくなるまで、IMS は待ち続けます。

システム・プログラマーの応答

RM プロセス **UPD IMS** については、**UPD IMS** コマンドが現在進行中の場合はコマンドが完了するまで待ちます。エラー条件のため前の **UPD IMS** コマンドが完了しなかった場合、エラー条件を解決してください。その後、コマンドで **CONTINUE** オプションを使用して前のコマンドを完了してください。

モジュール:

DFSGPM00

DFS3427W	RM REQUEST ERROR - PLEXPARM PARAMETERS NOT OBTAINED FROM RM
-----------------	--

説明

リソース・マネージャー (RM) のエラーが原因で、システムは RM から PLEXPARM パラメーターを読み取ることができませんでした。RM エラー戻りコードおよび理由コードは、このメッセージの前に発行された DFS3308 にリストされています。RM の値と同じ IMS PLEXPARM 値を使用することはできません。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

IMS と RM が同期していることを確認するには、以下の処置を実行します。

1. IMS 再始動が完了した後、**QRY IMS TYPE(PLEXPARM) SHOW(ALL)** コマンドを発行します。
2. **QRY IMS** 出力の IMS および RM 値が同一である場合、これ以上の処置は必要ありません。
3. **QRY IMS** コマンド出力の PLEXPARM 値が IMS と RM で一致しない場合、ユーザーは以下を選択できます。

オプション 1

IMS を取り消すかシャットダウンして、DFS3308 メッセージで報告された RM エラーを訂正し、IMS を再始動します。

オプション 2

以下の処置を行ってください。

- PLEXPARM GSTSTRAN の RM 値が N で、IMS 値が Y である場合、**UPD IMS SET(PLEXPARM(GSTSTRAN(N)))** コマンドを発行して、IMS が RM と同期していることを確認します。
- PLEXPARM GSTSDB の RM 値が N で、IMS 値が Y である場合、**UPD IMS SET(PLEXPARM(GSTSDB(N)))** コマンドを発行して、IMS が RM と同期していることを確認します。
- PLEXPARM GSTSAREA の RM 値が N で、IMS 値が Y である場合、**UPD IMS SET(PLEXPARM(GSTSAREA(N)))** コマンドを発行して、IMS が RM と同期していることを確認します。
- PLEXPARM GSTSTRAN の RM 値が Y で、IMS 値が N である場合、**UPD IMS SET(PLEXPARM(GSTSTRAN(Y)))** コマンドを発行して、IMS が RM と同期していることを確認します。また、**QRY TRAN SHOW(GLOBAL)** コマンドを発行してから該当する **UPD TRAN SCOPE(ACTIVE)** コマンドを発行して、IMS リソースの状況が RM と同じであることを確認します。
- PLEXPARM GSTSDB の RM 値が Y で、IMS 値が N である場合、**UPD IMS SET(PLEXPARM(GSTSDB(Y)))** コマンドを発行して、IMS が RM と同期していることを確認します。また、**QRY DB SHOW(GLOBAL)** コマンドを発行してから該当する **UPD DB SCOPE(ACTIVE)** コマンドを発行して、IMS リソースの状況が RM と同じであることを確認します。

- PLEXPARM GSTSAREA の RM 値が Y で、IMS 値が N である場合、**UPD IMS SET(PLEXPARM(GSTSAREA(Y)))** コマンドを発行して、IMS が RM と同期していることを確認します。また、**QRY AREA SHOW(GLOBAL)** コマンドを発行してから該当する **UPD AREA SCOPE(ACTIVE)** コマンドを発行して、IMS リソースの状況が RM と同じであることを確認します。

モジュール:

DFSGPM00

関連情報

948 ページの『DFS3308E』

csltype REQUEST ERROR, *macroname*

RC=xxnnnnnn RSN=ssssssss

DFS3428W

THE TOTAL OTMA INPUT
MESSAGES(TIB) HAVE REACHED
XX% OF THE GLOBAL LIMIT ZZZZ

説明

OTMA は、すべてのメンバーからの各アクティブ入力メッセージを追跡するために、内部でトランザクション・インスタンス・ブロック (TIB) を作成します。OTMA が CM1 メッセージ処理を完了するか、CMO メッセージをエンキューした後、YTIB が解放されます。この警告メッセージは、すべての OTMA メンバーからの TIB の総数が最大限度に達しようとしていることを知らせるためのものです。ここで、xx は 80、85、90、または 95 パーセントを表し、zzzz は、OTMA クライアント記述子または **/START TMEMBER ALL INPUT** コマンドで指定されたグローバルあふれ限界を表します。この警告メッセージが出されると、潜在的な OTMA グローバル・メッセージあふれ条件が存在する可能性があります。

システムの処置

IMS OTMA は、メッセージの最大数に達するまで、すべてのメンバーからの新規入力メッセージを引き続き処理します。

システム・プログラマーの応答

以下を判別してください。

- OTMA メッセージを処理するために従属領域がアクティブであるかどうか。
- リモート・プログラムが OTMA メッセージのために入出力 PCB に挿入し直されているかどうか。
- OTMA クライアントが IMS メッセージあふれを起こしているかどうか。

IMS メッセージあふれ条件の発生を防止するために、OTMA 入力メッセージを別の IMS に転送するか、OTMA クライアントを停止することが必要な場合があります。OTMA トランザクションを実行するために、IMS 領域が

開始済みであることを確認してください。必要な場合は、システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール:
DFSYMOMO

**DFS3429E THE TOTAL OTMA INPUT
MESSAGES(TIB) HAVE REACHED
THE GLOBAL LIMIT ZZZZ**

説明

未処理の OTMA メッセージがシステムに多すぎます。これは、重大なメッセージあふれ条件です。IMS 同期プログラム間通信を含めて、すべての新規 OTMA トランザクションがリジェクトされます。

システムの処置

IMS OTMA は、メッセージあふれ条件が解消されるまで、すべてのメンバーからの新規入力メッセージをリジェクトします。

システム・プログラマーの応答

以下を判別してください。

- OTMA メッセージを処理するために従属領域がアクティブであるかどうか。
- リモート・プログラムが OTMA メッセージのために入出力 PCB に挿入し直されているかどうか。
- OTMA クライアントが IMS メッセージあふれを起こしているかどうか。

OTMA トランザクションを実行するために、IMS 領域が開始済みであることを確認してください。必要な場合は、システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール:
DFSYMOMO

**DFS3430I THE FOLLOWING MODIFICATIONS
WILL OCCUR DURING /MODIFY
COMMIT: resource-type 8 chars
resource-name 13 chars action 40
chars**

説明

指定されたリソースは、後続の正常な /MODIFY COMMIT コマンド時にオンラインにされる変更を表しています。このメッセージは、オプションの LTERM キーワードが指定されている場合にのみ生成されます。リソース・タイプ (resource-type) (8 文字)、リソース名 (resource-name) (13 文字)、およびアクション (action) (40 文字) には、その前に空白が入ります。

resource-type

DDIR、DMB、AREA、FORMAT、
PDIR、PSB、RCT、SMB

resource-name

SYSDEF に与えられた名前、非グラフィック・シンボルは、2 文字の等価 16 進数に変換されます。

action

- ADDED
- CHANGED
- CHANGED (DSID CHANGED)
- DELETED
- NONE
- NOT CHANGED (PDIR/PSB CHANGE ONLY)
- REPLACED
- SAME (DSI CHANGED)

プログラマーの応答

DSID が変更されている場合は、ブロック・レベル・データ共用環境で、キーワード GLOBAL を使用して /DBR AREA コマンドを入力します。エリアをアンロードし、イメージ・コピーを取ってください。DELETE.DBDS コマンドを使用して、RECON データ・セットにある古い DSID を除去します。INIT.DBDS コマンドを使用して、RECON データ・セットにあるエリアを再初期設定してください。重複 DSID が同じ DEDB にある場合は、INIT.DBDS は失敗します。特定のユーザー開発アプリケーション・プログラムまたは OEM ユーティリティを使用して、DEDB に関する変更システム定義により DEDB を再ロードしてください。再ロード・プロセスが完了した後で、イメージ・コピーを取ってください。

モジュール:
DFSICV20

**DFS3431 /MODIFY PROCESSING ALREADY
ACTIVE**

説明

このオンライン変更コマンド (/MODIFY、/DISPLAY MODIFY) は、以下のどちらかの状態が存在するためにリジェクトされました。

- 別のオンライン変更コマンド (/MODIFY、INITIATE OLC、TERMINATE OLC、または /DISPLAY MODIFY) が進行中である。
- IMS が、前に正常に実行された /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドによって、すでにオンライン変更準備状態になっている。
- グローバル・オンライン変更を使用しており、以前のオンライン変更コマンドが予想よりはるかに時間がかかる場合、内部エラーによりオンライン変更コマン

ドがハングしていることが考えられます。この状態から抜け出す唯一の方法は、IMS コマンド・マスターを取り消すことです。メンバー・タイプ照会 (IMS) コマンドを発行して、どの IMS がオンライン変更フェーズのマスターであるかを確認します。

- DEDB の追加または DEDB の削除を行う **CREATE DB** または **DELETE DB** コマンドが現在アクティブです。**CREATE DB** または **DELETE DB** が完了した後で、**/DIS MODIFY** または **/MODIFY** コマンドを再試行してください。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

次のいずれかの処置を実行します。

- 別のオンライン変更コマンドが進行中の場合は、そのオンライン変更コマンド (**/MODIFY** または **/DISPLAY MODIFY**) が完了するまで待ってから、このオンライン変更コマンドを入力してください。
- IMS がすでにオンライン変更準備状態になっている場合は、オンライン変更を終了またはコミットしてから、**/MODIFY PREPARE** または **INITIATE OLC PHASE (PREPARE)** コマンドを再試行してください。

モジュール:

DFSICVDO、DFSICLV0、DFSICV10、DFSIDPGO

DFS3432 **RACF PARAMETER INVALID IF RACF DATA SPACE USED**

説明

GLOBAL=YES サポートを備えた RACF (または等価プロダクト) が使用される場合は、RACF 定義の IMS トランザクションおよびコマンド・プロファイルが、RACF データ・スペースにロードされます。これらのプロファイルが RACF データ・スペースにあるときは、IMS オンライン変更コマンド **/MODIFY PREPARE RACF** を使用して、これらのプロファイルをリフレッシュすることはできません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

RACF データ・スペースにある RACF 定義の IMS プロファイルは、RACF コマンド **SETROPTS RACLIST (classname) REFRESH** を使用することでリフレッシュできます。classname の例としては、TIMS があります。TIMS は、IMS トランザクション・プロファイルの RACF classname です。

モジュール:

DFSICVFO

DFS3433W **ACBLIB MEMBER OLC ID MISMATCH MOLCID=yyyyddd hhmms**

説明

IMS が IMSplex でアクティブでなかったときに 1 つ以上の ACB ライブラリー・メンバー・オンライン変更が行われました。IMS 再始動処理が、再始動チェックポイント・ログ・レコード (X'4001') の MOLCID フィールドの値が OLCSTAT データ・セットの MOLCID フィールドの値と同じでないことを検出しました。MOLCID=yyyyddd hhmms は、IMS が IMSplex でアクティブでなかったときにコミットされた最後のメンバー・オンライン変更プロセスのローカル・タイム・スタンプです。

システムの処置

IMS 再始動は正常に続きます。

システム・プログラマーの応答

ACBSHR=Y の場合、ACB ライブラリー・メンバー・オンライン変更が組み込まれ、再始動する IMS は処置を取る必要はありません。

ACBSHR=N の場合は、IMS の再始動が停止されている間、ACB ライブラリーに ACB メンバー・オンライン変更は組み込まれません。

この IMSplex に対して ACBSHR=N が指定されたためにこのメッセージが出された場合、次のことを意味しています。

- OLCSTAT データ・セット内の IMS システムは ACB ライブラリーを共有しません。
- この IMS が IMSplex でアクティブでなかったときに 1 つ以上の ACB ライブラリー・メンバー・オンライン変更プロセスが行われました。
- この IMS が IMSplex でアクティブでなかったときに行われた ACB メンバー・オンライン変更は、この IMS のアクティブ ACB ライブラリー内にありません。

ACB ライブラリーの ACB メンバーを手動で更新して、X'4001' ログ・レコードの 1MOLCID フィールドが OLCSTAT データ・セットの MOLCID フィールドと一致するようにしてください。



重要: MOLCID 値が一致する前にこの IMS を実行すると、IMS でデータ保全性の問題が起こるか、異常終了する可能性があります。

MOLCID 値を一致させるには、以下のいずれかのタスクを実行してください。

1. 1 つ以上の ACB メンバー・オンライン変更プロセスを実行して、X'4001' ログ・レコード

- の MOLCID フィールドを OLCSTAT データ・セットの MOLCID フィールドと同期します。
2. IMS をシャットダウンして、ACB 保守ユーティリティを実行します。
 - a. IMS を通常の方法でシャットダウンします。
 - b. これらのメンバー・オンライン変更に対して ACB 保守ユーティリティを実行して、変更された ACB をアクティブ ACB ライブラリーに直接適用します。ACB ライブラリーに DFS3433W の MOLCID の時刻までにオンラインであったすべての ACB ライブラリー・メンバーが含まれていることを確認します。
 - c. IMS を再始動してください。

モジュール:
DFSRLP00

**DFS3434W UNABLE TO OPEN DDNAME
 'ddname'**

説明

IMS は、*ddname* を使用してデータ・セットを開こうとしたときに、エラーを検出しました。その DD ステートメントが存在しないか、オペレーティング・システムがオープン処理中に入出力エラーを検出したかいずれかです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

ddname に対応するデータ・セットが作成されていないことが考えられます。これが入出力エラーであれば、データ・セットを作成する必要があります。

**DFS3435A UNABLE TO LOAD MODULE
 DFSnnnns. SYSTEM CODE=abcd.
 REASON CODE=efgh.**

説明

重要: APAR PH04751 をインストールしていない場合、このメッセージのメッセージ・テキストは次のようになります。

DFS3435A UNABLE TO LOCATE OR LOAD MODULE DFSnnnns.
RETURN CODE=abcd

IMS が、示されているモジュール DFSnnnns を見つけられないか、非アクティブ MODBLKS データ・セットからロードできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnn

MODBLKS メンバー名、DDIR、PDIR、RCTE、または SMBO を表します。

s

メンバー名の接尾部を表します。

abcd

APAR PH04751 がインストールされた後、呼び出し元が ERRET 出口を提供していなければ発行されていたと予測される異常終了の 4 桁の z/OS LOAD システム完了コードを表します。

APAR PH04751 をインストールしていない場合、*abcd* は 4 桁の戻りコードを表している可能性があります。ここで、*ab* は IMODULE LOAD 戻りコードであり、*cd* は IMODULE LOCATE 戻りコードです。

efgh

システム完了コードに関連付けられている z/OS LOAD 理由コードを表します。

IMS システム・サービスの戻りコード情報に記載されている IMODULE LOAD 戻りコードおよび IMODULE LOCATE 戻りコードを参照してください。

システムの処置

継続操作のためにモジュールが必要な場合は、**/ MODIFY or INITIATE OLC** コマンド準備が終了されません。そうでない場合は、メッセージは警告となり、コマンドは完了を試みます。

プログラマーの応答

ライブラリーが APF 許可されているか確認してください。オフライン MODBLKS システム定義ステップを実行して、必要なモジュールを作成するか、オンライン変更ユーティリティを実行して、MODBLKS データ・セットをコピーしてください。

関連資料

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

**DFS3436E INTERNAL BLOCKS MISSING:
 ERROR CODE= errcode PST=pstno
 PSB psbname DBD=dbname**

説明

内部エラーが原因で、IMS 異常終了 U1143 が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname

欠落しているブロックが検出されたときに、アプリケーション・プログラムによって変更中であったかアクセスされていたデータベースの名前。

psbname

アプリケーション・プログラムがアクセスを試行しているデータベースとバージョンを指定する PSB の名前。

pstno

ゼロを基準とするプログラム仕様テーブル (PST) の番号。

errcode

欠落しているブロックが検出されたことを示すエラー・コード。各コードの説明については、下記のエラー・コードのリストを参照してください。

エラー・コード
説明
01

変換プロセスの開始時に、IMS が、HALDB 変更機能に必要なデルタ・ブロックが作成されていないことを検出しました。

02

データベースのバージョン管理方式のテーブルが欠落しています。

03

データベースのバージョン管理方式のテーブルで項目が欠落しています。

05

データベースを読み取る DL/I 呼び出しでのデータ変換中に、IMS は、HALDB 変更機能に必要なデルタ・ブロックが作成されていないことを検出しました。

06

データベースを更新する DL/I 呼び出しでのデータ変換中に、IMS は、現行バージョン以外のバージョンのデータベースにアクセスするために必要なデルタ・ブロックが作成されていないことを検出しました。

07

データベースを読み取る DL/I 呼び出しでのデータ変換中に、IMS は、現行バージョン以外のバージョンのデータベースにアクセスするために必要なデルタ・ブロックが作成されていないことを検出しました。

08

アプリケーション・プログラムが、新しいデータベース定義の変更された DMB に定義されている最大セグメント長より長いデータで可変長セグメントを更新しようとしてしました。

09

PSB スケジューリング時間中にブロック DBVW 用のストレージを取得できません。

0A

HALDB オンライン変更処理中に、デルタ・ブロックのサイズが予期されたサイズより大きくなりました。

0B

データベースのバージョン管理方式が使用可能になっているデータベースで、デルタ・ブロックのサイズが予期されたサイズより大きくなりました。

0C

HALDB 変更機能は、既存のデータベース定義に定義されているフォーマットから新しいデータベース定義に定義されているフォーマットにセグメント・データを再フォーマット設定するために必要なストレージを取得できませんでした。

0D

既存のデータベース定義に定義されているフォーマットから新しいデータベース定義に定義されているフォーマットにセグメントを変更するために必要な内部デルタ・ブロックが作成されていませんでした。

システムの処置

アプリケーション・プログラムは、異常終了 U1143 で終了します。

システム・プログラマーの応答

エラー・コード 08 の場合は、DBD ソースを確認して可変長セグメントの最大長を判別してください。DBD ソースに定義されている最大長を変更して、オンライン変更機能を使用して変更をコミットします。あるいは、アプリケーション・プログラムを変更して、アプリケーション・プログラムがセグメントを更新するために使用するデータの長さを最大セグメント長以下になるように縮小します。

その他のエラー・コードの場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DFS5DBB0、DFSDFLS0

関連情報

[IMS 異常終了 1143](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3437E

**ERROR PROCESSING *variable text*
RELEASE *iii* INVALID**

説明

ユーティリティ・プログラム DBFUMINO は、システムと ACB メンバーの間で IMS リリース・レベルが一致しないことを検出しました。

メッセージ・テキストの *variable text* は、ACB の IMS 管理が使用可能かどうかに応じて、以下のいずれかのターゲットを示します。

ERROR PROCESSING ACBLIB - ACBLIB DMB MEMBER RELEASE *iii* INVALID

使用されている IMS のリリース・レベルが ACBLIB 内のメンバーのレベルと一致しない場合に発行されます。

この形式のメッセージ・テキストがデフォルトです。

ERROR PROCESSING CATALOG: CATALOG MEMBER RELEASE *iii* INVALID

使用されている IMS のリリース・レベルが IMS カタログ内のメンバーのレベルと一致しない場合に発行されます。

IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) で ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、この形式のメッセージ・テキストが発行されます。

iii

ACB メンバーに定義されている IMS リリース・レベル。

システムの処置

ユーティリティーは終了し、戻りコード 8 が示されます。

システム・プログラマーの応答

ACBLIB または IMS カタログに定義されている IMS リリース・レベルを修正した後で、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMINO

関連資料

[IMS カタログ定義出口ルーチン \(DFS3CDX0\) \(出口ルーチン\)](#)

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS3438 RESERVED INDEX AREA IN MFS BUFFER POOL TOO SMALL.

説明

メッセージ・フォーマット・バッファ・プール (MFBP) マネージャーによって使用される 2 つの索引を大きくするために IMS 初期設定時に予約された MFBP 内のエリアが、大きさが不十分なために、**/MODIFY PREPARE** または **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドの結果大きくなった PDS ディレクトリー索引を収容できません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

次回の IMS 再始動時に MFBP 内の予約エリアを大きくするか、PDS ディレクトリー索引を大きくするための所要量を削減するか、いずれかを行ってください。PDS ディレクトリー索引には、フォーマット・ライブラリー・ディレクトリー・ブロックごとに 12 バイトのエントリーが 1 つずつ入ります。予約エリアは、IMS プロシージャの EXEC パラメーター (FBPR=) として指定されます。追加のスペース所要量は、次のようにして計算できます。

(12 x (1 + 追加の MFS フォーマット・

ブロックの数/10))

+

(14 x (新しい \$SIMSDIR エントリーの数))

DFS3439W I/O ERROR READING THE DIRECTORY FOR *ddname* {-*nnn*}

説明

入出力エラーが、以下のいずれかのコマンドの処理において、*ddname* で示されたデータ・セットの読み取り中に発生しました。

- **/MODIFY PREPARE**
- **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)**
- **/MODIFY COMMIT**
- **INITIATE OLC PHASE(COMMIT)**

エラーが発生したのが、連結データ・セットがある FORMAT ライブラリーの場合は、*nnn* は、エラーが受信された連結データ・セットを示します。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

入出力エラーが発生したのが、現在オンライン IMS システムで使用中のデータ・セットの場合は、そのシステムで間もなく同様の条件が生じる可能性があります。非アクティブ・データ・セットでエラーが発生した場合、そのデータ・セットを再作成する必要があります。

DFS3440E CHECKPOINT IS REJECTED - ONLINE CHANGE COMMIT IS IN PROGRESS

説明

オンライン変更コミットが進行中であったため、**CHECKPOINT** コマンドはリジェクトされました。

システムの処置

/CHECKPOINT コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

オンライン変更コミットが完了した後、/CHECKPOINT コマンドを再実行してください。

モジュール:

DFSICM30、DFSRCPO0

DFS3441 **NOT ENOUGH STORAGE IN
SUBPOOL 231 FOR MODIFY**

説明

/MODIFY または **INITIATE OLC** コマンド・プロセッサが、サブプール 231 からストレージを取得できませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

システム・アクティビティーが低下し、使用可能なストレージが増えたら、コマンドを再入力してください。

DFS3442I **CHECKPOINT IS DEFERRED -
ONLINE CHANGE COMMIT IS IN
PROGRESS**

説明

単純チェックポイントが開始されましたが、オンライン変更コミットが進行中であるため据え置かれました。単純チェックポイントは、/CHECKPOINT コマンドによって開始されたか、CPLOG 値に達したために IMS によって内部で開始されました。

システムの処置

単純チェックポイントは据え置かれます。オンライン変更コミットが完了すると、IMS は単純チェックポイントを内部で開始します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSRCPO0

DFS3443I **/DISPLAY MODIFY ACTIVE**

説明

/MODIFY COMMIT または /MODIFY ABORT コマンドが入力されましたが、/DISPLAY MODIFY コマンドが進行中でした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

待った上で、コマンドを再発行してください。

DFS3444W **TRAN *tranname* CONFLICTS WITH
DYNAMIC LTERM, /MODIFY
ABORTED**

説明

/MODIFY PREPARE または **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドが入力されて、追加を試みたトランザクション名が、動的 LTERM 名と競合しています。*tranname* 変数は、動的に作成された LTERM としてすでに存在しているトランザクションの名前です。

システムの処置

/MODIFY PREPARE コマンドまたは **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドは打ち切られます。

プログラマーの応答

tranname が LTERM であるべきかトランザクションであるべきかを判別してください。LTERM であるべき場合は、変更を試みている非アクティブ MODBLKS から *tranname* を除去して、オンライン変更を再実行してください。*tranname* がトランザクションであるべき場合は、状況カウントおよびキュー・カウントを除去し、単純チェックポイントを開始することによって、動的 LTERM を削除してください。このためには、次のようなコマンドを出してください。

```
/STOP USER tranname  
/DEQ USER tranname PURGE  
          (or /DEQ LTERM tranname PURGE)  
/START USER tranname  
/CHE
```

動的 LTERM が削除されたら、/MODIFY PREPARE または **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドを再実行してください。

DFS3445 **INACTIVE FORMAT LIBRARY IS
EMPTY**

説明

非アクティブ・フォーマット・ライブラリーにメンバーがありません。

システムの処置

/MODIFY PREPARE コマンドまたは **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドは打ち切られます。

プログラマーの応答

更新済みステージング・フォーマット・ライブラリーを非アクティブ・フォーマット・ライブラリーにコピーし、コマンドを再発行してください。

DFS3446I INDEX AREA IN MFS BUFFER POOL TOO SMALL. nnnn ENTRIES TRUNCATED

説明

メッセージ・フォーマット・バッファ・プール (MFBP) マネージャーが使用する 2 つの索引用に IMS の初期設定時に予約された MFBP 内のエリアの大きさが不十分なために、入力中の **/MODIFY PREPARE** コマンドまたは **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドの結果として増加する索引を収容できません。

システムの処置

処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

/MODIFY PREPARE または **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドが正常に完了した場合は、下記のいずれかのコマンドを入力してください。

- **/MODIFY ABORT**
- **TERMINATE OLC**
- **/MODIFY COMMIT**
- **INITIATE OLC PHASE(COMMIT)**

/MODIFY ABORT コマンドに続けて **/MODIFY PREPARE** コマンド、あるいは **TERMINATE OLC** コマンドに続けて **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドを入力すると、常駐索引 (\$\$IMSDIR) が小さくなる可能性があります。

/MODIFY COMMIT または **INITIATE OLC PHASE(COMMIT)** コマンドを入力した場合は、このメッセージに示されているエントリーの数だけ常駐索引が切り捨てられますが、非アクティブ・フォーマット・ライブラリーへの切り替えは続くはずで、MFS バッファ・プール内の索引の拡張に備えた予約エリアを、次の IMS 再始動時に大きくするか、2 つの索引の所要量を削減する必要があります。予約エリアは、IMS プロシージャの EXEC パラメーター (FBP=) として指定されます。

追加のスペース所要量は、次のようにして計算できません。

12 x (1 + 追加された

MFS フォーマット・ブロックの数/12)
+
14 x (新しい \$\$IMSDIR 項目の数)

DFS3447 UNABLE TO ACQUIRE STORAGE FOR INACTIVE FORMAT LIBRARY DIRECTORIES

説明

IMS 拡張専用エリア内のストレージは、ハッシュ・テーブルとしても、基本区域 (\$\$IMSDIR)、または MFS 動的ディレクトリーの索引域としても、あるいは **/MODIFY COMMIT** または **INITIATE OLC PHASE(COMMIT)** 時の PDS ディレクトリー索引としても使用不能です。

システムの処置

/MODIFY COMMIT または **INITIATE OLC PHASE(COMMIT)** コマンドは無視されます。

プログラマーの応答

システム・アクティビティが低下し、使用可能なストレージが増えた時点で、コマンドを再入力してください。

DFS3448W UNEXPECTED EOF ON DDNAME ddname -nn

説明

名前に *ddname* を指定した DD ステートメントで参照されているライブラリーに、予想されたデータが含まれていません。DD ステートメントが "DD DUMMY" を指定したためである可能性があります。EOF が発生したのが、連結データ・セットがある FORMAT ライブラリーの場合は、nn は、EOF が受信された連結データ・セットを示します。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

DD ステートメントを訂正するか、データ・セットを再作成し、コマンドを再入力してください。

DFS3449W AN INVALID DIRECTORY BLOCK WAS READ FOR xxxxxxxx - nn

説明

MFS フォーマット・ライブラリーの変更を含む、オンライン変更操作に関する **/MODIFY PREPARE** または **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドの実行

中に、メッセージで xxxxxxxx によって DDNAME が示され (FORMATA または FORMATB)、その DDNAME に関する連結データ・セットを番号 *nn* で示している、データ・セットに関して読み取られたディレクトリー・ブロックが無効でした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

このメッセージに示されているデータ・セットは、区分データ・セット・ディレクトリーにエラーがあります。このデータ・セットは、バックアップから復元するか、または再作成する必要があります。

**DFS3450 /DBR NEEDED BEFORE
PARTITIONED DATABASE CAN BE
CHANGED/DELETED**

説明

/DBR コマンドを使用してオフラインにされていない 1 つ以上の HALDB の変更と削除のいずれかを行うために、オンライン変更が開始されました。

オペレーターの応答

変更または削除対象の HALDB と共に、論理的に関連したデータベース、1 次索引、または副次索引があれば、それらに関する、**/DBR** コマンドを発行してください。

モジュール:
DFSICV30

第 73 章 DFS メッセージ DFS3451 - DFS3500W

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3451 **A /MODIFY PREPARE COMMAND
IS NOT IN EFFECT**

説明

/MODIFY PREPARE コマンドが有効になってからでないと、**/MODIFY COMMIT** または **ABORT** コマンド、または **/DISPLAY MODIFY** コマンドは処理されません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

要求された変更を指定する、**/MODIFY PREPARE** コマンドを発行してください。

DFS3452 **WORK IN PROGRESS FOR
RESOURCES TO BE CHANGED/
DELETED**

説明

INITIATE OLC PHASE(COMMIT) または **/MODIFY COMMIT** コマンド処理によって、変更または削除の対象となっているリソースで、アクティブ作業がまだ保留になっており、このオンライン変更によって直接影響を受けることが検出されました。

システムの処置

コマンドは無視されます。

オペレーターの応答

/DISPLAY MODIFY コマンド、または **/DISPLAY MODIFY ALL** コマンドを発行して、アクティブ作業がまだ保留になっているリソースを判別してください。**/DISPLAY MODIFY** コマンドによって、すべてのリソースが変更または削除の対象であり、アクティブ作業がもう保留になっていないことが示されたら、**INITIATE OLC PHASE(COMMIT)** または **/MODIFY COMMIT** コマンドを再発行してください。

モジュール:
DFSICV30

DFS3453 **ERROR WRITING MODSTAT DATA
SET**

説明

MODSTAT データ・セットの誤りを試みている最中に、入出力エラーが検出されました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

最後の正常な DFS3410I、または DFS3499I メッセージに示されている DD 名を指定して、MODSTAT データ・セットを再構成してください。MODSTAT の再構成については、IMS システム定義の説明を参照してください。XRF 環境での適切なリカバリー処置については、IMS システム管理情報を参照してください。

関連概念

[XRF 複合システムでのリカバリー \(システム管理\)](#)

DFS3454I **I/O ERROR READING RESIDENT
DIRECTORY (\$\$IMSDIR) ddname
{-nn}**

説明

/MODIFY COMMIT または **INITIATE OLC PHASE(COMMIT)** コマンドが非アクティブ FORMAT ライブラリーから常駐ディレクトリー (\$\$IMSDIR) メンバーを読み取っていたとき、入出力エラーが発生しました。エラーが発生したのが、連結データ・セットがある FORMAT ライブラリーであった場合は、nn は、エラーが受信された連結データ・セットを示します。ddname は、入出力エラーが発生したライブラリーに関する DD ステートメントの名前です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

非アクティブ FORMAT ライブラリーに、常駐ディレクトリー (\$\$IMSDIR) を再作成します。MFS サービス・ユーティリティーを使用して、アクティブ FORMAT ライブラリーからの \$\$IMSDIR メンバーを非アクティブ・データ・セットにコピーし、さらに、その時点で再適用された更新にコピーしてください。

DFS3455I **/MODIFY ABORT IN PROGRESS**

説明

/DISPLAY MODIFY、/MODIFY PREPARE、または /MODIFY COMMIT が入力されましたが、/MODIFY ABORT が進行中でした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

終了が完了するのを待ってから、コマンドを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSICVDO

DFS3457	CHECKPOINT IN PROGRESS. COMMAND REJECTED.
----------------	--

説明

チェックポイントが進行中です。コマンドを正常に実行できず、コミットを実行できません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

後で /MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT) コマンドを再入力してください。

DFS3458	INSUFFICIENT STORAGE AVAILABLE IN AOIP POOL
----------------	--

説明

自動化操作プログラム・インターフェース (AOI) 出口インターフェース・モジュールが、コマンドをタイプ 1 自動化操作プログラム出口ルーチン (DFSAOUE0) に渡すために呼び出されましたが、インターフェース・モジュールは自動化操作プログラム・インターフェース・バッファ・プール (AOIP) からストレージを取得できませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

出力宛先

エラー・メッセージは、コマンドが入力されたコンソールに返されます。

ユーザーの処置

この状態は、後でコマンドを再入力することで解決できるような、一時的な状態である可能性があります。コマンドが再度失敗した場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別

/DISPLAY POOL コマンドは、AOIP のプロセッサ・ストレージ使用状況統計を表示するために使用します。

モジュール:
DFSICLPO、DFSICM20、DFSYCM20

関連資料

[/DISPLAY POOL コマンド \(コマンド\)](#)

DFS3459	MODIFY COMMIT TERMINATED - ALL DATABASE IN-DOUBTS MUST BE RESOLVED
----------------	---

説明

システム内の未確定データがすべて解決されてからでないと、オンライン変更は実行できません。

システムの処置

IMS 処理は続行されますが、オンライン変更は実行されません。

プログラマーの応答

コーディネーター・コントローラーと IMS を再接続するか、オペレーター・コマンドを使用するか、いずれかを行うことで、未確定データは解決できます。そうすれば、オンライン変更を実行できます。

DFS3460	/MODIFY PREPARE IN PROGRESS
----------------	------------------------------------

説明

IMS コマンド・モジュールが現在 /MODIFY PREPARE コマンドを処理中であり、IMS コマンド・モジュールは、入力端末に対して、コマンドの完了をまだ確認していません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

/MODIFY PREPARE コマンドに対するコマンド応答を受信した後で、コマンドを再入力してください。

モジュール

DFSICVDO

DFS3461 /MODIFY COMMIT IN PROGRESS

説明

IMS コマンド・モジュールは現在 **/MODIFY COMMIT** コマンドを処理中であり、入力端末に対して、コマンドの完了をまだ確認していません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

/MODIFY COMMIT コマンドに対するコマンド応答を受信した後で、コマンドを再入力してください。

モジュール

DFSICVD0

**DFS3462I DEDB xxxxxxxx NOT VALID
FOR /DBD COMMAND.**

説明

/DBDUMP コマンドは、DEDB には 適用されません。

システムの処置

指定されたデータベースは、コマンドから除去され、残りのデータベースがある場合は、それが処理されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3463I SPECIFIC MSDB xxxxxxxx NOT
VALID FOR /DBD COMMAND**

説明

/DBDUMP DB コマンドの入力時に、**DATABASE** キーワードを使用して、特殊パラメーター **MSDB** を指定するか、または **/DBDUMP DB ALL** コマンドを入力することによって、**/DBDUMP** コマンドを使用して、すべての **MSDB** を **MSDB** ダンプ・データ・セットにダンプできます。

システムの処置

指定されたデータベースは、コマンドから除去され、残りのデータベースがある場合は、それが処理されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3464I MSDB xxxxxxxx NOT VALID
FOR /DBR COMMAND.**

説明

/DBRECOVERY コマンドは、高速機能 **MSDB** には 適用されません。

システムの処置

指定されたデータベースは、コマンドから除去され、残りのデータベースがある場合は、それが処理されません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3465I DATABASE xxxxxxxx IN ERROR

説明

示されているデータベースについて動的バックアウト障害が発生したため、**/START DB** コマンドは処理されませんでした。

システムの処置

指定されたデータベースは、コマンドから除去され、残りのデータベースがある場合は、それがいずれも処理されます。

プログラマーの応答

/DBR コマンドを発行して、示されているデータベースをオフラインにし、バッチ・バックアウトを実行してから、**/START DB** コマンドまたは **UPDATE DB START (ACCESS)** コマンドを発行してください。

**DFS3466I DDIR FOR DATABASE dddddddd
NOT FOUND**

説明

/START、**/STOP**、**/DBD**、または **/DBR** コマンド内のデータベース・キーワード・パラメーター **dddddddd** が、IMS システムに既知ではありません。コマンド処理モジュールは、データベース **dddddddd** の **DDIR** を検出できませんでした。

システムの処置

IMS は、無効なパラメーターを無視し、他にデータベース・キーワード・パラメーターがコマンド上であれば、その処理を続行します。

プログラマーの応答

訂正されたデータベース・パラメーターを指定して、コマンドを再入力してください。

DFS3467I ERROR READING MODSTAT DATA SET

説明

MODSTAT データ・セットを読み取っている最中に、入出力エラーが発生したか、または MODSTAT データ・セットが無効です。エラーが検出されたのは、バッチ DBD タイプの IMS 領域に関する初期設定中でした。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード U821 が示されま

プログラマーの応答

バッチ・ジョブを実行する前に、訂正された DD 名を使用して、MODSTAT データ・セットを再構成してください。

問題判別

1、3、17

関連情報

[IMS 異常終了 0821](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3468I UNABLE TO OPEN DDNAME ddname IN DLS REGION

説明

DL/I 従属アドレス・スペース・オプションが選択されました。**/MODIFY PREPARE** または **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドの処理の一環として、DL/I 従属アドレス・スペース内で、示されている DDNAME が開けません。示されている DDNAME が DL/I 従属アドレス・スペース領域 JCL で定義されなかったか、オペレーティング・システムが、OPEN 処理中にエラーを検出したか、いずれかです。

システムの処置

/MODIFY PREPARE コマンドまたは **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドは無視されます。

プログラマーの応答

示されている DDNAME が DL/I 従属アドレス・スペース JCL で定義されていないか、指定されたデータ・セットが存在しない可能性があります。

DFS3469I IN= PARAMETER IGNORED FOR TYPE=ACTVACB

説明

OLCUTL プロシージャの IN= パラメーターは、TYPE=ACTVACB の場合には必要ありません。

システムの処置

オンライン変更コピー・ユーティリティー (DFSUOCU0) は IN= パラメーターを無視して、処理を続行します。

モジュール

DFSUOCU0

DFS3470 TRANSACTION CURRENTLY NOT AVAILABLE FOR USE (I:sss1/name1, D:sss2/name2)

説明

トランザクションが変更されている最中か、トランザクションに関連したアプリケーション・プログラムおよびデータベースが現在変更されている 最中です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード

システムの処置

入力されたトランザクションは、IMS にリジェクトされます。

オペレーターの応答

後で、トランザクションまたはそのリソースが変更中ではなく、使用可能になった時点で、トランザクションを再入力してください。

DFS3471 ROUTING CODE CURRENTLY NOT AVAILABLE FOR USE

説明

このトランザクションに関して選択された宛先コードは、現在変更されている最中です。

システムの処置

入力されたトランザクションは、IMS にリジェクトされます。

オペレーターの応答

後で、宛先コードが変更中ではなくなり、使用可能になった時点で、トランザクションを再入力してください。

**DFS3472 DEVICE FORMAT CHANGED,
MESSAGE RETURNED TO QUEUE**

説明

IMS MFS は、この装置をフォーマット設定するために現在使用されているフォーマットが、オンライン変更機能によって動的に変更されたことを検出しました。

システムの処置

進行中であった出力メッセージは、IMS メッセージ・キューに戻されました。

オペレーターの応答

メッセージは再度要求できますが、新規 MFS フォーマットの結果、データによっては、異なるフォーマットになる可能性があります。

**DFS3476I UPDATE MSLINK COMMAND
COMPLETED, CC= xx**

説明

IMS 端末から発行した /UPDATE MSLINK コマンドが完了しました。xx は、完了コードを示します。

Operations Manager (OM) から UPDATE MSLINK コマンドを発行する場合、タイプ 2 コマンドとして処理され、このメッセージは出されません。

システムの処置:

完了コードが 00 である場合、/UPDATE MSLINK コマンドは正常に完了しました。完了コードがゼロ以外の場合、コマンドで問題が発生しました。

オペレーターの応答

完了コードが 00 である場合、処置は必要ありません。

完了コードがゼロ以外の場合は、UPDATE MSLINK コマンドに関する説明にある完了コード表を参照してください。問題を訂正して、コマンドを再発行します。

システム・プログラマーの応答:

オペレーターの応答を参照してください。

モジュール:

DFSIU100

関連資料

[UPDATE MSLINK コマンド \(コマンド\)](#)

DFS3478

**OUTPUT MESSAGE CANCELED BY
STATICOUTSEC OPTION**

説明

現行ユーザーがトランザクションを開始したユーザーと一致しないために、IMS は静的 VTAM 端末のトランザクション出力メッセージを取り消しました。このアクションは、DFSDCxxx PROCLIB メンバーで指定されている **STATICOUTSEC** パラメーターの要求時に行われます。端末が応答モードで、現行ユーザーのユーザー ID がトランザクションを開始したユーザー ID とは異なる場合、IMS は、トランザクション出力メッセージの代わりにこのメッセージを送信します。

システムの処置:

IMS は、取り消されたメッセージではなく、このメッセージを送信します。処理は続行されます。

出力宛先:

3270 ユーザー端末。

ユーザーの処置:

これは通知メッセージです。ご使用の手順を調べて、何らかの処置を取る必要があるか判断してください。

問題判別:

5、14

モジュール:

DFSCOF00、DFSCF00

関連資料

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー \(システム定義\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3480I

**INVALID LIBRARY TYPE
PARAMETER**

説明

ライブラリー・タイプ・パラメーターが、オンライン変更ユーティリティに関する、次のいずれでもありませんでした。

ACB

FORMAT

MODBLKS

システムの処置

コピーは行われず、ユーティリティは 終了します。

プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ユーティリティを 再実行してください。

モジュール:
DFSUOCU0

**DFS3481I INVALID INPUT DDNAME
 PARAMETER**

説明

オンライン変更ユーティリティに関する入力 DD 名パラメーターが、次の値のいずれでもありません。

S
I

システムの処置

コピーは行われず、ユーティリティは 終了します。

プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ユーティリティを 再実行してください。

**DFS3482I INVALID OUTPUT DDNAME
 PARAMETER**

説明

オンライン変更ユーティリティに関連する出力 DD 名パラメーターが、次の値のいずれでもありません。

B
A
O
U

システムの処置

コピーは行われず、ユーティリティは 終了します。

プログラマーの応答

パラメーターを訂正し、ユーティリティを 再実行してください。

**DFS3483 ERROR DURING ENQUEUE
 DDNAME=dddddddd**

説明

コピーする前に、DD 名 dddddddd のエンキューを試みている最中に、エラーが検出されました。

1002 IMS: メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

システムの処置

コピーは行われず、ユーティリティは 終了します。

システム・プログラマーの応答

DD ステートメントを訂正してください。

**DFS3484I ERROR READING THE MODSTAT
 DATA SET**

説明

コピーする前に MODSTAT データ・セットの読み取りを試みている最中に、エラーが発生しました。

システムの処置

コピーは行われず、ユーティリティは 終了します。

プログラマーの応答

MODSTAT の内容が正しいかどうか判断してください。データ・セットが破棄されている場合は、最後の DFS3499I メッセージを基にして、データ・セットを再作成し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報

1014 ページの『DFS3499I』

ACTIVE DDNAMES: *modblks-name acplib-name
format-name* MODSTAT ID: *nnnn*

**DFS3485I *jobname* WAITING FOR DATASET
 *data set name***

説明

メッセージに示されているデータ・セットが別のタスクですでに使用中でした。そのことが原因で、示されているジョブは、データ・セットの解放を待っているところです。

システムの処置

示されているジョブは、データ・セットが使用可能になるまで待ちます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

データ・セットが使用可能になると、ジョブは実行されます。

DFS3486 IEBCOPY PARAMETER ERROR

説明

指定した IEBCOPY パラメーターの 1 つ (WORK、SIZE、または LIST) に、無効なパラメーターが入っていました。以下は、エラーの例です。

- PROC および EXEC ステートメントで 1 つ以上の IEBCOPY パラメーターが指定されていますが、入力パラメーターとして指定されていません。
- PROC および EXEC ステートメントで 1 つ以上の IEBCOPY パラメーターが指定されていますが、入力パラメーターとして指定されていません。

システムの処置

オンライン変更コピー・ユーティリティは失敗します。

システム・プログラマーの応答

オンライン変更コピー・ユーティリティの IEBCOPY パラメーターを訂正し、ユーティリティの実行を再試行してください。

モジュール:
DFSUOCU

DFS3487 ALL KEYWORD INVALID

説明

ALL キーワードは、動的リソース定義 (DRD) と IMS ディレクトリーの両方が使用可能な場合は無効です。IMS システムは /MODIFY コマンドをリジェクトします。

システムの処置

コマンドは実行されません。

ユーザーの処置

ALL キーワードを指定せずに /MODIFY コマンドを再発行してください。

モジュール:
DFSICV10

関連資料

/MODIFY コマンド (コマンド)

**DFS3488 ERROR DURING ENQUEUE FOR
 DDNAME dddddddd**

説明

/MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE (PREPARE) コマンドの実行時に、非アクティブ・ライブラリー dddddddd のエンキューを試みている最中に、エラーが検出されました。ライブラリーが存

在しないか、またはコピー・ユーティリティによって使用中でした。

システムの処置

ライブラリーが MATRIXA または MATRIXB の場合は、/MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE (PREPARE) コマンドの処理が続行され、そうでない場合は、このコマンドの処理は終了します。

オペレーターの応答

/MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE (PREPARE) コマンドが終了され、メッセージ DFS3499I が出されなかった場合は、データ・セットが使用可能になったら、コマンドを再実行依頼してください。

**DFS3489 OUTPUT MESSAGE CANCELED BY
 USER OUTPUT EDIT ROUTINE**

説明

IMS が、ユーザーの物理端末出力編集ルーチンの要求に応じて、出力メッセージを取り消しました。端末が応答モードの場合は、IMS は、応答モードに応じたはずの出力メッセージの代わりに、このメッセージを送信します。システム再始動が行われた場合は、IMS は応答モードをリセットし、応答メッセージの廃棄要求後は、メッセージ DFS3489 を送信しません。

システムの処置

IMS は、取り消されたメッセージではなく、このメッセージを送信します。

オペレーターの応答

これは通知メッセージです。ご使用の手順を調べて、何らかの処置を取る必要があるか判断してください。

問題判別:

5、14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3490I APPC TIMEOUT ACTIVE,
 MVS=xxxx MINS, yy SECS,
 IMS=zzzz MINS.**

説明

APPC タイムアウトがアクティブです。xxxx は APPC MVS タイムアウト値の分数であり、yy はその秒数です。zzzz は、APPC IMS タイムアウト値の分数です。これら

の値は、DFSDCxxx PROCLIB メンバーの APPCIOT パラメーターによって定義されます。

システムの処置

IMS は、従属領域のタスク制御ブロック (TCB) の下で発行される APPC 呼び出しが、xxxx 分を超える時間にわたって非アクティブであるかどうかを、xxxx 分または yy 秒ごとに確認します。追加情報については、DFS3492W のメッセージ・テキストを参照してください。

zzzz は、アプリケーションが継続して非アクティブであることが許される分数です。非アクティブとは、アプリケーションがタイムアウト制限内に応答できなかったことを意味します。

プログラマーの応答

このメッセージは通知のみを目的としています。

関連情報

DFS3492W

APPC/IMS TIMEOUT LIMIT REACHED FOR LU *luname*, TP-ID *tp-id*, ASYNC. CONVERSATION. INACTIVE SINCE *xxxx* SECONDS.

DFS3491I **APPC/IMS TIMEOUT DEACTIVATED. (SYSTEM SHUTDOWN) (TIMER CANCELED) (DFSTIMER ERROR, RC=xx) (APPC NOT ACTIVE (APPC IOT = 0) (NO MVS SUPPORT)**

説明

APPC/IMS タイムアウトが非アクティブです。メッセージに、APPC/IMS タイムアウトが非アクティブである理由が組み込まれています。

理由が NO MVS SUPPORT の場合は、APPC/MVS がタイムアウト・サービスをサポートしていません。現行の z/OS レベルは、APPC/MVS タイムアウト・サービスをサポートしません。

APPC IOT = 0 がリストされているときは、DFSDCxxx メンバーの APPCIOT パラメーターは、ゼロとして定義されているか、/CHANGE コマンドによってゼロに変更されています。

プログラマーの応答

理由が (DFSTIMER ERROR) の場合は、問題を IBM ソフトウェア・サポートに報告してください。それ以外の場合は、これは通知メッセージです。

DFS3492W **APPC/IMS TIMEOUT LIMIT REACHED FOR LU *luname*, TP-ID *tp-id*, ASYNC. CONVERSATION. INACTIVE SINCE *xxxx* SECONDS.**

または

APPC/IMS TIMEOUT LIMIT REACHED FOR LU *luname*, TP-ID *tp-id*, REGION *region-id*. INACTIVE SINCE *xxxx* SECONDS.

説明

APPC/IMS タイムアウトによって、ハングした可能性のある従属領域または非同期会話が検出されました。メッセージ・テキストの値は、それぞれ次のとおりです。

luname

セッションの VTAM LU 名

tp-id

APPC 会話の TP-ID

region-id

IMS 従属領域 ID または ASYNC。非同期会話の場合は、領域 ID は CONV です。

xxxx

会話が APPC 呼び出しに対する応答を待っている秒数

プログラマーの応答

luname が潜在的にハングしている可能性がある従属領域または非同期会話をクリーンアップするように、**V NET, INACT** コマンドを出してください。**V NET, INACT** では、*luname* に関する会話はすべて停止するので、単に会話がハングした以上の結果になる可能性があります。

ハングした会話がバッチ・ジョブである場合は、*luname* は APPC/MVS であり、この場合は、**V NET, INACT** を発行すると、APPC/MVS セッションがすべて停止します。*tp-id* を使用して、**D APPC, TP, ALL** コマンドを発行することでジョブ名を判別し、バッチ・ジョブを取り消してください。

DFS3493I **MODBLKS KEYWORD INVALID WHEN DYNAMIC RESOURCE DEFINITION ENABLED**

説明

動的リソース定義 (DRD) が使用可能になっている IMS システムでは、このキーワードは無効のため、コマンドが処理されませんでした。

システムの処置:

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

DRD コマンドを使用して、リソースをオンラインに変更します。

DFS3494E OTMA HAS TIMED OUT FOR TMEMBER/TPIPE xxxx/yyyy

または

OTMA HAS TIMED OUT FOR TMEMBER/TPIPE xxxx/yyyy RT=rt_token

または

OTMA HAS TIMED OUT FOR TMEMBER/TPIPE xxxx/yyyy AND MOVED THE OUTPUT TO zzzz

説明

トランザクション・パイプ (Tパイプ) *yyyy* を使用する OTMA ターゲット・メンバー (tmember またはクライアント) *xxxx* からの ACK または NAK を待っていた OTMA がタイムアウトになり、ACK または NAK の欠落に対して CMO タイムアウト・アクションを開始しました。

OTMA Tパイプが複数のアクティブ RESUME TPIPE 要求をサポートする場合、RESUME TPIPE 呼び出しを識別する 16 進トークン番号 *rt_token* も表示されます。

zzzz フィールドが存在する場合、CMO 出力メッセージは出力 Tパイプ *zzzz* に転送されました。メンバーが保留キューをサポートする場合、メッセージは Tパイプ *zzzz* の保留キューに移動されます。

ICAL からの IMS コールアウト・メッセージについては、同期コールアウト要求を発行する IMS アプリケーションが戻りコード X'100' および理由コード X'104' を受け取ります。メッセージは廃棄されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rt_token

RESUME TPIPE 呼び出しの 16 進トークン番号を示します。

xxxx

OTMA クライアントの名前。

yyyy

タイムアウトが発生した TPIPE の名前。

zzzz

出力の転送先の TPIPE 名。

システムの処置:

処理は続行されます。

オペレーターの応答

このタイムアウト条件に関する ACK または NAK の欠落の原因を特定します。アプリケーション・プログラ

ムまたはネットワーク・コンポーネントの障害の可能性があります。

プログラマーの応答

プログラムが、受信した CMO 出力メッセージに対して ACK または NAK を IMS に必ず発行するようにしてください。また、ネットワーク障害があるために ACK または NAK が IMS OTMA に到着できない可能性もあります。

OTMA クライアントが IMS Connect である場合、IMS コマンド QUERY IMSCON TYPE(CLIENT) RTTOKEN(*rt_token*) を発行して、IMS Connect クライアントを特定することができます。

問題判別

ネットワーク・トレースを調べて、ネットワーク内のどのコンポーネントが ACK または NAK を IMS に転送しなかったのかを特定します。プログラムが、受信した CMO 出力メッセージまたは同期コールアウト・メッセージに対して ACK または NAK を IMS に必ず発行するようにしてください。

この問題の考えられる原因の 1 つとして、ネットワーク障害があるために ACK または NAK が IMS OTMA に到着できないということがあります。

モジュール:

DFSYP500

DFS3495W OTMA HAS BEEN WAITING FOR AN ACK FROM TMEMBER/TPIPE xxxx/yyyy FOR OVER zzzz SECONDS.

説明

OTMA は、トランザクション・パイプ (Tパイプ) *yyyy* のメンバー *xxxx* が、*zzzz* 秒を超えて確認応答を待っていることを検出しました。OTMA CMO ACK タイムアウト機能がオフになっているため、OTMA は出力メッセージを転送するタイムアウト・アクションをとりません。

システムの処置:

処理を続行します。Tパイプは停止状況のままです。Tパイプのキューに入れられたすべての出力メッセージは、ACK または NAK を受信するまで送信されません。

オペレーターの応答

このタイムアウト条件に関する ACK または NAK の欠落の原因を特定します。問題は、アプリケーション・プログラムまたはネットワーク・コンポーネントの障害の可能性がありま。 **/STOP TMEMBER tpipe** の次に **/START TMEMBER tpipe** コマンドを使用して Tパイプを手動で再開できます。

プログラマーの応答

プログラムが、受信した CMO 出力メッセージに対して ACK または NAK を IMS に必ず発行するようにしてください。また、ネットワーク障害があるために ACK または NAK が IMS OTMA に到着できない可能性もあります。

問題判別:

ネットワーク・トレースを調べて、ネットワーク内のどのコンポーネントが ACK または NAK を IMS に転送しなかったのかを特定します。

モジュール:

DFSYP00

**DFS3496W DMB XXXXXXXX IN INACTIVE
ACBLIB NOT COMPATIBLE WITH
IMS**

説明

非アクティブ・ライブラリーのレベルが現行の IMS リリースと互換性がありません。

システムの処置

/MODIFY PREPARE ACBLIB または INITIATE OLC PHASE (COMMIT) コマンドが終了します。

プログラマーの応答

JCL が正しいライブラリーを指定しているかどうか、ACBGEN が IMS の現行リリースに適したレベルで実行されているかどうかを検証してください。

**DFS3497A AN INVALID MOLC LOG RECORD
DETECTED AND IGNORED
RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccc**

または

**A PRIOR MOLC UOW FOUND, THE UOW IS BEING
IGNORED RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccc**

または

**INTERNAL MOLC ERROR RSN=aaaaaaaa
RC=bbbbbbbb TOKEN=cccccccccccccc**

または

INTERNAL MEMBER ONLINE CHANGE ERROR

**RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccc**

または

MOLC ERROR PROCESSING AN INCOMPLETE UOW

**RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccc**

または

MOLC ERROR, PDIR BLOCK COULD NOT BE

**FOUND PDIR=ddddddd RSN=aaaaaaaa
RC=bbbbbbbb TOKEN=cccccccccccccc**

または

MOLC ERROR, DDIR BLOCK COULD NOT BE

**FOUND PDIR=eeeeeee RSN=aaaaaaaa
RC=bbbbbbbb TOKEN=cccccccccccccc**

説明

IMS の再始動、拡張リカバリー機能 (XRF)、または高速データベース・リカバリー (FDR) トラッキングの間に、メンバー・オンライン変更ログ・レコードを処理してリカバリー不能エラーが発生しました。メンバー・オンライン変更作業単位は完了しなかった可能性が高く、メンバー・オンライン変更を再実行する必要があります。詳細情報については、理由コードの説明を参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddddddd

欠落している PDIR の名前

eeeeeee

欠落している DDIR の名前

aaaaaaaa

理由コード

bbbbbbbb

戻りコード

cccccccccccccc

メンバー・オンライン変更作業単位トークン

理由コードは、次のいずれかの値を取ります。

コード

説明

01

内部エラー。無効なログ・レコード・タイプ 70xx が、メンバー・オンライン変更処理モジュールに渡され、無視されました。

02、03、05、06、07、または 0A

新規メンバー・オンライン変更作業単位のタイプ 70xx (7002、7003、7004、または 7005) のログ・レコードが読み取られましたが、前回のメンバー・オンライン変更作業単位には作業単位終了ログ・レコード (タイプ 7006 または 7010) が含まれていませんでした。前回のメンバー・オンライン変更作業単位は終了して、クリーンアップが実行され、新しい作業単位が初期設定されます。脱落ログ・レコードまたはログ・テープによってこの問題が発生する可能性があります。

04

7002 ログ・レコードには、処理するメンバーが含まれていませんでした。このメンバー・オンライン変更作業単位によって生成された作業はありません。最も考えられる原因は、メンバー・オンライン変更が ACBLIB メンバーを更新しなかったことです。

08

メンバー・オンライン変更について 7005 ログ・レコードが処理され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位を終了したことが示されました。メンバー・オンライン作業単位は終了されます。

09

7005 ログ・レコードが処理され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位をコミットしたことが示されました。この問題が、XRF が IMS をトラッキングしていて、FDBR および ACBSHR=N が指定されていることである場合、メンバー・オンライン作業単位はコミットされます。この問題が、XRF が IMS をトラッキングしていて、FDBR および ACBSHR=Y が指定されていることである場合、この IMS による処置は必要ありません。アクティブな IMS 上のコミットは正常に完了したからです。

0B

7010 ログ・レコードが、この作業単位で唯一のログ・レコードとして検出されました。後続の DFS3497I を参照して、IMS がこのメンバー・オンライン変更作業単位を処理した理由を判別してください。

0C

7010 ログ・レコードがトラッキング IMS によって作業単位ログ・ストリームの終わりで検出され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位を打ち切ったことが示されました。ACBSHR=N が指定されていたため、IMS はメンバー・オンライン作業単位を打ち切りました。

0D

7010 ログ・レコードが作業単位ログ・ストリームの終わりで検出され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位を打ち切ったことが示されまし

た。ACBSHR=Y が指定されていたため、IMS による処置は必要ありません。これは単なる通知メッセージです。

0E

7002 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された唯一のログ・レコードでした。7002 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位が打ち切られたことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位を打ち切りました。

0F

7003 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された最後のログ・レコードでした。7003 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位が打ち切られたことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位を打ち切りました。

10

7003 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された最後のログ・レコードでした。7003 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位が完了したことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位をコミットしました。

11

7004 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された最後のログ・レコードでした。7004 の存在は、作業単位が完了したことを意味します。ただし、後続の 7010 が欠落していたため、変更されているリソースの状態は不明です。メンバー・オンライン変更作業単位はコミットされます。

12

これは内部エラーによるもので、内部制御ブロック構造の一部が欠落しています。メンバー・オンライン変更プロセスは打ち切られます。

1B または 21

この問題は、GETMAIN 障害によるものです。最も可能性の高い原因は、使用可能なストレージが不足していることです。GETMAIN の戻りコードは、メッセージに示されています。

1C

メンバー・オンライン変更プロセスは OLCSTAT データ・セットを読み取ることができませんでした。メンバー・オンライン変更プロセスは打ち切られません。

1D

メンバー・オンライン変更処理中に DDIR がライブラリーから欠落していました。オンライン変更プロセスはこのメンバーをスキップして、メンバー・オンライン変更プロセスは続行されます。

1E

メンバー・オンライン変更処理中に PDIR がライブラリーから欠落していました。オンライン変更プロセスはこのメンバーをスキップして、メンバー・オンライン変更プロセスは続行されます。

1F または 20

メンバー・オンライン変更の初期設定処理中に内部エラーが発生しました。メンバー・オンライン変更プロセスは打ち切られます。

13、15、17、または 19

ACBSHR=NO を指定するトラッキング中に、メンバー・オンライン変更プロセスはメンバーをトラッキング ACBLIB から削除しようとしたのですが、そのメンバーは存在しません。このコードは、ACBLIB がアクティブとトラッカーの間で同期されていないことを示します。IMS が異常終了します。

22

7002 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された唯一のログ・レコードでした。7002 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位がコミットされたことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位を再コミットしました。

2D、2E、2F、30、31、32、33、34、35、41、または 42

ログ・レコード 7002、7003、7004、7005、7007、7008、7012、7013、7014、7015 のいずれかの処理時に、メンバー・オンライン変更の以前の作業単位がまだ存在していました。処置は必要ありません。脱落ログ・レコードまたはログ・テープによってこの問題が発生する可能性があります。

36、37、38、39、3A、3B、3C、3D、43、または 44

ログ・レコード 7002、7003、7004、7005、7007、7008、7012、7013、7014、7015 のいずれかが処理されましたが、関連付けられた 7002 レコードがそのログ内にありませんでした。処置は必要ありません。脱落ログ・レコードまたはログ・テープによってこの問題が発生する可能性があります。

システムの処置

メンバー・オンライン変更の不完全な作業単位はコミットされるか、打ち切られます。追加情報については、「プ

ログラマーの応答」の下にある理由コードの説明を参照してください。

プログラマーの応答

応答は、次のように理由コードに応じて異なります。

01

無効なログ・レコードが、メンバー・オンライン変更ログ・レコードを処理するモジュールに渡されました。この内部エラーの訂正を支援するために、DFSERA10 を実行してすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

02、03、05、06、07、または 0A

DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関するすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出します。不完全なメンバー・オンライン変更作業単位に関する 7002 には、処理されなかったメンバー名が含まれています。これらを処理するには、欠落しているメンバーに対してメンバー・オンライン変更を再実行する必要があります。また、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

04

DFSERA10 を実行してすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。7002 には処理するメンバー名が含まれている必要があるため、この問題は内部エラーです。この時間枠にメンバー・オンライン変更が実行された場合、すべてのメンバー・オンライン変更が完全かどうかを検査してください。いずれかのメンバー・オンライン変更が失敗したことが検出された場合、メンバー・オンライン変更を再実行する必要があります。

12

DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関するすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。この問題は内部エラーです。メンバー・オンライン変更作業単位は完了しておらず、再実行する必要があります。これらのメッセージを誤って受け取ったと考えられる場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

1D

DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関するすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メンバー・オンライン変更への PDIR または DDIR が、ステージングまたはアクティブ ACBLIB から欠落していました。これらの欠落しているメンバーに対するメンバー・オンライン

変更を再実行する必要があります。これらのメッセージを誤って受け取ったと考えられる場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

1E

DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関するすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。メンバー・オンライン変更への PDIR または DDIR が、ステージングまたはアクティブ ACBLIB から欠落していました。これらの欠落しているメンバーに対するメンバー・オンライン変更を再実行する必要があります。これらのメッセージを誤って受け取ったと考えられる場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

1F または 20

IBM がこの内部エラーを訂正するために、DFSERA10 を実行してすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

08、09、0B、0C、0D、0E、0F、10、または 11

これらは通知メッセージであるため、応答は必要ありません。これらのメッセージを誤って受け取ったと考えられる場合、または問題があると考えられる場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

1C

OLCSTAT データ・セットが存在すること、およびそれを読み取り専用モードのメンバー・オンライン変更で使用できることを確認します。メンバー・オンライン変更作業単位を再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、再実行するメンバーのリストを取得します。

1B

メンバー・オンライン変更プロセスのために ECSA ストレージを解放します。メンバー・オンライン変更作業単位を再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、再実行するメンバーのリストを取得します。

21

メンバー・オンライン変更プロセスのために専用ストレージを解放します。メンバー・オンライン変更作業単位を再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、再実行するメンバーのリストを取得します。

13、15、17、または 19

欠落しているメンバー名がメッセージに含まれていました。このメンバーのメンバー・オンライン変更は、トラッキング IMS ACBLIB に対して再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽

出し、このメンバー・オンライン変更の一部であったメンバーのリストを取得します。その後、タイプ 7002 ログ・レコードのその他のメンバーに対するメンバー・オンライン変更が完了していることを確認します。

モジュール:
DFS MOL10、DFS MOL20

DFS3497I **MOLC 7005 LOG RECORD FOUND,**
UOW ABORTED **RSN=aaaaaaaa**
RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccccc

MOLC 7005 LOG RECORD FOUND, UOW COMMITTED
RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccccc

または

MOLC 7010 LOG RECORD FOUND, NO PROCESSING
REQUIRED RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccccc

または

MOLC 7010 LOG RECORD FOUND, UOW ABORTED
RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccccc

または

MOLC 7003 LOG RECORD FOUND, UOW ABORTED
RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccccc

または

MOLC 7002 LOG RECORD FOUND, UOW COMMITTED
RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccccc

または

MOLC 7003 LOG RECORD FOUND, UOW COMMITTED
RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccccc

または

MOLC 7004 LOG RECORD FOUND, UOW COMMITTED
RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccccc

説明

IMS の再始動、拡張リカバリー機能 (XRF)、または高速データベース・リカバリー (FDR) トラッキング中に、不完全なメンバー・オンライン変更作業単位が検出されました。最も可能性が高い原因は、メンバー・オンライン変更がアクティブであったか、XRF/FDBR トラッキング中の IMS の異常終了でした。メンバー・オンライン変更ログ・レコードには、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位 (UOW) をコミットしたか、または終了したかを IMS が判別するのに十分な情報が含まれていました。この情報に基づいて、作業単位は再コミットされたか、終了しました。詳細情報については、理由コードの説明を参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

理由コード

bbbbbbbb

戻りコード

cccccccccccccccc

メンバー・オンライン変更作業単位トークン

理由コードは、次のいずれかの値を取ります。

コード

説明

01

内部エラー。無効なログ・レコード・タイプ 70xx が、メンバー・オンライン変更処理モジュールに渡され、無視されました。

02、03、05、06、07、または 0A

新規メンバー・オンライン変更作業単位のタイプ 70xx (7002、7003、7004、または 7005) ログ・レコードが読み取られました。前回のメンバー・オンライン変更作業単位には作業単位終了ログ・レコード (タイプ 7006 または 7010) が含まれていませんでした。前回のメンバー・オンライン変更作業単位は終了して、クリーンアップが実行され、新しい作業単位が初期設定されます。脱落ログ・レコードまたはログ・テープによってこの問題が発生する可能性があります。

04

7002 ログ・レコードには、処理するメンバーが含まれていませんでした。このメンバー・オンライン変更作業単位によって生成された作業はありません。原因として、メンバー・オンライン変更が ACBLIB メンバーを更新しなかったことが考えられます。

08

メンバー・オンライン変更について 7005 ログ・レコードが処理され、メンバー・オンライン変更作業

単位を終了したことが示されました。メンバー・オンライン作業単位は終了します。

09

7005 ログ・レコードが処理され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位をコミットしたことが示されました。この問題が、XRF が IMS をトラッキングしていて、FDBR および ACBSHR=N が指定されていることである場合、メンバー・オンライン作業単位はコミットされます。この問題が、XRF が IMS をトラッキングしていて、FDBR および ACBSHR=Y が指定されていることである場合、この IMS による処置は必要ありません。アクティブな IMS 上のコミットは正常に完了したからです。

0B

7010 ログ・レコードが、この作業単位で唯一のログ・レコードとして検出されました。IMS がこのメンバー・オンライン変更作業単位を処理した方法については、後続の DFS3497I を参照してください。

0C

7010 ログ・レコードがトラッキング IMS によって作業単位ログ・ストリームの終わりで検出され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位を終了したことが示されました。ACBSHR=N が指定されていたため、IMS はメンバー・オンライン作業単位を終了しました。

0D

7010 ログ・レコードが作業単位ログ・ストリームの終わりで検出され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位を終了したことが示されました。ACBSHR=Y が指定されていたため、IMS による処置は必要ありません。

0E

7002 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された唯一のログ・レコードでした。7002 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位が終了したことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位を終了しました。

0F

7003 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された最後のログ・レコードでした。7003 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位が終了したことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位を終了しました。

10

7003 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された最後のログ・レコードでした。7003 の存在は、作業単位が開始され

たが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位が完了したことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位を再コミットしました。

11

7004 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された最後のログ・レコードでした。7004 の存在は、作業単位が完了したことを示しています。しかし、後続の 7010 が欠落しているため、オンライン変更されているリソースの状態は不明です。メンバー・オンライン変更作業単位はコミットされます。

12

この問題は内部エラーによるもので、内部制御ブロック構造の一部が欠落しています。メンバー・オンライン変更プロセスは終了します。

1B または 21

この問題は、GETMAIN 障害によるものです。最も可能性の高い原因は、使用可能なストレージが不足していることです。GETMAIN の戻りコードは、メッセージに示されています。

1C

メンバー・オンライン変更プロセスは OLCSTAT データ・セットを読み取ることができませんでした。メンバー・オンライン変更プロセスは終了します。

1D

メンバー・オンライン変更処理中に DDIR がライブラリーから欠落していました。オンライン変更プロセスはこのメンバーをスキップして、メンバー・オンライン変更プロセスは続行されます。

1E

メンバー・オンライン変更処理中に PDIR がライブラリーから欠落していました。オンライン変更プロセスはこのメンバーをスキップして、メンバー・オンライン変更プロセスは続行されます。

1F または 20

メンバー・オンライン変更の初期設定処理中に内部エラーが発生しました。メンバー・オンライン変更プロセスは終了します。

13、15、17、または 19

ACBSHR=NO を指定するトラッキング中に、メンバー・オンライン変更プロセスはメンバーをトラッキング ACBLIB から削除しようとしたのですが、そのメンバーは存在しません。これは、ACBLIB がアクティブとトラッカーの間で同期されていないことを示します。IMS は異常終了します。

22

7002 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された唯一のログ・レコードでした。7002 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT デ

ータ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位がコミットされたことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位をコミットしました。

システムの処置

メンバー・オンライン変更の不完全な作業単位はコミットされるか、終了します。追加情報については、「プログラマーの応答」の下にある理由コードの説明を参照してください。

プログラマーの応答

応答は、次のように理由コードに応じて異なります。

01

無効なログ・レコードが、メンバー・オンライン変更ログ・レコードを処理するモジュールに渡されました。この内部エラーの修正に役立てるために、DFSERA10 を実行してすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

02、03、05、06、07、または 0A

DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関するすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出します。不完全なメンバー・オンライン変更作業単位に関する 7002 には、処理されなかったメンバー名が含まれています。これらのメンバーを処理するには、IBM ソフトウェア・サポートに連絡するとともに、欠落しているメンバーに対してメンバー・オンライン変更を再実行する必要があります。

04

DFSERA10 を実行してすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。7002 には処理するメンバー名が含まれている必要があるため、この問題は内部エラーです。この時間枠にメンバー・オンライン変更が実行された場合、すべてのメンバー・オンライン変更が完全かどうかを検査してください。いずれかのメンバー・オンライン変更が失敗したことが検出された場合、メンバー・オンライン変更を再実行する必要があります。

12

DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関するすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。この問題は内部エラーです。メンバー・オンライン変更作業単位は完了しておらず、再実行する必要があります。これらのメッセージを誤って受け取ったと考えられる場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

1D

DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関するすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メンバー・オンライン変更への PDIR または DDIR が、ステージングまたはアクティブ ACBLIB から欠落していました。これらの欠落しているメンバーに対するメンバー・オンライン変更を再実行する必要があります。これらのメッセージを誤って受け取ったと考えられる場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

1E

DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関するすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メンバー・オンライン変更への PDIR または DDIR が、ステージングまたはアクティブ ACBLIB から欠落していました。これらの欠落しているメンバーに対するメンバー・オンライン変更を再実行する必要があります。これらのメッセージを誤って受け取ったと考えられる場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

1F または 20

この内部エラーの修正に役立てるために、DFSERA10 を実行してすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

08、09、0B、0C、0D、0E、0F、10、または 11

これらは通知メッセージであるため、応答は必要ありません。これらのメッセージを誤って受け取ったと考えられる場合、または問題があると考えられる場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

1C

OLCSTAT データ・セットが存在すること、およびそれを読み取り専用モードのメンバー・オンライン変更で使用できることを確認します。メンバー・オンライン変更作業単位を再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、再実行するメンバーのリストを取得します。

1B

メンバー・オンライン変更プロセスのために ECSA ストレージを解放します。メンバー・オンライン変更作業単位を再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、再実行するメンバーのリストを取得します。

21

メンバー・オンライン変更プロセスのために専用ストレージを解放します。メンバー・オンライン変更作業単位を再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されてい

るトークンに関する 7002 を抽出し、再実行するメンバーのリストを取得します。

13、15、17、または 19

欠落しているメンバー名がメッセージに含まれていました。このメンバーのメンバー・オンライン変更は、トラッキング IMS ACBLIB に対して再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、このメンバー・オンライン変更の一部であったメンバーのリストを取得して、タイプ 7002 ログ・レコードのその他のメンバーに対するメンバー・オンライン変更が完了していることを確認します。

モジュール:

DFSMOL10、DFSMOL20

DFS3498W *bbbb nnnnnnnn eeeeeeeee....*

説明

/MODIFY PREPARE、INITIATE OLC PHASE(PREPARE)、または **/MODIFY COMMIT** 処理で、MODBLKS または ACBGEN の出力内に有効でない条件が検出されました。この問題または状態は、準備処理のときに発生しました。ただし、コミット処理として別の注記がある場合は除きます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

bbbb

該当する DMB が ACBLIB 内の DMB を表している場合はブロック・タイプ。DDIR は、MODBLKS 内のデータベースを表します。PSB は、ACBLIB 内の PSB を表します。SMB は、MODBLKS 内のトランザクションを表します。

nnnnnnnn

ブロックの名前 (ただし、該当する場合)

eeeeeeee....

問題または状態が検出され、それは以下のいずれかであることが考えられます。

ALREADY DEFINED AS PARTITION CHANGE

MODBLKS データ・セット内で定義されたデータベースが、すでに HALDB 区画として定義されているときに発行されます。いったんデータベースが DBRC および IMS に対して HALDB 区画として定義されると、そのデータベースは IMS がコールド・スタートされるまで、IMS に対して HALDB 区画として定義されたままで残り、MODBLKS データベースに変更することはできません。これは、たとえその HALDB 区画が DBRC から削除された場合でも同じです。

ALREADY DEFINED AS DATABASE CHANGE

オンライン変更準備で、追加されようとしている MODBLKS データ・セット内の DDIR が、存在することが検出されたときに発行されます。この状態が発生した場合は、内部エラーが考え

られます。オンライン変更準備はリジェクトされます。

ALREADY DEFINED AS DATABASE COMMIT

オンライン変更コミットで、追加されようとしている MODBLKS データ・セット内の DDIR が、存在することが検出されたときに発行されます。この状態が発生した場合は、内部エラーが考えられます。オンライン変更コミットは、このエラーが起きても進行します。いったんデータベースが DBRC および IMS に対して HALDB 区画として定義されると、そのデータベースは IMS がコールド・スタートされるまで、IMS に対して HALDB 区画として定義されたまま残り、MODBLKS データベースに変更することはできません。これは、たとえその HALDB 区画が DBRC から削除された場合でも同じです。

ALREADY DEFINED AS PARTITION COMMIT

オンライン変更コミットで、MODBLKS データ・セットのメンバーが、準備フェーズ以降に追加された既存の HALDB 区画と同じ名前を使用して定義されていることが検出されたときに発行されます。HALDB 区画定義が優先されます。オンライン変更コミットは、このエラーが起きても進行します。後続の PREPARE コマンドは、データベースが非アクティブ MODBLKS データ・セット内に残留する限り、DFS3498W DDIR *dbname* ALREADY DEFINED AS PARTITION CHANGE で失敗します。

ALREADY DEFINED AS TRANSACTION

このストリングが発行されるのは、オンライン変更によって追加されようとしているトランザクションが PREPARE 以降に同じ名前で CPIC トランザクションとして追加されていたことを、**/MODIFY COMMIT** または **INITIATE OLC PHASE (COMMIT)** が検出した場合です。オンライン変更は、このエラーが起きても進行します。トランザクションは CPIC トランザクションを保持します。MODBLKS 定義の方が望ましい場合は、非アクティブ MODBLKS データ・セットでトランザクションを再定義して、再びオンライン変更を実行します。

NOT IN ACTIVE LIBRARY

/MODIFY PREPARE または **INITIATE OLC PHASE (PREPARE)** が BLDL オプションを使用して指定されたときに発行され、非アクティブ ACBLIB 内で検出されない PSB または DMB があるたびに、通知メッセージ DFS3498I が発行される原因となります。このメッセージは、コマンドの成否には影響しません。

NOT IN INACTIVE LIBRARY

/MODIFY PREPARE または **INITIATE OLC PHASE (PREPARE)** が BLDL オプションを使用して指定されたときに発行され、アクティブ ACBLIB 内で検出されない PSB または DMB が

あるたびに、通知メッセージ DFS3498W が発行される原因となります。このメッセージは、コマンドの成否には影響しません。

PDIR NAME IS INVALID

追加または変更されようとしているトランザクションで、存在しないアプリケーション・プログラム名が定義されているときに発行されません。

SID NUMBER IS INVALID

追加または変更されようとしているトランザクションで、IMS コールド・スタート時に使用された最大 SYSID より大きい SYSID が定義されているときに発行されます。

SNO - COMPARE

ACBLIB 内の DMB または PSB が変更されようとしており、それに関連したローカル制御ブロック (DDIR または PDIR) が検出されないことをオンライン変更比較機能が検出したときに発行されます。このエラーは、起きてはならないもの (SNO) です。なぜなら、ローカル制御ブロックは、BLDL リストが構築された時点では存在していたはずだからです。

SNO - INSERT CHANGE

オンライン変更で、変更された DMB または PSB を変更リストに挿入しようとして、関連するローカル制御ブロック (DDIR または PDIR) を検出できないときに発行されます。このエラーは、起きてはならないもの (SNO) であり、通常は、誤った MODBLKS データ・セットが使用されていることを示しています。また、内部エラーを示している場合もあります。

SNO - INSERT DELETE

オンライン変更で、削除された DMB または PSB を削除リストに挿入しようとして、関連するローカル制御ブロック (DDIR または PDIR) を検出できないときに発行されます。このエラーは、起きてはならないもの (SNO) であり、通常は、誤った MODBLKS データ・セットが使用されていることを示しています。また、内部エラーを示している場合もあります。

SYSID CHNG IS INVALID

トランザクションがローカルからリモートへ変更されようとしており、それと同時に、トランザクションまたはアプリケーション・プログラムに対して別のタイプの変更が1つ以上試みられているときに発行されます。

UNSUPPORTED MSDB ADDITION

オンライン変更で、サポートされていない MODBLKS 内の MSDB データベース、または ACBLIB 内の DMB を追加、変更、または削除しようとしたときに発行されます。

UNSUPPORTED MSDB CHANGE

オンライン変更で、サポートされていない MODBLKS 内の MSDB データベース、または

ACBLIB 内の DMB を変更しようとしたときに発行されます。

UNSUPPORTED MSDB DELETION

オンライン変更で、サポートされていない MODBLKS 内の MSDB データベース、または ACBLIB 内の DMB を削除しようとしたときに発行されます。

システムの処置

/MODIFY PREPARE または **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)** コマンドの場合、コマンドは終了します。**/MODIFY COMMIT** コマンドの場合、示されているデータベースを除いて、オンライン変更コミットは成功します。データベースは HALDB 区画を保持します。

プログラマーの応答

問題を訂正し、MODBLKS GEN または ACBGEN をあらかじめ実行し、オンライン変更ユーティリティを実行し、オンライン変更を再試行してください。

/MODIFY COMMIT コマンドが DFS3498W DDIR *dbname* ALREADY EXISTS AS PARTITION COMMIT を示して失敗した場合は、オンライン変更を実行して、このデータベース定義を MODBLKS gen から除去してください。さもないと、後続のオンライン変更の試みは、そのつど **/MODIFY PREPARE** コマンドが DFS3498W DDIR *dbname* ALREADY EXISTS AS PARTITION CHANGE で失敗します。また、データベースは、次回 IMS コールド・スタート時に非 HALDB データベースに戻されます。

警告 SID NUMBER IS INVALID の場合、最大 SYSID を超えない SYSID を使用してトランザクションを生成してください。または、最高の SYSID で定義されたトランザクションを含む MODBLKS データ・セットを使用して IMS をコールド・スタートしてください。

モジュール:

DFSCPD00、DFSRMDD0、DFSRMDM0、DFSRMPS0、DFSRMSM0

DFS3499I **ACTIVE DDNAMES: modblks-name
acblib-name format-name
MODSTAT ID: nnnn**

説明

このメッセージは、アクティブなオンライン変更ライブラリーおよび現在の変更 ID を含むオンライン変更状況を示しています。IMS は、以下の IMS コマンドがマスター端末またはシステム・コンソールから入力されたときに、このメッセージを発行します。

- IMS 再始動
- 単純チェックポイント

- 新しい定義がコミットされる前に現在アクティブなオンライン変更ライブラリーを示すための **/MODIFY PREPARE**
- オンライン変更がコミットされた後で新しいアクティブなオンライン変更ライブラリーを示すための **/MODIFY COMMIT**

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modblks-name

IMS JCL 内のアクティブ MODBLKS DD。これは、アクティブな MODBLKS ライブラリーを識別します。*modblks-name* は MODBLKSA または MODBLKSB のどちらかです。MODBLKS DD カードが IMS JCL から省略され、MODBLKS のオンライン変更が使用不可になっている場合、この変数はブランクです。

acblib-name

IMS JCL 内のアクティブ IMSACB DD。これは、アクティブな ACBLIB ライブラリーを識別します。*acblib-name* は IMSACBA または IMSACBB のどちらかです。

format-name

IMS JCL 内のアクティブ FORMAT DD。これは、アクティブな MFS フォーマット・ライブラリーを識別します。*format-name* は FORMATA または FORMATB のどちらかです。このシステムが DBCTL の場合、*format-name* はブランクです。

nnnn

変更 ID 番号。MODSTAT データ・セットを初期設定するときに、変更 ID としてどの番号を割り当てるかを決めてください。この番号は、オンライン変更が成功するたびに 1 ずつ増分されます。この番号を 0 に初期設定した場合、この値は、コールド・スタート以来、何回のオンライン変更が成功したかを示します。変更 ID は、緊急時再始動のときに、セキュリティ状況をリカバリーするために使用されます。

このメッセージは、次の後にも出されます。

- **/DBD** によって呼び出された単純チェックポイント
- **/DBR** によって呼び出された単純チェックポイント
- **/CHE** によって呼び出された単純チェックポイント

DFS3500W **GLOBAL STATUS FOR *rsrctype*
RESOURCES IS DISABLED**

説明

データベース、DEDB エリア、またはトランザクション・リソースのグローバル状況が、この IMS で使用不可になっています。*rsrctype* は、DB (データベース)、AREA、または TRAN (トランザクション) です。SCOPE(ALL) と一緒に発行される DB、AREA、または TRAN コマンドは SCOPE(ACTIVE) として扱われ、グローバル状況は更新されません。DB または AREA コマン

ドが GLOBAL として発行された場合、グローバル状況は更新されません。

システムの処置

IMS は、再始動処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

処置は必要ありません。

この IMS から処理されたコマンドのグローバル状況を維持したい場合、次の処置を実行してください。

1. 再始動が完了した後、IMS を取り消すか、IMS をシャットダウンします。DFS3308 メッセージで報告されたエラー条件が修正された後、IMS を再始動します。IMS は RM 状況と同期されるため、これ以上の処置は必要ありません。
2. IMS の再始動が完了するのを待ちます。その後で、以下のことを行います。

- a. DFS3308 メッセージで報告されたエラー条件を修正します。
- b. 該当する **UPDATE IMS SET (PLEXPARM)** コマンドを発行して、この IMS でグローバル状況を使用可能にします。
- c. **QRY TRAN** (または **DB** または **AREA**) **SHOW (GLOBAL)** コマンドを発行して、グローバル状況のリソースを表示します。
- d. 該当する **SCOPE (ACTIVE)** コマンドを発行して、この IMS が RM 状況と同期されていることを確認します。

モジュール:

DFSGST20

関連情報

DFS3308E

cslname REQUEST ERROR, *macroname*

RC=xxxxxxxx RSN=ssssssss

第 74 章 DFS メッセージ DFS3501W - DFS3550I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3501W **GLOBAL STATUS NOT OBTAINED
FOR xxxx RESOURCES ADDED
WITH ONLINE CHANGE**

説明

オンライン変更処理で、追加されたトランザクションまたはデータベース・リソースのグローバル状況を判別しようとしてエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx

DB または TRAN。データベースまたはトランザクションのいずれかを示します。

追加されたデータベースまたはトランザクションの状況は、RM リソース構造で維持されている状況と異なる場合があります。

このメッセージには、Resource Manager (RM) 要求エラーに関する追加のエラー情報および RM 戻りコードと理由コードを含む DFS3308 メッセージが付随する場合があります。

システムの処置

オンライン変更によって追加されたデータベースまたはトランザクションは、RM からのグローバル状況を使用せずに使用できます。

ユーザーの処置:

QRY TRAN SHOW(GLOBAL) または **QRY DB SHOW(GLOBAL)** を発行して RM から情報を取得することにより、追加されたトランザクションおよびデータベースのグローバル状況を取得します。次に、**UPD TRAN** または **UPD DB** コマンドを **SCOPE(ACTIVE)** および該当する **START** または **STOP** と共に使用して、IMS が RM グローバル状況と同期されていることを確認します。

モジュール:

DFSGST40

関連情報

DFS3308E

cslname REQUEST ERROR, *macroname*
RC=xxnnnnnn RSN=ssssssss

DFS3503 リソース初期設定が完了しませんでした。コマンドを再試行してください。

説明

必要なリソースが完全に初期設定されていなかったため、コマンドを完了できません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

コマンドを再試行してください。

モジュール:

DFSICL30

DFS3505E *parmname=value IS NOT
SPECIFIED IN PROCLIB MEMBER
proclibmem, JOBNAME=job_name*

説明

PROCLIB データ・セットの DFSDF パラメーターを処理しているときにエラーが検出された場合、このメッセージが発行されます。IMS またはバッチの初期設定時に必須パラメーターが使用可能に設定されない場合、このメッセージがトリガーされます。

ACB の IMS 管理を使用可能にすると、以下のシナリオでこのメッセージが発行されます。

- DCCTL 環境の DFSDFxxx メンバーの CATALOG セクションで **CATALOG=Y** が指定される。
- 非 DCCTL 環境の DFSDFxxx メンバーの CATALOG セクションで **CATALOG=N** が指定される。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

parmname=value

使用可能になっていなかった、PROCLIB メンバー内のパラメーターの名前を示します。

proclibmem

PROCLIB メンバーの名前を示します。

job_name

初期設定が失敗したジョブの名前を示します。

システムの処置

IMS 初期設定は 0071 異常終了で終了します。

システム・プログラマーの応答

PROCLIB メンバー定義を訂正して、IMS 初期設定を再試行してください。

モジュール:

DFS3DF00, DFS3DF10

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション \(システム定義\)](#)

DFS3507E **parmname=value IS NOT SPECIFIED IN USER EXIT userexit, JOBNAME=job_name**

説明

Catalog Definition ユーザー出口を処理しているときにエラーが検出された場合、このメッセージが発行されます。バッチ初期設定時に必須パラメーターがこのユーザー出口によって使用可能に設定されない場合、このメッセージがトリガーされます。

CATALOG が使用可能にされずに ACB の IMS 管理が使用可能になった場合にも、このメッセージが発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

parmname=value

使用可能になっていなかった、ユーザー出口定義内のパラメーターの名前を示します。

userexit

PROCLIB メンバーの名前を示します。

job_name

初期設定が失敗したバッチ・ジョブの名前を示します。

システムの処置

バッチ・ジョブの初期設定が、0071 異常終了で終了します。

システム・プログラマーの応答

ユーザー出口のパラメーター定義を訂正し、バッチ・ジョブを再試行してください。

モジュール:

DFS3DF10

関連資料

[IMS カタログ定義出口ルーチン \(DFS3CDX0\) \(出口ルーチン\)](#)

DFS3511I **ODBA failed to connect to ODBM for reason: xxxxxxxxxxxx RC=nnnn**

説明

データベース・リソース・アダプター (DRA) の初期設定中に、ODBA は ODBM に接続しようとしていました。しかし、このメッセージで「reason」の後に示される以下のいずれかの理由で、この試みは失敗しました。

UNABLE TO OBTAIN STORAGE

DFSCDA ブロック用にストレージを入手できなかったことを示します。

RRMS REGISTRATION FAILED

RRMS に登録する要求が失敗したことを示します。

ODBM REGISTRATION FAILED

ODBM に登録する要求が失敗したことを示します。

SCI REGISTRATION FAILED

SCI に登録する要求が失敗したことを示します。

戻りコード *nnnn* は、エラーの原因に関する追加情報を提供します。

- 理由テキストが UNABLE TO OBTAIN STORAGE である場合、*nnnn* は STORAGE OBTAIN サービスからの戻りコードです。
- 理由テキストが RRMS REGISTRATION FAILED である場合、*nnnn* は 4 (CDA が存在しなかったために失敗が生じた場合)、または 8 (無効な IMSplex 名が指定されたためにエラーが発生した場合) です。
- 理由テキストが ODBM REGISTRATION FAILED である場合、*nnnn* は、CSLSCQRY 要求からの戻りコードであるか、または 8 (CSLSCQRY 要求が失敗の原因ではない場合) です。
- 理由テキストが SCI REGISTRATION FAILED である場合、*nnnn* は CSLSCREG 要求からの戻りコードです。

システムの処置

通常の ODBA パスを使用して初期設定が続行されます。トランザクションは、ODBM を通じて転送されるのではなく、ODBA に直接送信されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

重大度:

8

DFS3513E **THE DIRECTORY DATA SET NAMES IN THE FAILED IMS AND THE TRACKING IMS DO NOT MATCH. UOW ABORTED. TOKEN=cccccccccccccccc.**

説明

障害が発生した IMS の IMS ディレクトリー・データ・セットの名前にある高位修飾子が、高速データベース・リカバリー (FDBR) 領域の IMS ディレクトリー・デー

タ・セットの名前にある高位修飾子と一致していません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

CCCCCCCCCCCCCCCC

メンバー・オンライン変更 (MOLC) 作業単位 (UOW) トークン。

システムの処置

FDBR 領域が、メンバー・オンライン変更作業単位 (UOW) を完了できません。障害が発生した IMS が再始動されると、IMS がその作業単位をコミットします。

システム・プログラマーの応答

再始動された IMS によって使用されている DFSDfxxx メンバーの <CATALOG> セクションの内容は、障害が発生した IMS によって使用されていた DFSDfxxx メンバーと同じでなければなりません。矛盾を訂正し、IMS を再始動してください。

モジュール:

DFSMOL20

関連概念

[IMS ディレクトリー・データ・セット \(システム定義\)](#)

関連資料

[DFSDfxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション \(システム定義\)](#)

DFS3515E **BLDL PROCESSING FOR *rsc_name* ENCOUNTERED AN I/O ERROR IN THE DIRECTORY DATA SET THAT IMS CANNOT FIX.**

説明

システムが IMS ディレクトリーを検索しているときに、IMS が修正できない入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsc_name

この入出力エラーに関連する DBD リソースまたは PSB リソースの名前。

システムの処置

IMPORT コマンドまたは DDL 定義の自動活動化は異常終了します。

システム・プログラマーの応答

IMS ディレクトリー・データ・セットを、IMS カタログ ACB リカバリー・ユーティリティーを実行して再作成する必要があります。

モジュール:

DFSMOLSO

関連情報

[IMS ディレクトリー・データ・セット \(システム定義\)](#)

DFS3521W **CHECKPOINT IS REJECTED – DEDB ALTER IS IN PROGRESS**

説明

DEDB 変更ユーティリティーが実行中だったため、チェックポイント要求はリジェクトされました。

システムの処置

/CHECKPOINT コマンドは失敗します。

プログラマーの応答

DEDB 変更ユーティリティーが終了した後に、/CHECKPOINT コマンドを入力してください。

モジュール

DFSRCP00、DFSICM30

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティー \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティー\)](#)

[/CHECKPOINT コマンド \(コマンド\)](#)

DFS3523W **CA RECEIVED RC *mmmm* RSN *nnnn* FROM INIT DBRC DUE TO EXTRA LOGS IN JCL**

説明

変更累積ユーティリティー・モジュール DFSUCMNO が Init DBRC 呼び出しを行い、理由コード 1 を受け取りました。この理由コードは、DBRC が許容する数を超えるログが DFSULOG DD ステートメント内にあることを示しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mmmm

DBRC から返された戻りコードを示します。

nnnn

DBRC から返された理由コードを示します。

この状態は、GENJCL.CA コマンドの実行と変更累積ユーティリティーの実行の間に時間が経過した結果として生じたものです。この間に RECON データ・セットの状態が変更されました。この 2 つのステップが相次いで実行されていれば、この状態は起こらないはずで

システムの処置

RC=03 で処理は終了します。

プログラマーの応答:

GENJCL.CA コマンドと変更累積ユーティリティを連続して再実行してください。

モジュール:

DFSUCMNO

関連資料

データベース変更累積ユーティリティ (DFSUCUM0) (データベース・ユーティリティ)

DFS3525E **IMS COULD NOT REGISTER WITH ENF FOR RACF EVENT NOTIFICATION, RC=ret_code.**

説明

IMS の初期設定時に、IMS が、RACF 内の OTMA セキュリティ定義に対する変更の通知を listen するために z/OS イベント通知機能 (ENF) に登録しようとしたが、登録の試みは失敗しました。IMS が ENF に登録されると、RACF 定義に対する変更が行われたときに OTMA のキャッシュされた ACEE を自動的にリフレッシュできます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ret_code

z/OS から受信した ENFREQ 戻りコード。z/OS ENFREQ マクロは、ENF への登録のために z/OS サブシステムによって使用されます。

システムの処置

初期設定は続行されますが、OTMA のキャッシュされた ACEE は、対応する RACF 定義に対する変更が行われても自動的にリフレッシュされません。

システム・プログラマーの応答

「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference Vol 2」の ENFREQ 戻りコードを検索してください。

モジュール:

DFSYCTLO

DFS3527E **THE OLCSTAT DATA SET NAME IS NOT SPECIFIED**

説明

DFSUOCU0 が &OUT パラメーター G を指定して呼び出されました。このパラメーターは、ターゲット・ライブラリーが OLCSTAT データ・セットによって示されることを表します。しかし、OLCSTAT データ・セット名が指定されていません。OLCSTAT データ・セットが

OLCSTAT DD ステートメントまたは SYSIN DD ステートメントで指定されていないか、または SYSIN DD ステートメントが指定されていても OLCSTAT データ・セット名が列 1 で開始されていません。

システムの処置

コピーは行われず、ユーティリティは 終了します。

システム・プログラマーの応答

OLCSTAT データ・セット名を列 1 で開始して SYSIN DD ステートメント・データ域に指定し、OLCSTAT データ・セットを動的に割り振ることができるようにしてください。

あるいは、OLCSTAT DD ステートメントで OLCSTAT データ・セット名を指定し、ジョブによって OLCSTAT データ・セットが割り振られるようにしてください。

モジュール:

DFSUOCU0

DFS3529 **/TRACE SET ON FOR MONITOR IN PROGRESS, CANNOT PROCESS COMMAND**

説明

/TRACE SET OFF MONITOR コマンドが入力されましたが、前の /TRACE SET ON MONITOR コマンドが完了していませんでした。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答:

コマンドが自動化プログラムで入力される場合は、プログラムを変更して、/TRACE SET ON MONITOR コマンドと /TRACE SET OFF MONITOR コマンドの間の時間を延ばしてください。

モジュール:

DFSICLN4

DFS3531E **MAXIMUM NUMBER OF OTMA TMEMBERS REACHED. NO NEW TMEMBERS CAN BE CREATED**

説明

IMS OTMA は TMEMBER の最大数に達したため、それ以上の TMEMBER を結合できません。

システムの処置

新しいクライアント・ビッド要求は OTMA NAK X'0007' でリジェクトされます。新しい TMEMBER を必要とする、共有キュー・バックエンド・システム上の IMS トランザクションは、異常終了 U0367 でリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答

OTMA TMEMBER は、IMS ウォーム・リスタートと緊急時再始動が行われると再作成されます。OTMA TMEMBER をリセットする場合は IMS コールド・スタートを行う必要があります。それまでは、新しい TMEMBER を必要とする要求を他の IMS システムに送ってください。

モジュール:
DFSYMOMO

DFS3535E **DFS3535E BLDL PROCESSING FOR**
rsc_name **ENCOUNTERED AN I/O**
ERROR IN THE STAGING DATA SET
THAT IMS CANNOT FIX.

説明

システムがステージング・データ・セットを検索しているときに、IMS が修正できない入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsc_name
この入出力エラーに関連する DBD リソースまたは PSB リソースの名前。

システムの処置

IMPORT コマンドまたは DDL 定義の自動活動化は異常終了します。

システム・プログラマーの応答

IMS ステージング・データ・セットを、IMS カタログ ACB リカバリー・ユーティリティーを実行して再作成する必要があります。

モジュール:
DFSMOLS0

DFS3537E **AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL**
DEFINITIONS FAILED. CHANGED
PSB psb_name REFERENCES A
DELETED DBD dbd_name. REGION
regionname

説明

PSB *psb_name* は、IMS から削除されたデータベースを参照しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name
削除されたデータベースの名前。

psb_name
削除されたデータベースを参照する、変更された *psb_name*。

システムの処置

PSB 変更の自動活動化が失敗しました。コミットされていない作業はすべて、IMS カタログからバックアウトされます。

プログラマーの応答

ステートメント *psb_name* で、削除されたデータベースを参照するステートメントを削除します。修正が完了したら、DDL または変更を PSB に再サブミットしてください。

モジュール:
DFSOLC70

関連資料

[CREATE PROGRAMVIEW \(アプリケーション・プログラミング API\)](#)

DFS3539E **AN I/O ERROR OCCURRED FOR**
MEMBER rsc_name ON THE
STAGING DATA SET.

説明

IMS がステージング・データ・セットにアクセスしようとして入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsc_name
入出力エラーが発生した DBD リソースまたは PSB リソースの名前。

システムの処置

IMPORT コマンドと DDL 活動化プロセスは異常終了します。

プログラマーの応答

z/OS システム 管理者によってステージング・データ・セットがオフラインにされていた場合は、データ・セットをオンラインに戻すように依頼してください。そうでない場合は、IMS ディレクトリー・データ・セットを

復元するか再作成します。データ・セットがオンラインになるか IMS ディレクトリーが復元されたら、IMPORT コマンドまたは DDL 定義ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール:

DFSMOLSO

関連情報

IMS ディレクトリー・データ・セット (システム定義)

DFS3541E AN I/O ERROR OCCURRED FOR RESOURCE *rsc_name* ON THE DIRECTORY DATA SET.

説明

IMS がディレクトリー・データ・セットにアクセスしようとして入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsc_name

入出力エラーが発生した DBD リソースまたは PSB リソースの名前。

システムの処置

IMPORT コマンドと DDL 活動化プロセスは異常終了します。

プログラマーの応答

IMS ディレクトリーがオフラインの場合は、オンラインにしてください。そうでない場合は、IMS ディレクトリー・データ・セットを復元するか再作成します。

IMPORT コマンドまたは DDL 定義ステートメントを再サブミットしてください。再サブミットされた変更の処理中に SPOC 出力またはメッセージ DFS4387I 内に理由コード 121 (リソースに変更がない) が表示されるのは、正常な状態です。

モジュール:

DFSMOLSO

関連情報

IMS ディレクトリー・データ・セット (システム定義)

DFS3542I THE NAME OPERAND IS OMITTED OR INVALID ON THE FOLLOWING MSPLINK STATEMENT(S): STATEMENT NOS - *nnn*,...

説明

nnn で指示されたそれぞれのステートメントで、次のいずれかが発生しました。

- NAME キーワード・パラメーターが指定されていたが、TYPE=VTAM が指定されなかった。
- TYPE=VTAM で指定されていない NAME キーワード・パラメーターが指定された。
- 複数の NAME オペランドが指定された。
- オペランドが、英字で始まらないか、または 8 文字を超える英数字を含んでいた。

システムの処置

指定されたステートメントの NAME パラメーターは無視され、処理は続きます。

プログラマーの応答

TYPE=VTAM で NAME パラメーターを指定します。指定している場合には、そのパラメーターが、英字で始まっていること、および英数字が 8 文字を超えないことを確認してください。

重大度:

8

DFS3543I UOW IGNORED. TIMESTAMP IN THE DIRECTORY DATA SETS DOES NOT MATCH THE LOG RECORD 7002. TOKEN=cccccccccccccccc

説明

IMS ディレクトリー・データ・セット内のメンバーのタイム・スタンプが、ログ・レコード 7002 のタイム・スタンプと一致していません。この UOW は、この IMS が停止している間に別のタスクによって完了された可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccccccccccc

メンバー・オンライン変更 (MOLC) 作業単位 (UOW) トークン。

システムの処置

IMS の再始動または FDBR のテークオーバー中に、IMPORT コマンドまたは自動 DDL 活動化からの UOW の処理がスキップされています。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSMOL20

DFS3544I DUPLICATE VTAM NODE NAMES ARE SPECIFIED ON THE FOLLOWING MSPLINK STATEMENTS: NAME - *name1*

**STATEMENT NOS - nnn,... NAME -
name2 STATEMENT NOS - nnn,...**

説明

namex で示されているリモート・システム VTAM ノード名が、ステートメント nnn の複数の MSPLINK マクロで指定されていました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

示されている MSPLINK ステートメントの VTAM ノード名の指定を訂正し、重複を除去します。

重大度:
8

**DFS3545 ACBLIB KEYWORD IS INVALID
WHEN THE IMS DIRECTORY IS
ENABLED**

説明

/MODIFY コマンドでは ACBLIB キーワードが無効です。IMS システムが ACB ライブラリーの代わりに IMS ディレクトリーを使用するように構成されているためです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

ユーザーの処置

ACBLIB キーワードを指定せずに /MODIFY コマンドを再発行してください。

モジュール:
DFSICV10

関連資料

[/MODIFY コマンド \(コマンド\)](#)

**DFS3547E UNABLE TO LOAD ALTERED
DEFINITIONS FOR DATABASE
db_name, RSN=rsn**

説明

現在変更中のデータベースにアクセスする要求に対応しようとして、IMS は、ACB ステージング・ライブラリーからデータベースの新しい構造を含むデータ管理ブロック (DMB) をロードできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsn

ロード・エラーの原因を示す理由コード。各理由コードの説明については、下記のリストを参照してください。

考えられる原因: 考えられる原因は、メッセージ・テキストに含まれる理由コードによって示されます。考えられる原因には、以下のものがあります。

1

ステージング ACB ライブラリーの動的割り振りが失敗しました。詳しくは、メッセージ DFS2503W を参照してください。

2

ステージング ACB ライブラリーの動的割り振り解除が失敗しました。詳しくは、メッセージ DFS2503W を参照してください。

3

ステージング ACB ライブラリーのオープンが失敗しました。詳しくは、DFS0730I を参照してください。

4

ステージング ACB ライブラリーからのロードを試行しているときに、入出力エラーが発生しました。データ・セットが置かれているボリュームを確認してください。

5

要求された DMB がステージング ACB ライブラリーで検出されなかったか、ステージング ACB ライブラリーが空です。ステージング ACB ライブラリーに、メッセージ・テキストで示されているデータベースの ACB メンバーが含まれていることを確認してください。

6

要求された DMB をステージング ACB ライブラリーから読み取ろうとして、エラーが発生しました。データ・セットが置かれているボリュームを確認してください。

7

メモリー内の DMB を解決しているときにエラーが発生しました。ステージング ACB ライブラリーからロードされた DMB は、予期された形式ではありません。IMS バージョン 13 以降のシステムを使用して、ACB メンバーの再生成を試行してください。

8

ストレージを取得できない。これはおそらく内部エラーです。

9

要求されたメンバーは、IMS に定義されていないようです。これはおそらく内部エラーです。

10

内部パラメーター・リスト・エラーが発生しました。これはおそらく内部エラーです。

システムの処置:

変更されたデータベースの DMB はロードされません。
データベース許可の試行は失敗します。IMS は
DFS047A を発行します。

システム・プログラマーの応答

上記のリストで理由コードを調べて、エラーの原因を判別します。失敗の原因を示す z/OS メッセージがないか調べてください。

必要なメンバーがステージング ACB ライブラリーにあることを確認してください。ステージング ACB ライブラリーが IMS からアクセス可能であり、MDA メンバーに含まれていることを確認してください。

問題が解消されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別:

1、9、18、19、36、40

モジュール:

DFS50P00

関連情報

36 ページの『DFS047A』

UNABLE TO OBTAIN AUTHORIZATION FOR
DATA BASE xxxxxxxx. REASON CODE = zz. PSB=
psbname.

733 ページの『DFS2503W』

DYNAMIC *action_type* FAILED
FOR DATA SET NAME

xxxxxxxx.xxxxxxxx.xxxxxxxx

DATABASE NAME *dbdname* REASON CODE
yyyyy

265 ページの『DFS0730I』

UNABLE TO OPEN OR CLOSE DATASET WITH
DDNAME *DD* 名 FOR REASON *x*, *yy*, *z*
DATABASE データベース名 プログラム *ID*

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3549E DB VERSIONING ERROR: RS=*rsnc*
PST=*pstno* PSB=*psbname*
DB=*dbdname* VERSN=*vernum*
SEGM=*segmname***

または

**DB VERSIONING ERROR: RS=*rsnc* PST=*pstno*
PSB=*psbname* DB=*dbdname* VERSN=*vernum*
SEGM=*segmname* FIELD=*fld_name***

説明

アプリケーション・プログラムは以前のバージョンの高可用性ラージ・データベース (HALDB) にアクセスしようとしたが、IMS は、以前のバージョンのデータベースへのアクセスに必要な内部ブロックを作成できません。最新バージョンのデータベースには、データベースのバージョン管理方式によってサポートされていないデータベース定義 (DBD) の変更が含まれているためです。

アプリケーション・プログラムが変更されるか、サポートされない変更がデータベースから削除されていない限り、アプリケーション・プログラムは以前のバージョンのデータベースにアクセスできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname

サポートされない変更を含むデータベースの名前。

fld_name

サポートされない変更を含むフィールドの名前。

psbname

アプリケーション・プログラムがアクセスを試行しているデータベースとバージョンを指定する PSB の名前。

pstno

ゼロを基準とする PST 番号。

rsnc

ALTER オプションでサポートされない DBD の変更を識別する理由コード。各コードの説明については、以下の理由コードのリストを参照してください。

segmname

サポートされない変更を含むセグメントの名前。

vernum

アプリケーション・プログラムがアクセスを試行していたデータベース・バージョンのバージョン番号。

理由コード

サポートされない変更

3

出口ルーチンが変更されました。

4

セグメント数が増えられました。

9

セグメントが固定長から可変長に、またはその逆に、可変長から固定長に変更されました。

10

挿入規則が増えられました。

11

削除規則が増えられました。

12

セグメント・コードが増えられました。

- 14** 副次索引が追加または変更されました。SRCH オペランド、SUBSEQ オペランド、または DDATA オペランドのいずれかが、新しく追加されたフィールドを参照します。
- 16** セグメントの名前が変更されたか、セグメント内のフィールドが削除されたか、別のセグメントに移動されました。
- 17** フィールドのキー長が変更されました。
- 18** フィールド長が変更されました。
- 19** FIELD ステートメントの TYPE キーワードの値が変更されました。
- 22** セグメントは切り捨てられます。
- 23** 論理関係に関与する固定長セグメントの長さが増えたり減ったりしたか (副次索引を除く)、可変長セグメントの最小長または最大長が増えたり減ったりしたかのいずれかです。

システムの処置

IMS は、以前のバージョンのデータベースへのアクセスを提供するために必要な内部ブロックを構築できません。アクセスできるのは最新バージョンのデータベースのみです。

IMS がアプリケーション・プログラムに状況コードを返すか、アプリケーション・コードは異常終了します。

システム・プログラマーの応答

データベースで変更を維持する必要があるか、削除する必要があるかを判別します。

変更を維持するには、新しいデータベース構造にアクセスするためにすべてのアプリケーション・プログラムを変更する必要があります。以前のバージョンのデータベースには、これ以上、アクセスできません。

変更を削除すると、データベースのバージョン管理方式を使用できます。ただし、変更が行われた後にデータベースが更新された場合は、物理データベースを以前のバージョンにリカバリーする必要があります。現行バージョンのデータベースを使用するアプリケーション・プログラムによって行われたデータベースに対する更新はすべて失われます。

モジュール:

DFS5DBB0

関連概念

[データベースのバージョン管理によってサポートされるデータベースの変更 \(データベース管理\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 75 章 DFS メッセージ DFS3551E - DFS3600I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3551E CATALOG=Y CANNOT BE SPECIFIED IN A DCCTL SYSTEM.

説明

DCCTL IMS システムが、ACBMGMT=CATALOG および CATALOG=Y が指定された DFSDFxxx メンバーによってオンラインにされました。DCCTL システムでは IMS カタログはサポートされません。

システムの処置

IMS システムは U0071 異常終了で終了します。

プログラマーの応答

DFSDFxxx メンバーで上記のパラメーターを訂正し、DCCTL IMS システムを再度起動してください。

モジュール:

DFSRDB30

関連概念

[DCCTL 環境 \(システム管理\)](#)

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション \(システム定義\)](#)

DFS3553E AN ISC TCPIP SESSION FAILED TO INITIATE - NODE = nodename USER = username RSNCD=nnn

説明

ISC TCP/IP セッションは開始できませんでした。セッションを開始する要求は、IMS または CICS サブシステムなどのリモート・セッション・パートナーで発信された可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nodename

ISC TCP/IP セッションを開始するために要求で使用されたノード名。

IMS から発信された要求の場合、メッセージ・テキストに表示されるノード名は、ログオン出口ルーチン (DFSLGNX0)、ログオン記述子、/OPNDST コマンドの NODE キーワード、または TERMINAL システム定義マクロの NAME キーワードによって提供される可能性があります。

セッション・パートナーから発信された要求の場合、メッセージ・テキストに表示されるノード名はセッション・パートナーによって提供されます。

username

セッション開始要求に関連付けられているユーザー名。

nnn

失敗の考えられる原因を示す理由コード。表示される可能性があるコードとその意味には、以下のものがあります。

003

IMS データ通信処理が開始されませんでした。/START DC コマンドを発行して、セッションの開始を再試行してください。

004

新しく作成された IMS 端末制御ブロックに対する SOPB ストレージ要求が失敗しました。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポート に連絡し、支援を要請してください。

005

インストールで提供されるログオン出口ルーチン (DFSLGNX0) が、静的 ISC TCP/IP 端末に対して AUTOSIGN と NOAUTSGN の両方を指定しています。AUTOSIGN と NOAUTSGN の値は相互に排他的です。

007

セッション・パートナーが IMS に静的に定義されていない端末との ISC TCP/IP セッションを開始しようとして、この IMS システムでは ETO が使用可能に設定されていません。DFSDCxxx PROCLIB メンバーで TYPE および TERMINAL システム定義マクロと ISCTCPIP キーワードをコーディングして端末を静的に定義するか、あるいは、IMS または DCC 始動プロシージャで ETO=Y を指定して端末の ETO ログオン記述子をコーディングすることによって ETO 動的端末を使用可能に設定します。

009

システム・ラッチを取得できません。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポート に連絡し、支援を要請してください。

010

インストールで提供されるログイン出口ルーチン (DFSLGNX0) が、ISC TCP/IP セッションを開

始する要求のログオン試行をリジェクトしました。DFSLGNX0 出口ルーチンのコードを確認して、ログオン試行がリジェクトされた理由を判別してください。

011

ログオン記述子が見つかりませんでした。

012

IMS 端末制御ブロックを取得できません。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。

013

内部ディスパッチャー接頭部ブロックが見つかりません。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。

014

IMS は、IMS 端末制御ブロックのハッシュに失敗しました。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。

015

セッション・パートナーが、ISC TCP/IP をサポートしていないノードとの ISC TCP/IP セッションを開始しようとして失敗しました。

016

ISC TCP/IP ノードが停止しました。

017

ターゲット・ノードを切断するために /CLSDST コマンドが発行されました。

018

新しく作成された IMS 端末制御ブロックに対する TCPWORK ストレージ要求が失敗しました。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。

019

既存の IMS 端末制御ブロックに対する TCPWORK ストレージ要求が失敗しました。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。

022

セッションを開始する要求で、1 つ以上の既存のセッションがあるノード名が指定されました。この要求で指定されたログオン記述子が、このノードでアクティブになっている既存のセッションによって使用されているログオン記述子と異なっています。要求で使用されているロ

グオン記述子を変更してセッションを開始するか、別のノード名を指定してください。このノードによって現在使用されているログオン記述子を確認するには、**QUERY NODE** コマンドを使用します。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

エラーの考えられる原因と実行できる処置の説明については、上記のリストでメッセージ・テキストに表示された理由コードを見つけてください。

問題判別:

1、5、6、14、36

モジュール:

DFSTCPS0

関連タスク

[TCP/IP の ISC サポート \(コミュニケーションおよびコネクション\)](#)

関連資料

[QUERY NODE コマンド \(コマンド\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IMS によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3555E

**AN INTERNAL ISC TCPIP ERROR
WAS DETECTED - NODE =
nodename USER = username
RSNCD=nnn**

説明

ISC TCP/IP セッションが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nodename

ISC TCP/IP セッションのノード名。

IMS から開始されたセッションの場合、メッセージ・テキストに表示されるノード名は、ログオン出口ルーチン (DFSLGNX0)、ログオン記述子、/OPNDST コマンドの NODE キーワード、または TERMINAL システム定義マクロの NAME キーワードによって提供される可能性があります。

セッション・パートナーから開始されたセッションの場合、メッセージ・テキストに表示されるノード名はセッション・パートナーによって提供されません。

username

セッションに関連付けられているユーザー名。

nnn

失敗の考えられる原因を示す理由コード。表示される可能性があるコードとその意味には、以下のものがあります。

001

リモート・システムから無効なメッセージを受信しました。このエラーは、IMS またはセッション・パートナーによって検出された内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。

002

リモート・システムから受信した入力メッセージで IPIC 要求セグメント IS-06 が見つかりませんでした。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。

008

宛先 IMS 端末制御ブロックが見つかりません。ターゲット端末が静的に定義されていないか、動的端末制御ブロックが存在しません。

021

IMS は、IMS Connect またはセッション・パートナーから否定応答を受信しました。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

エラーの考えられる原因と実行できる処置の説明については、上記のリストでメッセージ・テキストに表示された理由コードを見つけてください。

問題判別:

1、5、6、14、36

モジュール:

DFSTCPS0

関連タスク

[TCP/IP の ISC サポート \(コミュニケーションおよびコネクション\)](#)

関連資料

[QUERY NODE コマンド \(コマンド\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3561E INSUFFICIENT STORAGE ABOVE
16 MEG FOR PSB xxxxxxxx.**

説明

ブロック・ビルダーが、必要な PSB 制御ブロックを作成するために十分な 16 MB 境界より上のストレージを

取得できませんでした。メッセージ・テキストで、xxxxxxx は PSB ブロックを示します。

システムの処置

IMS は異常終了します。

プログラマーの応答

領域サイズまたは区画サイズを増やしてから、プログラムを再実行します。

DFS3563I bbb NAME nnnnnnnn NOT FOUND.

説明

DFSIIIRSO は、制御ブロック *bbb* の名前 *nnnnnnnn* を検出できませんでした。可能な制御ブロックは、CNT、CLB、または LNB です。

システムの処置

IMS 初期設定は、異常終了コード 0220 で終了されました。

プログラマーの応答

システム定義から正しい制御ブロック・セットが使用されていることを確認します。システム定義の SUFFIX 指定、および IMS プロシージャの SUF 指定を確認します。

重大度:

8

関連情報

[IMS 異常終了 0220](#)

**DFS3565E INSUFFICIENT STORAGE ABOVE
16 MEG FOR DBD xxxxxxxx.**

説明

ブロック・ビルダーが、必要な DBD 制御ブロックを作成するために十分な 16 MB 境界より上のストレージを取得できませんでした。メッセージ・テキストで、xxxxxxx は DBD ブロックを示します。

システムの処置

IMS が異常終了します。

プログラマーの応答

領域サイズまたは区画サイズを増やしてから、プログラムを再実行します。

**DFS3571A THE OPCODE ON THE FOLLOWING
STATEMENT IS INVALID.**

説明

8 文字を超える OPCODE コードが検出されました。

システムの処置

名前検査は継続します。ただしステージ 2 入力は生成されません。

プログラマーの応答

エラーのある OPCODE を訂正してから、プリプロセッサを再実行します。

重大度:
8

DFS3573A	MISSING PARM FIELD ERROR DETECTED.
-----------------	---

説明

DFSLGD00 ユーティリティ JCL で、入力パラメータの 1 つが欠落していました。

システムの処置

戻りコード 8 で処理は終了します。

プログラマーの応答

適切なパラメータを訂正して、ジョブを再実行してください。

重大度:
8

DFS3575I	UOW IGNORED. TIMESTAMP IN STAGING DATA SET DOES NOT MATCH THE LOG RECORD 7002. TOKEN=cccccccccccccccc
-----------------	--

説明

IMS ディレクトリーのステージング・データ・セット内のメンバーのタイム・スタンプが、ログ・レコード 7002 のタイム・スタンプと一致していません。この UOW は、この IMS が停止している間に別のタスクによって完了された可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccccccccccc
メンバー・オンライン変更 (MOLC) 作業単位 (UOW) トークン。

システムの処置

IMS の再始動または FDBR のテークオーバー中に、IMPORT コマンドまたは自動 DDL 活動化からの UOW の処理がスキップされています。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSMOL20

DFS3576A	OPEN ERROR FOR DDNAME XXXXXXXXXX
-----------------	---

説明

モジュール DFSLGD00 でオープン・エラーが発生しました。

システムの処置

戻りコード 12 で処理は終了します。

プログラマーの応答

エラーのある DDNAME を訂正してから、ジョブを再実行します。

重大度:
12

DFS3578A	OPEN ERROR FOR DDNAME = ddname RETURN CODE = 12
-----------------	--

説明

BPAM データ・セットのオープンが失敗しました。戻りコード 12 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、OPEN の戻りコードではありません。

システムの処置

ユーティリティ機能は終了しました。

プログラマーの応答

詳しくは、「Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP」(SC26-4506) を参照してください。

DFS3579I	USER EXIT2 REQUEST = 90 FROM DFSS060. INPUT IS NOT IN STANDARD FORMAT, END STATEMENT MISSING. RESOURCE TYPE = resource type.
-----------------	---

説明

戻りコード 90 は、SORT/SPLIT ユーティリティに、現在のユーザー・リソース・タイプを標準リソースとして処理することを指示します。この場合は、出口ルーチンは、現在残っているユーザー・リソース・タイプに対して呼び出されません。このメッセージは、END ステートメントが欠落していることを警告します。これによって、Sort / Split ユーティリティの完了後に、コンパイラー・エラーが発生することがあります。報告書が生成されます。

システムの処置

SORT/SPLIT ユーティリティは、戻りコード 02 を生成します。処理は続行されます。

プログラマーの応答

コンパイラー・エラーが発生した場合は、ステージ 1 の初期入力、または出口ルーチン 2 のいずれかで END ステートメントを追加する必要があります。出口ルーチンで END ステートメントを追加する場合は、それぞれのメンバーの最後にも END ステートメントを追加する必要があります。

DFS3580A **READ ERROR IN RESOURCE INFORMATION FILE. MEMBER NAME = member name RETURN CODE = 12**

説明

リソース情報ファイル (RIFL) の読み取りエラーが、次のいずれかによって発生しました。

- レコードが見つからない。
- 入出力エラーが発生した。
- 最初のレコードが、RIFL レコードではない。

報告書は生成されません。戻りコード 12 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、I/O の戻りコードではありません。

システムの処置

ユーティリティ機能は終了しました。

プログラマーの応答

RIFL を検討し、最初のレコードが RIFL レコードで、そのレコードに RIFL にあるリソース・タイプ数が含まれていることを確認します。詳しくは、「*Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP*」を参照してください。

DFS3581A **READ ERROR. MEMBER NAME = member name RETURN CODE = 12**

説明

入力メンバーからのブロックの読み込み中に、I/O エラーが発生しました。戻りコード 12 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、I/O の戻りコードではありません。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

詳しくは、「*Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP*」を参照してください。

DFS3581W **READ ERROR. MEMBER NAME = member name RETURN CODE = 04**

説明

ファイルが早期終了しました。下記の状態のうちのいずれかが起こっています。メンバーの最初のブロックの読み取り中に、ファイルの終わり (EOF) に到達しました。これ以上読み取り可能なブロックはありません。ただし、Resource Information File 内のレコード数には到達していません。多重レコード・リソースは完全に読み取りされませんでした。

戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、I/O の戻りコードではありません。

システムの処置

このリソース・タイプの処理を終了します。Sort / Split ユーティリティは、これ以上のリソース・タイプのソートまたは書き込みを行いません。ただし、このユーティリティは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。報告書が生成されます。

プログラマーの応答

RIFL 内のリソース読み取り数が正しいかどうかを判別します。入力リソース・レコード数を検証し、レコードが欠落しているのか、数が無効なのかを判別します。

DFS3582W **WRITE ERROR. MEMBER NAME = member name RETURN CODE = 04**

説明

ブロックの書き込みで、I/O エラーが発生しました。

戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、I/O の戻りコードではありません。

システムの処置

このリソース・タイプの処理を終了します。Sort / Split ユーティリティは、これ以上のリソース・タイプのソートまたは書き込みを行いません。ただし、このユーティリティは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。報告書が生成されます。

プログラマーの応答

詳しくは、「Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP」を参照してください。

DFS3583A **GETMAIN FAILED. STORAGE REQUESTED = bytes of storage STORAGE ALREADY GETMAINED location of storage 16M LINE = accumulated bytes of storage RETURN CODE = 12**

説明

すでに GETMAIN によって取得されたストレージの量と要求された量の合計が、使用可能な総ストレージを超えています。報告書が生成されます。戻りコード 12 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、GETMAIN の戻りコードではありません。

システムの処置

ユーティリティ機能は終了しました。

プログラマーの応答

領域サイズを増やしてから、このユーティリティ機能を再実行します。

DFS3584A **FIND ERROR. MEMBER NAME = member name RETURN CODE = 12**

説明

リソース情報ファイル (RIFL) メンバーが見つかりませんでした。戻りコード 12 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、FIND の戻りコードではありません。

システムの処置

ユーティリティ機能は終了しました。

プログラマーの応答

ステージ 1 で RIFL メンバー名の接尾部を含むメンバー名が正しいことを確認します。

DFS3584W **FIND ERROR. MEMBER NAME = member name RETURN CODE = 04**

説明

リソース・タイプに対するメンバーが見つかりませんでした。戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、FIND の戻りコードではありません。

システムの処置

このリソース・タイプの処理を終了します。Sort / Split ユーティリティは、これ以上のリソース・タイプのソートまたは書き込みを行いません。ただし、このユーティリティは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。報告書が生成されます。

プログラマーの応答

正しいメンバー数およびメンバー名が、ステージ 1 で生成されていることを確認します。

DFS3585I **STOW DELETE FAILED. MEMBER NAME = member name RETURN CODE = 02**

説明

終結処理で、ユーザー・リソース・タイプ・メンバーを入力データから削除するときに、STOW DELETE が失敗しました。戻りコード 02 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、STOW の戻りコードではありません。

システムの処置

ユーティリティ機能は継続します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3585W **STOW stow function FAILED. MEMBER NAME = member name RETURN CODE = 04**

説明

次のいずれかの問題が発生しました。

- STOW ADD 戻りコードが、4 より大きい。
- STOW ADD が戻りコード 4 と戻したあと、8 よりも大きい戻りコードが STOW REPLACE から戻された。
- STOW REPLACE 戻りコードが、8 より大きい。
- STOW DELETE 戻りコードが、8 より大きい。

戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、STOW の戻りコードではありません。

システムの処置

このリソース・タイプの処理を終了します。Sort / Split ユーティリティは、これ以上のリソース・タイプのソート、または書き込みを行いません。ただし、このユーティリティは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。報告書が生成されます。

プログラマーの応答

詳しくは、「Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP」を参照してください。

**DFS3586W SORT ERROR. RESOURCE TYPE =
resource type RETURN CODE = 04**

説明

DFSSS030 に渡される数が、許可された最大数を越えたか、許可された最小値を下回っていました。戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティからのものです。

システムの処置

このリソース・タイプの処理を終了します。Sort / Split ユーティリティは、これ以上のリソース・タイプのソート、または書き込みを行いません。ただし、このユーティリティは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。報告書が生成されます。

プログラマーの応答

ステージ 2 を最初から再実行します。問題が継続する場合には、ステージ 1 を最初から再実行します。

**DFS3587I MEMBER ALREADY EXISTS AND
WAS REPLACED. MEMBER NAME =
member name.**

説明

このメッセージは、終結処理中に発行されます。戻りコード 02 は、Sort / Split ユーティリティからのものです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3588W EXPECTED record type RECORD
NOT FOUND AT input RECORD
LOCATION resource read count**

RESOURCE TYPE = resource type

RETURN CODE = 04

説明

レコード・タイプ CSECT、GEN、END、または LAST が、入力ファイルの所定の場所がありませんでした。

戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティからのものです。

システムの処置

このリソース・タイプの処理を停止します。Sort / Split ユーティリティは、これ以上のリソース・タイプのソートまたは書き込みを行いません。ただし、このユーティリティは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。報告書が生成されます。

プログラマーの応答

指定されているレコードが、ステージ 1 で、入力ファイルの正しい場所にあることを確認します。ステージ 1 が、誤った数を渡している場合があります。これによって、レコード数は、実際の数よりも大きいか、小さくなります。

**DFS3589A INVALID RESOURCE TYPE FROM
RESOURCE INFORMATION FILE.
RESOURCE TYPE = resource type
RETURN CODE = 12**

説明

認識されないリソース・タイプがステージ 1 で渡されました。戻りコード 12 は、Sort / Split ユーティリティからのものです。

システムの処置

ユーティリティ機能は終了しました。

プログラマーの応答

Sort / Split ユーティリティに渡されたリソース・タイプが、ガイドラインに準拠していることを確認します。

**DFS3590A INVALID COUNT(S) FROM
RESOURCE INFORMATION FILE.
RESOURCE TYPE = resource type
RETURN CODE 12**

説明

リソース情報ファイルで、問題が検出されました。次のストリングの 1 つ以上がメッセージで示され、何が誤りだったか分かります。

- RECORD COUNT: 数が 0 より大きくなっていない。

- RECORDS PER RESOURCE: 数が 1 より小さい、または 9 より大きい。
- MEMBER COUNT: 数が 1 より小さい、または 9 より大きい。
- SPLIT COUNT: 数が 0 より大きくなっていない。

戻りコード 12 は、Sort / Split ユーティリティーからのものです。

システムの処置

ユーティリティー 機能は終了しました。

プログラマーの応答

入力数が、ガイドラインに準拠していることを確認します。

DFS3591W **INVALID RETURN CODE URC = user exit return code FROM user exit module. RESOURCE TYPE = resource type RETURN CODE = 04**

説明

DFSS050 または DFSS060 が、ガイドラインに準拠していない戻りコードを発行しました。戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティーからのものです。

システムの処置

このリソース・タイプの処理を終了します。Sort / Split ユーティリティーは、これ以上のリソース・タイプのソート、または書き込みを行いません。ただし、このユーティリティーは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。出口ルーチンは、このジョブでは呼び出されません。報告書が生成されます。

プログラマーの応答

出口ルーチンで許可されたこれらの戻りコードのみが使用されていることを確認します。

DFS3592A **THE RECFM FOR DDNAME=ddname IS NOT F OR FB RETURN CODE=12**

説明

LGENIN および LGENOUT データ・セットが、RECFM=F または RECFM=FB の DCB パラメーターを持っている必要があります。

システムの処置

ユーティリティー 機能は終了しました。

プログラマーの応答

指定されたデータ・セットを RECFM=F または RECFM=FB で再定義します。

重大度:
12

DFS3594E **AN ISC CSLSCMSG REQUEST FAILED, active_process, RETCODE = rc, RSNCODE = rsn, LOSTSESS = cause, MODULE = mod_name, NODE = nodename, USER = username**

説明

SCI は、ISC TCP/IP 並列セッション用のサービスを求める CSLSCMSG 要求に応答して、IMS にゼロ以外の戻りコードまたは理由コードを返しました。端末セッションは終了します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった ISC 処理。可能な値は、以下のとおりです。

SENDMSG

SCI がエラーを検出したとき、ISC は、リモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで示されている並列セッション経由での ISC メッセージの送信を試行していた。

SESSTERM

SCI がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS サブシステムに向けて、端末セッションが終了したという通知を試行していた。

SESSINIT

SCI がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで示されている並列セッション端末のセッション開始の通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な ISC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause

セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。

可能な値には、次のものがあります。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE

IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

IMS とローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

IMS とローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスが、シャットダウンされた。

username

影響を受けたユーザーの名前。

mod_name

エラーを検出したモジュールの名前。

nodename

影響を受けた並列セッションの名前。

rc

SCI が発行した CSLSCMSG 戻りコード。

rsn

SCI が発行した CSLSCMSG 理由コード。

考えられる原因: このメッセージの原因は、SCI 戻りコードおよび理由コードによって特定され、さらに、場合によっては、メッセージ・テキスト内の LOSTSESS フィールドに表示される値によっても特定されます。

システムの処置

端末セッションは終了します。IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。ローカルまたはリモートいずれかの IMSplex ネットワークに問題がある可能性があります。CSLSCMSG 要求についての戻りコードおよび理由コードを調べてください。そのほかに、SCI、IMS Connect、または TCP/IP からの、診断に役立つ可能性のあるメッセージがないか確認してください。IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

問題判別:

1、5、6、14、36

モジュール:

DFSCTERO

関連資料

CSLSCMSG: メッセージ送信要求 (システム・プログラミング API)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3595E

IMS CONNECT ERROR MESSAGE RECEIVED, active_process, RETCODE = rc, RSNCODE = rsn, LOSTSESS = cause, MODULE = mod_name, NODE = nodename, USER = username

説明

IMS Connect が、ISC からの要求またはメッセージの処理中にエラーを検出し、IMS にゼロ以外の戻りコードまたは理由コードを戻しました。エラー・メッセージは、要求またはメッセージを発行したローカル IMS システムに戻されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった ISC 処理。可能な値には、次のものがあります。

SENDMSG

IMS Connect がエラーを検出したとき、ISC は、リモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで示されている並列セッション経由での ISC メッセージの送信を試行していた。

SESSTERM

IMS Connect がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、端末セッションが終了したという通知を試行していた。

SESSINIT

IMS Connect がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで示されている並列セッション端末のセッション開始の通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な ISC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause

セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。可能な値には、次のものがあります。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE

IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスがシャットダウンされた。

mod_name

エラーを検出したモジュールの名前。

nodename

影響を受けた並列セッション端末の名前。

rc

IMS Connect が発行した戻りコード。IMS Connect によって返される可能性が高い戻りコードをいくつか下記の表に示します。IMS Connect のすべての戻りコードと理由コードは、HWSHRR マクロに記載されています。

rsn

IMS Connect が発行した理由コード。IMS Connect によって返される可能性が高い理由コードをいくつか下記の表に示します。IMS Connect のすべての戻りコードと理由コードは、HWSHRR マクロに記載されています。

考えられる原因: このメッセージの原因は、戻りコード、理由コード、および LOSTSESS の値を検討することで判別できます。

次の表に、IMS Connect によって IMS に返される可能性が高い戻りコードと理由コードのいくつかをリストしています。次の表に示されていない IMS Connect の戻りコードと理由コードは、IMS Connect HWSHRR マクロで見つかります。

戻りコード	理由コード	意味
X'0C00001C'	X'0000700C'	メッセージを CICS に送信できませんでした。通常、メッセージ HWSG4040W または HWSG4080W も発行されません。
X'0C00001C'	X'00007020'	IMS Connect の ISC データ・ストアが停止されました。始動するには、 UPDATE IMSCON TYPE(ISC) START(COMM) を使用します。

戻りコード	理由コード	意味
X'0C00001C'	X'00007030'	IMS Connect の ISC データ・ストアが停止されました。始動するには、 UPDATE IMSCON TYPE(ISC) START(COMM) を使用します。
X'0C00001C'	X'00007040'	IMS Connect の ISC データ・ストアが停止されました。始動するには、 UPDATE IMSCON TYPE(ISC) START(COMM) を使用します。
X'0C00001C'	X'00007060'	IMS Connect の ISC データ・ストアが見つかりませんでした。IMS Connect 構成の ISC ステートメントを確認してください。
X'0C00001C'	X'00007084'	IMS Connect の ISC データ・ストアが停止されました。始動するには、 UPDATE IMSCON TYPE(ISC) START(COMM) を使用します。

システムの処置:

並列セッションは終了します。IMS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。IMSplex ネットワークで問題が発生している可能性があります。そのほかに、SCI、IMS Connect インスタンス、または TCP/IP からの、診断に役立つ可能性のあるメッセージがないか確認してください。IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

問題判別:

1、5、6、14、36

モジュール:

DFSCTERO

関連資料

[HWS メッセージ \(IMS Connect\) \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3596E

ISC TCPIP DETECTED AN ERROR, active_process, RETCODE = rc, RSNCODE = rsn, LOSTSESS = cause, MODULE = mod_name, NODE = nodename, USER = username

説明

ISC の TCP/IP 装置依存モジュール (DDM) が、メッセージ・テキストに示されている ISC 論理リンクに関連付けられたメッセージまたは要求の処理中にエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった ISC 処理。可能な値には、次のものがあります。

SENDACK

ISC TCP/IP がエラーを検出したとき、ISC は、リモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されている並列セッション経由での ISC ACK/NACK メッセージの送信を試行していた。

SENDMSG

ISC TCP/IP がエラーを検出したとき、ISC は、リモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されている並列セッション経由での ISC メッセージの送信を試行していた。

SESSTERM

ISC TCP/IP がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、端末セッションが終了したという通知を試行していた。セッションは、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されています。

SESSINIT

ISC TCP/IP がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されている ISC TCP/IP 並列セッションのセッション開始の通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な ISC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause

セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。

可能な値には、次のものがあります。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE

IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスがシャットダウンされた。

nodename

影響を受けた並列セッション端末の名前。

mod_name

エラーを検出したモジュールの名前。

rc

ISC 機器依存モジュール (DDM) が発行した戻りコード。このメッセージに関連する ISC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

rsn

ISC DDM が発行した理由コード。このメッセージに関連する ISC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

username

影響を受けたユーザーの名前。

考えられる原因: 考えられる原因は、メッセージ・テキストに含まれる戻りコードおよび理由コードによって示されています。次の表に説明を示します。

戻りコードおよび理由コードは、IMS.SDFSMAC データ・セットの LU6WA マクロの TCPWORK DSECT にもリストされています。

戻りコード	理由コード	意味
X'00000004'	X'00000004'	DFSPOOL ストレージ取得エラー。(DFSC7B0)

表 22. メッセージ DFS3596E での IMS ISC DDM 戻りコードおよび理由コード (続き)		
戻りコード	理由コード	意味
X'00000004'	X'00000064', X'00000068', X'00000070', X'0000009C', X'000000C8', X'000000D0', X'000000D4', X'000000DC', X'000000E0', X'000000EC', X'000000F0', X'00000104'	IMS がセッションの開始中にエラーを検出しました。詳しくは、DFS3649A の理由コードを参照してください。(DFST7B0)
X'00000004'	IS07 IPIC 要求からのセンス・コード X'08640001'	IMS が、送信中の出力メッセージについてセンス・コード DEALLOCATE_ABEND_SVC を受け取りました。出力メッセージはデキューされます。(DFST2A0)
X'00000008'	IS07 IPIC 要求からのその他のセンス・コード	IMS が、送信中の出力メッセージについて DEALLOCATE_ABEND_SVC 以外のセンス・コードを受け取りました。出力メッセージはメッセージ・キューに押し戻され、セッションは終了します。(DFST2A0)
X'00000008'	X'00000000'	IMS が受け取り中の入力メッセージに対する応答を送信しようとして、エラーが発生しました。セッションは終了します。(DFST3B0)
X'0000000C'	X'00000004'	DFSPPOOL ストレージ取得エラー。(DFST7F0)
X'00000014'	X'00000004'	DFSPPOOL ストレージ取得エラー。(DFST7C0)
X'00000216'	X'00000000'	IMS は、CICS からの IS02 CAPEX 応答メッセージ内でセキュリティーの指定を検出しました。(DFST7B0)
X'0000xyyy' ただし、次のとおりです。 xx IS02 CAPEX メッセージからの応答 yy IS02 CAPEX メッセージからの理由	X'00000000'	IMS は、CICS からの IS02 CAPEX 応答メッセージ内でゼロ以外である応答と理由の値を検出しました。(DFST7B0)

システムの処置:

並列セッションは終了します。IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。メッセージ・テキストで特定されるモジュールは、エラーの発生した場所で

す。そのほかに、SCI、IMS Connect、または TCP/IP からの、診断に役立つメッセージがないか確認してください。IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

エラーの原因を訂正した後に、リンクを再始動してください。

問題判別:

1、5、6、14、36

モジュール:

DFSTCERO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3597E

ISC DETECTED AN INTERNAL LOGIC ERROR, active_process, RETCODE = rc, RSNCODE = rsn, LOSTSESS = cause, MODULE = mod_name, NODE = nodename, USER = username

説明

ISC の装置依存モジュール (DDM) が、内部論理エラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった ISC 処理。可能な値には、次のものがあります。

SENDMSG

ISC がエラーを検出したとき、ISC は、リモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されている並列セッション経由での ISC メッセージの送信を試行していた。

SESSTERM

ISC がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、並列セッションが終了されたという通知を試行していた。並列セッションは、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されています。

SESSINIT

ISC がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されている並列セッションの開始の通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な ISC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよび

リカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause

セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。

可能な値には、次のものがあります。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE

IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスがシャットダウンされた。

mod_name

エラーを検出したモジュールの名前。

nodename

影響を受けた ISC TCP/IP 並列セッション端末の名前。

rc

ISC DDM が発行した戻りコード。このメッセージに関連する ISC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

rsn

ISC DDM が発行した理由コード。このメッセージに関連する ISC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

username

影響を受けた ISC TCP/IP 並列セッション端末に関連付けられているユーザーの名前。

考えられる原因: 考えられる原因は、メッセージ・テキストに含まれる理由コードおよび戻りコードによって示されます。

メッセージ DFS3597E での、IMS ISC 機器依存モジュールの戻りコードおよび理由コード

次の戻りコードおよび理由コードは、IMS.SDFSMAC データ・セット内の LU6WA マクロの TCPWORK DSECT にもリストされています。

戻りコード	理由コード	意味
DFSPPOOL RC	X'00000004 '	DFSPPOOL ストレージ取得エラー
DFSPPOOL RC	X'00000008 '	DFSPPOOL ストレージ解放エラー
CELL POOL RC	X'0000000C '	セル・プール (CPOOL) 取得エラー
CELL POOL RC	X'00000010 '	セル・プール (CPOOL) 解放エラー
	X'00000014 '	無効な通知コードまたは通知条件の検出
	X'00000018 '	無効な AWE の検出
	X'0000001C '	無効な ISC ディレクティブ (DFSMSDIR) の検出
	X'00000020 '	無効なバッファ・ヘッダー制御ブロック (BUFMSHDR) の検出
	X'00000024 '	無効なメッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の検出
	X'00000028 '	パートナー IMS からの即時シャットダウン要求の受信
	X'0000002C '	無効または予期しない ISC リンク (MSLINK) 状況の検出
	X'00000030 '	予期しないブラケット開始停止 (BIS) メッセージの受信
	X'00000034 '	予期しないエラー・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'00000038 '	無効な再始動メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'0000003C '	無効なシャットダウン・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'00000040 '	内部ルーチンからの予期しない戻りコードの受け取り
	X'00000044 '	SCIWORK エリアのエラー
	X'00000048 '	キュー・エラーの検出 (CTB5QERR セット)

戻りコード	理由コード	意味
	X'0000004C'	キュー・バッファのチェーニング・エラーの検出
	X'00000050'	AWE チェーニング・エラーの検出
	X'00000054'	出力編集エラー
	X'00000058'	入力編集エラー
QMGR RC	X'0000005C'	メッセージ・キュー・マネージャーからの予期しない戻りコード
	X'00000060'	DFSMGPL マクロ・エラー、メッセージ接頭語不良
	X'00000064'	無効な応答 MSCB (BUFMSCB) の受信
	X'00000068'	無効な内部条件の検出
	X'0000006C'	内部制御ブロック・エラー
	X'0000007C'	LXB (リンク拡張ブロック) が SCI MSG 出口 DFSSXINO によって通知されたが、LXBTCLBP がゼロ。この問題が発生してはなりません。
	X'000000FC'	未判別エラー

システムの処置:

並列セッションは終了します。IMS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。メッセージ・テキストで特定されるモジュールは、エラーの発生した場所です。そのほかに、SCI、IMS Connect、または TCP/IP からの、診断に役立つメッセージがないか確認してください。IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

DFS3597E は、内部論理エラーの場合に発行されます。問題が解消されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別:

1、5、6、14、36

モジュール:

DFSCTERO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3600I

**UNABLE TO INITIALIZE
EXTERNAL SUBSYSTEM(S) -
member, RC=mm,
JOBNAME=JJJJJJJ**

または

**SUBSYSTEM DEFINITION SPECIFICATION ERROR
FOR SSM = member, JOBNAME=JJJJJJJ**

または

STMNT (nnn), 'xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx' (yyyyyyyyyy)

または

STMNT (nnn), (DB2AF DEF INVALID FOR DEP REG)

または

STMNT (nnn), KEYWORD 'xxxxxxx' (yyyyyyyyyy)

説明

IMS は、外部サブシステムの PROCLIB メンバー (SSM) の処理中に、エラーを検出しました。メンバー名は、4 バイトの IMSID と、それに続く 4 バイトの SSM パラメーターで構成されます。SSM パラメーターは、メンバー DFSPBxxx、または /START SUBSYS SSM xxxx コマンドのいずれかの実行パラメーターとして指定されます。JOBNAME 値 (該当する場合は)、エラーが検出された領域のジョブ名を指定します。少なくとも、DFS3600I メッセージの 3 つのバージョンの 1 つが、エラーのタイプに応じて表示されます。バージョンは、次のとおりです。

• UNABLE TO INITIALIZE

このメッセージは、PROCLIB メンバーの処理を不可能にするエラーを IMS が検出したことを示しています。そのメンバー内で定義された外部サブシステムは、IMS に接続されません。文字ストリング member は、処理中であった PROCLIB メンバー名を示します。値 mm は、次の戻りコードのいずれか 1 つです。

コード (16 進数)

意味

04

PROCLIB メンバーの読み取り中に障害が発生しました。指定されたメンバー名が、正しい名前前で、PROCLIB に常駐することを確認します。

08

ストレージは、PROCLIB メンバー・ステートメントを含むためのバッファを取得できませんでした。

0C

ストレージは、外部サブシステム定義エレメントを取得できませんでした。

18

PROCLIB メンバーは、有効なサブシステム定義を含んでいませんでした。

注：RC=18 を従属領域から受信する場合には、SSM パラメーターが、項目を含まない PROCLIB メンバーを指示している可能性があります。この問題により、従属領域はサブシステム接続ができなくなります。この場合には、このメッセージは通知専用です。従属領域の初期設定は継続します。

• SUBSYSTEM DEFINITION SPECIFICATION ERROR

1 つ以上のエラーが外部サブシステム定義の処理中に検出された場合には、このメッセージが発行されます。変数 member は、処理されていた PROCLIB メンバー名を示します。それぞれの定義エラーごとに、メッセージが発行され、エラーのステートメントおよびエラーのテキストが示されます。PROCLIB メンバー内の個々のエラーごとに、STMNT エラー・メッセージが 1 つずつ出されます。単一ステートメント内の複数のエラーは、複数のメッセージを生成します。値 nnn は、メンバー内のステートメント番号です。文字ストリング xxxxx は、エラーがあるテキストです。文字ストリング KEYWORD がエラー・テキストを伴っている場合は、エラー・テキストはキーワード・パラメーターを表します。文字ストリング yyyyyyyy は、次のエラー理由コードのいずれか 1 つです。

OMITTED

必要パラメーターが、外部サブシステム定義から省略されました。サブシステム定義は無効として認識されるため、サブシステム接続は確立されません。

IGNORED

パラメーターは外部サブシステム定義に指定されています。これは、定義中のサブシステム・タイプには適用できません。このパラメーターは無視され、処理は続行されます。サブシステム定義の残りが有効な場合は、サブシステム接続は適宜確立されます。

INVALID

エラー・テキストは、サブシステム定義ステートメントの無効のデータを表しています。文字ス

トリング KEYWORD がエラー・テキストを伴っている場合は、パラメーターの値が無効です。その他の場合は、エラー・テキストは、サブシステム定義の一部として解釈できないデータを表しています。サブシステム定義は無効として認識されたため、サブシステム接続は確立されません。

DUPLICATE

パラメーターの特定の値が、複数のサブシステム定義で指定されていました。サブシステム定義は、無効として扱われ、無視されます。すべての SSN パラメーター値は、1 つのメンバー内では固有値である必要があります。

• DB2AF DEF INVALID FOR DEP REG

従属領域のジョブに対して SSM パラメーターが提供されました。このパラメーターは、DB2 接続機能を使用してアクセスされる DB2 サブシステムの定義を含んでいる PROCLIB メンバーを識別しています。この定義は MPP または BMP 領域では使用不可であり、無視されます。処理を続行します。DB2 接続機能の定義は、SSM パラメーターの制御領域に対してのみ提供できます。

システムの処置

UNABLE TO INITIALIZE メッセージが表示された場合、IMS 外部サブシステムの初期設定処理は失敗しました。そのメンバー内で定義された外部サブシステムは、IMS に接続されません。

ステートメントが処理されてエラーが発生し、そのためにサブシステム定義が無効になった場合、外部サブシステムは IMS に接続されません。

プログラマーの応答

SSM PROCLIB メンバーのエラーを訂正します。

UNABLE TO INITIALIZE エラーの場合は、/START SUBSYS SSM コマンドを使用して、外部サブシステム初期設定処理を開始します。この処理は、そのメンバーに定義されているすべての有効なサブシステムを開始します。

STMNT エラーの場合は、/START SUBSYS コマンドを使用して、1 つ以上の外部サブシステム接続を開始します。

問題判別:

1、3、34 および SSM PROCLIB メンバーを保管します。

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 76 章 DFS メッセージ DFS3601 - DFS3650I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS3601 EXTERNAL SUBSYSTEM(S) NOT
 DEFINED. COMMAND REJECTED.**

説明

外部サブシステムが定義されていません。コマンドはリジェクトされました。次のいずれかのエラーが発生しました。

1. IMS コマンドで指定された外部サブシステム名が、IMS に対して定義されなかった。
2. **/START**、**/STOP**、**/DISPLAY**、または **/CHANGE** コマンドで **SUBSYS** キーワードが使用されたが、**SSM** パラメーターを使用して外部サブシステムの存在を IMS に認識させなかった。
3. **SSM** が指定されましたが、**SSM PROCLIB** メンバーは有効なサブシステム定義を含んでいなかった。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

指定されたサブシステム名が正しいことを確認し、コマンドを再入します。問題が継続する場合は、システム・プログラマーにこのメッセージを受信したことを通知します。

プログラマーの応答

説明にあるエラー条件に対応して、次のアクションのいずれかを実行してください。

1. IMS **SSM PROCLIB** メンバー内でサブシステム名が誤って定義されたか、そのつづりが誤っていた。サブシステム名を訂正し、**SSM PROCLIB** メンバーを更新します。
2. IMS パラメーター **SSM** を有効なメンバー名で指定します。
3. この場合には、IMS 異常終了 3041 が以前に発生していた。この問題は、**SSM** 実行パラメーターを使用して指定されたサブシステム **PROCLIB** メンバーが、無効な外部サブシステム定義を含んでいることを示しています。サポートするサブシステムが存在しない場合は、サブシステム構造をサポートするタスク (TCB) は、アベンド 3041 で終了します。**PROCLIB** メンバー定義を訂正します。メンバーの訂正時に IMS が実行中の場合は、**/START SUBSYS** コマンドを入力して、IMS に新しい定義を読み込ませ、サブシステム接続を確立させます。

問題判別:
34

関連情報

[IMS 異常終了 3041](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3602I xxxxx SUBSYSTEM RESOLVE-IN-
 DOUBT FAILURE, RC=yyyy**

説明

示された外部サブシステム (xxxx) の resolve-in-doubt 出口は、リカバリーの解決が不成功だったことを示します。未解決のリカバリー単位が存在します。IMS および外部サブシステムは、直前のアクティブ・リカバリー単位 (処理要求) を解決 (COMMIT|ABORT) できません。

システムの処置

IMS は、外部サブシステム接続を終了します。IMS は、その外部サブシステム接続なしで機能を継続します。

オペレーターの応答

データベース管理者は、このメッセージが出ていることを認識する必要があります。データベース管理者の要求に従って、**/CHANGE** コマンドを発行するか、IMS をコールド・スタートできます。コールド・スタートの方法では、これらのリカバリー単位が未解決である事実が IMS メモリーから消去されることに注意してください。

システム・プログラマーの応答

IMS **/CHANGE** コマンドを使用して問題を訂正でき、IMS **/START** コマンドで障害のあるサブシステム接続を再始動するか、IMS をコールド・スタートすることができます。

**DFS3603I xxxxxxxxx RESOURCE FAILURE FOR
 SUBSYSTEM zzzz REASON CODE -
 yyzzaaaa**

または

**xxxxxxxxx LOAD FAILED FOR SUBSYSTEM zzzz
REASON CODE - yyzz**

説明

外部サブシステム 構造の初期処理中に、必要なリソース xxxxxxxx の割り振りまたは処理が失敗しました。zzzz は、関連するモジュールのサブシステム 名を指定します。IMS は、SSM パラメーターが指定されていると、サブシステム ・ モジュールのロードを試行します。

yy 値で表された次のコード番号の 1 つが、障害の理由を示します。

コード (16 進数)

説明

01

メッセージで示されたリソースが見つかりませんでした - zz 値は、IMODULE LOAD 戻りコードです。

02

使用可能なストレージが不足しています - zz 値は、IMODULE GETMAIN の戻りコードと同じです。

03

メッセージで示されたリソースが見つかりませんでした - zz 値は、IMODULE LOAD 戻りコードです。

04

使用可能なストレージが不足しています - zz 値は、IMODULE GETMAIN の戻りコードと同じです。

05

DFSESL DD ステートメントのオープン 障害 - zz 値は、OPEN の戻りコードと同じです。

06

メッセージで示されたリソースが見つかりませんでした - zz 値は、IMODULE LOAD 戻りコードです。

07

メッセージで示されたリソースが見つかりませんでした (DFSESI40) - zz 値は、OS LOAD マクロ戻りコードと同じです。

08

メッセージで示されたリソースが見つかりませんでした - zz 値は、BLDL 戻りコードと同じです。

09

メッセージで示されたリソースがロードされませんでした - zz 値は、MVS システム ・ コード aaaa と関連した戻りコードと同じです。

0A

データ ・ セット ・ タイプを判別できません - zz 値は ISITMGD マクロ呼び出しからの戻りコードです。aaaa 値は、ISITMGD 理由コードです。

IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

IMS と指定されたサブシステムとの間のサブシステム 接続は確立されず、初期設定処理は継続します。

オペレーターの応答

このメッセージを受信したことについて、システム ・ プログラマーに通知してください。

システム ・ プログラマーの応答

サブシステム ・ ロード ・ ライブラリーが、IMS からアクセス可能であることを確認します。IMS では、この問題を改善するために、DD ステートメント (DFSESL) が提供されています。外部サブシステム ・ モジュールは、IMS がアクセス可能な任意の z/OS 許可ライブラリー (つまり、JOBLIB、STEPLIB、または DFSESL) 内に存在することができます。

領域サイズを増やして、外部サブシステム ・ モジュールに適用させ、外部サブシステム 文書にストレージ要件を文書化します。

関連資料

[IMODULE 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)
[z/OS: ISITMGD の完了コード](#)

DFS3604I **/STA COMMAND FAILED WITH
RETURN CODE xxxx**

説明

/START コマンド ・ プロセッサーによって外部サブシステムのマザー ・ タスクを作成する試行は、次の戻りコードのいずれか 1 つによって失敗しました。

コード

意味

0050

サブシステム ・ メンバー名が、直前の /START SUBSYS SSM xxxx コマンドですでに指定されていたか、SSM=EXEC パラメーターが IMS JCL で指定されていました。

0051

SSM キーワード ・ パラメーター長が、1 文字から 4 文字ではありませんでした。

0052

SSM キーワードに続いてパラメーターが指定されていませんでした。

0053

パラメーターが、SUBSYS キーワードで指定されていました。SSM キーワードが指定されている場合、SUBSYS キーワードはパラメーターを持つことができません。

0054

SSM キーワードに続いて指定されているパラメーターが多過ぎます。

0401

PROCLIB プロセッサーから無効の戻りコードを受信しました。

0403

IMODULE GETSTOR 要求が、サブシステム 定義エレメントの取得に失敗しました。IMS に接続できるサブシステムはありません。

0404

有効な SSM 項目が指定されていません。

0501

ESET 接頭部がありません。

0502

接続リスト数がゼロです。

0503

サブシステムに ESET がありません。

0504

SIDX ブロックを取得できません。

0505

即時保管域を取得できません。

0506

グローバル ESET が既に接続されています。

05FF

IMS は異常終了処理の SHUTDOWN/ESS タスクを実行中です。要求はリジェクトされました。

04FF

IMS は異常終了処理の SHUTDOWN/ESS タスクを実行中です。要求はリジェクトされました。

0101

ルーチンの作成でリストが渡されていません。

0103

即時保管域を取得できません。

0104

グローバル外部サブシステム 項目を取得できません。

01FF

IMS は異常終了処理の SHUTDOWN/ESS タスクを実行中です。要求はリジェクトされました。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

このメッセージを受信したことについて、システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

コードを基にして、次のいずれかの処置を取ってください。

コード

意味

0050

外部サブシステム 接続処理は、すでに完了しています。特定のサブシステムを開始するには、**/START SUBSYS xxxx** コマンドを使用します。

0051

1 文字から 4 文字のパラメーター xxxx を使用して **/START SUBSYS SSM xxxx** コマンドを再入してください。

0052

1 文字から 4 文字のパラメーター xxxx を使用して **/START SUBSYS SSM xxxx** コマンドを再入してください。

0053

その他のパラメーターを付けずに **/START SUBSYS SSM xxxx** コマンドを再入してください。

0054

その他のパラメーターを付けずに **/START SUBSYS SSM xxxx** コマンドを再入してください。

0401

サブシステム PROCLIB メンバー名が無効になっているか、メンバーの読み取り中にエラーが発生しました。PROCLIB メンバー名が正しく、IMS.PROCLIB に常駐していることを確認して、コマンドを再入力します。

0403

IMS は、作業域で専用ストレージを取得できませんでした。**/START SUBSYS** コマンドを再入できません。リソースの不足が一時的であれば、ストレージは後で使用可能になります。ストレージがまだ不足している場合には、IMS 始動プロシージャで領域 (RGN) パラメーターを増やすことによって、より多くの作業用ストレージが IMS に割り振られる可能性があります。

0404

SSM パラメーターで指定された IMS.PROCLIB メンバーに、有効な項目が含まれていません。メッセージ DFS3600I がそれぞれの特定期間ごとに発行されました。

0501

IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

0502

IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

0503

IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

0504

IMS は、作業用ストレージを取得できませんでした。この条件は一時的である可能性があるため、コマンドを再入してください。この状態が継続する場合は、IMS 始動プロシージャで領域 (RGN) パラメーターを増やすことによって、より多くの作業用

ストレージが IMS に割り振られる可能性があります。

0505

戻りコード 0504 で示されたアクションを実行します。

0506

IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

05FF

処置は必要ありません。

04FF

処置は必要ありません。

0101

IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

0103

戻りコード 0504 で示されたアクションを実行します。

0104

戻りコード 0504 で示されたアクションを実行します。

01FF

処置は必要ありません。

問題判別:

5、6、34

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3605I

ESS/ESI MODIFY COMMAND
REJECTED, code xx (y)

説明

外部サブシステムを MVS MODIFY コマンドで変更中に、エラーが検出されました。理由コード xx では、エラーについて説明されています。値 y は、12 バイトまでの MODIFY コマンドの入力データです。次の理由コードが表示されることになり、その意味は次のとおりです。

コード (16 進数)

意味

04

MODIFY コマンドで指定されたサブシステム名は、アクティブなサブタスクを持ちません。外部サブシステムの姉妹タスクには、タスク制御ブロック (TCB) が存在しません。

08

IMS には外部サブシステムが接続されていません。

0C

MODIFY コマンドで外部サブシステム名が IMS に対して定義されていません。

10

IMS ID が無効です。

14

MODIFY コマンドの外部サブシステム名が長過ぎます。名前は 1 から 8 文字である必要があります。

18

MODIFY コマンドの外部サブシステム名は、通知メッセージを待ちません。

1C

内部 MODIFY コマンドの IMSID/RSENAME は、SCD/FRB の名前と一致しません。

20

外部サブシステム名が、MODIFY コマンドで指定されていませんでした。名前は 1 から 8 文字である必要があります。

システムの処置

IMS は、要求された処置を実行できません。コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

このメッセージを受信したことについて、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

次のいずれかの処置を取ってください。

コード (16 進数)

意味

04

MODIFY コマンドのスペルおよびフォーマットを検査します。

08

SSM が EXEC パラメーターで指定されていなかったか、外部サブシステムの初期設定で障害が発生しました。

0C

コマンドがオペレーターによって入力された場合は、MODIFY コマンドのスペルおよびフォーマットを検査してください。それ以外の場合、MODIFY コマンドは、外部サブシステムが識別処理を継続可能であることを IMS に通知するために外部サブシステムから送信された内部コマンドです。SSM PROCLIB メンバーが変更されていないことを確認してください。

10

IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

14

IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

18

この戻りコードは、IMS の起動と終了を外部サブシステムとの接続なしで行うと発生することがあります。

1C

IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

20

IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

問題判別:

5、6、35

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3606I

**www EXTERNAL SUBSYSTEM
INITIALIZATION FAILED, FC =
xxxx, RC = yy, JOBNAME = zzzzzzzz**

説明

外部サブシステム (www) に対する初期設定出口処理は、正常終了しませんでした。外部サブシステムは、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。機能コード xxxx は、エラーを検出したモジュールを示します。このモジュールは、IMS または外部サブシステムの出口モジュールとすることができます。機能コード値、およびエラーを検出したモジュール名については、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。検出したモジュールによって設定される戻りコード yy は、検出したモジュール内で失敗した機能を示します。

他の領域から 1 つの領域を識別するために、JOBNAME = zzzzzzzz も提供されています。すべてのサポートされる領域が初期設定処理を行う必要があるため、この情報は必要です。

IMS DSECT DFSESF で定義されている機能コード値については、IMS 戻りコードおよび機能コードに関する情報を参照してください。

システムの処置

IMS の初期設定が続行されます。サブシステム接続は、確立されません。IMS 制御領域では、初期設定出口の処理がこの方法で失敗すると、外部サブシステム接続を表す TCB は、異常終了することなく終了します。

従属領域の場合、次の戻りコード・リストは、IMS の処置を示します。

yy = 08

Initialization unsuccessful 初期設定が成功しませんでした。IMS は、この IMS 従属領域の実行中は、サブシステムへの接続を開始しません。

yy = 20

要求の処理中に、外部サブシステム 提供の出口で無効の条件が検出されました。これに関与しているアプリケーションは、異常終了 3044 で終了されません。

yy = ??

サポートされていない戻りコードを初期設定出口から受信しました。これに関与しているアプリケーションは、異常終了 3049 で終了されます。

オペレーターの応答

適切なインストール担当者にこのメッセージを受信したことを通知し、インストールの処置に従ってください。

プログラマーの応答

示された問題を訂正し、IMS /START SUBSYS コマンドを使用して障害を起こした外部サブシステム接続を再始動します。または、アプリケーション・プログラムが関与している場合には、/START TRAN、UPDATE TRAN START(Q,SCHD)、および /START PROGRAM コマンドを使用して、そのアプリケーションを再始動します。

yy = 08

外部サブシステム 初期設定出口がエラーを検出しました。実行する必要がある処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。

yy = 20

外部サブシステム 初期設定出口がエラーを検出しました。実行する必要がある処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。

yy = ??

外部サブシステム 初期設定出口がエラーを検出しました。実行する必要がある処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。

問題判別:

35

関連資料

[外部サブシステム・サポートに関連する戻りコードと機能コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3607I

**xxxx SUBSYSTEM yyyy EXIT
FAILURE, FC = ww, RC = zz,
JOBNAME = nnnnnnnn**

説明

IMS は、外部サブシステム (xxxx) 出口 (yyyy) の処理を正常に完了できませんでした。外部サブシステム接続

パッケージは、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。機能コード *ww* は、検出したエラーを示すモジュールの ID です。機能コード値、およびエラーを検出したモジュール名については、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。戻りコード *zz* が、外部サブシステム 出口によって戻されました。

他の領域から 1 つの領域を識別するために、JOBNAME = *nnnnnnnn* も提供されています。必要な接続管理ルーチンは制御領域と従属領域で実行されるので、この情報は必要です。JOBNAME が提供されない場合は、問題が発生している領域を判別することはできません。

システムの処置

外部サブシステム 接続を表す TCB は、失敗した外部サブシステムを表す TCB なしで実行を継続します。

戻りコード値に対して、次のアクションが発生します。

戻りコード 説明

X'08'

TERMINATE IDENTIFY が失敗しました。IMS は、機能が正常に完了したかのように終了処理を続行します。

X'08'

SUBSYSTEM TERMINATE が失敗しました。IMS は、終了処理を続行します。今後の接続要求は受け入れられます。

X'0C'

IDENTIFY が失敗しました。外部サブシステム内の障害のために、IMS はアプリケーション・プログラムを異常終了 3044 で終了します (関与するアプリケーション・プログラムがある場合)。

X'20'

IMS は、アプリケーション・プログラムが関与していた場合、そのプログラムを 3044 異常終了で終了します。

X'??'

サポートされていない戻りコード。IMS は、アプリケーション・プログラムが関与していた場合、そのプログラムを 3049 異常終了で終了します。

オペレーターの応答

適切なインストール担当者にこのメッセージを受信したことを通知し、インストールの処置に従ってください。

プログラマーの応答

示された問題を訂正し、IMS **/START SUBSYS** コマンドを使用して、失敗した外部サブシステムを再始動します。または、アプリケーション・プログラムが関与していた場合は、**/START TRAN**、**UPDATE TRAN**

START(Q,SCHD)、および **/START PROGRAM** コマンドでそのアプリケーション・プログラムを再始動します。

戻りコード 説明

X'08'

TERMINATE IDENTIFY が失敗しました。処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。

X'08'

SUBSYSTEM TERMINATE が失敗しました。処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。

X'0C'

IDENTIFY が失敗しました。処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。

X'20'

処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。

X'??'

サポートされていない戻りコード。すべての資料 (つまり、コンソール・ログ、ログ・データ・セット、メモリー・ダンプ) を保管します。

問題判別:

35

関連資料

[外部サブシステム・サポートに関連する戻りコードと機能コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3608I

**xxxx SUBSYSTEM REQUIRED EXIT
MISSING yyyy, JOBNAME =
zzzzzzzz.**

説明

IMS は、外部サブシステム (xxxx) の処理を正常に終了できませんでした。必要な出口 (yyyy) が使用不可でした。zzzzzzzz は、問題を検出したジョブ名です。JOBNAME は、複数の領域が外部サブシステムに接続できるため、必要な情報です。yyyy は次のいずれかの値です。

ID

ID IDENTIFY EXIT

RID

RESOLVE-IN-DOUBT EXIT

SNON

SIGNON EXIT

CRT

CREATE THREAD EXIT

CMP

COMMIT PREPARE EXIT

CMC

COMMIT CONTINUE EXIT

ABC

ABORT AND CONTINUE EXIT

TRTD

TERMINATE THREAD EXIT

SNOF

SIGNOFF EXIT

TERM

TERMINATE IDENTIFY EXIT

SNO

SUBSYSTEM NOT OPERATIONAL EXIT

STE

SUBSYSTEM TERMINATION EXIT

NORC

NORMAL CALL EXIT

ECHO

ECHO EXIT

CMD

COMMAND EXIT

システムの処置

サブシステム接続は、確立されません。接続が存在する場合は、その接続は通常の終了シーケンスで終了し、タスク構造 (TCB) は、制御領域用に縮小されます。アプリケーションが関係している場合は、異常終了 3049 で終了する。

オペレーターの応答

インストール担当者にこのメッセージを受信したことを通知し、インストールの処置に従ってください。

プログラマーの応答

サブシステム・ロード・ライブラリーが、IMS からアクセス可能であることを確認します。IMS では、この問題を改善するために、DD ステートメント (DFSESL) が提供されています。外部サブシステム・モジュールは、IMS がアクセス可能な z/OS 許可ライブラリー (つまり、JOB LIB、STEPLIB、または DFSESL) に入っている必要があります。問題が解決したら、IMS /START SUBSYS コマンドを使用して、失敗した外部サブシステム接続を再始動します。この処置で問題が解決しない場合は、外部サブシステム資料を確認して、どの出口が提供されているかを判別します。説明の記述は、必要な出口を示します。

問題判別:

34

関連情報

IMS 異常終了 3049

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3609

**EXTERNAL SUBSYSTEM TASK
ABENDING/ABENDED. COMMAND
REJECTED.**

説明

IMS 外部サブシステム・タスクが異常終了したか、または / START SUBSYS コマンドが入力されたときに終了の処理中でした。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

異常終了が完了したら、即時に /START SUBSYS コマンドを入力し、接続を再開してください。

DFS3610

**SUBSYSTEM STOPPED, COMMAND
REJECTED.**

説明

外部サブシステムは、既に停止状態です。停止状態は、次のいずれかの直接的な結果として発生します。

- 直前の /STOP SUBSYS コマンド
- 外部サブシステムの終了
- 親または姉妹タスクいずれかの異常終了
- 直前の IMS の実行から未解決になっているリカバリ・エレメントの存在
- IMS の異常終了。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーにこのメッセージを通知します。

システム・プログラマーの応答:

外部サブシステム 接続を再始動するには、**/START SUBSYS** コマンドを入力します。外部サブシステム 接続が既に停止状態の場合は、**/STOP SUBSYS** コマンドを再入しても、影響はありません。

DFS3611I **EXTERNAL SUBSYSTEM xxxx**
CONNECTION TERMINATED RC=y

説明:

説明については、メッセージ DFS3611W を参照してください。

関連情報

DFS3611W
EXTERNAL SUBSYSTEM xxxx CONNECTION
TERMINATED RC=y

DFS3611E **EXTERNAL SUBSYSTEM xxxx**
CONNECTION TERMINATED RC=y

説明:

説明については、メッセージ DFS3611W を参照してください。

関連情報

DFS3611W
EXTERNAL SUBSYSTEM xxxx CONNECTION
TERMINATED RC=y

DFS3611W **EXTERNAL SUBSYSTEM xxxx**
CONNECTION TERMINATED RC=y

説明

サブシステム xxxx に接続されている姉妹タスク制御ブロック (サブタスク TCB) が終了しました。

理由コード y (単一文字値) は、終了の原因を示します。このコードは、次のコードのいずれか 1 つです。

理由コード

意味

B

IMS 外部サブシステムの姉妹タスク (接続されているサブシステムごとに接続された TCB) が、異常終了しました。異常終了条件のいくつかは、出口の呼び出しを禁止することができます。

C

外部サブシステムは、静止した状態で終了中であることを IMS に通知しました。IMS は、新規接続が確立されないことを保証し、既存の接続が正常に終了することを許可します。

D

外部サブシステムが、は、異常終了 (突然のシャットダウン) 中であることを IMS に通知しました。IMS は、新規接続が試みられないことを保証し、既存の接続を終了します。

E

サブシステム 間の接続は、IMS によって静止させられようとしています。IMS はシャットダウンせず、

使用可能な状態のままです。接続の終了は、IMS / **STOP** コマンド、出口からの不良戻りコード、または必要な出口の欠落の結果です。

F

TIMS 終了サービス出口が外部サブシステム 出口によって開始され、外部サブシステム・コードに接続の終了を要求することを許可したため、サブシステム間の接続が終了しました。

システムの処置

IMS は、正常終了処理を続行します。

オペレーターの応答

外部サブシステムは、**/START** コマンドで再始動できません。

プログラマーの応答

理由コードを基にして、次のいずれかの処置を取ってください。

理由コード

意味

B

外部サブシステム TCB が終了しました。スピンオフ・メモリー・ダンプ機能がアクティブになっている場合は、スピンオフ・メモリー・ダンプがデバッグ用に作成されます。異常終了の原因を判別し、訂正処置を取ってください。

C

IMS によって静止させられた外部サブシステムが終了しました。処置は必要ありません。

D

外部サブシステムは異常終了しました。外部サブシステムのシャットダウン (つまり、強制シャットダウン・コマンド) の原因を判別します。外部サブシステムから、適切な問題判別資料が提供されています。

E

接続は停止しました。処置は必要ありません。

F

接続は内部的に終了しました。外部サブシステム 出口は、接続の終了を要求し、外部出口による適切な問題判別情報を提供しました。

問題判別:

34

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3612I **OPTIONAL xxxxxxxx SUBSYSTEM**
EXIT NOT PRESENT.

説明

IMS は、オプションの外部サブシステム 出口を開始しようとしたが、外部サブシステムは、その出口を提供しませんでした。このメッセージは、次の出口が不在の場合に送信されます。

```
xxxxxxx = command
```

システムの処置

オプションの出口のいずれかが存在しない場合、IMS は、このコマンドを実行します。

```
xxxxxxx = command
```

IMS は、端末、または簡易操作インターフェース (AOI) アプリケーションから有効な **/SSR** コマンドが入力されると、コマンド出口を実行します。その出口が存在しない場合、IMS は、このメッセージによってこの問題を示します。**/SSR** コマンドおよび外部サブシステム・コマンドは無視されます。IMS は通常の操作を続行します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

この問題は、IMS または外部サブシステムの論理エラーの外的な症状であることも考えられます。最初に、外部サブシステムの資料を検査して、外部サブシステムがコマンド出口を終了させていることを確認します。コマンド出口が終了していれば、静止状態のサブシステムが始動していることを確認します。問題がまだ存在する場合には、問題の判別を支援するメモリー・ダンプが必要です。**OS MODIFY (F)** コマンドを使用して、IMS 外部サブシステム・マザー・タスク (ESSM) を終了してください。

問題判別:

34

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3613I

**xxx TCB INITIALIZATION
COMPLETE.**

説明

xxx で識別されるコンポーネントが、その初期設定処理を完了しました。

メッセージ・テキストの xxx は以下のものを示します。

ALC

LU 6.2 タスク制御ブロック (TCB): LUM TCB の割り振り

ALM

LU 6.2 TCB: 非同期 LUM TCB

CTL

制御領域 TCB (主データ通信)

CTX

制御領域補助 TCB

DC

データ通信 TCB

DGS

診断サービス TCB

DLG

DASD ログ TCB (ログの書き込み/読み取り)

DLI

DLI シリアライゼーション TCB

DRC

データベース・リカバリー、DBRC、TCB

DYC

動的割り振り TCB

DYC RECALL

動的割り振り再呼び出しサブタスク

ESS

外部サブシステム TCB (SSM が EXEC ステートメントで指定されている場合のみ使用されます)

FP

高速機能 TCB (高速機能がインストールされている場合のみ使用されます)

FP2

高速機能 TCB 2 (高速機能がインストールされている場合のみ使用されます)

LSO

ローカル・ストレージ・オプション TCB

LUM

LU 6.2 TCB: 論議装置マネージャー・マスター TCB

MOD

IMS 制御、MODIFY TCB

RCF

RACF サインオンおよびサインオフ TCB

ODM

ODBA 同期点タスク・マネージャー TCB

ODS

ODBA 同期点要求処理 TCB

OID

OTMA サーバー・タスク制御ブロック TCB

RDS

再始動データ・セット TCB (再始動データ・セットの書き込み/読み取り)

RLM

LU 6.2 TCB: 受信 LUM TCB

RRS

リソース・リカバリー・サービス TCB

RST

再始動 TCB、IMS 再始動およびチェックポイント処理

STC

ストレージ圧縮 TCB

STM

ストレージ管理 TCB (ジョブ・ステップ TCB)

SQ1

共用キュー TCB 1

SQ2

共用キュー TCB 2

TCO

時間制御操作 TCB

TMC

Transaction Manager TCB

TRA

外部トレース TCB

XCF

システム間カップリング・ファシリティー TCB

IMS セッションの存続期間中にワークロードの要求に応じて TCB の複数のインスタンス (例えば、RRS、DYx、および RCF) を作成できます。新しい TCB を初期設定するたびに、このメッセージが生成されます。

システムの処置

このメッセージの送信後に、示されたコンポーネントはすべてのキューに入れられた処理要求を処理します。

システム・プログラマーの応答

IMS が、初期設定処理中、または初期設定処理直後に失敗した場合は、このメッセージ・ヘルプが存在しないため、障害が発生したコンポーネントの識別を容易に行うことができます。

モジュール:

DFSXDGS0、DFSYDTL0 (OID TCB)

DFS3614I	DFSTRA (TRACE CONTROL BLOCK) CANNOT BE INITIALIZED
-----------------	---

説明

トレース機能の初期設定処理中に、DFSTRA のストレージを取得するには、共用可能な十分な CSA ストレージがありません。

システムの処置

IMS トレース機能は、IMS の今回の実行中には活動化されません。この障害ではこれ以上の処置は取られず、初期設定処理は継続します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

CSA のサイズを増やしてください。

DFS3615I	UNABLE TO IMODULE LOAD DFSTRA10
-----------------	--

説明

トレース機能の初期設定処理中に、IMODULE LOAD はモジュール DFSTRAxx で異常終了しました。ここで xx は、10、20、または 30 です。

システムの処置

このメッセージは、初期設定中に発行されます。IMS トレース機能は、IMS の今回の実行中に活動化されず、初期設定処理は継続します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

すべての IMS モジュールが、ジョブ・ストリーム内で連結された許可ライブラリーに含まれていることを確認します。

DFS3616I	- THE cccc PARM IS INVALID - THE TRACE IS ON IN CORE
-----------------	---

説明

IMS は、cccc トレース・テーブルの無効のトレース・テーブル・オプション・ステートメントを検出しました。有効なトレース・オプションは、IMS システム定義の説明にリストされています。

有効な DFSVSMxx トレース行の例は、OPTIONS DISP=OUT

です。

システムの処置

無効なパラメーターは無視され、IMS は初期設定を続行します。

オペレーターの応答

OLDS をトレースするには、**/TRACE SET ON TABLE cccc OPTION LOG** コマンドを発行します。

DFSVSMxx メンバーを調べて、誤ったトレース指定を訂正するか、IMS システム・プログラマーに通知してください。

DFS3618	SPECIFIED COMMAND RECOGNITION CHARACTER (CRC) NOT FOUND
----------------	--

説明

/SSR コマンドで指定されたコマンド認識文字 (CRC) が、IMS に対して定義されていないか、コマンド上で誤って指定されています。したがって、IMS は、それを外部サブシステムへ関連付けることができませんでした。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

インストール担当者にこのメッセージを受信したことを通知し、サブシステム用に正しい CRC を保持していることを確認してください。コマンドを再入します。

プログラマーの応答

外部サブシステムに定義されている CRC が、外部サブシステム PROCLIB メンバー項目で有効なことを確認します。

DFS3619I	UNABLE TO LOAD MODULE DFSESI70 DUE TO RC xx
-----------------	--

説明

/CHA SUBSYS コマンドの処理中に、IMODULE LOAD がモジュール DFSESI70 に対して発行されました。ロードは、戻りコード xx で失敗しました。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答

IMODULE LOAD 戻りコード xx についての説明は、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。この問題は、ジョブ・ストリームでのライブラリーの連結で発生する場合があります。このメッセージを受信したことについて、システム・プログラマーに通知してください。

関連資料

IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

DFS3620I	REQUIRED RESOURCE UNAVAILABLE - RC=uu - FC=vv RESOURCE ID=xxxxxxxx - SUBSYS NAME = yyyy - JOBNAME = zzzzzzzz.
-----------------	--

説明

IMS システムは、外部サブシステムへの接続要求の処理中に、リソースの制約を検出しました。

戻りコード (RC-uu)、機能コード (FC-vv)、リソース ID xxxxxxxx、サブシステム名 yyyy、およびジョブ名 zzzzzzzz には、次の値が定義されています。

uu

戻りコードは、呼び出し元に戻されます。戻りコードおよび機能コードに関する情報は、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。

vv

機能コードは、問題を検出したモジュール名を示します。戻りコードおよび機能コードに関する情報は、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。

xx..xx

リソース ID は、リソースが必要とされていて、取得できなかったか、存在していなかったかを示します。表示される可能性のある値は、次のとおりです。

GESE

IMS が接続を試行していた外部サブシステムが、制御領域 JCL、またはプロシージャー (SSM=) で指定されているサブシステム PROCLIB メンバーに定義された外部サブシステム項目を持っていないことを示します。IMS では、さまざまな SSM 値を指定でき、それぞれの値には、制御領域および従属領域 (MPP、BMP、IFP) についての異なるサブシステム定義が含まれています。ただし、IMS は制御領域の中で指定されている PROCLIB メンバーについてのみ、接続を試みます。その領域 (JOBNAME によって示されている) に SSM パラメーターで指定されている PROCLIB メンバーは、その制御領域に存在していなかったサブシステム定義を含んでいます。

AWE

IMS モジュールが、処理の初期設定のために、非同期作業エレメント (AWE) を獲得できなかったことを示します。

yyyy

接続に失敗したサブシステムを示します。

ZZZZZZZZ

接続に失敗した領域を示します。この領域用に SSM パラメーターを使用して指定された PROCLIB メンバーには、制御領域メンバーに含まれていないサブシステム定義が入っていません。

システムの処置

外部サブシステムへの接続の試行が停止しました。このメッセージは、問題の判別を支援するために発行されます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

インストールの処置は、リソース ID に依存します。リソース ID に応じて、次のいずれかの処置を行います。

GESE

外部サブシステムに接続する場合は、サブシステム定義を制御領域サブシステム PROCLIB メンバーに追加します。

AWE

IMS が正常に実行されるまで、共用可能ストレージ (CSA) のサイズを 4K の増分を単位として増やしてください。

関連資料

[外部サブシステム・サポートに関連する戻りコードと機能コード \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS3621I RECOVERY OUTSTANDING FOR SUBSYSTEM xxxx

説明

外部サブシステム xxxx に、未解決のリカバリー単位、ネットワーク ID (NID) があります。ただし SSM PROCLIB メンバーによって定義されていません。項目が定義されていないため、IMS および外部サブシステムは、直前のアクティブな処理要求の COMMIT または ABORT を解決できません。

システムの処置

IMS は、プログラマーが訂正処置を行うまで、未解決のリカバリー単位を保存します。

プログラマーの応答

次のいずれかを実行してください。

- SSM PROCLIB メンバーを使用して、外部サブシステムを IMS に対して定義し、**/START** コマンドまたは IMS 再始動コマンドを使用して始動する。

- /CHANGE** コマンドを使用して、未解決のリカバリー単位を削除する。
- コールド・スタートを実行する。

DFS3622I STORAGE COMPRESSION DISABLED - STIMER FAILED, RC=y

説明

オンライン・ストレージ圧縮機能が STIMER マクロを発行しました。戻りコード y は、クロックの損傷が発生したことを示します。

システムの処置

IMS 処理は続行されます。ストレージ圧縮機能は、現在作動不能です。

オペレーターの応答

システム・プログラマーにこのメッセージを受信したことを通知して、問題をハードウェア担当者にお問い合わせください。

問題判別:

35

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3623E STRG-COMP IMODULE ERR=a BLK=b, ADDR=c, RTN=d, SP=e

説明

オンライン・ストレージ圧縮機能が、異常終了する前にこのメッセージを発行しました。ストレージ圧縮は、FREEMAIN ストレージに使用できませんでした。a、b、c、d、および e の値は、次のとおりです。

値

意味

- a** 16 進数の IMODULE 削除戻りコード
- b** ストレージを所有するストレージ・プールの 4 文字の名前
- c** IMS が FREEMAIN を試みたストレージのアドレス。
- d** どの IMODULE 削除 DFSBCB60 が、X'00' (ラベル FREE におけるルーチン) を発行したかどうかを示す標識
- e** IMODULE で 10 進数で指定されたサブプール番号

関連情報

IMS 異常終了 3058

DFS3626I RESTART HAS BEEN ABORTED

説明

IMS は再始動処理を終了しました。このメッセージの前に、エラー・メッセージが発行され、問題を示します。

システムの処置

再始動は終了し、他のコマンドを待機します。

オペレーターの応答:

問題の訂正後、IMS システムを再始動してください。

問題判別:

35

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3627I DYC|DYS TCB RETRY IN
PROGRESS DUE TO SYS|IMS xxxx**

説明

動的制御サービス TCB ESTAE は、制御を受け取り、エラーを検出した処理を再試行しています。DYC は、IMS 制御領域内の動的割り振りサービスです。DYS は、DL/I 従属アドレス・スペースの動的割り振りサービスです。再試行する理由は、異常終了コード xxxx です。これは、システム (SYS) コードか IMS コードです。

システムの処置

動的制御サービス TCB に発行された要求が再試行されました。また、システム診断作業域 (SDWA) のコピーを含むソフトウェア・ログ・レコードが、SYS1.LOGREC データ・セットに書き込まれます。ログ・レコードには、"IMS DYN ALLOCATE" として障害を識別する目印フィールドが含まれています。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

ほとんどの場合、このメッセージを受信しても、アラームの原因にはなりません。ただし、データベース、またはデータ・セットが、割り振られていない、または割り振りが解除されている場合があります。外部ユーザー処置が、要求を処理するために必要な場合があります。ただし、問題が継続する場合には、SYS1.LOGREC

データ・セットを調査して、障害の診断情報を取得する必要があります。

**DFS3628E DOUBLE AWE RELEASE DETECTED
IN MODULE DFSBCB30**

説明

IMS 制御ブロック・ストレージ・マネージャー DFSBCB30 が、AWE と呼ばれる IMS 内部制御ブロックの二重開放を検出しました。IMS は、この問題の内部診断情報を収集し、この状態が発生したことを記録するためにこのメッセージを出します。

このメッセージは、AWE の二重解放が発生した回数に関係なく、IMS チェックポイント間隔ごとに 1 回だけ発行されます。

システムの処置

IMS 処理は続行しますが、AWE の二重解放は、IMS 内での内部処理エラーの徴候であり、予測不能な結果になる可能性があります。

システム・プログラマーの応答

IMS 制御領域および DLI 領域のメモリー・ダンプを取り、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DFSBCB30

**DFS3628I DB2 RRSF SETUP FAILED -
XXXXXXXXXXXX**

説明

XXXXXXXXXXXX で示された理由により、Java™ 従属領域内で DB2 Attach Facility を確立できませんでした。この障害の理由となる可能性があるのは、次のような場合です。

- GETMAIN FOR AFB FAILED
- ACCESS TO *db2id* STOPPED
- UNABLE TO OPEN DFSDB2AF

システムの処置

従属領域は 3056 で異常終了します。ただし、理由が ACCESS TO *db2id* STOPPED の場合は除きます。ここで、*db2id* は、/STOP SUBSYS コマンド内で提供されたサブシステム名です。

システム・プログラマーの応答

「UNABLE TO OPEN DFSDB2AF」の場合、定義済みデータ・セットへのアクセスが従属領域で使用可能であることを確認します。DB2 ライブラリーが APF 許可されていることも確認してください。「ACCESS TO *db2id*

STOPPED」の場合、従属領域がアクセスを必要としている場合は、領域を停止し、/STA SUBSYS コマンドを発行して、領域を再始動します。アクセスが必要でない場合は、何も行う必要がありません。

モジュール:

DFSD2AF0

[関連情報](#)

[IMS 異常終了 3056](#)

DFS3629I DB2 RRSF FUNC=xxxx FAILED - RC=yyyy, RS=zzzz

説明

DB2 Attach Facility 機能 xxxx が、戻りコード yyyy と理由コード zzzz で失敗しました。考えられる機能は次のものです。

IDENTFY

SIGNON

CREATE THD

TERM THD

システムの処置

従属領域が 3056 で異常終了します。

プログラマーの応答

システム・プログラマーにお問い合わせください。

モジュール:

DFSD2AF0

[関連概念](#)

[DB2 コード](#)

[関連情報](#)

[IMS 異常終了 3056](#)

DFS3630 GENERIC PARAMETER IS NOT ALLOWED

説明

総称パラメーターが、総称パラメーターを許可していないコマンドまたはキーワードで入力されました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

コマンドを、非総称パラメーターを使用して再入します。

モジュール:

DFSICLN0

DFS3631E MSC=Y IS SPECIFIED BUT NO SYSID IS DEFINED.

説明

IMS 実行パラメーターに MSC=Y が指定されていますが、IMS システムに割り当てられている MSC システム ID (SYSID) がありません。IMS 実行パラメーターに MSC=Y が指定されている場合は、少なくとも 1 つの SYSID を IMS システムに割り当てる必要があります。

システムの処置

IMS の初期設定は、異常終了コード 565 で終了します。

ユーザーの処置

IMS システムに少なくとも 1 つの SYSID を割り当てるか、IMS 実行パラメーターに MSC=N を指定してください。変更が完了したら、IMS をコールド・スタートします。

DFSDFxxx PROCLIB メンバーの MSC セクションに SYSID パラメーターを指定して、IMS システムに SYSID を割り当てます。

あるいは、IMS ステージ 1 システム定義プロセス中に入力として MSNAME マクロをコーディングして、IMS システムに SYSID を割り当てることもできます。ステージ 1 の入力には、MSPLINK マクロおよび MSLINK マクロも含める必要があります。

モジュール:

DFSRMC10

[関連資料](#)

[DFSDFxxx メンバーの MSC セクション \(システム定義\)](#)

[MSNAME マクロ \(システム定義\)](#)

DFS3632 COMMAND ONLY VALID FOR ISC SESSIONS

説明

キーワードの組み合わせ NODE または NODE および USER を使用したコマンドが入力されました。この NODE パラメーターは ISC ではありません。NODE または NODE および USER のキーワードが組み込まれたこのコマンドは、ISC ノードのみで有効です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

コマンドを、USER キーワードなしで、または ISC の NODE パラメーターを付けて再入します。

**DFS3633 GENERIC PARAMETER
RESOURCES NOT FOUND, NO
ACTION TAKEN**

説明

総称パラメーターのみが付いたコマンドが入力されました。総称パラメーターで、既存のリソースに適用されるものはありません。例えば、コマンド **/IDLE NODE ABC* CD%F** が入力された場合は、このメッセージが発行されるのは、ABC で名前が始まるリソースが存在しない場合と、最初、2 番目、および 4 番目の文字が C、D、および F のリソースがない場合のみです。

オペレーターの応答

総称パラメーターが、意図されたリソースに適用されたかどうかを検査します。

モジュール:
DFSICLNO

**DFS3634 LOGOND OR USERD NOT VALID
WITH STATIC RESOURCE**

説明

静的端末やユーザー、または動的 ISC 端末やユーザーが、**/OPNDST NODE** コマンドの LOGOND または USERD キーワードに誤って組み込まれています。LOGOND キーワードは、動的非 ISC 端末にのみ適用し、USERD キーワードは、動的非 ISC ユーザーにのみ適用します。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

端末が、静的、または動的で ISC の場合には、LOGOND キーワードを省略してコマンドを再入力してください。ユーザーが、静的、または動的で ISC の場合には、USERD キーワードを省略してコマンドを再入力してください。

**DFS3635 COMMAND NOT ALLOWED FOR
STATIC USERS**

説明

動的ユーザーにのみ適用するキーワード USER が付いたコマンドが、静的ユーザーに対して発行されました。コマンドは、次のいずれかです。

**/BRO USER
/END USER
/EXC USER
/EXIT CONV USER**

**/RSTART USER
/TEST USER**

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

動的ユーザーに対してコマンドを再入力します。

**DFS3636 INVALID ASSIGNMENT BETWEEN
STATIC AND DYNAMIC USERS**

説明

次の **/ASSIGN** コマンドの誤った形式のいずれかが、発行されました。

- **/ASSIGN LTERM static {T0} USER dynamic**
- **/ASSIGN LTERM dynamic {T0} USER static**
- **/ASSIGN USER static {T0} USER dynamic**
- **/ASSIGN USER dynamic {T0} USER static**

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

次の正しい **/ASSIGN** コマンドの形式のいずれかを発行します。

- **/ASSIGN LTERM dynamic {T0} USER dynamic**
- **/ASSIGN LTERM static {T0} USER static**
- **/ASSIGN USER dynamic {T0} USER dynamic**
- **/ASSIGN USER static {T0} USER static**

**DFS3637 USER IN USE, CANNOT PROCESS
COMMAND**

説明

/ASSIGN コマンドで参照されているユーザーは、再度割り当てることはできません。これは、そのユーザーが、サインオンしているか、会話モード、事前設定モード、または応答モードになっているためです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

そのユーザーが、サインオフするか、会話モード、事前設定モード、または応答モードを終了するのを待ち、**/ASSIGN** コマンドをもう一度試行します。

**DFS3638 IMPROPER REASSIGNMENT FOR
LUTYPE6 OR DYNAMIC
TERMINALS**

説明

LUTYPE6、または、動的端末、ユーザーや LTERM を不正に割り当てる試行が行われました。次のいずれかの理由で誤って割り当てられています。

- /ASSIGN コマンドの /ASSIGN INPUT LTERM および /ASSIGN OUTPUT LTERM 形式は、動的または LUTYPE6 論理端末には許可されていません。
- LUTYPE6 または動的 LTERM は、ノードに割り当てできません。これは、これら論理端末のタイプが、ユーザーに関連付けられているためです。
- LUTYPE6 LTERM またはユーザーは、非 LUTYPE6 ユーザーに割り当てできません。
- 非 LUTYPE6 LTERM またはユーザーは、LUTYPE6 ユーザーに割り当てできません。
- LTERM は、動的または LUTYPE6 端末に割り当てできません。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

LUTYPE6 または動的ノード (あるいは LTERM またはユーザー) について適切な再割り当てを行ってください。

**DFS3639 USER KEYWORD INVALID IF NODE
PARAMETER IS GENERIC**

説明

NODE および USER キーワードを組み合わせたコマンドが、総称 NODE パラメーターと共に指定されました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

ユーザーの処置

USER キーワードと共に非総称 NODE パラメーターを入力します。

モジュール:
DFSICLN0

**DFS3640W xxxxxxxx HAS AN INVALID
DYNAMIC TERMINAL
DESCRIPTOR TYPE OF y**

説明

ETO 記述子の処理中に、IMS は、LOGON、MSC、USER、または DEVICE 記述子タイプとして識別できない記述子を検出しました。

システムの処置

記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答

リソース名 xxxxxxxx の記述子を見つけます。y の記述子タイプを L、M、U、または D に訂正します。この記述子が存在する必要がある場合は、IMS を再始動してください。

問題判別:

1、6

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3641W xxxxxxxx HAS AN INVALID
PARAMETER FOR KEYWORD
yyyyyyyyy. DEFAULTS FOR THIS
KEYWORD WERE USED.**

説明

ETO 記述子を処理中に、IMS は、キーワード yyyyyyyy に誤ったパラメーターを検出しました。

システムの処置

キーワードに指定されたパラメーターは無視され、デフォルト値が使用されます。

システム・プログラマーの応答

リソース名 xxxxxxxx の記述子を見つけます。エラーになったパラメーターを訂正します。キーワードに選択されたデフォルトが誤っている場合は、IMS を再始動します。

問題判別:

1、6、10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3642E THE STAGING DATA SET IS FULL.

説明

IMS ディレクトリーのステーキング・データ・セットが満杯です。ステーキング・データ・セットは、オンライ

ン IMS システムで活動化されるために IMS ディレクトリーに書き込まれるのを待っているリソース変更を保持するために使用されます。

システムの処置

IMPORT コマンドまたは DDL 定義の自動活動化は異常終了します。

ユーザーの処置

カタログ・ユーティリティーを実行してステージング・データ・セットを拡張する必要があります。IMPORT コマンドを再サブミットするか、DDL 定義を再活動化してください。

モジュール:

DFSMOLS0

関連情報

[IMS ディレクトリー・データ・セット \(システム定義\)](#)

DFS3643I

**USER xxxxxxxx HAS EXCEEDED
DLQT VALUE. LAST ACCESSED ON
yyyyddd.**

説明

ユーザー xxxxxxxx は、メッセージまたは未解決の状況のキューに入れられ、yyyyddd 以降アクセスされていません。DLQT JCL パラメーターで指定された期間を超過しています。ユーザー xxxxxxxx が最後にアクセスされたのは、作成時、サインオン時、またはサインオフ時です。これ以外では、メッセージがデキューされたとき、またはキューの割り当てが解除された時です。ユーザー xxxxxxxx は、DEADQ 状況としてマークされています。

システム・プログラマーの応答

DLQT JCL パラメーターで指定された期間が短すぎないかどうか検査してください。

ISC ユーザーの場合は、ISC ユーザーが DLQT 期間中にノードに割り振られなかった理由を判別します。

動的ユーザーの場合、そのユーザー名が RACF などの拡張セキュリティに対して定義されているなら、ユーザー xxxxxxxx がサインオンでキューにアクセスできることを確認してください。動的ユーザー名が RACF などの拡張セキュリティに対して定義されていないためにサインオンできない場合は、メッセージがキューに入れられた理由またはそのユーザーに適用された状況を判別してください。

メッセージがキューに入れられた原因の調査を支援して、DEADQ の状況を除去するには、/ASSIGN コマンドを使用してキューを再度割り当て、評価するためのデータを検索します。

データをパージして、DEADQ 状況を除去するには、/DEQUEUE コマンドを使用します。状況をこれ以上ユーザーに適用しない場合は、コマンドを使用して状況を除去するか、ユーザーがサインオンし、必要な処置を行って不必要な状況をリセットします。

知らないうちに作成された動的ユーザーを削除します。ユーザー構造を削除するには、すべてのメッセージがデキューされているか、キューの割り振りが解除され、状況が除去されている必要があります。そうすれば、ユーザー構造は、次の単純チェックポイントで削除されます。

問題判別:

1、6

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3644

NO RESOURCES FOR NODE

nnnnnnnn

説明

このメッセージは、次のいずれかの理由で出されます。

- IMS が、動的端末構造の作成に必要な制御ブロックを獲得できなかった。
- 作成された端末構造を、その端末構造用の IMS ハッシュ・テーブルに追加できなかった。

いずれの理由も、重大なシステム障害を示します。

システムの処置

コマンドまたはログオンの試行は無視され、処理は継続します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

問題の症状について詳細に識別する場合は、DFS3672I メッセージの情報を使用してください。示されたコードおよび修飾子の意味については、IMS 診断情報を参照してください。以後の処置については、IMS サポート担当者に連絡してください。

ユーザーの処置

このメッセージを生成した動作を再試行します。

問題判別:

1、6、14

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3645I **LOGON REJECTED - NODE**
 nnnnnnnn

説明

端末は、IMS とのセッションを確立しようとしたのですが、その試みは失敗しました。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、次の場合に発生します。

- 端末が、XRF 環境で、代替システム用に 1 次マスター端末または 2 次マスター端末として定義されている。
- ETO=NO が有効だったため、IMS に対して定義されていない端末からのセッション確立の試みが妨げられた。始動時に ETO=YES が指定されていた場合は、IMSCTRL マクロに ETOFEAT=YES が指定されていて、メッセージ DFS3648I がインストール時に発生していないことを検査します。このメッセージは、初期設定出口 DFSINTX0 で発生します。
- 必要なユーザー・データが、並列セッション ISC および ETO FIN/SLU P 端末用に提供されていなかった。ユーザー・データが提供されていなかったか、またはインストールで提供されるログオン出口 DFSLGNX0 がユーザー・データをクリアしています。ユーザー・データが提供され、クリアされていないことを確認してください。CINIT ユーザー・データ・パラメーターについては、「IMS V15 システム・プログラミング API」の『CINIT ユーザー・データ・パラメーターのフォーマット』のトピックを参照してください。
- インストールで提供されるログオン出口 DFSLGNX0 が、セッションがリジェクトされた原因を示す固有のメッセージを発行せずに、ログオンの試行をリジェクトした。
- セッションの確立を試行する端末の特性を記述するログオン記述子が見つからなかった。
- 総称リソース名を使用して ISC セッションが開始されましたが、IMS 初期設定ユーザー出口が、ISC について VGR を使用不可にするオプションを指定しました。

問題判別:

1、6、10

関連資料

[CINIT ユーザー・データ・パラメーターの形式 \(システム・プログラミング API\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3646I **UNRECOGNIZED OR**
 INCONSISTENT DEVICE
 ATTRIBUTES. DESC = nnnnnnnn -
 NODE = xxxxxxxx

または

UNRECOGNIZED OR INCONSISTENT DEVICE
ATTRIBUTES. DESC = LLLLLLLL, NODE =
NNNNNNNN, SCR/USE = AABCCDDXXYY/Z1Z2

説明

最初のメッセージ形式の場合、指定されたノードの IMS ログオン記述子名が、CINIT で指定されたそのノードの特性と互換性がなかったか、装置特性テーブル (Device Characteristics Table) が見つかりませんでした。

2 番目のメッセージ形式の場合は、SCR フィールドが、ログオンしようとする端末によって IMS に提示される画面サイズ情報を参照しています。

AABB

デフォルト画面サイズ (AA = 行、BB = 列) (16 進数)。

CCDD

代替画面サイズ (CC = 行、DD = 列) (16 進数)。

XX

画面サイズ制御バイト (16 進数)。

YY

ビデオ / プリンター ID (非 SNA 3270 装置のみに適用)。

USE フィールドは、装置特性テーブルから一致する項目を検索する際に IMS が使用する実際の画面サイズを示します。

Z1

画面サイズの行数 (16 進数)。

Z2

画面サイズの列数 (16 進数)。

IMS は、機能情報について一致するものがあるかどうか、DCT も検索します。ETO ログオン記述子からの機能情報は、DCT 項目の機能情報と比較されます。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

最初のメッセージ形式では、記述子 `nnnnnnnn` が、ノード `xxxxxxx` を正しく記述しているかどうかを判別します。名前付き記述子を訂正するか、または特に名前付きノード用に、新規記述子を作成します。装置特性テーブルが存在していることを検査します。

2 番目のメッセージ形式では、MFS サービス・ユーティリティーを使用して、DCT 内の項目をリストし、現在定義されている項目を表示できます。ETO ログオン記述子内の機能情報 (記述子 `LLLLLLLL` は、メッセージに示されています) および「USE」画面サイズ値 (メッセージで示されています) は、共に DCT 内の単一項目と一致する必要があります。ほとんどの場合、MFS DCT ユーティリティーを使用して、見つからなかった画面サイズと機能の組み合わせに対する項目を DCT に追加する必要があります。

問題判別:

1、6、10

関連概念

[LU2 と非 SNA 3270 の画面サイズとモデル情報 \(コミュニケーションおよびコネクション\)](#)

[MFS 装置記述子 \(システム定義\)](#)

関連タスク

[拡張端末オプションの管理 \(コミュニケーションおよびコネクション\)](#)

関連資料

[MFS 装置特性テーブル・ユーティリティー \(DFSUTB00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3647W MISPLACED OR DUPLICATE
DESCRIPTOR xxxxxxxx.
CONTENTS ARE IGNORED.**

説明

IMS 初期設定は、記述子名 `xxxxxxx` の記述子レコードを既に処理済みです。ただし、同一のリソース名の記述子が検出され、無視されました。

システムの処置

エラーになった記述子レコードは無視され、処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

必要に応じて、IMS.PROCLIB の記述子を廃棄、または位置変更してエラーを訂正します。

問題判別:

1、6、10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3648 ETO SUPPORT NOT AVAILABLE -
DISABLED VIA DFSINTX0**

説明

初期設定出口ルーチン DFSINTX0 が、戻りコード 4 を IMS に戻しました。戻りコード 4 は、たとえば JCL の ETO= パラメーターまたは DFSPByyy メンバーを使用して動的端末サポートが要求されている場合でも、動的端末サポートが望ましくないことを示します。出力セキュリティは、ETO 端末でのみ使用可能なため、システム内に、出力セキュリティを持つ端末はありません。

システムの処置

IMS は、次の IMS の再始動まで、ETO 端末または ETO ユーザーの作成を許可しません。

オペレーターの応答

- ETO 端末サポートは必要とされていない場合、処置は必要ありません。
- ETO 端末サポートが必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡して支援を受けてください。

DFS3649A /SIGN COMMAND REQUIRED.

(3270/SLU2 タイプの装置) IMS サインオン・パネル

または

**(非 3270/SLU2 装置) /SIGN COMMAND REQUIRED
FOR IMS *imsid*. NODE *node name*. (NO) OUTPUT
SECURITY AVAILABLE (,REJECTED *reason*.)**

説明

サインオンを必要とする端末 (これには、ISC、SLU P、および FINANCE 端末を除くすべての ETO 端末が含まれます) のユーザーは、最初に有効なサインオン・データを入力しないと、IMS は他の入力データ (トランザクション、コマンド、メッセージ通信など) を受け入れません。この時点で許可されるコマンドは、**/SIGN** および **/RCLSDST** のみです。

3270 端末の場合は、最初のメッセージの形式が表示され、サインオン・データは、表示されるパネルに入力することができます。非 3270 端末の場合は、2 番目のメッセージの形式が表示されます。許可された時に /**SIGN** コマンドを使用してください。

このメッセージが、サインオンの試行がリジェクトされたために再送される場合は、リジェクトの原因が、REJECTED という単語の後に表示されます。

このメッセージの最後の形式、キー・メッセージは、事前編集メッセージを作成できなかった場合に表示されます。DFS3649 が送信されるすべての条件については、1066 ページの『DFS3649 のサインオンの条件』を参照してください。

理由コード *reason* とその意味については、次のリストを参照してください。

コード (10 進数)

意味

- 04 ユーザー・プロファイルが RACF に対して定義されていない。
- 08 パスワードが許可されていない、または指定されていない。
- 12 パスワードの期限切れ。
- 16 新規パスワードが無効。
- 20 ユーザーがグループに定義されていない。
- 24 RACINIT がインストール・システム 出口ルーチンによって失敗した。
- 28 ユーザー・アクセスが取り消された。
- 32 RACF がアクティブでない。
- 36 指定したグループへのユーザーのアクセスが取り消されている。
- 40 OIDCARD パラメーターが必要ですが、指定されていない。
- 44 OIDCARD パラメーターが、指定されたユーザーには無効。
- 48 ユーザーが、端末の使用を許可されていない。
- 52 ユーザーがアプリケーションの使用を許可されていない。

- 56 予約済み。
- 60 予約済み。
- 64 予約済み。
- 68 予約済み。
- 72 予約済み。
- 76 SIGNON 内部エラー
- 80 端末が会話中。
- 84 予約済み。
- 88 端末が事前設定モード (Preset Mode) になっている。
- 92 端末が応答モード (Response Mode) になっている。
- 96 端末がこの会話を許可されていない。

静的端末、またはノード名と同じ SPQBname を持つ動的端末の場合、すべての会話が保留にされているか、アクティブな会話のトランザクションの使用をユーザーが許可されていない限り、ユーザーのサインオンは許可されません。
- 100 DFSSCSGNO 出口ルーチンによってリジェクトされた。
- 104 要求を処理するためのストレージが使用できない。
- 108 予約済み。
- 112 DFSSGNX0 出口ルーチンによってリジェクトされた。
- 116 /**SIGN** コマンドの構造が誤っている。
- 120 コマンドでリソースが使用できない。
- 124 DFSSGNX0 出口から戻される LTERM 名が、LU 6.2 記述子名として存在している
- 128 IMS が構文エラーを検出した。

- 132** サインオンまたはサインオフのパラメーターの処理中に、IMS が使用できるストレージがないか、またはパラメーターの1つが無効である。
- 136** ARM 呼び出しからの戻りコード 104。この呼び出しを完了するためのストレージが使用できませんでした。
- 140** ARM 呼び出しからの戻りコード 108。システム・エラーによってこの呼び出しが失敗しました。
- 144** ユーザー ID が、8 文字を超えている。
- 148** USERD パラメーターによって指定された記述子が見つからなかったか、または記述子がなにも見つからなかった (DFSUSER が検出されなかった)。
- 152** 指定されたユーザー記述子が、8 文字を超えている。
- 156** ユーザー構造が、既に端末構造に割り振られている。
- 160** 関連プリンター・ユーザー構造が一時的に存在している。
- 164** 関連プリンター出力バッファーに DFSSGNX0 が戻す記述子名が、システムに存在しない。
- 168** DFSUSER ユーザー記述子が、システムに存在せず、関連プリンター構造を作成するために指定された記述子が他に存在しない。
- 172** 関連プリンター構造が、DFSBCB を使用して取得できなかった。
- 176** 指定されたユーザー ID が、現在動的ユーザーとして使用されている。この時点では、静的ユーザー ID として使用できません。または、指定されたユーザー ID が、システム定義 SUBPOOL マクロで静的 ISC 並列セッション・ノードと共に使用するよう静的に定義されているため、この端末では有効ではありません。
- 180** USERD パラメーターが、静的端末で指定できない。
- 184** 既存ユーザー構造を変更する、ユーザー出力キュー・バッファーに戻されたキューが、既存ユーザーに属していない。
- 188** 既存ユーザー構造を変更する、ユーザー出力キュー・バッファーに戻されたキューが、システムに定義されていない。
- 192** DFSSGNX0 からユーザー出力キュー・バッファーに戻されたユーザー ID に、無効文字が含まれている。
- 196** DFSSGNX0 から関連プリント出力バッファーに戻された関連プリント・ユーザー名に、無効文字が含まれている。
- 200** DFSSGNX0 からユーザー出力キュー・バッファーに戻されたキューに、IMS で予約済みの特殊な接頭部が含まれているか、無効文字が含まれている。DFSSGNX0 がバッファー・データをなにも戻さない場合は、エラーのパラメーターが、サインオン・データとして入力された可能性があります。
- 204** DFSSGNX0 からユーザー出力キュー・バッファーに戻されたキューが、この IMS システム内で固有でない。DFSSGNX0 がバッファー・データを戻さない場合は、DFSUSER が記述子として使用されています。ただし、ユーザー ID と同じ名前の LTERM が存在します。
- 208** DFSSGNX0 からユーザー出力キュー・バッファーに戻されたキューに、現在この IMS システム内でトランザクション名として定義されている名前が含まれている。
- 212** ユーザー構造ブロックが、DFSBCB を使用して取得できなかった。
- 216** ユーザーが割り振られているが、それが ISC/SLU P/FINANCE ではない。
- 220** ユーザーが割り振られ、それが ISC/SLU P/FINANCE であるが、ユーザー・アドレスが新規ユーザー・アドレスと一致していない。
- 224** ユーザーが存在し、サインオンを試行している。ただし、サインオンは、/STOP USER コマンドによって、ストップ・ビットがオンの状況になっている。
- 228** サインオン出口ルーチン DFSSGNX0 が、1 から 4 の間ではない無効の ICOMPT 値を戻した。
- 232** サインオン出口ルーチン DFSSGNX0 が、1 から 4 の間ではない無効の COMPT 値を戻した。
- 236** ユーザーが一時的ではない実ユーザーとして存在している。ただし、そのユーザーはキューを持っていない。
- 240** このユーザー ID を持つ静的、または動的端末が、システムに存在する。

- 244** LU6、SLU P、または FINANCE ETO 端末が /SIGN コマンドを入力したが、この端末の下には使用可能なユーザー構造が存在しない。
- 248** DFSSGNX0 からの関連プリンター・バッファーに、正しい命名規則に従う LUNAME がない。
- 252** DFSSGNX0 からの関連プリンター・バッファーに、正しい命名規則に従うログオン記述子がない。
- 256** DFSSGNX0 からの関連プリンター・バッファーに、正しい命名規則に従うモード・テーブル名がない。
- 260** 静的ユーザーが静的 ISC 並列セッションのユーザー割り振りで検出できなかった。動的ユーザーが静的 ISC 並列セッションのユーザー割り振りで使用されたか、または静的ユーザーが ETO 端末セッションへのサインオンで使用された。
- 264** セッションが、出力専用装置である ETO 端末用に開始された。ただし、サインオン・データ (ユーザー ID、およびオプションでユーザー・パスワードおよびユーザー記述子) が含まれていなかった。セッションは終了します。
- 268** ユーザーの MSGDEL 指定と静的 ISC 並列セッション端末が一致しなかった。これらは同じになっている必要があります。
- 272** ユーザー構造名が、DFSSGNX0 出口によってオーバーライドされた。これは、名前が USEQUSTN で提供されたか、接尾部が付いた結果です。この名前は、ユーザー記述子として存在します。したがって、ユーザー・サインオンでユーザー構造名として使用できません。
- 276** ユーザーが存在し、現在 /ASSIGN、/STOP、または /OPNDST コマンドの一部として使用されている。
- 280** 追加された接尾部付きの LTERM 名が、8 文字を超えている。
- 284** 一時ユーザー構造が、現在他の ITASK によって使用されている。しばらく待機し、再試行します。
- 288** ユーザー・サインオン出口 DFSSGNX0 が、SGNOSRM1 フィールドまたは SGNOSRM2 フィールドに無効値を返しました。
- 292** 静的端末がサインオンを試み、ユーザー ID を RM に登録しようとした。しかし、RM 登録にエラーがあるために、サインオンがリジェクトされた。
- 296** そのユーザーが存在するが、そのユーザーの高速機能入力が進行中で、そのユーザーは高速機能リカバーなし (RCVYFP=NO) で定義された。高速機能プログラムは、ユーザーがサインオンを許可される前に完了している必要があります。
- 300** パスワード検査が必要である。
- 304** パスワードの検証が失敗した。
- 308** CTBWORK の取得で障害が発生した。
- 312** ユーザーはサインオンをしないようにされている。
- 316** 高速機能応答モードのユーザーが、高速機能に対応していないか EMHQ 構造を使用していない IMS システムにサインオンしようとした。
- 320** ローカル IMS と RM の間に不一致 (ユーザー・タイプ) が生じた。
- 324** ローカル IMS と RM の間に不一致 (割り当て済み CNT の数) が生じた。
- 328** RM のユーザー・リソースが固定セグメントを持っていない。
- 332** ユーザーは現在アクティブである。
- 336** ユーザー更新の試みが限界に達した。
- 340** ユーザーが別の IMS に所有されている。
- 344** ユーザー更新が失敗した。
- 348** ユーザー ID がアクティブ IMS に所有されている。
- 352** 割り当てられた CNT が検出されなかった。
- 356** ノード照会によって RM 出力がまったく作成されなかった。
- 360** ノード照会が失敗した。
- 364** ユーザー・サインオンが失敗した。ユーザーが静的端末としてログオンを試みたが、そのノードはすでに動的端末として RM に定義されていた。あるいは

は、ユーザーが動的端末としてログオンを試みた
が、そのノードはすでに静的端末として定義されて
いた。

- 368** ローカル IMS と RM の間に不一致 (セッション・マ
ネージャー・セッション) が生じた。
- 372** ローカル IMS と RM の間に不一致 (ユーザーまたは
サブプール・サポート) が生じた。
- 376** ローカル IMS と RM の間に不一致 (装置タイプ) が
生じた。
- 380** ローカル IMS と RM の間に不一致 (出力専用) が生
じた。
- 384** ローカル IMS と RM の間に不一致 (出力専用) が生
じた。
- 388** ローカル IMS と RM の間に不一致 (出力編集) が生
じた。
- 392** ノード更新によって RM 出力が作成されなかった。
- 396** ノード更新が失敗した。
- 400*** ストレージがない。
- 404** ノード・クリーンアップに RM 出力がない。
- 408** ノード・クリーンアップが失敗した。
- 412** ノード削除に RM 出力がない。
- 416** ノード削除が失敗した。
- 420** このサインオンに関する LTERM がない。
- 428** ユーザーは現在異なるノードに割り振られている。
- 432** RACF データベース内でエラーが発生した。詳しく
は、「z/OS MVS システム・コード」(SA88-8592) 内
のシステム異常終了 483-4C を参照してください。
- 436** CQS が使用不可であるために、求める登録処理が失
敗した。
 - ETO 端末の場合、ユーザーはサインオフされま
す。
 - サインオンを必要とする静的非 stsn 端末の場合、
セッションは存続します。すでにサインオンさ
れているユーザーはサインオフされます。

440 ユーザーは、ローカル IMS システム上の異なるノードに割り振られている。

444 サインオン時に RM 内のノード・リソースを更新で
きななかった。この条件は一時的なものなので、サイン
オンを再試行してください。

448 アプリケーションが、このユーザーに関連した
LTERM を使用している。この条件は一時的なもの
です。サインオンを再試行してください。

500 ユーザー・プロファイルが RACF に定義されていな
いか、またはパスワードが許可されていないか、指
定されていない。



重要: 理由コード 4 から 52 についての詳細は、
「z/OS Security Server RACF システム・プログラ
マーのガイド」(SA88-8611) を参照してくださ
い。

DFS3649 のサインオンの条件

メッセージ DFS3649 は、いろいろな理由で送信されま
す。次の表には、これらのメッセージが各種の装置に送
信される条件が示されています。

表の中に示されているセルの "Y" は、その条件が、その
列のトップにリストされている装置に有効であることを
示します。"N" は、その条件では、その列のトップに
リストされている装置に対してメッセージ DFS3649
が送信されないことを示します。表のセルがブランク
の場合は、その条件が、その列のトップにリストされて
いる装置に該当しないことを示します。

3270 プリンターは出力専用装置であるため、メッセ
ージ DFS3649 を受信することはありません。

表の中の数字の 058、064、165、2467、2469、
3650、3662、および 3664 は、メッセージ DFS3649
の代わりにメッセージ DFS058、DFS064、DFS165、
DFS2467、DFS2469、DFS3650、DFS3662、および DFS3664 が
受信されることを示しています。

出力専用装置に対するサインオンの失敗では、
DFS3649 メッセージからの理由コードと一緒に、メッ
セージ DFS2085 が MTO に送信されます。

表 23. メッセージ DFS3649 を各種装置に送信する条件									
条件	32 70	32 70 P	FI N	SL U1	SL U2	SL U4	SL UP	LU 6	NT O
セッション開始 (単純)	Y			Y	Y	Y			Y
セッション開 始-NOTERM 指 定、静的端末	N			N	N	N			N

表 23. メッセージ DFS3649 を各種装置に送信する条件 (続き)

条件	3270	3270P	FIN	SLU1	SLU2	SLU4	SLUP	LU6	NT0
セッション開始-NOTERM 指定、ETO 端末、ユーザー・データなし ¹	Y			Y	Y	Y			Y
セッション開始、サインオン・データあり	3650			3650	3650	3650			3650
セッション開始 (非接続モード)				N		N			
セッション開始 (自動ログオン)	N			N	N	N			N
セッション開始、正しくないサインオン・データあり	Y		Y	Y	Y	Y			Y
/SIGN ON の失敗、静的端末、サインオン不要	Y		2467	Y	Y	Y	2467	2467	Y
/SIGN ON の失敗、静的端末、サインオン必要	Y		Y	Y	Y	Y	Y		Y
/SIGN ON の失敗、動的端末	Y		2469	Y	Y	Y	2469	2469	Y
サインオン必要の静的端末のときに、サインオンの前にトランザクションまたはコマンドが入力された	Y		Y	Y	Y	Y	Y		Y
サインオン必要の動的端末のときに、サインオンの前にトランザクションまたはコマンドが入力された	Y		165 24 69 06 4 36 62	Y	Y	Y	165 24 69 06 4 36 62	165 24 69 06 4 36 62	Y
/SIGN OFF、静的端末、サインオン不要	058		058	058	058	058	058	058	058
/SIGN OFF、静的端末、サインオン必要	Y		Y	Y	Y	Y	Y		Y
/SIGN OFF、動的端末	Y		058	Y	Y	Y	058	058	Y

要確認:

1

OPTION=NOTERM は、動的端末に対する DFS3649 メッセージの発行に影響を与えません。NOTERM は USER 記述子に指定されるからです。NOTERM が USER 記述子に指定されているときは、DFS3649 が抑止されません。NOTERM は、サインオンの後までノードのブロックに反映されないからです。

システムの処置

IMS は、サインオン入力データを、入力されたときに処理します。サインオンが成功すると、メッセージ DFS3650I が端末に送信されます。メッセージ DFS3650I は、端末セッションおよびユーザーの状況を提供します。

オペレーターの応答

要求にしたがって、有効なサインオン・データを入力します。RACF の場合、サインオン・データは次のストリングからなっています。

ユーザー ID

8 文字またはそれ以下のユーザー識別。

ユーザー記述子

IMS がユーザー制御ブロック構造の作成に使用する 8 文字以下のユーザー記述子名を示すオプションのキーワードです。

パスワード

ユーザー識別に関連付けされている 8 文字以下のパスワード (または、サポートされている場合は、100 文字以下のパスワード・フレーズ) を示すオプションのキーワードです。このフィールドは、非表示属性です。パスワードは、RACF を使用してサインオンを検証するときに必要です。

グループ

ユーザー ID に関連付けられている 8 文字以下のグループ名を示すオプションのキーワードです。

新規パスワード

パスワード・フィールドで指定された現行ユーザー・パスワードを置換する 8 文字以下の新規ユーザー・パスワード (または、サポートされている場合は、100 文字以下のパスワード・フレーズ) を示すオプションのキーワードです。このフィールドは、非表示属性です。

関連資料

[z/OS: システム・コード 483](#)

関連情報

1067 ページの『DFS3650I』

SESSION STATUS.

IMS Session Status Summary for 3270/SLU2 Devices

DFS3650I

SESSION STATUS.

IMS Session Status Summary for 3270/SLU2 Devices

説明

セッション開始が IMS 端末について正常に完了しました。動的に定義された端末を含む、サインオン・セキュリティが必要な端末の場合、ユーザーは正常に IMS にサインオンしました。このメッセージは、セッション

ンおよびユーザーの詳細な状況です。現行セッション状況に示される状況条件は、次のとおりです。

ASR		RESP	RESP-
INP	LOCK		
MFST		TEST	RESP-INP-
FP	TRA		
C1/C2/C3/C4	INOP	CONV-HLD	
EXCL	ACTIV		
INC-LTRM		*PWD-CHG*	CONV-ACT

これら端末状態表示の定義は、「/DISPLAY コマンドの状況および属性(コマンド)」にあります。

状況条件 *PWD-CHG* は、現行ユーザーのパスワードが、サインオン処理中に変更されたことを示します。

状況条件 INC-LTRM は、ユーザー・サインオン出口 (DFSSGNX0) によって要求された LTERM、またはユーザー構造の作成で使用するユーザー記述子の一部として定義された LTERM のすべてが、正常にユーザーに割り振られなかったことを示します。通常要求された LTERM は、CNT がその名前で存在し、現在別のユーザーに割り振られているために取得できません。/DIS ASMT USER コマンドを発行して、ユーザーに正常に割り振られた LTERM を判別することができます。

6 行から 11 行の ACF/VTAM 端末の場合は、PRESET DESTINATION および CURRENT SESSION STATUS 行は省略されます。ACF/VTAM 端末 6 行未満、MFS フォーマット設定されたマスター端末の場合は最初の行のみ、表示されます。

メッセージの 3 番目の形式、キー・メッセージは、事前編集メッセージを作成できなかった場合に表示されます。DFS3650I が送信されるすべての条件については、DFS3650 のセッション状況を参照してください。

DFS3650I のセッション状況

このメッセージは、いろいろな理由で送信されます。次の表には、これらのメッセージが各種の装置に送信される条件が示されています。

次の表の中に示されているセルの Y は、その条件が、その列のトップにリストされている装置に有効であることを示します。N は、その条件では、その列のトップにリストされている装置に対してメッセージ DFS3649A が送信されないことを示します。表のセルがブランクの場合は、その条件が、その列のトップにリストされている装置に該当しないことを示します。

条件	3270	3270P	FIN	SLU1	SLU2	SLU4	SLUP	LU6	NTO
セッション開始、静的端末、サインオン不要	Y	Y		Y	Y	Y			Y
サインオン完了- NOTERM 指定	N	N		N	N	N			N
セッション開始、正しいサインオン・データあり	Y	Y		Y	Y	Y			Y
セッション開始(非接続モード)				N		N			
セッション開始(自動ログオン)	N	N		N	N	N			N
/SIGN ON、静的端末	Y		Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
/SIGN ON、動的端末	Y		Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y

システムの処置

IMS システムは処理を継続します。

オペレーターの応答

セッションおよびユーザーの状況を検査します。トランザクション、コマンド、およびメッセージ通信などの入力データを入力することができます。

第 77 章 DFS メッセージ DFS3651I - DFS3700

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3651I **LOGON REJECTED - NODE
nnnnnnnn. DEFAULT LOGON
DESCRIPTOR xxxxxxxx REQUIRED
BUT NOT FOUND.**

説明

ノード *nnnnnnnn* 用の正しいセッション制御ブロックを作成中に、IMS は、デフォルト・ログオン記述子 *xxxxxxx* が必要であるのにそれを検出できないと判断しました。

システムの処置

ログオンの試行はリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答

ノードが、インストールでサポートされていない LU タイプだったため、リジェクトされたのかどうかを判別します。ノードが有効なタイプの場合は、そのタイプのデフォルト・ログオン記述子が検出されなかったのかどうかを判別します。

ユーザーの処置

システム・プログラマーにお問い合わせください。

DFS3652X **DYNAMIC TERMINAL
DESCRIPTORS NOT AVAILABLE**

説明

IMS 初期設定、または MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーは、DD 名 PROCLIB のライブラリーから ETO 記述子を検出できませんでした。IMS 初期設定では、ETO=YES が要求された場合、少なくとも 1 つの有効なログオン記述子と、1 つの有効なユーザー記述子が必要です。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーでは、少なくとも 1 つの装置記述子が必要です。

システムの処置

IMS 初期設定は異常終了し、異常終了コード 0015 が示されます。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーは、戻りコード 12 で終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答

ETO 記述子を含む必要がある記述子のメンバーが、DD 名 PROCLIB のデータ・セットに存在しているかどうか判別してください。IMS 初期設定中のメンバー名は、DFSDSCM*a* および DFSDSCT*b* です。ここで、*a* は IMS の中核接尾部で、*b* は DSCT パラメーターからのものです。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーを実行中の場合は、*a* および *b* は DSCMSUF および DSCTSUF パラメーターからのものです。

これらのメンバーが存在していない場合は作成します。これらのメンバーが存在する場合は、IMS が DD 名 PROCLIB のデータ・セット内でメンバーを検出できなかった理由、または、それらのメンバー内に必要な記述子が存在しない理由を判別してください。

問題判別:

1、6、10

関連情報

[IMS 異常終了 0015](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3653 **ATTRIBUTE MIXED WITH
SPECIFIC PARAMETER.**

説明

コマンドが、属性およびパラメーターを混在させて入力されました。属性が指定されている場合は、他のすべてのパラメーターがすべて属性になっている必要があります。非属性パラメーターが指定されている場合は、他のすべてのパラメーターが非属性パラメーターになっている必要があります。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

コマンドを、すべて属性パラメーターを付けて、またはすべて非属性パラメーターを付けて再入します。

DFS3654 **COMMAND NOT ALLOWED FOR
DYNAMIC TERMINALS.**

説明

/EXCLUSIVE NODE または **/TEST NODE** コマンドが、ETO 端末であるノードに対して入力されました。コマ

ンド **/EXCLUSIVE NODE** および **/TEST NODE** は、ETO 端末では無効です。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

静的なノード・パラメーターでコマンドを再入力するか、**/EXCLUSIVE USER** または **/TEST USER** を入力して、排他的状況またはテスト状況をユーザーに関連付けます。

モジュール:
DFSICL50

DFS3655	USER SIGNED ON, /EXIT USER COMMAND INVALID
----------------	---

説明

CONV および USER キーワードのみの **/EXIT** コマンド (NODE は指定されていない) では、指定されたユーザーがサインオンします。この形式の **/EXIT** コマンドは、ユーザーがサインオンしていない場合のみ有効です。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答

NODE キーワードで **/EXIT** コマンドを再入します。

DFS3656A	IMS PASSWORD VERIFICATION
-----------------	----------------------------------

説明:

説明および処置については、DFS3656 を参照してください。

関連情報

[DFS3656](#)

IMS PASSWORD VERIFICATION, PLEASE RE-ENTER NEW PASSWORD:

DFS3656	IMS PASSWORD VERIFICATION, PLEASE RE-ENTER NEW PASSWORD:
----------------	---

または

**IMS PASSWORD VERIFICATION, SIGN ON WITH
VERIFY KEYWORD**

説明

VTAM 端末のユーザーが、サインオン中にパスワードまたはパスワード・フレーズの変更を試行しています。パスワードまたはパスワード・フレーズの検証が使用可能になっている場合、このメッセージは、ユーザーに新規のパスワードまたはパスワード・フレーズを再入力するよう要求するプロンプトを出します。

テキスト **PLEASE RE-ENTER NEW PASSWORD:** を含む最初の形式のメッセージが、ユーザーが通常受信するメッセージで、ユーザーに新規のパスワードまたはパスワード・フレーズを再入力するよう要求するプロンプトを出します。パスワードまたはパスワード・フレーズは端末に表示されません。

SIGN ON WITH VERIFY KEYWORD というテキストを含んでいる 2 番目の形式のメッセージは、リソースの制約がある場合に通常受信するメッセージで、IMS が最初の形式を発行する可能性はありません。この場合、ユーザーは、**/SIGN ON** コマンドを使用してパスワードまたはパスワード・フレーズを再入力するよう要求されません。

システムの処置

IMS は、このメッセージへの応答で入力された新規のパスワードまたはパスワード・フレーズが、当初に入力されたパスワードまたはパスワード・フレーズと一致するかどうかを検証します。検証が成功すると、サインオンは正常終了し、状況 ***PWD-CHG*** が付いたメッセージ **DFS3650I** が表示され、パスワードまたはパスワード・フレーズが変更されたことを示します。検証が成功しなかった場合、サインオンは **DFS3649A**、戻りコード **304** で失敗します。

オペレーターの応答

最初の形式のメッセージを受信したら、新規のパスワードまたはパスワード・フレーズを再入力してください。新規のパスワードまたはパスワード・フレーズは端末に表示されません。

2 番目の形式のメッセージを受信したら、**/SIGN ON VERIFYxxxxxxx** コマンドを入力します。ここで、xxxxxxx は新規のパスワードまたはパスワード・フレーズです。

関連情報

[1062 ページの『DFS3649A』](#)
/SIGN COMMAND REQUIRED.

[1067 ページの『DFS3650I』](#)
SESSION STATUS.

IMS Session Status Summary for 3270/SLU2
Devices

DFS3657	DESCRIPTOR yyyyyyyyyyyyyyyy IN MEMBER DFSYDTC EXCEEDS THE
----------------	--

**MAXIMUM OF 50 RECORDS.
DESCRIPTOR IGNORED.**

説明

IMS は、動的記述子を初期設定中に、最大値の 50 個を超えるレコードを持つ記述子を検出しました。

システムの処置

記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答

記述子が必要な場合は、50 レコード以下に短縮します。その後、IMS を再始動します。

問題判別:

1、6

モジュール:

DFSYIDC0

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3658X GET REQUEST FAILED FOR
xxxxxxx DESCRIPTOR BLOCK.**

説明

IMS は、ETO 端末 LU 6.2 記述子の初期設定中に、記述子ブロック xxxxxxxx のストレージの獲得に失敗しました。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード 0095 が示されます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答

動的リソースが必要な場合は、IMS 制御領域に使用可能なストレージを増加してください。

問題判別:

1、6、10

関連情報

[IMS 異常終了 0095](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3659X SYN ERROR OCCURRED READING
DESCRIPTOR yyyyyyyyyyyyyyyy IN
MEMBER DFSYDTC**

または

**I/O ERROR OCCURRED READING DESCRIPTOR
yyyyyyyyyyyyyyyy IN MEMBER DFSYDTC**

説明

IMS 初期設定または MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーは、IMS.PROCLIB のメンバー yyyyyyyy から記述子名 xxxxxxxx の記述子レコードを読み取り中に、入出力エラーを受信しました。このメッセージを MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーから受信した場合は、xxxxxxx には DCTABLE が含まれます。

システムの処置

IMS 初期設定は異常終了し、異常終了コード 0015 が示されます。MFS DCT ユーティリティーは、戻りコード 12 で終了します。

オペレーターの応答

システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答

I/O エラーが発生した IMS.PROCLIB のメンバー yyyyyyyy を再作成します。

問題判別:

1、6、10

モジュール:

DFSYIDC0

関連情報

[IMS 異常終了 0015](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3660W EDIT ROUTINE xxxxxxxx DEFINED
BY DESCRIPTOR yyyyyyyy
CANNOT BE FOUND. DESCRIPTOR
IGNORED.**

説明

IMS は、物理編集ルーチン xxxxxxxx の検索が失敗したときに、ログオン記述子 yyyyyyyy の EDIT= パラメーターを処理中でした。編集ルーチン xxxxxxxx は、IMS システム定義内で定義されたどの静的端末からも使用さ

れていない場合、IMS.SDFSRESL へバインドされている必要があります。

システムの処置

記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答

記述子 `yyyyyyyy` の物理編集ルーチン名が誤っている場合は、それを訂正します。物理編集ルーチン名 `xxxxxxx` が正しい場合は、そのモジュールを IMS.SDFSRESL にリンク・エディットします。問題が訂正されて IMS が再始動されるまで、記述子 `yyyyyyyy` は使用可能になりません。

問題判別:

1、6、10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3661W **DESCRIPTOR xxxxxxxx HAS AN INVALID OR DUPLICATE KEYWORD yyyyyyyy. THE KEYWORD IS IGNORED.**

説明

IMS が ETO 記述子 `xxxxxxx` の処理中に、無効なキーワード (認識できないストリング、またはこの装置タイプでは無効)、または重複キーワード `yyyyyyyy` が検出されました。

システムの処置

無効のキーワード、または重複キーワード・ストリングは無視されます。

システム・プログラマーの応答

`xxxxxxx` のリソース名を持つ記述子を見つけます。エラーになったキーワードを訂正します。エラーになったキーワード用に IMS が選択したデフォルトが正しくない場合は、正しい記述子を指定して IMS を再始動してください。

問題判別:

1、6、10

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3662W **COMMAND REJECTED BY reason**

説明

このメッセージは、端末からのコマンドが、セキュリティー検査でリジェクトされた場合に発行されます。

拡張コマンド・セキュリティーが IMS システムに組み込まれている場合、コマンドは、最初に RACF セキュリティー検査を受けます。

理由は、次のいずれかです。

RACF; return code
DFSCCMD0
DEFAULT COMMAND SECURITY

RACF がコマンドをリジェクトし、DFSCCMD0 ユーザー出口ルーチンが RACF のリジェクトをオーバーライドしなかった場合、IMS は COMMAND REJECTED BY RACF; return code のメッセージを表示します。

RACF からの可能な戻りコードは、次のとおりです。

USER NOT AUTH; RC=08

ユーザーは、コマンドを RACF から許可されていない。

SIGNON REQUIRED

コマンドは RACF 保護付きになっているが、ユーザーがサインオンしていない。

RACF NOT ACTIVE; RC=12

RACF はアクティブではなく、RACF トランザクション、またはコマンド・クラスがアクティブになっている。

INVALID EXIT RC; RC=16

RACF インストール・システム 出口ルーチンが、無効な戻りコードを戻した。

INSTALL ERROR; RC=20

RACF がインストールされていないか、間違ったレベルの RACF がインストールされている。

RACF POE ERROR; RC=24

RACF プロファイルに条件付きアクセス・リストがあり、セキュリティー・トークンの POE (port-of-entry) フィールドはブランクで埋められ、POE (port-of-entry) クラスはアクティブである。

NO PASSWORD; RC=36

RACF パスワード検証が必要とされているが、パスワードが指定されなかった。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

ユーザーは、リジェクトされたコマンドの使用を許可されていません。リジェクトされたコマンドの使用許可が必要な場合は、システム・プログラマーに依頼してください。

モジュール:

DFSCIOB0

DFS3663I **UNSUPPORTED DEVICE-TYPE**
LOGON REJECTED- NODE xxxxxxxx

説明

ログオンしようとしている端末の CINIT で指定された LU タイプが、IMS によって許可されていない。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

示されている LU のモード・テーブル項目が、IMS の受け入れ可能な LU タイプを指定していることを確認します。指定された LU のモード・テーブル項目が、装置特性を正しく指定していることを検証します。

DFS3664I **DFSDFxxx SYSID nnnn IS**
IGNORED BECAUSE IT IS
ALREADY DEFINED AS A SYSID
FOR A REMOTE SYSTEM

説明

DFSDFxxx PROCLIB メンバーの MSC セクション内の SYSID= パラメーターに指定された nnnn 値は、MSC ネットワーク内のリモート IMS システムで既に SYSID として定義されています。この nnnn 値は無効なローカル SYSID オーバーライド値であるため、IMS はこの値をリジェクトします。

システムの処置

このメッセージは、IMS マスター端末オペレーターにエラー状態を報告するために発行されます。

システム・プログラマーの応答

SYSID= 値を訂正し、IMS を再始動してください。

モジュール:

DFSRMC00

関連タスク

[SYSID の定義 \(コミュニケーションおよびコネクション\)](#)

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの MSC セクション \(システム定義\)](#)

DFS3665W **DESCRIPTOR MSNAME xxxxxxxx**
CONTAINS DUPLICATE REMOTE
LTERM yyyyyyyy.

説明

IMS 初期設定で、記述子 xxxxxxxx に、システム内の別のリモート LTERM と重複する yyyyyyyy のリモート LTERM 名が含まれていることが検出されました。

システムの処置

リモート LTERM xxxxxxxx は無視され、処理は続行されます。

オペレーターの応答:

MSNAME 記述子から、重複するリモート LTERM を除去します。

DFS3666W **DESCRIPTOR NAME xxxxxxxx**
CONTAINS INVALID
CHARACTERS. DESCRIPTOR IS
IGNORED.

説明

IMS 初期設定で、記述子 xxxxxxxx が無効文字を含んでおり、有効なリソース名に関する IMS 規則に準拠していないことが検出されました。すべての記述子名は、1 文字から 8 文字までの英数字、つまり、文字 A から Z、数字 0 から 9、国別文字 #、\$、および @ である必要があります。ログオンおよびユーザー記述子の場合、最初の文字は、英文字 (A から Z、#、\$、または @) である必要があります。

システムの処置

記述子 xxxxxxxx は無視され、処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

エラーになった名前を訂正します。

問題判別:

1、6、10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3667W **DESCRIPTOR xxxxxxxx CONTAINS**
AN INVALID NAME OF yyyyyyyy.
THIS REMOTE LTERM IS IGNORED.

説明

IMS 初期設定で、記述子 xxxxxxxx が、有効な LTERM 名に関する IMS 規則に準拠していないリモート LTERM 名 yyyyyyyy を含んでいることが検出されました。

LTERM 名の規則は、次のとおりです。

- トランザクション名、または MSNAME リンク名と一致させることはできない。
- INQU 文字で開始することはできない。
- WTOR または DFSMTCNT にすることはできない。
- すべてのリモート LTERM 名は、1 文字から 8 文字までの英数字、つまり、文字 A から Z、数字 0 から 9、国別文字 #、\$、および @ である必要がある。

キュー名が LTERM パラメーターで省略されている場合は、フィールド yyyyyyyy には N/A が含まれます。

システムの処置

リモート LTERM xxxxxxxx は無視され、処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

エラーになった名前を変更します。

問題判別:

1、6、10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3668W **DESCRIPTOR xxxxxxxx CONTAINS QUEUE yyyyyyyy WITH AN INVALID NAME.**

説明

IMS 初期設定で、記述子 xxxxxxxx が、有効な LTERM 名に関する IMS 規則に準拠していないキュー名 yyyyyyyy を含んでいることが検出されました。

LTERM 名の規則は、次のとおりです。

- トランザクション名、または MSNAME リンク名と一致させることはできない。
- INQU 文字で開始することはできない。
- すべての LTERM 名は、1 文字から 8 文字までの英数字、つまり、文字 A から Z、数字 0 から 9、国別文字 #、\$、および @ である必要がある。

キュー名が LTERM パラメーターで省略されている場合は、フィールド yyyyyyyy には N/A が含まれます。

システムの処置

記述子 xxxxxxxx は無視され、処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

エラーになったキュー名を変更します。

問題判別:

1074 IMS: メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

1、6、10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3669W **DESCRIPTOR xxxxxxxx CONTAINS QUEUE ALREADY DEFINED BY DESCRIPTOR yyyyyyyy.**

説明

IMS 初期設定で、記述子名 yyyyyyyy の記述子レコードが処理されました。次に続く記述子 xxxxxxxx が、記述子 yyyyyyyy によって作成された制御ブロックと同じ名前前で、制御ブロックの作成を試行しました。

システムの処置

記述子 xxxxxxxx は無視され、処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

両方の記述子から重複キュー名を除去します。

問題判別:

1、6、10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3670W **DESCRIPTOR xxxxxxxx HAS INVALID PARAMETER yyyyyyyy FOR KEYWORD zzzzzzzz. THE DEFAULT WAS USED.**

説明

IMS 初期設定で、キーワード zzzzzzzz のパラメーター yyyyyyyy について、記述子 xxxxxxxx 内のエラーが検出されました。

システムの処置

このパラメーターにはデフォルト値が使用されます。このキーワードの残りのパラメーターはスキップされ、代わりにデフォルトが使用されます。

システム・プログラマーの応答

記述子 xxxxxxxx の無効なパラメーターを訂正してください。

問題判別:

1、6、10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3671I **INVALID DESCRIPTOR
SPECIFIED. DESC = aaaaaaaaa
NODE = bbbbbbbb**

説明

IMS が、ログオン中のノードの CINIT のユーザー・データ・フィールドで指定されたログオン記述子名を認識しませんでした。このメッセージは、無効の記述子名にも発行され、ログオン出口 (DFSLGNX0) で提供されるメッセージをオーバーライドします。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

ログオン要求の中で指定された記述子名が、IMS に対して定義されていることを確認してください。

DFS3672I **SESSION ERROR. TYPE=aaa
CODE=bb QUAL.=cc MSG=dddd
IPADDR..PORT=eee.eee.eee.eee..fff
ff**

説明

セッション確立エラーまたは切断エラーが発生しました。このメッセージは、メッセージ DFSddd によって示される問題の診断を支援する情報を提供します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaa
エラーが発生したときに駆動された VTAM 出口。

bb
エラー位置のコード

cc
エラー位置の修飾子

dddd
DFS メッセージ番号

eee.eee.eee.eee
TCP/IP アドレス

ffff
TCP/IP ポート番号

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答

システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

問題の症状について詳細に識別する場合は、示された情報を使用してください。

関連資料

[修飾子コード \(診断\)](#)

DFS3673W **DESCRIPTOR xxxxxxxx CONTAINS
LTERM yyyyyyyy WHICH IS
STATICALLY DEFINED.**

説明

このメッセージは、リモート LTERM または記述子 xxxxxxxx のキューがシステムに定義済みの場合に出力されます。yyyyyyy が定義済みの場合、システム定義を行うときにこれを定義する必要があります。

システムの処置

リモート LTERM の場合は、これは無視されます。記述子のキューの場合、ユーザー記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答

システム定義の記述子または LTERM 定義を除去します。

問題判別:

1、6、10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3674W **MNPS SPECIFIED, USERVAR
IGNORED**

説明

拡張リカバリー機能 (XRF) 環境において、IMS 初期設定中時に、IMS 実行パラメーターまたは DFSHSBxx PROCLIB メンバー内に MNPS および USERVAR キーワードの両方が指定されました。これらは相互に排他的なキーワードであり、MNPS キーワードは USERVAR キーワードに優先します。

システムの処置

IMS は、MNPS を使用して XRF を操作します。USERVAR は無視されます。

オペレーターの応答

MNPS が希望する環境であることを確認し、必要であれば、IMS を再初期設定してください。

システム・プログラマーの応答

MNPS と USERVAR が IMS 実行パラメーターか PROCLIB メンバー、またはその両方で正しく定義されていることを確認します。

モジュール:
DFSAINBO

**DFS3675I INVALID LOGON TO THE APPLID
 ACB - NODE *nodename***

説明

拡張リカバリー機能 (XRF) 環境では、IMS がセッション・パーシスタンスのために MNPS を使用していました。結果として、2 つの VTAM アプリケーション制御ブロック (ACB) (MNPS ACB および APPLID ACB) が使用されていました。APPLID ACB は、MTO および XRF 監視リンクでのみ使用できます。しかし、MTO でも監視リンクでもない VTAM 端末 *nodename* が、APPLID ACB にログオンしようとしていました。

システムの処置

IMS は、ログオンの試みをリジェクトします。

オペレーターの応答

その端末を MNPS ACB にログオンしてください。/
OPNDST コマンドを使用して、この ACB を自動的に使用するか、/**DISPLAY ACTIVE DC** または /**DISPLAY HSB** を使用して MNPS ACB 名を判別してください。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSCNXA0

**DFS3676I ETO SUPPORT NOT AVAILABLE-
 FEATURE NOT INSTALLED OR
 LICENSED.**

説明

拡張端末オプション (ETO) の初期設定が、実行パラメーター ETO=Y を使用して要求されていました。しかし、初期設定で、ETO 機能がインストールされていないかライセンスされていないことが検出されました。

システムの処置

IMS の初期設定は、異常終了コード 3476 で終了しません。

オペレーターの応答

システム・プログラマーの応答を参照してください。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、IMS 実行パラメーターを ETO=N に変更すれば発行を止められます。ETO が必要であれば、それがインストールされているかライセンスされている必要があります。

問題判別:

1、6、10、13

関連情報

[IMS 異常終了 3476](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3677W aaaaaaaa HAS AN INVALID
 PARAMETER FOR KEYWORD
 bbbbbbbb. KEYWORD IS
 IGNORED, DEFAULT NOT USED.**

説明

IMS は、動的端末記述子を処理していたときに、キーワード *bbbbbbbb* に無効なパラメーターを検出しました。

システムの処置

キーワードは無視されますが、デフォルトは使用されません。

システム・プログラマーの応答

リソース名 *aaaaaaaa* の記述子を見つけてください。無効なパラメーターを訂正します。このキーワードを使用せずに IMS を実行できない場合は、IMS を再始動する必要があります。

問題判別:

1、6、10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3678E TYPE *t* DESCRIPTOR *desc_id* IN
 MEMBER *member* EXCEEDS THE
 MAXIMUM OF *nnn*. IT WAS
 IGNORED.**

説明

DFSYDTx PROCLIB メンバー内のタイプ *t* 記述子の数が、その記述子タイプに定義できる最大数 *nnn* を超えています。メッセージで特定される記述子は無視されます。

OTMA では、記述子を、DFSYDTx PROCLIB メンバーにおいてコーディングされている順序で初期化します。メッセージ・テキストで *desc_id* により特定される記述子は、加えたことで最大数を超過することになった記述子ではない場合もあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

t

記述子タイプ (D または M)。

タイプ D 記述子は、OTMA 宛先記述子です。タイプ M 記述子は、OTMA クライアント記述子、および DFSOTMA 記述子 (定義されている場合) です。

desc_id

記述子の ID。タイプ D 記述子の場合、これは、宛先名です。タイプ M 記述子の場合、これは OTMA クライアント名です。

member

その記述子が入っている、IMS.PROCLIB データ・セット内の OTMA DFSYDTx メンバーの名前。

nnn

t で示される記述子タイプの記述子の最大許容数。

システムの処置

このメッセージが発行され、OTMA では記述子が無視され、IMS 通常どおり実行を継続します。メッセージ・テキストで特定される記述子にあるクライアントまたは宛先の定義は使用不可です。

プログラマーの応答

メッセージ・テキストに示された記述子タイプの記述子の最大許容数を調整するか、不要になった記述子を削除または再使用します。

クライアント (タイプ M) 記述子の最大数は、DFSOTMA 記述子の MDESCMAX パラメーターで定義されます。デフォルトは、255 です。

宛先 (タイプ D) 記述子の最大数は、DFSOTMA 記述子の DDESCMAX パラメーターで定義されます。デフォルトは、510 です。

ALTPCB 宛先の宛先記述子の場合、新しい記述子を入れるために最大許容数を増やすことができず、かつ既存の宛先記述子の削除や変更もできない場合は、OTMA 宛先解決出口ルーチン (OTMAYPRX) および OTMA ユーザー・データ・フォーマット設定出口ルーチン (DFSYDRUO) で定義をコーディングすることができます。

クライアント記述子または DFSOTMA 記述子を変更した場合は、IMS を再始動して、変更内容をオンライン IMS システムに追加します。

DFSYDTx メンバー内の宛先記述子を変更した場合は、IMS をコールド・スタートして、変更内容をオンライン・システムに追加する必要があります。

UPDATE OTMADESC、DELETE OTMADESC、および CREATE OTMADESC の各コマンドを使用して宛先記述子を変更または置換した場合は、IMS を再始動する必要はありません。

モジュール:

DFSYIDCO

関連資料

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSYDTx メンバー \(システム定義\)](#)

DFS3679E THE DIRECTORY DATA SET IS FULL.

説明

IMS ディレクトリー・データ・セットが満杯です。

システムの処置

IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドの処理または DDL 定義の自動活動化の処理は異常終了します。**IMPORT** コマンドまたは DDL ステートメントの再サブミット時に、IMS は自動的に、内部で IMS ディレクトリーに新規データ・セットを割り振ります。

ユーザーの処置

IMPORT コマンドまたは DDL ステートメントを再サブミットしてください。一部のリソース変更が既に処理されている可能性があるため、理由コード 121 (リソースに変更がない) またはメッセージ DFS4387I が表示されるのは正常な状態です。

モジュール:

DFSMOLS0

関連情報

[IMS ディレクトリー・データ・セット \(システム定義\)](#)

**DFS3680W UNABLE TO ADD EDIT ROUTINE
XXXXXXXXX IN DESCRIPTOR
YYYYYYYYY TO TABLE. DESCRIPTOR
IGNORED.**

説明

IMS は、動的ユーザー編集ルーチン名およびアドレス・テーブルのサイズを拡張できない場合、初期設定中にこのメッセージを発行します。

システムの処置

記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答

IMS で使用可能な仮想ストレージの量を増やしてください。

問題判別:

1、6、10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3681W	DESCRIPTOR NAME XXXXXXXX SAME AS TRANSACTION NAME.
-----------------	---

説明

このメッセージは、LU 6.2 記述子初期設定ルーチンが、ETO 初期設定ルーチンによって初期設定されたトランザクション名と同じ名前の記述子を作成しようとした場合に出力されます。

システムの処置

LU 6.2 記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答

入力から記述子定義を除去します。

問題判別:

1、6、10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3682W	DESCRIPTOR NAME XXXXXXXX SAME AS STATIC LTERM NAME.
-----------------	--

説明

このメッセージは、LU 6.2 記述子初期設定ルーチンが、ETO 初期設定ルーチンによって初期設定された静的 LTERM トランザクション名と同じ名前の記述子を作成しようとした場合に出力されます。

システムの処置

LU 6.2 記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答

入力から記述子定義を除去します。

問題判別:

1、6、10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3683W	DESCRIPTOR NAME XXXXXXXX SAME AS DESCRIPTOR LTERM NAME.
-----------------	--

説明

このメッセージは、LU 6.2 記述子初期設定ルーチンが、ETO 初期設定ルーチンによって初期設定された記述子 LTERM トランザクション名と同じ名前の記述子を作成しようとした場合に出力されます。

システムの処置

LU 6.2 記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答

入力から記述子定義を除去します。

問題判別:

1、6、10

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3684W	DESCRIPTOR xxxxxxxx EXCEEDS THE MAXIMUM OF 8 LTERMS. DESCRIPTOR IGNORED.
-----------------	---

説明

IMS は、動的記述子の初期設定を実行していて、最大数の 8 個を超える LTERM= キーワードを持つユーザー記述子を検出しました。

システムの処置

記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答

ユーザー記述子上で指定されている LTERM キーワードの数を 8 個以下に減らして、IMS を再始動します。

問題判別:

1、6

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3685I *variable output headings***説明**

このメッセージは、ACB Generation and Catalog Populate ユーティリティ (DFS3UACB) によって書き込まれた出力の可読性を向上させるために発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

variable output headings

このメッセージとともに表示される出力見出しには、次のものが含まれます。

- COMBINEDACBGEN&POPULATEUTILITY
- *** POPULATIONINPUTPARMS ***
- *** ENDOFPOPULATIONPARMS ***

システムの処置

DFS3UACB ユーティリティは処理を継続し、コンソールへの出力の書き込みを継続します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3UACB

関連資料

[ACB Generation and Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3UACB\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS3686I *variable message text RC=rc***説明**

このメッセージは、ACB Generation and Catalog Populate ユーティリティ (DFS3UACB) の処理状況を示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

DFS3UACB ユーティリティによって発行された戻りコード (ある場合)。

variable message text

このメッセージとともに表示される出力見出しには、次のものが含まれます。

- DFS3UACB ACBGEN PROCESS COMPLETED SUCCESSFULLY, RC=00

- DFS3UACB ACBGEN PROCESS COMPLETE, RETURN CODE RC=xx
- DFS3PPRM DD CARD FOUND, DEFAULT PARMS BEING OVERRIDDEN
- DFS3UACB CATALOG POPULATE PROCESS COMPLETED SUCCESSFULLY, RC=00
- DFS3UACB CATALOG POPULATE PROCESS COMPLETE, RETURN CODE RC=xx

システムの処置

処理は、最後の状況メッセージが出されるまで継続します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3UACB

関連資料

[ACB Generation and Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3UACB\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS3687E *variable message text***説明**

ACB Generation and Catalog Populate ユーティリティ (DFS3UACB) でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

variable message text

メッセージ番号に続くメッセージ・テキスト。メッセージ・テキストは、次のいずれかになります。

- DFS3PPRM DD DUMMY NOT ALLOWED
- AN ERROR OCCURRED OPENING THE DFS3PPRM DATASET
- NO DFS3PPRM STATEMENTS FOUND
- UNEXPECTED ERROR - UNABLE TO DETERMINE SOURCE

システムの処置

処理は、最後の状況メッセージが出されるまで継続します。

プログラマーの応答

DFS3PPRM DD ステートメントを提供する意図があった場合は、エラーを訂正し、ユーティリティを再実行してください。

IMS Catalog Populate ユーティリティー (DFS3PU00) のデフォルト設定が受け入れ可能な場合は、何も処置を取る必要はありません。

モジュール:
DFS3UACB

関連資料

ACB Generation and Catalog Populate ユーティリティー (DFS3UACB) (システム・ユーティリティー)

**DFS3688I Transaction aaaaaaaaa expired:
EXPRTIME=nnnnnn,
ELAPSE=ssssss**

または

Transaction expired

または

**Transaction aaaaaaaaa expired: ELAPSE=ssssss
TPIPE=pp TMBER=mm**

説明

トランザクションの有効期限が切れたため廃棄されました。このメッセージは、通知メッセージとして端末に送信されます。トランザクションが有効期限切れであるという判断は、トランザクションの到着時刻と GU 時刻でのストア・クロック (STCK) 値との差に基づいて行われました。差は、スケジューラー・メッセージ・ブロック (SMB) の EXPRTIME 値と比較されます。差が EXPRTIME 値と同じかそれ以上であれば、トランザクションは廃棄され、ログ・レコード X'67D0' が書き込まれます。メッセージで、TRAN は TRANSACT マクロの SMBNAME、EXPRTIME は EXPRTIME パラメーター、ELAPSE は GU 時刻の STCK 値とトランザクションの到着時刻との差です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

トランザクション・コード。

mm

OTMA 入力メッセージの tmember 名。

nnnnnn

SMB で指定されるタイム・スタンプ。

pp

OTMA 入力メッセージの T パイプ名。

ssssss

トランザクションの到着時刻と GU 時刻でのストア・クロック (STCK) 値との差。経過時間は 16 進数で表されます。

このメッセージは、DFSPOOL GET が失敗したときに限り、再度端末に送信されます。

システムの処置

トランザクションを廃棄した後、システムはメッセージ・キュー内の次のトランザクションを取り出して処理します。メッセージがない場合は、QC 状況コードがメッセージ処理プログラム (MPP) に返されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3689W USE OF {TRAN|LTERM|DB|PROG}
resourcename BY {LOCK|UNLOCK}
REJECTED; reason**

説明

/LOCK または /UNLOCK コマンドのパラメーターとして入力されたトランザクション、LTERM、データベース、またはプログラム・リソースは、コマンドを入力したユーザーによる使用が許可されていません。リジェクトの reason は、以下のとおりです。

RESOURCE NOT AUTH; RC=08

ユーザーは、その IMS リソースに対する許可を RACF から受けていない。

RACF NOT ACTIVE; RC=12

RACF がアクティブでない。

BY RACF EXIT; RC=16

RACF 出口が示した戻りコードが無効であった。

INSTALL ERROR; RC=20

RACF がインストールされていないか、間違ったレベルの RACF がインストールされている。

RACF POE ERROR; RC=24

RACF プロファイルに条件付きアクセス・リストがあり、セキュリティ・トークンの POE (port-of-entry) フィールドはブランクで埋められ、POE (port-of-entry) クラスはアクティブである。

RACF DS DELETED; RC=28

リソース・クラスが RACROUTE REQUEST=LIST GLOBAL=YES によって選択されたが、RACF データ・スペースは削除された。

NO PASSWORD; RC=36

ユーザー検査が必要だが、パスワードが提供されなかった。

WRONG PASSWORD; RC=40

ユーザー検査がパスワードで失敗した。

IMS EXIT CD; RC=xx

IMS リソースが許可されなかった。xx は戻りコードです。

注: RC= は 10 進値を表します。

ユーザー作成 IMS 出口ルーチンによって、追加のコードを提供できます。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答:

正しいパスワードを使用してコマンドを再入力するか、セキュリティに違反しない別の IMS リソースを入力してください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

ありません。

モジュール:

DFSICL90

DFS3690	XRF CLASS 1 RECOVERY CHANGED TO CLASS 2 NODE X (USER Y)
----------------	--

説明

ノード X が XRF クラス 1 サポート用に定義されましたが、代替 IMS システムによるテークオーバー・プロセス時にセッションを正しくリカバリーできませんでした。ノード X のテークオーバーは、クラス 2 サポートに変更されます。

システムの処置

ノード X を使用するセッションは終了され、その後、XRF クラス 2 サポートの定義に従って、IMS によって自動的に再始動されます。追加情報は、IMS トレース・レコード (ID が「HCSW」、「CVCV」、および「CVCT」の X'6701') を使用して入手できます。サインオンが必要な場合は、DFS3649A /SIGN COMMAND REQUIRED メッセージが送信されます。

オペレーターの応答:

(端末オペレーターの入力) 必要に応じて再度サインオンするには、端末オペレーターが必要です。最後の入力を再入力してください。そうすると、IMS によって最後の出力が再送信される場合があります。

プログラマーの応答

IMS は、ノード X を使用するセッションを自動的に終了し、その後、自動的に再度確立しようとします。以降のセッションで障害が発生した場合、セッションもノード X または IMS /OPNDST コマンドによって再確立できません。

問題判別:

1、5、6、12、14、36

モジュール:

DFSCMT50

関連情報

DFS3649A

/SIGN COMMAND REQUIRED.

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3691W	GENERIC RESOURCES START/ STOP FAILED, SETLOGON RC= xx,FDB2=yy
-----------------	--

説明

IMS システムが総称リソース・グループを結合しようとしていましたが、失敗しました。

システム・プログラマーの応答

RC および FDB2 フィールドの説明については、「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」(SC31-8791) または「VTAM Messages and Codes」(SC31-6493) を参照してください。問題を訂正した後、再試行します。

RC=14x および FDB2=86x の場合、問題の原因は、IMS を使用する既存の VTAM セッションです。アクティブな VTAM 端末 (MTO を含む) について、VTAM 以外の端末 (システム・コンソールなど) から /CLSDST NODE コマンドを発行してください。

関連資料

z/OS: RPL RTNCD および FDB2 戻りコードの組み合わせ

DFS3692W	GENERIC RESOURCES INVALID FOR XRF SYSTEMS, GRSNAME IGNORED.
-----------------	--

説明

総称リソース・コマンドが、拡張リカバリー機能 (XRF) 対応システムで試行されました。IMS XRF システムは、総称リソース・グループのメンバーとして加わることはできません。

DFS3693W	SYSTEM NOT GENERIC RESOURCES CAPABLE - COMMAND REJECTED
-----------------	--

説明

総称リソース・コマンド (/DISPLAY AFFIN など) が、現在は総称リソースをサポートする構成ではない IMS システム上で発行されました。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

TCP/IP 総称リソースまたは VTAM 総称リソースを使用可能にしてから、コマンドを再入力してください。

DFS3694W	START GENERIC RESOURCES TERMINATED, VTAM FUNCTION NOT ENABLED
-----------------	--

説明

IMS が総称リソース・グループを結合しようとしたが、VTAM が総称リソース機能用に使用可能になっていません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答

VTAM がシスプレックスに対応しており、総称リソース CF 構造 ISTGENERIC に接続されていることを確認します。この訂正を行った後に、**/START VGRS** コマンドを使用して、IMS 総称リソースの開始を試みることができます。

プログラマーの応答

総称リソースを使用可能にして、コマンドを再度入力します。

DFS3700	PARAMETER ALL NOT VALID WITH KEYWORD
----------------	---

説明

コマンドに指定されたキーワードに対して、パラメーター ALL を使用できません。IMS キーワード・テーブル (DFSCKWDO) が変更されたため、KEYWD マクロで **ALL=NO** を指定することによって IMS コマンド (ただし、AOI アプリケーションによって入力されるコマンドは除く) のこのキーワードに ALL パラメーターを使用することができなくなっています。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 可能な場合は、個別リソース名またはリソース名範囲を指定して、コマンドを再入力します。

関連資料

[IMS コマンド言語変更機能 \(DFSCKWDO\) \(出口ルーチン\)](#)

第 78 章 DFS メッセージ DFS3701I - DFS3750A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3701I **INSUFFICIENT STORAGE TO
RESTART AREA *areaname*-AREA
STOPPED**

説明

緊急時再始動時に、緊急時再始動プロセッサ DBFERSTO が、指定された DEDB エリア・データ・セットのリカバリーに使用する内部制御ブロック ADSC のストレージを取得できませんでした。このため、DBFERSTO はエリアを再始動できませんでした。

システムの処置

指示されたエリアは停止し、緊急時再始動が続行されま
す。

プログラマーの応答

仮想ストレージを増やして IMS を再始動するか、現行
の再始動を続けて、指示されたエリアにデータベース・
リカバリー・ユーティリティ DFSURDB0 を実行しま
す。

DFS3702I **AREA/ADS OPEN FAILED
REASON CODE=*nn message*
subtext**

説明

IMS がシャットダウンされようとしているか、IRLM が
この IMS から切断されようとしています。

DEDB エリアまたは ADS のオープンに失敗しました。
理由コードで障害の原因が示されます。2 番目のメッ
セージには、次のいずれかの理由コードが含まれ、
message subtext (nn) には、エラーの理由が簡単に説明
されています。

コード (10 進数)

メッセージ・サブテキスト

- 01** AREA=*areaname* DD=*ddname* DEVICE TYPE NOT
SUPPORTED
- 02** AREA=*areaname* DD=*ddname* EQE EXISTS
- 03** LOCK FOR UPDATE TO AREA=*areaname* FAILED
- 04** AREA=*areaname* CI SIZE > USER DEFINED
BUFFER SIZE

- 05** AREA=*areaname* BUFFER PAGE-FIXING FAILED
- 06** AREA=*areaname* AUTHORIZATION FAILED
- 07** UNLOCK FOR UPDATE TO AREA=*areaname* FAILED
- 08** LOCK FOR READ TO AREA=*areaname* FAILED
- 09** AREA=*areaname* HAS NO AVAILABLE ADS
- 10** AREA=*areaname* DD=*ddname* DUPLICATE *ddname*
FOUND
- 11** AREA=*areaname* SPACE FOR ADSC(S)
UNAVAILABLE
- 12** AREA=*areaname* RECEIVED A BAD RETURN CODE
FROM DBRC
- 13** AREA=*areaname* DD=*ddname* MEDIA MANAGER
CONNECT FAILED
- 14** AREA=*areaname* DD=*ddname* INCONSISTENT
DSN SPECIFIED BETWEEN IN RECON AND IN
ALLOCATED DATA SET
- 16** AREA=*areaname* VSO I/O TOLERATED DATA LOST
- 17** AREA=*areaname* DD=*ddname* ALLOCATION
FAILED
- 18** AREA=*areaname* UPDATE LEVEL INCONSISTENCY
EXISTS
- 19** AREA=*areaname* DD=*ddname* 2ND CI I/O ERROR
OCCURRED
- 20** AREA=*areaname* DD=*ddname* RDJFCB/MODCB
ERROR
- 21** AREA=*areaname* ACCESS INTENT IS NOT UP/EX
FOR REORGANIZATION RECOVERY
- 22** AREA=*areaname* REORGANIZATION
IDENTIFICATION FAILED

- 23** AREA=*areaname* ALL THE ADS'S ENCOUNTERED 2ND CI ERROR
- 24** AREA=*areaname* NOTIFY TO OTHER SUBSYSTEM(S) FAILED
- 25** AREA=*areaname* SOME ADS ENCOUNTERED 2ND CI ERROR
- 26** AREA=*areaname* ACBLIB AREA NUMBER NOT EQUAL DMAC
- 27** AREA=*areaname* DD=*ddname* GETMAIN FOR MEDIA MANAGER CONTROL BLOCKS FAILED
- 28** AREA=*areaname* DBD AND DATA SET DEFINITIONS INCONSISTENT
- 29** AREA=*areaname* IMS LEVEL OF AREA NOT SUPPORTED
- 30** AREA=*areaname* CALC. NEXT SDEP NOT WITHIN SDEP RANGE.
- 31** AREA=*areaname* DD=*ddname* THE HIGH RBA IS LESS THAN THE END OF THE AREA
- 34** AREA=*areaname* 2ND CI EEQE OWNED BY SHARING SYSTEM
- 35** AREA=*areaname* UNABLE TO OBTAIN VSO CONTROL BLOCK
- 36** AREA=*areaname* UNABLE TO OBTAIN VSO CONTROL BLOCK
- 37** AREA=*areaname* REQUEST FOR DATA SPACE FAILED
- 38** AREA=*areaname* DATA SPACE AUTHORIZATION FAILED
- 39** AREA=*areaname* UNABLE TO OBTAIN VSO CONTROL BLOCK
- 40** AREA=*areaname* IMODULE GETMAIN FAILURE OCCURRED
- 41** AREA=*areaname* COUPLING FACILITY CONNECT FAILED

- 42** AREA=*areaname* VSO AREA HAS IOT EEQES
- 44** AREA=*areaname* DD=*ddname* MADS I/O timing is detected
- 45** AREA=*areaname* REQUEST FOR VLOCK FAILED.
- 46** AREA=*areaname* IS IN A QUIESCE STATE.

システムの処置

DEDB エリア・データ・セット作成ユーティリティーの処理中に ADS 障害が発生した場合は、指定エリアの処理が続行されます。無効の戻りコードがユーティリティーに戻されます。それ以外の場合、エリアは停止します。

プログラマーの応答

コード (10 進数) 意味

- 01** 指定 ADS にディスク装置が指定されている場合は、該当する VSAM カタログまたは JCL DD ステートメントをチェックします。動的割り振りが発生した場合は、動的割り振りパラメーター・リストをチェックして、指定の ADS に指定された装置タイプを見つけます。異なる装置タイプが指定されている場合は、装置タイプをディスク装置に訂正して、ジョブを再実行します。
- 02** この状態は発生してはなりません。指定された ADS が使用可能状況に変更された理由をチェックします。指定された ADS の状況を使用不能状況に変更した後、ジョブを再実行します。
- 03** アプリケーション・プログラムは、従属領域が異常終了すると終了します。ロックのトレース機能を準備した後、ジョブを再実行します。

この理由コードは、アクティブ待機者の PI 制限である 63 に達したため、高速機能エリアのオープンが失敗した場合に出力されます。
- 04** 指定されたエリアのデータベース定義 (DBD) および VSAM 定義をチェックします。また、始動プロシージャの BSIZ もチェックします。制御インターバル (CI) サイズまたはバッファー・サイズ (BSIZ) を訂正して、ジョブを再実行します。
- 05** 割り振りバッファーの数が、バッファー割り振り要求を満たすのに十分ではありません。割り振りバッファーの数は、IMS EXEC パラメーターの DBBF パラメーターによって定義されます。

dbbf 値の説明については、IMS システム定義の説明を参照してください。

06

メッセージ DFS3709A または DFS3711A のプログラマー応答に従ってください。このメッセージの前にどちらかのメッセージがあるはずです。

07

このメッセージの理由コード 03 についての説明を参照してください。

08

このメッセージの理由コード 03 についての説明を参照してください。

09

DBRC RECON データ・セットの ADS リストをチェックし、**CHANGE.ADS** コマンドを使用して、少なくとも 1 つの ADS を使用可能状態に変更します。

10

指定された DD 名は、IMS サブシステム内に存在し、これは、ADS のオープンが完了していることを意味します。ADS がすでに開いている場合は、指定された DD 名の DD ステートメントを削除します。指定された DD 名が誤っており、IMS サブシステム内の別の DD 名と一致している場合は、入力 DD 名を訂正してジョブを再実行します。

11

後で共通サービス域 (CSA) の利用率が低くなつてからジョブを再実行します。

12

指定エリアの DBRC RECON データ・セットに対して指定された情報をチェックします。誤りがある場合は、エラーを訂正してジョブを再実行します。

13

このメッセージの前のメッセージ DFS2569I のプログラマー応答に従います。

14

DBRC RECON データ・セットの ADS リスト、JCL DD ステートメント、または動的割り振りパラメーター・リストに指定された DSNAME が誤って指定されています。指定された DSNAME を訂正して、ジョブを再実行します。

16

ケース 1

XRF テークオーバーが発生したときに、エリアの仮想記憶オプションがアクティブであり、EEQE が作成されて、エリアのデータ・スペースに I/O 許容データがあることが示されました。I/O 許容ページの前に、次のイベントのいずれかが発生しました。

- サーバー・エラーによりエリアが内部的にシャットダウンされ、リカバリーが行われていない。

- IMS に障害が起こり、コールド・スタートで再始動されたが、まだリカバリーが行われていない。

ケース 2

VSO エリアがその構造への接続を失ったので、エリアには古い構造の I/O 許容データがあることを示すために、RBA 0 についての EEQE が作成されました。領域が古い構造に再接続することができる場合、IMS は I/O 許容データを解消し、EEQE を削除します。エリアが新しい構成に接続された場合、古い構造の I/O 許容データは失われます。

いずれの場合も、I/O 許容データが失われるため、エリアをリカバリーする必要があります。ADS が使用不可とマーク付けされていることを確認してください。データベース・リカバリー・ユーティリティを実行して、失われたデータをリカバリーし、EEQE を削除します。

17

DD ステートメントが指定されている場合は、正しい DD 名を指定します。DD ステートメントが欠落している場合は、DD ステートメントを指定してください。(DD ステートメントは、制御領域 JCL 内にあります。)動的割り振りが失敗した場合は、DFS2502W または DFS2503W のプログラマーの応答に従います。それから、ジョブを再実行してください。

18

データベース印刷プログラムまたは VSAM アクセス方式サービス・プログラムを実行して、すべてのエリア・データ・セットを印刷します。少なくとも 1 つの正しい ADS を見つけて、正しくない ADS に対して **CHANGE.ADS** コマンドを発行し、使用可能状況を使用不能状況に変更しジョブを再実行します。または、リカバリー手順に従います。

19、20

指定の ADS が使用不能状況に設定されている場合は、DBRC RECON データ・セットをチェックします。指定の ADS が使用可能状況に設定されている場合は、**CHANGE.ADS** コマンドで状況を変更し、ジョブを再実行します。

21

再編成リカバリーが要求されたが、ACCESS INTENT が UP または EX のいずれでもありません。/**START DB ACCESS** コマンドまたは **UPDATE DB START (ACCESS) SET (ACCTYPE())** コマンドで ACCESS INTENT を UP または EX に設定し、ジョブを再実行します。

22

システムが、サブシステムで再編成ユーティリティが実行しているか、または実行されていたかを検出しようとしたが、失敗しました。IMS または IRLM が正しく機能していないために通知エラーが起きている可能性があります。ジョブを再実行し、

同じエラーが続く場合は、IMS、IRLM、またはその両方を再始動してください。

23

ブロック・レベル共用環境で再編成リカバリーが正常に終了し、システムが2番目のCIまたはエリアを更新しようとしたのですが、失敗しました。データベース・リカバリー・ユーティリティを実行してエリアをリカバリーし、ジョブを再実行します。

24

ブロック・レベル共用環境で再編成リカバリーが正常に終了し、システムが他のサブシステムのエリアの2番目のCIを更新しようとしたのですが、失敗しました。IMSまたはIRLMが正しく機能していないために通知エラーが起きている可能性があります。ジョブを再実行し、同じエラーが持続する場合は、IMSかIRLM、またはその両方を再始動し、その後、ジョブを再実行してください。

25

DBRC RECON データ・セットで使用不能なエリア・データ・セットをチェックします。エリア・データ・セットをリカバリーするには、DEDB エリア・データ・セット作成ユーティリティを実行するか、またはジョブを再実行します。

27

共通サービス域 (CSA) 使用率が低くなってからエリアを開始します。

28

DMAC の DBD 情報が、エリアまたはエリア・データ・セットの2番目のCIで検出されたエリア定義と矛盾しています。

注：このメッセージは、DEDB 変更ユーティリティが実行され、再始動前に PREOPEN によりエリアがオープンされるか、またはログ・レコード・ストリームに基づいて DEDB 変更を完了するために XRF トラッカーがログ・レコードを処理した場合に表示されます。DEDB エリアのリカバリーを試みる前に、IMS メモリーからの DMAC が、ADS 上の DMAC に一致することを確認してください。この確認は、手動で DMAC を検査するか、または **/STO AREA**、**/STA AREA** を発行し、DEDB エリアにアクセスするためにジョブを実行することによってエリアを強制的にオープンすると実行できます。DMAC が一致するか、あるいはエリアにアクセスできる場合、それ以上の処置は必要ありません。

次のいずれかのイベントが発生しました。

1. エリア定義が DBDGEN によって変更された (CISIZE、UOW エレメントの数、RAPS の数など)。DBDGEN を変更するには、これを再定義してジョブを再実行します。
2. エリアが異なる特性 (CISIZE または CYLINDERS など) によって再定義された。エリア定義を変更するには、UNLOAD/LOAD 操作によってエリアを再編成する必要があります。最後の DBDGEN および VSAM DEFINE について、現

行の特性またはエリア・データ・セットとの整合性を確認してください。

29

エリアのオープン中、エリアの2番目のCIに、バージョン1リリース3以前のIMSリリース・レベル用の構造が検出されました。IDの誤りの理由を判別してください。正しいデータ・セットを使用して、ジョブを再実行します。

エリアを再初期設定する必要があります。エリアをアンロードし、初期設定ユーティリティを実行してからエリアを再ロードします。

30

順次従属 (DMACNXTS) を挿入する次の位置として計算されたRBAが、エリアの順次従属の有効なRBAの範囲内にありません。エリアの2番目のCIを印刷します。エラーが2番目のCI (DMAC) によるものでないことが明らかな場合は、IBMソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

31

AREA/ADS の高使用RBAが、高割り振りRBAに等しくありません。VSAMに高速機能エリア (Fast Path AREA) が定義されていますが、高速機能フォーマット / 初期設定プログラムが実行されていないか、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティまたはDEDBエリア・データ・セット作成ユーティリティが正しく完了していません。

カタログのリスト (**LISTCAT**) コマンドを使用して、高使用および高割り振りの値を見つけます。AREA/ADS を削除して再定義します。DEDB 初期設定ユーティリティとデータ復元用のアプリケーション、またはデータベース・イメージ・コピー・ユーティリティと順方向リカバリー方式を使用して、AREA/ADS をリカバリーします。

34

指定されたエリアをオープン処理している間、エリアの2番目のCIに対してEEQEが存在し、EEQEが共用IMSサブシステムによって所有されていると判別されました。共用サブシステムで**/UNLOCK SYSTEM** コマンドを使用して、EEQEを除去してください。

35

エリアのオープン中に、VSO制御ブロックへの要求に失敗しました。CSA使用率が低くなってから、ジョブを再実行します。

36

エリアのオープン中に、新規VSO制御ブロックへの要求に失敗しました。CSA使用率が低くなってから、ジョブを再実行します。

37

エリアのオープン処理中に新規データ・スペースが要求されましたが、要求に失敗しました。このメッセージの前のDFS2444Iを参照してください。

38 エリアのオープン処理中に新規データ・スペースが取得されましたが、データ・スペースの許可要求に失敗しました。このメッセージの前の DFS2445I を参照してください。

39 エリアのオープン中に、新規 VSO 制御ブロックへの要求に失敗しました。CSA 使用率が低くなってから、ジョブを再実行します。

40 IMS に割り振られた CSA/ECSA ストレージが不十分でないかどうか、または過度のストレージが使用されていないかどうかを判別してください。

41 エリアがカップリング・ファシリティにロードされていません。前にメッセージ DFS2819A がなければ、この状態によりエリアへのアクセスは妨げられません。

42 /START AREA または UPDATE AREA START (ACCESS) コマンドが発行されましたが、エリアは IOT EEQE があるために開始されませんでした。メッセージ DFS3702I RSN=42 より前に、メッセージ DFS2492I が生成されます。追加情報については、メッセージ DFS2492I を参照してください。

45 ADS は、オープン時に引き続き長時間使用中モードになっています。SVSO エリアのオープン処理中に、VLOCK を取得する要求が失敗しました。このロックは、データ共用環境全体で SVSO 処理をシリアル化します。

46 UPDATE AREA STOP (QUIESCE) コマンドを発行して、静止を停止します。

関連情報

728 ページの『DFS2492I』
AREA aaaaaaaaa HAS IOT EEQE - CANNOT
ACTIVATE VSO

1088 ページの『DFS3709A』
UNABLE TO OBTAIN AUTHORIZATION FOR
DATA BASE dbname AREA areaname. REASON
CODE=nn

1092 ページの『DFS3711A』
NONRECOVERABLE DEDB AUTHORIZATION
ERROR DEDB=ddddddd AREA=aaaaaaaa

DFS3704E DFSFIDNO VER/REL=vvvv/rrrr,
DFSRNID VER/REL=vvvv/rrrr

説明

ESAF 未確定通知出口ルーチン・モジュール (DFSFIDNO) が、その出口ルーチンの入力パラメータ

ー・リストである DFSRNID と互換性のあるリリースまたはバージョン・レベルではありません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

vvvv
バージョン番号

rrrr
リリース番号

DFSFIDNO 出口ルーチンのバージョン番号とリリース番号は、DFSRNID パラメータ・リストのものと一致していなければなりません。

システムの処置:

この出口ルーチンは障害を報告し、制御を IMS に返します。

ユーザーの処置:

IMS に対して正しい DFSFIDNO 出口ルーチン・モジュールが定義されていることを確認してください。

問題判別:

このメッセージは、DFSRNID が入力データを出口ルーチン・モジュールに渡そうとしていること、およびその出口ルーチン・モジュールが同じレベルでないためにデータを解釈できないことを示します。

DFS3703I SIZE OF INDEPENDENT
OVERFLOW HAS BEEN INCREASED
FOR AREA xxxxxxxx AREA DATA
SET DDN adsname

説明

DEDB エリア xxxxxxxx のオープン処理中に、ACBLIB の DBD とエリア・データ・セットの間の違いが検出されました。これらの違いは、ユーザーが DBDGEN を使用して、エリアの独立オーバーフロー部分のサイズを増やしたことを示します。

システムの処置

ACBLIB の情報を含む制御ブロックが ADS の情報に基づいて更新され、通常のオープン処理が続行されます。

ユーザーの処置

エリアの IOVF のサイズが DBDGEN によって増加した場合、アクションは必要ありません。

DFS3705I AREA=areaname DD=ddname
CLOSED

説明

エリアまたは ADS に対する /STOP ADS または /STOP AREA コマンドによる内部停止要求によって、データ・セットが正常にクローズされました。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

エラー条件または内部停止要求の発行によって ADS がクローズされ、このメッセージに続いてリカバリー必要状況を示すメッセージ DFS2574I がマスター端末オペレーターに出力された場合は、エリアまたは ADS のリカバリー・ユーティリティーを実行依頼します。リカバリー必要状況と合わせてメッセージ DFS2574 が出ない場合、アクションは必要ありません。

関連情報

752 ページの『DFS2574I』
AREA=aaaaaaaa CLOSED|STOPPED,
(RECOVERY NEEDED, RSN=nn)

DFS3706I **AUTOMATIC SDEP BUFFER
MANAGEMENT DID NOT RUN ON
AREA areaname OF DATABASE
database DUE TO UTILITY
RUNNING ims_id**

説明

現在検討されている領域に対して、ユーティリティーが実行されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

SDEP バッファ管理が処理されている領域の名前。

database

SDEP バッファ管理が処理されている領域のデータベース。

ims_id

SDEP バッファ管理が処理されている領域を含む IMS の ID。

システムの処置:

この領域に対する SDEP バッファ管理処理は、次の SDEP バッファ管理サイクルまで行われません。

システム・プログラマーの応答:

ユーティリティーが完了するのを待ちます。この領域は、次の SDEP バッファ管理サイクル時に処理されます。

モジュール:

DBFAQC00

DFS3707A **PROCESSING INTENT
VALIDATION ERROR BECAUSE NO
DMCB FOUND. DBD=dbdname
PSB=psbname**

説明

従属領域スケジュール時の PSB PROCOPT 妥当性検査プロセスで、内部制御ブロック DMCB が、IMS オンライン・サブシステムを検出できませんでした。指定の DEDB の内部制御ブロック DMCB が、指定された PSB によって参照されています。

システムの処置

指定された PSB が停止しています。MPP の場合、入力メッセージは処理されません。BMP または IFP の場合、従属領域は、異常終了 0046 によって異常終了します。

プログラマーの応答

この問題は、IMS オンライン・サブシステムのデータベース・ステートメントに DEDB が定義されていない場合に発生することがあります。必要な場合は、IMSGEN リストをチェックして、IMS オンライン・サブシステムを再生成する必要があります。

問題判別:

6、8、9、10、18、19

関連情報

IMS 異常終了 0046

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3708W **DATA BASE=dbname
AREA=areaname IS NOT
REGISTERED WITH DBRC**

説明

指定されたデータベースまたはエリアが DBRC に登録されていませんでした。IMS は、エリアを、サブシステム専用と指定したかのように扱います。

システムの処置

エリアの OPEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答

データ共用環境でエリアの保全性を保護したい場合は、エリアを DBRC に登録してください。登録したくない場合は、複数の IMS サブシステムにわたってこのエリアを更新しているアプリケーション・プログラムが、現在は存在しないことを確認してください。

DFS3709A **UNABLE TO OBTAIN
AUTHORIZATION FOR DATA BASE
dbname AREA areaname. REASON
CODE=nn**

説明

IMS オンライン・サブシステムが、DEDB エリアのオープン時に、DBRC によるデータベース使用許可を獲得できませんでした。以下のリストに、理由コード (nn) ごとの説明および処置を示します。

コード

説明

nn=01 の場合

要求された許可と現行の許可に互換性がありません。データ共有を使用する場合は、このエラーの原因として次のことが考えられます。

- DBRC データベース SHARELVL が無効である。
- サブシステム間でデータベースのアクセス意図が競合している。
- IRLM の相互接続および IMS への接続が正しくない。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 次のいずれかの応答が必要です。

1. **/STOP** コマンドまたは **/DBR** コマンドを入力して、非互換のデータベース許可を保持している他のサブシステム内のエリアをクローズし、その後、このサブシステムで **/START** コマンドを入力してエリアを再始動する。
2. 他のサブシステムがエリアをクローズするまで待ち、このサブシステムで **/START** コマンドを入力して、エリアを再始動する。

nn=02 の場合

データベースが RECON データ・セットに登録されていません。

nn=03 の場合

DEDB またはエリアの状況が、DBRC RECON データ・セット内でこれ以上の許可を禁止しています。その理由は、グローバルな **/DBR** コマンドまたは **/STOP** コマンドにあるか、内部のデータベースまたはエリアの停止コマンドにあります。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 次の応答が必要です。

1. 許可できない状況の理由を分析し、必要に応じてアクションを行う。
2. DBRC コマンド **CHANGE.DB**、または DBDS を使用して、データベースまたはエリアの許可状況をリセットし、このサブシステムで **/START** コマンドを使用してエリアを再始動する。

nn=05 の場合

DBRC RECON データ・セット内でエリアにイメージ・コピーを必要とするマークが付けられます。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 指定されたエリアに対してデータベース・イメージ・コピー・ユーティリティー DFSUDMPO を実行し、ユーティリティーが正常に実行された後、**/START** コマンドを使用してエリアを再始動します。

nn=06 の場合

DBRC RECON データ・セット内に、そのエリアはリカバリーが必要としてマークが付けられているか、またはそのエリアには AVAIL 状況のエリア・データ・セットがありません。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 指定されたエリアに対してデータベース・リカバリー・ユーティリティー DFSURDBO を実行し、ユーティリティーが正常に実行された後、**/START** コマンドを使用してエリアを再始動します。

nn=08 の場合

要求側のオンライン・サブシステムでは、他のサブシステムとの指定エリアの共有が許可されていません。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 次のいずれかの応答が必要です。

1. システム間でデータを共有し、2つの IRLM を必要とする環境の場合は、DBRC **CHANGE.DB** コマンドを使用して、指定されたデータベースの SHARELVL を 2 から 3 に変更し、**/START** コマンドでエリアを再始動する。
2. システム間でデータを共有し、単一の IRLM を必要とする環境の場合は、指定エリアに対して許可されたホスト・プロセッサ下でオンライン・サブシステムを実行する。

nn=09 の場合

DBRC RECON データ・セットは、指定されたエリアが、以前に 1 つ以上のオンライン・サブシステムで許可されていたことを示します。出口検証はサブシステムが非アクティブであることを示しているため、指定されたエリアを許可することはできません。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 他のオンライン・サブシステムが再始動処理を終了してエリアをクローズするまで待ち、その後、サブシステム内で **/START** コマンドを使用してエリアを再始動します。

エリアが複数の IRLM とデータ共用を行う場合は、IRLM を再接続する必要があります。

nn=10 の場合

エリアは、以前にサブシステムに対して許可されていました。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: **/STOP** コマンドまたは **/DBR** コマンドを入力して、非互換のデータベース許可を保持しているエリアをクローズし、その後、このサブシステムで **/START** コマンドを入力してエリアを再始動する。

nn=11 の場合

データベース使用互換性の評価プロセスで、無効なパラメーターが検出されました。DBRC RECON データ・セットのデータベース/エリア・レコードが壊れていると考えられます。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: この状態は発生する可能性が低いものです。DBRC に関連した問題を訂正し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、さらに支援を求めてください。

nn=18 の場合

DBRC RECON データ・セットは、指定エリアに「Alter Count」が設定されていることを示しています。

指定されたエリアに対して DEDB 変更が現在進行中であるか、指定されたエリアに対して直前に DEDB 変更ユーティリティを実行したマスター IMS が異常終了し、まだ再始動されていなかったかのいずれかのため、指定されたエリアを許可することができません。

システム処置: オンライン・システムの指定エリアが停止され、状況コード「FH」がアプリケーションに戻されます。

プログラマー応答: DEDB 変更ユーティリティが現在進行中の場合は、ユーティリティが終了するまで待ってから、再試行します。DEDB 変更ユーティリティが現在進行中ではない場合は、マスター IMS を再始動して、処理の再開時に RECON 状況が

クリーンアップされるようにするか、あるいは次の DBRC コマンドを使用します。

- NOALTER を指定した CHANGE.DB を使用して、「Alter」状況をリセットする。
- NODBQUI を指定した CHANGE.DBDS を使用して、「Quiesce」状況をリセットする。

nn=20 の場合

指定されたデータベースまたはエリアが DBRC に登録されておらず、DBRC RECON データ・セット・レコードに FORCER オプションが指定されています。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: **INIT.DBDS** コマンドおよび **INIT.ADS** コマンドを使用して、指定されたエリアおよびエリア・データ・セットを DBRC に登録し、このサブシステムで **/START** コマンドを使用して、指定されたエリアを再始動します。

nn=22 の場合

現在、データベースまたはエリアが他のサブシステムに対して許可されています。

システム処置: 要求されたアクティビティーに対する許可はリジェクトされます。

プログラマー応答: 処置を再試行する前に、そのサイトのすべての IMS サブシステムのデータベースまたはエリアに対して **/DBR** コマンドを発行する必要があります。

nn=41 の場合

エリアが静止されたか、静止処理中です。

システム処置: 要求されたアクティビティーに対する許可はリジェクトされます。

プログラマーの応答: 静止が終了するまで待ち、許可が失敗したジョブを再実行します。エリアの状況を判別するには、**/DISPLAY AREA QSC**、**QUERY AREA** コマンド、または **LIST.DBDS DBD(dbname) AREA(areaname)** を発行して出力を調べます。

nn=42 の場合

エリアが静止保留ではなく、イメージ・コピーが許可を試行しています。

システム処置: 要求されたアクティビティーに対する許可はリジェクトされます。

プログラマーの応答: 静止が終了するまで待ち、許可が失敗したジョブを再実行します。エリアの状況を判別するには、**/DISPLAY AREA QSC** コマンド、**QUERY AREA** コマンド、または **LIST.DBDS DBD(dbname) AREA(areaname)** を発行して出力を調べます。

イメージ・コピーが失敗した場合、静止が終了するまで待つか、QUIESCE HELD フラグがオンに設定されるまで待ちます。QUIESCE HELD フラグをオンに設定するには、静止が行われたときに **UPD START (QUIESCE) OPTION (HOLD)** コマンドを使用します。

nn=43 の場合

DBRC RECON データ・セットは、指定されたエリアが ACBSHR=N 環境で渡された ACBLIB ランダマイザ一名とは異なるランダマイザ一名を持っていることを示しています。ランダマイザ一名が異なっているため、指定されたエリアを許可することができません。

システム処置: オンライン・システムの指定エリアが停止され、状況コード「FH」がアプリケーションに返されます。

プログラマー応答: ローカル・オンライン変更、メンバー・オンライン変更、またはグローバル・オンライン変更を使用して、ACB ライブラリーを更新し、DEDB ACB メンバーの変更を反映させます。

**DFS3710A UNABLE TO OBTAIN
 AUTHORIZATION IN UTILITY FOR
 DATA BASE=dbname
 AREA=areaname. REASON
 CODE=nn**

説明

メッセージの値 nn は、DEDB ユーティリティーにおける許可が失敗した理由を示します。以下のリストに、nn コードごとの説明および処置を示します。

nn=01 の場合

要求された状態と現在の許可状態に互換性がありません。

システム処置: 使用されている高速機能ユーティリティーが、このエリアで呼び出されていません。

プログラマー応答: 次のアクションのいずれか 1 つを実行する必要があります。

- **/STOP** コマンドまたは **/DBR** コマンドを入力して、データベース許可を保持する他のサブシステムのエリアをクローズする。
- 他の IMS サブシステムがそのエリアをクローズするまで待ち、ジョブを再実行する。

nn=06 の場合

使用可能な ADS がないか、または DBRC RECON データ・セット内でエリアにリカバリーが必要であることを示すマークが付けられています。データベース・イメージ・コピー・ユーティリティー DFSUDMPO は、リカバリーが必要なエリアに対する許可を取得できませんでした。

システム処置: ユーティリティーは、このエリアに関しては呼び出されません。

プログラマー応答: データベース・リカバリー・ユーティリティー DFSURDBO を実行した後、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーを実行して正しいメモリー・ダンプを取得します。

nn=07 の場合

オンライン・サブシステムの ACCESS パラメーターは、DEDB オンライン・ユーティリティーの実行に対して使用できません。

システム処置: エリアの処理が終了します。

プログラマー応答: オンライン・サブシステムの ACCESS パラメーターを確認します。マスター端末オペレーターに問い合わせ、**/START** コマンドを使用して、データベースの ACCESS パラメーターを変更します。現在の DEDB オンライン・ユーティリティーと互換性のあるレベルに変更します。

nn=08 の場合

要求側のオンライン・サブシステムでは、他のサブシステムとの指定エリアの共用が許可されていません。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード FH がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 次のアクションのいずれか 1 つを実行する必要があります。

- システム間でデータを共用し、2 つの IRLM を必要とする環境の場合は、**DBRC CHANGE . DB** コマンドを使用して、指定されたデータベースの **SHARELVL** を 2 から 3 に変更し、**/START** コマンドでエリアを再始動する。
- システム間でデータを共用し、単一の IRLM を必要とする環境の場合は、指定エリアに対して許可されたホスト・プロセッサ下でオンライン・サブシステムを実行する。

nn=10 の場合

エリアは、以前サブシステムに対して許可されました。

システム処置: このエリアでオフライン・ユーティリティーが呼び出されていません。

プログラマー応答: 重複するジョブ名が、同じエリアで使用されている可能性があります。別の IMS サブシステムがそのエリアをクローズするまで待ち、ジョブを再実行依頼してください。

nn=15 の場合

他のすべてのサブシステムがデータベース・リカバリー・ユーティリティーで異常終了したことを示すマークが付けられていない場合は、DEDB エリアに対してデータベース・リカバリー・ユーティリティーが実行されています。

システム処置: このエリアでデータベース・リカバリー・ユーティリティーが呼び出されていません。

データベース・リカバリー・ユーティリティーが終了します。

プログラマー応答: このエリアを許可して、異常終了していないサブシステムがないことを確認します。エリアを許可するサブシステムがある場合は、サブシステムがエリアの許可を解除するまで待機し、データベース・リカバリー・ユーティリティーを再実行します。

nn=16 の場合

DBRC RECON データ・セットにおいて、エリアがリカバリーを必要とすることを示すマークが付けられていません。DEDB 初期設定ユーティリティーは、リカバリーを必要としないエリアの許可を取得できませんでした。

システム処置: DEDB 初期設定ユーティリティーが終了します。

プログラマー応答: エリアが初期設定に対して有効であることを確認します。エリアを初期設定する必要がある場合は、**CHANGE.DBDS** コマンドを使用してエリアにリカバリー必要状況を強制し、VSAM アクセス方式サービス・プログラムのコマンドでエリアを再定義して、初期設定済みのものを除いてユーティリティーのエリア制御ステートメントを再度指定し、ユーティリティーを再実行します。

nn=20 の場合

指定されたデータベースまたはエリアが DBRC に登録されておらず、DBRC RECON レコードに FORCER オプションが指定されています。

システム処置: 使用されている高速機能ユーティリティーが、このエリアで呼び出されていません。

プログラマー応答: **INIT.DBDS** コマンドおよび **INIT.ADS** コマンドを使用して、指定エリアおよびエリア・データ・セットを DBRC に登録します。

nn=22 の場合

現在、エリアが他のサブシステムに対して許可されています。

システム処置: 要求されたアクティビティーに対する許可はリジェクトされます。

システム・プログラマー応答: すべての IMS サブシステムのエリアについて、**/DBR** コマンドを発行します。

nn=41 の場合

エリアが静止されたか、静止処理中です。

システム処置: 要求されたアクティビティーに対する許可はリジェクトされます。

プログラマーの応答: 静止が終了するまで待ち、許可が失敗したジョブを再実行します。エリアの状況を判別するには、**/DISPLAY AREA QUIESCE** コマンド、**QUERY AREA** コマンド、または **LIST.DBDS**

DBD(dbname) AREA(areaname) を発行して出力を調べます。

nn=42 の場合

エリアが静止保留ではなく、イメージ・コピーが許可を試行しています。

システム処置: 要求されたアクティビティーに対する許可はリジェクトされます。

プログラマーの応答: 静止が終了するまで待ち、許可が失敗したジョブを再実行します。エリアの状況を判別するには、**/DISPLAY AREA QSC** コマンド、**QUERY AREA** コマンド、または **LIST.DBDS DBD(dbname) AREA(areaname)** を発行して出力を調べます。

イメージ・コピーが失敗した場合、静止が終了するまで待つか、QUIESCE HELD フラグがオンに設定されるまで待ちます。QUIESCE HELD フラグをオンに設定するには、静止が行われたときに **UPD START(QUIESCE) OPTION(HOLD)** コマンドを使用します。

問題判別:

6、10、17

モジュール:

DBFDBAU0

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3711A

NONRECOVERABLE DEDB
AUTHORIZATION ERROR

DEDB=ddddddd AREA=aaaaaaaa

説明

DEDB 許可で、回復不能 DEDB に順次従属 (SDEP) セグメント・タイプが含まれていることが判別しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddddddd

エラーが起こったデータベース

aaaaaaaa

エラーが起こったエリア

システムの処置

許可は失敗します。

プログラマーの応答

DEDB データベース定義 (DBD) を変更して、順次従属 (SDEP) セグメント・タイプを除去してください。

モジュール:

DBFDBAU0

DFS3711W NONRECOVERABLE DEDB INTEGRITY WARNING DEDB=ddddddddd AREA=aaaaaaaa

または

**NONRECOVERABLE DEDB INTEGRITY WARNING
ZZZZZZZZZZZ**

説明

緊急時再始動または XRF テークオーバーで、エリア *aaaaaaaa* に対する 1 つ以上の DASD 書き込みが完了できなかったことが判別しました。そのエリアは壊れている可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddddddddd

エラーが起こったデータベース

aaaaaaaa

エラーが起こったエリア

ZZZZZZZZZZZ

警告テキスト。このテキストは、次のいずれかです。

REGISTRATION INCLUDED SDEPS

順次従属セグメント (SDEP) を使用する 1 つ以上の DEDB がリカバリー不能として登録され、現行の制御インターバル (CI) 内の SDEP セグメントが破壊された可能性があります。

システムの処置

エラーは無視され、ERE または XRF テークオーバー処理が続行されます。

プログラマーの応答

エリアまたはデータベースを、再初期設定するか、バックアップから復元するかのどちらかをスケジュールしてください。使用を継続すると、エラーとなる可能性があります (例えば、異常終了 1026)。

モジュール:
DBFERS20

DFS3712A (ccccffss) AREA=areaname DD=ddname READ ERROR, CI-RBA=nnnnnnnnn SEVERE ERROR

説明

制御インターバル (CI) RBA *nnnnnnnn* で、読み取りエラーがデータ・セットで生じました。 *ccccffss* は、問題判

別に使用されるメディア・マネージャー・エラーの戻りコードを表します。

システムの処置

そのデータ・セットがこのエリアで使用可能な唯一のデータ・セットである場合、IMS は、そのデータ・セットをクローズしてエリアを停止します。永続的な入出力エラー (メディア・マネージャー・エラー戻りコード X'0020FF10' によって示される) が発生しなかった場合は、メディア・マネージャー FRR ルーチンまたは高速機能入出力エラー・ルーチンによって、MVS SDUMP を SYS1.DUMP データ・セットに取ることができます。

プログラマーの応答

エリアがリカバリー必要状況である場合は、このデータ・セットに対して DEDB 作成ユーティリティを実行するか、またはこのエリアに対してデータベース・リカバリー・ユーティリティを実行します。

問題判別

1、6、11、20。問題判別は、エラー戻りコードが X'0020FF10' でない場合に有効です。

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3713A (ccccffss) AREA=areaname DD=ddname WRITE ERROR, CI-RBA=nnnnnnnnn SEVERE ERROR

説明

制御インターバル (CI) RBA *nnnnnnnn* で、書き込みエラーがデータ・セットで生じました。非活動化されたレコードの数が、システム定義のデータ・セット・エラーしきい値に達したか、または DEDB 制御 CI (2 番目の CI) 書き込みエラーが発生しました。変数 *ccccffss* は、問題判別に使用されるメディア・マネージャー・エラーの戻りコードを表します。

システムの処置

IMS は、そのデータ・セットをクローズします。そのデータ・セットがこのエリアで使用可能な唯一のデータ・セットである場合、IMS は、このエリアを停止します。永続的な入出力エラー (メディア・マネージャー・エラー戻りコード X'0020FF10' によって示される) が発生しなかった場合は、メディア・マネージャー FRR ルーチンまたは高速機能入出力エラー・ルーチンによって、MVS SDUMP を SYS1.DUMP データ・セットに作成することができます。

プログラマーの応答

エリアがリカバリー必要状況である場合は、このデータ・セットに対して DEDB 作成ユーティリティーを実行するか、またはこのエリアに対してデータベース・リカバリー・ユーティリティーを実行します。

問題判別

1、6、11、20。問題判別は、メディア・マネージャー・エラー戻りコードが X'0020FF10' でない場合に有効です。

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3714I	RECORD DEACTIVATION INITIATED BY SUBSYSTEM=ssid FOR AREA=areaname DD=ddname CI-RBA=nnnnnnnn
-----------------	--

説明

制御インターバル (CI) RBA *nnnnnnnn* (16 進数) における、サブシステム *ssid* によるレコードの非活動化が完了しました。エラー・キュー・エレメント (EQE) 内の値 *nn* は、受け入れ可能な非活動レコード数を示します。*ssid* は、発生元サブシステムのサブシステム ID です。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

DFS3715I	DEDB AREA xxxxxxxx PROCESS STARTED, RSN=rr
-----------------	---

説明

FPOPN および FPRLM 始動パラメーターの値に基づき、複数のエリアについて DEDB エリア・オープン始動処理が開始されました。プロセス xxxxxxxx は、次のいずれかです。

- PREOPEN
- REOPEN
- RESTART
- CLOSE
- RLM REVR

処理の結果は以下のとおりでした。

コード (16 進数)
意味

00

始動は成功しました。

01

始動はシャットダウン・クローズ始動のために終了しました。

02

始動は、IRLM 切断始動のために終了しました。

03

始動は、ストレージ不足状態のために失敗しました。

システムの処置

エリア・オープン始動処理は完了します。

DFS3717I	DEDB AREA CONTROL BLOCK NOTIFY FAILURE - AREA STOPPED. DBD=dbdname AREA=areaname
-----------------	---

説明

IMS が指定されたエリアのエリア状況を変更し、他のサブシステムに通知してエリア状況の同期をとろうとしたときに、IRLM の問題を検出しました。

システムの処置

指示された DEDB エリアがグローバルに停止され、DBRC RECON データ・セットに許可状況の禁止が設定されます。

プログラマーの応答

IRLM の状況をチェックします。IRLM がアクティブの場合は、**/START AREA GLOBAL** コマンドを使用してエリアを再始動します。IRLM がアクティブでない場合は、緊急時再始動の後に **/START AREA GLOBAL** コマンドを使用してエリアを再始動します。

DFS3718I	WAITING FOR AREA READ I/O DURING DISCONNECT
-----------------	--

説明

エリアの切断中に、完了しない未解決の READ I/O がありました。IMS は、最大 2 分間待ってから、切断を続行します。

切断でエリアに対する未解決の READ I/O が続行可能かどうか 1 秒おきにチェックされますが、切断によって、エリアごとにメッセージが 1 つのみコンソールに出力されます。

システムの処置

システム・アクションは継続します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3719I DEDB AREA xxxxxxxx PROCESS COMPLETED, RSN=rr

説明

DEDB エリア・オープン始動処理が完了しました。プロセス xxxxxxxx は、次のいずれかです。

- PREOPEN
- REOPEN
- RESTART
- CLOSE
- RLM REVR

処理の結果は以下のとおりでした。

コード (16 進数) 意味

- 00** プロセスが正常に完了しました。
- 01** IMS サブシステムを終了するための **/CHE FREEZE** コマンドが原因で、プロセスが完了前に終了しました。
- 02** IRLM の切断が原因で、プロセスが完了前に終了しました。
- 03** 十分なストレージを取得できなかったことが原因で、プロセスは実行されませんでした。

システムの処置

エリア・オープン始動処理は完了します。

DFS3720I NOTIFIED AREA|ADS=areaname| adsname NOT FOUND IN THIS SUBSYSTEM

説明

指定エリアまたは ADS が受け取り側のサブシステムで見つかりませんでした。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

DFS3721I STOP ADS REJECTED DUE TO ONLY 1 AVAIL ADS.AREA=xxxxxxx DD=xxxxxxx

説明

エリア内の指定 ADS に対して **/STOP ADS** コマンドが無効でしたが、それは、この指定 ADS がエリアで唯一使用可能な ADS であるためです。

システムの処置

指定された ADS に対する **/STOP ADS** コマンドは無視されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS3722I IMS=iiiiiii SSID=ssss SSTYPE=tttttt ACTION=yyyyyy RECOVERY TOKEN='aaaaaaaaxxxxxxxxxxxxxxxxxx'

説明

FDBR 未確定通知ユーザー出口ルーチンが、未確定リカバリー単位 (UOR) を受け取りました。このメッセージは、作業の生成元の IMS システム、UOR を解決する必要がある外部サブシステムの名前、外部サブシステムのタイプ (例えば、DB2、MQ、または WOLA)、必要な解決アクション (COMMIT または ABORT)、および UOR のリカバリー・トークンを示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

iiiiiii

8 文字の IMS システム名

sssss

8 文字の外部サブシステム名。

ttttttt

8 文字の外部サブシステム・タイプ。

yyyyyyy

この出口ルーチンが UOR を解決するために実行しなければならない未確定アクション (COMMIT、ABORT、または UNKNOWN)。

aaaaaaaaxxxxxxxxxxxxxxxx

印刷可能形式での UOR の 16 バイトのリカバリー・トークン。このトークンは空白を含む場合があるため、単一引用符で囲まれます。リカバリー・トークン内の項目は以下のとおりです。

aaaaaaaa

リカバリー・トークンの 8 バイトの文字セクション。文字データは左寄せされ、空白が埋め込まれます。

xxxxxxxxxxxxxxxx

リカバリー・トークンの 8 バイトの 16 進数セクション。

システムの処置:

IMS は正常に処理を続行します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS3723E DFSFIDNO GETSTORE FAILURE

説明:

ESAF 未確定通知ユーザー出口ルーチン (DFSFIDNO) からの GETSTORE 要求がストレージの獲得に失敗しました。

システムの処置:

この出口ルーチンは障害を報告し、制御を IMS に返します。

オペレーターの応答:

この出口ルーチンが必要とするストレージは少量であるため、ストレージ・プールが使い果たされそうになっていることを示しています。エラー発生時の前後に生成されたシステム・コンソール・ログと関連ダンプを調べて、何がストレージを消費しているかを特定してください。

DFS3724I ERROR OCCURRED WHEN PROCESSING DBRC RECON *variable text*

説明

DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMINO) が、DBRC 呼び出しを正常に完了できませんでした。

メッセージ・テキストの *variable text* は、ACB の IMS 管理が使用可能かどうかに応じて、以下のいずれかのターゲットを示します。

ERROR OCCURRED WHEN PROCESSING DBRC RECON AREA=*areaname* FUNC=*function* RC=*nn*

この形式のメッセージ・テキストがデフォルトです。

ERROR PROCESSING DBRC RECON ALLOCATING IMS DIRECTORY RC=*nn*

IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) で ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、この形式のメッセージ・テキストが発行されます。

機能の意味は、次のとおりです。

機能

意味

SIGNON

サインオン呼び出し

サインオフ

サインオフ呼び出し

AUTH

エリア許可呼び出し

UNAUTH

エリア許可取り消し呼び出し

INIT

INIT 機能呼び出し

INITO

INITO 機能呼び出し

INIT1

INIT1 機能呼び出し

EOD

EOD 機能呼び出し

EOJ

EOJ 機能呼び出し

DFS3724I メッセージを詳しく説明するために、前に DBRC メッセージが出されている可能性があります。

システムの処置

使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

このメッセージの前の DBRC メッセージ (出された場合) をチェックして、そのメッセージのプログラマーの応答に従います。

関連資料

[サインオン通常呼び出し \(メッセージおよびコード\) からの戻りコード](#)

[サインオフ通常呼び出しからの戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

[許可呼び出しからの戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

[許可取り消し呼び出しからの戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

[IMS カタログ定義出口ルーチン \(DFS3CDX0\) \(出口ルーチン\)](#)

DFS3725I AREA=*areaname* JCL DD STATEMENT DOES NOT EXIST

説明

DEDB エリア初期設定ユーティリティ DBFUMINO が、DBRC RECON データ・セットの ADS リスト内の DD 名に対応する JCL DD ステートメントを見つけることができませんでした。

システムの処置

使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

DEDB エリア (または複数のエリア・データ・セット) のすべての DD ステートメントが正しいことを確認します。エリアの複数のエリア・データ・セットを初期設定する場合、エリアは DBRC RECON データ・セットに登録され、これらのエリア・データ・セットが RECON デ

ータ・セットで使用不可状況になっている必要があります。DBRCを使用する場合は、デフォルトで YES に設定するか、DBFUMINO の EXEC パラメーターで DBRC=Y として指定する必要があります。

問題判別:

3、8、35

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3726A FPE AREA IMAGE COPY
TERMINATED ABNORMALLY FOR
AREA=areaname REASON
CODE=nn**

説明

指定エリアに対してデータベース・イメージ・コピー・ユーティリティの処理に失敗しました。次の値 *nn* は、障害の理由を示します。

コード (10 進数)

意味

- 00** IMS SDFSRESL から主ストレージへのエリア許可モジュール DBFDBAU0 のロードに失敗しました。
- 04** DBRC インターフェースが失敗しました。
- 08** エリアの許可が失敗しました。
- 12** JCL に DATAIN DD ステートメントが指定されていません。データベース・イメージ・コピー・ユーティリティの DATAIN DD ステートメントに指定された DD 名は、ターゲット・エリアの ADS リストに登録された名前と一致する必要があります。
- 16** 入力データ・セットの整合性検査に失敗しました。この検査では、入力されたデータ・セットごとに、2 番目の制御インターバルの CUSN が比較されます。
- 20** 入力 ADS が使用不能であり、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティは、エリア内のいずれのデータ・セットのバックアップ・コピーも取得できません。このメッセージの前に、メッセージ DFS3727I、DFS3728I、DFS3729I、DFS3730I、または DFS3762I が出力されている場合があります。
- 24** IC ユーティリティが、エリアに対するクリーン ADS (EQE がない) を見つけることができないか、入力として指定された唯一の ADS が EQE を持っているかのどちらかです。

28

イメージ・コピー操作中に、DBRC RECON データ・セットのエリア状況がリカバリー必要状況に変わりました。この問題は、XRF のテークオーバー中に、リカバリー必要状況が一時的である場合に発生することがあります。テークオーバーが完了すると、状況がリセットされ、リカバリーが不要であることが示されます。

この状態は、IMS がカップリング・ファシリティとの接続を失った場合にも発生する可能性があり、CASTOUT は失敗します。書き込みエラー (ヌル EQERBA による EEQE) が DBRC に登録され、エリアには、一時的にリカバリーが必要であることを示すマークが付けられます。CASTOUT が正常に終了すると、状況がリセットされ、リカバリーが不要であることが示されます。

32

DATAIN DD ステートメントに無効のデータ・セット名が指定されています。データベース・イメージ・コピー・ユーティリティの DATAIN DD ステートメントに指定されたデータ・セット名は、ターゲット・エリアの ADS リストに登録された名前と一致する必要があります。

36

DBRC RECON データ・セットの ADS リストに使用可能な ADS が見つかりませんでした。ADS が使用不能の場合は、エリアをデータベース・イメージ・コピー・ユーティリティへの入力として指定することはできません。

40

MADS I/O タイミング環境 (MADSIOT) が使用可能なときに、入力として 1 つだけの ADS が指定されています。

システムの処置

プログラムは終了します。

プログラマーの応答

受け取ったコードに応じて、適切な処置を取ります。

コード (10 進数)

処置

- 00** DBFDBAU0 が SDFSRESL 内にあることを確認します。
- 04** このメッセージに関連した DBRC メッセージを参照してください。
- 08** このメッセージに関連したエリア許可のメッセージを確認します。

- 12** DATAIN DD ステートメントに正しい DD 名を指定して、ジョブを再実行依頼します。
- 16** すべての入力データ・セットが同じレベルにあることを確認し、DATAIN DD ステートメントに正しいデータ・セットを指定してジョブを再実行依頼します。
- 20** メッセージ DFS3727I、DFS3728I、DFS3729I、DFS3730I、または DFS3762I をチェックして、エラーを訂正します。次に、ジョブを再実行依頼してください。
- 24** エリアをリカバリーし、EQE を持たないデータ・セットを作成して、ジョブを再実行依頼します。
- 28** RECON をリストして、エリアがリカバリー必要状況にあるかどうかを判別します。必要な場合は、エリアをリカバリーして EQE を持たないデータ・セットを作成します。ジョブを再実行依頼してください。
- 32** DATAIN DD ステートメントに正しい dsname を指定して、ジョブを再実行依頼します。
- 36** 正しいエリア名を指定するか、または AREA をリカバリーして、ジョブを再実行依頼します。
- 40** 入力として少なくとも 2 つの ADS を指定して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMDP0

DFS3727I (OPEN ERROR | RECORD SIZE ERROR) FOR AREA=areaname DD=ddname

説明

データベース・イメージ・コピー・ユーティリティがデータ・セットのオープンに失敗したか、またはレコード・サイズが指定の DEDB エリアおよび ADS の制御インターバル (CI) サイズと整合性のないことが検出されました。この ADS は、これ以上使用することはできません。

システムの処置

データベース・イメージ・コピー・ユーティリティは、次のデータ・セットを開きます。

DFS3728I VSAM ERROR REQUEST=(GET|VERIFY|POINT) FOR AREA=areaname DD=ddname

説明

指定エリアおよび ADS に対する VSAM 要求に失敗しましたが、EQEON 要求が行われたときには失敗しませんでした。EQEON は、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティがエラー・キュー・エレメント (EQE) を見つけて、ADS からの制御インターバルの読み取りが行われないことを示します。この場合でも、ADS は、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティへの入力 DEDB として使用されます。

システムの処置

データベース・イメージ・コピー・ユーティリティは、次の使用可能データ・セットを取得します。

DFS3729I (RDJFCB|MODCB) ERROR FOR AREA=areaname DD=ddname

説明

データベース・イメージ・コピー・ユーティリティは、指定された ADS に RDJFCB マクロまたは MODCB OS マクロを発行して失敗しました。指定された ADS は、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティへの入力 DEDB には使用されません。

システムの処置

データベース・イメージ・コピー・ユーティリティは、次の使用可能データ・セットを取得します。

DFS3730I SECOND CI (READ|POINT) ERROR FOR AREA=areaname DD=ddname

説明

データベース・イメージ・コピー・ユーティリティが、DEDB の 2 番目の制御インターバル (2 番目の CI) を読み取るか指し示そうとして失敗しました。ddname の ADS は、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティへの入力 DEDB には使用されません。

システムの処置

データベース・イメージ・コピー・ユーティリティは、次の使用可能データ・セットを取得します。

DFS3731I REORGANIZATION (BUILD|COPY) PHASE ENTERED FOR AREA=areaname UOW=nnnnnnnn

説明

再編成ユーティリティが、ビルドまたはコピー・フェーズに入りました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3732I DUPLICATE DDNAME STATEMENT SPECIFIED

説明

プログラムで、以前に指定された DDNAME ステートメントが発生しました。

システムの処置

DEDB ユーティリティー・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。次の入力行のスキャンなど、以降の処理は、ERRORACTION ステートメントのユーザー指定に従って実行されます。

プログラマーの応答

DEDB ユーティリティー 入力を訂正して、ジョブを再実行します。

DFS3733A FPE AREA OFFLINE RECOVERY TERMINATED ABNORMALLY FOR AREA=areaname (DD=ddname) REASON CODE=nn

説明

DEDB のオフラインのデータベース・リカバリーが失敗しました。次の値 *nn* は、障害の理由を示します。

コード (10 進数)

意味

00

エリア許可モジュール DBFDBAU0 を IMS 常駐ライブラリー内で検出できませんでした。

04

DBRC 呼び出しおよび FUNC=INIT が失敗しました。

08

エリアの許可が失敗しました。

12

JCL に data set1 DD ステートメントが指定されていません。DBRC が使用されており、エリアが登録されている場合、data set1 DD ステートメントに指定された DD 名は、ターゲット・エリアの ADS に登録された名前と一致する必要があります。

DBRC が使用されていてエリアが登録されていないか、または DBRC が使用されていない場合、data set1 DD ステートメントに指定された DD 名は、*areaname* と一致する必要があります。

16

エリア状況が、要求されたリカバリー・モードと競合しています。エリア状況が、要求されたリカバリー・モードと一致していません。DEDB のリカバリーでは、エリアは次のいずれかの状況である必要があります。

- 全リカバリーの場合、エリアはリカバリー必要状況である必要がある。
- トラック・リカバリーの場合、エリアはリカバリー不要状況で、データ・セットが使用可能である必要がある。

20

ターゲット・データ・セットの ACB をオープンできません。

24

ターゲット・データ・セットの 2 番目の制御インターバルを読み取ることができません。

28

この領域の DBRC を初期設定できず、エリアを許可することができませんでした。システムに DBRC がいない場合は、このメッセージが出力されます。

36

ターゲット・データ・セットの制御インターバル・サイズを取得できません。DEDB トラック・リカバリーの場合は、SHOWCB が発行された後、2 番目の CI を読み取るために CI の長さを取得しようとしたが、失敗しました。

40

VSAM 制御ブロック (RPL) を変更できません。DEDB トラック・リカバリーの場合は、MODCB が発行され、読み取るために 2 番目の制御インターバルの相対バイト・アドレスを設定しようとしたが、失敗しました。

44

無効のデータ・セット名が発行されました。DEDB の場合、データベース・リカバリー・ユーティリティーの data set1 DD ステートメントに指定された *dsname* は、ターゲット・エリアの ADS リストに登録された名前と一致する必要があります。

48

RDJFCB マクロが失敗しました。IEC131I メッセージをチェックしてください。

52

DBRC RECON データ・セットに ADS レコードが見つかりません。

システムの処置

プログラムは終了します。理由コード 32 では、DBRC エリア・レコードの ADS リスト中、データ・セットが使用不可状況に設定されます。データ・セットがエリアの最後のデータ・セットの場合、エリア状況はリカバリー必要状況に設定されます。

プログラマーの応答

応答は、次のように戻りコード *nn* に応じて異なります。

コード (10 進数) 意味

- 00** DBFDBAU0 が SDFSRESL 内にあることを確認します。
- 04** このメッセージに関連した DBRC メッセージを参照し、それを検査してください。
- 08** エリア許可に関連したメッセージをチェックします。
- 12** 最初に DBRC が使用されているかどうかを確認します。(そのためには、EXEC パラメーター内の DBRC 定位置パラメーターまたは IMS システム定義マクロ内の IMSCTRL DBRC パラメーターを検査します。) DBRC が使用されており、エリアが登録されている場合は、data set1 DD ステートメントの ADS リストのいずれかの DD 名を指定します。DBRC が使用されていてエリアが登録されていないか、または DBRC が使用されていない場合は、data set1 DD ステートメントに areaname を指定して、ジョブを再実行依頼します。
- 16** DBRC RECON データ・セットのエリア状況に応じて適切なりカバリー・モードを指定し、ジョブを再実行依頼します。
- 20** このメッセージに関連した他のメッセージをチェックします。
- 24** このメッセージに関連した他のメッセージをチェックします。
- 28** システムに DBRC があるかどうかをチェックします。
- 32** エリアがリカバリー必要状況にある場合は、データ・セットおよびエリアをリカバリーします。
- 36** ジョブを再実行してください。
- 40** ジョブを再実行してください。
- 44** data set1 DD ステートメントに正しい dsname を指定して、ジョブを再実行依頼します。

48

IEC131I メッセージに記述されているオペレーターの応答に従います。

52

DBRC RECON データ・セットを印刷して、指定したエリアの ADS リストをチェックします。ADS リストに DD 名がない場合は、**INIT.ADS** コマンドを使用して、少なくとも 1 つの DD 名を DBRC RECON データ・セットに登録します。登録を行った後、データベース・リカバリー・ユーティリティーで指定エリアをリカバリーして、ジョブを再実行します。

関連資料

[z/OS: IEC131I](#)

DFS3734I **AUTOMATIC SDEP BUFFER
MANAGEMENT HAS BEGUN ON
*ims_id***

説明:

自動 SDEP バッファ管理が、この IMS の領域の処理を開始しました。

システムの処置

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFAQC00

DFS3735I **AUTOMATIC SDEP BUFFER
MANAGEMENT HAS COMPLETED
WITH RETURN CODE *xx sysid***

説明

自動 SDEP バッファ管理が、この IMS の領域の処理を完了しました。この戻りコードは診断のためのものです。

コード (10 進数) 意味

- 00** 正常に実行されました。
- 04** 領域がありません。
- 08** ストレージを取得できません。
- 12** 領域リストが変更されました。

システムの処置:

これらはすべて、自動 SDEP バッファ管理実行のそのインスタンスを停止させるエラーです。自動 SDEP バッファ管理は、次の実行時にトリガーされます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFAQC00

DFS3736A **VALIDATION CALL FAILED FOR
AREA=areaname DD=ddname
Code=xx**

説明

IMS 高速機能が、DDNAME 制御ステートメント内で指定された DD 名の状況を検証しようとして、エラー条件を検出しました。メッセージ・テキストで、コード xx は次の値のいずれかになります。

コード
意味

IA

DDNAME ステートメントの ADS の状況が、DBRC RECON データ・セットの ADS リストの状況と競合します。DEDB Create ユーティリティが要求された場合は、RECON データ・セットの ADS の状況が使用できます。DEDB 比較ユーティリティが要求された場合は、ADS の状況が RECON データ・セットで使用できません。

IB

RECON データ・セットに DD 名が見つかりませんでした。

システムの処置

このユーティリティは、要求されたエリアに対して活性化されません。

プログラマーの応答

DDNAME ステートメントに正しい DD 名を指定して、ジョブを再実行依頼します。

DFS3737A **DMAC SYNCHRONIZATION FAILED
FOR AREA=areaname**

説明

サブシステム間においてブロック・レベルでエリアを共用する環境の場合、エリア情報を含む DMAC は、サブシステム間で同じである必要があります。ロック障害、2 番目の制御インターバル書き込み障害、通知障害などの何らかのエラーによって、エリアで DMAC の同期化を維持できません。

システムの処置

使用中の高速機能ユーティリティが終了して、エリアに停止のマークが付きます。

プログラマーの応答

エリアを再始動した後、ジョブを再実行依頼します。

DFS3738A **TOO MANY DDNAME STATEMENTS
SPECIFIED**

説明

プログラムで出現した DD 名が多過ぎます。DD 名ステートメント数は、DEDB Create ユーティリティの場合には 6 以下、比較ユーティリティの場合には 7 以下である必要があります。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキンを停止し、以降の処理は **ERRORACTION** コマンドのユーザーが指定します。

プログラマーの応答

入力を訂正して、DEDB ユーティリティを再実行します。

DFS3739A **I/O ERROR OCCURRED WHEN
ATTEMPTING TO READ FROM
AREA=areaname**

説明

ユーティリティ DBFUMRIO が、いずれかのエリアの開いたデータ・セットから読み取りを行い、I/O エラーが発生しました。

システムの処置

DEDB Create ユーティリティ DBFUMRIO が終了します。

プログラマーの応答

オフラインでデータベース・リカバリー・ユーティリティ DFSURDBO を使用して障害のある制御インターバルをリカバリーし、ジョブを再実行します。

DFS3740I **IN AREA=areaname, CI'S WITH
MATCHED CONTENT=mmm, CI'S
with UNMATCHED CONTENT=nnn**

説明

ユーティリティがエリア内のすべてのレコードを比較して、mmm 制御インターバル (CI) に同一の内容があり、nnn 制御インターバルに異なる内容があることを検出しました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

いずれかの CI に異なる内容がある場合は、SYSPRINT データ・セットをリストするメモリー・ダンプ・レコードをチェックします。

DFS3741I **EITHER ADS IN ERROR. COMPARE
IMPOSSIBLE FOR
AREA=areaname DD1=ddname1
DD2=ddname2**

説明

ddname1 または ddname2 エリア・データ・セットのいずれかで読み取りエラーが発生し、制御インターバル内容の比較を行うことができません。このメッセージの前にメッセージ DFS3739A が出力され、読み取りエラーが発生した ADS が示されます。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

関連情報

[1101 ページの『DFS3739A』](#)

I/O ERROR OCCURRED WHEN ATTEMPTING TO
READ FROM AREA=areaname

DFS3742A **INTERNAL COMMAND TO STOP AN
ADS FAILED FOR AREA=areaname
DD=ddname**

説明

エリア・データ・セット (ADS) を停止するための内部コマンドが、システム・エラー (エリア・ロックの障害、または通知の障害) のために失敗し、ADS を停止できませんでした。DEDDB Create ユーティリティー DBFUMRIO のコピー・フェーズ中に、指定エリアおよび ADS で I/O エラーが発生した後でコマンドが発行されます。ADS は使用できません。

システムの処置

このユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答

/STOP ADS コマンドを入力して ADS をグローバルに停止し、ジョブを再実行します。このエラーは、ロックまたは通知の障害によって発生する場合があります。

DFS3743A **SETTING AN ADS TO AVAILABLE
STATUS FAILED FOR
AREA=areaname DD=ddname**

説明

有効なフェーズにおいて、指定されたエリア・データ・セット (ADS) が停止されている、または DBRC RECON データ・セットの ADS リストから削除されているので、DEDDB 作成ユーティリティー DBFUMRIO は、その ADS を使用可能な障害状況に設定しました。

システムの処置

処理は終了します。

プログラマーの応答

ADS が正しく停止しているか、または DBRC RECON データ・セットから削除されていることを確認します。指定された ADS のエントリーが削除されている場合は、ADS のエントリーを DBRC RECON データ・セットに追加し、ジョブを再実行します。

DFS3744A **FORMATTING OF ALL NEW ADS(S)
FAILED FOR AREA=areaname
REASON CODE=nn**

説明

作成ユーティリティー DBFUMRIO は、フォーマット・フェーズで指定エリアのすべてのエリア・データ・セット (ADS) をフォーマットできませんでした。原因はエラー・コード nn です。理由コード nn は、次の値のいずれかになります。

コード (10 進数)
意味

- 01** エリアのロックが失敗しました。
- 02** DBRC インターフェースが失敗しました。RECON データ・セットからの ADS リストの読み取りか、または RECON データ・セットへの ADS リストの書き込みに失敗しました。
- 04** すべての新規 ADS をフォーマット設定できませんでした。
- 05** システム・エラー (エリア・ロックの障害、通知の障害など) によって、ADS を停止する内部コマンドが失敗しました。
- 06** VSAM 制御ブロック (RPL) の操作および MODCB RPL が失敗しました。

07 データ・セットの検証に失敗しました。このメッセージは、次の場合に出力されます。

1. 定義された制御インターバル (CI) サイズが DBD パラメーターと矛盾している。
2. 新規 ADS に定義されたスペースが不足している。

08 フォーマット設定を行うための新規 ADS の動的割り振りまたはオープンに失敗しました。このエラーは、VSAM クラスターが定義されていない場合に出力されることがあります。

09 VSAM 制御ブロック (RPL) 作業域のストレージ GETMAIN が失敗しました。

0A AREA に EEQE があります。

システムの処置

使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

すべてのサブシステムにおいて、新しく発行される ADS がすべて停止していることを確認します。停止していない場合は、**/STOP ADS** コマンドを入力して、エリア・データ・セットをグローバルに停止します。この処置が終了したら、次の処置を行ってください。

コード (10 進数)
意味

- 01** ジョブを再実行してください。
- 02** DBRC RECON データ・セット内にエリア・レコードが存在することを確認して、ジョブを再実行します。
- 03** オフラインでデータベース・リカバリー・ユーティリティ DFSURDBO を使用して、現行のアクティブ ADS から EQE を除去します。この処置が終了したら、ジョブを再実行してください。
- 04** 新しい ADS に対して別の VSAM データ・セットを定義して、ジョブを再実行します。
- 05** ジョブを再実行してください。
- 06** ジョブを再実行してください。
- 07** 正しい制御インターバル・サイズおよびスペースを使用して別の VSAM データ・セットを定義し、ジョブを再実行します。

08 アプリケーション・プログラムは、従属領域が異常終了すると終了します。ロックのトレース機能を準備した後、ジョブを再実行します。原因の 1 つとして、VSAM クラスターが定義されていないことが考えられます。

09 ジョブを再実行してください。

0A オフラインでデータベース・リカバリー・ユーティリティ DFSURDBO を使用して、現行のアクティブ ADS から EQE を除去します。その後でジョブを再実行します。

DFS3745I **CREATE FAILED BECAUSE REGION STOP FOR AREA=areaname**

説明

/STOP REGION コマンドが入力され、ユーティリティ領域が停止しました。

システムの処置

使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3746A **FORMATTING OF AN ADS FAILED FOR AREA=areaname DD=ddname REASON CODE=nn**

説明

作成ユーティリティ DBFUMRIO のフォーマット・フェーズにおいて、新規エリア・データ・セット (ADS) のフォーマット設定が失敗しました。次の理由コード *nn* のいずれかが、障害の理由を示します。

コード (10 進数)
意味

- 01** フォーマット設定を行うための新規 ADS の動的割り振りまたはオープンに失敗しました。
- 02** 新規 ADS のフォーマット設定中に、I/O エラーまたは長いビジー・エラーが発生しました。
- 03** 新規 ADS をフォーマット設定するには、最初に ADS を DBRC RECON データ・セットに登録する必要があります。この場合は、ADS が DBRC RECON データ・セットに登録されませんでした。

- 04** 新規 VSAM データ・セット制御インターバル (CI) サイズが、DBD に指定されたサイズと同じではありません。
- 05** 定義された VSAM データ・セット・スペースが、現行のアクティブ ADS VSAM データ・セットよりも小さくなっています。新しい ADS VSAM データ・セットは、現行のアクティブ ADS 以上である必要があります。
- 06** 新規 VSAM データ・セットをフォーマット設定すると、ユーティリティ DBFUMRIO は、データ・セットをクローズし、ICIP オプションを使用してデータ・セットを再オープンしましたが、クローズ・エラーが発生しました。
- 07** 新規 VSAM データ・セットをクローズした後、ユーティリティ DBFUMRIO は、ICIP オプションを使用してデータ・セットを開きましたが、オープン・エラーが発生しました。
- 08** 指定された DD 名の ADS がオペレーターによって停止され、ADS のフォーマット設定が失敗しました。

システムの処置

ユーティリティは、指定された DD 名のフォーマット設定を停止します。

プログラマーの応答

RECON データ・セットをチェックして、指定された ADS が停止しているか、または RECON データ・セットから誤って削除されていないかどうかを確認します。停止していない場合は、ADS エントリーを DBRC RECON データ・セットに追加して、ジョブを再実行します。

DFS3747A **OPEN PROCESS IN COPY PHASE
FAILED FOR AREA=areaname
REASON CODE=nn**

説明

コピー・フェーズ中に、作成ユーティリティ DBFUMRIO は、ブロック・レベルでエリアを共用するすべてのサブシステム間のすべてのエリア・データ・セット (ADS) をオープンできませんでした。原因は、理由コード *nn* です。

コード (10 進数)
意味

- 01** エリアのロックが失敗した。

- 02** 他のサブシステムへの ADS オープンの通知が失敗しました。
- 03** システム障害により ADS の停止が失敗しました。
- 04** すべてのサブシステムのすべての ADS のオープンに失敗しました。

システムの処置

使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

作成するすべての新規 ADS が、ブロック・レベルでエリアを共用するすべてのサブシステムで停止していることを確認します。停止していない場合は、**/STOP ADS** コマンドを入力して、すべての新規 ADS をグローバルに停止します。この処置が終了したら、次の処置を行ってください。

コード (10 進数)
意味

- 01** ジョブを再実行してください。
- 02** ジョブを再実行してください。
- 03** ジョブを再実行してください。
- 04** ADS のオープンに失敗した理由を確認して、エラーを訂正します。この処置が終了したら、ジョブを再実行してください。

DFS3748A **OPENING AN ADS AMONG OTHER
SUBSYSTEMS FAILED FOR
AREA=areaname DD=ddname**

説明

DEDB 作成ユーティリティ DBFUMRIO のコピー・フェーズの開始時に、このユーティリティは、ブロック・レベルでエリアを共用する他のサブシステムに対して指定の *ddname* のエリア・データ・セット (ADS) を開くよう要求しましたが、一部のサブシステムで ADS を開くことができませんでした。

システムの処置

DEDB Create ユーティリティは、この ADS の操作を終了して、新しい ADS の作成を続行します。

プログラマーの応答

ADS のオープンに失敗した理由を確認し、エラーを訂正してジョブを再実行します。

DFS3749I **CREATE (FAILED|COMPLETED)**
FOR AREA=*areaname* DD=*ddname*

説明

areaname および *ddname* を使用したエリア・データ・セット (ADS) の作成操作が失敗または完了しました。

システムの処置

ありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3750A **I/O ERROR OR LONG BUSY**
OCCURRED WHEN ATTEMPTING

TO WRITE TO AREA=*areaname*
DD=*ddname*

説明

DEDB 作成ユーティリティー DBFUMRIO が、ターゲット・データ・セットに *ddname* および *areaname* を書き込もうとしましたが、入出力エラーを検出しました。

システムの処置

DEDB Create ユーティリティーは、この ADS の作成操作を終了して、新しい ADS の作成を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

第 79 章 DFS メッセージ DFS3751A - DFS3800

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3751A CREATE FAILED IN AVAILABLE PHASE FAILED FOR AREA=areaname REASON CODE=nn

説明

DEDB 作成ユーティリティー DBFUMRIO が、有効なフェーズ中に、すべてのエリア・データ・セット (ADS) を使用可能状況に設定しようとしたのですが、理由コード *nn* が原因で失敗しました。

コード (10 進数)

意味

01

エリアのロックが失敗した。

02

他のサブシステムに ADS を使用可能状況にするよう通知しようとしたのですが、失敗しました。

03

DBRC インターフェースが失敗しました。RECON データ・セットからの ADS リストの読み取りか、または RECON データ・セットへの ADS リストの書き込みに失敗しました。

04

すべての ADS が、ADSC チェーンまたは RECON データ・セットの ADS リスト内に見つかりませんでした。

05

システム障害のため、ADSC チェーンが無効です。

06

/STOP ADS コマンドが、システム障害によって失敗しました。

システムの処置

この DEDB 作成ユーティリティーは終了します。すべての新しい ADS がまだ使用不能です。

プログラマーの応答

作成するすべての新規 ADS が、すべてのサブシステムで停止していることを確認します。停止していない場合は、**/STOP ADS** コマンドを入力して、新規 ADS をグローバルに停止します。この処置が終了したら、次の処置を行ってください。

コード (10 進数)

意味

01

ジョブを再実行してください。

02

ジョブを再実行してください。

03

RECON データ・セット内にエリア・レコードが存在することを確認して、ジョブを再実行します。

04

作成する新しい ADS が RECON データ・セットに登録されていることを確認して、ジョブを再実行します。

05

ジョブを再実行してください。

06

ジョブを再実行してください。

DFS3752A CREATE FAILED IN COPY PHASE FOR AREA=areaname

説明

最後に作成された新規のアクティブ・エリア・データ・セット (ADS) で入出力エラーが発生し、新規の ADS はそれ以上作成されません。

システムの処置

使用中の高速機能ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答

次の手順を実行してください。

1. 作成するすべての新規 ADS が、すべてのサブシステムで停止していることを確認します。ADS が停止していない場合は、**/STOP ADS** コマンドを入力して、新しい ADS をグローバルに停止します。
2. 新規の VSAM データ・セットを定義してください。
3. ジョブを再実行してください。

DFS3753I COMPARE NOT PERFORMED BECAUSE I/O ERROR OR LONG BUSY OCCURRED FOR AREA=areaname DD=ddname RBA=nnnnnnnn

説明

DEDB AREA データ・セット比較ユーティリティーが、要求されたすべての ADS から制御インターバル (CI) を

読み取り、各 CI を比較しようとした。比較ユーティリティーは、*ddname* の ADS の CI で入出力エラーが発生したため、指示された制御インターバルを比較操作から除外しました。

システムの処置

処理は続行されます。

DFS3754A **UTILITY=*utility-name***
TERMINATED BECAUSE
AREA=*areaname* STOPPED

または

UTILITY=*utility-name* SKIPPED PROCESSING FOR
AREA=*areaname* BECAUSE AREA IS STOPPED |
QUIESCED

説明

このメッセージの最初の形式では、指定された使用中の高速機能ユーティリティーが、指定エリアの停止によって終了します。2 番目の形式では、エリアが停止されたことにより、*utility-name* がエリアの処理をスキップします。

エリアが静止される場合、このメッセージの 2 番目の形式が出され、*utility-name* はエリアの処理をスキップします。

システムの処置

このメッセージの最初の形式では、使用中の高速機能ユーティリティーが終了します。2 番目の形式では、高速機能ユーティリティーは、入力ストリームの次のエリアを続行します。

オペレーターの応答

/START AREA コマンドまたは **UPDATE AREA START (ACCESS)** コマンドを使用してエリアを再始動し、指定されたユーティリティーを再実行してください。

エリアが静止される場合、**UPDATE AREA STOP (QUIESCE)** コマンドを発行して静止を停止し、指定されたユーティリティーを再実行します。

DFS3755E **AN ERROR OCCURRED DURING A**
STOW OPERATION ON THE
DIRECTORY DATA SET FOR
RESOURCE *rsc_name* RC=*xx*
RSN=*yy*.

説明

システムが z/OS STOW 操作の試行中にエラーが発生しました。

システムの処置

IMPORT コマンドと DDL 活動化プロセスは異常終了します。

システム・プログラマーの応答

戻りコードと理由コードの詳しい説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」の STOW 完了コードを参照してください。

カタログ・ユーティリティーを実行して IMS ディレクトリー・データ・セットを再作成するか、再作成しない場合は IMS ディレクトリーを復元してください。IMS ディレクトリーを復元したら、IMPORT コマンドまたは DDL 定義ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール:

DFSMSOLSO

関連資料

[z/OS: DFSMS STOW マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[IMS ディレクトリー・データ・セット \(システム定義\)](#)

DFS3756A **COMPARE UTILITY TERMINATED**
BECAUSE COMPARABLE ADS
COUNT IS LESS THAN 2

説明

比較処理時に、比較可能なエリア・データ・セット (ADS) の数が 2 より小さかったため、DEDB 比較ユーティリティーが終了しました。これは、**/STOP ADS** コマンドか、または ADS を停止する内部コマンドが原因で起こった可能性があります。比較する ADS が停止しました。

システムの処置

DEDB 比較ユーティリティーは終了します。

DFS3757I **NO DATA SET REGISTERED IN**
DBRC RECON ADS LIST FOR
AREA=*areaname*

説明

IMS DEDB 初期設定ユーティリティー (DBFUMINO) が、DBRC AREA レコードの ADS リスト内のエリアに対応して登録されるエリア・データ・セット (ADS) がないことを検出しました。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

DBRC **INIT.ADS** コマンドを使用して DBRC RECON レコードに ADS を登録し、ユーティリティを再実行します。

問題判別:

3、8、35

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3758I DD=ddname DATA SET NAME MISMATCH IN DBRC RECON ADS LIST AND IN JCL DD STATEMENT FOR AREA=areaname DD=ddname

説明

IMS DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMINO) は、DBRC RECON ADS リスト内のデータ・セット名が JCL DD ステートメント内の名前と一致しないことを検出しました。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

DBRC RECON レコードおよび JCL DD ステートメント内のデータ・セット名が正しいことを確認して、ジョブを再実行します。

DFS3759I COMPARE NOT PERFORMED BECAUSE ADS IS STOPPED FOR AREA=areaname DD=ddname RBA=nnnnnnnn

説明

DEDB 比較ユーティリティが、要求されたすべてのエリア・データ・セット (ADS) から制御インターバル (CI) を読み取り、各 CI を比較しようとしていました。指定された DD 名の ADS が **/STOP ADS** コマンドまたは内部コマンドによって停止されたため、このユーティリティは、指示された CI を比較操作から除外します。この ADS の他の CI については、読み取りまたは比較は行われません。

システムの処置

処理は続行されます。

DFS3760A AREA=areaname NOT REGISTERED IN DBRC RECON DATA SET

説明

DEDB Create ユーティリティ DBFUMRIO、または DEDB 比較ユーティリティ DBFUMMHO の場合は、エリア名が DBRC RECON データ・セットに登録されている必要があります。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

指定されたエリアおよびその ADS を DBRC RECON データ・セットに登録して、ジョブを再実行します。

DFS3761I OPEN/CLOSE RECOVERY FAILED FOR AREA=areaname, (READ|WRITE) ERROR, RBA=nnnnnnnn

説明

オープン/クローズのリカバリーの処理中に、指定エリア内で指示された CI 番号の読み取りまたは書き込みエラーが発生しました。このメッセージの前にメッセージ DFS2571I または DFS2572I が出力される場合があります。

システムの処置

オープンまたはクローズのリカバリー処理が終了します。DBRC RECON データ・セット中に、指定エリアが停止されてリカバリー必要状況に設定されます。

オペレーターの応答

データベース・リカバリー・ユーティリティを実行して、指定エリアをリカバリーします。その後でジョブを再実行します。

DFS3762I CI-RBA=nnnnnnnn ERROR FEEDBACK=xxxxxxx IN RESPONSE TO A VSAM (GET|POINT) REQUEST ON AREA=areaname DD=ddname

説明

データベース・イメージ・コピー・ユーティリティが、DEDB エリアから読み取りまたはポイントしようとしたときにエラーが発生しました。VSAM GET または POINT マクロで問題が検出されました。

システムの処置

データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーは、次の使用可能データ・セットの DEDB エリアから読み取りまたはポイントします。

プログラマーの応答

エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

関連資料

[z/OS: GET - レコードの取得 \(VSAM マクロ\)](#)

[z/OS: POINT - アクセスのための位置付け \(VSAM マクロ\)](#)

[z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

DFS3763I	DEDB AREA DATA SET CONTROL BLOCK NOTIFY FAILURE - AREA STOPPED. DBD=dbdname AREA=areaname DD=ddname
-----------------	--

説明

IMS が、指定されたエリア・データ・セットのエリア・データ・セット状況を変更し、状況の同期をとるために、緊急時再始動時に他のサブシステムに通知しようとして、IRLM の問題を検出しました。状況の変更が、障害の発生したシステムで要求されました。

システムの処置

指示された DEDB エリアが停止し、緊急時再始動が続行されます。

プログラマーの応答

緊急時再始動の後に **/START AREA GLOBAL** コマンドを使用してエリアを再始動します。

問題判別:

6、27

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3764I	DEDB AREA DATA SET STOP SYNCHRONIZATION NOT AVAILABLE - AREA STOPPED. DBD=dbname AREA=areaname DD=ddname
-----------------	---

説明

IMS が、緊急時再始動中にエリア・データ・セットを停止しようとしていました。この状態は、緊急時再始動中に指定のエリア・データ・セットに入出力エラーがあった

場合、またはシステム障害時に外部または内部でエリア・データ・セット (ADS) 停止処理が行われていた場合に起こります。外部または内部で ADS 停止処理が行われている場合は、緊急時再始動時に ADS 停止を使用できません。したがって、IMS は、強制的にエリアを停止しました。

システムの処置

指示された DEDB エリアが停止し、緊急時再始動が続行されます。

プログラマーの応答

緊急時再始動の後に **/START AREA GLOBAL** コマンドを使用してエリアを再始動します。指示されたデータ・セットに対して、DEDB エリア・データ・セット作成ユーティリティー DBFUMRIO またはデータベース・リカバリー・ユーティリティー DFSURDB0 を実行する必要があります。

DFS3765I	DEDB AREA CONTROL BLOCK NOTIFY FAILURE - AREA STOPPED. DBD=dbname AREA=areaname
-----------------	--

説明

緊急時再始動中に、IMS が指定されたエリアのエリア状況を変更し、他のサブシステムに通知して状況の同期をとろうとしたときに、IRLM の問題を検出しました。状況の変更が、障害の発生したシステムで要求されました。

システムの処置

指示された DEDB エリアが停止し、緊急時再始動が続行されます。

プログラマーの応答

緊急時再始動の後に **/START AREA GLOBAL** コマンドを使用してエリアを再始動します。

DFS3766A	NOTIFY REQUEST TO STOP AN ADS FAILED FOR AREA=xxxxxxx DD=yyyyyyyy
-----------------	--

説明

ERE 処理中に、ADS を共有する各サブシステムの指定されたエリア・データ・セット (ADS) を停止しようとしていましたが、失敗しました。すべてのサブシステムにおける ADS の状況は、コピー・フェーズ状況またはフォーマット・フェーズ状況のままとなります。

システムの処置

システムの操作が継続します。

オペレーターの応答

ユーザーは、**/STOP ADS** コマンドを入力して、この ADS を共用するすべてのサブシステムの ADS を停止する必要があります。

DFS3766W PSB pppppppp REQUIRES STOPPED DEDB DATA BASE dddddddd, PSB STOPPED.

説明

必要な高速機能 DEDB dddddddd が使用不可であったため、スケジューリングが終了し、PSB pppppppp が停止しました。

システムの処置

処理は停止します。

DFS3767A NOTIFY REQUEST TO SET AN ADS TO AVAILABLE STATUS FAILED FOR AREA=xxxxxxx DD=yyyyyyyy

説明

ERE 処理中に、ADS を共用するすべてのサブシステムで指定されたエリア・データ・セット (ADS) を使用可能状況にしようとしたましたが、失敗しました。各サブシステムの ADS の状況は、コピー・フェーズ状況のままとなります。RECON D/S の ADS の状況は、使用可能です。

システムの処置

システムの操作が継続します。

オペレーターの応答

各サブシステムと RECON D/S の間で ADS 状況に違いがあるため、オペレーターは、**/STOP AREA** コマンドまたは **UPDATE AREA STOP(SCHD)** コマンドを入力して、この ADS にアクセスするエリアをいったん停止してから、エリアを再始動する必要があります。

DFS3768A DBRC REQUEST TO SET AN ADS TO UNAVAILABLE STATUS FAILED FOR AREA=xxxxxxx DD=yyyyyyyy

説明

ERE 処理中に、RECON データ・セット内で指定されたエリア・データ・セット (ADS) を使用不可状況にしようとしたましたが、失敗しました。RECON データ・セットの ADS の状況は、コピー・フェーズ状況のままとなります。

システムの処置

システムの操作が継続します。

オペレーターの応答

オペレーターは、DBRC コマンドを使用して、ADS の状況を使用不可状況に設定する必要があります。ADS の状況が、RECON データ・セットおよび各サブシステムの両方で、使用不可状況であることを確認してください。

DFS3769I INVALID SYNTAX IN START OR STOP TIME PARM

説明

開始時または停止時パラメーターで、プログラムにエラーが発生しました。

システムの処置

DEDB ユーティリティ・プログラムは、戻りコード 08 で終了します。

オペレーターの応答

無効な入力パラメーターを訂正して、ユーティリティを再実行してください。

DFS3770W SYNCHRONIZING PROCESS TIME OUT DURING START AREA PROCESSING FOR AREA areaname

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME OUT DURING STOP AREA PROCESSING FOR AREA areaname

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME BETWEEN SUBSYSTEMS HAS BEEN EXCEEDED

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED - (reason) areaname

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED - CTLBLK SYNC *areaname*

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED - ALLOC/OPEN ADS *areaname*

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED - UOW LOCK INIT *areaname*

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED - STOP ADS *areaname*

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED - STOP AREA *areaname*

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED - START AREA *areaname*

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED - SHVSO SYNC

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED - SHSDEPS SYNC

説明

サブシステムのリソース同期化が、妥当な時間内に終了しませんでした。この状態は、有効な条件である可能性があります。IMS がハングが存在すると判断した場合、IMS は待ち状態を解決しようとしています。IMS は、プロセスをリジェクトして 2 番目の形式のメッセージを出力するか、または (プロセスを再試行できるよう) ハングを解決しようとした可能性があります。いずれの場合でも、最初の形式のメッ

セージが外部介入なしで終了したときは、それ以上のアクションは必要ありません。

最初の形式のメッセージが続く場合は、停止条件が存在するため、手動で解決する必要があります。メッセージ・テキスト内に、次の変数が示されます。

reason

超過時間の原因を示します。これは、次のいずれかの状態となります。

CTLBLK SYNC

IMS は、内部情報の同期をとる必要があります。

ALLOC/OPEN ADS

エリアのオープンまたは ADS 作成アクションの一部として ADS がオープン中です。

UOW LOCK INIT

IMS は、ユーティリティの開始によって、UOW ロック・モードに切り替わろうとしています。

STOP AREA

エリアが停止中です。この停止は、コマンドまたは内部の停止処理によるものです。

START AREA

エリアが開始中です。

SHVSO SYNC

SHVSO 情報が内部的にデータ同期されていません。

SHSDEPS SYNC

SHSDEP 情報が内部的にデータ同期されていません。

areaname

影響を受けるエリアを示します。

システムの処置

最初の形式のメッセージが続く場合、発信元システム (メッセージを受け取るシステム) は、完了していない共用パートナーからのアクションを待機しています。この状態は、ハングを示します。最初の形式のメッセージに示された理由に基づく方法が、停止を解決する唯一の方法となります。

オペレーターの応答

ブロック・レベルの共用に加わるいずれかのサブシステムに問題がないかどうかを判別します。プロセッサの過負荷によってサブシステムがビジー状態になっているか、またはプロセッサ STOP キーが押された場合、アクションは必要ありません。サブシステムが待ち状態またはループ状態にある場合は、**/STOP** コマンドまたは **MVS MODIFY** コマンドを入力して、そのサブシステムを終了する必要があります。このようにしないと、待ち状態またはループ状態が無制限に続く場合があります。

プログラマーの応答

このメッセージが複数回出力された場合、他のサブシステムではプロセッサがビジー状態ではなく、プロセッサ STOP キーは押されておらず、他のサブシステムに重大な問題があります。適切なデータを収集した後、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。シスプレックス内のすべての IMS サブシステムのメモリー・ダンプを収集してください。

問題判別:

1、3、4、5、6、8、10、11、14

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3771I AREA areaname CANNOT BE PROCESSED DUE TO 2ND CI EEQE (BUFFER)

説明

次のいずれかの理由により、AREA areaname が処理できませんでした。

- AREA に 2 番目の CI EEQE バッファがあるために、/STO AREA (LOCAL) または UPDATE AREA STOP(SCHD) コマンドが処理されませんでした。
- AREA に 2 番目の CI EEQE があるために、/STOP AREA GLOBAL、UPDATE AREA STOP(SCHD)、/STOP ADS、/DBR DB、UPDATE DB STOP(ACCESS)、または /DBR AREA コマンドが処理されませんでした。

システムの処置

AREA のコマンド処理が終了します。

オペレーターの応答

入出力防止が解決されたら、/UNLOCK コマンドまたは OS GO 応答コマンドを入力して、すべての EEQE をパーズします。その後、失敗したコマンドを再入します。

DFS3772I AREA areaname STOPPED. RECOVERY NEEDED DUE TO 2ND CI EEQE BUFFER

説明

/CHECKPT FREEZE の処理中に、指定された AREA が停止し、その状況に要リカバリーのマークが付けられました (AREA が DBRC に登録された場合)。この状態は、AREA に 2 番目の CI EEQE バッファがあり、それを物理データ・セットに書き込むことができなかった場合に発生します。

システムの処置

AREA を停止した後、システムは処理を継続します。

プログラマーの応答

データベース・リカバリー・ユーティリティーを使用して、AREA をリカバリーします。

DFS3773I AREA=areanameDD=ddnameSTOP AREA GENERATED BY ADS CLOSE ERROR.

説明

複数の IMS サブシステムによって共有されている複数のエリア・データ・セット (ADS) エリアの ADS データ・セットをクローズしようとしていたとき、その ADS データ・セットの 2 番目の CI の更新中に I/O エラーが発生しました。この状態により、内部 /STOP AREA コマンドが生成され、現在エリアを共有している IMS サブシステムに送られます。AREA を停止した後、システムは処理を継続します。

システムの処置

システムはエリアをクローズし、このメッセージを出力して処理を継続します。

オペレーターの応答

クローズしたエリアを再始動し、その他の ADS データ・セットを使用してエリアの処理を再開できるようにします。

モジュール:

DBFMPCLO

DFS3774A INSUFFICIENT STORAGE FOR CONTROL BLOCKS

説明

GETMAIN マクロが、SP=0 用のメモリー不足のために失敗しました。この状態のために、DFSHALDB データ・セットの入力ステートメントが読み取られず、したがって妥当性検査されません。

システムの処置

ジョブは、疑似異常終了 0201 と下記の理由コードで終了します。

REASON=00000028

制御ブロック・ストレージに関する GETMAIN 障害

プログラマーの応答

REGION パラメーターのサイズ値を増やします。

モジュール:

DBFSHSP10

関連情報

IMS 異常終了 0201

**DFS3775A OPEN FAILURE OF DDNAME
 DFSHALDB**

または

**DATASET ATTRIBUTES FOR DDNAME DFSHALDB
ARE NOT VALID**

説明

DFSHALDB データ・セットがオープンしなかったか、RECFM が固定ブロック形式でないか、または LRECL が 80 に等しくないかのいずれかです。

システムの処置

ジョブは、疑似異常終了 0201 と下記のいずれかの理由コードで異常終了します。

REASON=00000016
RECFM を表す

REASON=00000020
LRECL を表す

REASON=00000024
DFSHALDB がオープンしなかったことを表す

プログラマーの応答

- 理由コードが 16 の場合は、RECFM を必ず FB にしてください。
- 理由コードが 20 の場合は、LRECL を必ず 80 にしてください。
- 理由コードが 24 の場合は、付随している DFS0730I メッセージを使用して、オープン障害の原因を判別してください。

モジュール:

DFSHSP10

関連情報

265 ページの『DFS0730I』

UNABLE TO OPEN OR CLOSE DATASET WITH
DDNAME *DD* 名 FOR REASON *x*, *yy*, *z*
DATABASE データベース名 プログラム ID

IMS 異常終了 0201

**DFS3776A HALDB SELECTIVE PARTITION
 PROCESSING NOT ALLOWED IN
 xxx REGION**

説明

入力ステートメントを含んでいるデータ・セット DFSHALDB は、IFP、JMP、または MPP 用のジョブでは許可されません。メッセージ・テキスト内の xxx は、IFP、JMP、または MPP のいずれかです。

システムの処置

ジョブは、疑似異常終了 0201 と下記の理由コードで異常終了します。

REASON=00000012

IFP、JMP、または MPP を表す

プログラマーの応答

入力ステートメントを除去して、データ・セット DFSHALDB は保存するか、または データ・セット DFSHALDB を JCL から除外するかしてください。

モジュール:

DFSHSP10

関連情報

IMS 異常終了 0201

**DFS3777A HALDB STATEMENTS READ AND
 VALIDATED FOR SELECTIVE
 PARTITION PROCESSING RC=xx**

説明

メッセージ DFS3777A の戻りコード (xx) は、次のどちらかになります。

04

少なくとも 1 つのステートメントが妥当性検査され、受け入れられました。しかし、少なくとも 1 つの他のステートメントに構文エラーがあったか、構文が正しいステートメントの数が 20 個を超えていました。

08

すべてのステートメントが妥当性検査され、構文エラーのためにリジェクトされました。

システムの処置

ジョブは、疑似異常終了 0201 と、理由コード 04 または 08 で終了します。

プログラマーの応答

構文エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSHSP10

関連情報

IMS 異常終了 0201

**DFS3777I HALDB STATEMENTS READ AND
VALIDATED FOR SELECTIVE
PARTITION PROCESSING RC=xx**

説明

メッセージ DFS3777I の戻りコード (xx) は 00 です。
これはすべてのステートメントが妥当性検査され、受け
入れられたことを意味します。

システムの処置

ジョブは処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSHSPI0

**DFS3778A INSUFFICIENT STORAGE TO
ACQUIRE HSPB CONTROL BLOCK**

説明

キー 7 の HSPB 制御ブロック用に使用可能なストレージが SP=241 にありませんでした。

システムの処置

ありません。

プログラマーの応答

状態を訂正するために、オペレーティング・システム・
プログラマーの援助を求めてください。

モジュール:
DFSHSPK0

**DFS3779A PCB=(yyyyyyyy,pppppppp),xxxxxxx
xxxxxxx**

または

PCB=(nnnn,pppppppp,NUM=yyy),xxxxxxxxxxxxx

説明

このメッセージの最初の形式の場合、メッセージ・テキ
スト内の各項目は次のとおりです。

yyyyyyyy
NAME/LABEL。

pppppppp

DFSHALDB によって提供されたステートメントに
示されていた区画名です。

XXXXXXXXXXXXXXXX

次のエラー条件のいずれかが存在します。

- DBPCB NUMBER IN ERROR
- PARTITION NAME IN ERROR
- NAME/LABEL IN ERROR
- PCB FOR NON-HALDB

このメッセージの 2 番目の形式の場合、メッセージ・テ
キスト内の各項目は次のとおりです。

nnnn

DBPCB 番号

yyy

範囲 (指定されている場合)

pppppppp

DFSHALDB によって提供されたステートメントに
示されていた区画名です。

XXXXXXXXXXXXXXXX

次のエラー条件のいずれかが存在します。

- DBPCB NUMBER IN ERROR
- PARTITION NAME IN ERROR
- NAME/LABEL IN ERROR
- PCB FOR NON-HALDB

このメッセージの詳しい説明は、メッセージ DFS3779E
を参照してください。

関連情報

DFS3779E

HALDB SELECTIVE PARTITION PROCESSING
ABEND U0202

**DFS3779E HALDB SELECTIVE PARTITION
PROCESSING ABEND U0202**

説明

「構文的に正しい」と正常に検証されたカードの少なく
とも 1 枚に、次のようなエラー条件の理由があります。

- リスト内の DBPCB の数よりも大きい DBPCB 番号
が、PSB に検出されました。
- 区画名が、つづりを誤ったか、または DBPCB 番号ま
たは NAME/LABEL によって参照されるデータベース
内で見つけれませんでした。この状態は、
PROCSEQ を持つ DBPCB を使用するとき、ターゲ
ット・データベース内の区画名が提供された場合など
が考えられます。
- 指定された NAME または LABEL は、PSB 内にあるリ
ストに記載されている DBPCB で見つけれませんでした。

- DBPCB 番号または NAME/LABEL が非 HALDB PCB を参照しています。

システムの処置

疑似異常終了 0202 が出されます。

プログラマーの応答

DBPCB 番号、NAME/LABEL、または区画名を訂正するか、ターゲット区画名を指定している項目を除去して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSHSPPO

関連情報

[IMS 異常終了 0202](#)

DFS3780I **ACTIVE DDNAMES: modblks-name**
DFSDIRC format-name MODSTAT
ID: nnnn

説明

このメッセージは、アクティブなオンライン変更ライブラリーおよび現在の変更 ID を含むオンライン変更状況を示しています。IMS がこのメッセージを出すのは、次の場合です。

- IMS 再始動
- 単純チェックポイント
- 新しい定義がコミットされる前に現在アクティブなオンライン変更ライブラリーを示すための **/MODIFY PREPARE** または **INITIATE OLC PHASE(PREPARE)**。
- オンライン変更がコミットされた後で新しいアクティブなオンライン変更ライブラリーを示すための **/MODIFY COMMIT** または **INITIATE OLC PHASE(COMMIT)**。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modblks-name

IMS JCL 内のアクティブ MODBLKS DD。これは、アクティブな MODBLKS ライブラリーを識別します。*modblks-name* は MODBLKSA または MODBLKSB のどちらかです。MODBLKS DD カードが IMS JCL から省略され、MODBLKS のオンライン変更が使用不可になっている場合、この変数はブランクです。

DFSDIRC

内部で管理されている IMS ディレクトリー・データ・セットのデータ・セット DD 名。

format-name

IMS JCL 内のアクティブ FORMAT DD。これは、アクティブな MFS フォーマット・ライブラリーを識別します。*format-name* は FORMATA または

FORMATB のどちらかです。このシステムが DBCTL の場合、*format-name* はブランクです。

nnnn

変更 ID 番号。MODSTAT データ・セットを初期設定するときに、変更 ID としてどの番号を割り当てるかを決めてください。この番号は、オンライン変更が成功するたびに 1 ずつ増分されます。この番号を 0 に初期設定した場合、この値は、コールド・スタート以来、何回のオンライン変更が成功したかを示します。変更 ID は、緊急時再始動のときに、セキュリティ状況をリカバリーするために使用されます。

このメッセージは、次の後にも出されます。

- /DBD** によって呼び出された単純チェックポイント
- /DBR** によって呼び出された単純チェックポイント
- /CHE** によって呼び出された単純チェックポイント

DFS3781 **DB:name AREA:name DAMAGE AT**
RBA:xxxxxxx OFFSET:nnnnn
LENGTH:aa

説明

緊急時再始動、XRF テークオーバー、または高速データベース・リカバリー (Fast Database Recovery) のリカバリー・フェーズ中に、制御インターバル (CI) の損傷が検出されました。AREA は停止されます。

メッセージ・テキストで、変数とそのそれぞれの意味は、次のとおりです。

DB

データベース名

AREA

エリア名

DAMAGE AT RBA

損傷を受けた制御インターバルの相対バイト・アドレス

OFFSET

CI 内の損傷の相対オフセット

LENGTH

損傷の長さ

システムの処置

IMS は、通常のエリア停止メッセージを発行します。

プログラマーの応答

エリアをリカバリーする必要があります。

DFS3782I **DB:O'name' AREA:name**
ADS:name 2ND CI DAMAGE
DETECTED

説明

XRF のテークオーバーの後の最初のオープン時の DMAC のリフレッシュ中に、2 番目の制御インターバル (CI) の損傷が検出されました。

ユーザーの処置

次のいずれかの処置を取ってください。

- 複数のエリア・データ・セット (MADS) が定義されている場合は、2 番目の CI によって損傷を受けた ADS コピーを以降のリカバリーについて使用不可状況に変更する。その他の有効な ADS コピーを使用して、エリアを開始します。
- 複数のエリア・データ・セット (MADS) が定義されていない場合は、エリアをリカバリーする。

DFS3784I **PCB=(nnnn,pppppp) IS
REPLACED BY DFS3784I
PCB=(ddddddd,pppppp,NUM=yy
y)**

説明

HALDB ステートメントの DBPCB 番号 *nnnn* を、DBPCB 制御ブロックに指定された DBPCB ラベルまたは名前と関連付けた後で、その処理が、*ddddddd* という DBPCB ラベルまたは名前をもつ重複する HALDB ステートメントを検出しました。これが発生した場合、DBPCB ラベルまたは名前が、番号 *nnnn* で参照される DBPCB より優先されます。*yyy* は範囲を表します (指定されている場合)。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSHSPPO

DFS3785E **DIAGNOSE AWE INITIALIZATION
FAILED – reason_text**

説明

診断 AWE プロセッサの初期設定中にリカバリー不能エラーが検出されました。問題が訂正されて、IMS が再始動されるまで、この AWE プロセッサによって提供されるサービスは使用できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason_text

検出された特定のエラーを識別するために使用されます。理由は、次のいずれかです。

DGSW GETSTOR FAILED RC=*retcode*

診断 AWE プロセッサ DGS TCB の初期設定中に、DGSW (診断作業域) 用にストレージを割り振るために GETSTOR 呼び出しが行われました。しかし、GETSTOR 呼び出しは、ゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。

システムの処置

IMS は処理を続行しますが、問題が解決されて、IMS が再始動されるまで、診断 AWE プロセッサによって提供されるサービスは使用できません。

システム・プログラマーの応答:

この問題が単に IMS の始動時のストレージ不足エラーである場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:
DFSDGS80

DFS3786E **DIAGNOSE AWE PROCESSING
ERROR – reason_text**

説明

診断 AWE の処理中にリカバリー不能エラーが検出されました。このメッセージは、診断 AWE の処理中に、リカバリー不能エラーまたは無効な AWE 要求が検出された場合に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason_text

特定のエラーを識別します。

DUPLICATE INITIALIZATION AWE

重複した初期設定 AWE 要求を受け取りました。許可される初期設定 AWE 要求は 1 つだけであるため、重複した要求は無視されます。

DUPLICATE TERMINATION AWE

重複した終了 AWE 要求を受け取りました。許可される終了 AWE 要求は 1 つだけであるため、重複した要求は無視されます。

request QUEUED PRIOR TO INIT

初期設定 AWE 要求を受け取って処理する前に、AWE 要求を受け取りました。初期設定 AWE 要求は、最初にキューに入れられて処理される AWE でなければなりません。理由テキスト *request* は、受け取った AWE 要求のタイプを示しています。AWE は無視されます。

UNKNOWN AWE FUNCTION: *hex_id*

診断 AWE プロセッサに認識されていない AWE 要求を受け取りました。理由テキストで、*hex_id* は、要求された不明な AWE 機能の 16 進 ID を示します。AWE は無視されます。

システムの処置

IMS は処理を続行しますが、要求された診断 AWE サービスは正常に完了しませんでした。

システム・プログラマーの応答:

IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DFSDGS80

**DFS3787E DIAGNOSE SYSOUT PROCESSING
 ERROR – reason_text**

説明

/DIAGNOSE コマンドの SYSOUT 要求の処理中にリカバリー不能エラーが検出されました。このメッセージは、/DIAGNOSE コマンドの SYSOUT 処理中に、リカバリー不能エラーが検出された場合に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason_text

特定のエラーを識別します。

INVALID FUNCTION CODE SPECIFIED

/DIAGNOSE コマンドの SYSOUT I/O サービスに対する呼び出しが、無効な機能を要求しました。無効な要求は無視されます。IBM ソフトウェア・サポート に連絡して、エラーを報告してください。

INVALID STATE FOR function REQUEST

/DIAGNOSE コマンドの SYSOUT I/O サービスに対する呼び出しが、理由テキストに示されている順不同の機能を要求しました。無効な要求は無視されます。IBM ソフトウェア・サポート に連絡して、エラーを報告してください。

ALLOCATION FAILED RC=retcode

要求された SYSOUT データ・セットの割り振り中にエラーが検出されました。有効な SYSOUT クラスが指定されていること、および JES サービスが使用可能であることを確認してください。エラーが続く場合は、理由テキストの中の戻りコード *retcode* を書き留めてください。IBM ソフトウェア・サポート に連絡してエラーを報告し、診断 X'67D0' ログ・レコードが入った IMS システム・ログを保管します。このログ・レコードは、エラーに関する詳細情報を提供します。

DCBB GETSTOR FAILED RC=retcode

要求された SYSOUT データ・セットの割り振り中にエラーが検出されました。DCBB ストレージを割り振るために GETSTOR 呼び出しが行われましたが、GETSTOR はゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。IMS のストレージの問題が一時的なものである場合は、後で要求を再発行してください。問題が解決しない場合は、

IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

SIJOB GETSTOR FAILED RC=retcode

要求された SYSOUT データ・セットの割り振り中にエラーが検出されました。SIJOB ストレージを割り振るために GETSTOR 呼び出しが行われましたが、GETSTOR はゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。IMS のストレージの問題が一時的なものである場合は、後で要求を再発行してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

DECB GETSTOR FAILED RC=retcode

要求された SYSOUT データ・セットの割り振り中にエラーが検出されました。DECB ストレージを割り振るために GETSTOR 呼び出しが行われましたが、GETSTOR はゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。IMS のストレージの問題が一時的なものである場合は、後で要求を再発行してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

DATASET OPEN FAILED RC=retcode

要求された SYSOUT データ・セットのオープン時にエラーが検出されました。システムの OPEN サービスは、ゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。診断 X'67D0' ログ・レコードが入った IMS システム・ログを保管します。このログ・レコードは、エラーに関する詳細情報を提供します。また、エラーに関連する z/OS IEC メッセージが入っている可能性があるシステム・ログまたは IMS ジョブ・ログも保存してください。IBM ソフトウェア・サポート に連絡して、エラーを報告してください。

DATASET CHECK FAILED RC=retcode

要求された SYSOUT データ・セットの書き込みバッファの検査中にエラーが検出されました。システムの CHECK サービスは、ゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。IBM ソフトウェア・サポート に連絡してエラーを報告し、診断 X'67D0' ログ・レコードが入った IMS システム・ログを保管します。このログ・レコードは、エラーに関する詳細情報を提供します。また、エラーに関連する z/OS IEC メッセージが入っている可能性があるシステム・ログまたは IMS ジョブ・ログも保存してください。

DATASET CLOSE FAILED RC=retcode

SYSOUT データ・セットのクローズ中にエラーが検出されました。システムの CLOSE サービスは、ゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。IBM ソフトウェア・サポート に連絡してエラーを報告し、診断 X'67D0' ログ・レコードが入った IMS システム・ログを保管します。このログ・レコードは、エラーに関する詳細情報を提供します。また、エラーに関連する z/OS IEC メッセージが入っている可能性があるシス

テム・ログまたは IMS ジョブ・ログも保存してください。

DATASET WRITE FAILED RC=*retcode*

SYSOUT データ・セットへの書き込み中にエラーが検出されました。システムの WRITE サービスは、ゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してエラーを報告し、診断 X'67D0' ログ・レコードが入った IMS システム・ログを保管します。このログ・レコードは、エラーに関する詳細情報を提供します。また、エラーに関連する z/OS IEC メッセージが入っている可能性があるシステム・ログまたは IMS ジョブ・ログも保存してください。

DATASET SYNAD/ABEND EXIT CALLED

SYSOUT データ・セットでエラーが検出されました。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してエラーを報告し、診断 X'67D0' ログ・レコードが入った IMS システム・ログを保管します。このログ・レコードは、エラーに関する詳細情報を提供します。また、エラーに関連する z/OS IEC メッセージが入っている可能性があるシステム・ログまたは IMS ジョブ・ログも保存してください。

DATASET WRITING PAST LAST BLOCK

/DIAGNOSE コマンドの SYSOUT I/O サービスに対する呼び出しが、順不同の WRITE 機能を要求しました。無効な要求は無視されます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、エラーを報告してください。

システムの処置

IMS は処理を続行しますが、要求された **/DIAGNOSE** コマンドの SYSOUT は正常に完了しませんでした。

システム・プログラマーの応答:

IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSDGS82

関連資料

[/DIAGNOSE SNAP コマンド \(コマンド\)](#)

DFS3788I	DIAGNOSE SYSOUT DATA SET <i>dsname</i> action FOR SNAP resource TKN(token)
-----------------	---

説明

/DIAGNOSE コマンドで要求された SYSOUT データ・セットがオープンまたはクローズされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dsname

SYSOUT データ・セットの名前。

action

データ・セットに対して実行されるアクション (OPENED または CLOSED)。

resource

SYSOUT データ・セット要求に関連付けられている **/DIAGNOSE SNAP** コマンド・リソースの名前。

token

/DIAGNOSE SNAP コマンドの SYSOUT 要求に関連付けられている固有の 8 バイトの 16 進トークン。このトークンは、メッセージ DFS3789I に含まれているトークンと同じであり、コマンド・アクションと SYSOUT 結果を相関させるために使用できます。

システムの処置

/DIAGNOSE コマンドの SYSOUT データ・セットが正常にオープンまたはクローズされました。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSDGS82

関連資料

[/DIAGNOSE SNAP コマンド \(コマンド\)](#)

DFS3789I	DIAGNOSE COMMAND SNAP resource QUEUED TO SYSOUT TKN(token)
-----------------	---

説明

OPTION(SYSOUT) が指定された **/DIAGNOSE** コマンドが発行され、SNAP データ・キャプチャー・プロセスが完了し、結果は SYSOUT 処理のために DGS AWE プロセッサに正常にエンキューされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resource

コマンドで指定されている SNAP リソース・タイプ。

token

/DIAGNOSE SNAP コマンドの SYSOUT 要求に関連付けられている固有の 8 バイトの 16 進トークン。このトークンは、メッセージ DFS3788I に含まれているトークンと同じであり、コマンド・アクションと SYSOUT 結果を相関させるために使用できます。

システムの処置

要求された **/DIAGNOSE** コマンドが正常に処理され、要求された SNAP データが SYSOUT 処理のためにエンキューされました。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSDGS9C

関連資料

[/DIAGNOSE SNAP コマンド \(コマンド\)](#)

DFS3792 **QCNT KEYWORD INVALID WITH
DISPLAY BY ATTRIBUTE OPTION**

説明

ユーザーを属性ごとに表示するときに、QCNT キーワードを **/DISPLAY USER** コマンドで使用できません。ノードを属性ごとに表示するときに、QCNT キーワードを **/DISPLAY NODE** コマンドで使用できません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

特定のユーザーまたはノードを指定するか、または QCNT キーワードを省略します。コマンドを再入します。

モジュール:

DFSIDPE0、DFSIDPBO

DFS3793E **AN EMERGENCY RESTART
CANNOT BE USED TO INTRODUCE
THE CURRENT CHANGE TO
ACBMGMT SUPPORT.**

説明

緊急時再始動時に、IMS は、緊急時再始動時にオンライン IMS システムに導入できない ACB の IMS 管理 (ACBMGMT) のサポートに対する変更を検出しました。

システムの処置

IMS の再始動は終了し、IMS は異常終了 U0071 を発行します。

システム・プログラマーの応答

チェックポイントを指定せずに (/NRE CHECKPOINT 0) コールド・スタートまたは正常再始動を使用して、ACB の IMS 管理のサポートに対する現在の変更を活動化してください。

モジュール:

DFSRDB30

関連概念

[IMS ディレクトリー・データ・セット \(システム定義\)](#)

関連情報

DFSDFxxx メンバーの CATALOG および
CATALOGxxxx セクション (システム定義)
0071 (メッセージおよびコード)

DFS3794W **AN INCOMPLETE SNAPQ
CHECKPOINT MAKES TAKEOVER
IMPOSSIBLE. ALTERNATE SYSTEM
IS TERMINATED.**

説明

XRF 代替システムが、トラッキング・フェーズに必要な SNAPQ チェックポイントの読み取りを開始し、チェックポイントが完了していないことが検出されました。

システムの処置

代替 IMS はシャットダウンされます。

プログラマーの応答

アクティブな代替システムを再始動します。

DFS3795I **IOT EEQE PURGE FAILED.
AREA=areaname RBA=xxxxxxx
RC=yy**

説明

I/O 許容 EEQE パージ処理中に、少なくとも 1 つの EEQE をパージできませんでした。IMS は、パージされなかった EEQE ごとにこのメッセージを出力し、直後にメッセージ DFS0488I が続きます。areaname は、関連エリアの名前を示し、xxxxxxx は、関連 CI の RBA を示します。理由コード yy の意味は、次のとおりです。

コード (10 進数)

意味

04

CI ロックの取得要求が失敗しました。

08

エリア・ロックの取得要求が失敗しました。

12

エリアの OPEN 要求が失敗しました。

16

EEQE をパージしようとしたときに I/O エラーが発生しました。

20

I/O 許容パージが VSO エリアの許容データの書き込み準備をしていましたが、2 番目の CI の書き込みエラーによって、エリア・データ・セットが停止しました (または停止処理中)。エリア・データ・セットの停止によって、エリア全体が停止する場合があります。この場合は、パージが続行されると、異常終了します。

システムの処置

IMS は処理を続行しますが、EEQE パージをスキップします。

オペレーターの応答

/UNLOCK SYSTEM コマンドを発行した後、EEQE をパージします。

戻りコードが 12 の場合は、指定されたエリアについて **/START AREA** コマンドまたは **UPDATE AREA START (ACCESS)** コマンドを発行します。その後、再び **/UNLOCK SYSTEM** を発行してください。

IMS は、EEQE のパージを要求したときに XRF テークオーバー処理が完了していない場合にのみ、戻りコード 16 を発行します。テークオーバー処理が完了した後で **/UNLOCK** コマンドを再入すると、通常、パージは正常に終了します。パージされない EEQE を表示するには、**/DIS DB ALL BKERR** コマンドを入力します。

エリアが停止した場合は、エリアをリカバリーします。

DFS3796W AT LEAST ONE FAST PATH EEQE STILL EXISTS.

説明

通常のシャットダウン処理中に、IMS は、まだ少なくとも 1 つの EEQE (拡張エラー・キュー・エレメント) が存在することを検出しました。

システムの処置

通常シャットダウン処理が継続されます。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答

メッセージ DFS3867I を参照して、適当なアクションを判別します。

関連情報

[1138 ページの『DFS3867I』](#)

AUTOMATIC /UNLOCK SYSTEM WILL BE DONE

DFS3798 SB NOT INITIALIZED

説明

/START SB コマンドは、IMS.PROCLIB のメンバー DFSVSMxx の中で SBONLINE 制御ステートメントが提供されなかったために、処理されませんでした。

システムの処置

IMS は、順次バッファリング (SB) モジュールをロードしませんでした。**/START SB** コマンドは処理されません。

ユーザーの処置

SB を使用したい場合は、IMS.PROCLIB の適切な DFSVSMxx メンバーの中で SBONLINE 制御ステートメントを提供します。

DFS3799 SB NOT FUNCTIONAL

説明

/START SB コマンドは、前の IMS ソフトウェア問題が原因で順次バッファリング (SB) を使用できないために、処理されませんでした。

システムの処置

IMS は **/START SB** コマンドを破棄します。

ユーザーの処置

前に発行され、IMS が SB を非活動化する原因となったソフトウェア問題を記述しているエラー・メッセージを調べてください。

DFS3800 UNABLE TO ACQUIRE STORAGE FOR MFS DYNAMIC DIRECTORY EXPANSION

説明

IMS 拡張専用域のストレージは、初期設定時に MFS 動的ディレクトリーの拡張に使用できません。

システムの処置

MFS 動的ディレクトリーが固定されます。フォーマット・ブロックは、これ以上必要ありません。ディレクトリーは固定された状態のままとなり、このメッセージは、次回に IMS が再始動されるか、または **/CHANGE DIRECTORY MFS** コマンドが正常に完了するまで再発行されません。このコマンドは、MFS 動的ディレクトリーを、IMS 初期設定の直後に存在していた「プライム状態」に復元します。

プログラマーの応答

次回の再始動まで、固定された MFS 動的ディレクトリーを使用して IMS システムを稼働できるようにするか、可能であれば **/CHANGE DIRECTORY MFS** コマンドを発行してください。

第 80 章 DFS メッセージ DFS3801 - DFS3850A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3801 **CHKPT SNAPQ REQUIRED ON
ACTIVE SYSTEM**

説明

代替システムが、30 秒後に、アクティブ・システムの 'SNAPQ チェックポイントを見つけることができない場合は、XRF 複合システム内の代替システムがこのメッセージをマスター端末オペレーター (MTO) に送信します。

システムの処置

代替システムが継続されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) アクティブ・システムが SNAPQ チェックポイントを取得したかどうかを判別します。これ以外の場合は、アクティブ・システムで **/CHE SNAPQ** コマンドを入力して、手動 SNAPQ チェックポイントを強制します。アクティブ・システムが SNAPQ チェックポイントを取得した後、このメッセージが続く場合は、問題が代替システムに存在する可能性があります。メモリー・ダンプ付きで代替システムをキャンセルします。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3802W **XRF NOT POSSIBLE - ONLY ONE
RDS ALLOCATED.**

説明

XRF で定義された IMS システムは開始済みでしたが、JCL には 1 つの再始動データ・セット (RDS) DD ステートメントしか含まれていませんでした。

システムの処置

始動されようとしていた IMS 代替システムは異常終了します。他の IMS システムの始動は継続しますが、システムは XRF に対応しなくなります。

プログラマーの応答

XRF 対応システムが必要な場合は、IMS システムをシャットダウンしてください。再始動データ・セット用の IMSRDS および IMSRDS2 DD ステートメントを組み込んでから、IMS システムを再始動します。

DFS3803I **ENTER /SWITCH TO CAUSE THE
BACKUP TO TAKEOVER**

説明

代替 (バックアップ) システムがアクティブ・システムに潜在的な障害を検出しましたが、オペレーターは、すべてのテークオーバーを承認する必要があります。

システムの処置

代替システムは、アクティブ・システムのトラッキングを継続します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) テークオーバーを開始するには、代替システムで **/SWITCH SYSTEM FORCE** を入力します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3804I **LATEST RESTART CHKPT: yyddd/
hhmmss, LATEST BUILDQ CHKPT:
yyddd/hhmmss**

または

**[LATEST] [RESTART] CHKPT: yyddd/hhmmss,
HSBID=xx - [LATEST] BUILDQ CHKPT: yyddd/
hhmmss, HSBID=xx**

または

**LOG READ CHKPT: yyddd/hhmmss - RESTART
CHKPT: yyddd/hhmmss, HSBID=xx - BUILDQ
CHKPT: yyddd/hhmmss, HSBID=xx**

説明

このメッセージは、各 IMS チェックポイントの完了時に、DC ブロックのロードに有効な最後のチェックポイント ID を IMS がユーザーに示すために発行します。XRF 環境で実行している場合、それは、どの IMS システム (HSBID) が CHKPT を書き込んだかを示しています。最後の RESTART または RESTART CHKPT は、XRF システムが異常終了したときに、どの IMS システムを再始動する必要があるかを示します。これについての例外は BLDQ 再始動で、この再始動は、どの IMS システムでも行うことができます。

このメッセージの最初の形式は、非 XRF 環境で発行されます。

このメッセージの 2 番目の形式は、通常、XRF で実行中に発行されます。シャットダウン・チェックポイントまたは再始動後の XRF システムの場合は、LATEST という語はメッセージに表示されません。また、RESTART という語は、RST と略記されます。

このメッセージの 3 番目の形式が発行されるのは、テークオーバーが発生した後、しかも、IMS リカバリーに必要なシステム・チェックポイントが LAST DC CHKPT の前、またテークオーバーの前に書き込まれた場合だけです。新しいチェックポイント ID の LOG READ CHKPT は、IMS が入力ログの読み取りを開始するチェックポイントだけを示しています。このチェックポイント ID は HSBID を持っておらず、どの IMS システムを再始動するかを判別するとき、これを使用してはなりません。

一部の環境では、シャットダウンまたは取り消し中に最後のチェックポイントになったために、IMS がこのメッセージを発行できなかった可能性があります。このような事情では、後で再始動すると異なる CHKPT が示される場合があります。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答:

マスター端末オペレーターの応答 この情報は、XRF のテークオーバーの後に再始動する IMS システムを判別するのに役立ちます。

DFS3805	SURVEILLANCE KEYWORD INVALID - NO XRF CAPABILITY
----------------	---

説明

/CHANGE SURVEILLANCE コマンドが、XRF 非対応のシステムで入力されました。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答:

XRF 機能が必要な場合は、IMS システムを XRF 対応システムとして定義します。

DFS3806	BACKUP KEYWORD INVALID - NO XRF CAPABILITY
----------------	---

説明

/ERE BACKUP コマンドまたは **/STOP BACKUP** コマンドが、XRF 非対応のシステムで入力されました。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

XRF 機能が必要な場合は、IMS システムを XRF 対応システムとして定義します。

DFS3807	MORE THAN 1 PARAMETER IN /STA OR /STO SURVEILLANCE COMMAND
----------------	---

説明

/START コマンドまたは **/STOP SURVEILLANCE** コマンドが、複数の SURVEILLANCE パラメーターと共に入力されました。SURVEILLANCE パラメーターは、以下のいずれかでなければなりません。

LNK
RDS
LOG
ALL

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

SURVEILLANCE パラメーターを 1 つのみ指定して、コマンドを再入します。

DFS3808I	RDS LNK LOG SURVEILLANCE ALREADY STARTED STOPPED
-----------------	---

説明

次のいずれかが発生しました。

- **/START SURVEILLANCE** コマンドが入力されましたが、指定されたタイプの監視はすでに開始していました。
- **/STOP SURVEILLANCE** コマンドが入力されましたが、指定されたタイプの監視はすでに停止していました。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3809	NO LINK SURVEILLANCE - LINK NOT DEFINED
----------------	--

説明

/START または **/STOP SURVEILLANCE LNK** コマンドが入力されましたが、アクティブな IMS システムと代替 IMS システムの間のシステム間連絡 (ISC) リンクが IMS に対して定義されていません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

この監視が必要な場合は、XRF 対応 IMS システムへの ISC リンクを定義します。

DFS3810	KEYWORD ACTIVE OR BACKUP DOES NOT MATCH SYSTEM OR IS MISSING
----------------	---

説明

次のいずれかが発生しました。

- **/SWITCH SYSTEM** コマンドが、アクティブ・システムまたは代替 (バックアップ) システム (ACTIVE/BACKUP) のいずれに入力されたかを示すキーワードが、実際のシステムに対応していない。
- キーワード **ACTIVE** が欠落している。**/SWITCH SYSTEM** コマンドをアクティブ・システムで入力する場合は、キーワード **ACTIVE** を指定する必要があります。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

コマンドを入力するシステムの状態 (アクティブまたは代替) を確認してください。

DFS3811I	LNK RDS LOG SURVEILLANCE ACTIVE INACTIVE; INTERVAL TIMEOUT VALUE CHANGED FROM xx TO yy
-----------------	--

説明

この通知メッセージは、**/CHANGE SURVEILLANCE** コマンドに対する応答であり、DFS058I CHANGE COMMAND COMPLETED メッセージと共に発行されます。メッセージには、次の情報が含まれています。

- 変更された監視のタイプ (LNK|RDS|LOG)

- そのタイプの監視がアクティブであるか非アクティブであるか
- オリジナル (xx) および新規 (yy) のインターバル値またはタイムアウト値

システムの処置

システムは処理を続行します。

プログラマーの応答

コマンドの結果が意図したものであることを確認してください。

関連情報

45 ページの『DFS058I』

CCC COMMAND COMPLETED EXCEPT KKK P01, P02, P03, P04, P05, P06, P07, ...ETC.

DFS3812I	BACKUP LNK RDS LOG INTERVAL VALUE OF xx HAS BEEN FORCED TO ACTIVE VALUE OF yy
-----------------	--

説明

この通知メッセージは、**/CHANGE SURVEILLANCE** コマンドに対する応答として発行され、そのコマンドの処理を継続するために、IMS がシステム・データを変更したことを示します。タイムアウト値またはインターバル値が、代替 (バックアップ) システムで **/CHANGE SURVEILLANCE** を入力することによって変更されており、インターバル値がアクティブなインターバル値よりも小さい場合、代替のインターバル値のデフォルトは、アクティブなインターバル値になります。このメッセージは、DFS058I CHANGE COMMAND COMPLETED メッセージと共に発行されます。

システムの処置

IMS は、変更されたデータを使用して、コマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

コマンドの結果が意図したものであることを確認してください。異なる結果が必要な場合は、**/CHANGE SURVEILLANCE** コマンドを再入してください。

関連情報

45 ページの『DFS058I』

CCC COMMAND COMPLETED EXCEPT KKK P01, P02, P03, P04, P05, P06, P07, ...ETC.

DFS3813	SYSTEM NOT XRF CAPABLE - COMMAND REJECTED
----------------	--

説明

/DIS HSB コマンドまたは /UNLOCK SYSTEM コマンドが、XRF 非対応のシステムで入力されました。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

XRF 機能が必要な場合は、IMS システムを XRF 対応システムとして定義します。

モジュール:
DFSICLNO

DFS3814 FORCE KEYWORD IS REQUIRED

説明

代替システムで /SWITCH を入力する場合は、FORCE キーワードが必要です。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 現行のアクティブ・システムから代替システムに処理を切り替える場合は、FORCE キーワードを追加してコマンドを再入力してください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3815 RDS SURVEILLANCE NOT
 STARTED DUE TO WRITE ERROR
 ON THE ACTIVE**

説明

直前にアクティブ・システムで書き込みエラーが発生したため、再始動データ・セット (RDS) の監視を開始するコマンドがリジェクトされました。

システムの処置

RDS 監視を開始するコマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

書き込みエラーの原因を判別します。再始動データ・セット (RDS) を再フォーマット設定する必要がある場合があります。

DFS3816

**COMMAND REJECTED - SNAPQ
CHECKPOINT NOT YET FOUND**

説明

アクティブ・システムから SNAPQ チェックポイントを処理して代替システムをアクティブ・システムに同期させるまでは、監視を開始または停止することはできません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) アクティブ・システムが INSYNCH メッセージ DFS3858I を発行するまで待機します。その上で、SURVEILLANCE コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

関連情報

1136 ページの『DFS3858I』

INSYNCH ARRIVED FROM THE BACKUP
SYSTEM

DFS3817

**SURVEILLANCE KEYWORD
PARAMETER IS MISSING OR
INVALID**

説明

次のいずれかの理由で、/CHANGE SURVEILLANCE コマンド、/START SURVEILLANCE コマンド、または /STOP SURVEILLANCE コマンドがリジェクトされました。

- SURVEILLANCE パラメーターが欠落しているか、または無効である。
 - 複数の SURVEILLANCE パラメーターが入力された。
- 有効な SURVEILLANCE パラメーターは LNK、再始動データ・セット (RDS)、LOG、および ALL です。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

SURVEILLANCE パラメーターを訂正した後、コマンドを再入力します。

DFS3818

**INTERVAL KEYWORD PARAMETER
IS MISSING OR INVALID**

説明

次のいずれかの理由で、**/CHANGE SURVEILLANCE** コマンドがリジェクトされました。

- INTERVAL 値が欠落しているか、または無効である。
- 複数の INTERVAL 値が入力された。

INTERVAL 値は、0 よりも大きく 100 よりも小さくする必要があります。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

INTERVAL 値を訂正した後、コマンドを再入します。

DFS3819	TIMEOUT KEYWORD PARAMETER IS MISSING OR INVALID
----------------	--

説明

次のいずれかの理由で、**/CHANGE SURVEILLANCE** コマンドがリジェクトされました。

- TIMEOUT 値が欠落しているか、または無効である。
- 複数の TIMEOUT 値が入力された。

TIMEOUT 値は、0 よりも大きく 100 よりも小さくする必要があります。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

TIMEOUT 値を訂正した後、コマンドを再入します。

DFS3820	TOD NOT OPERATIONAL/ AVAILABLE
----------------	---

説明

時刻機構 (TOD) クロックを監視機能で使用できませんでした。

システムの処置

通常処理を継続しますが、ISC 監視および再始動データ・セット (RDS) 監視は使用できません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3821	GETMAIN FAILED FOR TIMER WORKAREAS
----------------	---

説明

一時記憶領域が作業領域として使用不可だったため、監視が機能していません。

システムの処置

ISC および再始動データ・セット (RDS) 監視を使用せずに処理を続行します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) コマンドを再試行してください。再度失敗する場合は、制御領域のサイズを増やしてから開始してください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3822	INVALID SURVEILLANCE REQUEST
----------------	---

説明

/START コマンドまたは **/STOP SURVEILLANCE** コマンドが、無効なパラメーターと共に入力されました。SURVEILLANCE パラメーターは、LNK、RDS、LOG、または ALL のうちのいずれか 1 つである必要があります。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

正しいパラメーターでコマンドを再入力してください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3823	I/O ERROR DURING SURVEILLANCE READ/WRITE ON XXXXXXXX
----------------	---

説明

再始動データ・セット (RDS) の監視がアクティブのときに、RDS で読み取りまたは書き込みエラーが発生しました。変数 xxxxxx の値は、次のいずれかです。

IMSRDS

エラーは、IMSRDS DD ステートメントで定義されているデータ・セットで発生しました。

IMSRDS2

エラーは、IMSRDS2 DD ステートメントで定義されているデータ・セットで発生しました。

システムの処置

処理は継続されますが、RDS 監視は停止し、テークオーバーの決定には参加しなくなります。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 入出力エラーの原因を判別し、必要な場合は、RDS を再フォーマットしてください。RDS フォーマットを行うことができるのは、アクティブ・システムの再始動時のみです。

DFS3824 COMMAND INVALID FOR BACKUP SYSTEM

説明

代替 (バックアップ) システムで無効のコマンドが入力されたか、コマンド構文が代替システムにとって正しくありませんでした。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

アクティブ・システムでコマンドを再入力するか、コマンド構文を訂正して代替システムに再入力します。

DFS3825 COMMAND INVALID FOR ACTIVE SYSTEM

説明

/STOP BACKUP コマンドがアクティブ・システムで入力されました。**/STOP BACKUP** コマンドは、代替 (バックアップ) システムで入力された場合にのみ有効です。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

代替システムを終了する場合は、代替システムでこのコマンドを入力します。

DFS3826 TRANSACTION KEYWORD PARAMETER IS MISSING OR INVALID

説明

/CHANGE TRANSACTION MAXRGN コマンドの **TRANSACTION** パラメーターが無効か、または欠落していました。**TRANSACTION** パラメーターは、次のいずれかの理由で無効でした。

- トランザクション・コードが 8 文字より長い。
- トランザクション・コードが IMS に既知でなかった。

- 指定されたトランザクションに対してロード・バランシングが有効でなかった。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

トランザクション・コードを確認した後、コマンドを再入力します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3827 MAXRGN KEYWORD PARAMETER IS MISSING OR INVALID

説明

MAXRGN パラメーターが無効か、または欠落していたため、**/CHANGE TRANSACTION MAXRGN** コマンドがリジェクトされました。**MAXRGN** パラメーターは、次のいずれかの理由で無効でした。

- **MAXRGN** パラメーターの範囲は、0 から 255 の範囲内である必要がある (両端を含む)。
- 複数の **MAXRGN** パラメーターが入力された。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

MAXRGN パラメーターを訂正した後、コマンドを再入します。

DFS3828 UNABLE TO PROCESS /DISPLAY OLDS COMMAND - LOG NOT AVAILABLE

説明

ログ・データ・セットが使用不可であるときに、代替システムの初期設定中またはトラッキング・フェーズで **/DISPLAY OLDS** コマンドが入力されました。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

代替システムがテークオーバーしてアクティブ・システムになるまで待機した後、**/DIS OLDS** コマンドを入力します。この場合にのみ、ログ・データ・セットが使用可能になります。

DFS3829 NOBACKOUT KEYWORD INVALID WITH DATABASE ALL**説明**

DATABASE パラメーターの ALL をパラメーター NOBACKOUT と共に使用することはできません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答

コマンドを1つ以上の特定の DATABASE パラメーターと共に再入します。

DFS3830 NO DEFERRED PAGE FIXING WAS DONE**説明**

アクティブ・システムは、XRF 複合システム内の IMS システムに対する据え置きページ固定の要求を検出しませんでした。

システムの処置

システムは通常処理を継続します。

プログラマーの応答

据え置きページ固定が必要な場合は、XRF の IMS.PROCLIB メンバーの定義に関する情報を参照してください。

関連資料

[XRF のための IMS.PROCLIB メンバーの定義 \(システム管理\)](#)

DFS3831 MODETABLE KEYWORD INVALID WITH DISPLAY BY ATTRIBUTE OPTION**説明**

属性によってノードを表示する場合、/DISPLAY NODE コマンドでは、MODETABLE キーワードが使用できません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

特定のノード名ではなく、ALL キーワードを指定してコマンドを再入力してください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3832I LNK|RDS|LOG TIMEOUT VALUE OF xx HAS BEEN FORCED TO yy**説明**

この通知メッセージは、/CHANGE SURVEILLANCE コマンドに対する応答として発行され、そのコマンドの処理を継続するために、IMS がシステム・データを変更したことを示します。このメッセージは、次の場合に発行されます。

- 代替システムで /CHANGE SURVEILLANCE を入力してタイムアウト値を変更し、新規のタイムアウト値が代替のインターバル値の2倍よりも小さい場合
- アクティブ・システムで /CHANGE SURVEILLANCE を入力してタイムアウト値を変更し、新規のタイムアウト値がアクティブなインターバル値の2倍よりも小さい場合
- 代替システムで /CHANGE SURVEILLANCE を入力してインターバル値を変更し、新規のインターバル値の2倍が代替のタイムアウト値よりも大きい場合
- アクティブ・システムで /CHANGE SURVEILLANCE を入力してインターバル値を変更し、新規のインターバル値の2倍がアクティブのタイムアウト値よりも大きい場合

このメッセージは、DFS058I CHANGE COMMAND COMPLETED メッセージと共に発行されます。

システムの処置

IMS は、変更されたデータを使用して、コマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) コマンドの結果が意図したものであることを確認してください。異なる結果が必要な場合は、/CHANGE SURVEILLANCE コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

関連情報

45 ページの『DFS058I』

CCC COMMAND COMPLETED EXCEPT KKK P01, P02, P03, P04, P05, P06, P07, ...ETC.

DFS3833I BACKUP LNK|RDS|LOG INTERVAL VALUE OF xx HAS BEEN FORCED TO LNK|RDS|LOG INTERVAL VALUE OF yy

説明

このメッセージは、**/CHANGE SURVEILLANCE** コマンドに対する応答として発行され、そのコマンドの処理を継続するために IMS がシステム・データを変更したことを示します。このメッセージは、次の場合に発行されます。

- 代替(バックアップ)システムで **/CHANGE SURVEILLANCE LNK** または **/CHANGE SURVEILLANCE RDS** を入力してインターバル値が変更され、新しい代替インターバル値が代替 LOG インターバル値よりも小さい場合。
- 代替システムで **/CHANGE SURVEILLANCE LOG** を入力してインターバル値を変更し、新規の代替インターバル値が代替 RDS インターバル値および LNK インターバル値よりも大きい場合。
- LOG パラメーターで指定されたインターバル値が、RDS パラメーターまたは LNK パラメーターで指定されたインターバル値よりも大きい場合。LOG パラメーターのインターバル値は、再始動データ・セット (RDS) インターバル値および LNK インターバル値以下である必要があります。この制限は、メンバー DFSHSBxx で行われたオリジナルの指定か、または **/CHANGE SURVEILLANCE** コマンドを使用して変更された指定に適用されます。

このメッセージは、DFS058I CHANGE COMMAND COMPLETED メッセージと共に発行されます。

システムの処置

IMS は、変更されたデータを使用して、コマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) コマンドの結果が意図したものであることを確認してください。異なる結果が必要な場合は、**/CHANGE SURVEILLANCE** コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

関連情報

45 ページの『DFS058I』

CCC COMMAND COMPLETED EXCEPT KKK P01, P02, P03, P04, P05, P06, P07, ...ETC.

DFS3834W **ALTERNATE IS (IN DANGER OF)
FALLING BEHIND**

説明

IMS XRF 代替サブシステムにおいて、アクティブな IMS XRF サブシステムで作成されたログ・レコードの処理が遅れているか、または遅れる危険性があります。

1 分間の統計が収集され、これらの状態のいずれが発生したかが判別されます。いずれかの状態が発生している場合は、その状態がクリアされるまでメッセージがシステム・コンソールで強調表示され、そのまま表示され続けます。

「遅れ」状態によってテークオーバーが必要になった場合は、時間が延びる可能性があります。

システムの処置

IMS 代替システムは、アクティブ・システムのトラッキングを継続して、時間が経過すると追いつくことができます。代替システムが追いつくまでは、このメッセージがシステム・コンソールで表示され、強調表示されます。その時点で、メッセージは強調表示されなくなり、画面がロールオフされます。

オペレーターの応答

適切な予防措置を行うために、「危険な状態」を示すメッセージが表示され続けていることをシステム・プログラマーに警告してください。代替システムが遅れている場合は、テークオーバーの経過時間が延びることがあります。**/DISPLAY HSB** コマンドを入力すると、アクティブ・システムに対する時間のずれを見積もることができます。

システム・プログラマーの応答

「遅れ」の期間の原因を判別し、適切な予防措置を行い、必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

次のアクションが考えられます。

- 短いメッセージ・キュー・データ・セットと長いメッセージ・キュー・データ・セットの間の使用状況のバランスをとる。
- すでにオフになっているデバイスに対するメッセージ・キューがいっぱいになっていないことを確認する。
- アクティブ・システムおよび XRF 代替システムに割り当てられているメッセージ・キュー・バッファの数を増やす。
- メッセージ・キュー・データ・セットを含むデバイスのいずれかで入出力の割合が高い場合は、最も高い入出力アクティビティのデータ・セットを別のデバイスに分割する。

DFS3835W **WAITING FOR THE FDBR REGION
RECOVERY FOR IMSID *imsid***

説明

示されている IMS サブシステムは以前の障害発生後に再始動していますが、関連する高速データベース・リカバリ領域 (FDBR) が以前の障害からクリーンアップ

を完了するまで待ち状態になっています。次のいずれかの状態が発生した可能性があります。

- FDBR 領域が稼働中でリカバリーを実行している。
- FDBR 領域が FDBR 領域 syslog で示されている何らかの処置を待機している。
- FDBR 領域が稼働している中央演算処理複合システム (CPC) 内で障害 (例えば、XCF 通信の故障) が発生した。
- FDBR 領域が異常待ちまたはループ状態である。

システムの処置

このメッセージは、FDBR 領域によるリカバリー処理の間、オペレーター・コンソールに残されます。完了時に、システムはこのメッセージをコンソールから除去します。

オペレーターの応答

示されている *imsid* の FDBR 領域が稼働中でリカバリーを実行している場合、リカバリーの進行状況を示すメッセージを生成します。処置は必要ありません。

FDBR 領域が FDBR 領域 SYSLOG で示されている何らかの処置を待機している場合、関連するメッセージで指定された処置を実行してください。

中央演算処理複合システム (CPC) で障害 (例えば、XCF 通信の故障) が発生した場合は、z/OS **MODIFY** コマンド (F *fdrproc*, RECOVER) を入力してデータベース・リカバリーを開始してください。

FDBR 領域が異常待ちまたはループ状態である場合は、FDBR 領域を取り消してください。

モジュール:
DFSRST00

**DFS3838I XRF INITIAL DB PRE-OPEN
 COMPLETE**

説明

XRF 複合システム体で、アクティブ・システムが、初期の SNAPQ チェックポイントを処理したときに開いていたすべての DL/I データベースおよびすべての DEDB エリア・データ・セットを代替システムが事前に開こうとしました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3839I XRF INITIAL DC PRE-OPEN
 COMPLETE**

説明

XRF 複合システムで、代替 IMS システムがすべての端末の状況をチェックし、初期 SNAPQ チェックポイントの時点でアクティブ・システムにログオンされたすべてのクラス 1 端末のバックアップ・セッションの開始をオープンし、スケジュールしました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3840 OPEN ERROR FOR
 DDNAME=PROCLIB**

説明

PROCLIB DD ステートメントで定義されているデータ・セットを開くことができませんでした。

システムの処置

XRF 機能を持たずに処理を継続します。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

PROCLIB DD ステートメントを訂正します。

**DFS3841I LNK|RDS|LOG SURVEILLANCE
 INTERVAL VALUE EXCEEDS
 ALLOWABLE LIMIT.**

説明

PROCLIB メンバー DFSHSBxx の LNK、再始動データ・セット (RDS)、または LOG 監視のインターバル値が 99 秒を超えました。

システムの処置

LNK、RDS、または LOG 監視のデフォルトのインターバル値が使用されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

PROCLIB メンバー DFSHSBxx に正しい値を定義します。

**DFS3842I LNK|RDS|LOG SURVEILLANCE
TIMEOUT VALUE EXCEEDS
ALLOWABLE LIMIT**

説明

PROCLIB メンバー DFSHSBxx の LNK、再始動データ・セット (RDS)、または LOG 監視のタイムアウト値が 999 秒を超えました。

システムの処置

LNK、RDS、または LOG 監視のデフォルトのタイムアウト値が使用されます。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

PROCLIB メンバー DFSHSBxx に正しい値を定義します。

**DFS3843I START COMMAND REJECTED-xxx
SURV. NOT STARTED ON ACTIVE
SYSTEM.**

説明

代替システムで LNK、LOG、再始動データ・セット (RDS)、または ALL 監視を開始しようとしたが、対応する監視がアクティブ・システムで開始していませんでした。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) アクティブ・システムで該当する監視が最初に開始済みであることを確認してください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3844I MSDB DDNAME= MSDBCPx
SUCCESSFULLY UNALLOCATED**

説明

XRF 対応システムにおいて、2つの MSDB チェックポイント・データ・セットのペアが開始用として割り振られています。MSDB がロードされた後、2つのデータ・セットのペアのうち1つのみを使用されます。使用されていない MSDB チェックポイント・データ・セットのペアは、割り振り解除されます。このメッセージは、ペアになっている2つのデータ・セットのそれぞれに対して割り振り解除された後に発行されます。

システムの処置

z/OS は、メッセージに示されている DD 名に関連したデータ・セットを動的に割り振り解除しました (SVC 99)。通常処理を継続します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3845 NO SURVEILLANCE VALUES
SPECIFIED, DEFAULTS WILL BE
USED**

説明

PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の XRF 関連パラメーターに、SURV (監視) 値が含まれていませんでした。

システムの処置

デフォルトの監視値を使用して処理を継続します。

オペレーターの応答:

このメッセージが予期しないものである場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

デフォルトの監視値が受け入れ可能かどうかを検査します。可能でない場合は、メンバー DFSHSBxx に SURV エントリーを作成してください。

**DFS3846I SURVEILLANCE FUNCTION NOT
SUPPORTED IN A NON-XRF
ENVIRONMENT**

説明

XRF 非対応のシステムで監視を実行できません。

システムの処置

監視は実行されません。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

XRF 機能が必要な場合は、IMS システムを XRF 対応システムとして定義します。

**DFS3847 FORMAT ERROR IN READING
FROM PROCLIB PARAMETER IN
COLUMN xx**

説明

PROCLIB データ・セット・メンバー DFSHSBxx または DFSFDRxx のパラメーターのフォーマットが間違っています。値 xx は、エラーが検出された列番号を示します。

システムの処置

処理は継続されますが、フォーマット・エラー後の DFSHSBxx 内のパラメーターは無視されます。DFSFDRxx でのエラーの場合、高速データベース・リカバリー (FDBR) は IMS 異常終了 0574 で終了します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

PROCLIB メンバー DFSHSBxx または DFSFDRxx のパラメーターのフォーマットを訂正してください。

関連情報

[IMS 異常終了 0574](#)

DFS3848

**BLDL FAILED FOR FOLLOWING
MODULES**

説明

1 つ以上のユーザー作成の事前初期設定ルーチンが見つかりませんでした。見つからなかったルーチンは、メッセージ内にリストされます。

システムの処置

従属領域は、異常終了 0588 で終了します。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

エラー・メッセージにリストされているロード・モジュールは、PROCLIB 内の DFSINTxx メンバーで指定されていますが、ジョブ・ステップで使用可能ないずれのプログラム・ライブラリーでも見つけることができません。これらのロード・モジュールを実行する必要がない場合は、DFSINTxx から除去します。実行する場合は、これらのロード・モジュールをジョブ・ステップで使用可能なライブラリーにリンクします。

問題判別:

1、2、6、11、35

関連情報

[IMS 異常終了 0588](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3849

**PERMANENT I/O ERROR ON JOB/
LINK/SVCLIB FOR FOLLOWING
MODULES**

説明

ユーザー作成の事前初期設定ルーチンを探索中に、永続的な入出力エラーが検出されました。入出力エラーが原因で見つからなかったロード・モジュールは、メッセージにリストされます。

システムの処置

従属領域が、疑似異常終了 0588 で終了します。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

異常終了 0588 に関する情報を参照してください。

関連情報

[IMS 異常終了 0588](#)

DFS3850A

**ENTER /STA DC COMMAND TO
OPEN VTAM ACB**

説明

アクティブ・システムは VTAM ACB を開くことができませんでしたが、XRF 複合システム内の代替 IMS システムは、システム初期設定中に VTAM ACB を開くことができませんでした。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) VTAM ACB によって参照される VTAM マイナー・ノード (APPLID) が正しく初期設定されていることを確認した後、代替システムで **/START DC** を発行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

1、3、6、10、および IMS システム用の VTAM ACB によって参照される VTAM マイナー・ノード (APPLID) の VTAM 定義。

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 81 章 DFS メッセージ DFS3851I - DFS3900I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS3851I YOU CANNOT CHANGE XRF
SPECIFICATIONS IN THIS
RESTART**

説明

このメッセージは、次のいずれかの理由が原因で、XRF 環境でのみ発行されます。

- HSBID パラメーターが間違っている。

再始動されているシステムの JCL (NRE/ERE) の HSBID パラメーターは、XRF 複合システムで障害が発生している JCL の HSBID パラメーターと同じである必要があります。正しい JCL (アクティブ / 代替) を決定するには、次を実行します。

1. 2 次コンソール (ハードコピー・デバイス) で、最後の「DFS3804I LAST CHKPT ID VALID FOR RESTART: yyddd/hhmmss」メッセージを見つける。
2. DFS3804I メッセージから日時を判別する。
3. 2 次コンソール (ハードコピー・デバイス) で、日時が DFS3804I メッセージと一致する「DFS994I *CHKPT yyddd/hhmmss*ctype rtype START COMPLETED」メッセージを見つける。
4. DFS994I メッセージから IMS ID を判別する。
5. この IMS ID の JCL を緊急時再始動に使用する。

- RSENAME パラメーターが間違っている。

再始動されている代替システムの JCL (/ERE BACKUP) 内の RSENAME パラメーターは、XRF 複合システム体内のアクティブ・システムの JCL 内の RSENAME パラメーターと同じである必要があります。RSENAME パラメーターは、IMS PROCLIB メンバー DFSHSBxx 内にあります。xx は、IMS 制御領域 JCL 内の HSMBR=xx パラメーターの 2 つの文字を表します。

- USERVAR パラメーターが間違っている。

再始動されている代替システムの JCL (/ERE BACKUP) 内の USERVAR パラメーターは、XRF 複合システム体のアクティブ・システムの JCL 内の USERVAR パラメーターと同じである必要があります。USERVAR パラメーターは、IMS PROCLIB メンバー DFSHSBxx 内にあります。xx は、IMS 制御領域 JCL 内の HSMBR=xx パラメーターの 2 つの文字を表します。

システムの処置

システムは、異常終了 3141 で終了します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) このメッセージの『説明』の情報に基づいてエラーを訂正してください。

関連情報

[IMS 異常終了 3141](#)

**DFS3852I THE OTHER SYSTEM IS NOT THE
ACTIVE SYSTEM**

説明

代替システムをアクティブにしている間、アクティブ・システムの X'4001' ログ・レコードに含まれている HSBID の値がゼロでした。ゼロの値は、XRF 複合システム内の IMS アクティブ・システムには無効です。

システムの処置

システムは、異常終了 3141 で終了します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 再始動用に正しいログ・ファイルが選択されていることを確認してください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別

5、8 (アクティブ・システムおよび代替システムの両方)

関連情報

[IMS 異常終了 3141](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3853I DEDB AREA IS NOT AUTHORIZED
WITH DBRC. AREA STOP HAS
BEEN REQUESTED FOR AREA = ,
DB = .**

説明

代替システムは、テークオーバー中に、障害のあるシステムのログを処理することによって開かれたすべての高速機能エリアが、DBRC で許可されているかどうかを検査します。このメッセージで指摘されたエリアは、DBRC では許可されていません。

システムの処置

高速機能エリアは内部的に停止し、クローズされます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) このエリアに関する問題を説明したエラー・メッセージが他にないかどうか検索してください。他にない場合、このエリアは再始動できます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3854A **WHEN THE PREVIOUS ACTIVE IMS
SUBSYSTEM TERMINATES, REPLY
'UNLOCK' [IMSID=*imsid*
ASID=*asid* RSE=*rse*name]**

説明

XRF 複合システム内の IMS システムが入出力許容モードで終了しようとしています。前のアクティブ・システムが終了していない場合、現行 IMS システムが終了すると、データベースの健全性が脅かされます。

記憶域不足のため完全なメッセージを表示できない場合、大括弧内の情報は表示されません。

システムの処置

直前のアクティブ・システムが終了したことをオペレーターが保証するまで、IMS システムは終了せずに待機します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

マスター端末オペレーターの応答: 直前のアクティブ・システムが終了した場合にのみ、UNLOCK を応答してください。

注: IOT EEQE は、UNLOCK によってパージされません。

DFS3855I **DEDB AREA HAS NO OPEN ADSCS
AT TIME OF TAKEOVER. AREA
STOP REQUESTED FOR AREA = ,
DB = .**

説明

代替システムは、XRF 複合システムにおけるトラッキング・フェーズで、アクティブ・システムで開かれたすべてのエリア・データ・セット (ADS) を開けませんでした。テークオーバー時に有効な ADS が開いていなかったため、そのエリアは停止しました。

システムの処置

エリアはクローズされて停止します。ADS のオープン障害について説明しているエラー・メッセージが、このメッセージよりも前に発行されています。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

ADS オープン障害について説明している別のエラー・メッセージを検索してください。メッセージに従ってエラーを訂正した後、エリアを再始動します。

問題判別:

1、2、3、6

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3856I **REQSYNC WAS PROCESSED TO
TAKE SNAPQ CHKPT**

説明

代替システムから送信された REQSYNC (SNAPQ チェックポイント要求) が処理され、SNAPQ チェックポイント処理がアクティブ・システムでスケジュールされました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3857I **OKTOSYNC ARRIVED FROM THE
ACTIVE SYSTEM**

説明

代替システムは、アクティブ・システムが SNAPQ チェックポイントの受け取りを開始したことを示す信号をアクティブ・システムから受け取りました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3858I **INSYNCH ARRIVED FROM THE
BACKUP SYSTEM**

説明

アクティブ・システムは、SNAPQ チェックポイント・レコードを処理することによって、代替 (バックアップ) システムがアクティブ・システムと同期したことを示す信号を代替システムから受け取りました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3859I PRIORITY *n* TERMINAL SESSIONS SWITCHED

説明

以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) は、直前のアクティブ・システムが失敗した時点でアクティブであった、優先順位が *n* の全端末セッションをテークオーバーしました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3860I ALL TERMINAL SESSIONS SWITCHED

説明

以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) は、直前のアクティブ・システムが失敗した時点でアクティブであった全端末セッションをテークオーバーしました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3861 SYSTEM TAKEOVER OCCURRED

説明

このメッセージは、以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) が、セッションのテークオーバー時に端末ユーザーに対して、ホスト・システムにおいてシステムのテークオーバーが完了したことを通知する場合に発行されます。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3862 INVALID LOGON REQUEST IN THE ALTERNATE SYSTEM

説明:

詳細情報および処置については、メッセージ DFS3862I を参照してください。

関連情報

[DFS3862I](#)

INVALID LOGON REQUEST IN THE ALTERNATE SYSTEM - NODE *nodename*

DFS3862I INVALID LOGON REQUEST IN THE ALTERNATE SYSTEM - NODE *nodename*

説明

XRF 複合システム体内の代替システムは、トラッキング・フェーズ中に、次のいずれかから LOGON 要求を受け取ることができます。

- MTO 端末
- アクティブな IMS システムと代替の IMS システムの間の ISC リンク
- バックアップ・セッションとして適格で、アクティブ・システムにアクティブ・セッションを持っており、現在アクティブになっているバックアップ・セッションがないクラス 1 端末。ETO 端末の場合は、物理端末および端末ユーザーの制御ブロックの両方が存在し、結合されている必要があります。

最初の形式のメッセージは、/OPNDST コマンド・プロセッサによって出されます。コマンドは、無効のノード (MTO または ISC リンクではありません) を参照しています。LOGON が有効なノード名の 1 つでないノード ID を示す場合、メッセージの 2 番目のフォームは、LOGON または SCIP 出口によって発行されます。

システムの処置

LOGON 要求はリジェクトされます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 許容される端末からログオンします。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3863 FORMAT RDS CONFLICTS WITH BACKUP KEYWORD

説明

FORMAT RDS は、キーワード BACKUP を含む **/ERE** コマンド内では無効です。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

代替 (バックアップ) システムをアクティブにしようとしている場合は、FORMAT RDS を含めずに BACKUP を指定して、コマンドを再入力します。SM、LM、QC、および SP のみが許可されています。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3864 **FORMAT WADS CONFLICTS WITH
BACKUP KEYWORD**

説明

FORMAT WADS は、キーワード BACKUP を含む **/ERE** コマンド内では無効です。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

代替 (バックアップ) システムをアクティブにしようとしている場合は、FORMAT WADS を含めずに BACKUP を指定して、コマンドを再入力します。SM、LM、QC、および SP のみが許可されています。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3865 **FORMAT ALL CONFLICTS WITH
BACKUP KEYWORD**

説明

FORMAT ALL は、キーワード BACKUP を含む **/ERE** コマンド内では無効です。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 代替 (バックアップ) システムを起動しようとしている場合は、FORMAT ALL を含めずに BACKUP を指定して、コマンドを再入力します。SM、LM、QC、および SP のみが許可されています。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3866 **BACKUP KEYWORD INVALID - NO
MODSTAT2**

説明

XRF 代替システム (バックアップ) IMS システムは、**/ERE** コマンドが BACKUP オプションと共に入力され、使用可能な MODSTAT2 がない場合に、このメッセージを発行します。

システムの処置

/ERE コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

MODSTAT2 の DD 名が JCL プロシージャで指定されており、データ・セットが存在していることを確認してください。

DFS3867I **AUTOMATIC /UNLOCK SYSTEM
WILL BE DONE**

説明

少なくとも 1 つの高速機能 EEQE (未書き込みバッファ) が、入出力容認パーズ機能によって完全に書き込まれませんでした。緊急時再始動処理が完了した後、IMS システムは、内部的に **/UNLOCK SYSTEM** コマンドを処理し、入出力容認パーズ機能を再実行します。

システムの処置

EEQE が存在している限り、通常のトランザクション入出力要求は受け入れられ続けますが、その要求は、EEQE バッファに保持されます。EEQE バッファからの実際の入出力は、**/UNLOCK SYSTEM** コマンド処理が完了した後に行われます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

DFS3868 **THE IMSID NAME DOES NOT
MATCH THE CHECKPOINT RSE
NAME**

説明

前の IMS の開始が XRF 対応システムであったため、次の ERE の開始は、XRF 対応でない場合でも、チェック

ポイントが取られたリカバリー可能サービス・エレメント (RSE) 名と一致する IMSID を指定する必要があります。

システムの処置

システムは、異常終了 3141 で終了します。

オペレーターの応答:

再始動されるシステムの JCL 内の IMSID PROCLIB パラメーターをチェックポイントが取られている RSE 名と一致するように変更します。

問題判別

5、8 (障害のあるシステムおよび再始動されるシステムの両方)

関連情報

IMS 異常終了 3141

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3869I THE ACTIVE SYSTEM MAY HAVE FAILED REASON CODE=xx.

説明

代替システムがアクティブ・システムに潜在的な障害を検出しましたが、オペレーターは、すべてのテークオーバーを承認する必要があります。メンバー DFSHSBxx で AUTO=NO を指定して非自動テークオーバーが要求された場合にのみ、このメッセージが発行されます。オペレーターは、**/SWITCH SYSTEM FORCE** を入力して、テークオーバーが続行できるようにする必要があります。このメッセージは、テークオーバーが保留になっている限り、30 秒ごとに発行されます。

理由コード xx は、次のように定義されています。コードは、単独または組み合わせて発行することができます。例えば、X'82' は、X'80' と X'02' の組み合わせです。

コード (16 進数)

意味

02

ESTAE 出口が入力された

04

IRLM 障害

08

/SWITCH が入力された

10

LOG 監視

20

システム LNK 監視

40

再始動データ・セット (RDS) 監視

80

VTAM 終了

システムの処置

代替システムは、アクティブ・システムのトラッキングを継続します。

オペレーターの応答

テークオーバーを継続する場合は、**/SWITCH SYSTEM FORCE** コマンドを入力します。

DFS3870I RDS|LNK|LOG INTERVAL VALUE HAS BEEN FORCED TO nnn

説明

代替システムの再始動データ・セット (RDS)、LNK、または LOG 監視に指定されたインターバル値は、アクティブ・システムに指定されているインターバル値未満でした。代替のインターバル値は、アクティブのインターバル値以上である必要があります。インターバル値は、同期化フェーズ中にチェックされ、アクティブ・システムでインターバル値が変更されると、タイプ X'6D' レコードがシステム・ログに書き込まれます。

ユーザーの処置:

インターバル値をチェックしてください。

DFS3871I JOINAVM WAS SUCCESSFUL

説明

XRF 複合システムまたは高速データベース・リカバリー環境において、z/OS コンポーネントである可用性マネージャーとの接続が、JOINAVM 呼び出しで正常に確立されました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3872I AVM CONNECTION FAILED

説明

XRF 複合システムまたは高速データベース・リカバリー環境において、z/OS コンポーネントである可用性マネージャーとの接続が失敗しました。テークオーバー中は、入出力防止などの AVM 機能は実行されません。

システムの処置

処理は続行されます。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

1、3

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3873I	JOINRSE MODE=ACTIVE BACKUP WAS SUCCESSFUL
-----------------	--

説明

IMS システムが、XRF 複合システムのアクティブ・システムか代替 (バックアップ) システムとして、正常に可用性マネージャーに登録されました。可用性マネージャーに対して、XRF 対応の IMS システムは、アクティブ・システムと代替システムの両方で構成されるリカバリー可能サービス・エレメント (RSE) です。この IMS システムが「結合」しようとしている RSE の名前は、PROCLIB の DFSHSBxx メンバーの RSENAME パラメーターで判明します。

高速データベース・リカバリー環境では、アクティブ IMS のサブシステム名は RSE として使用されます。高速データベース・リカバリー用に使用可能な IMS システムは、このメッセージを発行した時点で、入出力防止の起動準備が完了します。高速データベース・リカバリー領域は、このメッセージを発行しません。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3874I	LEAVERSE MODE=IOP TAKEOVER WAS ISSUED
-----------------	--

説明

可用性マネージャーは、このメッセージを発行している IMS システムが、もはや XRF リカバリー可能サービス要素 (RSE) の一部と見なされないという通知を受けました。RSE の名前は、PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の RSENAME パラメーターで判明します。FDBR 環境では、アクティブ IMS のサブシステム名は RSE として使用されます。

このメッセージがアクティブ IMS によって発行された場合、入出力防止またはテークオーバーが要求されました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3875I	LEAVEAVM MODE=NORMAL ABEND WAS ISSUED
-----------------	---

説明

通常モードまたは異常モードで LEAVEAVM 呼び出しが実行され、可用性マネージャーとの接続がリセットされました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3876	AVM I/O COMPLETED UNSUCCESSFULLY
----------------	---

説明

可用性マネージャーに対する入出力要求は、正常に完了しませんでした。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

1、3、5

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3877I	JOINRSE FAILED
-----------------	-----------------------

説明

IMS システムが、XRF 複合システムのアクティブ・システムまたは代替システムとして登録することに失敗しました。リカバリー可能サービス・エレメント (RSE)

の名前は、PROCLIB の DFSHSBxx メンバーの RSENAME パラメーターで判明できます。

高速データベース・リカバリー環境では、アクティブ IMS のサブシステム名は RSE として使用されます。このメッセージがアクティブ IMS によって発行された場合、入出力防止は IMS 障害があると呼び出されません。高速データベース・リカバリー領域は、このメッセージを発行しません。

オペレーターの応答:
システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

1、3

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3878I AVM RECEIVE THREAD INITIALIZATION FAILED

説明

可用性マネージャー RECEIVE THREAD に対する ITASK 作成に失敗しました。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

問題判別:

1、3

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3879I RDS|LNK|LOG INTERVAL VALUE HAS BEEN FORCED TO MINIMUM

説明

再始動データ・セット (RDS) 監視、LNK 監視、または LOG 監視に対して、インターバル値 0 が定義されたか、またはインターバル値が定義されませんでした。システムの初期設定中に 1 が設定されました。

ユーザーの処置:
インターバル値を確認します。

DFS3880I RDS|LNK|LOG TIMEOUT VALUE HAS BEEN FORCED TO MINIMUM

説明

再始動データ・セット (RDS) 監視、LNK 監視、または LOG 監視に対して、タイムアウト値 0 または 1 が定義されたか、または定義されませんでした。

システムの処置:
システムの初期設定中に 2 が設定されました。

ユーザーの処置:
タイムアウト値を確認します。

DFS3881I RDS|LNK|LOG TIMEOUT VALUE HAS BEEN FORCED TO *nnn*

説明

代替システムにおける再始動データ・セット (RDS) 監視、LNK 監視、または LOG 監視のタイムアウト値が、インターバル値の 2 倍よりも小さくなっていました。タイムアウト値は、強制的に *nnn* になりました。同期化フェーズ中に値の妥当性がチェックされ、アクティブ・システムのタイムアウト値またはインターバル値が変更されると、タイプ X'6D' レコードがログに書き込まれます。

ユーザーの処置:
タイムアウト値を確認します。

DFS3882I DEPENDENT REGION PROCESSING ENABLED

説明

PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージが要求された場合は、IMS 従属領域でのトランザクション処理が使用可能になると、このメッセージが送信されます。

システムの処置

テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3883I ALL BACKOUTS COMPLETE

説明

PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージが要求された場合は、アクセス可能データベースに対する再始動動的バックアウトがすべて完了すると、このメッセージが送信されます。アクセス可能でなかったすべてのデータベースは停止します。

システムの処置

テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答

次のいずれかの処置を取ります。

- **LIST.DB ALL** コマンドを入力して、バックアウト要求フラグをオンにしているデータベースを決定する。
- **DISPLAY DATABASE** コマンドを BKERR パラメーターと共に入力し、バックアウトされなかったデータベースを判別する。

DFS3884I NO BACKOUTS NEEDED

説明

PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージが要求された場合は、再始動的バックアウトが不要なときに、このメッセージが送信されます。

システムの処置

テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3885I NO FAST PATH FORWARD RECOVERY NEEDED

説明

PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージが要求された場合は、高速機能順方向リカバリーが不要なときに、このメッセージが送信されます。

システムの処置

テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3886I FAST PATH FORWARD RECOVERY COMPLETE

説明

PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージが要求された場合は、高速機能順方向リカバリーが完了したときに、このメッセージが送信されます。

システムの処置

テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3887I IRLM TAKEOVER ISSUED

説明

PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージが要求された場合は、IRLM TAKEOVER が発行されるときに、このメッセージが送信されます。

システムの処置

テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3888I NORMAL IRLM OPERATION RESUMED

説明

PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージが要求された場合は、IRLM PURGE TAKEOVER に続いて通常の IRLM 操作が再開すると、このメッセージが送信されます。

システムの処置

テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3889A SYSTEM DATA SETS INCONSISTENT DDNAME-NNNNNNNN, RC=xx

説明

通常の再始動または緊急時再始動中に、直前の(またはアクティブな) IMS システムからの X'4001' ログ・レコードを処理しているときに、直前の(またはアクティブな) システムのデータ・セット名およびボリューム、再始動システム内のデータ・セット名およびボリュームの間に矛盾が検出されました。

コード (16 進数)
意味

04 アクティブ・システムを通常再始動または緊急時再始動している間、使用されている DSNAMES または VOLID が異なっていました。コールド・スタートまたは BLDQ オプションが指定されていない限り、これらは同じである必要があります。

08 緊急時再始動中は、短いメッセージ・データ・セットおよび長いメッセージ・データ・セットのデータ・セット数が整合している必要があります。変更が必要な場合は、コールド・スタートまたは BLDQ オプションのいずれかが必要です。

0C XRF 環境で緊急時再始動している間、バックアップ・システム用のキュー・マネージャーのシステム・データ・セット (qblks-shmsg-lgmsg) が異なっていました。これらのシステム・データ・セットは、アクティブ・システムが使用するシステム・データ・セットとは異なっている必要があります。

10 XRF 環境で緊急時再始動している間、バックアップ・システムのオンライン変更用のシステム・データ・セットおよび再始動データ・セットが異なっていました。これらのシステム・データ・セットは、アクティブ・システムと同じである必要があります。

システムの処置

システムは、異常終了 0598 で終了します。

オペレーターの応答:
(マスター端末) システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

メッセージ内で与えられている DD 名が矛盾しないよう JCL を訂正します。

関連情報

[IMS 異常終了 0598](#)

**DFS3890I TAKEOVER REQUESTED REASON
 CODE=rc**

説明

代替システムは、テークオーバーを行う必要があると判断すると、このメッセージを送信します。理由コード (rc) は、次のとおりです。

コード (16 進数)
意味

80
VTAM 終了

40
再始動データ・セット (RDS) 監視

20
システム LNK 監視

10
LOG 監視

08
/SWITCH が入力された

04
IRLM 障害

02
ESTAE 出口が入力された

これらの理由コードは、単独または組み合わせて発行できます。例えば、X'82' は、X'80' と X'02' を組み合わせたものであり、VTAM の終了と ESTAE 出口に入ったことを意味します。

システムの処置

テークオーバー処理が開始します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3891I TAKEOVER IN PROGRESS

説明

アクティブ・システムからの IMS システム・ログが代替システムによって処理された後、代替システムがこのメッセージを送信します。

システムの処置

テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

**DFS3892 WAITING FOR I/O PREVENTION
 TO COMPLETE**

説明

代替システムによるテークオーバーは、アクティブ・システム上の入出力防止が完了するまで続行することができません。

システムの処置

代替システムは、メッセージ AVMO05A に対する /UNLOCK 応答、または代替システムのマスター端末オペレーター (MTO) からの /UNLOCK SYSTEM コマンドの

いずれかによって、入出力防止がアクティブ・システムで完了したことが通知されるまで待機します。

オペレーターの応答:

(マスター端末) 障害のあるシステムが入出力要求を生成できないことを確認してください。これに該当する場合、代替システムの MTO は、**/UNLOCK SYSTEM** コマンドを入力するか、または MVS AVM メッセージに対する **/UNLOCK** 応答を入力して、テークオーバーの続行を許可できます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3893I F NET, USERVAR, ID=varname, VALUE=value FAILED WITH RTNFDBK=nnnn, SENSE=mmmm

説明

MODIFY USERVAR コマンドを実行した結果、VTAM から予期しない戻りコードが戻されました。メッセージには、次の情報が含まれています。

nnnn

RPL の RPLRTNCD/RPLFDB2 フィールドの 16 進値

mmmm

RPL の RPLSSNSI フィールドの 16 進値

システムの処置

IMS XRF システムは続行されます。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答

戻りコードについては、「*z/OS Communications Server SNA Programming*」(SC31-8829) および「*VTAM Messages and Codes*」(SC31-6418) で説明されています。また、このアプリケーションの VTAM 定義ライブラリーで、SPO (2 次プログラム・オペレーター) または PPO (1 次プログラム・オペレーター) が指定されていることを確認してください。

関連資料

[z/OS: RPL 戻りコード \(RTNCD、FDB2\) の組み合わせ](#)

DFS3894I THE HOTID FOR THE XRF PRIMARY AND THE ALTERNATE CANNOT BE EQUAL

説明

このメッセージは、XRF 複合システムの同期化フェーズ中に IMS 代替システムによってのみ発行されます。代替システムの HSBID パラメーターは、1 次システムの HSBID パラメーターと比較されます。(HSBID パラメーターは、メッセージ・テキスト内では HOTID パラメーターと呼ばれます。)これらの ID は異なっている必要があります。代替システムの HSBID は、初期設定 JCL から取得します。1 次システムの HSBID は、現在読み取られているチェックポイント SNAPQ から取得します。

システムの処置

このメッセージは、3141 異常終了よりも前に発行されます。

プログラマーの応答

この問題に対しては、次の原因と解決策が考えられます。

- 1 次システムの JCL が代替の中央演算処理複合システム (CPC) で実行依頼されている。正しいジョブを実行依頼します。
- 1 次/代替 HSBID が変更された。HSBID パラメーターを変更します。
- テークオーバーが行われてから以降、アクティブ・システムがチェックポイントを受け取っていない。アクティブ・システムで **/CHE SNAPQ** コマンドを入力します。

関連情報

[IMS 異常終了 3141](#)

DFS3895 TAKEOVER OCCURRED - NO REPLY AVAILABLE

説明

別のシステムが、端末で入力されたフロントエンド切り替えメッセージを処理することになっていました。応答を着信する前にテークオーバーが発生したため、応答が失われました。

システムの処置

応答をテークオーバー後に着信した場合、応答メッセージは端末には送信されません。

ユーザーの処置

入力メッセージを再入します。

DFS3896I ATTEMPTING TO PURGE OLDS BUFFERS

説明

IMS は、OLDS バッファのページを開始しようとしています。

システムの処置

システムは OLDS バッファをページしようとし、ページが成功すると、メッセージ DFS616I、OLDS BUFFERS SUCCESSFULLY PURGED が出力され、IMS の終了処理が継続されます。ページが失敗すると、メッセージ DFS616I、OLDS BUFFER PURGE FAILED が出力され、IMS の終了処理が継続されます。これらのメッセージのいずれかが即時に表示されない場合は、障害のあるアクティブ・システムが、代替システムによる OLDS の予約時にハングしている可能性があります。システムが再度取り消されるまでは、他のアクションは発生しません。

プログラマーの応答

このメッセージの後にメッセージ DFS616I が続いている場合、オペレーターの介入は必要ありません。システムがハングした場合、オペレーターは 2 回目の取り消しを発行する必要があります。その結果、入出力防止が行われ、IMS の終了処理が継続されます。

モジュール:

DFSFDLFO

関連情報

223 ページの『DFS616I』

SYSTEM LOG DATASET NOT CLOSED- LOG WRITE ERROR

DFS3897W **SCP LEVEL MUST BE AT LEAST
MVS/XA 2.1.3 - NO XRF
CAPABILITY**

説明

実行中の z/OS レベルは、XRF をサポートできません。このメッセージは、この IMS システムが XRF を使用して定義されたので、生成されました。SCP レベルが 2.1.3 の場合は、可用性マネージャーが z/OS を使用してシステム定義されていることを確認してください。

システムの処置

XRF 機能を持たずに処理を継続します。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

XRF 機能が必要な場合は、適切なレベルの z/OS を使用して再 IPL してください。

DFS3898W **NO HSB PROCLIB MEMBER - NO
XRF CAPABILITY**

説明

PROCLIB DD ステートメントによって定義されたデータ・セットが、IMS システムに XRF パラメーターを提供するメンバー DFSHSBxx を含んでいませんでした。

システムの処置

XRF 機能を持たずに処理を継続します。

オペレーターの応答:

システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答

XRF 機能が必要な場合は、DFSHSBxx という PROCLIB データ・セット・メンバーを作成してください。

DFS3899W **HSBID NOT SPECIFIED IN EXEC
PARM - NO XRF CAPABILITY**

説明

制御領域の EXEC パラメーターの中で HSBID パラメーターが指定されている場合を除き、IMS システムは XRF に対応しません。受け入れ可能な値は、1 または 2 のみです。XRF 機能を使用する処理はバイパスされます。

システムの処置

XRF 機能を持たずに処理を継続します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

DFS3900I **DFSACCS0 PARAMETER ERROR,
nnnnnnnn, ccccccc**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターのストレージ・アクセス・モジュール (DFSACCS0) が、無効なストレージ・アクセス要求パラメーターを検出しました。変数 nnnnnnnn は、無効なパラメーター・フィールド名です。cccccccc は、無効なパラメーター・フィールドです。

システムの処置

DFSACCS0 は、次のことを行います。

1. このメッセージを発行する。
2. DFSATRY0 を呼び出して、メッセージ DFS2400I を発行する。
3. フォーマッター制御ブロックをスナップする。

4. ストレージ・アクセスの戻りコード 12 でフォーマッターの再試行ルーチンに戻る。

ユーザーの処置

診断出力を使用して、問題の原因を判別します。

第 82 章 DFS メッセージ DFS3901W - DFS3950A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3901W **IMS DUMP REQUEST ERROR -
INVALID PARAMETER,
aaaaaaaa,bbbbbbbb**

説明

IMS ダンプ支援モジュール (DFSFDMP0) が、DFSFDUMP 要求で渡された DFSDPARM 制御ブロックの解析中に、無効の IMS メモリー・ダンプ要求パラメータを検出しました。メモリー・ダンプ要求の開始時のエラーか、または IMS の内部エラーが原因でこのメモリー・ダンプ要求エラーが発生した可能性があります。変数 *aaaaaaaa* は、無効なパラメーター・フィールド名です。*bbbbbbbb* は、無効なパラメーター・フィールドです。

システムの処置

DFSFDMP0 は、エラー・フィールドの内容を無視して IMS メモリー・ダンプ要求を続行します。

オペレーターの応答

即時に処置を実行する必要はありませんが、IMS システム・プログラマーに、このメッセージを受け取ったことを知らせてください。

DFS3902W **IMS DUMP REQUEST ERROR -
INVALID CALLER TYPE, xx**

説明

IMS メモリー・ダンプ要求の DFSDPARM 制御ブロック内の IMS メモリー・ダンプ支援モジュール (DFSFDMP0) に渡された呼び出し元のタイプが無効でした。16 進フィールド *xx* は、呼び出し元のタイプを示します。次のいずれかの状態が原因で、このエラーが発生しました。

- DFSOFMD0 のレベルが、DFSFDUMP マクロおよび DFSDPARM 制御ブロックのレベルと同じではなかった。
- DFSDPARM 制御ブロックがオーバーレイされた。
- IMS メモリー・ダンプ要求側が、DFSFDUMP マクロを使用して DFSDPARM 制御ブロックに呼び出し元 ID フィールドを挿入しなかった。

システムの処置

DFSFDMP0 は、呼び出し元のアドレス・スペースと制御領域アドレス・スペースのみのメモリー・ダンプを作成します。

オペレーターの応答

即時に処置を実行する必要はありませんが、IMS システム・プログラマーに、このメッセージを受け取ったことを知らせてください。

DFS3903W **IMS DUMP REQUEST ERROR -
INVALID DUMP TITLE LENGTH, yy**

説明

IMS ダンプ支援モジュール (DFSFDMP0) が、IMS メモリー・ダンプ要求を処理中に、無効なメモリー・ダンプ・タイトル長を検出しました。この長さは実際のタイトルよりも前にあり、長さバイトを除いて 98 バイト (10 進) を超えることはできません。フィールド *yy* は、無効な長さを示します。

システムの処置

DFSFDMP0 は、タイトルの最初の 98 バイトを使用して処理を続行します。

オペレーターの応答

即時に処置を実行する必要はありませんが、IMS システム・プログラマーに、このメッセージを受け取ったことを知らせてください。

DFS3904I **A DUPLICATE DUMP WAS
SUPPRESSED BY DAE**

説明

IMS ダンプ支援モジュール (DFSFDMP0) が、IMS DUMP 要求の処理中に、SDUMP から戻りコード X'08' と理由コード X'0B' を受け取りました。

システムの処置

オペレーティング・システムは SDUMP を受け取りませんでした。IMS は、メモリー・ダンプを再試行しません。

オペレーターの応答

IMS システム・プログラマーに通知してください。

DFS3905W **IMS DUMP REQUEST ERROR - t
SDUMP PROCESSING ERROR,
RC=r-ccc**

説明

IMS ダンプ支援モジュール (DFSFDMP0) が、IMS SDUMP 要求を処理中に、SDUMP からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。変数の意味は、次のとおりです。

t
P または S。要求が、1 次の SDUMP 要求か、または 2 次の SDUMP 要求のいずれであったかを示します。

r
SDUMP の戻りコード
04=部分メモリー・ダンプがダンプされた
08=ダンプが作成されなかった

ccc
SDUMP から受け取られた理由コード (理由コードが使用不可であった場合は、この値は UNK になります)。部分メモリー・ダンプ (戻りコード=04) の場合、ccc の値は N/A です。この場合は、z/OS メッセージ IEA911E または IEA611E から理由コードを入手してください。

システムの処置

これが 1 次 SDUMP 要求である場合 (t=P)、IMS は次の状態のときに 2 次 SDUMP を再試行します。

- 受け入れられなかった QUIESCE=YES 要求によるものではない部分メモリー・ダンプが作成された (戻りコード 4)。
- メモリー・ダンプは作成されなかったが (戻りコード 8)、理由コードが 001、255、005 から 009 のいずれかである。ダンプ支援ルーチンの呼び出し元によって渡された内部パラメーター・リストに 2 次メモリー・ダンプが指定されていない場合は、再試行は行われません。

2 次 SDUMP に失敗すると、SDUMP の戻りコードが 4 であるか、または理由コードによって SVC メモリー・ダンプが抑止されていたことが示されていない (別の SVC ダンプが進行中か、または SYS1.DUMP データ・セットが使用不可であったため) 場合は、このメッセージが (t=S) として発行されます。

両方の SDUMP 要求が失敗した場合、IMS オンライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定は、指定した FMTO パラメーターがそれを許可していれば、許可されます。

オペレーターの応答

このメッセージの前に発行された SDUMP メッセージを参照して、何らかの処置が必要であるかどうかを判断してください。作成されたダンプが、インストールの手順に従って処理されることを確認してください。

関連資料

[z/OS: SDUMP の戻りコードおよび理由コード](#)

DFS3906A **REPLY "S" TO SKIP, OR "U" TO RETRY AFTER CLEARING A DUMP DATA SET**

説明

IMS SDUMP 要求は、すべてのシステム・メモリー・ダンプ・データ・セットが現在いっぱいなので、失敗しました。

システムの処置

オペレーティング・システムは SDUMP を作成できませんでした。

IMS はオペレーターが応答するのを待ちます。

オペレーターの応答

要求を再試行するか、メモリー・ダンプの取得をスキップするか、1 次メモリー・ダンプに相当するものを再発行することができます。

SDUMP 要求を再試行する場合は、1 つ以上のメモリー・ダンプ・データ・セットを消去し、U を応答してください。

メモリー・ダンプの作成をスキップするには、S を応答しますが、IMS は、この IMS エラーについて、これ以上の SDUMP を作成しないことに留意してください。

1 次 SDUMP 要求に相当するものを再発行するには、IMS CTL、DL/I、DBRC、および IRLM アドレス・スペースについて、オペレーター **DUMP** コマンドを入力します。その後、受け取ったメッセージに対して S を応答します。

指定された FMTO パラメーターでオンライン・フォーマット設定が許可されており、S を応答した場合は、オンライン・フォーマット設定を開始できます。

関連情報

DFS3906I
DFS DUMP FAILED BECAUSE ALL SYSTEM DUMP DATA SETS ARE FULL

DFS3906I **DFS DUMP FAILED BECAUSE ALL SYSTEM DUMP DATA SETS ARE FULL**

説明

詳しい説明および処置については、DFS3906A を参照してください。

関連情報

[DFS3906A](#)

REPLY "S" TO SKIP, OR "U" TO RETRY AFTER
CLEARING A DUMP DATA SET

REPLY "S" TO SKIP, OR "U" TO RETRY AFTER
CURRENT DUMP COMPLETES.

DFS3907A **REPLY "S" TO SKIP, OR "U" TO
RETRY AFTER CURRENT DUMP
COMPLETES.**

DFS3908E **ABEND *code* IN OTMA SVC INIT
MODULE DFSYSVIO,
PSW=*psw1psw2***

説明

SDUMP が発行されたときに、この IMS システムに属さない別のタスクの SDUMP ダンプが取られていました。

システムの処置

オペレーティング・システムは、一度に作成する SDUMP が 1 つだけであるため、IMS SDUMP 要求を満たしませんでした。

IMS の処置: IMS はオペレーターが応答するのを待ちます。

オペレーターの応答

次のメッセージの 1 つを受け取った場合は、「U」を応答して、SDUMP 要求を再試行してください。

```
IEA911E COMPLETE DUMP ON  
SYS1.DUMPxx....  
      または  
IEA911E PARTIAL DUMP ON  
SYS1.DUMPxx....
```

現行のメモリー・ダンプが完了したかどうかがよく分からない場合は、「U」を応答してください。IMS は、現行のメモリー・ダンプが完了していない場合、メッセージ DFS3907A を発行します。

メモリー・ダンプの取得をスキップしたい場合は S を応答しますが、IMS は、現行のエラーについてこれ以上の SDUMP を作成しないことに注意してください。IMS は、代替の診断情報 (オンライン・メモリー・ダンプ、スピノフ・メモリー・ダンプ、ソフトウェア LOGREG エントリー、および従属領域メモリー・ダンプなど) を生成しようとします。

関連情報

DFS3907I
DFSDUMP FAILED BECAUSE A DUMP IS IN
PROGRESS.

DFS3907I **DFSDUMP FAILED BECAUSE A
DUMP IS IN PROGRESS.**

説明

詳しい説明および処置については、DFS3907A を参照してください。

関連情報

DFS3907A

説明

モジュール DFSYSVIO を制御しているときに、異常終了が発生しました。モジュール DFSYSVIO は、OTMA 呼び出し可能サービスの SVC サービスを初期設定するモジュールです。このモジュールは、通常、OTMA 呼び出し可能サービスを使用するアプリケーションを実行する前に、スタンドアロン・ジョブとして実行されます。DFSYSVIO の処理は、内部の ESTAE によって保護されています。ESTAE は、異常終了から再試行し、DFSYSVIO が取得したグローバル・リソース (共通ストレージなど) をクリーンアップしようとします。このメッセージの発行によって異常終了が発生したことをオペレーターに警告します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

コード

異常終了コード。システム異常終了の場合、*code* のフォーマットは Sxxx です (xxx は 3 桁の 16 進の異常終了コード)。ユーザー異常終了の場合、*code* のフォーマットは、Uddd で、ddd は、10 進 4 桁の異常終了コードです。

psw1

異常終了における PSW の最初のワードです。

psw2

異常終了時の PSW の 2 番目のワード。

システムの処置

DFSYSVIO ESTAE は、異常終了に関する診断データを収集した後、DFSYSVIO 内のクリーンアップ・ルーチンで実行を再開します。このルーチンは、DFSYSVIO が処理の一部として取得したグローバル・リソースを解放しようとします。次に、DFSYSVIO は、メッセージ DFS3911E を発行して、呼び出し元に戻ります。一般的には、DFSYSVIO 処理が終了する直前に異常終了が発生しない限り、OTMA SVC ルーチンは初期設定されません。

DFSYSVIO 異常終了した最初の時点では、その ESTAE は、アドレス・スペースの SDUMP を作成し、異常終了を文書化するために SYS1.LOGREC データ・セットにレコードを書き込みます。DFSYSVIO が 1 回の実行で 2 回以上異常終了する場合は、その ESTAE は、さらに SDUMP を作成することはしません。ただし、SYS1.LOGREC に新しいレコードを書き込みます。

システム・プログラマーの応答

メモリー・ダンプ、SYSLOG、および SYS1.LOGREC 情報を保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:
DFSYSVIO

関連情報

[1150 ページの『DFS3911E』](#)
[ERROR INITIALIZING OTMA SVC - details](#)

DFS3909A CQS SUBSYSTEM IS UNAVAILABLE FOR <MSGQ|EMHQ> - REPLY RETRY WHEN READY OR ABORT TO TERMINATE IMS

説明

IMS の再始動中に、このメッセージに示されている共用キュー構造の CQS サブシステムとの再同期をとろうとしましたが、失敗しました。CQS サブシステムは使用不可です。

システムの処置

IMS は、このメッセージへの応答を待ちます。応答が RETRY の場合、IMS は CQS に接続しようとします。応答が ABORT の場合、IMS は異常終了 0231、戻りコード 01 で終了します。応答が認識されない場合は、このメッセージが再発行されます。

オペレーターの応答

CQS の準備ができたときに RETRY を入力するか、または ABORT を入力して IMS を終了します。このメッセージは、メッセージ・キュー (MSGQ) および急送メッセージ・ハンドラー・キュー (EMHQ) に対して発行できません。

モジュール:

DFSRLP00 (MSGQ の場合)、DBFHCSO (EMHQ の場合)

関連情報

[IMS 異常終了 0231](#)

DFS3910I IMS IN A SHARED QUEUE ENVIRONMENT IS UNABLE TO RESYNC WITH CQS

説明

ウォーム再始動中または緊急時再始動中に、IMS が CQS サブシステムとの再同期化に失敗しました。

システムの処置

IMS は、異常終了 0231-xx で終了します。サブコード xx についての説明は、異常終了 0231 を参照してください。

ユーザーの処置

識別されたエラーを訂正して、IMS を再始動します。

モジュール:

DFSRST00、DFSRLP00

関連情報

[IMS 異常終了 0231](#)

DFS3911E ERROR INITIALIZING OTMA SVC - details

説明

モジュール DFSYSVIO でエラーが発生しました。DFSYSVIO は、OTMA 呼び出し可能サービスの SVC サービスを初期設定するモジュールです。このモジュールは、通常、OTMA 呼び出し可能サービスを使用するアプリケーションを実行する前に、スタンドアロン・ジョブとして実行されます。DFSYSVIO は、呼び出し可能サービスの初期設定を完了できない場合、メッセージ DFS3911E を発行して、初期設定が失敗した理由を示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

details

OTMA 呼び出し可能サービスの SVC の初期設定が失敗した理由の簡単な要約。details は、DFSYSVIO モジュールによって発行された戻りコードに対応しており、次のコードのいずれかの可能性があります。

NOT EXECUTING IN PSW KEY 7

PSW キー 7 において、DFSYSVIO に制御が渡されませんでした。DFSYSVIO は、PSW キー 7 において許可プログラムとして実行する必要があります。DFSYSVIO をプログラム特性テーブルに追加します。手順については、「IMS V15 システム・プログラミング API」を参照してください。

ESTAE CREATE FAILED, RC=rc

DFSYSVIO は、z/OS リカバリー・ルーチン (ESTAE) を確立しようとしたましたが、ESTAE 呼び出しの作成に失敗しました。rc は、MVS ESTAE マクロからの戻りコードです。

BPESVC INIT FAILED, RC=rc

DFSYSVIO は、BPE SVC サービスを初期設定できませんでした。rc は、BPESVC 初期設定呼び出しからの戻りコードです。

BLDL FOR DFSYSVCO FAILED, RC=rc

モジュール DFSYSVCO についての MVS BLDL 呼び出しが失敗しました。DFSYSVCO が、DFSYSVIO の実行元のライブラリーに含まれていることを確認してください。rc は、MVS BLDL マクロ呼び出しからの戻りコードです。

GET FOR STORAGE FAILED, RC=rc

DFSYSVIO は、OTMA 呼び出し可能サービスの SVC モジュールに必要なストレージを取得できませんでした。rc は、MVS STORAGE マクロ呼び出しからの戻りコードです。

LOAD FOR DFSYSVCO FAILED, RC=rc

モジュール DFSYSVCO についての MVS LOAD 呼び出しが失敗しました。rc は、MVS LOAD マクロ呼び出しからの戻りコードです。

BPESVC REGISTRATION FAILED, RC=rc

OTMA 呼び出し可能サービスの SVC ルーチンを BPESVC (BPE SVC サービス) に登録できませんでした。rc は、BPESVC REGISTER マクロ呼び出しからの戻りコードです。

ABEND OCCURRED DURING INITIALIZATION

DFSYSVIO 処理中に異常終了が発生しました。このメッセージの前に、異常終了コードと PSW を示す DFS3908E メッセージ、および DFSYSVIO ジョブのアドレス・スペースの SDUMP がある場合があります。

システムの処置

モジュール DFSYSVIO は終了します。OTMA 呼び出し可能サービス SVC は初期化されません (あるいは、以前に初期化されている場合は、置き換えられません)。

システム・プログラマーの応答

環境エラー (DFSYSVCO が DFSYSVIO の実行元のライブラリーと同じライブラリーにないなど) の場合は、エラーを訂正して、DFSYSVIO を再実行します。「NOT EXECUTING IN PSW KEY 7」エラーの場合は、DFSYSVCO があるライブラリーが APF で許可されていることを確認してください。その他の問題については、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:
DFSYSVIO

関連資料

[BPESVC コード \(メッセージおよびコード\)](#)

[z/OS: ESTAE の戻りコードおよび理由コード](#)

[z/OS: BLDL の完了コード](#)

[z/OS: STORAGE OBTAIN の戻りコードおよび理由コード](#)

[z/OS: LOAD の戻りコードおよび理由コード](#)

関連情報

[1149 ページの『DFS3908E』](#)

ABEND code IN OTMA SVC INIT MODULE
DFSYSVIO, PSW=psw1psw2

DFS3912W	IMS DUMP FORMAT CONTROL PARAMETER ERROR, ccccccc
-----------------	---

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、メモリー・ダンプ・フォーマット制御データ・セット内のオプション ccccccc が認識されなかったか、処理されませんでした。

システムの処置

DFSOFMD0 は、フォーマット・オプションのスキャンを続行しますが、無効なオプションを無視します。無効のオプションが 4 個以上検出された場合、DFSOFMD0 は、メモリー・ダンプ・フォーマット制御データ・セットをクローズし、受け取った有効なオプションを処理します。

ユーザーの処置

以下を確認して、無効なオプションを修正します。

- オプションのスペルが正しいこと。
- オプションの修飾子が 1 つのみであること (オプションを繰り返すことは可能です)。

次に、これらのオプションに対してメモリー・ダンプ・フォーマット設定ジョブを再実行します。このメッセージの直後に、IMS オフライン・フォーマット設定が実行されるかどうかを示すメッセージ DFS3913I が続きます。

関連情報

[1151 ページの『DFS3913I』](#)

IMS DUMP FORMATTING DISCONTINUED

DFS3913I	IMS DUMP FORMATTING DISCONTINUED
-----------------	---

または

IMS DUMP FORMATTING CONTINUING

説明

このメッセージは、IMS オフライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定が直前のエラーの後も続行されているかを示します。

システムの処置:

IMS オフライン・ダンプ・フォーマット設定は、続行されるか停止されます。

ユーザーの処置

オフライン・メモリー・ダンプ・フォーマットが停止した場合は、以前のメッセージに基づいてエラーを訂正し、フォーマット設定しなかったフォーマット・ジョブを再実行します。

**DFS3914I IMS DUMP FORMATTER BUFFER
CONTROL BLOCK INTERNAL
ERROR DETECTED**

説明

以下のいずれかの内部 IMS ダンプ・フォーマッター処理エラー (IMS ダンプ・ストレージ・バッファに関するもの) が発生しました。

- メモリー・ダンプ・ストレージ・バッファ接頭部がオーバーレイされた。
- 接頭部の再チェーニングの進行中に、IMS メモリー・ダンプ・フォーマット設定に割り込みが発生した。
- IMS メモリー・ダンプ・フォーマット・ストレージ・アクセス・ルーチン内でエラーが発生した。

システムの処置

IMS は、メモリー・ダンプ・フォーマッター制御ブロックをスナップし、RC=8 で制御を AMDPRDMP/IPCS に戻します。

ユーザーの処置

診断出力を使用して、問題の原因を判別します。

**DFS3915I GETMAIN FAILED FOR AN IMS
FORMATTING DUMP BUFFER.**

または

**FREEMAIN FAILED FOR AN IMS FORMATTING DUMP
BUFFER.**

説明

IMS ダンプ・フォーマッターが、IMS メモリー・ダンプ・ストレージ・バッファ用のストレージを取得または解放できませんでした。

システムの処置

GETMAIN または FREEMAIN の障害の後、プリント・サービス・ルーチンがメモリー・ダンプ・フォーマット設定の制御ブロックのスナップを出力し、IMS メモリー・ダンプ・フォーマット設定が終了し、AMDPRDMP が RC=4 で制御を受け取ります。

ユーザーの処置

主記憶の解放中にエラーが発生した場合は、診断出力を使用して、問題の原因を判別します。GETMAIN 中にエラーが発生した場合は、領域のサイズを大きくしてジョブを再実行します。

**DFS3916W RC=01,DFSOFMD0 UNABLE TO
GETMAIN STORAGE FOR -
REGISTER SAVEAREA**

または

**RC=02, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE
FOR - COMMUNICATION AREA**

または

**RC=03, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE
FOR - DUMP BUFFER PREFIXES**

または

**RC=04, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE
FOR - DUMP BUFFERS**

または

**RC=06, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE
FOR - RELOCATED SCD**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、必要な IMS オフライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定制御ブロック用のストレージを取得しようとして、GETMAIN からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

システムの処置

メモリー・ダンプ・フォーマッターは、処理を続行できず、RC=4 で AMDPRDMP に制御を戻します。

ユーザーの処置

AMDPRDMP に提供されるストレージを増やした後、失敗したジョブを再実行します。問題が継続する場合は、IMS システム・プログラマーに通知してください。

**DFS3917W RC=07, DFSOFMD0 UNABLE TO
GETMAIN STORAGE FOR - IMS
DUMP FORMATTER MODULES.**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、IMS オフライン・ダンプ・フォーマッ

ター・モジュールを再配置するために必要なストレージを取得できませんでした。

システムの処置

DFSOFMD0 は、現行ライブラリーから必要なモジュールをロードして、処理を続行しようとしています。

ユーザーの処置

メモリー・ダンプ内のオフライン・ダンプ・フォーマッター・モジュールを使用してメモリー・ダンプをフォーマット設定する場合は、AMDPRDMP に提供されているストレージを増やして、ジョブを再実行します。問題が継続する場合は、DFSAVECT ベクトル・テーブル制御ブロックをチェックして、オーバーレイされていないことを確認してください。この制御ブロックのアドレスは、SCD 内のフィールド SCDCABNO または SCDDABNO でポイントされているロード・モジュール DFSABND0 の先頭にあります。

メモリー・ダンプ内の IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター・モジュールをフォーマット設定に使用したくない場合は、オフライン・ダンプ・フォーマッター・モジュールがロード・モジュール DFSABND0 内で使用可能であることを確認してください。

さらに支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3918W RC=05, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE FOR - RELOCATED FP ESCD.

または

RC=08, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE FOR - RELOCATED CBT HEADER

または

RC=10, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE FOR - RELOCATED CBT TABLE

または

RC=310, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE FOR - FAST PATH EPST WORK BUFFER

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、高速機能 ESCD、高速機能作業バッファー、制御ブロック・テーブル・ヘッダー、または制御

ブロック・テーブル (CBT) を再配置するために必要なストレージを取得できませんでした。IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは、CBT サブセット・オプションか CBTE サブセット・オプション、または CBT FIND サービスを使用して制御ブロックを配置するその他のオプションをフォーマットできなくなります。

システムの処置

IMS メモリー・ダンプ・フォーマット設定は続行されますが、高速機能の制御ブロックはフォーマット設定されません。

DFSOFMD0 はすべての CBT を使用不可にして IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定を続行します。

ユーザーの処置

AMDPRDMP に提供されるストレージを増やした後、ジョブを再実行します。問題が継続する場合は、IMS システム・プログラマーに通知してください。

DFS3919W RC=rc, reason_test

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、TCBFSA ポインターを使用して SCD を配置しようとしたのですが、必要なダンプ・ストレージにアクセスできませんでした。この状態は、無効なダンプまたは不完全なダンプを使用したか、または無効な IMS ジョブ名を指定したことが原因である可能性があります。

メッセージ・テキストで、*rc* および *reason_test* は次の値のいずれかです。

- **RC=00, UNKNOWN ERROR**
- **RC=01, RESERVED FOR FUTURE USE**
- **RC=02, RESERVED FOR FUTURE USE**
- **RC=03, UNABLE TO FIND IMS SCD**
- **RC=04, DUMP BUFFERS**
- **RC=05, RELOCATED FP ESCD**
- **RC=06, RELOCATED SCD**
- **RC=07, DUMP FORMATTER MODULES**
- **RC=08, RELOCATED CBT HEADER**
- **RC=09, SAP SORT WORK AREA**
- **RC=10, RELOCATED CBT TABLE**
- **RC=11, DFSOFMD0 ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND CVT**
- **RC=13, DFSOFMD0 ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND JESCT**
- **RC=14, DFSOFMD0 ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND SSCT**

- **RC=27, DFSOFMDO ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND ASVT**
- **RC=45, DFSOFMDO ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND IMS TCB**

システムの処置

IMS オフライン・ダンプ・フォーマット設定は終了します。

ユーザーの処置

正しいレベルの DFSOFMDO を使用していることを確認してください。SYSMDUMP、オペレーターが要求したダンプ、またはスタンドアロンのダンプを使用している場合は、システム・プログラマーと協力して、必要なストレージ・エリアがすべてダンプされていることを確認してください。問題が継続する場合は、IMS システム・プログラマーに通知してください。

DFS3920W RC=15, DFSOFMDO ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND CBT HEADER

または

RC=18, DFSOFMDO ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND CBT TABLE

または

RC=25, DFSOFMDO ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND FP ESCD

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMDO) で、ダンプ内から IMS CBT 制御ブロックまたは高速機能 ESCD 制御ブロックを検出できませんでした。

システムの処置

IMS ダンプ・フォーマット設定は続行されますが、高速機能に関連したフォーマット設定または CBT に関連したサービスはすべて使用不可となります。

ユーザーの処置

IMS システムのレベルと互換性のあるレベルの DFSOFMDO のレベルを使用していることを確認してください。SYSMDUMP、オペレーターが要求したダンプ、またはスタンドアロンのダンプを使用している場合は、

z/OS システム・プログラマーと協力して、必要なストレージ域がすべてダンプされているかどうかを確認してください。問題が継続する場合は、IMS システム・プログラマーに通知してください。

DFS3921W RC=26, DFSOFMDO ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND DFSABNDO

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMDO) で、ダンプ内から指定されたモジュールを検出できませんでした。

システムの処置:

DFSOFMDO は、現行ライブラリーから名前付きモジュールの新規コピーをロードして、処理を続行しようとします。

ユーザーの処置

SYSMDUMP、オペレーターが要求したダンプ、またはスタンドアロンのダンプを使用している場合は、z/OS システム・プログラマーに連絡して、必要なすべてのストレージ域がダンプされていることを確認してください。次に、ダンプを調べて、IMS が初期設定の早期段階や終了処理の後期段階になかったことを確認してください。さらに支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3922W RC=16, DFSOFMDO LOAD FAILED FOR - LOAD MODULE DFSABNDO, ENTRY POINT = DFSABNDO

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMDO) で、ダンプ・フォーマッター・ロード・モジュールが欠落していたか DFSABNDO エントリー・ポイントを含んでいなかったために、IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター・モジュールの新しいコピーを、現行ライブラリーからロードできませんでした。

システムの処置

IMS オフライン・ダンプ・フォーマット設定が停止し、RC=8 で AMDPRDMP に制御が戻されます。

システム・プログラマーの応答

DFSABNDO が正しい IMS リリースに使用可能であり、DFSABNDO のエントリー・ポイントを使用して正しくバインドされていることを確認してください。

ユーザーの処置

ダンプ内の IMS ダンプ・フォーマッター・モジュールを使用するか、またはロード・モジュール DFSABND0 が現行ライブラリー内にあることを確認します。その後、ジョブを再実行します。

DFS3923I **OTMA SVC INITIALIZATION
COMPLETE - DFSYSVC0
A=xxxxxxxx L=yyyyyyyy**

説明

モジュール DFSYSVC0 は正常にロードされ、BPE に登録されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

XXXXXXXX

DFSYSVC0 がロードされたアドレス

YYYYYYYY

モジュール DFSYSVC0 の長さ

システムの処置

DFSYSVC0 は正常にロードされ、BPE に登録されています。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSYSVIO

DFS3924W **RC=19, DFSOFMDO ERROR WITH
DFSFRMAT DATA SET- UNABLE TO
FIND DD STMT**

または

**RC=20, DFSOFMDO ERROR WITH DFSFRMAT DATA
SET - UNABLE TO OPEN DATA SET**

または

**RC=21, DFSOFMDO ERROR WITH DFSFRMAT DATA
SET - READ/CHECK FAILED**

または

**RC=36, DFSOFMDO ERROR WITH DFSFRMAT DATA
SET - "FMTIMS" KEYWORD NOT FOUND**

または

**RC=41, DFSOFMDO ERROR WITH DFSFRMAT DATA
SET - RECFM FORMAT INVALID**

または

**RC=42, DFSOFMDO ERROR WITH DFSFRMAT DATA
SET- LRECL/BLKSIZE INCOMPATIBLE**

説明

DFSOFMDO が IMS ダンプ・フォーマット制御データ・セットの検出、オープン、または読み取りを実行できなかったか、DFSFRMAT の DD ステートメントまたはデータ・セットに無効なデータが含まれていました。発行された特定の形式のメッセージに問題が示されています。

システムの処置

IMS ダンプ・フォーマット設定は、SUMMARY オプションを使用して続行されます。

ユーザーの処置

次の点を確認してください。

- IMS オフライン・ダンプ・フォーマット設定用の有効な DFSFRMAT DD ステートメントが組み込まれている。
- ダンプ・フォーマット制御データ・セットが存在しており、有効である。
- DFSFRMAT データ・セットで、有効な LRECL 値および BLKSIZE 値と共に、RECFM=F または RECFM=FB が指定されている。
- FMTIMS 制御ステートメントが DFSFRMAT データ・セットの最初に指定されている。

さらに支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3925W **RC=22, DFSOFMDO AMDPRDMP
PARMLIST ERROR - UNABLE TO
FIND EXTENSION**

または

**RC=23, DFSOFMDO AMDPRDMP PARMLIST ERROR -
NO JOBNAME PARAMETER FOUND**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、IMS ダンプ・フォーマット設定に必要な IMS ジョブ名を含む AMDPRDMP 出口パラメーター・リスト拡張を検出することができませんでした。

システムの処置

IMS オフライン・フォーマット設定が停止し、RC=8 で AMDPRDMP に制御が戻されます。

ユーザーの処置

有効な IMSDUMP verb に有効なジョブ名が与えられていることを確認してください。問題が継続する場合は、z/OS システム・プログラマーに通知してください。

DFS3926W RC=24, DFSOFMD0 EXIT PARAMETER LIST ERROR - JOBNAME IS NOT AN IMS SUBSYSTEM

または

RC=28, DFSOFMD0 EXIT PARAMETER LIST ERROR - JOBNAME ASCB NOT FOUND

説明

AMDPRDMP 出口パラメーター・リスト内の IMSDUMP ジョブ名のアドレス・スペース制御ブロック (ASCB) が現行のダンプから欠落しているか、またはそのジョブ名の ASCB は存在しているが、サブシステム・タイプ "DB" または "DC" と一致する SSCT エントリーがありませんでした。このエラーは、次の条件のいずれかに該当する場合に発生します。

- 必要なストレージがダンプされなかった。
- ジョブ名が間違っていた。
- メモリー・ダンプが作成される前に、IMS ジョブが終了した。
- IMS 以外のジョブにジョブ名が与えられた。

システムの処置

IMS ダンプ・フォーマット設定が停止し、RC=8 で AMDPRDMP に制御が戻されます。

ユーザーの処置

次の点を確認してください。

- 正しいダンプを提供している。
- IMS ジョブ名が有効である。

- 必要なストレージがすべてダンプされている。
- IMS がダンプ内にあった。
- IMS が初期設定の早期段階や終了処理の後期段階になかった。

さらに支援が必要な場合は、z/OS システム・プログラマーに連絡してください。

関連資料

[オフライン・ダンプ・フォーマッター・ユーティリティー \(DFSOFMD0\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS3927W DFSDPARM PARAMETER LIST NOT ALLOCATED, PARTIAL OFFLINE DUMP MAY RESULT.

説明

IMS ダンプ支援モジュール (DFSFDMP0) に特定の DFSDUMP オプションが入った DFSDPARM 制御ブロックが渡されませんでした。DFSFDMP0 は代わりにデフォルト・オプションを使用しました。

システムの処置

DFSFDMP0 は、RC=8 で DFSDUMP の発行者に戻ります。SDUMP 処理は継続します。

オペレーターの応答

即時に処理を実行する必要はありませんが、IMS システム・プログラマーに、このメッセージを受け取ったことを知らせてください。

DFS3928W UNRECOVERABLE ERROR DURING IMS DUMP REQUEST MAY RESULT IN NO OFFLINE DUMP.

説明

IMS SDUMP 要求の処理中に問題が検出されたため、IMS SDUMP の処理が停止しました。メモリー・ダンプがまだ作成されていない場合、メモリー・ダンプは作成されません。

システムの処置

DFSFDMP0 は、RC=8 で DFSDUMP の発行者に戻ります。スピンオフ・メモリー・ダンプ、ソフトウェア LOGREG エントリー、および従属領域メモリー・ダンプなどの代替オンライン診断が許可されます。

オペレーターの応答

即時に処理を実行する必要はありませんが、IMS システム・プログラマーに、このメッセージを受け取ったことを知らせてください。

システム・プログラマーの応答

メモリー・ダンプ処理エラーに対して作成された LOGREC エントリーも含めて診断出力を調べて、問題の原因を判別します。

DFS3929W **name ADDRESS SPACE STORAGE IS NOT IN THIS DUMP**

説明

name アドレス・スペース用の専用アドレス・スペース・ストレージがダンプされませんでした。メッセージ・テキストで、*name* は次のいずれかです。

CTL
DLI
DBRC

システムの処置

IMS オフライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定は続行されますが、オプションがバイパスされたり、ブロックをフォーマット設定できなかつたりする可能性があります。

ユーザーの処置

正しいメモリー・ダンプを提供したことを確認してください。次のダンプの場合は、この状態が妥当である可能性があります。

- CTL、DL/I、または DBRC のアドレス・スペースが要求されなかった IMS メモリー・ダンプ。
- CTL か DL/I、またはその両方のアドレス・スペースを要求しなかった、SYSMDUMP、2 次要求 IMS メモリー・ダンプ、オペレーターが開始した SVC メモリー・ダンプ。
- z/OS が開始した SVC メモリー・ダンプ。

さらに支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3930I **DFSOFMDO WAS NOT ASSEMBLED AT THE SAME MVS SP LEVEL AS THE IMS DUMPED OR THE DUMP IS NOT MACHINE READABLE**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定モジュールが、ダンプされた IMS システムと同じ z/OS SP レベルでアSEMBルされなかったか、メモリー・ダンプをマシンで読み取れなかったか、またはデータ・セットがメモリー・ダンプではなかったため、z/OS 制御ブロックを正しく分析できません。

システムの処置

IMS メモリー・ダンプ・フォーマット設定は終了します。

ユーザーの処置

DFSOFMDO が、このメモリー・ダンプ用に正しい z/OS レベルでアSEMBルされ、そのメモリー・ダンプがマシンで読み取り可能であることを確認してください。さらに支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3930W **DFSOFMDO ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP- RC45, DFSOFMDO IMS LEVEL DOES NOT MATCH DUMP**

説明

DFSOFMDO のバージョンまたはリリース・レベルが、メモリー・ダンプ内で検出された IMS のレベルと互換性がありません。IMS ダンプ・フォーマット設定の初期設定コードは、メモリー・ダンプ内の IMS 制御ブロックと互換性があることが必要です。IMS オフライン・ダンプ・フォーマット設定は実行されません。

システムの処置

互換ライブラリーが使用されていることを確認して、メモリー・ダンプ・フォーマット設定ジョブを再実行します。

DFS3931W **DFSFDMP0 UNABLE TO GET SRB BLOCK STORAGE, NO IMS OFFLINE DUMP ATTEMPTED.**

または

DFSFDMP0 UNABLE TO GET WORK AREA STORAGE, NO IMS OFFLINE DUMP ATTEMPTED.

説明

IMS ダンプ支援モジュールが、内部作業域に必要な専用ストレージを取得できなかったか、SDUMP SRB インターフェイスに必要な CSA ストレージを取得できませんでした。メッセージ DFS629I は送信されませんでした。また、IMS SDUMP メモリー・ダンプは作成されませんでした。

システムの処置

DFSFDMP0 は、RC=36 で DFSDUMP の発行者に戻ります。オンライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定は抑止されません。

または

RC=39 DL/I ADDRESS SPACE WAS NOT FULLY INITIALIZED.

または

RC=40 DBRC ADDRESS SPACE WAS NOT FULLY INITIALIZED.

説明

指定された IMS アドレス・スペースはメモリー・ダンプが作成されたときに完全には初期設定されていなかったため、このアドレス・スペース内の一部の IMS 制御ブロックは、完全には構築および初期設定されていない可能性があります。

システムの処置

IMS メモリー・ダンプ・フォーマット設定は続行されますが、予測不能なフォーマット設定エラーが起きる場合があります。

ユーザーの処置

フォーマット設定された出力は、注意して使用してください。完全には初期設定されていない制御ブロックに対してフォーマット設定エラーが発生する可能性があります。

**DFS3935I IMS SYMBOL SERVICE ERROR,
 RC=nn**

説明

IPCS が、IMS シンボル作成要求に対してゼロ以外の戻りコードを戻しました。*nn* は、IPCS シンボル作成サービスの戻りコードです。

システムの処置

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは、次の IMS シンボルへ処理を進めます。

ユーザーの処置

ただし、示されているシンボルは、現行のメモリー・ダンプに対しては存在しません。

関連資料

[z/OS: シンボル・サービス](#)

**DFS3936I IMS SYMBOL SERVICES
 UNAVAILABLE**

説明

現行のフォーマット設定呼び出しでは、シンボル作成サービスは使用不可です。他のシンボル・サービス・エラー・メッセージの 1 つが、このメッセージよりも前に発行されている場合があります。

システムの処置

現行のフォーマット設定呼び出しでは、シンボル作成サービスは使用不可です。

ユーザーの処置

前のシンボル作成サービスのメッセージを参照してください。

**DFS3937I UNABLE TO ACCESS STORAGE
 WHILE FORMATTING THE ccc...ccc**

説明

メモリー・ダンプ・フォーマット設定中、ダンプされたストレージにアクセスしているときにエラーが発生しました。フィールド *ccc...ccc* は、最大 16 バイトで、フォーマットされている制御ブロックまたはデータ域を示します。

オンライン環境において、メモリー・ダンプ・ストレージは、IMS ダンプ・フォーマッター内にあります。

最も一般的なメモリー・ダンプ・ストレージ・アクセス・エラーは、次のとおりです。

- STORAGE NOT AVAILABLE。要求されたストレージがメモリー・ダンプ内にありませんでした。
- PARTIAL STORAGE AVAILABLE。要求されたストレージの一部がメモリー・ダンプ内にありました。

システムの処置

ほとんどのエラーで、このメッセージの直後に診断メモリー・ダンプが続きます。この診断メモリー・ダンプは、次のもので構成されています。

- SDWA の内容。これには PSW、完了コード、モジュール ID、レジスター、および SDWA エリアのメモリー・ダンプが含まれます。
- 命令域。これには、障害のある命令の前と後の 128 バイトのデータ (合計 256 バイト) が含まれます。
- 通信域。これは、IMS ダンプ・フォーマッターがフォーマット設定モジュール間の相互通信のために使用する制御ブロックです。
- 保管域。これは、メモリー・ダンプ・フォーマッターが使用する保管域セットのメモリー・ダンプです。
- メモリー・ダンプ・フォーマッター・モジュールのベクトル・テーブル。

- ・ ダンプ・フォーマッターのストレージ・バッファ・ヘッダーおよび接頭部(オフライン・フォーマット設定のみ)。
- ・ ダンプ・オプション要求ブロック・ストレージ(オフライン・フォーマット設定のみ)。

エラーの診断メモリー・ダンプの後、ダンプ・フォーマッターは、要求された次の IMS 制御ブロックのフォーマット設定を続行します。

次のいずれかの形式の ccc...ccc を受け取ると、診断メモリー・ダンプは抑止されます。

'PSB' (および、メモリー・ダンプに DL/I ストレージがない)
 'AUTO OPTION PROC' (および、デバッグが要求されなかった)
 'ABND DIAG. AREA'
 'SA - EP ADDRESS'
 'SAP'
 'ECB PREFIX'
 'SAVE AREA'
 'REGISTER AREA'
 'SA - INV FWD PTR'
 'QUEUE BUFFERS'
 'UEHB'
 'LATCH LIST'
 'ECB STORAGE'
 'XMCI BLOCK'
 'USE LIST (CULE)'

ユーザーの処置

IMS ダンプ・フォーマッターで失敗しても、元の問題の診断に役立つ情報が出力で提供されることもあります。メモリー・ダンプ・フォーマッター出力によって十分な情報が得られない場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答

診断メモリー・ダンプを使用して、問題の原因を判別してください。診断メモリー・ダンプが抑止されている場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3938W **TRACE TABLE WITH NAME cc
REQUESTED -- NOT FOUND**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター TRACE 要求に対して、要求されたトレース・テーブルを検出できませんでした。このことは、通常、無効の名前が要求されたことを示します。このことは、有効なトレースは存在するが、それが開始されなかったことを示しているではありません。

システムの処置

TRACE オプション・フォーマッターは現在の要求を終了して、次のトレース要求で続行します。

ユーザーの処置

適切な IMS トレース・テーブル名が要求されたことを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

関連資料

[タイプ 1 トレース・テーブル・インターフェース \(診断\)](#)

DFS3939I **cccccccc FORMATTING
TERMINATED -- WORKAREA
STORAGE UNAVAILABLE**

説明

要求の処理に必要な IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの内部作業域を取得できませんでした。cccccccc は、要求されたフォーマッター・オプションです。作業域スペースを GETMAIN するために十分なストレージを取得できなかったため、エラーが発生しました。このメッセージは、同一のフォーマッター呼び出し中にダンプ・フォーマッターの低レベル・オプション要求が 64 以上になった場合にも発生します。

システムの処置

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは現在の要求をスキップして、次のフォーマット設定要求を処理しようとしています。

ユーザーの処置

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターに十分なストレージがあることを確認して、要求を再発行します。TSO 使用の場合は、領域サイズが十分であることを確認してください。バッチ・ジョブの場合は、領域サイズを増やして、ジョブを再実行します。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ユーザーの TSO CLIST 機能からメモリー・ダンプ・フォーマッター・オプションを要求している場合は、一度の呼び出しで使用するオプションは 63 以内にしてください。

DFS3940I **cccccccc FORMATTING
TERMINATED -- UNEXPECTED
DUMP STORAGE ACCESS ERROR**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは、指定されたオプションの要求のための制御ブロックを検索または処理している間、ストレージにアクセスできませんで

した。cccccccc は、要求されたフォーマッター・オプションです。IPCS ストレージ・アクセス・サービス・ルーチンからのゼロ以外の戻りコードがこの状態を示します。この状態の原因は、次のいずれか1つです。

- 要求された制御ブロック・ストレージを含まないメモリー・ダンプをフォーマットしようとした。
- 無効のアドレスでダンプされたストレージ内のエラーによって、要求されたフォーマット設定が阻止された。
- 無効のフォーマッター要求によって、フォーマッターが利用不能のメモリー・ダンプ・ストレージを要求した。

要求ヘッダー行(このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています)が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。必要な情報を取得するには、DC、DB、または SPST など、関連付けられているハイレベルのフォーマット設定オプションでフォーマット設定された出力を要求します。このエラー・メッセージの前に、メモリー・ダンプ・フォーマッター・ブロックのメッセージ DFS3937I および SNAP が出力されます。

システムの処置

IMS メモリー・ダンプ・フォーマッターは、それ以上のオプションの要求をスキップし、次のフォーマッター・オプションへ処理を進めます。

ユーザーの処置

ストレージ(必要に応じて CTL、DL/I、または CSA)が存在していることを確認してください。フォーマッター要求が有効であったことを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

関連情報

1159 ページの『DFS3937I』
UNABLE TO ACCESS STORAGE WHILE
FORMATTING THE ccc...ccc

DFS3941I **TRACE TABLE FORMATTING
TERMINATED DUE TO BAD TRACE
CONTROL BLOCK ADDRESS -
cccccccc**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターが、TRACE オプション要求の処理中に無効なトレース・テーブル制御ブロックを検出しました。cccccccc が不良アドレスです。

システムの処置

TRACE オプションのフォーマット設定は終了し、IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは次のオプションへ処理を進めます。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

ただし、要求されたトレース・テーブルの一部はフォーマットされませんでした。

DFS3942I **IMS DUMP FORMAT REQUEST
INCOMPLETE OR IN ERROR -
cccccccc**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターが、タイプまたは引数を要求しているフォーマット要求でエラーを検出しました。cccccccc は、エラーとなっているテキストです。

システムの処置

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは現在の要求を無視して、残りの認識可能な修飾子をパージし、次のフォーマット要求の構文解析を続行します。

ユーザーの処置

フォーマット要求エラーを訂正して、失敗した要求を再実行依頼します。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3944I **cccccccc FORMATTING
TERMINATED -- NO REQUEST
CHAIN FOUND**

説明

指定された IMS フォーマット設定オプションが選択されましたが、有効なフォーマット設定要求が検出されませんでした。cccccccc は、要求されたフォーマッター・オプションです。

要求ヘッダー行(このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています)が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。引数は、無効の要求であった可能性があります(引数がないか、またはタイプが無効)。

システムの処置

IMS ダンプ・フォーマッターは、指定されたオプション要求をスキップし、次のメモリー・ダンプ・フォーマッター・オプションへ処理を進めます。

ユーザーの処置

名前付きオプション要求が、要求タイプ、引数、および修飾子キーワードと同じように有効であることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3945I CLB/LLB FORMATTING
TERMINATED -- NO BLOCKS
FOUND**

説明

CLB/LLB オプション要求が出されましたが、要求されたブロックは、ダンプされたシステムには発生しませんでした。このエラー・メッセージが発行されるのは、ダンプされた IMS が損傷していて、CLB/LLB ブロック・ポインターがもはや無効である場合、またはダンプされた IMS が、要求されたブロックを持つように生成されなかった場合です。

要求ヘッダー行(このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています)が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置

IMS ダンプ・フォーマッターは現在の要求をスキップして、次の要求へ処理を進めます。CLB は存在するが LLB がないか、または LLB は存在するが CLB がありません。

ユーザーの処置

CLB オプション要求または LLB オプション要求が有効で、メモリー・ダンプがフォーマット設定されていることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3946I PST NOT FORMATTED --
REQUESTED PST IS NOT A SYSTEM
PST**

説明

要求された PST は、アクティブなシステム PST ではありませんでした。無効な SYSPST 要求 (PST は DPST である可能性があります) によって、この状態が発生しました。

システムの処置

SYSPST オプション・フォーマッターは現在の要求を終了し、次の要求で継続します。

ユーザーの処置

すべての SYSPST フォーマット設定要求が有効であることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3947I ccccccc FORMATTING
TERMINATED -- UNEXPECTED
FORMATTER PROGRAM ERROR**

説明

指定されたオプションの処理中に、IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター ESTAE に入りました。ccccccc は、要求されたフォーマッター・オプションです。通常は、DFS2400I メッセージおよび IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター制御ブロックの SNAP が、このエラー・メッセージに先行します。要求ヘッダー行(これらのメッセージが生成される原因となった要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています)は、通常、DFS2400I メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置

メモリー・ダンプ・フォーマッターは、指定されたオプションについてのすべての要求をスキップし、次のオプションへ処理を進めます。

ユーザーの処置

処理中であったメモリー・ダンプを保管し、IMS システム・プログラマーに問題を報告してください。

プログラマーの応答

支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別

DIAG オプションで再実行してください。その後、2、4、8、11。

関連情報

701 ページの『DFS2400I』
ERROR WHILE ATTEMPTING TO FORMAT THE
ccc...ccc

11 ページの『IMS 問題判別』
IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS3948E OTMA C/I CLIENTS ARE STILL
ACTIVE**

説明

OTMA C/I クライアントがまだアクティブになっているときに、OTMA C/I 初期設定ユーティリティー

DFSYSVIO が実行されました。既存の OTMA C/I クライアントで SVC 初期設定を実行すると、XCF エラーが発生します。

システムの処置

ユーティリティーは DFS3950A を発行して、応答を待ちます。

オペレーターの応答:

OTMA C/I クライアントは、D
GRS, RES=(DFSOTMA,*) を使用することによって識別できます。

ユーザーの処置:

OTMA C/I クライアントを終了して、DFS3950A に応答します。

モジュール:

DFSYSVIO

関連情報

1163 ページの『DFS3950A』
REPLY RETRY, BYPASS OR CANCEL

**DFS3949W INSUFFICIENT VIRTUAL STORAGE
FOR COMPLETE SB DUMP-
FORMATTING**

説明

順次バッファリング (SB) ダンプ・フォーマット設定モジュールが、すべての SB 制御ブロックおよび SB バッファに必要作業域を GETMAIN できませんでした。

システムの処置

ダンプ・フォーマット設定は続行されます。しかし、一部の SB 制御ブロックかバッファ、またはその両方がフォーマット設定されません。

ユーザーの処置

IMS メモリー・ダンプ・フォーマット設定で使用可能な仮想ストレージの量を増やしてください。

**DFS3950A REPLY RETRY, BYPASS OR
CANCEL**

説明

OTMA C/I クライアントがまだアクティブになっているときに、OTMA C/I 初期設定ユーティリティー DFSYSVIO が実行されました。既存の OTMA C/I クライアントで SVC 初期設定を実行すると、XCF エラーが発生します。

システムの処置

ユーティリティーは応答を待ちます。

オペレーターの応答:

OTMA C/I クライアントは、D
GRS, RES=(DFSOTMA,*) を使用することによって識別できます。

ユーザーの処置

クライアントを終了して、「RETRY」と応答し、SVC の初期設定を再試行してください。

クライアントを終了できない場合は、「CANCEL」と応答して、SVC を初期設定せずにユーティリティーを停止します。

クライアントが孤立していて再び使用されない場合は、「BYPASS」と応答して、SVC の初期設定を続行します。



重要: 既存のクライアントが OTMA C/I の再使用を試行した場合に XCF エラーが発生する可能性があるため、このオプションを使用する際には細心の注意を払ってください。

モジュール:

DFSYSVIO

第 83 章 DFS メッセージ DFS3951 - DFS4000I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS3951 TAKEOVER OCCURRED--ENTER
PA2 FOR RESPONSE MODE REPLY**

説明

このメッセージは、以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) が、システムのテークオーバーが完了したことを端末ユーザーに報告したときに発行されます。ユーザーは、応答モードに入っています。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

PA2 を入力して、応答モードの応答を受け取ります。

**DFS3952 TAKEOVER OCCURRED--ENTER
PA2 FOR CONVERSATION MODE
REPLY**

説明

このメッセージは、以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) が、システムのテークオーバーが完了したことを端末ユーザーに報告した場合に発行されます。ユーザーは、会話モードに入っています。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

PA2 を入力して、会話モードを継続します。

**DFS3953 TAKEOVER OCCURRED--ENTER
PA2 FOR OUTPUT MESSAGE**

説明

このメッセージは、以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) が、システムのテークオーバーが完了したことを端末ユーザーに報告した場合に発行されます。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

PA2 を入力して、出力メッセージを受け取ります。

**DFS3954 TAKEOVER OCCURRED--REENTER
THE LAST INPUT (/FORMAT MAY
BE NECESSARY)**

説明

このメッセージは、以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) が、システムのテークオーバーが完了したことを端末ユーザーに報告したときに発行されます。また、このメッセージは、セッションを継続するために行う必要のあるアクションも示します。

テークオーバーの前に最後に入力された入力が失われました。入力は、データ、PA キー、PF キー、または CLEAR キーであった可能性があります。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

最後のフォーマットを取得するには、**/FORMAT** コマンドを入力します。次の入力によって予期しない出力が生成された場合は、PA2 を入力します。

**DFS3955 TAKEOVER OCCURRED--ENTER
PA2, THEN REENTER THE LAST
INPUT**

説明

このメッセージは、以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) が、システムのテークオーバーが完了したことを端末ユーザーに報告したときに発行されます。ユーザーは、会話モードに入っています。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

PA2 を入力して、最後の入力を再入します。次の入力によって予期しない出力が生成された場合は、PA2 を入力します。

**DFS3956I SYSTEM PST FORMATTING
TERMINATED -- NO SYSTEM PSTS
COULD BE FOUND**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター SYSPST オプション要求が出されましたが、ダンプされたシステムには、SYSPST がないように見えます。この状態が有効なのは、ダンプされた IMS システムが、メモリー・ダンプ時に初期設定の早期段階にあった場合だけです。ダンプされた IMS システム内のストレージ・エラーが、この状態の原因です。

システムの処置

SYSPST オプションのフォーマット 設定が終了し、フォーマッターは、次のオプションで継続します。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

しかし、SYSPST のフォーマットは不可能です

**DFS3957I ccccccc FORMATting
TERMINATED -- INVALID
ADDRESS CHARACTERS IN
ARGUMENT**

説明

名前付きオプションの ADDRESS 引数に、16 進文字以外の文字が含まれていました。cccccccc は、要求されたフォーマッター・オプションです。要求ヘッダー行 (このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置

IMS ダンプ・フォーマッターは、指定されたオプションについて、現在の要求をスキップします。

ユーザーの処置

オプション要求引数が有効であることを確認してください。有効な 16 進値は、0 から 9、A から F です。アドレス引数の長さは、1 から 8 の範囲の 16 進文字である必要があります。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3958I CLB FORMATTING TERMINATED --
INVALID CHARACTERS IN CID
ARGUMENT**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター CLB 要求、VTAM 通信 ID (CID) 引数に、16 進文字以外の文字が含まれていました。要求ヘッダー行 (このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは現在の CLB 要求をスキップして、次の要求へ処理を進めます。

ユーザーの処置

CID 引数が有効であることを確認してください。有効な 16 進値は、0 から 9、A から F です。CID の長さは 8 文字 (16 進) です。これは、ノードのネットワーク・アドレスです。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3959I ccccccc FORMATting
TERMINATED -- ADDRESS
ARGUMENT IS INVALID**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの指定された要求の ADDRESS 引数が、オプション cccccccc にとって無効なストレージ・アドレス範囲内にあると判別されました。ダンプされたストレージまたは無効のフォーマット設定要求内のエラーが、この状態の原因である可能性があります。

要求ヘッダー行 (このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置

メモリー・ダンプ・フォーマッターは、現在の要求を終了します。

ユーザーの処置

ADDRESS 引数が有効であることを確認してください。IMS 制御ブロックは、ストレージの最初の 4 K 内では発生しません。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3960I ccccccc FORMATting
TERMINATED -- INVALID NUMBER
ARGUMENT REQUESTED**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの指定されたオプションの要求に、最大のシステム定義番号より大きいか 0 の NUMBER 引数がありました。cccccccc は、要求されたフォーマッター・オプションです。ダンプされた IMS システム内の無効なフォーマット設定要求の NUMBER 引数またはエラーが、この状態の原因となっている可能性があります。

要求ヘッダー行(このメッセージを生成した、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています)が、エラー・メッセージの前に出力されます。

システムの処置

メモリー・ダンプ・フォーマッターは現在の要求を終了して、次の要求へ処理を進めます。

ユーザーの処置

要求された NUMBER 引数が有効であることを確認してください。番号は、ゼロ以外の 10 進数で、ダンプされた IMS システムにとって有効であることが必要です。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3961I	THE REQUESTED PST IS EITHER A SYSTEM PST OR A DPST THAT HAS NEVER BEEN USED
-----------------	--

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの DPST オプションは、要求を満たす PST を検出しましたが、その DPST/SYSPST 状況を確認できませんでした。未使用の DPST が選択されていた場合、この状態は妥当です。ただし、DPST フォーマット設定オプションの下でシステム PST に対して無効の要求が出されている場合は、この状態が発生していた可能性があります。

システムの処置

要求は終了し、DPST オプション・フォーマット設定は、次の要求で継続します。

ユーザーの処置

すべての DPST フォーマット設定要求が有効であることを確認してください。要求された PST は、SYSTEM PST としてフォーマットできます。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3962I	cccccccc FORMATTING TERMINATED -- NO BLOCKS FOUND
-----------------	--

説明

指定されたオプションについて、IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター要求が出されましたが、ダンプされた IMS システムには、ブロックがないように見えます。cccccccc は、要求されたオプションです。ブロックが生成されていない場合、この状態は有効です。ダンプされたシステム内のストレージ・エラーが、この状態の原因です。

システムの処置

IMS メモリー・ダンプ・フォーマッターは、指定されたオプションをスキップし、次のオプションへ処理を進めます。

ユーザーの処置

オプション要求引数が有効であることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3963I	CLB FORMATTING TERMINATED -- REQUESTED LTERM NOT FOUND
-----------------	---

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター通信回線ブロック (CLB) の処理中に、要求と一致する LTERM 名を持つ通信名テーブル (CNT) が検出されませんでした。通常は、要求に対する無効の LTERM 名引数が、この状態の原因です。ただし、アクティブでない LTERM に対する要求によって、この状態が発生する場合があります。

システムの処置

メモリー・ダンプ・フォーマッターは現在の CLB フォーマット設定要求を終了し、次の要求へ処理を進めます。

ユーザーの処置

CLB オプション要求が有効であることを確認してください。CLB LTERM 引数が、有効な IMS LTERM 名を参照していることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3964I	CLB FORMATTING TERMINATED -- REQUESTED NODE NAME NOT FOUND
-----------------	---

説明

CLB 要求の NODE 引数と一致するノード名を持つ通信回線ブロック (CLB) が見つかりませんでした。通常は、要求に対する無効の NODE 引数が、この状態の原因です。ただし、端末が現在 IMS に接続されていないときに動的に作成された端末ブロックの要求も、この状態を引き起こすことがあります。

要求ヘッダー行(このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています)が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置

IMS ダンプ・フォーマッターは現在の CLB フォーマット設定要求を終了し、次の要求へ処理を進めます。

ユーザーの処置

CLB オプション要求が有効であることを確認してください。CLB NODE 引数が、有効な IMS ノード名を参照していることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3965I **cccccccc FORMATTING
TERMINATED -- BLOCK FAILED
VALIDITY CHECK**

説明

オプション cccccccc に対して要求された制御ブロックが、制御ブロック妥当性検査にパスしませんでした。通常は、無効の要求(アドレス引数)が、この状態の原因です。ダンプされた IMS 内のエラーが原因でこの状態が起きる場合もあります。

要求ヘッダー行(このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています)が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

妥当性検査は、制御ブロック内の指定されたポインターが、予想されているターゲットの位置を指していることを保証します。例えば、要求された CLB が要求された CLB 内の有効な CTB をポイントしていることが検証されます。

システムの処置

IMS ダンプ・フォーマッターは現在の要求を終了して、次の要求へ処理を進めます。

ユーザーの処置

オプション要求およびその引数が有効であることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3966I **CLB FORMATTING TERMINATED --
REQUESTED CID NOT FOUND**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの CLB オプションの処理中に、要求された CID 要求引数と一致する VTAM 通信 ID (CID) を持つ CLB が検出されませんでした。

した。次のいずれかの状態が原因でこの状態が発生しました。

- CID 引数が無効である。
- 端末が IMS に接続されていないときに、動的に作成された端末ブロックが要求された。
- ダンプされた IMS システム内でストレージ・エラーがあった。
- 現在 IMS に接続されていない VTAM 端末が要求された。

要求ヘッダー行(このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています)が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置

IMS メモリー・ダンプ・フォーマッターは現在の CLB フォーマット設定要求を終了し、次の要求へ処理を進めます。

ユーザーの処置

CLB オプション要求が有効であることを確認してください。CID 修飾子が、有効で接続済みの IMS ノードを参照していることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3967I **INVALID SAP ADDRESS IN
CLB/LLB -- SAP NOT FORMATTED**

説明

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは、要求された CLB/LLB に関連付けられている保管域接頭部をフォーマットしようとしているときに、無効な保管域接頭部アドレスを検出しました。ダンプされた IMS システム内のストレージ・エラーが、この状態の原因です。このメッセージの後の、フォーマットされた CLB/LLB ECB 接頭部に、無効のアドレスが検出されました。

システムの処置

IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは、現行 CLB/LLB についての保管域接頭部フォーマット設定をスキップします。

ユーザーの処置

支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別:

2、4、8

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS3968I **ccccccc FORMATTING
TERMINATED -- INVALID NUMBER
CHARACTERS IN ARGUMENT**

説明

名前付きオプション NUMBER 引数に、10 進文字以外の文字が含まれていました。ccccccc は、要求されたフォーマッター・オプションです。

要求ヘッダー行(このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています)が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置

IMS ダンプ・フォーマッターは、指定されたオプションについて、現在の要求をスキップします。

ユーザーの処置

オプション要求引数が有効であることを確認してください。有効な 10 進値は 0 から 9 です。数字の引数は、1 から 4 桁の 10 進数である必要があります。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3970 **FAST PATH EXECUTION NOT
POSSIBLE.**

説明

このメッセージは、高速機能トランザクションを処理できない端末から、高速機能トランザクションが入力されようとした場合に発行されます。高速機能トランザクションを処理するには、端末で応答モードがサポートされている必要があります。

システムの処置

システムでは試行がリジェクトされ、トランザクションがスケジュールされません。

プログラマーの応答

このメッセージが発行された場合は、端末とトランザクションの間の関係をチェックして、すべてのシステム定義が正しいことを確認してください。

DFS3971 **UNABLE TO PROCESS FAST PATH
DUE TO EMH SHORTAGE**

説明

IMS が、高速機能トランザクションを処理するために要求されたサイズの急送メッセージ処理 (EMH) バッファーを取得できませんでした。

システムの処置

IMS は、高速機能トランザクションをリジェクトして、このメッセージを端末ユーザーに送信します。

システム・プログラマーの応答

現在の EMH バッファーの使用量を判別します。現在 EMH バッファーを持っているがこれらを必要としない端末およびセッションを停止またはクローズします。このアクションで、EMH バッファーを必要としている端末およびセッションで使用できるよう、これらのバッファーが解放されます。

次回に IMS を再始動するときに、必要なバッファー・サイズを獲得できるよう EMH バッファー・プール定義を増やしてください。

DFS3974W **UNABLE TO WRITE OUTPUT
RECORDS FROM THE IMS DUMP
FORMATTER TO DATA SET:
data_set_name**

説明

IMS ダンプ・フォーマッターが、メッセージ・テキスト内で *data_set_name* で指定されているデータ・セットをオープンまたは割り振りできませんでした。ダンプ・ログ・バッファーからログ・レコードを書き込むためのデータ・セットを使用しようとしていました。

システムの処置

既存のデータ・セットを提供した場合は、正しいフォーマットで作成されたかどうか確認してください。データ・セットを自分で作成しなかった場合は、システムはデータ・セットの割り振りができませんでした。

システム・プログラマーの応答

レコードを書き込むために使用される有効なデータ・セットを提供するか、フォーマッターが作成するようにしてください。

モジュール:
DFSAAED1

DFS3975W **UNABLE TO WRITE REPORT DATA
FROM THE IMS DUMP FORMATTER
TO THE OUTPUT DATA SET:
data_set_name**

説明

IMS ダンプ・フォーマッターが、メッセージ・テキスト内で *data_set_name* で指定されているデータ・セットを、レポート・データ書き込みに使用するためにオープンまたは割り振りできませんでした。

システムの処置

既存のデータ・セットを提供した場合は、正しいフォーマットで作成されたか確認してください。データ・セットを自分で作成しなかった場合は、システムはデータ・セットの割り振りができませんでした。

システム・プログラマーの応答

レコードを書き込むために使用される有効なデータ・セットを提供するか、フォーマッターが作成するようにしてください。

モジュール:
DFSAAED1

DFS3976E *utility name* UTILITY FAILED TO
 OPEN THE *ddname* DATA SET

説明

ユーティリティーは、いずれかの必須データ・セットのオープンに失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

utility name

問題が発生したユーティリティー。

ddname

オープンが失敗したデータ・セット。 *ddname* の値には、以下のものがあります。

SYSUT1
REPORT
SYSPRINT
CONTROL
RDDSDSN

システムの処置

示されたユーティリティーは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認します。

モジュール:
DFSJOB0、DFSURCM0、DFSURCL0、DFSURST0

DFS3977E *routine name* ROUTINE FAILED TO
 OPEN THE *ddname* DATA SET

説明

ルーチンは、いずれかの必須データ・セットのオープンに失敗しました。ルーチンはユーティリティー DFSURCM0 によって開始されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

routine name

問題が発生したルーチン。

ddname

オープンが失敗したデータ・セット。 *ddname* の値には、以下のものがあります。

MODBLKS
JOB LIB
STEPLIB
SDFSRESL

システムの処置

示されたルーチンは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認します。

モジュール:
DFSJMOD0、DFSJNUC0

DFS3978E *utility name* UTILITY FAILED TO
 CLOSE THE *ddname* DATA SET

説明

ユーティリティーは、いずれかの必須データ・セットの正常なクローズに失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

utility name

問題が発生したユーティリティー。

ddname

クローズが失敗したデータ・セット。 *ddname* の値には、以下のものがあります。

SYSUT1
REPOR
SYSPRINT
CONTROL
MODBLKS
RDDSDSN

システムの処置

示されたユーティリティーは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認します。

モジュール:
DFSURCM0、DFSURCL0

DFS3979E *routine name* ROUTINE FAILED TO
CLOSE THE *ddname* DATA SET

説明

ルーチンは、いずれかのデータ・セットの正常なクローズに失敗しました。ルーチンはユーティリティ
DFSURCM0 によって開始されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

routine name
問題が発生したルーチン。

ddname
クローズが失敗したデータ・セット。ddname の値には、以下のものがあります。

MODBLKS
JOB LIB
STEPLIB
SDFSRESL

システムの処置

示されたルーチンは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認します。

モジュール:
DFSKMOD0、DFSKNUC0

DFS3980E *utility name* UTILITY FAILED TO
LOAD MODULE *module name*,
RC=*rc*

説明

ユーティリティはモジュールをロードできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

utility name
問題が発生したユーティリティ。

module name
ロードが失敗したモジュール。module name の値には、以下のものがあります。

DFSCNVTO

DFSKMOD0

rc
ロード要求からの戻りコード。

システムの処置

示されたユーティリティは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

JOB LIB または STEPLIB 連結にリストされているデータ・セットの 1 つに示されているモジュール名が含まれていることを確認してください。

モジュール:
DFSURCM0、DFSURCL0

DFS3981E *utility name* UTILITY FAILED TO
OBTAIN STORAGE,
SIZE=*strgsize*, COMPONENT=*component*

説明

ユーティリティで、コンポーネント用のストレージを取得しようとしているときにエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

utility name
問題が発生したユーティリティ

strgsize
要求されたストレージの量

component
ストレージ要求が失敗したコンポーネント

システムの処置

示されたユーティリティは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

ユーティリティが使用できる領域サイズを増やします。

モジュール:
DFSURCM0、DFSURCL0、DFSURST0

DFS3982W *utility name* UTILITY FAILED TO
FREE STORAGE, SIZE=*strgsize*,
FREEMAINRC=*rc*,
COMPONENT=*component*

説明

ユーティリティがコンポーネントのためにストレージを解放しようとしてエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

utility name

問題が発生したユーティリティ

strgsz

解放される予定のストレージの量

rc

MVS FREEMAIN 要求からの戻りコード

component

ストレージ要求が失敗したコンポーネント

システムの処置

ユーティリティは正常に終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答

これはおそらく、内部エラーです。問題報告データベースを検索して、問題の修正を探してください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。その際には、できるだけ JCL、SYSLOG、およびメモリー・ダンプを提出してください。

モジュール:

DFSURCM0、DFSURCLO、DFSURST0

DFS3983E THE DFSURCM0 UTILITY FAILED TO FIND THE TRANSACTION EDIT ROUTINE FOR TRANSACTION CODE *transaction code*

説明

MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCM0) は、メッセージ・テキストで *transaction code* によって示されているトランザクションと関連付けるトランザクション編集ルーチンを判別できませんでした。このメッセージは、次のいずれかの結果として出された可能性があります。

1. IMS.SDFSRESL データ・セットが指定されなかったか、SUFFIX= 制御ステートメントで指定された値と一致する接尾部を持つ中核メンバー DFSVNUCx を含んでいなかった。
2. リソース定義データ・セット (RDDS) がシステム定義入力から作成されている場合、CONTROL DD ステートメントが、DFSURST0 ユーティリティ OUTPARMS DD ステートメントによって作成されたデータ・セットを参照していない。
3. CONTROL DD ステートメントによって参照されるデータ・セットに、示されているトランザクション・コードの EDITRTN 制御ステートメントが含まれていない。

システムの処置

MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティは戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

問題の考えられる原因に基づいて、次のいずれかを実行します。

1 の場合、SUFFIX= 制御ステートメントで指定された値と一致する接尾部を持つ中核メンバー DFSVNUCx が含まれる IMS.SDFSRESL データ・セットが指定されていることを確認します。

2 の場合、DFSURST0 ユーティリティ OUTPARMS DD ステートメントによって作成されたデータ・セットが、CONTROL DD ステートメント・コードのデータ・セット連結に含まれていることを確認します。

3 の場合、*transaction code* に対して EDITRTN 制御ステートメントが指定されていることを確認します。

モジュール:

DFSURCM0

DFS3984I DUMP FOR ABEND xxxxx SUPPRESSED BY DUMP OVERRIDE TABLE.

または

DUMP FOR ABEND xxxxx FORCED BY DUMP OVERRIDE TABLE.

説明

メモリー・ダンプ・オーバーライド・テーブル (DFSFDOT0) には、異常終了に対して生成されたメモリー・ダンプを強制または抑止するための、異常終了 xxxxx のエントリーがあります。

システムの処置

FORCE が指定されている場合は、異常終了が発生するとメモリー・ダンプが取られます。SUPPRESS が指定されている場合は、メモリー・ダンプは生成されません。この手順が処理された後、通常の異常終了後の処理が行われます。

プログラマーの応答

情報が間違っている場合は、DFSFDOT0 内のメモリー・ダンプ・オーバーライド・テーブルのエントリーを修正します。メッセージが正しい場合は、それ以上のアクションは必要ありません。

**DFS3985W NO CBTE ENTRY FOUND FOR SAPS
- SUMMARY ENDS**

説明:

保管域接頭部 (SAP) ストレージが取得されなかったか、またはそのストレージへのポインターが損傷しています。

システムの処置:

保管域要約オプションが終了し、IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは、次のオプションへ処理を進めます。

ユーザーの処置:

支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3986 IMS SYSTEM IS NOT FDR CAPABLE
- COMMAND REJECTED**

説明

/DIS FDR コマンドまたは **/CHA FDR** コマンドが、高速 DB リカバリーに対応していない IMS システムで入力されました。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

高速 DB リカバリーを使用して IMS システムを実行したい場合は、正しい EXEC パラメーターと DFSFDRxx IMS.PROCLIB メンバーを使用してジョブを再実行します。

モジュール:
DFSCMT50

**DFS3987 FDR CAPABLE ENVIRONMENT NOT
COMPLETED - COMMAND
REJECTED**

説明

IMS システムは、高速 DB リカバリーに対応していました。ただし、再始動が進行中で、XCF JOIN 要求がまだ実行されていなかったため、高速 DB リカバリー環境は完了していません。

システムの処置

コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答

再始動操作またはコールド・スタートが完了した後、コマンドを再度入力します。

モジュール:

DFSCMT50

**DFS3988E THE DFSKMOD0 ROUTINE IS
MISSING THE MODBLKS DD
STATEMENT OR DD DUMMY IS
SPECIFIED**

説明

MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティー (DFSURCM0) に指定された JCL で DD MODBLKS ステートメントが欠落していたか、MODBLKS に DD DUMMY が指定されました。

システムの処置

MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティーは戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

JCL で MODBLKS DD ステートメントが指定されていること、および有効なデータ・セットが指定されていることを確認してください。

モジュール:
DFSKMOD0

**DFS3989W THE DATA SET SPECIFIED FOR
THE dd_name DD STATEMENT
DOES NOT CONTAIN MEMBER
member name**

説明

MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティーの JCL の DD ステートメントで指定されたデータ・セットには、示されているメンバーが含まれていませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dd_name

メンバーが欠落しているデータ・セット。値には次のものがあります。

MODBLKS
JOBLIB
STEPLIB
SDFSRESL

member name

欠落しているメンバー。

システムの処置

処理を続行します。この問題が終了エラーである場合、このメッセージにはメッセージ DFS3990E が付随します。

プログラマーの応答

示されている DD ステートメントが MODBLKS である場合、MODBLKS DD ステートメントに関連する正しい MODBLKS データ・セットを指定したことを確認してください。SUFFIX= 制御ステートメントに指定された値が、MODBLKS データ・セット内の必要なメンバーの正しい接尾部を指定していることを確認してください。

示されている DD ステートメントが JOBLIB、STEPLIB、または SDFSRESL である場合、データ・セットに、SUFFIX= 制御ステートメントで指定された値と一致する接尾部値を持つ DFSVNUC_x メンバーが含まれていることを確認します。SUFFIX= 制御ステートメントで指定された値と一致する接尾部値を持つ DFSVNUC_x メンバーを含むデータ・セットに、MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティの実行可能モジュールが含まれていない場合、このデータ・セットを JOBLIB または STEPLIB DD ステートメントと共に指定せず、このステートメントを SDFSRESL DD ステートメントと共に指定してください。

モジュール:

DFSKMOD0、DFSKNUC0

関連情報

1174 ページの『DFS3990E』

NO MEMBERS WITH SUFFIX: *suffix* WERE FOUND IN THE MODBLKS DATA SET.

DFS3990E NO MEMBERS WITH SUFFIX: *suffix* WERE FOUND IN THE MODBLKS DATA SET.

説明

MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCM0) の MODBLKS DD ステートメントで指定されたデータ・セットに、制御ステートメントで指定された接尾部と一致する値またはデフォルト値が名前に含まれる MODBLKS メンバーが入っていませんでした。これらのメンバーは、処理のために必要です。このメッセージと共に、欠落しているメンバーを示すメッセージ DFS3989W が 1 つ以上表示されます。

システムの処置

MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティは戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

MODBLKS DD ステートメントに正しい MODBLKS データ・セットが指定されていることを確認します。また、SUFFIX= 制御ステートメントに指定された値が、MODBLKS データ・セットのメンバーの正しい接尾部を表していることを確認してください。

モジュール:

DFSURCM0

関連情報

1173 ページの『DFS3989W』

THE DATA SET SPECIFIED FOR THE *dd_name* DD STATEMENT DOES NOT CONTAIN MEMBER *member name*

DFS3991E RECORDS FOR THE SELECTED CHECKPOINT ARE INCOMPLETE. THE RDDS WAS NOT CREATED.

説明

ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCLO) によって処理される制御ステートメントまたはデフォルトの指定で示されるチェックポイント・レコードには、X'4098' レコードが含まれていませんでした。このレコードは、チェックポイント・レコードの終了を示します。この状態は、次のいずれかの事情の結果である可能性があります。

- 正しくないチェックポイント ID を処理のために指定した。
- ログ・データ・セットが、SYSUT1 DD ステートメント連結で欠落している可能性がある。

システムの処置

ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティは戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

チェックポイント ID が CHKPTID= ステートメントで指定されている場合、このチェックポイントに X'4001' レコード (チェックポイントの開始) と X'4098' レコードの両方が含まれていることを確認します。

チェックポイント ID が指定されていない場合、X'4098' レコードを含むログ・データ・セットが、ログ・データ・セットの最後のログ・データ・セットの SYSUT1 DD ステートメント連結に含まれていることを確認します。

モジュール:

DFSURCLO

DFS3992E *utility name* UTILITY ENCOUNTERED AN ERROR PARSING THE CONTROL DATA

説明

メッセージ・テキストで *utility name* によって示されているユーティリティで、CONTROL データ・セットの制御ステートメントを構文解析しようとしてエラーが発生しました。このメッセージには、問題を説明する詳細なエラー・メッセージが付随します。

システムの処置

MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCM0) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

付随するメッセージを調べて、CONTROL データ・セットで訂正する必要がある構文解析エラーを判別します。

モジュール:
DFSURCM0、DFSURCLO

DFS3993E	AN INVALID VALUE WAS ENCOUNTERED BY THE DFSURCM0 UTILITY FOR THE SYSTYPE CONTROL STATEMENT
-----------------	---

説明

CONTROL データ・セットのステートメントで SYSTYPE= キーワードに対して無効値が指定されました。許容される値は次のとおりです。

DB
DC
DBDC

システムの処置

示されたユーティリティは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

キーワードの無効値を訂正します。

モジュール:
DFSURCM0

DFS3994I	IMS SYNC WITH RM GLOBAL STATUS COMPLETE- <i>yyyy.ddd hh:mm:ss.ms</i>
-----------------	---

説明

グローバル状況は、IMS の初期設定中に Resource Manager (RM) から読み取られます。このメッセージは、IMS が RM グローバル状況と同期されていることを示しています。

メッセージ内の項目は以下のとおりです。

yyyy - 年
ddd - 日付
hh:mm:ss.ms - 現地時間

システムの処置

IMS は処理を続行します。このメッセージが出された後から IMS の再始動が完了する前までに更新されたグ

ローバル状況は、再始動中のこの IMS には適用されません。再始動が完了していないため、この IMS に送信されたすべてのコマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答:

再始動が完了した後、SCOPE (ACTIVE) を指定してコマンドを発行し、この IMS が RM 状況と同期されていることを確認します。

モジュール

DFSGST10

DFS3995E	REQUIRED KEYWORD MODBLKSHLQ= WAS NOT SUPPLIED
-----------------	--

説明

ステージ 1 プリパーサー (DFSURST0) に指定された JCL で DD MODBLKS ステートメントが欠落していたか、MODBLKS に DD DUMMY が指定されました。

システムの処置

ステージ 1 プリパーサーは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

MODBLKSHLQ= 制御ステートメントが CONTROL DD ステートメントと一緒に指定されていることを確認します。

モジュール:
DFSURST0

DFS3996E	ONLY ONE SPECIFICATION OF CHKPTID IS ALLOWED
-----------------	---

説明

CONTROL データ・セットの CHKPTID= キーワードに複数の値が指定されていることがシステムによって検出されました。

システムの処置

ユーティリティは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

CHKPTID= キーワードに 1 つ指定して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSURCLO

DFS3997E	CHECKPOINT ID <i>checkpoint id</i> NOT FOUND IN THE LOG. THE RDDS DATA SET WAS NOT WRITTEN
-----------------	---

説明

チェックポイント ID *checkpoint id* が CHKPTID= 制御ステートメントで指定されましたが、ログのどのチェックポイントとも一致していませんでした。

システムの処置

ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティー (DFSURCLO) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

特定の ID の処理が必要な場合は有効なチェックポイント ID を指定します。そうでない場合は、この制御ステートメントを省略します。その場合、ログの最後のチェックポイント ID が処理されます。

モジュール:
DFSURCLO

DFS3998E NO COMPLETE CHECKPOINTS WERE FOUND IN THE LOG IN THE INDICATED TIME RANGE

説明

ログに、開始および終了の両方のチェックポイント・ログ・レコードが含まれていませんでした。チェックポイント・レコードは不完全でした。理由として、次のものが考えられます。

- チェックポイントのレコードが複数のログ・データ・セットにまたがっている。
- STARTTIME に対して、ログの開始チェックポイント・レコードのタイム・スタンプより後の値が指定された。
- STOPTIME に対して、処理中のチェックポイントの終了チェックポイント・レコードのタイム・スタンプより前の値が指定された。

システムの処置

ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティー (DFSURCLO) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

チェックポイントのすべてのレコードを組み込むのに十分なログ・データ・セットが連結されていることを確認します。STARTTIME を指定する場合、値がログの最後の開始チェックポイントより後の時刻を表していないことを確認します。STOPTIME を指定する場合、指定する値が処理中のチェックポイントの終了より前に起こらないことを確認します。

モジュール:
DFSURCLO

DFS3999W A STOP TIME WAS SUPPLIED WHICH EXCEEDS THE TIME RANGE IN THE LOG. STOP TIME: stop time TIME ON LAST RECORD: record time

説明

CONTROL データ・セットで STOPTIME キーワードの値が指定されました。停止時刻値が、最後の処理されたログ・レコードの最後のタイム・スタンプを超えました。この状態が有効である可能性はありますが、DD SYSUT1 のログ・データ・セットの連結が不完全であることを示している可能性もあります。

システムの処置

ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティー (DFSURCLO) は処理を続行します。処理は正常に終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答

必要なすべてのログ・データ・セットが SYSUT1 DD 連結に含まれていることを確認します。

モジュール:
DFSURCLO

DFS4000I OFFLINE DUMP FORMATTING INITIALIZATION action

説明

IMS は、オフライン・ダンプ・フォーマット設定の初期設定でエラーを検出した後、どのような処置を行うかを示します。エラーの重大度に応じて、処置は CONTINUING または DISCONTINUED のいずれかになります。

システムの処置

IMS は、メッセージに示された処置を行います。

オペレーターの応答

処置が DISCONTINUED である場合、システム・プログラマーに連絡してください。処置が CONTINUING である場合、応答は必要ありません。

システム・プログラマーの応答

入力データ・セット、入力パラメーター、および JCL が正しいかどうかを確認します。

問題判別

1、2、3、4、6、8

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

第 84 章 DFS メッセージ DFS4001 - DFS4050A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4002E **FAILURE ENCOUNTERED**
PROCESSING TYPE-2 COMMAND
LOG RECORDS
DFSURCLO ROUTINE: routine name
RESOURCE: resource name
TYPE: type name
FUNCTION: function type
VERB: verb type

説明

メッセージ・テキストで示されているルーチンは、示されたリソースのタイプ 2 コマンド・ログ・レコードを処理していました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

routine name

リソースを処理していた DFSURCLO に関連付けられているルーチン。指定できる値は、次のとおりです。

DFSKDB20
DFSKPG20
DFSKTR20
DBFKRT20

リソース名 (resource name)

障害発生時に処理中であったリソースの名前。

type name

障害発生時に処理中であったリソースのタイプ。指定できる値は、次のとおりです。

DDIR
PDIR
SMB
RCTE

function type

障害発生時に実行されていたプロセスのタイプ。可能な値には、次のものがあります。

- FINDFAIL – リソースに関するデータの検索中のエラー。
- CREFAIL – リソースの作成中のエラー。
- DUP – 作成中のリソースが既に存在する。

verb type

タイプ 2 コマンド・ログ・レコードによって示された処理のタイプ。verb type の値には、以下のものがあります。

CRE

DEL
UPD

システムの処置

示されたルーチンは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

このメッセージは、モジュール DFSURCLO の内部エラーを示します。IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:
DFSURCLO

DFS4003E **FAILURE EXTENDING THE ARRAY**
FOR RECORD TYPE record type.
RC:rc

説明

示されているレコード・タイプの処理に使用される内部アレイ用に追加のストレージを取得しようとして、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

record type

レコードのタイプ。指定できる値は、次のとおりです。

X4004
X4006
X4007
X4083

rc

MVS GETMAIN からの戻りコード。

システムの処置

ルーチンは、戻りコード rc で失敗します。

プログラマーの応答

MVS GETMAIN 要求からの戻りコードを調べて、障害の原因を判別してください。

モジュール:
DFSURCLO

DFS4004W **LOG WRAPS AFTER RECORD**
record number

CURRENT RECORD TIME STAMP:
time stamp
PRIOR RECORD TIME STAMP :
time stamp

説明

現行のレコードのストア・クロック時刻の値が前のレコードのストア・クロック時刻より前になっています。タイム・スタンプは常に昇順でなければなりません。この問題の考えられる理由には、次のものがあります。

- 処理中のログがオープンされた OLDS データ・セットである。オープンされた OLDS データ・セットにはファイル終了マークがないため、OLDS の現在のエントリーに続くレコードはログの最終使用時からの残りです。
- 複数のログが入力として連結され、順序が狂っている。

システムの処置

ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCLO) は、タイム・スタンプ値が大きい前のレコードをファイルの終わりとして処理し、ログ終了処理を実行します。処理は正常に終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答

複数のログ・データ・セットが処理されている場合、ログ・データ・セットが適切な順序で連結されていることを確認します。処理が正常に実行されているにも関わらず、オープン OLDS を処理しているためにこのメッセージが示される場合、**/SWI OLDS** コマンドを発行して OLDS をクローズします。その後でユーティリティを再実行して、このメッセージが表示されないようにします。

モジュール:
DFSURCLO

DFS4005E THE DFSKNUCO ROUTINE IS MISSING THE dd_name DD STATEMENT

説明

ユーティリティ DFSURCM0 によって呼び出された DFSKNUCO ルーチンに指定された JCL で、示された DD KS ステートメントが欠落していました。dd_name の値には、以下のものがあります。

JOBLIB
STEPLIB
SDFSRESL

システムの処置

MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCM0) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

JCL で JOBLIB、STEPLIB、または SDFSRESL DD ステートメントを指定していること、および有効なデータ・セットが指定されていることを確認してください。

モジュール:
DFSKMOD0

DFS4006E AN INVALID CHKPTID (chkptid) WAS SUPPLIED IT MUST BE OF THE FORMAT: yyddd/hhmmss

説明

CONTROL データ・セットの CHKPTID= キーワードに指定した値が無効でした。値が、形式 yyddd/hhmmss ではありませんでした。

システムの処置

ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCLO) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

CHKPTID= キーワードの指定を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSURCLO

DFS4007E AN INVALID STARTTIME OR STOPTIME WAS SUPPLIED

説明

CONTROL データ・セットの STARTTIME= または STOPTIME= キーワードに指定した値が無効でした。

システムの処置

ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCLO) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

STARTTIME または STOPTIME= キーワードの指定を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSURCLO

DFS4008E THE STOPTIME PRECEDES THE STARTTIME

説明

STOPTIME= キーワードに指定した値は、CONTROL データ・セットの STARTTIME= キーワードに指定された値よりも早い時刻を表しています。STOPTIME は、STARTTIME より後でなければなりません。

システムの処置

ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティー (DFSURCLO) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

STARTTIME または STOPTIME= キーワードの指定を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSURCLO

第 85 章 DFS メッセージ DFS4101A - DFS4150I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4138E *utility name* UTILITY RDDSIN
 SPECIFIES AN INVALID RDDS.

説明

RDDSIN DD ステートメントで指定されたデータ・セットが無効です。次のいずれかの理由で無効でした。

- データ・セットが RDDS ではない可能性がある。
- データ・セットは RDDS の可能性があるが、状況 GOOD がヘッダー・レコードに含まれていなかった。

システムの処置

示されたユーティリティは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

RDDSIN DD ステートメントに有効な RDDS を指定します。

モジュール:
DFSURCP0

DFS4139E **IMSID IS MISSING OR INVALID.**
 imsid WAS SPECIFIED.

説明

CONTROL データ・セットの IMSID= キーワードに指定した値が欠落していたか、無効でした。IMSID の値は、1 から 4 文字を含むストリングでなければなりません。

ユーティリティ DFSURCLO および DFSURCP0 にはこのキーワードは必要ありません。このエラー状態は、値の指定が誤っている場合にこれらの 2 つのユーティリティによってのみトリガーされます。このキーワードは、ユーティリティ DFSURCM0 では必要です。

システムの処置

ユーティリティは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

IMSID= キーワードの指定を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSURCLO、DFSURCM0、DFSURCP0

DFS4140E **NULL VALUES ARE NOT ALLOWED**
 IN UTILITY *utility name* FOR
 KEYWORD *keyword*.

説明

示されたキーワードは、関連する値を指定せずに CONTROL または SYSIN データ・セットで指定されました。このキーワードの値を指定する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

utility name

問題が発生したユーティリティの名前。

keyword

値が欠落しているキーワード。

システムの処置

示されたユーティリティは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

示されたキーワードに値を指定して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSURCLO、DFSURCM0、DFSURCP0

DFS4141E **A NUMERIC VALUE EXCEEDING 7**
 CHARACTERS WAS SUPPLIED TO
 UTILITY *utility name* FOR
 KEYWORD *keyword*.

説明

示されたキーワードの CONTROL または SYSIN データ・セットで指定した数値が 7 文字を超えました。許容される数字の最大数は 7 です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

utility name

問題が発生したユーティリティの名前。

keyword

7 文字を超えたキーワード。

システムの処置

示されたユーティリティは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

示されたキーワードに有効な値を指定して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSURCLO、DFSURCM0、DFSURCP0

DFS4142E **YOU SUPPLIED NON-NUMERIC
DATA TO UTILITY *utility name* FOR
KEYWORD *keyword*.**

説明

示されているキーワードの CONTROL または SYSIN データ・セットで指定した値が非数値でした。キーワードには、数値を指定する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

utility name

問題が発生したユーティリティの名前。

keyword

数値を必要とするキーワード。

システムの処置

示されたユーティリティは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

示されたキーワードに値を指定して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFSURCLO、DFSURCM0、DFSURCP0

DFS4143E **AN EMPTY INPUT FILE TO UTILITY
DFSKJOB0 WAS FOUND; CHECK
THAT IMS SYSTEM STAGE 1
FAILED**

説明

INFILE DD ステートメントによって参照されるファイルには、正常に実行された前回の IMS システム・ステージ 1 によって作成された JCL ストリームが含まれている必要があります。しかし、このファイルは空です。次のいずれかの理由で無効でした。

- IMS システム・ステージ 1 ステップが正常に完了しなかった。
- DFSKJOB0 の INFILE DD ステートメントが、IMS システム・ステージ 1 からの出力を含むデータ・セットを参照しない。

システムの処置

ユーティリティは、戻りコード 8 で失敗します。

1184 IMS: メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

プログラマーの応答

IMS システム・ステージ 1 が正常に実行されていること、および INFILE DD ステートメントが IMS システム・ステージ 1 からの出力を含むデータ・セットを参照することを確認します。

モジュール:

DFSKJOB0

DFS4144E ***utility name* UTILITY WAS UNABLE
TO PROCESS MODBLKS: *member***

説明

メッセージ・テキストで *utility name* によって示されているユーティリティで、MODBLKS データ・セットの *member* によって示されているメンバーを処理しようとしてエラーが発生しました。このメッセージには、問題を説明する詳細なエラー・メッセージが付随します。これらの追加のエラー・メッセージには、以下のものがあります。

DFS3977E

DFS3981E

DFS3988E

システムの処置

MODBLKS からの RDDDS の作成ユーティリティ (DFSURCM0) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答

付随するメッセージを調べて、MODBLKS データ・セットの示されたメンバーの処理中に発生した問題を判別します。

モジュール:

DFSURCM0

関連情報

[1170 ページの『DFS3977E』](#)

routine name ROUTINE FAILED TO OPEN THE *ddname* DATA SET

[1171 ページの『DFS3981E』](#)

utility name UTILITY FAILED TO OBTAIN STORAGE,
SIZE=*strgsize*,COMPONENT=*component*

[1173 ページの『DFS3988E』](#)

THE DFSKMOD0 ROUTINE IS MISSING THE MODBLKS DD STATEMENT OR DD DUMMY IS SPECIFIED

DFS4145I **THE DDL-DEFINED PSB *psb_name*
IS BEING INSERTED INTO THE
IMS DIRECTORY DATA SET. PST
pst_name.**

説明

メッセージ・テキストに示されている区画仕様テーブル (PST) タスクが、メッセージ・テキストに示されているプログラム・ビュー (PSB) を IMS ディレクトリー・データ・セットに追加しています。その PSB はそれ以前に IMS ディレクトリー・データ・セット内にありませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb_name

IMS ディレクトリー・データ・セットに追加されているプログラム・ビュー (PSB)。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置

PST タスクは、PSB を IMS ディレクトリー・データ・セットに追加し、DDL ストリームからの命令の処理を続行します。

PSB を使用するアプリケーション・プログラムが DDL のサブミット前にオンライン IMS システム内で作成されていたかどうかによって、その PSB がアクティブで使用準備ができていない場合も、そうでない場合もあります。

DDL が発行される前にアプリケーション・プログラムが作成されていた場合、PSB はアクティブで使用準備ができています。

DDL が発行される前にアプリケーション・プログラムが作成されていなかった場合、PSB はアプリケーション・プログラムが作成されるまで非アクティブのままです。

プログラマーの応答

以下のいずれかのコマンドを発行して、アプリケーション・プログラムが IMS システム内で既に作成されていたかどうかを特定してください。

- QUERY PGM
- /DISPLAY PGM

PSB のアプリケーション・プログラムがまだ存在していない場合に、アプリケーション・プログラムを作成するには、CREATE PGM IMS タイプ 2 コマンドを発行するか、または APPLCTN ステージ 1 システム定義マクロをコーディングし、システム定義を実行し、IMS を再始動します。

モジュール:
DFSOLC70

関連資料

[QUERY PGM コマンド \(コマンド\)](#)
[/DISPLAY PGM コマンド \(コマンド\)](#)
[CREATE PGM コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4146W

**THE DIRECTORY DATA SET WAS
UPDATED WHILE THIS IMS WAS
OFFLINE.**

説明

この IMS システムがオフラインである間に、この IMS システムによって共有されている IMS カタログの IMS ディレクトリー・データ・セット内のアクティブなアプリケーション制御ブロック (ACB) を、別の IMS システムが更新しました。

システムの処置

この IMS システムは再始動し、更新された ACB を使用します。

システム・プログラマーの応答

更新された ACB が、この IMS システムがサポートするアプリケーション・プログラムに影響を与えるかどうかを確認し、適切な処置を行ってください。

モジュール:

DFSRDB30

関連情報

[マルチシステム構成における IMS カタログ \(システム定義\)](#)

DFS4148I

**THIS IMS REGION IS REGISTERED
AS AN IMS VUE PRODUCT**

説明

IMS 領域は、システム管理機能 (SMF) に IMS Database Value Unit Edition (VUE) 製品として登録されています。IMS 領域は、初期設定時に SMF に登録されます。このメッセージは、IMS 制御領域の初期設定時および IMS バッチ領域の初期設定時に、その領域が SMF に IMS Database VUE 製品として登録されている場合に発行されます。

IMS 制御領域および IMS バッチ領域が IMS Database VUE 製品として登録されるのは、IMS Database VUE 製品の契約条件が受諾され、各領域が zNALC (System z® New Application License Charges) LPAR 内で実行されている場合です。

システムの処置:

IMS 制御領域または IMS バッチ領域が SMF に IMS Database VUE 製品として登録されています。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSSMF00

第 86 章 DFS メッセージ DFS4151I - DFS4200I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4151I **THE DDL-DEFINED PSB *psb_name*
IS INSERTED INTO THE IMS
DIRECTORY DATA SET. PST
*psst_name***

説明

dbdname で指定されたデータベースが停止され、トラッキング・サイトで再開された後に、データベース・トラックが、データベース更新ログ・レコードが予想された順序からはずれて適用されたことを判別しました。

ほとんどの場合、エラーはありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbdname

シャドー・データベースの名前。

imsid

ログの送信元の IMS システム。

pri

ログの PRILOG 時刻。

lsn

シャドー・データベースに適用されるデータベース・ログ・レコード (X'50') のログ・シーケンス番号。

usn

シャドー・データベースに適用されるデータベース更新ログ・レコードの更新シーケンス番号 (USN)。

システムの処置

データベース・トラッキングが続行されます。

オペレーターの応答

エラーが存在するかもしれないが明白でない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してプログラミングの支援を受けてください。

モジュール

DFSDT210、DFSDT240

DFS4154W **The number of active APPC
conversations has reached xx% of
the maximum limit of *limit*.**

説明

31 ビット・ストレージ内で現在 IMS によって処理されているアクティブ APPC/IMS 会話の数が、アクティブ APPC/IMS 会話の最大許容数の *xx* パーセントに達しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx

アクティブ APPC/IMS 会話の現行数が占める、アクティブ APPC/IMS 要求の 31 ビットでの限度数に対する割合 (パーセント)。

limit

IMS による並行処理が可能なアクティブ APPC/IMS 会話の最大許容数。

アクティブ APPC 会話のデフォルトの限度数は 5,000 です。

システムの処置

IMS は通常の処理を続行します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

IMS で APPC/IMS トランザクション要求の処理に問題が発生しているかどうか、または着信 APPC/IMS トランザクションが突然フラッディングを起こしたかどうかを確認してください。

IMS の処理パフォーマンスと着信 APPC/IMS 要求の数がいずれも許容範囲内であれば、現在有効になっている APPC/IMS の限度数を増やすことを検討してください。APPC/IMS の限度数は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー内の APPCMAXC パラメーターで指定します。

モジュール:

DFS62FD0

関連情報

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー \(システム定義\)](#)

DFS4155W **Maximum limit for active APPC
conversations has been reached.
New requests will be queued in 64
bit storage.**

説明

31 ビット・ストレージ内のアクティブ APPC 会話の数が、現在有効になっている限度数に達しました。

システムの処置

IMS は新しい APPC/IMS 会話要求を 64 ビット・ストレージに入れ、IMS がそれらを受け入れて処理できるようになるまでそこで待機させます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

IMS で APPC/IMS トランザクション要求の処理に問題が発生しているかどうか、または着信 APPC/IMS トランザクションが突然フラッディングを起こしたかどうかを確認してください。

IMS の処理パフォーマンスと着信 APPC/IMS 要求の数がいずれも許容範囲内であれば、現在有効になっている APPC/IMS の限度数を増やすことを検討してください。APPC/IMS の限度数は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー内の APPCMAXC パラメーターで指定します。

モジュール:
DFS62FD0

関連情報

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー \(システム定義\)](#)

DFS4156W	The number of APPC requests in 64 bit storage has reached xx% of the maximum limit of yyyyyyyy.
-----------------	--

説明

現在 64 ビット・ストレージで待機している APPC/IMS 要求の数が、最大許容数 yyyyyyyy の xx パーセントに達しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx

待機している APPC/IMS 要求の現行数が占める、最大許容数に対する割合 (パーセント)。

yyyyyyyy

64 ビット・ストレージに待機させておくことができる APPC/IMS 要求の最大許容数。

システムの処置

IMS は通常の処理を続行します。着信した APPC/IMS 要求は引き続き 64 ビット・ストレージに入れられ、IMS がそれらを受け入れて処理できるようになるまで待機します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

IMS で APPC/IMS トランザクション要求の処理に問題が発生しているかどうか、または着信 APPC/IMS トランザクションが突然フラッディングを起こしたかどうかを確認してください。

IMS の処理パフォーマンスと着信 APPC/IMS 要求の数がいずれも許容範囲内であれば、現在有効になっている APPC/IMS の限度数を増やすことを検討してください。APPC/IMS の限度数は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー内の APPCMAXC パラメーターで指定します。

モジュール:
DFS62FD0

関連情報

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー \(システム定義\)](#)

DFS4157W	The number of queued APPC requests reached the maximum limit. All input from APPC clients is stopped.
-----------------	--

説明

64 ビット・ストレージ内で、IMS によって受け入れられ、処理されるのを待機している APPC/IMS 会話要求の数が、現在有効になっている限度数に達しました。

システムの処置

IMS は z/OS に対して要求を発行し、APPC クライアントからの追加の入力を停止するよう求めます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

IMS で APPC/IMS トランザクション要求の処理に問題が発生しているかどうか、または着信 APPC/IMS トランザクションが突然フラッディングを起こしたかどうかを確認してください。

IMS の処理パフォーマンスと着信 APPC/IMS 要求の数がいずれも許容範囲内であれば、現在有効になっている APPC/IMS の限度数を増やすことを検討してください。APPC/IMS の限度数は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー内の APPCMAXC パラメーターで指定します。

モジュール:
DFS62FD0

関連情報

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー \(システム定義\)](#)

DFS4158I Queuing of APPC requests to 64 bit storage has been stopped.

説明

APPC/IMS で、APPC 要求を待機させるための 64 ビット・ストレージの使用が停止されました。通常の処理を続行するのに十分な 31 ビット・ストレージが使用可能になっています。

システムの処置

IMS は、着信した APPC/IMS 要求を 64 ビット・ストレージに待機させずに、31 ビット・ストレージで通常どおり APPC/IMS 会話を受け取り、処理します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFS62FD0

関連情報

IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー (システム定義)

説明

この IMS システムは他の IMS システムによって共有されている IMS カタログを参照していますが、この IMS システムは、それが使用している PROCLIB メンバーに ACBSHR=N が指定されているため、IMS カタログを共有できません。アプリケーション制御ブロック (ACB) の IMS 管理が使用可能な場合、ACBSHR=N は、IMS カタログと、IMS ディレクトリー・データ・セット内の ACB が共有されないことを示します。

ACBSHR=N は、PROCLIB データ・セットの、DFSCGxxx メンバー内か、または DFSDFXxx メンバーの COMMON_SERVICE_LAYER セクション内で指定できます。

IMS システムの ACBSHR の指定が正しくないか、IMS システムが誤った IMS カタログを参照しているか、IMS カタログが ACBSHR=Y を指定する IMS システムによってセットアップされました。

システムの処置

IMS は異常終了コード U0071 で終了します。

オペレーターの応答

この IMS の ACBSHR パラメーターと ALIAS パラメーターの指定が正しいことを確認してください。

この IMS システムが IMS カタログを共有する必要がある場合は、適切な PROCLIB メンバーに ACBSHR=Y を指定します。ACBSHR パラメーターは以下の場所に指定できます。

- DFSDFXxx メンバーの COMMON_SERVICE_LAYER セクション (システム定義)
- IMS PROCLIB データ・セットの DFSCGxxx メンバー (システム定義)

IMS システムが誤った IMS カタログを参照している場合は、DFSDFXxx メンバーの CATALOG セクションで ALIAS= パラメーターの指定を訂正してください。必要であれば、いずれかの IMS カタログ・データ追加ユーティリティを実行して、この IMS システムが必要とする ACB を IMS カタログとその関連の IMS ディレクトリー・データ・セットにロードします。

IMS システムの ACBSHR と ALIAS の指定が正しい場合は、IMS カタログを再作成し、非共有 IMS カタログとしてセットアップする必要があります。

モジュール:
DFSRDB30

関連概念

マルチシステム構成における IMS カタログ (システム定義)

関連タスク

IMS カタログのセットアップ (システム定義)

DFS4159E ACBSHR= CAN ONLY BE CHANGED BY IMS xxxx

説明

この IMS システムでは、最初の IMS が IMS カタログ・ディレクトリーの使用開始時に指定されたものと異なる値を ACBSHR= に指定して、IMS カタログ・ディレクトリーの共有の特性を変更しようとしています。IMS カタログ・ディレクトリーは別の IMS システムが使用できる可能性があります。IMS カタログ・ディレクトリーの共有特性を変更できるのは、指定されたシステムのみです。

システムの処置

IMS は終了し、異常終了コード U0071 が示されます。

出力宛先

システム・コンソール

オペレーターの応答

この IMS の ACBSHR パラメーターと ALIAS パラメーターの指定が正しいことを確認してください。

モジュール:
DFSRDB30

DFS4160E ACBSHR=N IS SPECIFIED, BUT THE DIRECTORY IS SHARED BY OTHER IMS SYSTEMS.

関連資料

DFSDFxxx メンバーの CATALOG および
CATALOGxxxx セクション (システム定義)

IMS PROCLIB データ・セットの DFSCGxxx メン
バー (システム定義)

DFSDFxxx メンバーの

COMMON SERVICE LAYER セクション (システ
ム定義)

DFS4161I FDR FOR (*imsid*) TRACKING STARTED

説明

高速 DB リカバリー領域が確立され、*imsid* で識別され
る IMS システムをトラッキングしています。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール

DFSDFR10

DFS4162E ERROR OPENING THE IMS DIRECTORY DATA SET

説明

IMS ディレクトリー・データ・セットをオープンできま
せんでした。

システムの処置

IMS の再始動またはコールド・スタートが 071 で異常
終了しました。

システム・プログラマーの応答

問題の原因を示している可能性がある z/OS メッセージ
IEC143I などの他のエラー・メッセージがないか確認し
てください。エラーが訂正されたら、IMS を再始動し
ます。

モジュール:
DFSFRDB30

DFS4164W FDR FOR (*imsid*) TIMEOUT DETECTED DURING LOG AND XCF SURVEILLANCE

説明

高速 DB リカバリー領域で、ログおよび XCF の監視中
に、タイムアウト状況が検出されました。次のいずれか
の状態が発生した可能性があります。

- 示された IMS システムが待ち状態にある。

- 示された IMS システムがループ状態にある。
- 示された IMS システムが稼働している z/OS 上で障
害が発生した。
- 示された IMS システムが稼働している中央演算処理
複合システム (CPC) 内で障害が発生した。

システムの処置

このメッセージはオペレーター・コンソールで保存され
ます。高速 DB リカバリー領域はトラッキングを継続
します。高速 DB リカバリー領域が新しいログ・レコ
ードを読み取ることができた場合、または XCF 監視で
IMS システムが通常処理を再開したことが検出された
場合、このメッセージはコンソールから削除されます。

オペレーターの応答

IMS システムが待ち状態またはループ状態にある場合
は、必要であれば IMS を取り消してください。z/OS ま
たは CPC に障害が起きた場合は、システムをリセット
し、MVS MODIFY コマンド (**F fdrproc, RECOVER**) を
入力して、高速 DB リカバリー領域内でデータベース・
リカバリーを開始します。

モジュール:
DFSDFR90

DFS4165I FDR FOR (*imsid*) XCF DETECTED ACTIVE SYSTEM RESUMED

説明

XCF が高速 DB リカバリー領域に、示された IMS システ
ムが、メッセージ DFS4165W の中で示されたタイムア
ウト状況を終了し、通常の処理を再開したことを通知し
ました。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール

DFSDFR80

関連情報

1190 ページの『DFS4165W』

FDR FOR (*imsid*) XCF DETECTED TIMEOUT ON
ACTIVE IMS SYSTEM, REASON = *reason*

DFS4165W FDR FOR (*imsid*) XCF DETECTED TIMEOUT ON ACTIVE IMS SYSTEM, REASON = *reason*

説明

XCF が高速 DB リカバリー領域に、*imsid* で識別された IMS システム上でタイムアウトが発生したことを通知しました。変数 *reason* は、次のいずれかです。

IMS SURV., DIAGINFO = nnnnnnnn

XCF がタイムアウトを報告した。IMS システム内で、少なくとも 1 つの IMS TASK または ITASK がループ状態または待ち状態になっている可能性があります。nnnnnnnn は、タイムアウトの原因となった可能性のある TASK または ITASK を示します。nnnnnnnn は、2 つの部分から構成されています。最初の 2 バイトは、タイムアウトになっている TASK または ITASK を示し、次の 2 バイトは、以下の表に示してあるように、別の TASK または ITASK が関係する可能性の有無を示します。

表 25. TASK または ITASK の関係	
タイムアウトの TASK または ITASK	関係する可能性のある TASK または ITASK
ビット 0 x'8000' CTL TCB	IMS 制御タスク
ビット 1 x'4000' XFP TCB	高速機能制御タスク
ビット 2 x'2000' CST ITASK	共通サービス ITASK
ビット 3 x'1000' CHK ITASK	チェックポイント ITASK
ビット 4 x'0800' SAS ITASK	DLISAS ITASK
ビット 5 x'0400' FP CST00	高速機能共通サービス ITASK
ビット 6 x'0200' FP CSTS0	高速機能共通サービス 従属 ITASK
ビット 7 x'0100' 予約	

IMS SURV., DIAGINFO = N/A

XCF がタイムアウトを検出した。IMS アドレス・スペースがディスパッチ不可であるか、状況出口ルーチンで障害が起きた可能性があります。

SYSTEM, DIAGINFO = nnnnnnnn

XCF がタイムアウトを検出した。障害またはイベントは z/OS システム・レベルでした。nnnnnnnn は、XCF グループ出口ルーチンからの入力パラメーター・リストの GEPLFLGS ワードを示しています。値は、「z/OS MVS Data Areas, Vol 3 (IVT-RCWK)」(GA22-7583) のマクロ IXCYGEPL に記載されています。また、この情報は SYS1.MACLIB の IXCYGEPL マクロにも記載されている場合があります。

システムの処置

処理は続行されます。

ログ監視もタイムアウト状況を検出した場合、DFS4164W がこのメッセージの後に続きます。

オペレーターの応答

IMS および z/OS システムの状況を調べます。IMS がループ状態または待ち状態にある場合は、MVS **MODIFY** コマンド (**F activeims,DUMP**) を使用して IMS を終了し、高速 DB リカバリー領域内でデータベース・リカバリーを開始します。

z/OS またはハードウェアの障害が発生した場合は、システムをリセットし、MVS **MODIFY** コマンド (**F fdrproc,RECOVER**) を入力して、データベース・リカバリーを開始します。

システム・プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

モジュール:
DFSFDR80

関連資料

z/OS: IXCYGEPL 見出し情報

関連情報

1190 ページの『DFS4164W』

FDR FOR (*imsid*) TIMEOUT DETECTED DURING LOG AND XCF SURVEILLANCE

DFS4166I

**FDR FOR (*imsid*) DB RECOVERY
PROCESS STARTED, REASON =
*reasonid***

説明

高速 DB リカバリー領域が、示された IMS システムのトラッキングを停止し、*reasonid* で示された理由でデータベース・リカバリーを開始しました。この理由は、次のいずれかです。

IMS FAILURE

IMS システム障害が X'06' ログ・レコードによって検出された。高速 DB リカバリー領域は自動的にリカバリーを開始します。

RECOVER COMMAND

リカバリーが、MVS **MODIFY** コマンド (**F fdrproc,RECOVER**) によって開始された。

XCF NOTIFICATION

リカバリーが、MVS XCF 通知によって開始された。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域はデータベース・リカバリーを開始します。

モジュール

DFSFDR00

DFS4167A FDR FOR (imsid) WAITING FOR ACTIVE SYSTEM TO COMPLETE I/O PREVENTION. REPLY "UNLOCK" WHEN I/O PREVENTION COMPLETES.

説明

示された IMS システムが入出力防止を完了するまで、高速 DB リカバリー領域を続行できません。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域はオペレーターの応答を待機します。

オペレーターの応答

次のようにして、障害のある IMS システムが入出力防止を完了したかどうかを確認します。

- このメッセージの *imsid* と一致する *rsetName* が示されているメッセージ AVM006E を探します。
- メッセージ AVM006E が見つからない場合、手動で IMS システムの入出力を停止します。このためには、手動で DASD を切り替えるか、またはシステムをリセットします。

このメッセージに応じて UNLOCK と応答します。

モジュール

DFSFDR00

DFS4168I FDR FOR (imsid) DATABASE RECOVERY COMPLETED

説明

高速 DB リカバリー領域がデータベース・リカバリーを完了しました。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は正常に終了します。

オペレーターの応答

示された IMS システムを再始動します。

モジュール

DFSFDR00

DFS4169I FDR FOR (imsid) PROCESS TERMINATED

説明

示された IMS システムが正常に終了したため、または MVS MODIFY TERM コマンド (F fdrproc, TERM) が発行されたため、高速 DB リカバリー領域が終了しました。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は正常に終了します。

モジュール

DFSFDR00

DFS4170I FDR FOR (imsid) NORMAL TERMINATION DETECTED FOR ACTIVE SYSTEM

説明

示された IMS システムが正常に終了したことを、高速 DB リカバリー領域が検出しました。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は、トラッキングを停止し、正常に終了します。

モジュール:

DFSFDR10

DFS4171I FDR FOR (imsid) ACTIVE IMS TERMINATION NOTIFIED BY XCF. OPERATION RESUMED.

説明

アクティブ IMS システムが終了したことを、MVS XCF が高速 DB リカバリー領域に通知しました。メッセージ DFS4167A が出力されました。

システムの処置

メッセージ DFS4167A はコンソールから消去され、高速 DB リカバリー領域はデータベース・リカバリーを再開します。

モジュール:

DFSFDR00

関連情報

[1192 ページの『DFS4167A』](#)

FDR FOR (imsid) WAITING FOR ACTIVE SYSTEM TO COMPLETE I/O PREVENTION. REPLY "UNLOCK" WHEN I/O PREVENTION COMPLETES.

DFS4172I FDR FOR (imsid) ACTIVE SYSTEM NOT FOUND OR IN FAILED STATUS

説明

IMS システムの *imsid* が、高速 DB リカバリー領域によって検査されました。しかし、*imsid* が IRLM に識別されなかったか、または示されたシステムが障害のある状況でした。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は、アクティブ・システムがグループに結合するのを待ちます。

オペレーターの応答

IRLM MODIFY コマンド (**F ir1mproc,STATUS**) を使用して、示された IMS システムの状況を表示します。IMS システムがアクティブであるかどうかを確認するには、EXEC ステートメントの *IMSID* パラメーターで指定された *imsid* がアクティブ・システムの *imsid* と同じであるかどうかを調べます。エラーを訂正して、IMS アクティブ・システムを再始動するか、ARM に再始動させます。

IMS システムが XRF 対応の場合、このメッセージおよび異常終了を引き起こした *imsid* の代わりに *RSENAME* が ID として使用されます。

モジュール:
DFSDFR70

DFS4173E FDR FOR (*imsid*) CHECKPOINT LOG HAS INCONSISTENCY

説明

示された IMS システムによって作成されたチェックポイント・ログ・レコードに、次のいずれかの不整合があります。

- 示された IMS システムで、高速 DB リカバリーが使用できなかった。
 - 示された IMS システムは、IRLM を使用しなかった。
- この問題の原因として考えられるのは、以下のとおりです。
- IMS システムまたは高速 DB リカバリー領域のパラメーター指定に誤りがある。
 - IMS または高速 DB リカバリー手順内の *OLDS* または *IMSRDS* の DD ステートメントが正しくない。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は終了します。

オペレーターの応答

IMS システムで高速 DB リカバリーを使用できるかどうか、高速 DB リカバリーが正しい *OLDS* を読み取るかどうかを確認します。エラーがあれば訂正します。そ

の後、IMS システムおよび高速 DB リカバリー領域を再始動します。

モジュール:
DFSDFR10

DFS4174E NO FDRMBR EXEC PARAMETER SPECIFIED

説明

高速 DB リカバリー手順の EXEC ステートメント、または *DFSPBxxx* IMS.PROCLIB メンバーの制御ステートメントで、*FDRMBR* パラメーターが指定されませんでした。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は終了します。

オペレーターの応答

高速 DB リカバリー手順または *DFSPBxxx* IMS.PROCLIB メンバーの制御ステートメントで、正しい *FDRMBR* パラメーターを指定します。その後でジョブを再実行します。

モジュール:
DFSZINT0

DFS4175E NO ACTIVEIMSID PARAMETER SPECIFIED

説明

IMS.PROCLIB のメンバー *DFSDFRxx* 内の制御ステートメントの *ACTIVEIMSID* パラメーターに、*imsid* が指定されていませんでした。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域がこのメッセージを出力した場合、高速 DB リカバリー領域は終了します。IMS システムがこのメッセージを出力した場合、高速 DB リカバリーなしで処理が続行されます。

オペレーターの応答

メンバー *DFSDFRxx* に正しい *ACTIVEIMSID* パラメーターを指定するか、またはこのプロシージャの *FDRMBR* パラメーターでメンバー *DFSDFRxx* の正しい接尾部を指定します。高速 DB リカバリー領域を再始動するか、または IMS システムをいったん終了し、高速 DB リカバリー付きで再実行します。

モジュール:
DFSZINT0

DFS4176E FDR FOR (*imsid*) UNABLE TO ESTABLISH CHKPT - reason

説明

高速 DB リカバリー領域が、開始の起点になるチェックポイント ID を確立できませんでした。reason は、理由を示します。以下のいずれかの場合が考えられます。

ACTIVE SYSTEM ALREADY SHUTDOWN

IMS 再始動データ・セットが、示された IMS システムはすでに終了していることを示しました。

CHKPT ID NOT FOUND IN IMSLOG

高速 DB リカバリー領域が、高速 DB リカバリー付きの IMS システムが書き込んだチェックポイント ID を見つけられませんでした。

このいずれの理由も表示されなかった場合は、詳細について、直前に発行されたメッセージに関する資料を参照してください。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は異常終了します。

オペレーターの応答

以下の項目がすべて満たされていることを確認します。

- 示された IMS システムが稼働中である。
- 高速 DB リカバリー領域用に正しい再始動データ・セット (RDS) が使用されており、それが高速 DB リカバリー付きの IMS システムが使用している RDS と同じである。
- DBRC RECON データ・セットおよび OLDS が共用 DASD 環境で適切に割り振られた正しいものであり、IMS システムと高速 DB リカバリー領域の両方からアクセス可能である。

エラーを訂正し、ジョブを再始動します。

モジュール:
DFSFDRO0

DFS4177E **FDR FOR (imsid) XCF JOIN FAILED.**

説明

XCF JOIN が失敗しました。このメッセージの 2 行目に、エラーが詳しく説明されています。以下のいずれかのストリングになります。

MORE THAN ONE MEMBER JOINED XCF GROUP groupname

示された imsid および groupname を使用して複数のメンバーが XCF グループに結合しようとしたことを、高速 DB リカバリー領域が検出しました。1 つの XCF グループには、1 つの IMS システムおよび 1 つの高速 DB リカバリー領域しか存在できません。高速 DB リカバリー領域はすでに、imsid で表された IMS システムをトラッキングしています。

XCF GROUP groupname XCF MEMBER STATE IS NOT ACTIVE

IMS システムが XCF グループに結合しましたが、状況がアクティブではないことを、高速 DB リカバリー領域が検出しました。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は終了します。

オペレーターの応答

このメッセージの最初の形式の場合:

imsid で表された IMS システムが、求めるトラッキングの対象であり、高速 DB リカバリー領域がすでにそれをトラッキング中であれば、処置は必要ありません。この IMS システムが、求めるトラッキング対象でなければ、IMS.PROCLIB のメンバー DFSFDRxx に正しい GROUPNAME または ACTIVEIMSID (あるいはその両方) を指定するか、あるいは高速 DB リカバリー手順の FDRMBR パラメーターでメンバー DFSFDRxx の正しい接尾部を指定します。高速 DB リカバリー領域を再始動します。

このメッセージの 2 番目の形式の場合:

IMS システムが高速 DB リカバリーに対応しているかどうかを確認します。メンバー DFSFDRxx に正しい GROUPNAME または ACTIVEIMSID、あるいはその両方を指定します。あるいは、高速 DB リカバリー手順の FDRMBR パラメーターでメンバー DFSFDRxx の正しい接尾部を指定します。高速 DB リカバリー領域を再始動します。

モジュール:
DFSFDRO0

DFS4178E **FDR FOR (imsid) IMSID OR XCF
GROUP NAME IN CHECKPOINT
RECORD AND FDR PROCEDURE
ARE NOT IDENTICAL**

説明

X'4001' チェックポイント開始ログ・レコードにある IMS システムの imsid または XCF グループ名 (あるいはその両方) が高速 DB リカバリー手順のそれらと不整合であることを、高速 DB リカバリー領域が検出しました。両者は同じではありませんでした。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は終了します。

オペレーターの応答

IMS.PROCLIB のメンバー DFSFDRxx に正しい GROUPNAME パラメーターを指定するか、あるいは高速 DB リカバリー手順の FDRMBR パラメーターでメン

バー DFSFDRxx の正しい接尾部を指定します。その後、高速 DB リカバリー領域を再始動します。

モジュール:
DFSFDR10

DFS4179E **FDR FOR (imsid) IRLM request FAILED, RC=nn, REASON=xxxx**

説明

高速 DB リカバリー領域によって出された IRLM 要求 request が戻りコード nn および理由コード xxxx で失敗しました。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は終了します。

オペレーターの応答

IRLM 要求の戻りコードおよび理由コードを参照して、エラーの原因を判別してください。エラーを訂正してから、高速 DB リカバリー領域を再始動します。

モジュール:
DFSFDR00、DFSFDR70

関連タスク

戻りコードおよび理由コード

DFS4180E **UNEXPECTED RETURN CODE FROM request, RC=nn REASON=xxxxxxxx. IMS IS NOT FDR CAPABLE.**

または

FDR FOR (imsid) UNEXPECTED RETURN CODE FROM request, RC=nn REASON=xxxxxxxx

説明

高速 DB リカバリー領域または示された IMS システムが、示された XCF 要求を出しましたが、要求は戻りコード nn および理由コード xxxxxxxx で失敗しました。最初の形式のメッセージは高速 DB リカバリー領域によって出され、2 番目の形式のメッセージは IMS システムによって出されます。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域がこのメッセージを出した場合、高速 DB リカバリー領域は終了します。IMS システムがこのメッセージを出した場合、IMS は高速 DB リカバリーなしで処理を継続します。

オペレーターの応答

「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584) の XCF 戻りコードおよび理由コードを参照してください。エラーの原因を訂正します。

モジュール:
DFSFDR00、DFSFDR70

関連情報

[z/OS: MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書の要約](#)

DFS4181W **FDR FOR (imsid) DB RECOVERY CANNOT START BECAUSE ACTIVE SYSTEM IS STILL RUNNING**

説明:

説明および処置については、DFS4181A を参照してください。

関連情報

[DFS4181A](#)

FDR FOR (imsid) FOR DB RECOVERY, ENTER "RECOV". TO CONTINUE TRACKING, ENTER "TRACK".

DFS4181A **FDR FOR (imsid) FOR DB RECOVERY, ENTER "RECOV". TO CONTINUE TRACKING, ENTER "TRACK".**

説明

データベース・リカバリーが MVS MODIFY コマンド (F **fdrproc, RECOVER**) によって開始されました。高速 DB リカバリー領域が、データベース・リカバリーを開始するために IRLM に IDENTIFY RECOVERY 要求を出しましたが、示された IMS はまだ実行中でした。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域はオペレーターの応答を待機します。

オペレーターの応答

データベース・リカバリーが F **fdrproc RECOVER** コマンドで呼び出された場合、正しい高速 DB リカバリー領域に対して正しいコマンドを入力したかどうか確認します。

正しい高速 DB リカバリー領域に対して正しいコマンドが入力された場合は、DFS4181A メッセージに対して **RECOVER** と応答します。

コマンドが正しくないか、または誤った領域に対して入力された場合は、DFS4181A メッセージに対して **TRACK** と応答します。

モジュール:
DFSFDR00

DFS4182W FDR FOR (imsid) DB RECOVERY CANNOT START BECAUSE ACTIVE SYSTEM IS STILL RUNNING

説明

X'06' ログ・レコードが検出された後、データベース・リカバリーを開始するために、高速 DB リカバリー領域が IRLM IDENTIFY RECOVERY 要求を出しました。しかし、IRLM は、示された IMS システムが IRLM QUIT 要求を出さなかったことを示しました。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は、IRLM 領域に対して再び IDENTIFY RECOVERY 要求を出そうとします。

オペレーターの応答

このメッセージの発行が続く場合は、アクティブ IMS システムが終了したかどうかを確認してください。終了していなければ、強制的に IMS を終了してください。アクティブ IMS が終了している場合は、アクティブ・システム上で MODIFY コマンド (**F ir1mproc, STATUS**) を発行し、IRLM の状況を判別します。IRLM が正常に作動していない場合は、SDUMP を作成してから IRLM を終了させます。IRLM が正常に作動している場合は、おそらく、高速 DB リカバリーのエラーです。高速 DB リカバリー領域の SDUMP を作成し、MVS MODIFY (F) STOP コマンドで領域を終了させます。必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:
DFSDFR00

DFS4183E FDR FOR (imsid) MODIFY cmdname COMMAND REJECTED.FDR IS IN INITIALIZATION OR RECOVERY PHASE.

説明

高速 DB リカバリー領域が初期設定中か、すでにリカバリー処理中のため、示された MODIFY コマンドがリジェクトされました。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は、現在の処理を継続します。

モジュール:
DFSDFR60

DFS4185E FDR FOR (imsid) UNEXPECTED RETURN CODE FROM DBRC SIGNON REQUEST, RC=return code

説明

FDR が DBRC に SIGNON 要求を出し、予期しない戻りコードを受け取りました。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域は終了します。

オペレーターの応答

問題を解決してから、高速 DB リカバリー領域を再始動します。

モジュール:
DFSDFR10

関連資料

[サインオン通常呼び出し \(メッセージおよびコード\) からの戻りコード](#)

DFS4186E THE HOUR VALUE FOR SDEPTIME MUST BE BETWEEN 0 AND 23 imsid

説明:

SDEPTIME パラメーターは 24 時間形式であるため、時間の値は 00 から 23 でなければなりません。

システムの処置:

SDEPTIME パラメーターはリジェクトされ、2300 というデフォルト値が取られます。

システム・プログラマーの応答:

DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクションにある SDEPTIME パラメーターを訂正します。変更は、次に IMS が再始動されたときに有効になります。

モジュール:
DBFFATC1

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクション \(システム定義\)](#)

DFS4187E THE MINUTE VALUE FOR SDEPTIME MUST BE BETWEEN 0 AND 59 imsid

説明:

SDEPTIME パラメーターの分の値は、0 から 59 でなければなりません。

システムの処置:

SDEPTIME パラメーターはリジェクトされ、2300 というデフォルト値が取られます。

システム・プログラマーの応答:

DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクションにある SDEPTIME パラメーターを訂正します。変更は、次に IMS が再始動されたときに有効になります。

モジュール:
DBFFATC1

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクション \(システム定義\)](#)

**DFS4188E NON-NUMBER SPECIFIED AS
HOUR OR MINUTE FOR SDEPTIME
ims_id**

説明:

SDEPTIME パラメーターの時間値または分の値が、有効な 10 進数ではありません。

システムの処置:

SDEPTIME パラメーターはリジェクトされ、2300 というデフォルト値が取られます。

システム・プログラマーの応答:

DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクションにある SDEPTIME パラメーターを訂正します。変更は、次に IMS が再始動されたときに有効になります。

モジュール:

DBFFATC1

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクション \(システム定義\)](#)

DFS4190I IMS SYSTEM IS FDR CAPABLE

説明

この IMS システムは、高速 DB リカバリーに対応しています。

システムの処置

高速 DB リカバリー付きで処理は続きます。

モジュール:

DFSZINTO

**DFS4191E FDR PROCLIB MEMBER DFSFDRxx
COULD NOT BE ACCESSED**

説明

システムは、IMS.PROCLIB のメンバー DFSFDRxx 内の DD ステートメントで定義されたデータ・セットにアクセスできませんでした。

システムの処置

高速 DB リカバリー領域がこのメッセージを出力した場合、高速 DB リカバリー領域は終了します。このメッセージが IMS システムによって発行された場合、処理は高速 DB リカバリーなしで続行されます。

オペレーターの応答

IMS.PROCLIB DD ステートメントで正しいデータ・セットを指定します。あるいは高速 DB リカバリー手順の

FDRMBR パラメーターでメンバー DFSFDRxx の正しい接尾部を指定します。その後、IMS システムまたは高速 DB リカバリー領域を再始動します。

モジュール:

DFSZINTO

**DFS4192E ACTIVEIMSID PARAMETER IS
INCORRECT**

説明

IMS.PROCLIB メンバー DFSFDRxx 内の ACTIVEIMSID パラメーターで指定された *imsid* が、開始中の IMS 制御領域の *imsid* と同じではありません。

システムの処置

高速 DB リカバリーなしで処理は続きます。

オペレーターの応答

高速 DB リカバリーを使用してシステムを実行したい場合は、IMS システムをシャットダウンします。IMS.PROCLIB メンバー DFSFDRxx の ACTIVEIMSID パラメーターで正しい *imsid* を指定します。その後、IMS システムを再始動します。

モジュール:

DFSZINTO

**DFS4194E IMSCATHLQ HIGH LEVEL
QUALIFIER INVALID OR MISSING.**

説明

ユーティリティの JCL 内の IMSCATHLQ= ステートメントに指定された値が無効であるか、値が指定されていない。

システムの処置

ユーティリティは終了します。出力は生成されません。

オペレーターの応答

IMS カタログの高位修飾子が IMSCATHLQ= ステートメントで正しく指定されていることを確認してください。例えば、IMSCATHLQ=IMS.DFSCD000 です。

モジュール:

DFS3LU00

関連情報

[IMS Catalog Library Builder ユーティリティ \(DFS3LU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

**DFS4195E dd_name DD STATEMENT
MISSING.**

説明

IMS Catalog Library Builder ユーティリティーの JCL に、必要な DD ステートメントが欠落しています。DD ステートメントはメッセージ・テキストに示されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dd__name

欠落している DD ステートメントの名前。可能な値には、次のものがあります。

- ACBLIB
- DBDLIB
- DBDSOR
- PSBLIB
- PSBSOR
- LUSYSPT
- SYSAIN
- SYSLIB
- SYSLIN

システムの処置

ユーティリティーは終了します。出力は生成されません。

オペレーターの応答

欠落している DD ステートメントをユーティリティーの JCL に追加してください。

以下の DD ステートメントの場合、関連する出力が必要なければ、対応する制御パラメーターを SYSIN DD ステートメントから除去してエラーを訂正できます。

- ACBLIB
- DBDLIB
- DBDSOR
- PSBLIB
- PSBSOR

JCL を訂正したら、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:

DFS3LU00

関連情報

[IMS Catalog Library Builder ユーティリティー \(DFS3LU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4196E THE variable text DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = yy.

説明

メッセージ・テキストに示されているデータ・セットのオープンに失敗しました。[IMS カタログ API \(DFS3CATQ\) \(システム・プログラミング API\)](#)によって、メッセージ・テキストに含まれる戻りコードが発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

variable text

オープンに失敗したデータ・セットを記述します。表示される可能性のあるテキスト値は、以下のとおりです。

- ACB LIBRARY
- CATALOG DIRECTORY
- DBD LIBRARY
- DBD SOURCE LIBRARY
- PSB LIBRARY
- PSB SOURCE LIBRARY
- SYSAIN
- SYSLIN

rc

[IMS カタログ API \(DFS3CATQ\) \(システム・プログラミング API\)](#)によって発行された戻りコード。

戻りコード 20 は、カタログ API から返された内容に出力域ポインターがなかったことを示す内部エラーです。

システムの処置

ユーティリティーは終了します。出力は生成されません。

オペレーターの応答

データ・セットが使用可能であり、JCL 内で正しく指定されていることを確認してください。

IMS カタログ API の資料でこの戻りコードを調べてください。

問題を訂正したら、ユーティリティーを再実行します。

モジュール:

DFS3LU00

関連資料

[IMS Catalog Library Builder ユーティリティー \(DFS3LU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

[IMS カタログ API \(DFS3CATQ\) \(システム・プログラミング API\)](#)

DFS4197E UNABLE TO GET CATALOG MEMBER LIST, RC = xxxx.

説明

IMS Catalog Library Builder ユーティリティが、IMS カタログ内のリソースのリストを取得するために、IMS カタログ API に対して LIST 要求を発行しました。LIST 要求は失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

XXXX

IMS カタログ API の LIST 要求によって発行された戻りコード。

システムの処置

ユーティリティは終了します。出力は生成されません。

オペレーターの応答

IMS カタログ API の LIST 要求の資料でこの戻りコードを調べてください。

問題を訂正したら、ユーティリティを再実行します。

モジュール:

DFS3LU00

関連資料

[IMS カタログ API のリスト要求 \(LIST\) \(システム・プログラミング API\)](#)

[IMS カタログ API \(DFS3CATQ\) \(システム・プログラミング API\)](#)

DFS4198E	UNABLE TO GET CATALOG MEMBER <i>mbr_name</i>, RC = <i>rc</i> UNABLE TO GET CATALOG MEMBER <i>mbr_name</i>, RC = <i>rc</i>, RSN = <i>rsn</i>
-----------------	--

説明

IMS Catalog Library Builder ユーティリティが、IMS カタログから特定のリソースを取得するために、IMS カタログ API に対して GET 要求を発行しました。GET 要求が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mbr_name

IMS Catalog Library Builder ユーティリティが IMS カタログから取得しようとしていた、ACB、DBD、または PSB リソースの名前。

rc

IMS カタログ API の GET 要求によって発行された戻りコード。

rsn

IMS カタログ API の GET 要求によって発行された理由コード。

表 26. DFS4198E の戻りコードと理由コード

戻りコード	理由コード	意味
20		戻された出力域アドレスがゼロであったことを示す内部エラー。
40	8	無効な ACBLIB メンバー・エラーが発生しました。

システムの処置

ユーティリティは終了します。出力は生成されません。

オペレーターの応答

IMS カタログ API の GET 要求の資料でこの戻りコードを調べてください。

問題を訂正したら、ユーティリティを再実行します。

モジュール:

DFS3LU00

関連資料

[IMS カタログ API の取得要求 \(GET\) \(システム・プログラミング API\)](#)

[IMS カタログ API \(DFS3CATQ\) \(システム・プログラミング API\)](#)

DFS4199W	A new mode of Resume TPIPE request needs to be submitted for IMS synchronous callout messages
-----------------	--

説明

取得を待機している OTMA TPIPE キューに IMS 同期コールアウト・メッセージがありました。ただし、受信した RESUME TPIPE 要求は非同期出力メッセージのみをターゲットにしていました。

システムの処置

非同期コールアウト・メッセージに対する処理のみが続行されます。

オペレーターの応答

処理を待機している同期コールアウト・メッセージに対して正しい処理モードを指定し、新しい RESUME TPIPE 要求を発行します。

OTMA 状態データ接頭部のバイト 3 を使用して、RESUME TPIPE 処理モードを設定することができます。バイトでフラグ X'80' が設定されている場合、同期

コールアウト・メッセージのみを取得するために RESUME TPIPE を発行できることを意味します。

バイトでフラグ X'40' が設定されている場合、同期コールアウト・メッセージおよび非同期メッセージの両方を取得するために RESUME TPIPE を発行できることを意味します。同期コールアウト・メッセージは、非同期メッセージの前に処理および送信されます。

モジュール:
DFSYQAB0

DFS4200I - *tcctype* TCB INITIALIZATION
COMPLETE

説明

データベース・リカバリー・サービスが、データベース・リカバリー・マネージャーまたはリカバリー・データベース・マネージャーのマスター・タスク制御ブロック (TCB) の初期設定を完了しました。*tcctype* は、次のいずれかです。

RWM

データベース・リカバリーのマスター TCB が初期設定を完了した。

RWD

データベース・リカバリーのドーター TCB が初期設定を完了した

メッセージがデータベース・リカバリー・マネージャーによって発行された場合、メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールおよび IMS マスター端末です。メッセージがリカバリー・データ・マネージャーによって発行された場合、メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールのみです。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール:
DFSRVM00、DFSRWM00

第 87 章 DFS メッセージ DFS4201I - DFS4250

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4201I **ttt TASK INITIALIZATION FAILED,**
reason, RC= return code

説明

IMS データベース・リカバリー機能が、初期設定中にエラーを検出しました。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (この IMS が DB/DC である場合)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ttt

どのタスク・クラスが問題を検出したかを識別します。

reason

問題を識別し、次のいずれかになります。

- LOAD モジュール
- OBTAIN 制御ブロック
- CREATE DISPATCHER WORK AREA
- CREATE WORK UNIT
- RELEASE QSAV

return code

内部診断情報を表します。

システムの処置

IMS データベース・リカバリー機能は正常に終了します。

システム・プログラマーの応答

次のように、受け取った理由に適した処置を行ってください。

OBTAIN 制御ブロック

始動 JCL で領域サイズを大きくしてください。

LOAD モジュール

指定されたモジュールが IMS 用の RESLIB に入っていることを確認します。

該当する処置で問題が改善されないか、メッセージ内の理由について処置がリストされていない場合は、戻りコードを記録して、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

DFS4214I **aaaaaaaa PIPE FAILURE**
DETECTED: bbbbbbb, rc =
nnnnnnnn

説明

次のいずれかの理由でエラーが発生しました。

- 最初の **/RECOVER** コマンドの処理中に、データベース・リカバリー・サービスが IMS パイプを作成できなかった。
- リカバリー・データ・マネージャーの終了中、データベース・リカバリー・サービスが IMS パイプのクローズまたは割り振り解除を試みているときにエラーを検出しました。

メッセージ宛先はシステム・コンソールと IMS マスター端末です (この IMS が DB/DC である場合)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

エラーを検出した IMS パイプのタイプで、CONTROL または RECORD のいずれかである。

bbbbbbb

検出されたパイプ障害を示し、次のいずれかである。

- ALESERV
- BUFSIZE
- DSPSERV
- ESTAEX
- LOAD BUFSIZE
- STORAGE
- その他の値は z/OS 障害を示す。

nnnnnnnn

障害のあったサービスからの戻りコード。

システムの処置

データベース・リカバリー・サービス機能はシャットダウンします。

システム・プログラマーの応答

データベース・リカバリー・サービスのリカバリー・データ・マネージャー・コンポーネントで、パイプ処理に関連するストレージを取得しようとしているときに、エラーが発生しました。領域サイズを増やします。

bbbbbbb が LOAD BUFSIZE である場合、おそらく SDFSRESL からモジュールが欠落しているため、追加する必要があります。

bbbbbbb がその他の値の場合、エラー情報を記録し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

モジュール:

DFSRWMIQ、DFSRVWP0、DFSRWPR0、DFSRWPW0

DFS4215I **UNABLE TO WRITE TO type PIPE,**
RC=return code

説明

データベース・リカバリー・サービスのパイプへの書き出しサブコンポーネントの 1 つが、IMS パイプへの書き込み中にエラーを検出しました。メッセージ宛先はシステム・コンソールと IMS マスター端末です (この IMS が DB/DC である場合)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

type

エラーを検出した IMS パイプのタイプで、CONTROL または RECORD のいずれかである。

return code

障害のあったサービスからの戻りコード。

システムの処置

データベース・リカバリー・サービスは、現在のリカバリー・インスタンスを終了します。

システム・プログラマーの応答

エラー情報を記録し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

モジュール:

DFSRWPR0、DFSRWPW0

DFS4216I **DATABASE RECOVERY SERVICE**
DISABLED FOR type: reason

説明

データベース・リカバリー・サービスが、全機能データベース・データ・セットまたは高速機能エリアを検出できません。メッセージ宛先はシステム・コンソールと IMS マスター端末です (この IMS が DB/DC である場合)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

type

次のいずれかを示す。

FULL FUNCTION

DLISAS 領域が検出されなかった。

FAST PATH

高速機能が、システムに生成されていない。

reason

障害の理由を示し、次の機能のいずれかである。

- DLISAS REGION NOT DETECTED
- FAST PATH NOT DETECTED

システムの処置

データベース・リカバリー・サービスはリカバリー処理をリジェクトします。

システム・プログラマーの応答

FULL FUNCTION または FAST PATH 機能をリカバリーする必要がある場合は、IMS 上で適切な機能を使用可能にして、**/RECOVER** および **/DISPLAY RECOVERY** データベース・リカバリー・サービス・コマンドを入力します。

モジュール:

DFSRWM00

DFS4217I **DATABASE RECOVERY SERVICE**
DISABLED: reason RETURN CODE
=return code

説明

データベース・リカバリー・サービスが、**/RECOVER** コマンドを処理する IMS 上でリカバリーを実行できません。メッセージ宛先はシステム・コンソールと IMS マスター端末です (この IMS が DB/DC である場合)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason

エラーの原因を示し、次のいずれかである。

- FACILITY NOT INSTALLED
- DLISAS REGION AND FAST PATH NOT DETECTED
- UNABLE TO ATTACH ORS TCB
- CREATE ADDRESS SPACE ERR
- UNABLE TO LOAD MODULES
- GET ORS STORAGE FAILURE

return code

マクロの戻りコード。

システムの処置

データベース・リカバリー・サービスはリカバリー処理をリジェクトします。

システム・プログラマーの応答

以下のように、受け取った *reason* に対応する処置を取ってください。

UNABLE TO LOAD MODULES

/RECOVER コマンドを処理する IMS の領域サイズを増やします。

FACILITY NOT INSTALLED

/RECOVER コマンドの処理中に、リカバリー機能が見つかりませんでした。RETURN CODE = 0 は、データベース・リカバリー・サービスが未インストールであることを意味します。リカバリー機能がインストールされている IMS で、**/RECOVER** コマンドを発行します。

DLISAS REGION AND FAST PATH NOT DETECTED

メッセージに示される機能を持つ IMS 上でデータベース・リカバリー・サービスを実行します。

UNABLE TO ATTACH ORS TCB

ATTACH マクロの *return code* を確認して、適切な処置を取ってください。

CREATE ADDRESS SPACE ERR

ASCRE マクロの *return code* を確認して、適切な処置を取ってください。

GET ORS STORAGE FAILURE

/RECOVER コマンドを処理する IMS の領域サイズを増やします。

メッセージでリストされた理由に応じて指定された処置に従ったが、問題が解決しなかった場合、エラー情報を記録し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

モジュール:

DFSRWMIO、DFSRWM00

関連資料

[z/OS: ATTACH 戻りコード](#)

[z/OS: ASCRE マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

DFS4218I

**UNABLE TO READ FROM *type*
PIPE, RC =*return code***

説明

type で示されたパイプからの読み取り中に、データベース・リカバリー・サービスがエラーを検出しました。メッセージ宛先はシステム・コンソールと IMS マスター端末です (この IMS が DB/DC である場合)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

type

エラーを検出した IMS パイプのタイプで、CONTROL または RECORD のいずれかである。

return code

障害のあったサービスからの戻りコード。

システムの処置

データベース・リカバリー・サービスは、現在のリカバリー・インスタンスを終了します。

システム・プログラマーの応答

エラー情報を記録し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

モジュール:

DFSRWPRO、DFSRVPRO

第 88 章 DFS メッセージ DFS4251 - DFS4300

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4260I **ERROR DETECTED FOR
COMMAND: RECOVER ADD,
REASON=*reason***

説明

データベース・リカバリー・サービス関連コマンドに関して、コマンド・エラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason

理由が NOTHING TO ADD の場合、処理は継続する。
理由が DBRC STORAGE FAILURE の場合、このリカバリー・インスタンスに関するリカバリー処理は終了する。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、IMS 内部エラーを示します。コマンドは、無視されます。

問題判別

エラー・メッセージに SLIP TRAP を設定し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

モジュール

DFSRWCM0、DFSRWCR0、DFSRWCD0、
DFSRWCP0、DFSRWCA0、DFSRWME0

DFS4261I **UNABLE TO ADD TO *rcvlist*
*entrytype entryname: reason***

説明

/RECOVER ADD コマンドに指定された **entryname** が、指定されたリカバリー・リストに追加できませんでした。リカバリー・リストが **/RECOVER ADD** コマンドで指定されなかった場合、メッセージ・テキストに「To *rcvlist*」が含まれていません。

重複項目が検出された場合、重複分は無視されます。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rcvlist

指定されたリカバリー・リスト。

entrytype

グループのメンバーが、**/RECOVER ADD** コマンドを処理する IMS の ACBGEN の一部ではないか、または RECON 内で定義されていない場合、*entrytype* はメッセージに含まれない。

entrytype は、次のいずれかです。

- DBDS
- AREA
- DATABASE
- GROUP (**/RECOVER** コマンドで DBDSGRP、CAGRP、DATAGROUP、または RECOVGRP が指定された場合)

entryname

/RECOVER ADD コマンドで指定されたキーワードであり、DB、DBDS、DBGRP、DBDSGRP、または CAGRP のいずれかである。

reason

reason は、次のいずれかである。

ALREADY ON RECOVERY LIST

リストされた項目は、*rcvlist* によって指定されたリカバリー・リスト上にすでに存在する。

ALREADY STARTED

rcvlist によって指定されたリカバリー・リストは、すでにリカバリー処理を開始した。

COMMAND TOO LONG

/RECOVER ADD コマンドに指定されているエレメントの数が、単一の **/RECOVER ADD** コマンドに対してリカバリー製品によって許される数よりも多い。**/RECOVER ADD** コマンドを複数のコマンドに分割してください。

DATABASE IS OLR CAPABLE

entryname で指定されたオブジェクトは OLR 対応であり、**/RECOVER ADD** コマンドの発行先となった IMS のリリースが、OLR 対応データベースを使用したリカバリーをサポートしていない。OLR 対応データベースをサポートするレベルの IMS でリカバリーを再実行してください。

DATABASE HAS NO DATA SETS

データベースに対して定義されたデータベース・データ・セットがない。

DATABASE IS DEFINED AS GSAM

データベース・リカバリー・サービスは、GSAM データベース・タイプをリカバリーできない。

DLI/SAS REGION UNDETECTED

DL/I SAS 領域のないシステムのリカバリー・リストに、**/RECOVER ADD** コマンドによって全機能 DBDS を追加しようとした。

FAST PATH NOT INSTALLED

FP がインストールされていないシステムのリカバリー・リストに、**/RECOVER ADD** コマンドによって高速機能 AREA を追加しようとした。

INDEX OR ILE DATA SET

DBDS が、1 次索引または ILDS データ・セットのいずれかであり、リカバリーできないため、リカバリー・リストに追加されなかった。これらのデータ・セットは、索引/ILDS 再作成ユーティリティーによってリカバリーされます。

NOT DEFINED IN RECON

entryname に示された項目が RECON に定義されていない。

NOT FOUND IN ACBGEN

entryname によって指定された項目が、メッセージを出した IMS に対して定義されていない。その項目が IMS Stage 1 で定義されていない可能性があります。

NOTHING ADDED

リカバリー・リストに何も追加されていない。

UNKNOWN REASON FROM DBRC

DBRC で予期しない状態が発生し、不明な理由コードがデータベース・リカバリー・マネージャーに戻された。

INVALID SMSOPTS PARAMETER

サポートされない、または正しくない SMSOPTS パラメーターが検出された。このメッセージに続いて、メッセージ DFS4289 が出力されます。詳しくは、DFS4289 を参照してください。

システムの処置

entryname を構成するデータベース・データ・セットは、リカバリー・リストに追加されません。データベースまたはエリア、あるいはその両方は、データベース・リカバリー・サービスではリカバリーされません。

システム・プログラマーの応答

/RECOVER ADD コマンドを調べて、対応する ACBGEN または RECON 項目と比べます。正しい項目名を指定してコマンドを再発行します。

reason が UNKNOWN REASON FROM DBRC の場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

モジュール

DFSRWCA0

関連情報

1216 ページの『DFS4289』
SMS_OPTION IGNORED

DFS4262I

**INVALID RESPONSE FROM DBRC
FOR COMMAND RECOVER ADD,
REASON=reason**

説明

データベース・リカバリー・サービス関連コマンドが原因で、DBRC が無効な応答を戻しました。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason

DBRC によって戻された理由コードで、内部診断情報を示している。

システム・プログラマーの応答

このメッセージは、IMS 内部エラーを示します。コマンドは、無視されます。

問題判別

エラー・メッセージに SLIP TRAP を設定し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

モジュール

DFSRWCRO、DFSRWCDO、DFSRWCP0、DFSRWCA0

DFS4263I

**THE FOLLOWING ENTRIES ARE
ADDED TO THE RECOVERY LIST
token:**

説明

このメッセージの後に一連の DFS4265I メッセージが続きます。これは、**/RECOVER ADD** コマンドの結果、1 つ以上の項目がリカバリー・リストに追加されたことを示します。*token* は、ユーザーにより **/RECOVER ADD** コマンドで提供されるか、または IMS により生成されます。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

システムの処置

後続の DFS4265I メッセージにリストされるデータベース・データ・セット名またはエリア名が、リカバリー・リストに追加されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSRWCA0

関連情報

1207 ページの『DFS4265I』
name AUTHORIZED BY *ssid*

DFS4264I RECOVERY STARTED FOR
(options):

説明

/RECOVER START コマンドが発行され、エラーは検出されませんでした。後続の DFS4265I メッセージにリストされたデータベース・データ・セットおよびエリアに対して、データベース・リカバリー・サービス処理が開始されました。*options* は、**/RECOVER START** コマンドのパラメーターを示します。パラメーターが指定されなかった場合は、*options* に次のデフォルト値がリストされます。

ERRORCONT
STAGLOBAL
STALOCAL
NOSTA

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

システムの処置

/RECOVER START コマンド処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSRWCS0

DFS4265I *name* AUTHORIZED BY *ssid*

説明

このメッセージで、データベース・リカバリー・サービスがリカバリーを開始する対象のデータベース・データ・セットまたはエリアをリストします。このメッセージに続いて、DFS4263I または DFS4264I が出力されます。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

リカバリー対象のデータベース・データ・セット名 (*dbname ddname*) またはエリア名を示す。

ssid

データベース・データ・セットまたはエリアが IMS によって許可されている場合、*ssid* は許可している *ssid* を示す。このメッセージは、リカバリー・リスト内のデータベース・データ・セットまたはエリアを許可した IMS ごとに発行されます。

システムの処置

/RECOVER コマンド処理は継続します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSRWCA0、DFSRWCS0、DFSRWCR0、DFSRWCP0

DFS4266I UNABLE TO RECOVER: *dbname*,
reason

説明

データベース・リカバリー・サービス **/RECOVER START** コマンドが発行されたが、データベース・データ・セットまたはエリアをリカバリーすることができません。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname

リカバリーできないデータベース・データ・セットまたはエリアを示す。

reason

エラーの原因を示し、次のいずれかである。

AUTHORIZATION FAILED, RC = XX

許可処理で、リカバリー・リスト内のデータベース・データ・セットまたはエリアの 1 つ以上について、正しく許可できなかった。XX は DBRC 戻りコードを示します。

HALDB MASTER IS STOPPED

HALDB 区画のマスター・データベースが停止された。データベース・リカバリー・サービスでは、リカバリーされる区画を停止する必要があるが、マスター・データベースは開始されていなければなりません。マスター・データベース

を開始してから、**/RECOVER START** コマンドを再発行します。

IMAGE COPY NOT AVAILABLE

DBRC がデータベース・データ・セットの使用可能なイメージ・コピーを見つけることができなかった。

INVALID RCVTIME

DBRC が、指定された RCVTIME はこの項目の ALLOC の最中に期限切れになると判断した。PITR オプションは指定されませんでした。

LOGS MARKED IN ERROR

DBRC は、いずれのログ・データ・セットも使用不能であると判断した。エラーというマークが付けられます。

NEEDS HIGHER RELEASE LOG

DBRC が、上位リリースの IMS によって作成されたログを検出した。上位リリースで稼働する IMS によって更新されたデータベースを選択することはできません。

NO IC TAKEN AFTER A PITR

データベース・データ・セットまたはエリアのリカバリーが失敗した。その原因は、以前に時刻指定 (PITR) リカバリーが実行されており、それ以後、イメージ・コピーが取られていないためです。以前の PITR リカバリーによりバックアウト情報が RECON から削除されている可能性があるため、新たにリカバリーを行うと、データベースが破壊される可能性があります。

NO PRILOG FOUND

DBRC が PRILOG レコードを見つけることができなかった。この状態は発生してはなりません。IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

NO RECOV RECORD FOUND

/RECOVER ADD コマンドで USEDBDS オプションが指定されたが、RECON に記録された最新のリカバリーがタイム・スタンプ・リカバリーでなかったか、あるいは、DBDS または AREA が RECON で「リカバリー必要」とマークされている。

NOT FOUND

リカバリー・リストにあるデータベース・データ・セットまたはエリアの 1 つ以上が、RECON データ・セットにリストされていない。

データベース・データ・セットまたはエリアがオンライン変更によりシステムから除去され、リカバリーする必要がなくなった場合は、**/RECOVER REMOVE** コマンドを使用して、リカバリー・リストからデータ・セットまたはエリアを除去してください。データベース・データ・セットまたはエリアがオンライン変更によりシステムから除去され、リカバリーする必要がある場合は、オンライン変更を使用して、それを

システムに再度追加します。その後で、**/RECOVER START** コマンドを再発行してください。

NOT OFFLINE

リカバリー・リストにあるデータベース・データ・セットまたはエリアの 1 つ以上が、IMS **/DBR** コマンドを使用してオフラインにされていない。データベースがこの状態にある場合、データベース・リカバリー・サービスの正しい作動を保証できません。

RECOV RECORD UNUSABLE

/RECOVER ADD コマンドで USEDBDS オプションが指定されたが、RECON に記録された最新のリカバリー以降、DBDS または AREA が更新されたか、または再編成された。

REORG LATER THAN IMAGE COPY

データベース・データ・セットに対して REORG ユーティリティが実行されたが、それ以降のイメージ・コピー・データ・セットが RECON に登録されていない。

システムの処置

データベース・データ・セットまたはエリアに対して ERRORCONT が指定された場合は、データベース・リカバリー・サービスのリカバリー・リストの残りのメンバーについて処理を続けます。ERRORCONT が指定されなかった場合、リカバリーは停止します。

システム・プログラマーの応答

以下のように、示された reason に対応する処置を行います。

AUTHORIZATION FAILED

該当するデータベースまたはエリアを停止しなかった IMS を判別し、IMS **/DBR** コマンドを使用してデータベースまたはエリアを停止します。

HALDB MASTER IS STOPPED

リカバリーのために、HALDB 区画のマスター・データベースを開始する必要があります。マスター・データベースを開始して、**/RECOVER START** コマンドを再発行します。

IMAGE COPY NOT AVAILABLE

データベース・データ・セットにイメージ・コピーが使用可能であり、別のサイトにマイグレーションされていないか確認してください。

INVALID RCVTIME

非 PITR タイム・スタンプ・リカバリーは、ALLOC 境界の途中で止めることはできません。タイム・スタンプに使用された時刻を調整するか、または PITR を指定して **/RECOVER START** コマンドを再発行します。

LOGS MARKED IN ERROR

ログ・データ・セットが使用可能で、別のサイトにマイグレーションされていないか確認してください。

NEEDS HIGHER RELEASE LOGS

上位リリースの IMS で作成されたログを、下位リリースの IMS でのリカバリーに使用することはできません。この状態は、複数の IMS システムを共存モードで稼働している場合に発生する可能性があります。ログが作成された IMS のレベルでリカバリーを再実行してください。

NO PRILOG FOUND

支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

NO IC TAKEN AFTER A PITR

時刻指定リカバリーの後、以降のリカバリーで有効な開始点を持てるように、イメージ・コピーを取ります。データベースの健全性が損なわれないことを確信している場合は、DBRC **DELETE.RECOV** コマンドを使用して RECOV レコードを削除してから、リカバリーを再実行します。

NO RECOV RECORD FOUND

標準外イメージ・コピーを使用して、DBDS または AREA をリカバリーします。次に、リカバリーが実行された時刻 (CURRENT)、および DBDS または AREA がリカバリーされる目標の時刻を指定した **NOTIFY.RECOV** コマンドを使用して、リカバリーを DBRC に通知します。それから、USEDDBDS パラメーターを指定したデータベース・リカバリー・サービスを使用して、DBDS または AREA をリカバリーすることができます。

NOT FOUND

/RECOVER ADD コマンドが発行された後、データベース・データ・セットまたはエリアが RECON から削除されました。そのデータベース・データ・セットまたはエリアが正当で、リカバリーする必要がある場合は、それを RECON に定義します。

NOT OFFLINE

リカバリーを実行している IMS で、データベース・データ・セットまたはエリアが停止されませんでした。IMS **/DBR** コマンドを使用して、データベースまたはエリアを停止します。

RECOV RECORD UNUSABLE

最新のリカバリー以後に、DBDS または AREA に対して変更が行われました。その結果、再びリカバリーを実行する必要があります。標準外イメージ・コピーを使用して、DBDS または AREA をリカバリーします。次に、リカバリーが実行された時刻 (CURRENT)、および DBDS または AREA がリカバリーされる目標の時刻を指定した **NOTIFY.RECOV** コマンドを使用して、リカバリーを DBRC に通知します。それから、USEDDBDS パラメーターを指定したデータベース・リカバリー・サービスを使用して、DBDS または AREA をリカバリーすることができます。

REORG LATER THAN IMAGE COPY

再編成より前に取られたイメージ・コピーを使用して DBDS または AREA をリカバリーすることはできません。

モジュール

DFSRWCSO

DFS4267I RECOVERY NOT STARTED, reason

説明

データベース・リカバリー・サービス **/RECOVER START** コマンドが発行されたが、以下の *reason* で示された理由のため、リカバリーを継続できません。

DBRC AUTHORIZATION FAILURE

IMS が、リカバリー・リスト内に 1 つ以上の許可されたデータベース・データ・セットまたはエリアを持っている。

DBRC RECOVER START FAILURE

DBRC での IMS 内部エラーにより、リカバリーが失敗した。

ERRORABORT SPECIFIED

データベース・リカバリー・サービスがリカバリーを開始しようとしているときに、あるデータベース・データ・セットでエラーが検出されたが、**/RECOVER START** コマンドで **ERRORCONT** が指定された。障害のタイプについて詳しくは、DFS4266I を参照してください。

INCOMPLETE RECOVERY GROUP

リカバリー・グループの 1 つ以上のメンバーがリカバリー・リストに含まれていないため、リカバリーが失敗した。このメッセージの後に、リカバリー・リストに含まれていないリカバリー・グループのメンバーをリストする DFS4284I メッセージが 1 つ以上続きます。

NO RECOVERABLE ENTRIES

1 つ以上のエラーが原因で、リカバリー・リスト内の項目がどれもリカバリーできなかった。

ONLINE CHANGE IN PROGRESS

/RECOVER START コマンドが出されたとき、**/MODIFY COMMIT** または **INITIATE OLC PHASE(COMMIT)** コマンドが処理中であった。**/RECOVER START** コマンドはリジェクトされます。

RECOVERY LIST NOT FOUND

コマンドで指定されたトークンと一致するトークンのあるリカバリー・リストが見つからなかった。

RECOVERY NOT STARTED, ALREADY IN PROGRESS

すでに処理中のため、リカバリーが開始されなかった。

RECOVERY NOT STARTED, OTHER RECOVERY IN PROGRESS

別のリカバリーが現在は処理中のため、リカバリーが開始されなかった。

RECOVERY TIME GREATER THAN RUN TIME

/RECOVER START コマンドの入力リカバリー時刻が、現在時刻よりも後である。

UNABLE TO CREATE ITASK

IMS 内部エラーにより、リカバリーが失敗した。問題を IBM ソフトウェア・サポート に報告してください。

UNABLE TO GET CCCCCCCCCC

IMS 内部エラーにより、リカバリーが失敗した。問題を IBM ソフトウェア・サポート に報告してください。CCCCCCCCC は、次のいずれかの IMS 内部リソースです。

- QSAV
- PST
- EPST
- APSB LATCH
- PSBP LATCH
- AUTHORIZATION PARM LIST

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

システムの処置

現在のデータベース・リカバリー・サービスのリカバリー・インスタンスは打ち切られます。

システム・プログラマーの応答

以下のように、受け取った *reason* に対応する処置を取ってください。

DBRC AUTHORIZATION FAILURE

IMS がストレージ不足であるか、IMS 内部で障害が発生しました。詳しくは、前に発行された DBRC メッセージを参照してください。エラーの原因を判別できない場合、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

DBRC RECOVER START FAILURE

IMS がストレージ不足であるか、IMS 内部で障害が発生しました。詳しくは、前に発行された DBRC メッセージを参照してください。エラーの原因を判別できない場合、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

ERRORABORT SPECIFIED

エラーを訂正し、リカバリーを再始動します。適切な処置については、DFS4266I を参照してください。

INCOMPLETE RECOVERY GROUP

グループ全体を指定するか、グループを再定義するか、PITR (時刻指定リカバリー) を指定しないか、または NOCHECK を指定します。詳しくは、DFS4284I を参照してください。

NO RECOVERABLE ENTRIES

項目ごとの障害に関しては、前にメッセージが出力されています。適切な処置については、前のメッセージを参照してください。

ONLINE CHANGE IN PROGRESS

/MODIFY COMMIT または **INITIATE OLC PHASE (COMMIT)** コマンドの完了後に、**/RECOVER START** コマンドを再発行してください。

RECOVERY LIST NOT FOUND

指定した名前でリカバリー・リストを作成するか、または既存のリストにある名前を入力します。

RECOVERY NOT STARTED, ALREADY IN PROGRESS

リカバリーは実行中です。アクションは不要です。

RECOVERY NOT STARTED, OTHER RECOVERY IN PROGRESS

他のリカバリーを停止するか、またはそれが終了するまで待ちます。

RECOVERY TIME GREATER THAN RUN TIME

リカバリーを開始すべき正しい時刻を指定して、コマンド **/RECOVER START** を入力します。

UNABLE TO CREATE ITASK

IMS がストレージ不足であるか、IMS 内部で障害が発生しました。エラーの原因を判別できない場合、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

UNABLE TO GET CCCCCCCCCC

IMS がストレージ不足であるか、IMS 内部で障害が発生しました。エラーの原因を判別できない場合、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して支援を受けてください。

モジュール

DFSRWCIO

関連情報

[1207 ページの『DFS4266I』](#)

UNABLE TO RECOVER: *dbname, reason*

[1215 ページの『DFS4284I』](#)

RECOVERY GROUP *grpname* MEMBER *member*
NOT IN RECOVERY LIST

DFS4268I

**THE FOLLOWING ENTRIES WERE
REMOVED FROM THE RECOVERY
LIST:**

説明

このメッセージの後に一連の DFS4265I メッセージが続きます。これは、**/RECOVER REMOVE** コマンドの結

果、1つ以上の項目がリカバリー・リストから除去されたことを示します。

システムの処置

後続の DFS4265I メッセージにリストされる *name* が、リカバリー・リストから除去されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSRWCRO

DFS4269I RECOVERY LIST IS NOW EMPTY

説明

次のいずれかのインスタンスが発生しました。

- **/RECOVER REMOVE** コマンドが処理され、リカバリー・リストから最後のデータベース・データ・セットまたはエリアが除去された。
- **/RECOVER REMOVE ALLENTS** コマンドが処理された。
- **/RECOVER STOP** コマンドが処理され、リカバリー・リストの最後のデータベース・データ・セットまたはエリアが停止された。
- **/RECOVER STOP ALLENTS** コマンドが処理された。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

システムの処置

リカバリー・インスタンスは削除されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSRWCRO、DFSRWCP0

**DFS4270I UNABLE TO REMOVE *resource_type*
resource_name: *reason***

説明

データベース・リカバリー・サービス **/RECOVER REMOVE** コマンドが発行されたが、処理できませんでした。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resource_type

/RECOVER REMOVE コマンドが発行された対象のリソースのタイプを示し、次のいずれかである。

- LIST
- DBDS
- AREA
- DB

resource_name

/RECOVER REMOVE コマンドで指定されたリソースの名前を示す。

reason

次のいずれかの障害原因を示す。

COMMAND TOO LONG

/RECOVER REMOVE コマンドに指定されているエレメントの数が、単一の **/RECOVER REMOVE** コマンドに対してリカバリー製品によって許される数よりも多い。**/RECOVER REMOVE** コマンドを複数のコマンドに分割してください。

NOT IN RECOVERY LIST

コマンドで指定されたデータベース・データ・セットまたはエリアが、リカバリー・リストに含まれていない。

NOT DEFINED IN RECON

DB、CAGRP、DBDSGRP、または DATAGROUP リソース・タイプが RECON 内に見つからない。

NOTHING REMOVED

/RECOVER REMOVE コマンドの結果、除去されたデータベース・データ・セットまたはエリアはなかった。

RECOVERY IN PROGRESS

リカバリー・リストに応じてリカバリーを処理中に、**/RECOVER REMOVE** コマンドが発行された。

RECOVERY LIST DOES NOT EXIST

/RECOVER REMOVE コマンドが発行されたが、指定されたリカバリー・リストが存在しない。

THIS IS A FAST PATH AREA

コマンドで **/RECOVER REMOVE DBDS** が指定されたが、その項目は高速機能エリアであった。

THIS IS NOT A FAST PATH AREA

/REC REMOVE AREA AREA 名コマンドが入力されたが、その AREA 名はリカバリー・リストで FF DBDS を示していた。

正しい AREA 名を判別するか、または **/RECOVER REMOVE DBDS dbd dbds** を入力してください。

システムの処置

resource_type が LIST の場合、**/RECOVER REMOVE** コマンドは打ち切られます。それ以外の場合、エラーで示されていないリソースに関しては処理を継続します。

システム・プログラマーの応答

コマンドが失敗した理由を判別し、必要な場合は、コマンドを再発行します。

モジュール

DFSRWCRO

DFS4273I RECOVER command COMMAND REJECTED, rsn

説明

/RECOVER コマンドが、メッセージ内にリストされている *rsn* のためにリジェクトされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

command

次のいずれかです。

- ADD
- REMOVE
- START
- STOP

rsn

次のいずれかです。

DRF WAS UNABLE TO START

データベース・リカバリーの初期設定時の障害により、**/RECOVER** コマンドがリジェクトされました。付随するメッセージを参照し、問題を訂正してから **/RECOVER** コマンドを発行してください。

RECOVERY ADDRESS SPACE FAILED

データベース・リカバリー・アドレス・スペースの初期設定時の障害により、**/RECOVER** コマンドがリジェクトされました。付随するか関連するメッセージを参照し、問題を訂正してから **/RECOVER** コマンドを発行してください。

TERMINATION IN PROGRESS

リカバリー環境が **/RECOVER TERMINATE** コマンドのために終了しようとしています。終了処理が完了するのを待ってから、**/RECOVER** コマンドを発行してください。

FEATURE NOT INSTALLED

IMS が、データベース・リカバリー・プロダクトの存在を検出できません。データベース・リカバリー・プロダクトがインストールされている場合は、IMS が、データベース・リカバリー・プロダクトの入ったライブラリーにアクセスできることを確認してから、**/RECOVER** コマンドを発行してください。

システムの処置

/RECOVER コマンドはリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答

メッセージの説明のセクションに書かれている適切な処置を行ってください。 *rsn* が内部エラーの存在を示している場合は、症状とすべての診断データを IBM に報告してください。 *rsn* が訂正可能な状態を示している場合は、エラーを訂正して **/RECOVER** コマンドを発行してください。

モジュール

DFSRWMO0

DFS4274I UNABLE TO STOP
*resource_type**resource_name:*
reason

説明

データベース・リカバリー・サービス **/RECOVER STOP** コマンドが発行されましたが、処理不能でした。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resource_type

/RECOVER STOP コマンドの発行対象となったりソースのタイプを示し、次のいずれかである。

- LIST
- DBDS
- AREA
- DB

resource_name

/RECOVER STOP コマンドで指定されたリソースの名前を示す。

reason

エラーの原因を示し、次のいずれかである。

RECOVERY NOT IN PROGRESS

リカバリーが進行中でないときに **/RECOVER STOP** コマンドが発行された。

NOT IN RECOVERY LIST

コマンド内で指定されたデータベース・データ・セットまたはエリアがリカバリー・リストに入っていない。

NOT IN RECON

DB、CAGRP、DBDSGRP、または DATAGROUP リソース・タイプを RECON 内で検出できなかった。

SAVE REQUIRES ALLENT

/RECOVER STOP コマンドが SAVE オプション付きで発行されたが、ALLENTRIES が指定されなかった。

NOTHING REMOVED

/RECOVER REMOVE コマンドの結果として、データベース・データ・セットまたはエリアが停止されなかった。

THIS IS A FAST PATH AREA

/RECOVER STOP コマンドが DBDS オプション付きで発行されたが、その項目は高速機能エリアである。

システムの処置

resource_type が LIST の場合、**/RECOVER STOP** コマンドは異常終了します。それ以外の場合、他のリソースに対する処理が続行されます。

システム・プログラマーの応答

コマンドが失敗した理由を判別し、必要な場合は、コマンドを再発行します。

モジュール

DFSRWCPO

DFS4275I THE FOLLOWING ENTRIES WILL HAVE RECOVERY STOPPED:

説明

このメッセージの後に一連の DFS4265I メッセージが続きます。これは、**/RECOVER STOP** コマンドの結果として、1 つ以上の項目がリカバリーを停止することを示しています。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

システムの処置

後続の DFS4265I メッセージ内にリストされた *name* は、リカバリーを停止します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSRWCPO

**DFS4277I RECOVERY COMPLETE FOR:
dbdname ddname**

説明

データベース・リカバリー・サービスは、このメッセージを、リカバリーが完了したリカバリー・リスト内の各項目ごとに発行します。*dbdname ddname* は、リカバリーを完了した DBDS または AREA を表します。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

システムの処置

name に対する元の **/RECOVER** コマンドで *STAGLOBAL* が指定された場合、DBDS または AREA はグローバルに自動的に開始されます。*STALOCAL* が指定された場合、それはメッセージを出力した IMS 内で自動的に開始されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSRWME0

**DFS4278I UNABLE TO COMPLETE RECOVERY
FOR: dbdname ddname**

説明

データベース・リカバリー・サービスが、*dbdname* および *ddname* で示された DBDS または AREA に対するリカバリーを完了できません。このエラーは、リカバリー中に発生した DBDS または AREA 障害の結果、または DBDS または AREA に対するイメージ・コピーの復元に失敗した結果です。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

障害の原因を判別し、訂正してから、リカバリーを再実行します。

モジュール

DFSRWME0

DFS4279I THE FOLLOWING ENTRIES ARE AUTHORIZED TO AN IMS:

説明

データベース・リカバリー・サービスが、タイム・スタンプ・リカバリー中に、リカバリーを必要とする全機能データベースまたは高速機能エリア、あるいはその両方を検出しました。リカバリーされるデータベース・データ・セットおよびエリアは、リカバリー単位によって更新されるが、このリカバリー単位によって、後続の DFS4265I メッセージで示されるデータベース・データ・セットおよびエリアも更新されます。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

後続の DFS4265I メッセージにリストされるデータベース・データ・セットまたはエリア (あるいはその両方) を、このメッセージの原因となったリカバリーと同じ時刻指定でリカバリーする必要があるかどうか判別します。

モジュール:

DFSRWPRO

関連情報

1207 ページの『DFS4265I』
name AUTHORIZED BY *ssid*

DFS4280I UNABLE TO START *type* FOR THE RECOVERY LIST *token*, RC=*return code*

説明

データベース・リカバリー・サービスが、*type* で示された、リカバリー・トークン (*token*) に関連するエリアまたはデータベースを開始できません。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールです。

システムの処置

エリアまたはデータベースはリカバリーされるが、開始されません。

システム・プログラマーの応答

/START AREA, UPDATE AREA START (ACCESS)、または **/START DATABASE** コマンドを発行します。この障害を IBM ソフトウェア・サポート に報告してください。

モジュール:

DFSRWME0

DFS4282A ERROR PROCESSING PROCLIB MEMBER DFSORSXX: *error*

説明

IMS PROCLIB メンバー DFSORSxx を処理中にエラーが検出されました。検出されたエラーの数に応じて、1 つ以上の DFS4282A メッセージが出力されます。処理中であった **/RECOVER** コマンドは失敗します。

メッセージ・テキストで、*error* は次のいずれかの問題を示します。

FAILURE PARSING, IKJPARS RC = *rc*

TSO IKJPARS サービスが、DFSORSxx メンバーで指定されたパラメーターにエラーを検出した。IKJPARS が、*rc* として示されているコードを戻しました。

PARAMETER IN ERROR: *yyyy*

DFSORSxx のパラメーターで無効な値が検出された。誤りのあるパラメーターが *yyyy* で示されません。

TSO ENVIRONMENT IS NOT AVAILABLE

TSO 環境が使用不能であった。この結果、DFSORSxx メンバーを処理できませんでした。

UNABLE TO DELETE STORAGE, IMODULE RC = *rc*

DFSORSxx メンバーの構文解析モジュール DFSRWPP0 が、メンバーを処理するために取得した作業用ストレージを解放できなかった。IMODULE GETMAIN が、*rc* として示されているコードを戻しました。IMODULE 戻りコードについては、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。

UNABLE TO OBTAIN STORAGE, IMODULE RC = *rc*

DFSORSxx メンバーの構文解析モジュール DFSRWPP0 が、メンバーを処理するために必要なストレージを取得できなかった。IMODULE GETMAIN が、*rc* として示されているコードを戻しました。IMODULE 戻りコードについては、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。

システムの処置

処理中であった **/RECOVER** コマンドは失敗します。

オペレーターの応答

以下のように、受け取ったエラーに対応する処置を取ります。

FAILURE PARSING, IKJPARS RC = rc

SYSTSPRT データ・セットのメッセージから、DFSORSxx メンバーでエラーのあったパラメーターを判別します。パラメーターを訂正してから、**/RECOVER** コマンドを再発行します。

PARAMETER IN ERROR: yyyy

DFSORSxx に指定されるパラメーターを訂正してから、**/RECOVER** コマンドを再発行します。

TSO ENVIRONMENT IS NOT AVAILABLE

TSO 環境が使用可能であることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

UNABLE TO DELETE STORAGE, IMODULE RC = rc

メッセージおよび IMODULE 戻りコードをメモし、問題を IBM ソフトウェア・サポートに報告してください。即時の訂正処置は必要ありませんが、このメッセージは、IMS の内部論理エラー、または (IMS か z/OS の) ストレージ管理に問題があることを示している可能性があります。

UNABLE TO OBTAIN STORAGE, IMODULE RC = rc

理由コードに基づいて、IMODULE GETMAIN 障害の原因を判別します。問題の原因がフラグメント化されたストレージにある場合は、z/OS の IPL が必要になることもあります。

モジュール:

DFSRWPP0

関連資料

[z/OS: 解析サービス・ルーチンからの戻りコードの確認](#)

[IMS システム・サービス戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS4283I	EARLY END OF RECOVERY FOR: token
-----------------	---

説明

データベース・リカバリー・サービスが、リカバリー中に発生した障害のため、早期に終了中です。このエラーが発生するのは、**/RECOVER START** コマンドで ERRORABORT が指定され、リカバリー中に DBDS または AREA 障害が発生した場合、あるいは DBDS または AREA のイメージ・コピーの復元に失敗した場合です。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、**/RECOVER START** コマンドを発行した LTERM にも送信されます。

システムの処置:

ありません。

システム・プログラマーの応答

障害の原因を判別し、それを訂正してから、リカバリーを再実行します。

モジュール:

DFSRWME0

DFS4284I	RECOVERY GROUP <i>grpname</i> MEMBER <i>member</i> NOT IN RECOVERY LIST
-----------------	--

説明

メッセージ内で *grpname* によって示されたリカバリー・グループのメンバーを指定して、**/RECOVER START** コマンドが発行されました。しかし、リカバリー・リストには、リカバリー・グループのメンバーのすべては含まれていません。リカバリー・リストのメンバーごとに DFS4284I が出力されます。このメッセージは、メッセージ DFS4267I の後に続きます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

grpname

リカバリー・グループの名前。

member

リカバリー・グループ内のデータベース名またはエリア名

システムの処置

コマンドは実行されません。

システム・プログラマーの応答

/RECOVER ADD コマンドを使用してリカバリー・グループの全メンバーをリカバリー・リストに追加し、**/RECOVER START** を発行します。あるいは、NOCHECK パラメーターを指定した **/RECOVER START** を発行します。

DFS4285I	END OF RECOVERY FOR: <i>token</i>
-----------------	--

説明

現行のリカバリーに関するすべてのリカバリー処理が完了したときに、オンライン・リカバリー・サービスはこのメッセージを発行します。*token* は、このリカバリーを開始した **/RECOVER START** コマンドで指定されたリカバリー・リスト・トークンを表します。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

システムの処置

処理は続行されます。

モジュール

DFSRWME0

**DFS4286I DATABASE RECOVERY SERVICE IS
 BEING TERMINATED**

説明

/RECOVER TERMINATE コマンドが発行され、データベース・リカバリー・サービスをシステムから除去中です。

システムの処置

データベース・リカバリー・サービスのリソースは、IMS によって解放されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSRVM00

**DFS4287I DATABASE RECOVERY SERVICE
 HAS TERMINATED**

説明

/RECOVER TERMINATE コマンドが発行され、データベース・リカバリー・サービスが終了しました。

システムの処置

データベース・リカバリー・サービスのリソースが解放されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSRVM00

**DFS4288I DATABASE RECOVERY SERVICE IS
 UNABLE TO TERMINATE**

説明

リカバリー処理中に、**/RECOVER TERMINATE** コマンドが発行されました。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

システム・プログラマーの応答

現行のリカバリーが完了するまで待ってから、**/RECOVER TERMINATE** コマンドを発行します。現行のリカバリーを完了させる必要がない場合は、**/REC STOP ALLENT** コマンドを使用して、それを停止することができます。

モジュール

DFSRVM00

DFS4289 SMS_OPTION IGNORED

説明

SMS_OPTION はサポートされていないため、リジェクトされました。**/RECOVER ADD** コマンドが失敗しました。このメッセージは、DFS4261I に続いて出力されます。

システムの処置

ORS リカバリーは開始されません。

システム・プログラマーの応答

サポートされる SMSOPTS パラメーターを指定して、**/RECOVER ADD** コマンドを発行します。

モジュール

DFSRWCA0

関連情報

[1205 ページの『DFS4261I』](#)

UNABLE TO ADD TO rcvlist entrytype entryname:
reason

DFS4299I xxxx

説明

IMS オンライン・リカバリー・サービス ORS によってメッセージが発行されました。「message-id」および「message-text」については、「*IMS Online Recovery Service for z/OS, User's Guide*」(SC27-0944) に説明があります。

システムの処置

システムの応答については、「*IMS Online Recovery Service for z/OS, User's Guide*」に説明があります。

オペレーターの応答:

(マスター端末) ユーザーは、「message-id」について、「*IMS Online Recovery Service for z/OS, User's Guide*」に示されている適切な処置を行う必要があります。

モジュール

DFSRWPRO

ユーザーの処置

「message-id」について、「*IMS Online Recovery Service for z/OS, User's Guide*」に示されている適切な処置を取ってください。

第 89 章 DFS メッセージ DFS4301E - DFS4350E

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4304E CALL TO DBRC FAILED. RC=retcode

説明

DBRC が DFSKARCO から呼び出されましたが、処理が正しく完了しませんでした。

システムの処置

処理は条件コード 8 で終了します。

ユーザーの処置

問題を判別し、ジョブを再実行依頼してください。問題の原因として、次のいずれかが考えられます。

- SYSIN 入力は文字ストリング LIST.LOG で構成されている必要がありますが、SYSIN 入力が無効であるか省略された可能性があります。
- RECON データ・セット用の DD ステートメントが JCL に組み込まれていなかった可能性があります。
- RECON データ・セットの IMS レベルが、JCL 内の JOBLIB または STEPLIB DD ステートメントに組み込まれた IMS.SDFSRESL のレベルと一致しなかった可能性があります。

DFSKARCO からの SYSPRINT 出力を使用して問題を判別できます。

モジュール:
DFSKARCO

DFS4305W THE MAXIMUM NUMBER OF VOLSERS WAS EXCEEDED FOR THE DATA SET: data set name

説明:

示されているデータ・セットは複数のボリュームにまたがっています。ユーティリティー DFSKARCO によって自動的に抽出されるボリュームの最大数は 8 です。ただし、この場合は、VOLSER の数がこの値を超えています。最初の 8 個の VOLSER は生成された JCL に組み込まれますが、残りの VOLSER はすべて省略されます。

システムの処置:

処理を続行します。処理の終了時に、条件コード 4 が返されます。

システム・プログラマーの応答:

生成された JCL を更新して、示されているデータ・セット名に関連する DD ステートメントに省略された VOLSER 値を指定してから、JCL を実行依頼します。

モジュール:

DFSKARCO

**DFS4309E REQUIRED KEYWORD keyword/
HAS NOT BEEN SPECIFIED**

説明

示された keyword が必要ですが、ユーティリティーの制御ステートメントに組み込まれていませんでした。

システムの処置

処理は条件コード 8 で終了します。

ユーザーの処置

キーワードに値を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSKARCO

**DFS4310E PREVIOUS CONTROL STATEMENT
CONTAINED NO VALID
KEYWORDS**

説明

有効なキーワードが入っていない制御ステートメントが検出されました。

システムの処置

処理は条件コード 8 で終了します。

ユーザーの処置

制御ステートメントを訂正するか除去して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSKARCO

**DFS4311E TIMESTAMP CONTROL
STATEMENTS MUST INCLUDE
CENTURY**

説明

日付の世紀部分で始まらない値が入った日付関連キーワードの開始または停止。

システムの処置

処理は条件コード 8 で終了します。

ユーザーの処置

制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSKARCO

**DFS4312E NO LOG DATASETS FOUND
MATCHING SELECTION CRITERIA**

説明

RECON 内の項目が、CNTLCRDS 内で指定された SSID、STRTTIME、または STOPTIME の組み合わせと一致しません。

システムの処置

処理は条件コード 8 で終了します。

ユーザーの処置

適切な選択基準をどのようなものにすればよいかを判別し、ジョブを再実行依頼してください。DFSKARCO からの SYSPRINT 出力を使用して、どのサブシステムと期間が適切であるかを判別できます。

モジュール:
DFSKARCO

**DFS4313I FEWER LOGS MATCHED
SELECTION CRITERIA THAN
WERE REQUESTED**

説明

LOGCOUNT= パラメーターで、選択するログ・データ・セットが指定されました。しかし、制御ステートメント内で指定された選択基準と一致するログ・データ・セットの数が、それより少数でした。

システムの処置

処理は続行されます。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSKARCO

**DFS4320E SOME LOG DATA SET NAMES ARE
UNAVAILABLE BECAUSE THEY
WERE CHANGED BY DBRC PRILOG
RECORD COMPRESSION. THE LOG**

**DATA SET NAMES WERE NOT
EXTRACTED.**

説明

DBRC PRILOG レコード圧縮が、ユーティリティ DFSKARCO による処理で指定された時刻範囲にわたるログ・データ・セットのデータ・セット名を RECON データ・セットの文字ストリング DSN=**** COMPRESSED DATA SET **** に置き換えました。データ・セット名は RECON に存在しなくなっているため、DFSKARCO はこれらを抽出できません。

システムの処置

処理を続行します。

DBRC PRILOG レコード圧縮の対象ではない DFSKARCO による処理で指定された時刻範囲内でログ・データ・セット名の範囲が検出された場合、DFSKARCO によって生成される要約報告書に時刻範囲のこのサブセットの標識が含まれます。処理の終了時に、条件コード 8 が返されます。

プログラマーの応答

STRTTIME および STOPTIME 制御ステートメントを指定して、ユーティリティをログ・データ・セット名が使用可能な範囲に制限し、ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSKARCO

**DFS4321I ACTIVE OLDS DATA SET: *data set name*
WAS NOT INCLUDED IN THE
SELECTED DATA SETS**

説明

ログ・データ・セット名の RECON 照会ユーティリティによって、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) が処理のために選択されました。ユーティリティによって抽出されたデータ・セット名のリストからアクティブな OLDS を除外するために、NOACTIVEOLDS 制御ステートメントが指定されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

data set name

リストから除外されたアクティブな OLDS の名前

システムの処置

ログ・データ・セット名の RECON 照会ユーティリティは処理を続行します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSKARCO

DFS4324E PSB *psb_name* REFERENCED A DELETED DBD *dbd_name*. PST *pst_name*.

説明

プログラム・ビュー (PSB) *psb_name* を IMS ディレクトリー・データ・セットから削除できません。この作業単位内にこの PSB に対する DROP PROGRAMVIEW DDL ステートメントがないためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name

この作業単位で DROP DATABASE DDL ステートメントによって削除しようとしているデータベースの名前。

psb_name

データベース *dbd_name* への参照を含んでいますが、この作業単位では削除されないプログラム・ビュー (PSB) の名前。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置

プログラム・ビュー (PSB) *psb_name* はこのディレクトリーから削除されません。DROP DATABASE ステートメント内のデータベース *dbd_name* はこのディレクトリーから削除されません。

ユーザーの処置

まだ PSB が必要な場合は、DROP PROGRAMVIEW ステートメントおよび CREATE PROGRAMVIEW ステートメントをサブミットし、データベース *dbd_name* への参照をその PSB から除去してください。

PSB が不要になった場合は、DROP PROGRAMVIEW ステートメントをサブミットして、PSB を完全に削除してください。

モジュール:
DFSOLC70

関連情報

[DROP DATABASE \(アプリケーション・プログラミング API\)](#)

[DROP PROGRAMVIEW \(アプリケーション・プログラミング API\)](#)

DFS4325W MEMBER *mbr_name* WAS ALREADY DELETED FROM THE IMS DIRECTORY DATA SET. PST *pst_name*.

説明

メッセージ・テキストに示されている DBD または PSB メンバーを削除するための DDL DROP ステートメントがサブミットされましたが、その DBD または PSB が IMS ディレクトリー・データ・セット内に存在しないか、そこから既に削除されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mbr_name

DDL DROP ステートメントに指定された DBD または PSB メンバーの名前。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置

このメンバーを IMS ディレクトリー・データ・セットから除去するための要求は無視されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSOLC70

DFS4326E AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL DEFINITIONS SUBMISSION ABORTED. PST *pst_name*

説明

DDL 定義を活動化できません。このメッセージに先行して、エラーを示すエラー・メッセージ (例えば、DFS4328E、DFS4344E、DFS4340E、DFS4341E、DFS4349E、または DFS3537E) が発行されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置

DDL ストリームからの命令の処理は終了します。

オペレーターの応答:

先行するエラー・メッセージ (例えば、DFS4328E、DFS4344E、DFS4340E、DFS4341E、DFS4349E、ま

たは DFS3537E) を探して、障害の原因を特定してください。

オペレーターの応答:

エラーを解決し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール:

DFS3DL40, DFS3DL50

DFS4328E **DDL CHANGES COULD NOT BE
ACTIVATED. OTHER CHANGES IN
PROGRESS. REGION *regionname***

説明

IMS はデータベース・リソースに対する別の変更を既に処理しているため、現在サブミットされている DDL を処理できません。

進行中のリソース変更は、DDL ステートメントをサブミットすることによって開始されたか、以下のいずれかのコマンドを実行することによって開始された可能性があります。

- IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)
- CREATE DB
- DELETE DB

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

regionname

EXPLANATION

システムの処置

DDL 定義の自動アクティブ化が失敗しました。コミットされていない作業はすべてバックアウトされます。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

進行中の変更が完了するのを待ってから、IMS に DDL ステートメントを再サブミットしてください。

別のオンライン変更コマンドが進行中の場合は、そのコマンドが完了するのを待ってから、DDL 定義の自動活動化を再実行します。

IMS が既にオンライン変更コマンドによってオンライン変更準備状態になっていて、コマンドが IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) でない場合は、そのオンライン変更を終了するかコミットしてから、DDL 定義の自動活動化を再実行します。

モジュール:

DFS3DL40

DFS4329I **THE DDL-DEFINED DBD *dbd_name*
IS INSERTED INTO THE IMS**

DIRECTORY DATA SET. PST

pst_name

説明

メッセージ・テキストに示されている区画仕様テーブル (PST) タスクが、メッセージ・テキストに示されているデータベース (DBD) を IMS ディレクトリー・データ・セットに追加しています。その DBD はそれ以前に IMS ディレクトリー・データ・セット内にありませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name

IMS ディレクトリー・データ・セットに追加されているデータベース (DBD)。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理している PST タスクの名前。

システムの処置

PST タスクは、DBD を IMS ディレクトリー・データ・セットに追加し、DDL ストリームからの以降の命令の処理を続行します。

指定されている活動化オプションに応じて、データベースは停止状態になっていることも、オンライン・システムにまだ認識されていないことも考えられます。

プログラマーの応答

以下のいずれかのコマンドを発行して、データベースがオンライン・システムに認識されているかどうかを確認してください。

- QUERY DB
- /DISPLAY DB

データベースが見つからない場合は、CREATE DB IMS タイプ 2 コマンドを発行するか、または DATABASE ステージ 1 システム定義マクロをコーディングし、システム定義を実行し、IMS を再始動します。

モジュール:

DFSOLC70

関連資料

[QUERY DB コマンド \(コマンド\)](#)

[/DISPLAY DB コマンド \(コマンド\)](#)

[CREATE DB コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4330I **ACBLIB KEYWORD IS INVALID
WHEN DIRECTORY IS ENABLED.**

説明

/MODIFY PREPARE ACBLIB コマンドは処理されません。ACB の IMS 管理が使用可能になった IMS システム内で ACBLIB キーワードが無効であるためです。

システムの処置

コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答

DDL コマンドを使用して IMS カタログで変更を行い、IMPORT DEFN コマンドを使用してディレクトリー内でそれらの変更を活動化し、オンラインにします。

DFS4331E ERROR ALLOCATING THE IMS DIRECTORY BOOTSTRAP DATA SET FOR REASON *rc*

または

ERROR READING THE IMS DIRECTORY BOOTSTRAP DATA SET FOR REASON *rc*

説明

DFS4331E では以下の理由コードが返される可能性があります。

コード
説明

- 1 ストレージの取得に失敗しました。
- 2 データ・セットのエンキューに失敗しました。
- 3 データ・セットを割り振るために待機しています。データ・セットが既に割り振られているか、または別のジョブがそのデータ・セットを使用しています。
- 4 データ・セットの割り振りができるようになったことを検出するためのタイマーのセットアップに失敗しました。
- 5 データ・セットのオープンに失敗しました。
- 6 データ・セットの読み取り中にデータの終わりが発生しました。
- 7 データ・セットの読み取り中に入出力エラーが発生しました。

8

データ・セットをクローズしている最中に、エラーが発生しました。

9

データ・セットの割り振り解除中にエラーが発生しました。

10

データ・セットの割り振りに失敗しました。サブコード *sc* については、「z/OS MVS Programming Authorized Assembler Services Guide」または「MVS/ESA プログラミング: 許可アセンブラー・サービスの手引き」の動的割り振りエラー・コードの項に説明があります。

11

データ・セットのデキュー時のエラー。

12

データ・セットの高位修飾子名を特定できません。高位修飾子名はカタログ・データベース・データ・セット名から取得されます。この名前は、DBRC=Y が指定されている場合は DBRC、DBRC=N が指定されている場合は IMS カタログ HALDB 区画定義データ・セットから取得されます。

13

データ・セットはまだ作成されていません。

14

割り振りの待機中です。データ・セットは使用中です。

15

指定された待機時間を超えました。

16

コンテンツは互換性がないか無効です。

システムの処置

理由コード 3 の場合、IMS オンライン・システムは最大 150 秒待機し、バッチ・ジョブはデータ・セットの割り振りができるようになるまで無制限に待機します。それ以外の理由コードの場合、IMS オンライン・システムは異常終了 U071 で終了し、バッチ・ジョブは異常終了 U0821 で終了します。

システム・プログラマーの応答

問題の原因がデータ・セットの競合にある場合は、問題を訂正し、IMS を再始動するかバッチ・ジョブを再実行します。

モジュール:

DFSDSSM0

関連資料

[z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈](#)

DFS4332E ERROR ALLOCATING THE IMS DIRECTORY DATA SET FOR

REASON rc or ERROR ALLOCATING THE IMS DIRECTORY DATA SET FOR REASON rc SUBCODE sc SPECIFIED IN BSDS

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

エラーの理由コード。

DFS4332E では以下の理由コードが発行される可能性があります。

コード

説明

- 1 ストレージの取得に失敗しました。
- 2 データ・セットを割り振るために待機しています。データ・セットが既に割り振られているか、または別のジョブがそのデータ・セットを使用しています。
- 3 データ・セットの割り振りができるようになったことを検出するためのタイマーのセットアップに失敗しました。
- 4 データ・セットのオープンに失敗しました。
- 5 データ・セットの割り振りに失敗しました。サブコード sc については、「z/OS MVS Programming Authorized Assembler Services Guide」または「MVS/ESA プログラミング: 許可アセンブラー・サービスの手引き」の動的割り振りエラー・コードの項に説明があります。割り振ることができなかった IMS ディレクトリー・データ・セット名が、ブートストラップ・データ・セット (BSDS) で指定されています。
- 6 データ・セットのエンキューに失敗しました。
- 7 データ・セットをクローズしている最中に、エラーが発生しました。
- 8 データ・セットのデキュー中にエラーが発生しました。
- 9 データ・セットの割り振り解除中にエラーが発生しました。

動的割り振りについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」の MVS 動的割り振り理由コードの説明を調べてください。

システムの処置

理由コード 2 の場合、IMS オンライン・システムは最大 150 秒待機し、バッチ・ジョブはデータ・セットの割り振りができるようになるまで無制限に待機します。それ以外の理由コードの場合、IMS オンライン・システムは異常終了 U071 で終了し、バッチ・ジョブは異常終了 U0821 で終了します。

システム・プログラマーの応答

問題の原因がデータ・セットの競合にある場合は、問題を訂正し、IMS を再始動するかバッチ・ジョブを再実行します。

動的割り振りについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」の MVS 動的割り振り理由コードシステム・プログラマーの応答を調べてください。

モジュール:

DFSDSSM0 DFSRDB30 DFSBIND0 DFSMOLS0

関連資料

[z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈](#)

DFS4333E	ERROR ALLOCATING THE IMS DIRECTORY STAGING DATA SET FOR REASON rc
-----------------	--

説明

IMS ディレクトリーのステージング・データ・セットには、そのディレクトリーにインポートされる IMS アプリケーション制御ブロックが含まれています。DDL 要求または IMPORT コマンドの処理中に、IMS がステージング・データ・セットを読み取ろうとしてエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

エラーの理由コード。

DFS4333E では以下の理由コードが発行される可能性があります。

コード 説明

- 1 ストレージの取得に失敗しました。
- 3 IMS オンライン・システムで 150 秒の待機時間が満了しました。DDL プロセスは終了します。
- 4 データ・セットのオープンに失敗しました。

5 データ・セットの割り振りができるようになったことを検出するためのタイマーのセットアップに失敗しました。

6 データ・セットのエンキューに失敗しました。

システムの処置

DDL 要求または IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドが失敗しました。

システム・プログラマーの応答

動的割り振りについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」の MVS 動的割り振り理由コードの説明を調べてください。

モジュール:
DFSDSSMO

関連資料

[z/OS: DYNALOC からのエラー理由コードの解釈](#)

DFS4334W **WAITING TO READ THE IMS DIRECTORY BOOTSTRAP DATA SET. IT IS EITHER IN USE OR ALREADY ALLOCATED.**

説明

オンライン IMS システムまたはバッチ・ジョブの始動中に、IMS またはバッチ・ジョブが IMS ディレクトリーのブートストラップ・データ・セットを読み取ることができませんでした。そのデータ・セットが別のジョブによって使用されていたためです。

システムの処置

IMS またはバッチ・アプリケーション・プログラムはデータ・セットが使用可能になるまで待ってから、始動処理を再開します。

オンライン IMS システムでは、150 秒を超えても競合が続くと、IMS システムは異常終了 U0071 で終了します。

バッチ・アプリケーション・プログラムの場合、IMS ではアプリケーション・プログラムが待機できる時間の制限はありません。データ・セットが使用可能にならない場合、アプリケーション・プログラムは、独自のタイマーを実装しているか、誰かが手動で終了しない限り、無制限に待機することになります。

システム・プログラマーの応答

許容時間内にデータ・セットが使用可能になり、始動処理が再開されれば、処置は不要です。

バッチ・ジョブでは、許容時間内にデータ・セットが使用可能にならず、バッチ・アプリケーション・プログラムが独自でタイムアウトにならない場合は、データ・セットの競合を解決し、必要であればバッチ・ジョブを再始動します。

オンライン IMS システムでは、データ・セットが 150 秒以内に使用可能にならない場合、IMS システムは DFS4331E を発行し、異常終了 U0071 で終了します。

モジュール:
DFSDSSMO

DFS4335E **ACBMGMT=CATALOG IS SPECIFIED, BUT THE IMS DIRECTORY DOES NOT EXIST.**

説明

オンライン IMS システムまたはバッチ・ジョブの始動中、ACBMGMT=CATALOG の指定があることで IMS ディレクトリーが使用可能になっていましたが、IMS ディレクトリーがまだ作成されていないか、(まれなケースですが) IMS ディレクトリーのブートストラップ・データ・セットが見つかりません。

システムの処置

IMS の始動が異常終了 U0071 で終了するか、バッチ・ジョブが異常終了 U0821 で終了します。

システム・プログラマーの応答

IMS ディレクトリーを使用せずに ACB ライブラリーから IMS を再始動するには、DFSDFxxx メンバーの <CATALOG> セクションにある ACBMGMT の指定を変更して ACBMGMT=ACBLIB に戻し、IMS を再始動します。

初めて ACB の IMS 管理を使用可能にしようとしているときにエラーが発生した場合は、[ACB の IMS 管理の使用可能化 \(システム定義\)](#)を参照してください。

既存の IMS ディレクトリーを使用して実行しているときにエラーが発生した場合、そのエラーの原因として可能性が高いのは、ブートストラップ・データ・セットの欠落または破損です。ブートストラップ・データ・セットが欠落しているか破損している場合は、IMS ディレクトリーの再作成が必要です。

IMS Catalog Database Library ユーティリティ (DFS3LU00) を使用して IMS カタログから IMS ディレクトリーを再作成するか、IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) を使用して ACB ライブラリー・データ・セットから IMS ディレクトリーを再作成できます。

モジュール:
DFSDSSMO

関連タスク

[ACB の IMS 管理の使用可能化 \(システム定義\)](#)

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション \(システム定義\)](#)

[IMS Catalog Library Builder ユーティリティ \(DFS3LU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4336W **WAITING TO READ THE IMS DIRECTORY DATA SET. IT IS EITHER IN USE OR ALREADY ALLOCATED.**

説明

オンライン IMS システムまたはバッチ・ジョブの始動中に、IMS またはバッチ・ジョブが IMS ディレクトリー・データ・セットを読み取ることができませんでした。そのデータ・セットが別のジョブによって使用されていたためです。

システムの処置

IMS またはバッチ・ジョブはデータ・セットが使用可能になるまで待ってから、始動処理を再開します。

オンライン IMS システムでは、150 秒を超えても競合が続くと、IMS システムは異常終了 U0071 で終了します。

バッチ・アプリケーション・プログラムの場合、IMS ではアプリケーション・プログラムが待機できる時間の制限はありません。データ・セットが使用可能にならない場合、アプリケーション・プログラムは、独自のタイマーを実装しているか、誰かが手動で終了しない限り、無制限に待機することになります。

システム・プログラマーの応答

許容時間内にデータ・セットが使用可能になり、始動処理が再開されれば、処置は不要です。

バッチ・ジョブでは、許容時間内にデータ・セットが使用可能にならない場合は、データ・セットの競合を解決し、必要であればバッチ・ジョブを再始動します。

オンライン IMS システムでは、データ・セットが 150 秒以内に使用可能にならない場合、IMS システムは DFS4332E を発行し、異常終了 U0071 で終了します。

モジュール:
DFS4336W

DFS4337E **THE IMS DIRECTORY DATA SET CANNOT BE FOUND.**

説明

オンライン IMS システムまたはバッチ・ジョブの始動中に、IMS またはバッチ・ジョブが IMS カタログのデ

ィレクトリー・データ・セットを検出できませんでした。そのディレクトリー・データ・セットがまだ作成されていないか、他の何らかの理由でそのデータ・セットが見つかりません。

システムの処置

IMS の始動は異常終了 U0071 で終了します。バッチ・ジョブは異常終了 U0821 で終了します。

システム・プログラマーの応答

ディレクトリー・データ・セットが見つからなかった理由を判別してください。

ディレクトリー・データ・セットがまだ作成されていない場合は、IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) を実行して作成します。

モジュール:
DFS4338W

DFS4338W **WAITING TO READ THE IMS DIRECTORY STAGING DATA SET. IT IS EITHER IN USE OR ALREADY ALLOCATED.**

説明

DDL 要求または IMPORT コマンドの処理中に、IMS が IMS ディレクトリーのステージング・データ・セットを読み取ることができませんでした。そのデータ・セットが既に割り振られていたか、別のジョブによって使用されていたためです。

システムの処置

IMS は DDL 要求または IMPORT コマンドの処理を待機させ、データ・セットが使用可能になると、その処理を再開します。

競合が 150 秒続くと、IMS はメッセージ DFS4333E を発行し、DDL 要求または IMPORT コマンドの処理を終了します。DDL 要求の処理中に行われた IMS カタログに対する更新はバックアウトされます。

システム・プログラマーの応答

競合が解決されたら、処理を再試行してください。

モジュール:
DFS4339E

DFS4339E **THE IMS DIRECTORY STAGING DATA SET CANNOT BE FOUND.**

説明

データベースまたはプログラム・ビューの定義を更新する DDL 要求または IMPORT コマンドの処理中に、IMS は IMS ディレクトリーのステージング・データ・セッ

トを読み取ろうとしましたが、そのデータ・セットが見つかりませんでした。そのデータ・セットがまだ作成されていなかったか、それ以外の理由でそのデータ・セットが見つかりません。

システムの処置

DDL 要求または IMPORT コマンドは失敗します。

システム・プログラマーの応答

ステージング・データ・セットが見つからなかった理由を判別してください。

ステージング・データ・セットがまだ作成されていない場合は、IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) を実行して作成します。

モジュール:
DFSDSSMO

DFS4340E **AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL DEFINITIONS FAILED FOR DBD**
dbd_name. REASON=reason_text
PST pst_name.

説明

メッセージの DBD 名に示されているデータベースに対する更新を、メッセージ・テキスト内の理由コードによって示されている理由が原因で自動的に活動化できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name
活動化できなかったデータベース (DBD) の名前。

pst_name
IMS ディレクトリー・データ・セットを更新していたプロセスの PST 名。

reason_text
DDL 要求を活動化できなかった理由を説明するテキスト。

システムの処置

DDL 定義の自動アクティブ化が失敗しました。コミットされていない作業はすべてバックアウトされます。

管理者の応答

理由コードを確認し、問題を訂正し、DDL ステートメントを IMS に再サブミットします。

モジュール:
DFSOLC70

DFS4341E **AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL DEFINITIONS FAILED FOR PSB**

psb_name. REASON=reason_text
PST pst_name.

説明

メッセージの *psb_name* フィールドに示されているプログラム・ビュー (PSB) の定義に対する更新を、メッセージの *reason_text* フィールドに記述されている理由が原因で自動的に活動化できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb_name
活動化できなかったプログラム・ビュー (PSB) の名前。

pst_name
IMS ディレクトリー・データ・セットを更新していたプロセスの PST 名。

reason_text
DDL 要求を活動化できなかった理由を説明するテキスト。

システムの処置

DDL 定義の自動アクティブ化が失敗しました。コミットされていない作業はすべてバックアウトされます。

システム・プログラマーの応答

理由コードを確認し、問題を訂正し、DDL ステートメントを IMS に再サブミットします。

モジュール:
DFSOLC70

DFS4342E **IMODULE INIT FAILED; RC=xx**
RSN=yyyyyyyy

説明

IMS IMODULE サービスの初期設定中にエラーが発生しました。IMS 初期設定は続行できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx
失敗した特定の初期設定の機能を示す戻りコード。指定できる値は、次のとおりです。

04

IMS ストレージ管理モジュール DFSMODU0 をロードできません。理由コードは、z/OS LOAD マクロから戻された 2 つの値の組み合わせです。理由コードの前半部分は、z/OS LOAD サービスが無条件に呼び出されたとしたら発行したであろう異常終了コードです。理由コードの後半部分は、異常終了コードに関連した理由コードです。例えば、08060004 は、システムの

異常終了 0806、理由コード 04 という意味です。

08

IMODSTAT ブロック (内部 IMS ストレージ・マネージャーのメイン制御ブロック) 用のストレージを取得できません。理由コードは、z/OS STORAGE マクロからの戻りコードです。

0C

内部 IMODULE トレース・テーブル用のストレージを取得できません。理由コードは、z/OS STORAGE マクロからの戻りコードです。

10

IMODULE サービス初期設定モジュール DFSMODX0 の動的ストレージ用のストレージを取得できません。理由コードは、z/OS STORAGE マクロからの戻りコードです。

14

専用ストレージのための 64 ビット・ストレージ・トラッキング・オブジェクトにストレージを取得できません。理由コードは、z/OS IARV64 マクロからの戻りコードです。

18

共通ストレージのための 64 ビット・トラッキング・オブジェクトにストレージを取得できません。理由コードは、z/OS IARV64 マクロからの戻りコードです。

1C

IMS ストレージ・クリーンアップ・モジュール DFSMODU2 をロードできません。理由コードは、z/OS LOAD マクロから戻された 2 つの値の組み合わせです。理由コードの前半部分は、z/OS LOAD サービスが無条件に呼び出されたとしたら発行したであろう異常終了コードです。理由コードの後半部分は、異常終了コードに関連した戻りコードです。例えば、08060004 は、システムの異常終了 0806、理由コード 04 という意味です。

20

IMS ストレージ・クリーンアップ・ルーチン DFSMODU2 の作業域用のストレージを取得できません。理由コードは、z/OS STORAGE マクロからの戻りコードです。

24

DL/I 分離アドレス・スペース (DLISAS) 領域が IMS IMODULE サービスを初期設定しようとしたが、関連する IMS 制御領域が DLISAS を使用して稼働しておらず、DL/I 用の IMODULE IMODASCT ブロックを割り振りませんでした。このエラーの原因は、関連する制御領域が DCCTL IMS であるか、LSO=Y (DL/I なし) で稼働しているときに、IMS システムの制御が及ばないところで、誤って DL/I アドレス・スペースを直接開始したことである可能性があります。

28

DLISAS 領域が IMS IMODULE サービスを初期設定しようとした。しかし、別の DL/I 領域が、同じ制御領域用に IMODULE サービスをすでに初期設定していました。このエラーの原因は、同じ IMS 制御領域用に開始した DL/I アドレス・スペースがすでにあるときに、IMS システムの制御が及ばないところで、誤って 2 番目の DL/I アドレス・スペースを直接開始したことである可能性があります。

yyyyyyyy

失敗したサービスからの戻りコードである理由コード。IARV64 戻りコードについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference Vol 2」(SA22-7610) を参照してください。STORAGE からのコードについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference Vol 4」(SA22-7612) を参照してください。LOAD から出される異常終了コードおよび理由コードについては、「z/OS MVS システム・コード」(SA88-8592) を参照してください。

システムの処置:

IMS は異常終了し、異常終了コード 0684 が示されます。

システム・プログラマーの応答:

このメッセージに記述されたエラーの原因が、ストレージ不足や IMS.SDFSRESL からのモジュール欠落などの環境条件である場合は、問題を訂正してください。その後、アドレス・スペースを再始動します。それ以外の場合は、メモリー・ダンプおよび SYSLOG 情報を保管し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DFSMODX0

関連資料

[z/OS: IARV64 マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

[z/OS: STORAGE OBTAIN の戻りコードおよび理由コード](#)

[z/OS: z/OS MVS システム・コード](#)

関連情報

IMS 異常終了 0684

DFS4343E

IMS STORAGE CLEANUPABEND
abend_code PSW=psw RSN=rsn
modname=module_address

説明

IMS の終了時に、IMS のストレージ・クリーンアップ処理で異常終了が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend_code

受け取った異常終了コード。Sxxx はシステムの異常終了、Uxxxx はユーザーの異常終了です。

psw

終了時の PSW (プログラム状況ワード) の内容。

rsn

ある場合は、異常終了の理由コード。ない場合は N/A。

modname

終了を検出した IMS クリーンアップ・モジュールの名前。このモジュールは、終了が発生したモジュールでない場合があります。

module_address

modname で識別されたモジュールのアドレス。

システムの処置

IMS のストレージ・クリーンアップ時に異常終了が発生すると、ストレージ・クリーンアップのリカバリー・ルーチンが z/OS から制御を受け取ります。リカバリー・ルーチンは、異常終了を分析し、適切な処置を実施し、診断データを収集します。リカバリー・ルーチンは、処理中に発生する最初の異常終了の SDUMP を取ります。可能な場合、リカバリー・ルーチンは終了からリカバリーし、ストレージの解放を続行するためにストレージ・クリーンアップ・ルーチンに制御を返します。

2 回目以降の異常終了では、リカバリー・ルーチンはこのメッセージを発行して LOGREC にエラー項目を作成しますが、これ以上は SDUMP を取りません。

システム・プログラマーの応答:

メモリー・ダンプのコピーおよびこの終了に関連する LOGREC レコードを保管します。その上で、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DFSMODX0

DFS4344E	AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL DEFINITIONS FAILED. REASON=reason_text PST pst_name.
-----------------	---

説明

DDL ステートメントによって IMS にサブミットされたデータベースまたはプログラム・ビューに対する更新を、メッセージ・テキスト内の理由コードによって示された理由が原因で自動的に活動化できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pst_name

IMS ディレクトリー・データ・セットを更新していたプロセスの PST 名。

reason_text

DDL 要求を活動化できなかった理由を示すコード。

システムの処置

DDL 定義の自動アクティブ化が失敗しました。コミットされていない作業はすべてバックアウトされます。

管理者の応答

理由コードを確認し、問題を訂正し、DDL ステートメントを IMS に再サブミットします。

モジュール:

DFS3DL40、DFS3DL50、DFSOLC70

DFS4349E	AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL DEFINITIONS FAILED. PSB psb_name NOT REBUILT FOR DBD dbd_name. REGION pst_name
-----------------	---

説明

DDL 定義を活動化できません。psb_name フィールドに示されているプログラム・ビュー (PSB) はデータベース dbd_name を参照していますが、DBD 変更に対する PSB が再作成されませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name

変更されたデータベースの名前。

psb_name

再作成されなかったプログラム・ビュー (PSB)。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置

DDL 定義の自動アクティブ化が失敗します。

管理者の応答

この PSB の DDL 定義の変更を、この変更された DBD の DDL とともに追加し、DDL を再サブミットしてください。

モジュール:

DFSOLC70

DFS4350E	ddname function ERROR, RC=rc
-----------------	-------------------------------------

説明

ddname データ・セットに対して、識別された機能が失敗しました。OPEN 機能および CLOSE 機能の戻りコードは、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」に記載されています。RDJFCB 戻りコードは、「z/OS DFSMSdfp Advanced Services」に記載されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

データ・セット名。

function

以下の機能はいずれも、このメッセージが出される結果となる可能性があります。

- OPEN
- CLOSE
- RDJFCB

rc

機能からの戻りコード。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

システム・プログラマーの応答:

データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認します。

モジュール:

DFS3UCD0

関連資料

z/OS: OPEN -- プログラムとデータの接続 (BDAM、VSAM への BISAM インターフェース、BPAM、BSAM、VSAM への QISAM インターフェース、および QSAM)

z/OS: CLOSE - プログラムとデータの切断 (BDAM、BISAM、BPAM、BSAM、QISAM、および QSAM)

z/OS: RDJFCB マクロの仕様

第 90 章 DFS メッセージ DFS4351E - DFS4400E

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4351E *pgmname* ENCOUNTERED AN
ERROR TRYING TO READ THE
ddname DATA SET RC=*rc*

説明

pgmname で示されたユーティリティが、*ddname* で示されたデータ・セットを読み取ろうとしましたが、データ・セットを開いて読み取る BPERDPDS マクロでエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pgmname
モジュール ID。

ddname
読み取りエラーを検出したデータ・セット。

rc
BPERDPDS からの戻りコード。

システムの処置:
ユーティリティは終了します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答:
データ・セット名が正しいことを確認してください。

モジュール:
DFS3UCD0

DFS4352E *pgmname* ENCOUNTERED AN
ERROR TRYING TO READ THE
ddname DATA SET RC=*rc*

説明

pgmname で識別されたユーティリティが、*ddname* で識別されたデータ・セット内の情報を構文解析しようとしてエラーを検出しました。BPEPARSE サービスを使用してデータ・セットが解析されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pgmname
モジュール ID。

ddname
構文解析エラーが検出されたデータ・セット。

rc
BPEPARSE からの戻りコード。

システムの処置:
ユーティリティは終了します。

システム・プログラマーの応答:
追加の BPE メッセージがこのメッセージと同時に生成されます。構文解析エラーの詳細については、これらのメッセージを参照してください。

モジュール:
DFS3UCD0

DFS4353I *pgmname* PROCESSING
COMPLETED, RC=*rc* RSN=*rsn*

説明

pgmname ユーティリティは正常に処理を完了しました。通常、このメッセージには、追加のユーティリティまたはマクロのメッセージが続きます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pgmname
モジュール ID。

rc
ユーティリティからの戻りコード。

rsn
ユーティリティからの理由コード。

システムの処置:
ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答:
戻りコードがゼロでない場合は、処理中にエラーが発生している可能性があります。このユーティリティで生成された他のメッセージを調べて、トラブルシューティングの必要があるかどうかを判別してください。

モジュール:
DFS3UCD0

関連資料

[IMS カタログ区画定義データ・セット・ユーティリティ \(DFS3UCD0\)](#)

DFS4354E FAILURE OBTAINING STORAGE,
RC=*rc* RSN= *rsn*

説明

pgmname で識別されたユーティリティがストレージの取得中にエラーを検出しました。通常、このエラーは、領域サイズが十分に大きくない場合に発生します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pgmname

モジュール ID。

rc

STORAGE OBTAIN マクロからの理由コード。

rsn

ストレージ・ブロックのタイプを識別します。

1

Grammar

2

構文解析された出力

3

定義制御ブロック

システムの処置:

ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答:

ユーティリティが実行している領域のサイズを増やして、ジョブを再実行します。

モジュール:

DFS3UCD0

DFS4355E **HIKEY=YES CANNOT BE SPECIFIED WITH PARTSEL, HALDB=dbname**

説明

HALDB は区画選択出口値またはハイ・キー値のいずれかを使用できますが両方を同時に使用することはできません。

システムの処置:

ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答:

DFS3UCD0 ユーティリティの HALDB SYSIN ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFS3UCD0

DFS4356I **HALDB dbname SUCCESSFULLY DEFINED**

説明

DFS3UCD0 ユーティリティは、*dbname* データベースの区画定義データ・セットを正常に作成しました。

システムの処置:

ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3UCD0

DFS4357E **NO PART STATEMENT SPECIFIED IN SYSIN FOR HALDB=dbname**

説明

DFS3UCD0 ユーティリティの SYSIN ステートメントには、*dbname* で識別された HALDB の PART ステートメントが入っていません。

システムの処置:

ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答:

データベースに PART ステートメントを追加するか、データベースの HALDB ステートメントを削除して、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFS3UCD0

DFS4358E **PART STATEMENT HAS NO CORRESPONDING HALDB STATEMENT, HALDB=dbname PART=partname**

説明

識別された区画に HALDB ステートメントが指定されていません。

システムの処置:

ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答:

DFS3UCD0 ユーティリティの SYSIN ステートメントを訂正します。適切な HALDB ステートメントを追加するか、識別された PART ステートメントを削除するか、いずれかを実行し、ジョブを再実行してください。

モジュール:

DFS3UCD0

DFS4359E **KEYWORDS KEYSTCHAR AND KEYSTHEX CANNOT BE SPECIFIED TOGETHER, HALDB=dbname PART=partname**

説明

DFS3UCD0 ユーティリティの HALDB PART ステートメントのパラメーター、KEYSTCHAR と KEYSTHEX が相互に排他的です。区画にハイ・キー値または選択ストリングのいずれか一方を、文字形式 (KEYSTCHAR) または 16 進形式 (KEYSTHEX) のいずれかで指定します。

システムの処置:

ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答:

DFS3UCD0 ユーティリティの HALDB PART ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール:
DFS3UCD0

DFS4360E **statement STATEMENT CONTAINS AN INVALID VALUE IN KEYWORD keyword, HALDB=dbname PART=partname**

説明

示されたキーワード値は無効です。これは通常、値が長すぎるか短すぎる、あるいは、数値が有効な範囲外であることが原因の、正しくない文字が使用された場合に発生します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

statement

無効なパラメーター値が含まれているステートメント。

keyword

無効なパラメーター値が指定されたキーワード。

dbname

ユーティリティに指定された HALDB データベース名。

partname

ユーティリティに指定された HALDB 区画名。

システムの処置:

DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答:

キーワード値を訂正し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFS3UCD0

DFS4361E **MORE BLOCKSIZE VALUES ARE SPECIFIED THAN THE NUMBER OF DATA SET GROUPS (nn), HALDB=dbname PART=partname**

説明

dbname という名前の HALDB が *nn* 個のデータ・セット・グループを使用しています。DFS3UCD0 ユーティリティ・ジョブの PART ステートメントが、*nn* より多いブロック・サイズ値を BLOCKSIZE パラメーターに指定しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nn

dbname HALDB が使用するデータ・セット・グループの数。

dbname

データベース名。

partname

HALDB 区画名。

システムの処置:

DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答:

BLOCKSZE パラメーターを訂正し、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行してください。

モジュール:

DFS3UCD0

DFS4362E **A HIGH KEY IS REQUIRED FOR THIS PARTITION, HALDB=dbname PART=partname**

説明

識別された HALDB 区画 (*partname*) の PART ステートメントが、ハイ・キー値を指定しませんでした。*dbname* で識別された HALDB は、区画選択出口ルーチンを使用していないため、ハイ・キー値は必須です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname

データベース名。

partname

HALDB 区画名。

システムの処置:

DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答:

KEYSTCHAR パラメーターまたは KEYSTHEX パラメーターのいずれかでハイ・キー値を指定し、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行します。

モジュール:

DFS3UCD0

DFS4363E **A PARTITION SELECTION EXIT IS REQUIRED WHEN HIKEY=NO IS SPECIFIED, HALDB=dbname**

説明

DFS3UCD0 ユーティリティで HIKEY=NO キーワードを使用する HALDB ステートメントは、区画選択出口ルーチンを使用しなければなりません。PARTSEL キーワードが含まれているか、名前が無効です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname

データベース名。

システムの処置:

DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答:

PARTSEL キーワードを使用する区画選択出口ルーチンを指定し、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行してください。出口ルーチンの名前は、ユーティリティのSYSIN ステートメントとデータベースの DBDLIB メンバーのいずれかで指定できます。

モジュール:
DFS3UCD0

DFS4364E **statement STATEMENT SPECIFIES A DUPLICATE nametype NAME, HALDB|PART=name**

説明

HALDB 名および HALDB 区画名は全体を通じて固有でなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

statement

重複名のある SYSIN ステートメント。

nametype

重複名を使用しているリソースのタイプ。

name

データベースまたはデータベース区画の名前。

システムの処置:

DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答:

重複名を訂正し、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFS3UCD0

DFS4365E **INVALID KEY OR STRING VALUE SPECIFIED IN PART STATEMENT, HALDB=dbname PART=partname RSN=reason**

説明

DFS3UCD0 ユーティリティの PART ステートメントの *partname* に、KEYSTCHAR または KEYSTHEX のいずれかのキーワードによる無効なハイ・キー値が指定されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname

HALDB 名。

partname

HALDB 区画名。

reason

指定したキー値が無効である理由。

KEY TOO LONG

指定されたハイ・キー値は、HALDB のルート・キーの長さを超えています。

ODD NUMBER HEX

奇数個の文字が KEYSTHEX パラメーターに対して指定されました。16 進値には偶数個の文字が入っていなければなりません。

INVALID HEX

無効な文字が KEYSTHEX パラメーターに対して指定されました。16 進値には、1 から 9 の数字および A から F の文字を含めることができます。

DUPLICATE KEY

HALDB の各区画のハイ・キー値は、その HALDB 内部で固有でなければなりません。指定されたキー値は、直前の PART ステートメントで使用されました。

システムの処置:

DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答:

KEYSTCHAR または KEYSTHEX のパラメーター値を訂正し、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFS3UCD0

DFS4366E **TOO MANY PARTITIONS SPECIFIED FOR HALDB=dbname**

説明

HALDB には、1,001 個より多くの区画を指定することはできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname

HALDB 名。

システムの処置:

DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答:

この HALDB に定義された HALDB 区画の数を減らしてから、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFS3UCD0

DFS4367E **ddname CANNOT CONTAIN CONCATENATED DATA SETS**

説明

DFS3UCD0 ユーティリティで実行依頼された DD ステートメントに複数のデータ・セットが含まれていま

す。このユーティリティーでは複数のデータ・セットはサポートされていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

DD ステートメントの名前

システムの処置:

DFS3UCD0 ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答:

DD ステートメントを訂正し、DFS3UCD0 ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:

DFS3UCD0

**DFS4368E DBDLIB PROCESSING ERROR,
RSN=rsncode DB=dbname**

説明

IMS カタログ区画定義データ・セット・ユーティリティーが、IMS DBDLIB の処理中にエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsncode

次のいずれかの理由コード。

- 1 IMS DD ステートメントがない
- 2 IMS DD オープン・エラー
- 3 データベースが DBDLIB に見つからない
- 4 指定された DB が HALDB ではない

dbname

理由コード 3 および 4 の場合、このフィールドは、見つからなかったデータベースか、HALDB ではないデータベースの名前を示します。理由コード 1 および 2 の場合、このフィールドはブランクです。

システムの処置:

DFS3UCD0 ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答:

DD ステートメントを訂正し、DFS3UCD0 ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:

DFS3UCD0

**DFS4369I THE DDL-DEFINED DBD dbd_name
REPLACED A PRIOR INSTANCE OF
THE DBD IN THE IMS DIRECTORY
DATA SET. PST pst_name**

説明

メッセージ・テキストに示されている区画仕様テーブル (PST) タスクが、メッセージ・テキストに指定されているデータベース (DBD) の既存のインスタンスを、その DBD の更新された DDL 定義のインスタンスに置き換えています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name

IMS ディレクトリー・データ・セット内で置き換えられているデータベース (DBD)。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置

PST タスクは、IMS ディレクトリー・データ・セット内の DBD を更新された DBD に置き換え、DDL ストリームからの命令の処理を続行します。

データベースは停止状態のままです。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSOLC70

関連資料

[QUERY PGM コマンド \(コマンド\)](#)
[/DISPLAY PGM コマンド \(コマンド\)](#)

**DFS4370I SHUTDOWN IS CHECKING
RESOURCES FOR AUTOEXPORT TO
REPOSITORY TYPE=repotype.
NAME=reponame.**

説明

IMS シャットダウン・コマンドが、IMSRSC リポジトリーへの自動エクスポート (autoexport) が使用可能に設定された IMS システムに発行されると、IMS シャットダウンでは最初にリポジトリーへの自動エクスポートが処理されてから、IMS シャットダウン処理が開始されます。DFS4370I メッセージは、IMS によって IMSRSC リポジトリーへの自動エクスポートが開始される前に発行されます。

DFS4370I メッセージは、前回の EXPORT または自動エクスポート以降に作成または更新され、リポジトリーに書き込む必要があるリソース定義および記述子定義があるかどうかの確認が、IMS シャットダウンによって開始されていることを示します。IMS シャットダウンのメインプロセスは、リソース・チェックが行われ、自動エクスポート (必要な場合) が正常に完了するまで開始されません。

シャットダウン・コマンドが OM API から発行された場合でも、DFS4370I メッセージがシステム・コンソールと MTO に発行されます。このメッセージは IMS システム処置を示すもので、コマンド応答ではありません。

DFS4370I メッセージが発行されると、IMS システムが autoexport 処理を開始し、それによって以下のいずれかの結果が生じます。

- 別の自動エクスポート、EXPORT コマンド、IMPORT コマンド、あるいは CREATE、UPDATE、または DELETE のいずれかの IMS コマンドが進行中の場合、IMS シャットダウン時の autoexport 処理は待機します。
- IMS シャットダウン時の autoexport で、エクスポートするリソース定義が見つかり、autoexport が開始されます。この場合、DFS4390I INITIATED メッセージが発行され、その後に DFS4390I COMPLETED | FAILED メッセージが発行されます。IMS シャットダウン時の autoexport が失敗すると、IMS シャットダウン処理が強制終了されたことを示す DFS4391I メッセージが発行されます。実行できる処置については、メッセージ DFS4391I のユーザー処置を参照してください。
- IMS シャットダウン時の autoexport で、エクスポートするリソース定義が見つかりません。この場合、他の autoexport メッセージは発行されず、IMS シャットダウンが開始されます。

別の autoexport または他の IMS コマンド EXPORT、IMPORT、CREATE、UPDATE、または DELETE が進行中の場合、DFS4370I メッセージが発行されてから、IMS シャットダウンが開始されるか DFS4390I メッセージが発行されるまでの間に遅延が生じる可能性があります。リポジトリに書き込まれるリソース定義の数が多いために autoexport または EXPORT コマンドに長時間かかる場合、この遅延が大幅に拡大する可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reptype

リポジトリ・タイプ。有効な唯一の値は IMSRSC です。

reponame

リポジトリ名。

システムの処置

DFS4370I が発行された後の IMS の処置については、このトピック内の前出の説明を参照してください。リポジトリへの自動エクスポートが正常に完了した後、または autoexport を行うリソース定義がない場合、IMS シャットダウン処理が開始されます。autoexport 中にエラーが発生すると、IMS シャットダウンは失敗します。

ユーザーの処置

IMS によって DFS4370I メッセージが発行されたときに、IMS が IMS シャットダウン処理の開始も、DFS4390I AUTOEXPORT メッセージの発行も行わない場合、IMS はシャットダウン処理の自動エクスポートが開始されるのを待機しています。それ以前の自動エクスポートが進行中でないか、他の IMPORT、EXPORT、CREATE、UPDATE、または DELETE コマンドが進行中でないかどうかを確認してください。CREATE, UPDATE, or DELETE commands are in progress.

また、RM 内で強調表示されたメッセージを探して、IMS からの autoexport がロックを待機していないかどうかを確認してください。

IMS は、autoexport が完了するまでシャットダウン処理を開始できません。

モジュール:
DFSICM30

DFS4371W	IMS STOPPED TRANSACTION OR PROGRAM TO ACTIVATE DDL DEFINITIONS FOR PSB <i>psb_name</i>.
-----------------	--

説明

メッセージ・テキストに示されているプログラム・ビュー (PSB) の定義を変更する DDL ステートメントが IMS にサブミットされました。これらの変更を活動化するために、IMS はトランザクションまたはプログラムを停止しました。

システムの処置

メッセージ・テキストに示されている PSB に関連付けられたトランザクションまたはプログラムが停止されています。PSB の定義変更は活動化されます。そのトランザクションまたはプログラムは停止したままです。

オペレーターの応答

IMS が PSB の変更の活動化を完了したら、トランザクションまたはプログラムを再始動してください。トランザクションの場合は、タイプ 2 コマンド UPDATE TRAN START(SCHD) またはタイプ 1 /START TRAN コマンドを使用します。プログラムの場合は、タイプ 2 コマンド UPDATE PGM START(SCHD) またはタイプ 1 /START PGM コマンドを使用します。

モジュール:

DFS4372I	THE DDL-DEFINED PSB <i>psb_name</i> REPLACED A PRIOR INSTANCE OF THE PSB IN THE IMS DIRECTORY DATA SET. PST <i>pst_name</i>
-----------------	--

説明

メッセージ・テキストに示されている区画仕様テーブル (PST) タスクが、メッセージ・テキストに示されているプログラム・ビュー (PSB) の既存のインスタンスを、その PSB の更新された DDL 定義のインスタンスに置き換えています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb_name

IMS ディレクトリー・データ・セットで置き換えられているプログラム・ビュー (PSB)。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置

PST タスクは、IMS ディレクトリー・データ・セット内の PSB を更新された PSB に置き換え、DDL ストリームからの命令の処理を続行します。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSOLC70

関連資料

[QUERY PGM コマンド \(コマンド\)](#)

[/DISPLAY PGM コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4373I **IMS INITIALIZATION IS WAITING FOR IMS *ims_id* TO COMPLETE AN IMPORT FROM THE SHARED IMS CATALOG**

説明

この IMS システムは、IMS *ims_id* が **IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG)** コマンドの処理を完了するのを待機しています。

システムの処置

IMS システムは待機しています。

プログラマーの応答

QUERY MEMBER TYPE (IMS) SHOW (STATUS) コマンドを発行して、インポート処理の現在の状況を判別してください。

モジュール:

DFSRDB30

関連資料

[IMPORT DEFN SOURCE \(CATALOG\) コマンド \(コマンド\)](#)

[QUERY MEMBER コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4374W **I/O ERROR READING MEMBER DFSIMSL.**

説明

IMS システムは、共用 IMS カタログの IMS ディレクトリー・データ・セットの DFSIMSL メンバーを読み取ることができませんでした。DFSIMSL メンバーは、IMS カタログを共用する IMS システムの自動生成リストです。

システムの処置

IMS システムはメンバー DFSIMSL の再作成を試みます。

プログラマーの応答

この同じ IMS カタログを共用する他の IMS システムのウォーム・スタートを実行して、DFSIMSL メンバー内のリストの IMS ID が最新であることを確認してから、IMPORT コマンドを再発行してください。

モジュール

DFSRDB30

DFS4375I **UOW ABORTED FOR ONLINE ACTIVATION OF ACB RESOURCE: FOUND LOG RECORD 70nn. TOKEN=cccccccccccccccc.**

説明

IMS の再始動または FDBR のテークオーバー時に、IMS カタログ・データベース内にコミットされていない更新が見つかりました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccccccccccc

メンバー・オンライン変更 (MOLC) 作業単位 (UOW) トークン。

nn

4 桁のログ・レコード番号の最後の 2 桁。例えば、以下のようなログ・レコードが表示される可能性があります。

- 7005
- 7007
- 7008
- 7014

システムの処置

IMS は、IMS カタログ内のコミットされていない更新に対応する UOW での、IMS ディレクトリー・データ・セットに対するすべての更新をバックアウトします。

システム・プログラマーの応答

IMPORT コマンドを再発行するか、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール:
DFSMOL20

**DFS4376I UOW COMMITTED FOR ONLINE
ACTIVATION OF ACB RESOURCE:
FOUND LOG RECORD 70nn.
TOKEN=cccccccccccccc.**

説明

カタログ・データベースとディレクトリー・データ・セットの両方に対する更新がコミットされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccccccccc
メンバー・オンライン変更 (MOLC) 作業単位 (UOW) トークン。

nn
4 桁のログ・レコード番号の最後の 2 桁。例えば、以下のようなログ・レコードが表示される可能性があります。

- 7005
- 7007
- 7008
- 7014
- 7015

システムの処置

IMS の再始動時または FDBR のテークオーバー時に、カタログ・データベースに対する更新がコミットされたため、IMS は、この UOW での IMS ディレクトリー・データ・セットに対するすべての変更もコミットしました。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSMOL20

**DFS4377I AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
SUBMISSION COMPLETE. RC=00.
PST *pst_name***

説明

DDL ストリーム内のすべての命令が、IMS ディレクトリー・データ・セットに正常に適用されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pst_name
DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

rc
PST タスクが発行した戻りコード。

システムの処置

リソース更新のタイプおよび指定された活動化オプションに応じて、リソースの変更が直ちに活動化される場合も、それらの変更が IMS システムでアクティブになる前にリソースで追加のステップ (例えば、IMS タイプ 2 CREATE コマンドの発行) を行わなければならない場合もあります。

管理者の応答:
IMS タイプ 2 QUERY コマンドを使用してリソースがアクティブであることを確認し、アクティブでない場合は、必要な追加ステップを実行してリソースを活動化してください。

モジュール:
DFS3DL50

関連資料

- [QUERY DB コマンド \(コマンド\)](#)
- [QUERY PGM コマンド \(コマンド\)](#)
- [CREATE DB コマンド \(コマンド\)](#)
- [CREATE PGM コマンド \(コマンド\)](#)

**DFS4379W IMS STOPPED DATABASE
dbd_name TO ACTIVATE DDL
DEFINITION CHANGES.**

説明

メッセージ・テキストに示されているデータベースの定義を変更する DDL ステートメントが IMS にサブミットされました。これらの変更を活動化するために、IMS はデータベースを停止しました。

システムの処置

メッセージ・テキストに示されているデータベースが停止されています。データベースの定義変更は活動化されません。データベースは停止したままです。

オペレーターの応答

IMS がデータベース変更の活動化を完了したら、タイプ 2 コマンド UPDATE DB START (ACCESS) またはタイプ

1 /START DB コマンドを発行してデータベースを再始動してください。

モジュール:

DFS4380W **OTMA XCF MESSAGES FROM
member name HAVE REACHED
80% OF THE MAXIMUM MESSAGE
LIMIT nnn**

説明:

IMS システムが、RACF I/O、キュー・マネージャー I/O、またはその他の不明な内部コンポーネントの問題を検出したため、OTMA 処理がスローダウンする可能性があります。IMS Connect または IBM MQ などの OTMA クライアントからの XCF メッセージが IMS に停滞し、潜在的なあふれ状態が生じる可能性があります。OTMA は、この状態を検出するとこの警告メッセージを発行します。その後、OTMA クライアントが後続のトランザクションを他の IMS に転送できるように、プロトコル・メッセージを送出します。OTMA クライアントからの XCF メッセージは、後でスローダウン状態が軽減または解決したときに、この IMS によって処理されます。IMS システムで OTMA トランザクションの有効期限機能がアクティブ化されている場合は、これらの XCF メッセージは廃棄されることがあります。

システムの処置:

処理を続行します。OTMA プロトコル・メッセージが警告状況とともに OTMA クライアントに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

潜在的な XCF メッセージあふれがこの IMS で発生しました。新規トランザクション要求を他の IMS に転送してください。

モジュール:

DFSYSNDO

DFS4381I **OTMA XCF MESSAGE FLOOD
CONDITION HAS BEEN RELIEVED
FOR MEMBER name**

説明:

OTMA XCF メッセージ数が、最大限度の 50% に達しました。OTMA は、この状態を軽減状態とみなし、この通知メッセージを発行しました。

システムの処置:

処理を続行します。OTMA プロトコル・メッセージが OK 状況とともに OTMA クライアントに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

XCF メッセージあふれは解決しました。この IMS は OTMA クライアントからの新規トランザクションを処理できます。

モジュール:

DFSYSNDO

DFS4382W **THE TOTAL OTMA TPIPE COUNT
nnnnn HAS REACHED 80% OF
mmmmm for MEMBER name**

説明

OTMA は、トランザクション・パイプ (Tパイプ) の数が、記述子ファイルにユーザーが設定した最大数 *mmmmm* の 80% に達したか超過したことを検出しました。OTMA は、各 OTMA メンバーにこの警告メッセージを発行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn

現在の Tパイプの数

mmmmm

ユーザーがこのメンバーに設定している Tパイプの制限数

name

メンバーの名前

システムの処置:

システムは Tパイプの作成を続行します。

システム・プログラマーの応答:

メンバーごとに Tパイプの数のモニターを開始します。活動停止中の tpipe をクリーンアップするためにチェックポイントを 3 回発行します。

モジュール:

DFSYFD00

DFS4383E **THE TOTAL OTMA TPIPE COUNT
nnnnn HAS REACHED 100% OF
mmmmm for MEMBER name**

説明

OTMA は、トランザクション・パイプ (Tパイプ) の数が、ユーザーが記述子ファイルに設定した *mmmmm* で示す最大制限数に到達したか超過したことを検出しました。OTMA は、OTMA メンバーごとにこのメッセージを発行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn

現在の Tパイプの数

mmmmm

ユーザーがこのメンバーに設定している Tパイプの制限数

name

メンバーの名前

システムの処置:

処理は停止します。IMS は Tパイプの作成を停止し、このメッセージを発行します。

システム・プログラマーの応答:

OTMA Tパイプのオーバーフローがこの IMS で発生しました。OTMA は新規 Tパイプの作成を停止します。活動停止中の Tパイプをクリーンアップするためにチェックポイントを 3 回発行します。これでシステムは新規 Tパイプの作成を続行できます。

モジュール:
DFSYFD00

**DFS4384I THE TOTAL OTMA TPIPE COUNT
nnnnn HAS DECREASED BELOW xx
% OF mmmmm for MEMBER name**

説明

OTMA は、トランザクション・パイプ (Tパイプ) の数が、ユーザーが記述子ファイルに設定した、mmmmm に示されている最大限度の xx パーセントを下回ったことを検出しました。OTMA は、OTMA クライアントごとにこの警告解除メッセージを発行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn
現在の Tパイプの数

xx
最大限度の警告解除レベル。この警告解除レベルは、OTMA クライアント記述子で設定できます。デフォルトは 50 です。

mmmmm
ユーザーがこのメンバーに設定している Tパイプの制限数

name
メンバーの名前

システムの処置:
システムは Tパイプの作成を続行します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSYFD00

**DFS4385W THE GLOBAL OTMA TPIPE
COUNNT nnnnn HAS REACHED
100% OF kkkkk**

説明

OTMA は、トランザクション・パイプ (Tパイプ) の総数が、kkkkk で示されるモニタリング・ポイントに到達したか超過したことを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn
Tパイプの現在の総数。

kkkkk
グローバル・モニタリング・ポイント。これは、すべてのメンバーに設定した Tパイプの最大数です。

システムの処置:
システムは Tパイプの作成を続行します。

システム・プログラマーの応答:

メンバーごとに Tパイプの数のモニターを開始します。活動停止中の Tパイプをクリーンアップするためにチェックポイントを 3 回発行します。

モジュール:
DFSYFD00

**DFS4386I THE GLOBAL OTMA TPIPE COUNT
nnnnn HAS DECREASE BELOW
80% OF kkkkk**

説明

OTMA は、トランザクション・パイプ (Tパイプ) の総数が kkkkk で示されたモニタリング・ポイントの 80% 未満になったことを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn
Tパイプの現在の総数。

kkkkk
グローバル・モニタリング・ポイント。これは、すべてのメンバーに設定した Tパイプの最大数です。

システムの処置:
システムは Tパイプの作成を続行します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSYFD00

**DFS4387I MEMBER rsc_name HAS NO
CHANGE**

説明

IMPORT コマンドまたは DDL 活動化の処理中に、ステージング・データ・セット内でディレクトリー・データ・セット内のものと同じメンバーが見つかりました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsc_name
変更されていない DBD リソースまたは PSB リソースの名前。

システムの処置

IMPORT コマンドまたは DDL 活動化のプロセスは続行されます。データ・セットの入出力エラーまたはデータ・セット満杯状態が発生したために IMPORT コマンドまたは DDL 活動化を再実行すると、メンバーがそのディレクトリーに再度コピーされる場合があります。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSOLC70

**DFS4388W THE TOTAL OTMA INPUT
MESSAGES(TIB) HAVE REACHED
OR EXCEEDED THE GLOBAL LIMIT
nnn**

説明:

OTMA は、コミット・モード 1 (CM1) メッセージ・ブロック (YTIB) の総数が、メッセージ・テキスト内で *nnn* で示される警告限度に達したかまたは超えたことを検出しました。OTMA は、このメッセージあふれ状態をすべての OTMA クライアントに関する全体的な警告とみなします。

システムの処置:

処理を続行します。OTMA プロトコル・メッセージが警告状況とともにすべての OTMA クライアントに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

OTMA メッセージあふれがこの IMS で発生しました。新規トランザクション要求を他の IMS に転送してください。

モジュール:
DFSYFD00

**DFS4390I AUTOMATIC EXPORT *func*type FOR
REPOSITORY TYPE=*reptype*,
NAME=*reponame***

説明

DFS4390I メッセージは、IMSRSC リポジトリへの自動エクスポートの開始、完了、または失敗を示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

*func*type

INITIATED、COMPLETED、または FAILED。

*func*type=INITIATED が指定された DFS4390I メッセージは、リポジトリへの自動エクスポート処理が開始されたときに発行されます。

*func*type=COMPLETED が指定された DFS4390I メッセージは、リポジトリへの自動エクスポート処理が正常に完了したときに発行されます。

*func*type=FAILED の DFS4390I メッセージは、リポジトリへの自動エクスポート処理がエラーのために失敗したときに発行されます。

type

リポジトリ・タイプ。

name

リポジトリ名。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

ユーザーの処置

*func*type に INITIATED と COMPLETED の両方が指定された DFS4390I メッセージが発行された場合、IMS とリポジトリのリソース定義が同期されています。処置は不要です。

*func*type に INITIATED と FAILED の両方が指定された DFS4390I メッセージが発行された場合、リポジトリへの自動エクスポート中にエラーが発生しました。このエラーについて詳しくは、DFS4401E メッセージを参照してください。エラーが解決されたら、**EXPORT DEFN TARGET(REPO) OPTION(CHANGESONLY)** コマンドを発行するか、次回の自動エクスポートを待ちます。

自動エクスポートが行われなかったときに IMS のコントロール・スタートが必要になった場合は、Create RDDS from Log Records ユーティリティ (DFSURCLO) を EXPORTNEEDED パラメーターと一緒に使用して IMS ログからエクスポートされるリソースを取得する手順を参照してください。

モジュール:
DFSXP000

関連資料

Create RDDS from Log Records ユーティリティ (DFSURCLO) (システム・ユーティリティ)

関連情報

1243 ページの『DFS4401E』

RM *requestname* ERROR, RC=*rc* RSN=*rsn*
ERRORTXT=*errortext*

**DFS4391E IMS SHUTDOWN CANNOT
COMPLETE DUE TO *reasontext***

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reasontext

エラーの理由について説明します。*reasontext* は、次のいずれかです。

AUTOEXPORT ERROR

IMSRSC リポジトリへの自動エクスポート中に、エラーが原因で IMS シャットダウン・チェックポイントを開始できません。

システムの処置:

シャットダウンが取り消されます。

ユーザーの処置

ユーザー応答は、以下のように *reasontext* 値によって異なります。

AUTOEXPORT ERROR

自動エクスポート中のエラーを示す DFS4401E メッセージを参照してください。エラーを修正し、IMS シャットダウンを再試行してください。

あるいは、**UPDATE IMS SET(AUTOEXPORT(N))** コマンドを使用して AUTOEXPORT をオフにしたら、IMS シャットダウン・コマンドを再試行することもできます。AUTOEXPORT が使用可能でない場合、IMS は前回の **EXPORT** コマンドまたは IMSRSC リポジトリへの自動エクスポート以降に作成または変更されたリソース定義を自動的にエクスポートしません。

モジュール:

DFSICM30

関連資料

[UPDATE IMS コマンド \(コマンド\)](#)

関連情報

[1243 ページの『DFS4401E』](#)

RM *requestname* ERROR, RC=*rc* RSN=*rsn*
ERRORTXT=*errortext*

DFS4400E **RM IS NOT ENABLED TO USE
REPOSITORY FOR
REPOTYPE=*reptype***

説明

IMS は、AUTOIMPORT=REPO または AUTOIMPORT=AUTO、および REPOSITORY セクションでの指定どおり、格納されているリソース定義を IMSRSC リポジトリから自動的にインポートするように定義されています。ただし、Resource Manager (RM) は定義されているタイプのリポジトリを使用するように有効化されていません。以下のいずれかのアクションを実行する必要があります。

- IMS の再始動前に、リポジトリを RM で使用可能にする
- リポジトリからの自動インポートを無効にするように IMS を変更する

- REPOSITORY セクションの定義を削除する

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reptype

リポジトリ・タイプを示します。*reptype* の有効な値は IMSRSC です。

システムの処置

IMS は異常終了コード 0400、サブコード 01 で異常終了します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

DFSDFxxx PROCLIB メンバーの動的リソース定義のセクションで、リポジトリからの自動インポートを無効にするように AUTOIMPORT オプションを変更するか、RM によるリポジトリの使用を有効にしてください。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

関連概念

[IMSRSC リポジトリを含む IMS の初期化 \(システム管理\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 0400](#)

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

第 91 章 DFS メッセージ DFS4401E - DFS4450I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4401E **RM requestname ERROR, RC=rc**
RSN=rsn ERRORTEXT=errortext

説明

指定された RM 要求タイプの処理中に、エラーが発生しました。

IMSRSC リポジトリへの IMS autoexport 中にエラー・メッセージが発行された場合、autoexport は正常に行われませんでした。エラーの戻りコードと理由コードがエラーを示します。エラーが解決されたら、**EXPORT DEFINITION(CHANGESONLY)** コマンドを発行するか次回の autoexport を待って、変更されたリソース定義の IMSRSC リポジトリへの書き込みをトリガーできます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

requestname

自動インポートや自動エクスポートが RM 要求の発行を準備していたときの、失敗した RM 要求のタイプ、または IMS、OM、RM、または SCI 機能が失敗したことを示します。

rc

エラーを戻したアドレス・スペースを特定する上で、戻りコードの上位バイトが役立ちます。

X'00'

IMS エラーを示します。戻りコードと理由コードは、DFSCMDRR マクロによってマップされません。

X'01'

SCI エラーを示します。戻りコードと理由コードは、CSLSRR マクロによってマップされます。

X'02'

OM エラーを示します。戻りコードと理由コードは、CSLORR マクロによってマップされます。

X'03'

RM エラーを示します。戻りコードと理由コードは、CSLRRR マクロによってマップされます。

このエラーを戻したアドレス・スペースを判別すると、ソース・マクロから、戻された戻りコードおよび理由コードをさらに調査することができます。

rsn

指定された RM 要求タイプからの理由コードを示します。理由コードの説明については、CSLSRR または CSLRRR マクロを参照してください。

errortext

エラー・テキストを示します。errortext はブランクの場合と、RM 要求タイプからのエラー・テキストの場合があり、後者のときはエラーに関する詳細情報が提供されます。

errortext は、次の値のいずれかです。

CHANGE LIST

変更リストを削除しようとして失敗したことを示します。変更リストが存在する場合、次回の IMS ウォーム・スタートまたは緊急時再始動時に処理されるか、次回の IMS コールド・スタート時に削除されます。

このメッセージは、次のいずれかの状態で発行される可能性があります。

- IMS コールド・スタート時
- IMS ウォーム再始動または緊急時再始動時に IMS 変更リストを内部でインポート中
- IMS ウォーム・スタート、緊急時再始動、またはコールド・スタート時に IMS 変更リストを削除中
- IMSRSC リポジトリへの IMS 自動エクスポート中

システムの処置

IMS コールド・スタート時に、IMSRSC リポジトリからリソース定義が自動的にインポートされている間にこのメッセージが発行される場合、IMS システムは異常終了コード 3368 を出して異常終了します。このメッセージが IMS 変更リスト処理中に発行される場合、IMS システムは処理を続行します。

IMS の再始動が完了した後に ERRORTEXT=CHANGE LIST が含まれる DFS4401E メッセージが発行された場合、IMS は、変更リストの時刻をチェックポイント・ログ・レコードに記録できるように単純チェックポイントを開始します。削除されなかった残りの変更リストが IMS の再始動時に再処理されないように、IMS チェックポイントが取られます。

DFS4401E メッセージは、発生した RM エラーの追加情報を提供する DFS4744E メッセージとともに発行されることがあります。

DFS4401E メッセージが DFS4390I AUTOEXPORT INITIATED メッセージ後の autoexport 処理中に発行された場合、IMS は処理を続行します。リソース定義はまだ IMSRSC リポジトリにエクスポートされていません。DFS4401E メッセージが IMS シャットダウン処理中の autoexport 処理時に発行された場合、その IMS シャットダウンは打ち切られます。リソース定義

がリポジトリに正常にエクスポートされるまで、またはリポジトリへの自動エクスポートがオフになるまで IMS をシャットダウンできません。

システム・プログラマーの応答

CSLRRR マクロに RM の戻りコードと理由コードの説明があります。

このメッセージの結果、IMS が終了した場合は、RM エラーを引き起こした問題を修正してから、IMS を再始動します。IMS が変更リストを処理中にこのメッセージが発行される場合、インポート中であったリソース定義は NOTINIT-xx-REPOCHGLIST 状態である可能性があります。IMS が再始動し、変更リストからの次の内部インポートが成功するまで、または **IMPORT DEFN SOURCE(REPO)** コマンドを発行してリソースと記述子定義をリポジトリから正常にインポートするまで、リソースと記述子は NOTINIT のままです。**QUERY DB**、**QUERY PGM**、**QUERY RTCODE**、および **QUERY TRAN** コマンドを発行すると、NOTINIT-xx-REPOCHGLIST 状態であるリソースを表示できます。記述子には状況がないため、NOTINIT 状態の記述子を表示するための **QUERY** コマンドはありません。変更リストからの内部インポートが失敗した場合、引き続き NOTINIT 状態である記述子の名前については、メッセージ DFS4414I を参照してください。

ERRORTEXT=CHANGE LIST が含まれる DFS4401E メッセージが IMS によって再始動処理中に発行された場合、IMS が IMS 変更リストを IMSRSC リポジトリから削除できなかったことを示しています。変更リストをリポジトリから削除するには、**DELETE DEFN TYPE(CHGLIST)** コマンドを発行する必要があります。

DFS4401E メッセージが DFS4390I AUTOEXPORT INITIATED メッセージ後の autoexport 処理中に発行された場合、IMS は処理を続行します。エラーの解決後、リソース定義はまだ IMSRSC リポジトリにエクスポートされていないため、**EXPORT DEFN TARGET(REPO) OPTION(CHANGESONLY)** コマンドを発行してリソース定義を手動でエクスポートするか、次の自動エクスポートを待つことができます。

DFS4401E メッセージが IMS シャットダウン処理中の autoexport 処理時に発行された場合、その IMS シャットダウンは打ち切られます。リソース定義がリポジトリに正常にエクスポートされるまで、またはリポジトリへの自動エクスポートがオフになるまで IMS をシャットダウンできません。エラーが解決されたら、IMS シャットダウンを試みて自動エクスポートが正常に行われるようにするか、**UPDATE IMS SET(AUTOEXPORT(N))** コマンドを使用して自動エクスポートをオフにすることができます。

モジュール:

■ DFSIP300、DFSRPS60、DFSICM30、DFSRPS50

関連概念

[IMSRSC リポジトリを含む IMS の初期化 \(システム管理\)](#)

関連タスク

[IMSRSC リポジトリを使用する IMS システムのロード・スタート \(オペレーションおよびオートメーション\)](#)

関連資料

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー \(システム定義\)](#)

関連情報

0400 (メッセージおよびコード)

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS4402W THE REPOSITORY SECTION IS IGNORED BECAUSE IMS IS ENABLED WITH *variabletext*

説明

IMS で DRD が使用可能 (MODBLKS=OLC) でないか、IMS が RM サービスを使用 (RMENV=N) していないために、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの REPOSITORY セクションは無視されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

variabletext

次のいずれかの値です。

MODBLKS=OLC
RMENV=N

DFS4402W メッセージは、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーに、REPOSITORY セクションが MODBLKS=OLC および RMENV=N と共に定義されている場合にのみ発行されます。

システムの処置

IMS は、MODBLKS=OLC または RMENV=NO で処理を続行します。IMS は IMSRSC リポジトリを使用できません。

システム・プログラマーの応答:

IMS で MODBLKS=OLC または RMENV=NO が使用可能になった場合は、DFSDFxxx メンバーから REPOSITORY= ステートメントを削除してください。これで、次の再始動時には DFS4402W メッセージが発行されなくなります。あるいは、IMSRSC リポジトリを使用可能にする場合は、MODBLKS=OLC の場合に DRD を使用可能にし、RMENV=NO ステートメントを削除して RM サービスを使用するように IMS を変更します。

モジュール:

DFSDFN10

関連概念

[IMSRSC リポジトリを含む IMS の初期化 \(システム管理\)](#)

関連資料

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー \(システム定義\)](#)

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS4403E

**REPOSITORY= STATEMENT IS NOT
DEFINED FOR REPOSITORY
TYPE=*reptype***

説明

IMS の初期設定中に、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの REPOSITORY セクションに REPOSITORY= ステートメントがコーディングされていなかったことが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reptype

リポジトリ・タイプを示します。

reptype が IMSRSC の場合、DFSDFxxx メンバーに REPOSITORY= ステートメントは定義されておらず、リポジトリのセクション・ヘッダーが定義されていない可能性があります。

AUTOIMPORT=AUTO が指定されている場合、IMS はこのメッセージを発行し、RDDS または MODBLKS から AUTOIMPORT が実行されます。AUTOIMPORT=REPO が指定されている場合は、IMS の初期設定は異常終了 0071 および RC=27、2108 で異常終了します。

システムの処置

AUTOIMPORT=REPO が指定されている場合は、IMS 初期設定は IMS 異常終了コード 0071 および戻りコード 27、2108 で異常終了します。

AUTOIMPORT=AUTO が指定されている場合は、IMS 初期設定のリソース定義が定義されていて、空でない場合に RDDS または MODBLKS から読み取られます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答

AUTOIMPORT=REPO では、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーに REPOSITORY= ステートメントを追加して、IMS を再始動します。

AUTOIMPORT=AUTO では、リソース定義をリポジトリからインポートする場合、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーに REPOSITORY= ステートメントを追加して、IMS を再始動します。

RDDS または MODBLKS が有効であれば処置は必要ありません。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSDFN10

関連資料

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー \(システム定義\)](#)

関連情報

IMS 異常終了 0071

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

DFS4404I

**IMS CONNECTED TO
RMNAME=*rmname* FOR
REPOSITORY TYPE=*reptype*
REPOSITORY NAME=*reponame***

説明

IMS は、メッセージに名前とタイプが表示されたリポジトリに正常に接続しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmname

Resource Manager (RM) の名前を示します。

reptype

リポジトリ・タイプを示します。有効な唯一の値は IMSRSC です。

reponame

リポジトリ名を示します。

システムの処置:

処理は続行されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

関連概念

[IMSRSC リポジトリを含む IMS の初期化 \(システム管理\)](#)

関連タスク

[IMSRSC リポジトリを使用する IMS システムのコールド・スタート \(オペレーションおよびオートメーション\)](#)

関連資料

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDfxxx メンバー \(システム定義\)](#)

DFS4405W **REPOSITORY FOR
REPOTYPE=*repotype* IS EMPTY,
REPONAME=*reponame***

説明

IMS は、メッセージで名前とタイプが示されたリポジトリに正常に接続しました。それにもかかわらず、Resource Manager (RM) は、このリポジトリが空であると示しました。リソースがリポジトリからインポートされません。

IMS のコールド・スタートの最後で、**EXPORT DEFN TARGET (REPO)** コマンドを実行するか、**RDDS-to-Repository** ユーティリティ (CSLURP10) を実行して、実行時リソース定義をリポジトリに取り込む必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repotype

リポジトリ・タイプを示します。有効な唯一の値は IMSRSC です。

reponame

リポジトリ名を示します。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

EXPORT DEFN TARGET (REPO) コマンドを発行するか **CSLURP10** を使用して、実行時のリソース定義をリポジトリにエクスポートしてください。

ユーザーの処置

EXPORT DEFN TARGET (REPO) コマンドを発行するか **CSLURP10** を使用して、実行時のリソース定義をリポジトリにエクスポートしてください。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSIP300

関連タスク

[IMSRSC リポジトリを使用する IMS システムのコールド・スタート \(オペレーションおよびオートメーション\)](#)

関連資料

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDfxxx メンバー \(システム定義\)](#)

DFS4406E **REPOSITORY= STATEMENT FOR
REPOTYPE=*repotype*
INCONSISTENT OVER RESTART**

説明

IMS.PROCLIB メンバー DFSDfxxx は、再始動前の REPOSITORY FOR REPOTYPE=*repotype* の使用と矛盾しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repotype

リポジトリ・タイプ

システムの処置

IMS は、異常終了 0168 およびコード X'1C' で終了します。

プログラマーの応答

IMS.PROCLIB メンバー DFSDfxxx を修正して、<SECTION=REPOSITORY> セクションにステートメント REPOSITORY=(TYPE=*repotype*) を追加したり、削除したりすることで、REPOSITORY の使用を含めたり、含めなかったりします。

非 XRF および XRF のアクティブ・システムは、以下のようリポジトリの使用を指定した上で始動する必要があります。

1. REPO(Yes) から REPO(No) への変更は、コールド・スタートでのみ許容されます。
2. REPO(No) から Repo(Yes) への変更は、NRE で許容されます。再始動前にリポジトリに正常に接続するために **UPD IMS** コマンドを使用した場合は、ERE でも許容されます。
3. Repo(No) から Repo(No) への変更は、再始動前にリポジトリに接続するために **UPD IMS** コマンドを使用した場合を除き、常に許容されます。
4. Repo(Yes) から Repo(Yes) への変更は常に許容されます。

XRF 代替システムは、リポジトリの使用と、再始動したときの SNAPQ チェックポイントとの整合性が保たれた上で始動する必要があります。

モジュール:
DFSRLP00

関連情報

IMS 異常終了 0168

DFS4407A **IMS IS NOT ENABLED TO USE THE REPOSITORY FOR REPOTYPE=repotype**

説明

UPD IMS SET(LCLPARM(REPO(Y) REPOTYPE(repotype))) コマンドの type22 レコード処理に失敗した XRF 代替システムで、TAKEOVER (TKO) が発生しました。XRF アクティブ・システムではコマンドは正常に処理されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repotype

リポジトリ・タイプ

システムの処置

処理は続行されますが、リポジトリに接続するための **UPD** コマンドが新規 XRF アクティブ・システムで処理されるまでの間、DFS4407A メッセージはコンソール上で強調表示されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

プログラマーの応答

リポジトリ接続障害の原因になる可能性のある問題を修正し、新しい XRF アクティブ・システム上で再度 **UPD** コマンドを発行してください。

モジュール:
DFSUI130

DFS4407E **IMS IS NOT ENABLED TO USE THE REPOSITORY FOR REPOTYPE=repotype**

説明

拡張リカバリー機能 (XRF) 代替システムが、コマンド **UPD IMS SET(LCLPARM(REPO(Y) REPOTYPE(repotype)))** の type22 レコードの処理に失敗しました。XRF アクティブ・システムではコマンドは正常に処理されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repotype

リポジトリ・タイプ

システムの処置

処理は続行されます。ただし、XRF アクティブでは現在リポジトリを使用している一方で、XRF 代替では使用していません。

プログラマーの応答

リポジトリの接続失敗の原因となっている可能性のある問題を訂正した上で、アクティブな IMS でもう一度 **UPD IMS** コマンドを発行してください。

モジュール:
DFSUI130

DFS4408I **REPOSITORY CHANGE LIST PROCESSING INITIATED**

説明

このメッセージは、IMS の再始動 (ウォーム・スタートまたは緊急時再始動) の終了時に、再始動している IMS が IMSRSC リポジトリで使用可能になっている場合に、ログ・レコード処理の後で発行されます。再始動している IMS が IMSRSC リポジトリで使用可能になっている場合、IMS は、変更リストが存在していて処理が必要であるかどうかを判別します。

変更リストが存在している場合、変更リストのリソースおよび記述子はすべて静止され、IMS の再始動とは非同期的にリポジトリから内部的にインポートされます。変更リストのリソースおよび記述子は、NOTINIT のマークを付けられて、NOTINIT-xx-REPOCHGLIST の状況になるため、変更リストのリソースが IMS からインポートされるまで、それらに対する処理を実行できません。変更リスト内のいずれかのリソースが存在しない場合、属性が定義されていない新規リソースが作成され、デフォルト値 (ある場合) を指定され、NOTINIT のマークを付けられます。

変更リストが存在しない場合、このメッセージは、メッセージ DFS4412I の後に出されます。

システムの処置:

IMS は、リポジトリから変更リストを読み取り、保管済みリソース定義をランタイム・リソース定義として IMS にインポートしてリストの処理を開始します。変更リスト処理は、IMS の再始動の完了後に終了する場合があります。変更リスト処理が正常に実行された場合、メッセージ DFS4412I が発行されます。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSRPS20

DFS4409A REPOSITORY CHANGE LIST IS NOT ACCESSIBLE - IMS RESOURCES MAY BE OUT OF SYNC

説明

IMS の再始動 (ウォーム・スタートまたは緊急時再始動) 時に、IMS は、変更リストが存在するかどうかを判断するために IMSRSC リポジトリにアクセスできませんでした。

このメッセージの前に、以下のメッセージが出されません。

DFS4401E RM CSLRPxxx REQUEST FAILED, RC=xxxxxxx
RSN=xxxxxxx ERRORTEXT=

DFS4401E メッセージは、リポジトリがアクセス可能ではない理由を示します。例えば、リポジトリが停止されている場合、リポジトリ・サーバーがダウンしている場合、または RM がダウンしている場合、リポジトリはアクセス可能ではありません。

変更リストがリポジトリに存在していない場合は、問題ありません。

変更リストがリポジトリに存在している場合、IMS ランタイム・リソース定義とリポジトリ内の保管済みリソース定義との同期が失われています。変更リストには、IMS がダウンしていた間にインポートされたリソースと記述子のリストが含まれています。

システムの処置:

IMS の再始動時に、IMS は、変更リストにリストされているリソースと記述子の作成も更新も行いません。IMSRSC リポジトリ内の変更リストは削除されません。変更リストは、次の IMS の再始動時に処理されて削除されます。

ユーザーの処置

変更リスト処理を正常に完了でき、変更リストが削除されるように、問題を訂正して、IMS をシャットダウンしてから再始動します。

あるいは、IMS をシャットダウンしない場合は、以下のいずれかの処置を実行できます。

- タイム・スタンプを使用して **QUERY DB**、**QUERY DBDESC**、**QUERY PGM**、**QUERY PGMDESC**、**QUERY RTC**、**QUERY RTCDESC**、**QUERY TRAN**、または **QUERY TRANDESC** コマンドを発行し、古くなっているリソース定義を判断します。次に、**IMPORT DEFN SOURCE(REPO)** コマンドを使用して、それらのリソースをインポートします。
- **IMPORT DEFN SOURCE(REPO) NAME(*) TYPE(ALL) OPTION(UPDATE)** コマンドを発行して、すべてのリソースを再びインポートします。

IMPORT DEFN SOURCE(REPO) コマンドが発行されて、IMS ランタイム定義がリポジトリ内の保管済みリソース定義で更新された場合、**DELETE DEFN TYPE(CHGLIST)** コマンドを発行して、リポジトリから IMS 変更リストを削除する必要があります。

モジュール:
DFSRPS60

DFS4410I REPOSITORY CHANGE LIST PROCESSING SUCCEEDED FOR RSCTYPE=rsctype COUNT=count

説明

IMS リソースおよび記述子のランタイム・リソース定義は、IMSRSC リポジトリ内の保管済み定義と同期されました。

IMS の再始動時に、IMS は、リポジトリ内で IMS の変更リストを検出して、指定されたリソース・タイプのリソースまたは記述子を作成および更新することにより、変更を適用しました。

処理されるリソース・タイプごとに 1 つの DFS4410I メッセージが発行されます。例えば、変更リストにプログラムとトランザクションのみが含まれている場合は、これらのメッセージを 2 つ受け取ります。1 つは PGM 用で、もう 1 つは TRAN 用です。

IMS 変更リストには、IMS がダウンしていた間にインポートされたリソースまたは記述子が含まれています。IMS がダウンしていた間に削除されたリソースまたは記述子は含まれていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsctype

リソース・タイプを示します。これは、DB、DBDESC、PGM、PGMDESC、RTCODE、RTCDESC、TRAN、または TRANDESC の場合があります。

count

作成、更新、あるいは両方が行われたリソースの数を示します。

システムの処置:

リソースが作成または更新され、NOTINIT 状況がリセットされます。正常な IMS 変更リスト処理の終了時に、変更リストはリポジトリから削除されます。

ユーザーの処置:

更新されたデータベースを始動して、使用できるようにしてください。

モジュール:
DFSIP100

DFS4411E REPOSITORY CHANGE LIST PROCESSING FAILED RC=rc RSN=rsn

説明

IMSRSC リポジトリの変更リスト処理でエラーが発生しました。変更リストには、IMS がダウンしていた間にインポートされたリソースと記述子の名前が含まれています。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

rc

IMPORT コマンドの戻りコードを示します。これは、DFSCMDRR マクロに記載されています。

rsn

IMPORT コマンドの理由コードを示します。これは、DFSCMDRR マクロに記載されています。

システムの処置

変更リストで指定されているデータベース、プログラム、宛先コード、およびトランザクション・リソースのすべての状況は引き続き、NOTINIT-xx-REPOCHGLIST になります。この状況では、変更リスト処理の失敗の原因となった状態が訂正され、リソースがリポジトリから正常にインポートされるまで、これらのリソースは使用できません。

変更リストはリポジトリから削除されません。次の IMS の再始動時に処理されて削除されます。

ユーザーの処置

問題を訂正して、以下のいずれかの処置を実行します。

- 変更リスト処理を正常に完了でき、変更リストが削除されるように、IMS をシャットダウンしてから再始動します。
- あるいは、IMS をシャットダウンしない場合は、以下のいずれかの処置を実行できます。
 - 以下のコマンドを発行して、変更リスト処理が失敗したために NOTINIT 状況になっているリソースを判別します。

```
QUERY DB STATUS(NOTINIT)
QUERY PGM STATUS(NOTINIT)
QUERY RTC STATUS(NOTINIT)
QUERY TRAN STATUS(NOTINIT)
```

NOTINIT-XX-REPOCHGLIST の状況になっているすべてのリソースについて、**IMPORT DEFN**

SOURCE(REPO) コマンドを使用してリソースをインポートします。**IMPORT** コマンドを発行する際、宛先コードおよびトランザクションより前に、データベースおよびプログラムをインポートします。

DFS4414I REPOSITORY CHANGE LIST
PROCESSING INITIATED FOR DESCRIPTOR メッセージを見つけて、**IMPORT DEFN**

SOURCE(REPO) コマンドを使用することにより、それらの記述子をリポジトリからインポートします。

- タイム・スタンプを使用して **QUERY DB**、**QUERY DBDESC**、**QUERY PGM**、**QUERY PGMDESC**、**QUERY**

RTC、**QUERY RTCDESC**、**QUERY TRAN**、または **QUERY TRANDESC** コマンドを発行し、古くなっているリソース定義を判別します。次に、**IMPORT DEFN SOURCE(REPO)** コマンドを使用して、それらのリソースをインポートします。

- IMS ランタイム定義を IMSRSC リポジトリ内の保管済みリソース定義で更新できるように、IMS 変更リストからすべてのリソースおよび記述子をインポートします。例えば、以下の **IMPORT** コマンドを発行できます。

```
IMPORT DEFN SOURCE(REPO) NAME(*)
TYPE(ALL) OPTION(UPDATE)
```

- リソース定義がインポートされて、IMS ランタイム定義がリポジトリからの保管済みリソース定義で更新された後、**DELETE DEFN TYPE(CHGLIST)** コマンドを発行して、リポジトリから IMS 変更リストを削除する必要があります。**DELETE DEFN** コマンドが発行されない場合、変更リストは、次の IMS の再始動時に処理されます。

モジュール:

DFSIP100、DFSRPS60

関連資料

[IMPORT DEFN SOURCE\(REPO | RDDS\) コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4412I

REPOSITORY CHANGE LIST
PROCESSING COMPLETED

説明

IMS の再始動で、IMSRSC リポジトリの変更リストの処理が完了しました。

再始動している IMS がリポジトリで使用可能になっていて、変更リストが存在しない場合は、メッセージ DFS4412I が DFS4408I メッセージの後に出されます。

再始動している IMS がリポジトリで使用可能になっていて、変更リストが存在する場合は、メッセージ DFS4412I がゼロ個以上の DFS4410I メッセージの後に出されます。メッセージ DFS4412I は、すべてのリソース・タイプが正常に処理されたことを示します。IMS 変更リスト処理は IMS の再始動と並行して実行されるため、このメッセージは、IMS の再始動が完了した後で発行される可能性があります。

変更リスト処理が失敗したことを示す DFS4411E メッセージが発行された場合、メッセージ DFS4412I は発行されません。

システムの処置:

変更リストは、存在している場合には、リポジトリから削除されます。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSRPS60

**DFS4413E REPOSITORY CHANGE LIST
PROCESSING FAILED FOR
RSCNAME=*rscname*
RSCTYPE=*rsctype* CC=*cc***

説明

指定されたリソースの変更リストからのインポートが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rscname

リソースの名前を示します。

rsctype

リソース・タイプを示します。これは、DB、DBDESC、PGM、PGMDESC、RTC、RTCDESC、TRAN、または TRANDESC の場合があります。

cc

IMPORT コマンドの完了コードを示します。これは、DFSCMDRR マクロに記載されています。

システムの処置:

変更リストからのインポートは失敗します。リソースには NOTINIT のマークが付けられたままになります。

ユーザーの処置

変更リスト処理を正常に完了でき、変更リストが削除されるように、問題を訂正して、IMS をシャットダウンしてから再始動します。

あるいは、IMS をシャットダウンしない場合は、以下のいずれかの処置を実行できます。

- 以下のコマンドを発行して、変更リスト処理が失敗したために NOTINIT 状況になっているリソースを判別します。

```
QUERY DB STATUS(NOTINIT)
QUERY PGM STATUS(NOTINIT)
QUERY RTC STATUS(NOTINIT)
QUERY TRAN STATUS(NOTINIT)
```

NOTINIT-XX-REPOCHGLIST の状況になっているすべてのリソースについて、**IMPORT DEFN**

SOURCE(REPO) コマンドを使用してリソースをインポートします。**IMPORT** コマンドを発行する際、宛先コードおよびトランザクションより前に、データベースおよびプログラムをインポートします。

DFS4414I REPOSITORY CHANGE LIST PROCESSING INITIATED FOR DESCRIPTOR メッセージを見つけて、**IMPORT DEFN SOURCE(REPO)** コマンドを使用することにより、それらの記述子をリポジトリからインポートします。

- タイム・スタンプを使用して **QUERY DB**、**QUERY DBDESC**、**QUERY PGM**、**QUERY PGMDESC**、**QUERY**

RTC、**QUERY RTCDESC**、**QUERY TRAN**、または **QUERY TRANDESC** コマンドを発行し、古くなっているリソース定義を判別します。次に、**IMPORT DEFN SOURCE(REPO)** コマンドを使用して、それらのリソースをインポートします。

- IMPORT DEFN SOURCE(REPO) NAME(*) TYPE(ALL) OPTION(UPDATE)** コマンドを発行して、すべてのリソースを再びインポートします。

モジュール:

DFSIP100、DFSIP200

関連資料

[IMPORT DEFN SOURCE\(REPO | RDDS\) コマンド \(コマンド\)](#)

**DFS4414I REPOSITORY CHANGE LIST
PROCESSING INITIATED FOR
DESCRIPTOR NAME=*descname*
TYPE=*desctype***

説明

指定された記述子名に対して IMSRSC リポジトリの変更リスト処理が開始されます。このメッセージが発行された後に変更リスト処理が失敗した場合、記述子は NOTINIT 状況のままになり、更新、モデルとしての参照、あるいはリポジトリまたは RDDS へのエクスポートは不可能になります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

descname

記述子の名前を示します。

desctype

記述子タイプを示します。これは、DBDESC、PGMDESC、RTCDESC、または TRANDESC の場合があります。

システムの処置:

処理は続行されます。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSRPS60

**DFS4419I RESOURCE DEFINITIONS NOT
EXPORTED FOR REPOSITORY
TYPE=*reptype*, NAME=*reponame***

説明

/CHECKPOINT FREEZE、**/CHECKPOINT DUMPQ**、または **/CHECKPOINT PURGE** コマンドを使用して IMS が通常どおりシャットダウンするときに、IMSRSC リポジトリにエクスポートされなかった新規または更新済みのリソース定義がある場合、DFS4419I メッセージが

シャットダウン・プロセス時に発行されます。このメッセージは、リポジトリに保管された定義が、シャットダウン時に IMS システムのオンライン定義と同期しないことを示します。DFS4419I メッセージが発行された後、IMS はシャットダウンを続行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reptype

リポジトリ・タイプを示します。有効な唯一の値は IMSRSC です。

reponame

リポジトリ名を示します。

システムの処置:

IMS はシャットダウンを続行します。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

ユーザーの処置

DFS4419I メッセージが発行された通常シャットダウン後に、IMS がウォーム・スタートする場合、そのオンライン・リソース定義はログからリカバリーされ、シャットダウン時と同じになります。最新のリソース定義が IMSRSC リポジトリにエクスポートされることを確実にするために、IMS がアップした後に **EXPORT DEFN TARGET(REPO) OPTION(CHANGESONLY)** コマンドが発行されなければなりません。

DFS4419I メッセージが発行された通常シャットダウン後に IMS がコールド・スタートするとき、そのリソース定義がリポジトリからインポートされる場合、コールド・スタートの前にリポジトリが更新された場合を除き、オンライン定義はシャットダウン時と同じにはなりません。Create RDDS from Log Records ユーティリティ (DFSURCLO) および RDDS to Repository ユーティリティ (CSLURP10) を使用すると、IMS をコールド・スタートする前に、IMS ログ内の最新の MODBLKS リソース定義によってリポジトリを更新できます。RDDS と CSLURP10 ユーティリティは MSC リソースをサポートしないため、IMS タイプ 2 **CREATE** コマンドを使用して MSC リソースを再作成する必要があります。

IMS がシャットダウンされる前に IMSRSC リポジトリにエクスポートされなかった新規または変更されたリソースを保持するために、EXPORTNEEDED パラメーターを指定した Create RDDS from Log Records ユーティリティ (DFSURCLO) によって RDDS が作成された場合、IMS がリポジトリからコールド・スタートされた後に、その RDDS を **IMPORT** コマンドに指定できます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSICM30

DFS4420E

THE JCL IS MISSING A SYSIN DD STATEMENT.

説明:

IMS Catalog Record Purge ユーティリティ (DFS3PU10) では、SYSIN DD ステートメントが必要ですが、指定されませんでした。

ユーザーの処置:

入力パラメーターが含まれたデータ・セット名を指定した SYSIN ステートメントをユーティリティに提供してください。データ・セットの DCB パラメーターは、RECFM=FB および LRECL=80 です。

モジュール:

DFS3PU10

DFS4421E

THE JCL IS MISSING A SYSUT1 DD STATEMENT.

説明:

IMS Catalog Record Purge ユーティリティでは、分析機能からの出力およびパージ機能への入力に SYSUT1 データ・セットが必要です。

ユーザーの処置:

SYSUT1 DD ステートメントを提供して、ユーティリティを再実行してください。

モジュール:

DFS3PU10

DFS4422E

THE SYSIN DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = 666666.

説明

MVS は、IMS Catalog Record Purge ユーティリティの SYSIN データ・セットを開くことができませんでした。666666 は、要求からの戻りコードです。

システムの処置:

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置:

データ・セットの根本的な問題を判別し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFS3PU10

DFS4423E

THE SYSUT1 DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = 666666.

説明

MVS は、IMS Catalog Record Purge ユーティリティの SYSUT1 データ・セットを開くことができませんでした。666666 は、要求からの戻りコードです。

システムの処置:

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置:

データ・セットの根本的な問題を判別し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFS3PU10

DFS4424E UPDATE STATEMENTS WERE PROVIDED IN PURGE MODE.

説明:

MODE PURGE と 1 つ以上の UPDATE ステートメントの両方が同時に指定されました。MODE PURGE が指定される場合、UPDATE ステートメントは IMS Catalog Record Purge ユーティリティでサポートされません。このユーティリティが UPDATE ステートメントをサポートするのは、MODE ステートメントが省略される場合、もしくは MODE ANALYSIS または MODE BOTH のどちらかが指定される場合です。

ユーザーの処置:

SYSIN データ・セットから UPDATE ステートメントを除去するか、MODE ステートメントを ANALYSIS か BOTH のどちらかに変更してください。変更が完了したら、ユーティリティを再実行してください。

モジュール:

DFS3PU10

DFS4425E UNEXPECTED STATUS CODE 22 ON A 4444 CALL FOR CATALOG RECORD 88888888.

説明

IMS Catalog Record Purge ユーティリティは、カタログ DL/I 呼び出しから予期しない状況コードを受け取りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

22

DL/I 呼び出しからの状況コード

4444

DL/I 呼び出しタイプ

88888888

カタログ・リソース名

システムの処置:

ユーティリティは異常終了 U1002 で終了します。

ユーザーの処置:

SYSUT1 データ・セットに重複した DELETE ステートメントが含まれていないこと、およびすべての UPDATE ステートメントの DB 名が正しいことを確実にしてください。ユーティリティの入力データ・セットでエラーが検出されない場合は、特定の DL/I 状況コードについてトラブルシューティング情報を調べてください。

モジュール:

DFS3PU10

関連情報

[IMS 異常終了 1002](#)

DFS4426I A DELETE STATEMENT WAS WRITTEN TO THE SYSUT1 DATA SET FOR PSB *mbr-name* INSTANCE=*yydddhhmmssth*

または

A DELETE STATEMENT WAS WRITTEN TO THE SYSUT1 DATA SET FOR DBD *mbr-name* INSTANCE=*yydddhhmmssth* DBVER=*version*

説明

ユーティリティは、メッセージ・テキストで示されている DBD または PSB メンバーのインスタンスに対して SYSUT1 データ・セットの DELETE ステートメントを生成しました。このインスタンスは、タイム・スタンプ値 *yydddhhmmssth* で一意的に識別されます。ユーティリティが PURGE モードで実行される場合、ユーティリティは SYSUT1 データ・セットから DELETE ステートメントを読み取り、インスタンスを IMS カタログから削除します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mbr-name

DBD または PSB メンバーの名前。

version

DBD インスタンスの DBD バージョン番号。PSB インスタンスの場合、このフィールドはメッセージ・テキストに含まれません。

yydddhhmmssth

DBD または PSB メンバーのインスタンスを一意的に識別する ACBGEN タイム・スタンプ。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3PU10

DFS4427E INQY ENVIRON CALL FAILED, RC=*xxxx* REASON=*yyyy* STATUS=*aa*

説明

INQY ENVIRON 呼び出しの処理中に、予期しない状況コードが戻されました。このメッセージが発行される可能性があるのは、DCCTL 環境など、IMS データベース・コードがインストールされていない環境で、IMS カ

タログ・リカバリー・ユーティリティ (DFS3RU00) を実行する場合です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx

AIB 戻りコード

yyyy

AIB 理由コード

システムの処置

ユーティリティは U0071 異常終了と戻りコード 16 で終了します。

システム・プログラマーの応答:

ユーティリティの実行に適切な環境が使用されていることを確認してください。

モジュール:

DFS3PU10

関連資料

[AIB 戻りコードおよび理由コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[IMS 異常終了 1002](#)

[0071 \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS4428E STATUS CODE 22 ON A 4444 CALL WAS RECEIVED FOR *dbdpsbnm segnamee timestamppppp*.

説明

IMS カタログ・データベースからレコードを取得するために IMS Catalog Record Purge ユーティリティが作成した DL/I 呼び出しに対して予期しない状況コードが返されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

22

状況コード

4444

DL/I 呼び出しタイプ

dbdpsbnm

リソース・タイプ

segnamee

メンバー名

timestamppppp

ACB で生成されるレコードのタイム・スタンプ

システムの処置:

ユーティリティは異常終了 U1002 で終了します。

ユーザーの処置:

示されたタイム・スタンプで関連付けられているレコードのバージョンが、ユーティリティによって以前に削

除されていないかどうか検査してください。状況コードの原因を訂正した上で、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFS3PU10

DFS4429E RETURN CODE *rc* WAS SET DUE TO AN ERROR. CORRECT THE ERROR AND RERUN THE JOB.

または

CONTROL STATEMENT ERROR. REASON CODE=*rs*.

説明

IMS Catalog Record Purge ユーティリティは、SYSIN または SYSUT1 データ・セットでユーティリティ制御ステートメントの問題を検出しました。問題が SYSIN データ・セットにある場合、たいていは、ユーティリティは引き続き残りのステートメントを処理します。ただし、MODE BOTH が指定されている場合、たいていは、ページ機能の実行前にユーティリティは終了します。問題が SYSUT1 データ・セットにある場合、大部分のエラーで、ユーティリティは後続のステートメントを処理することなく即時に終了します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rs

エラーの原因を示す理由コード。エラーの重大度に応じて、ユーティリティが終了後に出す戻りコードは 4 または 8 の場合があります。

DFS4429E には、以下の可能な理由コードのいずれかが含まれる場合があります。

01

SYSIN DD ステートメントに複数の MODE ステートメントが検出されました。

02

MODE タイプが欠落しているか、または無効です。

03

UPDATE ステートメントが、DBD と PSB のいずれかのキーワードを指定せずに実行依頼されました。

04

UPDATE ステートメントまたは DELDBVER ステートメントのメンバー名が欠落しているか、長すぎるか、またはその他の理由で無効です。

05

複数のワイルドカード文字 (*) がメンバー名に使用されました。

- 06** インスタンスの保持数が指定されていないか、5桁を超えた数が指定されています。
- 07** 保持する DBD または PSB インスタンスの指定数が無効です。
- 08** 保持する DBD または PSB インスタンスの指定数が、最大数の 65535 を超えています。
- 09** DBD または PSB インスタンスの保持日数に指定した数が 5 桁を超えています。
- 10** DBD または PSB インスタンスの保持日数に指定した数が無効です。
- 11** DBD または PSB インスタンスの保持日数に指定した数が、最大数の 65535 を超えています。
- 12** ユーティリティの UPDATE ステートメントに含まれているメンバー名が重複していますが、インスタンス数または日数が異なります。メンバー・レコード内の保存基準が更新されませんでした。
- 13** SYSIN データ・セット内の無効なステートメントです。このステートメントは誤って指定されたか、複数のステートメントが相互に両立しない可能性があります。
- 14** SYSIN ステートメントの入力が欠落しています。
- 15** 無効な DELETE ステートメントです。SYSUT1 データ・セットでこれより前に指定されたすべてのステートメントは、正常に実行されました。それ以降のステートメントが処理されませんでした。
- 16** 無効な DELDBVER ステートメントです。MODE PURGE で、SYSUT1 データ・セットでこれより前に指定されたすべてのステートメントは、正常に実行されました。それ以降のステートメントが処理されませんでした。
- 17** UPDATE ステートメントの一致するレコードがありません。
実行は正常に続行され、ユーティリティは完了時に、戻りコード 4 を発行します。
- 18** ワイルドカード文字 (*) の無効な使用。
- 19** SYSUT1 データ・セット内の無効なステートメントです。

20 以下のいずれかのメッセージを生成するエラーが発生しました。

- DFS4420E
- DFS4421E
- DFS4422E
- DFS4423E
- DFS4424E
- DFS4485E

このコードは DFS4429E と一緒に発行されなくなりました。

24 print_DCB のオープンに失敗しました。

このコードは DFS4429E と一緒に発行されなくなりました。

システムの処置

エラーが SYSIN データ・セットで検出された場合、たいていは、ユーティリティは SYSIN データ・セット内の残りの制御ステートメントを引き続き処理します。ただし、MODE BOTH が指定される場合、ページ機能の実行前にユーティリティは終了します。エラーが SYSUT1 データ・セットで検出された場合、たいていは、ユーティリティは SYSUT1 データ・セット内の残りの制御ステートメントを処理することなく終了します。

DFS4429E の理由コードの重大度に応じて、ユーティリティは終了時に戻りコード 4 または 8 (大抵の場合) を発行します。

ユーザーの処置:

コードの説明を検討し、根本的なエラーを訂正してから、ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFS3PU10

DFS4430I

NO MEMBERS WERE ADDED TO THE SYSUT1 DATA SET DUE TO AN ERROR OR CURRENT RETENTION CRITERIA.

または

AN ANALYSIS OF THE IMS CATALOG DID NOT FIND ANY DBD OR PSB INSTANCES THAT ARE ELIGIBLE FOR DELETION.

説明

IMS Catalog Record Purge ユーティリティは、IMS カタログ内のレコードを分析しましたが、削除に適格な DBD または PSB インスタンスを検出しませんでした。

ユーティリティーは、DELETE ステートメントを SYSUT1 データ・セットに書き込みませんでした。

各レコード内の DBD および PSB の各インスタンスの経過日数も、DBD および PSB インスタンスの数量も、レコードのヘッダー・セグメントまたは DFSDFxxx PROCLIB メンバーの CATALOG セクションのいずれかで設定されている保存基準の値を超えていません。

SYSIN データ・セットで DELDBVER ステートメントが指定されていた場合、ユーティリティーが DBD レコードでバージョン番号を検出できなかったか、ユーティリティーが IMS カタログで DBD レコードを検出ませんでした。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFS3PU10

DFS4431I NO MEMBERS WERE DELETED DUE TO AN ERROR OR NONE MATCHED THE DELETE STATEMENT.

説明:

SYSUT1 データ・セットの DELETE ステートメントが、IMS カタログ・データベースのすべてのレコードと一致しませんでした。IMS Catalog Record Purge ユーティリティーはレコードを削除しませんでした。

ユーザーの処置:

IMS Catalog Record Purge ユーティリティーを分析モードで実行して、SYSUT1 データ・セットの DELETE ステートメントが既存のカタログ・レコードと一致することを確認してください。

モジュール:
DFS3PU10

DFS4432E UNEXPECTED STATUS CODE *sc* ON A GHNP CALL FOR AN INSTANCE OF *mbr-type mbr-name*.

説明

IMS カタログからメンバー *mbr-name* の DBD または PSB セグメントを取得しようとしていたときに、Catalog Record Purge ユーティリティーが、予期しない DL/I 状況コードを受け取りました。状況コードを受けたことは、ユーティリティーの問題または IMS カタログの破損のいずれかを示しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mbr-name

GHNP 呼び出しがアクセスしようとした DBD または PSB メンバーの名前。

mbr-type

GHNP 呼び出しがアクセスしようとしたメンバーのタイプ (DBD または PSB)。

sc

返された DL/I 状況コード。

ユーザーの処置:

状況コードの情報を確認して、可能な場合は根本的な問題を修正してください。問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DFS3PU10

関連資料

[DL/I 状況コードの説明 \(メッセージおよびコード\)](#)

[IMS Catalog Record Purge ユーティリティー \(DFS3PU10\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4433E

THE SYSIN DATA SET CONTAINS DELDBVER STATEMENTS WITH A MODE PURGE STATEMENT OR WITHOUT A MODE STATEMENT.

説明

1 つ以上の DELDBVER ステートメントが SYSIN データ・セットで指定されましたが、MODE ステートメントが指定されていなかったか、あるいは MODE PURGE が指定されていました。DELDDBVER ステートメントが SYSIN データ・セットで指定される場合は、MODE ANALYSIS または MODE BOTH のいずれかも指定されている必要があります。

MODE PURGE が SYSIN データ・セットで指定される場合、DELDDBVER ステートメントは、SYSUT1 データ・セットでのみ指定できます。

ユーザーの処置

必要に応じて、以下のいずれかの処置を実行してください。

- SYSIN データ・セットで MODE ステートメントを追加または変更して、ANALYSIS または BOTH のいずれかを指定する。
- DELDBVER ステートメントを SYSIN データ・セットから除去する。MODE PURGE が指定される場合、DELDDBVER は、SYSUT1 データ・セットでのみ指定できます。

モジュール:

DFS3PU10

関連資料

[IMS Catalog Record Purge ユーティリティー \(DFS3PU10\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4434I

INSTANCE *yydddhmmsssth* OF DBD name WAS ADDED TO A NEWLY CREATED RECORD IN THE IMS CATALOG.

または

INSTANCE yydddhhmmssth OF PSB name WAS ADDED TO A NEWLY CREATED RECORD IN THE IMS CATALOG.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティは、DBD 名または PSB 名のメタデータのインスタンスを IMS カタログに正常に追加しました。これは、この DBD または PSB のメタデータの最初のインスタンスでした。つまり、この名前のルート・セグメントを追加する必要がありました。タイム・スタンプ yydddhhmmssth を持つ DBD または PSB のセグメント (および、その従属セグメント) が、この新しいルートの下に追加されました。

システムの処置:

処理を続行します。前のチェックポイント以降の、またはユーティリティの開始以降のすべての変更がコミットされた時点で、メッセージ DFS4437I が発行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4435I **INSTANCE yydddhhmmssth OF DBD name WAS ADDED TO AN EXISTING RECORD IN THE IMS CATALOG.**

または

INSTANCE yydddhhmmssth OF PSB name WAS ADDED TO AN EXISTING RECORD IN THE IMS CATALOG.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティは、DBD 名または PSB 名のメタデータのインスタンスを IMS カタログに正常に追加しました。これは、この DBD または PSB のメタデータの最初のインスタンスではありませんでした。つまり、この名前のルート・セグメントが既に存在していました。タイム・スタンプ yydddhhmmssth を持つ DBD または PSB のセグメント (および、その従属セグメント) が、この既存のルートの下に追加されました。

システムの処置:

処理を続行します。前のチェックポイント以降の、またはユーティリティの開始以降のすべての変更がコミットされた時点で、メッセージ DFS4437I が発行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4436I **INSTANCE yydddhhmmssth OF DBD name IS ALREADY IN THE IMS CATALOG AND WAS NOT ADDED.**

または

INSTANCE yydddhhmmssth OF PSB name IS ALREADY IN THE IMS CATALOG AND WAS NOT ADDED.

説明

IMS カタログには、既に DBD 名または PSB 名のルート・セグメントが含まれており、このルートの下に、タイム・スタンプ yydddhhmmssth を持つ既存の DBD または PSB のセグメントがありました。同じ名前と同じタイム・スタンプを持つ DBD または PSB は、その DBD または PSB の同一インスタンスを表すものと見なされるため、カタログには何も追加されませんでした。

システムの処置:

処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4437I **UPDATES TO THE IMS CATALOG HAVE BEEN COMMITTED. CHECKPOINT ID nnnnnnnn**

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティーは、前の更新を IMS カタログにコミットするために CHKP (チェックポイント) 呼び出しを発行しました。後にユーティリティーに障害が起こった場合、メッセージ DFS4434I および DFS4435I で示されるように、この時点までの更新はバックアウトする必要はありません。

システムの処置:
処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4438E THE CONTROL STATEMENT DATA SET (DDNAME SYSINP) FAILED TO OPEN. OPEN RC = rc

説明

DD 名 SYSINP の DD ステートメントによって参照されたデータ・セットを開くときに、IMS Catalog Populate ユーティリティーは、OPEN マクロ命令からの戻りコード *rc* を検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

DFS3PU00 ユーティリティーが z/OS DFSMS OPEN マクロ命令から受け取った戻りコード。

システムの処置:

ユーティリティーは戻りコード 12 で終了します。カタログは更新されませんでした。

システム・プログラマーの応答:

DD 名 IMS の DD ステートメントが、80 文字の固定長レコードを使用する順次データ・セットを参照していることを確認してください。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4439E AN INVALID OPTION WAS SPECIFIED IN THE CONTROL STATEMENT DATA SET (DDNAME SYSINP)

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティーは、DD 名 SYSINP の DD ステートメントによって参照されたデータ・セット内の情報を認識できませんでした。

システムの処置:

ユーティリティーは戻りコード 12 で終了します。カタログは更新されませんでした。

システム・プログラマーの応答:

複数のオプションを互いにブランクまたはコンマで区切って指定できます。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4440I THE DFS3PU00 UTILITY WILL LIST THE DBD AND PSB INSTANCES THAT ARE ADDED TO THE IMS CATALOG.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティーは、JCL 内で制御ステートメント・データ・セット (DD 名 SYSINP) を何も検出しなかったか、またはデータ・セット内でオプションの NOISRTLST を何も検出ませんでした。

システムの処置:

IMS カタログに追加された DBD または PSB のインスタンスごとに、IMS Catalog Populate ユーティリティーは、メッセージ DFS4434I または DFS4435I を発行します。このメッセージは、新しい DBD または PSB のセグメントを識別します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4441I THE DFS3PU00 UTILITY WILL NOT LIST THE DBD AND PSB INSTANCES THAT ARE ADDED TO THE IMS CATALOG.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティーは、制御ステートメント・データ・セット (DD 名 SYSINP) 内で、NOISRTLST オプションを検出しました。

システムの処置:

ユーティリティーは、IMS カタログに挿入された DBD および PSB のセグメントに関するメッセージ DFS4434I または DFS4435I を発行しません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4442I THE DFS3PU00 UTILITY WILL LIST THE DBD AND PSB INSTANCES THAT ALREADY EXIST IN THE IMS CATALOG.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティーは、制御ステートメント・データ・セット (DD 名 SYSINP) 内で、オプションの DUPLIST を検出しました。

システムの処置:

既存のインスタンスと重複しているために IMS カタログに追加されなかった DBD または PSB のインスタンスごとに、ユーティリティーはメッセージ DFS4436I を発行します。このメッセージは、挿入されなかった重複する DBD または PSB のセグメントを識別します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4443I THE DFS3PU00 UTILITY WILL NOT LIST THE DBD AND PSB INSTANCES THAT ALREADY EXIST IN THE IMS CATALOG.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティーは、JCL 内で制御ステートメント・データ・セット (DD 名 SYSINP) を何も検出しなかったか、またはデータ・セット内でオプションの DUPLIST を何も検出しませんでした。

システムの処置:

ユーティリティーは、カタログ内の既存のインスタンスと重複しているために IMS カタログに追加されなかった DBD および PSB のインスタンスについて、DFS4436I メッセージを発行しません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4444I DISPLAY FROM ID=xxxx

説明

xxxx は IMSID です。DBCTL の場合、実行パラメーターのキーワード PREMSG=N を指定すると、接頭部メッセージ DFS000I なしでメッセージが出力されます。IMSID は、メッセージの終わりに付加されます。表示コマンド出力には、IMSID を含めるために、接頭部メッセージ DFS4444I が含まれます。

モジュール:

DFSDQMG0

DFS4445I CMD ACCEPTED ON SUBSYSTEM INTERFACE: command text imsid

または

**CMD FROM MCS/E-MCS CONSOLE
USERID=xxxxxxx:command text imsid**

または

CMD FROM INTERNAL READER: command text imsid

説明

このメッセージは、MCS または E-MCS コンソール、内部読み取りプログラム、または別のソース (MGCR マクロなど) から入力されたコマンドを表示します。このメッセージの 3 つの形式すべてが、DBCTL システムで出力可能です。DB/DC または DCCTL システム (CMDMCD=Y、C、R、または B を指定) では、最初の形式のメッセージのみが表示されます。メッセージ変数は、次のとおりです。

xxxxxxx

コマンドが入力されたコンソールのユーザー ID

command text

入力されたコマンド

imsid

コマンドを処理するシステムの名前

未解決の WTO に対する応答として入力されるコマンドは、ジョブ・ログに含まれます。MCS または E-MCS

コンソールから入力されたコマンドにテキストがない場合は、メッセージが抑止されます。

モジュール:
DFSDQMG0

DFS4446E **xxxxxxxxxx yyyyyyyy DEFINED TO
RM AS zzzzzzzzzz**

説明

IMS は、リソース (yyyyyyyy) を、リソース・タイプ xxxxxxxxxxxx として Resource Manager (RM) に登録しようとした。ただし、リソースはすでに、同じ名前タイプ・グループ内の異なるリソース・タイプ (zzzzzzzzzz) として登録されていました。

RM では、名前タイプはリソース・タイプのグループであり、そのなかでは、ある 1 つのリソースを複数のリソース・タイプとして同時に登録することはできません。

IMS では、*finddest* 名前タイプは、通常、メッセージ宛先であるリソースです。下記のリソース・タイプは、"finddest" 名前タイプに関連しています。

CPIC

APPC のための CPIC 定義トランザクション

DESCRIPTOR

APPC 記述子

LTERM

VTAM 論理端末名。

MSNAME

MSC 論理リンク・パス

TRAN

静的定義済みトランザクション

システムの処置

このエラーが IMS 初期設定時に発生した場合は、システムが異常終了 3308 を出す可能性があります。それ以外の場合は、現行処理がリジェクトされ、オンライン処理が続行されます。

オペレーターの応答

リジェクトされたリソースが適切な場合は、RM に既存のリソースを削除してみてください。例えば、**/CLS** コマンドを使用して LTERM リソースを除去してください。それ以外の場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答

リジェクトされたリソースを再定義して、IMSplex に正しく整合性をもって定義されているようにしてください。

モジュール:

DFSRMD00、DFSRMIU0、DFSSLON0

DFS4447E **RM REQUEST ERROR, rmreq
RC=nnnnnnnn RMRC=xxxxxxxx
RMRSN=yyyyyyyy**

説明

このメッセージは、Resource Manager (RM) アクセス・サービス要求が失敗したときに、IMS 制御領域コマンドまたはその他のプロセスによって非同期に発行されません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmreq

RM 要求のタイプ。次のいずれかの値です。

- QUERY
- CLEANUP
- UPDATE (更新または削除要求の場合)

nnnnnnnn

RM アクセス・サービスからの戻りコード

戻りコード

意味

X'10000004'

入力パラメーターが無効です。

X'10000008'

AWE 制御ブロック用のストレージがありません。

X'1000000C'

ブロックまたはバッファー用のストレージがありません。

X'10000010'

更新が失敗しました。隠しブロックは戻されません。

X'10000012'

更新が失敗しました。バージョンが不一致です。隠しブロックが戻されました。

X'10000014'

照会が失敗しました。

X'10000018'

削除が失敗しました。

X'1000001C'

隠しブロックが作成されません。

X'10000020'

隠しブロックが戻されました。

X'10000024'

ローカル IMS が所有するリソースに対する更新が失敗しました。隠しブロックは戻されません。

X'10000028'

ノードまたはユーザーに重複するローカル lterm 制御ブロック (CNT) が存在するため、更新がバイパスされました。

XXXXXXXX

RM 呼び出しからの戻りコード。

YYYYYYYY

RM 呼び出しからの理由コード。

システムの処置

コマンド・パラメーターはリジェクトされます。

オペレーターの応答

RM で、失敗したパラメーターに関連したリソースの検索または更新に問題があります。このコマンドおよび他のコマンドは、リソースの問題が訂正されるまで、エラーのあるパラメーターによる失敗が続く可能性があります。

戻りコードが X'10000028' の場合は、ユーザーをサインオフするか、または単純チェックポイントを取得することで、ユーザーの削除を試みます。タイプ 72 のログ・レコードを収集して、重複したローカル lterm を作成したプロセスを判別します。

モジュール

DFSICLC0、DFSICLE0、DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICLP0、DFSICL50、DFSICL60、DFSICL70、DFSIC440、DFSIC450、DFSIDPB0、DFSIDPE0、DFSIDP10、DFSIDP40、DFSIDP70、DFSIDP80、DFSOCM30、DFSRCML0、DFSRRMSR0、DFSRRMS00

関連概念

グローバル・リソースを管理するための CSL RM 要求の発行 (システム・プログラミング API)

DFS4448A	RM RESOURCE STRUCTURE USAGE MISMATCH
-----------------	---

説明

IMS の初期設定時に IMS が Resource Manager (RM) に登録するとき、または RM が IMSplex に結合するときに、IMS は、RM がリソース構造を使用するかどうかに応じて通知されます。それ以後に、RM がリソース構造の使用状況を変更すると、メッセージ DFS4448A が出力されます。

システムの処置

オンライン処理は続行されます。IMS は、リソース構造の使用状況を変更しません。IMS は、リソース構造を使用していなかった場合、新規のリソース構造を無視します。IMS がリソース構造を使用していた場合は、限定された端末処理が続行されます。しかし、新しい端

末またはユーザーは IMS へのアクセスを許可されず、特定のプロセス (IMS のシャットダウンを含む) はリソース構造が使用可能になるまでハングします。

/NRESTART または /ERESTART コマンドを処理中 (COLDCOMM と COLDSYS は除く) に IMS がメッセージ DFS4448A を発行した場合、IMS は 0233 で異常終了します。

オペレーターの応答

RM が適切に開始されたかを判別し、適切でない場合は、RM を終了させてから再始動してください。それ以外の場合は、IMS を終了し、TM をコールド・スタートして、リソース構造の変更が TM に認識されるようにしてください。

モジュール:

DFSCSL40、DFSRLP00

DFS4449W	SNGLSIGN MULTSIGN FORCED BY RESOURCE MANAGER
-----------------	---

説明

IMSplex 環境で開始中の IMS システムが、単一サインオンまたは複数サインオンに関する値 (IMS 始動パラメーターの SGN= キーワード、または /NRE コマンドか /ERE コマンドのキーワードとして) を指定しようとした。その値は、Resource Manager (RM) が維持している値と矛盾します。IMSplex 内の各システムの整合性を確保するために、RM は IMSplex に結合した最初の IMS のサインオン指定を維持しています。その後、結合するすべての IMS も、最初に指定された値を使用する必要があります。

システムの処置

IMS 処理は続行されます。単一と複数サインオンでは、RM からのグローバル指定を使用します。

オペレーターの応答

ローカル IMS からのサインオン値を使用したい場合は、すべての IMS システムをシャットダウンしてください。正しいサインオン指定を使用して、最初にローカル IMS を再始動してください。

モジュール:

DFSIRACO

DFS4450I	RESOURCE STRUCTURE REPOPULATION STARTING COMPLETE
-----------------	---

説明

IMSplex 環境で、IMS が Resource Manager から構造再移植ディレクティブを受け取りました。IMS は、ローカル側で既知のすべてのリソースを使用して、リソース

構造の再移植を開始しているか、完了したかのどちらかです。

システムの処置

処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSRMSRO

第 92 章 DFS メッセージ、DFS4451I - DFS4500E

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4451I **LOGON REJECTED, NODE**
 xxxxxxx, RC=yy

説明

IMSplex 環境で、VTAM 端末 (xxxxxxx) が IMS にログオンを試み、IMS がその端末を Resource Manager (RM) に登録しようとした。しかし、IMS は、そのログオンの試みをリジェクトしました。ほとんどのログオン失敗は、前のログオンか、出されたコマンドによってノードがすでに RM に登録されている ことと、状態データ検査が失敗したことの結果です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

IMS が RM に登録しようとした VTAM 端末。

yy

失敗の理由コード。下記のリストに理由コードとその意味が示してあります。

理由

意味

01

ノードは停止しました。

02

ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (静的端末と動的端末) が生じています。

04

ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (単一セッションと並列セッション) が生じています。

05

ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (ノードの装置タイプ) が生じています。

06

ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (出力専用 (CTB4OUTP)) が生じています。

07

ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (出力専用 (CTBCPRT1)) が生じています。

08

ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (MFS 使用 (CTT2DIT)) が生じています。

09

そのノードは、すでに別のアクティブ IMS システムにログオンしています。

0A

ノードは別の IMS システムにすでにログオンされていますが、この IMS は、所有する側のシステムの状態を判別できません。

0B

静的ノード・ユーザー・リソース DATA2 のデータは、無効です。

0C

静的ノード・ユーザー・リソースのデータは、無効です。

0D

静的ノード・ユーザー・リソースのデータは、無効です。

0E

ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (割り当てられた LTERMS の数) が生じています。静的端末および LTERM 定義は整合していなければならない。 /ASSIGN コマンドの使用には各 IMS システムで一貫性がなければなりません。

0F

ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (ノードの装置タイプ) が生じています。

10

ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (割り当てられた LTERM の順序) が生じています。静的端末および LTERM 定義は整合していなければならない。 /ASSIGN コマンドの使用には各 IMS システムで一貫性がなければなりません。

11

LOCAL 状況リカバリー・モードのノードが、IMSplex 内の別のシステムによって所有されています。そのノードを所有する IMS は失敗しましたが、ユーザー・ログオン出口 DFSLGNX0 は、この状態でログオンが続行可能であることを示しませんでした。

12

ノードは別の IMS システムにすでにログオンされていますが、この IMS は、所有する側のシステムの状態を判別できません。

13

そのノードは、すでに別のアクティブ IMS システムにログオンしています。

14

ローカル定義と RM 定義の間に不一致が生じています。RM で割り当てられている LTERM がローカル・システムで見つかりません。静的端末および LTERM 定義は整合していなければならない。

システムの処置

クリーンアップが別の IMS によって行われる場合、クリーンアップ処理は非同期で実行され、通常のオンライン処理が継続されます。クリーンアップが、終了するか再始動する IMS によって行われる場合は、クリーンアップが完了した後に、通常のシャットダウンまたは再始動が再開されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSRMCL0

**DFS4453I LTERM MSGQ|EMHQ MESSAGES
UNLOCKED FOR xxxx**

説明

IMS が IMSplex 環境内で異常終了したときは、MSGQ または EMHQ 構造からロックされた LTERM メッセージをアンロックして、IMSplex 内の別の IMS システムにアクセスする端末またはユーザーがそれらのメッセージを使用できるようにする必要があります。IMSplex 内に残っている IMS が、リソースのクリーンアップと共に、メッセージをアンロックします。さらに、再始動する IMS は、CQS に接続したとき、残っているメッセージをアンロックします。その結果、適切な CQS のクリーンアップが行われます。

メッセージ・テキストには、MSGQ または EMHQ のどちらのメッセージがアンロックされたかが示されています。変数 xxxx は、メッセージがアンロックされたシステムを示しています。

システムの処置

アンロック処理が別の IMS によって行われる場合、アンロック処理は非同期で実行され、通常のオンライン処理が継続されます。アンロック処理が再始動する IMS によって行われる場合は、アンロックが完了した後、正常再始動が再開されます。

モジュール:
DFSRMCL0

**DFS4454A WAITING FOR xxxx TO COMPLETE
RESOURCE CLEANUP, REPLY,
RETRY OR CANCEL**

説明

IMSplex 内の別の IMS が、初期設定を行う IMS のためにクリーンアップを行っているときは、IMS の初期設定中にこの要応答オペレーター宛メッセージ (WTOR) が発行されます。IMS は、クリーンアップが完了するまで初期設定を続行できません。

RETRY で応答すると、IMS は初期設定を完了しようとします。CANCEL を応答すると、IMS はユーザー異常終了 3308 で異常終了します。

システムの処置

IMS は、WTOR への応答が入力されるまで待ちます。

オペレーターの応答

クリーンアップを行っているシステムの状況を判断してください。そのシステムは、完了時にメッセージ DFS4452I を出すはずですが、メッセージ DFS4452I が出されてから、RETRY を入力してください。システムがクリーンアップを完了できない場合は、システムを終了してください。これによって、初期設定する IMS が再始動できるようになります。

モジュール:
DFSRMCL0

関連情報

[IMS 異常終了 3308](#)

**DFS4455E RESOURCE CLEANUP ERROR FOR
xxxx, RC=yy**

説明

終了または初期設定を行う IMS システムのために、リソースのクリーンアップまたはメッセージのアンロックが行われていた間にエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx

終了または初期設定を行うシステムの IMS ID。

yy

エラーの理由コード。下記のリストに理由コードとその意味が示してあります。

理由

意味

01

システム・エラーが発生しました。DFSPPOOL GET ストレージ要求が失敗しました。

02

MSGQ LTERM メッセージがアンロックされるときに CQS が出すエラー戻りコード。

03

EMHQ LTERM メッセージがアンロックされるときに CQS が出すエラー戻りコード。

04

Resource Manager (RM) のノード・リソースがクリーンアップされていた間のエラー。

05

RM のユーザー・リソースがクリーンアップされていた間のエラー。

06

RM のユーザー ID リソースがクリーンアップされていた間に発生したエラー。

07

IMS が CQS に登録されていないために、MSGQ および EMHQ メッセージをアンロックできませんでした。

08

IMS が MSGQ 構造に接続されていないために、MSGQ LTERM メッセージをアンロックできませんでした。

09

IMS が EMHQ 構造へ接続されていないために、EMHQ LTERM メッセージをアンロックできませんでした。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答

単純チェックポイントを出して、クリーンアップ処理を再実行できます。問題が持続する場合は、正しくクリーンアップされなかった IMS システムを再始動するか、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:
DFSRMCL0

DFS4456A RESOURCE STRUCTURE FAILED

説明

IMS が Resource Manager から「resource structure failed」ディレクティブを受け取りました。

システムの処置

限定されたオンライン処理は継続できますが、端末およびユーザー・リソースの状況は、リソース構造が使用可能になるまでコミットできません。そのときまで、新規の端末またはユーザーは IMS にアクセスできず、端末またはユーザー・アクセスがハングする可能性があります (IMS のシャットダウン中も含まれます)。

オペレーターの応答

リソース構造に関する問題を判別して、訂正してください。

モジュール:
DFSRMSRO

DFS4457E

**RM REGISTRATION FAILED,
NAME=xxxxxxxx**

説明

IMS が IMSplex 内の Resource Manager (RM) に登録しようとしたが、登録がリジェクトされました。エラーの戻りコードと理由コードが示されたメッセージ DFS3308E も発行されます。

メッセージ・テキスト内の xxxxxxxx は、登録が失敗した Resource Manager の名前です。

システムの処置

IMS は処理を続行します。ほかにアクティブな RM システムがあれば、IMS はそれらのシステムとの通信を続行することができます。

オペレーターの応答

RM が登録をリジェクトした理由を判別してください。該当の RM システム上で、SCI、RM、および CQS が正しく作動しているかどうかを判別してください。必要であれば、RM を再始動してください。

モジュール:
DFSCSL40

関連情報

948 ページの『DFS3308E』
csltype REQUEST ERROR, macroname
RC=xxnnnnnn RSN=ssssssss

DFS4461E

**NEITHER AN ACB LIBRARY OR A
CATALOG IMPORT DATA SET IS
SPECIFIED IN THE UTILITY JCL.**

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) には、入力として ACB ライブラリーまたはカタログ・インポート・データ・セットのいずれかが必要ですが、ユーティリティの JCL には、いずれのタイプの入力の DD ステートメントも含まれていません。

ACB ライブラリーを入力タイプとして指定するには、IMSACB01 DD ステートメントが必要です。カタログ・インポート・データ・セットを入力として指定するには、CCUCATIM DD ステートメントが必要です。

システムの処置

ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。IMS カタログに対して、レコードはロードも挿入もされませんでした。

プログラマーの応答

DFS3PU00 ユーティリティの JCL に、IMSACB01 DD ステートメントまたは CCUCATIM DD ステートメントを指定してください。

IMSACB01 DD ステートメントは、単一 ACB ライブラリーまたは連結した ACB ライブラリーを参照する必要があります。追加の IMSACBnn DD ステートメントを指定する場合、ddnames は、最後の 2 つの文字位置に、増加した数値を中間の値なしで使用する必要があります。例えば、IMSACB02、IMSACB03、IMSACB04 のように使用します。

CCUCATIM DD ステートメントは、IMS カタログのコピーが含まれているカタログ・インポート・データ・セットを参照する必要があります。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4462E **FAILURE OPENING THE ACBLIB WITH DDNAME IMSACBxx. OPEN RC = rc.**

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) のために ACB ライブラリー・データ・セットを開くことができませんでした。ACB ライブラリーは、メッセージに示すように、ユーティリティの JCL で、ddname および IMSACBxx によって参照されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

ACB ライブラリーのオープン失敗時に、DFS3PU00 ユーティリティが z/OS OPEN マクロ命令から受け取った戻りコード。

xx

オープンに失敗した ACB ライブラリーを参照する ddname の最後の 2 文字を構成する数値。

システムの処置

ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。レコードは、IMS カタログにロードも挿入もされません。

プログラマーの応答

メッセージ・テキストで識別された DD ステートメントが ACB ライブラリー・データ・セットを正しく参照しているか調べてください。エラーが訂正されたら、DFS3PU00 ユーティリティを再実行します。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4463E **FAILURE OPENING THE ACBLIB WITH DDNAME IMSACBxx TO READ THE DIRECTORY. OPEN RC = rc.**

説明

Catalog Populate ユーティリティが、ディレクトリーから ACBLIB メンバーを識別するための ddname IMSACBxx を指定した DD ステートメントで ACBLIB を開こうとして、OPEN マクロ命令からの戻りコード rc を検出しました。

システムの処置

ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。カタログは更新されませんでした。

プログラマーの応答

ddname IMSACBxx を指定した DD ステートメントで ACBLIB を参照していることを確認してください。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4464E **FAILURE OPENING THE ACBGEN CATALOG WORK FILE. (DDNAME ACBCATWK) OPEN RC = rc**

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、ACBCATWK DD ステートメントで参照される ACB 生成作業ファイルを開こうとして、OPEN マクロ命令から戻りコード rc を受け取りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

DFS3PU00 ユーティリティが z/OS DFSMS OPEN マクロ命令から受け取った戻りコード。

システムの処置

ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。カタログは更新されませんでした。

プログラマーの応答

ddname ACBCATWK を指定した DD ステートメントが、ACB 生成時に作成された順次ファイルを参照していることを確認してください。作業ファイルには、カタログ・レコードを作成する ACB ライブラリー・メンバーのリストが含まれています。DD ステートメントに DCB 情報を提供する必要はありません。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ](#)
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)
[z/OS: OPEN 戻りコード](#)

DFS4465W THE JCL IS MISSING AN IMS DD STATEMENT FOR THE PSB LIBRARY THAT CONTAINS PSB *psb-name*

説明

メッセージ・テキストの *psb-name* で識別された PSB が GSAM データベースを参照しましたが、IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) の JCL に、PSB ライブラリーの IMS DD ステートメントが含まれていません。PSB が GSAM データベースを参照する場合、ユーティリティの JCL には、オリジナルの PSB メンバーが含まれた PSB ライブラリーのデータ・セットを識別する IMS DD ステートメントが含まれていなければなりません。

DFS3PU00 ユーティリティでは、GSAM データベースを参照する PSB の IMS カタログに PSB レコードを作成するために、オリジナルの PSB メンバーにアクセスする必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb-name

GSAM データベースを参照する PCB が含まれている PSB。

システムの処置

PSB *psb-name* に対しても、PCB が PSB で参照するいずれの GSAM データベースに対しても、カタログ・レコードは作成されません。ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

DD ステートメントに ddname IMS を指定し、このステートメントで PSB *psb-name* と参照される GSAM DBD が含まれた IMS.PSBLIB と IMS.DBDLIB を参照するように設定した上で、Catalog Populate ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ](#)
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4466W PSB *psb-name* WAS NOT FOUND IN PSBLIB. BLDL RC = *rc*. THE PSB WAS NOT ADDED TO THE CATALOG.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、GSAM PCB が含まれる PSB *psb-name* に対するカタログ・レコードを作成するために、IMS.PSBLIB から PSB を読み取ろうとしましたが、BLDL マクロ命令からの戻りコード *rc* を検出しました。これはおそらく、IMS.PSBLIB に PSB が入っていなかったためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb-name

GSAM データベースを参照する PCB が含まれている PSB。

rc

DFS3PU00 ユーティリティが z/OS DFSMS BLDL マクロ命令から受け取った戻りコード。

システムの処置

PSB *psb-name* に対しても、PCB が PSB で参照したいずれの GSAM データベースに対しても、カタログ・レコードは作成されませんでした。ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

DD ステートメントに ddname IMS を指定し、このステートメントで PSB *psb-name* と参照される GSAM DBD が含まれた IMS.PSBLIB と IMS.DBDLIB を参照するように設定した上で、Catalog Populate ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ](#)
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)
[z/OS: BLDL の完了コード](#)

DFS4467W ERROR LOADING PSB *psb-name* FROM PSBLIB. LOAD RC = *rc*. THE PSB WAS NOT ADDED TO THE CATALOG.

説明

GSAM PCB が含まれる PSB *psb-name* のカタログ・レコードを作成するために、IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、IMS.PSBLIB から PSB を読み取ろうとしましたが、LOAD マクロ命令からの戻りコード *rc* を検出しました。これはおそらく、メンバーの *psb-name* が標準の PSBGEN プロセスによって作成されたロード・モジュールでなかったためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb-name

GSAM データベースを参照する PCB が含まれている PSB。

rc

z/OS DFSMS LOAD マクロ命令から DFS3PU00 ユーティリティが受け取った戻りコード。

システムの処置

psb-name に対しても、PSB で PCB が使用するすべての GSAM データベースに対してもカタログ・レコードは作成されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

PSB *psb-name* と参照される GSAM DBD が含まれた IMS.PSBLIB および IMS.DBDLIB データ・セットを IMS DD ステートメントで参照するようにコーディングしてください。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

[z/OS: LOAD - 仮想ストレージへのロード・モジュールのロード](#)

DFS4468E THE PSB OR DBD LIBRARY DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = *rc*.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、ddname に IMS を指定した DD ステートメントで参照する PSBLIB および DBDLIB を開こうとして、OPEN マクロ命令からの戻りコード *rc* を検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

DFS3PU00 ユーティリティが z/OS DFSMS OPEN マクロ命令から受け取った戻りコード。

システムの処置

ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。カタログは更新されませんでした。

プログラマーの応答

ddname IMS を指定した DD ステートメントが、ユーザーの IMS.PSBLIB と IMS.DBDLIB との連結を参照していることを確認してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

[z/OS: OPEN 戻りコード](#)

DFS4469W THE JCL IS MISSING AN IMS DD STATEMENT FOR THE DBD LIBRARY THAT CONTAINS DBD *dbd-name*

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、論理 DBD *dbd-name* に対するカタログ・レコードを作成しようとしたが、DFS3PU00 の JCL に DBD ライブラリーの IMS DD ステートメントが含まれていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd-name

DFS3PU00 ユーティリティが IMS カタログにレコードを作成できなかった DBD。

システムの処置

DBD *dbd-name* に対しても、このデータベースを参照する PCB が含まれるすべての PSB に対しても、カタログ・レコードは作成されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

DD ステートメントに ddname IMS を指定し、このステートメントで DBD *dbd-name* が含まれた IMS.DBDLIB を参照するように設定した上で、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4470W **GSAM DBD *dbd-name* NOT IN DBDLIB. BLDL RC = *rc*. DBD AND REFERENCING PSBS WERE NOT ADDED TO THE CATALOG.**

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、GSAM DBD *dbd-name* に対するカタログ・レコードを作成するために、IMS.DBDLIB から DBD を読み取ろうとしたが、BLDL マクロ命令から戻りコード *rc* を検出しました。これはおそらく、IMS.DBDLIB に DBD が入っていなかったためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd-name

DFS3PU00 ユーティリティが IMS カタログにレコードを作成できなかった GSAM DBD。

システムの処置

DBD *dbd-name* に対するカタログ・レコードは作成されませんでした。ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

DFS3PU00 ユーティリティの JCL 内の IMS DD ステートメントによって、必要な DBD ライブラリーが正しく参照されるようにしてください。DBD ライブラリーが正しく参照されている場合、DBD Generation ユーティリティで必要な DBD メンバーが生成されていることを確認してください。訂正の完了後、ユーティリティを再実行します。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)
z/OS: BLDL の完了コード

DFS4471W **LOGICAL DBD *dbd-name* NOT IN DBDLIB. BLDL RC = *rc*. THE DBD AND REFERENCING PSBS WERE NOT ADDED TO THE CATALOG.**

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、論理 DBD *dbd-name* に対するカタログ・レコードを作成するために、IMS.DBDLIB から DBD を読み取ろうとしたが、BLDL マクロ命令から戻りコード *rc* を検出しました。これはおそらく、IMS.DBDLIB に DBD が入っていなかったためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd-name

ユーティリティの JCL で参照される DBD ライブラリーで DFS3PU00 ユーティリティが検出しなかった論理 DBD の名前。

rc

DFS3PU00 ユーティリティが z/OS DFSMS BLDL マクロ命令から受け取った戻りコード。

システムの処置

DBD *dbd-name* に対しても、このデータベースを参照する PCB が含まれるすべての PSB に対しても、カタログ・レコードは作成されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

DFS3PU00 ユーティリティの JCL 内の IMS DD ステートメントによって、必要な DBD ライブラリーが正しく参照されるようにしてください。DBD ライブラリーが正しく参照されている場合、DBD Generation ユーティリティで必要な DBD メンバーが生成されていることを確認してください。訂正の完了後、ユーティリティを再実行します。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)
z/OS: BLDL の完了コード

DFS4472W **ERRORS READING *dbd-count* GSAM OR LOGICAL DBDS. METADATA FOR PSB *psb-name* WAS NOT WRITTEN IN THE IMS CATALOG.**

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、PSB *psb-name* に対するカタログ・レコードを作成するために、IMS.DBDLIB データ・セットから 1 つ以上の GSAM または論理 DBD メンバーを読み取ろうとした。これは、このデータベースが、PSB 内の PCB で参照されていたためです。IMS.DBDLIB データ・セットから DBD メンバーを読み取ることができなかったか、メンバーからカタログ・レコードへの変換中にエラーが検出されました。このエラー・メッセージの *dbd-count* の位置に、DBD メンバーのエラー数が表示されます。

このエラー・メッセージの前に DFS3PU00 ユーティリティによって発行されるエラー・メッセージで、DBD メンバーの特定のエラーが識別されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd-count

読み取れなかったかエラーが含まれていた、GSAM または論理 DBD メンバーの数。

psb-name

DFS3PU00 ユーティリティが IMS カタログに PSB レコードを作成できなかった PSB の名前。

システムの処置

PSB メンバー *psb-name* に対しても、正しく処理できなかったいずれの DBD に対しても、IMS カタログにレコードは作成されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

このメッセージの前に DFS3PU00 ユーティリティで発行されたエラー・メッセージを調べてください。先行するエラー・メッセージは、*dbd-count* の位置に表示された数と少なくとも同数を検索してください。すべてのエラーが訂正されたら、DFS3PU00 Catalog Populate ユーティリティを再実行してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4473E	DCPL RETURN CODE <i>ret_code</i> FROM DECODER-BUILDER PROCESSING MEMBER <i>resource-name</i>
-----------------	---

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、DBD メンバーまたは PSB メンバーの *resource-name* の処理中に、内部デコーダー・ビルダー・パラメーター・リスト (DCPL) に認識されない戻りコードを受け取りました。これは、内部 IMS エラーです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ret_code

DCPL からの認識されない戻りコード。

resource-name

エラー検出時に DFS3PU00 ユーティリティが処理していた、DBD メンバーまたは PSB メンバー。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは、他の DBD メンバーおよび PSB メンバーの処理を続行し、戻りコード 8 で終了します。

プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4474E	UNEXPECTED STATUS CODE <i>status-code</i> INSERTING THE RECORD FOR <i>resource-name</i> IN THE CATALOG.
-----------------	--

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、エラー・メッセージの *resource-name* で識別された DBD または PSB メンバーのセグメントを IMS カタログに挿入するための DL/I 呼び出しの作成中に、予期しない PCB 状況コードを受け取りました。状況コードは、以下のいずれかのエラーを示す場合があります。

- IMS システム・エラー
- IMS カタログを定義する DBD のいずれか、または IMS カタログへのアクセスを提供する PSB のいずれかの構造上のエラー
- IMS カタログのコンテンツに対するサポートされない操作

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resource-name

エラー発生時に DFS3PU00 ユーティリティが IMS カタログに挿入しようとしていた DBD または PSB の名前。

status-code

DFS3PU00 ユーティリティが受け取った DL/I PCB の状況。

システムの処置

Catalog Populate ユーティリティは、ユーザー異常終了コード 1002 で失敗し、続いて戻りコード 16 を返します。ユーザーの JCL に SYSUDUMP、SYSABEND、または SYSMDUMP の DD ステートメントがある場合は、ダンプが生成されます。

プログラマーの応答

IMS カタログの DBD、DFSCD000、および DFSCX000 がユーザーの IMS.DBDLIB に正しくインストールされており、IMS カタログの PSB、DFSCP000、DFSCP001、および DFSCPL00 がユーザーの IMS.PSBLIB に正しくインストールされていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)
[DL/I 状況コードの説明 \(メッセージおよびコード\)](#)

**DFS4475E ERROR ATTACHING DFSRRC00,
PROGRAM *pgm-name*.ATTACH RC
=rc.**

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、*pgm-name* と呼ばれる IMS システムの内部インスタンスに接続しようとしたときに、MVS ATTACH マクロ命令が戻りコード *rc* を返しました。ここで、*pgm-name* は DFS3PU01 または DFS3PU03 のいずれかです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pgm-name

エラー発生時に DFS3PU00 ユーティリティが接続しようとしていたプログラムの名前。

rc

DFS3PU00 ユーティリティが z/OS MVS ATTACH マクロから受け取った戻りコード。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答

z/OS の資料で MVS ATTACH マクロの戻りコードを調べます。DFS3PU00 ユーティリティを実行するための JCL が正しいことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

[z/OS: ATTACH および ATTACHX の戻りコードおよび理由コード](#)

**DFS4476E ERROR ATTACHING DFSUPNTO.
ATTACH RC =rc.**

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、カタログのいずれかの区画の初期設定を行うために IMS システムの内部インスタンスに接続しているときに、MVS ATTACH マクロ命令から戻りコード *rc* を受け取りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

DFS3PU00 ユーティリティが z/OS MVS ATTACH マクロから受け取った戻りコード。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答

z/OS の資料で MVS ATTACH マクロの戻りコードを調べます。DFS3PU00 ユーティリティを実行するための JCL が正しいことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)
[z/OS: ATTACH および ATTACHX の戻りコードおよび理由コード](#)

**DFS4477E ABEND cccc COLLECTING
CATALOG STRUCTURE
INFORMATION FOR DBD|PSB
*name***

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) のサブタスクで、異常終了 *cccc* が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc

DFS3PU00 ユーティリティのサブタスクで発生した異常終了の番号。

name

異常終了時に処理中であった DBD または PSB の名前。異常終了が特定の DBD 名または PSB 名に起因すると判別できない場合は、テキスト「FOR DBD|PSB name」は存在しません。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答

該当する資料で異常終了について調べてください。DFS3PU00 ユーティリティを実行するための JCL が正しいことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連概念

[IMS 異常終了コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4478E	ABEND cccc INSERTING A CATALOG RECORD FOR DBD PSB name
-----------------	---

または

何らかの不明なエラーにより **DFS4478E** 異常終了 **cccc** が発生しました。

説明

カタログ・レコードをカタログに挿入する、またはカタログ内のカタログ・レコードを更新する IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) のサブタスクで、異常終了 **cccc** が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc

DFS3PU00 ユーティリティのサブタスクで発生した異常終了の番号。

name

異常終了時にインスタンスが挿入中であった DBD または PSB の名前。異常終了が特定の DBD 名または PSB 名に起因すると判別できない場合は、テキスト「INSERTING A CATALOG RECORD FOR DBD|PSB name」は存在しません。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答

該当する資料で異常終了について調べてください。DFS3PU00 ユーティリティを実行するための JCL が正しいことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連概念

[IMS 異常終了コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

関連情報

[1002 \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS4479E	ABEND cccc IN PARTITION INITIALIZATION SUBTASK.
-----------------	--

説明

カタログの区画の 1 つを初期設定する IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) のサブタスクで、異常終了 **cccc** が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc

DFS3PU00 ユーティリティのサブタスクで発生した異常終了の番号。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答

該当する資料で異常終了について調べてください。DFS3PU00 ユーティリティを実行するための JCL が正しいことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連概念

[IMS 異常終了コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

**DFS4480E INCORRECT EXECUTION
PARAMETERS PASSED TO
DFS3PU00.****説明**

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、誤った JCL EXEC ステートメントで呼び出されました。PGM パラメーターに不正な名前があったか、PARM パラメーターの情報に誤りがありました。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 20 で終了します。

プログラマーの応答

JCL を訂正し、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。EXEC ステートメントの PGM パラメーターは、DFSRRCO0 ではなく DFS3PU00 を指定しなければなりません。PARM パラメーターには、以下のように指定する必要があります。

- 領域タイプとして DLI、DBB、または BMP
- PSB 名として DFSCPL00、DFSCP001、または DFSCP000
- プログラム名 DFS3PU00

例えば、次のようになります。

```
EXEC PGM=DFS3PU00,  
PARM=(DLI,DFS3PU00,DFSCPL00,,,,,,,,,Y,N,,,,,  
,,,,,'DFSDF=001')
```

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

**DFS4481E UNEXPECTED STATUS CODE
status-code ON PARTITION
INITIALIZATION OF CATALOG
DATABASE catalog-dbd.****説明**

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、IMS カタログ・データベースの区画を初期設定する DL/I 呼び出しの発行後に、予期しない PCB 状況コードを受け取りました。状況コードは、以下のいずれかのエラーを示す場合があります。

- IMS エラー
- IMS カタログを定義する DBD のいずれか、または IMS カタログへのアクセスを提供する PSB のいずれかの構造上のエラー

- IMS カタログのコンテンツに対するサポートされない操作

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

catalog-dbd

状況コードを受け取ったときに DFS3PU00 ユーティリティが初期設定しようとしていた区画が含まれている IMS カタログ・データベースの名前。

status-code

ユーティリティの JCL で参照される DBD ライブラリーで DFS3PU00 ユーティリティが検出しなかった論理 DBD の名前。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答

IMS カタログの DBD、DFSCD000、および DFSCX000 がユーザーの IMS.DBDLIB に正しくインストールされており、IMS カタログの PSB、DFSCP000、DFSCP001、および DFSCPL00 がユーザーの IMS.PSBLIB に正しくインストールされていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

[DL/I 状況コード \(メッセージおよびコード\) について](#)

**DFS4482E THE PSB USED TO INVOKE THE
DFS3PU00 UTILITY REFERS TO A
CATALOG WITH AN UNEXPECTED
STRUCTURE.****説明**

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、自身の内部論理と IMS カタログの DBD との間に不整合を検出しました。この DBD は、DFS3PU00 ユーティリティの JCL の EXEC ステートメントの PARM パラメーターに指定される PSB で参照されるものです。この不整合とは、例えば、DBD のセグメント名やセグメント数、副次索引の数が予想と異なっているなどです。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティはカタログを更新しませんでした。戻りコード 20 で終了します。

プログラマーの応答

IMS カタログの DBD、DFSCD000、および DFSCX000 がユーザーの IMS.DBDLIB に正しくインストールされており、IMS カタログの PSB、DFSCP000、DFSCP001、および DFSCPL00 がユーザーの IMS.PSBLIB に正しくインストールされていることを確認してください。

DFS3PU00 ユーティリティの JCL が正しくコーディングされていることを確認してください。この JCL で IMS カタログの PSB の 1 つを指定しなければならず、また、IMS カタログ自体の DBD と PSB が含まれているデータ・セットの IMS.DBDLIB、IMS.PSBLIB、および IMS.ACBLIB を参照しなければなりません。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4483E CATALOG DATA SET CREATION OR VALIDATION FAILED FOR THE DATA SET WITH DDNAME *catalog-dbds*

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、IMS カタログのデータベース・データ・セットを作成しようとしたが、以下のいずれかのエラーが検出されました。

- エラー・メッセージの ddname で識別されたデータベースのデータ・セットに対するデータ・セットの作成に失敗した
- エラー・メッセージの ddname が示している IMS カタログのデータベースのデータ・セットはすでに存在しているが、その特性がデータ・セットの新しい要件を満たしていない

ジョブの出力には、この問題を正確に説明する 1 つ以上のメッセージが記載されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

catalog-dbds

IMS カタログに対して作成または検証ができなかったデータベースのデータ・セットの ddname。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは、カタログへのロードを行わず、戻りコード 12 で終了します。

プログラマーの応答

ジョブの出力のメッセージを確認し、必要な訂正を行ってください。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4484E THERE WAS NO VOLUME SERIAL NUMBER TO CREATE THE DATA SET WITH DDNAME *catalog-dbds*

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、エラー・メッセージの ddname で識別された、IMS カタログ・データベースのデータ・セットを作成しようとした。このデータ・セットは、SMS 管理対象でない VSAM キー順データ・セット (KSDS) のため、ボリューム通し番号を指定する必要がありますが、指定されませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

catalog-dbds

DFS3PU00 ユーティリティによって作成できなかった、データベースのデータ・セットの ddname。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは、カタログへのロードを行わず、戻りコード 12 で終了します。

プログラマーの応答

IMS.PROCLIB データ・セットの適切な DFSDFxxx メンバーのカタログ・セクションの IXVOLSER パラメーターにボリューム通し番号をコーディングするか、IMS Catalog Definition ユーザー・出口ルーチン (DFS3CDX0) に IXVOLSER を設定してください。IXVOLSER パラメーターで定義する単一ボリューム・シリアル番号は、次に挙げる IMS カタログ・データベースのすべての VSAM KSDS を作成するために、DFS3PU00 ユーティリティが使用します。

- 間接リスト・データ・セット (ILDS)
- 1 次索引データ・セット
- 副次索引データ・セット

複数のボリューム間にデータ・セットを分散させるなど、IMS カタログのデータベース・データ・セットの配置に関する制御を強化するために、データ・セットを独自に作成することができます。IMS カタログのデータ・セットのスペース所要量を見積もるために、

DFS3PU00 ユーティリティーを分析専用モードで実行することができます。

別のオプションでは、データ・セットを SMS 管理対象とすることを指定します。この場合は、ボリュームのシリアル番号を指定する代わりに、SMS ストレージ・クラス、データ・クラス、および管理クラスのパラメーターを DFSDFxxx PROCLIB メンバーまたは DFS3CDX0 ユーザー出口ルーチンでコーディングします。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー \(システム定義\)](#)

[IMS カタログ定義出口ルーチン \(DFS3CDX0\) \(出口ルーチン\)](#)

DFS4485E THE CATALOG WAS NOT ENABLED.

説明

IMS カタログは、この IMS システムでは使用可能ではありません。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティー (DFS3PU00) は戻りコード 20 で終了します。

プログラマーの応答

次のいずれかの方法で IMS カタログを使用可能にしてください。

- オンラインの IMS システムに対しては、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの IMS カタログ・セクションで行う。
- バッチ・ジョブ DLI または DBB に対しては、DFS3PU00 ユーティリティーの JCL の EXEC ステートメントの PARM パラメーターに指定されている DFSDFxxx メンバーの IMS カタログ・セクションで行う。
- バッチ・ジョブ DLI または DBB に対しては、ユーザーのシステムで IMS.SDFSRESL データ・セットにインストールされた IMS Catalog Definition ユーザー出口ルーチン (DFS3CDX0) で行う。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4486E

THERE IS NO CATALOG PARTITION FOR THE RECORD WITH ROOT KEY "root-key".

説明

IMS カタログの更新またはロード以前の、入力 ACB ライブラリーの分析中に、IMS Catalog Populate ユーティリティー (DFS3PU00) が、IMS カタログの区画の最も高位のハイ・キーより高いレコード・キーが必要な DBD または PSB メンバーを検出しました。現行の区画定義では、エラー・メッセージで識別されているレコードを IMS カタログに含めることはできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

root-key

IMS カタログのすべての区画に定義されている最も高位のハイ・キーよりも高い、ルート・セグメントのキー。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティーは、異常終了コード U1002-0C で異常終了します。

プログラマーの応答

最高位の区画のハイ・キーで、いずれの DBD または PSB メンバーで必須のカタログ・レコードに指定可能な最高位のルート・キーでも対応できるように、IMS カタログの区画の定義を訂正してください。

IMS カタログ・レコードのルート・キーは、"DBD" または "PSB" で始まる 8 文字のストリングで構成され、これに 8 文字の DBD または PSB の名前が続きます。最後または唯一の区画には、可能なすべての PSB 名を含むことができる十分に高位のハイ・キー値がなければなりません。

モジュール:

DFS3PU00

関連タスク

[区画のハイ・キーの変更 \(データベース管理\)](#)

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4487E

THERE IS A PARTITION SELECTION EXIT FOR THE CATALOG, BUT THIS IS NOT ALLOWED.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティー (DFS3PU00) が、IMS カタログ・データベースの HALDB マスター・データベース定義に HALDB 区画選択出口ルーチンが

指定されていることを検出しました。IMS カタログでは、HALDB 区画選択出口ルーチンをサポートしていません。

システムの処置

Catalog Populate ユーティリティは戻りコード 20 で終了します。

プログラマーの応答

区画選択出口ルーチンではなく、キー範囲の区画選択を指定するように HALDB マスター・データベースの定義を変更してください。DBRC コマンドの **CHANGE.DB** を使用できます。

IMS カタログの最後または唯一の区画のハイ・キー値を定義する場合、この値は、可能なすべての PSB 名を含めることができる十分に高位の値にする必要があります。カタログ内のルート・キーは、"DBD" または "PSB" で始まる 8 文字のストリングで構成され、これに 8 文字のメンバー名が続きます。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4488W **DBD または PSB メンバー メンバー名形式が認識されません。**

説明

エラー・メッセージのメンバー名位置に示されているメンバーのフォーマットが、予期されるフォーマットと矛盾しています。

このメッセージを受け取る原因として考えられるのは、

- DBD または PSB メンバーは、廃止フォーマットを使用します。
- ターゲット・データ・セット内のメンバーが DBD または PSB メンバーではありません。
- GSAM PCB の数が 255 を超えています。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) は、エラー・メッセージに示されているメンバーの IMS カタログ内にレコードを作成しません。DFS3PU00 ユーティリティは、IMS カタログ内の他のレコードの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

IMS DD ステートメントが、正しい IMS.DBDLIB データ・セットおよび IMS.PSBLIB データ・セットを参照し

ていることを確認してください。IMSACBnn DD ステートメントが正しい IMS.ACBLIB データ・セットを参照していることを確認してください。必要な場合は、エラーが訂正された後で、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。

問題が続く場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFS3PDBD、DFS3PPSB、DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4489W **AN ACB MEMBER CONTAINS INCOMPLETE INFORMATION FOR A VIRTUALLY PAIRED SEGMENT: DBD=dbd-name**

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、ACB ライブラリーの処理中に、仮想的な対セグメントに関する不完全な情報が含まれた DBD を検出しました。DBD はエラー・メッセージで識別されています。

IMS カタログをサポートしない IMS システムによって ACB メンバーが作成されたため、ACB ライブラリーの DBD は不完全です。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは、エラー・メッセージで識別された DBD に対し、IMS カタログにレコードを作成しません。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードの IMS カタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

次のユーティリティ制御ステートメントを指定した ACB 生成ユーティリティを実行して、エラー・メッセージで識別された DBD に ACB メンバーを再作成してください。

```
BUILD DBD=(dbd-name),BLDPSB=N0
```

ACB メンバーが再作成されたら、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。

モジュール:

DFS3DBD0、DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)
[アプリケーション制御ブロック保守ユーティリティ \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4490W AN ACB MEMBER CONTAINS AN INCOMPLETE REFERENCE TO A SECONDARY INDEX: PSB=*psb-name*

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、ACB ライブラリーの処理中に、副次索引の参照に関する不完全な情報を含む PSB を検出しました。PSB はエラー・メッセージで識別されています。

ACB ライブラリーの PSB は、IMS カタログをサポートしない IMS システムによって作成されたものであるため、不完全です。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは、エラー・メッセージで識別された PSB に対し、IMS カタログにレコードを作成しません。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

次のユーティリティ制御ステートメントを指定した ACB 保守ユーティリティを実行して、エラー・メッセージで識別された PSB に ACB メンバーを作成してください。

```
BUILD PSB=psb-name
```

ACB メンバーが再作成されたら、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。

モジュール:

DFS3PCTL、DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

[アプリケーション制御ブロック保守ユーティリティ \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4491W AN INVALID DBD NAME WAS FOUND IN MEMBER *member-name*

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、エラー・メッセージで識別されている DBD または PSB 内部に、DBD の命名要件を満たしていない DBD 名が参照されていることを検出しました。このエラーはおそらく、IMS ソフトウェア・エラーです。

システムの処置

メンバーにカタログ・レコードは作成されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードの

カタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

DD ステートメントに *ddname* IMS を指定し、無効な DBD 名が含まれたユーザーの IMS.DBDLIB または IMS.PSBLIB を参照するように指定した上で、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFS3DBD0、DFS3DEDB、DFS3GSAM、DFS3INDX、DFS3LOG0、DFS3MSDB、DFS3SDBD、DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4492W AN INVALID SEGMENT NAME WAS FOUND IN MEMBER *member-name*

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、エラー・メッセージで識別されている DBD または PSB 内部に、セグメントの命名要件を満たしていないセグメントを検出しました。このエラーはおそらく、IMS ソフトウェア・エラーです。

システムの処置

メンバーにカタログ・レコードは作成されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

DD ステートメントに *ddname* IMS を指定し、メンバーが含まれたユーザーの IMS.DBDLIB または IMS.PSBLIB を参照するように指定した上で、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFS3DBD0、DFS3INDX、DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4493W AN INTERNAL ERROR OCCURRED BUILDING CATALOG SEGMENTS FOR *member-name*

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティー (DFS3PU00) が、エラー・メッセージで識別されたメンバーのカタログ・レコードの作成中に、内部エラーを検出しました。

システムの処置

メンバーにカタログ・レコードは作成されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティーは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

DFS3PU00 ユーティリティーを実行するユーザーの JCL が正しいことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFS3DDB0、DFS3DPB0、DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4494E **member-name IS A BACK-LEVEL ACBLIB MEMBER.**

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティー (DFS3PU00) は、IMS カタログをサポートしない IMS システムで生成された ACB ライブラリー・メンバーを検出しました。

システムの処置

メンバーにカタログ・レコードは作成されませんでした。ユーティリティーは、カタログへの他のレコードの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

DFS3PU00 ユーティリティーを実行する JCL が、IMS カタログをサポートするバージョンの IMS によって生成された ACB ライブラリーを参照することを確実にしてください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFS3DDB0、DFS3DPB0、DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4495E **THE CATALOG IMPORT DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = rc.**

説明

IMS Catalog Populate utility (DFS3PU00) が、CCUCATIM DD ステートメントで参照されるカタログ・インポート・データ・セットを開こうとして、OPEN マクロ命令からの戻りコード rc を検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

DFS3PU00 ユーティリティーが z/OS DFSMS OPEN マクロ命令から受け取った戻りコード。

システムの処置

ユーティリティーは戻りコード 12 で終了します。カタログは更新されませんでした。

プログラマーの応答

CCUCATIM DD ステートメントがカタログ・インポート・データ・セットを参照することを確認してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Copy ユーティリティー \(DFS3CCE0、DFS3CCI0\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

[z/OS: OPEN 戻りコード](#)

DFS4496E **THE CATALOG IMPORT DATA SET DOES NOT CONTAIN CATALOG RECORDS.**

説明

IMS Catalog Copy ユーティリティーのインポート機能が、CCUCATIM DD ステートメントで参照されるカタログ・インポート・データ・セットでカタログ・レコードを検出ませんでした。

システムの処置

ユーティリティーは戻りコード 8 で終了します。カタログは更新されません。

プログラマーの応答

IMS Catalog Copy ユーティリティーのエクスポート機能によって CCUCATEX DD ステートメントで参照されるエクスポート・データ・セットにカタログ・レコードが正常にコピーされたことを確認してください。

IMS Catalog Copy ユーティリティーのインポート機能によって作成されたエクスポート・データ・セットが、現在は、IMS Catalog Copy ユーティリティーの JCL に

ある CCUCATIM DD ステートメントによって参照されるデータ・セットであることを確認してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Copy ユーティリティ](#)
(DFS3CCE0、DFS3CCIO) (システム・ユーティリティ)

DFS4497E DBD MEMBER *dbd_name* USES ISAM, WHICH IS NOT A SUPPORTED ACCESS METHOD.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、ISAM アクセス・タイプを使用するデータベースの DBD メンバーを検出しました。IMS では、ISAM アクセス・タイプをサポートしていません。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは DBD メンバーに対し、IMS カタログにレコードを作成しません。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードの IMS カタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

処置は不要です。ただし、ISAM データベースに関するメタデータは IMS カタログに保管されません。ご使用のシステムで ISAM データベースがもう使用されていない場合は、ISAM データベースの入力ステートメントを、DBD 生成ユーティリティへの入力から削除することを検討してください。そうすれば、次回の DBD および ACB ライブラリーの再作成時にこのメッセージを受け取ることはなくなります。

モジュール:

DFS3DDB0、DFS3DPB0、DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ](#)
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4498W AN ACB MEMBER CONTAINS A REFERENCE TO A DBD THAT IS NOT FOUND IN ACBLIB: MBR=*mbrname*

説明

ACB メンバーが、ACB ライブラリーから欠落している DBD メンバーを 1 つ以上参照しています。IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) は、IMS カタログに ACB メンバーのレコードを作成できません。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは、エラー・メッセージで識別された ACB メンバーのレコードを IMS カタログに作成しません。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答

ACB 保守ユーティリティを実行して、ACB ライブラリーで欠落しているメンバーを再作成してください。ACB メンバーの再作成後、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Copy ユーティリティ](#)
(DFS3CCE0、DFS3CCIO) (システム・ユーティリティ)

DFS4499E ERROR IN CALL TO DFS3DATE
cause

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、モジュール DFS3DATE の呼び出し中に、内部エラーを検出しました。DFS3DATE は、ACB メンバーのタイム・スタンプを、IMS カタログ・レコードで使用されているタイム・スタンプ形式に変換します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cause

エラーの原因。考えられる原因は、以下のとおりです。

LESS THAN 3 PARMS SPECIFIED

モジュール DFS3DATE に渡された呼び出しモジュールのパラメーター・リストで、以下の 1 つ以上の必須エレメントが欠落しています。

- ・ 状況コードの領域
- ・ 機能コード
- ・ タイム・スタンプ域

TOO MANY PARMS SPECIFIED

モジュール DFS3DATE に渡された呼び出しモジュールのパラメーター・リストに 5 つを超える数のパラメーターが含まれています。

UNKNOWN FUNCTION CODE

呼び出しモジュールは、モジュール DFS3DATE に無効な機能コードを指定しました。

INSUFFICIENT PARMS FOR FUNCTION

呼び出しモジュールは、モジュール DFS3DATE の指定の機能コードに、必須パラメーターのすべてを指定しませんでした。

INVALID DATE SPECIFIED IN CALL

呼び出しモジュールは、モジュール DFS3DATE に無効な日付形式を指定しました。

ERROR IN ROUTINE DT03

モジュール DFS3DATE は、ユーザー定義のタイム・スタンプの検証を試行中、ルーチン DT03 で予期せぬ障害が発生しました。

システムの処置

DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で異常終了し、診断目的で ABENDU1002 を発行します。

プログラマーの応答

DFS3PU00 ジョブのメモリー・ダンプを収集して、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DFS3DATE、DFS3PU00

関連資料

IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4500E THE MAXIMUM NUMBER OF
 ERROR MESSAGES SPECIFIED BY**

THE ERRORMAX OPTION HAS BEEN EXCEEDED.

説明

制御ステートメント・データ・セット内に ERRORMAX=*n* オプションが存在するときに、IMS Catalog Populate ユーティリティは、DBD および PSB のメタデータの IMS カタログへの書き込みを抑止する問題の発生数が *n* を超えたことを検出しました。

システムの処置:

IMS Catalog Populate ユーティリティは、戻りコード 8 で終了します。

プログラマーの応答

診断メッセージの許容数を増やす場合は、制御ステートメント・データ・セット内の ERRORMAX オプションの値を増やします。それ以外の場合は、前のメッセージによって報告された問題を修正してください。

モジュール:

DFS3PU00

関連資料

IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

第 93 章 DFS メッセージ DFS4501 - DFS4600I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4503A INVALID IMSID ON SYSIN RECORD

説明:

SYSIN レコードで指定された IMSID が無効です。IMSID は、1 列目で始まり、長さが 1 から 4 文字で、英数字を含み、レコードの残りの部分にブランクを含んでいる必要があります。

システムの処置:

グローバル・オンライン変更ユーティリティは失敗します。

オペレーターの応答:

IMSID を訂正し、DFSUOLCO ユーティリティを再実行します。

モジュール:

DFSUOLCO

DFS4504A INVALID PARAMETER xxxx=yyyy

説明

グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLCO) で、入力パラメーターのエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx

パラメーターが無効なキーワードです。これは、次のいずれかです。

FUNC
ACBS
MDBS
FMTS
MDID
PLEX
VERS

yyyy

パラメーター。

システムの処置:

入力パラメーターが無効であるため、システムは SYSIN レコードに対して妥当性検査を実行しません。DFSUOLCO ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

ユーザーの処置:

エラーのあるパラメーターを訂正し、ユーティリティ機能を再実行してください。

モジュール:

DFSUOLCO

DFS4505A DUPLICATE IMSID ON SYSIN RECORD

説明:

SYSIN レコードで IMSID を複数回指定しました。特定の IMSID を SYSIN レコードで指定できるのは 1 回だけです。SYSIN レコードでは複数の IMSID がサポートされますが、それらはすべて異なる名前であればなりません。

システムの処置:

グローバル・オンライン変更ユーティリティ DFSUOLCO は失敗します。

オペレーターの応答:

重複した IMSID を削除するか、名前を訂正します。その後で DFSUOLCO ユーティリティを再実行します。

モジュール:

DFSUOLCO

DFS4506A OLC IN PROGRESS. CANNOT ACCESS OLCSTAT

説明:

グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLCO) で、グローバル・オンライン変更が進行中であるために OLCSTAT データ・セットの初期設定に失敗しました。グローバル・オンライン変更は OLCSTAT データ・セットをロックして、変更中に他に何も更新されないようにします。

システムの処置:

グローバル・オンライン変更ユーティリティは失敗します。

オペレーターの応答:

グローバル・オンライン変更が完了するか、グローバル・オンライン変更を終了するまで待ってから、グローバル・オンライン変更ユーティリティを実行します。

モジュール:

DFSUOLCO

DFS4507A SYSPRINT OPEN FAILED

説明:

グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLCO) で、OLCSTAT データ・セットを開こうとしてエラーが発生しました。

システムの処置:

DFSUOLCO ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

ユーザーの処置:

この問題は、JCL エラーの結果であると考えられます。データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認します。問題を訂正し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFSUOLC0

DFS4508A FUNC=UNL, NO LOCK HELD

説明:

グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLC0) で、データ・セットがロック・ワード OLCINP でロックされていないために、OLCSTAT データ・セットをアンロックできませんでした。

システムの処置:

DFSUOLC0 ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

ユーザーの処置

OLCSTAT データ・セットはロックされていないため、**UNLOCK** 機能は必要ありません。進行中のオンライン変更は完了して、OLCSTAT データ・セットをアンロックした可能性があります。

実行したい次の DFSUOLC0 処置に対して処理を続行してください。

モジュール:
DFSUOLC0

**DFS4509A FUNC=ADD, IMSID ALREADY IN
 OLCSTAT, SYSIN RECORD**

説明:

グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLC0) で、IMSID を OLCSTAT データ・セットに追加しようとしたのですが、ID が既に OLCSTAT に存在しているためにエラーが発生しました。

システムの処置:

DFSUOLC0 ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

ユーザーの処置:

追加しようとしている IMSID が既に OLCSTAT に存在します。追加する IMSID を OLCSTAT データ・セットに存在しない IMSID に変更して修正し、**ADD** 機能を再試行してください。

モジュール:
DFSUOLC0

**DFS4510A FUNC=DEL, IMSID NOT IN
 OLCSTAT, SYSIN RECORD**

説明:

グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLC0) で、ユーザーが指定した IMSID を OLCSTAT データ・セットから削除しようとしたのですが、ID が OLCSTAT に存在しないためエラーが発生しました。

システムの処置:

DFSUOLC0 ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

ユーザーの処置:

削除しようとしている IMSID が OLCSTAT にありません。削除する IMSID を OLCSTAT データ・セット内にある IMSID に変更して、**DEL** 機能を再試行してください。

モジュール:
DFSUOLC0

**DFS4511A SYSIN RECORD COUNT EXCEEDS
 MAX OF nn**

説明:

SYSIN レコードとして指定された IMSID の数が、サポートされる最大値 *nn* を超えました。

システムの処置:

グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLC0) は失敗します。

オペレーターの応答:

余分な IMSID を除去して、DFSUOLC0 ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DFSUOLC0

**DFS4512A NO SYSIN RECORDS FOR
 FUNC=xxx**

説明

グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLC0) で、xxx の SYSIN レコードが検出されなかったため、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストで、xxx は次のいずれかです。

ADD
DEL

システムの処置:

DFSUOLC0 ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

ユーザーの処置:

JCL を変更して、追加または削除したい IMSID を持つ SYSIN レコードを追加して、ユーティリティ機能を再試行します。

モジュール:
DFSUOLC0

**DFS4513A FUNC=ADD, ADDING SYSIN
 IMSIDS TO OLCSTAT nn**

説明:

グローバル・オンライン変更ユーティリティは、FUNC=ADD を指定して IMSID を OLCSTAT データ・セットに追加しようとした。IMSID は、SYSIN レコードで指定されていました。ただし、OLCSTAT データ・

セットで既に定義されていた IMSID と追加する IMSID の合計数は、サポートされる最大値 *nn* を超えます。

システムの処置:

グローバル・オンライン変更ユーティリティ
DFSUOLC0 は失敗します。

オペレーターの応答:

余分な IMSID を除去して、DFSUOLC0 ユーティリ
ティを再実行してください。

モジュール:

DFSUOLC0

**DFS4514A MISMATCH IN UTILITY AND
MACRO VERSION# DETECTED**

説明:

グローバル・オンライン変更ユーティリティ
(DFSUOLC0) によって OLCSTAT データ・セットを初期
設定しようとした。システムは、ユーティリ
ティと DFSOLCS パラメーター・リストのバージ
ョンの不一致を検出しました。

システムの処置:

グローバル・オンライン変更ユーティリ
ティは、戻りコード 04 で失敗します。

ユーザーの処置:

この問題は IMS 内部エラーです。ユー
ティリティと DFSOLCS マクロのレベルが
一致するように修理保守を適用してく
ださい。

モジュール:

DFSUOLC0

**DFS4515W THE GLOBAL OTMA TPIPE COUNT
HAS REACHED THE 80% OF THE
GLOBAL LIMIT OF nnnnn.**

説明

OTMA は、トランザクション・パイプ (T
パイプ) の総数が *nnnnn* で示されるモニ
タリング・ポイントの 80% に到達した
か超過したことを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、
次のとおりです。

nnnnn

グローバル TPIPE 警告しきい値。この
数値は、OTMA クライアント記述子
で DFSOTMA に指定されている
MAXTP 値です。

システムの処置:

システムは T パイプの作成を続行
します。

システム・プログラマーの応答:

すべてのメンバーの T パイプの数の
モニターを開始します。活動停止中
の T パイプをクリーンアップするた
めにチェックポイントを 3 回発行し
ます。

モジュール:

DFSYFD00

**DFS4516E THE GLOBAL OTMA TPIPE COUNT
HAS REACHED THE GLOBAL LIMIT
OF nnnnn.**

説明

MAXTP 限度は、すべての OTMA ク
ライアントの TPIPE の増加をモニ
ターするために、OTMA クライ
アント記述子の DFSOTMA 記述子
項目に指定されます。使用中の
TPIPE の数がこの限度に達すると、
IMS はこのエラーを発行します。

メッセージ・テキストの中の各項目
は、次のとおりです。

nnnnn

グローバル TPIPE 警告しきい値。
これは、OTMA クライアント記述
子の DFSOTMA に指定される
MAXTP 限度です。

システムの処置:

IMS は、OTMA クライアントおよび
IMS アプリケーションからの後続
の TPIPE 作成要求をすべてリ
ジェクトします。/DISPLAY OTMA
コマンドは、OTMA サーバーの
USER-STATUS の MAX TPIPE を
表示します。

プログラマーの応答:

/DISPLAY OTMA コマンドを
発行して、使用中の TPIPE の
合計数である TPCNT 値と、
OTMA クライアント記述子で
指定されている TPIPE 限度
である MAXTP 値を表示し
ます。IMS /CHECKPOINT
コマンドを 3 回発行して、
T パイプのクリーンアップを
強制実行し、システム内の
アイドル状態の T パイプを
削除できます。

モジュール:

DFSYFD00

**DFS4517I THE GLOBAL OTMA TPIPE COUNT
HAS DECREASED BELOW xx% OF
THE GLOBAL LIMIT OF nnnnn.**

説明

OTMA は、すべての OTMA メン
バーのトランザクション・パイ
プ (T パイプ) の総数が、
DFSOTMA 記述子項目の
MAXTP 値によって示されて
いるモニタリング・ポイント
の xx% を下回ったことを
検出しました。

メッセージ・テキストの中の各
項目は、次のとおりです。

xx

OTMA クライアント記述子の
DFSOTMA の MAXTP パラメ
ーターで指定されている警
告解除レベル。

nnnnn

OTMA クライアント記述子の
DFSOTMA メンバーで指定
される MAXTP であるグ
ローバル TPIPE 警告し
きい値。

システムの処置:

システムは T パイプの作成
を続行します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSYFD00

DFS4518I **UPDATES TO THE IMS CATALOG
HAVE BEEN COMMITTED.
CHECKPOINT ID nnnnnnn**

説明

IMS Catalog Record Purge ユーティリティ (DFS3PU10) が、前の更新を IMS カタログにコミットするために CHKP (チェックポイント) 呼び出しを発行しました。この呼び出しは、更新が 200 回行われるたびに発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnn

チェックポイント ID を示します。

システムの処置:
処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

200 回の更新というチェックポイント頻度を変更するには、ユーティリティに対して

RESOURCE_CHKP_FREQ パラメーターを指定します。

モジュール:
DFS3PU10

DFS4519E **BOTH THE LOAD PSB DFSCPL00
AND THE STATEMENT
MANAGEDACBS=UPDATE OR
MANAGEDACBS=STAGE ARE
SPECIFIED.**

説明

ユーティリティ JCL の EXEC パラメーターにロード PSB DFSCPL00 が指定されている場合は、MANAGEDACBS ユーティリティ制御ステートメントに UPDATE も STAGE も指定できません。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティは、戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

EXEC パラメーターの PSB を変更するか、MANAGEDACBS ユーティリティ制御ステートメントの値を SETUP に変更してください。

モジュール:
DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\)](#) (システム・ユーティリティ)

DFS4520I **INSTANCE yydddhhmmssth OF
DBD|PSB name WAS ADDED TO
THE IMS DIRECTORY.**

説明

タイム・スタンプが yydddhhmmssth である IMSACBLIB メンバー name が、ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーにコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ACLIB メンバー名。

yydddhhmmssth

ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セットに NOISRTLIST を指定します。

モジュール:
DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\)](#) (システム・ユーティリティ)

DFS4521I **INSTANCE acb-yydddhhmmssth
OF DBD|PSB name REPLACED
INSTANCE dir-yydddhhmmssth IN
THE IMS CATALOG DIRECTORY.**

説明

IMS カタログ・ディレクトリーには既に、タイム・スタンプが dir-yydddhhmmssth である既存メンバー name が含まれていました。このメンバーは削除され、その置き換えとして、タイム・スタンプが acb-yydddhhmmssth である ACBLIB メンバー name が ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーに正常にコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ACBLIB メンバー名。

acb-dddhhmmssth

IMS カタログ・ディレクトリーに追加された ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

dir-yyddhhmmssth

IMS カタログ・ディレクトリーに既に存在していた ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セットに NOISRTLIST を指定します。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4522I **INSTANCE *acb-yyddhhmmssth* OF DBD|PSB *name* WAS NOT ADDED TO THE DIRECTORY. A LATER INSTANCE *dir-yyddhhmmssth* EXISTS**

説明

IMS カタログ・ディレクトリーには既に、タイム・スタンプが *dir-yyddhhmmssth* である既存メンバー *name* が含まれています。このメンバーはディレクトリー内に保持されました。ACBLIB メンバー *name* のタイム・スタンプ *acb-yyddhhmmssth* が、ディレクトリー内のこの既存メンバーより前の時点のものであるためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ディレクトリー内および ACBLIB 内のメンバー名。

acb-dddhhmmssth

ディレクトリーへの組み込みがリジェクトされた ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

dir-yyddhhmmssth

IMS カタログ・ディレクトリーに既に存在している ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

タイム・スタンプがより前の時点である ACBLIB メンバーによって、より新しい時点のタイム・スタンプを持つ対応するディレクトリー・メンバーを置き換える必要がある場合は、IMS Catalog Populate ユーティリティへの入力として、制御ステートメント・データ・セット (DD 名 SYSINP) に **MANAGEDACBS=(UPDATE,ACBLIB)** パラメーターを指定します。

このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セット内に **NODUPLIST** を指定します。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4523E **AN I/O ERROR OCCURRED READING ACBLIB INSTANCE *yyddhhmmssth* OF DBD|PSB *name* system-produced-SYNAD-message-text**

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティが、IMS ディレクトリーにコピーするために ACBLIB からメンバー *name* を読み取ろうとしました。しかし、このユーティリティが使用していた内部 BPAM マクロ命令で入出力エラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ACLIB メンバー名。

yyddhhmmssth

ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

system-produced-SYNAD-message-text

DFSMS によって生成された入出力エラー・メッセージ。

システムの処置

メンバー *name* は IMS ディレクトリーに追加されず、IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

system-produced-SYNAD-message-text の説明については「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」の SYNADAF マクロの説明を参照し、推奨されている処置を行ってください。

モジュール:
DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)
[z/OS: DFSMS SYNADAF マクロ](#)

DFS4524E AN I/O ERROR OCCURRED WRITING INSTANCE yydddhmmssth OF DBD|PSB name system-produced-SYNAD-message-text

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティーが IMS ディレクトリーにメンバー *name* を書き込もうとしました。しかし、このユーティリティーが使用していた内部 BPAM マクロ命令で入出力エラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ACLIB メンバー名。

yydddhmmssth

ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

system-produced-SYNAD-message-text

DFSMS によって生成された入出力エラー・メッセージ。

システムの処置

メンバー *name* は IMS ディレクトリーに追加されず、IMS Catalog Populate ユーティリティーの実行は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

DFSMS によって発行された *system-produced-SYNAD-message-text* の説明については「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」の SYNADAF マクロの説明を参照し、推奨されている処置を行ってください。

モジュール:
DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4525E ADDING THE MEMBER DBD|PSB name IN IMS DIRECTORY DATA

**SET *nn* FAILED WITH STOW
RETURN CODE *rc* REASON CODE *rs***

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティーがいずれかの IMS ディレクトリー・データ・セットにメンバー *name* を書き込もうとしました。しかし、このユーティリティーが使用していた内部 STOW マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ACLIB メンバー名。

nn

IMS ディレクトリーを構成するデータ・セットの連結内でのデータ・セット位置。

rc

STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

rs

STOW マクロ命令によって発行された理由コード。

rsc

STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

システムの処置

メンバー *name* は IMS ディレクトリーに追加されず、IMS Catalog Populate ユーティリティーの実行は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」内の STOW マクロの完了コードの説明を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール:
DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)
[z/OS: DFSMS STOW マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

DFS4526E THE IMS DIRECTORY DATA SET *nn* FAILED TO OPEN. OPEN RC = *rc*

説明

IMS ディレクトリー作成の一環として、IMS Catalog Populate ユーティリティーがいずれかの IMS ディレクトリー・データ・セットをオープンしようとした。しかし、このユーティリティーが使用していた内部 OPEN マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nn

IMS ディレクトリーを構成するデータ・セットの連結内でのデータ・セット位置。

rc

OPEN マクロ命令によって発行された戻りコード。

システムの処置

IMS ディレクトリーは作成されず、IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

非 VSAM OPEN マクロの戻りコードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

[z/OS: DFSMS の非 VSAM OPEN マクロの戻りコード](#)

DFS4527E	THE IMS DIRECTORY BOOTSTRAP DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = rc
-----------------	--

説明

IMS ディレクトリー作成の一環として、IMS Catalog Populate ユーティリティが IMS ディレクトリーのブートストラップ・データ・セットをオープンしようとした。しかし、このユーティリティが使用していた内部 OPEN マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

OPEN マクロ命令によって発行された戻りコード。

システムの処置

IMS ディレクトリーは作成されず、IMS Catalog Populate ユーティリティは戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

非 VSAM OPEN マクロの戻りコードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照

してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

[z/OS: DFSMS の非 VSAM OPEN マクロの戻りコード](#)

DFS4529E	DELETING MEMBER DBD PSB name FROM IMS DIRECTORY DATA SET nn FAILED WITH STOW RETURN CODE rc REASON CODE rs
-----------------	---

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティがいずれかの IMS ディレクトリー・データ・セットから既存メンバー *name* を削除しようとした。しかし、このユーティリティが使用していた内部 STOW マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ACLIB メンバー名。

nn

IMS ディレクトリーを構成するデータ・セットの連結内でのデータ・セット位置。

rc

STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

rs

STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

システムの処置

メンバー *name* は IMS ディレクトリーに追加されませんでした。IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は、戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」内の STOW マクロの完了コードの説明を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

[z/OS: DFSMS STOW マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

DFS4530E **RENAMING MEMBER DBD|PSB**
name IN IMS DIRECTORY DATA
SET nn FAILED WITH STOW
RETURN CODE rc REASON CODE rs

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティーが、いずれかの IMS ディレクトリー・データ・セット内の暗号化された形式のメンバー名を実名に名前変更しようとした。しかし、このユーティリティーが使用していた内部 STOW マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ACLIB メンバー名。

nn

IMS ディレクトリーを構成するデータ・セットの連結内でのデータ・セット位置。

rc

STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

rs

STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

システムの処置

メンバー *name* は IMS ディレクトリーに追加されませんでした。IMS Catalog Populate ユーティリティーの実行は、戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」内の STOW マクロの完了コードの説明を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

[z/OS: DFSMS STOW マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

DFS4531I **INSTANCE yydddhhmmssth OF**
DBD|PSB name IS ALREADY IN
THE IMS CATALOG DIRECTORY
AND WAS NOT ADDED.

説明

IMS カタログ・ディレクトリーには既にタイム・スタンプが *yydddhhmmssth* である既存のメンバー名が含まれているため、このディレクトリーではこのメンバーの追加も置換も行われませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ディレクトリー内および ACBLIB 内のメンバー名。

yydddhhmmssth

ディレクトリーへの組み込みがリジェクトされた ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティーの実行は続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティーの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セット内に NODUPLIST を指定します。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティー \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

DFS4532E **THE IMS CATALOG DIRECTORY**
DATA SET nn FAILED TO CLOSE.
CLOSE RC =rc

説明

IMS ディレクトリーの処理が完了する間際に、IMS Catalog Populate ユーティリティーがいずれかの IMS ディレクトリー・データ・セットをクローズしようとした。しかし、このユーティリティーが使用していた内部 CLOSE マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nn

IMS ディレクトリーを構成するデータ・セットの連結内でのデータ・セット位置。

rc

CLOSE マクロ命令によって発行された戻りコード。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティーの実行は、戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

非 VSAM CLOSE マクロの戻りコードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を

参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール:
DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)
[z/OS: DFSMS の非 VSAM CLOSE マクロの戻りコード](#)

DFS4533I *nnn* MEMBERS WERE ADDED TO THE IMS CATALOG DIRECTORY.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティへの入力として使用される ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーに、新規メンバーとして合計 *nnn* 個の ACBLIB メンバーがコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnn

IMS ディレクトリーに追加されたリソースの総数。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティは引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4534I *nnn* MEMBERS WERE REPLACED IN THE IMS CATALOG DIRECTORY.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティへの入力として使用される ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーに、置換メンバーとして合計 *nnn* 個の ACBLIB メンバーがコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnn

ACB ライブラリーからの対応するリソースのインスタンスによって置き換えられた、IMS ディレクトリー内の既存リソースの総数。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティは引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4535I *nnn* MEMBERS WERE STAGED TO BE ADDED TO THE IMS CATALOG DIRECTORY.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティへの入力として使用される ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットに、後で IMS カタログ・ディレクトリーに新規メンバーとして追加されるように、合計 *nnn* 個の ACBLIB メンバーがコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnn

ステージング・データ・セットに書き込まれた ACB の総数。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティは、通常の処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4536I *nnn* MEMBERS WERE STAGED TO BE REPLACED IN THE IMS CATALOG DIRECTORY.

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティへの入力として使用される ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットに、後で IMS カタログ・ディレクトリーに置換メンバーとして追加され

るように、合計 *nnn* 個の ACBLIB メンバーがコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnn

入力 ACB ライブラリーから IMS ディレクトリーのステージング・データ・セットにコピーされたリリース・インスタンスの総数。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティは引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\)](#) (システム・ユーティリティ)

DFS4537I **INSTANCE *yydddhhmmssth* OF DBD|PSB *name* IS HELD FOR INSERTION INTO THE IMS DIRECTORY BY THE IMPORT COMMAND.**

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティへの入力として使用される ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットに、後で IMS カタログ・ディレクトリーに新規メンバーとして追加されるように、タイム・スタンプが *yydddhhmmssth* である IMS ACBLIB メンバー *name* がコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ACLIB メンバー名。

yydddhhmmssth

ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティは引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答

このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セットに NOISRTLIST を指定します。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\)](#) (システム・ユーティリティ)

DFS4538I **INSTANCE *acb-yydddhhmmssth* OF DBD|PSB *name* IS HELD FOR IMPORT INTO THE IMS DIRECTORY TO REPLACE *dir-yydddhhmmssth*.**

説明

IMS カタログ・ディレクトリーには既に、タイム・スタンプが *dir-yydddhhmmssth* である既存メンバー *name* が含まれています。タイム・スタンプが *acb-yydddhhmmssth* である ACBLIB メンバー名が、後で IMS カタログ・ディレクトリーのメンバーを置き換えるために IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットにコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ACBLIB メンバー名。

dir-yydddhhmmssth

IMS カタログ・ディレクトリーに既に存在している ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

acb-yydddhhmmssth

IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットに追加された ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティは引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答

このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セットに NOISRTLIST を指定します。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\)](#) (システム・ユーティリティ)

DFS4539I **INSTANCE *acb-yydddhhmmssth* OF DBD|PSB *name* WAS NOT STAGED. A LATER DIRECTORY INSTANCE *dir-yydddhhmmssth* EXISTS.**

説明

IMS カタログ・ディレクトリーには既に、タイム・スタンプが *dir-yydddhhmmssth* である既存メンバー *name* が含まれています。タイム・スタンプが *acb-yydddhhmmssth* である ACBLIB メンバー名が、ディレクトリー・メンバーの置換として IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットにコピーされませんでした。そのタイム・スタンプがディレクトリー・メンバーのタイム・スタンプより前の時点だったためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ACBLIB メンバー名。

dir-yydddhhmmssth

IMS カタログ・ディレクトリーに既に存在している ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

acb-yydddhhmmssth

IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットに追加されなかった ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティは引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答

このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セット内に NODUPLIST を指定します。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4540E	ADDING MEMBER DBD PSB <i>name</i> IN THE DIRECTORY STAGING DATA SET FAILED WITH STOW RETURN CODE <i>rc</i> REASON CODE <i>rs</i>
-----------------	---

説明

IMS Catalog Populate ユーティリティが IMS ディレクトリーのステージング・データ・セットにメンバー *name* を書き込もうとしました。しかし、このユーティリティが使用していた内部 STOW マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

rs

STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

name

ACLIB メンバー名。

システムの処置

メンバー *name* は IMS ディレクトリーに追加されず、IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」内の STOW マクロの完了コードの説明を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

[z/OS: DFSMS STOW マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

DFS4541E	THE IMS CATALOG DIRECTORY STAGING DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = <i>rc</i>
-----------------	---

説明

IMS ディレクトリー作成の一環として、IMS Catalog Populate ユーティリティが IMS ディレクトリー・ステージング・データ・セットをオープンしようとした。しかし、このユーティリティが使用していた内部 OPEN マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

OPEN マクロ命令によって発行された戻りコード。

システムの処置

IMS ディレクトリーは作成されず、IMS Catalog Populate ユーティリティは戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

非 VSAM OPEN マクロの戻りコードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール:
DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)
[z/OS: DFSMS の非 VSAM OPEN マクロの戻りコード](#)

**DFS4542I INSTANCE *yydddhhmssth* OF
DBD|PSB *name* IS ALREADY IN
THE IMS CATALOG DIRECTORY
AND WAS NOT STAGED.**

説明

IMS カタログ・ディレクトリーには既にタイム・スタンプが *dir-yydddhhmssth* である既存メンバー *name* が含まれているため、そのディレクトリー・メンバーの置換メンバーとして、同じタイム・スタンプの ACBLIB メンバー名が IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットにコピーされませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ACBLIB メンバー名。

yydddhhmssth

IMS カタログ・ディレクトリーに既に存在している ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

システムの処置

IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セット内に NODUPLIST を指定します。

モジュール:
DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

**DFS4545I DBD|PSB *name* WAS DELETED
FROM THE IMS DIRECTORY.**

説明

DELETE または DELDBVER ステートメントの処理の一環として、IMS Catalog Record Purge ユーティリティ

が IMS ディレクトリーからメンバー *name* を削除しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

IMS ディレクトリー内の ACB 名。

システムの処置:

ありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

**DFS4546I DBD|PSB *name* WAS DELETED
FROM THE IMS DIRECTORY
STAGING DATA SET.**

説明

DELETE または DELDBVER ステートメントの処理の一環として、IMS Catalog Record Purge ユーティリティが IMS ディレクトリーのステージング・データ・セットからメンバー *name* を削除しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

IMS ディレクトリーのステージング・データ・セット内の ACB 名。

システムの処置:

ありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3DU10

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

**DFS4547W *name* WAS NOT PURGED BECAUSE
IT IS RESERVED AS THE NAME OF
AN IMS CATALOG RESOURCE.**

説明

DELETE ステートメントの処理の一環として、IMS Catalog Record Purge ユーティリティは、メンバー *name* が IMS カタログおよび IMS ディレクトリーから

削除されるはずだったことを検出しました。しかし、*name* の先頭 4 文字が IMS カタログの別名と一致しているために、カタログ PSB および DBD の名前と競合が生じています。これらの名前はカタログ PSB および DBD 用に予約済みであるため、消去できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

IMS カタログおよび IMS ディレクトリー内の ACB 名。

システムの処置:

IMS カタログおよび IMS ディレクトリーからのメンバー名の削除は抑止されます。

ユーザーの処置:

IMS カタログから PSB インスタンスまたは DBD インスタンスを削除しないでください。

モジュール:

DFS3PU10

関連資料

[IMS Catalog Record Purge ユーティリティ \(DFS3PU10\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4548E THE IMS DIRECTORY CANNOT BE UPDATED BY THE CATALOG PURGE UTILITY EXCEPT IN A BATCH JOB.

説明:

IMS Catalog Purge ユーティリティは IMS ディレクトリーを更新する必要がありますが、このユーティリティが実行されている IMS システムもこのユーティリティとのシリアライゼーションを行わずにそのディレクトリーを使用している可能性があります。オンライン IMS システムとこのユーティリティの間の競合を防ぐため、このユーティリティの実行は許可されません。

システムの処置:

IMS ディレクトリーは更新されず、IMS Catalog Purge ユーティリティは戻りコード 12 で終了しました。

システム・プログラマーの応答:

IMS Catalog Purge ユーティリティを DL/I 領域または DBB 領域内でバッチ・ジョブとして実行し、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーに ACBMGMT=CATALOG が指定されたアクティブな IMS システムが同時に実行されていないことを確認してください。

モジュール:

DFS3PU10

関連資料

[IMS Catalog Record Purge ユーティリティ \(DFS3PU10\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

[DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション \(システム定義\)](#)

DFS4549E

DDcccccccc の妥当性検査が失敗しました。理由コード=リターン・コード [エラー CODE=ec]

説明

理由コード リターン・コードに示されている理由により、DD cccccccc に関連したデータ・セットの妥当性検査が失敗しました。オプションで、理由コード リターン・コードによって識別されるサービスが、エラー・コード ec で示されたエラー・コードで失敗しました。

システムの処置

ユーティリティの処理は終了しました。

出力宛先:

システム・コンソール

システム・プログラマーの応答

理由コードまたはエラー・コードに示されている問題を訂正して、ジョブを再始動してください。

表 27. 理由コードまたはエラー・コード	
法	解説
1	データ・セットにはメンバーが含まれています。続行するには、データ・セットが空でなければなりません。
2	複数のデータ・セットが DD に連結されています。DD に関連付けることができるデータ・セットは 1 つだけです。
3	データ・セットが PDS-E ではありません。
4	データ・セット名が、IMS カタログ・ディレクトリーの命名規則に一致していません。
5	データ・セットの DCB 属性が、DD cccccccc に対して不適切である。
10	DEVTYPE マクロへの呼び出しがエラー・コード ec で失敗しました。DEVTYPE 戻りコードを調べて、エラー・コード ec の考えられる原因を調べてください。

表 27. 理由コードまたはエラー・コード (続き)

法	解説
11	ISITMGDA マクロへの呼び出しがエラー・コード <i>ec</i> で失敗しました。ISITMGD 戻りコードを調べて、エラー・コード <i>ec</i> の考えられる原因を調べてください。

DFS4550W **INSTANCE *yydddhhmmssth* OF DBD | PSB *name* WAS NOT PURGED FROM THE IMS CATALOG BECAUSE IT CONTAINS AN ACTIVE | A PENDING INSTANCE**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ページできなかった DBD または PSB のメンバー名。

yydddhhmmssth

ページできなかった DBD または PSB メンバーのアクティブまたは保留中のインスタンスのタイム・スタンプです。*yyyy* は年、*ddd* はユリウス日、*hh* は時間、*mm* は分、*ss* は秒、*th* は千分の 1 秒を表す形式で示します。

DELETE ステートメントは、IMS がオンラインの間に IMS カタログからアクティブまたは保留中のインスタンスのページを試みました。IMS Catalog Record Purge ユーティリティーはレコードを削除しませんでした。

システムの処置

DFS3PU10 ユーティリティーは戻りコード 4 で失敗します。

ユーザーの処置:

DELETE ステートメントには、アクティブまたは保留中のインスタンスが含まれていないことを確認します。

モジュール:

DFS3PU10

DFS4551E **THE MSC= EXECUTION PARAMETER CANNOT CHANGE WITHOUT A COLD START**

説明

MSC= 実行パラメーターの値が変更された後に、ウォーム・リスタートまたは緊急時再始動が試みられました。MSC= 実行パラメーターの値を変更するにはコールド・

スタートを行う必要があるため、その再始動は失敗しました。

MSC= パラメーターの値が開始プロシージャー内で明示的に変更されたか、または始動プロシージャー内に MSC= パラメーターが指定されていない場合は、IMS が、IMS.SDFSRESL データ・セット内に MSC リソースの DFSCLL3x メンバーが存在するかどうかに基づいて MSC= 実行パラメーターの有効値を自動的に変更した可能性があります。

システムの処置

IMS は、異常終了 0168 および理由コード X'1E' で終了します。

ユーザーの処置

MSC= 実行パラメーターの値を前回の IMS システムのコールド・スタート時の値に変更するか、IMS をコールド・スタートしてください。再始動中に DFS1929I が再度 SYSLOG に発行された場合、MSC= 実行パラメーターの値が正しくないことを示します。

モジュール:

DFSRLP00

関連タスク

[MSC= 実行パラメーターによる MSC の使用可能化 \(コミュニケーションおよびコネクション\)](#)

関連資料

[プロシージャーの MSC= パラメーター \(システム定義\)](#)

DFS4552W **I/O ERROR WRITING MEMBER DFSIMSL.**

説明

IMS システムは、共用 IMS カタログの IMS ディレクトリー・データ・セットの DFSIMSL メンバーへの書き込みができませんでした。DFSIMSL メンバーは、IMS カタログを共用する IMS システムの自動生成リストです。

システムの処置

IMS システムは、再始動プロセスの完了後にメンバー DFSIMSL の再作成を試みます。

プログラマーの応答

処置は必要ありません。

モジュール

DFS RDB30

**DFS4553W MEMBER xxxxxxxx PROCESSED.
AN IMPROPER CONDITION WAS
DETECTED. REASON nnnnn.**

説明

IMS による IMS カタログ・ディレクトリー・データ・セットのメンバーの処理中にエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

処理されるメンバーの名前。

nnnnn

エラーの理由コード。下記のリストに理由コードとその意味が示してあります。

理由

意味

1

指定されたメンバーは、IMS カタログ・ディレクトリー・データ・セット連結の 1 次データ・セット以外のデータ・セットで見つかりました。これは予期しない状態であり、他の IMS 処理で問題を引き起こすことがあります。

システムの処置

理由コード 1 の場合、IMS 初期設定は続行します。

プログラマーの応答

理由コード 1 の場合、この状態の解決方法について、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

モジュール

DFSRDB30

DFS4554E UNABLE TO WRITE TO LIBRARY

説明

IMS Catalog Library Builder ユーティリティが出力データ・セットへの書き込みを試みているときにエラーが発生しました。

システムの処置

ユーティリティは終了します。出力は生成されません。

オペレーターの応答

コンソールに書き込まれたエラー・メッセージを調べて、エラーの原因およびこのユーティリティが書き込みを試みていたデータ・セットを特定してください。

問題を訂正したら、ユーティリティを再実行します。

モジュール:

DFS3LU00

関連資料

[IMS カタログ API の取得要求 \(GET\) \(システム・プログラミング API\)](#)

**DFS4555W [DBD | PSB] MEMBER xxxxxxxx IS
IGNORED**

説明

IMS Catalog Library Builder ユーティリティ (DFS3LU00) は、GSAM アクセス・タイプを使用するメンバーを検出しました。DFS3LU00 ユーティリティは GSAM アクセス・タイプをサポートしていません。

システムの処置

DFS3LU00 ユーティリティはメンバーを処理しません。DFS3LU00 ユーティリティは、他のメンバーの処理を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答:

処置は必要ありません。

モジュール:

DFS3LU00

関連資料

[IMS Catalog Library Builder ユーティリティ \(DFS3LU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

**DFS4560E TRACE TABLE nnnn IS NOT A
VALID TRACE TABLE.**

説明

DFSDFxxx メンバーの DIAGNOSTICS_STATISTICS セクション内の TRCLEV ステートメントに指定されているタイプ 2 トレース・テーブル名が有効なトレース・テーブル名ではありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnn

TRCLEV ステートメントに指定されているトレース・テーブル名。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。UPDATE TRACE コマンドを使用すると、トレースを開始できます。

システム・プログラマーの応答:

TRCLEV ステートメントに有効なトレース・テーブル名を指定してください。有効なトレース・テーブル名については、トピック [DFSDFxxx メンバーの DIAGNOSTICS_STATISTICS セクション \(システム定義\)](#) にある TRCLEV パラメーターを参照してください。

モジュール:

DFSDFN10

DFS4561E ERROR LOADING TRACE SERVICES MODULE mmmmmmmmm IMODULE LOAD RC= nnnnnnnn

説明

IMS が指定されたモジュールをロードできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mmmmmmmm

エラーが発生したモジュールの名前。

nnnnnnnn

IMODULE サービスからの戻りコード

システムの処置:

IMS は、U0630 異常終了で終了します。

システム・プログラマーの応答:

返された RC 値から IMODULE LOAD の失敗の理由を判別し、問題を訂正してください。問題を解決できない場合は、SYSLOG およびダンプを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSTRI00

関連資料

IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

DFS4562E ERROR ALLOCATING SPACE FOR THE tttt TRACE TABLE. BLOCK TYPE bbbb BCB SERVICE RC= nnnnnnnn

説明

IMS は、BCB サービスを使用してタイプ 2 トレース・テーブルにスペースを割り振ることができませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tttt

スペースを割り振ることができなかったトレース・テーブルの名前。

bbbb

割り振ることができなかった BCB ブロック・タイプ。

nnnnnnnn

BCB サービスからの戻りコード。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答:

問題を解決できない場合は、SYSLOG およびダンプを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSTRSV0

DFS4570E USER EXIT LOAD FAILURE. EXIT TYPE - ttttttt MODULE NAME - mmmmmmmmm IMODULE LOAD RC - rr

または

USER EXIT SETUP FAILED. EXIT TYPE - ttttttt MODULE NAME - mmmmmmm REASON - rrrrrrrrrrrrrrrrr RC - rr

説明

IMS がユーザー出口ルーチンをロードできませんでした。出口ルーチン名は、DFSDFx_{xxx} メンバーの USER_EXIT_S セクションで定義されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ttttttt

ユーザー出口タイプ。このフィールドが USRXINIT の場合、エラーはユーザー出口初期設定サービスからのもので、個々のユーザー出口ルーチンに関連するものではありません。この場合は、mmmmmmmm はブランクです。このフィールドが USRXRFSH の場合は、エラーは **REFRESH USEREXIT** コマンド処理中のもので、特定のユーザー出口タイプに関連するものではありません。

mmmmmmmm

エラーが発生したユーザー出口ルーチンまたは制御ブロックの名前。

ユーザー出口ルーチン名が USXGRAMR の場合、メッセージは、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFx_{xxx} メンバー内のユーザー出口定義の構文解析された文法出力に必要なストレージを参照します。

rrrrrrrrrrrrrrrrrr

ユーザー出口のセットアップが失敗した理由。これは、以下のストリングのうちの 1 つです。

BCB RELEASE ERROR

制御ブロック USXI または USXS のストレージを BCB サービスによって解放できませんでした。

BCB GET ERROR

制御ブロック USXI または USXS のストレージを BCB サービスから取得できませんでした。

BLDL ERROR

BLDL が示されたモジュール名の処理に失敗しました。RC=04 の場合は、指定されたモジュールが検出されませんでした。

IMOD FREE ERROR

示されたモジュール名のストレージを IMODULE FREE を使用して解放できませんでした。

IMOD GETM ERROR

示されたモジュールのストレージを IMODULE GETMAIN を使用して取得できませんでした。

IMOD GETS ERROR

示されたモジュールのストレージを IMODULE GETSTOR を使用して取得できませんでした。

LOAD ERROR

LOAD が示されたモジュール名の処理に失敗しました。

NO EXITDEF STMT

指定された出口タイプの DFSDFxxx メンバーには、EXITDEF ステートメントがありません。

PARSE ERROR

DFSDFxxx メンバーの構文解析中にエラーが発生しました。このエラーが構文解析エラー (構文解析サービスのエラーではない) の場合、BPE003E メッセージはこのエラーに関するさらに詳しい情報を示します。

PDS READ ERROR

DFSDFxxx メンバーの読み取り中にエラーが発生しました。MODULE NAME フィールドに読み取られていたメンバー名が示されます。

STOR OBTN ERROR

示されたモジュールのストレージを STORAGE を使用して取得できませんでした。

rr

このメッセージの理由テキストに関連したサービスによって出された戻りコード。サービスからの戻りコードがない場合、このフィールドはブランクです。

このメッセージは、IMS 初期設定中または **REFRESH USEREXIT** コマンドの処理中に DFSDFxxx メンバーの USER_EXITS セクションの出力 EXITDEF パラメーターを処理する場合にも発行されます。

システムの処置:
IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

ストレージ・エラーのためにユーザー出口のセットアップが失敗した場合は、アドレス・スペースの領域サイズが十分に大きいかどうか確認してください。IMS 制御領域 JCL の REGION= パラメーターを変更して領域サイズを増やしてから、IMS を再始動します。

BLDL または LOAD のエラーのためにユーザー出口のセットアップ失敗した場合は、出口ルーチンの名前が正しいかどうか、PROCLIB メンバーを確認してください。PROCLIB メンバーの名前が正しい場合は、制御領域に対してロード・モジュールが使用可能であることを確認してください。

モジュール

DFSUSRXI、DFSUSX00

注: モジュール・フィールドが ****NONE**** の場合、このエラーに関連付けられているユーザー出口モジュールはありません。

関連資料

[IMODULE 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS4571E	USER EXIT TYPE tttttttt IS NOT A VALID USER EXIT TYPE
-----------------	--

説明

DFSDFxxx メンバーの USER_EXITS セクションの EXITDEF ステートメントで指定されたユーザー出口タイプは、有効なユーザー出口タイプではありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tttttttt

EXITDEF ステートメントで指定されたユーザー出口タイプ。

このメッセージは、IMS 初期設定中または **REFRESH USEREXIT** コマンドの処理中に DFSDFxxx メンバーの USER_EXITS セクションの出力 EXITDEF パラメーターを処理する場合にも発行されます。

システムの処置:
IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答:
EXITDEF ステートメントで有効なユーザー出口タイプを指定します。有効なユーザー出口タイプについては、IMS システム定義の説明を参照してください。

モジュール:
DFSUSRXI

DFS4572E	USER EXIT TYPE IS NOT ELIGIBLE FOR MULTI-EXIT ROUTINE SUPPORT
-----------------	--

説明

ユーザー出口タイプ tttttttt は有効なユーザー出口タイプですが、複数出口ルーチンのサポート対象としては適格ではありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tttttttt

ユーザー出口タイプ。

システムの処置:
IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答:
リストされているすべての出口が複数出口のサポート対象として適格であるか、PROCLIB メンバーを調べてください。適格でない出口は削除します。

モジュール:
DFSUSRXI

**DFS4573E UNABLE TO CALL USER EXIT TYPE
- tttttttt FUNCTION - ffffffff
REASON - cccccccccccccccc RC - rr**

説明

IMS が、指定されたユーザー出口タイプの出口ルーチン
を呼び出すことができませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

tttttttt

ユーザー出口タイプ。

fffffff

出口に渡される予定だった機能コード。機能コー
ドがない場合、この部分は空白です。

cccccccccccccccc

出口タイプを呼び出すことができなかった理由。
理由として、次のものが考えられます。

IMOD GETM ERROR

IMODULE GETMAIN エラーが検出されました。

NO DPST STORAGE

従属領域 PST (DPST) のためのインターフェー
ス・ブロックおよびパラメーター・リスト用の
事前割り振りストレージをポイントする
PSTDUXIB フィールドが 0 でした。戻りコード
rr は 8 です。

rr

エラーを受け取ったサービスからの戻りコード。
エラーに戻りコードがない場合、このフィールドは
空白です。

システムの処置:

報告された理由に関係なく、IMS は IMSMON 出口タイ
プを呼び出さず、IMS は処理を続行します。このメッセ
ージは、IMS の存続期間中に一度だけ発行されます。最
最終的にストレージ不足が緩和されると、IMSMON 出口
タイプの呼び出しが再開します。

システム・プログラマーの応答

これがストレージ不足である場合、アドレス・スペース
の領域サイズが小さすぎることが原因の可能性があり
ます。IMS 制御領域 JCL の REGION= パラメーターを
変更して領域サイズを増やしてから、IMS を再始動しま
す。

問題が解決しない場合は、メモリー・ダンプと IMS ロ
グをすべて保管してから、IBM ソフトウェア・サポー
トに連絡してください。メモリー・ダンプが生成され
ない場合、IMS 制御領域のコンソール・ダンプを作成し
ます。

問題判別:

1、2、3、4、25、36、41

モジュール:
DFSFSTM0、DFSTRM00、DFSMNTR0

関連資料

[IMODULE 戻りコード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS4574W DUPLICATE USER EXIT ROUTINE
DEFINED.TYPE- tttttttt MODULE
NAME - mmmmmmmmm**

説明

EXITDEF ステートメントの EXITS パラメーターで、示
されたユーザー出口タイプに対して、重複したユーザー
出口ルーチンが定義されました。出口は、1 回だけロー
ドされ、1 回だけ呼び出されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

tttttttt

ユーザー出口タイプ。

mmmmmmmm

ユーザー出口モジュール名

システムの処置:

2 番目のユーザー出口モジュール名は無視され、IMS は
処理を続行します。

システム・プログラマーの応答:

エラー状態の EXITS パラメーターを確認し、ユーザー
出口ルーチン名を訂正または削除します。

問題判別:

1、2、3、4、25、36、41

モジュール:

DFSUSX00

関連情報

[11 ページの『IMS 問題判別』](#)

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM
によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS4575E ERROR IN ADD ROUTINE FOR EXIT
TYPE tttttttt. SERVICE -
ssssssssssssssss SERVICE RC -
rrrr**

説明

ユーザー出口タイプ **tttttttt** の追加ルーチンでエラーが
検出されました。**REFRESH USEREXIT** コマンドによ
ってユーザー出口タイプが追加されるときに、ユーザー
出口タイプの追加ルーチンが実行されます。

tttttttt

ユーザー出口タイプ。

SSSSSSSSSSSSSSSS

エラーが検出されたサービス。

rrrr

失敗したサービスから受け取った理由コード。

システムの処置:

ユーザー出口タイプは追加されません。

システム・プログラマーの応答

エラーがストレージ・エラーである場合、アドレス・スペースの領域サイズが十分に大きいかどうかを確認してください。IMS 制御領域 JCL の REGION= パラメーターの値を増やしてから、IMS を再始動します。

問題が解決しない場合には、IMS 制御領域のコンソール・ダンプを作成して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSIR010、DFSUSX90

DFS4576W ERROR IN DEL ROUTINE FOR EXIT TYPE tttttttt. SERVICE - SSSSSSSSSSSSSSSSS SERVICE RC - rrrr

説明

ユーザー出口タイプ tttttttt の削除ルーチンでエラーが検出されました。

REFRESH USEREXIT コマンドによってユーザー出口タイプが削除されるときに、ユーザー出口タイプの削除ルーチンが実行されます。

tttttttt

ユーザー出口タイプ。

SSSSSSSSSSSSSSSS

エラーが検出されたサービス。

rrrr

失敗したサービスから受け取った理由コード。

システムの処置:

ユーザー出口タイプは削除されます。エラーがストレージ解放エラーである場合、ストレージはまだ割り振られています。後の時点で REFRESH USEREXIT コマンドによってユーザー出口タイプが追加される場合、ストレージは再使用されます。

システム・プログラマーの応答

REFRESH USEREXIT コマンドを使用してユーザー出口コマンドを追加してから、REFRESH USEREXIT コマンドを使用してユーザー出口タイプを再び削除できます。IMS は、ユーザー出口タイプの削除ルーチンを実行して、失敗したサービスを再試行します。

問題が解決しない場合には、IMS 制御領域のコンソール・ダンプを作成して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSIR010、DFSUSX90

DFS4585W RASE SECURITY USER EXIT DELETED. NO RASE SECURITY USER EXIT CALL WITHpppppppppppppppppp

説明

リソース・アクセス・セキュリティー・ユーザー出口 (RASE) が REFRESH USEREXIT コマンドによって削除されました。

PPPPPPPPPPPPPPPP

ISIS、ODBASE、および ODBMSECURE のパラメーター値。

ISIS 値 A または C は、RACF および RASE ユーザー出口 (ISIS=A)、またはユーザー出口のみ (ISIS=C) を使用してリソース・セキュリティー検査が実行されることを示します。

ODBASE=Y は、RASE ユーザー出口が存在する場合に呼び出されることを示します。

ODBMSECURE 値 A は、RACF と RASE ユーザー出口の両方を使用してリソース・セキュリティー検査が実行されることを示します。ODBMSECURE 値 E は、RASE ユーザー出口のみを使用してリソース・セキュリティー検査が実行されることを示します。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答:

RASE ユーザー出口を使用して実行しない場合は、処置は必要ありません。RASE ユーザー出口を使用して実行する場合は、DFSDFxxx メンバーを変更して RASE ユーザー出口ルーチンを定義し、RASE ユーザー出口タイプに対して REFRESH USEREXIT コマンドを再発行します。

モジュール:

DFSIR010

DFS4586E LOGEDIT USER EXIT COULD NOT BE ADDED. NO LOG RECORDS SELECTED FOR EDITING.

説明

LOGEDIT ユーザー出口に渡されるログ・レコードが選択されていないため、LOGEDIT ユーザー出口は追加されません。IMS の初期設定中、または REFRESH USEREXIT コマンドの結果として、このメッセージが発行される可能性があります。

IMS の初期設定中に発行された場合、LOGEDIT ユーザー出口は、DFSDFxxx メンバーの EXITDEF ステートメントを指定して定義されています。LOGEDIT ユーザー出口は削除されます。

このメッセージが **REFRESH USEREXIT** コマンドの結果として発行される場合、LOGEDIT ユーザー出口は追加されません。

LOGEDIT ユーザー出口に渡されるログ・レコード・タイプは、DFSVM_{xx} メンバーの LOGEDIT ステートメントで識別されます。

システムの処置:
IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答:
IMS の始動時に、LOGEDIT ユーザー出口に渡されるログ・レコード・タイプを DFSVM_{xx} メンバーの LOGEDIT ステートメントで識別する必要があります。ログ・レコード・タイプを選出するには、IMS を再始動する必要があります。

モジュール:
DFSIR010、DFSXLG10

**DFS4587E IMSMON EXIT PROCESSING
 ERROR - eeeeeeeeeeeeeeee RC = rr**

説明

IMS が、IMSMON 出口タイプの呼び出し、または関連するストレージの管理に関する問題を検出しました。

eeeeeeeeeeeeeeee

失敗の理由テキスト。考えられる理由テキストは次のとおりです。

FREESTR MONEXTBL

SLOG (DC モニター作業域) コードに対するインタレストを登録するために出口に渡される、配列のストレージに関する IMODULE FREESTOR エラー。戻りコード *rr* は IMODULE 戻りコードです。

FREESTR LMONARRY

いずれかの出口が特定の SLOG コードへのインタレストを登録したかどうかを確認するために IMS によってチェックされる、SLOG インタレスト配列のストレージに関する IMODULE FREESTOR エラー。戻りコード *rr* は IMODULE 戻りコードです。

GETSTOR SLOG ARY

IMS によって使用されている SLOG インタレスト配列の取得に関する IMODULE GETSTOR エラー。戻りコード *rr* は IMODULE 戻りコードです。

rr
理由テキストに関連付けられた戻りコード。

システムの処置

システム処置は理由テキストによって異なります。

FREESTR MONEXTBL

IMS は処理を続行します。

FREESTR LMONARRY

IMS は処理を続行します。

GETSTOR SLOG ARY

IMSMON 出口タイプは呼び出されません。その状態を示すために、LMONNSLA フラグが設定されます。

システム・プログラマーの応答

理由テキストが GETSTOR SLOG ARY である場合、アドレス・スペースの領域サイズが小さすぎるのが原因の可能性があります。IMS 制御領域 JCL の REGION= パラメータを変更して領域サイズを増やしてから、IMS を再始動します。

問題が解決しない場合は、メモリー・ダンプと IMS ログをすべて保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メモリー・ダンプが生成されない場合、IMS 制御領域のコンソール・ダンプを作成します。問題の IMSMON 出口がベンダー製品である場合は、そのベンダーに連絡してガイダンスを求めてください。

問題判別

1, 2, 3, 4, 5, 15, 25, 36, 41.

モジュール:

DFSMTRO

関連情報

11 ページの『IMS 問題判別』

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

**DFS4591E THE DIRECTORY DATA SET NAMES
 IN THE FAILED IMS AND THE
 RESTARTED IMS DO NOT MATCH.
 UOW ABORTED.
 TOKEN=cccccccccccccccc.**

説明

障害が発生した IMS と再始動された IMS の、それぞれの DFSDF_{xxx} PROCLIB メンバーの <CATALOG> セクションが同じではありません。障害が発生した IMS の IMS ディレクトリー・データ・セットの名前にある高位修飾子が、再始動された IMS の IMS ディレクトリー・データ・セットの名前にある高位修飾子と一致していません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccccccccccc

メンバー・オンライン変更 (MOLC) 作業単位 (UOW) トークン。

システムの処置

IMS の再始動が異常終了 0053 で異常終了します。

システム・プログラマーの応答

再始動された IMS によって使用されている DFSDFxxx メンバーの <CATALOG> セクションの内容は、障害が発生した IMS によって使用されていた DFSDFxxx メンバーと同じでなければなりません。矛盾を訂正し、IMS を再始動してください。

モジュール:

DFSMOL20

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション \(システム定義\)](#)

関連情報

[IMS ディレクトリー・データ・セット \(システム定義\)](#)

DFS4593E ACBSHR=Y IS SPECIFIED, BUT THE DIRECTORY DATA SET IS FOR A NON SHARED IMS SYSTEM.

説明

この IMS システムは、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSCGxxx メンバーまたは DFSDFxxx メンバー内で ACBSHR=Y が指定されているため、IMSplex 内の他の IMS システムとアプリケーション制御ブロック (ACB) を共有するように構成されています。しかし、IMS ディレクトリー・データ・セット・メンバー DFSIMSL の共有属性標識には、IMS ディレクトリーが別の IMS システム専用としてセットアップされていることが示されています。

システムの処置

IMS は異常終了し、異常終了コード U0071 が示されます。

システム・プログラマーの応答

再始動する IMS システムで ACBSHR パラメーターが正しく指定されていることを確認してください。ACBSHR パラメーターは、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSCGxxx メンバーまたは DFSDFxxx メンバーに指定されています。

PROCLIB メンバー内の ACBSHR の指定が正しくない場合は、その指定を ACBSHR=N に変更します。

PROCLIB メンバーの ACBSHR の指定が正しい場合、再始動する IMS システムが誤った IMS カタログを参照しているか、IMS カタログが正しい ACBSHR 指定を使用してセットアップされませんでした。

IMS システムが誤った IMS カタログを参照している場合は、再始動する IMS システムの DFSDFxxx メンバーの <CATALOG> セクション内で、ALIAS パラメーターに正しい IMS カタログの別名を指定します。

IMS ディレクトリー共有属性は、IMS ディレクトリーの DFSIMSL メンバーで保持されており、最初は IMS ディレクトリーを使用した最初の IMS システムによって設定されました。共有属性は、ディレクトリー・データ・セットを使用して最初の IMS の始動時に存在していた条件に基づいて設定されています。最初の IMS で ACBSHR=Y が指定されていて、DFSDFxxx メンバーに COMMON_SERVICE_LAYER セクションがあり、そのセクションで RMENV=Y が指定されていた場合は、ディレクトリー共有属性は、他の IMS システムによるディレクトリーの共有を許可するように設定されています。そのようなディレクトリーの使用を許可されるのは、ACBSHR=Y が指定されている IMS システムのみです。

ACBSHR=N が指定されているか、DFSDFxxx メンバーに COMMON_SERVICE_LAYER セクションがなかったか、RMENV=N が指定されていたために、最初の IMS が上記のすべての条件を満たしていなかった場合は、ディレクトリー共有属性は、最初の IMS による使用のみを許可するように設定されています。他の IMS はディレクトリーの共有を許可されません。

ディレクトリー共有属性を変更する必要がある場合、DFSIMSL メンバーで共有属性を設定した最初の IMS が、ディレクトリーを共有するための条件を満たすように構成される必要があります。その後で IMS システムを再始動する必要があります。

モジュール:

DFSRDB30

関連概念

[マルチシステム構成における IMS カタログ \(システム定義\)](#)

関連タスク

[IMS カタログのセットアップ \(システム定義\)](#)

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション \(システム定義\)](#)

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSCGxxx メンバー \(システム定義\)](#)

[DFSDFxxx メンバーの COMMON_SERVICE_LAYER セクション \(システム定義\)](#)

関連情報

[0071 \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS4594W THE CURRENT CHANGE TO ACBMGMT SUPPORT IS INADVISABLE WITH A RESTART USING CHECKPOINT

説明

IMS システムの再始動中に、IMS は、アプリケーション制御ブロック (ACB) がオンライン IMS システムに前回ロードされてから IMS カタログが変更されたことを検出しました。IMS カタログに対して行われた変更によってオンライン IMS システムの ACB と IMS ディレク

トリー・データ・セットの ACB の間に不一致が生じると、その不一致が検出された時点で IMS は異常終了します。

システムの処置

IMS は処理を続行します。IMS は、IMS ディレクトリーの ACB ブロックと、緊急時再始動時に IMS がログからメモリーにロードした ACB ブロックの間の不一致を検出すると、異常終了します。

システム・プログラマーの応答

IMS システムが正しい IMS カタログを参照していることを確認します。再始動された IMS によって使用されている DFSDFxxx メンバーの <CATALOG> セクションのパラメーターは、障害が発生した IMS によって使用されていた DFSDFxxx メンバーと同じでなければなりません。矛盾を訂正し、IMS を再始動します。

IMS カタログに対する変更が意図的なものであることを確認します。

IMS システムが正しい IMS カタログを参照していて、変更が意図的なものである場合は、コールド・スタートを使用して、IMS カタログに対する現在の変更を IMS システムに追加します。

モジュール:

DFSRDB30

関連概念

[IMS ディレクトリー・データ・セット \(システム定義\)](#)

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション \(システム定義\)](#)

DFS4596E	OLC COMMIT REJECTED. INVALID MEMBER IN FMTLIB <i>ddname -nn mbrname</i>
-----------------	--

説明

非アクティブの FMTLIB データ・セットで無効なメンバーが検出されたため、オンライン変更コミット・コマンド **/MODIFY COMMIT** はリジェクトされました。メンバーに無効なディレクトリー・サイズ (負の値または 32767 バイトよりも大きい値) が含まれているため、メンバーは無効です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

7 文字の FMTLIB DD 名。これは、FORMATA または FORMATB のいずれかです。

nn

FMTLIB DD ステートメント内の FMTLIB データ・セット連結数 (2 バイト)。

mbrname

FMTLIB データ・セット内の 8 文字の無効なメンバー名。

例えば、**/MODIFY COMMIT** コマンドが発行される前に、モジュールが誤って非アクティブな FMTLIB にコピーされると、**/MODIFY COMMIT** コマンドはこのエラーで失敗することがあります。メンバーが、無効なディレクトリー・サイズの実際の MFS 形式である場合、形式名の最初の 2 文字は、この出力にブランクまたはその他の英数字以外の文字として表示されることがある印刷不能な 16 進値です。TSO で FMTLIB を表示するときに、形式名の最初の 2 文字が異なる非英数字として表示されることがあります。

システムの処置:

オンライン変更コミット・コマンドはリジェクトされます。

メッセージの出力宛先

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

オペレーターの応答:

FMTLIB データ・セットから無効なメンバーを削除して、**/MODIFY COMMIT** コマンドを再発行するか、**/MODIFY ABORT** コマンドを使用してオンライン変更を打ち切ってください。

モジュール:

DFSICV50

DFS4597I	DBD <i>dbd_name</i> IS DELETED FROM THE CATALOG AND THE DIRECTORY. PST <i>pst_name</i>.
-----------------	--

説明

DROP DATABASE DDL ステートメントによって、カタログ・データベースとディレクトリー・データ・セットの両方からデータベースが削除されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name

削除されたデータベースの名前。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置

IMS は続行されます。

ユーザーの処置

処置は必要ありません。

モジュール:

DFS4598I PSB *psb_name* IS DELETED FROM THE CATALOG AND THE DIRECTORY. PST *pst_name*

説明

DROP PROGRAMVIEW DDL ステートメントによって、カタログ・データベースとディレクトリー・データ・セットの両方からプログラム・ビュー (PSB) が削除されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb_name

削除されたプログラム・ビュー (PSB) の名前。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置

IMS は続行されます。

ユーザーの処置

処置は必要ありません。

モジュール:

DFSMOLSO

DFS4599E RECOVERY UTILITY FAILED TO CLEANUP DIRECTORY REASON=*reasontext*

説明

ディレクトリーをクリーンアップするリカバリー・ユーティリティーが失敗しました。失敗の原因が理由テキストで説明されています。

システムの処置

クリーンアップ・ジョブが失敗しました。

システム・プログラマーの応答

失敗の原因を訂正し、クリーンアップ・ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:

DFSOLC80 DFSPCC30

DFS4600E RSN=02 AREA *areaname* SERIALIZATION PROCESS FAILED

説明

エリアの直列化プロセスは失敗しました。これより前に出される 1 つ以上の DFS4600I メッセージで、エリアの直列化の失敗の理由が説明されています。

DEDB 変更プロセス中に、DEDB エリアは、1 つ以上のインスタンスについて、直列化および直列化解除されません。DEDB エリアの直列化が失敗した場合、最後の直列化インスタンスに対して DFS4600E RSN=02 メッセージが発行されます。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティーは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに処理を終了します。

モジュール:

DBFDAQAO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティー \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティー\)](#)

DFS4600I RSN=00 AREA *areaname* SERIALIZATION PROCESS STARTED

または

RSN=01 AREA *areaname* SERIALIZATION PROCESS ENDED SUCCESSFULLY

または

RSN=03 AREA *areaname* SERIALIZATION FAILED – THREAD *yyyyyyyy* UPDATED THE AREA BUT WAS NOT SERIALIZED

または

RSN=04 AREA *areaname* SERIALIZATION FAILED – THREAD *yyyyyyyy* WITH UPDATE INTENT FOR THE AREA WAS NOT SERIALIZED

または

RSN=06 AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT WHILE ATTEMPTING TO SERIALIZED THE AREA

または

RSN=07 AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT – RETRY STARTING

または

RSN=08 AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT – RETRY STARTING

または

RSN=09 AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT – RETRY STARTING

または

RSN=0A AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT – RETRY STARTING

または

RSN=0B AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT – RETRY STARTING

または

RSN=0C AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT WHILE ATTEMPTING TO SERIALIZED THE AREA

説明

DEDB 変更プロセス中に、DEDB エリアをアプリケーション・スレッドで直列化する必要がありました。

- 直列化プロセスが正常に完了した場合、RSN=01 がストリーム内の最後のメッセージになります。
- 直列化プロセスが失敗した場合、ストリーム内の最後のメッセージは DFS4600E RSN=02 になり、その前に出される DFS4600I メッセージに失敗の説明が示されます。

DEDB 変更プロセス中に、DEDB エリアは、1 つ以上のインスタンスについて、直列化および直列化解除されます。各インスタンスについて、DEDB エリアが正常に直列化された場合、メッセージ DFS4600I RSN=00 および DFS4600I RSN=01 が発行されます。DEDB エリアの

直列化が失敗した場合、最後の直列化インスタンスに対して、メッセージ DFS4600I RSN=00 および DFS4600E RSN=02 が発行されます。

理由コード 意味

RSN00

エリアの直列化プロセスがエリア *areaname* に対して開始されました。

RSN01

エリアの直列化プロセスは正常に終了しました。エリアは DEDB 変更ユーティリティによって直列化されました。

RSN03

エリアの直列化プロセスは失敗しました。スレッド *yyyyyyyy* はエリア *areaname* を更新しましたが、エリア *areaname* は正しく直列化されませんでした。

RSN04

エリアの直列化プロセスは失敗しました。スレッド *yyyyyyyy* がエリア *areaname* の直列化に関連していませんでしたが、タスクはこれを受け入れることができるかどうかを判別できませんでした。

RSN06, RSN0C

エリアの直列化を排他モードで試行しているときに、エリアの直列化プロセスはタイムアウトになりました。

RSN07, RSN08, RSN09, RSN0A, RSN0B

エリアの直列化を排他モードで試行しているときに、エリアの直列化プロセスはタイムアウトになりました。DEDB 変更ユーティリティの入力オプションとして RETRY YES または RETRY *retry_value* が指定されていたため、エリアの直列化がもう 1 回再試行されます。

システムの処置

エリアの直列化が正常に実行された場合、DEDB 変更ユーティリティは処理を続行します。エリアの直列化が正常に実行されなかった場合、DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに処理を終了します。

モジュール:

DBFDAQAO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

第 94 章 DFS メッセージ DFS4601E - DFS4650I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS4601E RSN=02 DEDB *dedbname*
SERIALIZATION PROCESS FAILED**

または

説明

DEDB の直列化プロセスは失敗しました。これより前に出される 1 つ以上の DFS4601I メッセージで、DEDB の直列化の失敗の理由が説明されています。

**RSN=07 DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT – RETRY STARTING**

または

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティーは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに処理を終了します。

**RSN=08 DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT – RETRY STARTING**

モジュール:

DBFDAQA0

または

関連資料

DEDB 変更ユーティリティー (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティー)

**RSN=09 DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT – RETRY STARTING**

**DFS4601I RSN=00 DEDB *dedbname*
SERIALIZATION PROCESS
STARTED**

または

**RSN=0A DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT – RETRY STARTING**

または

または

**RSN=01 DEDB *dedbname* SERIALIZATION PROCESS
ENDED SUCCESSFULLY**

**RSN=0B DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT – RETRY STARTING**

または

または

**RSN=03 DEDB *dedbname* SERIALIZATION FAILED –
THREAD *yyyyyyyy* UPDATED THE DEDB BUT WAS
NOT SERIALIZED**

**RSN=0C DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT WHILE ATTEMPTING TO SERIALIZE THE DEDB**

または

説明

DEDB 変更プロセス中に、DEDB データベースをアプリケーション・スレッドで直列化する必要がありました。

**RSN=04 DEDB *dedbname* SERIALIZATION FAILED –
THREAD *yyyyyyyy* WITH UPDATE INTENT FOR THE
DEDB WAS NOT SERIALIZED**

- プロセスが正常に完了した場合、RSN=01 はストリーム内の最後のメッセージになります。
- 直列化プロセスが失敗した場合、ストリーム内の最後のメッセージは DFS4601E RSN=02 になり、その前に出される DFS4601I メッセージに失敗の説明が示されます。

または

理由コード
意味

**RSN=06 DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT WHILE ATTEMPTING TO SERIALIZE THE DEDB**

RSN00

DEDB の直列化プロセスが DEDB *dedbname* に対して開始されました。

RSN01

DEDB の直列化プロセスは正常に終了しました。エリアは DEDB 変更ユーティリティによって直列化されました。

RSN03

DEDB の直列化プロセスは失敗しました。スレッド *yyyyyyyy* は DEDB *dedbname* を更新しましたが、DEDB *dedbname* は正常に直列化されませんでした。

RSN04

エリアの直列化プロセスは失敗しました。スレッド *yyyyyyyy* が DEDB *dedbname* の直列化に関連していませんでしたが、タスクはこれを受け入れることができるかどうかを判別できませんでした。

RSN06, RSN0C

エリアの直列化を排他モードで試行しているときに、DEDB の直列化プロセスはタイムアウトになりました。

RSN07, RSN08, RSN09, RSN0A, RSN0B

DEDB の直列化を排他モードで試行しているときに、DEDB の直列化プロセスはタイムアウトになりました。DEDB 変更ユーティリティの入力オプションとして RETRY YES または RETRY *retry_value* が指定されていたため、DEDB の直列化がもう 1 回再試行されます。

システムの処置

DEDB の直列化が正常に実行された場合、DEDB 変更ユーティリティは処理を続行します。DEDB の直列化が正常に実行されなかった場合、DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに処理を終了します。

モジュール:

DBFDAQA0

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4602E BOTH ACTIVE AND SHADOW ARE SPECIFIED

説明

DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMINO) で ACTIVE と SHADOW の両方の制御ステートメントが指定されています。ユーティリティは同じ実行の中でアクティブ・エリア・データ・セットとシャドウ・データ・セットの両方をフォーマット設定することはできないため、これらの制御ステートメントは相互に排他的です。

システムの処置

DEDB 初期設定ユーティリティは機能を処理せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

1 回の実行で ACTIVE 制御ステートメントを指定して、アクティブ・エリア・データ・セットをフォーマット設定します。別の実行で SHADOW 制御ステートメントを指定して、シャドウ・エリア・データ・セットおよびシャドウ・イメージ・コピー・データ・セットをフォーマット設定します。

モジュール:

DBFUMINO

関連資料

[DEDB 初期設定ユーティリティ \(DBFUMINO\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

**DFS4603I DBRC QUIESCE END ERROR FOR
DEDB ALTER, DEDB=ddddddd
RC=rrrrrrr RSN=rrrrrrr
MODULE=bbbbbbbbb**

または

DBRC QUIESCE END ERROR FOR DEDB ALTER,
AREA=aaaaaaaa RC=rrrrrrr RSN=rrrrrrr
MODULE=bbbbbbbbb

説明

IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティが実行中であったことを検出しました。DBRC で QUIESCE IN PROGRESS フラグがまだアクティブになっていて、IMS が QUIESCE フラグをリセットしようとしたときに、DBRC 呼び出しが失敗しました。DSPDBQ END 呼び出しに対して RC が DBRC によって設定されます。RSN コードは、コードの中でメッセージが発行された場所を識別します。

システムの処置

緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答

RECON データ・セットをリストして、QUIESCE IN PROGRESS フラグがまだオンになっているかどうかを確認します。オンである場合は、QUIESCE IN PROGRESS フラグをリセットします。

モジュール:

DBFEDA00

**DFS4604I DBRC ALTER EOJ ERROR FOR
DEDB ALTER AREA=aaaaaaaa
RC=rrrrrrrr MODULE=bbbbbbbb**

説明

IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティーが実行中であったことを検出しました。AREA=aaaaaaaa の RECON で DEDB ALTER フラグがオンになっていました。ALTEREOJ 呼び出しに対して RC が DBRC によって設定されます。RSN コードは、コードの中でメッセージが発行された場所を識別します。

システムの処置

緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答

RECON データ・セットをリストして、DEDB ALTER IN PROGRESS フラグがまだオンになっているかどうかを確認します。オンである場合は、ALTER IN PROGRESS フラグをリセットします。

モジュール:
DBFEDA00

**DFS4605I RESTART ERROR PROCESSING
5961 LOG RECORD, COULD NOT
FIND AREA=aaaaaaaa
MODULE=bbbbbbbb**

説明

IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティーが実行中であったことを検出しました。IMS は、AREA=aaaaaaaa を検出できず、関連する 5961 ログ・レコードを処理できませんでした。

システムの処置

緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答

AREA が正常に削除された場合は、処置は必要ありません。削除されなかった場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を要求してください。

モジュール:
DBFEDA00

**DFS4606I COULD NOT DELETE THE BLOCKS
FOR DEDB ALTER DEDB=ddddddd
RC=rrrrrrrr RSN=aaaaaaaa
MODULE=bbbbbbbb**

説明

IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティーが実行中であったことを検出しました。ACTIVE ACBLIB に、IMS が削除できなかった暗号化されたメンバーが含まれていました。UNDO COPYLOCKS 呼び出し時に DBFMOLSO によって RC が設定されます。RSN コードは、コードの中でメッセージが発行された場所を識別します。

システムの処置

緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答

暗号化されたメンバーが必要でなくなっていることを確認してください。必要ない場合は、そのメンバーを ACBLIB から削除します。共用 ACBLIB を使用している場合、再始動しているすべてのデータ共用 IMS サブシステムはクリーンアップを試行しますが、ACBLIB をロックする最初の IMS のみが削除対象のブロックを検出します。

モジュール:
DBFEDA00

**DFS4607I COULD NOT FIND THE DDIR FOR
DEDB ALTER DEDB=ddddddd
RC=rrrrrrrr MODULE=bbbbbbbb**

説明

IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティーが実行中であったことを検出しました。IMS は、DEDB=ddddddd を検出できず、関連する 5961 ログ・レコードを処理できませんでした。DDIR が見つからない場合、RC が DFSCBTS によって設定されます。

システムの処置

緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答

AREA が適切に削除された場合は、処置は必要ありません。削除されなかった場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:
DBFEDA00

**DFS4608E COULD NOT UNDO MOLC FOR
DEDB ALTER DEDB=ddddddd
RC=rrrrrrrr RSN=aaaaaaaa
MODULE=bbbbbbbb**

説明

IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティーが実行中であったことを検出しました。IMS は、IMS の障害発生時に DEDB=dddddddd の STAGING メンバーがアクティブ・ライブラリーにコピーされたことを検出しました。ACTIVE ACBLIB メンバーをリストアする試行は失敗しました。UNDO MOLC 呼び出し時に RC が DBFMOLSO によって設定されます。RSN コードは、コードの中でメッセージが発行された場所を識別します。

システムの処置

緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答

ACTIVE ACBLIB の DEDB メンバーが STAGING メンバーからのものであることを確認します。そうである場合、ACTIVE ACBLIB の DEDB メンバーをアクティブ・メンバーのバックアップ ACBLIB から手動でリストアする必要があります。

モジュール:
DBFEDA00

DFS4609I	THE DEDB ALTER MOLC PROCESS WAS CLEANED UP DURING RESTART DEDB=dddddddd MODULE=aaaaaaaa
-----------------	--

説明

IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティーが実行中であったことを検出しました。IMS は、IMS の障害発生時に DEDB=dddddddd の STAGING メンバーがアクティブ・ライブラリーにコピーされたことを検出しました。ACTIVE ACBLIB をリストアする試行は正常に完了しました。

システムの処置

緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFEDA00

DFS4610E	ONLY ONE keyword KEYWORD IS ALLOWED PER UTILITY EXECUTION
-----------------	--

説明

メッセージ・テキストで、*keyword* は、ADDAREA、ALTERAREA、ALTERDB、REPLRAND、RETRY、RETRYWAIT、TIMEOUT、TYPE、または UNKEYSEG のいずれかの制御ステートメントです。

DEDB 変更ユーティリティーは、ユーティリティーの 1 回の実行につき、これらの制御ステートメントの 1 つのみをサポートします。しかし、これらの制御ステートメントの 1 つ以上が複数回指定されていました。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティーは機能を処理せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

メッセージの説明にリストされている制御ステートメントを 1 つを除きすべて削除し、ジョブを再サブミットしてください。

モジュール:
DBFUMMSO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティー \(DBFUDA00\) の制御ステートメント \(データベース・ユーティリティー\)](#)

DFS4611E	TIMEOUT VALUE SPECIFIED IS INCORRECT
-----------------	---

説明

TIMEOUT 値は、1 から 999 までの 1 桁から 3 桁の数値でなければなりません。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティーは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

TIMEOUT 値を訂正するか、削除してデフォルトの TIMEOUT 値の 15 秒が使用されるようにしてから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMMSO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティー \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティー\)](#)

DFS4613E	DEDB ALTER TERMINATED BECAUSE EEQE EXISTS
-----------------	--

説明

エリアをオンラインに変更するために、DEDB 変更ユーティリティが ALTERAREA 機能と一緒に実行されました。しかし、変更対象のエリアには 1 つ以上の拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) があります。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

変更対象のエリアをリカバリーして、EEQE を解決してください。

モジュール:
DBFUMMSO

関連概念

[DL/I 入出力エラーおよびリカバリー \(データベース管理\)](#)

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

**DFS4614E DEDB ALTER REQUIRES A 2 STAGE
RANDOMIZER**

説明

DEDB 変更ユーティリティは、変更対象の DEDB データベースが 2 ステージ・ランダムマイザーを使用していないことを検出しました。DEDB 変更ユーティリティは、2 ステージ・ランダムマイザーを使用する DEDB データベースのみをサポートします。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

2 ステージ・ランダムマイザーを使用するように DEDB データベースを変換します。

- ランダムマイザーが 1 ステージ・ランダムマイザーである場合、2 ステージ・ランダムマイザーを使用して DEDB データベースをアンロードしてから再ロードします。オンライン変更を実行して、ランダムマイザーを 1 ステージ・ランダムマイザーから 2 ステージ・ランダムマイザーに変更します。
- ランダムマイザーが 2 ステージ・ランダムマイザーに似たランダムマイザーである (1 ステージ・ランダムマイザーとして定義されているが、2 ステージ・ランダムマイザーとして動作する) 場合、オンライン変更を実行して、

ランダムマイザーを 1 ステージ・ランダムマイザーから 2 ステージ・ランダムマイザーに変更します。

モジュール:
DBFUMMSO

関連概念

[DL/I 入出力エラーおよびリカバリー \(データベース管理\)](#)

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

**DFS4615E ADDAREA, ALTERAREA,
REPLRAND AND ALTERDB ARE
MUTUALLY EXCLUSIVE**

説明

DEDB 変更ユーティリティは、以下の制御ステートメントのうち、複数指定されていることを検出しました。しかし、以下の制御ステートメントは同時に指定できないため、指定できるステートメントはこのうち 1 つのみです。

- ADDAREA
- ALTERAREA
- REPLRAND
- ALTERDB

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに終了します。

システム・プログラマーの応答:

同時に指定できない制御ステートメントを複数指定したことによって生じたエラーを訂正し、DEDB 変更ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DBFUMMSO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) の制御ステートメント \(データベース・ユーティリティ\)](#)

**DFS4616E RETRY VALUE SPECIFIED IS
INCORRECT**

説明

RETRY は、DEDB 変更ユーティリティが TIMEOUT 値の期限が切れた後にコミット・プロセスを再試行する回数を指定します。RETRY 値は、NO (再試行しない)、YES (ユーティリティが正常に実行されるまで再試行する)、または 1 から 99 の数値でなければなりません。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティーは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

RETRY 値を訂正するか、削除してデフォルト値の NO が使用されるようにしてから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMMSO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティー \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティー\)](#)

**DFS4617E RETRYWAIT VALUE SPECIFIED IS
INCORRECT**

説明

RETRYWAIT は、DEDB 変更ユーティリティーが TIMEOUT 値の期限が切れた後にコミット・プロセスを再試行するのを待機する時間の長さを指定します。RETRYWAIT 値は、1 から 999 までの 1 文字から 3 文字の数値 (秒を表します) でなければなりません。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティーは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

RETRYWAIT 値を訂正するか、削除してデフォルト値の 60 秒が使用されるようにしてから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMMSO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティー \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティー\)](#)

**DFS4618E ANOTHER DEDB ALTER UTILITY IS
ALREADY RUNNING AGAINST
DEDB *dedb_name***

説明

同じ DEDB データベースに対して別の DEDB 変更ユーティリティーが既に実行されています。IMS データ共用システムで 1 つの DEDB データベースに対してアクティブにできる DEDB 変更ユーティリティーは 1 つだけです。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティーは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

他の DEDB 変更ユーティリティーが完了するのを待ってから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMMSO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティー \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティー\)](#)

**DFS4619E MINVERS NOT MATCHING
REQUIREMENT**

説明

RECON データ・セットで MINVERS 値が 13.1 以上に設定されていないため、DEDB 変更ユーティリティーを実行できません。DEDB 変更ユーティリティーを実行するには、MINVERS 値が 13.1 以上でなければなりません。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティーは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

CHANGE.RECON コマンドを発行することにより、RECON データの MINVERS 値を 13.1 以上に設定してから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMMSO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティー \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティー\)](#)

[CHANGE.RECON コマンド \(コマンド\)](#)

**DFS4620E DEDB ALTER VALIDATION ERROR:
*Cause***

説明

DEDB 変更ユーティリティーは、変更対象の DEDB データベースのステージング ACB ライブラリーで DEDB DBD メンバーの無効な状態を検出しました。

メッセージ・テキストで、*Cause* は以下のいずれかの状態を示します。

- DEDB ALTER REQUIRES A 2-STAGE RANDOMIZER

- SAME RANDOMIZER NAME BUT ATTRIBUTE CHANGE
- SAME RANDOMIZER NAME FOUND FOR REPLRAND
- ALTERAREA ONLY SUPPORTS CHANGING ONE AREA
- AREA CHANGE FOUND FOR REPLRAND FUNCTION
- NUMBER OF AREAS IN DEDB CHANGE FOUND
- ORDER OF AREAS IN DEDB CHANGE FOUND
- AREA ATTRIBUTE CHANGE NOT SUPPORTED
- FIELD ATTRIBUTE CHANGE NOT SUPPORTED
- SECONDARY INDEX CHANGE NOT SUPPORTED
- SEGM ATTRIBUTE CHANGE NOT SUPPORTED
- ATTRIBUTE CHANGE NOT SUPPORTED
- STAGING ACBLIB IS EMPTY
- AREA *area_name* DOES NOT EXIST
- DEDB *dedb_name* MEMBER NOT IN STAGING ACBLIB
- DEDB *dedbname* MEMBER NOT IN STAGING DIRECTORY
- SHADOW AREA SDEP PART IS LESS FOR ALTERAREA FUNCTION
- SHADOW RANDOMIZER IS NOT REENTRANT
- SEGMENT EDIT/COMPRESSION EXIT NOT SUPPORTED
- INCONSISTENCY FOUND IN DEDB AND RECON DEFINITIONS
- ADDED AREAS ARE NOT TO THE END OF DEDB *dedbname*

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

DEDB DBD 定義のエラーを訂正して、ステージング ACB ライブラリーに対して DBDGEN ユーティリティおよび ACBGEN ユーティリティを再実行し、DEDB 変更ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DBFDASPO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)
[データベース記述 \(DBD\) 生成ユーティリティ \(システム・ユーティリティ\)](#)
[アプリケーション制御ブロック保守ユーティリティ \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4621E DEDB ALTER SYSTEM ERROR: Cause

説明

DEDB 変更ユーティリティがシステム・エラーを検出しました。

メッセージ・テキストで、Cause は以下のいずれかの状態を示します。

- GET STORAGE ERROR
- IMS INTERNAL ERROR
- DATA SHARING ERROR

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼して、診断情報 (IMS および DEDB 変更ユーティリティ領域のダンプ) を収集します。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DBFDASPO、DBFDIA60

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4622E DEDB ALTER ENVIRONMENT ERROR: Cause

説明

DEDB 変更ユーティリティがステージング ACB ライブラリーへのアクセス時に環境エラーを検出したか、DEDB 変更がオンライン変更と並行して実行されました。DEDB 変更ユーティリティおよびオンライン変更のプロセスを並行して実行することはできません。

メッセージ・テキストで、Cause は以下のいずれかの状態を示します。

- ONLINE CHANGE PHASE IN PROGRESS
- STAGING ACBLIB ACCESS ERROR
- STAGING ACBLIB ALLOCATION ERROR
- STAGING ACBLIB OPEN ERROR
- STAGING DIRECTORY ACCESS ERROR
- STAGING DIRECTORY ALLOCATION ERROR
- STAGING DIRECTORY OPEN ERROR ERROR
- DIRECTORY ACCESS ERROR
- DIRECTORY ALLOCATION ERROR

- DIRECTORY OPEN ERROR
- ACTIVE ACBLIB ACCESS ERROR
- ACTIVE ACBLIB ALLOCATION ERROR
- ACTIVE ACBLIB OPEN ERROR
- DRD OR DB QUIESCE COMMAND IN PROGRESS
- AUTHORIZED SUBSYSTEM *ims_name* IS NOT A MEMBER OF ALTERGRP *alter_group*
- ACBSHR= VALUE DOES NOT MATCH

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

環境エラーを訂正してから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DBFDASPO、DBFDAI60

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4623W	NO AREA ATTRIBUTE CHANGE FOUND FOR ALTERAREA FUNCTION
-----------------	--

説明

area_name で指定されたエリアの属性を変更するために、DEDB 変更ユーティリティが実行されました。しかし、DEDB 変更ユーティリティは、エリア属性が変更されていないことを検出しました。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能の実行を続行します。

システム・プログラマーの応答

エリア属性の変更が省略された場合、DBDGEN ユーティリティおよび ACBGEN ユーティリティを再実行してエリア属性の変更を反映してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール:

DBFDASPO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4624I	DEDB ALTER SHADOW RANDOMIZER <i>randname</i> LOADED FOR DEDB <i>dedbname</i>
-----------------	---

説明

ランダムマイザーの変更によってエリアを変更するため、またはランダムマイザーを置き換えるために、DEDB 変更ユーティリティが実行されました。*randname* で指定されているシャドー・ランダムマイザーは、DEDB *dedbname* のために正常にロードされました。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能の実行を続行します。

システム・プログラマーの応答

処置は必要ありません。

モジュール:

DBFDASPO

DFS4625E	DEDB ALTER SHADOW RANDOMIZER <i>randname</i> UNLOADED FOR DEDB <i>dedbname</i>
-----------------	---

説明

ランダムマイザーの変更によってエリアを変更するため、またはランダムマイザーを置き換えるために、DEDB 変更ユーティリティが実行されました。しかし、DEDB 変更ユーティリティは終了エラーを検出しました。*randname* で指定されているシャドー・ランダムマイザーは、DEDB *dedbname* のために正常にアンロードされました。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

DEDB 変更ユーティリティが終了する原因となったエラーを訂正してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール:

DBFDASPO

DFS4626I	DEDB ALTER SHADOW RANDOMIZER <i>randname</i> REPLACED ACTIVE RANDOMIZER <i>randname</i> FOR DEDB <i>dedbname</i>
-----------------	---

説明

ランダムマイザーの変更によってエリアを変更するため、またはランダムマイザーを置き換えるために、DEDB 変更ユーティリティが実行され、正常に完了しました。*randname* で指定されているシャドー・ランダムマイザー

は、DEDB *dedbname* のアクティブ・ランダムマイザー *randname* に置き換えられました。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された処置を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFDASPO

**DFS4627E DEDB ALTER SHADOW
RANDOMIZER *randname* LOAD
FAILED FOR DEDB *dedbname***

または

**DEDB ALTER SHADOW RANDOMIZER *randname*
UNLOAD FAILED FOR DEDB *dedbname***

または

**DEDB ALTER OLD ACTIVE RANDOMIZER *randname*
UNLOAD FAILED FOR DEDB *dedbname***

説明

ランダムマイザーの変更によってエリアを変更するため、またはランダムマイザーを置き換えるために、DEDB 変更ユーティリティが実行されましたが、以下のいずれかの理由により、要求された機能を実行せずに終了しました。

- ユーティリティは、*randname* で指定されているシャドー・ランダムマイザーをロードできませんでした。
- ユーティリティは、*randname* で指定されているシャドー・ランダムマイザーをアンロードできませんでした。
- ユーティリティは、*randname* で指定されている以前のアクティブ・ランダムマイザーをアンロードできませんでした。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された処置を完了するか、完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

ランダムマイザーのロードの失敗を解決して、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール:

DBFDASPO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

**DFS4628I IMS *ims_name* JOINED | LEFT
ALTERGRP *alter_group***

説明

IMS システム *ims_name* は、DFSDFxxx PROCLIB メンバーの FASTPATH セクションの ALTERGRP パラメーターによって DBFxxxxx で定義されている DEDB 変更データ共用グループ *alter_group* に参加したか、このグループから離脱しました。

システムの処置

IMS システムは、DEDB 変更 DBFxxxxx データ共用グループに参加したか、このグループから離脱しました。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFDAI60

**DFS4629E IMS *ims_name* ERROR JOINING |
LEAVING ALTERGRP *alter_group*,
RC=*return_code*, RSN=*reason_code***

説明

IMS システム *ims_name* は、DFSDFxxx PROCLIB メンバーの FASTPATH セクションの ALTERGRP パラメーターによって DBFxxxxx で定義されている DEDB 変更データ共用グループ *alter_group* に参加したか、このグループから離脱したときに、エラーを検出しました。

システムの処置

IMS は、DEDB 変更 DBFxxxxx データ共用グループに参加するか、グループから離脱するときに、エラーを検出しました。

XRF テークオーバーの後、以前のアクティブ IMS システムがまだ ALTERGRP グループを離脱していない場合、新しいアクティブ IMS システムは、ALTERGRP グループに参加しようとするとき DFS4629E を受け取ります。

新しいアクティブ IMS システムの参加のエラーの後、新しいアクティブ IMS は、ALTERGRP グループに正常に参加するまで、IMS システム・チェックポイント時に ALTERGRP グループへの参加を再試行します。

システム・プログラマーの応答

処置は必要ありません。

モジュール:
DBFDAI60

DFS4630E AN UNEXPECTED STATUS CODE OF *status_code* WAS ENCOUNTERED WHEN ATTEMPTING AN *call_type* CALL FOR SEGMENT *segment_name* IN THE SHADOW ADS.

説明

ALTERAREA 機能の DEDB 変更ユーティリティの処理中に、シャドー・エリア・データ・セットを更新しようとしていた、示されている呼び出しで状況コードが返されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

status_code

呼び出しタイプで返された DL/I 状況コード。

call_type

次のいずれかです。

- DELETE
- INSERT
- LOCATE
- UPDATE

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を実行せずに終了します。

プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。FPTRACE を指定して DEDB 変更ユーティリティを再実行し、問題の判別に必要となる可能性がある文書を収集してください。問題が解決しない場合は、オフライン再編成方式の使用を検討してください。

モジュール:

DBFDAR00、DBFDARIO、DBFDARR0、DBFDAR20

関連資料

DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4631E UTILITY FAILED DUE TO AN UPDATE TO UNKEYED SEGMENT *segname*

説明

DEDB 変更ユーティリティはオプション UNKEYSEG=ISRTFILA を指定しました。このオプションは、キーなしのセグメントに関わる更新がこのユーティリティの処理中に行われた場合、このユーティリテ

ィーを終了する必要があることを示します。この状況で、このユーティリティの処理中に以下のいずれかの条件が発生しました。

1. キーなしのセグメントが置換または削除されました。
2. 挿入規則 HERE によってキーなしのセグメントが挿入されました。

システムの処置

このユーティリティは終了し、シャドー・エリア・データ・セットにはエラーのマークが付けられます。

システム・プログラマーの応答

アクティビティが少ない期間中にこのユーティリティを再実行することを検討するか、DEDB 変更時にキーなしのセグメントに対する更新が許可されるように UNKEYSEG オプションを変更してください。

モジュール:

DBFDAR00

DFS4632E DEDB ALTER TERMINATED BECAUSE SEGMENT *segname* HAS AN UNKEYED PARENT

説明

DEDB 変更ユーティリティはオプション UNKEYSEG=ISRTFILA を指定しました。このオプションは、キーなしのセグメントに関わる更新がこのユーティリティの処理中に行われた場合、このユーティリティを終了する必要があることを示します。この状況で、更新されたセグメントへの階層パス内の少なくとも 1 つのセグメントがキーなしのセグメントです。

システムの処置

このユーティリティは終了し、シャドー・エリア・データ・セットにはエラーのマークが付けられます。

システム・プログラマーの応答

アクティビティが少ない期間中にこのユーティリティを再実行することを検討するか、DEDB 変更時にキーなしのセグメントに対する更新が許可されるように UNKEYSEG オプションを変更してください。

モジュール:

DBFDAR00

DFS4634I THE DEDB ALTER COPY BLK PROCESS WAS CLEANED UP DURING RESTART DEDB=ddddddd MODULE=aaaaaaaa

説明

IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティーが実行中であったことを検出しました。ACTIVE ACBLIB に暗号化されたメンバーが含まれていて、IMS はそのメンバーを削除できませんでした。

システムの処置

緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFEDA00

DFS4635I	THE DEDB ALTER QUIESCE FLAGS WERE CLEANED UP IN DBRC DURING RESTART DEDB=dddddddd MODULE=aaaaaaaa
-----------------	--

説明

IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティーが実行中であったことを検出しました。DBRC で QUIESCE IN PROGRESS フラグがまだアクティブになっていて、IMS はそのフラグをリセットできませんでした。

システムの処置

緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFEDA00

DFS4636I	THE DEDB ALTER ALTER EOJ FLAGS WERE CLEANED UP IN DBRC DURING RESTART DEDB=dddddddd MODULE=aaaaaaaa
-----------------	--

説明

IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティーが実行中であったことを検出しました。RECON データ・セットで DEDB ALTER フラグがオンになっていて、IMS はそのフラグをリセットできませんでした。

システムの処置

緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFEDA00

DFS4637E	RSN=06 type name FAILED TO SYNCHRONIZE WITH THE ONLINE ENVIRONMENT - UTILTY TO BE TERMINATED
-----------------	---

説明

ユーティリティーはオンライン・アクティビティーとの直列化に失敗し、終了中です。

メッセージ・テキストの *type* と *name* は、以下のいずれかの組み合わせになります。

AREA areaname

DEDB エリアの名前を示します。

DEDB dedbname

DEDB の名前を示します。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティーは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに処理を終了します。

直列化に失敗する原因は、DEDB ALTER がオンライン・アクティビティーとの直列化を試行している間にスレッドがコミットを発行しないことにあります。これは通常、長時間実行されている BMP、またはアクティビティーがないためにコミットを発行しなかった一部の会話型トランザクションが原因です。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFDAQ00

DFS4637I	RSN=00 type name WAS ABLE TO SYNCHRONIZE WITH THE ONLINE SYSTEM SYS3
-----------------	---

または

RSN=01 type name WAS NOT ABLE TO SYNCHRONIZE WITH THREAD yyyyyyyy SYS3

または

RSN=02 type name WAS NOT ABLE TO SYNCHRONIZE AS DEDB ALTER WAS STOPPED SYS3

または

RSN=03 type name WAS NOT ABLE TO SYNCHRONIZE WITH THREAD yyyyyyyy SYS3

または

RSN=04 type name FAILED TO SYNCHRONIZE WITH THE ONLINE ENVIRONMENT - RETRY ATTEMPTED SYS3

または

RSN=05 type name TIMED OUT ATTEMPTING TO SYNCHRONIZE WITH THE ONLINE ENVIRONMENT SYS3

説明

メッセージ・テキストの *type* と *name* は、以下のいずれかの組み合わせになります。

AREA *areaname*

DEDB エリアの名前を示します。

DEDB *dedbname*

DEDB の名前を示します。

このメッセージの意味は、以下のように理由コード (RSN=) によって異なります。

理由コード

意味

RSN00

エリア *areaname* のエリアまたは DEDB の直列化プロセスが終了しました。

RSN01

エリアまたは DEDB の直列化プロセスは失敗しました。スレッド *yyyyyyyy* がエリア *areaname* にアクセスしており、DEDB 変更ユーティリティーでスレッドと直列化できるように、タイムリーにコミットを発行しませんでした。

RSN02

エリアまたは DEDB の直列化プロセスは失敗しました。直列化の進行中に DEDB 変更ユーティリティーが停止されました (内部的に、または /STO RGN コマンドを使用して)。

RSN03

エリアまたは DEDB の直列化プロセスは失敗しました。スレッド *yyyyyyyy* がエリア *areaname* にアクセスしており、DEDB 変更ユーティリティーでスレッドと直列化できるように、タイムリーにコミットを発行しませんでした。

RSN04

エリア *areaname* のエリアまたは DEDB の直列化プロセスが失敗しました。DEDB 変更ユーティリティーの入力オプションとして、TIMEOUT または RETRY YES またはその両方が指定されていたため、あるいは RETRY *retry_value* が指定されていたために、エリアの直列化がもう 1 回再試行されます。

RSN05

エリアをアクティブ・スレッドと直列化しようとしているときに、エリアまたは DEDB の直列化プロセスがタイムアウトになりました。

システムの処置

エリアまたは DEDB の直列化が正常に実行された場合、DEDB 変更ユーティリティーは処理を続行します。エリアまたは DEDB の直列化が正常に実行されなかった場合、DEDB 変更ユーティリティーは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに処理を終了します。

直列化に失敗する原因は、DEDB 変更ユーティリティーがオンライン・アクティビティーとの直列化を試行している間にスレッドがコミットを発行しないことにあります。これは通常、長時間実行されている BMP、またはアクティビティーがないためにコミットを発行しなかった一部の会話型トランザクションが原因です。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFDAQ00

DFS4639E	REQUESTED VERSION <i>req_v_nmbr</i> OF DEDB <i>dedbname</i> WAS NOT FOUND IN THE CATALOG
-----------------	---

説明

IMS は、カタログで指定されたバージョンの高速処理データベース (DEDB) を検出できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

req_v_nmbr

バージョン番号。

dedbname

高速処理データベース (DEDB) の名前。

システムの処置:

IMS は、以前のバージョンのデータベースへのアクセスを提供するために必要な内部ブロックを作成できません

ん。データベースの最新バージョンにのみアクセスできます。

システム・プログラマーの応答:

カタログがオンラインになっていて適切に構成されているかどうかを判別してください。カタログが使用可能である場合、アプリケーションによって要求されたバージョンがカタログ内にあるかどうかを判別してください。カタログに以前のバージョンのデータベースに関する情報が設定されていなかった場合、このバージョンのデータベースにはアクセスできません。

モジュール:
DBFVER00

DFS4640E SPECIFIED AREA IS NOT REGISTERED TO RECON

説明

DEDB 変更ユーティリティの ALTERAREA *area_name* 機能に指定された DEDB エリアは、RECON データ・セットの DBRC に登録されていません。DEDB 変更ユーティリティは、RECON データ・セットに登録されている DEDB データベースのみをサポートします。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

DEDB データベースを RECON データ・セットの DBRC に登録してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMMS0

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

[CHANGE.RECON コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4641E AT LEAST ONE AVAILABLE SHADOW AREA DATA SET AND ONE AVAILABLE SHADOW IMAGE COPY DATA SET ARE REQUIRED

説明

少なくとも1つのシャドー・エリア・データ・セットまたは1つのシャドー・イメージ・コピー・データ・セットが定義されていないか、RECON データ・セットの DBRC で使用可能としてマークされていません。

DEDB 変更ユーティリティでは、少なくとも1つのシャドー・エリア・データ・セットまたは1つのシャドー・イメージ・コピー・データ・セットが定義されてい

て、ALTERAREA 機能のために RECON データ・セットの DBRC で使用可能としてマークされている必要があります。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

データ・セットの可用性のエラーを訂正してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMMS0

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4642E SPECIFIED DEDB dedb_name IS NOT REGISTERED TO RECON

説明

DEDB 変更ユーティリティの DBD パラメーターに指定された DEDB データベースは、RECON データ・セットの DBRC に登録されていません。

DEDB 変更ユーティリティは、RECON データ・セットに登録されている DEDB データベースのみをサポートします。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

INIT.DB コマンドを使用して DEDB データベースを RECON データ・セットの DBRC に登録してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMMS0

関連資料

[INIT.DB コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4643E PRIVATE BUFFER ALLOCATION FAILED

説明

DEDB 変更ユーティリティは、ALTERAREA 機能のための専用バッファを取得できません。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

専用バッファ割り振りエラーを訂正してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMMS0

関連概念

[DFSFSMxx IMS.PROCLIB メンバーを使用する専用バッファ・プールの定義 \(データベース管理\)](#)

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4644E	DEDB ALTER SHADOW AREA DATA SET OR IMAGE COPY DATA SET OPEN FAILED
-----------------	---

説明

DEDB 変更ユーティリティは、ALTERAREA 機能のためにシャドー・エリア・データ・セットまたはシャドー・イメージ・コピー・データ・セットをオープンできません。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

具体的な OPEN の失敗については、SYSLOG で OPEN エラー・メッセージを見つけてください。その後、シャドー・エリア・データ・セットまたはシャドー・イメージ・コピー・データ・セットに対して適切な処置を実行します。OPEN の失敗を訂正してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMMS0

DFS4645W	RETRYWAIT IS IGNORED BECAUSE RETRY IS SPECIFIED OR DEFAULTED TO NO
-----------------	---

説明

RETRY 制御ステートメントが指定されていた (またはデフォルトで NO に設定されていた) ため、DEDB 変更ユーティリティは RETRYWAIT *retrywait_value* 制御ステートメントを無視しました。RETRYWAIT と RETRY の制御ステートメントは相互に排他的です。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、RETRYWAIT *retrywait_value* 制御ステートメントを使用せずに処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

RETRYWAIT *retrywait_value* 制御ステートメントが使用されるようにしたい場合は、RETRY 制御ステートメントを RETRY *retry_value* または RETRY YES に変更してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼します。

モジュール:
DBFUMMS0

DFS4646I	DEDB ALTER SHADOW XXX = shadow_dataset_name
-----------------	--

説明

DEDB 変更ユーティリティが、ALTERAREA 機能を使用して実行されます。ユーティリティで 사용되는シャドー・エリア・データ・セット名およびシャドー・イメージ・コピー・データ・セット名のそれぞれに対してメッセージ DFS4646I が発行されます。

XXX は、エリア・データ・セットの場合の ADS、またはイメージ・データ・セットの場合の IDS のいずれかです。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DBFUMMS0

DFS4648E	DEDB ALTER TERMINATED BECAUSE SORT FAILED
-----------------	--

説明

DEDB 変更ユーティリティは、ソート処理でエラーが検出されたか、異常終了したために、終了しました。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了しました。

システム・プログラマーの応答:

ジョブ・ログまたはシステム・ログに出された DFSORT メッセージを確認して、エラーの原因を調べてください。環境エラーをすべて修正したあとで、DEDB 変更ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DBFDAU70

**DFS4649E DEDB ALTER CANNOT ALLOCATE
TEMPORARY DATA SETS FOR SORT
MESSAGES**

説明

DEDB 変更ユーティリティの実行中に、IMS は、重複するデータ・セット名を持つデータ・セットが存在するために、ソート・メッセージ用の一時データ・セットを割り振ることができません。

システムの処置

代わりに、システム出力データ・セットがソート・メッセージ用に割り振られ、処理が続行されます。

プログラマーの応答

DEDB 変更ユーティリティのジョブ・ログにソート・メッセージを発行する必要がある場合は、ボリューム上の重複データ・セットを削除してください。

モジュール

DBFDAS10

DFS4650I

**DEDB ALTER SHARING IMS LATE
REPLY IS RECEIVED AND
IGNORED**

説明

IMS システムで DEDB 変更ユーティリティが実行されました。共用 IMS システムは、マスター IMS システムに応答を送信しました。マスター IMS が応答を受信したとき、DEDB 変更ユーティリティはマスター IMS で既に終了していました。DEDB 変更の共用 IMS の遅い応答は無視されました。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティが実行されていた IMS は、共用 IMS システムからの遅い応答を受信して無視しました。

モジュール:
DBFDAI60

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

第 95 章 DFS メッセージ DFS4651E - DFS4700

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4651E **ALTERGRP GROUP NAME IS NOT
DEFINED OR INVALID, BUT DBD
dedbname IS SHRLEVEL=2|3**

説明

ALTERAREA 機能の DEDB 変更ユーティリティ処理中に、シャドー・エリア・データ・セットを更新しようとした、示されている呼び出しで予期しない状況コードが返されました。DBRC で SHRLEVEL=2 または SHRLEVEL=3 として定義されている DEDB データベースに対して DEDB 変更ユーティリティが実行されました。ただし、DEDB 変更データ共有グループを定義する ALTERGRP=xxxxx パラメーターが DFSDFxxx PROCLIB メンバーの FASTPATH セクションで定義されていません。

ALTERGRP=xxxxx が定義されていない場合、DEDB データベースは、ローカル IMS システムでのみ変更されます。DEDB データベースは共有データベースとして定義されているため、DEDB 変更機能は許可されません。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

ALTERGRP=xxxxx パラメーターを DFSDFxxx PROCLIB メンバーの <SECTION=FASTPATH> セクションに追加します。IMS システムを再始動して、ALTERGRP=xxxxx DEDB 変更データ共有グループに結合します。DEDB 変更ユーティリティを再実行します。

モジュール:

DBFDAU70

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4652E **DEDB ALTER DATA SHARING
ERROR: error AT imsid**

説明

DEDB 変更ユーティリティが、imsid で逐次化障害、コミット障害、初期設定障害、または無応答障害のいずれかを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

error

次のいずれかです。

- SERIALIZATION FAILED
- COMMIT FAILED
- ONE OR MORE DATA SHARING IMS SYSTEMS DID NOT RESPOND
- INITIALIZATION FAILED

imsid

このエラーを検出した IMS サブシステムの IMS ID。

システムの処置:

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答:

環境エラーを修正して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DBFDAU70

DFS4660E **DEDB ALTER WAS UNABLE TO
READ DATA FROM THE ORIGINAL
AREA: STATUS CODE XX RSN
CODE XX RETURN CODE nnnn**

説明

変更を実行中のエリアからデータを読み取るようしているときに、エラーが発生しました。これは、長時間実行されている BMP が、変更中のエリアに対するロックを保持していることが原因と考えられます。

状況コード

状況コードの説明は、[高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コードのページ](#)を参照してください。

RSN コード

理由コードの説明は、[高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コードのページ](#)を参照してください。

戻りコード

これは、内部診断用です。

モジュール:

DBFDAU70

関連資料

[高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コード \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS4661E DEDB ALTER WAS UNABLE TO COMMIT DATA TO THE SHADOW AREA: STATUS CODE XX RETURN CODE nnnn

説明

DEDB 変更は、新しいエリアに対して同期点を発行しているときにエラーを検出しました。

状況コード

状況コードの説明は、[高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コード](#)を参照してください。

戻りコード

これは、内部診断用です。

モジュール:

DBFDAU70

関連資料

[高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コード \(メッセージおよびコード\)](#)

DFS4662E DEDB ALTER WAS UNABLE TO COPY DATA TO THE SHADOW AREA: STATUS CODE xx RETURN CODE nnnn

説明

DEDB 変更ユーティリティは、新しいエリアにデータをコピーしているときにエラーを検出しました。これは内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx

状況コードの説明は、[高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コード](#)を参照してください。

nnnn

この戻りコードは、内部診断用です。

DEDB 変更ユーティリティは、以下の理由コードを返します。理由コードは、変更ジョブ・ログのメッセージ内で見つけることができます。

理由コード

説明

200

非 IOVF CI を検出できません。これは内部エラーであり、IBM に報告する必要があります。U1026 異常終了も出されることがあります。

204

誤ったセグメント・コードが検出されました。これは内部エラーであり、IBM に報告する必要があります。U1026 異常終了も出されることがあります。

208

誤ったセグメント・コードが検出されました。これは内部エラーであり、IBM に報告する必要があります。U1026 異常終了も出されることがあります。

212

DEDB 変更処理中に、スレッドでランダムマイザー・エラーが検出されました。状況が設定され、DEDB 変更がその状況を検出しました。シャドー・ランダムマイザーとアクティブ・ランダムマイザーが同じキーを、それぞれ異なるエリアにランダム化しました。これは許可されません。

216

スレッドでシャドー・エリア・データ・セットにおける入出力エラーが検出されました。

モジュール:

DBFDAU70

関連資料

[高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コード \(メッセージおよびコード\)](#)

関連情報

1026 (メッセージおよびコード)

DFS4663E DEDB ALTER INITIALIZATION FAILED

説明

DEDB 変更ユーティリティは、DEDB ユーティリティが処理する DEDB エリアを保持している他の従属領域を検出しました。また、これが別の初期設定障害によって引き起こされた可能性もあります。詳細については、ジョブ・ログを参照してください。

システムの処置

ユーティリティ・ジョブは戻りコード 8 で失敗します。

システム・プログラマーの応答

ジョブ・ログに示されているエラーを訂正し、後でユーティリティ・ジョブを再実行してください。

モジュール:

DBFUDA00

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4664I ALL SHADOW ADS/IDS ARE MARKED UNAVAILABLE

説明

重大エラーが原因で、DEDB 変更ユーティリティはシャドー・データ・セットを使用不可に設定しました。

システムの処置

ユーティリティ・ジョブは戻りコード 8 で失敗します。

システム・プログラマーの応答

シャドー・データ・セットの削除、定義、またはフォーマット設定を実行します。SYSLOG および JOB LOG を使用してエラーの理由を確認します。エラーを修正した後、ユーティリティ・ジョブを再実行してください。

モジュール:
DBFUDA00

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4665I ALL SHADOW ADS/IDS REMAIN AVAILABLE

説明

エラーがシャドー・データ・セットに影響を与えなかったため、DEDB 変更ユーティリティは、シャドー・データ・セットを使用可能なままにしました。

システムの処置

ユーティリティ・ジョブは戻りコード 8 で失敗します。

システム・プログラマーの応答

SYSLOG および JOB LOG を使用してエラーの理由を確認します。エラーを修正した後、ユーティリティ・ジョブを再実行してください。

モジュール:
DBFUDA00

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4666E CONNECT SETUP FAILED

説明

DEDB 変更ユーティリティは、AREA データ・セットへの接続時にロギング・エラーを検出しました。

システムの処置

ユーティリティ・ジョブは戻りコード 8 で失敗します。

システム・プログラマーの応答

SYSLOG および JOB LOG を使用してエラーの理由を確認します。エラーを修正した後、ユーティリティ・ジョブを再実行してください。

モジュール:
DBFUDA00

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4667I MEMBER *imsname* LEFT ALTERGRP GROUPNAME=*grpname*

説明

DEDB 変更ユーティリティの実行中に、共用 IMS *imsname* が、指定された ALTERGRP から離れました。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了しました。

システム・プログラマーの応答

異常終了した場合は、共用 IMS が再始動された後で、ジョブを再実行依頼してください。共用 IMS が異常終了しなかった場合は、いつでもジョブを再実行依頼できます。

モジュール:
DBFDAU70

DFS4668I MEMBER *imsname* DID NOT PARTICIPATE IN DEDB ALTER FOR DEDB *dedbname*

説明

DEDB 変更ユーティリティが実行されている場合、共用 IMS *imsname* は、DEDB 変更のコミット時に ALTERGRP に参加します。共用 IMS が、DEDB *dedbname* の DEDB 変更プロセスに参加しませんでした。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、共用 IMS が参加せずに、要求された機能を完了しました。

システム・プログラマーの応答

必要な場合は、共用 IMS でローカル・オンライン変更を行って、DEDB 変更ユーティリティでの変更を反映させてください。

モジュール:
DBFDIAI60

DFS4669E **A FAILED IMS SUBSYSTEM HAS
AUTHORIZED AT LEAST ONE AREA
OF DEDB dedbname**

説明

DEDB 変更ユーティリティーは、障害が起きた IMS サブシステムによって許可されたエリアを少なくとも 1 つ含む DEDB データベースのエリアを変更しようとした。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティーは、要求された機能を完了せずに終了しています。

システム・プログラマーの応答

障害が起きたサブシステムが再始動された後で、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:
DBFUMMS0

DFS4671I **COULD NOT CLEAN UP AFTER
DEDB ALTER DUE TO MISSING
DATA IN LOGS. ALTER TOKEN=tttt
tttt**

説明

IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティーが実行中であったことを検出しました。DEDB 変更ユーティリティーの実行のログ・レコードのすべてが検出されたわけではないため、クリーンアップを実行できませんでした。この状態は、再始動チェックポイント、XRF 開始チェックポイント、または FDBR 開始チェックポイントが DEDB ALTER の実行前後をまたいでいた場合にも発生する可能性があります。

理由コード:

01

DEDB ALTER に対する緊急時再始動コマンドの処理中に、再始動チェックポイントが DEDB ALTER の実行前後をまたいでいました。DEDB ALTER を完了するために /ERE コマンドに必要なデータは、再始動チェックポイント前に記録されたログ・レコード上にありました。/ERE コマンドが必要なデータを検出できませんでした。

02

拡張リカバリー機能 (XRF) のトラッキング中、DEDB ALTER ADD AREA の処理時に内部エラーが発生しました。DEDB ALTER を完了するために XRF に必要なデータは、再始動チェックポイント前に記録されたログ・レコード上にありました。XRF が必要なデータを検出できませんでした。

03

高速データベース・リカバリー (FDBR) のトラッキング中、DEDB ALTER ADD AREA の処理時に内部エラーが発生しました。DEDB ALTER を完了するために FDBR に必要なデータは、再始動チェックポイント前に記録されたログ・レコード上にありました。FDBR が必要なデータを検出できませんでした。

システムの処置

緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答

DEDB 変更ユーティリティーが完了しなかったため、AREA を使用するには、その前に手動でのクリーンアップを実行する必要があります。USER DFSERA10 に対して、指定されたトークンを使用してこの IMS のすべてのログ・レコードをプルし、処理されたログ・レコードを判別するように指示してください。使用前にクリーンアップする必要がある DEDB/AREA を判別するには、この情報を、IMS の異常終了時にアクティブであった DEDB 変更ユーティリティー・ジョブと比較してください。

モジュール:
DBFEDA00

DFS4672E **NO SHADOW AREAS EXIST for
DEDB dedbname**

説明

DEDB 変更ユーティリティーが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。しかし、RECON 内に dedbname DEDB データベースのシャドウ・エリアが定義されていません。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティーは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

dedbname DEDB データベースのシャドウ・エリア、および各シャドウ・エリアの DEDB エリア・データ・セットを定義します。DEDB 初期設定ユーティリティー (DBFUMINO) 用の ACTIVE 制御ステートメントを使用して、DEDB エリア・データ・セットをフォーマットします。その上で、DEDB 変更ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:
DBFUMMS0

関連タスク

[DEDB 変更ユーティリティを使用した DEDB エリアのオンライン追加 \(データベース管理\)](#)

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

[DEDB 初期設定ユーティリティ \(DBFUMINO\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4673E NO AREA DATA SETS EXIST FOR SHADOW AREA areaname FOR DEDB dedbname

説明

DEDB 変更ユーティリティが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。しかし、RECON 内に、*dedbname* DEDB データベースの *areaname* シャドール・エリア用のエリア・データ・セットが定義されていません。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

dedbname DEDB データベースの各シャドール・エリアに DEDB エリア・データ・セットを定義します。DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMINO) 用の ACTIVE 制御ステートメントを使用して、DEDB エリア・データ・セットをフォーマットします。その上で、DEDB 変更ユーティリティを再実行してください。

モジュール:

DBFUMMS0

関連タスク

[DEDB 変更ユーティリティを使用した DEDB エリアのオンライン追加 \(データベース管理\)](#)

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

[DEDB 初期設定ユーティリティ \(DBFUMINO\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4674E NUMBER OF SHADOW AREA EXCEEDED UNDER DEDB dedbname

説明

DEDB 変更ユーティリティが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。しかし、

DEDB 変更ユーティリティの 1 回の実行で追加できるエリアの最大数である 100 を超えています。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

追加するエリア数を 100 以下に減らして、DEDB 変更ユーティリティを再実行してください。

モジュール:

DBFUMMS0

関連タスク

[DEDB 変更ユーティリティを使用した DEDB エリアのオンライン追加 \(データベース管理\)](#)

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

[DEDB 初期設定ユーティリティ \(DBFUMINO\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4675E DEDB ALTER FAILED TO ADD AREAS

説明

DEDB 変更ユーティリティが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。しかし、DEDB 変更ユーティリティはエリアの追加に失敗し、要求された機能を実行せずに終了しました。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

DEDB 変更ユーティリティ障害の原因を判別します。問題を訂正して、DEDB 変更ユーティリティを再実行します。

モジュール:

DBFUDA00

関連タスク

[DEDB 変更ユーティリティを使用した DEDB エリアのオンライン追加 \(データベース管理\)](#)

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

[DEDB 初期設定ユーティリティ \(DBFUMINO\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4676E ANOTHER DEDB ALTER WITH ADDAREA FUNCTION IS ALREADY RUNNING**説明**

DEDB 変更ユーティリティが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。しかし、ADDAREA 機能を指定した別の DEDB 変更ユーティリティが既に実行されています。DEDB 変更ユーティリティは要求された機能を実行せずに終了しました。IMSplex 内では、ADDAREA 機能を指定して実行できる DEDB 変更ユーティリティは一度に 1 つのみであるためです。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

既に実行中の DEDB 変更ユーティリティが完了するまで待ってから、この DEDB 変更ユーティリティを再実行してください。

モジュール:
DBFUMMS0

関連タスク

[DEDB 変更ユーティリティを使用した DEDB エリアのオンライン追加 \(データベース管理\)](#)

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

[DEDB 初期設定ユーティリティ \(DBFUMINO\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4677E DEDB ALTER DOES NOT SUPPORT DBRC REUSE ATTRIBUTE FOR AREA XXXXXXXX**説明**

DBRC は、DEDB エリア (XXXXXXX) 上で、DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) の ALTERAREA 制御ステートメントによって指定された REUSE 属性を検出しました。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに RC=8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

DEDB 変更ユーティリティを実行するエリアの REUSE 属性を NOREUSE に変更してください。この属

性を変更するには、コマンド CHANGE.DBDS DBD (name) AREA (name) NOREUSE を発行します。

モジュール:
DBFUDA00

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

[CHANGE.DBDS コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4678E DBRC ENCOUNTERED ERRORS RECORDING THE IMAGE COPY CREATED BY DEDB ALTER**説明**

DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) の処理によって作成されたユーザー・イメージ・コピーを記録しようとして、DBRC は重大なエラーを検出しました。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは RC=8 で終了します。DEDB の状況は ALTER IN PROGRESS のままです。

システム・プログラマーの応答

支援用の DBRC メッセージを参照し、適宜問題に対処します。DEDB 変更ユーティリティは異常終了したため、このユーティリティを再実行できるようにするには、まず DEDB の変更状況をリセットする必要があります。

1. CHANGE.DB DBD (name) NOALTER コマンドを発行して、DEDB の ALTER IN PROGRESS フラグをリセットします。
2. CHANGE.ADS コマンドを発行して、シャドー ADS に使用不可としてマーク付けします。
3. シャドー ADS を再フォーマットします。
4. DEDB 変更ユーティリティを再び実行する。

モジュール:
DBFUDA00

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

[CHANGE.DB コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4679E DEDB ALTER FAILED TO LOAD MAIN PROGRAM**説明**

DEDB 変更ユーティリティが STEPLIB から DBFDAU70 をロードできませんでした。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは RC=8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

STEPLIB のライブラリーがアクセス可能であること、および DBFDAU70 ライブラリーが正しく作成されていることを確認してください。

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4682I **DEDB ALTER SHADOW AREA**
areaname ADS = area_dsn

または

DEDB ALTER SHADOW AREA areaname

説明

DEDB 変更ユーティリティが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。

このメッセージの最初のバージョンでは、追加される DEDB エリアは *areaname*、エリア・データ・セット名は *area_dsn* です。このメッセージは、DEDB 変更ユーティリティのジョブ出力に発行されます。

このメッセージの 2 番目のバージョンでは、追加される DEDB エリアは *areaname* です。このメッセージは IMS のジョブ出力に発行されます。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能の処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFDAU70、DBFDASPO

関連タスク

[DEDB 変更ユーティリティを使用した DEDB エリアのオンライン追加 \(データベース管理\)](#)

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) の制御ステートメント \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4683I **DEDB ALTER ADDED AREA**
areaname for DEDB dedbname

説明:

DEDB 変更ユーティリティが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。追加される DEDB エリアは *areaname* として指定され、DEDB データ・セット名は *dedbname* として指定されます。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能の処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFDASPO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) の制御ステートメント \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4684I **DEDB ALTER SHADOW SEGMENT**
EDIT/COMPRESSION EXIT
exitname LOADED FOR SEGMENT
segmname FOR DEDB dedbname

説明:

セグメント *segmname* に対するセグメント編集/圧縮出口ルーチンを追加することにより、DEDB 変更ユーティリティがエリアの変更、エリアの追加、またはランダムイザの置換を行うために実行されました。

DEDB データベース *dedbname* のセグメント *segmname* に対する、シャドー・セグメント編集/圧縮出口ルーチン *exitname* が正常にロードされました。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能の実行を続行します。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFDASPO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) の制御ステートメント \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4685I **DEDB ALTER SHADOW SEGMENT**
EDIT/COMPRESSION EXIT
exitname UNLOADED FOR
SEGMENT segmname FOR DEDB
dedbname

説明:

セグメント *segmname* に対するセグメント編集/圧縮
出口ルーチンを追加することにより、DEDB 変更ユーテ
ィリティーがエリアの変更、エリアの追加、またはラン
ダマイザーの置換を行うために実行されました。
DEDB データベース *dedbname* のセグメント
segmname に対する、シャドー・セグメント編集/圧縮
出口ルーチン *exitname* が正常にアンロードされまし
た。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティーは、要求された DEDB 変更
機能を実行せずに終了します。

システム・プログラマーの応答:

DEDB 変更ユーティリティーが終了する原因となった
エラーを訂正してから、DEDB 変更ユーティリティーを
再実行します。

モジュール:

DBFDASPO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティー \(DBFUDA00\) の制
御ステートメント \(データベース・ユーティリテ
ィー\)](#)

DFS4686E **DEDB ALTER SHADOW SEGMENT
EDIT/COMPRESSION EXIT
exitname LOAD FAILED FOR
SEGMENT *segmname* FOR DEDB
*dedbname***

説明

または

**DEDB ALTER SHADOW SEGMENT EDIT/
COMPRESSION EXIT *exitname* UNLOAD FAILED FOR
SEGMENT *segmname* FOR DEDB *dedbname***

説明

セグメント編集/圧縮出口ルーチンを追加することによ
り、DEDB 変更ユーティリティーがエリアの変更、エリ
アの追加、またはランダムマイザーの置換を行うために実
行されました。

このメッセージの最初のバージョンは、DEDB 変更ユー
ティリティーが DEDB データベース *dedbname* のセグ
メント *segmname* に対するシャドー・セグメント編集/
圧縮出口ルーチン *exitname* をロードできないときに発
行されます。

このメッセージの 2 番目のバージョンは、DEDB 変更ユ
ーティリティーが DEDB データベース *dedbname* のセ
グメント *segmname* に対するシャドー・セグメント編
集/圧縮出口ルーチン *exitname* をアンロードできない
ときに発行されます。

システムの処置

DEDB 変更ユーティリティーは、要求された DEDB 変更
機能を実行せずに終了します。

システム・プログラマーの応答:

セグメント編集/圧縮出口ルーチンのロードまたはアン
ロードの失敗の原因となったエラーを訂正し、DEDB 変
更ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:

DBFDASPO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティー \(DBFUDA00\) の制
御ステートメント \(データベース・ユーティリテ
ィー\)](#)

DFS4687E **ERROR PROCESSING SYNC
PROGRAM SWITCH - details**

説明

DL/I ICAL 呼び出しに対する同期プログラム間通信処
理中にエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

details

エラーの根本原因の要約。この説明は、エラーをス
ローした IMS モジュールによって発行される戻り
コードに対応しており、以下のいずれかになります。

INTERNAL POST FAILED, RC=

IMS モジュール DFSYSCS0 が PST フィールド
を検査して、同期プログラム間通信のために
ICAL をポストできないことを判別しました。
IMS は、このエラー・メッセージを DFSYSCS0
からの戻りコードと共にシステム・コンソール
および MTO に対して発行します。IMS は、エラ
ー詳細を示す X'67D0' ログ・レコードも作成し
ます。

システムの処置:

IMS は、この同期プログラム間通信要求に対してタイム
アウトを発行しようとしています。

プログラマーの応答:

X'6701' および X'67D0' のログ・レコードを収集して、
IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSYTIB0 または DFSYSCS0

関連資料

[X'67' ログ・レコードのフォーマット \(診断\)](#)

DFS4688E **ERROR PROCESSING ICAL -
details**

説明

DL/I ICAL の同期コールアウト処理でエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

details

IMS がこの ICAL 処理に失敗した理由の簡潔な説明。details は、IMS モジュールによって発行された戻りコードに対応しており、次のいずれかの値の可能性があります。

- INTERNAL POST FAILED, RC= rc

IMS モジュール DFSYSCSO がプログラム仕様テーブル (PST) のフィールドを調べ、ICAL をポストできないと判断しました。IMS は、このエラー・メッセージおよび DFSYSCSO からの RC を、システム・コンソールおよび MTO に対して発行します。IMS は、エラー情報を示した 67D0 ログ・レコードも生成します。

システムの処置

後に、IMS タイマー・ルーチンがこの ICAL のタイムアウトを試みます。

システム・プログラマーの応答:

6701 および 67D0 のログ・レコードを準備し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡してください。

モジュール:

DFSYSCSO、DFSYMEMO

DFS4690I DEDB ALTER DATABASE STARTED FOR DEDB xxxxxxxx: Text

説明

DEDB xxxxxxxx のセグメント内の既存のフリー・スペースにフィールドを追加するために ALTERDB 制御ステートメントが指定されました。

メッセージ・テキストで、Text は以下のいずれかの状態を示します。

- ADD NEW FIELDS

システムの処置:

ありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFDASPO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4691I DEDB ALTER DATABASE COMPLETED FOR DEDB xxxxxxxx

説明:

DEDB xxxxxxxx に対する新規フィールドの追加機能が正常に完了しました。

システムの処置:

ありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFDASPO

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) の制御ステートメント \(データベース・ユーティリティ\)](#)

DFS4692E DEDB ALTER DATABASE FAILED FOR DEDB xxxxxxxx または DEDB ALTER DATABASE FAILED FOR DEDB xxxxxxxx: Text

説明

DEDB xxxxxxxx に新規フィールドを追加する ALTERDB 機能が失敗しました。

メッセージ・テキストで、Text は以下のいずれかの状態を示します。

NEW FIELD OVERLAYS EXISTING FIELD

新規フィールドが既存のフィールドをオーバーレイする場合に、このテキストが出されます。

EXISTING FIELD CHANGE NOT SUPPORTED

既存のフィールドのロケーションまたは長さが変更された場合に、このテキストが出されます。

NO ALTERDB ATTRIBUTES CHANGE

新規フィールドが見つからない場合に、このテキストが出されます。

FAILED TO GET WORKAREA

新規フィールド用の作業用ストレージを取得できなかった場合に、このテキストが出されます。

システムの処置:

DEDB 変更ユーティリティは RC=8 で終了します。

システム・プログラマーの応答

ステージング ACBLIB に対する DEDB DBD 定義の変更を使用される DBDGEN ユーティリティ入力で、以下のすべての条件が満たされていることを確認してくだ

さい。その後、ALTERDB 機能を使用して、DEDB 変更ユーティリティを再実行してください。

- 新規フィールドが、相互にオーバーレイすることも、既存のフィールドをオーバーレイすることもない。
- 既存のフィールドは変更されない。
- ALTERDB 機能用に属性が変更されている。
- 新規フィールドに十分なスペースがある。

メッセージ DFS4692E に *Text* が含まれていない場合は、関連したエラー・メッセージを調べて、修正処置を識別してください。

モジュール:
DBFDASPO、DBFDAU70

関連資料

[DEDB 変更ユーティリティ \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)

第 96 章 DFS メッセージ DFS4701 - DFS4750

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4701I THE DEDB ALTER MOLC PROCESS WAS COMPLETED BY THE TRACKING IMS, DEDB=dddddddd MODULE=DBFEDA00

説明

ACBSHR=N を指定した DEDB ALTER の XRF または FDBR のトラッキング中に、STAGING ACBLIB からの ACBLIB に対する必須の更新が正常に完了しました。これは単なる通知メッセージです。

システムの処置

ありません。

プログラマーの応答

ありません。

モジュール:
DBFEDA00

DFS4703I DEDB ALTER COULD NOT FIND THE SHADOW DEDB, DEDB=dedbname RC=nnnnnnnn RSN=cccc MODULE=DBFEDA00

説明

DEDB 変更ユーティリティー処理の拡張リカバリー機構 (XRF) または高速データベース・リカバリー (FDBR) 領域のトラッキング中に、DEDB シャドウ・エリア・データ・セットが見つかりません。これは、DEDB 変更ユーティリティーがシャドウ・エリア・データ・セットの定義を取得するために、ACBLIB ステージング・ライブラリーを開けないためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnn

DEDB 変更ユーティリティーからの戻りコード。次のいずれかのコードになります。

00000008

パラメーター・エラー

00000010

環境エラー。

00000014

システム・エラー。

cccc

エラーの理由コード。次のオプションのいずれかになります。

64

ストレージ取得が失敗しました。

90

内部エラー。

AD

動的割り振り解除が失敗しました。

C1

データベースが見つかりません。

CF

パラメーター値が矛盾しています。

120

ACBLIB ステージング・ライブラリーが空です。

130

ACBLIB ステージング・ライブラリーの割り振りに失敗しました。

132

ACBLIB ステージング・ライブラリーを開けませんでした。

135

ACBLIB ステージング・ライブラリーに入出力エラーが発生しました。

1FD

IMS ステージング・ディレクトリーのデータ・セットに入出力エラーが発生しました。

235

ステージング・ディレクトリーが空です。

システムの処置

XRF または FDBR 領域はトラッキングを継続します。

出力宛先

システム・コンソール

システム・プログラマーの応答

XRF または FDBR 領域の ACB ライブラリーの DEDB 定義が、アクティブな ACB ライブラリーの DEDB 定義と整合性があることを確認します。

モジュール:
DBFEDA00

関連資料

DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4704E THE SYSIN DATA SET FAILED TO OPEN.

説明

MVS は、IMS Catalog Alias Names ユーティリティ (DFS3ALIO) の SYSIN データ・セットをオープンできませんでした。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置:

データ・セットの根本的な問題を判別し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFS3ALIO

DFS4705E ALIAS THAT BEGINS WITH nnnn IS INVALID.

説明

SYSIN レコードの列 72 付近の別名が無効です。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置:

SYSIN レコードの列 72 付近にある別名を調べてください。それが英数字 4 文字の別名であり、列 72 を超えていないことを確認します。SYSIN 制御カードを更新し、ジョブを再サブミットしてください。

モジュール:

DFS3ALIO

DFS4706E ALIAS nnnn DOES NOT BEGIN WITH AN ALPHA CHARACTER.

説明

nnnn 別名接頭部の先頭文字は英字でなければなりません。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置:

SYSIN 制御カードを更新し、ジョブを再サブミットしてください。

モジュール:

DFS3ALIO

DFS4707E ALIAS nnnn CONTAINS NON-ALPHANUMERIC CHARACTER.

説明

nnnn 別名接頭部の 2 文字目から 4 文字目は英数字でなければなりません。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置:

SYSIN 制御カードを更新し、ジョブを再サブミットしてください。

モジュール:

DFS3ALIO

DFS4708E NUMBER OF ALIASES IN SYSIN EXCEEDED 250.

説明

ユーティリティで SYSIN データ・セットに含めることができる別名は最大 250 です。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置:

SYSIN 制御カードを更新し、ジョブを再サブミットしてください。

モジュール:

DFS3ALIO

DFS4709E ALIAS THAT BEGINS WITH nnnn HAS MORE THAN 4 CHARACTERS.

説明

4 文字を超える別名が検出されました。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置:

SYSIN 制御カードを更新し、ジョブを再サブミットしてください。

モジュール:

DFS3ALIO

DFS4710E ERROR FOUND ON SYSIN RECORD.

説明

SYSIN データ・セット内のエラー (付随するエラー・メッセージによって示されるエラー) が原因で、ユーティリティを実行できませんでした。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置:

データ・セットの根本的な問題を判別し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFS3ALIO

DFS4711E THE SYSLIN DATA SET FAILED TO OPEN.

説明

MVS は、IMS Catalog Alias Names ユーティリティの SYSLIN データ・セットをオープンできませんでした。

システムの処置

ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置:

データ・セットの根本的な問題を判別し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFS3ALIO

DFS4712E DDL [GET STORAGE | LOAD | DFSDF READ] FAILURE OCCURRED

説明

DDL CREATE 機能は、自動インポートまたは自動作成の処理中にシステム・エラーを検出しました。新規リソースの状況は、DDL システム障害が自動インポート処理の前に発生したか後に発生したかによって異なります。以下に、考えられるシナリオを示します。

- シナリオ 1: DDL システム障害が自動インポート処理の前に発生した場合、DDL CREATE ジョブからの新しい定義は IMS カタログ内で保留状態のままになります。
- シナリオ 2: DDL システム障害が自動インポート処理の後に発生した場合、DDL CREATE ジョブからの新しいリソースは作成されて、IMS システムおよび IMS カタログ内で活動化されます。

システムの処置

シナリオ 1 では、自動インポート処理または自動作成処理のための DDL CREATE 機能は終了しますが、要求された機能は完了しません。DDL CREATE からの新しい

定義は、IMS カタログ内で「保留」状態のままになります。

シナリオ 2 では、自動インポート処理または自動作成処理のための DDL CREATE 機能は終了します。自動インポート機能は、IMS システムおよび IMS カタログ内の新規リソースの作成および活動化を完了します。

システム・プログラマーの応答

シナリオ 1 の場合、IMPORT DEFN コマンドによって要求されたとおりに、IMS カタログ内で「保留」状態である新しい定義を使用して、新規リソースを作成および活動化するために必要なすべてのステップを手動で実行してください。IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンド (コマンド) を参照。

シナリオ 1 および 2 で、DDL によって新しく作成されたデータベース・リソースのデータ・セット作成に必要なすべてのステップを実行してください。DDL CREATE ステートメントの自動化オプション (データベース管理) を参照。

モジュール:

DFS3DD00, DFS3DD40, DFS3DD60

DFS4713E CYLINDERS, TRACKS OR DATACLAS REQUIRED IN PROCLIB TO CREATE DEDB SDEP DATA SETS

説明

DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中に DDL データ・セットの作成に失敗しました。SDEP を含む DEDB の DFSDFxxx PROCLIB メンバーの <SECTION=DDL> に DATACLAS が指定されていない場合は CYLINDERS キーワードまたは TRACKS キーワードが必須であるためです。

システムの処置

DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずこの DEDB の処理を終了し、次の DEDB の処理を開始します。

システム・プログラマーの応答

DDL で作成されたデータベースのデータ・セットを手動で作成するステップを実行してください。

DDL CREATE DATABASE によるデータ・セット作成の場合は、DFSDFxxx proclib メンバーの <SECTION=DDL> を訂正してください。非 SMS 管理データ・セットの場合は、CYLINDERS か TRACKS のいずれかのキーワードを指定します。CYLINDERS と TRACKS の両方のキーワードが使用されている場合は、CYLINDERS キーワードが使用されます。SMS 管理データ・セットの場合は、DATACLAS キーワードを指定します。

SDEP が定義された高速機能 DEDB ADS に **PREALLOC=Y** が指定されており、ADS が事前に割り当てられている場合は、以下のパラメーターを指定する必要があります。

- **CYLINDERS=** または **TRACKS=**
- SMS クラス: **DATACLAS=** または **STORCLAS=** または **MGMTCLAS=**

モジュール:
DFS3DD00

**DFS4714E VOLUME IS NEEDED WHEN
STORCLAS IS NOT SPECIFIED**

説明

DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中に DDL データ・セットの作成に失敗しました。DFSDFxxx PROCLIB メンバーの <SECTION=DDL> に STORCLAS が指定されていない場合は VOLUME キーワードが必須であるためです。

システムの処置

DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

DDL で作成されたデータベースのデータ・セットを手動で作成するステップを実行してください。

DDL CREATE DATABASE によるデータ・セット作成の場合は、DFSDFxxx proclib メンバーの <SECTION=DDL> を訂正してください。非 SMS 管理データ・セットの場合は、VOLUME キーワードを指定します。SMS 管理データ・セットの場合は、STORCLAS キーワードを指定します。

モジュール:
DFS3DD00

**DFS4715E AREA DATA SET *cluster_name*
ALLOCATION FAILED**

説明

DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、DDL データ・セットの作成で *cluster_name* を使用する DEDB エリア・データ・セットの割り振りに失敗しました。

システムの処置

DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

DDL で作成されたデータベースのデータ・セットを手動で作成するステップを実行してください。

割り振りについて詳しくは、付随する IDC メッセージを参照してください。

モジュール:
DFS3DD00

**DFS4716E DDL SECTION IS NOT FOUND IN
DFSDFxxx PROCLIB**

説明

<SECTION=CATALOG> で AUTOCREATE=YES の場合: DDL CREATE 機能は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー内に <SECTION=DDL> がないことを検出しました。AUTOCREATE=YES の場合は <SECTION=DDL> が必須です。

システムの処置

自動作成処理のための DDL CREATE 機能は、要求された機能を完了せずに終了します。DDL CREATE からの新しい定義は、IMS カタログ内で保留状態のままになります。

システム・プログラマーの応答

1. IMPORT DEFN コマンドで要求されたとおりに、IMS カタログ内で保留状態になっている新しい定義を使用して、新規リソースを作成および活動化するために必要なすべてのステップを手動で実行してください。IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンド (コマンド) を参照。
2. DDL によって作成されるデータベース・リソースのデータ・セット作成に必要なすべてのステップを実行してください。DDL CREATE ステートメントの [自動化オプション \(データベース管理\)](#)

今後、DDL CREATE DATABASE によるデータ・セット作成の場合には、DFSDFxxx PROCLIB メンバーに <SECTION=DDL> を追加してください。

モジュール:
DFS3DD00

**DFS4716I DDL SECTION IS NOT FOUND IN
DFSDFxxx PROCLIB**

説明

<SECTION=CATALOG> で AUTOCREATE=NO の場合: DDL CREATE 機能は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー内に <SECTION=DDL> がいないことを検出しました。<SECTION=DDL> は、AUTOCREATE=NO の場合必要ありません。

システムの処置

DDL CREATE 機能は、要求された機能の処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

- 自動インポート処理のための DDL CREATE 機能が正常に終了した場合、処置は不要です。
- 自動インポート処理のための DDL CREATE 機能が、要求された機能を完了せずに終了した場合、DDL CREATE からの新しい定義は IMS カタログ内で保留中のままになります。IMPORT DEFN コマンドを使用して要求されたとおりに、IMS カタログ内で保留状態になっている新しい定義を使用して、新規リソースを作成および活動化するために必要なすべてのステップを手動で実行してください。IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンド(コマンド)を参照してください。

モジュール:
DFS3DD00

DFS4717E DDL SECTION PARAMETER IS INVALID

説明

DDL の自動インポートまたは自動作成の処理中に、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの <SECTION=DDL> で無効なパラメーターが検出されました。

エラーのある DDL セクション・パラメーターは、BPE0003D メッセージに示されています。

システムの処置

自動インポート処理または自動作成処理の DDL CREATE 機能は、要求された機能を完了せずに終了します。

DDL CREATE 機能からの新しい定義は、IMS カタログ内で保留状態のままになります。

システム・プログラマーの応答

<SECTION=DDL> パラメーター・エラーを解決してください。IMPORT DEFN コマンドで要求されたとおりに、IMS カタログ内で保留状態になっている新しい定義を使用して、新規リソースを作成および活動化するために

必要なすべてのステップを手動で実行してください。IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンド(コマンド)を参照してください。

モジュール:
DFS3DD00

DFS4718E AREA areaname REGISTRATION FAILED

説明

DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、新たに DDL で作成されたデータベースを DBRC に登録できなかったために、DDL データ・セットの作成に失敗しました。

システムの処置

DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

DBRC データベース登録エラーを訂正し、DBRC へのデータベースの登録を手動で行ってください。

モジュール:
DFS3DD00

DFS4719E TYPEFP ONLY CREATE DEDB AREAS

説明:

IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの DDL セクションで **DSN=** パラメーターまたは **DSNDATA=** パラメーターに、無効なタイプが指定されました。

システムの処置:

データ・セットを作成するために発行された DDL ステートメントの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

以下のいずれかの方法を使用して DEDB エリア・データ・セットを作成してください。

- IMS 生成ユーティリティを使用して、DEDB エリア・データ・セットを手動で作成する。
- CREATE DATABASE DDL ステートメントを使用して DEDB エリア・データ・セットを作成する場合は、DFSDFxxx メンバーの DDL セクションで、**DSN=** パラメーターまたは **DSNDATA=** パラメーターで TYPEFP を指定するように DDL タイプを訂正する。

モジュール:
DFS3DD00

DFS4720I **DRA open thread option active/
inactive**

説明

このメッセージは、DRA オープン・スレッド・サポートがアクティブか非アクティブかを示します。

DRA オープン・スレッド・サポート処理がアクティブな場合、DRA は専用の IMS DRA スレッド・タスク制御ブロック (TCB) をアタッチしません。それに代わり、DRA では、CICS/DRA 環境内における並列処理の向上を目的とした CICS TCB が使用されます。

DRA オープン・スレッド・サポートがアクティブになるのは、そのサポートが OPENTHRD=CCTL オプションによって使用可能に設定され、CICS バージョン 4.2 以降が使用されている場合です。

DFS4721I **DRA monitoring of thread CPU
usage is active/inactive**

説明

DRA は、DRA スレッドに関連する累積 CPU 使用統計のモニターと IMS への報告を行う (アクティブ) か、または行いません (非アクティブ)。時間は、IMS 07 ログ・レコードの DLRTIME フィールドで報告され、DRA スレッド統計フィールド PAPLCTM1 内の CCTL に対しても報告されます。このオプションは、DFSPRP パラメーター TIMETHREADCPU によって設定します。スレッドの CPU 使用の計時を非アクティブにできるのは、オープン・スレッドが使用可能になっている場合のみです (OPENTHRD パラメーターを参照)。モニターが非アクティブな場合 (TIMETHREADCPU=NO)、タイマーは設定されず、スレッド完了時に累積時間 0 (ゼロ) が IMS に報告されます。使用量のモニターをオフにするのは、以下がわかっている場合に限ることをお勧めします。

- CCTL が、IMS 処理時間を含むスレッド時間を累積している。
- IMS 07 ログ・レコードの DLRTIME フィールドが、スレッドの CPU 使用時間の判別に使用されていない

システムの処置

システム・プログラマーの応答

モジュール:

DFS4722I **CTL RGN U0785 DUE TO Ssss
Uuuuu AND A CRITICAL WAITNOT
COMPLETING IN MPP|JMP|BMP|
JBP|IFP|DBT nnnnnnnn**

説明

スレッドがシステム・クリティカル待機中に、依存領域スレッドで異常終了が発生しました。

SSS

従属領域のシステム異常終了の異常終了コードを表します。異常終了がユーザー異常終了である場合は、システム・コードは S000 で表されます。

uuuu

従属領域のユーザー異常終了の異常終了コードを表します。異常終了がシステム異常終了である場合は、システム・コードは 0000 で表されます。

nnnnnnnn

終了する従属領域のジョブ名

モジュール

DFSASK00、DFSDTTA0

DFS4723A **SETI NOT ALLOWED DUE TO
FPSISETI=N**

説明

FPSISETI=N オプションが IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーで指定されています。そのため、//DFSCTL DD ステートメントの「索引の保守をオフに設定 (SETI) 制御ステートメント」が有効になりません。

システムの処置

保守抑止ジョブはユーザー異常終了コード 1060 (U1060) で終了します。

出力宛先

マスター端末

プログラマーの応答

次のいずれかの処置を選択してください。

- SETI ステートメントを除去して、ジョブを再実行依頼してください。
- FPSISETI=N を FPSISETI=Y に変更し、IMS を再始動して、ジョブを再実行依頼してください。
- FPSISETI ステートメントを削除して、IMS を再始動し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール

DBFCPY00

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクション \(システム定義\)](#)

DFS4725I **CHANGE DATA CAPTURE FOR
UPDATES MADE BY *jobname* WILL
BE SUPPRESSED.**

説明

ここで

jobname

CCTL または ODBM のアドレス・スペースのジョブ名。

データベースの DBD の **EXIT=** パラメーターでデータ・キャプチャー出口ルーチンが指定された場合でも、CCTL または ODBM ジョブ *jobname* で行われたデータベースやデータベース・セグメントの更新は取り込まれません。CCTL または ODBM のジョブ *jobname* が **SUPPDCAPNAME=** パラメーター (DFSDFxxx メンバーの DATABASE セクション内) で指定されているために、どのような DBD 仕様でも更新は取り込まれません。

システムの処置:

処理は、CCTL または ODBM ジョブ *jobname* で行われたデータベースまたはデータベース・セグメントの更新を取り込まずに続行します。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

これが意図された動作である場合には、ユーザー処置は必要ありません。そうでない場合には、DFSDFxxx メンバーの DATABASE セクションの **SUPPDCAPNAME=** パラメーターを更新し、IMS を再始動します。あるいは、変更の取り込みが抑制されないように、CCTL または ODBM のジョブ名を変更します。

モジュール:

DFS4725I

関連資料

DFSDFxxx メンバーの DATABASE セクション
(システム定義)

DFS4730E **AREA DATA SET *dataset_name*
FORMAT FAILED**

説明

DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、新たに DDL で作成されたデータベースで DEDB エリア・データ・セットの初期設定ができなかったために、DDL データ・セットの作成に失敗しました。

システムの処置

DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

データ・セットのフォーマットおよび DDL で作成されたデータベースの登録を手動で行うためのステップを実行してください。

モジュール:

DFS4730E

DFS4731E **UNABLE TO OBTAIN STORAGE FOR
[PARM|ALLOC|UNALLOC]**

説明

DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、DEDB エリア・データ・セットの初期設定で作業用ストレージを取得できなかったために、DDL データ・セットの作成に失敗しました。

システムの処置

DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

データ・セットのフォーマットおよび DDL で作成されたデータベースの登録を手動で行うためのステップを実行してください。

モジュール:

DFS4731E

DFS4732E **DYNAMIC [ALLOCATION|
UNALLOCATION] FAILED RC=xx
RS=yyyy FOR *dataset_name***

説明

DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、DEDB エリア・データ・セットの初期設定でエリア・データ・セットの動的な割り振りまたは割り振り解除ができなかったために、DDL データ・セットの作成に失敗しました。

xx

DYNALLOC 戻りコード。

yyyy

DYNALLOC 理由コード。

システムの処置

DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

データ・セットのフォーマットおよび DDL で作成されたデータベースの登録を手動で行うためのステップを実行してください。

モジュール:
DFS3DD90

DFS4733E FORMATTER LOAD FAILED RC=xx

説明

DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、DEDB エリア・データ・セットの初期設定で DBFUMINO をロードできなかったために、DDL データ・セットの作成に失敗しました。

xx
IMODULE LOAD 呼び出しからの戻りコード。

システムの処置

DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

データ・セットのフォーマットおよび DDL で作成されたデータベースの登録を手動で行うためのステップを実行してください。

モジュール:
DFS3DD90

DFS4734E FORMATTER FAILED RC=xx

説明

DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、DEDB エリア・データ・セットの初期設定で AREA データ・セットをフォーマットできなかったために、DDL データ・セットの作成に失敗しました。

xx
DBFUMINO からの戻りコード

システムの処置

DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

戻りコードの意味および SYSPRINT 出力内の DBFUMINO メッセージについては、[DEDB 初期設定ユーティリティ \(DBFUMINO\) \(データベース・ユーティリティ\)](#)を参照してください。

データ・セットのフォーマットおよび DDL で作成されたデータベースの登録を手動で行うためのステップを実行してください。

モジュール:
DFS3DD90

DFS4735I cluster_name IS ALLOCATED

説明

DDL を使用してデータ・セットが割り振られました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cluster_name
VSAM クラスターの名前。

システムの処置:
処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFS3DD40

**DFS4736I DATA COMPONENT NAME is
data_component_name**

説明

DSNDATA= パラメーターが IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの DDL セクション内に指定されている場合、このメッセージは DFS4735I メッセージの後に表示され、データ・コンポーネント名を示します。**DSNDATA=** パラメーターが指定されていない場合、このメッセージは発行されません。代わりに、前の IDC0512I メッセージにデータ・コンポーネント名が表示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

data_component_name
VSAM データ・コンポーネントの名前。

システムの処置

処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS3DD40

関連情報

[1340 ページの『DFS4735I』](#)
cluster_name IS ALLOCATED

DFS4741I PSB *psb_name* IS UPDATED IN
THE CATALOG AND THE
DIRECTORY. PST *pst_name*

説明

プログラム・ビュー (PSB) は、カタログ・データベースとディレクトリー・データ・セットの両方に、ADD PROGRAMVIEW DDL ステートメントによって追加されたか、両方で DROP PROGRAMVIEW ステートメントおよび CREATE PROGRAMVIEW ステートメントによって変更されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb_name

追加または変更されたプログラム・ビュー (PSB) の名前。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置

IMS は続行されます。

ユーザーの処置

処置は必要ありません。

モジュール:

DFSMOLS0

DFS4742E DBD *dbd_name2* MUST BE
CHANGED TO REMOVE THE
LOGICAL TIE TO A DELETED DBD
dbd_name1. PST *pst_name*

説明

データベース *dbd_name1* は DROP DATABASE DDL ステートメントによって削除できません。データベース *dbd_name1* はデータベース *dbd_name2* と論理的に結合されており、データベース *dbd_name2* はこの作業単位では削除されていないためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name1

DROP DATABASE DDL ステートメントによって削除しようとしているデータベースの名前。

dbd_name2

dbd_name1 と論理的に結合されていて、この作業単位では削除されていないデータベースの名前。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置

データベース *dbd_name1* はディレクトリーから削除されません。

ユーザーの処置

まだデータベース *dbd_name2* が必要な場合は、ALTER DATABASE DDL ステートメントをサブミットし、データベース *dbd_name1* への参照を DBD から除去してください。

データベース *dbd_name2* が不要になった場合は、DROP DATABASE DDL ステートメントをサブミットして DBD を削除してください。

モジュール:

DFSOLC70

DFS4743I DBD *dbd_name* IS DELETED FROM
THE STAGING DATA SET. PST
pst_name

説明

データベース *dbd_name* は、IMS カタログ・データベースと IMS ディレクトリー・データ・セットの両方から削除されました。

システムの処置

IMS は、DDL ステートメントの自動活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答

ありません。

モジュール:

DFSOLC70

DFS4744E RM *errortype* ERROR,
RSCNAME=*rscname*
RSCTYPE=*rsctype* CC=*cc*
CCTEXT=*cctext*

説明

このメッセージは、発生した RM エラーに関する追加情報を提供するためにメッセージ DFS4401E の後に発行されます。

IMSRSC リポジトリへの IMS autoexport 中に RM エラーが発生した場合、その autoexport は正常に行われませんでした。発生したエラーのタイプはメッセージ DFS4744E に示されています。RM の戻りコードと理由コードは、メッセージ DFS4401E の ERROREXT= フィールドの 2 番目と 3 番目のワード内に記載されています。RM の戻りコードと理由コードの説明については、CSLRRR マクロを参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

errortype

発生した RM エラーのタイプを示します。

errortype は、次の値のいずれかです。

- RESOURCE VALIDATION

rscname

RM エラー発生時に処理されていたリソースの名前を示します。

rsctype

RM エラー発生時に処理されていた、以下のいずれかのタイプのリソースを示します。

- DB
- DBDESC
- LTERM
- MSLINK
- MSNAME
- MSPLINK
- PGM
- PGMDESC
- RTC
- RTCDESC
- TRAN
- TRANDESC

cc

このエラーを表す 4 文字の IMS 完了コードを示します。IMS 完了コードのリストについては、DFSCMDRR マクロを参照してください。

cctext

このエラーについて説明する完了コード・テキストを示します。

システムの処置:

autoexport 処理中にメッセージ DFS4401E および DFS4744E が発行された場合、IMS は autoexport が失敗した場合でも処理を続行します。IMS のシャットダウン中の autoexport 処理時にメッセージ DFS4401E

および DFS4744E が発行された場合、IMS のシャットダウンは中止されます。

システム・プログラマーの応答

以下のいずれかの処置を行ってください。

- RM エラーが autoexport 処理中に発生し、その autoexport が失敗した場合は、エラーの解決後に **EXPORT DEFN TARGET(REPO) OPTION(CHANGESONLY)** コマンドを発行し、新規または更新された MODBLKS リソース定義を手動でエクスポートしてください。または、次の autoexport を待って、新規または更新された MODBLKS リソース定義か MSC リソース定義 (あるいはこの両方) をエクスポートすることもできます。
- IMS のシャットダウン中の autoexport 処理時にメッセージ DFS4401E および DFS4744E が発行された場合、リソースをリポジトリに正常にエクスポートできるようにするか、またはリポジトリを使用不可にして IMS を正常にシャットダウンさせる必要があります。

モジュール:

DFSXP000"

関連資料

[EXPORT コマンド \(コマンド\)](#)

関連情報

[1243 ページの『DFS4401E』](#)

RM requestname ERROR, RC=rc RSN=rsn
ERROREXT=errortext

DFS4745I	PSB <i>psb_name</i> IS DELETED FROM THE STAGING DATA SET. PST <i>psst_name</i>
-----------------	---

説明

DDL DROP プログラム・ビュー処理の一環として、PSB *psb_name* がステージング・データ・セットから削除されました。

システムの処置

IMS は、DDL ステートメントの自動活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答

ありません。

モジュール:

DFSOLC70

DFS4746I	PSB <i>psb_name</i> IS DELETED FROM THE STAGING DATA SET. IT REFERENCED A DELETED DBD <i>dbd_name</i> PST <i>psst_name</i>
-----------------	---

説明

PSB *psb_name* が削除されたデータベース *dbd_name* を参照しており、そのデータベースは DDL DROP データベース処理の一環としてステージング・データ・セットから削除されています。

システムの処置

IMS は、DDL ステートメントの自動活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答

ありません。

モジュール:
DFSOLC70

DFS4747E	AUTOMATIC IMPORT FAILED FOR RESOURCE=<i>resourcenam</i>e AS AN LNB / RCNT / SMB BECAUSE IT ALREADY EXISTS AS AN LNB / RCNT / SMB
-----------------	---

説明

*resourcenam*e という名前のリソースをメッセージ宛先リソース・タイプ *LNB / RCNT / SMB* として IMSRSC リポジトリから自動インポートしようとしたましたが失敗しました。これは、同じ名前のリソースが別のメッセージ宛先リソース・タイプ *LNB / RCNT / SMB* として既に存在しているためです。メッセージ宛先リソース・タイプには、リモート論理端末 (LTERM)、トランザクション、および MSC 論理リンク・パス (MSNAME) が含まれます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

*resourcenam*e

エラーが発生したリソースの名前を示します。

リソースのメッセージ宛先タイプは、以下のいずれかになります。

LNB

MSC 論理リンク・パス (MSNAME) 制御ブロック

RCNT

MSC リモート LTERM 制御ブロック

SMB

トランザクション制御ブロック

システムの処置

IMS コールド・スタートは、異なるメッセージ宛先リソース・タイプ *LNB / RCNT / SMB* についてリソース *resourcenam*e を作成せずに、自動インポートを続行します。代わりに、元のメッセージ宛先リソース・タイプ *LNB / RCNT / SMB* のリソース *resourcenam*e が自動的にインポートされます。

システム・プログラマーの応答

自動インポートおよび IMS コールド・スタートが完了した後、以下のタスクをすべて実行し、次の IMS コールド・スタートでメッセージ DFS4747E が発行されないようにしてください。

- リソース *resourcenam*e に定義したいメッセージ宛先リソース・タイプ (LTERM、MSNAME、またはトランザクション) を判別します。
- リソース *resourcenam*e に対して定義したくないすべてのメッセージ宛先リソース・タイプについて、DELETE DEFN TARGET(REPO) TYPE(LTERM | MSNAME | TRAN) NAME(*resourcenam*e) コマンドを発行します。
- リソース *resourcenam*e に対して定義したいメッセージ宛先リソース・タイプが自動インポート時に失敗した場合、IMS を再度コールド・スタートするか、リソースをローカルに削除した後、それを正しいメッセージ宛先リソース・タイプを使用して再度ローカルに作成します。

モジュール:
DFSIP300

DFS4748E	STOW ERROR, NO STORAGE AVAILABLE
-----------------	---

説明

STOW マクロが IMS カタログ・ディレクトリーの PDSE ディレクトリーを更新するために使用できる仮想ストレージがありませんでした。

このエラーが有効なのは、ACB の IMS 管理を使用可能にするために、**ACBMGMT=CATALOG** が DFSDFxxx PROCLIB メンバーまたは同等の DFS3CDX0 ユーザー出口で指定されている場合のみです。

プログラマーの応答

ストレージ・エラーの原因となった条件を訂正し、プログラムを再実行してください。JOB カードの領域サイズを大きくすることを検討してください。

問題が解決しない場合には、IBM サービスにお問い合わせください。

モジュール:
DFSUAMB1

DFS4749E	STOW ERROR RC = xxxxxxxx
-----------------	---------------------------------

説明

STOW マクロが IMS カタログ・ディレクトリーの PDSE ディレクトリーを更新中にエラーが発生しました。

このエラーが有効なのは、ACB の IMS 管理を使用可能にするために、**ACBMGMT=CATALOG** が DFSDFxxx PROCLIB メンバーまたは同等の DFS3CDX0 ユーザー出口で指定されている場合のみです。

プログラマーの応答

STOW エラーに至った条件を訂正し、プログラムを再実行してください。

STOW 完了コードについて詳しくは、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets - non-VSAM Macro Instructions」を参照してください。

モジュール:

DFSUAMB1

関連資料

[z/OS: DFSMS STOW マクロの戻りコードおよび理由コード](#)

**DFS4750W USING IRLM IS RECOMMENDED
FOR DIRECTORY CLEANUP**

説明

バッチ・リカバリー・ユーティリティーがディレクトリーをクリーンアップするために実行されていたときに、

IRLM が使用されませんでした。IRLM は、ディレクトリー・データ・セットの更新をオンライン処理とバッチ処理の間でシリアライズするために使用されます。

システムの処置

バッチ・リカバリー・ユーティリティーは、ディレクトリーのクリーンアップを続行します。

プログラマーの応答

IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドと DDL 定義の活動化が同時に実行されていない場合にのみバッチ・リカバリー・ユーティリティーが実行されていることを確認してください。**IMPORT MEMBER TYPE(IMS) SHOW(ALL)** を発行して、インポート処理が進行中かどうかを判別してください。

モジュール:

DFSOLC10

第 97 章 DFS メッセージ DFS4751 - DFS4800

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4751I *utilityname* READING MEMBER
mbrname FROM IMS CATALOG
DIRECTORY

説明

このメッセージは、呼び出されたユーティリティが、DBD、PSB、または ACB のいずれかのライブラリーからではなく、IMS カタログ・ディレクトリーから読み取られているどうかを示します。

これが有効なのは、ACB の IMS 管理を使用可能にするために、CATALOG=YES および ACBMGMT=CATALOG が IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー、または IMS™ カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) に指定されている場合のみです。

メッセージ・テキストで、各変数の意味は以下のとおりです。

utilityname

以下のいずれかのユーティリティが呼び出されていることを示します。

- DBFUMINO
- DFSBBO00
- DFSUDMPO
- DFSURDBO
- DFSUDMT0

mbrname

IMS カタログ・ディレクトリーから読み取られている DBD リソースの名前を示します。

システムの処置:

ユーティリティは要求された機能の処理を続行します。

出力宛先

システム・コンソール。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFUMINO、DFSBACK0、DFSUDMPO、DFSURDBO

DFS4755E DATABASE RESOURCE STATE
ERROR. DBD *dbd_name* REASON=
reason_text PST *pst_name*

説明

単一の IMS システム上で変更または削除されたデータベース *dbd_name* に対してまだ進行中の作業があります。

システムの処置

DDL ステートメントの自動活動化に失敗しました。

システム・プログラマーの応答

理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール:

DFSOLC70

DFS4756E PROGRAM RESOURCE STATE
ERROR. PSB *psb_name* REASON=
reason_text PST *pst_name*

説明

単一の IMS システム上で変更または削除された PSB *psb_name* に対してまだ進行中の作業があります。

システムの処置

DDL ステートメントの自動活動化に失敗しました。

システム・プログラマーの応答

理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール:

DFSOLC70

DFS4757I NON-RETRYABLE *ttttttt* REQUEST
FAILURES AT CHKPT *yyddd/*
hhmmss. COUNT:*ccccccccc*
OLDEST UOWSTCK:
ssssssssssssssss OLDEST QNAME:
nnnnnnnnnnnnnnnn OLDEST
UOWE TIME: *yyyy.jjj hh.mm.ss*
GMT

説明

IMS システム・チェックポイント作業単位 (UOW) の再試行処理中に、据え置き CQS アクションを含む UOW に関する再試行不可戻りコードが返されて、1 つ以上の CQS 要求が失敗しました。IMS は、失敗した CQS 要求

に関連する UOW ID を含む X'3F' ログ・レコードを書き込んでから、UOW の内部レコードを削除します。このメッセージは、この状態が発生したことを示します。

このメッセージは、IMS 緊急時再始動 (ERE) 処理中に、IMS がそれ以前のチェックポイントで破棄された UOW の X'3F' レコードを検出したときにも発行される場合があります。そのため、同じ破棄された UOW に対して 2 つの別個の DFS4757I メッセージ (1 つはチェックポイント時、1 つは緊急時再始動時) を受け取る可能性があります。これにより、UOW が破棄された後、メッセージを発行できるようになる前に IMS が異常終了した場合に、このメッセージが欠落したり失われたりすることがなくなります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tttttttt

再試行時に失敗した CQS 要求のタイプであり、以下のいずれかの値になります。

- CQSPUT
- CQSUNLCK

yyddd/hhmmss

CQS 要求の再試行を起動したチェックポイントを識別するタイム・スタンプ。

ccccccccc

指定された CQS 要求タイプでの、失敗した CQS 要求の数。

ssssssssssssss

タイプ 01/03 ログ・レコードの UOW ストア・クロック・トークン MSGPROTK。この値は、メッセージがキュー・マネージャーに挿入された時点を示します。

nnnnnnnnnnnnnnnn

最も古い CQSPUT または CQSUNLCK の UOW の宛先キュー。宛先キュー名に印刷可能な EBCDIC 文字のみが含まれている場合、QNAME は、この印刷可能キュー名を含む 8 バイト値です。宛先キュー名に印刷不能文字が含まれている場合、QNAME は、キュー名を含む 16 バイトの 16 進値です。

yyyy.jjj hh.mm.ss

yyyy.jjj hh.mm.ss 形式に変換された、UOWSTCK からのストア・クロック値。ここで、yyyy は年、jjj はユリウス日付、hh.mm.ss は GMT での時刻です。

システムの処置

IMS は処理を続行します。

出力宛先

マスター端末およびシステム・コンソール

プログラマーの応答

OLDEST UOWE TIME の時点から DFS4757I が発行された時点までの IMS ログ・データを収集し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。CQSPUT に関して DFS4757I が発行された場合、破棄されたメッセージを再エンキューできます。CQSUNLCK に関して発行された場合は、IMS または CQS をウォーム・スタートすることにより、共用キューからのメッセージをアンロックできます。

モジュール:

DFSQURS0 および DFSQRSQ0

関連資料

[CQSPUT 要求 \(システム・プログラミング API\)](#)

[CQSUNLCK 要求 \(システム・プログラミング API\)](#)

DFS4760E

**UNABLE TO ALLOCATE CTC
DEVICE, MSPLINK *msplink*, ADDR
*addr***

説明

IMS 再始動処理で、前の IMS インスタンスのときに作成された動的 MSC チャネル間 (CTC) 物理リンク (MSPLINK) を、**CREATE MSPLINK** コマンドを使用して再作成しようとした。しかし、CTC デバイスを動的に割り振るための要求が失敗しました。以下の条件が、このエラーの原因となった可能性のある理由をいくつか示しています。

- 同じ論理区画 (LPAR) 上の別の IMS システムが、同じ CTC アドレスを使用する動的 MSPLINK を作成しました。
- CTC デバイスがオフラインに変更されたか、IMS システムからデタッチされました。
- 使用可能なストレージが、動的割り振り要求を処理するのに十分ではありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

msplink

物理リンクの名前。

addr

CTC デバイスのアドレス。

システムの処置

問題が IMS システム内部のもの (例えば、ストレージが使用不可) である場合、IMS の再始動処理は異常終了し、通常は異常終了コード U0168 が発行されます。

問題が IMS システムの外部にある場合、IMS の再始動処理は続行され、動的 MSPLINK が作成されます。ただし、新しい動的 MSPLINK は MSC 通信には使用できず、動的 MSPLINK の状況は NOTOPEN です。

出力宛先

z/OS システム・コンソール。

オペレーターの応答

該当する MVS コマンドを使用して、CTC アドレスが使用可能でない理由を判別してください。

動的 CTC MSPLINK の通信を可能にするには、以下のステップを実行します。

1. **DELETE MSPLINK** コマンドを使用して既存の MSPLINK を削除します。
2. **CREATE MSPLINK** コマンドを使用して MSPLINK を作成し、CTC デバイスを再度割り振ります。

モジュール:

DFSRMP20

関連資料

[CREATE MSPLINK コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4761E	OPEN DCB FAILURE FOR CTC DEVICE, MSPLINK <i>msplink</i>, ADDR <i>addr</i>
-----------------	--

説明

IMS 再始動処理中に、チャンネル間 (CTC) デバイスを動的に割り振るための要求は正常に行われましたが、そのデバイスに関連する DCB をオープンできませんでした。このエラーに関して考えられる 1 つの理由は、使用可能なストレージが動的割り振り要求を処理するのに十分ではないことです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

msplink

物理リンクの名前。

addr

CTC デバイスのアドレス。

システムの処置

問題が IMS システム内部のもの (例えば、ストレージが使用不可) である場合、IMS の再始動処理は異常終了し、通常は異常終了コード U0168 が発行されます。

問題が IMS システムの外部にある場合、IMS の再始動処理は続行され、動的 MSPLINK が作成されます。ただし、新しい動的 MSPLINK は MSC 通信には使用できず、動的 MSPLINK の状況は NOTOPEN です。

出力宛先

z/OS システム・コンソール。

オペレーターの応答

該当する MVS コマンドを使用して、CTC アドレスが使用可能でない理由を判別してください。

動的 CTC MSPLINK の通信を可能にするには、以下のステップを実行します。

1. **DELETE MSPLINK** コマンドを使用して既存の MSPLINK を削除します。
2. **CREATE MSPLINK** コマンドを使用して MSPLINK を作成し、CTC デバイスを再度割り振ります。

モジュール:

DFSRMP20

関連資料

[CREATE MSPLINK コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4764A	ONLINE CHANGE COMMIT PHASE 2 FAILED, SO IMS IS STUCK IN AN ONLINE CHANGE STATE
-----------------	---

説明

オンライン変更コミット・フェーズ 2 の間にエラーが発生しました。このエラーは内部エラーが原因で発生した可能性があります。IMS システムは、オンライン変更をコミットすることも打ち切ることもできません。

システムの処置

/MODIFY コマンドはリジェクトされます。IMS はオンライン変更状態のままになっています。オンライン変更で非活動化されたリソースは非アクティブのままです。

出力宛先:

システム・コンソール。

ユーザーの処置

以下のステップを実行してください。

- **/DISPLAY MODIFY MODS** コマンドを発行し、出力を保管します。
- IMS ダンプを生成します。
- X'22' と X'70' のログ・レコードを保管します。
- IBM に連絡し、資料 (**/DISPLAY MODIFY MODS** コマンドの出力、システム・ダンプ、および X'22 と X'70' のログ・レコード) を提出します。
- **/CHE FREEZE** コマンドを使用して IMS をシャットダウンしてから、IMS を再始動します。この方法が機能しない場合は、IMS を取り消して、緊急時再始動を実行します。

リソースを変更し、X'22' ログ・レコードを記録できるようになる前にコミット・フェーズ 2 内部エラーが発生した場合、それらのリソース変更の一部が有効にならなかった可能性があります。IMS のシャットダウン前

に **/DISPLAY MODIFY MODS** コマンド出力に指定されているリソースに対して **/DISPLAY** コマンドを使用すると、変更の一部が有効にならなかったかどうかを判別できます。

すべての変更が有効になっている場合、**/DISPLAY** コマンドの出力には新たに追加されたリソースが含まれ、削除されたリソースは除外され、変更されたリソースの新しい値が表示されています。

変更の一部が有効にならなかった場合は、失敗したオンライン変更を再試行するか、現行ライブラリーから IMS コールド・スタートを実行できます。

モジュール:

DFSICLV0

関連資料

[/DISPLAY ACT コマンド \(コマンド\)](#)

[/DISPLAY MODIFY コマンド \(コマンド\)](#)

**DFS4768E ERROR DETECTED DURING
AUTOMATIC IMPORT OF MSC CTC
LINK, MSPLINK=*msplink*,
ADDR=*addr*, RC=*rc***

説明

IMS コールド・スタート中に、IMSRSC リポジトリからの MSC CTC 物理リンク定義の自動インポート時にエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

addr

MSC CTC 物理リンク用に使用される CTC アダプター・デバイス ID。

msplink

IMSRSC リポジトリからインポートされる CTC 物理リンクの名前。

rc

障害の理由を示します。

8

CTC デバイスは使用できません。

12

CTC アダプター装置番号が CTC デバイスではありません。

16

CTC デバイスの動的割り振りが失敗しました。

20

CTC DCB のオープンに失敗しました。

24

使用可能な DDNAME がありません。

システムの処置

IMS コールド・スタートは続行され、CTC 物理リンク定義はインポートされますが、CTC リンクは IMS 通信には使用できません。

出力宛先:

このメッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

オペレーターの応答

以下のいずれかのアクションを実行して、使用不能な CTC 物理リンクの通信を使用可能にしてください。

- **DELETE MSPLINK** コマンドを使用して CTC 物理リンクを削除した後、**CREATE MSPLINK** コマンドを使用して、有効な CTC アダプター装置番号で CTC リンクを再作成します。
- **UPDATE MSPLINK** コマンドを使用して、既存の定義を有効な CTC アダプター装置番号で更新します。

新しい CTC 物理リンクを作成するか、既存の CTC 物理リンクを更新する前に、ご使用のシステムで CTC アダプター装置番号が準備されていること、およびパートナー・システムの CTC 物理リンクも準備されていることを確認してください。

問題判別

- 戻りコード 8 の場合は、MVS コマンドを使用して、CTC アダプター装置 ID が動的割り振りに失敗した理由を判別します。装置が、オフラインになっているか、別のシステムによって使用されている可能性があります。
- 戻りコード 12 の場合は、システムを検査し、装置が CTC 装置であることを確認します。
- 戻りコード 16 の場合は、システム・エラーです。
- 戻りコード 20 の場合は、DCB のオープンが失敗しました。
- 戻りコード 24 の場合は、DFSM0000 から DFSM9999 までのすべての DDNAME が使用中です。

モジュール:

DFSMP500

**DFS4770I THE CTC DDNAME *ddname* WAS
DEALLOCATED AFTER ITS
ASSOCIATED MSPLINK WAS
DELETED**

説明

指定された DD 名が静的に定義されたチャンネル間 (CTC) MSC 物理リンク (MSPLINK) に関連付けられました。しかし、その MSPLINK は前の IMS インスタンスで削除されていました。

このメッセージは、IMS が示された DD 名を割り振り解除したこと、およびその CTC デバイス・アドレスが使用可能になったことを示すために、IMS ウォーム・スタートまたは緊急時再始動時に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

DD ステートメントの名前

システムの処置:

IMS 再始動が継続されます。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSRMP20

DFS4771E **DATABASE RESOURCE STATE
ERROR ON *ims_id* DBD *dbd_name*
REASON= *reason_text* PST
*pst_name***

説明

IMS *ims_id* 上で変更または削除されたデータベース *dbd_name* に対してまだ進行中の作業があります。

システムの処置

すべての IMS で DDL ステートメントの調整自動活動化が失敗しました。

システム・プログラマーの応答

理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール:

DFSOLC70

DFS4772E **PROGRAM RESOURCE STATE
ERROR ON *ims_id* PSB *psb_name*
REASON= *reason_text* PST
*pst_name***

説明

IMS *ims_id* 上で変更または削除されたプログラム *psb_name* に対してまだ進行中の作業があります。

システムの処置

すべての IMS で DDL ステートメントの調整自動活動化が失敗しました。

システム・プログラマーの応答

理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール:

DFSOLC70

DFS4774E **AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS FAILED FOR DBD
dbd_name ON *ims_id* REASON=
reason_text PST *pst_name***

説明

IMS *ims_id* でデータベース *dbd_name* の追加、変更、または削除に失敗しました。エラーの原因は *reason_text* に示されています。

システムの処置

すべての IMS で DDL ステートメントの調整自動活動化が失敗しました。

システム・プログラマーの応答

理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール:

DFSOLC70

DFS4775E **AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS FAILED FOR PSB
psb_name ON *ims_id* REASON=
reason_text PST *pst_name***

説明

IMS *ims_id* で PSB *psb_name* の追加、変更、または削除に失敗しました。エラーの原因は *reason_text* に示されています。

システムの処置

すべての IMS で DDL ステートメントの調整自動活動化が失敗しました。

システム・プログラマーの応答

理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール:

DFSOLC70

DFS4776E **AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS FAILED ON *ims_id*
REASON= *reason_text* PST
*pst_name***

説明

IMS ims_id で調整自動活動化に失敗しました。エラーの原因は reason_text に示されています。

システムの処置

すべての IMS で DDL ステートメントの調整自動活動化が失敗しました。

システム・プログラマーの応答

理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。エラー・メッセージ DS4753E、DFS4771E、DFS4774E、DSF4756E、DFS4772E、および DFS4775E を確認してください。

モジュール:
DFSOLC70

DFS4777I THE DDL-DEFINED PSB *psb_name* IS REFRESHED IN THE IMS DIRECTORY DATA SET. PST *pst_name*

説明

PSB *psb_name* がステージング・データ・セットからディレクトリー・データ・セットにコピーされました。ACB で生成されたタイム・スタンプの変更以外、PSB に対する内容の変更はありません。

システムの処置

IMS は、DDL ステートメントの自動活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答

ありません。

モジュール:
DFSOLC70

DFS4778I THE CTC DDNAME *ddname* WAS DEALLOCATED BECAUSE THE CTC ADDRESS WAS CHANGED FOR MSPLINK *msplink*

説明

指定された DD 名が静的に定義されたチャネル間 (CTC) MSC 物理リンク (MSPLINK) に関連付けられました。しかし、そのリンクに割り当てられた CTC デバイス・アドレスが、前の IMS インスタンスで **UPDATE MSPLINK** コマンドを使用して変更されていました。

このメッセージは、IMS が示された DD 名を割り振り解除したこと、およびそのデバイス・アドレスが使用可能

になったことを示すために、IMS ウォーム・スタートまたは緊急時再始動時に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

DD ステートメントの名前

msplink

CTC 物理リンクの名前。

システムの処置:

IMS 再始動が続行されます。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSRMP20

DFS4779I THE DDL-DEFINED PSB *psb_name* IS COPIED TO THE IMS DIRECTORY DATA SET. PST *pst_name*

説明

PSB *psb_name* がステージング・データ・セットからディレクトリー・データ・セットにコピーされました。

システムの処置

IMS は、DDL ステートメントの自動活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答

ありません。

モジュール:
DFSOLC70

DFS4780I THE DDL-DEFINED DBD *dbd_name* IS COPIED TO THE IMS DIRECTORY DATA SET. PST *pst_name*

説明

データベース *dbd_name* がステージング・データ・セットからディレクトリー・データ・セットにコピーされました。

システムの処置

IMS は、DDL ステートメントの自動活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答

ありません。

モジュール:
DFSOLC70

DFS4781I **AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS COMPLETE ON
ims_id RC=00. PST pst_name**

説明

IMS *ims_id* で DDL ステートメントの調整自動活動化が正常に完了しました。

システムの処置

IMS は、プレックス内のアクティブな共用 IMS 全体で DDL ステートメントの自動活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答

ありません。

モジュール:
DFSOLC70

DFS4782E **AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS FAILED ON *ims_id*
REASON= *reason_text* PST
*pst_name***

説明

IMS *ims_id* で DDL ステートメントの調整自動活動化に失敗しました。

システムの処置

プレックス内のアクティブな共用 IMS 全体での DDL ステートメントの調整自動活動化に失敗しました。

システム・プログラマーの応答

問題を訂正し、DDL ステートメントを再実行依頼してください。

モジュール:
DFSOLC70

DFS4783I **AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS NOT DONE ON
ims_id REASON= *reason_text* PST
*pst_name***

説明

IMS *ims_id* で DDL ステートメントの調整自動活動化が行われませんでした。この IMS はシャットダウンまた

は異常終了されています。あるいは、その IMS は共用ディレクトリーにアクセスする必要がなくなったため、その ACBSHR パラメーターを Yes から No に変更しています。

システムの処置

DDL ステートメントの自動活動化は正常に完了しました。IMS *ims_id* は、この共用ディレクトリー・データ・セットにアクセスする IMS のリストから除去されました。

システム・プログラマーの応答

ありません。

モジュール:
DFSOLC70

DFS4784E **UNSUPPORTED KEYWORDS
SPECIFIED IN DSN OR DSNDATA**

説明

IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの DDL セクションで、パラメーター **DSN=** または **DSNDATA=** に無効なキーワード (&DBNAME シンボル および &AREANAME シンボルが使用されている場合を除く) が指定されました。

システムの処置

DDL を使用した DEDB エリア・データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答

以下のいずれかの方法で DEDB エリアを作成してください。

- IMS 生成ユーティリティを使用して、DEDB エリア・データ・セットを手動で作成する。
- CREATE DATABASE DDL ステートメントを使用して DEDB エリア・データ・セットを作成する場合は、DFSDFxxx メンバーの DDL セクションで、有効なキーワードを使用するように **DSN=** パラメーターまたは **DSNDATA=** パラメーターを変更する。

モジュール:
DFS3DD00

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの DDL セクション \(システム定義\)](#)

DFS4785W **DEDB *dedb_name* AREA
area_name DATASET
dataset_name ALREADY EXISTS**

説明

dataset_name を作成するために DDL ステートメントがサブミットされましたが、そのデータ・セットは既に存在しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dedb_name

DEDB の名前。

area_name

DEDB エリアの名前。

dataset_name

DEDB エリア・データ・セットの名前。

システムの処置

DEDB エリア・データ・セット *dataset_name* が既に存在しているため、IMS によって **/START DB** コマンドおよび **/START AREA** コマンドが発行されます。

システム・プログラマーの応答

DEDB エリア・データ・セット *dataset_name* が、必要なデータ・セットであるかどうかを確認してください。IMS により使用されている *dataset_name* データ・セットが、必要としているデータ・セットではない場合は、リソースを取り消すか、データ・セットを手動で変更してください。

モジュール:

DFS3DD00

DFS4787I	DEF_NBA=nnnn, DEF_OBA=nnnn WERE SPECIFIED BUT NOT USED DUE TO 64-BIT BUFFER MODE NOT ACTIVATED.
-----------------	--

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

デフォルトの NBA とデフォルトの OBA は BMP プロシージャに適用されず、BMP の NBA= と OBA= は省略できません。DEF_NBA パラメーターと DEF_OBA パラメーターは、FPBP64=Y が指定された場合のみ有効になります。高速機能 64 ビット・バッファ・モードを使用可能にして、IMS を再始動します。

モジュール

DBFFATC1

関連資料

[DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクション \(システム定義\)](#)

DFS4794I

**AFTER ABEND OF MASTER IMS
ims_id THIS IMS COMPLETED
IMPORT COMMAND PROCESSING.**

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、**IMPORT DEFN**

SOURCE (CATALOG) コマンドの処理中に異常終了しました。IMS カタログを共用する別の IMS システムがその処理を引き継ぎました。この IMS システムはインポート処理をコミットし、そのシステム内でリソースはアクティブになっています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

システムの処置:

IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG) はコミットされ、この IMS システム内でリソースはアクティブになっています。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSOLC80

DFS4795I	AFTER ABEND OF MASTER IMS ims_id THIS IMS COMPLETED THE ACTIVATION OF DDL-DEFINED SOURCES. PST pst_name
-----------------	--

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、PST *pst_name* の DDL 定義データベース・リソースの活動化でマスター・システムの役目を果たしているときに異常終了しました。別の IMS システムがその処理を引き継ぎました。インポート処理はこの IMS システムによってコミットされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了したマスター IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置:

DDL 定義の活動化はコミットされました。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSOLC80

**DFS4796E AFTER ABEND OF MASTER IMS
 ims_id THE IMPORTED PSBS AND
 DMBS ARE NOT USABLE.**

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されているコマンド・マスターの IMS システムが、グローバル **IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG)** コマンドの処理中に異常終了しました。別の IMS システムが処理を引き継ぎましたが、IMS ディレクトリー・データ・セットに行われた更新のバックアウトに失敗しました。この影響を受けるデータベースとプログラム・ビューをスケジュールできません。詳しくは、これより前に発行された DFS4894E メッセージを参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

システムの処置:

IMS は IMS ディレクトリー・データ・セットに対して行われた更新をバックアウトできませんでした。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG) を再発行してください。**QUERY MEMBER TYPE (IMS) SHOW (STATUS)** コマンドを発行して、活動化処理の状況と (必要な場合は) 対応方法を確認することもできます。

モジュール:

DFSOLC80

関連資料

[QUERY MEMBER コマンド \(コマンド\)](#)

**DFS4797E AFTER ABEND OF MASTER IMS
 ims_id THE DDL-DEFINED PSBS
 AND DMBS ARE NOT USABLE. PST
 pst_name**

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、DDL リソース定義の活動化中に

異常終了しました。別の IMS システムが処理を引き継ぎましたが、IMS ディレクトリー・データ・セットに行われた更新をバックアウトできませんでした。この影響を受けるデータベースとプログラム・ビューをスケジュールできません。詳しくは、これより前に発行された DFS4895E メッセージを参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置:

IMS は IMS ディレクトリー・データ・セットに対して行われた更新をバックアウトできませんでした。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

QUERY MEMBER TYPE (IMS) SHOW (STATUS) コマンドを発行して、活動化処理の状況と対応方法を確認してください。

モジュール:

DFSOLC80

関連資料

[QUERY MEMBER コマンド \(コマンド\)](#)

**DFS4798I AFTER ABEND OF MASTER IMS
 ims_id THIS IMS CANCELLED THE
 IMPORT COMMAND PROCESSING.**

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、**IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG)** コマンドの処理中に異常終了しました。IMS カタログを共用する別の IMS システムがその処理を引き継ぎました。この IMS でカタログ・インポート処理が取り消されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

システムの処置:

IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG) コマンドが打ち切られました。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

理由テキストに示されているエラーを訂正してください。**QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS)** コマンドを発行すると、活動化処理の状況と (必要な場合は) 対応方法を確認できます。

モジュール:

DFSOLC80

[関連資料](#)

[QUERY MEMBER コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4799I **AFTER ABEND OF MASTER IMS**
***ims_id* THIS IMS CANCELLED THE**
ACTIVATION OF DDL-DEFINED
RESOURCES. PST *pst_name*

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、DDL リソース定義の活動化中に異常終了しました。別の IMS システムがその処理を引き継ぎました。この IMS でカタログ・インポート処理が取り消されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置:

DDL 定義の活動化は打ち切られました。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、活動化処理の状況と対応方法を確認してください。

モジュール:

DFSOLC80

[関連資料](#)

[QUERY MEMBER コマンド \(コマンド\)](#)

第 98 章 DFS メッセージ DFS4801 - DFS4900

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4810I ALL MEMBERS IN THE SYSUT1 DATA SET WERE SUCCESSFULLY DELETED.

または

ALL OF THE MEMBER INSTANCES THAT ARE REFERENCED IN THE SYSUT1 DATA SET WERE DELETED FROM THE IMS CATALOG.

説明:

IMS Catalog Record Purge ユーティリティーは、IMS カタログ・データベースから古くなったレコードを正常に削除しました。

システムの処置:

処理は続行されます。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFS3PU10

DFS4830I OTMA ENDED RESUME TPIPE FOR TMEMBER/TPIPE xxxx/yyyy RT= zzzz

説明

このメッセージは、次のいずれかの理由で出されます。

OTMA が、トランザクション・パイプ (tpipe) yyyy を使用する OTMA ターゲット・メンバー (tmember または クライアント) xxxx からの ACK または NAK を待っているときに、CMO タイムアウト・アクションまたは IMS コマンド (/STOP TMEMBER TPIPE など) によって ACK または NAK の待機が取り消され、そのターゲット・メンバーからの RESUME TPIPE 要求が終了されました。また、IMS は、そのターゲット・メンバーにプロトコル・メッセージ "cancel resume output for tpipe hold queue request protocol command" も送信します。

DL/I ICAL 呼び出しで小さなタイムアウト値を設定した状態で、大量の (32000 バイトを上回る) 要求データを使用する場合、タイムアウト・アクションがトリガーされる可能性があります。このメッセージが発行され、RESUME TPIPE 要求はキャンセルされました。

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx

OTMA クライアント。

yyyy

tpipe の名前。

zzzz

OTMA クライアント (例えば、IMS Connect) によって設定された RESUME TPIPE トークン。

システムの処置:

処理は続行されます。

オペレーターの応答:

RESUME TPIPE 要求に対して ACK も NAK も返されない原因を特定してください。原因は、アプリケーション・プログラムまたはネットワーク・コンポーネントの障害の可能性があります。

プログラマーの応答

プログラマー応答は次のいずれかです。

プログラムが、受信した CMO 出力メッセージに対して ACK または NAK を IMS に必ず発行するようにしてください。また、ネットワーク障害が原因で ACK または NAK が IMS OTMA に到達できない可能性もあります。IMS に対して複数の RESUME TPIPE 要求をサブミットできます。1つの要求が終了すると、別の要求が IMS からのメッセージの取得を続行できます。

IMS のシステム遅延により、ICAL 処理の速度が低下する場合があります。ICAL 呼び出しの AIBRSFLD 値を変更して、DL/I ICAL 呼び出しのタイムアウト値を増やします。AIBRSFLD が指定されていない場合は、**UPDATE OTMADESC** コマンドを使用するか、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSYDTx メンバーをコード化して、ICAL 呼び出しのタイムアウト値を増やします。

問題判別

問題判別方法を以下に示します。

ネットワーク・トレースを調べて、ネットワーク内のどのコンポーネントが ACK または NAK を IMS に転送しなかったのかを特定します。アプリケーション・プログラムが、受信した CMO 出力メッセージまたは同期コールアウト・メッセージに対して ACK または NAK を IMS に必ず発行するようにしてください。

67D0 ログ・レコードを調べて、根本原因を見つけます。

モジュール:
DFSYQAB0

DFS4831E NO STORAGE IN SUBPOOL 230 FOR OTMA INPUT.

説明:

OTMA の IMS XCF メッセージ出口が入力メッセージを受け取りました。しかし、IMS は、その入力メッセージを処理するためにサブプール 230 から IMS AWE ブロックを割り振ることができませんでした。

システムの処置:

IMS OTMA は、クライアントからの残りのメッセージを適切に処理できない可能性があります。

プログラマーの応答:

支援を受けるために DBA またはシステム・プログラマーへの連絡が必要になる場合があります。

モジュール:
DFSYMGX0

DFS4832E IMS DIRECTORY NOT CLEANED UP AFTER IMS *ims_id* ABENDED AND THIS IMS COMPLETED ACTIVATION OF DDL DEFINITIONS. PST *pst_name*.

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、DDL 定義リソースの活動化処理のコミット・フェーズ中に異常終了しました。別の IMS がその処理を引き継ぎました。この IMS システムでその処理がコミットされましたが、IMS ディレクトリーのクリーンアップを完了できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置:

この IMS システムで、DDL 定義リソースの自動活動化がコミットされました。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、活動化処理の状況と対応方法を確認してください。

モジュール:

DFSOLC80

DFS4833E IMS DIRECTORY NOT CLEANED UP AFTER IMS *ims_id* ABENDED AND THIS IMS CANCELLED IMPORT PROCESSING.

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、グローバル **IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)** コマンドの処理中に異常終了しました。別の IMS がバックアウト処理を引き継ぎ、この IMS システムでインポート処理が取り消されましたが、IMS ディレクトリーのクリーンアップが完了しませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

システムの処置:

ディレクトリーに対して行われた更新は打ち切られました。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、活動化処理の状況と対応方法を確認してください。

モジュール:

DFSOLC80

DFS4834E IMS DIRECTORY NOT CLEANED UP AFTER IMS *ims_id* ABENDED AND THIS IMS COMPLETED IMPORT COMMAND PROCESSING.

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されているマスター IMS システムが、グローバル **IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)** コマンドのコミット処理中に異常終了しました。別の IMS システムがその処理を引き継ぎ、この IMS システムで更新が反映されますが、IMS ディレクトリーのクリーンアップを完了できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

システムの処置:

IMS ディレクトリーに対して行われた更新はコミットされました。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、活動化処理の状況と対応方法を確認してください。

モジュール:

DFSOLC80

DFS4835I **IMS INITIALIZATION IS WAITING FOR IMS *ims_id* TO COMPLETE A DDL DEFINITION ACTIVATION FROM THE SHARED IMS CATALOG**

説明

この IMS システムは、メッセージ・テキストの *ims_id* に示されている IMS システムが DDL 定義活動化タスクの処理を完了するのを待機しています。このタスクの終了後に、この IMS システムの初期設定が実行されます。進行中のアクティブな DDL 定義活動化タスクがない場合、これはディレクトリー・データ・セットがクリーンアップされなかったことを示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

システムの処置:

IMS システムは待機しています。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行し、活動化処理の状況と (必要な場合は) 対応方法を確認してください。

モジュール:

DFSRDB30

関連資料

[QUERY MEMBER コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4840E **THE JCL IS MISSING A SYSIN DD STATEMENT**

説明

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティー (DFS3RU00) の JCL に、必要な SYSIN DD ステートメントが欠落しています。

システムの処置

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーは失敗しました。

システム・プログラマーの応答

欠落している SYSIN DD ステートメントを JCL に追加して、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:

DFS3RU00

DFS4841E **AN INVALID OPTION WAS SPECIFIED IN THE CONTROL STATEMENT. DATA SET (DDNAME SYSIN).**

説明

JCL の SYSIN DD ステートメントで指定されたメンバーが無効でした。

システムの処置

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーは失敗しました。

プログラマーの応答

SYSIN DD ステートメントを **MBR=ALL** に訂正し、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:

DFS3RU00

DFS4842E **THE SYSIN DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = nnnnnn.**

説明

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーが SYSIN データ・セットをオープンしたときにエラーが発生しました。nnnnnn は戻りコードです。

システムの処置

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーは失敗しました。

プログラマーの応答

SYSIN データ・セットを訂正し、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:

DFS3RU00

DFS4843E **CONTROL STATEMENT ERROR**

説明

IMS Catalog Directory Recovery ユーティリティーの JCL で指定された SYSIN 制御ステートメントが無効です。

システムの処置

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーは失敗しました。

システム・プログラマーの応答

SYSIN データ・セットを訂正し、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:
DFS3RU00

DFS4844E MEMBER NAME INVALID

説明

JCL の SYSIN 制御ステートメントで指定されたメンバー名が無効でした。

システムの処置

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーは失敗しました。

システム・プログラマーの応答

メンバー名を **MBR=ALL** に訂正し、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:
DFS3RU00

DFS4845E MEMBER NAME IS LONGER THAN 3 CHARACTERS

説明

JCL の SYSIN 制御ステートメントに 3 文字より長いメンバー名が指定されています。

システムの処置

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーは失敗しました。

システム・プログラマーの応答

メンバー名を **MBR=ALL** に訂正し、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:
DFS3RU00

DFS4846E UTILITY ONLY RUNS AS DLI BATCH REGION

説明

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーは、DL/I バッチとしてのみ実行されます。

システムの処置

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーは失敗しました。

システム・プログラマーの応答

EXEC パラメーターを DL/I に設定し、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:
DFS3RU00

DFS4847E METADATA UNAVAILABLE FOR THE RESOURCE nnnnnnnn

説明

IMS カタログ内のターゲット・リソースのメタデータ情報が使用不可です。nnnnnnnn は、ターゲット・リソースの名前です。

システムの処置

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーが失敗しました。

システム・プログラマーの応答

IMS カタログ・リカバリー・プロセス中にすべてのリソースがリカバリーされたことを確認してから、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:
DFS3RU00

DFS4848E NOT ENOUGH STORAGE TO BUILD METADATA FOR nnnnnnnn

説明

IMS システムで、ターゲット IMS リソースのメタデータ情報をビルドするためのストレージが不足しています。nnnnnnnn は、ターゲット・リソースの名前です。

システムの処置

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーが失敗しました。

システム・プログラマーの応答

システム・ストレージを増やしてから、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:
DFS3RU00

**DFS4849E DIRECTORY DATA SETS ALREADY
 IN USE**

説明

IMS ディレクトリー・データ・セットは、開いているか使用中であるため、再作成できません。

システムの処置

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーが失敗しました。

システム・プログラマーの応答

IMS ディレクトリー・データ・セットをクローズしてから、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:
DFS3RU00

**DFS4850E nnnnnnnn DATABASE TYPE NOT
 SUPPORTED**

説明

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーは、MSDB または共用副次索引データベース内のリソースにアクセスしようとしたが、これらのリソースはユーティリティーによってサポートされていません。nnnnnnnn はリソース名です。

システムの処置

IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーが失敗しました。

システム・プログラマーの応答

サポートされていないアクセス・タイプのデータベース内の ACB およびそれらを参照するプログラムを復元するには、ACBGEN を実行してから、ディレクトリー・セットアップ・オプションを指定して Catalog Populate ユーティリティー (DFS3PU00) を実行し、これらのメンバーをディレクトリー・データ・セットにリカバリーしてください。

モジュール:
DFS3RU00

DFS4851E INVALID PSB

説明

JCL の EXEC パラメーターで指定されている PSB が無効です。

システムの処置

IMS カタログ・ユーティリティーの発行は失敗しました。

システム・プログラマーの応答

PSB 名を訂正し、ユーティリティーを再実行してください。DFSCP000 (ACBMGMT=ACBLIB) または DFSCP001 を指定して、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:
DFS3RU00 および DFS3LU00

**DFS4852E NOT ENOUGH STORAGE TO
 RECOVER RESOURCE nnnnnnnn**

説明

IMS Catalog Directory Recovery ユーティリティー (DFS3RU00) によるターゲット IMS リソースをリカバリーするための処理中に、IMS システムでは内部ブロックを作成するためのストレージが不足しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnn

リカバリーされなかった、ターゲット IMS リソースの名前です。

システムの処置:

IMS Catalog Directory Recovery ユーティリティー (DFS3RU00) は失敗しました。

メッセージの出力宛先

DFS3RU00 ユーティリティーのジョブ出力。

プログラマーの応答:

DFS3RU00 ユーティリティーが実行されている領域の JCL で、領域サイズを増やします。その後で DFS3RU00 ユーティリティーを再実行します。

モジュール:
DFS3RU00

関連資料

[IMS Catalog Directory Recovery ユーティリティー \(DFS3RU00\) \(システム・ユーティリティー\)](#)

**DFS4861W EDIT ROUTINE DFSCNTE0
 UNAVAILABLE FOR LTERM
 xxxxxxxx**

説明

静的論理端末が NAME マクロで EDIT=YES を指定して定義されていましたが、メッセージ通信入力編集ルーチン DFSCNTE0 が IMS システムによって正常にロードされませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

XXXXXXXXXX

論理端末 (LTERM) の名前を示します。

システムの処置

メッセージ通信入力編集ルーチンを使用するように定義されている (NAME マクロで EDIT=YES が定義されている) 静的端末は、DFSCNTE0 ルーチンにアクセスしません。端末は、NAME マクロで EDIT=NO が指定された場合と同様に処理されます。IMS は、このメッセージより前に、編集ルーチンがロードされなかったことを示す DFS1934E を発行します。

IMS は初期設定を続行します。

出力宛先

システム・コンソール

システム・プログラマーの応答

以下のステップを実行してください。

1. これより前に発行されたメッセージ DFS1934E を調べてください。このメッセージは、DFSCNTE0 をロードできなかったことを示します。
2. DFSCNTE0 が IMS.SDFSRESL 連結データ・セットの 1 つに存在することを確認してください。
3. ロード障害の原因を特定し、障害を訂正してください。
4. 出口ルーチンをロードするために、IMS システムを再度コールド・スタートまたはウォーム・スタートしてください。

モジュール:

DFSAINBO

関連情報

569 ページの『DFS1934E』

モジュールのロードに失敗 モジュール名 エラー CODE=XXXXXXXXX。

DFS4862W

EDIT ROUTINE xxxxxxxx
UNAVAILABLE FOR NODE yyyyyyyy

説明

IMS 初期設定時に、端末に定義されていた入力/出力の物理端末編集ルーチンをロードできませんでした。このルーチンは、静的端末の場合は、示されている端末に関連した IMS システム定義 TYPE マクロの EDIT= キー

ワードで定義され、動的端末の場合は、ETO ノード記述子の EDIT= キーワードで定義されていました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

XXXXXXXXXX

物理端末編集ルーチンの名前を示します。

YYYYYYYY

端末ノード名を示します。

システムの処置

物理端末編集ルーチンを使用するように定義された (TERMINAL マクロで EDIT=YES が指定された) 静的端末は、入力/出力ルーチンにアクセスしません。端末は、TERMINAL マクロで EDIT=NO が指定された場合と同様に処理されます。編集ルーチンがロードされなかったことを示すメッセージ DFS1934E が発行されます。

物理端末編集ルーチンを使用するように定義された (ノード記述子で EDIT= が定義された) 動的端末は、入力/出力ルーチンにアクセスしません。端末は、ノード記述子で EDIT= が指定されていない場合と同様に処理されます。ノード記述子が IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDSCMx メンバーまたは DFSDSCTy メンバーに正しく定義されている場合は、その記述子について編集ルーチンが無視されることを示すメッセージ DFS3660W が発行されます。

IMS は、初期設定を続行するか、または再始動されます。

出力宛先

システム・コンソール

システム・プログラマーの応答

以下のステップを実行してください。

1. これより前に発行されたメッセージ DFS1934E または DFS3660W を調べてください。これらのメッセージには、ロードできなかった物理端末編集ルーチンが示されています。
2. 物理端末編集ルーチンが、IMS.SDFSRESL 連結データ・セットのいずれかに存在することを確認してください。
3. ロード障害の原因を特定し、障害を訂正してください。
4. 動的端末の場合は、端末を削除してください。SLUP 端末および FINANCE 端末の場合は、**CHANGE NODE CLODESESS** コマンドを発行して、必要な場合に端末を削除できるようにしてください。
5. 出口ルーチンをロードするために、IMS システムを再度ウォーム・スタートまたはコールド・スタートしてください。

モジュール:

DFSAINB0、DFSCRPO0、DFSCRPO0

関連資料

[TERMINAL マクロ \(システム定義\)](#)

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDSCMx メンバー \(システム定義\)](#)

[IMS PROCLIB データ・セットの DFSDSCTy メンバー \(システム定義\)](#)

関連情報

569 ページの『DFS1934E』

モジュールのロードに失敗 モジュール名 エラー CODE=xxxxxxx。

1071 ページの『DFS3660W』

EDIT ROUTINE xxxxxxxx DEFINED BY
DESCRIPTOR yyyyyyyy CANNOT BE FOUND.
DESCRIPTOR IGNORED.

DFS4863W

**EDIT ROUTINE xxxxxxxx
UNAVAILABLE FOR LINE yyyy
PTERM zzzz**

説明

IMS 初期設定時に、端末に定義されている物理端末入力/出力編集ルーチンをロードできませんでした。このルーチンは、示されている端末に関連した IMS システム定義 LINEGRP マクロの **EDIT=** キーワードで定義されていました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

物理端末編集ルーチンの名前を示します。

yyyy

通信回線番号を示します。

zzzz

物理端末番号を示します。

システムの処置

物理端末編集ルーチンを使用するように定義された (TERMINAL マクロで **EDIT=YES** が指定された) 静的端末は、入力/出力編集ルーチンにアクセスしません。端末は、TERMINAL マクロで **EDIT=NO** が指定された場合と同様に処理されます。編集ルーチンがロードされないことを示すメッセージ DFS1934E が発行されます。

IMS は初期設定を続行します。

出力宛先

システム・コンソール

システム・プログラマーの応答

以下のステップを実行してください。

1. これより前に発行されたメッセージ DFS1934E を調べてください。このメッセージには、ロードできない物理端末編集ルーチンが示されています。
2. 物理端末編集ルーチンが、IMS.SDFSRESL 連結データ・セットのいずれかに存在することを確認してください。
3. ロード障害の原因を特定し、障害を訂正してください。
4. 出口ルーチンをロードするために、IMS システムを再度ウォーム・スタートまたはコールド・スタートしてください。

モジュール:

DFSAINB0

関連情報

569 ページの『DFS1934E』

モジュールのロードに失敗 モジュール名 エラー CODE=xxxxxxx。

DFS4864W

**FRONT END SWITCH
UNAVAILABLE FOR NODE xxxxxxxx**

説明

物理端末が、TERMINAL マクロまたは拡張端末オプション (ETO) ノード記述子で **OPTION=FES** を指定して定義されています。しかし、フロントエンド切り替え出口ルーチン DFSFEBJ0 が、IMS システムによって正常にロードされませんでした。ロードの失敗の原因は、以下のいずれかです。

- DFSFEBJ0 が使用不可である。
- IMS 始動パラメーターで **FESEXIT=Y** が指定されていない。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

物理端末ノード名を示します。

システムの処置

フロントエンド切り替え出口ルーチンを使用するように定義された (TERMINAL マクロまたは ETO ノード記述子で **OPTIONS=FES** が指定された) 端末は、DFSFEBJ0 ルーチンにアクセスしません。端末は、**OPTIONS=NOFES** が指定されている場合と同様に処理されます。IMS 始動パラメーターで **FESEXIT=Y** が指定されている場合は、DFSFEBJ0 が正しくロードされなかったことを示すメッセージ DFS1934E が発行されます。

IMS は、初期設定を続行するか、または再始動されます。

出力宛先

システム・コンソール

システム・プログラマーの応答

以下のステップを実行してください。

1. IMS 始動パラメーターで **FESEXIT=Y** が指定されていることを確認してください。
2. 発行されたメッセージ DFS1934E を調べてください。このメッセージは、DFSFEBJ0 を正常にロードできないことを示します。
3. DFSFEBJ0 が IMS.SDFSRESL 連結データ・セットの 1 つに存在することを確認してください。
4. ロード障害の原因を特定し、障害を訂正してください。
5. 出口ルーチンをロードするために、IMS システムを再度ウォーム・スタートまたはコールド・スタートしてください。

モジュール:

DFSAINB0、DFSCRPOB、DFSCRPOD

関連資料

[フロントエンド切り替え出口ルーチン \(DFSFEBJ0\) \(出口ルーチン\)](#)

[TERMINAL マクロ \(システム定義\)](#)

関連情報

569 ページの『DFS1934E』

モジュールのロードに失敗 モジュール名 エラー CODE=xxxxxxxx。

DFS4865E MODULE IRRSPW00 IS REQUIRED FOR SGNGENRC=Y, BUT IT IS UNAVAILABLE.

説明:

SGNGENRC=Y は指定されましたが、IMS は、必要な SAF ロード・モジュール IRRSPW00 をロードできませんでした。

システムの処置:

IMS 初期設定は、異常終了コード 0718 で異常終了します。

システム・プログラマーの応答

RACF により提供される IRRSPW00 モジュールは、以下のロケーションのいずれかに含まれることを確認します。

- LPA
- LINKLIST のライブラリー
- IMS.SDFSRESL 連結データ・セットのいずれか

その後、IMS システムをコールド・スタートまたはウォーム・スタートして、IRRSPW00 モジュールをロードしてください。

モジュール:

DFSAINB0

DFS4866E SGNGENRC=Y IS INVALID BECAUSE RACF IS NOT ENABLED. SGNGENRC=N WILL BE USED.

説明:

SGNGENRC=Y が指定されていますが有効になりません。RACF が IMS で有効ではないためです。

システムの処置:

IMS 初期設定は、**SGNGENRC=** パラメーターにデフォルト値 N を使用して続行されます。

出力宛先:

システム・コンソール。

システム・プログラマーの応答:

RACF= パラメーターが指定されていることを確認します。

モジュール:

DFSAINB0

DFS4867A OPEN FAILED ON ddname - ENCRYPTED OLDS REQUIRES ICSF

説明

IMS ロガーは、データ定義名 *ddname* を使用して、暗号化されたオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) を開こうとしました。戻りコードは、Integrated Cryptographic Service Facility (ICSF) サブシステム (必須) がアクティブではなかったために、データ・セットを開けなかったことを示しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

開くことができなかった、暗号化された OLDS のデータ定義名。

システムの処置

メッセージ内の *ddname* は、書き込み先の OLDS のデータ制御ブロック (DCB) (DFSOLPxx)、または読み取り元の OLDS の DCB (DFSOLRxx) を示します。

書き込み先の暗号化された OLDS の場合、OLDS が満杯になるまで、IMS は、現行のアクティブな OLDS を使用して通常の処理を続行します。IMS は、開くことができなかった OLDS の OPEN 要求について、OLDS が正常に開かれるか、要求が別の戻りコードで失敗するまで 10 秒間隔で再試行します。現行のアクティブな OLDS が満杯になると、別の OLDS が正常に開かれるまで IMS 処理は停止されます。

読み取り元の暗号化された OLDS の場合、IMS は通常の処理を続行します。IMS はこちらでも、OLDS が正常に開かれるか、要求が別の戻りコードで失敗するまで 10 秒間隔で OPEN 要求を再試行します。

メッセージの出力宛先

このメッセージは、システム・コンソールとマスター端末に表示されます。

プログラマーの応答:

IMS で暗号化された OLDS を正常に開くことができるように、ICSF サブシステムを開始します。

モジュール:

DFSFDLS0

DFS4874I THE ALLOCATION OF THE IMS CATALOG DIRECTORY DATA SETS FAILED

説明

IMS カタログ・ライブラリー・ビルダー・ユーティリティー (DFS3LU00) は、IMSCATHLQ ユーティリティー制御ステートメントに指定されたデータ・セット高位修飾子名を使用して、IMS カタログのシステム・データ・セットを割り振ることができませんでした。

システムの処置:

ユーティリティーは、出力を作成せずに終了します。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

正しい HLQ 名または DFSMDA メンバー名を入力して、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール:

DFS3LU00、DFS3LU10、DFS3LU20

DFS4876E CSL IS NOT ENABLED IN THIS IMS. CSL IS REQUIRED TO ACCESS A SHARED IMS CATALOG.

説明

この IMS システムは他の 1 つ以上の IMS システムによって共有されている IMS カタログにアクセスしようとしたが、必要な IMS 共通サービス層 (CSL) コンポーネントが、この IMS で使用可能になっていません。共有 IMS カタログにアクセスするすべての IMS システムでは、CSL Operations Manager (OM)、リソース・マネージャー (RM)、および構造化呼び出しインターフェース (SCI) が使用可能でなければなりません。

システムの処置:

IMS は終了し、異常終了コード U0071 が示されます。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

OM、RM、および SCI を有効にして IMS CSL を活動化してください。

モジュール:

DFSRDB30

DFS4877E RM IS NOT ENABLED IN THIS IMS. CSL WITH RM IS REQUIRED TO ACCESS A SHARED IMS CATALOG.

説明

この IMS システムは、1 つ以上の IMS システムによって共有されている IMS カタログにアクセスしようとしたが、IMS 共通サービス層 (CSL) のリソース・マネージャー (RM) コンポーネントが、この IMS で使用可能になっていません。共有 IMS カタログにアクセスするすべての IMS システムでは、CSL Operations Manager (OM)、リソース・マネージャー (RM)、および構造化呼び出しインターフェース (SCI) が使用可能でなければなりません。

システムの処置:

IMS は終了し、異常終了コード U0071 が示されます。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

OM、SCI、および RM を有効にして IMS CSL を活動化してください。

モジュール:

DFSRDB30

DFS4878I THE CURRENT IMS VERSION IS vv.r.m FUNCTION LEVEL nnnnnnnnn

説明

このメッセージは、IMS コールド・スタートおよび IMS 再始動時に発行され、現行の IMS バージョンと機能レベルを示します。現行の IMS 機能レベルは、最新の PTF を示します。これには、IMS により提供される 1 つ以上の新規 IMS 機能が含まれます。IMS 機能テーブル (DFSFNCT0) の更新された IMS 機能レベルの PTF が適用される場合、IMS 機能レベルは、IMS 再始動時に変更される可能性があります。

このメッセージは、COLD START COMPLETED、WARM START COMPLETE、または EMERGENCY START COMPLETED (COLDCOMM、COLDDBASE、COLDSYS を含む) で、DFS994I メッセージの前に表示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

m

IMS バージョンとリリース内の IMS モディファイケーション・レベルを示します。IMS モディファイケーション・レベルが 10 以上の場合、この変数は 2 文字 (mm) で示されます。

nnnnnnnn

現行の IMS 機能レベルを、8 文字で表すフルワード 10 進数として示します。現行の IMS 機能レベルは、新規または変更された IMS 機能が含まれる、最新の PTF を示します。最初の IMS 機能レベルは 00000001 です。15 番目の IMS 機能レベルは 10 進数 00000015 であり、ログ・レコードとダンプに X'0000000F' の形式で示されます。

r

バージョン内の IMS リリースを示します。IMS リリース番号が 10 以上である場合、この変数では 2 文字 (rr) が使用されます。

vv

IMS バージョンを示します。

システムの処置:

IMS は通常どおり処理を続行します。

メッセージの出力宛先:

このメッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSRST00

DFS4879I イムス 機能 関数名 は使用されています

説明

このメッセージは、イムス 機能が正常に使用可能にされたときに、**非関数の更新** コマンドによって発行されます。

メッセージ・テキストの中で、

関数名

正常に使用可能にされた イムス 機能の名前を示します。関数名の長さは、16 文字までです。

システムの処置:

イムス は正常に続行します

メッセージの出力宛先:

このメッセージは z/OS システム システム・コンソールに送信されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSIU210

DFS4880W AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL SUBMISSION NOT DONE ON *ims_id* REASON= *reason_text* PST *pst_name*

説明

ims_id フィールドで識別されている IMS システムがシャットダウンされたか異常終了したため、このシステムで、DDL を使用してサブミットされたリソース定義変更を自動的に活動化できませんでした。別の IMS システムが IMS ディレクトリー内のリソース変更をコミットした場合、IMS システムは、再始動時に更新済みの ACB ブロックをロードします。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

自動活動化が完了しなかったシステムの IMS ID。

pst_name

DDL ステートメントをサブミットしたタスクの名前。

reason_text

SHUTDOWN または ABENDED のいずれかです。

システムの処置:

コマンド・マスター・システムは、DDL ステートメントの自動活動化を続行します。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS オペレーター・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

IMS *ims_id* の再始動時に、アプリケーション・プログラムが ACB の変更と同期されるようにするために必要な適切な処置をとってください。

モジュール:

DFSOLC70

DFS4881I イムス 機能 関数名 使用不可です。

説明

このメッセージは、イムス 機能が正常に使用不可にされたときに、**非関数の更新** コマンドによって出されます。

メッセージ・テキストの中で、

関数名

正常に使用不可にされた イムス 機能の名前を示します。関数名の長さは、16 文字までです。

システムの処置:

イムス は正常に続行します

メッセージの出力宛先:

このメッセージは z/OS システム システム・コンソールに送信されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFS4882A ISSUE QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(ALL) FOR WAIT ANALYSIS IF OTHER IMS ACTIVE

説明

アクティブな IMS 上で、推奨された **QUERY** コマンドを発行し、共用カタログ・ディレクトリー・データ・セットの状況を判別して、IMS 再始動を続行できるように処置を行います。

システムの処置

IMS システムは、カタログ・インポートのクリーンアップ処理の完了を待機しています。

出力宛先

システム・コンソール

プログラマーの応答

QUERY コマンドの出力に状況 **IMPABORT** が示された場合、マスター IMS がカタログ・インポートの処理中に異常終了しています。他の IMS 参加プログラムが、共用ディレクトリー・データ・セットのクリーンアップを引き継いだものの失敗したか、共用ディレクトリー・データ・セットをクリーンアップするアクティブな IMS がありません。その他のアクティブな IMS が、そのディレクトリー・データ・セットを共用している場合、アクティブな IMS の 1 つで **IMPORT DEFN**

SOURCE(CATALOG) コマンドを発行して、共用ディレクトリー・データ・セットをクリーンアップします。その他のアクティブな IMS がない場合、バッチ・リカバリー・ユーティリティ (DFS3RU00) を実行して、共用ディレクトリー・データ・セットをクリーンアップします。

モジュール:

DFSRDB30

関連資料

[QUERY コマンド \(コマンド\)](#)

[IMPORT DEFN SOURCE\(CATALOG\) コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4883A TO EXIT WAIT, TAKE ACTION RECOMMENDED UNDER PROGRAMMER RESPONSE OF MESSAGE DFS4883A

説明

マスター IMS は、カタログ・インポート処理中に異常終了しました。他の IMS 参加プログラムが、共用ディレクトリー・データ・セットのクリーンアップを引き継いだものの失敗したか、共用ディレクトリー・データ・

セットをクリーンアップするアクティブな IMS がありません。

システムの処置

この IMS は、カタログ・インポートのクリーンアップ処理の完了を待機しています。

出力宛先

システム・コンソール

プログラマーの応答

その他のアクティブな IMS が、IMSplex 内のディレクトリー・データ・セットを共用している場合、アクティブな IMS の 1 つで **IMPORT DEFN**

SOURCE(CATALOG) コマンドを発行して、共用ディレクトリー・データ・セットをクリーンアップします。その他のアクティブな IMS がない場合、バッチ・リカバリー・ユーティリティ (DFS3RU00) を実行して、共用ディレクトリー・データ・セットをクリーンアップします。

モジュール:

DFSRDB30

関連資料

[IMPORT DEFN SOURCE\(CATALOG\) コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4888I UOW LOCK NOTIFY RECEIVED TIMEOUT RESPONSE FROM *ims_id*

説明

高速機能環境では、IMS シスプレックス内のすべての IMS サブシステムに要求を通知するために IRLM 通知プロセスが使用されます。IMS システムは、シスプレックス内の他のすべての IMS サブシステムが IRLM 通知処理に対応するまで待機します。あるいは、タイムアウト応答が通知プロセスに戻るまで待機します。その後、要求はその要求を開始した IMS システムによって終了されます。

このメッセージが発行されたのは、IMS シスプレックスの IMS システムが、高速順次処理 (HSSP) や高速再編成 (HSR) のため、作業単位 (UOW) ロック・モード遷移メッセージをシスプレックスの他のメンバーに送信したためです。そして、UOW ロック・モード遷移プロセスでタイムアウトが発生し、タイムアウト応答が IMS システム *ims_id* により IRLM 通知プロセスに戻されました。これは、IMS システム *ims_id* が、エリア・データ・セットで CI ロックを保持していることを示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

UOW ロック・モード遷移メッセージにタイムアウト応答を戻した IMS システム。

出力宛先

このメッセージは、UOW ロック要求を開始した IMS システムの端末に表示されます。

システム・プログラマーの応答

ローカル診断ツールを使用してロック所有者を見つけ、適切な処置を行ってください。

モジュール:
DBFICLIO

DFS4890E THE DFS3PU00 UTILITY CANNOT BE RUN AS A BMP FOR MANAGEDACBS=SETUP

説明

IMS™ Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) は、MANAGEDACBS=SETUP ユーティリティ制御スタートメントが指定されている場合に ACBMGMT=ACBLIB 環境の BMP として実行できません。

システムの処置:

IMS Catalog Populate ユーティリティは MANAGEDACBS=SETUP 機能を実行せずに、戻りコード 12 で終了します。

メッセージの出力宛先:

このメッセージは DFS3PU00 ユーティリティ・ジョブ出力に送信されます。

システム・プログラマーの応答:

IMS Populate ユーティリティを DL/I または DBB 領域のバッチ・ジョブとして再実行します。

モジュール:
DFS3PU00

関連タスク

[ACB の IMS 管理の使用可能化 \(システム定義\)](#)

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4891E THE DFS3PU00 UTILITY FAILED DUE TO AN UNKNOWN ERROR

説明

IMS™ Catalog Populate (DFS3PU00) ユーティリティは、不明エラーのために失敗しました。

システムの処置:

IMS Catalog Populate ユーティリティは要求された機能を実行せずに、戻りコード 12 で終了します。

メッセージの出力宛先:

このメッセージは DFS3PU00 ユーティリティ・ジョブ出力に送信されます。

システム・プログラマーの応答:

IMS Catalog Populate ユーティリティを実行するための JCL が正しいことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:
DFS3PU00

関連資料

[IMS Catalog Populate ユーティリティ \(DFS3PU00\) \(システム・ユーティリティ\)](#)

DFS4892E UNEXPECTED STATUS CODE sc RECEIVED FOR FUNCTION function

説明

機能の処理中に予期しない状況コードが示されました。

このメッセージは、DCCTL システムなど、IMS データベース・コードがインストールされていないシステムで、IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) を実行する場合に示されることがあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sc

発生した状況コードを示します。

機能

呼び出されている機能の名前を指定します。

システムの処置

戻りコード 88 を示し、U0071 異常終了で処理が終了します。

出力宛先

DFS3PU00 ユーティリティのジョブ出力

システム・プログラマーの応答:

処理を実行するために適切な環境が使用されていることを確認します。

モジュール:
DFS3PU00

DFS4894E AFTER ABEND OF MASTER IMS ims_id THE TAKE OVER OF PSB AND DMB IMPORT PROCESSING FAILED. REASON= reason_text

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、**IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG)** コマンドの処理中に異常終了しま

した。別の IMS システムがその処理を引き継ごうとしましたが、引き継ぎの試みは失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

reason_text

失敗の理由を示すテキスト。

システムの処置:

IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドが失敗しました。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

理由テキストに示されているエラーを訂正してください。**QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS)** コマンドを発行すると、活動化処理の状況と (必要な場合は) 対応方法を確認できます。

モジュール:

DFSOLC80

関連資料

[QUERY MEMBER コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4895E	AFTER ABEND OF MASTER IMS ims_id THE TAKE OVER OF THE DDL DEFINITION ACTIVATION FAILED. REASON= reason_text PST pst_name
-----------------	---

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されているマスター IMS システムが、DDL 定義リソースの活動化処理中に異常終了しました。別の IMS システムがその処理を引き継ごうとしましたが、引き継ぎの試みは失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

reason_text

失敗の理由を示すテキスト。

システムの処置:

DDL 定義リソースの活動化が失敗しました。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

理由テキストに示されているエラーを訂正してください。**QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS)** コマンドを発行すると、活動化処理の状況と (必要な場合は) 対応方法を確認できます。

モジュール:

DFSOLC80

関連資料

[QUERY MEMBER コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4896I	IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) PROCESSED ONE OR MORE RESOURCES, COMMAND TOKEN=command_token
-----------------	---

説明

IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG) コマンドで準備フェーズのエラーが検出されない場合、DFS4896I が共用 IMS システムごとに発行され、**IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)** が進行中であることを示します。

command_token は、8 バイトのコマンド・トークンであり、関連する 70 個のログ・レコードを IMS ログ・データ・セット内で見つけることができます。

システムの処置:

IMS は **IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)** 処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

DFS4896I は、**IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)** コマンドに対して発行された 2 つのメッセージのうちの最初のメッセージです。準備フェーズ・エラーが検出されなかった場合、各共用 IMS システムで DFS4896I が発行されます。

コマンドが正常に完了した場合、DFS4897I は 2 つのメッセージのうちの 2 番目のメッセージであり、コマンドが完了したことを示すために発行されます。

コマンドが失敗した場合、DFS4898E はコマンドが失敗したことを示す、2 つのメッセージのうちの 2 番目のメッセージです。

処理の詳細については、IMS ログ・データ・セット内の **IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)** コマンド・ログ、コマンド応答、および *command_token* によって特定される関連する 70 個のログ・レコードを参照してください。

モジュール:

DFSOLC70

DFS4897I	IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) COMPLETED, COMMAND TOKEN=command_token
-----------------	---

説明

IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドは 1 つ以上のリソースを処理し、このインポート・コマンドは正常に完了しました。DFS4897I は、共用 IMS システムごとに発行されます。

command_token は 8 バイトのコマンド・トークンであり、関連する 70 個のログ・レコードを IMS ログ・データ・セット内で検索できます。

システムの処置:

IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドは正常に 1 つ以上のリソースをインポートしました。

システム・プログラマーの応答

DFS4897I は、IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドに対して発行された 2 つのメッセージのうちの 2 番目のメッセージであり、コマンドが正常に完了したことを示します。

処理の詳細については、IMS ログ・データ・セット内の IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンド・ログ、コマンド応答、および *command_token* によって特定される関連する 70 個のログ・レコードを参照してください。

モジュール:

DFSOLC00、DFSOLC20

DFS4898E	IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) FAILED, COMMAND TOKEN=<i>command_token</i>
-----------------	---

説明

IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドは 1 つ以上のリソースを処理しましたが、エラーが発生し、インポート・プロセスが失敗しました。DFS4898E は、共用 IMS システムごとに発行されます。

command_token は 8 バイトのコマンド・トークンであり、IMS ログ・データ・セット内で関連付けられている 70 個のログ・レコードを検索できます。

システムの処置:

IIMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) にエラーが発生し、コマンドが失敗しました。

システム・プログラマーの応答

DFS4898E は、IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドに対して発行された 2 つのメッセージのうちの 2

番目のメッセージです。このコマンドにエラーが発生し、コマンドは失敗しました。

処理の詳細については、IMS ログ・データ・セット内の IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンド・ログ、コマンド応答、および *command_token* によって特定される関連する 70 個のログ・レコードを参照してください。

モジュール:

DFSOLC00、DFSOLC20

DFS4899W	GSAMPCB WAS SPECIFIED ON THE MANAGEDACBS CONTROL STATEMENT BUT NO GSAM RESOURCES FOUND
-----------------	---

説明

Catalog Populate ユーティリティは、PSB DFSCP001 を使用して DLI として実行されます。

MANAGEDACBS= 制御ステートメントで GSAMPCB パラメーターが指定され、カタログ・メンバー情報収集タスクが IEFORDER バッチ・ログ・データ・セットを使用しないように、組み込まれた GSAM リソースを示しています。ただし、GSAM リソースが見つかりませんでした。

システムの処置:

Catalog Populate ユーティリティは、バッチ・ロギングを行わずに続行します。

システム・プログラマーの応答

Catalog Populate ユーティリティが正常に完了した場合、処置は不要です。

Catalog Populate ユーティリティが失敗した場合、ユーティリティ障害を引き起こした報告エラーを解決し、ユーティリティを再実行します。バッチ・ロギングを要求するには、MANAGEDACBS= 制御ステートメントの GSAMPCB パラメーターを削除して、GSAM リソースが組み込まれていないことを示します。

モジュール:

DFS3PU00

第 99 章 DFS メッセージ DFS4901 - DFS5000

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS4901E THE LOAD FOR DFSMDA MEMBER
name FAILED FOR IMS CATALOG
HLQ. REASON= *reason_text***

説明

IMS が IMS カタログの IMS ディレクトリー・データ・セットにアクセスしようとして、IMSCATHLQ DFSMDA メンバーから IMS ディレクトリー・データ・セットの高位修飾子を検索しようとしたときにエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

IMS ディレクトリー・データ・セットの高位修飾子を定義する IMSCATHLQ DFSMDA マクロ・ステートメントの名前。

IMS カタログ・ライブラリー・ビルダー・ユーティリティー (DFS3LU00) の実行中にエラーが発生した場合、メッセージに表示される名前は、ユーティリティー JCL の IMSCATHLQ 制御ステートメントで指定された値です。IMSCATHLQ 制御ステートメントで指定される名前は、IMS ディレクトリー・データ・セットの HLQ を含む IMSCATHLQ DFSMDA メンバーの DDNAME パラメーターで指定された名前と一致している必要があります。

アプリケーション・プログラムが GSAM データベースにアクセスしようとしたときにエラーが発生した場合、表示されている名前は、HLQ が付加された IMS カタログの別名です。IMS は、この値を使用して、IMS ディレクトリー・データ・セットの HLQ を定義する IMSCATHLQ DFSMDA メンバーを取得します。別名は、DFSDFxxx PROCLIB メンバーの CATALOG セクションまたは DFS3CDX0 出口ルーチンで指定されます。

reason_text

理由は、以下のいずれかのストリングになります。

GETMAIN FAILURE

ストレージに対する要求が失敗しました。

DFSMDA MEMBER NOT FOUND

メッセージ・テキストに表示されている MDA メンバー名に一致する DFSMDA メンバーが見つかりませんでした。

BLDL ERROR

DFSMDA メンバー名に対する BLDL マクロ呼び出し中にエラーが発生しました。

INVALID DFSMDA MEMBER

メッセージ・テキストに示されている DFSMDA メンバーにエラーがあります。メンバーを定義する DFSMDA ステートメントを確認してください。

LOAD ERROR

DFSMDA メンバーをロードしようとして、エラーが発生しました。

BSDS FAILED OPEN

IMS ディレクトリーのブート・ストラップ・データ・セットをオープンできませんでした。

BSDS FAILED ALLOC

IMS ディレクトリーのブート・ストラップ・データ・セットの割り振りに失敗しました。

システムの処置:

プロセスは異常終了します。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

DFS3LU00、DFS3LU10、DFS3LU20、DFS3DF00、DFS3DF10

DFS4902W UNABLE TO CLOSE THE CATALOG DIRECTORY

説明:

GSAM 初期設定中に IMS ディレクトリー・データ・セットを閉じようとして、このメッセージは、IMS ディレクトリー・データ・セットを閉じられない場合に返されます。

システムの処置:

IMS 従属領域は、IMS ディレクトリー・データ・セットを開いたままで引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答:

問題の原因を示している可能性がある z/OS メッセージ IEC2xxI などのエラー・メッセージがないか確認してください。エラーが訂正されたら、従属領域を再始動します。

モジュール:

DFSZDI00

DFS4913E IMS DIRECTORY NOT CLEANED UP AFTER IMS *ims_id* ABENDED AND THIS IMS CANCELLED

**ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS. PST *pst_name*.**

説明

マスター IMS *ims_id* が、DDL 定義リソースの活動化中に異常終了しました。別の IMS システムがその処理を引き継ぎ、この IMS が DDL の活動化を打ち切りましたが、IMS ディレクトリーのクリーンアップを実行できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置:

DDL 定義ステートメントの自動活動化は打ち切られました。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、活動化処理の状況と対応方法を確認してください。

モジュール:

DFSOLC80

関連資料

[QUERY MEMBER コマンド \(コマンド\)](#)

DFS4930I OTMA ENDED CONVERSATIONAL TRANSACTION CONVID=*convID* FOR TMEBER/TPIPE *tmember_name*/*tpipe_name*

説明

会話型トランザクションは、トランザクションがアイドル状態であるために IMS Open Transaction Manager Access (OTMA) により終了しました。そしてトランザクションに割り振られた IMS リソースは解放されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

convID

会話型トランザクションの ID。

tmember_name

OTMA ターゲット・メンバー (tmember) の名前。

tpipe_name

会話型トランザクションを保持するトランザクション・パイプ (T パイプ) キューの名前。

システムの処置:

IMS の処理は継続します。

メッセージの出力宛先:

このメッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

オペレーターの応答

必要なアクションはありません。

ヒント: アイドル状態の会話型トランザクションのタイムアウト間隔を制御し、アイドル状態のトランザクションに割り振られていたリソースが IMS ストレージから削除されるようにするには、IMS PROCLIB データ・セットの DFSYDTx メンバーの DFSOTMA 記述子の **ENDCONV=** パラメーターの値を指定します。

モジュール:

DFSYTIB0

関連資料

[DFSOTMA 記述子の構文およびパラメーター \(システム定義\)](#)

DFS4934I

CATALOG IMPORT COMMAND IN PROGRESS ON IMS *ims_id*. WAIT FOR COMPLETION.

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムで、このバッチ・ジョブによって使用される PSB が **IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)** コマンドによって変更されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

PSB を変更する **IMPORT DEFN**

SOURCE(CATALOG) コマンドを処理している IMS システム。

システムの処置:

このバッチ・ジョブは **IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)** コマンドが完了するのを待機します。

メッセージの出力宛先:

このバッチ・ジョブでは、メッセージは z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

処置は不要ですが、**IMPORT** コマンド処理の状況を確認する場合は、**QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS)** コマンドを発行できます。

モジュール:

DFSBIND0

関連資料

[QUERY MEMBER コマンド \(コマンド\)](#)

**DFS4965E CSVQUERY FOR MODULE xxxxxxxx
FAILED WITH RC=yyyy**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

MODBLKS データ・セット内のモジュール。

yyyy

戻りコード。

MODBLKS データ・セットのモジュール xxxxxxxx のサイズを判別するために、CSVQUERY 要求が IMS によってコールド・スタートで発行されましたが、要求は戻りコード yyyy で失敗しました。

システムの処置:

IMS は異常終了し、異常終了コード 1155 が示されます。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

戻りコード yyyy を使用して CSVQUERY 要求が失敗した理由を判別し、問題を修正してください。その後、IMS をコールド・スタートしてください。

問題判別:

1,4

モジュール:

DBFRRT00、DFSRDB00、DFSRPG00、DFSRT00

関連情報

1155 (メッセージおよびコード)

**DFS4994I nnnnnn MESSAGE(S) MOVED TO
THE type COLD QUEUE DURING
IMS/CQS RESYNC**

説明

IMS/CQS 再同期中に、IMS は CQS がコールド・キューに移動したメッセージの状況を解決しようとしています。IMS と CQS のログに十分な情報がないために、状況を解決できない場合があります。これが発生すると、IMS はメッセージをコールド・キューに残します。これは、以下の場合に発生します。

- IMS がコールド・スタートされた (メッセージが COLD 状況である)。または、
- 二重障害の状態が発生している。つまり、構造の障害 (これにより、構造をログから再作成する必要があります) と、CQS の障害 (メッセージが UNKNOWN 状況) の両方が発生しています。

1 つ以上のメッセージが「COLD」または「UNKNOWN」の状況であり、CQS コールド・キューに残されている場合、IMS は DFS4994I メッセージを発行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnn

コールド・キューに移動されたメッセージの数を示す 6 桁の 10 進数。

type

IMS 構造タイプ - MSGQ (共用メッセージ・キュー構造の場合)、または EMHQ (共用急送メッセージ・ハンドラー・キュー構造の場合) のいずれかになります。

システムの処置:

IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答:

CQS コールド・キュー上のメッセージは、前の IMS インスタンスによって処理されている場合も処理されていない場合もあります。キュー管理ツール (例えば、IBM IMS Queue Control Facility for z/OS や、これと同等のツール) を使用すると、コールド・キュー上のメッセージを調べ、必要に応じてそれらを削除またはアンロックできます。

モジュール:

DFSSQ030, DBFSQ030

**DFS4997I AFTER ABEND OF MASTER IMS
ims_id THIS NEW MASTER IMS
ABORTED THE ACTIVATION OF
DDL-DEFINED RESOURCES. PST
pst_name.**

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、DDL 定義リソースの調整活動化の処理中に異常終了しました。この新しい IMS システムがその処理を引き継ぎ、リソースの活動化を打ち切りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置:

IMS は DDL 定義リソースの活動化を打ち切っています。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

活動化のための DDL ステートメントを再サブミットします。活動化処理の状況を確認する場合は、**QUERY**

MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行できます。

モジュール:

DFSOLC80

関連資料

QUERY MEMBER コマンド (コマンド)

DFS4998I **AFTER ABEND OF MASTER IMS**
ims_id THIS NEW MASTER IMS
COMMITTED THE ACTIVATION OF
DDL-DEFINED RESOURCES. PST
pst_name.

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、DDL 定義リソースの調整活動化の処理中に異常終了しました。この新しい IMS システムがその処理を引き継ぎ、リソースの活動化をコミットしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置:

DDL 定義リソースの活動化が完了しています。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSOLC80

DFS4999I **AFTER ABEND OF MASTER IMS**
ims_id THIS NEW MASTER IMS
ABORTED IMPORT COMMAND
PROCESSING.

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されているマスター IMS システムが、グローバル **IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)** コマンドの処理中に異常終

了しました。この新しい IMS システムがその処理を引き継ぎ、カタログ・ディレクトリー・データ・セットへの更新を打ち切りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

システムの処置:

IMS は **IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)** コマンドの処理を打ち切っています。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

コマンドを再サブミットしてください。

モジュール:

DFSOLC80

DFS5000I **AFTER ABEND OF MASTER IMS**
ims_id THIS NEW MASTER IMS
COMMITTED IMPORT COMMAND
PROCESSING.

説明

メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されているマスター IMS システムが、グローバル **IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)** コマンドの処理中に異常終了しました。この新しい IMS システムがその処理を引き継ぎ、IMS カタログ・ディレクトリー・データ・セットへの更新をコミットしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

異常終了した IMS システム。

システムの処置:

IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドが完了しました。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSOLC80

第 100 章 DFS メッセージ DFS5001 - DFS5100

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS5002I RECOVERY UTILITY WAITS FOR IRLM RECONNECT TO PROCEED WITH CLEANUP OF DIRECTORY

説明

ユーティリティの実行中に IRLM がアクティブではありませんでした。

システムの処置

バッチ・リカバリー・ユーティリティは、IRLM が再接続するのを待機します。

プログラマーの応答

IRLM を再始動して、IRLM に再接続するために IMS システムを変更してください。

モジュール:
DFSOLC80

DFS5003I BATCH DIRECTORY CLEANUP UTILITY COMPLETE

説明

ディレクトリーをクリーンアップするリカバリー・ユーティリティが正常に完了しました。

システムの処置:
アクションはありません。

出力宛先

システム・コンソール

モジュール:
DFSPCC30

DFS5004I IMS DIRECTORY RECOVERY UTILITY ABORTED UPDATES MADE BY IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG) COMMAND ON *ims_id* DFS5004I TOKEN=*token_id*

説明

IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドの処理中に IMS *ims_id* が異常終了しました。IMS ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティが実行され、ディレクトリー・データ・セットのクリーンアップが正常に行われました。ディレクトリー・データ・セットからバツ

クアウトされたリソース名のリストをログ x7002 から抽出できます。以下の制御カードを使用して DFSERA30 ユーティリティを実行し、ログ x7002 を出力します。

```
OPTION PRINT  
OFFSET=13,FLDTYP=X,FLDLLEN=8,VALU  
E=token_id
```

システムの処置

IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドが打ち切られました。

システム・プログラマーの応答

IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドを再度実行してください。

モジュール:
DFSOLC80

DFS5005I IMS DIRECTORY RECOVERY UTILITY ABORTED UPDATES MADE BY DDL DEFINITION ACTIVATION PST *pst_name* on *ims_id* DFS5005I TOKEN=*token_id*

説明

PST *pst_name* の DDL 定義活動化の処理中に IMS *ims_id* が異常終了しました。IMS ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティが実行され、ディレクトリー・データ・セットのクリーンアップが正常に行われました。ディレクトリー・データ・セットからバックアウトされたリソース名のリストをログ x7002 から抽出できます。以下の制御カードを使用して DFSERA30 ユーティリティを実行し、ログ x7002 を出力します。

```
OPTION PRINT  
OFFSET=13,FLDTYP=X,FLDLLEN=8,VALU  
E=token_id
```

システムの処置

DDL 定義の活動化は打ち切られました。

システム・プログラマーの応答

DDL DEFINITION 活動化コマンドを再度実行してください。

モジュール:
DFSOLC80

DFS5006I IRLM IS NOT ACTIVE AND CATALOG LOCK NOT OBTAINED FOR UPDATES TO DIRECTORY

説明

IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG) コマンドまたは DDL 定義の活動化プロセスが進行中の場合には、内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) はアクティブにはなりません。IMS ディレクトリー・データ・セットはクリーンアップされません。

システムの処置

処理は続行されます。

出力宛先

z/OS システム・コンソール

プログラマーの応答:

QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、活動化処理の状況と対応方法を確認してください。

モジュール:
DFSOLC80

DFS5006W IRLM IS NOT ACTIVE AND CATALOG LOCK NOT OBTAINED FOR UPDATES TO DIRECTORY

説明

マスター IMS システムが、**IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)** コマンドまたは DDL ステートメントの処理中に異常終了しました。この新しい IMS システムがその処理を引き継ごうとしましたが、IRLM がアクティブでなかったために IMS カタログ・ディレクトリーのロックを取得できませんでした。ディレクトリー・データ・セットはクリーンアップされませんでした。

システムの処置:

クリーンアップ処理はローカルで続行されますが、IMS ディレクトリーはクリーンアップされませんでした。

メッセージの出力宛先:

メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して活動化処理の状況を確認し、表示された状況に応じて必要な処置を行います。

モジュール:
DFSOLC80

DFS5007I {PSB | DBD} (psbname | dbdname) EXTENDED OPERAND TABLE SIZE = xxxxxxxx BYTES

説明:

メッセージに示されている PSB または DBD が ACBLIB に挿入されたか、ACBLIB 内で置換されました。このメンバーには、拡張オペランド・テーブルに保管されている IMS カタログ用に xxxxxxxx バイトのデータベース・メタデータがあります。

システムの処置:

ありません。

システム・プログラマーの応答

ACBLIB に保管されているメンバーの合計サイズを見積もるには、以下のいずれかのタスクを実行します。

- メッセージ DFS0940I に含まれる制御ブロック・サイズを、メッセージ DFS5007I に表示されている拡張オペランド・テーブルのサイズに加算します。
- ACBLIB に対して ACBGEN によって生成されたこの名前を持つメンバーを確認します。

モジュール:
DFSUAMBO

関連情報

DFS0940I (メッセージおよびコード)

DFS5008W CATALOG RESOURCE IGNORED FOR PSB=ALL psb_member

説明

アプリケーション制御ブロック (ACB) の IMS 管理が有効な環境では、アプリケーション制御ブロック保守ユーティリティ (DFSUACB0) が PSB=ALL を指定して実行され、アプリケーション制御ブロック作成中に IMS カタログのプログラム仕様ブロック (PSB) が検出されます。その PSB メンバーは無視され、IMS.ACBLIB データ・セットに対して生成されません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb_member

無視される PSB メンバー。

システムの処置

必要なアクションはありません。

出力宛先

アプリケーション制御ブロック保守ユーティリティー (DFSUACB0) のジョブ・ログ

システム・プログラマーの応答

IMS カタログの IMS.ACBLIB データ・セットに対して PSB メンバーを生成するには、**PSB=** ステートメントで PSB の名前を指定します。

モジュール:
DFSUACB0

```
DFS5010I      IMS DIRECTORY RECOVERY
              UTILITY COMMITTED UPDATES
              MADE BY IMPORT DEFN
              SOURCE(CATALOG) COMMAND ON
              ims_id
              DFS5010I TOKEN=token_id
```

説明

IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドの処理中に IMS *ims_id* が異常終了しました。IMS ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティー (DFS3RU00) が実行され、ディレクトリー・データ・セットが正常にクリーンアップされました。ディレクトリー・データ・セットにコミットされたリソース名のリストをログ x7002 から抽出できます。以下の制御カードを使用して DFSERA30 ユーティリティーを実行し、ログ x7002 を出力します。

```
OPTION PRINT
OFFSET=13,FLDTYP=X,FLDLLEN=8,VALUE=token_id
```

システムの処置

IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドはコミットされました。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSOLC80

```
DFS5011I      IMS DIRECTORY RECOVERY
              UTILITY COMMITTED UPDATES
              MADE BY DDL DEFINITION
              ACTIVATION PST pst_name ON
              ims_id
              DFS5011I TOKEN=token_id
```

説明

DDL 定義活動化の処理中に PST *pst_name* が異常終了しました。IMS ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティーが実行され、ディレクトリー・データ・セットのクリーンアップが正常に行われました。ディレクトリー・データ・セットにコミットされたリソース名のリストをログ x7002 から抽出できます。以下の制御カードを使用して DFSERA30 ユーティリティーを実行し、ログ x7002 を出力します。

```
OPTION PRINT
OFFSET=5,FLDTYP=X,FLDLLEN=2,VALUE=7002
```

```
OPTION PRINT
OFFSET=13,FLDTYP=X,FLDLLEN=8,VALUE=token_id
```

システムの処置

DDL DEFINITION 活動化コマンドはコミットされました。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSOLC80

```
DFS5013I      DDL DEFINITION ACTIVATION IN
              PROGRESS. PST pst_name ON IMS
              ims_id. WAIT FOR COMPLETION.
```

説明

このバッチ・ジョブによって使用される PSB が、メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが処理する DDL ステートメントによって、オンラインで変更されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id

DDL ステートメントを処理している IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置:

このバッチ・ジョブは、DDL 定義の活動化プロセスが完了するのを待機します。

メッセージの出力宛先:

このバッチ・ジョブでは、メッセージは z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答:

処置は不要ですが、DDL ステートメント処理の状況を確認する場合は、**QUERY MEMBER TYPE(IMS)**
SHOW(STATUS) コマンドを発行できます。

モジュール:
DFSBINDO

関連資料

[QUERY MEMBER コマンド \(コマンド\)](#)

DFS5055I RESTART LOG RECORD READ PASS
n status; LSN=lsn

説明

IMS の緊急時再始動または正常再始動のログ読み取りが進行中、または完了しました。このメッセージは、IMS が再起動する際の IMS ログの初回読み取り時に発行され、その後 30 秒ごとに進行状況を示し、読み取ったログ・レコードのシーケンス番号を表示します。IMS ログに記載されるログ・レコードでは、ログ・レコードが 1 つ増えるたびに、ログ・シーケンス番号が 1 つ大きくなります。ログ読み取りプロセスが完了すると最終時に DFS5055I メッセージが発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

n

再始動ログ読み取りのパス番号。緊急時再始動の場合は 1 または 2 で、正常再始動の場合は 1 になります。

正常再始動では、IMS ログを 1 回のみ読み取るため、この値は 1 になります。

緊急時再始動 (/ERE COLDSYS 以外) では IMS ログを 2 回読み取ります。Pass 1 は、MODBLKS リソース (DDIR、PDIR、RCTE、および SMB) チェックポイント・ログ・レコード (type4004、type4006、type4007、type4083)) を処理して MODBLKS リソース制御ブロックを作成し、その後ログ・レコードをこれらのリソース制御ブロックに適用します。Pass 2 は、残りのログ・レコードを処理し、IMS をダウンする前の状態に戻します。Pass 2 はログの先頭から読み取りをやり直すため、ログ・シーケンス番号は Pass 1 で確認された最後のログ・シーケンス番号より小さい場合があります。Pass 1 では処理される type40 のログ・レコードは Pass 2 ではスキップされます。

status

再始動ログ読み取りの状況。

IS IN PROGRESS は、再始動ログ読み取りが PASS 1 または PASS 2 で進行中であることを示します。

HAS COMPLETED は、再始動ログ読み取りが PASS 1 または PASS 2 で完了したことを示します。

lsn

ログ・シーケンス番号 (LSN)。個別のログ・レコードを特定する、16 進数のログ・シーケンス番号で

す。すべての IMS ログ・レコードには、ログ・レコードの末尾に固有のログ・シーケンス番号が記載されます。LSN に下線が含まれていない場合でも、8 バイト LSN を半分にした 2 つの部分を区切るために下線が表示されます。

ログ・シーケンス番号の例として
00000000_00000171 があります。

IMS がログを読み取る際に発行される最初の DFS5055I メッセージに示されるのは、ログ・シーケンス番号 00000000_00000001 ではありません。これは、再始動には不要なロガーおよび統計ログ・レコードが、IMS ログ上の最初の type40 チェックポイント・ログ・レコードよりも前に存在するためです。これには、type42、type06、type43、type48、type27、および type45 などのログ・レコードが含まれます。

システムの処置:

IMS 再始動は、ログ・レコードの読み取りと処理を続行します。

出力宛先

このメッセージは、オペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

オペレーターの応答

IMS が進行中の場合は、処置は必要ありません。

このメッセージが 30 秒ごとに表示されない場合、IMS 再始動は進行していません。IMS 再始動が停止された可能性があります。IMS システムのダンプを取得し、IBM サポートにお問い合わせください。

モジュール:
DFSRLP00

DFS5060I STOP REGION COMMAND NOT PROCESSED FOR REGION nnnnnn; REASON TEXT=xxxxxx{UP TO 32 BYTES OF MESSAGE}

説明

従属領域に対する /STOP REGION コマンドは正常に完了しませんでした。理由テキストがエラーの原因を示します。

分析

理由テキストの REGION-STATUS-INVALID によると、/STOP REGION ABDUMP FORCE コマンドは、WAIT-INIT-INPROG 状況または TERM-PENDING 状況ではない領域に発行されていました。

システムの処置

入力されたコマンドは無視されます。IMS および、nnnnn で識別されている 従属領域は実行を継続します。

プログラマーの応答

/DIS ACTIVE REGION コマンドを発行し、WAIT-INIT-INPROG 状況または TERM-PENDING 状況ではない領域を停止するために、適切なコマンドを発行してください。

モジュール

DFSSTOP0

```
DFS5386I      OTMA IS DISCONNECTING FROM
                MEMBER tmembername
```

説明

IMS Open Transaction Manager Access (OTMA) は、OTMA ターゲット・メンバー (tmember) から切断要求を受け取りました。

IMS 自動化操作プログラム・インターフェース (AOI) 出口は、OTMA tmember が切断されたかどうかを識別するために、このメッセージを使用できます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tmembername

OTMA tmember の z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) メンバー名。

システムの処置:

OTMA は、この tmember との XCF 通信を停止します。

出力宛先:

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

ユーザーの処置

必要なアクションはありません。

第 101 章 DFS メッセージ DFS7001 - DFS7500

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS7411I **OTMA lightweight TPIPE function is activated. TPIPE weighting factor (WGF) is nn%.**

説明

OTMA の軽量の T パイプ・サポートは、ユーザーが DFSYDTx IMS.PROCLIB メンバーで **LITETP=YES** を指定すると有効になります。このサポートにより、フロントエンドの入力トランザクションを処理するために、共用キュー・バックエンドの IMS システムで作成される T パイプのためのストレージが少なくて済みます。ストレージ・サイズが縮小されるため、T パイプ・フラッディング制御用の調整された T パイプ・カウントを計算するために、加重係数 (WGF) が使用されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nn

加重係数のパーセンテージ。T パイプのフラッディング制御用の、調整された T パイプ・カウントの計算に使用されます。これは、通常の T パイプと比較して、軽量の T パイプが使用するストレージ・サイズのパーセンテージでもあります。このパーセンテージは一般に 28% です。これは軽量の T パイプが、通常の T パイプが使用するストレージ・サイズの 28% を使用することを意味します。

システムの処置:
ありません。

出力宛先:

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

プログラマーの応答:

処置は必要ありません。

関連資料

[DFSOTMA 記述子の構文およびパラメーター \(システム定義\)](#)

DFS7412I **ADJUSTED OTMA TPIPE COUNT FOR MEMBER member IS nnnnnn (FETP=xxxxxx, BETP=yyyyyy, WGF=zz%).**

説明

DFS7412I メッセージは、DFS4382W、DFS4383E、または DFS4384I など、OTMA メンバーのフラッディング関連のメッセージの発行後に出される追加の情報メッセージです。これは、指定された OTMA メンバーのフ

ラッディング状態を検出するために使用される、調整されたメンバーの T パイプ・カウントを示します。

このメッセージが発行されるのは、IMS.PROCLIB データの DFSYDTx メンバーで **LITETP=YES** を指定して OTMA 軽量の T パイプ機能が有効になっている場合のみです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

member

OTMA クライアント・メンバー。

nnnnnn

バックエンド T パイプに使用されるストレージを減らすために構成する、調整された T パイプ・カウント。

この値は、次のように計算されます。

$$\text{adjusted tpipe count} = \text{xxxxxx} + (\text{yyyyyy} * \text{zz})$$

xxxxxx

フロントエンド T パイプ・カウント。

yyyyyy

バックエンド T パイプ・カウント。

zz

T パイプのフラッディング制御用の、調整された T パイプ・カウントの計算における加重係数のパーセンテージ。

システムの処置:
ありません。

出力宛先:

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

プログラマーの応答:

処置は必要ありません。

関連資料

[DFSOTMA 記述子の構文およびパラメーター \(システム定義\)](#)

DFS7413I **ADJUSTED GLOBAL OTMA TPIPE COUNT IS nnnnnn (FETP=xxxxxx, BETP=yyyyyy, WGF=zz%).**

説明

DFS7413I メッセージは、DFS4515W、DFS4516E、DFS4517I、DFS4385W、または DFS4386I などのグローバル・フラッディング関連のメッセージ発行後に、発行される追加情報メッセージです。これは、グローバ

ル・フラッディング状態を検出するために使用される、調整されたグローバルTパイプ・カウントを示します。

このメッセージが発行されるのは、IMS.PROCLIB データの DFSYDTx メンバーで **LITETP=YES** を指定して OTMA 軽量の Tパイプ機能が有効になっている場合のみです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnn

バックエンドTパイプに使用されるストレージを減らすために構成する、調整されたグローバルTパイプ・カウント。

この値は、次のように計算されます。

$$\text{adjusted tpipe count} = \text{xxxxxx} + (\text{yyyyyy} * \text{zz})$$

xxxxxx

フロントエンドTパイプ・カウント。

yyyyyy

バックエンドTパイプ・カウント。

zz

Tパイプのフラッディング制御用の、調整されたTパイプ・カウントの計算における加重係数のパーセンテージ。

システムの処置:
ありません。

出力宛先:

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

プログラマーの応答:

処置は必要ありません。

関連資料

[DFSOTMA 記述子の構文およびパラメーター \(システム定義\)](#)

DFS7414I

**INSTANCE yydddhhmmssth OF
GSAM DBD|PSB name IS ALREADY
IN THE IMS CATALOG AND WAS
NOT ADDED.**

説明:

IMS カタログには、GSAM DBD または PSB name のルート・セグメントがすでに含まれており、このルートの下に、タイム・スタンプ yydddhhmmssth を持つ既存の GSAM DBD または PSB のセグメントがありました。同じ名前と同じタイム・スタンプを持つ GSAM DBD または PSB は、その GSAM DBD または PSB の同一インスタンスを表すものと見なされるため、カタログには何も追加されませんでした。

システムの処置:

処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答:

処置は必要ありません。

モジュール:

DFS3PU00

DFS7415I

**INSTANCE yydddhhmmssth OF
GSAM DBD|PSB name NOT ADDED
TO THE IMS Catalog. LATER
INSTANCE yydddhhmmssth
EXISTS.**

説明

管理された ACB 環境では、タイム・スタンプ yydddhhmmssth を持つこの GSAM メンバー名は IMS カタログに追加されませんでした。これは、IMS カタログとディレクトリーに、それ以降のタイム・スタンプ yydddhhmmssth を持つインスタンスがすでに存在しているためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

GSAM メンバー名。

yydddhhmmssth

IMS カタログに挿入されなかった GSAM メンバーのタイム・スタンプ。

yydddhhmmssth は、yy は年、ddd は日、hh は時間、mm は分、ss は秒、th は千分の 1 秒を表す形式でタイム・スタンプを示します。

yyddhhmmssth

IMS カタログおよびディレクトリーに既に存在しているアクティブな GSAM メンバーのタイム・スタンプ。

システムの処置:

IMS Catalog Populate ユーティリティーの実行は続行され、ジョブは戻りコード 4 で終了します。

システム・プログラマーの応答:

この動作をオーバーライドするには、IMS Catalog Populate ユーティリティーの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セット内に UNCOND を指定します。

モジュール:

DFS3PU00

DFS7416I

**INSTANCE yydddhhmmssth OF
GSAM DBD|PSB name IS ALREADY
IN THE IMS CATALOG DIRECTORY
AND WAS NOT ADDED**

説明

IMS カタログ・ディレクトリーにはタイム・スタンプが yydddhhmmssth である既存のメンバー名が既に含まれているため、このディレクトリーではこのメンバーの追加も置換も行われませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

ディレクトリーのメンバー名。

yydddhmmssth

ディレクトリーへの組み込みがリジェクトされた GSAM メンバーのタイム・スタンプ。

yydddhmmssth は、yy は年、ddd は日、hh は時間、mm は分、ss は秒、th は千分の 1 秒を表す形式でタイム・スタンプを示します。

システムの処置:

IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は続行されます。

システム・プログラマーの応答:

処置は必要ありません。ただし、このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セット内に NODUPLIST を指定します。

モジュール:

DFS3DU10

DFS7417I **INSTANCE yydddhmmssth OF GSAM DBD|PSB name NOT HELD FOR DIRECTORY IMPORT. IT IS ALREADY IN THE IMS DIRECTORY**

説明

IMS カタログ・ディレクトリーにはタイム・スタンプが yydddhmmssth である既存 GSAM メンバー名が既に含まれているため、同じタイム・スタンプの GSAM メンバー名は、そのディレクトリー・メンバーの置換メンバーとして IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットにコピーされませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

GSAM メンバー名。

yydddhmmssth

IMS カタログ・ディレクトリーに既に存在している GSAM メンバーのタイム・スタンプ。

yydddhmmssth は、yy は年、ddd は日、hh は時間、mm は分、ss は秒、th は千分の 1 秒を表す形式でタイム・スタンプを示します。

システムの処置:

IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は続行されます。

システム・プログラマーの応答:

処置は必要ありません。ただし、このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog

Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セット内に NODUPLIST を指定します。

モジュール:

DFS3DU10

DFS7419E **INSTANCE yydddhmmssth OF GSAM DBD name IS ALREADY IN THE IMS CATALOG**

説明

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

GSAM データベース名。

yydddhmmssth

IMS カタログに挿入されなかった GSAM DBD のタイム・スタンプ。

yydddhmmssth は、yy は年、ddd は日、hh は時間、mm は分、ss は秒、th は千分の 1 秒を表す形式でタイム・スタンプを示します。

IMS カタログには、すでに GSAM DBD 名のルート・セグメントが含まれており、そのルートでは yydddhmmssth のタイム・スタンプを持つ既存の GSAM DBD セグメントが存在しています。

同じ名前と同じタイム・スタンプを持つ GSAM DBD は、その GSAM DBD の同一インスタンスを表すと見なされるため、IMS カタログには何も追加されませんでした。

システムの処置:

DFS3PU00 は続行し、ジョブは戻りコード 12 で終了します。

システム・プログラマーの応答

MANAGEDACBS=(STAGE,GSAM=dbname) または MANAGEDACBS=(UPDATE,GSAM=dbname) 制御カードで指定された GSAM データベースで DBDGEN を実行します。

重要: DBDGEN タイム・スタンプの精度は分単位 (MM/DD/YYHH.MM) までです。そのため、同じ GSAM DBD への変更は、1 分経過するまで行わないでください。

モジュール:

DFS3PU00

DFS7420E **GSAM DBD name IS NOT IN THE DBDLIB. THE BLDL RC = rc. THE DBD WAS NOT ADDED TO THE CATALOG**

説明

GSAM パラメーターで指定された GSAM DBD は、DBDLIB に存在しません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

GSAM データベース名。

rc

DFS3PU00 ユーティリティが BLDL マクロ呼び出しから受け取った戻りコード。

システムの処置:

IMS Catalog Populate ユーティリティ DFS3PU00 は、戻りコード 12 で終了します。

システム・プログラマーの応答:

MANAGEDACBS 制御ステートメントの GSAM パラメーターに DBD が指定された IMS DD カードで、DBDLIB を指定して、DFS3PU00 ユーティリティを再実行します。

モジュール:
DFS3PU00

DFS7421E THE MANAGEDACBS CONTROL STATEMENT DOES NOT SUPPORT THE GSAM PARAMETER

説明

STAGE または UPDATE パラメーターで指定された、MANAGEDACBS 制御カードの GSAM パラメーターは、DFS3PU00 ユーティリティでのみ有効です。GSAM データベースには ACBGEN が必要ないため、DFS3UACB は MANAGEDACBS 制御ステートメントで GSAM パラメーターをサポートしません。

システムの処置:

DFS3UACB ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

システム・プログラマーの応答:

MANAGEDACBS 制御ステートメントから GSAM パラメーターを削除するか、STAGE または UPDATE パラメーターに GSAM パラメーターを指定して、Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) を代わりに実行します。

モジュール:
DFS3PU00

DFS7422E DBD name SPECIFIED ON THE GSAM PARAMETER OF THE MANAGEDACBS CONTROL STATEMENT IS NOT A GSAM DBD

説明

STAGE または UPDATE パラメーターで指定された、MANAGEDACBS 制御カードの GSAM パラメーターは、GSAM データベースでのみ有効です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name

GSAM 以外の DBD 名。

システムの処置:

DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

システム・プログラマーの応答:

MANAGEDACBS 制御ステートメント・パラメーターの GSAM パラメーターに GSAM DBD を指定して、Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) を実行します。

モジュール:
DFS3PU00

DFS7423E IF START= OR END= PARAMETER IS SPECIFIED, STARTDAY= OR ENDDAY= PARAMETER IS REQUIRED.

説明

IMS 高速機能ログ分析ユーティリティ DBFULTA0 では、START= パラメーターが指定されている場合には STARTDAY= パラメーターが必要です。また、このユーティリティでは、END= パラメーターの指定時には ENDDAY= パラメーターが必要です。

システムの処置:

実行は終了します。

システム・プログラマーの応答:

必要に応じて入力パラメーターを訂正してください。

DFS7424E IF STARTDAY= PARAMETER IS SPECIFIED, START= PARAMETER IS REQUIRED

説明

IMS 高速機能ログ分析ユーティリティ DBFULTA0 では、STARTDAY= パラメーターが指定されている場合には START= パラメーターが必要です。

システムの処置:

実行は終了します。

システム・プログラマーの応答:

必要に応じて入力パラメーターを訂正してください。

DFS7431I IFAWIC 接続が失敗しました - RC= xxxxxxxx、RSN= yyyyyyyy

説明

イムスが IBM z/OS Workload Interaction Correlator に登録しようとしたのですが、理由コード yyyyyyyy のあるゼロ以外の戻りコード xxxxxxxx を受け取りました。xxxxxxx の値は、以下のいずれかの値にすることができます。

RC 00000004

パーシスタント・コンポーネントとアクティビティー域の合計長が、BPE オーバーヘッドとともに、IBM z/OS Workload Interaction Correlator バッファに許可される最大ページ数より大きくなっています。IBM z/OS Workload Interaction Correlator バッファは現在、最大で 16 の 4K ページを許可します。INITMT の場合、この理由は、永続コンポーネントまたはアクティビティー域のいずれかの長さ、あるいはその両方の長さが負の値である可能性もあります。

RC 00000008

永続コンポーネントの長さ、アクティビティー域の長さの 1 つまたは両方が、16 の倍数ではありませんでした。CDSG のような命令の 4 倍長ワード位置合わせを保持するには、長さが 16 の倍数である必要があります。この戻りコードは、INITMT の場合のみです。

RC 0000000C

SMF 98 サブタイプの値がゼロでした。この戻りコードは、INITMT の場合のみです。

RC 00000010

BPEMTRV_OUTBUFPTR に渡されたアドレスがゼロでした。この戻りコードは、INITMT の場合のみです。

R ツ ・ 00000030

IBM z/OS Workload Interaction Correlator (Micro-Trend) サービスは、このシステムでは使用できません。

RC 00000034

BPEMTX00 の LOAD 要求が失敗しました。yyyyyyy には、LOAD 要求からの戻りコードが入っています。

RC 00000038

BPEMTENO の LOAD 要求が失敗しました。yyyyyyy には、LOAD 要求からの戻りコードが入っています。

RC 0000003C

BPEMTENO に対する ENFREQ 要求が失敗しました。yyyyyyy には、ENFREQ 要求からの戻りコードが含まれています。

R ツ ・ 00000040

IFAWIC 登録は、警告 RC よりも高い値を受け取りました。yyyyyyy には、IFAWIC によって戻された理由コードが入ります。詳しくは、z/OS システム モジュール プログラミング: 許可アセンブラー・サービス解説書 EDT-IXG の資料を参照して IFAWIC の資料を参照してください。

RC 00000044

BPEMTRV 呼び出しは、BPE の複製コピーではサポートされていません。

ラフ・ル・ルク

要求された機能は不明です。

RC 000000FC

parmlist バージョンは BPEMTRV0 によってサポートされていません。

注: このメッセージは、IMS が z14 以前のマシンで実行された場合、または IBM z/OS Workload Interaction Correlator が使用不可の場合、またはその両方が行われた場合に抑止されます。

システムの処置

イムスは、IBM z/OS Workload Interaction Correlator に渡される静的な機能なしで処理を続行します。

プログラマーの応答

IBM z/OS Workload Interaction Correlator 参加が必要な場合は、戻りコードと理由コードを参照して失敗の原因を判別し、問題を修正してイムスを再始動してください。

関連情報

[z/OS: IFAWIC — IBM z/OS Workload Interaction Correlator](#)

DFS7433E

**IMPORT PHASE *phase* FAILED
BECAUSE RM PROCESS STEP
SENT TO IMS *imsid* TIMED OUT,
COMMAND
TOKEN=*command_token***

説明

オンライン変更フェーズを実行するために IMS に送信された RM プロセス・ステップがタイムアウトになったため、IMS IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンド、または DDL 自動インポートが失敗しました。これは、SCI がダウン、RM がダウン、または IMS や RM が時間内に RM プロセス・ステップに回答できなかった場合に発生します。IMPORT コマンドの場合、コマンドで指定される OM タイムアウト値が、そのタイムアウト値になります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

phase

失敗した内部オンライン変更フェーズを識別する 4 文字文字列。フェーズが CMT2 または CMT3 の場合、ディレクトリーは正常に更新され、インポートはコミットされています。

imsid

RM 要求がタイムアウトになった、IMS の ID。IMS がこのオンライン変更フェーズに関与していたかどうかは不明です。

command_token

8 バイトのインポート開始 STCK タイム・スタンプ。IMS ログ・データ・セット内で関連付けられている 70 個のログ・レコードの検索に使用できます。

システム・プログラマーの応答

オンライン変更フェーズが CMT2 または CMT3 の場合、ディレクトリー更新は正常に行われ、インポートはコミットされています。QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、IMS の状態を確認してください。QUERY IMSPLEX SHOW (STATUS) コマンドを出して、IMS、SCI、または RM のアドレス・スペースのいずれかがダウンしているかどうかを確認します。

該当する場合、IMS、SCI、または RM を再起動します。

IMPORT コマンド・エラーの場合は、IMPORT コマンドを再発行し、それを前の IMPORT コマンド・マスターに経路指定してインポートを完了します。

DDL エラーの場合は、DDL 要求を再発行します。

モジュール:

DFSOLC00

DFS7435E	VALIDATION FAILED FOR THE ACBGEN CATALOG WORK FILE (DDNAME ACBCATWK)
-----------------	---

説明

以下の状態のいずれかが生じたために、妥当性検査が失敗しました。

状態 1: 連結データ・セット

DD 名 ACBCATWK に、IMS Catalog Populate ユーティリティーによってサポートされていない連結データ・セットが含まれている。

状態 2: 不十分な作業用ストレージ

ACB 生成作業データ・セットの検証のための、作業用ストレージの取得が失敗した。

状態 3: ジョブ・ファイル制御ブロックを読み取ることができなかった

ACB 生成作業データ・セットの検証のための、ジョブ・ファイル制御ブロックの読み取りで障害が発生した。

システムの処置:

ユーティリティーは戻りコード 8 で終了しました。カタログは更新されませんでした。

プログラマーの応答

発生した状態に応じて、以下のアクションを実行します。

状態 1: 連結データ・セット

ACBCATWK DD ステートメントを訂正し、IMS Catalog Populate ユーティリティーを再実行してください。

状態 2: 不十分な作業用ストレージ

IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

状態 3: ジョブ・ファイル制御ブロックを読み取ることができなかった

IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFS3PU00

DFS7436E	STEPLIB IS NOT APF AUTHORIZED
-----------------	--------------------------------------

説明

DEDB ALTER JOB の STEPLIB のすべて、または一部のライブラリーは APF 許可ではありません。

システムの処置:

DEDB 変更ユーティリティーは RC=8 で終了します。

オペレーターの応答:

処置は必要ありません。

システム・プログラマーの応答:

APF が DEDB ALTER JCL の STEPLIB のライブラリーを許可し、再実行します。

第 102 章 DFSD メッセージ (DRD ユーティリティー)

動的リソース定義 (DRD) ユーティリティーの ISPF インターフェースは、DFSD で始まるメッセージを発行します。

DFSD001E **Invalid data set specified for panel selection field**

説明

ISPF パネルでデータ・セット名を値として指定しました。しかし、このデータ・セット名はシステム・カタログで検出されませんでした。データ・セットを検出できなかった理由として以下のいずれかが考えられます。

- データ・セット名が正しくない。
- データ・セット名は正しいが、このデータ・セットがカタログされていない。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

次のいずれかの処置を取ってください。

- データ・セット名が正しくなかった場合、有効なデータ・セット名を指定します。
- データ・セットがカタログされていない場合は、そのデータ・セットをカタログするか、カタログされている別のデータ・セットを指定します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRDD1、DFSRRDD2、DFSRRDD3、DFSRRDD4

DFSD002E **panel field is required for this function**

説明

ISPF パネルで値の指定を省略しました。しかし、この値は、実行中の機能が必要です。メッセージ・テキストの *panel field* は、値を必要とするフィールドを示しています。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

示されているフィールドに値を指定します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRDD2、DFSRRDD3、DFSRRDD4

DFSD003E **You must select a step to perform**

説明

実行する特定のステップを選択する必要がある ISPF パネルを起動しようとしていました。しかし、実行するステップが指定されませんでした。パネルには、実行するために選択できるステップが表示されます。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

実行する必要があるステップを示します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRDD1、DFSRRDD2

DFSD004E **You must specify at least one function**

説明

実行する 1 つ以上の機能を選択できる ISPF パネルを起動しようとしていました。しかし、実行する機能が指定されませんでした。パネルには、実行するために選択できる機能が表示されます。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

実行したい機能を指定します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRDD4

DFSD005E **You must specify UNIT and VOLUME as a set**

説明

「Enter Log Data Set Names」パネルで、ログ・データ・セットのリストを作成するためのステップを選択しました。パネルの 1 つ以上のデータ・セット項目に対して、単位またはボリュームのどちらかを指定しましたが、両方を指定しませんでした。いずれか 1 つを指定する場合は、もう 1 つも指定する必要があります。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

アンカタログされたデータ・セットの場合、単位とボリュームの両方を指定してください。

カタログ式データ・セットの場合は、単位もボリュームも指定しないでください。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRD1A

DFSD006E **You must specify a log data set name if volume or unit are specified**

説明

「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログ・データ・セットのリストを作成するためのステップを選択しました。1つ以上のデータ・セット項目に対して、単位およびボリュームを指定しましたが、ログ・データ・セット名を指定しませんでした。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

指定した単位およびボリュームに関連するログ・データ・セット名を指定します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRD1A

DFSD007E **log data set name is not cataloged**

説明

「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログ・データ・セットのリストを作成するためのステップを選択しました。パネルの1つ以上のデータ・セット項目に対して指定したログ・データ・セット名が、システム・カタログで検出されませんでした。以下のいずれかが理由として考えられます。

- データ・セット名が正しくない。
- データ・セット名は正しいが、このデータ・セットがカタログされていない。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

次のいずれかの処置を取ってください。

- データ・セット名が誤っていた場合、有効なデータ・セット名を指定します。

- データ・セットがカタログされていない場合は、そのデータ・セットをカタログするか、カタログされている別のデータ・セットを指定します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRD1A

DFSD008E **The list of log data sets was not found**

説明

「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログ・データ・セットの内容からリソース定義データ・セット (RDDS) を作成するステップを選択しました。リストを作成する技法の選択で、ログ・データ・セットのリストを入力したことを指定しましたが、このリストを検出できません。以下のいずれかが理由として考えられます。

- データ・セット名リストが含まれている可能性がある PDS メンバーが欠落している。
- データ・セット名リストが含まれている可能性がある PDS メンバーが空である。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログのリストを入力するためのステップを実行して、このステップがパネル・エラーなしで完了することを確認します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRD1

DFSD009E **The list of log data set names extracted from RECON was not found**

説明

「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログ・データ・セットの内容からリソース定義データ・セット (RDDS) を作成するステップを選択しました。リストを作成する技法の選択で、ログ・データ・セットのリストを RECON から抽出したことを指定しましたが、このリストを検出できません。この場合、抽出されたデータ・セット名を含む PDS メンバーが欠落しています。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

「Create RDDS from Log Records」パネルで、リストを RECON から抽出するためのステップを実行して、この

ステップがパネル・エラーまたはランタイム・エラーなしで完了することを確認します。

モジュール:
REXX プログラム DFSRRD1

DFSD010E Member containing logs from
RECON is empty

説明

「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログ・データ・セットの内容からリソース定義データ・セット (RDDS) を作成することを選択しました。リストを作成するために使用する技法の選択で、ログ・データ・セットのリストを RECON から抽出したことを指定しましたが、このリストは検出されませんでした。抽出されたデータ・セット名を含む PDS メンバーが空です。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

「Create RDDS from Log Records」パネルで、リストを RECON から抽出するためのステップを実行して、このステップがパネル・エラーまたはランタイム・エラーなしで完了することを確認します。

モジュール:
REXX プログラム DFSRRD1

DFSD011E The Stage 2 data set was not
found
DSN: data set name
Select the Create Stage 2 JCL step
to create it

説明

「Create RDDS from SYSGEN」パネルで、「Create Temporary MODBLKS」ステップを選択しました。ただし、メッセージ・テキストで *data set name* によって示されているデータ・セットは、以前に「Create Stage 2 JCL」ステップの処理で作成されている必要がありますが、検出されませんでした。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

「Create RDDS from SYSGEN」パネルで、「Create Stage 2 JCL」ステップを実行してください。正常に実行されることを確認します。その後で、「Create Temporary MODBLKS」ステップを再試行します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRDD2

DFSD012E The MODBLKS data set was not
found
DSN: data set name
Select the Create Temporary
MODBLKS step to create it

説明

「Create RDDS from SYSGEN」パネルで、「Process Temporary MODBLKS」のステップを選択しました。ただし、メッセージ・テキストで *data set name* によって示されているデータ・セットは、以前に「Create Temporary MODBLKS」ステップの処理で作成されている必要がありますが、検出されませんでした。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

「Create RDDS from SYSGEN」パネルで、「Process Temporary MODBLKS」ステップを実行してください。ステップが正常に実行されることを確認してから、「Process Temporary MODBLKS」ステップを再試行します。

モジュール:
REXX プログラム DFSRRDD2

DFSD013E Data Sets were not found for IMS
HLQ: *ims hlq*

説明

「Create RDDS from System Definition」パネルで、IMS HLQ に値を指定しました。このフィールドに指定する値は、IMS システム・インストレーターが SYSGEN プロセス中に使用される IMS インストール・データ・セットを命名するために使用した高位修飾子を表す必要があります (例えば、hlq.ADFSMAC)。しかし、システムは、高位修飾子を持つ IMS インストール・データ・セットを検出できませんでした。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

IMS システム・インストレーターを使用して、IMS HLQ の正しい値が使用されていることを確認します。

モジュール:
REXX プログラム DFSRRDD2

DFSD014E CHKPTID must contain all
numerics and a slash in position 6

説明

「Create RDDS from log records」パネルで、CHKPTID に対して無効値を指定しました。このフィールドに指定された値は、IMS ログ・レコードで使用されるチェックポイント値と正確に一致する必要があります。yyddd/hhmmss 形式でなければなりません。yyddd はユリウス日付を表し、hhmmss は時刻を表します。/ は必須です。

日付と時刻に使用されるすべての文字は数値でなければなりません。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

CHKPTID に対して正しい構文を使用していることを確認します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRDD1

DFSD015E **CHKPTID must be 12 characters long**

説明

「Create RDDS from log records」パネルで、CHKPTID に対して無効値を指定しました。このフィールドに指定された値は、IMS ログ・レコードで使用されるチェックポイント値と正確に一致する必要があります。長さ 12 文字で、yyddd/hhmmss 形式でなければなりません。yyddd はユリウス日付を表し、hhmmss は時刻を表します。/ は必須です。

日付と時刻に使用されるすべての文字は数値でなければなりません。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

CHKPTID に対して正しい構文を使用していることを確認します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRDD1

DFSD016E **Full Julian date is required**

説明

「Create RDDS from log records」パネルで、「Start or Stop date」に無効値を指定しました。指定する値は、yyyyddd 形式のユリウス日付でなければなりません。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

「Start or Stop date」に有効な値を指定します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRDD1、DFSRRD1B

DFSD017E **Century is required**

説明

「Create RDDS from log records」パネルで、「Start or Stop date」に対して無効な世紀の値を指定しました。世紀に指定する値は、19 以上でなければなりません。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

「Start or Stop date」に有効な世紀の値を指定します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRDD1、DFSRRD1B

DFSD018E **Invalid specification for Day**

説明

「Create RDDS from log records」パネルで、「Start or Stop date」に対して無効な日の値を指定しました。日に指定する値は、1 から 366 の間でなければなりません。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

「Start or Stop date」に有効な日の値を指定します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRDD1、DFSRRD1B

DFSD019E **Stop date/time cannot be before start date/time**

説明

「Create RDDS from log records」パネルで、停止の日付と時刻を入力しました。しかし、停止の日付と時刻が開始の日付と時刻より前になっています。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

停止の日付と時刻が開始の日付と時刻より後になるようにしてください。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRD1B

DFSD020E **A start time is required for log type SLDS**

説明

「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログ・タイプ SLDS を指定しましたが、開始時刻を指定しませんでした。ログ・タイプ SLDS の場合は開始時刻を指定する必要があります。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

ログ・タイプ SLDS が指定される場合、開始時刻を指定します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRD1B

DFSD021E **HLQ fields must not contain quotes**

説明

「IMS Application Menu」パネルからの「Manage Resources」選択項目に関連する RDDS パネルの 1 つで、データ・セットの高位修飾子が指定されました。しかし、名前に引用符が含まれていました。高位修飾子の指定に引用符が含まれてはなりません。高位修飾子を指定するフィールドには、次のものがあります。

IMS HLQ
Temp MODBLKS HLQ
Work Data Set HLQDS

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

高位修飾子名の引用符を除去してください。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRDD1、DFSRRDD2、DFSRRDD3、DFSRRDD4

DFSD022E **Invalid specification for ASM**

説明

「Create RDDS from SYSGEN」パネルで、正しい構文を使用していない ASM パラメーターの値を入力しました。エラーは次のいずれかの可能性があります。

- 複数のパラメーターを入力したが、それらをコンマで区切らなかった。
- 複数のパラメーターを入力したが、それらを括弧で囲まなかった。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

構文エラーを訂正します。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRDD2

DFSD023E **データ・セット・ボリュームとストレージ・クラスは相互に排他的です。**

説明

「IMS Application Menu」パネルの「Manage Resources」選択項目から、RDDS パネルのいずれかで、RDDS データ・セット・ボリュームと DFSMS の両方に値を入力しました。これら 2 つの指定は相互に排他的です。

システムの処置

ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答

RDDS データ・セット・ボリュームか、STORCLAS のいずれかを指定し、両方は指定しないでください。

モジュール:

REXX プログラム DFSRRDD1、DFSRRDD2、DFSRRDD3、DFSRRDD4、DFSRRDD5

第 103 章 DFSIX メッセージ (インストール検査プログラム・ダイアログ)

インストール検査プログラム (IVP) ダイアログから発行されるメッセージは、DFSIX で始まります。

IVP の使用については、「[IMS インストール検査プログラム \(IVP\) の概要 \(インストール\)](#)」を参照してください。

番号なし **INPUT PARM *parameter* IS TOO LONG**

説明

キーワード *parameter* で識別されているパラメーターの値が長すぎます。パラメーターの値は、26 文字以下である必要があります。 *parameter* は次のいずれかの値です。

- HLQDL
- HLQIPO
- HLQIV
- HLQSY

システムの処置

IVP インストール・ダイアログが終了します。

プログラマーの応答

パラメーター値が長さ 26 文字以下になるように変更し、IVP インストール・ダイアログを再実行してください。

モジュール

DFSIXC01

番号なし **PARAMETER DLTA1, DLTA2, DLTA3, DLTA5, DLTA6, or DLTA7 IS TOO LONG**

説明

DLTA パラメーターの 1 つ以上が長すぎます。パラメーターは、長さが 44 文字以下である必要があります。

システムの処置

IVP インストール・ダイアログが終了します。

プログラマーの応答

パラメーターが長さ 44 文字以下になるように変更し、IVP インストール・ダイアログを再実行してください。

モジュール

DFSIXC01

番号なし **PARAMETER DLTA5 MUST NOT BE THE SAME AS DLTA1, DLTA2, OR DLTA3**

説明

DLTA5 パラメーターは、DLTA1、DLTA2、または DLTA3 と同じ値をもてません。

システムの処置

IVP インストール・ダイアログが終了します。

プログラマーの応答

パラメーターを固有値に変更した上で、IVP インストール・ダイアログを再実行してください。

モジュール

DFSIXC01

番号なし **PARAMETER DLTA6 MUST NOT BE THE SAME AS DLTA1, DLTA2, OR DLTA3**

説明

DLTA6 パラメーターは、DLTA1、DLTA2、または DLTA3 と同じ値をもてません。

システムの処置

IVP インストール・ダイアログが終了します。

プログラマーの応答

パラメーターを固有値に変更した上で、IVP インストール・ダイアログを再実行してください。

モジュール

DFSIXC01

番号なし **SYSISPF=NOT ACTIVE - THIS
CLIST MUST BE INVOKED FROM
WITHIN ISPF**

説明

IVP インストール・ダイアログが ISPF 内から 開始され
ませんでした。

システムの処置

IVP インストール・ダイアログが終了します。

プログラマーの応答

IVP インストール・ダイアログを ISPF 内から 実行して
ください。

モジュール

DFSIXC01

番号なし **PARAMETER DLTA7 MUST NOT BE
THE SAME AS DLTA1, DLTA2, OR
DLTA3**

説明

DLTA7 パラメーターは、DLTA1、DLTA2、または DLTA3
と同じ値をもてません。

システムの処置

IVP インストール・ダイアログが終了します。

プログラマーの応答

パラメーターを固有値に変更した上で、IVP インストー
ール・ダイアログを再実行してください。

モジュール

DFSIXC01

**DFSIX000 aaaaaaaaa THE INSTALL/IVP
DIALOG DOES NOT SUPPORT
MULTIPLE USERS**

または

aaaaaaaa mmmmmmmmmmmmm

説明

これは一般的な切断エラー・メッセージです。
INSTALL/IVP ダイアログは、同時に複数のユーザーが

使用することはできません。現在 IVP を使用している
ユーザーがあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

aaaaaaaa

エラーが発生したモジュールを識別します。

mmmmmmmmmmmmmm

エラー・メッセージです。mmmmmmmmmmmmmm
が THE INSTALL/IVP DIALOG DOES NOT
SUPPORT MULTIPLE USERS の場合は、メッセ
ージ DFSIX000 の説明を参照してください。

システムの処置

IVP は処理を停止します。

プログラマーの応答

IVP が別の ISPF 画面で使用でないことを確認してく
ださい。IVP が別の ISPF 画面で使用の場合は、後で
再度試みてください。

問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポー
ト に連絡して支援を受けてください。

モジュール

DFSIXX01、DFSIXX07、DFSIXX08、DFSIXX09、
DFSIXX10、DFSIXX11、DFSIXX14、DFSIXX15、
DFSIXX16

DFSIX001 aaaaaaaaa ENT ACTION COMPLETE

説明

入力 (ENT) アクションが完了しました。これで ENT モ
ードになったので、一度に 1 つの変数がヘルプ・テキス
トと共に表示されます。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセ
ージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX002 aaaaaaaaa LST ACTION COMPLETE

説明

リスト (LST) アクションが完了しました。これで LST モードになったので、複数の変数がヘルプ・テキストを伴わずに表示されます。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX006	<i>aaaaaaaa</i> - NXT ACTION WRAPPED TO TOP OF TABLE
-----------------	---

説明

次へ (NXT) アクションが要求されましたが、テーブルの末尾に達していました。次のジョブ、タスク、または変数へとページ送りは行われず、NXT で折り返してテーブルの先頭に戻りました。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX007	<i>aaaaaaaa</i> - PRV ACTION WRAPPED TO BOTTOM OF TABLE
-----------------	--

説明

前へ (PRV) アクションが要求されましたが、テーブルの先頭に達していました。直前のジョブ、タスク、または変数へとページ戻しは行われず、PRV で折り返してテーブルの末尾に戻りました。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX010	<i>aaaaaaaa</i> - CHG ACTION COMPLETE
-----------------	--

説明

変更 (CHG) アクションが正常に完了しました。変更された変数は保管されました。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX08

DFSIX019	<i>aaaaaaaa</i> - LST ACTION REJECTED - TABLE IS EMPTY
-----------------	---

説明

リスト (LST) アクションは完了できませんでした。プログラムが LST モードに切り替わっていません。ISPF テーブルが空です。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

表示が入力 (ENT) モードに切り替わります。

プログラマーの応答

ENT モードでの処理を続けられる可能性があります。引き続き問題が発生する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題の報告および支援の要求を行ってください。

モジュール

DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX023 *aaaaaaaa - PRIOR SESSION
COMPLETED SUCCESSFULLY FOR
ivpenv*

説明

環境 *ivpenv* に関する直前の IVP セッションが正常に完了しました。メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

ivpenv

作成しようとしていた IMS 環境。次のいずれかです。

- DBB
- DBC
- DBT
- DCC
- XRF

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX01

DFSIX024 *aaaaaaaa - PRIOR SESSION
COMPLETED UNSUCCESSFULLY
FOR ivpenv*

説明

環境 *ivpenv* に関する直前の IVP セッションは完了しましたが、正常完了ではありませんでした。この状態が生じたのは、作業が行われていたフェーズが不完全であるためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

ivpenv

作成しようとしていた IMS 環境。次のいずれかです。

- DBB
- DBC
- DBT
- DCC
- XRF

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

IVP 処理を最後に停止したところから 続けてください。

モジュール

DFSIXX01

DFSIX025 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - MUST BE IN
THE RANGE mnnnn TO mxxxx MAX*

説明

vvvvvvv 変数が必須範囲内にありません。この変数は *mnnnn* から *mxxxx* の範囲にある必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

範囲外に外れている変数の名前です。

mnnnn

変数の最小値です。

mxxxx

変数の最大値です。

システムの処置

変数 *vvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvv 変数を *mnnnn* から *mxxxx* の範囲の値に変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX026 *aaaaaaaa - REPORT GENERATION
IN PROCESS FOR item*

説明

文書 (DOC) アクションによって要求された報告書が生成されているところです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

item

現在処理されているジョブ、タスク、または変数です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX029	aaaaaaaa - VARIABLE GATHERING PHASE ENDED FOR ivpenv
-----------------	---

説明

ivpenv 環境に関する変数収集フェーズ (全入力を解決する) が完了しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

ivpenv

IVP 環境です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX08

DFSIX030	aaaaaaaa - RFR ACTION COMPLETE - DEFAULT VALUE RESTORED
-----------------	--

説明

復元 (RFR) アクションが正常に完了しました。変数がデフォルト値に復元されています。メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX08

DFSIX031	aaaaaaaa - RFR ACTION FAILED - TBMOD FAILED
-----------------	--

説明

復元 (RFR) アクションが失敗しました。変数がデフォルト値に復元されませんでした。メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理を続行します。デフォルト値が復元されていません。

プログラマーの応答

変数を望ましい値に設定し、処理を続けてください。引き続き問題が発生する場合は、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して、支援を要求してください。

モジュール

DFSIXX08

DFSIX032	aaaaaaaa - CHG/RFR ACTION FAILED - DEFAULT VALUE NOT FOUND
-----------------	---

説明

変更 (CHG) または復元 (RFR) アクションが失敗しました。変数の値が変更されなかったか、または値がデフォルトに変更されませんでした。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理を続行します。デフォルト値が復元されていません。

プログラマーの応答

変数を望ましい値に設定し、処理を続けてください。引き続き問題が発生する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を要求してください。

モジュール

DFSIXX08

DFSIX033 **aaaaaaaa - FILE TAILORING
PHASE ENDED FOR *ivpenv***

説明

ivpenv 環境に関するファイル調整フェーズ (ジョブの実行前に変数を解決する) が完了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

ivpenv

IVP 環境です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX09

DFSIX034 **aaaaaaaa - FTL ACTION
COMPLETE**

説明

ファイル調整 (FTL) アクションが正常に完了しました。ジョブ、タスク、または変数がファイル調整されています。

メッセージ・テキスト中の **aaaaaaaa** は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX09

DFSIX035 **aaaaaaaa - BRM ACTION
COMPLETE**

説明

ブラウズ (BRM) アクションが正常に完了しました。INSTALIB メンバーがブラウズされています。メッセージ・テキスト中の **aaaaaaaa** は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX036 **aaaaaaaa - BRS ACTION
COMPLETE**

説明

ブラウズ (BRS) アクションが正常に完了しました。ソース・メンバー (DFSSLIB または DFSISRC) がブラウズされています。

メッセージ・テキスト中の **aaaaaaaa** は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX09

DFSIX037 **aaaaaaaa - EDM ACTION
COMPLETE**

説明

編集 (EDM) アクションが正常に完了しました。
INSTALIB メンバーが編集されています。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX09、DFSIXX10、DFSIXX14

DFSIX038 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - INVALID
SUBPARM - LENGTH EXCEEDS
mxxx*

説明

サブパラメーター *vvvvvvvv* の長さが最大長 *mxxx* を超えています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa
このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv
最大長を超えているサブパラメーターです。

mxxx
vvvvvvvv サブパラメーターの最大許容長さです。

システムの処置

変数アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

サブパラメーターを最大値 *mxxx* 以下の値に変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX039 *aaaaaaaa - ISPF/PDF EDIT
RECOVERY IS NOT SUPPORTED BY
INSTALL/IVP*

説明

このメッセージが出されるのは、IVP 内でメンバーを編集したときです。IVP では ISPF EDIT リカバリーをサポートしません。ISPF EDIT プロファイル・リカバリー設定値は、IVP では使用されません。IVP でメンバーを編集すると、そのつどこのメッセージが表示されて、編集リカバリーはサポートされていないことが指摘されます。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX09、DFSIXX10、DFSIXX14

DFSIX040 *aaaaaaaa - BRM ACTION
IGNORED - NOT AVAILABLE FOR
jtname*

説明

ブラウズ (BRM) アクションは、*jtname* ジョブまたはタスクでの使用はできません。INSTALIB メンバーは、ブラウズされませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa
このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname
BRM が有効に使用できないジョブまたはタスク名です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

有効なジョブまたはタスクを指定して、コマンドを再発行してください。

モジュール

DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX041 *aaaaaaaa - BRS ACTION IGNORED
- NOT AVAILABLE FOR jtname*

説明

ブラウザ (BRS) アクションは、*jtname* ジョブまたはタスクでの使用はできません。ソース・メンバー DFSLIB および DFSISRC はブラウザされませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname

BRM が有効に使用できなかったジョブまたはタスク名です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

有効なジョブまたはタスクを指定して、コマンドを再発行してください。

モジュール

DFSIXX09

DFSIX042 **aaaaaaaa - EDM ACTION
IGNORED - NOT AVAILABLE FOR
jtname**

説明

編集 (EDM) アクションは、*jtname* ジョブまたはタスクでの使用はできません。INSTALIB メンバーは編集されませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname

EDM が有効に使用できなかったジョブまたはタスク名です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

有効なジョブまたはタスクを指定して、コマンドを再発行してください。

モジュール

DFSIXX10

DFSIX043 **aaaaaaaa - vvvvvvvv subparm -
INVALID DATATYPE**

説明

変数 *vvvvvvv* の *subparm* サブパラメーターが正しいデータ・タイプではないか、またはそこに無効文字が含まれています。例えば、変数は数値である必要があるので、英字が含まれているような場合です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

データ・タイプが間違っている *subparm* サブパラメーターが含まれる変数です。

subparm

データ・タイプが間違っているサブパラメーターです。

システムの処置

変数 *vvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

subparm サブパラメーターを変更して、有効な文字のみが含まれるようにしてください。有効な文字に関する情報が必要な場合は、入力 (ENT) モードに切り替えれば、ヘルプ・テキストが用意されています。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX044 **aaaaaaaa - FTL ACTION IGNORED
- NOT AVAILABLE FOR jtname**

説明

ファイル調整 (FTL) アクションは、*jtname* ジョブまたはタスクでの使用はできません。*jtname* ジョブまたはタスクに関するファイル調整は完了しませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname

ファイル調整が完了しなかったジョブまたはタスク名です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

有効なジョブまたはタスクを指定して、コマンドを再発行してください。

モジュール

DFSIXX09

DFSIX045 **aaaaaaaa - VARIABLE vvvvvvvv IS UNKNOWN - ACCEPTED ASIS**

説明

このメッセージが出されることがあってはなりません。このメッセージが表示されるのは、プログラミング・エラーの結果です。変数 *vvvvvvvv* は、正しい値かどうかチェックされていませんが、現状のまま受け入れられ、処理は続行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

不明の変数です。

システムの処置

変数は現状のまま受け入れられ、処理は続行されます。

プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポート に連絡して、エラーを報告してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX046 **aaaaaaaa - EXECUTION PHASE ENDED FOR *ivpenv***

説明

ivpenv 環境に関する実行フェーズ (EXE) は完了しました。IVP ジョブは正常に実行されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

ivpenv

IVP が実行されている環境です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX10

DFSIX047 **aaaaaaaa - EXE ACTION IGNORED - NOT AVAILABLE FOR *jtname***

説明

実行 (EXE) アクションは、*jtname* ジョブまたはタスクでの使用はできません。INSTALIB ジョブまたはタスクはサブミットされませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname

サブミットされなかったジョブまたはタスク名です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

有効なジョブまたはタスクを指定して、コマンドを再発行してください。

モジュール

DFSIXX10

DFSIX048 **aaaaaaaa - EXE ACTION COMPLETE FOR *jtname***

説明

実行 (EXE) アクションは、*jtname* ジョブまたはタスクに関して正常に完了しました。INSTALIB ジョブまたはタスクはサブミットされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname

サブミットされたジョブまたはタスク名です。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX10

DFSIX049 **aaaaaaaa - ALL ACTION COMPLETE**

説明

ALL アクションが正常に完了しました。ファイル調整は、現在の項目から始めて、すべてのジョブ、タスク、または変数に関して完了しました。

メッセージ・テキスト中の **aaaaaaaa** は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX09

DFSIX052 **aaaaaaaa - DOC ACTION COMPLETE**

説明

文書 (DOC) アクションが正常に完了しました。サブミットしたばかりのジョブまたはタスク文書が印刷されました。

メッセージ・テキスト中の **aaaaaaaa** は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX054 **aaaaaaaa - CPYSPECL FAILED DURING OPEN FOR &ixfmsgt**

説明

IVP ISPF テーブルが、CPYSPECL 処理中に開けませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

&ixfmsgt

開けなかった IVP ISPF テーブルです。

システムの処置

現行オプションの処理は終了します。直前の選択パネルに戻ります。

プログラマーの応答

支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール

DFSIXX07

DFSIX055 **aaaaaaaa - CPYSPECL FAILED DURING TBADD FOR &ixfmsgt**

説明

ISPF テーブル追加 (TBADD) コマンドが、CPYSPECL 処理中に失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

&ixfmsgt

TBADD コマンドに失敗した IVP ISPF テーブルです。

システムの処置

現行オプションの処理は終了します。直前の選択パネルに戻ります。

プログラマーの応答

支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール

DFSIXX07

DFSIX056 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - PLEASE SPECIFY Y (YES), OR N (NO)**

説明

変数 *vvvvvvvv* は、Y または N として指定する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

指定する必要がある変数の名前です。

システムの処置

変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvv 変数を Y と N のいずれかに変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX057 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - PLEASE SPECIFY 6250, 3480, OR 3490**

説明

磁気テープ装置形式 *vvvvvvvv* は、6250、3480、または 3490 である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

指定する必要がある変数の名前です。

システムの処置

変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvv 変数を 6250、3480、または 3490 に変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX058 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - MUST BE ALPHNUMERIC (A-Z, 0-9)**

説明

vvvvvvv 変数は、英数字 A から Z、0 から 9 である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

英数字で指定する必要がある変数の名前です。

システムの処置

変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvv 変数を英数字ばかりに変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX059 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - INVALID LENGTH - MIN/MAX = mnnnn / mxxxx**

説明

vvvvvvv 変数は、長さが正しくありません。この変数は *mnnnn* から *mnnnn* の範囲にある必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

長さに誤りがある変数の名前です。

mnnnnn

vvvvvvvv 変数の最大許容長さです。

mxxxxx

vvvvvvvv 変数の最小許容長さです。

システムの処置

変数 vvvvvvvv アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvvv が mnnnnn から mxxxxx になるように変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX060 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - PLEASE SPECIFY EITHER JES2 OR JES3**

説明

z/OS プログラム変数 vvvvvvvv は、JES2 または JES3 として指定する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

指定する必要がある変数の名前です。

システムの処置

変数 vvvvvvvv アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvvv 変数を JES2 と JES3 のいずれかに変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX061

aaaaaaaa - vvvvvvvv - PLEASE SPECIFY A NON-BLANK VALUE

説明

vvvvvvvv 変数は、非ブランク値である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

非ブランク値が指定されていることが必要な変数の名前です。

システムの処置

変数 vvvvvvvv アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvvv 変数を非ブランク値に変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX062 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - VALUE MUST BE OF THE FORM nnnnnnnn K OR nnnn M**

説明

変数 vvvvvvvv は、nnnnnnnn K バイト、または nnnn メガバイトの形式である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

正しいフォーマットで再指定する必要がある変数の名前です。

nnnnnnnn

vvvvvvvv の K バイト・フォーマットです。

nnnn

vvvvvvvv のメガバイト・フォーマットです。

システムの処置

変数 vvvvvvvv アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvvv 変数を nnnnnn K または nnnn M のフォーマットに変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX063 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - VALUE RANGE - mnnn K THROUGH mxxx K**

説明

vvvvvvvv 変数は、mnnn K バイトから mxxx K バイトである必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

適正な範囲で指定する必要がある変数の名前です。

mnnn

vvvvvvvv 変数として指定できる最小値です。

mxxx

vvvvvvvv 変数として指定できる最大値です。

システムの処置

変数 vvvvvvvv アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvvv 変数を mnnn K から mxxx K の範囲に変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX064 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - VALUE RANGE - mnnn M THRU mxxx M**

説明

vvvvvvvv 変数が必須範囲外に外れています。変数は、mnnn メガバイトから mxxx メガバイトの範囲内である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

プログラム名です。

vvvvvvvv

必須範囲外に外れている変数の名前です。

mnnn

vvvvvvvv が設定できる最小値です。

mxxx

vvvvvvvv が設定できる最大値です。

システムの処置

変数 vvvvvvvv アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

変数 vvvvvvvv を mnnn M から mxxx M の範囲の値に変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX065 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - TOTAL LENGTH WILL EXCEED mxxxx BYTES**

説明

JOB ステートメント・アカウント情報変数の値の合計長さが最大許容サイズを超えています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

サイズ制限を超えていた変数です。

mxxxx

アカウント情報・フィールドで使用できる最大バイト数です。

システムの処置

変数 vvvvvvvv アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvvv 変数が mxxxx 以下になるように変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX066 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - VALUE
CONTAINS ILLEGAL CHARACTERS**

説明

変数 *vvvvvvvv* に、使用できない文字が含まれています。
メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

正しくない文字が含まれている変数です。

システムの処置

変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvvv 変数を変更して、有効な文字のみが含まれるようにしてください。有効な文字に関する情報が必要な場合は、入力 (ENT) モードに切り替えれば、ヘルプ・テキストが用意されています。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX067 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - JESX
STATEMENTS MUST BEGIN
WITH /* or //**

説明

変数 *vvvvvvvv* は、JESx ステートメントであり、したがって、*/** または *//* で始まる必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

*/** と *//* のいずれかで始まる必要がある変数の名前です。

システムの処置

変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvvv 変数が */** または *//* で始まるように変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX068 **aaaaaaaa - SPR ACTION
COMPLETE**

説明

特殊処理ルーチン (SPR) が正常に完了しました。メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX10

DFSIX069 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - subparm -
MAY NOT BE BLANK**

説明

vvvvvvvv 変数の *subparm* パラメーターがブランクであり、指定する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

ブランク・パラメーターが含まれている変数です。

subparm

指定する必要があるブランク・パラメーターです。

システムの処置

変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

subparm パラメーターの値を指定してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX070 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - HLQ GROUP
group IS UNKNOWN*

説明

このメッセージが出されることがあってはなりません。このメッセージが表示されるのは、プログラミング・エラーの結果です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

不明の HLQ グループを含む変数です。

group

グループ名。

システムの処置

変数 *vvvvvvv* の処理は終了します。

プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援の要求と問題の報告を行ってください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX071 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - VOL GROUP
vol grp IS UNKNOWN*

説明

このメッセージが出されることがあってはなりません。このメッセージが表示されるのは、プログラミング・エラーの結果です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

不明のボリューム・グループを含む変数です。

vol grp

ボリューム・グループ。

システムの処置

変数 *vvvvvvv* の処理は終了します。

プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援の要求と問題の報告を行ってください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX072 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - subparm -
MIN/MAX = mnnn / mxxx*

説明

vvvvvvv 変数のパラメーター *subparm* が、正しい長さではありません。パラメーター長は、*mnnn* から *mxxx* の範囲である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

変数 *subparm* に長さに誤りのあるパラメーターが含まれています。

subparm

長さに誤りのあるパラメーターです。

mnnn

パラメーターの最小長です。

mxxx

パラメーターの最大長です。

システムの処置

変数 *vvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

subparm パラメーターを *mnnn* から *mxxx* の範囲の値に変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX073 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - CYL / TRK /
nnnn / REC*

説明

オプションの 1 つが表示されます。 *vvvvvvv* 変数に、間違ったパラメーター・タイプが含まれています。パラメーターは、次のいずれかのタイプである必要があります。

CYL

シリンダー単位で割り振られたスペース

nnnnn

レコード単位で割り振られたスペースで、これが平均ブロック・サイズです。

REC

レコード単位で割り振られたスペース。この値を使用するのは、VSAM の場合のみにしてください。

TRK

トラック単位で割り振られたスペース

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvv

タイプに誤りがあるパラメーターが含まれている変数です。

nnnnn

レコード単位で割り振られたスペースで、これが平均ブロック・サイズです。

システムの処置

変数 *vvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvv 変数のパラメーターを許容タイプのいずれかに変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX074 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - BLK GROUP blk grp IS UNKNOWN**

説明

このメッセージが出されることがあってはなりません。このメッセージが表示されるのは、プログラミング・エラーの結果です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvv

不明の BLK グループを含む変数です。

blk grp

ブロック・グループ。

システムの処置

変数 *vvvvvvv* の処理は終了します。

プログラマーの応答

IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援の要求と問題の報告を行ってください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX075 **aaaaaaaa - DOC ACTION FAILED - NO RECORDS TO PRINT**

説明

文書 (DOC) アクションが、印刷対象レコードを検出できませんでした。変数、ジョブ、またはタスクに関して、文書が印刷されていません。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

レコードは印刷されませんでした。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX076 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - MUST BE A MULTIPLE OF *reclen***

説明

vvvvvvv 変数は、ブロック・サイズ・パラメーターであり、レコード長 *reclen* の倍数である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvv

レコード長に誤りがある変数です。

reclen

vvvvvvv の値の約数である必要があるレコード長です。

システムの処置

変数 `vvvvvvv` アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

`vvvvvvv` 変数が `reclen` の倍数になるように変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX078 **aaaaaaaa - SPR ACTION NOT AVAILABLE FOR JOB/TASK *jtname***

説明

特殊処理ルーチン (SPR) は、*jtname* ジョブまたはタスクでの使用はできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname

特殊処理ルーチンが利用不能であったジョブまたはタスクです。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSIXX10

DFSIX079 **aaaaaaaa - REPOSITIONING FAILED - DEFAULTING TO TOP OF TABLE**

説明

IVP は、望ましいエントリーにテーブルを位置変更できませんでした。

メッセージ・テキスト中の `aaaaaaaa` は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

テーブルは先頭から表示されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

メッセージが続く場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を要求してください。

モジュール

DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX080 **aaaaaaaa - BRS ACTION FAILED - DFSISRC IS NOT AVAILABLE**

説明

ブラウズ (BRS) アクションで SDFSISRC データ・セットにアクセスできません。ソース・メンバーは、ブラウズされませんでした。

メッセージ・テキスト中の `aaaaaaaa` は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

BRS が実行されません。処理は続行されます。

プログラマーの応答

SDFSISRC データ・セットが利用不能であった理由を判別し、問題を訂正してください。

モジュール

DFSIXX09

DFSIX081 **aaaaaaaa - MUST CORRECT ERROR IN VG BEFORE PROCEEDING**

説明

インストールおよび検査処理の変数収集 (VG) フェーズで、エラーが発生しました。

メッセージ・テキスト中の `aaaaaaaa` は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

エラーが訂正されるまでは、IVP が次のフェーズに進むことはありません。

プログラマーの応答

エラーの変数が表示されます。変数を訂正してください。

モジュール

DFSIXX07、DFSIXX07、DFSIXX08

DFSIX082 **aaaaaaaa - vvvvvvvv - INVALID VALUE SPECIFIED**

説明

vvvvvvvv 変数に、無効の値または間違ったフォーマットが含まれています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

無効の値が含まれている変数です。

システムの処置

変数 vvvvvvvv アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvvv 変数を有効な値またはフォーマットに変更してください。有効な変数に関する情報が必要な場合は、入力 (ENT) モードに切り替えれば、ヘルプ・テキストが用意されています。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX085 **aaaaaaaa - CHG/RFR ERROR EXISTS**

説明

1 つ以上の変数の処理中に、エラーが発生しました。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

変数アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

エラーを訂正します。

モジュール

DFSIXX08、DFSIXX15

DFSIX086 **aaaaaaaa - DOC ACTION FAILED - INCOMPLETE SELECTION**

説明

必要な選択がすべては「Document Options」パネルで作成されなかったため、文書 (DOC) アクションが失敗しました。変数、ジョブ、またはタスク文書で印刷されたものはありません。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

DOC アクションは終了します。

プログラマーの応答

DOC を再発行し、すべてのオプションに完全な入力を示してください。

モジュール

DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX087 **aaaaaaaa - VALUES MUST BE EITHER YES OR NO**

説明

変数は YES と NO のいずれかである必要があります。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

変数 vvvvvvvv アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

変数を許容値に変更してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX088 **aaaaaaaa - PLEASE SPECIFY HIR2101**

説明

変数は、HIR2101 に設定する 必要があります。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

変数アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

変数を HIR2101 に訂正してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX089	aaaaaaaa - TCP/IP host name is invalid
-----------------	---

説明

無効な TCP/IP ホスト名が指定されました。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置

変数アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

TCP/IP ホスト名の値を訂正してください。

モジュール

DFSIXX11

DFSIX090	ivpenv ENVIRONMENT NOT AVAILABLE (envmemb)
-----------------	---

説明

選択された IVP 環境は、IVP INSTATBL データ・セット内では使用不可です。これは、環境が作成されなかったことを意味しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ivpenv

IVP 環境 (DBB、DBC、DBT、XRF、DCC)。

envmemb

環境のメンバー名。

システムの処置

このメッセージと一緒に IVP 変数エクスポート・ユーティリティー・パネルが表示されます。

プログラマーの応答

IVP INSTATBL で作成された環境を選択してください。

モジュール

DFSIVPEX

DFSIX091	IVP TABLE DATASET ivptbl not found
-----------------	---

説明

IVP INSTATBL データ・セットが見つかりません。IVP 変数エクスポート・ユーティリティー・メインパネルで入力された IVP 高位修飾子は、データ・セット名を作成するために INSTATBL と連結されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ivptbl

IVP INSTATBL データ・セット名。

システムの処置

このメッセージと一緒に IVP 変数エクスポート・ユーティリティー・パネルが表示されます。

プログラマーの応答

IVP 高位修飾子を訂正してください。

モジュール

DFSIVPEX

DFSIX092	errmsg DSN: ivpdsn MEMBER: ivpmem
-----------------	--

説明

IVP INSTATBL データ・セットにアクセスしていて、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

errmsg

次のようなエラーが入っています。

- MEMBER SPECIFIED, BUT DATASET IS NOT PARTITIONED
- ERROR PROCESSING REQUESTED DATASET
- PROTECTED DATASET
- VOLUME NOT ON SYSTEM
- INVALID DATASET NAME, *ivpdsn*
- MISSING DATASET NAME
- UNAVAILABLE DATASET

ivpdsn

IVP INSTATBL データ・セット名。

ivpmem

IVP INSTATBL メンバー名。

システムの処置

このメッセージと一緒に IVP 変数エクスポート・ユーティリティー・パネルが表示されます。

システム・プログラマーの応答

IVP 高位修飾子を訂正してください。

モジュール

DFSIVPEX、DFSIXX08、DFSIXX22

**DFSIX093 EXPORT DATASET *expdsn* NOT
 ALLOCATED**

説明

このメッセージは、IVP エクスポート割り振りパネルに表示されます。エクスポート・データ・セットは存在しなかったため、IVP エクスポート割り振りパネルが表示され、TSO 割り振りまたは「ISPF Dataset Utility Panel (3.2)」を使用してデータ・セットを割り振るオプションがユーザーに与えられました。何らかの理由により、エクスポート・データ・セット・パネルは割り振られませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

expdsn

IVP エクスポート・データ・セット名。

システムの処置

このメッセージと一緒に IVP エクスポート割り振りパネルが表示され、データ・セットを割り振るオプションがユーザーに与えられます。

プログラマーの応答

エクスポート・データ・セットの割り振りに関連した問題を解決してから、再度試行してください。

モジュール

DFSIXX22

**DFSIX094 ALLOCATION ERROR. RC=*rc* DSN:
 *expdsn***

説明

IVP は、割り振りエラーのために、エクスポート・データ・セットを割り振ることができませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc

TSO 割り振りエラー。

expdsn

エクスポート・データ・セット名。

システムの処置

エクスポート・データ・セット名パネルにメッセージが表示され、ユーザーの入力を待ちます。

プログラマーの応答

エクスポート・データ・セットの問題を訂正し、再試行してください。

モジュール

DFSIXX08、DFSIXX22

**DFSIX095 EXPORT DATASET *expdsn*.
 MEMBER NOT FOUND.**

または

EXPORT DATASET *expdsn* DOES NOT EXIST

説明

エクスポート・データ・セットが存在しないか、PDS ならば、そのメンバーは存在しません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

expdsn

エクスポート・データ・セット名

システムの処置

エクスポート・データ・セット名パネルにメッセージが表示され、ユーザーの入力を待ちます。

プログラマーの応答

エクスポート・データ・セットの問題を訂正し、再試行してください。

モジュール

DFSIXX08

**DFSIX096 EXPORT OF VARIABLES
COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明

IVP 変数のエクスポートが正常に完了しました。

システムの処置

通知メッセージ。

モジュール

DFSIVPEX、DFSIXX08

**DFSIX097 IMPORT OF VARIABLES
COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明

IVP 変数のインポートが正常に完了しました。

システムの処置

通知メッセージ。

モジュール

DFSIXX08

**DFSIX098 aaaaaaaaa - vvvvvvvv - MUST BE A
MULTIPLE OF *reclen* + 4**

説明

vvvvvvvv 変数は BLKSIZE パラメーターであり、レコード長 *reclen* の倍数に、ブロック記述子ワード用の追加の 4 バイトをプラスしたものであることが必要です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

その変数。

reclen

レコード長。

システムの処置

変数 vvvvvvvv アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答

vvvvvvvv 変数を変更し、それが *reclen* の倍数 + 4 になるようにしてください。

モジュール

DFSIXX11

**DFSIX100 (C) COPYRIGHT IBM CORP. 2003.
ALL RIGHTS RESERVED.**

説明

このメッセージは、IBM の著作権文を発行します。

システムの処置

処理は続行されます。

プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

REXX プログラム DFSAPPL

DFSIX101 THE HLQ PARAMETER IS MISSING

説明

必要なパラメーターが指定されませんでした。

システムの処置

プログラムは、求められた機能を実行せずに終了します。

プログラマーの応答

コマンドを再発行し、HLQ パラメーターを指定してください。HLQ は、IMS データ・セットの高位修飾子です。

モジュール

(REXX プログラム) DFSAPPL、DFSHDSRT、DFSKBSRT、DFSSCSRT、DFSSPSRT

**DFSIX102 AN UNKNOWN PARAMETER WAS
SPECIFIED: *parm***

説明

余分のパラメーターが提供されました。そのパラメーターは認識されません。

システムの処置

プログラムは、求められた機能を続行します。

プログラマーの応答

パラメーターのスペルが正しかったかどうかを確認してください。プログラムをいったん終了し、正しいパラメーターを指定してプログラムを開始してください (該当する場合)。

モジュール

(REXX プログラム) DFSAPPL、DFSHDSRT、DFSKBSRT、DFSSCSRT、DFSSPSRT

DFSIX103	IPCS is not set up correctly. Please EXIT from ISPF and issue this command: EXEC '&hlq.SDFSEXEC(DFSDFSRT)' 'HLQ(&hlq)'
-----------------	---

説明

IMS ダンプ・フォーマッターが IPCS を必要とし、IPCS はまだ開始されていません。ここで、&hlq は、ユーザーが定義した高位修飾子です。

システムの処置

IMS ダンプ・フォーマッターは開始されません。

システム・プログラマーの応答

このメッセージによって推奨されるコマンドを発行するか、ローカル手順を使用して IPCS を開始してください。

モジュール

DFSDFSRT

DFSIX104	Enter a VOLID for the allocation of the IPCS dump directory or null to exit.
-----------------	---

説明

IPCSDDIR の DD 名が、ユーザーに割り振られていないことが分かりました。

システムの処置

ユーザーに VOLID の入力を促すプロンプトが表示されます。プログラムは、ユーザーが VOLID で応答するまで待ちます。ユーザーが VOLID を入力せずに Enter を押すと、プログラムは IMS ダンプ・フォーマッターを開始することなく終了します。

システム・プログラマーの応答

VOLID を入力して Enter を押してください。

モジュール

DFSDFSRT

DFSIX105	The VOLID specified is not valid: &valid
-----------------	---

説明

ユーザーが入力した VOLID が無効です。この名前は、1 から 6 文字の英数字とすることができます。

システムの処置

システムは、再度、メッセージ DFSIX104 でユーザーに入力を促します。

システム・プログラマーの応答

メッセージ DFSIX104 に応答してください。VOLID を入力して Enter を押してください。

モジュール

DFSDFSRT

DFSIX106	Allocation of IPCS dump directory failed.
-----------------	--

説明

システムがお客様に代わって DEFINE CLUSTER コマンドの発行を試みましたが、それが正常に完了しませんでした。

システムの処置

IMS ダンプ・フォーマッターは開始されません。

システム・プログラマーの応答

クラスター定義コマンドが正しく機能しなかった理由を判別し、解決してください。

回避策として、ユーザーは手動で IPCS ダンプ・ディレクトリー・データ・セットを割り振ることができます。このダンプ・ディレクトリーは、DD 名 IPCSDDIR へ割り振られます。詳しくは、「z/OS MVS Interactive Problem Control System (IPCS) User's Guide」を参照してください。

DFSIX107	THE DBDLIB WAS NOT FOUND: dddddd
-----------------	---

説明

IMS DD ステートメントが割り振られず、データ・セット名が xxx.DBDLIB の形式ではありません。ここで、xxx は高位修飾子です。

メッセージ・テキストの ddddddd は、欠落している DBDLIB データ・セット名を示します。

システムの処置

区画定義ユーティリティーが開始します。

システム・プログラマーの応答

IMS DD ステートメントを表示するには、PDU パネルでオプション 6 を選択してください。DBDLIB を含む IMS DD ステートメントを割り振るか、または DBDLIB データ・セット名を xxx.DBDLIB (ここで、xxx は高位修飾子です) に変更することができます。

第 104 章 DFSI メッセージ (構文チェッカー)

構文チェッカーは、DFSI で始まるメッセージを発行します。

DFSI920E **Parameter value invalid xxxxxxxx**

説明

画面のトップにあるパラメーターが無効です。
xxxxxxx は、オプションであり、追加情報を提供します。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

エラーを訂正してください。パラメーターの説明を表示するには、**F1** (ヘルプ・キー) を使用してください。

モジュール

DFSWPBVP

DFSI921W **(C) Copyright IBM Corp. 2002. All Rights reserved.**

説明

構文チェッカーが開始されると、IMS 構文チェッカーの著作権文が表示されます。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSWSMBC

DFSI922I **Member xxxxxxxx is new or empty. All parameters are displayed.**

説明

要求されたメンバーが空です。可能なすべてのパラメーターが表示されます。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSWMBLD

DFSI923I **No errors found in a parameter value.**

説明

どのパラメーター値にもエラーは検出されませんでした。

システムの処置

処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSWMBLD

DFSI924I **Member xxxxxxxx not currently processed by Syntax Checker**

説明

メンバー xxxxxxxx は、構文チェッカーによって処理されません。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

構文チェッカーを使用してメンバーを処理するには、そのメンバーが構文チェッカーにサポートされなければなりません。

モジュール

DFSWSMBC

DFSI925I **Member xxxxxxxx has no new keywords**

説明

ユーザーは新規キーワードの表示を要求しました。メンバー内には新規キーワードがありません。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSWMBLD

DFS1926W **Keyword kkkkkk not valid in Release rrrrr**

説明

ユーザーが、その PROCLIB メンバーを IMS リリース *rrrrr* で処理することを選択しました。現在メンバーに入っているキーワード *kkkkkk* は、そのリリースでは無効です。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

そのキーワードを削除してください。

モジュール

DFSWPBKP

DFS1927W **Keyword kkkkkk is not valid for Control Region ccccc**

説明

ユーザーが、その PROCLIB メンバーを IMS 制御領域 *ccccc* で処理することを選択しました。現在メンバーに入っているキーワード *kkkkkk* は、その制御領域では無効です。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

そのキーワードを削除してください。

モジュール

DFSWPBKP

DFS1930I **Member xxxxxxxx saved in dsn**

説明

メンバーが *dsn* に正常に保管されました。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSWMSAV

DFS1932I **Command ccccc is undefined**

説明

コマンド行のコマンド *ccccc* は、構文チェッカーに既知のものではありません。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

コマンドを訂正してください。

モジュール

DFSWMBM、DFSWUPCR、DFSWUPDM、DFSWUPNR、DFSWUPSA、DFSWUPSV

DFS1933I **No keywords selected for ccccccc command**

説明

コマンド行のコマンド *ccccccc* は、選択されたキーワードに作動する必要があります。キーワードが選択されていません。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

SEL フィールドに / を入れて、キーワードを選択してください。

モジュール

DFSWSMBM

DFSI934I **No command selected for keyword
kkkkkk**

説明

キーワードが選択されましたが、コマンド行にコマンドが入力されていません。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

コマンド行にコマンドを入力してください。

モジュール

DFSWSMBM

DFSI935I **Invalid keyword selected option: o**

説明

選択されたオプション **o** が無効です。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

選択オプションを訂正してください。

モジュール

DFSWSMBM

DFSI937I **Equal sign in same line comment
changed to dash**

説明

ユーザーは、等号 (=) が含まれている同一行コメントを入力しました。同一行コメント内では、等号は使用できません。ダッシュ (-) に変更されました。

システムの処置

通知メッセージ。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSWPBKP

DFSI938I **P COMMAND IGNORED. KEYWORD
DOES NOT IDENTIFY A MEMBER.**

説明

P コマンドで選択されたキーワードが、IMS.PROCLIB のメンバーを識別しません。P コマンドを処理することができません。

システムの処置

P コマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

IMS.PROCLIB のメンバーを識別するキーワードを選択してください。有効なキーワードには、キーワード表示パネル内で下線が付いています。

モジュール

DFSWKOPR

DFSI939I **P COMMAND IGNORED. KEYWORD
DOES NOT HAVE A VALUE OR
VALUE IS IN ERROR**

説明

P コマンドで選択されたキーワードが、値を持っていないか、その値にエラーがあります。P コマンドを処理することができません。

システムの処置

P コマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

問題を訂正して再試行してください。

モジュール

DFSWKOPR

DFSI998I **MEMBER *memb* WILL BE
PROCESSED UNDER IMS *rel*
(*ctlreg*)**

説明

処理が、メンバー *memb* について要求されました。このメンバーは、元のメンバーと同じ IMS リリースおよび制御領域の下で処理されます。この問題は、そのメンバーを処理する IMS 領域および制御領域を知らせる通知メッセージです。

memb

処理されるメンバーのメンバー名。

rel

IMS リリース。

ctlreg

IMS 制御領域。このフィールドは、メンバーが制御領域によって変化する場合にはのみ表示されます。

システムの処置

通知メッセージ。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:
DFSWSMBM

DFS1999I	MEMBER <i>memb</i> PROCESSING CONTINUES
-----------------	--

説明

メンバー *memb* の処理は、*P* オプションを使用した別のメンバーの処理が完了した直後に続行されます。

memb

メンバー名。

システムの処置

通知メッセージ。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSWSMBM

DFS1991I	Member name must be entered as part of the DSN
-----------------	---

説明

メンバー名は、データ・セット名の一部として入力しなければなりません。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

メンバー名を、データ・セット名の一部として TSO 形式で入力してください。

モジュール

DFSWUPSA

DFS1992I	Member must be 1-8 characters
-----------------	--------------------------------------

説明

メンバー名が無効です。メンバー名は、1 から 8 文字でなければなりません。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

メンバー名を訂正してください。

モジュール

DFSWUICR、DFSWUIDH、DFSWUIDM、DFSWUOSA

DFS1993I	No members in dataset <i>dsn</i>
-----------------	---

説明

構文チェッカーが処理するように要求されたデータ・セットは、空です。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

処理する新規メンバーを入力するか、別のデータ・セットを選択してください。

モジュール

DFSWIOOI

DFS1994I	Member is being used by you or another user
-----------------	--

説明

メンバーは、別のユーザーか、または別の ISPF 画面の現行ユーザーによって使用中です。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSWPBMC

DFSI995I **Change release option cancelled - user request**

説明

ユーザーが、リリース変更処理をキャンセル (F3) しました。

システムの処置

直前のキーワード表示パネルが表示されます。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSWMBM

DFSI996I **Exit of member cancelled - user request**

説明

ユーザーが、構文チェッカーの実行を終了またはキャンセルすることを要求しましたが、そのメンバーが変更されていたことを通知されました。ユーザーは、終了しないことを選択します。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSWMBM

DFSI997I **Comment not allowed on "blank", Unknown or keywords without values**

説明

コメント "C" 選択コードが "blank" または不明のキーワードに入力されました。コメントはキーワードには許されません。

システムの処置

ありません。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSWPBMC

DFSI998I **MEMBER *memb* WILL BE PROCESSED UNDER IMS *rel* (*ctlreg*)**

説明

処理が、メンバー *memb* について要求されました。このメンバーは、元のメンバーと同じ IMS リリースおよび制御領域の下で処理されます。この問題は、そのメンバーを処理する IMS 領域および制御領域を知らせる通知メッセージです。

memb

処理されるメンバーのメンバー名。

rel

IMS リリース。

ctlreg

IMS 制御領域。このフィールドは、メンバーが制御領域によって変化する場合にのみ表示されます。

システムの処置

通知メッセージ。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSWMBM

DFSI999I **MEMBER *memb* PROCESSING CONTINUES**

説明

メンバー *memb* の処理は、P オプションを使用した別のメンバーの処理が完了した直後に続行されます。

memb

メンバー名。

システムの処置

通知メッセージ。

システム・プログラマーの応答

必要なアクションはありません。

モジュール

DFSWSMBM

第 105 章 DFSS メッセージ (IMS 異常終了検索および通知)

IMS 異常終了検索および通知機能から発行されるメッセージは、DFSS で始まります。

IMS 異常終了検索および通知機能の使用については、IMS システム定義情報を参照してください。

IMS 異常終了の検索および通知機能の場合、バッチからの実行時に以下のメッセージを取得できます。

DFS2225E
DFS2226E
DFS2227E
DFS2228E
DFS2229E

このトピックのメッセージを受け取ることができるのは、IMS 異常終了検索および通知 ISPF パネルを使用している場合です。

DFSS001E "Skeleton lib" DS and "Runtime" DS must not be the same

説明

IMS 異常終了検索および通知プロシージャの名前を含むメンバーをユーザーが使用できるようにするには、スケルトン・ライブラリーを使用します。メンバーは、ISPF ドリブンの呼び出しに関する IMS 異常終了検索および通知によって生成された JCL に含まれています。呼び出しが異常終了ドリブンまたは ISPF ドリブンのどちらであっても、ランタイム・データ・セットは、IMS 異常終了検索および通知を呼び出すすべての JCL で指定されます。

システムの処置

処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答

スケルトン・ライブラリー・データ・セットとランタイム・データ・セットに 2 つの異なる有効なデータ・セット名を指定します。

「**Recipient e-mail address**」フィールドに E メール・アドレスを指定するか、「**Specify additional addresses?**」フィールドに「Y」と入力して CONTROL メンバーで E メール・アドレスを指定します。

モジュール:
DFSRASN1

DFSS002E e-mail address must be specified

説明

IMS 異常終了検索および通知をセットアップする場合、「System Setup」パネルの「**Recipient e-mail address**」フィールドに E メール・アドレスを指定するか、

「**Specify additional addresses?**」フィールドに Y と入力します。

システムの処置

処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答

「**Recipient e-mail address**」フィールドに E メール・アドレスを指定するか、「**Specify additional addresses?**」フィールドに「Y」と入力して CONTROL メンバーで E メール・アドレスを指定します。

モジュール:
DFSRASN1、DFSRASN2

DFSS003E Data set xxxxxxxx not found

説明

「System Setup」パネルで指定されたデータ・セットが、z/OS システムで検出されませんでした。xxxxxxx は、データ・セット名を識別します。

システムの処置

処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答

「System Setup」パネルで有効な既存のデータ・セットを指定します。

モジュール:
DFSRASN1

DFSS004E No search argument has been provided

説明

E メールを生成するための「**On demand interface**」パネルでは、少なくとも 1 つの検索指数を指定する必要があります。

システムの処置

処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答

「**On demand interface**」パネルの次のいずれかのフィールドで、少なくとも 1 つの Web 検索指数を指定します。

- PSP for FMID
- Abend Code
- Return Code (RC)
- Module Name
- APAR Number (PE or other)
- Message ID
- Generic Search Argument

モジュール:
DFSRASN2

DFSS005E **APAR search and MSG search are mutually exclusive**

説明

「**On demand interface**」パネルで「**APAR number**」フィールドと「**Message ID**」フィールドの両方を同時に指定することはできません。

システムの処置

処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答

APAR 番号またはメッセージ ID のいずれかを指定してください。両方は指定しないでください。

モジュール:
DFSRASN2

DFSS006E **Abend prefix must be an S or a U**

説明

異常終了コードの入力時に、接頭部として、システム異常終了の場合は S を、IMS 異常終了コード (ユーザー異常終了) の場合は U を使用します。

システムの処置

処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答

異常終了コードの有効な接頭部を「**Abend Code**」フィールドに入力します。

モジュール:
DFSRASN2

DFSS007E **The edit of the Abend Search and Notification generated JCL failed with RC=xx**

説明

REXX プログラムは、特定のメンバーを編集のためにオープンできませんでした。

システムの処置

処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答

ユーザー ID にデータ・セットにアクセスするための適切な権限があることを確認します。

モジュール:
DFSRASN1、DFSRASN2

DFSS008I **xxxxxxx member already exists**

説明

「**System Setup**」パネルで指定したメンバーは存在しており、最新の状態です。

メッセージ・テキストで、xxxxxxx はメンバーを示し、次のいずれかです。

URLS
SYSUT1
CONTROL
SMS
SMSCNTL
PROCLIB
DFSDFXXX

システムの処置

処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

続行するには、Enter キーを押してください。

モジュール:
DFSRASN1

DFSS009I xxxxxxxx member was updated

説明

「**System Setup**」パネルで指定したメンバー xxxxxxxx は更新されています。xxxxxxx は、次のいずれかです。

URLS
SYSUT1
CONTROL
SMS
SMSCNTL
PROCLIB
DFSDFXXX

システムの処置

処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

続行するには、Enter キーを押してください。

モジュール:
DFSRASN1

DFSS100E Abend code must be specified with return code (RC)

説明:

戻りコード (RC) パラメーターの値を指定する場合、異常終了コード・パラメーターの値も指定する必要があります。異常終了コードの値が指定されませんでした。

システムの処置:
処理は停止します。

システム・プログラマーの応答:
戻りコード (RC) を指定すると同時に異常終了コードも指定していることを確認します。

モジュール:
DFSRASN2

DFSS101I Change to recipient info: xxxxxxxx member is copied again

説明

受信者情報が変更され、更新が特定のメンバーに伝搬されました。既存のメンバーは、新しい情報を含むコピーに置換されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

メンバー。これは、CONTROL または SMSCNTL です。

システムの処置

処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

続行するには、Enter キーを押してください。

モジュール:
DFSRASN1

DFSS102I PROCLIB member has been updated due to change to xxxxxxxx

説明

PROCLIB メンバーには、「**System Setup**」パネルを使用して変更できる情報が含まれています。このパネルで行う変更は、更新された情報を含む PROCLIB メンバーのコピーを作成することによって、メンバーに伝搬されます。

システムの処置

処理を続行します。

システム・プログラマーの応答

続行するには、Enter キーを押してください。

モジュール:
DFSRASN1

DFSS103E The HLQ parameter is missing

説明

該当するデータ・セットにアクセスするには、IMS のインストールに使用された高位修飾子を指定する必要があります。

システムの処置

処理は終了して、IMS 異常終了検索および通知は開始されません。

システム・プログラマーの応答

IMS のインストールに使用された高位修飾子を指定します。

モジュール:
DFSRASN0

DFSS104E An unknown parameter was specified: xxxxxxxx

説明

IMS 異常終了検索および通知に指定できる唯一の有効なパラメーターは、HLQ です。xxxxxxx で示されているパラメーターは認識されませんでした。

システムの処置

処理は終了して、IMS 異常終了検索および通知は開始されません。

システム・プログラマーの応答

HLQ をパラメーターとして使用していて、IMS のインストールに使用された高位修飾子も指定していることを確認してください。

モジュール:
DFSRASN0

DFSS105E **Member DFSKCATO in data set
"dsname" not found**

説明

プログラムは、DFSKCATO を開始して、ISPF パネルで指定されたデータ・セットが有効であることを検査しようとしています。しかし、エラー・メッセージで示されているデータ・セット名にはモジュールが含まれていません。パネルで、IMS.SDFSRESL パラメーターの値として、DFSKCATO を含んでいる必要があるデータ・セットの名前が指定されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dsname

メンバー DFSKCATO を含んでいる必要があるデータ・セット

システムの処置

処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

IMS.SDFSRESL パラメーターとして正しいデータ・セット名が指定されていること、およびそのデータ・セットが存在することを確認します。

モジュール:
DFSRASN1

DFSS106E **Skeleton skeleton not found**

説明

IMS ASN オンデマンド・インターフェースが選択され、システムは、制御ステートメント・スケルトンがプログラムで使用可能であることを検証しようとしていました。プログラムは、メッセージに示されているスケルトンにアクセスできませんでした。これらのスケルトンは、IMS 異常終了検索および通知のセットアップの一部として作成されました。これらは、「IMS ASN System Setup」パネル (オプション 1) の「**Skeleton lib DS**」として指定されたデータ・セットにあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

skeleton

使用不可だったスケルトンの名前。これは DFSSPCLI または DFSSPRCI です。

システムの処置

処理は終了します。

システム・プログラマーの応答

スケルトンがデータ・セットに存在すること、および IMS 異常終了検索および通知のインストールがスケルトン・ライブラリー・データ・セットにアクセスするよう正しく構成されていることを確認してください。

モジュール:
DFSRASN2

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書の他言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス 渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing

IBM Corporation

North Castle Drive, MD-NC119

Armonk, NY 10504-1785

US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、さまざまなオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、

次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

©(お客様の会社名)(年).

このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. _年を入れる_.

プログラミング・インターフェース情報

この情報の目的は、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断するのを支援することです。また、IMS が提供する診断、修正、またはチューニング情報についても記述しています。

診断、修正、チューニングの情報は、IMS の診断、変更、またはチューニングをお客さまが行う手助けをするために提供されます。診断、修正、またはチューニング情報は、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

診断、修正、またはチューニング情報は、節またはトピックの場合はその冒頭で識別され、それ以外の場合は次のようにマーク付けされています。診断、変更、またはチューニング情報。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux[®] は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用される条件

このご使用条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加して適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM オンライン・プライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用の詳細については、『IBM プライバシー・ステートメント』 (<https://www.ibm.com/jp-ja/privacy>) および 『IBM オンライン・プライバシー・ステートメント』 (<https://www.ibm.com/jp-ja/privacy/details>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』 および 『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) というタイトルのセクションを参照してください。

参考文献

この参考文献のリストには、IMS 15 ライブラリーのすべての資料が記載されています。

表題	頭字語	資料番号
IMS V15 アプリケーション・プログラミング	APG	SC43-4281
IMS V15 アプリケーション・プログラミング API	APR	SC43-4279
IMS V15 コマンド 第1巻: IMS コマンド A-M	CR1	SC43-4284
IMS V15 コマンド 第2巻: IMS コマンド N-V	CR2	SC43-4285
IMS V15 コマンド 第3巻: IMS コンポーネントおよび z/OS コマンド	CR3	SC43-4286
IMS V15 コミュニケーションおよびコネクション	CCG	SC43-4277
IMS V15 データベース管理	DAG	SC43-4276
IMS V15 データベース・ユーティリティー	DUR	SC43-4280
IMS Version 15 Diagnosis	DGR	GC27-6786
IMS V15 出口ルーチン	ERR	SC43-4279 SA88-7180
IMS V15 インストール	INS	SC27-6788
IMS Version 15 Licensed Program Specifications	LPS	GC27-6799
IMS V15 メッセージおよびコード 第1巻: DFS メッセージ	MC1	GC43-4282
IMS V15 メッセージおよびコード 第2巻: DFS 以外メッセージ	MC2	GC43-4283
IMS V15 メッセージおよびコード 第3巻: IMS 異常終了コード	MC3	GC27-6791
IMS V15 メッセージおよびコード 第4巻: IMS コンポーネント・コード	MC4	GC27-6792
IMS V15 オペレーションおよびオートメーション	OAG	SC43-4275
IMS V15 リリース計画	RPG	GC43-4272
IMS V15 システム管理	SAG	SC43-4271
IMS V15 システム定義	SDG	GC43-4272
IMS V15 システム・プログラミング API	SPR	SC43-4269
IMS V15 システム・ユーティリティー	SUR	SC43-4270



プログラム番号: 5635-A06
5655-DS5
5655-TM4